科目名: 基礎演習Ⅰ

クラス: 国

授業コード: B000100001

担当者: 森上 展宏 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: この科目には2つの目的がある。1つ目は、神戸親和大学の学生として4年間充実した生活を送るための基本を学ぶことである。ここでは、親和の精神、学科の目標を理解すること、4年間の学習計画を立てること、およびさまざまなガイダンスを受けることが内容となる。また、学科の教員や学生との親睦も深めてほしい。

2つ目は、大学で講義を受けるための基礎力（アカデミックスキル）を様々な角度から身につけることを目的とする。自分自身の課題を発見し、これを解決するために授業その他を積極的に利用する、真の意味での学生を目指してほしい。

到達目標:

1. 親和の建学の精神を身につける
2. 大学生としての基本的なコミュニケーションスキルを身につける
3. 4年間の学習計画を立てる。大学で学ぶことと自分の進路を確かめる
4. 大学での履修の仕方を学び、効率的に学ぶ姿勢を身につける
5. 授業を聴き、文献を読み、レポートを書く上での基本を身につける

各回の授業計画:

1. イントロダクション
2. 親和行事・事前指導
3. 親和行事・事後指導、手紙の書き方

★第2回～第4回の授業順序は学科によって変更する可能性があります。

4. キャンパスツアー
5. ガイダンス補足
6. 4年間の学習計画作成
7. 図書館利用法講座
8. 講義の聞き方・ノートの取り方
9. 親和インタビュー（1）
10. 親和インタビュー（2）
11. ビブリオバトル
12. 試験・レポートの書き方（1）
13. 試験・レポートの書き方（2）
14. 学科行事
15. まとめ 1000字のレポート提出

特記事項: なし

授業方法: 基本的に演習形式の対面授業で実施する。

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 教科書予習 20分
2. 親和行事しおり予習 20分
3. 親和行事振り返り 20分
4. 学生要覧予習 20分
5. ガイダンス復習 20分
6. 教科書予習 30分
7. 図書館予習 55分
8. 教科書予習復習 55分
9. 親和インタビュー打合せと実施 70分
10. プレゼン作成・練習 70分
11. ビブリオバトル準備 60分
12. 教科書予習復習 30分

13. 教科書予習復習 30分
14. 教科書予習復習 30分
上記とは別に、レポート作成に120分以上

評価方法:

授業へのとりくみ:	50 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	20 **%**
その他1:	各種提出物の提出		30 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準:
80点以上 大学生活にしっかり適応して学習の基礎を十分身につけている
70～79点 大学生活に適応し、学習の基礎をおおむね身につけている
60～69点 大学生活や学習の基礎を最低限身につけている

課題へのフィードバック:
レポートは秋学期にコメントをつけて返却する。

教科書: 吉原他著『スタディスキルズ・トレーニング改訂版：大学で学ぶための25のスキル』実教出版 2017年

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:
入学時の学科ガイダンスにて、この科目の担当教員を発表するので、よく確認すること。
この科目は今後の学生生活および勉学の基本となる科目である。しっかり、確実に力をつけていこう。
また、この科目では原則として毎回PCを持参すること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 基礎演習Ⅰ

クラス: 国

授業コード: B000100002

担当者: 上原 翔子 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: この科目には2つの目的がある。1つ目は、神戸親和大学の学生として4年間充実した生活を送るための基本を学ぶことである。ここでは、親和の精神、学科の目標を理解すること、4年間の学習計画を立てること、およびさまざまなガイダンスを受けることが内容となる。また、学科の教員や学生との親睦も深めてほしい。
2つ目は、大学で講義を受けるための基礎力（アカデミックスキル）を様々な角度から身につけることを目的とする。自分自身の課題を発見し、これを解決するために授業その他を積極的に利用する、真の意味での学生を目指してほしい。

到達目標:
1. 親和の建学の精神を身につける
2. 大学生としての基本的なコミュニケーションスキルを身につける
3. 4年間の学習計画を立てる。大学で学ぶことと自分の進路を確かめる
4. 大学での履修の仕方を学び、効率的に学ぶ姿勢を身につける
5. 授業を聴き、文献を読み、レポートを書く上での基本を身につける

各回の授業計画:

1. イントロダクション
2. 親和行事・事前指導
3. 親和行事・事後指導、手紙の書き方
★第2回～第4回の授業順序は学科によって変更する可能性があります。
4. キャンパスツアー
5. ガイダンス補足
6. 4年間の学習計画作成
7. 図書館利用法講座
8. 講義の聞き方・ノートの取り方
9. 親和インタビュー（1）
10. 親和インタビュー（2）
11. ビブリオバトル
12. 試験・レポートの書き方（1）
13. 試験・レポートの書き方（2）
14. 学科行事
15. まとめ 1000字のレポート提出

特記事項: なし

授業方法: 基本的に演習形式の対面授業で実施する。

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 教科書予習 20分
2. 親和行事しおり予習 20分
3. 親和行事振り返り 20分
4. 学生要覧予習 20分
5. ガイダンス復習 20分
6. 教科書予習 30分
7. 図書館予習 55分
8. 教科書予習復習 55分
9. 親和インタビュー打合せと実施 70分
10. プレゼン作成・練習 70分
11. ビブリオバトル準備 60分
12. 教科書予習復習 30分

13. 教科書予習復習 30分
14. 教科書予習復習 30分
上記とは別に、レポート作成に120分以上

評価方法:

授業へのとりくみ:	50 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	20 **%**
その他1:	各種提出物の提出		30 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準:
80点以上 大学生活にしっかり適応して学習の基礎を十分身につけている
70～79点 大学生活に適応し、学習の基礎をおおむね身につけている
60～69点 大学生活や学習の基礎を最低限身につけている

課題へのフィードバック:
レポートは秋学期にコメントをつけて返却する。

教科書: 吉原他著『スタディスキルズ・トレーニング改訂版：大学で学ぶための25のスキル』実教出版 2017年

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:
入学時の学科ガイダンスにて、この科目の担当教員を発表するので、よく確認すること。
この科目は今後の学生生活および勉学の基本となる科目である。しっかり、確実に力をつけていこう。
また、この科目では原則として毎回PCを持参すること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 基礎演習Ⅰ

クラス: 教

授業コード: B000100011

担当者: 間渕 泰尚 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: この科目には2つの目的がある。1つ目は、神戸親和大学の学生として4年間充実した生活を送るための基本を学ぶことである。ここでは、親和の精神、学科の目標を理解すること、4年間の学習計画を立てること、およびさまざまなガイダンスを受けることが内容となる。また、学科の教員や学生との親睦も深めてほしい。
2つ目は、大学で講義を受けるための基礎力（アカデミックスキル）を様々な角度から身につけることを目的とする。自分自身の課題を発見し、これを解決するために授業その他を積極的に利用する、真の意味での学生を目指してほしい。

到達目標:
1. 親和の建学の精神を身につける
2. 大学生としての基本的なコミュニケーションスキルを身につける
3. 4年間の学習計画を立てる。大学で学ぶことと自分の進路を確かめる
4. 大学での履修の仕方を学び、効率的に学ぶ姿勢を身につける
5. 授業を聴き、文献を読み、レポートを書く上での基本を身につける

各回の授業計画:

1. イントロダクション
2. 親和行事・事前指導
3. 親和行事・事後指導、手紙の書き方
★第2回～第4回の授業順序は学科によって変更する可能性があります。
4. キャンパスツアー
5. ガイダンス補足
6. 4年間の学習計画作成
7. 図書館利用法講座
8. 講義の聞き方・ノートの取り方
9. 親和インタビュー（1）
10. 親和インタビュー（2）
11. ビブリオバトル
12. 試験・レポートの書き方（1）
13. 試験・レポートの書き方（2）
14. 学科行事
15. まとめ 1000字のレポート提出

特記事項: なし

授業方法: 基本的に演習形式の対面授業で実施する。

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 教科書予習 20分
2. 親和行事しおり予習 20分
3. 親和行事振り返り 20分
4. 学生要覧予習 20分
5. ガイダンス復習 20分
6. 教科書予習 30分
7. 図書館予習 55分
8. 教科書予習復習 55分
9. 親和インタビュー打合せと実施 70分
10. プレゼン作成・練習 70分
11. ビブリオバトル準備 60分
12. 教科書予習復習 30分

13. 教科書予習復習 30分
14. 教科書予習復習 30分
上記とは別に、レポート作成に120分以上

評価方法:

授業へのとりくみ:	50 **%**	**確認テスト:**	− **%**	**レポート:**	20 **%**
その他1:	各種提出物の提出		30 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準:
80点以上 大学生活にしっかり適応して学習の基礎を十分身につけている
70～79点 大学生活に適応し、学習の基礎をおおむね身につけている
60～69点 大学生活や学習の基礎を最低限身につけている

課題へのフィードバック:
レポートは秋学期にコメントをつけて返却する。

教科書: 吉原他著『スタディスキルズ・トレーニング改訂版：大学で学ぶための25のスキル』実教出版 2017年

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:
入学時の学科ガイダンスにて、この科目の担当教員を発表するので、よく確認すること。
この科目は今後の学生生活および勉学の基本となる科目である。しっかり、確実に力をつけていこう。
また、この科目では原則として毎回PCを持参すること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 基礎演習Ⅰ

クラス: 教

授業コード: B000100012

担当者: 瀬戸山 悠 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: この科目には2つの目的がある。1つ目は、神戸親和大学の学生として4年間充実した生活を送るための基本を学ぶことである。ここでは、親和の精神、学科の目標を理解すること、4年間の学習計画を立てること、およびさまざまなガイダンスを受けることが内容となる。また、学科の教員や学生との親睦も深めてほしい。
2つ目は、大学で講義を受けるための基礎力（アカデミックスキル）を様々な角度から身につけることを目的とする。自分自身の課題を発見し、これを解決するために授業その他を積極的に利用する、真の意味での学生を目指してほしい。

到達目標:
1. 親和の建学の精神を身につける
2. 大学生としての基本的なコミュニケーションスキルを身につける
3. 4年間の学習計画を立てる。大学で学ぶことと自分の進路を確かめる
4. 大学での履修の仕方を学び、効率的に学ぶ姿勢を身につける
5. 授業を聴き、文献を読み、レポートを書く上での基本を身につける

各回の授業計画:

1. イントロダクション
2. 親和行事・事前指導
3. 親和行事・事後指導、手紙の書き方
★第2回～第4回の授業順序は学科によって変更する可能性があります。
4. キャンパスツアー
5. ガイダンス補足
6. 4年間の学習計画作成
7. 図書館利用法講座
8. 講義の聞き方・ノートの取り方
9. 親和インタビュー（1）
10. 親和インタビュー（2）
11. ビブリオバトル
12. 試験・レポートの書き方（1）
13. 試験・レポートの書き方（2）
14. 学科行事
15. まとめ 1000字のレポート提出

特記事項: なし

授業方法: 基本的に演習形式の対面授業で実施する。

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 教科書予習 20分
2. 親和行事しおり予習 20分
3. 親和行事振り返り 20分
4. 学生要覧予習 20分
5. ガイダンス復習 20分
6. 教科書予習 30分
7. 図書館予習 55分
8. 教科書予習復習 55分
9. 親和インタビュー打合せと実施 70分
10. プレゼン作成・練習 70分
11. ビブリオバトル準備 60分
12. 教科書予習復習 30分

13. 教科書予習復習 30分
14. 教科書予習復習 30分
上記とは別に、レポート作成に120分以上

評価方法:

授業へのとりくみ:	50 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	20 **%**
その他1:	各種提出物の提出		30 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準:
80点以上 大学生活にしっかり適応して学習の基礎を十分身につけている
70～79点 大学生活に適応し、学習の基礎をおおむね身につけている
60～69点 大学生活や学習の基礎を最低限身につけている

課題へのフィードバック:
レポートは秋学期にコメントをつけて返却する。

教科書: 吉原他著『スタディスキルズ・トレーニング改訂版：大学で学ぶための25のスキル』実教出版 2017年

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:
入学時の学科ガイダンスにて、この科目の担当教員を発表するので、よく確認すること。
この科目は今後の学生生活および勉学の基本となる科目である。しっかり、確実に力をつけていこう。
また、この科目では原則として毎回PCを持参すること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 基礎演習Ⅰ

クラス: 教

授業コード: B000100013

担当者: 冨田 哲浩 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: この科目には2つの目的がある。1つ目は、神戸親和大学の学生として4年間充実した生活を送るための基本を学ぶことである。ここでは、親和の精神、学科の目標を理解すること、4年間の学習計画を立てること、およびさまざまなガイダンスを受けることが内容となる。また、学科の教員や学生との親睦も深めてほしい。
2つ目は、大学で講義を受けるための基礎力（アカデミックスキル）を様々な角度から身につけることを目的とする。自分自身の課題を発見し、これを解決するために授業その他を積極的に利用する、真の意味での学生を目指してほしい。

到達目標:
1. 親和の建学の精神を身につける
2. 大学生としての基本的なコミュニケーションスキルを身につける
3. 4年間の学習計画を立てる。大学で学ぶことと自分の進路を確かめる
4. 大学での履修の仕方を学び、効率的に学ぶ姿勢を身につける
5. 授業を聴き、文献を読み、レポートを書く上での基本を身につける

各回の授業計画:

1. イントロダクション
2. 親和行事・事前指導
3. 親和行事・事後指導、手紙の書き方
★第2回～第4回の授業順序は学科によって変更する可能性があります。
4. キャンパスツアー
5. ガイダンス補足
6. 4年間の学習計画作成
7. 図書館利用法講座
8. 講義の聞き方・ノートの取り方
9. 親和インタビュー（1）
10. 親和インタビュー（2）
11. ビブリオバトル
12. 試験・レポートの書き方（1）
13. 試験・レポートの書き方（2）
14. 学科行事
15. まとめ 1000字のレポート提出

特記事項: なし

授業方法: 基本的に演習形式の対面授業で実施する。

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 教科書予習 20分
2. 親和行事しおり予習 20分
3. 親和行事振り返り 20分
4. 学生要覧予習 20分
5. ガイダンス復習 20分
6. 教科書予習 30分
7. 図書館予習 55分
8. 教科書予習復習 55分
9. 親和インタビュー打合せと実施 70分
10. プレゼン作成・練習 70分
11. ビブリオバトル準備 60分
12. 教科書予習復習 30分

13. 教科書予習復習 30分
14. 教科書予習復習 30分
上記とは別に、レポート作成に120分以上

評価方法:

授業へのとりくみ:	50 **%**	**確認テスト:**	− **%**	**レポート:**	20 **%**
その他1:	各種提出物の提出		30 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準:
80点以上 大学生活にしっかり適応して学習の基礎を十分身につけている
70～79点 大学生活に適応し、学習の基礎をおおむね身につけている
60～69点 大学生活や学習の基礎を最低限身につけている

課題へのフィードバック:
レポートは秋学期にコメントをつけて返却する。

教科書: 吉原他著『スタディスキルズ・トレーニング改訂版：大学で学ぶための25のスキル』実教出版 2017年

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:
入学時の学科ガイダンスにて、この科目の担当教員を発表するので、よく確認すること。
この科目は今後の学生生活および勉学の基本となる科目である。しっかり、確実に力をつけていこう。
また、この科目では原則として毎回PCを持参すること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 基礎演習Ⅰ

クラス: 教

授業コード: B000100014

担当者: 中尾 尊洋 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: この科目には2つの目的がある。1つ目は、神戸親和大学の学生として4年間充実した生活を送るための基本を学ぶことである。ここでは、親和の精神、学科の目標を理解すること、4年間の学習計画を立てること、およびさまざまなガイダンスを受けることが内容となる。また、学科の教員や学生との親睦も深めてほしい。
2つ目は、大学で講義を受けるための基礎力（アカデミックスキル）を様々な角度から身につけることを目的とする。自分自身の課題を発見し、これを解決するために授業その他を積極的に利用する、真の意味での学生を目指してほしい。

到達目標:
1. 親和の建学の精神を身につける
2. 大学生としての基本的なコミュニケーションスキルを身につける
3. 4年間の学習計画を立てる。大学で学ぶことと自分の進路を確かめる
4. 大学での履修の仕方を学び、効率的に学ぶ姿勢を身につける
5. 授業を聴き、文献を読み、レポートを書く上での基本を身につける

各回の授業計画:

1. イントロダクション
2. 親和行事・事前指導
3. 親和行事・事後指導、手紙の書き方
★第2回～第4回の授業順序は学科によって変更する可能性があります。
4. キャンパスツアー
5. ガイダンス補足
6. 4年間の学習計画作成
7. 図書館利用法講座
8. 講義の聞き方・ノートの取り方
9. 親和インタビュー（1）
10. 親和インタビュー（2）
11. ビブリオバトル
12. 試験・レポートの書き方（1）
13. 試験・レポートの書き方（2）
14. 学科行事
15. まとめ 1000字のレポート提出

特記事項: なし

授業方法: 基本的に演習形式の対面授業で実施する。

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 教科書予習 20分
2. 親和行事しおり予習 20分
3. 親和行事振り返り 20分
4. 学生要覧予習 20分
5. ガイダンス復習 20分
6. 教科書予習 30分
7. 図書館予習 55分
8. 教科書予習復習 55分
9. 親和インタビュー打合せと実施 70分
10. プレゼン作成・練習 70分
11. ビブリオバトル準備 60分
12. 教科書予習復習 30分

13. 教科書予習復習 30分
14. 教科書予習復習 30分
上記とは別に、レポート作成に120分以上

評価方法:

授業へのとりくみ:	50 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	20 **%**
その他1:	各種提出物の提出		30 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準:
80点以上 大学生活にしっかり適応して学習の基礎を十分身につけている
70～79点 大学生活に適応し、学習の基礎をおおむね身につけている
60～69点 大学生活や学習の基礎を最低限身につけている

課題へのフィードバック:
レポートは秋学期にコメントをつけて返却する。

教科書: 吉原他著『スタディスキルズ・トレーニング改訂版：大学で学ぶための25のスキル』実教出版 2017年

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:
入学時の学科ガイダンスにて、この科目の担当教員を発表するので、よく確認すること。
この科目は今後の学生生活および勉学の基本となる科目である。しっかり、確実に力をつけていこう。
また、この科目では原則として毎回PCを持参すること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 基礎演習Ⅰ

クラス: 教

授業コード: B000100015

担当者: 山口 香織 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: この科目には2つの目的がある。1つ目は、神戸親和大学の学生として4年間充実した生活を送るための基本を学ぶことである。ここでは、親和の精神、学科の目標を理解すること、4年間の学習計画を立てること、およびさまざまなガイダンスを受けることが内容となる。また、学科の教員や学生との親睦も深めてほしい。
2つ目は、大学で講義を受けるための基礎力（アカデミックスキル）を様々な角度から身につけることを目的とする。自分自身の課題を発見し、これを解決するために授業その他を積極的に利用する、真の意味での学生を目指してほしい。

到達目標:
1. 親和の建学の精神を身につける
2. 大学生としての基本的なコミュニケーションスキルを身につける
3. 4年間の学習計画を立てる。大学で学ぶことと自分の進路を確かめる
4. 大学での履修の仕方を学び、効率的に学ぶ姿勢を身につける
5. 授業を聴き、文献を読み、レポートを書く上での基本を身につける

各回の授業計画:

1. イントロダクション
2. 親和行事・事前指導
3. 親和行事・事後指導、手紙の書き方
★第2回～第4回の授業順序は学科によって変更する可能性があります。
4. キャンパスツアー
5. ガイダンス補足
6. 4年間の学習計画作成
7. 図書館利用法講座
8. 講義の聞き方・ノートの取り方
9. 親和インタビュー（1）
10. 親和インタビュー（2）
11. ビブリオバトル
12. 試験・レポートの書き方（1）
13. 試験・レポートの書き方（2）
14. 学科行事
15. まとめ 1000字のレポート提出

特記事項: なし

授業方法: 基本的に演習形式の対面授業で実施する。

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 教科書予習 20分
2. 親和行事しおり予習 20分
3. 親和行事振り返り 20分
4. 学生要覧予習 20分
5. ガイダンス復習 20分
6. 教科書予習 30分
7. 図書館予習 55分
8. 教科書予習復習 55分
9. 親和インタビュー打合せと実施 70分
10. プレゼン作成・練習 70分
11. ビブリオバトル準備 60分
12. 教科書予習復習 30分

13. 教科書予習復習 30分
14. 教科書予習復習 30分
上記とは別に、レポート作成に120分以上

評価方法:

授業へのとりくみ:	50 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	20 **%**
その他1:	各種提出物の提出		30 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準:
80点以上 大学生活にしっかり適応して学習の基礎を十分身につけている
70～79点 大学生活に適応し、学習の基礎をおおむね身につけている
60～69点 大学生活や学習の基礎を最低限身につけている

課題へのフィードバック:
レポートは秋学期にコメントをつけて返却する。

教科書: 吉原他著『スタディスキルズ・トレーニング改訂版：大学で学ぶための25のスキル』実教出版 2017年

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:
入学時の学科ガイダンスにて、この科目の担当教員を発表するので、よく確認すること。
この科目は今後の学生生活および勉学の基本となる科目である。しっかり、確実に力をつけていこう。
また、この科目では原則として毎回PCを持参すること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 基礎演習Ⅰ

クラス: 教

授業コード: B000100016

担当者: 塚本 久義　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: この科目には2つの目的がある。1つ目は、神戸親和大学の学生として4年間充実した生活を送るための基本を学ぶことである。ここでは、親和の精神、学科の目標を理解すること、4年間の学習計画を立てること、およびさまざまなガイダンスを受けることが内容となる。また、学科の教員や学生との親睦も深めてほしい。
2つ目は、大学で講義を受けるための基礎力（アカデミックスキル）を様々な角度から身につけることを目的とする。自分自身の課題を発見し、これを解決するために授業その他を積極的に利用する、真の意味での学生を目指してほしい。

到達目標:
1. 親和の建学の精神を身につける
2. 大学生としての基本的なコミュニケーションスキルを身につける
3. 4年間の学習計画を立てる。大学で学ぶことと自分の進路を確かめる
4. 大学での履修の仕方を学び、効率的に学ぶ姿勢を身につける
5. 授業を聴き、文献を読み、レポートを書く上での基本を身につける

各回の授業計画:

1. イントロダクション
2. 親和行事・事前指導
3. 親和行事・事後指導、手紙の書き方
★第2回～第4回の授業順序は学科によって変更する可能性があります。
4. キャンパスツアー
5. ガイダンス補足
6. 4年間の学習計画作成
7. 図書館利用法講座
8. 講義の聞き方・ノートの取り方
9. 親和インタビュー（1）
10. 親和インタビュー（2）
11. ビブリオバトル
12. 試験・レポートの書き方（1）
13. 試験・レポートの書き方（2）
14. 学科行事
15. まとめ 1000字のレポート提出

特記事項: なし

授業方法: 基本的に演習形式の対面授業で実施する。

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 教科書予習 20分
2. 親和行事しおり予習 20分
3. 親和行事振り返り 20分
4. 学生要覧予習 20分
5. ガイダンス復習 20分
6. 教科書予習 30分
7. 図書館予習 55分
8. 教科書予習復習 55分
9. 親和インタビュー打合せと実施 70分
10. プレゼン作成・練習 70分
11. ビブリオバトル準備 60分
12. 教科書予習復習 30分

13. 教科書予習復習 30分
14. 教科書予習復習 30分
上記とは別に、レポート作成に120分以上

評価方法:

授業へのとりくみ:	50 **%**	**確認テスト:**	− **%**	**レポート:**	20 **%**
その他1:	各種提出物の提出		30 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準:
80点以上 大学生活にしっかり適応して学習の基礎を十分身につけている
70～79点 大学生活に適応し、学習の基礎をおおむね身につけている
60～69点 大学生活や学習の基礎を最低限身につけている

課題へのフィードバック:
レポートは秋学期にコメントをつけて返却する。

教科書: 吉原他著『スタディスキルズ・トレーニング改訂版：大学で学ぶための25のスキル』実教出版 2017年

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:
入学時の学科ガイダンスにて、この科目の担当教員を発表するので、よく確認すること。
この科目は今後の学生生活および勉学の基本となる科目である。しっかり、確実に力をつけていこう。
また、この科目では原則として毎回PCを持参すること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 基礎演習Ⅰ

クラス: 教

授業コード: B000100017

担当者: 中村 晶平 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: この科目には2つの目的がある。1つ目は、神戸親和大学の学生として4年間充実した生活を送るための基本を学ぶことである。ここでは、親和の精神、学科の目標を理解すること、4年間の学習計画を立てること、およびさまざまなガイダンスを受けることが内容となる。また、学科の教員や学生との親睦も深めてほしい。
2つ目は、大学で講義を受けるための基礎力（アカデミックスキル）を様々な角度から身につけることを目的とする。自分自身の課題を発見し、これを解決するために授業その他を積極的に利用する、真の意味での学生を目指してほしい。

到達目標:
1. 親和の建学の精神を身につける
2. 大学生としての基本的なコミュニケーションスキルを身につける
3. 4年間の学習計画を立てる。大学で学ぶことと自分の進路を確かめる
4. 大学での履修の仕方を学び、効率的に学ぶ姿勢を身につける
5. 授業を聴き、文献を読み、レポートを書く上での基本を身につける

各回の授業計画:

1. イントロダクション
2. 親和行事・事前指導
3. 親和行事・事後指導、手紙の書き方
★第2回～第4回の授業順序は学科によって変更する可能性があります。
4. キャンパスツアー
5. ガイダンス補足
6. 4年間の学習計画作成
7. 図書館利用法講座
8. 講義の聞き方・ノートの取り方
9. 親和インタビュー（1）
10. 親和インタビュー（2）
11. ビブリオバトル
12. 試験・レポートの書き方（1）
13. 試験・レポートの書き方（2）
14. 学科行事
15. まとめ 1000字のレポート提出

特記事項: なし

授業方法: 基本的に演習形式の対面授業で実施する。

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 教科書予習 20分
2. 親和行事しおり予習 20分
3. 親和行事振り返り 20分
4. 学生要覧予習 20分
5. ガイダンス復習 20分
6. 教科書予習 30分
7. 図書館予習 55分
8. 教科書予習復習 55分
9. 親和インタビュー打合せと実施 70分
10. プレゼン作成・練習 70分
11. ビブリオバトル準備 60分
12. 教科書予習復習 30分

13. 教科書予習復習 30分
14. 教科書予習復習 30分
上記とは別に、レポート作成に120分以上

評価方法:

授業へのとりくみ:	50 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	20 **%**
その他1:	各種提出物の提出		30 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準:
80点以上 大学生活にしっかり適応して学習の基礎を十分身につけている
70～79点 大学生活に適応し、学習の基礎をおおむね身につけている
60～69点 大学生活や学習の基礎を最低限身につけている

課題へのフィードバック:
レポートは秋学期にコメントをつけて返却する。

教科書: 吉原他著『スタディスキルズ・トレーニング改訂版：大学で学ぶための25のスキル』実教出版 2017年

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:
入学時の学科ガイダンスにて、この科目の担当教員を発表するので、よく確認すること。
この科目は今後の学生生活および勉学の基本となる科目である。しっかり、確実に力をつけていこう。
また、この科目では原則として毎回PCを持参すること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 基礎演習Ⅰ

クラス: 教

授業コード: B000100018

担当者: 高　奈奈　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: この科目には2つの目的がある。1つ目は、神戸親和大学の学生として4年間充実した生活を送るための基本を学ぶことである。ここでは、親和の精神、学科の目標を理解すること、4年間の学習計画を立てること、およびさまざまなガイダンスを受けることが内容となる。また、学科の教員や学生との親睦も深めてほしい。
2つ目は、大学で講義を受けるための基礎力（アカデミックスキル）を様々な角度から身につけることを目的とする。自分自身の課題を発見し、これを解決するために授業その他を積極的に利用する、真の意味での学生を目指してほしい。

到達目標:
1. 親和の建学の精神を身につける
2. 大学生としての基本的なコミュニケーションスキルを身につける
3. 4年間の学習計画を立てる。大学で学ぶことと自分の進路を確かめる
4. 大学での履修の仕方を学び、効率的に学ぶ姿勢を身につける
5. 授業を聴き、文献を読み、レポートを書く上での基本を身につける

各回の授業計画:

1. イントロダクション
2. 親和行事・事前指導
3. 親和行事・事後指導、手紙の書き方
★第2回～第4回の授業順序は学科によって変更する可能性があります。
4. キャンパスツアー
5. ガイダンス補足
6. 4年間の学習計画作成
7. 図書館利用法講座
8. 講義の聞き方・ノートの取り方
9. 親和インタビュー（1）
10. 親和インタビュー（2）
11. ビブリオバトル
12. 試験・レポートの書き方（1）
13. 試験・レポートの書き方（2）
14. 学科行事
15. まとめ 1000字のレポート提出

特記事項: なし

授業方法: 基本的に演習形式の対面授業で実施する。

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 教科書予習 20分
2. 親和行事しおり予習 20分
3. 親和行事振り返り 20分
4. 学生要覧予習 20分
5. ガイダンス復習 20分
6. 教科書予習 30分
7. 図書館予習 55分
8. 教科書予習復習 55分
9. 親和インタビュー打合せと実施 70分
10. プレゼン作成・練習 70分
11. ビブリオバトル準備 60分
12. 教科書予習復習 30分

13. 教科書予習復習 30分
14. 教科書予習復習 30分
上記とは別に、レポート作成に120分以上

評価方法:

授業へのとりくみ:	50 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	20 **%**
その他1:	各種提出物の提出		30 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準:
80点以上 大学生活にしっかり適応して学習の基礎を十分身につけている
70～79点 大学生活に適応し、学習の基礎をおおむね身につけている
60～69点 大学生活や学習の基礎を最低限身につけている

課題へのフィードバック:
レポートは秋学期にコメントをつけて返却する。

教科書: 吉原他著『スタディスキルズ・トレーニング改訂版：大学で学ぶための25のスキル』実教出版 2017年

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:
入学時の学科ガイダンスにて、この科目の担当教員を発表するので、よく確認すること。
この科目は今後の学生生活および勉学の基本となる科目である。しっかり、確実に力をつけていこう。
また、この科目では原則として毎回PCを持参すること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 基礎演習Ⅰ

クラス: 教

授業コード: B000100019

担当者: 岩濵 里江子 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: この科目には2つの目的がある。1つ目は、神戸親和大学の学生として4年間充実した生活を送るための基本を学ぶことである。ここでは、親和の精神、学科の目標を理解すること、4年間の学習計画を立てること、およびさまざまなガイダンスを受けることが内容となる。また、学科の教員や学生との親睦も深めてほしい。
2つ目は、大学で講義を受けるための基礎力（アカデミックスキル）を様々な角度から身につけることを目的とする。自分自身の課題を発見し、これを解決するために授業その他を積極的に利用する、真の意味での学生を目指してほしい。

到達目標:
1. 親和の建学の精神を身につける
2. 大学生としての基本的なコミュニケーションスキルを身につける
3. 4年間の学習計画を立てる。大学で学ぶことと自分の進路を確かめる
4. 大学での履修の仕方を学び、効率的に学ぶ姿勢を身につける
5. 授業を聴き、文献を読み、レポートを書く上での基本を身につける

各回の授業計画:

1. イントロダクション
2. 親和行事・事前指導
3. 親和行事・事後指導、手紙の書き方
★第2回～第4回の授業順序は学科によって変更する可能性があります。
4. キャンパスツアー
5. ガイダンス補足
6. 4年間の学習計画作成
7. 図書館利用法講座
8. 講義の聞き方・ノートの取り方
9. 親和インタビュー（1）
10. 親和インタビュー（2）
11. ビブリオバトル
12. 試験・レポートの書き方（1）
13. 試験・レポートの書き方（2）
14. 学科行事
15. まとめ 1000字のレポート提出

特記事項: なし

授業方法: 基本的に演習形式の対面授業で実施する。

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 教科書予習 20分
2. 親和行事しおり予習 20分
3. 親和行事振り返り 20分
4. 学生要覧予習 20分
5. ガイダンス復習 20分
6. 教科書予習 30分
7. 図書館予習 55分
8. 教科書予習復習 55分
9. 親和インタビュー打合せと実施 70分
10. プレゼン作成・練習 70分
11. ビブリオバトル準備 60分
12. 教科書予習復習 30分

13. 教科書予習復習 30分
14. 教科書予習復習 30分
上記とは別に、レポート作成に120分以上

評価方法:

授業へのとりくみ:	50 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	20 **%**
その他1:	各種提出物の提出		30 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準:
80点以上 大学生活にしっかり適応して学習の基礎を十分身につけている
70～79点 大学生活に適応し、学習の基礎をおおむね身につけている
60～69点 大学生活や学習の基礎を最低限身につけている

課題へのフィードバック:
レポートは秋学期にコメントをつけて返却する。

教科書: 吉原他著『スタディスキルズ・トレーニング改訂版：大学で学ぶための25のスキル』実教出版 2017年

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:
入学時の学科ガイダンスにて、この科目の担当教員を発表するので、よく確認すること。
この科目は今後の学生生活および勉学の基本となる科目である。しっかり、確実に力をつけていこう。
また、この科目では原則として毎回PCを持参すること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 基礎演習Ⅰ

クラス: 教

授業コード: B000100020

担当者: 樋口 拓　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: この科目には2つの目的がある。1つ目は、神戸親和大学の学生として4年間充実した生活を送るための基本を学ぶことである。ここでは、親和の精神、学科の目標を理解すること、4年間の学習計画を立てること、およびさまざまなガイダンスを受けることが内容となる。また、学科の教員や学生との親睦も深めてほしい。
2つ目は、大学で講義を受けるための基礎力（アカデミックスキル）を様々な角度から身につけることを目的とする。自分自身の課題を発見し、これを解決するために授業その他を積極的に利用する、真の意味での学生を目指してほしい。

到達目標:
1. 親和の建学の精神を身につける
2. 大学生としての基本的なコミュニケーションスキルを身につける
3. 4年間の学習計画を立てる。大学で学ぶことと自分の進路を確かめる
4. 大学での履修の仕方を学び、効率的に学ぶ姿勢を身につける
5. 授業を聴き、文献を読み、レポートを書く上での基本を身につける

各回の授業計画:

1. イントロダクション
2. 親和行事・事前指導
3. 親和行事・事後指導、手紙の書き方
★第2回～第4回の授業順序は学科によって変更する可能性があります。
4. キャンパスツアー
5. ガイダンス補足
6. 4年間の学習計画作成
7. 図書館利用法講座
8. 講義の聞き方・ノートの取り方
9. 親和インタビュー（1）
10. 親和インタビュー（2）
11. ビブリオバトル
12. 試験・レポートの書き方（1）
13. 試験・レポートの書き方（2）
14. 学科行事
15. まとめ 1000字のレポート提出

特記事項: なし

授業方法: 基本的に演習形式の対面授業で実施する。

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 教科書予習 20分
2. 親和行事しおり予習 20分
3. 親和行事振り返り 20分
4. 学生要覧予習 20分
5. ガイダンス復習 20分
6. 教科書予習 30分
7. 図書館予習 55分
8. 教科書予習復習 55分
9. 親和インタビュー打合せと実施 70分
10. プレゼン作成・練習 70分
11. ビブリオバトル準備 60分
12. 教科書予習復習 30分

13. 教科書予習復習 30分
14. 教科書予習復習 30分
上記とは別に、レポート作成に120分以上

評価方法:

授業へのとりくみ:	50 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	20 **%**
その他1:	各種提出物の提出		30 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準:
80点以上 大学生活にしっかり適応して学習の基礎を十分身につけている
70～79点 大学生活に適応し、学習の基礎をおおむね身につけている
60～69点 大学生活や学習の基礎を最低限身につけている

課題へのフィードバック:
レポートは秋学期にコメントをつけて返却する。

教科書: 吉原他著『スタディスキルズ・トレーニング改訂版：大学で学ぶための25のスキル』実教出版 2017年

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:
入学時の学科ガイダンスにて、この科目の担当教員を発表するので、よく確認すること。
この科目は今後の学生生活および勉学の基本となる科目である。しっかり、確実に力をつけていこう。
また、この科目では原則として毎回PCを持参すること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 基礎演習Ⅰ

クラス: 心

授業コード: B000100031

担当者: 辻川 典文 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: この科目には2つの目的がある。1つ目は、神戸親和大学の学生として4年間充実した生活を送るための基本を学ぶことである。ここでは、親和の精神、学科の目標を理解すること、4年間の学習計画を立てること、およびさまざまなガイダンスを受けることが内容となる。また、学科の教員や学生との親睦も深めてほしい。
2つ目は、大学で講義を受けるための基礎力（アカデミックスキル）を様々な角度から身につけることを目的とする。自分自身の課題を発見し、これを解決するために授業その他を積極的に利用する、真の意味での学生を目指してほしい。

到達目標:
1. 親和の建学の精神を身につける
2. 大学生としての基本的なコミュニケーションスキルを身につける
3. 4年間の学習計画を立てる。大学で学ぶことと自分の進路を確かめる
4. 大学での履修の仕方を学び、効率的に学ぶ姿勢を身につける
5. 授業を聴き、文献を読み、レポートを書く上での基本を身につける

各回の授業計画:

1. イントロダクション
2. 親和行事・事前指導
3. 親和行事・事後指導、手紙の書き方
★第2回～第4回の授業順序は学科によって変更する可能性があります。
4. キャンパスツアー
5. ガイダンス補足
6. 4年間の学習計画作成
7. 図書館利用法講座
8. 講義の聞き方・ノートの取り方
9. 親和インタビュー（1）
10. 親和インタビュー（2）
11. ビブリオバトル
12. 試験・レポートの書き方（1）
13. 試験・レポートの書き方（2）
14. 学科行事
15. まとめ 1000字のレポート提出

特記事項: なし

授業方法: 基本的に演習形式の対面授業で実施する。

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 教科書予習 20分
2. 親和行事しおり予習 20分
3. 親和行事振り返り 20分
4. 学生要覧予習 20分
5. ガイダンス復習 20分
6. 教科書予習 30分
7. 図書館予習 55分
8. 教科書予習復習 55分
9. 親和インタビュー打合せと実施 70分
10. プレゼン作成・練習 70分
11. ビブリオバトル準備 60分
12. 教科書予習復習 30分

13. 教科書予習復習 30分
14. 教科書予習復習 30分
上記とは別に、レポート作成に120分以上

評価方法:

授業へのとりくみ:	50 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	20 **%**
その他1:	各種提出物の提出		30 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準:
80点以上 大学生活にしっかり適応して学習の基礎を十分身につけている
70～79点 大学生活に適応し、学習の基礎をおおむね身につけている
60～69点 大学生活や学習の基礎を最低限身につけている

課題へのフィードバック:
レポートは秋学期にコメントをつけて返却する。

教科書: 吉原他著『スタディスキルズ・トレーニング改訂版：大学で学ぶための25のスキル』実教出版 2017年

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:
入学時の学科ガイダンスにて、この科目の担当教員を発表するので、よく確認すること。
この科目は今後の学生生活および勉学の基本となる科目である。しっかり、確実に力をつけていこう。
また、この科目では原則として毎回PCを持参すること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 基礎演習Ⅰ

クラス: 心

授業コード: B000100032

担当者: 権藤 眞織　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: この科目には2つの目的がある。1つ目は、神戸親和大学の学生として4年間充実した生活を送るための基本を学ぶことである。ここでは、親和の精神、学科の目標を理解すること、4年間の学習計画を立てること、およびさまざまなガイダンスを受けることが内容となる。また、学科の教員や学生との親睦も深めてほしい。
2つ目は、大学で講義を受けるための基礎力（アカデミックスキル）を様々な角度から身につけることを目的とする。自分自身の課題を発見し、これを解決するために授業その他を積極的に利用する、真の意味での学生を目指してほしい。

到達目標:
1. 親和の建学の精神を身につける
2. 大学生としての基本的なコミュニケーションスキルを身につける
3. 4年間の学習計画を立てる。大学で学ぶことと自分の進路を確かめる
4. 大学での履修の仕方を学び、効率的に学ぶ姿勢を身につける
5. 授業を聴き、文献を読み、レポートを書く上での基本を身につける

各回の授業計画:

1. イントロダクション
2. 親和行事・事前指導
3. 親和行事・事後指導、手紙の書き方
★第2回～第4回の授業順序は学科によって変更する可能性があります。
4. キャンパスツアー
5. ガイダンス補足
6. 4年間の学習計画作成
7. 図書館利用法講座
8. 講義の聞き方・ノートの取り方
9. 親和インタビュー（1）
10. 親和インタビュー（2）
11. ビブリオバトル
12. 試験・レポートの書き方（1）
13. 試験・レポートの書き方（2）
14. 学科行事
15. まとめ 1000字のレポート提出

特記事項: なし

授業方法: 基本的に演習形式の対面授業で実施する。

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 教科書予習 20分
2. 親和行事しおり予習 20分
3. 親和行事振り返り 20分
4. 学生要覧予習 20分
5. ガイダンス復習 20分
6. 教科書予習 30分
7. 図書館予習 55分
8. 教科書予習復習 55分
9. 親和インタビュー打合せと実施 70分
10. プレゼン作成・練習 70分
11. ビブリオバトル準備 60分
12. 教科書予習復習 30分

13. 教科書予習復習 30分
14. 教科書予習復習 30分
上記とは別に、レポート作成に120分以上

評価方法:

授業へのとりくみ:	50 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	20 **%**
その他1:	各種提出物の提出		30 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準:
80点以上 大学生活にしっかり適応して学習の基礎を十分身につけている
70～79点 大学生活に適応し、学習の基礎をおおむね身につけている
60～69点 大学生活や学習の基礎を最低限身につけている

課題へのフィードバック:
レポートは秋学期にコメントをつけて返却する。

教科書: 吉原他著『スタディスキルズ・トレーニング改訂版：大学で学ぶための25のスキル』実教出版 2017年

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:
入学時の学科ガイダンスにて、この科目の担当教員を発表するので、よく確認すること。
この科目は今後の学生生活および勉学の基本となる科目である。しっかり、確実に力をつけていこう。
また、この科目では原則として毎回PCを持参すること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 基礎演習Ⅰ

クラス: 心

授業コード: B000100033

担当者: 椎野 智子　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: この科目には2つの目的がある。1つ目は、神戸親和大学の学生として4年間充実した生活を送るための基本を学ぶことである。ここでは、親和の精神、学科の目標を理解すること、4年間の学習計画を立てること、およびさまざまなガイダンスを受けることが内容となる。また、学科の教員や学生との親睦も深めてほしい。
2つ目は、大学で講義を受けるための基礎力（アカデミックスキル）を様々な角度から身につけることを目的とする。自分自身の課題を発見し、これを解決するために授業その他を積極的に利用する、真の意味での学生を目指してほしい。

到達目標:
1. 親和の建学の精神を身につける
2. 大学生としての基本的なコミュニケーションスキルを身につける
3. 4年間の学習計画を立てる。大学で学ぶことと自分の進路を確かめる
4. 大学での履修の仕方を学び、効率的に学ぶ姿勢を身につける
5. 授業を聴き、文献を読み、レポートを書く上での基本を身につける

各回の授業計画:

1. イントロダクション
2. 親和行事・事前指導
3. 親和行事・事後指導、手紙の書き方
★第2回～第4回の授業順序は学科によって変更する可能性があります。
4. キャンパスツアー
5. ガイダンス補足
6. 4年間の学習計画作成
7. 図書館利用法講座
8. 講義の聞き方・ノートの取り方
9. 親和インタビュー（1）
10. 親和インタビュー（2）
11. ビブリオバトル
12. 試験・レポートの書き方（1）
13. 試験・レポートの書き方（2）
14. 学科行事
15. まとめ 1000字のレポート提出

特記事項: なし

授業方法: 基本的に演習形式の対面授業で実施する。

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 教科書予習 20分
2. 親和行事しおり予習 20分
3. 親和行事振り返り 20分
4. 学生要覧予習 20分
5. ガイダンス復習 20分
6. 教科書予習 30分
7. 図書館予習 55分
8. 教科書予習復習 55分
9. 親和インタビュー打合せと実施 70分
10. プレゼン作成・練習 70分
11. ビブリオバトル準備 60分
12. 教科書予習復習 30分

13. 教科書予習復習 30分
14. 教科書予習復習 30分
上記とは別に、レポート作成に120分以上

評価方法:

授業へのとりくみ:	50 **%**	**確認テスト:**	− **%**	**レポート:**	20 **%**
その他1:	各種提出物の提出		30 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準:
80点以上 大学生活にしっかり適応して学習の基礎を十分身につけている
70～79点 大学生活に適応し、学習の基礎をおおむね身につけている
60～69点 大学生活や学習の基礎を最低限身につけている

課題へのフィードバック:
レポートは秋学期にコメントをつけて返却する。

教科書: 吉原他著『スタディスキルズ・トレーニング改訂版：大学で学ぶための25のスキル』実教出版 2017年

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:
入学時の学科ガイダンスにて、この科目の担当教員を発表するので、よく確認すること。
この科目は今後の学生生活および勉学の基本となる科目である。しっかり、確実に力をつけていこう。
また、この科目では原則として毎回PCを持参すること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 基礎演習Ⅰ

クラス: ス

授業コード: B000100051

担当者: 葦原 摩耶子 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: この科目には2つの目的がある。1つ目は、神戸親和大学の学生として4年間充実した生活を送るための基本を学ぶことである。ここでは、親和の精神、学科の目標を理解すること、4年間の学習計画を立てること、およびさまざまなガイダンスを受けることが内容となる。また、学科の教員や学生との親睦も深めてほしい。
2つ目は、大学で講義を受けるための基礎力（アカデミックスキル）を様々な角度から身につけることを目的とする。自分自身の課題を発見し、これを解決するために授業その他を積極的に利用する、真の意味での学生を目指してほしい。

到達目標:
1. 親和の建学の精神を身につける
2. 大学生としての基本的なコミュニケーションスキルを身につける
3. 4年間の学習計画を立てる。大学で学ぶことと自分の進路を確かめる
4. 大学での履修の仕方を学び、効率的に学ぶ姿勢を身につける
5. 授業を聴き、文献を読み、レポートを書く上での基本を身につける

各回の授業計画:

1. イントロダクション
2. 親和行事・事前指導
3. 親和行事・事後指導、手紙の書き方
★第2回～第4回の授業順序は学科によって変更する可能性があります。
4. キャンパスツアー
5. ガイダンス補足
6. 4年間の学習計画作成
7. 図書館利用法講座
8. 講義の聞き方・ノートの取り方
9. 親和インタビュー（1）
10. 親和インタビュー（2）
11. ビブリオバトル
12. 試験・レポートの書き方（1）
13. 試験・レポートの書き方（2）
14. 学科行事
15. まとめ 1000字のレポート提出

特記事項: なし

授業方法: 基本的に演習形式の対面授業で実施する。

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 教科書予習 20分
2. 親和行事しおり予習 20分
3. 親和行事振り返り 20分
4. 学生要覧予習 20分
5. ガイダンス復習 20分
6. 教科書予習 30分
7. 図書館予習 55分
8. 教科書予習復習 55分
9. 親和インタビュー打合せと実施 70分
10. プレゼン作成・練習 70分
11. ビブリオバトル準備 60分
12. 教科書予習復習 30分

13. 教科書予習復習 30分
14. 教科書予習復習 30分
上記とは別に、レポート作成に120分以上

評価方法:

授業へのとりくみ:	50 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	20 **%**
その他1:	各種提出物の提出		30 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準:
80点以上 大学生活にしっかり適応して学習の基礎を十分身につけている
70～79点 大学生活に適応し、学習の基礎をおおむね身につけている
60～69点 大学生活や学習の基礎を最低限身につけている

課題へのフィードバック:
レポートは秋学期にコメントをつけて返却する。

教科書: 吉原他著『スタディスキルズ・トレーニング改訂版：大学で学ぶための25のスキル』実教出版 2017年

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:
入学時の学科ガイダンスにて、この科目の担当教員を発表するので、よく確認すること。
この科目は今後の学生生活および勉学の基本となる科目である。しっかり、確実に力をつけていこう。
また、この科目では原則として毎回PCを持参すること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 基礎演習Ⅰ

クラス: ｽ

授業コード: B000100052

担当者: 宮辻 和貴 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: この科目には2つの目的がある。1つ目は、神戸親和大学の学生として4年間充実した生活を送るための基本を学ぶことである。ここでは、親和の精神、学科の目標を理解すること、4年間の学習計画を立てること、およびさまざまなガイダンスを受けることが内容となる。また、学科の教員や学生との親睦も深めてほしい。
2つ目は、大学で講義を受けるための基礎力（アカデミックスキル）を様々な角度から身につけることを目的とする。自分自身の課題を発見し、これを解決するために授業その他を積極的に利用する、真の意味での学生を目指してほしい。

到達目標:
1. 親和の建学の精神を身につける
2. 大学生としての基本的なコミュニケーションスキルを身につける
3. 4年間の学習計画を立てる。大学で学ぶことと自分の進路を確かめる
4. 大学での履修の仕方を学び、効率的に学ぶ姿勢を身につける
5. 授業を聴き、文献を読み、レポートを書く上での基本を身につける

各回の授業計画:

1. イントロダクション
2. 親和行事・事前指導
3. 親和行事・事後指導、手紙の書き方
★第2回～第4回の授業順序は学科によって変更する可能性があります。
4. キャンパスツアー
5. ガイダンス補足
6. 4年間の学習計画作成
7. 図書館利用法講座
8. 講義の聞き方・ノートの取り方
9. 親和インタビュー（1）
10. 親和インタビュー（2）
11. ビブリオバトル
12. 試験・レポートの書き方（1）
13. 試験・レポートの書き方（2）
14. 学科行事
15. まとめ 1000字のレポート提出

特記事項: なし

授業方法: 基本的に演習形式の対面授業で実施する。

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 教科書予習 20分
2. 親和行事しおり予習 20分
3. 親和行事振り返り 20分
4. 学生要覧予習 20分
5. ガイダンス復習 20分
6. 教科書予習 30分
7. 図書館予習 55分
8. 教科書予習復習 55分
9. 親和インタビュー打合せと実施 70分
10. プレゼン作成・練習 70分
11. ビブリオバトル準備 60分
12. 教科書予習復習 30分

13. 教科書予習復習 30分
14. 教科書予習復習 30分
上記とは別に、レポート作成に120分以上

評価方法:

授業へのとりくみ:	50 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	20 **%**
その他1:	各種提出物の提出		30 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準:
80点以上 大学生活にしっかり適応して学習の基礎を十分身につけている
70～79点 大学生活に適応し、学習の基礎をおおむね身につけている
60～69点 大学生活や学習の基礎を最低限身につけている

課題へのフィードバック:
レポートは秋学期にコメントをつけて返却する。

教科書: 吉原他著『スタディスキルズ・トレーニング改訂版：大学で学ぶための25のスキル』実教出版 2017年

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:
入学時の学科ガイダンスにて、この科目の担当教員を発表するので、よく確認すること。
この科目は今後の学生生活および勉学の基本となる科目である。しっかり、確実に力をつけていこう。
また、この科目では原則として毎回PCを持参すること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 基礎演習Ⅰ

クラス: ス

授業コード: B000100053

担当者: 杉山 真人 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: この科目には2つの目的がある。1つ目は、神戸親和大学の学生として4年間充実した生活を送るための基本を学ぶことである。ここでは、親和の精神、学科の目標を理解すること、4年間の学習計画を立てること、およびさまざまなガイダンスを受けることが内容となる。また、学科の教員や学生との親睦も深めてほしい。
2つ目は、大学で講義を受けるための基礎力（アカデミックスキル）を様々な角度から身につけることを目的とする。自分自身の課題を発見し、これを解決するために授業その他を積極的に利用する、真の意味での学生を目指してほしい。

到達目標:
1. 親和の建学の精神を身につける
2. 大学生としての基本的なコミュニケーションスキルを身につける
3. 4年間の学習計画を立てる。大学で学ぶことと自分の進路を確かめる
4. 大学での履修の仕方を学び、効率的に学ぶ姿勢を身につける
5. 授業を聴き、文献を読み、レポートを書く上での基本を身につける

各回の授業計画:

1. イントロダクション
2. 親和行事・事前指導
3. 親和行事・事後指導、手紙の書き方
★第2回～第4回の授業順序は学科によって変更する可能性があります。
4. キャンパスツアー
5. ガイダンス補足
6. 4年間の学習計画作成
7. 図書館利用法講座
8. 講義の聞き方・ノートの取り方
9. 親和インタビュー（1）
10. 親和インタビュー（2）
11. ビブリオバトル
12. 試験・レポートの書き方（1）
13. 試験・レポートの書き方（2）
14. 学科行事
15. まとめ 1000字のレポート提出

特記事項: なし

授業方法: 基本的に演習形式の対面授業で実施する。

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 教科書予習 20分
2. 親和行事しおり予習 20分
3. 親和行事振り返り 20分
4. 学生要覧予習 20分
5. ガイダンス復習 20分
6. 教科書予習 30分
7. 図書館予習 55分
8. 教科書予習復習 55分
9. 親和インタビュー打合せと実施 70分
10. プレゼン作成・練習 70分
11. ビブリオバトル準備 60分
12. 教科書予習復習 30分

13. 教科書予習復習 30分
14. 教科書予習復習 30分
上記とは別に、レポート作成に120分以上

評価方法:

授業へのとりくみ:	50 **%**	**確認テスト:**	− **%**	**レポート:**	20 **%**
その他1:	各種提出物の提出		30 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準:
80点以上 大学生活にしっかり適応して学習の基礎を十分身につけている
70～79点 大学生活に適応し、学習の基礎をおおむね身につけている
60～69点 大学生活や学習の基礎を最低限身につけている

課題へのフィードバック:
レポートは秋学期にコメントをつけて返却する。

教科書: 吉原他著『スタディスキルズ・トレーニング改訂版：大学で学ぶための25のスキル』実教出版 2017年

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:
入学時の学科ガイダンスにて、この科目の担当教員を発表するので、よく確認すること。
この科目は今後の学生生活および勉学の基本となる科目である。しっかり、確実に力をつけていこう。
また、この科目では原則として毎回PCを持参すること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 基礎演習Ⅰ

クラス: ｽ

授業コード: B000100054

担当者: 有山 篤利　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: この科目には2つの目的がある。1つ目は、神戸親和大学の学生として4年間充実した生活を送るための基本を学ぶことである。ここでは、親和の精神、学科の目標を理解すること、4年間の学習計画を立てること、およびさまざまなガイダンスを受けることが内容となる。また、学科の教員や学生との親睦も深めてほしい。
2つ目は、大学で講義を受けるための基礎力（アカデミックスキル）を様々な角度から身につけることを目的とする。自分自身の課題を発見し、これを解決するために授業その他を積極的に利用する、真の意味での学生を目指してほしい。

到達目標:
1. 親和の建学の精神を身につける
2. 大学生としての基本的なコミュニケーションスキルを身につける
3. 4年間の学習計画を立てる。大学で学ぶことと自分の進路を確かめる
4. 大学での履修の仕方を学び、効率的に学ぶ姿勢を身につける
5. 授業を聴き、文献を読み、レポートを書く上での基本を身につける

各回の授業計画:

1. イントロダクション
2. 親和行事・事前指導
3. 親和行事・事後指導、手紙の書き方
★第2回～第4回の授業順序は学科によって変更する可能性があります。
4. キャンパスツアー
5. ガイダンス補足
6. 4年間の学習計画作成
7. 図書館利用法講座
8. 講義の聞き方・ノートの取り方
9. 親和インタビュー（1）
10. 親和インタビュー（2）
11. ビブリオバトル
12. 試験・レポートの書き方（1）
13. 試験・レポートの書き方（2）
14. 学科行事
15. まとめ 1000字のレポート提出

特記事項: なし

授業方法: 基本的に演習形式の対面授業で実施する。

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 教科書予習 20分
2. 親和行事しおり予習 20分
3. 親和行事振り返り 20分
4. 学生要覧予習 20分
5. ガイダンス復習 20分
6. 教科書予習 30分
7. 図書館予習 55分
8. 教科書予習復習 55分
9. 親和インタビュー打合せと実施 70分
10. プレゼン作成・練習 70分
11. ビブリオバトル準備 60分
12. 教科書予習復習 30分

13. 教科書予習復習 30分
14. 教科書予習復習 30分
上記とは別に、レポート作成に120分以上

評価方法:

授業へのとりくみ:	50 **%**	**確認テスト:**	− **%**	**レポート:**	20 **%**
その他1:	各種提出物の提出		30 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準:
80点以上 大学生活にしっかり適応して学習の基礎を十分身につけている
70～79点 大学生活に適応し、学習の基礎をおおむね身につけている
60～69点 大学生活や学習の基礎を最低限身につけている

課題へのフィードバック:
レポートは秋学期にコメントをつけて返却する。

教科書: 吉原他著『スタディスキルズ・トレーニング改訂版：大学で学ぶための25のスキル』実教出版 2017年

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:
入学時の学科ガイダンスにて、この科目の担当教員を発表するので、よく確認すること。
この科目は今後の学生生活および勉学の基本となる科目である。しっかり、確実に力をつけていこう。
また、この科目では原則として毎回PCを持参すること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 基礎演習Ⅰ

クラス: ス

授業コード: B000100055

担当者: 北中 睦雄 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: この科目には2つの目的がある。1つ目は、神戸親和大学の学生として4年間充実した生活を送るための基本を学ぶことである。ここでは、親和の精神、学科の目標を理解すること、4年間の学習計画を立てること、およびさまざまなガイダンスを受けることが内容となる。また、学科の教員や学生との親睦も深めてほしい。
2つ目は、大学で講義を受けるための基礎力（アカデミックスキル）を様々な角度から身につけることを目的とする。自分自身の課題を発見し、これを解決するために授業その他を積極的に利用する、真の意味での学生を目指してほしい。

到達目標:
1. 親和の建学の精神を身につける
2. 大学生としての基本的なコミュニケーションスキルを身につける
3. 4年間の学習計画を立てる。大学で学ぶことと自分の進路を確かめる
4. 大学での履修の仕方を学び、効率的に学ぶ姿勢を身につける
5. 授業を聴き、文献を読み、レポートを書く上での基本を身につける

各回の授業計画:

1. イントロダクション
2. 親和行事・事前指導
3. 親和行事・事後指導、手紙の書き方
★第2回～第4回の授業順序は学科によって変更する可能性があります。
4. キャンパスツアー
5. ガイダンス補足
6. 4年間の学習計画作成
7. 図書館利用法講座
8. 講義の聞き方・ノートの取り方
9. 親和インタビュー（1）
10. 親和インタビュー（2）
11. ビブリオバトル
12. 試験・レポートの書き方（1）
13. 試験・レポートの書き方（2）
14. 学科行事
15. まとめ 1000字のレポート提出

特記事項: なし

授業方法: 基本的に演習形式の対面授業で実施する。

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 教科書予習 20分
2. 親和行事しおり予習 20分
3. 親和行事振り返り 20分
4. 学生要覧予習 20分
5. ガイダンス復習 20分
6. 教科書予習 30分
7. 図書館予習 55分
8. 教科書予習復習 55分
9. 親和インタビュー打合せと実施 70分
10. プレゼン作成・練習 70分
11. ビブリオバトル準備 60分
12. 教科書予習復習 30分

13. 教科書予習復習 30分
14. 教科書予習復習 30分
上記とは別に、レポート作成に120分以上

評価方法:

授業へのとりくみ:	50 **%**	**確認テスト:**	− **%**	**レポート:**	20 **%**
その他1:	各種提出物の提出		30 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準:
80点以上 大学生活にしっかり適応して学習の基礎を十分身につけている
70～79点 大学生活に適応し、学習の基礎をおおむね身につけている
60～69点 大学生活や学習の基礎を最低限身につけている

課題へのフィードバック:
レポートは秋学期にコメントをつけて返却する。

教科書: 吉原他著『スタディスキルズ・トレーニング改訂版：大学で学ぶための25のスキル』実教出版 2017年

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:
入学時の学科ガイダンスにて、この科目の担当教員を発表するので、よく確認すること。
この科目は今後の学生生活および勉学の基本となる科目である。しっかり、確実に力をつけていこう。
また、この科目では原則として毎回PCを持参すること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 基礎演習Ⅰ

クラス: ス

授業コード: B000100056

担当者: 山中 裕太 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: この科目には2つの目的がある。1つ目は、神戸親和大学の学生として4年間充実した生活を送るための基本を学ぶことである。ここでは、親和の精神、学科の目標を理解すること、4年間の学習計画を立てること、およびさまざまなガイダンスを受けることが内容となる。また、学科の教員や学生との親睦も深めてほしい。
2つ目は、大学で講義を受けるための基礎力（アカデミックスキル）を様々な角度から身につけることを目的とする。自分自身の課題を発見し、これを解決するために授業その他を積極的に利用する、真の意味での学生を目指してほしい。

到達目標:
1. 親和の建学の精神を身につける
2. 大学生としての基本的なコミュニケーションスキルを身につける
3. 4年間の学習計画を立てる。大学で学ぶことと自分の進路を確かめる
4. 大学での履修の仕方を学び、効率的に学ぶ姿勢を身につける
5. 授業を聴き、文献を読み、レポートを書く上での基本を身につける

各回の授業計画:

1. イントロダクション
2. 親和行事・事前指導
3. 親和行事・事後指導、手紙の書き方
★第2回～第4回の授業順序は学科によって変更する可能性があります。
4. キャンパスツアー
5. ガイダンス補足
6. 4年間の学習計画作成
7. 図書館利用法講座
8. 講義の聞き方・ノートの取り方
9. 親和インタビュー（1）
10. 親和インタビュー（2）
11. ビブリオバトル
12. 試験・レポートの書き方（1）
13. 試験・レポートの書き方（2）
14. 学科行事
15. まとめ 1000字のレポート提出

特記事項: なし

授業方法: 基本的に演習形式の対面授業で実施する。

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 教科書予習 20分
2. 親和行事しおり予習 20分
3. 親和行事振り返り 20分
4. 学生要覧予習 20分
5. ガイダンス復習 20分
6. 教科書予習 30分
7. 図書館予習 55分
8. 教科書予習復習 55分
9. 親和インタビュー打合せと実施 70分
10. プレゼン作成・練習 70分
11. ビブリオバトル準備 60分
12. 教科書予習復習 30分

13. 教科書予習復習 30分
14. 教科書予習復習 30分
上記とは別に、レポート作成に120分以上

評価方法:

授業へのとりくみ:	50 **%**	**確認テスト:**	− **%**	**レポート:**	20 **%**
その他1:	各種提出物の提出		30 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準:
80点以上 大学生活にしっかり適応して学習の基礎を十分身につけている
70～79点 大学生活に適応し、学習の基礎をおおむね身につけている
60～69点 大学生活や学習の基礎を最低限身につけている

課題へのフィードバック:
レポートは秋学期にコメントをつけて返却する。

教科書: 吉原他著『スタディスキルズ・トレーニング改訂版：大学で学ぶための25のスキル』実教出版 2017年

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:
入学時の学科ガイダンスにて、この科目の担当教員を発表するので、よく確認すること。
この科目は今後の学生生活および勉学の基本となる科目である。しっかり、確実に力をつけていこう。
また、この科目では原則として毎回PCを持参すること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 基礎演習Ⅰ

クラス: ｽ

授業コード: B000100057

担当者: 椿 武 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: この科目には2つの目的がある。1つ目は、神戸親和大学の学生として4年間充実した生活を送るための基本を学ぶことである。ここでは、親和の精神、学科の目標を理解すること、4年間の学習計画を立てること、およびさまざまなガイダンスを受けることが内容となる。また、学科の教員や学生との親睦も深めてほしい。
2つ目は、大学で講義を受けるための基礎力（アカデミックスキル）を様々な角度から身につけることを目的とする。自分自身の課題を発見し、これを解決するために授業その他を積極的に利用する、真の意味での学生を目指してほしい。

到達目標:
1. 親和の建学の精神を身につける
2. 大学生としての基本的なコミュニケーションスキルを身につける
3. 4年間の学習計画を立てる。大学で学ぶことと自分の進路を確かめる
4. 大学での履修の仕方を学び、効率的に学ぶ姿勢を身につける
5. 授業を聴き、文献を読み、レポートを書く上での基本を身につける

各回の授業計画:

1. イントロダクション
2. 親和行事・事前指導
3. 親和行事・事後指導、手紙の書き方
★第2回～第4回の授業順序は学科によって変更する可能性があります。
4. キャンパスツアー
5. ガイダンス補足
6. 4年間の学習計画作成
7. 図書館利用法講座
8. 講義の聞き方・ノートの取り方
9. 親和インタビュー（1）
10. 親和インタビュー（2）
11. ビブリオバトル
12. 試験・レポートの書き方（1）
13. 試験・レポートの書き方（2）
14. 学科行事
15. まとめ 1000字のレポート提出

特記事項: なし

授業方法: 基本的に演習形式の対面授業で実施する。

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 教科書予習 20分
2. 親和行事しおり予習 20分
3. 親和行事振り返り 20分
4. 学生要覧予習 20分
5. ガイダンス復習 20分
6. 教科書予習 30分
7. 図書館予習 55分
8. 教科書予習復習 55分
9. 親和インタビュー打合せと実施 70分
10. プレゼン作成・練習 70分
11. ビブリオバトル準備 60分
12. 教科書予習復習 30分

13. 教科書予習復習 30分
14. 教科書予習復習 30分
上記とは別に、レポート作成に120分以上

評価方法:

授業へのとりくみ:	50 **%**	**確認テスト:**	− **%**	**レポート:**	20 **%**
その他1:	各種提出物の提出		30 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準:
80点以上 大学生活にしっかり適応して学習の基礎を十分身につけている
70～79点 大学生活に適応し、学習の基礎をおおむね身につけている
60～69点 大学生活や学習の基礎を最低限身につけている

課題へのフィードバック:
レポートは秋学期にコメントをつけて返却する。

教科書: 吉原他著『スタディスキルズ・トレーニング改訂版：大学で学ぶための25のスキル』実教出版 2017年

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:
入学時の学科ガイダンスにて、この科目の担当教員を発表するので、よく確認すること。
この科目は今後の学生生活および勉学の基本となる科目である。しっかり、確実に力をつけていこう。
また、この科目では原則として毎回PCを持参すること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 基礎演習Ⅱ

クラス: 国

授業コード: B000200001

担当者: 森上 展宏 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 大学での学びの基礎となる主題の設定、調査の仕方、論理的な文章の組み立て方をポスターセッションとレポート作成を中心として学ぶ。

到達目標:
1. 主体的にテーマを設定し、調べた結果と自分の意見を論理的にまとめることができる。
2. ポスターセッションを通じてグループでの課題設定や問題解決ができる。
3. この演習の集大成として行われるレポートコンテストへ応募する文章を書く。

各回の授業計画:

1. 年間計画の再構築 成績配布 秋学期履修上の注意
2. 要約の仕方、本の読み方
3. 資料の利用、引用の仕方（大学祭の準備）
4. ポスターセッション① テーマ設定（大学祭の準備）
5. ポスターセッション② 資料収集（大学祭の準備）
6. ポスターセッション③ 作成
7. 学科行事
8. ポスターセッション④ 実施
9. 人権研修会
10. レポート制作の流れ
11. テーマ発表、説得力のあるレポートの書き方（段落や表現の工夫）
12. 5分間発表①
13. 5分間発表②
14. 合評会（人数の多いゼミは、5分間発表）
15. レポート提出 まとめ

特記事項: なし

授業方法: 基本的に演習形式の対面授業を実施する。

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 春学期の復習 30分
2. 教科書予習復習 45分
3. 教科書予習復習 45分
4. ポスターセッション準備 60分
5. ポスターセッション準備 60分
6. ポスターセッション準備 60分
8. ポスターセッション準備 60分
9. 研修会振り返り 20分
10. 教科書予習復習 45分
11. レポート執筆準備 60分
12. レポート執筆・発表準備 60分
13. レポート執筆・発表準備 60分
14. レポート原稿用意 60分
15. レポート執筆 60分

評価方法: **授業へのとりくみ:** 30 **%** **確認テスト:** － **%** **レポート:** 60 **%**
その他1: 5分間発表 10 **%**

その他2： **%**

評価基準： 80点以上 プレゼンやレポート作成のスキルを十分身につけ、応用できる。
70～79点 プレゼンやレポート作成のスキルを身につけている。
60～69点 最低限のプレゼンやレポート作成のスキルを身につけている。

課題へのフィードバック：

ポスターセッションや合評会実施後の授業で、プレゼンやレポートについて講評を行う。

教科書： 吉原他著『スタディスキルズ・トレーニング改訂版：大学で学ぶための25のスキル』実教出版 2017年

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：

春学期と同じく原則毎回PCを持参すること。
知的で明解な文章を作成する能力は大学だけではなく、社会に出ても要求される能力です。そして、自分自身の文章のスタイルは自分で作り出さねばなりません。自分自身の独創的な考えを世界中の人に分かってもらえるように努力しましょう。
レポートの60%のうちわけはポスターセッションが30%、コンクール応募作品が30%です。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 基礎演習Ⅱ

クラス: 国

授業コード: B000200002

担当者: 上原 翔子 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 大学での学びの基礎となる主題の設定、調査の仕方、論理的な文章の組み立て方をポスターセッションとレポート作成を中心として学ぶ。

到達目標:
1. 主体的にテーマを設定し、調べた結果と自分の意見を論理的にまとめることができる。
2. ポスターセッションを通じてグループでの課題設定や問題解決ができる。
3. この演習の集大成として行われるレポートコンテストへ応募する文章を書く。

各回の授業計画:

1. 年間計画の再構築 成績配布 秋学期履修上の注意
2. 要約の仕方、本の読み方
3. 資料の利用、引用の仕方（大学祭の準備）
4. ポスターセッション① テーマ設定（大学祭の準備）
5. ポスターセッション② 資料収集（大学祭の準備）
6. ポスターセッション③ 作成
7. 学科行事
8. ポスターセッション④ 実施
9. 人権研修会
10. レポート制作の流れ
11. テーマ発表、説得力のあるレポートの書き方（段落や表現の工夫）
12. 5分間発表①
13. 5分間発表②
14. 合評会（人数の多いゼミは、5分間発表）
15. レポート提出 まとめ

特記事項: なし

授業方法: 基本的に演習形式の対面授業を実施する。

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 春学期の復習 30分
2. 教科書予習復習 45分
3. 教科書予習復習 45分
4. ポスターセッション準備 60分
5. ポスターセッション準備 60分
6. ポスターセッション準備 60分
8. ポスターセッション準備 60分
9. 研修会振り返り 20分
10. 教科書予習復習 45分
11. レポート執筆準備 60分
12. レポート執筆・発表準備 60分
13. レポート執筆・発表準備 60分
14. レポート原稿用意 60分
15. レポート執筆 60分

評価方法: **授業へのとりくみ:** 30 **%** **確認テスト:** － **%** **レポート:** 60 **%**
その他1: 5分間発表 10 **%**

その他2： **%**

評価基準： 80点以上 プレゼンやレポート作成のスキルを十分身につけ、応用できる。
70～79点 プレゼンやレポート作成のスキルを身につけている。
60～69点 最低限のプレゼンやレポート作成のスキルを身につけている。

課題へのフィードバック：

ポスターセッションや合評会実施後の授業で、プレゼンやレポートについて講評を行う。

教科書： 吉原他著『スタディスキルズ・トレーニング改訂版：大学で学ぶための25のスキル』実教出版 2017年

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：

春学期と同じく原則毎回PCを持参すること。
知的で明解な文章を作成する能力は大学だけではなく、社会に出ても要求される能力です。そして、自分自身の文章のスタイルは自分で作り出さねばなりません。自分自身の独創的な考えを世界中の人に分かってもらえるように努力しましょう。
レポートの60%のうちわけはポスターセッションが30%、コンクール応募作品が30%です。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 基礎演習Ⅱ

クラス: 教

授業コード: B000200011

担当者: 間渕 泰尚　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 大学での学びの基礎となる主題の設定、調査の仕方、論理的な文章の組み立て方をポスターセッションとレポート作成を中心として学ぶ。

到達目標:
1. 主体的にテーマを設定し、調べた結果と自分の意見を論理的にまとめることができる。
2. ポスターセッションを通じてグループでの課題設定や問題解決ができる。
3. この演習の集大成として行われるレポートコンテストへ応募する文章を書く。

各回の授業計画:

1. 年間計画の再構築 成績配布 秋学期履修上の注意
2. 要約の仕方、本の読み方
3. 資料の利用、引用の仕方（大学祭の準備）
4. ポスターセッション① テーマ設定（大学祭の準備）
5. ポスターセッション② 資料収集（大学祭の準備）
6. ポスターセッション③ 作成
7. 学科行事
8. ポスターセッション④ 実施
9. 人権研修会
10. レポート制作の流れ
11. テーマ発表、説得力のあるレポートの書き方（段落や表現の工夫）
12. 5分間発表①
13. 5分間発表②
14. 合評会（人数の多いゼミは、5分間発表）
15. レポート提出 まとめ

特記事項: なし

授業方法: 基本的に演習形式の対面授業を実施する。

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 春学期の復習 30分
2. 教科書予習復習 45分
3. 教科書予習復習 45分
4. ポスターセッション準備 60分
5. ポスターセッション準備 60分
6. ポスターセッション準備 60分
8. ポスターセッション準備 60分
9. 研修会振り返り 20分
10. 教科書予習復習 45分
11. レポート執筆準備 60分
12. レポート執筆・発表準備 60分
13. レポート執筆・発表準備 60分
14. レポート原稿用意 60分
15. レポート執筆 60分

評価方法:
授業へのとりくみ: 30 **%**　　**確認テスト:** － **%**　　**レポート:** 60 **%**
その他1: 5分間発表　　10 **%**

その他2： **%**

評価基準： 80点以上 プレゼンやレポート作成のスキルを十分身につけ、応用できる。
70～79点 プレゼンやレポート作成のスキルを身につけている。
60～69点 最低限のプレゼンやレポート作成のスキルを身につけている。

課題へのフィードバック：

ポスターセッションや合評会実施後の授業で、プレゼンやレポートについて講評を行う。

教科書： 吉原他著『スタディスキルズ・トレーニング改訂版：大学で学ぶための25のスキル』実教出版 2017年

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：

春学期と同じく原則毎回PCを持参すること。
知的で明解な文章を作成する能力は大学だけではなく、社会に出ても要求される能力です。そして、自分自身の文章のスタイルは自分で作り出さねばなりません。自分自身の独創的な考えを世界中の人に分かってもらえるように努力しましょう。
レポートの60%のうちわけはポスターセッションが30%、コンクール応募作品が30%です。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 基礎演習Ⅱ

クラス: 教

授業コード: B000200012

担当者: 瀬戸山 悠 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 大学での学びの基礎となる主題の設定、調査の仕方、論理的な文章の組み立て方をポスターセッションとレポート作成を中心として学ぶ。

到達目標:
1. 主体的にテーマを設定し、調べた結果と自分の意見を論理的にまとめることができる。
2. ポスターセッションを通じてグループでの課題設定や問題解決ができる。
3. この演習の集大成として行われるレポートコンテストへ応募する文章を書く。

各回の授業計画:

1. 年間計画の再構築 成績配布 秋学期履修上の注意
2. 要約の仕方、本の読み方
3. 資料の利用、引用の仕方（大学祭の準備）
4. ポスターセッション① テーマ設定（大学祭の準備）
5. ポスターセッション② 資料収集（大学祭の準備）
6. ポスターセッション③ 作成
7. 学科行事
8. ポスターセッション④ 実施
9. 人権研修会
10. レポート制作の流れ
11. テーマ発表、説得力のあるレポートの書き方（段落や表現の工夫）
12. 5分間発表①
13. 5分間発表②
14. 合評会（人数の多いゼミは、5分間発表）
15. レポート提出 まとめ

特記事項: なし

授業方法: 基本的に演習形式の対面授業を実施する。

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 春学期の復習 30分
2. 教科書予習復習 45分
3. 教科書予習復習 45分
4. ポスターセッション準備 60分
5. ポスターセッション準備 60分
6. ポスターセッション準備 60分
8. ポスターセッション準備 60分
9. 研修会振り返り 20分
10. 教科書予習復習 45分
11. レポート執筆準備 60分
12. レポート執筆・発表準備 60分
13. レポート執筆・発表準備 60分
14. レポート原稿用意 60分
15. レポート執筆 60分

評価方法: **授業へのとりくみ:** 30 **%** **確認テスト:** － **%** **レポート:** 60 **%**
その他1: 5分間発表 10 **%**

その他2： **%**

評価基準： 80点以上 プレゼンやレポート作成のスキルを十分身につけ、応用できる。
70～79点 プレゼンやレポート作成のスキルを身につけている。
60～69点 最低限のプレゼンやレポート作成のスキルを身につけている。

課題へのフィードバック：

ポスターセッションや合評会実施後の授業で、プレゼンやレポートについて講評を行う。

教科書： 吉原他著『スタディスキルズ・トレーニング改訂版：大学で学ぶための25のスキル』実教出版 2017年

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：

春学期と同じく原則毎回PCを持参すること。
知的で明解な文章を作成する能力は大学だけではなく、社会に出ても要求される能力です。そして、自分自身の文章のスタイルは自分で作り出さねばなりません。自分自身の独創的な考えを世界中の人に分かってもらえるように努力しましょう。
レポートの60%のうちわけはポスターセッションが30%、コンクール応募作品が30%です。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 基礎演習Ⅱ

クラス: 教

授業コード: B000200013

担当者: 冨田 哲浩 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 大学での学びの基礎となる主題の設定、調査の仕方、論理的な文章の組み立て方をポスターセッションとレポート作成を中心として学ぶ。

到達目標:
1. 主体的にテーマを設定し、調べた結果と自分の意見を論理的にまとめることができる。
2. ポスターセッションを通じてグループでの課題設定や問題解決ができる。
3. この演習の集大成として行われるレポートコンテストへ応募する文章を書く。

各回の授業計画:

1. 年間計画の再構築 成績配布 秋学期履修上の注意
2. 要約の仕方、本の読み方
3. 資料の利用、引用の仕方（大学祭の準備）
4. ポスターセッション① テーマ設定（大学祭の準備）
5. ポスターセッション② 資料収集（大学祭の準備）
6. ポスターセッション③ 作成
7. 学科行事
8. ポスターセッション④ 実施
9. 人権研修会
10. レポート制作の流れ
11. テーマ発表、説得力のあるレポートの書き方（段落や表現の工夫）
12. 5分間発表①
13. 5分間発表②
14. 合評会（人数の多いゼミは、5分間発表）
15. レポート提出 まとめ

特記事項: なし

授業方法: 基本的に演習形式の対面授業を実施する。

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 春学期の復習 30分
2. 教科書予習復習 45分
3. 教科書予習復習 45分
4. ポスターセッション準備 60分
5. ポスターセッション準備 60分
6. ポスターセッション準備 60分
8. ポスターセッション準備 60分
9. 研修会振り返り 20分
10. 教科書予習復習 45分
11. レポート執筆準備 60分
12. レポート執筆・発表準備 60分
13. レポート執筆・発表準備 60分
14. レポート原稿用意 60分
15. レポート執筆 60分

評価方法: **授業へのとりくみ:** 30 **%** **確認テスト:** － **%** **レポート:** 60 **%**
その他1: 5分間発表 10 **%**

その他2： **%**

評価基準： 80点以上 プレゼンやレポート作成のスキルを十分身につけ、応用できる。
70～79点 プレゼンやレポート作成のスキルを身につけている。
60～69点 最低限のプレゼンやレポート作成のスキルを身につけている。

課題へのフィードバック：

ポスターセッションや合評会実施後の授業で、プレゼンやレポートについて講評を行う。

教科書： 吉原他著『スタディスキルズ・トレーニング改訂版：大学で学ぶための25のスキル』実教出版 2017年

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：

春学期と同じく原則毎回PCを持参すること。
知的で明解な文章を作成する能力は大学だけではなく、社会に出ても要求される能力です。そして、自分自身の文章のスタイルは自分で作り出さねばなりません。自分自身の独創的な考えを世界中の人に分かってもらえるように努力しましょう。
レポートの60%のうちわけはポスターセッションが30%、コンクール応募作品が30%です。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 基礎演習Ⅱ

クラス: 教

授業コード: B000200014

担当者: 中尾 尊洋 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 大学での学びの基礎となる主題の設定、調査の仕方、論理的な文章の組み立て方をポスターセッションとレポート作成を中心として学ぶ。

到達目標:
1. 主体的にテーマを設定し、調べた結果と自分の意見を論理的にまとめることができる。
2. ポスターセッションを通じてグループでの課題設定や問題解決ができる。
3. この演習の集大成として行われるレポートコンテストへ応募する文章を書く。

各回の授業計画:

1. 年間計画の再構築 成績配布 秋学期履修上の注意
2. 要約の仕方、本の読み方
3. 資料の利用、引用の仕方（大学祭の準備）
4. ポスターセッション① テーマ設定（大学祭の準備）
5. ポスターセッション② 資料収集（大学祭の準備）
6. ポスターセッション③ 作成
7. 学科行事
8. ポスターセッション④ 実施
9. 人権研修会
10. レポート制作の流れ
11. テーマ発表、説得力のあるレポートの書き方（段落や表現の工夫）
12. 5分間発表①
13. 5分間発表②
14. 合評会（人数の多いゼミは、5分間発表）
15. レポート提出 まとめ

特記事項: なし

授業方法: 基本的に演習形式の対面授業を実施する。

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 春学期の復習 30分
2. 教科書予習復習 45分
3. 教科書予習復習 45分
4. ポスターセッション準備 60分
5. ポスターセッション準備 60分
6. ポスターセッション準備 60分
8. ポスターセッション準備 60分
9. 研修会振り返り 20分
10. 教科書予習復習 45分
11. レポート執筆準備 60分
12. レポート執筆・発表準備 60分
13. レポート執筆・発表準備 60分
14. レポート原稿用意 60分
15. レポート執筆 60分

評価方法: **授業へのとりくみ:** 30 **%** **確認テスト:** － **%** **レポート:** 60 **%**
その他1: 5分間発表 10 **%**

その他2： **%**

評価基準： 80点以上 プレゼンやレポート作成のスキルを十分身につけ、応用できる。
70～79点 プレゼンやレポート作成のスキルを身につけている。
60～69点 最低限のプレゼンやレポート作成のスキルを身につけている。

課題へのフィードバック：

ポスターセッションや合評会実施後の授業で、プレゼンやレポートについて講評を行う。

教科書： 吉原他著『スタディスキルズ・トレーニング改訂版：大学で学ぶための25のスキル』実教出版 2017年

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：

春学期と同じく原則毎回PCを持参すること。
知的で明解な文章を作成する能力は大学だけではなく、社会に出ても要求される能力です。そして、自分自身の文章のスタイルは自分で作り出さねばなりません。自分自身の独創的な考えを世界中の人に分かってもらえるように努力しましょう。
レポートの60%のうちわけはポスターセッションが30%、コンクール応募作品が30%です。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 基礎演習Ⅱ

クラス: 教

授業コード: B000200015

担当者: 山口 香織　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 大学での学びの基礎となる主題の設定、調査の仕方、論理的な文章の組み立て方をポスターセッションとレポート作成を中心として学ぶ。

到達目標:
1. 主体的にテーマを設定し、調べた結果と自分の意見を論理的にまとめることができる。
2. ポスターセッションを通じてグループでの課題設定や問題解決ができる。
3. この演習の集大成として行われるレポートコンテストへ応募する文章を書く。

各回の授業計画:

1. 年間計画の再構築 成績配布 秋学期履修上の注意
2. 要約の仕方、本の読み方
3. 資料の利用、引用の仕方（大学祭の準備）
4. ポスターセッション① テーマ設定（大学祭の準備）
5. ポスターセッション② 資料収集（大学祭の準備）
6. ポスターセッション③ 作成
7. 学科行事
8. ポスターセッション④ 実施
9. 人権研修会
10. レポート制作の流れ
11. テーマ発表、説得力のあるレポートの書き方（段落や表現の工夫）
12. 5分間発表①
13. 5分間発表②
14. 合評会（人数の多いゼミは、5分間発表）
15. レポート提出 まとめ

特記事項: なし

授業方法: 基本的に演習形式の対面授業を実施する。

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 春学期の復習 30分
2. 教科書予習復習 45分
3. 教科書予習復習 45分
4. ポスターセッション準備 60分
5. ポスターセッション準備 60分
6. ポスターセッション準備 60分
8. ポスターセッション準備 60分
9. 研修会振り返り 20分
10. 教科書予習復習 45分
11. レポート執筆準備 60分
12. レポート執筆・発表準備 60分
13. レポート執筆・発表準備 60分
14. レポート原稿用意 60分
15. レポート執筆 60分

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	－ **%**	**レポート:**	60 **%**
その他1: 5分間発表			10 **%**		

その他2： **%**

評価基準： 80点以上 プレゼンやレポート作成のスキルを十分身につけ、応用できる。
70～79点 プレゼンやレポート作成のスキルを身につけている。
60～69点 最低限のプレゼンやレポート作成のスキルを身につけている。

課題へのフィードバック：

ポスターセッションや合評会実施後の授業で、プレゼンやレポートについて講評を行う。

教科書： 吉原他著『スタディスキルズ・トレーニング改訂版：大学で学ぶための25のスキル』実教出版 2017年

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：

春学期と同じく原則毎回PCを持参すること。
知的で明解な文章を作成する能力は大学だけではなく、社会に出ても要求される能力です。そして、自分自身の文章のスタイルは自分で作り出さねばなりません。自分自身の独創的な考えを世界中の人に分かってもらえるように努力しましょう。
レポートの60%のうちわけはポスターセッションが30%、コンクール応募作品が30%です。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 基礎演習Ⅱ

クラス: 教

授業コード: B000200016

担当者: 塚本 久義　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 大学での学びの基礎となる主題の設定、調査の仕方、論理的な文章の組み立て方をポスターセッションとレポート作成を中心として学ぶ。

到達目標:
1. 主体的にテーマを設定し、調べた結果と自分の意見を論理的にまとめることができる。
2. ポスターセッションを通じてグループでの課題設定や問題解決ができる。
3. この演習の集大成として行われるレポートコンテストへ応募する文章を書く。

各回の授業計画:

1. 年間計画の再構築 成績配布 秋学期履修上の注意
2. 要約の仕方、本の読み方
3. 資料の利用、引用の仕方（大学祭の準備）
4. ポスターセッション① テーマ設定（大学祭の準備）
5. ポスターセッション② 資料収集（大学祭の準備）
6. ポスターセッション③ 作成
7. 学科行事
8. ポスターセッション④ 実施
9. 人権研修会
10. レポート制作の流れ
11. テーマ発表、説得力のあるレポートの書き方（段落や表現の工夫）
12. 5分間発表①
13. 5分間発表②
14. 合評会（人数の多いゼミは、5分間発表）
15. レポート提出 まとめ

特記事項: なし

授業方法: 基本的に演習形式の対面授業を実施する。

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 春学期の復習 30分
2. 教科書予習復習 45分
3. 教科書予習復習 45分
4. ポスターセッション準備 60分
5. ポスターセッション準備 60分
6. ポスターセッション準備 60分
8. ポスターセッション準備 60分
9. 研修会振り返り 20分
10. 教科書予習復習 45分
11. レポート執筆準備 60分
12. レポート執筆・発表準備 60分
13. レポート執筆・発表準備 60分
14. レポート原稿用意 60分
15. レポート執筆 60分

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	－ **%**	**レポート:**	60 **%**
その他1: 5分間発表			10 **%**		

その他2： **%**

評価基準： 80点以上 プレゼンやレポート作成のスキルを十分身につけ、応用できる。
70～79点 プレゼンやレポート作成のスキルを身につけている。
60～69点 最低限のプレゼンやレポート作成のスキルを身につけている。

課題へのフィードバック：

ポスターセッションや合評会実施後の授業で、プレゼンやレポートについて講評を行う。

教科書： 吉原他著『スタディスキルズ・トレーニング改訂版：大学で学ぶための25のスキル』実教出版 2017年

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：

春学期と同じく原則毎回PCを持参すること。
知的で明解な文章を作成する能力は大学だけではなく、社会に出ても要求される能力です。そして、自分自身の文章のスタイルは自分で作り出さねばなりません。自分自身の独創的な考えを世界中の人に分かってもらえるように努力しましょう。
レポートの60%のうちわけはポスターセッションが30%、コンクール応募作品が30%です。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 基礎演習Ⅱ

クラス: 教

授業コード: B000200017

担当者: 中村 晶平 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 大学での学びの基礎となる主題の設定、調査の仕方、論理的な文章の組み立て方をポスターセッションとレポート作成を中心として学ぶ。

到達目標:
1. 主体的にテーマを設定し、調べた結果と自分の意見を論理的にまとめることができる。
2. ポスターセッションを通じてグループでの課題設定や問題解決ができる。
3. この演習の集大成として行われるレポートコンテストへ応募する文章を書く。

各回の授業計画:

1. 年間計画の再構築 成績配布 秋学期履修上の注意
2. 要約の仕方、本の読み方
3. 資料の利用、引用の仕方（大学祭の準備）
4. ポスターセッション① テーマ設定（大学祭の準備）
5. ポスターセッション② 資料収集（大学祭の準備）
6. ポスターセッション③ 作成
7. 学科行事
8. ポスターセッション④ 実施
9. 人権研修会
10. レポート制作の流れ
11. テーマ発表、説得力のあるレポートの書き方（段落や表現の工夫）
12. 5分間発表①
13. 5分間発表②
14. 合評会（人数の多いゼミは、5分間発表）
15. レポート提出 まとめ

特記事項: なし

授業方法: 基本的に演習形式の対面授業を実施する。

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 春学期の復習 30分
2. 教科書予習復習 45分
3. 教科書予習復習 45分
4. ポスターセッション準備 60分
5. ポスターセッション準備 60分
6. ポスターセッション準備 60分
8. ポスターセッション準備 60分
9. 研修会振り返り 20分
10. 教科書予習復習 45分
11. レポート執筆準備 60分
12. レポート執筆・発表準備 60分
13. レポート執筆・発表準備 60分
14. レポート原稿用意 60分
15. レポート執筆 60分

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	－ **%**	**レポート:**	60 **%**
その他1: 5分間発表			10 **%**		

その他2： **%**

評価基準： 80点以上 プレゼンやレポート作成のスキルを十分身につけ、応用できる。
70～79点 プレゼンやレポート作成のスキルを身につけている。
60～69点 最低限のプレゼンやレポート作成のスキルを身につけている。

課題へのフィードバック：

ポスターセッションや合評会実施後の授業で、プレゼンやレポートについて講評を行う。

教科書： 吉原他著『スタディスキルズ・トレーニング改訂版：大学で学ぶための25のスキル』実教出版 2017年

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：

春学期と同じく原則毎回PCを持参すること。
知的で明解な文章を作成する能力は大学だけではなく、社会に出ても要求される能力です。そして、自分自身の文章のスタイルは自分で作り出さねばなりません。自分自身の独創的な考えを世界中の人に分かってもらえるように努力しましょう。
レポートの60%のうちわけはポスターセッションが30%、コンクール応募作品が30%です。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 基礎演習Ⅱ

クラス: 教

授業コード: B000200018

担当者: 高　奈奈　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 大学での学びの基礎となる主題の設定、調査の仕方、論理的な文章の組み立て方をポスターセッションとレポート作成を中心として学ぶ。

到達目標:
1. 主体的にテーマを設定し、調べた結果と自分の意見を論理的にまとめることができる。
2. ポスターセッションを通じてグループでの課題設定や問題解決ができる。
3. この演習の集大成として行われるレポートコンテストへ応募する文章を書く。

各回の授業計画:

1. 年間計画の再構築 成績配布 秋学期履修上の注意
2. 要約の仕方、本の読み方
3. 資料の利用、引用の仕方（大学祭の準備）
4. ポスターセッション① テーマ設定（大学祭の準備）
5. ポスターセッション② 資料収集（大学祭の準備）
6. ポスターセッション③ 作成
7. 学科行事
8. ポスターセッション④ 実施
9. 人権研修会
10. レポート制作の流れ
11. テーマ発表、説得力のあるレポートの書き方（段落や表現の工夫）
12. 5分間発表①
13. 5分間発表②
14. 合評会（人数の多いゼミは、5分間発表）
15. レポート提出 まとめ

特記事項: なし

授業方法: 基本的に演習形式の対面授業を実施する。

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 春学期の復習 30分
2. 教科書予習復習 45分
3. 教科書予習復習 45分
4. ポスターセッション準備 60分
5. ポスターセッション準備 60分
6. ポスターセッション準備 60分
8. ポスターセッション準備 60分
9. 研修会振り返り 20分
10. 教科書予習復習 45分
11. レポート執筆準備 60分
12. レポート執筆・発表準備 60分
13. レポート執筆・発表準備 60分
14. レポート原稿用意 60分
15. レポート執筆 60分

評価方法:
授業へのとりくみ: 30 **%**　　**確認テスト:** － **%**　　**レポート:** 60 **%**
その他1: 5分間発表　　10 **%**

その他2： **%**

評価基準： 80点以上 プレゼンやレポート作成のスキルを十分身につけ、応用できる。
70～79点 プレゼンやレポート作成のスキルを身につけている。
60～69点 最低限のプレゼンやレポート作成のスキルを身につけている。

課題へのフィードバック：

ポスターセッションや合評会実施後の授業で、プレゼンやレポートについて講評を行う。

教科書： 吉原他著『スタディスキルズ・トレーニング改訂版：大学で学ぶための25のスキル』実教出版 2017年

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：

春学期と同じく原則毎回PCを持参すること。
知的で明解な文章を作成する能力は大学だけではなく、社会に出ても要求される能力です。そして、自分自身の文章のスタイルは自分で作り出さねばなりません。自分自身の独創的な考えを世界中の人に分かってもらえるように努力しましょう。
レポートの60%のうちわけはポスターセッションが30%、コンクール応募作品が30%です。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 基礎演習Ⅱ

クラス: 教

授業コード: B000200019

担当者: 岩濵 里江子 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 大学での学びの基礎となる主題の設定、調査の仕方、論理的な文章の組み立て方をポスターセッションとレポート作成を中心として学ぶ。

到達目標:
1. 主体的にテーマを設定し、調べた結果と自分の意見を論理的にまとめることができる。
2. ポスターセッションを通じてグループでの課題設定や問題解決ができる。
3. この演習の集大成として行われるレポートコンテストへ応募する文章を書く。

各回の授業計画:

1. 年間計画の再構築 成績配布 秋学期履修上の注意
2. 要約の仕方、本の読み方
3. 資料の利用、引用の仕方（大学祭の準備）
4. ポスターセッション① テーマ設定（大学祭の準備）
5. ポスターセッション② 資料収集（大学祭の準備）
6. ポスターセッション③ 作成
7. 学科行事
8. ポスターセッション④ 実施
9. 人権研修会
10. レポート制作の流れ
11. テーマ発表、説得力のあるレポートの書き方（段落や表現の工夫）
12. 5分間発表①
13. 5分間発表②
14. 合評会（人数の多いゼミは、5分間発表）
15. レポート提出 まとめ

特記事項: なし

授業方法: 基本的に演習形式の対面授業を実施する。

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 春学期の復習 30分
2. 教科書予習復習 45分
3. 教科書予習復習 45分
4. ポスターセッション準備 60分
5. ポスターセッション準備 60分
6. ポスターセッション準備 60分
8. ポスターセッション準備 60分
9. 研修会振り返り 20分
10. 教科書予習復習 45分
11. レポート執筆準備 60分
12. レポート執筆・発表準備 60分
13. レポート執筆・発表準備 60分
14. レポート原稿用意 60分
15. レポート執筆 60分

評価方法: **授業へのとりくみ:** 30 **%** **確認テスト:** － **%** **レポート:** 60 **%**
その他1: 5分間発表 10 **%**

その他2： **%**

評価基準： 80点以上 プレゼンやレポート作成のスキルを十分身につけ、応用できる。
70～79点 プレゼンやレポート作成のスキルを身につけている。
60～69点 最低限のプレゼンやレポート作成のスキルを身につけている。

課題へのフィードバック：

ポスターセッションや合評会実施後の授業で、プレゼンやレポートについて講評を行う。

教科書： 吉原他著『スタディスキルズ・トレーニング改訂版：大学で学ぶための25のスキル』実教出版 2017年

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：

春学期と同じく原則毎回PCを持参すること。
知的で明解な文章を作成する能力は大学だけではなく、社会に出ても要求される能力です。そして、自分自身の文章のスタイルは自分で作り出さねばなりません。自分自身の独創的な考えを世界中の人に分かってもらえるように努力しましょう。
レポートの60%のうちわけはポスターセッションが30%、コンクール応募作品が30%です。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 基礎演習Ⅱ

クラス: 教

授業コード: B000200020

担当者: 樋口 拓　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 大学での学びの基礎となる主題の設定、調査の仕方、論理的な文章の組み立て方をポスターセッションとレポート作成を中心として学ぶ。

到達目標:
1. 主体的にテーマを設定し、調べた結果と自分の意見を論理的にまとめることができる。
2. ポスターセッションを通じてグループでの課題設定や問題解決ができる。
3. この演習の集大成として行われるレポートコンテストへ応募する文章を書く。

各回の授業計画:

1. 年間計画の再構築 成績配布 秋学期履修上の注意
2. 要約の仕方、本の読み方
3. 資料の利用、引用の仕方（大学祭の準備）
4. ポスターセッション① テーマ設定（大学祭の準備）
5. ポスターセッション② 資料収集（大学祭の準備）
6. ポスターセッション③ 作成
7. 学科行事
8. ポスターセッション④ 実施
9. 人権研修会
10. レポート制作の流れ
11. テーマ発表、説得力のあるレポートの書き方（段落や表現の工夫）
12. 5分間発表①
13. 5分間発表②
14. 合評会（人数の多いゼミは、5分間発表）
15. レポート提出 まとめ

特記事項: なし

授業方法: 基本的に演習形式の対面授業を実施する。

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 春学期の復習 30分
2. 教科書予習復習 45分
3. 教科書予習復習 45分
4. ポスターセッション準備 60分
5. ポスターセッション準備 60分
6. ポスターセッション準備 60分
8. ポスターセッション準備 60分
9. 研修会振り返り 20分
10. 教科書予習復習 45分
11. レポート執筆準備 60分
12. レポート執筆・発表準備 60分
13. レポート執筆・発表準備 60分
14. レポート原稿用意 60分
15. レポート執筆 60分

評価方法:
授業へのとりくみ: 30 **%**　　**確認テスト:** － **%**　　**レポート:** 60 **%**
その他1: 5分間発表　　10 **%**

その他2： **%**

評価基準： 80点以上 プレゼンやレポート作成のスキルを十分身につけ、応用できる。
70～79点 プレゼンやレポート作成のスキルを身につけている。
60～69点 最低限のプレゼンやレポート作成のスキルを身につけている。

課題へのフィードバック：

ポスターセッションや合評会実施後の授業で、プレゼンやレポートについて講評を行う。

教科書： 吉原他著『スタディスキルズ・トレーニング改訂版：大学で学ぶための25のスキル』実教出版 2017年

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：

春学期と同じく原則毎回PCを持参すること。
知的で明解な文章を作成する能力は大学だけではなく、社会に出ても要求される能力です。そして、自分自身の文章のスタイルは自分で作り出さねばなりません。自分自身の独創的な考えを世界中の人に分かってもらえるように努力しましょう。
レポートの60%のうちわけはポスターセッションが30%、コンクール応募作品が30%です。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 基礎演習Ⅱ

クラス: 心

授業コード: B000200031

担当者: 辻川 典文 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 大学での学びの基礎となる主題の設定、調査の仕方、論理的な文章の組み立て方をポスターセッションとレポート作成を中心として学ぶ。

到達目標:
1. 主体的にテーマを設定し、調べた結果と自分の意見を論理的にまとめることができる。
2. ポスターセッションを通じてグループでの課題設定や問題解決ができる。
3. この演習の集大成として行われるレポートコンテストへ応募する文章を書く。

各回の授業計画:

1. 年間計画の再構築 成績配布 秋学期履修上の注意
2. 要約の仕方、本の読み方
3. 資料の利用、引用の仕方（大学祭の準備）
4. ポスターセッション① テーマ設定（大学祭の準備）
5. ポスターセッション② 資料収集（大学祭の準備）
6. ポスターセッション③ 作成
7. 学科行事
8. ポスターセッション④ 実施
9. 人権研修会
10. レポート制作の流れ
11. テーマ発表、説得力のあるレポートの書き方（段落や表現の工夫）
12. 5分間発表①
13. 5分間発表②
14. 合評会（人数の多いゼミは、5分間発表）
15. レポート提出 まとめ

特記事項: なし

授業方法: 基本的に演習形式の対面授業を実施する。

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 春学期の復習 30分
2. 教科書予習復習 45分
3. 教科書予習復習 45分
4. ポスターセッション準備 60分
5. ポスターセッション準備 60分
6. ポスターセッション準備 60分
8. ポスターセッション準備 60分
9. 研修会振り返り 20分
10. 教科書予習復習 45分
11. レポート執筆準備 60分
12. レポート執筆・発表準備 60分
13. レポート執筆・発表準備 60分
14. レポート原稿用意 60分
15. レポート執筆 60分

評価方法: **授業へのとりくみ:** 30 **%** **確認テスト:** － **%** **レポート:** 60 **%**
その他1: 5分間発表 10 **%**

その他2： **%**

評価基準： 80点以上 プレゼンやレポート作成のスキルを十分身につけ、応用できる。
70～79点 プレゼンやレポート作成のスキルを身につけている。
60～69点 最低限のプレゼンやレポート作成のスキルを身につけている。

課題へのフィードバック：

ポスターセッションや合評会実施後の授業で、プレゼンやレポートについて講評を行う。

教科書： 吉原他著『スタディスキルズ・トレーニング改訂版：大学で学ぶための25のスキル』実教出版 2017年

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：

春学期と同じく原則毎回PCを持参すること。
知的で明解な文章を作成する能力は大学だけではなく、社会に出ても要求される能力です。そして、自分自身の文章のスタイルは自分で作り出さねばなりません。自分自身の独創的な考えを世界中の人に分かってもらえるように努力しましょう。
レポートの60%のうちわけはポスターセッションが30%、コンクール応募作品が30%です。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 基礎演習Ⅱ

クラス: 心

授業コード: B000200032

担当者: 権藤　眞織　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 大学での学びの基礎となる主題の設定、調査の仕方、論理的な文章の組み立て方をポスターセッションとレポート作成を中心として学ぶ。

到達目標:
1. 主体的にテーマを設定し、調べた結果と自分の意見を論理的にまとめることができる。
2. ポスターセッションを通じてグループでの課題設定や問題解決ができる。
3. この演習の集大成として行われるレポートコンテストへ応募する文章を書く。

各回の授業計画:

1. 年間計画の再構築 成績配布 秋学期履修上の注意
2. 要約の仕方、本の読み方
3. 資料の利用、引用の仕方（大学祭の準備）
4. ポスターセッション① テーマ設定（大学祭の準備）
5. ポスターセッション② 資料収集（大学祭の準備）
6. ポスターセッション③ 作成
7. 学科行事
8. ポスターセッション④ 実施
9. 人権研修会
10. レポート制作の流れ
11. テーマ発表、説得力のあるレポートの書き方（段落や表現の工夫）
12. 5分間発表①
13. 5分間発表②
14. 合評会（人数の多いゼミは、5分間発表）
15. レポート提出 まとめ

特記事項: なし

授業方法: 基本的に演習形式の対面授業を実施する。

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 春学期の復習 30分
2. 教科書予習復習 45分
3. 教科書予習復習 45分
4. ポスターセッション準備 60分
5. ポスターセッション準備 60分
6. ポスターセッション準備 60分
8. ポスターセッション準備 60分
9. 研修会振り返り 20分
10. 教科書予習復習 45分
11. レポート執筆準備 60分
12. レポート執筆・発表準備 60分
13. レポート執筆・発表準備 60分
14. レポート原稿用意 60分
15. レポート執筆 60分

評価方法:
授業へのとりくみ: 30 **%**　**確認テスト:** － **%**　**レポート:** 60 **%**
その他1: 5分間発表　10 **%**

その他2： **%**

評価基準： 80点以上 プレゼンやレポート作成のスキルを十分身につけ、応用できる。
70～79点 プレゼンやレポート作成のスキルを身につけている。
60～69点 最低限のプレゼンやレポート作成のスキルを身につけている。

課題へのフィードバック：

ポスターセッションや合評会実施後の授業で、プレゼンやレポートについて講評を行う。

教科書： 吉原他著『スタディスキルズ・トレーニング改訂版：大学で学ぶための25のスキル』実教出版 2017年

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：

春学期と同じく原則毎回PCを持参すること。
知的で明解な文章を作成する能力は大学だけではなく、社会に出ても要求される能力です。そして、自分自身の文章のスタイルは自分で作り出さねばなりません。自分自身の独創的な考えを世界中の人に分かってもらえるように努力しましょう。
レポートの60%のうちわけはポスターセッションが30%、コンクール応募作品が30%です。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 基礎演習Ⅱ

クラス: 心

授業コード: B000200033

担当者: 犬飼 朋恵　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 大学での学びの基礎となる主題の設定、調査の仕方、論理的な文章の組み立て方をポスターセッションとレポート作成を中心として学ぶ。

到達目標:
1. 主体的にテーマを設定し、調べた結果と自分の意見を論理的にまとめることができる。
2. ポスターセッションを通じてグループでの課題設定や問題解決ができる。
3. この演習の集大成として行われるレポートコンテストへ応募する文章を書く。

各回の授業計画:

1. 年間計画の再構築 成績配布 秋学期履修上の注意
2. 要約の仕方、本の読み方
3. 資料の利用、引用の仕方（大学祭の準備）
4. ポスターセッション① テーマ設定（大学祭の準備）
5. ポスターセッション② 資料収集（大学祭の準備）
6. ポスターセッション③ 作成
7. 学科行事
8. ポスターセッション④ 実施
9. 人権研修会
10. レポート制作の流れ
11. テーマ発表、説得力のあるレポートの書き方（段落や表現の工夫）
12. 5分間発表①
13. 5分間発表②
14. 合評会（人数の多いゼミは、5分間発表）
15. レポート提出 まとめ

特記事項: なし

授業方法: 基本的に演習形式の対面授業を実施する。

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 春学期の復習 30分
2. 教科書予習復習 45分
3. 教科書予習復習 45分
4. ポスターセッション準備 60分
5. ポスターセッション準備 60分
6. ポスターセッション準備 60分
8. ポスターセッション準備 60分
9. 研修会振り返り 20分
10. 教科書予習復習 45分
11. レポート執筆準備 60分
12. レポート執筆・発表準備 60分
13. レポート執筆・発表準備 60分
14. レポート原稿用意 60分
15. レポート執筆 60分

評価方法:
授業へのとりくみ: 30 **%**　　**確認テスト:** － **%**　　**レポート:** 60 **%**
その他1: 5分間発表　　10 **%**

その他2： **%**

評価基準： 80点以上 プレゼンやレポート作成のスキルを十分身につけ、応用できる。
70～79点 プレゼンやレポート作成のスキルを身につけている。
60～69点 最低限のプレゼンやレポート作成のスキルを身につけている。

課題へのフィードバック：

ポスターセッションや合評会実施後の授業で、プレゼンやレポートについて講評を行う。

教科書： 吉原他著『スタディスキルズ・トレーニング改訂版：大学で学ぶための25のスキル』実教出版 2017年

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：

春学期と同じく原則毎回PCを持参すること。
知的で明解な文章を作成する能力は大学だけではなく、社会に出ても要求される能力です。そして、自分自身の文章のスタイルは自分で作り出さねばなりません。自分自身の独創的な考えを世界中の人に分かってもらえるように努力しましょう。
レポートの60%のうちわけはポスターセッションが30%、コンクール応募作品が30%です。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 基礎演習Ⅱ

クラス: ス

授業コード: B000200051

担当者: 葦原 摩耶子 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 大学での学びの基礎となる主題の設定、調査の仕方、論理的な文章の組み立て方をポスターセッションとレポート作成を中心として学ぶ。

到達目標:
1. 主体的にテーマを設定し、調べた結果と自分の意見を論理的にまとめることができる。
2. ポスターセッションを通じてグループでの課題設定や問題解決ができる。
3. この演習の集大成として行われるレポートコンテストへ応募する文章を書く。

各回の授業計画:

1. 年間計画の再構築 成績配布 秋学期履修上の注意
2. 要約の仕方、本の読み方
3. 資料の利用、引用の仕方（大学祭の準備）
4. ポスターセッション① テーマ設定（大学祭の準備）
5. ポスターセッション② 資料収集（大学祭の準備）
6. ポスターセッション③ 作成
7. 学科行事
8. ポスターセッション④ 実施
9. 人権研修会
10. レポート制作の流れ
11. テーマ発表、説得力のあるレポートの書き方（段落や表現の工夫）
12. 5分間発表①
13. 5分間発表②
14. 合評会（人数の多いゼミは、5分間発表）
15. レポート提出 まとめ

特記事項: なし

授業方法: 基本的に演習形式の対面授業を実施する。

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 春学期の復習 30分
2. 教科書予習復習 45分
3. 教科書予習復習 45分
4. ポスターセッション準備 60分
5. ポスターセッション準備 60分
6. ポスターセッション準備 60分
8. ポスターセッション準備 60分
9. 研修会振り返り 20分
10. 教科書予習復習 45分
11. レポート執筆準備 60分
12. レポート執筆・発表準備 60分
13. レポート執筆・発表準備 60分
14. レポート原稿用意 60分
15. レポート執筆 60分

評価方法: **授業へのとりくみ:** 30 **%** **確認テスト:** － **%** **レポート:** 60 **%**
その他1: 5分間発表 10 **%**

その他2： **%**

評価基準： 80点以上 プレゼンやレポート作成のスキルを十分身につけ、応用できる。
70～79点 プレゼンやレポート作成のスキルを身につけている。
60～69点 最低限のプレゼンやレポート作成のスキルを身につけている。

課題へのフィードバック：

ポスターセッションや合評会実施後の授業で、プレゼンやレポートについて講評を行う。

教科書： 吉原他著『スタディスキルズ・トレーニング改訂版：大学で学ぶための25のスキル』実教出版 2017年

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：

春学期と同じく原則毎回PCを持参すること。
知的で明解な文章を作成する能力は大学だけではなく、社会に出ても要求される能力です。そして、自分自身の文章のスタイルは自分で作り出さねばなりません。自分自身の独創的な考えを世界中の人に分かってもらえるように努力しましょう。
レポートの60%のうちわけはポスターセッションが30%、コンクール応募作品が30%です。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 基礎演習Ⅱ

クラス: ス

授業コード: B000200052

担当者: 宮辻 和貴 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 大学での学びの基礎となる主題の設定、調査の仕方、論理的な文章の組み立て方をポスターセッションとレポート作成を中心として学ぶ。

到達目標:
1. 主体的にテーマを設定し、調べた結果と自分の意見を論理的にまとめることができる。
2. ポスターセッションを通じてグループでの課題設定や問題解決ができる。
3. この演習の集大成として行われるレポートコンテストへ応募する文章を書く。

各回の授業計画:

1. 年間計画の再構築 成績配布 秋学期履修上の注意
2. 要約の仕方、本の読み方
3. 資料の利用、引用の仕方（大学祭の準備）
4. ポスターセッション① テーマ設定（大学祭の準備）
5. ポスターセッション② 資料収集（大学祭の準備）
6. ポスターセッション③ 作成
7. 学科行事
8. ポスターセッション④ 実施
9. 人権研修会
10. レポート制作の流れ
11. テーマ発表、説得力のあるレポートの書き方（段落や表現の工夫）
12. 5分間発表①
13. 5分間発表②
14. 合評会（人数の多いゼミは、5分間発表）
15. レポート提出 まとめ

特記事項: なし

授業方法: 基本的に演習形式の対面授業を実施する。

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 春学期の復習 30分
2. 教科書予習復習 45分
3. 教科書予習復習 45分
4. ポスターセッション準備 60分
5. ポスターセッション準備 60分
6. ポスターセッション準備 60分
8. ポスターセッション準備 60分
9. 研修会振り返り 20分
10. 教科書予習復習 45分
11. レポート執筆準備 60分
12. レポート執筆・発表準備 60分
13. レポート執筆・発表準備 60分
14. レポート原稿用意 60分
15. レポート執筆 60分

評価方法: **授業へのとりくみ:** 30 **%** **確認テスト:** － **%** **レポート:** 60 **%**
その他1: 5分間発表 10 **%**

その他2： **%**

評価基準： 80点以上 プレゼンやレポート作成のスキルを十分身につけ、応用できる。
70～79点 プレゼンやレポート作成のスキルを身につけている。
60～69点 最低限のプレゼンやレポート作成のスキルを身につけている。

課題へのフィードバック：

ポスターセッションや合評会実施後の授業で、プレゼンやレポートについて講評を行う。

教科書： 吉原他著『スタディスキルズ・トレーニング改訂版：大学で学ぶための25のスキル』実教出版 2017年

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：

春学期と同じく原則毎回PCを持参すること。
知的で明解な文章を作成する能力は大学だけではなく、社会に出ても要求される能力です。そして、自分自身の文章のスタイルは自分で作り出さねばなりません。自分自身の独創的な考えを世界中の人に分かってもらえるように努力しましょう。
レポートの60%のうちわけはポスターセッションが30%、コンクール応募作品が30%です。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 基礎演習Ⅱ

クラス: ス

授業コード: B000200053

担当者: 杉山 真人 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 大学での学びの基礎となる主題の設定、調査の仕方、論理的な文章の組み立て方をポスターセッションとレポート作成を中心として学ぶ。

到達目標:
1. 主体的にテーマを設定し、調べた結果と自分の意見を論理的にまとめることができる。
2. ポスターセッションを通じてグループでの課題設定や問題解決ができる。
3. この演習の集大成として行われるレポートコンテストへ応募する文章を書く。

各回の授業計画:

1. 年間計画の再構築 成績配布 秋学期履修上の注意
2. 要約の仕方、本の読み方
3. 資料の利用、引用の仕方（大学祭の準備）
4. ポスターセッション① テーマ設定（大学祭の準備）
5. ポスターセッション② 資料収集（大学祭の準備）
6. ポスターセッション③ 作成
7. 学科行事
8. ポスターセッション④ 実施
9. 人権研修会
10. レポート制作の流れ
11. テーマ発表、説得力のあるレポートの書き方（段落や表現の工夫）
12. 5分間発表①
13. 5分間発表②
14. 合評会（人数の多いゼミは、5分間発表）
15. レポート提出 まとめ

特記事項: なし

授業方法: 基本的に演習形式の対面授業を実施する。

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 春学期の復習 30分
2. 教科書予習復習 45分
3. 教科書予習復習 45分
4. ポスターセッション準備 60分
5. ポスターセッション準備 60分
6. ポスターセッション準備 60分
8. ポスターセッション準備 60分
9. 研修会振り返り 20分
10. 教科書予習復習 45分
11. レポート執筆準備 60分
12. レポート執筆・発表準備 60分
13. レポート執筆・発表準備 60分
14. レポート原稿用意 60分
15. レポート執筆 60分

評価方法: **授業へのとりくみ:** 30 **%** **確認テスト:** － **%** **レポート:** 60 **%**
その他1: 5分間発表 10 **%**

その他2： **%**

評価基準： 80点以上 プレゼンやレポート作成のスキルを十分身につけ、応用できる。
70～79点 プレゼンやレポート作成のスキルを身につけている。
60～69点 最低限のプレゼンやレポート作成のスキルを身につけている。

課題へのフィードバック：

ポスターセッションや合評会実施後の授業で、プレゼンやレポートについて講評を行う。

教科書： 吉原他著『スタディスキルズ・トレーニング改訂版：大学で学ぶための25のスキル』実教出版 2017年

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：

春学期と同じく原則毎回PCを持参すること。
知的で明解な文章を作成する能力は大学だけではなく、社会に出ても要求される能力です。そして、自分自身の文章のスタイルは自分で作り出さねばなりません。自分自身の独創的な考えを世界中の人に分かってもらえるように努力しましょう。
レポートの60%のうちわけはポスターセッションが30%、コンクール応募作品が30%です。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 基礎演習Ⅱ

クラス: ス

授業コード: B000200054

担当者: 有山 篤利　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 大学での学びの基礎となる主題の設定、調査の仕方、論理的な文章の組み立て方をポスターセッションとレポート作成を中心として学ぶ。

到達目標:
1. 主体的にテーマを設定し、調べた結果と自分の意見を論理的にまとめることができる。
2. ポスターセッションを通じてグループでの課題設定や問題解決ができる。
3. この演習の集大成として行われるレポートコンテストへ応募する文章を書く。

各回の授業計画:

1. 年間計画の再構築 成績配布 秋学期履修上の注意
2. 要約の仕方、本の読み方
3. 資料の利用、引用の仕方（大学祭の準備）
4. ポスターセッション① テーマ設定（大学祭の準備）
5. ポスターセッション② 資料収集（大学祭の準備）
6. ポスターセッション③ 作成
7. 学科行事
8. ポスターセッション④ 実施
9. 人権研修会
10. レポート制作の流れ
11. テーマ発表、説得力のあるレポートの書き方（段落や表現の工夫）
12. 5分間発表①
13. 5分間発表②
14. 合評会（人数の多いゼミは、5分間発表）
15. レポート提出 まとめ

特記事項: なし

授業方法: 基本的に演習形式の対面授業を実施する。

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 春学期の復習 30分
2. 教科書予習復習 45分
3. 教科書予習復習 45分
4. ポスターセッション準備 60分
5. ポスターセッション準備 60分
6. ポスターセッション準備 60分
8. ポスターセッション準備 60分
9. 研修会振り返り 20分
10. 教科書予習復習 45分
11. レポート執筆準備 60分
12. レポート執筆・発表準備 60分
13. レポート執筆・発表準備 60分
14. レポート原稿用意 60分
15. レポート執筆 60分

評価方法:
授業へのとりくみ: 30 **%**　　**確認テスト:** － **%**　　**レポート:** 60 **%**
その他1: 5分間発表　　10 **%**

その他2： **%**

評価基準： 80点以上 プレゼンやレポート作成のスキルを十分身につけ、応用できる。
70～79点 プレゼンやレポート作成のスキルを身につけている。
60～69点 最低限のプレゼンやレポート作成のスキルを身につけている。

課題へのフィードバック：

ポスターセッションや合評会実施後の授業で、プレゼンやレポートについて講評を行う。

教科書： 吉原他著『スタディスキルズ・トレーニング改訂版：大学で学ぶための25のスキル』実教出版 2017年

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：

春学期と同じく原則毎回PCを持参すること。
知的で明解な文章を作成する能力は大学だけではなく、社会に出ても要求される能力です。そして、自分自身の文章のスタイルは自分で作り出さねばなりません。自分自身の独創的な考えを世界中の人に分かってもらえるように努力しましょう。
レポートの60%のうちわけはポスターセッションが30%、コンクール応募作品が30%です。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 基礎演習Ⅱ

クラス: ス

授業コード: B000200055

担当者: 北中 睦雄 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 大学での学びの基礎となる主題の設定、調査の仕方、論理的な文章の組み立て方をポスターセッションとレポート作成を中心として学ぶ。

到達目標:
1. 主体的にテーマを設定し、調べた結果と自分の意見を論理的にまとめることができる。
2. ポスターセッションを通じてグループでの課題設定や問題解決ができる。
3. この演習の集大成として行われるレポートコンテストへ応募する文章を書く。

各回の授業計画:

1. 年間計画の再構築 成績配布 秋学期履修上の注意
2. 要約の仕方、本の読み方
3. 資料の利用、引用の仕方（大学祭の準備）
4. ポスターセッション① テーマ設定（大学祭の準備）
5. ポスターセッション② 資料収集（大学祭の準備）
6. ポスターセッション③ 作成
7. 学科行事
8. ポスターセッション④ 実施
9. 人権研修会
10. レポート制作の流れ
11. テーマ発表、説得力のあるレポートの書き方（段落や表現の工夫）
12. 5分間発表①
13. 5分間発表②
14. 合評会（人数の多いゼミは、5分間発表）
15. レポート提出 まとめ

特記事項: なし

授業方法: 基本的に演習形式の対面授業を実施する。

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 春学期の復習 30分
2. 教科書予習復習 45分
3. 教科書予習復習 45分
4. ポスターセッション準備 60分
5. ポスターセッション準備 60分
6. ポスターセッション準備 60分
8. ポスターセッション準備 60分
9. 研修会振り返り 20分
10. 教科書予習復習 45分
11. レポート執筆準備 60分
12. レポート執筆・発表準備 60分
13. レポート執筆・発表準備 60分
14. レポート原稿用意 60分
15. レポート執筆 60分

評価方法: **授業へのとりくみ:** 30 **%** **確認テスト:** － **%** **レポート:** 60 **%**
その他1: 5分間発表 10 **%**

その他2： **%**

評価基準： 80点以上 プレゼンやレポート作成のスキルを十分身につけ、応用できる。
70～79点 プレゼンやレポート作成のスキルを身につけている。
60～69点 最低限のプレゼンやレポート作成のスキルを身につけている。

課題へのフィードバック：

ポスターセッションや合評会実施後の授業で、プレゼンやレポートについて講評を行う。

教科書： 吉原他著『スタディスキルズ・トレーニング改訂版：大学で学ぶための25のスキル』実教出版 2017年

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：

春学期と同じく原則毎回PCを持参すること。
知的で明解な文章を作成する能力は大学だけではなく、社会に出ても要求される能力です。そして、自分自身の文章のスタイルは自分で作り出さねばなりません。自分自身の独創的な考えを世界中の人に分かってもらえるように努力しましょう。
レポートの60%のうちわけはポスターセッションが30%、コンクール応募作品が30%です。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 基礎演習Ⅱ

クラス: ス

授業コード: B000200056

担当者: 山中 裕太 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 大学での学びの基礎となる主題の設定、調査の仕方、論理的な文章の組み立て方をポスターセッションとレポート作成を中心として学ぶ。

到達目標:
1. 主体的にテーマを設定し、調べた結果と自分の意見を論理的にまとめることができる。
2. ポスターセッションを通じてグループでの課題設定や問題解決ができる。
3. この演習の集大成として行われるレポートコンテストへ応募する文章を書く。

各回の授業計画:

1. 年間計画の再構築 成績配布 秋学期履修上の注意
2. 要約の仕方、本の読み方
3. 資料の利用、引用の仕方（大学祭の準備）
4. ポスターセッション① テーマ設定（大学祭の準備）
5. ポスターセッション② 資料収集（大学祭の準備）
6. ポスターセッション③ 作成
7. 学科行事
8. ポスターセッション④ 実施
9. 人権研修会
10. レポート制作の流れ
11. テーマ発表、説得力のあるレポートの書き方（段落や表現の工夫）
12. 5分間発表①
13. 5分間発表②
14. 合評会（人数の多いゼミは、5分間発表）
15. レポート提出 まとめ

特記事項: なし

授業方法: 基本的に演習形式の対面授業を実施する。

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 春学期の復習 30分
2. 教科書予習復習 45分
3. 教科書予習復習 45分
4. ポスターセッション準備 60分
5. ポスターセッション準備 60分
6. ポスターセッション準備 60分
8. ポスターセッション準備 60分
9. 研修会振り返り 20分
10. 教科書予習復習 45分
11. レポート執筆準備 60分
12. レポート執筆・発表準備 60分
13. レポート執筆・発表準備 60分
14. レポート原稿用意 60分
15. レポート執筆 60分

評価方法: **授業へのとりくみ:** 30 **%** **確認テスト:** － **%** **レポート:** 60 **%**
その他1: 5分間発表 10 **%**

その他2： **%**

評価基準： 80点以上 プレゼンやレポート作成のスキルを十分身につけ、応用できる。
70～79点 プレゼンやレポート作成のスキルを身につけている。
60～69点 最低限のプレゼンやレポート作成のスキルを身につけている。

課題へのフィードバック：

ポスターセッションや合評会実施後の授業で、プレゼンやレポートについて講評を行う。

教科書： 吉原他著『スタディスキルズ・トレーニング改訂版：大学で学ぶための25のスキル』実教出版 2017年

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：

春学期と同じく原則毎回PCを持参すること。
知的で明解な文章を作成する能力は大学だけではなく、社会に出ても要求される能力です。そして、自分自身の文章のスタイルは自分で作り出さねばなりません。自分自身の独創的な考えを世界中の人に分かってもらえるように努力しましょう。
レポートの60%のうちわけはポスターセッションが30%、コンクール応募作品が30%です。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 基礎演習Ⅱ

クラス: ス

授業コード: B000200057

担当者: 椿 武　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 大学での学びの基礎となる主題の設定、調査の仕方、論理的な文章の組み立て方をポスターセッションとレポート作成を中心として学ぶ。

到達目標:
1. 主体的にテーマを設定し、調べた結果と自分の意見を論理的にまとめることができる。
2. ポスターセッションを通じてグループでの課題設定や問題解決ができる。
3. この演習の集大成として行われるレポートコンテストへ応募する文章を書く。

各回の授業計画:

1. 年間計画の再構築 成績配布 秋学期履修上の注意
2. 要約の仕方、本の読み方
3. 資料の利用、引用の仕方（大学祭の準備）
4. ポスターセッション① テーマ設定（大学祭の準備）
5. ポスターセッション② 資料収集（大学祭の準備）
6. ポスターセッション③ 作成
7. 学科行事
8. ポスターセッション④ 実施
9. 人権研修会
10. レポート制作の流れ
11. テーマ発表、説得力のあるレポートの書き方（段落や表現の工夫）
12. 5分間発表①
13. 5分間発表②
14. 合評会（人数の多いゼミは、5分間発表）
15. レポート提出 まとめ

特記事項: なし

授業方法: 基本的に演習形式の対面授業を実施する。

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 春学期の復習 30分
2. 教科書予習復習 45分
3. 教科書予習復習 45分
4. ポスターセッション準備 60分
5. ポスターセッション準備 60分
6. ポスターセッション準備 60分
8. ポスターセッション準備 60分
9. 研修会振り返り 20分
10. 教科書予習復習 45分
11. レポート執筆準備 60分
12. レポート執筆・発表準備 60分
13. レポート執筆・発表準備 60分
14. レポート原稿用意 60分
15. レポート執筆 60分

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	－ **%**	**レポート:**	60 **%**
その他1:	5分間発表		10 **%**		

その他2： **%**

評価基準： 80点以上 プレゼンやレポート作成のスキルを十分身につけ、応用できる。
70～79点 プレゼンやレポート作成のスキルを身につけている。
60～69点 最低限のプレゼンやレポート作成のスキルを身につけている。

課題へのフィードバック：

ポスターセッションや合評会実施後の授業で、プレゼンやレポートについて講評を行う。

教科書： 吉原他著『スタディスキルズ・トレーニング改訂版：大学で学ぶための25のスキル』実教出版 2017年

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：

春学期と同じく原則毎回PCを持参すること。
知的で明解な文章を作成する能力は大学だけではなく、社会に出ても要求される能力です。そして、自分自身の文章のスタイルは自分で作り出さねばなりません。自分自身の独創的な考えを世界中の人に分かってもらえるように努力しましょう。
レポートの60%のうちわけはポスターセッションが30%、コンクール応募作品が30%です。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 健康行動学

クラス: ★小中高/小+

授業コード: B010100001

担当者: 中瀬古 哲　　**単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教員免許法施行規則第66条の6に定める必修科目(体育)

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: −　　**一般的包括的科目:** −

授業の目的: 私たちの身の回りには健康に関する情報が溢れています。たとえば、肥満を解消するためのダイエット方法にしても多種多様で、どの情報を信頼すればよいのかが判然としません。この講義では、私たちの身近に散乱している健康に関しての様々な情報をきちんと見分ける、そのために必要な知識を学びます。そうして得た知識をもとに、①食べる ②運動する ③休養する、という3つの視点から生活スタイルを見直し、改善できるようになることが、この講義の目的です。

到達目標:
1. 健康に関しての情報を整理するための基礎知識を得る。
2. 健康維持に向けての生活実践を行うための実用的知識を得る。

各回の授業計画:

1. ガイダンス (※初回は、対面にて実施)※PC必携
2. 健康の概念:社会の健康を守る —パンデミックを経験して①
3. 健康の概念:個人の健康を守る —パンデミックを経験して②
4. 感染症をより良く理解するために
5. 健康状態の判定 —血圧と体重からみえてくるもの
6. お酒とたばこ 一嗜好品(ストレス解消=適応規制)とどう向き合うか
7. 慢性腰痛 —痛みへの対処法と身体からのサインの意味
8. 健康の三要素「運動」① 筋肉の運動と脂肪の分解「燃焼」(※骨格と筋肉の働き含む)
9. 健康の三要素「運動」② 健康づくりのための運動処方・プログラム
10. 健康の三要素「休養」 —なぜ、休養が必要なのでしょうか
11. 健康の三要素「栄養」① —ダイエット/肥満と摂食障害のはざまで
12. 健康の三要素「栄養」② —「食」を多角的に考える
13. アレルギーについて —免疫機能と自己防衛
14. 健康とストレス —科学的「健康観」と「習慣」の確立に向けて
15. 「健康」概念について —科学的「健康観」と「習慣」の確立に向けて

特記事項: 初回のみ対面授業(※PC必携)。以後、第2回目から最終回までの14回はすべてオンライン(オンデマンド)授業。

授業方法:
1. 講義、意識調査(初回のみ対面。PC必携)
2. テキスト学習、テキストの理解を確認するためのテストとミニレポート(Teams)
3. 前回テストの復習並びにミニレポート交流、テキスト学習、テキストの理解を確認するためのテストとミニレポート(Teams)
4. 前回テストの復習並びにミニレポート交流、テキスト学習、テキストの理解を確認するためのテストとミニレポート(Teams)
5. 前回テストの復習並びにミニレポート交流、テキスト学習、テキストの理解を確認するためのテストとミニレポート(Teams)
6. 前回テストの復習並びにミニレポート交流、テキスト学習、テキストの理解を確認するためのテストとミニレポート(Teams)
7. 前回テストの復習並びにミニレポート交流、テキスト学習、テキストの理解を確認するためのテストとミニレポート(Teams)
8. 前回テストの復習並びにミニレポート交流、テキスト学習、テキストの理解を確認するためのテストとミニレポート(Teams)
9. 前回テストの復習並びにミニレポート交流、テキスト学習、テキストの理解を確認するためのテストとミニレポート(Teams)
10. 前回テストの復習並びにミニレポート交流、テキスト学習、テキストの理解を確認するためのテストとミニレポート(Teams)
11. 前回テストの復習並びにミニレポート交流、テキスト学習、テキストの理解を確認するためのテストとミニレポート(Teams)
12. 前回テストの復習並びにミニレポート交流、テキスト学習、テキストの理解を確認するためのテストとミニレポート(Teams)
13. 前回テストの復習並びにミニレポート交流、テキスト学習、テキストの理解を確認するためのテストとミニレポート(Teams)
14. 前回テストの復習並びにミニレポート交流、テキスト学習、テキストの理解を確認するためのテストとミニレポート(Teams)
15. 前回テストの復習並びにミニレポート交流、テキスト学習、テキストの理解を確認するためのテストとミニレポート(Teams)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1.〜15.予習①中学校・高校までの保健学習の成果を確認しておく。具体的には、教科書や資料を再読する(675分)。
1.〜15.予習②:日常生活で何気なく耳にし、目にする健康についての情報を記憶に留めておく。具体的には新聞や雑誌およびネットなどから健康関連の記事を切り抜き、それに対する疑問や自らの考えを整理しておく (675分)。

1.～15.復習①：授業内容を踏まえ、自身の健康の状態を客観的に把握し、課題を明確にする（675分）。
1.～15.復習②：ウォーキングやジョギング、あるいは寝る前にストレッチを行うなど、運動習慣を身につける下地としてからだを動かす（675分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	30	**%**	**確認テスト：**	60	**%**	**レポート：**	10 **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準： 最低限の到達度（60～69点）：食・運動・休養に関する基礎的な知識について簡単な説明ができるとともに、それらを元に自分自身の生活スタイルの実態と課題を理解している。
望ましい到達度（80～100点）：食・運動・休養に関する基礎的な知識について詳しく説明ができるとともに、それらを元に自分自身の生活スタイルの実態と課題を踏まえ、具体的な改善策の見通しを持っている。

課題へのフィードバック：

(1)認識テストについては、次回の授業時にテストの意図と正解について解説する。
(2)ミニレポートの内容についても、次回の授業時に紹介・評価する。

教科書： 指定の教科書は無し。

参考書： 授業の中で適宜紹介します。

授業・準備学習のアドバイス：

・「健康」を考えることは、自らの身体について考えることでもある。身体に関する「わかっているつもりで、よくわかっていなかったこと」を、ひとつでも多く発見してほしい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 健康行動学

クラス: ★幼保

授業コード: B010100002

担当者: 中瀬古 哲 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教員免許法施行規則第66条の6に定める必修科目(体育)

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 私たちの身の回りには健康に関する情報が溢れています。たとえば、肥満を解消するためのダイエット方法にしても多種多様で、どの情報を信頼すればよいのかが判然としません。この講義では、私たちの身近に散乱している健康に関しての様々な情報をきちんと見分ける、そのために必要な知識を学びます。そうして得た知識をもとに、①食べる ②運動する ③休養する、という3つの視点から生活スタイルを見直し、改善できるようになることが、この講義の目的です。

到達目標:
1. 健康に関しての情報を整理するための基礎知識を得る。
2. 健康維持に向けての生活実践を行うための実用的知識を得る。

各回の授業計画:

1. ガイダンス (※初回は、対面にて実施)※PC必携
2. 健康の概念:社会の健康を守る ―パンデミックを経験して①
3. 健康の概念:個人の健康を守る ―パンデミックを経験して②
4. 感染症をより良く理解するために
5. 健康状態の判定 ―血圧と体重からみえてくるもの
6. お酒とたばこ ―嗜好品(ストレス解消=適応規制)とどう向き合うか
7. 慢性腰痛 ―痛みへの対処法と身体からのサインの意味
8. 健康の三要素「運動」① 筋肉の運動と脂肪の分解「燃焼」(※骨格と筋肉の働き含む)
9. 健康の三要素「運動」② 健康づくりのための運動処方・プログラム
10. 健康の三要素「休養」 ―なぜ、休養が必要なのでしょうか
11. 健康の三要素「栄養」① ―ダイエット/肥満と摂食障害のはざまで
12. 健康の三要素「栄養」② ―「食」を多角的に考える
13. アレルギーについて ―免疫機能と自己防衛
14. 健康とストレス ―科学的「健康観」と「習慣」の確立に向けて
15. 「健康」概念について ―科学的「健康観」と「習慣」の確立に向けて

特記事項: 初回のみ対面授業(※PC必携)。以後、第2回目から最終回までの14回はすべてオンライン(オンデマンド)授業。

授業方法:
1. 講義、意識調査(初回のみ対面。PC必携)
2. テキスト学習、テキストの理解を確認するためのテストとミニレポート(Teams)
3. 前回テストの復習並びにミニレポート交流、テキスト学習、テキストの理解を確認するためのテストとミニレポート(Teams)
4. 前回テストの復習並びにミニレポート交流、テキスト学習、テキストの理解を確認するためのテストとミニレポート(Teams)
5. 前回テストの復習並びにミニレポート交流、テキスト学習、テキストの理解を確認するためのテストとミニレポート(Teams)
6. 前回テストの復習並びにミニレポート交流、テキスト学習、テキストの理解を確認するためのテストとミニレポート(Teams)
7. 前回テストの復習並びにミニレポート交流、テキスト学習、テキストの理解を確認するためのテストとミニレポート(Teams)
8. 前回テストの復習並びにミニレポート交流、テキスト学習、テキストの理解を確認するためのテストとミニレポート(Teams)
9. 前回テストの復習並びにミニレポート交流、テキスト学習、テキストの理解を確認するためのテストとミニレポート(Teams)
10. 前回テストの復習並びにミニレポート交流、テキスト学習、テキストの理解を確認するためのテストとミニレポート(Teams)
11. 前回テストの復習並びにミニレポート交流、テキスト学習、テキストの理解を確認するためのテストとミニレポート(Teams)
12. 前回テストの復習並びにミニレポート交流、テキスト学習、テキストの理解を確認するためのテストとミニレポート(Teams)
13. 前回テストの復習並びにミニレポート交流、テキスト学習、テキストの理解を確認するためのテストとミニレポート(Teams)
14. 前回テストの復習並びにミニレポート交流、テキスト学習、テキストの理解を確認するためのテストとミニレポート(Teams)
15. 前回テストの復習並びにミニレポート交流、テキスト学習、テキストの理解を確認するためのテストとミニレポート(Teams)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1.～15.予習①中学校・高校までの保健学習の成果を確認しておく。具体的には、教科書や資料を再読する(675分)。
1.～15.予習②:日常生活で何気なく耳にし、目にする健康についての情報を記憶に留めておく。具体的には新聞や雑誌およびネットなどから健康関連の記事を切り抜き、それに対する疑問や自らの考えを整理しておく (675分)。

1.～15.復習①：授業内容を踏まえ、自身の健康の状態を客観的に把握し、課題を明確にする（675分）。
1.～15.復習②：ウォーキングやジョギング、あるいは寝る前にストレッチを行うなど、運動習慣を身につける下地としてからだを動かす（675分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	60 **%**	**レポート：**	10 **%**
その他1：			**%**		
その他2：			**%**		

評価基準： 最低限の到達度（60～69点）：食・運動・休養に関する基礎的な知識について簡単な説明ができるとともに、それらを元に自分自身の生活スタイルの実態と課題を理解している。
望ましい到達度（80～100点）：食・運動・休養に関する基礎的な知識について詳しく説明ができるとともに、それらを元に自分自身の生活スタイルの実態と課題を踏まえ、具体的な改善策の見通しを持っている。

課題へのフィードバック：

(1)認識テストについては、次回の授業時にテストの意図と正解について解説する。
(2)ミニレポートの内容についても、次回の授業時に紹介・評価する。

教科書： 指定の教科書は無し。

参考書： 授業の中で適宜紹介します。

授業・準備学習のアドバイス：

・「健康」を考えることは、自らの身体について考えることでもある。身体に関する「わかっているつもりで、よくわかっていなかったこと」を、ひとつでも多く発見してほしい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 健康行動学

クラス: ★ス

授業コード: B010100003

担当者: 中瀬古 哲 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教員免許法施行規則第66条の6に定める必修科目(体育)

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 私たちの身の回りには健康に関する情報が溢れています。たとえば、肥満を解消するためのダイエット方法にしても多種多様で、どの情報を信頼すればよいのかが判然としません。この講義では、私たちの身近に散乱している健康に関しての様々な情報をきちんと見分ける、そのために必要な知識を学びます。そうして得た知識をもとに、①食べる ②運動する ③休養する、という3つの視点から生活スタイルを見直し、改善できるようになることが、この講義の目的です。

到達目標:
1. 健康に関しての情報を整理するための基礎知識を得る。
2. 健康維持に向けての生活実践を行うための実用的知識を得る。

各回の授業計画:

1. ガイダンス (※初回は、対面にて実施)※PC必携
2. 健康の概念:社会の健康を守る —パンデミックを経験して①
3. 健康の概念:個人の健康を守る —パンデミックを経験して②
4. 感染症をより良く理解するために
5. 健康状態の判定 —血圧と体重からみえてくるもの
6. お酒とたばこ 一嗜好品(ストレス解消=適応規制)とどう向き合うか
7. 慢性腰痛 —痛みへの対処法と身体からのサインの意味
8. 健康の三要素「運動」① 筋肉の運動と脂肪の分解「燃焼」(※骨格と筋肉の働き含む)
9. 健康の三要素「運動」② 健康づくりのための運動処方・プログラム
10. 健康の三要素「休養」 —なぜ、休養が必要なのでしょうか
11. 健康の三要素「栄養」① —ダイエット/肥満と摂食障害のはざまで
12. 健康の三要素「栄養」② —「食」を多角的に考える
13. アレルギーについて —免疫機能と自己防衛
14. 健康とストレス —科学的「健康観」と「習慣」の確立に向けて
15. 「健康」概念について —科学的「健康観」と「習慣」の確立に向けて

特記事項: 初回のみ対面授業(※PC必携)。以後、第2回目から最終回までの14回はすべてオンライン(オンデマンド)授業。

授業方法:
1. 講義、意識調査(初回のみ対面。PC必携)
2. テキスト学習、テキストの理解を確認するためのテストとミニレポート(Teams)
3. 前回テストの復習並びにミニレポート交流、テキスト学習、テキストの理解を確認するためのテストとミニレポート(Teams)
4. 前回テストの復習並びにミニレポート交流、テキスト学習、テキストの理解を確認するためのテストとミニレポート(Teams)
5. 前回テストの復習並びにミニレポート交流、テキスト学習、テキストの理解を確認するためのテストとミニレポート(Teams)
6. 前回テストの復習並びにミニレポート交流、テキスト学習、テキストの理解を確認するためのテストとミニレポート(Teams)
7. 前回テストの復習並びにミニレポート交流、テキスト学習、テキストの理解を確認するためのテストとミニレポート(Teams)
8. 前回テストの復習並びにミニレポート交流、テキスト学習、テキストの理解を確認するためのテストとミニレポート(Teams)
9. 前回テストの復習並びにミニレポート交流、テキスト学習、テキストの理解を確認するためのテストとミニレポート(Teams)
10. 前回テストの復習並びにミニレポート交流、テキスト学習、テキストの理解を確認するためのテストとミニレポート(Teams)
11. 前回テストの復習並びにミニレポート交流、テキスト学習、テキストの理解を確認するためのテストとミニレポート(Teams)
12. 前回テストの復習並びにミニレポート交流、テキスト学習、テキストの理解を確認するためのテストとミニレポート(Teams)
13. 前回テストの復習並びにミニレポート交流、テキスト学習、テキストの理解を確認するためのテストとミニレポート(Teams)
14. 前回テストの復習並びにミニレポート交流、テキスト学習、テキストの理解を確認するためのテストとミニレポート(Teams)
15. 前回テストの復習並びにミニレポート交流、テキスト学習、テキストの理解を確認するためのテストとミニレポート(Teams)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1.〜15.予習①中学校・高校までの保健学習の成果を確認しておく。具体的には、教科書や資料を再読する(675分)。
1.〜15.予習②:日常生活で何気なく耳にし、目にする健康についての情報を記憶に留めておく。具体的には新聞や雑誌およびネットなどから健康関連の記事を切り抜き、それに対する疑問や自らの考えを整理しておく (675分)。

1.～15.復習①：授業内容を踏まえ、自身の健康の状態を客観的に把握し、課題を明確にする（675分）。
1.～15.復習②：ウォーキングやジョギング、あるいは寝る前にストレッチを行うなど、運動習慣を身につける下地としてからだを動かす（675分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	60 **%**	**レポート：**	10 **%**
その他1：			**%**		
その他2：			**%**		

評価基準： 最低限の到達度（60～69点）：食・運動・休養に関する基礎的な知識について簡単な説明ができるとともに、それらを元に自分自身の生活スタイルの実態と課題を理解している。
望ましい到達度（80～100点）：食・運動・休養に関する基礎的な知識について詳しく説明ができるとともに、それらを元に自分自身の生活スタイルの実態と課題を踏まえ、具体的な改善策の見通しを持っている。

課題へのフィードバック：

(1)認識テストについては、次回の授業時にテストの意図と正解について解説する。
(2)ミニレポートの内容についても、次回の授業時に紹介・評価する。

教科書： 指定の教科書は無し。

参考書： 授業の中で適宜紹介します。

授業・準備学習のアドバイス：

・「健康」を考えることは、自らの身体について考えることでもある。身体に関する「わかっているつもりで、よくわかっていなかったこと」を、ひとつでも多く発見してほしい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 健康行動学

クラス: ★国心

授業コード: B010100004

担当者: 中瀬古 哲 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教員免許法施行規則第66条の6に定める必修科目(体育)

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 私たちの身の回りには健康に関する情報が溢れています。たとえば、肥満を解消するためのダイエット方法にしても多種多様で、どの情報を信頼すればよいのかが判然としません。この講義では、私たちの身近に散乱している健康に関しての様々な情報をきちんと見分ける、そのために必要な知識を学びます。そうして得た知識をもとに、①食べる ②運動する ③休養する、という3つの視点から生活スタイルを見直し、改善できるようになることが、この講義の目的です。

到達目標:
1. 健康に関しての情報を整理するための基礎知識を得る。
2. 健康維持に向けての生活実践を行うための実用的知識を得る。

各回の授業計画:

1. ガイダンス (※初回は、対面にて実施)※PC必携
2. 健康の概念:社会の健康を守る —パンデミックを経験して①
3. 健康の概念:個人の健康を守る —パンデミックを経験して②
4. 感染症をより良く理解するために
5. 健康状態の判定 —血圧と体重からみえてくるもの
6. お酒とたばこ 一嗜好品(ストレス解消=適応規制)とどう向き合うか
7. 慢性腰痛 —痛みへの対処法と身体からのサインの意味
8. 健康の三要素「運動」① 筋肉の運動と脂肪の分解「燃焼」(※骨格と筋肉の働き含む)
9. 健康の三要素「運動」② 健康づくりのための運動処方・プログラム
10. 健康の三要素「休養」 —なぜ、休養が必要なのでしょうか
11. 健康の三要素「栄養」① —ダイエット/肥満と摂食障害のはざまで
12. 健康の三要素「栄養」② —「食」を多角的に考える
13. アレルギーについて —免疫機能と自己防衛
14. 健康とストレス —科学的「健康観」と「習慣」の確立に向けて
15. 「健康」概念について —科学的「健康観」と「習慣」の確立に向けて

特記事項: 初回のみ対面授業(※PC必携)。以後、第2回目から最終回までの14回はすべてオンライン(オンデマンド)授業。

授業方法:
1. 講義、意識調査(初回のみ対面。PC必携)
2. テキスト学習、テキストの理解を確認するためのテストとミニレポート(Teams)
3. 前回テストの復習並びにミニレポート交流、テキスト学習、テキストの理解を確認するためのテストとミニレポート(Teams)
4. 前回テストの復習並びにミニレポート交流、テキスト学習、テキストの理解を確認するためのテストとミニレポート(Teams)
5. 前回テストの復習並びにミニレポート交流、テキスト学習、テキストの理解を確認するためのテストとミニレポート(Teams)
6. 前回テストの復習並びにミニレポート交流、テキスト学習、テキストの理解を確認するためのテストとミニレポート(Teams)
7. 前回テストの復習並びにミニレポート交流、テキスト学習、テキストの理解を確認するためのテストとミニレポート(Teams)
8. 前回テストの復習並びにミニレポート交流、テキスト学習、テキストの理解を確認するためのテストとミニレポート(Teams)
9. 前回テストの復習並びにミニレポート交流、テキスト学習、テキストの理解を確認するためのテストとミニレポート(Teams)
10. 前回テストの復習並びにミニレポート交流、テキスト学習、テキストの理解を確認するためのテストとミニレポート(Teams)
11. 前回テストの復習並びにミニレポート交流、テキスト学習、テキストの理解を確認するためのテストとミニレポート(Teams)
12. 前回テストの復習並びにミニレポート交流、テキスト学習、テキストの理解を確認するためのテストとミニレポート(Teams)
13. 前回テストの復習並びにミニレポート交流、テキスト学習、テキストの理解を確認するためのテストとミニレポート(Teams)
14. 前回テストの復習並びにミニレポート交流、テキスト学習、テキストの理解を確認するためのテストとミニレポート(Teams)
15. 前回テストの復習並びにミニレポート交流、テキスト学習、テキストの理解を確認するためのテストとミニレポート(Teams)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1.〜15.予習①中学校・高校までの保健学習の成果を確認しておく。具体的には、教科書や資料を再読する(675分)。
1.〜15.予習②:日常生活で何気なく耳にし、目にする健康についての情報を記憶に留めておく。具体的には新聞や雑誌およびネットなどから健康関連の記事を切り抜き、それに対する疑問や自らの考えを整理しておく (675分)。

1.～15.復習①：授業内容を踏まえ、自身の健康の状態を客観的に把握し、課題を明確にする（675分）。
1.～15.復習②：ウォーキングやジョギング、あるいは寝る前にストレッチを行うなど、運動習慣を身につける下地としてからだを動かす（675分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	60 **%**	**レポート：**	10 **%**
その他1：			**%**		
その他2：			**%**		

評価基準： 最低限の到達度（60～69点）：食・運動・休養に関する基礎的な知識について簡単な説明ができるとともに、それらを元に自分自身の生活スタイルの実態と課題を理解している。
望ましい到達度（80～100点）：食・運動・休養に関する基礎的な知識について詳しく説明ができるとともに、それらを元に自分自身の生活スタイルの実態と課題を踏まえ、具体的な改善策の見通しを持っている。

課題へのフィードバック：

(1)認識テストについては、次回の授業時にテストの意図と正解について解説する。
(2)ミニレポートの内容についても、次回の授業時に紹介・評価する。

教科書： 指定の教科書は無し。

参考書： 授業の中で適宜紹介します。

授業・準備学習のアドバイス：

・「健康」を考えることは、自らの身体について考えることでもある。身体に関する「わかっているつもりで、よくわかっていなかったこと」を、ひとつでも多く発見してほしい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: ICT基礎Ⅰ

クラス: 教前1

授業コード: B020150001

担当者: 中尾 尊洋 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教員免許法施行規則第66条の6に定める選択必修科目(数理、データ活用及び人工知能に関する科目 又は 情報機器の操作)

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: パソコンはもはや文房具であり、使えることが付加価値であるのではなく、使えることが前提となっている。この講義では、パソコンを用いた情報処理の中から、最も基本的なウェブページの閲覧、電子メール、ワープロ、表計算、プレゼンテーションを取り上げ、それらを利用するための基本的な知識を演習を通して修得することを目的とする。また、著作権を含めた情報モラルや、SNSの安全な利用のしかたについても学ぶものとする。

到達目標: 実習室のパソコン利用方法の理解。ファイル操作方法の理解。ブラウザによるウェブページの閲覧方法の習得。電子メールの送受信方法の習得。ワープロ・表計算を用いた文書作成方法の習得。パソコンを用いたプレゼンテーションの習得。著作権と引用・剽窃の違いなどの情報モラルの理解。SNSの安全な活用の仕方の習得。

各回の授業計画:

1. 基本操作(1):講義の進め方、パソコンのログイン、ログアウト、実習室パソコンの利用法、eラーニングシステムの利用法
2. 基本操作(2):Windowsでのファイル管理、日本語入力と文字の種類
3. ワープロ(1):ワープロとは、文章の作成、保存、修正、基本的な操作方法、簡単な文章の入力実習
4. インターネット(1):インターネットとWWWのしくみ、Microsoft Edgeによるホームページの閲覧方法、図書検索
5. 情報モラル:剽窃問題と著作権
6. 電子メール:電子メールのしくみ、メールアドレスの意味、パソコンで電子メールを利用する重要性
7. ワープロ(2):フォント、配置、各種書式の設定とそれらの実習
8. ソーシャルメディア:ソーシャルメディアの危険性とそれに対する対処
9. ワープロ(3):図形の文章中への挿入方法とその実習
10. タッチタイピング:タッチタイプによる入力とその実習
11. インターネット(2):インターネット利用上の注意事項、コンピューターウィルス対策
12. 表計算(1):表計算とは、データの入力、計算式
13. 表計算(2):表計算ソフトでのグラフの作成
14. プレゼン:プレゼンテーションとは、プレゼンテーションの準備、アウトラインの構成、シートの作成
15. 応用課題とふり返り:ワープロ、パワーポイントの応用課題、ふり返りレポート

特記事項: なし

授業方法:
1. ガイダンス、演習(対面)
2. eラーニングを用いた演習(対面)
3. eラーニングを用いた演習(対面)
4. eラーニングを用いた演習(対面)
5. eラーニングを用いた演習(対面)
6. eラーニングを用いた演習(対面)
7. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
8. eラーニングを用いた演習(対面)
9. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
10. eラーニングを用いた演習(対面)
11. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
12. eラーニングを用いた演習(対面)
13. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
14. eラーニングを用いた演習(対面)
15. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1～15. 予習(15分*15回＝225分)

1～15. 復習(30分*15回＝450分)
3. ワープロ(1)課題 30分
4. インターネット課題 120分
4. 図書検索課題 30分
5. 情報モラル課題 240分
6. 電子メール課題 120分
7. ワープロ(2)課題 180分
8. ソーシャルメディア課題 120分
9. ワープロ(3)課題 120分
10. タッチタイピング練習 120分
11. インターネット(2)に関する課題 120分
12, 13. 表計算課題 240分
14. プレゼンテーション課題 120分
15. 応用課題 360分
15. ふり返りレポート 120分

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	－ **%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:	授業内課題		70 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準:

1. 授業への取り組み
自分で教材を読んで、課題に取り組める(60～69)
メモを取ったり、質問をしながら積極的に課題に取り組める(70～79)
自ら進んで選択ユニットの課題に取り組み、解決できる(80～100)

2. 授業内課題
必修ユニットをすべて提出し、eラーニング上で130点を超える(60～69)
必修ユニットに加えて、選択ユニットをいくつか提出(70～79)
提供されているユニットのほとんどを提出(80～100)

課題へのフィードバック:

なし
eラーニング上にて各課題評価をフィードバック

教科書: eラーニングシステム内にて教材を提示

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

対面で授業があるときは、必ず自分のパソコンを持参すること。
授業計画や方法の詳細は担当教員の講義中の指示に従うこと。また受講するクラスが事前に分けられているので、自身の判断で指定外のクラスへ登録することを禁止する。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: ICT基礎Ⅰ

クラス: 教前2

授業コード: B020150002

担当者: 間渕 泰尚 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教員免許法施行規則第66条の6に定める選択必修科目(数理、データ活用及び人工知能に関する科目 又は 情報機器の操作)

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: パソコンはもはや文房具であり、使えることが付加価値であるのではなく、使えることが前提となっている。この講義では、パソコンを用いた情報処理の中から、最も基本的なウェブページの閲覧、電子メール、ワープロ、表計算、プレゼンテーションを取り上げ、それらを利用するための基本的な知識を演習を通して修得することを目的とする。また、著作権を含めた情報モラルや、SNSの安全な利用のしかたについても学ぶものとする。

到達目標: 実習室のパソコン利用方法の理解。ファイル操作方法の理解。ブラウザによるウェブページの閲覧方法の習得。電子メールの送受信方法の習得。ワープロ・表計算を用いた文書作成方法の習得。パソコンを用いたプレゼンテーションの習得。著作権と引用・剽窃の違いなどの情報モラルの理解。SNSの安全な活用の仕方の習得。

各回の授業計画:

1. 基本操作(1):講義の進め方、パソコンのログイン、ログアウト、実習室パソコンの利用法、eラーニングシステムの利用法
2. 基本操作(2):Windowsでのファイル管理、日本語入力と文字の種類
3. ワープロ(1):ワープロとは、文章の作成、保存、修正、基本的な操作方法、簡単な文章の入力実習
4. インターネット(1):インターネットとWWWのしくみ、Microsoft Edgeによるホームページの閲覧方法、図書検索
5. 情報モラル:剽窃問題と著作権
6. 電子メール:電子メールのしくみ、メールアドレスの意味、パソコンで電子メールを利用する重要性
7. ワープロ(2):フォント、配置、各種書式の設定とそれらの実習
8. ソーシャルメディア:ソーシャルメディアの危険性とそれに対する対処
9. ワープロ(3):図形の文章中への挿入方法とその実習
10. タッチタイピング:タッチタイプによる入力とその実習
11. インターネット(2):インターネット利用上の注意事項、コンピューターウィルス対策
12. 表計算(1):表計算とは、データの入力、計算式
13. 表計算(2):表計算ソフトでのグラフの作成
14. プレゼン:プレゼンテーションとは、プレゼンテーションの準備、アウトラインの構成、シートの作成
15. 応用課題とふり返り:ワープロ、パワーポイントの応用課題、ふり返りレポート

特記事項: なし

授業方法:
1. ガイダンス、演習(対面)
2. eラーニングを用いた演習(対面)
3. eラーニングを用いた演習(対面)
4. eラーニングを用いた演習(対面)
5. eラーニングを用いた演習(対面)
6. eラーニングを用いた演習(対面)
7. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
8. eラーニングを用いた演習(対面)
9. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
10. eラーニングを用いた演習(対面)
11. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
12. eラーニングを用いた演習(対面)
13. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
14. eラーニングを用いた演習(対面)
15. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1～15. 予習(15分*15回＝225分)

1～15. 復習(30分*15回＝450分)
3. ワープロ(1)課題 30分
4. インターネット課題 120分
4. 図書検索課題 30分
5. 情報モラル課題 240分
6. 電子メール課題 120分
7. ワープロ(2)課題 180分
8. ソーシャルメディア課題 120分
9. ワープロ(3)課題 120分
10. タッチタイピング練習 120分
11. インターネット(2)に関する課題 120分
12, 13. 表計算課題 240分
14. プレゼンテーション課題 120分
15. 応用課題 360分
15. ふり返りレポート 120分

評価方法:

授業へのとりくみ:	30	**%**	**確認テスト:**	－	**%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:	授業内課題			70	**%**		
その他2:					**%**		

評価基準:

1. 授業への取り組み
自分で教材を読んで、課題に取り組める(60～69)
メモを取ったり、質問をしながら積極的に課題に取り組める(70～79)
自ら進んで選択ユニットの課題に取り組み、解決できる(80～100)

2. 授業内課題
必修ユニットをすべて提出し、eラーニング上で130点を超える(60～69)
必修ユニットに加えて、選択ユニットをいくつか提出(70～79)
提供されているユニットのほとんどを提出(80～100)

課題へのフィードバック:

なし
eラーニング上にて各課題評価をフィードバック

教科書: eラーニングシステム内にて教材を提示

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

対面で授業があるときは、必ず自分のパソコンを持参すること。
授業計画や方法の詳細は担当教員の講義中の指示に従うこと。また受講するクラスが事前に分けられているので、自身の判断で指定外のクラスへ登録することを禁止する。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: ICT基礎Ⅰ

クラス: 教後1

授業コード: B020150003

担当者: 神月 紀輔 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教員免許法施行規則第66条の6に定める選択必修科目(数理、データ活用及び人工知能に関する科目 又は 情報機器の操作)

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: パソコンはもはや文房具であり、使えることが付加価値であるのではなく、使えることが前提となっている。この講義では、パソコンを用いた情報処理の中から、最も基本的なウェブページの閲覧、電子メール、ワープロ、表計算、プレゼンテーションを取り上げ、それらを利用するための基本的な知識を演習を通して修得することを目的とする。また、著作権を含めた情報モラルや、SNSの安全な利用のしかたについても学ぶものとする。

到達目標: 実習室のパソコン利用方法の理解。ファイル操作方法の理解。ブラウザによるウェブページの閲覧方法の習得。電子メールの送受信方法の習得。ワープロ・表計算を用いた文書作成方法の習得。パソコンを用いたプレゼンテーションの習得。著作権と引用・剽窃の違いなどの情報モラルの理解。SNSの安全な活用の仕方の習得。

各回の授業計画:

1. 基本操作(1):講義の進め方、パソコンのログイン、ログアウト、実習室パソコンの利用法、eラーニングシステムの利用法
2. 基本操作(2):Windowsでのファイル管理、日本語入力と文字の種類
3. ワープロ(1):ワープロとは、文章の作成、保存、修正、基本的な操作方法、簡単な文章の入力実習
4. インターネット(1):インターネットとWWWのしくみ、Microsoft Edgeによるホームページの閲覧方法、図書検索
5. 情報モラル:剽窃問題と著作権
6. 電子メール:電子メールのしくみ、メールアドレスの意味、パソコンで電子メールを利用する重要性
7. ワープロ(2):フォント、配置、各種書式の設定とそれらの実習
8. ソーシャルメディア:ソーシャルメディアの危険性とそれに対する対処
9. ワープロ(3):図形の文章中への挿入方法とその実習
10. タッチタイピング:タッチタイプによる入力とその実習
11. インターネット(2):インターネット利用上の注意事項、コンピューターウィルス対策
12. 表計算(1):表計算とは、データの入力、計算式
13. 表計算(2):表計算ソフトでのグラフの作成
14. プレゼン:プレゼンテーションとは、プレゼンテーションの準備、アウトラインの構成、シートの作成
15. 応用課題とふり返り:ワープロ、パワーポイントの応用課題、ふり返りレポート

特記事項: なし

授業方法:
1. ガイダンス、演習(対面)
2. eラーニングを用いた演習(対面)
3. eラーニングを用いた演習(対面)
4. eラーニングを用いた演習(対面)
5. eラーニングを用いた演習(対面)
6. eラーニングを用いた演習(対面)
7. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
8. eラーニングを用いた演習(対面)
9. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
10. eラーニングを用いた演習(対面)
11. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
12. eラーニングを用いた演習(対面)
13. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
14. eラーニングを用いた演習(対面)
15. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1～15. 予習(15分*15回＝225分)

1～15. 復習(30分*15回＝450分)
3. ワープロ(1)課題 30分
4. インターネット課題 120分
4. 図書検索課題 30分
5. 情報モラル課題 240分
6. 電子メール課題 120分
7. ワープロ(2)課題 180分
8. ソーシャルメディア課題 120分
9. ワープロ(3)課題 120分
10. タッチタイピング練習 120分
11. インターネット(2)に関する課題 120分
12, 13. 表計算課題 240分
14. プレゼンテーション課題 120分
15. 応用課題 360分
15. ふり返りレポート 120分

評価方法:

授業へのとりくみ:	30	**%**	**確認テスト:**	－	**%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:	授業内課題			70	**%**		
その他2:					**%**		

評価基準:

1. 授業への取り組み
自分で教材を読んで、課題に取り組める(60～69)
メモを取ったり、質問をしながら積極的に課題に取り組める(70～79)
自ら進んで選択ユニットの課題に取り組み、解決できる(80～100)

2. 授業内課題
必修ユニットをすべて提出し、eラーニング上で130点を超える(60～69)
必修ユニットに加えて、選択ユニットをいくつか提出(70～79)
提供されているユニットのほとんどを提出(80～100)

課題へのフィードバック:

なし
eラーニング上にて各課題評価をフィードバック

教科書: eラーニングシステム内にて教材を提示

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

対面で授業があるときは、必ず自分のパソコンを持参すること。
授業計画や方法の詳細は担当教員の講義中の指示に従うこと。また受講するクラスが事前に分けられているので、自身の判断で指定外のクラスへ登録することを禁止する。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: ICT基礎Ⅰ

クラス: 教後2

授業コード: B020150004

担当者: 間渕 泰尚 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教員免許法施行規則第66条の6に定める選択必修科目(数理、データ活用及び人工知能に関する科目 又は 情報機器の操作)

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: パソコンはもはや文房具であり、使えることが付加価値であるのではなく、使えることが前提となっている。この講義では、パソコンを用いた情報処理の中から、最も基本的なウェブページの閲覧、電子メール、ワープロ、表計算、プレゼンテーションを取り上げ、それらを利用するための基本的な知識を演習を通して修得することを目的とする。また、著作権を含めた情報モラルや、SNSの安全な利用のしかたについても学ぶものとする。

到達目標: 実習室のパソコン利用方法の理解。ファイル操作方法の理解。ブラウザによるウェブページの閲覧方法の習得。電子メールの送受信方法の習得。ワープロ・表計算を用いた文書作成方法の習得。パソコンを用いたプレゼンテーションの習得。著作権と引用・剽窃の違いなどの情報モラルの理解。SNSの安全な活用の仕方の習得。

各回の授業計画:

1. 基本操作(1):講義の進め方、パソコンのログイン、ログアウト、実習室パソコンの利用法、eラーニングシステムの利用法
2. 基本操作(2):Windowsでのファイル管理、日本語入力と文字の種類
3. ワープロ(1):ワープロとは、文章の作成、保存、修正、基本的な操作方法、簡単な文章の入力実習
4. インターネット(1):インターネットとWWWのしくみ、Microsoft Edgeによるホームページの閲覧方法、図書検索
5. 情報モラル:剽窃問題と著作権
6. 電子メール:電子メールのしくみ、メールアドレスの意味、パソコンで電子メールを利用する重要性
7. ワープロ(2):フォント、配置、各種書式の設定とそれらの実習
8. ソーシャルメディア:ソーシャルメディアの危険性とそれに対する対処
9. ワープロ(3):図形の文章中への挿入方法とその実習
10. タッチタイピング:タッチタイプによる入力とその実習
11. インターネット(2):インターネット利用上の注意事項、コンピューターウィルス対策
12. 表計算(1):表計算とは、データの入力、計算式
13. 表計算(2):表計算ソフトでのグラフの作成
14. プレゼン:プレゼンテーションとは、プレゼンテーションの準備、アウトラインの構成、シートの作成
15. 応用課題とふり返り:ワープロ、パワーポイントの応用課題、ふり返りレポート

特記事項: なし

授業方法:
1. ガイダンス、演習(対面)
2. eラーニングを用いた演習(対面)
3. eラーニングを用いた演習(対面)
4. eラーニングを用いた演習(対面)
5. eラーニングを用いた演習(対面)
6. eラーニングを用いた演習(対面)
7. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
8. eラーニングを用いた演習(対面)
9. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
10. eラーニングを用いた演習(対面)
11. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
12. eラーニングを用いた演習(対面)
13. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
14. eラーニングを用いた演習(対面)
15. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1～15. 予習(15分*15回＝225分)

1～15. 復習(30分*15回＝450分)
3. ワープロ(1)課題 30分
4. インターネット課題 120分
4. 図書検索課題 30分
5. 情報モラル課題 240分
6. 電子メール課題 120分
7. ワープロ(2)課題 180分
8. ソーシャルメディア課題 120分
9. ワープロ(3)課題 120分
10. タッチタイピング練習 120分
11. インターネット(2)に関する課題 120分
12, 13. 表計算課題 240分
14. プレゼンテーション課題 120分
15. 応用課題 360分
15. ふり返りレポート 120分

評価方法:

授業へのとりくみ:	30	**%**	**確認テスト:**	－	**%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:	授業内課題			70	**%**		
その他2:					**%**		

評価基準:

1. 授業への取り組み
自分で教材を読んで、課題に取り組める(60～69)
メモを取ったり、質問をしながら積極的に課題に取り組める(70～79)
自ら進んで選択ユニットの課題に取り組み、解決できる(80～100)

2. 授業内課題
必修ユニットをすべて提出し、eラーニング上で130点を超える(60～69)
必修ユニットに加えて、選択ユニットをいくつか提出(70～79)
提供されているユニットのほとんどを提出(80～100)

課題へのフィードバック:

なし
eラーニング上にて各課題評価をフィードバック

教科書: eラーニングシステム内にて教材を提示

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

対面で授業があるときは、必ず自分のパソコンを持参すること。
授業計画や方法の詳細は担当教員の講義中の指示に従うこと。また受講するクラスが事前に分けられているので、自身の判断で指定外のクラスへ登録することを禁止する。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: ICT基礎Ⅰ

クラス: 国前

授業コード: B020150005

担当者: 河野 泉　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教員免許法施行規則第66条の6に定める選択必修科目(数理、データ活用及び人工知能に関する科目 又は 情報機器の操作)

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: パソコンはもはや文房具であり、使えることが付加価値であるのではなく、使えることが前提となっている。この講義では、パソコンを用いた情報処理の中から、最も基本的なウェブページの閲覧、電子メール、ワープロ、表計算、プレゼンテーションを取り上げ、それらを利用するための基本的な知識を演習を通して修得することを目的とする。また、著作権を含めた情報モラルや、SNSの安全な利用のしかたについても学ぶものとする。

到達目標: 実習室のパソコン利用方法の理解。ファイル操作方法の理解。ブラウザによるウェブページの閲覧方法の習得。電子メールの送受信方法の習得。ワープロ・表計算を用いた文書作成方法の習得。パソコンを用いたプレゼンテーションの習得。著作権と引用・剽窃の違いなどの情報モラルの理解。SNSの安全な活用の仕方の習得。

各回の授業計画:

1. 基本操作(1):講義の進め方、パソコンのログイン、ログアウト、実習室パソコンの利用法、eラーニングシステムの利用法
2. 基本操作(2):Windowsでのファイル管理、日本語入力と文字の種類
3. ワープロ(1):ワープロとは、文章の作成、保存、修正、基本的な操作方法、簡単な文章の入力実習
4. インターネット(1):インターネットとWWWのしくみ、Microsoft Edgeによるホームページの閲覧方法、図書検索
5. 情報モラル:剽窃問題と著作権
6. 電子メール:電子メールのしくみ、メールアドレスの意味、パソコンで電子メールを利用する重要性
7. ワープロ(2):フォント、配置、各種書式の設定とそれらの実習
8. ソーシャルメディア:ソーシャルメディアの危険性とそれに対する対処
9. ワープロ(3):図形の文章中への挿入方法とその実習
10. タッチタイピング:タッチタイプによる入力とその実習
11. インターネット(2):インターネット利用上の注意事項、コンピューターウィルス対策
12. 表計算(1):表計算とは、データの入力、計算式
13. 表計算(2):表計算ソフトでのグラフの作成
14. プレゼン:プレゼンテーションとは、プレゼンテーションの準備、アウトラインの構成、シートの作成
15. 応用課題とふり返り:ワープロ、パワーポイントの応用課題、ふり返りレポート

特記事項: なし

授業方法:
1. ガイダンス、演習(対面)
2. eラーニングを用いた演習(対面)
3. eラーニングを用いた演習(対面)
4. eラーニングを用いた演習(対面)
5. eラーニングを用いた演習(対面)
6. eラーニングを用いた演習(対面)
7. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
8. eラーニングを用いた演習(対面)
9. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
10. eラーニングを用いた演習(対面)
11. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
12. eラーニングを用いた演習(対面)
13. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
14. eラーニングを用いた演習(対面)
15. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1～15. 予習(15分*15回＝225分)

1～15. 復習(30分*15回＝450分)
3. ワープロ(1)課題 30分
4. インターネット課題 120分
4. 図書検索課題 30分
5. 情報モラル課題 240分
6. 電子メール課題 120分
7. ワープロ(2)課題 180分
8. ソーシャルメディア課題 120分
9. ワープロ(3)課題 120分
10. タッチタイピング練習 120分
11. インターネット(2)に関する課題 120分
12, 13. 表計算課題 240分
14. プレゼンテーション課題 120分
15. 応用課題 360分
15. ふり返りレポート 120分

評価方法:

授業へのとりくみ:	30	**%**	**確認テスト:**	－	**%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:	授業内課題			70	**%**		
その他2:					**%**		

評価基準:

1. 授業への取り組み
自分で教材を読んで、課題に取り組める(60～69)
メモを取ったり、質問をしながら積極的に課題に取り組める(70～79)
自ら進んで選択ユニットの課題に取り組み、解決できる(80～100)

2. 授業内課題
必修ユニットをすべて提出し、eラーニング上で130点を超える(60～69)
必修ユニットに加えて、選択ユニットをいくつか提出(70～79)
提供されているユニットのほとんどを提出(80～100)

課題へのフィードバック:

なし
eラーニング上にて各課題評価をフィードバック

教科書: eラーニングシステム内にて教材を提示

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

対面で授業があるときは、必ず自分のパソコンを持参すること。
授業計画や方法の詳細は担当教員の講義中の指示に従うこと。また受講するクラスが事前に分けられているので、自身の判断で指定外のクラスへ登録することを禁止する。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: ICT基礎Ⅰ

クラス: 国後

授業コード: B020150006

担当者: 鴨谷 真知子 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教員免許法施行規則第66条の6に定める選択必修科目(数理、データ活用及び人工知能に関する科目 又は 情報機器の操作)

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: パソコンはもはや文房具であり、使えることが付加価値であるのではなく、使えることが前提となっている。この講義では、パソコンを用いた情報処理の中から、最も基本的なウェブページの閲覧、電子メール、ワープロ、表計算、プレゼンテーションを取り上げ、それらを利用するための基本的な知識を演習を通して修得することを目的とする。また、著作権を含めた情報モラルや、SNSの安全な利用のしかたについても学ぶものとする。

到達目標: 実習室のパソコン利用方法の理解。ファイル操作方法の理解。ブラウザによるウェブページの閲覧方法の習得。電子メールの送受信方法の習得。ワープロ・表計算を用いた文書作成方法の習得。パソコンを用いたプレゼンテーションの習得。著作権と引用・剽窃の違いなどの情報モラルの理解。SNSの安全な活用の仕方の習得。

各回の授業計画:

1. 基本操作(1):講義の進め方、パソコンのログイン、ログアウト、実習室パソコンの利用法、eラーニングシステムの利用法
2. 基本操作(2):Windowsでのファイル管理、日本語入力と文字の種類
3. ワープロ(1):ワープロとは、文章の作成、保存、修正、基本的な操作方法、簡単な文章の入力実習
4. インターネット(1):インターネットとWWWのしくみ、Microsoft Edgeによるホームページの閲覧方法、図書検索
5. 情報モラル:剽窃問題と著作権
6. 電子メール:電子メールのしくみ、メールアドレスの意味、パソコンで電子メールを利用する重要性
7. ワープロ(2):フォント、配置、各種書式の設定とそれらの実習
8. ソーシャルメディア:ソーシャルメディアの危険性とそれに対する対処
9. ワープロ(3):図形の文章中への挿入方法とその実習
10. タッチタイピング:タッチタイプによる入力とその実習
11. インターネット(2):インターネット利用上の注意事項、コンピューターウィルス対策
12. 表計算(1):表計算とは、データの入力、計算式
13. 表計算(2):表計算ソフトでのグラフの作成
14. プレゼン:プレゼンテーションとは、プレゼンテーションの準備、アウトラインの構成、シートの作成
15. 応用課題とふり返り:ワープロ、パワーポイントの応用課題、ふり返りレポート

特記事項: なし

授業方法:
1. ガイダンス、演習(対面)
2. eラーニングを用いた演習(対面)
3. eラーニングを用いた演習(対面)
4. eラーニングを用いた演習(対面)
5. eラーニングを用いた演習(対面)
6. eラーニングを用いた演習(対面)
7. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
8. eラーニングを用いた演習(対面)
9. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
10. eラーニングを用いた演習(対面)
11. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
12. eラーニングを用いた演習(対面)
13. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
14. eラーニングを用いた演習(対面)
15. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1～15. 予習(15分*15回＝225分)

1～15. 復習(30分*15回＝450分)
3. ワープロ(1)課題 30分
4. インターネット課題 120分
4. 図書検索課題 30分
5. 情報モラル課題 240分
6. 電子メール課題 120分
7. ワープロ(2)課題 180分
8. ソーシャルメディア課題 120分
9. ワープロ(3)課題 120分
10. タッチタイピング練習 120分
11. インターネット(2)に関する課題 120分
12, 13. 表計算課題 240分
14. プレゼンテーション課題 120分
15. 応用課題 360分
15. ふり返りレポート 120分

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	－ **%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:	授業内課題		70 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準:

1. 授業への取り組み
自分で教材を読んで、課題に取り組める(60～69)
メモを取ったり、質問をしながら積極的に課題に取り組める(70～79)
自ら進んで選択ユニットの課題に取り組み、解決できる(80～100)

2. 授業内課題
必修ユニットをすべて提出し、eラーニング上で130点を超える(60～69)
必修ユニットに加えて、選択ユニットをいくつか提出(70～79)
提供されているユニットのほとんどを提出(80～100)

課題へのフィードバック:

なし
eラーニング上にて各課題評価をフィードバック

教科書: eラーニングシステム内にて教材を提示

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

対面で授業があるときは、必ず自分のパソコンを持参すること。
授業計画や方法の詳細は担当教員の講義中の指示に従うこと。また受講するクラスが事前に分けられているので、自身の判断で指定外のクラスへ登録することを禁止する。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: ICT基礎Ⅰ

クラス: 心前

授業コード: B020150007

担当者: 間渕 泰尚 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教員免許法施行規則第66条の6に定める選択必修科目(数理、データ活用及び人工知能に関する科目 又は 情報機器の操作)

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: パソコンはもはや文房具であり、使えることが付加価値であるのではなく、使えることが前提となっている。この講義では、パソコンを用いた情報処理の中から、最も基本的なウェブページの閲覧、電子メール、ワープロ、表計算、プレゼンテーションを取り上げ、それらを利用するための基本的な知識を演習を通して修得することを目的とする。また、著作権を含めた情報モラルや、SNSの安全な利用のしかたについても学ぶものとする。

到達目標: 実習室のパソコン利用方法の理解。ファイル操作方法の理解。ブラウザによるウェブページの閲覧方法の習得。電子メールの送受信方法の習得。ワープロ・表計算を用いた文書作成方法の習得。パソコンを用いたプレゼンテーションの習得。著作権と引用・剽窃の違いなどの情報モラルの理解。SNSの安全な活用の仕方の習得。

各回の授業計画:

1. 基本操作(1):講義の進め方、パソコンのログイン、ログアウト、実習室パソコンの利用法、eラーニングシステムの利用法
2. 基本操作(2):Windowsでのファイル管理、日本語入力と文字の種類
3. ワープロ(1):ワープロとは、文章の作成、保存、修正、基本的な操作方法、簡単な文章の入力実習
4. インターネット(1):インターネットとWWWのしくみ、Microsoft Edgeによるホームページの閲覧方法、図書検索
5. 情報モラル:剽窃問題と著作権
6. 電子メール:電子メールのしくみ、メールアドレスの意味、パソコンで電子メールを利用する重要性
7. ワープロ(2):フォント、配置、各種書式の設定とそれらの実習
8. ソーシャルメディア:ソーシャルメディアの危険性とそれに対する対処
9. ワープロ(3):図形の文章中への挿入方法とその実習
10. タッチタイピング:タッチタイプによる入力とその実習
11. インターネット(2):インターネット利用上の注意事項、コンピューターウィルス対策
12. 表計算(1):表計算とは、データの入力、計算式
13. 表計算(2):表計算ソフトでのグラフの作成
14. プレゼン:プレゼンテーションとは、プレゼンテーションの準備、アウトラインの構成、シートの作成
15. 応用課題とふり返り:ワープロ、パワーポイントの応用課題、ふり返りレポート

特記事項: なし

授業方法:
1. ガイダンス、演習(対面)
2. eラーニングを用いた演習(対面)
3. eラーニングを用いた演習(対面)
4. eラーニングを用いた演習(対面)
5. eラーニングを用いた演習(対面)
6. eラーニングを用いた演習(対面)
7. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
8. eラーニングを用いた演習(対面)
9. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
10. eラーニングを用いた演習(対面)
11. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
12. eラーニングを用いた演習(対面)
13. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
14. eラーニングを用いた演習(対面)
15. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1～15. 予習(15分*15回＝225分)

1～15. 復習(30分*15回＝450分)
3. ワープロ(1)課題 30分
4. インターネット課題 120分
4. 図書検索課題 30分
5. 情報モラル課題 240分
6. 電子メール課題 120分
7. ワープロ(2)課題 180分
8. ソーシャルメディア課題 120分
9. ワープロ(3)課題 120分
10. タッチタイピング練習 120分
11. インターネット(2)に関する課題 120分
12, 13. 表計算課題 240分
14. プレゼンテーション課題 120分
15. 応用課題 360分
15. ふり返りレポート 120分

評価方法:

授業へのとりくみ:	30	**%**	**確認テスト:**	－	**%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:	授業内課題			70	**%**		
その他2:					**%**		

評価基準:

1. 授業への取り組み
自分で教材を読んで、課題に取り組める(60～69)
メモを取ったり、質問をしながら積極的に課題に取り組める(70～79)
自ら進んで選択ユニットの課題に取り組み、解決できる(80～100)

2. 授業内課題
必修ユニットをすべて提出し、eラーニング上で130点を超える(60～69)
必修ユニットに加えて、選択ユニットをいくつか提出(70～79)
提供されているユニットのほとんどを提出(80～100)

課題へのフィードバック:

なし
eラーニング上にて各課題評価をフィードバック

教科書: eラーニングシステム内にて教材を提示

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

対面で授業があるときは、必ず自分のパソコンを持参すること。
授業計画や方法の詳細は担当教員の講義中の指示に従うこと。また受講するクラスが事前に分けられているので、自身の判断で指定外のクラスへ登録することを禁止する。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: ICT基礎Ⅰ

クラス: 心後

授業コード: B020150008

担当者: 中村 賢志 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教員免許法施行規則第66条の6に定める選択必修科目(数理、データ活用及び人工知能に関する科目 又は 情報機器の操作)

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: パソコンはもはや文房具であり、使えることが付加価値であるのではなく、使えることが前提となっている。この講義では、パソコンを用いた情報処理の中から、最も基本的なウェブページの閲覧、電子メール、ワープロ、表計算、プレゼンテーションを取り上げ、それらを利用するための基本的な知識を演習を通して修得することを目的とする。また、著作権を含めた情報モラルや、SNSの安全な利用のしかたについても学ぶものとする。

到達目標: 実習室のパソコン利用方法の理解。ファイル操作方法の理解。ブラウザによるウェブページの閲覧方法の習得。電子メールの送受信方法の習得。ワープロ・表計算を用いた文書作成方法の習得。パソコンを用いたプレゼンテーションの習得。著作権と引用・剽窃の違いなどの情報モラルの理解。SNSの安全な活用の仕方の習得。

各回の授業計画:

1. 基本操作(1):講義の進め方、パソコンのログイン、ログアウト、実習室パソコンの利用法、eラーニングシステムの利用法
2. 基本操作(2):Windowsでのファイル管理、日本語入力と文字の種類
3. ワープロ(1):ワープロとは、文章の作成、保存、修正、基本的な操作方法、簡単な文章の入力実習
4. インターネット(1):インターネットとWWWのしくみ、Microsoft Edgeによるホームページの閲覧方法、図書検索
5. 情報モラル:剽窃問題と著作権
6. 電子メール:電子メールのしくみ、メールアドレスの意味、パソコンで電子メールを利用する重要性
7. ワープロ(2):フォント、配置、各種書式の設定とそれらの実習
8. ソーシャルメディア:ソーシャルメディアの危険性とそれに対する対処
9. ワープロ(3):図形の文章中への挿入方法とその実習
10. タッチタイピング:タッチタイプによる入力とその実習
11. インターネット(2):インターネット利用上の注意事項、コンピューターウィルス対策
12. 表計算(1):表計算とは、データの入力、計算式
13. 表計算(2):表計算ソフトでのグラフの作成
14. プレゼン:プレゼンテーションとは、プレゼンテーションの準備、アウトラインの構成、シートの作成
15. 応用課題とふり返り:ワープロ、パワーポイントの応用課題、ふり返りレポート

特記事項: なし

授業方法:
1. ガイダンス、演習(対面)
2. eラーニングを用いた演習(対面)
3. eラーニングを用いた演習(対面)
4. eラーニングを用いた演習(対面)
5. eラーニングを用いた演習(対面)
6. eラーニングを用いた演習(対面)
7. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
8. eラーニングを用いた演習(対面)
9. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
10. eラーニングを用いた演習(対面)
11. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
12. eラーニングを用いた演習(対面)
13. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
14. eラーニングを用いた演習(対面)
15. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1～15. 予習(15分*15回＝225分)

1～15. 復習(30分*15回＝450分)
3. ワープロ(1)課題 30分
4. インターネット課題 120分
4. 図書検索課題 30分
5. 情報モラル課題 240分
6. 電子メール課題 120分
7. ワープロ(2)課題 180分
8. ソーシャルメディア課題 120分
9. ワープロ(3)課題 120分
10. タッチタイピング練習 120分
11. インターネット(2)に関する課題 120分
12, 13. 表計算課題 240分
14. プレゼンテーション課題 120分
15. 応用課題 360分
15. ふり返りレポート 120分

評価方法:

授業へのとりくみ:	30	**%**	**確認テスト:**	－	**%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:	授業内課題			70	**%**		
その他2:					**%**		

評価基準:

1. 授業への取り組み
自分で教材を読んで、課題に取り組める(60～69)
メモを取ったり、質問をしながら積極的に課題に取り組める(70～79)
自ら進んで選択ユニットの課題に取り組み、解決できる(80～100)

2. 授業内課題
必修ユニットをすべて提出し、eラーニング上で130点を超える(60～69)
必修ユニットに加えて、選択ユニットをいくつか提出(70～79)
提供されているユニットのほとんどを提出(80～100)

課題へのフィードバック:

なし
eラーニング上にて各課題評価をフィードバック

教科書: eラーニングシステム内にて教材を提示

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

対面で授業があるときは、必ず自分のパソコンを持参すること。
授業計画や方法の詳細は担当教員の講義中の指示に従うこと。また受講するクラスが事前に分けられているので、自身の判断で指定外のクラスへ登録することを禁止する。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: ICT基礎Ⅰ

クラス: ｽA

授業コード: B020150009

担当者: 中尾 尊洋 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教員免許法施行規則第66条の6に定める選択必修科目(数理、データ活用及び人工知能に関する科目 又は 情報機器の操作)

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: パソコンはもはや文房具であり、使えることが付加価値であるのではなく、使えることが前提となっている。この講義では、パソコンを用いた情報処理の中から、最も基本的なウェブページの閲覧、電子メール、ワープロ、表計算、プレゼンテーションを取り上げ、それらを利用するための基本的な知識を演習を通して修得することを目的とする。また、著作権を含めた情報モラルや、SNSの安全な利用のしかたについても学ぶものとする。

到達目標: 実習室のパソコン利用方法の理解。ファイル操作方法の理解。ブラウザによるウェブページの閲覧方法の習得。電子メールの送受信方法の習得。ワープロ・表計算を用いた文書作成方法の習得。パソコンを用いたプレゼンテーションの習得。著作権と引用・剽窃の違いなどの情報モラルの理解。SNSの安全な活用の仕方の習得。

各回の授業計画:

1. 基本操作(1):講義の進め方、パソコンのログイン、ログアウト、実習室パソコンの利用法、eラーニングシステムの利用法
2. 基本操作(2):Windowsでのファイル管理、日本語入力と文字の種類
3. ワープロ(1):ワープロとは、文章の作成、保存、修正、基本的な操作方法、簡単な文章の入力実習
4. インターネット(1):インターネットとWWWのしくみ、Microsoft Edgeによるホームページの閲覧方法、図書検索
5. 情報モラル:剽窃問題と著作権
6. 電子メール:電子メールのしくみ、メールアドレスの意味、パソコンで電子メールを利用する重要性
7. ワープロ(2):フォント、配置、各種書式の設定とそれらの実習
8. ソーシャルメディア:ソーシャルメディアの危険性とそれに対する対処
9. ワープロ(3):図形の文章中への挿入方法とその実習
10. タッチタイピング:タッチタイプによる入力とその実習
11. インターネット(2):インターネット利用上の注意事項、コンピューターウィルス対策
12. 表計算(1):表計算とは、データの入力、計算式
13. 表計算(2):表計算ソフトでのグラフの作成
14. プレゼン:プレゼンテーションとは、プレゼンテーションの準備、アウトラインの構成、シートの作成
15. 応用課題とふり返り:ワープロ、パワーポイントの応用課題、ふり返りレポート

特記事項: なし

授業方法:
1. ガイダンス、演習(対面)
2. eラーニングを用いた演習(対面)
3. eラーニングを用いた演習(対面)
4. eラーニングを用いた演習(対面)
5. eラーニングを用いた演習(対面)
6. eラーニングを用いた演習(対面)
7. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
8. eラーニングを用いた演習(対面)
9. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
10. eラーニングを用いた演習(対面)
11. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
12. eラーニングを用いた演習(対面)
13. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
14. eラーニングを用いた演習(対面)
15. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1～15. 予習(15分*15回＝225分)

1～15. 復習(30分*15回＝450分)
3. ワープロ(1)課題 30分
4. インターネット課題 120分
4. 図書検索課題 30分
5. 情報モラル課題 240分
6. 電子メール課題 120分
7. ワープロ(2)課題 180分
8. ソーシャルメディア課題 120分
9. ワープロ(3)課題 120分
10. タッチタイピング練習 120分
11. インターネット(2)に関する課題 120分
12, 13. 表計算課題 240分
14. プレゼンテーション課題 120分
15. 応用課題 360分
15. ふり返りレポート 120分

評価方法:

授業へのとりくみ:	30	**%**	**確認テスト:**	－	**%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:	授業内課題			70	**%**		
その他2:					**%**		

評価基準:

1. 授業への取り組み
自分で教材を読んで、課題に取り組める(60～69)
メモを取ったり、質問をしながら積極的に課題に取り組める(70～79)
自ら進んで選択ユニットの課題に取り組み、解決できる(80～100)

2. 授業内課題
必修ユニットをすべて提出し、eラーニング上で130点を超える(60～69)
必修ユニットに加えて、選択ユニットをいくつか提出(70～79)
提供されているユニットのほとんどを提出(80～100)

課題へのフィードバック:

なし
eラーニング上にて各課題評価をフィードバック

教科書: eラーニングシステム内にて教材を提示

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

対面で授業があるときは、必ず自分のパソコンを持参すること。
授業計画や方法の詳細は担当教員の講義中の指示に従うこと。また受講するクラスが事前に分けられているので、自身の判断で指定外のクラスへ登録することを禁止する。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: ICT基礎Ⅰ

クラス: ｽB

授業コード: B020150010

担当者: 中村 賢志 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教員免許法施行規則第66条の6に定める選択必修科目(数理、データ活用及び人工知能に関する科目 又は 情報機器の操作)

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: パソコンはもはや文房具であり、使えることが付加価値であるのではなく、使えることが前提となっている。この講義では、パソコンを用いた情報処理の中から、最も基本的なウェブページの閲覧、電子メール、ワープロ、表計算、プレゼンテーションを取り上げ、それらを利用するための基本的な知識を演習を通して修得することを目的とする。また、著作権を含めた情報モラルや、SNSの安全な利用のしかたについても学ぶものとする。

到達目標: 実習室のパソコン利用方法の理解。ファイル操作方法の理解。ブラウザによるウェブページの閲覧方法の習得。電子メールの送受信方法の習得。ワープロ・表計算を用いた文書作成方法の習得。パソコンを用いたプレゼンテーションの習得。著作権と引用・剽窃の違いなどの情報モラルの理解。SNSの安全な活用の仕方の習得。

各回の授業計画:

1. 基本操作(1):講義の進め方、パソコンのログイン、ログアウト、実習室パソコンの利用法、eラーニングシステムの利用法
2. 基本操作(2):Windowsでのファイル管理、日本語入力と文字の種類
3. ワープロ(1):ワープロとは、文章の作成、保存、修正、基本的な操作方法、簡単な文章の入力実習
4. インターネット(1):インターネットとWWWのしくみ、Microsoft Edgeによるホームページの閲覧方法、図書検索
5. 情報モラル:剽窃問題と著作権
6. 電子メール:電子メールのしくみ、メールアドレスの意味、パソコンで電子メールを利用する重要性
7. ワープロ(2):フォント、配置、各種書式の設定とそれらの実習
8. ソーシャルメディア:ソーシャルメディアの危険性とそれに対する対処
9. ワープロ(3):図形の文章中への挿入方法とその実習
10. タッチタイピング:タッチタイプによる入力とその実習
11. インターネット(2):インターネット利用上の注意事項、コンピューターウィルス対策
12. 表計算(1):表計算とは、データの入力、計算式
13. 表計算(2):表計算ソフトでのグラフの作成
14. プレゼン:プレゼンテーションとは、プレゼンテーションの準備、アウトラインの構成、シートの作成
15. 応用課題とふり返り:ワープロ、パワーポイントの応用課題、ふり返りレポート

特記事項: なし

授業方法:
1. ガイダンス、演習(対面)
2. eラーニングを用いた演習(対面)
3. eラーニングを用いた演習(対面)
4. eラーニングを用いた演習(対面)
5. eラーニングを用いた演習(対面)
6. eラーニングを用いた演習(対面)
7. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
8. eラーニングを用いた演習(対面)
9. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
10. eラーニングを用いた演習(対面)
11. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
12. eラーニングを用いた演習(対面)
13. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
14. eラーニングを用いた演習(対面)
15. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1～15. 予習(15分*15回＝225分)

1～15. 復習(30分*15回＝450分)
3. ワープロ(1)課題 30分
4. インターネット課題 120分
4. 図書検索課題 30分
5. 情報モラル課題 240分
6. 電子メール課題 120分
7. ワープロ(2)課題 180分
8. ソーシャルメディア課題 120分
9. ワープロ(3)課題 120分
10. タッチタイピング練習 120分
11. インターネット(2)に関する課題 120分
12, 13. 表計算課題 240分
14. プレゼンテーション課題 120分
15. 応用課題 360分
15. ふり返りレポート 120分

評価方法:

授業へのとりくみ:	30	**%**	**確認テスト:**	－	**%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:	授業内課題			70	**%**		
その他2:					**%**		

評価基準:

1. 授業への取り組み
自分で教材を読んで、課題に取り組める(60～69)
メモを取ったり、質問をしながら積極的に課題に取り組める(70～79)
自ら進んで選択ユニットの課題に取り組み、解決できる(80～100)

2. 授業内課題
必修ユニットをすべて提出し、eラーニング上で130点を超える(60～69)
必修ユニットに加えて、選択ユニットをいくつか提出(70～79)
提供されているユニットのほとんどを提出(80～100)

課題へのフィードバック:

なし
eラーニング上にて各課題評価をフィードバック

教科書: eラーニングシステム内にて教材を提示

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

対面で授業があるときは、必ず自分のパソコンを持参すること。
授業計画や方法の詳細は担当教員の講義中の指示に従うこと。また受講するクラスが事前に分けられているので、自身の判断で指定外のクラスへ登録することを禁止する。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: ICT基礎Ⅰ

クラス: ｽC

授業コード: B020150011

担当者: 鴨谷　真知子　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教員免許法施行規則第66条の6に定める選択必修科目(数理、データ活用及び人工知能に関する科目　又は　情報機器の操作)

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: パソコンはもはや文房具であり、使えることが付加価値であるのではなく、使えることが前提となっている。この講義では、パソコンを用いた情報処理の中から、最も基本的なウェブページの閲覧、電子メール、ワープロ、表計算、プレゼンテーションを取り上げ、それらを利用するための基本的な知識を演習を通して修得することを目的とする。また、著作権を含めた情報モラルや、SNSの安全な利用のしかたについても学ぶものとする。

到達目標: 実習室のパソコン利用方法の理解。ファイル操作方法の理解。ブラウザによるウェブページの閲覧方法の習得。電子メールの送受信方法の習得。ワープロ・表計算を用いた文書作成方法の習得。パソコンを用いたプレゼンテーションの習得。著作権と引用・剽窃の違いなどの情報モラルの理解。SNSの安全な活用の仕方の習得。

各回の授業計画:

1. 基本操作(1):講義の進め方、パソコンのログイン、ログアウト、実習室パソコンの利用法、eラーニングシステムの利用法
2. 基本操作(2):Windowsでのファイル管理、日本語入力と文字の種類
3. ワープロ(1):ワープロとは、文章の作成、保存、修正、基本的な操作方法、簡単な文章の入力実習
4. インターネット(1):インターネットとWWWのしくみ、Microsoft Edgeによるホームページの閲覧方法、図書検索
5. 情報モラル:剽窃問題と著作権
6. 電子メール:電子メールのしくみ、メールアドレスの意味、パソコンで電子メールを利用する重要性
7. ワープロ(2):フォント、配置、各種書式の設定とそれらの実習
8. ソーシャルメディア:ソーシャルメディアの危険性とそれに対する対処
9. ワープロ(3):図形の文章中への挿入方法とその実習
10. タッチタイピング:タッチタイプによる入力とその実習
11. インターネット(2):インターネット利用上の注意事項、コンピューターウィルス対策
12. 表計算(1):表計算とは、データの入力、計算式
13. 表計算(2):表計算ソフトでのグラフの作成
14. プレゼン:プレゼンテーションとは、プレゼンテーションの準備、アウトラインの構成、シートの作成
15. 応用課題とふり返り:ワープロ、パワーポイントの応用課題、ふり返りレポート

特記事項: なし

授業方法:
1. ガイダンス、演習(対面)
2. eラーニングを用いた演習(対面)
3. eラーニングを用いた演習(対面)
4. eラーニングを用いた演習(対面)
5. eラーニングを用いた演習(対面)
6. eラーニングを用いた演習(対面)
7. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
8. eラーニングを用いた演習(対面)
9. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
10. eラーニングを用いた演習(対面)
11. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
12. eラーニングを用いた演習(対面)
13. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
14. eラーニングを用いた演習(対面)
15. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1～15. 予習(15分*15回＝225分)

1～15. 復習(30分*15回＝450分)
3. ワープロ(1)課題 30分
4. インターネット課題 120分
4. 図書検索課題 30分
5. 情報モラル課題 240分
6. 電子メール課題 120分
7. ワープロ(2)課題 180分
8. ソーシャルメディア課題 120分
9. ワープロ(3)課題 120分
10. タッチタイピング練習 120分
11. インターネット(2)に関する課題 120分
12, 13. 表計算課題 240分
14. プレゼンテーション課題 120分
15. 応用課題 360分
15. ふり返りレポート 120分

評価方法:

授業へのとりくみ:	30	**%**	**確認テスト:**	－	**%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:	授業内課題			70	**%**		
その他2:					**%**		

評価基準:

1. 授業への取り組み
自分で教材を読んで、課題に取り組める(60～69)
メモを取ったり、質問をしながら積極的に課題に取り組める(70～79)
自ら進んで選択ユニットの課題に取り組み、解決できる(80～100)

2. 授業内課題
必修ユニットをすべて提出し、eラーニング上で130点を超える(60～69)
必修ユニットに加えて、選択ユニットをいくつか提出(70～79)
提供されているユニットのほとんどを提出(80～100)

課題へのフィードバック:

なし
eラーニング上にて各課題評価をフィードバック

教科書: eラーニングシステム内にて教材を提示

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

対面で授業があるときは、必ず自分のパソコンを持参すること。
授業計画や方法の詳細は担当教員の講義中の指示に従うこと。また受講するクラスが事前に分けられているので、自身の判断で指定外のクラスへ登録することを禁止する。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: ICT基礎Ⅰ

クラス: ★再履

授業コード: B020150020

担当者: 中尾 尊洋 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教員免許法施行規則第66条の6に定める選択必修科目(数理、データ活用及び人工知能に関する科目 又は 情報機器の操作)

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: パソコンはもはや文房具であり、使えることが付加価値であるのではなく、使えることが前提となっている。この講義では、パソコンを用いた情報処理の中から、最も基本的なウェブページの閲覧、電子メール、ワープロ、表計算、プレゼンテーションを取り上げ、それらを利用するための基本的な知識を演習を通して修得することを目的とする。また、著作権を含めた情報モラルや、SNSの安全な利用のしかたについても学ぶものとする。

到達目標: 実習室のパソコン利用方法の理解。ファイル操作方法の理解。ブラウザによるウェブページの閲覧方法の習得。電子メールの送受信方法の習得。ワープロ・表計算を用いた文書作成方法の習得。パソコンを用いたプレゼンテーションの習得。著作権と引用・剽窃の違いなどの情報モラルの理解。SNSの安全な活用の仕方の習得。

各回の授業計画:

1. 基本操作(1):講義の進め方、パソコンのログイン、ログアウト、実習室パソコンの利用法、eラーニングシステムの利用法
2. 基本操作(2):Windowsでのファイル管理、日本語入力と文字の種類
3. ワープロ(1):ワープロとは、文章の作成、保存、修正、基本的な操作方法、簡単な文章の入力実習
4. インターネット(1):インターネットとWWWのしくみ、Microsoft Edgeによるホームページの閲覧方法、図書検索
5. 情報モラル:剽窃問題と著作権
6. 電子メール:電子メールのしくみ、メールアドレスの意味、パソコンで電子メールを利用する重要性
7. ワープロ(2):フォント、配置、各種書式の設定とそれらの実習
8. ソーシャルメディア:ソーシャルメディアの危険性とそれに対する対処
9. ワープロ(3):図形の文章中への挿入方法とその実習
10. タッチタイピング:タッチタイプによる入力とその実習
11. インターネット(2):インターネット利用上の注意事項、コンピューターウィルス対策
12. 表計算(1):表計算とは、データの入力、計算式
13. 表計算(2):表計算ソフトでのグラフの作成
14. プレゼン:プレゼンテーションとは、プレゼンテーションの準備、アウトラインの構成、シートの作成
15. 応用課題とふり返り:ワープロ、パワーポイントの応用課題、ふり返りレポート

特記事項: 8月6日(木)1～4限は対面授業を行い、8月6日(木)5限、8月8日(土)1～5限、8月10日(月)1～5限はオンライン授業を行います。

授業方法:
1. ガイダンス、講義(対面)
2. eラーニングによる自学自習(対面)
3. eラーニングによる自学自習(対面)
4. eラーニングによる自学自習(対面)
5. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
6. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
7. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
8. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
9. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
10. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
11. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
12. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
13. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
14. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
15. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1～15. 予習(15分*15回＝225分)

1～15. 復習(30分*15回＝450分)
3. ワープロ(1)課題 30分
4. インターネット課題 120分
4. 図書検索課題 30分
5. 情報モラル課題 240分
6. 電子メール課題 120分
7. ワープロ(2)課題 180分
8. ソーシャルメディア課題 120分
9. ワープロ(3)課題 120分
10. タッチタイピング練習 120分
11. インターネット(2)に関する課題 120分
12, 13. 表計算課題 240分
14. プレゼンテーション課題 120分
15. 応用課題 360分
15. ふり返りレポート 120分

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	－ **%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:	授業内課題		70 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準:

1. 授業への取り組み
自分で教材を読んで、課題に取り組める(60～69)
メモを取ったり、質問をしながら積極的に課題に取り組める(70～79)
自ら進んで選択ユニットの課題に取り組み、解決できる(80～100)

2. 授業内課題
必修ユニットをすべて提出し、eラーニング上で130点を超える(60～69)
必修ユニットに加えて、選択ユニットをいくつか提出(70～79)
提供されているユニットのほとんどを提出(80～100)

課題へのフィードバック:

なし
eラーニング上にて各課題評価をフィードバック

教科書: eラーニングシステム内にて教材を提示

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

対面で授業があるときは、必ず自分のパソコンを持参すること。
授業計画や方法の詳細は担当教員の講義中の指示に従うこと。また受講するクラスが事前に分けられているので、自身の判断で指定外のクラスへ登録することを禁止する。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: ICT基礎Ⅰ

クラス: ★再履

授業コード: B020150021

担当者: 間渕 泰尚 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教員免許法施行規則第66条の6に定める選択必修科目(数理、データ活用及び人工知能に関する科目 又は 情報機器の操作)

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: パソコンはもはや文房具であり、使えることが付加価値であるのではなく、使えることが前提となっている。この講義では、パソコンを用いた情報処理の中から、最も基本的なウェブページの閲覧、電子メール、ワープロ、表計算、プレゼンテーションを取り上げ、それらを利用するための基本的な知識を演習を通して修得することを目的とする。また、著作権を含めた情報モラルや、SNSの安全な利用のしかたについても学ぶものとする。

到達目標: 実習室のパソコン利用方法の理解。ファイル操作方法の理解。ブラウザによるウェブページの閲覧方法の習得。電子メールの送受信方法の習得。ワープロ・表計算を用いた文書作成方法の習得。パソコンを用いたプレゼンテーションの習得。著作権と引用・剽窃の違いなどの情報モラルの理解。SNSの安全な活用の仕方の習得。

各回の授業計画:

1. 基本操作(1):講義の進め方、パソコンのログイン、ログアウト、実習室パソコンの利用法、eラーニングシステムの利用法
2. 基本操作(2):Windowsでのファイル管理、日本語入力と文字の種類
3. ワープロ(1):ワープロとは、文章の作成、保存、修正、基本的な操作方法、簡単な文章の入力実習
4. インターネット(1):インターネットとWWWのしくみ、Microsoft Edgeによるホームページの閲覧方法、図書検索
5. 情報モラル:剽窃問題と著作権
6. 電子メール:電子メールのしくみ、メールアドレスの意味、パソコンで電子メールを利用する重要性
7. ワープロ(2):フォント、配置、各種書式の設定とそれらの実習
8. ソーシャルメディア:ソーシャルメディアの危険性とそれに対する対処
9. ワープロ(3):図形の文章中への挿入方法とその実習
10. タッチタイピング:タッチタイプによる入力とその実習
11. インターネット(2):インターネット利用上の注意事項、コンピューターウィルス対策
12. 表計算(1):表計算とは、データの入力、計算式
13. 表計算(2):表計算ソフトでのグラフの作成
14. プレゼン:プレゼンテーションとは、プレゼンテーションの準備、アウトラインの構成、シートの作成
15. 応用課題とふり返り:ワープロ、パワーポイントの応用課題、ふり返りレポート

特記事項: 8月6日(木)1～4限は対面授業を行い、8月6日(木)5限、8月8日(土)1～5限、8月10日(月)1～5限はオンライン授業を行います。

授業方法:
1. ガイダンス、講義(対面)
2. eラーニングによる自学自習(対面)
3. eラーニングによる自学自習(対面)
4. eラーニングによる自学自習(対面)
5. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
6. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
7. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
8. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
9. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
10. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
11. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
12. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
13. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
14. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
15. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1～15. 予習(15分*15回＝225分)

1～15. 復習(30分*15回＝450分)
3. ワープロ(1)課題 30分
4. インターネット課題 120分
4. 図書検索課題 30分
5. 情報モラル課題 240分
6. 電子メール課題 120分
7. ワープロ(2)課題 180分
8. ソーシャルメディア課題 120分
9. ワープロ(3)課題 120分
10. タッチタイピング練習 120分
11. インターネット(2)に関する課題 120分
12, 13. 表計算課題 240分
14. プレゼンテーション課題 120分
15. 応用課題 360分
15. ふり返りレポート 120分

評価方法:

授業へのとりくみ:	30	**%**	**確認テスト:**	－	**%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:	授業内課題			70	**%**		
その他2:					**%**		

評価基準:

1. 授業への取り組み
自分で教材を読んで、課題に取り組める(60～69)
メモを取ったり、質問をしながら積極的に課題に取り組める(70～79)
自ら進んで選択ユニットの課題に取り組み、解決できる(80～100)

2. 授業内課題
必修ユニットをすべて提出し、eラーニング上で130点を超える(60～69)
必修ユニットに加えて、選択ユニットをいくつか提出(70～79)
提供されているユニットのほとんどを提出(80～100)

課題へのフィードバック:

なし
eラーニング上にて各課題評価をフィードバック

教科書: eラーニングシステム内にて教材を提示

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

対面で授業があるときは、必ず自分のパソコンを持参すること。
授業計画や方法の詳細は担当教員の講義中の指示に従うこと。また受講するクラスが事前に分けられているので、自身の判断で指定外のクラスへ登録することを禁止する。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 総合英語Ⅰ

クラス: ★教

授業コード: B030100001

担当者: 新藤 照夫 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教員免許法施行規則第66条の6に定める必修科目(外国語コミュニケーション)

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: eラーニング教材(Practical English 9)を使用した自律学習の定着化を図ります。Listening, Reading, Grammarを柱に、総合的な英語力の基礎固めを図りながら、日常からビジネス分野にわたる幅広いコンテクストに適応できるような英語コミュニケーション力を高めていきます。また本科目では、eラーニング教材のTOEIC L&Rの形式の問題演習を積み重ねることで、学期末に受験するアチーブメントテストのTOEIC L&Rの模擬テストでのスコアアップを目指します。

到達目標:
・eラーニング演習に取り組むことで、総合的な英語力を高めることができる。
・学修した語彙や英語表現の使い方を理解した上で、多様なシチュエーションで応用することができる。
・学修した文法知識を活用して、リスニングやリーディングの内容理解に応用することができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション:eラーニングの受講方法等の説明、評価法の確認、TOEIC L&Rテスト【対面授業】
2. レッスン 1, 2(学修のペースを意識して、各自のレベルに応じた2つのレッスンを終了させる)【オンライン】
3. レッスン 3, 4(学修のペースを意識して、各自のレベルに応じた2つのレッスンを終了させる)【オンライン】
4. レッスン 5, 6(学修のペースを意識して、各自のレベルに応じた2つのレッスンを終了させる)【オンライン】
5. 学習進捗の確認、レッスン 1～6 の振り返り【対面授業】
6. レッスン 7, 8, 9(各自のレベルに応じた3つのレッスンを終了させる)【オンライン】
7. レッスン 10, 11, 12(各自のレベルに応じた3つのレッスンを終了させる)【オンライン】
8. レッスン 13, 14, 15(各自のレベルに応じた3つのレッスンを終了させる)【オンライン】
9. レッスン 16, 17, 18(各自のレベルに応じた3つのレッスンを終了させる)【オンライン】
10. 学習進捗の確認、レッスン 7～18 の振り返り【対面授業】
11. レッスン 19, 20, 21(各自のレベルに応じた3つのレッスンを終了させる)【オンライン】
12. レッスン 22, 23, 24(各自のレベルに応じた3つのレッスンを終了させる)【オンライン】
13. レッスン 25, 26, 27(各自のレベルに応じた3つのレッスンを終了させる)【オンライン】
14. レッスン 28, 29, 30(各自のレベルに応じた3つのレッスンを終了させる)【オンライン】
15. 学習進捗の確認、全てのレッスンのまとめ、確認テスト(TOEIC L&R)【対面授業】

特記事項:

授業方法: 各自で eラーニングの3種類のレッスン(Listening、Reading、Grammar)から各回ごとに指定されているレッスン数に取り組んでください。
レッスンテストの正解率が60%以上になると、ひとつのレッスンが終了となります。
また、以下の回は【対面授業】を実施し、eラーニングの進捗状況を確認します。
以下の設定された到達すべきレッスン数に到達していない場合は、対面授業の教室で到達するまでレッスンを受講してもらいます。
・第1回:オリエンテーション
・第5回:レッスン6に到達
・第10回:レッスン12～18に到達
・第15回:レッスン20～30に到達

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回提示された時間の事前学習と事後学習を行なってください。
・【事前学習】eラーニング教材の準備学習(60分)
・【事後学習】eラーニング教材の復習(60分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	80	**%**	**確認テスト:**	20	**%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準：　①望ましい到達度（80～100点）
【eラーニングへの取り組み】
24回～30回のレッスンを終了させる。
【確認テスト】
確認テストの正解率80%以上を収めることができる。

②最低限の到達度（60～69点）
【eラーニングへの取り組み】
20回のレッスンを終了させる。
【確認テスト】
確認テストにて、正解率が60%～69%の範囲となる。

課題へのフィードバック：

・eラーニングの取り組みには、オンラインでフィードバックを行う。
・確認テストの結果には、オンラインでフィードバックを行う。

教科書：　TOEIC®テスト対応 総合英語コース9『Practical English 9』（EdulinX: Reallyenglish）

参考書：　必要に応じて、授業担当が指示します。

授業・準備学習のアドバイス：

・毎週決められたレッスン数を各自で設定した日時に受講してください。
・30レッスンをまとめて先に受講したり、学期末に駆け込み受講することは認められません。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 総合英語Ⅰ

クラス: ★国心

授業コード: B030100002

担当者: 眞﨑 克彦 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教員免許法施行規則第66条の6に定める必修科目(外国語コミュニケーション)

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: eラーニング教材(Practical English 9)を使用した自律学習の定着化を図ります。Listening, Reading, Grammarを柱に、総合的な英語力の基礎固めを図りながら、日常からビジネス分野にわたる幅広いコンテクストに適応できるような英語コミュニケーション力を高めていきます。また本科目では、eラーニング教材のTOEIC L&Rの形式の問題演習を積み重ねることで、学期末に受験するアチーブメントテストのTOEIC L&Rの模擬テストでのスコアアップを目指します。

到達目標:
・eラーニング演習に取り組むことで、総合的な英語力を高めることができる。
・学修した語彙や英語表現の使い方を理解した上で、多様なシチュエーションで応用することができる。
・学修した文法知識を活用して、リスニングやリーディングの内容理解に応用することができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション:eラーニングの受講方法等の説明、評価法の確認、TOEIC L&Rテスト【対面授業】
2. レッスン 1, 2(学修のペースを意識して、各自のレベルに応じた2つのレッスンを終了させる)【オンライン】
3. レッスン 3, 4(学修のペースを意識して、各自のレベルに応じた2つのレッスンを終了させる)【オンライン】
4. レッスン 5, 6(学修のペースを意識して、各自のレベルに応じた2つのレッスンを終了させる)【オンライン】
5. 学習進捗の確認、レッスン 1～6 の振り返り【対面授業】
6. レッスン 7, 8, 9(各自のレベルに応じた3つのレッスンを終了させる)【オンライン】
7. レッスン 10, 11, 12(各自のレベルに応じた3つのレッスンを終了させる)【オンライン】
8. レッスン 13, 14, 15(各自のレベルに応じた3つのレッスンを終了させる)【オンライン】
9. レッスン 16, 17, 18(各自のレベルに応じた3つのレッスンを終了させる)【オンライン】
10. 学習進捗の確認、レッスン 7～18 の振り返り【対面授業】
11. レッスン 19, 20, 21(各自のレベルに応じた3つのレッスンを終了させる)【オンライン】
12. レッスン 22, 23, 24(各自のレベルに応じた3つのレッスンを終了させる)【オンライン】
13. レッスン 25, 26, 27(各自のレベルに応じた3つのレッスンを終了させる)【オンライン】
14. レッスン 28, 29, 30(各自のレベルに応じた3つのレッスンを終了させる)【オンライン】
15. 学習進捗の確認、全てのレッスンのまとめ、確認テスト(TOEIC L&R)【対面授業】

特記事項:

授業方法: 各自で eラーニングの3種類のレッスン(Listening、Reading、Grammar)から各回ごとに指定されているレッスン数に取り組んでください。
レッスンテストの正解率が60%以上になると、ひとつのレッスンが終了となります。
また、以下の回は【対面授業】を実施し、eラーニングの進捗状況を確認します。
以下の設定された到達すべきレッスン数に到達していない場合は、対面授業の教室で到達するまでレッスンを受講してもらいます。
・第1回:オリエンテーション
・第5回:レッスン6に到達
・第10回:レッスン12～18に到達
・第15回:レッスン20～30に到達

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回提示された時間の事前学習と事後学習を行なってください。
・【事前学習】eラーニング教材の準備学習(60分)
・【事後学習】eラーニング教材の復習(60分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	80	**%**	**確認テスト:**	20	**%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準：　①望ましい到達度（80～100点）
【eラーニングへの取り組み】
24回～30回のレッスンを終了させる。
【確認テスト】
確認テストの正解率80%以上を収めることができる。

②最低限の到達度（60～69点）
【eラーニングへの取り組み】
20回のレッスンを終了させる。
【確認テスト】
確認テストにて、正解率が60%～69%の範囲となる。

課題へのフィードバック：

・eラーニングの取り組みには、オンラインでフィードバックを行う。
・確認テストの結果には、オンラインでフィードバックを行う。

教科書：　TOEIC®テスト対応 総合英語コース9『Practical English 9』（EdulinX: Reallyenglish）

参考書：　必要に応じて、授業担当が指示します。

授業・準備学習のアドバイス：

・毎週決められたレッスン数を各自で設定した日時に受講してください。
・30レッスンをまとめて先に受講したり、学期末に駆け込み受講することは認められません。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 総合英語Ⅰ

クラス: ★ス教

授業コード: B030100003

担当者: 森上 展宏 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教員免許法施行規則第66条の6に定める必修科目(外国語コミュニケーション)

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: eラーニング教材(Practical English 9)を使用した自律学習の定着化を図ります。Listening, Reading, Grammarを柱に、総合的な英語力の基礎固めを図りながら、日常からビジネス分野にわたる幅広いコンテクストに適応できるような英語コミュニケーション力を高めていきます。また本科目では、eラーニング教材のTOEIC L&Rの形式の問題演習を積み重ねることで、学期末に受験するアチーブメントテストのTOEIC L&Rの模擬テストでのスコアアップを目指します。

到達目標:
・eラーニング演習に取り組むことで、総合的な英語力を高めることができる。
・学修した語彙や英語表現の使い方を理解した上で、多様なシチュエーションで応用することができる。
・学修した文法知識を活用して、リスニングやリーディングの内容理解に応用することができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション:eラーニングの受講方法等の説明、評価法の確認、TOEIC L&Rテスト【対面授業】
2. レッスン 1, 2(学修のペースを意識して、各自のレベルに応じた2つのレッスンを終了させる)【オンライン】
3. レッスン 3, 4(学修のペースを意識して、各自のレベルに応じた2つのレッスンを終了させる)【オンライン】
4. レッスン 5, 6(学修のペースを意識して、各自のレベルに応じた2つのレッスンを終了させる)【オンライン】
5. 学習進捗の確認、レッスン 1～6 の振り返り【対面授業】
6. レッスン 7, 8, 9(各自のレベルに応じた3つのレッスンを終了させる)【オンライン】
7. レッスン 10, 11, 12(各自のレベルに応じた3つのレッスンを終了させる)【オンライン】
8. レッスン 13, 14, 15(各自のレベルに応じた3つのレッスンを終了させる)【オンライン】
9. レッスン 16, 17, 18(各自のレベルに応じた3つのレッスンを終了させる)【オンライン】
10. 学習進捗の確認、レッスン 7～18 の振り返り【対面授業】
11. レッスン 19, 20, 21(各自のレベルに応じた3つのレッスンを終了させる)【オンライン】
12. レッスン 22, 23, 24(各自のレベルに応じた3つのレッスンを終了させる)【オンライン】
13. レッスン 25, 26, 27(各自のレベルに応じた3つのレッスンを終了させる)【オンライン】
14. レッスン 28, 29, 30(各自のレベルに応じた3つのレッスンを終了させる)【オンライン】
15. 学習進捗の確認、全てのレッスンのまとめ、確認テスト(TOEIC L&R)【対面授業】

特記事項:

授業方法: 各自で eラーニングの3種類のレッスン(Listening、Reading、Grammar)から各回ごとに指定されているレッスン数に取り組んでください。
レッスンテストの正解率が60%以上になると、ひとつのレッスンが終了となります。
また、以下の回は【対面授業】を実施し、eラーニングの進捗状況を確認します。
以下の設定された到達すべきレッスン数に到達していない場合は、対面授業の教室で到達するまでレッスンを受講してもらいます。
・第1回:オリエンテーション
・第5回:レッスン6に到達
・第10回:レッスン12～18に到達
・第15回:レッスン20～30に到達

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回提示された時間の事前学習と事後学習を行なってください。
・【事前学習】eラーニング教材の準備学習(60分)
・【事後学習】eラーニング教材の復習(60分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	80	**%**	**確認テスト:**	20	**%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準：　①望ましい到達度（80～100点）
【eラーニングへの取り組み】
24回～30回のレッスンを終了させる。
【確認テスト】
確認テストの正解率80%以上を収めることができる。

②最低限の到達度（60～69点）
【eラーニングへの取り組み】
20回のレッスンを終了させる。
【確認テスト】
確認テストにて、正解率が60%～69%の範囲となる。

課題へのフィードバック：

・eラーニングの取り組みには、オンラインでフィードバックを行う。
・確認テストの結果には、オンラインでフィードバックを行う。

教科書：　TOEIC®テスト対応 総合英語コース9『Practical English 9』（EdulinX: Reallyenglish）

参考書：　必要に応じて、授業担当が指示します。

授業・準備学習のアドバイス：

・毎週決められたレッスン数を各自で設定した日時に受講してください。
・30レッスンをまとめて先に受講したり、学期末に駆け込み受講することは認められません。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: Interactive English I

クラス:

授業コード: B030200002

担当者: Mark M.Stapp **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: This course emphasizes the interactive use of English, focusing on clear and simple communication. Students will practice speaking, listening, reading, and writing to improve their ability to communicate in everyday situations. The course will help students build basic vocabulary and grammar for daily conversations and workplace communication. Activities will include reading short texts, writing simple sentences, and practicing common phrases used in discussions. The course content will be adapted to students' proficiency levels, helping them gain confidence in using English for practical, academic, and professional purposes.

到達目標: This course will equip students with the basic English skills needed for everyday communication and simple workplace interactions. Upon completion, students should be able to understand and express basic information and opinions in familiar contexts. They will also gain confidence in handling common social and workplace situations in English. These foundational skills will help students communicate more comfortably and effectively in a variety of real-world situations.

各回の授業計画:

1. Course orientation: Course overview, syllabus review, and a getting-to-know-you activity.
2. Develop specific listening, speaking, reading, and writing skills related to the topic of food.
3. Develop specific listening, speaking, reading, and writing skills related to the topic of Japan.
4. Develop specific listening, speaking, reading, and writing skills related related to the topic of shopping.
5. Develop specific listening, speaking, reading, and writing skills related to the topic of music.
6. Develop specific listening, speaking, reading, and writing skills related to the topic of transportation.
7. Develop specific listening, speaking, reading, and writing skills related to the topic of the salarymen and work.
8. Develop specific listening, speaking, reading, and writing skills related to the topic of the family.
9. Develop specific listening, speaking, reading, and writing skills related to the topic of travel.
10. Develop specific listening, speaking, reading, and writing skills related to the topic of Europe.
11. Develop specific listening, speaking, reading, and writing skills related to the topic of famous people.
12. Develop specific listening, speaking, reading, and writing skills related to the topic of sports.
13. Develop specific listening, speaking, reading, and writing skills related to the topic of home life.
14. Develop specific listening, speaking, reading, and writing skills related to the topic of health.
15. Conclusion.

特記事項: None

授業方法: All classes will be conducted face-to-face, with workshop-style sessions held in English. Students will study short texts and video segments. Frequent in-class activities will take place in pairs and small groups. This course will adhere to the eclectic method of TEFL while applying a continuous assessment approach for student evaluation.

予習・復習・宿題など(内容・時間):

For homework, spend 25 minutes reviewing the class work by going over your class notes, revising any difficult vocabulary, grammar, or topics, and completing any unfinished exercises or assignments. Afterward, dedicate 20 minutes to preparing for the course conclusion by reviewing all of the course notes, focusing on understanding key points and vocabulary words to ensure comprehension.

評価方法:

授業へのとりくみ:	50 %	確認テスト:	50 %	レポート:	− %
その他1:			%		
その他2:			%		

評価基準: Minimum Achievement Level (60-69 points)
・Engagement in Class: Participates in discussions.
・Confirmation Test: Shows a basic understanding of the course material.

Standard Achievement Level (70–79 points)
・Engagement in Class: Participates in discussions and expresses personal thoughts.
・Confirmation Test: Demonstrates a good understanding of the course material.
Desirable Achievement Level (80–100 points)
・Engagement in Class: Actively participates in discussions and effectively summarizes personal thoughts.
・Confirmation Test: Demonstrates a deep understanding of the course material and can explain it clearly.

課題へのフィードバック:

Feedback: Students will receive timely feedback on any work submitted during class.

教科書: Textbooks: None. All essential study materials will be provided.

参考書: None.

授業・準備学習のアドバイス:

This is a language learning class, so students must review the work covered in class each week and actively participate in activities. They are responsible for catching up on missed work and asking the teacher for clarification when needed. The course will conclude in week 15, and students will receive instructions on how to prepare for the conclusion. The passing grade for this course is 60%. Open communication between students and the teacher is essential for creating a positive classroom.

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: Interactive English I

クラス:

授業コード: B030200003

担当者: Michael A.Greisamer **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: –

教職課程における位置づけ: –

含めることが必要な事項: –

教科に関する専門的事項: – **一般的包括的科目:** –

授業の目的: Improve English ability communicatively through interactive practice. Focus on speaking proficiency and pair work. Emphasis on listening and speaking skills without major focus on grammar. Students will be expected to participate actively in pair and Group work.
小中高と学んできた英語を基礎として、大学卒業後に実社会で活用できる話す力、聞く力、発表する力など英語コミュニケーション力の重点的強化を授業の目的とする。

到達目標: Classroom Goals:
1: Improve student English communication skills.
2: Build speaking and listening confidence.
3: To be interested in and familiar with English-speaking culture.
This course is intended for high beginner level English students. The course aims to make you more comfortable using English for practical purposes in speaking and listening. Please refer to the Curriculum Map of your faculty with regard to the association of this course with your diploma policies.

各回の授業計画:

1. Course rules / Introduction
2. Greetings / Classroom English
3. Unit 1
Is anyone sitting here / Where are you from?
4. Unit 2
What time does it start? / What time is it?
5. Unit 3
It's my Birthday. / Dates
6. Unit 4
Do you know how to / Can you
7. Unit 5
What time do you / Daily Routine
8. Unit 6
Review game day / Practice makes Perfect
9. Unit 7
Ouch! That hurts. / Body parts / illness
10. Unit 7
Should / giving advice
11. Video Listening Day
12. Communicative Game day
13. Review for test
14. Achievement test and feedback
15. Cultural Understanding Movie

特記事項: None

授業方法: 基本的な授業の流れ(すべて対面授業)
1. Listening practice
2. Make pairs/ pronunciation practice (20分)
3. Pair work(20分)
4. Group work(20分)
5. Free Talk / Presentations

予習・復習・宿題など(内容・時間):

The students will read the textbook for 30 minutes (before class) and prepare a summary for 90 minutes (after class).

評価方法:

授業へのとりくみ:	50 **%**	**確認テスト:**	30 **%**	**レポート:**	20 **%**
その他1:			**%**		
その他2:			**%**		

評価基準:

毎回の授業の予習を行った。(60～69)
各授業に参加して、演習に積極的に参加した。(70～79点)
各授業の予習･復習をきちんと行い、積極的に演習に取り組み、4つの領域の活動内容がおおむね身につけた。(80～100点)

【演習】
(1)演習のための準備ができていたか。
(2)演習に積極的に参加したか。
(3)4つの項目の基礎表現を修得したか。

課題へのフィードバック:

毎回、発表等に対して、評価をつける。
また、発表に対する他の学生の評価も加味し、学生に返却する。

教科書:

Title: Two-Way Street: Communicative Practice Paperback
¥1,430 Tax included
Find on Amazon:
https://amzn.asia/d/5SaIm8D
Two Way Street, 2nd Ed. Kobe: Daigaku Kyoiku.
ISBN 978-4-86429-061-6 By Michael Greisamer

参考書:

None

授業･準備学習のアドバイス:

Textbook will be used in class every day. The syllabus may change depending on the interests of the students and natural flow of the course.

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: Interactive English I

クラス:

授業コード: B030200004

担当者: Michael A.Greisamer **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: –

教職課程における位置づけ: –

含めることが必要な事項: –

教科に関する専門的事項: – **一般的包括的科目:** –

授業の目的: Improve English ability communicatively through interactive practice. Focus on speaking proficiency and pair work. Emphasis on listening and speaking skills without major focus on grammar. Students will be expected to participate actively in pair and Group work.
小中高と学んできた英語を基礎として、大学卒業後に実社会で活用できる話す力、聞く力、発表する力など英語コミュニケーション力の重点的強化を授業の目的とする。

到達目標: Classroom Goals:
1: Improve student English communication skills.
2: Build speaking and listening confidence.
3: To be interested in and familiar with English-speaking culture.
This course is intended for high beginner level English students. The course aims to make you more comfortable using English for practical purposes in speaking and listening. Please refer to the Curriculum Map of your faculty with regard to the association of this course with your diploma policies.

各回の授業計画:

1. Course rules / Introduction
2. Greetings / Classroom English
3. Unit 1
Is anyone sitting here / Where are you from?
4. Unit 2
What time does it start? / What time is it?
5. Unit 3
It's my Birthday. / Dates
6. Unit 4
Do you know how to / Can you
7. Unit 5
What time do you / Daily Routine
8. Unit 6
Review game day / Practice makes Perfect
9. Unit 7
Ouch! That hurts. / Body parts / illness
10. Unit 7
Should / giving advice
11. Video Listening Day
12. Communicative Game day
13. Review for test
14. Achievement test and feedback
15. Cultural Understanding Movie

特記事項: None

授業方法: 基本的な授業の流れ(すべて対面授業)
1. Listening practice
2. Make pairs/ pronunciation practice (20分)
3. Pair work(20分)
4. Group work(20分)
5. Free Talk / Presentations

予習・復習・宿題など(内容・時間):

The students will read the textbook for 30 minutes (before class) and prepare a summary for 90 minutes (after class).

評価方法:

授業へのとりくみ:	50 **%**	**確認テスト:**	30 **%**	**レポート:**	20 **%**
その他1:			**%**		
その他2:			**%**		

評価基準:

毎回の授業の予習を行った。(60～69)
各授業に参加して、演習に積極的に参加した。(70～79点)
各授業の予習･復習をきちんと行い、積極的に演習に取り組み、4つの領域の活動内容がおおむね身につけた。(80～100点)

【演習】
(1)演習のための準備ができていたか。
(2)演習に積極的に参加したか。
(3)4つの項目の基礎表現を修得したか。

課題へのフィードバック:

毎回、発表等に対して、評価をつける。
また、発表に対する他の学生の評価も加味し、学生に返却する。

教科書:

Title: Two-Way Street: Communicative Practice Paperback
¥1,430 Tax included
Find on Amazon:
https://amzn.asia/d/5SaIm8D
Two Way Street, 2nd Ed. Kobe: Daigaku Kyoiku.
ISBN 978-4-86429-061-6 By Michael Greisamer

参考書:

None

授業･準備学習のアドバイス:

Textbook will be used in class every day. The syllabus may change depending on the interests of the students and natural flow of the course.

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 総合英語Ⅱ

クラス: ★教

授業コード: B030300001

担当者: 新藤 照夫 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教員免許法施行規則第66条の6に定める必修科目(外国語コミュニケーション)

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: eラーニング教材(Practical English 9)を使用した自律学習の定着化を図ります。Listening, Reading, Grammarを柱に、総合的な英語力の基礎固めを図りながら、日常からビジネス分野にわたる幅広いコンテクストに適応できるような英語コミュニケーション力を高めていきます。また本科目では、eラーニング教材のTOEIC L&Rの形式の問題演習を積み重ねることで、学期末に受験するアチーブメントテストのTOEIC L&Rの模擬テストでのスコアアップを目指します。

到達目標:
・eラーニング演習に取り組むことで、総合的な英語力を高めることができる。
・学修した語彙や英語表現の使い方を理解した上で、多様なシチュエーションで応用することができる。
・学修した文法知識を活用して、リスニングやリーディングの内容理解に応用することができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション:eラーニングの受講方法等の説明、評価法の確認、レッスン 1, 2【対面授業】
2. レッスン 3, 4(学修のペースを意識して、各自のレベルに応じた2つのレッスンを終了させる)【オンライン】
3. レッスン 5, 6(学修のペースを意識して、各自のレベルに応じた2つのレッスンを終了させる)【オンライン】
4. レッスン 7, 8(学修のペースを意識して、各自のレベルに応じた2つのレッスンを終了させる)【オンライン】
5. 学習進捗の確認、レッスン 1～8 の振り返り【対面授業】
6. レッスン 9, 10, 11(各自のレベルに応じた3つのレッスンを終了させる)【オンライン】
7. レッスン 12, 13, 14(各自のレベルに応じた3つのレッスンを終了させる)【オンライン】
8. レッスン 15, 16, 17(各自のレベルに応じた3つのレッスンを終了させる)【オンライン】
9. レッスン 18, 19, 20(各自のレベルに応じた3つのレッスンを終了させる)【オンライン】
10. 学習進捗の確認、レッスン 9～20 の振り返り【対面授業】
11. レッスン 21, 22, 23(各自のレベルに応じた3つのレッスンを終了させる)【オンライン】
12. レッスン 24, 25, 26(各自のレベルに応じた3つのレッスンを終了させる)【オンライン】
13. レッスン 27, 28, 29(各自のレベルに応じた3つのレッスンを終了させる)【オンライン】
14. レッスン 30, 全てのレッスンのまとめ、確認テストの準備学修【オンライン】
15. 学習進捗の確認、全てのレッスンのまとめ、確認テスト(TOEIC L&R)【対面授業】

特記事項:

授業方法: 各自で eラーニングの3種類のレッスン(Listening、Reading、Grammar)から各回ごとに指定されているレッスン数に取り組んでください。
レッスンテストの正解率が60%以上になると、ひとつのレッスンが終了となります。
また、以下の回は【対面授業】を実施し、eラーニングの進捗状況を確認します。
以下の設定された到達すべきレッスン数に到達していない場合は、対面授業の教室で到達するまでレッスンを受講してもらいます。
・第1回:オリエンテーション
・第5回:レッスン8に到達
・第10回:レッスン19～20に到達
・第15回:レッスン21～30に到達

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回提示された時間の事前学習と事後学習を行なってください。
・【事前学習】eラーニング教材の準備学習(60分)
・【事後学習】eラーニング教材の復習(60分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	80	**%**	**確認テスト:**	20	**%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準：　①望ましい到達度（80～100点）
【eラーニングへの取り組み】
24回～30回のレッスンを終了させる。
【確認テスト】
確認テストの正解率80%以上を収めることができる。

②最低限の到達度（60～69点）
【eラーニングへの取り組み】
20回のレッスンを終了させる。
【確認テスト】
確認テストにて、正解率が60%～69%の範囲となる。

課題へのフィードバック：

・eラーニングの取り組みには、オンラインでフィードバックを行う。
・確認テストの結果には、オンラインでフィードバックを行う。

教科書：　TOEIC®テスト対応 総合英語コース9『Practical English 9』（EdulinX: Reallyenglish）

参考書：　必要に応じて、授業担当が指示します。

授業・準備学習のアドバイス：

・毎週決められたレッスン数を各自で設定した日時に受講してください。
・30レッスンをまとめて先に受講したり、学期末に駆け込み受講することは認められません。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 総合英語Ⅱ

クラス: ★国心

授業コード: B030300002

担当者: 眞﨑 克彦 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教員免許法施行規則第66条の6に定める必修科目(外国語コミュニケーション)

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: eラーニング教材(Practical English 9)を使用した自律学習の定着化を図ります。Listening, Reading, Grammarを柱に、総合的な英語力の基礎固めを図りながら、日常からビジネス分野にわたる幅広いコンテクストに適応できるような英語コミュニケーション力を高めていきます。また本科目では、eラーニング教材のTOEIC L&Rの形式の問題演習を積み重ねることで、学期末に受験するアチーブメントテストのTOEIC L&Rの模擬テストでのスコアアップを目指します。

到達目標:
・eラーニング演習に取り組むことで、総合的な英語力を高めることができる。
・学修した語彙や英語表現の使い方を理解した上で、多様なシチュエーションで応用することができる。
・学修した文法知識を活用して、リスニングやリーディングの内容理解に応用することができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション:eラーニングの受講方法等の説明、評価法の確認、レッスン 1, 2【対面授業】
2. レッスン 3, 4(学修のペースを意識して、各自のレベルに応じた2つのレッスンを終了させる)【オンライン】
3. レッスン 5, 6(学修のペースを意識して、各自のレベルに応じた2つのレッスンを終了させる)【オンライン】
4. レッスン 7, 8(学修のペースを意識して、各自のレベルに応じた2つのレッスンを終了させる)【オンライン】
5. 学習進捗の確認、レッスン 1～8 の振り返り【対面授業】
6. レッスン 9, 10, 11(各自のレベルに応じた3つのレッスンを終了させる)【オンライン】
7. レッスン 12, 13, 14(各自のレベルに応じた3つのレッスンを終了させる)【オンライン】
8. レッスン 15, 16, 17(各自のレベルに応じた3つのレッスンを終了させる)【オンライン】
9. レッスン 18, 19, 20(各自のレベルに応じた3つのレッスンを終了させる)【オンライン】
10. 学習進捗の確認、レッスン 9～20 の振り返り【対面授業】
11. レッスン 21, 22, 23(各自のレベルに応じた3つのレッスンを終了させる)【オンライン】
12. レッスン 24, 25, 26(各自のレベルに応じた3つのレッスンを終了させる)【オンライン】
13. レッスン 27, 28, 29(各自のレベルに応じた3つのレッスンを終了させる)【オンライン】
14. レッスン 30, 全てのレッスンのまとめ、確認テストの準備学修【オンライン】
15. 学習進捗の確認、全てのレッスンのまとめ、確認テスト(TOEIC L&R)【対面授業】

特記事項:

授業方法: 各自で eラーニングの3種類のレッスン(Listening、Reading、Grammar)から各回ごとに指定されているレッスン数に取り組んでください。
レッスンテストの正解率が60%以上になると、ひとつのレッスンが終了となります。
また、以下の回は【対面授業】を実施し、eラーニングの進捗状況を確認します。
以下の設定された到達すべきレッスン数に到達していない場合は、対面授業の教室で到達するまでレッスンを受講してもらいます。
・第1回:オリエンテーション
・第5回:レッスン8に到達
・第10回:レッスン19～20に到達
・第15回:レッスン21～30に到達

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回提示された時間の事前学習と事後学習を行なってください。
・【事前学習】eラーニング教材の準備学習(60分)
・【事後学習】eラーニング教材の復習(60分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	80	**%**	**確認テスト:**	20	**%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準：　①望ましい到達度（80～100点）
【eラーニングへの取り組み】
24回～30回のレッスンを終了させる。
【確認テスト】
確認テストの正解率80%以上を収めることができる。

②最低限の到達度（60～69点）
【eラーニングへの取り組み】
20回のレッスンを終了させる。
【確認テスト】
確認テストにて、正解率が60%～69%の範囲となる。

課題へのフィードバック：

・eラーニングの取り組みには、オンラインでフィードバックを行う。
・確認テストの結果には、オンラインでフィードバックを行う。

教科書：　TOEIC®テスト対応 総合英語コース9『Practical English 9』（EdulinX: Reallyenglish）

参考書：　必要に応じて、授業担当が指示します。

授業・準備学習のアドバイス：

・毎週決められたレッスン数を各自で設定した日時に受講してください。
・30レッスンをまとめて先に受講したり、学期末に駆け込み受講することは認められません。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 総合英語Ⅱ

クラス: ★ス教

授業コード: B030300003

担当者: 森上 展宏 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教員免許法施行規則第66条の6に定める必修科目(外国語コミュニケーション)

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: eラーニング教材(Practical English 9)を使用した自律学習の定着化を図ります。Listening, Reading, Grammarを柱に、総合的な英語力の基礎固めを図りながら、日常からビジネス分野にわたる幅広いコンテクストに適応できるような英語コミュニケーション力を高めていきます。また本科目では、eラーニング教材のTOEIC L&Rの形式の問題演習を積み重ねることで、学期末に受験するアチーブメントテストのTOEIC L&Rの模擬テストでのスコアアップを目指します。

到達目標:
・eラーニング演習に取り組むことで、総合的な英語力を高めることができる。
・学修した語彙や英語表現の使い方を理解した上で、多様なシチュエーションで応用することができる。
・学修した文法知識を活用して、リスニングやリーディングの内容理解に応用することができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション:eラーニングの受講方法等の説明、評価法の確認、レッスン 1, 2【対面授業】
2. レッスン 3, 4(学修のペースを意識して、各自のレベルに応じた2つのレッスンを終了させる)【オンライン】
3. レッスン 5, 6(学修のペースを意識して、各自のレベルに応じた2つのレッスンを終了させる)【オンライン】
4. レッスン 7, 8(学修のペースを意識して、各自のレベルに応じた2つのレッスンを終了させる)【オンライン】
5. 学習進捗の確認、レッスン 1～8 の振り返り【対面授業】
6. レッスン 9, 10, 11(各自のレベルに応じた3つのレッスンを終了させる)【オンライン】
7. レッスン 12, 13, 14(各自のレベルに応じた3つのレッスンを終了させる)【オンライン】
8. レッスン 15, 16, 17(各自のレベルに応じた3つのレッスンを終了させる)【オンライン】
9. レッスン 18, 19, 20(各自のレベルに応じた3つのレッスンを終了させる)【オンライン】
10. 学習進捗の確認、レッスン 9～20 の振り返り【対面授業】
11. レッスン 21, 22, 23(各自のレベルに応じた3つのレッスンを終了させる)【オンライン】
12. レッスン 24, 25, 26(各自のレベルに応じた3つのレッスンを終了させる)【オンライン】
13. レッスン 27, 28, 29(各自のレベルに応じた3つのレッスンを終了させる)【オンライン】
14. レッスン 30, 全てのレッスンのまとめ、確認テストの準備学修【オンライン】
15. 学習進捗の確認、全てのレッスンのまとめ、確認テスト(TOEIC L&R)【対面授業】

特記事項:

授業方法: 各自で eラーニングの3種類のレッスン(Listening、Reading、Grammar)から各回ごとに指定されているレッスン数に取り組んでください。
レッスンテストの正解率が60%以上になると、ひとつのレッスンが終了となります。
また、以下の回は【対面授業】を実施し、eラーニングの進捗状況を確認します。
以下の設定された到達すべきレッスン数に到達していない場合は、対面授業の教室で到達するまでレッスンを受講してもらいます。
・第1回:オリエンテーション
・第5回:レッスン8に到達
・第10回:レッスン19～20に到達
・第15回:レッスン21～30に到達

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回提示された時間の事前学習と事後学習を行なってください。
・【事前学習】eラーニング教材の準備学習(60分)
・【事後学習】eラーニング教材の復習(60分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	80	**%**	**確認テスト:**	20	**%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準：　①望ましい到達度（80～100点）
【eラーニングへの取り組み】
24回～30回のレッスンを終了させる。
【確認テスト】
確認テストの正解率80%以上を収めることができる。

②最低限の到達度（60～69点）
【eラーニングへの取り組み】
20回のレッスンを終了させる。
【確認テスト】
確認テストにて、正解率が60%～69%の範囲となる。

課題へのフィードバック：

・eラーニングの取り組みには、オンラインでフィードバックを行う。
・確認テストの結果には、オンラインでフィードバックを行う。

教科書：　TOEIC®テスト対応 総合英語コース9『Practical English 9』（EdulinX: Reallyenglish）

参考書：　必要に応じて、授業担当が指示します。

授業・準備学習のアドバイス：

・毎週決められたレッスン数を各自で設定した日時に受講してください。
・30レッスンをまとめて先に受講したり、学期末に駆け込み受講することは認められません。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: Interactive English II

クラス:

授業コード: B030400002

担当者: Mark M.Stapp **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: –

教職課程における位置づけ: –

含めることが必要な事項: –

教科に関する専門的事項: – **一般的包括的科目:** –

授業の目的: This course emphasizes the interactive use of English, focusing on clear and simple communication. Students will practice speaking, listening, reading, and writing to improve their ability to communicate in everyday situations. The course will help students build basic vocabulary and grammar for daily conversations and workplace communication. Activities will include reading short texts, writing simple sentences, and practicing common phrases used in discussions. The course content will be adapted to students' proficiency levels, helping them gain confidence in using English for practical, academic, and professional purposes.

到達目標: This course will equip students with the basic English skills needed for everyday communication and simple workplace interactions. Upon completion, students should be able to understand and express basic information and opinions in familiar contexts. They will also gain confidence in handling common social and workplace situations in English. These foundational skills will help students communicate more comfortably and effectively in a variety of real-world situations.

各回の授業計画:

1. Course Orientation: Overview of the course, syllabus review, and a discussion activity about summer vacation.
2. Develop specific listening, speaking, reading, and writing skills related to the topic of animals.
3. Develop specific listening, speaking, reading, and writing skills related to the topic of the weather.
4. Develop specific listening, speaking, reading, and writing skills related to the topic of the USA.
5. Develop specific listening, speaking, reading, and writing skills related to the topic of superstitions.
6. Develop specific listening, speaking, reading, and writing skills related to the topic of education.
7. Develop specific listening, speaking, reading, and writing skills related to the topic of nationalities.
8. Develop specific listening, speaking, reading, and writing skills related to the topic of hobbies.
9. Develop specific listening, speaking, reading, and writing skills related to the topic of fashion.
10. Develop specific listening, speaking, reading, and writing skills related to the topic of art and creativity.
11. Develop specific listening, speaking, reading, and writing skills related to the topic of festivals and celebrations.
12. Develop specific listening, speaking, reading, and writing skills related to the topic of Christmas and New Year traditions.
13. Develop specific listening, speaking, reading, and writing skills related to the topic of inventions and discoveries that changed the world.
14. Develop specific listening, speaking, reading, and writing skills related to the topic of friendship.
15. Conclusion.

特記事項: None

授業方法: All classes will be conducted face-to-face, with workshop-style sessions held in English. Students will study short texts and video segments. Frequent in-class activities will take place in pairs and small groups. This course will adhere to the eclectic method of TEFL while applying a continuous assessment approach for student evaluation.

予習・復習・宿題など(内容・時間):

For homework, spend 25 minutes reviewing the class work by going over your class notes, revising any difficult vocabulary, grammar, or topics, and completing any unfinished exercises or assignments. Afterward, dedicate 20 minutes to preparing for the course conclusion by reviewing all of the course notes, focusing on understanding key points and vocabulary words to ensure comprehension.

評価方法:

授業へのとりくみ:	50	**%**	**確認テスト:**	50	**%**	**レポート:**	– **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: Minimum Achievement Level (60-69 points)
・Engagement in Class: Participates in discussions.
・Confirmation Test: Shows a basic understanding of the course material.

Standard Achievement Level (70–79 points)
・Engagement in Class: Participates in discussions and expresses personal thoughts.
・Confirmation Test: Demonstrates a good understanding of the course material.
Desirable Achievement Level (80–100 points)
・Engagement in Class: Actively participates in discussions and effectively summarizes personal thoughts.
・Confirmation Test: Demonstrates a deep understanding of the course material and can explain it clearly.

課題へのフィードバック:

Students will receive timely feedback on any work submitted during class.

教科書: None. All essential study materials will be provided.

参考書: None.

授業・準備学習のアドバイス:

This is a language learning class, so students must review the work covered in class each week and actively participate in activities. They are responsible for catching up on missed work and asking the teacher for clarification when needed. The course will conclude in week 15, and students will receive instructions on how to prepare for the conclusion. The passing grade for this course is 60%. Open communication between students and the teacher is essential for creating a positive classroom.

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: Interactive English Ⅱ

クラス:

授業コード: B030400003

担当者: Michael A.Greisamer **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: Improve English ability communicatively through interactive practice. Focus on speaking proficiency and pair work. Emphasis on listening and speaking skills without major focus on grammar. Students will be expected to participate actively in pair and Group work.
小中高と学んできた英語を基礎として、大学卒業後に実社会で活用できる話す力、聞く力、発表する力など英語コミュニケーション力の重点的強化を授業の目的とする。

到達目標: Classroom Goals:
1: Improve student English communication skills.
2: Build speaking and listening confidence.
3: To be interested in and familiar with English-speaking culture.
This course is intended for high beginner level English students. The course aims to make you more comfortable using English for practical purposes in speaking and listening. Please refer to the Curriculum Map of your faculty with regard to the association of this course with your diploma policies.

各回の授業計画:

1. Course rules / Introduction
2. Greetings / Classroom English
3. Unit 1
Is anyone sitting here / Where are you from?
4. Unit 2
What time does it start? / What time is it?
5. Unit 3
It's my Birthday. / Dates
6. Unit 4
Do you know how to / Can you
7. Unit 5
What time do you / Daily Routine
8. Unit 6
Review game day / Practice makes Perfect
9. Unit 7
Ouch! That hurts. / Body parts / illness
10. Unit 7
Should / giving advice
11. Video Listening Day
12. Communicative Game day
13. Review for test
14. Achievement test and feedback
15. Cultural Understanding Movie

特記事項: None

授業方法: 基本的な授業の流れ(すべて対面授業)
1. Listening practice
2. Make pairs/ pronunciation practice (20分)
3. Pair work(20分)
4. Group work(20分)
5. Free Talk / Presentations

予習・復習・宿題など(内容・時間):

The students will read the textbook for 30 minutes (before class) and prepare a summary for 90 minutes (after class).

評価方法:

授業へのとりくみ:	50	**%**	**確認テスト:**	30	**%**	**レポート:**	20 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準:

毎回の授業の予習を行った。(60～69)
各授業に参加して、演習に積極的に参加した。(70～79点)
各授業の予習･復習をきちんと行い、積極的に演習に取り組み、4つの領域の活動内容がおおむね身につけた。(80～100点)

【演習】
(1)演習のための準備ができていたか。
(2)演習に積極的に参加したか。
(3)4つの項目の基礎表現を修得したか。

課題へのフィードバック:

毎回、発表等に対して、評価をつける。
また、発表に対する他の学生の評価も加味し、学生に返却する。

教科書:

Title: Two-Way Street: Communicative Practice Paperback
¥1,430 Tax included
Find on Amazon:
https://amzn.asia/d/5SaIm8D
Two Way Street, 2nd Ed. Kobe: Daigaku Kyoiku.
ISBN 978-4-86429-061-6 By Michael Greisamer

参考書:

None

授業･準備学習のアドバイス:

Textbook will be used in class every day. The syllabus may change depending on the interests of the students and natural flow of the course.
Try to speak English and let's enjoy learning together.

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: Interactive English Ⅱ

クラス:

授業コード: B030400004

担当者: Michael A.Greisamer **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: Improve English ability communicatively through interactive practice. Focus on speaking proficiency and pair work. Emphasis on listening and speaking skills without major focus on grammar. Students will be expected to participate actively in pair and Group work.
小中高と学んできた英語を基礎として、大学卒業後に実社会で活用できる話す力、聞く力、発表する力など英語コミュニケーション力の重点的強化を授業の目的とする。

到達目標: Classroom Goals:
1: Improve student English communication skills.
2: Build speaking and listening confidence.
3: To be interested in and familiar with English-speaking culture.
This course is intended for high beginner level English students. The course aims to make you more comfortable using English for practical purposes in speaking and listening. Please refer to the Curriculum Map of your faculty with regard to the association of this course with your diploma policies.

各回の授業計画:

1. Course rules / Introduction
2. Greetings / Classroom English
3. Unit 1
Is anyone sitting here / Where are you from?
4. Unit 2
What time does it start? / What time is it?
5. Unit 3
It's my Birthday. / Dates
6. Unit 4
Do you know how to / Can you
7. Unit 5
What time do you / Daily Routine
8. Unit 6

Review game day / Practice makes Perfect
9. Unit 7
Ouch! That hurts. / Body parts / illness
10. Unit 7
Should / giving advice
11. Video Listening Day
12. Communicative Game day
13. Review for test
14. Achievement test and feedback
15. Cultural Understanding Movie

特記事項: None

授業方法: 基本的な授業の流れ(すべて対面授業)
1. Listening practice
2. Make pairs/ pronuncation practie (20分)
3. Pair work(20分)
4. Group work(20分)
5. Free Talk / Presentations

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

The students will read the textbook for 30 minutes (before class) and prepare a summary for 90 minutes (after class).

評価方法：

授業へのとりくみ：	50	**%**	**確認テスト：**	30	**%**	**レポート：**	20 **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準：

毎回の授業の予習を行った。(60～69)
各授業に参加して、演習に積極的に参加した。(70～79点)
各授業の予習･復習をきちんと行い、積極的に演習に取り組み、4つの領域の活動内容がおおむね身につけた。(80～100点)

【演習】
(1)演習のための準備ができていたか。
(2)演習に積極的に参加したか。
(3)4つの項目の基礎表現を修得したか。

課題へのフィードバック：

毎回、発表等に対して、評価をつける。
また、発表に対する他の学生の評価も加味し、学生に返却する。

教科書：

Title: Two-Way Street: Communicative Practice Paperback

¥1,430 Tax included

Find on Amazon:
https://amzn.asia/d/5SaIm8D
Two Way Street, 2nd Ed. Kobe: Daigaku Kyoiku.
ISBN 978-4-86429-061-6 By Michael Greisamer

参考書：

None

授業・準備学習のアドバイス：

Textbook will be used in class every day. The syllabus may change depending on the interests of the students and natural flow of the course.

Try to speak English and let's enjoy learning together.

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: Interactive English Ⅲ

クラス:

授業コード: B030500001

担当者: Mark M.Stapp **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: This course emphasizes the interactive use of English, focusing on clear communication. It will equip students with the skills needed to communicate with English speakers in their communities, work in companies, and access global information. Additionally, it will help students build vocabulary and other essential language skills for tests such as TOEIC. The course takes a balanced approach to all four language skills, enabling students to complete tasks such as reading, writing, and participating in discussions, with content adapted to their proficiency levels. By developing these skills, students will be better prepared to navigate academic, professional, and everyday interactions in English with confidence.

到達目標: This course will equip students with the English skills needed for success in careers, academia, and tests such as TOEIC. Upon completion, students should be able to understand and express information and opinions on academic topics. They should also be able to handle basic workplace situations in English. These skills will help students communicate effectively and confidently in a variety of real-world situations.

各回の授業計画:

1. Course orientation: Course overview, syllabus review, and a getting-to-know-you activity.
2. Develop specific listening, speaking, reading, and writing skills on the topic of cosmetic surgery.
3. Develop specific listening, speaking, reading, and writing skills on the topic of friends or lovers.
4. Develop specific listening, speaking, reading, and writing skills on the topic of environmental issues.
5. Develop specific listening, speaking, reading, and writing skills on following rules.
6. Develop specific listening, speaking, reading, and writing skills on the topic of doing housework.
7. Develop specific listening, speaking, reading, and writing skills on the topic of body art.
8. Mid-semester assessment task and report due.
9. Develop specific listening, speaking, reading, and writing skills on the topic of workplace harassment.
10. Develop specific listening, speaking, reading, and writing skills on the topic of career choices.
11. Develop specific listening, speaking, reading, and writing skills on writing a movie review.
12. Develop specific listening, speaking, reading, and writing skills for giving a speech in public.
13. Develop specific listening, speaking, reading, and writing skills on the topic of high-tech gadgets.
14. Develop specific listening, speaking, reading, and writing skills on solving a mysterious crime.
15. Conclusion.

特記事項: None

授業方法: All classes will be conducted face-to-face, with workshop-style sessions held in English. Students will study short texts, audio dialogues, and video segments. Frequent in-class activities will take place in pairs and small groups. This course will adhere to the eclectic method of TEFL while applying a continuous assessment approach for student evaluation.

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. Weeks 1 to 8 (Before Mid-Semester Task)
For homework, spend 25 minutes reviewing the class work. This includes going over your class notes, revising any difficult vocabulary, grammar, or topics, and completing any unfinished exercises or assignments. Then, spend 20 minutes preparing for the mid-semester task and report. Research the topic, start drafting ideas or an outline for your report, and review the task guidelines to make sure you understand what is required.

2. Weeks 9 to 15 (After Mid-Semester Task)
For homework, spend 25 minutes reviewing the class work by going over your class notes, revising any difficult vocabulary, grammar, or topics, and completing any unfinished exercises or assignments. Afterward, dedicate 20 minutes to preparing for the course conclusion by

reviewing all of the course notes, focusing on understanding key points and vocabulary words to ensure comprehension.

評価方法：

授業へのとりくみ：	30	**%**	**確認テスト：**	40	**%**	**レポート：**	30 **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準：

Minimum Achievement Level (60–69 points)
・Engagement in Class: Participates in discussions.
・Report: Demonstrates a general understanding of the course material and can write a basic report.
・Confirmation Test: Shows a basic understanding of the course material.
Standard Achievement Level (70–79 points)
・Engagement in Class: Participates in discussions and expresses personal thoughts.
・Report: Understands the course material and can write a well-structured report.
・Confirmation Test: Demonstrates a good understanding of the course material.
Desirable Achievement Level (80–100 points)
・Engagement in Class: Actively participates in discussions and effectively summarizes personal thoughts.
・Report: Fully understands the course material and can write an insightful, well-developed report.
・Confirmation Test: Demonstrates a deep understanding of the course material and can explain it clearly.

課題へのフィードバック：

Reports will be graded using a rubric, which will be explained in class. Students will receive timely feedback on any work submitted during class.

教科書： None. All essential study materials will be provided

参考書： None.

授業・準備学習のアドバイス：

This is a language learning class, so students must prepare each week to actively participate in activities. They are responsible for catching up on missed work and asking the teacher for clarification when needed. The report is due in week 8, and the conclusion in week 15. Students will receive instructions and a grading rubric to guide them in completing these tasks. The passing grade for this course is 60%. Open communication between students and the teacher is essential for creating a positive classroom experience.

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: Interactive English IV

クラス:

授業コード: B030600001

担当者: Mark M.Stapp **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: –

教職課程における位置づけ: –

含めることが必要な事項: –

教科に関する専門的事項: – **一般的包括的科目:** –

授業の目的: This course emphasizes the interactive use of English, focusing on clear communication. It will equip students with the skills needed to communicate effectively with English speakers in their communities, work environments, and when accessing global information. Additionally, students will build vocabulary and other essential language skills for tests such as TOEIC. They will also learn how to identify and use basic figurative language, such as similes, metaphors, and oxymorons, through supplementary activities. The course takes a balanced approach to all four language skills, enabling students to complete tasks like reading, writing, and participating in discussions, with content tailored to their proficiency levels. By developing these skills, students will be better prepared to navigate academic, professional, and everyday interactions in English with confidence.

到達目標: This course will equip students with the English skills needed for success in careers, academia, and tests such as TOEIC. Upon completion, students should be able to understand and express information and opinions on academic topics, as well as handle basic workplace situations in English. Students will also develop an understanding of figurative language, including similes, metaphors, and oxymorons, enabling them to enhance their communication skills. These abilities will help students communicate effectively and confidently in a variety of real-world situations.

各回の授業計画:

1. Course Orientation: Overview of the course, syllabus review, and a discussion activity about summer vacation.
2. Develop listening, speaking, reading, and writing skills on relationships and making compromises, with a supplementary ESL activity on figurative language.
3. Develop listening, speaking, reading, and writing skills on starting a family, with a supplementary ESL activity on figurative language.
4. Develop listening, speaking, reading, and writing skills on earning money, with a supplementary ESL activity on figurative language.
5. Develop listening, speaking, reading, and writing skills on gift-giving practices and customs, with a supplementary ESL activity on figurative language.
6. Develop listening, speaking, reading, and writing skills on customs associated with dining out in Japan, with a supplementary ESL activity on figurative language.
7. Develop listening, speaking, reading, and writing skills on gender roles in relationships, with a supplementary ESL activity on figurative language.
8. Mid-semester assessment task and report due.
9. Develop listening, speaking, reading, and writing skills on adult children returning to the family home, with a supplementary ESL activity on figurative language.
10. Develop listening, speaking, reading, and writing skills on culture shock and acculturation, with a supplementary ESL activity on figurative language.
11. Develop listening, speaking, reading, and writing skills on loss leader pricing, with a supplementary ESL activity on figurative language.
12. Develop specific listening, speaking, reading, and writing skills on the topic of festivals and celebrations in Japan and other parts of the world, with a supplementary ESL activity on figurative language.
13. Develop specific listening, speaking, reading, and writing skills on the topic of Christmas and New Year's celebrations in Japan and other parts of the world.
14. Develop specific listening, speaking, reading, and writing skills on the topic of this year's New Year activities, while also reviewing and consolidating previously learned course material.
15. Conclusion.

特記事項: None

授業方法: All classes will be conducted face-to-face, with workshop-style sessions held in English. Students will study short texts, audio dialogues, and video segments. Frequent in-class activities will take place in pairs and small groups. This course will adhere to the eclectic method of TEFL while applying a continuous assessment approach for student evaluation.

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. Weeks 1 to 8 (Before Mid-Semester Task)

For homework, spend 25 minutes reviewing the class work. This includes going over your class notes, revising any difficult vocabulary, grammar, or topics, and completing any unfinished exercises or assignments. Then, spend 20 minutes preparing for the mid-semester task and report. Research the topic, start drafting ideas or an outline for your report, and review the task guidelines to make sure you understand what is required.

2. Weeks 9 to 15 (After Mid-Semester Task)
For homework, spend 25 minutes reviewing the class work by going over your class notes, revising any difficult vocabulary, grammar, or topics, and completing any unfinished exercises or assignments. Afterward, dedicate 20 minutes to preparing for the course conclusion by reviewing all of the course notes, focusing on understanding key points and vocabulary words to ensure comprehension.

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	40 **%**	**レポート：**	30 **%**
その他1：			**%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

Minimum Achievement Level (60-69 points)
・Engagement in Class: Participates in discussions.
・Report: Demonstrates a general understanding of the course material and can write a basic report.
・Confirmation Test: Shows a basic understanding of the course material.
Standard Achievement Level (70-79 points)
・Engagement in Class: Participates in discussions and expresses personal thoughts.
・Report: Understands the course material and can write a well-structured report.
・Confirmation Test: Demonstrates a good understanding of the course material.
Desirable Achievement Level (80-100 points)
・Engagement in Class: Actively participates in discussions and effectively summarizes personal thoughts.
・Report: Fully understands the course material and can write an insightful, well-developed report.
・Confirmation Test: Demonstrates a deep understanding of the course material and can explain it clearly.

課題へのフィードバック：

Reports will be graded using a rubric, which will be explained in class. Students will receive timely feedback on any work submitted during class.

教科書： Textbooks: None. All essential study materials will be provided.

参考書： None.

授業・準備学習のアドバイス：

This is a language learning class, so students must prepare each week to actively participate in activities. They are responsible for catching up on missed work and asking the teacher for clarification when needed. The report is due in week 8, and the conclusion in week 15. Students will receive instructions and a grading rubric to guide them in completing these tasks. The passing grade for this course is 60%. Open communication between students and the teacher is essential for creating a positive classroom experience.

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 留学英語

クラス:

授業コード: B105100001

担当者: 桂 敦子 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本授業では、海外短期研修や2年次以降海外大学に長期留学する学生が、現地での生活・学習を円滑に行うために必要な英語運用能力を総合的に育成する。日常生活に必要なコミュニケーション力を強化するとともに、大学講義に対応するためのアカデミック英語力をIELTS教材を通して体系的に伸ばし、留学先で自立して生活し、授業に参加できる英語力の獲得を目指す。

到達目標: ①日常生活で自立してコミュニケーションできる英語力を習得する。
・ホームステイ・大学生活・買い物・交通・医療等、留学先で頻出する場面で適切にやり取りできる。
・毎回の確認テストで学んだ語彙・表現を即応的に使うことができる。
・ペア会話練習を通して、自然なテンポで会話を継続し、質問・説明・依頼ができる。
②海外大学の授業に参加できるアカデミック英語力の基礎を身につける。
・IELTSを通して、リスニング・リーディング・ライティング・スピーキングの基本スキルを習得する。
・大学講義の概要を理解し、必要な情報を聞き取り・読み取りできる。
・簡単なエッセイや意見表明が論理的にできる。
③留学に向けた自律的学習姿勢と異文化適応力を育成する。
・自分の弱点を把握し、語彙・文法・スキル別に継続的な学習計画を立てることができる。
・異文化コミュニケーションの基本を理解し、留学先で柔軟に対応できる。
・英語学習と生活の両面で、自立して問題解決できる姿勢を身につける。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
・海外留学制度と留学に必要な英語力
・15回の授業計画
・評価方法の説明
2. ホームステイ基本表現①＋IELTS Listening 基礎①
3.ホームステイ基本表現②＋IELTS Listening 基礎②
4. ホームステイ基本表現③＋IELTS Reading 基礎
5.ホームステイ基本表現④＋IELTS Writing 基礎
6. ホームステイ基本表現⑤＋IELTS Speaking 基礎
7. 大学生活の英語①＋IELTS Listening 応用
8. 大学生活の英語②＋IELTS Reading 応用
9. 大学生活の英語③＋IELTS Writing 応用
10.日本紹介の英語①＋IELTS Writing 応用
11. 日本紹介の英語②＋IELTS Writing 応用
12. 社会生活の英語①＋IELTS総合①
13. 社会生活の英語②＋IELTS総合②
14. 社会生活の英語③＋IELTS総合③
15. まとめのテスト＆振り返り

特記事項: なし

授業方法: 【対面14回 遠隔(オンディマンド)1回(第3回のみ)】

授業は、英語力の定着を図るために、個人ワーク → グループワーク → 理解度チェックの順に様々な活動を行うアクティブラーニングの手法で実施する。
毎時間の主な流れは次のとおり。
①事前に指定された約15の英語表現の発音練習(10分)
②2人1組によるペアプラクティス(10分)
③確認テスト(10分)

④IELTS演習（50分）
⑤IELTS確認テスト（10分）

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. テキストの購入とシラバス内容の理解（180分）
2. テキストの指定範囲の予習・復習(180分)
3. テキストの指定範囲の予習・復習(180分)
4.テキストの指定範囲の予習・復習(180分)
5. テキストの指定範囲の予習・復習(180分)
6. テキストの指定範囲の予習・復習(180分)
7. テキストの指定範囲の予習・復習(180分)
8. テキストの指定範囲の予習・復習(180分)
9. テキストの指定範囲の予習・復習(180分)
10. テキストの指定範囲の予習・復習(180分)
11. テキストの指定範囲の予習・復習(180分)
12. テキストの指定範囲の予習・復習(180分)
13. テキストの指定範囲の予習・復習(180分)
14. テキストの指定範囲の予習・復習(180分)
15. 全体の復習（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	70	**%**	**確認テスト：**	30	**%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準： 毎回の授業の予習を行った。（60～69点）
各授業に参加して、演習に積極的に参加した。（70～79点）
各授業の予習･復習をきちんと行い、積極的に演習に取り組み、留学英語の基礎表現をおおむね身につけた。（80～100点）

【演習】
(1) 演習のための準備ができていたか。
(2) 演習に積極的に参加したか。
(3) 留学英語の基礎表現を習得したか。
(4) IETLSの問題に解答することができたか。

課題へのフィードバック：

毎回の小テストの結果に応じた指導方法の改善を行うとともに、助言も実施する。

教科書： 「IELTS ブリティシュ・カウンシル公認問題集」ブリティッシュ・カウンシル著 旺文社編（税込2,860円）

参考書： 「一人歩きの会話集⑪ホームステイ・留学英語」JTBパブリッシング（税別970円）

授業・準備学習のアドバイス：

海外留学は、英語力向上だけでなく、物の見方や考え方を大きく変え、人生も変えてくれる大チャンスです。しかし、そのチャンスを生かすためには、事前の準備がかかせません。IELTは1年生にとっては難しいですが、海外の大学で学ぶための英語力として必ず求められる資格です。あきらめずにしっかり取り組み、目指す海外留学を有意義なものにしましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 中国語Ⅰ

クラス:

授業コード: B130100001

担当者: 王 景穎 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: この授業は、正確な発音の習得と基本になる構文から簡単な会話や聞く力の養成を目指す。

到達目標: ピンインを見て、正しく発音ができ、簡単な挨拶や自己紹介ができることを目標とする。
テキストをもとに、「聞く、話す、読む、書く」の技能全般をバランスよく学習していく。CD、DVDなどを利用して、既習した内容の理解を深め、更に先生との口頭練習とグループ会話などによって、定着させる。
受講生の積極的参加を前提とする。

各回の授業計画:

1. 中国語ガイダンスと声調「四声」、声調符号
2. 母音、複合母音
3. 子音
4. 鼻母音
5. ピンインのきまり、発音のまとめ練習
6. 第1課 あなたは中国人ですか？
（1）「是」の文 （2）人称代名詞
7. （1）名前の言い方、聞き方 （2）名前の自己紹介 （3）本文の音読 （4）ドリル
8. 第2課 これは何ですか？
（1）疑問詞疑問文 （2）指示代名詞
9. （1） 副詞「也」（2）「的」の用法 （3）本文の音読 （4）ドリル
10. 1～2課の復習 簡単な自己紹介の発表 小テスト①
11. 第3課 あなたはどこに行きますか？
（1）動詞の文 （2）省略疑問文
12. （1）所有を表す （2）「有」助数詞の言い方 （3）本文の音読 （4）ドリル
13. 第4課 このかばんはいくらですか？
（1）形容詞の文 （2）数の言い方
14. （1）指示代名詞 （2）「几」と「多少」（3）本文の音読 （4）ドリル 小テスト②
15. まとめと確認テスト

特記事項: なし

授業方法: すべての授業を対面授業で行うが、天候や交通の乱れによる登校不可能の場合はオンデマンド授業に切り替える。

授業の流れとしてはまずポイントをたくさんの例文で説明をし、その後、ポイントを使ってペアで会話を作ってもらって発表させる。
更にポイントの理解を深めるために、練習問題を配布し筆記練習をする。音読や本文の暗記を通して、会話能力をアップしていく。
最後にミニテストをする。

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

単語を暗記したり、本文のCDを聴いて朗読したりすること。（各回予習・復習90分程度）
一課ごとに、練習問題のプリントを配布し、それを完成して持ってくること。（各回30分程度）

評価方法:

授業へのとりくみ:	30	**%**	**確認テスト:**	70	**%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: 優（80～100点）:

ピンインがよめて、正しく発音ができる
文法のポイントを理解していて、応用ができる

良（70～79点）:
ピンインが読める
単語の意味が分かる
文法のポイントを理解している

可（60～69点）:
単語の意味が分かる
文法のポイントを理解している

課題へのフィードバック:

一課ごとに発音のチェック、課題の解説をする。

教科書: 「中国語はじめの一歩」
白水社 竹島金吾 監修 尹 景春・竹島 毅 著

参考書: 「中国語検定対策準4級」

授業・準備学習のアドバイス:

教科書に付いている一別冊問題集一を必ずやること。一課終わったらその課の単語をしっかり暗記し、簡体字を書けるようにする。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 中国語Ⅰ

クラス:

授業コード: B130100002

担当者: 李 燦 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: この授業は、正確な発音の習得と基本になる構文から簡単な会話や聞く力の養成を目指す。

到達目標: ピンインを見て、正しく発音ができ、簡単な挨拶や自己紹介ができることを目標とする。
テキストをもとに、「聞く、話す、読む、書く」の技能全般をバランスよく学習していく。CD、DVDなどを利用して、既習した内容の理解を深め、更に先生との口頭練習とグループ会話などによって、定着させる。
受講生の積極的参加を前提とする。

各回の授業計画:

1. 中国語ガイダンスと声調「四声」、声調符号
2. 母音、複合母音
3. 子音
4. 鼻母音
5. ピンインのきまり、発音のまとめ練習
6. 第1課 あなたは中国人ですか？
（1）「是」の文 （2）人称代名詞
7. （1）名前の言い方、聞き方 （2）名前の自己紹介 （3）本文の音読 （4）ドリル
8. 第2課 これは何ですか？
（1）疑問詞疑問文 （2）指示代名詞
9. （1） 副詞「也」（2）「的」の用法 （3）本文の音読 （4）ドリル
10. 1～2課の復習 簡単な自己紹介の発表 小テスト①
11. 第3課 あなたはどこに行きますか？
（1）動詞の文 （2）省略疑問文
12. （1）所有を表す （2）「有」助数詞の言い方 （3）本文の音読 （4）ドリル
13. 第4課 このかばんはいくらですか？
（1）形容詞の文 （2）数の言い方
14. （1）指示代名詞 （2）「几」と「多少」（3）本文の音読 （4）ドリル 小テスト②
15. まとめと確認テスト

特記事項: なし

授業方法: すべての授業を対面授業で行うが、天候や交通の乱れによる登校不可能の場合はオンデマンド授業に切り替える。

授業の流れとしてはまずポイントをたくさんの例文で説明をし、その後、ポイントを使ってペアで会話を作ってもらって発表させる。
更にポイントの理解を深めるために、練習問題を配布し筆記練習をする。音読や本文の暗記を通して、会話能力をアップしていく。
最後にミニテストをする。

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

単語を暗記したり、本文のCDを聴いて朗読したりすること。（各回予習・復習90分程度）
一課ごとに、練習問題のプリントを配布し、それを完成して持ってくること。（各回30分程度）

評価方法:

授業へのとりくみ:	30	**%**	**確認テスト:**	70	**%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: 優（80～100点）:

ピンインがよめて、正しく発音ができる
文法のポイントを理解していて、応用ができる

良（70～79点）:
ピンインが読める
単語の意味が分かる
文法のポイントを理解している

可（60～69点）:
単語の意味が分かる
文法のポイントを理解している

課題へのフィードバック:

一課ごとに発音のチェック、課題の解説をする。

教科書: 「中国語はじめの一歩」
白水社 竹島金吾 監修 尹 景春・竹島 毅 著

参考書: 「中国語検定対策準4級」

授業・準備学習のアドバイス:

教科書に付いている一別冊問題集一を必ずやること。一課終わったらその課の単語をしっかり暗記し、簡体字を書けるようにする。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 中国語Ⅱ

クラス:

授業コード: B130200001

担当者: 王 景穎 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 習得した知識を確認しながら、新しい文法や語彙を身につけていく。筆記練習によって文法事項への理解を深め、CDを聞いて本文の音読を繰り返すことや、ペアで会話練習するなどによって、会話力をアップし、初級中国語の総合的な力を養うことを目的とする。

到達目標: 中国語Ⅰを習得した学生を対象に、テキストに基づいて、新しい語句、会話文を繰り返し暗記することによって、基礎文法をしっかり身につけ、簡単な日常会話ができることを目指す。

各回の授業計画:

1. 既習した文法事項や語彙の確認。春学期に習得した基本になる会話文を練習する。
2. 第5課 あなたは夜用事がありますか？
（1）数字 （2）日付・時刻の言い方
3. 第5課 あなたは夜用事がありますか？
（1）動作の時点を言う表現 （2）本文の音読 （3）ドリル （4）自己テスト①
4. 第6課 あなたは食事を済みましたか？
（1）動作の完了を表す「了」（2）助動詞「想」
5. 第6課 あなたは食事を済みましたか？
（1）所在を表す「在」（2）本文の音読 （3）ドリル （4）自己テスト②
6. 第7課 あなたは何人家族ですか？
（1）前置詞「在」、「離」（2）存在を表す「有」（3）単語テスト①
7. 第7課 あなたは何人家族ですか？
（1）反復疑問文 （2）所在を表す「在」と「有」の違い （3）本文の音読 （4）ドリル （5）自己テスト③
8. 中間口頭試験
5，6，7課に習った表現を使って、自己紹介をする
9. 第8課 あなたは何時からアルバイトをしますか？
（1）時間量を表す語 （2）時間量の使い方
10. 第8課 あなたは何時からアルバイトをしますか？
（1）助動詞「得」（2）前置詞「から」（3）本文の音読 （4）ドリル （5）自己テスト④
11. 第9課 あなたアメリカに行ったことはありますか？
（1）経験を表す「過」（2）前置詞「跟」「給」（3）DVD「北京の歩き方」
12. 第9課 あなたアメリカに行ったことはありますか？
（1）「是～的」の構文 （2）「是～的」の構文を使って、応用会話
13. 第9課 あなたアメリカに行ったことはありますか？
（1）本文の音読 （2）ドリル （3）単語小テスト② （4）自己テスト⑤
14. （1）5課～ 9課のまとめ 確認テスト
15. （1）確認テストの解説 （2）準4級中国語検定試験に挑戦

特記事項: なし

授業方法: すべての授業を対面授業で行うが、天候や交通の乱れによる登校不可能の場合はオンデマンド授業に切り替える。

授業の流れとしてはまず文法事項をたくさんの例文で説明をし、その後ポイントを使ってペアで会話を作って発表する。
更にポイントの理解を深めるために、練習問題を配布し文法事項の確認をする。
最後に音読や本文の暗記を通して会話能力をアップしていく。

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

CDを聴いて、本文を暗記できるように練習すること。（各回30分程度）

授業中に配布した練習問題を完成し、次の授業にもってくること。（各回30分程度）

評価方法：

授業へのとりくみ：	30	**%**	**確認テスト：**	70	**%**	**レポート：**	－	**%**
その他1：					**%**			
その他2：					**%**			

評価基準： 60～79点：積極的にグループ演習に参加すること。ピンイン表記が読める。文型を理解している。単語小テストを10点中6点以上取ること。

80～100点：上記に加え、声調を正しく読める 文型をよく知っていて作文ができる。単語をよく暗記しいて応用会話ができる。小テストで高い点数を継続的に取り続けること。

課題へのフィードバック：

課題に対して、授業時に解説し評価する。
小テスト後や定期試験後、試験問題の説明を行い、採点評価する。

教科書： 「中国語はじめの一歩」
白水社 竹島 金吾監修 尹 景春・竹島 毅 著

参考書： 「中国語検定対策4級」

授業・準備学習のアドバイス：

教科書に付いている一別冊問題集一を必ずやること。習った単語をしっかり暗記し、簡体字を書けるようにする。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 韓国朝鮮語Ⅰ

クラス:

授業コード: B140100001

担当者: 鄭 貞美 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 韓国朝鮮語を初めて学ぶ学生を対象に、韓国語を読み、書き、聞き、話すための基礎的な運用能力を身につけることが、この授業の目標です。まずは文字と発音の学習から始まり、基礎的な語彙と文法の学習へと進みます。口頭での反復練習を中心に、基礎的な会話を学んでいきます。

到達目標: ハングルの文字を読み、書くことができ、そしてあいさつや自己紹介など簡単なコミュニケーションができるようになることを目指します。

各回の授業計画:

1. イントロダクション（ハングルの仕組み）
2. 第1課 文字と発音(1) 単母音
3. 第1課 文字と発音(1) 半母音[j]、終声・その1
4. 第2課 文字と発音(2) 初声・その2、有声音化
5. 第2課 文字と発音(2) 半母音[w]と二重母音、連音化
6. 第3課 文字と発音(3) 初声・その3、初声・その4
7. 第3課 文字と発音(3) 終声・その2、濃音化
8. ここまでのまとめと復習
9. 第4課「韓国人です」その1
10. 第4課「韓国人です」その2
11. 第5課「韓国語は専攻ではありません」その1
12. 第5課「韓国語は専攻ではありません」その2
13. 第6課「教室は階段の横にあります」その1
14. 第6課「教室は階段の横にあります」その2
15. 前期学習内容のまとめ（確認テスト）

特記事項: なし

授業方法:
1回 【対面】講義またはアクティブラーニング
2回 【対面】講義またはアクティブラーニング
3回 【対面】講義またはアクティブラーニング
4回 【対面】講義またはアクティブラーニング
5回 【対面】講義またはアクティブラーニング
6回 【対面】講義またはアクティブラーニング
7回 【対面】講義またはアクティブラーニング
8回 【対面】講義またはアクティブラーニング
9回 【対面】講義またはアクティブラーニング
10回 【対面】講義またはアクティブラーニング
11回 【対面】講義またはアクティブラーニング
12回 【対面】講義またはアクティブラーニング
13回 【対面】講義またはアクティブラーニング
14回 【対面】講義またはアクティブラーニング
15回 【対面】講義またはアクティブラーニング

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1回 予習内容:これから学ぶ言語について自分なりに調べて、イメージを持っておく。(45分)
復習内容:授業内容を復習しておく。(45分)

2回 予習内容:次回学習範囲の文字と発音について、音声を聞いて練習する。(45分)

復習内容:学習範囲の文字と発音を復習する。(45分)

3回 予習内容:次回学習範囲の文字と発音について、音声を聞いて練習する。(45分)
復習内容:学習範囲の文字と発音を復習する。(45分)

4回 予習内容:次回学習範囲の文字と発音について、音声を聞いて練習する。(45分)
復習内容:学習範囲の文字と発音を復習する。(45分)

5回 予習内容:次回学習範囲の文字と発音について、音声を聞いて練習する。(45分)
復習内容:学習範囲の文字と発音を復習する。(45分)

6回 予習内容:次回学習範囲の文字と発音について、音声を聞いて練習する。(45分)
復習内容:学習範囲の文字と発音を復習する。(45分)

7回 予習内容:次回学習範囲の文字と発音について、音声を聞いて練習する。(45分)
復習内容:学習範囲の文字と発音を復習する。(45分)

8回 予習内容:次回学習範囲の文字と発音について、音声を聞いて練習する。(45分)
復習内容:学習範囲の文字と発音を復習する。(45分)

9回 予習内容:次回学習範囲の文字と発音について、音声を聞いて練習する。(45分)
復習内容:学習範囲の文字と発音を復習する。(45分)

10回 予習内容:ここまでに学習した文字と発音について、復習しておく。(45分)
復習内容:学習範囲の文法事項を復習する。(45分)

11回 予習内容:次回学習範囲の単語を調べる。(45分)
復習内容:学習範囲の文法事項を復習する。(45分)

12回 予習内容:次回学習範囲の単語を調べる。(45分)
復習内容:学習範囲の文法事項を復習する。(45分)

13回 予習内容:次回学習範囲の単語を調べる。(45分)
復習内容:学習範囲の文法事項を復習する。(45分)

14回 予習内容:次回学習範囲の単語を調べる。(45分)
復習内容:学習範囲の文法事項を復習する。(45分)

15回 予習内容:前期の学習内容を復習しておく。(45分)
復習内容:前期に学習した文法事項を復習する。(45分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	30	**%**	**確認テスト:**	50	**%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	小テスト			20	**%**		
その他2:					**%**		

評価基準:

1. 授業へのとりくみ
・授業中に積極的に発音や会話の練習をする。(60～69)
・質問に対して正確に答えることができる。(70～79)
・意欲的かつ創意的に韓国語を使って自己表現する。(80～100)
2. 小テスト
・指定された単語の意味を覚え、正確に使うことができる。(60～69)
・文法をしっかり理解し、正確に運用することができる。(70～79)
・単語と慣用表現を適切に使うことができる。(80～100)
3. 確認テスト
・所定の語彙力があり、文法規則を正確に理解している。(60～69)
・文法規則に合った文の活用ができ、正確な発音で読むことができる。(70～79)
・まとまりのある文を正確に書き、自然な感じで話すことができる。
また一定の長さの文を聞き取ることができる。(80～100)
4. 出席
全授業に対して80%以上の出席がなければ、「不可」という成績評価になる。

上記の項目を総合的に評価する。

課題へのフィードバック:

・小テストは授業のまとめを目的として数回実施し、採点して次回授業時に説明した後、返却する。
・確認テストは、全体の総まとめを目的として実施し、答案は返却せず、同じ問題紙を使って授業内で説明を行う。
・質問は授業中に、もしくは次回の授業時の全体にむけて回答・説明する。必要に応じて質問者に個別に回答・説明することもある。

教科書: 『四訂版・韓国語の世界へ 入門編』（李 潤玉 ほか，朝日出版社：2024)[ISBN]9784255557106

参考書: 補充ウェブ教材：https://porocise.sakura.ne.jp/wiki/sekai
韓国語の世界 ：https://porocise.sakura.ne.jp/wiki/sekai/primer
盧載玉・梁貞模著『ハングルのとびら』朝日出版社（2024年）

授業・準備学習のアドバイス:

授業中に単語テストや文法理解の確認テストを行い、期末に1学期間学んだ内容を総括テストします。
韓国朝鮮語は日本語ときわめて類似しており、日本語母語者にとって最も学びやすい言語といえます。毎回しっかりと出席をして意欲をもって積極的に参加してください。韓国語の文字を読み、書くことができ、さらにあいさつや自己紹介など簡単なコミュニケーションができるようになります。一緒に頑張りましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 韓国朝鮮語Ⅰ

クラス:

授業コード: B140100002

担当者: 鄭 貞美 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 韓国朝鮮語を初めて学ぶ学生を対象に、韓国語を読み、書き、聞き、話すための基礎的な運用能力を身につけることが、この授業の目標です。まずは文字と発音の学習から始まり、基礎的な語彙と文法の学習へと進みます。口頭での反復練習を中心に、基礎的な会話を学んでいきます。

到達目標: ハングルの文字を読み、書くことができ、そしてあいさつや自己紹介など簡単なコミュニケーションができるようになることを目指します。

各回の授業計画:

1. イントロダクション（ハングルの仕組み）
2. 第1課 文字と発音(1) 単母音
3. 第1課 文字と発音(1) 半母音[j]、終声・その1
4. 第2課 文字と発音(2) 初声・その2、有声音化
5. 第2課 文字と発音(2) 半母音[w]と二重母音、連音化
6. 第3課 文字と発音(3) 初声・その3、初声・その4
7. 第3課 文字と発音(3) 終声・その2、濃音化
8. ここまでのまとめと復習
9. 第4課「韓国人です」その1
10. 第4課「韓国人です」その2
11. 第5課「韓国語は専攻ではありません」その1
12. 第5課「韓国語は専攻ではありません」その2
13. 第6課「教室は階段の横にあります」その1
14. 第6課「教室は階段の横にあります」その2
15. 前期学習内容のまとめ（確認テスト）

特記事項: なし

授業方法:
1回 【対面】講義またはアクティブラーニング
2回 【対面】講義またはアクティブラーニング
3回 【対面】講義またはアクティブラーニング
4回 【対面】講義またはアクティブラーニング
5回 【対面】講義またはアクティブラーニング
6回 【対面】講義またはアクティブラーニング
7回 【対面】講義またはアクティブラーニング
8回 【対面】講義またはアクティブラーニング
9回 【対面】講義またはアクティブラーニング
10回 【対面】講義またはアクティブラーニング
11回 【対面】講義またはアクティブラーニング
12回 【対面】講義またはアクティブラーニング
13回 【対面】講義またはアクティブラーニング
14回 【対面】講義またはアクティブラーニング
15回 【対面】講義またはアクティブラーニング

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1回 予習内容:これから学ぶ言語について自分なりに調べて、イメージを持っておく。(45分)
復習内容:授業内容を復習しておく。(45分)

2回 予習内容:次回学習範囲の文字と発音について、音声を聞いて練習する。(45分)

復習内容:学習範囲の文字と発音を復習する。(45分)

3回 予習内容:次回学習範囲の文字と発音について、音声を聞いて練習する。(45分)
復習内容:学習範囲の文字と発音を復習する。(45分)

4回 予習内容:次回学習範囲の文字と発音について、音声を聞いて練習する。(45分)
復習内容:学習範囲の文字と発音を復習する。(45分)

5回 予習内容:次回学習範囲の文字と発音について、音声を聞いて練習する。(45分)
復習内容:学習範囲の文字と発音を復習する。(45分)

6回 予習内容:次回学習範囲の文字と発音について、音声を聞いて練習する。(45分)
復習内容:学習範囲の文字と発音を復習する。(45分)

7回 予習内容:次回学習範囲の文字と発音について、音声を聞いて練習する。(45分)
復習内容:学習範囲の文字と発音を復習する。(45分)

8回 予習内容:次回学習範囲の文字と発音について、音声を聞いて練習する。(45分)
復習内容:学習範囲の文字と発音を復習する。(45分)

9回 予習内容:次回学習範囲の文字と発音について、音声を聞いて練習する。(45分)
復習内容:学習範囲の文字と発音を復習する。(45分)

10回 予習内容:ここまでに学習した文字と発音について、復習しておく。(45分)
復習内容:学習範囲の文法事項を復習する。(45分)

11回 予習内容:次回学習範囲の単語を調べる。(45分)
復習内容:学習範囲の文法事項を復習する。(45分)

12回 予習内容:次回学習範囲の単語を調べる。(45分)
復習内容:学習範囲の文法事項を復習する。(45分)

13回 予習内容:次回学習範囲の単語を調べる。(45分)
復習内容:学習範囲の文法事項を復習する。(45分)

14回 予習内容:次回学習範囲の単語を調べる。(45分)
復習内容:学習範囲の文法事項を復習する。(45分)

15回 予習内容:前期の学習内容を復習しておく。(45分)
復習内容:前期に学習した文法事項を復習する。(45分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	30	**%**	**確認テスト:**	50	**%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	小テスト			20	**%**		
その他2:					**%**		

評価基準:

1. 授業へのとりくみ
・授業中に積極的に発音や会話の練習をする。(60～69)
・質問に対して正確に答えることができる。(70～79)
・意欲的かつ創意的に韓国語を使って自己表現する。(80～100)
2. 小テスト
・指定された単語の意味を覚え、正確に使うことができる。(60～69)
・文法をしっかり理解し、正確に運用することができる。(70～79)
・単語と慣用表現を適切に使うことができる。(80～100)
3. 確認テスト
・所定の語彙力があり、文法規則を正確に理解している。(60～69)
・文法規則に合った文の活用ができ、正確な発音で読むことができる。(70～79)
・まとまりのある文を正確に書き、自然な感じで話すことができる。
また一定の長さの文を聞き取ることができる。(80～100)
4. 出席
全授業に対して80%以上の出席がなければ、「不可」という成績評価になる。

上記の項目を総合的に評価する。

課題へのフィードバック:

・小テストは、授業のまとめを目的として数回実施し、採点して次回授業時に説明した後、返却する。
・確認テストは、全体の総まとめを目的として実施し、答案は返却せず、同じ問題紙を使って授業内で説明を行う。
・質問は授業中に、もしくは次回の授業時の全体にむけて回答・説明する。必要に応じて質問者に個別に回答・説明することもある。

教科書: 『四訂版・韓国語の世界へ 入門編』（李 潤玉 ほか，朝日出版社：2024)[ISBN]9784255557106

参考書: 盧載玉・梁貞模著『ハングルのとびら』朝日出版社（2024年）
尹亭仁（編)『デイリーコンサイス韓日・日韓辞典』三省堂(2009年）

授業・準備学習のアドバイス:

授業中に、単語テストや文法理解の確認テストを行い、期末に1学期間学んだ内容を総括テストします。
韓国朝鮮語は日本語ときわめて類似しており、日本語母語者にとって最も学びやすい言語といえます。毎回しっかりと出席をして意欲をもって積極的に参加してください。韓国語の文字を読み、書くことができ、さらにあいさつや自己紹介など簡単なコミュニケーションができるようになります。一緒に頑張りましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 韓国朝鮮語Ⅱ

クラス:

授業コード: B140200001

担当者: 鄭 貞美 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 韓国朝鮮語Ⅰに引き続き、韓国語を読み、書き、聞き、話すための基礎的な運用能力をさらに伸ばしていきます。基礎的な語彙や文法に習熟し、さまざまな表現をくり返し練習することで、簡単な会話ができるようになることを目標としています。

到達目標: 基礎文法や会話表現を習得し、慣用表現などを駆使して日常の身近なテーマについて話ができることを目指します。また与えられたテーマについて簡単な韓国朝鮮語で自分の意見を述べられることを目標とします。

各回の授業計画:

1. 前期学習内容の復習
2. 第7課「午後、時間大丈夫ですか」その1
3. 第7課「午後、時間大丈夫ですか」その2
4. 第8課「小学生にテコンドーを教えています」その1
5. 第8課「小学生にテコンドーを教えています」その2
6. 第9課「ふつう、6時に起きます」その1
7. 第9課「ふつう、6時に起きます」その2
8. ここまでのまとめと復習
9. 第10課「野球がとても好きです」その1
10. 第10課「野球がとても好きです」その2
11. 第11課「昼ごはん、食べなかったんですか」その1
12. 第11課「昼ごはん、食べなかったんですか」その2
13. 第12課「春休みには何をするつもりですか」その1
14. 第12課「春休みには何をするつもりですか」その2
15. 後期学習内容のまとめ（確認テスト）

特記事項: なし

授業方法:
1回 【対面】講義またはアクティブラーニング
2回 【対面】講義またはアクティブラーニング
3回 【対面】講義またはアクティブラーニング
4回 【対面】講義またはアクティブラーニング
5回 【対面】講義またはアクティブラーニング
6回 【対面】講義またはアクティブラーニング
7回 【対面】講義またはアクティブラーニング
8回 【対面】講義またはアクティブラーニング
9回 【対面】講義またはアクティブラーニング
10回 【対面】講義またはアクティブラーニング
11回 【対面】講義またはアクティブラーニング
12回 【対面】講義またはアクティブラーニング
13回 【対面】講義またはアクティブラーニング
14回 【対面】講義またはアクティブラーニング
15回 【対面】講義またはアクティブラーニング

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1回 予習内容：前期の学習内容を復習しておく。（45分）
復習内容：授業内容を復習しておく。（45分）

2回 予習内容：次回学習範囲の単語を調べる。（45分）

復習内容:学習範囲の文法事項を復習する。(45分)

3回 予習内容:次回学習範囲の単語を調べる。(45分)
復習内容:学習範囲の文法事項を復習する。(45分)

4回 予習内容:次回学習範囲の文字と発音について、音声を聞いて練習する。(45分)
復習内容:学習範囲の文法事項を復習する。(45分)

5回 予習内容:次回学習範囲の単語を調べる。(45分)
復習内容:学習範囲の文法事項を復習する。(45分)

6回 予習内容:次回学習範囲の単語を調べる。(45分)
復習内容:学習範囲の文法事項を復習する。(45分)

7回 予習内容:次回学習範囲の単語を調べる。(45分)
復習内容:学習範囲の文法事項を復習する。(45分)

8回 予習内容:ここまでに学習した内容を復習する。(45分)
復習内容:学習範囲の文字と発音を復習する。(45分)

9回 予習内容:次回学習範囲の単語を調べる。(45分)
復習内容:学習範囲の文法事項を復習する。(45分)

10回 予習内容:次回学習範囲の単語を調べる。(45分)
復習内容:学習範囲の文法事項を復習する。(45分)

11回 予習内容:次回学習範囲の単語を調べる。(45分)
復習内容:学習範囲の文法事項を復習する。(45分)

12回 予習内容:次回学習範囲の単語を調べる。(45分)
復習内容:学習範囲の文法事項を復習する。(45分)

13回 予習内容:次回学習範囲の単語を調べる。(45分)
復習内容:学習範囲の文法事項を復習する。(45分)

14回 予習内容:次回学習範囲の単語を調べる。(45分)
復習内容:学習範囲の文法事項を復習する。(45分)

15回 予習内容:後期の学習内容を復習しておく。(45分)
復習内容:後期に学習した文法事項を復習する。(45分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	30	**%**	**確認テスト:**	50	**%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	小テスト			20	**%**		
その他2:					**%**		

評価基準:

1. 授業へのとりくみ
・授業中に積極的に発音や会話の練習をする。(60～69)
・質問に対して正確に答えることができる。(70～79)
・意欲的かつ創意的に韓国語を使って自己表現する。(80～100)
2. 小テスト
・指定された単語の意味を覚え、正確に使うことができる。(60～69)
・文法をしっかり理解し、正確に運用することができる。(70～79)
・単語と慣用表現を適切に使うことができる。(80～100)
3. 確認テスト
・所定の語彙力があり、文法規則を正確に理解している。(60～69)
・文法規則に合った文の活用ができ、正確な発音で読むことができる。(70～79)
・まとまりのある文を正確に書き、自然な感じで話すことができる。
また一定の長さの文を聞き取ることができる。(80～100)
4. 出席
全授業に対して80%以上の出席がなければ、「不可」という成績評価になる。

上記の項目を総合的に評価する。

課題へのフィードバック:

・小テストは、数回の授業ごとにまとめを目的として実施し、次回授業時に採点して説明した後、返却する。
・確認テストは、全体の総まとめを目的として実施し、答案は返却せず、同じ問題紙を使って授業内で説明を行う。
・質問は授業中に、もしくは次回の授業時の全体にむけて回答・説明する。必要に応じて質問者に個別に回答・説明することもある。

教科書: 『四訂版・韓国語の世界へ 入門編』（李 潤玉 ほか，朝日出版社：2024)[ISBN]9784255557106

参考書: 補充ウェブ教材：https://porocise.sakura.ne.jp/wiki/sekai
韓国語の世界 ：https://porocise.sakura.ne.jp/wiki/sekai/primer
盧載玉・梁貞模著『ハングルのとびら』朝日出版社（2024年）

授業・準備学習のアドバイス:

韓国朝鮮語Ⅰに引き続き、韓国語を読み、書き、聞き、話すための基礎的な運用能力をさらに伸ばしていきます。基礎的な語彙や文法に習熟し、さまざまな表現をくり返し練習することで、簡単な会話ができるようになることを目標としています。毎回しっかりと出席をして、意欲をもって積極的に参加してください。授業中に単語テストや文法理解の確認テストを行い、期末に後期に学んだ内容を総括テストします。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 哲学

クラス:

授業コード: B200100001

担当者: 藤永 綾乃 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 現代が抱える生きづらさの原因は極めて複合的であろうが、単純明快な解決が難しそうであることは、今を生きる私たちが今日的課題ひとつひとつを読み解き考える努力を放棄してよい理由にはならない。自分自身が、家族が、友達が、将来どのような困難に直面し悩まされるかは未知数であるのだから、今の自分は免れていて無関係と思える数多の災禍もまた、思考と想像力を働かせて臨むべき問題と見るべきである。
「なぜ」という立問が究極的には答えられずに前提するほかない「何か」、それは生、世界、性格、神といった使い慣れた言葉であろうが、その本質を問うていくことが哲学の営為である。それゆえ、哲学は直接的利益に還元できるものではない。哲学は優しくなるための学問である。
したがって本講義では、現代的問題について自ら問いを立て、自ら答え、それを再び相対化するプロセスを通じて、問いの深層へと進む。その過程が同時に、自らの生き方や、他者の存在について省察することにも繋がってゆくことが望ましい。

到達目標:
1. 当たり前のことと思っている日常の中に様々な問題が潜むことに気づけるようになる。
2. 世の中の様々な価値観やものの見方を批判的に検討できるようになる。
3. 自分自身の考え方を客観化し、他者の考え方と比較・検討できるようになる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション：現代の根本問題と哲学の意義
2. 物そのものとは何か①（人間が認識できるものの限界について）
3. 物そのものとは何か②（物を認識するための形式、法則について）
4. 物そのものとは何か③（認識不可能だが思考可能なものについて）
5. 世界とは何か①（自分に見えている世界＝表象としての世界について）
6. 世界とは何か②（生存を原理とする世界＝意志としての世界について）
7. 世界とは何か③（二世界解釈と二側面解釈の違いについて）
8. 善とは何か①（正義と不正義について）
9. 善とは何か②（人間愛とエゴイズムについて）
10. 善とは何か③（行為の倫理的価値について）
11. 他者とは何か①（第2回～第4回の講義を踏まえて）
12. 他者とは何か②（第5回～第7回の講義を踏まえて）
13. 他者とは何か③（第8回～第10回の講義を踏まえて）
14. 他者とは何か④（宗教における他者、神について）
15. 全講義のまとめと確認テスト

特記事項: 授業は、対面の講義形式で行う。
グループワーク（討論）や意見の発表会も行う。

授業方法: 講義形式を基盤として以下のような様々な方法を用いる。
・教員との意見交換
・受講生相互の意見交換・討議
・グループワーク
・プレゼンテーション
・視聴覚教材の活用

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

・予習・復習の時間
各回の授業につき90分の予習と90分の復習を必要とする。
・予習・復習の内容
予習においては、配布された資料や参考文献をもとに、予定される講義内容の理解のための準備や課題発表の用意を行い、グループワークやプレゼンテーション等の必要性に対応できるようにすること。（90分）

復習においては、講義ノートを整理し、文献や各種資料を調査・学修して講義についての理解を深め、レポート・ワークシート等の課題が課せられている場合はそれを完成すること。(90分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	50	**%**	**確認テスト:**	50	**%**	**レポート:**	- **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準:

・最低限の到達度(60～69点)
上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において基本的なレベルで達成できている。すなわち:
1. 今日的課題に関する様々な考え方をその概要において理解し、自分の言葉でその大筋を説明できるようになること。
2. 生の意味についての様々な考え方をその概要において理解し、自分自身の現在の課題と関連づけて自分の言葉でその大筋を説明できるようになること。
3. 歴史的に重要な哲学の意義と内容をその概要において理解し、自分の言葉でその大筋を説明できるようになること。
・望ましい到達度(80～100点)
上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において客観的な説得力を持つレベルで達成できている。すなわち:
1. 今日的課題に関する様々な考え方を正確に理解して自分の言葉で明確に説明できるようになること。
2. 生の意味についての様々な考え方を正確に理解し、自分自身の現在の課題と関連づけて自分の言葉で明確に説明できるようになること。
3. 歴史的に重要な哲学の意義と内容を正確に理解して自分の言葉で明確に説明できるようになること。

課題へのフィードバック:

課題への解答に対しては、授業のできるだけ早い機会にその秀逸な論点、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、後の学修に生産的に還元され得るよう配慮する。

教科書: 使用しない。

参考書: 授業中に指示する。

授業・準備学習のアドバイス:

授業に集中すること、これが何より大切である。
グループ討議と発表の時間を設けるので、参加者の意見に耳を傾けつつ積極的に発言して、自分なりの考えを築いてほしい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 心理学概論

クラス: ☆

授業コード: B200200001

担当者: 犬飼 朋恵 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 本講義の目的は心理学のおおよその全体像をつかむことである。見たり聞いたり感じたり考えたり、ときには悩んだりといった人間の行動のすべての側面が心理学に関わっている。私たちが日常的にイメージする「こころ」よりも遥かに広い領域が心理学の対象である。その中から基礎的な領域を中心に概説する。

到達目標: 1. 心理学にはどのような領域があり、どのようなアプローチがあるかを理解する。
2. それぞれの領域で明らかにされてきた基本的な内容を理解する。

各回の授業計画:

1. 心理学の成り立ち
2. 感覚
3. 知覚(1)
4. 知覚(2)
5. 記憶
6. 学習
7. 発達(1)
8. 発達(2)
9. 社会(1)
10. 男女差
11. 注意
12. ストレスと摂食障害(1)
13. ストレスと摂食障害(2)
14. 性自認
15. 対人関係

特記事項: なし

授業方法: 全講義オンライン形式を採る。課題を通して，多面的に体験的に理解できるように進める。

1. 講義・演習
2. 講義・演習
3. 講義・演習
4. 講義・演習
5. 講義・演習
6. 講義・演習
7. 講義・演習
8. 講義・演習
9. 講義・演習
10. 講義・演習
11. 講義・演習
12. 講義・演習
13. 講義・演習
14. 講義・演習
15. まとめの確認と解説

予習・復習・宿題など(内容・時間):

各回、講義の際に配布するプリントをもとに疑問点を整理・復習し理解を深める
1. 心理学の成り立ち(180分)

2. 感覚（180分）
3. 知覚（180分）
4. 知覚（180分）
5. 記憶（180分）
6. 学習（180分）
7. 発達（180分）
8. 発達（180分）
9. 社会（180分）
10. 社会（180分）
11.男女差（180分）
12. 注意（180分）
13. 対人（180分）
14. ストレス（180分）
15. 授業では全てを扱いきることのできない心理学の様々なトピックに関して参考書を読み、知識を深める（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	40	**%**	**確認テスト：**	60	**%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準：

（最低限の到達度）（60～69点）
・配布資料に載っている知識を扱った問題に解答できる。
・自分の意見を述べながらレポートを書くことができる。

（望ましい到達度）（80～100点）
・配布資料に載っている知識を応用した問題に解答できる。
・根拠を明確にして自説を述べながらレポートを書くことができる。

課題へのフィードバック：

授業内に出した課題は、次回授業時に解説、評価する。質問に対しては、次回の授業時に全体に向けて回答し説明する。必要に応じて質問者に個別に説明する。

教科書： 教科書は使用しない。

参考書： 授業で適宜紹介する。

授業・準備学習のアドバイス：

心理学が関わるテーマは、一般に考えられているよりも遥かに多様なものがある。自分が持っている「こころ」についてのイメージに囚われないで新しいことを知ることを楽しんでほしい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 法学

クラス: ★

授業コード: B210100001

担当者: 小野 晃正 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 法は、多様な人々が共同生活を営むための相互尊重のルールであり、我々の生活を豊かにするための「規則」である。そのため、自然科学的な「法則」とは異なり、1つの問題に対する回答(考え方)も多様で、唯一絶対的な答えというものが存在しない点で非常に面白い。
このような法の特色と目的を踏まえつつ、現実社会の中で生じている紛争に、法がどのような役割を果たし、かつ、こうした紛争をいかなる基準を用いて解決しているかについて、具体的な事件を参照しながら理解することを主たる目標とする。

到達目標: 公法(憲法や行政法)、刑事法(犯罪成立要件や刑事手続をめぐる紛争)、及び、民事法(財産、家族関係、商事及び雇用関係をめぐる紛争)に関する基本的知識の修得に加えて、各法分野の根本にある共通の考え方や、各法分野固有の基本的原理の理解が、本科目の到達目標である。

各回の授業計画:

1. ガイダンスと「法学」とは何か(対面講義)
・法と道徳の違い ・法の分類 ・法源(成文法、判例、慣習、条理) ・法解釈の必要性とその方法
2. 憲法と法律の違い(オンライン(オンデマンド動画配信))
・立憲主義、法の名宛人、法治国家と法の支配、国際社会と法
3. 学校における「いじめ」問題と法の役割(オンライン(オンデマンド動画配信))
・損害賠償 ・不法行為法
4. 労働法①(オンライン(オンデマンド動画配信))
・ブラック企業
5. 刑事法①(オンライン(オンデマンド動画配信))
・裁判員裁判の仕組みと問題点
6. 刑事法②(オンライン(オンデマンド動画配信))
・ストーカー行為規制
7. 労働法②(オンライン(オンデマンド動画配信))
・採用内定と法的規制 正規雇用と非正規雇用
8. 家族法①(オンライン(オンデマンド動画配信))
・家族の範囲
9. 家族法②:家族法の基本原理・婚約の法的効果ほか(オンライン(オンデマンド動画配信))
・婚姻(結婚)の法的要件・効果と夫婦の財産関係
10. 家族法③(オンライン(オンデマンド動画配信))
・離婚の法的効果
11. 家族法④(オンライン(オンデマンド動画配信))
・家族法④離婚の手続き・親子関係と親権
12. ハラスメントと法(オンライン(オンデマンド動画配信))
・損害賠償 ・不法行為法
13. 民事法①(オンライン(オンデマンド動画配信))
・賃貸住宅をめぐるトラブル一敷金と敷引特約
14. 民事法② (オンライン(オンデマンド動画配信))
・被災と住宅ローン減免の可否
15. 刑事法・行政法(警察)・民事法(オンライン(オンデマンド動画配信))
・ドメスティック・バイオレンス(DV)とデートDV

特記事項: 授業方法:対面による講義(第1回)とteamsを用いたオンデマンド動画配信による講義(第2回～第15回)で行うが、双方向理解を目的として質疑応答(teamsチャットの場合は随時)も交える。

授業方法: ★オンライン授業(ただし初回の対面授業を含む)

初回に対面による講義を実施します。

01. 講義(対面による授業内容および成績評価方法に関するガイダンス)

02. Teamsによるオンデマンド講義動画と課題提示
03. Teamsによるオンデマンド講義動画と課題提示
04. Teamsによるオンデマンド講義動画と課題提示
05. Teamsによるオンデマンド講義動画と課題提示
06. Teamsによるオンデマンド講義動画と課題提示
07. Teamsによるオンデマンド講義動画と課題提示
08. Teamsによるオンデマンド講義動画と課題提示
09. Teamsによるオンデマンド講義動画と課題提示
10. Teamsによるオンデマンド講義動画と課題提示
11. Teamsによるオンデマンド講義動画と課題提示
12. Teamsによるオンデマンド講義動画と課題提示
13. Teamsによるオンデマンド講義動画と課題提示
14. Teamsによるオンデマンド講義動画と課題提示
15. Teamsによるオンデマンド講義動画と課題提示

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

教科書の該当箇所を予習（90分）および復習（90分）すること（各回計180分）
1.「法学」とは何か（180分）
・法と道徳の違い ・法の分類 ・法源（成文法、判例、慣習、条理） ・法解釈の必要性とその方法
2. 憲法と法律の違い（180分）
・法治国家と法の支配、国際社会と法
3. 学校における「いじめ」問題と法の役割（180分）
・損害賠償 ・不法行為法
4. 労働法①（180分）
・ブラック企業
5. 刑事法①（180分）
・裁判員裁判の仕組みと問題点
6. 刑事法②（180分）
・ストーカー行為規制
7. 労働法②（180分）
・採用内定と法的規制 正規雇用と非正規雇用
8. 家族法①（180分）
・家族の範囲
9. 家族法②：家族法の基本原理・婚約の法的効果ほか（180分）
・婚姻（結婚）の法的要件・効果と夫婦の財産関係
10. 家族法③（180分）
・離婚の法的効果
11. 家族法④（180分）
・家族法④離婚の手続き・親子関係と親権
12. ハラスメントと法（180分）
・損害賠償 ・不法行為法
13. 民事法①（180分）
・賃貸住宅をめぐるトラブル一敷金と敷引特約
14. 民事法② （180分）
・被災と住宅ローン減免の可否
15. 刑事法・行政法（警察）・民事法（180分）
・ドメスティック・バイオレンス（DV）とデートDV

評価方法：

授業へのとりくみ：	5 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	課題へのとりくみ		95 **%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

1. 授業へのとりくみ
・現代社会における法的問題を学ぶ意欲・関心・姿勢が授業の取り組みに表れている（60～69点）。
・ 現代社会における法的問題に対して、自ら積極的に関わりを持ちながら授業へ参加し、内容への発言や質問をする取り組みがなされている（80～100点）。

2. 課題
・ 各トピックスで学んだことに関して、現代社会における法的問題をある程度理解している（60～69点）。
・ 各トピックスで学んだことに関して、現代社会における法的問題を理解し、説明することができる（80～100点）。

課題は、毎回、teamsを用いて出題する。
課題の出題内容は配信動画、配付資料（教科書ではあまり詳しく触れられていない項目）および教科書の記載事項内からとする。
定期試験は実施しない。課題の累積点により総合評価する。

課題へのフィードバック：

フィードバックは、毎回、teamsまたはformsを用いて行う。

教科書: 教科書:阿部昌樹＝和田仁孝 編『新入生のためのリーガルトピック』(法律文化社・2016年)
ISBN:9784589037138

参考書: 参考書:大谷實編著『エッセンシャル法学 (第7版)』(成文堂・2019)
ISBN:9784792306403

授業・準備学習のアドバイス:

出欠について
毎回の課題への提出をもって出欠確認とする。

学習のアドバイス
テキストの字面を追うだけではなく、法的問題を具体的に頭の中でイメージ(映像化)してみましょう。自分が法的紛争の当事者になったつもりで講義を理解するとよいです。他人事として捉えるとなかなか理解しづらいかもしれません。

質問は遠慮せず、気軽にしてください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 社会学

クラス: ★

授業コード: B210200001

担当者: 間渕 泰尚　　**単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: みなさんは社会についてどのくらい分かっているでしょうか？社会を知るということは、単に知識量が多いことを意味するのではありません。社会について「考える」ことが必要です。そのために役に立つのが社会学という「考える方法」なのです。この授業では現代社会における様々な問題について、社会学というツールを通して考えることで、社会への理解を深めることを目的とします。

到達目標:
1. 現代社会における人々の生活や、それが引き起こす社会問題について理解を深める。
2. 社会について理論的に考える方法が分かる。
3. 自分の経験や知識を相対化することができる。

各回の授業計画:

1. イントロダクション（対面）
2. 社会学の方法（オンライン―オンデマンド）
3. 孤人化する社会と親密性の罠－氾濫する親密性（オンライン―オンデマンド）
4. 孤人化する社会と親密性の罠－親密性の本性、そしてそのゆくえ（オンライン―オンデマンド）
5. 学校から職業へ－生き方のイメージはどのようにつくられるか（オンライン―オンデマンド）
6. 学校から職業へ－大衆教育社会と「自己実現」規範（オンライン―オンデマンド）
7. 地域社会の崩壊と再生の模索－岐路に立つ地域社会（オンライン―オンデマンド）
8. 地域社会の崩壊と再生の模索－地域社会の社会学的分析（オンライン―オンデマンド）
9. 豊かな社会の格差と不平等－総中流社会から格差・不平等社会へ（オンライン―オンデマンド）
10. 豊かな社会の格差と不平等－現代の社会階層（オンライン―オンデマンド）
11. 「ジェンダーフリー」のゆくえ－ジェンダー視点で近現代日本社会を見る（オンライン―オンデマンド）
12. 「ジェンダーフリー」のゆくえ－社会制度の問題とアイデンティティの問題の相克（オンライン―オンデマンド）
13. 21世紀社会と人類の幸福－人類の幸福としての「圧倒的な非対称」（オンライン―オンデマンド）
14. 21世紀社会と人類の幸福－グローバル化の悪夢と、そこからの脱出（オンライン―オンデマンド）
15. まとめ（オンライン―オンデマンド）

特記事項: なし

授業方法: 毎回教科書の指定された範囲を読み、必要に応じて補足教材も使って課題をまとめて提出してもらう。課題が提出された後で全体に対して補足とフィードバックを行う。この「学習→課題提出→フィードバック確認」までで1回分の学修だと考えてもらいたい。つまり、課題提出の段階で内容を100%理解できなくてもよい。
なお、適宜質疑応答チャンネルを通じたディスカッションを実施したい。

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

各回、予習としてテキスト該当箇所の精読に80分、復習として授業内容およびテキスト該当箇所の再読に80分の学修を行うことが望ましい。最終試験の準備には全体的な復習の時間も含めて300分程度の学修時間を想定している。

評価方法:

授業へのとりくみ:	30	**%**	**確認テスト:**	70	**%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準:
【望ましい到達度（80～100点）】
・毎回の授業を通じて社会学の考察対象と考察方法をよく理解し、社会的な問題について記述できる。
【最低限の到達度（60～69点）】
・毎回の授業を通じて社会学の概要をつかみ、社会的な問題に対して最低限の記述ができる。

課題へのフィードバック:

最終試験の講評を掲示する。

教科書: 友枝敏雄編 2013『Do！ソシオロジー -- 現代日本を社会学で診る 改訂版』有斐閣アルマ

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

事前に教科書の該当箇所を読み、疑問点等を明らかにしておきましょう。その時に、「自分が知っていること」とのズレを意識しておくことが大事です。高校までの社会科とは違った方法で社会について考えていきましょう。
また課題の目的は「どこかに書いてある正解を探して来る」ことではありません。「自分の頭で考えてみる」ことに意義があります。フィードバックを確認することで、自分の考えを発展させてください。
「授業への取り組み」は、毎回書いてもらう課題を含みます。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 日本国憲法

クラス: ★ス

授業コード: B210300001

担当者: 小野 晃正 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教員免許法施行規則第66条の6に定める必修科目(日本国憲法)

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 憲法は、専断的になりがちな公権力(立法・行政・司法)を分立させると同時に、国民主権の原理により公権力に制限ないし規制を加え、国民の基本的権利を広く保障しようとする国家の基礎法である。こうした理由から憲法の条文の大半は権力機関を主な名宛人としている。
日本国憲法は、国民主権・基本的人権の保障・平和主義を基本原理として掲げ、人権保障規定とそれを担保するための統治機構の規定から主に構成されている。
これらの規定の解釈とその適用について、国民と統治機構の間で争われる「基本的人権」及び「統治」をめぐる憲法上の諸問題について、理解力向上と思考力の涵養を図ることが本科目の目的である。

到達目標: 日本国憲法の規定をめぐり争われる、基本的人権及び統治機構に関する諸問題について、思考力の涵養を図ることが、本講義の主たる目標である。

各回の授業計画:

1. ガイダンスと「憲法」と「法律」の違い(対面講義)
2. 憲法と立憲主義(オンライン(オンライン動画配信講義))
3. 日本国憲法史(オンライン(オンライン動画配信講義))
4. 国民主権と平和主義(オンライン(オンライン動画配信講義))
5. 基本的人権の原理と限界(オンライン(オンライン動画配信講義))
6. 人権の主体(在日外国人の人権主体性)(オンライン(オンライン動画配信講義))
7. 法の下の平等(尊属殺重罰規定と尊属傷害致死罪重罰規定)(オンライン(オンライン動画配信講義))
8. 精神的自由権(1)(思想良心の自由、学問の自由)(オンライン(オンライン動画配信講義))
9. 精神的自由権(2)(信教の自由と政教分離)(オンライン(オンライン動画配信講義))
10. 精神的自由権(3)(表現の自由)(オンライン(オンライン動画配信講義))
11. 経済的自由権(職業選択の自由と財産権の保障)(オンライン(オンライン動画配信講義))
12. 人身の自由(適正手続の保障、被疑者と被告人の権利、死刑制度)(オンライン(オンライン動画配信講義))
13. 社会権(社会保障と労働基本権)(オンライン(オンライン動画配信講義))
14. 包括的人権(幸福追求権)(オンライン(オンライン動画配信講義))
15. 統治機構とまとめ(オンライン(オンライン動画配信講義))

特記事項: なし

授業方法: ★オンライン授業(ただし初回のみ対面授業を含む)

初回に対面による講義を実施します。
01. 対面講義(対面による授業内容および成績評価方法のガイダンス)
02. Teamsによるオンデマンド講義動画と課題提示
03. Teamsによるオンデマンド講義動画と課題提示
04. Teamsによるオンデマンド講義動画と課題提示
05. Teamsによるオンデマンド講義動画と課題提示
06. Teamsによるオンデマンド講義動画と課題提示
07. Teamsによるオンデマンド講義動画と課題提示
08. Teamsによるオンデマンド講義動画と課題提示
09. Teamsによるオンデマンド講義動画と課題提示
10. Teamsによるオンデマンド講義動画と課題提示
11. Teamsによるオンデマンド講義動画と課題提示
12. Teamsによるオンデマンド講義動画と課題提示
13. Teamsによるオンデマンド講義動画と課題提示
14. Teamsによるオンデマンド講義動画と課題提示
15. Teamsによるオンデマンド講義動画と課題提示

予習・復習・宿題など(内容・時間):

復習項目
1. 立憲主義についてノートを整理すること(180分)
2. 日本国憲法が制定された経緯についてノートを整理すること(180分)
3. 国民主権についてノートを整理すること(180分)
4. 基本的人権の原理と限界についてノートを整理すること(180分)
5. 人権の主体(在日外国人の人権主体性)についてノートを整理すること(180分)
6. 法の下の平等(尊属殺重罰規定と尊属傷害致死罪重罰規定)についてノートを整理すること(180分)
7. 精神的自由権(1)(思想良心の自由、学問の自由)についてノートを整理すること(180分)
8. 精神的自由権(2)(信教の自由と政教分離)についてノートを整理すること(180分)
9. 精神的自由権(2)(表現の自由)についてノートを整理すること(180分)
10. 経済的自由権(職業選択の自由と財産権の保障)についてノートを整理すること(180分)
11. 人身の自由(適正手続の保障、被疑者と被告人の権利、死刑制度)についてノートを整理すること(180分)
12. 社会権(社会保障と労働基本権)についてノートを整理すること(180分)
13. 包括的人権(幸福追求権)についてノートを整理すること(180分)
14. 国会・内閣・裁判所・地方自治についてノートを整理すること(180分)
15. 平和主義についてノートを整理すること(180分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	5	**%**	**確認テスト:**	-	**%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	課題へのとりくみ			95	**%**		
その他2:					**%**		

評価基準:

1. 授業へのとりくみ
・現代社会における日本国憲法上の諸問題を学ぶ意欲・関心・姿勢が授業の取り組みに表れている(60～69点)。
・現代社会における日本国憲法上の諸問題に対して、自ら積極的に関わりを持ちながら授業へ参加し、内容への発言や質問をする取り組みがなされている(80～100点)。

2. 課題
・ 各トピックスで学んだことに関して、現代社会における日本国憲法上の諸問題をある程度理解している(60～69点)。
・ 各トピックスで学んだことに関して、現代社会における日本国憲法上の諸問題を理解し、説明することができる(80～100点)。

課題は、毎回、teamsを用いて出題する。
課題の出題内容は配信動画、配付資料(教科書ではあまり詳しく触れられていない項目)および教科書の記載事項内からとする。
定期試験は実施しない。

課題へのフィードバック:

フィードバックは、毎回、teamsやformsを用いて行う。

教科書: 君塚正臣ほか『大学生のための憲法(第2版)』(法律文化社・2024)
ISBN-13: 978-4589043344

参考書: 参考書:芦部信喜著(高橋和之補訂)『憲法 (第8版)』(岩波書店・2023)
ISBN:9784000616072

授業・準備学習のアドバイス:

出欠について
毎回の課題への提出をもって出欠確認とする。

学習のアドバイス
テキストの字面を追うだけではなく、法的問題を具体的に頭の中でイメージ(映像化)してみましょう。
自分が法的紛争の当事者になったつもりで講義を理解するとよいです。他人事として捉えるとなかなか理解しづらいかもしれません。

質問は遠慮せず、teamsのチャットを用いて気軽にしてください。

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 日本国憲法

クラス: ★幼保/小+

授業コード: B210300002

担当者: 小野 晃正 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教員免許法施行規則第66条の6に定める必修科目(日本国憲法)

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 憲法は、専断的になりがちな公権力(立法・行政・司法)を分立させると同時に、国民主権の原理により公権力に制限ないし規制を加え、国民の基本的権利を広く保障しようとする国家の基礎法である。こうした理由から憲法の条文の大半は権力機関を主な名宛人としている。
日本国憲法は、国民主権・基本的人権の保障・平和主義を基本原理として掲げ、人権保障規定とそれを担保するための統治機構の規定から主に構成されている。
これらの規定の解釈とその適用について、国民と統治機構の間で争われる「基本的人権」及び「統治」をめぐる憲法上の諸問題について、理解力向上と思考力の涵養を図ることが本科目の目的である。

到達目標: 日本国憲法の規定をめぐり争われる、基本的人権及び統治機構に関する諸問題について、思考力の涵養を図ることが、本講義の主たる目標である。

各回の授業計画:

1. ガイダンス一憲法と法律の違い(対面講義)
2. 憲法の基本概念と憲法制定の歴史(対面講義)
3. 国民主権と平和主義(オンライン(オンデマンド動画配信講義))
4. 基本的人権の原理と限界(オンライン(オンデマンド動画配信講義))
5. 人権の主体(在日外国人の人権主体性)(オンライン(オンデマンド動画配信講義))
6. 法の下の平等(尊属殺重罰規定と尊属傷害致死罪重罰規定)(オンライン(オンデマンド動画配信講義))
7. 精神的自由権(1)(思想良心の自由、学問の自由)(オンライン(オンデマンド動画配信講義))
8. 精神的自由権(2)(信教の自由と政教分離)(オンライン(オンデマンド動画配信講義))
9. 精神的自由権(3)(表現の自由)(オンライン(オンデマンド動画配信講義))
10. 経済的自由権(職業選択の自由と財産権の保障)(オンライン(オンデマンド動画配信講義))
11. 人身の自由(適正手続の保障、被疑者と被告人の権利、死刑制度)(オンライン(オンデマンド動画配信講義))
12. 社会権(社会保障と労働基本権)(オンライン(オンデマンド動画配信講義))
13. 包括的人権(幸福追求権)(オンライン(オンデマンド動画配信講義))
14. 国会・内閣・裁判所・地方自治(対面講義)
15. 基本的人権と統治機構に関するまとめ(対面講義)

特記事項: なし

授業方法: ★オンライン授業(ただし5回の対面授業を含む)

01、02、14、15回に「対面による講義」を実施します。

01. 講義(対面による講義)
02. 講義(対面による講義)
03. Teamsによるオンデマンド講義動画と課題提示
04. Teamsによるオンデマンド講義動画と課題提示
05. Teamsによるオンデマンド講義動画と課題提示
06. Teamsによるオンデマンド講義動画と課題提示
07. Teamsによるオンデマンド講義動画と課題提示
08. Teamsによるオンデマンド講義動画と課題提示
09. Teamsによるオンデマンド講義動画と課題提示
10. Teamsによるオンデマンド講義動画と課題提示
11. Teamsによるオンデマンド講義動画と課題提示
12. Teamsによるオンデマンド講義動画と課題提示
13. Teamsによるオンデマンド講義動画と課題提示
14. 講義(対面による講義)

15. 講義（対面による講義）

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

復習項目
1. 立憲主義についてノートを整理すること（180分）
2. 日本国憲法が制定された経緯についてノートを整理すること（180分）
3. 国民主権についてノートを整理すること（180分）
4. 基本的人権の原理と限界についてノートを整理すること（180分）
5. 人権の主体（在日外国人の人権主体性）についてノートを整理すること（180分）
6. 法の下の平等（尊属殺重罰規定と尊属傷害致死罪重罰規定）についてノートを整理すること（180分）
7. 精神的自由権（1）（思想良心の自由、学問の自由）についてノートを整理すること（180分）
8. 精神的自由権（2）（信教の自由と政教分離）についてノートを整理すること（180分）
9. 精神的自由権（2）（表現の自由）についてノートを整理すること（180分）
10. 経済的自由権（職業選択の自由と財産権の保障）についてノートを整理すること（180分）
11. 人身の自由（適正手続の保障、被疑者と被告人の権利、死刑制度）についてノートを整理すること（180分）
12. 社会権（社会保障と労働基本権）についてノートを整理すること（180分）
13. 包括的人権（幸福追求権）についてノートを整理すること（180分）
14. 国会・内閣・裁判所・地方自治についてノートを整理すること（180分）
15. 平和主義についてノートを整理すること（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	5 **%**	**確認テスト：**	− **%**	**レポート：**	− **%**
その他1：	課題へのとりくみ		95 **%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

1. 授業へのとりくみ
・現代社会における日本国憲法上の諸問題を学ぶ意欲・関心・姿勢が授業の取り組みに表れている（60～69点）。
・現代社会における日本国憲法上の諸問題に対して、自ら積極的に関わりを持ちながら授業へ参加し、内容への発言や質問をする取り組みがなされている（80～100点）。

2. 課題
・ 各トピックスで学んだことに関して、現代社会における日本国憲法上の諸問題をある程度理解している（60～69点）。
・ 各トピックスで学んだことに関して、現代社会における日本国憲法上の諸問題を理解し、説明することができる（80～100点）。

課題は、毎回、teamsを用いて出題する。
課題の出題内容は配信動画、配付資料（教科書ではあまり詳しく触れられていない項目）および教科書の記載事項内からとする。
定期試験は実施しない。

課題へのフィードバック：

フィードバックは、毎回、teamsやformsを用いて行う。

教科書：

君塚正臣ほか『大学生のための憲法（第2版）』（法律文化社・2024）
ISBN-13: 978-4589043344

参考書：

参考書：芦部信喜著（高橋和之補訂）『憲法 （第8版）』（岩波書店・2023）
ISBN：9784000616072

授業・準備学習のアドバイス：

出欠について
毎回の課題への提出をもって出欠確認とする。

学習のアドバイス
テキストの字面を追うだけではなく、法的問題を具体的に頭の中でイメージ（映像化）してみましょう。
自分が法的紛争の当事者になったつもりで講義を理解するとよいです。他人事として捉えるとなかなか理解しづらいかもしれません。

質問は遠慮せず、気軽にしてください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 日本国憲法

クラス: ★小中高/心/国

授業コード: B210300003

担当者: 小野 晃正 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教員免許法施行規則第66条の6に定める必修科目(日本国憲法)

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 憲法は、専断的になりがちな公権力(立法・行政・司法)を分立させると同時に、国民主権の原理により公権力に制限ないし規制を加え、国民の基本的権利を広く保障しようとする国家の基礎法である。こうした理由から憲法の条文の大半は権力機関を主な名宛人としている。
日本国憲法は、国民主権・基本的人権の保障・平和主義を基本原理として掲げ、人権保障規定とそれを担保するための統治機構の規定から主に構成されている。
これらの規定の解釈とその適用について、国民と統治機構の間で争われる「基本的人権」及び「統治」をめぐる憲法上の諸問題について、理解力向上と思考力の涵養を図ることが本科目の目的である。

到達目標: 日本国憲法の規定をめぐり争われる、基本的人権及び統治機構に関する諸問題について、思考力の涵養を図ることが、本講義の主たる目標である。

各回の授業計画:

1. ガイダンス一憲法と法律の違い(対面講義)
2. 憲法の基本概念と憲法制定の歴史(対面講義)
3. 国民主権と平和主義(オンライン(オンデマンド動画配信講義))
4. 基本的人権の原理と限界(オンライン(オンデマンド動画配信講義))
5. 人権の主体(在日外国人の人権主体性)(オンライン(オンデマンド動画配信講義))
6. 法の下の平等(尊属殺重罰規定と尊属傷害致死罪重罰規定)(オンライン(オンデマンド動画配信講義))
7. 精神的自由権(1)(思想良心の自由、学問の自由)(オンライン(オンデマンド動画配信講義))
8. 精神的自由権(2)(信教の自由と政教分離)(オンライン(オンデマンド動画配信講義))
9. 精神的自由権(3)(表現の自由)(オンライン(オンデマンド動画配信講義))
10. 経済的自由権(職業選択の自由と財産権の保障)(オンライン(オンデマンド動画配信講義))
11. 人身の自由(適正手続の保障、被疑者と被告人の権利、死刑制度)(オンライン(オンデマンド動画配信講義))
12. 社会権(社会保障と労働基本権)(オンライン(オンデマンド動画配信講義))
13. 包括的人権(幸福追求権)(オンライン(オンデマンド動画配信講義))
14. 国会・内閣・裁判所・地方自治(対面講義)
15. 基本的人権と統治機構に関するまとめ(対面講義)

特記事項: なし

授業方法: ★オンライン授業(ただし4回の対面授業を含む)

01、02、14、15回に「対面による講義」を実施します。

01. 講義(対面による講義)
02. 講義(対面による講義)
03. Teamsによるオンデマンド講義動画と課題提示
04. Teamsによるオンデマンド講義動画と課題提示
05. Teamsによるオンデマンド講義動画と課題提示
06. Teamsによるオンデマンド講義動画と課題提示
07. Teamsによるオンデマンド講義動画と課題提示
08. Teamsによるオンデマンド講義動画と課題提示
09. Teamsによるオンデマンド講義動画と課題提示
10. Teamsによるオンデマンド講義動画と課題提示
11. Teamsによるオンデマンド講義動画と課題提示
12. Teamsによるオンデマンド講義動画と課題提示
13. Teamsによるオンデマンド講義動画と課題提示
14. 講義(対面による講義)

15. 講義（対面による講義）

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

復習項目
1. 立憲主義についてノートを整理すること（180分）
2. 日本国憲法が制定された経緯についてノートを整理すること（180分）
3. 国民主権についてノートを整理すること（180分）
4. 基本的人権の原理と限界についてノートを整理すること（180分）
5. 人権の主体（在日外国人の人権主体性）についてノートを整理すること（180分）
6. 法の下の平等（尊属殺重罰規定と尊属傷害致死罪重罰規定）についてノートを整理すること（180分）
7. 精神的自由権（1）（思想良心の自由、学問の自由）についてノートを整理すること（180分）
8. 精神的自由権（2）（信教の自由と政教分離）についてノートを整理すること（180分）
9. 精神的自由権（2）（表現の自由）についてノートを整理すること（180分）
10. 経済的自由権（職業選択の自由と財産権の保障）についてノートを整理すること（180分）
11. 人身の自由（適正手続の保障、被疑者と被告人の権利、死刑制度）についてノートを整理すること（180分）
12. 社会権（社会保障と労働基本権）についてノートを整理すること（180分）
13. 包括的人権（幸福追求権）についてノートを整理すること（180分）
14. 国会・内閣・裁判所・地方自治についてノートを整理すること（180分）
15. 平和主義についてノートを整理すること（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	5	**%**	**確認テスト：**	－	**%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	課題へのとりくみ			95	**%**		
その他2：					**%**		

評価基準：

1. 授業へのとりくみ
・現代社会における日本国憲法上の諸問題を学ぶ意欲・関心・姿勢が授業の取り組みに表れている（60～69点）。
・現代社会における日本国憲法上の諸問題に対して、自ら積極的に関わりを持ちながら授業へ参加し、内容への発言や質問をする取り組みがなされている（80～100点）。

2. 課題
・ 各トピックスで学んだことに関して、現代社会における日本国憲法上の諸問題をある程度理解している（60～69点）。
・ 各トピックスで学んだことに関して、現代社会における日本国憲法上の諸問題を理解し、説明することができる（80～100点）。

課題は、毎回、teamsを用いて出題する。
課題の出題内容は配信動画、配付資料（教科書ではあまり詳しく触れられていない項目）および教科書の記載事項内からとする。
定期試験は実施しない。

課題へのフィードバック：

フィードバックは、毎回、teamsやformsを用いて行う。

教科書：

君塚正臣ほか『大学生のための憲法（第2版）』（法律文化社・2024）
ISBN-13: 978-4589043344

参考書：

参考書：芦部信喜著（高橋和之補訂）『憲法 （第8版）』（岩波書店・2023）
ISBN：9784000616072

授業・準備学習のアドバイス：

出欠について
毎回の課題への提出をもって出欠確認とする。

学習のアドバイス
テキストの字面を追うだけではなく、法的問題を具体的に頭の中でイメージ（映像化）してみましょう。
自分が法的紛争の当事者になったつもりで講義を理解するとよいです。他人事として捉えるとなかなか理解しづらいかもしれません。

質問は遠慮せず、気軽にしてください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 政治学

クラス:

授業コード: B210400001

担当者: 橘 秀和 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 政治活動や国際関係の実際を考察します。

到達目標: 世界で発生している諸問題を、「常識」や「固定観念」にとらわれることなく、様々な視点から考察できるようになることを目指します。

各回の授業計画:

1. ＜ガイダンス＞
2. メディアと政治
3. 災害援助と「国益」／食糧援助と「国益」
4. 医薬品利権／医薬品植民地主義
5. 環境汚染の実際／環境問題と国際関係
6. 水資源の民営化と戦争
7. 戦争の民営化－軍から民へ－／－民から軍へ－
8. ナチス・ドイツと国際関係
9. 臓器移植問題と国際関係／医療問題と「国益」
10. 日本の領土問題
11. ダイアモンド利権と国連平和維持活動
12. 「子ども兵」問題
13. 動物と戦争
14. 宗教団体と国際政治
15. 劣化ウラン弾という核兵器

特記事項: 上記事項は過去の「政治学」において実際に行った授業内容です。この「政治学」では時事的要素、および受講生の興味・関心の内容を重視していますので、必ずしもこの計画通りに進めるわけではないことを注意しておいて下さい。また、受講生の態度如何によって「授業へのとりくみ（≒出席点）」の取り扱いを変更することがあります。詳細はガイダンスの時に説明します。

授業方法: ①～⑮ 講義（すべての授業を対面で行う）

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

授業の性質上、復習に力点を置いています。各回の授業で取り上げたテーマに関し、新聞や雑誌、あるいはインターネットなどを活用して、自分なりに調べ直す（各回180分）ことが望ましいです。

評価方法:

授業へのとりくみ:	20 %	**確認テスト:**	－ %	**レポート:**	80 %
その他1:			%		
その他2:			%		

評価基準:
優 当該問題に関する豊富な知識があり、かつ独自の視点を持っている。
良 当該問題に関する一般的な知識と認識がある。
可 当該問題に関する最低限度の知識と認識がある。

課題へのフィードバック:

レポートに対するフィードバックを後日希望する場合は、大学当局を通じて連絡してください。

教科書: なし。授業資料を作成して配布します。

参考書: なし。

授業・準備学習のアドバイス:

新聞や雑誌などの記事を確認し、様々な問題の背景を探っていきます。
受講生の皆さんには、積極的に発言して欲しいと思います。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 経済学

クラス:

授業コード: B210500001

担当者: 西岡 幹雄 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 社会において，経済がもっとも身近で基本的な事柄であるのにもかかわらず，これを理解することがむずかしいのは，その根底にある考え方や背景がどのような経緯を経てできたのかをたどらないままで扱うからです.
経済学とは，このような社会にとって，土台となる経済の現状とその背後にある考え方を取り上げていきます．学生の皆さんが先行している科目との関連を考慮しながら，経済社会の危険と発展を支える内部事情と外部環境，そしてその基盤をとらえるために，どのような視点が重要なのかを考えていくことは，今後のAI，コロナ状況下の世界，あるいは社会のデータ化に向かって経済においても，多様で統一感のある自分を見いだすことができる第一歩になります.

到達目標: 難しいと思われがちな経済テーマについて，商品やサービスを造り，これらを人々に配分する仕組みとはどうなっているのか，そうした商品やサービスの仲立ちをする「貨幣」やクレジットカードはどうして誕生したのか.
そうした日常生活の視点から最新の経済情勢やトレンドまでを学ぶことは，皆さんが，現代を生きるうえで，なにがもっとも重要なのかを発見できます.
「経済学」を通じて，社会の潮流にかかわる理解ができるとともに，現代と世界を生きるうえで，AI や世界の激変にも負けないヴィジョン力を育成するできます.

各回の授業計画:

1.【経済と経済学】
「経済」とは何か？「経済学」とはどのようなことを扱う科目なのか？ 経済と経済学について，全体を大まかに見わたします.

2.【経済を動かす仕組と構成要素】
経済を動かす構成要素(生産者，消費者，企業，銀行や政府など)とそれをまとめているマーケット(市場)について取り上げます．そしてそれがどのように流れ発展して，皆さんに幸福をもたらすのかを見つめます.

3.【需要と供給とは何か】
需要と供給によって価格が決まるが，これをどうして市場メカニズムというのかに関して取り上げます．。

4.【市場と国民経済・国際経済】
市場と国民経済・国際経済を取り扱う経済学，あるいはミクロ経済学とマクロ経済学それぞれについて，簡単に解説します.

5.【企業家と経済社会】
社会の過去・現在・将来をつなぐために，今日の経済では企業家がもっとも重要な要素ですが，これはどのように特徴づけられるのかを説明します.

6.【不確実性・危険と経済】
現代は，リスクに満ちあふれた環境にあります．しかし，リスクを考慮しないで人間は活きることはできません．コロナの状況だからといって日常生活を無視することができないのと同じです．リスクをできるだけ小さくして，人々がどのような行動をすれば幸せになるのかを考えます.

7.【市場の役割とゲーム的な世界】
人間がどのような意思決定をしながら，社会を構成・発展させていくのかを扱う秩序と全体を分析します.

8.【人間の認知の限界と社会】
人間には，情報を正しく認識し，適切に処理できる能力について，限界があります．この限界を理解し，超えることを見出すことこそ，日常生活を送るうえで実は重要なのです．うまく情報とつきあう方法と人間の認知の限界（限定合理性）と人間が感じる時間の主観的な違い（時間の非整合性）を考えます.

9.【中間評価要点・議論・復習・レポート】
授業 1回目から8回目にかけて行われた授業を参考にして，皆さんが専攻している科目や関心を持った経済社会ニュースなどにもとづいて，グループディスカッションによるグループワークおよびグループワークを踏まえて，中間レポートの作成.

10.【大統領の経済学(1) ー大恐慌から現代の米国大統領のリーダーシップを考える】
1930年代から現在まで，どのように評価されるにせよ，世界を支え続けてきたのはUSA（米国）であり，そのパワーの中心は，歴代の大統領による強力なリーダーシップでした．アメリカ大統領の指導力に依拠した世界の繁栄は，21 世紀以降も続くのでしょうか.
授業では2回に分けて，大恐慌から現代の米国大統領を素材にして，世界経済の形成を勉強します.

11.【大統領の経済学(2) ー摩擦と分断】
米国と世界経済の分断と連携．コロナ危機と地政学的リスクがもたらす経済学の変貌，自然環境の猛威そして 21 世紀経済が直面する ESG とSDGs の視点.

12.【日本の歴史と経済の歩み(1)ー近代日本の経済と社会】
「文明開化」，格差社会の萌芽，体系的な経済学の導入，そして大恐慌.

13.【日本の歴史と経済の歩み(2) －戦後復興期と高度経済成長の時代】
第二次大戦後から日本経済の歩みと高度経済成長の時代を扱います.

14.【日本の歴史と経済の歩み(3) －現代日本の経済と社会】
バブル崩壊からデフレ経済，そして日本経済の成長戦略へ，日本経済社会の再生と成長戦略としての「アベノミクス」と「サナエノミクス」の共通点と違い，日本の新たな知の集積・価値創造，そしてESG と SDGs の視点.

15.【経済と経済学とはどのような事柄であったのか・まとめ】
授業 1回目から14回目にかけて行われた授業の総復習．皆さんが専攻している科目や関心を持った経済社会ニュースを中心に，皆さんの専門とされる学科の学習・研究を進めていく上で，経済学はどのような内容や展望・意義を与えましたか．また，コロナ危機とその後の地政学的変化がもたらす経済社会の変貌，そしてこれらからの経済について考えていきましょう.

特記事項: 学生の皆さんが専攻している科目との関連を考慮しながら，社会の土台となる経済の現状とその背後にある考え方を取り上げていきます.

授業方法: 【対面】
(1) 講義ノートをPDFファイルにしていますので，各自ダウンロードしてください．この「神戸親和大学 経済学講義ノート 2025年版」テキストとして使います.
(2)毎回の授業についてはパワーポイントを掲げておきますので，事前に目を通しておいてください.
【講義】
1.【経済と経済学】について PDFファイル・テキストとパワーポイントにもとづいて授業
2.【経済を動かす仕組と構成要素】について PDFファイル・テキストとパワーポイントにもとづいて授業
3.【需要と供給とは何か】について PDFファイル・テキストとパワーポイントにもとづいて授業
4.【市場と国民経済・国際経済】について PDFファイル・テキストとパワーポイントにもとづいて授業
5.【企業家と経済社会】について PDFファイル・テキストとパワーポイントにもとづいて授業
6.【不確実性・危険と経済】について PDFファイル・テキストとパワーポイントにもとづいて授業
7.【市場の役割とゲーム的な世界】について PDFファイル・テキストとパワーポイントにもとづいて授業
8.【人間の認知の限界と社会】について PDFファイル・テキストとパワーポイントにもとづいて授業
9.【中間評価要点・議論・復習・レポート】授業 1回目から8回目にかけて行われた授業を参考にして，皆さんが専攻している科目や関心を持った経済社会ニュースなどにもとづいて，グループディスカッションによるグループワーク．およびグループワークを踏まえて，中間レポートの作成
10. 11.【大統領の経済学】について PDFファイル・テキストとパワーポイントにもとづいて授業
12. 13. 14.【日本の歴史と経済の歩み】について PDFファイル・テキストとパワーポイントにもとづいて授業
15.【経済と経済学とはどのような事柄であったのか・まとめ】について PDFファイル・テキストとパワーポイントにもとづいて授業．および期末テストにむけてのこれまでの授業のまとめと学習

予習・復習・宿題など(内容・時間):

テレビ・インターネット等の経済ニュース解説，日本経済新聞や一般新聞紙の経済社会ニュース，経済ジャーナル紙など興味ある記事をチェックする．(60分×15=15時間)
1.「神戸親和大学 経済学講義ノート 2025年版」テキストにおいて毎回の授業内容がわかるので，これに授業前に目を通しておくこと.

講義の予習(予習:60分×15=15時間)
2. 毎回の授業のパワーポイント内容について事前に理解するように努めておいてください.
3.「経済」とは何か？「経済学」とはどのようなことを扱うのかをさまざまな情報機器を活用して事前に調べておくこと.
4. 以下，各回の授業計画に記された内容について，「神戸親和大学 経済学講義ノート 2025年版」テキストや毎回の授業のパワーポイントの内容を参考にして，それぞれのトピックに関する自分の意見をまとめること.
5. 4. に関連してそれらトピックの内在するメリットとデメリットを考え，これらについて明らかにすること.

授業で学んだことをしっかりまとめて，自分自身で考えを述べるようにできること(復習:60分×15=15時間)
1. 以下，各回の授業で行われた内容について，「神戸親和大学 経済学講義ノート 2025年版」テキストにしたがって，自分の見解をまとめること.
2. 毎回行われた授業のパワーポイントを，日常生活や日本・世界の中でどのように活用できるかを考えて，これを復習学習に繋げることつなげること.
3. 経済という科目がその他の人文・社会科学と比べてどのような特徴があったかを理解できるようにしておくこと.
4. 今後の経済のあり方を考えると，経済学は，自然科学分野やAI・理工系統の分野とますます親近性を増すように考えられるけれども，これについて，自分自身の考え方の確立に努めること.
計:45時間

評価方法:

授業へのとりくみ:	15 **%**	**確認テスト:**	60 **%**	**レポート:**	25 **%**
その他1:			**%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度(60-69点)】
・中間レポート
授業で扱った「神戸親和大学 経済学講義ノート 2025年版」および毎回の授業で活用したパワーポイントを通じて，経済の基本的なメカニズムを理解し，経済学のレポートが書けること.
・期末テスト
記述・論述問題を予定しているので，毎回の授業を総合して理解した記述・論述問題解答が作成できること.

【最低限の到達度(80-100点)】
・中間レポート

授業で扱った「神戸親和大学 経済学講義ノート 2025年版」および毎回の授業で活用したパワーポイントを通じて，経済の基本的なあり方に対してすぐれた経済学レポートをまとめることができる.
・期末テスト
記述・論述問題を予定しているので，授業に内容について総合的にすぐれた理解を明示できる記述・論述問題の解答になっていること.

課題へのフィードバック：

中間レポートを作成するにあたっては，まずそれまでに教室内で講義された内容を受講生内で共有するためにディスカッションを行った上で，中間レポートの提出を求めた.
中間レポートの提出後は，これを期末テストの記述・論述に活かすための材料とした. さらに中間レポート提出後の講義内容も加えた上で，期末テストの準備は，これらを教室内で共有・活用した.
期末試験は，以上のようなフィードバックの成果として，これまでの年度内の授業内容について総合的にすぐれた理解が得られるような工夫となっている.

教科書： 「神戸親和大学 経済学講義ノート 2026年版」(PDF)をテキストとして考えています.

参考書： 『スティグリッツ 経済学 第4版』(ジョセフ・スティグリッツ、カール・E・ウォルシュ／著、藪下史郎, 秋山太郎 他 訳 東洋経済印刷、2012)
池上 彰『池上彰のやさしい経済学[令和新版]のやさしい経済学[令和新版] 1 しくみがわかる』(テレビ東京報道局， 2023)
池上 彰『池上彰のやさしい経済学[令和新版]のやさしい経済学[令和新版] 2 ニュースがわかる』(テレビ東京報道局， 2023)
N・グレゴリー・マンキュー『マンキュー入門経済学(第4版)』(センゲージ・ラーニング, 2025)

授業・準備学習のアドバイス：

中間レポート：授業期間内に受講生の皆さんに具体的に指示します.
期末テスト：授業内容の理解習熟度を確認するための記述・論述問題を考えています.
とくに，授業中の積極的な質疑や取り組みを評価したいと思います.

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 世界の現状と課題

クラス:

授業コード: B210580001

担当者: 梶山 卓司 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:元神戸新聞記者、論説委員長。主に国際問題を担当。

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 長引くロシア・ウクライナ戦争とイスラエル・ガザ戦争に加え、トランプ米政権による強硬政策で世界は今、大きく揺らいでいる。複雑・多様化する国際社会の中、戦後築いてきた国際秩序が危機的な状況に直面している。なぜそうなったのか、原因と背景を正しく把握することは私たちに欠かせないものである。
授業では、トランプ米政権の実態と、2つの戦争の経緯を中心に世界が直面する諸課題について掘り下げ、政治・経済・社会・文化・教育・スポーツ等の分野別、また国・地域別に詳しく解説し、理解を深める。学生同士の意見交換を通して考える力や意見を発表する力、コミュニケーション力などを身につける。
さらに、さまざまな分野で活躍するゲスト講師を授業に招き、講義を深化・活性化する。

到達目標:
・世界の動き、ニュースに関心を持ち、分からないところはすぐに調べる。
・世界の動き、現状を歴史的な背景とともに正しく理解する。
・常に、多角的な視点でものごとを考える力を身につける。
・世界の動きを自分の問題としてとらえ、課題の解決策を探る。
・グローバルなものの見方・捉え方と、ローカルな行動力を養う。

各回の授業計画:

1. ガイダンス及び国際社会の現状:授業の進め方と、国際社会が直面する課題の意見交換
2. アメリカのトランプ政権と世界(1):トランプ政権2.0と、影響を受ける国際社会の現状
3. アメリカのトランプ政権と世界(2):トランプ政権2.0と、その後の国際社会の課題
4. ロシアとウクライナ戦争:ロシア侵攻の背景と、戦争の現状と今後の展望
5. イスラエルとガザ・ハマスの戦争:軍事衝突の背景と、その後の動き、課題
6. 「2つの戦争から浮き彫りになったこと」その1:国連の対応をめぐる現状と課題
7. 「2つの戦争から浮き彫りになったこと」その2:世界各国の対応と、国際社会の課題
8. 「2つの戦争から浮き彫りになったこと」その3:「核の脅威」その現状と課題
9. 「2つの戦争から浮き彫りになったこと」その4:「難民・避難民問題」その現状と課題
10. 「2つの戦争から浮き彫りになったこと」その5:「エネルギー、食料問題」その現状と課題
11. 世界が直面する課題① 「地球温暖化、気候変動」。その現状とわたしたちの暮らし
12. 世界が直面する課題②:「人口問題、少子高齢化問題」その現状と課題
13. 世界が直面する課題③:「格差、貧困問題」その現状と課題
14. 日本を取り巻く世界情勢①:中国、韓国、朝鮮半島などアジア諸国と日本
15. 日本を取り巻く世界情勢②:世界新秩序づくりの動きと、国際社会の対応・課題

特記事項: ＊最新の国際情勢をテーマにするため、授業内容を急きょ変更する場合があります。
＊ゲスト講師の授業は決まり次第通知し、授業計画を変更します。

授業方法:
1. 講義、グループ討議、発表
2. 講義、質疑応答
3. グループ討議・発表、講義
4. グループ討議の意見交換、講義
5. 講義、質疑応答
6. グループ討議、意見交換、講義
7. 講義、質疑応答
8. グループ討議、意見交換、講義
9. 講義、質疑応答
10. 講義、質疑応答
11. 講義、グループ討議
12. グループ討議の意見交換、講義
13. 講義、質疑応答

14. 講義、質疑応答、講義
15. 講義、質疑応答、意見交換
＊すべての授業を対面で行う。

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. 次週の課題文献を読み、論点を整理する（90分）
2. 授業の予習・復習（180分）
3. 授業の予習・復習（180分）
4. 授業の予習・復習（180分）
5. 授業の復習・予習（180分）
6. 授業の予習・復習（180分）
7. 授業の予習・復習（180分）
8. 授業の予習・復習（180分）
9. 授業の予習・復習（180分）
10. 授業の予習・復習（180分）
11. 授業の予習・復習（180分）
12. 授業の予習・復習（60分）最終レポート作成（180分）
13. 授業の予習・復習（60分）最終レポート作成（180分）
14. 授業の予習・復習（60分）最終レポート作成（180分）
15. 全授業の復習（90分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	50 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	50 **%**
その他1：			**%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

「評価方法」の1～2について、以下の基準を満たすことが求められます。
1. 授業への取り組み（授業態度、関心・意欲、発表など）
・受講態度がよく、世界情勢について正しく理解し、課題も説明できる（60～79点）
・受講態度がよく、世界情勢について歴史的な背景などを十分に調べて理解した上で直面する課題について意見発表できる（80～100点）
2. レポート
・課題に対して必要な文献などを読んだ上、自分の意見を交えて文章が書けている（60～79点）
・課題に対して必要な文献などを読んだ上、さまざまな角度から調査分析して論理的な文章が書けている（80～100点）
＊上記2項目について総合的に評価する。

課題へのフィードバック：

グループ討議で出た意見は、次週の授業で紹介し、情報共有する。
ゲスト講師の講義についてはその都度、感想文を提出する。

教科書： 特になし。必要に応じて参考資料を授業前日にTEAMSで送信する。

参考書： 特になし。

授業・準備学習のアドバイス：

世界の動き、情勢に関心を持ち、不明な点や疑問があれば文献や新聞などで調べること。また、今の世界の動きが私たちの暮らしにどうかかわっているかについても考えよう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 現代と金融

クラス: ★

授業コード: B210600001

担当者: 高橋 一夫 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:金融経済教育推進機構(J-FLEC)、日本FP協会、日本損害保険協会、生命保険文化センター、信託協会

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 少子高齢化の進展等に伴い，我が国の公的年金の財政状況は一段と厳しさを増す状況にある。自立した生活を送るためには，若年時から生涯を見通した家計管理や生活設計を考え，実践していく必要がある。特に学生時代には，就職における意思決定がその後の経済生活を大きく左右することへの認識を持つことや，労働の対価として得た収入を計画的に配分することなどをはじめ，税や社会保障の仕組みを含めた生活に必要な金融リテラシーを身に付けることが重要である。
本科目は我が国の金融の仕組みや金融取引に関する基礎的な知識を習得するとともに，実際の資産形成や資産運用に関わる実践的な能力の基盤を養うことを目的とする。

到達目標: 老後の生活設計を含め，現代社会においては，金融との関連なしに生活を営むことは不可能である。グローバル化を含め，社会システムが複雑化する日本においては金融サービスも多様化と高度化の様相を呈してきている。このような中，個人が安定的に将来の夢の実現やより良い生活を営むには，様々な危機を回避しながら，必要かつ適切な金融サービスの選択と効果的な資産形成や運用等の実践が求められる。本科目では，在学中及び社会に出てからも役に立つ税や社会保障の仕組みや金融と経済，金融取引に関する基礎知識や技能等を身に付け，自身で情報収集及び情報分析を行い，比較検討の上，合理的に判断して金融サービス等を利用する実践力(金融リテラシー)の向上を目指す。

各回の授業計画:

1. 導入―金融経済教育の重要性 ＜金融経済教育推進機構(J-FLEC)＞
(金融リテラシーの意義、各分野の概観)
BAアンケートの実施

2. 人生とお金・お金を稼ぐ ＜金融経済教育推進機構(J-FLEC)＞
(一生涯に付き合うお金、ライフプランニングの大切さ、大学卒業までにかかるお金、奨学金、金融リテラシーの必要性、働いて稼ぐこと、家計管理の考え方、収支管理の基本、社会保険の基本など)

3. お金と経済 ＜金融経済教育推進機構(J-FLEC)＞
(お金と経済活動、景気と賃金・物価・金利、景気と株価・債券価格、金利の知識、リスクとリターンなど)

4. 信託について ＜信託協会＞
(私たちの廻りで役立っている信託の仕組みとは)

5. ライフプランを描く① ＜日本FP協会＞
(ライフプランニングの考え方、人生における大きな支出など)

6. ライフプランを描く② ＜日本FP協会＞
(キャッシュフロー表の作り方・活かし方、キャッシュフロー表の見直し(課題)など)

7. お金を借りる① ＜金融経済教育推進機構(J-FLEC)＞
(いろいろな決済方法、「信用」とは、クレジットカード・ローンの仕組みと利用上の留意点など)

8. お金を借りる② ＜金融経済教育推進機構(J-FLEC)＞
(住宅ローンの仕組みと利用上の留意点、多重債務の予防など)

9. お金をふやす① ＜金融経済教育推進機構(J-FLEC)＞
(資産形成の意義、金融商品の選択、リスクとリターンの関係、長期・積立・分散投資の効果、NISAと確定拠出型年金、投資詐欺への注意など)

10. お金をふやす② ＜金融経済教育推進機構(J-FLEC)＞
(分散投資の意義、投資信託の仕組みと特徴など)
※キャッシュフロー表の見直し(課題)ワークシート回収

11. リスクに備える① ＜生命保険文化センター＞
(生活設計とリスク管理、リスクに備える保障手段、生命保険の契約と解約時の留意点など)

12. リスクに備える② ＜日本損害保険協会＞
(生活に潜むリスクと保険の役割、損害保険の仕組みと活用法など)

13.トラブルに強くなる ＜金融経済教育推進機構(J-FLEC)＞
(契約の基礎知識、若者が陥りやすい消費者トラブル・金融トラブルと注意点、消費者を守る法制度など)

14. ライフプランを描く③ ＜日本FP協会＞
(第6回課題に関する議論、重要な知識・ノウハウの確認など)

15. 全体総括 ＜金融経済教育推進機構(J-FLEC)＞
(重要事項の復習など／確認試験＜担当教員＞)

BAアンケートの実施

特記事項: なし

授業方法: ・第1回～第14回はオンデマンド形式のオンライン講義。動画やPDF資料などを閲覧し、内容を理解する。各回においてFormsを利用した課題に取り組む。
・第15回は対面形式の講義。確認試験を実施するため、ノートPC必携。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

第1回～第14回
(復習・予習)
各回のキーワードを復習するとともに金融リテラシー向上のためのeラーニング講座「マネビタ」
(https://www.shiruporuto.jp/public/document/container/e-learning/)を視聴し，キーワードに関して事前に調べたり，関連文献を調査したりして予習を行う(150分)

第15回
(復習)
これまでの学修について復習する(150分)

評価方法:	**授業へのとりくみ:**	40 **%**	**確認テスト:**	40 **%**	**レポート:**	20 **%**
	その他1:			**%**		
	その他2:			**%**		

評価基準: 以下の観点による総合評価とする。

【授業への取り組み】
第1回～第14回の課題(40%)
・各回の授業内容に合致し、適切な回答がなされていること。

【確認テスト】
第15回の確認試験(40%)
・第1回～第14回の授業内容を十分に理解できていること。

【レポート】
キャッシュフロー表の見直しワークシート(20%)
・課題の主旨を理解し、適切に見直しができていること。

課題へのフィードバック:

・予習や復習において調査した資料・文献等について，有益かつ必要な情報については全体で情報を共有する。

教科書: 各回において必要な資料をTeamsにて提示する。

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

・金融経済教育推進機構等のホームページから情報提供される有益かつ利用価値の高い情報を検索しながら，自分自身の収支管理、生活設計、資産形成に実際に活用してみることが望ましい。
・第15回は対面講義となるため出席することが必要となる。欠席について、大学が認めている以外の理由では一切の考慮をしない。
・第15回はノートPCを必携すること。スマホやタブレットなどでの確認試験の受験は認めない。
・第1回～第14回の課題について、AIでの出力をそのまま利用、もしくは自身の考えをもとに記述がなされていない、など不適切な回答については評価しない。

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 高大連携科目　教育

クラス: ★(教育ｸﾗｽ)

授業コード: B210800001

担当者: 岩濵　里江子、芝田　悦司　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:
〔岩濱〕幼稚園教諭、園長、教育委員会
〔芝田〕小学校教諭、校長、教育委員会

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 高校生と大学生が共に今の教育課題に関して具体的に取り組む活動を通して、主体的に学ぶことにより、思考力・判断力・表現力とともに、次代を生き抜く力を身につける。

到達目標: 今の教育課題について、実践的な活動を通して、まとめた内容を発表し、自身で評価することをめざす。

各回の授業計画:

1. 今の教育課題・教育現場の課題探究について
2. 活動計画の作成(仮説と実践的な探究)について
3. フィールドワーク
4. フィールドワーク
5. フィールドワーク
6. フィールドワーク
7. 活動のまとめ
8. 学びの交流会

特記事項: 大学生は対面、高校生はオンラインでの講義とします。

授業方法: 学校現場の現状と課題について学び、自ら考えたテーマに基づいて実践したフィールドワークを通じて、活動を通して学んだことをまとめ、発表ができるように学びを進めます。
大学生は対面、高校生はオンラインでの講義とします。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

活動計画作成について、事前事後の学びが必要となります。

評価方法:

授業へのとりくみ:	50	**%**	**確認テスト:**	－	**%**	**レポート:**	50 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準:

1. 活動に対する取り組み(関心・意欲・態度)
2. 活動のまとめの内容
3. 活動の発表による表現力

望ましい到達度(80～100点)活動の基本的な考え方を十分に理解し、高い探究心をもって意欲的に取り組むことができる。
標準的な到達度(70～79点)活動の基本的な考え方を理解し、探究心をもって意欲的に取り組むことができる。
最低限の到達度(60～69点)活動の基本的な考え方を自分なりに理解し、意欲的に取り組むことができる。

課題へのフィードバック:

活動や活動のまとめ・発表に際し、適宜助言・評価を行う。

教科書: なし

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

受講者の興味関心に応じた実践的な活動になります。フィールドワーク先のことについてホームページで調べたり、どんなことを見たり、どんな体験をしたいか考えましょう。また、職員の皆さんや、幼児、児童、生徒にどんな願いをもって、どのように関わりたいかについても考えましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 高大連携科目　探究

クラス: ★(探究ｸﾗｽ)

授業コード: B210800002

担当者: 三井　知代、須増　啓之、竹内　弘明　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:〔竹内〕公立高等学校校長・教諭、県教育委員会事務局職員

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 高校生と大学生が協働して探究活動に取り組み、主体的に多様な人々と協働して学ぶことにより思考力・判断力・表現力とともに、これからの新しい時代を生き抜く力を育成する。

到達目標: 課題見つけ、仮説から検証まで課題研究を行い、まとめた研究を発表することを目指す。

各回の授業計画:

1. 探究の学びについて
2. 課題設定と研究の手法について
3. 活動計画の検討(課題設定と仮説の検証について)
 グループワーク
4. 活動計画の決定(仮説の検証方法とまとめに向けて)
 グループワーク
5. フィールドワーク①
 研究テーマに沿って観察・実験・実地調査等、校外活動を行う(グループワーク)
6. フィールドワーク②
 研究テーマに沿って観察・実験・実地調査等、校外活動を行う(グループワーク)
7. 研究のまとめ(まとめと考察、発表資料の作成)
 グループワーク
8. 学びの交流会(発表と振り返り)

特記事項: 高校生と大学生が同じテーマのもと、ともに研究活動を行い、その成果を発表しあいます。遠方の高校生もいるため、オンラインでの講義を基本(対面で行う場合もある)とします。

授業方法: ①～⑧ 講義 (対面、あるいはオンラインで行う場合もある)
課題設定や仮説・検証の方法等を学んだ後、グループで研究活動を行い、その成果をまとめて発表します。
研究を行う際にはフィールドワークも行います。
研究発表を行う学びの交流会ではお互いの発表を見て、意見交換をします。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

事前に何をテーマに課題を設定するか、その研究の手法はどうするか、発表はどのようにプレゼンを行うか等の予習が必要。

評価方法:

授業へのとりくみ:	50	**%**	**確認テスト:**	－	**%**	**レポート:**	50 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: 1. 活動に対する取り組み(関心・意欲・態度)
2. 研究のまとめによる評価
3. 研究発表による表現力
上記1, 2, 3の内容を総合的に判断しながら、

探究の基本的な考え方の理解や、主体的に取り組む力を評価します。
・望ましい到達度（80～100点） 探究の基本的な考え方を十分理解するとともに、高い探究心を持って自ら意欲的に取り組むことができる。
・標準的な到達度（70～79点） 探究の基本的な考え方を理解するとともに、探究心を持って自ら意欲的に取り組むことができる。
・最低限の到達度（60～69点） 探究の基本的な考え方をおおむね理解するとともに、意欲的に取り組むことができる。

課題へのフィードバック：

活動に対する取り組みや進捗状況、参加意欲等について適宜助言を行う。
発表会では研究のまとめやプレゼンについて講評を行う。

教科書： なし（必要に応じてプリントを配布する）

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：

探究学習はこれからの時代を生きていくために必要な力を養ってくれます。
批判的な思考力を大切にしながら課題意識を持つところからはじめましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 女性学

クラス:

授業コード: B230200001

担当者: 八木 眞由美 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:兵庫県公立学校教員、管理職(校長)、兵庫教育大学付属学校管理職(副校長)、兵庫県教育委員会人権教育課指導主事、兵庫県立教育研修所(現兵庫県立総合教育センター)指導主事、(公財)兵庫県人権啓発協会研修部長として、人権教育・啓発の仕事に携わってきた。これらの経験を生かして、教育の視点からの講義を目指したい。

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 女性差別が生まれた過程や女性解放に取り組んだ歴史を知り、性別にとらわれない生き方について考える。

到達目標: 社会におけるジェンダーをめぐる諸課題に関心を持ち、SDGsのゴール5が掲げるジェンダー平等の社会の実現に向け、自分ができることについて考える。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション・「女性学」「男性学」とは？ーワークショップ
2. 女性学の発祥と発展ーアメリカにおける女性学の発展・日本における女性学の発展
3. ジェンダー平等をめぐる歴史と理論ーフェミニズムの歴史と理論
4. 家族問題についてー家族とは何か
5. 結婚について①ー結婚観の変化
6. 結婚について②ー今日の結婚事情
7. 学校教育についてージェンダー平等の視点から見た学校
8. 子育てについてージェンダー平等の視点から見た育児
9. 高齢者問題についてージェンダー平等の視点から見た介護
10. 女性と労働についてー女性労働の変化(両立支援政策等について)
11. 女性と貧困についてー相対的貧困・絶対的貧困
12. 暴力と女性ー性暴力・性犯罪
13. セクシュアリティーの多様性ー女性の人権とセクシュアリティー
14. 確認テスト・ジェンダー・ステレオタイプについて考える
15. SDGsゴール5(ジェンダー平等)について考える・まとめ

特記事項: 確認テストは40点満点、毎回の授業後に振り返りを行い、提出を求めます(各4点×15=60点)。合計点、100点として評価します。

授業方法: すべての授業を対面で行い、講義を中心とします。資料は授業中に提示します。授業後、必要な資料は一斉に送信します。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

・授業後、提示されたパワーポイント資料や新聞記事等を再読してください(1時間×15回=15時間)。
・毎日のネットニュースや新聞に目を通し、時事問題に関心を持ってください(0.5時間×30日=15時間)。
・授業で提示された参考図書を熟読してください(10時間)。
・授業の中で、女性学や人権課題に関係するシンポジウム等を紹介します。可能ならば、参加してください(10時間)。
・その他、サイニーの論文検索からジェンダー平等や性教育等に関する論文を自主的に読んでください(10時間)。

評価方法:

授業へのとりくみ:	−	%	**確認テスト:**	40	%	**レポート:**	60 %
その他1:					%		
その他2:					%		

評価基準: 優:現在の諸問題について、解決に向けて何ができるかを考え、生き方に活かそうとしている。
良:現在の諸問題について、十分に理解し、関心を持って取り組もうとしている。
可:現在の諸問題について、基本的な理解ができている。

課題へのフィードバック:

授業後に書いた授業の振り返り(感想や意見等)、質問については、できるだけ次回の授業の中でフィードバックを行います。

教科書: 使用予定はありません。必要な授業資料は授業後に送信します。（必要に応じて、事前送信することもあります。）

参考書: 講義の中で必要に応じて紹介します。

授業・準備学習のアドバイス:

質問等に対しては、できるだけ講義中に説明します。個別対応が必要な場合は、その都度対応します。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 女性学

クラス:

授業コード: B230200002

担当者: 八木 眞由美 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:兵庫県公立学校教員、管理職(校長)、兵庫教育大学付属学校管理職(副校長)、兵庫県教育委員会人権教育課指導主事、兵庫県立教育研修所(現兵庫県立総合教育センター)指導主事、(公財)兵庫県人権啓発協会研修部長として、人権教育・啓発の仕事に携わってきた。これらの経験を生かして、教育の視点からの講義を目指したい。

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 女性差別が生まれた過程や女性解放に取り組んだ歴史を知り、性別にとらわれない生き方について考える。

到達目標: 社会におけるジェンダーをめぐる諸課題に関心を持ち、SDGsのゴール5が掲げるジェンダー平等の社会の実現に向け、自分ができることについて考える。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション・「女性学」「男性学」とは?ーワークショップ
2. 女性学の発祥と発展ーアメリカにおける女性学の発展・日本における女性学の発展
3. ジェンダー平等をめぐる歴史と理論ーフェミニズムの歴史と理論
4. 家族問題についてー家族とは何か
5. 結婚について①ー結婚観の変化
6. 結婚について②ー今日の結婚事情
7. 学校教育についてージェンダー平等の視点から見た学校
8. 子育てについてージェンダー平等の視点から見た育児
9. 高齢者問題についてージェンダー平等の視点から見た介護
10. 女性と労働についてー女性労働の変化(両立支援政策等について)
11. 女性と貧困についてー相対的貧困・絶対的貧困
12. 暴力と女性ー性暴力・性犯罪
13. セクシュアリティーの多様性ー女性の人権とセクシュアリティー
14. 確認テスト・ジェンダー・ステレオタイプについて考える
15. SDGsゴール5(ジェンダー平等)について考える・まとめ

特記事項: 確認テストは40点満点、毎回の授業後に振り返りを行い、提出を求めます(各4点×15=60点)。合計点、100点として評価します。

授業方法: すべての授業を対面で行い、講義を中心とします。資料は授業中に提示します。授業後、必要な資料は一斉に送信します。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

・授業後、提示されたパワーポイント資料や新聞記事等を再読してください(1時間×15回=15時間)。
・毎日のネットニュースや新聞に目を通し、時事問題に関心を持ってください(0.5時間×30日=15時間)。
・授業で提示された参考図書を熟読してください(10時間)。
・授業の中で、女性学や人権課題に関係するシンポジウム等を紹介します。可能ならば、参加してください(10時間)。
・その他、サイニーの論文検索からジェンダー平等や性教育等に関する論文を自主的に読んでください(10時間)。

評価方法:

授業へのとりくみ:	−	%	**確認テスト:**	40	%	**レポート:**	60 %
その他1:					%		
その他2:					%		

評価基準: 優:現在の諸問題について、解決に向けて何ができるかを考え、生き方に活かそうとしている。
良:現在の諸問題について、十分に理解し、関心を持って取り組もうとしている。
可:現在の諸問題について、基本的な理解ができている。

課題へのフィードバック:

授業後に書いた授業の振り返り(感想や意見等)、質問については、できるだけ次回の授業の中でフィードバックを行います。

教科書: 使用予定はありません。必要な授業資料は授業後に送信します。（必要に応じて、事前送信することもあります。）

参考書: 講義の中で必要に応じて紹介します。

授業・準備学習のアドバイス:

質問等に対しては、できるだけ講義中に説明します。個別対応が必要な場合は、その都度対応します。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 少子社会

クラス:

授業コード: B230300001

担当者: 久保木 亮子 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立保育園園長、公立保育園・幼稚園兼務園長、子育て支援センター所長、おやこふらっとひろば北所長

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 政府は、少子化対策及び子育て支援としてエンゼルプランや新エンゼルプランを策定し、その後、少子化対策基本法や次世代育成支援対策推進法などを策定しているが少子化に歯止めがきかない。そこで「夢をつむぐ子育て支援」など「新・三本の矢」「一億総活躍社会」の実現に向けて「ニッポン一億総活躍プラン」を閣議決定し実行している。内閣府は、少子化の要因について、①「結婚しない・できない者の割合が増加している」②「結婚する時期が遅くなっている」③「夫婦が持つ子どもの数が少なくなっている」ことをあげている。また、『少子化危機突破のための緊急対策』として、①「子育て支援」②「働き方改革」③「結婚・妊娠・出産支援」を対策の柱として打ち出している。また、社会問題として、雇用、格差、貧困など、不安な社会の要因がある。これらの要因とその背景に着目して少子社会について考える。

到達目標:
1. 少子社会の動向を理解する。
2. 少子社会が及ぼす社会問題について探求する。
3. 仕事と子育ての両立が可能となる社会について探求する。
4. ワーク・ライフ・バランスが実現可能となる社会について探求する

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
少子社会の現状を学び少子社会について関心を持つ
課題と評価基準について説明する(レポート、社会問題についての新聞ファイリング収集について)

2. 出生数と合計特殊出生率低下の現状と要因について考える

3. 少子化の現状を知り、少子化が及ぼす社会問題について考える

4. 子育て支援制度の変遷を知り理解する

5. 子ども・子育て支援制度(国・兵庫県)
・様々な制度とその活用について考える

6. 児童虐待の現状と対策
・児童虐待の種別と増加、その要因について考える
・不登校・引きこもり・ヤングケアラ等の問題についても考える

7. 子ども・ひとり親家庭の貧困の現状と対策(「子どもの貧困対策の推進に関する法律」)

8. 少子化と職場環境 ー 育児休業制度や子育てと仕事の両立支援制度
子育て女性等の再就職支援等

9. SDGsについて考える
・人と地球にやさしい社会を目指すための取り組みについて考える
・項目ごとにまとめる

10. 新聞ファイリング収集を持ち寄り、進捗状況の確認とグループ討議

11. 新聞ファイリングをグループで共有し発表する
・社会の動向や情勢、それらの問題に関心をもつ

12. 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)
・ワーク・ライフ・バランスが可能となる社会への取り組みについて考える

13. 少子化と社会保障
・ライフステージ毎の問題と社会保障制度を諸外国と比較しながら考える

14. 科目の学びの振り返り講義(30分)と確認テスト(60分)

15. 学びを踏まえて、社会人として自立した働き方や生き方について考えレポートにまとめる
・少子社会におけるキーワードから学びの整理をする
・科目試験結果について講評する

特記事項: なし

授業方法: ①～⑮ 対面で授業を行う
1. 講義・少子社会の現状を知り、改善に向けて探求する・課題説明(新聞ファイリング・レポート)
2. 講義・討議
3. 講義・グループ討議

4. 講義・討議
5. 国・兵庫県の子育て支援政策について講義・討議
6. 講義・討議
7. 講義・討議
8. 講義・グループ討議
9. 講義・レポート作成
10. 新聞ファイリング収集の進捗状況の確認とグループ討議
11. 講義・新聞ファイリングの共有と発表
12. 講義・討議
13. 講義・ グループ討議・新聞ファイリング提出
14. まとめの講義と科目確認テスト
15. 講義・レポート作成 学びを踏まえて自身の今後の働き方、生き方をレポートにまとめる・科目確認テスト結果について講評する

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 各自のテーマについて事前学習（100分）
2. 少子社会の現状について事前学習（100分）
3. 出生数と合計特殊出生率について事前学習（100分）
4. 子育て支援制度の変遷について事前学習と復習（200分）
5. 子ども・子育て支援制度（国・兵庫県）について事前学習（200分）
6. 児童虐待について事前学習と復習（200分）
7. 子ども・ひとり親家庭の貧困対策について事前学習（200分）
8. 少子化と職場環境について事前学習（200分）
9. SDG’sについてレポート作成 事前・事後学習（200分）
10. 新聞ファイリング収集と整理 自宅学習（300分）
11. 新聞ファイリング収集の整理と発表練習 自宅学習（200分）
12. 仕事と生活の調和について事前学習（ワーク・ライフ・バランス）（200分）
13. 少子化と社会保障について事前学習（200分）
14. これまでの学びを振り返り自身の働き方、生き方についてまとめる 事前学習（100分）
15. 学びの振り返りと確認テスト調べ（200分）

評価方法:

授業へのとりくみ:	20 **%**	**確認テスト:**	50 **%**	**レポート:**	30 **%**
その他1:			**%**		
その他2:			**%**		

評価基準:

1. 授業への取り組み
・少子社会の現状を概ね理解できている。（60～69）
・グループ討議で発言する。（60～69）
・現状を理解した上で、解決に向けた対策が考えられる（80～100）
2. 新聞ファイリング収集について（幅広く社会問題を取り上げている）
・4月～提出までの収集がバランスよくまとめられている。（60～69）
・記事内容に対して、要約だけでなく根拠を元にして持論が述べられている。（80～100）
3. 社会人としての働き方・生き方を考える
・時代の変遷を理解して社会人としての生き方を概ね理解できている。（60～69）
・社会情勢を理解した上で、自身の働き方、生き方をイメージすることができる。（80～100）

課題へのフィードバック:

課題・レポートなど適宜講評する。

教科書: なし

参考書: 適宜、資料配布

授業・準備学習のアドバイス:

・子どもから高齢者まで少子高齢化に関する情報に目を向け、雑誌や新聞及びニュースなどに関心を持ち、そこで収集した問題についてコメントを記入し、ファイリングノートにまとめて提出してください。
・ファイリングノートをもとにグループ討議をしたり、発表を行ったりします。
・毎回の授業で1週間の中で自身が関心をもった社会問題やニュースを発表します。
・授業への積極的なとりくみを期待します。
・成績評価は、授業へのとりくみ、試験結果及びレポート、ファイリングノートの内容などに基づいて評価します。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 基礎体育学

クラス: 教後

授業コード: B240100001

担当者: 椿　武、祐末　ひとみ、三浦　敬太　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目：教員免許法施行規則第66条の6に定める必修科目(体育)

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 現在、「健康づくり」や「体力づくり」に関する多角的な視点が求められている。特に、昨今の幅広い年齢層による身体不活動(運動不足など)の問題がクローズアップされている。
本講義では、身体活動を通して3つの健康(身体的健康・精神的健康・社会的健康)にアプローチしたうえで、幅い広い視野から研究実践を行うこととする。
本講義のねらいとしては、① 運動の理解と体力の維持、向上 ② 人間関係の構築と友人作り ③ 集団での責任と義務をスポーツを通して学ぶことを目的とする。

到達目標:
1. 運動・スポーツを通して体力年齢を知る。
2. 競技性を通してストレスを知る。
3. 授業への取り組み方、スポーツのルールから社会性を学ぶ。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション(※ 授業内容の説明、身体ほぐし等)
2. 体力測定テスト ① 握力、長座体前屈、立ち幅とび、上体起こし
3. 体力測定テスト ② 反復横とび、SST-w
4. ソフトバレーボール ① グループ分け、アンダーハンド・オーバーハンドパスの練習
5. ソフトバレーボール ② スパイク・ブロック・サーブの練習、ルールの説明、ゲーム
6. ソフトバレーボール ③ ゲーム
7. バドミントン ① ラケットの握り、ボール慣れ、フォアハンドストロークの練習
8. バドミントン ② フォア・バックハンドストロークの練習、ルールの説明、シングルゲーム
9. バドミントン ③ サービス・スマッシュの段階的練習、ルールの説明、ダブルスゲーム
10. フライングディスク ① 基本の投げ方、受け方
11. フライングディスク ② ディスクを用いたゲーム、ドッジビー
12. フライングディスク ③ アキュラシー
13. レクリエーション ① キンボールの基礎とゲーム
14. レクリエーション ② スポーツ鬼ごっこの基礎とゲーム
15. まとめ(※ 授業の振り返り、体力測定テスト結果の返却・解説等)

特記事項: なし

授業方法: 『第1回目～第15回目：実技・講義(対面)』
1. 実技、集団行動
2. 実技、体力測定、グループワーク
3. 実技、体力測定、グループワーク
4. 実技、グループワーク
5. 実技、グループワーク
6. 実技、グループワーク
7. 実技、グループワーク
8. 実技、グループワーク
9. 実技、グループワーク
10. 実技、グループワーク
11. 実技、グループワーク
12. 実技、グループワーク
13. 実技、グループワーク、DVD視聴
14. 実技、グループワーク、DVD視聴
15. 講義、ディスカッション、グループワーク

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1：身体活動全般（健康・体力づくり、3つの健康等）に関する予習（15分）
2：本日の復習（30分）
新体力テスト①（筋力・柔軟性・筋パワー・筋持久力）に関する予習（15分）
※ 測定種目は、握力、長座体前屈、立ち幅とび、上体起こし
3：本日の復習（30分）
新体力テスト②（瞬発力・全身持久力）に関する予習（15分）
※ 測定種目は、反復横とび、SST-w
4：本日の復習（30分）
ソフトバレーボール①（アンダーハンド・オーバーハンドパス）に関する予習（15分）
5：本日の復習（30分）
ソフトバレーボール②（スパイク・ブロック・サーブ）に関する予習（15分）
6：本日の復習（30分）
ソフトバレーボール③（ゲームに関連したルール等）に関する予習（15分）
7：本日の復習（30分）
バドミントン①（ラケットの握り方、シャトルの持ち方、フォアハンドストローク）に関する予習（15分）
8：本日の復習（30分）
バドミントン②（フォアハンド・バックハンドストローク、シングルゲームに関連したルール等）に関する予習（15分）
9：本日の復習（30分）
バドミントン③（サービス、スマッシュ、ダブルスゲームに関連したルール等）に関する予習（15分）
10：本日の復習（30分）
フライングディスク①（ディスクの投げ方、受け方）に関する予習（15分）
11：本日の復習（30分）
フライングディスク②（ドッチビー・アルティメット）に関する予習（15分）
12：本日の復習（30分）
フライングディスク③（アキュラシー）に関する予習（15分）
13：本日の復習（30分）
キンボール（歴史・ルール等）に関する予習（30分）
14：本日の復習（30分）
スポーツ鬼ごっこ（歴史・ルール等）に関する予習（30分）
15：本日の復習（45分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	50 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	10 **%**
その他1：	実技テスト（体力測定テスト含む）	40 **%**			
その他2：		**%**			

評価基準：

「評価方法」の1～3について、以下の基準を満たすことが求められます。
1. 授業へのとりくみ（授業態度、関心・意欲、発表など）
・毎回の実技種目に対して、基本的な関わり（実技を学ぶ姿勢や練習への関心・意欲など）により授業参加がなされている（60～69点）
・毎回の実技種目に対して、自ら積極的に関わり（実技を学ぶ姿勢や練習への関心・意欲など）を持ちながら授業に参加し、進んで片付けや準備等の取り組みが授業毎になされている（80～100点）

2. レポート
・レポートの基本的な形式が整えられており、レポート課題に対する論述（自身の考えや表現）がなされている（60～69点）
・レポートの基本的な形式が整えられており、レポート課題に対する論述（自身の考えや表現）がなされつつ、読み手に伝わるように作成されている（80～100点）

3. 実技テスト（体力測定テスト含む）
・各種目の実技テスト（体力測定テスト含む）に対して、練習の成果を発揮するための実技テストへ向けた取り組みがなされている（60～69点）
・各種目の実技テスト（体力測定テスト含む）に対して、積み重ねた練習の成果を十分に発揮するための実技テストへ向けた姿勢づくりがなされている（80～100点）

課題へのフィードバック：

・実技種目については、ニュースポーツを中心としたレクリエーション活動および体力測定テストなどの内容であるため、各実技のポイントで適宜内容のフィードバックを実施する。
・レポート課題については、採点後に授業内（Teams含む）で講評する。
・実技テスト（各種目、体力測定テストの結果など）については、採点後に授業内（Teams含む）で講評する。

教科書： ・適宜プリントを配布（Teams等）する。

参考書： ・特になし

授業・準備学習のアドバイス：

・自己の体力を知るとともに、将来の健康づくりや体力づくりに向けて、運動やスポーツ活動の楽しさをしっかりと体感してください。そして、今後の自身の学びに活かせるような取り組みへとつなげていきましょう。

【資格取得における必修科目】
※ 教員免許・保育士資格取得希望者は必修！

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 基礎体育学

クラス: 教前

授業コード: B240100002

担当者: 椿　武、葦原　摩耶子、祐末　ひとみ　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目：教員免許法施行規則第66条の6に定める必修科目(体育)

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 現在、「健康づくり」や「体力づくり」に関する多角的な視点が求められている。特に、昨今の幅広い年齢層による身体不活動(運動不足など)の問題がクローズアップされている。
本講義では、身体活動を通して3つの健康(身体的健康・精神的健康・社会的健康)にアプローチしたうえで、幅い広い視野から研究実践を行うこととする。
本講義のねらいとしては、① 運動の理解と体力の維持、向上 ② 人間関係の構築と友人作り ③ 集団での責任と義務をスポーツを通して学ぶことを目的とする。

到達目標:
1. 運動・スポーツを通して体力年齢を知る。
2. 競技性を通してストレスを知る。
3. 授業への取り組み方、スポーツのルールから社会性を学ぶ。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション(※ 授業内容の説明、身体ほぐし等)
2. 体力測定テスト ① 握力、長座体前屈、立ち幅とび、上体起こし
3. 体力測定テスト ② 反復横とび、SST-w
4. ソフトバレーボール ① グループ分け、アンダーハンド・オーバーハンドパスの練習
5. ソフトバレーボール ② スパイク・ブロック・サーブの練習、ルールの説明、ゲーム
6. ソフトバレーボール ③ ゲーム
7. バドミントン ① ラケットの握り、ボール慣れ、フォアハンドストロークの練習
8. バドミントン ② フォア・バックハンドストロークの練習、ルールの説明、シングルゲーム
9. バドミントン ③ サービス・スマッシュの段階的練習、ルールの説明、ダブルスゲーム
10. フライングディスク ① 基本の投げ方、受け方
11. フライングディスク ② ディスクを用いたゲーム、ドッジビー
12. フライングディスク ③ アキュラシー
13. レクリエーション ① キンボールの基礎とゲーム
14. レクリエーション ② スポーツ鬼ごっこの基礎とゲーム
15. まとめ(※ 授業の振り返り、体力測定テスト結果の返却・解説等)

特記事項: なし

授業方法: 『第1回目～第15回目：実技・講義(対面)』
1. 実技、集団行動
2. 実技、体力測定、グループワーク
3. 実技、体力測定、グループワーク
4. 実技、グループワーク
5. 実技、グループワーク
6. 実技、グループワーク
7. 実技、グループワーク
8. 実技、グループワーク
9. 実技、グループワーク
10. 実技、グループワーク
11. 実技、グループワーク
12. 実技、グループワーク
13. 実技、グループワーク、DVD視聴
14. 実技、グループワーク、DVD視聴
15. 講義、ディスカッション、グループワーク

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1：身体活動全般（健康・体力づくり、3つの健康等）に関する予習（15分）
2：本日の復習（30分）
新体力テスト①（筋力・柔軟性・筋パワー・筋持久力）に関する予習（15分）
※ 測定種目は、握力、長座体前屈、立ち幅とび、上体起こし
3：本日の復習（30分）
新体力テスト②（瞬発力・全身持久力）に関する予習（15分）
※ 測定種目は、反復横とび、SST-w
4：本日の復習（30分）
ソフトバレーボール①（アンダーハンド・オーバーハンドパス）に関する予習（15分）
5：本日の復習（30分）
ソフトバレーボール②（スパイク・ブロック・サーブ）に関する予習（15分）
6：本日の復習（30分）
ソフトバレーボール③（ゲームに関連したルール等）に関する予習（15分）
7：本日の復習（30分）
バドミントン①（ラケットの握り方、シャトルの持ち方、フォアハンドストローク）に関する予習（15分）
8：本日の復習（30分）
バドミントン②（フォアハンド・バックハンドストローク、シングルゲームに関連したルール等）に関する予習（15分）
9：本日の復習（30分）
バドミントン③（サービス、スマッシュ、ダブルスゲームに関連したルール等）に関する予習（15分）
10：本日の復習（30分）
フライングディスク①（ディスクの投げ方、受け方）に関する予習（15分）
11：本日の復習（30分）
フライングディスク②（ドッチビー・アルティメット）に関する予習（15分）
12：本日の復習（30分）
フライングディスク③（アキュラシー）に関する予習（15分）
13：本日の復習（30分）
キンボール（歴史・ルール等）に関する予習（30分）
14：本日の復習（30分）
スポーツ鬼ごっこ（歴史・ルール等）に関する予習（30分）
15：本日の復習（45分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	50 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	10 **%**
その他1：	実技テスト（体力測定テスト含む）	40 **%**			
その他2：		**%**			

評価基準：

「評価方法」の1～3について、以下の基準を満たすことが求められます。
1. 授業へのとりくみ（授業態度、関心・意欲、発表など）
・毎回の実技種目に対して、基本的な関わり（実技を学ぶ姿勢や練習への関心・意欲など）により授業参加がなされている（60～69点）
・毎回の実技種目に対して、自ら積極的に関わり（実技を学ぶ姿勢や練習への関心・意欲など）を持ちながら授業に参加し、進んで片付けや準備等の取り組みが授業毎になされている（80～100点）

2. レポート
・レポートの基本的な形式が整えられており、レポート課題に対する論述（自身の考えや表現）がなされている（60～69点）
・レポートの基本的な形式が整えられており、レポート課題に対する論述（自身の考えや表現）がなされつつ、読み手に伝わるように作成されている（80～100点）

3. 実技テスト（体力測定テスト含む）
・各種目の実技テスト（体力測定テスト含む）に対して、練習の成果を発揮するための実技テストへ向けた取り組みがなされている（60～69点）
・各種目の実技テスト（体力測定テスト含む）に対して、積み重ねた練習の成果を十分に発揮するための実技テストへ向けた姿勢づくりがなされている（80～100点）

課題へのフィードバック：

・実技種目については、ニュースポーツを中心としたレクリエーション活動および体力測定テストなどの内容であるため、各実技のポイントで適宜内容のフィードバックを実施する。
・レポート課題については、採点後に授業内（Teams含む）で講評する。
・実技テスト（各種目、体力測定テストの結果など）については、採点後に授業内（Teams含む）で講評する。

教科書： ・適宜プリントを配布（Teams等）する。

参考書： ・特になし

授業・準備学習のアドバイス：

・自己の体力を知るとともに、将来の健康づくりや体力づくりに向けて、運動やスポーツ活動の楽しさをしっかりと体感してください。そして、今後の自身の学びに活かせるような取り組みへとつなげていきましょう。

【資格取得における必修科目】
※ 教員免許・保育士資格取得希望者は必修！

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 基礎体育学

クラス: ｽ前/国/心

授業コード: B240100004

担当者: 宮辻 和貴、祐末 ひとみ、山中 裕太 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教員免許法施行規則第66条の6に定める必修科目(体育)

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 現在、「健康づくり」や「体力づくり」に関する多角的な視点が求められている。特に、昨今の幅広い年齢層による身体不活動(運動不足など)の問題がクローズアップされている。
本講義では、身体活動を通して3つの健康(身体的健康・精神的健康・社会的健康)にアプローチしたうえで、幅い広い視野から研究実践を行うこととする。
本講義のねらいとしては、① 運動の理解と体力の維持、向上 ② 人間関係の構築と友人作り ③ 集団での責任と義務をスポーツを通して学ぶことを目的とする。

到達目標:
1. 運動・スポーツを通して体力年齢を知る。
2. 競技性を通してストレスを知る。
3. 授業への取り組み方、スポーツのルールから社会性を学ぶ。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション(※ 授業内容の説明、身体ほぐし等)
2. 体力測定テスト ① 握力、長座体前屈、立ち幅とび、上体起こし
3. 体力測定テスト ② 反復横とび、SST-w
4. ソフトバレーボール ① グループ分け、アンダーハンド・オーバーハンドパスの練習
5. ソフトバレーボール ② スパイク・ブロック・サーブの練習、ルールの説明、ゲーム
6. ソフトバレーボール ③ ゲーム
7. バドミントン ① ラケットの握り、ボール慣れ、フォアハンドストロークの練習
8. バドミントン ② フォア・バックハンドストロークの練習、ルールの説明、シングルゲーム
9. バドミントン ③ サービス・スマッシュの段階的練習、ルールの説明、ダブルスゲーム
10. フライングディスク ① 基本の投げ方、受け方
11. フライングディスク ② ディスクを用いたゲーム、ドッジビー
12. フライングディスク ③ アキュラシー
13. レクリエーション ① キンボールの基礎とゲーム
14. レクリエーション ② スポーツ鬼ごっこの基礎とゲーム
15. まとめ(※ 授業の振り返り、体力測定テスト結果の返却・解説等)

特記事項: なし

授業方法: 『第1回目～第15回目:実技・講義(対面)』
1. 実技、集団行動
2. 実技、体力測定、グループワーク
3. 実技、体力測定、グループワーク
4. 実技、グループワーク
5. 実技、グループワーク
6. 実技、グループワーク
7. 実技、グループワーク
8. 実技、グループワーク
9. 実技、グループワーク
10. 実技、グループワーク
11. 実技、グループワーク
12. 実技、グループワーク
13. 実技、グループワーク、DVD視聴
14. 実技、グループワーク、DVD視聴
15. 講義、ディスカッション、グループワーク

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1：身体活動全般（健康・体力づくり、3つの健康等）に関する予習（15分）
2：本日の復習（30分）
新体力テスト①（筋力・柔軟性・筋パワー・筋持久力）に関する予習（15分）
※ 測定種目は、握力、長座体前屈、立ち幅とび、上体起こし
3：本日の復習（30分）
新体力テスト②（瞬発力・全身持久力）に関する予習（15分）
※ 測定種目は、反復横とび、SST-w
4：本日の復習（30分）
ソフトバレーボール①（アンダーハンド・オーバーハンドパス）に関する予習（15分）
5：本日の復習（30分）
ソフトバレーボール②（スパイク・ブロック・サーブ）に関する予習（15分）
6：本日の復習（30分）
ソフトバレーボール③（ゲームに関連したルール等）に関する予習（15分）
7：本日の復習（30分）
バドミントン①（ラケットの握り方、シャトルの持ち方、フォアハンドストローク）に関する予習（15分）
8：本日の復習（30分）
バドミントン②（フォアハンド・バックハンドストローク、シングルゲームに関連したルール等）に関する予習（15分）
9：本日の復習（30分）
バドミントン③（サービス、スマッシュ、ダブルスゲームに関連したルール等）に関する予習（15分）
10：本日の復習（30分）
フライングディスク①（ディスクの投げ方、受け方）に関する予習（15分）
11：本日の復習（30分）
フライングディスク②（ドッチビー・アルティメット）に関する予習（15分）
12：本日の復習（30分）
フライングディスク③（アキュラシー）に関する予習（15分）
13：本日の復習（30分）
キンボール（歴史・ルール等）に関する予習（30分）
14：本日の復習（30分）
スポーツ鬼ごっこ（歴史・ルール等）に関する予習（30分）
15：本日の復習（45分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	50 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	10 **%**
その他1：	実技テスト（体力測定テスト含む）	40 **%**			
その他2：		**%**			

評価基準：

「評価方法」の1～3について、以下の基準を満たすことが求められます。
1. 授業へのとりくみ（授業態度、関心・意欲、発表など）
・毎回の実技種目に対して、基本的な関わり（実技を学ぶ姿勢や練習への関心・意欲など）により授業参加がなされている（60～69点）
・毎回の実技種目に対して、自ら積極的に関わり（実技を学ぶ姿勢や練習への関心・意欲など）を持ちながら授業に参加し、進んで片付けや準備等の取り組みが授業毎になされている（80～100点）

2. レポート
・レポートの基本的な形式が整えられており、レポート課題に対する論述（自身の考えや表現）がなされている（60～69点）
・レポートの基本的な形式が整えられており、レポート課題に対する論述（自身の考えや表現）がなされつつ、読み手に伝わるように作成されている（80～100点）

3. 実技テスト（体力測定テスト含む）
・各種目の実技テスト（体力測定テスト含む）に対して、練習の成果を発揮するための実技テストへ向けた取り組みがなされている（60～69点）
・各種目の実技テスト（体力測定テスト含む）に対して、積み重ねた練習の成果を十分に発揮するための実技テストへ向けた姿勢づくりがなされている（80～100点）

課題へのフィードバック：

・実技種目については、ニュースポーツを中心としたレクリエーション活動および体力測定テストなどの内容であるため、各実技のポイントで適宜内容のフィードバックを実施する。
・レポート課題については、採点後に授業内（Teams含む）で講評する。
・実技テスト（各種目、体力測定テストの結果など）については、採点後に授業内（Teams含む）で講評する。

教科書： ・適宜プリントを配布（Teams等）する。

参考書： ・特になし

授業・準備学習のアドバイス：

・自己の体力を知るとともに、将来の健康づくりや体力づくりに向けて、運動やスポーツ活動の楽しさをしっかりと体感してください。そして、今後の自身の学びに活かせるような取り組みへとつなげていきましょう。

【資格取得における必修科目】
※ 教員免許・保育士資格取得希望者は必修！

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 基礎体育学

クラス: ｽ後

授業コード: B240100005

担当者: 宮辻　和貴、祐末　ひとみ、山中　裕太　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目：教員免許法施行規則第66条の6に定める必修科目(体育)

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 現在、「健康づくり」や「体力づくり」に関する多角的な視点が求められている。特に、昨今の幅広い年齢層による身体不活動(運動不足など)の問題がクローズアップされている。
本講義では、身体活動を通して3つの健康(身体的健康・精神的健康・社会的健康)にアプローチしたうえで、幅い広い視野から研究実践を行うこととする。
本講義のねらいとしては、① 運動の理解と体力の維持、向上 ② 人間関係の構築と友人作り ③ 集団での責任と義務をスポーツを通して学ぶことを目的とする。

到達目標:
1. 運動・スポーツを通して体力年齢を知る。
2. 競技性を通してストレスを知る。
3. 授業への取り組み方、スポーツのルールから社会性を学ぶ。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション(※ 授業内容の説明、身体ほぐし等)
2. 体力測定テスト ① 握力、長座体前屈、立ち幅とび、上体起こし
3. 体力測定テスト ② 反復横とび、SST-w
4. ソフトバレーボール ① グループ分け、アンダーハンド・オーバーハンドパスの練習
5. ソフトバレーボール ② スパイク・ブロック・サーブの練習、ルールの説明、ゲーム
6. ソフトバレーボール ③ ゲーム
7. バドミントン ① ラケットの握り、ボール慣れ、フォアハンドストロークの練習
8. バドミントン ② フォア・バックハンドストロークの練習、ルールの説明、シングルゲーム
9. バドミントン ③ サービス・スマッシュの段階的練習、ルールの説明、ダブルスゲーム
10. フライングディスク ① 基本の投げ方、受け方
11. フライングディスク ② ディスクを用いたゲーム、ドッジビー
12. フライングディスク ③ アキュラシー
13. レクリエーション ① キンボールの基礎とゲーム
14. レクリエーション ② スポーツ鬼ごっこの基礎とゲーム
15. まとめ(※ 授業の振り返り、体力測定テスト結果の返却・解説等)

特記事項: なし

授業方法: 『第1回目～第15回目：実技・講義(対面)』
1. 実技、集団行動
2. 実技、体力測定、グループワーク
3. 実技、体力測定、グループワーク
4. 実技、グループワーク
5. 実技、グループワーク
6. 実技、グループワーク
7. 実技、グループワーク
8. 実技、グループワーク
9. 実技、グループワーク
10. 実技、グループワーク
11. 実技、グループワーク
12. 実技、グループワーク
13. 実技、グループワーク、DVD視聴
14. 実技、グループワーク、DVD視聴
15. 講義、ディスカッション、グループワーク

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1：身体活動全般（健康・体力づくり、3つの健康等）に関する予習（15分）
2：本日の復習（30分）
新体力テスト①（筋力・柔軟性・筋パワー・筋持久力）に関する予習（15分）
※ 測定種目は、握力、長座体前屈、立ち幅とび、上体起こし
3：本日の復習（30分）
新体力テスト②（瞬発力・全身持久力）に関する予習（15分）
※ 測定種目は、反復横とび、SST-w
4：本日の復習（30分）
ソフトバレーボール①（アンダーハンド・オーバーハンドパス）に関する予習（15分）
5：本日の復習（30分）
ソフトバレーボール②（スパイク・ブロック・サーブ）に関する予習（15分）
6：本日の復習（30分）
ソフトバレーボール③（ゲームに関連したルール等）に関する予習（15分）
7：本日の復習（30分）
バドミントン①（ラケットの握り方、シャトルの持ち方、フォアハンドストローク）に関する予習（15分）
8：本日の復習（30分）
バドミントン②（フォアハンド・バックハンドストローク、シングルゲームに関連したルール等）に関する予習（15分）
9：本日の復習（30分）
バドミントン③（サービス、スマッシュ、ダブルスゲームに関連したルール等）に関する予習（15分）
10：本日の復習（30分）
フライングディスク①（ディスクの投げ方、受け方）に関する予習（15分）
11：本日の復習（30分）
フライングディスク②（ドッチビー・アルティメット）に関する予習（15分）
12：本日の復習（30分）
フライングディスク③（アキュラシー）に関する予習（15分）
13：本日の復習（30分）
キンボール（歴史・ルール等）に関する予習（30分）
14：本日の復習（30分）
スポーツ鬼ごっこ（歴史・ルール等）に関する予習（30分）
15：本日の復習（45分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	50 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	10 **%**
その他1：	実技テスト（体力測定テスト含む）	40 **%**			
その他2：		**%**			

評価基準：

「評価方法」の1～3について、以下の基準を満たすことが求められます。
1. 授業へのとりくみ（授業態度、関心・意欲、発表など）
・毎回の実技種目に対して、基本的な関わり（実技を学ぶ姿勢や練習への関心・意欲など）により授業参加がなされている（60～69点）
・毎回の実技種目に対して、自ら積極的に関わり（実技を学ぶ姿勢や練習への関心・意欲など）を持ちながら授業に参加し、進んで片付けや準備等の取り組みが授業毎になされている（80～100点）

2. レポート
・レポートの基本的な形式が整えられており、レポート課題に対する論述（自身の考えや表現）がなされている（60～69点）
・レポートの基本的な形式が整えられており、レポート課題に対する論述（自身の考えや表現）がなされつつ、読み手に伝わるように作成されている（80～100点）

3. 実技テスト（体力測定テスト含む）
・各種目の実技テスト（体力測定テスト含む）に対して、練習の成果を発揮するための実技テストへ向けた取り組みがなされている（60～69点）
・各種目の実技テスト（体力測定テスト含む）に対して、積み重ねた練習の成果を十分に発揮するための実技テストへ向けた姿勢づくりがなされている（80～100点）

課題へのフィードバック：

・実技種目については、ニュースポーツを中心としたレクリエーション活動および体力測定テストなどの内容であるため、各実技のポイントで適宜内容のフィードバックを実施する。
・レポート課題については、採点後に授業内（Teams含む）で講評する。
・実技テスト（各種目、体力測定テストの結果など）については、採点後に授業内（Teams含む）で講評する。

教科書： ・適宜プリントを配布（Teams等）する。

参考書： ・特になし

授業・準備学習のアドバイス：

・自己の体力を知るとともに、将来の健康づくりや体力づくりに向けて、運動やスポーツ活動の楽しさをしっかりと体感してください。そして、今後の自身の学びに活かせるような取り組みへとつなげていきましょう。

【資格取得における必修科目】
※ 教員免許・保育士資格取得希望者は必修！

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 基礎体育学

クラス: 特別ｸﾗｽ(医師の診断書必要)

授業コード: B240100006

担当者: 佃尾 哲哉 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教員免許法施行規則第66条の6に定める必修科目(体育)

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 現在、「健康づくり」や「体力づくり」に関する多角的な視点が求められている。特に、昨今の幅広い年齢層による身体不活動(運動不足など)の問題がクローズアップされている。
本講義では、身体活動を通して3つの健康(身体的健康・精神的健康・社会的健康)にアプローチしたうえで、幅い広い視野から研究実践を行うこととする。
本講義のねらいとしては、①運動の理解と体力の維持、向上②人間関係の構築と友人作り③集団での責任と義務をスポーツを通して学ぶことを目的とする。

到達目標:
1. 運動・スポーツを通して体力年齢を知る。
2. 競技性を通してストレスを知る。
3. 授業への取り組み方、スポーツのルールから社会性を学ぶ。

各回の授業計画:

＊Aは受講者数が10名以上の場合 Bは受講者数が9名以下の場合を原則とする。
1. A、B オリエンテーション
(※ 授業内容についての確認、身体ほぐし等)
2. A 体力測定テスト ① 握力、長座体前屈、立ち幅とび、上体起こし
B無理のない範囲で行う。
3. A体力測定テスト ② 反復横とび、SST
B無理にない範囲で行う。また測定種目の変更もある。
4. Aソフトバレーボール ① グループ分け、アンダーハンド・オーバーハンドパスの練習
B ゴルフ ①クラブの歴史 クラブの紹介 グリップの握り方 基本のスウィング
5. Aソフトバレーボール ② スパイク・ブロック・サーブの練習、ルールの説明、ゲーム
Bゴルフ ②①の復習 ピッチングでの実打練習(シャトル打ち)
6. Aソフトバレーボール ③ ゲーム
Bゴルフ ③ピッチングでのターゲットショットの練習
7. Aバドミントン ① ラケットの握り、ボール慣れ、フォアハンドストロークの練習
Bゴルフ ④ターゲットゴルフ(バードゴルフ)
8. Aバドミントン ② フォア・バックハンドストロークの練習、ルールの説明、シングルゲーム
Bゴルフ ⑤7番アイアンの実打練習 ターゲットゴルフ
9. Aバドミントン ③ サービス・スマッシュの段階的練習、ルールの説明、ダブルスゲーム
Bゴルフ ⑥ゴルフボールを使用しての実打
10. A、Bフライングディスク ① 基本の投げ方、受け方
11. A フライングディスク ② ディスクを用いたゲーム、ドッジビー
Bフライングディスク ② ディスクを用いてターゲットスローイング(ストラックアウト形式)
12. Aフライングディスク ③ アキュラシー
Bウォーキング ①ノルディックポールの使い方練習 学内ウォーキング
13. Aレクリエーション ① キンボールの基礎とゲーム
Bウォーキング ②学外でのウォーキング 地域探索
14. A レクリエーション ② ゆるスポーツの基礎とゲーム
B レクリエーション ①ボール慣れ運動
15. A,Bまとめ(※ 授業の振り返り、体力測定テスト結果の返却・解説等)

特記事項: なし

授業方法:
1. 実技、集団行動
2. 実技、体力測定、グループワーク
3. 実技、体力測定、グループワーク
4. 実技、グループワーク

5. 実技、グループワーク
6. 実技、グループワーク
7. 実技、グループワーク
8. 実技、グループワーク
9. 実技、グループワーク
10. 実技、グループワーク
11. 実技、グループワーク
12. 実技、グループワーク
13. 実技、グループワーク、DVD視聴
14. 実技、グループワーク、DVD視聴
15. 講義、ディスカッション、グループワーク

＊全て対面で行う

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

・特記事項なし

評価方法：

授業へのとりくみ：	50 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	10 **%**
その他1：	実技テスト（体力測定テスト含む）		40 **%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

「評価方法」の1～3について、以下の基準を満たすことが求められます。
1. 授業へのとりくみ（授業態度、関心・意欲、発表など）
・毎回の実技種目に対して、基本的な関わり（実技を学ぶ姿勢や練習への関心・意欲など）により授業参加がなされている（60～69点）。
・毎回の実技種目に対して、自ら積極的に関わり（実技を学ぶ姿勢や練習への関心・意欲など）を持ちながら授業に参加し、進んで片付けや準備等の取り組みが授業毎になされている（80～100点）。

2. レポート
・レポートの基本的な形式が整えられており、レポート課題に対する論述（自身の考えや表現）がなされている（60～69点）。
・レポートの基本的な形式が整えられており、レポート課題に対する論述（自身の考えや表現）がなされつつ、読み手に伝わるように作成されている（80～100点）。

3. 実技テスト（体力測定テスト含む）
・各種目の実技テスト（体力測定テスト含む）に対して、練習の成果を発揮するための実技テストへ向けた取り組みがなされている（60～69点）。
・各種目の実技テスト（体力測定テスト含む）に対して、積み重ねた練習の成果を十分に発揮するための実技テストへ向けた姿勢づくりがなされている（80～100点）。

課題へのフィードバック：

・実技種目については、ニュースポーツを中心としたレクリエーション活動、体力測定テストなどの内容であるため、各実技のポイントで適宜内容のフィードバックを実施する。
・レポート課題については、採点後に授業内で講評する。
・実技テスト（各種目、体力測定テストの結果など）については、採点後に授業内で講評する。

教科書： ・適宜プリントを配布（Teams等）する。

参考書： ・特になし

授業・準備学習のアドバイス：

・自己の体力を知るとともに、将来の健康づくりや体力づくりに向けて、運動やスポーツの楽しさをしっかりと体感しつつ、今後の学びへと活かせるように自ら主体的な取り組みができるよう心がけること。

【資格取得における必修科目】
※ 教員免許・保育士資格取得希望者は必修！

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 物理学

クラス:

授業コード: B240200001

担当者: 中村 賢志 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:財団法人レーザー技術総合研究所研究員・レーザー誘雷の研究、株式会社四国総合研究所副主席研究員・原子力発電所で冷却水の分析技術の開発、株式会社宇翔勤務研究開発担当取締役・理化学機器(レーザーなど)の開発研究、回生看護学院非常勤講師・医療に関係した看護物理学の講義、大阪電気通信大学特任准教授・物理学実験と工学磯実験を担当、武庫川女子大学教育学部非常勤講師・「教育とICT」の科目を担当、甲南大学理工学部非常勤講師・基礎物理学実験を担当

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 教養として身につけておくべき物理学の基礎についての講義を行う。日常生活で目にする現象を物理の視点から考える。例えば晴れた日の空が青いのはなぜか、夕焼けが赤いのはなぜか、海が青いのはなぜか、虹はなぜ見えるのかなど。高校で物理を学習していない学生にも理解できるように複雑な数式や法則を使わずに基本となる概念と考え方を平易な言葉で実験や動画を交えて解説する。

到達目標:
1. エネルギー保存の法則など物体の運動とエネルギーの基礎について理解する。
2. オームの法則など電気の基礎について理解する。
3. 音の共鳴現象について理解する。
4. 光の反射、屈折、散乱、回折などについての基礎知識を身につける。
5. 放射線と原子力の基礎知識を身につける。

各回の授業計画:

1. 初回ガイダンス
・講義の受講方法
・全15回の講義内容について
・物理の基礎の確認

2. 物理学における単位とは
7つの基本単位 国際単位系SI
外国独自の単位、独自の単位

3. 物理学における測定とは
測定器を使用して1/1000ミリを測定してみよう！
マイクロメータで紙の厚さを測定する。

4. 物体の運動とエネルギー
重いものは早く落ちるのか？
落体の法則、万有引力の法則
ガリレオは正しかったのか？

5. 縦波と横波
いろいろな波について
音と光はどんな波？
地震のP波とS波とは
南海トラフ大地震は起きるのか？

6. 物体の共振・共鳴
音に秘められたパワー
管楽器、弦楽器の共鳴
(タコマ橋の崩落)

7. 光の基礎
光とは何だろう！
(アルバート・アインシュタイン)

8. 光の散乱
空が青いのはなぜか？
夕焼けが赤いのは？
雲が白いのは？

9. 光の反射・屈折
虹を見るための基礎知識の講義。
スネルの法則など光の反射や屈折についての基本的なことを学習します。

10. 虹はなぜ見えるのか。
この講義を受講するとあなたは虹の見方がかわります。
本当の意味で虹を見ることができます。

講義室内で虹を作ってみよう！

11. 電気と磁気1
静電気とは？
静電気を作ってみよう！
磁気とは？
歴史を変えたマイケル・ファラデーの実験！

12. 電気と磁気2
オームの法則とは？
実際に並列接続と直列接続の回路を組んでテスターで電気抵抗や電圧を測定してみよう！
雷とは？(雷から身を守る方法)

13. 熱と温度(オンデマンドで行う予定)
温度計で室温を測定してみよう。
絶対零度とは？
地球温暖化は本当か？

14. 放射線と原子力
放射線とは？
(マリー・キュリーとピエール・キュリー)
放射線を測定してみよう！

15. 講義のまとめと確認テスト

特記事項: なし

授業方法: 実験と動画を組み入れて講義を行う。
必ず物理学専用ノート(A4またはB5)を準備すること。(メモ帳は不可)
(講義の終わりに簡単な確認テストを行ってノートに検印します)

①～⑫ 講義 (対面)
⑬ Teamsによる講義 (オンデマンド)
⑭～⑮ 講義 (対面)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

次回の講義内容について予習する。(各回90分)
ノートにまとめた講義内容を復習する。(各回90分)
予習復習の合計で2700分の授業外学習が必要である。

評価方法:	**授業へのとりくみ:**	60 **%**	**確認テスト:**	40 **%**	**レポート:**	－ **%**
	その他1:			**%**		
	その他2:			**%**		

評価基準: 授業への取り組み意欲があり、学習した物理学の基礎を概ね理解していること。確認テストで60%以上正解すること。(60-69)
授業への取り組み意欲があり学習した物理学の基礎を十分理解していること。確認テストで80以上%正解すること。(80-100)

課題へのフィードバック:

課題に対するフィードバックは授業中に行う。
確認テストの解説は授業やTeamsを通して行う。

教科書: なし

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

わからない物理用語があればインターネットなどを用いて調べおくこと。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 栄養学

クラス:

授業コード: B240400001

担当者: 廣田 有加里 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:管理栄養士として企業、福祉、医療分野での健康管理業務に従事

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 近年、私たちを取り巻く生活環境、社会環境の変化とともに食事の内容が大きく変化してきている。このような状況の中で、栄養情報が氾濫し、「何をどのように食べるか」といった健康や食生活に関する情報の取捨選択能力が求められている。心身の成長・発達が急速に進む乳幼児期の栄養状態は、その後の肥満や生活習慣病などと関連があることが報告されていることから、一人ひとりが自らの健康を守る意識と行動を抜きにしては効果的な健康づくりは望めない。自分の健康を自身で守るためのツールとして栄養の知識を習得する。

到達目標:
1. 栄養素の基礎知識を理解し、実際の食生活に生かすことができる。
2. 栄養情報を正しく認識し、健康に役立てることができる。
3. 健康づくりに積極的に取り組む努力をすることができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
 データで見る健康・栄養の現状
 確認テスト
2. 日本人の健康問題
 世界の飢餓問題
 確認テスト
3. 栄養素の種類と働き
 バランスのよい食事のとり方
 確認テスト
4. 炭水化物、糖質の代謝
 確認テスト
5. 脂質の種類と代謝(脂肪酸、コレステロール)
 確認テスト
6. たんぱく質の種類と代謝(アミノ酸、機能性成分)
 確認テスト
7. 食物繊維と機能性成分
 健康に保つための時間栄養学
【オンライン(オンデマンド)】
8. ビタミンの働き(脂溶性ビタミン VA、VD、VE、VK)
 確認テスト
9. ビタミンの働き(水溶性ビタミン VB1、VB2、ナイアシン、VB6)
 確認テスト
10. ビタミンの働きと代謝(水溶性ビタミン 葉酸、VB12、ビオチン、パントテン酸、VC)
 確認テスト
11. 身体活動と栄養
【オンライン(オンデマンド)】
12. ミネラル(ナトリウム、カリウム、カルシウム、マグネシウム)
 確認テスト
13.ミネラルと代謝(リン、鉄、銅、ヨウ素、亜鉛)
 確認テスト
14.代謝のしくみ(食欲・消化・排泄)、水の働き
 ライフステージ別の栄養と食事
【オンライン(オンデマンド)】
15.症状別栄養
 肥満、メタボリックシンドローム、糖尿病、高血圧、肝機能低下、骨粗しょう症、鉄欠乏性貧血、
 便秘、疲労、ストレス、冷え性
 確認テスト

特記事項:

授業方法: 第1回 講義【対面】
第2回 講義【対面】
第3回 講義【対面】
第4回 講義【対面】
第5回 講義【対面】
第6回 講義【対面】
第7回 講義【オンライン(オンデマンド)】
第8回 講義【対面】
第9回 講義【対面】
第10回 講義【対面】
第11回 講義【オンライン(オンデマンド)】
第12回 講義【対面】
第13回 講義【対面】
第14回 講義【オンライン(オンデマンド)】】
第15回 講義【対面】

予習・復習・宿題など(内容・時間):

第1回 データで見る健康・栄養の現状(指定テキストpp.6～11)
予習:わが国の健康・栄養の現状について調べる。(60分)
復習:日本人の健康問題について理解を深める。(60分)
第2回 日本人の健康問題と食料問題(指定テキストpp.12～15)
予習:朝食の欠食率と生活習慣病についてまとめる。(60分)
復習:世界の飢餓問題について理解を深める。(60分)
第3回 栄養素の種類と働きとバランスのよい食事のとり方(指定テキストpp.16～25)
予習:バランスの良い献立についてまとめる。(60分)
復習:三色食品群と六つの基礎食品について理解を深める。(60分)
第4回 炭水化物、糖質の代謝(指定テキストpp.62～65 pp.160～161)
予習:糖質の種類(単糖類、二糖類、多糖類)についてまとめる。(60分)
復習:糖質の代謝について理解を深める。(60分)
第5回 脂質の種類と代謝(脂肪酸、コレステロール)(指定テキストpp.68～75 pp162～163
予習:食品に含まれる脂肪酸の種類についてまとめる(60分)
復習:飽和脂肪酸、不飽和脂肪酸の働きについて(60分)
第6回 タンパク質の種類と代謝(アミノ酸、機能性成分)(指定エキストpp.76～79 pp.144～145 pp.164～165
予習:たんぱく質を含む食品と働きについてまとめる。(60分)
復習:食品に含まれるアミノ酸の種類と働きについて予習する。(60分)
第7回 時間栄養学、食物繊維と機能性成分(指定テキストpp.26～29 pp.66～67 pp.132～143 pp.146～147)
予習:健康に保つための時間栄養学についてまとめる。(90分)
復習:食品に含まれる機能性成分の種類と働きについて理解を深める。(30分)
第8回 脂溶性ビタミンの働き(VA、VD、VE、VK)(指定テキストpp.80～89)
予習:脂溶性ビタミンの種類と働きについてまとめる。(60分)
復習:脂溶性ビタミンの過不足による症状について復習し、食事からの摂り方について考える。(60分)
第9回 水溶性ビタミンの働き(VB1、VB2、ナイアシン、VB6)(指定テキストpp.90～99)
予習:VB1、VB2、ナイアシン、VB6の働きについてまとめる。(60分)
復習:VB1、VB2、ナイアシン、VB6の過不足による症状について復習し、食事からの摂り方について考える。(60分)
第10回 水溶性ビタミンの働き(葉酸、VB12、ビオチン、パントテン酸、VC)(指定テキストpp.100～107 pp.166～167
予習:葉酸、VB12、ビオチン、パントテン酸、VCの働きについてまとめる。(60分)
復習:葉酸、VB12、ビオチン、パントテン酸、VCの過不足による症状について復習し、食事からの摂り方について考える。(60分)
第11回 身体活動と栄養(指定テキストpp.32～40)
予習:基礎代謝と適度の身体活動についてまとめる。(90分)
復習:体内時計と集中力について復習する。(30分)
第12回 ミネラルの働き(ナトリウム、カリウム、カルシウム、マグネシウム、リン)(指定テキストpp.108～119)
予習:多量ミネラルの種類についてまとめる。(60分)
復習:多量ミネラルの働きと過不足による症状を復習し、食事からの摂り方について復習する。(60分)
第13回 微量ミネラル(鉄、銅、ヨウ素、亜鉛)(指定テキストpp.120～129)
予習:微量ミネラルの種類についてまとめる。(60分)
復習:微量ミネラルの働きと過不足による症状を復習し、食事からの摂り方について復習する。(60分)
第14回 代謝のしくみ(食欲・消化・排泄)、(指定テキストpp.154～159)、水の働き(指定テキストp.130、p.172)、ライフステージ別の栄養と食事(指定テキストpp.42～58)
予習:代謝のしくみ、水の働きについてまとめる。(60分)
復習:ライフステージ別の栄養と食事について復習する。(60分)
第15回 症状別栄養 ～食べ方で病気を予防する～(指定テキストpp.42～59)
予習:自分自身の生活習慣を振り返り、体調管理について自分なりに考えておく。(120分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	10 **%**	**確認テスト:**	80 **%**	**レポート:**	10 **%**
その他1:			**%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 1. 毎回、講義終了後にteamsによる確認テストを実施

①健康と摂取栄養素の関連性について、十分な理解の習得が確認できる(80～100点)
②健康と摂取栄養素の関連性について、ある程度の理解が確認できる(70～79点)
③健康と摂取栄養素の関連性について、科目の目標の必要程度の理解が確認できる(60～69点)
2. レポート
課題内容が概説され(60～69点)、応用・発展(80～100点)記述も含んでいる。
・上記項目を総合的に評価する。

課題へのフィードバック:

・質問については、授業時に全体に向けて回答し説明する。必要に応じて、teamsを活用して個別に説明する。

教科書: 中村丁次 監修『栄養の基本がわかる図解事典』成美堂出版

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

1. 教員および保育士を目指す学生の素養として、栄養学を学ぶことで栄養素の基礎知識を身につけ、日常生活の中で食の情報に興味や関心を持つことは重要である。
2. 食事にはさまざまな機能や楽しみがあるが、その原点は、生命の維持である。従って、食事の内容や食事の時間によってからだの機能にさまざまな影響を与える。自分のためにも家族や親しい人たちのためにも、食事から摂る栄養素とからだの関係を知ることにより、健康を保つことや病気の治療・回復のために役立つため、この機会に今後の食生活の過ごし方の参考にしてほしい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 数学

クラス:

授業コード: B240500001

担当者: 冨田 哲浩 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:県教育委員会事務局職員、公立高等学校校長、高等学校教諭(数学科)

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 民間企業の就職試験や、教員採用試験の「一般教養の数学」は、義務教育(小・中学校)段階で学んだ内容となっている。
この授業では、一般教養としての数学(義務教育範囲)の基礎・基本を取り入れつつ、高等学校における数学(高校1年)で学ぶ必須内容を取り扱う。
実際には、講義(総合的解説)と問題演習(テキストを購入する)を通して、高等学校1年「数学Ⅰと数学A」の基礎を整理・修得することを目的とする。
15回の授業構成は、①数と式(2回)、②関数(3回)、③図形(4回)、④集合と命題(1回)、⑤資料の整理(2回)、⑥確認テスト(2回)、⑦まとめ(1回)とする。
なお、授業では、主に小・中学校の既習事項を活用して考えるクイズ的問題(一般教養的問題)により、数学に対する興味・関心を高めることを試みる。

到達目標: 数学の学習四分野である①数と式、②関数、③図形、④資料の整理において、
(1)教養としての数学の基礎力を確認し、
(2)脳を刺激して「柔軟な発想力」を養い、
(3)正しい道筋で考える「論理的思考力」を身に付ける。
また、将来、教員となるための基礎力養成としてだけでなく、公務員や企業人として求められる数学活用力を向上させるため、対面授業における双方向の質疑応答による授業展開を基本とする。
以上の学修をとおして数学における知識の定着と理解力の向上を図りつつ、各自の得意、不得意分野を明らかにすることで自己のさらなる成長につなげていく。

各回の授業計画:

1. 数と式(1)(式の計算、根号の計算)
第1回は、学んできた「数」について、整数・有理数・無理数・実数を明確にし整理する。
さらに、「平方根」を含む式の計算を確認する。

2. 数と式(2)(2次方程式)
第2回は、2次方程式の解法を確認する。

3. 関数(1)(2次関数の頂点)
第3回は、高校数学の中心である2次関数のグラフが書けるようにする。
そのため、頂点を求める式変形ができるよう徹底演習する。

4. 関数(2)(2次関数の決定、移動)
第4回は、条件の与えられた2次関数の決定ができるようになる。
さらに、平行移動・対象移動されたグラフを表す式が求められるように「平面移動」についてまとめる。

5. 図形(1)(三角形の性質①)
第5回は、平面図形の角の二等分線の性質、三角形の外心・重心・垂心について確認し、図形の基礎を身に付ける。

6. 図形(2)(三角形の性質②)
第6回は、初等幾何学の有名定理であるチェバ・メネラウスの定理を活用できるようにする。
さらに、円に内接する四角形の性質を理解し活用して問題解決できるようになる。

7. 学習の点検①
第7回は、第1回から第6回の学習の定着度を確認する「テスト」(1回目)を行う。
併せて、教材への取り組み状況を点検(1回目)する。

8. 集合と命題
第8回は、命題の真偽を、集合との関係で整理し理解する。
また、命題の「逆・裏・対偶」についてその真偽を判断することを通して論理的な考え方を身に付ける。

9. 関数(3)(2次関数と不等式)
第9回は、2次関数のグラフと2次方程式の解との関係について確認し、グラフを用いて2次不等式を整理する。

10. 図形(3)(三角比)
第10回は、サイン、コサインについて、高校1年で学習する三角比の学習内容を基礎にして、角を360度を超えて拡張することで三角関数の定義を学ぶ。
さらにサイン等の定義からただちに導かれる三角関数の性質について整理する。

11. 図形(4)(正弦定理・余弦定理)
第11回は、三角形の角や辺の長さを求めることのできる有効な定理の活用を学ぶ。

12. 資料の整理(1)(順列・組合せ)
第12回は、場合の数について、日常的で代表的な問題を学習する。
特に、順列と組み合わせの違いを、映像的に理解することをめざす。

13. 資料の整理(2)(確率、期待値)
第13回は、単純な事象の確率から、独立試行・反復試行の確率について学習する。
このことで、事象に対する興味・関心を高め、確率を求めようとする態度を育成する。

14. 学習の点検②
第14回は、第8回から第13回で学んだ内容の定着度を見る「テスト」(2回目)を行う。
併せて、教材への取り組み状況を点検(2回目)する。

15. まとめ(正五角形と黄金比、超越数e)
第15回は、正五角形の美しさを図形的に考察する。
また、極限の世界を垣間見ることを通して超越数eの存在を知る。

特記事項: 第1回から第15回までを、次の内容で講義・演習する。
各回において、発想力・思考力を磨く特別な課題(日常生活に関連した算数・数学を含む)に取り組むことで、特に考えることの楽しさや発見の喜びを経験する。
なお、テキストを活用する。(購入の必要あり。)

第1回 数と式(1)(整数・有理数・実数、約数と倍数)
第2回 数と式(2)(無理数を含む式の計算)
第3回 関数(2)(2次関数の頂点)
第4回 関数(3)(2次関数の決定、移動)
第5回 図形(1)(三角形の性質①)
第6回 図形(2)(三角形の性質②)
第7回 点検①「テスト」
第8回 集合と命題(命題とその真偽)
第9回 関数(4)(2次関数と方程式・不等式)
第10回 関数(5)(三角比)
第11回 図形(3)(正弦定理・余弦定理)
第12回 資料の整理(1)(順列・組合せ)
第13回 資料の整理(2)(確率、期待値)
第14回 点検②「テスト」
第15回 まとめ(正五角形)

授業方法: テキストとして「書き込み形式の問題集」を用いて、演習をとおして基礎・基本の理解を図る。
テキストの進捗状況を確認して、成績評価に加える。
特に受講生には適宜、質疑応答しながら授業を進める。
また、数学の発想力や思考力を磨くためのクイズ的な問題(特別課題)に挑戦し、数学に対する興味関心を高める。
2回実施する確認テスト以外の授業展開は、①基本事項の解説、②問題演習である。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

第1回授業で、学生の学習計画表を配布し、予習・復習内容等を伝える。
予習・・・各回60分
テキスト(書き込み式)の該当部分に直接に記述することが望ましい。
復習・・・各回120分
講義後、学習内容、重要事項等を教科書(書き込み式)に整理することで知識等の定着を図る。
なお、投げ込み教材は授業の終了時に提出を求める。

評価方法:	**授業へのとりくみ:**	30 **%**	**確認テスト:**	50 **%**	**レポート:**	20 **%**
	その他1:			**%**		
	その他2:			**%**		

評価基準: 1. 授業への取組意欲(出席)
2. 基礎的事項の理解と思考力・判断力・表現力をみる確認テスト
3. 課題「テキスト」の取り組み状況を点数化し、合計点で判断する。

【望ましい到達度(80～100点)】
①確認テスト平均点80点以上
②テキストの取組が点検2回とも8割以上
③授業出席12回以上
【標準的な到達度(70～79点)】
①確認テスト平均点60点以上
②テキストの取組が点検2回とも7割以上
③授業出席10回以上
【最低限の到達度(60～69点)】
①確認テスト平均点60点以上
②テキストの取組が点検2回とも5割以上
③授業出席10回以上

課題へのフィードバック:

1.「授業への取組」は、授業参加状況と学習への取組状況により判断する。
2.「 試験(確認テスト)」は、講義した数学の四分野の各分野から出題する。(講義の第7回と第14回で実施)
＊テキストと講義学習内容に沿った試験問題を出題するので、テキスト(解答付き)を十分に学習してもらいたい。
3.「 レポート」とは、テキストの取組状況を2回(第7回と第14回において)点検することに代える。
(改めてレポート提出を求めることではない。)

教科書: 「新課程」マスターノート 数学Ⅰ＋A (数学問題研究会)数研出版(600円程度)
(大学内の生協で販売予定)

参考書: 指定しない

授業・準備学習のアドバイス:

使用するテキストには、高校数学の公式等の掲載がないので自宅学習するには高校時に使った教科書・参考書等が有効となります。
授業では、自ら考えて答案を作成しようとする姿勢が最も重要です。

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 神戸学

クラス:

授業コード: B250200001

担当者: 梶山 卓司 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:元神戸新聞記者、論説委員長(神戸に関する取材・報道、執筆多数)

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 国際都市・神戸は古代から港とともに発展してきました。神戸のまちがどのような歴史を刻みながら、現在のまちを築き上げてきたのか。千年に及ぶ歴史を振り返り、文化、観光、くらし、グルメ、ファッションなどを通して、近代日本をけん引した神戸の人とまちの姿を浮き彫りにします。

到達目標: 神戸のことならひと通りは説明できる知識と教養を身に付けることを目標とします。神戸から世界、世界から神戸を見つめる「グローカルな視点、考え方」を養います。

各回の授業計画:

1. はじめに:国際港都・神戸の夜明け。地域学を学ぶ意義。
2. 神戸はじめて物語:映画、ゴルフ、ジャズ、スポーツなど
3. 神戸開港と近代化の始まり:世界の「鈴木商店」の盛衰を通して。
4. 孫文と神戸:激動の時代の世界と神戸。辛亥革命の孫文と、神戸の関係を通して。
5. 神戸と華僑:国際港都を支えた中国の人々と神戸人との物語。
6. ブラジル移民と神戸:ブラジルに旅立つ日本最後の地・神戸の往時と今
7. 神戸ゆかりの外国人:西欧文化の伝道者たちと神戸、日本。 ＊1回目の小テスト
8. 神戸外国人居留地:その誕生の経緯とその後、そして現在。
9. 雑居地とその名残:「多文化共生のまち」のモデル
10. 千年の港都物語①:平清盛時代の神戸と世界。
11. 千年の港都物語②:開港前夜の神戸とその名残
12. 千年の港都物語③:「株式会社・神戸」と「海、山へ行く」のまちづくり
13. 千年の港都物語④:阪神・淡路大震災と神戸(その1) ＊2回目の小テスト
14. 千年の港都物語⑤:阪神・淡路大震災と神戸、日本(その2) 大震災31年を過ぎて。
15. 「港」から「みなと」へ。神戸空港誕生の背景と、神戸の将来

特記事項: ＊授業内容を一部変更する場合があります。

授業方法:

1. 講義
2. 講義、ディスカッション
3. 講義、ディスカッション
4. 講義、ディスカッション
5. 講義、グループワーク
6. 講義、ディスカッション
7. 講義、小テスト
8. 講義、ディスカッション
9. 講義、ディスカッション
10. 講義、ディスカッション
11. 講義、グループワーク
12. 講義、ディスカッション
13. 講義、小テスト
14. 講義、グループワーク
15. 講義

＊すべての授業を対面で行う。
＊毎回、可能な限り映像を使い視覚的に授業を進めます。神戸の歴史文化の特色を、同時代の世界史、日本史と照らし合わせながら読み解きます。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 神戸開港の歴史と、神戸はじめて物語について調べる(120分)

2. 神戸はじめて物語の復習（60分）鈴木商店について調べる（60分）
3. 孫文の略史を同時代の内外の歴史と合わせて調べる（120分）
4. 孫文の功績について復習（60分）神戸南京町について調べる（60分）
5. 神戸南京町の歴史文化を復習（60分）ブラジル移民について調べる（60分）
6. 次週のテストに向けた復習（300分）
7. 神戸外国人居留地の歴史について調べる（120分）
8. 神戸外国人居留地について復習（60分）雑居地とは何かについて調べる（60分）
9. 清盛時代の福原遷都について調べる（120分）
10. 清盛と神戸の関係を復習（60分）神戸開港の背景を調べる（60分）
11. 神戸開港の経緯を復習（60分）近代化をけん引した神戸港の発展を調べる（60分）
12. 次週のテストに向けた復習（300分）
13. 阪神・淡路大震災について復習（60分）震災後の神戸と神戸空港について調べる（60分）
14. 最終レポート作成する（660分）
15. これまでの講義内容を再復習する（120分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	25	**%**	**確認テスト：**	25	**%**	**レポート：**	50 **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準： 評価方法の1～3について、以下の基準を満たすことが求められます。

1. 授業への取り組み（授業態度、関心・意欲、発表など）
・受講態度が良く、質問にもしっかりと対応できる（60～79点）
・受講態度が良く、質問にも明確に答え、自分の意見を述べることができる（80～100点）
2. 小テスト
・授業内容を理解し、メモも取れている（60～79点）
・授業内容を十分に理解してメモも取れ、問いにも正確に答えている（80～100点）
3. 最終レポート
・課題に対して必要な文献などを読んだうえ、自分の意見を入れて文章が書けている（60～79点）
・課題に対して必要な文献などを読んだうえ、さまざまな角度から調査分析し、論理的に文章が書けている（80～100点）

＊上記3項目について総合的に評価する。

課題へのフィードバック：

・小テスト（2回）は授業の中で実施する。テスト結果は次の授業時に返却し、講評する。
・最終レポートについては、提出日の約1カ月前に課題を示し、作成要領を説明する。

教科書： なし。授業日の前日に必要なレジュメ、資料をTeamsで送信する。

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：

・小テストは講義の復習を兼ねています。いかに講義を聴き、頭に入れているかを確認するためで、授業への取り組み姿勢と連動します。
・テスト実施日はあくまでも予定。テスト日の1～2週間前には伝えます。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 多文化社会

クラス: ☆

授業コード: B250300001

担当者: 宗田 勝也 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:一般社団法人、代表、NPO法人、事務局長

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 多文化社会とは、少数者への理解と配慮、少数文化に対する尊重がなされる社会を指す。その果実は、それぞれの文化が出会うことによる、より豊かな文化の創造にほかならない。目指すべき目標とされてきた「多文化共生」が問われるものとなっている現代社会において、本科目では、世界各地で発生している社会の分断に目を向けつつ、3つの柱から学びを深める。
(1)ステレオタイプや偏見など、先行研究を手がかりに、他者との関わりについて学ぶ。
(2)〈難民〉という言葉を手がかりに、社会の中で周縁化されてきた存在に着目する。そして文化、価値観が多様化する日本社会の新しい姿を考え、そこに暮らす多様な人たちの権利に関する理解を深める。
(3)日本の在留外国人政策とともに、国際的な活動を行う言語教育者としてグローバルな視点から日本語教育を捉え、多文化共生に求められる視点と共生社会の実現に向けて日本語教育が果たす役割について理解を深める。

到達目標: 本講義の到達目標は、次の3点です。
1. 自分とは異なる人々の存在と、そこに生じる社会的課題について、具体例を用いて説明できるようになる。
2. 多文化社会における課題解決に向けた多様な取り組みを整理し、それぞれの特徴を説明できるようになる。
3. 講義で得た知見をもとに、自分の身近な場面を想定し、学びを行動につなげるための考えを言語化できるようになる。

各回の授業計画:

1. ガイダンス〜基本的な語句の確認
2. 文化を考える
3. ステレオタイプ
4. 偏見と差別—地域社会における共生の歴史
5. 偏見のメカニズム—地域社会における共生の現在地
6. メディアの影響—地域社会における共生の課題と展望
7. バイアスと視点取得
8. VLF(Voice of Love and Freedom:思いやり育成)プログラムのワーク—絵本「島」を題材に
9. ケーススタディ1:難民1—タイにおける難民の状況
10. ケーススタディ2:難民2—日本の難民認定制度
11. ケーススタディ3:多文化・多言語主義1—日本語教育の現状
12. ケーススタディ4:多文化・多言語主義2—やさしい日本語の試み
13. ケーススタディ5:日本人とは誰か—アイデンティティ
14. 他者との関わり—傾聴
15. まとめと確認

特記事項: (授業方法)オンデマンドで実施します。

授業方法: ※オンライン(オンデマンド)による授業になります。
1. 講義
2. 講義
3. 講義
4. 講義
5. 講義
6. 講義
7. 講義
8. 講義
9. 講義
10. 講義
11. 講義
12. 講義
13. 講義

14. 講義
15. 講義、テスト

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. 指定テキストの予習（180分）
2. 復習・指定資料の予習（180分）
3. 復習・指定資料の予習（180分）
4. 復習・指定資料の予習（180分）
5. 復習・指定資料の予習（180分）
6. 復習・指定資料の予習（180分）
7. 復習・指定資料の予習（180分）
8. 復習・指定資料の予習（180分）
9. 復習・指定資料の予習（180分）
10. 復習・指定資料の予習（180分）
11. 復習・指定資料の予習（180分）
12. 復習・指定資料の予習（180分）
13. 復習・指定資料の予習（180分）
14. 復習・指定資料の予習（180分）
15. 復習・指定資料の予習（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	20	**%**	**確認テスト：**	45	**%**	**レポート：**	35 **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準：

1. 授業へのとりくみ
※各回のオンデマンド講義に付随する課題により評価する。
60～69点：小課題を期限内に提出している
70～79点：講義内容を踏まえ、自分の言葉で要点をまとめている
80～100点：講義内容に加え、具体例や追加情報を用いて考察している

2. 確認テスト
※講義内容の理解度を確認するテストにより評価する。
60～69点：講義内の重要なキーワードや概念を理解している
70～79点：講義内容に基づき、多文化社会の課題を説明できる
80～100点：具体的な事例に講義で扱った概念を適用して説明できる

3. レポート
※講義全体を通した学修成果を、期末レポートにより評価する。
60～69点：講義内容を整理し、多文化社会に関する基本的な課題を説明している
70～79点：具体例を用いて課題を分析し、自分の考えを述べている
80～100点：身近な場面を想定し、学びを踏まえた行動案や提案を示している

課題へのフィードバック：

レポート・コンタクトペーパーを通した質問について、次回の講義時に評価し共有します。

教科書： なし

参考書：

ジェニファー・エバーハート『無意識のバイアス――人はなぜ人種差別をするのか』（明石書店、2021年）
塩原良和『分断と対話の社会学－グローバル社会を生きるための想像力－』（慶應義塾大学出版会、2017年）
宗田勝也『誰もが難民になりうる時代に－福島とつながる京都発コミュニティラジオの問いかけ』（現代企画室、2013年）

授業・準備学習のアドバイス：

多様性、公平性、包摂性といった価値観を揺り動かす状況が世界を取り巻いています。日常生活の中に存在する「多文化」を手がかりに、そうした環境に目を向けてほしいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 国際理解教育論

クラス:

授業コード: B250400001

担当者: 江原 等子 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本授業は「国際理解」を促す教育について考えます。以下、3つの目的を達成することを目指します。
(1)国際理解教育の基礎的な知識(理念や目的、実際の授業で扱う学習内容、学びの形式)を得ること。
(2)国境を越えた経済活動や地球温暖化、紛争や貧困、移民・難民問題、人種差別やジェンダーなど、さまざまな地球的課題についての理解を深めること。
(3)「国際社会での主体性」や「多文化共生」、それらの元となるコミュニケーション力をはじめとした思考を培う教育のあり方について学ぶこと。

到達目標: 本授業は第二次大戦後にユネスコの提唱した国際理解を促すための教育を理解し実践するための基礎的な考え方と知識を提示し、現代世界の課題について議論を深めるものである。
文化的多様性や国家の主権といった概念を知るとともに、それらを応用し、紛争や貧困、移民・難民問題、人種差別やジェンダーなど、さまざまな地球的課題についての理解を深めることを目指す。
上記を実践することで国際社会における主体性と、多文化共生を実現するための思考の仕方を身に付けた人を涵養する教育のあり方について学んでいく。

各回の授業計画:

1. 講義: オリエンテーション(国際理解教育とは、進め方、評価方法、課題や最終試験について)
2. 講義: 文化とその多様性について考える
3. 講義: 国家の主権とはなにか
4. 講義:紛争
5. 講義: 難民
6. 講義:移民
7. 講義: 人種差別
8. 講義: 南北問題
9. 講義: 貧困と格差①
10. 講義: 貧困と格差②
11. ジェンダーに基づく差別
12. 性暴力
13. 映画視聴①
14. 映画視聴②
15. 授業のまとめ

特記事項: 受講者の人数によって、各回の授業内容や方法を変更する場合がある。
講義と書かれている回においても適宜ワークショップや討論を行う。

授業方法:
1. 講義
2. 講義
3. 講義
4. 講義
5. 講義
6. 講義
7. 講義
8. 講義
9. 講義
10. 講義
11. 講義
12. 講義
13. 映画視聴

14. 映画視聴
15. 講義

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. 授業の復習、論点・問いに対する意見のまとめ（150分）、課題に取り組む（30分）
2. 授業の予習・復習、論点・問いに対する意見のまとめ（150分）、課題に取り組む（30分）
3. 授業の予習・復習、論点・問いに対する意見のまとめ（150分）、課題に取り組む（30分）
4. 授業の予習・復習、論点・問いに対する意見のまとめ（150分）、課題に取り組む（30分）
5. 授業の予習・復習、論点・問いに対する意見のまとめ（150分）、課題に取り組む（30分）
6. 授業の予習・復習、論点・問いに対する意見のまとめ（150分）、課題に取り組む（30分）
7. 授業の予習・復習、論点・問いに対する意見のまとめ（150分）、課題に取り組む（30分）
8. 授業の予習・復習、論点・問いに対する意見のまとめ（150分）、課題に取り組む（30分）
9. 授業の予習・復習、論点・問いに対する意見のまとめ（150分）、課題に取り組む（30分）
10. 授業の予習・復習、論点・問いに対する意見のまとめ（150分）、課題に取り組む（30分）
11. 授業の予習・復習、論点・問いに対する意見のまとめ（150分）、課題に取り組む（30分）
12. 授業の予習・復習、論点・問いに対する意見のまとめ（150分）、課題に取り組む（30分）
13. 授業の予習・復習、論点・問いに対する意見のまとめ（150分）、課題に取り組む（30分）
14. 授業の予習・復習、論点・問いに対する意見のまとめ（150分）、課題に取り組む（30分）
15.「本講義受講を終えて」の感想・意見を800字程度でまとめる(60分)、学期末レポートを作成する（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	60 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	40 **%**
その他1：			**%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

1. 授業への取り組み（課題に熱心に取り組んでいるか、重要なキーワードを理解しているか）
・主体的に聴講し、課題に熱心に取り組んでいる（60～69点）
・重要なキーワードを適切に説明できる（70～79点）
・説得力をもって自らの考えを論じることができる（80～100点）

2. レポート
・授業を踏まえて、課題に対して論述（自身の考えや表現）をしている（60～69点）
・参考文献を引用して、重要なキーワードを詳細に説明できる（70～79点）
・上記に加え、読み手を意識しながら、独創性のある論述をしている（80～100点）

課題へのフィードバック：

提出されたレポートや確認テスト、ワークシートなどは適宜、フィードバックする。

教科書：

【参考書】
SDGsと開発教育－持続可能な開発目標のための学び、田中治彦・三宅隆史・湯本浩之編著、学文社
国際理解教育ハンドブック －グローバル・シティズンシップを育む、日本国際理解教育学会 編著、明石書店
南北問題と開発教育－地球市民として生きるために、田中治彦著、亜紀書房

【参考webリソース、URL】
外務省 ODA白書（ダウンロード化）＊日本の政府開発援助支援について https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/shiryo/hakusyo.ht

参考書：

SDGsと開発教育－持続可能な開発目標のための学び、田中治彦・三宅隆史・湯本浩之編著、学文社
クロード・レヴィ＝ストロース『人種と歴史』みすず書房
ジョルジョ・アガンベン『ホモ・サケル――主権権力と剥き出しの生』以文社
このほか、適宜教材を配布し、講義の中で参考文献を提示する

授業・準備学習のアドバイス：

参考書や学術雑誌、関連する機関のレポートなどを積極的に読むことを推奨します。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 海外語学研修

クラス: ｱｲﾙﾗﾝﾄﾞ(ｺｰｸ)

授業コード: B250550002

担当者: 新藤 照夫 **単位数:** 3

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: アイルランドのコーク大学のランゲージセンターにおける3週間の英語プログラムを受講することで、英語によるコミュニケーション力の向上とともに文化の多様性に関する学びを得る。

到達目標:
・日常生活に必要な英語表現を運用できる
・英語プログラムの授業において積極的に発言できる
・文化の多様性を認識し、柔軟に対応できる

各回の授業計画:

・事前指導:原則として春学期に週1コマの事前指導を実施する・アイルランドでの研修期間:2026年8月2日～8月23日(予定)
・事後指導および研修記録のまとめ:帰国後に事後指導と研修記録のまとめを行う

特記事項:
・研修期間は状況によって変更になる場合がある
・社会情勢等の変化に伴う対応が必要となる場合がある

授業方法: 対面によるコミュニケーションを中心としたアプローチによる授業が中心となる。ディスカッションやグループワークを通じて、スピーキング力を高める演習を行う。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

・予習:事前指導の内容および現地での学習内容に関する予習
・復習:事前指導の内容および現地での学習内容に関する復習
・宿題:事前指導時に指定された内容および現地の授業で課される課題

評価方法:

授業へのとりくみ:	50 %	**確認テスト:**	－ %	**レポート:**	－ %
その他1:	英語プログラムの成績		50 %		
その他2:			%		

評価基準: ①望ましい到達度(80～100点)
【事前指導】
事前指導で与えられた課題に主体的に取り組み、英語運用能力を向上させる。
【英語プログラム】
英語プログラムで学修した表現を活用して、積極的に会話ができる。
ペアワーク、グループワークに協働的かつ積極的に貢献できる。

80%以上の成績を収める。
【事後指導】
詳細な研修記録を編纂できる。

②最低限の到達度（60～69点）
【事前指導】
事前指導で与えられた課題に取り組むことができる。
【英語プログラム】
英語プログラムで学習し、最低限の会話ができる。
ペアワーク、グループワークに参加できる。
60%～69%の範囲となる。
【事後指導】
研修記録を提出できる。

課題へのフィードバック：

・事前指導の課題に関しては、次の回の指導時にフィードバックを行う
・英語プログラムに関しては、事後指導時にフィードバックを行う

教科書： 『初めてのホームステイ英会話』小林奈々子、シェリー・ヘイスティングス著 アスク出版

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：

現地の英語プログラムに参加するまでの準備が重要ですから、事前指導もしっかり受講して下さい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: アジア文化研修

クラス: ﾍﾞﾄﾅﾑ

授業コード: B250700002

担当者: 藤田 眞弓 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 近年、日本とベトナムとの交流は質量ともに充実しつつある。経済協力や観光のみ着目されがちだが、ベトナムは、中国文明の影響を受けつつ、独自の文化を育て上げてきた点では日本とも共通点が多い国である。共に21世紀のアジアを歩む国として、この国の文化に触れることは貴重な体験となる。
この研修は、登録日本語教員養成課程を履修する学生を対象に、協定校であるホーチミン市師範大学日本語学部で、日本語学習者の支援をするとともに、学生たちと双方向的な学びを実践しつつ、ベトナムの文化や歴史について理解を深める。またその体験を日本に発信することも目的とする。

到達目標: ・ホーチミン市師範大学日本語学部において教壇実習を経験する。
・日本文化の紹介を通して日本語学習者および現地の人たちとの交流会等相互理解を深めるための活動に積極的に参加する。
・大学のHPやSNS、帰国後の報告会や報告資料（レポート）の作成を通じて現地での学びや体験の情報を積極的に発信する。

各回の授業計画:

1. （事前指導）研修の趣旨・目的・期待される成果の確認／ベトナム交換留学生によるベトナム語・文化講座／ベトナムに関する文献を読んだ感想文の執筆
2. （事前指導）危機管理セミナー／ベトナム旅行に関する注意事項の周知
3. （事前指導）日本語パートナーズプログラム関連1（日本語教師による日本語学習者に対する配慮等に関する講義／日本語教育実習体験の計画／日本語・日本事情・日本文化プレゼンテーションの準備）
4. （事前指導）日本語パートナーズプログラム関連2（日本語教師の指導の元フィールドワーク・文化交流会準備）／ホーチミン市師範大学との交流プログラム準備1（ホーチミン市師範大学の学生との共同調査準備）
5. （事前指導）日本語パートナーズプログラム関連3（日本語教育実習体験の計画確認・リハーサル）／ホーチミン市師範大学との交流プログラム準備2（ホーチミン市師範大学の学生との共同調査準備）／研修行程最終確認
6. ベトナムホーチミン市での研修1（交流会・文化体験）
7. ベトナムホーチミン市での研修2（日本語・日本文化プレゼンテーション）
8. ベトナムホーチミン市での研修3（フィールドスタディ）
9. ベトナムホーチミン市での研修4（日本文化体験ブース）
10. ベトナムホーチミン市での研修5（ホーチミン近郊日帰り旅行・見学）
11. ベトナムホーチミン市での研修6（日本語・日本文化プレゼンテーション2）
12. ベトナムホーチミン市での研修7（フィールドスタディ2）
13. ベトナムホーチミン市での研修8（フィールドスタディ発表準備）
14. ベトナムホーチミン市での研修9（フィールドスタディ発表会／修了式）
15. （事後指導）ベトナム文化研修を振り帰り（報告書作成・提出／研修全体のフィードバック／活動報告会の準備）

特記事項: 学生の参加要件
・原則登録日本語教員養成課程を履修する学生であること。
・日本語母語話者またはそれ相当の日本語能力を有していること。
・実習終了後に定められた報告書を滞りなく作成・提出できること。

授業方法: 対面による事前指導と現地実習

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

予習
・日本語教育実習体験の計画書作成
・日本語・日本事情・日本文化プレゼンテーションの準備
・ホーチミン市師範大学との交流プログラム準備
・日本文化紹介・体験会の準備
復習
・大学のHPやSNS、帰国後の報告会や報告資料（レポート）の作成

評価方法:　**授業へのとりくみ:** 70 **%**　**確認テスト:** − **%**　**レポート:** 30 **%**

その他1: **%**

その他2: **%**

評価基準: 研修のとりくみに関しては以下のような点を重視する。
・事前指導に毎回参加し、研修の計画を充実させること。
・現地では、ベトナムの国家や国民への敬意と関心をもつこと。
・現地では、作成した計画に基づいた実習を実施すること。
・現地研修を通して、異文化理解を深めること。

課題へのフィードバック:

・事前指導における活動計画などの確認・フィードバックを行う。
・15回目の振り返りで、今回の研修全体についてのフィードバックを行う。。

教科書: 使用しない。

参考書: 小倉 貞男著『中公新書 物語 ヴェトナムの歴史−一億人国家のダイナミズム』 中央公論社
今井 昭夫・岩井 美佐紀編『現代ベトナムを知るための60章【第2版】』明石書店
司馬遼太郎『人間の集団について−ベトナムから考える』中公文庫
久保田美子編著『日本語教師をめざす人のためのスモールステップで学ぶ教授法』スリーエーネットワーク
地球の歩き方編集室編『地球の歩き方 ガイドブック D21 ベトナム』(ダイヤモンド社)(『地球の歩き方』は、最新のものを入手してください。)

授業・準備学習のアドバイス:

・ベトナムの歴史や文化について調べておくこと。
・日本文化の紹介を日本語学習者及び現地の人たちに対してできるように準備をしておくこと。
・日本語学習者及び現地の人たちとの相互理解を深める心構えを持つこと。
・現地で行動するための、最低限のベトナム語を知っておくこと。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: ICT基礎Ⅱ

クラス: 小中高/小+前

授業コード: B300150001

担当者: 中尾 尊洋 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教員免許法施行規則第66条の6に定める選択必修科目(数理、データ活用及び人工知能に関する科目 又は 情報機器の操作)

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: エクセルなどの表計算ソフトは、レポートや卒論などでの利用価値が大きく、また卒業後も多くの仕事で使いこなせることが要求される。その一方で、ワープロと異なりすぐには使いこなせないため、独学よりも授業で学ぶ方が効率的に学習できる。この授業では、表計算ソフトの活用の仕方を学び、統計学やデータ分析・活用のための基礎的な能力について身につけるとともに、ワープロ・プレゼンテーションを含む統合的なICT活用能力の育成をその目的とする。

到達目標: 表計算ソフトの基本的な扱い方の理解。表計算ソフトの基本的な関数の理解と利用方法の習得。表計算ソフトの目的に合わせたグラフの作成方法の習得。プレゼンテーションソフトのスマートアート、スライドマスターの理解。基礎的な画像編集方法の習得。基本統計量など基礎的な統計学の知識の理解。

各回の授業計画:

1. ICT基礎Iの復習、データの編集とグラフの作成
2. 表計算での印刷の方法
3. 表計算の計算式、相対参照、絶対参照
4. 表計算での簡単な関数の利用
5. 表計算での条件を分ける関数の利用
6. 表計算での日付と時刻の扱い
7. 表計算のVLOOKUP関数の利用
8. 表計算の関数のネスト
9. 表計算でのグラフの作成
10. 表計算での文字列操作
11. 表計算をデータベースとして利用するには
12. 表計算での統計入門
13. プレゼンテーションの応用
14. デザインの基本4原則
15. 応用課題とふり返り:ワープロ、パワーポイントの応用課題、ふり返りレポート

特記事項: なし

授業方法:
1. ガイダンス、講義(対面)
2. eラーニングによる自学自習(対面)
3. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
4. eラーニングによる自学自習(対面)
5. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
6. eラーニングによる自学自習(対面)
7. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
8. eラーニングによる自学自習(対面)
9. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
10. eラーニングによる自学自習(対面)
11. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
12. eラーニングによる自学自習(対面)
13. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
14. eラーニングによる自学自習(対面)
15. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1～15 予習(15分*15回＝225分)

1～15 復習(30分*15回＝450分)
1. データの編集とグラフの作成の課題 60分
2. 表計算での印刷の課題 60分
3. 計算式、相対参照、絶対参照の課題 120分
4. 簡単な関数の利用の課題 120分
5. 条件を分ける関数の課題 120分
6. 日付と時刻の課題 120分
7. VLOOKUP関数の課題 120分
8. 関数のネストの課題 120分
9. グラフの作成の課題 120分
10. 文字列操作の課題 240分
11. データベースの課題 120分
12. 統計入門の課題 120分
13. プレゼンテーションの応用の課題 120分
14. 画像の編集の課題 240分
15. 応用課題とふり返りレポート 240分

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	－ **%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:	授業内の課題		70 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準:

1. 授業への取り組み
自分で教材を読んで、課題に取り組める(60～69)
メモを取ったり、質問をしながら積極的に課題に取り組める(70～79)
自ら進んで選択ユニットの課題に取り組み、解決できる(80～100)

2. 授業内課題
必修ユニットをすべて、選択必修ユニットを1つ以上提出し、eラーニング上で130点を超える(60～69)
必修ユニット、選択必修ユニットを1つ以上に加えて、選択ユニットをいくつか提出(70～79)
提供されているユニットのほとんどを提出(80～100)

課題へのフィードバック:

eラーニング上にて各課題評価をフィードバック

教科書: なし
eラーニングシステム内にて教材を提示する。

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

対面で授業があるときは、必ず自分のパソコンを持参すること。
授業計画や方法の詳細は担当教員の講義中の指示に従うこと。また受講するクラスが事前に分けられているので、自身の判断で指定外のクラスへ登録することを禁止する。
表計算ソフトのスキルは、企業・学校など、どこに就職しても必要になる。MOS検定対策の課外講座もあわせて受講し、MOS資格を取得すると、履歴書に書くことができるようになる。詳細は学習教育総合センターに問い合わせること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: ICT基礎Ⅱ

クラス: 小中高/小+後

授業コード: B300150002

担当者: 間渕 泰尚 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教員免許法施行規則第66条の6に定める選択必修科目(数理、データ活用及び人工知能に関する科目 又は 情報機器の操作)

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: エクセルなどの表計算ソフトは、レポートや卒論などでの利用価値が大きく、また卒業後も多くの仕事で使いこなせることが要求される。その一方で、ワープロと異なりすぐには使いこなせないため、独学よりも授業で学ぶ方が効率的に学習できる。この授業では、表計算ソフトの活用の仕方を学び、統計学やデータ分析・活用のための基礎的な能力について身につけるとともに、ワープロ・プレゼンテーションを含む統合的なICT活用能力の育成をその目的とする。

到達目標: 表計算ソフトの基本的な扱い方の理解。表計算ソフトの基本的な関数の理解と利用方法の習得。表計算ソフトの目的に合わせたグラフの作成方法の習得。プレゼンテーションソフトのスマートアート、スライドマスターの理解。基礎的な画像編集方法の習得。基本統計量など基礎的な統計学の知識の理解。

各回の授業計画:

1. ICT基礎Iの復習、データの編集とグラフの作成
2. 表計算での印刷の方法
3. 表計算の計算式、相対参照、絶対参照
4. 表計算での簡単な関数の利用
5. 表計算での条件を分ける関数の利用
6. 表計算での日付と時刻の扱い
7. 表計算のVLOOKUP関数の利用
8. 表計算の関数のネスト
9. 表計算でのグラフの作成
10. 表計算での文字列操作
11. 表計算をデータベースとして利用するには
12. 表計算での統計入門
13. プレゼンテーションの応用
14. デザインの基本4原則
15. 応用課題とふり返り:ワープロ、パワーポイントの応用課題、ふり返りレポート

特記事項: なし

授業方法:
1. ガイダンス、講義(対面)
2. eラーニングによる自学自習(対面)
3. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
4. eラーニングによる自学自習(対面)
5. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
6. eラーニングによる自学自習(対面)
7. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
8. eラーニングによる自学自習(対面)
9. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
10. eラーニングによる自学自習(対面)
11. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
12. eラーニングによる自学自習(対面)
13. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
14. eラーニングによる自学自習(対面)
15. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1～15 予習(15分*15回＝225分)

1～15 復習(30分*15回＝450分)
1. データの編集とグラフの作成の課題 60分
2. 表計算での印刷の課題 60分
3. 計算式、相対参照、絶対参照の課題 120分
4. 簡単な関数の利用の課題 120分
5. 条件を分ける関数の課題 120分
6. 日付と時刻の課題 120分
7. VLOOKUP関数の課題 120分
8. 関数のネストの課題 120分
9. グラフの作成の課題 120分
10. 文字列操作の課題 240分
11. データベースの課題 120分
12. 統計入門の課題 120分
13. プレゼンテーションの応用の課題 120分
14. 画像の編集の課題 240分
15. 応用課題とふり返りレポート 240分

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	－ **%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:	授業内の課題		70 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準:

1. 授業への取り組み
自分で教材を読んで、課題に取り組める(60～69)
メモを取ったり、質問をしながら積極的に課題に取り組める(70～79)
自ら進んで選択ユニットの課題に取り組み、解決できる(80～100)

2. 授業内課題
必修ユニットをすべて、選択必修ユニットを1つ以上提出し、eラーニング上で130点を超える(60～69)
必修ユニット、選択必修ユニットを1つ以上に加えて、選択ユニットをいくつか提出(70～79)
提供されているユニットのほとんどを提出(80～100)

課題へのフィードバック:

eラーニング上にて各課題評価をフィードバック

教科書: なし
eラーニングシステム内にて教材を提示する。

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

対面で授業があるときは、必ず自分のパソコンを持参すること。
授業計画や方法の詳細は担当教員の講義中の指示に従うこと。また受講するクラスが事前に分けられているので、自身の判断で指定外のクラスへ登録することを禁止する。
表計算ソフトのスキルは、企業・学校など、どこに就職しても必要になる。MOS検定対策の課外講座もあわせて受講し、MOS資格を取得すると、履歴書に書くことができるようになる。詳細は学習教育総合センターに問い合わせること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: ICT基礎Ⅱ

クラス: 幼保前

授業コード: B300150003

担当者: 神月 紀輔 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教員免許法施行規則第66条の6に定める選択必修科目(数理、データ活用及び人工知能に関する科目 又は 情報機器の操作)

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: エクセルなどの表計算ソフトは、レポートや卒論などでの利用価値が大きく、また卒業後も多くの仕事で使いこなせることが要求される。その一方で、ワープロと異なりすぐには使いこなせないため、独学よりも授業で学ぶ方が効率的に学習できる。この授業では、表計算ソフトの活用の仕方を学び、統計学やデータ分析・活用のための基礎的な能力について身につけるとともに、ワープロ・プレゼンテーションを含む統合的なICT活用能力の育成をその目的とする。

到達目標: 表計算ソフトの基本的な扱い方の理解。表計算ソフトの基本的な関数の理解と利用方法の習得。表計算ソフトの目的に合わせたグラフの作成方法の習得。プレゼンテーションソフトのスマートアート、スライドマスターの理解。基礎的な画像編集方法の習得。基本統計量など基礎的な統計学の知識の理解。

各回の授業計画:

1. ICT基礎Iの復習、データの編集とグラフの作成
2. 表計算での印刷の方法
3. 表計算の計算式、相対参照、絶対参照
4. 表計算での簡単な関数の利用
5. 表計算での条件を分ける関数の利用
6. 表計算での日付と時刻の扱い
7. 表計算のVLOOKUP関数の利用
8. 表計算の関数のネスト
9. 表計算でのグラフの作成
10. 表計算での文字列操作
11. 表計算をデータベースとして利用するには
12. 表計算での統計入門
13. プレゼンテーションの応用
14. デザインの基本4原則
15. 応用課題とふり返り:ワープロ、パワーポイントの応用課題、ふり返りレポート

特記事項: なし

授業方法:
1. ガイダンス、講義(対面)
2. eラーニングによる自学自習(対面)
3. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
4. eラーニングによる自学自習(対面)
5. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
6. eラーニングによる自学自習(対面)
7. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
8. eラーニングによる自学自習(対面)
9. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
10. eラーニングによる自学自習(対面)
11. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
12. eラーニングによる自学自習(対面)
13. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
14. eラーニングによる自学自習(対面)
15. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1～15 予習(15分*15回＝225分)

1～15 復習(30分*15回＝450分)
1. データの編集とグラフの作成の課題 60分
2. 表計算での印刷の課題 60分
3. 計算式、相対参照、絶対参照の課題 120分
4. 簡単な関数の利用の課題 120分
5. 条件を分ける関数の課題 120分
6. 日付と時刻の課題 120分
7. VLOOKUP関数の課題 120分
8. 関数のネストの課題 120分
9. グラフの作成の課題 120分
10. 文字列操作の課題 240分
11. データベースの課題 120分
12. 統計入門の課題 120分
13. プレゼンテーションの応用の課題 120分
14. 画像の編集の課題 240分
15. 応用課題とふり返りレポート 240分

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	－ **%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:	授業内の課題		70 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準:

1. 授業への取り組み
自分で教材を読んで、課題に取り組める(60～69)
メモを取ったり、質問をしながら積極的に課題に取り組める(70～79)
自ら進んで選択ユニットの課題に取り組み、解決できる(80～100)

2. 授業内課題
必修ユニットをすべて、選択必修ユニットを1つ以上提出し、eラーニング上で130点を超える(60～69)
必修ユニット、選択必修ユニットを1つ以上に加えて、選択ユニットをいくつか提出(70～79)
提供されているユニットのほとんどを提出(80～100)

課題へのフィードバック:

eラーニング上にて各課題評価をフィードバック

教科書: なし
eラーニングシステム内にて教材を提示する。

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

対面で授業があるときは、必ず自分のパソコンを持参すること。
授業計画や方法の詳細は担当教員の講義中の指示に従うこと。また受講するクラスが事前に分けられているので、自身の判断で指定外のクラスへ登録することを禁止する。
表計算ソフトのスキルは、企業・学校など、どこに就職しても必要になる。MOS検定対策の課外講座もあわせて受講し、MOS資格を取得すると、履歴書に書くことができるようになる。詳細は学習教育総合センターに問い合わせること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: ICT基礎Ⅱ

クラス: 幼保後

授業コード: B300150004

担当者: 間渕 泰尚 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教員免許法施行規則第66条の6に定める選択必修科目(数理、データ活用及び人工知能に関する科目 又は 情報機器の操作)

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: エクセルなどの表計算ソフトは、レポートや卒論などでの利用価値が大きく、また卒業後も多くの仕事で使いこなせることが要求される。その一方で、ワープロと異なりすぐには使いこなせないため、独学よりも授業で学ぶ方が効率的に学習できる。この授業では、表計算ソフトの活用の仕方を学び、統計学やデータ分析・活用のための基礎的な能力について身につけるとともに、ワープロ・プレゼンテーションを含む統合的なICT活用能力の育成をその目的とする。

到達目標: 表計算ソフトの基本的な扱い方の理解。表計算ソフトの基本的な関数の理解と利用方法の習得。表計算ソフトの目的に合わせたグラフの作成方法の習得。プレゼンテーションソフトのスマートアート、スライドマスターの理解。基礎的な画像編集方法の習得。基本統計量など基礎的な統計学の知識の理解。

各回の授業計画:

1. ICT基礎Iの復習、データの編集とグラフの作成
2. 表計算での印刷の方法
3. 表計算の計算式、相対参照、絶対参照
4. 表計算での簡単な関数の利用
5. 表計算での条件を分ける関数の利用
6. 表計算での日付と時刻の扱い
7. 表計算のVLOOKUP関数の利用
8. 表計算の関数のネスト
9. 表計算でのグラフの作成
10. 表計算での文字列操作
11. 表計算をデータベースとして利用するには
12. 表計算での統計入門
13. プレゼンテーションの応用
14. デザインの基本4原則
15. 応用課題とふり返り:ワープロ、パワーポイントの応用課題、ふり返りレポート

特記事項: なし

授業方法:
1. ガイダンス、講義(対面)
2. eラーニングによる自学自習(対面)
3. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
4. eラーニングによる自学自習(対面)
5. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
6. eラーニングによる自学自習(対面)
7. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
8. eラーニングによる自学自習(対面)
9. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
10. eラーニングによる自学自習(対面)
11. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
12. eラーニングによる自学自習(対面)
13. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
14. eラーニングによる自学自習(対面)
15. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1～15 予習(15分*15回＝225分)

1～15 復習(30分*15回＝450分)
1. データの編集とグラフの作成の課題 60分
2. 表計算での印刷の課題 60分
3. 計算式、相対参照、絶対参照の課題 120分
4. 簡単な関数の利用の課題 120分
5. 条件を分ける関数の課題 120分
6. 日付と時刻の課題 120分
7. VLOOKUP関数の課題 120分
8. 関数のネストの課題 120分
9. グラフの作成の課題 120分
10. 文字列操作の課題 240分
11. データベースの課題 120分
12. 統計入門の課題 120分
13. プレゼンテーションの応用の課題 120分
14. 画像の編集の課題 240分
15. 応用課題とふり返りレポート 240分

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	－ **%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:	授業内の課題		70 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準:

1. 授業への取り組み
自分で教材を読んで、課題に取り組める(60～69)
メモを取ったり、質問をしながら積極的に課題に取り組める(70～79)
自ら進んで選択ユニットの課題に取り組み、解決できる(80～100)

2. 授業内課題
必修ユニットをすべて、選択必修ユニットを1つ以上提出し、eラーニング上で130点を超える(60～69)
必修ユニット、選択必修ユニットを1つ以上に加えて、選択ユニットをいくつか提出(70～79)
提供されているユニットのほとんどを提出(80～100)

課題へのフィードバック:

eラーニング上にて各課題評価をフィードバック

教科書: なし
eラーニングシステム内にて教材を提示する。

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

対面で授業があるときは、必ず自分のパソコンを持参すること。
授業計画や方法の詳細は担当教員の講義中の指示に従うこと。また受講するクラスが事前に分けられているので、自身の判断で指定外のクラスへ登録することを禁止する。
表計算ソフトのスキルは、企業・学校など、どこに就職しても必要になる。MOS検定対策の課外講座もあわせて受講し、MOS資格を取得すると、履歴書に書くことができるようになる。詳細は学習教育総合センターに問い合わせること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: ICT基礎Ⅱ

クラス: 国前/再

授業コード: B300150005

担当者: 山口 智治 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教員免許法施行規則第66条の6に定める選択必修科目(数理、データ活用及び人工知能に関する科目 又は 情報機器の操作)

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: エクセルなどの表計算ソフトは、レポートや卒論などでの利用価値が大きく、また卒業後も多くの仕事で使いこなせることが要求される。その一方で、ワープロと異なりすぐには使いこなせないため、独学よりも授業で学ぶ方が効率的に学習できる。この授業では、表計算ソフトの活用の仕方を学び、統計学やデータ分析・活用のための基礎的な能力について身につけるとともに、ワープロ・プレゼンテーションを含む統合的なICT活用能力の育成をその目的とする。

到達目標: 表計算ソフトの基本的な扱い方の理解。表計算ソフトの基本的な関数の理解と利用方法の習得。表計算ソフトの目的に合わせたグラフの作成方法の習得。プレゼンテーションソフトのスマートアート、スライドマスターの理解。基礎的な画像編集方法の習得。基本統計量など基礎的な統計学の知識の理解。

各回の授業計画:

1. ICT基礎Iの復習、データの編集とグラフの作成
2. 表計算での印刷の方法
3. 表計算の計算式、相対参照、絶対参照
4. 表計算での簡単な関数の利用
5. 表計算での条件を分ける関数の利用
6. 表計算での日付と時刻の扱い
7. 表計算のVLOOKUP関数の利用
8. 表計算の関数のネスト
9. 表計算でのグラフの作成
10. 表計算での文字列操作
11. 表計算をデータベースとして利用するには
12. 表計算での統計入門
13. プレゼンテーションの応用
14. デザインの基本4原則
15. 応用課題とふり返り:ワープロ、パワーポイントの応用課題、ふり返りレポート

特記事項: なし

授業方法:
1. ガイダンス、講義(対面)
2. eラーニングによる自学自習(対面)
3. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
4. eラーニングによる自学自習(対面)
5. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
6. eラーニングによる自学自習(対面)
7. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
8. eラーニングによる自学自習(対面)
9. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
10. eラーニングによる自学自習(対面)
11. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
12. eラーニングによる自学自習(対面)
13. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
14. eラーニングによる自学自習(対面)
15. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1～15 予習(15分*15回＝225分)

1～15 復習(30分*15回＝450分)
1. データの編集とグラフの作成の課題 60分
2. 表計算での印刷の課題 60分
3. 計算式、相対参照、絶対参照の課題 120分
4. 簡単な関数の利用の課題 120分
5. 条件を分ける関数の課題 120分
6. 日付と時刻の課題 120分
7. VLOOKUP関数の課題 120分
8. 関数のネストの課題 120分
9. グラフの作成の課題 120分
10. 文字列操作の課題 240分
11. データベースの課題 120分
12. 統計入門の課題 120分
13. プレゼンテーションの応用の課題 120分
14. 画像の編集の課題 240分
15. 応用課題とふり返りレポート 240分

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	－ **%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:	授業内の課題		70 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準:

1. 授業への取り組み
自分で教材を読んで、課題に取り組める(60～69)
メモを取ったり、質問をしながら積極的に課題に取り組める(70～79)
自ら進んで選択ユニットの課題に取り組み、解決できる(80～100)

2. 授業内課題
必修ユニットをすべて、選択必修ユニットを1つ以上提出し、eラーニング上で130点を超える(60～69)
必修ユニット、選択必修ユニットを1つ以上に加えて、選択ユニットをいくつか提出(70～79)
提供されているユニットのほとんどを提出(80～100)

課題へのフィードバック:

eラーニング上にて各課題評価をフィードバック

教科書: なし
eラーニングシステム内にて教材を提示する。

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

対面で授業があるときは、必ず自分のパソコンを持参すること。
授業計画や方法の詳細は担当教員の講義中の指示に従うこと。また受講するクラスが事前に分けられているので、自身の判断で指定外のクラスへ登録することを禁止する。
表計算ソフトのスキルは、企業・学校など、どこに就職しても必要になる。MOS検定対策の課外講座もあわせて受講し、MOS資格を取得すると、履歴書に書くことができるようになる。詳細は学習教育総合センターに問い合わせること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: ICT基礎Ⅱ

クラス: 国後/再

授業コード: B300150006

担当者: 鴨谷　真知子　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教員免許法施行規則第66条の6に定める選択必修科目(数理、データ活用及び人工知能に関する科目　又は　情報機器の操作)

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: エクセルなどの表計算ソフトは、レポートや卒論などでの利用価値が大きく、また卒業後も多くの仕事で使いこなせることが要求される。その一方で、ワープロと異なりすぐには使いこなせないため、独学よりも授業で学ぶ方が効率的に学習できる。この授業では、表計算ソフトの活用の仕方を学び、統計学やデータ分析・活用のための基礎的な能力について身につけるとともに、ワープロ・プレゼンテーションを含む統合的なICT活用能力の育成をその目的とする。

到達目標: 表計算ソフトの基本的な扱い方の理解。表計算ソフトの基本的な関数の理解と利用方法の習得。表計算ソフトの目的に合わせたグラフの作成方法の習得。プレゼンテーションソフトのスマートアート、スライドマスターの理解。基礎的な画像編集方法の習得。基本統計量など基礎的な統計学の知識の理解。

各回の授業計画:

1. ICT基礎Iの復習、データの編集とグラフの作成
2. 表計算での印刷の方法
3. 表計算の計算式、相対参照、絶対参照
4. 表計算での簡単な関数の利用
5. 表計算での条件を分ける関数の利用
6. 表計算での日付と時刻の扱い
7. 表計算のVLOOKUP関数の利用
8. 表計算の関数のネスト
9. 表計算でのグラフの作成
10. 表計算での文字列操作
11. 表計算をデータベースとして利用するには
12. 表計算での統計入門
13. プレゼンテーションの応用
14. デザインの基本4原則
15. 応用課題とふり返り:ワープロ、パワーポイントの応用課題、ふり返りレポート

特記事項: なし

授業方法:
1. ガイダンス、講義(対面)
2. eラーニングによる自学自習(対面)
3. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
4. eラーニングによる自学自習(対面)
5. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
6. eラーニングによる自学自習(対面)
7. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
8. eラーニングによる自学自習(対面)
9. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
10. eラーニングによる自学自習(対面)
11. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
12. eラーニングによる自学自習(対面)
13. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
14. eラーニングによる自学自習(対面)
15. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1～15 予習(15分*15回＝225分)

1～15 復習(30分*15回＝450分)
1. データの編集とグラフの作成の課題 60分
2. 表計算での印刷の課題 60分
3. 計算式、相対参照、絶対参照の課題 120分
4. 簡単な関数の利用の課題 120分
5. 条件を分ける関数の課題 120分
6. 日付と時刻の課題 120分
7. VLOOKUP関数の課題 120分
8. 関数のネストの課題 120分
9. グラフの作成の課題 120分
10. 文字列操作の課題 240分
11. データベースの課題 120分
12. 統計入門の課題 120分
13. プレゼンテーションの応用の課題 120分
14. 画像の編集の課題 240分
15. 応用課題とふり返りレポート 240分

評価方法:

授業へのとりくみ:	30	**%**	**確認テスト:**	－	**%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:	授業内の課題			70	**%**		
その他2:					**%**		

評価基準:

1. 授業への取り組み
自分で教材を読んで、課題に取り組める(60～69)
メモを取ったり、質問をしながら積極的に課題に取り組める(70～79)
自ら進んで選択ユニットの課題に取り組み、解決できる(80～100)

2. 授業内課題
必修ユニットをすべて、選択必修ユニットを1つ以上提出し、eラーニング上で130点を超える(60～69)
必修ユニット、選択必修ユニットを1つ以上に加えて、選択ユニットをいくつか提出(70～79)
提供されているユニットのほとんどを提出(80～100)

課題へのフィードバック:

eラーニング上にて各課題評価をフィードバック

教科書: なし
eラーニングシステム内にて教材を提示する。

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

対面で授業があるときは、必ず自分のパソコンを持参すること。
授業計画や方法の詳細は担当教員の講義中の指示に従うこと。また受講するクラスが事前に分けられているので、自身の判断で指定外のクラスへ登録することを禁止する。
表計算ソフトのスキルは、企業・学校など、どこに就職しても必要になる。MOS検定対策の課外講座もあわせて受講し、MOS資格を取得すると、履歴書に書くことができるようになる。詳細は学習教育総合センターに問い合わせること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: ICT基礎Ⅱ

クラス: 心前/再

授業コード: B300150007

担当者: 辻川 典文 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教員免許法施行規則第66条の6に定める選択必修科目(数理、データ活用及び人工知能に関する科目 又は 情報機器の操作)

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: エクセルなどの表計算ソフトは、レポートや卒論などでの利用価値が大きく、また卒業後も多くの仕事で使いこなせることが要求される。その一方で、ワープロと異なりすぐには使いこなせないため、独学よりも授業で学ぶ方が効率的に学習できる。この授業では、表計算ソフトの活用の仕方を学び、統計学やデータ分析・活用のための基礎的な能力について身につけるとともに、ワープロ・プレゼンテーションを含む統合的なICT活用能力の育成をその目的とする。

到達目標: 表計算ソフトの基本的な扱い方の理解。表計算ソフトの基本的な関数の理解と利用方法の習得。表計算ソフトの目的に合わせたグラフの作成方法の習得。プレゼンテーションソフトのスマートアート、スライドマスターの理解。基礎的な画像編集方法の習得。基本統計量など基礎的な統計学の知識の理解。

各回の授業計画:

1. ICT基礎Iの復習、データの編集とグラフの作成
2. 表計算での印刷の方法
3. 表計算の計算式、相対参照、絶対参照
4. 表計算での簡単な関数の利用
5. 表計算での条件を分ける関数の利用
6. 表計算での日付と時刻の扱い
7. 表計算のVLOOKUP関数の利用
8. 表計算の関数のネスト
9. 表計算でのグラフの作成
10. 表計算での文字列操作
11. 表計算をデータベースとして利用するには
12. 表計算での統計入門
13. プレゼンテーションの応用
14. デザインの基本4原則
15. 応用課題とふり返り:ワープロ、パワーポイントの応用課題、ふり返りレポート

特記事項: なし

授業方法:
1. ガイダンス、講義(対面)
2. eラーニングによる自学自習(対面)
3. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
4. eラーニングによる自学自習(対面)
5. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
6. eラーニングによる自学自習(対面)
7. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
8. eラーニングによる自学自習(対面)
9. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
10. eラーニングによる自学自習(対面)
11. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
12. eラーニングによる自学自習(対面)
13. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
14. eラーニングによる自学自習(対面)
15. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1～15 予習(15分*15回＝225分)

1～15 復習(30分*15回＝450分)
1. データの編集とグラフの作成の課題 60分
2. 表計算での印刷の課題 60分
3. 計算式、相対参照、絶対参照の課題 120分
4. 簡単な関数の利用の課題 120分
5. 条件を分ける関数の課題 120分
6. 日付と時刻の課題 120分
7. VLOOKUP関数の課題 120分
8. 関数のネストの課題 120分
9. グラフの作成の課題 120分
10. 文字列操作の課題 240分
11. データベースの課題 120分
12. 統計入門の課題 120分
13. プレゼンテーションの応用の課題 120分
14. 画像の編集の課題 240分
15. 応用課題とふり返りレポート 240分

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	－ **%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:	授業内の課題		70 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準:

1. 授業への取り組み
自分で教材を読んで、課題に取り組める(60～69)
メモを取ったり、質問をしながら積極的に課題に取り組める(70～79)
自ら進んで選択ユニットの課題に取り組み、解決できる(80～100)

2. 授業内課題
必修ユニットをすべて、選択必修ユニットを1つ以上提出し、eラーニング上で130点を超える(60～69)
必修ユニット、選択必修ユニットを1つ以上に加えて、選択ユニットをいくつか提出(70～79)
提供されているユニットのほとんどを提出(80～100)

課題へのフィードバック:

eラーニング上にて各課題評価をフィードバック

教科書: なし
eラーニングシステム内にて教材を提示する。

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

対面で授業があるときは、必ず自分のパソコンを持参すること。
授業計画や方法の詳細は担当教員の講義中の指示に従うこと。また受講するクラスが事前に分けられているので、自身の判断で指定外のクラスへ登録することを禁止する。
表計算ソフトのスキルは、企業・学校など、どこに就職しても必要になる。MOS検定対策の課外講座もあわせて受講し、MOS資格を取得すると、履歴書に書くことができるようになる。詳細は学習教育総合センターに問い合わせること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: ICT基礎Ⅱ

クラス: 心後/再

授業コード: B300150008

担当者: 垣東 弘一 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教員免許法施行規則第66条の6に定める選択必修科目(数理、データ活用及び人工知能に関する科目 又は 情報機器の操作)

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: エクセルなどの表計算ソフトは、レポートや卒論などでの利用価値が大きく、また卒業後も多くの仕事で使いこなせることが要求される。その一方で、ワープロと異なりすぐには使いこなせないため、独学よりも授業で学ぶ方が効率的に学習できる。この授業では、表計算ソフトの活用の仕方を学び、統計学やデータ分析・活用のための基礎的な能力について身につけるとともに、ワープロ・プレゼンテーションを含む統合的なICT活用能力の育成をその目的とする。

到達目標: 表計算ソフトの基本的な扱い方の理解。表計算ソフトの基本的な関数の理解と利用方法の習得。表計算ソフトの目的に合わせたグラフの作成方法の習得。プレゼンテーションソフトのスマートアート、スライドマスターの理解。基礎的な画像編集方法の習得。基本統計量など基礎的な統計学の知識の理解。

各回の授業計画:

1. ICT基礎Iの復習、データの編集とグラフの作成
2. 表計算での印刷の方法
3. 表計算の計算式、相対参照、絶対参照
4. 表計算での簡単な関数の利用
5. 表計算での条件を分ける関数の利用
6. 表計算での日付と時刻の扱い
7. 表計算のVLOOKUP関数の利用
8. 表計算の関数のネスト
9. 表計算でのグラフの作成
10. 表計算での文字列操作
11. 表計算をデータベースとして利用するには
12. 表計算での統計入門
13. プレゼンテーションの応用
14. デザインの基本4原則
15. 応用課題とふり返り:ワープロ、パワーポイントの応用課題、ふり返りレポート

特記事項: なし

授業方法:
1. ガイダンス、講義(対面)
2. eラーニングによる自学自習(対面)
3. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
4. eラーニングによる自学自習(対面)
5. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
6. eラーニングによる自学自習(対面)
7. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
8. eラーニングによる自学自習(対面)
9. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
10. eラーニングによる自学自習(対面)
11. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
12. eラーニングによる自学自習(対面)
13. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
14. eラーニングによる自学自習(対面)
15. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1～15 予習(15分*15回＝225分)

1～15 復習(30分*15回＝450分)
1. データの編集とグラフの作成の課題 60分
2. 表計算での印刷の課題 60分
3. 計算式、相対参照、絶対参照の課題 120分
4. 簡単な関数の利用の課題 120分
5. 条件を分ける関数の課題 120分
6. 日付と時刻の課題 120分
7. VLOOKUP関数の課題 120分
8. 関数のネストの課題 120分
9. グラフの作成の課題 120分
10. 文字列操作の課題 240分
11. データベースの課題 120分
12. 統計入門の課題 120分
13. プレゼンテーションの応用の課題 120分
14. 画像の編集の課題 240分
15. 応用課題とふり返りレポート 240分

評価方法:

授業へのとりくみ:	30	**%**	**確認テスト:**	－	**%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:	授業内の課題			70	**%**		
その他2:					**%**		

評価基準:

1. 授業への取り組み
自分で教材を読んで、課題に取り組める(60～69)
メモを取ったり、質問をしながら積極的に課題に取り組める(70～79)
自ら進んで選択ユニットの課題に取り組み、解決できる(80～100)

2. 授業内課題
必修ユニットをすべて、選択必修ユニットを1つ以上提出し、eラーニング上で130点を超える(60～69)
必修ユニット、選択必修ユニットを1つ以上に加えて、選択ユニットをいくつか提出(70～79)
提供されているユニットのほとんどを提出(80～100)

課題へのフィードバック:

eラーニング上にて各課題評価をフィードバック

教科書: なし
eラーニングシステム内にて教材を提示する。

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

対面で授業があるときは、必ず自分のパソコンを持参すること。
授業計画や方法の詳細は担当教員の講義中の指示に従うこと。また受講するクラスが事前に分けられているので、自身の判断で指定外のクラスへ登録することを禁止する。
表計算ソフトのスキルは、企業・学校など、どこに就職しても必要になる。MOS検定対策の課外講座もあわせて受講し、MOS資格を取得すると、履歴書に書くことができるようになる。詳細は学習教育総合センターに問い合わせること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: ICT基礎Ⅱ

クラス: ｽA

授業コード: B300150009

担当者: 垣東 弘一 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教員免許法施行規則第66条の6に定める選択必修科目(数理、データ活用及び人工知能に関する科目 又は 情報機器の操作)

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: エクセルなどの表計算ソフトは、レポートや卒論などでの利用価値が大きく、また卒業後も多くの仕事で使いこなせることが要求される。その一方で、ワープロと異なりすぐには使いこなせないため、独学よりも授業で学ぶ方が効率的に学習できる。この授業では、表計算ソフトの活用の仕方を学び、統計学やデータ分析・活用のための基礎的な能力について身につけるとともに、ワープロ・プレゼンテーションを含む統合的なICT活用能力の育成をその目的とする。

到達目標: 表計算ソフトの基本的な扱い方の理解。表計算ソフトの基本的な関数の理解と利用方法の習得。表計算ソフトの目的に合わせたグラフの作成方法の習得。プレゼンテーションソフトのスマートアート、スライドマスターの理解。基礎的な画像編集方法の習得。基本統計量など基礎的な統計学の知識の理解。

各回の授業計画:

1. ICT基礎Iの復習、データの編集とグラフの作成
2. 表計算での印刷の方法
3. 表計算の計算式、相対参照、絶対参照
4. 表計算での簡単な関数の利用
5. 表計算での条件を分ける関数の利用
6. 表計算での日付と時刻の扱い
7. 表計算のVLOOKUP関数の利用
8. 表計算の関数のネスト
9. 表計算でのグラフの作成
10. 表計算での文字列操作
11. 表計算をデータベースとして利用するには
12. 表計算での統計入門
13. プレゼンテーションの応用
14. デザインの基本4原則
15. 応用課題とふり返り:ワープロ、パワーポイントの応用課題、ふり返りレポート

特記事項: なし

授業方法:
1. ガイダンス、講義(対面)
2. eラーニングによる自学自習(対面)
3. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
4. eラーニングによる自学自習(対面)
5. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
6. eラーニングによる自学自習(対面)
7. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
8. eラーニングによる自学自習(対面)
9. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
10. eラーニングによる自学自習(対面)
11. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
12. eラーニングによる自学自習(対面)
13. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
14. eラーニングによる自学自習(対面)
15. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1～15 予習(15分*15回＝225分)

1～15 復習(30分*15回＝450分)
1. データの編集とグラフの作成の課題 60分
2. 表計算での印刷の課題 60分
3. 計算式、相対参照、絶対参照の課題 120分
4. 簡単な関数の利用の課題 120分
5. 条件を分ける関数の課題 120分
6. 日付と時刻の課題 120分
7. VLOOKUP関数の課題 120分
8. 関数のネストの課題 120分
9. グラフの作成の課題 120分
10. 文字列操作の課題 240分
11. データベースの課題 120分
12. 統計入門の課題 120分
13. プレゼンテーションの応用の課題 120分
14. 画像の編集の課題 240分
15. 応用課題とふり返りレポート 240分

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	－ **%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:	授業内の課題		70 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準:

1. 授業への取り組み
自分で教材を読んで、課題に取り組める(60～69)
メモを取ったり、質問をしながら積極的に課題に取り組める(70～79)
自ら進んで選択ユニットの課題に取り組み、解決できる(80～100)

2. 授業内課題
必修ユニットをすべて、選択必修ユニットを1つ以上提出し、eラーニング上で130点を超える(60～69)
必修ユニット、選択必修ユニットを1つ以上に加えて、選択ユニットをいくつか提出(70～79)
提供されているユニットのほとんどを提出(80～100)

課題へのフィードバック:

eラーニング上にて各課題評価をフィードバック

教科書: なし
eラーニングシステム内にて教材を提示する。

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

対面で授業があるときは、必ず自分のパソコンを持参すること。
授業計画や方法の詳細は担当教員の講義中の指示に従うこと。また受講するクラスが事前に分けられているので、自身の判断で指定外のクラスへ登録することを禁止する。
表計算ソフトのスキルは、企業・学校など、どこに就職しても必要になる。MOS検定対策の課外講座もあわせて受講し、MOS資格を取得すると、履歴書に書くことができるようになる。詳細は学習教育総合センターに問い合わせること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: ICT基礎Ⅱ

クラス: ｽB

授業コード: B300150010

担当者: 中村 賢志 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教員免許法施行規則第66条の6に定める選択必修科目(数理、データ活用及び人工知能に関する科目 又は 情報機器の操作)

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: エクセルなどの表計算ソフトは、レポートや卒論などでの利用価値が大きく、また卒業後も多くの仕事で使いこなせることが要求される。その一方で、ワープロと異なりすぐには使いこなせないため、独学よりも授業で学ぶ方が効率的に学習できる。この授業では、表計算ソフトの活用の仕方を学び、統計学やデータ分析・活用のための基礎的な能力について身につけるとともに、ワープロ・プレゼンテーションを含む統合的なICT活用能力の育成をその目的とする。

到達目標: 表計算ソフトの基本的な扱い方の理解。表計算ソフトの基本的な関数の理解と利用方法の習得。表計算ソフトの目的に合わせたグラフの作成方法の習得。プレゼンテーションソフトのスマートアート、スライドマスターの理解。基礎的な画像編集方法の習得。基本統計量など基礎的な統計学の知識の理解。

各回の授業計画:

1. ICT基礎Iの復習、データの編集とグラフの作成
2. 表計算での印刷の方法
3. 表計算の計算式、相対参照、絶対参照
4. 表計算での簡単な関数の利用
5. 表計算での条件を分ける関数の利用
6. 表計算での日付と時刻の扱い
7. 表計算のVLOOKUP関数の利用
8. 表計算の関数のネスト
9. 表計算でのグラフの作成
10. 表計算での文字列操作
11. 表計算をデータベースとして利用するには
12. 表計算での統計入門
13. プレゼンテーションの応用
14. デザインの基本4原則
15. 応用課題とふり返り:ワープロ、パワーポイントの応用課題、ふり返りレポート

特記事項: なし

授業方法:
1. ガイダンス、講義(対面)
2. eラーニングによる自学自習(対面)
3. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
4. eラーニングによる自学自習(対面)
5. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
6. eラーニングによる自学自習(対面)
7. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
8. eラーニングによる自学自習(対面)
9. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
10. eラーニングによる自学自習(対面)
11. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
12. eラーニングによる自学自習(対面)
13. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
14. eラーニングによる自学自習(対面)
15. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1～15 予習(15分*15回＝225分)

1～15 復習(30分*15回＝450分)
1. データの編集とグラフの作成の課題 60分
2. 表計算での印刷の課題 60分
3. 計算式、相対参照、絶対参照の課題 120分
4. 簡単な関数の利用の課題 120分
5. 条件を分ける関数の課題 120分
6. 日付と時刻の課題 120分
7. VLOOKUP関数の課題 120分
8. 関数のネストの課題 120分
9. グラフの作成の課題 120分
10. 文字列操作の課題 240分
11. データベースの課題 120分
12. 統計入門の課題 120分
13. プレゼンテーションの応用の課題 120分
14. 画像の編集の課題 240分
15. 応用課題とふり返りレポート 240分

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	－ **%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:	授業内の課題		70 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準:

1. 授業への取り組み
自分で教材を読んで、課題に取り組める(60～69)
メモを取ったり、質問をしながら積極的に課題に取り組める(70～79)
自ら進んで選択ユニットの課題に取り組み、解決できる(80～100)

2. 授業内課題
必修ユニットをすべて、選択必修ユニットを1つ以上提出し、eラーニング上で130点を超える(60～69)
必修ユニット、選択必修ユニットを1つ以上に加えて、選択ユニットをいくつか提出(70～79)
提供されているユニットのほとんどを提出(80～100)

課題へのフィードバック:

eラーニング上にて各課題評価をフィードバック

教科書: なし
eラーニングシステム内にて教材を提示する。

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

対面で授業があるときは、必ず自分のパソコンを持参すること。
授業計画や方法の詳細は担当教員の講義中の指示に従うこと。また受講するクラスが事前に分けられているので、自身の判断で指定外のクラスへ登録することを禁止する。
表計算ソフトのスキルは、企業・学校など、どこに就職しても必要になる。MOS検定対策の課外講座もあわせて受講し、MOS資格を取得すると、履歴書に書くことができるようになる。詳細は学習教育総合センターに問い合わせること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: ICT基礎Ⅱ

クラス: ｽC

授業コード: B300150011

担当者: 垣東 弘一 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教員免許法施行規則第66条の6に定める選択必修科目(数理、データ活用及び人工知能に関する科目 又は 情報機器の操作)

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: エクセルなどの表計算ソフトは、レポートや卒論などでの利用価値が大きく、また卒業後も多くの仕事で使いこなせることが要求される。その一方で、ワープロと異なりすぐには使いこなせないため、独学よりも授業で学ぶ方が効率的に学習できる。この授業では、表計算ソフトの活用の仕方を学び、統計学やデータ分析・活用のための基礎的な能力について身につけるとともに、ワープロ・プレゼンテーションを含む統合的なICT活用能力の育成をその目的とする。

到達目標: 表計算ソフトの基本的な扱い方の理解。表計算ソフトの基本的な関数の理解と利用方法の習得。表計算ソフトの目的に合わせたグラフの作成方法の習得。プレゼンテーションソフトのスマートアート、スライドマスターの理解。基礎的な画像編集方法の習得。基本統計量など基礎的な統計学の知識の理解。

各回の授業計画:

1. ICT基礎Iの復習、データの編集とグラフの作成
2. 表計算での印刷の方法
3. 表計算の計算式、相対参照、絶対参照
4. 表計算での簡単な関数の利用
5. 表計算での条件を分ける関数の利用
6. 表計算での日付と時刻の扱い
7. 表計算のVLOOKUP関数の利用
8. 表計算の関数のネスト
9. 表計算でのグラフの作成
10. 表計算での文字列操作
11. 表計算をデータベースとして利用するには
12. 表計算での統計入門
13. プレゼンテーションの応用
14. デザインの基本4原則
15. 応用課題とふり返り:ワープロ、パワーポイントの応用課題、ふり返りレポート

特記事項: なし

授業方法:
1. ガイダンス、講義(対面)
2. eラーニングによる自学自習(対面)
3. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
4. eラーニングによる自学自習(対面)
5. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
6. eラーニングによる自学自習(対面)
7. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
8. eラーニングによる自学自習(対面)
9. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
10. eラーニングによる自学自習(対面)
11. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
12. eラーニングによる自学自習(対面)
13. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
14. eラーニングによる自学自習(対面)
15. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1～15 予習(15分*15回＝225分)

1～15 復習(30分*15回＝450分)
1. データの編集とグラフの作成の課題 60分
2. 表計算での印刷の課題 60分
3. 計算式、相対参照、絶対参照の課題 120分
4. 簡単な関数の利用の課題 120分
5. 条件を分ける関数の課題 120分
6. 日付と時刻の課題 120分
7. VLOOKUP関数の課題 120分
8. 関数のネストの課題 120分
9. グラフの作成の課題 120分
10. 文字列操作の課題 240分
11. データベースの課題 120分
12. 統計入門の課題 120分
13. プレゼンテーションの応用の課題 120分
14. 画像の編集の課題 240分
15. 応用課題とふり返りレポート 240分

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	－ **%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:	授業内の課題		70 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準:

1. 授業への取り組み
自分で教材を読んで、課題に取り組める(60～69)
メモを取ったり、質問をしながら積極的に課題に取り組める(70～79)
自ら進んで選択ユニットの課題に取り組み、解決できる(80～100)

2. 授業内課題
必修ユニットをすべて、選択必修ユニットを1つ以上提出し、eラーニング上で130点を超える(60～69)
必修ユニット、選択必修ユニットを1つ以上に加えて、選択ユニットをいくつか提出(70～79)
提供されているユニットのほとんどを提出(80～100)

課題へのフィードバック:

eラーニング上にて各課題評価をフィードバック

教科書: なし
eラーニングシステム内にて教材を提示する。

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

対面で授業があるときは、必ず自分のパソコンを持参すること。
授業計画や方法の詳細は担当教員の講義中の指示に従うこと。また受講するクラスが事前に分けられているので、自身の判断で指定外のクラスへ登録することを禁止する。
表計算ソフトのスキルは、企業・学校など、どこに就職しても必要になる。MOS検定対策の課外講座もあわせて受講し、MOS資格を取得すると、履歴書に書くことができるようになる。詳細は学習教育総合センターに問い合わせること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: ICT基礎Ⅱ

クラス: ★再履

授業コード: B300150020

担当者: 中尾 尊洋 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教員免許法施行規則第66条の6に定める選択必修科目(数理、データ活用及び人工知能に関する科目 又は 情報機器の操作)

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: エクセルなどの表計算ソフトは、レポートや卒論などでの利用価値が大きく、また卒業後も多くの仕事で使いこなせることが要求される。その一方で、ワープロと異なりすぐには使いこなせないため、独学よりも授業で学ぶ方が効率的に学習できる。この授業では、表計算ソフトの活用の仕方を学び、統計学やデータ分析・活用のための基礎的な能力について身につけるとともに、ワープロ・プレゼンテーションを含む統合的なICT活用能力の育成をその目的とする。

到達目標: 表計算ソフトの基本的な扱い方の理解。表計算ソフトの基本的な関数の理解と利用方法の習得。表計算ソフトの目的に合わせたグラフの作成方法の習得。プレゼンテーションソフトのスマートアート、スライドマスターの理解。基礎的な画像編集方法の習得。基本統計量など基礎的な統計学の知識の理解。

各回の授業計画:

1. ICT基礎Iの復習、データの編集とグラフの作成
2. 表計算での印刷の方法
3. 表計算の計算式、相対参照、絶対参照
4. 表計算での簡単な関数の利用
5. 表計算での条件を分ける関数の利用
6. 表計算での日付と時刻の扱い
7. 表計算のVLOOKUP関数の利用
8. 表計算の関数のネスト
9. 表計算でのグラフの作成
10. 表計算での文字列操作
11. 表計算をデータベースとして利用するには
12. 表計算での統計入門
13. プレゼンテーションの応用
14. デザインの基本4原則
15. 応用課題とふり返り:ワープロ、パワーポイントの応用課題、ふり返りレポート

特記事項: 2月8日(月)1～4限は対面授業を行い、2月8日(月)5限、2月9日(火)1～5限、2月10日(水)1～5限はオンライン授業を行います。

授業方法:
1. ガイダンス、講義(対面)
2. eラーニングによる自学自習(対面)
3. eラーニングによる自学自習(対面)
4. eラーニングによる自学自習(対面)
5. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
6. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
7. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
8. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
9. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
10. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
11. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
12. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
13. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
14. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
15. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1～15 予習(15分*15回＝225分)

1～15 復習(30分*15回＝450分)
1. データの編集とグラフの作成の課題 60分
2. 表計算での印刷の課題 60分
3. 計算式、相対参照、絶対参照の課題 120分
4. 簡単な関数の利用の課題 120分
5. 条件を分ける関数の課題 120分
6. 日付と時刻の課題 120分
7. VLOOKUP関数の課題 120分
8. 関数のネストの課題 120分
9. グラフの作成の課題 120分
10. 文字列操作の課題 240分
11. データベースの課題 120分
12. 統計入門の課題 120分
13. プレゼンテーションの応用の課題 120分
14. 画像の編集の課題 240分
15. 応用課題とふり返りレポート 240分

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	－ **%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:	授業内の課題		70 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準:

1. 授業への取り組み
自分で教材を読んで、課題に取り組める(60～69)
メモを取ったり、質問をしながら積極的に課題に取り組める(70～79)
自ら進んで選択ユニットの課題に取り組み、解決できる(80～100)

2. 授業内課題
必修ユニットをすべて、選択必修ユニットを1つ以上提出し、eラーニング上で130点を超える(60～69)
必修ユニット、選択必修ユニットを1つ以上に加えて、選択ユニットをいくつか提出(70～79)
提供されているユニットのほとんどを提出(80～100)

課題へのフィードバック:

eラーニング上にて各課題評価をフィードバック

教科書: なし
eラーニングシステム内にて教材を提示する。

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

対面で授業があるときは、必ず自分のパソコンを持参すること。
授業計画や方法の詳細は担当教員の講義中の指示に従うこと。また受講するクラスが事前に分けられているので、自身の判断で指定外のクラスへ登録することを禁止する。
表計算ソフトのスキルは、企業・学校など、どこに就職しても必要になる。MOS検定対策の課外講座もあわせて受講し、MOS資格を取得すると、履歴書に書くことができるようになる。詳細は学習教育総合センターに問い合わせること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: ICT基礎Ⅱ

クラス: ★再履

授業コード: B300150021

担当者: 間渕 泰尚 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教員免許法施行規則第66条の6に定める選択必修科目(数理、データ活用及び人工知能に関する科目 又は 情報機器の操作)

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: エクセルなどの表計算ソフトは、レポートや卒論などでの利用価値が大きく、また卒業後も多くの仕事で使いこなせることが要求される。その一方で、ワープロと異なりすぐには使いこなせないため、独学よりも授業で学ぶ方が効率的に学習できる。この授業では、表計算ソフトの活用の仕方を学び、統計学やデータ分析・活用のための基礎的な能力について身につけるとともに、ワープロ・プレゼンテーションを含む統合的なICT活用能力の育成をその目的とする。

到達目標: 表計算ソフトの基本的な扱い方の理解。表計算ソフトの基本的な関数の理解と利用方法の習得。表計算ソフトの目的に合わせたグラフの作成方法の習得。プレゼンテーションソフトのスマートアート、スライドマスターの理解。基礎的な画像編集方法の習得。基本統計量など基礎的な統計学の知識の理解。

各回の授業計画:

1. ICT基礎Iの復習、データの編集とグラフの作成
2. 表計算での印刷の方法
3. 表計算の計算式、相対参照、絶対参照
4. 表計算での簡単な関数の利用
5. 表計算での条件を分ける関数の利用
6. 表計算での日付と時刻の扱い
7. 表計算のVLOOKUP関数の利用
8. 表計算の関数のネスト
9. 表計算でのグラフの作成
10. 表計算での文字列操作
11. 表計算をデータベースとして利用するには
12. 表計算での統計入門
13. プレゼンテーションの応用
14. デザインの基本4原則
15. 応用課題とふり返り:ワープロ、パワーポイントの応用課題、ふり返りレポート

特記事項: 2月5日(木)1～4限は対面授業を行い、2月5日(木)5限、2月9日(月)1～5限、2月10日(火)1～5限はオンライン授業を行います。

授業方法:
1. ガイダンス、講義(対面)
2. eラーニングによる自学自習(対面)
3. eラーニングによる自学自習(対面)
4. eラーニングによる自学自習(対面)
5. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
6. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
7. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
8. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
9. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
10. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
11. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
12. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
13. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
14. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))
15. eラーニングによる自学自習(オンライン(オンデマンド))

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1～15 予習(15分*15回＝225分)

1～15 復習(30分*15回＝450分)
1. データの編集とグラフの作成の課題 60分
2. 表計算での印刷の課題 60分
3. 計算式、相対参照、絶対参照の課題 120分
4. 簡単な関数の利用の課題 120分
5. 条件を分ける関数の課題 120分
6. 日付と時刻の課題 120分
7. VLOOKUP関数の課題 120分
8. 関数のネストの課題 120分
9. グラフの作成の課題 120分
10. 文字列操作の課題 240分
11. データベースの課題 120分
12. 統計入門の課題 120分
13. プレゼンテーションの応用の課題 120分
14. 画像の編集の課題 240分
15. 応用課題とふり返りレポート 240分

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	－ **%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:	授業内の課題		70 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準:

1. 授業への取り組み
自分で教材を読んで、課題に取り組める(60～69)
メモを取ったり、質問をしながら積極的に課題に取り組める(70～79)
自ら進んで選択ユニットの課題に取り組み、解決できる(80～100)

2. 授業内課題
必修ユニットをすべて、選択必修ユニットを1つ以上提出し、eラーニング上で130点を超える(60～69)
必修ユニット、選択必修ユニットを1つ以上に加えて、選択ユニットをいくつか提出(70～79)
提供されているユニットのほとんどを提出(80～100)

課題へのフィードバック:

eラーニング上にて各課題評価をフィードバック

教科書: なし
eラーニングシステム内にて教材を提示する。

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

対面で授業があるときは、必ず自分のパソコンを持参すること。
授業計画や方法の詳細は担当教員の講義中の指示に従うこと。また受講するクラスが事前に分けられているので、自身の判断で指定外のクラスへ登録することを禁止する。
表計算ソフトのスキルは、企業・学校など、どこに就職しても必要になる。MOS検定対策の課外講座もあわせて受講し、MOS資格を取得すると、履歴書に書くことができるようになる。詳細は学習教育総合センターに問い合わせること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 情報処理演習

クラス: ☆

授業コード: B310150001

担当者: 中植 正剛 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: プログラミングの基礎を学ぶことを通して、コンピュータのしくみや原理への理解やアルゴリズム的思考の理解を深める。

到達目標:
1. 構造化プログラミングやオブジェクト思考の基礎を学び、意図した動作をプログラミングによって実現できる力を身につける
2. 基本的なサーチ、ソートアルゴリズムについて説明できるようになる。
3. プログラミングを通して、問題解決のプロセスをコントロールする力を身につける

各回の授業計画:

1. オリエンテーション、プログラミング環境への導入
2. 逐次処理・並列処理とメッセージング
3. メッセージングを使ったプログラムの自由制作
4. 変数と配列の基礎
5. 変数と配列の応用
6. 構造化プログラミング
7. Scratchのオンラインコミュニティ
8. 関数
9. 引数のある関数と再帰処理
10. サーチアルゴリズム
11. 基礎的なソートアルゴリズム
12. オブジェクト指向の基礎
13. 自由課題への取り組み 1 構想とデザイン
14. 自由課題への取り組み 2 コーディング
15. まとめ コンピュテーショナルシンキングとはなにか

特記事項: なし

授業方法: 1〜15回 オンライン（オンデマンド）
テキストを活用して、受講生各自で学習計画を立てて学びを進める

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. プログラミングに関するレポート 180分
2. 逐次処理、並列処理とメッセージングの練習課題の回答作成 180分
3. メッセージングを活用したプログラムの完成 180分
4. 変数と配列の練習課題の回答作成 180分
5. 変数と配列を応用した課題の回答作成 180分
6. 構造化プログラミングの課題の回答作成 180分
7. 構造化プログラミングの課題の回答作成 180分
8. レポート プログラミングのポイントについて 180分
9. 関数についての練習課題の回答作成 180分
10. サーチアルゴリズムのプログラム完成 180分
11. ソートアルゴリズムのプログラム完成 180分
12. ソートアルゴリズムのトレース課題 180分
13. クローニングを活用したプログラムの作成 180分
14. 自由課題のプログラムの完成 180分
15. 復習:コンピュテーショナルシンキングについて 180分

評価方法:	**授業へのとりくみ:**	−	**%**	**確認テスト:**	−	**%**	**レポート:**	−	**%**
	その他1:	練習課題(チャレンジとステップアップ)¥n自由課題			90	**%**			
	その他2:	毎回の進捗報告			10	**%**			

評価基準: (優)
・プログラミングの基礎である、構造化プログラミング、並列処理、変数、配列、オブジェクト思考について理解をして、与えられた課題に対してプログラムを作成・改編することができる。
・サーチ、ソートのアルゴリズムを理解し、与えられた課題に対してプログラムを作成・改編することができる。
(良)
・プログラミングの基礎である、構造化プログラミング、並列処理、変数、配列、オブジェクト思考について理解をし、ひとまずプログラムを作成することができる。
・サーチ、ソートのアルゴリズムを理解して、ひとまずプログラムを作成することができる。
(可)
・構造化プログラミング、並列処理、変数を理解し、ひとまずプログラムを作成することができる。
・サーチのアルゴリズムを理解して、ひとまずプログラムを作成することができる。

課題へのフィードバック:
個別学習の要素が大きいので、授業中の課題については適宜個別にフィードバックをする。

教科書: 中植正剛 太田和志 鴨谷真知子「Scratchで学ぶプログラミングとアルゴリズムの基本 改訂第2版」日経BP社

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:
毎回の学習課題の投稿はTeamsで行うが、課題機能を用いない投稿もある。毎週必ず確認すること。
自ら学ぶ教材を利用しているので、計画的に学習をすすめていくこと。

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 情報科学

クラス: ★

授業コード: B330200001

担当者: 神月 紀輔　　**単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: インターネットや携帯電話，また，TVや雑誌などのマスメディア等，高度情報社会では様々な情報が氾濫しています。しかし，その仕組みを知らないことも多く，そのために情報をうまく活用できないこともあり，さらには犯罪に巻き込まれるケースまであります。この講義では，現在の仕組みやマナー・ルールを概説し，グループ活動による演習形式で理解を深めていきます。

到達目標: それぞれの卒業後の進路を見据えて，大学および社会で最低限必要と思われる情報についての知識を理解し，その知識をもとに，自ら情報を活用し学業・生活に役立てていくことができるようになることを目標とします。

各回の授業計画:

1. イントロダクション，授業方法説明
2. 情報とは，デジタルとアナログ
3. コンピュータの歴史，ハードウェアとソフトウェア
4. コンピュータの仕組み，OS
5. 情報のデジタル化(1) 文字・数字
6. 情報のデジタル化(2) 音声
7. 情報のデジタル化(3) 画像・動画
8. アルゴリズムとその考え方
9. 知的財産権の保護(1) 工業所有権
10. 知的財産権の保護(2) 著作権・肖像権・パブリシティ権
11. 個人情報の保護とプライバシー
12. 情報モラルとネット犯罪の現状
13. AIとデータサイエンス
14. 高度情報通信社会の展望と問題点
15. まとめ

特記事項: なし

授業方法: この科目はオンラインで実施する科目です。自学自習を中心にし，ほぼ毎回レポート課題を出し，次の授業時に内容を確認します。大学のパソコンや個人のスマホを使っての作業も取り入れていきます。また評価は自己評価を基本とし，自らの学びの進み具合を自分で確認しながら授業を進めていきます。

1. 講義（対面）
2. Teamsによる課題提示（オンライン・オンデマンド）
3. Teamsによる課題提示（オンライン・オンデマンド）
4. Teamsによる課題提示（オンライン・オンデマンド）
5. Teamsによる課題提示（オンライン・オンデマンド）
6. Teamsによる課題提示（オンライン・オンデマンド）
7. Teamsによる課題提示（オンライン・オンデマンド）
8. Teamsによる課題提示（オンライン・オンデマンド）
9. Teamsによる課題提示（オンライン・オンデマンド）
10. Teamsによる課題提示（オンライン・オンデマンド）
11. Teamsによる課題提示（オンライン・オンデマンド）
12. Teamsによる課題提示（オンライン・オンデマンド）
13. Teamsによる課題提示（オンライン・オンデマンド）
14. Teamsによる課題提示（オンライン・オンデマンド）
15. 講義（対面）

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

各授業についての復習を中心に学習してください。
毎回Web等を通じて資料を配布しますので、用語などを確実に学習してください。

評価方法:

授業へのとりくみ:	5	**%**	**確認テスト:**	90	**%**	**レポート:**	5	**%**
その他1:					**%**			
その他2:					**%**			

評価基準:

授業へのとりくみ〔最低限の到達度(3点)〕〔望ましい到達度(5点)〕
単に参加するだけでなく，自分の課題として講義を聞き，わからないところは自分で解決しようとするなどの姿勢が求められる。
コメントの内容は問わないが，単に「わかった」「楽しかった」だけのコメントは評価しない。
主語・述語を明確にし，「何がどう」「どこがわかった」を具体的に示すことで加点していく。
確認テスト〔最低限の到達度(3回合わせて60点)〕〔望ましい到達度(3回合わせて80点以上)〕
講義を3分割し，その1回ごとに小テストを行う。小テストは1回30点で3回行う予定である。
レポート〔最低限の到達度(3点)〕〔望ましい到達度(5点)〕
すべての学びを振り返って，最終回に自己評価を行い，その内容で判断する。

課題へのフィードバック:

小テストはその場で採点し，間違えた個所を復習できるようにします。

教科書:

神月紀輔 著「情報の科学と倫理」(丸善雄松堂)
このテキストは電子教科書です。生協でチケットを購入して，指示に従ってWebで表示させてください。

参考書:

佐々木良一他 著「新2版 情報科学入門 教育としてのコンピュータ」(日本理工出版会)
大嶋淳俊 著「情報活用学入門」(学文社)
坂村健 著「痛快！コンピュータ学」(集英社文庫)
坂本旬 ほか 著「デジタル・シティズンシップ」(大月書店)
高等学校での教科「情報」の教科書など

授業・準備学習のアドバイス:

ほとんどの授業がオンデマンド型の授業です。自分で時間を決めて受講してください。
1回目の授業で授業の受け方を対面でお話しします。
電子教科書を使用します。1回目の授業までに生協にて購入手続きをお願いします。
オンデマンドはインターネットを介したTeamsを使用します。使用方法をオリエンテーションで学んでおいてください。
基本的に，予習はいりません。復習を中心に行ってください。
毎回の授業内容をできるだけその日のうちに理解してください。
小テスト(3回)はTeamsで採点します。間違えた個所を復習してください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: メディア・リテラシー論

クラス:

授業コード: B330300001

担当者: 間渕 泰尚 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: わたしたちは、企業や国家、さらに個人を含めて様々なメディアが発信する情報に取り囲まれて暮らしています。そうした情報社会の中で主体的に生きていくためには、メディアと批判的・創造的にかかわっていく力「メディア・リテラシー」が不可欠です。この授業では、自分とメディアのかかわりを振り返ることを出発点として、テレビや新聞といったマスメディア、SNSを始めとするインターネットメディア、それぞれの特徴を知り、主体的に情報を取捨選択できる力を育成すること、さらに自らが情報発信を行う側に立つ際に留意すべき点などについて、参加者のディスカッションを中心に考えていきたいと思います。

到達目標: （1）メディア上で流通する情報を批判的に吟味し、主体的に判断・選択する力を身につける。
（2）メディアの特性を正しく理解し、自らの目的に適合したメディアや情報を選択することができる。
（3）メディア上で情報発信する際に注意すべき事項を身につける。

各回の授業計画:

1. イントロダクション（授業の進め方、メディア論とは、メディア・リテラシーとは）（対面）
2. わたしの／わたしたちのメディア史（対面）
3. メディアメッセージの構成性ーニュース比較（1）（対面）
4. メディアメッセージの構成性ーニュース比較（2）（対面）
5. メディアの商業的性質ー広告比較（1）（対面）
6. メディアの商業的性質ー広告比較（2）（対面）
7. メディアの様式と言語ー各国のマンガ比較（1）（対面）
8. メディアの様式と言語ー各国のマンガ比較（2）（対面）
9. メディアによる「社会的現実」の構成力ーフェイクニュース（1）（対面）
10. メディアによる「社会的現実」の構成力ーフェイクニュース（2）（対面）
11. メディアのイデオロギー・価値伝達ーインフルエンサー（1）（対面）
12. メディアのイデオロギー・価値伝達ーインフルエンサー（2）（対面）
13. 受け手の非画一的解釈性ー炎上事例（1）（対面）
14. 受け手の非画一的解釈性ー炎上事例（2）（対面）
15. 授業のまとめとふりかえり（対面）

特記事項: なし

授業方法:
1. 講義、ディスカッション
2. 講義、ディスカッション、 グループワーク
3. 講義、ディスカッション
4. グループ発表、ディスカッション、解説講義
5. 講義、ディスカッション
6. グループ発表、ディスカッション、解説講義
7. 講義、ディスカッション
8. グループ発表、ディスカッション、解説講義
9. 講義、ディスカッション
10. グループ発表、ディスカッション、解説講義
11. 講義、ディスカッション
12 グループ発表、ディスカッション、解説講義
13. 講義、ディスカッション
14 . グループ発表、ディスカッション、解説講義
15. 講義、ディスカッション

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. メディアリテラシーを学ぶ意義を復習する（60分）次週テーマを予習する（60分）

2. 学んだテーマの復習(60分)次週テーマの予習(60分)
3. 学んだテーマの復習(60分)次週テーマの予習(60分)
4. 学んだテーマの復習(60分)次週テーマの予習(60分)
5. 学んだテーマの復習(60分)次週テーマの予習(60分)
6. 学んだテーマの復習(60分)次週テーマの予習(60分)
7. 学んだテーマの復習(60分)次週テーマの予習(60分)
8. 学んだテーマの復習(60分)次週テーマの予習(60分)
9. 学んだテーマの復習(60分)次週テーマの予習(60分)
10. 学んだテーマの復習(60分)次週テーマの予習(60分)
11. 学んだテーマの復習(60分)次週テーマの予習(60分)レポート作成(200分)
12. 学んだテーマの復習(60分)次週テーマの予習(60分)レポート作成(200分)
13. 学んだテーマの復習(60分)次週テーマの予習(60分)レポート作成(200分)
14. 学んだテーマの復習(60分)次週テーマの予習(60分)レポート作成(200分)
15. 学んだテーマの復習(60分)レポート作成(160分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	− **%**	**レポート:**	70 **%**
その他1:			**%**		
その他2:			**%**		

評価基準:

「評価方法」の1～2について、以下の基準を満たすことが求められます。
1. 授業へのとりくみ(授業態度、関心・意欲、発表など)
・ 受講態度が良く、授業内容を理解し、質問に答えられる(60～69点)。
・ 受講態度が良く、授業内容を十分に理解し、ニュースの問題点について自分の意見を述べることができる(80～100点)。
2. レポート
・ 課題に対して、これまでの授業内容を参考に必要な文献などを読んだ上、自分の意見を入れて文-章が書けている(60～69点)。
・ 課題に対して、これまでの授業内容を参考に必要な文献などを読んだ上、内容についてさまざまな角度から調査分析し、論理的に文章が書けている(80～100点)。

上記2項目について総合的に評価する。

課題へのフィードバック:

・通常の授業については授業内で内容についてフィードバックする。レポートに関しては、提出後に授業Teamにて全体へのフィードバックと講評を公開する。

教科書: なし。必要に応じて資料を配布する。

参考書: 坂本旬 山脇岳志 2021『メディアリテラシー 吟味思考を育む』時事通信社

授業・準備学習のアドバイス:

履修者の積極的な参加を求めます。聞いているだけではメディアリテラシーを高めることはできません。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: AIとデータサイエンス

クラス:

授業コード: B330400001

担当者: 中尾 尊洋 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教員免許法施行規則第66条の6に定める選択必修科目(数理、データ活用及び人工知能に関する科目 又は 情報機器の操作)

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 今後のデジタル社会において、データサイエンス・AIを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を主体的に身に付けること。そして、学修した数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能をもとに、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意志でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになること。

到達目標:
1. AIやデータサイエンスを学ぶ理由を説明できる
2. AIやデータサイエンスが社会でどのように活用され新たな価値を生んでいるのか/生むことを期待されているのか、説明できる
3. AIの得意なところ、苦手なところを理解し、人間中心の適切な判断ができる
4. データ・AIの利活用における留意事項を説明できる

各回の授業計画:

1. ガイダンス −AI・データサイエンスとは−
2. データ・AIを利活用するための技術①
3. データ・AIを利活用するための技術②
4. 社会で起きている変化とAI利活用の最新動向
5. データ・AIの活用領域
6. データを読む
7. データを説明する
8. データ・AIを扱う上での留意事項
9. データを扱う①
10. データを扱う②
11. データを扱う③
12. データを扱う④
13. 情報セキュリティとAI・データサイエンス
14. 問題解決におけるAI・データサイエンス①
15. 問題解決におけるAI・データサイエンス②

特記事項: なし

授業方法: 講義を踏まえつつ、ディスカッションとワーク、演習を通して理解を深める。
①②④⑥⑧⑩⑪⑭⑮ 講義・演習(対面)
③⑤⑦⑨⑫⑬講義(オンライン(オンデマンド))
※ただし, 状況によってはオンラインから対面に変更する場合がある。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. データサイエンスに関する用語について事前学習する(180分)
2. データ・AI を利活用するための技術に関する専門用語(データ解析と可視化技術の領域)について事前学習をする(180分)
3. データ・AI を利活用するための技術に関する専門用語(AIの技術の領域等)について事前学習をする(180分)
4. ビッグデータに関する専門用語やAI, Society5.0に関する専門用語, およびAIの最新動向について事前学習をする(180分)
5. データ・AI の活用領域に関する専門用語について事前学習をする(180分)
6. データを読む上で必要となる専門用語について事前学習をする(180分)
7. データを説明するために必要となる専門用語について事前学習をする(180分)
8. データ・AI を扱う上での留意事項に関する専門用語について事前学習をする(180分)
9. データを扱う上で必要となる専門用語について事前学習をする(180分)
10. データを扱う上で必要となる表計算ソフトについて事前学習をする(180分)
11. データを扱う上で必要となる基礎的な統計処理の方法について事前学習をする(180分)
12. データを扱う上で必要となる応用的な統計処理の方法について事前学習をする(180分)

13. 情報セキュリティ・モラル・倫理，デジタル社会におけるリスクの領域，データを取り巻く考え方の領域について事前学習をする（180分）
14. 問題解決におけるAI利活用事例について事前学習をする（180分）
15. これまでの学習した講義資料を確認し、総合練習のテーマについて復習する（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	20 **%**	**確認テスト：**	30 **%**	**レポート：**	50 **%**
その他1：			**%**		
その他2：			**%**		

評価基準：
優（80～100）到達目標を満たしている
良（70～79）到達目標をかなり満たしている
可（60～69）到達目標を一部満たしている

課題へのフィードバック：
レポートについては、要点となる内容についてのフィードバックを授業中またはLMS上でコメントする。

教科書： 適宜資料を配布・配信する

参考書： 東京大学 数理・情報教育センター『リテラシーレベル教材』http://www.mi.u-tokyo.ac.jp/6university_consortium.html

授業・準備学習のアドバイス：
授業の授業計画に沿って、準備学習と復習を行う。
対面授業では必ずPCを持参する。スマホ，ipad等のタブレット端末は不可。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: AIとデータサイエンス

クラス:

授業コード: B330400002

担当者: 中尾 尊洋 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教員免許法施行規則第66条の6に定める選択必修科目(数理、データ活用及び人工知能に関する科目 又は 情報機器の操作)

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 今後のデジタル社会において、データサイエンス・AIを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を主体的に身に付けること。そして、学修した数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能をもとに、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意志でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになること。

到達目標:
1. AIやデータサイエンスを学ぶ理由を説明できる
2. AIやデータサイエンスが社会でどのように活用され新たな価値を生んでいるのか/生むことを期待されているのか、説明できる
3. AIの得意なところ、苦手なところを理解し、人間中心の適切な判断ができる
4. データ・AIの利活用における留意事項を説明できる

各回の授業計画:

1. ガイダンス −AI・データサイエンスとは−
2. データ・AIを利活用するための技術①
3. データ・AIを利活用するための技術②
4. 社会で起きている変化とAI利活用の最新動向
5. データ・AIの活用領域
6. データを読む
7. データを説明する
8. データ・AIを扱う上での留意事項
9. データを扱う①
10. データを扱う②
11. データを扱う③
12. データを扱う④
13. 情報セキュリティとAI・データサイエンス
14. 問題解決におけるAI・データサイエンス①
15. 問題解決におけるAI・データサイエンス②

特記事項: なし

授業方法: 講義を踏まえつつ、ディスカッションとワーク、演習を通して理解を深める。
①②④⑥⑧⑩⑪⑭⑮ 講義・演習(対面)
③⑤⑦⑨⑫⑬講義(オンライン(オンデマンド))
※ただし, 状況によってはオンラインから対面に変更する場合がある。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. データサイエンスに関する用語について事前学習する(180分)
2. データ・AI を利活用するための技術に関する専門用語(データ解析と可視化技術の領域)について事前学習をする(180分)
3.. データ・AI を利活用するための技術に関する専門用語(AIの技術の領域等)について事前学習をする(180分)
4. ビッグデータに関する専門用語やAI, Society5.0に関する専門用語, およびAIの最新動向について事前学習をする(180分)
5. データ・AI の活用領域に関する専門用語について事前学習をする(180分)
6. データを読む上で必要となる専門用語について事前学習をする(180分)
7. データを説明するために必要となる専門用語について事前学習をする(180分)
8. データ・AI を扱う上での留意事項に関する専門用語について事前学習をする(180分)
9. データを扱う上で必要となる専門用語について事前学習をする(180分)
10. データを扱う上で必要となる表計算ソフトについて事前学習をする(180分)
11. データを扱う上で必要となる基礎的な統計処理の方法について事前学習をする(180分)
12. データを扱う上で必要となる応用的な統計処理の方法について事前学習をする(180分)

13. 情報セキュリティ・モラル・倫理，デジタル社会におけるリスクの領域，データを取り巻く考え方の領域について事前学習をする（180分）
14. 問題解決におけるAI利活用事例について事前学習をする（180分）
15. これまでの学習した講義資料を確認し、総合練習のテーマについて復習する（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	20 **%**	**確認テスト：**	30 **%**	**レポート：**	50 **%**
その他1：			**%**		
その他2：			**%**		

評価基準：
優（80～100）到達目標を満たしている
良（70～79）到達目標をかなり満たしている
可（60～69）到達目標を一部満たしている

課題へのフィードバック：
レポートについては、要点となる内容についてのフィードバックを授業中またはLMS上でコメントする。

教科書： 適宜資料を配布・配信する

参考書： 東京大学 数理・情報教育センター『リテラシーレベル教材』http://www.mi.u-tokyo.ac.jp/6university_consortium.html

授業・準備学習のアドバイス：
授業の授業計画に沿って、準備学習と復習を行う。
対面授業では必ずPCを持参する。スマホ，ipad等のタブレット端末は不可。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: インターンシップA

クラス:

授業コード: B410700001

担当者: 猪田 裕子 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: この授業では、将来目指す職業や関連する分野の現場を実際に経験することで、自分の専攻や研究への理解を深めるとともに、自分の適性を知る機会を提供する。また、現場での学びを通じて、志望する業種や職種をより具体的にイメージし、就業後の環境への適応力や実践力を身につけることを目的とする。

到達目標:
・現場の理解
インターンシップを通じて、職場の環境や業務内容を具体的に理解する
・適性の確認
現場での体験を基に、自分の興味や適性について再認識する
・スキルの習得
業務を通じて、基本的なビジネスマナーやコミュニケーションスキルを身につける
・志望業種・職種の明確化
実際の業務経験を通じて、志望する業種や職種の方向性を具体的に考える
・実践力の向上
実際の職場で得た経験や課題を振り返り、問題解決能力や行動力を高める
・キャリア形成の視点を養う
現場体験を基に、将来のキャリアプランや自身の成長に必要な取り組みを具体化する

各回の授業計画:

1. 事前指導（心構え）「インターンシップとは」
インターンシップの目的や意義について学び、参加に向けた心構えを身につける。
キャリアセンターによるガイダンスを通じて、インターンシップの基本を理解する。

2. ビジネスマナー（基本編・応用編）
社会人として必要な挨拶、服装、身だしなみ、化粧などのビジネスマナーを学ぶ。
キャリアセンターによるガイダンスを活用し、実践に役立つ知識を習得する。

3. 面談（参加の意義・目的の理解と心得）
インターンシップに参加する意義や目的を確認し、個々の課題や目標について指導を受ける。
個別面談を通じて、参加への準備を整える。

4. 事前レポート作成「インターンシップ先の理解と情報整理」
インターンシップ先の概要や業務内容を調査し、情報を整理する。
事前レポートを通じて、参加前の理解を深め、目的意識を明確にする。

5. インターンシップ参加
インターンシップに参加し、現場での業務体験を通じて実践的なスキルを身につける。
職場の環境や業務内容を理解し、自身の適性について考える機会とする。

6. 事後レポート作成「就業体験から得たもの」
インターンシップでの経験を振り返り、自身が得た学びや気づき、今後の課題について整理する。
事後レポートを作成し、経験を自己成長に活かす。

7. 事後報告会「ふりかえりと整理」
インターンシップの成果や経験を他の参加者と共有し、学びを振り返る。
報告会を通じて、自身の成長や気づきを深め、今後のキャリアに向けた意識を高める。

特記事項: ①「インターンシップA」「インターンシップB」の2科目を開講しているが、初めて履修する場合は「インターンシップA」から履修すること。

②「インターンシップB」の履修対象者は、以下のどちらかに該当する学生のみである。
・同年度に「インターンシップA」「インターンシップB」の2科目を履修希望の者
・過去に「インターンシップA」を履修し、「認定(合格)」で単位を認定された者

③インターンシップ(実習)は、8月から9月までの期間中に5日間以上(30時間以上)で実施する(なお、「インターンシップA」「インターンシップB」を同年度に履修する場合は10日間以上(60時間以上)の実習となる)。

④日程は、受入先企業等が定めた期間となる。日程・受入先企業等の公表については、調整が必要なため、インターンシップ説明会後に作成するTeamsでおこなう。

⑤受入先企業等については、大学と連携した企業等での実習に限る。学生が自主的に情報を入手して参加した公募型のインターンシップについては対象外である。

⑥外国人留学生については、新卒採用を実施していない企業等での受入が難しいことや受入可能でも日本語でのコミュニケーション能力が求められている。これらの点を十分に理解・確認したうえで、慎重に履修を検討すること。

授業方法: 【対面】
グループワーク
グループディスカッション

予習・復習・宿題など(内容・時間):

(予習)インターンシップ参加前に実習先の企業研究を行い、業務内容や企業の特徴について情報を収集する(5時間)。
(課題:事前レポート)インターンシップ参加に対する心構えや目的意識を整理し、企業研究の結果を踏まえて事前レポートを作成する(5時間)。
(課題:事後レポート)インターンシップ終了後に、就業体験を振り返り、学びや気づき、今後の課題を整理した事後レポートを作成する(5時間)。

評価方法:	**授業へのとりくみ:**	70 **%**	**確認テスト:**	− **%**	**レポート:**	30 **%**
	その他1:			**%**		
	その他2:			**%**		

評価基準: この科目の評価は、「認定(合格)」または「非認定(不合格)」の二段階である。以下の4つの要件をすべて満たした場合に単位を認定する。

1.4月に開催されるインターンシップ説明会に参加すること
2.事前指導を受講し、「事前レポート」を提出すること
3.インターンシップ終了後に、「事後レポート」を提出すること
4.インターンシップ終了後の事後報告会に出席し、体験発表を行うこと

いずれかの要件を満たさない場合は、単位を認定しない。計画的に準備し、主体的に取り組むことが求められる。

課題へのフィードバック:

インターンシップ終了後に開催される「事後報告会」で、体験発表を行う。
発表に対しては、事業所担当者や科目担当者から講評が行われる。

教科書: 必要に応じてプリントなどを配布する。

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

この科目は、以下の4点を全て履修することで単位認定を行う。
1. インターンシップ説明会に参加する。
2. 事前指導を受講し、「事前レポート」を提出する。
3. インターンシップ終了後に、「事後レポート」を提出する。
4. インターンシップ終了後に開催される事後報告会に出席し、体験発表を行う。

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: インターンシップB

クラス:

授業コード: B410800001

担当者: 猪田 裕子 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: この授業では、将来目指す職業や関連する分野の現場を実際に経験することで、自分の専攻や研究への理解を深めるとともに、自分の適性を知る機会を提供する。また、現場での学びを通じて、志望する業種や職種をより具体的にイメージし、就業後の環境への適応力や実践力を身につけることを目的とする。

到達目標:
・現場の理解
インターンシップを通じて、職場の環境や業務内容を具体的に理解する
・適性の確認
現場での体験を基に、自分の興味や適性について再認識する
・スキルの習得
業務を通じて、基本的なビジネスマナーやコミュニケーションスキルを身につける
・志望業種・職種の明確化
実際の業務経験を通じて、志望する業種や職種の方向性を具体的に考える
・実践力の向上
実際の職場で得た経験や課題を振り返り、問題解決能力や行動力を高める
・キャリア形成の視点を養う
現場体験を基に、将来のキャリアプランや自身の成長に必要な取り組みを具体化する

各回の授業計画:

1. 事前指導（心構え）「インターンシップとは」
インターンシップの目的や意義について学び、参加に向けた心構えを身につける。
キャリアセンターによるガイダンスを通じて、インターンシップの基本を理解する。

2. ビジネスマナー（基本編・応用編）
社会人として必要な挨拶、服装、身だしなみ、化粧などのビジネスマナーを学ぶ。
キャリアセンターによるガイダンスを活用し、実践に役立つ知識を習得する。

3. 面談（参加の意義・目的の理解と心得）
インターンシップに参加する意義や目的を確認し、個々の課題や目標について指導を受ける。
個別面談を通じて、参加への準備を整える。

4. 事前レポート作成「インターンシップ先の理解と情報整理」
インターンシップ先の概要や業務内容を調査し、情報を整理する。
事前レポートを通じて、参加前の理解を深め、目的意識を明確にする。

5. インターンシップ参加
インターンシップに参加し、現場での業務体験を通じて実践的なスキルを身につける。
職場の環境や業務内容を理解し、自身の適性について考える機会とする。

6. 事後レポート作成「就業体験から得たもの」
インターンシップでの経験を振り返り、自身が得た学びや気づき、今後の課題について整理する。
事後レポートを作成し、経験を自己成長に活かす。

7. 事後報告会「ふりかえりと整理」
インターンシップの成果や経験を他の参加者と共有し、学びを振り返る。
報告会を通じて、自身の成長や気づきを深め、今後のキャリアに向けた意識を高める。

特記事項: ①「インターンシップB」の履修対象者は、以下のどちらかに該当する学生のみである。
・同年度に「インターンシップA」「インターンシップB」の2科目を履修希望の者
・過去に「インターンシップA」を履修し、「認定（合格）」で単位を認定された者
初めて履修する場合は「インターンシップA」から履修すること

②インターンシップ（実習）は、8月から9月までの期間中に5日間以上（30時間以上）で実施する（なお、「インターンシップA」「インターンシップB」を同年度に履修する場合は10日間以上（60時間以上）の実習となる）。

③日程は、受入先企業等が定めた期間となる。日程・受入先企業等の公表については、調整が必要なため、インターンシップ説明会後に作成するTeamsでおこなう。

④受入先企業等については、大学と連携した企業等での実習に限る。学生が自主的に情報を入手して参加した公募型のインターンシップについては対象外である。

⑤外国人留学生については、新卒採用を実施していない企業等での受入が難しいことや受入可能でも日本語でのコミュニケーション能力が求められている。これらの点を十分に理解・確認したうえで、慎重に履修を検討すること。

授業方法: 【対面】
グループワーク
グループディスカッション

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

（予習）インターンシップ参加前に実習先の企業研究を行い、業務内容や企業の特徴について情報を収集する（5時間）。
（課題:事前レポート）インターンシップ参加に対する心構えや目的意識を整理し、企業研究の結果を踏まえて事前レポートを作成する（5時間）。
（課題:事後レポート）インターンシップ終了後に、就業体験を振り返り、学びや気づき、今後の課題を整理した事後レポートを作成する（5時間）。

評価方法:

授業へのとりくみ:	70 **%**	**確認テスト:**	− **%**	**レポート:**	30 **%**
その他1:			**%**		
その他2:			**%**		

評価基準: この科目の評価は、「認定（合格）」または「非認定（不合格）」の二段階である。以下の4つの要件をすべて満たした場合に単位を認定する。

1.4月に開催されるインターンシップ説明会に参加すること1
2.事前指導を受講し、「事前レポート」を提出すること
3.インターンシップ終了後に、「事後レポート」を提出すること
4.インターンシップ終了後の事後報告会に出席し、体験発表を行うこと

いずれかの要件を満たさない場合は、単位を認定しない。計画的に準備し、主体的に取り組むことが求められる。

課題へのフィードバック:

インターンシップ終了後に開催される「事後報告会」で、体験発表を行う。発表に対しては、事業所担当者や科目担当者から講評が行われる。

教科書: 必要に応じてプリントなどを配布する。

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

この科目は、以下の4点を全て履修することで単位認定を行う。

1.インターンシップ説明会に参加する。
2.事前指導を受講し、「事前レポート」を提出する。
3.インターンシップ終了後に、「事後レポート」を提出する。
4.インターンシップ終了後に開催される事後報告会に出席し、体験発表を行う。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: ワーク＆ライフデザインⅠ

クラス: 前①

授業コード: B430100001

担当者: 秦　貴子　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有: 企業における人材開発及び大学におけるキャリア教育・インターンシップ教育に関する総合的な実務とマネジメント、公立学校教員、キャリアコンサルタント等の実務経験

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: キャリアデザインに1回生からの取組むことが、自分のキャリアをつくっていく上で重要であることを実践的に学ぶ。
社会では、自らの判断と創造が要求されるが、責任ある仕事を継続的に体験したことがない学生は、そこに至る基本的な考え方と知識を学ぶ必要がある。
大学卒業を控えた就職活動時に絶大な威力を発揮するのは「大学でどんな行動を起こし、何を掴んだのか」ということを堂々と自分の言葉で語れることである。
このワーク＆ライフデザインⅠでは、「自分のキャリアをつくっていく上で求められる考え方や知識」や「自分の言葉で語ることがいかに重要であるか」を理論的・体験的に学ぶ。

到達目標: ・自分の学生生活を自己責任でつくっていく大切さを知ることが、キャリアデザインの第一歩であることを学ぶ
・キャリアデザインの基本となる「考え方」を習得

各回の授業計画:

1. 第1章 高校時代に決別だ～オールクリアボタンを押そう～
大学生活を実りあるものにする考え方や捉え方を主体的に行うと同時に、キャリアデザイン・キャリア開発の大切さを学ぶ。

2. 第2章 自己紹介とは何かを考えてみよう
他者と関わり、新たな自分を知ること、自分から発信していく自己紹介のポイントを学ぶ。

3. 第3章 何のために大学にきたのだろう（目的）
「何のために大学に来たのか」今一度、入学動機を内省し、大学生活に役立つ【目的意識】の大切さを学ぶ。

4. 第4章 大学生活がこうなればいいなぁ（目標）
目標を持つ大切さ及び実現するための必要なプロセスを学ぶ。その為に、スタートラインにいる自分が主体的に考え、失敗しても諦めず行動を続けることで成長し、夢や目標に近づけることを個人・グループワークを通じて学ぶ。

5. 第5章 伝えたい（コミュニケーション）
これまでの授業で自分の思いや考えを伝えることや伝わる難しさを感じたのは何故なのか、「SMCRモデル」を通して理論的に学び、コミュニケーションの方法を体験し、気づきを得る。

6. 第6章 自分を表現しよう
グループメンバーを通して他者との違いを知り、自分への興味を深める。自己理解の大切さを学ぶ。

7. 第7章 協調性とは何かを知ろう
自分の思いや考えのもと、積極的に協力することが協調性であり、各人がその思いや考えを共有できれば、協力は強固なものになる。協力と共有の関係を理解し、協調性の大切さを学ぶ。

8. 第8章 好きなことから世の中に関わろう
～動く、感じる、考える～
キャリア開発を意識し、「世の中」と「学問・学び」について考える。世の中の捉え方やなぜ世の中に興味・関心を持つことが大切なのかを考える。

9. 金融教育 今後の人生においていろいろな意味で関わるお金について考えてもらう

10. 第9章 失敗は成功へ向けての授業料
人は失敗した時にその人の値打ちが問われる。失敗した時、どのような「振り返り」をして、どのような戦略・戦術で再チャレンジしたのか。目標を失わなければ、失敗は成功への道標となり、キャリア開発に繋がることを学ぶ。

11. 第10章 キャリアマインドをもとう ～2つの軸が君の未来をつくる～
経験を通して形成される価値観によって行動が変わってくる。自身の価値観を積み上げていくことで、ぶれない自分の軸が出来てくる。それがキャリアデザインをすることにも繋がることを学ぶ。

12. 第11章 ディスカッションの大切さを学ぼう
三段論弁法を学び、論理的に表現することを体験する。自分の意見を持ち、他者の意見も聞き、更に考えるということを学ぶ。

13. 第12章 勉強・仕事の土台となるものを考えてみよう
仕事をしていく上で、規律・協調・積極・責任といった情意面が一番基本で必要なことであり、目に見えない心を鍛え、磨くことを考える。

14. 第13章 プレゼンテーションにチャレンジ
プレゼンテーションは、レポートのように一方的に伝えるということではなく、双方向のコミュニケーションであることを実践して学ぶ。

15. 第14章 Will から始める大学生活
Will があれば Must が生まれ、Action へと移行し、継続することにより Habit がつき、Can となる。
自分で決めた Must から導かれる Action と Habit の検討を前向きな自分を感じながら取り組む。

特記事項: 授業は、原則として授業計画に基づいて進行するが、受講生の反応を見ながら授業回を入れ替える等、柔軟に進める。

授業方法: 【すべての授業を対面で行う】
授業の中では積極的に自分の事をしっかり考えていく為の講義、個人ワーク、グループワーク、発表、ディスカッション、プレゼンテーションを行いながら解説を試みる。
グループワークでは、講師から教わるのではなく、自分の体験の中から発見・再発見・再認識したことを自身の考えとして発言していき、メンバーからも様々な考えを確認することにより、多くのことを学ぶ。
自分自身や社会について学んだことを仲間と共有し、互いに協力し合って、有意義で楽しい大学生活を”自らの手で”つくっていく面白さを知る参加型講義を行う。
板書量は多くないが必ずノートを要求する。また、授業内では、毎回ワークシート作成があり、時間内で作成できなかった場合や、欠席したものは次回までに必ず、ワークシートは完成しておく必要がある。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

【授業時間外学習時間:合計1,020分】
1. 講義計画に沿って、事前にテキスト(該当箇所)を通読しておく(予習時間:30分×14回=420分)
2. テキストの該当箇所及び講義内における理論や実践について見直し、内省する時間を作る(復習時間:30分×14回=420分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	50 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	40 **%**
その他1:	プレゼンテーション		10 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度(60~69点)】
・授業への取り組み: 個人ワークで自身と向き合い、グループワークに参加している
・レポート: 授業内容を概ね理解し、自身のキャリアについてのレポートを書くことが出来る
・プレゼンテーション: 人前に立って、伝えたいことを自分の言葉で表現することが出来る

【望ましい到達度(80~100点)】
・授業への取り組み: 個人ワークで自身と向き合うことで内省を深めると共に、他者との協働に必要な考え方やスキル等について理解・意識してグループワークに参加している
・レポート: 授業内容を十分に理解し、多角的な視点で自身のキャリアについてのレポートを書くことが出来る
・プレゼンテーション: 人前に立って、伝えたいことを自分の言葉で表現することが出来ると共に、聴き手に感動を与えることが出来る

課題へのフィードバック:

提出物やレポートの内容について、必要に応じて授業内でコメントをする。

教科書: 東田晋三編著 『新自分デザイン・ブックⅠ』(株式会社ドリームシップ) 1,600円 (ISBN:9784990633103)

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

キャリア教育とは、就職教育ではなく、その人がその人らしく生き生きと働き、その人らしい生き方を考えるための心理的な支援です。キャリア教育が心理教育である所以です。
生きることと働くこととは切り離すことができません。学ぶことと仕事をすること、生きることと働くことは、それぞれが別々にあるわけではないのです。
生活時間の大半を占める働くことを真剣に捉えること。そして自分自身のモチベーションの源泉は教えられるものではなく、気づくものであり、キャリア開発・キャリア教育の基本が自己理解にある理由です。
自分自身と向き合い、問いかけ、考えて、自分の答えをみつけていきましょう。

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: ワーク＆ライフデザインⅠ

クラス: 前②

授業コード: B430100002

担当者: 中山 真由美 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有：1級キャリアコンサルタント技能士(国家資格)、国家資格キャリアコンサルタント、アスリートキャリアコーディネーター、AIP認定NLPプラクショナー

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: キャリアデザインに1回生からの取組むことが、自分のキャリアをつくっていく上で重要であることを実践的に学ぶ。
社会では、自らの判断と創造が要求されるが、責任ある仕事を継続的に体験したことがない学生は、そこに至る基本的な考え方と知識を学ぶ必要がある。
大学卒業を控えた就職活動時に絶大な威力を発揮するのは「大学でどんな行動を起こし、何を掴んだのか」ということを堂々と自分の言葉で語れることである。
このワーク＆ライフデザインⅠでは、「自分のキャリアをつくっていく上で求められる考え方や知識」や「自分の言葉で語ることがいかに重要であるか」を理論的・体験的に学ぶ。

到達目標: ・自分の学生生活を自己責任でつくっていく大切さを知ることが、キャリアデザインの第一歩であることを学ぶ
・キャリアデザインの基本となる「考え方」を習得

各回の授業計画:

1. 第1章 高校時代に決別だ～オールクリアボタンを押そう～
大学生活を実りあるものにする考え方や捉え方を主体的に行うと同時に、キャリアデザイン・キャリア開発の大切さを学ぶ。

2. 第2章 自己紹介とは何かを考えてみよう
他者と関わり、新たな自分を知ること、自分から発信していく自己紹介のポイントを学ぶ。

3. 第3章 何のために大学にきたのだろう(目的)
「何のために大学に来たのか」今一度、入学動機を内省し、大学生活に役立つ【目的意識】の大切さを学ぶ。

4. 第4章 大学生活がこうなればいいなぁ(目標)
目標を持つ大切さ及び実現するための必要なプロセスを学ぶ。その為に、スタートラインにいる自分が主体的に考え、失敗しても諦めず行動を続けることで成長し、夢や目標に近づけることを個人・グループワークを通じて学ぶ。

5. 第5章 伝えたい(コミュニケーション)
これまでの授業で自分の思いや考えを伝えることや伝わる難しさを感じたのは何故なのか、「SMCRモデル」を通して理論的に学び、コミュニケーションの方法を体験し、気づきを得る。

6. 第6章 自分を表現しよう
グループメンバーを通して他者との違いを知り、自分への興味を深める。自己理解の大切さを学ぶ。

7. 第7章 協調性とは何かを知ろう
自分の思いや考えのもと、積極的に協力することが協調性であり、各人がその思いや考えを共有できれば、協力は強固なものになる。協力と共有の関係を理解し、協調性の大切さを学ぶ。

8. 第8章 好きなことから世の中に関わろう
～動く、感じる、考える～
キャリア開発を意識し、「世の中」と「学問・学び」について考える。世の中の捉え方やなぜ世の中に興味・関心を持つことが大切なのかを考える。

9. 金融教育 今後の人生においていろいろな意味で関わるお金について考えてもらう

10. 第9章 失敗は成功へ向けての授業料
人は失敗した時にその人の値打ちが問われる。失敗した時、どのような「振り返り」をして、どのような戦略・戦術で再チャレンジしたのか。目標を失わなければ、失敗は成功への道標となり、キャリア開発に繋がることを学ぶ。

11. 第10章 キャリアマインドをもとう ～2つの軸が君の未来をつくる～
経験を通して形成される価値観によって行動が変わってくる。自身の価値観を積み上げていくことで、ぶれない自分の軸が出来てくる。それがキャリアデザインをすることにも繋がることを学ぶ。

12. 第11章 ディスカッションの大切さを学ぼう
三段論弁法を学び、論理的に表現することを体験する。自分の意見を持ち、他者の意見も聞き、更に考えるということを学ぶ。

13. 第12章 勉強・仕事の土台となるものを考えてみよう
仕事をしていく上で、規律・協調・積極・責任といった情意面が一番基本で必要なことであり、目に見えない心を鍛え、磨くことを考える。

14. 第13章 プレゼンテーションにチャレンジ
プレゼンテーションは、レポートのように一方的に伝えるということではなく、双方向のコミュニケーションであることを実践して学ぶ。

15. 第14章 Will から始める大学生活
Will があれば Must が生まれ、Action へと移行し、継続することにより Habit がつき、Can となる。
自分で決めた Must から導かれる Action と Habit の検討を前向きな自分を感じながら取り組む。

特記事項: 授業は、原則として授業計画に基づいて進行するが、受講生の反応を見ながら授業回を入れ替える等、柔軟に進める。

授業方法: 【すべての授業を対面で行う】
授業の中では積極的に自分の事をしっかり考えていく為の講義、個人ワーク、グループワーク、発表、ディスカッション、プレゼンテーションを行いながら解説を試みる。
グループワークでは、講師から教わるのではなく、自分の体験の中から発見・再発見・再認識したことを自身の考えとして発言していき、メンバーからも様々な考えを確認することにより、多くのことを学ぶ。
自分自身や社会について学んだことを仲間と共有し、互いに協力し合って、有意義で楽しい大学生活を”自らの手で”つくっていく面白さを知る参加型講義を行う。
板書量は多くないが必ずノートを要求する。また、授業内では、毎回ワークシート作成があり、時間内で作成できなかった場合や、欠席したものは次回までに必ず、ワークシートは完成しておく必要がある。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

【授業時間外学習時間:合計1,020分】
1. 講義計画に沿って、事前にテキスト(該当箇所)を通読しておく(予習時間:30分×14回=420分)
2. テキストの該当箇所及び講義内における理論や実践について見直し、内省する時間を作る(復習時間:30分×14回=420分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	50 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	40 **%**
その他1:	プレゼンテーション		10 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度(60~69点)】
・授業への取り組み: 個人ワークで自身と向き合い、グループワークに参加している
・レポート: 授業内容を概ね理解し、自身のキャリアについてのレポートを書くことが出来る
・プレゼンテーション: 人前に立って、伝えたいことを自分の言葉で表現することが出来る

【望ましい到達度(80~100点)】
・授業への取り組み: 個人ワークで自身と向き合うことで内省を深めると共に、他者との協働に必要な考え方やスキル等について理解・意識してグループワークに参加している
・レポート: 授業内容を十分に理解し、多角的な視点で自身のキャリアについてのレポートを書くことが出来る
・プレゼンテーション: 人前に立って、伝えたいことを自分の言葉で表現することが出来ると共に、聴き手に感動を与えることが出来る

課題へのフィードバック:
提出物やレポートの内容について、必要に応じて授業内でコメントをする。

教科書: 東田晋三編著 『新自分デザイン・ブックⅠ』(株式会社ドリームシップ) 1,600円 (ISBN:9784990633103)

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:
キャリア教育とは、就職教育ではなく、その人がその人らしく生き生きと働き、その人らしい生き方を考えるための心理的な支援です。キャリア教育が心理教育である所以です。
生きることと働くこととは切り離すことができません。学ぶことと仕事をすること、生きることと働くことは、それぞれが別々にあるわけではないのです。
生活時間の大半を占める働くことを真剣に捉えること。そして自分自身のモチベーションの源泉は教えられるものではなく、気づくものであり、キャリア開発・キャリア教育の基本が自己理解にある理由です。
自分自身と向き合い、問いかけ、考えて、自分の答えをみつけていきましょう。

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: ワーク＆ライフデザインⅠ

クラス: 前③

授業コード: B430100003

担当者: 柴原 高宏 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: キャリアデザインに1回生からの取組むことが、自分のキャリアをつくっていく上で重要であることを実践的に学ぶ。
社会では、自らの判断と創造が要求されるが、責任ある仕事を継続的に体験したことがない学生は、そこに至る基本的な考え方と知識を学ぶ必要がある。
大学卒業を控えた就職活動時に絶大な威力を発揮するのは「大学でどんな行動を起こし、何を掴んだのか」ということを堂々と自分の言葉で語れることである。
このワーク＆ライフデザインⅠでは、「自分のキャリアをつくっていく上で求められる考え方や知識」や「自分の言葉で語ることがいかに重要であるか」を理論的・体験的に学ぶ。

到達目標: ・自分の学生生活を自己責任でつくっていく大切さを知ることが、キャリアデザインの第一歩であることを学ぶ
・キャリアデザインの基本となる「考え方」を習得

各回の授業計画:

1. 第1章 高校時代に決別だ～オールクリアボタンを押そう～
大学生活を実りあるものにする考え方や捉え方を主体的に行うと同時に、キャリアデザイン・キャリア開発の大切さを学ぶ。

2. 第2章 自己紹介とは何かを考えてみよう
他者と関わり、新たな自分を知ること、自分から発信していく自己紹介のポイントを学ぶ。

3. 第3章 何のために大学にきたのだろう（目的）
「何のために大学に来たのか」今一度、入学動機を内省し、大学生活に役立つ【目的意識】の大切さを学ぶ。

4. 第4章 大学生活がこうなればいいなぁ（目標）
目標を持つ大切さ及び実現するための必要なプロセスを学ぶ。その為に、スタートラインにいる自分が主体的に考え、失敗しても諦めず行動を続けることで成長し、夢や目標に近づけることを個人・グループワークを通じて学ぶ。

5. 第5章 伝えたい（コミュニケーション）
これまでの授業で自分の思いや考えを伝えることや伝わる難しさを感じたのは何故なのか、「SMCRモデル」を通して理論的に学び、コミュニケーションの方法を体験し、気づきを得る。

6. 第6章 自分を表現しよう
グループメンバーを通して他者との違いを知り、自分への興味を深める。自己理解の大切さを学ぶ。

7. 第7章 協調性とは何かを知ろう
自分の思いや考えのもと、積極的に協力することが協調性であり、各人がその思いや考えを共有できれば、協力は強固なものになる。協力と共有の関係を理解し、協調性の大切さを学ぶ。

8. 第8章 好きなことから世の中に関わろう
～動く、感じる、考える～
キャリア開発を意識し、「世の中」と「学問・学び」について考える。世の中の捉え方やなぜ世の中に興味・関心を持つことが大切なのかを考える。

9. 金融教育 今後の人生においていろいろな意味で関わるお金について考えてもらう

10. 第9章 失敗は成功へ向けての授業料
人は失敗した時にその人の値打ちが問われる。失敗した時、どのような「振り返り」をして、どのような戦略・戦術で再チャレンジしたのか。目標を失わなければ、失敗は成功への道標となり、キャリア開発に繋がることを学ぶ。

11. 第10章 キャリアマインドをもとう ～2つの軸が君の未来をつくる～
経験を通して形成される価値観によって行動が変わってくる。自身の価値観を積み上げていくことで、ぶれない自分の軸が出来てくる。それがキャリアデザインをすることにも繋がることを学ぶ。

12. 第11章 ディスカッションの大切さを学ぼう
三段論弁法を学び、論理的に表現することを体験する。自分の意見を持ち、他者の意見も聞き、更に考えるということを学ぶ。

13. 第12章 勉強・仕事の土台となるものを考えてみよう
仕事をしていく上で、規律・協調・積極・責任といった情意面が一番基本で必要なことであり、目に見えない心を鍛え、磨くことを考える。

14. 第13章 プレゼンテーションにチャレンジ
プレゼンテーションは、レポートのように一方的に伝えるということではなく、双方向のコミュニケーションであることを実践して学ぶ。

15. 第14章 Will から始める大学生活
Will があれば Must が生まれ、Action へと移行し、継続することにより Habit がつき、Can となる。
自分で決めた Must から導かれる Action と Habit の検討を前向きな自分を感じながら取り組む。

特記事項: 授業は、原則として授業計画に基づいて進行するが、受講生の反応を見ながら授業回を入れ替える等、柔軟に進める。

授業方法: 【すべての授業を対面で行う】
授業の中では積極的に自分の事をしっかり考えていく為の講義、個人ワーク、グループワーク、発表、ディスカッション、プレゼンテーションを行いながら解説を試みる。
グループワークでは、講師から教わるのではなく、自分の体験の中から発見・再発見・再認識したことを自身の考えとして発言していき、メンバーからも様々な考えを確認することにより、多くのことを学ぶ。
自分自身や社会について学んだことを仲間と共有し、互いに協力し合って、有意義で楽しい大学生活を”自らの手で”つくっていく面白さを知る参加型講義を行う。
板書量は多くないが必ずノートを要求する。また、授業内では、毎回ワークシート作成があり、時間内で作成できなかった場合や、欠席したものは次回までに必ず、ワークシートは完成しておく必要がある。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

【授業時間外学習時間:合計1,020分】
1. 講義計画に沿って、事前にテキスト(該当箇所)を通読しておく(予習時間:30分×14回=420分)
2. テキストの該当箇所及び講義内における理論や実践について見直し、内省する時間を作る(復習時間:30分×14回=420分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	50 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	40 **%**
その他1:	プレゼンテーション		10 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度(60~69点)】
・授業への取り組み: 個人ワークで自身と向き合い、グループワークに参加している
・レポート: 授業内容を概ね理解し、自身のキャリアについてのレポートを書くことが出来る
・プレゼンテーション: 人前に立って、伝えたいことを自分の言葉で表現することが出来る

【望ましい到達度(80~100点)】
・授業への取り組み: 個人ワークで自身と向き合うことで内省を深めると共に、他者との協働に必要な考え方やスキル等について理解・意識してグループワークに参加している
・レポート: 授業内容を十分に理解し、多角的な視点で自身のキャリアについてのレポートを書くことが出来る
・プレゼンテーション: 人前に立って、伝えたいことを自分の言葉で表現することが出来ると共に、聴き手に感動を与えることが出来る

課題へのフィードバック:

提出物やレポートの内容について、必要に応じて授業内でコメントをする。

教科書: 東田晋三編著 『新自分デザイン・ブックⅠ』(株式会社ドリームシップ) 1,600円 (ISBN:9784990633103)

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

キャリア教育とは、就職教育ではなく、その人がその人らしく生き生きと働き、その人らしい生き方を考えるための心理的な支援です。キャリア教育が心理教育である所以です。
生きることと働くこととは切り離すことができません。学ぶことと仕事をすること、生きることと働くことは、それぞれが別々にあるわけではないのです。
生活時間の大半を占める働くことを真剣に捉えること。そして自分自身のモチベーションの源泉は教えられるものではなく、気づくものであり、キャリア開発・キャリア教育の基本が自己理解にある理由です。
自分自身と向き合い、問いかけ、考えて、自分の答えをみつけていきましょう。

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: ワーク＆ライフデザインⅠ

クラス: 前④

授業コード: B430100004

担当者: 萬上 葉也加　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: キャリアデザインに1回生からの取組むことが、自分のキャリアをつくっていく上で重要であることを実践的に学ぶ。
社会では、自らの判断と創造が要求されるが、責任ある仕事を継続的に体験したことがない学生は、そこに至る基本的な考え方と知識を学ぶ必要がある。
大学卒業を控えた就職活動時に絶大な威力を発揮するのは「大学でどんな行動を起こし、何を掴んだのか」ということを堂々と自分の言葉で語れることである。
このワーク＆ライフデザインⅠでは、「自分のキャリアをつくっていく上で求められる考え方や知識」や「自分の言葉で語ることがいかに重要であるか」を理論的・体験的に学ぶ。

到達目標: ・自分の学生生活を自己責任でつくっていく大切さを知ることが、キャリアデザインの第一歩であることを学ぶ
・キャリアデザインの基本となる「考え方」を習得

各回の授業計画:

1. 第1章 高校時代に決別だ～オールクリアボタンを押そう～
大学生活を実りあるものにする考え方や捉え方を主体的に行うと同時に、キャリアデザイン・キャリア開発の大切さを学ぶ。

2. 第2章 自己紹介とは何かを考えてみよう
他者と関わり、新たな自分を知ること、自分から発信していく自己紹介のポイントを学ぶ。

3. 第3章 何のために大学にきたのだろう（目的）
「何のために大学に来たのか」今一度、入学動機を内省し、大学生活に役立つ【目的意識】の大切さを学ぶ。

4. 第4章 大学生活がこうなればいいなぁ（目標）
目標を持つ大切さ及び実現するための必要なプロセスを学ぶ。その為に、スタートラインにいる自分が主体的に考え、失敗しても諦めず行動を続けることで成長し、夢や目標に近づけることを個人・グループワークを通じて学ぶ。

5. 第5章 伝えたい（コミュニケーション）
これまでの授業で自分の思いや考えを伝えることや伝わる難しさを感じたのは何故なのか、「SMCRモデル」を通して理論的に学び、コミュニケーションの方法を体験し、気づきを得る。

6. 第6章 自分を表現しよう
グループメンバーを通して他者との違いを知り、自分への興味を深める。自己理解の大切さを学ぶ。

7. 第7章 協調性とは何かを知ろう
自分の思いや考えのもと、積極的に協力することが協調性であり、各人がその思いや考えを共有できれば、協力は強固なものになる。協力と共有の関係を理解し、協調性の大切さを学ぶ。

8. 第8章 好きなことから世の中に関わろう
～動く、感じる、考える～
キャリア開発を意識し、「世の中」と「学問・学び」について考える。世の中の捉え方やなぜ世の中に興味・関心を持つことが大切なのかを考える。

9. 金融教育 今後の人生においていろいろな意味で関わるお金について考えてもらう

10. 第9章 失敗は成功へ向けての授業料
人は失敗した時にその人の値打ちが問われる。失敗した時、どのような「振り返り」をして、どのような戦略・戦術で再チャレンジしたのか。目標を失わなければ、失敗は成功への道標となり、キャリア開発に繋がることを学ぶ。

11. 第10章 キャリアマインドをもとう ～2つの軸が君の未来をつくる～
経験を通して形成される価値観によって行動が変わってくる。自身の価値観を積み上げていくことで、ぶれない自分の軸が出来てくる。それがキャリアデザインをすることにも繋がることを学ぶ。

12. 第11章 ディスカッションの大切さを学ぼう
三段論弁法を学び、論理的に表現することを体験する。自分の意見を持ち、他者の意見も聞き、更に考えるということを学ぶ。

13. 第12章 勉強・仕事の土台となるものを考えてみよう
仕事をしていく上で、規律・協調・積極・責任といった情意面が一番基本で必要なことであり、目に見えない心を鍛え、磨くことを考える。

14. 第13章 プレゼンテーションにチャレンジ
プレゼンテーションは、レポートのように一方的に伝えるということではなく、双方向のコミュニケーションであることを実践して学ぶ。

15. 第14章 Will から始める大学生活
Will があれば Must が生まれ、Action へと移行し、継続することにより Habit がつき、Can となる。
自分で決めた Must から導かれる Action と Habit の検討を前向きな自分を感じながら取り組む。

特記事項: 授業は、原則として授業計画に基づいて進行するが、受講生の反応を見ながら授業回を入れ替える等、柔軟に進める。

授業方法: 【すべての授業を対面で行う】
授業の中では積極的に自分の事をしっかり考えていく為の講義、個人ワーク、グループワーク、発表、ディスカッション、プレゼンテーションを行いながら解説を試みる。
グループワークでは、講師から教わるのではなく、自分の体験の中から発見・再発見・再認識したことを自身の考えとして発言していき、メンバーからも様々な考えを確認することにより、多くのことを学ぶ。
自分自身や社会について学んだことを仲間と共有し、互いに協力し合って、有意義で楽しい大学生活を”自らの手で”つくっていく面白さを知る参加型講義を行う。
板書量は多くないが必ずノートを要求する。また、授業内では、毎回ワークシート作成があり、時間内で作成できなかった場合や、欠席したものは次回までに必ず、ワークシートは完成しておく必要がある。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

【授業時間外学習時間:合計1,020分】
1. 講義計画に沿って、事前にテキスト(該当箇所)を通読しておく(予習時間:30分×14回=420分)
2. テキストの該当箇所及び講義内における理論や実践について見直し、内省する時間を作る(復習時間:30分×14回=420分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	50 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	40 **%**
その他1:	プレゼンテーション		10 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度(60~69点)】
・授業への取り組み: 個人ワークで自身と向き合い、グループワークに参加している
・レポート: 授業内容を概ね理解し、自身のキャリアについてのレポートを書くことが出来る
・プレゼンテーション: 人前に立って、伝えたいことを自分の言葉で表現することが出来る

【望ましい到達度(80~100点)】
・授業への取り組み: 個人ワークで自身と向き合うことで内省を深めると共に、他者との協働に必要な考え方やスキル等について理解・意識してグループワークに参加している
・レポート: 授業内容を十分に理解し、多角的な視点で自身のキャリアについてのレポートを書くことが出来る
・プレゼンテーション: 人前に立って、伝えたいことを自分の言葉で表現することが出来ると共に、聴き手に感動を与えることが出来る

課題へのフィードバック:
提出物やレポートの内容について、必要に応じて授業内でコメントをする。

教科書: 東田晋三編著 『新自分デザイン・ブックⅠ』(株式会社ドリームシップ) 1,600円 (ISBN:9784990633103)

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:
キャリア教育とは、就職教育ではなく、その人がその人らしく生き生きと働き、その人らしい生き方を考えるための心理的な支援です。キャリア教育が心理教育である所以です。
生きることと働くこととは切り離すことができません。学ぶことと仕事をすること、生きることと働くことは、それぞれが別々にあるわけではないのです。
生活時間の大半を占める働くことを真剣に捉えること。そして自分自身のモチベーションの源泉は教えられるものではなく、気づくものであり、キャリア開発・キャリア教育の基本が自己理解にある理由です。
自分自身と向き合い、問いかけ、考えて、自分の答えをみつけていきましょう。

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: ワーク＆ライフデザインⅠ

クラス: 前⑤

授業コード: B430100005

担当者: 向山　久子　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有：企業において人材開発業務に従事。キャリアコンサルタント（国家資格）

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: キャリアデザインに1回生からの取組むことが、自分のキャリアをつくっていく上で重要であることを実践的に学ぶ。
社会では、自らの判断と創造が要求されるが、責任ある仕事を継続的に体験したことがない学生は、そこに至る基本的な考え方と知識を学ぶ必要がある。
大学卒業を控えた就職活動時に絶大な威力を発揮するのは「大学でどんな行動を起こし、何を掴んだのか」ということを堂々と自分の言葉で語れることである。
このワーク＆ライフデザインⅠでは、「自分のキャリアをつくっていく上で求められる考え方や知識」や「自分の言葉で語ることがいかに重要であるか」を理論的・体験的に学ぶ。

到達目標: ・自分の学生生活を自己責任でつくっていく大切さを知ることが、キャリアデザインの第一歩であることを学ぶ
・キャリアデザインの基本となる「考え方」を習得

各回の授業計画:

1. 第1章 高校時代に決別だ～オールクリアボタンを押そう～
大学生活を実りあるものにする考え方や捉え方を主体的に行うと同時に、キャリアデザイン・キャリア開発の大切さを学ぶ。

2. 第2章 自己紹介とは何かを考えてみよう
他者と関わり、新たな自分を知ること、自分から発信していく自己紹介のポイントを学ぶ。

3. 第3章 何のために大学にきたのだろう（目的）
「何のために大学に来たのか」今一度、入学動機を内省し、大学生活に役立つ【目的意識】の大切さを学ぶ。

4. 第4章 大学生活がこうなればいいなぁ（目標）
目標を持つ大切さ及び実現するための必要なプロセスを学ぶ。その為に、スタートラインにいる自分が主体的に考え、失敗しても諦めず行動を続けることで成長し、夢や目標に近づけることを個人・グループワークを通じて学ぶ。

5. 第5章 伝えたい（コミュニケーション）
これまでの授業で自分の思いや考えを伝えることや伝わる難しさを感じたのは何故なのか、「SMCRモデル」を通して理論的に学び、コミュニケーションの方法を体験し、気づきを得る。

6. 第6章 自分を表現しよう
グループメンバーを通して他者との違いを知り、自分への興味を深める。自己理解の大切さを学ぶ。

7. 第7章 協調性とは何かを知ろう
自分の思いや考えのもと、積極的に協力することが協調性であり、各人がその思いや考えを共有できれば、協力は強固なものになる。協力と共有の関係を理解し、協調性の大切さを学ぶ。

8. 第8章 好きなことから世の中に関わろう
～動く、感じる、考える～
キャリア開発を意識し、「世の中」と「学問・学び」について考える。世の中の捉え方やなぜ世の中に興味・関心を持つことが大切なのかを考える。

9. 金融教育 今後の人生においていろいろな意味で関わるお金について考えてもらう

10. 第9章 失敗は成功へ向けての授業料
人は失敗した時にその人の値打ちが問われる。失敗した時、どのような「振り返り」をして、どのような戦略・戦術で再チャレンジしたのか。目標を失わなければ、失敗は成功への道標となり、キャリア開発に繋がることを学ぶ。

11. 第10章 キャリアマインドをもとう ～2つの軸が君の未来をつくる～
経験を通して形成される価値観によって行動が変わってくる。自身の価値観を積み上げていくことで、ぶれない自分の軸が出来てくる。それがキャリアデザインをすることにも繋がることを学ぶ。

12. 第11章 ディスカッションの大切さを学ぼう
三段論弁法を学び、論理的に表現することを体験する。自分の意見を持ち、他者の意見も聞き、更に考えるということを学ぶ。

13. 第12章 勉強・仕事の土台となるものを考えてみよう
仕事をしていく上で、規律・協調・積極・責任といった情意面が一番基本で必要なことであり、目に見えない心を鍛え、磨くことを考える。

14. 第13章 プレゼンテーションにチャレンジ
プレゼンテーションは、レポートのように一方的に伝えるということではなく、双方向のコミュニケーションであることを実践して学ぶ。

15. 第14章 Will から始める大学生活
Will があれば Must が生まれ、Action へと移行し、継続することにより Habit がつき、Can となる。
自分で決めた Must から導かれる Action と Habit の検討を前向きな自分を感じながら取り組む。

特記事項: 授業は、原則として授業計画に基づいて進行するが、受講生の反応を見ながら授業回を入れ替える等、柔軟に進める。

授業方法: 【すべての授業を対面で行う】
授業の中では積極的に自分の事をしっかり考えていく為の講義、個人ワーク、グループワーク、発表、ディスカッション、プレゼンテーションを行いながら解説を試みる。
グループワークでは、講師から教わるのではなく、自分の体験の中から発見・再発見・再認識したことを自身の考えとして発言していき、メンバーからも様々な考えを確認することにより、多くのことを学ぶ。
自分自身や社会について学んだことを仲間と共有し、互いに協力し合って、有意義で楽しい大学生活を”自らの手で”つくっていく面白さを知る参加型講義を行う。
板書量は多くないが必ずノートを要求する。また、授業内では、毎回ワークシート作成があり、時間内で作成できなかった場合や、欠席したものは次回までに必ず、ワークシートは完成しておく必要がある。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

【授業時間外学習時間:合計1,020分】
1. 講義計画に沿って、事前にテキスト(該当箇所)を通読しておく(予習時間:30分×14回=420分)
2. テキストの該当箇所及び講義内における理論や実践について見直し、内省する時間を作る(復習時間:30分×14回=420分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	50 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	40 **%**
その他1:	プレゼンテーション		10 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度(60~69点)】
・授業への取り組み: 個人ワークで自身と向き合い、グループワークに参加している
・レポート: 授業内容を概ね理解し、自身のキャリアについてのレポートを書くことが出来る
・プレゼンテーション: 人前に立って、伝えたいことを自分の言葉で表現することが出来る

【望ましい到達度(80~100点)】
・授業への取り組み: 個人ワークで自身と向き合うことで内省を深めると共に、他者との協働に必要な考え方やスキル等について理解・意識してグループワークに参加している
・レポート: 授業内容を十分に理解し、多角的な視点で自身のキャリアについてのレポートを書くことが出来る
・プレゼンテーション: 人前に立って、伝えたいことを自分の言葉で表現することが出来ると共に、聴き手に感動を与えることが出来る

課題へのフィードバック:
提出物やレポートの内容について、必要に応じて授業内でコメントをする。

教科書: 東田晋三編著 『新自分デザイン・ブックⅠ』(株式会社ドリームシップ) 1,600円 (ISBN:9784990633103)

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:
キャリア教育とは、就職教育ではなく、その人がその人らしく生き生きと働き、その人らしい生き方を考えるための心理的な支援です。キャリア教育が心理教育である所以です。
生きることと働くこととは切り離すことができません。学ぶことと仕事をすること、生きることと働くことは、それぞれが別々にあるわけではないのです。
生活時間の大半を占める働くことを真剣に捉えること。そして自分自身のモチベーションの源泉は教えられるものではなく、気づくものであり、キャリア開発・キャリア教育の基本が自己理解にある理由です。
自分自身と向き合い、問いかけ、考えて、自分の答えをみつけていきましょう。

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: ワーク＆ライフデザインⅠ

クラス: 後①

授業コード: B430100006

担当者: 秦　貴子　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有: 企業における人材開発及び大学におけるキャリア教育・インターンシップ教育に関する総合的な実務とマネジメント、公立学校教員、特定社会保険労務士、キャリアコンサルタント等の実務経験

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: キャリアデザインに1回生からの取組むことが、自分のキャリアをつくっていく上で重要であることを実践的に学ぶ。
社会では、自らの判断と創造が要求されるが、責任ある仕事を継続的に体験したことがない学生は、そこに至る基本的な考え方と知識を学ぶ必要がある。
大学卒業を控えた就職活動時に絶大な威力を発揮するのは「大学でどんな行動を起こし、何を掴んだのか」ということを堂々と自分の言葉で語れることである。
このワーク＆ライフデザインⅠでは、「自分のキャリアをつくっていく上で求められる考え方や知識」や「自分の言葉で語ることがいかに重要であるか」を理論的・体験的に学ぶ。

到達目標: ・自分の学生生活を自己責任でつくっていく大切さを知ることが、キャリアデザインの第一歩であることを学ぶ
・キャリアデザインの基本となる「考え方」を習得

各回の授業計画:

1. 第1章 高校時代に決別だ～オールクリアボタンを押そう～
大学生活を実りあるものにする考え方や捉え方を主体的に行うと同時に、キャリアデザイン・キャリア開発の大切さを学ぶ。

2. 第2章 自己紹介とは何かを考えてみよう
他者と関わり、新たな自分を知ること、自分から発信していく自己紹介のポイントを学ぶ。

3. 第3章 何のために大学にきたのだろう（目的）
「何のために大学に来たのか」今一度、入学動機を内省し、大学生活に役立つ【目的意識】の大切さを学ぶ。

4. 第4章 大学生活がこうなればいいなぁ（目標）
目標を持つ大切さ及び実現するための必要なプロセスを学ぶ。その為に、スタートラインにいる自分が主体的に考え、失敗しても諦めず行動を続けることで成長し、夢や目標に近づけることを個人・グループワークを通じて学ぶ。

5. 第5章 伝えたい（コミュニケーション）
これまでの授業で自分の思いや考えを伝えることや伝わる難しさを感じたのは何故なのか、「SMCRモデル」を通して理論的に学び、コミュニケーションの方法を体験し、気づきを得る。

6. 第6章 自分を表現しよう
グループメンバーを通して他者との違いを知り、自分への興味を深める。自己理解の大切さを学ぶ。

7. 第7章 協調性とは何かを知ろう
自分の思いや考えのもと、積極的に協力することが協調性であり、各人がその思いや考えを共有できれば、協力は強固なものになる。協力と共有の関係を理解し、協調性の大切さを学ぶ。

8. 第8章 好きなことから世の中に関わろう
～動く、感じる、考える～
キャリア開発を意識し、「世の中」と「学問・学び」について考える。世の中の捉え方やなぜ世の中に興味・関心を持つことが大切なのかを考える。

9. 金融教育 今後の人生においていろいろな意味で関わるお金について考えてもらう

10. 第9章 失敗は成功へ向けての授業料
人は失敗した時にその人の値打ちが問われる。失敗した時、どのような「振り返り」をして、どのような戦略・戦術で再チャレンジしたのか。目標を失わなければ、失敗は成功への道標となり、キャリア開発に繋がることを学ぶ。

11. 第10章 キャリアマインドをもとう ～2つの軸が君の未来をつくる～
経験を通して形成される価値観によって行動が変わってくる。自身の価値観を積み上げていくことで、ぶれない自分の軸が出来てくる。それがキャリアデザインをすることにも繋がることを学ぶ。

12. 第11章 ディスカッションの大切さを学ぼう
三段論弁法を学び、論理的に表現することを体験する。自分の意見を持ち、他者の意見も聞き、更に考えるということを学ぶ。

13. 第12章 勉強・仕事の土台となるものを考えてみよう
仕事をしていく上で、規律・協調・積極・責任といった情意面が一番基本で必要なことであり、目に見えない心を鍛え、磨くことを考える。

14. 第13章 プレゼンテーションにチャレンジ
プレゼンテーションは、レポートのように一方的に伝えるということではなく、双方向のコミュニケーションであることを実践して学ぶ。

15. 第14章 Will から始める大学生活
Will があれば Must が生まれ、Action へと移行し、継続することにより Habit がつき、Can となる。
自分で決めた Must から導かれる Action と Habit の検討を前向きな自分を感じながら取り組む。

特記事項: 授業は、原則として授業計画に基づいて進行するが、受講生の反応を見ながら授業回を入れ替える等、柔軟に進める。

授業方法: 【すべての授業を対面で行う】
授業の中では積極的に自分の事をしっかり考えていく為の講義、個人ワーク、グループワーク、発表、ディスカッション、プレゼンテーションを行いながら解説を試みる。
グループワークでは、講師から教わるのではなく、自分の体験の中から発見・再発見・再認識したことを自身の考えとして発言していき、メンバーからも様々な考えを確認することにより、多くのことを学ぶ。
自分自身や社会について学んだことを仲間と共有し、互いに協力し合って、有意義で楽しい大学生活を”自らの手で”つくっていく面白さを知る参加型講義を行う。
板書量は多くないが必ずノートを要求する。また、授業内では、毎回ワークシート作成があり、時間内で作成できなかった場合や、欠席したものは次回までに必ず、ワークシートは完成しておく必要がある。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

【授業時間外学習時間:合計1,020分】
1. 講義計画に沿って、事前にテキスト(該当箇所)を通読しておく(予習時間:30分×14回=420分)
2. テキストの該当箇所及び講義内における理論や実践について見直し、内省する時間を作る(復習時間:30分×14回=420分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	50 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	40 **%**
その他1:	プレゼンテーション		10 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度(60~69点)】
・授業への取り組み: 個人ワークで自身と向き合い、グループワークに参加している
・レポート: 授業内容を概ね理解し、自身のキャリアについてのレポートを書くことが出来る
・プレゼンテーション: 人前に立って、伝えたいことを自分の言葉で表現することが出来る

【望ましい到達度(80~100点)】
・授業への取り組み: 個人ワークで自身と向き合うことで内省を深めると共に、他者との協働に必要な考え方やスキル等について理解・意識してグループワークに参加している
・レポート: 授業内容を十分に理解し、多角的な視点で自身のキャリアについてのレポートを書くことが出来る
・プレゼンテーション: 人前に立って、伝えたいことを自分の言葉で表現することが出来ると共に、聴き手に感動を与えることが出来る

課題へのフィードバック:

提出物やレポートの内容について、必要に応じて授業内でコメントをする。

教科書: 東田晋三編著 『新自分デザイン・ブックⅠ』(株式会社ドリームシップ) 1,600円 (ISBN:9784990633103)

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

キャリア教育とは、就職教育ではなく、その人がその人らしく生き生きと働き、その人らしい生き方を考えるための心理的な支援です。キャリア教育が心理教育である所以です。
生きることと働くこととは切り離すことができません。学ぶことと仕事をすること、生きることと働くことは、それぞれが別々にあるわけではないのです。
生活時間の大半を占める働くことを真剣に捉えること。そして自分自身のモチベーションの源泉は教えられるものではなく、気づくものであり、キャリア開発・キャリア教育の基本が自己理解にある理由です。
自分自身と向き合い、問いかけ、考えて、自分の答えをみつけていきましょう。

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: ワーク＆ライフデザインⅠ

クラス: 後②

授業コード: B430100007

担当者: 中山 真由美 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有：1級キャリアコンサルタント技能士(国家資格)、国家資格キャリアコンサルタント、アスリートキャリアコーディネーター、AIP認定NLPプラクショナー

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: キャリアデザインに1回生からの取組むことが、自分のキャリアをつくっていく上で重要であることを実践的に学ぶ。
社会では、自らの判断と創造が要求されるが、責任ある仕事を継続的に体験したことがない学生は、そこに至る基本的な考え方と知識を学ぶ必要がある。
大学卒業を控えた就職活動時に絶大な威力を発揮するのは「大学でどんな行動を起こし、何を掴んだのか」ということを堂々と自分の言葉で語れることである。
このワーク＆ライフデザインⅠでは、「自分のキャリアをつくっていく上で求められる考え方や知識」や「自分の言葉で語ることがいかに重要であるか」を理論的・体験的に学ぶ。

到達目標: ・自分の学生生活を自己責任でつくっていく大切さを知ることが、キャリアデザインの第一歩であることを学ぶ
・キャリアデザインの基本となる「考え方」を習得

各回の授業計画:

1. 第1章 高校時代に決別だ～オールクリアボタンを押そう～
大学生活を実りあるものにする考え方や捉え方を主体的に行うと同時に、キャリアデザイン・キャリア開発の大切さを学ぶ。

2. 第2章 自己紹介とは何かを考えてみよう
他者と関わり、新たな自分を知ること、自分から発信していく自己紹介のポイントを学ぶ。

3. 第3章 何のために大学にきたのだろう(目的)
「何のために大学に来たのか」今一度、入学動機を内省し、大学生活に役立つ【目的意識】の大切さを学ぶ。

4. 第4章 大学生活がこうなればいいなぁ(目標)
目標を持つ大切さ及び実現するための必要なプロセスを学ぶ。その為に、スタートラインにいる自分が主体的に考え、失敗しても諦めず行動を続けることで成長し、夢や目標に近づけることを個人・グループワークを通じて学ぶ。

5. 第5章 伝えたい(コミュニケーション)
これまでの授業で自分の思いや考えを伝えることや伝わる難しさを感じたのは何故なのか、「SMCRモデル」を通して理論的に学び、コミュニケーションの方法を体験し、気づきを得る。

6. 第6章 自分を表現しよう
グループメンバーを通して他者との違いを知り、自分への興味を深める。自己理解の大切さを学ぶ。

7. 第7章 協調性とは何かを知ろう
自分の思いや考えのもと、積極的に協力することが協調性であり、各人がその思いや考えを共有できれば、協力は強固なものになる。協力と共有の関係を理解し、協調性の大切さを学ぶ。

8. 第8章 好きなことから世の中に関わろう
～動く、感じる、考える～
キャリア開発を意識し、「世の中」と「学問・学び」について考える。世の中の捉え方やなぜ世の中に興味・関心を持つことが大切なのかを考える。

9. 金融教育 今後の人生においていろいろな意味で関わるお金について考えてもらう

10. 第9章 失敗は成功へ向けての授業料
人は失敗した時にその人の値打ちが問われる。失敗した時、どのような「振り返り」をして、どのような戦略・戦術で再チャレンジしたのか。目標を失わなければ、失敗は成功への道標となり、キャリア開発に繋がることを学ぶ。

11. 第10章 キャリアマインドをもとう ～2つの軸が君の未来をつくる～
経験を通して形成される価値観によって行動が変わってくる。自身の価値観を積み上げていくことで、ぶれない自分の軸が出来てくる。それがキャリアデザインをすることにも繋がることを学ぶ。

12. 第11章 ディスカッションの大切さを学ぼう
三段論弁法を学び、論理的に表現することを体験する。自分の意見を持ち、他者の意見も聞き、更に考えるということを学ぶ。

13. 第12章 勉強・仕事の土台となるものを考えてみよう
仕事をしていく上で、規律・協調・積極・責任といった情意面が一番基本で必要なことであり、目に見えない心を鍛え、磨くことを考える。

14. 第13章 プレゼンテーションにチャレンジ
プレゼンテーションは、レポートのように一方的に伝えるということではなく、双方向のコミュニケーションであることを実践して学ぶ。

15. 第14章 Will から始める大学生活
Will があれば Must が生まれ、Action へと移行し、継続することにより Habit がつき、Can となる。
自分で決めた Must から導かれる Action と Habit の検討を前向きな自分を感じながら取り組む。

特記事項: 授業は、原則として授業計画に基づいて進行するが、受講生の反応を見ながら授業回を入れ替える等、柔軟に進める。

授業方法: 【すべての授業を対面で行う】
授業の中では積極的に自分の事をしっかり考えていく為の講義、個人ワーク、グループワーク、発表、ディスカッション、プレゼンテーションを行いながら解説を試みる。
グループワークでは、講師から教わるのではなく、自分の体験の中から発見・再発見・再認識したことを自身の考えとして発言していき、メンバーからも様々な考えを確認することにより、多くのことを学ぶ。
自分自身や社会について学んだことを仲間と共有し、互いに協力し合って、有意義で楽しい大学生活を”自らの手で”つくっていく面白さを知る参加型講義を行う。
板書量は多くないが必ずノートを要求する。また、授業内では、毎回ワークシート作成があり、時間内で作成できなかった場合や、欠席したものは次回までに必ず、ワークシートは完成しておく必要がある。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

【授業時間外学習時間:合計1,020分】
1. 講義計画に沿って、事前にテキスト(該当箇所)を通読しておく(予習時間:30分×14回=420分)
2. テキストの該当箇所及び講義内における理論や実践について見直し、内省する時間を作る(復習時間:30分×14回=420分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	50 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	40 **%**
その他1:	プレゼンテーション		10 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度(60~69点)】
・授業への取り組み: 個人ワークで自身と向き合い、グループワークに参加している
・レポート: 授業内容を概ね理解し、自身のキャリアについてのレポートを書くことが出来る
・プレゼンテーション: 人前に立って、伝えたいことを自分の言葉で表現することが出来る

【望ましい到達度(80~100点)】
・授業への取り組み: 個人ワークで自身と向き合うことで内省を深めると共に、他者との協働に必要な考え方やスキル等について理解・意識してグループワークに参加している
・レポート: 授業内容を十分に理解し、多角的な視点で自身のキャリアについてのレポートを書くことが出来る
・プレゼンテーション: 人前に立って、伝えたいことを自分の言葉で表現することが出来ると共に、聴き手に感動を与えることが出来る

課題へのフィードバック:
提出物やレポートの内容について、必要に応じて授業内でコメントをする。

教科書: 東田晋三編著 『新自分デザイン・ブックⅠ』(株式会社ドリームシップ) 1,600円 (ISBN:9784990633103)

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:
キャリア教育とは、就職教育ではなく、その人がその人らしく生き生きと働き、その人らしい生き方を考えるための心理的な支援です。キャリア教育が心理教育である所以です。
生きることと働くこととは切り離すことができません。学ぶことと仕事をすること、生きることと働くことは、それぞれが別々にあるわけではないのです。
生活時間の大半を占める働くことを真剣に捉えること。そして自分自身のモチベーションの源泉は教えられるものではなく、気づくものであり、キャリア開発・キャリア教育の基本が自己理解にある理由です。
自分自身と向き合い、問いかけ、考えて、自分の答えをみつけていきましょう。

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: ワーク＆ライフデザインⅠ

クラス: 後③

授業コード: B430100008

担当者: 柴原 高宏　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: キャリアデザインに1回生からの取組むことが、自分のキャリアをつくっていく上で重要であることを実践的に学ぶ。
社会では、自らの判断と創造が要求されるが、責任ある仕事を継続的に体験したことがない学生は、そこに至る基本的な考え方と知識を学ぶ必要がある。
大学卒業を控えた就職活動時に絶大な威力を発揮するのは「大学でどんな行動を起こし、何を掴んだのか」ということを堂々と自分の言葉で語れることである。
このワーク＆ライフデザインⅠでは、「自分のキャリアをつくっていく上で求められる考え方や知識」や「自分の言葉で語ることがいかに重要であるか」を理論的・体験的に学ぶ。

到達目標: ・自分の学生生活を自己責任でつくっていく大切さを知ることが、キャリアデザインの第一歩であることを学ぶ
・キャリアデザインの基本となる「考え方」を習得

各回の授業計画:

1. 第1章 高校時代に決別だ～オールクリアボタンを押そう～
大学生活を実りあるものにする考え方や捉え方を主体的に行うと同時に、キャリアデザイン・キャリア開発の大切さを学ぶ。

2. 第2章 自己紹介とは何かを考えてみよう
他者と関わり、新たな自分を知ること、自分から発信していく自己紹介のポイントを学ぶ。

3. 第3章 何のために大学にきたのだろう（目的）
「何のために大学に来たのか」今一度、入学動機を内省し、大学生活に役立つ【目的意識】の大切さを学ぶ。

4. 第4章 大学生活がこうなればいいなぁ（目標）
目標を持つ大切さ及び実現するための必要なプロセスを学ぶ。その為に、スタートラインにいる自分が主体的に考え、失敗しても諦めず行動を続けることで成長し、夢や目標に近づけることを個人・グループワークを通じて学ぶ。

5. 第5章 伝えたい（コミュニケーション）
これまでの授業で自分の思いや考えを伝えることや伝わる難しさを感じたのは何故なのか、「SMCRモデル」を通して理論的に学び、コミュニケーションの方法を体験し、気づきを得る。

6. 第6章 自分を表現しよう
グループメンバーを通して他者との違いを知り、自分への興味を深める。自己理解の大切さを学ぶ。

7. 第7章 協調性とは何かを知ろう
自分の思いや考えのもと、積極的に協力することが協調性であり、各人がその思いや考えを共有できれば、協力は強固なものになる。協力と共有の関係を理解し、協調性の大切さを学ぶ。

8. 第8章 好きなことから世の中に関わろう
～動く、感じる、考える～
キャリア開発を意識し、「世の中」と「学問・学び」について考える。世の中の捉え方やなぜ世の中に興味・関心を持つことが大切なのかを考える。

9. 金融教育 今後の人生においていろいろな意味で関わるお金について考えてもらう

10. 第9章 失敗は成功へ向けての授業料
人は失敗した時にその人の値打ちが問われる。失敗した時、どのような「振り返り」をして、どのような戦略・戦術で再チャレンジしたのか。目標を失わなければ、失敗は成功への道標となり、キャリア開発に繋がることを学ぶ。

11. 第10章 キャリアマインドをもとう ～2つの軸が君の未来をつくる～
経験を通して形成される価値観によって行動が変わってくる。自身の価値観を積み上げていくことで、ぶれない自分の軸が出来てくる。それがキャリアデザインをすることにも繋がることを学ぶ。

12. 第11章 ディスカッションの大切さを学ぼう
三段論弁法を学び、論理的に表現することを体験する。自分の意見を持ち、他者の意見も聞き、更に考えるということを学ぶ。

13. 第12章 勉強・仕事の土台となるものを考えてみよう
仕事をしていく上で、規律・協調・積極・責任といった情意面が一番基本で必要なことであり、目に見えない心を鍛え、磨くことを考える。

14. 第13章 プレゼンテーションにチャレンジ
プレゼンテーションは、レポートのように一方的に伝えるということではなく、双方向のコミュニケーションであることを実践して学ぶ。

15. 第14章 Will から始める大学生活
Will があれば Must が生まれ、Action へと移行し、継続することにより Habit がつき、Can となる。
自分で決めた Must から導かれる Action と Habit の検討を前向きな自分を感じながら取り組む。

特記事項: 授業は、原則として授業計画に基づいて進行するが、受講生の反応を見ながら授業回を入れ替える等、柔軟に進める。

授業方法: 【すべての授業を対面で行う】
授業の中では積極的に自分の事をしっかり考えていく為の講義、個人ワーク、グループワーク、発表、ディスカッション、プレゼンテーションを行いながら解説を試みる。
グループワークでは、講師から教わるのではなく、自分の体験の中から発見・再発見・再認識したことを自身の考えとして発言していき、メンバーからも様々な考えを確認することにより、多くのことを学ぶ。
自分自身や社会について学んだことを仲間と共有し、互いに協力し合って、有意義で楽しい大学生活を”自らの手で”つくっていく面白さを知る参加型講義を行う。
板書量は多くないが必ずノートを要求する。また、授業内では、毎回ワークシート作成があり、時間内で作成できなかった場合や、欠席したものは次回までに必ず、ワークシートは完成しておく必要がある。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

【授業時間外学習時間:合計1,020分】
1. 講義計画に沿って、事前にテキスト(該当箇所)を通読しておく(予習時間:30分×14回=420分)
2. テキストの該当箇所及び講義内における理論や実践について見直し、内省する時間を作る(復習時間:30分×14回=420分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	50 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	40 **%**
その他1:	プレゼンテーション		10 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度(60~69点)】
・授業への取り組み: 個人ワークで自身と向き合い、グループワークに参加している
・レポート: 授業内容を概ね理解し、自身のキャリアについてのレポートを書くことが出来る
・プレゼンテーション: 人前に立って、伝えたいことを自分の言葉で表現することが出来る

【望ましい到達度(80~100点)】
・授業への取り組み: 個人ワークで自身と向き合うことで内省を深めると共に、他者との協働に必要な考え方やスキル等について理解・意識してグループワークに参加している
・レポート: 授業内容を十分に理解し、多角的な視点で自身のキャリアについてのレポートを書くことが出来る
・プレゼンテーション: 人前に立って、伝えたいことを自分の言葉で表現することが出来ると共に、聴き手に感動を与えることが出来る

課題へのフィードバック:

提出物やレポートの内容について、必要に応じて授業内でコメントをする。

教科書: 東田晋三編著 『新自分デザイン・ブックⅠ』(株式会社ドリームシップ) 1,600円 (ISBN:9784990633103)

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

キャリア教育とは、就職教育ではなく、その人がその人らしく生き生きと働き、その人らしい生き方を考えるための心理的な支援です。キャリア教育が心理教育である所以です。
生きることと働くこととは切り離すことができません。学ぶことと仕事をすること、生きることと働くことは、それぞれが別々にあるわけではないのです。
生活時間の大半を占める働くことを真剣に捉えること。そして自分自身のモチベーションの源泉は教えられるものではなく、気づくものであり、キャリア開発・キャリア教育の基本が自己理解にある理由です。
自分自身と向き合い、問いかけ、考えて、自分の答えをみつけていきましょう。

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: ワーク＆ライフデザインⅠ

クラス: 後④

授業コード: B430100009

担当者: 萬上 葉也加　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: キャリアデザインに1回生からの取組むことが、自分のキャリアをつくっていく上で重要であることを実践的に学ぶ。
社会では、自らの判断と創造が要求されるが、責任ある仕事を継続的に体験したことがない学生は、そこに至る基本的な考え方と知識を学ぶ必要がある。
大学卒業を控えた就職活動時に絶大な威力を発揮するのは「大学でどんな行動を起こし、何を掴んだのか」ということを堂々と自分の言葉で語れることである。
このワーク＆ライフデザインⅠでは、「自分のキャリアをつくっていく上で求められる考え方や知識」や「自分の言葉で語ることがいかに重要であるか」を理論的・体験的に学ぶ。

到達目標: ・自分の学生生活を自己責任でつくっていく大切さを知ることが、キャリアデザインの第一歩であることを学ぶ
・キャリアデザインの基本となる「考え方」を習得

各回の授業計画:

1. 第1章 高校時代に決別だ～オールクリアボタンを押そう～
大学生活を実りあるものにする考え方や捉え方を主体的に行うと同時に、キャリアデザイン・キャリア開発の大切さを学ぶ。

2. 第2章 自己紹介とは何かを考えてみよう
他者と関わり、新たな自分を知ること、自分から発信していく自己紹介のポイントを学ぶ。

3. 第3章 何のために大学にきたのだろう（目的）
「何のために大学に来たのか」今一度、入学動機を内省し、大学生活に役立つ【目的意識】の大切さを学ぶ。

4. 第4章 大学生活がこうなればいいなぁ（目標）
目標を持つ大切さ及び実現するための必要なプロセスを学ぶ。その為に、スタートラインにいる自分が主体的に考え、失敗しても諦めず行動を続けることで成長し、夢や目標に近づけることを個人・グループワークを通じて学ぶ。

5. 第5章 伝えたい（コミュニケーション）
これまでの授業で自分の思いや考えを伝えることや伝わる難しさを感じたのは何故なのか、「SMCRモデル」を通して理論的に学び、コミュニケーションの方法を体験し、気づきを得る。

6. 第6章 自分を表現しよう
グループメンバーを通して他者との違いを知り、自分への興味を深める。自己理解の大切さを学ぶ。

7. 第7章 協調性とは何かを知ろう
自分の思いや考えのもと、積極的に協力することが協調性であり、各人がその思いや考えを共有できれば、協力は強固なものになる。協力と共有の関係を理解し、協調性の大切さを学ぶ。

8. 第8章 好きなことから世の中に関わろう
～動く、感じる、考える～
キャリア開発を意識し、「世の中」と「学問・学び」について考える。世の中の捉え方やなぜ世の中に興味・関心を持つことが大切なのかを考える。

9. 金融教育 今後の人生においていろいろな意味で関わるお金について考えてもらう

10. 第9章 失敗は成功へ向けての授業料
人は失敗した時にその人の値打ちが問われる。失敗した時、どのような「振り返り」をして、どのような戦略・戦術で再チャレンジしたのか。目標を失わなければ、失敗は成功への道標となり、キャリア開発に繋がることを学ぶ。

11. 第10章 キャリアマインドをもとう ～2つの軸が君の未来をつくる～
経験を通して形成される価値観によって行動が変わってくる。自身の価値観を積み上げていくことで、ぶれない自分の軸が出来てくる。それがキャリアデザインをすることにも繋がることを学ぶ。

12. 第11章 ディスカッションの大切さを学ぼう
三段論弁法を学び、論理的に表現することを体験する。自分の意見を持ち、他者の意見も聞き、更に考えるということを学ぶ。

13. 第12章 勉強・仕事の土台となるものを考えてみよう
仕事をしていく上で、規律・協調・積極・責任といった情意面が一番基本で必要なことであり、目に見えない心を鍛え、磨くことを考える。

14. 第13章 プレゼンテーションにチャレンジ
プレゼンテーションは、レポートのように一方的に伝えるということではなく、双方向のコミュニケーションであることを実践して学ぶ。

15. 第14章 Will から始める大学生活
Will があれば Must が生まれ、Action へと移行し、継続することにより Habit がつき、Can となる。
自分で決めた Must から導かれる Action と Habit の検討を前向きな自分を感じながら取り組む。

特記事項: 授業は、原則として授業計画に基づいて進行するが、受講生の反応を見ながら授業回を入れ替える等、柔軟に進める。

授業方法: 【すべての授業を対面で行う】
授業の中では積極的に自分の事をしっかり考えていく為の講義、個人ワーク、グループワーク、発表、ディスカッション、プレゼンテーションを行いながら解説を試みる。
グループワークでは、講師から教わるのではなく、自分の体験の中から発見・再発見・再認識したことを自身の考えとして発言していき、メンバーからも様々な考えを確認することにより、多くのことを学ぶ。
自分自身や社会について学んだことを仲間と共有し、互いに協力し合って、有意義で楽しい大学生活を”自らの手で”つくっていく面白さを知る参加型講義を行う。
板書量は多くないが必ずノートを要求する。また、授業内では、毎回ワークシート作成があり、時間内で作成できなかった場合や、欠席したものは次回までに必ず、ワークシートは完成しておく必要がある。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

【授業時間外学習時間:合計1,020分】
1. 講義計画に沿って、事前にテキスト(該当箇所)を通読しておく(予習時間:30分×14回=420分)
2. テキストの該当箇所及び講義内における理論や実践について見直し、内省する時間を作る(復習時間:30分×14回=420分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	50 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	40 **%**
その他1:	プレゼンテーション		10 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度(60~69点)】
・授業への取り組み: 個人ワークで自身と向き合い、グループワークに参加している
・レポート: 授業内容を概ね理解し、自身のキャリアについてのレポートを書くことが出来る
・プレゼンテーション: 人前に立って、伝えたいことを自分の言葉で表現することが出来る

【望ましい到達度(80~100点)】
・授業への取り組み: 個人ワークで自身と向き合うことで内省を深めると共に、他者との協働に必要な考え方やスキル等について理解・意識してグループワークに参加している
・レポート: 授業内容を十分に理解し、多角的な視点で自身のキャリアについてのレポートを書くことが出来る
・プレゼンテーション: 人前に立って、伝えたいことを自分の言葉で表現することが出来ると共に、聴き手に感動を与えることが出来る

課題へのフィードバック:
提出物やレポートの内容について、必要に応じて授業内でコメントをする。

教科書: 東田晋三編著 『新自分デザイン・ブックⅠ』(株式会社ドリームシップ) 1,600円 (ISBN:9784990633103)

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:
キャリア教育とは、就職教育ではなく、その人がその人らしく生き生きと働き、その人らしい生き方を考えるための心理的な支援です。キャリア教育が心理教育である所以です。
生きることと働くこととは切り離すことができません。学ぶことと仕事をすること、生きることと働くことは、それぞれが別々にあるわけではないのです。
生活時間の大半を占める働くことを真剣に捉えること。そして自分自身のモチベーションの源泉は教えられるものではなく、気づくものであり、キャリア開発・キャリア教育の基本が自己理解にある理由です。
自分自身と向き合い、問いかけ、考えて、自分の答えをみつけていきましょう。

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: ワーク＆ライフデザインⅠ

クラス: 後⑤

授業コード: B430100010

担当者: 向山 久子 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:企業において人材開発業務に従事。キャリアコンサルタント(国家資格)

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: キャリアデザインに1回生からの取組むことが、自分のキャリアをつくっていく上で重要であることを実践的に学ぶ。
社会では、自らの判断と創造が要求されるが、責任ある仕事を継続的に体験したことがない学生は、そこに至る基本的な考え方と知識を学ぶ必要がある。
大学卒業を控えた就職活動時に絶大な威力を発揮するのは「大学でどんな行動を起こし、何を掴んだのか」ということを堂々と自分の言葉で語れることである。
このワーク＆ライフデザインⅠでは、「自分のキャリアをつくっていく上で求められる考え方や知識」や「自分の言葉で語ることがいかに重要であるか」を理論的・体験的に学ぶ。

到達目標: ・自分の学生生活を自己責任でつくっていく大切さを知ることが、キャリアデザインの第一歩であることを学ぶ
・キャリアデザインの基本となる「考え方」を習得

各回の授業計画:

1. 第1章 高校時代に決別だ〜オールクリアボタンを押そう〜
大学生活を実りあるものにする考え方や捉え方を主体的に行うと同時に、キャリアデザイン・キャリア開発の大切さを学ぶ。

2. 第2章 自己紹介とは何かを考えてみよう
他者と関わり、新たな自分を知ること、自分から発信していく自己紹介のポイントを学ぶ。

3. 第3章 何のために大学にきたのだろう(目的)
「何のために大学に来たのか」今一度、入学動機を内省し、大学生活に役立つ【目的意識】の大切さを学ぶ。

4. 第4章 大学生活がこうなればいいなぁ(目標)
目標を持つ大切さ及び実現するための必要なプロセスを学ぶ。その為に、スタートラインにいる自分が主体的に考え、失敗しても諦めず行動を続けることで成長し、夢や目標に近づけることを個人・グループワークを通じて学ぶ。

5. 第5章 伝えたい(コミュニケーション)
これまでの授業で自分の思いや考えを伝えることや伝わる難しさを感じたのは何故なのか、「SMCRモデル」を通して理論的に学び、コミュニケーションの方法を体験し、気づきを得る。

6. 第6章 自分を表現しよう
グループメンバーを通して他者との違いを知り、自分への興味を深める。自己理解の大切さを学ぶ。

7. 第7章 協調性とは何かを知ろう
自分の思いや考えのもと、積極的に協力することが協調性であり、各人がその思いや考えを共有できれば、協力は強固なものになる。協力と共有の関係を理解し、協調性の大切さを学ぶ。

8. 第8章 好きなことから世の中に関わろう
〜動く、感じる、考える〜
キャリア開発を意識し、「世の中」と「学問・学び」について考える。世の中の捉え方やなぜ世の中に興味・関心を持つことが大切なのかを考える。

9. 金融教育 今後の人生においていろいろな意味で関わるお金について考えてもらう

10. 第9章 失敗は成功へ向けての授業料
人は失敗した時にその人の値打ちが問われる。失敗した時、どのような「振り返り」をして、どのような戦略・戦術で再チャレンジしたのか。目標を失わなければ、失敗は成功への道標となり、キャリア開発に繋がることを学ぶ。

11. 第10章 キャリアマインドをもとう 〜2つの軸が君の未来をつくる〜
経験を通して形成される価値観によって行動が変わってくる。自身の価値観を積み上げていくことで、ぶれない自分の軸が出来てくる。それがキャリアデザインをすることにも繋がることを学ぶ。

12. 第11章 ディスカッションの大切さを学ぼう
三段論弁法を学び、論理的に表現することを体験する。自分の意見を持ち、他者の意見も聞き、更に考えるということを学ぶ。

13. 第12章 勉強・仕事の土台となるものを考えてみよう
仕事をしていく上で、規律・協調・積極・責任といった情意面が一番基本で必要なことであり、目に見えない心を鍛え、磨くことを考える。

14. 第13章 プレゼンテーションにチャレンジ
プレゼンテーションは、レポートのように一方的に伝えるということではなく、双方向のコミュニケーションであることを実践して学ぶ。

15. 第14章 Will から始める大学生活
Will があれば Must が生まれ、Action へと移行し、継続することにより Habit がつき、Can となる。
自分で決めた Must から導かれる Action と Habit の検討を前向きな自分を感じながら取り組む。

特記事項: 授業は、原則として授業計画に基づいて進行するが、受講生の反応を見ながら授業回を入れ替える等、柔軟に進める。

授業方法: 【すべての授業を対面で行う】
授業の中では積極的に自分の事をしっかり考えていく為の講義、個人ワーク、グループワーク、発表、ディスカッション、プレゼンテーションを行いながら解説を試みる。
グループワークでは、講師から教わるのではなく、自分の体験の中から発見・再発見・再認識したことを自身の考えとして発言していき、メンバーからも様々な考えを確認することにより、多くのことを学ぶ。
自分自身や社会について学んだことを仲間と共有し、互いに協力し合って、有意義で楽しい大学生活を”自らの手で”つくっていく面白さを知る参加型講義を行う。
板書量は多くないが必ずノートを要求する。また、授業内では、毎回ワークシート作成があり、時間内で作成できなかった場合や、欠席したものは次回までに必ず、ワークシートは完成しておく必要がある。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

【授業時間外学習時間:合計1,020分】
1. 講義計画に沿って、事前にテキスト(該当箇所)を通読しておく(予習時間:30分×14回=420分)
2. テキストの該当箇所及び講義内における理論や実践について見直し、内省する時間を作る(復習時間:30分×14回=420分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	50 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	40 **%**
その他1:	プレゼンテーション		10 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度(60~69点)】
・授業への取り組み: 個人ワークで自身と向き合い、グループワークに参加している
・レポート: 授業内容を概ね理解し、自身のキャリアについてのレポートを書くことが出来る
・プレゼンテーション: 人前に立って、伝えたいことを自分の言葉で表現することが出来る

【望ましい到達度(80~100点)】
・授業への取り組み: 個人ワークで自身と向き合うことで内省を深めると共に、他者との協働に必要な考え方やスキル等について理解・意識してグループワークに参加している
・レポート: 授業内容を十分に理解し、多角的な視点で自身のキャリアについてのレポートを書くことが出来る
・プレゼンテーション: 人前に立って、伝えたいことを自分の言葉で表現することが出来ると共に、聴き手に感動を与えることが出来る

課題へのフィードバック:
提出物やレポートの内容について、必要に応じて授業内でコメントをする。

教科書: 東田晋三編著 『新自分デザイン・ブックⅠ』(株式会社ドリームシップ) 1,600円 (ISBN:9784990633103)

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:
キャリア教育とは、就職教育ではなく、その人がその人らしく生き生きと働き、その人らしい生き方を考えるための心理的な支援です。キャリア教育が心理教育である所以です。
生きることと働くこととは切り離すことができません。学ぶことと仕事をすること、生きることと働くことは、それぞれが別々にあるわけではないのです。
生活時間の大半を占める働くことを真剣に捉えること。そして自分自身のモチベーションの源泉は教えられるものではなく、気づくものであり、キャリア開発・キャリア教育の基本が自己理解にある理由です。
自分自身と向き合い、問いかけ、考えて、自分の答えをみつけていきましょう。

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: ワーク＆ライフデザインⅡ

クラス: 前①

授業コード: B430200001

担当者: 東田 晋三 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有: 企業における人材開発事業部長及び大学におけるキャリア教育・インターンシップ教育に関する総合的な実務とマネジメント、公立学校教員、特定社会保険労務士、キャリアコンサルタント等の実務経験

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 目標設定が果たす大きな役割について学習し、その目標達成のために自分が向き合うテーマが何であるかを理解する。さらに、目標達成のプロセス上で、ぶつかるであろう諸問題への解決方法についても学び、大学生活を戦略的に創り上げることが、これから社会生活をおくるうえで極めて重要であることを理解出来るよう進める。問題を解決する論理思考についても練習をする。
自分のwillを確認し、やると決めたmustを軸に行動することは、極めて重要である。まず、大学1年生の1年間で積み上げてきた自らの大学生活を振り返り、自分自身の成果を確認する。その上で、改めて目的・目標を設定し、その達成のために、何が必要かを学びます。達成プロセスに存在する様々の要素を出来るだけ具体的な事例で検討し、それらが目的・目標達成に向けて、どのように関わるかを学ぶ。
人生は問題解決の連続である。何かに向かって進む限り、問題が続出することが自然であり、それを避けては通れない。私達が社会生活をおくるうえで必要な基礎力を身につけ、3年生以降直面する進路選択も視野に入れた学習をする。

到達目標: 社会に出てから仕事が出来る人になるために、そして、自分の人生を自分で創っていくために避けては通れない、論理思考の基本、問題発見、問題解決のプロセスを理解する。
A)目的・目標の力を具体的に学ぶ。
B)目標達成に向けた問題発見・解決のプロセスを学ぶ。
C)社会で求められる論理思考の基礎(フレームワーク、論理ピラミッド)を学び、自分の大学生活を自分で創る気概を持つ。
D)自分のことを知ろうとする姿勢と社会のことを知ろうとする姿勢(キャリアマインド)の両方を進化させる。
E)大学生活後半3.4年生の学習にドライブをかけるため、最も差がつくとされる大学2年生を格段に充実させる

各回の授業計画:

1. キャリアマインドの再認識
「自分のことをもっと知りたい」「社会のことをもっと知りたい」について改めて理解する。

2. 目的・目標 戦略的再設定
大学入学時からこれまでに設定した目的・目標を振り返り、過去・現在から未来に向けた自分の目的・目標の再検討する。

3. フレームワーク①
社会出てから最も有効な思考方法になるフレームワーク理解する
論理思考の基本となるフレームワークについて理解し、いくつかの課題をでフレームワークの練習をする。

4. フレームワーク②
引く続き、いくつかの課題をでフレームワークの練習をし、理解を深める。

5. 社会に出て役立つ論理思考 トップダウン思考とボトムアップ思考①
論理思考とはどういうものなのか、なぜ仕事上手になるために役立つのか、自分の人生を自分で創るためになぜ有効かを理解する。

6. 社会に出て役立つ論理思考 トップダウン思考とボトムアップ思考②
トップダウン思考、ボトムアップ思考について理解し、いくつかの課題で練習し理解を深める。

7. 問題発見とそれら問題の重点化①
事例となる問題をフレームワークし問題発見について理解する
学生が抱えている問題をできるだけ書き出し、それらの問題を自分たちが実感する問題としてフレームワークする。

8. 問題発見とそれら問題の重点化②
フレームワークした問題の重点化に取り組む
問題ある現在の状況を引き起こしている原因を検討する
それらの原因を消し去るか軽減する策を「解決策」として言語化する。

9. 重点化された問題の解決策を考える
解決策を4つの判断基準(期待される効果、緊急度、できる可能性、対CP)で検討し、解決策に優先順位をつけるスキルを学ぶ。

10. 就職活動に横たわる問題の発見
人生を自分で創っていくうえで就職及び就職活動が何なのかをキャリアプランの視点から検討する。

11. 就職活動に横たわる問題の解決策を検討する
就職問題のフレームワークから問題解決策までのプロセスを言語化ワーク
就職活動に関わる情報(ニュース、議論)も提供

12. マナーとコミュニケーションについて考える
自分と他者とのやりとりにおいて、自分のコミュニケーションを客観的な視点で見つめなおし、マナーに必要な要素を考える。

13. 自分の就職活動計画を立ててみる
目的、目標、方針(戦略)、実行項目(戦術)のフォーマットを使ったワークを行う。

14. 自分の就職活動計画を仕上げる
　就職活動に係る問題発見、解決を図るための情報提供
15. 就職とライフデザイン
　Willマップの作成

特記事項: 論理思考にはたくさんの手法が紹介されている。この授業では、論理思考の基礎を身につけるために2つの方法(フレームワークと論理ピラミッド)と1つの構造(問題発見から問題解決)に絞って学ぶ。これによって、大方の論理思考方法をカバーできるようになる。

授業方法: 【すべての授業を対面で行う】
キャリアマインドを一層鍛えるため積極的に発言を求める、そのために個人ワーク、グループワーク、発表、ディスカッションを中心に、学生同士で学びを深めてもらう。
グループワークでは、講師から教わるのではなく、自分の体験の中から発見・再発見・再認識したことを自身の考えとして発言していき、メンバーの意見を受け入れコミュニケーション力の向上を図る。自分自身や社会について学んだことを仲間と共有し、互いに協力し合って、有意義で楽しい大学生活を"自らの手で"つくっていく面白さを知る参加型講義を行う。
板書量は多くないが必ずノートを要求する。また、授業内では、毎回ワークシート作成があり、時間内で作成できなかった場合や、欠席したものは次回までに必ず、ワークシートは完成しておく必要がある。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

【授業時間外学習時間:合計1,020分】
1. 講義計画に沿って、事前にテキスト(該当箇所)を通読しておく(予習時間:30分×14回＝420分)
2. テキストの該当箇所及び講義内における理論や実践について見直し、内省する時間を作る(復習時間:30分×14回＝420分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	65 **%**	**確認テスト:**	− **%**	**レポート:**	35 **%**
その他1:	−		− **%**		
その他2:	−		− **%**		

評価基準: 【最低限の到達度(60～69点)】
・授業への取り組み: 個人ワークで自身と向き合い、グループワークに参加している
・レポート: 授業内容を概ね理解し、自身のキャリアについてのレポートを書くことが出来る

【望ましい到達度(80～100点)】
・授業への取り組み: 個人ワークで自身と向き合うことで内省を深めると共に、他者との協働に必要な考え方やスキル等について理解・意識してグループワークに参加している
・レポート: 授業内容を十分に理解し、多角的な視点で自身のキャリアについてのレポートを書くことが出来る

課題へのフィードバック:

提出物やレポートの内容について、必要に応じて授業内でコメントをする。

教科書: 東田晋三編著 自分デザイン・ブックⅡ ー戦略的思考で創る大学生活ー

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

生きることと働くこととは切り離すことはできない。そんなことからキャリア教育を就職教育と同じに扱う人がいる。大きな間違いである。その人がその人らしく生き生きと働き、その人らしい生き方を考えるための知識と考え方を学ぶものである。合わせて精神的な支援も行う。キャリア教育はインターンシップ教育(実習)に代表されるように、実際にやってみることを大切にする。参加する楽しさを合わせて学んでほしい。
就職活動は学んだ論理思考を使って言語化することで、活動を見える化でき、修正も容易になり、意欲と自信を生み出す。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: ワーク＆ライフデザインⅡ

クラス: 前②

授業コード: B430200002

担当者: 中山 真由美 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有：1級キャリアコンサルタント技能士(国家資格)、国家資格キャリアコンサルタント、アスリートキャリアコーディネーター、AIP認定NLPプラクショナー

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 目標設定が果たす大きな役割について学習し、その目標達成のために自分が向き合うテーマが何であるかを理解する。さらに、目標達成のプロセス上で、ぶつかるであろう諸問題への解決方法についても学び、大学生活を戦略的に創り上げることが、これから社会生活をおくるうえで極めて重要であることを理解出来るよう進める。問題を解決する論理思考についても練習をする。
自分のwillを確認し、やると決めたmustを軸に行動することは、極めて重要である。まず、大学1年生の1年間で積み上げてきた自らの大学生活を振り返り、自分自身の成果を確認する。その上で、改めて目的・目標を設定し、その達成のために、何が必要かを学びます。達成プロセスに存在する様々の要素を出来るだけ具体的な事例で検討し、それらが目的・目標達成に向けて、どのように関わるかを学ぶ。
人生は問題解決の連続である。何かに向かって進む限り、問題が続出することが自然であり、それを避けては通れない。私達が社会生活をおくるうえで必要な基礎力を身につけ、3年生以降直面する進路選択も視野に入れた学習をする。

到達目標: 社会に出てから仕事が出来る人になるために、そして、自分の人生を自分で創っていくために避けては通れない、論理思考の基本、問題発見、問題解決のプロセスを理解する。
A)目的・目標の力を具体的に学ぶ。
B)目標達成に向けた問題発見・解決のプロセスを学ぶ。
C)社会で求められる論理思考の基礎(フレームワーク、論理ピラミッド)を学び、自分の大学生活を自分で創る気概を持つ。
D)自分のことを知ろうとする姿勢と社会のことを知ろうとする姿勢(キャリアマインド)の両方を進化させる。
E)大学生活後半3.4年生の学習にドライブをかけるため、最も差がつくとされる大学2年生を格段に充実させる

各回の授業計画:

1. キャリアマインドの再認識
「自分のことをもっと知りたい」「社会のことをもっと知りたい」について改めて理解する。

2. 目的・目標 戦略的再設定
大学入学時からこれまでに設定した目的・目標を振り返り、過去・現在から未来に向けた自分の目的・目標の再検討する。

3. フレームワーク①
社会出てから最も有効な思考方法になるフレームワーク理解する
論理思考の基本となるフレームワークについて理解し、いくつかの課題をでフレームワークの練習をする。

4. フレームワーク②
引く続き、いくつかの課題をでフレームワークの練習をし、理解を深める。

5. 社会に出て役立つ論理思考 トップダウン思考とボトムアップ思考①
論理思考とはどういうものなのか、なぜ仕事上手になるために役立つのか、自分の人生を自分で創るためになぜ有効かを理解する。

6. 社会に出て役立つ論理思考 トップダウン思考とボトムアップ思考②
トップダウン思考、ボトムアップ思考について理解し、いくつかの課題で練習し理解を深める。

7. 問題発見とそれら問題の重点化①
事例となる問題をフレームワークし問題発見について理解する
学生が抱えている問題をできるだけ書き出し、それらの問題を自分たちが実感する問題としてフレームワークする。

8. 問題発見とそれら問題の重点化②
フレームワークした問題の重点化に取り組む
問題ある現在の状況を引き起こしている原因を検討する
それらの原因を消し去るか軽減する策を「解決策」として言語化する。

9. 重点化された問題の解決策を考える
解決策を4つの判断基準(期待される効果、緊急度、できる可能性、対CP)で検討し、解決策に優先順位をつけるスキルを学ぶ。

10. 就職活動に横たわる問題の発見
人生を自分で創っていくうえで就職及び就職活動が何なのかをキャリアプランの視点から検討する。

11. 就職活動に横たわる問題の解決策を検討する
就職問題のフレームワークから問題解決策までのプロセスを言語化ワーク
就職活動に関わる情報(ニュース、議論)も提供

12. マナーとコミュニケーションについて考える
自分と他者とのやりとりにおいて、自分のコミュニケーションを客観的な視点で見つめなおし、マナーに必要な要素を考える。

13. 自分の就職活動計画を立ててみる
目的、目標、方針(戦略)、実行項目(戦術)のフォーマットを使ったワークを行う。

14. 自分の就職活動計画を仕上げる
　就職活動に係る問題発見、解決を図るための情報提供
15. 就職とライフデザイン
　Willマップの作成

特記事項: 論理思考にはたくさんの手法が紹介されている。この授業では、論理思考の基礎を身につけるために2つの方法(フレームワークと論理ピラミッド)と1つの構造(問題発見から問題解決)に絞って学ぶ。これによって、大方の論理思考方法をカバーできるようになる。

授業方法: 【すべての授業を対面で行う】
キャリアマインドを一層鍛えるため積極的に発言を求める、そのために個人ワーク、グループワーク、発表、ディスカッションを中心に、学生同士で学びを深めてもらう。
グループワークでは、講師から教わるのではなく、自分の体験の中から発見・再発見・再認識したことを自身の考えとして発言していき、メンバーの意見を受け入れコミュニケーション力の向上を図る。自分自身や社会について学んだことを仲間と共有し、互いに協力し合って、有意義で楽しい大学生活を"自らの手で"つくっていく面白さを知る参加型講義を行う。
板書量は多くないが必ずノートを要求する。また、授業内では、毎回ワークシート作成があり、時間内で作成できなかった場合や、欠席したものは次回までに必ず、ワークシートは完成しておく必要がある。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

【授業時間外学習時間:合計1,020分】
1. 講義計画に沿って、事前にテキスト(該当箇所)を通読しておく(予習時間:30分×14回＝420分)
2. テキストの該当箇所及び講義内における理論や実践について見直し、内省する時間を作る(復習時間:30分×14回＝420分)

評価方法:	**授業へのとりくみ:**	65 **%**	**確認テスト:**	－ **%**	**レポート:**	35 **%**
	その他1:	－		－ **%**		
	その他2:	－		－ **%**		

評価基準: 【最低限の到達度(60～69点)】
・授業への取り組み: 個人ワークで自身と向き合い、グループワークに参加している
・レポート: 授業内容を概ね理解し、自身のキャリアについてのレポートを書くことが出来る

【望ましい到達度(80～100点)】
・授業への取り組み: 個人ワークで自身と向き合うことで内省を深めると共に、他者との協働に必要な考え方やスキル等について理解・意識してグループワークに参加している
・レポート: 授業内容を十分に理解し、多角的な視点で自身のキャリアについてのレポートを書くことが出来る

課題へのフィードバック:

提出物やレポートの内容について、必要に応じて授業内でコメントをする。

教科書: 東田晋三編著 自分デザイン・ブックⅡ ー戦略的思考で創る大学生活ー

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

生きることと働くこととは切り離すことはできない。そんなことからキャリア教育を就職教育と同じに扱う人がいる。大きな間違いである。その人がその人らしく生き生きと働き、その人らしい生き方を考えるための知識と考え方を学ぶものである。合わせて精神的な支援も行う。キャリア教育はインターンシップ教育(実習)に代表されるように、実際にやってみることを大切にする。参加する楽しさを合わせて学んでほしい。
就職活動は学んだ論理思考を使って言語化することで、活動を見える化でき、修正も容易になり、意欲と自信を生み出す。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: ワーク＆ライフデザインⅡ

クラス: 前③

授業コード: B430200003

担当者: 柴原 高宏 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 目標設定が果たす大きな役割について学習し、その目標達成のために自分が向き合うテーマが何であるかを理解する。さらに、目標達成のプロセス上で、ぶつかるであろう諸問題への解決方法についても学び、大学生活を戦略的に創り上げることが、これから社会生活をおくるうえで極めて重要であることを理解出来るよう進める。問題を解決する論理思考についても練習をする。
自分のwillを確認し、やると決めたmustを軸に行動することは、極めて重要である。まず、大学1年生の1年間で積み上げてきた自らの大学生活を振り返り、自分自身の成果を確認する。その上で、改めて目的・目標を設定し、その達成のために、何が必要かを学びます。達成プロセスに存在する様々の要素を出来るだけ具体的な事例で検討し、それらが目的・目標達成に向けて、どのように関わるかを学ぶ。
人生は問題解決の連続である。何かに向かって進む限り、問題が続出することが自然であり、それを避けては通れない。私達が社会生活をおくるうえで必要な基礎力を身につけ、3年生以降直面する進路選択も視野に入れた学習をする。

到達目標: 社会に出てから仕事が出来る人になるために、そして、自分の人生を自分で創っていくために避けては通れない、論理思考の基本、問題発見、問題解決のプロセスを理解する。
A)目的・目標の力を具体的に学ぶ。
B)目標達成に向けた問題発見・解決のプロセスを学ぶ。
C)社会で求められる論理思考の基礎(フレームワーク、論理ピラミッド)を学び、自分の大学生活を自分で創る気概を持つ。
D)自分のことを知ろうとする姿勢と社会のことを知ろうとする姿勢(キャリアマインド)の両方を進化させる。
E)大学生活後半3.4年生の学習にドライブをかけるため、最も差がつくとされる大学2年生を格段に充実させる

各回の授業計画:

1. キャリアマインドの再認識
「自分のことをもっと知りたい」「社会のことをもっと知りたい」について改めて理解する。

2. 目的・目標 戦略的再設定
大学入学時からこれまでに設定した目的・目標を振り返り、過去・現在から未来に向けた自分の目的・目標の再検討する。

3. フレームワーク①
社会出てから最も有効な思考方法になるフレームワーク理解する
論理思考の基本となるフレームワークについて理解し、いくつかの課題をでフレームワークの練習をする。

4. フレームワーク②
引く続き、いくつかの課題をでフレームワークの練習をし、理解を深める。

5. 社会に出て役立つ論理思考 トップダウン思考とボトムアップ思考①
論理思考とはどういうものなのか、なぜ仕事上手になるために役立つのか、自分の人生を自分で創るためになぜ有効かを理解する。

6. 社会に出て役立つ論理思考 トップダウン思考とボトムアップ思考②
トップダウン思考、ボトムアップ思考について理解し、いくつかの課題で練習し理解を深める。

7. 問題発見とそれら問題の重点化①
事例となる問題をフレームワークし問題発見について理解する
学生が抱えている問題をできるだけ書き出し、それらの問題を自分たちが実感する問題としてフレームワークする。

8. 問題発見とそれら問題の重点化②
フレームワークした問題の重点化に取り組む
問題ある現在の状況を引き起こしている原因を検討する
それらの原因を消し去るか軽減する策を「解決策」として言語化する。

9. 重点化された問題の解決策を考える
解決策を4つの判断基準(期待される効果、緊急度、できる可能性、対CP)で検討し、解決策に優先順位をつけるスキルを学ぶ。

10. 就職活動に横たわる問題の発見
人生を自分で創っていくうえで就職及び就職活動が何なのかをキャリアプランの視点から検討する。

11. 就職活動に横たわる問題の解決策を検討する
就職問題のフレームワークから問題解決策までのプロセスを言語化ワーク
就職活動に関わる情報(ニュース、議論)も提供

12. マナーとコミュニケーションについて考える
自分と他者とのやりとりにおいて、自分のコミュニケーションを客観的な視点で見つめなおし、マナーに必要な要素を考える。

13. 自分の就職活動計画を立ててみる
目的、目標、方針(戦略)、実行項目(戦術)のフォーマットを使ったワークを行う。

14. 自分の就職活動計画を仕上げる
　就職活動に係る問題発見、解決を図るための情報提供
15. 就職とライフデザイン
　Willマップの作成

特記事項: 論理思考にはたくさんの手法が紹介されている。この授業では、論理思考の基礎を身につけるために2つの方法(フレームワークと論理ピラミッド)と1つの構造(問題発見から問題解決)に絞って学ぶ。これによって、大方の論理思考方法をカバーできるようになる。

授業方法: 【すべての授業を対面で行う】
キャリアマインドを一層鍛えるため積極的に発言を求める、そのために個人ワーク、グループワーク、発表、ディスカッションを中心に、学生同士で学びを深めてもらう。
グループワークでは、講師から教わるのではなく、自分の体験の中から発見・再発見・再認識したことを自身の考えとして発言していき、メンバーの意見を受け入れコミュニケーション力の向上を図る。自分自身や社会について学んだことを仲間と共有し、互いに協力し合って、有意義で楽しい大学生活を"自らの手で"つくっていく面白さを知る参加型講義を行う。
板書量は多くないが必ずノートを要求する。また、授業内では、毎回ワークシート作成があり、時間内で作成できなかった場合や、欠席したものは次回までに必ず、ワークシートは完成しておく必要がある。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

【授業時間外学習時間:合計1,020分】
1. 講義計画に沿って、事前にテキスト(該当箇所)を通読しておく(予習時間:30分×14回＝420分)
2. テキストの該当箇所及び講義内における理論や実践について見直し、内省する時間を作る(復習時間:30分×14回＝420分)

評価方法:	**授業へのとりくみ:**	65 **%**	**確認テスト:**	－ **%**	**レポート:**	35 **%**
	その他1:	－		－ **%**		
	その他2:	－		－ **%**		

評価基準: 【最低限の到達度(60～69点)】
・授業への取り組み: 個人ワークで自身と向き合い、グループワークに参加している
・レポート: 授業内容を概ね理解し、自身のキャリアについてのレポートを書くことが出来る

【望ましい到達度(80～100点)】
・授業への取り組み: 個人ワークで自身と向き合うことで内省を深めると共に、他者との協働に必要な考え方やスキル等について理解・意識してグループワークに参加している
・レポート: 授業内容を十分に理解し、多角的な視点で自身のキャリアについてのレポートを書くことが出来る

課題へのフィードバック:

提出物やレポートの内容について、必要に応じて授業内でコメントをする。

教科書: 東田晋三編著 自分デザイン・ブックⅡ ー戦略的思考で創る大学生活ー

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

生きることと働くこととは切り離すことはできない。そんなことからキャリア教育を就職教育と同じに扱う人がいる。大きな間違いである。その人がその人らしく生き生きと働き、その人らしい生き方を考えるための知識と考え方を学ぶものである。合わせて精神的な支援も行う。キャリア教育はインターンシップ教育(実習)に代表されるように、実際にやってみることを大切にする。参加する楽しさを合わせて学んでほしい。
就職活動は学んだ論理思考を使って言語化することで、活動を見える化でき、修正も容易になり、意欲と自信を生み出す。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: ワーク＆ライフデザインⅡ

クラス: 前④

授業コード: B430200004

担当者: 萬上 葉也加 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 目標設定が果たす大きな役割について学習し、その目標達成のために自分が向き合うテーマが何であるかを理解する。さらに、目標達成のプロセス上で、ぶつかるであろう諸問題への解決方法についても学び、大学生活を戦略的に創り上げることが、これから社会生活をおくるうえで極めて重要であることを理解出来るよう進める。問題を解決する論理思考についても練習をする。
自分のwillを確認し、やると決めたmustを軸に行動することは、極めて重要である。まず、大学1年生の1年間で積み上げてきた自らの大学生活を振り返り、自分自身の成果を確認する。その上で、改めて目的・目標を設定し、その達成のために、何が必要かを学びます。達成プロセスに存在する様々の要素を出来るだけ具体的な事例で検討し、それらが目的・目標達成に向けて、どのように関わるかを学ぶ。
人生は問題解決の連続である。何かに向かって進む限り、問題が続出することが自然であり、それを避けては通れない。私達が社会生活をおくるうえで必要な基礎力を身につけ、3年生以降直面する進路選択も視野に入れた学習をする。

到達目標: 社会に出てから仕事が出来る人になるために、そして、自分の人生を自分で創っていくために避けては通れない、論理思考の基本、問題発見、問題解決のプロセスを理解する。
A)目的・目標の力を具体的に学ぶ。
B)目標達成に向けた問題発見・解決のプロセスを学ぶ。
C)社会で求められる論理思考の基礎(フレームワーク、論理ピラミッド)を学び、自分の大学生活を自分で創る気概を持つ。
D)自分のことを知ろうとする姿勢と社会のことを知ろうとする姿勢(キャリアマインド)の両方を進化させる。
E)大学生活後半3.4年生の学習にドライブをかけるため、最も差がつくとされる大学2年生を格段に充実させる

各回の授業計画:

1. キャリアマインドの再認識
「自分のことをもっと知りたい」「社会のことをもっと知りたい」について改めて理解する。

2. 目的・目標 戦略的再設定
大学入学時からこれまでに設定した目的・目標を振り返り、過去・現在から未来に向けた自分の目的・目標の再検討する。

3. フレームワーク①
社会出てから最も有効な思考方法になるフレームワーク理解する
論理思考の基本となるフレームワークについて理解し、いくつかの課題をでフレームワークの練習をする。

4. フレームワーク②
引く続き、いくつかの課題をでフレームワークの練習をし、理解を深める。

5. 社会に出て役立つ論理思考 トップダウン思考とボトムアップ思考①
論理思考とはどういうものなのか、なぜ仕事上手になるために役立つのか、自分の人生を自分で創るためになぜ有効かを理解する。

6. 社会に出て役立つ論理思考 トップダウン思考とボトムアップ思考②
トップダウン思考、ボトムアップ思考について理解し、いくつかの課題で練習し理解を深める。

7. 問題発見とそれら問題の重点化①
事例となる問題をフレームワークし問題発見について理解する
学生が抱えている問題をできるだけ書き出し、それらの問題を自分たちが実感する問題としてフレームワークする。

8. 問題発見とそれら問題の重点化②
フレームワークした問題の重点化に取り組む
問題ある現在の状況を引き起こしている原因を検討する
それらの原因を消し去るか軽減する策を「解決策」として言語化する。

9. 重点化された問題の解決策を考える
解決策を4つの判断基準(期待される効果、緊急度、できる可能性、対CP)で検討し、解決策に優先順位をつけるスキルを学ぶ。

10. 就職活動に横たわる問題の発見
人生を自分で創っていくうえで就職及び就職活動が何なのかをキャリアプランの視点から検討する。

11. 就職活動に横たわる問題の解決策を検討する
就職問題のフレームワークから問題解決策までのプロセスを言語化ワーク
就職活動に関わる情報(ニュース、議論)も提供

12. マナーとコミュニケーションについて考える
自分と他者とのやりとりにおいて、自分のコミュニケーションを客観的な視点で見つめなおし、マナーに必要な要素を考える。

13. 自分の就職活動計画を立ててみる
目的、目標、方針(戦略)、実行項目(戦術)のフォーマットを使ったワークを行う。

14. 自分の就職活動計画を仕上げる
　就職活動に係る問題発見、解決を図るための情報提供
15. 就職とライフデザイン
　Willマップの作成

特記事項:　論理思考にはたくさんの手法が紹介されている。この授業では、論理思考の基礎を身につけるために2つの方法(フレームワークと論理ピラミッド)と1つの構造(問題発見から問題解決)に絞って学ぶ。これによって、大方の論理思考方法をカバーできるようになる。

授業方法:　【すべての授業を対面で行う】
キャリアマインドを一層鍛えるため積極的に発言を求める、そのために個人ワーク、グループワーク、発表、ディスカッションを中心に、学生同士で学びを深めてもらう。
グループワークでは、講師から教わるのではなく、自分の体験の中から発見・再発見・再認識したことを自身の考えとして発言していき、メンバーの意見を受け入れコミュニケーション力の向上を図る。自分自身や社会について学んだことを仲間と共有し、互いに協力し合って、有意義で楽しい大学生活を"自らの手で"つくっていく面白さを知る参加型講義を行う。
板書量は多くないが必ずノートを要求する。また、授業内では、毎回ワークシート作成があり、時間内で作成できなかった場合や、欠席したものは次回までに必ず、ワークシートは完成しておく必要がある。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

【授業時間外学習時間:合計1,020分】
1. 講義計画に沿って、事前にテキスト(該当箇所)を通読しておく(予習時間:30分×14回＝420分)
2. テキストの該当箇所及び講義内における理論や実践について見直し、内省する時間を作る(復習時間:30分×14回＝420分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	65 **%**	**確認テスト:**	− **%**	**レポート:**	35 **%**
その他1:	−		− **%**		
その他2:	−		− **%**		

評価基準:　【最低限の到達度(60～69点)】
・授業への取り組み: 個人ワークで自身と向き合い、グループワークに参加している
・レポート: 授業内容を概ね理解し、自身のキャリアについてのレポートを書くことが出来る

【望ましい到達度(80～100点)】
・授業への取り組み: 個人ワークで自身と向き合うことで内省を深めると共に、他者との協働に必要な考え方やスキル等について理解・意識してグループワークに参加している
・レポート: 授業内容を十分に理解し、多角的な視点で自身のキャリアについてのレポートを書くことが出来る

課題へのフィードバック:
提出物やレポートの内容について、必要に応じて授業内でコメントをする。

教科書:　東田晋三編著 自分デザイン・ブックⅡ ー戦略的思考で創る大学生活ー

参考書:　なし

授業・準備学習のアドバイス:
生きることと働くこととは切り離すことはできない。そんなことからキャリア教育を就職教育と同じに扱う人がいる。大きな間違いである。その人がその人らしく生き生きと働き、その人らしい生き方を考えるための知識と考え方を学ぶものである。合わせて精神的な支援も行う。キャリア教育はインターンシップ教育(実習)に代表されるように、実際にやってみることを大切にする。参加する楽しさを合わせて学んでほしい。
就職活動は学んだ論理思考を使って言語化することで、活動を見える化でき、修正も容易になり、意欲と自信を生み出す。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: ワーク＆ライフデザインⅡ

クラス: 前⑤

授業コード: B430200005

担当者: 向山 久子 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:企業において人材開発業務に従事。キャリアコンサルタント(国家資格)

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 目標設定が果たす大きな役割について学習し、その目標達成のために自分が向き合うテーマが何であるかを理解する。さらに、目標達成のプロセス上で、ぶつかるであろう諸問題への解決方法についても学び、大学生活を戦略的に創り上げることが、これから社会生活をおくるうえで極めて重要であることを理解出来るよう進める。問題を解決する論理思考についても練習をする。
自分のwillを確認し、やると決めたmustを軸に行動することは、極めて重要である。まず、大学1年生の1年間で積み上げてきた自らの大学生活を振り返り、自分自身の成果を確認する。その上で、改めて目的・目標を設定し、その達成のために、何が必要かを学びます。達成プロセスに存在する様々の要素を出来るだけ具体的な事例で検討し、それらが目的・目標達成に向けて、どのように関わるかを学ぶ。
人生は問題解決の連続である。何かに向かって進む限り、問題が続出することが自然であり、それを避けては通れない。私達が社会生活をおくるうえで必要な基礎力を身につけ、3年生以降直面する進路選択も視野に入れた学習をする。

到達目標: 社会に出てから仕事が出来る人になるために、そして、自分の人生を自分で創っていくために避けては通れない、論理思考の基本、問題発見、問題解決のプロセスを理解する。
A)目的・目標の力を具体的に学ぶ。
B)目標達成に向けた問題発見・解決のプロセスを学ぶ。
C)社会で求められる論理思考の基礎(フレームワーク、論理ピラミッド)を学び、自分の大学生活を自分で創る気概を持つ。
D)自分のことを知ろうとする姿勢と社会のことを知ろうとする姿勢(キャリアマインド)の両方を進化させる。
E)大学生活後半3.4年生の学習にドライブをかけるため、最も差がつくとされる大学2年生を格段に充実させる

各回の授業計画:

1. キャリアマインドの再認識
「自分のことをもっと知りたい」「社会のことをもっと知りたい」について改めて理解する。

2. 目的・目標 戦略的再設定
大学入学時からこれまでに設定した目的・目標を振り返り、過去・現在から未来に向けた自分の目的・目標の再検討する。

3. フレームワーク①
社会出てから最も有効な思考方法になるフレームワーク理解する
論理思考の基本となるフレームワークについて理解し、いくつかの課題をでフレームワークの練習をする。

4. フレームワーク②
引く続き、いくつかの課題をでフレームワークの練習をし、理解を深める。

5. 社会に出て役立つ論理思考 トップダウン思考とボトムアップ思考①
論理思考とはどういうものなのか、なぜ仕事上手になるために役立つのか、自分の人生を自分で創るためになぜ有効かを理解する。

6. 社会に出て役立つ論理思考 トップダウン思考とボトムアップ思考②
トップダウン思考、ボトムアップ思考について理解し、いくつかの課題で練習し理解を深める。

7. 問題発見とそれら問題の重点化①
事例となる問題をフレームワークし問題発見について理解する
学生が抱えている問題をできるだけ書き出し、それらの問題を自分たちが実感する問題としてフレームワークする。

8. 問題発見とそれら問題の重点化②
フレームワークした問題の重点化に取り組む
問題ある現在の状況を引き起こしている原因を検討する
それらの原因を消し去るか軽減する策を「解決策」として言語化する。

9. 重点化された問題の解決策を考える
解決策を4つの判断基準(期待される効果、緊急度、できる可能性、対CP)で検討し、解決策に優先順位をつけるスキルを学ぶ。

10. 就職活動に横たわる問題の発見
人生を自分で創っていくうえで就職及び就職活動が何なのかをキャリアプランの視点から検討する。

11. 就職活動に横たわる問題の解決策を検討する
就職問題のフレームワークから問題解決策までのプロセスを言語化ワーク
就職活動に関わる情報(ニュース、議論)も提供

12. マナーとコミュニケーションについて考える
自分と他者とのやりとりにおいて、自分のコミュニケーションを客観的な視点で見つめなおし、マナーに必要な要素を考える。

13. 自分の就職活動計画を立ててみる
目的、目標、方針(戦略)、実行項目(戦術)のフォーマットを使ったワークを行う。

14. 自分の就職活動計画を仕上げる
　就職活動に係る問題発見、解決を図るための情報提供
15. 就職とライフデザイン
　Willマップの作成

特記事項: 論理思考にはたくさんの手法が紹介されている。この授業では、論理思考の基礎を身につけるために2つの方法(フレームワークと論理ピラミッド)と1つの構造(問題発見から問題解決)に絞って学ぶ。これによって、大方の論理思考方法をカバーできるようになる。

授業方法: 【すべての授業を対面で行う】
キャリアマインドを一層鍛えるため積極的に発言を求める、そのために個人ワーク、グループワーク、発表、ディスカッションを中心に、学生同士で学びを深めてもらう。
グループワークでは、講師から教わるのではなく、自分の体験の中から発見・再発見・再認識したことを自身の考えとして発言していき、メンバーの意見を受け入れコミュニケーション力の向上を図る。自分自身や社会について学んだことを仲間と共有し、互いに協力し合って、有意義で楽しい大学生活を"自らの手で"つくっていく面白さを知る参加型講義を行う。
板書量は多くないが必ずノートを要求する。また、授業内では、毎回ワークシート作成があり、時間内で作成できなかった場合や、欠席したものは次回までに必ず、ワークシートは完成しておく必要がある。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

【授業時間外学習時間:合計1,020分】
1. 講義計画に沿って、事前にテキスト(該当箇所)を通読しておく(予習時間:30分×14回＝420分)
2. テキストの該当箇所及び講義内における理論や実践について見直し、内省する時間を作る(復習時間:30分×14回＝420分)

評価方法:	**授業へのとりくみ:**	65 **%**	**確認テスト:**	－ **%**	**レポート:**	35 **%**
	その他1:	－		－ **%**		
	その他2:	－		－ **%**		

評価基準: 【最低限の到達度(60～69点)】
・授業への取り組み: 個人ワークで自身と向き合い、グループワークに参加している
・レポート: 授業内容を概ね理解し、自身のキャリアについてのレポートを書くことが出来る

【望ましい到達度(80～100点)】
・授業への取り組み: 個人ワークで自身と向き合うことで内省を深めると共に、他者との協働に必要な考え方やスキル等について理解・意識してグループワークに参加している
・レポート: 授業内容を十分に理解し、多角的な視点で自身のキャリアについてのレポートを書くことが出来る

課題へのフィードバック:

提出物やレポートの内容について、必要に応じて授業内でコメントをする。

教科書: 東田晋三編著 自分デザイン・ブックⅡ ー戦略的思考で創る大学生活ー

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

生きることと働くこととは切り離すことはできない。そんなことからキャリア教育を就職教育と同じに扱う人がいる。大きな間違いである。その人がその人らしく生き生きと働き、その人らしい生き方を考えるための知識と考え方を学ぶものである。合わせて精神的な支援も行う。キャリア教育はインターンシップ教育(実習)に代表されるように、実際にやってみることを大切にする。参加する楽しさを合わせて学んでほしい。
就職活動は学んだ論理思考を使って言語化することで、活動を見える化でき、修正も容易になり、意欲と自信を生み出す。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: ワーク＆ライフデザインⅡ

クラス: 後①

授業コード: B430200006

担当者: 東田 晋三 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有: 企業における人材開発事業部長及び大学におけるキャリア教育・インターンシップ教育に関する総合的な実務とマネジメント、公立学校教員、キャリアコンサルタント等の実務経験

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 目標設定が果たす大きな役割について学習し、その目標達成のために自分が向き合うテーマが何であるかを理解する。さらに、目標達成のプロセス上で、ぶつかるであろう諸問題への解決方法についても学び、大学生活を戦略的に創り上げることが、これから社会生活をおくるうえで極めて重要であることを理解出来るよう進める。問題を解決する論理思考についても練習をする。
自分のwillを確認し、やると決めたmustを軸に行動することは、極めて重要である。まず、大学1年生の1年間で積み上げてきた自らの大学生活を振り返り、自分自身の成果を確認する。その上で、改めて目的・目標を設定し、その達成のために、何が必要かを学びます。達成プロセスに存在する様々の要素を出来るだけ具体的な事例で検討し、それらが目的・目標達成に向けて、どのように関わるかを学ぶ。
人生は問題解決の連続である。何かに向かって進む限り、問題が続出することが自然であり、それを避けては通れない。私達が社会生活をおくるうえで必要な基礎力を身につけ、3年生以降直面する進路選択も視野に入れた学習をする。

到達目標: 社会に出てから仕事が出来る人になるために、そして、自分の人生を自分で創っていくために避けては通れない、論理思考の基本、問題発見、問題解決のプロセスを理解する。
A)目的・目標の力を具体的に学ぶ。
B)目標達成に向けた問題発見・解決のプロセスを学ぶ。
C)社会で求められる論理思考の基礎(フレームワーク、論理ピラミッド)を学び、自分の大学生活を自分で創る気概を持つ。
D)自分のことを知ろうとする姿勢と社会のことを知ろうとする姿勢(キャリアマインド)の両方を進化させる。
E)大学生活後半3.4年生の学習にドライブをかけるため、最も差がつくとされる大学2年生を格段に充実させる

各回の授業計画:

1. キャリアマインドの再認識
「自分のことをもっと知りたい」「社会のことをもっと知りたい」について改めて理解する。

2. 目的・目標 戦略的再設定
大学入学時からこれまでに設定した目的・目標を振り返り、過去・現在から未来に向けた自分の目的・目標の再検討する。

3. フレームワーク①
社会出てから最も有効な思考方法になるフレームワーク理解する
論理思考の基本となるフレームワークについて理解し、いくつかの課題をでフレームワークの練習をする。

4. フレームワーク②
引く続き、いくつかの課題をでフレームワークの練習をし、理解を深める。

5. 社会に出て役立つ論理思考 トップダウン思考とボトムアップ思考①
論理思考とはどういうものなのか、なぜ仕事上手になるために役立つのか、自分の人生を自分で創るためになぜ有効かを理解する。

6. 社会に出て役立つ論理思考 トップダウン思考とボトムアップ思考②
トップダウン思考、ボトムアップ思考について理解し、いくつかの課題で練習し理解を深める。

7. 問題発見とそれら問題の重点化①
事例となる問題をフレームワークし問題発見について理解する
学生が抱えている問題をできるだけ書き出し、それらの問題を自分たちが実感する問題としてフレームワークする。

8. 問題発見とそれら問題の重点化②
フレームワークした問題の重点化に取り組む
問題ある現在の状況を引き起こしている原因を検討する
それらの原因を消し去るか軽減する策を「解決策」として言語化する。

9. 重点化された問題の解決策を考える
解決策を4つの判断基準(期待される効果、緊急度、できる可能性、対CP)で検討し、解決策に優先順位をつけるスキルを学ぶ。

10. 就職活動に横たわる問題の発見
人生を自分で創っていくうえで就職及び就職活動が何なのかをキャリアプランの視点から検討する。

11. 就職活動に横たわる問題の解決策を検討する
就職問題のフレームワークから問題解決策までのプロセスを言語化ワーク
就職活動に関わる情報(ニュース、議論)も提供

12. マナーとコミュニケーションについて考える
自分と他者とのやりとりにおいて、自分のコミュニケーションを客観的な視点で見つめなおし、マナーに必要な要素を考える。

13. 自分の就職活動計画を立ててみる
目的、目標、方針(戦略)、実行項目(戦術)のフォーマットを使ったワークを行う。

14. 自分の就職活動計画を仕上げる
　就職活動に係る問題発見、解決を図るための情報提供
15. 就職とライフデザイン
　Willマップの作成

特記事項: 論理思考にはたくさんの手法が紹介されている。この授業では、論理思考の基礎を身につけるために2つの方法(フレームワークと論理ピラミッド)と1つの構造(問題発見から問題解決)に絞って学ぶ。これによって、大方の論理思考方法をカバーできるようになる。

授業方法: 【すべての授業を対面で行う】
キャリアマインドを一層鍛えるため積極的に発言を求める、そのために個人ワーク、グループワーク、発表、ディスカッションを中心に、学生同士で学びを深めてもらう。
グループワークでは、講師から教わるのではなく、自分の体験の中から発見・再発見・再認識したことを自身の考えとして発言していき、メンバーの意見を受け入れコミュニケーション力の向上を図る。自分自身や社会について学んだことを仲間と共有し、互いに協力し合って、有意義で楽しい大学生活を"自らの手で"つくっていく面白さを知る参加型講義を行う。
板書量は多くないが必ずノートを要求する。また、授業内では、毎回ワークシート作成があり、時間内で作成できなかった場合や、欠席したものは次回までに必ず、ワークシートは完成しておく必要がある。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

【授業時間外学習時間:合計1,020分】
1. 講義計画に沿って、事前にテキスト(該当箇所)を通読しておく(予習時間:30分×14回＝420分)
2. テキストの該当箇所及び講義内における理論や実践について見直し、内省する時間を作る(復習時間:30分×14回＝420分)

評価方法:	**授業へのとりくみ:**	65 **%**	**確認テスト:**	－ **%**	**レポート:**	35 **%**
	その他1:	－		－ **%**		
	その他2:	－		－ **%**		

評価基準: 【最低限の到達度(60～69点)】
・授業への取り組み: 個人ワークで自身と向き合い、グループワークに参加している
・レポート: 授業内容を概ね理解し、自身のキャリアについてのレポートを書くことが出来る

【望ましい到達度(80～100点)】
・授業への取り組み: 個人ワークで自身と向き合うことで内省を深めると共に、他者との協働に必要な考え方やスキル等について理解・意識してグループワークに参加している
・レポート: 授業内容を十分に理解し、多角的な視点で自身のキャリアについてのレポートを書くことが出来る

課題へのフィードバック:

提出物やレポートの内容について、必要に応じて授業内でコメントをする。

教科書: 東田晋三編著 自分デザイン・ブックⅡ ー戦略的思考で創る大学生活ー

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

生きることと働くこととは切り離すことはできない。そんなことからキャリア教育を就職教育と同じに扱う人がいる。大きな間違いである。その人がその人らしく生き生きと働き、その人らしい生き方を考えるための知識と考え方を学ぶものである。合わせて精神的な支援も行う。キャリア教育はインターンシップ教育(実習)に代表されるように、実際にやってみることを大切にする。参加する楽しさを合わせて学んでほしい。
就職活動は学んだ論理思考を使って言語化することで、活動を見える化でき、修正も容易になり、意欲と自信を生み出す。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: ワーク＆ライフデザインⅡ

クラス: 後②

授業コード: B430200007

担当者: 中山　真由美　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有：1級キャリアコンサルタント技能士(国家資格)、国家資格キャリアコンサルタント、アスリートキャリアコーディネーター、AIP認定NLPプラクショナー

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 目標設定が果たす大きな役割について学習し、その目標達成のために自分が向き合うテーマが何であるかを理解する。さらに、目標達成のプロセス上で、ぶつかるであろう諸問題への解決方法についても学び、大学生活を戦略的に創り上げることが、これから社会生活をおくるうえで極めて重要であることを理解出来るよう進める。問題を解決する論理思考についても練習をする。
自分のwillを確認し、やると決めたmustを軸に行動することは、極めて重要である。まず、大学1年生の1年間で積み上げてきた自らの大学生活を振り返り、自分自身の成果を確認する。その上で、改めて目的・目標を設定し、その達成のために、何が必要かを学びます。達成プロセスに存在する様々の要素を出来るだけ具体的な事例で検討し、それらが目的・目標達成に向けて、どのように関わるかを学ぶ。
人生は問題解決の連続である。何かに向かって進む限り、問題が続出することが自然であり、それを避けては通れない。私達が社会生活をおくるうえで必要な基礎力を身につけ、3年生以降直面する進路選択も視野に入れた学習をする。

到達目標: 社会に出てから仕事が出来る人になるために、そして、自分の人生を自分で創っていくために避けては通れない、論理思考の基本、問題発見、問題解決のプロセスを理解する。
A)目的・目標の力を具体的に学ぶ。
B)目標達成に向けた問題発見・解決のプロセスを学ぶ。
C)社会で求められる論理思考の基礎(フレームワーク、論理ピラミッド)を学び、自分の大学生活を自分で創る気概を持つ。
D)自分のことを知ろうとする姿勢と社会のことを知ろうとする姿勢(キャリアマインド)の両方を進化させる。
E)大学生活後半3.4年生の学習にドライブをかけるため、最も差がつくとされる大学2年生を格段に充実させる

各回の授業計画:

1. キャリアマインドの再認識
「自分のことをもっと知りたい」「社会のことをもっと知りたい」について改めて理解する。

2. 目的・目標 戦略的再設定
大学入学時からこれまでに設定した目的・目標を振り返り、過去・現在から未来に向けた自分の目的・目標の再検討する。

3. フレームワーク①
社会出てから最も有効な思考方法になるフレームワーク理解する
論理思考の基本となるフレームワークについて理解し、いくつかの課題をでフレームワークの練習をする。

4. フレームワーク②
引く続き、いくつかの課題をでフレームワークの練習をし、理解を深める。

5. 社会に出て役立つ論理思考 トップダウン思考とボトムアップ思考①
論理思考とはどういうものなのか、なぜ仕事上手になるために役立つのか、自分の人生を自分で創るためになぜ有効かを理解する。

6. 社会に出て役立つ論理思考 トップダウン思考とボトムアップ思考②
トップダウン思考、ボトムアップ思考について理解し、いくつかの課題で練習し理解を深める。

7. 問題発見とそれら問題の重点化①
事例となる問題をフレームワークし問題発見について理解する
学生が抱えている問題をできるだけ書き出し、それらの問題を自分たちが実感する問題としてフレームワークする。

8. 問題発見とそれら問題の重点化②
フレームワークした問題の重点化に取り組む
問題ある現在の状況を引き起こしている原因を検討する
それらの原因を消し去るか軽減する策を「解決策」として言語化する。

9. 重点化された問題の解決策を考える
解決策を4つの判断基準(期待される効果、緊急度、できる可能性、対CP)で検討し、解決策に優先順位をつけるスキルを学ぶ。

10. 就職活動に横たわる問題の発見
人生を自分で創っていくうえで就職及び就職活動が何なのかをキャリアプランの視点から検討する。

11. 就職活動に横たわる問題の解決策を検討する
就職問題のフレームワークから問題解決策までのプロセスを言語化ワーク
就職活動に関わる情報(ニュース、議論)も提供

12. マナーとコミュニケーションについて考える
自分と他者とのやりとりにおいて、自分のコミュニケーションを客観的な視点で見つめなおし、マナーに必要な要素を考える。

13. 自分の就職活動計画を立ててみる
目的、目標、方針(戦略)、実行項目(戦術)のフォーマットを使ったワークを行う。

14. 自分の就職活動計画を仕上げる
　就職活動に係る問題発見、解決を図るための情報提供
15. 就職とライフデザイン
　Willマップの作成

特記事項: 論理思考にはたくさんの手法が紹介されている。この授業では、論理思考の基礎を身につけるために2つの方法(フレームワークと論理ピラミッド)と1つの構造(問題発見から問題解決)に絞って学ぶ。これによって、大方の論理思考方法をカバーできるようになる。

授業方法: 【すべての授業を対面で行う】
キャリアマインドを一層鍛えるため積極的に発言を求める、そのために個人ワーク、グループワーク、発表、ディスカッションを中心に、学生同士で学びを深めてもらう。
グループワークでは、講師から教わるのではなく、自分の体験の中から発見・再発見・再認識したことを自身の考えとして発言していき、メンバーの意見を受け入れコミュニケーション力の向上を図る。自分自身や社会について学んだことを仲間と共有し、互いに協力し合って、有意義で楽しい大学生活を"自らの手で"つくっていく面白さを知る参加型講義を行う。
板書量は多くないが必ずノートを要求する。また、授業内では、毎回ワークシート作成があり、時間内で作成できなかった場合や、欠席したものは次回までに必ず、ワークシートは完成しておく必要がある。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

【授業時間外学習時間:合計1,020分】
1. 講義計画に沿って、事前にテキスト(該当箇所)を通読しておく(予習時間:30分×14回＝420分)
2. テキストの該当箇所及び講義内における理論や実践について見直し、内省する時間を作る(復習時間:30分×14回＝420分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	65	**%**	**確認テスト:**	－	**%**	**レポート:**	35 **%**
その他1:	－			－	**%**		
その他2:	－			－	**%**		

評価基準: 【最低限の到達度(60～69点)】
・授業への取り組み: 個人ワークで自身と向き合い、グループワークに参加している
・レポート: 授業内容を概ね理解し、自身のキャリアについてのレポートを書くことが出来る

【望ましい到達度(80～100点)】
・授業への取り組み: 個人ワークで自身と向き合うことで内省を深めると共に、他者との協働に必要な考え方やスキル等について理解・意識してグループワークに参加している
・レポート: 授業内容を十分に理解し、多角的な視点で自身のキャリアについてのレポートを書くことが出来る

課題へのフィードバック:
提出物やレポートの内容について、必要に応じて授業内でコメントをする。

教科書: 東田晋三編著 自分デザイン・ブックⅡ ー戦略的思考で創る大学生活ー

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:
生きることと働くこととは切り離すことはできない。そんなことからキャリア教育を就職教育と同じに扱う人がいる。大きな間違いである。その人がその人らしく生き生きと働き、その人らしい生き方を考えるための知識と考え方を学ぶものである。合わせて精神的な支援も行う。キャリア教育はインターンシップ教育(実習)に代表されるように、実際にやってみることを大切にする。参加する楽しさを合わせて学んでほしい。
就職活動は学んだ論理思考を使って言語化することで、活動を見える化でき、修正も容易になり、意欲と自信を生み出す。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: ワーク＆ライフデザインⅡ

クラス: 後③

授業コード: B430200008

担当者: 柴原 高宏 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 目標設定が果たす大きな役割について学習し、その目標達成のために自分が向き合うテーマが何であるかを理解する。さらに、目標達成のプロセス上で、ぶつかるであろう諸問題への解決方法についても学び、大学生活を戦略的に創り上げることが、これから社会生活をおくるうえで極めて重要であることを理解出来るよう進める。問題を解決する論理思考についても練習をする。
自分のwillを確認し、やると決めたmustを軸に行動することは、極めて重要である。まず、大学1年生の1年間で積み上げてきた自らの大学生活を振り返り、自分自身の成果を確認する。その上で、改めて目的・目標を設定し、その達成のために、何が必要かを学びます。達成プロセスに存在する様々の要素を出来るだけ具体的な事例で検討し、それらが目的・目標達成に向けて、どのように関わるかを学ぶ。
人生は問題解決の連続である。何かに向かって進む限り、問題が続出することが自然であり、それを避けては通れない。私達が社会生活をおくるうえで必要な基礎力を身につけ、3年生以降直面する進路選択も視野に入れた学習をする。

到達目標: 社会に出てから仕事が出来る人になるために、そして、自分の人生を自分で創っていくために避けては通れない、論理思考の基本、問題発見、問題解決のプロセスを理解する。
A)目的・目標の力を具体的に学ぶ。
B)目標達成に向けた問題発見・解決のプロセスを学ぶ。
C)社会で求められる論理思考の基礎(フレームワーク、論理ピラミッド)を学び、自分の大学生活を自分で創る気概を持つ。
D)自分のことを知ろうとする姿勢と社会のことを知ろうとする姿勢(キャリアマインド)の両方を進化させる。
E)大学生活後半3.4年生の学習にドライブをかけるため、最も差がつくとされる大学2年生を格段に充実させる

各回の授業計画:

1. キャリアマインドの再認識
「自分のことをもっと知りたい」「社会のことをもっと知りたい」について改めて理解する。

2. 目的・目標 戦略的再設定
大学入学時からこれまでに設定した目的・目標を振り返り、過去・現在から未来に向けた自分の目的・目標の再検討する。

3. フレームワーク①
社会出てから最も有効な思考方法になるフレームワーク理解する
論理思考の基本となるフレームワークについて理解し、いくつかの課題をでフレームワークの練習をする。

4. フレームワーク②
引く続き、いくつかの課題をでフレームワークの練習をし、理解を深める。

5. 社会に出て役立つ論理思考 トップダウン思考とボトムアップ思考①
論理思考とはどういうものなのか、なぜ仕事上手になるために役立つのか、自分の人生を自分で創るためになぜ有効かを理解する。

6. 社会に出て役立つ論理思考 トップダウン思考とボトムアップ思考②
トップダウン思考、ボトムアップ思考について理解し、いくつかの課題で練習し理解を深める。

7. 問題発見とそれら問題の重点化①
事例となる問題をフレームワークし問題発見について理解する
学生が抱えている問題をできるだけ書き出し、それらの問題を自分たちが実感する問題としてフレームワークする。

8. 問題発見とそれら問題の重点化②
フレームワークした問題の重点化に取り組む
問題ある現在の状況を引き起こしている原因を検討する
それらの原因を消し去るか軽減する策を「解決策」として言語化する。

9. 重点化された問題の解決策を考える
解決策を4つの判断基準(期待される効果、緊急度、できる可能性、対CP)で検討し、解決策に優先順位をつけるスキルを学ぶ。

10. 就職活動に横たわる問題の発見
人生を自分で創っていくうえで就職及び就職活動が何なのかをキャリアプランの視点から検討する。

11. 就職活動に横たわる問題の解決策を検討する
就職問題のフレームワークから問題解決策までのプロセスを言語化ワーク
就職活動に関わる情報(ニュース、議論)も提供

12. マナーとコミュニケーションについて考える
自分と他者とのやりとりにおいて、自分のコミュニケーションを客観的な視点で見つめなおし、マナーに必要な要素を考える。

13. 自分の就職活動計画を立ててみる
目的、目標、方針(戦略)、実行項目(戦術)のフォーマットを使ったワークを行う。

14. 自分の就職活動計画を仕上げる
　就職活動に係る問題発見、解決を図るための情報提供
15. 就職とライフデザイン
　Willマップの作成

特記事項: 論理思考にはたくさんの手法が紹介されている。この授業では、論理思考の基礎を身につけるために2つの方法(フレームワークと論理ピラミッド)と1つの構造(問題発見から問題解決)に絞って学ぶ。これによって、大方の論理思考方法をカバーできるようになる。

授業方法: 【すべての授業を対面で行う】
キャリアマインドを一層鍛えるため積極的に発言を求める、そのために個人ワーク、グループワーク、発表、ディスカッションを中心に、学生同士で学びを深めてもらう。
グループワークでは、講師から教わるのではなく、自分の体験の中から発見・再発見・再認識したことを自身の考えとして発言していき、メンバーの意見を受け入れコミュニケーション力の向上を図る。自分自身や社会について学んだことを仲間と共有し、互いに協力し合って、有意義で楽しい大学生活を"自らの手で"つくっていく面白さを知る参加型講義を行う。
板書量は多くないが必ずノートを要求する。また、授業内では、毎回ワークシート作成があり、時間内で作成できなかった場合や、欠席したものは次回までに必ず、ワークシートは完成しておく必要がある。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

【授業時間外学習時間:合計1,020分】
1. 講義計画に沿って、事前にテキスト(該当箇所)を通読しておく(予習時間:30分×14回＝420分)
2. テキストの該当箇所及び講義内における理論や実践について見直し、内省する時間を作る(復習時間:30分×14回＝420分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	65 **%**	**確認テスト:**	− **%**	**レポート:**	35 **%**
その他1:	−		− **%**		
その他2:	−		− **%**		

評価基準: 【最低限の到達度(60～69点)】
・授業への取り組み: 個人ワークで自身と向き合い、グループワークに参加している
・レポート: 授業内容を概ね理解し、自身のキャリアについてのレポートを書くことが出来る

【望ましい到達度(80～100点)】
・授業への取り組み: 個人ワークで自身と向き合うことで内省を深めると共に、他者との協働に必要な考え方やスキル等について理解・意識してグループワークに参加している
・レポート: 授業内容を十分に理解し、多角的な視点で自身のキャリアについてのレポートを書くことが出来る

課題へのフィードバック:

提出物やレポートの内容について、必要に応じて授業内でコメントをする。

教科書: 東田晋三編著 自分デザイン・ブックⅡ ー戦略的思考で創る大学生活ー

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

生きることと働くこととは切り離すことはできない。そんなことからキャリア教育を就職教育と同じに扱う人がいる。大きな間違いである。その人がその人らしく生き生きと働き、その人らしい生き方を考えるための知識と考え方を学ぶものである。合わせて精神的な支援も行う。キャリア教育はインターンシップ教育(実習)に代表されるように、実際にやってみることを大切にする。参加する楽しさを合わせて学んでほしい。
就職活動は学んだ論理思考を使って言語化することで、活動を見える化でき、修正も容易になり、意欲と自信を生み出す。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: ワーク＆ライフデザインⅡ

クラス: 後④

授業コード: B430200009

担当者: 萬上 葉也加　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 目標設定が果たす大きな役割について学習し、その目標達成のために自分が向き合うテーマが何であるかを理解する。さらに、目標達成のプロセス上で、ぶつかるであろう諸問題への解決方法についても学び、大学生活を戦略的に創り上げることが、これから社会生活をおくるうえで極めて重要であることを理解出来るよう進める。問題を解決する論理思考についても練習をする。
自分のwillを確認し、やると決めたmustを軸に行動することは、極めて重要である。まず、大学1年生の1年間で積み上げてきた自らの大学生活を振り返り、自分自身の成果を確認する。その上で、改めて目的・目標を設定し、その達成のために、何が必要かを学びます。達成プロセスに存在する様々の要素を出来るだけ具体的な事例で検討し、それらが目的・目標達成に向けて、どのように関わるかを学ぶ。
人生は問題解決の連続である。何かに向かって進む限り、問題が続出することが自然であり、それを避けては通れない。私達が社会生活をおくるうえで必要な基礎力を身につけ、3年生以降直面する進路選択も視野に入れた学習をする。

到達目標: 社会に出てから仕事が出来る人になるために、そして、自分の人生を自分で創っていくために避けては通れない、論理思考の基本、問題発見、問題解決のプロセスを理解する。
A)目的・目標の力を具体的に学ぶ。
B)目標達成に向けた問題発見・解決のプロセスを学ぶ。
C)社会で求められる論理思考の基礎(フレームワーク、論理ピラミッド)を学び、自分の大学生活を自分で創る気概を持つ。
D)自分のことを知ろうとする姿勢と社会のことを知ろうとする姿勢(キャリアマインド)の両方を進化させる。
E)大学生活後半3.4年生の学習にドライブをかけるため、最も差がつくとされる大学2年生を格段に充実させる

各回の授業計画:

1. キャリアマインドの再認識
「自分のことをもっと知りたい」「社会のことをもっと知りたい」について改めて理解する。

2. 目的・目標 戦略的再設定
大学入学時からこれまでに設定した目的・目標を振り返り、過去・現在から未来に向けた自分の目的・目標の再検討する。

3. フレームワーク①
社会出てから最も有効な思考方法になるフレームワーク理解する
論理思考の基本となるフレームワークについて理解し、いくつかの課題をでフレームワークの練習をする。

4. フレームワーク②
引く続き、いくつかの課題をでフレームワークの練習をし、理解を深める。

5. 社会に出て役立つ論理思考 トップダウン思考とボトムアップ思考①
論理思考とはどういうものなのか、なぜ仕事上手になるために役立つのか、自分の人生を自分で創るためになぜ有効かを理解する。

6. 社会に出て役立つ論理思考 トップダウン思考とボトムアップ思考②
トップダウン思考、ボトムアップ思考について理解し、いくつかの課題で練習し理解を深める。

7. 問題発見とそれら問題の重点化①
事例となる問題をフレームワークし問題発見について理解する
学生が抱えている問題をできるだけ書き出し、それらの問題を自分たちが実感する問題としてフレームワークする。

8. 問題発見とそれら問題の重点化②
フレームワークした問題の重点化に取り組む
問題ある現在の状況を引き起こしている原因を検討する
それらの原因を消し去るか軽減する策を「解決策」として言語化する。

9. 重点化された問題の解決策を考える
解決策を4つの判断基準(期待される効果、緊急度、できる可能性、対CP)で検討し、解決策に優先順位をつけるスキルを学ぶ。

10. 就職活動に横たわる問題の発見
人生を自分で創っていくうえで就職及び就職活動が何なのかをキャリアプランの視点から検討する。

11. 就職活動に横たわる問題の解決策を検討する
就職問題のフレームワークから問題解決策までのプロセスを言語化ワーク
就職活動に関わる情報(ニュース、議論)も提供

12. マナーとコミュニケーションについて考える
自分と他者とのやりとりにおいて、自分のコミュニケーションを客観的な視点で見つめなおし、マナーに必要な要素を考える。

13. 自分の就職活動計画を立ててみる
目的、目標、方針(戦略)、実行項目(戦術)のフォーマットを使ったワークを行う。

14. 自分の就職活動計画を仕上げる
　就職活動に係る問題発見、解決を図るための情報提供
15. 就職とライフデザイン
　Willマップの作成

特記事項: 論理思考にはたくさんの手法が紹介されている。この授業では、論理思考の基礎を身につけるために2つの方法(フレームワークと論理ピラミッド)と1つの構造(問題発見から問題解決)に絞って学ぶ。これによって、大方の論理思考方法をカバーできるようになる。

授業方法: 【すべての授業を対面で行う】
キャリアマインドを一層鍛えるため積極的に発言を求める、そのために個人ワーク、グループワーク、発表、ディスカッションを中心に、学生同士で学びを深めてもらう。
グループワークでは、講師から教わるのではなく、自分の体験の中から発見・再発見・再認識したことを自身の考えとして発言していき、メンバーの意見を受け入れコミュニケーション力の向上を図る。自分自身や社会について学んだことを仲間と共有し、互いに協力し合って、有意義で楽しい大学生活を"自らの手で"つくっていく面白さを知る参加型講義を行う。
板書量は多くないが必ずノートを要求する。また、授業内では、毎回ワークシート作成があり、時間内で作成できなかった場合や、欠席したものは次回までに必ず、ワークシートは完成しておく必要がある。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

【授業時間外学習時間:合計1,020分】
1. 講義計画に沿って、事前にテキスト(該当箇所)を通読しておく(予習時間:30分×14回＝420分)
2. テキストの該当箇所及び講義内における理論や実践について見直し、内省する時間を作る(復習時間:30分×14回＝420分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	65	**%**	**確認テスト:**	－	**%**	**レポート:**	35 **%**
その他1:	－			－	**%**		
その他2:	－			－	**%**		

評価基準: 【最低限の到達度(60～69点)】
・授業への取り組み: 個人ワークで自身と向き合い、グループワークに参加している
・レポート: 授業内容を概ね理解し、自身のキャリアについてのレポートを書くことが出来る

【望ましい到達度(80～100点)】
・授業への取り組み: 個人ワークで自身と向き合うことで内省を深めると共に、他者との協働に必要な考え方やスキル等について理解・意識してグループワークに参加している
・レポート: 授業内容を十分に理解し、多角的な視点で自身のキャリアについてのレポートを書くことが出来る

課題へのフィードバック:
提出物やレポートの内容について、必要に応じて授業内でコメントをする。

教科書: 東田晋三編著 自分デザイン・ブックⅡ ー戦略的思考で創る大学生活ー

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:
生きることと働くこととは切り離すことはできない。そんなことからキャリア教育を就職教育と同じに扱う人がいる。大きな間違いである。その人がその人らしく生き生きと働き、その人らしい生き方を考えるための知識と考え方を学ぶものである。合わせて精神的な支援も行う。キャリア教育はインターンシップ教育(実習)に代表されるように、実際にやってみることを大切にする。参加する楽しさを合わせて学んでほしい。
就職活動は学んだ論理思考を使って言語化することで、活動を見える化でき、修正も容易になり、意欲と自信を生み出す。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: ワーク＆ライフデザインⅡ

クラス: 後⑤

授業コード: B430200010

担当者: 向山 久子 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:企業において人材開発業務に従事。キャリアコンサルタント(国家資格)

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 目標設定が果たす大きな役割について学習し、その目標達成のために自分が向き合うテーマが何であるかを理解する。さらに、目標達成のプロセス上で、ぶつかるであろう諸問題への解決方法についても学び、大学生活を戦略的に創り上げることが、これから社会生活をおくるうえで極めて重要であることを理解出来るよう進める。問題を解決する論理思考についても練習をする。
自分のwillを確認し、やると決めたmustを軸に行動することは、極めて重要である。まず、大学1年生の1年間で積み上げてきた自らの大学生活を振り返り、自分自身の成果を確認する。その上で、改めて目的・目標を設定し、その達成のために、何が必要かを学びます。達成プロセスに存在する様々の要素を出来るだけ具体的な事例で検討し、それらが目的・目標達成に向けて、どのように関わるかを学ぶ。
人生は問題解決の連続である。何かに向かって進む限り、問題が続出することが自然であり、それを避けては通れない。私達が社会生活をおくるうえで必要な基礎力を身につけ、3年生以降直面する進路選択も視野に入れた学習をする。

到達目標: 社会に出てから仕事が出来る人になるために、そして、自分の人生を自分で創っていくために避けては通れない、論理思考の基本、問題発見、問題解決のプロセスを理解する。
A)目的・目標の力を具体的に学ぶ。
B)目標達成に向けた問題発見・解決のプロセスを学ぶ。
C)社会で求められる論理思考の基礎(フレームワーク、論理ピラミッド)を学び、自分の大学生活を自分で創る気概を持つ。
D)自分のことを知ろうとする姿勢と社会のことを知ろうとする姿勢(キャリアマインド)の両方を進化させる。
E)大学生活後半3.4年生の学習にドライブをかけるため、最も差がつくとされる大学2年生を格段に充実させる

各回の授業計画:

1. キャリアマインドの再認識
「自分のことをもっと知りたい」「社会のことをもっと知りたい」について改めて理解する。

2. 目的・目標 戦略的再設定
大学入学時からこれまでに設定した目的・目標を振り返り、過去・現在から未来に向けた自分の目的・目標の再検討する。

3. フレームワーク①
社会出てから最も有効な思考方法になるフレームワーク理解する
論理思考の基本となるフレームワークについて理解し、いくつかの課題をでフレームワークの練習をする。

4. フレームワーク②
引く続き、いくつかの課題をでフレームワークの練習をし、理解を深める。

5. 社会に出て役立つ論理思考 トップダウン思考とボトムアップ思考①
論理思考とはどういうものなのか、なぜ仕事上手になるために役立つのか、自分の人生を自分で創るためになぜ有効かを理解する。

6. 社会に出て役立つ論理思考 トップダウン思考とボトムアップ思考②
トップダウン思考、ボトムアップ思考について理解し、いくつかの課題で練習し理解を深める。

7. 問題発見とそれら問題の重点化①
事例となる問題をフレームワークし問題発見について理解する
学生が抱えている問題をできるだけ書き出し、それらの問題を自分たちが実感する問題としてフレームワークする。

8. 問題発見とそれら問題の重点化②
フレームワークした問題の重点化に取り組む
問題ある現在の状況を引き起こしている原因を検討する
それらの原因を消し去るか軽減する策を「解決策」として言語化する。

9. 重点化された問題の解決策を考える
解決策を4つの判断基準(期待される効果、緊急度、できる可能性、対CP)で検討し、解決策に優先順位をつけるスキルを学ぶ。

10. 就職活動に横たわる問題の発見
人生を自分で創っていくうえで就職及び就職活動が何なのかをキャリアプランの視点から検討する。

11. 就職活動に横たわる問題の解決策を検討する
就職問題のフレームワークから問題解決策までのプロセスを言語化ワーク
就職活動に関わる情報(ニュース、議論)も提供

12. マナーとコミュニケーションについて考える
自分と他者とのやりとりにおいて、自分のコミュニケーションを客観的な視点で見つめなおし、マナーに必要な要素を考える。

13. 自分の就職活動計画を立ててみる
目的、目標、方針(戦略)、実行項目(戦術)のフォーマットを使ったワークを行う。

14. 自分の就職活動計画を仕上げる
　就職活動に係る問題発見、解決を図るための情報提供
15. 就職とライフデザイン
　Willマップの作成

特記事項: 論理思考にはたくさんの手法が紹介されている。この授業では、論理思考の基礎を身につけるために2つの方法(フレームワークと論理ピラミッド)と1つの構造(問題発見から問題解決)に絞って学ぶ。これによって、大方の論理思考方法をカバーできるようになる。

授業方法: 【すべての授業を対面で行う】
キャリアマインドを一層鍛えるため積極的に発言を求める、そのために個人ワーク、グループワーク、発表、ディスカッションを中心に、学生同士で学びを深めてもらう。
グループワークでは、講師から教わるのではなく、自分の体験の中から発見・再発見・再認識したことを自身の考えとして発言していき、メンバーの意見を受け入れコミュニケーション力の向上を図る。自分自身や社会について学んだことを仲間と共有し、互いに協力し合って、有意義で楽しい大学生活を"自らの手で"つくっていく面白さを知る参加型講義を行う。
板書量は多くないが必ずノートを要求する。また、授業内では、毎回ワークシート作成があり、時間内で作成できなかった場合や、欠席したものは次回までに必ず、ワークシートは完成しておく必要がある。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

【授業時間外学習時間:合計1,020分】
1. 講義計画に沿って、事前にテキスト(該当箇所)を通読しておく(予習時間:30分×14回＝420分)
2. テキストの該当箇所及び講義内における理論や実践について見直し、内省する時間を作る(復習時間:30分×14回＝420分)

評価方法:	**授業へのとりくみ:**	65 **%**	**確認テスト:**	－ **%**	**レポート:**	35 **%**
	その他1:	－		－ **%**		
	その他2:	－		－ **%**		

評価基準: 【最低限の到達度(60～69点)】
・授業への取り組み: 個人ワークで自身と向き合い、グループワークに参加している
・レポート: 授業内容を概ね理解し、自身のキャリアについてのレポートを書くことが出来る

【望ましい到達度(80～100点)】
・授業への取り組み: 個人ワークで自身と向き合うことで内省を深めると共に、他者との協働に必要な考え方やスキル等について理解・意識してグループワークに参加している
・レポート: 授業内容を十分に理解し、多角的な視点で自身のキャリアについてのレポートを書くことが出来る

課題へのフィードバック:

提出物やレポートの内容について、必要に応じて授業内でコメントをする。

教科書: 東田晋三編著 自分デザイン・ブックⅡ ー戦略的思考で創る大学生活ー

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

生きることと働くこととは切り離すことはできない。そんなことからキャリア教育を就職教育と同じに扱う人がいる。大きな間違いである。その人がその人らしく生き生きと働き、その人らしい生き方を考えるための知識と考え方を学ぶものである。合わせて精神的な支援も行う。キャリア教育はインターンシップ教育(実習)に代表されるように、実際にやってみることを大切にする。参加する楽しさを合わせて学んでほしい。
就職活動は学んだ論理思考を使って言語化することで、活動を見える化でき、修正も容易になり、意欲と自信を生み出す。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: キャリアデザインA

クラス:

授業コード: B430500001

担当者: 猪田 裕子 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 主に企業就職や公務員就職を目指す学生を対象に、社会で活躍する方々から現場の実情を学び、早い段階から職業観を形成することを目的とする。また、「社会で求められる力」を理解するとともに、自分に不足している力を見つめ直し、3年次以降の進路選択に向けて主体的に行動できる姿勢を養う。

到達目標:
・社会で働く意義を理解し、職業選択に必要な視点や知識を身につけることができる。
・自己の強みや弱みを把握し、将来のキャリアに向けて自分の可能性を見つめ直すことができる。
・他者と意見を共有しながら、自分が社会でありたい姿を具体的に描くことができる。
・自ら主体的に行動し、進路選択に向けた目標を設定する姿勢を養う。

各回の授業計画:

1. 社会で働く意味と心構えを理解する
社会で働くことの意義や心構えについて学び、自分自身の考え方や価値観を整理する
2. 業界・職種を知ろう①
講話を通じて、多様な業界・職種について学び、それぞれの仕事内容や役割を理解する
3. 業界・職種を知ろう②
異なる業界・職種の話を聞き、仕事の魅力や特徴について考える
4. 業界・職種を知ろう③
講話を通じて業界・職種の現状や課題を学び、自分の興味や適性に基づいて考察する
5. 業界・職種を知ろう④就職活動や社会人生活のリアルな視点を学び、自分のキャリアを考える
6. 業界・職種を知ろう⑤地域社会に密着した企業や公共機関の講話を通じて、地域課題に取り組む仕事やそのやりがいについて学ぶ
7. 業界・職種を知ろう⑥それぞれの業界で求められる力や仕事の特徴を理解し、自分の発想力を活かせるキャリアについて考察する
8. これからの大学生活を考える
講義を通じて見つけた自分の課題を整理し、次年度に向けた具体的な行動計画を立てる

特記事項: 本授業では、第2回目から第7回目にかけて、異なる業界や職種で活躍する企業を通じ、それぞれの仕事内容ややりがいについて学ぶ機会を設ける予定である。具体的な内容は現在調整中であるが、学生の興味や進路希望に配慮し、実際のエピソードや現場の話を聞ける貴重な学びの場を提供することを目指している。詳細が決まり次第、授業内または学内システムを通じて連絡する。

幅広い業界や職種に触れることで、新たな視点や可能性を見出し、自分のキャリア形成について考えるきっかけとなる内容を予定している。

備考:過年度は金融関係、アパレル関係、食品関係、公務員など、多彩な分野の企業に関する話題を取り上げ、それぞれの分野での働き方や業界の裏側を知る機会となった。

授業方法: 【対面】
個人ワーク
グループワーク

予習・復習・宿題など(内容・時間):

第1回・第8回:理解度シートの記入
第1回と第8回では、「理解度シート」を記入する。講義前と講義後に感じた自己の価値観の変化や行動変容に向けた姿勢を整理し、自身の

成長につなげるツールとして活用する。また、企業や公共機関から学んだ内容や気づきについて、「理解度ワーク」に記入することで、内省を深め、自己を見つめ直す機会となる。(各回240分)

第2回～第7回:事後レポートと予習
第2回から第7回では、企業や公共機関の概要や業界の仕組み・課題を知り、グループワーク・グループディスカッションを通じて、講義内での学びを「事後レポート」として提出する。また、次回登壇企業の企業・公共機関について事前に研究を行い、理解を深める。これにより、普段からニュースや時事問題にも関心を持つ習慣を身につけることを目指す。(各回240分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	－ **%**	**レポート:**	70 **%**
その他1:			**%**		
その他2:			**%**		

評価基準:

1. 授業への取り組み(30%)
自分で講義内容を理解し、指示に従って課題に取り組める(60～69)
メモを取ったり、質問をしながら積極的に学習に取り組める(70～79)
自ら進んでキャリアについて考え、意欲的に学習に取り組める(80～100)

2. レポート(70%)
各回の事後レポートを提出し、基本的な学習内容を振り返ることができる(60～69)
事後レポートに加えて、自己分析や進路選択について深く考察できる(70～79)
提供されたレポート課題のほとんどを提出し、主体的なキャリア形成の考察ができる(80～100)

この評価基準に基づき、授業への参加態度や課題への取り組みを総合的に評価し、最終的な成績を決定します。

課題へのフィードバック:

自己発見シートやレポート、企業・団体の方々との質疑応答等を通して、必要に応じて講義内でおこなう。

教科書: 必要に応じて各企業・団体の紹介やプリントなどを配布する。

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

この講義では、企業・公共機関からの知識を吸収するだけでなく、社会の成り立ちや、その職業を選択するに至った経緯やキャリアパスを学ぶことで、将来に向けたライフプランや働き方、価値観を自主的に考えるきっかけをつかむことを重視している。また、「企業・公共機関の方々への質疑応答」を通じて、社会人として最低限必要なマナーを身につけるとともに、他者に分かりやすく表現する力を磨く機会ともしている。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: キャリアデザインB

クラス: 企業

授業コード: B430600001

担当者: 寺田 順子 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:大学にてキャリアセンター勤務(キャリアアドバイザー・キャリアカウンセラー)

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 本授業では、大学生活を振り返りつつ、自分の価値観や働き方を明確にし、キャリアプランを主体的に描く力を養う。また、予測不能な未来に対応できる前向きな姿勢と、就職活動を人生設計の一環として活用する意識を育てる。
さらに、社会で必要とされるスキルや考え方を身につけ、学生一人ひとりが自分らしいキャリアを実現するための準備を進める。

・これまでの人生の振り返りとこれからの自分の再考
大学生活で学んだことを振り返り、自身の成長や学びを再確認するとともに、これからの大学生活後半を納得のいくものにする心構えを持つ。これまでの人生を振り返ることで、キャリア形成の第一歩を踏み出す基盤を作る。
・キャリアマインドの深化と主体的な進路設計
自身の価値観、興味、性格、働き方の希望を明確にし、キャリアプランを具体化する力を養う。進路や就職活動について主体的に考え、自分の未来像を描く意識を高める。
・未来へのポジティブな姿勢と必要な力の習得
予測不能な社会の中で、前向きに未来を考え、自ら創り出していく意識を持つ。そして、そのために必要なスキルや考え方を身につける準備を進める。
また、AI等のツールも適切に活用しながら、自分の考えや強みを言語化・整理し、主体的なキャリア選択につなげる力を養う。

到達目標: ・キャリアプランの作成と就職活動への本気度向上
キャリアプランの重要性を理解し、自分自身の目標や働き方を明確にし、積極的に就職活動へ取り組む姿勢を育む。
・働くことの具体的イメージの形成
興味を持つ業界や職種に関する情報を収集し、それらを通して働くことの具体的なイメージを持つ。
・就職活動を「自分の人生を創る機会」として捉える
「就職活動＝内定獲得」という固定観念から脱却し、自分の可能性を広げる絶好の機会であることを理解する。就職活動を通じて、自身の未来を主体的に創造する力を培う。
・インターンシップの重要性の理解と準備の実施
インターンシップの重要性を理解するとともに、事前準備や事後振り返りを重視し、実りある体験を得る意識を持つ。
・自分の考えや経験を振り返り、言語化・整理したうえで進路選択につなげることができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
本講義の目的と授業の進め方、講師紹介、これまでの学びの振り返り

2. 動機付け 働く意義を考える
就職活動の流れを知るとともに、自分にとっての働く意味を考える

3.社会で求められる能力、コミュニケーションスキルを学ぶ
コミュニケーションスキル、聴く、伝える力の向上

4. 自分を知る① グループワーク 他者との対話から自己理解を深める
双六を用いたゲーム形式のワークを通して、で聴く伝える力を養い、自己理解も深める

5. 自分を知る② アセスメントを活用し、客観的自己理解を深める
HRパーソナル診断から強みを見出し、自身の適性を知る

6. 自分を知る③ 自分史作成
過去の経験を振り返り、強みとエピソードを結びつける

7. 自己理解の言語化とエントリーシート作成
自分の強みや経験を言語化し、エントリーシートとして表現する

8. 社会を知る キャリアデザインとお金
キャリアプランを考える上で働き方とお金の関係について学ぶ

9. 仕事について知る ①職業・仕事探求
職業、仕事に関して情報収集、資料作成

10. 仕事について知る ②職業・仕事探求
職業、仕事に関するレポート作成、発表

11. 企業研究とキャリアプラン
興味を持った企業について理解を深め、キャリアプランを考える

12. 面接対策

面接練習から就職活動におけるマナーを習得する
13. グループワーク①（模擬インターンシップ①）
グループディスカッション① 発表
14. グループワーク②（模擬インターンシップ②）
グループディスカッション② 発表
15. まとめ 自己理解とキャリアデザインの発表
キャリアプラン発表

特記事項： ・受講者数に上限を設ける（50名）。これを上回る登録があった場合は抽選とする。
（受講者の興味・関心や状況により、講義内容や順序を適宜変更する場合があります）
・留学生は日本での就職を希望する学生を対象とする。

授業方法： すべての授業を対面授業で行う。
アクティブラーニングを中心に進行し、学生一人ひとりが主体的に考え、行動し、自発的に意見を出す姿勢を重視する。学生が自ら学びに向き合い、日常生活にも生かせる力を養うことを目的とする。
・主体的・能動的な学びの促進
個人ワークやグループワークを通じて、自分の考えを深め、それを言語化し、他者と共有する機会を設ける。発表やディスカッションの中で、自発的に意見を出すことが求められ、学びを自らのものとする力を養う。
・アクティブリスニングとコミュニケーションスキルの向上
挨拶やアクティブリスニング（相手の話をしっかり聞き、理解を示す姿勢）を意識し、日常生活でも活用できるコミュニケーションスキルの向上を目指す。授業内での対話や議論を通じて、聴く力と伝える力を実践的に磨く。
・学生主体の授業進行
授業内容は、学生の考えや意見を柔軟に取り入れながら進行する。ワークやディスカッションで得た成果を次回以降の授業に反映させ、学生が自らの学びに責任を持つ仕組みを採用する。
・日常に生かせる実践的な内容
授業で学ぶ内容は、就職活動だけでなく、日常生活や将来のキャリア形成にも役立つものである。例えば、職場や社会で必要とされる姿勢やスキルを実践的に身につける機会を提供する。
・具体的な目標達成をサポート
授業では、目標達成に向けて必要な情報やツールを提供する。学生が自身の考えを行動に移せるようサポートし、実践的なキャリア形成力を身につける場を提供する。

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

前半（自己理解・社会理解）では、自己分析や振り返りを中心とした課題に取り組む。
後半（職業理解・実践）では、情報収集、言語化、発表準備等を行う。
必要に応じてAIツール等も活用しながら、情報収集、自分の考えを整理する。
＊原則として各回、授業テーマに沿ったミニレポート（400字程度）をTeamsで提出する。
目安時間：各回90～180分程度
＜各回詳細＞
1. 本講義の目的や授業全体の流れを踏まえ、これまでの大学生活や将来について考えたことを振り返りミニレポートを作成する。（90分）
2. 授業内容をもとに、自分にとって「働く」とは何かについて考え、テーマに沿ったミニレポートを作成する。（60～90分）
3. コミュニケーションに関する授業内容を振り返り、自身の強みや課題について整理し、ミニレポートを作成する。（90～120分）
4. グループワークでの気づきや他者からの視点を振り返り、自己理解に関するミニレポートを作成する。（90～120分）
5. HRパーソナル診断の結果をもとに、自身の強みや特性について整理し、ミニレポートを作成する。（90～120分）
6. 自分史作成を通して振り返った経験を整理し、強みとエピソードの関係についてミニレポート・自分史を作成する。（120～180分）
7. 授業内容をもとに、自身の強みや経験を言語化し、エントリーシート形式でまとめたガクチカ・自己PRを作成する。（120～180分）
8. 働き方とお金の関係について授業内容を振り返り、自身のキャリア観との関係を整理したミニレポートを作成する。（90～120分）
9. 関心のある職業や仕事について情報収集を行い、その内容を整理したミニレポートを作成する。（120～180分）
10. 調べた職業・仕事についてレポートをまとめ、発表内容の振り返りを含めたミニレポートを作成する。（120～180分）
11. 興味を持った企業について調べた内容を整理し、自身のキャリアプランとの関係をまとめたミニレポートを作成する。（120～180分）
12. 面接練習を通して得た気づきや課題を整理し、今後に向けた改善点をまとめたミニレポートを作成する。（90～120分）
13. グループディスカッションでの役割や学びを振り返り、チームでの気づきを整理したミニレポートを作成する。（90～120分）
14. 模擬インターンシップを通して得た学びや自己理解の変化について振り返り、ミニレポートを作成する。（90～120分）
15. 講義全体を振り返り、自己理解の変化や今後のキャリアについて整理した最終レポートを作成する。（180分）

評価方法：	**授業へのとりくみ：**	40 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	30 **%**
	その他1：	発表		20 **%**		
	その他2：	ワークシート類		10 **%**		

評価基準： 【最低限の到達度(60～69点)】
・講師からの質問に自分の意見を述べたり、グループディスカッションで発言したり、グループ発表に向けて共同の準備ができる。
・レポートはすべて提出し、授業で学んだことを基に課題について考えをまとめている。
【望ましい到達度（80～100点）】
・積極的に発言や質問ができる。
・グループのディスカッションや情報収集した内容をまとめて発表できる。
・レポートでは、課題についてさまざまな角度から深い分析を行い、自分の考えを述べている。
・将来の自分の生き方や働き方がイメージでき、望む働き方に向けた具体的な行動を考えることができる。
・発表において、自分なりの視点を持ち、考えを整理して言語化できている。

課題へのフィードバック:

・毎回終了時ミニレポートを提出。全員に該当する講評や留意点、優秀なレポートの内容などについて、次回授業始めに説明します。
・発表については、その都度講評します。

教科書: なし

参考書: 適宜紹介します。

授業・準備学習のアドバイス:

・就職活動開始前の準備として、自分の将来を真剣に考える良い機会です。ワーク・情報収集・レポート作成などに意欲的に取り組み、就職後の自分をイメージできるようになりましょう。
・ディスカッションや発表は、自分の考えをまとめ、それを他者に伝えるコミュニケーション能力を磨く機会にもなります。発言・発表が苦手な人も、これを機にチャレンジして自信をつけましょう。
・キャリアセンターのプログラム・情報・サービスなども積極的に活用し、具体的な行動につなげましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 実践教育活動A

クラス:

授業コード: B440100001

担当者: 高橋 一夫 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が認定する機関（自治体、学校、組織）において、本学学生が主体的に取り組む一定の要件を満たした社会貢献等の活動に対して「実践教育活動」として単位を認定し、「新たな社会の価値を創造する人材育成」という本学のパーパス(purpose)を実現するとともに当該活動の持続的実施や学生自身のキャリア形成の深化を目的とする。実践教育活動は全学的な教育プログラム「SHINWA実践教育プログラムSAIL; SHINWA Action Integrated Learning」に含まれ、学外・学内の相互の学びから、生涯学び続ける力、社会の未来を創る力を養うものである。

到達目標: 実践教育活動により、「1. 他者との協働による課題解決力、2. 社会の変化と多様性への対応力、3. DX時代に対応する知識とスキルを身につける」、このいずれかの力を伸長させることを目標とする。

各回の授業計画:

社会貢献活動等受入機関により活動期間や活動内容は異なる。担当教員より案内する。

特記事項: 【認定条件】
合計活動時間が累積で 40時間以上を 1 単位として認定する。
（例えば1日4 時間の活動を10日行うことを 1 単位とする）
① 社会貢献活動等受入機関から活動期間及び活動事項の認定を得ること（認定された活動の合計が 40時間以上であることを必要とする）
② 社会貢献活動等活動申請書および社会貢献活動等活動報告書（レポート）を提出すること
以上により単位を認定する。

【対象となる活動】
認定の対象は「1～4年次に実施する認定社会貢献活動等※」である。
※認定社会貢献活動等とは、授業の目的及び到達目標を実現し得るものをいう。

【手続き】
① 担当教員からの計画書を提出（年度内に教務担当へ）
② 社会貢献活動等活動報告書を担当教員に提出（活動先の印が必要）
③ 担当教員から学生一覧を教務に提出し、単位認定

【活動先の認定】
これまでの実績及び今後の活動状況を踏まえ、教務担当が「社会貢献活動等」の受入機関（自治体、学校、組織）を認定機関として学生に開示する（新規の自己開拓は機関の性質や活動内容により審査の上、可否を判断する）

【経費及び報酬】
社会貢献活動等の単位認定については、原則として無償で取り組むものを対象とする。

授業方法: 当該授業の一環として、現場における実際の社会貢献活動等のみならず、必要に応じて事前・事後に説明・企画・立案・評価・改善等の活動を実際の現場において、または現場を離れて実施する。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

必要に応じて活動の中で指示がある。

評価方法:	**授業へのとりくみ:**	80 **%**	**確認テスト:**	– **%**	**レポート:**	20 **%**
	その他1:			**%**		
	その他2:			**%**		

評価基準: 合計活動時間が累積で 40時間以上を 1 単位として認定する。
そのために① 社会貢献活動等受入機関から活動期間及び活動事項の認定を得ること(認定された活動の合計が 40時間以上であることを必要とする)、② 社会貢献活動等活動申請書および社会貢献活動等活動報告書(レポート)を提出することが条件となる。
合否での評価方法となる。

課題へのフィードバック:

必要に応じて課題提出時にフィードバックを行う。

教科書: なし

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

学外等での「SHINWA実践教育プログラムSAIL;SHINWA Action Integrated Learning」に積極的に取り組みましょう

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 実践教育活動B

クラス:

授業コード: B440200001

担当者: 高橋 一夫 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が認定する機関（自治体、学校、組織）において、本学学生が主体的に取り組む一定の要件を満たした社会貢献等の活動に対して「実践教育活動」として単位を認定し、「新たな社会の価値を創造する人材育成」という本学のパーパス(purpose)を実現するとともに当該活動の持続的実施や学生自身のキャリア形成の深化を目的とする。実践教育活動は全学的な教育プログラム「SHINWA実践教育プログラムSAIL; SHINWA Action Integrated Learning」に含まれ、学外・学内の相互の学びから、生涯学び続ける力、社会の未来を創る力を養うものである。

到達目標: 実践教育活動により、「1. 他者との協働による課題解決力、2. 社会の変化と多様性への対応力、3. DX時代に対応する知識とスキルを身につける」、このいずれかの力を伸長させることを目標とする。

各回の授業計画:

社会貢献活動等受入機関により活動期間や活動内容は異なる。担当教員より案内する。

特記事項: 【認定条件】
合計活動時間が累積で 40時間以上を 1 単位として認定する。
（例えば1日4 時間の活動を10日行うことを 1 単位とする）
① 社会貢献活動等受入機関から活動期間及び活動事項の認定を得ること（認定された活動の合計が 40時間以上であることを必要とする）
② 社会貢献活動等活動申請書および社会貢献活動等活動報告書（レポート）を提出すること
以上により単位を認定する。
③社会貢献活動等は40時間以上で「実践教育活動A」の単位を付与され、それ以降40時間ごとに1単位を認定される。活動時間総計80時間以上で「実践教育活動B」、120時間で「実践教育活動C」、160時間で「実践教育活動D」の単位がそれぞれ付与される。過去に認定された実践教育活動とは異なる活動であっても認められ、活動時間に応じて複数単位認定も可能である。

【対象となる活動】
認定の対象は「1～4年次に実施する認定社会貢献活動等※」である。
※認定社会貢献活動等とは、授業の目的及び到達目標を実現し得るものをいう。

【手続き】
① 担当教員からの計画書を提出（年度内に教務担当へ）
② 社会貢献活動等活動報告書を担当教員に提出（活動先の印が必要）
③ 担当教員から学生一覧を教務に提出し、単位認定

【活動先の認定】
これまでの実績及び今後の活動状況を踏まえ、教務担当が「社会貢献活動等」の受入機関（自治体、学校、組織）を認定機関として学生に開示する（新規の自己開拓は機関の性質や活動内容により審査の上、可否を判断する）

【経費及び報酬】
社会貢献活動等の単位認定については、原則として無償で取り組むものを対象とする。

授業方法: 当該授業の一環として、現場における実際の社会貢献活動等のみならず、必要に応じて事前・事後に説明・企画・立案・評価・改善等の活動を実際の現場において、または現場を離れて実施する。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

必要に応じて活動の中で指示がある。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	− **%**	**レポート:**	20 **%**
その他1:			**%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 合計活動時間が累積で 40時間以上を 1 単位として認定する。
そのために① 社会貢献活動等受入機関から活動期間及び活動事項の認定を得ること(認定された活動の合計が 40時間以上であることを必要とする)、② 社会貢献活動等活動申請書および社会貢献活動等活動報告書(レポート)を提出することが条件となる。
評価は合否で行います。

課題へのフィードバック:

課題提出時に必要に応じてフィードバックを行います。

教科書: なし

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

学外等での「SHINWA実践教育プログラムSAIL;SHINWA Action Integrated Learning」に積極的に取り組みましょう。

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 実践教育活動C

クラス:

授業コード: B440300001

担当者: 高橋 一夫 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が認定する機関（自治体、学校、組織）において、本学学生が主体的に取り組む一定の要件を満たした社会貢献等の活動に対して「実践教育活動」として単位を認定し、「新たな社会の価値を創造する人材育成」という本学のパーパス(purpose)を実現するとともに当該活動の持続的実施や学生自身のキャリア形成の深化を目的とする。実践教育活動は全学的な教育プログラム「SHINWA実践教育プログラムSAIL; SHINWA Action Integrated Learning」に含まれ、学外・学内の相互の学びから、生涯学び続ける力、社会の未来を創る力を養うものである。

到達目標: 実践教育活動により、「1. 他者との協働による課題解決力、2. 社会の変化と多様性への対応力、3. DX時代に対応する知識とスキルを身につける」、このいずれかの力を伸長させることを目標とする。

各回の授業計画:

社会貢献活動等受入機関により活動期間や活動内容は異なる。担当教員より案内する。

特記事項: 【認定条件】
合計活動時間が累積で 40時間以上を 1 単位として認定する。
（例えば1日4 時間の活動を10日行うことを 1 単位とする）
① 社会貢献活動等受入機関から活動期間及び活動事項の認定を得ること（認定された活動の合計が 40時間以上であることを必要とする）
② 社会貢献活動等活動申請書および社会貢献活動等活動報告書（レポート）を提出すること
以上により単位を認定する。
③社会貢献活動等は40時間以上で「実践教育活動A」の単位を付与され、それ以降40時間ごとに1単位を認定される。活動時間総計80時間以上で「実践教育活動B」、120時間で「実践教育活動C」、160時間で「実践教育活動D」の単位がそれぞれ付与される。過去に認定された実践教育活動とは異なる活動であっても認められ、活動時間に応じて複数単位認定も可能である。

【対象となる活動】
認定の対象は「1～4年次に実施する認定社会貢献活動等※」である。
※認定社会貢献活動等とは、授業の目的及び到達目標を実現し得るものをいう。

【手続き】
① 担当教員からの計画書を提出（年度内に教務担当へ）
② 社会貢献活動等活動報告書を担当教員に提出（活動先の印が必要）
③ 担当教員から学生一覧を教務に提出し、単位認定

【活動先の認定】
これまでの実績及び今後の活動状況を踏まえ、教務担当が「社会貢献活動等」の受入機関（自治体、学校、組織）を認定機関として学生に開示する（新規の自己開拓は機関の性質や活動内容により審査の上、可否を判断する）

【経費及び報酬】
社会貢献活動等の単位認定については、原則として無償で取り組むものを対象とする。

授業方法: 当該授業の一環として、現場における実際の社会貢献活動等のみならず、必要に応じて事前・事後に説明・企画・立案・評価・改善等の活動を実際の現場において、または現場を離れて実施する。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

必要に応じて活動の中で指示がある。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80	**%**	**確認テスト:**	−	**%**	**レポート:**	20 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: 合計活動時間が累積で 40時間以上を 1 単位として認定する。
そのために① 社会貢献活動等受入機関から活動期間及び活動事項の認定を得ること(認定された活動の合計が 40時間以上であることを必要とする)、② 社会貢献活動等活動申請書および社会貢献活動等活動報告書(レポート)を提出することが条件となる。
評価は合否で行います。

課題へのフィードバック:

課題提出時に、必要に応じてフィードバックを行う。

教科書: なし

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

学外等での「SHINWA実践教育プログラムSAIL;SHINWA Action Integrated Learning」に積極的に取り組みましょう。

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 実践教育活動D

クラス:

授業コード: B440400001

担当者: 高橋 一夫 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が認定する機関（自治体、学校、組織）において、本学学生が主体的に取り組む一定の要件を満たした社会貢献等の活動に対して「実践教育活動」として単位を認定し、「新たな社会の価値を創造する人材育成」という本学のパーパス(purpose)を実現するとともに当該活動の持続的実施や学生自身のキャリア形成の深化を目的とする。実践教育活動は全学的な教育プログラム「SHINWA実践教育プログラムSAIL; SHINWA Action Integrated Learning」に含まれ、学外・学内の相互の学びから、生涯学び続ける力、社会の未来を創る力を養うものである。

到達目標: 実践教育活動により、「1. 他者との協働による課題解決力、2. 社会の変化と多様性への対応力、3. DX時代に対応する知識とスキルを身につける」、このいずれかの力を伸長させることを目標とする。

各回の授業計画:

社会貢献活動等受入機関により活動期間や活動内容は異なる。担当教員より案内する。

特記事項: 【認定条件】
合計活動時間が累積で 40時間以上を 1 単位として認定する。
（例えば1日4 時間の活動を10日行うことを 1 単位とする）
① 社会貢献活動等受入機関から活動期間及び活動事項の認定を得ること（認定された活動の合計が 40時間以上であることを必要とする）
② 社会貢献活動等活動申請書および社会貢献活動等活動報告書（レポート）を提出すること
以上により単位を認定する。
③社会貢献活動等は40時間以上で「実践教育活動A」の単位を付与され、それ以降40時間ごとに1単位を認定される。活動時間総計80時間以上で「実践教育活動B」、120時間で「実践教育活動C」、160時間で「実践教育活動D」の単位がそれぞれ付与される。過去に認定された実践教育活動とは異なる活動であっても認められ、活動時間に応じて複数単位認定も可能である。

【対象となる活動】
認定の対象は「1～4年次に実施する認定社会貢献活動等※」である。
※認定社会貢献活動等とは、授業の目的及び到達目標を実現し得るものをいう。

【手続き】
① 担当教員からの計画書を提出（年度内に教務担当へ）
② 社会貢献活動等活動報告書を担当教員に提出（活動先の印が必要）
③ 担当教員から学生一覧を教務に提出し、単位認定

【活動先の認定】
これまでの実績及び今後の活動状況を踏まえ、教務担当が「社会貢献活動等」の受入機関（自治体、学校、組織）を認定機関として学生に開示する（新規の自己開拓は機関の性質や活動内容により審査の上、可否を判断する）

【経費及び報酬】
社会貢献活動等の単位認定については、原則として無償で取り組むものを対象とする。

授業方法: 当該授業の一環として、現場における実際の社会貢献活動等のみならず、必要に応じて事前・事後に説明・企画・立案・評価・改善等の活動を実際の現場において、または現場を離れて実施する。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

必要に応じて活動の中で指示がある。

評価方法:	**授業へのとりくみ:**	80 **%**	**確認テスト:**	– **%**	**レポート:**	20 **%**
	その他1:			**%**		
	その他2:			**%**		

評価基準: 合計活動時間が累積で 40時間以上を 1 単位として認定する。
そのために① 社会貢献活動等受入機関から活動期間及び活動事項の認定を得ること(認定された活動の合計が 40時間以上であることを必要とする)、② 社会貢献活動等活動申請書および社会貢献活動等活動報告書(レポート)を提出することが条件となる。
評価は合否で行う。

課題へのフィードバック:

課題提出時に、必要に応じてフィードバックを行う。

教科書: なし

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

学外等での「SHINWA実践教育プログラムSAIL;SHINWA Action Integrated Learning」に積極的に取り組みましょう。

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 資格認定科目A

クラス:

授業コード: B450100001

担当者: 高橋 一夫 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: キャリア形成に寄与する資格等の取得は，今後ますます，推進されるべきものと考えられる。国家的・国際的な水準での試験や資格取得に挑戦し，その学修の過程や成果を本学における学修成果の一部として認定することで，より一層，学生の主体性を育むとともに各学部・学科のディプロマ・ポリシーや専門性と深く関わる資質・能力を更に向上させることを目的とする。

到達目標: 達成目標は次の3点である。
・自身が目指すキャリア形成に必要な資格等が理解できる。
・資格等の取得に向け、適切な学びを遂行できる。
・資格等の取得後は、身に付いた知識や技術を活かし、さらに自身のキャリア形成について考えることができる。

各回の授業計画:

外部団体の資格やスコアの取得により単位認定する科目のため、各回の授業計画は設定しない。

特記事項:

授業方法: 資格等の取得に向けて、各自で適切な学びを実践する。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

資格等の取得に向けて、各自で適切な学びを実践する。

評価方法:

授業へのとりくみ:	－	**%**	**確認テスト:**	－	**%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:	資格取得状況(条件)に基づく単位認定			100	**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: 以下の試験，資格取得等の状況(条件)に基づき，認定単位数欄に示す単位を認定する。
(履修規程別表第2、第3、第4参照のこと)

【英語関係】
TOEIC(スコア)＝470～595点(2単位)，600～725点(4単位)，730～990点(6単位)
TOEFL iBT(スコア)＝39～56点(2単位)，57～78点(4単位)，79～120点(6単位)
実用英語技能検定(級)＝2級(2単位)，準1級(4単位)，1級(6単位)

【中国語関係】

中国語検定（級）＝3級（2単位），2級（4単位），準1級（6単位）

【情報技術者関係】
ITパスポート試験 合格（2単位）
試験（条件）= 情報セキュリティマネジメント試験合格（4単位），基本情報技術者試験合格（4単位），応用情報技術者試験合格（6単位）

課題へのフィードバック：

外部団体の資格やスコアの取得を認定することで、フィードバックに代える。

教科書： なし

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：

【単位認定の手続きについて】
単位認定の手続きは次の通り。
・大学入学以前に（2年以内）に修得した資格および1年次春学期に修得した資格については、1年次秋学期までに履修登録を行うこと。
・1年次秋学期以降に修得した資格は翌年に必ず履修登録を行う。
・履修登録をした後、履修確認期間の最終日より1カ月以内に取得が確認できる通知書等の原本（コピー不可）を教務担当に提出する。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 資格認定科目B

クラス:

授業コード: B450200001

担当者: 高橋 一夫 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: キャリア形成に寄与する資格等の取得は，今後ますます，推進されるべきものと考えられる。国家的・国際的な水準での試験や資格取得に挑戦し，その学修の過程や成果を本学における学修成果の一部として認定することで，より一層，学生の主体性を育むとともに各学部・学科のディプロマ・ポリシーや専門性と深く関わる資質・能力を更に向上させることを目的とする。

到達目標: 達成目標は次の3点である。
・自身が目指すキャリア形成に必要な資格等が理解できる。
・資格等の取得に向け、適切な学びを遂行できる。
・資格等の取得後は、身に付いた知識や技術を活かし、さらに自身のキャリア形成について考えることができる。

各回の授業計画:

外部団体の資格やスコアの取得により単位認定する科目のため、各回の授業計画は設定しない。

特記事項:

授業方法: 資格等の取得に向けて、各自で適切な学びを実践する。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

資格等の取得に向けて、各自で適切な学びを実践する。

評価方法:

授業へのとりくみ:	－	**%**	**確認テスト:**	－	**%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:	資格取得状況(条件)に基づく単位認定			100	**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: 以下の試験，資格取得等の状況(条件)に基づき，認定単位数欄に示す単位を認定する。
(履修規程別表第2、第3、第4参照のこと)

【英語関係】
TOEIC(スコア)＝470～595点(2単位)，600～725点(4単位)，730～990点(6単位)
TOEFL iBT(スコア)＝39～56点(2単位)，57～78点(4単位)，79～120点(6単位)
実用英語技能検定(級)＝2級(2単位)，準1級(4単位)，1級(6単位)

【中国語関係】

中国語検定（級）＝3級（2単位），2級（4単位），準1級（6単位）

【情報技術者関係】
ITパスポート試験 合格（2単位）
試験（条件）= 情報セキュリティマネジメント試験合格（4単位），基本情報技術者試験合格（4単位），応用情報技術者試験合格（6単位）

課題へのフィードバック：

外部団体の資格やスコアの取得を認定することで、フィードバックに代える。

教科書： なし

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：

【単位認定の手続きについて】
単位認定の手続きは次の通り。
・大学入学以前に（2年以内）に修得した資格および1年次春学期に修得した資格については、1年次秋学期までに履修登録を行うこと。
・1年次秋学期以降に修得した資格は翌年に必ず履修登録を行う。
・履修登録をした後、履修確認期間の最終日より1カ月以内に取得が確認できる通知書等の原本（コピー不可）を教務担当に提出する。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 資格認定科目C

クラス:

授業コード: B450300001

担当者: 高橋 一夫 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: キャリア形成に寄与する資格等の取得は，今後ますます，推進されるべきものと考えられる。国家的・国際的な水準での試験や資格取得に挑戦し，その学修の過程や成果を本学における学修成果の一部として認定することで，より一層，学生の主体性を育むとともに各学部・学科のディプロマ・ポリシーや専門性と深く関わる資質・能力を更に向上させることを目的とする。

到達目標: 達成目標は次の3点である。
・自身が目指すキャリア形成に必要な資格等が理解できる。
・資格等の取得に向け、適切な学びを遂行できる。
・資格等の取得後は、身に付いた知識や技術を活かし、さらに自身のキャリア形成について考えることができる。

各回の授業計画:

外部団体の資格やスコアの取得により単位認定する科目のため、各回の授業計画は設定しない。

特記事項:

授業方法: 資格等の取得に向けて、各自で適切な学びを実践する。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

資格等の取得に向けて、各自で適切な学びを実践する。

評価方法:

授業へのとりくみ:	－	**%**	**確認テスト:**	－	**%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:	資格取得状況(条件)に基づく単位認定			100	**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: 以下の試験，資格取得等の状況(条件)に基づき，認定単位数欄に示す単位を認定する。
(履修規程別表第2、第3、第4参照のこと)

【英語関係】
TOEIC(スコア)＝470～595点(2単位)，600～725点(4単位)，730～990点(6単位)
TOEFL iBT(スコア)＝39～56点(2単位)，57～78点(4単位)，79～120点(6単位)
実用英語技能検定(級)＝2級(2単位)，準1級(4単位)，1級(6単位)

【中国語関係】

中国語検定（級）＝3級（2単位），2級（4単位），準1級（6単位）

【情報技術者関係】
ITパスポート試験 合格（2単位）
試験（条件）= 情報セキュリティマネジメント試験合格（4単位），基本情報技術者試験合格（4単位），応用情報技術者試験合格（6単位）

課題へのフィードバック：

外部団体の資格やスコアの取得を認定することで、フィードバックに代える。

教科書： なし

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：

【単位認定の手続きについて】
単位認定の手続きは次の通り。
・大学入学以前に（2年以内）に修得した資格および1年次春学期に修得した資格については、1年次秋学期までに履修登録を行うこと。
・1年次秋学期以降に修得した資格は翌年に必ず履修登録を行う。
・履修登録をした後、履修確認期間の最終日より1カ月以内に取得が確認できる通知書等の原本（コピー不可）を教務担当に提出する。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 日本語(基礎) I

クラス: 留

授業コード: B900010001

担当者: 森上 展宏 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 日本語の基礎的な文法項目を整理して確認し、正しく運用できるようにする。その上で新たな文法知識の獲得を目指すと同時に、語彙力も強化し、大学の講義を理解できるような日本語力を身につける。

到達目標: ・基本的な文型に加えて中級レベルの文法項目を身につける。
・語彙を増やすだけでなく、正しく運用できるようコロケーションを意識して語彙力をつける。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション／文法① 依頼の表現
2. 文法② 許可を求める表現
3. 文法③ お礼を伝える表現
4. 文法④ 断りの表現
5. 文法⑤ 情報整理(1)比較
6. 文法⑥ 情報整理(2)条件
7. 文法⑦ 状況説明
8. 文法⑧ 伝聞の表現
9. 文法⑨ 誘いの表現
10. 文法⑩ 会話を進める表現
11. 文法⑪ 紹介の表現
12. 文法⑫ 情報理解
13. 文法⑬ 意見の表現(1)他者の意見
14. 文法⑭ 意見の表現(2)自分の意見
15. まとめと確認テスト

特記事項: 以上のように進めるが、クラスの状況によって進度・内容が異なる場合がある。

授業方法: [対面・演習]
配布資料をもとに文法項目を導入、練習し、関連表現を確認する。
1)新出語彙の確認 2)文法項目の確認 3)練習問題 4)関連表現の確認 5)復習問題

予習・復習・宿題など(内容・時間):

・予習:新出語彙の意味調べ等(250分)
・課題:文型練習や文の作成等(250分)
・復習:既習事項の確認、確認テスト等の準備(200分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	40 **%**	**レポート:**	− **%**
その他1:	小テスト		10 **%**		
その他2:	課題(提出物)		20 **%**		

評価基準: ＜優:80～100点＞ 既習事項を正しく運用できるうえに、新しい文型や語彙を積極的に使って表現できている。
＜良:70～79点＞ 既習事項を理解し、正しく運用できる
＜可:60～69点＞ 既習事項を理解できている

課題へのフィードバック:

課題や小テストを採点、添削し、返却する。

教科書: 授業中に資料配布

参考書: 授業内で適宜紹介

授業・準備学習のアドバイス:

毎回、新しい言葉や文型を事前に確認してから授業に参加すると、理解しやすくなります。授業では、正しく使うことを大切にしながら、たくさん練習します。
まちがいを気にせず、積極的に話してみましょう。復習では、学んだ文型を使って、短い文を自分で作ってみてください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 日本語(基礎)Ⅱ

クラス: 留

授業コード: B900020001

担当者: 森上 展宏 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 日本語の基礎的な文法項目と新たな文法知識を正しく運用できるようにするために、読解・聴解・会話の練習をし、大学の授業に対応する日本語技術を獲得する。

到達目標:
・身につけた文法知識、語彙を使って、日本語の文章を正しく読めるようにする。
・身につけた文法知識、語彙を使って、日本語を正しく聴き取ることができるようにする。
・自分の考えを正しく伝えられる話し方ができるようにする。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション/「依頼の表現」の読解・聴解
2. 「許可を求める表現」の読解・聴解
3. 「お礼を伝える表現」の読解・聴解
4. 「断りの表現」の読解・聴解
5. 「情報整理(1)比較」の読解・聴解
6. 「情報整理(2)条件」の読解・聴解
7. 「状況説明」の読解・聴解
8. 「伝聞の表現」の読解・聴解
9. 「誘いの表現」の読解・聴解
10. 「話を進める表現」の読解・聴解
11. 「 紹介の表現」の読解・聴解
12. 「情報理解」の読解・聴解
13. 「意見の表現(1)他者の意見」の読解・聴解
14. 「意見の表現(2)自分の意見」の読解・聴解
15. まとめと確認テスト

特記事項: 以上のように進めるが、クラスの状況によって進度・内容が異なる場合がある。

授業方法: [対面・演習]
・配布資料を使用する。
・既習の文型・語彙をもとに読解、聴解、会話の練習をする。
1)文型・語彙の確認 2)読解(内容理解確認) 3)読解(精読) 4)聴解練習 5)話し合い

予習・復習・宿題など(内容・時間):

予習:文型の使い方、語彙の確認等(250分)
課題:読解の練習問題等(250分)
復習:既習事項の確認、確認テスト等の準備(200分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	40 **%**	**レポート:**	− **%**
その他1: 小テスト			10 **%**		
その他2: 課題(提出物)			20 **%**		

評価基準:
<優:80〜100点> 既習事項を正しく運用できるうえに、
<良:70〜79点> 既習事項を理解し、正しく運用できる
<可:60〜69点> 既習事項を理解できている

課題へのフィードバック:

課題や小テストを採点、添削し、返却する。

教科書: 授業中に資料配布

参考書: 授業内で適宜紹介

授業・準備学習のアドバイス:

この授業では、すでに学んだ文型や語彙を使って、読む・聞く・話す練習をします。予習で内容を少し確認しておくと、授業が分かりやすくなります。
授業中は、自分の考えを日本語で伝えることを意識して、積極的に参加してください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 日本語(基礎)Ⅲ

クラス: 留

授業コード: B900030001

担当者: 路 荷寧 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: これまでに身につけた基礎的な日本語運用能力をさらに発展させ、理解・表現できる力を育成する。また、多様な文脈で使われる文法・語彙・表現を体系的に習得し、自身の意図や立場をわかりやすく伝えられる日本語能力を身につけることを目的とする。

到達目標:
・ 文脈や話者の意図をふまえた文法・語彙の使い分けを理解できる。
・ 長文や複数の情報源をもつ文章から、要点の整理・内容の解釈・批判的理解・比較検討を行える。

各回の授業計画:

1. 導入:授業の説明等／文法①価値の表現(1)立場
2. 文法①価値の表現(2)主観
3. 文法②アドバイスの表現(1)受け取り方
4. 文法②アドバイスの表現(2)改善点
5. 文法③予測の表現(1)範囲
6. 文法③予測の表現(2)根拠
7. 文法④経験の表現(1)起点
8. 文法④経験の表現(2)時間の流れ
9. 文法⑤状況説明の表現(1)原因と結果
10. 文法⑤状況説明の表現(2)時点
11. 文法⑥変化の表現(1)時間の流れ
12. 文法⑥変化の表現(2)結果
13. 文法⑦説明のし方
14. 文法⑧報告のし方
15.まとめと確認テスト

特記事項: 以上のように進めるが、クラスの状況によって進度・内容が異なる場合がある。

授業方法: [対面・演習]配布資料をもとに文法項目を導入、練習し、関連表現を確認する。
1)新出語彙の確認 2)文法項目の確認 3)練習問題 4)読解問題 5)聴解問題 6)復習問題 7)課題の説明・確認

予習・復習・宿題など(内容・時間):

・予習:新出語彙の意味調べ等(250分)
・課題:文型練習の問題や文の作成等(250分)
・復習:既習事項の確認、小テストや確認テストの準備(200分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 %	**確認テスト:**	40 %	**レポート:**	− %
その他1:	小テスト		10 %		
その他2:	課題(提出物)		20 %		

評価基準:
＜優:80～100点＞ 既習事項を正しく運用できてかつ新しい文型・語彙を使用して表現できる
＜良:70～79点＞ 既習事項を理解し、正しく運用できる
＜可:60～69点＞ 既習事項を理解できている

課題へのフィードバック:

・課題や小テストを採点、添削し、返却する
・課題の返却時にフィードバックを行う

教科書: 授業中に資料配布

参考書: 授業内で適宜紹介

授業・準備学習のアドバイス:

・積極的に授業に参加すること
・課題のしめきりを守り、小テストにもまじめに取り組むこと
・日本語科目以外の科目に対応できる日本語力をつける努力をすること

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 日本語(応用) I

クラス: 留

授業コード: B900040001

担当者: 森上 展宏 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: これまでに学習してきた文法項目を整理し、実際のコミュニケーション場面で適切に使い分けられる運用力を高め、より複雑な内容を扱う日本語へとスムーズに移行できる基礎を築く。

到達目標: ・既習の文法項目を文脈に応じて正確に使い分け、文章を組み立てられるようになる。
・次の段階で扱う文法・語彙・読解・聴解内容に取り組むための日本語力を身につける。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション／文法①「～つもり／～うちに」など文作
2. 文法① 発展問題、読解、聴解
3. 文法②「～てからでないと／～ことにする」など文作
4. 文法② 発展問題、読解、聴解
5. 文法③「～ようとする／～において」など文作
6. 文法③ 発展問題、読解、聴解
7. 文法④「～にとって／～わけがない」など文作
8. 文法④ 発展問題、読解、聴解
9. 文法⑤「～っぽい／～からといって」など文作
10. 文法⑤ 発展問題、読解、聴解
11. 文法⑥「～わけにはいかない／～として」など文作
12. 文法⑥ 発展問題、読解、聴解
13. 文法⑦「～ますように／～ことになる」など文作
14. 文法⑦ 発展問題、読解、聴解
15. まとめと確認テスト

特記事項: 以上のように進めるが、クラスの状況によって進度・内容が異なる場合がある。

授業方法: [対面・演習]
プリントを配布し、文法項目を確認後、文作を行う。問題を解きながら、理解し身につけていく。
1)文法項目確認 2)文作練習 3)文法項目に関する発展問題 4)読解 5)聴解

予習・復習・宿題など(内容・時間):

・予習:新出語彙の意味調べ等(250分)
・課題:練習問題・発展問題や文の作成等(250分)
・復習:既習事項の見直し、確認テスト等の準備(200分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 %	**確認テスト:**	40 %	**レポート:**	− %
その他1:	小テスト		10 %		
その他2:	課題(提出物)		20 %		

評価基準: 1. 授業へのとりくみ30%
・授業態度や積極性を重視し、教師からの指示に対して十分に正確に応えられる(優)
・適切に応えられる(良)
・ある程度応えられる(可)
2. 確認テスト40%
3. 小テスト10%
4. 課題(提出物)20%
上記の1.2.3.4から総合的に評価する。

課題へのフィードバック:

課題や小テストを採点、添削し、返却する。

教科書: 授業中に資料配布

参考書: 授業内で適宜紹介

授業・準備学習のアドバイス:

この授業では、文法の形だけでなく、場面に合った使い方を学びます。予習では新しい語彙や文型を確認し、授業中は自分のことばで文を作ることを大切にしましょう。
復習では、学んだ表現を使って、少し長い文や文章を書く練習をしてみてください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 日本語(応用)Ⅱ

クラス: 留

授業コード: B900050001

担当者: 平通 裕美　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: −　　**一般的包括的科目:** −

授業の目的: これまでに整理してきた文法・語彙・表現を、より幅広い文脈に応じて使いこなす力を養うことを目的とし、より複雑な内容を扱う日本語へとスムーズに移行できる基礎を強化する。

到達目標: 既習の文法・語彙を、状況や目的に応じて使い分けられるようになる。
次の段階で扱うより難易度の上がった文法・語彙・読解・聴解内容に対応できる総合的な言語運用力を身につける。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション／文法①「～し始める／～し終わる」など文作
2. 文法① 発展問題、読解、聴解
3. 文法②「～にともなって／～にかわって」など文作
4. 文法② 発展問題、読解、聴解
5. 文法③「～ようになる／～だらけ」など文作
6. 文法③ 発展問題、読解、聴解
7. 文法④「～ずに／～づらい」など文作
8. 文法④ 発展問題、読解、聴解
9. 文法⑤「～のではないだろうか／～ことはない」など文作
10. 文法⑤ 発展問題、読解、聴解
11. 文法⑥「～ついでに／～くせに」など文作
12. 文法⑥ 発展問題、読解、聴解
13. 文法⑦「～次第だ／～きる」など文作
14. 文法⑦ 発展問題、読解、聴解
15. まとめと確認テスト

特記事項: ＊以上のように進めるが、クラスの状況によって進度・内容が異なる場合がある。

授業方法: [対面・演習]プリントを配布し、文法項目を確認後、文作を行う。問題を解きながら、理解し身につけていく。
1. 文法項目確認
2. 文作練習
3. 文法項目に関する発展問題
4. 読解
5. 聴解

予習・復習・宿題など(内容・時間):

・予習:語彙調べ等、復習:既習事項の確認等(250分)
・課題:練習問題、試験準備(450分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 %	**確認テスト:**	40 %	**レポート:**	− %
その他1:	小テスト		10 %		
その他2:	課題		20 %		

評価基準: 1. 授業へのとりくみ30%
授業態度や積極性を重視し、教師からの指示に対して十分に正確に応えられる(優)、適切に応えられる(良)、ある程度応えられる(可)
2. 確認テスト40%
3. 小テスト10%
4. 課題(提出物)20%
上記の1.2.3.4から総合的に評価する。

課題へのフィードバック:

・課題や小テストを採点、添削し、返却する。
・フィードバックは適宜授業中に行う。

教科書: 授業中に資料を配布する。

参考書: 授業内で適宜紹介する。

授業・準備学習のアドバイス:

・既習の文法項目、語彙についての総復習
・敬語、謙譲語の使い分けの確認
・新聞記事、社説等を読み内容を把握し、整理する練習
・ニュース、討論などを聞き内容を理解する練習

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: アカデミック・ジャパニーズⅠ

クラス: 留A

授業コード: B900100001

担当者: 三井　絢子　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: レポートや論文を書くために、文章の組み立て方や、知っておかなければならないことばのルールを学び、実際に書く練習をする。

到達目標:
・書くときのことばづかいや、記号の使い分け、書くための基本的なルールを身につける
・日本語の文章の基本的な構成とその作り方がわかるようになる

各回の授業計画:

1. 授業の説明／よく使われる文の形
2. よく使われる語と表現
3. 引用
4. 要約
5. 句読点／まとめの練習
6. 文章の構成と作り方
7. 本論のまとめ方
8. 序論の役割 A.背景説明と問題提起
9. 序論の役割 B.方向づけ
10. 本論の役割 A.論拠提示
11. 本論の役割 B.結論提示
12. 本論の役割 C.行動提示
13. 結びの役割 A.全体のまとめ
14. 結びの役割 B.評価と展望提示
15.まとめと確認

特記事項: ・以上のように進めるが、クラスの状況によって進度が異なる場合がある。

授業方法: 【対面】【演習】
・項目ごとに資料を配布して進める
・表現やルールなどの知識を学び、実践練習を重ねる

予習・復習・宿題など(内容・時間):
・復習…既習事項の確認と整理、自主的な練習等(30分×14回＝420分)
・課題…調査、資料分析・考察、文章作成(280分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	20 **%**	**レポート:**	30 **%**
その他1: 課題			20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準:
＜60～69点＞
・既習項目を理解し、テーマに沿った内容の文章が書ける。
＜70～79点＞
・既習事項を正しく運用し、テーマに沿った内容の文章が書ける。
＜80～100点＞
・既習事項を正しく運用し、テーマに沿って構成・内容を考えた文章が書ける。

課題へのフィードバック:

課題に対するフィードバックは授業中に行い、提出物は添削して返却する。

教科書: 授業にて資料を配布する。

参考書: 授業の中で紹介する。

授業・準備学習のアドバイス:

・既習事項の復習などの自習時間、課題に取り組む時間をしっかりと取ってください。
・自習内容の1つとして「日本語の文章を読む」ことをしてください。
・積極的に授業に参加してください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: アカデミック・ジャパニーズ Ⅰ

クラス: 留G①

授業コード: B900100002

担当者: 三井 絢子 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: レポートや論文を書くために、基本的な知識として文章の組み立て方や、知っておかなければならないことばのルールを学び、実際に書く練習をする。

到達目標: ・書くときのことばづかいや、記号の使い分け、書くための基本的なルールを身につける
・日本語の文章の基本的な構成とその作り方がわかるようになる

各回の授業計画:

1. 授業の説明／よく使われる文の形
2. よく使われる語と表現
3. 引用
4. 要約
5. 句読点／まとめの練習
6. 文章の構成と作り方
7. 本論のまとめ方
8. 序論の役割 A.背景説明と問題提起
9. 序論の役割 B.方向づけ
10. 本論の役割 A.論拠提示
11. 本論の役割 B.結論提示
12. 本論の役割 C.行動提示
13. 結びの役割 A.全体のまとめ
14. 結びの役割 B.評価と展望提示
15.まとめと確認

特記事項: ・以上のように進めるが、クラスの状況によって進度が異なる場合がある。

授業方法: 【対面】【演習】
・項目ごとに資料を配布して進める
・表現やルールなどの知識を学び、実践練習を重ねる

予習・復習・宿題など(内容・時間):

・復習…既習事項の確認と整理、自主的な練習等(30分×14回＝420分)
・課題…調査、資料分析・考察、文章作成(280分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	30	**%**	**確認テスト:**	20	**%**	**レポート:**	30 **%**
その他1: 課題				20	**%**		
その他2:					**%**		

評価基準:
＜60～69点＞
・基礎的な知識を身につけ、テーマに沿った内容の文章が書ける。
＜70～79点＞
・文章の表現やルールを正しく運用し、テーマに沿った内容の文章が書ける。
＜80～100点＞
・文章の表現やルールを正しく運用し、テーマに沿って構成・内容を考えた文章が書ける。

課題へのフィードバック:

課題に対するフィードバックは授業中に行い、提出物は添削して返却する。

教科書: 授業にて資料を配布する。

参考書: 授業の中で紹介する。

授業・準備学習のアドバイス:

・わからないことをそのままにせず、理解を進めて実力をつけてください。
・既習事項の復習などの自習時間、課題に取り組む時間をしっかりと取ってください。
・自習内容の1つとして「日本語の文章を読む」ことをしてください。
・積極的に授業に参加してください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: アカデミック・ジャパニーズⅠ

クラス: 留G②

授業コード: B900100003

担当者: 三井 絢子 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: レポートや論文を書くために、基本的な知識として文章の組み立て方や、知っておかなければならないことばのルールを学び、実際に書く練習をする。

到達目標: ・書くときのことばづかいや、記号の使い分け、書くための基本的なルールを身につける
・日本語の文章の基本的な構成とその作り方がわかるようになる

各回の授業計画:

1. 授業の説明／よく使われる文の形
2. よく使われる語と表現
3. 引用
4. 要約
5. 句読点／まとめの練習
6. 文章の構成と作り方
7. 本論のまとめ方
8. 序論の役割 A.背景説明と問題提起
9. 序論の役割 B.方向づけ
10. 本論の役割 A.論拠提示
11. 本論の役割 B.結論提示
12. 本論の役割 C.行動提示

特記事項: ・以上のように進めるが、クラスの状況によって進度が異なる場合がある。

授業方法: 【対面】【演習】
・項目ごとに資料を配布して進める
・表現やルールなどの知識を学び、実践練習を重ねる

予習・復習・宿題など(内容・時間):

・復習…既習事項の確認と整理、自主的な練習等(30分×14回＝420分)
・課題…調査、資料分析・考察、文章作成(280分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	30	**%**	**確認テスト:**	20	**%**	**レポート:**	30 **%**
その他1: 課題				20	**%**		
その他2:					**%**		

評価基準:
＜60～69点＞
・基礎的な知識を身につけ、テーマに沿った内容の文章が書ける。
＜70～79点＞
・文章の表現やルールを正しく運用し、テーマに沿った内容の文章が書ける。
＜80～100点＞
・文章の表現やルールを正しく運用し、テーマに沿って構成・内容を考えた文章が書ける。

課題へのフィードバック:

課題に対するフィードバックは授業中に行い、提出物は添削して返却する。

教科書: 授業にて資料を配布する。

参考書: 授業の中で紹介する。

授業・準備学習のアドバイス:

・わからないことをそのままにせず、理解を進めて実力をつけてください。
・既習事項の復習などの自習時間、課題に取り組む時間をしっかりと取ってください。
・自習内容の1つとして「日本語の文章を読む」ことをしてください。
・積極的に授業に参加してください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: アカデミック・ジャパニーズⅡ

クラス: 留A

授業コード: B900300001

担当者: 上原　翔子　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 大学での講義を理解し、専門書を読む、レポートを書く、意見を発表するなど、学習を円滑に進めるために求められる中上級～上級レベル（日本語能力試験N1相当）の文法を学ぶ。
また、練習問題や短文作成を通して、文法知識を適切に運用できる力を育てる。

到達目標: 中上級～上級レベル（N1相当）の文法項目について、意味・用法・ニュアンスの違いを理解し、文脈に応じて使い分けられるようになる。
学習した文法を状況（レポート、発表、日常会話など）に応じて、適切に運用できるようになる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション／格助詞
2. 名詞化の方法「こと」と「の」
3. ことがらを説明する①時間関係「～が早いか／～や否や」など
4. ことがらを説明する②範囲・限度「～を皮切りに(して)／～を限りに」など
5. ことがらを説明する③限定・非限定・付加「～をおいて／～にとどまらず」など
6. ことがらを説明する④例示「～なり…なり／～であれ…であれ」など
7. 前半の文法項目等の整理と確認
8. 主観を含めて説明する①逆接「～ところを／～とはいえ」など
9. 主観を含めて説明する②条件「～とあれば／～たら最後」など
10. 主観を含めて説明する③逆接条件「～(よ)うと～まいと／～たところで」など
11. 主観を含めて説明する④目的・手段「～べく／～をもって」など
12. 主観を含めて説明する⑤原因・理由「～ばこそ／～とあって」など
13. 主観を述べる①主張・断定「～までのことだ／～ばそれまでだ」など
14. 主観を述べる②評価・感想「～に足る／～かぎりだ」など
15. まとめと確認テスト

特記事項: ＊ 以上のように進めるが、クラスの状況によって内容が異なる場合がある。

授業方法: 【対面】
《演習》プリントを配布し、文法項目に関する問題に取り組みながら理解を深める。また、学習の定着度を確認するために小テストを行う。

1. 基本問題
2. 文法項目に関する説明
3. 練習（応用）問題
4. 既習文法を使った短文作成《個人・ペアワーク》

＊小テスト（学期中1～2回程度）

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

予習：文法項目の確認や分からない言葉などの下調べ（120分）
復習：授業で学んだ文法の整理など（280分）
課題の取り組み(宿題)：練習問題や短文作成問題など（300分）

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	40 **%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:	小テスト		10 **%**		
その他2:	課題		20 **%**		

評価基準: 1. 授業への取り組み30%
授業態度や積極性を重視し、教師からの指示に対して、十分に正確に応えられる（優）、適切に応えられる（良）、ある程度応えられる（可）

2. 確認テスト40%
3. 小テスト10%
4. 課題20%（既習の文法知識を正確に使い分け解答できるか）
上記の1.2.3.4から総合的に評価する。

課題へのフィードバック:

課題や小テストを採点、返却し、フィードバックを行う。

教科書: 授業中に資料を配布する。

参考書: 授業内で適宜紹介する。

授業・準備学習のアドバイス:

それぞれの項目に関する文法を整理し、どのように使い分けるのかに注目してみましょう。
積極的に発言し、学んだ文法を運用できるようになりましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: アカデミック・ジャパニーズⅡ

クラス: 留G①

授業コード: B900300002

担当者: 上原　翔子　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 大学での講義を理解し、専門書を読む、レポートを書く、意見を発表するなど、学習を円滑に進めるために求められる中級～中上級レベル（日本語能力試験N2相当）の文法を学ぶ。
また、練習問題や短文作成を通して、文法知識を適切に運用できる力を育てる。

到達目標: 中級～中上級レベル（N2相当）の文法項目について、意味・用法・ニュアンスの違いを理解し、文脈に応じて使い分けられるようになる。
学習した文法を状況（レポート、発表、日常会話など）に応じて、適切に運用できるようになる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション／格助詞
2. 名詞化の方法「こと」と「の」
3. ことがらを説明する①「～際(に)／～にあたって」など
4. ことがらを説明する②「～最中だ／～ばかりだ」など
5. ことがらを説明する③「～てはじめて／～次第」など
6. ことがらを説明する④「～をはじめとして／～にわたって」など
7. ことがらを説明する⑤「～に限り／～限りでは」など
8. 主観を含めて説明する①「～を問わず／～はさておき」など
9. 主観を含めて説明する②「～わけがない／～わけではない」など
10. 主観を含めて説明する③「～とは／～といったら」など
11. 主観を含めて説明する④「～にもかかわらず／～からといって」など
12. 主観を含めて説明する⑤「～ものなら／～を抜きにしては」など
13. 主観を述べる①「～かねない／～に違いない」など
14. 主観を述べる②「～というものだ／～べきだ」など
15. まとめと確認テスト

特記事項: ＊ 以上のように進めるが、クラスの状況によって内容が異なる場合がある。

授業方法: 【対面】
《演習》プリントを配布し、文法項目に関する問題に取り組みながら理解を深める。また、学習の定着度を確認するために小テストを行う。

1．基本問題
2．文法項目に関する説明
3．練習（応用）問題
4．既習文法を使った短文作成《個人・ペアワーク》
＊小テスト（学期中1～2回程度）

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

予習：文法項目の確認や分からない言葉などの下調べ（120分）
復習：授業で学んだ文法の整理など（280分）
課題の取り組み(宿題)：練習問題や短文作成問題など（300分）

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	40 **%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:	小テスト		10 **%**		
その他2:	課題		20 **%**		

評価基準: 1. 授業への取り組み30%
授業態度や積極性を重視し、教師からの指示に対して、十分に正確に応えられる（優）、適切に応えられる（良）、ある程度応えられる（可）

2. 確認テスト40%
3. 小テスト10%
4. 課題20%（既習の文法知識を正確に使い分け解答できるか）
上記の1.2.3.4から総合的に評価する。

課題へのフィードバック:

課題や小テストを採点、返却し、フィードバックを行う。

教科書: 授業中に資料を配布する。

参考書: 授業内で適宜紹介する。

授業・準備学習のアドバイス:

それぞれの項目に関する文法を整理し、どのように使い分けるのかに注目してみましょう。
積極的に発言し、学んだ文法を運用できるようになりましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: アカデミック・ジャパニーズⅡ

クラス: 留G②

授業コード: B900300003

担当者: 上原　翔子　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 大学での講義を理解し、専門書を読む、レポートを書く、意見を発表するなど、学習を円滑に進めるために求められる中級～中上級レベル（日本語能力試験N2相当）の文法を学ぶ。
また、練習問題や短文作成を通して、文法知識を適切に運用できる力を育てる。

到達目標: 中級～中上級レベル（N2相当）の文法項目について、意味・用法・ニュアンスの違いを理解し、文脈に応じて使い分けられるようになる。
学習した文法を状況（レポート、発表、日常会話など）に応じて、適切に運用できるようになる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション／格助詞
2. 名詞化の方法「こと」と「の」
3. ことがらを説明する①「～際(に)／～にあたって」など
4. ことがらを説明する②「～最中だ／～ばかりだ」など
5. ことがらを説明する③「～てはじめて／～次第」など
6. ことがらを説明する④「～をはじめとして／～にわたって」など
7. ことがらを説明する⑤「～に限り／～限りでは」など
8. 主観を含めて説明する①「～を問わず／～はさておき」など
9. 主観を含めて説明する②「～わけがない／～わけではない」など
10. 主観を含めて説明する③「～とは／～といったら」など
11. 主観を含めて説明する④「～にもかかわらず／～からといって」など
12. 主観を含めて説明する⑤「～ものなら／～を抜きにしては」など
13. 主観を述べる①「～かねない／～に違いない」など

特記事項: ＊ 以上のように進めるが、クラスの状況によって内容が異なる場合がある。

授業方法: 【対面】
《演習》プリントを配布し、文法項目に関する問題に取り組みながら理解を深める。また、学習の定着度を確認するために小テストを行う。

1．基本問題
2．文法項目に関する説明
3．練習（応用）問題
4．既習文法を使った短文作成《個人・ペアワーク》
＊小テスト（学期中1～2回程度）

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

予習：文法項目の確認や分からない言葉などの下調べ（120分）
復習：授業で学んだ文法の整理など（280分）
課題の取り組み(宿題)：練習問題や短文作成問題など（300分）

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	40 **%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:	小テスト		10 **%**		
その他2:	課題		20 **%**		

評価基準: 1. 授業への取り組み30%
授業態度や積極性を重視し、教師からの指示に対して、十分に正確に応えられる（優）、適切に応えられる（良）、ある程度応えられる（可）

2. 確認テスト40%
3. 小テスト10%
4. 課題20%（既習の文法知識を正確に使い分け解答できるか）
上記の1.2.3.4から総合的に評価する。

課題へのフィードバック:

課題や小テストを採点、返却し、フィードバックを行う。

教科書: 授業中に資料を配布する。

参考書: 授業内で適宜紹介する。

授業・準備学習のアドバイス:

それぞれの項目に関する文法を整理し、どのように使い分けるのかに注目してみましょう。
積極的に発言し、学んだ文法を運用できるようになりましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: アカデミック・ジャパニーズⅢ

クラス: 留A

授業コード: B900400001

担当者: 上原　翔子　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 生の日本語の文章に多くふれることで中上級～上級レベルの表現を学び、長文を読む力を身につけ、問題を解く作業を通して、文章の細かなところまで理解する。
また、「文章を読む」「内容をまとめる」「自分の考えを話す」「他者の考えを聞く」というプロセスのなかで、より広い視野で主体的に考える力を養う。

到達目標: 幅広いテーマの文章を読み、語彙・文法・文章構造への理解を深めながら、中上級～上級レベルの長文を自力で読む力を身につける。
また、読解力だけではなく「知ること」「考えること」を楽しみながら、日本語力を高める。
各テーマについて、自らが持つ知識や経験、自国の文化を他者と比較し、意見を述べられるようになる。

各回の授業計画:

1. 生活・コミュニケーションに関する文章を読み、内容をまとめ、意見を述べる
2. 心理学に関する文章を読み、内容をまとめ、意見を出し合う
3. 環境問題に関する文章を読み、内容をまとめ、自国の情報を述べる
4. 日本語に関する文章を読み、内容をまとめ、意見を出し合う
5. 健康に関する文章を読み、内容をまとめ、自分の意見を述べる
6. 小説を読み、内容をまとめ、感想を話し合う
7. 人間関係に関する文章を読み、内容をまとめ、意見を述べる
8. 高齢化に関する文章を読み、内容をまとめ、自国の情報を述べる
9. 都市と地方に関する文章を読み、内容をまとめ、意見を出し合う
10. 気候変動に関する文章を読み、内容をまとめ、自国の情報を述べる
11. 農業に関する文章を読み、内容をまとめ、自国の情報を述べる
12. 歴史に関する文章を読み、内容をまとめ、意見を述べる
13. 経済に関する文章を読み、内容をまとめ、意見を述べる
14. バリアフリーに関する文章を読み、内容をまとめ、意見を出し合う
15. まとめと確認テスト

特記事項: ＊以上のように進めるが、クラスの状況によって内容が異なる場合がある。

授業方法: 【対面】
《演習》資料を配布し、文章の内容を理解しながら、内容について話し合う。

1. （前回の課題のフィードバック）
2. 各テーマについて全体でディスカッションを行う
3. 辞書を使わず本文を読み、問題を解く
4. 問題を解くために必要な言葉だけ調べながらもう一度読み、問題を解く
5. 本文を音読し、答え合わせと解説を行う
6. 個人・ペア・グループワークで内容について意見を述べたり、発表を行う

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

復習：わからなかった語句・表現を調べて整理する（140分）
　　本文を音読し、内容をもう一度確認する（140分）
　　間違えた問題について、なぜ間違えたかを確認する（140分）
課題：授業で扱ったテーマについて設問ごとに自分の意見を書く（420分）

評価方法: **授業へのとりくみ:** 30 **%**　**確認テスト:** 40 **%**　**レポート:** － **%**
その他1: 課題　20 **%**

その他2：　音読テスト　10 **%**

評価基準：　1.授業への取り組み30%　2.確認テスト40%　3.課題20%　4.音読テスト10%
（80～100点　優）
すでに獲得した日本語力で文章をすばやく正確に理解したうえで、内容に関する意見をわかりやすく述べることができる。
（70～79点　良）
すでに獲得した日本語力で文章を正しく理解し、内容に関する意見を述べることができる。
（60～69点　可）
調べながらも正しく文章を理解し、新しい語句・表現の知識を積み上げ、なんとか意見を述べることができる。

上記の1.2.3.4から総合的に評価する。

課題へのフィードバック：
課題などのフィードバックは授業内に行う。

教科書：　授業中に資料を配布する。

参考書：　授業内で紹介する。

授業・準備学習のアドバイス：
授業中は積極的な発言（質問も含む）を心がけましょう。
課題は、与えられた設問に沿ったものとなっているかを重視します。
受け身ではない積極的な授業態度を期待します。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: アカデミック・ジャパニーズⅢ

クラス: 留G

授業コード: B900400002

担当者: 上原　翔子　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 生の日本語の文章に多くふれることで中級～中上級レベルの表現を学び、長文を読む力を身につけ、問題を解く作業を通して、文章の細かなところまで理解する。
また、「文章を読む」「内容をまとめる」「自分の考えを話す」「他者の考えを聞く」というプロセスのなかで、より広い視野で主体的に考える力を養う。

到達目標: 幅広いテーマの文章を読み、語彙・文法・文章構造への理解を深めながら、中級～中上級レベルの長文を自力で読む力を身につける。
また、読解力だけではなく「知ること」「考えること」を楽しみながら、日本語力を高める。
各テーマについて、自らが持つ知識や経験、自国の文化を他者と比較し、意見を述べられるようになる。

各回の授業計画:

1. 生活・コミュニケーションに関する文章を読み、内容をまとめ、意見を述べる
2. 心理学に関する文章を読み、内容をまとめ、意見を出し合う
3. 環境問題に関する文章を読み、内容をまとめ、自国の情報を述べる
4. 日本語に関する文章を読み、内容をまとめ、意見を出し合う
5. 健康に関する文章を読み、内容をまとめ、自分の意見を述べる
6. 小説を読み、内容をまとめ、感想を話し合う
7. 人間関係に関する文章を読み、内容をまとめ、意見を述べる
8. 高齢化に関する文章を読み、内容をまとめ、自国の情報を述べる
9. 都市と地方に関する文章を読み、内容をまとめ、意見を出し合う
10. 気候変動に関する文章を読み、内容をまとめ、自国の情報を述べる
11. 農業に関する文章を読み、内容をまとめ、自国の情報を述べる
12. 歴史に関する文章を読み、内容をまとめ、意見を述べる
13. 経済に関する文章を読み、内容をまとめ、意見を述べる
14. バリアフリーに関する文章を読み、内容をまとめ、意見を出し合う
15. まとめと確認テスト

特記事項: ＊以上のように進めるが、クラスの状況によって内容が異なる場合がある。

授業方法: 【対面】
《演習》資料を配布し、文章の内容を理解しながら、内容について話し合う。

1. （前回の課題のフィードバック）
2. 各テーマについて全体でディスカッションを行う
3. 辞書を使わず本文を読み、問題を解く
4. 問題を解くために必要な言葉だけ調べながらもう一度読み、問題を解く
5. 本文を音読し、答え合わせと解説を行う
6. 個人・ペア・グループワークで内容について意見を述べたり、発表を行う

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

復習：わからなかった語句・表現を調べて整理する（140分）
　　本文を音読し、内容をもう一度確認する（140分）
　　間違えた問題について、なぜ間違えたかを確認する（140分）
課題：授業で扱ったテーマについて設問ごとに自分の意見を書く（420分）

評価方法: **授業へのとりくみ:** 30 **%**　**確認テスト:** 40 **%**　**レポート:** － **%**
その他1: 課題　20 **%**

その他2：　音読テスト　10 **%**

評価基準：　1.授業への取り組み30%　2.確認テスト40%　3.課題20%　4.音読テスト10%
（80～100点　優）
すでに獲得した日本語力で文章をすばやく正確に理解したうえで、内容に関する意見をわかりやすく述べることができる。
（70～79点　良）
すでに獲得した日本語力で文章を正しく理解し、内容に関する意見を述べることができる。
（60～69点　可）
調べながらも正しく文章を理解し、新しい語句・表現の知識を積み上げ、なんとか意見を述べることができる。

上記の1.2.3.4から総合的に評価する。

課題へのフィードバック：
課題などのフィードバックは授業内に行う。

教科書：　授業中に資料を配布する。

参考書：　授業内で紹介する。

授業・準備学習のアドバイス：
授業中は積極的な発言（質問も含む）を心がけましょう。
課題は、与えられた設問に沿ったものとなっているかを重視します。
受け身ではない積極的な授業態度を期待します。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: アカデミック・ジャパニーズⅢ

クラス: 留　秋入学編入

授業コード: B900400003

担当者: 上原　翔子　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 専門科目の理解やレポート作成、プレゼンテーションなど、大学での学習活動を円滑に進めるために求められる中上級～上級レベルの文法を体系的に学ぶ。
また、「聞く、話す、読む、書く」という4技能を統合的に伸ばし、文法を適切に運用する力を高める。

到達目標: 学習した文法を理解し、レポート作成、発表、日常会話など、状況に応じて適切に使い分けられるようになる。
「読む・聞く・書く・話す」の4技能を高め、自分の意見や考えを明確に表現できるようになる。
日本語能力試験で求められる問題形式に慣れ、実践的に対応できる力を身につける。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション／文法①「～かねない／～上で」など
2. 文法①の発展問題、読解、聴解
3. 文法②「～か～ないかのうちに／～際に」など
4. 文法②の発展問題、読解、聴解
5. 文法③「～ないことには／～上に」など
6. 文法③の発展問題、読解、聴解
7. 文法④「～ばかりか／～だけに」など
8. 文法④の発展問題、読解、聴解
9. 文法⑤「～をぬきにして／～にすぎない」など
10. 文法⑤の発展問題、読解、聴解
11. 文法⑥「～を皮切りに／～てからというもの」など
12. 文法⑥の発展問題、読解、聴解
13. 文法⑦「～であれ…であれ／～始末だ」など
14. 文法⑦の発展問題、読解、聴解
15. まとめと確認テスト

特記事項: ＊以上のように進めるが、クラスの状況によって内容が異なる場合がある。

授業方法: 【対面】《演習》
プリントを配布し、問題を解きながら理解し、使い方を身につけていく。状況に応じてペアワークを行う。また、小テストを行い、理解度を確認する。
1.（前回のフィードバック）文法説明
2. 練習問題
3. 既習文法を使った短文作成《個人・ペアワーク》
4.（前回のフィードバック）応用問題
5. 読解
6. 聴解
＊隔週で小テストの予定

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

予習：文法項目の確認や分からない言葉、漢字の読み方などの下調べ（120分）
復習：授業で学んだ文法の整理など（280分）
課題：練習問題や短文作成問題など（420分）

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 %	**確認テスト:**	40 %	**レポート:**	－ %
その他1:	課題		20 %		
その他2:	小テスト		10 %		

評価基準: 1. 授業への取り組み30%
授業態度や積極性を重視し、授業中の指示や活動内容を正しく理解し積極的に取り組むことができる(優)、授業中の指示や活動内容を概ね理解し適切に取り組むことができる(良)、授業中の指示や活動内容を何とか理解し取り組むことができる(可)
2. 確認テスト40%
3. 課題20%(既習の文法知識を正確に使い分けできているか)
4. 小テスト10%

上記の1.2.3.4から総合的に評価する。

課題へのフィードバック:

課題や小テストを採点、返却し、フィードバックを行う。

教科書: 五十嵐香子・金澤美香子・杉山舞(著)『文法Buddy JLPT日本語能力試験 N2ー文法からひろげる日本語トレーニング』ジャパンタイムズ出版

参考書: 授業内で適宜紹介する。

授業・準備学習のアドバイス:

それぞれの項目に関する文法を整理し、どのように使い分けるのかに注目してみましょう。
授業態度や積極性を重視しますので、授業内では間違いを恐れず積極的に発言してください。

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: アカデミック・ジャパニーズⅣ

クラス: 留A

授業コード: B900500001

担当者: 上原　翔子　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: これまでに学んだ文法を整理し、大学での学習に必要な上級レベル（日本語能力試験N1相当）の文法を体系的に学ぶ。
また、練習問題や短文作成を通して、複雑な文脈でも文法を正確に使い分けられる日本語運用能力を育てる。

到達目標: 上級レベル（N1相当）の文法項目について、意味・用法・ニュアンスの違いを理解し、文脈や状況（レポート、発表、日常会話など）に応じて、適切に使い分けられるようになる。
類似文法の違いを把握し、誤用を避けながら自然な表現ができるようになる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション／「は」と「が」の使い分け
2. 接続表現
3. ことがらを説明する①関連・無関係「～いかんだ／～をよそに」など
4. ことがらを説明する②様子「～んばかり／～ながらに（して）」など
5. ことがらを説明する③不随行動「～がてら／～かたわら」 など
6. 第1回目～第5回目までの文法項目等の整理と確認
7. 主観を含めて説明する①可能・不可能・禁止「～にかたくない／～まじき」 など
8. 主観を含めて説明する②話題・評価の基準「～ときたら／～たるもの」 など
9. 主観を含めて説明する③比較対照「～にひきかえ／～ないまでも」 など
10. 主観を含めて説明する④結末・最終の状態「～に至って／～始末だ」 など
11. 主観を含めて説明する⑤強調「～たりとも…ない／～あっての」 など
12. 第7回目～第11回目までの文法項目等の整理と確認
13. 主観を述べる①心情「～てやまない／～に堪えない」 など
14. 主観を述べる②強制的な思い「～ずにはすまない／～を余儀なくされる」 など
15. 全体のまとめと確認テスト

特記事項: ＊ 以上のように進めるが、クラスの状況によって内容が異なる場合がある。

授業方法: 【対面】
《演習》プリントを配布し、文法項目に関する問題に取り組みながら理解を深める。また、学習の定着度を確認するために小テストを行う。

1. 基本問題
2. 文法項目に関する説明
3. 練習（応用）問題
4. 既習文法を使った短文作成《個人・ペアワーク》

＊小テスト（学期中1～2回程度）

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

予習：文法項目の確認や分からない言葉などの下調べ（120分）
復習：授業で学んだ文法の整理など（280分）
課題の取り組み(宿題)：練習問題や短文作成問題など（300分）

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	40 **%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:	小テスト		10 **%**		
その他2:	課題		20 **%**		

評価基準: 1. 授業への取り組み30%
授業態度や積極性を重視し、授業中の指示や活動内容を正しく理解し積極的に取り組むことができる（優）、授業中の指示や活動内容を概ね

理解し適切に取り組むことができる（良）、授業中の指示や活動内容を何とか理解し取り組むことができる（可）
2. 確認テスト40%
3. 小テスト10%
4. 課題20%（既習の文法知識を正確に使い分け解答できるか）
上記の1.2.3.4から総合的に評価する。

課題へのフィードバック：

課題や小テストを採点、返却し、フィードバックを行う。

教科書： 授業中に資料を配布する。

参考書： 授業内で適宜紹介する。

授業・準備学習のアドバイス：

文法を整理し、使い分けに注目してみましょう。
積極的に発言し、日常会話から大学でのレポートまでの様々な場面で適切に運用できるようになりましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: アカデミック・ジャパニーズⅣ

クラス: 留G

授業コード: B900500002

担当者: 上原　翔子　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: これまでに学んだ文法を整理し、大学での学習に必要な中上級レベル（日本語能力試験N2相当）の文法を体系的に学ぶ。
また、練習問題や短文作成を通して、文脈に応じた文法を選択し、正確に使い分けられる力を育てる。

到達目標: 中上級レベル（N2相当）の文法項目について、意味・用法・ニュアンスの違いを理解し、文脈や状況（レポート、発表、日常会話など）に応じて、適切に使い分けられるようになる。
類似文法の違いを意識しながら、自然な短文を作成できるようになる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション／「は」と「が」の使い分け
2. 接続表現
3. ことがらを説明する①「～に限らず／～はもとより」など
4. ことがらを説明する②「～に関して／～にこたえて」など
5. ことがらを説明する③「～に基づいて／～向けだ」など
6. ことがらを説明する④「～にしたがって／～次第だ」など
7. ことがらを説明する⑤「～やら…やら／～にしても…にしても」など
8. 主観を含めて説明する①「～によって／～おかげだ」など
9. 主観を含めて説明する②「～ばかりに／～からには」など
10. 主観を含めて説明する③「～がたい／～かねる」など
11. 主観を含めて説明する④「～わりに(は)／～にしたら」など
12. 主観を含めて説明する⑤「～きり／～ずじまいだ」など
13. 主観を述べる①「～ものだ／～まい」など
14. 主観を述べる②「～てしかたがない／～ずにはいられない」など
15. まとめと確認テスト

特記事項: ＊ 以上のように進めるが、クラスの状況によって内容が異なる場合がある。

授業方法: 【対面】
《演習》プリントを配布し、文法項目に関する問題に取り組みながら理解を深める。また、学習の定着度を確認するために小テストを行う。

1．基本問題
2．文法項目に関する説明
3．練習（応用）問題
4．既習文法を使った短文作成《個人・ペアワーク》
＊小テスト（学期中1～2回程度）

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

予習：文法項目の確認や分からない言葉などの下調べ（120分）
復習：授業で学んだ文法の整理など（280分）
課題の取り組み(宿題)：練習問題や短文作成問題など（300分）

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	40 **%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:	小テスト		10 **%**		
その他2:	課題		20 **%**		

評価基準: 1. 授業への取り組み30%
授業態度や積極性を重視し、授業中の指示や活動内容を正しく理解し積極的に取り組むことができる（優）、授業中の指示や活動内容を概ね

理解し適切に取り組むことができる（良）、授業中の指示や活動内容を何とか理解し取り組むことができる（可）
2. 確認テスト40%
3. 小テスト10%
4. 課題20%（既習の文法知識を正確に使い分け解答できるか）
上記の1.2.3.4から総合的に評価する。

課題へのフィードバック：

課題や小テストを採点、返却し、フィードバックを行う。

教科書： 授業中に資料を配布する。

参考書： 授業内で適宜紹介する。

授業・準備学習のアドバイス：

文法を整理し、使い分けに注目してみましょう。
積極的に発言し、日常会話から大学でのレポートまでの様々な場面で適切に運用できるようになりましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: アカデミック・ジャパニーズⅣ

クラス: 留　秋入学編入

授業コード: B900500003

担当者: 三井　絢子　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: ・講義や口頭発表を聞くための力をつける
・概要をつかみ、話の構成を考えるための要約する力をつける

到達目標: ・話のテーマ、構成を理解する
・聞いた情報の要点を把握できるようになる
・わからない部分があっても、全体から類推して、情報を補完できるようになる
・定義、対比などの典型的な日本語の使い方を理解する
・メモを取りながら聞き、構成表や要約を書く
・聞きとった内容をもとに自分の意見を話す

各回の授業計画:

1. 授業の説明／話しことば（縮約形）について
2. 「富士山」話の内容の分析
3. 「信号の話」内容把握してまとめる
4. 「隠れキリシタン」わからないことばの対処
5. 「水族館」理由の説明を聴き取る
6. 「ゴリラの食事」話の要点を聴き取る
7. 「東京の温泉」話の構成（はじめに、本題、おわりに）を理解する
8. 「失敗学」全体のまとめを聴き取る
9. 「札幌のお祭り」話の流れを部分ごとにまとめる
10. 「津軽三味線」聞く前に予測する
11. 「メールの書き方」話の構成に注意する
12. 「アクセント」キーワードと具体例
13. 「からくり人形」話の流れを示すことば
14. 「四つ葉のクローバー」“きっかけ”ということば
15. まとめと確認

特記事項: ＊以上のように進めるが、クラスの状況によって内容や進度が異なる場合がある。

授業方法: 【対面】【演習】
・必要な資料を各回に配付する
・テーマについての知識を確認してから聴解練習を行う
・内容把握の練習問題をする
・話の要約をする練習をする

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

・予習：語彙調べ等（420分）
・復習：学習したことを整理し確認する（420分）
・課題：語彙確認、聴き取り調査等（200分）

評価方法:

授業へのとりくみ:	30	**%**	**確認テスト:**	40	**%**	**レポート:**	－ **%**
その他1: 課題				30	**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: ＜60～69点＞
・まとまった長さを話を正しく聴き取ることができる

・定義や対比といった文型を理解して、聴き取れている
・聞きとった話の重要な部分が理解できる
＜70～79点＞
・聞きとった話の要点を把握し、話の構成が理解できる
・わからない部分があっても、話の流れなどから類推できる
＜80～100点＞
・正しく聴き取った話の要点をまとめ、正しく伝えることができる
・自然な速さでさまざまな内容の話を正しく聴き取ることができる

課題へのフィードバック:

・提出物は添削して返却する
・フィードバックは適宜授業中に行う

教科書: 項目ごとに資料を配布する。

参考書: 必要なときに授業内で紹介する。

授業・準備学習のアドバイス:

・積極的な授業参加を期待する
・メモを取りながら聞き、聞いた内容を考え、意見が言えるようにする
・日ごろからあらゆる場面での日本語を聴き取る練習をする
・「聴解」の内容であるが、聞いたことを話したり、まとめたりする練習もする

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: アカデミック・ジャパニーズⅤ

クラス: 留A

授業コード: B900600001

担当者: 上原　翔子　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 日本語での論文作成に必要な基本的知識を身につける。
論理的な思考方法を身につけ、論理的な文章の展開方法を学ぶ。
また、それを意識した文章構成を考え、テーマに沿った文章を作成する。

到達目標: 専門的かつ論理的な文章を書くために必要な日本語力や方法、技術、表現力を身につけ、論文を書く力をつける。

各回の授業計画:

1. 文の基本（文体、話し言葉と書き言葉、和語と漢語、自動詞と他動詞）
2. 文の基本（受身形、助詞、語や文の名詞化）
3. 文の基本（首尾一貫した文、句読点、記号、引用文）
4. 段落（段落ごとの内容、つながり、段落内の構成）
5. 歴史的な経過の説明
6. 分類（複数の事柄をグループ分けして説明する）
7. 定義の方法
8. 要約（論文、新聞記事、ニュースの要約）
9. 比較・対照
10. 因果関係
11. 意見と根拠（論理的・客観的根拠の示し方）
12. 資料の利用（資料の探し方、注意点、表現方法）
13. レポート・論文における引用（出典の示し方）
14. 最終レポートのテーマ決定・情報収集・資料検索
15. まとめと最終レポートの作成

特記事項: ＊以上のように進めるが、クラスの状況によって内容が異なる場合がある。

授業方法: 【対面】
《演習》論理的な文章作成に必要な文体・表現・技術等を学び、与えられたテーマで文章を作成する。
（資料配布、パソコン使用）

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

復習：学んだ知識・技術の整理など（180分）
課題（提出物）：レポート作成など（300分）
最終レポート作成の資料収集など（180分）
最終レポート作成（300分）

評価方法:

授業へのとりくみ:	30	**%**	**確認テスト:**	－	**%**	**レポート:**	50 **%**
その他1:	提出物			20	**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: 1.授業への取り組み30%　2.レポート50%　3.提出物20%
（80～100点　優）
文字、語彙、文法の誤用があまりなく、テーマに沿った文章が書け、構成・内容ともに考えられた文章として完成させられる。
（70～79点　良）
文字、語彙の誤用があまりなく、文法の誤用も少なく、課題のテーマに沿った文章が書ける。
（60～69点　可）

文字、語彙、文法の誤用が多少あっても、課題のテーマに合う文章が書ける。

上記の1.2.3から総合的に評価する。

課題へのフィードバック:

項目によって文章作成の課題を与え、提出物を添削して返却し、授業内でフィードバックを行う。
また、文章作成の注意点等を適宜指導する。

教科書: 授業中に資料を配布する。

参考書: 二通信子・佐藤不二子 著『留学生のための論理的な文章の書き方(新訂版)』スリーエーネットワーク など

授業・準備学習のアドバイス:

留学生にとって日本語でレポート・論文を書くことは簡単ではありません。
そこで、様々な日本語の文章を読んで、内容や表現、構成などに注目してみましょう。
文章校正を重ねながら、最終的には論文作成につながるような、情報収集の方法や文章力を磨きましょう。

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: アカデミック・ジャパニーズⅤ

クラス: 留G

授業コード: B900600002

担当者: 上原　翔子　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 日本語での論文作成に必要な基本的知識を身につける。
論理的な思考方法を身につけ、論理的な文章の展開方法を学ぶ。
また、それを意識した文章構成を考え、テーマに沿った文章を作成する。

到達目標: 論理的な文章を書くために必要な日本語力や方法、技術、表現力を身につけ、わかりやすいレポートや論文を書く力をつける。

各回の授業計画:

1. 文の基本（文体、話し言葉と書き言葉、和語と漢語、自動詞と他動詞）
2. 文の基本（受身形、助詞、語や文の名詞化）
3. 文の基本（首尾一貫した文、句読点、記号、引用文）
4. 段落（段落ごとの内容、つながり、段落内の構成）
5. 歴史的な経過の説明
6. 分類（複数の事柄をグループ分けして説明する）
7. 定義の方法
8. 要約（論文、新聞記事、ニュースの要約）
9. 比較・対照
10. 因果関係
11. 意見と根拠（論理的・客観的根拠の示し方）
12. 資料の利用（資料の探し方、注意点、表現方法）
13. レポート・論文における引用（出典の示し方）
14. 最終レポートのテーマ決定・情報収集・資料検索
15. まとめと最終レポートの作成

特記事項: ＊以上のように進めるが、クラスの状況によって内容が異なる場合がある。

授業方法: 【対面】
《演習》論理的な文章作成に必要な文体・表現・技術等を学び、与えられたテーマで文章を作成する。
（資料配布、パソコン使用）

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

復習：学んだ知識・技術の整理など（180分）
課題（提出物）：レポート作成など（300分）
最終レポート作成の資料収集など（180分）
最終レポート作成（300分）

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	－ **%**	**レポート:**	50 **%**
その他1: 提出物			20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 1.授業への取り組み30%　2.レポート50%　3.提出物20%
（80～100点　優）
文字、語彙、文法の誤用があまりなく、テーマに沿った文章が書け、構成・内容ともに考えられた文章として完成させられる。
（70～79点　良）
文字、語彙の誤用があまりなく、文法の誤用も少なく、課題のテーマに沿った文章が書ける。
（60～69点　可）

文字、語彙、文法の誤用が多少あっても、課題のテーマに合う文章が書ける。

上記の1.2.3から総合的に評価する。

課題へのフィードバック:

項目によって文章作成の課題を与え、提出物を添削して返却し、授業内でフィードバックを行う。
また、文章作成の注意点等を適宜指導する。

教科書: 授業中に資料を配布する。

参考書: 二通信子・佐藤不二子 著『留学生のための論理的な文章の書き方(新訂版)』スリーエーネットワーク など

授業・準備学習のアドバイス:

留学生にとって日本語でレポート・論文を書くことは簡単ではありません。
そこで、様々な日本語の文章を読んで、内容や表現、構成などに注目してみましょう。
文章校正を重ねながら、最終的には論文作成につながるような、情報収集の方法や文章力を磨きましょう。

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: アカデミック・ジャパニーズⅤ

クラス: 留　秋入学編入

授業コード: B900600003

担当者: 上原　翔子　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 日本語での論文作成に必要な基本的知識と論理的思考力を養い、論文の構成および展開方法を理解することを目的とする。

到達目標: 論理的かつ専門的な文章を書くために必要な日本語運用能力および文章構成力を身につけ、テーマに沿ったアカデミックな文章を作成できる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション／文の基本①（文体、話し言葉と書き言葉、和語と漢語、自動詞と他動詞）
2. 文の基本②（受身形、助詞、語や文の名詞化）
3. 文の基本③（首尾一貫した文、句読点、記号、引用文）
4. 段落（段落ごとの内容、つながり、段落内の構成）
5. 小レポート作成（自分の体験に基づいて意見を述べる）
6. 要約（論文、新聞記事、ニュースの要約）
7. 小レポート作成（関心のあるニュースを紹介する）
8. 比較・対照
9. 小レポート作成（立場を決めて意見を述べる）
10. 意見と根拠（論理的・客観的根拠の示し方）
11. 小レポート作成（課題を見つけて意見を述べる）
12. 資料の利用（資料の探し方、注意点、表現方法）
13. 小レポート作成（データに基づいて報告する）
14. レポート・論文における引用（出典の示し方）／最終レポートのテーマ決定
15. 最終レポート作成（情報収集・資料検索）

特記事項: ＊以上のように進めるが、クラスの状況によって内容が異なる場合がある。

授業方法: 【対面】
《演習》論理的な文章作成に必要な文体・表現・技術等を学び、与えられたテーマで文章を作成する。
（資料配布、パソコン使用）

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

復習：学んだ知識・技術の整理など（180分）
課題（提出物）：レポート作成など（300分）
最終レポート作成の資料収集など（180分）
最終レポート作成（300分）

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	**%**	**レポート:**	50 **%**
その他1: 提出物			20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 1.授業への取り組み30%　2.レポート50%　3.提出物20%
（80～100点　優）
文字、語彙、文法の誤用があまりなく、テーマに沿った文章が書け、構成・内容ともに考えられた文章として完成させられる。
（70～79点　良）
文字、語彙の誤用があまりなく、文法の誤用も少なく、課題のテーマに沿った文章が書ける。
（60～69点　可）
文字、語彙、文法の誤用が多少あっても、課題のテーマに合う文章が書ける。

上記の1.2.3から総合的に評価する。

課題へのフィードバック:

項目によって文章作成の課題を与え、提出物を添削して返却し、授業内でフィードバックを行う。
また、文章作成の注意点等を適宜指導する。

教科書: 授業中に資料を配布する。

参考書: 授業内で適宜紹介する。

授業・準備学習のアドバイス:

留学生にとって日本語でレポート・論文を書くことは簡単ではありません。
そこで、様々な日本語の文章を読んで、内容や表現、構成などに注目してみましょう。
文章校正を重ねながら、最終的には論文作成につながるような、情報収集の方法や文章力を磨きましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: アカデミック・ジャパニーズⅥ

クラス: 留A

授業コード: B900700001

担当者: 三井 絢子　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的:
・テーマに沿った情報を収集して分析し、資料を作成して発表するスキルを身につける
・資料を見せながら、聞き手を意識した話し方を練習し、主張が伝わる発表の技術を身につける
・社会問題を調査し、自分の意見とともに発表する

到達目標:
・テーマに沿った情報収集ができるようになる
・情報を分析・考察してまとめることができる
・情報をまとめてわかりやすい資料を作成することができる
・聞き手を意識した話し方で発表することができる

各回の授業計画:

1. 授業の説明、発表の方法と聞き方
2. 発表①−1)ことばと資料の確認
3. 発表①−2)情報の分析・考察
4. 発表①−3)テーマ決定・資料作成・発表原稿作成
5. 発表①−4)実践
6. 発表②−1)ことばと資料の確認
7. 発表②−2)情報の分析・考察
8. 発表②−3)テーマ決定・資料作成・発表原稿作成
9. 発表②−4)実践
10. 発表③−1)ことばと資料の確認
11. 発表③−2)情報の分析・考察
12. 発表③−3)テーマ決定・資料作成・発表原稿作成
13. 発表③−4)実践(前半)
14. 発表③−4)実践(後半)
15. まとめと確認

特記事項: ＊以上のように進めるが、クラスの状況によって内容や進度が異なる場合がある。

授業方法: 【対面】【演習】
・授業ごとに資料を配布する
・語彙の確認、資料の内容把握・理解、問題点の評価・考察という手順で進める
・3つの分野のテーマを扱うが、詳細の内容は自分で決定して発表につなげる

予習・復習・宿題など(内容・時間):
・予習:語彙確認、テーマの理解(270分)
・課題:発表準備等(360分)
・復習:試験の準備等(120分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 %	確認テスト:	50 %	レポート:	－ %
その他1: 課題			20 %		
その他2:			%		

評価基準:
＜60～69点＞
・テーマに沿った資料を収集し、必要事項を取り出して発表することができる
・日本語の語彙や文法に誤りはあるが、テーマと情報を伝えることができる
＜70～79点＞

・テーマに沿った資料から必要事項を分析してまとめ、聞き手を意識した発表ができる
・日本語の文法の誤りはあるが、適切な語彙を使い、主張を伝えることができる
＜80～100点＞
・必要な情報の収集と分析を行い、流れを考えた構成で、資料を提示して発表ができる
・日本語の語彙や文法を正しく使い、情報と主張をわかりやすく聞き手に伝えることができる

課題へのフィードバック:

・提出物は添削して返却する
・フィードバックは適宜授業中に行う

教科書: 項目ごとに資料を配布する。

参考書: 必要なときに授業内で紹介する。

授業・準備学習のアドバイス:

・各自の積極的な取り組みを期待する
・日ごろから時事問題をはじめとした情報にふれることを習慣にしてほしい
・発表を通して、日本語で自分の主張を正しく伝える練習をする
・話し方を学ぶと同時に、良い聞き手となるよう意識する

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: アカデミック・ジャパニーズⅥ

クラス: 留G

授業コード: B900700002

担当者: 三井 絢子 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: ・テーマに沿った情報を収集して分析し、資料を作成して発表するスキルを身につける
・資料を見せながら、聞き手を意識した話し方を練習し、主張が伝わる発表の技術を身につける
・社会問題を調査し、自分の意見とともに発表する

到達目標: ・テーマに沿った情報収集ができるようになる
・情報を分析・考察してまとめることができる
・情報をまとめてわかりやすい資料を作成することができる
・聞き手を意識した話し方で発表することができる

各回の授業計画:

1. 授業の説明、発表の方法と聞き方
2. 発表①−1)ことばと資料の確認
3. 発表①−2)情報の分析・考察
4. 発表①−3)テーマ決定・資料作成・発表原稿作成
5. 発表①−4)実践
6. 発表②−1)ことばと資料の確認
7. 発表②−2)情報の分析・考察
8. 発表②−3)テーマ決定・資料作成・発表原稿作成
9. 発表②−4)実践
10. 発表③−1)ことばと資料の確認
11. 発表③−2)情報の分析・考察
12. 発表③−3)テーマ決定・資料作成・発表原稿作成
13. 発表③−4)実践(前半)
14. 発表③−4)実践(後半)
15. まとめと確認

特記事項: ＊以上のように進めるが、クラスの状況によって内容や進度が異なる場合がある。

授業方法: 【対面】【演習】
・授業ごとに資料を配布する
・語彙の確認、資料の内容把握・理解、問題点の評価・考察という手順で進める
・3つの分野のテーマを扱うが、詳細の内容は自分で決定して発表につなげる

予習・復習・宿題など(内容・時間):

・予習:語彙確認、テーマの理解(270分)
・課題:発表準備等(360分)
・復習:試験の準備等(120分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	30	**%**	**確認テスト:**	50	**%**	**レポート:**	－ **%**
その他1: 課題				20	**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: ＜60～69点＞
・テーマに沿った資料を収集し、必要事項を取り出して発表することができる
・日本語の語彙や文法に誤りはあるが、テーマと情報を伝えることができる
＜70～79点＞

・テーマに沿った資料から必要事項を分析してまとめ、聞き手を意識した発表ができる
・日本語の文法の誤りはあるが、適切な語彙を使い、主張を伝えることができる
＜80～100点＞
・必要な情報の収集と分析を行い、流れを考えた構成で、資料を提示して発表ができる
・日本語の語彙や文法を正しく使い、情報と主張をわかりやすく聞き手に伝えることができる

課題へのフィードバック:

・提出物は添削して返却する
・フィードバックは適宜授業中に行う

教科書: 項目ごとに資料を配布する。

参考書: 必要なときに授業内で紹介する。

授業・準備学習のアドバイス:

・各自の積極的な取り組みを期待する
・日ごろから時事問題をはじめとした情報にふれることを習慣にしてほしい
・発表を通して、日本語で自分の主張を正しく伝える練習をする
・話し方を学ぶと同時に、良い聞き手となるよう意識する

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: アカデミック・ジャパニーズⅥ

クラス: 留　秋入学編入

授業コード: B900700003

担当者: 三井　絢子　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: ・テーマに沿った情報を収集して分析し、資料を作成して発表するスキルを身につける
・資料を見せながら、聞き手を意識した話し方を練習し、主張が伝わる発表の技術を身につける
・社会問題を調査し、自分の意見とともに発表する

到達目標: ・テーマに沿った情報収集ができるようになる
・情報を分析・考察してまとめることができる
・情報をまとめてわかりやすい資料を作成することができる
・聞き手を意識した話し方で発表することができる

各回の授業計画:

1. 授業の説明、発表の方法と聞き方
2. 発表①-1)ことばと資料の確認
3. 発表①-2)情報の分析・考察
4. 発表①-3)テーマ決定・資料作成・発表原稿作成
5. 発表①-4)実践
6. 発表②-1)ことばと資料の確認
7. 発表②-2)情報の分析・考察
8. 発表②-3)テーマ決定・資料作成・発表原稿作成
9. 発表②-4)実践
10. 発表③-1)ことばと資料の確認
11. 発表③-2)情報の分析・考察
12. 発表③-3)テーマ決定・資料作成・発表原稿作成
13. 発表③-4)実践(前半)
14. 発表③-4)実践(後半)
15. まとめと確認

特記事項: ＊以上のように進めるが、クラスの状況によって内容や進度が異なる場合がある。

授業方法: 【対面】【演習】
・授業ごとに資料を配布する
・語彙の確認、資料の内容把握・理解、問題点の評価・考察という手順で進める
・3つの分野のテーマを扱うが、詳細の内容は自分で決定して発表につなげる

予習・復習・宿題など(内容・時間):

・予習:語彙確認、テーマの理解(270分)
・課題:発表準備等(360分)
・復習:試験の準備等(120分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	30	**%**	**確認テスト:**	50	**%**	**レポート:**	－ **%**
その他1: 課題				20	**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: ＜60～69点＞
・テーマに沿った資料を収集し、必要事項を取り出して発表することができる
・日本語の語彙や文法に誤りはあるが、テーマと情報を伝えることができる
＜70～79点＞

・テーマに沿った資料から必要事項を分析してまとめ、聞き手を意識した発表ができる
・日本語の文法の誤りはあるが、適切な語彙を使い、主張を伝えることができる
＜80～100点＞
・必要な情報の収集と分析を行い、流れを考えた構成で、資料を提示して発表ができる
・日本語の語彙や文法を正しく使い、情報と主張をわかりやすく聞き手に伝えることができる

課題へのフィードバック:

・提出物は添削して返却する
・フィードバックは適宜授業中に行う

教科書: 項目ごとに資料を配布する。

参考書: 必要なときに授業内で紹介する。

授業・準備学習のアドバイス:

・各自の積極的な取り組みを期待する
・日ごろから時事問題をはじめとした情報にふれることを習慣にしてほしい
・発表を通して、日本語で自分の主張を正しく伝える練習をする
・話し方を学ぶと同時に、良い聞き手となるよう意識する

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 総合日本語Ⅰ

クラス: 留A

授業コード: B910100001

担当者: 小野 勝　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本授業は、日本語能力試験N1レベルの「文字・語彙」「文法」問題に対応できる日本語力を身につけることを目標とする。

到達目標: 日本語能力試験N1に合格できる漢字力、語彙力及び文法力を身につける。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション/授業の進め方及び注意事項、スケジュール、評価方法などを説明する。また、日本語能力試験の出題パターンを知り、必要な学習を理解する。
2. 漢字読み:漢字で書かれた語の正確な読み方を理解する。
3. 文脈規定①:ある文の一部を構成する、文脈から見て適切な慣用表現を考える。
4. 文脈規定②:ある文の一部を構成する、文脈から見て適切な副詞や外来語を考える。
5. 文脈規定③:音の似た言葉を使い分け、ある文の一部を構成する、文脈から見て適切な語を考える。
6. 言い換え類義:ある語や表現と同じまたは似た意味を持つ語や表現を考える。
7. 用法:ある語や表現の適切な使い方をしている文を考える。
8. 模擬試験・今までの授業のふりかえり・試験の注意事項確認
9. 文法形式の判断①:文の内容に合った適切な機能語を考える。
10. 文法形式の判断②:機能語が文中で使われる際の適切な接続形式を考える。
11. 文の組み立て①:指示語に焦点を置き、与えられた語や表現を意味が通じるように並べ替えて適切な文にする。
12. 文の組み立て②:格助詞に焦点を置き、与えられた語や表現を意味が通じるように並べ替えて適切な文にする。
13. 文章の文法①:文中で使用される適切な格助詞や接続詞を考えながら、600字程度の文章を読む。
14. 文章の文法②:文中で使用される適切な語や表現を考えながら、600字程度の文章を読む。
15. 学習内容のまとめと理解度確認

特記事項: 当週の学習項目に関連した課題を出すので、翌週の授業時に提出すること。

授業方法: 毎回、授業のテーマに即した資料とワークシートを配布するので、指示に従ってそれを完成させる。
すべての授業を対面で行う。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

計2700分の復習が必要である。
1. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
2. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
3. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
4. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
5. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
6. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
7. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
8. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
9. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
10. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
11. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
12. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
13. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
14. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
15. 期末テストの問題を復習(180分)

評価方法：	授業へのとりくみ：	30 %	確認テスト：	40 %	レポート：	－ %
	その他1：	課題提出		20 %		
	その他2：	模擬試験		10 %		

評価基準：
優（80-100）：
学習項目を十分に理解し、N1レベルの問題に正確に解答することができる。
良（70-79）：
学種項目を概ね理解し、N1レベルの問題を理解することができる。
可（60-69）：
学習項目をある程度理解し、N1レベルの問題に対応することができる。

課題へのフィードバック：
ワークシート、課題等は添削して返却する。受講生の多くに間違いが見られた問題に関しては、当該部分を取り上げ再度解説を行う。

教科書： 初回授業時に指示する。

参考書： 授業時に適宜指示する。

授業・準備学習のアドバイス：
毎回の授業で出席をとる。
授業中の私語及びスマホ等の不必要な使用は慎むこと。
日常的に予習、復習を心がけ、日本語に触れる環境を意識して作ること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 総合日本語Ⅰ

クラス: 留G

授業コード: B910100002

担当者: 小野 勝　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本授業は、日本語能力試験N2レベルの「文字・語彙」「文法」問題に対応できる日本語力を身につけることを目標とする。

到達目標: 日本語能力試験N2に合格できる漢字力、語彙力及び聴解力を身につける。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション/授業の進め方及び注意事項、スケジュール、評価方法などを説明する。また、日本語能力試験の出題パターンを知り、必要な学習を理解する。
2. 漢字読み:漢字で書かれた語の正確な読み方を理解する。
3. 表記:ひらがなで書かれた漢字の正確な書き方を理解する。
4. 語形成:一つの言葉の前後に他の文字や言葉を付けて作られた、新しい別の意味を持つ言葉を理解する。
5. 文脈規定:ある文の一部を構成する、文脈から見て適切な語を考える。
6. 言い換え類義:ある語や表現と同じまたは似た意味を持つ語や表現を考える。
7. 用法:ある語や表現の適切な使い方をしている文を考える。
8. 模擬試験・今までの授業のふりかえり・試験の注意事項確認
9. 文法形式の判断①:文の内容に合った適切な機能語を考える。
10. 文法形式の判断②:機能語が文中で使われる際の適切な接続形式を考える。
11. 文の組み立て①:指示語に焦点を置き、与えられた語や表現を意味が通じるように並べ替えて適切な文にする。
12. 文の組み立て②:格助詞に焦点を置き、与えられた語や表現を意味が通じるように並べ替えて適切な文にする。
13. 文章の文法①:文中で使用される適切な格助詞や接続詞を考えながら、600字程度の文章を読む。
14. 文章の文法②:文中で使用される適切な語や表現を考えながら、600字程度の文章を読む。
15. 学習内容のまとめと理解度確認

特記事項: 当週の学習項目に関連した課題を出すので、翌週の授業時に提出すること。

授業方法: 毎回、授業のテーマに即した資料とワークシートを配布するので、指示に従ってそれを完成させる。
すべての授業を対面で行う。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

計2700分の復習が必要である。
1. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
2. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
3. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
4. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
5. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
6. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
7. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
8. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
9. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
10. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
11. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
12. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
13. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
14. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
15. 期末テストの問題を復習(180分)

評価方法：	授業へのとりくみ：	30 %	確認テスト：	40 %	レポート：	－ %
	その他1：	課題提出		20 %		
	その他2：	模擬試験		10 %		

評価基準：
優（80-100）：
学習項目を十分に理解し、N2レベルの問題に正確に解答することができる。
良（70-79）：
学種項目を概ね理解し、N2レベルの問題を理解することができる。
可（60-69）：
学習項目をある程度理解し、N2レベルの問題に対応することができる。

課題へのフィードバック：
ワークシート、課題等は添削して返却する。受講生の多くに間違いが見られた問題に関しては、当該部分を取り上げ再度解説を行う。

教科書： 初回授業時に指示する。

参考書： 授業時に適宜指示する。

授業・準備学習のアドバイス：
毎回の授業で出席をとる。
授業中の私語及びスマホ等の不必要な使用は慎むこと。
日常的に予習、復習を心がけ、日本語に触れる環境を意識して作ること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 総合日本語Ⅱ

クラス: 留A

授業コード: B910300001

担当者: 小野 勝　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本授業は、前期に引き続き日本語能力試験N1レベルの「文字・語彙」「文法」問題に対応できる日本語力を身につけることを目標とする。

到達目標: 日本語能力試験N1に合格できる漢字力、語彙力及び文法力を身につける。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション/授業の進め方及び注意事項、スケジュール、評価方法などを説明する。また、日本語能力試験の出題パターンを知り、必要な学習を理解する。
2. 漢字読み:漢字で書かれた語の正確な読み方を理解する。
3. 文脈規定①:ある文の一部を構成する、文脈から見て適切な慣用表現を考える。
4. 文脈規定②:ある文の一部を構成する、文脈から見て適切な副詞や外来語を考える。
5. 文脈規定③:音の似た言葉を使い分け、ある文の一部を構成する、文脈から見て適切な語を考える。
6. 言い換え類義:ある語や表現と同じまたは似た意味を持つ語や表現を考える。
7. 用法:ある語や表現の適切な使い方をしている文を考える。
8. 模擬試験・今までの授業のふりかえり・試験の注意事項確認
9. 文法形式の判断①:文の内容に合った適切な機能語を考える。
10. 文法形式の判断②:機能語が文中で使われる際の適切な接続形式を考える。
11. 文の組み立て①:指示語に焦点を置き、与えられた語や表現を意味が通じるように並べ替えて適切な文にする。
12. 文の組み立て②:格助詞に焦点を置き、与えられた語や表現を意味が通じるように並べ替えて適切な文にする。
13. 文章の文法①:文中で使用される適切な格助詞や接続詞を考えながら、600字程度の文章を読む。
14. 文章の文法②:文中で使用される適切な語や表現を考えながら、600字程度の文章を読む。
15. 学習内容のまとめと理解度確認

特記事項: 当週の学習項目に関連した課題を出すので、翌週の授業時に提出すること。

授業方法: 毎回、授業のテーマに即した資料とワークシートを配布するので、指示に従ってそれを完成させる。
すべての授業を対面で行う。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

計2700分の復習が必要である。
1. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
2. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
3. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
4. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
5. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
6. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
7. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
8. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
9. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
10. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
11. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
12. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
13. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
14. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
15. 期末テストの問題を復習(180分)

評価方法：	授業へのとりくみ：	30 %	確認テスト：	40 %	レポート：	－ %
	その他1：	課題提出		20 %		
	その他2：	模擬試験		10 %		

評価基準：
優（80-100）：
学習項目を十分に理解し、N1レベルの問題に正確に解答することができる。
良（70-79）：
学種項目を概ね理解し、N1レベルの問題を理解することができる。
可（60-69）：
学習項目をある程度理解し、N1レベルの問題に対応することができる。

課題へのフィードバック：
ワークシート、課題等は添削して返却する。受講生の多くに間違いが見られた問題に関しては、当該部分を取り上げ再度解説を行う。

教科書： 初回授業時に指示する。

参考書： 授業時に適宜指示する。

授業・準備学習のアドバイス：
毎回の授業で出席をとる。
授業中の私語及びスマホ等の不必要な使用は慎むこと。
日常的に予習、復習を心がけ、日本語に触れる環境を意識して作ること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 総合日本語Ⅱ

クラス: 留G

授業コード: B910300002

担当者: 小野 勝　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本授業は、前期に引き続き日本語能力試験N2レベルの「文字・語彙」「文法」問題に対応できる日本語力を身につけることを目標とする。

到達目標: 日本語能力試験N2に合格できる漢字力、語彙力及び文法力を身につける。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション/授業の進め方及び注意事項、スケジュール、評価方法などを説明する。また、日本語能力試験の出題パターンを知り、必要な学習を理解する。
2. 漢字読み:漢字で書かれた語の正確な読み方を理解する。
3. 表記:ひらがなで書かれた漢字の正確な書き方を理解する。
4. 語形成:一つの言葉の前後に他の文字や言葉を付けて作られた、新しい別の意味を持つ言葉を理解する。
5. 文脈規定:ある文の一部を構成する、文脈から見て適切な語を考える。
6. 言い換え類義:ある語や表現と同じまたは似た意味を持つ語や表現を考える。
7. 用法:ある語や表現の適切な使い方をしている文を考える。
8. 模擬試験・今までの授業のふりかえり・試験の注意事項確認
9. 文法形式の判断①:文の内容に合った適切な機能語を考える。
10. 文法形式の判断②:機能語が文中で使われる際の適切な接続形式を考える。
11. 文の組み立て①:指示語に焦点を置き、与えられた語や表現を意味が通じるように並べ替えて適切な文にする。
12. 文の組み立て②:格助詞に焦点を置き、与えられた語や表現を意味が通じるように並べ替えて適切な文にする。
13. 文章の文法①:文中で使用される適切な格助詞や接続詞を考えながら、600字程度の文章を読む。
14. 文章の文法②:文中で使用される適切な語や表現を考えながら、600字程度の文章を読む。
15. 学習内容のまとめと理解度確認

特記事項: 当週の学習項目に関連した課題を出すので、翌週の授業時に提出すること。

授業方法: 毎回、授業のテーマに即した資料とワークシートを配布するので、指示に従ってそれを完成させる。
すべての授業を対面で行う。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

計2700分の復習が必要である。
1. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
2. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
3. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
4. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
5. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
6. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
7. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
8. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
9. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
10. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
11. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
12. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
13. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
14. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
15. 期末テストの問題を復習(180分)

評価方法：	授業へのとりくみ：	30 %	確認テスト：	40 %	レポート：	－ %
	その他1：	課題提出		20 %		
	その他2：	模擬試験		10 %		

評価基準：
優（80-100）：
学習項目を十分に理解し、N2レベルの問題に正確に解答することができる。
良（70-79）：
学種項目を概ね理解し、N2レベルの問題を理解することができる。
可（60-69）：
学習項目をある程度理解し、N2レベルの問題に対応することができる。

課題へのフィードバック：
ワークシート、課題等は添削して返却する。受講生の多くに間違いが見られた問題に関しては、当該部分を取り上げ再度解説を行う。

教科書： 初回授業時に指示する。

参考書： 授業時に適宜指示する。

授業・準備学習のアドバイス：
毎回の授業で出席をとる。
授業中の私語及びスマホ等の不必要な使用は慎むこと。
日常的に予習、復習を心がけ、日本語に触れる環境を意識して作ること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 総合日本語Ⅲ

クラス: 留A

授業コード: B910500001

担当者: 小野 勝　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本授業は、日本語能力試験N1レベルの「読解」「聴解」問題に対応できる日本語力を身につけることを目標とする。

到達目標: 日本語能力試験N1に合格できる読解力及び聴解力を身につける。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション/授業の進め方及び注意事項、スケジュール、評価方法などを説明する。また、日本語能力試験の出題パターンを知り、必要な学習を理解する。
2. 内容理解①:200字程度の短文を読み、筆者の考え、理由、指示内容を推測する。
3. 内容理解②:500字程度の中文を読み、内容の因果関係や理由、文脈の中の意味、筆者の考えを推測する。
4. 内容理解③:1,000字程度の長文を読み、筆者の主張、文全体が伝える内容を推測する。
5. 統合理解:600字程度の複数の文章を読み比べて、共通する点や異なる点を的確に判断する。
6. 主張理解:社説や評論など、1000字程度の抽象性・論理性のある文章を読み、筆者の主張や意見、伝えようとしている内容を推測する。
7. 情報検索:700字程度の広告やパンフレットを読み、目的に応じた必要情報を素早く読み取る。
8. 模擬試験・今までの授業のふりかえり・試験の注意事項確認
9. 課題理解:問題用紙に表示されたイラストや文字を見ながら会話を聞き、その会話の後の適切な行動を推測する。
10. ポイント理解:問題文に表示されたポイントを意識しながら会話や独話を聞き、出来事の理由や目的、話者の考えなどを掴む。
11. 概要理解:講義や演説、ニュース解説などのやや長めの話を聞き、話の主題や話者の意図・主張などを理解する。
12. 即時応答:質問、報告、依頼などの短い発話を聞き、それに対する適切な返答を判断する。
13. 統合理解①:２人または3人の長めの会話に含まれる複数の情報を整理し、適切な結論を導き出す。
14. 統合理解②:ニュースや講演などの長めの話に対する2人の会話を聞き、それぞれの意見や評価などを掴む。
15. 学習内容のまとめと理解度確認

特記事項: 当週の学習項目に関連した課題を出すので、翌週の授業時に提出すること。

授業方法: 毎回、授業のテーマに即した資料とワークシートを配布するので、指示に従ってそれを完成させる。
すべての授業を対面で行う。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

計2700分の復習が必要である。
1. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
2. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
3. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
4. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
5. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
6. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
7. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
8. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
9. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
10. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
11. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
12. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
13. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
14. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
15. 期末テストの問題を復習(180分)

評価方法：	授業へのとりくみ：	30 %	確認テスト：	40 %	レポート：	－ %
	その他1：	課題提出		20 %		
	その他2：	模擬試験		10 %		

評価基準：
優（80-100）：
学習項目を十分に理解し、N1レベルの問題に正確に解答することができる。
良（70-79）：
学種項目を概ね理解し、N1レベルの問題を理解することができる。
可（60-69）：
学習項目をある程度理解し、N1レベルの問題に対応することができる。

課題へのフィードバック：
ワークシート、課題等は添削して返却する。受講生の多くに間違いが見られた問題に関しては、当該部分を取り上げ再度解説を行う。

教科書： 初回授業時に指示する。

参考書： 授業時に適宜指示する。

授業・準備学習のアドバイス：
毎回の授業で出席をとる。
授業中の私語及びスマホ等の不必要な使用は慎むこと。
日常的に予習、復習を心がけ、日本語に触れる環境を意識して作ること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 総合日本語Ⅲ

クラス: 留G

授業コード: B910500002

担当者: 小野 勝 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 本授業は、日本語能力試験N2レベルの「読解」「聴解」問題に対応できる日本語力を身につけることを目標とする。

到達目標: 日本語能力試験N2に合格できる読解力及び聴解力を身につける。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション/授業の進め方及び注意事項、スケジュール、評価方法などを説明する。また、日本語能力試験の出題パターンを知り、必要な学習を理解する。
2. 内容理解①:200字程度の短文を読み、筆者の考え、理由、指示内容を推測する。
3. 内容理解②:500字程度の中文を読み、内容の因果関係や理由、文脈の中の意味、文章の要点を推測する。
4. 統合理解:合計600字程度の、異なった立場から書かれた2つまたは3つの文章を読み比べて、それらが伝えようとする意見や主張を的確に判断する。
5. 主張理解①:評論など、900字程度の抽象性・論理性のある文章を読み、筆者の主張や意見、伝えようとしている内容を推測する。
6. 主張理解②:評論など、900字程度の抽象性・論理性のある文章を読み、筆者の主張や意見、伝えようとしている内容を推測する。
7. 情報検索:700字程度の広告やパンフレットを読み、目的に応じた必要情報を素早く読み取る。
8. 模擬試験・今までの授業のふりかえり・試験の注意事項確認
9. 課題理解:問題用紙に表示されたイラストや文字を見ながら会話を聞き、その会話の後の適切な行動を推測する。
10. ポイント理解:問題文に表示されたポイントを意識しながら会話や独話を聞き、出来事の理由や目的、話者の考えなどを掴む。
11. 概要理解:講義や演説、ニュース解説などのやや長めの話を聞き、話の主題や話者の意図・主張などを理解する。
12. 即時応答:質問、報告、依頼などの短い発話を聞き、それに対する適切な返答を判断する。
13. 統合理解①:3人の長めの会話に含まれる複数の情報を整理し、適切な結論を導き出す。
14. 統合理解②:ニュースや講演などの長めの話に対する2人の会話を聞き、それぞれの意見や評価などを掴む。
15. 学習内容のまとめと理解度確認

特記事項: 当週の学習項目に関連した課題を出すので、翌週の授業時に提出すること。

授業方法: 毎回、授業のテーマに即した資料とワークシートを配布するので、指示に従ってそれを完成させる。
すべての授業を対面で行う。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

計2700分の復習が必要である。
1. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
2. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
3. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
4. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
5. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
6. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
7. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
8. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
9. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
10. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
11. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
12. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
13. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
14. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
15. 期末テストの問題を復習(180分)

評価方法：	授業へのとりくみ：	30 %	確認テスト：	40 %	レポート：	－ %
	その他1：	課題提出		20 %		
	その他2：	模擬試験		10 %		

評価基準： 優（80-100）：
学習項目を十分に理解し、N2レベルの問題に正確に解答することができる。
良（70-79）：
学種項目を概ね理解し、N2レベルの問題を理解することができる。
可（60-69）：
学習項目をある程度理解し、N2レベルの問題に対応することができる。

課題へのフィードバック：
ワークシート、課題等は添削して返却する。受講生の多くに間違いが見られた問題に関しては、当該部分を取り上げ再度解説を行う。

教科書： 初回授業時に指示する。

参考書： 授業時に適宜指示する。

授業・準備学習のアドバイス：
毎回の授業で出席をとる。
授業中の私語及びスマホ等の不必要な使用は慎むこと。
日常的に予習、復習を心がけ、日本語に触れる環境を意識して作ること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 総合日本語Ⅳ

クラス: 留A

授業コード: B910600001

担当者: 小野 勝　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本授業は、前期に引き続き日本語能力試験N1レベルの「読解」「聴解」問題に対応できる日本語力を身につけることを目標とする。

到達目標: 日本語能力試験N1に合格できる読解力及び聴解力を身につける。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション/授業の進め方及び注意事項、スケジュール、評価方法などを説明する。また、日本語能力試験の出題パターンを知り、必要な学習を理解する。
2. 内容理解①:200字程度の短文を読み、筆者の考え、理由、指示内容を推測する。
3. 内容理解②:500字程度の中文を読み、内容の因果関係や理由、文脈の中の意味、筆者の考えを推測する。
4. 内容理解③:1,000字程度の長文を読み、筆者の主張、文全体が伝える内容を推測する。
5. 統合理解:600字程度の複数の文章を読み比べて、共通する点や異なる点を的確に判断する。
6. 主張理解:社説や評論など、1000字程度の抽象性・論理性のある文章を読み、筆者の主張や意見、伝えようとしている内容を推測する。
7. 情報検索:700字程度の広告やパンフレットを読み、目的に応じた必要情報を素早く読み取る。
8. 模擬試験・今までの授業のふりかえり・試験の注意事項確認
9. 課題理解:問題用紙に表示されたイラストや文字を見ながら会話を聞き、その会話の後の適切な行動を推測する。
10. ポイント理解:問題文に表示されたポイントを意識しながら会話や独話を聞き、出来事の理由や目的、話者の考えなどを掴む。
11. 概要理解:講義や演説、ニュース解説などのやや長めの話を聞き、話の主題や話者の意図・主張などを理解する。
12. 即時応答:質問、報告、依頼などの短い発話を聞き、それに対する適切な返答を判断する。
13. 統合理解①:２人または3人の長めの会話に含まれる複数の情報を整理し、適切な結論を導き出す。
14. 統合理解②:ニュースや講演などの長めの話に対する2人の会話を聞き、それぞれの意見や評価などを掴む。
15. 学習内容のまとめと理解度確認

特記事項: 当週の学習項目に関連した課題を出すので、翌週の授業時に提出すること。

授業方法: 毎回、授業のテーマに即した資料とワークシートを配布するので、指示に従ってそれを完成させる。
すべての授業を対面で行う。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

計2700分の復習が必要である。
1. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
2. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
3. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
4. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
5. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
6. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
7. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
8. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
9. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
10. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
11. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
12. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
13. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
14. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
15. 期末テストの問題を復習(180分)

評価方法：	授業へのとりくみ：	30 %	確認テスト：	40 %	レポート：	－ %
	その他1：	課題提出		20 %		
	その他2：	模擬試験		10 %		

評価基準：
優（80-100）：
学習項目を十分に理解し、N1レベルの問題に正確に解答することができる。
良（70-79）：
学種項目を概ね理解し、N1レベルの問題を理解することができる。
可（60-69）：
学習項目をある程度理解し、N1レベルの問題に対応することができる。

課題へのフィードバック：
ワークシート、課題等は添削して返却する。受講生の多くに間違いが見られた問題に関しては、当該部分を取り上げ再度解説を行う。

教科書： 初回授業時に指示する。

参考書： 授業時に適宜指示する。

授業・準備学習のアドバイス：
毎回の授業で出席をとる。
授業中の私語及びスマホ等の不必要な使用は慎むこと。
日常的に予習、復習を心がけ、日本語に触れる環境を意識して作ること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 総合日本語Ⅳ

クラス: 留G

授業コード: B910600002

担当者: 小野 勝　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本授業は、前期に引き続き日本語能力試験N2レベルの「読解」「聴解」問題に対応できる日本語力を身につけることを目標とする。

到達目標: 日本語能力試験N2に合格できる読解力及び聴解力を身につける。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション/授業の進め方及び注意事項、スケジュール、評価方法などを説明する。また、日本語能力試験の出題パターンを知り、必要な学習を理解する。
2. 内容理解①:200字程度の短文を読み、筆者の考え、理由、指示内容を推測する。
3. 内容理解②:500字程度の中文を読み、内容の因果関係や理由、文脈の中の意味、文章の要点を推測する。
4. 統合理解:合計600字程度の、異なった立場から書かれた2つまたは3つの文章を読み比べて、それらが伝えようとする意見や主張を的確に判断する。
5. 主張理解①:評論など、900字程度の抽象性・論理性のある文章を読み、筆者の主張や意見、伝えようとしている内容を推測する。
6. 主張理解②:評論など、900字程度の抽象性・論理性のある文章を読み、筆者の主張や意見、伝えようとしている内容を推測する。
7. 情報検索:700字程度の広告やパンフレットを読み、目的に応じた必要情報を素早く読み取る。
8. 模擬試験・今までの授業のふりかえり・試験の注意事項確認
9. 課題理解:問題用紙に表示されたイラストや文字を見ながら会話を聞き、その会話の後の適切な行動を推測する。
10. ポイント理解:問題文に表示されたポイントを意識しながら会話や独話を聞き、出来事の理由や目的、話者の考えなどを掴む。
11. 概要理解:講義や演説、ニュース解説などのやや長めの話を聞き、話の主題や話者の意図・主張などを理解する。
12. 即時応答:質問、報告、依頼などの短い発話を聞き、それに対する適切な返答を判断する。
13. 統合理解①:3人の長めの会話に含まれる複数の情報を整理し、適切な結論を導き出す。
14. 統合理解②:ニュースや講演などの長めの話に対する2人の会話を聞き、それぞれの意見や評価などを掴む。
15. 学習内容のまとめと理解度確認

特記事項: 当週の学習項目に関連した課題を出すので、翌週の授業時に提出すること。

授業方法: 毎回、授業のテーマに即した資料とワークシートを配布するので、指示に従ってそれを完成させる。
すべての授業を対面で行う。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

計2700分の復習が必要である。
1. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
2. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
3. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
4. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
5. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
6. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
7. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
8. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
9. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
10. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
11. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
12. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
13. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
14. 授業で紹介した文章中の語彙・文法、文章の内容の復習(180分)
15. 期末テストの問題を復習(180分)

評価方法：	授業へのとりくみ：	30 %	確認テスト：	40 %	レポート：	－ %
	その他1： 課題提出			20 %		
	その他2： 模擬試験			10 %		

評価基準： 優（80-100）：
学習項目を十分に理解し、N2レベルの問題に正確に解答することができる。
良（70-79）：
学種項目を概ね理解し、N2レベルの問題を理解することができる。
可（60-69）：
学習項目をある程度理解し、N2レベルの問題に対応することができる。

課題へのフィードバック：
ワークシート、課題等は添削して返却する。受講生の多くに間違いが見られた問題に関しては、当該部分を取り上げ再度解説を行う。

教科書： 初回授業時に指示する。

参考書： 授業時に適宜指示する。

授業・準備学習のアドバイス：
毎回の授業で出席をとる。
授業中の私語及びスマホ等の不必要な使用は慎むこと。
日常的に予習、復習を心がけ、日本語に触れる環境を意識して作ること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: スポーツ教育学総論

クラス:

授業コード: BE00100001

担当者: 佃尾 哲哉 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 現代社会におけるスポーツについてを幅広く学ぶ。
・人間の発育発達にスポーツが与える影響
・スポーツの意義と価値
・スポーツ指導の課題
等

到達目標:
1. 現代社会におけるスポーツ教育学的効果とその役割についてを理解する。
2. スポーツの意義と価値を理解する。
3. スポーツ指導において、実践上の問題点とその対策についてを理解する。
4. スポーツ指導上のコミュニケーションスキルを習得する。

各回の授業計画:

1. スポーツとは何か
2. 子どもを取り巻く環境と体力との関係、その現状と課題についてを聞き取り調査から検証する
3. Ⅰ、スポーツの意義と価値についてを社会、文化を通して考える（社会的背景を中心に）
4. Ⅱ、スポーツの意義と価値についてを社会、文化を通して考える（文化的背景を中心に）
5. Ⅲ、スポーツの意義と価値についてを社会、文化を通して考える
「スポーツ宣言日本」と「オリンピズム」からの捉え方を学ぶ
6. スポーツの価値を守るスポーツ権について考える
7. スポーツ場面におけるハラスメントの理解と根絶について考える
8. ジュニアの指導者に求められる役割について考える
9. スポーツの指導上、留意すべき点について考える
10. Ⅰ、コミュニケーションスキルの習得を目指す（積極的な傾聴のスキル）
11. Ⅱ、コミュニケーションスキルの習得を目指す（観察、洞察のスキル）
12. Ⅲ、コミュニケーションスキルの習得を目指す（子どもへのアドバイスとリクエストのスキル）
13. スポーツ安全・管理上のは配慮についてを学ぶ
14. 多様なスポーツについて学ぶ（障がい者スポーツを中心に）
15. まとめと確認テスト

特記事項: なし

授業方法:
1. 講義
2. グループワーク・発表
3. 講義
4. 講義
5. 講義
6. 講義・ディスカッション
7. 講義・ディスカッション
8. DVD視聴・講義
9. 講義・ディスカッション
10. グループワーク
11. グループワーク
12. グループワーク
13. 講義・ディスカッション
14. 講義・ディスカッション
15. 講義
＊全て対面で行う

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

第1回 自分自身のスポーツ経歴をまとめておく(120分）
第2回 課題の調査（240分）
第3回 スポーツの意義について調べておく（180分）
第4回 現代社会の動向について調べておく（180分）
第5回 文化とは何かを調べておく（120分）
第6回「スポーツ宣言日本」について調べておく（180分）
第7回 ハラスメントの定義を調べておく（120分）
第8回 指導者の役割のいついてを調べておく（180分）
第9回 スポーツを指導する上で留意すべき点を、環境、目標設定、実際の指導から考えておく（240分）
第10-12回「コミュニケーションとは」「コーチングとは」について調べておく（720分）
自身がスポーツ活動を実施してきた組織（高校のクラブなど）の運営方法、運営のルールを書き出し、良い点・悪い点にまとめ、また悪い点の改善点をレポートする（240分）
第13回 安全管理上の配慮すべき点を考えておく（240分）
第14回 高齢者スポーツ、障害者スポーツの課題を調べておく（240分）
第15回 自身で、これまでの14回を①「スポーツの意義」②「スポーツ指導のスキルと指導者の役割について」③「スポーツ活動が持つ課題について」の視点からまとめレポートする。（240分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	20 **%**	**レポート：**	20 **%**
その他1：	復習テスト 10点×3回		30 **%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

3つの課題、
①スポーツの意義を説明できる。
②スポーツ指導者の役割を説明できる。
③スポーツ指導のためのコミュニケーションスキルを説明できる。

3つの課題の内
1つの課題を説明できる。 60～69点
2つの課題を説明できる。 70～79点
3つの課題を説明できる、 80～100点

課題へのフィードバック：

（復習テスト）
模範解答を示す。
（レポート）
授業時間内で講評する。

教科書： 日本スポーツ協会 リファレンスブック

参考書： 基礎から学ぶスポーツリテラシー

授業・準備学習のアドバイス：

日本スポーツ協会公認スポーツコーチングリーダー・ジュニアスポーツ指導員・アシスタントマネージャー資格取得必修科目です。

（復習テスト）模範解答を示す。
（レポート）授業時間内で講評する。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: スポーツ統計学

クラス: スB

授業コード: BE00200001

担当者: 葦原 摩耶子 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 運動・スポーツに関わる論文講読、および実験・調査の実施には統計学の知識が不可欠です。本講義では、統計学の基礎知識を理解し、データを正しく分析・解釈できる力を身につけることを目指します。

到達目標:
1. 統計学の基本的知識を理解できる
2. 統計ソフトを用いてデータを分析し、その結果をまとめることができる

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. データの測定・分類方法
3. 度数分布・平均・標準偏差
4. 標準化と正規分布
5. 量的変数の関係性の分析
6. 質的変数の関係性の分析
7. 2群の差の検定
8. 多群の差の検定
9. 確認テストの実施、データの収集・整理の方法
10. 統計解析ソフトの基本操作
11. 分析結果のまとめ方
12. グループ発表①
13. グループ発表②
14. グループ発表③
15. まとめ

特記事項: パソコンを使用し講義を行います。

授業方法: 15回すべて対面で実施する。

1. 講義
2. 講義、グループワーク
3. 講義、グループワーク
4. 講義、グループワーク
5. 講義、グループワーク
6. 講義、グループワーク
7. 講義、グループワーク
8. 講義、グループワーク
9. 講義、確認テスト
10. 講義、グループワーク
11. 講義、グループワーク
12. 発表
13. 発表
14. 発表
15. 講義

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 第1章の予習(150分)
2. 第1章の復習問題の実施、第2章の予習(150分)
3. 第2章の復習問題の実施、第3章の予習(150分)

4. 第3章の復習問題の実施、第4章の予習（150分）
5. 第4章の復習問題の実施、第5章の予習（150分）
6. 第5章の復習問題の実施、第6章の予習（150分）
7. 第6章の復習問題の実施、第7章の予習（150分）
8. 第7章の復習問題の実施、中間テストに向けての予習（480分）
9. 復習：データの入力・整理を行う（150分）
10. 復習：統計ソフトの使用方法についてまとめる（150分）
11. 復習：分析結果のまとめ方について整理する（150分）
12. 発表準備（180分）
13. 発表準備（180分）
14. 発表準備（180分）
15. レポートの作成（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	30 **%**	**レポート：**	10 **%**
その他1：	小テスト		10 **%**		
その他2：	グループ発表		20 **%**		

評価基準：

【最低限度の到達度（60～69点）】
授業への取り組み：グループワークに参加している。
確認テスト：統計学の基本的な知識をある程度理解し、それを活用して問いについて正解を導くことができる。
レポート：統計学の基礎をふまえてデータ収集・分析が行え，その成果をレポートにまとめることができる。
グループ発表：統計学の基礎をふまえてデータ収集・分析が行え，その成果を発表することができる。
小テスト：各回の内容をある程度理解できている。

【望ましい到達度（80～100点）】
授業への取り組み：グループワークに積極的に参加し、自分の考えを表明したり他者と意見を共有することができる。
確認テスト：統計学の基本的な知識を十分理解し、それを活用して問いについて正解を導くことができる。
レポート：統計学の基礎をふまえて適切にデータ収集・分析が行え，その成果を正しく解釈しレポートにまとめることができる。
グループ発表：統計学の基礎をふまえて適切にデータ収集・分析が行え，その成果を正しく解釈し発表することができる。
小テスト：各回の内容を十分に理解できている。

課題へのフィードバック：

小テストは授業内で採点し，振り返りを行う。
発表については授業内で講評を行う。

教科書： 川端一光・荘島宏二郎「心理学のための統計学入門―ココロのデータ分析」誠心書房、2014年

参考書： 吉田寿夫著「本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本」北大路書房、1998年

授業・準備学習のアドバイス：

授業でPCを使用しますので、日ごろから扱いに慣れておきましょう。
統計学では、初めての専門用語がたくさん出てきますので、積極的に質問するなどしてわからないことをそのままにしないようにしましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: スポーツ統計学

クラス: ｽC

授業コード: BE00200002

担当者: 葦原　摩耶子　　**単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 運動・スポーツに関わる論文講読、および実験・調査の実施には統計学の知識が不可欠です。本講義では、統計学の基礎知識を理解し、データを正しく分析・解釈できる力を身につけることを目指します。

到達目標:
1. 統計学の基本的知識を理解できる
2. 統計ソフトを用いてデータを分析し、その結果をまとめることができる

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. データの測定・分類方法
3. 度数分布・平均・標準偏差
4. 標準化と正規分布
5. 量的変数の関係性の分析
6. 質的変数の関係性の分析
7. 2群の差の検定
8. 多群の差の検定
9. 確認テストの実施、データの収集・整理の方法
10. 統計解析ソフトの基本操作
11. 分析結果のまとめ方
12. グループ発表①
13. グループ発表②
14. グループ発表③
15. まとめ

特記事項: パソコンを使用し講義を行います。

授業方法: 15回すべて対面で実施する。

1. 講義
2. 講義、グループワーク
3. 講義、グループワーク
4. 講義、グループワーク
5. 講義、グループワーク
6. 講義、グループワーク
7. 講義、グループワーク
8. 講義、グループワーク
9. 講義、確認テスト
10. 講義、グループワーク
11. 講義、グループワーク
12. 発表
13. 発表
14. 発表
15. 講義

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 第1章の予習(150分)
2. 第1章の復習問題の実施、第2章の予習(150分)
3. 第2章の復習問題の実施、第3章の予習(150分)

4. 第3章の復習問題の実施、第4章の予習（150分）
5. 第4章の復習問題の実施、第5章の予習（150分）
6. 第5章の復習問題の実施、第6章の予習（150分）
7. 第6章の復習問題の実施、第7章の予習（150分）
8. 第7章の復習問題の実施、中間テストに向けての予習（480分）
9. 復習：データの入力・整理を行う（150分）
10. 復習：統計ソフトの使用方法についてまとめる（150分）
11. 復習：分析結果のまとめ方について整理する（150分）
12. 発表準備（180分）
13. 発表準備（180分）
14. 発表準備（180分）
15. レポートの作成（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	30 **%**	**レポート：**	10 **%**
その他1：	小テスト		10 **%**		
その他2：	グループ発表		20 **%**		

評価基準：

【最低限度の到達度（60～69点）】
授業への取り組み：グループワークに参加している。
確認テスト：統計学の基本的な知識をある程度理解し、それを活用して問いについて正解を導くことができる。
レポート：統計学の基礎をふまえてデータ収集・分析が行え，その成果をレポートにまとめることができる。
グループ発表：統計学の基礎をふまえてデータ収集・分析が行え，その成果を発表することができる。
小テスト：各回の内容をある程度理解できている。

【望ましい到達度（80～100点）】
授業への取り組み：グループワークに積極的に参加し、自分の考えを表明したり他者と意見を共有することができる。
確認テスト：統計学の基本的な知識を十分理解し、それを活用して問いについて正解を導くことができる。
レポート：統計学の基礎をふまえて適切にデータ収集・分析が行え，その成果を正しく解釈しレポートにまとめることができる。
グループ発表：統計学の基礎をふまえて適切にデータ収集・分析が行え，その成果を正しく解釈し発表することができる。
小テスト：各回の内容を十分に理解できている。

課題へのフィードバック：

小テストは授業内で採点し，振り返りを行う。
発表については授業内で講評を行う。

教科書： 川端一光・荘島宏二郎「心理学のための統計学入門―ココロのデータ分析」誠心書房、2014年

参考書： 吉田寿夫著「本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本」北大路書房、1998年

授業・準備学習のアドバイス：

授業でPCを使用しますので、日ごろから扱いに慣れておきましょう。
統計学では、初めての専門用語がたくさん出てきますので、積極的に質問するなどしてわからないことをそのままにしないようにしましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: スポーツ統計学

クラス: ｽA

授業コード: BE00200003

担当者: 葦原　摩耶子　　**単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 運動・スポーツに関わる論文講読、および実験・調査の実施には統計学の知識が不可欠です。本講義では、統計学の基礎知識を理解し、データを正しく分析・解釈できる力を身につけることを目指します。

到達目標:
1. 統計学の基本的知識を理解できる
2. 統計ソフトを用いてデータを分析し、その結果をまとめることができる

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. データの測定・分類方法
3. 度数分布・平均・標準偏差
4. 標準化と正規分布
5. 量的変数の関係性の分析
6. 質的変数の関係性の分析
7. 2群の差の検定
8. 多群の差の検定
9. 確認テストの実施、データの収集・整理の方法
10. 統計解析ソフトの基本操作
11. 分析結果のまとめ方
12. グループ発表①
13. グループ発表②
14. グループ発表③
15. まとめ

特記事項: パソコンを使用し講義を行います。

授業方法: 15回すべて対面で実施する。

1. 講義
2. 講義、グループワーク
3. 講義、グループワーク
4. 講義、グループワーク
5. 講義、グループワーク
6. 講義、グループワーク
7. 講義、グループワーク
8. 講義、グループワーク
9. 講義、確認テスト
10. 講義、グループワーク
11. 講義、グループワーク
12. 発表
13. 発表
14. 発表
15. 講義

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 第1章の予習(150分)
2. 第1章の復習問題の実施、第2章の予習(150分)
3. 第2章の復習問題の実施、第3章の予習(150分)

4. 第3章の復習問題の実施、第4章の予習（150分）
5. 第4章の復習問題の実施、第5章の予習（150分）
6. 第5章の復習問題の実施、第6章の予習（150分）
7. 第6章の復習問題の実施、第7章の予習（150分）
8. 第7章の復習問題の実施、中間テストに向けての予習（480分）
9. 復習：データの入力・整理を行う（150分）
10. 復習：統計ソフトの使用方法についてまとめる（150分）
11. 復習：分析結果のまとめ方について整理する（150分）
12. 発表準備（180分）
13. 発表準備（180分）
14. 発表準備（180分）
15. レポートの作成（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	30 **%**	**レポート：**	10 **%**
その他1：	小テスト		10 **%**		
その他2：	グループ発表		20 **%**		

評価基準：

【最低限度の到達度（60～69点）】
授業への取り組み：グループワークに参加している。
確認テスト：統計学の基本的な知識をある程度理解し、それを活用して問いについて正解を導くことができる。
レポート：統計学の基礎をふまえてデータ収集・分析が行え，その成果をレポートにまとめることができる。
グループ発表：統計学の基礎をふまえてデータ収集・分析が行え，その成果を発表することができる。
小テスト：各回の内容をある程度理解できている。

【望ましい到達度（80～100点）】
授業への取り組み：グループワークに積極的に参加し、自分の考えを表明したり他者と意見を共有することができる。
確認テスト：統計学の基本的な知識を十分理解し、それを活用して問いについて正解を導くことができる。
レポート：統計学の基礎をふまえて適切にデータ収集・分析が行え，その成果を正しく解釈しレポートにまとめることができる。
グループ発表：統計学の基礎をふまえて適切にデータ収集・分析が行え，その成果を正しく解釈し発表することができる。
小テスト：各回の内容を十分に理解できている。

課題へのフィードバック：

小テストは授業内で採点し，振り返りを行う。
発表については授業内で講評を行う。

教科書： 川端一光・荘島宏二郎「心理学のための統計学入門―ココロのデータ分析」誠心書房、2014年

参考書： 吉田寿夫著「本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本」北大路書房、1998年

授業・準備学習のアドバイス：

授業でPCを使用しますので、日ごろから扱いに慣れておきましょう。
統計学では、初めての専門用語がたくさん出てきますので、積極的に質問するなどしてわからないことをそのままにしないようにしましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育学概論

クラス:

授業コード: BE00300001

担当者: 松田 忠喜 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立小学校教諭

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 教育に関する全般的な知識を身に付けるとともに、さまざまな教育課題、教職員の服務や仕事内容及び理想の教師像について具体的に考察し、理解を深めることで、今後の学習や生活に生かすことを目的としています。なお、本授業は学校教育全体について取り上げますが、学校教育の基礎となる小学校に重点を置いています。

到達目標: ①学校における子どもの教育について、学問的知識と子ども理解の姿勢を身に付けるとともに教師の服務や仕事内容を知る。
②子どもの指導に役立てるための視点及び理想の教師像について、具体的事例やグループワーク、発表などを通して考察することで、学校教育についての理解を深め、指導力や課題対応力を身に付けることができる。
③主体的に授業に参加し、自らの学びを振り返ることで、今後の学習や生活に生かすことができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション(授業の概要・履修上の注意等)、学習のキーワード、教師とは
2. 小学校教育の概要、教職の意義
3. 教育課程と学習指導要領
4. 小学校教育の内容(小学校学習指導要領「前文」・「総則」の概要)【課題研究:グループワーク、小レポート作成・発表】
5. 教職員の使命と服務
6. 教師の役割と仕事内容
7. 小学校教師の一日【課題研究:小レポート作成】、教職員の服務【事例研究:グループワーク】
8. 学級づくりと学級経営(生徒指導・特別活動との関連)
9. 学習指導の進め方と評価
10. 教師に求められる資質と能力
11. 理想の教師像について【課題研究:グループワーク、小レポート作成・発表】
12. 学校における今日的課題
13. 子どもの問題行動と対策、人権が尊重された教育、著作権と個人情報
14. 開かれた学校づくりとこれからの教育
15. 本講義で学んだこと【全員発表】、人を育てるとは

特記事項: 第16回授業で期末試験(筆記試験:講義資料以外、パソコン・スマートフォンを含むすべての持ち込み不可)を行います。

授業方法: ＊全て対面授業で行います。
第1回 講義(対面)
第2回 講義(対面)
第3回 講義(対面)
第4回 グループワーク、発表(対面)
第5回 講義(対面)
第6回 講義(対面)
第7回 グループワーク(対面)
第8回 講義(対面)
第9回 講義(対面)
第10回 講義(対面)
第11回 グループワーク、発表(対面)
第12回 講義(対面)
第13回 講義(対面)
第14回 講義(対面)
第15回 講義、発表(対面)
第16回 期末試験:筆記試験(対面)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1.～4.《小学校教育》
a. 小学校教育について予習（90分）
b. 復習、ノート整理（180分）
c.「小学校学習指導要領：前文と総則」を読み、理解する（150分）
d. 学習指導要領についてのレポート範囲を決定後、レポート作成（120分）

5.～7.《教師の仕事》
a. 教師の服務と仕事内容について予習（120分）
b. 復習、ノート整理（180分）
c. 教師の仕事について情報を集める（120分）
d. 教師の仕事についてのレポート作成（120分）

8.～9.《学級づくり・学習指導》
a. 特別活動・生徒指導・人権教育について予習（60分）
b. 学習指導について予習(60分）
c . 復習、ノート整理（120分）
d. 学級づくりについて課題作成（60分）
e. 課題解決のためのレポート作成（60分）

10.～11.《教師の資質と能力、理想の教師像》
a. 教師に求められる資質・能力について予習（100分）
b. 復習、ノート整理（120分）
c 理想の教師像について 課題作成（60分）
d. 理想の教師像の発表に向けての資料作成（180分）

12.～15.《今日的課題とこれからの教育、総括》
a. 今日的課題とこれからの教育について予習（180分）
b. 復習、ノート整理（240分）
c. 発表に向けての資料作成（80分）
d. まとめと期末試験に向けて（300分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	60 **%**	**確認テスト：**	40 **%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：			**%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

（60 ～69点）・小学校を中心とした学校教育の概要や教育課題、教員の服務、仕事内容を知る。
・教師に求められている資質や能力を理解し、理想の教師像について考えることができる。
・グループワークに参加している。
・与えられたレポートを作成し、提出することができる。
・期末試験：学級づくり・学習指導・生徒指導などにおいて、要点を理解している。

（70～79点）・小学校を中心とした学校教育の概要や教育課題、教員の服務、仕事内容の大筋がわかる。
・教師に求められている資質や能力を理解し、自己と照らし合わせながら、理想の教師像について考察することができる。
・グループワークに意欲的に参加している。
・与えられたレポートをテーマに沿って不足なく作成することができる。
・期末試験：学級づくり・学習指導・生徒指導などにおいて、要点を理解し自分なりの考えをもつ。

（80 ～100点）・小学校を中心とした学校教育の概要がわかるとともに、教員の服務や仕事内容の大筋を理解し、学校教育の課題点を見出すことができる。
・資料をもとに教師に求められている資質や能力を理解し、これからの学校教育を考えることで、理想の教師像について考察することができる。
・グループワークに主体的に参加し、話合いの内容をまとめたり全体の場で発表したりすることができる。
・与えられたレポートにおいては、本講義で学習したことをもとに自分の考えを深めてまとめることができる。
・期末試験：学級づくり・学習指導・生徒指導などの要点を理解し、自分の考えを深めてまとめることができる。

課題へのフィードバック：

・授業の終わりに毎回提出する「振り返りカード」については、コメントを加えて返却するとともに、次回の授業で代表的な内容を紹介することで、考え方や見方を共有します。また、学生から出された質問等にも答えることで学習内容の深化・充実を図ります。
・授業で課した小レポートについても、コメントを加えて返却します。

教科書：

・なし（講義資料を原則として毎回配布します。）

参考書：

・文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）』東洋館出版社
・文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編』東洋館出版社

授業・準備学習のアドバイス：

・毎回、授業の終わりに「振り返り」を記入して提出することで、出席とします。また、どの程度理解を深めたかも評価します。さらに、グループワークなどへの主体性も加点の対象とします。（40%）
・原則として、授業中に作成する小レポートの提出内容について評価します。（20%）
・期末試験：第16回に筆記試験を行います（講義資料以外、パソコン・スマートフォンを含むすべての持ち込み不可）。（40%）
・事前に講義資料をTeamsに載せますので、予習するとともに、復習として理解を深めるためにも活用してください。
・「まずは自分を知りましょう（あなたは教師としてどのレベル）」の対応・指導方法を事前に考えて授業に臨むようにしましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: ジュニアスポーツ指導者論

クラス: ★

授業コード: BE00500001

担当者: 中瀬古 哲 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 本講義では、ジュニアスポーツ指導において重要な英才教育とその発掘、発育発達的運動学習過程、障がい児(者含む)指導の安全管理指導概要について理解する事を目的とする。

到達目標: 1. ジュニアスポーツ指導の英才教育と発育発達の概論を理解する。
2. 障がい児(者含む)スポーツ指導の安全管理の基本概要を理解する。

各回の授業計画:

1. スポーツ英才教育、オリエンテーション(※初回のみ対面授業)
2. スポーツタレントの発掘
3. スポーツパフォーマンスに影響を及ぼす遺伝と運動学習緩急
4. 発育発達期の身体的特徴、心理的特徴
5. 発育発達期の多い怪我や病気
6. 発育発達期のプログラム
7. 各種運動(歩く・走る・投げる・跳ぶ・打つ・泳ぐ)の学習過程
8. スポーツのインテグリティ、アンチ・ドーピング
9. スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任
10. スポーツ仲裁
11. スポーツ倫理
12. 障がい児(者含む)スポーツ指導の安全管理①(基本的考え方と安全上の約束と指導の仕方)※1
13. 障がい児(者含む)スポーツ指導の安全管理②(スポーツ事故と指導者の管理責任、スポーツ指導上の留意事項)※2
14. 障がい児(者含む)スポーツ指導の安全管理③(スポーツ事故と指導者の管理責任)※2
15. ジュニアスポーツ指導者事例報告(キッズスポーツクラブコーチング、障害児スポーツ指導)

特記事項: ※ 確認テストは毎回行います。

＜日本スポーツ協会・公認パラスポーツ指導員＞
※ 各回の授業計画に関しては、以下の点にも留意しながら授業を展開する。

【授業計画10】
※ 1は、スポーツを実施する際の安全管理の基本的な項目と内容を学ぶ。(ヒヤリハットや指導者の安全配慮義務、AED、応急手当など)
・スポーツ指導者の安全配慮義務
・基本的な対処法について(救命手当、応急手当、AED、CPR等)
・ヒヤリ、ハット事例(熱中症、転倒、水分補給)

【授業計画11～13】
※ 2は、リスクマネジメントに関する基礎知識を学び、パラスポーツ指導現場における事例を学ぶ。
・事故を未然に防ぐための準備(リスク予測・準備と事後対応)
・スポーツ活動場面別のリスクマネジメント(大会・教室・イベントなど)
・パラスポーツ指導現場におけるリスクマネジメント(事例の紹介)
・情報共有の重要性

授業方法: ※本授業は初回以外はすべてオンライン(オンデマンド方式)です。
1. 事前テスト、講義、バズセッション(※初回のみ対面)
2. テキスト購読、確認テスト、ミニレポート
3. テキスト購読、確認テスト、ミニレポート
4. テキスト購読、確認テスト、ミニレポート
5. テキスト購読、確認テスト、ミニレポート

6. テキスト購読、確認テスト、ミニレポート
7. テキスト購読、確認テスト、ミニレポート
8. テキスト購読、確認テスト、ミニレポート
9. テキスト購読、確認テスト、ミニレポート
10. テキスト購読、確認テスト、ミニレポート
11. テキスト購読、確認テスト、ミニレポート
12. テキスト購読、確認テスト、ミニレポート
13. テキスト購読、確認テスト、ミニレポート
14. テキスト購読、確認テスト、ミニレポート
15. テキスト購読、確認テスト、総括レポート

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 予習：選手育成と学校体育の違いについての自身の考えをまとめておく（90分）
復習：他者の事例・意見を踏まえ選手育成の課題を整理しておく（90分）

2. 予習：早期教育の事例について調べておく（自身の体験も含む：90分）
復習：他者の事例・意見を踏まえ早期教育の課題を整理しておく（90分）

3. 予習：人間発達における遺伝と環境についての諸説を調べる（90分）
復習：スポーツパフォーマンスと遺伝・環境の影響について整理しておく（90分）

4. 予習：確認テストに向け、選手育成、早期教育、遺伝と環境について整理しておく（60分）
復習：確認テストの結果を踏まえ、選手育成、早期教育、遺伝と環境について再整理しておく（60分）
スキャモンの発育曲線の意味を整理しておく（60分）

5. 予習：スポーツ傷害・障害についての事例を報告できるように準備する（自身の体験を含む90分）
復習：他者の事例・意見を踏まえ安全確保のための課題を整理しておく（90分）

6. 予習：発育期のプログラム事例を報告できるよう準備をしておく（90分）
復習：他者の事例・意見を踏まえプログラム作成の課題を整理しておく（90分）

7. 予習：確認テストに向け、スポーツの安全指導の実態・原因・課題を整理しておくとともに、幼少期の運動遊びのスポーツ活動体験を整理しておく（90分）
復習：確認テストの再確認。他者の事例・意見を踏まえ走歩の発達のメカニズムを整理しておく（90分）

8. 予習：児童期の運動遊びのスポーツ活動体験を整理しておく（90分）
復習：他者の事例・意見を踏まえ跳ぶ動作の発達のメカニズムを整理しておく（90分）

9. 予習：思春期の運動遊びのスポーツ活動体験を整理しておく（90分）
復習：他者の事例・意見を踏まえ投げる動作の発達のメカニズムを整理しておく（90分）

10. 予習：水泳についての学習体験を整理しておく（90分）
復習：他者の事例・意見を踏まえ泳ぐ動作の発達のメカニズムを整理しておく（90分）

11. 予習：組織的な体育指導・スポーツ指導体験を整理しておく（90分）
復習：他者の事例・意見を踏まえ走打つ動作の発達のメカニズムを整理しておく（90分）

12. 予習：確認テストに向け各種運動発達のメカニズムについて整理するとともに障害者スポーツとの自身の関わりを整理しておく（90分）
復習：障害者スポーツの基本的な考え方を整理しておく（90分）

13. 予習：体罰との関わりについて自身の体験と見解を整理しておく（90分）
復習：他者の事例・意見を踏まえさらに体罰に関わる事例を調べる（90分）

14. 予習・宿題：体育・スポーツ指導場面における死亡事故について調べておく（90分）
復習：スポーツ指導における安全管理の課題を整理しておく（90分）

15. 予習・宿題：ボランティア等の指導体験で気づいたことを言語化して発表できるようにしておく（90分）
復習：15回の授業を振り返り、期待される指導者像と求められる知識を再確認しておく（90分）

評価方法:

授業へのとりくみ:	20 **%**	**確認テスト:**	60 **%**	**レポート:**	20 **%**		
その他1:			**%**				
その他2:			**%**				

評価基準: 最低限の到達度（60～69点）：スポーツ倫理、ジュニア期の身体的・心理的な発達課題、スポーツパフォーマンスにおける遺伝と環境の関係、スポーツ・トレーニング並びにスポーツ・カリキュラムに関する基礎的知識について説明ができるとともに。障がい者を含めた安全指導についての基礎的な知見について理解している。これらの知見を踏まえ、自分自身のスポーツ体験を対象化することができる。
望ましい到達度（80～100点）：スポーツ倫理、ジュニア期の身体的・心理的な発達課題、スポーツパフォーマンスにおける遺伝と環境の関係、スポーツ・トレーニング並びにスポーツ・カリキュラムに関する専門的知識について説明ができるとともに。障がい者を含めた安全指導についての基礎的な知見について深く理解している。これらの知見を踏まえ、自分自身のスポーツ体験を対象化するとともにそれを乗り越える明確

な意志をもっている。

課題へのフィードバック:

1. ミニレポート:次週の授業にて口頭或は文章にてフィードバック。
2. 確認テスト:テスト後すぐに問題の意図と正解について詳しく解説する。
3. 総括レポート:評定並びに評定の根拠・解説とともに全員に返却する。

教科書: ・日本スポーツ協会編集「リファレンスブック」
・日本障がい者スポーツ協会編集「障がい者スポーツ指導の手引き 第2次改訂版」

参考書: ・森川 貞夫 編著「日本のスポーツ界は暴力を克服できるか」かもがわ出版, 2013年
・三輪定宣・川口智久編著「先生、なぐらないで！学校・スポーツの体罰・暴力を考える」かもがわ出版, 2013年.
・中瀬古哲著「子どもの発達と運動会－就学前体育カリキュラム論序説」かもがわ出版, 2013年.
・杉原隆編著「生涯スポーツの心理学」福村出版, 2011年.
・長谷川裕著「スポーツ動作と身体のしくみ」ナツメ社, 2010年.
・伊藤マモル監修「基礎から学ぶ・スポーツトレーニング理論」日本文芸社, 2009年.

授業・準備学習のアドバイス:

【資格取得における必修科目】
・日本スポーツ協会公認スポーツコーチングリーダー
・日本スポーツ協会公認ジュニアスポーツ指導員
・日本スポーツ協会公認アシスタントマネジャー
・日本パラスポーツ協会公認パラスポーツ指導員（初級・中級）

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: ジュニアスポーツ実践

クラス:

授業コード: BE00600001

担当者: 中瀬古　哲、葦原　摩耶子　　**単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本講義はジュニアスポーツ指導の発育発達的段階にとって獲得すべき重要な運動学習理論と運動あそび・ゲームの実践を学ぶ事を目的とする。

到達目標: 1. 表現・リズムの遊びという視点から、各発達段階に応じたジュニア期のスポーツ指導の基本と課題について実践を通して理解を深める（葦原担当）。
2. 育ちそびれの克服という視点から、各発達段階に応じたスポーツ指導の基本と課題について実践を通して理解を深める（中瀬古担当）。

各回の授業計画:

1. ジュニア期の発達課題・生活課題と運動遊び・ゲームについて（葦原・中瀬古）
2. 表現・リズム遊びとジュニア期のスポーツ指導の課題（葦原担当）
3. 表現・リズム遊びの基本的動き(1)（葦原担当）
4. 表現・リズム遊びの基本的動き(2)（葦原担当）
5. 表現・リズム遊びの作品づくり(1)（葦原担当）
6. 表現・リズム遊びの作品づくり(2)（葦原担当）
7. 表現・リズム遊びの作品づくり(3)（葦原担当）
8. 表現・リズム遊び／ボール遊び・ゲームの中間総括発表・交流会（葦原・中瀬古）
9. 子どもの育ちそびれとジュニア期のスポーツ指導の課題 ーハイハイの重要性（中瀬古担当）
10. ねこちゃん体操とお話しマット―体幹の動きと体幹・四肢の協応動作（中瀬古担当）
11. 児童前期のボール遊び・ゲーム指導の実際ー段ボール的あてボール①野球型（中瀬古担当）
12. 児童後期のボール遊び・ゲーム指導の実際ー段ボール的あてボール②攻防型（中瀬古担当）
13. 青年期のボール遊び・ゲーム指導の実際ーフットボール3on3（ラグビー型）（中瀬古担当）
14. 青年期のボール遊び・ゲーム指導の実際ーフットボール3on3（アメフト型）（中瀬古担当）
15. 表現・リズム遊び／ボール遊び・ゲームの最終総括発表・交流会（葦原・中瀬古）

特記事項: ・2グループに分けグループ毎に、葦原、中瀬古の授業（6回）をローテーションで受講する。
・初回、中間（8回目）、最終回の3回は、合同で学習の成果を交流し学びの総括を行う。
・(財)日本体育協会公認ジュニアスポーツ指導員資格取得の必修科目です。

授業方法: ※すべて対面授業で行う。提出物・確認テスト等はTeamsを使用する。
1. ガイダンス　A・B合同
2. 実技、評価、総括　Aグループ（葦原）、Bグループ（中瀬古）
3. 実技、評価、総括　Aグループ（葦原）、Bグループ（中瀬古）
4. 実技、評価、総括　Aグループ（葦原）、Bグループ（中瀬古）
5. 実技、評価、総括　Aグループ（葦原）、Bグループ（中瀬古）
6. 実技、評価、総括　Aグループ（葦原）、Bグループ（中瀬古）
7. 実技、評価、総括　Aグループ（葦原）、Bグループ（中瀬古）
8. 中間総括　A・B合同
9. 実技、評価、総括　Aグループ（中瀬古）、Bグループ（葦原）
10. 実技、評価、総括　Aグループ（中瀬古）、Bグループ（葦原）
11. 実技、評価、総括　Aグループ（中瀬古）、Bグループ（葦原）
12. 実技、評価、総括　Aグループ（中瀬古）、Bグループ（葦原）
13. 実技、評価、総括　Aグループ（中瀬古）、Bグループ（葦原）
14. 実技、評価、総括　Aグループ（中瀬古）、Bグループ（葦原）
15. 最終総括　A・B合同

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 予習：子どもの発達の理論並びに育ちそびれの実態を整理するとともに、遊びの経験を想起・整理する(90分)

復習：遊びの要素（模倣・リズム・競争・眩惑）と運動学習・発達との関係を整理する（90分）
2～7. 予習：幼児並びに児童のための表現・ボール遊びの基礎的動きを確認する或は立案・企画する（90分×6回）
復習：活動についての自身の内的感覚を言語化する（90分×6回）
8. 予習：これまでの表現・ゲームの活動を自分なりに総括する（90分）
復習：それぞれの活動の鑑賞・体験を通して得た、自身の内的感覚並びに分析・鑑賞したことを言語化する（90分）
9～14. 予習：幼児並びに児童のための表現・ボール遊びの基礎的動きを確認する或は立案・企画する（90分×6回）
復習：活動についての自身の内的感覚を言語化する（90分×6回）
15. 予習：これまでの表現・ゲームの活動を自分なりに総括する（90分）
復習：それぞれの活動の鑑賞・体験を通して得た、自身の内的感覚並びに分析・鑑賞したことを言語化する（90分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	30 **%**	**レポート：**	30 **%**
その他1：	スキル		10 **%**		
その他2：			**%**		

評価基準：
【最低限の到達度（60～69点）】
・授業への取り組み：運動課題や話し合いに積極的に参加することができる。
・確認テスト：運動課題のポイントや活動のねらいを概ね把握している。
・レポート：企画書・予習・振り返り等のレポートを欠かさず提出している。
・スキル：運動課題を概ね実施できる（粗協応の段階）。
【望ましい到達度（80～100点）】
・授業への取り組み：運動課題や話し合いを積極的にリードすることができる。
・確認テスト：運動課題のポイントや活動のねらいを深く把握している。
・レポート：企画書・予習・振り返り等のレポートにおいて理論と実践の往還が確認できる。
・スキル：運動課題を流暢に遂行することができる（精緻協応・自動化の段階）。

課題へのフィードバック：
授業内での運動のできばえ（パフォーマンスの評価・技術的課題）については毎時間フィードバックする。
企画・活動内容についての教師並びに学生の評価・感想については、次の授業或はTeamsにてフィードバックする。

教科書： 無し。必要な情報は、授業内において、適宜提供する。

参考書： 日本スポーツ協会編（2019）Refaerence Book
その他、各担当者が、授業内において、適宜紹介する。

授業・準備学習のアドバイス：
（財）日本体育協会公認ジュニアスポーツ指導員資格取得の必修科目です。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 運動発達心理学

クラス:

授業コード: BE00700001

担当者: 葦原 摩耶子 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 私たちは，生まれてから高齢期まで生涯にわたって発達し，それぞれの段階で運動は大きな役割を果たします。本講義では，発達段階ごとの特徴を理解し，運動による発育発達の支援方法を考えます。

到達目標: 発達段階に沿って，運動の役割や指導上の留意点を理解すること。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 発達に関わる理論
3. 乳児期の発達と運動
4. 幼児期の発達と運動
5. 児童期の発達と運動1(発達の特徴)
6. 児童期の発達と運動2(運動指導上の留意点)
7. 青年期の発達と運動1(発達の特徴)
8. 青年期の発達と運動2(運動指導上の留意点)
9. 成人期の発達と運動1(発達の特徴)
10. 成人期の発達と運動2(運動指導上の留意点)
11. 高齢期の発達と運動
12. 運動技能発達の臨界期
13. 発達段階を踏まえた運動・スポーツ指導
14. 発達に関わる諸問題
15. まとめ(生涯発達と運動、今後の課題)と確認

特記事項: なし

授業方法: 15回すべて対面で実施する。

1. 講義，グループワーク
2. 講義
3. 講義，ビデオ視聴
4. 講義
5. 講義
6. 講義，グループワーク
7. 講義
8. 講義，ビデオ視聴
9. 講義
10. 講義，グループワーク
11. 講義
12. 講義，グループワーク
13. 講義
14. 講義
15. 講義，確認テスト

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 復習:生涯発達についてまとめる(150分)
2. 復習:乳児期の特徴についてまとめる(150分)
3. 復習:幼児期の特徴についてまとめる(150分)

4. 復習：児童期のとくちょうについてまとめる（150分）
5. 復習：児童期に求められる運動についてまとめる（150分）
6. 復習：青年期の特徴についてまとめる（150分）
7. 復習：青年期の運動指導のポイントについてまとめる（150分）
8. 復習：成人期の特徴についてまとめる（150分）
9. 復習：成人期の運動指導のポイントについてまとめる（150分）
10. 復習：高齢期の特徴についてまとめる（150分）
11. レポート課題の作成（360分）
12. 復習：運動技能の臨界期についてまとめる（150分）
13. 復習：発達段階ごとの指導ポイントをまとめる（150分）
14. 確認テストにむけた復習（480分）
15. 復習：生涯発達と運動指導についてまとめる（60分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	20 **%**	**確認テスト：**	40 **%**	**レポート：**	10 **%**
その他1：	授業内レポート		30 **%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

【最低限度の到達度（60～69点）】
授業への取り組み：グループワークに参加している
授業内レポート：各回のテーマについて、基本的な専門用語や運動の役割を説明することができる。
レポート：与えられたテーマについて、発達に関する理論やモデル，運動の役割について説明することができる。発達段階を踏まえた運動指導法についてまとめることができる。
テスト：各回で学んだ基本的な専門用語、発達にかかわる理論、運動の役割、運動指導法について、学習内容をある程度理解している。

【望ましい到達度（80～100点）】
授業への取り組み：グループワークに積極的に参加し、自分の考えを表明したり他者と意見を共有することができる。
授業内レポート：各回のテーマについて、基本的な専門用語や運動の役割を詳しく説明することができる。
レポート：与えられたテーマについて、発達に関する理論やモデル，運動の役割について詳しく説明することができる。発達段階を踏まえた運動指導法について詳しくまとめることができる。
テスト：各回で学んだ基本的な専門用語、発達にかかわる理論、運動の役割、運動指導法について、学習内容を十分理解し説明することができる。

課題へのフィードバック：

授業時のレポートについては，次回の授業時に記載内容（意見・質問）について応答する。

教科書： なし。適宜資料を配布します。

参考書： 「生涯スポーツの心理学」杉原隆編著 福村出版
「よくわかる発達心理学」無藤隆・岡本祐子・大坪治彦編 ミネルヴァ書房

授業・準備学習のアドバイス：

様々な授業で既に発達について触れられていると思いますが、これまで得た知識を統合し発達段階ごとの運動の役割や指導のポイントを流れで理解できるように整理していきましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: スポーツ教育学基礎演習Ⅰ

クラス: 再履

授業コード: BE10100001

担当者: 佃尾 哲哉 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 「伝える力」と「考える力」を中心に、スポーツ教育学の探究に必要なアカデミックスキルの土台・基礎を身につける。

到達目標:
1. 情報の収集・整理の方法とレポート・論文作成の基本的技能と作法を身につける。
2. 建設的な相互批判・双方向コミュニケーション・合意形成のための基礎的な技能と作法を身につける。
3. 効果的なプレゼンテーションのための基礎的技能と作法を身にける。

各回の授業計画:

1. ガイダンス（専門礎演習の目的・目標についての理解、授業展開の説明）
2. コミュニケーション教育1：自分を伝えるとはどういうことか
3. コミュニケーション教育2：自分の自己表現のタイプをチェックする
4. コミュニケーション教育3：いいたいことを上手に表現する
5. 論理思考・言語技術教育1：考える力
6. 論理思考・言語技術教育2：問答ゲーム
7. 論理思考・言語技術教育3：視点を変える
8. コンセンサス① 同意とはを、ゲームを通して考える
9. コンセンサス② リーダーシップとは DVD視聴を視聴して考える
10. コンセンサス③ 論理的思考とは 事例を交えて考える
11. 時事問題について1：時事問題とは何か例示を示しながら学習する
12. 時事問題について2：興味関心を持つ時事問題について考える
13. 時事問題について3：他者と意見交換しながら自身の考えを構築する
14. 時事問題について4：身近な問題を考える
15. まとめと評価

特記事項: なし

授業方法: 対面授業であるが、Teams（オンライン）も併用し授業を進める。
対面演習形式を基本として以下のような様々な方法を用いる。
・グループワーク
・ディスカッション、ディベート
・プレゼンテーション
・視覚教材の活用
・スポーツ教育に関する様々な実践的活動

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

・予習・復習の時間
各回の授業につき90分の予習と90分の復習を必要とする。
・予習・復習の内容
予習においては、予定された課題や課題発表の準備を行い、プレゼンテーション等に対応できるようにすること（90分）
復習においては、求められる課題について各種の資料・文献調査に基づいて学修し、レポート等を作成すること。（90分）

評価方法:

授業へのとりくみ:	40 %	**確認テスト:**	－ %	**レポート:**	30 %
その他1: プレゼンテーション			30 %		
その他2:			%		

評価基準: 「最低限の到達度（60～69点）」

上記の「達成目標」を、その実用性・学術性において、基本的なレベルで達成できている。
1. エビデンスとして最低限必要な情報が収集・整理されており、自分の言葉と引用を区別した問題提起の文章が書けている。
2. 自身の意見を表明し、他者の意見を聞くとともにそれに応答することができ、基本的な意思疎通を可能とするコミュニケーションができている。
3. 公的な場において、自分の意思を整然と伝え主張することができている。

「望ましい到達度（80～100点）」
上記の「達成目標」を、その実用性・学術性において、客観的な説得力を持つレベルで達成できている。
1. 十分なエビデンスと豊かな内容のある情報の収集・整理ができており、明確な問題意識と論理的な整合性がある文章表現ができている。
2. 客観的なエビデンスを踏まえ自身の意見を表明し、異質な他者の意見に対してその関係を踏まえ応答することができ、明晰判明な意思疎通を可能とするコミュニケーションができている。
3. 公的な場において、客観的なエビデンスを踏まえ自分の意思の意見を明確な根拠づけとその展開をもって主張することができている。

課題へのフィードバック：

課題への対応に対しては、授業のできだけ早い機会にその秀逸な論点、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、以後の学習に役立つよう配慮する。

教科書： 吉原/間渕/富江/小針 新版『スタディスキルズ・トレーニング 大学で学ぶための25のスキル』 実教出版
（※1年次の教科書を引き続き使用する）

参考書： 授業中に必要に応じて指示する。また、参考資料を適宜配布する。

授業・準備学習のアドバイス：

卒業研究の専門分野の確立に向けて、スポーツ教育に関するものの見方・考え方を深め・広げるとともに、基礎的なスキルとマナーを身につける。
具体的には、自分自身の経験や感じ方を唯一の拠り所にする態度（経験主義）から脱却するため、異質の先人・隣人と積極的に対話する。
対面授業、特に演習形式の授業は、異質の他者との対話のための時空間に他ならない。授業への積極的・主体的な参加を切に願う。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: スポーツ教育学基礎演習Ⅱ

クラス: 再履

授業コード: BE10200001

担当者: 但尾 哲哉 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 現代的課題について、分析・検討・発表・討論を積極的に行うことを通して、スポーツ教育の探究に必要な資質とスキルを身につける。

到達目標:
1. 情報の収集・整理の方法とレポート・論文作成の基本的技能と作法を身につける
2. 建設的な相互批判・双方向コミュニケーション・合意形成のための基礎的な技能と作法を身につける
3. 効果的なプレゼンテーションのための基礎的技能と作法を身にける

各回の授業計画:

1. ガイダンス 授業の目的と到達目標
2. 探究課題決め
3. 情報収集とディスカッション
4. 情報整理及び発想法等
5.プレゼンテーション準備1
働くとは 職業とは を考える
6. プレゼンテーション準備2
将来構想を考える 中間のまとめ
7. プレゼンテーション準備1
8. プレゼンテーション準備2
9. プレゼンテーション準備3
10. プレゼンテーションと相互評価 中間のまとめ
11. キャリア思考を高める 働くとは 職業とは
12. 企業探索 キャリアセンターにて
13. 地域の企業訪問（鈴蘭台内）
14. 企業訪問の振り返り
15. まとめと評価

特記事項: なし

授業方法: 担当教員の専門分野を生かした内容も取り入れる。
演習形式を基本として以下のような様々な方法を用いる。
・グループワーク
・ディスカッション、ディベート
・プレゼンテーション
・視覚教材の活用
・スポーツ教育に関する様々な実践的活動

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

・予習・復習の時間
各回の授業につき90分の予習と90分の復習を必要とする。
・予習・復習の内容
予習においては、予定された課題や課題発表の準備を行い、プレゼンテーション等に対応できるようにすること（90分）
復習においては、求められる課題について各種の資料・文献調査に基づいて学修し、レポート等を作成すること。（90分）

評価方法:	**授業へのとりくみ:** 40 **%**	**確認テスト:** － **%**	**レポート:** 30 **%**
	その他1: プレゼンテーション	30 **%**	
	その他2:	**%**	

評価基準: 「最低限の到達度(60～69点)」
上記の「達成目標」を、その実用性・学術性において、基本的なレベルで達成できている。
1. エビデンスとして最低限必要な情報が収集・整理されており、自分の言葉と引用を区別した問題提起の文章が書けている。
2. 自身の意見を表明し、他者の意見を聞くとともにそれに応答することができ、基本的な意思疎通を可能とするコミュニケーションができている。
3. 公的な場において、自分の意思を整然と伝え主張することができている。

「望ましい到達度(80～100点)」
上記の「達成目標」を、その実用性・学術性において、客観的な説得力を持つレベルで達成できている。
1. 十分なエビデンスと豊かな内容のある情報の収集・整理ができており、明確な問題意識と論理的な整合性がある文章表現ができている。
2. 客観的なエビデンスを踏まえ自身の意見を表明し、異質な他者の意見に対してその関係を踏まえ応答することができ、明晰判明な意思疎通を可能とするコミュニケーションができている。
3. 公的な場において、客観的なエビデンスを踏まえ自分の意思の意見を明確な根拠づけとその展開をもって主張することができている。

課題へのフィードバック:

課題への対応に対しては、授業のできだけ早い機会にその秀逸な論点、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、以後の学習に役立つよう配慮する。

教科書: 吉原/間渕/富江/小針 新版『スタディスキルズ・トレーニング 大学で学ぶための25のスキル』 実教出版
(※1年次の教科書を引き続き使用する)

参考書: 授業中に必要に応じて指示する。また、参考資料を適宜配布する。

授業・準備学習のアドバイス:

卒業研究の専門分野の確立に向けて、スポーツ教育に関するものの見方・考え方を深め・広げるとともに、基礎的なスキルとマナーを身につける。
具体的には、自分自身の経験や感じ方を唯一の拠り所にする態度(経験主義)から脱却するため、異質の先人・隣人と積極的に対話する。
対面授業特に演習形式の授業は、異質の他者との対話のための時空間に他ならない。積極的・主体的な授業への参加を切に願う。

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: スポーツ教育学専門演習Ⅰ

クラス:

授業コード: BE10300001

担当者: 但尾 哲哉 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: スポーツを通して「課題探求力」を育成する。
現在社会は多様な要因によって複雑化が進み多くの課題を生み出している。スポーツを取り囲む環境も例外ではない。そこで、スポーツ(する、見る、支える)活動、自然活動を通して、自らが主体的に動き、課題を発見し、課題を探求する力を身につけることを目的とする。

到達目標: 1. 自然体験のプログラム(トレッキング・マリン活動)を計画し実践します。
2. 保育園児(こども園)のスポーツ指導計画作成し、それに基づき実践指導を行います。
3.「スポーツ協会」や「地域の活性化を支援する団体」「企業」などを訪問します。その中で、社会の課題を探り、課題に向き合う力を養います。
4. 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

1. ガイダンス
・年間計画の作成。ゼミ内での役割決め。
・研究倫理について。

2. 区役所訪問
・区役所の役割を学びます。北区の課題等を聞き取ります。

3. 神戸市北区の課題を整理
・地元の学生として、何ができるかを考える。

4. スポーツ指導Ⅰ
子ども園訪問
・園児の様子を観察
・園児の特性等を先生からヒヤリング
・「園児の運動遊び」の準備

5. スポーツⅡ
「運動遊び」の計画を立案
・基礎資料調査
・指導案の作成

6. スポーツ指導Ⅲ
「運動遊び」ゼミ内で模擬実施
・担当、配置の確認
・指導案の見直し

7. スポーツ指導Ⅳ
「運動遊び」の実施
・大学の体育施設または園にて

8. スポーツ推進委員・婦人会との会談
・スポーツ推進委員・婦人会の業務
・実際の活動について
・スポーツ推進委員会・婦人会の課題
＊会談日程が異なることもあります。

9. 兵庫県スポーツ協会訪問
・スポーツ協会の役割
・スポーツ協会の事業内容
・スポーツ協会の課題

10. 兵庫県スポーツ協会の会談内容を整理
・地元のスポーツ系大学の学生として、何ができるかを考える。

11. 区役所・スポーツ推進委員・婦人会の役割、活動、課題の整理Ⅱ
・地域の課題を探り、地元の学生として課題に取り組む

12. スポーツ実践Ⅰ
・自然活動の基本

・野外教育の定義、意義を考える。
・活動のリスク管理
・菊水山を調べる

13. スポーツ実践Ⅱ
・菊水山トレッキング
・下山後、ネーチャーゲームを通して振り返りを行う。

14. スポーツ指導Ⅲ
・神戸市立体育館 チャレンジサマースクールの準備

15. スポーツ指導Ⅳ 半期の振り返り
・春学期の活動をまとめる

特記事項: ※全15回の授業のうちキャリアセンターからのキャリアガイダンスが1回入るため、授業内容が変更になる場合があります。

授業方法:
1. 演習（授業計画に沿って役割を決定する）
2. フィールドワーク（区役所訪問）
3. グループワーク（2.訪問でのヒヤリングをまとめる）
4. フィールドワーク（子ども園訪問）
5. グループワーク（「運動遊び」の計画準備）
6. 演習（「運動遊び」模擬実施）
7. 実習（子ども園児への指導）
8. フィールドワーク（スポーツ推進委員との面談）
9. フィールドワーク（婦人会との面談）
10. グループワーク（区役所、スポーツ推進委員会、婦人会の役割、活動、課題を整理）
11. グループワーク（10.を受けて、地元学生としてできることを整理。子ども園での活動を振り返る）
12. 講義（野外活動の定義と意義 活動のリスク管理、菊水山とは）
13. 実習（菊水山トレッキング、ネイーチャーゲーム）
14. グループワーク（チャレンジサマースポーツの準備）
15. 春学期のまとめ
＊全てを対面で行う

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1回 シラバスの確認とスポーツに関する時事問題を一つ調べておく。（120分）
2回 質問内容の準備、訪問記録をまとめる
3回 課題の整理
4回 ①スキャモンの発育発達曲線を理解しておく。②子どもの年齢別運動特性について調べておく。（360分）
5回 マネジメントの意味と計画たてることの意義を確認しておく。（180分）
6～7回 ①運動計画のたて方について。②園児に適した言葉がけについての確認をしておく③スポーツ計画の見直し④ボール運動の有意性について理解をしておく⑤ボール運動のリスクについて確認しておく。（900分）
8回 スポーツ推進委員 質問内容の準備、会談の記録をまとめる（180分）
9回 婦人会 質問内容の準備、会談の記録をまとめる（180分）
10回 区役所、スポーツ推進委員、婦人会の役割、活動、課題の記録を整理（360分）
11回 何ができるかを考えておく（180分）
12回 ①野外教育の目的についてまとめておく。②野外活動のリスクマネジメントについて調べておく。（360分）
13回 日頃より1日1時間のウォーキングを実施、その体調を管理しておく（240分）
14回 ①社会体育の概念をまとめておく。②チャレンジスポーツの計画案を各自作成。（360分）
15回 ゼミでの活動をまとめておく。（180分）

以上を予習および授業外時間での学習とする

評価方法:

授業へのとりくみ:	40 **%**	**確認テスト:**	10 **%**	**レポート:**	20 **%**
その他1:	ポジティブポイント、ネガティブポイント		30 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: （60-69点）発育発達に合わせた運動指導の必要性を理解している。 区役所業務の理解。
（70-79点）リスク管理も含めた運動指導計画の作成と運動指導が行える。 行政との連携活動を理解する。
（80-100点）リスク管理を含めた運動指導計画の作成と、効果的な指導を行えるように工夫した指導ができる。 地域の課題に取り組む資質を身につける。

課題へのフィードバック:

課題については、授業内で点検を行い口頭でフィードバックを行う。

教科書: なし

参考書: なし
ただし、必要な資料は適宜配布する。

授業・準備学習のアドバイス：

作業が多くなります。自らのタイムマネジメントを大切に。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: スポーツ教育学専門演習Ⅰ

クラス:

授業コード: BE10300002

担当者: 葦原 摩耶子 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 私たちを取り巻く現代社会は、生活の利便化による運動不足と飽食の時代を迎えたことによるエネルギー過多により、様々な健康問題を抱えています。加えて、ストレスの増大も問題視されており、これらの課題解決には運動・スポーツが大きな役割を果たすと考えられています。本講義では、人間とスポーツを取り巻く様々な事象を心理学的視点から考え、私たちの生活の中に運動・スポーツを生かす方法を探ります。

到達目標: スポーツ心理学の基礎知識を理解することができる。
実験や調査の実施方法とその結果のまとめかたなど、心理学の研究方法の基礎を身につけることができる。
本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション、研究倫理について
2. スポーツ心理学の歴史
3. スポーツ心理学の研究方法
4. 運動が心身の健康に与える恩恵
5. 運動が心の健康に影響を与えるメカニズム
6. 実験1「運動の心理的効果」の準備
7. 実験1「運動の心理的効果」の実施
8. 実験1「運動の心理的効果」の分析
9. 実験結果のまとめかた
10. 運動・スポーツ実施に影響する要因
11. 調査1「運動習慣の決定因」の準備
12. 調査1「運動習慣の決定因」の実施
13. 調査1「運動習慣の決定因」の分析
14. 調査結果のまとめ方
15. 学科共通プログラム

特記事項: ※全15回の授業のうちキャリアセンターからのキャリアガイダンスが1回入るため、授業内容が変更になる場合があります。

授業方法: 15回すべて対面で実施する。

1. 演習
2. 演習
3. 演習
4. 演習
5. 演習
6. 演習
7. 演習
8. 演習
9. 演習
10. 演習
11. 演習
12. 演習
13. 演習
14. 演習
15. 演習

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 復習:専門演習で身につけたい力についてまとめる(150分)

2. 復習：スポーツ心理学の歴史についてまとめる（150分）
3. 復習：スポーツ心理学の研究方法について具体例を考える（150分）
4. 復習：運動の心理的効果に関する身近な事例についてまとめる（150分）
5. 復習：運動が心の健康に与えるメカニズムに関して実体験をもとに考察する（150分）
6. 復習：実験1の準備（170分）
7. 復習：実験1のデータ入力（170分）
8. 復習：実験1の分析作業（170分）
9. 課題：実験1のレポートの作成（360分）
10. 復習：自分の運動実施に最も影響する要因についてまとめる（150分）
11. 復習：調査1の質問紙作成（170分）
12. 復習：調査1のデータ入力（170分）
13. 復習：調査1の分析作業（170分）
14. 課題：調査1のレポートの作成（360分）
15. 復習：春学期に学んだ内容について振り返りを行う（60分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	60 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	40 **%**
その他1：			**%**		
その他2：			**%**		

評価基準： 課題レポートの評価基準
最低限度の到達度（60～69点）：基本的な実験・調査レポートの書き方を踏まえて作成されている。
望ましい到達度（80～100点）：データに基いた考察がなされ，本文全体が十分に推敲されている。

課題へのフィードバック：
課題レポートについては添削し返却する。

教科書： なし。適宜資料を配布する。

参考書： なし。必要に応じて講義内で紹介する。

授業・準備学習のアドバイス：
実験のまとめ方など初めてのこともあるかと思いますが、積極的に質問をするなどしてスポーツ心理学研究の基礎を身につけましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: スポーツ教育学専門演習Ⅰ

クラス:

授業コード: BE10300003

担当者: 祐末 ひとみ　　**単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 地域の課題やニーズを理解し、それをふまえたイベントの企画・運営を地域スポーツクラブなどと連携して実践していきます。チームで1つのプロジェクトを進める中で、コミュニケーション能力、時間管理術、企画力、調整力、情報発信力などのマネジメントスキルの修得を目指す。1年間の地域スポーツ実践を通して4年間の集大成となる卒業論文に繋がる関心事象やテーマを模索する。

到達目標:
1. イベント実施に向けた事業計画書の作成スキルの獲得、実施ができる
(先行事例調査、地域スポーツクラブでのヒアリング、グループディスカッションを通じて、アイディア出しと整理を通じて実施します。)
2. イベントの実施ノウハウの修得することができる
(地域スポーツクラブとの共同でのイベントを実施し、必要なノウハウを身につけます。)
3. イベントの評価手法を理解することができる
(成果と課題をまとめ、改善提案書を作成します。)
4. プレゼンテーションスキルの獲得を獲得することができる
(事業実施報告プレゼンテーションを通じて身につけていきます。)
5. 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる

各回の授業計画:

1. オリエンテーション:演習のねらい、概要、スケジュール確認
2. イベント企画策定に向けて:イベント企画の策定(事業計画書作成まで)の手順と方法を理解
3. イベント事例調査報告①:各自調査をおこなったイベント事例の報告に対して議論し、イベント実施の報告制を検討
4. イベント事例調査報告②:各自調査をおこなったイベント事例の報告に対して議論し、イベント実施の報告制を検討
5. 地域スポーツクラブへのヒアリング調査準備①:ヒアリングの対象、内容、スケジュールを議論を通じて理解、決定
6. 地域スポーツクラブへのヒアリング調査準備②:ヒアリングの対象、内容、スケジュールを議論を通じて理解、決定
7. ヒアリング調査報告:地域スポーツクラブでのヒアリング調査について各自報告し、内容をまとめる
8. イベント企画の策定①:イベント事例調査報告、ヒアリング調査報告を踏まえて、企画案の策定に向けて議論を通して決定
9. イベント企画の策定②:イベント事例調査報告、ヒアリング調査報告を踏まえて、企画案の策定に向けて議論を通して決定
10. 地域スポーツクラブでのイベント企画の提案:地域スポーツクラブへ訪問し、イベント共同開催の提案
11. イベント運営準備①:イベント実施に向けて準備
12. イベント運営準備②:イベント実施に向けて準備
13. イベント運営準備③:イベント実施に向けて準備
14. イベント実施:地域スポーツクラブと共同でのイベントを実施
15. まとめと総括:イベント実施による成果と課題を踏まえ、改善プランを検討

特記事項: ※全15回の授業のうちキャリアセンターからのキャリアガイダンスが1回入るため、授業内容が変更になる場合があります。

授業方法: 1~15 ディスカッション・プレゼンテーション・講義等 (対面)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

以下の通り予習・復習を行ってください。
【予習】
地域スポーツやスポーツマネジメントに関連する事象やトピックに関して事前に調べ、理解する。各回の授業内容に関連するメディア情報(新聞記事やニュース等)を収集する(各回100分)
【復習】
次の授業がスムーズに進んでいくことへの準備。進めた内容の整理やチーム内でのコミュニケーションを図り、現状の共通認識を実施する(各回80分)

評価方法: **授業へのとりくみ:** 60 **%** **確認テスト:** － **%** **レポート:** 40 **%**

その他1：	**%**
その他2：	**%**

評価基準： 最低限度の到達度（60～69点）：ディスカッションで積極的に意見を述べている。他者の意見をさえぎらず、最後まで耳を傾けている。
望ましい到達度（80～100点）：自らの学びに留まらず、仲間の成長や特徴を活かせる空間を作れている。

課題へのフィードバック：

授業ごとに講評する

教科書： なし

参考書： 必要に応じて紹介します。

授業・準備学習のアドバイス：

広い視野から自らの興味や関心に向き合うように努めてください。そして、ゼミ生同士がお互いの興味や関心を共有できるような温かみのある人間関係を築いていきましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: スポーツ教育学専門演習Ⅰ

クラス:

授業コード: BE10300004

担当者: 椿 武 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: スポーツ科学の基礎知識を基に、興味・関心のあるスポーツ・運動を自然科学的な観点から理解する。また、学んだ理論を現場へ活かすスキルを学び、スポーツ教育へ応用させる実践力を身に付ける。

到達目標:
1. スポーツ科学に関する知識を深め、様々なスポーツを多角的な側面から理解する
2. 論文検索や資料の収集方法を身に付ける
3. プレゼンテーションを行い、伝える能力や資料の作成方法を身に付ける
4. 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション、授業概要の説明、研究倫理について
2. 研究紹介・論文抄読①
3. 研究紹介・論文抄読②
4. 研究紹介・論文抄読③
5. 研究紹介・論文抄読④
6. 測定・評価方法①（測定機器の使用・分析方法）
7. 測定・評価方法②（測定機器の使用・分析方法）
8. 測定・評価方法③（測定機器の使用・分析方法）
9. 研究の進め方（文献検索・収集方法）
10. 資料・文献収集
11. プレゼンテーション準備①（プレゼンテーション資料の作成）
12. プレゼンテーション準備②（プレゼンテーション資料の作成）
13. 論文のプレゼンテーション①（発表・質疑応答）
14. 論文のプレゼンテーション②（発表・質疑応答）
15. まとめ（興味をもった研究テーマについて発表を行う）

特記事項: ※全15回の授業のうちキャリアセンターからのキャリアガイダンスが1回入るため、授業内容が変更になる場合があります。

授業方法: 【全て対面で実施】
1. 講義
2. 講義、プレゼンテーション
3. 講義、プレゼンテーション
4. 講義、プレゼンテーション
5. 講義、プレゼンテーション
6. 講義、グループワーク
7. 講義、グループワーク
8. 講義、グループワーク
9. 講義
10. グループワーク
11. グループワーク
12. グループワーク
13. プレゼンテーション
14. プレゼンテーション
15. 講義、プレゼンテーション

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

予習（第1回目）

2年次までに学んだ、スポーツ生理学、体力測定評価、ジュニアトレーニング論、スポーツバイオメカニクス、健康運動実践等の学習内容を十分に復習しておいてください。予習（180分）

復習（第2回～第5回）
授業内で紹介された研究論文に関連した論文を調査し、整理しまとめる。毎回予習（90分）、復習（90分）

復習（第6回～第8回）
授業内で学んだ測定機器の使用方法・分析方法について整理しまとめる。毎回予習（90分）、復習（90分）

予習（第10回～第14回）
文献収集、プレゼンテーション準備毎回予習（90分）、復習（90分）

復習（第15回：全体を通して）
授業内で紹介された研究論文で紹介されたキーワードや研究方法に関して、整理しまとめる。復習（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	50 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	20 **%**
その他1：	プレゼンテーション		30 **%**		
その他2：			**%**		

評価基準： 最低限度の到達度（60～69点）：ゼミに積極的に参加し、発言や質問をすることができる。レポートでは、自分の考えを述べることが出来る。

望ましい到達度（80～100点）：他のゼミ生の発表・発言に対して適切な助言、考えを述べることができる。レポートでは、レファレンス資料を用いながら自らの考えを述べ、問題提起ができる。

課題へのフィードバック：

試験・レポートのフィードバックは、授業時間を通してアナウンスを行い、オフィスアワーを用いて適宜行っていく。

教科書： NSCA決定版 ストレングストレーニング＆コンディショニング

参考書： なし。必要に応じて資料を配布します。

授業・準備学習のアドバイス：

興味のあるテーマは、授業計画から逸脱しない範囲で取り上げていきますので、積極的に意見を出してください。
また、ゼミでは学生間のディスカッションを中心に展開していきますので、常に探求心を持って授業に取り組んで下さい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: スポーツ教育学専門演習Ⅰ

クラス:

授業コード: BE10300005

担当者: 中瀬古 哲 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: スポーツ教育実践(教授－学習活動)を、研究の題材・対象とする／実践する際に求められる基本的なものの見方・考え方、並びに、研究／実践のための知識・技能とマナーの基礎を学ぶ。

到達目標:
1. 体育・スポーツ教育実践(教授－学習活動)を研究する際の基礎的知識と態度を身につける。
2. 論理的にものごとを考え・表現できるようになる。
3. 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション スポーツ教育実践(教授－学習活動)に関する現時点の意識を確認・交流するとともと授業のねらいを理解する。研究倫理について。
2. 教育実践研究の成果としての典型教材の追体験① －器械運動トータル学習プラン(ねこちゃん体操他)
3. 教育実践研究の成果としての典型教材の追体験② －器械運動トータル学習プラン(側転スモールステップ)
4. 教育実践研究の成果としての典型教材の追体験③ －ゴール型球技学習「2:0」学習理論
5. 教授－学習活動の基礎理論① －論理的構造と実態的構造
6. 教授－学習活動の基礎理論② －陶冶と訓育、統一と分化
7. 教授－学習プログラム作成の基礎理論① －活動理論、課題の階層的秩序
8. 教授－学習プログラム作成の基礎理論② －フィードバック情報の量と質
9. 教授－学習プログラム(案)作成(Plan) －学習後の子どもの姿を具体的に描く！
10. 教授－学習プログラム(案)実行(Do) －動きの事実、学びの中身を評価する
11. 教授－学習プログラム(案)修正(Check-Action)① －「何のために」「何を」を見つめ直す
12. 教授－学習プログラム(案)修正(Plan)② －子どもの能動性を引き出すための「ことば」と「しかけ」
13. 実験的実践(教授－学習活動)の実行(Do) －学びの主人公は子ども
14. 実験的実践(教授－学習活動)の評価 －子どもは何を学んだのか
15. まとめと評価

特記事項: ※全15回の授業のうちキャリアセンターからのキャリアガイダンスが1回入るため、授業内容が変更になる場合があります。

授業方法:
1. 講義、グループワーク （ ※以下すべて対面授業）
2. 実技実習、グループワーク
3. 実技実習、グループワーク
4. 実技実習、グループワーク
5. 講義、グループワーク
6. 講義、グループワーク
7. 講義、グループワーク
8. 講義、グループワーク
9. グループワーク
10. 実習
11. グループワーク
12. グループワーク
13. 実習
14. 発表、討論、総括
15. 総括討論

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 予習:スポーツ教育実践に関わる既知の整理(180分)
2. 予習・宿題:自身の器械運動の体育授業経験を対象化(90分)。復習:体育授業実践に関わる既知の再整理(90分)

3. 予習・宿題:自身の器械運動の体育授業経験を対象化(90分)。復習:体育授業実践に関わる既知の再整理(90分)
4. 予習・宿題:自身の球技運動の体育授業経験を対象化(90分)。復習:体育授業実践に関わる既知の再整理(90分)
5. 予習・宿題・これまでの授業で学んだ教育学の知見を整理する(90分)。復習:体育授業実践に関わる既知の再整理(90分)
6. 予習・宿題:これまでの授業で学んだ教育学の知見を整理する(90分)。復習:体育授業実践に関わる既知の再整理(90分)
7. 予習・宿題:これまでの授業で学んだ指導案づくりの知見を整理する(90分)。復習:体育授業づくりの課題を再整理(90分)
8. 予習・宿題:これまでの授業で学んだ指導案づくりの知見を整理する(90分)。復習:体育授業づくりの課題を再整理(90分)
9. 予習・宿題:プログラム作成に必要な情報の収集(90分)。復習:作成したプログラムの理解を深める(90分)
10. 予習・宿題:作成したプログラムの指導言を暗記する(180分)。復習:実習での気づきを文章化しそこでの課題を整理する(90分)。
11. 予習・宿題:実習での気づきをを文章化しそこでの課題を整理する(90分)。復習:他者の意見を踏まえ修正すべき部分を再確認する(180分)
12. 予習・宿題・修正のために必要な情報の収集(180分)。復習:修正の趣旨と内容とのズレについて分析・考察する(文章化・180分)
13. 予習・宿題:修正プログラム案の理解を深める(90分)。復習:実験的実践での気づきをを文章化しそこでの課題を整理する(90分)。
14. 予習・宿題:実験的実践で感じたこと、分析・したこと考察したこと、今後の課題を整理する(180分)。復習:研究倫理につてを整理する(90分)。
15. 予習・宿題・復習:1.～14.の授業をふり返り、プログラム案を再再構築する(文章化・180分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	20 **%**	**レポート:**	30 **%**		
その他1:	実験的実践場面での任務遂行・リーダーシップ	20 **%**					
その他2:		**%**					

評価基準:

【最低限の到達度(60～69点)】:体育の教授一学習活に関する基礎的知識の説明ができ、それを踏まえてプログラムを作成・遂行することができる。
・授業への取り組み:グループワーク・実習に積極的に参加している。
・レポート:課題を把握し、自身の経験と照らし合わせて考察できている。

【望ましい到達度(80～100点)】:体育の教授一学習活に関する基礎的知識を詳しく説明ができ、それを踏まえて効果的なプログラムを作成し子どもの実態を踏まえ臨機応変に遂行することができる。
・授業への取り組み:グループワーク・実習を積極的にリードしている。
・レポート:課題と自身の経験を往還させ、課題を発展的に展開することができる。

課題へのフィードバック:

・課題へのフィードバックは、即時にでくるものはすぐにその場(授業時間内)において行う。
・Teamsの課題については、返却時に行う。
・レポートについては添削の上返却する。
・試験の場合は、評価点と評価の理由を学生に伝える(個別／全体)。

教科書: 学校体育研究同志会 編(2024)新版 スポーツの主人公を育てる体育・保健の授業づくりー指導案の基本とプラン集ー 創文企画

参考書:
中村敏雄著「体育実践の見かた・考えかた」大修館書店, 1983年
小林篤著「すぐれた体育の実践に学ぶ」明治図書, 1988年
井下千以子「レポート・論文作成法」慶応義塾大学出版, 2013年
佐藤健二「論文の書き方」弘文堂, 2014年

授業・準備学習のアドバイス:

自分自身のからだ、共に学ぶ仲間、目の前の子ども、との対話を大切に！

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: スポーツ教育学専門演習Ⅰ

クラス:

授業コード: BE10300006

担当者: 松田 雅彦 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的:
1. ひろくスポーツに関する課題について理解する。
2. 学校や地域におけるスポーツ教育に関する問題について議論を通して理解する。
3. 論理的思考、批判的思考、プレゼンテション能力を身につける。
4. 研究に関する基本的知識を身につける。

到達目標:
1. 生涯スポーツの概念やスポーツの本質について理解する。
2. 学校や地域におけるスポーツに関する課題について理解する。
3. スポーツに関するトピックに関して議論することで論理的思考、批判的思考、プレゼンテーション能力を身につける。
4. 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション、授業の概要について、研究倫理について【対面による】
2. スポーツに関するトピックに関するディスカッション①【対面による】
3. スポーツに関するトピックに関するディスカッション②【対面による】
4. スポーツに関するトピックに関するディスカッション③【対面による】
5. スポーツに関するトピックに関するディスカッション④【対面による】
6. 学校と地域のスポーツの関係 学校カリキュラムと地域スポーツ【対面による】
7. 学校におけるスポーツ指導(体育授業含む)の現状と課題①【対面による】
8. 学校におけるスポーツ指導(体育授業含む)の現状と課題②【対面による】
9. 学校におけるスポーツ指導(体育授業含む)の現状と課題③【対面による】
10. 学校におけるスポーツ指導(体育授業含む)の現状と課題④【対面による】
11. 部活動における現状と課題【対面による】
12. 地域スポーツクラブの現状と課題【対面による】
13. スポーツにみる課題の整理【対面による】
14. スポーツに関する課題の整理と解決への道筋【対面による】
15. まとめ・全体を通してのふりかえり(課題の共有)【対面による】

特記事項: ※全15回の授業のうちキャリアセンターからのキャリアガイダンスが1回入るため、授業内容が変更になる場合があります。

授業方法: 講義、演習、ディスカッション、プレゼンテーション

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1-5:提示されたトピックに関して基本事項を調べて理解する(各時間毎180分)
6-10:予習・宿題:次時のテーマに関する自己の意見をまとめる(各時間毎90分)、復習:議論に関する自己の意見をまとめる(各時間毎90分)
11-12:提示されたトピックに関して基本事項を調べて理解する(各時間毎180分)
13-14:日本におけるスポーツの課題に関して背景をもとに整理する(各時間毎180分)
15:自分なりの課題意識についてまとめる(180分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	70	**%**	**確認テスト:**	－	**%**	**レポート:**	30 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: 【最低限度の到達度(60-69点)】
①学校スポーツと地域スポーツの特徴について理解する。

②体育授業や学校スポーツに関する課題について理解し、説明することができる。
【望ましい到達度（80-100点）】
①学校スポーツと地域スポーツの特徴について理解し、その課題に関して背景をもとに説明することができる。
②学校及び地域のスポーツ・システムについて理解している。
③学校及地域スポーツにおける課題解決の在り方について自己の意見を持ち、他者に説明することができる。

課題へのフィードバック：

授業中に口頭及び映像等で対応

教科書： 文部科学省『小学校学習指導要領解説 体育編』東山書房（平成29年7月）
文部科学省『中学校学習指導要領解説 保健体育編』東山書房（平成29年7月）
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編』（平成30年7月）
島崎仁『スポーツに遊ぶ社会に向けて』（平成10年7月）

参考書： 特にない。必要に応じ資料を配付する。

授業・準備学習のアドバイス：

①自己の当たり前にとらわれずに考えましょう。
②自分の意見を大切にしましょう。
③ディスカッションでは、恥ずかしがらず積極的に発言しましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: スポーツ教育学専門演習Ⅰ

クラス:

授業コード: BE10300007

担当者: 杉山 真人 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 日常生活から競技スポーツに至るまでわれわれは身体運動を伴いながら生活しています。この身体運動を適切に遂行するためには、体力・技術はもちろんのこと、心理的な側面の働きが深く関係しています。そこで、本講義では心理的な要因が身体運動にどのように影響しているかについて考え、スポーツを含めた日常の環境の場で必要とされる心理的な要因を理解していきます。

到達目標: 運動・スポーツの心理学に関する基礎的知識を習得する。
本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション、研究倫理について
2. 実力発揮と「こころ」のかかわり
3. ピークパフォーマンスの運動学習からの検討
4. 実力発揮を阻害する要因
5. スポーツにおける動機づけ
6. スポーツと知覚・認知
7. スポーツとパーソナリティ
8. スポーツと運動制御
9. 情報処理的アプローチ
10. 運動学習理論
11. 運動スキルの学習過程
12. 運動学習と情報
13. フィードバック情報の効果
14. スポーツと練習スケジュール
15. まとめと振り返り

特記事項: ※全15回の授業のうちキャリアセンターからのキャリアガイダンスが1回入るため、授業内容が変更になる場合があります。

授業方法:
1. 講義
2. 講義，ディベート
3. 講義，ディベート
4. 講義，ディベート
5. 講義，ディベート
6. 講義，ディベート
7. 講義，ディベート
8. 講義，ディベート
9. 講義，ディベート
10. 講義，ディベート
11. 講義，ディベート
12. 講義，ディベート
13. 講義，ディベート
14. 講義，ディベート
15. 講義，ディベート

※全て対面で行います

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. ゼミの活動内容について確認しておく（180分）
2. スポーツにおける心理的側面の重要性について振り返る（180分）
3. 運動の学習について振り返る（180分）

4. 実力発揮を阻害する心理的要因について振り返る(180分)
5. スポーツにおける動機づけについて振り返る(180分)
6. スポーツにおける知覚と認知の働きについて振り返る(180分)
7. スポーツにおけるパーソナリティの影響について振り返る(180分)
8. スポーツにおける運動制御について振り返る(180分)
9. アスリートの情報処理について振り返る(180分)
10. 運動学習の理論的背景について振り返る(180分)
11. 運動の学習プロセスと実践場面との関わりについて振り返る(180分)
12. 運動の学習における情報の重要性について振り返る(180分)
13. 学習や制御におけるフィードバック情報の重要性について振り返る(180分)
14. 練習スケジュールから見たスポーツの学習について振り返る(180分)
15. これまでの学びについて振り返る(180分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	60	**%**	**確認テスト:**	-	**%**	**レポート:**	40 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: 最低限度の到達度(60～69点):体育・スポーツやその他関連領域における基本的知識を身に着けている
望ましい到達度(80～100点):スポーツ心理学における専門的知識を実際のスポーツ場面と関連付けて思考することができる

課題へのフィードバック:

小レポートや小テストについては採点後講評する。

教科書: なし

参考書: 必要に応じて配布します

授業・準備学習のアドバイス:

興味のあるテーマがあれば，授業計画から逸脱しない範囲で取り上げていきたいと思いますので積極的に意見を出してください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: スポーツ教育学専門演習Ⅰ

クラス:

授業コード: BE10300008

担当者: 宮辻 和貴 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: スポーツ科学(スポーツバイオメカニクスの基礎知識や手法)領域において、様々なスポーツ活動(競技スポーツ・生涯スポーツ・パラスポーツ等)を通じて健康の維持・増進のために必要な体力づくりや、競技力・運動能力の向上などに活かす方法(実験・調査)などを学ぶとともに理解を深める。

到達目標:
1. 運動やスポーツに関して、科学的な視点を身に付ける。
2. 論文(文献検索や文献収集)の読み方やレポート作成の方法を身に付ける。
3. 自身が興味・関心を持つテーマを選んだうえで論文抄読(発表)を行い、プレゼンテーション能力を養う。
4. 課外活動(学内イベント活動・地域イベント活動・ボランティア活動など)へ参加することにより、協力的・協同的な実践力を養う。
5. 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション(※ ゼミの授業概要の説明など)および研究倫理について
2. 研究紹介①(卒業論文)
3. 研究紹介②(修士論文)
4. 学習計画の設定①(ゼミテーマ、課外活動への参加等)
5. 学習計画の設定②(ゼミテーマ、課外活動への参加等)
6. 学習計画の設定③(ゼミテーマ、課外活動への参加等)
7. スポーツ科学の手法を学ぶ①(測定機器の使用方法・分析方法等)
8. スポーツ科学の手法を学ぶ②(測定機器の使用方法・分析方法等)
9. 研究の進め方を学ぶ(テーマ、文献検索、文献収集の方法を学ぶ等)
10. 論文抄読の方法を学ぶ(資料整理、レジュメ作成等)
11. 論文抄読の準備①(プレゼンテーション用資料の作成等)
12. 論文抄読の準備②(プレゼンテーション用資料の作成等)
13. 論文抄読①(個別発表、ディスカッション)
14. 論文抄読②(個別発表、ディスカッション、総評)
15. まとめ(春学期の振り返り等)

特記事項: ※ 全15回の授業の内、キャリアセンターからのキャリアガイダンスが1回入るため、授業内容が変更になる場合があります。

授業方法: 『第1回目～第15回目:演習(対面)』
1. 演習、グループワーク
2. 演習、ディスカッション
3. 演習、ディスカッション
4. 演習、グループワーク、ディスカッション
5. 演習、グループワーク、ディスカッション
6. 演習、グループワーク、ディスカッション
7. 演習、グループワーク
8. 演習、グループワーク
9. 演習、グループワーク
10. 演習、グループワーク
11. 演習、グループワーク、プレゼンテーション
12. 演習、グループワーク、プレゼンテーション
13. 演習、発表、ディスカッション
14. 演習、発表、ディスカッション
15. 演習

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1： 健康・スポーツ科学分野における研究の基礎知識①に関する予習（120分）
2：本日の復習（90分）
健康・スポーツ科学分野における研究の基礎知識②に関する予習（120分）
3：本日の復習（90分）
学習計画の設定①（1年間のゼミテーマ）に対する予習（120分）
4：本日の復習（90分）
学習計画の設定②（1年間の課外活動への参加など）に対する予習（105分）
5：本日の復習（90分）
学習計画の設定③（1年間の課外活動への参加など）に対する予習（105分）
6：本日の復習（90分）
スポーツ科学の手法①（カメラ撮影など）について調べる（予習；90分）
7：本日の復習（90分）
スポーツ科学の手法②（動作分析・解析など）について調べる（予習；90分）
8：本日の復習（60分）
研究の進め方（研究の着想、文献検索・収集の方法など）について調べる（予習；120分）
9：本日の復習（60分）
論文抄読の方法（資料整理・レジュメ作成など）について調べる（予習；120分）
10：本日の復習（60分）
論文抄読に向けた各自興味のある論文について調べる（宿題；120分）
11：本日の復習（30分）
論文抄読に向けたプレゼンテーション用資料の準備（宿題；150分）
12：本日の復習（30分）
個別発表に向けた論文抄読用の資料の準備①（宿題；150分）
13：本日の復習（30分）
個別発表に向けた論文抄読用の資料の準備②（宿題；150分）
14：本日の復習（90分）
夏季休業中に取り組む個別目標の発表に向けた計画（宿題；120分）
15：春学期のゼミにおける個人・全体総括（復習；120分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	70	**%**	**確認テスト：**	－	**%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	ゼミ発表			20	**%**		
その他2：	ゼミレポート			10	**%**		

評価基準：

「評価方法」の1～3について、以下の基準を満たすことが求められます。
1. 授業へのとりくみ（授業態度、関心・意欲、発表など）
・毎回のゼミに対して、基本的な関わり（研究活動や課外活動などを学ぶ姿勢および関心・意欲など）によりゼミ参加がなされている（60～69点）
・毎回のゼミに対して、自ら積極的に関わり（研究活動や課外活動などを学ぶ姿勢および関心・意欲など）を持ちながらゼミ活動に参加し、進んで研究活動や課外活動等の取り組みがなされている（80～100点）

2. ゼミ発表
・各自で選択した興味のあるテーマの論文抄読内容がまとめられており、プレゼンテーション用とレジュメ用の資料が作成されている（60～69点）
・各自で選択した興味のあるテーマの論文抄読内容が相手に伝わるようにまとめられており、自身の考えや表現が含まれたプレゼンテーション用とレジュメ用の資料が作成されている（80～100点）

3. ゼミレポート
・レポートの基本的な形式が整えられており、レポート課題に対する論述（自身の考えや表現）がなされている（60～69点）
・レポートの基本的な形式が整えられており、レポート課題に対する論述（自身の考えや表現）がなされつつ、読み手に伝わるように作成されている（80～100点）

課題へのフィードバック：

・ゼミの進行状況により、各ポイントで適宜フィードバックを実施する。
・ゼミ発表については、発表後に毎回のゼミ内で講評する。
・ゼミレポートについては、採点後に次回のゼミ内で講評する。

教科書： ・特になし

参考書： ・発想スポーツ科学への招待 楽しい物づくりと研究 金子公宥著 杏林書院
・ゼミ内で必要に応じて、適宜資料（PDF形式・Teams）を配布する。

授業・準備学習のアドバイス：

○ 教員との対話や諮問を通じ、ゼミを展開していきます。単に与えられたものを頭に詰め込むのではなく、自らが主体的に探究心をもって学び・考え・活用できるよう「知識を知恵」にすることを目指す姿勢を身に付けてください。

☆ 各回のゼミを欠席しないように、一緒に頑張っていきましょう。
※ 各自、PDF形式にて配布された資料については、PCを活用しながら学習を進めることが望ましい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: スポーツ教育学専門演習Ⅰ

クラス:

授業コード: BE10300009

担当者: 久永 将太 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 学校体育に関する様々な事象に興味を持ち、幅広い視点から物事を捉え、専門分野の枠を超えて主体的に学び、さらに新しい価値を創造しながら「課題の発見」とそれを「解決する力」を身に付ける。

到達目標: ①学校体育に関する様々な事象に興味を持ち、幅広い知識や思考を習得している。
②本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション、研究倫理について
2. 器械運動(マット運動)の教材研究、及びディスカッション
3. 器械運動(跳び箱運動)の教材研究、及びディスカッション
4. 器械運動(鉄棒運動)の教材研究、及びディスカッション
5. 体つくり運動(体ほぐし)の教材研究、及びディスカッション
6. 体つくり運動(コーディネーション運動)の教材研究、及びディスカッション
7. 体つくり運動(なわとび運動)の教材研究、及びディスカッション
8. インクルーシブ教育の教材研究、及びディスカッション
9. ユニバーサルスポーツの教材研究、及びディスカッション
10. 野外スポーツ(健康増進)の教材研究、及びディスカッション
11. 体育・ウェルネスとの新たな関わり方について
12. 資料・文献収集
13. 学術論文の読み方
14. 学術論文の発表、及びディスカッション
15. まとめと振り返り

特記事項: ※ 全15回の授業のうちキャリアセンターからのキャリアガイダンスが1回入るため、授業内容が変更になる場合があります。

授業方法: すべての授業を対面授業で行う。
1. 講義
2. 講義、演習、討論
3. 講義、演習、討論
4. 講義、演習、討論
5. 講義、演習、討論
6. 講義、演習、討論
7. 講義、演習、討論
8. 講義、演習、討論
9. 講義、演習、討論
10. 講義、演習、討論
11. 講義、演習、討論
12. 講義、演習
13. 講義、演習
14. プレゼンテーション
15. 講義、グループワーク

予習・復習・宿題など(内容・時間):

【1回～11回】
予習:各回の運動教材に関して事前に調べ理解する(各回90分)
復習:興味を持った運動教材に関して詳細に調べ理解を深める(各回90分)

【12回～15回】
予習：各回の授業内容に関して事前に調べ理解する（各回90分）
復習：興味を持った資料や論文に関して詳細に調べ理解を深める（各回90分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	70	**%**	**確認テスト：**	－	**%**	**レポート：**	30 **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準：
最低限度の到達度（60～69点）；
学校体育に関する様々な事象に興味を持ち、発表・発言内容がまとめられている。

望ましい到達度（80～100点）；
学校体育に関する様々な事象に興味を持ち、発表・発言内容がまとめられ、さらに何が問題かを考え、解決方法を創出することができる。

課題へのフィードバック：
授業ごとに講評を行う。

教科書： 必要に応じて配布する。

参考書： 必要に応じて配布する。

授業・準備学習のアドバイス：
学生時代は、一生を支配する世界観やライフスキルを樹立する大切な時期でもあります。学校体育の重要性を見つめ直し、将来皆さんが教員や各種指導員等になった際、スポーツを通して幸せをアシストできるよう、学んでいきましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: スポーツ教育学専門演習Ⅰ

クラス:

授業コード: BE10300010

担当者: 山中 裕太 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 卒業研究を実施し、卒業論文を作成するための知識を深め、卒業研究のための予備実験の計画を作成することができる。

到達目標:
1. 関心のある領域や分野を知る
2. 関心のある領域や分野の知識を深める
3. 関心のある領域や分野の研究方法を学ぶ
4. 研究計画を作成できる
5. 予備実験の計画を作成できる
6. 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 論文紹介
3. 論文紹介
4. 論文紹介
5. 論文紹介
6. 論文紹介
7. 論文紹介と研究計画の発表
8. 論文紹介と研究計画の発表
9. 論文紹介と研究計画の発表
10. 論文紹介と研究計画の発表
11. 論文紹介と研究計画の発表
12. 予備実験の計画発表
13. 予備実験の計画発表
14. 予備実験の計画発表
15. 卒業研究に向けた全体計画の発表

特記事項: ※全15回の授業のうちキャリアセンターからのキャリアガイダンスが1回入るため、授業内容が変更になる場合があります。

授業方法: すべての授業を対面授業で行う
この授業は参加者が論文を熟読し、参加者がパワーポイントや資料を作成し、それをもとに内容を説明し、ディスカッションを行う、という流れで授業を行います。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 自身の興味のある領域や分野に関して勉強する(180分)。
2. 自身の興味のある領域や分野に関する論文を検索し、資料を作成する(180分)。
3. 自身の興味のある領域や分野に関する論文を検索し、資料を作成する(180分)。
4. 自身の興味のある領域や分野に関する論文を検索し、資料を作成する(180分)。
5. 自身の興味のある領域や分野に関する論文を検索し、資料を作成する(180分)。
6. 自身の興味のある領域や分野に関する論文を検索し、資料を作成する(180分)。
7. 自身の興味のある領域や分野に関する論文を検索し、資料を作成する(90分)。自身の考える研究計画について資料を作成する(90分)。
8. 自身の興味のある領域や分野に関する論文を検索し、資料を作成する(90分)。自身の考える研究計画について資料を作成する(90分)。
9. 自身の興味のある領域や分野に関する論文を検索し、資料を作成する(90分)。自身の考える研究計画について資料を作成する(90分)。
10. 自身の興味のある領域や分野に関する論文を検索し、資料を作成する(90分)。自身の考える研究計画について資料を作成する(90分)。
11. 自身の興味のある領域や分野に関する論文を検索し、資料を作成する(90分)。自身の考える研究計画について資料を作成する(90

分）。
12. 自身の考える研究計画について資料を作成する（90分）。予備実験の研究計画を作成する（90分）。
13. 自身の考える研究計画について資料を作成する（90分）。予備実験の研究計画を作成する（90分）。
14. 自身の考える研究計画について資料を作成する（90分）。予備実験の研究計画を作成する（90分）。
15. 卒業研究に向けた全体計画の資料を作成する（180分）。

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	30 **%**
その他1：	発表		40 **%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

「最低限の到達度（60～69点）」
1. 自分の関心のある領域や分野を見つけることができる。
2. 自分の関心のある領域や分野に関する研究を相手に伝えることができる。
3. 研究の具体的な計画を立てることができる。

「望ましい到達度（80～100点）」
1. 自分の関心のある領域や分野を見つけ、研究に関する知識を深めることができる。
2. 自分の関心のある領域や分野に関する研究を、相手にわかりやすく（論理的・資料が理解しやすい）伝えることができる。
3. 実現可能性の高い、研究の具体的な計画を立てることができる。

課題へのフィードバック：

論文紹介・研究計画発表・予備実験の計画発表でのディスカッションでフィードバックを行います。

教科書： なし

参考書： 研究の育て方 ゴールとプロセスの「見える化」, 近藤克則.

授業・準備学習のアドバイス：

わからなくても、コツコツと続けることが大切です。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: スポーツ教育学専門演習Ⅰ

クラス:

授業コード: BE10300011

担当者: 有山 篤利 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: スポーツは、特定の集団が創造し継承している認識と実践の体系であり、その時代に共有されている価値観や生活習慣などと相互に関連しながら変容していく身体運動文化である。本ゼミでは、学校体育（教科体育や部活動）や地域のスポーツ活動、武道等にかかわる内容を題材に、時代や社会の動態と深くかかわりながら存在するとしてスポーツ文化を捉え、社会調査を通じてその実相を明らかにしていく。

到達目標: 現代のスポーツ文化を批判的な思考で見つめ、その課題を発見する力を養うとともに、科学的な方法によってその課題解決にせまるための手続きを学修する。
本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション及びガイダンス
2. 学修に向かう姿勢と研究倫理
3. 卒業研究の先行例から学ぶ①
4. 卒業研究の先行例から学ぶ②
5. 社会調査について知る
6. ゼミ合同課題研究：課題の発見と仮説の設定
7. ゼミ合同課題研究：調査の設計
8. ゼミ合同課題研究：調査の実施
9. ゼミ合同課題研究：データの整理
10. ゼミ合同課題研究：統計分析
11. ゼミ合同課題研究：まとめ
12. グループごとの研究：課題の検討
13. グループごとの研究：仮説の検討
14. グループごとの研究：研究計画の構想と発表
15. 春学期の学修の総括と秋学期に向けたガイダンス

特記事項: ※全15回の授業のうちキャリアセンターからのキャリアガイダンスが1回入るため、授業内容が変更になる場合があります。

授業方法: ①すべての授業を対面形式で行う。
②すべての授業について、講義を交えながら学生同士のディスカッションを中心に展開する。

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1～5回目：学修した内容を振り返り、その要点を確認しておく。（180分）
6回目：体育・スポーツの課題に資料を収集しておく（180分）
7回目：学修した社会調査の方法を確認しておく。（180分）
8回目：調査を依頼する。（180分）
9回目：データ整理の方法を確認しておく。（180分）
10回目：統計分析の方法とその意味を確認しておく。（180分）
11回目：結果について自分の考察をまとめておく。（180分）
12～13回目：グループ研究に向けた資料を収集する。（180分）
14回目：発表資料を準備する。（180分）
15回目：これでの学修を総括する。（180分）

評価方法:	**授業へのとりくみ:**	80 **%**	**確認テスト:**	**%**	**レポート:**	20 **%**
	その他1:			**%**		
	その他2:			**%**		

評価基準: 1. 現代のスポーツ文化を批判的な思考で捉えることができる。
2. 現代のスポーツ文化に関する課題を発見することができる。
3. 課題を解決するための社会調査の手続きを構築できる。
4. 得られた結果に対し論理的な解釈ができる。

課題へのフィードバック:

毎授業で提出する学修の総括(コメントシート)で学修状況や質疑を把握し、次回授業において講評する。

教科書: なし

参考書: 必要に応じて配布

授業・準備学習のアドバイス:

クリティカルシンキング(批判的な思考)と知的な好奇心を大切にして欲しいと思います。

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: スポーツ教育学専門演習Ⅰ

クラス:

授業コード: BE10300012

担当者: 三浦 敬太 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: スポーツは、社会環境や社会情勢と相互に影響を及ぼし合う特性を有している。本授業では、現代社会におけるスポーツの役割・機能、文化的・社会的価値、さらにはその課題を多角的に理解することを目的とする。また、スポーツイベントの運営等、実際のスポーツ現場に関わる活動を通じて、実践的な経験を積み、社会で求められる基礎的能力や応用力を養成する。

到達目標:
1. スポーツ社会学分野に関する基礎的な理論および知識を習得する。
2. スポーツに関連するニュースや社会的動向に主体的に接し、現代スポーツをめぐる知見を拡大させる。
3. グループワークを通じて、協働的に課題へ取り組む姿勢を身につけるとともに、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を向上させる。
4. 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 研究紹介:マスターズスポーツ
3. 研究紹介:スポーツボランティア
4. 社会情勢とスポーツ①:現代社会におけるスポーツ関連事象について各自がリサーチ・報告する。
5. 社会情勢とスポーツ②:現代社会におけるスポーツ関連事象について各自がリサーチ・報告する。
6. 社会情勢とスポーツ③:現代社会におけるスポーツ関連事象について各自がリサーチ・報告する。
7. 社会情勢とスポーツ④:現代社会におけるスポーツ関連事象について各自がリサーチ・報告する。
8. 社会課題とスポーツによる解決策①:現代社会における課題に対し、スポーツがどのように貢献し得るかについてディスカッションを行う。
9. 社会課題とスポーツによる解決策②:現代社会における課題に対し、スポーツがどのように貢献し得るかについてディスカッションを行う。
10. 社会課題とスポーツによる解決策③:現代社会における課題に対し、スポーツがどのように貢献し得るかについてディスカッションを行う。
11. 社会課題とスポーツによる解決策④:現代社会における課題に対し、スポーツがどのように貢献し得るかについてディスカッションを行う。
12. イベントマネジメント①:スポーツイベントの種類と体系を学ぶ。
13. イベントマネジメント②:イベントに参画するステークホルダーについて知る。
14. イベントマネジメント③:イベントプロモーションにおける基礎的知識を身につける。
15. まとめ(春学期の振り返り)

特記事項:

授業方法: 演習、グループワーク、ディスカッション
※すべて対面にて実施します。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

各週の授業内容について、振り返り・復習(60分)、次週の授業に向けた予習や各回で設定された課題に対する自主学習(120分)を実施する。

評価方法:

授業へのとりくみ:	70	**%**	**確認テスト:**	**%**	**レポート:**	30	**%**
その他1:				**%**			
その他2:				**%**			

評価基準:
○最低限の到達度(60～69点)
・授業への取り組み:グループワークやディスカッションなどの活動に参加している。
・レポート:スポーツ社会学の基礎的な知識を理解している。

○標準的な到達度(70～79点)

・授業への取り組み：グループワークやディスカッションなどの活動に主体的に参加し、自分の意見を積極的に発表することができる。
・レポート：スポーツ社会学に関する基礎的知識を踏まえ、自分の意見を記述できる。

〇望ましい到達度（80～100点）
・授業への取り組み：グループワークやディスカッションなどの活動に主体的に参加し、自分の意見を明確かつ論理的に発表できる。また、協調性をもってチーム全体の成果に寄与する行動が取れる。
・レポート：スポーツ社会学に関する基礎的知識を踏まえ、エビデンスに基づき自分の意見を論理的に記述できる。

課題へのフィードバック：

各回での課題や発表に対して随時フィードバックを行なう。

教科書： なし

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：

〇普段からスポーツに関するニュースや出来事に目を向け、関心を持ち続けるようにしましょう。
〇受け身ではなく、主体性をもって参加しましょう。
〇グループで取り組む場面が多いため、チームワークや周りとの協力を大切にしましょう。
〇自分が「興味を持てること」「もっと知りたいと思えること」を見つけながら学んでいきましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: スポーツ教育学専門演習Ⅱ

クラス:

授業コード: BE10400001

担当者: 佃尾 哲哉 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: スポーツを通して「課題探求力」を育てる。
演習Ⅰに続き主体的に動き、自らが課題を発見し、課題を探求する力をスポーツや多様な活動から身につけることを目的とします。
特に演習Ⅱでは、NPO法人親和スポーツネットの事業「ジュニアスポーツフェスティバル」をNPOと共同で運営することを中心に活動します。
運営を通して物事を考え、作り、実践する力を養ってゆきます。(学内外のフィールドを活用して)

到達目標: ＜視野を広げる＞
・アスリートとの話を伺い、アスリート視線でのスポーツの課題等を探る。
・スポーツを支える活動団体と会談し、スポーツ支える視点でのスポーツの課題を探る。
・公共のスポーツ施設に従事する人との会談を通し、スポーツ施設管理者の視点での課題を探る。
スポーツに様々な立場で関わっている人達からお話を伺い、スポーツへの視野を広げる。
＜チーム作り＞
・トップチーム作りの実例を通して、戦略の構築、PDCAサイクルの必要性等を考える。
プレーヤーの観察 課題の発見 課題解決のための情報収集

各回の授業計画:

1. 夏休みにおける個々の活動をまとめる。学習成果の確認等の個人面談。
2. スポーツのもつ力についてⅠ スポーツ実践者(アスリート)の視点から
3. スポーツのもつ力についてⅡ スポーツを支える活動を行う団体・人の視点から。
4. スポーツのもつ力についてⅢ スポーツ施設を運営・サポートする人の視点から
5. スポーツのもつ力についてⅣ オリンピック、パラリンピック、世界大会、国体など代表選手を支援する人の視点から
6. スポーツのもつ力Ⅴ 体育教科の視点から
7. スポーツ指導Ⅶ:子どものラグビー指導計画を作成する こべっこラグビー大会出場チームの指導
8. スポーツ指導Ⅷ:ラグビーの練習 自由に走る、規定のコースを走る、ボールパス
9. スポーツ指導Ⅸ:ラグビーの練習 コンタクトプレー、フォーメーション
10. スポーツ実践Ⅲ:マリンスポーツ計画(協定大学との合同研修も含め)(春休みにて実施予定)
11. 卒業論文を作成する意味
12. 図書、論文のPC検索について
13. スポーツ関連企業の訪問(企業との交渉の中で日程の変更があります)
14. 研究テーマの発表(仮)
15. まとめ、ポートフォリオの作成

特記事項: ※全15回の授業のうちキャリアセンターからのキャリアガイダンスが1回入るため、授業内容が変更になる場合があります。

授業方法:
1. ディスカッション
2. スポーツ関係団体との会談
3. スポーツ関係団体との会談
4. 演習(ゲスト)
5. DVD視聴
6. フィールドワーク(学校訪問)
7. 演習
8. 実習
9. 実習
10. グループワーク
11. 講義
12. 図書館にて講習
13. 発表
14. フィールドワーク

15. 演習
＊全てを対面で行う

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. 夏休みの活動をまとめる。(180分)
2-3. 自分自身の考えを、経験からまとめておく。(360分)
4. スポーツ協会、競技協会の活動を調べまとめておく。(180分)
5. マスコミ、経済産業省の情報をまとめておく。(180分)
6. 学習指導要領の中で、体育の目的とするところをまとめておく。(180分)
7-9. ①スポーツが子どもの発育発達に及ぼす影響。②幼児期ににおける運動の特性。③ラグビー競技の特性。を各回でまとめておく。(540分)
10. マリンスポーツにおけるリスクマネジメントについて調べまとめておく。(180分)
11. 論文を作成する意味と手法ににについて考えておく。(180分)
12. 卒業論文のテーマ候補を3つ考え、テーマにあげた理由をまとめておく。(180分)
13. スポーツを取り囲む、産業について調べまとめておく。(180分)
14. テーマに沿ったレポートを作成する。(180分)
15. 半期の活動をまとめておく。(180分)

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	20 **%**	**レポート：**	20 **%**
その他1：	ポジティブポイント、ネガティブポイント		30 **%**		
その他2：			**%**		

評価基準： ①60-69点「スポーツとは」何かを言葉の語源から理解し、スポーツの指導に活用できる。
②70-79点 ①を理解した上で、スポーツを行う以外にもスポーツのもつ力を理解している。
③80-100点 ①②の事柄をスポーツのメッセンジャーとして発信する力を備えている。

課題へのフィードバック：

課題に関しては、授業内でディスカッションを行い、適宜解説を行う。

教科書： なし

参考書： なし
ただし、資料は必要に応じて適宜配布する。

授業・準備学習のアドバイス：

作業が多くなります。お互いに多くのことを発見しましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: スポーツ教育学専門演習Ⅱ

クラス:

授業コード: BE10400002

担当者: 葦原 摩耶子 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: スポーツ教育学専門演習Ⅰをふまえて，各自の関心あるテーマを見つけ，その知識を深めることが目的です。

到達目標: 卒業論文のテーマを見つけ，研究計画を作成すること。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 運動・スポーツの行動変容に関わる理論・モデル
3. 実験「運動行動変容プログラム」の準備
4. 実験「運動行動変容プログラム」の実施
5. 実験「運動行動変容プログラム」の分析
6. 実験結果のまとめかた
7. レジュメの作成とプレゼンテーション方法
8. 論文講読1
9. 論文講読2
10. 研究計画の立てかた
11. 先行研究のレビュー方法
12. 研究手法や分析計画の立てかた
13. 卒業論文の研究計画発表1
14. 卒業論文の研究計画発表2
15. 学科共通プログラム

特記事項: ※全15回の授業のうちキャリアセンターからのキャリアガイダンスが1回入るため、授業内容が変更になる場合があります。

授業方法: 15回すべて対面で実施する。

1. 演習
2. 演習
3. 演習
4. 演習
5. 演習
6. 演習
7. 演習
8. 演習
9. 演習
10. 演習
11. 演習
12. 演習
13. 演習
14. 演習
15. 演習

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 復習:スポーツ心理学の分野における課題ついてまとめる(150分)
2. 復習:行動変容に関わる理論・モデルの概要をまとめる(150分)
3. 復習:実験の準備(170分)

4. 復習：実験データの入力（170分）
5. 復習：実験の分析作業（170分）
6. 復習：実験レポートの作成（360分）
7. 予習：関心のある論文を検索し，レジュメに概要をまとめる（150分）
8. 予習：関心のある論文を検索し，レジュメに概要をまとめる（150分）
9. 予習：卒業論文で扱いたいテーマについて自分の考えをまとめる（150分）
10. 予習：卒業論文のテーマに関する先行研究を収集する（150分）
11. 復習：卒業論文のテーマに関する先行研究について概要をまとめる（170分）
12. 予習：卒業論文の研究計画の発表準備（170分）
13. 予習：卒業論文の研究計画の発表準備（170分）
14. 課題：発表時のアドバイスを踏まえて，卒業論文の研究計画を完成する（360分）
15. 復習：秋学期に学んだ内容について振り返りを行う（60分）

評価方法：	授業へのとりくみ：	60 %	確認テスト：	－ %	レポート：	40 %
	その他1：			%		
	その他2：			%		

評価基準： 課題レポートの評価基準
最低限度の到達度（60～69点）：基本的な実験・調査レポートの書き方を踏まえて作成されている。
望ましい到達度（80～100点）：データに基いた考察がなされ，本文全体が十分に推敲されている。

課題へのフィードバック：
課題レポートについては添削して返却する。

教科書： なし。適宜資料を配布する。

参考書： なし。必要に応じて講義内で紹介する。

授業・準備学習のアドバイス：
活発に意見交換をするなどしながら、各自のテーマを見つけて探求していきましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: スポーツ教育学専門演習Ⅱ

クラス:

授業コード: BE10400003

担当者: 祐末 ひとみ　　**単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 地域の課題やニーズを理解し、それをふまえたイベントの企画・運営を地域スポーツクラブなどと連携して実践していきます。チームで1つのプロジェクトを進める中で、コミュニケーション能力、時間管理術、企画力、調整力、情報発信力などのマネジメントスキルの修得を目指す。1年間の地域スポーツ実践を通して4年間の集大成となる卒業論文に繋がる関心事象やテーマを模索する。

到達目標:
1. イベント実施に向けた事業計画書の作成スキルの獲得、実施ができる
(先行事例調査、地域スポーツクラブでのヒアリング、グループディスカッションを通じて、アイディア出しと整理を通じて実施します。)
2. イベントの実施ノウハウの修得することができる
(地域スポーツクラブとの共同でのイベントを実施し、必要なノウハウを身につけます。)
3. イベントの評価手法を理解することができる
(成果と課題をまとめ、改善提案書を作成します。)
4. プレゼンテーションスキルの獲得を獲得することができる
(事業実施報告プレゼンテーションを通じて身につけていきます。)
5. 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる

各回の授業計画:

1. イベント事後学習:イベント実施による成果と課題をふまえ、改善プランを検討
2. イベント企画案の作成:改善プランをふまえ、企画案を作成
3. イベント企画案の作成:改善プランをふまえ、企画案を作成 ①
4. イベント企画案の作成:改善プランをふまえ、企画案を作成②
5. 地域スポーツクラブでのイベント企画の提案:地域クラブへ訪問し、イベントの共同開催の提案
6. イベント運営準備:イベントの実施に向けて準備 ①
7. イベント運営準備:イベントの実施に向けて準備 ②
8. イベント運営準備:イベントの実施に向けて準備 ③
9. イベント運営準備:イベントの実施に向けて準備 ④
10. イベントの実施:地域スポーツクラブと共同でのイベントを実施
11. イベント事後学習:イベント実施による成果と課題をふまえ、年間のプロジェクトを総括①
12. 卒業研究に向けての準備:各自の問題意識・関心領域について、参考文献を挙げ報告 ①
13. 卒業研究に向けての準備:各自の問題意識・関心領域について、参考文献を挙げ報告 ②
14. 卒業研究に向けての準備:各自の問題意識・関心領域について、参考文献を挙げ報告 ③
15. まとめと総括

特記事項: ※全15回の授業のうちキャリアセンターからのキャリアガイダンスが1回入るため、授業内容が変更になる場合があります。

授業方法: 1～15:ディスカッション＆資料収集/プレゼンテーションを中心に進める(対面)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

以下の通り予習・復習を行ってください。
【予習】
地域スポーツやスポーツマネジメントに関連する事象やトピックに関して事前に調べ、理解する。各回の授業内容に関連するメディア情報(新聞記事やニュース等)を収集する(各回100分)
【復習】
次の授業がスムーズに進んでいくことへの準備。進めた内容の整理やチーム内でのコミュニケーションを図り、現状の共通認識を実施する(各回80分)

評価方法: **授業へのとりくみ:** 60 **%** **確認テスト:** － **%** **レポート:** － **%**

その他1： プロジェクト評価 40 **%**

その他2： **%**

評価基準： 最低限度の到達度（60～69点）：ディスカッションで積極的に意見を述べている。他者の意見をさえぎらず、最後まで耳を傾けている。
望ましい到達度（80～100点）：自らの学びに留まらず、仲間の成長や特徴を活かせる空間を作れている。

課題へのフィードバック：

授業ごとに講評する

教科書： なし

参考書： 必要に応じて紹介します

授業・準備学習のアドバイス：

ゼミ内で物事を進めていく内容が主となります。「自ら役割を買って出る積極性」や「困っている仲間に対して支援ができる思いやり」の両方が求められます。共に学び合い、成長し合える関係構築を目指してください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: スポーツ教育学専門演習Ⅱ

クラス:

授業コード: BE10400004

担当者: 椿 武 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: スポーツ教育学専門演習Ⅰで学んだ内容を踏まえて、専門的知識及び技術をより深め、卒業論文を見据えた研究テーマを考える。

到達目標:
1. 専門演習Ⅰで学んだ内容を基に、測定方法など現場で活かせる実践力を身に付ける
2. 卒業論文のテーマを決定し、研究計画を立案する

各回の授業計画:

1. オリエンテーション（前期の振り返りと今後の研究テーマについて）
2. 測定・分析・評価方法①（実験及び分析）
3. 測定・分析・評価方法②（実験及び分析）
4. 測定・分析・評価方法③（実験及び分析）
5. プレゼンテーション準備①（卒業論文を見据えた論文の抄読）
6. プレゼンテーション準備②（卒業論文を見据えた論文の抄読）
7. プレゼンテーション①（発表・質疑応答）
8. プレゼンテーション②（発表・質疑応答）
9. 卒業論文の研究計画の立て方
10. 卒業論文の研究計画の立案
11. プレゼンテーション準備①（卒業論文に関するプレゼンテーション資料の作成）
12. プレゼンテーション準備②（卒業論文に関するプレゼンテーション資料の作成）
13. 卒業論文の研究計画のプレゼンテーション①（発表・質疑応答）
14. 卒業論文の研究計画のプレゼンテーション②（発表・質疑応答）
15. まとめ（卒業研究に向けた今後の展望について発表を行う）

特記事項: ※全15回の授業のうちキャリアセンターからのキャリアガイダンスが1回入るため、授業内容が変更になる場合があります。

授業方法: 【全て対面で実施】

1. 講義
2. 講義、グループワーク
3. 講義、グループワーク
4. 講義、グループワーク
5. グループワーク
6. グループワーク
7. プレゼンテーション
8. プレゼンテーション
9. 講義
10. 講義
11. グループワーク
12. グループワーク
13. プレゼンテーション
14. プレゼンテーション
15. 講義、プレゼンテーション

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

予習（第1回）
スポーツ教育学専門演習Ⅰで学んだ、内容に関して復習しておく。予習（180分）

復習（第2回～第4回）
授業内で学んだ測定方法・分析方法・評価方法について整理しまとめる。毎回予習（90分）、復習（90分）

予習（第5回～第9回）
文献収集、プレゼンテーション準備毎回予習（90分）、復習（90分）

予習（第10回～第14回）
卒業研究の計画を立案するための文献収集及びプレゼンテーションの準備。毎回予習（90分）、復習（90分）

復習（第15回：全体を通して）
卒業研究に取り組むことを想定して、実験の筋道を計画していく。復習（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	50 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	20 **%**
その他1：	プレゼンテーション		30 **%**		
その他2：			**%**		

評価基準： 最低限度の到達度（60～69点）：ゼミに積極的に参加し、発言や質問をすることができる。レポートでは、自身の考えを述べることがでいる。
望ましい到達度（80～100点）：他のゼミ生の発表・発言に対して適切な助言、考えを述べることができる。レポートでは、レファレンス資料を用いながら自らの考えを述べ、問題提起できる。

課題へのフィードバック：

試験・レポートのフィードバックは、授業時間を通してアナウンスを行い、オフィスアワーを用いて適宜行っていく。

教科書： NSCA決定版 ストレングストレーニング＆コンディショニング

参考書： なし
必要に応じて資料を配布します。

授業・準備学習のアドバイス：

興味のあるテーマは、授業計画から逸脱しない範囲で取り上げていきますので、積極的に意見を出してください。
また、卒業論文の研究計画の立案を行いますので、授業時間外の学習も積極的に行ってください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: スポーツ教育学専門演習Ⅱ

クラス:

授業コード: BE10400006

担当者: 松田 雅彦 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 1. 専門演習Ⅰに引き続いて、学校及び地域におけるスポーツに関する問題意識をより深める。
2. 専門書や文献に触れ、各自の知識や経験をもとに課題や問題点を明確にし、研究テーマの明確化を図る。

到達目標: 1. 学校及び地域におけるスポーツに関する具体的な課題について理解する。
2. スポーツにおける具体的な課題の解決へむけた道筋について自己の意見を持つことができる。
3. 卒業論文に取り上げるテーマを見つけ、研究計画を作成することができる。
4. 研究の進め方について理解を深める。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション、授業概要の説明【対面による】
2. 批判的思考の理解と研究の進め方【対面による】
3. 論理的思考について(三角ロジック体験ワーク)【対面による】
4. 課題レポートの発表とディスカッション①【対面による】
5. 課題レポートの発表とディスカッション②【対面による】
6. 課題レポートの発表とディスカッション③【対面による】
7. 課題レポートの発表とディスカッション④【対面による】
8. 課題レポートの発表とディスカッション⑤【対面による】
9. 研究における「問い」の立て方【対面による】
10. 研究テーマの設定①【対面による】
11. 研究テーマの設定②【対面による】
12. 研究テーマの設定③【対面による】
13. 研究計画の作成①【対面による】
14. 研究計画の作成②【対面による】
15. まとめとふりかえり【対面による】

特記事項: ※全15回の授業のうちキャリアセンターからのキャリアガイダンスが1回入るため、授業内容が変更になる場合があります。

授業方法: 講義、演習、グループワーク、発表

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1:ジュニアスポーツ専門演習1で学んだ「問題意識」を整理し、まとめておく(180分)
2-8:自己の問題意識に基づき、先行研究を吟味・考察し文章にまとめる。(各時間毎180分)
9-12:研究課題を具体的なテーマに深め、仮説を立てる(各時間毎180分)
13-14:研究テーマに基づき参考文献を調べ、具体的な研究計画を策定する(各時間毎180分)
15:全体を通しての振り返り(180分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	50 %	**確認テスト:**	− %	**レポート:**	50 %
その他1:			%		
その他2:			%		

評価基準: 【最低限の到達度(60-69点)】
・授業において発表や討議を通じ、問題意識を文章として示すことができる。
・研究計画案を作成することができる。
【望ましい到達度(80-100点)】
・スポーツや教育に関する問題を課題に整理し、発表することができる。
・自己の卒業論文のテーマを示すことができる。

・研究計画案を策定し、発表することができる。

課題へのフィードバック:

授業時に対応

教科書: 文部科学省『小学校学習指導要領解説 体育編』東山書房（平成29年7月）
文部科学省『中学校学習指導要領解説 保健体育編』東山書房（平成29年7月）
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編』（平成30年7月）
島崎仁『スポーツに遊ぶ社会に』不昧堂（平成10年7月）

参考書: 特に用いない。必要に応じ資料を配付する。

授業・準備学習のアドバイス:

①興味ある文献を積極的に読み込みましょう。
②日常生活において気になったことをメモしておきましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: スポーツ教育学専門演習Ⅱ

クラス:

授業コード: BE10400007

担当者: 杉山 真人 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: スポーツ教育学専門演習Ⅰで学習した内容をふまえて、スポーツを含めたあらゆる身体運動の心理学的な領域またはその関連分野でテーマを定め、知識を深めていくことを目的とします。

到達目標: 運動・スポーツに関して科学的な視点を身につける。研究テーマを決定し、研究計画を立案する。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 運動と記憶
3. 系列運動学習
4. 運動制御とアフォーダンス知覚
5. ダイナミカルシステムアプローチ
6. 体育・スポーツ科学研究法
7. 論文抄読の仕方
8. 論文の抄読①
9. 論文の抄読②
10. 研究計画の立て方
11. 研究計画の立案
12. 研究データの収集・分析法
13. 研究計画のプレゼンテーション①
14. 研究計画のプレゼンテーション②
15. まとめと振り返り

特記事項: ※全15回の授業のうちキャリアセンターからのキャリアガイダンスが1回入るため、授業内容が変更になる場合があります。

授業方法:
1. 講義，ディベート
2. グループワーク
3. グループワーク
4. グループワーク
5. グループワーク
6. グループワーク
7. グループワーク
8. グループワーク
9. グループワーク
10. グループワーク
11. グループワーク
12. グループワーク
13. グループワーク
14. グループワーク
15. 講義，ディベート

※全て対面で行います

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. これからの学習について確認しておく(180分)
2. 運動と記憶について振り返る(180分)
3. 系列運動学習について振り返る(180分)
4. 運動制御とアフォーダンス知覚について振り返る(180分)

5. ダイナミカルシステムアプローチについて振り返る(180分)
6. 体育・スポーツ科学(主にスポーツ心理学関連)に関する研究方法について振り返る(180分)
7. 論文抄読の仕方について振り返る(180分)
8. 論文の抄読内容について振り返る(180分)
9. 論文の抄読内容について振り返る(180分)
10. 研究計画の立て方について振り返る(180分)
11. 実際に立案した研究計画を見直しておく(180分)
12. 研究データの収集・分析方法について振り返る(180分)
13. 研究計画のプレゼンテーションの準備を行う(180分)
14. 研究計画のプレゼンテーションの準備を行う(180分)
15. これまでの学びについて振り返る(180分)

評価方法:	**授業へのとりくみ:**	60 **%**	**確認テスト:**	− **%**	**レポート:**	40 **%**
	その他1:			**%**		
	その他2:			**%**		

評価基準: 最低限度の到達度(60～69点):体育・スポーツやその他関連領域における基本的知識を身に着けている
望ましい到達度(80～100点):スポーツ心理学における専門的知識を実際のスポーツ場面と関連付けて思考することができる

課題へのフィードバック:

小レポートや小テストについては採点後講評する.

教科書: なし

参考書: 必要に応じて配布します

授業・準備学習のアドバイス:

スポーツを含めたあらゆる身体運動に心理学的な側面からアプローチします。この学習を通して、科学研究の実践のための基盤づくりをしてほしいと思います。

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: スポーツ教育学専門演習Ⅱ

クラス:

授業コード: BE10400008

担当者: 宮辻 和貴 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: スポーツ教育学専門演習Ⅰで学習した内容を踏まえ、スポーツ科学領域における運動・スポーツの役割(健康・体力づくり、競技力・運動能力の向上など)をより一層深めるとともに、卒業論文を見据えた研究テーマについて考える。

到達目標:
1. 運動やスポーツに関して、科学的な視点を身に付ける。
2. 論文(文献検索や文献収集)の読み方やレポート作成の方法を身に付ける。
3. グループで関心を持つテーマを選んだうえで論文抄読(発表)を行い、プレゼンテーション能力を養う。
4. 課外活動(学内イベント活動・地域イベント活動・ボランティア活動など)へ参加することにより、協力的・協同的な実践力を養う。
5. 卒業論文のテーマを決定し、研究計画について立案する。

各回の授業計画:

1. スポーツ教育学専門演習Ⅰの振り返りと今後の計画
2. 課外活動へ向けた学習計画①(学内イベント活動・地域イベント活動・ボランティア活動等)
3. 課外活動へ向けた学習計画②(学内イベント活動・地域イベント活動・ボランティア活動等)
4. 課外活動への参加(学内イベント活動・地域イベント活動・ボランティア活動等)
5. スポーツ科学の手法を用いて実験①(測定機器の使用・分析等)
6. スポーツ科学の手法を用いて実験②(測定機器の使用・分析等)
7. 論文抄読の準備①(卒業論文に関するプレゼンテーション用資料の作成等)
8. 論文抄読の準備②(卒業論文に関するプレゼンテーション用資料の作成等)
9. 論文抄読(個別発表、ディスカッション、総評)
10. 卒業論文の研究計画の立案(テーマ、方法、参考資料、参考文献等)
11. 卒業論文の研究計画の準備①(プレゼンテーション用資料の作成)
12. 卒業論文の研究計画の準備②(プレゼンテーション用資料の作成)
13. 卒業論文の研究計画の発表①(個別発表、ディスカッション)
14. 卒業論文の研究計画の発表②(個別発表、ディスカッション、総評)
15. まとめ(秋学期の振り返り等)

特記事項: ※ 全15回の授業の内、キャリアセンターからのキャリアガイダンスが1回入るため、授業内容が変更になる場合があります。

授業方法: 『第1回目～第15回目:演習(対面)』
1. 演習、グループワーク
2. 演習、グループワーク
3. 演習、グループワーク
4. 演習、グループワーク、発表
5. 演習、グループワーク
6. 演習、グループワーク
7. 演習、グループワーク、プレゼンテーション
8. 演習、グループワーク、プレゼンテーション
9. 演習、発表、ディスカッション
10. 演習、グループワーク
11. 演習、グループワーク、プレゼンテーション
12. 演習、グループワーク、プレゼンテーション
13. 演習、発表、ディスカッション
14. 演習、発表、ディスカッション
15. 演習

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1:春学期の振り返りと秋学期の計画(復習;30分)

課外活動へ向けた取り組み①(宿題;90分)
2:本日の復習(30分)
課外活動へ向けた取り組み②(宿題;180分)
3:本日の復習(30分)
課外活動参加へ向けた取り組み(予習;180分)
4:本日の復習(30分)
スポーツ科学の手法を用いた実験の段取り①(予習;165分)
5:本日の復習(30分)
スポーツ科学の手法を用いた実験の段取り②(予習;165分)
6:本日の復習(60分)
卒業論文に関連する論文について調べ、論文抄読に向けた準備①(宿題;120分)
7:本日の復習(30分)
卒業論文に関連する論文について調べ、論文抄読に向けた準備②(宿題;150分)
8:本日の復習(30分)
個別発表に向けた論文抄読用の資料の準備(宿題;150分)
9:本日の復習(60分)
卒業論文に向けた研究計画(テーマ、目的、方法など)について取り組む(宿題;120分)
10:本日の復習(30分)
卒業論文の研究計画に関するプレゼンテーション用資料の準備①(宿題;150分)
11:本日の復習(30分)
卒業論文の研究計画に関するプレゼンテーション用資料の準備②(宿題;150分)
12:本日の復習(30分)
個別発表に向けた卒業論文の研究計画用資料の準備①(宿題;150分)
13:本日の復習(30分)
個別発表に向けた卒業論文の研究計画用資料の準備②(宿題;150分)
14:本日の復習(90分)
冬季休業中に取り組む個別目標の発表に向けた計画(宿題;120分)
15:秋学期のゼミにおける個人・全体総括(復習;120分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	60 **%**	**確認テスト:**	− **%**	**レポート:**	− **%**
その他1:	ゼミ発表		20 **%**		
その他2:	ゼミレポート		20 **%**		

評価基準:

「評価方法」の1～3について、以下の基準を満たすことが求められます。
1. 授業へのとりくみ(授業態度、関心・意欲、発表など)
・毎回のゼミに対して、基本的な関わり(研究活動や課外活動などを学ぶ姿勢および関心・意欲など)によりゼミ参加がなされている(60～69点)
・毎回のゼミに対して、自ら積極的に関わり(研究活動や課外活動などを学ぶ姿勢および関心・意欲など)を持ちながらゼミ活動に参加し、進んで研究活動や課外活動等の取り組みがなされている(80～100点)

2. ゼミ発表
・各自で選択した興味のあるテーマの論文抄読内容がまとめられており、プレゼンテーション用とレジュメ用の資料が作成されている(60～69点)
・各自で選択した興味のあるテーマの論文抄読内容が相手に伝わるようにまとめられており、自身の考えや表現が含まれたプレゼンテーション用とレジュメ用の資料が作成されている(80～100点)

3. ゼミレポート
・レポートの基本的な形式が整えられており、レポート課題に対する論述(自身の考えや表現)がなされている(60～69点)
・レポートの基本的な形式が整えられており、レポート課題に対する論述(自身の考えや表現)がなされつつ、読み手に伝わるように作成されている(80～100点)

課題へのフィードバック:

・ゼミの進行状況により、各ポイントで適宜フィードバックを実施する。
・ゼミ発表については、発表後に毎回のゼミ内で講評する。
・ゼミレポートについては、採点後に次回のゼミ内で講評する。

教科書: ・特になし

参考書: ・ゼミ内で必要に応じて、適宜資料(PDF形式・Teams)を配布する。

授業・準備学習のアドバイス:

○ 教員との対話や諮問を通じ、ゼミを展開していきます。単に与えられたものを頭に詰め込むのではなく、自らが主体的に探究心をもって学び・考え・活用できるよう「知識を知恵」にすることを目指す姿勢を身に付けてください。
☆ 各回のゼミを欠席しないように、一緒に頑張っていきましょう。
※ 各自、PDF形式にて配布された資料については、PCを活用しながら学習を進めることが望ましい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: スポーツ教育学専門演習Ⅱ

クラス:

授業コード: BE10400009

担当者: 久永 将太 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: スポーツ教育学専門演習Ⅰで学習した内容を踏まえ、興味・関心を持ったテーマについて、探求（調査、分析、検討）する。

到達目標: ①研究計画を立案し、実際に調査を行うことができる。
②得られたデータを分析・検討し、明らかになったことを発表することができる。
③卒業論文のテーマを見つけ、研究計画を作成することができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 研究テーマの計画を立案
3. 研究テーマの準備
4. 研究テーマの実施
5. 研究テーマの分析
6. 研究テーマの発表準備
7. 研究テーマの発表、及びディスカッション
8. 振り返り、及びディスカッション
9. 卒業論文の研究テーマの立案
10. 卒業論文の研究計画の立案
11. 卒業論文の研究計画の準備①
12. 卒業論文の研究計画の準備②
13. 卒業論文の研究計画の発表①
14. 卒業論文の研究計画の発表②
15. まとめと振り返り

特記事項: ※全15回の授業のうちキャリアセンターからのキャリアガイダンスが1回入るため、授業内容が変更になる場合があります。

授業方法: すべての授業を対面授業で行う。
1. 講義
2. 演習、グループワーク
3. 演習、グループワーク
4. 演習、グループワーク
5. 演習、グループワーク
6. 演習、グループワーク
7. プレゼンテーション、討論
8. 講義、討論
9. 演習、グループワーク
10. 演習、グループワーク
11. 演習、グループワーク
12. 演習、グループワーク
13. プレゼンテーション、討論
14. プレゼンテーション、討論
15. 講義、グループワーク

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

【1回～8回】
予習：研究テーマの資料の作成（各回90分）
復習：研究テーマに関して詳細に調べ理解を深める（各回90分）

【9回～15回】
予習：卒業論文の研究計画に関する資料の作成（各回90分）
復習：興味を持った資料や論文に関して詳細に調べ理解を深める（各回90分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	70 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	30 **%**
その他1：			**%**		
その他2：			**%**		

評価基準：
最低限度の到達度（60～69点）；
自分自身の研究テーマに関する様々な事象に興味を持ち、発表・発言内容がまとめられている。

望ましい到達度（80～100点）；
自分自身の研究テーマに関する様々な事象に興味を持ち、発表・発言内容がまとめられ、さらに何が問題かを考え、解決方法を創出することができる。

課題へのフィードバック：
授業ごとに講評を行う。

教科書： 必要に応じて配布する。

参考書： 必要に応じて配布する。

授業・準備学習のアドバイス：
興味・関心のあるテーマを見つけ、実際に調査することを経験し、その経験を卒業論文の作成に繋げましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: スポーツ教育学専門演習Ⅱ

クラス:

授業コード: BE10400010

担当者: 山中 裕太 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 卒業研究を実施し、卒業論文を作成するための知識を深め、卒業研究の研究計画書を作成し、卒業論文の中間報告書を作成・発表することができる。

到達目標:
1. 関心のある領域や分野の知識を深める
2. 関心のある領域や分野の研究方法を学ぶ
3. 研究計画書を作成できる
4. 予備実験を進めることができる
5. 中間報告書を作成・発表することができる

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 論文紹介と研究計画書の発表
3. 論文紹介と研究計画書の発表
4. 論文紹介と研究計画書の発表
5. 論文紹介と研究計画書の発表
6. 論文紹介と研究計画書の発表
7. 論文紹介と研究の進捗状況の報告
8. 論文紹介と研究の進捗状況の報告
9. 論文紹介と研究の進捗状況の報告
10. 論文紹介と研究の進捗状況の報告
11. 論文紹介と研究の進捗状況の報告
12. 研究の進捗状況の報告
13. 研究の進捗状況の報告
14. 卒業論文の中間報告
15. 卒業論文の中間報告

特記事項: ※全15回の授業のうちキャリアセンターからのキャリアガイダンスが1回入るため、授業内容が変更になる場合があります。

授業方法: すべての授業を対面授業で行う
①この授業は参加者が論文を熟読し、参加者がパワーポイントや資料を作成し、それをもとに内容を説明し、ディスカッションを行う、という流れで授業を行います。
②この授業では作成した研究計画をもとに実験や予備実験を進め、研究の進捗状況を報告し、それをもとに内容を説明し、ディスカッションを行う、という流れで授業を行います。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 自身の興味のある領域や分野に関して勉強する(180分)。
2. 自身の興味のある領域や分野に関する論文を検索し、資料を作成する(90分)。自身の考える研究計画について資料を作成する(90分)。
3. 自身の興味のある領域や分野に関する論文を検索し、資料を作成する(90分)。自身の考える研究計画について資料を作成する(90分)。
4. 自身の興味のある領域や分野に関する論文を検索し、資料を作成する(90分)。自身の考える研究計画について資料を作成する(90分)。
5. 自身の興味のある領域や分野に関する論文を検索し、資料を作成する(90分)。自身の考える研究計画について資料を作成する(90分)。
6. 自身の興味のある領域や分野に関する論文を検索し、資料を作成する(90分)。自身の考える研究計画について資料を作成する(90分)。
7. 自身の興味のある領域や分野に関する論文を検索し、資料を作成する(90分)。自身の研究の進捗状況について資料を作成する(90分)。
8. 自身の興味のある領域や分野に関する論文を検索し、資料を作成する(90分)。自身の研究の進捗状況について資料を作成する(90分)。
9. 自身の興味のある領域や分野に関する論文を検索し、資料を作成する(90分)。自身の研究の進捗状況について資料を作成する(90分)。

10. 自身の興味のある領域や分野に関する論文を検索し、資料を作成する(90分)。自身の研究の進捗状況について資料を作成する(90分)。
11. 自身の興味のある領域や分野に関する論文を検索し、資料を作成する(90分)。自身の研究の進捗状況について資料を作成する(90分)。
12. 自身の研究の進捗状況について資料を作成する(180分)。
13. 自身の研究の進捗状況について資料を作成する(180分)。
14. 自身の卒業研究の進捗状況をまとめ発表・報告資料を作成する(180分)。
15. 自身の卒業研究の進捗状況をまとめ発表・報告資料を作成する(180分)。

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	30 **%**
その他1:	発表		40 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 「最低限の到達度(60～69点)」
1. 自身の関心のある領域や分野を見つけ、自身の興味がある研究を計画することができる。
2. 自身の計画する研究を相手に伝えることができる。
3. 研究を始めることができる。

「望ましい到達度(80～100点)」
1. 自身の関心のある領域や分野を見つけ、自身の興味だけでなく、研究が必要とされる背景を理解して、研究を計画することができる。
2. 自身の計画する研究を、相手にわかりやすく(論理的・資料が理解しやすい)伝えることができる。
3. 研究を始め、全体の研究の進捗状況やスケジュールを理解することができる。

課題へのフィードバック:

論文紹介・研究計画発表・予備実験の計画発表でのディスカッションでフィードバックを行います。

教科書: なし

参考書: 研究の育て方 ゴールとプロセスの「見える化」, 近藤克則.

授業・準備学習のアドバイス:

わからなくても、コツコツと続けることが大切です。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: スポーツ教育学専門演習Ⅱ

クラス:

授業コード: BE10400011

担当者: 有山 篤利 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: スポーツは、特定の集団が創造し継承している認識と実践の体系であり、その時代に共有されている価値観や生活習慣などと相互に関連しながら変容していく身体運動文化である。本ゼミでは、学校体育（教科体育や部活動）や地域のスポーツ活動、武道等にかかわる内容を題材に、時代や社会の動態と深くかかわりながら存在するとしてスポーツ文化を捉え、社会調査を通じてその実相を明らかにしていく。

到達目標: 現代のスポーツに関する課題を解決するための社会調査を実施し、得られたデータの分析と考察を経て成果を発表することができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション及びガイダンス
2. テーマ別の調査票の作成
3. 課題研究のための調査活動
4. 調査データの整理と加工
5. テーマごとの分析と考察①
6. テーマごとの分析と考察②
7. テーマごとの分析と考察③
8. 発表用資料の作成①
9. 発表用資料の作成②
10. 発表用資料の作成③
11. 発表会の準備と役割分担の決定
12. 課題研究発表会の開催
13. 課題研究発表会の反省とまとめ
14. 卒業研究の構想、テーマの検討
15. 1年間のまとめ

特記事項: ※全15回の授業のうちキャリアセンターからのキャリアガイダンスが1回入るため、授業内容が変更になる場合があります。

授業方法: ①すべての授業を対面形式で行う。
②講義を交えながら学生同士のグループワークを中心に展開する。
③課題研究発表会を開催する。

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1～2回目：学修した内容を振り返り、その要点を確認しておく。（180分）
3回目：調査対象の選定と依頼をしておく（180分）
4～11回目：グループ内での打合せをしておく。（180分）
12回目：役割分担にしたがって発表会の準備をする（180分）
13回目：各自の課題を振り返り総括をしておく。（180分）
14回目：卒業研究の構想に必要な資料を精査しておく。
15回目：学修した内容を振り返り、その要点を確認しておく。（180分）

評価方法:							
	授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	**%**	**レポート:**	20 **%**	
	その他1:			**%**			
	その他2:			**%**			

評価基準: 1. 科学的な調査研究のデザインが設計できる。
2. 統計分析を活用して科学的な考察ができる。
3. 得られた知見をまとめて発表ができる。

4. 学修経験を活かして卒業研究の構想ができる。

課題へのフィードバック:

毎授業で提出する学修の総括(コメントシート)で学修状況や質疑を把握し、次回授業において講評する。

教科書: なし

参考書: 必要に応じて配布

授業・準備学習のアドバイス:

社会調査を活用した卒業研究を行うための予行演習として捉えて下さい。

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: スポーツ教育学専門演習Ⅱ

クラス:

授業コード: BE10400012

担当者: 三浦 敬太 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: スポーツは、社会環境や社会情勢と相互に影響を及ぼし合う特性を有している。本授業では、現代社会におけるスポーツの役割・機能、文化的・社会的価値、さらにはその課題を多角的に理解することを目的とする。また、スポーツイベントの運営等、実際のスポーツ現場に関わる活動を通じて、実践的な経験を積み、社会で求められる基礎的能力や応用力を養成する。

到達目標:
1. スポーツ社会学分野に関する基礎的な理論および知識を習得する。
2. スポーツに関連するニュースや社会的動向に主体的に接し、現代スポーツをめぐる知見を拡大させる。
3. グループワークを通じて、協働的に課題へ取り組む姿勢を身につけるとともに、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を向上させる。
4. 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. イベント運営準備①:大会の理念や特色について
3. イベント運営準備②:大会におけるボランティアスタッフの役割とは
4. イベント運営準備③:大会における自分の役割と責任を考える
5. イベント運営準備④:参加選手のための案内作成
6. イベント運営準備⑤:ボランティアスタッフの研修準備
7. イベント運営準備⑥:大会当日に向けた最終準備
8. イベント運営の振り返り①:大会期間を通じての成果と課題
9. イベント運営の振り返り②:課題に対する改善案の検討
10. 論文抄読①:研究論文とは
11. 論文抄読②:論文の探し方
12. 論文抄読③:研究手法について
13. 卒業論文に向けたテーマ設定①
14. 卒業論文に向けたテーマ設定②
15. まとめ(秋学期の振り返り)

特記事項:

授業方法: 演習、グループワーク、ディスカッション
※すべて対面にて実施します。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

各週の授業内容について、振り返り・復習(60分)、次週の授業に向けた予習や各回で設定された課題に対する自主学習(120分)を実施する。

評価方法:							
	授業へのとりくみ:	70 **%**	**確認テスト:**	**%**	**レポート:**	30 **%**
	その他1:			**%**		
	その他2:			**%**		

評価基準: ○最低限の到達度(60～69点)
・授業への取り組み:グループワークやディスカッションなどの活動に参加している。
・レポート:スポーツ社会学の基礎的な知識を理解している。

○標準的な到達度(70～79点)

・授業への取り組み：グループワークやディスカッションなどの活動に主体的に参加し、自分の意見を積極的に発表することができる。
・レポート：スポーツ社会学に関する基礎的知識を踏まえ、自分の意見を記述できる。

〇望ましい到達度（80～100点）
・授業への取り組み：グループワークやディスカッションなどの活動に主体的に参加し、自分の意見を明確かつ論理的に発表できる。また、協調性をもってチーム全体の成果に寄与する行動が取れる。
・レポート：スポーツ社会学に関する基礎的知識を踏まえ、エビデンスに基づき自分の意見を論理的に記述できる。

課題へのフィードバック：

各回での課題や発表に対して随時フィードバックを行なう。

教科書： なし

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：

〇普段からスポーツに関するニュースや出来事に目を向け、関心を持ち続けるようにしましょう。
〇受け身ではなく、主体性をもって参加しましょう。
〇グループで取り組む場面が多いため、チームワークや周りとの協力を大切にしましょう。
〇自分が「興味を持てること」「もっと知りたいと思えること」を見つけながら学んでいきましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: スポーツ教育学専門演習Ⅲ

クラス:

授業コード: BE10500001

担当者: 佃尾 哲哉 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 卒業論文課題を決め、卒業論文作成の準備を行ないます。大学4年間での集大成として課題に取り組みます。
体育科教員としての指導技術の復習をします。また、これからの教員は、授業と学校での校務だけではなく、地域との連携、企業との連携、また諸外国との連携のもとにグローバル教育のマネジメント力も求められます。さらには、校種間での一貫教育（小中一貫・中高一貫）は近い未来に現実となり、現場教員が様々な側面から思考し、マネジメントすることが必須となるでしょう。
そのための、多様な力について考えます。

到達目標: 卒業論文の骨組みと、中間発表ができるようにする。

各回の授業計画:

1. 課題研究の計画、立案
2. 過去の研究論文紹介
3. 研究課題と研究目的を考える 疑問とは
4. 研究課題と研究目的を考える 疑問を整理
5. 教育実習指導案作成
6. 教育実習の模擬授業 実技
7. 教育実習の模擬授業 保健
8. 教育実習の模擬授業 保健
9. 研究課題と研究目的の発表
10. 整理された内容の中間発表と意見交換 ①
11. 整理された内容の中間発表と意見交換 ②
12. 整理された内容の中間発表と意見交換 ③
13. 整理された内容の中間発表と意見交換 ④
14. 課題と目的の再検討
15. 再計画 夏期休み中の研究計画

＊確認テストは適宜行なう

特記事項: なし

授業方法:
1. 演習
2. 演習
3. ディスカッション
4. パソコンを使用した授業
5. グループワーク
6. 実技
7. 実技
8. 演習
9. 発表
10-13. 各回2名が発表し、全員で発表内容についてディスカッションを行う。
14. 演習
15. 演習

＊全て対面で行う

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1-4. 予習内容
スポーツ、体育、健康等に関してアンテナを張り、常に研究課題と向き合あい、疑問点を解決しておく。（720分）

5-7. 予習内容
保健・体育教科に関する授業を振り返り、復習に努める。(540分)

8-9. 予習内容
研究計画の確認(360分)

10-13. 予習及び復習内容
他者の中間発表内容を復習する。
毎時発表された内容をまとめておく。
また、事前に他者の抄録を読み内容の理解に努める。(720分)

14. 研究テーマと研究目的を再度検討する。(180分)

15. 研究計画の作成。(180分)

以上を予習、復習とする

評価方法:

授業へのとりくみ:	40	**%**	**確認テスト:**	40	**%**	**レポート:**	20 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準:
研究のテーマが設定できている(60-69点)
研究のテーマが設定でき、資料収集ができている(70-79点)
研究のテーマが設定でき、資料収集と資料整理ができている(80-100点)

課題へのフィードバック:
適宜授業内において講評する。

教科書: なし

参考書: なし
ただし、資料は必要に応じて適宜配布する。

授業・準備学習のアドバイス:
スポーツは、毎日進化しています。運動、スポーツ、教育にアンテナを!

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: スポーツ教育学専門演習Ⅲ

クラス:

授業コード: BE10500002

担当者: 葦原　摩耶子　　**単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 専門演習Ⅰ・Ⅱを受けて、各自の卒業研究の計画を立て、進めていきます。

到達目標:
1. 資料，文献を収集し，卒業研究の背景をまとめること。
2. 具体的な研究計画を立て，実験，調査を進めること。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 先行研究の講読，発表1
3. 先行研究の講読，発表2
4. 先行研究の講読，発表3
5. 先行研究の講読，発表4
6. 先行研究の講読，発表5
7. 研究計画の中間発表
8. 研究計画の修正，および調査，実験の準備，実行1
9. 研究計画の修正，および調査，実験の準備，実行2
10. 研究計画の修正，および調査，実験の準備，実行3
11. 研究計画の修正，および調査，実験の準備，実行4
12. 研究計画の修正，および調査，実験の準備，実行5
13. 研究計画の修正，および調査，実験の準備，実行6
14. 研究計画の修正，および調査，実験の準備，実行7
15. 研究過程と今後の計画の発表

特記事項: なし

授業方法: 15回すべて対面で実施する。

1. 演習
2. 演習
3. 演習
4. 演習
5. 演習
6. 演習
7. 演習
8. 演習
9. 演習
10. 演習
11. 演習
12. 演習
13. 演習
14. 演習
15. 演習

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 復習：春学期の卒業論文執筆計画を立てる（150分）
2. 予習：先行研究を読んでレジュメにまとめる（150分）
3. 予習：先行研究を読んでレジュメにまとめる（150分）

4. 予習：先行研究を読んでレジュメにまとめる（150分）
5. 予習：先行研究を読んでレジュメにまとめる（150分）
6. 予習：先行研究を読んでレジュメにまとめる（150分）
7. 課題：卒業論文の計画発表（360分）
8. 予習：個々の進度に応じて，先行研究のレビューや実験・調査の準備を行う（170分）
9. 予習：個々の進度に応じて，先行研究のレビューや実験・調査の準備を行う（170分）
10. 予習：個々の進度に応じて，先行研究のレビューや実験・調査の準備を行う（170分）
11. 予習：個々の進度に応じて，先行研究のレビューや実験・調査の準備を行う（170分）
12. 予習：個々の進度に応じて，先行研究のレビューや実験・調査の準備を行う（170分）
13. 予習：個々の進度に応じて，先行研究のレビューや実験・調査の準備を行う（170分）
14. 課題：現状までの卒業論文の進行状況をまとめる（360分）
15. 復習：今後の卒業論文の執筆計画を立てる（60分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	60 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	40 **%**
その他1：			**%**		
その他2：			**%**		

評価基準： レポート課題に関する評価
最低限度の到達度（60～69点）：先行研究のレビューを踏まえて研究計画が作成されている。
望ましい到達度（80～100点）：先行研究を踏まえたうえで，独自の視点を持ったテーマが設定され，研究計画が立案されている。

課題へのフィードバック：
レポート課題については添削して返却する。

教科書： なし。適宜資料を配布します。

参考書： なし。必要に応じて講義内で紹介する。

授業・準備学習のアドバイス：
各自の研究計画に沿って着実に卒業論文を進めましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: スポーツ教育学専門演習Ⅲ

クラス:

授業コード: BE10500003

担当者: 祐末 ひとみ　　**単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: スポーツ教育学専門演習Ⅰ・Ⅱを通して学習した内容を踏まえ、卒業論文作成に向けた取り組みを実施する。
各自が選んだテーマに関する先行研究を学び、運動・スポーツへの研究に対する理解を深めるとともに、卒業論文を計画・実施することを目的とする。

到達目標: 卒業論文のテーマに関連する文献の検索・収集を行い、先行研究を講読かつ分析する。
また、立案した研究計画に基づき卒業論文作成に向けた研究(準備・作業)を進める。

各回の授業計画:

1. スポーツ教育学専門演習Ⅰ・Ⅱの振り返りと今年度の計画
2. 卒業論文の研究テーマ(目的と方法など)を考える
3. 卒業論文の研究テーマに関する基礎知識を整理する
4. 関連する資料、文献を収集する①
5. 関連する資料、文献を収集する②
6. 関連する資料、文献を分析する①
7. 関連する資料、文献を分析する②
8. 研究課題実施のための準備(研究計画の修正を含む)①
9. 研究課題実施のための準備(研究計画の修正を含む)②
10. 研究課題の実施①
11. 研究課題の実施②
12. 研究課題の実施③
13. 研究課題の実施④
14. 研究課題の実施⑤
15. 研究課題の経過と今後の計画について確認する

特記事項: なし

授業方法: 『第1回目～第15回目:演習(対面)』
1. 演習、グループワーク
2. 演習、ディスカッション
3. 演習、ディスカッション
4. 演習、プレゼンテーション、ディスカッション
5. 演習、プレゼンテーション、ディスカッション
6. 演習、プレゼンテーション、ディスカッション
7. 演習、プレゼンテーション、ディスカッション
8. 演習、グループワーク、発表、ディスカッション
9. 演習、グループワーク、発表、ディスカッション
10. 演習、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッション
11. 演習、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッション
12. 演習、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッション
13. 演習、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッション
14. 演習、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッション
15. 演習

予習・復習・宿題など(内容・時間):

第1回:スポーツ教育学専門演習Ⅰ・Ⅱで学んだ内容に関して、全体で振り返る(復習:180分)
第2回～第3回:各自の卒業論文テーマについて考えるとともに、これまでの基礎知識を整理する(予習:各回90分・復習:各回90分)
第4回～第7回:卒業論文テーマに沿った資料・文献の収集および分析を実施する

① 資料・文献の収集（予習：各回45分・復習：各回45分）
② 資料・文献の分析（予習：各回45分・復習：各回45分）
第8回～第9回：研究課題（研究計画）を実施するための準備を行う（予習：各回90分・復習：各回90分）
第10回～第14回：各自で取り組む卒業論文テーマに沿った内容に関する研究課題（実験・調査など）を遂行する（予習：各回90分・復習：各回90分）
第15回：卒業研究に取り組むための計画を各自でまとめる（復習：180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	20	**%**	**確認テスト：**	－	**%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	ゼミ発表・レポート（卒業論文全般）	80	**%**				
その他2：			**%**				

評価基準：

「評価方法」の1～2について、以下の基準を満たすことが求められます。
1. 授業へのとりくみ（授業態度、関心・意欲、発表など）
・毎回のゼミに対して、基本的な関わり（卒業論文に対する研究活動や課外活動などを学ぶ姿勢および関心・意欲など）によりゼミ参加がなされている（60～69点）。
・毎回のゼミに対して、自ら積極的に関わり（卒業論文に対する研究活動や課外活動などを学ぶ姿勢および関心・意欲など）を持ちながらゼミに参加し、進んで卒業論文に向けた研究活動や課外活動等の取り組みがなされている（80～100点）。

2. ゼミ発表・レポート（卒業論文全般）
・各自で選択した卒業論文テーマの内容がまとめられており、プレゼンテーション用とレジュメ用の資料が作成されている（60～69点）。
・各自で選択した卒業論文テーマの内容が相手に伝わるようにまとめられており、自身の考えや表現が含まれたプレゼンテーション用とレジュメ用の資料が作成されている（80～100点）。

課題へのフィードバック：

・ゼミの進行状況により、個々の各ポイントで適宜フィードバックを実施する。
・卒業論文に関するゼミ発表・レポートについては、発表後に毎回のゼミ内で講評する。

教科書： ・ゼミ内で個々の卒業論文に対して、適宜資料（PDF形式・Teams）を紹介する。

参考書： ・特になし

授業・準備学習のアドバイス：

○ 教員との対話や諮問を通じ、ゼミを展開していきます。単に与えられたものを頭に詰め込むのではなく、自らが主体的に探究心をもって学び・考え・活用できるよう「知識を知恵」にすることを目指す姿勢を身に付けてください。
☆ スポーツ教育学専門演習Ⅰ・Ⅱで学習した内容を整理したうえで、卒業論文作成に向けてみんなで一致団結し、ゼミを休まず一緒に取り組みましょう。
※ 各自、PDF形式にて配布された資料については、PCを活用しながら卒業論文に取り組んでください。（毎回の授業時、PC持参）

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: スポーツ教育学専門演習Ⅲ

クラス:

授業コード: BE10500004

担当者: 椿 武 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: スポーツ教育学専門演習Ⅰ・Ⅱで学んだ内容を踏まえて、自身が興味関心を持った研究課題への探求を行う。

到達目標:
1. 自身が興味関心を抱いた研究課題に関連する文献を収集し、卒論に至る背景をまとめる
2. 研究課題や明らかにしたい目的に合致した測定方法・条件を計画・立案する

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 卒業論文の作成に向けた研究資料、文献の収集①
3. 卒業論文の作成に向けた研究資料、文献の収集②
4. 卒業論文の作成に向けた研究資料、文献の収集③
5. プレゼンテーション①（研究の進捗状況について発表・質疑応答）
6. プレゼンテーション②（研究の進捗状況について発表・質疑応答）
7. プレゼンテーション③（研究の進捗状況について発表・質疑応答）
8. プレ実験①（研究の測定方法、分析・評価方法の推敲）
9. プレ実験②（研究の測定方法、分析・評価方法の推敲）
10. プレ実験③（研究の測定方法、分析・評価方法の推敲）
11. 研究課題・研究方法の改善及び再考①（本実験に向けた準備）
12. 研究課題・研究方法の改善及び再考②（本実験に向けた準備）
13. 研究課題・研究方法の改善及び再考③（本実験に向けた準備）
14. 研究課題・研究方法の改善及び再考③（本実験に向けた準備）
15. まとめ（卒業研究の今後の計画について発表を行う）

特記事項: （授業方法）講義、討論発表を交えてすすめていきます

授業方法: 【全て対面で実施】
1. 講義
2. グループワーク
3. グループワーク
4. グループワーク
5. プレゼンテーション
6. プレゼンテーション
7. プレゼンテーション
8. グループワーク
9. グループワーク
10. グループワーク
11. 講義、プレゼンテーション
12. 講義、プレゼンテーション
13. 講義、プレゼンテーション
14. 講義、プレゼンテーション
15. 講義、プレゼンテーション

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

予習（第1回）
スポーツ教育学専門演習Ⅰ・Ⅱで学んだ、内容に関して復習しておく。予習（180分）

復習（第2回～第7回）

スポーツ専門演習Ⅰ・Ⅱで収集した先行研究に関連した論文を探し、自身の卒業研究の筋道を創る。文献収集、プレゼンテーション準備。
毎回予習(90分)、復習(90分)。

予習(第8回～第10回)
卒業研究の実験方法を検討し、プロトコールを作成し、実際にプレ実験を行う。毎回予習(90分)、復習(90分)。
復習(第11回～第14回)
プレ実験で得られた結果から、本実験へ向けてのプロトコールの修正を行う。毎回予習(90分)、復習(90分)。

復習(第15回:全体を通して)
実際に卒業研究に取り組むことを想定して、実験の筋道を計画していく。復習(180分)。

評価方法:

授業へのとりくみ:	40 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	20 **%**
その他1:	プレゼンテーション		40 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 最低限度の到達度(60～69点):ゼミに積極的に参加し、発言や質問をすることができるレポートでは、自身の考えを述べることがでいる。
望ましい到達度(80～100点):他のゼミ生の発表・発言に対して適切な助言、考えを述べることができる。レポートでは、レファレンス資料を用いながら自らの考えを述べ、問題提起できる。

課題へのフィードバック:

試験・レポートのフィードバックは、授業時間を通してアナウンスを行い、オフィスアワーを用いて適宜行っていく。

教科書: NSCA決定版 ストレングストレーニング＆コンディショニング

参考書: なし。必要に応じて資料を配布します。

授業・準備学習のアドバイス:

ゼミの授業以外の自主学習を積極的に行ってください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: スポーツ教育学専門演習Ⅲ

クラス:

授業コード: BE10500006

担当者: 中瀬古　哲　　**単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 専門演習Ⅰ・Ⅱをの学習を踏まえ、卒業研究に向けての取り組みを実施する。

到達目標:
1. 資料・文献を収集し、研究の背景をまとめる。
2. 先行研究を吟味し、研究課題及び研究方法を確定する。
3. 学術論文作成のための基礎的技能を身につける。
4. 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション 序章の確認
2. 学術研究の基本①－情報収集
3. 学術研究の基本②－情報の整理
4. 学術研究の基本③－正しい引用の仕方
5. 学術研究の基本④－研究発表の作法
6. 学術研究の基本⑤－論文執筆の作法
7. 本学の研究倫理基準について
8. 模擬研究発表会－研究計画の中間発表①
9. 模擬研究発表会－研究計画の中間発表②
10. 研究計画の修正及び研究実施の準備①
11. 研究計画の修正及び研究実施の準備②
12. 研究計画の修正及び研究実施の準備③
13. 研究課題の実施及び経過報告①
14. 研究課題の実施及び経過報告②
15. 研究課題の実施及び経過報告③

特記事項: なし

授業方法:
1. 講義（ ※以下すべて対面授業）
2. 演習
3. 演習
4. 演習
5. 演習
6. 演習
7. 確認テスト、解説
8. 演習
9. 演習
10. 演習
11. 演習
12. 発表、討論、総括
13. 発表、討論、総括
14. 発表、討論、総括
15. 総括討論

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1.～7.予習・宿題：論理的思考、学術論文の作成方法並びに研究倫理に関する文献を講読し考察する（450分）。復習：他者の意見を踏まえ考察を深める（450分）

8.9.予習・宿題：1~7を踏まえ研究計画を立案する（450分）
10.～12.予習・宿題：8~9を踏まえ研究計画を精緻化する（450分）
13.～15.予習・復習：これまでの経過を踏まえ、序章を完成させるとともに、研究の経過報告レポートを作成する（900分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	40	**%**	**確認テスト：**	20	**%**	**レポート：**	40 **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準：
【最低限の到達度（60～69点）】：
授業への取り組み：複数の先行研究を踏まえて、自分自身の興味関心と問題意識を述べることができ、解決するための方法についておおよその方向性を確定している。
レポート：それらを報告するための資料を、最低限のルールを守って表現することができる。
【望ましい到達度（80～100点）】
授業への取り組み：複数の学術論文を踏まえて、研究対象と問題意識を述べるとともに研究方法が明示されている。
レポート：それらを報告するための資料を学術論文の様式を踏まえて表現することができる。

課題へのフィードバック：

・課題へのフィードバックは、即時にでくるものはすぐにその場で行う（授業時間内）。
・Teamsの課題については、返却時に行う。
・レポートについては添削の上返却する。
・試験の場合は、評価点と評価の理由を学生に伝える（個別／全体）。

教科書： なし。必要資料を適宜配布します。

参考書：
井下千以子「レポート・論文作成法」慶応義塾大学出版，2013年.
佐藤健二「論文の書き方」弘文堂，2014年.
中村敏雄編「戦後体育実践論 第1巻 民主体育の探究」創文企画，1997年.
中村敏雄編「戦後体育実践論 第2巻 独自性の追求」創文企画，1997年.
中村敏雄編「戦後体育実践論 第3巻 スポーツ教育と実践」創文企画，1998年.

授業・準備学習のアドバイス：

・日ごろから情報収集のアンテナを敏感に！！
・現実という書物（実践）に学びつつ、常にその変革を視野に入れてください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: スポーツ教育学専門演習Ⅲ

クラス:

授業コード: BE10500007

担当者: 松田 雅彦 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: これまでの専門演習を踏まえ、卒業研究に向けた取り組みを実施する

到達目標:
1. 資料・文献を収集し、研究の背景についてまとめる。
2. 卒業論文のテーマを設定し、研究計画を立てることができる。
3. 学術論文作成のための基礎的技能を習得する。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション、研究の全体構成についての理解【対面による】
2. 先行研究・文献の収集、発表①【対面による】
3. 先行研究・文献の収集、発表②【対面による】
4. 研究の背景と研究テーマの関連の整理、発表①【対面による】
5. 研究の背景と研究テーマの関連の整理、発表②【対面による】
6. 研究計画案の作成、情報整理①【対面による】
7. 研究計画案の作成、情報整理②【対面による】
8. 研究計画の発表①【対面による】
9. 研究計画の発表②【対面による】
10. 研究計画の修正、研究実施の準備①【対面による】
11. 研究計画の修正、研究実施の準備②【対面による】
12. 研究計画の修正、研究実施の準備③【対面による】
13. 研究活動の実施と経過報告①【対面による】
14. 研究活動の実施と経過報告②【対面による】
15. 研究活動の実施と経過報告③【対面による】

特記事項: なし

授業方法: 1，講義
2−3. 演習、グループワーク
4−5. 発表及びディスカッション
6−7. 演習、グループワーク
8−9. 発表及びディスカッション
10-12. 講義、演習、ディスカッション
13-15. 演習、ディスカッション

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1－3
・テーマ決定に向けた資料の収集、調査（各時間毎180分）
4－9
・研究計画に基づいた資料収集、調査、研究計画の整理（各時間毎180分）
10－12
・研究計画の修正に関して必要な資料を収集し、理解を深める（各時間毎180分）
13－15
・研究科計画及び研究内容に関して事前に必要事項を調べ、理解を深める（各時間毎180分）

評価方法: **授業へのとりくみ:** 60 **%** **確認テスト:** － **%** **レポート:** 40 **%**
その他1: **%**

その他2： **%**

評価基準： 60-69点：
①卒業論文の形式を理解している。
②自己の研究内容と計画について説明することができる。
80-100点：
①研究の背景をもとに卒業論文のテーマが設定できる。
②具体的な研究計画を立てすすめることができる。
③研究内容について相手に理解できるように説明できる

課題へのフィードバック：
授業中に対応

教科書： 必要に応じて文献・資料を紹介します。

参考書： 特に用いない。必要に応じ資料を配付する。

授業・準備学習のアドバイス：
1. 日頃からスポーツや教育に関する疑問を持つように心がける。
2. 文献等には早めに目をとおし、論文の書式に慣れるようにする。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: スポーツ教育学専門演習Ⅲ

クラス:

授業コード: BE10500008

担当者: 杉山 真人 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: ジュニアスポーツ教育学専門演習Ⅰ・Ⅱを通して習得したスポーツ心理学に関する知見を踏まえ、卒業論文作成に向けた取り組みを実施する。具体的には体育・スポーツに関する科学的研究法や研究哲学の理解を深めるとともに卒業研究を計画・実施する。

到達目標: 卒業研究における関連文献の検索・収集を行い先行研究に関する分析を行う。また、立案した研究計画に基づき卒業論文作成に向けた研究を進める。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 関連文献・資料の収集1
3. 関連文献・資料の収集2
4. 関連文献・資料の収集3
5. 関連文献・資料の分析1
6. 関連文献・資料の分析2
7. 関連文献・資料の分析3
8. 研究計画の修正・研究課題実施のための準備1
9. 研究計画の修正・研究課題実施のための準備2
10. 研究計画の修正・研究課題実施のための準備3
11. 研究課題の実施1
12. 研究課題の実施2
13. 研究課題の実施3
14. 研究課題の実施4
15. 研究課題の実施経過と今後の計画についての確認

特記事項: なし

授業方法:
1. 講義，ディベート
2. グループワーク
3. グループワーク
4. グループワーク
5. グループワーク
6. グループワーク
7. グループワーク
8. グループワーク
9. グループワーク
10. グループワーク
11. グループワーク
12. グループワーク
13. グループワーク
14. グループワーク
15. 講義，ディベート

※全て対面で行います

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

各回の授業内容に応じて次の課題を適宜授業前後で行う。
・文献の検索，通読
・データの収集・分析
・研究計画の立案及び修正

・課題の立案及び修正
（毎時間×180分）

評価方法：	授業へのとりくみ：	60 %	確認テスト：	－ %	レポート：	40 %
	その他1：			%		
	その他2：			%		

評価基準： 最低限度の到達度（60～69点）：スポーツ心理学やその他関連領域の基本的知識を身に着けている
望ましい到達度（80～100点）：研究に関する基本的な知識を習得し，実践することができる

課題へのフィードバック：
各回で個別に指導を行うが，その際に授業外の学習時間に行った課題も踏まえ適宜指導を行う

教科書： なし

参考書： 必要に応じて配布します

授業・準備学習のアドバイス：
各回で個別に指導を行うが，その際に授業外の学習時間に行った課題も踏まえ適宜指導を行う

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: スポーツ教育学専門演習Ⅲ

クラス:

授業コード: BE10500009

担当者: 宮辻 和貴 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: スポーツ教育学専門演習Ⅰ・Ⅱを通して学習した内容を踏まえ、卒業論文作成に向けた取り組みを実施する。
各自が選んだテーマに関する先行研究を学び、運動・スポーツへの研究に対する理解を深めるとともに、卒業論文を計画・実施することを目的とする。

到達目標: 卒業論文のテーマに関連する文献の検索・収集を行い、先行研究を講読かつ分析する。
また、立案した研究計画に基づき、卒業論文作成に向けた研究(準備・作業)を進める。

各回の授業計画:

1. スポーツ教育学専門演習Ⅰ・Ⅱの振り返りと今年度の計画
2. 卒業論文の研究テーマ(目的と方法など)を考える
3. 卒業論文の研究テーマに関する基礎知識を整理する
4. 関連する資料・文献を収集する①
5. 関連する資料・文献を収集する②
6. 関連する資料・文献を分析する①
7. 関連する資料・文献を分析する②
8. 研究課題実施のための準備(研究計画の修正を含む)①
9. 研究課題実施のための準備(研究計画の修正を含む)①
10. 研究課題の実施①
11. 研究課題の実施②
12. 研究課題の実施③
13. 研究課題の実施④
14. 研究課題の実施⑤
15. 研究課題の経過と今後の計画について確認する

特記事項: なし

授業方法: 『第1回目～第15回目:演習(対面)』
1. 演習、グループワーク
2. 演習、ディスカッション
3. 演習、ディスカッション
4. 演習、プレゼンテーション、ディスカッション
5. 演習、プレゼンテーション、ディスカッション
6. 演習、プレゼンテーション、ディスカッション
7. 演習、プレゼンテーション、ディスカッション
8. 演習、グループワーク、発表、ディスカッション
9. 演習、グループワーク、発表、ディスカッション
10. 演習、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッション
11. 演習、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッション
12. 演習、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッション
13. 演習、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッション
14. 演習、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッション
15. 演習

予習・復習・宿題など(内容・時間):

『第1回』
スポーツ教育学専門演習Ⅰ・Ⅱで学んだ内容に関して、全体で振り返る(復習;180分)

『第2回～第3回』
各自の卒業論文テーマについて考えるとともに、これまでの基礎知識を整理する（予習；各回90分・復習；各回90分）

『第4回～第7回』
卒業論文テーマに沿った資料・文献の収集および分析を実施する
① 資料・文献の収集（予習；各回45分・復習；各回45分）
② 資料・文献の分析（予習；各回45分・復習；各回45分）

『第8回～第9回』
研究課題（研究計画）を実施するための準備を行う（予習；各回90分・復習；各回90分）

『第10回～第14回』
各自で取り組む卒業論文テーマに沿った内容に関する研究課題（実験・調査など）を遂行する（予習；各回90分・復習；各回90分）

『第15回』
卒業研究に取り組むための計画を各自でまとめる（復習；180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	20	**%**	**確認テスト：**	－	**%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	ゼミ発表・レポート（卒業論文全般）	80	**%**				
その他2：			**%**				

評価基準：
「評価方法」の1～2について、以下の基準を満たすことが求められます。
1. 授業へのとりくみ（授業態度、関心・意欲、発表など）
・毎回のゼミに対して、基本的な関わり（卒業論文に対する研究活動や課外活動などを学ぶ姿勢および関心・意欲など）によりゼミ参加がなされている（60～69点）
・毎回のゼミに対して、自ら積極的に関わり（卒業論文に対する研究活動や課外活動などを学ぶ姿勢および関心・意欲など）を持ちながらゼミに参加し、進んで卒業論文に向けた研究活動や課外活動等の取り組みがなされている（80～100点）

2. ゼミ発表・レポート（卒業論文全般）
・各自で選択した卒業論文テーマの内容がまとめられており、プレゼンテーション用とレジュメ用の資料が作成されている（60～69点）
・各自で選択した卒業論文テーマの内容が相手に伝わるようにまとめられており、自身の考えや表現が含まれたプレゼンテーション用とレジュメ用の資料が作成されている（80～100点）

課題へのフィードバック：
・ゼミの進行状況により、個々の各ポイントで適宜フィードバックを実施する。
・卒業論文に関するゼミ発表・レポートについては、発表後に毎回のゼミ内で講評する。

教科書： ・ゼミ内で個々の卒業論文に対して、適宜資料（PDF形式・Teams）を紹介する。

参考書： ・特になし

授業・準備学習のアドバイス：
○ 教員との対話や諮問を通じ、ゼミを展開していきます。単に与えられたものを頭に詰め込むのではなく、自らが主体的に探究心をもって学び・考え・活用できるよう「知識を知恵」にすることを目指す姿勢を身に付けてください。
☆ スポーツ教育学専門演習Ⅰ・Ⅱで学習した内容を整理したうえで、卒業論文作成に向けて一致団結し、ゼミを休まずにみんなで取り組みましょう。
※ 各自、PDF形式にて配布された資料については、PCを活用しながら卒業論文に取り組んでください（毎回の授業時、PC持参）

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: スポーツ教育学専門演習Ⅲ

クラス:

授業コード: BE10500010

担当者: 久永　将太　　**単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: スポーツ教育学専門演習Ⅰ･Ⅱを通して得られた知見を踏まえ、卒業論文作成に向けた取り組みを実施する。

到達目標: ①研究課題における関連文献・資料の収集を行い、先行研究の内容を理解し、まとめることができる。
②卒業論文作成に向けた研究計画を立て、研究を実施することができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 関連文献・資料の収集①
3. 関連文献・資料の収集②
4. 関連文献・資料の収集③
5. 先行研究の発表①
6. 先行研究の発表②
7. 先行研究の発表③
8. 研究計画の修正、研究課題実施の準備①
9. 研究計画の修正、研究課題実施の準備②
10. 研究計画の修正、研究課題実施の準備③
11. 研究課題の実施①
12. 研究課題の実施②
13. 研究課題の実施③
14. 研究課題の実施④
15. 研究課題の実施経過と今後の計画の確認

特記事項:

授業方法: すべての授業を対面授業で行う。
1. 講義
2. 演習、グループワーク
3. 演習、グループワーク
4. 演習、グループワーク
5. プレゼンテーション、討論
6. プレゼンテーション、討論
7. プレゼンテーション、討論
8. 演習、グループワーク
9. 演習、グループワーク
10. 演習、グループワーク
11. 演習、グループワーク
12. 演習、グループワーク
13. 演習、グループワーク
14. 演習、グループワーク
15. 講義、討論

予習・復習・宿題など(内容・時間):

【1回~7回】
予習:先行研究について事前に調べまとめておく(各回90分)
復習:興味を持った資料や論文に関して詳細に調べ理解を深める(各回90分)
【8回~15回】

予習:卒業論文の研究課題に関する準備及び資料の作成(各回90分)
復習:興味を持った資料や論文に関して詳細に調べ理解を深める(各回90分)

評価方法:	授業へのとりくみ:	70 %	確認テスト:	%	レポート:	30 %
	その他1:			%		
	その他2:			%		

評価基準: 最低限度の到達度(60~69点);
自分自身の研究テーマに関する様々な事象に興味を持ち、発表・発言内容がまとめられている。

望ましい到達度(80~100点);
自分自身の研究テーマに関する様々な事象に興味を持ち、発表・発言内容がまとめられ、さらに何が問題かを考え、解決方法を創出することができる。

課題へのフィードバック:
授業ごとに講評を行う。

教科書: 必要に応じて配布する。

参考書: 必要に応じて配布する。

授業・準備学習のアドバイス:
卒業論文の執筆に必要な研究方法等を学んでいきましょう。

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: スポーツ教育学専門演習Ⅲ

クラス:

授業コード: BE10500011

担当者: 山中 裕太 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 卒業論文を作成するための知識を深め、卒業研究を実施し、卒業論文の中間報告書を作成・発表することができる。

到達目標:
1. 関心のある領域や分野の知識を深める
2. 関心のある領域や分野の研究方法を学ぶ
3. 研究計画書を作成できる
4. 実験を進めることができる
5. 中間報告書を作成・発表することができる

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 論文紹介と研究の進捗状況の報告
3. 論文紹介と研究の進捗状況の報告
4. 論文紹介と研究の進捗状況の報告
5. 論文紹介と研究の進捗状況の報告
6. 論文紹介と研究の進捗状況の報告
7. 論文紹介と研究の進捗状況の報告
8. 論文紹介と研究の進捗状況の報告
9. 論文紹介と研究の進捗状況の報告
10. 論文紹介と研究の進捗状況の報告
11. 論文紹介と研究の進捗状況の報告
12. 論文紹介と研究の進捗状況の報告
13. 論文紹介と研究の進捗状況の報告
14. 卒業論文の中間報告
15. 卒業論文の中間報告

特記事項: なし

授業方法: すべての授業を対面授業で行う
①この授業は参加者が論文を熟読し、参加者がパワーポイントや資料を作成し、それをもとに内容を説明し、ディスカッションを行う、という流れで授業を行います。
②この授業では作成した研究計画をもとに実験や予備実験を進め、研究の進捗状況を報告し、それをもとに内容を説明し、ディスカッションを行う、という流れで授業を行います。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 自身の興味のある領域や分野に関して勉強する(180分)。
2. 自身の興味のある領域や分野に関する論文を検索し、資料を作成する(90分)。自身の考える研究計画について資料を作成する(90分)。
3. 自身の興味のある領域や分野に関する論文を検索し、資料を作成する(90分)。自身の考える研究計画について資料を作成する(90分)。
4. 自身の興味のある領域や分野に関する論文を検索し、資料を作成する(90分)。自身の考える研究計画について資料を作成する(90分)。
5. 自身の興味のある領域や分野に関する論文を検索し、資料を作成する(90分)。自身の考える研究計画について資料を作成する(90分)。
6. 自身の興味のある領域や分野に関する論文を検索し、資料を作成する(90分)。自身の考える研究計画について資料を作成する(90分)。
7. 自身の興味のある領域や分野に関する論文を検索し、資料を作成する(90分)。自身の研究の進捗状況について資料を作成する(90分)。
8. 自身の興味のある領域や分野に関する論文を検索し、資料を作成する(90分)。自身の研究の進捗状況について資料を作成する(90分)。
9. 自身の興味のある領域や分野に関する論文を検索し、資料を作成する(90分)。自身の研究の進捗状況について資料を作成する(90分)。

10. 自身の興味のある領域や分野に関する論文を検索し、資料を作成する(90分)。自身の研究の進捗状況について資料を作成する(90分)。
11. 自身の興味のある領域や分野に関する論文を検索し、資料を作成する(90分)。自身の研究の進捗状況について資料を作成する(90分)。
12. 自身の研究の進捗状況について資料を作成する(180分)。
13. 自身の研究の進捗状況について資料を作成する(180分)。
14. 自身の卒業研究の進捗状況をまとめ発表・報告資料を作成する(180分)。
15. 自身の卒業研究の進捗状況をまとめ発表・報告資料を作成する(180分)。

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	30 **%**
その他1:	発表		40 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準:

「最低限の到達度(60～69点)」
1. 自身の関心のある領域や分野を見つけ、自身の興味がある研究を計画することができる。
2. 自身の研究を相手に伝えることができる。
3. 研究を進めることができる。

「望ましい到達度(80～100点)」
1. 自身の関心のある領域や分野を見つけ、自身の興味だけでなく、研究が必要とされる背景を理解して、研究を計画することができる。
2. 自身の計画する研究を、相手にわかりやすく(論理的・資料が理解しやすい)伝えることができる。
3. 研究全体の研究の進捗状況やスケジュールを理解することができる。

課題へのフィードバック:

論文紹介・研究計画発表・予備実験の計画発表でのディスカッションでフィードバックを行います。

教科書: なし

参考書: 研究の育て方 ゴールとプロセスの「見える化」, 近藤克則.

授業・準備学習のアドバイス:

コツコツと続けることが大切です。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: スポーツ教育学専門演習Ⅳ

クラス:

授業コード: BE10600001

担当者: 佃尾 哲哉 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 自主課題の研究にあたる

到達目標:
1. 文献調査
2. 調査のまとめ
3. 自主課題の成果をまとめる

各回の授業計画:

1. 夏期休み中の研究経過報告①クラスにで発表(学籍番号前半者)
2. 夏期休み中の研究経過報告②クラスにて発表(学籍番号後半者)
3. 自主課題の研究 文献調査, アンケート調査まとめ ①進め方の確認
4. 自主課題の研究 文献調査, アンケート調査まとめ ②課題と仮説の確認
5. 自主課題の研究 文献調査, アンケート調査まとめ ③研究の背景を確認
6. 自主課題の研究 文献調査, アンケート調査まとめ ④序論の確認
7. 自主課題の研究 文献調査, アンケート調査まとめ ⑤結果の確認
8. 自主課題の研究 文献調査, アンケート調査まとめ ⑥考察の確認
9. 課題研究の成果を提出
10. 課題研究発表 プレゼン準備Ⅰ 原稿作成
11. 課題研究発表 プレゼン準備Ⅱ パワーポイント作成
12. 発表練習(前半)
13. 発表練習(後半)
14. 発表(前半)
15. 発表(後半)

＊確認テストは適宜行なう

特記事項: なし

授業方法:
1. 発表
2. 発表
3. 演習
4. 演習
5. 演習
6. 演習
7. 演習
8. 演習
9. 演習
10. 演習
11. 演習
12. ゼミ内発表
13. ゼミ内発表
14. 口頭試問
15. 口頭試問

＊全てを対面で行う

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1~2回 研究経過報告用の資料作成と原稿作成。(360分)
3~8回 それぞれの時間の学習課題を事前学習において作成しておく。(1080分)

9回 本文はもちろん、表紙をはじめ所定の形式に作成しておく。(180分)
10回 本文の中で、本論となる部分をまとめておく。(180分)
11回 本論となる部分のキーワードを見出しておく。(180分)
12~13回 発表時間に合わせて、レジュメを読み込んでおく。(360分)
14~15回 発表練習(360分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	20 **%**	**レポート:**	30 **%**
その他1:	発表		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準:
研究への取り組みで、成果を出せた(60-69点)
研究への取り組みで、計画通り進め、成果を出せた(70-79点)
研究への取り組みで、計画通り進め、その成果を他者にわかりやすく発表できた(80-100点)

課題へのフィードバック:
授業内において口頭でフィードバックを行う。

教科書: なし

参考書: なし
ただし、資料は必要に応じて適宜配布する

授業・準備学習のアドバイス:
ポートフォリオを作成します

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: スポーツ教育学専門演習Ⅳ

クラス:

授業コード: BE10600002

担当者: 葦原　摩耶子　　**単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 専門演習Ⅲに続き、各自の卒業研究を完成に向けて進めていきます。

到達目標: 1. 研究計画に従い，調査，実験を行い，データの収集ができること。
2. 収集したデータを分析し，論文にまとめること。

各回の授業計画:

1. 研究の進行状況と今後の計画の発表
2. 卒業研究課題に対する個別指導1
3. 卒業研究課題に対する個別指導2
4. 卒業研究課題に対する個別指導3
5. 卒業研究課題に対する個別指導4
6. 卒業研究課題に対する個別指導5
7. 卒業研究の中間発表
8. 論文完成に向けての個別指導6
9. 論文完成に向けての個別指導7
10. 論文完成に向けての個別指導8
11. 論文完成に向けての個別指導9
12. 論文完成に向けての個別指導10
13. 卒業論文口頭試問準備
14. 卒業論文口頭試問の練習
15. まとめと振り返り

特記事項: なし

授業方法: 15回すべて対面で実施する。

1. 演習
2. 演習
3. 演習
4. 演習
5. 演習
6. 演習
7. 演習
8. 演習
9. 演習
10. 演習
11. 演習
12. 演習
13. 演習
14. 演習
15. 演習

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 予習：卒業論文完成までの計画を立てる（150分）
2. 予習：個々の進度に応じて，実験・調査の実施，分析，論文の執筆を行う（150分）
3. 予習：個々の進度に応じて，実験・調査の実施，分析，論文の執筆を行う（150分）

4. 予習：個々の進度に応じて，実験・調査の実施，分析，論文の執筆を行う（150分）
5. 予習：個々の進度に応じて，実験・調査の実施，分析，論文の執筆を行う（150分）
6. 予習：個々の進度に応じて，実験・調査の実施，分析，論文の執筆を行う（150分）
7. 課題：卒業論文の中間発表（360分）
8. 予習：卒業論文の執筆（170分）
9. 予習：卒業論文の執筆（170分）
10. 予習：卒業論文の執筆（170分）
11. 予習：卒業論文の執筆（170分）
12. 予習：卒業論文の執筆（170分）
13. 予習：卒業論文口頭試問の準備（170分）
14. 課題：卒業論文の口頭試問の練習（360分）
15. 復習：演習で身につけた力について振り返る（60分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	60	**%**	**確認テスト：**	－	**%**	**レポート：**	40 **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準：
課題に関する評価
最低限度の到達度（60～69点）：スポーツ心理学における研究方法にのっとり卒業論文が作成されている。
望ましい到達度（80～100点）：独自の視点を持ってテーマが設定されており，適切なデータ収集・分析がなされ，卒業論文の本文全体が十分に推敲されている。

課題へのフィードバック：
レポート課題については添削し返却する。

教科書： なし。適宜資料を配布します。

参考書： なし。必要に応じて講義内で紹介する。

授業・準備学習のアドバイス：
卒業論文の完成に向けて、計画的に進めていきましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: スポーツ教育学専門演習Ⅳ

クラス:

授業コード: BE10600003

担当者: 祐末 ひとみ　　**単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 各自が設定したテーマに関する研究論文(文献、書籍)を読み、研究計画に基づいて作業(収集したデータ整理・分析等)を進め、卒業論文を作成する。

到達目標: 各自が収集した研究データの分析、結果の解釈などにより研究(論文内容)への理解を深める。
また、卒業論文の作成を通して、各々が論理的な思考を身につける。
そして、最終的に卒業論文を完成することを到達目標とする。

各回の授業計画:

1. 卒業論文の進行状況と今後の計画の確認
2. 卒業論文課題に対する個別指導①
3. 卒業論文課題に対する個別指導②
4. 卒業論文課題に対する個別指導③
5. 卒業論文課題に対する個別指導④
6. 卒業論文課題に対する個別指導⑤
7. 中間発表会
8. 卒業論文作成のための個別指導①
9. 卒業論文作成のための個別指導②
10. 卒業論文作成のための個別指導③
11. 卒業論文作成のための個別指導④
12. 卒業論文作成のための個別指導⑤
13. 卒業論文提出・発表の準備(体裁等の最終確認)
14. 卒業論文発表会(ゼミ内発表会)
15. 卒業論文発表会(ゼミ内発表会)、まとめ(2年間の振り返り等)

特記事項: なし

授業方法: 『第1回目～第15回目:演習(対面)』
1. 演習、グループワーク
2. 演習、ディスカッション
3. 演習、ディスカッション
4. 演習、ディスカッション
5. 演習、ディスカッション
6. 演習、ディスカッション
7. 演習、発表、プレゼンテーション、ディスカッション
8. 演習、ディスカッション
9. 演習、ディスカッション
10. 演習、ディスカッション
11. 演習、ディスカッション
12. 演習、ディスカッション
13. 演習、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッション
14. 演習、発表、プレゼンテーション、ディスカッション
15. 演習、発表、プレゼンテーション、ディスカッション

予習・復習・宿題など(内容・時間):

第1回:各自が取り組んでいる卒業論文テーマの進行状況および今後の計画の確認を行う(復習:180分)
第2回～第6回:各自の卒業論文テーマに対する個別指導の実施により得られた内容を整理する(予習:各回90分・復習:各回90分)
第7回:中間発表会において、各自の進行状況を確認するとともに、ゼミメンバーで共通理解を得る(予習:90分・復習:90分)

第8回～第12回：各自の卒業論文作成に対する個別指導の実施により得られた内容をまとめる（予習：各回90分・復習：各回90分）
第13回：各自作成した卒業論文の体裁等の確認を行い、卒業論文発表プレゼンテーションを準備する（予習：90分・復習：90分）
第14回～第15回：卒業論文発表会（ゼミ内発表会）で得られた意見等を整理し、まとめる。そして、2年間の総まとめを実施する（予習：各回90分・復習：各回90分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	10	**%**	**確認テスト：**	－	**%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	ゼミ発表・レポート（卒業論文全般）		90	**%**			
その他2：				**%**			

評価基準：

「評価方法」の1～2について、以下の基準を満たすことが求められます。
1. 授業へのとりくみ（授業態度、関心・意欲、発表など）
・毎回のゼミに対して、基本的な関わり（卒業論文に対する研究活動や課外活動などを学ぶ姿勢および関心・意欲など）によりゼミ参加がなされている（60～69点）。
・毎回のゼミに対して、自ら積極的に関わり（卒業論文に対する研究活動や課外活動などを学ぶ姿勢および関心・意欲など）を持ちながらゼミに参加し、進んで卒業論文に向けた研究活動や課外活動等の取り組みがなされている（80～100点）。

2. ゼミ発表・レポート（卒業論文全般）
・各自で選択した卒業論文テーマの内容がまとめられており、発表用プレゼンテーションと抄録、卒業論文提出用の資料が作成されている（60～69点）。
・各自で選択した卒業論文テーマの内容が相手に伝わるようにまとめられており、自身の考えや表現が含まれた発表用プレゼンテーションと抄録、卒業論文提出用の資料が作成されている（80～100点）。

課題へのフィードバック：

・ゼミの進行状況により、個々の最終ポイントで適宜フィードバックを実施する。
・卒業論文に関するゼミ発表・レポートについては、発表後に毎回のゼミ内で講評する。

教科書：

・ゼミ内で個々の卒業論文に対して、適宜資料（PDF形式・Teams）を紹介する。

参考書：

・特になし。

授業・準備学習のアドバイス：

○ 教員との対話や諮問を通じ、ゼミを展開していきます。単に与えられたものを頭に詰め込むのではなく、自らが主体的に探究心をもって学び・考え・活用できるよう「知識を知恵」にすることを目指す姿勢を身に付けてください。
☆ 卒業論文は学生生活の集大成です。みんなで悔いの残らないようにベストを尽くして、卒業論文を完成させましょう。
※ 各自、PDF形式にて配布された資料については、PCを活用しながら卒業論文に取り組んでください。（毎回の授業時、PC持参）

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: スポーツ教育学専門演習Ⅳ

クラス:

授業コード: BE10600004

担当者: 椿 武 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: これまでの大学生活で学んできた学習内容を踏まえ、自身が興味関心を抱いた研究課題に対して様々な側面から探求し、卒業論文を作成する。

到達目標:
1. 実験によって得られた結果の要因を考察し、因果関係を明らかにする
2. 研究の背景・目的・方法・結果・考察・結論を論理的に卒業論文にまとめる

各回の授業計画:

1. 卒業論文の進捗状況と今後の研究計画の発表
2. 卒業研究の進捗状況の発表及び卒業研究に対する個別指導①
3. 卒業研究の進捗状況の発表及び卒業研究に対する個別指導②
4. 卒業研究の進捗状況の発表及び卒業研究に対する個別指導③
5. 卒業研究の進捗状況の発表及び卒業研究に対する個別指導④
6. 卒業研究の進捗状況の発表及び卒業研究に対する個別指導⑤
7. 卒業研究の中間発表
8. 卒業論文完成に向けた個別指導①
9. 卒業論文完成に向けた個別指導②
10. 卒業論文完成に向けた個別指導③
11. 卒業論文完成に向けた個別指導④
12. 卒業論文完成に向けた個別指導⑤
13. 卒業論文発表会準備
14. 卒業論文発表会（3年ゼミ生を対象としたポスター発表会）
15. まとめ（ポスター発表会の反省及び本発表に向けた修正、準備）

特記事項: （授業方法）講義、討論発表を交えてすすめていきます

授業方法: 【全て対面で実施】

1. プレゼンテーション
2. プレゼンテーション、講義
3. プレゼンテーション、講義
4. プレゼンテーション、講義
5. プレゼンテーション、講義
6. プレゼンテーション、講義
7. プレゼンテーション
8. プレゼンテーション、講義
9. プレゼンテーション、講義
10. プレゼンテーション、講義
11. プレゼンテーション、講義
12. プレゼンテーション、講義
13. グループワーク
14. プレゼンテーション
15. プレゼンテーション

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

予習（第1回）
スポーツ教育学専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学んだ、内容に関して復習しておく。予習（180分）

予習・復習（第2回～第6回）
自身の卒業研究に対して、文献検索や実際に実験などを行い、その結果の分析・考察について個別指導を行う。文献収集。毎時間予習（90分）、復習（90分）。

予習（第7回）
中間発表準備。予習（90分）、復習（90分）。

予習・復習（第8回～第12回）
卒業研究の実験結果から、分析・考察を行う。毎時間予習（90分）、復習（90分）。

予習（第13回～第14回）
卒業論文発表会の準備。毎時間予習（90分）、復習（90分）。

復習（第15回：全体を通して）
自身が取り組んだ卒業研究を論理的にまとめ、他者へプレゼンテーション、ディスカッションを行い、得られた指摘から自身の卒業研究を深める。復習（180分）。

評価方法：

授業へのとりくみ：	40 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	20 **%**
その他1：	プレゼンテーション		40 **%**		
その他2：			**%**		

評価基準： 最低限度の到達度（60～69点）：ゼミに積極的に参加し、発言や質問をすることができる。レポートでは、自身の考えを述べることがでいる。
望ましい到達度（80～100点）：他のゼミ生の発表・発言に対して適切な助言、考えを述べることができる。レポートでは、レファレンス資料を用いながら自らの考えを述べ、問題提起できる。

課題へのフィードバック：
試験・レポートのフィードバックは、授業時間を通してアナウンスを行い、オフィスアワーを用いて適宜行っていく。

教科書： NSCA決定版 ストレングストレーニング＆コンディショニング

参考書： なし。必要に応じて資料を配布します。

授業・準備学習のアドバイス：
試験・レポートのフィードバックは、授業時間を通してアナウンスを行い、オフィスアワーを用いて適宜行っていく。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: スポーツ教育学専門演習Ⅳ

クラス:

授業コード: BE10600006

担当者: 中瀬古　哲　　**単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 専門演習Ⅲに続き、卒業研究に向けての取り組みを実施する。

到達目標:
1. 研究計画に従って、情報収集・分析・考察を行う。
2. 研究成果を論文にまとめる。
3. 学術研究への理解を深めるとともに、そのための思考方法と表現方法を身につける。

各回の授業計画:

1. 研究の進行状況と今後の計画の確認
2. 卒業研究課題に対する個別指導①
3. 卒業研究課題に対する個別指導②
4. 卒業研究課題に対する個別指導③
5. 卒業研究課題に対する個別指導④
6. 中間発表①
7. 中間発表②
8. 卒業論文作成に関する個別指導①
9. 卒業論文作成に関する個別指導②
10. 卒業論文作成に関する個別指導③
11. 卒業論文作成に関する個別指導④
12. 卒業論文作成に関する個別指導⑤
13. 卒業論文発表会の準備
14. 卒業論文発表会①
15. 卒業論文発表会②

特記事項: なし

授業方法:
1. 演習（ ※以下すべて対面授業）
2. 演習
3. 演習
4. 演習
5. 演習
6. 演習
7. 演習
8. 演習
9. 演習
10. 演習
11. 演習
12. 演習
13. 演習
14. 演習
15. 演習

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1.～15.予習:先行研究・関連文献の購読・吟味（900分）。
1.～15.復習・宿題:①指導を受け論文を執筆する（900分）。②報告発表資料の作成（900分）

評価方法：	授業へのとりくみ：	40 %	確認テスト：	－ %	レポート：	60 %
	その他1：			%		
	その他2：			%		

評価基準： 【最低限の到達度（60～69点）】
・授業への取り組み：演習において、積極的に発言する姿勢がうかがえる。
・レポート：複数の先行研究を踏まえて、問題意識、研究対象、研究課題を述べることができ、その問題を解決するための方法について説明することができる。それらを研究倫理と学術的なルールを踏まえて論文を執筆することができる。
【望ましい到達度（80～100点）】
・授業への取り組み：演習において、積極的に発言するとともに、リードする姿勢がうかがえる。
・レポート：複数の学術論文を踏まえて、問題意識、研究対象、研究課題を述べるとともに学術的な研究方法が明示されている。それらを研究倫理と学術論文の様式を踏まえて論文を執筆することができる。

課題へのフィードバック：
・課題へのフィードバックは、即時にでくるものはすぐにその場で行う（授業時間内）。
・Teamsの課題については、返却時に行う。
・レポートについては添削の上返却する。
・試験の場合は、評価点と評価の理由を学生に伝える（個別／全体）。

教科書： なし。必要資料を適宜配布します。

参考書： 井下千以子「レポート・論文作成法」慶応義塾大学出版，2013年.
佐藤健二「論文の書き方」弘文堂，2014年.
日本発達心理学会編「研究法と尺度」新曜社，2011年.

授業・準備学習のアドバイス：
・日ごろから情報収集のアンテナを敏感に！！
・現実という書物（実践）に学びつつ、常にその変革を視野に入れてください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: スポーツ教育学専門演習Ⅳ

クラス:

授業コード: BE10600007

担当者: 松田 雅彦 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 専門演習Ⅲに基づき、各自の卒業論文を完成させ発表を行う。

到達目標:
1. 研究計画にしたがい、調査・資料収集したものをまとめることができる。
2. 経過発表と意見交換を経て、論文の見直し再検討ができる。
3. 卒業論文を完成させ発表することができる。

各回の授業計画:

1. 研究に関する進捗状況の確認と今後の研究計画の発表と意見交換【対面による】
2. 卒業論文作成に対する個別指導①【対面による】
3. 卒業論文作成に対する個別指導②【対面による】
4. 卒業論文作成に対する個別指導③【対面による】
5. 卒業論文作成に対する個別指導④【対面による】
6. 卒業論文作成に対する個別指導⑤【対面による】
7. 卒業論文の中間発表①【対面による】
8. 卒業論文の中間発表②【対面による】
9. 卒業論文作成①【対面による】
10. 卒業論文作成②【対面による】
11. 卒業論文の作成③【対面による】
12. 卒業論文の作成④【対面による】
13. 卒業論文ゼミ内発表会①【対面による】
14. 卒業論文ゼミ内発表会②【対面による】
15. 卒業論文全体発表会【対面による】

特記事項: なし

授業方法: 講義と演習

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1－6:研究内容と計画に関する発表と意見交換のための資料収集及び整理(毎時間毎180分)
7－8:研究全体の整理と論理構成の確認及びプレンテーションの準備(毎時間毎180分)
9－12:論文作成(毎時間毎180分)
13－15:発表準備(毎時間毎180分)

評価方法:							
	授業へのとりくみ:	60 %	確認テスト:	－ %	レポート:	20 %	
	その他1: 口頭試問			20 %			
	その他2:			%			

評価基準: 60-69点:
①首尾一貫した論理構成をもって研究計画がまとめられている。
②形式にのっとった書き方をしている。
80-100点:
①研究計画に則って研究がまとめられている。
②研究に関して自己の考察が加えられている。
③卒業論文をうまく説明することができる。

課題へのフィードバック：

授業時に対応

教科書： 必要に応じて文献・資料を紹介します。

参考書： 特に用いない。必要に応じ資料を配付する。

授業・準備学習のアドバイス：

先行研究などについて自分でしっかりと調べてください。論文の決まった書き方で作業に取り組んでください。研究の目的をしっかりと定めて計画をたててください。論文の完成が遅れることのないように時間を有効に活用して活動を進めてください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: スポーツ教育学専門演習Ⅳ

クラス:

授業コード: BE10600008

担当者: 杉山 真人 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 研究計画に基づいて研究を進めていく。そして、収集したデータを分析し、卒業論文を作成する。

到達目標: 文献研究、研究データの収集・分析、結果の解釈など科学研究への理解を深める。そして、卒業論文の作成を通して論理的な思考を身につける。また、研究発表を行うことによりプレゼンテーション能力を養う。

各回の授業計画:

1. 研究の進行状況と今後の計画の確認
2. 卒業研究課題に対する個別指導1
3. 卒業研究課題に対する個別指導2
4. 卒業研究課題に対する個別指導3
5. 卒業研究課題に対する個別指導4
6. 卒業研究課題に対する個別指導5
7. 中間発表会
8. 卒業論文作成に関する個別指導1
9. 卒業論文作成に関する個別指導2
10. 業論文作成に関する個別指導3
11. 卒業論文作成に関する個別指導4
12. 卒業論文作成に関する個別指導5
13. 研究発表の準備
14. 研究発表会
15. まとめと振り返り

特記事項: なし

授業方法:
1. 講義，ディベート
2. グループワーク
3. グループワーク
4. グループワーク
5. グループワーク
6. グループワーク
7. プレゼンテーション，ディベート
8. グループワーク
9. グループワーク
10. グループワーク
11. グループワーク
12. グループワーク
13. プレゼンテーション，ディベート
14. プレゼンテーション，ディベート
15. プレゼンテーション，ディベート

※全て対面で行います

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

各回の授業内容に応じて次の課題を適宜授業前後で行う。
・文献の検索，通読
・データの収集・分析
・論文の作成

（毎時間×180分）

評価方法：	授業へのとりくみ：	60 %	確認テスト：	－ %	レポート：	40 %
	その他1：			%		
	その他2：			%		

評価基準： 最低限度の到達度（60～69点）：スポーツ心理学やその他関連領域の基本的知識を身に着けている
望ましい到達度（80～100点）：研究に関する基本的な知識を習得し，実践することができる

課題へのフィードバック：

各回で個別に指導を行うが，その際に授業外の学習時間に行った課題も踏まえ適宜指導を行う。

教科書： なし

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：

各回で個別に指導を行うが，その際に授業外の学習時間に行った課題も踏まえ適宜指導を行う.

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: スポーツ教育学専門演習Ⅳ

クラス:

授業コード: BE10600009

担当者: 宮辻 和貴 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 各自が設定したテーマに関する研究論文(文献・書籍等)を読み、研究計画に基づいて作業(収集したデータ整理・分析等)を進め、卒業論文を作成する。

到達目標: 各自が収集した研究データの分析、結果の解釈などにより研究(論文内容)への理解を深める。
また、卒業論文の作成を通して、各々が論理的な思考を身につける。
そして、最終的に卒業論文を完成することを到達目標とする。

各回の授業計画:

1. 卒業論文の進行状況と今後の計画の確認
2. 卒業論文課題に対する個別指導①
3. 卒業論文課題に対する個別指導②
4. 卒業論文課題に対する個別指導③
5. 卒業論文課題に対する個別指導④
6. 卒業論文課題に対する個別指導⑤
7. 中間発表会
8. 卒業論文作成のための個別指導①
9. 卒業論文作成のための個別指導②
10. 卒業論文作成のための個別指導③
11. 卒業論文作成のための個別指導④
12. 卒業論文作成のための個別指導⑤
13. 卒業論文提出・発表の準備(体裁等の最終確認)
14. 卒業論文発表会(ゼミ内発表会)
15. 卒業論文発表会(ゼミ内発表会)、まとめ(2年間の振り返り等)

特記事項: なし

授業方法: 『第1回目～第15回目:演習(対面)』
1. 演習、グループワーク
2. 演習、ディスカッション
3. 演習、ディスカッション
4. 演習、ディスカッション
5. 演習、ディスカッション
6. 演習、ディスカッション
7. 演習、発表、プレゼンテーション、ディスカッション
8. 演習、ディスカッション
9. 演習、ディスカッション
10. 演習、ディスカッション
11. 演習、ディスカッション
12. 演習、ディスカッション
13. 演習、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッション
14. 演習、発表、プレゼンテーション、ディスカッション
15. 演習、発表、プレゼンテーション、ディスカッション

予習・復習・宿題など(内容・時間):

『第1回』
各自が取り組んでいる卒業論文テーマの進行状況および今後の計画の確認を行う(復習;180分)

『第2回～第6回』
各自の卒業論文テーマに対する個別指導の実施により得られた内容を整理する（予習：各回90分・復習：各回90分）

『第7回』
中間発表会において、各自の進行状況を確認するとともに、ゼミメンバーで共通理解を得る（予習：90分・復習：90分）

『第8回～第12回』
各自の卒業論文作成に対する個別指導の実施により得られた内容をまとめる（予習：各回90分・復習：各回90分）

『第13回』
各自作成した卒業論文の体裁等の確認を行い、卒業論文発表プレゼンテーションを準備する（予習：90分・復習：90分）

『第14回～第15回』
卒業論文発表会（ゼミ内発表会）で得られた意見等を整理し、まとめる。そして、2年間の総まとめを実施する（予習：各回90分・復習：各回90分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	10	**%**	**確認テスト：**	－	**%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	ゼミ発表・レポート（卒業論文全般）		90	**%**			
その他2：				**%**			

評価基準：

「評価方法」の1～2について、以下の基準を満たすことが求められます。
1. 授業へのとりくみ（授業態度、関心・意欲、発表など）
・毎回のゼミに対して、基本的な関わり（卒業論文に対する研究活動や課外活動などを学ぶ姿勢および関心・意欲など）によりゼミ参加がなされている（60～69点）
・毎回のゼミに対して、自ら積極的に関わり（卒業論文に対する研究活動や課外活動などを学ぶ姿勢および関心・意欲など）を持ちながらゼミに参加し、進んで卒業論文に向けた研究活動や課外活動等の取り組みがなされている（80～100点）

2. ゼミ発表・レポート（卒業論文全般）
・各自で選択した卒業論文テーマの内容がまとめられており、発表用プレゼンテーションと抄録、卒業論文提出用の資料が作成されている（60～69点）
・各自で選択した卒業論文テーマの内容が相手に伝わるようにまとめられており、自身の考えや表現が含まれた発表用プレゼンテーションと抄録、卒業論文提出用の資料が作成されている（80～100点）

課題へのフィードバック：

・ゼミの進行状況により、個々の最終ポイントで適宜フィードバックを実施する。
・卒業論文に関するゼミ発表・レポートについては、発表後に毎回のゼミ内で講評する。

教科書： ・ゼミ内で個々の卒業論文に対して、適宜資料（PDF形式・Teams）を紹介する。

参考書： ・特になし

授業・準備学習のアドバイス：

○ 教員との対話や諮問を通じ、ゼミを展開していきます。単に与えられたものを頭に詰め込むのではなく、自らが主体的に探究心をもって学び・考え・活用できるよう「知識を知恵」にすることを目指す姿勢を身に付けてください。
☆ 卒業論文は学生生活の集大成です。みんなで悔いの残らないようにベストを尽くして、卒業論文を完成させましょう。
※ 各自、PDF形式にて配布された資料については、PCを活用しながら卒業論文に取り組んでください（毎回の授業時、PC持参）

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: スポーツ教育学専門演習Ⅳ

クラス:

授業コード: BE10600010

担当者: 久永 将太 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: スポーツ教育学専門演習Ⅲで作成した研究計画に基づき、研究を進め、卒業論文を作成する。

到達目標: ①研究計画に基づき、研究を進めることができる。
②研究成果を論文としてまとめることができる。

各回の授業計画:

1. 研究の進行状況と今後の計画の確認
2. 卒業研究課題に関する個別指導①
3. 卒業研究課題に関する個別指導②
4. 卒業研究課題に関する個別指導③
5. 卒業研究課題に関する個別指導④
6. 卒業研究課題に関する個別指導⑤
7. 中間発表
8. 卒業論文作成に関する個別指導①
9. 卒業論文作成に関する個別指導②
10. 卒業論文作成に関する個別指導③
11. 卒業論文作成に関する個別指導④
12. 卒業論文作成に関する個別指導⑤
13. 卒業論文発表の準備
14. 卒業論文発表会
15. まとめと振り返り

特記事項:

授業方法: すべての授業を対面授業で行う。
1. 講義
2. 講義、演習、討論
3. 講義、演習、討論
4. 講義、演習、討論
5. 講義、演習、討論
6. 講義、演習、討論
7. 講義、プレゼンテーション
8. 講義、演習、討論
9. 講義、演習、討論
10. 講義、演習、討論
11. 講義、演習、討論
12. 講義、演習、討論
13. 講義、演習
14. プレゼンテーション
15. 講義、グループワーク

予習・復習・宿題など(内容・時間):

【1回~6回】
予習:先行研究について事前に調べまとめておく(各回90分)
復習:興味を持った資料や論文に関して詳細に調べ理解を深める(各回90分)
【8回~12回】

予習:卒業論文の研究課題に関する準備及び資料の作成(各回90分)
復習:興味を持った資料や論文に関して詳細に調べ理解を深める(各回90分)
【7回、13回~15回】
予習:プレゼンテーションの準備及び資料の作成(各回90分)
復習:興味を持った資料や論文に関して詳細に調べ理解を深める(各回90分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	70	**%**	**確認テスト:**	**%**	**レポート:**	30	**%**
その他1:				**%**			
その他2:				**%**			

評価基準:
最低限度の到達度(60~69点);
自分自身の研究テーマに関する様々な事象に興味を持ち、発表・発言内容がまとめられている。

望ましい到達度(80~100点);
自分自身の研究テーマに関する様々な事象に興味を持ち、発表・発言内容がまとめられ、さらに何が問題かを考え、解決方法を創出することができる。

課題へのフィードバック:
授業ごとに講評を行う。

教科書: 必要に応じて配布する。

参考書: 必要に応じて配布する。

授業・準備学習のアドバイス:
ここで得られる経験は、有形無形に今後の自分の行動や判断にも大きな影響を与えていくと思います。ベストを尽くし、充実した時間を過ごしていきましょう。

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: スポーツ教育学専門演習Ⅳ

クラス:

授業コード: BE10600011

担当者: 山中 裕太 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 卒業研究を実施し、卒業論文を作成するための知識を深め、卒業研究の研究を実施し、卒業論文を作成・発表することができる。

到達目標:
1. 関心のある領域や分野の知識を深める
2. 関心のある領域や分野の研究方法を学ぶ
3. 実験を進めることができる
4. 実験を報告することができる
5. 卒業論文を作成・発表することができる

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 論文紹介と研究の進捗状況の報告
3. 論文紹介と研究の進捗状況の報告
4. 論文紹介と研究の進捗状況の報告
5. 論文紹介と研究の進捗状況の報告
6. 論文紹介と研究の進捗状況の報告
7. 論文紹介と研究の進捗状況の報告
8. 論文紹介と研究の進捗状況の報告
9. 論文紹介と研究の進捗状況の報告
10. 論文紹介と研究の進捗状況の報告
11. 論文紹介と研究の進捗状況の報告
12. 論文紹介と研究の進捗状況の報告
13. 論文紹介と研究の進捗状況の報告
14. 卒業論文の報告
15. 卒業論文の報告

特記事項: なし

授業方法: すべての授業を対面授業で行う
①この授業は参加者が論文を熟読し、参加者がパワーポイントや資料を作成し、それをもとに内容を説明し、ディスカッションを行う、という流れで授業を行います。
②この授業では作成した研究計画をもとに実験を進め、研究の進捗状況を報告し、それをもとに内容を説明し、ディスカッションを行う、という流れで授業を行います。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 自身の興味のある領域や分野に関して勉強する(180分)。
2. 自身の興味のある領域や分野に関する論文を検索し、資料を作成する(90分)。自身の考える研究計画について資料を作成する(90分)。
3. 自身の興味のある領域や分野に関する論文を検索し、資料を作成する(90分)。自身の考える研究計画について資料を作成する(90分)。
4. 自身の興味のある領域や分野に関する論文を検索し、資料を作成する(90分)。自身の考える研究計画について資料を作成する(90分)。
5. 自身の興味のある領域や分野に関する論文を検索し、資料を作成する(90分)。自身の考える研究計画について資料を作成する(90分)。
6. 自身の興味のある領域や分野に関する論文を検索し、資料を作成する(90分)。自身の考える研究計画について資料を作成する(90分)。
7. 自身の興味のある領域や分野に関する論文を検索し、資料を作成する(90分)。自身の研究の進捗状況について資料を作成する(90分)。
8. 自身の興味のある領域や分野に関する論文を検索し、資料を作成する(90分)。自身の研究の進捗状況について資料を作成する(90分)。
9. 自身の興味のある領域や分野に関する論文を検索し、資料を作成する(90分)。自身の研究の進捗状況について資料を作成する(90分)。

10. 自身の興味のある領域や分野に関する論文を検索し、資料を作成する(90分)。自身の研究の進捗状況について資料を作成する(90分)。
11. 自身の興味のある領域や分野に関する論文を検索し、資料を作成する(90分)。自身の研究の進捗状況について資料を作成する(90分)。
12. 自身の研究の進捗状況について資料を作成する(180分)。
13. 自身の研究の進捗状況について資料を作成する(180分)。
14. 自身の卒業研究の進捗状況をまとめ発表・報告資料を作成する(180分)。
15. 自身の卒業研究の進捗状況をまとめ発表・報告資料を作成する(180分)。

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	30 **%**
その他1:	発表		40 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 「最低限の到達度(60～69点)」
1. 自身の関心のある領域や分野を見つけ、自身の興味がある研究を計画することができる。
2. 自身の研究を相手に伝えることができる。
3. 研究を進めることができる。

「望ましい到達度(80～100点)」
1. 自身の関心のある領域や分野を見つけ、自身の興味だけでなく、研究が必要とされる背景を理解して、研究を計画することができる。
2. 自身の計画する研究を、相手にわかりやすく(論理的・資料が理解しやすい)伝えることができる。
3. 研究全体の研究の進捗状況やスケジュールを理解することができる。

課題へのフィードバック:

論文紹介，研究発表，実験報告でのディスカッションでフィードバックを行います。

教科書: なし

参考書: 研究の育て方 ゴールとプロセスの「見える化」，近藤克則.

授業・準備学習のアドバイス:

コツコツと続けることが大切です。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 卒業研究

クラス: ス

授業コード: BE11100001

担当者: 佃尾 哲哉 **単位数:** 6

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: スポーツ・身体運動・健康・発達等に関わる研究に主体的に取り組み、学問研究の意義と研究倫理について理解するとともに、その方法を身につけ、学問研究のための基礎的態度を身につける。

到達目標:
1. スポーツ・身体運動・健康・発達等に関わる問題の中から研究テーマ・課題を抽出することができる。
2. 研究テーマ・課題の解決に相応しい研究方法を発見し、それに基づき研究を進めることができる。
3. 科学的アプローチの意義と方法を理解し、研究の成果を発表することができる。
4. 研究における、不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、それを踏まえて研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

※研究分野・領域の特性並びに学生の興味・関心・能力を踏まえ、各担当者が構想する。

特記事項: なし

授業方法: ※研究分野・領域の特性並びに学生の興味・関心・能力を踏まえ、各担当者が構想する。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

※研究分野・領域の特性並びに学生の興味・関心・能力を踏まえ、各担当者が構想する。

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 %	**確認テスト:**	− %	**レポート:**	− %		
その他1:	卒業論文		50 %				
その他2:	口頭試問		20 %				

評価基準: 最低限の到達度(60～69点):自身の問題意識を元に研究テーマを設定し、学術論文の最低限のルール(研究倫理の遵守を含む)を踏まえて研究論文を執筆する(概ね15000字以上)とともに、研究内容を適格に要約し公表することができる。
望ましい到達度(80～100点):自身の問題意識を元に先行研究を踏まえて研究テーマを設定し、学術論文の様式(研究倫理の遵守を含む)を踏まえて研究論文を執筆する(概ね15000字以上)とともに、研究内容を適格に要約し公表することができる。

課題へのフィードバック:

※分野・領域の特性並びに学生の興味・関心・能力を踏まえ、各担当者が構想する。

教科書:　※分野・領域の特性並びに学生の興味・関心・能力を踏まえ、各担当者が構想する。

参考書:　※分野・領域の特性並びに学生の興味・関心・能力を踏まえ、各担当者が構想する。

授業・準備学習のアドバイス:

「問題状況」は、社会的課題と自分自身の興味関心の交点に存在する。
「問題状況」にアプローチするための、方法・手段が明らかになると、それは「研究課題」となる。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 卒業研究

クラス: ス

授業コード: BE11100002

担当者: 葦原　摩耶子　　**単位数:** 6

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: スポーツ・身体運動・健康・発達等に関わる研究に主体的に取り組み、学問研究の意義と研究倫理について理解するとともに、その方法を身につけ、学問研究のための基礎的態度を身につける。

到達目標:
1. スポーツ・身体運動・健康・発達等に関わる問題の中から研究テーマ・課題を抽出することができる。
2. 研究テーマ・課題の解決に相応しい研究方法を発見し、それに基づき研究を進めることができる。
3. 科学的アプローチの意義と方法を理解し、研究の成果を発表することができる。
4. 研究における、不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、それを踏まえて研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

※研究分野・領域の特性並びに学生の興味・関心・能力を踏まえ、各担当者が構想する。

特記事項: なし

授業方法: ※研究分野・領域の特性並びに学生の興味・関心・能力を踏まえ、各担当者が構想する。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

※研究分野・領域の特性並びに学生の興味・関心・能力を踏まえ、各担当者が構想する。

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	－ **%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:	卒業論文		50 **%**		
その他2:	口頭試問		20 **%**		

評価基準: 最低限の到達度(60～69点):自身の問題意識を元に研究テーマを設定し、学術論文の最低限のルール(研究倫理の遵守を含む)を踏まえて研究論文を執筆する(概ね15000字以上)とともに、研究内容を適格に要約し公表することができる。
望ましい到達度(80～100点):自身の問題意識を元に先行研究を踏まえて研究テーマを設定し、学術論文の様式(研究倫理の遵守を含む)を踏まえて研究論文を執筆する(概ね15000字以上)とともに、研究内容を適格に要約し公表することができる。

課題へのフィードバック:

※分野・領域の特性並びに学生の興味・関心・能力を踏まえ、各担当者が構想する。

教科書:　※分野・領域の特性並びに学生の興味・関心・能力を踏まえ、各担当者が構想する。

参考書:　※分野・領域の特性並びに学生の興味・関心・能力を踏まえ、各担当者が構想する。

授業・準備学習のアドバイス:

「問題状況」は、社会的課題と自分自身の興味関心の交点に存在する。
「問題状況」にアプローチするための、方法・手段が明らかになると、それは「研究課題」となる。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 卒業研究

クラス: ス

授業コード: BE11100003

担当者: 祐末 ひとみ　　**単位数:** 6

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: スポーツ・身体運動・健康・発達等に関わる研究に主体的に取り組み、学問研究の意義と研究倫理について理解するとともに、その方法を身につけ、学問研究のための基礎的態度を身につける。

到達目標:
1. スポーツ・身体運動・健康・発達等に関わる問題の中から研究テーマ・課題を抽出することができる。
2. 研究テーマ・課題の解決に相応しい研究方法を発見し、それに基づき研究を進めることができる。
3. 科学的アプローチの意義と方法を理解し、研究の成果を発表することができる。
4. 研究における、不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、それを踏まえて研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

※研究分野・領域の特性並びに学生の興味・関心・能力を踏まえ、各担当者が構想する。

特記事項: なし

授業方法: ※研究分野・領域の特性並びに学生の興味・関心・能力を踏まえ、各担当者が構想する。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

※研究分野・領域の特性並びに学生の興味・関心・能力を踏まえ、各担当者が構想する。

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	－ **%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:	卒業論文		50 **%**		
その他2:	口頭試問		20 **%**		

評価基準: 最低限の到達度(60～69点):自身の問題意識を元に研究テーマを設定し、学術論文の最低限のルール(研究倫理の遵守を含む)を踏まえて研究論文を執筆する(概ね15000字以上)とともに、研究内容を適格に要約し公表することができる。
望ましい到達度(80～100点):自身の問題意識を元に先行研究を踏まえて研究テーマを設定し、学術論文の様式(研究倫理の遵守を含む)を踏まえて研究論文を執筆する(概ね15000字以上)とともに、研究内容を適格に要約し公表することができる。

課題へのフィードバック:

※分野・領域の特性並びに学生の興味・関心・能力を踏まえ、各担当者が構想する。

教科書:　※分野・領域の特性並びに学生の興味・関心・能力を踏まえ、各担当者が構想する。

参考書:　※分野・領域の特性並びに学生の興味・関心・能力を踏まえ、各担当者が構想する。

授業・準備学習のアドバイス:

「問題状況」は、社会的課題と自分自身の興味関心の交点に存在する。
「問題状況」にアプローチするための、方法・手段が明らかになると、それは「研究課題」となる。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 卒業研究

クラス: ス

授業コード: BE11100004

担当者: 椿 武 **単位数:** 6

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: スポーツ・身体運動・健康・発達等に関わる研究に主体的に取り組み、学問研究の意義と研究倫理について理解するとともに、その方法を身につけ、学問研究のための基礎的態度を身につける。

到達目標:
1. スポーツ・身体運動・健康・発達等に関わる問題の中から研究テーマ・課題を抽出することができる。
2. 研究テーマ・課題の解決に相応しい研究方法を発見し、それに基づき研究を進めることができる。
3. 科学的アプローチの意義と方法を理解し、研究の成果を発表することができる。
4. 研究における、不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、それを踏まえて研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

※研究分野・領域の特性並びに学生の興味・関心・能力を踏まえ、各担当者が構想する。

特記事項: なし

授業方法: ※研究分野・領域の特性並びに学生の興味・関心・能力を踏まえ、各担当者が構想する。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

※研究分野・領域の特性並びに学生の興味・関心・能力を踏まえ、各担当者が構想する。

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 %	**確認テスト:**	− %	**レポート:**	− %		
その他1:	卒業論文		50 %				
その他2:	口頭試問		20 %				

評価基準: 最低限の到達度(60～69点):自身の問題意識を元に研究テーマを設定し、学術論文の最低限のルール(研究倫理の遵守を含む)を踏まえて研究論文を執筆する(概ね15000字以上)とともに、研究内容を適格に要約し公表することができる。
望ましい到達度(80～100点):自身の問題意識を元に先行研究を踏まえて研究テーマを設定し、学術論文の様式(研究倫理の遵守を含む)を踏まえて研究論文を執筆する(概ね15000字以上)とともに、研究内容を適格に要約し公表することができる。

課題へのフィードバック:

※分野・領域の特性並びに学生の興味・関心・能力を踏まえ、各担当者が構想する。

教科書:　※分野・領域の特性並びに学生の興味・関心・能力を踏まえ、各担当者が構想する。

参考書:　※分野・領域の特性並びに学生の興味・関心・能力を踏まえ、各担当者が構想する。

授業・準備学習のアドバイス:

「問題状況」は、社会的課題と自分自身の興味関心の交点に存在する。
「問題状況」にアプローチするための、方法・手段が明らかになると、それは「研究課題」となる。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 卒業研究

クラス: ス

授業コード: BE11100005

担当者: 中瀬古 哲　　**単位数:** 6

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: スポーツ・身体運動・健康・発達等に関わる研究に主体的に取り組み、学問研究の意義と研究倫理について理解するとともに、その方法を身につけ、学問研究のための基礎的態度を身につける。

到達目標:
1. スポーツ・身体運動・健康・発達等に関わる問題の中から研究テーマ・課題を抽出することができる。
2. 研究テーマ・課題の解決に相応しい研究方法を発見し、それに基づき研究を進めることができる。
3. 科学的アプローチの意義と方法を理解し、研究の成果を発表することができる。
4. 研究における、不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、それを踏まえて研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

※研究分野・領域の特性並びに学生の興味・関心・能力を踏まえ、各担当者が構想する。

特記事項: なし

授業方法: ※研究分野・領域の特性並びに学生の興味・関心・能力を踏まえ、各担当者が構想する。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

※研究分野・領域の特性並びに学生の興味・関心・能力を踏まえ、各担当者が構想する。

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	－ **%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:	卒業論文		50 **%**		
その他2:	口頭試問		20 **%**		

評価基準: 最低限の到達度(60～69点):自身の問題意識を元に研究テーマを設定し、学術論文の最低限のルール(研究倫理の遵守を含む)を踏まえて研究論文を執筆する(概ね15000字以上)とともに、研究内容を適格に要約し公表することができる。
望ましい到達度(80～100点):自身の問題意識を元に先行研究を踏まえて研究テーマを設定し、学術論文の様式(研究倫理の遵守を含む)を踏まえて研究論文を執筆する(概ね15000字以上)とともに、研究内容を適格に要約し公表することができる。

課題へのフィードバック:

※分野・領域の特性並びに学生の興味・関心・能力を踏まえ、各担当者が構想する。

教科書:　※分野・領域の特性並びに学生の興味・関心・能力を踏まえ、各担当者が構想する。

参考書:　※分野・領域の特性並びに学生の興味・関心・能力を踏まえ、各担当者が構想する。

授業・準備学習のアドバイス:

「問題状況」は、社会的課題と自分自身の興味関心の交点に存在する。
「問題状況」にアプローチするための、方法・手段が明らかになると、それは「研究課題」となる。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 卒業研究

クラス: ス

授業コード: BE11100006

担当者: 松田 雅彦 **単位数:** 6

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: スポーツ・身体運動・健康・発達等に関わる研究に主体的に取り組み、学問研究の意義と研究倫理について理解するとともに、その方法を身につけ、学問研究のための基礎的態度を身につける。

到達目標:
1. スポーツ・身体運動・健康・発達等に関わる問題の中から研究テーマ・課題を抽出することができる。
2. 研究テーマ・課題の解決に相応しい研究方法を発見し、それに基づき研究を進めることができる。
3. 科学的アプローチの意義と方法を理解し、研究の成果を発表することができる。
4. 研究における、不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、それを踏まえて研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

※研究分野・領域の特性並びに学生の興味・関心・能力を踏まえ、各担当者が構想する。

特記事項: なし

授業方法: ※研究分野・領域の特性並びに学生の興味・関心・能力を踏まえ、各担当者が構想する。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

※研究分野・領域の特性並びに学生の興味・関心・能力を踏まえ、各担当者が構想する。

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 %	**確認テスト:**	− %	**レポート:**	− %		
その他1:	卒業論文		50 %				
その他2:	口頭試問		20 %				

評価基準: 最低限の到達度(60～69点):自身の問題意識を元に研究テーマを設定し、学術論文の最低限のルール(研究倫理の遵守を含む)を踏まえて研究論文を執筆する(概ね15000字以上)とともに、研究内容を適格に要約し公表することができる。
望ましい到達度(80～100点):自身の問題意識を元に先行研究を踏まえて研究テーマを設定し、学術論文の様式(研究倫理の遵守を含む)を踏まえて研究論文を執筆する(概ね15000字以上)とともに、研究内容を適格に要約し公表することができる。

課題へのフィードバック:

※分野・領域の特性並びに学生の興味・関心・能力を踏まえ、各担当者が構想する。

教科書:　※分野・領域の特性並びに学生の興味・関心・能力を踏まえ、各担当者が構想する。

参考書:　※分野・領域の特性並びに学生の興味・関心・能力を踏まえ、各担当者が構想する。

授業・準備学習のアドバイス:

「問題状況」は、社会的課題と自分自身の興味関心の交点に存在する。
「問題状況」にアプローチするための、方法・手段が明らかになると、それは「研究課題」となる。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 卒業研究

クラス: ス

授業コード: BE11100007

担当者: 杉山 真人 **単位数:** 6

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: スポーツ・身体運動・健康・発達等に関わる研究に主体的に取り組み、学問研究の意義と研究倫理について理解するとともに、その方法を身につけ、学問研究のための基礎的態度を身につける。

到達目標:
1. スポーツ・身体運動・健康・発達等に関わる問題の中から研究テーマ・課題を抽出することができる。
2. 研究テーマ・課題の解決に相応しい研究方法を発見し、それに基づき研究を進めることができる。
3. 科学的アプローチの意義と方法を理解し、研究の成果を発表することができる。
4. 研究における、不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、それを踏まえて研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

※研究分野・領域の特性並びに学生の興味・関心・能力を踏まえ、各担当者が構想する。

特記事項: なし

授業方法: ※研究分野・領域の特性並びに学生の興味・関心・能力を踏まえ、各担当者が構想する。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

※研究分野・領域の特性並びに学生の興味・関心・能力を踏まえ、各担当者が構想する。

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	− **%**	**レポート:**	− **%**		
その他1:	卒業論文		50 **%**				
その他2:	口頭試問		20 **%**				

評価基準: 最低限の到達度(60〜69点):自身の問題意識を元に研究テーマを設定し、学術論文の最低限のルール(研究倫理の遵守を含む)を踏まえて研究論文を執筆する(概ね15000字以上)とともに、研究内容を適格に要約し公表することができる。
望ましい到達度(80〜100点):自身の問題意識を元に先行研究を踏まえて研究テーマを設定し、学術論文の様式(研究倫理の遵守を含む)を踏まえて研究論文を執筆する(概ね15000字以上)とともに、研究内容を適格に要約し公表することができる。

課題へのフィードバック:

※分野・領域の特性並びに学生の興味・関心・能力を踏まえ、各担当者が構想する。

教科書:　※分野・領域の特性並びに学生の興味・関心・能力を踏まえ、各担当者が構想する。

参考書:　※分野・領域の特性並びに学生の興味・関心・能力を踏まえ、各担当者が構想する。

授業・準備学習のアドバイス:

「問題状況」は、社会的課題と自分自身の興味関心の交点に存在する。
「問題状況」にアプローチするための、方法・手段が明らかになると、それは「研究課題」となる。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 卒業研究

クラス: ス

授業コード: BE11100008

担当者: 宮辻 和貴 **単位数:** 6

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: スポーツ・身体運動・健康・発達等に関わる研究に主体的に取り組み、学問研究の意義と研究倫理について理解するとともに、その方法を身につけ、学問研究のための基礎的態度を身につける。

到達目標:
1. スポーツ・身体運動・健康・発達等に関わる問題の中から研究テーマ・課題を抽出することができる。
2. 研究テーマ・課題の解決に相応しい研究方法を発見し、それに基づき研究を進めることができる。
3. 科学的アプローチの意義と方法を理解し、研究の成果を発表することができる。
4. 研究における、不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、それを踏まえて研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

※研究分野・領域の特性並びに学生の興味・関心・能力を踏まえ、各担当者が構想する。

特記事項: なし

授業方法: ※研究分野・領域の特性並びに学生の興味・関心・能力を踏まえ、各担当者が構想する。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

※研究分野・領域の特性並びに学生の興味・関心・能力を踏まえ、各担当者が構想する。

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	－ **%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:	卒業論文		50 **%**		
その他2:	口頭試問		20 **%**		

評価基準: 最低限の到達度(60～69点):自身の問題意識を元に研究テーマを設定し、学術論文の最低限のルール(研究倫理の遵守を含む)を踏まえて研究論文を執筆する(概ね15000字以上)とともに、研究内容を適格に要約し公表することができる。
望ましい到達度(80～100点):自身の問題意識を元に先行研究を踏まえて研究テーマを設定し、学術論文の様式(研究倫理の遵守を含む)を踏まえて研究論文を執筆する(概ね15000字以上)とともに、研究内容を適格に要約し公表することができる。

課題へのフィードバック:

※分野・領域の特性並びに学生の興味・関心・能力を踏まえ、各担当者が構想する。

教科書:　※分野・領域の特性並びに学生の興味・関心・能力を踏まえ、各担当者が構想する。

参考書:　※分野・領域の特性並びに学生の興味・関心・能力を踏まえ、各担当者が構想する。

授業・準備学習のアドバイス:

「問題状況」は、社会的課題と自分自身の興味関心の交点に存在する。
「問題状況」にアプローチするための、方法・手段が明らかになると、それは「研究課題」となる。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 卒業研究

クラス: ス

授業コード: BE11100009

担当者: 久永 将太　　**単位数:** 6

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: スポーツ・身体運動・健康・発達等に関わる研究に主体的に取り組み、学問研究の意義と研究倫理について理解するとともに、その方法を身につけ、学問研究のための基礎的態度を身につける。

到達目標:
1. スポーツ・身体運動・健康・発達等に関わる問題の中から研究テーマ・課題を抽出することができる。
2. 研究テーマ・課題の解決に相応しい研究方法を発見し、それに基づき研究を進めることができる。
3. 科学的アプローチの意義と方法を理解し、研究の成果を発表することができる。
4. 研究における、不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、それを踏まえて研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

※研究分野・領域の特性並びに学生の興味・関心・能力を踏まえ、各担当者が構想する。

特記事項: なし

授業方法: ※研究分野・領域の特性並びに学生の興味・関心・能力を踏まえ、各担当者が構想する。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

※研究分野・領域の特性並びに学生の興味・関心・能力を踏まえ、各担当者が構想する。

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	－ **%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:	卒業論文		50 **%**		
その他2:	口頭試問		20 **%**		

評価基準: 最低限の到達度(60～69点):自身の問題意識を元に研究テーマを設定し、学術論文の最低限のルール(研究倫理の遵守を含む)を踏まえて研究論文を執筆する(概ね15000字以上)とともに、研究内容を適格に要約し公表することができる。
望ましい到達度(80～100点):自身の問題意識を元に先行研究を踏まえて研究テーマを設定し、学術論文の様式(研究倫理の遵守を含む)を踏まえて研究論文を執筆する(概ね15000字以上)とともに、研究内容を適格に要約し公表することができる。

課題へのフィードバック:

※分野・領域の特性並びに学生の興味・関心・能力を踏まえ、各担当者が構想する。

教科書:　※分野・領域の特性並びに学生の興味・関心・能力を踏まえ、各担当者が構想する。

参考書:　※分野・領域の特性並びに学生の興味・関心・能力を踏まえ、各担当者が構想する。

授業・準備学習のアドバイス:

「問題状況」は、社会的課題と自分自身の興味関心の交点に存在する。
「問題状況」にアプローチするための、方法・手段が明らかになると、それは「研究課題」となる。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 卒業研究

クラス: ス

授業コード: BE11100010

担当者: 山中 裕太 **単位数:** 6

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: スポーツ・身体運動・健康・発達等に関わる研究に主体的に取り組み、学問研究の意義と研究倫理について理解するとともに、その方法を身につけ、学問研究のための基礎的態度を身につける。

到達目標:
1. スポーツ・身体運動・健康・発達等に関わる問題の中から研究テーマ・課題を抽出することができる。
2. 研究テーマ・課題の解決に相応しい研究方法を発見し、それに基づき研究を進めることができる。
3. 科学的アプローチの意義と方法を理解し、研究の成果を発表することができる。
4. 研究における、不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、それを踏まえて研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

※研究分野・領域の特性並びに学生の興味・関心・能力を踏まえ、各担当者が構想する。

特記事項: なし

授業方法: ※研究分野・領域の特性並びに学生の興味・関心・能力を踏まえ、各担当者が構想する。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

※研究分野・領域の特性並びに学生の興味・関心・能力を踏まえ、各担当者が構想する。

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 %	**確認テスト:**	− %	**レポート:**	− %		
その他1:	卒業論文		50 %				
その他2:	口頭試問		20 %				

評価基準: 最低限の到達度(60～69点):自身の問題意識を元に研究テーマを設定し、学術論文の最低限のルール(研究倫理の遵守を含む)を踏まえて研究論文を執筆する(概ね15000字以上)とともに、研究内容を適格に要約し公表することができる。
望ましい到達度(80～100点):自身の問題意識を元に先行研究を踏まえて研究テーマを設定し、学術論文の様式(研究倫理の遵守を含む)を踏まえて研究論文を執筆する(概ね15000字以上)とともに、研究内容を適格に要約し公表することができる。

課題へのフィードバック:

※分野・領域の特性並びに学生の興味・関心・能力を踏まえ、各担当者が構想する。

教科書:　※分野・領域の特性並びに学生の興味・関心・能力を踏まえ、各担当者が構想する。

参考書:　※分野・領域の特性並びに学生の興味・関心・能力を踏まえ、各担当者が構想する。

授業・準備学習のアドバイス:

「問題状況」は、社会的課題と自分自身の興味関心の交点に存在する。
「問題状況」にアプローチするための、方法・手段が明らかになると、それは「研究課題」となる。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 卒業研究

クラス: ス 春末卒業用

授業コード: BE11100011

担当者: 杉山 真人 **単位数:** 6

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: スポーツ・身体運動・健康・発達等に関わる研究に主体的に取り組み、学問研究の意義と研究倫理について理解するとともに、その方法を身につけ、学問研究のための基礎的態度を身につける。

到達目標:
1. スポーツ・身体運動・健康・発達等に関わる問題の中から研究テーマ・課題を抽出することができる。
2. 研究テーマ・課題の解決に相応しい研究方法を発見し、それに基づき研究を進めることができる。
3. 科学的アプローチの意義と方法を理解し、研究の成果を発表することができる。
4. 研究における、不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、それを踏まえて研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

※研究分野・領域の特性並びに学生の興味・関心・能力を踏まえ、各担当者が構想する。

特記事項: なし

授業方法: ※研究分野・領域の特性並びに学生の興味・関心・能力を踏まえ、各担当者が構想する。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

※研究分野・領域の特性並びに学生の興味・関心・能力を踏まえ、各担当者が構想する。

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	− **%**	**レポート:**	− **%**		
その他1:	卒業論文		50 **%**				
その他2:	口頭試問		20 **%**				

評価基準: 最低限の到達度(60〜69点):自身の問題意識を元に研究テーマを設定し、学術論文の最低限のルール(研究倫理の遵守を含む)を踏まえて研究論文を執筆する(概ね15000字以上)とともに、研究内容を適格に要約し公表することができる。
望ましい到達度(80〜100点):自身の問題意識を元に先行研究を踏まえて研究テーマを設定し、学術論文の様式(研究倫理の遵守を含む)を踏まえて研究論文を執筆する(概ね15000字以上)とともに、研究内容を適格に要約し公表することができる。

課題へのフィードバック:

※分野・領域の特性並びに学生の興味・関心・能力を踏まえ、各担当者が構想する。

教科書:　※分野・領域の特性並びに学生の興味・関心・能力を踏まえ、各担当者が構想する。

参考書:　※分野・領域の特性並びに学生の興味・関心・能力を踏まえ、各担当者が構想する。

授業・準備学習のアドバイス:

「問題状況」は、社会的課題と自分自身の興味関心の交点に存在する。
「問題状況」にアプローチするための、方法・手段が明らかになると、それは「研究課題」となる。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: スポーツ運動学

クラス:

授業コード: BE30100001

担当者: 久永 将太 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)【必修】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学(運動方法学を含む。) **一般的包括的科目:** ○

授業の目的: 本講義は、体育教師・スポーツ指導者が運動指導時に重要となる運動学習について学ぶことを目的とする。

到達目標:
①運動学習の概念について理解し、説明できる。
②身体の動きの構造について理解し、説明できる。
③体育指導における動き方について理解し、説明できる。

各回の授業計画:

1. 運動指導のモルフォロギー
2. 運動学習の意味について考える
3. 運動学習と授業研究を考える
4. 運動学習に取り組む意欲を考える
5. 運動学習の創造性を考える
6. 動きの構造を見つける
7. 動きの先取りを見つける
8. 動きのリズムを見つける
9. 動きの系統性を見つける
10. 動きの違いを見つける
11. 修正の仕方を見つける
12. 動き方はどのように覚えるのか
13. 覚えるのに必要な情報と指導ポイント
14. 意欲的に覚えさせるにはどうするか
15. 新しい動きの取り組ませ方と動きの可能性の引き出し方

特記事項: なし

授業方法: すべての授業を対面授業で行う。
1～15:講義、アクティブラーニング

予習・復習・宿題など(内容・時間):

【1回～15回】
予習:運動習得および運動指導に関する自らのエピソードを想起し、まとめておく(各回90分)
復習:興味を持った運動学習に関して詳細に調べ、理解を深める(各回90分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	70 %	**確認テスト:**	－ %	**レポート:**	30 %
その他1:			%		
その他2:			%		

評価基準: 最低限度の到達度:(60～69点):スポーツ運動学の専門用語を理解している。
望ましい到達度(80～100点):それぞれの概念に対応するエピソードを言語化できる。

課題へのフィードバック:
授業ごとに講評を行う。

教科書: 必要に応じて配布する。

参考書: 教師のための運動学 金子明友監修、吉田 茂・三木四郎編著 大修館書店
基礎から学ぶスポーツ運動学 佐野淳 著 大修館書店

授業・準備学習のアドバイス:

授業への取り組みを重視する。特に教職資格取得希望者は一貫して出席し、スポーツ運動学を基礎学問として理解されることが望ましい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: トレーニング論

クラス: ★

授業コード: BE30200001

担当者: 椿 武 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本講義はスポーツトレーニング全般とジュニア期における指導の基本理論を学習し、正しいトレーニング方法を理論的に習得する事を目的とする。

到達目標: 1. トレーニングの基本的理論を理解する。
2. ジュニア期のトレーニングの留意点と実際について理解する。

各回の授業計画:

1. トレーニングの原理・原則
2. トレーニングの進め方
3. トレーニングの種類
4. トレーニング理論とその方法
5. トレーニング計画とその実際
6. 柔軟性トレーニングの効果と実際
7. スピードトレーニングの効果と実際
8. 敏捷性トレーニングの効果と実際
9. 筋力トレーニングの効果と実際
10. スタミナトレーニングの効果と実際
11. クロストレーニングの効果と実際
12. ジュニア期前期（幼児時）のトレーニングの留意点と実際
13. ジュニア期中期（小学校）のトレーニングの留意点と実際
14.ジュニア期後期（中・高生）のトレーニングの留意点と実際
15. ジュニア期全般に渡ってのトレーニング指導の留意点と実際

特記事項: 16回目授業にて試験を行う

授業方法: ★オンライン授業

1. ガイダンス、講義（オンデマンド）
2. 講義（オンデマンド）
3. 講義（オンデマンド）
4. 講義（オンデマンド）
5. 講義（オンデマンド）
6. 講義（オンデマンド）
7. 講義（オンデマンド）
8. 講義（オンデマンド）
9. 講義（オンデマンド）
10. 講義（オンデマンド）
11. 講義（オンデマンド）
12. 講義（オンデマンド）
13. 講義（オンデマンド）
14. 講義（オンデマンド）
15. 講義、まとめ（対面）

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 復習：2年次前期に学習したスポーツ生理学で学んだ内容について復習（180分）
2. 予習：トレーニングの原理・原則とは何か予習（90分）、復習：トレーニングの原理・原則について復習、ノート整理（90分）
3. 予習：トレーニングの進め方について予習（90分）、復習：トレーニングの進め方について復習、ノート整理（90分）

4. 予習:トレーニングの種類について予習(90分)、復習:トレーニングの種類について復習、ノート整理(90分)
5. 予習:トレーニング計画について予習(90分)、復習:トレーニング計画と実際に行っている計画について復習、ノート整理(90分)
6. 予習:柔軟性のトレーニングについて予習(90分)、復習:柔軟性とは何か、柔軟性のトレーニングについて復習、ノート整理(90分)
7. 予習:スピードトレーニングについて予習(90分)、復習:スピードトレーニングの効果と実際について復習、ノート整理(90分)
8. 予習:敏捷性トレーニングについて予習(90分)、復習:敏捷性トレーニングの効果と実際について復習、ノート整理(90分)
9. 予習:筋力トレーニングについて予習(90分)、復習:筋力トレーニングの効果と実際について復習、ノート整理(90分)
10. 予習:持久性トレーニングについて予習(90分)、復習:スタミナトレーニングの効果と実際について復習、ノート整理(90分)
11. 予習:クロストレーニングについて予習(90分)、復習:クロストレーニングの効果と実際について復習、ノート整理(90分)
12. 予習:ジュニア前期のトレーニングについて予習(90分)、復習:ジュニア前期のトレーニングの留意点と実際について復習、ノート整理(90分)
13. 予習:ジュニア中期のトレーニングについて予習(90分)、復習:ジュニア中期のトレーニングの留意点と実際について復習、ノート整理(90分)
14. 予習:ジュニア後期のトレーニングについて予習(90分)、復習:ジュニア後期のトレーニングの留意点と実際について復習、ノート整理(90分)
15. 予習:ジュニア期全般のトレーニング指導について予習(90分)、復習:ジュニア期におけるトレーニング指導の留意点と実際について復習、ノート整理(90分)
16. トレーニング理論やジュニア期における適切な指導方法の理解は、将来求められる知識です。しっかりと復習し、包括的に理解しましょう。

評価方法:

授業へのとりくみ:	30	**%**	**確認テスト:**	70	**%**	**レポート:**	– **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: 最低限度の到達度(60～69点):講義に積極的に参加し、発言や質問をすることができる。試験では、講義内容を50% 程度理解している。
望ましい到達度(80～100点):他の学生の発表・発言に対して適切な助言、考えを述べることができる。試験では、講義内容を80%以上理解し、他者に説明することが出来る。

課題へのフィードバック:

試験の解答や取得した点数は適宜、情報の開示を行う。また、授業以外にはオフィスアワーを通じて、質問の説明や解答例などの解説を行う。

教科書: Reference Book 公益財団法人 日本スポーツ協会編集発行

参考書: ストレングストレーニング＆コンディショニング Thomas R. Baechle, Roger W. Earle 編,日本語版総監修 金久博昭、監修 岡田純一 ブックハウスHD
トレーニングによるからだの適応-スポーツ生理学トピックス- 平野裕一、加賀谷淳子 編著, 株式会社杏林書院

授業・準備学習のアドバイス:

日本スポーツ協会公認スポーツコーチングリーダー、ジュニアスポーツ指導員、アシスタントマネジャー資格取得としての共通理論の必修科目です。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: コーチング論

クラス:

授業コード: BE30300001

担当者: 但尾 哲哉 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:ソフトボールコーチ4、ラグビーコーチ4、障害者スポーツ指導員中級、兵庫県スポーツ協会評議委員、兵庫県ソフトボール協会指導者委員会委員長、兵庫県ソフトボール協会倫理委員会委員長、日本ソフトボール協会指導者養成講習会講師

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: - **一般的包括的科目:** -

授業の目的: プレーヤーのパフォーマンス、チームの戦績を向上させるには、コーチの役割が多大であることは周知の通りである。本講義では、スポーツコーチングの基本を「コーチングの目的」「コーチの倫理・モラル」「技術指導」「メンタル指導」「フィットネス指導」の側面と、P・D・C・Aサイクルに基づいた指導計画から考えていく。さらに、スポーツ種目別によるコーチングの事例研究を行い、将来の指導者としての視野を広める。

到達目標:
1. スポーツ指導者の役割・心構え・視点・資質を理解する。
2. 競技者育成プログラム概念・指導計画のたて方・スポーツ活動と安全管理等の理解
3. コーチング・リーダーシップ・事例研究を通してコーチングの本質を理解する。

各回の授業計画:

1. コーチングとは・コーチとコーチングを定義して
2. チームマネジメントの必要性を考える・ビジネスマネジメントをモデルとして
3. チーム・ビハインド・ザ・チーム・その必要性に迫る
4. 世界の頂点をめざすアスリートの育成・強化の在り方とコーチの役割・元全日本ラグビー代表監督 エディージョーンズから学ぶ
5. トップコーチの指導事例Ⅰ ゴール型スポーツ指導場面を視察します(攻防一体型の要素を含めて)。
6. トップコーチの指導事例Ⅱ ネット型スポーツ指導場面を視察します(自身のマインドコントロールを含めて)。
7. トップコーチの指導事例Ⅲ ベースボール型スポーツ指導場面を視察します(基本技術の指導を含めて)。
8. 指導対象者の背景に沿った指導計画の在り方・指導計画と評価シートの必要性・指導上における安全管理の必要性
9. モチベーションアップとコーチングについて・モチベーションをあげるスキルについて
10. スポーツの自治・ガバナンスとコンプライアンスを考える。暴力・ハスメントの根絶、スポーツのインテグリティについて・事例から再度検証してみる。
11. スポーツ倫理・問題となる事案から考える・各協会の取り組み
12. ジレンマを考える・ルールでもなく、倫理でもないグレーなゾーンを考える。
13. 日本のスポーツ史と今後のスポーツ・日本スポーツ界の父、嘉納治五郎の足跡から
14. スポーツ協会とは・活動の概要・他の団体との関係等を知る。
15. 口頭諮問による確認テストを実施 (個人面談にて)

特記事項: 授業の特性上、各回の授業内容が入れ替わることもある。

授業方法:
1. 講義
2. グループワーク
3. 講義
4-7. DVD視聴・講義
8. 講義
9. グループワーク
10. 講義
11. 講義
12. グループワーク
13. DVD視聴、講義
14. ゲスト講演
15. 講義とテスト
＊全てを対面で行う

予習・復習・宿題など(内容・時間):

第1回 1年次のスポーツ教育学総論より「スポーツとは」「指導者の役割」を復習しておく。(180分)
第2-3回 チームビルディングの必要性を探っておく(360分)
第4-7回 各スポーツにおいてマスコミ等で紹介されている監督、コーチの指導方法を調べておく。(540分)

第8回 スポーツを行う人（指導対象者）の背景について考えておく（180分）
第9回「やる気」を起こす心理的な要因を調べておく（180分）
第10-12回 スポーツを取り巻く事件、事故、またその対応について調べておく（540分）
第13回 嘉納治五郎氏について、事前に調べておく。（180分）
第14回 日本スポーツ協会、兵庫県体育協会。神戸市スポーツ協会、各スポーツ競技団体（1つを自身で選び）について調べておく（180分）
第15回　今までの授業内容を整理しておく（180分）

以上の予習及び復習を適宜行う。

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	30 **%**	**レポート：**	10 **%**
その他1：	模擬指導		20 **%**		
その他2：	プレゼンテーション		10 **%**		

評価基準：
60-69点：コーチとしての役割を理解できている。
70-79点：指導計画と評価シートを作成することができる。
80-100点：スポーツ指導における計画の必要性を理解し、効果的な指導を行えるように工夫することができる。

課題へのフィードバック：

課題については、適宜授業内で講評する。

教科書： 公認スポーツ指導者養成テキストⅠ・Ⅱ・Ⅲ（財)日本体育協会編集

参考書： 21世紀のスポーツ指導者（財)日本体育協会

授業・準備学習のアドバイス：

日本体育協会公認スポーツコーチングリーダー、ジュニアスポーツ指導員、アシスタントマネジャー資格取得の共通必修科目です。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 保健体育科教育法Ⅰ

クラス: ｽ前(内規科目)

授業コード: BE30400001

担当者: 松田 雅彦 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立高等学校教諭(保健体育)、国立大学法人附属中学校教諭(保健体育)、同附属高等学校教諭(保健体育)、主幹教諭、進路指導部長、生徒指導部長

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)【必修】

含めることが必要な事項: 各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: ・中学校及び高等学校保健体育科の授業を計画・実践できるようになるために、その大綱的基準である学習指導要領の目標と内容について理解を深めるとともに、保健体育科教員に求められる資質・役割・責務等を理解し、実践的指導の形成をめざす。
・社会学的・経営学的・運動学的視点から体育学習を見据えることで、生涯学習・スポーツの観点から学校や体育授業の役割について理解する。
・学習指導要領に示されたねらいや内容をふまえて、地域スポーツと学校体育の関係やチームとしての学校のあり方についても理解する。

到達目標: 1. 保健体育科の社会的使命と保健体育教師の実践的課題について理解する。
2. 中学・高等学校保健体育科の授業実践に必要な「目標」「内容」「方法」「評価」の考え方について理解するとともに、学習指導案の作成など授業構成に関する基本的な資質・能力を育む。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション・学校の現状と保健体育教師の役割【対面による】
2. 学習指導要領の変遷から見る保健体育科教師の実践的指導力【対面による】
3. 保健体育科(中・高)の各分野の目標と内容 Ⅰ【対面による】
4. 「保健体育科(中・高)の各分野の目標と内容 Ⅱ【対面による】
5. 体育分野の内容(体つくり運動)【対面による】
6. 体育分野の学習内容と指導の留意点・教師行動の実際【対面による】
7. 保健分野の内容【対面による】
8. 保健分野の内容と指導の留意点・教師行動の実際【対面による】
9. 年間授業計画づくり(中学校)【対面による】
10. 年間指導計画づくり(高等学校)【対面による】
11. 年間事業計画と単元計画について【対面による】
12. 保健体育の学習評価と評定【対面による】
13. 学習指導案の作成①生徒観・教材観・指導観、目標設定(ICTの活用)【対面による】
14. 学習指導案の作成②単元目標・本時の目標設定、学習計画(ICTの活用)【対面による】
15. 学習指導案の作成③グループ学習・振り返り【対面による】

特記事項: なし

授業方法: パワーポイントを使用し講義中心。グループにおける討論もあり。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1:中高時の保健体育時の授業を振り返り180分の予習
2-3:中高時の保健体育時の授業を振り返ると同時に既習の教職論を振り返り各時間90分の予習、講義後の振り返りとして90分の復習
4-5:中・高学習指導要領保健体育編解説を理解するために各時間90分の予習、講義後、理解を確実にするために復習90分
6:中・高学習指導要領保健体育編解説の理解、中高時の保健体育時の授業を振り返り予習90分、講義後90分の復習
7:中・高学習指導要領保健体育編・保健領域について理解のために90分の予習、講義後に内容理解の定着のために90分の復習
8:中・高学習指導要領保健体育編・保健領域について理解のためと中高時の保健体育時の授業を振り返り90分の予習、講義後に内容理解の定着のために90分の復習
9-10:中・高学習指導要領保健体育編解説の理解、中・高時の保健体育時の授業を振り返り各時間予習90分、講義後年間授業計画の作成90分
11:中・高学習指導要領保健体育編解説の理解、選択制の意義等の理解90分の予習、講義後選択制カリキュラムの作成90分
12:学習評価について、教職論教科書等から90分の予習、講義後復習90分
13-15:学習指導案作成に備え、学習指導要領の各領域における運動の特性や特徴・目標について予習90分、講義後90分の復習

評価方法: **授業へのとりくみ:** 30 **%** **確認テスト:** 50 **%** **レポート:** 20 **%**

その他1： **%**

その他2： **%**

評価基準： 60～69点：中高の学習指導要領保健体育編解説を理解している。保健体育教員を目指しての意志が見られ、努力している。
80～100点
①保健体育科教員としての在り方について理解している。
②年間授業計画を理解しており、作成することとができる。
③各領域の単元計画について理解しており、作成することができる。

課題へのフィードバック：

・授業中に対応する。

教科書： 文部科学省『中学校学習指導要領解説 保健体育編』東山書房（平成29年7月）
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編』東山書房（平成30年7月）

参考書： 保健体育科教育法（杉山重利ほか 大修館書店）、保健科教育法入門（日本保健科教育学会、大修館書店）

授業・準備学習のアドバイス：

・参考書の中高学習指導要領は購入すること。
・自分の目指している校種に関しては、読み込んでおくこと。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 保健体育科教育法Ⅰ

クラス: ｽ後(内規科目)

授業コード: BE30400002

担当者: 松田 雅彦 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立高等学校教諭(保健体育)、国立大学法人附属中学校教諭(保健体育)、同附属高等学校教諭(保健体育)、主幹教諭、進路指導部長、生徒指導部長

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)【必修】

含めることが必要な事項: 各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: ・中学校及び高等学校保健体育科の授業を計画・実践できるようになるために、その大綱的基準である学習指導要領の目標と内容について理解を深めるとともに、保健体育科教員に求められる資質・役割・責務等を理解し、実践的指導の形成をめざす。
・社会学的・経営学的・運動学的視点から体育学習を見据えることで、生涯学習・スポーツの観点から学校や体育授業の役割について理解する。
・学習指導要領に示されたねらいや内容をふまえて、地域スポーツと学校体育の関係やチームとしての学校のあり方についても理解する。

到達目標: 1. 保健体育科の社会的使命と保健体育教師の実践的課題について理解する。
2. 中学・高等学校保健体育科の授業実践に必要な「目標」「内容」「方法」「評価」の考え方について理解するとともに、学習指導案の作成など授業構成に関する基本的な資質・能力を育む。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション・学校の現状と保健体育教師の役割【対面による】
2. 学習指導要領の変遷から見る保健体育科教師の実践的指導力【対面による】
3. 保健体育科(中・高)の各分野の目標と内容 Ⅰ【対面による】
4. 「保健体育科(中・高)の各分野の目標と内容 Ⅱ【対面による】
5. 体育分野の内容(体つくり運動)【対面による】
6. 体育分野の学習内容と指導の留意点・教師行動の実際【対面による】
7. 保健分野の内容【対面による】
8. 保健分野の内容と指導の留意点・教師行動の実際【対面による】
9. 年間授業計画づくり(中学校)【対面による】
10. 年間指導計画づくり(高等学校)【対面による】
11. 年間事業計画と単元計画について【対面による】
12. 保健体育の学習評価と評定【対面による】
13. 学習指導案の作成①生徒観・教材観・指導観、目標設定(ICTの活用)【対面による】
14. 学習指導案の作成②単元目標・本時の目標設定、学習計画(ICTの活用)【対面による】
15. 学習指導案の作成③グループ学習・振り返り【対面による】

特記事項: なし

授業方法: パワーポイントを使用し講義中心。グループにおける討論もあり。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1:中高時の保健体育時の授業を振り返り180分の予習
2-3:中高時の保健体育時の授業を振り返ると同時に既習の教職論を振り返り各時間90分の予習、講義後の振り返りとして90分の復習
4-5:中・高学習指導要領保健体育編解説を理解するために各時間90分の予習、講義後、理解を確実にするために復習90分
6:中・高学習指導要領保健体育編解説の理解、中高時の保健体育時の授業を振り返り予習90分、講義後90分の復習
7:中・高学習指導要領保健体育編・保健領域について理解のために90分の予習、講義後に内容理解の定着のために90分の復習
8:中・高学習指導要領保健体育編・保健領域について理解のためと中高時の保健体育時の授業を振り返り90分の予習、講義後に内容理解の定着のために90分の復習
9-10:中・高学習指導要領保健体育編解説の理解、中・高時の保健体育時の授業を振り返り各時間予習90分、講義後年間授業計画の作成90分
11:中・高学習指導要領保健体育編解説の理解、選択制の意義等の理解90分の予習、講義後選択制カリキュラムの作成90分
12:学習評価について、教職論教科書等から90分の予習、講義後復習90分
13-15:学習指導案作成に備え、学習指導要領の各領域における運動の特性や特徴・目標について予習90分、講義後90分の復習

評価方法: **授業へのとりくみ:** 30 **%** **確認テスト:** 50 **%** **レポート:** 20 **%**

その他1： **%**

その他2： **%**

評価基準： 60～69点：中高の学習指導要領保健体育編解説を理解している。保健体育教員を目指しての意志が見られ、努力している。
80～100点
①保健体育科教員としての在り方について理解している。
②年間授業計画を理解しており、作成することとができる。
③各領域の単元計画について理解しており、作成することができる。

課題へのフィードバック：

・授業中に対応する。

教科書： 文部科学省『中学校学習指導要領解説 保健体育編』東山書房（平成29年7月）
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編』東山書房（平成30年7月）

参考書： 保健体育科教育法（杉山重利ほか 大修館書店）、保健科教育法入門（日本保健科教育学会、大修館書店）

授業・準備学習のアドバイス：

・参考書の中高学習指導要領は購入すること。
・自分の目指している校種に関しては、読み込んでおくこと。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 保健体育科教育法Ⅱ

クラス: ｽ前(内規科目)

授業コード: BE30500001

担当者: 松田 雅彦 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立高等学校教諭(保健体育)、国立大学法人附属中学校教諭(保健体育)、同附属高等学校教諭(保健体育)、主幹教諭、生徒指導部長、進路研究部長

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)【必修】

含めることが必要な事項: 各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)

教科に関する専門的事項: - **一般的包括的科目:** -

授業の目的: 保健体育科の授業実践における方法論上の課題を、教材づくりと模擬授業(教材の実体験)を通して実践的に学ぶ。同時に、保健体育科に固有の指導方法および指導技術(情報通信技術の活用を含む)を習得する。

到達目標:
1. 中学・高等学校保健体育科の授業実践に必要な指導方法と指導技術について理解を深める。
2. 目標・内容に即した教材づくりができ、授業展開の展望をもつことができるとともに、授業実践力の向上を図る。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション・保健体育科の「目標」と「内容」【対面による】
2. 教材づくり「わかる」「できる」授業 中学から高校への系統性【対面による】
3. 教材づくり学習過程①【対面による】
4. 教材づくり学習過程②ー各領域(単元計画・授業展開・評価規準)【対面による】
5. 教材づくり学習過程③ー各領域(単元計画・授業展開・評価規準)【対面による】
6. 教材づくり学習過程④ー各領域(単元計画・授業展開・評価規準)【対面による】
7. 教材づくり学習過程⑤ー各領域(単元計画・授業展開・評価規準)【対面による】
8. 教材づくり学習過程⑥ー各領域の単元計画作成及び共有 グループ学習1【対面による】
9. 教材づくり学習過程⑦ー指導案作成 担当領域の単元時間毎作成 グループ学習2(ICTの活用)【対面による】
10. 教材づくり学習過程⑧ー指導案作成 担当領域の授業展開作成 グループ学習3(ICTの活用)【対面による】
11. 教材づくり学習過程⑨ー作成した指導案について協議及び修正 グループ学習4(ICTの活用)【対面による】
12. 教材づくり保健分野の内容及び授業について【対面による】
13. 中学校・高等学校保健の学習過程-授業ビデオ作成1パワーポイント使用【対面による】
14. 中学校・高等学校保健の学習過程-授業ビデオ作成2パワーポイント使用【対面による】
15. 中学校・高等学校保健の学習過程-グループ協議(発表会)【対面による】

特記事項: なし

授業方法: 講義、パワーポイントを使用する。指導案の書き方について実際に作成する。また、ICTを活用した模擬授業等も実施する。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1:保健体育科の「目標と内容」について予習90分、復習90分
2:学習過程についての予習、学習指導案については決まったフォームがないがおおよその記述事項についての予習90分、学習過程、書き方についての復習90分
3-7:各回、単元計画の資料準備について各時間予習90分、作成した単元計画・授業展開等の点検、確認90分
8-13:各回、授業構想のもと、自分たちが作成した授業計画に沿っての授業工夫を考える各時間90分、パワーポイント活用方法振り返り90分
14-15:保健授業のための教材研究を含めた各時間予習90分、学習内容の確認を含め、教育実習の授業を想定した振り返り復習に90分

評価方法:							
	授業へのとりくみ:	50 **%**	**確認テスト:**	**%**	**レポート:**	50 **%**	
	その他1:			**%**			
	その他2:			**%**			

評価基準: 60～69点:中・高の学習指導要領から保健体育科の「目標」と「内容」を理解している。
80～100点:
①中・高の学習指導要領・保健体育編の内容を理解しており、指導案の作成ができる。
②指導案に沿って安全性に留意しながら、授業の工夫、展開を考えることができる。
③模擬授業 ができる。

課題へのフィードバック:

課題等へのフィードバック、その他の質問等については授業時に対応する

教科書: なし

参考書: 文部科学省『中学校学習指導要領解説 保健体育編』東山書房（平成29年7月）
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編』東山書房（平成30年7月）
体育科教育法（杉山重利ほか 大修館書店）
保健科教育法入門（日本保健科教育学会 大修館書店）

授業・準備学習のアドバイス:

授業内容を知識として身につけること。
保健体育の教師を目指して真剣に臨んでほしい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 保健体育科教育法Ⅱ

クラス: ｽ後(内規科目)

授業コード: BE30500002

担当者: 松田 雅彦 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立高等学校教諭(保健体育)、国立大学法人附属中学校教諭(保健体育)、同附属高等学校教諭(保健体育)、主幹教諭、生徒指導部長、進路研究部長

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)【必修】

含めることが必要な事項: 各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)

教科に関する専門的事項: - **一般的包括的科目:** -

授業の目的: 保健体育科の授業実践における方法論上の課題を、教材づくりと模擬授業(教材の実体験)を通して実践的に学ぶ。同時に、保健体育科に固有の指導方法および指導技術(情報通信技術の活用を含む)を習得する。

到達目標:
1. 中学・高等学校保健体育科の授業実践に必要な指導方法と指導技術について理解を深める。
2. 目標・内容に即した教材づくりができ、授業展開の展望をもつことができるとともに、授業実践力の向上を図る。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション・保健体育科の「目標」と「内容」【対面による】
2. 教材づくり「わかる」「できる」授業 中学から高校への系統性【対面による】
3. 教材づくり学習過程①【対面による】
4. 教材づくり学習過程②ー各領域(単元計画・授業展開・評価規準)【対面による】
5. 教材づくり学習過程③ー各領域(単元計画・授業展開・評価規準)【対面による】
6. 教材づくり学習過程④ー各領域(単元計画・授業展開・評価規準)【対面による】
7. 教材づくり学習過程⑤ー各領域(単元計画・授業展開・評価規準)【対面による】
8. 教材づくり学習過程⑥ー各領域の単元計画作成及び共有 グループ学習1【対面による】
9. 教材づくり学習過程⑦ー指導案作成 担当領域の単元時間毎作成 グループ学習2(ICTの活用)【対面による】
10. 教材づくり学習過程⑧ー指導案作成 担当領域の授業展開作成 グループ学習3(ICTの活用)【対面による】
11. 教材づくり学習過程⑨ー作成した指導案について協議及び修正 グループ学習4(ICTの活用)【対面による】
12. 教材づくり保健分野の内容及び授業について【対面による】
13. 中学校・高等学校保健の学習過程-授業ビデオ作成1パワーポイント使用【対面による】
14. 中学校・高等学校保健の学習過程-授業ビデオ作成2パワーポイント使用【対面による】
15. 中学校・高等学校保健の学習過程-グループ協議(発表会)【対面による】

特記事項: なし

授業方法: 講義、パワーポイントを使用する。指導案の書き方について実際に作成する。また、ICTを活用した模擬授業等も実施する。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1:保健体育科の「目標と内容」について予習90分、復習90分
2:学習過程についての予習、学習指導案については決まったフォームがないがおおよその記述事項についての予習90分、学習過程、書き方についての復習90分
3-7:各回、単元計画の資料準備について各時間予習90分、作成した単元計画・授業展開等の点検、確認90分
8-13:各回、授業構想のもと、自分たちが作成した授業計画に沿っての授業工夫を考える各時間90分、パワーポイント活用方法振り返り90分
14-15:保健授業のための教材研究を含めた各時間予習90分、学習内容の確認を含め、教育実習の授業を想定した振り返り復習に90分

評価方法:							
	授業へのとりくみ:	50 **%**	**確認テスト:**	**%**	**レポート:**	50 **%**	
	その他1:			**%**			
	その他2:			**%**			

評価基準: 60～69点:中・高の学習指導要領から保健体育科の「目標」と「内容」を理解している。
80～100点:
①中・高の学習指導要領・保健体育編の内容を理解しており、指導案の作成ができる。
②指導案に沿って安全性に留意しながら、授業の工夫、展開を考えることができる。
③模擬授業 ができる。

課題へのフィードバック:

課題等へのフィードバック、その他の質問等については授業時に対応する

教科書: なし

参考書: 文部科学省『中学校学習指導要領解説 保健体育編』東山書房（平成29年7月）
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編』東山書房（平成30年7月）
体育科教育法（杉山重利ほか 大修館書店）
保健科教育法入門（日本保健科教育学会 大修館書店）

授業・準備学習のアドバイス:

授業内容を知識として身につけること。
保健体育の教師を目指して真剣に臨んでほしい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 安全救急法

クラス: ｽ前1

授業コード: BE30600001

担当者: 灘　英世　　**単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:日本赤十字社の救急法指導員の資格を有しており、一般市民及び児童生徒に対して救急法講習会を実施している。

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校　保健体育)【必修】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 学校保健(小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。)　　**一般的包括的科目:** ○

授業の目的: 本講義では、スポーツ・体育活動時における起きやすい怪我や病気について、どの様な兆候や状態にどの様な安全救急処置を行うべきかを知り、その具体的実践方法を習得する事を目的とする。

到達目標:
1. 学校安全の基本的概要についてしっかり理解する。
2. スポーツ・体育活動で多発する整形外科的及び内科的外傷・障害とその救急処置について理解する。
3. 安全救急処置の実習を通して指導者としての基本的救命及び応急処置の技術を習得する。

各回の授業計画:

1. 安全救急法についての基本的概要(目的、意義、内容の理解、緊急時のリスクマネジメント)
2. 学校安全と危機管理の理解
3. スポーツ外傷・障害の基礎知識(アスリートの外傷・障害と対策含む)
4. 頭部、顎部のスポーツ外傷・障害と安全救急処置(救急処置:外科系1)
5. 胸部、腰部のスポーツ外傷・障害と安全救急処置(救急処置:外科系2)
6. 上肢のスポーツ外傷障害と安全救急処置(救急処置:外科系3)
7. 下肢のスポーツ外傷障害と安全救急処置(救急処置:外科系4)
8. スポーツ・体育活動中の突然死、循環障害、熱中症の安全予防と救急処置(救急処置:内科系1)
9. スポーツ・体育活動中の過換気症候群、運動誘発性疾患の安全予防と救急処置(救急処置:内科系2)
10. 学校生活・家庭生活における子どもの事故について
11. 子どものスポーツ活動における安全管理と応急処置の留意点について
12. 安全救急処置実習①(心肺蘇生実習) ※1
13. 安全救急処置実習②(AED:半自動除細動器の説明含む) ※1
14. 安全救急処置実習③(外傷・障害に対する応急処置) ※1
15. 自然災害と学校防災管理

特記事項: ※ 適時確認テスト実施

＜日本スポーツ協会・公認パラスポーツ指導員＞
※ 各回の授業計画に関しては、以下の点にも留意しながら授業を展開する。

【授業計画12～14】
※ 1では、救命手当や応急処置の方法、手順さらには事前の準備や事後の留意点について実技を通して学ぶ。(心肺蘇生法、AED、気道異物除去、熱中症、外傷など)
・救命手当(心肺蘇生法・AED・気道異物除去など)の実践
・熱中症や外傷など応急手当の方法、実践
・事前に準備しておく項目、事後の留意点について

授業方法: ＊すべて対面で実施
1. 講義
2. 講義
3. 講義
4. 講義、実習
5. 講義、実習
6. 講義、実習
7. 講義、実習
8. 講義
9. 講義
10. 講義

11. 実習
12. 実習
13. 実習
14. 講義、ビデオ視聴
15. 講義

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. 復習：安全救急法についての基本的概要をまとめる（180分）
2. 復習：学校の危機管理についてまとめる（180分）
3. 復習：アスリートの外傷・障害についての予防法についてまとめる（180分）
〈4回～7回〉
復習：各身体部位のスポーツ外傷・障害の処置についてまとめる（各回180分）
〈8回、9回〉
復習：スポーツ・体育活動中の内科的疾患の処置についてまとめる（各回180分）
〈10回、11回〉
復習：子供の事故に対する安全管理と応急処置についてまとめる（各回180分）
〈12回～14回〉
復習：一次救命処置及びファイスとエイドについて確実な実技ができるようにする（各回180分）
15. 復習：自然災害及び学校防災管理についてまとめる（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	15 **%**	**確認テスト：**	60 **%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	実技		25 **%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

○いざという時のけがや病気に対して、安全救急法の基礎的な知識と実践力が身についているかを評価する。
① 「救命の連鎖」について理解し説明ができる。（60～69点）
② 傷病者の状態を観察・判断できる知識と実践力が身についている。（70～79点）
③ 傷病者に対して適切な応急処置できる知識と実践力が身についている。（80～100点）
○授業時の発言
① テーマに関する教師からの質問にて対して、対応することができる（60～79点）
② テーマに関する疑問を教師に質問できる。（80～100点）

課題へのフィードバック：

・レポート提出後および実技確認後それぞれの理解度および修得状況について振り返りを行う。

教科書：

・日本赤十字社救急法基礎講習教本、救急法講習教本
・他に随時担当教員が資料配布

参考書：

・特になし

授業・準備学習のアドバイス：

・体育授業とスポーツ指導における安全管理の実践授業です。出席して知識を蓄え、実践スキルを磨いて習得する事が大切です。教職及びスポーツ指導者資格取得に関連しておりますので受講意欲の高い学生諸君が望ましいです。

【資格取得における必修科目】・中高保健体育教員免許
・日本スポーツ協会公認スポーツコーチングリーダー
・日本スポーツ協会公認ジュニアスポーツ指導員
・日本スポーツ協会公認アシスタントマネジャー
・日本パラスポーツ協会公認パラスポーツ指導員（中級）

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 安全救急法

クラス: ｽ前2

授業コード: BE30600002

担当者: 灘　英世　　**単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:日本赤十字社の救急法指導員の資格を有しており、一般市民及び児童生徒に対して救急法講習会を実施している。

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校　保健体育)【必修】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 学校保健(小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。)　　**一般的包括的科目:** ○

授業の目的: 本講義では、スポーツ・体育活動時における起きやすい怪我や病気について、どの様な兆候や状態にどの様な安全救急処置を行うべきかを知り、その具体的実践方法を習得する事を目的とする。

到達目標:
1. 学校安全の基本的概要についてしっかり理解する。
2. スポーツ・体育活動で多発する整形外科的及び内科的外傷・障害とその救急処置について理解する。
3. 安全救急処置の実習を通して指導者としての基本的救命及び応急処置の技術を習得する。

各回の授業計画:

1. 安全救急法についての基本的概要(目的、意義、内容の理解、緊急時のリスクマネジメント)
2. 学校安全と危機管理の理解
3. スポーツ外傷・障害の基礎知識(アスリートの外傷・障害と対策含む)
4. 頭部、頸部のスポーツ外傷・障害と安全救急処置(救急処置:外科系1)
5. 胸部、腰部のスポーツ外傷・障害と安全救急処置(救急処置:外科系2)
6. 上肢のスポーツ外傷障害と安全救急処置(救急処置:外科系3)
7. 下肢のスポーツ外傷障害と安全救急処置(救急処置:外科系4)
8. スポーツ・体育活動中の突然死、循環障害、熱中症の安全予防と救急処置(救急処置:内科系1)
9. スポーツ・体育活動中の過換気症候群、運動誘発性疾患の安全予防と救急処置(救急処置:内科系2)
10. 学校生活・家庭生活における子どもの事故について
11. 子どものスポーツ活動における安全管理と応急処置の留意点について
12. 安全救急処置実習①(心肺蘇生実習) ※1
13. 安全救急処置実習②(AED:半自動除細動器の説明含む) ※1
14. 安全救急処置実習③(外傷・障害に対する応急処置) ※1
15. 自然災害と学校防災管理

特記事項: ※ 適時確認テスト実施

＜日本スポーツ協会・公認パラスポーツ指導員＞
※ 各回の授業計画に関しては、以下の点にも留意しながら授業を展開する。

【授業計画12～14】
※ 1では、救命手当や応急処置の方法、手順さらには事前の準備や事後の留意点について実技を通して学ぶ。(心肺蘇生法、AED、気道異物除去、熱中症、外傷など)
・救命手当(心肺蘇生法・AED・気道異物除去など)の実践
・熱中症や外傷など応急手当の方法、実践
・事前に準備しておく項目、事後の留意点について

授業方法: ＊すべて対面で実施
1. 講義
2. 講義
3. 講義
4. 講義、実習
5. 講義、実習
6. 講義、実習
7. 講義、実習
8. 講義
9. 講義
10. 講義

11. 実習
12. 実習
13. 実習
14. 講義、ビデオ視聴
15. 講義

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. 復習：安全救急法についての基本的概要をまとめる（180分）
2. 復習：学校の危機管理についてまとめる（180分）
3. 復習：アスリートの外傷・障害についての予防法についてまとめる（180分）
〈4回～7回〉
復習：各身体部位のスポーツ外傷・障害の処置についてまとめる（各回180分）
〈8回、9回〉
復習：スポーツ・体育活動中の内科的疾患の処置についてまとめる（各回180分）
〈10回、11回〉
復習：子供の事故に対する安全管理と応急処置についてまとめる（各回180分）
〈12回～14回〉
復習：一次救命処置及びファイスとエイドについて確実な実技ができるようにする（各回180分）
15. 復習：自然災害及び学校防災管理についてまとめる（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	15 **%**	**確認テスト：**	60 **%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	実技		25 **%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

○いざという時のけがや病気に対して、安全救急法の基礎的な知識と実践力が身についているかを評価する。
① 「救命の連鎖」について理解し説明ができる。（60～69点）
② 傷病者の状態を観察・判断できる知識と実践力が身についている。（70～79点）
③ 傷病者に対して適切な応急処置できる知識と実践力が身についている。（80～100点）
○授業時の発言
① テーマに関する教師からの質問にて対して、対応することができる（60～79点）
② テーマに関する疑問を教師に質問できる。（80～100点）

課題へのフィードバック：

・レポート提出後および実技確認後それぞれの理解度および修得状況について振り返りを行う。

教科書：

・日本赤十字社救急法基礎講習教本、救急法講習教本
・他に随時担当教員が資料配布

参考書：

・特になし

授業・準備学習のアドバイス：

・体育授業とスポーツ指導における安全管理の実践授業です。出席して知識を蓄え、実践スキルを磨いて習得する事が大切です。教職及びスポーツ指導者資格取得に関連しておりますので受講意欲の高い学生諸君が望ましいです。

【資格取得における必修科目】・中高保健体育教員免許
・日本スポーツ協会公認スポーツコーチングリーダー
・日本スポーツ協会公認ジュニアスポーツ指導員
・日本スポーツ協会公認アシスタントマネジャー
・日本パラスポーツ協会公認パラスポーツ指導員（中級）

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 安全救急法

クラス: ｽ後1

授業コード: BE30600003

担当者: 灘　英世　　**単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:日本赤十字社の救急法指導員の資格を有しており、一般市民及び児童生徒に対して救急法講習会を実施している。

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校　保健体育)【必修】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 学校保健(小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。)　　**一般的包括的科目:** ○

授業の目的: 本講義では、スポーツ・体育活動時における起きやすい怪我や病気について、どの様な兆候や状態にどの様な安全救急処置を行うべきかを知り、その具体的実践方法を習得する事を目的とする。

到達目標:
1. 学校安全の基本的概要についてしっかり理解する。
2. スポーツ・体育活動で多発する整形外科的及び内科的外傷・障害とその救急処置について理解する。
3. 安全救急処置の実習を通して指導者としての基本的救命及び応急処置の技術を習得する。

各回の授業計画:

1. 安全救急法についての基本的概要(目的、意義、内容の理解、緊急時のリスクマネジメント)
2. 学校安全と危機管理の理解
3. スポーツ外傷・障害の基礎知識(アスリートの外傷・障害と対策含む)
4. 頭部、頸部のスポーツ外傷・障害と安全救急処置(救急処置:外科系1)
5. 胸部、腰部のスポーツ外傷・障害と安全救急処置(救急処置:外科系2)
6. 上肢のスポーツ外傷障害と安全救急処置(救急処置:外科系3)
7. 下肢のスポーツ外傷障害と安全救急処置(救急処置:外科系4)
8. スポーツ・体育活動中の突然死、循環障害、熱中症の安全予防と救急処置(救急処置:内科系1)
9. スポーツ・体育活動中の過換気症候群、運動誘発性疾患の安全予防と救急処置(救急処置:内科系2)
10. 学校生活・家庭生活における子どもの事故について
11. 子どものスポーツ活動における安全管理と応急処置の留意点について
12. 安全救急処置実習①(心肺蘇生実習) ※1
13. 安全救急処置実習②(AED:半自動除細動器の説明含む) ※1
14. 安全救急処置実習③(外傷・障害に対する応急処置) ※1
15. 自然災害と学校防災管理

特記事項: ※ 適時確認テスト実施

＜日本スポーツ協会・公認パラスポーツ指導員＞
※ 各回の授業計画に関しては、以下の点にも留意しながら授業を展開する。

【授業計画12～14】
※ 1では、救命手当や応急処置の方法、手順さらには事前の準備や事後の留意点について実技を通して学ぶ。(心肺蘇生法、AED、気道異物除去、熱中症、外傷など)
・救命手当(心肺蘇生法・AED・気道異物除去など)の実践
・熱中症や外傷など応急手当の方法、実践
・事前に準備しておく項目、事後の留意点について

授業方法: ＊すべて対面で実施
1. 講義
2. 講義
3. 講義
4. 講義、実習
5. 講義、実習
6. 講義、実習
7. 講義、実習
8. 講義
9. 講義
10. 講義

11. 実習
12. 実習
13. 実習
14. 講義、ビデオ視聴
15. 講義

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. 復習：安全救急法についての基本的概要をまとめる（180分）
2. 復習：学校の危機管理についてまとめる（180分）
3. 復習：アスリートの外傷・障害についての予防法についてまとめる（180分）
〈4回～7回〉
復習：各身体部位のスポーツ外傷・障害の処置についてまとめる（各回180分）
〈8回、9回〉
復習：スポーツ・体育活動中の内科的疾患の処置についてまとめる（各回180分）
〈10回、11回〉
復習：子供の事故に対する安全管理と応急処置についてまとめる（各回180分）
〈12回～14回〉
復習：一次救命処置及びファイスとエイドについて確実な実技ができるようにする（各回180分）
15. 復習：自然災害及び学校防災管理についてまとめる（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	15 **%**	**確認テスト：**	60 **%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	実技		25 **%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

○いざという時のけがや病気に対して、安全救急法の基礎的な知識と実践力が身についているかを評価する。
① 「救命の連鎖」について理解し説明ができる。（60～69点）
② 傷病者の状態を観察・判断できる知識と実践力が身についている。（70～79点）
③ 傷病者に対して適切な応急処置できる知識と実践力が身についている。（80～100点）
○授業時の発言
① テーマに関する教師からの質問にて対して、対応することができる（60～79点）
② テーマに関する疑問を教師に質問できる。（80～100点）

課題へのフィードバック：

・レポート提出後および実技確認後それぞれの理解度および修得状況について振り返りを行う。

教科書：

・日本赤十字社救急法基礎講習教本、救急法講習教本
・他に随時担当教員が資料配布

参考書：

・特になし

授業・準備学習のアドバイス：

・体育授業とスポーツ指導における安全管理の実践授業です。出席して知識を蓄え、実践スキルを磨いて習得する事が大切です。教職及びスポーツ指導者資格取得に関連しておりますので受講意欲の高い学生諸君が望ましいです。

【資格取得における必修科目】・中高保健体育教員免許
・日本スポーツ協会公認スポーツコーチングリーダー
・日本スポーツ協会公認ジュニアスポーツ指導員
・日本スポーツ協会公認アシスタントマネジャー
・日本パラスポーツ協会公認パラスポーツ指導員（中級）

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 安全救急法

クラス: ｽ後2

授業コード: BE30600004

担当者: 灘　英世　　**単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:日本赤十字社の救急法指導員の資格を有しており、一般市民及び児童生徒に対して救急法講習会を実施している。

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校　保健体育)【必修】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 学校保健(小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。)　　**一般的包括的科目:** ○

授業の目的: 本講義では、スポーツ・体育活動時における起きやすい怪我や病気について、どの様な兆候や状態にどの様な安全救急処置を行うべきかを知り、その具体的実践方法を習得する事を目的とする。

到達目標:
1. 学校安全の基本的概要についてしっかり理解する。
2. スポーツ・体育活動で多発する整形外科的及び内科的外傷・障害とその救急処置について理解する。
3. 安全救急処置の実習を通して指導者としての基本的救命及び応急処置の技術を習得する。

各回の授業計画:

1. 安全救急法についての基本的概要(目的、意義、内容の理解、緊急時のリスクマネジメント)
2. 学校安全と危機管理の理解
3. スポーツ外傷・障害の基礎知識(アスリートの外傷・障害と対策含む)
4. 頭部、頸部のスポーツ外傷・障害と安全救急処置(救急処置:外科系1)
5. 胸部、腰部のスポーツ外傷・障害と安全救急処置(救急処置:外科系2)
6. 上肢のスポーツ外傷障害と安全救急処置(救急処置:外科系3)
7. 下肢のスポーツ外傷障害と安全救急処置(救急処置:外科系4)
8. スポーツ・体育活動中の突然死、循環障害、熱中症の安全予防と救急処置(救急処置:内科系1)
9. スポーツ・体育活動中の過換気症候群、運動誘発性疾患の安全予防と救急処置(救急処置:内科系2)
10. 学校生活・家庭生活における子どもの事故について
11. 子どものスポーツ活動における安全管理と応急処置の留意点について
12. 安全救急処置実習①(心肺蘇生実習) ※1
13. 安全救急処置実習②(AED:半自動除細動器の説明含む) ※1
14. 安全救急処置実習③(外傷・障害に対する応急処置) ※1
15. 自然災害と学校防災管理

特記事項: ※ 適時確認テスト実施

＜日本スポーツ協会・公認パラスポーツ指導員＞
※ 各回の授業計画に関しては、以下の点にも留意しながら授業を展開する。

【授業計画12～14】
※ 1では、救命手当や応急処置の方法、手順さらには事前の準備や事後の留意点について実技を通して学ぶ。(心肺蘇生法、AED、気道異物除去、熱中症、外傷など)
・救命手当(心肺蘇生法・AED・気道異物除去など)の実践
・熱中症や外傷など応急手当の方法、実践
・事前に準備しておく項目、事後の留意点について

授業方法: ＊すべて対面で実施
1. 講義
2. 講義
3. 講義
4. 講義、実習
5. 講義、実習
6. 講義、実習
7. 講義、実習
8. 講義
9. 講義
10. 講義

11. 実習
12. 実習
13. 実習
14. 講義、ビデオ視聴
15. 講義

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. 復習：安全救急法についての基本的概要をまとめる（180分）
2. 復習：学校の危機管理についてまとめる（180分）
3. 復習：アスリートの外傷・障害についての予防法についてまとめる（180分）
〈4回～7回〉
復習：各身体部位のスポーツ外傷・障害の処置についてまとめる（各回180分）
〈8回、9回〉
復習：スポーツ・体育活動中の内科的疾患の処置についてまとめる（各回180分）
〈10回、11回〉
復習：子供の事故に対する安全管理と応急処置についてまとめる（各回180分）
〈12回～14回〉
復習：一次救命処置及びファイスとエイドについて確実な実技ができるようにする（各回180分）
15. 復習：自然災害及び学校防災管理についてまとめる（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	15 **%**	**確認テスト：**	60 **%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	実技		25 **%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

○いざという時のけがや病気に対して、安全救急法の基礎的な知識と実践力が身についているかを評価する。
① 「救命の連鎖」について理解し説明ができる。（60～69点）
② 傷病者の状態を観察・判断できる知識と実践力が身についている。（70～79点）
③ 傷病者に対して適切な応急処置できる知識と実践力が身についている。（80～100点）
○授業時の発言
① テーマに関する教師からの質問にて対して、対応することができる（60～79点）
② テーマに関する疑問を教師に質問できる。（80～100点）

課題へのフィードバック：

・レポート提出後および実技確認後それぞれの理解度および修得状況について振り返りを行う。

教科書：

・日本赤十字社救急法基礎講習教本、救急法講習教本
・他に随時担当教員が資料配布

参考書：

・特になし

授業・準備学習のアドバイス：

・体育授業とスポーツ指導における安全管理の実践授業です。出席して知識を蓄え、実践スキルを磨いて習得する事が大切です。教職及びスポーツ指導者資格取得に関連しておりますので受講意欲の高い学生諸君が望ましいです。

【資格取得における必修科目】・中高保健体育教員免許
・日本スポーツ協会公認スポーツコーチングリーダー
・日本スポーツ協会公認ジュニアスポーツ指導員
・日本スポーツ協会公認アシスタントマネジャー
・日本パラスポーツ協会公認パラスポーツ指導員（中級）

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教材・教具の研究

クラス:

授業コード: BE30700001

担当者: 佃尾 哲哉 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 既存のルールや練習・トレーニング方法(＝素材)をそのままま教え・実施するのが体育授業ではありません。学習指導要領の目的と子どもの興味・関心・発達課題を踏まえ、既存のスポーツ(＝素材)を創り変えるのが、教材・教具の研究です。本授業では、教育実習にむけ、「身体運動」「スポーツ活動」そのものを、教材として扱う“体育科”独自の教材研究のあり方と方法について具体的に学びます。

到達目標: ・体育科における教材・教具の見方・考え方について理解を深める。
・教材研究・教具開発の楽しさを味わうとともにそのための基本を身につける。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション―アダプテッドスポーツに学ぶ
・スポーツに人間を合わせるのではなく、人間にスポーツを合わせる
・誰のための何のためのルールなのか―ルールに込められた先人たちの願いや思いを知ろう
・ルールは不変ではない 教授学的改変からスポーツの創造へ
2. 身体を動かす楽しさを、多様な運動から体験する。
3. ラグビーでゴール型ゲームの醍醐味・本質に迫る。
4. アルティメットでゴール型ゲームの醍醐味・本質に迫る。
5. 打運動の楽しさを、風船・ボール運動から体験する。
6. ソフトバレーボールでネット型ゲームの醍醐味・本質に迫る。
7. 卓球でネット型ゲームの醍醐味・本質に迫る。
8. 投運動の楽しさを、昔遊びから体験する。
9. ベースボールの醍醐味・本質に迫る①―攻撃編。
10. ベースボールの醍醐味・本質に迫る②―守備篇。
11. ゴルフに挑戦しよう①―アプローチ・ショット
12. ゴルフに挑戦しよう②―パッティング・ショット
13. ショートテニスに挑戦しよう。
14. 多様性を理解し、障がい者運動に挑戦します。
15. まとめ―教育実習・指導案づくりにむけて

特記事項: ・毎回の教材・種目の紹介(予習)はみなさんでおこなっていただきます。

授業方法:
1. 講義、教室 (対面)
2. 実習、討議、総括 (対面)
3. 実習、討議、総括 (対面)
4. 実習、討議、総括 (対面)
5. 実習、討議、総括 (対面)
6. 実習、討議、総括 (対面)
7. 実習、討議、総括 (対面)
8. 実習、討議、総括 (対面)
9. 実習、討議、総括 (対面)
10. 実習、討議、総括(対面)
11. 実習、討議、総括(対面)
12. 実習、討議、総括(対面)
13. 実習、討議、総括(対面)
14. 実習、討議、総括(対面)
15. 講義 教室(対面)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1～15. 予習課題1 :扱う教材・教具についての自己の経験及びそこで学んだこと意識したことを対象化しておくとともに、学習指導要領の該

当部分を確認しておく(450分)。
1～7. 予習課題2:学習指導要領を踏まえ扱うテーマに即した先行事例・典型教材を吟味しその特徴と課題を把握しておく(900分)。
8～14. 宿題:球技の典型教材を紹介・提案する(900分)
1～15. 復習課題:経験知並びに既存の情報と本授業で得た知見とを総合し実践に向けての課題を整理する(450分)。

評価方法:

授業へのとりくみ:	40 **%**	**確認テスト:**	30 **%**	**レポート:**	30 **%**
その他1:			**%**		
その他2:			**%**		

評価基準:
【最低限の到達度:(60～69点)】
・授業への取り組み:実習・討議において、積極的に発言する姿勢がうかがえる。
・確認テスト:扱った教材・種目の、特徴とルールを概ね理解している。
・レポート:ボールゲームの本質と教授学的改変について概ね理解できている。
【望ましい到達度:(80～100点)】
・授業への取り組み:実習・討議において、積極的に発言するとともにルードする姿勢がうかがえる。
・確認テスト:扱った教材・種目の、特徴とルールとそこに込められた願いや思想について理解している。
・レポート:ボールゲームの本質に迫る教授学的改変の意義を理解するとともに大胆な改変を提案できる。

課題へのフィードバック:
毎時間授業における活動を評価・総括した結果を、集計・抜粋し次回の授業で全員にフィードバックし共有する。

教科書: 学校体育研究同志会編『スポーツの主人公を育てる体育・保健の授業づくり一指導案の基本とプラン集－』創文企画 2018年

参考書:
文部科学省『小学校学指導要領解説 体育編』
文部科学省『中学校学習指導要領解説 保健体育編』
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編』

授業・準備学習のアドバイス:
体育・スポーツ指導の醍醐味の一つは、この教材づくり・教具の開発にあります。
自分自身と仲間の「できばえ」「うごき」を、通して学びます。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: スポーツカウンセリング総論

クラス:

授業コード: BE40100001

担当者: 杉山 真人 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: カウンセリングの理論や技法は日常の心身の健康のためだけではなく、スポーツ選手（障がい者を含む）のサポートにとっても重要です。本講義では、競技スポーツ選手やパラスポーツ選手及び一般のスポーツ愛好者がよりよいスポーツ活動を促進するための心理的サポートの方法について学びます。

到達目標: カウンセリングの理論と各種技法を学び、スポーツの現場（障がい者スポーツを含む）で活用可能な基本的技能を身につける

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. スポーツを取り巻く心理的諸問題
3. バーンアウト
4. スポーツ選手とカウンセリングの必要性 ※1
5. カウンセリングの理論
6. カウンセラーのあり方法
7. カウンセリングの技法
8. 対他者力を磨く（コミュニケーションスキル、ファシリテーションスキルなど）
9. 対自己力を磨く（セルフマネジメント、思考法、伝達法）
10. カウンセリングの流れ
11. 心理療法の基礎的理解
12. スポーツカウンセリングの実際 ※1
13. カウンセリングと心理テスト
14. カウンセリングの効果と限界
15. まとめと振り返り

特記事項: ＜日本スポーツ協会・公認パラスポーツ指導員＞
【授業計画4・12回】
※1では、公認パラスポーツ指導者として必要なコミュニケーションスキルやソーシャルスキルの基礎を学ぶ。また、以下の点にも留意しながら授業を展開する。
・よいコミュニケーション、よいプレゼンテーションのための留意点
・よい人間関係をつくるために必要なこと
・スポーツ指導者に求められるコミュニケーションスキル
・障がい特性に応じたコミュニケーション方法
・実践、演習を通して人前で話すこと、相手の意見を傾聴することを体験する。

授業方法:
1. 講義，ディベート
2. 講義，ディベート
3. 講義，ディベート
4. 講義，グループワーク
5. 講義，グループワーク
6. 講義，グループワーク
7. 講義
8. 講義
9. 講義
10. 講義
11. 講義，グループワーク
12. 講義，ディベート
13. 講義，グループワーク

14. 講義，ディベート
15. 講義，ディベート
※全て対面で行います

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. 学習内容についての確認を行う（180分）
2. スポーツにおける問題について調べてくる（180分）
3. スポーツにおける諸問題についての復習をする（180分）
4. バーンアウトのメカニズムについて振り返る（180分）
5. カウンセリングの理論について調べてくる（180分）
6. スポーツ選手のカウンセリングにはどのようなものがあったかを復習する（180分）
7. スポーツ選手へのカウンセリングの実際について振り返る（180分）
8. カウンセリングの技法について振り返る（180分）
9. どのように技法を活用していけばよいかを振り返る（180分）
10. ケースに対するカウンセリングの流れについて確認しておく（180分）
11. カウンセリングの流れについて振り返る（120分）．心理療法の内容を確認しておく（60分）
12. 心理療法の利用や留意点について整理する（180分）
13. 実際のカウンセリングについて振り返る(180分)
14. 心理テストの具体的方法について振り返る（180分）
15. スポーツ選手へのカウンセリングについての留意点について整理する（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	40 **%**	**確認テスト：**	40 **%**	**レポート：**	20 **%**
その他1：			**%**		
その他2：			**%**		

評価基準： 最低限度の到達度（60～69点）：アスリートの心理的諸問題を理解している
望ましい到達度（80～100点）：アスリートの心理的諸問題を理解し柔軟に対応できる

課題へのフィードバック：

小レポートや小テストについては採点後講評する.

教科書： 必要に応じて配布します

参考書： ・特になし。

授業・準備学習のアドバイス：

・自身の競技力向上だけではなく、指導的立場に立った際に有効な知識です

【資格取得における必修科目】
・日本スポーツ協会公認スポーツコーチングリーダー
・日本スポーツ協会公認ジュニアスポーツ指導員
・日本スポーツ協会公認アシスタントマネジャー
・日本パラスポーツ協会公認パラスポーツ指導員（初級・中級）

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: メンタルトレーニング

クラス:

授業コード: BE40300001

担当者: 杉山 真人 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 技術や体力向上のためのトレーニングと同様に心理的な能力もアスリートの実力発揮にとって重要である。本講義では、心理学的側面からアスリートの競技力向上を図るためのメンタルトレーニングについて、各種技法の理論的背景や具体的方法について学びます。

到達目標: スポーツ現場におけるメンタルトレーニングの理論的背景や各種技法の知識を身につける

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. スポーツにおける心技体
3. 運動パフォーマンスに影響を与える心理的要因
4. スポーツと動機づけ
5. メンタルトレーニングの流れ
6. 目標設定の有効性
7. リラクセーション①(理論)
8. リラクセーション②(実践)
9. スポーツと注意集中
10. メージトレーニングの有効性
11. アスリートの思考とパフォーマンス
12. アスリートのストレスマネジメント
13. メンタルトレーニングと心理テスト
14. メンタルトレーングの評価と診断
15. まとめと振り返り

特記事項: 確認テストは適宜行う。

授業方法:
1. 講義
2. 講義
3. 講義, ディベート
4. 講義, ディベート
5. 講義, ディベート
6. 講義, グループワーク
7. 講義, グループワーク
8. 講義, グループワーク
9. 講義, グループワーク
10. 講義, グループワーク
11. 講義, グループワーク
12. 講義, グループワーク
13. 講義, グループワーク
14. 講義, グループワーク
15. 講義, ディベート

※全て対面で行います

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 学習内容についての確認を行う(180分)
2. スポーツにおける心技体の具体的内容について確認する(180分)
3. スポーツの実力の発揮に影響を与える心理的要因について考える(180分)
4. スポーツにおける動機づけの影響について振り返る(180分)

5. メンタルトレーニングの実際の流れについて振り返る（180分）
6. 目標設定の実際について振り返る（180分）
7. リラクセーションの理論的背景について振り返る（180分）
8. リラクセーションの実践について振り返る（180分）
9. 注意集中技法について振り返る（180分）
10. イメージトレーニングの実際について振り返る（180分）
11. 思考法と運動パフォーマンスについて振り返る（180分）
12. ストレスマネジメントについて振り返る（180分）
13. 心理テストの活用法について振り返る（180分）
14. メンタルトレーニングの評価と診断について振り返る（180分）
15. これまでの学びの内容の振り返りを行う（180分）

評価方法：	**授業へのとりくみ：**	40	**%**	**確認テスト：**	40	**%**	**レポート：**	20 **%**
	その他1：					**%**		
	その他2：					**%**		

評価基準： 最低限度の到達度（60～69点）：アスリートに対して技法を実践できる
望ましい到達度（80～100点）：アスリートの問題に応じて適切に技法を選択し実践できる

課題へのフィードバック：
小レポートや小テストについては採点後講評する

教科書： なし

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：
小レポートや小テストについては採点後講評する。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 障がい者スポーツ総論

クラス:

授業コード: BE40550001

担当者: 宮辻 和貴 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: これまで特殊なスポーツであるという認識が深いパラスポーツは、一般の健常者スポーツの用具やルールを工夫して行われている。
本講義では、パラスポーツに関わる知識について多角的な視点から理解を深めるとともに、障がい者の運動・スポーツを通して生きる力を育む姿勢を学ぶことを目的とする。

到達目標:
1. 障がい者についての知識と理解を深める。
2. パラスポーツについての知識と理解を深める。
3. パラスポーツの果たす役割、意義や目的および効果について学習する。
4. パラスポーツの歴史や現状について学習する。
5. パラスポーツの指導方法を習得する。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション（授業を受講するにあたってのガイダンス）
2. パラスポーツの意義と理念
3. パラスポーツに関する諸施策
4. パラスポーツ推進の取り組み
5. 各障がいの理解①（身体障がい：肢体不自由・視覚障がいを含む）
6. 各障がいの理解②（身体障がい：聴覚・音声言語障がい・内部障がいを含む）
7. 各障がいの理解③（知的障がい：発達障がいを含む）
8. 各障がいの理解④（精神障がい）
9. 全国障害者スポーツ大会の概要
10. 障がい者のスポーツ指導における留意点について①
11. 障がい者のスポーツ指導における留意点について②
12. 障がい者のスポーツ指導における留意点について③
13. パラスポーツ指導員としてのキャリア形成①
14. パラスポーツ指導員としてのキャリア形成②
15. まとめ

※ レポート課題（2～3回程度）および発表課題（グループワーク）を実施する。

特記事項: ＜日本スポーツ協会・公認パラスポーツ指導員＞
※ 各回の授業計画に関しては、以下の点にも留意しながら授業を展開する。

【授業計画2】
障がい者にとってのスポーツの意義と理念を理解する。
・障がい者個々人における意義（身体的・精神的効果）
・スポーツ界および社会一般へおける意義（共生社会の創造、パラリンピックの効果）
・パラスポーツの理念（Drグッドマンの考え方や功績、実践上・指導上の理念）

【授業計画3】
わが国の障がい者福祉施策（障害者手帳を含む）およびパラスポーツに関する施策（スポーツ基本法やスポーツ基本計画など）について学ぶ。
・障がい者福祉施策とその変遷（障害者基本法、障害者差別解消法、移動支援、身体障害者福祉法、障害者総合支援法）
・障がい者の生活と実態（障がい者数、利用福祉サービス）
・パラスポーツに関する施策（スポーツ基本法、スポーツ振興体制、スポーツ基本計画とその振興）

【授業計画4】
資格を取得した後に、地域で行われている教室や大会等へ積極的に関われるように、地域のパラスポーツ振興の現状について学ぶ。
・各都道府県・政令指定都市のパラスポーツ推進の現状と課題（日本パラスポーツ協会ビジョンを含む）

・パラスポーツ指導者制度の概要
・地域の障がい者スポーツ協会や指導者協議会について
・資格取得後の活動方法と情報入手方法

【授業計画5～8】
各障がいの主な特性や、実際のスポーツ活動場面で活かせる各障がいに関する知識と指導上の配慮点を身につける。

【授業計画9】
全国障害者スポーツ大会の基本理念など大会の概要及び大会開催の目的や意義について学び、大会がスポーツ未経験者や初心者のスポーツ参加の動機づけになっていること、地域のスポーツ振興を進める契機となっていることを学ぶ。
・全国障害者スポーツ大会の歴史、開催の意義・目的
・大会競技規則の原則（基準要綱、基本方針など）
・大会実施競技の紹介

【授業計画10～12】
障がい特性に応じた支援・指導法を理解し、スポーツ指導場面における留意点について学ぶ。また、指導案を作成するうえでの基本的なポイントについて学び、個別指導をする際の指導案を作成する。
・各障がい特性に応じたスポーツ指導上の留意点（講義）について学び、指導案を作成（グループワーク）
・全国障害者スポーツ大会実施競技・種目を想定し、指導案を作成（個人対象の指導案）

【授業計画13～14】
過去と将来の指導者としてのキャリアを考え、自身の指導者像を形成する。
・キャリア形成の重要性
・キャリア形成のイメージづくり（事前課題の作成、提出、発表）
・指導員として得ることができる知見の理解
・グループワーク、ブレインストーミング、プレゼンテーションの実施
（テーマに沿って取り組む）
・「自身の指導者像、今後の取り組み」についてまとめる

授業方法： 『第1回目～第15回目：講義・発表（対面）』
1. 講義、DVD視聴
2. 講義、グループワーク
3. 講義、グループワーク
4. 講義、グループワーク
5. 講義、グループワーク
6. 講義、グループワーク
7. 講義、グループワーク
8. 講義、グループワーク
9. 講義、グループワーク
10. 講義、グループワーク
11. 講義、グループワーク
12. 発表、ディスカッション、グループワーク
13. 講義、ディスカッション、グループワーク
14. 発表、ディスカッション、グループワーク
15. 講義（まとめ）

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1：パラスポーツの意義と理念に関する予習（90分）
2：本日の復習（90分）
パラスポーツの諸施策に関する予習（90分）
3：本日の復習（90分）
パラスポーツ推進に関する予習（90分）
4：本日の復習（90分）
各障がい（身体障がい：肢体不自由、視覚障がい）に関する予習（90分）
5：本日の復習（90分）
各障がい（身体障がい：聴覚・音声言語障がい、内部障がい）に関する予習（90分）
6：本日の復習（90分）
各障がい（知的障がい：発達障がい）に関する予習（90分）
7：本日の復習（90分）
各障がい（精神障がい）に関する予習（90分）
8：本日の復習（90分）
全国障害者スポーツ大会に関する予習（120分）
9：本日の復習（90分）
障がい者のスポーツに関する留意点①についての予習（120分）
10：本日の復習（90分）
障がい者のスポーツに関する留意点②についての予習（120分）
11：本日の復習（90分）
障がい者のスポーツに関する留意点③についての予習（120分）
12：本日の復習（90分）

パラスポーツ指導員におけるキャリア形成①についての予習（105分）
13：本日の復習（90分）
パラスポーツ指導員におけるキャリア形成②についての予習（105分）
14：本日の復習（90分）
パラスポーツ全般に関わる内容についての予習（120分）
15：本日の復習（90分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	30 **%**
その他1：	発表（グループワーク）		40 **%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

「評価方法」の1～3について、以下の基準を満たすことが求められます。
1. 授業へのとりくみ（授業態度、関心・意欲、発表など）
・毎回の講義に対して、障がい者との関わり方（援助・支援）を考えながら、自ら主体的な姿勢で授業への参加がなされている（60～69点）
・毎回の講義に対して、障がい者との関わり方（援助・支援）を考えつつ、対象者に沿ったスポーツの企画や運営ができる方法を示しながら、自ら主体的な姿勢で授業への参加がなされている（80～100点）

2. レポート
・レポートの基本的な形式が整えられており、レポート課題に対する論述（自身の考えや表現）がなされている（60～69点）
・レポートの基本的な形式が整えられており、レポート課題に対する論述（自身の考えや表現）がなされつつ、読み手に伝わるように作成されている（80～100点）

3. 発表（グループワーク）
・発表（グループワーク）の基本的な形式が整えられており、発表課題に対する論述（自身の考えや表現）がなされている（60～69点）
・発表（グループワーク）の基本的な形式が整えられており、発表課題に対する論述（自身の考えや表現）がなされつつ、読み手（聞き手）に伝わるように作成されている（80～100点）

課題へのフィードバック：

・講義については、パラスポーツに関わる基礎的な内容であるため、各講義のポイントで適宜内容のフィードバックを実施する。
・レポートについては、採点後に授業内で講評する。
・発表（グループワーク）については、各グループが発表後に授業内で講評する。

教科書：

・資料はPDF形式（閲覧用・印刷用）にて、各回の授業前（Teams）に配布する。

参考書：

・改正版 障がいのある人のスポーツ指導教本（初級・中級）2020年改訂カリキュラム対応（公財）日本パラスポーツ協会編，ぎょうせい.

授業・準備学習のアドバイス：

○ 障がいのある人々のスポーツ活動について、自らが経験や体験をするとともに、様々な障がいに対する知識や技術を学び、指導現場へと活用できるよう主体的に取り組んでください。
※ 各自、PDF形式（閲覧用・印刷用）にて配布された資料については、PCを活用しながら学習を進めてください。

【資格取得における必修科目】
・日本スポーツ協会公認スポーツコーチングリーダー
・日本スポーツ協会公認ジュニアスポーツ指導員
・日本スポーツ協会公認アシスタントマネジャー
・日本パラスポーツ協会公認パラスポーツ指導員（初級・中級）

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 学校保健

クラス: ☆

授業コード: BE40600001

担当者: 鈴木 みちる　　**単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校　保健体育)【必修】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 学校保健(小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。)　　**一般的包括的科目:** ○

授業の目的: 学校保健の目的は、子ども達の健康・安全を守り、心身の発育を促し将来にわたって健康的な生活を築き、維持するための「健康の学力」を形成することにある。
本講義では、学校保健を構成する保健教育、保健管理及び組織活動について概説するとともに、子ども達の健康と安全を守るために必要な基本的な知識を身につけることを目的とする。

到達目標:
1. 学校保健の概要と法的根拠について、理解できる。
2. 学校における保健教育と保健管理について、説明することができる。
3. 子どもの現代的健康課題について理解し、説明できる。
4. 学校環境衛生と学校安全管理について、理解し説明できる。
5. 学校教育場面における救急対応を想定し、体育科教諭としての行動を説明できる。

各回の授業計画:

1. ガイダンス及び学校保健の歴史と概要
2. 学校保健の法的根拠と組織活動
3. 子どもの発育・発達と健康実態
4. 子どもの現代的健康課題
5. 学校環境にかかわる課題・小テスト①
6. 学校における保健管理①(健康観察)
7. 学校における保健管理②(健康診断)
8. 学校における保健管理③(感染症・学校環境衛生)
9. 学校における保健管理④(健康相談、内科的対応)
10. 学校における保健管理⑤(救急対応)
11. 小テスト②・性教育の歴史
12. 学校における保健指導①
13. 学校における保健指導②
14. 特別な配慮が必要な児童生徒の理解①
15. 学校保健のまとめ・確認テスト

特記事項: 提出物の期限は、授業への取り組みとして成績評価します。

授業方法: 指定テキストを中心に、パワーポイントで補足説明しながらオンデマンドでの講義を行います。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 授業の内容に関連した指定テキストの該当ページを熟読する。(予習90分)、学校保健に関する時事ニュースについてまとめる。(復習90分)
2. 授業の内容に関連した指定テキストの該当ページを熟読する。(予習90分)、授業の重要ポイントをまとめて復習する。(復習90分)
3. 授業の内容に関連した指定テキストの該当ページを熟読する。(予習90分)、授業の重要ポイントをまとめて復習する。(復習90分)
4. 授業の内容に関連した指定テキストの該当ページを熟読する。(予習90分)、授業の重要ポイントをまとめて復習する。(復習90分)
5. 授業の内容に関連した指定テキストの該当ページを熟読する。(予習90分)、授業の重要ポイントをまとめて復習する。(復習90分)
6. 授業の内容に関連した指定テキストの該当ページを熟読する。(予習90分)、授業の重要ポイントをまとめて復習する。(復習90分)
7. 授業の内容に関連した指定テキストの該当ページを熟読する。(予習90分)、授業の重要ポイントをまとめて復習する。(復習90分)
8. 授業の内容に関連した指定テキストの該当ページを熟読する。(予習90分)、授業の重要ポイントをまとめて復習する。(復習90分)
9. 授業の内容に関連した指定テキストの該当ページを熟読する。(予習90分)、授業の重要ポイントをまとめて復習する。(復習90分)
10. 授業の内容に関連した指定テキストの該当ページを熟読する。(予習90分)、授業の重要ポイントをまとめて復習する。(復習90分)
11. 授業の内容に関連した指定テキストの該当ページを熟読する。(予習90分)、授業の重要ポイントをまとめて復習する。(復習90分)
13. 授業の内容に関連した指定テキストの該当ページを熟読する。(予習90分)、授業の重要ポイントをまとめて復習する。(復習90分)
14. 授業の内容に関連した指定テキストの該当ページを熟読する。(予習90分)、授業の重要ポイントをまとめて復習する。(復習90分)

15. 授業の内容に関連した指定テキストの該当ページを熟読する。(予習90分)、授業の重要ポイントをまとめて復習する。(復習90分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	10	**%**	**確認テスト:**	60	**%**	**レポート:**	30 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: 提出物の期限を授業への取り組みとして評価します。
(60～69点)
学校保健の目的や意義，学校保健関連法規，保健教育，保健管理，組織活動などについて説明することができる。
(80～100点)
学校保健の目的や意義，学校保健関連法規，保健教育，保健管理，組織活動などについて説明し、自分の考えも述べる事ができる。

課題へのフィードバック:

小テスト①②はレポート形式で行います。
最終確認テストは、Teamsでテストを実施します。

教科書: 学校保健ハンドブック〈第8次改訂〉教員養成系大学保健協議会【編】発行年月 2024/04 ISBNコード 978-4-324-11344-8
その他、授業で使用する資料は随時、オンライン上に配布する。

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

児童生徒が関わる安全や健康に関する時事ニュースに興味関心をもち、学校保健の授業に対して積極的に参加してください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域スポーツ経営論

クラス:

授業コード: BE50100001

担当者: 祐末 ひとみ　　**単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本授業は、地域スポーツクラブにおける経営及び運営を効率的に行えるクラブマネジメントに関する基礎知識を学びます。地域スポーツクラブを取り巻く環境と事業ミッションを理解し、必要性を確認します。また、クラブ経営の設立手法・運営形態を理解する事で具体的イメージを持たせ、クラブマネジャーが果たすべき仕事と役割についての理解と求められる能力についても理解することを目的とします。

到達目標:
1. 地域スポーツクラブを取り巻く環境を理解する
2. 地域スポーツの拠点となるスポーツクラブの役割や必要性を理解する
3. 地域スポーツクラブのマネジメントの仕組みについて理解する
4. クラブ運営に関して具体的にイメージができるようになる。

各回の授業計画:

1. これからの地域スポーツ:総合型地域スポーツクラブ
2. 組織・クラブの創設Ⅰ:概要
3. 組織・クラブの創設Ⅱ:設立ー運営
4. クラブのマネジメントⅠ -クラブマネジャー(アシスタントマネジャー)とは
5. クラブのマネジメントⅡ -クラブマネジャー(アシスタントマネジャー)に求められる能力
6. クラブのマネジメントⅢ -事業計画1
7. クラブのマネジメントⅣ -事業計画2
8. 自主運営に必要な条件Ⅰ
9. 自主運営に必要な条件Ⅱ
10. 顧客とスタッフの定義Ⅰ
11. 顧客とスタッフの定義Ⅱ
12. NPO法人格の取得手続き
13. 活動拠点の確保
14. 財源の確保
15. 事例クラブ紹介(総合型地域スポーツクラブの事例を紹介する)

特記事項: なし

授業方法: 基本的に講義は、パワーポイント、視聴覚機材を用いて進める
第6～9回に関しては、個人ワークまたは、グループワークにてアクティブ・ラーニングの手法を用いて進める
授業毎に授業内容確認シート(振り返り)を実施する

1-15:対面授業で実施する(変更が生じる場合は、事前に受講学生へ情報提供できる方法で周知する)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

各回、以下の通り予習・復習を行ってください。
【1回、6～15回】
予習:総合型地域スポーツクラブに関連する各回のトピックに関して事前に調べ、理解する(各回80分)
復習:各回の授業のまとめの部分、あるいは自分自身が興味を持った部分に関して詳細に調べ、理解を深める(各回100分)。加えて、身近にある地域のスポーツクラブのスポーツ教室、プログラム、施設等を調べる。
【2回～5回】
予習:総合型地域スポーツクラブのマネジャーに関連する各回のトピックに関して事前に調べ、理解する(各回80分)
復習:各回の授業のまとめの部分、あるいは自分自身が興味を持った部分に関して詳細に調べ、理解を深める(各回100分)。

評価方法: **授業へのとりくみ:** 30 **%** **確認テスト:** 50 **%** **レポート:** － **%**
その他1: レポートまたは、プレゼンテーション 20 **%**

その他2： **%**

評価基準： 「最低限の到達度（60～69点）」
地域スポーツに関連する用語・意味をいくつか覚えている。
地域スポーツに関連する事象をいくつか説明することができる。
「望ましい到達度（80～100点）」
地域スポーツに関連する用語・意味を多数覚えている。
地域スポーツに関連する事象を多数説明することができる。

課題へのフィードバック：
レポートや試験については、その課題のポイントや評価の観点を解説・説明する。

教科書： 公認アシスタントマネジャー養成テキスト／(公財)日本スポーツ協会

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：
（公財)日本スポーツ協会公認アシスタントマネジャー資格取得希望者は、本科目の履修が必須条件です。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: スポーツマネジメント総論

クラス:

授業コード: BE50300001

担当者: 祐末 ひとみ **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本講義はスポーツマネジメントの概念と事例的システムについて総括的に学習する事を目的とします。

到達目標: スポーツマネジメントの様々な基礎的概念を理解し、そこに存在する具体的事象からスポーツマネジメントの本質を学ぶ事を目標とします。

各回の授業計画:

1. ガイダンス(進め方、総論)
2. スポーツマネジメント:スポーツの価値
3. スポーツ産業Ⅰ:スポーツ産業の発展
4. スポーツ産業Ⅱ:経験価値の時代のマネジメント
5. スポーツ産業Ⅲ:スポーツ施設
6. スポーツ産業Ⅳ:スポーツメディア
7. スポーツ消費者行動Ⅰ:交換理論
8. スポーツ消費者行動Ⅱ-1:スポーツ行動マネジメント(理論)
9. 1～8の振り返り(中間確認テスト)
10. スポーツ消費者行動Ⅲ:カスタマーマネジメント
11. プロスポーツ
12. スポーツマーケティングⅠ:マーケティングリサーチ(理論)
13. スポーツマーケティングⅡ:マーケティングリサーチ(実践)
14. 地域におけるスポーツ組織・団体
15. テーマ設定によるプレゼンテーションまたは、確認テスト

特記事項: 授業は知識の定着と思考の深まりを期待することから、講義の進め方や上記内容・計画が変更されうることも有ります。

授業方法: 基本的に講義は、パワーポイント、視聴覚機材を用いて進める
中間と最終授業で授業確認テストを実施する
第12回以降に関しては、授業進捗によりアクティブ・ラーニングの手法を用いて進める
授業毎に授業内容確認シート(振り返り)を実施する

1~15:対面授業で実施する(変更が生じる場合は、事前に受講学生へ情報提供できる方法で周知する)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

以下の通り予習・復習を行ってください。
【予習】
スポーツマネジメントに関連する各トピックに関して事前に調べ、理解する。各回の授業内容に関連するメディア情報(新聞記事やニュース等)を収集する(各回100分)
【復習】
各回の授業のまとめの部分、あるいは自分自身が興味を持った部分に関して詳細に調べ、理解を深める(各回80分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	30	**%**	**確認テスト:**	50	**%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:	レポートまたは、プレゼンテーション			20	**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: 「最低限の到達度(60～69点)」
スポーツマネジメントに関連する用語・意味をいくつか覚えている。

スポーツマネジメントに関連する事象をいくつか説明することができる。
「望ましい到達度（80～100点）」
スポーツマネジメントに関連する用語・意味を多数覚えている。
スポーツマネジメントに関連する事象を多数説明することができる。

課題へのフィードバック：

レポートや試験については、その課題のポイントや評価の観点を解説・説明する。

教科書： 必要に応じて、資料を配布します。

参考書： スポーツ産業論 原田宗彦編著 杏林書院
図解スポーツマネジメント 山下秋二・原田宗彦編著 大修館書店
スポーツ白書 笹川スポーツ財団

授業・準備学習のアドバイス：

スポーツマネジメントコース専攻学生にとっては基幹科目であり、スポーツマネジメントに関心のある学生にとってはスポーツコーチングリーダー、ジュニアスポーツ指導員、アシスタントマネジャー資格の為の必修の共通科目です。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: スポーツ政策論

クラス: ☆再履

授業コード: BE50600001

担当者: 三浦 敬太 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 本講義では、我が国のスポーツ推進政策と行政との関わりを学び、スポーツを取り巻く諸問題を解決する基礎的な知識を身につけることを目的とする。

到達目標:
1. 我が国のスポーツ施策を理解する
2. 地域におけるスポーツ推進政策と行政の役割を理解する
3. 各種スポーツ振興施策の具体例を知り、施策に対するアイデアを持ち、スポーツを取り巻く諸問題の解決力を身に付ける

各回の授業計画:

1. スポーツ政策とは【ガイダンス】
2. スポーツ政策の歴史的展開
3. スポーツ行政の仕組み
4. 国際スポーツ組織
5. スポーツ基本法と関連制度
6. 競技スポーツ政策
7. 地域スポーツ政策
8. 健康スポーツ政策
9. スポーツイベント政策
10. スポーツ産業政策
11. 学校スポーツ政策
12. スポーツとジェンダー・ダイバーシティ
13. スポーツガバナンス
14. スポーツ政策の評価
15. まとめ（全体の振り返り）

特記事項: なし

授業方法:
1. 講義（オンデマンド）
2. 講義（オンデマンド）
3. 講義（オンデマンド）
4. 講義（オンデマンド）
5. 講義（オンデマンド）
6. 講義（オンデマンド）
7. 講義（オンデマンド）
8. 講義（オンデマンド）
9. 講義（オンデマンド）
10. 講義（オンデマンド）
11. 講義（オンデマンド）
12. 講義（オンデマンド）
13. 講義（オンデマンド）
14. 講義（オンデマンド）
15. 講義（オンデマンド）

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

各週の授業内容について、振り返り・復習（60分）、次週の授業に向けた予習や各回で設定された課題に対する自主学習（120分）を実施する。

評価方法：	授業へのとりくみ：	50 %	確認テスト：	%	レポート：	50 %
	その他1：			%		
	その他2：			%		

評価基準：

【最低限度の到達度（60～69点）】
○スポーツ振興に関する法律・政策の基本的内容を説明できる。
○スポーツ基本計画の目的や構成について、概略を理解している。

【標準的な到達度（70～79点）】
○歴史的な政策の展開と現在のスポーツ行政の枠組みを、主要な制度・組織とともに整理して説明できる。
○スポーツ基本計画を、他の政策領域（教育、健康、地域振興など）との関連で説明できる。

【望ましい到達度（80～100点）】
○スポーツが果たすべき社会的責務や、今後の政策課題・展望について、自らの視点で一貫性のある論述ができる。
○行政が担うべきスポーツプロモーションの在り方について、自分の意見を提案できる。

課題へのフィードバック：

授業内で適宜評価・フィードバックを行う。

教科書： なし

参考書：

○スポーツ政策論　菊 幸一/齋藤健司/真山達志/横山勝彦
○スポーツ白書 笹川スポーツ財団
○スポーツ担当者になったら読む本 地方行政におけるエビデンスベースの政策立案に取り組むために （独）日本スポーツ振興センター
○公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（公財）日本スポーツ協会編
ほか、授業内で適宜資料を提供します。

授業・準備学習のアドバイス：

(1)レポートの提出は、授業内で設定します。
(2)レポートや確認テストで剽せつ・盗用が認められた場合、評価の対象外とします。

（公財）日本スポーツ協会公認スポーツリーダー、ジュニアスポーツ指導員、アシスタントマネジャー資格取得の為の必修科目です。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 健康運動実践

クラス: ｽ前

授業コード: BE60030001

担当者: 宮辻 和貴 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本講義は健康と健康づくり全般に関わる国の仕組みを理解するとともに、健康運動の実践的指導の基本であるストレッチングとレジスタンス運動の実践的指導方法と、その理論的裏付けとなる意義とその効果、指導上の留意点について修得する。
加えてウォームアップとクールダウン、ジョギング・ウォーキングにおける理論的裏付けの特徴・効果・指導上の留意点について修得する。

到達目標:
1. 健康と健康づくりの概念と国の政策（制度含む）についての仕組みを理解する。
2. ストレッチングの実技指導方法とその留意点、実践の意義及び効果について修得する。
3. レジスタンス運動の実技指導方法とその留意点、実践の意義及び効果について修得する。
4. ウォームアップとクールダウンの必要性とその留意点、実践の意義及び効果にについて修得する。
5. ウォーキング・ジョギングの特徴・効果・指導上の留意点等の理論的裏付けについて修得する。

各回の授業計画:

1. 健康運動実践を学ぶための基礎知識（健康の概念）と講義の進め方
2. 健康について①（わが国の現状と健康づくり施策）
3. 健康について②（生活習慣病とその予防）
4. 体力について（介護予防とメディカルチェック）
5. ウォームアップとクールダウン①
6. ウォームアップとクールダウン②
7. ストレッチングについて①
8. ストレッチングの実際②
9. ストレッチングの実践③
10. レジスタンス運動①
11. レジスタンス運動②
12. レジスタンス運動③
13. 有酸素運動①
14. 有酸素運動②
15. 有酸素運動③

※ レポート課題（2回程度）および確認テスト（第15回目）を実施する。

特記事項: ＜健康運動実践指導者＞
※ 各回の授業計画に関しては、以下の点にも留意しながら授業を展開する。

健康の保持・増進を目的とした日常的に行う代表的な運動の実践と集団への指導方法を学び、多くの人が安全で効果的に楽しく継続できるように導くことができる。
【授業計画5～9】
1）ウォームアップの目的と効果、重要性を説明できる。
2）クールダウンの目的と効果を説明できる。
3）主運動に応じたウォームアップ、クールダウンの方法、時間、構成について理解する。
4）健康づくり運動のための一連のウォームアップを教示できる。
5）ストレッチングの意義とその効果、各種ストレッチングの違いを理解し、目的に応じたストレッチングを選択し、快適に提供できる。
6）ストレッチングの安全で効果的な実施方法を理解するとともに、危険なストレッチング方法について学び、代替法が提供できる。
7）各部位のストレッチングの方法を習得し、見本を示すことができる。
8）ストレッチング指導上のポイントと留意点を理解し、教示できる。

【授業計画10～12】
1）レジスタンス運動を筋活動様式（収縮様式）に分類し、特徴や違いを説明できる。
2）レジスタンス運動により期待される健康効果について説明できる。
3）自体重、器具（弾性チューブ・バンド、マシン、バーベル、ダンベルを含む）を利用したそれぞれの方法による肢位別の種目（上肢および肩

腕部、体幹、下肢および腰部筋群)を習得し、見本を示すことができる。
4)レジスタンス運動の必要性を理解し、対象者のニーズや身体状況に応じてプログラムを選択し教示できる。
5)目的に応じたレジスタンス運動の負荷強度、反復回数、休息時間、テスト法について説明できる。
6)安全で効果的なレジスタンス運動を行うための実施上の留意点を説明できる。
7)高齢者の自立に必要な筋力を維持・向上させるためのプログラムにレジスタンス運動を応用できる。

【授業計画13～15】
1)ウォーキングとジョギングのそれぞれの特性を理解し、両者の違いについて説明できる。
2)ウォーキングやジョギングにより期待される健康効果について説明できる。
3)健康づくりに必要なウォーキングやジョギングの目標時間、頻度について説明できる。
4)一般的なウォーキング速度(運動強度:「ゆっくり歩き」「普通歩き」「速歩」)やジョギング速度の調節の仕方を教示でき、健康づくりに有効で安全な運動強度を指導できる。
5)ウォーキングとジョギングの基本的フォームを習得し、個人に合った正しいフォームでの快適なウォーキングやジョギングが実践できるようサポートができる。
6)ウォーキングやジョギングを安全に行うための運動前、運動中、運動後の健康管理、注意事項(水分補給を含む)について喚起できる。
7)至適運動強度の指標としての脈拍の正しい測り方やRPEの利用について、実践と指導ができる。
8)ウォーキングやジョギングによって起こりうる傷害を理解し、ツールとしてのシューズや環境に応じた服装選択のアドバイスができる。
9)ウォーキングやジョギングに適したウォームアップ、クールダウンをプログラミングし、指導することができる。
10)安全にウォーキングやジョギングを行うためのコース選択の視点について説明できる。

授業方法: 『第1回目～第15回目:講義・実践(対面)』
1. 講義、グループワーク
2. 講義、グループワーク、ディスカッション
3. 講義、グループワーク、ディスカッション
4. 講義、グループワーク、ディスカッション
5. 講義(実践含む)、グループワーク、ディスカッション
6. 講義(実践含む)、グループワーク、ディスカッション
7. 講義(実践含む)、グループワーク、ディスカッション
8. 講義(実践含む)、グループワーク、ディスカッション
9. 講義(実践含む)、グループワーク、ディスカッション
10. 講義(実践含む)、グループワーク、ディスカッション
11. 講義(実践含む)、グループワーク、ディスカッション
12. 講義(実践含む)、グループワーク、ディスカッション
13. 講義(実践含む)、グループワーク、ディスカッション
14. 講義(実践含む)、グループワーク、ディスカッション
15. 講義(実践含む)、グループワーク、ディスカッション

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1: 健康運動における学問領域(意義や目的など)に関する復習(105分)
健康づくりと体力づくりの基礎となる知識を予習(105分)
2:本日の復習(90分)
健康について①(わが国の現状と健康づくり施策)に関する予習(90分)
3:本日の復習(90分)
健康について②(生活習慣病とその予防)に関する予習(90分)
4:本日の復習(90分)
体力について(介護予防とメディカルチェック)に向けた予習(90分)
5:本日の復習(90分)
ウォームアップとクールダウン①(意義、目的、種類など)に関する予習(90分)
6:本日の復習(90分)
ウォームアップとクールダウン②(必要性、指導上の留意点など)に関する予習(90分)
7:本日の復習(90分)
ストレッチングについて①(意義、目的、種類など)に関する予習(90分)
8:本日の復習(90分)
ストレッチングの実際②(効果的な実施方法、安全性、代替法など)に関する予習(90分)
9:本日の復習(90分)
ストレッチングの実践③(必要性、指導上の留意点など)に関する予習(90分)
10:本日の復習(90分)
レジスタンス運動①(トレーニングの原理・原則など)に関する予習(90分)
11:本日の復習(90分)
レジスタンス運動②(筋収縮様式など)に関する予習(90分)
12:本日の復習(90分)
レジスタンス運動③(フリーウエイトとマシーンウエイトトレーニングなど)に関する予習(90分)
13:本日の復習(90分)
有酸素運動①(ウォーキングやジョギングに関連する特徴・効果など)に関する予習(105分)
14:本日の復習(90分)
有酸素運動②(ウォーキングやジョギングに関連する安全・指導上の留意点など)に関する予習(105分)
15:本日の復習(120分)

評価方法: **授業へのとりくみ:** 15 **%** **確認テスト:** 70 **%** **レポート:** 15 **%**

その他1： **%**

その他2： **%**

評価基準： 「評価方法」の1～3について、以下の基準を満たすことが求められます。

1. 授業へのとりくみ（授業態度、関心・意欲、発表など）

・授業内容の各トピックスに対して、基本的な関わり（健康運動実践指導に求められる視点を養う姿勢および学ぶ関心・意欲など）により授業への参加がなされている（60～69点）

・授業内容の各トピックスに対して、自ら積極的に関わり（健康運動実践指導に求められる養う姿勢および学ぶ関心・意欲など）を持ちながら授業へ参加し、内容への発言や質問をする取り組みがなされている（80～100点）

2. 確認テスト

・各トピックスで学んだことに関して、健康運動実践指導の学習内容をある程度理解している（60～69点）

・各トピックスで学んだことに関して、健康運動実践指導の学習内容を理解し、説明することができる（80～100点）

3. レポート

・各トピックスで学んだ内容について、レポート課題に対する論述（自身の考えや表現）がなされている（60～69点）

・各トピックスで学んだ内容について、レポート課題に対する論述（自身の考えや表現）がなされつつ、読み手に伝わるように作成されている（80～100点）

課題へのフィードバック：

・健康運動に関する講義、実践の授業であるため、各ポイントで適宜フィードバッグを実施する。

・確認テストについては、採点後にTeamsにて講評する。

・レポートについては、採点後に授業内（Teamsを含む）で講評する。

教科書： ・資料はPDF形式（閲覧用・印刷用）にて、各回の授業前（Teams）に配布する。

参考書： ・健康運動実践指導者養成用テキスト 公益財団法人 健康・体力づくり事業財団 南江堂 2026

※ 健康運動実践指導者養成用テキスト購入に関しては、初回講義時に担当教員より指示。

・はじめて学ぶ 健康・スポーツ科学シリーズ11 健康づくりのための運動の科学 鵜木秀夫編 化学同人 2013

授業・準備学習のアドバイス：

○ 健康運動の実践的指導法とその理論の裏付けとなる意義とその効果、指導上の留意点についての学びを深めましょう。

※ 各自、PDF形式（閲覧用・印刷用）にて配布された資料については、PCを活用しながら学習を進めましょう。

【資格取得における必修科目】

・健康運動実践指導者

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 健康運動実践

クラス: ｽ後

授業コード: BE60030002

担当者: 宮辻 和貴 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本講義は健康と健康づくり全般に関わる国の仕組みを理解するとともに、健康運動の実践的指導の基本であるストレッチングとレジスタンス運動の実践的指導方法と、その理論的裏付けとなる意義とその効果、指導上の留意点について修得する。
加えてウォームアップとクールダウン、ジョギング・ウォーキングにおける理論的裏付けの特徴・効果・指導上の留意点について修得する。

到達目標:
1. 健康と健康づくりの概念と国の政策（制度含む）についての仕組みを理解する。
2. ストレッチングの実技指導方法とその留意点、実践の意義及び効果について修得する。
3. レジスタンス運動の実技指導方法とその留意点、実践の意義及び効果について修得する。
4. ウォームアップとクールダウンの必要性とその留意点、実践の意義及び効果にについて修得する。
5. ウォーキング・ジョギングの特徴・効果・指導上の留意点等の理論的裏付けについて修得する。

各回の授業計画:

1. 健康運動実践を学ぶための基礎知識（健康の概念）と講義の進め方
2. 健康について①（わが国の現状と健康づくり施策）
3. 健康について②（生活習慣病とその予防）
4. 体力について（介護予防とメディカルチェック）
5. ウォームアップとクールダウン①
6. ウォームアップとクールダウン②
7. ストレッチングについて①
8. ストレッチングの実際②
9. ストレッチングの実践③
10. レジスタンス運動①
11. レジスタンス運動②
12. レジスタンス運動③
13. 有酸素運動①
14. 有酸素運動②
15. 有酸素運動③

※ レポート課題（2回程度）および確認テスト（第15回目）を実施する。

特記事項: ＜健康運動実践指導者＞
※ 各回の授業計画に関しては、以下の点にも留意しながら授業を展開する。

健康の保持・増進を目的とした日常的に行う代表的な運動の実践と集団への指導方法を学び、多くの人が安全で効果的に楽しく継続できるように導くことができる。
【授業計画5～9】
1）ウォームアップの目的と効果、重要性を説明できる。
2）クールダウンの目的と効果を説明できる。
3）主運動に応じたウォームアップ、クールダウンの方法、時間、構成について理解する。
4）健康づくり運動のための一連のウォームアップを教示できる。
5）ストレッチングの意義とその効果、各種ストレッチングの違いを理解し、目的に応じたストレッチングを選択し、快適に提供できる。
6）ストレッチングの安全で効果的な実施方法を理解するとともに、危険なストレッチング方法について学び、代替法が提供できる。
7）各部位のストレッチングの方法を習得し、見本を示すことができる。
8）ストレッチング指導上のポイントと留意点を理解し、教示できる。

【授業計画10～12】
1）レジスタンス運動を筋活動様式（収縮様式）に分類し、特徴や違いを説明できる。
2）レジスタンス運動により期待される健康効果について説明できる。
3）自体重、器具（弾性チューブ・バンド、マシン、バーベル、ダンベルを含む）を利用したそれぞれの方法による肢位別の種目（上肢および肩

腕部、体幹、下肢および腰部筋群)を習得し、見本を示すことができる。
4)レジスタンス運動の必要性を理解し、対象者のニーズや身体状況に応じてプログラムを選択し教示できる。
5)目的に応じたレジスタンス運動の負荷強度、反復回数、休息時間、テスト法について説明できる。
6)安全で効果的なレジスタンス運動を行うための実施上の留意点を説明できる。
7)高齢者の自立に必要な筋力を維持・向上させるためのプログラムにレジスタンス運動を応用できる。

【授業計画13～15】
1)ウォーキングとジョギングのそれぞれの特性を理解し、両者の違いについて説明できる。
2)ウォーキングやジョギングにより期待される健康効果について説明できる。
3)健康づくりに必要なウォーキングやジョギングの目標時間、頻度について説明できる。
4)一般的なウォーキング速度(運動強度:「ゆっくり歩き」「普通歩き」「速歩」)やジョギング速度の調節の仕方を教示でき、健康づくりに有効で安全な運動強度を指導できる。
5)ウォーキングとジョギングの基本的フォームを習得し、個人に合った正しいフォームでの快適なウォーキングやジョギングが実践できるようサポートができる。
6)ウォーキングやジョギングを安全に行うための運動前、運動中、運動後の健康管理、注意事項(水分補給を含む)について喚起できる。
7)至適運動強度の指標としての脈拍の正しい測り方やRPEの利用について、実践と指導ができる。
8)ウォーキングやジョギングによって起こりうる傷害を理解し、ツールとしてのシューズや環境に応じた服装選択のアドバイスができる。
9)ウォーキングやジョギングに適したウォームアップ、クールダウンをプログラミングし、指導することができる。
10)安全にウォーキングやジョギングを行うためのコース選択の視点について説明できる。

授業方法: 『第1回目～第15回目:講義・実践(対面)』
1. 講義、グループワーク
2. 講義、グループワーク、ディスカッション
3. 講義、グループワーク、ディスカッション
4. 講義、グループワーク、ディスカッション
5. 講義(実践含む)、グループワーク、ディスカッション
6. 講義(実践含む)、グループワーク、ディスカッション
7. 講義(実践含む)、グループワーク、ディスカッション
8. 講義(実践含む)、グループワーク、ディスカッション
9. 講義(実践含む)、グループワーク、ディスカッション
10. 講義(実践含む)、グループワーク、ディスカッション
11. 講義(実践含む)、グループワーク、ディスカッション
12. 講義(実践含む)、グループワーク、ディスカッション
13. 講義(実践含む)、グループワーク、ディスカッション
14. 講義(実践含む)、グループワーク、ディスカッション
15. 講義(実践含む)、グループワーク、ディスカッション

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1: 健康運動における学問領域(意義や目的など)に関する復習(105分)
健康づくりと体力づくりの基礎となる知識を予習(105分)
2:本日の復習(90分)
健康について①(わが国の現状と健康づくり施策)に関する予習(90分)
3:本日の復習(90分)
健康について②(生活習慣病とその予防)に関する予習(90分)
4:本日の復習(90分)
体力について(介護予防とメディカルチェック)に向けた予習(90分)
5:本日の復習(90分)
ウォームアップとクールダウン①(意義、目的、種類など)に関する予習(90分)
6:本日の復習(90分)
ウォームアップとクールダウン②(必要性、指導上の留意点など)に関する予習(90分)
7:本日の復習(90分)
ストレッチングについて①(意義、目的、種類など)に関する予習(90分)
8:本日の復習(90分)
ストレッチングの実際②(効果的な実施方法、安全性、代替法など)に関する予習(90分)
9:本日の復習(90分)
ストレッチングの実践③(必要性、指導上の留意点など)に関する予習(90分)
10:本日の復習(90分)
レジスタンス運動①(トレーニングの原理・原則など)に関する予習(90分)
11:本日の復習(90分)
レジスタンス運動②(筋収縮様式など)に関する予習(90分)
12:本日の復習(90分)
レジスタンス運動③(フリーウエイトとマシーンウエイトトレーニングなど)に関する予習(90分)
13:本日の復習(90分)
有酸素運動①(ウォーキングやジョギングに関連する特徴・効果など)に関する予習(105分)
14:本日の復習(90分)
有酸素運動②(ウォーキングやジョギングに関連する安全・指導上の留意点など)に関する予習(105分)
15:本日の復習(120分)

評価方法: **授業へのとりくみ:** 15 **%** **確認テスト:** 70 **%** **レポート:** 15 **%**

その他1： **%**

その他2： **%**

評価基準： 「評価方法」の1～3について、以下の基準を満たすことが求められます。

1. 授業へのとりくみ（授業態度、関心・意欲、発表など）

・授業内容の各トピックスに対して、基本的な関わり（健康運動実践指導に求められる視点を養う姿勢および学ぶ関心・意欲など）により授業への参加がなされている（60～69点）

・授業内容の各トピックスに対して、自ら積極的に関わり（健康運動実践指導に求められる養う姿勢および学ぶ関心・意欲など）を持ちながら授業へ参加し、内容への発言や質問をする取り組みがなされている（80～100点）

2. 確認テスト

・各トピックスで学んだことに関して、健康運動実践指導の学習内容をある程度理解している（60～69点）

・各トピックスで学んだことに関して、健康運動実践指導の学習内容を理解し、説明することができる（80～100点）

3. レポート

・各トピックスで学んだ内容について、レポート課題に対する論述（自身の考えや表現）がなされている（60～69点）

・各トピックスで学んだ内容について、レポート課題に対する論述（自身の考えや表現）がなされつつ、読み手に伝わるように作成されている（80～100点）

課題へのフィードバック：

・健康運動に関する講義、実践の授業であるため、各ポイントで適宜フィードバッグを実施する。

・確認テストについては、採点後にTeamsにて講評する。

・レポートについては、採点後に授業内（Teamsを含む）で講評する。

教科書： ・資料はPDF形式（閲覧用・印刷用）にて、各回の授業前（Teams）に配布する。

参考書： ・健康運動実践指導者養成用テキスト 公益財団法人 健康・体力づくり事業財団 南江堂 2026

※ 健康運動実践指導者養成用テキスト購入に関しては、初回講義時に担当教員より指示。

・はじめて学ぶ 健康・スポーツ科学シリーズ11 健康づくりのための運動の科学 鵜木秀夫編 化学同人 2013

授業・準備学習のアドバイス：

○ 健康運動の実践的指導法とその理論の裏付けとなる意義とその効果、指導上の留意点についての学びを深めましょう。

※ 各自、PDF形式（閲覧用・印刷用）にて配布された資料については、PCを活用しながら学習を進めましょう。

【資格取得における必修科目】

・健康運動実践指導者

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: スポーツ生理学

クラス: ★

授業コード: BE60200001

担当者: 椿 武 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)【必修】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 生理学(運動生理学を含む。) **一般的包括的科目:** ○

授業の目的: 本講義はスポーツ・運動時の身体の生理的応答について探求・理解し、様々なスポーツ種目の生理的応答の特徴も応用知識として学習する事を目的とする。

到達目標:
1. スポーツ生理学の定義、スポーツと各機能の働きの理解
2. 準備運動(ウォームアップ)と整理運動(クールダウン)の生理的基礎知識の理解
3. 体力トレーニングの基礎知識と計画立案の理解
4. 様々なスポーツ種目の生理学の応用変化
5. スポーツ生理学実習を通しての身体的応答の理解

各回の授業計画:

1. スポーツ生理学の定義(中高年とスポーツ・女性とスポーツ・体力とは・健康・体力の理解含む)
※ 健康・体力の理解:一般的な健康・体力の概念、障がい者や高齢者の健康体力の概念、健康体力の維持増進の為の効果的スポーツの行い方も含む
2. スポーツと骨格筋の働き(運動器のしくみと働き含む)
3. スポーツと筋運動のエネルギー機構
4. スポーツと神経系の働き
5. スポーツと呼吸循環器系の働き(呼吸循環器系の働きと栄養及びエネルギー供給含む)
6. スポーツと栄養(栄養摂取と運動)
7. スポーツと諸環境(高温、低圧、水中の生理的応答)
8. ウォームアップ(準備運動)とクールダウン(整理運動)の生理学的基礎、コンディショニング
9. 体力トレーニングの基礎理論と計画立案の仕方について
10. スポーツ生理学の応用1(陸上、マラソン、水泳、水球、体操)
11. 筋線維の種類とその特徴、筋の収縮様式と筋力
12. スポーツと体温調節
13. スポーツと内分泌系
14. 筋疲労の要因
15. 老化に伴う身体機能の変化

特記事項: 16. 定期試験

※ 適時小テスト実施

＜日本スポーツ協会・健康運動実践指導者・公認パラスポーツ指導員＞
※ 各回の授業計画に関しては、以下の点にも留意しながら授業を展開する。

【授業計画1、10～15】
生活習慣病予防における身体活動・運動の必要性とその期待できる効果について学び、性、年齢、体力水準などの諸条件を考慮しながら安全かつ効果的な運動プログラムを立案できる。
1)運動・トレーニングの原理・原則について理解し、各原理・原則の重要性に則ったプログラムが作成できる。
2)健康づくり運動のための運動プログラム作成上のポイントについて、運動強度、時間、頻度の観点から説明できる。
3)健康度や体力の個人差、加齢による影響などを考慮した運動処方ができるようになる。
4)有酸素性作業能力、筋力、平衡性、柔軟性の向上が日常生活にどのような影響を与えるのかを理解する。
5)ウォームアップとクールダウンの生理的、心理的役割と重要性、運動プログラムへの取り入れ方を理解する。
6)エネルギー供給機構との関係から、有酸素性運動とはどんな運動か理解する。
7)有酸素性作業能力を向上させるための運動強度、頻度、継続時間について理解する。
8)心拍数による至適運動強度の決定(推定)方法、コントロール方法を、運動強度と心拍出量および心拍数の関係から理解する。
9)運動強度と肺換気量、呼吸数の関係を理解し、呼吸の状態の観察により運動強度を概ね見極められることを理解する。

10)機器を用いた有酸素性運動の指導上の安全性と効果について理解する。
11)レジスタンス運動とはどんな運動か理解する。
12)レジスタンス運動の運動強度のとらえ方を理解し、安全性確保のための至適運動強度を推定できる。

【授業計画2～9】
身体活動・運動・スポーツ実施時の一過性の生体反応や、継続的なトレーニングによって身体機能がどのように適応するか、また体力と発育・発達と老化の関係について理解する。
1)運動の発現する仕組みを理解する。
2)随意運動と不随意運動の違いを理解する。
3)筋線維の収縮特性と代謝特性を理解する。
4)筋収縮のエネルギー供給機構を理解する。
5)筋の収縮様式と筋力との関係を理解する。
6)トレーニングによる筋力増加を理解する。
7)運動時の呼吸循環系の役割を理解する。
8)最大酸素摂取量、無酸素性作業閾値を理解する。
9)運動に対する体液の果たす役割を理解する。
10)発育・発達について理解する。
11)加齢と体力の関係について理解する。
12)体力に影響を及ぼす要因を、先天的要因と後天的要因から理解する。
13)障がい特性に応じた体力・技術向上のトレーニング方法についても理解する。

授業方法:
1. 講義(オンデマンド)
2. 講義(オンデマンド)
3. 講義(オンデマンド)
4. 講義(オンデマンド)
5. 講義(オンデマンド)
6. 講義(オンデマンド)
7. 講義(オンデマンド)
8. 講義(オンデマンド)
9. 講義(オンデマンド)
10. 講義(オンデマンド)
11. 講義(オンデマンド)
12. 講義(オンデマンド)
13. 講義(オンデマンド)
14. 講義(オンデマンド)
15. まとめ、定期試験(対面)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 予習:1年次に学んだ健康運動実践、健康行動学の授業を予習(90分)、復習:体力とは何か復習、ノート整理(90分)
2. 予習:ヒトの骨格筋の名称を予習(90分)、復習:骨格筋の働きとは何か復習、ノート整理(90分)。
3. 予習:ヒトが運動を行うときに用いられるエネルギー機構について予習(90分)、復習:エネルギー機構の種類と特徴は何か復習、ノート整理(90分)。
4. 予習:脳・神経・神経系とは何かを予習(90分)、復習:神経系の分類について復習、ノート整理(90分)。
5. 予習:呼吸・循環器系とは何かを予習(90分)、復習:運動と呼吸・循環器について復習、ノート整理(90分)。
6. 予習:栄養素について予習(90分)、復習:スポーツ選手に必要な栄養素とは何か復習、ノート整理(90分)。
7. 予習:スポーツを行う環境について予習(90分)、復習:環境と身体の適応について復習、ノート整理(90分)。
8. 予習:ウォーミングアップとウォームダウンについて予習(90分)、復習:最適なウォーミングアップとウォームダウンとは何か復習、ノート整理(90分)。
9. 予習:トレーニングについて予習(90分)、復習:トレーニングの理論について復習、ノート整理(90分)。
10. 予習:これまで学んだ生理学の知識から様々な運動様式による影響について予習(90分)、復習:陸上・水中運動、短時間の運動・長時間の運動などによる身体への生理学的影響について復習、ノート整理(90分)。
11. 予習:筋線維の種類とその特徴、筋の収縮様式と筋力について予習(90分)、復習:筋線維の生理学的機能について復習、ノート整理(90分)。
12. 予習:スポーツと体温調節について予習(90分)、復習:スポーツと体温調整の詳細について復習、ノート整理(90分)。
13. 予習:スポーツと内分泌系について予習(90分)、復習:スポーツと内分泌系の詳細について復習、ノート整理(90分)。
14. 予習:筋疲労の要因について予習(90分)、復習:筋疲労の要因の詳細について復習、ノート整理(90分)。
15. 予習:老化に伴う身体機能の変化について予習(90分)、復習:老化に伴う身体機能の詳細について復習(90分)。
16. まとめ:スポーツ生理学の講義で学んだ内容は、ジュニアトレーニング論の講義でも必要な知識であるためしっかり復習をすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	30	**%**	**確認テスト:**	70	**%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準:
・最低限度の到達度(60～69点):講義に積極的に参加し、発言や質問をすることができる。試験では、講義内容を50% 程度理解している。
・望ましい到達度(80～100点):他の学生の発言に対して適切な助言、考えを述べることができる。試験では、講義内容を80%以上理解し、他者に説明することが出来る。

課題へのフィードバック:

・試験の解答や取得した点数は適宜、情報の開示を行う。また、授業以外にはオフィスアワーを通じて、質問の説明や解答例などの解説を行う。

教科書: ・『入門運動生理学』勝田 茂 編著、和田正信・松永 智著 杏林書院
・Reference Book 公益財団法人 日本スポーツ協会 編集発行

参考書: ・『運動生理学20講』勝田 茂、征矢英昭 編 朝倉書店
・『スポーツ生理学』青木純一郎・佐藤 佑・村岡 功編 市村出版

授業・準備学習のアドバイス:

・授業への取り組み、確認テストの総合評価とします。体育・スポーツ指導にとって大切な身体の生理的限界や適応の適切指導の知識です。教職希望者にとっても重要ですので一貫して授業出席する事が原則です。

【資格取得における必修科目】
・日本スポーツ協会公認スポーツコーチングリーダー
・日本スポーツ協会公認ジュニアスポーツ指導員
・日本スポーツ協会公認アシスタントマネジャー
・健康運動実践指導者
・日本パラスポーツ協会公認パラスポーツ指導員（初級・中級）

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 体力測定評価

クラス: ｽA

授業コード: BE60300001

担当者: 椿 武 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本講義は体力テストの概要、スポーツ実践での傷害予防と競技力向上に役立つ理論と実践について学習する事を目的とする。

到達目標: 1. スポーツ実践における傷害予防目的の体力の測定・評価の実際を知る。
2. スポーツの競技力向上目的の体力の測定・評価の実際を知る。

各回の授業計画:

1. 体力測定評価の意義、体力とは何かについて
2. 体力テストの意義とその活用
3. 体力テストの測定の仕方(1)室内系種目の測定について
4. 体力テストの測定の仕方(2)室外系種目の測定について
5. 体力テストの測定の仕方(3)結果の集計やまとめ方について
6. 全身持久力の測定と評価(最大酸素摂取量・無酸素性代謝閾値)
7. 身体組成の測定と評価について
8. 柔軟性の測定と評価について
9. アライメントの測定と評価について
10. 筋力の測定と評価について
11. 傷害予防と競技力向上に役立つ測定評価Ⅰ(トレーニングマシーンを用いた脚筋力測定法の提案)
12. 傷害予防と競技力向上に役立つ測定評価Ⅱ(体重支持力の評価・立ち上がり能力の評価)
13. 傷害予防と競技力向上に役立つ測定評価Ⅲ(ハムストリング肉離れの発生と脚筋力)
14. 傷害予防と競技力向上に役立つ測定評価Ⅳ(間欠的パワーテストからみた瞬発力と持久力)
15. 測定項目の選択・測定結果のまとめ方やフィードバックについて・まとめ

特記事項: ＜日本スポーツ協会、健康運動実践指導者＞

◎各回の授業計画に関しては、以下の点にも留意しながら授業を展開する。

【授業計画1～15】
各体力構成要素の具体的な測定方法ならびに体力テストの実践と評価について学び、それぞれの測定結果を身体活動・運動やトレーニングに応用できる。
1) 体力の概念と構成要素について理解する。
2)体力測定の目的や対象について理解する。
3)身体組成の測定原理および測定方法(皮脂厚法、生体電気インピーダンス法など)を理解し、それらを実施できる。
4)各測定方法について理解し、それらを実施できる。
5)体力測定結果の分析・評価・活用法を理解する。

授業方法: 【全て対面で実施】

1. 講義、グループワーク
2. 講義、グループワーク
3. 講義、グループワーク
4. 講義、グループワーク
5. 講義、グループワーク
6. 講義、グループワーク
7. 講義、グループワーク
8. 講義、グループワーク
9. 講義、グループワーク

10. 講義、グループワーク
11. 講義、グループワーク
12. 講義、グループワーク
13. 講義、グループワーク
14. 講義、グループワーク
15. 講義、グループワーク
※確認はプレゼンテーションを実施する。

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

宿題
毎回の講義で行った内容についてレポートをまとめ、測定方法・評価方法について深く理解する

1. 予習：体力測定評価とは何かについて予習（90分）、復習：体力測定評価の意義について復習、レポート作成（90分）
2. 予習：体力テストについて予習（90分）、復習：体力テストの意義と活用について復習、レポート作成（90分）
3. 予習：体力テストの方法について予習（90分）、復習：室内系の体力テストの方法について復習、レポート作成（90分）
4. 予習：屋外系の体力テストについて予習（90分）、復習：屋外系の体力テストの方法について復習、レポート作成（90分）
5. 予習：体力テストの集計方法について予習（90分）、復習：体力テストの結果の集計方法について復習、レポート作成（90分）
6. 予習：全身持久力の測定方法について予習（90分）、復習：最大酸素摂取量・無酸素性作業閾値とは何かについて復習、レポート作成（90分）
7. 予習：身体組成の測定方法について予習（90分）、復習：身体組成（キャリパー法、インピーダンス法）とは何かについて復習、レポート作成（90分）
8. 予習：柔軟性の測定方法について予習（90分）、復習：柔軟性（静的柔軟性、動的柔軟性）とは何かについて復習、レポート作成（90分）
9. 予習：アライメントの測定方法について予習（90分）、復習：アライメント（関節弛緩性テスト）とは何かについて復習、レポート作成（90分）
10. 予習：筋力の測定方法について予習（90分）、復習：筋力（最大筋力・筋持久力・パワー）とは何かについて復習、レポート作成（90分）
11. 予習：傷害予防に役立つ測定評価について予習（90分）、復習：傷害予防に役立つ測定評価（マシーンを用いた測定方法）について復習、レポート作成（90分）
12. 予習：傷害予防に役立つ測定評価（下肢の筋力）について予習（90分）、復習：傷害予防に役立つ測定評価（下肢の筋力）について復習、レポート作成（90分）
13. 予習：傷害予防に役立つ測定評価（ハムストリングスの傷害）について予習（90分）、復習：傷害予防に役立つ測定評価（ハムストリングスの傷害）について復習、レポート作成（90分）
14. 予習：傷害予防に役立つ測定評価（間欠的パワーテスト）について予習（90分）、復習：傷害予防に役立つ測定評価（間欠的パワーテスト）について復習、レポート作成（90分）
15. 予習：測定結果のまとめ方とフィードバックの方法について予習（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	50 **%**
その他1：	グループワーク（実験・測定）、プレゼンテーション	20 **%**			
その他2：		**%**			

評価基準： 最低限度の到達度：積極的に参加し、発言や質問をすることができる。レポートでは、講義内容を50% 程度理解し作成している。
望ましい到達度（80～100点）：他の学生の発表・発言に対して適切な助言、考えを述べることができる。レポートでは、講義内容を80%以上理解した上で作成し、他者に説明することができる。

課題へのフィードバック：

レポートのフィードバックは、授業時間を通してアナウンスを行い、オフィスアワーを用いて適宜行っていく。

教科書： 健康運動実践指導者養成テキスト
測定と評価 山本利春著 ブックハウスHD

参考書： ACSM 健康にかかわる体力の測定と評価－その有意義な活用を目ざして－
アメリカスポーツ医学会 編 青木純一郎・内藤久士 監訳 市村出版

授業・準備学習のアドバイス：

日本スポーツ協会公認スポーツコーチングリーダー、ジュニアスポーツ指導員、アシスタントマネジャー資格取得希望者にとって必修科目である。
健康運動実践指導者資格希望者は必修である。
データ処理に使用するので、PC、タブレット等を用意すること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 体力測定評価

クラス: ｽB

授業コード: BE60300002

担当者: 椿 武 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本講義は体力テストの概要、スポーツ実践での傷害予防と競技力向上に役立つ理論と実践について学習する事を目的とする。

到達目標: 1. スポーツ実践における傷害予防目的の体力の測定・評価の実際を知る。
2. スポーツの競技力向上目的の体力の測定・評価の実際を知る。

各回の授業計画:

1. 体力測定評価の意義、体力とは何かについて
2. 体力テストの意義とその活用
3. 体力テストの測定の仕方(1)室内系種目の測定について
4. 体力テストの測定の仕方(2)室外系種目の測定について
5. 体力テストの測定の仕方(3)結果の集計やまとめ方について
6. 全身持久力の測定と評価(最大酸素摂取量・無酸素性代謝閾値)
7. 身体組成の測定と評価について
8. 柔軟性の測定と評価について
9. アライメントの測定と評価について
10. 筋力の測定と評価について
11. 傷害予防と競技力向上に役立つ測定評価Ⅰ(トレーニングマシーンを用いた脚筋力測定法の提案)
12. 傷害予防と競技力向上に役立つ測定評価Ⅱ(体重支持力の評価・立ち上がり能力の評価)
13. 傷害予防と競技力向上に役立つ測定評価Ⅲ(ハムストリング肉離れの発生と脚筋力)
14. 傷害予防と競技力向上に役立つ測定評価Ⅳ(間欠的パワーテストからみた瞬発力と持久力)
15. 測定項目の選択・測定結果のまとめ方やフィードバックについて・まとめ

特記事項: ＜日本スポーツ協会、健康運動実践指導者＞

◎各回の授業計画に関しては、以下の点にも留意しながら授業を展開する。

【授業計画1～15】
各体力構成要素の具体的な測定方法ならびに体力テストの実践と評価について学び、それぞれの測定結果を身体活動・運動やトレーニングに応用できる。
1) 体力の概念と構成要素について理解する。
2)体力測定の目的や対象について理解する。
3)身体組成の測定原理および測定方法(皮脂厚法、生体電気インピーダンス法など)を理解し、それらを実施できる。
4)各測定方法について理解し、それらを実施できる。
5)体力測定結果の分析・評価・活用法を理解する。

授業方法: 【全て対面で実施】

1. 講義、グループワーク
2. 講義、グループワーク
3. 講義、グループワーク
4. 講義、グループワーク
5. 講義、グループワーク
6. 講義、グループワーク
7. 講義、グループワーク
8. 講義、グループワーク
9. 講義、グループワーク

10. 講義、グループワーク
11. 講義、グループワーク
12. 講義、グループワーク
13. 講義、グループワーク
14. 講義、グループワーク
15. 講義、グループワーク
※確認はプレゼンテーションを実施する。

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

宿題
毎回の講義で行った内容についてレポートをまとめ、測定方法・評価方法について深く理解する

1. 予習：体力測定評価とは何かについて予習（90分）、復習：体力測定評価の意義について復習、レポート作成（90分）
2. 予習：体力テストについて予習（90分）、復習：体力テストの意義と活用について復習、レポート作成（90分）
3. 予習：体力テストの方法について予習（90分）、復習：室内系の体力テストの方法について復習、レポート作成（90分）
4. 予習：屋外系の体力テストについて予習（90分）、復習：屋外系の体力テストの方法について復習、レポート作成（90分）
5. 予習：体力テストの集計方法について予習（90分）、復習：体力テストの結果の集計方法について復習、レポート作成（90分）
6. 予習：全身持久力の測定方法について予習（90分）、復習：最大酸素摂取量・無酸素性作業閾値とは何かについて復習、レポート作成（90分）
7. 予習：身体組成の測定方法について予習（90分）、復習：身体組成（キャリパー法、インピーダンス法）とは何かについて復習、レポート作成（90分）
8. 予習：柔軟性の測定方法について予習（90分）、復習：柔軟性（静的柔軟性、動的柔軟性）とは何かについて復習、レポート作成（90分）
9. 予習：アライメントの測定方法について予習（90分）、復習：アライメント（関節弛緩性テスト）とは何かについて復習、レポート作成（90分）
10. 予習：筋力の測定方法について予習（90分）、復習：筋力（最大筋力・筋持久力・パワー）とは何かについて復習、レポート作成（90分）
11. 予習：傷害予防に役立つ測定評価について予習（90分）、復習：傷害予防に役立つ測定評価（マシーンを用いた測定方法）について復習、レポート作成（90分）
12. 予習：傷害予防に役立つ測定評価（下肢の筋力）について予習（90分）、復習：傷害予防に役立つ測定評価（下肢の筋力）について復習、レポート作成（90分）
13. 予習：傷害予防に役立つ測定評価（ハムストリングスの傷害）について予習（90分）、復習：傷害予防に役立つ測定評価（ハムストリングスの傷害）について復習、レポート作成（90分）
14. 予習：傷害予防に役立つ測定評価（間欠的パワーテスト）について予習（90分）、復習：傷害予防に役立つ測定評価（間欠的パワーテスト）について復習、レポート作成（90分）
15. 予習：測定結果のまとめ方とフィードバックの方法について予習（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	50 **%**
その他1：	グループワーク（実験・測定）、プレゼンテーション	20 **%**			
その他2：		**%**			

評価基準： 最低限度の到達度：積極的に参加し、発言や質問をすることができる。レポートでは、講義内容を50% 程度理解し作成している。
望ましい到達度（80～100点）：他の学生の発表・発言に対して適切な助言、考えを述べることができる。レポートでは、講義内容を80%以上理解した上で作成し、他者に説明することができる。

課題へのフィードバック：

レポートのフィードバックは、授業時間を通してアナウンスを行い、オフィスアワーを用いて適宜行っていく。

教科書： 健康運動実践指導者養成テキスト
測定と評価 山本利春著 ブックハウスHD

参考書： ACSM 健康にかかわる体力の測定と評価－その有意義な活用を目ざして－
アメリカスポーツ医学会 編 青木純一郎・内藤久士 監訳 市村出版

授業・準備学習のアドバイス：

日本スポーツ協会公認スポーツコーチングリーダー、ジュニアスポーツ指導員、アシスタントマネジャー資格取得希望者にとって必修科目である。
健康運動実践指導者資格希望者は必修である。
データ処理に使用するので、PC、タブレット等を用意すること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 体力測定評価

クラス: ｽC

授業コード: BE60300003

担当者: 椿 武　　**単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本講義は体力テストの概要、スポーツ実践での傷害予防と競技力向上に役立つ理論と実践について学習する事を目的とする。

到達目標: 1. スポーツ実践における傷害予防目的の体力の測定・評価の実際を知る。
2. スポーツの競技力向上目的の体力の測定・評価の実際を知る。

各回の授業計画:

1. 体力測定評価の意義、体力とは何かについて
2. 体力テストの意義とその活用
3. 体力テストの測定の仕方(1)室内系種目の測定について
4. 体力テストの測定の仕方(2)室外系種目の測定について
5. 体力テストの測定の仕方(3)結果の集計やまとめ方について
6. 全身持久力の測定と評価(最大酸素摂取量・無酸素性代謝閾値)
7. 身体組成の測定と評価について
8. 柔軟性の測定と評価について
9. アライメントの測定と評価について
10. 筋力の測定と評価について
11. 傷害予防と競技力向上に役立つ測定評価Ⅰ(トレーニングマシーンを用いた脚筋力測定法の提案)
12. 傷害予防と競技力向上に役立つ測定評価Ⅱ(体重支持力の評価・立ち上がり能力の評価)
13. 傷害予防と競技力向上に役立つ測定評価Ⅲ(ハムストリング肉離れの発生と脚筋力)
14. 傷害予防と競技力向上に役立つ測定評価Ⅳ(間欠的パワーテストからみた瞬発力と持久力)
15. 測定項目の選択・測定結果のまとめ方やフィードバックについて・まとめ

特記事項: ＜日本スポーツ協会、健康運動実践指導者＞

◎各回の授業計画に関しては、以下の点にも留意しながら授業を展開する。

【授業計画1～15】
各体力構成要素の具体的な測定方法ならびに体力テストの実践と評価について学び、それぞれの測定結果を身体活動・運動やトレーニングに応用できる。
1) 体力の概念と構成要素について理解する。
2)体力測定の目的や対象について理解する。
3)身体組成の測定原理および測定方法(皮脂厚法、生体電気インピーダンス法など)を理解し、それらを実施できる。
4)各測定方法について理解し、それらを実施できる。
5)体力測定結果の分析・評価・活用法を理解する。

授業方法: 【全て対面で実施】

1. 講義、グループワーク
2. 講義、グループワーク
3. 講義、グループワーク
4. 講義、グループワーク
5. 講義、グループワーク
6. 講義、グループワーク
7. 講義、グループワーク
8. 講義、グループワーク
9. 講義、グループワーク

10. 講義、グループワーク
11. 講義、グループワーク
12. 講義、グループワーク
13. 講義、グループワーク
14. 講義、グループワーク
15. 講義、グループワーク
※確認はプレゼンテーションを実施する。

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

宿題
毎回の講義で行った内容についてレポートをまとめ、測定方法・評価方法について深く理解する

1. 予習：体力測定評価とは何かについて予習（90分）、復習：体力測定評価の意義について復習、レポート作成（90分）
2. 予習：体力テストについて予習（90分）、復習：体力テストの意義と活用について復習、レポート作成（90分）
3. 予習：体力テストの方法について予習（90分）、復習：室内系の体力テストの方法について復習、レポート作成（90分）
4. 予習：屋外系の体力テストについて予習（90分）、復習：屋外系の体力テストの方法について復習、レポート作成（90分）
5. 予習：体力テストの集計方法について予習（90分）、復習：体力テストの結果の集計方法について復習、レポート作成（90分）
6. 予習：全身持久力の測定方法について予習（90分）、復習：最大酸素摂取量・無酸素性作業閾値とは何かについて復習、レポート作成（90分）
7. 予習：身体組成の測定方法について予習（90分）、復習：身体組成（キャリパー法、インピーダンス法）とは何かについて復習、レポート作成（90分）
8. 予習：柔軟性の測定方法について予習（90分）、復習：柔軟性（静的柔軟性、動的柔軟性）とは何かについて復習、レポート作成（90分）
9. 予習：アライメントの測定方法について予習（90分）、復習：アライメント（関節弛緩性テスト）とは何かについて復習、レポート作成（90分）
10. 予習：筋力の測定方法について予習（90分）、復習：筋力（最大筋力・筋持久力・パワー）とは何かについて復習、レポート作成（90分）
11. 予習：傷害予防に役立つ測定評価について予習（90分）、復習：傷害予防に役立つ測定評価（マシーンを用いた測定方法）について復習、レポート作成（90分）
12. 予習：傷害予防に役立つ測定評価（下肢の筋力）について予習（90分）、復習：傷害予防に役立つ測定評価（下肢の筋力）について復習、レポート作成（90分）
13. 予習：傷害予防に役立つ測定評価（ハムストリングスの傷害）について予習（90分）、復習：傷害予防に役立つ測定評価（ハムストリングスの傷害）について復習、レポート作成（90分）
14. 予習：傷害予防に役立つ測定評価（間欠的パワーテスト）について予習（90分）、復習：傷害予防に役立つ測定評価（間欠的パワーテスト）について復習、レポート作成（90分）
15. 予習：測定結果のまとめ方とフィードバックの方法について予習（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	− **%**	**レポート：**	50 **%**		
その他1：	グループワーク（実験・測定）、プレゼンテーション	20 **%**					
その他2：		**%**					

評価基準： 最低限度の到達度：積極的に参加し、発言や質問をすることができる。レポートでは、講義内容を50% 程度理解し作成している。
望ましい到達度（80～100点）：他の学生の発表・発言に対して適切な助言、考えを述べることができる。レポートでは、講義内容を80%以上理解した上で作成し、他者に説明することができる。

課題へのフィードバック：

レポートのフィードバックは、授業時間を通してアナウンスを行い、オフィスアワーを用いて適宜行っていく。

教科書： 健康運動実践指導者養成テキスト
測定と評価 山本利春著 ブックハウスHD

参考書： ACSM 健康にかかわる体力の測定と評価－その有意義な活用を目ざして－
アメリカスポーツ医学会 編 青木純一郎・内藤久士 監訳 市村出版

授業・準備学習のアドバイス：

日本スポーツ協会公認スポーツコーチングリーダー、ジュニアスポーツ指導員、アシスタントマネジャー資格取得希望者にとって必修科目である。
健康運動実践指導者資格希望者は必修である。
データ処理に使用するので、PC、タブレット等を用意すること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: スポーツ医学

クラス:

授業コード: BE60400001

担当者: 岡山 明洙、神頭 諒、神原 俊一郎 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:
[岡山]医師(整形外科)
[神原]医師(整形外科)
[神頭]医師(整形外科)

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: - **一般的包括的科目:** -

授業の目的: 本講義では、健康と健康づくりに関わる国の仕組みを把握するとともに、スポーツ医学の内科的障害及び整形外科的障害、精神障がいとパラスポーツ医学概論について学習する。

到達目標: 1. 健康と健康づくりの概念と歴史、わが国の疾病状況および高齢化の現状を踏まえ、それを推進する身体活動ガイドライン・保健医療・介護の制度等について理解する。
2. 運動・スポーツ活動実施中に発生しうる救急疾病や外科的損傷の病態を理解し、発生時の対応や予防について理解する。
3. スポーツ内科及び整形外科的疾患と精神障がいに関して、その予防と対策について理解する。
4. パラスポーツ医学概論を理解する。

各回の授業計画:

1. スポーツ医学を学ぶための基礎知識(健康の概念、指導者の役割)と講義の進め方
2. スポーツと健康について①(我が国の現状と健康づくり対策)
3. スポーツと健康について②(生活習慣病とその予防)
4. スポーツと体力について(介護予防とメディカルチェック)
5. アスリートの健康管理①(特殊環境下での対応、国内のアンチドーピングを含む)
6. アスリートの健康管理②(内科的障害と対策、国外のアンチドーピングを含む)
7. スポーツによる精神障がいと対策
8. スポーツ指導者が備えるべき医学的基礎知識(コンディショニング手法を含む)
9. 救急処置Ⅰ:基礎理論内科編(発生しやすい事故の救急処置とその実習)
10. 救急処置Ⅱ:応急処置と救急蘇生法実習1
11. 救急処置Ⅲ:応急処置と救急蘇生法実習2
12. 障がい者における補装具
13. 身体障がいの特徴とその理解(肢体不自由、視覚障がい、聴覚・音声言語障がい、内部障がいを含む)
14. 知的障がいの特徴とその理解(発達障がいを含む)
15. 精神障がいの特徴とその理解

特記事項: ※ 適宜確認テストおよびレポートを実施。
【担当教員(各回)】
○ 神原教員:第1回目～第6回目
○ 岡山教員:第7回目～第11回目
○ 神頭教員:第12回目～第15回目

＜日本スポーツ協会・健康運動実践指導者＞
◎ 各回の授業計画に関しては、以下の点にも留意しながら授業を展開する。

【授業計画1～4】
1) 健康と健康増進の概念、歴史、生活習慣変容の重要性を理解する。
2) わが国の健康づくり施策の現状と、その歴史的変遷について理解する。
3)身体活動に関するガイドラインの変遷について理解する。
4)生活習慣病等の概念と運動による予防効果について理解する。
5)わが国の高齢社会の現状、介護予防の内容と運動の重要性について理解する。

【授業計画5～12】
1)運動を始める前の内科的メディカルチェックの重要性について理解する。
2)運動開始前および運動中の自覚症状と他覚徴候から、具体的に自覚症状と他覚徴候をあげ、運動中止を判定する方法について理解す

る。
3)内科的な急性・慢性障害の概要とその予防方法について理解する。
4)心肺蘇生、AEDを用いた除細動、気道異物の除去ができるよう、救急蘇生法の実際を習得する。
5)慢性的な整形外科的障害の自覚症状と他覚兆候及びその予防法について理解する。
6)外科的救急処置、テーピング技法の基本を習得する。

＜パラスポーツ指導員＞
◎ 各回の授業計画に関しては、以下の点にも留意しながら授業を展開する。

【授業計画6～8、13～15】
障がいの種類や特性について医学的な知識を学び、日常生活やスポーツ現場で関わるうえでの留意点について学ぶ。
・各障がいに対する専門的(医学的)な知識の学習
・身体障がい(肢体不自由、視覚、聴覚・音声言語、内部障がいなど)、知的、発達障がい、精神障がいへの理解

【授業計画12】
補装具の種類を理解し、その取扱いについて学ぶ。
・補装具の種類や名称および用途(義肢、車いす、下肢装具、歩行器、杖など)
・競技・日常で使用する補装具の操作や管理方法(体験等を含む)
・補装具のパフォーマンスに与える影響(リスクや留意点)

授業方法: 全ての授業を対面授業で行う

1. 講義
2. 講義
3. 講義
4. 講義
5. 講義
6. 講義
7. 講義
8. 講義
9. 講義(実技含む)
10. 講義(実技含む)
11. 講義(実技含む)
12. 講義(実技含む)
13. 講義
14. 講義
15. 講義

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 本日の復習(90分)
リファレンスブック 第2章(6) スポーツに関する医学的知識
健康運動実践指導者養成用テキスト 第1章 健康づくり施策概論
以上の内容に関する予習(90分)

2. 本日の復習(90分)
リファレンスブック 第2章(6) スポーツに関する医学的知識
健康運動実践指導者養成用テキスト 第1章 健康づくり施策概論
以上の内容に関する予習(90分)

3. 本日の復習(90分)
リファレンスブック 第2章(6) スポーツに関する医学的知識
健康運動実践指導者養成用テキスト 第1章 健康づくり施策概論

4. 本日の復習(90分)
リファレンスブック 第2章(6) スポーツに関する医学的知識
健康運動実践指導者養成用テキスト 第1章 健康づくり施策概論
以上の内容に関する予習(90分)

5. 本日の復習(90分)
リファレンスブック 第2章(6) スポーツに関する医学的知識
健康運動実践指導者養成用テキスト 第9章 運動障害と予防・救急処置
以上の内容に関する予習(90分)

6. 本日の復習(90分)
リファレンスブック 第2章(6) スポーツに関する医学的知識
健康運動実践指導者養成用テキスト 第9章 運動障害と予防・救急処置
以上の内容に関する予習(90分)

7. 本日の復習(90分)
リファレンスブック 第2章(6) スポーツに関する医学的知識

リファレンスブック 第2章(7) アンチ・ドーピング
以上の内容に関する予習(90分)

8. 本日の復習(90分)
リファレンスブック 第2章(6) スポーツに関する医学的知識
リファレンスブック 第2章(7) アンチ・ドーピング
以上の内容に関する予習(90分)

9. 本日の復習(90分)
リファレンスブック 第2章(6) スポーツに関する医学的知識
リファレンスブック 第2章(7) アンチ・ドーピング
以上の内容に関する予習(90分)

10. 本日の復習(90分)
リファレンスブック 第2章(6) スポーツに関する医学的知識
リファレンスブック 第2章(7) アンチ・ドーピング
以上の内容に関する予習(90分)

11. 本日の復習(90分)
リファレンスブック 第2章(6) スポーツに関する医学的知識
リファレンスブック 第2章(7) アンチ・ドーピング
以上の内容に関する予習(90分)

12. 本日の復習(90分)
障がいのある人の指導教本(初級・中級) 第16章 補装具の理解
以上の内容に関する予習(90分)

13. 本日の復習(90分)
障がいのある人の指導教本(初級・中級)第14章 各障がいの理解
障がいのある人の指導教本(初級・中級)第15章 障がい各論
以上の内容に関する予習(90分)

14. 本日の復習(90分)
障がいのある人の指導教本(初級・中級)第14章 各障がいの理解
障がいのある人の指導教本(初級・中級)第15章 障がい各論
以上の内容に関する予習(90分)

15. 本日の復習(90分)
障がいのある人の指導教本(初級・中級)第14章 各障がいの理解
障がいのある人の指導教本(初級・中級)第15章 障がい各論
以上の内容に関する予習(90分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	30	**%**	**確認テスト:**	60	**%**	**レポート:**	10 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: 【最低限の到達度】60-69点
・スポーツ現場での応急処置について理解できている。
【望ましい到達度】80-100点
・スポーツ内科及び整形外科的障害と精神障がいとパラスポーツ医学概論について理解し、スポーツ参加者のためにその予防と対策をすることができる。

課題へのフィードバック:
・スポーツ医学に関する講義の授業であるため、各ポイントで適宜フィードバックを実施する。
・確認テストについては、採点後に講評する。
・レポートについては、採点後に講評する。

教科書: ・適宜、資料を配布する。

参考書: ・リファレンスブック(公益財団法人 日本スポーツ協会)
・改正版障がいのある人のスポーツ指導教本(初級・中級)2020年改訂カリキュラム対応
(公財)日本障がい者スポーツ協会編(ぎょうせい)
・健康運動実践指導者養成用テキスト (財団法人 健康・体力づくり事業財団)

授業・準備学習のアドバイス:

【資格取得における必修科目】
・日本スポーツ協会公認スポーツコーチングリーダー
・日本スポーツ協会公認ジュニアスポーツ指導員
・日本スポーツ協会公認アシスタントマネジャー
・健康運動実践指導者
・日本パラスポーツ協会公認パラスポーツ指導員（初級・中級）

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 障がい者スポーツ演習

クラス:

授業コード: BE60450001

担当者: 宮城 新 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本講義では、2年次に履修した「障がい者スポーツ総論」の基礎知識を基に、障がいに合わせた用具やルールの工夫などの実践を通して、個々に合ったスポーツの導入や指導法などを体験する。
そして、障がいのある人たちのスポーツおよびパラスポーツの理解を深めるとともに、各種スポーツ大会やイベントなどのボランティア活動を通して障がいを身近に感じることにより、障害者福祉の現状を把握することを目的とする。

到達目標:
1. パラスポーツを実践する。
2. パラスポーツの用具とルールの工夫について理解を深める、
3. 自分にあったパラスポーツの導入および指導法について学習する。
4. ボランティア活動に参加する。
5. 中級パラスポーツ指導員資格の取得を目指す。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション（ガイダンス、レクリエーション活動）
2. ボッチャ（ペタンク） ※ 身体障がいの特徴とその理解（肢体不自由）
3. フライングディスク（アキュラシー・ディスタンス）
※ 身体障がいの特徴とその理解（視覚、聴覚・音声言語障がいを含む）
※ 知的障がいの特徴とその理解（発達障がいを含む）
4. バレーボール（シッティングバレーボール、ソフトバレーボール含む）
※ 身体障がいの特徴とその理解（聴覚・音声言語障がい）
※ 知的障がいの特徴とその理解（発達障がいを含む）
※ 精神障がいの特徴とその理解
5. 全国障害者スポーツ大会①
6. 全国障害者スポーツ大会②
7. 全国障害者スポーツ大会③
8. 全国障害者スポーツ大会④
9. 各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫①
10. 各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫②
11. 各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫③
12. 最重度の障がい者のスポーツの実際①
13. 最重度の障がい者のスポーツの実際②
14. 障がいのある人との交流
15. まとめ
◎ 適宜、実技課題やレポート課題を実施する。

特記事項: ＜公認パラスポーツ指導員＞
※ 各回の授業計画に関しては、以下の点にも留意しながら授業を展開する。

【授業計画2～4】
障がいの種類や特性について医学的な知識を学び、日常生活やスポーツ現場で関わるうえでの留意点について学ぶ。
・各障がいに対する専門的（医学的）な知識の学習
・身体障がい（肢体不自由、視覚、聴覚・音声言語、内部障がいなど）、知的、発達障がい、精神障がいへの理解

【授業計画5】
全国障害者スポーツ大会の成り立ちや歴史的変遷を学ぶ。
・1964年第2回東京パラリンピック競技大会の開催から（財）日本身体障害者スポーツ協会の設立を経た開催経緯
・大会実施競技や参加対象障がいの変遷
・地域の障がい者スポーツの推進に対する大会の役割

【授業計画6】
全国障害者スポーツ大会へ帯同するスタッフとして、代表選手の選考方法および選手や選手団に必要なサポートについて学ぶ。
・選手団の編成や選手選考
・派遣日程や費用
・大会申込（エントリー）の手順
・行程の組み立て方
・選手の健康管理やコーチに求められる選手へのサポート（競技面、生活・宿泊面）
・選手団における役割（選手サポート以外の部分）

【授業計画7～8】
全国障害者スポーツ大会で実施されている競技・種目の概要を理解し、適用されている障害区分を学ぶ。
・大会実施競技の紹介と競技規則
・障害区分の目的と意義など基本的な知識
・障害区分の実際（判定方法や判定のポイント、判定事例の紹介、例題の実践）

【授業計画9～11】
障がいのある人がスポーツやレクリエーションを安全に楽しむためのルール・用具の工夫や指導員としての留意点・接し方について実技を通して学ぶ。
・各種障がい特性に応じた工夫の基本的な視点と方法
・実技、実習、演習を通して、用具やルールの工夫や考え方を学ぶ
・障がいの有無に関わらず誰でも参加できるスポーツ・イベント等事業の立案

【授業計画12～13】
最重度の障がい者（重症心身障がい児・者を含む）のスポーツを理解し、様々な創意工夫の実例について学ぶ。
・重症心身障がい児・者にとってのスポーツの意義
・スポーツを実施するうえでの留意点
・事例の紹介を通して工夫や支援について考える

【授業計画14】
スポーツ活動をしている障がい当事者の体験談を聞いたり、スポーツ活動現場に出かけ障がい者とのふれあいを通じ、障がい者にとってのスポーツの必要性・意義・価値を学ぶ。
・障がい者にとってのスポーツの必要性、意義や価値について

授業方法： 『第1回目～第15回目：講義・実技（対面）』
1. 講義（実技含む）、DVD視聴
2. 講義（実技含む）、グループワーク
3. 講義（実技含む）、グループワーク
4. 講義（実技含む）、グループワーク
5. 講義、ディスカッション、グループワーク
6. 講義、ディスカッション、グループワーク
7. 講義、ディスカッション、グループワーク
8. 講義、ディスカッション、グループワーク
9. 実技、発表、ディスカッション、グループワーク
10. 実技、発表、ディスカッション、グループワーク
11. 実技、発表、ディスカッション、グループワーク
12. 実技、ディスカッション、グループワーク
13. 実技、ディスカッション、グループワーク
14. 実技、ディスカッション、グループワーク
15. まとめ（講義含む）

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1：ボッチャまたはペタンク（歴史・ルール・障がい対応等）に関する予習（90分）
2：本日の復習（90分）
フライングディスク（歴史・ルール・障がい対応等）に関する予習（90分）
※ 種目は、アキュラシー・ディスタンス
3：本日の復習（90分）
バレーボール（歴史・ルール・障がい対応等）に関する予習（90分）
※ 種目は、バレーボール、シッティングバレーボール、ソフトバレーボール
4：本日の復習（90分）
全国障害者スポーツ大会①（歴史・目的・意義）に関する予習（90分）
5：本日の復習（90分）
全国障害者スポーツ大会②（選手団の編成とスタッフの役割）に関する予習（90分）
6：本日の復習（90分）
全国障害者スポーツ大会③（実施競技）に関する予習（105分）
7：本日の復習（90分）
全国障害者スポーツ大会④（障害区分）に関する予習（105分）
8：本日の復習（90分）
各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫①に関する予習（120分）
9：本日の復習（90分）

各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫②に関する予習(120分)
10:本日の復習(90分)
各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫③に関する予習(120分)
11:本日の復習(90分)
最重度の障がい者のスポーツ①に関する予習(105分)
12:本日の復習(90分)
最重度の障がい者のスポーツ②に関する予習(105分)
13:本日の復習(90分)
障がいのある人との交流を深めるための工夫について予習(90分)
14:本日の復習(90分)
パラスポーツ全般に関わる内容についての予習(120分)
15:本日の復習(90分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	70 **%**	**確認テスト:**	− **%**	**レポート:**	10 **%**
その他1:	実技テスト		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準:

「評価方法」の1～3について、以下の基準を満たすことが求められます。
1. 授業へのとりくみ(授業態度、関心・意欲、発表など)
・毎回の実技種目(一部・講義)に対して、障がい者との関わり方(援助・支援)を考えながら、自ら主体的な姿勢で授業への参加がなされている(60～69点)
・毎回の実技種目(一部・講義)に対して、障がい者との関わり方(援助・支援)を考えつつ、対象者に沿ったスポーツの企画や運営ができる方法を示しながら、自ら主体的な姿勢で授業への参加がなされている(80～100点)

2. レポート
・レポートの基本的な形式が整えられており、レポート課題に対する論述(自身の考えや表現)がなされている(60～69点)
・レポートの基本的な形式が整えられており、レポート課題に対する論述(自身の考えや表現)がなされつつ、読み手に伝わるように作成されている(80～100点)

3. 実技テスト
・実技テストに対して、個別およびグループ発表による企画・運営が十分になされている(60～69点)
・実技テストに対して、個別およびグループ発表による企画・運営が詳細になされ、障がい者の立場に立った配慮に関する内容が反映されている(80～100点)

課題へのフィードバック:

・実技種目については、パラスポーツを中心とした内容であるため、各実技のポイントで適宜内容のフィードバックを実施する。
・レポートについては、採点後に授業内で講評する。
・実技テスト(個別・グループ発表)については、採点後に授業内で講評する。

教科書: ・資料は必要に応じて、各回の授業前(Teamsを含む)に適宜配布する。

参考書: ・改正版 障がいのある人のスポーツ指導教本(初級・中級)2020年改訂カリキュラム対応 (公財)日本パラスポーツ協会編, ぎょうせい.

授業・準備学習のアドバイス:

○ 障がいのある人々のスポーツ活動について、自らが経験や体験をするとともに、様々な障がいに対する知識や技術を学び、指導現場へと活用できるよう主体的に取り組んでください。

【資格取得における必修科目】
・日本パラスポーツ協会公認パラスポーツ指導員(初級・中級)

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: スポーツ栄養学

クラス:

授業コード: BE60500001

担当者: 平野 直美 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: スポーツにおけるパフォーマンス向上は、日々のトレーニングを確実に行うことであり、質の高いトレーニングを積むためには、栄養は欠かせない要素の一つである。
本講義では、身体活動・運動(スポーツ含む)における栄養学の基礎知識と、実践理論について学ぶことを目的とする。

到達目標: 1. 身体活動・運動(スポーツ含む)及び健康の保持増進を支える栄養学の基礎知識を習得する。
2. 運動・スポーツ現場での栄養管理・食事のサポートについて理解を深める。

各回の授業計画:

1. スポーツと栄養について
2. スポーツにおける栄養素の役割と特徴について①(糖質)
3. スポーツにおける栄養素の役割と特徴について②(脂質)
4. スポーツにおける栄養素の役割と特徴について③(たんぱく質)
5. スポーツにおける栄養素の役割と特徴について④(ビタミン)
6. スポーツにおける栄養素の役割と特徴について⑤(ミネラル)
7. 水分摂取の意義と重要性について
8. 運動時の水分補給法について
9. トレーニングとエネルギー消費量について
10. ウエイトコントロールに対する考え方(成長期における食事等)
11. サプリメントに対する考え方(摂取と注意点)
12. 食事に対する考え方(外食・中食と栄養バランス)
13. アスリートに対する栄養摂取の考え方①(栄養・食事計画の立案など)
14. アスリートに対する栄養摂取の考え方②(栄養障害など)
15. まとめ「スポーツ栄養学の重要ポイントについての振り返り」と確認テスト

特記事項: ※ 適宜小レポートおよび確認テスト実施。

＜日本スポーツ協会・健康運動実践指導者＞
※ 以下の点にも留意しながら授業を展開する。

【授業計画1～15】
身体活動・運動に対する各栄養素の役割及び活動中のエネルギー代謝、生活習慣病の発症および重症化を防ぐための望ましい食事(エネルギーおよび栄養素の量)を理解する。
1)栄養素と水の役割を理解する。
2)食物の消化・吸収について理解する。
3)食品群について理解する。
4)運動時のエネルギー源について理解する。
5)身体活動・運動のエネルギー消費量について理解する。
6)エネルギーバランスについて理解する。
7)日本人の食事摂取基準・食生活指針について理解する。
8)生活習慣病等の誘因となる食生活について理解する。

授業方法: 1. 講義、演習
2. 講義
3. 講義
4. 講義
5. 講義
6. 講義

7. 講義
8. 講義
9. 講義、演習
10. 講義
11. 講義
12. 講義
13. 講義
14. 講義
15. 講義、試験
「すべての授業を対面授業で行う」

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

第1回　課題：自分の食生活について振り返り、レポートを作成する。（各180分）
第2～8回　復習：栄養素の役割について講義内容を復習しクイズ（Teams)に回答 （各180分）
第9回　復習：トレーニングとエネルギー収支バランスについて考える（180分）
第10回　復習：スポーツ選手の体組成について理解し、自分の体組成も知る（180分）
第11回　復習：スポーツ選手や自分自身にとってのサプリメント・栄養補助食品に対する役割についてまとめる（180分）
第12回　復習：外食・中食した際の栄養バランスのとり方を考え直す（180分）
第13～15回 課題：アスリートに対する栄養摂取についてまとめる（各180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	20 **%**	**確認テスト：**	50 **%**	**レポート：**	30 **%**
その他1：			**%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

【最低限度の到達度（60～69点）】
・授業へのとりくみ：授業に真剣に取り組み、課題に対して回答ができる。
・レポート：レポート課題について、作成の手間をいとわない。
・確認テスト：スポーツ栄養学の学習内容を概ね理解している。

【望ましい到達度（80～100点）】
・授業へのとりくみ：授業に積極的に取り組み、課題に対して発展的な回答ができる。
・レポート：レポート課題について積極的に取り組み、課題を発展させて考察できる。
・確認テスト：スポーツ栄養学の学習内容を十分に理解し、正しく説明することができる。

課題へのフィードバック：

・質問は、授業時に全体に向けて回答する。
・クイズ（Teams)は、講義内容のポイントを理解することを目的とし、Teamsで返却し、次回の授業時に解説する。

教科書：　「スポーツ栄養学」編/田中紀子・平野直美 化学同人

参考書：　特になし

授業・準備学習のアドバイス：

【資格取得における必修科目】
・日本スポーツ協会公認スポーツコーチングリーダー
・日本スポーツ協会公認ジュニアスポーツ指導員
・日本スポーツ協会公認アシスタントマネージャー
・健康運動実践指導者

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 公衆衛生学

クラス: ☆

授業コード: BE60600001

担当者: 千田 眞喜子 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)【必修】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 衛生学・公衆衛生学 **一般的包括的科目:** ○

授業の目的: 本講義の目的は、社会保健と環境保健の分野に関する衛生学・公衆衛生学の基礎的知識を習得し、生涯健康の観点から人間生活における衛生学・公衆衛生学の重要性を理解することである。

到達目標:
1. 保健・医療の動向について理解
2. 疫学について理解
3. 母子保健・学校保健・成人保健の概要について理解
4. 生活環境と健康の関わりについて理解

各回の授業計画:

1. 健康をめぐって(健康の考え方、衛生・公衆衛生の流れ)(オンライン(オンデマンド))
2. 健康をめぐって(健康と社会背景、プライマリヘルスケア、保健行政)(オンライン(オンデマンド))
3. 人口統計と衛生統計(人口静態統計、人口動態統計)(オンライン(オンデマンド))
4. 人口統計と衛生統計(出生、死亡の動向)(オンライン(オンデマンド))
5. 人口統計と衛生統計(生命表、疾病統計)(オンライン(オンデマンド))
6. 疫学(疫学の概念と手法、結果の解釈)(オンライン(オンデマンド))
7. 疫学(感染症の疫学)(オンライン(オンデマンド))
8. 感染症対策(オンライン(オンデマンド))
9. 食の安全性(食中毒、食品アレルギー)(オンライン(オンデマンド))
10. 母子保健(母子保健の現状と動向、対策)(オンライン(オンデマンド))
11. 母子保健(環境因子と健康障害、思春期における保健)(オンライン(オンデマンド))
12. 学校保健(学校保健の意義、学校医と保健管理、保健教育)(オンライン(オンデマンド))
13. 中・高年齢者の保健(成人保健の意義、生活習慣病の予防と対策)(オンライン(オンデマンド))
14. 産業保健・公害(職業病、公害問題)(オンライン(オンデマンド))
15. 環境をめぐって(空気・水と環境、温熱環境、気象と健康)(オンライン(オンデマンド))
公衆衛生についての総括と確認
確認テスト

特記事項: 15回目に確認テストを行う。

授業方法: ・1～15回すべて「オンライン(オンデマンド)授業」を行う。
・毎回Teamsでの小テストを行う。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 予習:「健康とは何か」について調べておく(90分) 復習:「健康の考え方、衛生・公衆衛生の流れ」について、重要ポイントをまとめて復習する(90分)
2. 予習:「健康をめぐる今の課題」を調べておく(90分) 復習:「健康と社会背景、プライマリヘルスケア、保健行政」について、重要ポイントをまとめて復習する(90分)
3. 予習:「人口統計の種類」を調べておく(90分) 復習:「人口静態統計、人口動態統計」について、重要ポイントをまとめて復習する(90分)
4. 予習:「出生率、死亡率の最新データ」を調べておく(90分) 復習:「出生、死亡の動向」について、重要ポイントをまとめて復習する(90分)
5. 予習:「衛生統計」の種類を調べておく(90分) 復習:「生命表、疾病統計」について、重要ポイントをまとめて復習する(90分)
6. 予習:「疫学」について調べておく(90分) 復習:(疫学の概念と手法、結果の解釈)について、重要ポイントをまとめて復習する(90分)
7. 予習:「感染症と疫学の関係」について調べておく(90分) 復習:「感染症の疫学」について、重要ポイントをまとめて復習する(90分)
8. 予習:「感染症対策」について調べておく(90分) 復習:「感染症対策」について、重要ポイントをまとめて復習する(90分)
9. 予習:「食の安全性」について調べておく(90分) 復習:「食中毒、食品アレルギー」について、重要ポイントをまとめて復習する(90分)
10. 予習:「母子保健」について調べておく(90分) 復習:「母子保健の現状と動向、対策」について、重要ポイントをまとめて復習する(90分)
11. 予習:「先天性の異常」について調べておく(90分) 復習:「環境因子と健康障害、思春期における保健」について、重要ポイントをまとめて復習する(90分)

12. 予習:「学校保健」について調べておく(90分) 復習:「学校保健の意義、学校医と保健管理、保健教育」について、重要ポイントをまとめて復習する(90分)
13. 予習:「中・高年齢者の保健」について調べておく(90分) 復習:「成人保健の意義、生活習慣病の予防と対策」について、重要ポイントをまとめて復習する(90分)
14. 予習:「産業保健・公害」について調べておく(90分) 復習:「職業病、公害問題」について、重要ポイントをまとめて復習する(90分)
15. 予習:「現代の環境問題」と「公衆衛生学の意義」について調べておく(90分) 復習:「空気・水と環境、温熱環境、気象と健康」と「なぜ公衆衛生を学ぶのか」について、重要ポイントをまとめて復習する(90分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	20 **%**	**確認テスト:**	20 **%**	**レポート:**	– **%**
その他1:	毎回の小テスト		60 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準:

●授業への取り組み:授業に対する積極性・態度を評価。
最低限の到達度(60～69点):基礎的な内容を理解し、締切に遅れても課題提出ができる。
標準的な到達度(70～79点):内容を十分理解し、課題提出の締め切りに80%間に合う。
望ましい到達度(80～100点):意欲的な態度で授業を受け、積極的に質問をし、課題提出の締め切りに100%間に合う。

●毎回の小テスト。
最低限の到達度(60～69点):基礎的な内容を理解している。
標準的な到達度(70～79点):内容を十分理解している。
望ましい到達度(80～100点):内容を理解したうえで実践的な行動ができる。

課題へのフィードバック:

Teamsを用いてフィードバックする。

教科書: なし。テキストとして資料を配布します。

参考書:

「21世紀の予防医学・公衆衛生一社会・環境と健康一第4版」町田和彦、岩井秀明、扇原淳編著 杏林書院 2022年
「シンプル 衛生公衆衛生学2023」小山洋監修 辻一郎、上島通浩編集 南江堂 2023年
「わかりやすい公衆衛生学 [第4版]」清水忠彦・佐藤拓代編 ヌーヴェルヒロカワ 2015年

授業・準備学習のアドバイス:

健康に生きることを科学的に考えてみましょう。日頃からTVニュースや新聞、さまざまなメディアで健康に関わる出来事や情報について関心をもつようにしてください。成績評価は、授業への取り組みと確認テストによって行います。積極的な授業に対する取り組みを期待します。

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: スポーツ原理

クラス:

授業コード: BE60700001

担当者: 久永 将太 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)【必修】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学(運動方法学を含む。) **一般的包括的科目:** ○

授業の目的: 本講義は、スポーツ及び体育とは何かについて根本的な意味・概念を理解し、スポーツ指導及び体育教育の基礎原理を学ぶことを目的とする。

到達目標:
①スポーツ・体育原理の基礎理論について理解する。
②スポーツ・体育原理の発展理論について理解する。
③現代スポーツ周辺の諸問題について理解する。

各回の授業計画:

1. スポーツ・体育原理を学ぶ意味
2. スポーツ・体育原理の学問的理解
3. スポーツ・体育の理念の変遷
4. スポーツと体育の意味の違い
5. スポーツ・運動の可能性
6. スポーツ・体育の人間形成
7. スポーツ・体育とフェアプレイ
8. スポーツ・体育における競争の意味
9. 技術指導からみたスポーツ・体育
10. スポーツ・体育と指導者(コーチ・体育教師)の違い
11. 子どもから見たスポーツ・体育の存在意味
12. 社会変化(少子高齢化)と今後のスポーツ・体育
13. 現代スポーツの周辺1(人権、政治、環境、ビジネス、メディア、生涯スポーツ、コミュニティー)
14. 現代スポーツの周辺2(ルール、ドーピング、ジェンダー、国家主義、勝利至上主義、五輪意義)
15. まとめと振り返り

特記事項: なし

授業方法:
すべての授業を対面授業で行う。
1～15:講義、アクティブラーニング

予習・復習・宿題など(内容・時間):
【1回～2回】スポーツ・体育原理の意味と必要性について各回予習(90分)・復習(90分)
【3回～4回】スポーツと体育に関する概念的理解、及びその変遷について各回予習(90分)・復習(90分)
【5回～10回】スポーツと体育にまつわる根本命題について毎回予習(90分)・復習(90分)
【11回～15回】スポーツと体育にまつわる現代的課題について毎回予習(90分)・復習(90分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	70 %	**確認テスト:**	－ %	**レポート:**	30 %
その他1:			%		
その他2:			%		

評価基準:
最低限度の到達度(60～69点);
・スポーツや体育を原理的に考えることの必要性をある程度理解している。
・授業内容及びレポート作成に対して意欲的に取り組むことができる。

望ましい到達度(80～100点);
・スポーツや体育を原理的に考えることの必要性を理解し、説明することができる。

・授業内容及びレポート作成に対して、意欲的に取り組み、自分の見解を表現することができる。

課題へのフィードバック:

授業ごとに講評を行う。

教科書: 必要に応じて配布する。

参考書: 友添秀則・岡出美則編（2016）『教養としての体育原理・新版 ー現代の体育・スポーツを考えるためにー』大修館書店

授業・準備学習のアドバイス:

授業への取り組みを重視する。特に教職資格取得希望者は一貫して出席し、スポーツ・体育の原理的意味を基礎学問として理解されることが望ましい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: スポーツ社会学

クラス:

授業コード: BE60800001

担当者: 三浦 敬太 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)【選択】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学(運動方法学を含む。) **一般的包括的科目:** ×

授業の目的: 本講義では、体育・スポーツの社会学的意義と重要性を様々な角度から探求し、スポーツの社会性について学ぶ事を目的とする。

到達目標:
1. スポーツの歴史と文化的意義について理解する
2. スポーツのインテグリティについて理解する
3. 障がい者・子どもとスポーツの関係について理解する
4. スポーツの社会学的諸問題に関して理解する

各回の授業計画:

1. スポーツの概念と歴史について
2. スポーツ文化の意義と重要性について
3. 社会の中のスポーツ(スポーツの国際的動向、各国及び日本のスポーツ振興ビジョン)
4. ジュニア期のスポーツの考え方(子ども達を取り巻く問題点と運動スポーツの必要性,指導の問題点とその対策)
5. スポーツと教育(スポーツと社会化、体育の社会的構造と機能、体育の学習指導過程)
6. これからのスポーツと体育(スポーツ、体育)
7. スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質① ※1
8. スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質② ※1
9. スポーツの意義と価値① ※2
10. スポーツの意義と価値② ※2
11. スポーツの意義と価値③ ※2
12. 地域におけるパラスポーツ振興① ※3
13. 地域におけるパラスポーツ振興② ※3
14. スポーツの社会学的課題(人種、暴力、性、人権、流行、イデオロギー、からだ)
15. スポーツレクリーションの活用についての理解(生活におけるスポーツレクリエーションの必要性と活用の方法)

特記事項: ＜公認パラスポーツ指導員＞
※ 各回の授業計画に関しては、以下の点にも留意しながら授業を展開する。

【授業計画7～8】
※1では、スポーツにおけるインテグリティを理解し、プレイヤーズファーストの視点やプレイヤーとともに学び続ける姿勢について学ぶ。
・スポーツ・インテグリティとは(スポーツ・インテグリティを脅かす要因・諸問題)
・スポーツ指導者に求められる資質・能力
・パラスポーツ指導員の役割・心構え・視点
・ボランティアの魅力、ボランティアの心得、留意点

【授業計画9～11】
※2では、スポーツが本来もつ、身体的・文化的・社会的な意義や価値について学ぶ。(スポーツのインテグリティ含む)
・スポーツの意義や価値、文化としてのスポーツのあり方
・スポーツ文化の構成要素
・スポーツのインテグリティを脅かすものを考える(事例と防止方法について)
・参加型(アクティブラーニング)とし、自身の考えを表出する

【授業計画12～13】
※3では、パラスポーツに関わる諸団体や関係所管について理解し、連携することの必要性について学ぶ。
・地域におけるパラスポーツ団体等の役割・活動(障がい者スポーツ協会、障がい者スポーツ指導者協議会)
・地域の関係団体との連携の必要性・意義・あり方(行政、福祉、教育、医療、スポーツ関係団体等)
・「地域におけるパラスポーツ振興事業」の事業事例

授業方法: 基本的に講義は、パワーポイント、視聴覚機材を用いて進める
最終授業で授業確認テストを実施する
授業進捗によりアクティブ・ラーニングの手法を用いて進める
授業毎に授業内容確認シート(振り返り)を実施する

1~15:対面授業で実施する(変更が生じる場合は、事前に受講学生へ情報提供できる方法で周知する)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

各回、以下の通り予習・復習を行ってください。
【1回~11回、14回、15回】
予習:スポーツ社会学に関連する各回のトピックに関して事前に調べ、理解する(各回80分)
復習:各回の授業のまとめの部分、あるいは自分自身が興味を持った部分に関して詳細に調べ、理解を深める(各回100分)。
【12回、13回】
予習:パラスポーツに関連する各回のトピックに関して事前に調べ、理解する(各回80分)
復習:各回の授業のまとめの部分、あるいは自分自身が興味を持った部分に関して詳細に調べ、理解を深める(各回100分)。

評価方法:	**授業へのとりくみ:**	30 **%**	**確認テスト:**	70 **%**	**レポート:**	- **%**
	その他1:			**%**		
	その他2:			**%**		

評価基準: 「最低限の到達度(60~69点)」
スポーツ社会学に関連する用語・意味をいくつか覚えている。
スポーツ社会学に関連する事象をいくつか説明することができる。
「望ましい到達度(80~100点)」
スポーツ社会学に関連する用語・意味を多数覚えている。
スポーツ社会学に関連する事象を多数説明することができる。

課題へのフィードバック:

・試験については、その課題のポイントや評価の観点を解説・説明する。

教科書: 必要に応じて、資料を配布する。

参考書: ・『スポーツ社会学講義』森川貞夫、佐伯聴夫 編著 大修館書店
・『スポーツとは何か』玉木正之、講談社
・『Reference Book』日本スポーツ協会

授業・準備学習のアドバイス:

・授業への取り組みを重視する。
・体育・スポーツの社会的意義や理念を理解するには一貫して授業を受講する事が原則である。

【資格取得における必修科目】
・日本パラスポーツ協会公認パラスポーツ指導員(初級・中級)

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: スポーツ心理学

クラス: ｽ前/心

授業コード: BE60900001

担当者: 葦原 摩耶子、杉山 真人 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)【選択】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学(運動方法学を含む。) **一般的包括的科目:** ×

授業の目的: 本講義は体育・スポーツ活動における心理的側面から探求し、意欲や効果的な成果を獲得する為のスポーツ心理学的基礎知識を習得する事を目的とする。

到達目標:
1. 体育・スポーツ活動と心の問題について理解する。
2. 体育・スポーツ活動における動機づけについて理解する。
3. スポーツコーチングの心理的問題について理解する。
4. カウンセリング、メンタルトレーニング、メンタルマネジメント、運動行動変容について理解する。

各回の授業計画:

1. スポーツと心1(スポーツの生理・心理的効果、ストレス発散、パーソナリティー変容):葦原
2. スポーツと心2(スポーツの人間形成への影響、指導者の指導条件による変貌):葦原
3. スポーツと心3(個人及び集団スポーツによる性格的特徴の違い):葦原
4. スポーツと心4(パーソナリティーの特徴と情動変化が与える競技結果とトレーニング過程の影響):葦原
5. スポーツにおける動機づけ1(運動意欲の概念、運動意欲を満足させる方法、意欲を高めるトレーニング):杉山
6. スポーツにおける動機付け2(障がい者の体験談を手がかりにして):杉山
7. コーチングの心理1(技能習得・向上のための適切な示範及び言語教示):杉山
8. コーチングの心理2(練習方法と心理について):杉山
9. コーチングの心理3(コーチング指導の専門的役割分担の理解):杉山
10. スポーツカウンセリングの基礎知識:杉山
11. メンタルトレーニング(メンタルマネジメント含む):杉山
12. 体育教師及びスポーツ指導者の為のメンタルマネジメント(対象:健常者・障がい者含む):葦原
13. 運動と心の健康増進:葦原
14. 運動行動変容の理論と実際:葦原
15. 身体的・心理的・社会的側面からみた発育・発達:葦原、杉山

特記事項: ※ 適宜、確認テストを実施する。

＜日本スポーツ協会・健康運動実践指導者・公認パラスポーツ指導員＞
※ 各回の授業計画に関しては、以下の点にも留意しながら授業を展開する。

【授業計画1～15】
健康行動に影響を与えるさまざまな要因や身体活動・運動実践が心身の健康に与える影響について、また個別指導における動機づけとカウンセリングの方法を理解する。
① 総括的にスポーツへの動機づけの仕方、あがりの仕組み、リラクゼーション法についての理論と実践について健常者と併行して障がい者指導の視点からも学修させる事も含む。
1) 運動実践に関わる社会・心理・環境的要因を理解する。
2) 運動実践によって得られる心理社会的効果の内容とその効果を高める要因を理解する。
3) 運動を採択、継続、および停止を予防するために適用されている行動変容理論・モデルおよび技法を理解する。
4) 募集に際して要因を明確にし、多くの参加者を得るために行わなければならない留意点を理解する。
5) 指導と受講のミスマッチの存在を理解し、その解決法について考える。
6) 個別指導における動機づけやカウンセリングの方法を理解する。

② 運動行動変容の理論と実際および身体的・心理的・社会的側面からみた発育・発達では、身体の発育・発達の原則と精神的な発達、知的障がいの特性に応じた発育・発達の観点から運動指導の留意点について学ぶ。
1)発育と発達の定義や原則の理解
2)身体、認知、運動、ことばの発達等の特徴に関する理解

3)身体、認知、運動、ことばの発達に応じた運動指導時の留意点

授業方法: すべて対面で実施する。

1. 講義
2. 講義
3. 講義
4. 講義
5. 講義
6. 講義
7. 講義
8. 講義
9. 講義
10. 講義
11. 講義
12. 講義
13. 講義
14. 講義
15. 講義

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 復習:スポーツの生理・心理的効果についてまとめる(150分)
2. 復習:スポーツの人間形成への影響についてまとめる(150分)
3. 復習:スポーツと性格的特徴についてまとめる(150分)
4. 復習:パーソナリティと競技成績についてまとめる(150分)
5. 復習:運動・スポーツと動機づけについてまとめる(150分)
6. 復習:運動・スポーツと動機づけについてまとめる(150分)
7. 復習:運動の適切な教示方法についてまとめる(150分)
8. 復習:効果的な練習方法についてまとめる(150分)
9. 復習:コーチングについてまとめる(150分)
10. 復習:スポーツカウンセリングについてまとめる(150分)
11. レポートの作成(360分)
12. 復習:メンタルマネジメントについてまとめる(150分)
13. 復習:心の健康増進に及ぼす運動の影響についてまとめる(150分)
14. 確認テストにむけた復習(480分)
15. 復習:スポーツ心理学の観点をふまえた運動指導の在り方についてまとめる(60分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	50 **%**	**確認テスト:**	40 **%**	**レポート:**	10 **%**
その他1:			**%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 最低限度の到達度(60～69点):基本的な専門用語を説明することができる。心の健康に対する運動の役割や運動指導に関する理論やモデル，スポーツを取り巻く心理的な諸問題について説明することができる。心理学的な観点をふまえた運動指導法についてまとめることができる。
望ましい到達度(80～100点):一般的な専門用語を詳しく説明することができる。心の健康に対する運動の役割や運動指導に関する理論やモデル，スポーツを取り巻く心理的な諸問題について詳しく説明することができる。心理学的な観点をふまえた運動指導法について詳しくまとめることができる。

課題へのフィードバック:

レポートや試験については，その課題のポイントと評価の観点を全体に向けて説明する。

教科書: ・特になし。
・適宜，資料を配布する。

参考書: ・教養としてのスポーツ心理学 徳永幹雄編 大修館書店
・体育教師のための心理学 ヴァンデン-オウェール・Y、バッカー・F、ビドル・Sほか編 大修館書店

授業・準備学習のアドバイス:

・授業への取り組みを重視します。教職・スポーツ指導者資格取得には一貫して受講されることが原則です。
【資格取得における必修科目】
・日本スポーツ協会公認スポーツコーチングリーダー
・日本スポーツ協会公認ジュニアスポーツ指導員
・日本スポーツ協会公認アシスタントマネジャー
・健康運動実践指導者
・日本パラスポーツ協会公認パラスポーツ指導員(初級・中級)

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: スポーツ心理学

クラス: ｽ後/心

授業コード: BE60900002

担当者: 葦原 摩耶子、杉山 真人 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)【選択】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学(運動方法学を含む。) **一般的包括的科目:** ×

授業の目的: 本講義は体育・スポーツ活動における心理的側面から探求し、意欲や効果的な成果を獲得する為のスポーツ心理学的基礎知識を習得する事を目的とする。

到達目標:
1. 体育・スポーツ活動と心の問題について理解する。
2. 体育・スポーツ活動における動機づけについて理解する。
3. スポーツコーチングの心理的問題について理解する。
4. カウンセリング、メンタルトレーニング、メンタルマネジメント、運動行動変容について理解する。

各回の授業計画:

1. スポーツと心1(スポーツの生理・心理的効果、ストレス発散、パーソナリティー変容):葦原
2. スポーツと心2(スポーツの人間形成への影響、指導者の指導条件による変貌):葦原
3. スポーツと心3(個人及び集団スポーツによる性格的特徴の違い):葦原
4. スポーツと心4(パーソナリティーの特徴と情動変化が与える競技結果とトレーニング過程の影響):葦原
5. スポーツにおける動機づけ1(運動意欲の概念、運動意欲を満足させる方法、意欲を高めるトレーニング):杉山
6. スポーツにおける動機付け2(障がい者の体験談を手がかりにして):杉山
7. コーチングの心理1(技能習得・向上のための適切な示範及び言語教示):杉山
8. コーチングの心理2(練習方法と心理について):杉山
9. コーチングの心理3(コーチング指導の専門的役割分担の理解):杉山
10. スポーツカウンセリングの基礎知識:杉山
11. メンタルトレーニング(メンタルマネジメント含む):杉山
12. 体育教師及びスポーツ指導者の為のメンタルマネジメント(対象:健常者・障がい者含む):葦原
13. 運動と心の健康増進:葦原
14. 運動行動変容の理論と実際:葦原
15. 身体的・心理的・社会的側面からみた発育・発達:葦原、杉山

特記事項: ※ 適宜、確認テストを実施する。

＜日本スポーツ協会・健康運動実践指導者・公認パラスポーツ指導員＞
※ 各回の授業計画に関しては、以下の点にも留意しながら授業を展開する。

【授業計画1～15】
健康行動に影響を与えるさまざまな要因や身体活動・運動実践が心身の健康に与える影響について、また個別指導における動機づけとカウンセリングの方法を理解する。
① 総括的にスポーツへの動機づけの仕方、あがりの仕組み、リラクゼーション法についての理論と実践について健常者と併行して障がい者指導の視点からも学修させる事も含む。
1) 運動実践に関わる社会・心理・環境的要因を理解する。
2) 運動実践によって得られる心理社会的効果の内容とその効果を高める要因を理解する。
3) 運動を採択、継続、および停止を予防するために適用されている行動変容理論・モデルおよび技法を理解する。
4) 募集に際して要因を明確にし、多くの参加者を得るために行わなければならない留意点を理解する。
5) 指導と受講のミスマッチの存在を理解し、その解決法について考える。
6) 個別指導における動機づけやカウンセリングの方法を理解する。

② 運動行動変容の理論と実際および身体的・心理的・社会的側面からみた発育・発達では、身体の発育・発達の原則と精神的な発達、知的障がいの特性に応じた発育・発達の観点から運動指導の留意点について学ぶ。
1)発育と発達の定義や原則の理解
2)身体、認知、運動、ことばの発達等の特徴に関する理解

3)身体、認知、運動、ことばの発達に応じた運動指導時の留意点

授業方法: すべて対面で実施する。

1. 講義
2. 講義
3. 講義
4. 講義
5. 講義
6. 講義
7. 講義
8. 講義
9. 講義
10. 講義
11. 講義
12. 講義
13. 講義
14. 講義
15. 講義

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 復習:スポーツの生理・心理的効果についてまとめる(150分)
2. 復習:スポーツの人間形成への影響についてまとめる(150分)
3. 復習:スポーツと性格的特徴についてまとめる(150分)
4. 復習:パーソナリティと競技成績についてまとめる(150分)
5. 復習:運動・スポーツと動機づけについてまとめる(150分)
6. 復習:運動・スポーツと動機づけについてまとめる(150分)
7. 復習:運動の適切な教示方法についてまとめる(150分)
8. 復習:効果的な練習方法についてまとめる(150分)
9. 復習:コーチングについてまとめる(150分)
10. 復習:スポーツカウンセリングについてまとめる(150分)
11. レポートの作成(360分)
12. 復習:メンタルマネジメントについてまとめる(150分)
13. 復習:心の健康増進に及ぼす運動の影響についてまとめる(150分)
14. 確認テストにむけた復習(480分)
15. 復習:スポーツ心理学の観点をふまえた運動指導の在り方についてまとめる(60分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	50 **%**	**確認テスト:**	40 **%**	**レポート:**	10 **%**
その他1:			**%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 最低限度の到達度(60～69点):基本的な専門用語を説明することができる。心の健康に対する運動の役割や運動指導に関する理論やモデル，スポーツを取り巻く心理的な諸問題について説明することができる。心理学的な観点をふまえた運動指導法についてまとめることができる。
望ましい到達度(80～100点):一般的な専門用語を詳しく説明することができる。心の健康に対する運動の役割や運動指導に関する理論やモデル，スポーツを取り巻く心理的な諸問題について詳しく説明することができる。心理学的な観点をふまえた運動指導法について詳しくまとめることができる。

課題へのフィードバック:

レポートや試験については，その課題のポイントと評価の観点を全体に向けて説明する。

教科書: ・特になし。
・適宜，資料を配布する。

参考書: ・教養としてのスポーツ心理学 徳永幹雄編 大修館書店
・体育教師のための心理学 ヴァンデン-オウェール・Y、バッカー・F、ビドル・Sほか編 大修館書店

授業・準備学習のアドバイス:

・授業への取り組みを重視します。教職・スポーツ指導者資格取得には一貫して受講されることが原則です。
【資格取得における必修科目】
・日本スポーツ協会公認スポーツコーチングリーダー
・日本スポーツ協会公認ジュニアスポーツ指導員
・日本スポーツ協会公認アシスタントマネジャー
・健康運動実践指導者
・日本パラスポーツ協会公認パラスポーツ指導員(初級・中級)

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: スポーツバイオメカニクス

クラス:

授業コード: BE61000001

担当者: 宮辻 和貴 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)【選択】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学(運動方法学を含む。) **一般的包括的科目:** ×

授業の目的: 本講義では、体育指導及びスポーツコーチングにおいて重要となる身体運動の基礎的な生体力学的・運動学的な基礎理論を学習する事を目的とする。

到達目標:
1. スポーツバイオメカニクスの概念を理解する。
2. 身体運動の基礎的な動きの仕組みを理解する。
3. 運動器の骨、筋、靭帯、関節と機能を関連づけ、力学的視点から運動の仕組みを理解する。
4. 体育・スポーツ実践の応用としてのスポーツバイオメカニクス理論を理解する。

各回の授業計画:

1. スポーツバイオメカニクスとは？
2. スポーツバイオメカニクスの基礎①
3. スポーツバイオメカニクスの基礎②
4. スポーツバイオメカニクスの基礎③
5. スポーツバイオメカニクスの実際:立つ(スキル獲得とその獲得過程)
6. スポーツバイオメカニクスの実際:歩く(スキル獲得とその獲得過程)
7. スポーツバイオメカニクスの実際:走る(スキル獲得とその獲得過程)
8. スポーツバイオメカニクスの実際:跳ぶ(垂直)(スキル獲得とその獲得過程)
9. スポーツバイオメカニクスの実際:跳ぶ(水平)(スキル獲得とその獲得過程)
10. スポーツバイオメカニクスの実際:投げる(スキル獲得とその獲得過程)
11. スポーツバイオメカニクスの実際:打つ(スキル獲得とその獲得過程)
12. スポーツバイオメカニクスの実際:蹴る(スキル獲得とその獲得過程)
13. スポーツバイオメカニクスの実際:泳ぐ(スキル獲得とその獲得過程)
14. スポーツバイオメカニクスの実際:滑る(スキル獲得とその獲得過程)
15. スポーツバイオメカニクスのまとめ

※ レポート課題(2回程度)および確認テスト(第15回目)を実施する。

特記事項: ＜日本スポーツ協会・健康運動実践指導者＞
※ 各回の授業計画に関しては、以下の点にも留意しながら授業を展開する。

【授業計画1～15】
1)身体運動に関係する主な骨、関節、骨格筋の名称を覚える。
2)主な骨、関節、骨格筋の機能を理解する。
3)筋と腱の弾性エネルギーを理解する。
4)着地衝撃とその緩衝法を理解する。
5)基本的動作の力学的特徴を理解する。

授業方法: 『第1回目～第15回目:講義(対面)』
1. 講義、グループワーク
2. 講義、グループワーク
3. 講義、グループワーク
4. 講義、グループワーク
5. 講義、ディスカッション
6. 講義、ディスカッション
7. 講義、ディスカッション
8. 講義、ディスカッション
9. 講義、ディスカッション

10. 講義、ディスカッション
11. 講義、ディスカッション
12. 講義、ディスカッション
13. 講義、ディスカッション
14. 講義、ディスカッション
15. 講義、ディスカッション

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1：スポーツバイオメカニクスの学問領域に関する復習（45分）
身体運動の基礎となる知識（ビデオ撮影、地面反力、筋電図など）を予習（45分）
2：本日の復習（90分）
スポーツバイオメカニクスの基礎となる知識（身体運動など）を予習（90分）
3：本日の復習（90分）
スポーツバイオメカニクスの基礎となる知識（骨格、筋、関節など）を予習（90分）
4：本日の復習（90分）
スポーツバイオメカニクスの基礎となる知識（エネルギー供給系、神経系、運動と力学の法則など）を予習（90分）
5：本日の復習（90分）
科学的・学術的視点より「立つ動作」に関する予習（90分）
6：本日の復習（90分）
科学的・学術的視点より「歩く動作」に関する予習（90分）
7：本日の復習（90分）
科学的・学術的視点より「走る動作」に関する予習（90分）
8：本日の復習（90分）
科学的・学術的視点より「跳ぶ（垂直方向）動作」に関する予習（90分）
9：本日の復習（90分）
科学的・学術的視点より「跳ぶ（水平方向）動作」動作に関する予習（90分）
10：本日の復習（90分）
科学的・学術的視点より「投げる動作」に関する予習（90分）
11：本日の復習（90分）
科学的・学術的視点より「打つ動作」に関する予習（90分）
12：本日の復習（90分）
科学的・学術的視点より「蹴る動作」に関する予習（90分）
13：本日の復習（90分）
科学的・学術的視点より「泳ぐ動作」に関する予習（90分）
レポート課題作成に向けた取り組み（180分）
14：本日の復習（90分）
科学的・学術的視点より「滑る動作」に関する予習（90分）
15：本日の復習（90分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	15 **%**	**確認テスト：**	70 **%**	**レポート：**	15 **%**
その他1：			**%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

「評価方法」の1～3について、以下の基準を満たすことが求められます。
1. 授業へのとりくみ（授業態度、関心・意欲、発表など）
・授業内容の各トピックスに対して、基本的な関わり（スポーツ科学における学術的視点を養う姿勢および学ぶ関心・意欲など）により授業への参加がなされている（60～69点）
・授業内容の各トピックスに対して、自ら積極的に関わり（スポーツ科学における学術的視点を養う姿勢および学ぶ関心・意欲など）を持ちながら授業へ参加し、内容への発言や質問をする取り組みがなされている（80～100点）

2. 確認テスト
・各トピックスで学んだことに関して、スポーツバイオメカニクスの学習内容をある程度理解している（60～69点）
・各トピックスで学んだことに関して、スポーツバイオメカニクスの学習内容を理解し、説明することができる（80～100点）

3. レポート
・レポートの基本的な形式が整えられており、レポート課題に対する論述（自身の考えや表現）がなされている（60～69点）
・レポートの基本的な形式が整えられており、レポート課題に対する論述（自身の考えや表現）がなされつつ、読み手に伝わるように作成されている（80～100点）

課題へのフィードバック：

・スポーツ科学の手法（動作分析、フォースプレート、筋電図など）に関する講義（座学）中心の授業であるため、授業の進行状況により各ポイントで適宜フィードバッグを実施する。
・確認テストについては、採点後にTeamsにて講評する。
・レポートについては、採点後に授業内（Teamsを含む）で講評する。

教科書：

・資料はPDF形式（閲覧用・印刷用）にて、各回の授業前（Teams）に配布する。
・『スポーツ・バイオメカニクス入門 第4版 絵で見る講義ノート』金子公宥・藤原敏行 著 杏林書院

※ 購入を希望する学生は、参考書として活用すること。

参考書: ・『バイオメカニクス 身体運動の科学的基礎』金子公宥、福永哲夫編 杏林書院
・『スポーツバイオメカニクス20講』阿江通良、藤井範久著 朝倉書店
・『スポーツバイオメカニクス』深代千之、桜井伸二、平野裕一、阿江通良著 朝倉書店
・『はじめて学ぶ 健康・スポーツ科学シリーズ4 スポーツバイオメカニクス』宮西智久編 化学同人

授業・準備学習のアドバイス:

○ 力学・生理学・解剖学などの基礎知識を活用して、身体運動の仕組みをよりよく理解するための応用学である「スポーツバイオメカニクス」について学びを深めましょう。
※ 各自、PDF形式（閲覧用・印刷用）にて配布された資料については、PCを活用しながら学習を進めましょう。

【資格取得における必修科目】
・日本スポーツ協会公認スポーツコーチングリーダー
・日本スポーツ協会公認ジュニアスポーツ指導員
・日本スポーツ協会公認アシスタントマネジャー
・健康運動実践指導者

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: エアロビックダンス

クラス:

授業コード: BE62100001

担当者: 辻本 智子 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 本講義では、エアロビックダンスの特性、効果及びプログラム構成を理解し、基本的な動作技能を習得する。その上で、プログラムの作成及び指導法について学ぶ。

到達目標:
1. エアロビックダンスの基本動作の獲得をする。
2. 主要筋群のストレッチングと自体重によるレジスタンス運動(エクササイズ)を理解し、指導する。
3. メインエクササイズのプログラム構成の作成や指導法の習得をする。

各回の授業計画:

1. 理論1)指導について(アライメントチェック、ストレッチング、ラジオ体操第一＆第二および授業のガイダンスを含む)
2. 理論2)フィットネス概論、エクササイズの特徴、プログラム受講①
3. 理論3)運動効果と強度、プログラム受講②
4. 理論4)プログラム構成・ウォームアップ、安全性の配慮、プログラム受講③
5. 理論5)プログラム構成・筋コンディショニング、強度の変化要因、プログラム受講④
6. 理論6)プログラム構成・クールダウン、音楽の役割と選曲、プログラム受講⑤
7. 理論7)プログラム構成・メインエクササイズ、キューイング、プログラム受講⑥
8. ストレッチングとレジスタンス運動の指導演習1)、プログラム受講⑦
9. ストレッチングとレジスタンス運動の指導演習2)、プログラム受講⑧
10. ストレッチングとレジスタンス運動の指導演習3)、プログラム受講⑨
11. メインエクササイズのプログラム作成・指導1)、グループ作品制作
12. メインエクササイズのプログラム作成・指導2)、グループ作品制作
13. メインエクササイズのプログラム作成・指導3)、グループ作品制作
14. グループ作品発表
15. ビデオ評価とまとめ

特記事項: ※ 配布資料を使用しながら講義を行い、プログラムの受講や演習を中心に行う。

＜健康運動実践指導者＞
◎ エアロビックダンスでは、以下の点にも留意しながら授業を展開する。

健康の保持・増進を目的とした日常的に行う代表的な運動の実践と集団への指導方法を学び、多くの人が安全で効果的に楽しく継続できるように導くことができる。

【授業計画1～7、11～15】
1)エアロビックダンスの特性について簡潔に説明できる。
2)エアロビックダンスにより期待される健康効果について説明できる。
3)エアロビックダンス指導における指導者の役割について学習する。
4)一般的なエアロビックダンスの運動強度やエネルギー消費量について学習し、ローインパクトとハイインパクトによる違いや音楽のテンポによる違い、上肢運動の付加など、運動強度に影響を与える要因について説明できる。
5)エアロビックダンスによる傷害について理解し、安全に行うための運動プログラムの構成、実践場所、服装、シューズ選択などについて説明できる。
6)エアロビックダンス実践におけるよい立位姿勢、正しい動作、基本ステップや上肢の動きを身につけ、手本を示すことができる。
7)実際にプログラムを作成し、キューイング、アイコンタクト、ポジショニング、動きの展開、段階的指導について学習する。
8)運動前、運動中、運動後の安全性(体調チェック、水分補給、姿勢・動作、プログラム選択、心拍数・RPEの活用、選曲や音楽の調整など)に配慮した指導について学習する。

【授業計画8～10】
1)レジスタンス運動を筋活動様式(収縮様式)に分類し、特徴や違いを説明できる。

2)レジスタンス運動により期待される健康効果について説明できる。
3)自体重、器具(弾性チューブ・バンド、マシン、バーベル、ダンベルを含む)を利用したそれぞれの方法による肢位別の種目(上肢および肩腕部、体幹、下肢および腰部筋群)を習得し、見本を示すことができる。
4)レジスタンス運動の必要性を理解し、対象者のニーズや身体状況に応じてプログラムを選択し教示できる。
5)目的に応じたレジスタンス運動の負荷強度、反復回数、休息時間、テスト法について説明できる。
6)安全で効果的なレジスタンス運動を行うための実施上の留意点を説明できる。
7)高齢者の自立に必要な筋力を維持・向上させるためのプログラムにレジスタンス運動を応用できる。

授業方法: 【すべて対面にて授業を行う】

1. 講義、実技
2. 実技、ディスカッション
3. 講義、実技
4. 講義、実技
5. 講義、実技
6. 実技、グループ発表
7. 講義、実技、ビデオ視聴
8. 講義、実技
9. 講義、実技
10. レジスタンス運動発表
11. 講義、実技
12. 講義、実技
13. 講義、実技
14. エアロビックダンス発表
15. 講義、実技

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. エアロビックダンスのガイドラインの確認
ストレッチ、エアロビクス種目のアライメント習得(180分)
2. エクササイズの特徴についてまとめる予習(90分)、復習(90分)
3. 運動強度、難易度についてまとめる
プログラム構成を考える(180分)
4. 安全性の確保の為のプログラム構成習得、危険性をまとめる(180分)
5. プログラム構成のまとめ(180分)
6. プログラム構成のグループディスカッションのまとめ(180分)
7. エアロビクスの指導方法、キューイングのタイミングや方法を習得(180分)
8~13. プログラミング構成をした指導方法について毎回予習(90分)、復習(90分)
14. エアロビックダンス発表のプログラミング構成のまとめ(180分)
15. プログラミングのフィードバックの修正(180分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	50 **%**	**確認テスト:**	20 **%**	**レポート:**	10 **%**
その他1:	実技発表		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 最低限の到達度(60~69):基本的な筋肉の名称を理解し、エアロビックダンスの基本的な動作技能を獲得している。
望ましい達成度(80~100):音楽に合わせての指導が出来る。安全面の配慮が出来き、運動強度や難度を考慮した、プログラミング構成を指導出来ること。

課題へのフィードバック:

・レジスタンストレーニング実技試験
・エアロビクス実技試験
・健康運動実践指導者の実技試験の基準をもとに、フィードバックする。

教科書: ・授業時に適宜資料を配布する。

参考書: ・新・エアロビックダンスの実技指導(公社)日本フィットネス協会
・ADBI・ADIのためのエアロビックダンスエクササイズ指導理論(公社)日本フィットネス協会
・健康運動実践指導者養成用テキスト 財団法人 健康・体力づくり事業財団 南江堂 2020

授業・準備学習のアドバイス:

・実技中心の授業の特性上、服装とシューズは運動に適したもので、受講すること。
・配布資料及び筆記用具を持参すること。
・出席や授業態度を重視する。
・実技テストは個人スキルとグループパフォーマンス、指導、筆記テストやレポート提出などから総合的に評価をする。

・【資格取得における必修科目】
・健康運動実践指導者

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 体ほぐし

クラス: ス前1

授業コード: BE62200001

担当者: 久永 将太 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)【必修】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 体育実技 **一般的包括的科目:** ○

授業の目的: 本講義は、自己の身体への関心と体力に応じた課題を持って、体ほぐしの運動を学ぶことを目的とする。

到達目標: ①体ほぐしの運動の意義とそのプログラムや指導方法の習得
②体づくりの運動の意義とそのプログラムや指導方法の習得

各回の授業計画:

1. 体ほぐしの狙いとその基本的なほぐし方の事例と実践
2. 体ほぐし運動1:体の伸展、屈曲、回転、回旋、捻転の運動
3. 体ほぐし運動2:歩、走、跳の全身リズミカル運動(1人運動、2人運動、用具活用)
4. 体力を高める運動1:大きな力を発揮する能力を高めるための運動
5. 体力を高める運動2:スピーディーあるいはパワフルな動きができる能力を高めるための運動
6. 体力を高める運動3:動きを持続する能力を高めるための運動
7. 体力を高める運動4:体の柔らかさを高めるための運動
8. 体力を高める運動5:動きの巧みさを高めるための運動
9. 体力を高める運動6:総合的に体力を高めるための運動
10. グループワーク1:専門運動種目別体ほぐし・体づくり実践
11. グループワーク2:体力・能力別体ほぐし・体づくり実践
12. グループワーク3:身体部位別体ほぐし・体づくり実践
13. 模擬授業指導実践1:中学生想定の場合
14. 模擬授業指導実践2:高校生想定の場合
15. まとめと振り返り

特記事項: なし

授業方法: すべての授業を対面授業で行う。
1～15. 実技

予習・復習・宿題など(内容・時間):

【1回～15回】
予習:模擬授業の組み立てを行う
復習:振り返り(指導方法の習得に向け、毎時間ごとに記録する)

評価方法:

授業へのとりくみ:	70	**%**	**確認テスト:**	－	**%**	**レポート:**	30 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: 最低限度の到達度(60～69点):模擬授業の内容が「気づき・調整・交流」の要素を含んでいる。
望ましい到達度(80～100点):実施内容についての中身がきちんと伝わっている。

課題へのフィードバック:

授業ごとに講評を行う。

教科書: 必要に応じて配布する。

参考書: 村田芳子・川口啓・山本俊彦・五十嵐淳子編『「体ほぐしの運動」活動アイデア集』(教育出版)

授業・準備学習のアドバイス:

授業への取り組みを重視する。特に教職資格取得希望者は一貫して出席し、体ほぐしの重要性を理解されることが望ましい。

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 体ほぐし

クラス: ス前2

授業コード: BE62200002

担当者: 久永 将太 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)【必修】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 体育実技 **一般的包括的科目:** ○

授業の目的: 本講義は、自己の身体への関心と体力に応じた課題を持って、体ほぐしの運動を学ぶことを目的とする。

到達目標: ①体ほぐしの運動の意義とそのプログラムや指導方法の習得
②体づくりの運動の意義とそのプログラムや指導方法の習得

各回の授業計画:

1. 体ほぐしの狙いとその基本的なほぐし方の事例と実践
2. 体ほぐし運動1:体の伸展、屈曲、回転、回旋、捻転の運動
3. 体ほぐし運動2:歩、走、跳の全身リズミカル運動(1人運動、2人運動、用具活用)
4. 体力を高める運動1:大きな力を発揮する能力を高めるための運動
5. 体力を高める運動2:スピーディーあるいはパワフルな動きができる能力を高めるための運動
6. 体力を高める運動3:動きを持続する能力を高めるための運動
7. 体力を高める運動4:体の柔らかさを高めるための運動
8. 体力を高める運動5:動きの巧みさを高めるための運動
9. 体力を高める運動6:総合的に体力を高めるための運動
10. グループワーク1:専門運動種目別体ほぐし・体づくり実践
11. グループワーク2:体力・能力別体ほぐし・体づくり実践
12. グループワーク3:身体部位別体ほぐし・体づくり実践
13. 模擬授業指導実践1:中学生想定の場合
14. 模擬授業指導実践2:高校生想定の場合
15. まとめと振り返り

特記事項: なし

授業方法: すべての授業を対面授業で行う。
1～15. 実技

予習・復習・宿題など(内容・時間):

【1回～15回】
予習:模擬授業の組み立てを行う
復習:振り返り(指導方法の習得に向け、毎時間ごとに記録する)

評価方法:

授業へのとりくみ:	70	**%**	**確認テスト:**	－	**%**	**レポート:**	30 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: 最低限度の到達度(60～69点):模擬授業の内容が「気づき・調整・交流」の要素を含んでいる。
望ましい到達度(80～100点):実施内容についての中身がきちんと伝わっている。

課題へのフィードバック:

授業ごとに講評を行う。

教科書: 必要に応じて配布する。

参考書:　　村田芳子・川口啓・山本俊彦・五十嵐淳子編『「体ほぐしの運動」活動アイデア集』(教育出版)

授業・準備学習のアドバイス:

授業への取り組みを重視する。特に教職資格取得希望者は一貫して出席し、体ほぐしの重要性を理解されることが望ましい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 体ほぐし

クラス: ｽ後1

授業コード: BE62200003

担当者: 久永　将太　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校　保健体育)【必修】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 体育実技　　**一般的包括的科目:** ○

授業の目的: 本講義は、自己の身体への関心と体力に応じた課題を持って、体ほぐしの運動を学ぶことを目的とする。

到達目標: ①体ほぐしの運動の意義とそのプログラムや指導方法の習得
②体づくりの運動の意義とそのプログラムや指導方法の習得

各回の授業計画:

1. 体ほぐしの狙いとその基本的なほぐし方の事例と実践
2. 体ほぐし運動1:体の伸展、屈曲、回転、回旋、捻転の運動
3. 体ほぐし運動2:歩、走、跳の全身リズミカル運動(1人運動、2人運動、用具活用)
4. 体力を高める運動1:大きな力を発揮する能力を高めるための運動
5. 体力を高める運動2:スピーディーあるいはパワフルな動きができる能力を高めるための運動
6. 体力を高める運動3:動きを持続する能力を高めるための運動
7. 体力を高める運動4:体の柔らかさを高めるための運動
8. 体力を高める運動5:動きの巧みさを高めるための運動
9. 体力を高める運動6:総合的に体力を高めるための運動
10. グループワーク1:専門運動種目別体ほぐし・体づくり実践
11. グループワーク2:体力・能力別体ほぐし・体づくり実践
12. グループワーク3:身体部位別体ほぐし・体づくり実践
13. 模擬授業指導実践1:中学生想定の場合
14. 模擬授業指導実践2:高校生想定の場合
15. まとめと振り返り

特記事項: なし

授業方法: すべての授業を対面授業で行う。
1～15. 実技

予習・復習・宿題など(内容・時間):

【1回～15回】
予習:模擬授業の組み立てを行う
復習:振り返り(指導方法の習得に向け、毎時間ごとに記録する)

評価方法:

授業へのとりくみ:	70	**%**	**確認テスト:**	－	**%**	**レポート:**	30 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: 最低限度の到達度(60～69点):模擬授業の内容が「気づき・調整・交流」の要素を含んでいる。
望ましい到達度(80～100点):実施内容についての中身がきちんと伝わっている。

課題へのフィードバック:

授業ごとに講評を行う。

教科書: 必要に応じて配布する。

参考書: 村田芳子・川口啓・山本俊彦・五十嵐淳子編『「体ほぐしの運動」活動アイデア集』(教育出版)

授業・準備学習のアドバイス:

授業への取り組みを重視する。特に教職資格取得希望者は一貫して出席し、体ほぐしの重要性を理解されることが望ましい。

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 体ほぐし

クラス: ｽ後2

授業コード: BE62200004

担当者: 久永　将太　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校　保健体育)【必修】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 体育実技　　**一般的包括的科目:** ○

授業の目的: 本講義は、自己の身体への関心と体力に応じた課題を持って、体ほぐしの運動を学ぶことを目的とする。

到達目標:
①体ほぐしの運動の意義とそのプログラムや指導方法の習得
②体づくりの運動の意義とそのプログラムや指導方法の習得

各回の授業計画:

1. 体ほぐしの狙いとその基本的なほぐし方の事例と実践
2. 体ほぐし運動1:体の伸展、屈曲、回転、回旋、捻転の運動
3. 体ほぐし運動2:歩、走、跳の全身リズミカル運動(1人運動、2人運動、用具活用)
4. 体力を高める運動1:大きな力を発揮する能力を高めるための運動
5. 体力を高める運動2:スピーディーあるいはパワフルな動きができる能力を高めるための運動
6. 体力を高める運動3:動きを持続する能力を高めるための運動
7. 体力を高める運動4:体の柔らかさを高めるための運動
8. 体力を高める運動5:動きの巧みさを高めるための運動
9. 体力を高める運動6:総合的に体力を高めるための運動
10. グループワーク1:専門運動種目別体ほぐし・体づくり実践
11. グループワーク2:体力・能力別体ほぐし・体づくり実践
12. グループワーク3:身体部位別体ほぐし・体づくり実践
13. 模擬授業指導実践1:中学生想定の場合
14. 模擬授業指導実践2:高校生想定の場合
15. まとめと振り返り

特記事項: なし

授業方法: すべての授業を対面授業で行う。
1～15. 実技

予習・復習・宿題など(内容・時間):

【1回～15回】
予習:模擬授業の組み立てを行う
復習:振り返り(指導方法の習得に向け、毎時間ごとに記録する)

評価方法:

授業へのとりくみ:	70	**%**	**確認テスト:**	－	**%**	**レポート:**	30 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: 最低限度の到達度(60～69点):模擬授業の内容が「気づき・調整・交流」の要素を含んでいる。
望ましい到達度(80～100点):実施内容についての中身がきちんと伝わっている。

課題へのフィードバック:
授業ごとに講評を行う。

教科書: 必要に応じて配布する。

参考書:　　村田芳子・川口啓・山本俊彦・五十嵐淳子編『「体ほぐしの運動」活動アイデア集』(教育出版)

授業・準備学習のアドバイス:

授業への取り組みを重視する。特に教職資格取得希望者は一貫して出席し、体ほぐしの重要性を理解されることが望ましい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: ダンス

クラス: ス前1

授業コード: BE62300001

担当者: 寺井 美津子 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:藤田佳代舞踊研究所教師、兵庫県洋舞家協会個人会員、1988年第1回全国こうべ洋舞コンクール入選

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)【必修】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 体育実技 **一般的包括的科目:** ○

授業の目的: 本講義はダンスの特性を理解し、自己の能力に応じた課題をもって身体表現でき、その指導方法を習得することを目的とする。

到達目標:
1. 創作ダンスの基本的動きを習得し、自己創作したダンスで身体表現できること
2. フォークダンスとして日本及び諸外国の民謡の動きを習得し、身体表現できること
3. 現代的なリズムのダンスとしてロックやヒップポップにあわせリズムと対人との対応の仕方を習得し、身体表現できること
上記3つの目標に加え、各々のダンス指導方法を習得する事も重要な到達目標の一つとする。

各回の授業計画:

1. 創作ダンス1:ダンスの世界:授業概要/表現体、運動体としての身体意識の高め方
2. 創作ダンス2:イメージを動きに(じゃんけんを体で表現しよう)
3. 創作ダンス3: 動きの構成要素(時間性、空間性、力性)を強調した動き・習作1「じゃんけん」
4. 創作ダンス4:動きのモチーフを表す言葉(伸びる、縮む、転がる、跳ぶ、押す、引く等)で動いてみよう
5. 創作ダンス5:題材、テーマの探求・日常の運動から舞踊運動へ・習作2「スポーツをダンスに―スポーツ名場面集」
6. 即興的表現1:ミラーリング・シャドウイングを使って・習作3「新聞紙を使った即興的作品 4コマ漫画ダンス」
7. フォークダンス1:ステップ、フォーメーション、ポジションの習得
8. フォークダンス2:世界各地のフォークダンス・民族舞踊
9. 現代的リズムダンス1:ロック及びヒップホップに合わせたリズムの取り方と動き方・作品制作1、総合的作品の創作1
10. 現代的リズムダンス2:ロック及びヒップホップに合わせて相手との対応の仕方・作品制作2、総合的作品の創作2
11. 現代的リズムダンス作品の制作3、総合的作品の創作3
12. 現代的リズムダンス作品の制作4、総合的作品の創作4
13. 現代的リズムダンス作品の制作5、総合的作品の創作5
14. 総合創作舞台発表会:現代的リズムダンス作品、総合的作品の仕上げ・舞台での動き方の習得
15. 即興的表現2:即興の技術と30秒即興の発表

特記事項: なし

授業方法: すべての授業を対面授業で行う
1. 講義・実技
2. 講義・実技
3. 講義・実技・発表
4. 講義・実技(グループワーク・ディスカッション)
5. 講義・実技(グループワーク)・発表
6. 講義・実技(グループワーク・ディスカッション)・発表
7. 講義・実技
8. 講義・実技・DVD視聴
9. 実技(グループワーク・ディスカッション)
10. 実技(グループワーク・ディスカッション)
11. 実技(グループワーク・ディスカッション)
12. 実技(グループワーク・ディスカッション)
13. 実技(グループワーク・ディスカッション)
14. 発表
15. 実技・発表

予習・復習・宿題など(内容・時間):

予習:YouTube、TikTokなどを視聴し、踊ってみたい振付をチェックする。(各回15分)
復習:毎回のTeams課題は、各授業回のポイントについての回答を求めている。課題に真摯に取り組み提出する。補足内容をフィードバック

しているので、しっかり確認すること。
また、授業で作った振付を忘れないように復習する。
授業中に完成しなかった振りがある場合は、次回までに動きを考える。(各回30分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	− **%**	**レポート:**	20 **%**		
その他1:	総合創作発表(実技到達度・提案力・指導力)	50 **%**					
その他2:		**%**					

評価基準:

1. 毎時の課題に取り組み、身体表現ができる(60～69点)
2. 毎時の課題に積極的に取り組み、独自の身体表現ができる。(70～79点)
3. 上記2に加え、グループワークにおいて、自ら提案し、グループをまとめることができる。(80～100点)

課題へのフィードバック:

毎時Teamsを利用して、授業内容の理解度確認のために提示する課題については、その理解度を点数で表し、フィードバック欄に解説をつけて、返却する。必要があれば、次回授業時に補足説明を行う。
授業で創作した作品を動画撮影し、見ることで、各自が到達度を確認する。
総合発表会を動画撮影し、受講学生が再確認できるようにする。

教科書: なし

参考書: 「舞踊学講義」舞踊教育研究会(代表・片岡康子)編 大修館書店「明日からトライ ダンスの授業」全国ダンス・表現運動授業研究会編 大修館書店「すぐに踊れるフォークダンス」(社)日本フォーク団連盟監修 成美堂出版「学習指導要領 中学校(平成29年告知)高等学校(平成30年告知)保健体育編」

授業・準備学習のアドバイス:

毎時の課題に対するフィードバックを確認し、理解しておくこと。
授業2日前を目途に、Teams投稿欄に、授業内容、必要なものなどを公開するので、必ず確認すること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: ダンス

クラス: ス前2

授業コード: BE62300002

担当者: 寺井 美津子 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:藤田佳代舞踊研究所教師、兵庫県洋舞家協会個人会員、1988年第1回全国こうべ洋舞コンクール入選

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)【必修】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 体育実技 **一般的包括的科目:** ○

授業の目的: 本講義はダンスの特性を理解し、自己の能力に応じた課題をもって身体表現でき、その指導方法を習得することを目的とする。

到達目標:
1. 創作ダンスの基本的動きを習得し、自己創作したダンスで身体表現できること
2. フォークダンスとして日本及び諸外国の民謡の動きを習得し、身体表現できること
3. 現代的なリズムのダンスとしてロックやヒップポップにあわせリズムと対人との対応の仕方を習得し、身体表現できること
上記3つの目標に加え、各々のダンス指導方法を習得する事も重要な到達目標の一つとする。

各回の授業計画:

1. 創作ダンス1:ダンスの世界:授業概要/表現体、運動体としての身体意識の高め方
2. 創作ダンス2:イメージを動きに(じゃんけんを体で表現しよう)
3. 創作ダンス3: 動きの構成要素(時間性、空間性、力性)を強調した動き・習作1「じゃんけん」
4. 創作ダンス4:動きのモチーフを表す言葉(伸びる、縮む、転がる、跳ぶ、押す、引く等)で動いてみよう
5. 創作ダンス5:題材、テーマの探求・日常の運動から舞踊運動へ・習作2「スポーツをダンスにースポーツ名場面集」
6. 即興的表現1:ミラーリング・シャドウイングを使って・習作3「新聞紙を使った即興的作品 4コマ漫画ダンス」
7. フォークダンス1:ステップ、フォーメーション、ポジションの習得
8. フォークダンス2:世界各地のフォークダンス・民族舞踊
9. 現代的リズムダンス1:ロック及びヒップホップに合わせたリズムの取り方と動き方・作品制作1、総合的作品の創作1
10. 現代的リズムダンス2:ロック及びヒップホップに合わせて相手との対応の仕方・作品制作2、総合的作品の創作2
11. 現代的リズムダンス作品の制作3、総合的作品の創作3
12. 現代的リズムダンス作品の制作4、総合的作品の創作4
13. 現代的リズムダンス作品の制作5、総合的作品の創作5
14. 総合創作舞台発表会:現代的リズムダンス作品、総合的作品の仕上げ・舞台での動き方の習得
15. 即興的表現2:即興の技術と30秒即興の発表

特記事項: なし

授業方法: すべての授業を対面授業で行う
1. 講義・実技
2. 講義・実技
3. 講義・実技・発表
4. 講義・実技(グループワーク・ディスカッション)
5. 講義・実技(グループワーク)・発表
6. 講義・実技(グループワーク・ディスカッション)・発表
7. 講義・実技
8. 講義・実技・DVD視聴
9. 実技(グループワーク・ディスカッション)
10. 実技(グループワーク・ディスカッション)
11. 実技(グループワーク・ディスカッション)
12. 実技(グループワーク・ディスカッション)
13. 実技(グループワーク・ディスカッション)
14. 発表
15. 実技・発表

予習・復習・宿題など(内容・時間):

予習:YouTube、TikTokなどを視聴し、踊ってみたい振付をチェックする。(各回15分)
復習:毎回のTeams課題は、各授業回のポイントについての回答を求めている。課題に真摯に取り組み提出する。補足内容をフィードバック

しているので、しっかり確認すること。
また、授業で作った振付を忘れないように復習する。
授業中に完成しなかった振りがある場合は、次回までに動きを考える。(各回30分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	− **%**	**レポート:**	20 **%**
その他1:	総合創作発表(実技到達度・提案力・指導力)	50 **%**			
その他2:		**%**			

評価基準:

1. 毎時の課題に取り組み、身体表現ができる(60～69点)
2. 毎時の課題に積極的に取り組み、独自の身体表現ができる。(70～79点)
3. 上記2に加え、グループワークにおいて、自ら提案し、グループをまとめることができる。(80～100点)

課題へのフィードバック:

毎時Teamsを利用して、授業内容の理解度確認のために提示する課題については、その理解度を点数で表し、フィードバック欄に解説をつけて、返却する。必要があれば、次回授業時に補足説明を行う。
授業で創作した作品を動画撮影し、見ることで、各自が到達度を確認する。
総合発表会を動画撮影し、受講学生が再確認できるようにする。

教科書: なし

参考書: 「舞踊学講義」舞踊教育研究会(代表・片岡康子)編 大修館書店「明日からトライ ダンスの授業」全国ダンス・表現運動授業研究会編 大修館書店「すぐに踊れるフォークダンス」(社)日本フォーク団連盟監修 成美堂出版「学習指導要領 中学校(平成29年告知)高等学校(平成30年告知)保健体育編」

授業・準備学習のアドバイス:

毎時の課題に対するフィードバックを確認し、理解しておくこと。
授業2日前を目途に、Teams投稿欄に、授業内容、必要なものなどを公開するので、必ず確認すること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: ダンス

クラス: ス後1

授業コード: BE62300003

担当者: 寺井 美津子 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:藤田佳代舞踊研究所教師、兵庫県洋舞家協会個人会員、1988年第1回全国こうべ洋舞コンクール入選

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)【必修】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 体育実技 **一般的包括的科目:** ○

授業の目的: 本講義はダンスの特性を理解し、自己の能力に応じた課題をもって身体表現でき、その指導方法を習得することを目的とする。

到達目標:
1. 創作ダンスの基本的動きを習得し、自己創作したダンスで身体表現できること
2. フォークダンスとして日本及び諸外国の民謡の動きを習得し、身体表現できること
3. 現代的なリズムのダンスとしてロックやヒップポップにあわせリズムと対人との対応の仕方を習得し、身体表現できること
上記3つの目標に加え、各々のダンス指導方法を習得する事も重要な到達目標の一つとする。

各回の授業計画:

1. 創作ダンス1:ダンスの世界:授業概要/表現体、運動体としての身体意識の高め方
2. 創作ダンス2:イメージを動きに(じゃんけんを体で表現しよう)
3. 創作ダンス3: 動きの構成要素(時間性、空間性、力性)を強調した動き・習作1「じゃんけん」
4. 創作ダンス4:動きのモチーフを表す言葉(伸びる、縮む、転がる、跳ぶ、押す、引く等)で動いてみよう
5. 創作ダンス5:題材、テーマの探求・日常の運動から舞踊運動へ・習作2「スポーツをダンスに―スポーツ名場面集」
6. 即興的表現1:ミラーリング・シャドウイングを使って・習作3「新聞紙を使った即興的作品 4コマ漫画ダンス」
7. フォークダンス1:ステップ、フォーメーション、ポジションの習得
8. フォークダンス2:世界各地のフォークダンス・民族舞踊
9. 現代的リズムダンス1:ロック及びヒップホップに合わせたリズムの取り方と動き方・作品制作1、総合的作品の創作1
10. 現代的リズムダンス2:ロック及びヒップホップに合わせて相手との対応の仕方・作品制作2、総合的作品の創作2
11. 現代的リズムダンス作品の制作3、総合的作品の創作3
12. 現代的リズムダンス作品の制作4、総合的作品の創作4
13. 現代的リズムダンス作品の制作5、総合的作品の創作5
14. 総合創作舞台発表会:現代的リズムダンス作品、総合的作品の仕上げ・舞台での動き方の習得
15. 即興的表現2:即興の技術と30秒即興の発表

特記事項: なし

授業方法: すべての授業を対面授業で行う
1. 講義・実技
2. 講義・実技
3. 講義・実技・発表
4. 講義・実技(グループワーク・ディスカッション)
5. 講義・実技(グループワーク)・発表
6. 講義・実技(グループワーク・ディスカッション)・発表
7. 講義・実技
8. 講義・実技・DVD視聴
9. 実技(グループワーク・ディスカッション)
10. 実技(グループワーク・ディスカッション)
11. 実技(グループワーク・ディスカッション)
12. 実技(グループワーク・ディスカッション)
13. 実技(グループワーク・ディスカッション)
14. 発表
15. 実技・発表

予習・復習・宿題など(内容・時間):

予習:YouTube、TikTokなどを視聴し、踊ってみたい振付をチェックする。(各回15分)
復習:毎回のTeams課題は、各授業回のポイントについての回答を求めている。課題に真摯に取り組み提出する。補足内容をフィードバック

しているので、しっかり確認すること。
また、授業で作った振付を忘れないように復習する。
授業中に完成しなかった振りがある場合は、次回までに動きを考える。(各回30分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	30	**%**	**確認テスト:**	−	**%**	**レポート:**	20 **%**
その他1:	総合創作発表(実技到達度・提案力・指導力)	50	**%**				
その他2:			**%**				

評価基準:

1. 毎時の課題に取り組み、身体表現ができる(60～69点)
2. 毎時の課題に積極的に取り組み、独自の身体表現ができる。(70～79点)
3. 上記2に加え、グループワークにおいて、自ら提案し、グループをまとめることができる。(80～100点)

課題へのフィードバック:

毎時Teamsを利用して、授業内容の理解度確認のために提示する課題については、その理解度を点数で表し、フィードバック欄に解説をつけて、返却する。必要があれば、次回授業時に補足説明を行う。
授業で創作した作品を動画撮影し、見ることで、各自が到達度を確認する。
総合発表会を動画撮影し、受講学生が再確認できるようにする。

教科書: なし

参考書: 「舞踊学講義」舞踊教育研究会(代表・片岡康子)編 大修館書店「明日からトライ ダンスの授業」全国ダンス・表現運動授業研究会編 大修館書店「すぐに踊れるフォークダンス」(社)日本フォーク団連盟監修 成美堂出版「学習指導要領 中学校(平成29年告知)高等学校(平成30年告知)保健体育編」

授業・準備学習のアドバイス:

毎時の課題に対するフィードバックを確認し、理解しておくこと。
授業2日前を目途に、Teams投稿欄に、授業内容、必要なものなどを公開するので、必ず確認すること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: ダンス

クラス: ス後2

授業コード: BE62300004

担当者: 寺井 美津子 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:藤田佳代舞踊研究所教師、兵庫県洋舞家協会個人会員、1988年第1回全国こうべ洋舞コンクール入選

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)【必修】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 体育実技 **一般的包括的科目:** ○

授業の目的: 本講義はダンスの特性を理解し、自己の能力に応じた課題をもって身体表現でき、その指導方法を習得することを目的とする。

到達目標:
1. 創作ダンスの基本的動きを習得し、自己創作したダンスで身体表現できること
2. フォークダンスとして日本及び諸外国の民謡の動きを習得し、身体表現できること
3. 現代的なリズムのダンスとしてロックやヒップポップにあわせリズムと対人との対応の仕方を習得し、身体表現できること
上記3つの目標に加え、各々のダンス指導方法を習得する事も重要な到達目標の一つとする。

各回の授業計画:

1. 創作ダンス1:ダンスの世界:授業概要/表現体、運動体としての身体意識の高め方
2. 創作ダンス2:イメージを動きに(じゃんけんを体で表現しよう)
3. 創作ダンス3: 動きの構成要素(時間性、空間性、力性)を強調した動き・習作1「じゃんけん」
4. 創作ダンス4:動きのモチーフを表す言葉(伸びる、縮む、転がる、跳ぶ、押す、引く等)で動いてみよう
5. 創作ダンス5:題材、テーマの探求・日常の運動から舞踊運動へ・習作2「スポーツをダンスに―スポーツ名場面集」
6. 即興的表現1:ミラーリング・シャドウイングを使って・習作3「新聞紙を使った即興的作品 4コマ漫画ダンス」
7. フォークダンス1:ステップ、フォーメーション、ポジションの習得
8. フォークダンス2:世界各地のフォークダンス・民族舞踊
9. 現代的リズムダンス1:ロック及びヒップホップに合わせたリズムの取り方と動き方・作品制作1、総合的作品の創作1
10. 現代的リズムダンス2:ロック及びヒップホップに合わせて相手との対応の仕方・作品制作2、総合的作品の創作2
11. 現代的リズムダンス作品の制作3、総合的作品の創作3
12. 現代的リズムダンス作品の制作4、総合的作品の創作4
13. 現代的リズムダンス作品の制作5、総合的作品の創作5
14. 総合創作舞台発表会:現代的リズムダンス作品、総合的作品の仕上げ・舞台での動き方の習得
15. 即興的表現2:即興の技術と30秒即興の発表

特記事項: なし

授業方法: すべての授業を対面授業で行う
1. 講義・実技
2. 講義・実技
3. 講義・実技・発表
4. 講義・実技(グループワーク・ディスカッション)
5. 講義・実技(グループワーク)・発表
6. 講義・実技(グループワーク・ディスカッション)・発表
7. 講義・実技
8. 講義・実技・DVD視聴
9. 実技(グループワーク・ディスカッション)
10. 実技(グループワーク・ディスカッション)
11. 実技(グループワーク・ディスカッション)
12. 実技(グループワーク・ディスカッション)
13. 実技(グループワーク・ディスカッション)
14. 発表
15. 実技・発表

予習・復習・宿題など(内容・時間):

予習:YouTube、TikTokなどを視聴し、踊ってみたい振付をチェックする。(各回15分)
復習:毎回のTeams課題は、各授業回のポイントについての回答を求めている。課題に真摯に取り組み提出する。補足内容をフィードバック

しているので、しっかり確認すること。
また、授業で作った振付を忘れないように復習する。
授業中に完成しなかった振りがある場合は、次回までに動きを考える。(各回30分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	− **%**	**レポート:**	20 **%**
その他1:	総合創作発表(実技到達度・提案力・指導力)	50 **%**			
その他2:		**%**			

評価基準:

1. 毎時の課題に取り組み、身体表現ができる(60～69点)
2. 毎時の課題に積極的に取り組み、独自の身体表現ができる。(70～79点)
3. 上記2に加え、グループワークにおいて、自ら提案し、グループをまとめることができる。(80～100点)

課題へのフィードバック:

毎時Teamsを利用して、授業内容の理解度確認のために提示する課題については、その理解度を点数で表し、フィードバック欄に解説をつけて、返却する。必要があれば、次回授業時に補足説明を行う。
授業で創作した作品を動画撮影し、見ることで、各自が到達度を確認する。
総合発表会を動画撮影し、受講学生が再確認できるようにする。

教科書: なし

参考書: 「舞踊学講義」舞踊教育研究会(代表・片岡康子)編 大修館書店「明日からトライ ダンスの授業」全国ダンス・表現運動授業研究会編 大修館書店「すぐに踊れるフォークダンス」(社)日本フォーク団連盟監修 成美堂出版「学習指導要領 中学校(平成29年告知)高等学校(平成30年告知)保健体育編」

授業・準備学習のアドバイス:

毎時の課題に対するフィードバックを確認し、理解しておくこと。
授業2日前を目途に、Teams投稿欄に、授業内容、必要なものなどを公開するので、必ず確認すること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 器械運動

クラス: ス男子前

授業コード: BE62400001

担当者: 久永 将太 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)【必修】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 体育実技 **一般的包括的科目:** ○

授業の目的: 器械運動の特性を理解し、技の習得と円滑実践、また段階的指導の方法を身につける。

到達目標:
①技の習得
②技の円滑実践
③指導方法の習得

各回の授業計画:

1. 器械運動に必要なストレッチ(怪我予防・美しい姿勢づくり)
2. マット運動 基本習得1:回転系接転技習得
3. マット運動 基本習得2:回転系ほん転技習得
4. マット運動 基本習得3:技巧系平均立ち技習得
5. マット運動 基本習得4:技巧系支持技習得
6. 跳び箱運動 基本習得1:切り返し系技習得
7. 跳び箱運動 基本習得2:切り返し系技習得
8. 跳び箱運動 基本習得3:回転系技習得
9. 跳び箱運動 基本習得4:回転系技習得
10. 鉄棒運動 基本習得1:前方支持回転技習得
11. 鉄棒運動 基本習得2:後方支持回転技習得
12. 鉄棒運動 基本習得3:懸垂技習得
13. 平均台運動 基本習得1:体操系技習得
14. 平均台運動 基本習得2:バランス系技習得
15. まとめと総括

特記事項: 適時確認テスト実施

授業方法: すべての授業を対面授業で行う。
1～15:実技

予習・復習・宿題など(内容・時間):

【1回～15回】
予習:技を円滑に行うため、さらに怪我防止のためにストレッチを行う(各回15分)
復習:技の構造や段階を追った練習方法、さらに、その技を習得するためのコツなどを毎時間ごとに記録する(各回30分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	40	**%**	**確認テスト:**	30	**%**	**レポート:**	30 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: 最低限の到達度(60～69点);
マット・跳び箱・鉄棒・平均台の各種目において、課題の技を習得することができる。

望ましい到達度(80～100点);
マット・跳び箱・鉄棒・平均台の各種目において、課題の技が円滑に実施でき、さらに発展系の技にも取り組むことができる。

課題へのフィードバック:

各課題の実施時に評価や助言を受講者にフィードバックする。

教科書: 必要に応じて配布する。

参考書: 『器械運動の授業づくり』高橋健夫、三木四郎、長野淳次郎、三上肇 編著 大修館書店
『教師のための器械運動指導法シリーズ1 とび箱・平均台運動』金子明友 著 大修館書店
『教師のための器械運動指導法シリーズ2 マット運動』金子明友 著 大修館書店

授業・準備学習のアドバイス:

学校体育の重要性を見つめ直し、将来皆さんが教員や各種指導員等になった際、正しく安全に指導ができるよう、学んでいきましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 器械運動

クラス: ス女子前

授業コード: BE62400002

担当者: 寺田 智子 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)【必修】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 体育実技 **一般的包括的科目:** ○

授業の目的: 器械運動の特性を理解し、技の習得と円滑実践、また段階的指導の方法を身につける。

到達目標:
①技の習得
②技の円滑実践
③指導方法の習得

各回の授業計画:

1. 器械運動に必要なストレッチ(怪我予防・美しい姿勢づくり)
2. マット運動 基本習得1:回転系接転技習得
3. マット運動 基本習得2:回転系ほん転技習得
4. マット運動 基本習得3:技巧系平均立ち技習得
5. マット運動 基本習得4:技巧系支持技習得
6. 跳び箱運動 基本習得1:切り返し系技習得
7. 跳び箱運動 基本習得2:切り返し系技習得
8. 跳び箱運動 基本習得3:回転系技習得
9. 跳び箱運動 基本習得4:回転系技習得
10. 鉄棒運動 基本習得1:前方支持回転技習得
11. 鉄棒運動 基本習得2:後方支持回転技習得
12. 鉄棒運動 基本習得3:懸垂技習得
13. 平均台運動 基本習得1:体操系技習得
14. 平均台運動 基本習得2:バランス系技習得
15. まとめと総括

特記事項: 適時確認テスト実施

授業方法: すべての授業を対面授業で行う。
1～15:実技

予習・復習・宿題など(内容・時間):

【1回～15回】
予習:技を円滑に行うため、さらに怪我防止のためにストレッチを行う(各回15分)
復習:技の構造や段階を追った練習方法、さらに、その技を習得するためのコツなどを毎時間ごとに記録する(各回30分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	40	**%**	**確認テスト:**	30	**%**	**レポート:**	30 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: 最低限の到達度(60～69点);
マット・跳び箱・鉄棒・平均台の各種目において、課題の技を習得することができる。

望ましい到達度(80～100点);
マット・跳び箱・鉄棒・平均台の各種目において、課題の技が円滑に実施でき、さらに発展系の技にも取り組むことができる。

課題へのフィードバック:

各課題の実施時に評価や助言を受講者にフィードバックする。

教科書: 必要に応じて配布する。

参考書: 『器械運動の授業づくり』高橋健夫、三木四郎、長野淳次郎、三上肇 編著 大修館書店
『教師のための器械運動指導法シリーズ1 とび箱・平均台運動』金子明友 著 大修館書店
『教師のための器械運動指導法シリーズ2 マット運動』金子明友 著 大修館書店

授業・準備学習のアドバイス:

学校体育の重要性を見つめ直し、将来皆さんが教員や各種指導員等になった際、正しく安全に指導ができるよう、学んでいきましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 器械運動

クラス: ス男子後

授業コード: BE62400003

担当者: 久永 将太 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)【必修】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 体育実技 **一般的包括的科目:** ○

授業の目的: 器械運動の特性を理解し、技の習得と円滑実践、また段階的指導の方法を身につける。

到達目標:
①技の習得
②技の円滑実践
③指導方法の習得

各回の授業計画:

1. 器械運動に必要なストレッチ(怪我予防・美しい姿勢づくり)
2. マット運動 基本習得1:回転系接転技習得
3. マット運動 基本習得2:回転系ほん転技習得
4. マット運動 基本習得3:技巧系平均立ち技習得
5. マット運動 基本習得4:技巧系支持技習得
6. 跳び箱運動 基本習得1:切り返し系技習得
7. 跳び箱運動 基本習得2:切り返し系技習得
8. 跳び箱運動 基本習得3:回転系技習得
9. 跳び箱運動 基本習得4:回転系技習得
10. 鉄棒運動 基本習得1:前方支持回転技習得
11. 鉄棒運動 基本習得2:後方支持回転技習得
12. 鉄棒運動 基本習得3:懸垂技習得
13. 平均台運動 基本習得1:体操系技習得
14. 平均台運動 基本習得2:バランス系技習得
15. まとめと総括

特記事項: 適時確認テスト実施

授業方法: すべての授業を対面授業で行う。
1～15:実技

予習・復習・宿題など(内容・時間):

【1回～15回】
予習:技を円滑に行うため、さらに怪我防止のためにストレッチを行う(各回15分)
復習:技の構造や段階を追った練習方法、さらに、その技を習得するためのコツなどを毎時間ごとに記録する(各回30分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	40	**%**	**確認テスト:**	30	**%**	**レポート:**	30 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: 最低限の到達度(60～69点);
マット・跳び箱・鉄棒・平均台の各種目において、課題の技を習得することができる。

望ましい到達度(80～100点);
マット・跳び箱・鉄棒・平均台の各種目において、課題の技が円滑に実施でき、さらに発展系の技にも取り組むことができる。

課題へのフィードバック:

各課題の実施時に評価や助言を受講者にフィードバックする。

教科書: 必要に応じて配布する。

参考書: 『器械運動の授業づくり』高橋健夫、三木四郎、長野淳次郎、三上肇 編著 大修館書店
『教師のための器械運動指導法シリーズ1 とび箱・平均台運動』金子明友 著 大修館書店
『教師のための器械運動指導法シリーズ2 マット運動』金子明友 著 大修館書店

授業・準備学習のアドバイス:

学校体育の重要性を見つめ直し、将来皆さんが教員や各種指導員等になった際、正しく安全に指導ができるよう、学んでいきましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 器械運動

クラス: ｽ女子後

授業コード: BE62400004

担当者: 寺田 智子 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)【必修】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 体育実技 **一般的包括的科目:** ○

授業の目的: 器械運動の特性を理解し、技の習得と円滑実践、また段階的指導の方法を身につける。

到達目標:
①技の習得
②技の円滑実践
③指導方法の習得

各回の授業計画:

1. 器械運動に必要なストレッチ(怪我予防・美しい姿勢づくり)
2. マット運動 基本習得1:回転系接転技習得
3. マット運動 基本習得2:回転系ほん転技習得
4. マット運動 基本習得3:技巧系平均立ち技習得
5. マット運動 基本習得4:技巧系支持技習得
6. 跳び箱運動 基本習得1:切り返し系技習得
7. 跳び箱運動 基本習得2:切り返し系技習得
8. 跳び箱運動 基本習得3:回転系技習得
9. 跳び箱運動 基本習得4:回転系技習得
10. 鉄棒運動 基本習得1:前方支持回転技習得
11. 鉄棒運動 基本習得2:後方支持回転技習得
12. 鉄棒運動 基本習得3:懸垂技習得
13. 平均台運動 基本習得1:体操系技習得
14. 平均台運動 基本習得2:バランス系技習得
15. まとめと総括

特記事項: 適時確認テスト実施

授業方法: すべての授業を対面授業で行う。
1～15:実技

予習・復習・宿題など(内容・時間):

【1回～15回】
予習:技を円滑に行うため、さらに怪我防止のためにストレッチを行う(各回15分)
復習:技の構造や段階を追った練習方法、さらに、その技を習得するためのコツなどを毎時間ごとに記録する(各回30分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	40	**%**	**確認テスト:**	30	**%**	**レポート:**	30 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: 最低限の到達度(60～69点);
マット・跳び箱・鉄棒・平均台の各種目において、課題の技を習得することができる。

望ましい到達度(80～100点);
マット・跳び箱・鉄棒・平均台の各種目において、課題の技が円滑に実施でき、さらに発展系の技にも取り組むことができる。

課題へのフィードバック:

各課題の実施時に評価や助言を受講者にフィードバックする。

教科書: 必要に応じて配布する。

参考書: 『器械運動の授業づくり』高橋健夫、三木四郎、長野淳次郎、三上肇 編著 大修館書店
『教師のための器械運動指導法シリーズ1 とび箱・平均台運動』金子明友 著 大修館書店
『教師のための器械運動指導法シリーズ2 マット運動』金子明友 著 大修館書店

授業・準備学習のアドバイス:

学校体育の重要性を見つめ直し、将来皆さんが教員や各種指導員等になった際、正しく安全に指導ができるよう、学んでいきましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 陸上運動

クラス: ｽ女子前

授業コード: BE62500001

担当者: 村木 有也 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)【必修】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 体育実技 **一般的包括的科目:** ○

授業の目的: 本講義では、陸上運動(陸上競技)全般にわたっての基礎的技術習得と指導方法について実践学習することを目的とする。

到達目標:
1. 走・跳・投種目における基礎技術と指導方法を体得する。
2. 健康ウォーキング・ジョギングの実際と指導方法を理解する。
3. パラスポーツの理解を深める。
4. 障がい者の走・跳・投の指導方法を理解する。

各回の授業計画:

1. 陸上運動(陸上競技)の概要
※ガイダンス
2. 短距離走の基礎技術
3. 短距離走の指導方法
4. ハードル走の基礎技術
5. ハードル走の指導方法
6. 跳躍種目の基礎技術
※走り幅跳び
7. 跳躍種目の指導方法
※走り幅跳び
8. 投擲種目の基礎技術
※やり投げ(ジャベリックスロー)
9. 投擲種目の指導方法
※やり投げ(ジャベリックスロー)
10. 記録測定方法の学習, 記録測定の実践(1)
11. 記録測定方法の学習, 記録測定の実践(2)
12. 健康ウォーキング・ジョギングの実際と指導方法
13. 障がい者のための短距離指導 ※1
14. 障がい者のための跳躍指導 ※1
15. 障がい者のための投擲指導 ※1

特記事項:
※ 適時確認テスト(実技と指導方法)実施
※ 各種目の基礎技術においてコーディネーション能力等の体力要素を高める運動を含む
※ 健康ウォーキング・ジョギングでは以下の点の実践修得を目指す

＜健康運動実践指導者・パラスポーツ指導員＞
※ 陸上運動では、以下の点にも留意しながら授業を展開する。

健康の保持・増進を目的とした日常的に行う代表的な運動の実践と集団への指導方法を学び、多くの人が安全で効果的に楽しく継続できるように導くことができる。

【授業計画12】
1)ウォーキングとジョギングのそれぞれの特性を理解し、両者の違いについて説明できる。
2)ウォーキングやジョギングにより期待される健康効果について説明できる。
3)健康づくりに必要なウォーキングやジョギングの目標時間、頻度について説明できる。
4)一般的なウォーキング速度(運動強度:「ゆっくり歩き」「普通歩き」「速歩」)やジョギング速度の調節の仕方を教示でき、健康づくりに有効で安全な運動強度を指導できる。
5)ウォーキングとジョギングの基本的フォームを習得し、個人に合った正しいフォームでの快適なウォーキングやジョギングが実践できるようサポートができる。

6)ウォーキングやジョギングを安全に行うための運動前、運動中、運動後の健康管理、注意事項(水分補給を含む)について喚起できる。
7)至適運動強度の指標としての心拍数の正しい測り方やRPEの利用について、実践と指導ができる。
8)ウォーキングやジョギングによって起こりうる傷害を理解し、ツールとしてのシューズや環境に応じた服装選択のアドバイスができる。
9)ウォーキングやジョギングに適したウォームアップ、クールダウンをプログラミングし、指導することができる。
10)安全にウォーキングやジョギングを行うためのコース選択の視点について説明できる。

【授業計画13～15】

・障がい者指導
※1では、全国障害者スポーツ大会実施競技の実技(陸上運動)を通して、その競技規則や指導法など、選手団コーチとして必要な知識・技能を学ぶ。
1)初心者への導入方法および留意点

授業方法: 以下、原則として全ての授業を対面授業で行う:
1. 講義、実習
2. 実習、グループワーク
3. 実習、グループワーク
4. 実習、グループワーク
5. 実習、グループワーク
6. 実習、グループワーク
7. 実習、グループワーク
8. 実習、グループワーク
9. 実習、グループワーク
10. 実習、グループワーク
11. 実習、グループワーク
12. 実習、グループワーク
13. 実習、グループワーク
14. 実習、グループワーク
15. 実習、グループワーク

予習・復習・宿題など(内容・時間):

【15回分共通】
・教科書や参考書、インターネット上の資料や動画など、よく見て、調べておくこと(予習＆復習)
・普段からよく体を動かしておくこと(ストレッチやウォーキング＆ジョギングなど)。また、個人によって慣れていない運動、動きであったり、負荷が高く感じる場合があります、授業後には体のケアをしておくこと(予習45分および復習45分)
・授業の最後に総括となるレポートを提出してもらいます。毎回、内容を振り返りまとめておくとともに、授業に関連する事項(教科書や参考書、インターネット上の資料や動画など)をよく調べておくこと(予習30分および復習60分)
※ 参考となるなと感じた情報源についてはしっかりメモを残しておくようにしましょう(図書名やURLなど)

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	50 **%**	**レポート:**	20 **%**
その他1:			**%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 授業を通して、基本的な走(歩)・跳・投運動に関する基礎技術や知識、指導方法を理解し、健常者・障害者へ模範実技指導ができるようになることが重要です。

(1)授業への取り組み
・よく話を聞き、他者と協力して課題に取り組むことができる(60～69点)
・課題解決に向けて、自分で考え、工夫して取り組むことができる(70～79点)
・相互に観察し合い、アドバイスすることができる(80～100点)

(2)確認テスト(実技テスト)
・陸上競技に関連付けた短距離・ハードル・跳躍・投擲種目を実践することができる(60～69点)
・上記の各種目における基礎的技術を理解し、実践することができる(70～79点)
・より上位の記録に挑戦することができる(80～100点)

(3)レポート
・ 走・跳・投運動(種目)の基礎技術・知識について理解し、指導方法について考えることができる(60～69点)
・上記に加え、健康ウォーキング・ジョギング実践のための基礎技術・知識について理解し、指導方法について考えることができる(70～79点)
・上記に加え、障がい者の走・跳・投運動(種目)の基礎知識について理解し、指導方法について考えることができる(80～100点)

課題へのフィードバック:

・授業内で適宜、フィードバックを行う。

教科書: なし

参考書:

・楽しいキッズの陸上競技（陸上競技指導教本アンダー13）
・基礎から身につく陸上競技初級編（陸上競技指導教本アンダー16・19）
・陸上競技コーチングブック
・ジュニア陸上競技メソッド―高校トレーニング方式－（第7版）
※その他については適宜アナウンスをする

・陸上競技ルールブック
・陸上競技審判ハンドブック
・中学校部活動における陸上競技指導の手引き
※以上、日本陸上競技連盟のホームページよりPDFファイルのダウンロードが可能

・中学校および高等学校指導要領およびその解説
※文部科学省のホームページよりPDFファイルのダウンロードが可能

授業・準備学習のアドバイス:

・授業計画は受講生、状況等に応じて変更する可能性がある（例：雨天時の場合、急遽室内での実習または教室での座学に変更して対応する等）。
・積極的な授業態度で臨むことが原則である（例：よく話を聞く、よく質問する、真剣に課題に取り組む、相互に観察してアドバイスし合う）。
・実技の授業であるため、遅刻（ウォーミングアップに参加できない）、欠席はしないように普段の生活習慣から気を付けること。
・授業では運動に適した服装等で、ランニングシューズを履くこと（その他、授業におけるルール、例として「スマートフォンの利用」、「アクセサリーの着用」等については初回授業時に説明する）。秋学期開講のため、季節柄、防寒対策をしっかりと行うこと。
・授業内容に関して、個人によって慣れない運動・動きを実践したり、負荷が高く感じる場合があるため、普段からよく体を動かして、授業後は体のケアをするようにすること。
・授業の最後にレポート提出が控えている。毎回、内容を振り返りまとめておくとともに、授業に関連する事項をよく調べておくようにすること。
・諸連絡、実技に関する試験、レポート提出等は基本的に授業内で行う。
・実技を伴うため、授業への参加が難しい場合は都度要相談とする。

【資格取得における必修科目】
・中高保健体育教員免許
・健康運動実践指導者
・日本パラスポーツ協会公認パラスポーツ指導員（初級・中級）

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 陸上運動

クラス: ｽ女子後

授業コード: BE62500002

担当者: 村木 有也 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)【必修】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 体育実技 **一般的包括的科目:** ○

授業の目的: 本講義では、陸上運動(陸上競技)全般にわたっての基礎的技術習得と指導方法について実践学習することを目的とする。

到達目標:
1. 走・跳・投種目における基礎技術と指導方法を体得する。
2. 健康ウォーキング・ジョギングの実際と指導方法を理解する。
3. パラスポーツの理解を深める。
4. 障がい者の走・跳・投の指導方法を理解する。

各回の授業計画:

1. 陸上運動(陸上競技)の概要
※ガイダンス
2. 短距離走の基礎技術
3. 短距離走の指導方法
4. ハードル走の基礎技術
5. ハードル走の指導方法
6. 跳躍種目の基礎技術
※走り幅跳び
7. 跳躍種目の指導方法
※走り幅跳び
8. 投擲種目の基礎技術
※やり投げ(ジャベリックスロー)
9. 投擲種目の指導方法
※やり投げ(ジャベリックスロー)
10. 記録測定方法の学習, 記録測定の実践(1)
11. 記録測定方法の学習, 記録測定の実践(2)
12. 健康ウォーキング・ジョギングの実際と指導方法
13. 障がい者のための短距離指導 ※1
14. 障がい者のための跳躍指導 ※1
15. 障がい者のための投擲指導 ※1

特記事項:
※ 適時確認テスト(実技と指導方法)実施
※ 各種目の基礎技術においてコーディネーション能力等の体力要素を高める運動を含む
※ 健康ウォーキング・ジョギングでは以下の点の実践修得を目指す

＜健康運動実践指導者・パラスポーツ指導員＞
※ 陸上運動では、以下の点にも留意しながら授業を展開する。

健康の保持・増進を目的とした日常的に行う代表的な運動の実践と集団への指導方法を学び、多くの人が安全で効果的に楽しく継続できるように導くことができる。

【授業計画12】
1)ウォーキングとジョギングのそれぞれの特性を理解し、両者の違いについて説明できる。
2)ウォーキングやジョギングにより期待される健康効果について説明できる。
3)健康づくりに必要なウォーキングやジョギングの目標時間、頻度について説明できる。
4)一般的なウォーキング速度(運動強度:「ゆっくり歩き」「普通歩き」「速歩」)やジョギング速度の調節の仕方を教示でき、健康づくりに有効で安全な運動強度を指導できる。
5)ウォーキングとジョギングの基本的フォームを習得し、個人に合った正しいフォームでの快適なウォーキングやジョギングが実践できるようサポートができる。

6)ウォーキングやジョギングを安全に行うための運動前、運動中、運動後の健康管理、注意事項(水分補給を含む)について喚起できる。
7)至適運動強度の指標としての心拍数の正しい測り方やRPEの利用について、実践と指導ができる。
8)ウォーキングやジョギングによって起こりうる傷害を理解し、ツールとしてのシューズや環境に応じた服装選択のアドバイスができる。
9)ウォーキングやジョギングに適したウォームアップ、クールダウンをプログラミングし、指導することができる。
10)安全にウォーキングやジョギングを行うためのコース選択の視点について説明できる。

【授業計画13～15】

・障がい者指導
※1では、全国障害者スポーツ大会実施競技の実技(陸上運動)を通して、その競技規則や指導法など、選手団コーチとして必要な知識・技能を学ぶ。
1)初心者への導入方法および留意点

授業方法: 以下、原則として全ての授業を対面授業で行う:
1. 講義、実習
2. 実習、グループワーク
3. 実習、グループワーク
4. 実習、グループワーク
5. 実習、グループワーク
6. 実習、グループワーク
7. 実習、グループワーク
8. 実習、グループワーク
9. 実習、グループワーク
10. 実習、グループワーク
11. 実習、グループワーク
12. 実習、グループワーク
13. 実習、グループワーク
14. 実習、グループワーク
15. 実習、グループワーク

予習・復習・宿題など(内容・時間):

【15回分共通】
・教科書や参考書、インターネット上の資料や動画など、よく見て、調べておくこと(予習＆復習)
・普段からよく体を動かしておくこと(ストレッチやウォーキング＆ジョギングなど)。また、個人によって慣れていない運動、動きであったり、負荷が高く感じる場合があります、授業後には体のケアをしておくこと(予習45分および復習45分)
・授業の最後に総括となるレポートを提出してもらいます。毎回、内容を振り返りまとめておくとともに、授業に関連する事項(教科書や参考書、インターネット上の資料や動画など)をよく調べておくこと(予習30分および復習60分)
※ 参考となるなと感じた情報源についてはしっかりメモを残しておくようにしましょう(図書名やURLなど)

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	50 **%**	**レポート:**	20 **%**
その他1:			**%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 授業を通して、基本的な走(歩)・跳・投運動に関する基礎技術や知識、指導方法を理解し、健常者・障害者へ模範実技指導ができるようになることが重要です。

(1)授業への取り組み
・よく話を聞き、他者と協力して課題に取り組むことができる(60～69点)
・課題解決に向けて、自分で考え、工夫して取り組むことができる(70～79点)
・相互に観察し合い、アドバイスすることができる(80～100点)

(2)確認テスト(実技テスト)
・陸上競技に関連付けた短距離・ハードル・跳躍・投擲種目を実践することができる(60～69点)
・上記の各種目における基礎的技術を理解し、実践することができる(70～79点)
・より上位の記録に挑戦することができる(80～100点)

(3)レポート
・ 走・跳・投運動(種目)の基礎技術・知識について理解し、指導方法について考えることができる(60～69点)
・上記に加え、健康ウォーキング・ジョギング実践のための基礎技術・知識について理解し、指導方法について考えることができる(70～79点)
・上記に加え、障がい者の走・跳・投運動(種目)の基礎知識について理解し、指導方法について考えることができる(80～100点)

課題へのフィードバック:

・授業内で適宜、フィードバックを行う。

教科書: なし

参考書:

・楽しいキッズの陸上競技（陸上競技指導教本アンダー13）
・基礎から身につく陸上競技初級編（陸上競技指導教本アンダー16・19）
・陸上競技コーチングブック
・ジュニア陸上競技メソッド―高校トレーニング方式－（第7版）
※その他については適宜アナウンスをする

・陸上競技ルールブック
・陸上競技審判ハンドブック
・中学校部活動における陸上競技指導の手引き
※以上、日本陸上競技連盟のホームページよりPDFファイルのダウンロードが可能

・中学校および高等学校指導要領およびその解説
※文部科学省のホームページよりPDFファイルのダウンロードが可能

授業・準備学習のアドバイス:

・授業計画は受講生、状況等に応じて変更する可能性がある（例：雨天時の場合、急遽室内での実習または教室での座学に変更して対応する等）。
・積極的な授業態度で臨むことが原則である（例：よく話を聞く、よく質問する、真剣に課題に取り組む、相互に観察してアドバイスし合う）。
・実技の授業であるため、遅刻（ウォーミングアップに参加できない）、欠席はしないように普段の生活習慣から気を付けること。
・授業では運動に適した服装等で、ランニングシューズを履くこと（その他、授業におけるルール、例として「スマートフォンの利用」、「アクセサリーの着用」等については初回授業時に説明する）。秋学期開講のため、季節柄、防寒対策をしっかりと行うこと。
・授業内容に関して、個人によって慣れない運動・動きを実践したり、負荷が高く感じる場合があるため、普段からよく体を動かして、授業後は体のケアをするようにすること。
・授業の最後にレポート提出が控えている。毎回、内容を振り返りまとめておくとともに、授業に関連する事項をよく調べておくようにすること。
・諸連絡、実技に関する試験、レポート提出等は基本的に授業内で行う。
・実技を伴うため、授業への参加が難しい場合は都度要相談とする。

【資格取得における必修科目】
・中高保健体育教員免許
・健康運動実践指導者
・日本パラスポーツ協会公認パラスポーツ指導員（初級・中級）

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 陸上運動

クラス: ス男子前

授業コード: BE62500003

担当者: 野口 研治 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)【必修】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 体育実技 **一般的包括的科目:** ○

授業の目的: 本講義では、陸上運動(陸上競技)全般にわたっての基礎的技術習得と指導方法について実践学習することを目的とする。

到達目標:
1. 走・跳・投種目における基礎技術と指導方法を体得する。
2. 健康ウォーキング・ジョギングの実際と指導方法を理解する。
3. パラスポーツの理解を深める。
4. 障がい者の走・跳・投の指導方法を理解する。

各回の授業計画:

1. 陸上運動(陸上競技)の概要
※ガイダンス
2. 短距離走の基礎技術
3. 短距離走の指導方法
4. ハードル走の基礎技術
5. ハードル走の指導方法
6. 跳躍種目の基礎技術
※走り幅跳び
7. 跳躍種目の指導方法
※走り幅跳び
8. 投擲種目の基礎技術
※やり投げ(ジャベリックスロー)
9. 投擲種目の指導方法
※やり投げ(ジャベリックスロー)
10. 記録測定方法の学習, 記録測定の実践(1)
11. 記録測定方法の学習, 記録測定の実践(2)
12. 健康ウォーキング・ジョギングの実際と指導方法
13. 障がい者のための短距離指導 ※1
14. 障がい者のための跳躍指導 ※1
15. 障がい者のための投擲指導 ※1

特記事項: ※ 適時確認テスト(実技と指導方法)実施
※ 各種目の基礎技術においてコーディネーション能力等の体力要素を高める運動を含む
※ 健康ウォーキング・ジョギングでは以下の点の実践修得を目指す

＜健康運動実践指導者・パラスポーツ指導員＞
※ 陸上運動では、以下の点にも留意しながら授業を展開する。

健康の保持・増進を目的とした日常的に行う代表的な運動の実践と集団への指導方法を学び、多くの人が安全で効果的に楽しく継続できるように導くことができる。

【授業計画12】
1)ウォーキングとジョギ

授業方法: 以下、原則として全ての授業を対面授業で行う:
1. 講義、実習
2. 実習、グループワーク
3. 実習、グループワーク
4. 実習、グループワーク

5. 実習、グループワーク
6. 実習、グループワーク
7. 実習、グループワーク
8. 実習、グループワーク
9. 実習、グループワーク
10. 実習、グループワーク
11. 実習、グループワーク
12. 実習、グループワーク
13. 実習、グループワーク
14. 実習、グループワーク
15. 実習、グループワーク

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

【15回分共通】
・教科書や参考書、インターネット上の資料や動画など、よく見て、調べておくこと（予習＆復習）
・普段からよく体を動かしておくこと（ストレッチやウォーキング＆ジョギングなど）。また、個人によって慣れていない運動、動きであったり、負荷が高く感じる場合があります、授業後には体のケアをしておくこと（予習45分および復習45分）
・授業の最後に総括となるレポートを提出してもらいます。毎回、内容を振り返りまとめておくとともに、授業に関連する事項（教科書や参考書、インターネット上の資料や動画など）をよく調べておくこと（予習30分および復習60分）
※ 参考となるなと感じた情報源についてはしっかりメモを残しておくようにしましょう（図書名やURLなど）

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	50 **%**	**レポート:**	20 **%**
その他1:			**%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 授業を通して、基本的な走（歩）・跳・投運動に関する基礎技術や知識、指導方法を理解し、健常者・障害者へ模範実技指導ができるようになることが重要です。

（1）授業への取り組み
・よく話を聞き、他者と協力して課題に取り組むことができる（60～69点）
・課題解決に向けて、自分で考え、工夫して取り組むことができる（70～79点）
・相互に観察し合い、アドバイスすることができる（80～100点）

（2）確認テスト（実技テスト）
・陸上競技に関連付けた短距離・ハードル・跳躍・投擲種目を実践することができる（60～69点）
・上記の各種目における基礎的技術を理解し、実践することができる（70～79点）
・より上位の記録に挑戦することができる（80～100点）

（3）レポート
・ 走・跳・投運動（種目）の基礎技術・知識について理解し、指導方法について考えることができる（60～69点）
・上記に加え、健康ウォーキング・ジョギング実践のための基礎技術・知識について理解し、指導方法について考えることができる（70～79点）
・上記に加え、障がい者の走・跳・投運動（種目）の基礎知識について理解し、指導方法について考えることができる（80～100点）

課題へのフィードバック:

・授業内で適宜、フィードバックを行う。

教科書: なし

参考書:
・楽しいキッズの陸上競技（陸上競技指導教本アンダー13）
・基礎から身につく陸上競技初級編（陸上競技指導教本アンダー16・19）
・陸上競技コーチングブック
・ジュニア陸上競技メソッドー高校トレーニング方式ー（第7版）
※その他については適宜アナウンスをする

・陸上競技ルールブック
・陸上競技審判ハンドブック
・中学校部活動における陸上競技指導の手引き
※以上、日本陸上競技連盟のホームページよりPDFファイルのダウンロードが可能

・中学校および高等学校指導要領およびその解説
※

授業・準備学習のアドバイス:

・授業計画は受講生、状況等に応じて変更する可能性がある（例：雨天時の場合、急遽室内での実習または教室での座学に変更して対応する等）。

・積極的な授業態度で臨むことが原則である（例：よく話を聞く、よく質問する、真剣に課題に取り組む、相互に観察してアドバイスし合う）。
・実技の授業であるため、遅刻（ウォーミングアップに参加できない）、欠席はしないように普段の生活習慣から気を付けること。
・授業では運動に適した服装等で、ランニングシューズを履くこと（その他、授業におけるルール、例として「スマートフォンの利

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 陸上運動

クラス: ｽ男子後

授業コード: BE62500004

担当者: 野口　研治　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校　保健体育)【必修】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 体育実技　　**一般的包括的科目:** ○

授業の目的: 本講義では、陸上運動(陸上競技)全般にわたっての基礎的技術習得と指導方法について実践学習することを目的とする。

到達目標:
1. 走・跳・投種目における基礎技術と指導方法を体得する。
2. 健康ウォーキング・ジョギングの実際と指導方法を理解する。
3. パラスポーツの理解を深める。
4. 障がい者の走・跳・投の指導方法を理解する。

各回の授業計画:

1. 陸上運動(陸上競技)の概要
※ガイダンス
2. 短距離走の基礎技術
3. 短距離走の指導方法
4. ハードル走の基礎技術
5. ハードル走の指導方法
6. 跳躍種目の基礎技術
※走り幅跳び
7. 跳躍種目の指導方法
※走り幅跳び
8. 投擲種目の基礎技術
※やり投げ(ジャベリックスロー)
9. 投擲種目の指導方法
※やり投げ(ジャベリックスロー)
10. 記録測定方法の学習，記録測定の実践(1)
11. 記録測定方法の学習，記録測定の実践(2)
12. 健康ウォーキング・ジョギングの実際と指導方法
13. 障がい者のための短距離指導 ※1
14. 障がい者のための跳躍指導 ※1
15. 障がい者のための投擲指導 ※1

特記事項: ※ 適時確認テスト(実技と指導方法)実施
※ 各種目の基礎技術においてコーディネーション能力等の体力要素を高める運動を含む
※ 健康ウォーキング・ジョギングでは以下の点の実践修得を目指す

＜健康運動実践指導者・パラスポーツ指導員＞
※ 陸上運動では、以下の点にも留意しながら授業を展開する。

健康の保持・増進を目的とした日常的に行う代表的な運動の実践と集団への指導方法を学び、多くの人が安全で効果的に楽しく継続できるように導くことができる。

【授業計画12】
1)ウォーキングとジョギ

授業方法: 以下、原則として全ての授業を対面授業で行う:
1. 講義、実習
2. 実習、グループワーク
3. 実習、グループワーク
4. 実習、グループワーク

5. 実習、グループワーク
6. 実習、グループワーク
7. 実習、グループワーク
8. 実習、グループワーク
9. 実習、グループワーク
10. 実習、グループワーク
11. 実習、グループワーク
12. 実習、グループワーク
13. 実習、グループワーク
14. 実習、グループワーク
15. 実習、グループワーク

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

【15回分共通】
・教科書や参考書、インターネット上の資料や動画など、よく見て、調べておくこと（予習＆復習）
・普段からよく体を動かしておくこと（ストレッチやウォーキング＆ジョギングなど）。また、個人によって慣れていない運動、動きであったり、負荷が高く感じる場合があります、授業後には体のケアをしておくこと（予習45分および復習45分）
・授業の最後に総括となるレポートを提出してもらいます。毎回、内容を振り返りまとめておくとともに、授業に関連する事項（教科書や参考書、インターネット上の資料や動画など）をよく調べておくこと（予習30分および復習60分）
※ 参考となるなと感じた情報源についてはしっかりメモを残しておくようにしましょう（図書名やURLなど）

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	50 **%**	**レポート:**	20 **%**
その他1:			**%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 授業を通して、基本的な走（歩）・跳・投運動に関する基礎技術や知識、指導方法を理解し、健常者・障害者へ模範実技指導ができるようになることが重要です。

（1）授業への取り組み
・よく話を聞き、他者と協力して課題に取り組むことができる（60～69点）
・課題解決に向けて、自分で考え、工夫して取り組むことができる（70～79点）
・相互に観察し合い、アドバイスすることができる（80～100点）

（2）確認テスト（実技テスト）
・陸上競技に関連付けた短距離・ハードル・跳躍・投擲種目を実践することができる（60～69点）
・上記の各種目における基礎的技術を理解し、実践することができる（70～79点）
・より上位の記録に挑戦することができる（80～100点）

（3）レポート
・ 走・跳・投運動（種目）の基礎技術・知識について理解し、指導方法について考えることができる（60～69点）
・上記に加え、健康ウォーキング・ジョギング実践のための基礎技術・知識について理解し、指導方法について考えることができる（70～79点）
・上記に加え、障がい者の走・跳・投運動（種目）の基礎知識について理解し、指導方法について考えることができる（80～100点）

課題へのフィードバック:

・授業内で適宜、フィードバックを行う。

教科書: なし

参考書:
・楽しいキッズの陸上競技（陸上競技指導教本アンダー13）
・基礎から身につく陸上競技初級編（陸上競技指導教本アンダー16・19）
・陸上競技コーチングブック
・ジュニア陸上競技メソッドー高校トレーニング方式ー（第7版）
※その他については適宜アナウンスをする

・陸上競技ルールブック
・陸上競技審判ハンドブック
・中学校部活動における陸上競技指導の手引き
※以上、日本陸上競技連盟のホームページよりPDFファイルのダウンロードが可能

・中学校および高等学校指導要領およびその解説
※

授業・準備学習のアドバイス:

・授業計画は受講生、状況等に応じて変更する可能性がある（例：雨天時の場合、急遽室内での実習または教室での座学に変更して対応する等）。

・積極的な授業態度で臨むことが原則である（例：よく話を聞く、よく質問する、真剣に課題に取り組む、相互に観察してアドバイスし合う）。
・実技の授業であるため、遅刻（ウォーミングアップに参加できない）、欠席はしないように普段の生活習慣から気を付けること。
・授業では運動に適した服装等で、ランニングシューズを履くこと（その他、授業におけるルール、例として「スマートフォンの利

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: バスケットボール

クラス: ス前

授業コード: BE62600001

担当者: 杉山 真人 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)【選択】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 体育実技 **一般的包括的科目:** ×

授業の目的: 本授業はバスケットボールの特性を理解し, 個人的及び集団的技能を習得しながら, 獲得した技能の段階に応じてルールを工夫した発展段階的ゲームへと展開させていく事とその指導方法を習得する事を目的とする.

到達目標:
1. バスケットボールの個人的技能の習得.
2. バスケットボールの集団的技能の習得.
3. バスケットボールの指導方法を習得する.
4. パラスポーツの理解を深める.
5. バスケットボール(知的障がい)の指導方法を習得する.

各回の授業計画:

1. バスケットボールの特性理解とボール慣れ運動
2. 個人技能としてのシュート, ドリブル, パスワーク技能の習得
3. 個人技能としてのフットワーク, フェイントワーク技能の習得
4. 集団的技能として速攻技能の習得
5. 集団的技能としてセットオフェンス技能の習得
6. 集団的技能としてマンツーマンディフェンス技能の習得
7. 集団的技能としてゾーンディフェンス技能の習得
8. 個人及び集団技能のスキルチェック
9. トーナメント方式によるゲーム(基本スキル)
10. トーナメント方式によるゲーム(応用スキル)
11. トーナメント方式によるゲーム(実践スキル)
12. 競技会運営企画と審判法
13. バスケットボール(知的障がい)のルールの理解 ※1
14. バスケットボール(知的障がい)の指導法の基礎 ※1
15. バスケットボール(知的障がい)の指導法の実際 ※1

特記事項: ◎ 適時確認テスト実施。
◎ 個人的技能習得においてコーディネーション能力を高める運動を含む.

＜公認パラスポーツ指導員＞
◎ バスケットボールでは、以下の点にも留意しながら授業(実習)を展開する.
※1 全国障害者スポーツ大会実施競技の実技(バスケットボール)を通して, その競技規則や指導法など、選手団コーチとして必要な知識・技能を学ぶ.
・初心者への導入方法および留意点

授業方法:
1. 実技
2. 実技
3. 実技
4. 実技
5. 実技
6. 実技
7. 実技
8. 実技
9. 実技
10. 実技
11. 実技
12. 講義, グループワーク

13. 講義，実技，グループワーク
14. 講義，実技，グループワーク
15. 講義，実技，グループワーク
※全て対面で行います

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. 様々な球技の動画を視聴しておく
2. シュート、ドリブル、パスワーク技能に関する動画を視聴しておく
3. フットワークに関する動画の視聴および他の競技と比較しフェイント動作の重要性について自分なりの考えを整理しておく
4. 速攻に関する動画を視聴しておく
5. セットオフェンスに関する動画を視聴しておく
6. マンツーマンディフェンスに関する動画を視聴しておく
7. ゾーンディフェンスに関する動画を視聴しておく
8. 各種技能の練習をしておく
9. 実際の試合の動画を視聴しておく
10. 実際の試合の動画を視聴しておく
11. 実際の試合の動画を視聴しておく
12. 競技会と審判について確認しておく
13. 事前に配布する資料を基に、バスケットボール（知的障がい）のルールの理解を深めておく
14. バスケットボール（知的障がい）への指導方法に関する基礎の事前学習の資料を基に深めておく
15. バスケットボール（知的障がい）への指導方法を実践するための準備を整えておく

評価方法：

授業へのとりくみ：	40 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	－ **%**		
その他1：	実技試験を要確認	「授業・準備学習のアドバイス」欄	60 **%**				
その他2：			**%**				

評価基準： 最低限度の到達度（60～69点）：時空間的な知覚に基づいた基本的なボール操作を行うことができる
望ましい到達度（80～100点）：バスケットボールの基本技能を習得し，それを対人場面で無理なく発揮することができる

課題へのフィードバック：

技能の成果については授業内で適宜解説する。

教科書： バスケットボール指導教本　日本バスケットボール協会編 大修館書店

参考書： どんどんうまくなる！ミニバスケットボール入門 榎本日出夫監 成美堂出版

授業・準備学習のアドバイス：

評価方法では実技試験の比重が高いですが，授業への取り組みも重視します．個人的技術及び集団的技術からその指導方法を習得するには一連の受講学習が基本原則です．
なお，実技試験は①バスケットボールの技能テスト，②ボール二つを使ったコーディネーションドリル（必須）で構成します．技能による評価だけではなく，多様な動きを用いたコーディネーションドリルの課題を達成することも求めています．

【資格取得における必修科目】
・日本パラスポーツ協会公認パラスポーツ指導員（中級）

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: バスケットボール

クラス: ｽ後

授業コード: BE62600002

担当者: 杉山 真人 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)【選択】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 体育実技 **一般的包括的科目:** ×

授業の目的: 本授業はバスケットボールの特性を理解し, 個人的及び集団的技能を習得しながら, 獲得した技能の段階に応じてルールを工夫した発展段階的ゲームへと展開させていく事とその指導方法を習得する事を目的とする.

到達目標:
1. バスケットボールの個人的技能の習得.
2. バスケットボールの集団的技能の習得.
3. バスケットボールの指導方法を習得する.
4. パラスポーツの理解を深める.
5. バスケットボール(知的障がい)の指導方法を習得する.

各回の授業計画:

1. バスケットボールの特性理解とボール慣れ運動
2. 個人技能としてのシュート, ドリブル, パスワーク技能の習得
3. 個人技能としてのフットワーク, フェイントワーク技能の習得
4. 集団的技能として速攻技能の習得
5. 集団的技能としてセットオフェンス技能の習得
6. 集団的技能としてマンツーマンディフェンス技能の習得
7. 集団的技能としてゾーンディフェンス技能の習得
8. 個人及び集団技能のスキルチェック
9. トーナメント方式によるゲーム(基本スキル)
10. トーナメント方式によるゲーム(応用スキル)
11. トーナメント方式によるゲーム(実践スキル)
12. 競技会運営企画と審判法
13. バスケットボール(知的障がい)のルールの理解 ※1
14. バスケットボール(知的障がい)の指導法の基礎 ※1
15. バスケットボール(知的障がい)の指導法の実際 ※1

特記事項: ◎ 適時確認テスト実施。
◎ 個人的技能習得においてコーディネーション能力を高める運動を含む.

＜公認パラスポーツ指導員＞
◎ バスケットボールでは、以下の点にも留意しながら授業(実習)を展開する.
※1 全国障害者スポーツ大会実施競技の実技(バスケットボール)を通して, その競技規則や指導法など、選手団コーチとして必要な知識・技能を学ぶ.
・初心者への導入方法および留意点

授業方法:
1. 実技
2. 実技
3. 実技
4. 実技
5. 実技
6. 実技
7. 実技
8. 実技
9. 実技
10. 実技
11. 実技
12. 講義, グループワーク

13. 講義，実技，グループワーク
14. 講義，実技，グループワーク
15. 講義，実技，グループワーク
※全て対面で行います

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. 様々な球技の動画を視聴しておく
2. シュート、ドリブル、パスワーク技能に関する動画を視聴しておく
3. フットワークに関する動画の視聴および他の競技と比較しフェイント動作の重要性について自分なりの考えを整理しておく
4. 速攻に関する動画を視聴しておく
5. セットオフェンスに関する動画を視聴しておく
6. マンツーマンディフェンスに関する動画を視聴しておく
7. ゾーンディフェンスに関する動画を視聴しておく
8. 各種技能の練習をしておく
9. 実際の試合の動画を視聴しておく
10. 実際の試合の動画を視聴しておく
11. 実際の試合の動画を視聴しておく
12. 競技会と審判について確認しておく
13. 事前に配布する資料を基に、バスケットボール（知的障がい）のルールの理解を深めておく
14. バスケットボール（知的障がい）への指導方法に関する基礎の事前学習の資料を基に深めておく
15. バスケットボール（知的障がい）への指導方法を実践するための準備を整えておく

評価方法：

授業へのとりくみ：	40 **%**	**確認テスト：**	− **%**	**レポート：**	− **%**		
その他1：	実技試験を要確認	「授業・準備学習のアドバイス」欄	60 **%**				
その他2：			**%**				

評価基準： 最低限度の到達度（60～69点）：時空間的な知覚に基づいた基本的なボール操作を行うことができる
望ましい到達度（80～100点）：バスケットボールの基本技能を習得し，それを対人場面で無理なく発揮することができる

課題へのフィードバック：

技能の成果については授業内で適宜解説する。

教科書： バスケットボール指導教本　日本バスケットボール協会編 大修館書店

参考書： どんどんうまくなる！ミニバスケットボール入門 榎本日出夫監 成美堂出版

授業・準備学習のアドバイス：

評価方法では実技試験の比重が高いですが，授業への取り組みも重視します．個人的技術及び集団的技術からその指導方法を習得するには一連の受講学習が基本原則です．
なお，実技試験は①バスケットボールの技能テスト，②ボール二つを使ったコーディネーショントリル（必須）で構成します．技能による評価だけではなく，多様な動きを用いたコーディネーショントリルの課題を達成することも求めています．

【資格取得における必修科目】
・日本パラスポーツ協会公認パラスポーツ指導員（中級）

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: バレーボール

クラス: ｽA

授業コード: BE62700001

担当者: 西野 祐司 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:Vリーグチームアンダーカテゴリーの中学生チーム監督、大学バレーボール部監督、公益財団法人 日本バレーボール協会公認バレーボールコーチ4

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)【選択】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 体育実技 **一般的包括的科目:** ×

授業の目的: 本講義では、ネット型の中でも特に連携プレイが必要となる競技である。このバレーボールでは、空中のボールを適切にコントロールする個人的スキルおよびチームの仲間と連携して攻防する集団的スキルを習得するとともに、学習段階に応じた指導方法を学ぶ。

到達目標: バレーボールの基本的なスキルを習得するとともに、2人制および3人制のミニゲームを通して連携プレイに必要な判断力を養う。
また、ルール、各ポジションの役割、チーム戦術を理解し、6人制のゲームにおいて仲間と協力しながらプレイできる能力を身につける。
さらに、パラスポーツ(聴覚・知的・精神障がい)に関する理解も深める。

各回の授業計画:

1. ガイダンス(評価や注意事項等)、バレーボールの特性理解とボール慣れ運動
2. オーバーハンドパス、2人制のミニゲーム
3. アンダーハンドパス、2人制のミニゲーム
4. トス、3人制のゲーム
5. スパイク(スイング、ステップ)
6. 三段攻撃
7. サーブ、レセプション
8. ブロック、ディグ
9. コンビネーション攻撃とその防御
10. 6人制のゲーム練習、ルールの理解と審判法
11. 6人制のゲーム①
12. 6人制のゲーム②
13. バレーボール(聴覚・知的・精神障がい)のルールの理解 ※1
14. バレーボール(聴覚・知的・精神障がい)の指導法の基礎 ※1
15. バレーボール(聴覚・知的・精神障がい)の指導法の実際 ※1

特記事項: ◎ 適時実技テスト実施する。

＜公認パラスポーツ指導員＞
◎ バレーボールでは、以下の点にも留意しながら授業(実習)を展開する。

※1 全国障害者スポーツ大会実施競技の実技(バレーボール)を通して、その競技規則や指導法など、選手団コーチとして必要な知識・技能を学ぶ。
・初心者への導入方法および留意点

授業方法: 【対面】
1. 講義, 実技
2. 講義, 実技
3. 講義, 実技
4. 講義, 実技
5. 講義, 実技
6. 講義, 実技
7. 講義, 実技
8. 講義, 実技
9. 講義, 実技
10. 講義, 実技
11. 講義, 実技
12. 講義, 実技
13. 講義, 実技

14. 講義，実技
15. 講義，実技

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. 復習：バレーボールのルーツについてまとめる。
2. 復習：オーバーハンドパスの技術的ポイントと指導法をまとめる。
3. 復習：アンダーハンドパスの技術的ポイントと指導法をまとめる。
4. 復習：トスの技術的ポイントと指導法、ミニゲームを行う上での注意点についてまとめる。
5. 復習：スパイクの技術的ポイントと指導法をまとめる。
6. 復習：三段攻撃を成立させるためのポイントをまとめる。
7. 復習：サーブおよびレセプションの技術的ポイントと指導法をまとめる。
8. 復習：ブロックおよびディグの技術的ポイントと指導法をまとめる。
9. 復習：コンビネーション攻撃を成立させるためのポイントをまとめる。
10. 復習：バレーボールのルールおよび審判法についてまとめる。
11. 復習：ゲームを行う上で重要なポイントについてボールを受ける前の局面、視線の動きに着目してをまとめる。
12. 予習：自チームが勝つための戦術について自分の意見をまとめる。復習：自身が考えた戦術が実行できたか振り返ったうえで、バレーボールを指導する際に注意すべき点、工夫すべき点などをまとめる。
13. 事前に配布する資料を基に、バレーボール（聴覚・知的・精神障がい）のルールの理解を深めておく。
14. バレーボール（聴覚・知的・精神障がい）への指導方法に関する基礎の事前学習の資料を基に深めておく。
15. バレーボール（聴覚・知的・精神障がい）への指導方法を実践するための準備を整えておく。

評価方法：

授業へのとりくみ：	50 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	スキルテスト		30 **%**		
その他2：	ゲーム能力及び戦術・システムの理解度		20 **%**		

評価基準： 最低限の到達度（60～69点）
既定数の授業に参加し、かつ個人的および集団的スキル（パス動作）が最低限度の水準を満たしている。
望ましい到達度（80～100点）
授業に対して自主的に熱心に取り組み、かつ個人的スキル（オーバー、アンダー、スパイク、サーブ）およびゲームでの集団的スキルが高い水準を満たしている。

課題へのフィードバック：

個人的および集団的スキルの到達度を測るためのスキルテストを実施し、テスト後に改善点を説明する。また、ゲームを通してチームが機能していない場合は課題と改善策を提示する。

教科書： なし

参考書： バレーボール指導教本 日本バレーボール協会編 大修館書店
コーチングバレーボール（基礎編）日本バレーボール協会編 大修館書店

授業・準備学習のアドバイス：

実技の授業であるため、授業への参加が前提となります。ケガや体調不良により見学する場合はレポートの提出を求めます。

※ 日本パラスポーツ協会公認パラスポーツ指導員（中級）資格希望者は、「選択必修」となります。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: バレーボール

クラス: ｽB

授業コード: BE62700002

担当者: 西野 祐司 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:Vリーグチームアンダーカテゴリーの中学生チーム監督、大学バレーボール部監督、公益財団法人 日本バレーボール協会公認バレーボールコーチ4

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)【選択】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 体育実技 **一般的包括的科目:** ×

授業の目的: 本講義では、ネット型の中でも特に連携プレイが必要となる競技である。このバレーボールでは、空中のボールを適切にコントロールする個人的スキルおよびチームの仲間と連携して攻防する集団的スキルを習得するとともに、学習段階に応じた指導方法を学ぶ。

到達目標: バレーボールの基本的なスキルを習得するとともに、2人制および3人制のミニゲームを通して連携プレイに必要な判断力を養う。
また、ルール、各ポジションの役割、チーム戦術を理解し、6人制のゲームにおいて仲間と協力しながらプレイできる能力を身につける。
さらに、パラスポーツ(聴覚・知的・精神障がい)に関する理解も深める。

各回の授業計画:

1. ガイダンス(評価や注意事項等)、バレーボールの特性理解とボール慣れ運動
2. オーバーハンドパス、2人制のミニゲーム
3. アンダーハンドパス、2人制のミニゲーム
4. トス、3人制のゲーム
5. スパイク(スイング、ステップ)
6. 三段攻撃
7. サーブ、レセプション
8. ブロック、ディグ
9. コンビネーション攻撃とその防御
10. 6人制のゲーム練習、ルールの理解と審判法
11. 6人制のゲーム①
12. 6人制のゲーム②
13. バレーボール(聴覚・知的・精神障がい)のルールの理解 ※1
14. バレーボール(聴覚・知的・精神障がい)の指導法の基礎 ※1
15. バレーボール(聴覚・知的・精神障がい)の指導法の実際 ※1

特記事項: ◎ 適時実技テスト実施する。

＜公認パラスポーツ指導員＞
◎ バレーボールでは、以下の点にも留意しながら授業(実習)を展開する。

※1 全国障害者スポーツ大会実施競技の実技(バレーボール)を通して、その競技規則や指導法など、選手団コーチとして必要な知識・技能を学ぶ。
・初心者への導入方法および留意点

授業方法: 【対面】
1. 講義, 実技
2. 講義, 実技
3. 講義, 実技
4. 講義, 実技
5. 講義, 実技
6. 講義, 実技
7. 講義, 実技
8. 講義, 実技
9. 講義, 実技
10. 講義, 実技
11. 講義, 実技
12. 講義, 実技
13. 講義, 実技

14. 講義，実技
15. 講義，実技

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. 復習：バレーボールのルーツについてまとめる。
2. 復習：オーバーハンドパスの技術的ポイントと指導法をまとめる。
3. 復習：アンダーハンドパスの技術的ポイントと指導法をまとめる。
4. 復習：トスの技術的ポイントと指導法、ミニゲームを行う上での注意点についてまとめる。
5. 復習：スパイクの技術的ポイントと指導法をまとめる。
6. 復習：三段攻撃を成立させるためのポイントをまとめる。
7. 復習：サーブおよびレセプションの技術的ポイントと指導法をまとめる。
8. 復習：ブロックおよびディグの技術的ポイントと指導法をまとめる。
9. 復習：コンビネーション攻撃を成立させるためのポイントをまとめる。
10. 復習：バレーボールのルールおよび審判法についてまとめる。
11. 復習：ゲームを行う上で重要なポイントについてボールを受ける前の局面、視線の動きに着目してをまとめる。
12. 予習：自チームが勝つための戦術について自分の意見をまとめる。復習：自身が考えた戦術が実行できたか振り返ったうえで、バレーボールを指導する際に注意すべき点、工夫すべき点などをまとめる。
13. 事前に配布する資料を基に、バレーボール（聴覚・知的・精神障がい）のルールの理解を深めておく。
14. バレーボール（聴覚・知的・精神障がい）への指導方法に関する基礎の事前学習の資料を基に深めておく。
15. バレーボール（聴覚・知的・精神障がい）への指導方法を実践するための準備を整えておく。

評価方法：

授業へのとりくみ：	50 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	スキルテスト		30 **%**		
その他2：	ゲーム能力及び戦術・システムの理解度		20 **%**		

評価基準： 最低限の到達度（60～69点）
既定数の授業に参加し、かつ個人的および集団的スキル（パス動作）が最低限度の水準を満たしている。
望ましい到達度（80～100点）
授業に対して自主的に熱心に取り組み、かつ個人的スキル（オーバー、アンダー、スパイク、サーブ）およびゲームでの集団的スキルが高い水準を満たしている。

課題へのフィードバック：

個人的および集団的スキルの到達度を測るためのスキルテストを実施し、テスト後に改善点を説明する。また、ゲームを通してチームが機能していない場合は課題と改善策を提示する。

教科書： なし

参考書： バレーボール指導教本 日本バレーボール協会編 大修館書店
コーチングバレーボール（基礎編）日本バレーボール協会編 大修館書店

授業・準備学習のアドバイス：

実技の授業であるため、授業への参加が前提となります。ケガや体調不良により見学する場合はレポートの提出を求めます。

※ 日本パラスポーツ協会公認パラスポーツ指導員（中級）資格希望者は、「選択必修」となります。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: バレーボール

クラス: ｽC

授業コード: BE62700003

担当者: 西野 祐司 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:Vリーグチームアンダーカテゴリーの中学生チーム監督、大学バレーボール部監督、公益財団法人 日本バレーボール協会公認バレーボールコーチ4

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)【選択】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 体育実技 **一般的包括的科目:** ×

授業の目的: 本講義では、ネット型の中でも特に連携プレイが必要となる競技である。このバレーボールでは、空中のボールを適切にコントロールする個人的スキルおよびチームの仲間と連携して攻防する集団的スキルを習得するとともに、学習段階に応じた指導方法を学ぶ。

到達目標: バレーボールの基本的なスキルを習得するとともに、2人制および3人制のミニゲームを通して連携プレイに必要な判断力を養う。
また、ルール、各ポジションの役割、チーム戦術を理解し、6人制のゲームにおいて仲間と協力しながらプレイできる能力を身につける。
さらに、パラスポーツ(聴覚・知的・精神障がい)に関する理解も深める。

各回の授業計画:

1. ガイダンス(評価や注意事項等)、バレーボールの特性理解とボール慣れ運動
2. オーバーハンドパス、2人制のミニゲーム
3. アンダーハンドパス、2人制のミニゲーム
4. トス、3人制のゲーム
5. スパイク(スイング、ステップ)
6. 三段攻撃
7. サーブ、レセプション
8. ブロック、ディグ
9. コンビネーション攻撃とその防御
10. 6人制のゲーム練習、ルールの理解と審判法
11. 6人制のゲーム①
12. 6人制のゲーム②
13. バレーボール(聴覚・知的・精神障がい)のルールの理解 ※1
14. バレーボール(聴覚・知的・精神障がい)の指導法の基礎 ※1
15. バレーボール(聴覚・知的・精神障がい)の指導法の実際 ※1

特記事項: ◎ 適時実技テスト実施する。

＜公認パラスポーツ指導員＞
◎ バレーボールでは、以下の点にも留意しながら授業(実習)を展開する。

※1 全国障害者スポーツ大会実施競技の実技(バレーボール)を通して、その競技規則や指導法など、選手団コーチとして必要な知識・技能を学ぶ。
・初心者への導入方法および留意点

授業方法: 【対面】
1. 講義, 実技
2. 講義, 実技
3. 講義, 実技
4. 講義, 実技
5. 講義, 実技
6. 講義, 実技
7. 講義, 実技
8. 講義, 実技
9. 講義, 実技
10. 講義, 実技
11. 講義, 実技
12. 講義, 実技
13. 講義, 実技

14. 講義，実技
15. 講義，実技

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. 復習：バレーボールのルーツについてまとめる。
2. 復習：オーバーハンドパスの技術的ポイントと指導法をまとめる。
3. 復習：アンダーハンドパスの技術的ポイントと指導法をまとめる。
4. 復習：トスの技術的ポイントと指導法、ミニゲームを行う上での注意点についてまとめる。
5. 復習：スパイクの技術的ポイントと指導法をまとめる。
6. 復習：三段攻撃を成立させるためのポイントをまとめる。
7. 復習：サーブおよびレセプションの技術的ポイントと指導法をまとめる。
8. 復習：ブロックおよびディグの技術的ポイントと指導法をまとめる。
9. 復習：コンビネーション攻撃を成立させるためのポイントをまとめる。
10. 復習：バレーボールのルールおよび審判法についてまとめる。
11. 復習：ゲームを行う上で重要なポイントについてボールを受ける前の局面、視線の動きに着目してをまとめる。
12. 予習：自チームが勝つための戦術について自分の意見をまとめる。復習：自身が考えた戦術が実行できたか振り返ったうえで、バレーボールを指導する際に注意すべき点、工夫すべき点などをまとめる。
13. 事前に配布する資料を基に、バレーボール（聴覚・知的・精神障がい）のルールの理解を深めておく。
14. バレーボール（聴覚・知的・精神障がい）への指導方法に関する基礎の事前学習の資料を基に深めておく。
15. バレーボール（聴覚・知的・精神障がい）への指導方法を実践するための準備を整えておく。

評価方法：

授業へのとりくみ：	50 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	スキルテスト		30 **%**		
その他2：	ゲーム能力及び戦術・システムの理解度		20 **%**		

評価基準： 最低限の到達度（60～69点）
既定数の授業に参加し、かつ個人的および集団的スキル（パス動作）が最低限度の水準を満たしている。
望ましい到達度（80～100点）
授業に対して自主的に熱心に取り組み、かつ個人的スキル（オーバー、アンダー、スパイク、サーブ）およびゲームでの集団的スキルが高い水準を満たしている。

課題へのフィードバック：

個人的および集団的スキルの到達度を測るためのスキルテストを実施し、テスト後に改善点を説明する。また、ゲームを通してチームが機能していない場合は課題と改善策を提示する。

教科書： なし

参考書： バレーボール指導教本 日本バレーボール協会編 大修館書店
コーチングバレーボール（基礎編）日本バレーボール協会編 大修館書店

授業・準備学習のアドバイス：

実技の授業であるため、授業への参加が前提となります。ケガや体調不良により見学する場合はレポートの提出を求めます。

※ 日本パラスポーツ協会公認パラスポーツ指導員（中級）資格希望者は、「選択必修」となります。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: バドミントン

クラス: ス前

授業コード: BE62800001

担当者: 髙橋 美佳 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立小学校臨任講師、公立中学校特別支援指導員、私立高校バドミントン部外部コーチ、ジュニアバドミントンチームコーチ(全国小学生大会にて指導選手がシングルス・ベスト8入賞、ダブルス出場)
＜戦績＞全日本学生バドミントン選手権・女子複 第3位、全日本総合バドミントン選手権・女子複 ベスト8、全日本教職員バドミントン選手権・女子単 準優勝、国際親善レディース団体戦 ベスト4

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)【選択】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 体育実技 **一般的包括的科目:** ×

授業の目的: 基本的な練習を通して各々が個人のバドミントン技能を高め、仲間と協力して授業を形作っていく。
自ら主体的に行動し、協調性豊かな学生として成長することを期待する。
中高教科保健体育・バドミントンを教授するに足る基礎的知識および技能を習得し、教職実践力と関連付けて理解する。

到達目標: バドミントンの基礎技能を習得するとともに、ルール・マナーを理解し、楽しくゲームができるようになること。

各回の授業計画:

1. 授業オリエンテーション:バドミントンの歴史にふれる、ウォーミングアップ担当回決定
2. ウォーミングアップ＆グリップ・ストロークについて
・バドミントン今昔実践
3. ウォーミングアップ＆基礎練習(サーブ)＋半面ゲーム1
4. ウォーミングアップ＆基礎練習(ドライブ、クリアー)＋半面ゲーム2
5. ウォーミングアップ＆基礎練習(ドロップ・ロブ・ヘアピン)＋半面ゲーム3
6. ウォーミングアップ＆基礎練習(スマッシュ・レシーブ・プッシュ)＋半面Up&Downゲーム
・ダブルスのルール・審判理解
7. ウォーミングアップ＆練習(全ショット)＋半面Up&Downゲーム
8. ウォーミングアップ＆練習＋半面Up&Downゲーム
・シングルスのルール・審判理解(シングルス1)
9. ウォーミングアップ＆基礎練習＋半面Up&Downゲーム
・シングルスゲーム実践(シングルス2)
10. ウォーミングアップ＆練習＋半面Up&Downゲーム
・ダブルスのルール・審判理解(ダブルス1)
11. ウォーミングアップ＆練習＋半面Up&Downゲーム
・ダブルスゲーム実践(ダブルス2)
12. ウォーミングアップ＆練習(フォーメーション)＋半面Up&Downゲーム
・ダブルスゲーム(ダブルス3)、個人テスト
13. ウォーミングアップ＆練習＋半面Up&Downゲーム
・チーム練習(団体戦に向けて)＋個人テスト
14. チームごとにウォーミングアップ＆練習、団体戦を楽しもう!
・＋個人テスト
15. レベル別ダブルスを楽しもう!(＋個人テスト予備日)
・授業総括

特記事項: ※受講人数によって、変更の可能性あり

授業方法: 1回目から15回目まで実技
(2回目と15回目はオンライン(オンデマンド)での講義を行う)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎時授業後に本時学びの振り返りをする。
次時について調べ学習や素振りによるフォームチェックをする。
試合動画を閲覧し、学びを深める。

評価方法: **授業へのとりくみ:** 50 **%** **確認テスト:** 20 **%** **レポート:** 10 **%**

その他1： ルール理解度 20 **%**

その他2： **%**

評価基準： 【最低限の到達度（60～69点）】
1. グリップやストロークを理解している
2. 各ショットを理解し、打ち分けができる
3. サーブの種類を理解し、打ち分けができる

【望ましい到達度（80～100点）】
試合のルールを理解し、サーブからのダブルスゲームを周囲と協力しながら楽しむことができる

課題へのフィードバック：
なし

教科書： なし

参考書： のりちゃんのバドミントン・阿部一佳・てらぺいあ

授業・準備学習のアドバイス：
初回から運動できる服装と体育館シューズ、飲み物、タオル等各自準備。
マイラケット使用希望の学生は持参下さい。

様々な学生とのかかわりを大切に、成長を感じながら積極的にバドミントンを楽しみましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: バドミントン

クラス: ス後

授業コード: BE62800002

担当者: 髙橋 美佳 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立小学校臨任講師、公立中学校特別支援指導員、私立高校バドミントン部外部コーチ、ジュニアバドミントンチームコーチ(全国小学生大会にて指導選手がシングルス・ベスト8入賞、ダブルス出場)
＜戦績＞全日本学生バドミントン選手権・女子複 第3位、全日本総合バドミントン選手権・女子複 ベスト8、全日本教職員バドミントン選手権・女子単 準優勝、国際親善レディース団体戦 ベスト4

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)【選択】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 体育実技 **一般的包括的科目:** ×

授業の目的: 基本的な練習を通して各々が個人のバドミントン技能を高め、仲間と協力して授業を形作っていく。
自ら主体的に行動し、協調性豊かな学生として成長することを期待する。
中高教科保健体育・バドミントンを教授するに足る基礎的知識および技能を習得し、教職実践力と関連付けて理解する。

到達目標: バドミントンの基礎技能を習得するとともに、ルール・マナーを理解し、楽しくゲームができるようになること。

各回の授業計画:

1. 授業オリエンテーション:バドミントンの歴史にふれる、ウォーミングアップ担当回決定
2. ウォーミングアップ＆グリップ・ストロークについて
・バドミントン今昔実践
3. ウォーミングアップ＆基礎練習(サーブ)＋半面ゲーム1
4. ウォーミングアップ＆基礎練習(ドライブ、クリアー)＋半面ゲーム2
5. ウォーミングアップ＆基礎練習(ドロップ・ロブ・ヘアピン)＋半面ゲーム3
6. ウォーミングアップ＆基礎練習(スマッシュ・レシーブ・プッシュ)＋半面Up&Downゲーム
・ダブルスのルール・審判理解
7. ウォーミングアップ＆練習(全ショット)＋半面Up&Downゲーム
8. ウォーミングアップ＆練習＋半面Up&Downゲーム
・シングルスのルール・審判理解(シングルス1)
9. ウォーミングアップ＆基礎練習＋半面Up&Downゲーム
・シングルスゲーム実践(シングルス2)
10. ウォーミングアップ＆練習＋半面Up&Downゲーム
・ダブルスのルール・審判理解(ダブルス1)
11. ウォーミングアップ＆練習＋半面Up&Downゲーム
・ダブルスゲーム実践(ダブルス2)
12. ウォーミングアップ＆練習(フォーメーション)＋半面Up&Downゲーム
・ダブルスゲーム(ダブルス3)、個人テスト
13. ウォーミングアップ＆練習＋半面Up&Downゲーム
・チーム練習(団体戦に向けて)＋個人テスト
14. チームごとにウォーミングアップ＆練習、団体戦を楽しもう!
・＋個人テスト
15. レベル別ダブルスを楽しもう!(＋個人テスト予備日)
・授業総括

特記事項: ※受講人数によって、変更の可能性あり

授業方法: 1回目から15回目まで実技
(2回目と15回目はオンライン(オンデマンド)での講義を行う)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎時授業後に本時学びの振り返りをする。
次時について調べ学習や素振りによるフォームチェックをする。
試合動画を閲覧し、学びを深める。

評価方法: **授業へのとりくみ:** 50 **%** **確認テスト:** 20 **%** **レポート:** 10 **%**

その他1： ルール理解度 20 **%**

その他2： **%**

評価基準： 【最低限の到達度（60～69点）】
1. グリップやストロークを理解している
2. 各ショットを理解し、打ち分けができる
3. サーブの種類を理解し、打ち分けができる

【望ましい到達度（80～100点）】
試合のルールを理解し、サーブからのダブルスゲームを周囲と協力しながら楽しむことができる

課題へのフィードバック：
なし

教科書： なし

参考書： のりちゃんのバドミントン・阿部一佳・てらぺいあ

授業・準備学習のアドバイス：
初回から運動できる服装と体育館シューズ、飲み物、タオル等各自準備。
マイラケット使用希望の学生は持参下さい。

様々な学生とのかかわりを大切に、成長を感じながら積極的にバドミントンを楽しみましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: ソフトボール

クラス: ス男子

授業コード: BE62900001

担当者: 但尾 哲哉 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:日本スポーツ協会公認 ソフトボールコーチ4
兵庫県ソフトボール協会指導者委員会委員長、第1回東アジアカップ女子大学日本代表コーチ

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)【選択】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 体育実技 **一般的包括的科目:** ×

授業の目的: 本講義では、ソフトボールにおける個人及びチームスキルの習得を土台に、指導方法及びゲーム戦術について実践学習をおこなう。

到達目標:
1. 個人技術の習得。
2. チームスキルの習得。
3. ポジション別指導方法とゲーム戦術の習得。
4. 能動的な学習の在り方を考える力を養う。
5. 障がい者スポーツの理解を深める。
6. グランドソフトボール(視覚障がい)の指導方法を習得する。

各回の授業計画:

1. ソフトボール競技の特性(歴史・種目特性・ルール)
第2回・第3回の授業説明(反転授業)

2. 事前学習について グループワーク①スローイング
・お互いに確認を取りながら

3. 事前学習について グループワーク②キャッチング
・お互いに確認を取りながら

4. 基本のヒッティング＆バントについて
・スウイングの理解
・スウイングしないで当てるイメージの理解

5. 基本のベースランニング＆ダブルプレーについて
・ベースラニングの必要性を考える
・走者、打者においてワンプレーで2つのアウトを取る

6. 基本の投球(投手)＆捕球(捕手)の指導方法
・個別スキルの習得

7. 基本の動き 内野手編
・カバーリングを学ぶ

8. 基本の動き 外野手編
・中継プレーを学ぶ

9. 基本の動き 打者＆走者
・ヒット＆ラン、スクイズなどの戦術を学ぶ

10. 実践練習
・チームごとで練習

11. チーム対抗戦 予選 リーグ戦
・ルールの確認をしながら
・試合進行について
・審判のジェスチャーについて
などを学ぶ

12. チーム対抗戦 順位決定戦 トーナメント戦
・ルールの確認をしながら
・試合進行について
・審判のジェスチャーについて
などを学ぶ

13. グランドソフトボール(視覚障がい)の理解 ※1
・障がい者と障がい者スポーツについての基礎知識を学ぶ

14. グランドソフトボール(視覚障がい)の指導法の基礎 ※1
・打つ方法、守る方法について学ぶ

15. グランドソフトボール(視覚障がい)の指導法の実際 ※1
・グランドソフトボールの体験

特記事項: なし

授業方法:
1. 講義
2. グループワーク、実技
3. グループワーク、実技
4. 講義、実技、グループワーク
5. 講義、実技、グループワーク
6. 講義、実技、ペアーワーク
7. 講義、実技
8. 講義、実技
9. 講義、実技
10. 実技グループワーク
11. 実技、グループワーク
12. 実技、グループワーク
13. ゲスト講師、講義、実技
14. 講義、実技、グループワーク
15. 実技
＊全て対面で行う

予習・復習・宿題など(内容・時間):

【1回目の予習内容】
「ソフトボールとは」を辞書で確認する。
【2.3回の予習内容】
投げる、捕球する、打つ、走るの基本動作について指定された視聴覚教材を活用して、ポイントをまとめる。
また、まとめた内容を、他者に指導できるようにまとめる。
【4-9回の予習内容】
事前に配布する資料を基に授業テーマの内容を確認しておく。
【10-12回の予習内容】
ベースボールの基本ルールについて事前に学習をしておく(野球観戦等で)。
【13-15回の予習内容】
「事前に配布する資料を基にグランドソフトボール(視覚障がい)のゲーム進行について学習しておく。

評価方法:							
	授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	20 **%**	**レポート:**	20 **%**	
	その他1:	基本技術 10点×3種目		30 **%**			
	その他2:			**%**			

評価基準: ソフトボール・グランドソフトボールの実践にあたっての知識、技術、基礎的な運営方法が身についているかを評価する。

60～69点
①基本的なキャッチ＆スローイングができる。
②積極的な授業参加が見られる。

70～79点
①守備者の基本的な動きを理解し、実践できている。
②ルールを理解し、ゲームに参加できている。

80～100点
①攻撃の戦略を理解し、実践できる。
②ゲーム審判をできる。
③ゲームを安全に運営できる。
④グランドソフトボールの実践ができる。

課題へのフィードバック:
課題は、授業内で解説する。

教科書: 『スポーツシリーズ 増補・改訂わかりやすいソフトボールのルール』吉村正 著 成美堂出版

参考書: 『スポーツQ&Aシリーズ 実戦ソフトボール』吉村正ら著 大修館書店

授業・準備学習のアドバイス:
・新学習指導要領に沿って学習を進める。日本ソフトボール協会公式ホームページを参考にすること。
・評価は、授業への取り組み重視の為、注意すること。基本技術と指導方法を習得するには全講義を一貫通して受講される事が望まれる。

【資格取得における必修科目】

・日本障がい者スポーツ協会公認障がい者スポーツ指導員（中級）

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: ソフトボール

クラス: ｽ女子

授業コード: BE62900002

担当者: 但尾 哲哉 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:日本スポーツ協会公認 ソフトボールコーチ4
兵庫県ソフトボール協会強化委員会委員長、第1回東アジアカップ女子大学日本代表コーチ

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)【選択】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 体育実技 **一般的包括的科目:** ×

授業の目的: 本講義では、ソフトボールにおける個人及びチームスキルの習得を土台に、指導方法及びゲーム戦術について実践学習をおこなう。

到達目標:
1. 個人技術の習得。
2. チームスキルの習得。
3. ポジション別指導方法とゲーム戦術の習得。
4. 能動的な学習の在り方を考える力を養う。
5. 障がい者スポーツの理解を深める。
6. グランドソフトボール(視覚障がい)の指導方法を習得する。

各回の授業計画:

1. ソフトボール競技の特性(歴史・種目特性・ルール)
第2回・第3回の授業説明(反転授業)
2. 事前学習について グループワーク①スローイング
・お互いに確認を取りながら
3. 事前学習について グループワーク②キャッチング
・お互いに確認を取りながら
4. 基本のヒッティング＆バンドについて
・スウイングの理解
・スウイングしないで当てるイメージの理解
5. 基本のベースランニング＆ダブルプレーについて
・ベースラニングの必要性を考える
・走者、打者においてワンプレーで2つのアウトを取る
6. 基本の投球(投手)＆捕球(捕手)の指導方法
・個別スキルの習得
7. 基本の動き 内野手編
・カバーリングを学ぶ
8. 基本の動き 外野手編
・中継プレーを学ぶ
9. 基本の動き 打者＆走者
・ヒット＆ラン、スクイズなどの戦術を学ぶ
10. 実践練習
・チームごとで練習
11. チーム対抗戦 予選 リーグ戦
・ルールの確認をしながら
・試合進行について
・審判のジェスチャーについて
などを学ぶ
12. チーム対抗戦 順位決定戦 トーナメント戦
・ルールの確認をしながら
・試合進行について
・審判のジェスチャーについて
などを学ぶ
13. グランドソフトボール(視覚障がい)の理解 ※1
・障がい者と障がい者スポーツについての基礎知識を学ぶ
14. グランドソフトボール(視覚障がい)の指導法の基礎 ※1
・打つ方法、守る方法について学ぶ
15. グランドソフトボール(視覚障がい)の指導法の実際 ※1
・グランドソフトボールの体験

特記事項: なし

授業方法:
1. 講義
2. グループワーク、実技
3. グループワーク、実技
4. 講義、実技、グループワーク
5. 講義、実技、グループワーク
6. 講義、実技、ペアーワーク
7. 講義、実技
8. 講義、実技
9. 講義、実技
10. 実技グループワーク
11. 実技、グループワーク
12. 実技、グループワーク
13. ゲスト講師、講義、実技
14. 講義、実技、グループワーク
15. 実技
※すべて対面で行う

予習・復習・宿題など(内容・時間):

【1回目の予習内容】
「ソフトボールとは」を辞書で確認する。
【2.3回の予習内容】
投げる、捕球する、打つ、走るの基本動作について指定された視聴覚教材を活用して、ポイントをまとめる。
また、まとめた内容を、他者に指導できるようにまとめる。
【4-9回の予習内容】
事前に配布する資料を基に授業テーマの内容を確認しておく。
【10-12回の予習内容】
ベースボールの基本ルールについて事前に学習をしておく(野球観戦等で)。
【13-15回の予習内容】
「事前に配布する資料を基にグランドソフトボール(視覚障がい)のゲーム進行について学習しておく。

評価方法:							
	授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	20 **%**	**レポート:**	20 **%**	
	その他1:	基本技術 10点×3種目		30 **%**			
	その他2:			**%**			

評価基準: ソフトボール・グランドソフトボールの実践にあたっての知識、技術、基礎的な運営方法が身についているかを評価する。

60～69点
①基本的なキャッチ＆スローイングができる。
②積極的な授業参加が見られる。

70～79点
①守備者の基本的な動きを理解し、実践できている。
②ルールを理解し、ゲームに参加できている。

80～100点
①攻撃の戦略を理解し、実践できる。
②ゲーム審判をできる。
③ゲームを安全に運営できる。
④グランドソフトボールの実践ができる。

課題へのフィードバック:
課題は、授業内で解説する。

教科書: 『スポーツシリーズ 増補・改訂わかりやすいソフトボールのルール』吉村正 著 成美堂出版

参考書: 『スポーツQ&Aシリーズ 実戦ソフトボール』吉村正ら著 大修館書店

授業・準備学習のアドバイス:
・新学習指導要領に沿って学習を進める。日本ソフトボール協会公式ホームページを参考にすること。
・評価は、授業への取り組み重視の為、注意すること。基本技術と指導方法を習得するには全講義を一貫通して受講される事が望まれる。

【資格取得における必修科目】

・日本障がい者スポーツ協会公認障がい者スポーツ指導員（中級）

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: サッカー

クラス: ス前

授業コード: BE63000001

担当者: 長野 崇 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公益財団法人日本体育協会公認上級コーチライセンス、公益財団法人日本サッカー協会公認A級コーチライセンス、UEFA・B Award(欧州サッカー連盟B級ライセンス)、The F.A.(イングランドサッカー協会)International Coaching Lisence、サンフレッチェ広島、ヴィッセル神戸ユースチーム監督・コーチ

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)【選択】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 体育実技 **一般的包括的科目:** ×

授業の目的: 本講義は、サッカーの基礎的技能と集団的技能を実習する。
サッカーは，多くの球技種目の特徴であるダッシュ・ジャンプ・ストップ・ターンなどのような急激なスピードの変化に加えて，足を使ってボールを扱うというスポーツであるため、より高度な技術を要するスポーツである。瞬時に色々な情報を収集し、素早く的確な動作を判断する能力を養うために、いつ、何を観て、どのような動きが戦術的に優位であるかを考察し体得する。
また、指導法を学ぶことで、スキル獲得のキーファクターをも学習する。

到達目標:
1. サッカーの個人的技能の習得
2. サッカーの集団的技能の習得
3. サッカーの指導方法の習得

各回の授業計画:

1. ガイダンス及び導入ゲーム
2. フットボールコーディネーショントレーニング
3. パス＆コントロール(ボールを操る各種技術の紹介)
4. ドリブル＆フェイント(さまざまなフェイントを使って相手を突破する)
5. シューティング(さまざまな状況下でのシュートトレーニング)
6. クリエイティングスペース(観ることを中心にスペースを創造する)
7. 攻撃の個人戦術(動きやパスの優先順位)
8. 攻撃の個人戦術(対人スキル)
9. 守備の個人戦術(マークの原則＆ポジショニング)
10. 守備の個人戦術(対人スキル)
11. バリエーションゲーム
12. 攻撃のグループ戦術(2v1及び2v2の戦術)
13. 攻撃のグループ戦術(壁パス＆クロスオーバー)
14. 守備のグループ戦術(チャレンジ＆カバー)
15. コンペティションゲーム

特記事項: なし

授業方法: 1～15回 すべて対面
M-T-M(マッチ・トレーニング・マッチ)メソッドを使い、ゲームを中心に講義を展開する
体育館で実施

予習・復習・宿題など(内容・時間):

2. サッカーに関連するフット・アイコーディネーションにつき復習を行う
3. パス＆コントロールに関する復習を行う
4. ドリブル＆フェイント に関する復習を行う
5. シューティングに関する復習を行う
6. クリエイティングスペースに関する復習を行う
7. 攻撃の個人戦術(動きやパスの優先順位)に関する復習を行う
8. 攻撃の個人戦術に(対人スキル)関する復習を行う
9. 守備の個人戦術(マークの原則＆ポジショニング)に関する復習を行う
10. 守備の個人戦術(対人スキル)に関する復習を行う
11. サッカーに関するゲームのバリエーションに関する復習を行う
12. 攻撃のグループ戦術(2v1及び2v2の戦術)に関する復習を行う
13. 攻撃のグループ戦術(壁パス＆クロスオーバー)に関する復習を行う

14. 守備のグループ戦術(チャレンジ＆カバー)に関する復習を行う
15. サッカーに関するコンペティションゲームに関する復習を行う

評価方法:

授業へのとりくみ:	70 **%**	**確認テスト:**	20 **%**	**レポート:**	10 **%**
その他1:			**%**		
その他2:			**%**		

評価基準:

【最低限度の到達度(60～69点)】
1. いくつかのパス＆コントロールができる
2. いくつかのドリブル＆フェイントができる
3. さまざまな状況下でシュートを打つことができる
4. 観ることを中心にスペースを創造することができる
5. 攻撃の個人戦術(動きやパスの優先順位)を理解している
6. 攻撃の個人戦術(対人スキル)を理解している

【望ましい到達度(80～100点)】
1. 攻撃のグループ戦術(2v1及び2v2の戦術)が理解できている
2. 攻撃のグループ戦術(壁パス＆クロスオーバー)が理解できている
3. 守備のグループ戦術(チャレンジ＆カバー)が理解できている
4. 学んだスキルをゲームの中で発揮できる

課題へのフィードバック:

授業内で適宜評価・フィードバックを口頭で行う

教科書: なし

参考書:
1)The Football Association Coaching Book of SOCCER Tactics and Skills;Lennard Queen Anne Press
2)The Winning Formula;Colins

授業・準備学習のアドバイス:

サッカーの競技規則を理解することが肝要である。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: サッカー

クラス: ｽ後

授業コード: BE63000002

担当者: 長野 崇 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公益財団法人日本体育協会公認上級コーチライセンス、公益財団法人日本サッカー協会公認A級コーチライセンス、UEFA・B Award(欧州サッカー連盟B級ライセンス)、The F.A.(イングランドサッカー協会)International Coaching Lisence、サンフレッチェ広島、ヴィッセル神戸ユースチーム監督・コーチ

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)【選択】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 体育実技 **一般的包括的科目:** ×

授業の目的: 本講義は、サッカーの基礎的技能と集団的技能を実習する。
サッカーは，多くの球技種目の特徴であるダッシュ・ジャンプ・ストップ・ターンなどのような急激なスピードの変化に加えて，足を使ってボールを扱うというスポーツであるため、より高度な技術を要するスポーツである。瞬時に色々な情報を収集し、素早く的確な動作を判断する能力を養うために、いつ、何を観て、どのような動きが戦術的に優位であるかを考察し体得する。
また、指導法を学ぶことで、スキル獲得のキーファクターをも学習する。

到達目標:
1. サッカーの個人的技能の習得
2. サッカーの集団的技能の習得
3. サッカーの指導方法の習得

各回の授業計画:

1. ガイダンス及び導入ゲーム
2. フットボールコーディネーショントレーニング
3. パス＆コントロール(ボールを操る各種技術の紹介)
4. ドリブル＆フェイント(さまざまなフェイントを使って相手を突破する)
5. シューティング(さまざまな状況下でのシュートトレーニング)
6. クリエイティングスペース(観ることを中心にスペースを創造する)
7. 攻撃の個人戦術(動きやパスの優先順位)
8. 攻撃の個人戦術(対人スキル)
9. 守備の個人戦術(マークの原則＆ポジショニング)
10. 守備の個人戦術(対人スキル)
11. バリエーションゲーム
12. 攻撃のグループ戦術(2v1及び2v2の戦術)
13. 攻撃のグループ戦術(壁パス＆クロスオーバー)
14. 守備のグループ戦術(チャレンジ＆カバー)
15. コンペティションゲーム

特記事項: なし

授業方法: 1～15回 すべて対面
M-T-M(マッチ・トレーニング・マッチ)メソッドを使い、ゲームを中心に講義を展開する
体育館で実施

予習・復習・宿題など(内容・時間):

2. サッカーに関連するフット・アイコーディネーションにつき復習を行う
3. パス＆コントロールに関する復習を行う
4. ドリブル＆フェイント に関する復習を行う
5. シューティングに関する復習を行う
6. クリエイティングスペースに関する復習を行う
7. 攻撃の個人戦術(動きやパスの優先順位)に関する復習を行う
8. 攻撃の個人戦術に(対人スキル)関する復習を行う
9. 守備の個人戦術(マークの原則＆ポジショニング)に関する復習を行う
10. 守備の個人戦術(対人スキル)に関する復習を行う
11. サッカーに関するゲームのバリエーションに関する復習を行う
12. 攻撃のグループ戦術(2v1及び2v2の戦術)に関する復習を行う
13. 攻撃のグループ戦術(壁パス＆クロスオーバー)に関する復習を行う

14. 守備のグループ戦術（チャレンジ＆カバー）に関する復習を行う
15. サッカーに関するコンペティションゲームに関する復習を行う

評価方法：

授業へのとりくみ：	70	**%**	**確認テスト：**	20	**%**	**レポート：**	10 **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準：

【最低限度の到達度（60～69点）】
1. いくつかのパス＆コントロールができる
2. いくつかのドリブル＆フェイントができる
3. さまざまな状況下でシュートを打つことができる
4. 観ることを中心にスペースを創造することができる
5. 攻撃の個人戦術（動きやパスの優先順位）を理解している
6. 攻撃の個人戦術（対人スキル）を理解している

【望ましい到達度（80～100点）】
1. 攻撃のグループ戦術（2v1及び2v2の戦術）が理解できている
2. 攻撃のグループ戦術（壁パス＆クロスオーバー）が理解できている
3. 守備のグループ戦術（チャレンジ＆カバー）が理解できている
4. 学んだスキルをゲームの中で発揮できる

課題へのフィードバック：

授業内で適宜評価・フィードバックを口頭で行う

教科書： なし

参考書：
1）The Football Association Coaching Book of SOCCER Tactics and Skills;Lennard Queen Anne Press
2）The Winning Formula;Colins

授業・準備学習のアドバイス：

サッカーの競技規則を理解することが肝要である。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: ラグビー

クラス: ｽ前

授業コード: BE63100001

担当者: 但尾 哲哉 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:元日本ラグビー協会科学委員会委員 日本ラグビー協会コーチ4

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)【選択】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 体育実技 **一般的包括的科目:** ×

授業の目的: 本実技はゴール型球技種目のひとつであるラグビーを学ぶ。技術の習得はもちろん、集団スポーツに不可欠なチームプレイについて理論と実践の両面から身につける。また、ラグビー競技の導入段階としての運動遊びを体験しラグビーの本質について学ぶことを目的とする。

到達目標:
1. ラグビーの基礎的スキルの習得
2. 観戦が楽しめるレベルまでのルール理解
3. タッチフットボールを通じてラグビーの本質に触れる

各回の授業計画:

1. ガイダンス
2. 楕円球に慣れる(スクリューパス、ストレートパス、ハイパント、など)
3. コンタクト(接触)プレー体験
4. ラインアウトゲーム
5. ランニング・ウィズ・ザ・ボールⅠ(サイドステップ、スワーブ、チェンジオブペース)
6. ランニング・ウィズ・ザ・ボールⅡ(1on1、2on1)
7. ランニング・ウィズ・ザ・ボールⅢ(スペースボール)
8. タグラグビーⅠ(ルールの習得および基本技術)
9. ラグラグビーⅡ(ゲーム)
10. タッチフットボールⅠ(パススキルおよび集団的技能の習得)
11. タッチフットボールⅡ(パススキルおよび集団的技能の習得)
12. タッチフットボールⅢ(パススキルおよび集団的技能の習得)
13. タッチフットボールⅣ(ゲーム中の「声かけ」)
14. タッチフットボールⅤ(ゲーム中の「声かけ」)
15. まとめと振り返り

特記事項: なし

授業方法: 1～2.講義(映像を用いたルール説明)
3～15.実技

＊全て対面で行う。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

予習(準備)
運動ができるように常日頃から健康に気をつける

評価方法:

授業へのとりくみ:	70 **%**	**確認テスト:**	− **%**	**レポート:**	10 **%**
その他1: 実技試験			20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 最低限度の到達度(60～69点):ゲームを楽しんでいる。
望ましい到達度(80～100点):ゲームでスクリューパスを使っている。チームメイトとの連携に積極的である。

課題へのフィードバック:

各コマ終了後に講評をおこなう

教科書: ・実戦ラグビー 日本ラグビーフットボール協会編著 大修館書店
・増補・改訂わかりやすいラグビールール 日比野 弘監　成美堂出版

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

タッチフットボールというコンタクトプレーを省いたゲームを中心に行う。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: ラグビー

クラス: ｽ後

授業コード: BE63100002

担当者: 但尾 哲哉 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:元日本ラグビー協会科学委員会委員 日本ラグビー協会コーチ4

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)【選択】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 体育実技 **一般的包括的科目:** ×

授業の目的: 本実技はゴール型球技種目のひとつであるラグビーを学ぶ。技術の習得はもちろん、集団スポーツに不可欠なチームプレイについて理論と実践の両面から身につける。また、ラグビー競技への導入段階あたる運動遊びも体験し、ラグビー競技の本質を学ぶことを目的とする。

到達目標:
1. ラグビーの基礎的スキルの習得
2. 観戦が楽しめるレベルまでのルール理解
3. タッチフットボールを通じてラグビーの本質に触れる

各回の授業計画:

1. ガイダンス
2. 楕円球に慣れる(スクリューパス、ストレートパス、ハイパント)
3. コンタクト(接触)プレー体験
4. ラインアウトゲーム
5. ランニング・ウィズ・ザ・ボールⅠ(サイドステップ、スワーブ、チェンジオブペース)
6. ランニング・ウィズ・ザ・ボールⅡ(1on1、2on1)
7. ランニング・ウィズ・ザ・ボールⅢ(スペースボール)
8. タグラグビーⅠ(ルールの習得および基本技術)
9. ラグラグビーⅡ(ゲーム)
10. タッチフットボールⅠ(パススキルおよび集団的技能の習得)
11. タッチフットボールⅡ(パススキルおよび集団的技能の習得)
12. タッチフットボールⅢ(パススキルおよび集団的技能の習得)
13. タッチフットボールⅣ(ゲーム中の「声かけ」)
14. タッチフットボールⅤ(ゲーム中の「声かけ」)
15. まとめと振り返り

特記事項: なし

授業方法: 1～2.講義(映像を用いたルール説明)
3～15.実技

＊全て対面で行う。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

予習(準備)
運動ができるように常日頃から健康に気をつける

評価方法:

授業へのとりくみ:	70 **%**	**確認テスト:**	− **%**	**レポート:**	10 **%**
その他1: 実技試験			20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 最低限度の到達度(60～69点):ゲームを楽しんでいる。
望ましい到達度(80～100点):ゲームでスクリューパスを使っている。チームメイトとの連携に積極的である。

課題へのフィードバック:

各コマ終了後に講評をおこなう

教科書: ・実戦ラグビー 日本ラグビーフットボール協会編著 大修館書店
・増補・改訂わかりやすいラグビールール 日比野 弘監　成美堂出版

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

タッチフットボールというコンタクトプレーを省いたゲームを中心に行う。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 武道

クラス: ス男子

授業コード: BE63200001

担当者: 椿　武、石川　秀之　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:
〔石川〕公立高等学校教諭(保健体育科)、教育員会指導主事、兵庫県体育協会事務局次長、国立淡路青少年交流の家次長、公立高等学校校長、全日本柔道連盟公認A級指導員、講道館柔道7段 兵庫県柔道連盟理事(兵庫県学校柔道連盟会長)

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校　保健体育)【必修】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 体育実技　　**一般的包括的科目:** ○

授業の目的: 体育実技における武道分野の指導法及び専門知識、技能の習得を目標とする。

到達目標: 1. 我が国固有の伝統運動文化である柔道、剣道の起源と変遷及び特性を理解し、礼法、基本動作、対人技能を習得する。
2. 中学校、高等学校の体育授業・武道においての安全性に留意した武道指導法を習得する。

各回の授業計画:

1. 剣道、柔道の歴史概要講義及びオリエンテーション
2. 礼法、基本動作の習得(1)礼法、受け身(後ろへの転び方)
3. 礼法、基本動作の習得(2)礼法、受け身(前への転び方)、姿勢、組み方、崩し、体さばき
4. 対人技能の習得(1)「つくりとかけ」
投技・支釣込足、膝車、固技(抑技)、袈裟固
5. 対人技能の習得(2)「進退動作に応じたつくりとかけ」
投技・体落とし・背負い投げ・固技(抑技)、横四方固、上四方固
6. 対人技能の習得(3)「抑技を使った乱取」
投技・大腰、出足払い、大内刈り、固技(抑技)、縦四方固
7. 対人技能の習得(4)「投げ技を使った乱取」
まとめとしてこれまで学習した内容で乱取を行う
投技・大腰、出足払い、大内刈り、固技(抑技)、縦四方固など
8. 剣道の歴史概要、礼法、竹刀の名称説明、構え方、剣道具の着装方法
9. 基本動作の習得(1)素振り(正面、上下、左右、体捌き、跳躍)、すり足(送り、歩み、継ぎ、開き)、踏み込み足
10. 基本動作の習得(2)切り返し、木刀による剣道基本技稽古法(1本技)
11. 基本動作の習得(3)切り返し、木刀による剣道基本技稽古法(連続技、払い技、引き技)
12. 対人技能の習得(1)切り返し、木刀による剣道基本技稽古法(面抜き胴、小手摺り上げ面)
13. 対人技能の習得(2)切り返し、木刀による剣道基本技稽古法(出ばな小手、面返し胴)
14. 対人技能の習得(3)切り返し、木刀による剣道基本技稽古法(胴うち落とし面)、実技テスト
15. まとめと確認(柔道、剣道の試合法について)

特記事項: なし

授業方法: 授業は全て対面で行う。また、実技中心で実施する。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1,8:中の学習指導要領解説・保健体育編、高は保健体育編・体育編から基本動作、体さばき等の予習90分と復習90分
2-7、9-14:中の学習指導要領解説・保健体育編、高は保健体育編・体育編及びインターネット等の映像から対人技能等の予習及び復習180分
15:全体の振り返り(礼法、基本動作等180分)

評価方法:								
	授業へのとりくみ:	70 %	確認テスト:	− %	レポート:	10 %		
	その他1:	技能テスト		20 %				
	その他2:			%				

評価基準: 60-69点 :柔道、剣道の歴史について理解しており、礼法、基本動作を習得している。
80-100点 :①柔・受け身、投技、固技の基本動作、剣・基本動作(打突、対人技能)を理解し、身につけている。②安全に留意した指導法を身につけている。③柔剣道の簡易な試合方法を理解しており審判ができる。

課題へのフィードバック:

授業時に適宜フィードバックを行う

教科書: 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編』東山書房（平成31年3月）
文部科学省『中学校学習指導要領解説 保健体育編』東山書房（平成30年3月）

参考書: 【柔道】
・安全で楽しい柔道授業ガイド 第4訂版 公財全日本柔道連盟指導者養成委員会

【剣道】
・新中学校学習指導要領に準拠した安全で効果的な剣道授業の展開ダイジェスト版 第4版 全日本剣道連盟
・木刀による剣道基本技稽古法 全日本剣道連盟

授業・準備学習のアドバイス:

1. 限られた時間で個人技能と指導法の習得を目指すので休まないように心がけること。
2. 安全性に留意して授業を実施するが、個人としても体調管理に気をつけること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 武道

クラス: ス女子

授業コード: BE63200002

担当者: 椿　武、石川　秀之　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:
〔石川〕公立高等学校教諭(保健体育科)、教育員会指導主事、兵庫県体育協会事務局次長、国立淡路青少年交流の家次長、公立高等学校校長、全日本柔道連盟公認A級指導員、講道館柔道7段 兵庫県柔道連盟理事(兵庫県学校柔道連盟会長)

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校　保健体育)【必修】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 体育実技　　**一般的包括的科目:** ○

授業の目的: 体育実技における武道分野の指導法及び専門知識、技能の習得を目標とする。

到達目標: 1. 我が国固有の伝統運動文化である柔道、剣道の起源と変遷及び特性を理解し、礼法、基本動作、対人技能を習得する。
2. 中学校、高等学校の体育授業・武道においての安全性に留意した武道指導法を習得する。

各回の授業計画:

1. 剣道、柔道の歴史概要講義及びオリエンテーション
2. 礼法、基本動作の習得(1)礼法、受け身(後ろへの転び方)
3. 礼法、基本動作の習得(2)礼法、受け身(前への転び方)、姿勢、組み方、崩し、体さばき
4. 対人技能の習得(1)「つくりとかけ」
投技・支釣込足、膝車、固技(抑技)、袈裟固
5. 対人技能の習得(2)「進退動作に応じたつくりとかけ」
投技・体落とし・背負い投げ・固技(抑技)、横四方固、上四方固
6. 対人技能の習得(3)「抑技を使った乱取」
投技・大腰、出足払い、大内刈り、固技(抑技)、縦四方固
7. 対人技能の習得(4)「投げ技を使った乱取」
まとめとしてこれまで学習した内容で乱取を行う
投技・大腰、出足払い、大内刈り、固技(抑技)、縦四方固など
8. 剣道の歴史概要、礼法、竹刀の名称説明、構え方、剣道具の着装方法
9. 基本動作の習得(1)素振り(正面、上下、左右、体捌き、跳躍)、すり足(送り、歩み、継ぎ、開き)、踏み込み足
10. 基本動作の習得(2)切り返し、木刀による剣道基本技稽古法(1本技)
11. 基本動作の習得(3)切り返し、木刀による剣道基本技稽古法(連続技、払い技、引き技)
12. 対人技能の習得(1)切り返し、木刀による剣道基本技稽古法(面抜き胴、小手摺り上げ面)
13. 対人技能の習得(2)切り返し、木刀による剣道基本技稽古法(出ばな小手、面返し胴)
14. 対人技能の習得(3)切り返し、木刀による剣道基本技稽古法(胴うち落とし面)、実技テスト
15. まとめと確認(柔道、剣道の試合法について)

特記事項: なし

授業方法: 授業は全て対面で行う。また、実技中心で実施する。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1,8:中の学習指導要領解説・保健体育編、高は保健体育編・体育編から基本動作、体さばき等の予習90分と復習90分
2-7、9-14:中の学習指導要領解説・保健体育編、高は保健体育編・体育編及びインターネット等の映像から対人技能等の予習及び復習180分
15:全体の振り返り(礼法、基本動作等180分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	70	**%**	**確認テスト:**	−	**%**	**レポート:**	10 **%**
その他1:	技能テスト			20	**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: 60-69点 :柔道、剣道の歴史について理解しており、礼法、基本動作を習得している。
80-100点 :①柔・受け身、投技、固技の基本動作、剣・基本動作(打突、対人技能)を理解し、身につけている。②安全に留意した指導法を身につけている。③柔剣道の簡易な試合方法を理解しており審判ができる。

課題へのフィードバック:

授業時に適宜フィードバックを行う

教科書: 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編』東山書房（平成31年3月）
文部科学省『中学校学習指導要領解説 保健体育編』東山書房（平成30年3月）

参考書: 【柔道】
・安全で楽しい柔道授業ガイド 第4訂版 公財全日本柔道連盟指導者養成委員会

【剣道】
・新中学校学習指導要領に準拠した安全で効果的な剣道授業の展開ダイジェスト版 第4版 全日本剣道連盟
・木刀による剣道基本技稽古法 全日本剣道連盟

授業・準備学習のアドバイス:

1. 限られた時間で個人技能と指導法の習得を目指すので休まないように心がけること。
2. 安全性に留意して授業を実施するが、個人としても体調管理に気をつけること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 水泳

クラス: ス前1

授業コード: BE63330001

担当者: 山中 裕太 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)【必修】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 体育実技 **一般的包括的科目:** ○

授業の目的: 本講義では、水泳の基本技術習得と指導方法について実践学習することを目的とする。また、安全指導についてもあわせて学習する。

到達目標:
1. 基本技術の習得。
2. 基本技術の指導方法の習得。
3. 習得した基本泳法で速く泳いだりゆっくり泳いだりするリズムを習得。
4. パラスポーツの理解を深める。
5. 障がい者の泳法に関わる指導方法を理解する。

各回の授業計画:

1. クロールの基礎技術
2. クロールの指導方法
3. 平泳ぎの基礎技術
4. 平泳ぎの指導方法
5. 背泳ぎの基礎技術
6. 背泳ぎの指導方法
7. バタフライの基礎技術
8. バタフライの指導方法
9. 横泳ぎの基礎技術
10. 横泳ぎの指導方法
11. 水泳の事故防止と安全学習Ⅰ
12. 水泳の事故防止と安全学習Ⅱ
13. 障がい者のための泳法指導の基礎 ※1
14. 障がい者のためのクロール指導方法 ※1
15. 障がい者のための平泳ぎ指導方法 ※1

特記事項: ＜健康運動実践指導者・公認パラスポーツ指導員＞
◎ プール(水泳)実習では、以下の点にも留意しながら授業(実習)を展開する。

健康の保持・増進を目的とした日常的に行う代表的な運動の実践と集団への指導方法を学び、多くの人が安全で効果的に楽しく継続できるように導くことができる。

【授業計画1～15】
① 水泳・水中運動
1)水の物理的特性を理解させ、陸上と水中での心拍数の違い等について学ばせる。
2)水中運動の効果、利点、問題点について学び、疾病・障がいへの対応の仕方を理解させる。
3)水の特性を生かしたウォームアップ、クールダウンの運動プログラムを作成、指導することができる内容を学び、様々な方法を実習させる。
4)水位の影響について理解し、水中での立ち方、腕、脚を動かし、浮力、快適さ、動きによる水の抵抗感の違いをつかませる。
5)水中運動(水中ウォーキング、アクアビクス、水中レジスタンス運動)を構成する運動を実習させる。特に、水中エアロビクスを構成する各種運動・動作を実習させ、一連の見本となる運動プログラムを作成・指導させる。
6)水中運動における持久系・筋力系運動の基本的動作と運動強度を変える様々な方法を学び実習させる。
7)歩く、走る、泳ぐなどの運動の速さを変えて実習し、心拍数と運動強度の関係を習得させる。
8)運動プログラムを作成した上で運動を指導し、心拍数やRPEなどで運動強度を確かめ、性、年齢、体力との反応の違いを習得させ、指導上の留意点について理解させる。

② 水泳・水中運動における技能(泳法)等の習得

1)浮き身のとり方、ストリームラインのとり方、各泳法の腕および脚の動かし方、呼吸の方法を習得する。
2)壁を蹴って前進する時の姿勢から、各種泳法を習得する。
3)指導上の留意点を理解しながら実習により習得する。
4)3分間各種泳法での心拍数評価と強度を習得する。

③ 水泳・水中運動時の安全対策
1)水とからだの衛生および水温、救急法、アクセサリー、コンタクトレンズをはずす等水泳・水中運動時の安全対策を理解する。
2)一般の健康人に対する指導上の注意点だけではなく、腰痛者、妊婦などの対象者に対する注意点について理解する。
3)息こらえによる血圧上昇、水平姿勢による脳事故の発生、潜水による不整脈の出現、きついゴーグルによる徐脈のリスク、急な退水による脳・心虚血のリスク、その他サウナ利用上の注意等を理解する。

④ 障がい者のための指導方法
※1では、全国障害者スポーツ大会実施競技の実技(水泳)を通して、その競技規則や指導法など、選手団コーチとして必要な知識・技能を学ぶ。
1)初心者への導入方法および留意点

授業方法: すべての授業を対面授業で行う
・実技授業の内容についてはあらかじめ教室又はプールサイドで講義する。
・室内プールを利用して実技授業を実施する。
・実技授業内で泳力のチェックテストを行いますが、普段の授業内でも行動について評価対象としてチェックをしています。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

・本授業は、学外の施設を利用する為に、限られた時間の中で移動し、外部の方々との接触機会がある。親和の学生である事、指導者の卵である事を自覚し、各自行動言動に注意し相応しいか確認しながら授業に出席できるように準備をすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	50 **%**	**確認テスト:**	− **%**	**レポート:**	20 **%**		
その他1:	実技試験:15分間泳、水中での自己保全能力のテスト	30 **%**					
その他2:		**%**					

評価基準:
・最低限度の到達度(60～69点):水泳の指導に関する基礎的事項について説明できる。自身の安全を確保するための行動が出来る。
・標準的到達度(70～79点):水泳の指導に関する基礎的事項について説明できる。自身の安全を確保するための行動が出来る。他者の安全を確保するための行動ができる。
・望ましい到達度(80～100点):水泳の指導に関する基礎的事項について説明できる。自身の安全を確保するための行動が出来る。他者の安全を確保するための行動ができる。安全な水泳指導を設計できる。

課題へのフィードバック:

・適宜、授業内(泳法毎)でフィードバックを実施する。

教科書: なし

参考書: 日本水泳連盟の水泳指導教本 改訂第二版 大修館書店

授業・準備学習のアドバイス:

・各自で健康管理を徹底する事。
・泳ぎに適した水着を準備して下さい。

【資格取得における必修科目】
・中高保健体育教員免許
・健康運動実践指導者
・日本パラスポーツ協会公認パラスポーツ指導員(中級)

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 水泳

クラス: ス前2

授業コード: BE63330002

担当者: 川上 光宣 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)【必修】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 体育実技 **一般的包括的科目:** ○

授業の目的: 本講義では、水泳の基本技術習得と指導方法について実践学習することを目的とする。また、安全指導についてもあわせて学習する。

到達目標:
1. 基本技術の習得。
2. 基本技術の指導方法の習得。
3. 習得した基本泳法で速く泳いだりゆっくり泳いだりするリズムを習得。
4. パラスポーツの理解を深める。
5. 障がい者の泳法に関わる指導方法を理解する。

各回の授業計画:

1. クロールの基礎技術
2. クロールの指導方法
3. 平泳ぎの基礎技術
4. 平泳ぎの指導方法
5. 背泳ぎの基礎技術
6. 背泳ぎの指導方法
7. バタフライの基礎技術
8. バタフライの指導方法
9. 横泳ぎの基礎技術
10. 横泳ぎの指導方法
11. 水泳の事故防止と安全学習Ⅰ
12. 水泳の事故防止と安全学習Ⅱ
13. 障がい者のための泳法指導の基礎 ※1
14. 障がい者のためのクロール指導方法 ※1
15. 障がい者のための平泳ぎ指導方法 ※1

特記事項: ＜健康運動実践指導者・公認パラスポーツ指導員＞
◎ プール(水泳)実習では、以下の点にも留意しながら授業(実習)を展開する。

健康の保持・増進を目的とした日常的に行う代表的な運動の実践と集団への指導方法を学び、多くの人が安全で効果的に楽しく継続できるように導くことができる。

【授業計画1～15】
① 水泳・水中運動
1)水の物理的特性を理解させ、陸上と水中での心拍数の違い等について学ばせる。
2)水中運動の効果、利点、問題点について学び、疾病・障がいへの対応の仕方を理解させる。
3)水の特性を生かしたウォームアップ、クールダウンの運動プログラムを作成、指導することができる内容を学び、様々な方法を実習させる。
4)水位の影響について理解し、水中での立ち方、腕、脚を動かし、浮力、快適さ、動きによる水の抵抗感の違いをつかませる。
5)水中運動(水中ウォーキング、アクアビクス、水中レジスタンス運動)を構成する運動を実習させる。特に、水中エアロビクスを構成する各種運動・動作を実習させ、一連の見本となる運動プログラムを作成・指導させる。
6)水中運動における持久系・筋力系運動の基本的動作と運動強度を変える様々な方法を学び実習させる。
7)歩く、走る、泳ぐなどの運動の速さを変えて実習し、心拍数と運動強度の関係を習得させる。
8)運動プログラムを作成した上で運動を指導し、心拍数やRPEなどで運動強度を確かめ、性、年齢、体力との反応の違いを習得させ、指導上の留意点について理解させる。

② 水泳・水中運動における技能(泳法)等の習得

1)浮き身のとり方、ストリームラインのとり方、各泳法の腕および脚の動かし方、呼吸の方法を習得する。
2)壁を蹴って前進する時の姿勢から、各種泳法を習得する。
3)指導上の留意点を理解しながら実習により習得する。
4)3分間各種泳法での心拍数評価と強度を習得する。

③ 水泳・水中運動時の安全対策
1)水とからだの衛生および水温、救急法、アクセサリー、コンタクトレンズをはずす等水泳・水中運動時の安全対策を理解する。
2)一般の健康人に対する指導上の注意点だけではなく、腰痛者、妊婦などの対象者に対する注意点について理解する。
3)息こらえによる血圧上昇、水平姿勢による脳事故の発生、潜水による不整脈の出現、きついゴーグルによる徐脈のリスク、急な退水による脳・心虚血のリスク、その他サウナ利用上の注意等を理解する。

④ 障がい者のための指導方法
※1では、全国障害者スポーツ大会実施競技の実技(水泳)を通して、その競技規則や指導法など、選手団コーチとして必要な知識・技能を学ぶ。
1)初心者への導入方法および留意点

授業方法: すべての授業を対面授業で行う
・実技授業の内容についてはあらかじめ教室又はプールサイドで講義する。
・室内プールを利用して実技授業を実施する。
・実技授業内で泳力のチェックテストを行いますが、普段の授業内でも行動について評価対象としてチェックをしています。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

・本授業は、学外の施設を利用する為に、限られた時間の中で移動し、外部の方々との接触機会がある。親和の学生である事、指導者の卵である事を自覚し、各自行動言動に注意し相応しいか確認しながら授業に出席できるように準備をすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	50 **%**	**確認テスト:**	− **%**	**レポート:**	20 **%**		
その他1:	実技試験:15分間泳、水中での自己保全能力のテスト	30 **%**					
その他2:		**%**					

評価基準:
・最低限度の到達度(60～69点):水泳の指導に関する基礎的事項について説明できる。自身の安全を確保するための行動が出来る。
・標準的到達度(70～79点):水泳の指導に関する基礎的事項について説明できる。自身の安全を確保するための行動が出来る。他者の安全を確保するための行動ができる。
・望ましい到達度(80～100点):水泳の指導に関する基礎的事項について説明できる。自身の安全を確保するための行動が出来る。他者の安全を確保するための行動ができる。安全な水泳指導を設計できる。

課題へのフィードバック:

・適宜、授業内(泳法毎)でフィードバックを実施する。

教科書: なし

参考書: 日本水泳連盟の水泳指導教本 改訂第二版 大修館書店

授業・準備学習のアドバイス:

・各自で健康管理を徹底する事。
・泳ぎに適した水着を準備して下さい。

【資格取得における必修科目】
・中高保健体育教員免許
・健康運動実践指導者
・日本パラスポーツ協会公認パラスポーツ指導員(中級)

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 水泳

クラス: ｽ後1

授業コード: BE63330003

担当者: 山中 裕太 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)【必修】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 体育実技 **一般的包括的科目:** ○

授業の目的: 本講義では、水泳の基本技術習得と指導方法について実践学習することを目的とする。また、安全指導についてもあわせて学習する。

到達目標:
1. 基本技術の習得。
2. 基本技術の指導方法の習得。
3. 習得した基本泳法で速く泳いだりゆっくり泳いだりするリズムを習得。
4. パラスポーツの理解を深める。
5. 障がい者の泳法に関わる指導方法を理解する。

各回の授業計画:

1. クロールの基礎技術
2. クロールの指導方法
3. 平泳ぎの基礎技術
4. 平泳ぎの指導方法
5. 背泳ぎの基礎技術
6. 背泳ぎの指導方法
7. バタフライの基礎技術
8. バタフライの指導方法
9. 横泳ぎの基礎技術
10. 横泳ぎの指導方法
11. 水泳の事故防止と安全学習Ⅰ
12. 水泳の事故防止と安全学習Ⅱ
13. 障がい者のための泳法指導の基礎 ※1
14. 障がい者のためのクロール指導方法 ※1
15. 障がい者のための平泳ぎ指導方法 ※1

特記事項: ＜健康運動実践指導者・公認パラスポーツ指導員＞
◎ プール(水泳)実習では、以下の点にも留意しながら授業(実習)を展開する。

健康の保持・増進を目的とした日常的に行う代表的な運動の実践と集団への指導方法を学び、多くの人が安全で効果的に楽しく継続できるように導くことができる。

【授業計画1～15】
① 水泳・水中運動
1)水の物理的特性を理解させ、陸上と水中での心拍数の違い等について学ばせる。
2)水中運動の効果、利点、問題点について学び、疾病・障がいへの対応の仕方を理解させる。
3)水の特性を生かしたウォームアップ、クールダウンの運動プログラムを作成、指導することができる内容を学び、様々な方法を実習させる。
4)水位の影響について理解し、水中での立ち方、腕、脚を動かし、浮力、快適さ、動きによる水の抵抗感の違いをつかませる。
5)水中運動(水中ウォーキング、アクアビクス、水中レジスタンス運動)を構成する運動を実習させる。特に、水中エアロビクスを構成する各種運動・動作を実習させ、一連の見本となる運動プログラムを作成・指導させる。
6)水中運動における持久系・筋力系運動の基本的動作と運動強度を変える様々な方法を学び実習させる。
7)歩く、走る、泳ぐなどの運動の速さを変えて実習し、心拍数と運動強度の関係を習得させる。
8)運動プログラムを作成した上で運動を指導し、心拍数やRPEなどで運動強度を確かめ、性、年齢、体力との反応の違いを習得させ、指導上の留意点について理解させる。

② 水泳・水中運動における技能(泳法)等の習得

1)浮き身のとり方、ストリームラインのとり方、各泳法の腕および脚の動かし方、呼吸の方法を習得する。
2)壁を蹴って前進する時の姿勢から、各種泳法を習得する。
3)指導上の留意点を理解しながら実習により習得する。
4)3分間各種泳法での心拍数評価と強度を習得する。

③ 水泳・水中運動時の安全対策
1)水とからだの衛生および水温、救急法、アクセサリー、コンタクトレンズをはずす等水泳・水中運動時の安全対策を理解する。
2)一般の健康人に対する指導上の注意点だけではなく、腰痛者、妊婦などの対象者に対する注意点について理解する。
3)息こらえによる血圧上昇、水平姿勢による脳事故の発生、潜水による不整脈の出現、きついゴーグルによる徐脈のリスク、急な退水による脳・心虚血のリスク、その他サウナ利用上の注意等を理解する。

④ 障がい者のための指導方法
※1では、全国障害者スポーツ大会実施競技の実技(水泳)を通して、その競技規則や指導法など、選手団コーチとして必要な知識・技能を学ぶ。
1)初心者への導入方法および留意点

授業方法: すべての授業を対面授業で行う
・実技授業の内容についてはあらかじめ教室又はプールサイドで講義する。
・室内プールを利用して実技授業を実施する。
・実技授業内で泳力のチェックテストを行いますが、普段の授業内でも行動について評価対象としてチェックをしています。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

・本授業は、学外の施設を利用する為に、限られた時間の中で移動し、外部の方々との接触機会がある。親和の学生である事、指導者の卵である事を自覚し、各自行動言動に注意し相応しいか確認しながら授業に出席できるように準備をすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	50 **%**	**確認テスト:**	− **%**	**レポート:**	20 **%**		
その他1:	実技試験:15分間泳、水中での自己保全能力のテスト	30 **%**					
その他2:		**%**					

評価基準:
・最低限度の到達度(60～69点):水泳の指導に関する基礎的事項について説明できる。自身の安全を確保するための行動が出来る。
・標準的到達度(70～79点):水泳の指導に関する基礎的事項について説明できる。自身の安全を確保するための行動が出来る。他者の安全を確保するための行動ができる。
・望ましい到達度(80～100点):水泳の指導に関する基礎的事項について説明できる。自身の安全を確保するための行動が出来る。他者の安全を確保するための行動ができる。安全な水泳指導を設計できる。

課題へのフィードバック:

・適宜、授業内(泳法毎)でフィードバックを実施する。

教科書: なし

参考書: 日本水泳連盟の水泳指導教本 改訂第二版 大修館書店

授業・準備学習のアドバイス:

・各自で健康管理を徹底する事。
・泳ぎに適した水着を準備して下さい。

【資格取得における必修科目】
・中高保健体育教員免許
・健康運動実践指導者
・日本パラスポーツ協会公認パラスポーツ指導員(中級)

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 水泳

クラス: ｽ後2

授業コード: BE63330004

担当者: 川上 光宣 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)【必修】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 体育実技 **一般的包括的科目:** ○

授業の目的: 本講義では、水泳の基本技術習得と指導方法について実践学習することを目的とする。また、安全指導についてもあわせて学習する。

到達目標:
1. 基本技術の習得。
2. 基本技術の指導方法の習得。
3. 習得した基本泳法で速く泳いだりゆっくり泳いだりするリズムを習得。
4. パラスポーツの理解を深める。
5. 障がい者の泳法に関わる指導方法を理解する。

各回の授業計画:

1. クロールの基礎技術
2. クロールの指導方法
3. 平泳ぎの基礎技術
4. 平泳ぎの指導方法
5. 背泳ぎの基礎技術
6. 背泳ぎの指導方法
7. バタフライの基礎技術
8. バタフライの指導方法
9. 横泳ぎの基礎技術
10. 横泳ぎの指導方法
11. 水泳の事故防止と安全学習Ⅰ
12. 水泳の事故防止と安全学習Ⅱ
13. 障がい者のための泳法指導の基礎 ※1
14. 障がい者のためのクロール指導方法 ※1
15. 障がい者のための平泳ぎ指導方法 ※1

特記事項: ＜健康運動実践指導者・公認パラスポーツ指導員＞
◎ プール(水泳)実習では、以下の点にも留意しながら授業(実習)を展開する。

健康の保持・増進を目的とした日常的に行う代表的な運動の実践と集団への指導方法を学び、多くの人が安全で効果的に楽しく継続できるように導くことができる。

【授業計画1～15】
① 水泳・水中運動
1)水の物理的特性を理解させ、陸上と水中での心拍数の違い等について学ばせる。
2)水中運動の効果、利点、問題点について学び、疾病・障がいへの対応の仕方を理解させる。
3)水の特性を生かしたウォームアップ、クールダウンの運動プログラムを作成、指導することができる内容を学び、様々な方法を実習させる。
4)水位の影響について理解し、水中での立ち方、腕、脚を動かし、浮力、快適さ、動きによる水の抵抗感の違いをつかませる。
5)水中運動(水中ウォーキング、アクアビクス、水中レジスタンス運動)を構成する運動を実習させる。特に、水中エアロビクスを構成する各種運動・動作を実習させ、一連の見本となる運動プログラムを作成・指導させる。
6)水中運動における持久系・筋力系運動の基本的動作と運動強度を変える様々な方法を学び実習させる。
7)歩く、走る、泳ぐなどの運動の速さを変えて実習し、心拍数と運動強度の関係を習得させる。
8)運動プログラムを作成した上で運動を指導し、心拍数やRPEなどで運動強度を確かめ、性、年齢、体力との反応の違いを習得させ、指導上の留意点について理解させる。

② 水泳・水中運動における技能(泳法)等の習得

1)浮き身のとり方、ストリームラインのとり方、各泳法の腕および脚の動かし方、呼吸の方法を習得する。
2)壁を蹴って前進する時の姿勢から、各種泳法を習得する。
3)指導上の留意点を理解しながら実習により習得する。
4)3分間各種泳法での心拍数評価と強度を習得する。

③ 水泳・水中運動時の安全対策
1)水とからだの衛生および水温、救急法、アクセサリー、コンタクトレンズをはずす等水泳・水中運動時の安全対策を理解する。
2)一般の健康人に対する指導上の注意点だけではなく、腰痛者、妊婦などの対象者に対する注意点について理解する。
3)息こらえによる血圧上昇、水平姿勢による脳事故の発生、潜水による不整脈の出現、きついゴーグルによる徐脈のリスク、急な退水による脳・心虚血のリスク、その他サウナ利用上の注意等を理解する。

④ 障がい者のための指導方法
※1では、全国障害者スポーツ大会実施競技の実技(水泳)を通して、その競技規則や指導法など、選手団コーチとして必要な知識・技能を学ぶ。
1)初心者への導入方法および留意点

授業方法: すべての授業を対面授業で行う
・実技授業の内容についてはあらかじめ教室又はプールサイドで講義する。
・室内プールを利用して実技授業を実施する。
・実技授業内で泳力のチェックテストを行いますが、普段の授業内でも行動について評価対象としてチェックをしています。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

・本授業は、学外の施設を利用する為に、限られた時間の中で移動し、外部の方々との接触機会がある。親和の学生である事、指導者の卵である事を自覚し、各自行動言動に注意し相応しいか確認しながら授業に出席できるように準備をすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	50 **%**	**確認テスト:**	− **%**	**レポート:**	20 **%**		
その他1:	実技試験:15分間泳、水中での自己保全能力のテスト	30 **%**					
その他2:		**%**					

評価基準:
・最低限度の到達度(60～69点):水泳の指導に関する基礎的事項について説明できる。自身の安全を確保するための行動が出来る。
・標準的到達度(70～79点):水泳の指導に関する基礎的事項について説明できる。自身の安全を確保するための行動が出来る。他者の安全を確保するための行動ができる。
・望ましい到達度(80～100点):水泳の指導に関する基礎的事項について説明できる。自身の安全を確保するための行動が出来る。他者の安全を確保するための行動ができる。安全な水泳指導を設計できる。

課題へのフィードバック:

・適宜、授業内(泳法毎)でフィードバックを実施する。

教科書: なし

参考書: 日本水泳連盟の水泳指導教本 改訂第二版 大修館書店

授業・準備学習のアドバイス:

・各自で健康管理を徹底する事。
・泳ぎに適した水着を準備して下さい。

【資格取得における必修科目】
・中高保健体育教員免許
・健康運動実践指導者
・日本パラスポーツ協会公認パラスポーツ指導員(中級)

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 遠泳

クラス:

授業コード: BE63360001

担当者: 宮辻 和貴／久永 将太／山中 裕太／川上 光宣／椿 武／杉山 真人／但尾 哲哉／葦原 摩耶子／祐末 ひとみ／三浦 敬太

単位数: 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －

一般的包括的科目: －

授業の目的: 体育・スポーツ指導者に不可欠な集団での海浜における水泳の体験を通して、海浜という自然環境の特徴を把握するとともに、海水と人間との関係を理解する。
また、そこでの身体操作技法(スポーツにおいて身体を効率的に使いこなす技術)について身につけるとともに、忍耐力と協調性を養う。

到達目標:
1. プールと海の違いを理解し、海での泳ぎ方と求められる学習態度を身につける。
2. 着衣泳・救助法を体験し、人命救助のための基礎的知識と技能を身につける。
3. 集団泳法の技術、集団生活のマナー、実習中の体調管理等から、体育・スポーツ指導者に必要な自己管理能力を身につける。

各回の授業計画:

【遠泳実習(事前説明会・事前指導①②】
事前説明会:ガイダンスついて(※ 実習日程、実習費、スケジュールの確認、事前指導①、事前指導②)
事前指導①:テキスト配布、スケジュールの再確認について(※ リーダー紹介、部屋割り、実習準備物などの諸注意)
事前指導②:救急蘇生法について(※ オンライン:Teams等)

【遠泳実習(現地実習)】
＜1日目＞
① 大学集合:4時間目または5時間目の授業終了後(※ 受講生の履修状況により変更有)
② 大学出発:鈴蘭台キャンパス
③ 現地到着:鳥取県岩美郡岩美町(※ 東浜海岸)

＜2日目＞
① 朝の集い:第1～第2避難経路(確認)、海辺散歩(海岸探索を含む)
② 午前:各班にて「水慣れ、泳ぎこみ」の実施
③ 午後:各班にて「浮きみ、横泳ぎ、エレメンタリ―バックストローク、隊列練習」の実施
:全体にて救助法「リングブイ・レスキューチューブ・レスキューボードの体験」の実施
④ 夜 :班別ミーテイング(※ 宿舎orコミュニティセンター等の近隣施設)

＜3日目＞
① 朝の集い:海辺散歩(浜の清掃を含む)
② 午前:大遠泳・中遠泳それぞれの班分けを行い、隊列練習の実施
③ 午後:各遠泳の予行演習(リハーサル)と並行して、着衣泳(※ 長袖、長ズボン)の実施
④ 夜 :講義「遠泳の心得」、班別ミーテイング(※ 宿舎orコミュニティセンター等の近隣施設)

＜4日目＞
① 朝の集い:ラジオ体操(※ レポート提出)
② 午前:大遠泳・中遠泳の実践(※ 本番)
③ 現地出発:鳥取県岩美郡岩美町(※ 東浜海岸)
④ 大学帰着:鈴蘭台キャンパス(※ 三宮経由予定)

特記事項: なし

授業方法: 【遠泳実習(事前説明会・事前指導①②】
事前説明会:ガイダンスついて(※ 実習日程、実習費、スケジュールの確認、事前指導①、事前指導②)
事前指導①:テキスト配布、スケジュールの再確認について(※ リーダー紹介、部屋割り、実習準備物などの諸注意)
事前指導②:救急蘇生法について(※ オンライン:Teams等)
※ 原則として、事前説明会および事前指導①②に出席することが実習への参加条件です(必ず出席をすること)

『遠泳・実習期間前:講義(対面・事前説明会、事前指導①)・オンライン(オンデマンド・事前指導②)』

【遠泳実習(現地実習)】
現地実習:遠泳泳法(隊列含む)、班別ミーティング、講義等

『遠泳・実習期間中:講義・実技(対面)』

予習・復習・宿題など(内容・時間):

『遠泳実習前、実習中、実習後の自己学習内容』
1. 遠泳実習前(予習:各項目60分・復習:各項目60分)
① 実習場所である鳥取県岩美郡岩美町の歴史について
② 岩美町の観光資源について
③ 東浜海岸の特徴(潮の流れ、風向き、地形等)について
※ 事前説明会、事前指導①、事前指導②の内容を含む

2. 遠泳実習中(予習:各項目50分・復習:各項目50分)
① 遠泳に関わるスキルの学習内容について、遠泳実習冊子を活用して行う
② 東浜海岸の海浜環境について、遠泳実習冊子を活用して振り返りを行う
※ 現地実習先での遠泳泳法(隊列を含む)、班別ミーテイング、講義等を含む

3. 遠泳実習後(復習:115分)
・実習期間の振り返りについては、遠泳に関わるスキル、指導方法、自然観察、安全指導等に分類した上で内容をまとめる
※ 実習終了後、受講生による振り返りの内容を含む

評価方法:

授業へのとりくみ:	60 **%**	**確認テスト:**	− **%**	**レポート:**	10 **%**		
その他1:	実技		30 **%**				
その他2:			**%**				

評価基準: 「評価方法」の1～3について、以下の基準を満たすことが求められます。
1. 授業へのとりくみ(授業態度、関心・意欲、発表など)
・夏のスポーツとして位置づけられている水泳・遠泳に関する内容を学ぶための取り組みが、主体的な姿勢で実習への参加がなされている(60～69点)
・夏のスポーツとして位置づけられている水泳・遠泳に関する内容を学ぶための取り組みが、自ら探究心を持って水泳・遠泳に関わる技術および指導方法を学ぶ姿勢を踏まえた上で、主体的に実習への参加がなされている(80～100点)

2. レポート
・レポートの基本的な形式が整えられており、レポート課題に対する論述(自身の考えや表現)がなされている(60～69点)
・レポートの基本的な形式が整えられており、レポート課題に対する論述(自身の考えや表現)がなされつつ、読み手に伝わるように作成されている(80～100点)

3. 実技
・実技については、遠泳隊列を組み、補助具の助けをかりつつ、一定程度の距離と時間を泳ぎきることができる(60～69点)
・実技については、遠泳隊列を組み、自力で、一定程度の距離と時間を泳ぎきることができる(80～100点)

課題へのフィードバック:
・現地実習(授業へのとりくみ)については、遠泳完泳後の全体ミーティングにおける本実習の出来栄えに応じたフィードバックを適宜行うこととする。
・レポートについては、採点後に実習先で講評する。
・実技については、実習中の遠泳に関わる技術(泳法、隊列)による採点を行い、実習先で講評する。

教科書: ・神戸親和大学遠泳実習冊子(オリジナルテキスト)

参考書:　・日本水泳連盟（編）「オープンウォータースイミング教本 改訂版」大修館書店、2014年

授業・準備学習のアドバイス:

・水泳の授業でしっかりと4泳法のスキルを身につけておきましょう。
・自然の中に身を置いた体験をすることが、教職やスポーツ指導者を目指す人にとって、将来の自分に対する重要なポイントとなる経験です。
・水泳が苦手な人も勇気をもって挑戦する主体的な姿勢を身に付けるためにも、体験した人でしか語ることのできない学外実習である遠泳を通して学びを深めてください。

『2026年度（実習日程・場所）』
・令和8年7月17日（金）～20日（月・祝）
・鳥取県岩美郡岩美町東浜海岸
※ 遠泳実習出発当日に関して、天候、交通状況において予定時間を変更することがあります。
※ 社会情勢により、延期または中止、実習地の変更、実習期間の変更を行うことがあります。
※ 上記（社会情勢）を踏まえ、遠泳実習参加の際に「参加承諾書」を求める場合があります。

『2025年度（令和7年度実績：実習費）』
・30,000円～35,000円（※ 宿泊費、交通費＝バス代、スイムキャップ、雑費等）
※ 詳細は「事前説明会・事前指導等」で説明を行います。
※ 履修登録後（最終確認）にキャンセルを申出た場合、キャンセル代（宿泊費以外）を支払うことになりますのでご注意ください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: スキー

クラス:

授業コード: BE63400001

担当者: 宮辻 和貴、松田 雅彦、中瀬古 哲、椿 武、久永 将太、山中 裕太、祐末 ひとみ、杉山 真人、葦原 摩耶子、但尾 哲哉、有山 篤利

単位数: 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: −

一般的包括的科目: −

授業の目的: これまで「スキー」という種目は誰にでも手軽に取り組むことができるため、初心者においても未熟な技術で斜面を滑ることが可能であり、上級者では大小の変化をつけながら滑ることができる生涯スポーツである。特に、仲間同士で楽しむうえで非常に有効であり、生涯に亘って実践できるスポーツとしても大変重要な意義を持っている。
また、誰もが「スキー」を楽しめるという観点からも、高齢者および障がいのある方の指導法についても併せて考える。そして、子どものスキー指導法も考慮に入れた能力を高めるスキルも体得することができるプログラムである。

到達目標:
1. スキーの楽しみ方を学ぶ
2. スキーの技術を習得する
3. スキーの指導方法を学ぶ
4. 野外での活動を理解する

各回の授業計画:

【スキー(事前説明会①②・事前指導①②】
事前説明会①:ガイダンス等(実習日程、実習費、健康・アレルギー調査、技能アンケート調査、今後のスケジュールについて)
事前説明会②:スケジュールの再確認等(実習日程、実習費、事前指導①、事前指導②)
事前指導①:テキスト配布、スケジュールの再確認等(リーダー紹介、部屋割り、実習準備物)
事前指導②:長野県上田市の歴史や上田菅平の観光資源の調査について(オンライン:Teams等)

【スキー(現地実習)】
＜実習1日目＞
① 鈴蘭台キャンパス(9:00集合)
② 開講式(9:15～9:30)
③ 大学出発(9:30～9:45出発)
④ 現地到着(19:00頃到着予定)※ 長野県上田市菅平高原スノーリゾート
⑤ 講師紹介(21:00～22:00)※ 実習期間中の諸注意を含む

＜実習2日目＞
① 午前:班分け、雪慣れ(班別・実技)
② 午後:班別指導(実技)
③ 夜 :野外教育(講義)、班別ミーテイング(※ 実習での過ごし方)

＜実習3日目＞
① 午前:班別指導(実技)
② 午後:班別指導(実技)
③ 夜 :班別ミーテイング(※ フォーメーション案を考える)

＜実習4日目＞
① 午前:班別指導(実技)
② 午後:班別指導(実技)
③ 夜 :レクリエーション(講義)、班別ミーテイング(※ フォーメーション案を考える)

＜実習5日目＞
① 午前:班別指導(実技)
② 午後:班別指導(実技)
③ 夜 :班別指導(※ レポート提出、フォーメーションの再確認)

＜実習6日目＞
① 午前:班別指導(※ 各班でフォーメーションに取り組む、技術評価も含む)
② 午後:個人フリー研修(実技)※ 滑走バーン指定有
③ 夜 :閉講式(20:00)
④ 現地出発:長野県上田市菅平高原スノーリゾート(21:00)

＜実習7日目＞
① 三宮到着（5：30到着予定）
② 大学到着（6：00到着予定）
※ 実習期間中は天候、ゲレンデコンディションによって予定の変更有！

特記事項： なし

授業方法： 【スキー（事前説明会①②・事前指導①②】
事前説明会①：ガイダンス等（実習日程、実習費、健康・アレルギー調査、技能アンケート調査、今後のスケジュールについて）
事前説明会②：スケジュールの再確認等（実習日程、実習費、事前指導①、事前指導②）
事前指導①：テキスト配布、スケジュールの再確認等（リーダー紹介、部屋割り、実習準備物）
事前指導②：長野県上田市の歴史や上田菅平の観光資源の調査について（オンライン：Teams等）
※ 原則として、事前説明会①②および事前指導①②に出席することが実習への参加条件です（必ず出席をすること）

『スキー・実習期間前：講義（対面・事前説明会①②、事前指導①）・オンライン（オンデマンド・事前指導②）』

【スキー（現地実習）】
現地実習：スキー技術（大回り、中回り、小回り、コブ、総合滑降、フォーメーション）、班別ミーティング、講義等

『スキー・実習期間中：講義・実技（対面）』

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

『スキー実習前、実習中、実習後の自己学習内容』
1. スキー実習前（予習：各項目200分・復習：各項目200分）
① 実習場所である長野県上田市の歴史について
② 上田菅平の観光資源について
③ 雪の種類と特徴（ゲレンデ全般）について
※ 事前説明会①、事前説明会②、事前指導①、事前指導②の内容を含む

2. スキー実習中（予習：各項目200分・復習：各項目200分）
① スキー技術の学習内容について、スキー・スキー実習冊子を活用して行う（※ テキストに内容をまとめる）
② スキー場のゲレンデ環境について、スキー・スキー実習冊子を活用して振り返りを行う（※ テキストに内容をまとめる）
③ 菅平高原スノーリゾートにおける野外教育への関わりとして、実習中に自然観察も行う（※ テキストに内容をまとめる）
※ 現地実習先でのスキー技術、班別ミーテイング、講義等を含む

3. スキー実習後（復習：300分）
・実習期間の振り返りについては、スキー技術、指導方法、自然観察、安全指導等に分類した上で内容をまとめる
※ 実習終了後、受講生による振り返りの内容を含む

評価方法：

授業へのとりくみ：	70 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	10 **%**
その他1：	実技（技能・フォーメーション等）		20 **%**		
その他2：			**%**		

評価基準： 「評価方法」の1～3について、以下の基準を満たすことが求められます。
1. 授業へのとりくみ（授業態度、関心・意欲、発表など）
・生涯スポーツとして位置づけられているスキーに関する内容を学ぶための取り組みが、主体的な姿勢で実習への参加がなされている（60～69点）
・生涯スポーツとして位置づけられているスキーに関する内容を学ぶための取り組みが、自ら探究心を持ってスキーの技術および指導方法、野外教育を学ぶ姿勢を踏まえた上で、主体的に実習への参加がなされている（80～100点）

---

2. レポート
・レポートの基本的な形式が整えられており、レポート課題に対する論述（自身の考えや表現）がなされている（60～69点）
・レポートの基本的な形式が整えられており、レポート課題に対する論述（自身の考えや表現）がなされつつ、読み手に伝わるように作成されている（80～100点）

3. 実技
・実技については、初心者班から上級者班それぞれの指導者による指導内容に対する実践がなされている（60～69点）
・実技については、初心者班から上級者班それぞれの指導者による指導内容に対する実践がなされた上で、自らが指導者の立場に立った指導内容の理解が反映されている（80～100点）

課題へのフィードバック：

・スキー（野外教育を含む）に関するプログラムであるため、雪上でのスキーの技術や安全および指導方法などの様々な内容を盛り込んでいることから、適宜実習中にフィードバックを実施する。
・レポートについては、採点後に実習先で講評する。
・実技については、実習中のスキー技術を中心とした採点を行い、実習先で講評する。

教科書： ・神戸親和大学スキー実習冊子（オリジナルテキスト）

参考書： ・日本スキー教程：公益財団法人 全日本スキー連盟著，株式会社 芸文社，2024年
・日本スキー教程安全編：公益財団法人 全日本スキー連盟著，株式会社 芸文社，2024年

授業・準備学習のアドバイス：

・将来の自分自身に対して、自然の中に身を置いた体験をすることが、教職やスポーツ指導者を目指す人にとって、非常に重要な経験となります。是非、白銀の世界から様々な学びを吸収しましょう。

『2026年度（実習日程・場所）』
・令和9年2月14日（日）～20日（土）
・長野県上田市菅平高原スノーリゾート
※ スキーの出発当日に関して、天候、交通状況において予定時間を変更することがあります。
※ 社会情勢により、延期または中止、実習地の変更、実習期間の変更を行うことがあります。
※ 上記（社会情勢）を踏まえ、スキー参加の際に「参加承諾書」を求める場合があります。

『2025年度（令和7年度実績：実習費）』
・71,500円（※ 宿泊費、交通費＝バス代、テキスト代、ゼッケン代、ヘルメット代、雑費等）
・別途、リフト代（※ 現地徴収）およびレンタル代（※ 該当者のみ）が必要
※ 詳細は「事前説明会・事前指導等」で説明を行います。
※ 履修登録後（最終確認）にキャンセルを申出た場合、キャンセル代（宿泊費以外）を支払うことになりますのでご注意ください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 海外スポーツ教育・文化研修

クラス:

授業コード: BE63600001

担当者: 椿 武 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 教育現場やスポーツ施設などの見学を通して、現地のスポーツ教育の実際を学ぶとともに様々な体験を通して多様な文化に触れる。

到達目標: 教育現場の見学や文化体験や現地の学生との交流を通して、日本とのスポーツ教育の違いについて理解を深めることを目的とする。

各回の授業計画:

事前指導:研修に入る前に事前指導を実施する

事後指導:研修で学んだことについてポスターやレポートにまとめる

特記事項: 研修は、韓国(韓国体育大学)での実施を予定しているが変更になる可能性もある。

授業方法: 事前、事後指導は対面で行う。必要に応じてオンデマンドでの実施に切り替わる場合もある。

コミュニケーションを中心としたアプローチによる授業が中心となる。グループ活動を通じて、ディスカッションやプレゼンテーション能力を高める活動を行う。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

現地の活動内容に応じて、課題が出されることがある。

評価方法:							
	授業へのとりくみ:	70 **%**	**確認テスト:**	－ **%**	**レポート:**	30 **%**
	その他1:			**%**		
	その他2:			**%**		

評価基準: 現地での活動に積極的に関わったか、事前事後指導時における課題の内容によって総合的に評価します。
取り組み:70%、レポート:30%

課題へのフィードバック:

フィードバックは、実習終了後の事後指導内で行います。
また、捕捉内容等はTeamsを使用して連絡いたします。

教科書: なし

参考書: なし（必要に応じて適宜資料を配布する）

授業・準備学習のアドバイス:

自己紹介や日常会話などの英語のスキルを高めておく。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教職論

クラス: 免(内規科目)

授業コード: BS00100011

担当者: 松田 雅彦 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立高等学校教諭(保健体育)、国立大学法人中学校教諭(保健体育)、国立大学法人高等学校教諭(保健体育)、主幹教諭、進路研究部長、生徒指導部長

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教育の基礎的理解に関する科目(幼稚園)(小学校)(中学校)(高等学校)【必修】

含めることが必要な事項: 教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 「教職とは」について、教職の意義、教員の役割、職務内容、資質能力など、実際の教育事例に基づいて、その基礎的・基本的な理論を理解する。社会の進歩や変化のスピードが速まり、学校現場の課題も多種・多様化する中、教員へ求められる課題も多い。その課題解決のため、教員の資格、研修、学校経営(チーム学校を含む)なども現状の様子を映像資料等も参考に活用しながら理解する。これらを理解した上で、教員を目指す自らの動機や「求められる教師像」について考え、学び、将来の教職の基礎になるようディスカッションやグループ学習、プレゼン発表などICTを活用した学習形態を組み合わせて習得する。

到達目標:
1. 学校教育及び教職の社会的意義を学び、教職の魅力とその仕事を理解する。
2. 教員の職務内容や教育公務員としての服務上及び身分上の義務を理解する。
3. 社会情勢を知り、教育の動向を踏まえ、教員に求められる役割と資質能力を理解する。
4. 「小・中・高等学校学習指導要領」及び「幼稚園教育要領」を理解する。
5. 学校が担う役割が拡大、多様化する中、専門職としての教員について理解する。

各回の授業計画:

1. 教職の意義(1) 教職とは何か
2. 教職の意義(2) 教員に求められるもの
3. 教職の職務(1) 教員の身分
4. 教職の職務(2) 教員の服務
5. 教員養成 教員養成の歴史と現状
6. 教員資格と教員の採用 教員免許状と教員採用
7. 教員の資質能力 求められる資質能力
8. 教員の研修と評価 意義と課題
9. 専門職としての教職(1) 小・中・高等学校学習指導要領
10. 専門職としての教職(2) 幼稚園教育
11. 専門職としての教職(3) 特別支援教育
12. 専門職としての教職(4) 人権教育
13. 専門職としての教職(5) 教科指導と教科外指導(ICT教育の活用)
14. 専門職としての教職(6) 生徒指導・道徳教育
15. 教職をめぐる新たな諸課題

特記事項: なし

授業方法:
・パワーポイントを活用した講義を中心として実施する。
・90分の中で、1つの課題を与え、グループ討議又は全体での討議を行う。
・各授業の動画や写真及び関係資料はTeamsの保存しているものを活用する。
・授業では、PC活用し、ワークシートの記入や課題提出を行う。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

予習・復習・宿題など
1. 教育基本法の読み、予習をする。(180分)
2. 「教員に求められるものとは何か」のレポートを作成する。(180分)
3. 学校教育法、教育公務員特例法などを読み、予習する。(180分)
4. 教員の服務「職務上の義務」と「身分上の義務」ついてまとめる(180分)
5. 戦前の教員養成と戦後の教員養成の変化を調べる。(180分)
6. 教員免許状の取得要件をまとめる。(180分)
7. 教員の資質能力として挙げられてきたものを整理する。(180分)
8. 教員の研修体制について調べる(180分)
9. 学校運営協議会等の制度についてまとめる(180分)

10.『「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について』令和4年12月19日中央審議会答申を読んでまとめる。（180分）
11. 小・中学習指導要領の要点をまとめる。（180分）
12. 幼稚園教育要領や保育指針の要点をまとめる。（180分）
13. 特別支援教育ついてのレポートを作成する。（180分）
14. 生徒指導と道徳教育についてのレポートを作成する。（180分）
15.「教職をめぐる新たな諸課題」について自分の興味ある課題でまとめる。（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	50 **%**	**レポート：**	20 **%**
その他1：			**%**		
その他2：			**%**		

評価基準： 60-69：教職の意義を理解できている。
80-100： 教員の資質能力について理解している。② 教員の役割・職務内容を理解している。③教科指導の専門知識を身につけている。

課題へのフィードバック：

授業時に適切な方法で対応

教科書： 佐久間裕之 編著『改訂第2版 教職概論』（玉川大学出版部 2024年）

参考書：
・文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）』東洋館出版社
・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年公示）』東山書房
・文部科学省『幼稚園教育要領解説＜平成30年3月＞』フレーベル館
・内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館
・厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館
・文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年3月公示）』東山書房
・文部科学省『生徒指導提要改訂版（令和4年12月）』東洋館出版社
・文部科学省『これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について（中央審議会答申）』（平成27年12月21日）
・文部科学省『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（中央審議会答申）』（平成28年12月21日）
・文部科学省『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと，協働的な学びの実現～（中央教育審議会答申）』（令和3年1月26日）
・文部科学省『「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～（中央教育審議会答申）』（令和4年12月19日）

授業・準備学習のアドバイス：

教員を目指す強い意志を持って授業に臨むこと

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育原理

クラス: 免前(内規科目)

授業コード: BS00200001

担当者: 廣岡 義之 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教育の基礎的理解に関する科目(幼稚園)(小学校)(中学校)(高等学校)【必修】

含めることが必要な事項: 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 教育の理念・歴史・思想を各論点において闡明しつつ統合的展開において考察する。理念に関しては、人格の完成を社会適応・内在的本質の開花・自己超越等の視点から、歴史に関しては教育の課題とその解決への試行という視点から、思想に関しては現実主義・理想主義・人間主義等の視点から理解し、これらを総合的にその歴史的展開と現代との関連において解説する。

到達目標: 1. テーマ:教育とは何か、何のために教育はあるのか、といった教育の理念。目標:教育理念に関する様々な考え方を理解して自分の言葉で説明できるようになる。
2. テーマ:教育の歴史と現代の課題。目標:教育理念を実現するために展開されてきた教育活動の歴史を理解し、現在の課題と関連づけて自分の言葉で説明できるようになる。
3. テーマ:古代から現代に至る代表的な教育思想。目標:歴史的に重要な教育思想の意義と内実を理解して自分の言葉で説明できるようになる。

各回の授業計画:

1. 教育の理念:(1)人間形成と教育の本質
2. 教育の理念:(2)授業の本質---ソクラテスとプラトンを手がかりに
3. 成長と学び(学びの本質)
4. 教育の歴史:(1)古代ギリシア・ローマの教育とその歴史的意義
5. 教育の歴史:(2)ヨーロッパ中世・近世の教育とその現代的意義
6. 教育の歴史:(3)ルネサンス・バロックの教育制度と教育の歴史
7. ルソーの教育観・保育観 教育学の誕生と「子ども」の発見
ルソー『エミール』の教育観・子ども観
8. ペスタロッチ:子どもが主体の教育 「生活が陶冶する」
9. フレーベルの幼稚園:乳幼児期における遊びの重要性
10. 子どもの育ちを支える教育的・絶対的信頼(安心) ボルノーの被包感
11. シュタイナーの発達理論
12. 学校と子ども・教師
13. 子どもの成長・生活をめぐる諸問題
14. 教育の原点としての家庭教育と社会教育
15. 家庭と地域の教育 生涯教育、確認テスト

特記事項: なし

授業方法: すべての授業を対面授業で行う
講義形式を基盤として以下のような様々な方法を用いる。
・教員との意見交換
・受講生相互の意見交換・討議
・グループワーク
・プレゼンテーション
・視聴覚教材の活用

予習・復習・宿題など(内容・時間):

・予習・復習の時間
各回の授業につき90分の予習と90分の復習を必要とする。
・予習・復習の内容
予習においては、配布された資料や参考文献をもとに、予定される講義内容の理解のための準備や課題発表の用意を周到に行い、グループワークやプレゼンテーション等の必要性に対応できるようにすること。(90分)
復習においては、講義ノートを整理し、文献や各種資料を調査・学修して講義についての理解を深め、レポート・ワークシート等の課題が課せら有れている場合はそれを完成すること。(90分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	50	**%**	**確認テスト:**	50	**%**	**レポート:**	– **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準:

・最低限の到達度(60～69点)
上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において基本的なレベルで達成できている。すなわち:
1. 教育理念に関する様々な考え方をその概要において理解し、自分の言葉でその大筋を説明できるようになること。
2. 教育理念を実現するために展開されてきた教育活動の歴史をその概要において理解し、現在の課題と関連づけて自分の言葉でその大筋を説明できるようになること。
3. 歴史的に重要な教育思想の意義と内実をその概要において理解し、自分の言葉でその大筋を説明できるようになること。

・望ましい到達度(80～100点)
上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において客観的な説得力を持つレベルで達成できている。すなわち:
1. 教育理念に関する様々な考え方を正確に理解して自分の言葉で明確に説明できるようになること。
2. 教育理念を実現するために展開されてきた教育活動の歴史を正確に理解し、現在の課題と関連づけて自分の言葉で明確に説明できるようになること。3. 歴史的に重要な教育思想の意義と内実を正確に理解して自分の言葉で明確に説明できるようになること。

課題へのフィードバック:

課題への解答に対しては、授業のできるだけ早い機会にその秀逸な論点、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、爾後の学修に生産的に還元され得るよう配慮する。

教科書: 広岡義之著『教育学概説』アマゾン出版 テキスト購入は別途指示する。
Kindle for PCのコンピュータへのインストールまたはアップデート – Amazonカスタマーサービス
広岡義之著『教育学概説』アマゾン出版 1,000円

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

予習復習を習慣づけること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育原理

クラス: 免後(内規科目)

授業コード: BS00200002

担当者: 廣岡 義之 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教育の基礎的理解に関する科目(幼稚園)(小学校)(中学校)(高等学校)【必修】

含めることが必要な事項: 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 教育の理念・歴史・思想を各論点において闡明しつつ統合的展開において考察する。理念に関しては、人格の完成を社会適応・内在的本質の開花・自己超越等の視点から、歴史に関しては教育の課題とその解決への試行という視点から、思想に関しては現実主義・理想主義・人間主義等の視点から理解し、これらを総合的にその歴史的展開と現代との関連において解説する。

到達目標: 授業のテーマ:
1. 教育とは何か、何のために教育はあるのか、といった教育の理念。
2. 教育の歴史と現代の課題。
3. 古代から現代に至る代表的な教育思想。

到達目標:
1. 教育理念に関する様々な考え方を理解して自分の言葉で説明できるようになる。
2. 教育理念を実現するために展開されてきた教育活動の歴史を理解し、現在の課題と関連づけて自分の言葉で説明できるようになる。
3. 歴史的に重要な教育思想の意義と内実を理解して自分の言葉で説明できるようになる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション:教育原理を学ぶことの意義
2. 教育の理念と現代の教育問題
3. 学校教育の諸問題と教育理念の諸類型
4. 教育の歴史:(1)古代ギリシアの教育とその歴史的意義
5. 教育の歴史:(2)中世・近世の教育とその現代的意義
6. 教育の歴史:(3)新教育とその現代への連接
7. 古代ギリシアの教育思想:(1)ソフィスト
8. 古代ギリシアの教育思想:(2)ソクラテス
9. 古代ギリシアの教育思想:(3)プラトン
10. 近代の教育思想:(1)ルソー
11. 近代の教育思想:(2)ペスタロッチとフレーベル
12. 現代の教育思想:(1)デューイ他
13. 現代の教育思想:(2)多文化教育等
14. 教育の原点としての家庭教育と社会教育
15. 教育の歴史的展望と現代教育の課題、確認テスト

特記事項: なし

授業方法: 授業は、対面で行う。
講義形式を基盤として以下のような様々な方法を用いる。
・教員との意見交換
・受講生相互の意見交換・討議
・グループワーク
・プレゼンテーション
・視聴覚教材の活用

予習・復習・宿題など(内容・時間):

・予習・復習の時間
各回の授業につき90分の予習と90分の復習を必要とする。
・予習・復習の内容
予習においては、配布された資料や参考文献をもとに、予定される講義内容の理解のための準備や課題発表の用意を周到に行い、グループワークやプレゼンテーション等の必要性に対応できるようにすること。(90分)
復習においては、講義ノートを整理し、文献や各種資料を調査・学修して講義についての理解を深め、レポート・ワークシート等の課題が課

せられている場合はそれを完成すること。(90分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	40	**%**	**確認テスト:**	60	**%**	**レポート:**	- **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準:

・最低限の到達度(60～69点)
上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において基本的なレベルで達成できている。すなわち:
1. 教育理念に関する様々な考え方をその概要において理解し、自分の言葉でその大筋を説明できるようになること。
2. 教育理念を実現するために展開されてきた教育活動の歴史をその概要において理解し、現在の課題と関連づけて自分の言葉でその大筋を説明できるようになること。
3. 歴史的に重要な教育思想の意義と内実をその概要において理解し、自分の言葉でその大筋を説明できるようになること。
・望ましい到達度(80～100点)
上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において客観的な説得力を持つレベルで達成できている。すなわち:
1. 教育理念に関する様々な考え方を正確に理解して自分の言葉で明確に説明できるようになること。
2. 教育理念を実現するために展開されてきた教育活動の歴史を正確に理解し、現在の課題と関連づけて自分の言葉で明確に説明できるようになること。
3. 歴史的に重要な教育思想の意義と内実を正確に理解して自分の言葉で明確に説明できるようになること。

課題へのフィードバック:

課題への解答に対しては、授業のできるだけ早い機会にその秀逸な論点、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、爾後の学修に生産的に還元され得るよう配慮する

教科書:

第1回の講義で指示する

参考書:

佐野安仁監修、加賀裕郎、隈元泰弘編集『現代教育学のフロンティア』世界思想社 2003年
Kindle for PCのコンピュータへのインストールまたはアップデート - Amazonカスタマーサービス 広岡義之著『教育学概説』アマゾン出版 2026年 1,000円
文部科学省『小学校学習指導要領』東洋館出版社(平成30年2月)
文部科学省『中学校学習指導要領』東山書房(平成30年3月)
文部科学省『高等学校学習指導要領(平成30年3月公示)』東山書房
令和5年度最新版『幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』ISBN 978-4-8054-0330-3 チャイルド社

授業・準備学習のアドバイス:

授業に集中すること、これが何より大切である。
グループ討議と発表の時間を設けるので、参加者の意見に耳を傾けつつ積極的に発言して、教育についての自分なりの考えを築いてほしい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育心理学

クラス: 免前(内規科目)

授業コード: BS00300001

担当者: 小川内 哲生 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:スクールカウンセラー

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教育の基礎的理解に関する科目(幼稚園)(小学校)(中学校)(高等学校)【必修】

含めることが必要な事項: 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 1. 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関する諸理論を説明するとともに、各発達時期の諸機能の発達についての具体的な内容を解説する。
2. 幼児、児童及び生徒の学習に関する諸理論を説明するとともに、発達を踏まえた学習支援の基礎概念を解説する。

到達目標: 1. 幼児、児童及び生徒の心身の発達の特徴ならびに発達の過程を理解する。
2. 幼児、児童及び生徒の学習の特徴ならびに学習の過程を理解し、幼児、児童及び生徒の発達を踏まえた学習支援についての基礎的な考えを理解する。

各回の授業計画:

1. 教育心理学における発達と学習の概念
2. 発達に影響を与える要因(遺伝と環境)
3. 認知発達理論
4. 精神発達理論
5. 古典的な学習理論
6. 学校学習への学習理論の適用
7. 言語発達
8. 知性の発達
9. パーソナリティの発達
10. 知識の獲得過程
11. 認知の個人差と教育
12. 学習を支える動機づけの仕組みと働き
13. 自己調整学習を理解する
14. 発達を踏まえた学習支援の方策
15. 学習を支える学習指導法と教育評価 まとめ

特記事項: なし

授業方法: 全ての授業を対面で行う。
1. 講義
2. 講義
3. 講義
4. 講義
5. 講義
6. 講義
7. 講義、視聴覚教材視聴
8. 講義、視聴覚教材視聴
9. 講義
10. 講義
11. 講義、視聴覚教材視聴
12. 講義
13. 講義
14. 講義、視聴覚教材視聴
15. 講義

予習・復習・宿題など(内容・時間):

予習(講義時間内に示唆したweb等の情報をもとにパソコンを用いて文献、資料等を検索し授業予定の章の調べ学習を行う):90分
復習(配布資料、提供したweb等の情報をもとにパソコンを用いて授業内容ならびに不明個所について確認し、学びを深める):90分

合計：(90分＋90分）×15時間＝2700分

評価方法：

授業へのとりくみ：	50	**%**	**確認テスト：**	50	**%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準：

毎回実施する確認テストの得点と、授業に対する取り組みを合計することによって評価する。
なお、授業への取り組みは授業中の質問や課題への取り組み等により評価する。

「最低限の到達」(60～69点）
・教育心理学に関する基礎的な専門用語を答えることができる。
・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について基礎的な知識を修得できている。
・幼児、児童及び生徒の学習の特徴ならびに学習の過程を理解し、発達を踏まえた学習支援についての基礎的な考えを理解している。

「望ましい到達度」(80～100点）
・教育心理学に関する基礎的な専門用語や概念を把握し説明できる。
・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程についての専門的な知識を修得し、発達段階の特徴を適切に説明できる。
・幼児、児童及び生徒の学習の特徴ならびに学習の過程を理解し、発達を踏まえた学習支援について具体的な対応方法を解説することができる。

課題へのフィードバック：

試験に対しては、模範解答例はTeamsにて提示する。

教科書：

栗川直子・浜崎隆司（編）(2024)『やさしく学ぶ教育心理学』ナカニシヤ出版

参考書：

杉森伸吉・松尾直博・上淵寿（編）(2020)『コアカリキュラムで学ぶ教育心理学』培風館
多鹿秀継・上淵 寿・堀田千絵・津田恭充(2018)『読んでわかる教育心理学』 サイエンス社

授業・準備学習のアドバイス：

資料に沿って授業を展開するため、しっかりと予習・復習をしてほしい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育心理学

クラス: 免後(内規科目)

授業コード: BS00300002

担当者: 小川内 哲生 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:スクールカウンセラー

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教育の基礎的理解に関する科目(幼稚園)(小学校)(中学校)(高等学校)【必修】

含めることが必要な事項: 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 1. 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関する諸理論を説明するとともに、各発達時期の諸機能の発達についての具体的な内容を解説する。
2. 幼児、児童及び生徒の学習に関する諸理論を説明するとともに、発達を踏まえた学習支援の基礎概念を解説する。

到達目標: 1. 幼児、児童及び生徒の心身の発達の特徴ならびに発達の過程を理解する。
2. 幼児、児童及び生徒の学習の特徴ならびに学習の過程を理解し、幼児、児童及び生徒の発達を踏まえた学習支援についての基礎的な考えを理解する。

各回の授業計画:

1. 教育心理学における発達と学習の概念
2. 発達に影響を与える要因(遺伝と環境)
3. 認知発達理論
4. 精神発達理論
5. 古典的な学習理論
6. 学校学習への学習理論の適用
7. 言語発達
8. 知性の発達
9. パーソナリティの発達
10. 知識の獲得過程
11. 認知の個人差と教育
12. 学習を支える動機づけの仕組みと働き
13. 自己調整学習を理解する
14. 発達を踏まえた学習支援の方策
15. 学習を支える学習指導法と教育評価 まとめ

特記事項: なし

授業方法: 全ての授業を対面で行う。
1. 講義
2. 講義
3. 講義
4. 講義
5. 講義
6. 講義
7. 講義、視聴覚教材視聴
8. 講義、視聴覚教材視聴
9. 講義
10. 講義
11. 講義、視聴覚教材視聴
12. 講義
13. 講義
14. 講義、視聴覚教材視聴
15. 講義

予習・復習・宿題など(内容・時間):

予習(講義時間内に示唆したweb等の情報をもとにパソコンを用いて文献、資料等を検索し授業予定の章の調べ学習を行う):90分
復習(配布資料、提供したweb等の情報をもとにパソコンを用いて授業内容ならびに不明個所について確認し、学びを深める):90分

合計：(90分＋90分）×15時間＝2700分

評価方法：

授業へのとりくみ：	50	**%**	**確認テスト：**	50	**%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準：

毎回実施する確認テストの得点と、授業に対する取り組みを合計することによって評価する。
なお、授業への取り組みは授業中の質問や課題への取り組み等により評価する。

「最低限の到達」(60～69点）
・教育心理学に関する基礎的な専門用語を答えることができる。
・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について基礎的な知識を修得できている。
・幼児、児童及び生徒の学習の特徴ならびに学習の過程を理解し、発達を踏まえた学習支援についての基礎的な考えを理解している。

「望ましい到達度」(80～100点）
・教育心理学に関する基礎的な専門用語や概念を把握し説明できる。
・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程についての専門的な知識を修得し、発達段階の特徴を適切に説明できる。
・幼児、児童及び生徒の学習の特徴ならびに学習の過程を理解し、発達を踏まえた学習支援について具体的な対応方法を解説することができる。

課題へのフィードバック：

試験に対しては、模範解答例はTeamsにて提示する。

教科書：

栗川直子・浜崎隆司（編）(2024)『やさしく学ぶ教育心理学』ナカニシヤ出版

参考書：

杉森伸吉・松尾直博・上淵寿（編）(2020)『コアカリキュラムで学ぶ教育心理学』培風館
多鹿秀継・上淵 寿・堀田千絵・津田恭充(2018)『読んでわかる教育心理学』 サイエンス社

授業・準備学習のアドバイス：

資料に沿って授業を展開するため、しっかりと予習・復習をしてほしい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育社会学

クラス: ★免(内規科目)

授業コード: BS00500001

担当者: 間渕 泰尚 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教育の基礎的理解に関する科目(幼稚園)(小学校)(中学校)(高等学校)【必修】

含めることが必要な事項: 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 教育とは社会から見れば一つの制度であり、社会から大きな影響を受けている。ここでいう社会とは地域社会、日本社会および国際的な環境の全てを含んでいる。そうした大きな広がりを持った「社会」の中での教育の在り方や課題を理解するためには、各自が持っている教育への思い込みを相対化する教育社会学的な視点が不可欠である。講義形式が主体となるが、随時グループディスカッションなどを挟むことで理解を深めたい。また学校と地域との連携や、学校安全への対応についても取り扱う。

到達目標: 現代の学校教育に関する社会的・制度的事項について基礎的な知識を身に付け、それらに関連する課題を理解するとともに、学校と地域との連携に関する理解および学校安全への対応に関する基礎的知識を身につける。

各回の授業計画:

1. イントロダクション、授業の進め方について(対面)
2. 学校に関する社会的事項(1)学校を巡る状況の変化(オンライン一オンデマンド)
3. 学校に関する社会的事項(2)児童・生徒の生活の変化と指導上の課題(オンライン一オンデマンド)
4. 教育に関する制度的事項(1)公教育の原理と理念(オンライン一オンデマンド)
5. 教育に関する制度的事項(2)教育関係法規(オンライン一オンデマンド)
6. 教育に関する制度的事項(3)教育行政の理念と仕組み(オンライン一オンデマンド)
7. 学校に関する社会的事項(3)近年の教育政策(オンライン一オンデマンド)
8. 学校に関する社会的事項(4)諸外国の教育事情(オンライン一オンデマンド)
9. 学校の社会学(1)学歴社会の変化(オンライン一オンデマンド)
10. 学校の社会学(2)学校教育とジェンダー(オンライン一オンデマンド)
11. 学校と地域との連携(1)地域と連携・協働した学校教育活動(オンライン一オンデマンド)
12. 学校と地域との連携(2)開かれた学校づくりの経緯(オンライン一オンデマンド)
13. 学校安全への対応(1)学校安全の必要性(オンライン一オンデマンド)
14. 学校安全への対応(2)教職員のための学校安全eラーニング(オンライン一オンデマンド)
15. 教育と社会の関連や制度の影響に関するまとめと振り返り(オンライン一オンデマンド)

特記事項: なし

授業方法: 初回は教室での授業とする。2回目以降は原則オンライン授業として実施する。
毎回指定された資料や教材にしたがって課題をまとめて提出してもらう。課題が提出された後で全体に対して補足とフィードバックを行う。この「学習→課題提出→フィードバック確認」までで1回分の学修だと考えてもらいたい。つまり、課題提出の段階で内容を100%理解できなくてもよい。
なお、適宜質疑応答チャンネルを通じたディスカッションを実施したい。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

各回、予習として授業内容に該当する部分の資料収集に75分、復習として授業内容ふりかえりに75分の学修を行うことが望ましい。
最終テストの準備には全体的な復習の時間も含めて450分程度の学修時間を想定している。

評価方法:

授業へのとりくみ:	30	**%**	**確認テスト:**	70	**%**	**レポート:**	− **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: 優=現代の学校教育に関する社会的・制度的事項について知識を十分身に付け、それらに関連する課題を理解するとともに、学校と地域との連携に関する理解および学校安全への対応に関する知識も身につけ、応用ができる。
良=現代の学校教育に関する社会的・制度的事項について知識を十分身に付け、それらに関連する課題を理解するとともに、学校と地域との連携に関する理解および学校安全への対応に関する知識も身についている。
可=現代の学校教育に関する社会的・制度的事項について基本的知識を身に付け、それらに関連する課題を理解するとともに、学校と地域と

の連携に関する理解および学校安全への対応に関する基本的知識も身についている。
不可＝上記知識のいずれかが身についていない

課題へのフィードバック:

最終試験に対する講評を掲示する。

教科書: 指定しない

参考書: 苅谷剛彦他 (2023)『新・教育の社会学』有斐閣アルマ
中教審答申186号『新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について』
中教審答申199号『第2次学校安全の推進に関する計画の策定について』
文部科学省「教職員のための学校安全 e ラーニング」https://anzenkyouiku.mext.go.jp/learning/index.html

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は日本の教員免許取得希望者を対象としている。それ以外を目的とする受講生の単位取得は保証できない。
課題の目的は「どこかに書いてある正解を探して来る」ことではなく、「自分の頭で考えてみる」ことに意義がある。フィードバックを確認することで、自分の考えを発展させること。
「授業への取り組み」は、毎回書いてもらう課題を含む。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 特別支援教育入門

クラス: 免前(内規科目)

授業コード: BS00550001

担当者: 瀬戸山 悠　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教育の基礎的理解に関する科目(幼稚園)(小学校)(中学校)(高等学校)【必修】

含めることが必要な事項: 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解

教科に関する専門的事項: −　　**一般的包括的科目:** −

授業の目的: 到達目標に基づいた基本的な内容を幅広く学ぶ。教科書の「小林倫代編著　改訂版『教員と教員になりたい人のための特別支援教育のテキスト　気付き、工夫して、つなげる』をもとに講義形式で授業を行う。必要に応じて資料等を配付する。

到達目標:
1. 障害のある生徒の基本的な障害特性について概要を理解する。
2. 障害のある生徒に対する教育の体制、目的、支援の方法を理解する。
3. 障害はないが特別な教育的ニーズのある生徒について、生活・行動上の課題と支援方法を理解する。
4. 保護者・関係機関との連携について理解する。

各回の授業計画:

1. 特別支援教育の基本的考え方を知る。
2. 五障害(視、聴、肢、病、知)に関して理解する。
3. 特別支援学校等に関して理解する。(教育課程、自立活動、交流及び共同学習)
4. 特別支援学級、通級指導教室等に関して理解する。
5. 発達障害、母国語等により特別な教育的ニーズのある子どもたちについて知る。
6. 通常の学校におけるユニバーサルデザインの支援について理解する。
7. 通常の学校における支援体制について理解する。保護者・関係機関との連携について理解する。
8. まとめ(到達目標にあげた障害特性、教育の体制、目的、支援等の振り返り)第8回授業(45分間)に引き続き試験(45分間)を行う

特記事項: なし

授業方法: すべての授業を対面授業で行う。
第1回 講義
第2回 講義
第3回 講義
第4回 講義
第5回 講義
第6回 講義
第7回 講義
第8回 講義・確認テスト
※小集団討議や演習も適宜おこなう。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

第1回(予習)特別支援教育や障害について知っていることを記述する。(160分)
第2回(復習)五障害について理解したことをまとめる。(170分)
第3回(復習)特別支援学校の仕組み等について理解したことをまとめる。(170分)
第4回(復習)特別支援学級、通級指導教室の仕組み等について理解したことをまとめる。(170分)
第5回(復習)発達障害等について理解したことをまとめる。(170分)
第6回(復習)ユニバーサルデザインについて理解したことをまとめる。(170分)
第7回(復習)通常の学校における特別支援教育の取組と、保護者等との連携について理解したことをまとめる。(170分)
第8回(復習)これまでの学習について内容をまとめ、確認する。(170分)

評価方法：	授業へのとりくみ：	10 %	確認テスト：	90 %	レポート：	－ %
	その他1：			%		
	その他2：			%		

評価基準： 【最低限の到達度（60～69点）】
・授業へのとりくみ 授業へ参加している。
・試験 各回の授業で学んだことに関するキーワードをある程度理解している。
【望ましい到達度（80～100点）】
・授業へのとりくみ 授業へ積極的に参加している。
・試験 各回の授業で学んだことに関するキーワードを正しく理解している。

課題へのフィードバック：

課題への講評およびコメントシートで出された質問等への回答については、講義内もしくはTeamsにておこなう。

教科書： 小林倫代編著 改訂版『教員と教員になりたい人のための特別支援教育のテキスト 気付き、工夫して、つなげる』学研（令和4年）
内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社（2017年6月）
文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)』東洋館出版社
文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)』東山書房
文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）』東山書房

参考書： 文部科学省「特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領」海文堂出版（平成30年3月）
文部科学省「特別支援学校高等部学習指導要領（平成31年告示）」海文堂出版
文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編」東洋館出版社
その他、小学校学習指導要領 解説の各教科編を参考にすること。
文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編」東山書房
その他、中学校学習指導要領 解説の各教科編を参考にすること。
文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総則編」東洋館出版社
その他、高等学校学習指導要領 解説の各教科編を参考にすること。
※その他、授業中に適宜資料を配付する。

授業・準備学習のアドバイス：

授業は春学期の前半に行います。7.5回の授業です。授業日に注意し欠席しないようにしましょう。
第8回授業（45分間）に引き続き試験（45分間）を実施します。記述式の試験で授業で取り上げたキーワードについて問う形式で行います。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 特別支援教育入門

クラス: 免後(内規科目)

授業コード: BS00550002

担当者: 瀬戸山 悠 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教育の基礎的理解に関する科目(幼稚園)(小学校)(中学校)(高等学校)【必修】

含めることが必要な事項: 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 到達目標に基づいた基本的な内容を幅広く学ぶ。教科書の「小林倫代編著 改訂版『教員と教員になりたい人のための特別支援教育のテキスト 気付き、工夫して、つなげる』をもとに講義形式で授業を行う。必要に応じて資料等を配付する。

到達目標:
1. 障害のある生徒の基本的な障害特性について概要を理解する。
2. 障害のある生徒に対する教育の体制、目的、支援の方法を理解する。
3. 障害はないが特別な教育的ニーズのある生徒について、生活・行動上の課題と支援方法を理解する。
4. 保護者・関係機関との連携について理解する。

各回の授業計画:

1. 特別支援教育の基本的考え方を知る。
2. 五障害(視、聴、肢、病、知)に関して理解する。
3. 特別支援学校等に関して理解する。(教育課程、自立活動、交流及び共同学習)
4. 特別支援学級、通級指導教室等に関して理解する。
5. 発達障害、母国語等により特別な教育的ニーズのある子どもたちについて知る。
6. 通常の学校におけるユニバーサルデザインの支援について理解する。
7. 通常の学校における支援体制について理解する。保護者・関係機関との連携について理解する。
8. まとめ(到達目標にあげた障害特性、教育の体制、目的、支援等の振り返り)第8回授業(45分間)に引き続き試験(45分間)を行う

特記事項: なし

授業方法: すべての授業を対面授業で行う。
第1回 講義
第2回 講義
第3回 講義
第4回 講義
第5回 講義
第6回 講義
第7回 講義
第8回 講義・確認テスト
※小集団討議や演習も適宜おこなう。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

第1回(予習)特別支援教育や障害について知っていることを記述する。(160分)
第2回(復習)五障害について理解したことをまとめる。(170分)
第3回(復習)特別支援学校の仕組み等について理解したことをまとめる。(170分)
第4回(復習)特別支援学級、通級指導教室の仕組み等について理解したことをまとめる。(170分)
第5回(復習)発達障害等について理解したことをまとめる。(170分)
第6回(復習)ユニバーサルデザインについて理解したことをまとめる。(170分)
第7回(復習)通常の学校における特別支援教育の取組と、保護者等との連携について理解したことをまとめる。(170分)
第8回(復習)これまでの学習について内容をまとめ、確認する。(170分)

評価方法：	授業へのとりくみ：	10 %	確認テスト：	90 %	レポート：	－ %
	その他1：			%		
	その他2：			%		

評価基準： 【最低限の到達度（60～69点）】
・授業へのとりくみ 授業へ参加している。
・試験 各回の授業で学んだことに関するキーワードをある程度理解している。
【望ましい到達度（80～100点）】
・授業へのとりくみ 授業へ積極的に参加している。
・試験 各回の授業で学んだことに関するキーワードを正しく理解している。

課題へのフィードバック：

課題への講評およびコメントシートで出された質問等への回答については、講義内もしくはTeamsにておこなう。

教科書： 小林倫代編著 改訂版『教員と教員になりたい人のための特別支援教育のテキスト 気付き、工夫して、つなげる』学研（令和4年）
内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社（2017年6月）
文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)』東洋館出版社
文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)』東山書房
文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）』東山書房

参考書： 文部科学省「特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領」海文堂出版（平成30年3月）
文部科学省「特別支援学校高等部学習指導要領（平成31年告示）」海文堂出版
文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編」東洋館出版社
その他、小学校学習指導要領 解説の各教科編を参考にすること。
文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編」東山書房
その他、中学校学習指導要領 解説の各教科編を参考にすること。
文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総則編」東洋館出版社
その他、高等学校学習指導要領 解説の各教科編を参考にすること。
※その他、授業中に適宜資料を配付する。

授業・準備学習のアドバイス：

授業は春学期の前半に行います。7.5回の授業です。授業日に注意し欠席しないようにしましょう。
第8回授業（45分間）に引き続き試験（45分間）を実施します。記述式の試験で授業で取り上げたキーワードについて問う形式で行います。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 人権教育

クラス: 免(内規科目)

授業コード: BS00600001

担当者: 澤井 未緩 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:大学が独自に設定する科目(幼稚園)(小学校)(中学校)(高等学校)【必修】

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 現代社会の人権状況や問題点について理解を深め、それに対し教育はなにができるのかを自分で考えることを目的としている。到達目標に対応した法制度や基本的な内容を理解した上で、自身の考えを適切にまとめること。また、自分の考えと他者の考えを共有しあうことで、自身の思想や立場をふりかえること。正解が一つでない場面で、より高い水準で考えようとする力を培うこと。

到達目標: 人権教育は、幼児児童生徒が、自分の大切さとともに、他の人の大切さを認めることの意義を理解し、そのことを態度や行動で体現できるようになることが目標となる。そのため、以下を到達目標とする。
1. 学校における人権教育の意義を深く理解し、また、学校外の人権課題についても知識を獲得する。
2. 学校で起こりうる人権課題に対し、教育者としてどのような対応が可能かを考える。
3. 幼児児童生徒が望ましい態度や行動をとることができるよう、的確な指導方法について理解し、実践できる。

各回の授業計画:

1. 人権とはなにか①世界人権宣言から考える
2. 人権とはなにか②子どもの権利から考える
3. 学校と人権①いじめのない学級づくり
4. 学校と人権②体罰と校則
5. 学校と人権③ジェンダーと隠れたカリキュラム
6. 学校と人権④同和教育から学ぶ学力保障
7. 学校と人権⑤「国籍」の多様性
8. 学校と人権⑥インクルーシブ教育が目指すもの
9. 人権に関する動画視聴
10. 学校と人権⑦人権としての防災教育
11. 学校と人権⑧労働とハラスメント
12. 学校と人権⑨情報社会のなかで
13. 学校と人権⑩包括的性教育を通して考える
14. 学校と人権⑪ワークショップ実践に触れる
15. 人権教育のまとめ

特記事項: なし

授業方法: 授業はすべて対面形式で行います。また、各回の授業において、以下の授業方法を取り入れています。受講生には授業内活動への積極的な参加を期待します。
・講義
・グループワーク
・ディスカッション

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 予習とレポートの作成(180分)
2. 予習とレポートの作成(180分)
3. 予習とレポートの作成(180分)
4. 予習とレポートの作成(180分)
5. 予習とレポートの作成(180分)
6. 予習とレポートの作成(180分)
7. 予習とレポートの作成(180分)
8. 予習とレポートの作成(180分)
9. 予習とレポートの作成(180分)
10. 予習とレポートの作成(180分)
11. 予習とレポートの作成(180分)

12. 予習とレポートの作成(180分)
13. 予習とレポートの作成(180分)
14. 予習とレポートの作成(180分)
15. 予習とレポートの作成(180分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	20	**%**	**確認テスト:**	50	**%**	**レポート:**	30 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: 授業ごとに提出物に取り組んでいる。ディスカッションに参加している。基礎的な専門用語を説明することができる。テキストの趣旨に沿って、レポートにまとめることができる。(60～69)
授業ごとに提出物に積極的に取り組んでいる。ディスカッションに参加し、自身の考えを発表することができる。一般的な専門用語を詳しく具体的に説明することができる。テキストを読みこみ、レポートに自身の考えを的確にまとめることができる。(80～100)

課題へのフィードバック:
提出物や発表については、その都度ポイントや評価の観点を全体に向けて説明する。

教科書: なし
必要な資料は配布します。

参考書: なし
授業内で適宜提示します。

授業・準備学習のアドバイス:
・人権問題について関心を持ち、日常的に新聞やTVニュースなどで新しい情報やデータを収集するように心がけてください。
・人権問題に関して、自分が日頃抱いている疑問や問題意識を大切にして、授業内活動(アクティビティ、グループワーク)やディスカッションに活かしてください。授業では積極的に発言したり、参加するようにしてください。授業中の参加姿勢を評価するようにします。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育課程論

クラス: 免(内規科目)

授業コード: BS01100001

担当者: 廣岡 義之 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教育の基礎的理解に関する科目(小学校)(中学校)(高等学校)【必修】

含めることが必要な事項: 教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 元来、「教育課程」とはカリキュラムすなわち、学校の教育内容の組織を指し示す。それは望ましい学習が展開されるように配慮して作成される学校の教育内容の組織のことである。そこで本科目では、教育課程とは何か、教育課程はどのように編成されるか、編成された教育課程はどのような形態を持つか、わが国の教育課程は歴史的にどのように変遷してきたか、現在の小・中・高校の教育課程はどのような特徴をもつか等について概説する。受講生はテキストにしたがって発表および討論が求められる。

到達目標: (授業のテーマ)教育課程とは何か、教育課程はどのように編成されるか、編成された教育課程はどのような形態を持つか、について、基本的な理解ができるようになることをめざす。
(到達目標)
・わが国の教育改革の歴史と教育課程の変遷について把握する。
・教育課程の意義と目的について理解する。
・教育課程及び学習指導要領編成の内容について理解を深める。
・現在の小学校・中学校・高等学校における教育課程の枠組みと内容を把握する。

各回の授業計画:

1. 本講義のオリエンテーション
2. 教育課程の意義(カリキュラム・マネジメントの意義の理解を含む)
3. 学習指導要領の意義と内容の歴史的変遷(1):戦後からゆとり教育まで
4. 学習指導要領の意義と内容の歴史的変遷(2):ゆとり教育から新学習指導要領まで
5. 教育課程編成の教育目的・目標(カリキュラム・マネジメントの意義の理解を含む)
6. 教育課程の諸類型について(カリキュラム・マネジメントの意義の理解を含む)
7. 教育課程の編成の方法 (幼稚園)(カリキュラム・マネジメント、カリキュラム評価の理解を含む)
8. 教育課程の編成の方法 (小学校)(1):学習指導要領の特徴(カリキュラム・マネジメント、カリキュラム評価の理解を含む)
9. 教育課程の編成の方法 (小学校)(2):現代的意義(カリキュラム・マネジメントの意義の理解を含む)
10. 教育課程の編成の方法 (中学校・高等学校)(カリキュラム・マネジメント、カリキュラム評価の理解を含む)
11. 世界各国の教育課程
12. 最新学習指導要領総則の解説(1):改訂の経緯および基本方針
13. 最新学習指導要領総則の解説(2):改訂の要点
14. 最新学習指導要領総則の解説(3):教育課程の実施と学習評価
15. 確認テストとまとめ(教育課程の今後の課題と展望について)

特記事項: なし

授業方法: すべての授業を対面授業で行う
1. 講義
2. 講義
3. 講義
4. 講義
5. 講義
6. 講義
7. 講義
8. 講義
9. 講義
10. 講義
11. 講義
12. 講義
13. 講義
14. 講義

15. 講義

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1.（予習）教科書1章を通読する。（180分）
2.（予習）教科書2章を通読する。（180分）
3.（予習）教科書3章1-3節を通読する。（180分）
4.（予習）教科書3章4-5節を通読する。（180分）
5.（予習）教科書4章を通読する。（180分）
6.（予習）教科書4章を通読する。（180分）
7.（予習）教科書5章を通読する。（180分）
8.（予習）教科書6章を通読する。（180分）
9.（予習）教科書7章を通読する。（180分）
10.（予習）教科書8章を通読する。（180分）
11.（予習）教科書9章を通読する。（180分）
12.（予習）教科書10章を通読する。（180分）
13.（予習）教科書11章を通読する。（180分）
14.（予習）教科書12・13章を通読する。（180分）
15.（復習）これまで学んできたことのまとめ。（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	50	**%**	**確認テスト：**	50	**%**	**レポート：**	- **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準： . 授業参加態度
①授業内容の「メモをとる」等ができる（60-69）。これらに加えて（90-100）は受講態度がきわめて積極的なことが条件。
2. 復習テスト
①初等教育の基礎的な概念を説明できる。（60-69） これらに加えて初等教育の専門的な概念を説明できる。（90-100）
・上記項目を総合的に評価する。

課題へのフィードバック：

試験については、その課題のポイントと評価の観点を全体に向けて説明する。

教科書： 広岡義之著、『新しい教育課程論概説』 あいり出版

参考書： 文部科学省『小学校学習指導要領』東洋館出版社（平成30年2月）
文部科学省『中学校学習指導要領』東山書房（平成30年3月）
文部科学省『高等学校学習指導要領』東山書房（最新版）
文部科学省『中学校学習指導要領解説 総則編』東山書房（平成30年3月）

授業・準備学習のアドバイス：

毎回予習復習を習慣化すること。
レポート課題はTeamsにて提示する。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 国語科教育法Ⅲ

クラス: 免(国)(内規科目)

授業コード: BS02300001

担当者: 小山 智久、齋藤 隆彦 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:
〔小山〕県立高等学校教諭 教育研修所指導主事
〔齋藤〕公立・国立大学附属中学校教諭(教育実習生の学級・教科担当者)

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 国語)【必修】

含めることが必要な事項: 各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: チーム学校の一員としての、国語科教員としての在り方を理解するとともに、他教科との連携を視野に入れた授業づくりについて学ぶ。生徒の主体的な学びを深めるための現場の取り組みについても知り、現在進行中の中学校・高等学校の学習指導要領改訂の動向について理解を深める。

到達目標:
1. 国語科教員として求められる専門性や、学校における役割・立場などについて理解を深める。
2. 教科書の教材ごとに教材研究法を身に付けるとともに、現代社会における意義を評価できる。
3. 教材の様々な活用法を考えた学習指導案を作成し、実際に授業を行うことができる。

各回の授業計画:

1. 中学・高校の国語科教育の目標と内容(学習指導要領、学習指導要領解説 国語編 中央教育審議会答申)(小山)
2. 中学・高校の学校の組織と経営ー校務分掌、教科、内規等ー(小山)
3. 中学・高校の国語科教員としての心構え(ディスカッション)、今後の授業計画の説明(小山)
4. 物語の学習指導・「空中ブランコ乗りのキキ」①ー教材研究(作者の人生と作品)、授業導入部の工夫(小山)
5. 物語の学習指導・「空中ブランコ乗りのキキ」②ー行動描写と学習指導案の作成(小山)
6. 物語の学習指導・「空中ブランコ乗りのキキ」③ー学習指導案の完成と模擬授業、相互批評、授業改善(小山)
7. 説明文の学習指導・「批判的に読む」「間の文化」①ー教材研究:読解と批判的読み(小山)
8. 説明文の学習指導・「間の文化」②ー学習指導案の作成:意味段落ごとの内容理解(小山)
9. 説明文の学習指導・「間の文化」③ー模擬授業の実施(小山)
10. 説明文の学習指導・「間の文化」④ー模擬授業動画を用いた研究協議と授業改善(機器等の利用)(小山)
11. 古文の学習指導・「おくのほそ道」①ー読解、教材研究(芭蕉と俳諧、江戸文化等)(小山)
12. 古文の学習指導・「おくのほそ道」②ー学習指導案の作成と模擬授業、相互批評(小山)
13. 実用的な文章・説明的な作文指導(齋藤)
14. 生徒の声を基にした主体的・自発的な深い学びの実現(情報通信技術の活用を含む)(齋藤)
15. まとめ「春学期の講義内容と各自の到達度の確認」国語科教育法Ⅳの模擬授業の分担(小山)

特記事項: なし

授業方法:
1.【対面】講義、講読
2.【対面】講義
3.【対面】講義、ディスカッション
4.【対面】講義、ディスカッション
5.【対面】講義、プレゼン
6.【対面】模擬授業
7.【対面】講義、ディスカッション
8.【対面】学習指導案作成
9.【対面】模擬授業
10.【対面】 講義、機器利用
11.【対面】講義、ディスカッション
12.【対面】学習指導案作成、模擬授業
13.【対面】講義、DVD視聴、実習
14.【対面】講義、機器利用
15.【対面】講義

予習・復習・宿題など(内容・時間):
1. 学習指導要領、学習指導要領解説国語編、中央教育審議会答申の熟読。(180分)
2. 学校のホームページを閲覧し、学校目標や行事、教員組織等について調べる。(180分)

3. 各県教育委員会のホームページを閲覧し、教員に求められるものが何か考える。(180分)
4. 学習指導要領、同解説で文学的文章の指導について調べる。(180分)
5. 指示、発問、板書、評価等について調べる。(180分)
6.「空中ブランコ乗りのキキ」を熟読し、自身がどこの部分を模擬授業とするか決定する。(180分)
7.「批判的に読む」「間の文化」を読み、例示されている事柄について調べる。(180分)
8.「間の文化」を熟読し、自身がどこの部分を模擬授業とするか決定する。(180分)
9. 学習指導案を完成させ、自分なりにやってみる。(180分)
10. 模擬授業の改善について各自の考えをまとめる。(180分)
11. 芭蕉と江戸期の俳諧文化について調べ、「おくのほそ道」を熟読し、自身がどこの部分を模擬授業とするか決定する。(180分)
12. 学習指導案を完成させ、自分なりに模擬授業をやってみる。(180分)
13. 教科書中の説明文を取り上げ、その構成や表現の特徴を整理する。(180分)
14. 情報機器活用の授業例を図書館等の資料等で調べる。(180分)
15. 講義内容を振り返り、自分なりに得たもの、努力が必要なものを確認する。(180分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	50 **%**	**確認テスト:**	− **%**	**レポート:**	50 **%**
その他1:			**%**		
その他2:			**%**		

評価基準:
様々な分野の教材に対する積極的な興味関心と、意欲的な研究(60～69点)
ディスカッションにおける整理された意見の積極的な主張と説得力(70～79点)
的確な学習指導案の作成としっかりした模擬授業の実施(80～100点)
教科目標、教材選択、教育方法・評価等の背景にある「学習指導要領」の確実な理解(80～100点)

課題へのフィードバック:
レポートについては、授業内でコメントする。
模擬授業については、学生相互の批評を行うとともに、教員がコメントする。
実習場面では、適宜指導を行うとともに、相互批評や振り返りの時間を設ける。

教科書: 町田守弘編著『実践国語科教育法「楽しく、力のつく」授業の創造』学文社(2024年)(国語科教育法Ⅰ・Ⅱと同じ)

参考書:
文部科学省『中学校学習指導要領』東山書房(平成29年3月告示)
文部科学省『高等学校学習指導要領』東山書房(平成30年3月告示)
文部科学省『中学校学習指導要領解説 国語編 』東洋館出版社(平成29年7月)
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 国語編』 東洋館出版社(平成30年7月)
『現代の国語1』、『現代の国語2』、『現代の国語3』三省堂

授業・準備学習のアドバイス:
必ず出席し、積極的に教員となるための資質の向上に努めること。
教材のしっかりした読解と大学図書館等を利用した教材研究。
学生同士のフランクな議論の展開と様々なアイデアの共有。
講義の中で実施した授業方法を自分なりに再度実施したり、ポイントを整理したり確認したりすること。

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 国語科教育法Ⅳ

クラス: 免(国)

授業コード: BS02400001

担当者: 小山 智久 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立高等学校教諭 教育研修所指導主事

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 国語)【必修】

含めることが必要な事項: 各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 授業をより魅力的でアクティブなものにするための、話し合い活動やICT、教具の利用等の工夫について実践的に学ぶとともに、教材の多面的な理解に基づく、多様な授業設計の方法を身に付ける。

到達目標:
1. 中学校・高等学校の教材を使った学習指導案の作成や本格的な模擬授業で実践力を養う。
2. より深い教材研究と具体的な質問や教具等の準備により、教育実習に対応できる力を養う。
3. 中学生、高校生の発達の段階を頭に置いた学習環境の整備や教授法について理解を深める。

各回の授業計画:

1. 小説「走れメロス」の担当ごとの学習指導案作成(指導内容の理解と補助教材等の作成・工夫)
2. 小説「走れメロス」の模擬授業(第1時間目)と相互批評(「語り」の理解、動画の活用)
3. 小説「走れメロス」の第2時間目の模擬授業と相互批評(語句・象徴、比喩表現の理解)
4. 小説「走れメロス」の第3時間目の模擬授業と相互批評(ワークシート等の工夫)
5. 小説「走れメロス」の第4時間目の模擬授業と相互批評(話合い活動)
6. 小説「走れメロス」の模擬授業の改善・協議、補助教材の検討
7. 説明文「動物園でできること」の担当ごとの学習指導案作成(指導内容の理解)
8. 説明文「動物園でできること」の模擬授業と相互批評
9. 小説「山月記」の教材研究(文学国語、「人虎伝」との比較、漢文の世界)
10. 小説「山月記」の模擬授業と相互批評(学習指導案作成と実施、さらに改善)
11. 小説「山月記」の模擬授業と相互批評(読みの交流を促す授業)
12. 小説「山月記」も模擬授業と相互批評(読みを深める「問い」)
13. 評論「言葉と世界」の教材研究(読解、言語学、批判的読み)
14. 評論「言葉と世界」の学習指導案と模擬授業、相互批評
15. まとめ一授業改善の方策と教育実習に向けて必要な準備項目の確認一

特記事項: なし

授業方法:
1.【対面】学習指導案作成
2.【対面】模擬授業実施、協議
3.【対面】模擬授業実施、協議
4.【対面】模擬授業実施、協議
5.【対面】模擬授業実施、協議
6.【対面】模擬授業実施、協議
7.【対面】模擬授業実施、学習指導案作成、協議
8.【対面】模擬授業実施競技
9.【対面】模擬授業実施、機器利用、協議
10.【対面】模擬授業実施、学習指導案作成、協議
11.【対面】模擬授業実施、協議
12.【対面】模擬授業実施、協議
13.【対面】模擬授業実施、学習指導案作成、協議
14.【対面】模擬授業実施、協議
15.【対面】講義、協議

予習・復習・宿題など(内容・時間):
1.「走れメロス」を熟読し、自身がどこの部分を模擬授業とするか決定する。(180分)
2. イタリアの地理と文化について調べる。(180分)
3.「走れメロス」の語句や表現の特徴についてまとめる。(180分)
4. 自分なりに場面を絵で描き、教科書の挿絵とどちらが生徒理解につながるか検討する。(180分)

5.「走れメロス」の読解の助けとなるワークシートを考える。(180分)
6. 各模擬授業の特徴や生徒が作品を理解する上で有効な点などをまとめる。(180分)
7. 動物園設立の経緯やその意義、各地の動物園の特色等を調べ、まとめる。(180分)
8. 学習指導案を完成させ、自分なりにやってみる。(180分)
9. 中国の歴史や作品に関係する試験や身分制度について調べる。(180分)
10.「山月記」を熟読し、自身がどこの部分を模擬授業とするか決定する。(180分)
11. 学習指導案を完成させ、自分なりにやってみる。(180分)
12.「山月記」の主題に迫る発問を考える。(180分)
13.「言葉と世界」を熟読し、自身がどこの部分を模擬授業とするか決定する。(180分)
14.「言葉と世界」の学習指導案を完成させ、自分なりに模擬授業をやってみる。(180分)
15. 今までの講義、実習内容を振り返り、授業改善の方法や工夫すべき点などをまとめる。(180分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	50 **%**	**確認テスト:**	− **%**	**レポート:**	50 **%**
その他1:			**%**		
その他2:			**%**		

評価基準:
国語の授業の背景にある「学習指導要領」の記載内容等への配慮(60～69点)
ディスカッションにおける整理された意見の積極的な主張と説得力(70～79点)
教材のしっかりした読みと的確な学習指導案の作成(80～100点)
実際の教育実習を念頭に置いた、責任感ある態度の中での模擬授業実施(80～100点)

課題へのフィードバック:
レポートについては、授業内にコメントする。
模擬授業については、学生相互の批評を行うとともに、教員がコメントする。
実習場面では、適宜指導を行うとともに、相互批評や振り返りの時間を設ける。

教科書: 町田守弘編著『実践国語科教育法「楽しく、力のつく」授業の創造』学文社(国語科教育法Ⅰ～Ⅲと同じ)

参考書:
文部科学省『中学校学習指導要領』東山書房(平成29年3月告示)
文部科学省『高等学校学習指導要領』東山書房(平成30年3月告示)
文部科学省『中学校学習指導要領解説 国語編 』東洋館出版社(平成29年7月)
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 国語編』 東洋館出版社(平成30年7月)
『現代の国語1』、『現代の国語2』『現代の国語3』三省堂

授業・準備学習のアドバイス:
必ず出席し、積極的に教員となるための資質の向上に努めること。
実際に教育実習で行うことを想定し、時間の中で自分なりの個性や授業方法の工夫を意欲的に考える事。
間違いや失敗を恐れることなくチャレンジする中で発見する多くの事柄を実践できるようにすること。
様々な授業方法についての図書や映像資料等に、大学図書館等を積極的に利用することによって、触れるようにすること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 保健体育科教育法Ⅲ

クラス: ｽ前(内規科目)

授業コード: BS04300001

担当者: 有山 篤利 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立高等学校保健体育科教諭、教育委員会指導主事

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)【必修】

含めることが必要な事項: 各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 中・高等学校の保健体育の学習過程、学習形態、学習評価・評価に関する教授理論をさらに深めるために、授業改善並びに授業力向上に必要不可欠な授業づくりの方法論を理解し、効果的で実践的な指導計画を作成する力を身に付ける。

到達目標:
1. 中・高等学校の保健体科授業の特質および課題を言ったり書きだしたりできる。
2. 学習指導要領を踏まえたうえで、独自で深みのある保健体育の教材解釈ができる。
3. 主体的で対話的な活動が保障された保健授業を提案できる。
4. 生徒を惹きつける魅力あふれる指導ができる。
5. 仲間の模擬授業に対し批評やアドバイスができる。

各回の授業計画:

1. ガイダンスと導入
授業の概要、講義の形式、受講上の留意点、評価等に関する事項を確認する。授業の終わりに小テストを行う。

2. 保健体育授業のピットフォール
保健体育授業について構造的に陥りやすい課題について学修する。授業の終わりに小テストを行う。

3. 現代社会が求める保健体育
Well−beingが叫ばれる現代において保健体育授業が果たすべき機能と現状の課題について学修する。授業の終わりに小テストを行う。

4. 保健体育授業とICTの活用(情報通信技術の活用を含む)
ICTの急激な発達に応じた保健体育科授業の在り方や、保健体育科の特性に応じた活用方法について学修する。授業の終わりに小テストを行う。

5. 保健授業の典型例
優れた保健授業の事例を紹介する。授業の終わりに小テストを行う。

6. 模擬授業に向けた事前指導
保健の模擬授業に向けた事前準備呼び指導を行う。授業の終わりに小テストを行う。

7. 模擬授業:生徒を惹きつける導入の在り方①
グループごとに、魅力あふれる保健授業の導入を考え模擬授業を行う。授業の終わりに小テストを行う。

8. 模擬授業:生徒を惹きつける導入の在り方②
グループごとに、魅力あふれる保健授業の導入を考え模擬授業を行う。授業の終わりに小テストを行う。

9. 模擬授業:生徒を惹きつける導入の在り方②
グループごとに、魅力あふれる保健授業の導入を考え模擬授業を行う。授業の終わりに小テストを行う。

10. 模擬授業:深みのある保健授業の展開①
グループごとに、深みのある保健授業の展開を考え模擬授業を行う。授業の終わりに小テストを行う。

11. 模擬授業:深みのある保健授業の展開②
グループごとに、深みのある保健授業の展開を考え模擬授業を行う。授業の終わりに小テストを行う。

12. 模擬授業:深みのある保健授業の展開③
グループごとに、深みのある保健授業の展開を考え模擬授業を行う。授業の終わりに小テストを行う。

13. 模擬授業:深みのある保健授業の展開④
グループごとに、深みのある保健授業の展開を考え模擬授業を行う。授業の終わりに小テストを行う。

14. 模擬授業:深みのある保健授業の展開⑤
グループごとに、深みのある保健授業の展開を考え模擬授業を行う。授業の終わりに小テストを行う。

15. 学習の総括
これまでの学修を総括する小論文を作成する。

特記事項: なし

授業方法:
1. 授業はすべて対面で行う。
2. 1〜6回目は、独自のライブ型授業(学生とのトークセッション型の授業)を行う。
3. 7〜14回目は、グループごとの模擬授業を行う。
4. 学修に必要な資料は授業展開に応じて配布する。

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1～6回目：前時に告知した内容について自分の考えをまとめておく。学修した内容を振り返る。（180分）
7～14回目：仲間の模擬授業を参考にし、自分の授業案を組み立ててみる。（180分）。
15回目：学修した内容を振り返る。（180分）

評価方法：	**授業へのとりくみ：**	70 **%**	**確認テスト：**	**%**	**レポート：**	30 **%**
	その他1：			**%**		
	その他2：			**%**		

評価基準：

1. 授業中に積極的に参加し意見を発表することができる。
2. 生徒を惹きつける保健授業の導入が提案できる。
3. 深みのある保健授業の展開が提案できる。
4. 保健授業の特質を考慮した指導ができる。
5. 最低限の到達度は60～69点、望ましい到達度は80～100点とする。

課題へのフィードバック：

1. 自身の作成した課題について授業のねらいに応じた振り返りの時間を設定する。
2. 次回授業の初めに、前時の学修のフィードバックを行う。

教科書： 文部科学省『中学校学習指導要領解説 保健体育編』東山書房（平成30年3月）
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編』東山書房（平成31年3月）

参考書： 「中学校新学習指導要領の展開」佐藤豊編著（明治図書）ISBN 978-4-18-334714-5

授業・準備学習のアドバイス：

教育実習を想定し、トライ＆エラーを恐れず積極的に模擬授業に取り組んで下さい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 保健体育科教育法Ⅲ

クラス: ｽ後（内規科目）

授業コード: BS04300002

担当者: 有山　篤利　　**単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有：公立高等学校保健体育科教諭、教育委員会指導主事

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育）【必修】

含めることが必要な事項: 各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 中・高等学校の保健体育の学習過程、学習形態、学習評価・評価に関する教授理論をさらに深めるために、授業改善並びに授業力向上に必要不可欠な授業づくりの方法論を理解し、効果的で実践的な指導計画を作成する力を身に付ける。

到達目標:
1. 中・高等学校の保健体科授業の特質および課題を言ったり書きだしたりできる。
2. 学習指導要領を踏まえたうえで、独自で深みのある保健体育の教材解釈ができる。
3. 主体的で対話的な活動が保障された保健授業を提案できる。
4. 生徒を惹きつける魅力あふれる指導ができる。
5. 仲間の模擬授業に対し批評やアドバイスができる。

各回の授業計画:

1. ガイダンスと導入
授業の概要、講義の形式、受講上の留意点、評価等に関する事項を確認する。授業の終わりに小テストを行う。

2. 保健体育授業のピットフォール
保健体育授業について構造的に陥りやすい課題について学修する。授業の終わりに小テストを行う。

3. 現代社会が求める保健体育
Well−beingが叫ばれる現代において保健体育授業が果たすべき機能と現状の課題について学修する。授業の終わりに小テストを行う。

4. 保健体育授業とICTの活用（情報通信技術の活用を含む）
ICTの急激な発達に応じた保健体育科授業の在り方や、保健体育科の特性に応じた活用方法について学修する。授業の終わりに小テストを行う。

5. 保健授業の典型例
優れた保健授業の事例を紹介する。授業の終わりに小テストを行う。

6. 模擬授業に向けた事前指導
保健の模擬授業に向けた事前準備呼び指導を行う。授業の終わりに小テストを行う。

7. 模擬授業：生徒を惹きつける導入の在り方①
グループごとに、魅力あふれる保健授業の導入を考え模擬授業を行う。授業の終わりに小テストを行う。

8. 模擬授業：生徒を惹きつける導入の在り方②
グループごとに、魅力あふれる保健授業の導入を考え模擬授業を行う。授業の終わりに小テストを行う。

9. 模擬授業：生徒を惹きつける導入の在り方②
グループごとに、魅力あふれる保健授業の導入を考え模擬授業を行う。授業の終わりに小テストを行う。

10. 模擬授業：深みのある保健授業の展開①
グループごとに、深みのある保健授業の展開を考え模擬授業を行う。授業の終わりに小テストを行う。

11. 模擬授業：深みのある保健授業の展開②
グループごとに、深みのある保健授業の展開を考え模擬授業を行う。授業の終わりに小テストを行う。

12. 模擬授業：深みのある保健授業の展開③
グループごとに、深みのある保健授業の展開を考え模擬授業を行う。授業の終わりに小テストを行う。

13. 模擬授業：深みのある保健授業の展開④
グループごとに、深みのある保健授業の展開を考え模擬授業を行う。授業の終わりに小テストを行う。

14. 擬授業：深みのある保健授業の展開⑤
グループごとに、深みのある保健授業の展開を考え模擬授業を行う。授業の終わりに小テストを行う。

15. 学習の総括
これまでの学修を総括する小論文を作成する。

特記事項: なし

授業方法:
1. 授業はすべて対面で行う。
2. 1～6回目は、独自のライブ型授業（学生とのトークセッション型の授業）を行う。
3. 7～14回目は、グループごとの模擬授業を行う。
4. 学修に必要な資料は授業展開に応じて配布する。

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1～6回目：前時に告知した内容について自分の考えをまとめておく。学修した内容を振り返る。（180分）
7～14回目：仲間の模擬授業を参考にし、自分の授業案を組み立ててみる。（180分）。
15回目：学修した内容を振り返る。（180分）

評価方法：	**授業へのとりくみ：**	70 **%**	**確認テスト：**	**%**	**レポート：**	30 **%**
	その他1：			**%**		
	その他2：			**%**		

評価基準：

1. 授業中に積極的に参加し意見を発表することができる。
2. 生徒を惹きつける保健授業の導入が提案できる。
3. 深みのある保健授業の展開が提案できる。
4. 保健授業の特質を考慮した指導ができる。
5. 最低限の到達度は60～69点、望ましい到達度は80～100点とする。

課題へのフィードバック：

1. 自身の作成した課題について授業のねらいに応じた振り返りの時間を設定する。
2. 次回授業の初めに、前時の学修のフィードバックを行う。

教科書： 文部科学省『中学校学習指導要領解説 保健体育編』東山書房（平成30年3月）
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編』東山書房（平成31年3月）

参考書： 「中学校新学習指導要領の展開」佐藤豊編著（明治図書）ISBN 978-4-18-334714-5

授業・準備学習のアドバイス：

教育実習を想定し、トライ＆エラーを恐れず積極的に模擬授業に取り組んで下さい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 保健体育科教育法Ⅳ

クラス: ｽA

授業コード: BS04400001

担当者: 山中　裕太　　**単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:私立高等学校教諭(保健体育)

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校　保健体育)【必修】

含めることが必要な事項: 各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: これまでの学習を踏まえ、中・高の保健体育科の「目標」「内容」「方法」の特性を踏まえた授業を、「計画(指導案作成)」ー「実践(模擬授業)」ー「検証(授業分析)」ー「改善(指導案再構成)」し、授業づくりの基本的事項についての理解を深める。一連の活動は、すべてグループワークとする。

到達目標:
1. 保健体育科の目標を踏まえて、指導計画と指導案を作成することができる。
2. 授業改善に必要な、授業観察・分析・評価の方法についての理解を深める。
3. 教育実習における授業研究のための基本的知識と技能について習得する。

各回の授業計画:

1. 模擬授業に係る関係資料の作成 授業計画 模擬授業計画表 授業要項
2. 模擬授業①(体つくり運動)理解と授業構想
3. 模擬授業②(体つくり運動)模擬授業と授業後の検討会 2班同時展開
4. 模擬授業③(球技)バスケット・バレーボール 理解と授業構想
5. 模擬授業④(球技)バスケット・バレーボール 模擬授業と授業後の検討会
6. 模擬授業⑤(器械運動)マット運動 理解と授業構想
7. 模擬授業⑥(器械運動)マット運動 模擬授業と授業後の検討会
8. 模擬授業⑦(陸上競技)ハードル・幅跳び 理解と授業構想
9. 模擬授業⑧(陸上競技)ハードル・幅跳び 模擬授業と授業後の検討会
10. 保健模擬授業について-模擬授業計画 授業評価の観点 板書計画 ICT活用可
11. 保健模擬授業①模擬授業と授業後の検討会 2教室 各2カ所で実施
12. 保健模擬授業②模擬授業と授業後の検討会 2教室 各2カ所で実施
13. 保健模擬授業③模擬授業と授業後の検討会 2教室 各2カ所で実施
14. 保健模擬授業③模擬授業と授業後の検討会 2教室 各2カ所で実施
15. 保健及び体育授業指導案作成及び教育実習での授業研究・展開の展望

特記事項: なし

授業方法: すべての授業を対面授業で行う
講義、演習、模擬授業

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1:中・高学習指導要領解説保健体育編の全体的振り返りを予習として120分、授業後の確認のための復習120分
2-9:直前にひかえる教育実習を考えて実際の授業に向けて、教材研究のための予習120分、授業の構想を考える復習120分
10-14:直前にひかえる教育実習を考えて実際の授業に向けての教材研究のための予習180分、模擬授業を経験して、教育実習時の授業を考えての振り返り180分
15:全体を通して、教育実習に向けて細部にわたり確認していく180分、授業後も同様に授業だけでなく教育実習全体についての留意点を確認していく120～180分

評価方法:

授業へのとりくみ:	50	**%**	**確認テスト:**	－	**%**	**レポート:**	50 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: 60~69:保健体育科の「目標・内容」を踏まえて、指導計画と指導案を作成することができる。
70~100
①授業改善に必要な、授業観察・分析・評価の方法についての理解を深めている。
②教育実習における授業研究のための基本的知識と技能について習得している。

③体育実技・保健の授業を行うことができる。

課題へのフィードバック:

課題等におけるフィードバックについては確認後Teamsを使い対応する。その他質問等においては、講義中に対応する。

教科書: なし

参考書: 文部科学省『中学校学習指導要領解説 保健体育編』東山書房（平成30年3月）
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編』東山書房（平成31年3月）
『体育科教育学入門』高橋健夫、岡出美則、友添秀則、岩田靖 編著 大修館書店
『保健科教育法入門』日本保健科教育学会 編 大修館書店

授業・準備学習のアドバイス:

教育実習を経験し、教職に就くということを想定して授業に臨むこと。
真剣な取り組みが必要である。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 保健体育科教育法Ⅳ

クラス: ｽB

授業コード: BS04400002

担当者: 山中　裕太　　**単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:私立高等学校教諭(保健体育)

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校　保健体育)【必修】

含めることが必要な事項: 各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: これまでの学習を踏まえ、中・高の保健体育科の「目標」「内容」「方法」の特性を踏まえた授業を、「計画(指導案作成)」ー「実践(模擬授業)」ー「検証(授業分析)」ー「改善(指導案再構成)」し、授業づくりの基本的事項についての理解を深める。一連の活動は、すべてグループワークとする。

到達目標:
1. 保健体育科の目標を踏まえて、指導計画と指導案を作成することができる。
2. 授業改善に必要な、授業観察・分析・評価の方法についての理解を深める。
3. 教育実習における授業研究のための基本的知識と技能について習得する。

各回の授業計画:

1. 模擬授業に係る関係資料の作成 授業計画 模擬授業計画表 授業要項
2. 模擬授業①(体つくり運動)理解と授業構想
3. 模擬授業②(体つくり運動)模擬授業と授業後の検討会 2班同時展開
4. 模擬授業③(球技)バスケット・バレーボール 理解と授業構想
5. 模擬授業④(球技)バスケット・バレーボール 模擬授業と授業後の検討会
6. 模擬授業⑤(器械運動)マット運動 理解と授業構想
7. 模擬授業⑥(器械運動)マット運動 模擬授業と授業後の検討会
8. 模擬授業⑦(陸上競技)ハードル・幅跳び 理解と授業構想
9. 模擬授業⑧(陸上競技)ハードル・幅跳び 模擬授業と授業後の検討会
10. 保健模擬授業について-模擬授業計画 授業評価の観点 板書計画 ICT活用可
11. 保健模擬授業①模擬授業と授業後の検討会 2教室 各2カ所で実施
12. 保健模擬授業②模擬授業と授業後の検討会 2教室 各2カ所で実施
13. 保健模擬授業③模擬授業と授業後の検討会 2教室 各2カ所で実施
14. 保健模擬授業③模擬授業と授業後の検討会 2教室 各2カ所で実施
15. 保健及び体育授業指導案作成及び教育実習での授業研究・展開の展望

特記事項: なし

授業方法: すべての授業を対面授業で行う
講義、演習、模擬授業

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1:中・高学習指導要領解説保健体育編の全体的振り返りを予習として120分、授業後の確認のための復習120分
2-9:直前にひかえる教育実習を考えて実際の授業に向けて、教材研究のための予習120分、授業の構想を考える復習120分
10-14:直前にひかえる教育実習を考えて実際の授業に向けての教材研究のための予習180分、模擬授業を経験して、教育実習時の授業を考えての振り返り180分
15:全体を通して、教育実習に向けて細部にわたり確認していく180分、授業後も同様に授業だけでなく教育実習全体についての留意点を確認していく120～180分

評価方法:

授業へのとりくみ:	50	**%**	**確認テスト:**	－	**%**	**レポート:**	50 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: 60~69:保健体育科の「目標・内容」を踏まえて、指導計画と指導案を作成することができる。
70~100
①授業改善に必要な、授業観察・分析・評価の方法についての理解を深めている。
②教育実習における授業研究のための基本的知識と技能について習得している。

③体育実技・保健の授業を行うことができる。

課題へのフィードバック:

課題等におけるフィードバックについては確認後Teamsを使い対応する。その他質問等においては、講義中に対応する。

教科書: なし

参考書: 文部科学省『中学校学習指導要領解説 保健体育編』東山書房（平成30年3月）
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編』東山書房（平成31年3月）
『体育科教育学入門』高橋健夫、岡出美則、友添秀則、岩田靖 編著 大修館書店
『保健科教育法入門』日本保健科教育学会 編 大修館書店

授業・準備学習のアドバイス:

教育実習を経験し、教職に就くということを想定して授業に臨むこと。
真剣な取り組みが必要である。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 保健体育科教育法Ⅳ

クラス: ｽC

授業コード: BS04400003

担当者: 山中　裕太　　**単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:私立高等学校教諭(保健体育)

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校　保健体育)【必修】

含めることが必要な事項: 各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: これまでの学習を踏まえ、中・高の保健体育科の「目標」「内容」「方法」の特性を踏まえた授業を、「計画(指導案作成)」ー「実践(模擬授業)」ー「検証(授業分析)」ー「改善(指導案再構成)」し、授業づくりの基本的事項についての理解を深める。一連の活動は、すべてグループワークとする。

到達目標:
1. 保健体育科の目標を踏まえて、指導計画と指導案を作成することができる。
2. 授業改善に必要な、授業観察・分析・評価の方法についての理解を深める。
3. 教育実習における授業研究のための基本的知識と技能について習得する。

各回の授業計画:

1. 模擬授業に係る関係資料の作成 授業計画 模擬授業計画表 授業要項
2. 模擬授業①(体つくり運動)理解と授業構想
3. 模擬授業②(体つくり運動)模擬授業と授業後の検討会 2班同時展開
4. 模擬授業③(球技)バスケット・バレーボール 理解と授業構想
5. 模擬授業④(球技)バスケット・バレーボール 模擬授業と授業後の検討会
6. 模擬授業⑤(器械運動)マット運動 理解と授業構想
7. 模擬授業⑥(器械運動)マット運動 模擬授業と授業後の検討会
8. 模擬授業⑦(陸上競技)ハードル・幅跳び 理解と授業構想
9. 模擬授業⑧(陸上競技)ハードル・幅跳び 模擬授業と授業後の検討会
10. 保健模擬授業について-模擬授業計画 授業評価の観点 板書計画 ICT活用可
11. 保健模擬授業①模擬授業と授業後の検討会 2教室 各2カ所で実施
12. 保健模擬授業②模擬授業と授業後の検討会 2教室 各2カ所で実施
13. 保健模擬授業③模擬授業と授業後の検討会 2教室 各2カ所で実施
14. 保健模擬授業③模擬授業と授業後の検討会 2教室 各2カ所で実施
15. 保健及び体育授業指導案作成及び教育実習での授業研究・展開の展望

特記事項: なし

授業方法: すべての授業を対面授業で行う
講義、演習、模擬授業

予習・復習・宿題など(内容・時間):
1:中・高学習指導要領解説保健体育編の全体的振り返りを予習として120分、授業後の確認のための復習120分
2-9:直前にひかえる教育実習を考えて実際の授業に向けて、教材研究のための予習120分、授業の構想を考える復習120分
10-14:直前にひかえる教育実習を考えて実際の授業に向けての教材研究のための予習180分、模擬授業を経験して、教育実習時の授業を考えての振り返り180分
15:全体を通して、教育実習に向けて細部にわたり確認していく180分、授業後も同様に授業だけでなく教育実習全体についての留意点を確認していく120～180分

評価方法:

授業へのとりくみ:	50 %	**確認テスト:**	－ %	**レポート:**	50 %
その他1:			%		
その他2:			%		

評価基準: 60~69:保健体育科の「目標・内容」を踏まえて、指導計画と指導案を作成することができる。
70~100
①授業改善に必要な、授業観察・分析・評価の方法についての理解を深めている。
②教育実習における授業研究のための基本的知識と技能について習得している。

③体育実技・保健の授業を行うことができる。

課題へのフィードバック:

課題等におけるフィードバックについては確認後Teamsを使い対応する。その他質問等においては、講義中に対応する。

教科書: なし

参考書: 文部科学省『中学校学習指導要領解説 保健体育編』東山書房（平成30年3月）
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編』東山書房（平成31年3月）
『体育科教育学入門』高橋健夫、岡出美則、友添秀則、岩田靖 編著 大修館書店
『保健科教育法入門』日本保健科教育学会 編 大修館書店

授業・準備学習のアドバイス:

教育実習を経験し、教職に就くということを想定して授業に臨むこと。
真剣な取り組みが必要である。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 道徳教育の指導法(中等)

クラス: 免前(内規科目)

授業コード: BS05100001

担当者: 廣岡 義之 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目(中学校)【必修】大学が独自に設定する科目(高等学校)【選択】

含めることが必要な事項: 道徳の理論及び指導法

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 具体的には、道徳教育にかかわる基本概念を学び、今日の道徳教育の課題や問題について考えることによって、道徳性をどのようにして育むのかという問いにたいして自らの答えを持てるようになることである。 受講生はテキストにしたがって発表および討論が求められる。

到達目標: 授業のテーマ:「道徳科」という科目のねらいとこの科目が設置されたことの意義について自ら考えることができるようになる。道徳を教えるためのさまざまな指導法を学び、それらの長所と短所を理解できるようになる。道徳の授業のための授業案を作成でき、教育実習においても十分対応できるようになる。
目標:教育の基礎である道徳の内容を理解し、道徳の授業の展開方法と指導法を身につけることがこの授業の目標である。

各回の授業計画:

1. 本講義のオリエンテーション
2. 学習指導要領「道徳」の改訂重要事項について
3. 道徳教育の目標と内容について
4. 道徳性発達理論について
5. 道徳教育の指導案の書き方について
6. 小学校の教材を使用した模擬授業(1)「手品師」
7.「道徳科」設置の目的(1):これまでの道徳授業が設置された経緯。
8.「道徳科」設置の目的(2):「道徳の時間」から「道徳科」へ
9. 児童生徒をどのように評価するのか
10. 道徳教育の方法論(1):価値明確化の方法について
11. 道徳教育の方法論(2):ジレンマ授業の方法およびエンカウンターの方法
12. 小学校の教材を使用した模擬授業(2)「はしのうえのおおかみ」
13. 中学校の教材を使用した模擬授業(3)「一冊のノート」
14. 中学校の教材を使用した模擬授業(4)「銀色のシャープペンシル」
15. まとめと確認テスト(道徳教育の今後の課題と展望について)

特記事項: なし

授業方法: すべての授業を対面授業で行う
1. 講義
2. 講義
3. 講義
4. 講義
5. 講義
6. 講義
7. 講義
8. 講義
9. 講義
10. 講義
11. 講義
12. 講義
13. 講義
14. 講義
15. 講義

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1.(復習)講義で学んできたことのまとめ 。(180分)

2.(予習)教科書1章1節を通読する。(180分)
3.(予習)教科書1章2節を通読する。(180分)
4.(予習)教科書1章3.4節を通読する。(180分)
5.(予習)教科書2章1節を通読する。(180分)
6.(予習)教科書4章1節を通読する。(180分)
7.(予習)教科書2章2節を通読する。(180分)
8.(予習)教科書2章3節を通読する。(180分)
9.(予習)教科書2章4節を通読する。(180分)
10.(予習)教科書3章を通読する。(180分)
11.(予習)教科書3章を通読する。(180分)
12.(予習)教科書4章2節を通読する。(180分)
13.(予習)教科書4章3節を通読する。(180分)
14.(予習)教科書4章4節を通読する。(180分)
15.(復習)これまで学んできたことのまとめ。(180分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	50	**%**	**確認テスト:**	50	**%**	**レポート:**	- **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準:
1. 授業参加態度
①授業内容の「メモをとる」等ができる(60-69)。これらに加えて(90-100)は受講態度がきわめて積極的なことが条件。
2. 復習テスト
①道徳教育の基礎的な概念を説明できる。(60-69) これらに加えて道徳教育の専門的な概念を説明できる。(90-100)
・上記項目を総合的に評価する。

課題へのフィードバック:
・試験については、その課題のポイントと評価の観点を全体に向けて説明する。

教科書: 広岡義之他著、『対話的で深い学びのある道徳の授業をつくる』2023年 ミネルヴァ書房

参考書:
文部科学省『小学校学習指導要領』東洋館出版社(平成30年2月)
文部科学省『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』廣済堂あかつき(平成30年2月)
文部科学省『中学校学習指導要領』東山書房(平成30年3月)

授業・準備学習のアドバイス:
予習復習を習慣づけること。
レポート課題はTeamsにて提示する。

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 道徳教育の指導法(中等)

クラス: 免後(内規科目)

授業コード: BS05100002

担当者: 廣岡 義之 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目(中学校)【必修】大学が独自に設定する科目(高等学校)【選択】

含めることが必要な事項: 道徳の理論及び指導法

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 具体的には、道徳教育にかかわる基本概念を学び、今日の道徳教育の課題や問題について考えることによって、道徳性をどのようにして育むのかという問いにたいして自らの答えを持てるようになることである。 受講生はテキストにしたがって発表および討論が求められる。

到達目標: 授業のテーマ:「道徳科」という科目のねらいとこの科目が設置されたことの意義について自ら考えることができるようになる。道徳を教えるためのさまざまな指導法を学び、それらの長所と短所を理解できるようになる。道徳の授業のための授業案を作成でき、教育実習においても十分対応できるようになる。
目標:教育の基礎である道徳の内容を理解し、道徳の授業の展開方法と指導法を身につけることがこの授業の目標である。

各回の授業計画:

1. 本講義のオリエンテーション
2. 学習指導要領「道徳」の改訂重要事項について
3. 道徳教育の目標と内容について
4. 道徳性発達理論について
5. 道徳教育の指導案の書き方について
6. 小学校の教材を使用した模擬授業(1)「手品師」
7.「道徳科」設置の目的(1):これまでの道徳授業が設置された経緯
8.「道徳科」設置の目的(2):「道徳の時間」から「道徳科」へ
9. 児童生徒をどのように評価するのか
10. 道徳教育の方法論(1):価値明確化の方法について
11. 道徳教育の方法論(2):ジレンマ授業の方法およびエンカウンターの方法
12. 小学校の教材を使用した模擬授業(2)「はしのうえのおおかみ」
13. 中学校の教材を使用した模擬授業(3)「一冊のノート」
14. 中学校の教材を使用した模擬授業(4)「銀色のシャープペンシル」
15. まとめと確認テスト(道徳教育の今後の課題と展望について)

特記事項: なし

授業方法: すべての授業を対面授業で行う
1. 講義
2. 講義
3. 講義
4. 講義
5. 講義
6. 講義
7. 講義
8. 講義
9. 講義
10. 講義
11. 講義
12. 講義
13. 講義
14. 講義
15. 講義

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1.(復習)講義で学んできたことのまとめ 。(180分)

2.(予習)教科書1章1節を通読する。(180分)
3.(予習)教科書1章2節を通読する。(180分)
4.(予習)教科書1章3.4節を通読する。(180分)
5.(予習)教科書2章1節を通読する。(180分)
6.(予習)教科書4章1節を通読する。(180分)
7.(予習)教科書2章2節を通読する。(180分)
8.(予習)教科書2章3節を通読する。(180分)
9.(予習)教科書2章4節を通読する。(180分)
10.(予習)教科書3章を通読する。(180分)
11.(予習)教科書3章を通読する。(180分)
12.(予習)教科書4章2節を通読する。(180分)
13.(予習)教科書4章3節を通読する。(180分)
14.(予習)教科書4章4節を通読する。(180分)
15.(復習)これまで学んできたことのまとめ。(180分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	50	**%**	**確認テスト:**	50	**%**	**レポート:**	- **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準:
1. 授業参加態度
①授業内容の「メモをとる」等ができる(60-69)。これらに加えて(90-100)は受講態度がきわめて積極的なことが条件。
2. 復習テスト
①道徳教育の基礎的な概念を説明できる。(60-69) これらに加えて道徳教育の専門的な概念を説明できる。(90-100)
・上記項目を総合的に評価する。

課題へのフィードバック:
・試験については、その課題のポイントと評価の観点を全体に向けて説明する。

教科書: 広岡義之他著、『対話的で深い学びのある道徳の授業をつくる』2023年 ミネルヴァ書房

参考書:
文部科学省『小学校学習指導要領』東洋館出版社(平成30年2月)
文部科学省『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』廣済堂あかつき(平成30年2月)
文部科学省『中学校学習指導要領』東山書房(平成30年3月)

授業・準備学習のアドバイス:
予習復習を習慣づけること。
レポート課題はTeamsにて提示する。

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 総合的な学習の時間の指導法(中等)

クラス: 免前

授業コード: BS05150001

担当者: 樋口 拓 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:国立の青少年教育機関における学校の体験活動事業の受入にかかる指導、企画、運営及び評価。持続可能な開発のための教育にかかる地域連携や教育科目に連動させた教育研究の実践。

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目(中学校)(高等学校)【必修】

含めることが必要な事項: 総合的な学習の時間の指導法

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 指導要領改訂の背景にある「厳しい挑戦の時代」観を共有し、総合的な学習の時間の意義とそこで望まれる力の育成方法について、講義・学生相互の取り組み・単元・授業提案プレゼン等を通じて習得する。
授業計画前半では、「新指導要領」改訂の背景と育成すべき力について、教科横断的・探究的な学習の歴史的な経緯を、講義を中心に概観する。授業計画後半では、「新指導要領」で示される総合的な学習の時間で身につけるべき力とその育成の方法について学ぶ。具体的には「課題解決力」や「コミュニケーション力」「異文化理解力」などの必要性について、身近なテーマを題材として「課題発見、原因追及、解決に向かう計画・立案、課題解決のアクションプランの提示、評価」サイクルの実践を通して学ぶ。またそれらの活動に伴う協働的な営み、ICT活用による情報の収集・発信の在り方について理解する。

到達目標: 1. 中学校・高等学校教師として総合的な学習に関する基礎的な知識を理解し、その運用の力を高める。
2. 総合的な学習の時間の学習および教科横断的な学習の意義や学習構造、及びその目標ならびに育成のためのカリキュラムマネジメントについて理解し、各授業の目標・準備・展開・評価、ICT活用、アクティブ・ラーニングの展開について、講義・学生相互の取り組み(ペア・グループワーク・プレゼン)等を通して習得する。
3.「総合的な学習の時間」の授業づくりについて関心を持って取り組めるようになる。

各回の授業計画:

1.「総合的な学習とは」1 新学習指導要領の背景と目標。本授業の参加の仕方【対面】
2.「総合的な学習とは」2「探究の力」「関連づけ類推する力」「情報の力」【対面】
3.「総合的な授業をつくる」1 個人で探究。自分を横断的に紹介する (帯単元活動)探究活動体験ミニプレゼン①【対面】
4.「総合的な授業をつくる」2 クラス・学年・学校単位で授業をつくる (帯単元活動)探究活動体験ミニプレゼン②【対面】
5.「総合的な授業をつくる」3「探究活動を探求する」(全国の活動を調べる) (帯単元活動)探究活動体験ミニプレゼン③【対面】
6.「総合的な授業をつくる」4「探究活動を探求する」(自分の興味に基づいてプランをつくる) (帯単元活動)探究活動体験ミニプレゼン【対面】
7.「総合的な授業をつくる」5「探究活動を探求する」(探究活動の難しさを想像する) (帯単元活動)探究活動体験ミニプレゼン⑤【対面】
8. 学びを整理する・まとめる【対面】

特記事項: ＊各回において、「板書」「ICT」を意識的に用い、学生自身による「発信・共有」につなげる。
探究のサイクルの経験を重視しますので、各自の学びの様子をみながら内容を変更する場合があります。授業やTeamsでの指示を確認して下さい。

授業方法: 1. 講義【対面】
2. 講義とペアワーク【対面】
3. 講義と演習(プレゼン)【対面】
4. 講義と演習(プレゼン)【対面】
6. 講義と演習(プレゼン)【対面】
7. 講義と演習(プレゼン)【対面】
8. 講義とペアワーク【対面】

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1.「総合的な学習の時間」と現代社会で求められる力を整理しまとめる。これまで、学んできた「総合的な学習の時間」を思い出し書き上げる

（180分）
2. これまで経験してきた「総合的な学習の時間」を調べ学習と課題研究に分類する。「総合的な学習の時間」でつけるべき力ついて自分なりに考える。(180分)
3.「自分」に関して、「どのような人物か」を「探究」「類推」「情報」を意識して教科横断的な内容でミニレポートを作成する（180分）
4.「探究」を求められた過去の経験について、そのテーマ・具体的展開とそのプラス面・マイナス面についてまとめる（180分）
5.「探究」として、課題について、まとめ、スライドショー等も用いた発表の準備をする（180分）
6.「探究」のテーマを先行実践より探す（180分）
7.「探究」の実践に関するツールの使い方をレポートにまとめる（180分）
8. 本講座で得た知見とこれからの展望をまとめる（180分）
（各自の探究の状況などにより内容は変化する場合があります。授業での指示を確認してください）

評価方法：

授業へのとりくみ：	40 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	40 **%**
その他1：	個人プレゼン		20 **%**		
その他2：			**%**		

評価基準：
レポートには次の内容を含む。
毎回の授業内容に関わるレポート（40%）、最終レポート（20%）
それらを通して、次のように到達度を見る。
望ましい到達度（80～100点）
「総合的な学習の時間」に関する基礎的な知識を理解するとともに、テーマ設定・授業展開・発信共有方法など、先行実践を参考に企画することができる。「探究」の意味を理解し、講義に主体的に取り組み、プレゼンすることができる。
最低限度の到達度（60～69点）
「総合的な学習の時間」に関する基礎的な知識を理解しており、「探究」の意味を理解しようとし、プレゼン等に取り組むことができる。

課題へのフィードバック：
各課題は適宜共有の機会を設ける（学生によるレポート、プレゼン、スライドショーをつかった各自の文章の提示）。それらによって学生同士でコメントしあうとともに、教師も適宜フィードバックとなるコメントを伝える。

教科書：
文部科学省『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』東山書房（平成30年3月）
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』学校図書（平成31年3月）

参考書：
『これでわかる探究学習の指導』（大阪教育大学附属高等学校平野校舎編、2019）
岡本尚也著『課題研究メソッド2nd Edition』（啓林館、2021
西岡加名恵、大貫守編著『高等学校「探究的な学習」の評価』（学事出版、2023）
H.リン・エリクソン他著『思考する教室をつくる 概念型カリキュラムの理論と実践』（北大路書房、2022）
奥村好美、西岡加名恵編著『「逆向き設計」実践ガイドブック』（日本標準、2021）

授業・準備学習のアドバイス：
総合的な学習は、地域課題や社会問題などを扱うことが多くある。そのため、新聞やSNSなどにより現代的な課題や問題に関する情報を意識して収集してほしい。また、講義の中で行うワークやプレゼンについては、その実施方法についてもしっかりと学んでもらいたい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 総合的な学習の時間の指導法(中等)

クラス: 免後

授業コード: BS05150002

担当者: 樋口 拓 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:国立の青少年教育機関における学校の体験活動事業の受入にかかる指導、企画、運営及び評価。持続可能な開発のための教育にかかる地域連携や教育科目に連動させた教育研究の実践。

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目(中学校)(高等学校)【必修】

含めることが必要な事項: 総合的な学習の時間の指導法

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 指導要領改訂の背景にある「厳しい挑戦の時代」観を共有し、総合的な学習の時間の意義とそこで望まれる力の育成方法について、講義・学生相互の取り組み・単元・授業提案プレゼン等を通じて習得する。
授業計画前半では、「新指導要領」改訂の背景と育成すべき力について、教科横断的・探究的な学習の歴史的な経緯を、講義を中心に概観する。授業計画後半では、「新指導要領」で示される総合的な学習の時間で身につけるべき力とその育成の方法について学ぶ。具体的には「課題解決力」や「コミュニケーション力」「異文化理解力」などの必要性について、身近なテーマを題材として「課題発見、原因追及、解決に向かう計画・立案、課題解決のアクションプランの提示、評価」サイクルの実践を通して学ぶ。またそれらの活動に伴う協働的な営み、ICT活用による情報の収集・発信の在り方について理解する。

到達目標:
1. 中学校・高等学校教師として総合的な学習に関する基礎的な知識を理解し、その運用の力を高める。
2. 総合的な学習の時間の学習および教科横断的な学習の意義や学習構造、及びその目標ならびに育成のためのカリキュラムマネジメントについて理解し、各授業の目標・準備・展開・評価、ICT活用、アクティブ・ラーニングの展開について、講義・学生相互の取り組み(ペア・グループワーク・プレゼン)等を通して習得する。
3.「総合的な学習の時間」の授業づくりについて関心を持って取り組めるようになる。

各回の授業計画:

1.「総合的な学習とは」1 新学習指導要領の背景と目標。本授業の参加の仕方【対面】
2.「総合的な学習とは」2「探究の力」「関連づけ類推する力」「情報の力」【対面】
3.「総合的な授業をつくる」1 個人で探究。自分を横断的に紹介する (帯単元活動)探究活動体験ミニプレゼン①【対面】
4.「総合的な授業をつくる」2 クラス・学年・学校単位で授業をつくる (帯単元活動)探究活動体験ミニプレゼン②【対面】
5.「総合的な授業をつくる」3「探究活動を探求する」(全国の活動を調べる) (帯単元活動)探究活動体験ミニプレゼン③【対面】
6.「総合的な授業をつくる」4「探究活動を探求する」(自分の興味に基づいてプランをつくる) (帯単元活動)探究活動体験ミニプレゼン【対面】
7.「総合的な授業をつくる」5「探究活動を探求する」(探究活動の難しさを想像する) (帯単元活動)探究活動体験ミニプレゼン⑤【対面】
8. 学びを整理する・まとめる【対面】

特記事項: ＊各回において、「板書」「ICT」を意識的に用い、学生自身による「発信・共有」につなげる。
探究のサイクルの経験を重視しますので、各自の学びの様子をみながら内容を変更する場合があります。授業やTeamsでの指示を確認して下さい。

授業方法:
1. 講義【対面】
2. 講義とペアワーク【対面】
3. 講義と演習(プレゼン)【対面】
4. 講義と演習(プレゼン)【対面】
6. 講義と演習(プレゼン)【対面】
7. 講義と演習(プレゼン)【対面】
8. 講義とペアワーク【対面】

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1.「総合的な学習の時間」と現代社会で求められる力を整理しまとめる。これまで、学んできた「総合的な学習の時間」を思い出し書き上げる

（180分）
2. これまで経験してきた「総合的な学習の時間」を調べ学習と課題研究に分類する。「総合的な学習の時間」でつけるべき力ついて自分なりに考える。(180分)
3.「自分」に関して、「どのような人物か」を「探究」「類推」「情報」を意識して教科横断的な内容でミニレポートを作成する（180分）
4.「探究」を求められた過去の経験について、そのテーマ・具体的展開とそのプラス面・マイナス面についてまとめる（180分）
5.「探究」として、課題について、まとめ、スライドショー等も用いた発表の準備をする（180分）
6.「探究」のテーマを先行実践より探す（180分）
7.「探究」の実践に関するツールの使い方をレポートにまとめる（180分）
8. 本講座で得た知見とこれからの展望をまとめる（180分）
（各自の探究の状況などにより内容は変化する場合があります。授業での指示を確認してください）

評価方法：

授業へのとりくみ：	40 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	40 **%**
その他1：	個人プレゼン		20 **%**		
その他2：			**%**		

評価基準：
レポートには次の内容を含む。
毎回の授業内容に関わるレポート（40%）、最終レポート（20%）
それらを通して、次のように到達度を見る。
望ましい到達度（80～100点）
「総合的な学習の時間」に関する基礎的な知識を理解するとともに、テーマ設定・授業展開・発信共有方法など、先行実践を参考に企画することができる。「探究」の意味を理解し、講義に主体的に取り組み、プレゼンすることができる。
最低限度の到達度（60～69点）
「総合的な学習の時間」に関する基礎的な知識を理解しており、「探究」の意味を理解しようとし、プレゼン等に取り組むことができる。

課題へのフィードバック：
各課題は適宜共有の機会を設ける（学生によるレポート、プレゼン、スライドショーをつかった各自の文章の提示）。それらによって学生同士でコメントしあうとともに、教師も適宜フィードバックとなるコメントを伝える。

教科書：
文部科学省『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』東山書房（平成30年3月）
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』学校図書（平成31年3月）

参考書：
『これでわかる探究学習の指導』（大阪教育大学附属高等学校平野校舎編、2019）
岡本尚也著『課題研究メソッド2nd Edition』（啓林館、2021
西岡加名恵、大貫守編著『高等学校「探究的な学習」の評価』（学事出版、2023）
H.リン・エリクソン他著『思考する教室をつくる 概念型カリキュラムの理論と実践』（北大路書房、2022）
奥村好美、西岡加名恵編著『「逆向き設計」実践ガイドブック』（日本標準、2021）

授業・準備学習のアドバイス：
総合的な学習は、地域課題や社会問題などを扱うことが多くある。そのため、新聞やSNSなどにより現代的な課題や問題に関する情報を意識して収集してほしい。また、講義の中で行うワークやプレゼンについては、その実施方法についてもしっかりと学んでもらいたい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 特別活動の指導法

クラス: 免前(内規科目)

授業コード: BS05200001

担当者: 濱口 常雄 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:神戸市立中学校教諭、神戸市教育委員会同和教育室指導主事、神戸市同和教育研究協議会事務局長、神戸市立中学校教頭、神戸市総合教育センター研修室指導主事、同研修室長、神戸市立中学校校長、神戸市教育委員会人権教育課首席指導主事、神戸市総合教育センター研修育成課研修育成係担当係長(指導主事)、法務省神戸地方法務局人権擁護課人権擁護委員、保護司

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目(小学校)(中学校)(高等学校)【必修】

含めることが必要な事項: 特別活動の指導法

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 教材を活用して具体的な活動を体験するアクティブラーニング(ワークショップ・ロールプレイ・グループワーク等の参加体験型学習)を通して、特別活動についての指導・実践力を高める。

到達目標: テーマ:「特別活動の指導法」について、その歴史・目的・意義・内容について、理論的及び実践的に学ぶ。
到達目標:
1. 特別活動の内容と指導法について理解する。
2. 特別活動が教育課程において果たす役割及び集団という生活の場での自主的・主体的活動等について学ぶ。
3. 望ましい人間関係を築く様々な活動を通して、特別活動の果たす役割を学ぶ。
4. 社会に参画する力を育てる特別活動の意義や指導法を学ぶ。

各回の授業計画:

1. 特別活動の理論と概要(自己紹介プログラム)
2. 教育課程と特別活動(特別活動が学校を元気にする)
3. 学級活動の目標と内容(担任第一声、学級経営方針、学級目標トーナメント)
4. 児童会・生徒会活動の目標と内容(主体的に活動する、地域と連携する)
5. クラブ活動・部活動の目標と内容(異年齢集団をつなぎ、関わりを深め、よりよい人間関係を形成する)
6. 学校行事の目標と内容(儀式的行事・文化的行事・健康安全体育的行事・遠足旅行集団宿泊的行事・勤労生産奉仕的行事)
7. 特別活動の指導法(構成的グループエンカウンター・ロールプレイ)『グループワーク』
8. 特別活動の全体計画と指導計画(年間指導計画の作成)
9. 学級活動の実践(ワークショップ「自分さがしの旅」、学級通信、進路指導)『グループワーク』
10. 児童会・生徒会活動の実践(組織づくり・計画・運営・リーダー養成)『グループワーク』
11. クラブ活動・部活動の実践(組織づくり・計画・運営・部活動顧問としての役割と指導の効果)
12. 学校行事の実践(学校を活性化させる学校行事の計画・立案)『プレゼンテーション』
13. 特別活動における安全教育と危機管理(特別活動と児童生徒理解・生徒指導・人権教育)
14. 特別活動の評価方法(評価のねらい・視点・工夫・指導改善)
15. 振り返りとまとめ(特別活動の意義・内容・役割・指導法・指導効果・生きる力)及び確認テスト

特記事項: なし

授業方法: 全ての授業を対面で行う
1. 講義、ワークショップ
2. 講義、ワークショップ
3. 講義・演習、グループワーク
4. 講義・演習、グループワーク
5. 講義・演習、グループワーク
6. 講義・演習、グループワーク
7. 講義、ワークショップ、ロールプレイ
8. 講義・演習、グループワーク
9. ワークショップ、グループワーク
10. 演習、グループワーク
11. 講義・演習
12. パワーポイントを使用したプレゼンテーション
13. 講義・演習、ワークショップ
14. 講義・演習

15. 振り返り、確認テスト

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 復習:特別活動の理論(120分)
予習:教育課程(120分)
2. 宿題:学級経営方針(120分)
3. 宿題:学級目標・担任第一声(120分)
復習:学級活動(120分)
4. 予習:児童会・生徒会活動(120分)
5. 予習:クラブ活動・部活動(120分)
6. 予習:学校行事(180分)
7. 復習:特別活動の指導法(180分)
8. 宿題:特別活動の全体計画と指導計画(180分)
9. 予習:学級活動(180分)
10. 予習:児童会・生徒会活動(120分)
11. 予習:クラブ活動・部活動(120分)
12. 宿題:遠足旅行集団宿泊的行事の計画・立案(240分)
13. 宿題:いじめをさせない学級づくり(180分)
14. 予習:特別活動の評価方法(120分)
15. 宿題:振り返り・確認テスト勉強(360分)

評価方法:	**授業へのとりくみ:**	15 **%**	**確認テスト:**	55 **%**	**レポート:**	30 **%**
	その他1:			**%**		
	その他2:			**%**		

評価基準: 【望ましい到達度(80～100点)】特別活動について十分理解し、積極的に課題に取り組み、グループワークやプレゼンテーションなど意欲的に授業に参加することができた。
【最低限の到達度(60～69点)】特別活動についておおむね理解し、課題を提出し、授業に取り組めた。

各回の授業の評価ポイントは以下の通りです。

1. 特別活動の理論と概要
① 特別活動の理論と概要を理解することができたか
② 自己紹介プログラムに積極的に取り組んだか
③ 特別活動の目標と内容・意義を理解することができたか

2. 教育課程と特別活動
① 教育課程における特別活動の位置付けを理解することができたか
② 特別活動モデル(クロスカリキュラム)を理解することができたか
③ 教育活動における特別活動の役割や教育効果を理解することができたか

3. 学級活動の目標と内容
① 学級活動の目標と内容を理解することができたか
② 特別活動が学級経営に果たす役割が大きいことを理解することができたか

4. 児童会・生徒会活動の目標と内容
① 児童会・生徒会活動の目標と内容を理解することができたか
② 児童会・生徒会活動が学校の活性化につながることを理解することができたか

5. クラブ活動・部活動の目標と内容
① クラブ活動・部活動の目標と内容を理解することができたか
② クラブ活動・部活動が、異年齢集団をつなぎ、関わりを深め、よりよい人間関係を形成する役割を果たしていることを認識することができたか

6. 学校行事の目標と内容
① 学校行事の目標と内容を理解することができたか
② 学校行事が生徒の意欲を高めることにつながることを理解することができたか
③ 遠足旅行集団宿泊的行事の計画・立案に積極的に取り組んだか

7. 特別活動の指導法
① 特別活動が教科横断的に全教育活動に関わることを理解することができたか
② 参加体験型学習(構成的エンカウンター・ワークショップ・ロールプレイ等)に積極的に取り組んだか
③ 会議・話し合いの手法を学び、グループワークに積極的に参加し、生かすことができたか

8. 特別活動の全体計画と指導計画
① 特別活動の全体計画と指導計画の重要性を理解することができたか
② 年間行事予定から学級の時間(HR年35時間)の計画・立案に積極的に取り組んだか

9. 学級活動の意義と実践

① 学級活動に関わる実践力を高めることができたか
② 集団づくりの大切さを理解することができたか
③ 人間形成・進路指導の大切さを理解することができたか
④ 学級通信等、情報発信の大切さを理解することができたか

10. 児童会・生徒会活動の意義と実践
① 児童会・生徒会活動に関わる実践力を高めることができたか
② 組織づくり・計画・運営・リーダー養成の大切さを理解することができたか
③ 地域連携の重要性を理解することができたか

11. クラブ活動・部活動の意義と実践
① クラブ活動・部活動に関わる実践力を高めることができたか
② クラブ活動・中学校の部活動を理解することができたか
③ 組織づくり・計画・運営・部活動顧問としての役割と指導の効果・要配慮事項を理解することができたか

12. 学校行事の意義と実践
① 学校行事に関わる実践力を高めることができたか
② 学校行事の意義・要配慮事項を理解することができたか
③ 計画・立案した遠足旅行集団宿泊的行事をグループで協力して発表する（パワーポイントを使用したプレゼンテーション）ことができたか

13.特別活動における安全教育と危機管理
① 児童生徒理解の大切さを理解することができたか
② 子ども・保護者の思いを受けとめることの大切さを理解することができたか
③ 発達障害の特性を理解することができたか

14. 特別活動の評価方法
① 特別活動の評価方法を理解することができたか
② 特別活動の各活動の評価規準・観点を理解することができたか
③ 特別活動の指導と評価に関する事例から、実践力を高めることができたか

15. 確認テスト及び振り返りとまとめ
① 確認テスト（55点満点）実施（50分）

課題へのフィードバック：

① 毎時、自己振り返りアンケートを実施、評価集計、コメント返却（Teams活用）
② 課題・演習のワークシート・レポート提出、点検・返却（Teams活用）
③ 課題・演習の発表（パワーポイントを使用したプレゼンテーション）及び相互評価
④ ロールプレイの発表（グループ役割演劇）及び相互評価

教科書： 文部科学省『小学校学習指導要領解説 特別活動編』東山書房（平成30年2月）
文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別活動編』東山書房（平成30年3月）
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 特別活動編』東京書籍（平成31年3月）

参考書： ・オリジナルテキスト冊子（Teams内資料に保存）
・オリジナル資料編：上・下の冊子（Teams内資料に保存）
・オリジナル演習・ワークシートの冊子（Teams内資料に保存）
・必要に応じて教材・ワークシートを配布（Teams内資料に保存）
・毎時、特別活動通信「人間夢だより」を配布（Teams内資料に保存）
・毎時、自己振り返りアンケートを実施・提出（オンラインではTeams活用）
・毎時、前時の自己振り返りアンケートにコメントを添えて返却

授業・準備学習のアドバイス：

① 毎時、自己振り返りアンケートを実施、評価集計、コメント返却（オンラインではTeams活用）
② 課題・演習のワークシート・レポート提出、点検・返却（オンラインではTeams活用）
③ 課題・演習の発表（パワーポイントを使用したプレゼンテーション）及び相互評価
④ ロールプレイの発表（グループ役割演劇）及び相互評価

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 特別活動の指導法

クラス: 免後(内規科目)

授業コード: BS05200002

担当者: 濱口 常雄 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:神戸市立中学校教諭、神戸市教育委員会同和教育室指導主事、神戸市同和教育研究協議会事務局長、神戸市立中学校教頭、神戸市総合教育センター研修室指導主事、同研修室長、神戸市立中学校校長、神戸市教育委員会人権教育課首席指導主事、神戸市総合教育センター研修育成課研修育成係担当係長(指導主事)、法務省神戸地方法務局人権擁護課人権擁護委員、保護司

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目(小学校)(中学校)(高等学校)【必修】

含めることが必要な事項: 特別活動の指導法

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 教材を活用して具体的な活動を体験するアクティブラーニング(ワークショップ・ロールプレイ・グループワーク等の参加体験型学習)を通して、特別活動についての指導・実践力を高める。

到達目標: テーマ:「特別活動の指導法」について、その歴史・目的・意義・内容について、理論的及び実践的に学ぶ。
到達目標:
1. 特別活動の内容と指導法について理解する。
2. 特別活動が教育課程において果たす役割及び集団という生活の場での自主的・主体的活動等について学ぶ。
3. 望ましい人間関係を築く様々な活動を通して、特別活動の果たす役割を学ぶ。
4. 社会に参画する力を育てる特別活動の意義や指導法を学ぶ。

各回の授業計画:

1. 特別活動の理論と概要(自己紹介プログラム)
2. 教育課程と特別活動(特別活動が学校を元気にする)
3. 学級活動の目標と内容(担任第一声、学級経営方針、学級目標トーナメント)
4. 児童会・生徒会活動の目標と内容(主体的に活動する、地域と連携する)
5. クラブ活動・部活動の目標と内容(異年齢集団をつなぎ、関わりを深め、よりよい人間関係を形成する)
6. 学校行事の目標と内容(儀式的行事・文化的行事・健康安全体育的行事・遠足旅行集団宿泊的行事・勤労生産奉仕的行事)
7. 特別活動の指導法(構成的グループエンカウンター・ロールプレイ)『グループワーク』
8. 特別活動の全体計画と指導計画(年間指導計画の作成)
9. 学級活動の実践(ワークショップ「自分さがしの旅」、学級通信、進路指導)『グループワーク』
10. 児童会・生徒会活動の実践(組織づくり・計画・運営・リーダー養成)『グループワーク』
11. クラブ活動・部活動の実践(組織づくり・計画・運営・部活動顧問としての役割と指導の効果)
12. 学校行事の実践(学校を活性化させる学校行事の計画・立案)『プレゼンテーション』
13. 特別活動における安全教育と危機管理(特別活動と児童生徒理解・生徒指導・人権教育)
14. 特別活動の評価方法(評価のねらい・視点・工夫・指導改善)
15. 振り返りとまとめ(特別活動の意義・内容・役割・指導法・指導効果・生きる力)及び確認テスト

特記事項: なし

授業方法: 全ての授業を対面で行う
1. 講義、ワークショップ
2. 講義、ワークショップ
3. 講義・演習、グループワーク
4. 講義・演習、グループワーク
5. 講義・演習、グループワーク
6. 講義・演習、グループワーク
7. 講義、ワークショップ、ロールプレイ
8. 講義・演習、グループワーク
9. ワークショップ、グループワーク
10. 演習、グループワーク
11. 講義・演習
12. パワーポイントを使用したプレゼンテーション
13. 講義・演習、ワークショップ
14. 講義・演習

15. 振り返り、確認テスト

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 復習:特別活動の理論(120分)
予習:教育課程(120分)
2. 宿題:学級経営方針(120分)
3. 宿題:学級目標・担任第一声(120分)
復習:学級活動(120分)
4. 予習:児童会・生徒会活動(120分)
5. 予習:クラブ活動・部活動(120分)
6. 予習:学校行事(180分)
7. 復習:特別活動の指導法(180分)
8. 宿題:特別活動の全体計画と指導計画(180分)
9. 予習:学級活動(180分)
10. 予習:児童会・生徒会活動(120分)
11. 予習:クラブ活動・部活動(120分)
12. 宿題:遠足旅行集団宿泊的行事の計画・立案(240分)
13. 宿題:いじめをさせない学級づくり(180分)
14. 予習:特別活動の評価方法(120分)
15. 宿題:振り返り・確認テスト勉強(360分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	15 **%**	**確認テスト:**	55 **%**	**レポート:**	30 **%**
その他1:			**%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【望ましい到達度(80～100点)】特別活動について十分理解し、積極的に課題に取り組み、グループワークやプレゼンテーションなど意欲的に授業に参加することができた。
【最低限の到達度(60～69点)】特別活動についておおむね理解し、課題を提出し、授業に取り組めた。

各回の授業の評価ポイントは以下の通りです。

1. 特別活動の理論と概要
① 特別活動の理論と概要を理解することができたか
② 自己紹介プログラムに積極的に取り組んだか
③ 特別活動の目標と内容・意義を理解することができたか

2. 教育課程と特別活動
① 教育課程における特別活動の位置付けを理解することができたか
② 特別活動モデル(クロスカリキュラム)を理解することができたか
③ 教育活動における特別活動の役割や教育効果を理解することができたか

3. 学級活動の目標と内容
① 学級活動の目標と内容を理解することができたか
② 特別活動が学級経営に果たす役割が大きいことを理解することができたか

4. 児童会・生徒会活動の目標と内容
① 児童会・生徒会活動の目標と内容を理解することができたか
② 児童会・生徒会活動が学校の活性化につながることを理解することができたか

5. クラブ活動・部活動の目標と内容
① クラブ活動・部活動の目標と内容を理解することができたか
② クラブ活動・部活動が、異年齢集団をつなぎ、関わりを深め、よりよい人間関係を形成する役割を果たしていることを認識することができたか

6. 学校行事の目標と内容
① 学校行事の目標と内容を理解することができたか
② 学校行事が生徒の意欲を高めることにつながることを理解することができたか
③ 遠足旅行集団宿泊的行事の計画・立案に積極的に取り組んだか

7. 特別活動の指導法
① 特別活動が教科横断的に全教育活動に関わることを理解することができたか
② 参加体験型学習(構成的エンカウンター・ワークショップ・ロールプレイ等)に積極的に取り組んだか
③ 会議・話し合いの手法を学び、グループワークに積極的に参加し、生かすことができたか

8. 特別活動の全体計画と指導計画
① 特別活動の全体計画と指導計画の重要性を理解することができたか
② 年間行事予定から学級の時間(HR年35時間)の計画・立案に積極的に取り組んだか

9. 学級活動の意義と実践

① 学級活動に関わる実践力を高めることができたか
② 集団づくりの大切さを理解することができたか
③ 人間形成・進路指導の大切さを理解することができたか
④ 学級通信等、情報発信の大切さを理解することができたか

10. 児童会・生徒会活動の意義と実践
① 児童会・生徒会活動に関わる実践力を高めることができたか
② 組織づくり・計画・運営・リーダー養成の大切さを理解することができたか
③ 地域連携の重要性を理解することができたか

11. クラブ活動・部活動の意義と実践
① クラブ活動・部活動に関わる実践力を高めることができたか
② クラブ活動・中学校の部活動を理解することができたか
③ 組織づくり・計画・運営・部活動顧問としての役割と指導の効果・要配慮事項を理解することができたか

12. 学校行事の意義と実践
① 学校行事に関わる実践力を高めることができたか
② 学校行事の意義・要配慮事項を理解することができたか
③ 計画・立案した遠足旅行集団宿泊的行事をグループで協力して発表する（パワーポイントを使用したプレゼンテーション）ことができたか

13.特別活動における安全教育と危機管理
① 児童生徒理解の大切さを理解することができたか
② 子ども・保護者の思いを受けとめることの大切さを理解することができたか
③ 発達障害の特性を理解することができたか

14. 特別活動の評価方法
① 特別活動の評価方法を理解することができたか
② 特別活動の各活動の評価規準・観点を理解することができたか
③ 特別活動の指導と評価に関する事例から、実践力を高めることができたか

15. 確認テスト及び振り返りとまとめ
① 確認テスト（55点満点）実施（50分）

課題へのフィードバック：

① 毎時、自己振り返りアンケートを実施、評価集計、コメント返却（Teams活用）
② 課題・演習のワークシート・レポート提出、点検・返却（Teams活用）
③ 課題・演習の発表（パワーポイントを使用したプレゼンテーション）及び相互評価
④ ロールプレイの発表（グループ役割演劇）及び相互評価

教科書： 文部科学省『小学校学習指導要領解説 特別活動編』東山書房（平成30年2月）
文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別活動編』東山書房（平成30年3月）
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 特別活動編』東京書籍（平成31年3月）

参考書： ・オリジナルテキスト冊子（Teams内資料に保存）
・オリジナル資料編：上・下の冊子（Teams内資料に保存）
・オリジナル演習・ワークシートの冊子（Teams内資料に保存）
・必要に応じて教材・ワークシートを配布（Teams内資料に保存）
・毎時、特別活動通信「人間夢だより」を配布（Teams内資料に保存）
・毎時、自己振り返りアンケートを実施・提出（オンラインではTeams活用）
・毎時、前時の自己振り返りアンケートにコメントを添えて返却

授業・準備学習のアドバイス：

① 毎時、自己振り返りアンケートを実施、評価集計、コメント返却（オンラインではTeams活用）
② 課題・演習のワークシート・レポート提出、点検・返却（オンラインではTeams活用）
③ 課題・演習の発表（パワーポイントを使用したプレゼンテーション）及び相互評価
④ ロールプレイの発表（グループ役割演劇）及び相互評価

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育方法・ICT活用論

クラス: ★免前(内規科目)

授業コード: BS05350001

担当者: 中尾 尊洋 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立中学校教諭(担任, 教務主任, 主幹教諭, 情報担当、研究担当)

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目(幼稚園)(小学校)(中学校)(高等学校)【必修】

含めることが必要な事項: 教育の方法及び技術
情報通信技術を活用した教育の理論及び方法
教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用も含む。)

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 様々な教育の方法や指導技術についての知識を広げつつ、学習指導要領・教育要領で打ち出された知識基盤社会を生きる子どもたちに求められる資質・能力についての理解とその育成の方法についての理解を深め、指導に必要な技能を高める。教育現場におけるICTの活用については, 先端技術を含むICTに関する社会の動向を確認した上で, 授業における児童生徒および教員によるICT活用, 授業の準備や学習評価における活用, 校務における活用や教育データの活用について取り上げる。また, 全ての学習の基盤であり, 情報社会を生きていくための資質・能力である情報活用能力について, その構成要素および具体的な指導法, 教育課程上の位置づけについて学ぶ。

到達目標:
1. これからの社会を生きる子どもたちに求められる資質・能力や, それらを育成するために必要な教育の方法や指導技術について理解している
2. 授業を行う上での基本的な技術を身に付け, 学習指導案を作成することができる。
3. 教育の情報化について理解し, 教育現場におけるICT活用の意義や理論について理解を得る
4. ICTを活用した学習指導や校務の実際と今後の在り方について理解を得る
5. 情報活用能力を育成する意義および育成方法を身につける

各回の授業計画:

1. ガイダンス、教育における方法と技術について
2. 教育方法・授業技術の理論
3. 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた資質・能力の育成
4. 授業づくり
5. 学習評価
6. 授業技術
7. 学習指導案の作成・改善
8. 現在とこれからの社会におけるICTの役割と教育
9. 教師のICT活用指導力と先端技術とデジタルコンテンツの活用
10. 特別支援・幼児教育におけるICT活用
11. 個別最適な学びと対話的な学びを深めるICTの活用と遠隔授業
12. 児童生徒によるICT活用
13. 児童生徒の情報活用能力の育成
14. 情報モラル・情報セキュリティの理解と教育
15. 校務の情報化とデータの活用, まとめとふりかえり

特記事項: なし

授業方法: 講義を踏まえつつ、レポート作成において考察することにより理解を深める。
①⑦⑨⑫ 講義・演習(対面)
②③④⑤⑥⑧⑩⑪⑬⑭⑮ 講義(オンライン(オンデマンド))
※オンラインから対面に変更する回がある可能性がある。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回次の予習復習をするものとする。
予習(90分)
・授業計画および授業方法に記載されている講義内容について事前に調べる。
復習(90分)
・講義内容を復習し、適宜ノートにまとめる。
・返却された課題を見直し自学自習する。

評価方法：	授業へのとりくみ：	30 %	確認テスト：	－ %	レポート：	70 %
	その他1：			%		
	その他2：			%		

評価基準：

優（80～100） 下記の1、2を両方満たす
1)教育方法学の概要、系統主義、経験主義等の教育観や問題解決学習等の教育方法について、用語や例を挙げて説明ができる。教育課程、学習目標、評価など、授業設計に関する諸要素について、関連する理論を理解しつつ、実例をあげて説明することができるとともに、明確な学習目標や評価基準を作成することができる。学習指導要領の変遷について、それぞれの学習指導要領の特徴をあげて詳細に説明ができる。平成29年告示の学習指導要領総則のポイントである、育成すべき資質・能力や教育方法について及び情報活用能力の育成について要点をおさえつつ、用語や例を挙げて説明できる。情報教育について、情報活用の実践力、情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度の観点から、さまざまな実践事例を持ちいて説明するとともに、具体的な指導の方法を説明することができる。
2) 出席したすべての授業中のディスカッションや課題に対して積極的に参加した。

良（70～79） 下記の1、2を両方満たす
1) 教育方法学の概要、系統主義、経験主義等の教育観や問題解決学習等の教育方法について、教育課程、学習目標、評価など、授業設計に関する諸要素について、関連する理論をすべからく述べることができる。学習指導要領の変遷について、大まかな流れを説明することができる。平成29年告示の学習指導要領総則のポイントである、育成すべき資質・能力やその教育方法について、情報活用能力の育成について述べることができる。情報教育について、情報活用の実践力、情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度について述べることができる。
2) 出席したすべての授業中のディスカッションや課題に参加した。

可（60～69） 下記の1、2を両方満たす
1) 教育方法学の概要、系統主義、経験主義等の教育観や問題解決学習等の教育方法について、教育課程、学習目標、評価など、授業設計に関する諸要素について、概ね述べることができる。学習指導要領の変遷について概ね述べることができる。平成29年告示の学習指導要領総則のポイントである、育成すべき資質・能力やその教育方法について、情報活用能力の育成について概ね述べることができる。情報教育について、情報活用の実践力、情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度について概ね述べることができる。
2) 出席したすべての授業中のディスカッションや課題に概ね参加した。

課題へのフィードバック：

課題小レポートは個別にフィードバックを返す。
課題小レポートの内容について、全体に向けフィードバックを返す。

教科書：

文部科学省『小学校学習指導要領』（平成29年3月告示）
文部科学省『中学校学習指導要領』（平成29年3月告示）
内閣府 文部科学省 厚生労働省『幼稚園教育要領、保育所保育指針幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年3月告示）
文部科学省『教育の情報化に関する手引-追補版-』（令和2年6月）
文部科学省『小学校プログラミング教育の手引き（第3版）』（令和2年2月）
文部科学省「情報モラルに関する指導の充実に資する(児童生徒向けの動画教材（31年2月配布）、教員向けの指導手引き)・(保護

参考書：

※授業内に適宜資料を配布する。

授業・準備学習のアドバイス：

授業に関連するキーワードについては，各自でも調べ，深く理解できるようにする。
事前に関連する文献，Webサイト等から概略を掴んでおくことが望ましい。
毎回のレポート提出にあたって，授業内容をしっかりと理解する。
毎回のレポート提出の後にも，コメント等から理解を深めるようにする。
対面授業では必ずPCを持参する。スマホ，ipad等のタブレット端末は不可。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育方法・ICT活用論

クラス: ★免後(内規科目)

授業コード: BS05350002

担当者: 中尾 尊洋 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立中学校教諭(担任, 教務主任, 主幹教諭, 情報担当、研究担当)

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目(幼稚園)(小学校)(中学校)(高等学校)【必修】

含めることが必要な事項: 教育の方法及び技術
情報通信技術を活用した教育の理論及び方法
教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用も含む。)

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 様々な教育の方法や指導技術についての知識を広げつつ、学習指導要領・教育要領で打ち出された知識基盤社会を生きる子どもたちに求められる資質・能力についての理解とその育成の方法についての理解を深め、指導に必要な技能を高める。教育現場におけるICTの活用については, 先端技術を含むICTに関する社会の動向を確認した上で, 授業における児童生徒および教員によるICT活用, 授業の準備や学習評価における活用, 校務における活用や教育データの活用について取り上げる。また, 全ての学習の基盤であり, 情報社会を生きていくための資質・能力である情報活用能力について, その構成要素および具体的な指導法, 教育課程上の位置づけについて学ぶ。

到達目標:
1. これからの社会を生きる子どもたちに求められる資質・能力や, それらを育成するために必要な教育の方法や指導技術について理解している
2. 授業を行う上での基本的な技術を身に付け, 学習指導案を作成することができる。
3. 教育の情報化について理解し, 教育現場におけるICT活用の意義や理論について理解を得る
4. ICTを活用した学習指導や校務の実際と今後の在り方について理解を得る
5. 情報活用能力を育成する意義および育成方法を身につける

各回の授業計画:

1. ガイダンス、教育における方法と技術について
2. 教育方法・授業技術の理論
3. 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた資質・能力の育成
4. 授業づくり
5. 学習評価
6. 授業技術
7. 学習指導案の作成・改善
8. 現在とこれからの社会におけるICTの役割と教育
9. 教師のICT活用指導力と先端技術とデジタルコンテンツの活用
10. 特別支援・幼児教育におけるICT活用
11. 個別最適な学びと対話的な学びを深めるICTの活用と遠隔授業
12. 児童生徒によるICT活用
13. 児童生徒の情報活用能力の育成
14. 情報モラル・情報セキュリティの理解と教育
15. 校務の情報化とデータの活用, まとめとふりかえり

特記事項: なし

授業方法: 講義を踏まえつつ、レポート作成において考察することにより理解を深める。
①⑦⑨⑫ 講義・演習(対面)
②③④⑤⑥⑧⑩⑪⑬⑭⑮ 講義(オンライン(オンデマンド))
※オンラインから対面に変更する回がある可能性がある。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回次の予習復習をするものとする。
予習(90分)
・授業計画および授業方法に記載されている講義内容について事前に調べる。
復習(90分)
・講義内容を復習し、適宜ノートにまとめる。
・返却された課題を見直し自学自習する。

評価方法：	授業へのとりくみ：	30 %	確認テスト：	－ %	レポート：	70 %
	その他1：			%		
	その他2：			%		

評価基準：

優（80～100） 下記の1、2を両方満たす
1)教育方法学の概要、系統主義、経験主義等の教育観や問題解決学習等の教育方法について、用語や例を挙げて説明ができる。教育課程、学習目標、評価など、授業設計に関する諸要素について、関連する理論を理解しつつ、実例をあげて説明することができるとともに、明確な学習目標や評価基準を作成することができる。学習指導要領の変遷について、それぞれの学習指導要領の特徴をあげて詳細に説明ができる。平成29年告示の学習指導要領総則のポイントである、育成すべき資質・能力や教育方法について及び情報活用能力の育成について要点をおさえつつ、用語や例を挙げて説明できる。情報教育について、情報活用の実践力、情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度の観点から、さまざまな実践事例を持ちいて説明するとともに、具体的な指導の方法を説明することができる。
2) 出席したすべての授業中のディスカッションや課題に対して積極的に参加した。

良（70～79） 下記の1、2を両方満たす
1) 教育方法学の概要、系統主義、経験主義等の教育観や問題解決学習等の教育方法について、教育課程、学習目標、評価など、授業設計に関する諸要素について、関連する理論をすべからく述べることができる。学習指導要領の変遷について、大まかな流れを説明することができる。平成29年告示の学習指導要領総則のポイントである、育成すべき資質・能力やその教育方法について、情報活用能力の育成について述べることができる。情報教育について、情報活用の実践力、情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度について述べることができる。
2) 出席したすべての授業中のディスカッションや課題に参加した。

可（60～69） 下記の1、2を両方満たす
1) 教育方法学の概要、系統主義、経験主義等の教育観や問題解決学習等の教育方法について、教育課程、学習目標、評価など、授業設計に関する諸要素について、概ね述べることができる。学習指導要領の変遷について概ね述べることができる。平成29年告示の学習指導要領総則のポイントである、育成すべき資質・能力やその教育方法について、情報活用能力の育成について概ね述べることができる。情報教育について、情報活用の実践力、情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度について概ね述べることができる。
2) 出席したすべての授業中のディスカッションや課題に概ね参加した。

課題へのフィードバック：

課題小レポートは個別にフィードバックを返す。
課題小レポートの内容について、全体に向けフィードバックを返す。

教科書：

文部科学省『小学校学習指導要領』（平成29年3月告示）
文部科学省『中学校学習指導要領』（平成29年3月告示）
内閣府 文部科学省 厚生労働省『幼稚園教育要領、保育所保育指針幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年3月告示）
文部科学省『教育の情報化に関する手引-追補版-』（令和2年6月）
文部科学省『小学校プログラミング教育の手引き（第3版）』（令和2年2月）
文部科学省「情報モラルに関する指導の充実に資する(児童生徒向けの動画教材（31年2月配布）、教員向けの指導手引き)・(保護

参考書：

※授業内に適宜資料を配布する。

授業・準備学習のアドバイス：

授業に関連するキーワードについては，各自でも調べ，深く理解できるようにする。
事前に関連する文献，Webサイト等から概略を掴んでおくことが望ましい。
毎回のレポート提出にあたって，授業内容をしっかりと理解する。
毎回のレポート提出の後にも，コメント等から理解を深めるようにする。
対面授業では必ずPCを持参する。スマホ，ipad等のタブレット端末は不可。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 生徒・進路指導論

クラス: 免前(内規科目)

授業コード: BS06100001

担当者: 有山 篤利 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:京都教育委員会指導主事、京都府立高等学校生徒指導部長、聖泉大学進路指導委員長、兵庫教育大学キャリアセンター就職・キャリア支援部門長

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:道徳科、特別活動及び総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目(小学校)(中学校)(高等学校)【必修】

含めることが必要な事項: 生徒指導の理論及び指導方法
進路指導及びキャリア教育の理論及び具体的な指導方法

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的:
1. 生徒指導の定義と目的、生徒指導と各教科等及び教育課程との関連性を理解させる。
2. 生徒指導の構造を理解させる。
3. 児童生徒の権利の理解とチーム学校による生徒指導体制を理解させる。
4. 個別の課題に対する生徒指導の実践方法を理解させる。
5. キャリア教育の考え方と具体的な指導方法を理解させる。
6. 学校教育における地域等との連携の必要性を認識し、これからの生徒指導及びキャリア教育の在り方を考えさせる。

到達目標:
(授業のテーマ)
社会の変化や格差が拡大する中、教育現場はさまざまな課題が山積している。特にいじめの重大事態や自殺者・不登校生・児童虐待などの増加や、多様な背景を持つ生徒への対応は教育現場にとって喫緊の課題となっている。これらの課題に対応し、子どもたち一人ひとりの自己実現を図っていくための生徒指導及びキャリア教育に関する基礎的な理論を理解する必要がある。そして自己指導能力を身に付けさせる具体的な指導方法を学ぶ過程において、教員になるための実践的な指導力を養っていく。
(到達目標)
1. 学校現場における生徒指導の構造(2軸3類4層)を理解し、基本的な進め方や各課題について、関連法規や基本方針、学校の組織体制と計画、未然防止・早期発見、関係機関との連携体制について理解する。
2. 上記1を理解した上で、自分なりの指導方法を考察する。
3. 学校現場におけるキャリア教育の理論及び具体的な指導方法について理解する。

各回の授業計画:

1. ○オリエンテーション
・本講義の内容、目標、評価の方法
・毎回の講義の進め方
・受講する上での注意点
・参考となるテキストについて
○生徒指導の定義と目的について
○生徒指導の実践上の視点について
○生徒指導の構造(2軸3類4層構造)について

2. ○生徒指導の方法及び基礎について
・生徒指導の方法(生徒理解、集団指導と個別指導、ガイダンスとカウンセリング、チームによる組織的対応)
・生徒指導の基礎(教職員集団の協働性、生徒指導マネジメント、家庭や地域との連携)
・生徒指導の取組上の留意点(生徒の権利の理解、ICTの活用、幼児教育との接続、社会的自立に向けた取組)

3. ○ 生徒指導と教育課程との関連性について
・学習指導要領「総則」と生徒指導の関連について
・生徒の発達を支える教育課程について
・教科指導と生徒指導の関連性について
・道徳科を要とした道徳教育における生徒指導的について

4. ○「総合的な学習の時間」及び「特別活動」における生徒指導
・総合的な学習(探究)の時間と生徒指導の関連性について
・特別活動における生徒指導の位置付けについて
・学級活動・HR活動と生徒指導の関連性について
・生徒会活動、クラブ活動(部活動)と生徒指導の関連性について
・学校行事と生徒指導の関連性について
・特別活動におけるキャリア教育との関連性について

5. ○チーム学校における生徒指導について1
・学校における生徒指導体制(生徒指導主事、教職員の研修、年間指導計画等)について
・教育相談体制(基本的な考え方、教育相談活動、教育相談の研修、年間計画)について
・生徒指導と教育相談が一体となったチーム支援について

6. ○チーム学校における生徒指導について2
・学校の危機管理体制(学校安全、安全教育等)について

・生徒指導に関する法制度等（校則、懲戒・体罰及び不適切な指導、出席停止措置）の運用体制について
・学校・家庭・関係機関との連携・協働について

7. ○個別の課題に対する生徒指導1（いじめの実態と対応）
・いじめの防止対策推進法等について
・いじめの防止等の対策のための組織と計画について
・いじめに関する生徒指導の重層的支援構造について
・関係機関等との連携体制について

8. ○個別の課題に対する生徒指導2（暴力行為の実態と対応）
・暴力行為に関する対応指針等について
・学校の組織体制と年間指導計画について
・暴力行為に関する生徒指導の重層的支援構造について
・関係機関等との連携体制について

9. ○個別の課題に対する生徒指導3（少年非行の実態と対応）
・少年法・児童福祉法等について
・少年非行への視点について
・少年非行への対応の基本について
・関係機関等との連携体制について
・喫煙、飲酒、薬物乱用の現状及び対応について

10. ○個別の課題に対する生徒指導4（児童虐待の実態と対応）
・児童福祉法・児童虐待の防止等に関する法律について
・学校の体罰防止について
・児童虐待生徒の発見について
・児童虐待の通告義務について
・関係機関等との連携体制について

11. ○生個別の課題に対する生徒指導5（自殺・中途退学・不登校の実態と対応）
＜自殺＞
・自殺対策基本法等について
・自殺防止のための学校の組織体制と指導計画について
・自殺予防に関する生徒指導の重層的支援構造及び関係機関等との連携について

＜中途退学＞→キャリア教育との関連性について
・中途退学の関連法規と基本方針及び中途退学の理解について
・中途退学の未然防止と関係機関との連携した指導について

＜不登校＞→キャリア教育との関連するとい視点について
・不登校に関する関連法規・基本方針及び学校の対応や組織体制と指導計画について
・自殺予防に関する生徒指導の重層的支援構造及び関係機関等との連携体制について

12. 個別の課題に対する生徒指導6（インターネット・携帯電話、性に関する課題、多様な背景を持つ生徒への生徒指導）
＜インターネット・携帯電話＞
・関連法規・基本方針等及び組織的取組について
・インターネットをめぐる課題に対する生徒指導の重層的支援構造及び関係機関等との連携体制について

＜性に関する課題＞
・性に関する法律・方針等及び学校における指導について
・性犯罪・性暴力に関する指導や重層的支援構造及び性的マイノリティに関する課題と対応について

＜多様な背景を持つ生徒への生徒指導＞
・発達障害や精神疾患に関する理解と対応について
・健康問題に関する理解と対応について
・支援を要する家庭状況について

13. ○進路指導とキャリア教育について
・進路指導とキャリア教育の違いについて
・キャリア教育が必要となってきた背景と課題について
・キャリア教育が目指すものについて
・「4領域8能力」育成から「基礎的・汎用的能力」育成への変更について
・勤労観、職業観の育成について
・職業教育とキャリア教育について

14. ○小中高等学校におけるキャリア教育の具体的な進め方について
・各校種におけるキャリア発達の違いと目標について
・中学校におけるキャリア教育の視点と実践例について
・高等学校におけるキャリア教育の視点と実践例について

15. ○これからのキャリア教育の進め方と確認テスト
・キャリア教育における家庭、地域、企業、職能団体等との連携の必要性について
・連携の具体的事例を、兵庫県の「トライやるウィーク」を例として理解させる
・これまでの学習を踏まえ、生徒指導・キャリア教育に関する基礎的な理解度を確認し、受講生一人ひとりが考える生徒指導やキャリア教育の具体的な展開例を記述する

特記事項： なし

授業方法:

1. 講義(対面)、体験発表
2. 講義(対面)
3. レポート内容の発表及び講義(対面)
4. 講義(対面)
5. 講義(対面)、レポート作成
6. レポート内容の発表及び講義(対面)
7. 講義(対面)、ビデオ視聴
8. 講義(対面)、体験発表
9. 講義(対面)、レポート作成
10. 講義(対面)、資料の読み取り
11. 講義(対面)、体験発表
12. 講義(対面)
13. 講義(対面)
14. 講義(対面)、ビデオ視聴
15. 講義(対面)、確認テスト

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 生徒指導の定義の復習(120分) 進路指導の意義の予習(60分)
2. 生徒指導の方法についての復習(120分) 理想の教師についてのレポート作成(60分)
3. 他の学生の発表内容をまとめる(90分) 教科・道徳指導の内容についての復習(90分)
4. 特別活動及び 総合的な学習の時間についての復習(120分)
5. 学校の指導体制についての復習(90分)、生徒理解の深化に関するレポートの作成(90分)
6. 生徒理解の深化に関するレポートの発表(60分)、学校の危機管理及び法制度の復習(120分)
7. いじめへの対応の復習(120分)及びビデオ視聴後の感想をまとめる(60分)
8. 暴力行為対応と年間指導計画ついての復習(120分)、中高校生時代の体験発表のための予習(60分)
9. 少年法・児童福祉法及び関係機関との連携に関する復習(120分)、いじめ対応のレポート作成(60分)
10. 児童虐待、通告義務、体罰防止等についての復習(120分)、不登校の実態を把握するための予習(60分)
11. 自殺・中途退学・不登校についての復習(120分)、インターネット等の使用課題についての予習(60分)
12. インターネット、性に関する課題、多様な背景を持つ生徒についての復習(180分)
13. 進路指導とキャリア教育についての復習(120分)、各自の中高校生時代のキャリア教育についての復習(60分)
14. 中高等学校におけるキャリア教育についての復習(120分)、生徒指導全般に関する留意点をまとめる(60分)
15. 生徒指導全般及びキャリア教育全般に関する留意点の復習(90分)、今後の生徒指導についてまとめる(60分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	10 **%**	**確認テスト:**	50 **%**	**レポート:**	40 **%**
その他1:			**%**		
その他2:			**%**		

評価基準:

○最低限の到達度(60～69点)
・生徒指導やキャリア教育に関する基本的な理論及び指導法について理解ができる。
・生徒指導やキャリア教育の基本的な考え方を理解し、自分なりの対応を考えることができる。
・さまざまな教育諸課題に関心をもつことができる。

○望ましい到達度(80～100点)
・生徒指導やキャリア教育に関する理論や指導法を十分に理解し、具体的に説明することができる。
・生徒指導やキャリア教育の基本的な考え方を十分に理解し、自分なりの具体的な対応を考えることができる。
・さまざまな教育諸課題に関心をもち、解決していこうとする意欲をもつことができる。

課題へのフィードバック:

・レポート作成後、基本的な記述内容を示し、自己の記述内容と比較することが出来るようにする。
・試験終了後、課題内容に関する補足説明を行い、講義全体の締めくくりとする。

教科書: なし

参考書:

文部科学省『中学校学習指導要領』東山書房(平成30年3月)
文部科学省『高等学校学習指導要領』東山書房(平成31年3月)
文部科学省『生徒指導提要』東洋館出版社 令和4年12月改訂版(文部科学省ホームページ)
文部科学省『中学校キャリア教育の手引き』教育出版 平成23年5月(文部科学省ホームページ)
文部科学省『小学校学習指導要領』東洋館出版社(平成30年2月)

授業・準備学習のアドバイス:

・自らの中高校生時代の生徒指導やキャリア教育の体験と講義で学んだ内容を比較検討してみる。
・自分が教師として対応する場合を想定し、具体的な対応策を考えてみる。
・基本的な理論や指導方法を再度確認し、知識の定着を図る。
・常に現在の教育上の諸課題に関心を持ち続ける。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 生徒・進路指導論

クラス: 免後(内規科目)

授業コード: BS06100002

担当者: 有山 篤利 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:京都教育委員会指導主事、京都府立高等学校生徒指導部長、聖泉大学進路指導委員長、兵庫教育大学キャリアセンター就職・キャリア支援部門長

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:道徳科、特別活動及び総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目(小学校)(中学校)(高等学校)【必修】

含めることが必要な事項: 生徒指導の理論及び指導方法
進路指導及びキャリア教育の理論及び具体的な指導方法

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 1. 生徒指導の定義と目的、生徒指導と各教科等及び教育課程との関連性を理解させる。
2. 生徒指導の構造を理解させる。
3. 児童生徒の権利の理解とチーム学校による生徒指導体制を理解させる。
4. 個別の課題に対する生徒指導の実践方法を理解させる。
5. キャリア教育の考え方と具体的な指導方法を理解させる。
6. 学校教育における地域等との連携の必要性を認識し、これからの生徒指導及びキャリア教育の在り方を考えさせる。

到達目標: (授業のテーマ)
社会の変化や格差が拡大する中、教育現場はさまざまな課題が山積している。特にいじめの重大事態や自殺者・不登校生・児童虐待などの増加や、多様な背景を持つ生徒への対応は教育現場にとって喫緊の課題となっている。これらの課題に対応し、子どもたち一人ひとりの自己実現を図っていくための生徒指導及びキャリア教育に関する基礎的な理論を理解する必要がある。そして自己指導能力を身に付けさせる具体的な指導方法を学ぶ過程において、教員になるための実践的な指導力を養っていく。
(到達目標)
1. 学校現場における生徒指導の構造(2軸3類4層)を理解し、基本的な進め方や各課題について、関連法規や基本方針、学校の組織体制と計画、未然防止・早期発見、関係機関との連携体制について理解する。
2. 上記1を理解した上で、自分なりの指導方法を考察する。
3. 学校現場におけるキャリア教育の理論及び具体的な指導方法について理解する。

各回の授業計画:

1. ○オリエンテーション
・本講義の内容、目標、評価の方法
・毎回の講義の進め方
・受講する上での注意点
・参考となるテキストについて
○生徒指導の定義と目的について
○生徒指導の実践上の視点について
○生徒指導の構造(2軸3類4層構造)について

2. ○生徒指導の方法及び基礎について
・生徒指導の方法(生徒理解、集団指導と個別指導、ガイダンスとカウンセリング、チームによる組織的対応)
・生徒指導の基礎(教職員集団の協働性、生徒指導マネジメント、家庭や地域との連携)
・生徒指導の取組上の留意点(生徒の権利の理解、ICTの活用、幼児教育との接続、社会的自立に向けた取組)

3. ○ 生徒指導と教育課程との関連性について
・学習指導要領「総則」と生徒指導の関連について
・生徒の発達を支える教育課程について
・教科指導と生徒指導の関連性について
・道徳科を要とした道徳教育における生徒指導的について

4. ○「総合的な学習の時間」及び「特別活動」における生徒指導
・総合的な学習(探究)の時間と生徒指導の関連性について
・特別活動における生徒指導の位置付けについて
・学級活動・HR活動と生徒指導の関連性について
・生徒会活動、クラブ活動(部活動)と生徒指導の関連性について
・学校行事と生徒指導の関連性について
・特別活動におけるキャリア教育との関連性について

5. ○チーム学校における生徒指導について1
・学校における生徒指導体制(生徒指導主事、教職員の研修、年間指導計画等)について
・教育相談体制(基本的な考え方、教育相談活動、教育相談の研修、年間計画)について
・生徒指導と教育相談が一体となったチーム支援について

6. ○チーム学校における生徒指導について2
・学校の危機管理体制(学校安全、安全教育等)について

・生徒指導に関する法制度等（校則、懲戒・体罰及び不適切な指導、出席停止措置）の運用体制について
・学校・家庭・関係機関との連携・協働について

7. ○個別の課題に対する生徒指導1（いじめの実態と対応）
・いじめの防止対策推進法等について
・いじめの防止等の対策のための組織と計画について
・いじめに関する生徒指導の重層的支援構造について
・関係機関等との連携体制について

8. ○個別の課題に対する生徒指導2（暴力行為の実態と対応）
・暴力行為に関する対応指針等について
・学校の組織体制と年間指導計画について
・暴力行為に関する生徒指導の重層的支援構造について
・関係機関等との連携体制について

9. ○個別の課題に対する生徒指導3（少年非行の実態と対応）
・少年法・児童福祉法等について
・少年非行への視点について
・少年非行への対応の基本について
・関係機関等との連携体制について
・喫煙、飲酒、薬物乱用の現状及び対応について

10. ○個別の課題に対する生徒指導4（児童虐待の実態と対応）
・児童福祉法・児童虐待の防止等に関する法律について
・学校の体罰防止について
・児童虐待生徒の発見について
・児童虐待の通告義務について
・関係機関等との連携体制について

11. ○生個別の課題に対する生徒指導5（自殺・中途退学・不登校の実態と対応）
＜自殺＞
・自殺対策基本法等について
・自殺防止のための学校の組織体制と指導計画について
・自殺予防に関する生徒指導の重層的支援構造及び関係機関等との連携について

＜中途退学＞→キャリア教育との関連性について
・中途退学の関連法規と基本方針及び中途退学の理解について
・中途退学の未然防止と関係機関との連携した指導について

＜不登校＞→キャリア教育との関連するとい視点について
・不登校に関する関連法規・基本方針及び学校の対応や組織体制と指導計画について
・自殺予防に関する生徒指導の重層的支援構造及び関係機関等との連携体制について

12. 個別の課題に対する生徒指導6（インターネット・携帯電話、性に関する課題、多様な背景を持つ生徒への生徒指導）
＜インターネット・携帯電話＞
・関連法規・基本方針等及び組織的取組について
・インターネットをめぐる課題に対する生徒指導の重層的支援構造及び関係機関等との連携体制について

＜性に関する課題＞
・性に関する法律・方針等及び学校における指導について
・性犯罪・性暴力に関する指導や重層的支援構造及び性的マイノリティに関する課題と対応について

＜多様な背景を持つ生徒への生徒指導＞
・発達障害や精神疾患に関する理解と対応について
・健康問題に関する理解と対応について
・支援を要する家庭状況について

13. ○進路指導とキャリア教育について
・進路指導とキャリア教育の違いについて
・キャリア教育が必要となってきた背景と課題について
・キャリア教育が目指すものについて
・「4領域8能力」育成から「基礎的・汎用的能力」育成への変更について
・勤労観、職業観の育成について
・職業教育とキャリア教育について

14. ○小中高等学校におけるキャリア教育の具体的な進め方について
・各校種におけるキャリア発達の違いと目標について
・中学校におけるキャリア教育の視点と実践例について
・高等学校におけるキャリア教育の視点と実践例について

15. ○これからのキャリア教育の進め方と確認テスト
・キャリア教育における家庭、地域、企業、職能団体等との連携の必要性について
・連携の具体的事例を、兵庫県の「トライやるウィーク」を例として理解させる
・これまでの学習を踏まえ、生徒指導・キャリア教育に関する基礎的な理解度を確認し、受講生一人ひとりが考える生徒指導やキャリア教育の具体的な展開例を記述する

特記事項： なし

授業方法:

1. 講義(対面)、体験発表
2. 講義(対面)
3. レポート内容の発表及び講義(対面)
4. 講義(対面)
5. 講義(対面)、レポート作成
6. レポート内容の発表及び講義(対面)
7. 講義(対面)、ビデオ視聴
8. 講義(対面)、体験発表
9. 講義(対面)、レポート作成
10. 講義(対面)、資料の読み取り
11. 講義(対面)、体験発表
12. 講義(対面)
13. 講義(対面)
14. 講義(対面)、ビデオ視聴
15. 講義(対面)、確認テスト

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 生徒指導の定義の復習(120分) 進路指導の意義の予習(60分)
2. 生徒指導の方法についての復習(120分) 理想の教師についてのレポート作成(60分)
3. 他の学生の発表内容をまとめる(90分) 教科・道徳指導の内容についての復習(90分)
4. 特別活動及び 総合的な学習の時間についての復習(120分)
5. 学校の指導体制についての復習(90分)、生徒理解の深化に関するレポートの作成(90分)
6. 生徒理解の深化に関するレポートの発表(60分)、学校の危機管理及び法制度の復習(120分)
7. いじめへの対応の復習(120分)及びビデオ視聴後の感想をまとめる(60分)
8. 暴力行為対応と年間指導計画ついての復習(120分)、中高校生時代の体験発表のための予習(60分)
9. 少年法・児童福祉法及び関係機関との連携に関する復習(120分)、いじめ対応のレポート作成(60分)
10. 児童虐待、通告義務、体罰防止等についての復習(120分)、不登校の実態を把握するための予習(60分)
11. 自殺・中途退学・不登校についての復習(120分)、インターネット等の使用課題についての予習(60分)
12. インターネット、性に関する課題、多様な背景を持つ生徒についての復習(180分)
13. 進路指導とキャリア教育についての復習(120分)、各自の中高校生時代のキャリア教育についての復習(60分)
14. 中高等学校におけるキャリア教育についての復習(120分)、生徒指導全般に関する留意点をまとめる(60分)
15. 生徒指導全般及びキャリア教育全般に関する留意点の復習(90分)、今後の生徒指導についてまとめる(60分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	10 **%**	**確認テスト:**	50 **%**	**レポート:**	40 **%**
その他1:			**%**		
その他2:			**%**		

評価基準:

○最低限の到達度(60～69点)
・生徒指導やキャリア教育に関する基本的な理論及び指導法について理解ができる。
・生徒指導やキャリア教育の基本的な考え方を理解し、自分なりの対応を考えることができる。
・さまざまな教育諸課題に関心をもつことができる。

○望ましい到達度(80～100点)
・生徒指導やキャリア教育に関する理論や指導法を十分に理解し、具体的に説明することができる。
・生徒指導やキャリア教育の基本的な考え方を十分に理解し、自分なりの具体的な対応を考えることができる。
・さまざまな教育諸課題に関心をもち、解決していこうとする意欲をもつことができる。

課題へのフィードバック:

・レポート作成後、基本的な記述内容を示し、自己の記述内容と比較することが出来るようにする。
・試験終了後、課題内容に関する補足説明を行い、講義全体の締めくくりとする。

教科書: なし

参考書:

文部科学省『中学校学習指導要領』東山書房(平成30年3月)
文部科学省『高等学校学習指導要領』東山書房(平成31年3月)
文部科学省『生徒指導提要』東洋館出版社 令和4年12月改訂版(文部科学省ホームページ)
文部科学省『中学校キャリア教育の手引き』教育出版 平成23年5月(文部科学省ホームページ)
文部科学省『小学校学習指導要領』東洋館出版社(平成30年2月)

授業・準備学習のアドバイス:

・自らの中高校生時代の生徒指導やキャリア教育の体験と講義で学んだ内容を比較検討してみる。
・自分が教師として対応する場合を想定し、具体的な対応策を考えてみる。
・基本的な理論や指導方法を再度確認し、知識の定着を図る。
・常に現在の教育上の諸課題に関心を持ち続ける。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育相談(中等)

クラス: 免(内規科目)

授業コード: BS06200001

担当者: 藤原 忠雄 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:高等学校及び養護学校(現特別支援学校)教諭<教育相談室長・特別支援教育コーディネーター等>, 県教育センター教育相談部指導主事
【関連資格】学校心理士SV・公認心理師 等

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目(中学校)(高等学校)【必修】

含めることが必要な事項: 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 本授業では, 学校教育相談の基盤となる概念規定を理解する。また, 支援の前提となる児童生徒理解に基づく個別及び集団への支援の実際, 学級経営の基礎となる子ども及び保護者との信頼関係構築について理解する。さらに, チーム学校構想に基づく支援会議の実際について理解を深める。加えて, 教職員のメンタルヘルスの重要性についても理解する。
本授業により, 教師としての必要な実践力(教師力)の向上を図る。

到達目標:
1. 学校教育相談の意義と理論を理解する。
具体的には, 学校教育相談の概念規定, 活動の全体像及び具体的活動について理解する。
2. 学校教育相談の基礎的知識(カウンセリングに関する基礎的事柄を含む)を理解する。
具体的には, 児童生徒理解の構造, カウンセリングの基本スキル, 心理教育について理解する。
3. 学校教育相談の具体的な進め方やそのポイント, 組織的な取り組みや連携の必要性を理解する。
具体的には, チーム学校構想, チーム支援の実際, 教育相談コーディネーターの役割と機能について理解する。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション, 教育相談とは(概念規定)
2. 子ども理解①:重要性と全体構造
3. 子ども理解②:一般的理解・客観的理解・共感的理解の実際
4. 個別支援①:カウンセリング基礎基本
5. 個別支援②:カウンセリング技法(積極的傾聴)
6. 心理教育①:リラックス上手
7. 心理教育②:受け止め上手
8. 心理教育③:表現上手
9. 子どもの居場所づくりと信頼関係構築
10. 保護者との信頼関係構築
11. チーム学校と教育相談コーディネーターの機能と役割
12. 支援会議の実際①
13. 支援会議の実際②
14. 教員の就労状況とメンタルヘルス
15. 総括討議, レポート

特記事項: なし

授業方法: 【対面】
全体を通して, アクティブ・ラーニングを展開する。
1. 講義・グループディスカッション
2. 講義・グループディスカッション
3. 講義・グループディスカッション
4. 講義・演習
5. 講義・演習
6. 講義・演習
7. 講義・演習
8. 講義・演習
9. 講義・グループディスカッション
10. 講義・グループディスカッション
11. 講義 ・グループディスカッション
12. 講義・演習

13. 講義・演習
14. 講義・グループディスカッション
15. 全体ディスカッション・総括

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

予習として，各回の内容に関する事前の情報収集が必要である（合計780分）。復習として，「授業アンケート」（体験の振り返り）及びそれに基づく関連内容の追加情報収集が必要である（合計1560分）。また，レポート課題の作成作業が必要である（合計360分）。なお，予習及び復習課題に関しては，毎回の授業終了時に提示する。

評価方法：

授業へのとりくみ：	40	**%**	**確認テスト：**	30	**%**	**レポート：**	30 **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準：

受講態度（40%），確認テスト「授業アンケート」（30%），レポート（30%）を総合的に評価する。
受講態度は，授業中の積極的・能動的・協働的な参加態度を評価する。
授業アンケート及びレポートは，授業内容に関して適切に理解ができているかについて評価する。

評価指標は，以下の通りである。
【最低限の到達（60～69点）】
1. 学校教育相談の意義と理論について説明できる。
2. 学校教育相談の基礎的知識について説明できる。
3. 学校教育相談の具体的な進め方やそのポイント，組織的な取り組みや連携の必要性について説明できる。
【望ましい到達度（80～100点）】
1. 学校教育相談の意義と理論を踏まえ，活動の全体像及び具体的活動を構想できる。
2. 学校教育相談の基礎的知識を基に，実際的な児童生徒理解，カウンセリング，心理教育を構想できる。
3. 学校教育相談の進め方のポイントとして，チーム支援，教育相談コーディネーターの役割と機能を具体的に構想できる。

課題へのフィードバック：

授業アンケートに関しては，次回の授業の中で感想や質問等を全体でシェアリングする。
レポートに関しては，必要に応じて授業外の場でフィードバックする。

教科書：

教科書は特に指定しない。必要に応じて、関連資料を配布する。

参考書：

大野精一・藤原忠雄（編著）「学校教育相談の理論と実践：学校教育相談の展開史，隣接領域の動向，実践を踏まえた将来展望」あいり出版 2018年
文部科学省『生徒指導提要（改定版）』2022年12月＜Web版＞https://www.mext.go.jp/content/20230220-mxt_jidou01-000024699-201-1.pdf
一般社団法人日本学校教育相談学会（企画）春日井敏之・梅川康治・栗原慎二・藤原忠雄（編著）「学校教育相談 理論と実践のガイドブック」ほんの森出版 2025年

授業・準備学習のアドバイス：

授業中の積極的・能動的・協働的な参加態度を大切にする。
授業アンケートへの取り組みを通して授業内容を整理するとともに，自身の気付きや考えの変容等を再認識することを大切にする。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育実習事前事後指導(中等)

クラス: 免(国)

授業コード: BS07100001

担当者: 小山 智久 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:
〔小山〕県立高等学校国語科教諭 兵庫県教育委員会教育企画課、県立教育研修所指導主事

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教育実践に関する科目(中学校)(高等学校)【必修】

含めることが必要な事項: 教育実習

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 中学校・高等学校の教育活動の場に実習生として臨むための基盤となる知識・技能・態度等を修得することをめざす。特に、教科指導や生徒指導に関する学びを通して、生徒理解と人間尊重の精神および教育者としての使命感を養い、実践的な指導力を修練することに努める。

到達目標: 事前指導では、教職について今まで学んだことを整理し、教育実習の意義・目的・内容・心得等を再確認するとともに、教師としての使命感を養う。
事後指導では、教育実習における各自の成果と課題を確認し、教職についての理解を深める。

各回の授業計画:

1. 教育実習に関する資料の配付と事務手続きについての説明を聞き、教育実習の心得・意義・目的・ 運営・内容、学校現場での指導及び実習記録等必要書類について理解を深める。
2. 学校に求められることを学び、学校組織や教員に求められる資質についての理解を深める。
3. 実際の教材を使って道徳教育における学習指導案の作成及び指導技術について具体的に学ぶ。
4. 生徒指導上の根本理念、指導上の留意点などを学び、生徒指導の現実的な在り方や指導方法を理解する。加えて教育実習等におけるハラスメント防止について理解する。
5. ビデオ教材等を使って、3週間にわたる教育実習の具体的な流れや指導の現実を学んだり、学習指導案の作成上の留意点を振り返ったりして、教育実習に対する自覚や意欲をさらに高める。(教科ごと)
6. 教科指導に当たっての指導技術および学習指導案の作成の仕方について、具体的な事例を通して学ぶ。(教科ごと)
7. 模擬授業を通して授業技術を学ぶ。(教科ごと)
レポートの提出
8. 教育実習後に、実習に基づく各自の成果と課題を確認し、教職についての理解を深める。

特記事項: 講義、模擬授業、ビデオ等により、教育実習を行うに当たっての心得や授業の仕方・生徒指導の在り方等について理解する。

授業方法: 全回【対面】。講義中心であるが、演習を組み込む。教科によって実技研修もある。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1-8:各時間の計画に沿って90分の予習と90分の復習が必要

評価方法:

授業へのとりくみ:	70 %	**確認テスト:**	− %	**レポート:**	30 %
その他1:			%		
その他2:			%		

評価基準: 60〜69:授業中の演習の記録がまとめられおり、教育実習の意義・目的・内容・心得等を理解している。
80〜100:①教員としての使命感を理解している。②教育実習における各自の成果と課題を確認し、教職についての理解を深めることができる。

課題へのフィードバック:

授業時に質問の時間を確保し対応する

教科書: 教育実習（中高）の記録（初回に配布）

参考書: 文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』
（国際文化学科）
文部科学省『中学校学習指導要領解説 国語編 』東洋館出版社（平成29年7月）
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 国語編』 東洋館出版社（平成30年7月）
（スポーツ教育学科）
文部科学省『中学校学習指導要領解説 保健体育編』東山書房（平成29年7月）
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編』東山書房（平成30年7月）

授業・準備学習のアドバイス:

授業の資料の配布や毎回の課題、協議の記録などの提出はTeamsで行うので、指示がない限り原則PC必携。
3週間の実習とはいえ、教員の立場として学校現場にいくことになる。今までの授業の振り返りとして、現場の状況を想定した学習内容になるので真剣に取り組む必要がある。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育実習事前事後指導(中等)

クラス: 免(ス)

授業コード: BS07100002

担当者: 松田 雅彦、有山 篤利 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:
〔松田〕公立高等学校教諭(保健体育)、国立大学法人附属中学校教諭(保健体育)、同高等学校教諭(保健体育)、主幹教諭、進路研究部長、生徒指導部長
〔有山〕公立高等学校教諭(保健体育)、同生徒指導部長、同保健部長、京都府教育委員会保健体育課指導主事

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教育実践に関する科目(中学校)(高等学校)【必修】

含めることが必要な事項: 教育実習

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 中学校・高等学校の教育活動の場に実習生として臨むための基盤となる知識・技能・態度等を修得することをめざす。特に、教科指導や生徒指導に関する学びを通して、生徒理解と人間尊重の精神および教育者としての使命感を養い、実践的な指導力を修練することに努める。

到達目標: 事前指導では、教職について今まで学んだことを整理し、教育実習の意義・目的・内容・心得等を再確認するとともに、教師としての使命感を養う。
事後指導では、教育実習における各自の成果と課題を確認し、教職についての理解を深める。

各回の授業計画:

1. 教育実習に関する資料の配付と事務手続きについての説明を聞き、教育実習の心得・意義・目的・ 運営・内容について理解を深める。【対面による】
2. 教員に求められるものを学び、教員に求められる資質についての理解を深める。【対面による】
3. 生徒指導上の根本理念、指導上の留意点などを学び、生徒指導の現実的な在り方や指導方法を理解する。【対面による】
4. 実際の教材を使って道徳教育における学習指導案の作成及び指導技術について具体的に学ぶ。【対面による】
5. ビデオ教材を使って、3週間にわたる教育実習の具体的な流れや指導の現実を学び、教育実習に対する自覚や意欲をさらに高める。【対面による】
6. 教科指導に当たっての指導技術および学習指導案の作成の仕方について、具体的な事例を通して学ぶ。【対面による】
7. 模擬授業を通して授業技術を学ぶ。【対面による】
8. 教育実習後に、実習に基づく各自の成果と課題を確認し、教職についての理解を深める。【対面による】

特記事項: 講義、模擬授業、ビデオ等により、教育実習を行うに当たっての心得や授業の仕方・生徒指導の在り方等について理解する。

授業方法: 講義中心であるが、教科によって実技研修もあり

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1-8:各時間の計画に沿って90分の予習と90分の復習が必要

評価方法:

授業へのとりくみ:	70 %	**確認テスト:**	− %	**レポート:**	30 %
その他1:			%		
その他2:			%		

評価基準: 60-69:教育実習の意義・目的・内容・心得等を理解している。
80-100:①教員としての使命感を理解している。②教育実習における各自の成果と課題を確認し、教職についての理解を深めることができる。

課題へのフィードバック:

授業時に質問の時間を確保し対応する

教科書: 教育実習（中高）の記録（初回に配布）
文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』
（国際文化学科）
文部科学省『中学校学習指導要領解説 国語編』（東洋館出版）
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 国語編』（平成30年3月告示）
（スポーツ教育学科）
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編』（平成30年3月告示）
文部科学省『中学校学習指導要領解説 保健体育編』（東山書房）

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

3週間の実習とはいえ、教員の立場として現場にいくことになる。今までの授業の振り返りとして、現場の状況を想定した学習内容になるので真剣に取り組む必要がある。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育実習Ⅰ(中等)

クラス: 免(国)

授業コード: BS07200001

担当者: 小山　智久　　**単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立高等学校国語科教諭 教育研修所指導主事

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教育実践に関する科目(中学校)(高等学校)【必修】

含めることが必要な事項: 教育実習

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 中学校・高等学校の教育現場に教育実習生として臨み、生徒との具体的な接触を通じて、教員になるために必要な知識・技能・態度などを修得するための基礎を学ぶ。特に、教科指導や生徒指導の具体的な実践を通して、生徒理解と人間尊重の精神および教育者としての使命感を養い、専門的な指導力を修練する。

到達目標: 教職について今までに学んだことを実地体験を通して習得するとともに、教師としての使命感を養う。

各回の授業計画:

1. 実習校の教育目標、学校・地域・生徒の実態および特色
2. 学校経営、学年経営、学級経営の実際
3. 実習校の教育課程と教科指導・教科外指導
4. 学校教育活動への参加と学習
5. 専門教科および専門外教科の授業参観
6. 専門教科の授業実践および研究授業(訪問指導)
7. 実習の反省とまとめ

特記事項: なし

授業方法: すべて【対面】
講義、VTR 、パワーポイントを使用した学習

予習・復習・宿題など(内容・時間):
各時間に2, 3年次に学習した内容の復習と予習を各90分

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	－ **%**	**レポート:**	20 **%**
その他1:	実習校からの評価		50 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 60-69:教員になるために必要な知識・技能・態度などを理解している。
80-100:①教員になるために必要な知識・技能・態度などを身につけている。②教科指導や生徒指導の具体的な実践を通して、生徒理解と人間尊重の精神および教育者としての使命感を理解している。③専門的な指導力を身につけために努力している

課題へのフィードバック:
授業時に対応

教科書: 教育実習(中高)の記録(初回に配布)

参考書: 文部科学省『中学校学習指導要領』東山書房（平成29年3月告示）
文部科学省『高等学校学習指導要領』東山書房（平成30年3月告示）
文部科学省『中学校学習指導要領解説 国語編 』東洋館出版社（平成29年7月）
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 国語編』 東洋館出版社（平成30年7月）

授業・準備学習のアドバイス:

実習生といえども、生徒にとっては、あくまでも自分たちの「先生」である。学校現場で直接指導に当たっていただく学級担任・教科担任の先生の指導のもと、「先生」という自覚をもって、責任感をもって真摯な態度で教育実習に臨まれることを強く希望する。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育実習Ⅰ(中等)

クラス: 免(ス)

授業コード: BS07200002

担当者: 松田 雅彦、有山 篤利 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:
〔松田〕公立高等学校教諭(保健体育)、国立大学法人附属中学校教諭(保健体育)、同高等学校教諭(保健体育)、主幹教諭、進路研究部長、生徒指導部長
〔有山〕公立高等学校教諭(保健体育)、同生徒指導部長、同保健部長、京都府教育委員会保健体育課指導主事

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教育実践に関する科目(中学校)(高等学校)【必修】

含めることが必要な事項: 教育実習

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 中学校・高等学校の教育現場に教育実習生として臨み、生徒との具体的な接触を通じて、教員になるために必要な知識・技能・態度などを修得するための基礎を学ぶ。特に、教科指導や生徒指導の具体的な実践を通して、生徒理解と人間尊重の精神および教育者としての使命感を養い、専門的な指導力を修練する。

到達目標: 教職について今までに学んだことを実地体験を通して習得するとともに、教師としての使命感を養う。【対面による】

各回の授業計画:

1. 実習校の教育目標、学校・地域・生徒の実態および特色【対面による】
2. 学校経営、学年経営、学級経営の実際【対面による】
3. 実習校の教育課程と教科指導・教科外指導【対面による】
4. 学校教育活動への参加と学習【対面による】
5. 専門教科および専門外教科の授業参観【対面による】
6. 専門教科の授業実践および研究授業(訪問指導)【対面による】
7. 実習の反省とまとめ【対面による】

特記事項: なし

授業方法: 講義、VTR 、パワーポイントを使用した学習

予習・復習・宿題など(内容・時間):

各時間に2, 3年次に学習した内容の復習と予習を各90分

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 %	**確認テスト:**	− %	**レポート:**	20 %
その他1:	実習校からの評価		50 %		
その他2:			%		

評価基準: 60−69:教員になるために必要な知識・技能・態度などを理解している。
80−100:①教員になるために必要な知識・技能・態度などを身につけている。②教科指導や生徒指導の具体的な実践を通して、生徒理解と人間尊重の精神および教育者としての使命感を理解している。③専門的な指導力を身につけために努力している

課題へのフィードバック:

授業時に対応する

教科書: 教育実習（中高）の記録（初回に配布）
文部科学省『高等学校学習指導要領』東山書房（平成31年3月）
文部科学省『中学校学習指導要領』東山書房

（スポーツ教育学科）
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編』（平成30年3月告示）
文部科学省『中学校学習指導要領解説 保健体育編』（東山書房）

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

実習生といえども、生徒にとっては、あくまでも自分たちの「先生」である。現場で直接指導に当たっていただく学級担任・教科担任の先生の指導のもと、「先生」という自覚をもって、真摯な態度で教育実習に臨まれることを強く希望する。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育実習Ⅱ(中等)

クラス: 免(国)

授業コード: BS07300001

担当者: 小山　智久　　**単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立高等学校国語科教諭 教育研修所指導主事

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教育実践に関する科目(中学校)(高等学校)【必修】

含めることが必要な事項: 教育実習

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 中学校・高等学校の教育現場に教育実習生として臨み、生徒との具体的な接触を通じて、教員になるために必要な知識・技能・態度などを修得するための基礎を学ぶ。特に、教科指導や生徒指導の具体的な実践を通して、生徒理解と人間尊重の精神および教育者としての使命感を養い、専門的な指導力を修練する。

到達目標: 教職について今までに学んだことを実地体験を通して習得するとともに、教師としての使命感を養う。

各回の授業計画:

1. 実習校の教育目標、学校・地域・生徒の実態および特色
2. 学校経営、学年経営、学級経営の実際
3. 実習校の教育課程と教科指導・教科外指導
4. 学校教育活動への参加と学習
5. 専門教科および専門外教科の授業参観
6. 専門教科の授業実践および研究授業(訪問指導)
7. 実習の反省とまとめ

特記事項: なし

授業方法: すべて【対面】
講義、VTR 、パワーポイントを使用した学習

予習・復習・宿題など(内容・時間):
各時間に2, 3年次に学習した内容の復習と予習を各90分

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	－ **%**	**レポート:**	20 **%**
その他1:	実習校からの評価		50 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 60-69:教員になるために必要な知識・技能・態度などを理解している。
80-100:①教員になるために必要な知識・技能・態度などを身につけている。②教科指導や生徒指導の具体的な実践を通して、生徒理解と人間尊重の精神および教育者としての使命感を理解している。③専門的な指導力を身につけために努力している

課題へのフィードバック:
授業時に対応

教科書: 教育実習(中高)の記録(初回に配布)

参考書: 文部科学省『中学校学習指導要領』東山書房（平成29年3月告示）
文部科学省『高等学校学習指導要領』東山書房（平成30年3月告示）
文部科学省『中学校学習指導要領解説 国語編 』東洋館出版社（平成29年7月）
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 国語編』 東洋館出版社（平成30年7月）

授業・準備学習のアドバイス:

実習生といえども、生徒にとっては、あくまでも自分たちの「先生」である。学校現場で直接指導に当たっていただく学級担任・教科担任の先生の指導のもと、「先生」という自覚をもって、責任感のある真摯な態度で教育実習に臨まれることを強く希望する。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育実習Ⅱ(中等)

クラス: 免(ス)

授業コード: BS07300002

担当者: 松田 雅彦、有山 篤利 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:
〔松田〕公立高等学校教諭(保健体育)、国立大学法人附属中学校教諭(保健体育)、同高等学校教諭(保健体育)、主幹教諭、進路研究部長、生徒指導部長
〔有山〕公立高等学校教諭(保健体育)、同生徒指導部長、同保健部長、京都府教育委員会保健体育課指導主事

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教育実践に関する科目(中学校)(高等学校)【必修】

含めることが必要な事項: 教育実習

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 中学校の教育現場に実習生として臨み、生徒との具体的な接触を通じて教員になるために必要な知識・技能・態度などを習得することをめざす。特に、教科指導や生徒指導の具体的な実践を通して、生徒理解と人間尊重の精神および教育者としての使命感を養い、専門的な指導力を修練する。

到達目標: 教職について今までに学んだことを実地体験を通して習得するとともに、教師としての使命感を養う。

各回の授業計画:

1. 実習校の教育目標、学校・地域・生徒の実態および特色【対面による】
2. 学校経営、学年経営、学級経営の実際【対面による】
3. 実習校の教育課程と教科指導・教科外指導【対面による】
4. 学校教育活動への参加と学習【対面による】
5. 専門教科および専門外教科の授業参観【対面による】
6. 専門教科の授業実践および研究授業(訪問指導)【対面による】
7. 実習の反省とまとめ【対面による】

特記事項: なし

授業方法: 講義、VTR、パワーポイントを使用する

予習・復習・宿題など(内容・時間):

各時間において、3年次までの学習内容から各90分の予習、復習が必要。

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 %	**確認テスト:**	− %	**レポート:**	20 %
その他1: 実習校からの評価			50 %		
その他2:			%		

評価基準: 60−69:教員になるために必要な知識・技能・態度などを理解している。
80−100:①教員になるために必要な知識・技能・態度などを身につけている。②教科指導や生徒指導の具体的な実践を通して、生徒理解と人間尊重の精神および教育者としての使命感を理解している。③専門的な指導力を身につけために努力している。

課題へのフィードバック:

授業時に対応

教科書: 教育実習（中高）の記録（初回に配布）
文部科学省『高等学校学習指導要領』東山書房（平成31年3月）
文部科学省『中学校学習指導要領』東山書房

（スポーツ教育学科）
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編』（平成30年3月告示）
文部科学省『中学校学習指導要領解説 保健体育編』（東山書房）

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

実習生といえども、生徒にとってはあくまでも自分たちの「先生」である。現場で直接指導に当たっていただく学級担任・教科担任の先生の指導のもと、真摯な態度で教育実習に臨まれることを強く希望する。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教職実践演習(中・高)

クラス: 免(国)

授業コード: BS08100001

担当者: 小山 智久 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:
〔小山〕県立高等学校教諭、兵庫県教育委員会事務局教育企画課指導主事、兵庫県立教育研修所義務教育研修課、高校教育研修課指導主事

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教育実践に関する科目(中学校)(高等学校)【必修】

含めることが必要な事項: 教職実践演習

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 教科に関する科目及び教職に関する科目の履修状況等をふまえ、当演習を通して教員として必要な知識・技能をさらに高め、教員としての高い資質技能を身につけさせる。

到達目標: (1)教育に対する使命感や責任感、教育的愛情を培うとともに、生徒や保護者と良好な人間関係を築ける社会性や対人関係構築能力を身につける。
(2)生徒の内面的理解に基づく指導に努め、人間的なふれあいを通して心の通い合う学級経営ができる資質能力を培う。
(3)教育現場での実習も取り入れながら、教科指導、生徒指導、学級経営など、教育におけるより実践的な指導力を培う。

各回の授業計画:

1. イントロダクション:教育実習や学校でのボランティア活動等を振り返ってグループ討議し、履修カルテをもとに各自がどのような力を向上させねばならないかを確認する。
2. 学校の組織や教員の役割・職務の内容等を講義し、グループ討議で教職の意義や教育に対する責任等について理解を深める。
3. 学校がかかえる諸課題について、ICT活用方法について学ぶ①
4. 保護者・地域との連携について学ぶ。(フリースクール等との連携)
5. 生徒指導に関する事例研究。
6. 特別支援教育について必要な知識・技能について理解を深める。
7. 学校現場の見学(フィールドワーク)
8. フィールドワークの振り返り
9. 生徒指導・保護者との連携について、ロールプレイによって基本を理解する。
10. ICT活用方法について学ぶ②
11. 学級経営について必要な知識・技能について理解を深める。
12. 教科ごとの模擬授業等
13. 教科ごとの模擬授業等の振り返り。実際の学校での授業の動画を視聴し合評するなど、自己研鑽の方法を学ぶ。
14. この授業を通して学んだことを履修カルテも利用しながら整理し、プレゼンテーションの準備を行う。
15. まとめ:グループによる、パワーポイントを用いたプレゼンテーションと講評

特記事項: 教職に必要な資質・能力の向上と教員になる上で自己の課題を明確にし、必要とされる知識や経験を様々な授業形態を通して、実践的指導力として身に付けていく。

授業方法: 全回【対面】講義及び演習中心。回によって外部講師による講義、教育現場へのフィールドワーク、DVD等の画像資料の視聴。演習、レポート。パワーポイントによるプレゼンテーション等。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎時間予習復習それぞれ90分必要

評価方法:

授業へのとりくみ:	50 %	**確認テスト:**	− %	**レポート:**	50 %
その他1:			%		
その他2:			%		

評価基準: 60-69:授業での演習の記録をまとめ提出するとともに、教育に対する使命感や責任感、教育的愛情について理解している。
80-100:①教育に対する使命感や責任感、教育的愛情についての能力を身につけている。②生徒や保護者と良好な人間関係を築ける社会性や対人関係構築能力を身につけための努力をしている。③生徒の内面的理解に基づく指導に努め、人間的なふれあいを通して心の通い合う学級経営ができる資質能力を身につけるための努力をしている。④教科指導、生徒指導、学級経営など、教育におけるより実践的な指導力を身につけるための努力をしている。

課題へのフィードバック:

授業時に対応する

教科書: なし

参考書: 『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』
（国際文化学科）
文部科学省『中学校学習指導要領解説 国語編 』東洋館出版社（平成29年7月）
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 国語編』 東洋館出版社（平成30年7月）
（スポーツ教育学科）
文部科学省『中学校学習指導要領解説 保健体育編』東山書房（平成29年7月）
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編』東山書房（平成30年7月）

授業・準備学習のアドバイス:

必ず出席し、積極的に教員となるための資質の向上に努める。
授業の資料や協議の記録等はTeamsにより配布・回収を行うため、指示のない限り原則PC必携。
授業への取り組みは、グループ討議・発表（グループでの発表を含む）などの取り組み、レポート等は課題提出物で評価する。
各種アンケートや学生の意見等の取りまとめもTeamsを活用し、結果等を各自にフィードバックする。
大学での学びを確認し、教員として着任したその日から活用できる知識や技能を身に付ける授業である。主体的・自主的な判断力を基盤とした実践的指導力を付けていく。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教職実践演習(中・高)

クラス: 免(ス)

授業コード: BS08100002

担当者: 有山 篤利、杉山 真人、松田 雅彦 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:
〔有山〕公立高等学校教諭(保健体育)、同生徒指導部長、同保健部長、京都府教育委員会保健体育課指導主事
〔松田〕公立高等学校教諭(保健体育)、国立大学法人附属中学校教諭(保健体育)、同高等学校教諭(保健体育)、主幹教諭、進路研究部長、生徒指導部長

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教育実践に関する科目(中学校)(高等学校)【必修】

含めることが必要な事項: 教職実践演習

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 教科に関する科目及び教職に関する科目の履修状況等をふまえ、当演習を通して教員として必要な知識・技能をさらに高め、教員としての高い資質技能を身につけさせる。

到達目標: (1)教育に対する使命感や責任感、教育的愛情を培うとともに、生徒や保護者と良好な人間関係を築ける社会性や対人関係構築能力を身につける。
(2)生徒の内面的理解に基づく指導に努め、人間的なふれあいを通して心の通い合う学級経営ができる資質能力を培う。
(3)教育現場での実習も取り入れながら、教科指導、生徒指導、学級経営など、教育におけるより実践的な指導力を培う。

各回の授業計画:

1. イントロダクション:教育実習や学校でのボランティア活動等を振り返ってグループ討議し、履修カルテをもとに各自がどのような力を向上させねばならないかを振り返る【対面による】
2. 学校の組織や教員の役割・職務の内容等を講義し、グループ討議で教職の意義や教育に対する責任等について理解を深める【対面による】
3. 学校がかかえる諸課題について、ICT活用方法について学ぶ①【対面による】
4. 保護者・地域との連携について学ぶ【対面による】
5. 生徒指導に関する事例研究【対面による】
6. 特別支援教育について必要な知識・技能について理解を深める【対面による】
7. 学校現場の見学(フィールドワーク)【対面による】
8. フィールドワークの振り返り【対面による】
9. 生徒指導・保護者との連携について、ロールプレイによって基本を理解する【対面による】
10. ICT活用方法について学ぶ②【対面による】
11. 学級経営について必要な知識・技能について理解を深める【対面による】
12. 教科ごとの模擬授業等【対面による】
13. 教科ごとの模擬授業振り返り。実際の、学校での授業の動画を視聴し合評するなど、自己研鑽の方法を学ぶ【対面による】
14. この授業を通して学んだことを履修カルテも利用しながら整理し、プレゼンテーションの準備を行う【対面による】
15. まとめ:グループによる、パワーポイントを用いたプレゼンテーションと講評【対面による】

特記事項: 教職に必要な資質・能力の向上と教員になる上で自己の課題を明確にし、必要とされる知識や経験を様々な授業形態を通して、実践的指導力として身に付けていく。

授業方法: 全回【対面】講義及び演習中心。
授業回によって外部講師による講義、教育現場へのフィールドワーク、DVD等の画像資料の視聴。演習、レポート。パワーポイントによるプレゼンテーション等。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎時間予習復習それぞれ各90分必要

評価方法:

授業へのとりくみ:	50 %	**確認テスト:**	− %	**レポート:**	50 %
その他1:			%		
その他2:			%		

評価基準: 60-69:教育に対する使命感や責任感、教育的愛情について理解している。
80-100:
①教育に対する使命感や責任感、教育的愛情についての能力を身につけている。

②生徒や保護者と良好な人間関係を築ける社会性や対人関係構築能力を身につけための努力をしている。
③生徒の内面的理解に基づく指導に努め、人間的なふれあいを通して心の通い合う学級経営ができる資質能力を身につけるための努力をしている。
④教科指導、生徒指導、学級経営など、教育におけるより実践的な指導力を身につけるための努力をしている。

課題へのフィードバック:

授業時に対応する

教科書: 文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』
（国際文化学科）
文部科学省『中学校学習指導要領解説 国語編 』東洋館出版社（平成29年7月）
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 国語編』 東洋館出版社（平成30年7月）
（スポーツ教育学科）
文部科学省『中学校学習指導要領解説 保健体育編』東山書房（平成29年7月）
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編』東山書房（平成30年7月）

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

必ず出席し、積極的に教員となるための資質の向上に努める。
授業への取り組みは、グループ討議・発表（グループでの発表を含む）などの取り組み、レポート等は課題提出物で評価する。
各種アンケートや学生の意見等の取りまとめに、Teamsを活用し、結果等を各自にフィードバックする。
大学での学びを確認し、教員として着任したその日から活用できる知識や技能を身に付ける授業である。主体的・自主的な判断力を基盤とした実践的指導力を付けていく。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 介護等の体験

クラス: 免

授業コード: BS09100001

担当者: 高畑 英樹、塚本 久義 **単位数:** －

科目に関連した実務経験: 実務経験有:
〔高畑〕公立養護学校教諭、公立小学校通級指導教室教諭
〔塚本〕公立養護学校教諭、県教委特別支援教育担当指導主事

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 小学校及び中学校教諭の普通免許状を取得しようとする者に、社会福祉施設 、特別支援学校（視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱）、特別支援学級で介護等の体験を行い、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深め、「人の心の痛みがわかる人づくり、各人の価値観の相違を認められる心をもった人づくりの実現」といった教員としての資質の向上を目的とする。

到達目標: 教師は、教科を教えることだけではなく、児童・生徒の発達・成長全てに関わる存在といえる。良き教師であるためには、社会的弱者への理解が欠かせない。実習先で出会った高齢者や障害児・者の方達から、人としての生き方、あり方、人間存在の深さを、正面から向かい合って学び、今後の教職生活の基礎とする。また、本人だけでなく、家族や支援者など周囲の人たちの思いを理解し、「共に生きる社会」について理解する。

各回の授業計画:

1. 体験希望者対象に、円滑に体験ができるよう、介護等体験の意義と心得などについての説明
2. 介護等体験申込書の提出と事務手続きの説明
3. 特別支援学校等教員による特別支援学校、特別支援学級の実態と「介護等体験」に当たっての心得の事前指導
4. 社会福祉施設等の職員による、社会福祉施設の実態と「介護等体験」に当たっての心得の事前指導
5. 体験先の違いにより2つに分かれて体験を行う①特別支援学校２日間と社会福祉施設５日間 計７日間の体験活動を行う
②特別支援学校２日間と小学校特別支援学級５日間 計７日間の体験活動を行う
6. 体験後の反省をまとめ、報告する

特記事項: なし

授業方法: 履修前年度より体験申込済の学生に対して、対面で講義やDVDによる具体的な事前指導を行う。
事前指導における講義等をもとに、各自の体験先で合計７日間の介護等体験を行う。

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

各自の介護等体験先の社会福祉施設、特別支援学校（視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱）、特別支援学級について事前に調べ、介護等の体験に望むこと。

評価方法:

授業へのとりくみ:	20 **%**	**確認テスト:**	－ **%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:	事前指導への取り組み		20 **%**		
その他2:	介護等体験への取り組み		60 **%**		

評価基準: 事前指導を受けて、学生は体験先に事前に連絡を入れている。
介護等の体験は7日間の体験を行うことで、合否にて評価する。

課題へのフィードバック:

介護等の体験は特別支援学校等や社会福祉施設で合計7日間の体験をすることで、介護等体験証明書が体験先から交付される。
介護等の体験は合否にて評価するため、課題へのフィードバックは行わないこととしている。

教科書: なし

参考書: 現代教師養成研究会編『 教師をめざす人の介護等体験ハンドブック 五訂版』大修館書店
全国特別支援学校長会編著『介護等体験ハンドブック 新フィリア 改訂版』ジアース教育新社
全国社会福祉協議会『第6版 よくわかる社会福祉施設－教員免許志願者のためのガイドブック』

授業・準備学習のアドバイス:

介護等体験を1日でも欠席すると、「体験終了証明書」を得ることが出来ないので、健康管理を万全にしておくこと。
介護等体験を通して、「個人の尊厳と社会連帯の理念に関する認識」を深めてほしい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 介護等の体験

クラス: (編入･科目等)教

授業コード: BS09100002

担当者: 高畑 英樹 **単位数:** －

科目に関連した実務経験: 実務経験有:
〔高畑〕公立養護学校教諭、公立小学校通級指導教室教諭

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 小学校及び中学校教諭の普通免許状を取得しようとする者に、社会福祉施設 、特別支援学校（視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱）、特別支援学級等で介護等の体験を行い、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深め、「人の心の痛みがわかる人づくり、各人の価値観の相違を認められる心をもった人づくりの実現」といった教員としての資質の向上を目的とする。

到達目標: 教師は、教科を教えることだけではなく、児童・生徒の発達・成長全てに関わる存在といえる。良き教師であるためには、社会的弱者への理解が欠かせない。実習先で出会った高齢者や障害児・者の方達から、人としての生き方、あり方、人間存在の深さを、正面から向かい合って学び、今後の教職生活の基礎とする。また、本人だけでなく、家族や支援者など周囲の人たちの思いを理解し、「共に生きる社会」について理解する。

各回の授業計画:

1. 体験希望者対象に、円滑に体験ができるよう、介護等体験の意義と心得などについての説明
2. 介護等体験申込書の提出と事務手続きの説明
3.特別支援学校等教員による特別支援学校、特別支援学級の実態と「介護等体験」に当たっての心得の事前指導
4. 社会福祉施設等の職員による、社会福祉施設の実態と「介護等体験」に当たっての心得の事前指導
5. 体験先の違いにより2つに分かれて体験を行う①特別支援学校２日間と社会福祉施設５日間 計７日間の体験活動を行う
②特別支援学校２日間と小学校特別支援学級５日間 計７日間の体験活動を行う
6. 体験後の反省をまとめ、報告する

特記事項: なし

授業方法: 体験申込済の学生に対して、対面で講義やDVDによる具体的な事前指導を行う。
事前指導における講義等をもとに、各自の体験先で合計７日間の介護等体験を行う。

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

各自の介護等体験先の社会福祉施設、特別支援学校（視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱）、特別支援学級について事前に調べ、介護等の体験に望むこと。

評価方法:

授業へのとりくみ:	20 **%**	**確認テスト:**	－ **%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:	事前指導への取り組み		20 **%**		
その他2:	介護等体験への取り組み		60 **%**		

評価基準: 事前指導を受けて、学生は体験先に事前に連絡を入れている。
介護等の体験は7日間の体験を行うことで、合否にて評価する。

課題へのフィードバック:

介護等の体験は特別支援学校等や社会福祉施設で合計７日間の体験をすることで、介護等体験証明書が体験先から交付される。

介護等の体験は合否にて評価するため、課題へのフィードバックは行わないこととしている。

教科書: なし

参考書: 現代教師養成研究会編『 教師をめざす人の介護等体験ハンドブック 五訂版』大修館書店
全国特別支援学校長会編著『介護等体験ハンドブック 新フィリア 改訂版』ジアース教育新社
全国社会福祉協議会『第6版 よくわかる社会福祉施設－教員免許志願者のためのガイドブック』

授業・準備学習のアドバイス:

介護等体験を1日でも欠席すると、「体験終了証明書」を得ることが出来ないので、健康管理を万全にしておくこと。
介護等体験を通して、「個人の尊厳と社会連帯の理念に関する認識」を深めてほしい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 生涯学習概論

クラス: 司

授業コード: BS10110001

担当者: 丸尾 恵子 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立図書館司書

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 広く教育に関する法律や自治体行財政・施策、学校教育・家庭教育とも関連づけながら、生涯学習や社会教育の意義及び本質を理論的・実践的に理解する。また、各種社会教育施設の概要や機能、そこで専門的職員が果たす役割について学ぶとともに、個々人の自己実現に向けた学習活動を支援する基本的枠組みや技術等に関しても解説する。

到達目標: 1. 生涯学習の根源的な意味や意義を理解するとともに、その目的および今日の日本における生涯学習体系確立の背景・歴史について多面的・多角的に考察する。
2. 生涯学習政策の事例・課題などを考察しながら、生涯学習と図書館との関係について理解を深める。

各回の授業計画:

1. ガイダンス 生涯学習と図書館
2. 生涯学習の意義
3. 生涯学習と社会教育・家庭教育・学校教育
4. 生涯学習推進に関わる法令・行政・施策
5. 社会教育の意義と特質
6. 社会教育の内容・方法・形態
7. 社会教育関係の指導者
8. 生涯学習活動とボランティア
9. 生涯学習・社会教育施設 (1)公民館・図書館・博物館
10. 生涯学習・社会教育施設(2)スポーツ施設・その他の施設
11. 学習成果の活用支援
12. 学習情報提供と学習相談
13. 生涯学習と連携(1)
14. 生涯学習と連携(2)
15. これからの生涯学習・確認テスト

特記事項: なし

授業方法: 授業はすべて対面で実施する。
1. 講義
2. 講義
3. 講義
4. 講義
5. 講義
6. 講義
7. 講義
8. 講義
9. 講義
10. 講義
11. 講義
12. 講義
13. 講義
14. 講義
15. 講義・確認テスト

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 生涯学習と図書館について予習・復習(120分)
2. 生涯学習の意義について予習・復習(180分)

3. 生涯学習と社会教育・家庭教育・学校教育について予習・復習（180分）
4. 生涯学習推進に関わる法令・行政・施策について予習・復習（180分）
5. 社会教育の意義と特質について予習・復習（180分）
6. 社会教育の内容・方法・形態について予習・復習（180分）
7. 社会教育関係の指導者について予習・復習（180分）
8. 生涯学習活動とボランティアについて予習・復習（120分）
9. 生涯学習・社会教育施設(1)公民館・図書館・博物館について予習・復習（180分）
10. 生涯学習・社会教育施設 (2)スポーツ施設・その他の施設について予習・復習（120分）
11. 学習成果の活用支援について予習・復習（180分）
12. 学習情報提供と学習相談について予習・復習（180分）
13. 生涯学習と連携について予習・復習（180分）
14. 確認テストに向けた予習・復習（180分）
15. 確認テストに向けた予習・復習（360分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	30	**%**	**確認テスト：**	70	**%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準：

・授業への取り組み
授業態度、提出課題等、総合的に評価する。
・確認テスト
確認テストによって評価する。

【最低限の到達度（60～69点）】
生涯学習の基礎的事項を理解し、自分の意見を述べることができる。
【望ましい到達度（80～100点）】
生涯学習の意義を充分に理解し、的確な分析・考察ができる。

課題へのフィードバック：

課題等については、授業内でフィードバックを行う。

教科書：

なし 講義資料を用意する

参考書：

・浅井経子『生涯学習概論―生涯学習社会の展望 』新版（理想社）2019年
ISBN 978-4-650-01012-1
・鈴木眞理、馬場裕次朗、薬袋秀樹編著『生涯学習概論』（樹村房）2019年
ISBN 978-4-88367-230-1
・香川正弘、鈴木眞理、永井健夫編『よくわかる生涯学習』改訂版（ミネルヴァ書房）2020年
ISBN 978-4-623-07631-4
・その他：適宜、授業中に紹介する。

授業・準備学習のアドバイス：

・生涯学習の情報拠点である図書館の役割を踏まえて、今後の生涯学習のあり方について考察してみてください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 図書館概論

クラス: 司

授業コード: BS10200001

担当者: 塚本 美智子 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:学校図書館司書教諭

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 図書館および司書についての基礎を学び、司書課程の科目を学習するための基礎力をつける。
図書館の社会的意義をふまえた上で図書館に関わる現状を理解し、今後の課題と展望の基本を学ぶ。

到達目標: 図書館の機能や社会における意義や役割、利用者ニーズに応えるためのサービスの展開、図書館の歴史、図書館の種類や連携、類縁機関との関わり、図書館職員の役割と資格、読書活動の推進の必要性、現状における課題とこれから先への展望など、図書館に関する基本的なことについて理解する。

各回の授業計画:

1. 図書館概論で学ぶことのオリエンテーリング及び「図書館とは」を考える 世界で一番古い図書館 知識創発型社会と図書館 図書館の3要素
2. 図書館の機能と社会的役割、意義① 図書館の活用事例
3. 図書館の機能と社会的役割、意義② 図書館の機能と効果 QULと図書館 SDGSと図書館 社会的な意義のまとめ
4. 知的自由と図書館① 基本的人権と図書館の自由 アメリでの例
5. 知的自由と図書館② 「図書館の自由に関する宣言」と図書館でのサービス
6. 図書館の歴史① 世界の図書館 文明と図書館 知的世界の中心 公立図書館の3原則
7. 図書館の歴史② 日本の歴史と図書館に関わる施設・機能をはたした制度 「図書館法」以前
8. 公立図書館の成立 公立図書館の成立とは 日本図書館協会 世界における移動図書館 公立図書館に関わる法律
9. 読書と図書館 読書の重要性と効果、図書館の機能と読書の推進、「子どもの読書活動の推進に関する法律」「文字・活字文化振興法」
10. 図書館の種類と利用者 図書館の種類と設置の責任及び利用者 国立国会図書館、大学図書館、専門図書館などの例学校図書館の設置とその役割、「学校図書館法」 専門図書館の例
図書館間協力(ネットワーク) 図書館間の協力 横断検索の意義
11. 図書館職員の役割と資格 司書とは何か 司書の仕事 「図書館員の倫理綱領」「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」
12. 図書館の現状① 図書館を取り巻く現状 高度情報通信ネットワーク社会 電子図書館
13. 図書館の現状② 少子高齢化、地方分権、障害者差別の撤廃、教育など社会の変化と図書館 図書館調査のデータを基にした現状における課題
14. 図書館の将来 図書館の評価(図書館パフォーマンス指標とは) 日本の公共図書館の将来 課題解決型サービスなどのサービスをふまえた図書館とは 図書館からの情報発信 MLA連携
テストについての説明
15. まとめとテスト 授業のふり返り 評価テスト

特記事項: なし

授業方法: すべて対面授業で行う
1. 講義、課題レポート 自己紹介と学びの目標発表
2. 講義、課題レポート 第1回の課題で取り上げた図書館についての発表
3. 講義、課題レポート 課題のレポートの発表(複合施設)
4. 講義、課題レポート 課題のレポートを基にしての意見交換①
5. 講義、小テスト(用語・宣言等の内容)課題のレポートの発表(「図書館の自由に関する宣言」)
6. 講義、課題レポート 課題のレポートを基にしての意見交換②
7. 講義、課題レポート 課題のレポートの発表(今後「知的世界の中心」は)
8. 講義、課題レポート 課題のレポートの発表(移動図書館調査)
9. 講義、課題レポート 考察をまとめる
10. 講義、小テスト(重要ポイントの理解)
11. 講義、アンケート回答 課題のレポートを基にしての意見交換③、
12. 講義、課題レポート 課題のレポートの発表(読書体験)
13. 講義、課題レポート 課題レポート(電子図書館)の発表
14. 講義、評価テスト準備 今までの講義内容から図書館の将来像を考え、その根拠を確認する

15. 講義のまとめと評価テスト

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

・図書館司書の資格の取得に関わる授業であることを踏まえ、講義の時間だけでなく自分で時間を設定し課題意識を持って 課題に取り組むこと。
・講義に先立って教科書を読んで言葉の理解をしておくこと。また、授業内容に提示した法律や宣言については教科書巻末の資料などを読んでおくと良い。
・毎回の説明事項が多いので、しっかり復習（120分／回）しておくこと。この復習を兼ねての課題になる。
・授業ごとに講義内容に対する理解を評価する課題を出し、次回授業の最初に、前時の課題の解説・講評を行う。
・図書館の有り様への意識を持つために、普段から公共図書館や大学図書館を利用（60分／回程度）し、図書館についての理解を深め、顕著な特徴や改善点などを考えておくこと。
・図書館の第一義である読書活動を理解するためにも、積極的に読書をする、また、実際に貸出やレファレンスなどの体験を積極的にすることなどが望ましい。
・図書館に関わる情報を取得するために、図書館に設置してある利用者向けの情報パンフレットや、ホームページ上の情報などを収集しておくこと。また、実際に貸出やレファレンスなどの体験を積極的にすることなどが望ましい。
・課題レポートで実際に図書館を調査・考察する。
・図書館は社会の情勢や気候、暮らしの暦などと密な関係にある。そのため、普段から意識してニュースや新聞などをチェックしておくこと。

評価方法：

授業へのとりくみ：	20 **%**	**確認テスト：**	40 **%**	**レポート：**	40 **%**
その他1：			**%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

1. 授業参加態度（20%）
2. レポート・小テスト（40%）
3. 期末試験（40%）
・1～3項目を合算して総合評価する

授業参加態度は、「発表」、「メモを取る」、教科書の音読、意見交換の場で協力的態度で主体的に参加している、教科書を確認しているなど、意欲的に受講できているかどうかで評価する。また、出席率もここに含まれる。
課題レポートでは、講義内容のまとめと共にアクティブラーニングとして自分の考えをどのようにまとめているかで評価する。

最低限の到達度（60～69点）の基準：必要な用語に関して説明でき、図書館に関して理解したことを分かりやすくまとめることができる。図書館利用体験や調査をおこない具体的にまとめることができる。
標準の到達度（70～79点）到達目標を理解できている。図書館利用や読書、調査活動を目的に沿って行え自分の考えを添えて課題をまとめられている。
望ましい到達度（80～100点）の基準：上記に加え、学んだ内容に対して自分の意見を持ち、根拠を挙げて検討・評価することができる。意欲的に図書館利用や調査、読書活動ができそれらを図書館の意義と繋げて考察できる。

課題へのフィードバック：

・授業時に出された質問に対しては、質問時に全体に向けて回答・説明する。個別に出された質問に対しては質問者に回答・説明する。
・レポート課題は講義の中で指示する。課題に対する質問は授業後やチャットで受け付け、必要な事柄を回答する。
・提出されたレポートの内容については次時の講義の中で全体にシェアしたり解説したりする。提出された個々のレポートに対しては評価をコメントして返却する。

教科書： 大串 夏身・常世田 良 著『第4版 図書館概論』（ライブラリー図書館情報学2） 学文社 2020.04.15

参考書： 塩見 昇 著『図書館概論 五訂版』（JLA図書館情報学テキストシリーズⅢ）日本図書館協会, 2018年 ISBN978-4-8204-1813-9
高山 正也・岸田和明 編著『図書館概論』（現代図書館情報学シリーズ1）樹書房、2020.10.08 ISBN978-4-88367-271-4

授業・準備学習のアドバイス：

・図書館の持つ意義を自分の経験からも取得できるように、図書館に足を運ぶことを意識する。
・図書館のホームページで調べることが多くあるので、様々な図書館の特徴に関心を持っておく。
・図書館に関わる本はもちろん、話題になった本や受賞した本の閲覧、映画などの視聴を勧める。
・文化総合施設、商業総合施設と併設されている図書館に足を運んで、その使い勝手を体験してみる。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 図書館概論

クラス: 司

授業コード: BS10200002

担当者: 塚本 美智子 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:学校図書館司書教諭

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 図書館および司書についての基礎を学び、司書課程の科目を学習するための基礎力をつける。
図書館の社会的意義をふまえた上で図書館に関わる現状を理解し、今後の課題と展望の基本を学ぶ。

到達目標: 図書館の機能や社会における意義や役割、利用者ニーズに応えるためのサービスの展開、図書館の歴史、図書館の種類や連携、類縁機関との関わり、図書館職員の役割と資格、読書活動の推進の必要性、現状における課題とこれから先への展望など、図書館に関する基本的なことについて理解する。

各回の授業計画:

1. 図書館概論で学ぶことのオリエンテーリング及び「図書館とは」を考える 世界で一番古い図書館 知識創発型社会と図書館 図書館の3要素
2. 図書館の機能と社会的役割、意義① 図書館の活用事例
3. 図書館の機能と社会的役割、意義② 図書館の機能と効果 QOLと図書館 SDGSと図書館 社会的な意義のまとめ
4. 知的自由と図書館① 基本的人権と図書館の自由 アメリでの例
5. 知的自由と図書館② 「図書館の自由に関する宣言」と図書館でのサービス
6. 図書館の歴史① 世界の図書館 文明と図書館 知的世界の中心 公立図書館の3原則
7. 図書館の歴史② 日本の歴史と図書館に関わる施設・機能をはたした制度 「図書館法」以前
8. 公立図書館の成立 公立図書館の成立とは 日本図書館協会 世界における移動図書館 公立図書館に関わる法律
9. 読書と図書館 読書の重要性と効果、図書館の機能と読書の推進、「子どもの読書活動の推進に関する法律」「文字・活字文化振興法」
10. 図書館の種類と利用者 図書館の種類と設置の責任及び利用者 国立国会図書館、大学図書館、専門図書館などの例学校図書館の設置とその役割、「学校図書館法」 専門図書館の例
図書館間協力(ネットワーク) 図書館間の協力 横断検索の意義
11. 図書館職員の役割と資格 司書とは何か 司書の仕事 「図書館員の倫理綱領」「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」
12. 図書館の現状① 図書館を取り巻く現状 高度情報通信ネットワーク社会 電子図書館
13. 図書館の現状② 少子高齢化、地方分権、障害者差別の撤廃、教育など社会の変化と図書館 図書館調査のデータを基にした現状における課題
14. 図書館の将来 図書館の評価(図書館パフォーマンス指標とは) 日本の公共図書館の将来 課題解決型サービスなどのサービスをふまえた図書館とは 図書館からの情報発信 MLA連携
テストについての説明
15. まとめとテスト 授業のふり返り 評価テスト

特記事項: なし

授業方法: すべて対面授業で行う
1. 講義、課題レポート 自己紹介と学びの目標発表
2. 講義、課題レポート 第1回の課題で取り上げた図書館についての発表
3. 講義、課題レポート 課題のレポートの発表(複合施設)
4. 講義、課題レポート 課題のレポートを基にしての意見交換①
5. 講義、小テスト(用語・宣言等の内容) 課題のレポートの発表(「図書館の自由に関する宣言」)
6. 講義、課題レポート 課題のレポートを基にしての意見交換②
7. 講義、課題レポート 課題のレポートの発表(今後「知的世界の中心」は)
8. 講義、課題レポート 課題のレポートの発表(移動図書館調査)
9. 講義、課題レポート 考察をまとめる
10. 講義、小テスト(重要ポイントの理解)
11. 講義、アンケート回答 課題のレポートを基にしての意見交換③、
12. 講義、課題レポート 課題のレポートの発表(読書体験)
13. 講義、課題レポート 課題レポート(電子図書館)の発表
14. 講義、評価テスト準備 今までの講義内容から図書館の将来像を考え、その根拠を確認する

15. 講義のまとめと評価テスト

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

・図書館司書の資格の取得に関わる授業であることを踏まえ、講義の時間だけでなく自分で時間を設定し課題意識を持って 課題に取り組むこと。
・講義に先立って教科書を読んで言葉の理解をしておくこと。また、授業内容に提示した法律や宣言については教科書巻末の資料などを読んでおくと良い。
・毎回の説明事項が多いので、しっかり復習（120分／回）しておくこと。この復習を兼ねての課題になる。
・授業ごとに講義内容に対する理解を評価する課題を出し、次回授業の最初に、前時の課題の解説・講評を行う。
・図書館の有り様への意識を持つために、普段から公共図書館や大学図書館を利用（60分／回程度）し、図書館についての理解を深め、顕著な特徴や改善点などを考えておくこと。
・図書館の第一義である読書活動を理解するためにも、積極的に読書をする、また、実際に貸出やレファレンスなどの体験を積極的にすることなどが望ましい。
・図書館に関わる情報を取得するために、図書館に設置してある利用者向けの情報パンフレットや、ホームページ上の情報などを収集しておくこと。また、実際に貸出やレファレンスなどの体験を積極的にすることなどが望ましい。
・課題レポートで実際に図書館を調査・考察する。
・図書館は社会の情勢や気候、暮らしの暦などと密な関係にある。そのため、普段から意識してニュースや新聞などをチェックしておくこと。

評価方法：

授業へのとりくみ：	20 **%**	**確認テスト：**	40 **%**	**レポート：**	40 **%**
その他1：			**%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

1. 授業参加態度（20%）
2. レポート・小テスト（40%）
3. 期末試験（40%）
・1～3項目を合算して総合評価する

授業参加態度は、「発表」、「メモを取る」、教科書の音読、意見交換の場で協力的態度で主体的に参加している、教科書を確認しているなど、意欲的に受講できているかどうかで評価する。また、出席率もここに含まれる。
課題レポートでは、講義内容のまとめと共にアクティブラーニングとして自分の考えをどのようにまとめているかで評価する。

最低限の到達度（60～69点）の基準：必要な用語に関して説明でき、図書館に関して理解したことを分かりやすくまとめることができる。図書館利用体験や調査をおこない具体的にまとめることができる。
標準の到達度（70～79点）到達目標を理解できている。図書館利用や読書、調査活動を目的に沿って行え自分の考えを添えて課題をまとめられている。
望ましい到達度（80～100点）の基準：上記に加え、学んだ内容に対して自分の意見を持ち、根拠を挙げて検討・評価することができる。意欲的に図書館利用や調査、読書活動ができそれらを図書館の意義と繋げて考察できる。

課題へのフィードバック：

・授業時に出された質問に対しては、質問時に全体に向けて回答・説明する。個別に出された質問に対しては質問者に回答・説明する。
・レポート課題は講義の中で指示する。課題に対する質問は授業後やチャットで受け付け、必要な事柄を回答する。
・提出されたレポートの内容については次時の講義の中で全体にシェアしたり解説したりする。提出された個々のレポートに対しては評価をコメントして返却する。

教科書： 大串 夏身・常世田 良 著『第4版 図書館概論』（ライブラリー図書館情報学2） 学文社 2020. 04. 15

参考書： 塩見 昇 著『図書館概論 五訂版』（JLA図書館情報学テキストシリーズⅢ）日本図書館協会, 2018年 ISBN978-4-8204-1813-9
高山 正也・岸田和明 編著『図書館概論』（現代図書館情報学シリーズ1）樹書房、2020. 10. 08 ISBN978-4-88367-271-4

授業・準備学習のアドバイス：

・図書館の持つ意義を自分の経験からも取得できるように、図書館に足を運ぶことを意識する。
・図書館のホームページで調べることが多くあるので、様々な図書館の特徴に関心を持っておく。
・図書館に関わる本はもちろん、話題になった本や受賞した本の閲覧、映画などの視聴を勧める。
・文化総合施設、商業総合施設と併設されている図書館に足を運んで、その使い勝手を体験してみる。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 図書館情報技術論

クラス: ★司

授業コード: BS10250001

担当者: 高橋 一夫 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 情報化社会において図書館におけるサービスも非常に大きく変容してきている。そのため、本授業の大きな目的は、図書館司書として必要不可欠な図書館業務に関わる基礎的な情報技術を学習することにある。

到達目標:
1. 図書館業務に必要な基礎的な情報技術について理解できるようになる。
2. 基礎的な情報技術を、図書館業務において活用できるようになる。
3. 情報技術を活用するうえでのリスクを理解し、図書館業務をマネジメントできる姿勢を持つことができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション／情報技術と図書館（オンライン＜オンデマンド＞）
2. 図書館における情報技術－コンピュータの仕組み（オンライン＜オンデマンド＞）
3. 図書館における情報技術－ソフトウェア（オンライン＜オンデマンド＞）
4. 文字コードとコンピュータネットワーク（オンライン＜オンデマンド＞）
5. インターネットを利用した情報発信（オンライン＜オンデマンド＞）
6. 情報機器の選定能力（オンライン＜オンデマンド＞）
7. 図書館の情報システムの安全性と信頼性（オンライン＜オンデマンド＞）
8. 電子文書・電子書籍（オンライン＜オンデマンド＞）
9. 図書館における情報技術の確認（対面）
10. 図書館システム（オンライン＜オンデマンド＞）
11. メタデータ（オンライン＜オンデマンド＞）
12. ネットワーク情報資源（オンライン＜オンデマンド＞）
13. デジタルアーカイブ（オンライン＜オンデマンド＞）
14. 未来の図書館像を探る（オンライン＜オンデマンド＞）
15. 未来の図書館の役割を考える（オンライン＜オンデマンド＞）

特記事項: なし

授業方法:
1. 講義（オンライン＜オンデマンド＞授業）
2. 講義、演習（オンライン＜オンデマンド＞授業）
3. 講義、演習（オンライン＜オンデマンド＞授業）
4. 講義、演習（オンライン＜オンデマンド＞授業）
5. 講義、演習（オンライン＜オンデマンド＞授業）
6. 講義、演習（オンライン＜オンデマンド＞授業）
7. 講義、演習（オンライン＜オンデマンド＞授業）
8. 講義、演習（オンライン＜オンデマンド＞授業）
9. 講義、グループワーク、演習（対面授業）
10. 講義、演習（オンライン＜オンデマンド＞授業）
11. 講義、演習（オンライン＜オンデマンド＞授業）
12. 講義、演習（オンライン＜オンデマンド＞授業）
13. 講義、演習（オンライン＜オンデマンド＞授業）
14. 講義、演習（オンライン＜オンデマンド＞授業）
15. 講義、演習（オンライン＜オンデマンド＞授業）

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 情報技術と図書館についての復習（180分）
2. 図書館における情報技術について、コンピュータの仕組みの予習（120分）、本時の復習（60分）
3. 図書館における情報技術について、ソフトウェアの予習（120分）、本時の復習(60分）
4. 文字コードとコンピュータネットワークについての予習（120分）、本日の復習（60分）

5. インターネットを利用した情報発信についての予習（120分）6本日の復習（60分）
6. 情報機器の選定能力についての予習（120分）、本時の復習（60分）
7. 図書館の情報システムの安全性と信頼性についての予習（120分）、本時の復習（60分）
8. 電子文書・電子書籍についての予習（120分）、本時の復習（60分）
9. 図書館における情報技術の確認についての復習（180分）
10. 図書館システムについての予習（120分）、本時の復習（60分）
11. メタデータについての予習（120分）、本時の復習（60分）
12. ネットワーク情報資源についての予習（120分）、本時の復習（60分）
13. デジタルアーカイブについての復習（180分）
14. 未来の図書館像についての予習（120分）、本時の復習（60分）
15. 未来の図書館の役割についての確認と復習（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	− **%**	**レポート：**	70 **%**
その他1：			**%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

図書館における様々な情報技術について理解する。（60～69点）
インターネットを利用した情報発信について理解する。（60～69点）
電子書籍や電子出版について、その内容と仕組みを知る。（60～69点）
図書館の情報システムについて深く理解し、未来の図書館像について探ることができる。（80～100点）

課題へのフィードバック：

提出されたレポート課題について、確認しコメント記入後に返却する。

教科書： なし

参考書： 『図書館情報技術論』樹村房、杉本重雄 編、2014。

授業・準備学習のアドバイス：

・授業内容や課題の説明については、Teamsにて指示する。必ずTemasの指示を確認すること。
・課題内容を正しく理解し、定められた期限内に提出することが重要。
・課題についてAIで生成したものをそのまま利用する、自身の考えが提示されていない、課題内容と関係のない記述、などの場合は評価をしない。
・第9回の対面授業ではノートPCを必ず持参すること。スマホやタブレットでの対応は認めない。また、欠席について、大学が認めている以外の理由では一切の考慮をしない。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 図書館制度・経営論

クラス: 司

授業コード: BS10310001

担当者: 今村 太朗 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:図書館勤務

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: この授業は、日本における図書館司書資格取得のための科目の一つであり、図書館運営のためになぜ法律や経営の知識が必要なのかを理解するためのものである。まず、授業のはじめに図書館を運営するためには、どのような法律や制度が必要なのかを確認する。具体的には、図書館法や図書館関連法規、国や地方公共団体の図書館施策等を理解することにより、図書館の制度について学ぶ。次に図書館経営を人的資源、財務・予算や施設・建物等(人材、物品、予算、施設)の切り口から明らかにする。さらに、図書館の評価指標をはじめとする図書館の経営戦略計画の策定など、日々変化し続ける様々な図書館の事例について学ぶ。

到達目標: 公立図書館の設置基盤である図書館法や関連する法律、国の図書館施策、地方公共団体行政との関わりを理解するとともに、図書館経営についての様々な問題を提起する授業を志向する。現代の図書館経営環境は刻々と変化している。例えば、地方公共団体の行財政改革、本と情報をめぐる環境の変化、インターネットの利用増大や利用者ニーズの多様化によって、図書館サービスと利用者ニーズの間に大きなミスマッチが生じている。図書館の現場が、これから何をどのように改善できるのかを日本および欧米の図書館の事例をもとに考える。

各回の授業計画:

1. 図書館制度・経営論の考え方、「IFLA-UNESCO公共図書館宣言」、「図書館の権利宣言」、図書館に関連する基本的な法律(「日本国憲法」「教育基本法」「社会教育法」等)について説明する。
2. 図書館は何をするところなのか、「図書館法」の解釈と問題点(その1)を説明する。
3. 「図書館法」の解釈と問題点(その2)を説明する。
4. 「学校図書館法」「国立国会図書館法」「大学設置基準」や地方自治体の図書館設置条例を説明する。
5. 「子どもの読書活動の推進に関する法律」「文字・活字文化振興法」「著作権法」を説明する。
6. 経営資源、経営サイクル、非営利組織のマーケティング、図書館の経営戦略を説明する。
7. 図書館組織の人的資源、司書職の専門性、民間委託・アウトソーシングの問題点を説明する。
8. 図書館のブランド構築、図書館運営の中枢としての図書館長の仕事とリーダーシップの重要性、物品調達について説明する。
9. 図書館の財務、図書館の危機管理の重要性を説明する。
10. 図書館の建物と建築計画、様々な施設・設備、図書館の経営評価について説明する。
11. 公立図書館の役割変化に応じたブランド再構築、地域とつながる公立図書館、インターネットと図書館について説明する。
12. ニューヨーク公共図書館の事例をもとに、コミュニティ基盤としての公立図書館について説明する。
13. 私設図書館の広がり、「まちライブラリー」、住民と協働する図書館の事例について説明する。
14. 公共施設の再編と図書館、公立図書館の改修・建て替えの事例について説明する。
15. 情報発信する図書館について事例をもとに説明する。学習到達度確認テストを実施する。

特記事項: なし

授業方法: 【すべての授業を対面で行う】
1. 講義「図書館制度・経営論」の概要、日本の図書館をめぐる法制度
2. 講義　図書館は何をするところか？「図書館法」の解釈と問題点(その1)
3. 講義「図書館法」の解釈と問題点(その2)
4. 講義 公立図書館と学校図書館の連携、「学校図書館法」「国立国会図書館法」「大学設置基準」、地方自治体の図書館設置条例
5. 講義　「子どもの読書活動の推進に関する法律」「文字・活字文化振興法」「著作権法」
6. 講義　経営とは何か、組織運営の規則、非営利組織のマーケティング、図書館の経営資源と経営サイクル
7. 講義 図書館組織の人的資源、司書職の専門性、民間委託の問題点、指定管理者制度等様々な委託形態
8. 講義　ブランドとは何か、図書館のブランド構築、図書館長のリーダーシップの重要性、図書館に必要なモノ、物品の調達
9. 講義 図書館と財務、新しい図書館財務、寄付、図書館の危機管理
10. 講義　図書館の建築、建物、施設、図書館建設計画書、図書館の施設・設備、図書館の経営評価
11. 講義　公立図書館の役割変化、様々な地域政策、公立図書館のブランド再構築、地域とつながる公立図書館、インターネットと図書館
12. 講義 コミュニティと図書館、ニューヨーク公共図書館、アイデアストアの事例
13. 講義　私設図書館の広がり、「まちライブラリー」、住民と協働する図書館の事例
14. 講義　公共施設の再編(公立図書館の改修・建て替え)、新しくなった公立図書館の事例
15..講義 「情報発信する図書館」、学習到達度確認テストの実施

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. 授業内容の復習（90分）
授業用資料をもとに、「図書館法」の概要と問題点（その1）を予習しておくこと（90分）
2. 授業内容の復習（90分）
授業用資料をもとに「図書館法」の概要と問題点（その2）を予習しておくこと（90分）
3. 授業内容の復習（90分）
授業用資料をもとに、「学校図書館法」「国立国会図書館法」「大学設置基準」を予習しておくこと（90分）
4. 授業内容の復習（90分）
授業用資料をもとに、「子どもの読書活動の推進に関する法律」「文字・活字文化振興法」「著作権法」を予習しておくこと（90分）
5. 授業内容の復習（90分）
授業用資料をもとに、図書館の経営資源、経営サイクル、図書館の経営戦略について予習しておくこと（100分）
6. 授業内容の復習（90分）
授業用資料をもとに、図書館の人的資源、司書職の専門性、民間委託の問題点等について予習しておくこと（100分）
7. 授業内容の復習（90分）
授業用資料をもとに、図書館ブランド構築、図書館長の仕事とそのリーダーシップの重要性について予習しておくこと（90分）
8. 授業内容の復習（90分）
授業用資料をもとに、図書館の危機管理について予習しておくこと（100分）
9. 授業内容の復習（90分）
授業用資料をもとに、図書館の建築、図書館の施設・設備、図書館の経営評価について予習しておくこと（90分）
10. 授業内容の復習（90分）
授業用資料をもとに、公立図書館の役割変化、ブランド再構築、地域とつながる公立図書館について予習しておくこと（90分）
11. 授業内容の復習（90分）
授業用資料をもとに、コミュニティと図書館、ニューヨーク公共図書館やアイデアストアについて予習しておくこと（90分）
12. 授業内容の復習（90分）
授業用資料をもとに、私設図書館の広がり、まちライブラリー、住民と協働する図書館について予習しておくこと（100分）
13. 授業内容の復習（90分）
授業用資料をもとに、公共施設の再編、公立図書館の改修・建て替えとその事例を予習しておくこと（100分）
14. 授業内容の復習（90分）
授業用資料をもとに、「情報発信する図書館」について予習しておくこと、学習到達度確認テストの準備（130分）
15. 授業内容の復習（90分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	30 **%**	**レポート：**	40 **%**
その他1：			**%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

最低限の到達度：60～69点
①授業への取り組み、授業に対する姿勢・関心・意欲等については、基本的で普通の授業参加がなされている。
②確認テストについて、図書館制度・経営論の学習内容をある程度理解している。
③レポートについて、図書館の枠組みを定める「図書館法」をはじめとして、図書館に関わる各種の関連法案について理解していない部分もあるが、公立図書館の経営・運営について概ね理解している。
望ましい到達度：80～100点
①授業への取り組み、授業に対する姿勢、関心、意欲等については、積極的に発表や質問をする授業参加がなされている。
②確認テストについて、図書館制度・経営論の学習内容を十分理解している。
③レポートについて、図書館の枠組みを定める「図書館法」をはじめとして、図書館に関わる各種の関連法案を念頭に入れつつ、公立図書館の経営・運営について十分理解している。

課題へのフィードバック：

課題（試験・レポート等）へのフィードバックは、授業時にその都度行う。課題レポートは、Microsoft Teamsを用いて提出することとし、各人に採点結果とコメントをフィードバックする。また、学習到達度確認テストについては、採点後に講評する。

教科書：

テキストはこちらで準備する。授業用資料としてパワーポイントで作成した資料、参考資料を準備し、事前にMicrosoft Teamsに公開するので、必ずこれを使用すること。

参考書：

柳与志夫著『図書館制度・経営論』第3版（ライブラリー図書館情報学4）学文社 2024 ISBN978-4-7620-3585-1
吉成信夫著『賑わいを創出する図書館』KADOKAWA 2025 ISBN978-4-04-811527-8
嶋田学, 伊東直登著『図書館を経営するということ：教育・文化・産業をつなぐ地域づくり』青弓社 2025 ISBN978-4-7872-0090-7
後藤敏行著『新訂図書館の法令と政策』新訂版 樹村房 2024 ISBN978-4-88367-401-5

授業・準備学習のアドバイス：

1. 授業用パワーポイント資料と参考資料は、毎週の授業までにMicrosoft Teamsに公開する。授業時に必ず参照できるようにしておくこと。
2. Microsoft Teamsに受講生へのお知らせ、課題・レポート、試験についての重要な連絡を掲出するので、毎週授業日までに必ず確認すること。
3. 授業の内容に不明な点があれば、授業後に直接質問することが望ましいが、時間がない時はMicrosoft Teamsのチャットで質問すること。
4. 授業で提示された課題・レポートは、提出期日までにMicrosoft Teamsで提出すること。
5. この授業は、授業への取り組み、課題・レポート、学習到達度確認テストの各評価を合算した総合評価とする。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 図書館サービス概論

クラス: 司

授業コード: BS10410001

担当者: 藤原 克彦 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:大学図書館司書の実務経験あり

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 図書館サービスの基本理念、サービスの種類や機能について学び、よりよい図書館サービスとはなにか、また今後の図書館の新たな役割や展開について考える。

到達目標: 図書館サービスに関する基本的事項を理解し説明できるとともに，グループワーク等によって，他の受講生の意見や考えを踏まえ，自らの意見や考えをまとめることができる。
・図書館が提供しているさまざまなサービスを理解し，意義と方法を説明することができる。
・近年の図書館サービスの課題を踏まえ，今後図書館に求められるサービスについて，自分の考えをまとめ表現することができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション／図書館とは？
全体構成、授業の進め方や成績評価方法などについて説明する。
その後、グループワークに向け、学生の自己紹介の時間を設ける。その中で図書館とはどのようなところなのか考える。

2. 図書館サービスの意義、図書館サービスの変遷
図書館サービスとは何か。また、図書館法制定以後の日本の図書館サービスについて触れる。

3. 資料提供サービス
閲覧、貸出、読書案内等、資料提供サービスについて学ぶ。

4. 情報提供サービス
レファレンスサービスを中心に情報提供サービスについて学ぶ。

5. 集会活動
住民のための図書館における文化活動について学ぶ。大学図書館での事例も紹介する。

6. 課題解決型支援と住民・地域活動支援
個人・地域の課題を解決する支援、また住民発・地域発の活動に対する支援について学ぶ。

7. 図書館利用に障害のある人へのサービス・多文化サービス
高齢、障がいなどさまざまな理由により図書館利用に障害のある人々へのサービス、多文化サービスについて学ぶ。

8. 図書館サービスの連携・協力
図書館間、図書館と他機関間など様々なサービスの連携・協力について学ぶ。

9. 図書館の利用空間・環境
図書館の施設・設備、利用環境について学ぶ。

10. 図書館の種類とサービスの特徴
公共図書館、学校図書館、大学図書館、専門図書館におけるサービスについて学ぶ。

11. 図書館をより使ってもらうために
利用教育や広報について学ぶ。

12. 図書館と著作権
著作権制度の概要を知るとともに、図書館における著作権の種類と概要について学ぶ。

13. 図書館をめぐるリスク
文化施設であり接客業としての図書館の危機管理について学ぶ。

14. これからの図書館サービス（課題発表に向けて）
これまでの授業を踏まえて、今後どのようなサービスを行う図書館を創りたいかを考える。（グループワーク）

15. 課題発表会／これからの図書館サービスの展開についてまとめ
第14回で議論し、まとめた図書館像をグループごとに発表する。
その後、これからの図書館サービスの展開についてまとめを行う。

特記事項: なし

授業方法: 授業は対面で実施する。講義を中心に、内容によりパソコンを用いた実習形式、またグループワークを行う。
最終回には発表会（プレゼンテーション）を行う。
パソコン持参が必要な授業、グループワークを行う授業は、その都度事前に連絡する。

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

事前学習：実際に図書館を利用し、サービスを観察したり、地域の広報誌や図書館のホームページなどで図書館や図書館サービスに関する動き、情報を把握すること。
・必要に応じ参考書により予習する。（1回平均90分）

事後学習：配布のレジュメ・資料を復習すること。
・各自、近隣の公共図書館や本学図書館で、学習した図書館サービスの実際を調査観察し比較考察すること。（1回平均90分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	40 **%**
その他1：	課題発表（プレゼンテーション）	30 **%**			
その他2：		**%**			

評価基準：

・授業やグループワーク、コメントシートに主体的に取り組み、理解度がよく認められる。（30%）
・レポート、提出物（40%）
・課題発表（30%）

【最低限の到達度（60~69点）】
・授業でのコメントシートを提出している。
・レポート、課題を提出している。
・授業の理解を踏まえ、課題発表ができている。
【望ましい到達度（80~100点）】
・授業に対する理解度がよく認められるコメントシートを提出している。
・学習内容を踏まえ、独自の視点、考察を加えたレポート、課題を提出している。
・授業の理解を踏まえ、独自の視点、考察を加えた課題発表ができている。

課題へのフィードバック：

・コメントシートに記述された質問等には、次回の授業で回答・解説を行う。
・レポート、提出物については、評価後、次回以降の授業で解説する。

教科書： 必要に応じてレジュメ・資料を配布する。

参考書： 授業の中で適宜紹介する。

授業・準備学習のアドバイス：

実際に図書館を利用しながら聞くと理解が深まるので、できるだけ多くの図書館を実際に訪れることを勧める。
〇コメントシート
授業の理解度を図り、授業に生かすために配布するので、授業で学んだことへの感想、意見、印象に残ったこと、質問などを記入すること。
〇レポートは、授業で得た知識にとどまらず、独自の視点での分析や考察を加え、自らの言葉で論じることを重視する。
〇グループワークなど授業への主体的、積極的な参加を重視する。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 情報サービス論

クラス: ★司

授業コード: BS10510001

担当者: 永井 一樹 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:図書館司書の実務経験あり。

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 図書館における情報サービスの意義を明らかにし、各種サービスの特徴とその理解をはかり、参考図書・データベース等の情報源、図書館利用教育、発信型情報サービス等のサービスについて学ぶ。

到達目標: 図書館における情報サービスの意義とレファレンスサービスを含む各種の情報サービスの実務を理解し、利用者のニーズに合わせたサービス開発への積極的な姿勢を持ち、基本的なレファレンスツールを適切に使いこなせる能力を身に付けることを目指す。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション

2. 本・読書・図書館をめぐる社会的変化
図書館数・書店数・出版社数の推移等の統計データをもとに、日本における「本を読む／買う」環境の変化を確認し、情報サービスをめぐる外的状況を押さえておく。

3. 本の流通と情報サービス
出版社・取次・書店による出版流通の仕組みを整理し、日本独自の制度がどのように「情報への到達可能性」を支えてきたのかを考える。あわせて、こうした流通構造と図書館の蔵書形成や情報提供サービスとの関係を捉え、民間流通と公共サービスの補完関係について理解を深める。

4. 本づくりの多様な形態
著者、編集者、デザイナー、印刷会社など、本づくりに関わる多様な業態と分業制を整理する。一冊の本が企画から読者の手に届くまでの工程を追いながら、出版が個人作業ではなく高度に組織化された産業であることを理解し、情報の「形」が作られるプロセスを考える。

5.本はなぜこんなに高いのか
本の価格がどのような要素によって決まるのかを、制作費・流通コスト・返品制度などの観点から検討する。「なぜ本は高く感じられるのか」という素朴な疑問を手がかりに、情報を有料で提供することの意味を考え、情報サービスとの関係を問い直す。

6.図書館は無料貸本屋か
出版流通や価格の仕組みを踏まえ、「無料」で本を貸す図書館の存在意義を問い直す。無料の原則がもたらす恩恵と市場との緊張関係を整理しつつ、図書館が市場経済とは異なる論理で成り立つ公共的情報サービスであることを考える。

7.図書館の仕事(目録)
カード目録からOPAC、WebOPACへの変遷を通して、目録が果たしてきた役割を確認する。さらに、総合目録データベースやTRC・国立国会図書館・大学図書館等の協業の仕組みを学び、目録作成が情報探索の基盤となる不可視の情報サービスであることを理解する。

8.図書館の仕事(ILL)
ILL(図書館間相互貸借)の仕組みを知り、単館では完結しない情報提供のあり方を学ぶ。なぜILLが必要とされるのかを、出版流通や蔵書の限界と結びつけて考え、ネットワーク型情報サービスとしての図書館の役割を捉える。

9.図書館の仕事(レファレンス)
レファレンスサービスの基本とレファレンス協同データベース等を紹介し、パスファインダーや具体的事例を通して、人を介した情報サービスの価値を理解する。

10. 情報サービスと著作権
著作権の基本概念を整理したうえで、図書館における複製やデジタル提供との関係を検討する。著作権法第31条や国立国会図書館デジタルコレクション、オープンアクセスの動向を通じ、情報サービスと法制度のせめぎ合いを考える。

11.Not A Library
従来の図書館像にとらわれない情報サービスの実践例を紹介する。本屋併設型や複合施設、資料以外の貸出などを通じて、「図書館らしさ」とは何かを再考し、情報サービスが場・体験・関係性として設計されうることを考察する。

12.私のNot A Library
これまでの授業内容を踏まえ、講師自身の実践や構想を事例として紹介する。既存の図書館制度や建物に依存しない情報サービスの可能性を示し、受講者自身が「図書館とは何か」「自分ならどんな情報サービスをつくるか」を考えるきっかけとする。

13. 情報サービス起業案プレゼン大会1
これまでの授業を踏まえ、各自が考案した情報サービス起業案のプレゼンテーションを行う。

14. 情報サービス起業案プレゼン大会2
これまでの授業を踏まえ、各自が考案した情報サービス起業案のプレゼンテーションを行う。

15. 情報サービス起業案プレゼン大会3
これまでの授業を踏まえ、各自が考案した情報サービス起業案のプレゼンテーションを行う。

特記事項: なし

授業方法: 講義と発表(プレゼンテーション)を中心に行う。また、課題に対する調査と発表の機会も設ける。
第1回及び第13回～第15回は、対面授業を行う。
第2回～第12回は、対面かオンデマンドかはその都度指示する。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回、授業の振り返りレポートを課し、その提出を出席確認とする。

評価方法:

授業へのとりくみ:	40 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	30 **%**
その他1:	課題発表・レポート		30 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 学習内容を理解し、習得した知識を用いて独自の発見や意見を提示できているかを観点に、評価する。

(80-100)学習内容を踏まえ、独自の視点を加えて論じたり、具体例を示して論じたりしている
(70-79)学習内容を踏まえ、課題について論じている
(60-69)一般論により課題について論じている

課題へのフィードバック:

レポート等提出物については、次回以降の授業時に説明・評価して返却する。
寄せられた質問に対しては、次回の授業時に全体に向けて回答・説明する。質問内容によっては、質問者に個別に回答・説明する。

教科書: 必要に応じて授業内で紹介する。

参考書: 必要に応じて授業内で紹介する。

授業・準備学習のアドバイス:

第1回目のオリエンテーションは、授業の進め方や成績評価方法の重要な説明があるので必ず出席すること。やむをえず欠席する場合は事前に相談すること。
準備学習においては、パソコン、メール、ウェブ、ワープロソフトについての知識・技能が必要である。

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 児童サービス論

クラス: 司

授業コード: BS11300001

担当者: 笹倉 剛 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公共図書館司書

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 児童サービスとは公共図書館が提供する子どものための図書館サービスである。児童サービス論を通して、図書館における児童サービスの企画・運営など、図書館業務の幅広い視野に立って、子どもたちへのよりよいサービスとは何かについて学ぶ。

到達目標: 図書館における児童サービスの理論と実践を学ぶ。現代の社会的な背景を踏まえた児童サービスの意義と課題、児童資料の特色、選書及び整理など基本的事項の理解。図書館における児童サービスの具体的な方法と技術について習得。その他、児童生徒へのレファレンスサービス、ヤングアダルトサービス、関係機関との連携・協力など、児童サービスの基礎について学ぶ。

各回の授業計画:

1. 児童サービスの意義と課題
2. 児童資料(絵本、昔話、創作物語、詩・ことばあそび、ノンフィクションなど)の特色
3. 児童資料の選書及び整理
4. 「読み聞かせ」の意義と方法
5. 「読み聞かせ」の方法と技術
6. ブックトークの意義と方法
7. ビブリオトークの意義と方法
8. ビブリオトークの展開
9. 紙芝居、パネルシアター、ストーリーテリングなど
10. フロアワーク、配架など
11. レファレンスサービスとヤングアダルトサービスの意義と方法
12. 図書館だより、書評・解題等の書き方
13. 児童サービスの運営と評価
14. 図書館行事、関係機関との連携・協力
15. まとめと課題

特記事項: なし

授業方法: 授業はすべて対面授業を実施。

1.講義、グループワーク
2.講義、グループワーク
3.講義、グループワーク
4.講義、グループワーク
5.グループワーク、演習、発表
6.講義、グループワーク
7.講義、グループワーク、演習
8.グループワーク、演習、発表
9.グループワーク、演習、発表
10.講義、グループワーク
11.講義、グループワーク
12.講義、グループワーク
13.講義、グループワーク
14.講義、グループワーク
15.講義、グループワーク

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 児童サービスの意義と課題 についてテキストで予習(90分)、本日の復習(90分)
2. 児童資料(絵本、昔話、創作物語、詩・ことばあそび、ノンフィクションなど)の特色についてテキストで予習(90分)、本日の復習(90分)

3. 児童資料の選書及び整理 についてテキストで予習(90分)、本日の復習(90分)
4.「読み聞かせ」の意義と方法 についてテキストで予習(90分)、本日の復習(90分)
5.「読み聞かせ」の方法と技術 をテキストで予習(90分)、本日の復習(90分)
6. ブックトークの意義と方法をテキストで予習(90分)、本日の復習(90分)
7. ビブリオトークの意義と方法をプリントで予習(90分)、本日の復習(90分)
8. ビブリオトークの展開について復習(180分)
9. 紙芝居、パネルシアター、ストーリーテリングなど についてテキストで予習(90分)、本日の復習(90分)
10. フロアワーク、配架などについてテキストで予習(90分)、本日の復習(90分)
11. レファレンスサービスとヤングアダルトサービスの意義と方法 についてテキストで予習(90分)、本日の復習(90分)
12. 図書館だより、書評・解題等の書き方 についてテキストで予習(90分)、本日の復習(90分)
13. 児童サービスの運営と評価 について、テキストで予習(90分)、本日の復習(90分)
14. 図書館行事、関係機関との連携・協力についてテキストで予習(90分)、本日の復習(90分)
15. まとめと課題について、全体的なまとめの復習(180分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	40 **%**	**レポート:**	30 **%**
その他1:			**%**		
その他2:			**%**		

評価基準:
児童サービスの基礎的・基本的事項を修得すること。(60～69点)
児童サービスの手法について、それを活用したり、演習活動に行かせるようにすること。(60～69点)
子どもの読書活動として、読み聞かせ、ブックトーク、ビブリオトークなどの技法を習得し、実践できること。(60～69点)
図書館における児童サービスの役割を認識し、それぞれの場面での対応をどのようにすればよいかが判断できる。(80～100点)

課題へのフィードバック:
提出されたレポート課題に解説を加える。

教科書: 『児童サービス論 新訂版』(JLA図書館情報学テキストシリーズ11)堀川照代編

参考書: 『心の扉をひらく本との出会い』笹倉剛、北大路書房

授業・準備学習のアドバイス:
授業の中で図書館を活用するときがある。必要に応じて教材プリントを準備。 推薦図書をできるだけ読破すること。出席・レポートを重視。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 児童サービス論

クラス: 司

授業コード: BS11300002

担当者: 笹倉 剛 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:図書館司書の実務経験あり。

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 児童サービスとは公共図書館が提供する子どものための図書館サービスである。児童サービス論を通して、図書館における児童サービスの企画・運営など、図書館業務の幅広い視野に立って、子どもたちへのよりよいサービスとは何かについて学ぶ。

到達目標: 図書館における児童サービスの理論と実践を学ぶ。現代の社会的な背景を踏まえた児童サービスの意義と課題、児童資料の特色、選書及び整理など基本的事項の理解。図書館における児童サービスの具体的な方法と技術について習得。その他、児童生徒へのレファレンスサービス、ヤングアダルトサービス、関係機関との連携・協力など、児童サービスの基礎について学ぶ。

各回の授業計画:

1. 児童サービスの意義と課題
2. 児童資料(絵本、昔話、創作物語、詩・ことばあそび、ノンフィクションなど)の特色
3. 児童資料の選書及び整理
4. 「読み聞かせ」の意義と方法
5. 「読み聞かせ」の方法と技術
6. ブックトークの意義と方法
7. ビブリオトークの意義と方法
8. ビブリオトークの展開
9. 紙芝居、パネルシアター、ストーリーテリングなど
10. フロアワーク、配架など
11. レファレンスサービスとヤングアダルトサービスの意義と方法
12. 図書館だより、書評・解題等の書き方
13. 児童サービスの運営と評価
14. 図書館行事、関係機関との連携・協力
15. まとめと課題

特記事項: なし

授業方法: 授業はすべて対面授業を実施。

1. 講義、グループワーク
2. 講義、グループワーク
3. 講義、グループワーク
4. 講義、グループワーク
5. グループワーク、演習、発表
6. 講義、グループワーク
7. 講義、グループワーク、演習
8. グループワーク、演習、発表
9. グループワーク、演習、発表
10. 講義、グループワーク
11. 講義、グループワーク
12. 講義、グループワーク
13. 講義、グループワーク
14. 講義、グループワーク
15. 講義、グループワーク

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 児童サービスの意義と課題 についてテキストで予習(90分)、本日の復習(90分)
2. 児童資料(絵本、昔話、創作物語、詩・ことばあそび、ノンフィクションなど)の特色についてテキストで予習(90分)、本日の復習(90分)

3. 児童資料の選書及び整理 についてテキストで予習(90分)、本日の復習(90分)
4.「読み聞かせ」の意義と方法 についてテキストで予習(90分)、本日の復習(90分)
5.「読み聞かせ」の方法と技術 をテキストで予習(90分)、本日の復習(90分)
6. ブックトークの意義と方法をテキストで予習(90分)、本日の復習(90分)
7. ビブリオトークの意義と方法をプリントで予習(90分)、本日の復習(90分)
8. ビブリオトークの展開について復習(180分)
9. 紙芝居、パネルシアター、ストーリーテリングなど についてテキストで予習(90分)、本日の復習(90分)
10. フロアワーク、配架などについてテキストで予習(90分)、本日の復習(90分)
11. レファレンスサービスとヤングアダルトサービスの意義と方法 についてテキストで予習(90分)、本日の復習(90分)
12. 図書館だより、書評・解題等の書き方 についてテキストで予習(90分)、本日の復習(90分)
13. 児童サービスの運営と評価 について、テキストで予習(90分)、本日の復習(90分)
14. 図書館行事、関係機関との連携・協力についてテキストで予習(90分)、本日の復習(90分)
15. まとめと課題について、全体的なまとめの復習(180分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	40 **%**	**レポート:**	30 **%**
その他1:			**%**		
その他2:			**%**		

評価基準:
児童サービスの基礎的・基本的事項を修得すること。(60～69点)
児童サービスの手法について、それを活用したり、演習活動に行かせるようにすること。(60～69点)
子どもの読書活動として、読み聞かせ、ブックトーク、ビブリオトークなどの技法を習得し、実践できること。(60～69点)
図書館における児童サービスの役割を認識し、それぞれの場面での対応をどのようにすればよいかが判断できる。(80～100点)

課題へのフィードバック:
提出されたレポート課題に解説を加える。

教科書: 『児童サービス論 新訂版』(JLA図書館情報学テキストシリーズ11)堀川照代編

参考書: 『心の扉をひらく本との出会い』笹倉剛、北大路書房

授業・準備学習のアドバイス:
授業の中で図書館を活用するときがある。必要に応じて教材プリントを準備。 推薦図書をできるだけ読破すること。出席・レポートを重視。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 情報サービス演習Ⅰ

クラス: ★司

授業コード: BS11700001

担当者: 永井 一樹 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:図書館司書の実務経験あり。

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 「情報サービス論」で学んだ知見を基に、情報サービスの一連の業務(情報検索サービス、レファレンスサービス、それらをベースとした発信型情報サービス)について、演習を通じて実践的に学ぶ。

到達目標: 図書館や各種情報サービスを活用し、資料・情報を的確かつ効率的に探すための基本的な考え方と技法を身につける。また、演習を通じて、情報を探すだけでなく、整理し、伝える視点を養い、現代の情報サービスに求められる力を修得する。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション

2.AI時代の図書館サービス
図書館を「人・情報・場所」という三つの視点から捉え、AIの進展によって図書館サービスがどのように変わるのかを考える。あわせて、本授業全体の目的である「これからの図書館の姿を自分なりに描く」ことを確認する。

3.CiNiiの練習
図書館を構成する3要素(人・情報・場所)のひとつである「情報」を探すための代表的なツールとしてCiNiiを取り上げ、その特徴や強み、サービスを支える仕組みを学ぶ。あわせて、CiNiiを実際に使い、さまざまな文献を探す演習を行う。

4.国立国会図書館サーチの練習1
国立国会図書館(NDL)とは何か、またその役割は何かを理解した上で、NDLデジタルコレクションなど近年拡充が進むNDLサーチの特徴を学ぶ。実際にNDLサーチを使い、資料や情報を効果的・効率的に探す方法を身につける。

5. 国立国会図書館サーチの練習2
国立国会図書館(NDL)とは何か、またその役割は何かを理解した上で、NDLデジタルコレクションなど近年拡充が進むNDLサーチの特徴を学ぶ。実際にNDLサーチを使い、資料や情報を効果的・効率的に探す方法を身につける。

6.レファレンスの練習
講師が所属する図書館で実際に行われたレファレンス事例を紹介しながら、必要となる資料やツール、考え方や心構えについて学ぶ。あわせて演習を通じて、どの資料にあたるかを見極める「嗅覚」が重要であることを理解する。

7.マイライブラリをつくる1
本授業の最終目標である「これからの図書館の姿を自分なりに描く」ことに向け、文献管理ソフトを用いてマイライブラリ(自分専用の図書館)を作成する。あわせて、図書館運営の基盤となる書誌情報(メタデータ)の扱いに親しむ。

8. マイライブラリをつくる2
本授業の最終目標である「これからの図書館の姿を自分なりに描く」ことに向け、文献管理ソフトを用いてマイライブラリ(自分専用の図書館)を作成する。あわせて、図書館運営の基盤となる書誌情報(メタデータ)の扱いに親しむ。

9. マイライブラリをつくる3
本授業の最終目標である「これからの図書館の姿を自分なりに描く」ことに向け、文献管理ソフトを用いてマイライブラリ(自分専用の図書館)を作成する。あわせて、図書館運営の基盤となる書誌情報(メタデータ)の扱いに親しむ。

10. マイライブラリをつくる4
本授業の最終目標である「これからの図書館の姿を自分なりに描く」ことに向け、文献管理ソフトを用いてマイライブラリ(自分専用の図書館)を作成する。あわせて、図書館運営の基盤となる書誌情報(メタデータ)の扱いに親しむ。

11.ラーニングコモンズを妄想する
図書館を構成する3要素(人・情報・場所)のうち「場所」に着目し、国内外のラーニングコモンズ事例を紹介する。それらを手がかりに、既成概念にとらわれない新しい図書館空間を考える妄想演習を行う。

12.展示をつくる
図書館が資料を単に収集・整理し提供するだけでなく、リアル・バーチャル双方でコレクションを魅力的に伝える役割を持つことを学ぶ。MLA(美術館・図書館・文書館)連携の考え方にも触れつつ、講師による展示事例を通して展示の意義と可能性を考える。

13.あなたの図書館未来予想図プレゼン1
これまでの授業を踏まえ、受講者自身が描く図書館未来予想図をプレゼンする。

14. あなたの図書館未来予想図プレゼン2
これまでの授業を踏まえ、受講者自身が描く図書館未来予想図をプレゼンする。

15. あなたの図書館未来予想図プレゼン3
これまでの授業を踏まえ、受講者自身が描く図書館未来予想図をプレゼンする。

特記事項: なし

授業方法: 講義と発表(プレゼンテーション)を中心に行う。また、課題に対する調査と発表の機会も設ける。
第1回及び第13回～第15回は、対面授業を行う。
第2回～第12回は、対面かオンデマンドかはその都度指示する。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回、授業の振り返りレポートを課し、その提出を出席確認とする。

評価方法:	**授業へのとりくみ:**	60 **%**	**確認テスト:**	－ **%**	**レポート:**	－ **%**
	その他1:	課題発表・レポート		40 **%**		
	その他2:			**%**		

評価基準: 学習内容を理解し、習得した知識を用いて独自の発見や意見を提示できているかを観点に、評価する。

(80-100)学習内容を踏まえ、独自の視点を加えて論じたり、具体例を示して論じたりしている
(70-79)学習内容を踏まえ、課題について論じている
(60-69)一般論により課題について論じている

課題へのフィードバック:

課題発表に対し講評を加える。

教科書: 必要に応じて授業内で紹介する。

参考書: 必要に応じて授業内で紹介する。

授業・準備学習のアドバイス:

第1回目のオリエンテーションは、授業の進め方や成績評価方法の重要な説明があるので必ず出席すること。やむをえず欠席する場合は事前に相談すること。
準備学習においては、パソコン、メール、ウェブ、ワープロソフトについての知識・技能が必要である。

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 情報サービス演習Ⅱ

クラス: 司

授業コード: BS11800001

担当者: 笹倉 剛 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:図書館司書の実務経験あり。

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 「情報サービス論」から発展し、実際の利用者や質問を想定したサービスの事例を演習し、レファレンスツールの活用法などのレファレンサーに必要とされる技法を学ぶ。

到達目標: 図書館におけるレファレンスの重要性を学び、レファレンスサービスと情報検索サービス、発信型情報サービスの演習を通して、レファレンサーとしての能力を修得する。

各回の授業計画:

1. 情報サービスの設計と評価
2. 情報サービス演習の準備
3. 情報資源の探し方
4. ウェブページ、ウェブサイトの探し方
5. 図書情報の探し方
6. 雑誌および雑誌記事の探し方
7. 新聞記事の探し方
8. 情報検索演習の課題①(テキストの各章ごとの演習問題)
9. 情報検索演習の課題②(テキストの各章ごとの演習問題)
10. 情報検索演習の課題③(テキストの各章ごとの演習問題)(オンライン対応)
11. 情報検索演習の課題④(テキストの各章ごとの演習問題)(オンライン対応)
12. 情報検索演習の課題⑤(テキストの各章ごとの演習問題)(オンライン対応)
13. 情報検索演習の課題⑥(テキストの各章ごとの演習問題)(オンライン対応)
14. 情報検索演習の課題⑦(テキストの各章ごとの演習問題)(オンライン対応)
15. まとめと確認(オンライン対応)

特記事項: なし

授業方法: この授業は対面授業とオンライン対応で実施します。
「情報サービス論」で学んだことを復習しながら、具体的な課題を演習することにより、情報検索能力の実践力を養います。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

次回学習するところはテキストで予習し、毎回の復習および課題の作成(90分／回)を行ってください。

評価方法:

授業へのとりくみ:	40 %	**確認テスト:**	30 %	**レポート:**	30 %		
その他1:			%				
その他2:			%				

評価基準:

1. 授業への取り組み(40%)
2. 確認テスト(30%)
3. レポート(30%)

1～3項目を合算して総合評価する。

1. 授業への取り組みは、「発言や質問をする」、「メモを取る」など意欲的に受講している、などで評価します。

最低限の到達度(60～69点)の基準:情報サービスに関して必要な考え方や技術を説明でき、課題に対して回答を導くことができる。
望ましい到達度(80～100点)の基準:上記に加え、それぞれの課題に対して複数の情報資源から回答を導き、各々の回答を検討・評価することができる。

課題へのフィードバック:

提出されたレポート課題に解説を加える。

教科書: 『情報サービス演習』原田智子、樹村房（現代図書館情報学シリーズ7）

参考書: 授業中に適宜紹介する。

授業・準備学習のアドバイス:

演習が中心となります。出席を重視しますので、できるだけ出席するようにしてください。
「授業へのとりくみ」（40点）は、授業内での発表等を含めた平常点で評価します。
「レポート」（60点）は、提出課題等で評価します。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 図書館情報資源概論

クラス: 司

授業コード: BS11900001

担当者: 丸尾 恵子 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立図書館司書

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館情報資源について、図書館で扱う多様な資料の類型や特質、その生産流通と図書館における保存や管理、蔵書構成に必要な知識および図書館情報資源の基礎的な知識を習得する。

到達目標: 1. 図書館が収集する情報資源について、その特質および歴史や生産、流通等に関する基礎的・専門的知識を習得する。
2. 情報資源の選択・収集・保存等、コレクション構築のプロセスについて理解する。

各回の授業計画:

1. 図書館情報資源とは
2. 有形出版物としての図書館資料(1)印刷資料
3. 有形出版物としての図書館資料(2)非印刷資料
4. 無形出版物としてのネットワーク情報資源
5. 政府刊行物と地域資料
6. 人文・社会・自然科学・生活分野の情報資源
7. 図書館情報資源の収集とコレクション構築(1)コレクション構築とそのプロセス
8. 図書館情報資源の収集とコレクション構築(2)資料選択の基準と実際 ①
9. 図書館情報資源の収集とコレクション構築(3)資料選択の基準と実際 ②
10. 図書館情報資源の収集とコレクション構築(4)資料選択の体制・組織
11. 図書館情報資源の収集とコレクション構築(5)資料収集のプロセス
12. 図書館情報資源の収集とコレクション構築(6)資料の蓄積・保管
13. 図書館情報資源の収集とコレクション構築(7)コレクションの評価・再編
14. 情報の生産・流通と図書館
15. 図書館情報資源の展望・まとめ・確認テスト

特記事項: なし

授業方法: 授業はすべて対面で実施する。
1. 講義
2. 講義
3. 講義
4. 講義
5. 講義
6. 講義
7. 講義
8. 講義
9. 講義
10. 講義
11. 講義
12. 講義
13. 講義
14. 講義
15. 講義・確認テスト

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 図書館情報資源とは 予習・復習(180分)
2. 有形出版物としての図書館資料 印刷資料 予習・復習(180分)
3. 有形出版物としての図書館資料 非印刷資料 予習・復習(180分)
4. 無形出版物としてのネットワーク情報資源 予習・復習(180分)

5. 政府刊行物と地域資料 予習・復習（180分）
6. 人文・社会・自然科学・生活分野の情報資源 予習・復習（180分）
7. 図書館情報資源の収集とコレクション構築（1） 予習・復習（180分）
8. 図書館情報資源の収集とコレクション構築（2） 予習・復習（180分）
9. 図書館情報資源の収集とコレクション構築（3） 予習・復習（180分）
10. 図書館情報資源の収集とコレクション構築（4） 予習・復習（180分）
11. 図書館情報資源の収集とコレクション構築（5） 予習・復習（180分）
12. 図書館情報資源の収集とコレクション構築（6） 予習・復習（180分）
13. 図書館情報資源の収集とコレクション構築（7） 予習・復習（90分）
14. 情報の生産・流通と図書館 予習・復習（90分）確認テストに向けた復習（180分）
15. 確認テストに向けた復習（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	30	**%**	**確認テスト：**	70	**%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準：

・授業への取り組み
授業態度、提出課題、討議等、総合的に評価する。
・確認テスト
確認テストによって評価を行う。

【最低限の到達度（60～69点）】
図書館情報資源について基礎的・基本的事項を理解し、説明できる。
【望ましい到達度（80～100点）】
図書館情報資源の特性・活用について理解し、利用サービスの観点から考察できる。

課題へのフィードバック：

課題等については、授業内でフィードバックを行う。

教科書： なし 講義資料を用意する

参考書： 岸田和明編著『改訂 図書館情報資源概論 』（現代図書館情報学シリーズ 8） 樹村房 2022年
ISBN 978-4-88367-338-4
馬場俊明編著『図書館情報資源概論』三訂版（JLA図書館情報学テキストシリーズⅢ）2024年
ISBN 978-4-8204-2039-6
その他参考資料については、授業中に適宜、紹介する。

授業・準備学習のアドバイス：

・専門用語や関連する事柄については、調査・確認をしながら積極的に知識を深めてください。
・大学図書館や近隣の公共図書館に出向いて、さまざまな情報資源を実際に利用してみてください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 情報資源組織論

クラス: 司

授業コード: BS12000001

担当者: 今村 太朗 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:図書館勤務

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: この授業は、日本における図書館司書資格取得のための科目の一つである。図書館の情報資源は、利用者が必要な資料を簡単に探せるよう一定の法則により、体系的に整理されている。この授業を通して図書館情報資源の組織化について、その理論や技術を学ぶとともに、根底を流れる考え方を理解することを目的とする。情報資源の内容(主題)を分析し、表現するための主題目録法(分類法および件名法という。)、情報資源に関するデータを記述するための記述目録法(目録法という。)、その他メタデータや機関リポジトリ、デジタルアーカイブ等についての基礎的な内容を修得する。

到達目標:
1. 図書館情報資源の組織化について、基本的な理論と技術を説明することができる。
2. 書誌コントロールの概念について、説明することができる。
3. 各種書誌データの実際を理解し、情報の識別に活用することができる。
4. 主題目録法(分類法、件名法)、記述目録法について説明することができる。
5. メタデータや機関リポジトリ、デジタルアーカイブ等の概略を説明することができる。

各回の授業計画:

1. 授業の概要、図書館情報資源組織化の意義・理論、書誌コントロールの重要性について説明する。
2. 書誌情報の共有と提供、OPAC、図書館とインターネットについて説明する。
3. ネットワーク情報資源、電子コンテンツ、メタデータ、学術情報の流通について説明する。
4. 機関リポジトリへの登録、機関リポジトリのデータ、機関リポジトリによる情報発信について説明する。
5. 主題組織法、主題分析と索引法、件名法と件名標目について説明する。
6. 分類とは何か、近代以降の主な図書分類法、主題の把握、日本十進分類法について説明する。
7. 日本十進分類法の本表(細目表)の利用、分類記号の付与、補助表の概要について説明する。
8. 補助表の働き(形式区分、地理区分、海洋区分、言語区分、言語共通区分、文学共通区分)を説明する。
9. 分類規程(対等の関係、相互作用の関係、重点処置の関係、原著作とその関連著作、伝記の分類)を説明する。
10. 図書の整理、目録とは何か、コンピュータ目録、目録規則について説明する。
11. 日本目録規則(1987年版改訂第3版)の概要を学び、具体的な目録書誌記述(本タイトル～形態に関する事項)について説明する。
12. 具体的な目録書誌記述(シリーズに関する事項～標準番号)について説明し、例題を用いて書誌記述方法を確認する。
13. 例題を用いて単行書の書誌記述方法を確認する。最新の目録規則である「日本目録規則2018年版」の構造とその特徴を説明する。
14. 「日本目録規則2018年版」による具体的な書誌記述を説明する。装備と配架、請求記号、著者記号表、地域資料の収集について説明する。
15. 地域資料および絵本の組織化について説明する。学習到達度確認テストを実施する。

特記事項: なし

授業方法: 【すべての授業を対面で行う】
1. 講義 利用者と資料を結びつける、図書館情報資源の組織化の意義と理論、書誌コントロール
2. 講義 書誌情報の共有、書誌情報の提供、OPAC、図書館とインターネット
3. 講義 ネットワーク情報資源、電子コンテンツ、メタデータの概要
4. 講義・演習 機関リポジトリへの登録、機関リポジトリのデータ、機関リポジトリによる情報発信
5. 講義 主題による組織化、主題分析と索引法、件名法、件名標目の付与
6. 講義 分類とは何か、近代以降の主な図書分類法、主題の把握、「日本十進分類表新訂第10版」の概要
7. 講義 日本十進分類法の本表(細目表)の利用、分類記号付与の基本、補助表の概要
8. 講義 補助表の働き、補助表(形式区分、地理区分、海洋区分、言語区分、言語共通区分、文学共通区分)
9. 講義 分類規程(対等の関係、相互作用の関係、重点処置の関係、原著作とその関連著作、伝記の分類)
10. 講義 図書の整理、目録とは何か、コンピュータ目録、目録規則とは何か
11. 講義「日本目録規則1987年版改訂第3版」の概要、具体的な目録書誌記述(本タイトル～形態に関する事項)
12. 講義 具体的な目録書誌記述(シリーズに関する事項～標準番号)、例題を用いた書誌記述方法の確認
13. 講義 例題を用いた目録書誌記述方法の確認、最新の「日本目録規則2018年版」の概要
14. 講義「日本目録規則2018年版」の具体的な書誌記述、装備と配架、請求記号、著者記号表、地域資料の収集

15. 講義 地域資料と絵本の組織化、学習到達度確認テストの実施

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 授業内容の復習(90分)
授業用資料をもとに、書誌情報の共有、書誌情報の提供、OPACの概要を予習しておくこと(90分)
2. 授業内容の復習(90分)
授業用資料をもとに、ネットワーク情報資源、電子コンテンツ、メタデータの概要を予習しておくこと(120分)
3. 授業内容の復習(90分)
授業用資料をもとに、機関リポジトリの概要を予習しておくこと(90分)
4. 授業内容の復習(90分)
授業用資料をもとに、主題による組織化、主題分析と索引法、件名法の概要を予習しておくこと(90分)
5. 授業内容の復習(90分)
授業用資料をもとに、分類とは何か、近代以降の主な図書分類法、「日本十進分類法新訂第10版」の概要を予習しておくこと(90分)
6. 授業内容の復習(90分)
授業用資料をもとに、日本十進分類法の本表(細目表)の利用、分類記号付与の基本を予習しておくこと(90分)
7. 授業内容の復習(90分)
授業用資料をもとに、補助表(形式区分、地理区分、海洋区分、言語区分、言語共通区分、文学共通区分)を予習しておくこと(90分)
8. 授業内容の復習(90分)
授業用資料をもとに、分類規程(対等の関係、相互作用の関係、重点処置の関係、原著作とその関連著作)を予習しておくこと(90分)
9. 授業内容の復習(90分)
授業用資料をもとに、図書の整理、目録とは何か、目録規則について予習しておくこと(90分)
10. 授業内容の復習(90分)
授業用資料をもとに、「日本目録規則1987年版改訂第3版」の目録書誌記述(本タイトル～形態に関する事項)について予習しておくこと(90分)
11. 授業内容の復習(90分)
授業用資料をもとに、具体的な目録書誌記述(シリーズに関する事項～標準番号)について予習しておくこと(110分)
12. 授業内容の復習(90分)
授業用資料をもとに、「日本目録規則1987年版改訂第3版」の書誌記述全体を予習しておくこと(90分)
13. 授業内容の復習(90分)
授業用資料をもとに、「日本目録規則2018年版」の特徴、装備と配架、請求記号、著者記号表、地域資料の収集について予習しておくこと(90分)
14. 授業内容の復習(90分)
授業用資料をもとに、地域資料と絵本の組織化について予習しておくこと、学習到達度確認テストの準備(130分)
15. 授業内容の復習(90分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	30	**%**	**確認テスト:**	30	**%**	**レポート:**	40 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準:

最低限の到達度:60～69点
①授業への取り組み、授業に対する姿勢・関心・意欲等については、基本的で普通の授業参加がなされている。
②確認テストについて、情報資源組織論の学習内容をある程度理解している。
③課題・レポートについて、情報資源組織化についての基本的な意義や理論を説明することができる。また、分類法、件名法、目録法、デジタル情報資源、メタデータや機関リポジトリについての概要を説明することができる。
望ましい到達度:80～100点
①授業への取り組み、授業に対する姿勢、関心、意欲等については、積極的に発表や質問をする授業参加がなされている。
②確認テストについて、情報資源組織論の学習内容を十分理解している。
③課題・レポートについて、情報資源組織化についての意義、理論、背景を専門用語を交えて説明することができ、分類法、件名法、目録法、デジタル情報資源、メタデータや機関リポジトリについて詳しく説明することができる。また、自分自身の考察から、新たな問題提起ができ、情報資源組織化の今後の方向性についても自分の意見を述べることができる。

課題へのフィードバック:

課題(試験・レポート等)へのフィードバックは、授業時にその都度行う。課題・レポートは、Microsoft Teamsを用いて提出することとし、各人に採点結果とコメントをフィードバックする。また、学習到達度確認テストについては、採点後に講評する。

教科書:

テキストはこちらで準備する。授業用資料としてパワーポイントで作成した資料、参考資料を準備し、事前にMicrosoft Teamsに公開するので、これを必ず使用すること。

参考書:

那須雅熙, 蟹瀬智弘著『情報資源組織論及び演習』第3版(ライブラリー図書館情報学 9)学文社 2020 ISBN978-4-7620-3012-3
田窪直規編著『情報資源組織論』三訂(現代図書館情報学シリーズ9)樹村房 2020 ISBN978-4-88367-339-1
竹之内禎,_山口洋,_西田洋平編著『情報資源組織論』東海大学出版部 第1版 2020 ISBN978-4-486-02188-9
日本図書館研究会編『図書館資料の目録と分類』増訂第5版 日本図書館研究会 2015 ISBN978-4-930992-22-2
日本図書館研究会編『情報資源組織法』初版 日本図書館研究会 2020 ISBN978-4-930992-28-4

授業・準備学習のアドバイス:

1. 授業用パワーポイント資料と参考資料は、毎週の授業までにMicrosoft Teamsに公開する。授業時に必ず参照できるようにしておくこと。
2. Microsoft Teamsに受講生へのお知らせ、課題・レポート、試験についての重要な連絡を掲出するので、毎週授業日までに必ず確認すること。
3. 授業の内容に不明な点があれば、授業後に直接質問することが望ましいが、時間がない時はMicrosoft Teamsのチャットで質問すること。
4. 授業で提示された課題・レポートは、提出期日までにMicrosoft Teamsで提出すること。
5. この授業は、授業への取り組み、課題・レポート、学習到達度確認テストの各評価を合算した総合評価とする。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 情報資源組織演習Ⅰ

クラス: 司

授業コード: BS12100001

担当者: 前川 由実子 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:図書館勤務

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 「情報資源組織論」での学習内容を踏まえ、図書館の主題検索を支える分類法を中心に、その実際について理解を深め、その技術を習得する。
分類法については、日本十進分類法新訂10版(NDC10)を使用し演習する。
件名法については、基本件名標目表第4版(BSH4)についての理解を深める。
記述目録法については「情報資源組織演習Ⅱ」で重点的に学習するため、ここでは取り扱わない。

到達目標: 1. 主題索引の意義とその方法の基本を理解する
2. 図書館情報資源の内容を把握し、適切な分類記号が付与できるようになる
3. 図書館情報資源の内容を適切に表す件名標目を付与できるよう基本件名標目表の使い方がわかるようになる

各回の授業計画:

1. 授業概要、NDC10の体系理解
2. 分類作業の実際1(NDC10の取り扱い法)
3. 分類作業の実際2(1類／2類)
4. 分類作業の実際3(補助表－形式区分)
5. 分類作業の実際4(補助表－地理・海洋区分)
6. 分類作業の実際5(補助表と8類)
7. 分類作業の実際6(補助表と0類)
8. 分類作業の実際7(補助表と9類)
9. 分類作業の実際8(補助表と7類)
10. 分類作業の実際9 (補助表と5・6類)
11. 分類作業の実際10(補助表と3・4類)
12. 分類作業の実際11(分類規程)
13. (発表)主題索引の分析: 図書館蔵書を例に
14. 件名付与の実際 BSHの仕組みと特徴・主題分析と使用法の基礎
15. 授業まとめ・学習到達度確認

特記事項: 上記講義計画(発表回も含む)は、受講者数や進度などの都合により変更することがあります。

授業方法: 授業ではNDC10を利用するので、教務課横のガラスケース内にあるNDCを毎回持参すること(初回から持参する)

1. 講義
2. 講義とNDC10により例題を解く演習
3. 講義とNDC10により例題を解く演習
4. 講義とNDC10により例題を解く演習
5. 講義とNDC10により例題を解く演習
6. 講義とNDC10により例題を解く演習
7. 講義とNDC10により例題を解く演習
8. 講義とNDC10により例題を解く演習
9. 講義とNDC10により例題を解く演習
10. 講義とNDC10により例題を解く演習
11. 講義とNDC10により例題を解く演習
12. 講義とNDC10により例題を解く演習
13. 発表
14. 講義(BSH4)
15. 講義と学習到達度確認

すべての授業を対面授業で行う

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1～15. 毎回の課題への取り組み（予習復習も含む）90分
発表のための準備

評価方法：

授業へのとりくみ：	25	**%**	**確認テスト：**	50	**%**	**レポート：**	－ **%**
その他1： 発表				25	**%**		
その他2：					**%**		

評価基準：

「評価方法」の1～3について、以下の基準を満たすことが求められます。
1. 授業へのとりくみ（授業態度、課題への取り組み）
・授業はNDC10を使用し、例題を解く演習形式のため、演習への取り組み姿勢がなされている
・さらに積極的に関わり質問や発言をする取り組み、提出物が期限内になされている
・授業回数の2/3以上の出席を以て成績評価の対象とする
補足（遅刻早退について）
20分以上は欠席とみなす
20分以内は3回で1回の欠席とみなす

2. 確認テスト
・図書館情報資源に対して適切な分類記号が付与できる
・分類記号、件名標目の意義とその内容についての理解ができている

3. 発表
・図書に付与されている分類記号についての考察ができている。（NDC10の理解）
・図書の概要と、その図書の主題について、わかりやすく説明ができる
・自分の考えを時間内にまとめ、人前で発表ができる

上記の3点を総合的に評価するが、確認テストを受検しなかった者、もしくは発表をしなかった者はこの授業を放棄したとみなす。
・総合得点が6割程度である（60～69点）
・総合得点が8割以上である（70～79点）
・総合得点が9割を超える（80点～100点）

課題へのフィードバック：

授業内にてもするが、個別でも質問があれば講義中や授業終了後など、適宜対応。
また、授業を欠席した場合は、欠席回の配布プリントは必ず受け取り、課題があれば各自で取り組むこと。

教科書： なし。（教務にある「日本十進分類法 新訂10版」を毎回使用するため、各回講義内容に合わせたプリントを配布する）

参考書：

1) 日本図書館協会『日本十進分類法 新訂10版』（日本図書館協会, 2015）
2) 日本図書館協会『基本件名標目表 第4版』（日本図書館協会, 1999）
3) 情報資源組織論で使用した教科書やプリント

授業・準備学習のアドバイス：

自分の専門分野以外や日頃関心のある分野以外にも興味を持って、様々な分野の本を読んで、その図書のテーマについて考えてみよう。
図書館の蔵書検索システムの書誌データの中身を分析的に観察してみよう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 情報資源組織演習Ⅰ

クラス: 司

授業コード: BS12100002

担当者: 前川　由実子　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:図書館勤務

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 「情報資源組織論」での学習内容を踏まえ、図書館の主題検索を支える分類法を中心に、その実際について理解を深め、その技術を習得する。
分類法については、日本十進分類法新訂10版(NDC10)を使用し演習する。
件名法については、基本件名標目表第4版(BSH4)についての理解を深める。
記述目録法については「情報資源組織演習Ⅱ」で重点的に学習するため、ここでは取り扱わない。

到達目標: 1. 主題索引の意義とその方法の基本を理解する
2. 図書館情報資源の内容を把握し、適切な分類記号が付与できるようになる
3. 図書館情報資源の内容を適切に表す件名標目を付与できるよう基本件名標目表の使い方がわかるようになる

各回の授業計画:

1. 授業概要、NDC10の体系理解
2. 分類作業の実際1(NDC10の取り扱い法、本表と相関索引)
3. 分類作業の実際2(1類／2類哲学・宗教／歴史)
4. 分類作業の実際3(補助表－形式区分)
5. 分類作業の実際4(補助表－地理・海洋区分)
6. 分類作業の実際5(補助表と8類)
7. 分類作業の実際6(補助表と0類)
8. 分類作業の実際7(補助表と9類)
9. 分類作業の実際8(補助表と7類)
10. 分類作業の実際9 (補助表と5・6類)
11. 分類作業の実際10(補助表と3・4類)
12. 分類作業の実際11(分類規程)
13. (発表)主題索引の分析: 図書館蔵書を例に
14. 件名付与の実際 BSHの仕組みと特徴・主題分析と使用法の基礎
15. 授業まとめ・学習到達度確認

特記事項: 上記講義計画(発表回も含む)は、受講者数や進度などの都合により変更することがあります。

授業方法: 授業ではNDC10を利用するので、教務課横のガラスケース内にあるNDCを毎回持参すること(初回から持参する)

1. 講義
2. 講義とNDC10により例題を解く演習
3. 講義とNDC10により例題を解く演習
4. 講義とNDC10により例題を解く演習
5. 講義とNDC10により例題を解く演習
6. 講義とNDC10により例題を解く演習
7. 講義とNDC10により例題を解く演習
8. 講義とNDC10により例題を解く演習
9. 講義とNDC10により例題を解く演習
10. 講義とNDC10により例題を解く演習
11. 講義とNDC10により例題を解く演習
12. 講義とNDC10により例題を解く演習
13. 発表
14. 講義(BSH4)
15. 講義と学習到達度確認

すべての授業を対面授業で行う

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1～15. 毎回の課題への取り組み（予習復習も含む）90分
発表のための準備

評価方法：

授業へのとりくみ：	25	**%**	**確認テスト：**	50	**%**	**レポート：**	－ **%**
その他1： 発表				25	**%**		
その他2：					**%**		

評価基準：

「評価方法」の1～3について、以下の基準を満たすことが求められます。
1. 授業へのとりくみ（授業態度、課題への取り組み）
・授業はNDC10を使用し、例題を解く演習形式のため、演習への取り組み姿勢がなされている
・さらに積極的に関わり質問や発言をする取り組み、提出物が期限内になされている
・授業回数の2/3以上の出席を以て成績評価の対象とする
補足（遅刻早退について）
20分以上は欠席とみなす
20分以内は3回で1回の欠席とみなす

2. 確認テスト
・図書館情報資源に対して適切な分類記号が付与できる
・分類記号、件名標目の意義とその内容についての理解ができている

3. 発表
・図書に付与されている分類記号についての考察ができている。（NDC10の理解）
・図書の概要と、その図書の主題について、わかりやすく説明ができる
・自分の考えを時間内にまとめ、人前で発表ができる

上記の3点を総合的に評価するが、確認テストを受検しなかった者、もしくは発表をしなかった者はこの授業を放棄したとみなす。
・総合得点が6割程度である（60～69点）
・総合得点が8割以上である（70～79点）
・総合得点が9割を超える（80点～100点）

課題へのフィードバック：

授業内でも行うが、個別でも質問があれば講義中や授業終了後など、適宜対応。
また、授業を欠席した場合は、欠席回の配布プリントは必ず受け取り、課題があれば各自で取り組むこと。

教科書： なし。（教務にある「日本十進分類法 新訂10版」を毎回使用するため、各回講義内容に合わせたプリントを配布する）

参考書：

1) 日本図書館協会『日本十進分類法 新訂10版』（日本図書館協会, 2015）
2) 日本図書館協会『基本件名標目表 第4版』（日本図書館協会, 1999）
3) 情報資源組織論で使用した教科書やプリント

授業・準備学習のアドバイス：

自分の専門分野以外や日頃関心のある分野以外にも興味を持って、様々な分野の本を読んで、その図書のテーマについて考えてみよう。
図書館の蔵書検索システムの書誌データの中身を分析的に観察してみよう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 情報資源組織演習Ⅱ

クラス: 司

授業コード: BS12200001

担当者: 今村 太朗 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:図書館勤務

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: この授業は、日本における図書館司書資格取得のための一科目であり、情報資源組織化の知識をもとに、記述目録法の技術を修得するための演習を行う。まず、「日本目録規則1987年版改訂第3版」による書誌記述作成を基礎的な知識・スキルとして身に付け、さらに新しい目録規則である「日本目録規則2018年版」の書誌構造を確認する。授業の後半では、NACSIS-CAT教育モード(WebUIP)での書誌検索、所蔵登録、書誌流用入力等の演習を行い、図書館における目録業務への対応力を養成する。

到達目標:
1.『日本目録規則1987年版改訂第3版』(NCR1987)に従って、図書資料(情報資源)の書誌記述(以下の①～⑤)を作成することができる。
①単行書の書誌記述
②シリーズものの書誌記述
③セットものの書誌記述
④多冊ものの書誌記述
⑤3層構造となる書誌記述
2. 新しい目録規則である『日本目録規則2018年版』に従って書誌構造やその内容を説明することができる。
3. 国立情報学研究所のNACSIS-CAT(WebUIP＝教育モード)で、書誌、書誌・所蔵登録、書誌流用入力をおこなうことができる。

各回の授業計画:

1. 書誌データ作成について、目録とは何か、目録規則とは何か、「日本目録規則2018年版」の概要について説明する。

2. 書誌記述(書誌的事項)について、単行書の定義、「日本目録規則1987年版改訂第3版」に従った図書書誌記述(本タイトル、タイトル関連情報)を例題をもとに説明する。

3.「日本目録規則1987年版改訂第3版」に従った図書書誌記述(責任表示、版に関する事項)、複数作品を収録する図書書誌記述を例題をもとに説明する。

4.「日本目録規則1987年版改訂第3版」に従った図書書誌記述(出版・頒布等に関する事項)を例題をもとに説明する。

5.「日本目録規則1987年版改訂第3版」に従った図書書誌記述(形態に関する事項、シリーズに関する事項)を例題をもとに説明する。

6.「日本目録規則1987年版改訂第3版」に従った図書書誌記述(注記に関する事項、標準番号)、多冊もの、3層の書誌階層をもつものの書誌記述を例題をもとに説明する。

7. 基本的な書誌記述を作成できるようになるため、単行書およびシリーズものの書誌記述を例題をもとに説明する。

8. より複雑な書誌記述を作成できるようになるため、セットもの、多冊もの、3層の書誌階層をもつものの書誌記述を例題をもとに説明する。

9.「日本目録規則2018年版」による書誌記述の概要とデータ作成事例を説明する。継続資料(雑誌・逐次刊行物)の書誌記述を説明する。

10. 地図資料および映像資料の書誌記述を説明する。書誌ユーティリティを用いた目録作成について説明する。

11. NACSIS-CAT演習①では、NACSIS-CAT入門として、目録所在情報サービス、共同目録作業、NACASIS-CATの個々のフィールド、記述ブロックを説明する。また、ヨミの規則、分かち書きについて学ぶ。

12. NACSIS-CAT演習②では、総合目録データベース検索の目的、図書登録総論、図書所蔵登録について例題をもとに説明する。

13. NACSIS-CAT演習③では、図書登録総論、所蔵登録、書誌流用入力(書誌階層なし)について例題をもとに説明する。

14. NACSIS-CAT演習④では、書誌流用入力(書誌階層あり)、総合目録データベースからの書誌流用入力について例題をもとに説明する。さらに「日本目録規則2018年版」への変更について説明する。

15. 国立情報学研究所の新しいNACSIS-CATシステムについて説明する。学習到達度確認テストを実施する。

特記事項: なし

授業方法: 【すべての授業を対面で行う】
1. 講義 目録とは、目録規則とは、「日本目録規則1987年版改訂第3版」の概要、「日本目録規則2018年版」の概要
2. 講義 書誌記述に必要な事項、単行書の定義、本タイトルのとらえ方、タイトル関連情報とは
3. 講義 責任表示とは、版に関する事項、複数作品を収録する図書の書誌記述
4. 講義 出版地、出版者、出版年
5. 講義 ページ数、大きさ、付属資料、シリーズに関する事項、シリーズもの、セットもの
6. 講義 注記に関する事項、標準番号、多冊もの、3層の書誌階層をもつもの
7. 演習 単行書やシリーズものの基礎的な書誌記述演習、書誌記述方法のポイントをつかむ
8. 演習 セットもの、多冊もの、3層の書誌階層をもつもの等より複雑な書誌記述演習

9. 講義・演習「日本目録規則2018年版」による書誌記述の概要、雑誌・逐次刊行物などの継続資料の書誌記述
10. 講義・演習　地図資料および映像資料の書誌記述、書誌ユーティリティを用いた目録作成
11. 講義・演習 目録所在情報サービス、共同目録作業、NACSIS-CAT入門、NACSIS-CAT演習①：NACSIS-CATの基礎、ヨミの規則、分かち書き
12. 講義・演習 NACSIS-CAT演習②：NACSIS-CAT図書検索の目的、図書登録総論、図書所蔵登録
13. 演習 NACSIS-CAT演習③：図書所蔵登録の実際、書誌流用入力（書誌階層なし）の手順
14. 演習 NACSIS-CAT演習④：書誌流用入力（書誌階層あり）の手順、総合目録データベースからの図書流用入力
15. 演習 国立情報学研究所のNACSIS-CAT新システムについて、学習到達度確認テストの実施

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. 授業内容の復習（20分）
授業用資料をもとに、単行書の定義、本タイトルとタイトル関連情報の書誌記述を予習しておくこと（20分）
2. 授業内容の復習（20分）
授業用資料をもとに、責任表示と版に関する事項の書誌記述を予習しておくこと（20分）
3. 授業内容の復習（20分）
授業用資料をもとに、出版・頒布に関する事項の書誌記述を予習しておくこと（20分）
4. 授業内容の復習（20分）
授業用資料をもとに、形態に関する事項とシリーズに関する事項の書誌記述を予習しておくこと（20分）
5. 授業内容の復習（20分）
授業用資料をもとに、注記に関する事項と標準番号の書誌記述を予習しておくこと（20分）
6. 授業内容の復習（20分）
授業用資料をもとに、本タイトルから標準番号までの基礎的な書誌記述全体を予習しておくこと（20分）
7. 授業内容の復習（20分）
授業用資料をもとに、セットもの、多冊もの、3層の書誌階層をもつものの書誌記述について予習しておくこと（30分）
8. 授業内容の復習（20分）
授業用資料をもとに、「日本目録規則2018年版」による書誌記述の概要、継続資料の書誌記述について予習しておくこと（30分）
9. 授業内容の復習（20分）
授業用資料をもとに、地図資料の書誌記述、映像資料の書誌記述について予習しておくこと（30分）
10. 授業内容の復習（20分）
授業用資料をもとに、NACSIS-CATによる目録作成、共同目録作業、NACSIS-CATの基礎について予習しておくこと（30分）
11. 授業内容の復習（20分）
授業用資料をもとに、NACSIS-CAT総合目録データベースの検索について予習しておくこと（30分）
12. 授業内容の復習（20分）
授業用資料をもとに、NACSIS-CAT所蔵登録および書誌流用入力（書誌階層なし）について予習しておくこと（30分）
13. 授業内容の復習（20分）
授業用資料をもとに、NACSIS-CAT書誌流用入力（書誌階層あり）と総合目録データベースからの流用入力について予習しておくこと（30分）
14. 授業内容の復習（20分）
授業用資料をもとに、NACSIS-CATの新システムについて予習しておくこと、学習到達度確認テストの準備（45分）
15. 授業内容の復習（20分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	30	**%**	**確認テスト：**	30	**%**	**レポート：**	40 **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準：

最低限の到達度：60～69点
①授業への取り組み、演習に対する姿勢・関心・意欲等については、基本的で普通の参加がなされている。
②確認テストについて、演習の学習内容をある程度理解している。
③課題・レポートについて、記述目録法に従って、記述対象資料の情報資源から、書誌記述を作成する基礎的な技術が修得できている。日本目録規則に従った書誌記述法を理解し、書誌ユーティリティを利用した目録作成法を理解している。
望ましい到達度：80～100点
①授業への取り組み、演習に対する姿勢、関心、意欲等については、自ら進んで積極的に発表や質問をする授業参加がなされている。
②確認テストについて、演習の学習内容を十分理解している。
③課題・レポートについて、記述目録法に従って、記述対象資料の情報資源から、複雑な書誌記述を作成する技術が修得できている。日本目録規則に従った書誌記述法をよく理解し、書誌ユーティリティを利用した目録作成法を十分理解している。

課題へのフィードバック：

課題（試験・レポート等）へのフィードバックは、授業時にその都度行う。課題・レポートは、Microsoft Teamsを用いて提出することとし、各人に採点結果とコメントをフィードバックする。また、学習到達度確認テストについては、採点後に講評する。

教科書：

テキストはこちらで準備する。授業用資料としてパワーポイントで作成した資料、参考資料を準備し、事前にMicrosoft Teamsに公開するので、これを必ず使用すること。

参考書：

那須雅熙, 蟹瀬智弘著『情報資源組織論及び演習』第3版（ライブラリー図書館情報学9） 学文社 2020 ISBN978-4-7620-3012-3
竹之内禎 [ほか] 編著『情報資源組織演習 : 情報メディアへのアクセスの仕組みを作る』初版 （講座・図書館学11） ミネルヴァ書房 2016 ISBN978-4-623-07645-1

授業・準備学習のアドバイス：

1. 図書資料を中心とした情報資源の書誌記述作成について、授業計画にあるように毎回段階的に新しい内容を学ぶので、欠席すると全体のつながりが理解できなくなり、書誌記述が作成できなくなる。毎回授業に出席することが望ましい。
2. この授業は、細かな記述規則への理解が必要で、例外処理も多く説明に時間をかける。授業中によく聞いて必ず復習し、書誌記述のコツを十分理解しておくことが必要である。
3. 授業用パワーポイント資料と参考資料は、毎週の授業までにMicrosoft Teamsに公開する。授業時に必ず参照できるようにしておくこと。
4. Microsoft Teamsに受講生へのお知らせ、課題・レポート、試験についての重要な連絡を掲出するので、毎週授業日までに必ず確認すること。
5. 授業の内容に不明な点があれば、授業後に直接質問することが望ましいが、時間がない時はMicrosoft Teamsのチャットで質問すること。
6. 授業で提示された課題・レポートは、提出期日までにMicrosoft Teamsで提出すること。
7. この授業は、授業への取り組み、課題・レポート、学習到達度確認テストの各評価を合算した総合評価とする。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 情報資源組織演習Ⅱ

クラス: 司

授業コード: BS12200002

担当者: 今村 太朗 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:図書館勤務

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: この授業は、日本における図書館司書資格取得のための一科目であり、情報資源組織化の知識をもとに、記述目録法の技術を修得するための演習を行う。まず、「日本目録規則1987年版改訂第3版」による書誌記述作成を基礎的な知識・スキルとして身に付け、さらに新しい目録規則である「日本目録規則2018年版」の書誌構造を確認する。授業の後半では、NACSIS-CAT教育モード(WebUIP)での書誌検索、所蔵登録、書誌流用入力等の演習を行い、図書館における目録業務への対応力を養成する。

到達目標:
1.『日本目録規則1987年版改訂第3版』(NCR1987)に従って、図書資料(情報資源)の書誌記述(以下の①～⑤)を作成することができる。
①単行書の書誌記述
②シリーズものの書誌記述
③セットものの書誌記述
④多冊ものの書誌記述
⑤3層構造となる書誌記述
2. 新しい目録規則である『日本目録規則2018年版』に従って書誌構造やその内容を説明することができる。
3. 国立情報学研究所のNACSIS-CAT(WebUIP＝教育モード)で、書誌、書誌・所蔵登録、書誌流用入力をおこなうことができる。

各回の授業計画:

1. 書誌データ作成について、目録とは何か、目録規則とは何か、「日本目録規則2018年版」の概要について説明する。

2. 書誌記述(書誌的事項)について、単行書の定義、「日本目録規則1987年版改訂第3版」に従った図書書誌記述(本タイトル、タイトル関連情報)を例題をもとに説明する。

3.「日本目録規則1987年版改訂第3版」に従った図書書誌記述(責任表示、版に関する事項)、複数作品を収録する図書書誌記述を例題をもとに説明する。

4.「日本目録規則1987年版改訂第3版」に従った図書書誌記述(出版・頒布等に関する事項)を例題をもとに説明する。

5.「日本目録規則1987年版改訂第3版」に従った図書書誌記述(形態に関する事項、シリーズに関する事項)を例題をもとに説明する。

6.「日本目録規則1987年版改訂第3版」に従った図書書誌記述(注記に関する事項、標準番号)、多冊もの、3層の書誌階層をもつものの書誌記述を例題をもとに説明する。

7. 基本的な書誌記述を作成できるようになるため、単行書およびシリーズものの書誌記述を例題をもとに説明する。

8. より複雑な書誌記述を作成できるようになるため、セットもの、多冊もの、3層の書誌階層をもつものの書誌記述を例題をもとに説明する。

9.「日本目録規則2018年版」による書誌記述の概要とデータ作成事例を説明する。継続資料(雑誌・逐次刊行物)の書誌記述を説明する。

10. 地図資料および映像資料の書誌記述を説明する。書誌ユーティリティを用いた目録作成について説明する。

11. NACSIS-CAT演習①では、NACSIS-CAT入門として、目録所在情報サービス、共同目録作業、NACASIS-CATの個々のフィールド、記述ブロックを説明する。また、ヨミの規則、分かち書きについて学ぶ。

12. NACSIS-CAT演習②では、総合目録データベース検索の目的、図書登録総論、図書所蔵登録について例題をもとに説明する。

13. NACSIS-CAT演習③では、図書登録総論、所蔵登録、書誌流用入力(書誌階層なし)について例題をもとに説明する。

14. NACSIS-CAT演習④では、書誌流用入力(書誌階層あり)、総合目録データベースからの書誌流用入力について例題をもとに説明する。さらに「日本目録規則2018年版」への変更について説明する。

15. 国立情報学研究所の新しいNACSIS-CATシステムについて説明する。学習到達度確認テストを実施する。

特記事項: なし

授業方法: 【すべての授業を対面で行う】
1. 講義 目録とは、目録規則とは、「日本目録規則1987年版改訂第3版」の概要、「日本目録規則2018年版」の概要
2. 講義 書誌記述に必要な事項、単行書の定義、本タイトルのとらえ方、タイトル関連情報とは
3. 講義 責任表示とは、版に関する事項、複数作品を収録する図書の書誌記述
4. 講義 出版地、出版者、出版年
5. 講義 ページ数、大きさ、付属資料、シリーズに関する事項、シリーズもの、セットもの
6. 講義 注記に関する事項、標準番号、多冊もの、3層の書誌階層をもつもの
7. 演習 単行書やシリーズものの基礎的な書誌記述演習、書誌記述方法のポイントをつかむ
8. 演習 セットもの、多冊もの、3層の書誌階層をもつもの等より複雑な書誌記述演習

9. 講義・演習「日本目録規則2018年版」による書誌記述の概要、雑誌・逐次刊行物などの継続資料の書誌記述
10. 講義・演習　地図資料および映像資料の書誌記述、書誌ユーティリティを用いた目録作成
11. 講義・演習 目録所在情報サービス、共同目録作業、NACSIS-CAT入門、NACSIS-CAT演習①：NACSIS-CATの基礎、ヨミの規則、分かち書き
12. 講義・演習 NACSIS-CAT演習②：NACSIS-CAT図書検索の目的、図書登録総論、図書所蔵登録
13. 演習 NACSIS-CAT演習③：図書所蔵登録の実際、書誌流用入力（書誌階層なし）の手順
14. 演習 NACSIS-CAT演習④：書誌流用入力（書誌階層あり）の手順、総合目録データベースからの図書流用入力
15. 演習 国立情報学研究所のNACSIS-CAT新システムについて、学習到達度確認テストの実施

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. 授業内容の復習（20分）
授業用資料をもとに、単行書の定義、本タイトルとタイトル関連情報の書誌記述を予習しておくこと（20分）
2. 授業内容の復習（20分）
授業用資料をもとに、責任表示と版に関する事項の書誌記述を予習しておくこと（20分）
3. 授業内容の復習（20分）
授業用資料をもとに、出版・頒布に関する事項の書誌記述を予習しておくこと（20分）
4. 授業内容の復習（20分）
授業用資料をもとに、形態に関する事項とシリーズに関する事項の書誌記述を予習しておくこと（20分）
5. 授業内容の復習（20分）
授業用資料をもとに、注記に関する事項と標準番号の書誌記述を予習しておくこと（20分）
6. 授業内容の復習（20分）
授業用資料をもとに、本タイトルから標準番号までの基礎的な書誌記述全体を予習しておくこと（20分）
7. 授業内容の復習（20分）
授業用資料をもとに、セットもの、多冊もの、3層の書誌階層をもつものの書誌記述について予習しておくこと（30分）
8. 授業内容の復習（20分）
授業用資料をもとに、「日本目録規則2018年版」による書誌記述の概要、継続資料の書誌記述について予習しておくこと（30分）
9. 授業内容の復習（20分）
授業用資料をもとに、地図資料の書誌記述、映像資料の書誌記述について予習しておくこと（30分）
10. 授業内容の復習（20分）
授業用資料をもとに、NACSIS-CATによる目録作成、共同目録作業、NACSIS-CATの基礎について予習しておくこと（30分）
11. 授業内容の復習（20分）
授業用資料をもとに、NACSIS-CAT総合目録データベースの検索について予習しておくこと（30分）
12. 授業内容の復習（20分）
授業用資料をもとに、NACSIS-CAT所蔵登録および書誌流用入力（書誌階層なし）について予習しておくこと（30分）
13. 授業内容の復習（20分）
授業用資料をもとに、NACSIS-CAT書誌流用入力（書誌階層あり）と総合目録データベースからの流用入力について予習しておくこと（30分）
14. 授業内容の復習（20分）
授業用資料をもとに、NACSIS-CATの新システムについて予習しておくこと、学習到達度確認テストの準備（45分）
15. 授業内容の復習（20分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	30	**%**	**確認テスト：**	30	**%**	**レポート：**	40 **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準：

最低限の到達度：60～69点
①授業への取り組み、演習に対する姿勢・関心・意欲等については、基本的で普通の参加がなされている。
②確認テストについて、演習の学習内容をある程度理解している。
③課題・レポートについて、記述目録法に従って、記述対象資料の情報資源から、書誌記述を作成する基礎的な技術が修得できている。日本目録規則に従った書誌記述法を理解し、書誌ユーティリティを利用した目録作成法を理解している。
望ましい到達度：80～100点
①授業への取り組み、演習に対する姿勢、関心、意欲等については、自ら進んで積極的に発表や質問をする授業参加がなされている。
②確認テストについて、演習の学習内容を十分理解している。
③課題・レポートについて、記述目録法に従って、記述対象資料の情報資源から、複雑な書誌記述を作成する技術が修得できている。日本目録規則に従った書誌記述法をよく理解し、書誌ユーティリティを利用した目録作成法を十分理解している。

課題へのフィードバック：

課題（試験・レポート等）へのフィードバックは、授業時にその都度行う。課題・レポートは、Microsoft Teamsを用いて提出することとし、各人に採点結果とコメントをフィードバックする。また、学習到達度確認テストについては、採点後に講評する。

教科書：

テキストはこちらで準備する。授業用資料としてパワーポイントで作成した資料、参考資料を準備し、事前にMicrosoft Teamsに公開するので、これを必ず使用すること。

参考書：

那須雅熙, 蟹瀬智弘著『情報資源組織論及び演習』第3版（ライブラリー図書館情報学9） 学文社 2020 ISBN978-4-7620-3012-3
竹之内禎 [ほか] 編著『情報資源組織演習 : 情報メディアへのアクセスの仕組みを作る』初版 （講座・図書館学11） ミネルヴァ書房 2016 ISBN978-4-623-07645-1

授業・準備学習のアドバイス：

1. 図書資料を中心とした情報資源の書誌記述作成について、授業計画にあるように毎回段階的に新しい内容を学ぶので、欠席すると全体のつながりが理解できなくなり、書誌記述が作成できなくなる。毎回授業に出席することが望ましい。
2. この授業は、細かな記述規則への理解が必要で、例外処理も多く説明に時間をかける。授業中によく聞いて必ず復習し、書誌記述のコツを十分理解しておくことが必要である。
3. 授業用パワーポイント資料と参考資料は、毎週の授業までにMicrosoft Teamsに公開する。授業時に必ず参照できるようにしておくこと。
4. Microsoft Teamsに受講生へのお知らせ、課題・レポート、試験についての重要な連絡を掲出するので、毎週授業日までに必ず確認すること。
5. 授業の内容に不明な点があれば、授業後に直接質問することが望ましいが、時間がない時はMicrosoft Teamsのチャットで質問すること。
6. 授業で提示された課題・レポートは、提出期日までにMicrosoft Teamsで提出すること。
7. この授業は、授業への取り組み、課題・レポート、学習到達度確認テストの各評価を合算した総合評価とする。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 図書館サービス特論

クラス: 司

授業コード: BS12400001

担当者: 丸尾 恵子 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立図書館司書

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的:
1. 図書館サービスの児童サービス、集会活動、広報活動について演習・実技を中心にその手法を学ぶ。
2. 図書館サービスのYAサービス、障害者サービス、高齢者サービス、多文化サービスについて基本的事項を学ぶ。
3. 公共図書館における図書館サービスの現状を調査し、今後の課題などを考察する。

到達目標:
1. 絵本の読み聞かせ・ブックトーク・ストーリーテリング等に関する知識・技術を習得する。
2. YAサービス・障害者サービス・高齢者サービス・多文化サービスの基礎的知識を習得する。
3. 集会活動・広報活動等の演習を通じて、図書館サービスの実務について理解を深める。
4. さまざまな図書館サービスについて、調査・発表をとおして理解を深める。

各回の授業計画:

1. ガイダンス 図書館サービスについて
2. 児童サービス(1)絵本① 絵本の選び方・読み方
3. 児童サービス(2)絵本② 読みきかせ演習
4. 児童サービス(3)絵本③ 読みきかせ演習
5. 児童サービス(4)ブックトーク① ブックトークの方法
6. 児童サービス(5)ブックトーク② 演習
7. 児童サービス(6)ブックトーク③ 演習
8. 児童サービス(7)ストーリーテリング
9. 児童サービス(8)レファレンス
10. YAサービス
11. 障害者サービス
12. 高齢者サービス・多文化サービス
13. 図書館の集会活動(1)イベントの企画・立案
14. 図書館の集会活動(2)図書展示
15. 図書館の広報活動・まとめ

特記事項: なし

授業方法: 授業はすべて対面で実施する。
1. 講義
2. 講義
3. 演習
4. 演習
5. 講義
6. 演習
7. 演習
8. 講義
9. 講義
10. 講義
11. 講義
12. 講義
13. 講義・演習
14. 講義・演習
15. 講義・演習・まとめ

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 配布資料に記載された絵本を事前に読んでおく。(240分)

2. 絵本について予習・復習（120分）
3. 絵本の課題・読み聞かせ演習準備（240分）
4. 絵本の読み聞かせ演習準備（180分）
5. ブックトークについて復習（120分）
6. ブックトーク演習準備（240分）
7. ブックトーク演習準備（240分）
8. ストーリーテリングについて予習・復習（120分）
9. 児童のレファレンスについて予習・復習（120分）
10. YAサービスについて予習・復習（120分）
11. 障害者サービスについて予習・復習（120分）
12. 高齢者サービス・多文化サービスについて予習・復習（120分）
13. 図書館の集会活動について予習・復習（120分）
14. 図書館の集会活動について予習・復習、課題レポート作成（240分）
15. 図書館の広報活動について予習・復習、課題レポート作成（360分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	40	**%**	**確認テスト：**	－	**%**	**レポート：**	60 **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準：

・授業への取り組み
授業態度・演習等、総合的に評価する。
・レポート
期末課題レポートによって評価する。

【最低限の到達度（60～69点）】
図書館サービスの意義を概ね理解し、自身の意見を述べることができる。
【望ましい到達度（80～100点）】
図書館サービスの意義を深く理解し、自分の考察を的確に述べることができる。

課題へのフィードバック：

・期末課題レポートについては、記述内容に講評を行い返却する。
・上記以外の課題については、講義内でフィードバックを行う。

教科書： なし。講義資料を用意する。

参考書：

・金沢みどり著『図書館サービス概論』第2補訂版（ライブラリー図書館情報学5）学文社　2023年
ISBN 978-4-7620-3212-7
・望月道浩、平井歩美著『児童サービス論』（ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望7）学文社　2015年
ISBN 978-4-7620-2197-8
・その他：適宜、授業中に紹介する。

授業・準備学習のアドバイス：

・日頃から児童書を手に取る機会を増やすように、こころがけてください。
・近隣の図書館に実際に足を運んで、どのようなサービスがあるのか調べてみましょう。
・インターネット・書籍・新聞・雑誌等で、図書館に関連する情報を積極的に収集しましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 図書・図書館史

クラス: 司

授業コード: BS12500001

担当者: 笹倉 剛 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:図書館実務経験あり

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: この授業は、紀元前から近代まで、文字・紙・図書・図書館の歴史をたどる内容である。図書館の仕事に携わる者として、基礎的な知識である図書や図書館の歴史を知ることは、様々な判断や決断が必要な場合に欠くことのできないものである。例えば、紙の発明とその伝播ルートはどうなっていたのか、グーテンベルクの印刷術以前と以後では、どのような文化的・社会的変化がもたらされたのかという当時の状況を知ることによって、現在取り扱っている図書や図書館についてより深く理解することができ、司書という専門職としての資質を身につけることができると考える。授業の流れとしては、テキストの『図書・図書館史』(樹村房)について、各グループごとのの発表を基本とし、それについて協議を行う。その次に、県内の図書館をグループごとに訪問し、各図書館で調べたことやインタビューしたことなどを発表する。

到達目標: 図書に代表される情報資源のメディア史、それらを収集保存してきた図書館の歴史的発展について、欧米、中国、日本を中心に学び、私たちの身近にある図書や図書館がどのように発展してきたかを理解することを到達目標とする。また、授業については、「なぜ、そうなったのか」、「それにはどういう状況があったからなのか」「歴史はなぜ繰り返すのか」という疑問と興味を持って受講する必要がある。過去からの情報資源に関する歴史的知識を身につけることは、今後の図書や図書館がどうなるのか、また、本来どうあるべきかという思考法を身につけることにつながるからである。また、県内の図書館事情を調べることで、身近な図書館の理解を深める。

各回の授業計画:

1. 授業の概要簿オリエンテーション、1章「知識集積の形・知識の蓄積」、2章「ギリシャ思想とローマの図書館」について学習する。
2. 3章「古代中国の図書館」、4章「インド・ナーランダ大学図書館と仏教伝播」について学習する。
3. 5章「古代日本の図書館」、6章「宗教図書館と大学」について学習する。
4. 7章「宋・元代の図書館と中世日本の文庫」、8章「ルネッサンスと図書館思想」について学習する。
5. 9章「近世日本の文庫活動」、10章「明の永楽大典と清の四庫全書」について学習する。
6. 11章「近代社会と図書館」、12章「日本の近代化と図書館」について学習する。
7. 13章「20世紀の図書館」、14章「第二次世界大戦後の日本社会の動きと図書館」について学習する。
8. 15章「これからの図書館」、これ以後の課題についてオリエンテーションを実施する。
9. 県内の図書館について調査・研究した内容について発表する。(第1回目)
10. 県内の図書館について調査。研究した内容について発表する。(第2回目)
11. 県内の図書館について調査。研究した内容について発表する。(第3回目)
12. 県内の図書館について調査・研究した内容について発表する。(第4回目)
13. 県内の図書館について調査。研究した内容について発表する。(第5回目)
14. 日本の特徴ある図書館について数館を紹介する。
15. 世界の特徴ある図書館について、数館を紹介する。まとめと課題。

特記事項: なし

授業方法:
1. 講義 授業の概要簿オリエンテーション、1章「知識集積の形·知識の蓄積」、2章「ギリシャ思想とローマの図書館」
2. 演習・発表 3章「古代中国の図書館」、4章「インド·ナーランダ大学図書館と仏教伝播」
3. 演習・発表 5章「古代日本の図書館」、6章「宗教図書館と大学」
4. 演習・発表 7章「宋·元代の図書館と中世日本の文庫」、8章「ルネッサンスと図書館思想」
5. 演習・発表 9章「近世日本の文庫活動」、10章「明の永楽大典と清の四庫全書」
6. 演習・発表 11章「近代社会と図書館」、12章「日本の近代化と図書館」
7. 演習・発表 13章「20世紀の図書館」、14章「第二次世界大戦後の日本社会の動きと図書館」
8. 演習・発表 15章「これからの図書館」、これ以後の課題についてオリエンテーションを実施
9. 演習・発表 県内の図書館について調査・研究した内容について発表(第1回目)
10. 演習・発表 県内の図書館について調査・研究した内容について発表(第2回目)
11. 演習・発表 県内の図書館について調査・研究した内容について発表(第3回目)
12. 演習・発表 県内の図書館について調査・研究した内容について発表(第4回目)
13. 演習・発表 県内の図書館について調査・研究した内容について発表(第5回目)
14. 演習・発表 日本の特徴ある図書館を数館を紹介
15. 演習・発表 世界の特徴ある図書館について、数館を紹介。まとめと課題。

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

授業内容について、各回テキストの内容の予習を行うこと。さらに毎回の授業内容について復習を行うこと（90分）。
あらかじめ与えられた課題について調査・研究すること。9回目から14回目までは、あらかじめ課題について調査・研究を実施すること。

評価方法：

授業へのとりくみ：	40 **%**	**確認テスト：**	0 **%**	**レポート：**	60 **%**
その他1：			**%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

最低限の到達度：60～69点
①授業への取り組み、授業に対する姿勢・関心・意欲等については基本的で普通の授業参加がなされている。
②学習到達度確認テストについて、図書・図書館史の学習内容をある程度理解している。
③レポートについて、歴史的時代背景について十分理解できていない部分もあるが、欧米や中国、日本の図書・図書館史の概略は理解している。また、図書・図書館の歴史的な流れが現代の図書館のどのような機能につながってきたかを概ね理解している。
望ましい到達度：80～100点
①授業への取り組み、授業に対する姿勢・関心・意欲等については、積極的に発表や質問をする授業参加がなされている。
②調査・研究資料について、図書・図書館史の学習内容を十分深めている。
③レポートについて、歴史的時代背景を十分理解している。欧米や中国、日本の図書・図書館史全体についてもよく理解できている。また、図書・図書館の歴史的な流れが現代の図書館のどのような機能につながってきたかをよく理解している。

課題へのフィードバック：

調査・研究資料の課題は、あらかじめ調査研究したことを発表する。課題およびレポートは、Microsoft Teamsを用いて提出することとし、各人にフィードバックする。

教科書：

『図書・図書館史』高山正也・植松貞夫 監修、樹村房（現代図書館情報学シリーズ…11）
授業用資料としてパワーポイントで作成した資料、参考資料を準備し、毎週の授業までにMicrosoft Teamsに公開するので、授業時に参照できるようにしておくこと、また、予習・復習の際に必ず使用すること。

参考書：

三浦太郎編著『図書・図書館史：図書館発展の来し方から見えてくるもの』（講座 図書館情報学12）ミネルヴァ書房 2019 ISBN978-4-623-08472-2
佃一可編『図書・図書館史』（現代図書館情報学シリーズ11）樹村房 2012 ISBN978-4-88367-211-0
樺山紘一編『図説 本の歴史』河出書房新社 2011 ISBN978-4-309-76169-5

授業・準備学習のアドバイス：

1. 授業用パワーポイント資料と参考資料は、毎週の授業までにMicrosoft Teamsに公開する。授業時に必ず参照できるようにしておくこと。
2. Microsoft Teamsに受講生へのお知らせ、課題・レポート、試験についての重要な連絡を掲出するので、毎週授業日までに必ず確認すること。
3. 授業の内容に不明な点があれば、授業後に直接質問することが望ましいが、時間がない時はMicrosoft Teamsのチャットで質問すること。
4. 授業で提示された課題・レポートは、提出期日までにMicrosoft Teamsで提出すること。
5. この授業は、授業への取り組み、課題・レポート、学習到達度確認テストの各評価を合算した総合評価とする。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 図書館施設論

クラス: 司

授業コード: BS12600001

担当者: 丸尾 恵子 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立図書館司書

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 地域の情報拠点であり、人々の集う建物である図書館において、より快適なサービスを提供するために、図書館施設整備に必要な地域計画、建築計画、環境整備等について学ぶ。

到達目標:
1. 図書館の役割を認識し、図書施設について基本的な知識を習得する。
2. 図書館サービスの観点から、施設や資料の維持管理について学ぶ。
3. 先進的な図書館施設の事例等を踏まえて、地域計画・建築計画について考察する。

各回の授業計画:

1. 図書館建築の歴史
2. 図書館の地域計画
3. 図書館の建設(1)発意・企画・計画
4. 図書館の建設(2)設計・施工
5. 図書館の建築計画(1)全体構成
6. 図書館の建築計画(2)利用部門(一般開架室・児童開架室等)
7. 図書館の建築計画(3)管理部門(書庫・管理業務スペース)
8. 館内環境の計画(1)家具・備品
9. 館内環境の計画(2)サイン
10. 館内環境の計画(3)室内環境要素
11. 図書館の維持管理(1)維持管理
12. 図書館の維持管理(2)防災計画
13. 図書館建築の事例(1)
14. 図書館建築の事例(2)
15. 図書館施設の評価・発表・まとめ

特記事項: なし

授業方法: 授業はすべて対面で実施する。
1. 講義
2. 講義
3. 講義
4. 講義
5. 講義
6. 講義
7. 講義
8. 講義
9. 講義
10. 講義
11. 講義
12. 講義
13. 講義
14. 講義
15. 講義・発表・討議

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 図書館施設の歴史について予習・復習(120分)
2. 図書館の地域計画について予習・復習(180分)
3. 図書館の建設(1)について予習・復習(180分)

4. 図書館の建設(2)について予習・復習(180分)
5. 図書館の建築計画(1)全体構成について予習・復習(180分)
6. 図書館の建築計画(2)利用部門について予習・復習(120分)
7. 図書館の建築計画(3)管理部門について予習・復習(120分)
8. 館内環境の計画(1)家具・備品について予習・復習(120分)
9. 館内環境の計画(2)サインについて予習・復習(180分)
10. 館内環境の計画(3)室内環境要素について予習・復習(120分)
11. 図書館の維持管理(1)維持管理について予習・復習(180分)
12. 図書館の維持管理(2)防災計画について予習・復習(180分)
13. 図書館建築の事例(1)について予習・復習(120分)課題レポート作成(360分)
14. 図書館建築の事例(2)について予習・復習(180分)
15. 1～15までの上記講義内容について復習・発表準備(180分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	30	**%**	**確認テスト:**	-	**%**	**レポート:**	70 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準:

・授業への取り組み
授業態度、課題、発表等、総合的に評価する。
・レポート
期末課題レポートによって評価する。

【最低限の到達度(60～69点)】
図書館施設の基本的事項について理解している。
【望ましい到達度(80～100点)】
図書館施設の役割・機能について充分理解・考察できる。

課題へのフィードバック:

期末課題レポートについては、記述内容に講評を行い返却する。

教科書: なし。講義資料を用意する。

参考書:

・植松貞夫著『図書館施設論 』(現代図書館情報学シリーズ12) 樹村房 2019年
ISBN 978-4-88367-212-7
・中井孝幸、川島宏、柳瀬寛夫共著『図書館施設論 』(JLA図書館情報学テキストシリーズⅢ 12)2020年
ISBN 978-4-8204-1917-4
・その他:適宜、授業中に紹介する。

授業・準備学習のアドバイス:

・講義の前後は配布した資料で予習・復習をしておいてください。
・レポート作成については、関連資料を参考にしながら、自分の言葉で見解を述べてください。
・図書館施設やそれに関連するサービスを学ぶために、公共図書館を実際に訪れ、施設を見学・利用する機会をつくるようにしてください。

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 学校経営と学校図書館

クラス: 司教

授業コード: BS20100001

担当者: 末廣 てるの **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:学校図書館司書教諭経験有、デジタル推進委員(デジタル庁)、教育委員会ICT支援員

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 学校図書館の歴史や法律、運営方法から、デジタル化が進む教育現場で「探究」や「対話」を支えるための教育的な役割までを体系的に学ぶことで、変化の激しい現代社会において「学校図書館の根本」を捉え、自律的に判断し行動できる司書教諭としての基礎を身につける。

到達目標:
1. 学校経営の基本概念と学校図書館の位置づけ、学校図書館司書教諭の役割や学校図書館の意義を理解している。
2. 学校経営と学校図書館に関する課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現をグループで行い、他者の意見を尊重し自らの学びを深めることができる。
3. グループワークに積極的に参加し、学校図書館の価値や改善点について自らの考えを持つことができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション、司書教諭の専門性と理論的学習の意義
2. 東日本大震災後の社会と専門知の民主化
3. 対話と省察による「学びの形」の再構築
4. 新しい知識観とメディアを通じた知の自律的生成と循環
5. 学校教育改革の進展と学校図書館
6. アメリカにおける学校図書館の発展と「基準」の変遷
7. 日本の学校図書館史と法制度の変遷
8. 統計から見る日本の学校図書館の現状
9. 学校図書館の読書センター、学習情報センターとその他の機能
10. テクニカル・サービスと利用者サービス
11. 探究のプロセスの指導と自律し自立した学習者の育成
12. 学校内の協力体制と司書教諭の専門性
13. マネジメント・サイクルによる組織運営と評価
14. GIGAスクール構想に対応した空間設計
15. まとめと確認ー授業の振り返り、学習ポートフォリオの評価、確認テストー

特記事項:
・授業は対面授業を基本とする。
・場合によってはオンライン授業を実施する。
・授業時には毎回教科書・パソコンを持参する。
・事前に教科書・参考文献を読んでおく。
・事前学習、事後学習に取り組む。

授業方法: 授業は基本的に対面授業を実施

1. オリエンテーション、講義、グループワーク (対面)
2. 講義、グループワーク、Teamsテスト、(イヤフォン持参)(対面)
3. 講義、グループワーク (オンライン)
4. 講義、グループワーク (対面)
5. 講義、グループワーク (対面)
6. 講義、グループワーク (対面)
7. 講義、グループワーク (対面)
8. 講義、グループワーク (対面)
9. 講義、グループワーク (対面)
10. 講義、グループワーク (対面)
11. 講義、グループワーク (対面)
12. 講義、グループワーク (対面)
13. 講義、グループワーク (対面)
14. 講義、グループワーク (対面)

15. 講義、グループワーク（対面）

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1【事前】第1章を精読。自らの出身校の学校図書館について活用状況を振り返り、200字程度にまとめる。（90分）
【事後】日本の司書教諭制度の概要をまとめる。（90分）
2【事前】第2章を精読。専門知に対する信頼が揺らいだ事例を挙げ、それが社会与えた影響を200字程度にまとめる。（90分）
【事後】現代社会において「情報リテラシー」がなぜ「市民的な徳（市民の自律性）」として求められるのかをまとめる。（90分）
3【事前】第3章を精読。「系統学習（教科書中心の学習）」と「参加型・協働型学習」の違いについてまとめる。（90分）
【事後】「正解」を教える教育から、対話を通じて思考を育てる教育へと転換するために、学校図書館ができる支援策を記述する。（90分）
4【事前】第4章を精読。一人一台端末の学習環境が、子どもの情報検索の方法やまとめ方をどのように変えたかをまとめる。（90分）
【事後】「知を自律的に生成する場」としての学校図書館で司書教諭が果たすべき「専門的な媒介」の役割についてまとめる。（90分）
5【事前】資料3「図書館の自由に関する宣言」（P215-）、資料4「IFLAユネスコ学校図書館宣言」（P218-）を読みまとめる。（90分）
【事後】コンピテンシーへの教育改革において、学習指導要領で示されている三つの柱（P74 ）についてまとめる。（90分）
6【事前】第6章を精読。アメリカの学校図書館の歴史をその質的変化と共に年表形式でまとめる。5gt（90分）
【事後】「AASL学習者基準フレームワーク」に匹敵する能力を学習指導要領、学校図書館ガイドライン等からまとめる。（90分）
7【事前】第7章を精読。「学校図書館法」制定から、司書教諭配置義務化に至るまでの歴史的経緯を年表形式でまとめる。（90分）
【事後】1990年代以降の「読書推進」と「情報活用能力」の重視が、現在の学校図書館に与えた影響についてまとめる。（90分）
8【事前】文科省「学校図書館の現状に関する調査」（令和2年度）を参照し、Ⅲ学校図書館及び読書活動の状況をまとめる。（90分）
【事後】学校図書館活用の現状と課題についてまとめる。（90分）
9【事前】第9章を精読。IFLA「ユネスコ学校図書館宣言」（巻末資料４）を読み、項目ごとにまとめる。（90分）
【事後】学校図書館の目的と機能をまとめ、「読書バリアフリー」の実現のために図書館が備えるべき資料や配慮事項を提案する。（90分）
10【事前】第10章を精読。NDC（日本十進分類法）の体系をまとめ、NDCが利用者の利便性を高めている要因を記述する。（90分）
【事後】教員の授業改善や教材準備を支援するため、司書教諭による情報サービス案を作成する。（90分）
11【事前】第11章を精読。探究の各過程において、図書館資料がどのように活用されるべきかをまとめる。（90分）
【事後】「ティーム・ティーチング」で、司書教諭が「自律し自立した学習者」を育てるための役割分担を具体的に記述する。（90分）
12【事前】第12章を精読。「司書教諭」と「学校司書」の法的な位置づけの違いと学校現場での役割分担についてまとめる。（90分）
【事後】司書教諭が「専門的な知識やスキルを新たにしていくこと」が求められる理由を、メディア環境と関連付けて述べる。（90分）
13【事前】第13章を精読。学校図書館の運営における「PDCAサイクル」とは何か、また、「戦略的計画」を立てる意義をまとめる。（90分）
【事後】「多角的な評価」を行うために、どのような評価指標を設定すべきか、学校図書館の目的に照らして作成する。（90分）
14【事前】第14章を精読。一人一台端末環境において、「学校図書館」という空間が持つべき「アフォーダンス」について記述する。（90分）
【事後】「居心地の良い空間」と「学習情報センター」としての機能を両立させる理想的な学校図書館のレイアウト案を構想する。（90分）
15【事前】既習の理論と現状から、司書教諭として自律的に判断し行動するためのビジョンを1,200字程度にまとめる。（120分）
【事後】到達目標が達成できたか自己評価をする。（60分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	40	**%**	**確認テスト：**	30	**%**	**レポート：**	30 **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準：

・学校図書館の教育的意義を理解し、基本的な検索ツールを自力で操作して必要な資料を入手できる。（60～69）
・学習者の視点に立ち、情報活用能力の育成に必要な資料の紹介や整理方法について指導案を作成できる。（60～69）
・グループワークに積極的に貢献し、情報を正しく扱い、出所を明らかにすることを常に意識して、情報を吟味・活用しようとする。（80～100）
・授業への出席・貢献度、レポートの提出、課題テストを重視する。

課題へのフィードバック：

提出されたレポート課題に解説を加える。コメントでフィードバックする。

教科書： 『改訂 学校経営と学校図書館』（司書教諭テキストシリーズⅡ…1）中村 百合子編

参考書：

・小学校、中学校、高等学校学習指導要領・解説
参考URL：https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm
・参考書・参考文献、参考URLは、授業中に適宜配信する。

授業・準備学習のアドバイス：

・教科書に掲載されている参考文献を参考にする。
・様々な図書館を訪れたり、図書館のHPを検索したりして図書館の設計や機能について学ぶ。
・小・中・高等学校の教科書や絵本、単行本、新聞、図鑑、白書、視聴覚資料等に関心を持ち、普段から目を通しておく。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 学校経営と学校図書館

クラス: 司教

授業コード: BS20100002

担当者: 末廣 てるの **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:学校図書館司書教諭経験有、デジタル推進委員(デジタル庁)、教育委員会ICT支援員

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 学校図書館の歴史や法律、運営方法から、デジタル化が進む教育現場で「探究」や「対話」を支えるための教育的な役割までを体系的に学ぶことで、変化の激しい現代社会において「学校図書館の根本」を捉え、自律的に判断し行動できる司書教諭としての基礎を身につける。

到達目標:
1. 学校経営の基本概念と学校図書館の位置づけ、学校図書館司書教諭の役割や学校図書館の意義を理解している。
2. 学校経営と学校図書館に関する課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現をグループで行い、他者の意見を尊重し自らの学びを深めることができる。
3. グループワークに積極的に参加し、学校図書館の価値や改善点について自らの考えを持つことができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション、司書教諭の専門性と理論的学習の意義
2. 東日本大震災後の社会と専門知の民主化
3. 対話と省察による「学びの形」の再構築
4. 新しい知識観とメディアを通じた知の自律的生成と循環
5. 学校教育改革の進展と学校図書館
6. アメリカにおける学校図書館の発展と「基準」の変遷
7. 日本の学校図書館史と法制度の変遷
8. 統計から見る日本の学校図書館の現状
9. 学校図書館の読書センター、学習情報センターとその他の機能
10. テクニカル・サービスと利用者サービス
11. 探究のプロセスの指導と自律し自立した学習者の育成
12. 学校内の協力体制と司書教諭の専門性
13. マネジメント・サイクルによる組織運営と評価
14. GIGAスクール構想に対応した空間設計
15. まとめと確認ー授業の振り返り、学習ポートフォリオの評価、確認テストー

特記事項:
・授業は対面授業を基本とする。
・場合によってはオンライン授業を実施する。
・授業時には毎回教科書・パソコンを持参する。
・事前に教科書・参考文献を読んでおく。
・事前学習、事後学習に取り組む。

授業方法: 授業は基本的に対面授業を実施

1. オリエンテーション、講義、グループワーク (対面)
2. 講義、グループワーク、Teamsテスト、(イヤフォン持参)(対面)
3. 講義、グループワーク (オンライン)
4. 講義、グループワーク (対面)
5. 講義、グループワーク (対面)
6. 講義、グループワーク (対面)
7. 講義、グループワーク (対面)
8. 講義、グループワーク (対面)
9. 講義、グループワーク (対面)
10. 講義、グループワーク (対面)
11. 講義、グループワーク (対面)
12. 講義、グループワーク (対面)
13. 講義、グループワーク (対面)
14. 講義、グループワーク (対面)

15. 講義、グループワーク（対面）

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1【事前】第1章を精読。自らの出身校の学校図書館について活用状況を振り返り、200字程度にまとめる。（90分）
【事後】日本の司書教諭制度の概要をまとめる。（90分）
2【事前】第2章を精読。専門知に対する信頼が揺らいだ事例を挙げ、それが社会与えた影響を200字程度にまとめる。（90分）
【事後】現代社会において「情報リテラシー」がなぜ「市民的な徳（市民の自律性）」として求められるのかをまとめる。（90分）
3【事前】第3章を精読。「系統学習（教科書中心の学習）」と「参加型・協働型学習」の違いについてまとめる。（90分）
【事後】「正解」を教える教育から、対話を通じて思考を育てる教育へと転換するために、学校図書館ができる支援策を記述する。（90分）
4【事前】第4章を精読。一人一台端末の学習環境が、子どもの情報検索の方法やまとめ方をどのように変えたかをまとめる。（90分）
【事後】「知を自律的に生成する場」としての学校図書館で司書教諭が果たすべき「専門的な媒介」の役割についてまとめる。（90分）
5【事前】資料3「図書館の自由に関する宣言」（P215-）、資料4「IFLAユネスコ学校図書館宣言」（P218-）を読みまとめる。（90分）
【事後】コンピテンシーへの教育改革において、学習指導要領で示されている三つの柱（P74 ）についてまとめる。（90分）
6【事前】第6章を精読。アメリカの学校図書館の歴史をその質的変化と共に年表形式でまとめる。5gt（90分）
【事後】「AASL学習者基準フレームワーク」に匹敵する能力を学習指導要領、学校図書館ガイドライン等からまとめる。（90分）
7【事前】第7章を精読。「学校図書館法」制定から、司書教諭配置義務化に至るまでの歴史的経緯を年表形式でまとめる。（90分）
【事後】1990年代以降の「読書推進」と「情報活用能力」の重視が、現在の学校図書館に与えた影響についてまとめる。（90分）
8【事前】文科省「学校図書館の現状に関する調査」（令和2年度）を参照し、Ⅲ学校図書館及び読書活動の状況をまとめる。（90分）
【事後】学校図書館活用の現状と課題についてまとめる。（90分）
9【事前】第9章を精読。IFLA「ユネスコ学校図書館宣言」（巻末資料４）を読み、項目ごとにまとめる。（90分）
【事後】学校図書館の目的と機能をまとめ、「読書バリアフリー」の実現のために図書館が備えるべき資料や配慮事項を提案する。（90分）
10【事前】第10章を精読。NDC（日本十進分類法）の体系をまとめ、NDCが利用者の利便性を高めている要因を記述する。（90分）
【事後】教員の授業改善や教材準備を支援するため、司書教諭による情報サービス案を作成する。（90分）
11【事前】第11章を精読。探究の各過程において、図書館資料がどのように活用されるべきかをまとめる。（90分）
【事後】「ティーム・ティーチング」で、司書教諭が「自律し自立した学習者」を育てるための役割分担を具体的に記述する。（90分）
12【事前】第12章を精読。「司書教諭」と「学校司書」の法的な位置づけの違いと学校現場での役割分担についてまとめる。（90分）
【事後】司書教諭が「専門的な知識やスキルを新たにしていくこと」が求められる理由を、メディア環境と関連付けて述べる。（90分）
13【事前】第13章を精読。学校図書館の運営における「PDCAサイクル」とは何か、また、「戦略的計画」を立てる意義をまとめる。（90分）
【事後】「多角的な評価」を行うために、どのような評価指標を設定すべきか、学校図書館の目的に照らして作成する。（90分）
14【事前】第14章を精読。一人一台端末環境において、「学校図書館」という空間が持つべき「アフォーダンス」について記述する。（90分）
【事後】「居心地の良い空間」と「学習情報センター」としての機能を両立させる理想的な学校図書館のレイアウト案を構想する。（90分）
15【事前】既習の理論と現状から、司書教諭として自律的に判断し行動するためのビジョンを1,200字程度にまとめる。（120分）
【事後】到達目標が達成できたか自己評価をする。（60分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	40	**%**	**確認テスト：**	30	**%**	**レポート：**	30 **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準：

・学校図書館の教育的意義を理解し、基本的な検索ツールを自力で操作して必要な資料を入手できる。（60～69）
・学習者の視点に立ち、情報活用能力の育成に必要な資料の紹介や整理方法について指導案を作成できる。（60～69）
・グループワークに積極的に貢献し、情報を正しく扱い、出所を明らかにすることを常に意識して、情報を吟味・活用しようとする。（80～100）
・授業への出席・貢献度、レポートの提出、課題テストを重視する。

課題へのフィードバック：

提出されたレポート課題に解説を加える。コメントでフィードバックする。

教科書： 『改訂 学校経営と学校図書館』（司書教諭テキストシリーズⅡ…1）中村 百合子編

参考書：

・小学校、中学校、高等学校学習指導要領・解説
参考URL：https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm
・参考書・参考文献、参考URLは、授業中に適宜配信する。

授業・準備学習のアドバイス：

・教科書に掲載されている参考文献を参考にする。
・様々な図書館を訪れたり、図書館のHPを検索したりして図書館の設計や機能について学ぶ。
・小・中・高等学校の教科書や絵本、単行本、新聞、図鑑、白書、視聴覚資料等に関心を持ち、普段から目を通しておく。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 学校図書館メディアの構成

クラス: 司教

授業コード: BS20200001

担当者: 塚本 美智子 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:学校図書館司書教諭 主幹教諭

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 学校図書館メディアは印刷メディア、視聴覚メディア、電子メディアなどがあることを知り、それらのメディアの様々な特性を理解する。そして、メディアの選択の意義とその基準を把握し、教育課程の展開に寄与するためにどのようなメディア構成を構築していくかを学ぶ。さらに，図書以外の資料の効果的なファイリングシステムのあり方を考察する。また図書館学の専門的な目録の作成や分類法を中心とした資料の組織化と、件名法、アクセス支援についても理解を深める。

到達目標:
1. 学校図書館メディアの構築(コレクション形成)がいかに大切かを理解する。
2. 学校図書館メディアの種類と特性を理解する。
3. 新学習指導要領をふまえた学校図書館メディアの選択とコレクションの構築ができる資質・知識を身に付ける。
4. 学校図書館メディアを組織化できる能力・技能およびメデイアの生かし方を身に付ける。
5. 目録法、分類法、件名法、アクセス支援など図書館における専門的な技能および検討する資質を身に付ける。

各回の授業計画:

1. 高度情報社会における学校教育と学校図書館メディア 司書教諭養成科目の構成 高度情報社会 情報とメディアの教育的意義 学習環境の変化と学校図書館メディア 生涯学習の基礎となる学校図書館
2. 学習環境の変化と学校図書館メディア 生涯学習の基礎となる学校図書館 新学習指導要領と学校図書館メディアの選択と構築
3. 学校図書館メディアの種類と特性① 学校図書館の役割 印刷メディア、視聴覚メディア
4. 学校図書館メディアの種類と特性② GIGAスクール構想 電子メディア、ネットワーク系メディアの種類 特別な教育的ニーズに応えるメディア メディアセンターとしての学校図書館(パスファインダー)
5. 学校図書館のコレクション構築 コレクション構築の基本 コレクション形成と意義 メディアの選択と収集方針、組織体制「学校図書館メディア基準」
6. 学校図書館メディアの組織化の実際:目録法① 目録の意義 目録の種類と特性 コンピューター時代の目録規則と目録作業 日本目録規則(NCR)
7. 学校図書館メディアの組織化の実際:目録法② 日本目録規則(NCR) 目録作業の実際 オリジナル・カタロギング コピー・カタロギング
8. 学校図書館メディアの組織化の実際:主題索引法①分類法① 分類の意義と考え方 分類作業での分類規定の適用と分類記号の確認 請求記号、図書記号の付与 日本十進分類法(NDC)
9. 学校図書館メディアの組織化の実際:主題索引法①分類② 分類作業での分類規定の適用と分類記号の確認 請求記号、図書記号の付与
10. 学校図書館メディアの組織化の実際:主題索引法②件名標目法① 基本件名標目法(BSH4) 書誌レコードの取り込み MARC 小テスト
11. 学校図書館メディアの組織化の実際:主題索引法②件名標目法② メタ・データの活用 MARCについて 実例での作業 学習件名 演習問題
12. メディアへの物理的アクセス支援 排架法 図書室環境 電子メディアと著作権 他館メディアへの物理的アクセス支援 演習問題
13. メディアへの知的アクセス支援 支援ツールとしての目録データ パスファインダー レファレンスサービス 読書リスト OPACでの検索
14. 学校図書館メディアの構成における課題 学校教育への貢献 コレクション評価 メディアの更新と廃棄 学校図書館担当者、司書教諭としての責任と現状 学校司書との協働 学校図書館の将来
15. まとめとテスト 授業のふり返り 評価テスト

特記事項: なし

授業方法: すべての授業を対面授業で行う
1. 講義、課題レポート 自己紹介と学びの目標発表
2. 講義、課題レポート 第1回課題レポートについての意見交換
3. 講義、課題レポート 第2回課題レポートについての意見交換
4. 講義、課題レポート 第3回課題レポート(パスファインダー作り)取り組み過程の交流
5. 講義、課題レポート パスファインダー発表
6. 講義、課題レポート 第5回課題(アニマシオン)についての意見交換
7. 講義、課題レポート 第6回課題についての意見交換
8. 講義、課題レポート 図書記号演習問題(パソコンで調べ、考察する、意見交換)
9. 講義、課題レポート 第8回課題についての意見交換

10. 講義、アンケートに回答 小テスト 書誌レコード演習問題（パソコンで調べ、考察する、意見交換）
11. 講義、小テスト（用語の説明） 演習問題（パソコンで調べ、考察する、意見交換）
12. 講義、課題レポート 演習問題（パソコンで調べ、考察する、意見交換）
13. 講義、課題レポート 第12回課題（パネルサイン）発表
14. 講義、評価テスト準備　テスト課題の説明
15. 授業のまとめと評価テスト

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

図書館の司書教諭課程の文献を参考にしたり、図書館学の分類・目録等の文献も参考にしたりすること。学習する内容が多いので、各回の授業については、次の内容を教科書で読んでおくこと。授業内容の復習をかね、授業のまとめとアクティブラーニングの課題を出す。（ ）の時間は目安の時間。
1. 学校図書館メディアの意義と役割についてテキストで予習（120分）、本時の復習・課題（60分）
2. 新学習指導要領と学校図書館メディアの選択と構築についてテキストで予習（120分）、本時の復習・課題（60分）
3. 学校図書館メディアの種類と特性①　印刷メディア、視聴覚メディアについてテキストで予習（120分）、本時の復習・課題（60分）
4. 学校図書館メディアの種類と特性②　電子メディア、特別支援のためのメディア等についてテキストで予習（120分）、本時の復習・課題（60分）
5. 学校図書館のコレクション構築についてテキストで予習（120分）、本時の復習・課題（60分）
6. 学校図書館メディアの組織化：目録法を用いたメディアの組織化① 目録の意義 日本目録規則（NCR）についてテキストで予習（120分）、本時の復習・課題（60分）
7. 学校図書館メディアの組織化：目録法を用いたメディアの組織化② 目録の意義 目録データの構成についてテキストで予習（120分）、本時の復習・課題（60分）
8. 学校図書館メディアの組織化：分類法を用いたメディアの組織化① 日本十進分類法（NDC）についてテキストで予習（120分）、本時の復習・課題（60分）
9. 学校図書館メディアの組織化：分類法を用いたメディアの組織化② 分類の意義、分類規定、請求記号などについてテキストで予習（120分）、本時の復習・課題（60分）
10. 学校図書館メディアの組織化：件名標目法を用いたメディアの組織化①　件名法の意義と考え方 件名標目表（BSH4）についてテキストで予習（120分）、小テスト準備（60分）
11. 学校図書館メディアの組織化：件名標目法を用いたメディアの組織化②　件名作業 学習件名についてテキストで予習（120分）、本時の復習・課題（60分）
12. メディアへの物理的アクセス支援 排架法についてテキスト、補助資料で予習（120分）、本時の復習・課題（60分）
13. メディアへの知的アクセス支援　パスファインダー レファレンス 読書リストについて補助資料で予習（120分）、本時の復習・課題（60分）
14. 学校図書館メディアの構成における課題についてテキストで予習（60分）、テストの課題についてまとめる（復習）
15. テストの課題についてまとめた内容を確認しておく（予習）

評価方法：

授業へのとりくみ：	20 **%**	**確認テスト：**	40 **%**	**レポート：**	40 **%**
その他1：			**%**		
その他2：			**%**		

評価基準：
1. 授業参加態度（20%）
2. レポート・小テスト（40%）
3. 期末試験（40%）
※1～3を合算して総合評価する

授業参加態度は、「発表」「メモを取る」「教科書で内容を確認する」「意見交換の場で協力的態度で主体的に参加している」「レポートの提出」など、意欲的に受講できているかどうかで評価する。
課題レポートに関しては、授業内容がどれだけ理解できているのかの具体的なまとめと調べたことや作業過程における自分の考えをどのようにまとめているのかを評価する。また、アクティブラーニングにかかる課題に関しては、根拠のある論述と考察を評価する。未提出の課題には評価点を付与しない。授業に参加できていない回の課題レポートに関しては指示した内容でまとめて提出する。

評価の到達度
・最低限の到達度（60～69点） 学校図書館メディア構成を理解し、どのような種類があるかおよびその役割を知り作業ができている。
・標準の到達度（70～79点） 学校図書館メディアを選択できる目を養い、メディアを学校教育で活用できる資質を身に付けている。
・望ましい到達度（80～100点）学校図書館資料を組織化できる資質を身につけ、効果的に資料を整理・活用できる能力・判断力を身に付けている。

課題へのフィードバック：

・授業時に出された質問については、質問時に全体に向けて回答・説明する。個別に出された質問については質問者に回答・説明する。
・レポート課題は授業の中で指示する。課題に対する質問は、授業後やチャットで受け付け、必要な事柄を回答する。
・提出されたレポートの内容については、次時の講義の中で全体にシェアしたり解説したりする。提出された個々のレポートに対しては、評価をコメントして返却する。

教科書： 『学校図書館メディアの構成』（探求 学校図書館学 第2巻）「探求 学校図書館学」編集委員会 編著 全国学校図書館協議会

参考書： 『学校図書館メディアの構成』（司書教諭テキストシリーズ 02）小田 光宏編 樹村房
『 学校図書館メディアの構成（第二版）』（メディア専門職養成シリーズ2）学文社
『学習指導要領』

授業・準備学習のアドバイス：

図書館や書店に足を運んで、排架の工夫やパネルサイン、ポップなどの掲示物の工夫を調べておく。
特に児童書については、どのようなメディアが受け入れられているのかを知っておくと良い。
学校での学習と直結する学校図書館であることを踏まえ、小中高の学習指導要領や教科書等でどのような学習をしているのかを意識してリサーチしておく。
教育実習などで学校現場に出向くときは、図書館を見学させてもらったり担当者の話を聞かせてもらったりすると良い。
課題レポートに取り組む際には、授業での要点をまとめるとともに自分の考えも書き加えること。
司書教諭の資質として不可欠であるコミュニケーション能力を高めることを意識する。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 学校図書館メディアの構成

クラス: 司教

授業コード: BS20200002

担当者: 塚本 美智子 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:学校図書館司書教諭 主幹教諭

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 学校図書館メディアは印刷メディア、視聴覚メディア、電子メディアなどがあることを知り、それらのメディアの様々な特性を理解する。そして、メディアの選択の意義とその基準を把握し、教育課程の展開に寄与するためにどのようなメディア構成を構築していくかを学ぶ。さらに，図書以外の資料の効果的なファイリングシステムのあり方を考察する。また図書館学の専門的な目録の作成や分類法を中心とした資料の組織化と、件名法、アクセス支援についても理解を深める。

到達目標:
1. 学校図書館メディアの構築(コレクション形成)がいかに大切かを理解する。
2. 学校図書館メディアの種類と特性を理解する。
3. 新学習指導要領をふまえた学校図書館メディアの選択とコレクションの構築ができる資質・知識を身に付ける。
4. 学校図書館メディアを組織化できる能力・技能およびメデイアの生かし方を身に付ける。
5. 目録法、分類法、件名法、アクセス支援など図書館における専門的な技能および検討する資質を身に付ける。

各回の授業計画:

1. 高度情報社会における学校教育と学校図書館メディア 司書教諭養成科目の構成 高度情報社会 情報とメディアの教育的意義 学習環境の変化と学校図書館メディア 生涯学習の基礎となる学校図書館
2. 学習環境の変化と学校図書館メディア 生涯学習の基礎となる学校図書館 新学習指導要領と学校図書館メディアの選択と構築
3. 学校図書館メディアの種類と特性① 学校図書館の役割 印刷メディア、視聴覚メディア
4. 学校図書館メディアの種類と特性② GIGAスクール構想 電子メディア、ネットワーク系メディアの種類 特別な教育的ニーズに応えるメディア メディアセンターとしての学校図書館(パスファインダー)
5. 学校図書館のコレクション構築 コレクション構築の基本 コレクション形成と意義 メディアの選択と収集方針、組織体制「学校図書館メディア基準」
6. 学校図書館メディアの組織化の実際:目録法① 目録の意義 目録の種類と特性 コンピューター時代の目録規則と目録作業 日本目録規則(NCR)
7. 学校図書館メディアの組織化の実際:目録法② 日本目録規則(NCR) 目録作業の実際 オリジナル・カタロギング コピー・カタロギング
8. 学校図書館メディアの組織化の実際:主題索引法①分類法① 分類の意義と考え方 分類作業での分類規定の適用と分類記号の確認 請求記号、図書記号の付与 日本十進分類法(NDC)
9. 学校図書館メディアの組織化の実際:主題索引法①分類② 分類作業での分類規定の適用と分類記号の確認 請求記号、図書記号の付与
10. 学校図書館メディアの組織化の実際:主題索引法②件名標目法① 基本件名標目法(BSH4) 書誌レコードの取り込み MARC 小テスト
11. 学校図書館メディアの組織化の実際:主題索引法②件名標目法② メタ・データの活用 MARCについて 実例での作業 学習件名 演習問題
12. メディアへの物理的アクセス支援 排架法 図書室環境 電子メディアと著作権 他館メディアへの物理的アクセス支援 演習問題
13. メディアへの知的アクセス支援 支援ツールとしての目録データ パスファインダー レファレンスサービス 読書リスト OPACでの検索
14. 学校図書館メディアの構成における課題 学校教育への貢献 コレクション評価 メディアの更新と廃棄 学校図書館担当者、司書教諭としての責任と現状 学校司書との協働 学校図書館の将来
15. まとめとテスト 授業のふり返り 評価テスト

特記事項: なし

授業方法: すべての授業を対面授業で行う
1. 講義、課題レポート 自己紹介と学びの目標発表
2. 講義、課題レポート 第1回課題レポートについての意見交換
3. 講義、課題レポート 第2回課題レポートについての意見交換
4. 講義、課題レポート 第3回課題レポート(パスファインダー作り)取り組み過程の交流
5. 講義、課題レポート パスファインダー発表
6. 講義、課題レポート 第5回課題(アニマシオン)についての意見交換
7. 講義、課題レポート 第6回課題についての意見交換
8. 講義、課題レポート 図書記号演習問題(パソコンで調べ、考察する、意見交換)
9. 講義、課題レポート 第8回課題についての意見交換

10. 講義、アンケートに回答 小テスト 書誌レコード演習問題（パソコンで調べ、考察する、意見交換）
11. 講義、小テスト（用語の説明） 演習問題（パソコンで調べ、考察する、意見交換）
12. 講義、課題レポート 演習問題（パソコンで調べ、考察する、意見交換）
13. 講義、課題レポート 第12回課題（パネルサイン）発表
14. 講義、評価テスト準備 テスト課題の説明
15. 授業のまとめと評価テスト

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

図書館の司書教諭課程の文献を参考にしたり、図書館学の分類・目録等の文献も参考にしたりすること。学習する内容が多いので、各回の授業については、次の内容を教科書で読んでおくこと。授業内容の復習をかね、授業のまとめとアクティブラーニングの課題を出す。（ ）の時間は目安の時間。
1. 学校図書館メディアの意義と役割についてテキストで予習（120分）、本時の復習・課題（60分）
2. 新学習指導要領と学校図書館メディアの選択と構築についてテキストで予習（120分）、本時の復習・課題（60分）
3. 学校図書館メディアの種類と特性① 印刷メディア、視聴覚メディアについてテキストで予習（120分）、本時の復習・課題（60分）
4. 学校図書館メディアの種類と特性② 電子メディア、特別支援のためのメディア等についてテキストで予習（120分）、本時の復習・課題（60分）
5. 学校図書館のコレクション構築についてテキストで予習（120分）、本時の復習・課題（60分）
6. 学校図書館メディアの組織化：目録法を用いたメディアの組織化① 目録の意義 日本目録規則（NCR）についてテキストで予習（120分）、本時の復習・課題（60分）
7. 学校図書館メディアの組織化：目録法を用いたメディアの組織化② 目録の意義 目録データの構成についてテキストで予習（120分）、本時の復習・課題（60分）
8. 学校図書館メディアの組織化：分類法を用いたメディアの組織化① 日本十進分類法（NDC）についてテキストで予習（120分）、本時の復習・課題（60分）
9. 学校図書館メディアの組織化：分類法を用いたメディアの組織化② 分類の意義、分類規定、請求記号などについてテキストで予習（120分）、本時の復習・課題（60分）
10. 学校図書館メディアの組織化：件名標目法を用いたメディアの組織化① 件名法の意義と考え方 件名標目表（BSH4）についてテキストで予習（120分）、小テスト準備（60分）
11. 学校図書館メディアの組織化：件名標目法を用いたメディアの組織化② 件名作業 学習件名についてテキストで予習（120分）、本時の復習・課題（60分）
12. メディアへの物理的アクセス支援 排架法についてテキスト、補助資料で予習（120分）、本時の復習・課題（60分）
13. メディアへの知的アクセス支援 パスファインダー レファレンス 読書リストについて補助資料で予習（120分）、本時の復習・課題（60分）
14. 学校図書館メディアの構成における課題についてテキストで予習（60分）、テストの課題についてまとめる（復習）
15. テストの課題についてまとめた内容を確認しておく（予習）

評価方法：

授業へのとりくみ：	20 **%**	**確認テスト：**	40 **%**	**レポート：**	40 **%**
その他1：			**%**		
その他2：			**%**		

評価基準：
1. 授業参加態度（20%）
2. レポート・小テスト（40%）
3. 期末試験（40%）
※1～3を合算して総合評価する

授業参加態度は、「発表」「メモを取る」「教科書で内容を確認する」「意見交換の場で協力的態度で主体的に参加している」「レポートの提出」など、意欲的に受講できているかどうかで評価する。
課題レポートに関しては、授業内容がどれだけ理解できているのかの具体的なまとめと調べたことや作業過程における自分の考えをどのようにまとめているのかを評価する。また、アクティブラーニングにかかる課題に関しては、根拠のある論述と考察を評価する。未提出の課題には評価点を付与しない。授業に参加できていない回の課題レポートに関しては指示した内容でまとめて提出する。

評価の到達度
・最低限の到達度（60～69点） 学校図書館メディア構成を理解し、どのような種類があるかおよびその役割を知り作業ができている。
・標準の到達度（70～79点） 学校図書館メディアを選択できる目を養い、メディアを学校教育で活用できる資質を身に付けている。
・望ましい到達度（80～100点）学校図書館資料を組織化できる資質を身につけ、効果的に資料を整理・活用できる能力・判断力を身に付けている。

課題へのフィードバック：

・授業時に出された質問については、質問時に全体に向けて回答・説明する。個別に出された質問については質問者に回答・説明する。
・レポート課題は授業の中で指示する。課題に対する質問は、授業後やチャットで受け付け、必要な事柄を回答する。
・提出されたレポートの内容については、次時の講義の中で全体にシェアしたり解説したりする。提出された個々のレポートに対しては、評価をコメントして返却する。

教科書： 『学校図書館メディアの構成』(探求 学校図書館学 第2巻)「探求 学校図書館学」編集委員会 編著 全国学校図書館協議会

参考書： 『学校図書館メディアの構成』(司書教諭テキストシリーズ 02)小田 光宏編 樹村房
『 学校図書館メディアの構成（第二版）』(メディア専門職養成シリーズ2） 学文社
『学習指導要領』

授業・準備学習のアドバイス：

図書館や書店に足を運んで、排架の工夫やパネルサイン、ポップなどの掲示物の工夫を調べておく。
特に児童書については、どのようなメディアが受け入れられているのかを知っておくと良い。
学校での学習と直結する学校図書館であることを踏まえ、小中高の学習指導要領や教科書等でどのような学習をしているのかを意識してリサーチしておく。
教育実習などで学校現場に出向くときは、図書館を見学させてもらったり担当者の話を聞かせてもらったりすると良い。
課題レポートに取り組む際には、授業での要点をまとめるとともに自分の考えも書き加えること。
司書教諭の資質として不可欠であるコミュニケーション能力を高めることを意識する。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 学習指導と学校図書館

クラス: 司教

授業コード: BS20300001

担当者: 末廣 てるの **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:学校図書館司書教諭実務経験有、デジタル推進委員(デジタル庁)、教育委員会ICT支援員

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 学校図書館が持つ情報資源を学習指導にいかに活用すべきかについて理論的な基礎を学び、児童生徒の主体的な学びを支えるための具体的な指導法や実践力を身につける。

到達目標: 1. 学習指導要領における学校図書館の役割を説明することができ、探究の各段階で必要な情報検索ツールを適切に操作できる。

2. 児童生徒の探究的な学習のプロセスを支援するための具体的な方策を論理的に考え、学習指導案や指導計画をたてることができる。
3. 協働的な学習を通して他者の意見を尊重し、情報を倫理的に活用し、より良い学校図書館のあり方を主体的に提案することができる。

各回の授業計画:

1. 知識の獲得から「学びの質」の変容へ一学校図書館の社会的機能一
2. 学習指導要領における探究的な活動と学校図書館の役割
3. 探究的な学習の理論と学習指導モデル
4. 「課された問題」から「自己生成問題」への転換
5. 情報リテラシーの内容と司書教諭による指導方法
6. 情報リテラシーと探究的な学習1ー情報資源と件名標目・百科事典の活用一
7. 情報リテラシーと探究的な学習2ー「件名標目」の利用法、情報の検索・収集・評価一
8. 情報リテラシーと探究的な学習3一情報検索の知識とスキルの学習階層一
9. レファレンス・サービスによる個別学習支援
10. 教育課程を踏まえた学校図書館活用一教師・地域との連携一
11. 小学校各教科における学校図書館の活用
12. 小学校総合的な学習の時間と特別活動での学校図書館の活用
13. 中学校・高等学校における学校図書館の教員や生徒への支援
14. 中学生・高等学校生へのレポート作成支援
15. まとめと課題ー講義の振り返り、学習ポートフォリオの評価、確認テストー

特記事項: ・授業は対面授業を基本とする。
・場合によってはオンライン授業を実施する。
・授業時には毎回教科書・パソコンを持参する。
・事前に教科書・参考文献を読んでおく。
・事前学習、事後学習に取り組む。

授業方法:
1. オリエンテーション、講義、グループワーク (対面)
2. 講義、グループワーク、Teamsテスト、(イヤフォン持参)(対面)
3. 講義、グループワーク(オンライン)
4. 講義、グループワーク (対面)
5. 講義、グループワーク (対面)
6. 講義、グループワーク (対面)
7. 講義、グループワーク (対面)
8. 講義、グループワーク (対面)
9. 講義、グループワーク (対面)
10. 講義、グループワーク (対面)
11. 講義、グループワーク (対面)
12. 講義、グループワーク (対面)
13. 講義、グループワーク (対面)
14. 講義、グループワーク (対面)
15. 講義、グループワーク (対面)

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1【事前】第1章を精読。自分にとっての質の高い学びとは何かを200字程度にまとめる。（90分）
【事後】公共図書館と学校図書館の違いを整理する。（90分）
2【事前】第2章を精読。学習指導要領に「学校図書館の活用」がどのように記述されているか、キーワードを抽出して整理する。（90分）
【事後】特定の学年・教科の単元を選択し、学校図書館がどのように寄与できるか具体策を1つ考案する。（90分）
3【事前】第3章を精読。提示されている探究的な学習のモデルの学習過程の内容を把握し、疑問点を記述する。（90分）
【事後】自身の過去の「調べ学習」について、学習した探究モデルのどの学習過程に課題があったかを省察する。（90分）
4【事前】第４章を精読。「課された問題」と「自己生成問題」の違いを整理する。（90分）
【事後】授業で学んだ課題設定の留意点を踏まえ、「自己生成問題」を3つ作成する。（90分）
5【事前】第５章を読み、情報リテラシーの各領域（印象付け、サービス案内、探索、整理、表現）の定義を自分の言葉でまとめる。（90分）
【事後】学校図書館において、小学校低・中・高学年の情報リテラシーの領域で重点を置くべき点について自分の考えを記述する。（90分）
6【事前】第６章を精読し、件名標目とキーワード検索の違いについて調べ、具体的な検索例を1つ準備する。（90分）
【事後】特定のテーマ（例：環境問題）に対し、百科事典を用いた情報の概念地図を作成する。（90分）
7【事前】第７章を精読し、インターネット情報源の信頼性を評価する3つの基準をまとめる。（90分）
【事後】大学図書館のOPACを使用して、特定のテーマに関するブックリストを作成する。（90分）
8【事前】第８章を精読し、適切な引用のルールと要約作成時のポイントをまとめる。（90分）
【事後】短い新聞記事を採り上げ、引用を含めた200字程度の要約文を作成し、参考文献リストを添える。（90分）
9【事前】第9章を精読し、「レファレンス協同データサービス」で学校図書館に関わる事例を選択し、その解決プロセスを分析する。（90分）
【事後】想定される児童生徒からの質問に対し、どのような情報源を提案するか、回答と回答プロセスを1つ作成する。（90分）
10【事前】第10章を精読し、教職員と司書教諭が連携する上で課題となる要因を3つ挙げ、解決策を考える。（90分）
【事後】出身校の学校図書館を想定し、地域リソースを活用した学習活動案を1つ作成する。（90分）
11【事前】第11章の興味のある教科の事例を1つ選択し、図書館活用が学習効果をどのように高めているか整理する。（90分）
【事後】中学年・高学年の特定の単元を選択し、そこで使用すべき図書館資料のリストを作成する。（90分）
12【事前】第12章を精読し、学校行事や特別活動で学校図書館が果たせる役割についてアイディアを3つ書き出す。（90分）
【事後】学校図書館を拠点とした児童会活動（例：読書週間イベント等）の学習指導計画案を作成する。（90分）
13【事前】第13章、14章を精読し、中学生・高校生がレポート作成で陥りやすい困難な点と、それに対する支援方法をまとめる。（90分）
【事後】スムーズなレポート作成のステップを視える化するための「進捗チェックシート」を作成する。（90分）
14【事前】第15章を精読し、成果物（レポート・発表等）の評価基準（ルーブリック）の項目を検討する。（60分）
【事後】「21世紀の学びを支える学校図書館の理想像」について、自身の考えを1200字程度にまとめて提出する。（120分）
15【事前】教科書を読み、「学習指導と学校図書館」の学習ポートフォリオを読んで確認テストに備える。（120分）
【事後】到達目標が達成できたか自己評価する。（60分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	40	**%**	**確認テスト：**	30	**%**	**レポート：**	30 **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準：

・学校図書館の教育的意義を理解し、目録や索引等を活用して資料を入手することができる。（60～69）
・学習者の視点に立ち、情報活用能力の育成に必要な資料の紹介や整理方法について指導案を作成することができる。（60～69）
・グループワークに積極的に貢献し、引用や参考文献の明記を常に意識し、情報を吟味・活用する司書教諭としての態度を身につける。（80～100）
・授業への出席、グループワークへの貢献度、レポートの提出、課題テストを重視する。

課題へのフィードバック：

振り返り、課題テスト、レポートの総評をコメントで評価する。

教科書： 『学習指導と学校図書館』（司書教諭テキストシリーズⅡ…3）齋藤 泰則 編

参考書：

・小学校、中学校、高等学校学習指導要領・解説
参考URL：https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm
・参考書・参考文献、参考URLは、授業中に適宜紹介する。

授業・準備学習のアドバイス：

・教科書に掲載されている参考文献を参考にする。
・様々な図書館を訪れたり、図書館のHPを検索したりして図書館の設計や機能について学ぶ。
・小・中・高等学校の教科書や絵本、単行本、新聞、図鑑、白書、視聴覚資料等に関心を持ち、普段から目を通しておく。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 学習指導と学校図書館

クラス: 司教

授業コード: BS20300002

担当者: 末廣 てるの **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:学校図書館司書教諭実務経験有、デジタル推進委員(デジタル庁)、教育委員会ICT支援員

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 学校図書館が持つ情報資源を学習指導にいかに活用すべきかについて理論的な基礎を学び、児童生徒の主体的な学びを支えるための具体的な指導法や実践力を身につける。

到達目標: 1. 学習指導要領における学校図書館の役割を説明することができ、探究の各段階で必要な情報検索ツールを適切に操作できる。

2. 児童生徒の探究的な学習のプロセスを支援するための具体的な方策を論理的に考え、学習指導案や指導計画をたてることができる。
3. 協働的な学習を通して他者の意見を尊重し、情報を倫理的に活用し、より良い学校図書館のあり方を主体的に提案することができる。

各回の授業計画:

1. 知識の獲得から「学びの質」の変容へ一学校図書館の社会的機能一
2. 学習指導要領における探究的な活動と学校図書館の役割
3. 探究的な学習の理論と学習指導モデル
4. 「課された問題」から「自己生成問題」への転換
5. 情報リテラシーの内容と司書教諭による指導方法
6. 情報リテラシーと探究的な学習1ー情報資源と件名標目・百科事典の活用一
7. 情報リテラシーと探究的な学習2ー「件名標目」の利用法、情報の検索・収集・評価一
8. 情報リテラシーと探究的な学習3一情報検索の知識とスキルの学習階層一
9. レファレンス・サービスによる個別学習支援
10. 教育課程を踏まえた学校図書館活用一教師・地域との連携一
11. 小学校各教科における学校図書館の活用
12. 小学校総合的な学習の時間と特別活動での学校図書館の活用
13. 中学校・高等学校における学校図書館の教員や生徒への支援
14. 中学生・高等学校生へのレポート作成支援
15. まとめと課題ー講義の振り返り、学習ポートフォリオの評価、確認テストー

特記事項: ・授業は対面授業を基本とする。
・場合によってはオンライン授業を実施する。
・授業時には毎回教科書・パソコンを持参する。
・事前に教科書・参考文献を読んでおく。
・事前学習、事後学習に取り組む。

授業方法:
1. オリエンテーション、講義、グループワーク (対面)
2. 講義、グループワーク、Teamsテスト、(イヤフォン持参)(対面)
3. 講義、グループワーク(オンライン)
4. 講義、グループワーク (対面)
5. 講義、グループワーク (対面)
6. 講義、グループワーク (対面)
7. 講義、グループワーク (対面)
8. 講義、グループワーク (対面)
9. 講義、グループワーク (対面)
10. 講義、グループワーク (対面)
11. 講義、グループワーク (対面)
12. 講義、グループワーク (対面)
13. 講義、グループワーク (対面)
14. 講義、グループワーク (対面)
15. 講義、グループワーク (対面)

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1【事前】第1章を精読。自分にとっての質の高い学びとは何かを200字程度にまとめる。（90分）
【事後】公共図書館と学校図書館の違いを整理する。（90分）
2【事前】第2章を精読。学習指導要領に「学校図書館の活用」がどのように記述されているか、キーワードを抽出して整理する。（90分）
【事後】特定の学年・教科の単元を選択し、学校図書館がどのように寄与できるか具体策を1つ考案する。（90分）
3【事前】第3章を精読。提示されている探究的な学習のモデルの学習過程の内容を把握し、疑問点を記述する。（90分）
【事後】自身の過去の「調べ学習」について、学習した探究モデルのどの学習過程に課題があったかを省察する。（90分）
4【事前】第４章を精読。「課された問題」と「自己生成問題」の違いを整理する。（90分）
【事後】授業で学んだ課題設定の留意点を踏まえ、「自己生成問題」を3つ作成する。（90分）
5【事前】第５章を読み、情報リテラシーの各領域（印象付け、サービス案内、探索、整理、表現）の定義を自分の言葉でまとめる。（90分）
【事後】学校図書館において、小学校低・中・高学年の情報リテラシーの領域で重点を置くべき点について自分の考えを記述する。（90分）
6【事前】第６章を精読し、件名標目とキーワード検索の違いについて調べ、具体的な検索例を1つ準備する。（90分）
【事後】特定のテーマ（例：環境問題）に対し、百科事典を用いた情報の概念地図を作成する。（90分）
7【事前】第７章を精読し、インターネット情報源の信頼性を評価する3つの基準をまとめる。（90分）
【事後】大学図書館のOPACを使用して、特定のテーマに関するブックリストを作成する。（90分）
8【事前】第８章を精読し、適切な引用のルールと要約作成時のポイントをまとめる。（90分）
【事後】短い新聞記事を採り上げ、引用を含めた200字程度の要約文を作成し、参考文献リストを添える。（90分）
9【事前】第9章を精読し、「レファレンス協同データサービス」で学校図書館に関わる事例を選択し、その解決プロセスを分析する。（90分）
【事後】想定される児童生徒からの質問に対し、どのような情報源を提案するか、回答と回答プロセスを1つ作成する。（90分）
10【事前】第10章を精読し、教職員と司書教諭が連携する上で課題となる要因を3つ挙げ、解決策を考える。（90分）
【事後】出身校の学校図書館を想定し、地域リソースを活用した学習活動案を1つ作成する。（90分）
11【事前】第11章の興味のある教科の事例を1つ選択し、図書館活用が学習効果をどのように高めているか整理する。（90分）
【事後】中学年・高学年の特定の単元を選択し、そこで使用すべき図書館資料のリストを作成する。（90分）
12【事前】第12章を精読し、学校行事や特別活動で学校図書館が果たせる役割についてアイディアを3つ書き出す。（90分）
【事後】学校図書館を拠点とした児童会活動（例：読書週間イベント等）の学習指導計画案を作成する。（90分）
13【事前】第13章、14章を精読し、中学生・高校生がレポート作成で陥りやすい困難な点と、それに対する支援方法をまとめる。（90分）
【事後】スムーズなレポート作成のステップを視える化するための「進捗チェックシート」を作成する。（90分）
14【事前】第15章を精読し、成果物（レポート・発表等）の評価基準（ルーブリック）の項目を検討する。（60分）
【事後】「21世紀の学びを支える学校図書館の理想像」について、自身の考えを1200字程度にまとめて提出する。（120分）
15【事前】教科書を読み、「学習指導と学校図書館」の学習ポートフォリオを読んで確認テストに備える。（120分）
【事後】到達目標が達成できたか自己評価する。（60分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	40	**%**	**確認テスト：**	30	**%**	**レポート：**	30 **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準：

・学校図書館の教育的意義を理解し、目録や索引等を活用して資料を入手することができる。（60～69）
・学習者の視点に立ち、情報活用能力の育成に必要な資料の紹介や整理方法について指導案を作成することができる。（60～69）
・グループワークに積極的に貢献し、引用や参考文献の明記を常に意識し、情報を吟味・活用する司書教諭としての態度を身につける。（80～100）
・授業への出席、グループワークへの貢献度、レポートの提出、課題テストを重視する。

課題へのフィードバック：

振り返り、課題テスト、レポートの総評をコメントで評価する。

教科書： 『学習指導と学校図書館』（司書教諭テキストシリーズⅡ…3）齋藤 泰則 編

参考書：

・小学校、中学校、高等学校学習指導要領・解説
参考URL：https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm
・参考書・参考文献、参考URLは、授業中に適宜紹介する。

授業・準備学習のアドバイス：

・教科書に掲載されている参考文献を参考にする。
・様々な図書館を訪れたり、図書館のHPを検索したりして図書館の設計や機能について学ぶ。
・小・中・高等学校の教科書や絵本、単行本、新聞、図鑑、白書、視聴覚資料等に関心を持ち、普段から目を通しておく。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 読書と豊かな人間性

クラス: 司教/教

授業コード: BS20400001

担当者: 笹倉 剛 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:図書館司書の実務経験あり。

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 読書が人間形成に深いかかわりをもつことは自明であり、読書を奨励することは学校教育の重要な役割の一つである。その意味で、司書教諭は読書教育を推進する要である。読書の意義と目的、読書と人間形成等、読書を総合的に考えることは、学校図書館を運営していく上で欠かせない。本講座では、人間形成における読書の意味を考え、児童生徒に読書の楽しみとともに読書能力と習慣を身に付ける方法を学ぶ。また、司書教諭自身も読書に親しみ、読書の幅を広げる資質を身に付ける。

到達目標: 学校図書館と児童生徒の読書との関わりを考える中で、学校図書館の意義と役割の重要性に気付く。
読書指導のエキスパートとして読書技法に習熟する。学校図書館の運営と資料の選書に習熟する。できるだけ多くの絵本や児童書を読むことを薦める。また、司書教諭としての基礎的な力量を身に付ける。

各回の授業計画:

1. 読書の意義と学校図書館の役割
2. 読み聞かせの意義と方法
3. 読み聞かせの技術
4. 読み聞かせの演習
5. ブックトークの意義と方法
6. ブックトークの技術
7. ブックトークの演習
8. ビブリオトークのやり方について
9. 学習指導要領と読書指導(オンライン対応)
10. 発達段階に応じた読書指導(オンライン対応)
11. 読書会のやり方など(オンライン対応)
12. ブックリストの作成、解題や書評の書き方について(オンライン対応)
13. 学校図書館資料の選書、廃棄等について(オンライン対応)
14. 学校図書館の効果的な整備と運営、関係機関との連携について(オンライン対応)
15. まとめと課題(オンライン対応)

特記事項: 常に自分が学校現場の司書教諭になったらどのように実践するかという課題をもって授業に臨むこと。司書教諭として学校図書館運営の基本的な資質を身に付ける。そのためにできるだけ関連ある図書を読むこと。読書指導(読み聞かせ、ブックトークなど)の技法についてのスキルを磨く。

授業方法:
1. 講義、グループワーク(対面)
2. 講義、グループワーク(対面)
3. 講義、グループワーク(対面)
4. 講義、グループワーク(対面)
5. 講義、グループワーク、演習、発表(対面)
6. グループワーク、演習、発表(対面)
7. 講義、グループワーク、演習(対面)
8. 講義、グループワーク、演習、発表
9. グループワーク、演習、発表(オンライン)
10. 講義、グループワーク,、演習、発表(オンライン)
11. 講義、グループワーク、発表(オンライン)
12. 講義、グループワーク(オンライン)
13. 講義、グループワーク(オンライン)
14. 講義、グループワーク(オンライン)
15. 講義、グループワーク(オンライン)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 読書の意義と学校図書館の役割について予習（120分）、本時の復習（60分）
2. 学習指導要領と読書指導についてプリントで予習（120分）、本時の復習（60分）
3. 発達段階に応じた読書指導をテキストで予習（120分）、本時の復習（60分）
4. 読み聞かせの意義と方法について、テキストで予習（120分）、本時の復習（60分）
5. 読み聞かせの技術についてテキスト及びプリントで予習（120分）、本時の復習（60分）
6. 読み聞かせの演習についてプリントで予習（120分）、本時の復習（60分）
7. ブックトークの意義と方法についてテキスト及びプリントで予習（120分）、本時の復習（60分）
8. ブックトークの技術をプリントで予習（120分）、本時の復習（60分）
9. ブックトークの演習について復習（180分）
10. 読書会のやり方と演習について、テキストで予習（120分）、本時の復習（60分）
11. ブックリストの作成、解題や書評の書き方について、プリントで予習（120分）、本時の復習（60分）
12. 学校図書館資料の選書、廃棄等について、プリントで予習（120分）、本時の復習（60分）
13. 学校図書館の効果的な整備と運営、公共図書館との連携などについて、プリントで予習（120分）、本時の復習（60分）
14. ビブリオトークのやり方と演習についてテキストで予習（120分）、本時の復習（60分）
15. まとめと課題についてテキスト及びプリントで復習（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	20	**%**	**確認テスト：**	40	**%**	**レポート：**	40 **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準：

読書の役割を認識し、学校図書館でどのように読書推進が図れるかを理解できる。（60～69点）
読書を推進する読書技法を身に付ける。（60～69点）
司書教諭として学校全体の読書推進をどのようにすすめていくかを理解できる。（60～69点）
学校図書館の活性化にむけた読書推進の資質を身に付ける。（80～100点）

課題へのフィードバック：

テキストに出てくる参考文献を読むことが大切。演習も行うので、プリント等も参考にすること。

教科書： なし

参考書： 授業中に適宜紹介する

授業・準備学習のアドバイス：

課題図書や推薦図書はできるだけ速やかに読むこと。児童資料について深い理解ができるように、日頃から絵本・昔話・創作物語・ノンフィクションなどの児童資料を幅広く読んでおくこと。児童サービス論を2年次生で受講していることが望ましい。レポートや出席を重視。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 読書と豊かな人間性

クラス: 司教/教

授業コード: BS20400002

担当者: 笹倉 剛 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:図書館司書の実務経験あり。

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 読書が人間形成に深いかかわりをもつことは自明であり、読書を奨励することは学校教育の重要な役割の一つである。その意味で、司書教諭は読書教育を推進する要である。読書の意義と目的、読書と人間形成等、読書を総合的に考えることは、学校図書館を運営していく上で欠かせない。本講座では、人間形成における読書の意味を考え、児童生徒に読書の楽しみとともに読書能力と習慣を身に付ける方法を学ぶ。また、司書教諭自身も読書に親しみ、読書の幅を広げる資質を身に付ける。

到達目標: 学校図書館と児童生徒の読書との関わりを考える中で、学校図書館の意義と役割の重要性に気付く。
読書指導のエキスパートとして読書技法に習熟する。学校図書館の運営と資料の選書に習熟する。できるだけ多くの絵本や児童書を読むことを薦める。また、司書教諭としての基礎的な力量を身に付ける。

各回の授業計画:

1. 読書の意義と学校図書館の役割
2. 読み聞かせの意義と方法
3. 読み聞かせの技術
4. 読み聞かせの演習
5. ブックトークの意義と方法
6. ブックトークの技術
7. ブックトークの演習
8. ビブリオトークのやり方について
9. 学習指導要領と読書指導(オンライン対応)
10. 発達段階に応じた読書指導(オンライン対応)
11. 読書会のやり方など(オンライン対応)
12. ブックリストの作成、解題や書評の書き方について(オンライン対応)
13. 学校図書館資料の選書、廃棄等について(オンライン対応)
14. 学校図書館の効果的な整備と運営、関係機関との連携について(オンライン対応)
15. まとめと課題(オンライン対応)

特記事項: 常に自分が学校現場の司書教諭になったらどのように実践するかという課題をもって授業に臨むこと。司書教諭として学校図書館運営の基本的な資質を身に付ける。そのためにできるだけ関連ある図書を読むこと。読書指導(読み聞かせ、ブックトークなど)の技法についてのスキルを磨く。

授業方法:
1. 講義、グループワーク(対面)
2. 講義、グループワーク(対面)
3. 講義、グループワーク(対面)
4. 講義、グループワーク(対面)
5. 講義、グループワーク、演習、発表(対面)
6. グループワーク、演習、発表(対面)
7. 講義、グループワーク、演習(対面)
8. 講義、グループワーク、演習、発表
9. グループワーク、演習、発表(オンライン)
10. 講義、グループワーク,、演習、発表(オンライン)
11. 講義、グループワーク、発表(オンライン)
12. 講義、グループワーク(オンライン)
13. 講義、グループワーク(オンライン)
14. 講義、グループワーク(オンライン)
15. 講義、グループワーク(オンライン)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 読書の意義と学校図書館の役割について予習（120分）、本時の復習（60分）
2. 学習指導要領と読書指導についてプリントで予習（120分）、本時の復習（60分）
3. 発達段階に応じた読書指導をテキストで予習（120分）、本時の復習（60分）
4. 読み聞かせの意義と方法について、テキストで予習（120分）、本時の復習（60分）
5. 読み聞かせの技術についてテキスト及びプリントで予習（120分）、本時の復習（60分）
6. 読み聞かせの演習についてプリントで予習（120分）、本時の復習（60分）
7. ブックトークの意義と方法についてテキスト及びプリントで予習（120分）、本時の復習（60分）
8. ブックトークの技術をプリントで予習（120分）、本時の復習（60分）
9. ブックトークの演習について復習（180分）
10. 読書会のやり方と演習について、テキストで予習（120分）、本時の復習（60分）
11. ブックリストの作成、解題や書評の書き方について、プリントで予習（120分）、本時の復習（60分）
12. 学校図書館資料の選書、廃棄等について、プリントで予習（120分）、本時の復習（60分）
13. 学校図書館の効果的な整備と運営、公共図書館の連携について、プリントで予習（120分）、本時の復習（60分）
14.ビブリオトークのやり方と演習についてテキストで予習（120分）、本時の復習（60分）
15. まとめと課題についてテキスト及びプリントで復習（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	20	**%**	**確認テスト：**	40	**%**	**レポート：**	40 **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準：

読書の役割を認識し、学校図書館でどのように読書推進が図れるかを理解できる。（60～69点）
読書を推進する読書技法を身に付ける。（60～69点）
司書教諭として学校全体の読書推進をどのようにすすめていくかを理解できる。（60～69点）
学校図書館の活性化にむけた読書推進の資質を身に付ける。（80～100点）

課題へのフィードバック：

テキストに出てくる参考文献を読むことが大切。演習も行うので、プリント等も参考にすること。

教科書： なし

参考書： 授業中に適宜紹介する。

授業・準備学習のアドバイス：

課題図書や推薦図書はできるだけ速やかに読むこと。児童資料について深い理解ができるように、日頃から絵本・昔話・創作物語・ノンフィクションなどの児童資料を幅広く読んでおくこと。児童サービス論を2年次生で受講していることが望ましい。レポートや出席を重視。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 情報メディアの活用

クラス: 司教

授業コード: BS20500001

担当者: 笹倉 剛 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:図書館司書、司書教諭

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 学校図書館は情報センターや学習メディアセンターの役割を有している。特に「調べ学習」などにおいては、情報メディアやコンピュータなどを活用して学習活動を行い、課題解決を図ることが多い。そこで、児童生徒に情報メディアの活用を指導・支援できる司書教諭の育成を目指す。

到達目標:
1. 情報メディアの意義と活用の重要性を理解する。
2. 学習情報センターとしての情報メディアの位置付けが理解できる。
3. データベースを活用したり、インターネットを利用したりして情報検索を堪能に扱うことができる。
4. 学校図書館メディアとしての著作権の重要性について理解できる。

各回の授業計画:

1. 授業のオリエンテーション、高度情報化社会と人間①高度情報化社会とは
2. 高度情報化社会と人間②情報メディアの影響と教育
3. 情報メディアの特性と選択①情報メディアの種類と特性など
4. 情報メディアの特性と選択②情報メディアの生産と特性など
5. 視聴覚メディアの意義と活用①視聴覚メディアの特性など
6. 視聴覚メディアの意義と活用②視聴覚メディアの種類と機能など
7. 学校図書館のパスファインダーづくり
8. 情報機器を活用した実習①情報機器を活用した学校図書館の年間計画または読書指導の年間計画
9. 情報機器を活用した実習②情報機器を利用した学校図書館のレイアウトの作成
10. インターネットによる情報検索の意義と方法について
11. インターネットによる情報検索演習①情報検索演習課題(1)〜(15)(オンライン対応)
12. インターネットによる情報検索演習②情報検索演習課題(15))〜(30)(オンライン対応)
13. インターネットによる情報検索演習③情報検索演習課題(30)〜(50)(オンライン対応)
14. 学校図書館と著作権(オンライン対応)
15. まとめと確認(オンライン対応)

特記事項: 講義中心の授業だが、学校図書館に関する課題を設けたり、必要に応じて演習の時間を設けたりする。

授業方法: この授業は対面授業とオンライン対応で実施します。
1. 講義、グループワーク
2. 講義、グループワーク
3. 講義、グループワーク
4. 講義、グループワーク
5. 講義、グループワーク
6. 講義、グループワーク
7. 講義、グループワーク、演習
8. 講義、グループワーク、演習、発表
9. 講義、グループワーク、演習、発表
10. 講義、グループワーク
11. 演習、発表(オンライン対応)
12. 演習、発表(オンライン対応)
13. 演習、発表(オンライン対応)
14. 演習、発表(オンライン対応)
15. 演習、発表(オンライン対応)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 授業のオリエンテーション、高度情報化社会と人間①高度情報化社会とは,についてプリントで復習(180分)

2. 高度情報化社会と人間②情報メディアの影響と教育についてプリントで予習(120分)、本時の復習(60分)
3. 情報メディアの特性と選択①情報メディアの種類と特性などについてプリントで予習(120分)、本時の復習(60分)
4. 情報メディアの特性と選択②情報メディアの生産と特性などについてプリントで予習(120分)、本時の復習(60分)
5. 視聴覚メディアの意義と活用①視聴覚メディアの特性などについてプリントで予習(120分)、本時の復習(60分)
6. 視聴覚メディアの意義と活用②視聴覚メディアの種類と機能などについてプリントで予習(120分)、本時の復習(60分)
7. 学校図書館のパスファインダーづくりについてプリントで予習(120分)、本時の復習(60分)
8. 情報機器を活用した実習①情報機器を活用した学校図書館の年間計画、または読書指導の年間計画についてプリントで予習(120分)、本時の復習(60分)
9. 情報機器を活用した実習②情報機器を利用した学校図書館のレイアウトについてプリントで予習(120分)、本時の復習(60分)
10. インターネットによる情報検索についてプリントで予習(120分)、本時の復習(60分)
11. インターネットによる情報検索演習①情報検索演習課題(1)～(2)についてプリントで予習(120分)、本時の復習(60分)
12. インターネットによる情報検索演習②情報検索演習課題(11)～(20)についてプリントで予習(120分)、本時の復習(60分)
13. インターネットによる情報検索演習③情報検索演習課題(21)～(30)についてプリントで予習(120分)、本時の復習(60分)
14. 学校図書館と著作権についてプリントで予習(120分)、本時の復習(60分)
15. まとめと確認についてプリントで復習(180分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	20	**%**	**確認テスト:**	40	**%**	**レポート:**	40 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: 授業で情報メディアを活用する意義について理解できる。(60～69点)
いろいろな情報メディアが存在することを知り、それをどのように活用するのかを知る。(60～69点)
データベースを活用し情報検索することで、課題を解決するためのもっとも効果的な方法を学ぶ。(80～100点)

課題へのフィードバック:

図書館で司書教諭課程の文献等を参考したり、データベースを活用したりして情報検索すること。小テストを実施し、その回ごとに解説を加える。情報検索演習では、発表した内容について、適時詳しい解説を加えていく。

教科書: なし

参考書: その都度、紹介する。

授業・準備学習のアドバイス:

学校図書館関係に関する課題、情報検索演習の課題を出すので、レポートをその都度提出すること。出席、課題を重視。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 情報メディアの活用

クラス: 司教

授業コード: BS20500002

担当者: 笹倉 剛 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:図書館司書、司書教諭

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 学校図書館は情報センターや学習メディアセンターの役割を有している。特に「調べ学習」などにおいては、情報メディアやコンピュータなどを活用して学習活動を行い、課題解決を図ることが多い。そこで、児童生徒に情報メディアの活用を指導・支援できる司書教諭の育成を目指す。

到達目標:
1. 情報メディアの意義と活用の重要性を理解する。
2. 学習情報センターとしての情報メディアの位置付けが理解できる。
3. データベースを活用したり、インターネットを利用したりして情報検索を堪能に扱うことができる。
4. 学校図書館メディアとしての著作権の重要性について理解できる。

各回の授業計画:

1. 授業のオリエンテーション、高度情報化社会と人間①高度情報化社会とは
2. 高度情報化社会と人間②情報メディアの影響と教育
3. 情報メディアの特性と選択①情報メディアの種類と特性など
4. 情報メディアの特性と選択②情報メディアの生産と特性など
5. 視聴覚メディアの意義と活用①視聴覚メディアの特性など
6. 視聴覚メディアの意義と活用②視聴覚メディアの種類と機能など
7. 学校図書館のパスファインダーづくり
8. 情報機器を活用した実習①情報機器を活用した学校図書館の年間計画、または読書指導の年間計画の作成
9. 情報機器を活用した実習②情報機器を利用した学校図書館のレイアウトの作成
10. インターネットによる情報検索の意義と方法について
11. インターネットによる情報検索演習①情報検索演習課題(1)〜(15)(オンライン対応)
12. インターネットによる情報検索演習②情報検索演習課題(15)〜(30)(オンライン対応)
13. インターネットによる情報検索演習③情報検索演習課題(30)〜(50)(オンライン対応)
14. 学校図書館と著作権(オンライン対応)
15. まとめと確認(オンライン対応)

特記事項: 講義中心の授業だが、学校図書館に関する課題や情報検索に関する課題を設けたり、必要に応じて演習の時間を設けたりする。

授業方法: この授業は対面授業とオンライン対応で実施します。
1. 講義、グループワーク
2. 講義、グループワーク
3. 講義、グループワーク
4. 講義、グループワーク
5. 講義、グループワーク
6. 講義、グループワーク
7. 講義、グループワーク、演習
8. 講義、グループワーク、演習、発表
9. 講義、グループワーク、演習、発表
10. 講義、グループワーク
11. 演習、発表(オンライン対応)
12. 演習、発表(オンライン対応)
13. 演習、発表(オンライン対応)
14. 演習、発表(オンライン対応)
15. 演習、発表(オンライン対応)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 授業のオリエンテーション、高度情報化社会と人間①高度情報化社会とは,についてプリントで復習(180分)

2. 高度情報化社会と人間②情報メディアの影響と教育についてプリントで予習(120分)、本時の復習(60分)
3. 情報メディアの特性と選択①情報メディアの種類と特性などについてプリントで予習(120分)、本時の復習(60分)
4. 情報メディアの特性と選択②情報メディアの生産と特性などについてプリントで予習(120分)、本時の復習(60分)
5. 視聴覚メディアの意義と活用①視聴覚メディアの特性などについてプリントで予習(120分)、本時の復習(60分)
6. 視聴覚メディアの意義と活用②視聴覚メディアの種類と機能などについてプリントで予習(120分)、本時の復習(60分)
7. 学校図書館のパスファインダーづくりについてプリントで予習(120分)、本時の復習(60分)
8. 情報機器を活用した実習①情報機器を活用した学校図書館の年間計画、または読書指導の年間計画の作成についてプリントで予習(120分)、本時の復習(60分)
9. 情報機器を活用した実習②情報機器を利用した学校図書館のレイアウトの作成についてプリントで予習(120分)、本時の復習(60分)
10. インターネットによる情報検索についてプリントで予習(120分)、本時の復習(60分)
11. インターネットによる情報検索演習①情報検索演習課題(1)～(2)についてプリントで予習(120分)、本時の復習(60分)
12. インターネットによる情報検索演習②情報検索演習課題(11)～(20)についてプリントで予習(120分)、本時の復習(60分)
13. インターネットによる情報検索演習③情報検索演習課題(21)～(30)についてプリントで予習(120分)、本時の復習(60分)
14. 学校図書館と著作権についてプリントで予習(120分)、本時の復習(60分)
15. まとめと確認についてプリントで復習(180分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	20	**%**	**確認テスト:**	40	**%**	**レポート:**	40 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: 授業で情報メディアを活用する意義について理解できる。(60～69点)
いろいろな情報メディアが存在することを知り、それをどのように活用するのかを知る。(60～69点)
データベースを活用し情報検索することで、課題を解決するためのもっとも効果的な方法を学ぶ。(80～100点)

課題へのフィードバック:

図書館で司書教諭課程の文献等を参考したり、データベースを活用したりして情報検索すること。小テストを実施し、その回ごとに解説を加える。情報検索演習では、発表した内容について、適時詳しい解説を加えていく。

教科書: なし

参考書: その都度、紹介する。

授業・準備学習のアドバイス:

学校図書館関係に関する課題、情報検索に関する課題を出すので、レポートをその都度提出すること。出席を重視。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 特別派遣留学

クラス:

授業コード: BV05020001

担当者: 新藤 照夫 **単位数:** 12～16

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 海外の大学に約半期間留学し、目標言語を向上させるコースを受講し、語学力の向上を図るとともに、ホームステイを通じて滞在先の多様な文化に触れることで、異文化コミュニケーションスキルの向上も目指す。

到達目標: ・英語圏(カナダ・アイルランド)の場合は、日常英会話の習得とともに、授業を理解できる語学力を身につけ、研修終了時にCEFR基準において1段階以上高い英語力を習得する。
・中国の場合は、中国語の日常会話の習得とともに授業を理解できる語学力を身につける。
・韓国の場合は、韓国語の日常会話の習得とともに授業を理解できる語学力を身につける。

各回の授業計画:

事前指導:参加者の状況に応じた事前指導を行う。(海外語学研修科目との合同実施もありうる。)
事後指導および研修記録のまとめ:帰国後に事後指導と研修記録の編纂を行う。

特記事項: ・社会情勢等の変化に応じ、大学の判断により、研修計画の変更または中止を含む判断がなされる場合がありうる。
・研修にかかる費用については、為替レートや状況の変化により募集段階で案内したものから変更が生じる場合がある。

授業方法: 【対面】
コミュニケーションを中心としたアプローチによる授業が中心となる。ディスカッションやグループ活動を通じて、目標言語のスピーキング力を伸ばすトレーニングを行う。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業に予習・復習は不可欠であるが、それに加えて授業時に宿題が指示されることがある。

評価方法:

授業へのとりくみ:	15 %	**確認テスト:**	－ %	**レポート:**	15 %
その他1:	派遣先大学における成績評価		70 %		
その他2:			%		

評価基準: 派遣先大学からの成績評価をもとに一括の単位認定を行う。

課題へのフィードバック:

海外の大学での研修となるため、試験やレポートに対するフィードバックについて一任している。

教科書: なし

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

事前指導の日時は、研修参加者決定後に、履修者の時間割を勘案し、別途定める。
（事前指導は「海外語学研修」と合同で行う場合がある。）

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅰ

クラス: 教

授業コード: C005100001

担当者: 田中 聡　　**単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について－地域共創とは何か－
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1－課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1－

第6回
・課題解決活動2－課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2－

第7回
・課題解決活動3－課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3－

第8回
・課題解決活動4－課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4－

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5－課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5－

第11回
・課題解決活動6－課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6－

第12回
・課題解決活動7－課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7－

第13回
・課題解決活動8－課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8－

第14回
・課題解決活動9－課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9－

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件(60点以上)が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅰ

クラス: 教

授業コード: C005100002

担当者: 須増 啓之 **単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件(60点以上)が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅰ

クラス: 教

授業コード: C005100003

担当者: 神月 紀輔 **単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件(60点以上)が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅰ

クラス: 教

授業コード: C005100004

担当者: 樋口 拓　　**単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件(60点以上)が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅰ

クラス: 教

授業コード: C005100005

担当者: 北野 富美子　　**単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件(60点以上)が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅰ

クラス: 教

授業コード: C005100006

担当者: 高橋　一夫　　**単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件(60点以上)が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅰ

クラス: 教

授業コード: C005100007

担当者: 佐藤 智恵　　**単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件(60点以上)が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅰ

クラス: 教

授業コード: C005100008

担当者: 齋藤　隆彦　　**単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件(60点以上)が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅰ

クラス: 教

授業コード: C005100009

担当者: 堤 康嘉 **単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件(60点以上)が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅰ

クラス: 教

授業コード: C005100010

担当者: 松本 宗久 **単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件(60点以上)が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅰ

クラス: 未定

授業コード: C005100021

担当者: 佐藤　秀樹　　**単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件(60点以上)が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅰ

クラス: 未定

授業コード: C005100022

担当者: 佐藤　公彦　　**単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件(60点以上)が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅰ

クラス: 心

授業コード: C005100030

担当者: 辻川 典文 **単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件(60点以上)が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅰ

クラス: 心

授業コード: C005100031

担当者: 犬飼 朋恵　　**単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件(60点以上)が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅰ

クラス: 心

授業コード: C005100032

担当者: 西　恭平　　**単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件(60点以上)が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅰ

クラス: 国

授業コード: C005100050

担当者: 森上 展宏 **単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件(60点以上)が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅰ

クラス: 国

授業コード: C005100051

担当者: 河野 泉　　**単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件(60点以上)が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅰ

クラス: 国

授業コード: C005100052

担当者: 玉地 瑞穂　　**単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件(60点以上)が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅰ

クラス: ス

授業コード: C005100080

担当者: 佃尾 哲哉 **単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件(60点以上)が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅰ

クラス: ス

授業コード: C005100081

担当者: 松田 雅彦 **単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件(60点以上)が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅰ

クラス: ス

授業コード: C005100082

担当者: 三浦 敬太　　**単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件(60点以上)が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅰ

クラス: ス

授業コード: C005100083

担当者: 椿　武　　**単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件（60点以上）が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅰ

クラス: ス

授業コード: C005100084

担当者: 中瀬古　哲　　**単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件(60点以上)が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅰ

クラス: ス

授業コード: C005100085

担当者: 祐末 ひとみ　　**単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件(60点以上)が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅰ

クラス: 履修登録用

授業コード: C005100099

担当者: 樋口 拓　　**単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件(60点以上)が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅱ

クラス: 八多町の想いをつなぐ里山魅力発信

授業コード: C005200001

担当者: 臼井 真　　**単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件(60点以上)が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅱ

クラス: 神戸北町でハーブの絨毯を作りましょう！

授業コード: C005200002

担当者: 樋口 拓　　**単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件（60点以上）が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅱ

クラス: 大学発・親子にやさしい子育て拠点づくり

授業コード: C005200003

担当者: 横田　郁子　　**単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件（60点以上）が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅱ

クラス: 学校支援（中）放課後移行に対応する活動

授業コード: C005200005

担当者: 芝田 悦司、松田 雅彦　　**単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	– **%**	**レポート:**	– **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件(60点以上)が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅱ

クラス: 二郎いちごブランドを未来へつなぐ実践

授業コード: C005200006

担当者: 臼井 真　　**単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件(60点以上)が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅱ

クラス: 沿線連携で創る神戸アミューズメント活性

授業コード: C005200007

担当者: 樋口 拓　　**単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件（60点以上）が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅱ

クラス: 淡河の明日をひらく子ども中心地域活性化

授業コード: C005200008

担当者: 冨田 哲浩　　**単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	– **%**	**レポート:**	– **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件(60点以上)が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅱ

クラス: 地域共創を発信して育てる広報基盤づくり

授業コード: C005200010

担当者: 高　奈奈　　**単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件（60点以上）が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅱ

クラス: 学校支援(小)放課後移行に対応する活動

授業コード: C005200011

担当者: 芝田 悦司 **単位数:** 4

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題ープロジェクトの成果と活動継続した場合の課題ー

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件（60点以上）が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅱ

クラス: 竹林管理から広がる食と生活

授業コード: C005200012

担当者: 冨田 哲浩 **単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	－ **%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件（60点以上）が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅱ

クラス: 山田町の「宝」発信プロジェクト

授業コード: C005200013

担当者: 塚本 久義　　**単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	－ **%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件（60点以上）が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅱ

クラス: 道場町活性化と里山学生参画

授業コード: C005200015

担当者: 瀬戸山　悠　　**単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について－地域共創とは何か－
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1－課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1－

第6回
・課題解決活動2－課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2－

第7回
・課題解決活動3－課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3－

第8回
・課題解決活動4－課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4－

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5－課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5－

第11回
・課題解決活動6－課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6－

第12回
・課題解決活動7－課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7－

第13回
・課題解決活動8－課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8－

第14回
・課題解決活動9－課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9－

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件(60点以上)が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅱ

クラス: 体験価値を磨く複合拠点イベント創出

授業コード: C005200016

担当者: 福井　逸子　　**単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件(60点以上)が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅱ

クラス: 児童館支援から広がる地域共育

授業コード: C005200017

担当者: 高橋　一夫、佐藤　智恵、北野　富美子　　**単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件（60点以上）が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅱ

クラス: 園支援から広がる地域共育

授業コード: C005200018

担当者: 高橋　一夫、佐藤　智恵、北野　富美子　　**単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件(60点以上)が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅱ

クラス: 学生視点で広げるコープ地域支援

授業コード: C005200019

担当者: 田中 聡　　**単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件(60点以上)が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅱ

クラス: 大学発エコノバ設置と地域交流創出

授業コード: C005200020

担当者: 須増 啓之 **単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	– **%**	**レポート:**	– **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件(60点以上)が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅱ

クラス: 外出の楽しさでつながる有野台

授業コード: C005200021

担当者: 佐藤　秀樹　　**単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件（60点以上）が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅱ

クラス: 関係人口の創出と交通需要増加の支援

授業コード: C005200022

担当者: 佐藤　公彦　　**単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	－ **%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件（60点以上）が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅱ

クラス: 丹生山田の里の歴史・風土

授業コード: C005200023

担当者: 佐藤　公彦　　**単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	– **%**	**レポート:**	– **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件(60点以上)が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅱ

クラス: 鈴蘭台で育む多文化共生交流

授業コード: C005200030

担当者: 辻川 典文　　**単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件(60点以上)が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅱ

クラス: 駅周辺連携で広がる鈴蘭台活性化

授業コード: C005200031

担当者: 犬飼 朋恵　　**単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	－ **%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件（60点以上）が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅱ

クラス: 天王ダムのビオトープ保全と子ども体験

授業コード: C005200032

担当者: 西　恭平　　**単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件（60点以上）が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅱ

クラス: キタイチから育む駅前交流空間づくり

授業コード: C005200033

担当者: 辻川 典文 **単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	－ **%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件（60点以上）が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅱ

クラス: 行動できるグリーンリーダー育成

授業コード: C005200050

担当者: 森上 展宏 **単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件(60点以上)が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅱ

クラス: 地域にひらくラーニングコモンズ創出

授業コード: C005200051

担当者: 玉地　瑞穂　　**単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件(60点以上)が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅱ

クラス: しあわせの村・シルバーカレッジの活性化

授業コード: C005200052

担当者: 河野 泉　　**単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	－ **%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件（60点以上）が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅱ

クラス: ☆国際協働で挑むコーク地域課題解決

授業コード: C005200053

担当者: 桂　敦子　　**単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件（60点以上）が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅱ

クラス: しあわせの村・動物との触れ合い活動支援

授業コード: C005200054

担当者: 河野 泉　　**単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	－ **%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件（60点以上）が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅱ

クラス: 大沢町の地域活性化と交通問題解決支援

授業コード: C005200055

担当者: 森上 展宏 **単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	– **%**	**レポート:**	– **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件(60点以上)が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅱ

クラス: 温泉街・観光地の防災／有馬温泉

授業コード: C005200080

担当者: 中瀬古　哲　　**単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	－ **%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件（60点以上）が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅱ

クラス: 住民主体で育てる持続可能な町

授業コード: C005200081

担当者: 祐末 ひとみ　　**単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件（60点以上）が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅱ

クラス: 地域と大学で育てるコミュニティ交通基盤

授業コード: C005200082

担当者: 三浦 敬太　　**単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件(60点以上)が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅱ

クラス: 再度公園を彩る平日マルシェと魅力発信

授業コード: C005200083

担当者: 佃尾 哲哉 **単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件(60点以上)が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅱ

クラス: 地域連携で支えるコベカツ支援プロジェクト

授業コード: C005200084

担当者: 松田　雅彦　　**単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	－ **%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件（60点以上）が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅱ

クラス: しあわせの村・宿泊施設の支援・活性化

授業コード: C005200085

担当者: 椿　武　　**単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	– **%**	**レポート:**	– **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件(60点以上)が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅱ

クラス: 防犯プレートで育む地域の絆

授業コード: C005200086

担当者: 祐末 ひとみ　　**単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	－ **%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件（60点以上）が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅱ

クラス: しあわせの村・健康増進施設の活性化

授業コード: C005200087

担当者: 椿　武　　**単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	– **%**	**レポート:**	– **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件(60点以上)が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅱ

クラス: おもちゃを通じての遊びの研究、博物館支援

授業コード: C005200088

担当者: 中瀬古　哲　　**単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	－ **%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件（60点以上）が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅱ

クラス: 世代をつなぐ地域コミュニティカフェづくり

授業コード: C005200089

担当者: 三浦 敬太　　**単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	– **%**	**レポート:**	– **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件（60点以上）が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅱ

クラス: 北区におけるスポーツ活動の振興

授業コード: C005200090

担当者: 佃尾 哲哉　　**単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件(60点以上)が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅱ

クラス: 履修登録用

授業コード: C005200099

担当者: 樋口 拓　　**単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	– **%**	**レポート:**	– **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件(60点以上)が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅲ

クラス: 教

授業コード: C005300001

担当者: 臼井 真　　**単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	– **%**	**レポート:**	– **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件(60点以上)が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅲ

クラス: 教

授業コード: C005300002

担当者: 有道 俊雄 **単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	– **%**	**レポート:**	– **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件(60点以上)が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅲ

クラス: 教

授業コード: C005300003

担当者: 横田 郁子 **単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件（60点以上）が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅲ

クラス: 教

授業コード: C005300004

担当者: 北野 富美子 **単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	– **%**	**レポート:**	– **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件（60点以上）が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅲ

クラス: 教

授業コード: C005300010

担当者: 高　奈奈　　**単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件(60点以上)が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅲ

クラス: 教

授業コード: C005300011

担当者: 芝田 悦司 **単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件(60点以上)が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅲ

クラス: 教

授業コード: C005300012

担当者: 冨田 哲浩 **単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件(60点以上)が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅲ

クラス: 教

授業コード: C005300013

担当者: 塚本 久義　　**単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	－ **%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件（60点以上）が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅲ

クラス: 教

授業コード: C005300015

担当者: 瀬戸山 悠 **単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件(60点以上)が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅲ

クラス: 教

授業コード: C005300016

担当者: 福井 逸子 **単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件(60点以上)が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅲ

クラス: 教

授業コード: C005300017

担当者: 高橋　一夫　　**単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件(60点以上)が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅲ

クラス: 教

授業コード: C005300018

担当者: 佐藤 智恵　　**単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件(60点以上)が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅲ

クラス: 教

授業コード: C005300019

担当者: 田中 聡　　**単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について－地域共創とは何か－
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1－課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1－

第6回
・課題解決活動2－課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2－

第7回
・課題解決活動3－課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3－

第8回
・課題解決活動4－課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4－

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5－課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5－

第11回
・課題解決活動6－課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6－

第12回
・課題解決活動7－課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7－

第13回
・課題解決活動8－課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8－

第14回
・課題解決活動9－課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9－

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件(60点以上)が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅲ

クラス: 心

授業コード: C005300030

担当者: 西　恭平　　**単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	－ **%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件(60点以上)が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅲ

クラス: 心

授業コード: C005300031

担当者: 犬飼 朋恵　　**単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件(60点以上)が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅲ

クラス: 心

授業コード: C005300032

担当者: 辻川 典文 **単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	－ **%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件（60点以上）が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅲ

クラス: 国

授業コード: C005300050

担当者: 森上 展宏 **単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件(60点以上)が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅲ

クラス: 国

授業コード: C005300051

担当者: 玉地 瑞穂 **単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件(60点以上)が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅲ

クラス: 国

授業コード: C005300052

担当者: 河野 泉　　**単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件(60点以上)が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅲ

クラス: ☆国　留学クラス

授業コード: C005300053

担当者: 桂　敦子　　**単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件(60点以上)が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅲ

クラス: ス

授業コード: C005300080

担当者: 佃尾 哲哉 **単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件(60点以上)が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅲ

クラス: ス

授業コード: C005300081

担当者: 松田 雅彦 **単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件(60点以上)が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅲ

クラス: ス

授業コード: C005300082

担当者: 三浦 敬太　　**単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件(60点以上)が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅲ

クラス: ス

授業コード: C005300083

担当者: 椿　武　　**単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件(60点以上)が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅲ

クラス: ス

授業コード: C005300084

担当者: 中瀬古　哲　　**単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件(60点以上)が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅲ

クラス: ス

授業コード: C005300085

担当者: 祐末 ひとみ　　**単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件(60点以上)が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 地域共創Ⅲ

クラス: 履修登録用

授業コード: C005300099

担当者: 樋口 拓 **単位数:** 4

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。

到達目標: ・本授業に関わってプロジェクトチームの一員となり、チームアプローチにより現実の社会課題を解決していくプロセスを経験し、その中でエージェンシーを発揮できるようにする。
・解決困難な課題に対する行動の仕方、マインドセットを学ぶ。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション「地域共創科目」について―地域共創とは何か―
・神戸市北区に存在する地域課題の把握と解決に向けてのプロジェクトチーム作りについて
・チームのメンターとチーム統括担当教員について

第2回
・「神戸北未来共創アライアンス」における課題一覧の把握と課題解決チームの決定方法について
・課題解決プロジェクトチームの希望調査について

第3回
・課題解決チーム決定の発表とメンター、プロジェクトチームメンバーの紹介
・地域活動に向けてのチームミーティング1

第4回
・地域活動に向けてのチームミーティング2
・チーム内での役割確認について
・次回からの現地活動に向けての確認

第5回
・課題解決活動1―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動1―

第6回
・課題解決活動2―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動2―

第7回
・課題解決活動3―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動3―

第8回
・課題解決活動4―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動4―

第9回
・活動前半の振り返りと活動改善のポイント確認
・活動後半に向けての役割等の確認

第10回
・課題解決活動5―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動5―

第11回
・課題解決活動6―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動6―

第12回
・課題解決活動7―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動7―

第13回
・課題解決活動8―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動8―

第14回
・課題解決活動9―課題に応じた現地でのプロジェクトチーム活動9―

第15回
・「地域共創Ⅰ」の成果と課題－プロジェクトの成果と活動継続した場合の課題－

特記事項: なし

授業方法: 本授業では、第1回から第15回の各回については2コマ続きで合計2クォーターを使った授業として計画している。
第1回・第2回については履修人数400名超の一斉指導が必要なことから、現在のところオンライン(同期型)によるオリエンテーションを予定している。
第3回・第4回、第9回、第15回については、課題毎のチームに分かれ、直接対面かオンライン(同期型)による打ち合わせ・ディスカッション・グループミーティングによるまとめを予定している。
第5回～第8回、第10回～第14回については、原則、地域課題に応じた現場に出向いて2コマ分の対面活動を行う。
以上の授業方法・学習形態により、地域課題を解決する活動に取り組むものとする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①選択した地域課題に関する日本あるいは世界各国での取り組み事例について ②解決に向けた自分のアイデア ③生成AIを活用しての課題解決に関する手がかりの収集 ④チームメンバーとの必要に応じたオンライン等を活用したコミュニケーション ⑤課題解決活動に必要な物品・資料の作成 等々に相当な時間を費やすようにする。①～⑤の授業外学習の合計時間の目安は120時間程度である。現場での活動がより合理的効果的に進められるようにすること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	プレゼンテーション等		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度について】
・提示の授業・地域活動に確実に出席、参加し、決められた役割を責任をもって行うことで、チーム活動を行う本科目としての単位認定条件(60点以上)が整うと考えてほしい
【加点について】
・上記の最低限の到達条件に加え、①チーム内での積極的な提案、②重要な役割遂行、③意欲的な活動、④地域課題解決に係る想定以上の成果 ⑤活動報告等の機会での効果的なプレゼンテーション 等の観点から、科目担当教員はメンターや地域のチームメンバーと連絡を密にして加点する。
・以上の大学授業としての評点以上に、自分のチームにおける地域の方々の反応や地域住民の反応を自己評価として大切にしてほしい。

課題へのフィードバック:

・各プロジェクトチームには「メンター」が配置される。各チームの活動については都度メンターを中心にチーム内で振り返りとしてのコミュニケーションをとり、次なる活動へのフィードバックと考えてほしい。

教科書: ・特に指定しない。プロジェクトに必要な資料があれば都度配布等を行う。

参考書: ・プロジェクトチームで取り組む課題はそれぞれ異なる。その課題解決に役立ちそうな書籍やデータを検索し、参照すること。

授業・準備学習のアドバイス:

本科目は本学が2025年度より新設した全学卒業必修科目です。神戸市北区に存在する現実の地域課題に学生諸君を含めた様々な関係者が協働することで向き合い、解決をめざします。失敗を想定して何もしないのではなく、まず行動してみようとする積極性と具体的な提案を大いに歓迎します。「答えのない社会課題にどのように立ち向かうのか」、ここを実際に体験し、ここから学んでいただきたいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育原理

クラス: 教前(内規科目)

授業コード: DA00100001

担当者: 隈元 泰弘 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教育の基礎的理解に関する科目(幼稚園)(小学校)(中学校)(高等学校)【必修】

含めることが必要な事項: 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 教育の理念・歴史・思想を各論点において闡明しつつ統合的展開において考察する。理念に関しては、人格の完成を社会適応・内在的本質の開花・自己超越等の視点から、歴史に関しては教育の課題とその解決への試行という視点から、思想に関しては現実主義・理想主義・人間主義等の視点から理解し、これらを総合的にその歴史的展開と現代との関連において解説する。

到達目標: 授業のテーマ:
1. 教育とは何か、何のために教育はあるのか、といった教育の理念。
2. 教育の歴史と現代の課題。
3. 古代から現代に至る代表的な教育思想。

到達目標:
1. 教育理念に関する様々な考え方を理解して自分の言葉で説明できるようになる。
2. 教育理念を実現するために展開されてきた教育活動の歴史を理解し、現在の課題と関連づけて自分の言葉で説明できるようになる。
3. 歴史的に重要な教育思想の意義と内実を理解して自分の言葉で説明できるようになる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション:教育原理を学ぶことの意義
2. 教育の理念と現代の教育問題
3. 学校教育の諸問題と教育理念の諸類型
4. 教育の歴史:(1)古代ギリシアの教育とその歴史的意義
5. 教育の歴史:(2)中世・近世の教育とその現代的意義
6. 教育の歴史:(3)新教育とその現代への連接
7. 古代ギリシアの教育思想:(1)ソフィスト
8. 古代ギリシアの教育思想:(2)ソクラテス
9. 古代ギリシアの教育思想:(3)プラトン
10. 近代の教育思想:(1)ルソー
11. 近代の教育思想:(2)ペスタロッチとフレーベル
12. 現代の教育思想:(1)デューイ他
13. 現代の教育思想:(2)多文化教育等
14. 教育の原点としての家庭教育と社会教育
15. 教育の歴史的展望と現代教育の課題、確認テスト

特記事項: なし

授業方法: 授業は、対面で行う。
講義形式を基盤として以下のような様々な方法を用いる。
・教員との意見交換
・受講生相互の意見交換・討議
・グループワーク
・プレゼンテーション
・視聴覚教材の活用

予習・復習・宿題など(内容・時間):

・予習・復習の時間
各回の授業につき90分の予習と90分の復習を必要とする。
・予習・復習の内容
予習においては、配布された資料や参考文献をもとに、予定される講義内容の理解のための準備や課題発表の用意を周到に行い、グループワークやプレゼンテーション等の必要性に対応できるようにすること。(90分)
復習においては、講義ノートを整理し、文献や各種資料を調査・学修して講義についての理解を深め、レポート・ワークシート等の課題が課

せられている場合はそれを完成すること。(90分)

評価方法:	授業へのとりくみ:	40 %	確認テスト:	60 %	レポート:	- %
	その他1:			%		
	その他2:			%		

評価基準: ・最低限の到達度(60～69点)
上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において基本的なレベルで達成できている。すなわち:
1. 教育理念に関する様々な考え方をその概要において理解し、自分の言葉でその大筋を説明できるようになること。
2. 教育理念を実現するために展開されてきた教育活動の歴史をその概要において理解し、現在の課題と関連づけて自分の言葉でその大筋を説明できるようになること。
3. 歴史的に重要な教育思想の意義と内実をその概要において理解し、自分の言葉でその大筋を説明できるようになること。
・望ましい到達度(80～100点)
上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において客観的な説得力を持つレベルで達成できている。すなわち:
1. 教育理念に関する様々な考え方を正確に理解して自分の言葉で明確に説明できるようになること。
2. 教育理念を実現するために展開されてきた教育活動の歴史を正確に理解し、現在の課題と関連づけて自分の言葉で明確に説明できるようになること。
3. 歴史的に重要な教育思想の意義と内実を正確に理解して自分の言葉で明確に説明できるようになること。

課題へのフィードバック:

課題への解答に対しては、授業のできるだけ早い機会にその秀逸な論点、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、爾後の学修に生産的に還元され得るよう配慮する

教科書: 第1回の講義で指示する

参考書: 佐野安仁監修、加賀裕郎、隈元泰弘編集『現代教育学のフロンティア』世界思想社 2003年
Kindle for PCのコンピュータへのインストールまたはアップデート - Amazonカスタマーサービス 広岡義之著『教育学概説』アマゾン出版 2026年 1,000円
文部科学省『小学校学習指導要領』東洋館出版社(平成30年2月)
文部科学省『中学校学習指導要領』東山書房(平成30年3月)
文部科学省『高等学校学習指導要領(平成30年3月公示)』東山書房
令和5年度最新版『幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』ISBN 978-4-8054-0330-3 チャイルド社

授業・準備学習のアドバイス:

授業に集中すること、これが何より大切である。
グループ討議と発表の時間を設けるので、参加者の意見に耳を傾けつつ積極的に発言して、教育についての自分なりの考えを築いてほしい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育原理

クラス: 教後(内規科目)

授業コード: DA00100002

担当者: 隈元 泰弘 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教育の基礎的理解に関する科目(幼稚園)(小学校)(中学校)(高等学校)【必修】

含めることが必要な事項: 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 教育の理念・歴史・思想を各論点において闡明しつつ統合的展開において考察する。理念に関しては、人格の完成を社会適応・内在的本質の開花・自己超越等の視点から、歴史に関しては教育の課題とその解決への試行という視点から、思想に関しては現実主義・理想主義・人間主義等の視点から理解し、これらを総合的にその歴史的展開と現代との関連において解説する。

到達目標: 授業のテーマ:
1. 教育とは何か、何のために教育はあるのか、といった教育の理念。
2. 教育の歴史と現代の課題。
3. 古代から現代に至る代表的な教育思想。

到達目標:
1. 教育理念に関する様々な考え方を理解して自分の言葉で説明できるようになる。
2. 教育理念を実現するために展開されてきた教育活動の歴史を理解し、現在の課題と関連づけて自分の言葉で説明できるようになる。
3. 歴史的に重要な教育思想の意義と内実を理解して自分の言葉で説明できるようになる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション:教育原理を学ぶことの意義
2. 教育の理念と現代の教育問題
3. 学校教育の諸問題と教育理念の諸類型
4. 教育の歴史:(1)古代ギリシアの教育とその歴史的意義
5. 教育の歴史:(2)中世・近世の教育とその現代的意義
6. 教育の歴史:(3)新教育とその現代への連接
7. 古代ギリシアの教育思想:(1)ソフィスト
8. 古代ギリシアの教育思想:(2)ソクラテス
9. 古代ギリシアの教育思想:(3)プラトン
10. 近代の教育思想:(1)ルソー
11. 近代の教育思想:(2)ペスタロッチとフレーベル
12. 現代の教育思想:(1)デューイ他
13. 現代の教育思想:(2)多文化教育等
14. 教育の原点としての家庭教育と社会教育
15. 教育の歴史的展望と現代教育の課題、確認テスト

特記事項: なし

授業方法: 授業は、対面で行う。
講義形式を基盤として以下のような様々な方法を用いる。
・教員との意見交換
・受講生相互の意見交換・討議
・グループワーク
・プレゼンテーション
・視聴覚教材の活用

予習・復習・宿題など(内容・時間):

・予習・復習の時間
各回の授業につき90分の予習と90分の復習を必要とする。
・予習・復習の内容
予習においては、配布された資料や参考文献をもとに、予定される講義内容の理解のための準備や課題発表の用意を周到に行い、グループワークやプレゼンテーション等の必要性に対応できるようにすること。(90分)
復習においては、講義ノートを整理し、文献や各種資料を調査・学修して講義についての理解を深め、レポート・ワークシート等の課題が課

せられている場合はそれを完成すること。(90分)

評価方法: 授業へのとりくみ: 40 % 確認テスト: 60 % レポート: - %
その他1: %
その他2: %

評価基準: ・最低限の到達度(60～69点)
上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において基本的なレベルで達成できている。すなわち:
1. 教育理念に関する様々な考え方をその概要において理解し、自分の言葉でその大筋を説明できるようになること。
2. 教育理念を実現するために展開されてきた教育活動の歴史をその概要において理解し、現在の課題と関連づけて自分の言葉でその大筋を説明できるようになること。
3. 歴史的に重要な教育思想の意義と内実をその概要において理解し、自分の言葉でその大筋を説明できるようになること。
・望ましい到達度(80～100点)
上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において客観的な説得力を持つレベルで達成できている。すなわち:
1. 教育理念に関する様々な考え方を正確に理解して自分の言葉で明確に説明できるようになること。
2. 教育理念を実現するために展開されてきた教育活動の歴史を正確に理解し、現在の課題と関連づけて自分の言葉で明確に説明できるようになること。
3. 歴史的に重要な教育思想の意義と内実を正確に理解して自分の言葉で明確に説明できるようになること。

課題へのフィードバック:
課題への解答に対しては、授業のできるだけ早い機会にその秀逸な論点、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、爾後の学修に生産的に還元され得るよう配慮する

教科書: 第1回の講義で指示する

参考書: 佐野安仁監修、加賀裕郎、隈元泰弘編集『現代教育学のフロンティア』世界思想社 2003年
Kindle for PCのコンピュータへのインストールまたはアップデート - Amazonカスタマーサービス 広岡義之著『教育学概説』アマゾン出版 2026年 1,000円
文部科学省『小学校学習指導要領』東洋館出版社(平成30年2月)
文部科学省『中学校学習指導要領』東山書房(平成30年3月)
文部科学省『高等学校学習指導要領(平成30年3月公示)』東山書房
令和5年度最新版『幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』ISBN 978-4-8054-0330-3 チャイルド社

授業・準備学習のアドバイス:
授業に集中すること、これが何より大切である。
グループ討議と発表の時間を設けるので、参加者の意見に耳を傾けつつ積極的に発言して、教育についての自分なりの考えを築いてほしい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教職論

クラス: 教前(内規科目)

授業コード: DA00200001

担当者: 小坂　明　　**単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立小学校校長・教諭

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教育の基礎的理解に関する科目(幼稚園)(小学校)(中学校)(高等学校)【必修】

含めることが必要な事項: 教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)

教科に関する専門的事項: −　　**一般的包括的科目:** −

授業の目的: 「教職とは」について、教職の意義、教員の役割、職務内容、資質能力など、実際の教育事例に基づいて、その基礎的・基本的な理論を理解する。社会の進歩や変化のスピードが速まり、学校現場の課題も多種・多様化する中、教員へ求められる課題も多い。その課題解決のため、教員の資格、研修、学校経営(チーム学校を含む)なども現状の様子を映像資料等も参考に活用しながら理解する。これらを理解した上で、教員を目指す自らの動機や「求められる教師像」について考え、学び、将来の教職の基礎になるようディスカッションやグループ学習、プレゼン発表などICTを活用した学習形態を組み合わせて習得する。

到達目標:
1. 学校教育及び教職の社会的意義を学び、教職の魅力とその仕事を理解する。
2. 教員の職務内容や教育公務員としての服務上及び身分上の義務を理解する。
3. 社会情勢を知り、教育の動向を踏まえ、教員に求められる役割と資質能力を理解する。
4. 「小・中・高等学校学習指導要領」及び「幼稚園教育要領」を理解する。
5. 学校が担う役割が拡大、多様化する中、専門職としての教員について理解する。

各回の授業計画:

1. 教職の意義(1) 教職とは何か
2. 教職の意義(2) 教員に求められるもの
3. 教職の職務(1) 教員の身分
4. 教職の職務(2) 教員の服務
5. 教員養成 教員養成の歴史と現状
6. 教員資格と教員の採用 教員免許状と教員採用
7. 教員の資質能力 求められる資質能力
8. 教員の研修と評価 意義と課題
9. 専門職としての教職(1) 現行の小・中・高等学校学習指導要領と次期学習指導要領に向けて
10. 専門職としての教職(2) 幼稚園教育
11. 専門職としての教職(3) 特別支援教育
12. 専門職としての教職(4) 教員と学校経営
13. 専門職としての教職(5) 令和の日本型教育とICTの活用
14. 専門職としての教職(6) 生徒指導・道徳教育
15. 教職をめぐる新たな諸課題

特記事項: なし

授業方法:
・すべての授業を対面で行う。
・パワーポイントを活用した講義を中心として実施する。
・90分の中で、1つの課題を与え、グループ討議又は全体での討議を行う。
・各授業の動画や写真及び関係資料はTeamsの保存しているものを活用する。
・授業では、PC活用し、ワークシートの記入や課題提出を行う。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

予習・復習・宿題など
1. 教育基本法の読み、予習をする。(180分)
2. 「教員に求められるものとは何か」のレポートを作成する。(180分)
3. 学校教育法、教育公務員特例法などを読み、予習する。(180分)
4. 教員の服務「職務上の義務」と「身分上の義務」についてまとめる(180分)
5. 戦前の教員養成と戦後の教員養成の変化を調べる。(180分)
6. 教員免許状の取得要件をまとめる。(180分)
7. 教員の資質能力として挙げられてきたものを整理する。(180分)
8. 教員の研修体制について調べる(180分)

9. 小・中・高等学校学習指導要領の要点をまとめる。(180分)
10. 幼稚園教育要領や保育指針の要点をまとめる。(180分)
11. 特別支援教育ついてのレポートを作成する。(180分)
12. 学校運営協議会等の制度についてまとめる(180分)
13.『「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について』令和4年12月19日中央審議会答申を読んでまとめる。(180分)
14. 生徒指導と道徳教育についてのレポートを作成する。(180分)
15.「教職をめぐる新たな諸課題」について自分の興味ある課題でまとめる。(180分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	40 **%**	**確認テスト:**	40 **%**	**レポート:**	20 **%**
その他1:			**%**		
その他2:			**%**		

評価基準:

1. 授業への取り組み
・整理してメモを取る。積極的に発言や質問をする。(望ましい到達度80～100)
・望ましい授業態度。(最低の到達度60～69)
2. 確認テスト
・客観式テスト(望ましい到達度80～100)(最低の到達度60～69)
3. レポート
・各課題に対して、的確に答え、自分の意見も論じることができ、誤字脱字もなく、文章が400字以上1000字以内、できちんと構成されている。(望ましい到達度80～100)
・各課題に対して、学んだ用語を活用し、テキストに即した内容になっている。(最低の到達度60～69)

課題へのフィードバック:

毎時間のレポートは、次時の時間に評価の観点を全体に向けて説明するとともに、講評もする。
・到達目標に達していない学修については、復習の課題を具体的に提示する。
・適宜行う小テストや確認テストは、その時間内で解答と解説を行う。

教科書: 佐久間裕之 編著『改訂第2版 教職概論』(玉川大学出版部 2024年)

参考書:

・文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)』東洋館出版社
・文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年公示)』東山書房
・文部科学省『幼稚園教育要領解説＜平成30年3月＞』フレーベル館
・内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館
・厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館
・文部科学省『高等学校学習指導要領(平成30年3月公示)』東山書房
・文部科学省『生徒指導提要改訂版(令和4年12月)』東洋館出版社
・文部科学省『これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について(中央審議会答申)』(平成27年12月21日)
・文部科学省『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(中央審議会答申)』(平成28年12月21日)
・文部科学省『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと，協働的な学びの実現～(中央教育審議会答申)』(令和3年1月26日)
・文部科学省『「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～(中央教育審議会答申)』(令和4年12月19日)
・文部科学省「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」令和6年12月25日 中央教育審議会 諮問

授業・準備学習のアドバイス:

・毎回、授業でPC等を活用する。
・Teamsでの資料提供や課題提出をする。
・感染症の流行や公共交通が使用できない等で通学できない場合は、ZoomやTeamsでの授業を行う。また、グループ討議は、対面授業であってもZoomやTeamsを活用する。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教職論

クラス: 教後(内規科目)

授業コード: DA00200002

担当者: 小坂 明 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立小学校校長・教諭

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教育の基礎的理解に関する科目(幼稚園)(小学校)(中学校)(高等学校)【必修】

含めることが必要な事項: 教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 「教職とは」について、教職の意義、教員の役割、職務内容、資質能力など、実際の教育事例に基づいて、その基礎的・基本的な理論を理解する。社会の進歩や変化のスピードが速まり、学校現場の課題も多種・多様化する中、教員へ求められる課題も多い。その課題解決のため、教員の資格、研修、学校経営(チーム学校を含む)なども現状の様子を映像資料等も参考に活用しながら理解する。これらを理解した上で、教員を目指す自らの動機や「求められる教師像」について考え、学び、将来の教職の基礎になるようディスカッションやグループ学習、プレゼン発表などICTを活用した学習形態を組み合わせて習得する。

到達目標:
1. 学校教育及び教職の社会的意義を学び、教職の魅力とその仕事を理解する。
2. 教員の職務内容や教育公務員としての服務上及び身分上の義務を理解する。
3. 社会情勢を知り、教育の動向を踏まえ、教員に求められる役割と資質能力を理解する。
4. 「小・中・高等学校学習指導要領」及び「幼稚園教育要領」を理解する。
5. 学校が担う役割が拡大、多様化する中、専門職としての教員について理解する。

各回の授業計画:

1. 教職の意義(1) 教職とは何か
2. 教職の意義(2) 教員に求められるもの
3. 教職の職務(1) 教員の身分
4. 教職の職務(2) 教員の服務
5. 教員養成 教員養成の歴史と現状
6. 教員資格と教員の採用 教員免許状と教員採用
7. 教員の資質能力 求められる資質能力
8. 教員の研修と評価 意義と課題
9. 専門職としての教職(1) 現行の小・中・高等学校学習指導要領と次期学習指導要領に向けて
10. 専門職としての教職(2) 幼稚園教育
11. 専門職としての教職(3) 特別支援教育
12. 専門職としての教職(4) 教員と学校経営
13. 専門職としての教職(5) 令和の日本型教育とICTの活用
14. 専門職としての教職(6) 生徒指導・道徳教育
15. 教職をめぐる新たな諸課題

特記事項: なし

授業方法:
・すべての授業を対面で行う。
・パワーポイントを活用した講義を中心として実施する。
・90分の中で、1つの課題を与え、グループ討議又は全体での討議を行う。
・各授業の動画や写真及び関係資料はTeamsの保存しているものを活用する。
・授業では、PC活用し、ワークシートの記入や課題提出を行う。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

予習・復習・宿題など
1. 教育基本法の読み、予習をする。(180分)
2. 「教員に求められるものとは何か」のレポートを作成する。(180分)
3. 学校教育法、教育公務員特例法などを読み、予習する。(180分)
4. 教員の服務「職務上の義務」と「身分上の義務」についてまとめる(180分)
5. 戦前の教員養成と戦後の教員養成の変化を調べる。(180分)
6. 教員免許状の取得要件をまとめる。(180分)
7. 教員の資質能力として挙げられてきたものを整理する。(180分)
8. 教員の研修体制について調べる(180分)

9. 小・中・高等学校学習指導要領の要点をまとめる。（180分）
10. 幼稚園教育要領や保育指針の要点をまとめる。（180分）
11. 特別支援教育ついてのレポートを作成する。（180分）
12. 学校運営協議会等の制度についてまとめる（180分）
13.『「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について』令和4年12月19日中央審議会答申を読んでまとめる。（180分）
14. 生徒指導と道徳教育についてのレポートを作成する。（180分）
15.「教職をめぐる新たな諸課題」について自分の興味ある課題でまとめる。（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	40	**%**	**確認テスト：**	40	**%**	**レポート：**	20 **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準：

1. 授業への取り組み
・整理してメモを取る。積極的に発言や質問をする。（望ましい到達度80～100）
・望ましい授業態度。（最低の到達度60～69）
2. 確認テスト
・客観式テスト（望ましい到達度80～100）（最低の到達度60～69）
3. レポート
・各課題に対して、的確に答え、自分の意見も論じることができ、誤字脱字もなく、文章が400字以上1000字以内、できちんと構成されている。（望ましい到達度80～100）
・各課題に対して、学んだ用語を活用し、テキストに即した内容になっている。（最低の到達度60～69）

課題へのフィードバック：

毎時間のレポートは、次時の時間に評価の観点を全体に向けて説明するとともに、講評もする。
・到達目標に達していない学修については、復習の課題を具体的に提示する。
・適宜行う小テストや確認テストは、その時間内で解答と解説を行う。

教科書： 佐久間裕之 編著『改訂第2版 教職概論』（玉川大学出版部 2024年）

参考書：
・文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）』東洋館出版社
・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年公示）』東山書房
・文部科学省『幼稚園教育要領解説＜平成30年3月＞』フレーベル館
・内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館
・厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館
・文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年3月公示）』東山書房
・文部科学省『生徒指導提要改訂版（令和4年12月）』東洋館出版社
・文部科学省『これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について（中央審議会答申）』（平成27年12月21日）
・文部科学省『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（中央審議会答申）』（平成28年12月21日）
・文部科学省『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと，協働的な学びの実現～（中央教育審議会答申）』（令和3年1月26日）
・文部科学省『「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～（中央教育審議会答申）』（令和4年12月19日）
・文部科学省「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」令和6年12月25日 中央教育審議会 諮問

授業・準備学習のアドバイス：

・毎回、授業でPC等を活用する。
・Teamsでの資料提供や課題提出をする。
・感染症の流行や公共交通が使用できない等で通学できない場合は、ZoomやTeamsでの授業を行う。また、グループ討議は、対面授業であってもZoomやTeamsを活用する。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育社会学

クラス: ★小中高/小+(内規科目)

授業コード: DA00300001

担当者: 間渕 泰尚 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教育の基礎的理解に関する科目(幼稚園)(小学校)(中学校)(高等学校)【必修】

含めることが必要な事項: 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 教育とは社会から見れば一つの制度であり、社会から大きな影響を受けている。ここでいう社会とは地域社会、日本社会および国際的な環境の全てを含んでいる。そうした大きな広がりを持った「社会」の中での教育の在り方や課題を理解するためには、各自が持っている教育への思い込みを相対化する教育社会学的な視点が不可欠である。講義形式が主体となるが、随時グループディスカッションなどを挟むことで理解を深めたい。また学校と地域との連携や、学校安全への対応についても取り扱う。

到達目標: 現代の学校教育に関する社会的・制度的事項について基礎的な知識を身に付け、それらに関連する課題を理解するとともに、学校と地域との連携に関する理解および学校安全への対応に関する基礎的知識を身につける。

各回の授業計画:

1. イントロダクション、授業の進め方について(対面)
2. 学校に関する社会的事項(1)学校を巡る状況の変化(オンライン一オンデマンド)
3. 学校に関する社会的事項(2)児童・生徒の生活の変化と指導上の課題(オンライン一オンデマンド)
4. 教育に関する制度的事項(1)公教育の原理と理念(オンライン一オンデマンド)
5. 教育に関する制度的事項(2)教育関係法規(オンライン一オンデマンド)
6. 教育に関する制度的事項(3)教育行政の理念と仕組み(オンライン一オンデマンド)
7. 学校に関する社会的事項(3)近年の教育政策(オンライン一オンデマンド)
8. 学校に関する社会的事項(4)諸外国の教育事情(オンライン一オンデマンド)
9. 学校の社会学(1)学歴社会の変化(オンライン一オンデマンド)
10. 学校の社会学(2)学校教育とジェンダー(オンライン一オンデマンド)
11. 学校と地域との連携(1)地域と連携・協働した学校教育活動(オンライン一オンデマンド)
12. 学校と地域との連携(2)開かれた学校づくりの経緯(オンライン一オンデマンド)
13. 学校安全への対応(1)学校安全の必要性(オンライン一オンデマンド)
14. 学校安全への対応(2)教職員のための学校安全eラーニング(オンライン一オンデマンド)
15. 教育と社会の関連や制度の影響に関するまとめと振り返り(オンライン一オンデマンド)

特記事項: なし

授業方法: 初回は教室での授業とする。2回目以降は原則オンライン授業として実施する。
毎回指定された資料や教材にしたがって課題をまとめて提出してもらう。課題が提出された後で全体に対して補足とフィードバックを行う。この「学習→課題提出→フィードバック確認」までで1回分の学修だと考えてもらいたい。つまり、課題提出の段階で内容を100%理解できなくてもよい。
なお、適宜質疑応答チャンネルを通じたディスカッションを実施したい。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

各回、予習として授業内容に該当する部分の資料収集に75分、復習として授業内容ふりかえりに75分の学修を行うことが望ましい。
最終テストの準備には全体的な復習の時間も含めて450分程度の学修時間を想定している。

評価方法:

授業へのとりくみ:	30	**%**	**確認テスト:**	70	**%**	**レポート:**	− **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: 優=現代の学校教育に関する社会的・制度的事項について知識を十分身に付け、それらに関連する課題を理解するとともに、学校と地域との連携に関する理解および学校安全への対応に関する知識も身につけ、応用ができる。
良=現代の学校教育に関する社会的・制度的事項について知識を十分身に付け、それらに関連する課題を理解するとともに、学校と地域との連携に関する理解および学校安全への対応に関する知識も身についている。
可=現代の学校教育に関する社会的・制度的事項について基本的知識を身に付け、それらに関連する課題を理解するとともに、学校と地域と

の連携に関する理解および学校安全への対応に関する基本的知識も身についている。
不可＝上記知識のいずれかが身についていない

課題へのフィードバック:

最終試験に対する講評を掲示する。

教科書: 指定しない

参考書: 苅谷剛彦他 (2023)『新・教育の社会学』有斐閣アルマ
中教審答申186号『新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について』
中教審答申199号『第2次学校安全の推進に関する計画の策定について』
文部科学省「教職員のための学校安全 e ラーニング」https://anzenkyouiku.mext.go.jp/learning/index.html

---

授業・準備学習のアドバイス:

課題の目的は「どこかに書いてある正解を探して来る」ことではなく、「自分の頭で考えてみる」ことに意義がある。フィードバックを確認することで、自分の考えを発展させること。
「授業への取り組み」は、毎回書いてもらう課題を含む。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育社会学

クラス: ★幼保(内規科目)

授業コード: DA00300002

担当者: 間渕 泰尚 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教育の基礎的理解に関する科目(幼稚園)(小学校)(中学校)(高等学校)【必修】

含めることが必要な事項: 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 教育とは社会から見れば一つの制度であり、社会から大きな影響を受けている。ここでいう社会とは地域社会、日本社会および国際的な環境の全てを含んでいる。そうした大きな広がりを持った「社会」の中での教育の在り方や課題を理解するためには、各自が持っている教育への思い込みを相対化する教育社会学的な視点が不可欠である。講義形式が主体となるが、随時グループディスカッションなどを挟むことで理解を深めたい。また学校と地域との連携や、学校安全への対応についても取り扱う。

到達目標: 現代の学校教育に関する社会的・制度的事項について基礎的な知識を身に付け、それらに関連する課題を理解するとともに、学校と地域との連携に関する理解および学校安全への対応に関する基礎的知識を身につける。

各回の授業計画:

1. イントロダクション、授業の進め方について(対面)
2. 学校に関する社会的事項(1)学校を巡る状況の変化(オンライン一オンデマンド)
3. 学校に関する社会的事項(2)児童・生徒の生活の変化と指導上の課題(オンライン一オンデマンド)
4. 教育に関する制度的事項(1)公教育の原理と理念(オンライン一オンデマンド)
5. 教育に関する制度的事項(2)教育関係法規(オンライン一オンデマンド)
6. 教育に関する制度的事項(3)教育行政の理念と仕組み(オンライン一オンデマンド)
7. 学校に関する社会的事項(3)近年の教育政策(オンライン一オンデマンド)
8. 学校に関する社会的事項(4)諸外国の教育事情(オンライン一オンデマンド)
9. 学校の社会学(1)学歴社会の変化(オンライン一オンデマンド)
10. 学校の社会学(2)学校教育とジェンダー(オンライン一オンデマンド)
11. 学校と地域との連携(1)地域と連携・協働した学校教育活動(オンライン一オンデマンド)
12. 学校と地域との連携(2)開かれた学校づくりの経緯(オンライン一オンデマンド)
13. 学校安全への対応(1)学校安全の必要性(オンライン一オンデマンド)
14. 学校安全への対応(2)教職員のための学校安全eラーニング(オンライン一オンデマンド)
15. 教育と社会の関連や制度の影響に関するまとめと振り返り(オンライン一オンデマンド)

特記事項: なし

授業方法: 初回は教室での授業とする。2回目以降は原則オンライン授業として実施する。
毎回指定された資料や教材にしたがって課題をまとめて提出してもらう。課題が提出された後で全体に対して補足とフィードバックを行う。この「学習→課題提出→フィードバック確認」までで1回分の学修だと考えてもらいたい。つまり、課題提出の段階で内容を100%理解できなくてもよい。
なお、適宜質疑応答チャンネルを通じたディスカッションを実施したい。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

各回、予習として授業内容に該当する部分の資料収集に75分、復習として授業内容ふりかえりに75分の学修を行うことが望ましい。
最終テストの準備には全体的な復習の時間も含めて450分程度の学修時間を想定している。

評価方法:

授業へのとりくみ:	30	**%**	**確認テスト:**	70	**%**	**レポート:**	− **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: 優=現代の学校教育に関する社会的・制度的事項について知識を十分身に付け、それらに関連する課題を理解するとともに、学校と地域との連携に関する理解および学校安全への対応に関する知識も身につけ、応用ができる。
良=現代の学校教育に関する社会的・制度的事項について知識を十分身に付け、それらに関連する課題を理解するとともに、学校と地域との連携に関する理解および学校安全への対応に関する知識も身についている。
可=現代の学校教育に関する社会的・制度的事項について基本的知識を身に付け、それらに関連する課題を理解するとともに、学校と地域と

の連携に関する理解および学校安全への対応に関する基本的知識も身についている。
不可＝上記知識のいずれかが身についていない

課題へのフィードバック:

最終試験に対する講評を掲示する。

教科書: 指定しない

参考書: 苅谷剛彦他 (2023)『新・教育の社会学』有斐閣アルマ
中教審答申186号『新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について』
中教審答申199号『第2次学校安全の推進に関する計画の策定について』
文部科学省「教職員のための学校安全 e ラーニング」https://anzenkyouiku.mext.go.jp/learning/index.html

授業・準備学習のアドバイス:

課題の目的は「どこかに書いてある正解を探して来る」ことではなく、「自分の頭で考えてみる」ことに意義がある。フィードバックを確認することで、自分の考えを発展させること。
「授業への取り組み」は、毎回書いてもらう課題を含む。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育心理学

クラス: 教前(内規科目)

授業コード: DA00400001

担当者: 小川内 哲生 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:スクールカウンセラー

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教育の基礎的理解に関する科目(幼稚園)(小学校)(中学校)(高等学校)【必修】

含めることが必要な事項: 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 1. 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関する諸理論を説明するとともに、各発達時期の諸機能の発達についての具体的な内容を解説する。
2. 幼児、児童及び生徒の学習に関する諸理論を説明するとともに、発達を踏まえた学習支援の基礎概念を解説する。

到達目標: 1. 幼児、児童及び生徒の心身の発達の特徴ならびに発達の過程を理解する。
2. 幼児、児童及び生徒の学習の特徴ならびに学習の過程を理解し、幼児、児童及び生徒の発達を踏まえた学習支援についての基礎的な考えを理解する。

各回の授業計画:

1. 教育心理学における発達と学習の概念
2. 発達に影響を与える要因(遺伝と環境)
3. 認知発達理論
4. 精神発達理論
5. 古典的な学習理論
6. 学校学習への学習理論の適用
7. 言語発達
8. 知性の発達
9. パーソナリティの発達
10. 知識の獲得過程
11. 認知の個人差と教育
12. 学習を支える動機づけの仕組みと働き
13. 自己調整学習を理解する
14. 発達を踏まえた学習支援の方策
15. 学習を支える学習指導法と教育評価 まとめ

特記事項: なし

授業方法: 全ての授業を対面で行う。
1. 講義
2. 講義
3. 講義
4. 講義
5. 講義
6. 講義
7. 講義、視聴覚教材視聴
8. 講義、視聴覚教材視聴
9. 講義
10. 講義
11. 講義、視聴覚教材視聴
12. 講義
13. 講義
14. 講義、視聴覚教材視聴
15. 講義

予習・復習・宿題など(内容・時間):

予習(講義時間内に示唆したweb等の情報をもとにパソコンを用いて文献、資料等を検索し授業予定の章の調べ学習を行う):90分
復習(配布資料、提供したweb等の情報をもとにパソコンを用いて授業内容ならびに不明個所について確認し、学びを深める):90分

合計：(90分＋90分）×15時間＝2700分

評価方法：

授業へのとりくみ：	20	**%**	**確認テスト：**	80	**%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準： 月1回（月末）実施する確認テスト（20分程度のテスト時間）の得点と、授業に対する取り組みを合計することによって評価する。すなわち、4月（20%）、5月（20%）、6月（20%）、7月（20%）及び授業に対する取り組み（20%）の合計 100%で評価する。
なお、授業の取り組みは授業中の質問や自分の考えを発表することにより評価する。

「最低限の到達」（60～69点）
・教育心理学に関する基礎的な専門用語を答えることができる。
・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について基礎的な知識を修得できている。
・幼児、児童及び生徒の学習の特徴ならびに学習の過程を理解し、発達を踏まえた学習支援についての基礎的な考えを理解している。

「望ましい到達度」（80～100点）
・教育心理学に関する基礎的な専門用語や概念を把握し説明できる。
・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程についての専門的な知識を修得し、発達段階の特徴を適切に説明できる。
・幼児、児童及び生徒の学習の特徴ならびに学習の過程を理解し、発達を踏まえた学習支援について具体的な対応方法を解説することができる。

課題へのフィードバック：
試験に対しては、模範解答例はTeamsにて提示する。

教科書： 栗川直子・浜崎隆司（編）（2024）『やさしく学ぶ教育心理学』ナカニシヤ出版

参考書： 杉森伸吉・松尾直博・上淵寿（編）（2020）『コアカリキュラムで学ぶ教育心理学』培風館
多鹿秀継・上淵 寿・堀田千絵・津田恭充（2018）『読んでわかる教育心理学』 サイエンス社

授業・準備学習のアドバイス：
資料に沿って授業を展開するため、しっかりと予習・復習をしてほしい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育心理学

クラス: 教後(内規科目)

授業コード: DA00400002

担当者: 小川内 哲生 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:スクールカウンセラー

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教育の基礎的理解に関する科目(幼稚園)(小学校)(中学校)(高等学校)【必修】

含めることが必要な事項: 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 1. 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関する諸理論を説明するとともに、各発達時期の諸機能の発達についての具体的な内容を解説する。
2. 幼児、児童及び生徒の学習に関する諸理論を説明するとともに、発達を踏まえた学習支援の基礎概念を解説する。

到達目標: 1. 幼児、児童及び生徒の心身の発達の特徴ならびに発達の過程を理解する。
2. 幼児、児童及び生徒の学習の特徴ならびに学習の過程を理解し、幼児、児童及び生徒の発達を踏まえた学習支援についての基礎的な考えを理解する。

各回の授業計画:

1. 教育心理学における発達と学習の概念
2. 発達に影響を与える要因(遺伝と環境)
3. 認知発達理論
4. 精神発達理論
5. 古典的な学習理論
6. 学校学習への学習理論の適用
7. 言語発達
8. 知性の発達
9. パーソナリティの発達
10. 知識の獲得過程
11. 認知の個人差と教育
12. 学習を支える動機づけの仕組みと働き
13. 自己調整学習を理解する
14. 発達を踏まえた学習支援の方策
15. 学習を支える学習指導法と教育評価 まとめ

特記事項: なし

授業方法: 全ての授業を対面で行う。
1. 講義
2. 講義
3. 講義
4. 講義
5. 講義
6. 講義
7. 講義、視聴覚教材視聴
8. 講義、視聴覚教材視聴
9. 講義
10. 講義
11. 講義、視聴覚教材視聴
12. 講義
13. 講義
14. 講義、視聴覚教材視聴
15. 講義

予習・復習・宿題など(内容・時間):

予習(講義時間内に示唆したweb等の情報をもとにパソコンを用いて文献、資料等を検索し授業予定の章の調べ学習を行う):90分
復習(配布資料、提供したweb等の情報をもとにパソコンを用いて授業内容ならびに不明個所について確認し、学びを深める):90分

合計：(90分＋90分）×15時間＝2700分

評価方法：

授業へのとりくみ：	20	**%**	**確認テスト：**	80	**%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準： 月1回（月末）実施する確認テスト（20分程度のテスト時間）の得点と、授業に対する取り組みを合計することによって評価する。すなわち、4月（20%）、5月（20%）、6月（20%）、7月（20%）及び授業に対する取り組み（20%）の合計 100%で評価する。
なお、授業の取り組みは授業中の質問や自分の考えを発表することにより評価する。

「最低限の到達」（60～69点）
・教育心理学に関する基礎的な専門用語を答えることができる。
・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について基礎的な知識を修得できている。
・幼児、児童及び生徒の学習の特徴ならびに学習の過程を理解し、発達を踏まえた学習支援についての基礎的な考えを理解している。

「望ましい到達度」（80～100点）
・教育心理学に関する基礎的な専門用語や概念を把握し説明できる。
・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程についての専門的な知識を修得し、発達段階の特徴を適切に説明できる。
・幼児、児童及び生徒の学習の特徴ならびに学習の過程を理解し、発達を踏まえた学習支援について具体的な対応方法を解説することができる。

課題へのフィードバック：
試験に対しては、模範解答例はTeamsにて提示する。

教科書： 栗川直子・浜崎隆司（編）（2024）『やさしく学ぶ教育心理学』ナカニシヤ出版

参考書： 杉森伸吉・松尾直博・上淵寿（編）（2020）『コアカリキュラムで学ぶ教育心理学』培風館
多鹿秀継・上淵 寿・堀田千絵・津田恭充（2018）『読んでわかる教育心理学』 サイエンス社

授業・準備学習のアドバイス：
資料に沿って授業を展開するため、しっかりと予習・復習をしてほしい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 特別支援教育入門

クラス: 小中高/小+(内規科目)

授業コード: DA00500001

担当者: 瀬戸山 悠 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教育の基礎的理解に関する科目(幼稚園)(小学校)(中学校)(高等学校)【必修】

含めることが必要な事項: 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 到達目標に基づいた基本的な内容を幅広く学ぶ。教科書の「小林倫代編著 改訂版『教員と教員になりたい人のための特別支援教育のテキスト 気付き、工夫して、つなげる』をもとに講義形式で授業を行う。必要に応じて資料等を配付する。

到達目標:
1. 障害のある幼児・児童・生徒の基本的な障害特性について概要を理解する。
2. 障害のある幼児・児童・生徒に対する教育の体制、目的、支援の方法を理解する。
3. 障害はないが特別な教育的ニーズのある生徒について、生活・行動上の課題と支援方法を理解する。
4. 保護者・関係機関との連携について理解する。

各回の授業計画:

1. 特別支援教育の基本的考え方を知る。
2. 五障害(視、聴、肢、病、知)に関して理解する。
3. 特別支援学校等に関して理解する。(教育課程、自立活動、交流及び共同学習)
4. 特別支援学級、通級指導教室等に関して理解する。
5. 発達障害、母国語等により特別な教育的ニーズのある子どもたちについて知る。
6. 通常の学校におけるユニバーサルデザインの支援について理解する。
7. 通常の学校における支援体制について理解する。保護者・関係機関との連携について理解する。
8. まとめ(到達目標にあげた障害特性、教育の体制、目的、支援等の振り返り)第8回授業(45分間)に引き続き試験(45分間)を行う

特記事項: なし

授業方法: すべての授業を対面授業で行う。
第1回 講義
第2回 講義
第3回 講義
第4回 講義
第5回 講義
第6回 講義
第7回 講義
第8回 講義・確認テスト
※小集団討議や演習も適宜おこなう。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

第1回(予習)特別支援教育や障害について知っていることを記述する。(160分)
第2回(復習)五障害について理解したことをまとめる。(170分)
第3回(復習)特別支援学校の仕組み等について理解したことをまとめる。(170分)
第4回(復習)特別支援学級、通級指導教室の仕組み等について理解したことをまとめる。(170分)
第5回(復習)発達障害等について理解したことをまとめる。(170分)
第6回(復習)ユニバーサルデザインについて理解したことをまとめる。(170分)
第7回(復習)通常の学校における特別支援教育の取組と、保護者等との連携について理解したことをまとめる。(170分)
第8回(復習)これまでの学習について内容をまとめ、確認する。(170分)

評価方法：	授業へのとりくみ：	10 %	確認テスト：	90 %	レポート：	－ %
	その他1：			%		
	その他2：			%		

評価基準： 【最低限の到達度（60～69点）】
・授業へのとりくみ 授業へ参加している。
・試験 各回の授業で学んだことに関するキーワードをある程度理解している。
【望ましい到達度（80～100点）】
・授業へのとりくみ 授業へ積極的に参加している。
・試験 各回の授業で学んだことに関するキーワードを正しく理解している。

課題へのフィードバック：

課題への講評およびコメントシートで出された質問等への回答については、講義内もしくはTeamsにておこなう。

教科書： 小林倫代編著 改訂版『教員と教員になりたい人のための特別支援教育のテキスト 気付き、工夫して、つなげる』学研（令和4年）
内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社（2017年6月）
文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)』東洋館出版社
文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)』東山書房
文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）』東山書房

参考書： 文部科学省「特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領」海文堂出版（平成30年3月）
文部科学省「特別支援学校高等部学習指導要領（平成31年告示）」海文堂出版
文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編」東洋館出版社
その他、小学校学習指導要領 解説の各教科編を参考にすること。
文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編」東山書房
その他、中学校学習指導要領 解説の各教科編を参考にすること。
文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総則編」東洋館出版社
その他、高等学校学習指導要領 解説の各教科編を参考にすること。
※その他、授業中に適宜資料を配付する。

授業・準備学習のアドバイス：

授業は春学期の前半に行います。7.5回の授業です。授業日に注意し欠席しないようにしましょう。
第8回授業（45分間）に引き続き試験（45分間）を実施します。記述式の試験で授業で取り上げたキーワードについて問う形式で行います。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 特別支援教育入門

クラス: 幼保(内規科目)

授業コード: DA00500002

担当者: 瀬戸山 悠 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教育の基礎的理解に関する科目(幼稚園)(小学校)(中学校)(高等学校)【必修】

含めることが必要な事項: 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 到達目標に基づいた基本的な内容を幅広く学ぶ。教科書の「小林倫代編著 改訂版『教員と教員になりたい人のための特別支援教育のテキスト 気付き、工夫して、つなげる』をもとに講義形式で授業を行う。必要に応じて資料等を配付する。

到達目標:
1. 障害のある幼児・児童・生徒の基本的な障害特性について概要を理解する。
2. 障害のある幼児・児童・生徒に対する教育の体制、目的、支援の方法を理解する。
3. 障害はないが特別な教育的ニーズのある生徒について、生活・行動上の課題と支援方法を理解する。
4. 保護者・関係機関との連携について理解する。

各回の授業計画:

1. 特別支援教育の基本的考え方を知る。
2. 五障害(視、聴、肢、病、知)に関して理解する。
3. 特別支援学校等に関して理解する。(教育課程、自立活動、交流及び共同学習)
4. 特別支援学級、通級指導教室等に関して理解する。
5. 発達障害、母国語等により特別な教育的ニーズのある子どもたちについて知る。
6. 通常の学校におけるユニバーサルデザインの支援について理解する。
7. 通常の学校における支援体制について理解する。保護者・関係機関との連携について理解する。
8. まとめ(到達目標にあげた障害特性、教育の体制、目的、支援等の振り返り)第8回授業(45分間)に引き続き試験(45分間)を行う

特記事項: なし

授業方法: すべての授業を対面授業で行う。
第1回 講義
第2回 講義
第3回 講義
第4回 講義
第5回 講義
第6回 講義
第7回 講義
第8回 講義・確認テスト
※小集団討議や演習も適宜おこなう。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

第1回(予習)特別支援教育や障害について知っていることを記述する。(160分)
第2回(復習)五障害について理解したことをまとめる。(170分)
第3回(復習)特別支援学校の仕組み等について理解したことをまとめる。(170分)
第4回(復習)特別支援学級、通級指導教室の仕組み等について理解したことをまとめる。(170分)
第5回(復習)発達障害等について理解したことをまとめる。(170分)
第6回(復習)ユニバーサルデザインについて理解したことをまとめる。(170分)
第7回(復習)通常の学校における特別支援教育の取組と、保護者等との連携について理解したことをまとめる。(170分)
第8回(復習)これまでの学習について内容をまとめ、確認する。(170分)

評価方法：	授業へのとりくみ：	10 %	確認テスト：	90 %	レポート：	－ %
	その他1：			%		
	その他2：			%		

評価基準： 【最低限の到達度（60～69点）】
・授業へのとりくみ 授業へ参加している。
・試験 各回の授業で学んだことに関するキーワードをある程度理解している。
【望ましい到達度（80～100点）】
・授業へのとりくみ 授業へ積極的に参加している。
・試験 各回の授業で学んだことに関するキーワードを正しく理解している。

課題へのフィードバック：

課題への講評およびコメントシートで出された質問等への回答については、講義内もしくはTeamsにておこなう。

教科書： 小林倫代編著 改訂版『教員と教員になりたい人のための特別支援教育のテキスト 気付き、工夫して、つなげる』学研（令和4年）【秋学期の教科書販売中に必ず購入すること】
内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社（2017年6月）
文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)』東洋館出版社
文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)』東山書房
文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）』東山書房

参考書： 文部科学省「特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領」海文堂出版（平成30年3月）
文部科学省「特別支援学校高等部学習指導要領（平成31年告示）」海文堂出版
文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編」東洋館出版社
その他、小学校学習指導要領 解説の各教科編を参考にすること。
文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編」東山書房
その他、中学校学習指導要領 解説の各教科編を参考にすること。
文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総則編」東洋館出版社
その他、高等学校学習指導要領 解説の各教科編を参考にすること。
※その他、授業中に適宜資料を配付する。

授業・準備学習のアドバイス：

授業は秋学期の後半に行います。7.5回の授業です。授業日に注意し欠席しないようにしましょう。
第8回授業（45分間）に引き続き試験（45分間）を実施します。記述式の試験で授業で取り上げたキーワードについて問う形式で行います。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育方法・ICT活用論

クラス: ★小中高/小+(内規科目)

授業コード: DA00650001

担当者: 中尾 尊洋 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立中学校教諭(担任, 教務主任, 主幹教諭, 情報担当、研究担当)

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目(幼稚園)(小学校)(中学校)(高等学校)【必修】

含めることが必要な事項: 教育の方法及び技術
情報通信技術を活用した教育の理論及び方法
教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用も含む。)

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 様々な教育の方法や指導技術についての知識を広げつつ、学習指導要領・教育要領で打ち出された知識基盤社会を生きる子どもたちに求められる資質・能力についての理解とその育成の方法についての理解を深め、指導に必要な技能を高める。教育現場におけるICTの活用については, 先端技術を含むICTに関する社会の動向を確認した上で, 授業における児童生徒および教員によるICT活用, 授業の準備や学習評価における活用, 校務における活用や教育データの活用について取り上げる。また, 全ての学習の基盤であり, 情報社会を生きていくための資質・能力である情報活用能力について, その構成要素および具体的な指導法, 教育課程上の位置づけについて学ぶ。

到達目標:
1. これからの社会を生きる子どもたちに求められる資質・能力や, それらを育成するために必要な教育の方法や指導技術について理解している
2. 授業を行う上での基本的な技術を身に付け, 学習指導案を作成することができる。
3. 教育の情報化について理解し, 教育現場におけるICT活用の意義や理論について理解を得る
4. ICTを活用した学習指導や校務の実際と今後の在り方について理解を得る
5. 情報活用能力を育成する意義および育成方法を身につける

各回の授業計画:

1. ガイダンス、教育における方法と技術について
2. 教育方法・授業技術の理論
3. 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた資質・能力の育成
4. 授業づくり
5. 学習評価
6. 授業技術
7. 学習指導案の作成・改善
8. 現在とこれからの社会におけるICTの役割と教育
9. 教師のICT活用指導力と先端技術とデジタルコンテンツの活用
10. 特別支援・幼児教育におけるICT活用
11. 個別最適な学びと対話的な学びを深めるICTの活用と遠隔授業
12. 児童生徒によるICT活用
13. 児童生徒の情報活用能力の育成
14. 情報モラル・情報セキュリティの理解と教育
15. 校務の情報化とデータの活用, まとめとふりかえり

特記事項: なし

授業方法: 講義を踏まえつつ、レポート作成において考察することにより理解を深める。
① 講義(対面)
②〜⑮ 講義(オンライン(オンデマンド))

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回次の予習復習をするものとする。
予習(90分)
・授業計画および授業方法に記載されている講義内容について事前に調べる。
復習(90分)
・講義内容を復習し、適宜ノートにまとめる。
・返却された課題を見直し自学自習する。

評価方法：	授業へのとりくみ：	30 %	確認テスト：	－ %	レポート：	70 %
	その他1：			%		
	その他2：			%		

評価基準：

優（80～100） 下記の1、2を両方満たす
1)教育方法学の概要、系統主義、経験主義等の教育観や問題解決学習等の教育方法について、用語や例を挙げて説明ができる。教育課程、学習目標、評価など、授業設計に関する諸要素について、関連する理論を理解しつつ、実例をあげて説明することができるとともに、明確な学習目標や評価基準を作成することができる。学習指導要領の変遷について、それぞれの学習指導要領の特徴をあげて詳細に説明ができる。平成29年告示の学習指導要領総則のポイントである、育成すべき資質・能力や教育方法について及び情報活用能力の育成について要点をおさえつつ、用語や例を挙げて説明できる。情報教育について、情報活用の実践力、情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度の観点から、さまざまな実践事例を持ちいて説明するとともに、具体的な指導の方法を説明することができる。
2) 出席したすべての授業中のディスカッションや課題に対して積極的に参加した。

良（70～79） 下記の1、2を両方満たす
1) 教育方法学の概要、系統主義、経験主義等の教育観や問題解決学習等の教育方法について、教育課程、学習目標、評価など、授業設計に関する諸要素について、関連する理論をすべからく述べることができる。学習指導要領の変遷について、大まかな流れを説明することができる。平成29年告示の学習指導要領総則のポイントである、育成すべき資質・能力やその教育方法について、情報活用能力の育成について述べることができる。情報教育について、情報活用の実践力、情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度について述べることができる。
2) 出席したすべての授業中のディスカッションや課題に参加した。

可（60～69） 下記の1、2を両方満たす
1) 教育方法学の概要、系統主義、経験主義等の教育観や問題解決学習等の教育方法について、教育課程、学習目標、評価など、授業設計に関する諸要素について、概ね述べることができる。学習指導要領の変遷について概ね述べることができる。平成29年告示の学習指導要領総則のポイントである、育成すべき資質・能力やその教育方法について、情報活用能力の育成について概ね述べることができる。情報教育について、情報活用の実践力、情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度について概ね述べることができる。
2) 出席したすべての授業中のディスカッションや課題に概ね参加した。

課題へのフィードバック：

課題小レポートは個別にフィードバックを返す。
課題小レポートの内容について、全体に向けフィードバックを返す。

教科書：

文部科学省『小学校学習指導要領』（平成29年3月告示）
文部科学省『中学校学習指導要領』（平成29年3月告示）
内閣府 文部科学省 厚生労働省『幼稚園教育要領、保育所保育指針幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年3月告示）
文部科学省『教育の情報化に関する手引-追補版-』(令和2年6月)
文部科学省『小学校プログラミング教育の手引き（第3版）』(令和2年2月)
文部科学省「情報モラルに関する指導の充実に資する(児童生徒向けの動画教材（31年2月配布）、教員向けの指導手引き)・(保護

参考書：

※授業内に適宜資料を配布する。

授業・準備学習のアドバイス：

授業に関連するキーワードについては，各自でも調べ，深く理解できるようにする。
事前に関連する文献，Webサイト等から概略を掴んでおくことが望ましい。
毎回のレポート提出にあたって，授業内容をしっかりと理解する。
毎回のレポート提出の後にも，コメント等から理解を深めるようにする。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育方法・ICT活用論

クラス: ★幼保(内規科目)

授業コード: DA00650002

担当者: 中尾 尊洋 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立中学校教諭(担任, 教務主任, 主幹教諭, 情報担当、研究担当)

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目(幼稚園)(小学校)(中学校)(高等学校)【必修】

含めることが必要な事項: 教育の方法及び技術
情報通信技術を活用した教育の理論及び方法
教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用も含む。)

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 様々な教育の方法や指導技術についての知識を広げつつ、学習指導要領・教育要領で打ち出された知識基盤社会を生きる子どもたちに求められる資質・能力についての理解とその育成の方法についての理解を深め、指導に必要な技能を高める。教育現場におけるICTの活用については, 先端技術を含むICTに関する社会の動向を確認した上で, 授業における児童生徒および教員によるICT活用, 授業の準備や学習評価における活用, 校務における活用や教育データの活用について取り上げる。また, 全ての学習の基盤であり, 情報社会を生きていくための資質・能力である情報活用能力について, その構成要素および具体的な指導法, 教育課程上の位置づけについて学ぶ。

到達目標:
1. これからの社会を生きる子どもたちに求められる資質・能力や, それらを育成するために必要な教育の方法や指導技術について理解している
2. 授業を行う上での基本的な技術を身に付け, 学習指導案を作成することができる。
3. 教育の情報化について理解し, 教育現場におけるICT活用の意義や理論について理解を得る
4. ICTを活用した学習指導や校務の実際と今後の在り方について理解を得る
5. 情報活用能力を育成する意義および育成方法を身につける

各回の授業計画:

1. ガイダンス、教育における方法と技術について
2. 教育方法・授業技術の理論
3. 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた資質・能力の育成
4. 授業づくり
5. 学習評価
6. 授業技術
7. 学習指導案の作成・改善
8. 現在とこれからの社会におけるICTの役割と教育
9. 教師のICT活用指導力と先端技術とデジタルコンテンツの活用
10. 特別支援・幼児教育におけるICT活用
11. 個別最適な学びと対話的な学びを深めるICTの活用と遠隔授業
12. 児童生徒によるICT活用
13. 児童生徒の情報活用能力の育成
14. 情報モラル・情報セキュリティの理解と教育
15. 校務の情報化とデータの活用, まとめとふりかえり

特記事項: なし

授業方法: 講義を踏まえつつ、レポート作成において考察することにより理解を深める。
① 講義(対面)
②〜⑮ 講義(オンライン(オンデマンド))

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回次の予習復習をするものとする。
予習(90分)
・授業計画および授業方法に記載されている講義内容について事前に調べる。
復習(90分)
・講義内容を復習し、適宜ノートにまとめる。
・返却された課題を見直し自学自習する。

評価方法：	授業へのとりくみ：	30 %	確認テスト：	－ %	レポート：	70 %
	その他1：			%		
	その他2：			%		

評価基準：

優（80～100） 下記の1、2を両方満たす
1)教育方法学の概要、系統主義、経験主義等の教育観や問題解決学習等の教育方法について、用語や例を挙げて説明ができる。教育課程、学習目標、評価など、授業設計に関する諸要素について、関連する理論を理解しつつ、実例をあげて説明することができるとともに、明確な学習目標や評価基準を作成することができる。学習指導要領の変遷について、それぞれの学習指導要領の特徴をあげて詳細に説明ができる。平成29年告示の学習指導要領総則のポイントである、育成すべき資質・能力や教育方法について及び情報活用能力の育成について要点をおさえつつ、用語や例を挙げて説明できる。情報教育について、情報活用の実践力、情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度の観点から、さまざまな実践事例を持ちいて説明するとともに、具体的な指導の方法を説明することができる。
2) 出席したすべての授業中のディスカッションや課題に対して積極的に参加した。

良（70～79） 下記の1、2を両方満たす
1) 教育方法学の概要、系統主義、経験主義等の教育観や問題解決学習等の教育方法について、教育課程、学習目標、評価など、授業設計に関する諸要素について、関連する理論をすべからく述べることができる。学習指導要領の変遷について、大まかな流れを説明することができる。平成29年告示の学習指導要領総則のポイントである、育成すべき資質・能力やその教育方法について、情報活用能力の育成について述べることができる。情報教育について、情報活用の実践力、情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度について述べることができる。
2) 出席したすべての授業中のディスカッションや課題に参加した。

可（60～69） 下記の1、2を両方満たす
1) 教育方法学の概要、系統主義、経験主義等の教育観や問題解決学習等の教育方法について、教育課程、学習目標、評価など、授業設計に関する諸要素について、概ね述べることができる。学習指導要領の変遷について概ね述べることができる。平成29年告示の学習指導要領総則のポイントである、育成すべき資質・能力やその教育方法について、情報活用能力の育成について概ね述べることができる。情報教育について、情報活用の実践力、情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度について概ね述べることができる。
2) 出席したすべての授業中のディスカッションや課題に概ね参加した。

課題へのフィードバック：

課題小レポートは個別にフィードバックを返す。
課題小レポートの内容について、全体に向けフィードバックを返す。

教科書：

文部科学省『小学校学習指導要領』（平成29年3月告示）
文部科学省『中学校学習指導要領』（平成29年3月告示）
内閣府 文部科学省 厚生労働省『幼稚園教育要領、保育所保育指針幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年3月告示）
文部科学省『教育の情報化に関する手引-追補版-』(令和2年6月)
文部科学省『小学校プログラミング教育の手引き（第3版）』(令和2年2月)
文部科学省「情報モラルに関する指導の充実に資する(児童生徒向けの動画教材（31年2月配布）、教員向けの指導手引き)・(保護

参考書：

※授業内に適宜資料を配布する。

授業・準備学習のアドバイス：

授業に関連するキーワードについては，各自でも調べ，深く理解できるようにする。
事前に関連する文献，Webサイト等から概略を掴んでおくことが望ましい。
毎回のレポート提出にあたって，授業内容をしっかりと理解する。
毎回のレポート提出の後にも，コメント等から理解を深めるようにする。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育相談

クラス: 小中小+(内規科目)

授業コード: DA00700001

担当者: 藤原 忠雄 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:高等学校及び養護学校(現特別支援学校)教諭＜教育相談室長・特別支援教育コーディネーター等＞, 県教育センター教育相談部指導主事
【関連資格】学校心理士SV・公認心理師等

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目(幼稚園)(小学校)(中学校)【必修】

含めることが必要な事項: 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 本授業では, 学校教育相談の基盤となる概念規定を理解する。また, 支援の前提となる児童生徒理解に基づく個別及び集団への支援の実際, 学級経営の基礎となる子ども及び保護者との信頼関係構築について理解する。さらに, チーム学校構想に基づく支援会議の実際について理解を深める。加えて, 教職員のメンタルヘルスの重要性についても理解する。
本授業により, 教師としての必要な実践力(教師力)の向上を図る。

到達目標:
1. 学校教育相談の意義と理論を理解する。
具体的には, 学校教育相談の概念規定, 活動の全体像及び具体的活動について理解する。
2. 学校教育相談の基礎的知識(カウンセリングに関する基礎的事柄を含む)を理解する。
具体的には, 児童生徒理解の構造, カウンセリングの基本スキル, 心理教育について理解する。
3. 学校教育相談の具体的な進め方やそのポイント, 組織的な取り組みや連携の必要性を理解する。
具体的には, チーム学校構想, チーム支援の実際, 教育相談コーディネーターの役割と機能について理解する。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション, 教育相談とは(概念規定)
2. 子ども理解①:重要性と全体構造
3. 子ども理解②:一般的理解・客観的理解・共感的理解の実際
4. 個別支援①:カウンセリング基礎基本
5. 個別支援②:カウンセリング技法(積極的傾聴)
6. 心理教育①:リラックス上手
7. 心理教育②:受け止め上手
8. 心理教育③:表現上手
9. 子どもの居場所づくりと信頼関係構築
10. 保護者との信頼関係構築
11. チーム学校と教育相談コーディネーターの機能と役割
12. 支援会議の実際①
13. 支援会議の実際②
14. 教員の就労状況とメンタルヘルス
15. 総括討議, レポート

特記事項: なし

授業方法: 【対面】
全体を通して, アクティブ・ラーニングを展開する。
1. 講義・グループディスカッション
2. 講義・グループディスカッション
3. 講義・グループディスカッション
4. 講義・演習
5. 講義・演習
6. 講義・演習
7. 講義・演習
8. 講義・演習
9. 講義・グループディスカッション
10. 講義・グループディスカッション
11. 講義 ・グループディスカッション
12. 講義・演習

13. 講義・演習
14. 講義・グループディスカッション
15. 全体ディスカッション・総括

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

予習として，各回の内容に関する事前の情報収集が必要である（合計780分）。復習として，「授業アンケート」（体験の振り返り）及びそれに基づく関連内容の追加情報収集が必要である（合計1560分）。また，レポート課題の作成作業が必要である（合計360分）。なお，予習及び復習課題に関しては，毎回の授業終了時に提示する。

評価方法：

授業へのとりくみ：	40	**%**	**確認テスト：**	30	**%**	**レポート：**	30 **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準： 受講態度（40%），確認テスト「授業アンケート」（30%），レポート（30%）を総合的に評価する。
受講態度は，授業中の積極的・能動的・協働的な参加態度を評価する。
授業アンケート及びレポートは，授業内容に関して適切に理解ができているかについて評価する。

評価指標は，以下の通りである。
【最低限の到達（60～69点）】
1. 学校教育相談の意義と理論について説明できる。
2. 学校教育相談の基礎的知識について説明できる。
3. 学校教育相談の具体的な進め方やそのポイント，組織的な取り組みや連携の必要性について説明できる。
【望ましい到達度（80～100点）】
1. 学校教育相談の意義と理論を踏まえ，活動の全体像及び具体的活動を構想できる。
2. 学校教育相談の基礎的知識を基に，実際的な児童生徒理解，カウンセリング，心理教育を構想できる。
3. 学校教育相談の進め方のポイントとして，チーム支援，教育相談コーディネーターの役割と機能を具体的に構想できる。

課題へのフィードバック：

授業アンケートに関しては，次回の授業の中で感想や質問等を全体でシェアリングする。
レポートに関しては，必要に応じて授業外の場でフィードバックする。

教科書： 教科書は特に指定しない。必要に応じて、関連資料を配布する。

参考書： 大野精一・藤原忠雄（編著）「学校教育相談の理論と実践：学校教育相談の展開史，隣接領域の動向，実践を踏まえた将来展望」あいり出版 2018年
文部科学省『生徒指導提要（改定版）』2022年12月 ＜Web版＞https://www.mext.go.jp/content/20230220-mxt_jidou01-000024699-201-1.pdf
一般社団法人日本学校教育相談学会（企画）春日井敏之・梅川康治・栗原慎二・藤原忠雄（編著）「学校教育相談 理論と実践のガイドブック」ほんの森出版 2025年

授業・準備学習のアドバイス：

授業中の積極的・能動的・協働的な参加態度を大切にする。
授業アンケートへの取り組みを通して授業内容を整理するとともに，自身の気付きや考えの変容等を再認識することを大切にする。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育相談

クラス: 幼保(内規科目)

授業コード: DA00700002

担当者: 藤原 忠雄 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:高等学校及び養護学校(現特別支援学校)教諭<教育相談室長・特別支援教育コーディネーター等>, 県教育センター教育相談部指導主事
【関連資格】学校心理士SV・公認心理師等

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目(幼稚園)(小学校)(中学校)【必修】

含めることが必要な事項: 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 本授業では, 学校教育相談の基盤となる概念規定を理解する。また, 支援の前提となる児童生徒理解に基づく個別及び集団への支援の実際, 学級経営の基礎となる子ども及び保護者との信頼関係構築について理解する。さらに, チーム学校構想に基づく支援会議の実際について理解を深める。加えて, 教職員のメンタルヘルスの重要性についても理解する。
本授業により, 教師としての必要な実践力(教師力)の向上を図る。

到達目標:
1. 学校教育相談の意義と理論を理解する。
具体的には, 学校教育相談の概念規定, 活動の全体像及び具体的活動について理解する。
2. 学校教育相談の基礎的知識(カウンセリングに関する基礎的事柄を含む)を理解する。
具体的には, 児童生徒理解の構造, カウンセリングの基本スキル, 心理教育について理解する。
3. 学校教育相談の具体的な進め方やそのポイント, 組織的な取り組みや連携の必要性を理解する。
具体的には, チーム学校構想, チーム支援の実際, 教育相談コーディネーターの役割と機能について理解する。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション, 教育相談とは(概念規定)
2. 子ども理解①:重要性と全体構造
3. 子ども理解②:一般的理解・客観的理解・共感的理解の実際
4. 個別支援①:カウンセリング基礎基本
5. 個別支援②:カウンセリング技法(積極的傾聴)
6. 心理教育①:リラックス上手
7. 心理教育②:受け止め上手
8. 心理教育③:表現上手
9. 子どもの居場所づくりと信頼関係構築
10. 保護者との信頼関係構築
11. チーム学校と教育相談コーディネーターの機能と役割
12. 支援会議の実際①
13. 支援会議の実際②
14. 教員の就労状況とメンタルヘルス
15. 総括討議, レポート

特記事項: なし

授業方法: 【対面】
全体を通して, アクティブ・ラーニングを展開する。
1. 講義・グループディスカッション
2. 講義・グループディスカッション
3. 講義・グループディスカッション
4. 講義・演習
5. 講義・演習
6. 講義・演習
7. 講義・演習
8. 講義・演習
9. 講義・グループディスカッション
10. 講義・グループディスカッション
11. 講義 ・グループディスカッション
12. 講義・演習

13. 講義・演習
14. 講義・グループディスカッション
15. 全体ディスカッション・総括

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

予習として，各回の内容に関する事前の情報収集が必要である（合計780分）。復習として，「授業アンケート」（体験の振り返り）及びそれに基づく関連内容の追加情報収集が必要である（合計1560分）。また，レポート課題の作成作業が必要である（合計360分）。なお，予習及び復習課題に関しては，毎回の授業終了時に提示する。

評価方法：

授業へのとりくみ：	40	**%**	**確認テスト：**	30	**%**	**レポート：**	30 **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準：

受講態度（40%），確認テスト「授業アンケート」（30%），レポート（30%）を総合的に評価する。
受講態度は，授業中の積極的・能動的・協働的な参加態度を評価する。
授業アンケート及びレポートは，授業内容に関して適切に理解ができているかについて評価する。

評価指標は，以下の通りである。
【最低限の到達（60～69点）】
1. 学校教育相談の意義と理論について説明できる。
2. 学校教育相談の基礎的知識について説明できる。
3. 学校教育相談の具体的な進め方やそのポイント，組織的な取り組みや連携の必要性について説明できる。
【望ましい到達度（80～100点）】
1. 学校教育相談の意義と理論を踏まえ，活動の全体像及び具体的活動を構想できる。
2. 学校教育相談の基礎的知識を基に，実際的な児童生徒理解，カウンセリング，心理教育を構想できる。
3. 学校教育相談の進め方のポイントとして，チーム支援，教育相談コーディネーターの役割と機能を具体的に構想できる。

課題へのフィードバック：

授業アンケートに関しては，次回の授業の中で感想や質問等を全体でシェアリングする。
レポートに関しては，必要に応じて授業外の場でフィードバックする。

教科書：

教科書は特に指定しない。必要に応じて、関連資料を配布する。

参考書：

大野精一・藤原忠雄（編著）「学校教育相談の理論と実践：学校教育相談の展開史，隣接領域の動向，実践を踏まえた将来展望」あいり出版 2018年
文部科学省『生徒指導提要（改定版）』2022年12月 ＜Web版＞https://www.mext.go.jp/content/20230220-mxt_jidou01-000024699-201-1.pdf
一般社団法人日本学校教育相談学会（企画）春日井敏之・梅川康治・栗原慎二・藤原忠雄（編著）「学校教育相談 理論と実践のガイドブック」ほんの森出版 2025年

授業・準備学習のアドバイス：

授業中の積極的・能動的・協働的な参加態度を大切にする。
授業アンケートへの取り組みを通して授業内容を整理するとともに，自身の気付きや考えの変容等を再認識することを大切にする。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 人権教育

クラス: 小中小+(内規科目)

授業コード: DA00800001

担当者: 澤井 未緩 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:大学が独自に設定する科目(幼稚園)(小学校)(中学校)(高等学校)【必修】

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 現代社会の人権状況や問題点について理解を深め、それに対し教育はなにができるのかを自分で考えることを目的としている。到達目標に対応した法制度や基本的な内容を理解した上で、自身の考えを適切にまとめること。また、自分の考えと他者の考えを共有しあうことで、自身の思想や立場をふりかえること。正解が一つでない場面で、より高い水準で考えようとする力を培うこと。

到達目標: 人権教育は、幼児児童生徒が、自分の大切さとともに、他の人の大切さを認めることの意義を理解し、そのことを態度や行動で体現できるようになることが目標となる。そのため、以下を到達目標とする。
1. 学校における人権教育の意義を深く理解し、また、学校外の人権課題についても知識を獲得する。
2. 学校で起こりうる人権課題に対し、教育者としてどのような対応が可能かを考える。
3. 幼児児童生徒が望ましい態度や行動をとることができるよう、的確な指導方法について理解し、実践できる。

各回の授業計画:

1. 人権とはなにか①世界人権宣言から考える
2. 人権とはなにか②子どもの権利から考える
3. 学校と人権①いじめのない学級づくり
4. 学校と人権②体罰と校則
5. 学校と人権③ジェンダーと隠れたカリキュラム
6. 学校と人権④同和教育から学ぶ学力保障
7. 学校と人権⑤「国籍」の多様性
8. 学校と人権⑥インクルーシブ教育が目指すもの
9. 人権に関する動画視聴
10. 学校と人権⑦人権としての防災教育
11. 学校と人権⑧労働とハラスメント
12. 学校と人権⑨情報社会のなかで
13. 学校と人権⑩包括的性教育を通して考える
14. 学校と人権⑪ワークショップ実践に触れる
15. 人権教育のまとめ

特記事項: なし

授業方法: 授業はすべて対面形式で行います。また、各回の授業において、以下の授業方法を取り入れています。受講生には授業内活動への積極的な参加を期待します。
・講義
・グループワーク
・ディスカッション

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 予習とレポートの作成(180分)
2. 予習とレポートの作成(180分)
3. 予習とレポートの作成(180分)
4. 予習とレポートの作成(180分)
5. 予習とレポートの作成(180分)
6. 予習とレポートの作成(180分)
7. 予習とレポートの作成(180分)
8. 予習とレポートの作成(180分)
9. 予習とレポートの作成(180分)
10. 予習とレポートの作成(180分)
11. 予習とレポートの作成(180分)

12. 予習とレポートの作成(180分)
13. 予習とレポートの作成(180分)
14. 予習とレポートの作成(180分)
15. 予習とレポートの作成(180分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	20	**%**	**確認テスト:**	50	**%**	**レポート:**	30 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: 授業ごとに提出物に取り組んでいる。ディスカッションに参加している。基礎的な専門用語を説明することができる。テキストの趣旨に沿って、レポートにまとめることができる。(60～69)
授業ごとに提出物に積極的に取り組んでいる。ディスカッションに参加し、自身の考えを発表することができる。一般的な専門用語を詳しく具体的に説明することができる。テキストを読みこみ、レポートに自身の考えを的確にまとめることができる。(80～100)

課題へのフィードバック:
提出物や発表については、その都度ポイントや評価の観点を全体に向けて説明する。

教科書: なし
必要な資料は配布します。

参考書: なし
授業内で適宜提示します。

授業・準備学習のアドバイス:
・人権問題について関心を持ち、日常的に新聞やTVニュースなどで新しい情報やデータを収集するように心がけてください。
・人権問題に関して、自分が日頃抱いている疑問や問題意識を大切にして、授業内活動(アクティビティ、グループワーク)やディスカッションに活かしてください。授業では積極的に発言したり、参加するようにしてください。授業中の参加姿勢を評価するようにします。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 人権教育

クラス: 幼保(内規科目)

授業コード: DA00800002

担当者: 澤井 未緩 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:大学が独自に設定する科目(幼稚園)(小学校)(中学校)(高等学校)【必修】

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 現代社会の人権状況や問題点について理解を深め、それに対し教育はなにができるのかを自分で考えることを目的としている。到達目標に対応した法制度や基本的な内容を理解した上で、自身の考えを適切にまとめること。また、自分の考えと他者の考えを共有しあうことで、自身の思想や立場をふりかえること。正解が一つでない場面で、より高い水準で考えようとする力を培うこと。

到達目標: 人権教育は、幼児児童生徒が、自分の大切さとともに、他の人の大切さを認めることの意義を理解し、そのことを態度や行動で体現できるようになることが目標となる。そのため、以下を到達目標とする。
1. 学校における人権教育の意義を深く理解し、また、学校外の人権課題についても知識を獲得する。
2. 学校で起こりうる人権課題に対し、教育者としてどのような対応が可能かを考える。
3. 幼児児童生徒が望ましい態度や行動をとることができるよう、的確な指導方法について理解し、実践できる。

各回の授業計画:

1. 人権とはなにか①世界人権宣言から考える
2. 人権とはなにか②子どもの権利から考える
3. 学校と人権①いじめのない学級づくり
4. 学校と人権②体罰と校則
5. 学校と人権③ジェンダーと隠れたカリキュラム
6. 学校と人権④同和教育から学ぶ学力保障
7. 学校と人権⑤「国籍」の多様性
8. 学校と人権⑥インクルーシブ教育が目指すもの
9. 人権に関する動画視聴
10. 学校と人権⑦人権としての防災教育
11. 学校と人権⑧労働とハラスメント
12. 学校と人権⑨情報社会のなかで
13. 学校と人権⑩包括的性教育を通して考える
14. 学校と人権⑪ワークショップ実践に触れる
15. 人権教育のまとめ

特記事項: なし

授業方法: 授業はすべて対面形式で行います。また、各回の授業において、以下の授業方法を取り入れています。受講生には授業内活動への積極的な参加を期待します。
・講義
・グループワーク
・ディスカッション

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 予習とレポートの作成(180分)
2. 予習とレポートの作成(180分)
3. 予習とレポートの作成(180分)
4. 予習とレポートの作成(180分)
5. 予習とレポートの作成(180分)
6. 予習とレポートの作成(180分)
7. 予習とレポートの作成(180分)
8. 予習とレポートの作成(180分)
9. 予習とレポートの作成(180分)
10. 予習とレポートの作成(180分)
11. 予習とレポートの作成(180分)

12. 予習とレポートの作成(180分)
13. 予習とレポートの作成(180分)
14. 予習とレポートの作成(180分)
15. 予習とレポートの作成(180分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	20	**%**	**確認テスト:**	50	**%**	**レポート:**	30 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: 授業ごとに提出物に取り組んでいる。ディスカッションに参加している。基礎的な専門用語を説明することができる。テキストの趣旨に沿って、レポートにまとめることができる。(60～69)
授業ごとに提出物に積極的に取り組んでいる。ディスカッションに参加し、自身の考えを発表することができる。一般的な専門用語を詳しく具体的に説明することができる。テキストを読みこみ、レポートに自身の考えを的確にまとめることができる。(80～100)

課題へのフィードバック:
提出物や発表については、その都度ポイントや評価の観点を全体に向けて説明する。

教科書: なし
必要な資料は配布します。

参考書: なし
授業内で適宜提示します。

授業・準備学習のアドバイス:
・人権問題について関心を持ち、日常的に新聞やTVニュースなどで新しい情報やデータを収集するように心がけてください。
・人権問題に関して、自分が日頃抱いている疑問や問題意識を大切にして、授業内活動(アクティビティ、グループワーク)やディスカッションに活かしてください。授業では積極的に発言したり、参加するようにしてください。授業中の参加姿勢を評価するようにします。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育学基礎演習Ⅰ

クラス: 再履

授業コード: DA05000001

担当者: 福井 逸子 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 初年次教育を引き継ぎ、コミュニケーション力及び探究のための基礎的スキルを身につける。

到達目標:
1. コミュニケーションスキル及びディスカッション力、プレゼンテーション能力の形成
2. 情報の収集と整理及び論文作成に関する基本的技能の獲得

各回の授業計画:

1. 趣旨とねらいについてのオリエンテーション
2. 振り返りシートの作成(これまでの学修状況を通して)
3. 今後の学修計画の立案
4. 情報の整理と収集①
5. 情報の整理と収集②
6. 情報の整理と収集③
7. 文献検索講座の受講
8. 文献等よる情報収集
9. 文献等による情報収集とまとめ
10. 探求心の向上①
11. 探究心の向上②
12. 探究心の向上③
13. 課題意識の確認と共有-レポート作成に向けて①
14. 課題意識の確認と共有-レポート作成に向けて②
15. まとめと評価

特記事項: なし

授業方法: 本授業は、すべて対面で行う。
小+系の志望と幼・保系の志望に分かれ、少人数個別指導方式で運営する。
3年次専門教育の準備段階として、基本的には統一シラバスで実施するが、担当教員の専門分野を活かした内容も取り入れる。
演習形式を基本として以下のような様々な方法を用いる。

・ディスカッション、ディベート
・プレゼンテーション
・視聴覚教材の活用
・教育に関連する様々な実践的練習

予習・復習・宿題など(内容・時間):

・予習・復習の時間
各回の授業につき2時間の予習と2時間の復習を必要とする。
・予習・復習の内容
予習においては、予定される議題や課題発表の準備を十全に行い、プレゼンテーション等の必要性に対応できるようにすること。(2時間)
復習においては、求められる課題について各種資料・文献調査に基づいて学修し、レポート等を作成すること。(2時間)

評価方法:

授業へのとりくみ:	50 %	**確認テスト:**	－ %	**レポート:**	50 %
その他1:			%		
その他2:			%		

評価基準:　・最低限の到達度(60～69点):
上記の「到達目標」を、その実用性・学術性において基本的なレベルで達成できている。
すなわち:
1. 誤解のない意思の疎通を可能とするコミュニケーションスキル及び自分の意思を誤解なく伝え主張できるディスカッション力、プレゼンテーション能力の形成
2. 不可欠の基礎となる情報の収集と整理及び読み手を意識した論文作成に関する基本的技能の獲得
・望ましい到達度(80～100点):
上記の「到達目標」を、その実用性・学術性において客観的な説得力を持つレベルで達成できている。
すなわち:
1. 意思の明確な疎通を可能とするコミュニケーションスキル及び自分の意思を明確に伝え主張できるディスカッション力、プレゼンテーション能力の形成
2. 正確な情報の収集と整理及び論旨の通った論文作成に関する基本的技能の獲得

課題へのフィードバック:

課題への解答に対しては、授業のできるだけ早い機会にその秀逸な論点、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評する。

教科書:　吉原/間渕/富江/小針 新版『スタディスキルズ・トレーニング 大学で学ぶための25のスキル』 実教出版
(1年次の基礎演習で用いた上記テキストを継続して活用する。)

参考書:　授業中に必要に応じて指示する。また、参考資料を適宜配布する。

授業・準備学習のアドバイス:

子どもにかかわる仕事に就くための基礎を学ぶ演習である。各自の主体的な文献検索、情報収集、整理等の事前準備と積極的な発表への取り組みが望まれる。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育学基礎演習Ⅱ

クラス: 再履

授業コード: DA05100001

担当者: 福井 逸子 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 教・保育の現代的課題について、分析・検討・発表・討論等を積極的に行うことを通して、教職に必要な資質とスキルを形成する。

到達目標:
1. コミュニケーションスキル及びディスカッション力、プレゼンテーション能力の形成
2. 情報の収集と整理及び論文作成に関する基本的技能の獲得

各回の授業計画:

1. 趣旨とねらいについてのオリエンテーション
2. 課題意識の確認と共有
3. 新聞による情報収集とディスカッション
4. 実践的指導
5. 情報整理及び発想法等
6. 教材研究・作成(1)
7. 教材研究・作成(2)
8. 教材研究・作成(3)
9. 探求のスキル(1)
10. 探求のスキル(2)
11. 探求のスキル(3)
12. プレゼンテーション資料の作成(1)
13. プレゼンテーション資料の作成・発表
14. プレゼンテーションと相互評価
15. まとめと評価

特記事項: なし

授業方法: 授業は、すべて対面で行う。
小+系の志望と幼・保系の志望に分かれ、少人数個別指導方式で運営する。
3年次専門教育の準備段階として、基本的には統一シラバスで実施するが、担当教員の専門分野を活かした内容も取り入れる。
演習形式を基本として以下のような様々な方法を用いる。
・ディスカッション、ディベート
・プレゼンテーション
・視聴覚教材の活用
・教育・保育に関連する様々な実践的練習

予習・復習・宿題など(内容・時間):

・予習・復習の時間
各回の授業につき2時間の予習と2時間の復習を必要とする。
・予習・復習の内容
予習においては、予定される議題や課題発表の準備を従前に行い、プレゼンテーション等の必要性に対応できるようにすること。(2時間)
復習においては、求められる課題について各種資料・文献調査に基づいて学修し、レポート等を作成すること。(2時間)

評価方法:

授業へのとりくみ:	50	**%**	**確認テスト:**	－	**%**	**レポート:**	50 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: ・最低限の到達度(60～69点):

上記の「到達目標」を、その実用性・学術性において、当演習Ⅰで培った能力・技能等を基盤として、基本的なレベルで達成できている。
すなわち：
1. 基本的な意思の疎通を可能とするコミュニケーションスキル、及び、自分の意思を整然と伝え主張できるディスカッション力、プレゼンテーション能力の形成
2. エビデンスとして最小限必要な情報の収集と整理、及び、問題提起とその展開を意識した論文作成に関する基本的技能の獲得
・望ましい到達度（80～100点）：
上記の「到達目標」を、その実用性・学術性において、当演習Ⅰで培った能力・技能等を基盤として、客観的な説得力を持つレベルで達成できている。
すなわち：
1. 明晰判明な意思の疎通を可能とするコミュニケーションスキル、及び、自分の意見を明確な根拠づけとその展開をもって主張できるディスカッション力、プレゼンテーション能力の形成
2. 十分なエビデンスと豊かな内容のある情報の収集と整理の能力、及び、明確な問題意識と論理的な整合性のある論文作成の能力の獲得

課題へのフィードバック：

課題への解答に対しては、授業のできるだけ早い機会にその秀逸な論点、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、爾後の学修に生産的に還元され得るよう配慮する。

教科書： 吉原/間渕/富江/小針 新版『スタディスキルズ・トレーニング 大学で学ぶための25のスキル』実教出版（1年次基礎演習テキストと共通）

参考書： 授業中に必要に応じて指示する。また、参考資料を適宜配布する。

授業・準備学習のアドバイス：

幼・保志望と小＋α志望の二領域に分かれて演習を行う。それぞれにおいて第1テーマ・第2テーマとして異なる課題を学ぶことで児童教育への理解を広げるとともに、卒論として結実させる自らの専門分野の確立に向けて、その端緒を形成することが求められる。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育学専門演習Ⅰ

クラス:

授業コード: DA05200001

担当者: 猪田 裕子 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: ここでは、幼児期の子どもの持つ独自の視点や行動を理解し、彼らが世界をどのように捉えているのかを探究する。文献や具体的な事例を用い、子どもの成長や興味の背景を考察することで、子どもに寄り添う姿勢を養うことを目的とする。また、この学びを通じて子ども理解を深めるだけでなく、教育や人間関係において必要な視野の拡大と応用力の向上を目指す。

到達目標: 子どもの姿を肯定的に捉え、個々の特性や行動の背景を理解することができる。
子どもの遊びを観察し、その中に含まれる学びの要素を見出すことができる。
子どもの姿を「学び」の視点から捉え、成長のプロセスを理解することができる。
本学の研究倫理基準を理解し、それを踏まえた研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーションと研究倫理本ゼミの目的と進め方

2. 関係づくり①―相互理解と強みの共有自己紹介・対話活動を通して互いの関心や強みを可視化し、安心して意見交換できるゼミ文化を形成する。

3. キャリアガイダンスへ参加

4. 関係づくり②―合意形成でゼミを動かす意見の違いを学びの資源として扱い、合意形成の手順を用いてゼミの目標と活動方針を具体化する。

5. 対話力―聴く・まとめる・つなぐ傾聴・要約・確認・質問の基本を演習し、ゼミの議論が前に進むコミュニケーションの型を身につける。

6. 実践準備①―現場に向かう姿勢と観察の視点安全・倫理への配慮を確認し、子どもの姿・環境・援助に着目した観察視点を整えて実践に臨む準備を行う。

7. 教材制作①―幼児の学びを支える計画を立てる対象年齢とねらいを明確にし、導入からまとめまでの活動計画を作成し、視聴覚教材の企画を具体化する。

8. 教材制作②―幼児の学びを支える実践を検討する幼児の理解に即した言葉・テンポ・繰り返し・問いかけをイメージし、教材研究を深める。

9. 教材制作③―試作とブラッシュアップ見やすさ・聞きやすさ・活動の展開を点検しながら改善を重ねる。

10. 実践準備②―実施計画と援助の組み立て当日の運営（役割分担・時間配分・導入・展開・まとめ）を具体化し、子どもの反応に応じた援助を考える。

11. 模擬実践―ゼミ内リハーサルでイメージを共有する各自のフィードバックを基に教材と活動計画を改善し、実践に向けて深める。

12. 園での実践―視聴覚教材の実施と子ども理解幼児教育施設で視聴覚教材を実施し、子どもの理解・関心・参加の姿から学びを得て、援助の在り方を実感的に深める。

13. 省察①―実践を手がかりに子ども理解を深める実践で得た事実を共有し、子どもの姿の理解を多面的に捉え直し、教材・援助等の改善点を具体化する。

14. 省察②―成果の言語化と共有（報告・作品整理）視聴覚教材を整え、実践の目的・方法・結果・考察を整理して学びを発信できる形にする。

15. 前期総括―学びの統合と後期への展望協働・対話・制作・実践の学びを統合し、後期の研究テーマや実践課題へつながる展望を明確にする。

特記事項: ※全15回の授業のうちキャリアセンターからのキャリアガイダンスが1回入るため、授業内容が変更になる場合があります。

授業方法: 【対面】
演習
講義
討論
グループワーク

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1.予習：前期テーマ（関係構築・対話力・教材制作・現場実践）を確認し、自己目標と班で貢献できることを整理する（120分）
復習：班編成・役割分担・合意事項を文書化し、次回までのタスクを明確にする（120分）
2.予習：自己紹介シート（関心・強み・挑戦）を作成し、共有の準備を行う（90分）
復習：対話活動の学びを振り返り、班の協働ルール（発言・連絡・締切）案を整える（90分）

3.予習：教材テーマ案を2案準備し（対象年齢・ねらい・媒体・所要時間を明記）、班検討に持参する（120分）
復習：合意形成の過程を振り返り、決定事項と根拠、次回までの検討課題を整理する（120分）
4.予習：傾聴・要約・確認・質問の型を短い例で準備し、演習に参加できる状態にする（90分）
復習：自分の発話を「要約・確認・質問」に分類し、改善点を踏まえた次回の目標を記す（90分）
5.予習：園・地域との連絡文に必要な要素（目的・日時・人数・準備物等）を整理し、文例を1通作る（90分）
復習：班の依頼文・連絡文を推敲し、送付用の完成稿として整える（90分）
6.予習：実践に向けた観察テーマを1つ設定し、観点（子ども・環境・援助）を各1点ずつ整理する（120分）
復習：安全・倫理・態度の留意点をチェックリスト化し、班で共有できる形にまとめる（120分）
7.予習：幼児向け視聴覚教材の事例を1つ視聴し、良い点（3点）を企画に転用できる形で整理する（120分）
復習：企画書（対象年齢・ねらい・構成・準備物・評価観点）を班で完成させる（120分）
8.予習：専門語の言い換え・短文化・問いかけの工夫を行い、台本の表現候補を準備する（120分）
復習：台本・絵コンテを修正し、実施可能な完成版として整える（120分）
9.予習：制作に必要な素材（画像・音・小道具等）と権利・出典を確認し、素材リストを作成する（120分）
復習：試作版を点検（見やすさ・聞きやすさ・テンポ・安全性）し、改善点を反映した改訂案を作る（120分）
10.予習：当日の運営計画（役割分担・タイムテーブル・導入の言葉・問いかけ）を案として作成する（120分）
復習：子どもの反応別（3パターン）の援助・進行の分岐案を整備し、班の手順書に反映する（120分）
11.予習：模擬実践の通し練習を行い、自分担当の言葉かけ・動線・提示物を最終確認する（150分）
復習：相互フィードバックを整理し、修正版（台本・資料・進行案・制作物）を完成形に近づける（150分）
12.予習：実践当日のねらい・観察観点・持参物・連絡事項を最終確認し、班内共有を完了する（120分）
復習：実践報告を作成（事実→解釈→改善案）し、次回省察に向けて論点を整理する（180分）
13.予習：実践記録を読み返し、成功点2・課題2を根拠（場面）付きで整理する（120分）
復習：改善案を「教材／援助／環境／運営」に分けて具体化し、改訂計画としてまとめる（180分）
14.予習：報告書の骨子（目的・方法・結果・考察・今後）を作成し、必要資料（写真・スライド等）を整理する（120分）
復習：報告書・共有資料を完成させ、成果物（教材）と合わせて提出可能な体裁に整える（240分）
15予習：前期の学びを「協働・対話・制作・実践」の観点で要点整理し、後期への課題候補を列挙する（120分）
復習（課題）：前期総括レポート（後期の研究テーマ／実践課題への接続を含む）を作成する（240分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	80 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	積極的な教材研究の姿勢	10 **%**			
その他2：	プレゼンテーションへの取り組み	10 **%**			

評価基準：
・課題のレポートで自分の意見を述べることができている（80-100）
・プレゼンテーションを通して探究の姿勢を学ぶことができている（80-100）

課題へのフィードバック：

各自の課題発表時、討論の中で助言する。

教科書： なし

参考書： 令和5年度最新版 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞ ISBN 978-4-8054-0330-3 チャイルド社

授業・準備学習のアドバイス：

全員での対話（話し合い）が演習の基本となるので、積極的な参加を望む。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育学専門演習Ⅰ

クラス:

授業コード: DA05200003

担当者: 森 眞理 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 子どもの最善の利益を保障する保育・教育を探究・実践・発信することが今日の世界的な課題である。本演習では、子どもの権利条約の理解を踏まえて”Think Globally, Act Locally(地球規模で考え、足元から行動)“と、子どもを取り巻く世界の時事と幼児教育との対話から、演習生一人ひとりが子どもと共に育ち学びあう担い手としての知識と実践力を身につける。

到達目標:
1. 子どもの権利条約を理解し、子ども理解と保育・教育実践との関係性を深める。
2. 子どもを取り巻く世界の動き・課題についての理解し、問題意識を向上する。
3. ゼミを活性化、深化する貢献者として出席・参加する。
4. 調査研究の意味・意義を理解し、論文についての基本知識・スキルを把握する。
5. 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション:ゼミメンバー自己紹介と分かち合い
2. 演習個人課題とグループ課題の理解:① 子ども観と子どもを取り巻く世界
3. 進路ガイダンス(キャリアセンター主催)
4. 子どもの権利と保育・教育:原則①差別禁止
5. 子どもの権利と保育・教育:原則②最善の利益
6. 子どもの権利と保育・教育:原則③生命・生存・発達の権利
7. 子どもの権利と保育・教育:原則④意見を聞かれる権利
8. ゲストスピーカーとの学び合い
9. グループプレゼンテーションとディスカッション:原則①差別禁止
10. グループプレゼンテーションとディスカッション:原則②最善の利益
11. グループプレゼンテーションとディスカッション:原則③生命・生存・発達の権利
12. グループプレゼンテーションとディスカッション:原則④意見を聞かれる権利
13. 研究への誘い:研究倫理基準についての学び ① 個人発表とフィードバック
14. 研究への誘い:②個人発表とフィードバック
15. まとめ:振り返りと今後の展望

特記事項: ※全15回の授業のうちキャリアセンターからのキャリアガイダンスが1回入る可能性有り。その場合、授業内容が変更になる場合があります。

授業方法:
1. 演習 (対面)
2. 発表・ディスカッション(対面)
3. 発表・ディスカッション(対面)
4. 講義・ディスカッション(対面)
5. 講義・ディスカッション(対面)
6. 講義・ディスカッション(対面)
7. 講義・ディスカッション(対面)
8. 演習(対面)
9. 発表・ディスカッション(対面)
10. 発表・ディスカッション(対面)
11. 発表・ディスカッション(対面)
12. 発表・ディスカッション(対面)
13. 演習(対面)
14. 演習(対面)
15. 演習(対面)

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. 予：ゼミへの意気込みをまとめる（90分）、復：ゼミ内容の省察（90分）
2. 予：個人課題・問題意識をまとめる（180分）、復：ゼミ内容の省察（120分）
3. 予：個人課題・問題意識をまとめる（180分）、復：ゼミ内容の省察（120分）
4. 予：資料を読み、討議内容をまとめる（120分）、復：ゼミ内容の省察（120分）
5. 予：資料を読み、討議内容をまとめる（120分）、復：ゼミ内容の省察（（120分）
6. 予：資料を読み、討議内容をまとめる（120分）、復：ゼミ内容の省察（（120分）
7. 予：資料を読み、討議内容をまとめる（120分）、復：ゼミ内容の省察（120分）
8. 予：資料を読み、討議内容をまとめる（120分）、復：ゼミ内容の省察（120分）
9. 予：発表に備える（180分）、復：ゼミ内容の省察（120分）
10. 予：発表に備える（180分）、復：ゼミ内容の省察（120分）
11. 予：発表に備える（180分）、復：ゼミ内容の省察（120分）
12. 予：発表に備える（180分）、復：ゼミ内容の省察（120分）
13. 予：発表に向けた準備を行う（180分）、復：論文に向けて考察する（120分）
14. 予：発表に向けた準備を行う（180分）、復：論文に向けて考察する（120分）
15. 予：レポート作成（180分）、復：今後の課題と展望を考察する（120分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	60 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	40 **%**
その他1：			**%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

・当事者意識を持ってゼミに出席・参加・発表する。（60―69）
・演習生と協調的に意見を交わし、仲間の学びに貢献する。（80―100）
・課題の倫理を守り、レポート等を提出する。（70―79）
・自らの課題に問題意識を持ち、探究する。（80―100

課題へのフィードバック：

演習授業内、また個別面談等にて、口頭および文書にて助言等を行う。

教科書： 演習授業内で紹介する。

参考書： 適宜、ゼミにて紹介する。

授業・準備学習のアドバイス：

・学べる喜びと楽しさと幸せを味わい、毎回のゼミに出席・参加しましょう。
・一人ひとりがゼミを構成する参加者・貢献者としての心持ちで互いに研鑽しましょう。
・公正を心がけて課題に取り組みましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育学専門演習Ⅰ

クラス:

授業コード: DA05200005

担当者: 松本 宗久 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 本授業では、卒業論文の執筆に向けた基礎的な研究リテラシーを習得することを目的とする。
具体的には、日本および西欧諸国における著作権や研究倫理を学び、生成AIやICTを用いた効率的な文献収集・整理の手法を身につける。
また、学習指導要領や先行研究の精読を通して、算数・数学教育および学級経営に関する理論的背景を整理し、自身の研究テーマを学術的な文脈の中に位置づけることを目指す。

到達目標:
1. 研究倫理、著作権(引用・転載)、および生成AIの適切な利用ルールを理解し、遵守できる。
2. CiNii等のデータベースやAIを活用して先行研究を収集し、その内容を要約・整理できる。
3. 学習指導要領や教科書の分析を通して、自身の研究課題(思考力、ICT活用、学級運営等)の理論的根拠を説明できる。
4. 前期の成果として、具体的なリサーチ・クエスチョン(問い)を含む研究構想を発表できる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーションとマインドセット
ゼミの運営方針、2年間のスケジュールの共有。各自の研究計画書を再確認し、卒業論文のゴールイメージを共有する。

2. 大学生としての「研究」とは何か
単なる感想文や報告書と「学術論文」の違いを学ぶ。
問いを立て、根拠(エビデンス)に基づいて論じる姿勢を養う。

3. 進路別ガイダンス

生成AIの教育・研究活用(1):構成・アイデア出し
研究テーマを具体化するためにAIを「対話パートナー」として活用する方法を学ぶ。
プロンプトエンジニアリングの基礎を習得する。

4. 著作権と研究倫理(1):日本の制度と剽窃の防止
日本の著作権法に基づき、論文執筆における適切な引用、図表の転載ルール、剽窃(コピー&ペースト)の厳禁について学ぶ。

5. 著作権と研究倫理(2):西欧諸国の動向とAI倫理
欧米におけるフェアユースの考え方や、生成AIで出力した文章の取り扱いなど、国際的な倫理基準と最新の議論を整理する。

6. 文献調査の技術:CiNiiとデータベース活用
大学図書館や電子ジャーナルの使い方を学び、自身のテーマ(ICT活用、思考力等)に関連する先行研究を効率的に収集する技術を身につける。

7. 学習指導要領の精読(数学教育の目標)
「数学的な見方・考え方」や「論理的思考力」の育成について、指導要領の記述を深く読み解き、自身の研究の理論的背景とする。

8. 中学校数学教科書の構成分析
各社の教科書を比較し、導入問題や「数学の活用」に関する記述がどのように構成されているかを分析する。

9. 先行研究ビブリオバトル(Group Ⅰ:思考力・指導法)
学生が卒業論文として検討しているテーマに関わる論文を読み、その核心をAIで整理して他者に紹介する演習を行う。

10. 先行研究ビブリオバトル(Group Ⅱ:ICT活用・教材)
学生が卒業論文として検討しているテーマに関わる論文を読み、その核心をAIで整理して他者に紹介する演習を行う。

11. 先行研究ビブリオバトル(Group Ⅲ:学級運営・心理)
学生が卒業論文として検討しているテーマに関わる論文を読み、その核心をAIで整理して他者に紹介する演習を行う。

12. 量的調査の基礎:統計データの読み方
全国学力・学習状況調査の結果をどのように分析し、自身の仮説(ICTの効果や学習意欲など)に結びつけるかを学ぶ。

13. 質的調査の基礎:インタビューと観察記録
「実際に教師として働いている人達」への聞き取り調査を想定し、問いの立て方や逐語録の作成法を学ぶ。

14. 研究課題(リサーチ・クエスチョン)のブラッシュアップ
ここまでの学びを踏まえ、1年目の最終目標と2年目の実践内容を、生成AIの活用も検討しながら論理的に再構成する。

15. 前期総括発表会:先行研究レビューの報告
自身のテーマに関するこれまでの研究を整理し、「何が分かっていて、自分の研究で何を明らかにしたいか」をA4用紙2枚にまとめて発表する。

特記事項: 全15回の授業のうちキャリアセンターからのキャリアガイダンスが1回入るため、授業内容が変更になる場合があります。

（第3回を予定）

授業方法： 講義と演習を組み合わせ、受講者が主体的・対話的に学べるよう構成する。
特に、生成AIを思考のパートナーとして活用する演習や、文献を紹介し合う「ビブリオバトル」形式の発表を取り入れる。
資料はクラウド等で共有し、ICTを活用した情報の蓄積を行う。
第1回～第6回：講義・演習（研究法、倫理、AI活用）
第7回～第8回：演習（指導要領・教科書分析）
第9回～第11回：発表・討議（先行研究レビュー）
第12回～第15回：講義・演習（調査法基礎、構想発表）
（原則として全て対面で行う）

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

・予習（各回60分）：指定された文献や学習指導要領の該当箇所を読み込む。また、生成AIを用いて自身のテーマに関するキーワードをリストアップしておく等の事前課題を行う。
・復習（各回120分）：授業で得た知識やフィードバックを基に「研究ノート」を更新する。特に先行研究の要約や、自身の経験（ボランティア等）と言語化した理論との照らし合わせを行い、研究計画書を徐々にブラッシュアップする。

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	40 **%**	**レポート：**	30 **%**
その他1：			**%**		
その他2：			**%**		

評価基準： 下記の1, 2, 3の内容を総合的に判断し、得点化する。
1. 授業への取り組み（40点）：議論への参加度、ビブリオバトル等での発表姿勢、AI活用演習への積極性。
2. 小課題・レポート（30点）：著作権テスト、文献要約課題などの提出物。
3. 前期総括発表（30点）：研究構想（A4用紙2枚）の内容の論理性と実現可能性。
【到達度】
・最低限の到達度（60～69点）：研究倫理を理解し、自身のテーマに関する先行研究をいくつか挙げることができる。
・標準的な到達度（70～79点）：先行研究と自身のテーマの関連性を説明でき、具体的な問い（リサーチ・クエスチョン）を立てることができる。
・望ましい到達度（80～100点）：理論的裏付けのある独自の研究構想を論理的に説明でき、他者からの質問に適切に応答できる。

課題へのフィードバック：

1. 授業への取り組みについては、演習内でのAI活用の工夫や、他者の発表に対する質疑応答の内容を確認し、授業内で口頭またはコメントツールにて即時フィードバックを行う。
2. 小課題およびレポート（文献要約等）については、論理の飛躍や著作権的配慮（適切な引用）の観点から添削し、採点後に返却して到達状況を確認する。
3. 春学期総括発表については、教員およびゼミ生からの相互評価（ピア・レビュー）シートを回収・集計し、秋学期の研究計画に反映できるよう具体的な改善点を記述して返却する。

教科書： 授業時、適宜プリントを配布、もしくは配信する。

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：

「なんとなくこう思う」という主観的な感想から脱却し、「なぜそう言えるのか」という根拠（エビデンス）を探す姿勢を重視します。
数学教育の専門書や論文は難解な場合もありますが、AIによる要約支援なども活用しながら粘り強く読み解いてください。
また、ボランティア等での実践経験を常に理論と結びつけて考える習慣をつけてください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育学専門演習Ⅰ

クラス:

授業コード: DA05200007

担当者: 田中 聡 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: この演習Ⅰでは、運動習得に関して不得意な子どもと運動の得意な子どもが共習する学校体育における教材作りとその具体的な指導方法について、現象学的プレイ理論を手がかりに教材開発を行い、実践へとつながるような指導法を研究する。

到達目標: 現象学的プレイ論から子どもにとっての運動スポーツの意味を踏まえ、体育授業における教材観、学習観・指導観を持つとともに、具体的な運動教材づくりと指導方法について、実践と照らし合わせながらレポートにまとめることができる。
本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

1. 体育の内容としての「運動」とは
2. 現象学的遊び論からみた運動・スポーツ－運動が苦手・得意とはどういうことか－
3. 進路別ガイダンス
4. 体育授業の背景にある学習観・指導観
5. 体育授業をデザインする1－教材作りをどのように考えるか－
6. 体育授業をデザインする2－学習過程をどのように考えるか－
7. 体育授業をデザインする3－先駆的な体育実践を検討する－
8. 具体的な体育の指導計画の検討
9. グループでの指導実践－その1:体つくり運動－
10. グループでの指導実践－その2:器械運動系－
11. グループでの指導実践－その3:陸上運動系－
12. グループでの指導実践－その4:ボール運動系－
13. グループでの指導実践－その5:表現運動系－
14. 指導実践を通して学んだことをまとめる
15. 各自のまとめを発表する

特記事項:

授業方法: 体育スポーツの諸問題に対するディスカッションを中心に進めるとともに、課題に対するレポート発表等多様な学習方法を取り入れる。また一部内容を学校現場等の実地研修への合同参加とすることもある。
授業は全て対面にて行う。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

各回の授業への出席とともに、授業の前後に①授業内容に該当する文献の精読 ②授業内容ふりかえり ③時事問題討議のための資料収集 ④年度末の「卒論計画発表会」に向けてた資料収集と計画の立案 等々の自己学習を求める(合計60時間程度)。

評価方法:

授業へのとりくみ:	60 %	**確認テスト:**	－ %	**レポート:**	40 %
その他1:			%		
その他2:			%		

評価基準: 【80点以上】
・具体的な運動教材づくりと指導方法について、実践と照らし合わせながら端的にレポートにまとめることができる。
・本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

【70～79点】
・具体的な運動教材づくりと指導方法について、実践と照らし合わせながらレポートにまとめることができる。
・本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策についておよそ理解している。

【60～69点】
・具体的な運動教材づくりと指導方法について、レポートにまとめることができる。
・本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について最低限理解している。

課題へのフィードバック:

・最終授業時に全体向けにフィードバックを行う

教科書: 特になし。都度、資料ペーパーを配布する。

参考書: ・スポーツ文化と教育「学術図書出版社」
・子どもが喜ぶ!体育授業レシピ: 運動の面白さにドキドキ・ワクワクする授業づくり「教育出版」

授業・準備学習のアドバイス:

小学校体育、スポーツに関するテーマで文献をできるだけ多く読みレポートとしてまとめ発表できるようにする。ゼミの最終には卒論計画発表会を行うので3年次に卒論のテーマを決めること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育学専門演習Ⅰ

クラス:

授業コード: DA05200008

担当者: 佐藤 智恵 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 1. 保育者として必要な知識や技術の習得を目指す中で、将来の自己像を明確にする。
2. 卒論の執筆に向けて自己の関心を明確にする。

到達目標: 1. 自己の将来像について他者と話したり、自分で考えるなどして関心を高める。
2. 関心のある内容のなかから、卒論テーマを絞る
3. 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 子どもの発達に即した保育内容
3.進路別ガイダンス
4. 大学祭に向けた保育園訪問(子どもと関わり、様子を知る)
5. 保育に関する書籍講読①
6. 保育に関する書籍講読②
7. 関心のある内容についてレジュメ作成
8. 関心のある内容について発表
9. 指導案作成の理解を深める
10. 就職についての学びを深める
11. 大学祭に向けた保育園訪問(模擬店について子どもたちに説明を行う)
12. 保育に関する書籍講読③
13. 保育に関する書籍講読④
14. 卒業論文について(研究倫理)
15. 春学期の反省と秋学期に向けた計画

特記事項:

授業方法: すべての授業を対面で行う

1. 講義
2. グループワーク
3. ガイダンス
4. 演習
5. 演習
6. 演習
7. 演習
8. 発表
9. 演習
10. 演習
11. 演習
12. 演習
13. 演習
14. 講義
15. 演習

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. (宿題)今年度の計画書を作成(180分)

2.（予習）製作に関する題材の収集（180分）
3.（復習）ガイダンスの内容についてまとめる（180分）
4.（宿題）子どもたちの様子を記録し、まとめる（180分）
5.（予習）関連する書籍を読み、5冊選出する（180分）
6.（予習）関連する書籍を読み、5冊選出する（180分）
7.（宿題）発表レジュメを作成する（180分）
8.（予習）発表レジュメを完成させる（180分）
9.（宿題）指導案を完成させる（180分）
10.（宿題）園のHPを確認し、見学したい園を絞る（180分）
11.（予習）説明のために必要な資料を作成する（180分）
12.（宿題）書籍の内容をまとめる（180分）
13.（宿題）書籍の内容をまとめる（180分）
14.（宿題）研究倫理についてまとめ、理解を深める（180分）
15.（復習）春学期のふり返りを作成（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	50 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	文献講読の資料作成		30 **%**		
その他2：	プレゼンテーション		20 **%**		

評価基準：

1. 授業への取り組み
・ゼミ活動に参加し、協調的に活動できる（60～69点）
・ゼミ活動に積極的に参加し、自分の意見を言ったり、協調的に活動できる（70～79点）
・色々な活動に積極的に参加し、他者の意見を受け入れながら、解決方法や対応を自分なりに考えることができる（80～100点）

2. 宿題等の取り組み
・書籍などを複数読み、保育についての考えを深める卒論テーマに関心を持つ（60～69点）
・複数の書籍を読み、自分なりの考えを深め、卒論テーマを検討する（70～79点）
・複数の書籍を読み、他者の意見を含めて検討する中で、子ども理解や保育に関して考えを深めた上で、卒論テーマの方向性を決める（80～100点）

課題へのフィードバック：

課題については必要に応じて添削、評価を行い返却する。

教科書： なし

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：

卒業論文のテーマについては、演習Ⅰの時間だけでなく、空き時間などにも教員に相談するなど積極的に取り組み、自らの関心への気付きを得られるようにしましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育学専門演習Ⅰ

クラス:

授業コード: DA05200009

担当者: 福井 逸子 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本演習では、一人ひとりの将来像を明確にしていくことをねらいとする。そのためには、多様な保育の在り方について探索し、実際に見ること、ゼミ仲間と共に考え合う機会を持つことで、個々への学びを深めていきたい。また、教育・保育現場や企業、地域の社会資源に触れながら、人や物を通して、広い視野で物事を見つめる力を養っていくことを願いたい。さらに、教育（保育）者のスキルとして、「記述力」も重要であるため、演習内では、エピソードを中心とした事例検討会を重ねながら、教育（保育）を描く力等を高めていきたい。

到達目標: 本演習は、個々の将来像を明確にしていく為に、以下を到達目標とする。
・多様な教育現場、社会の在り方を理解することできる
・教育（保育）を読み取る力を持ち、それを描くことができる
・本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる

各回の授業計画:

1. ゼミの概要紹介と今後の計画、研究倫理について
2. 実践記録の描き方について
3. 職業別ガイダンスの受講
4. 多様な人たちとの具体的な実践
5. グループ討議①
6. グループ討議②
7. グループ討議③
8. グループ（フィールド）活動①
9. グループ（フィールド）活動②
10. グループ（フィールド）活動③
11. グループ活動の評価・まとめ
12. 教材研究①
13. 教材研修②
14. 教材研究③
15. まとめと個々の実践報告

特記事項:

授業方法: 授業は、すべて対面で行う。
毎回の授業は、ゼミ内でのディスカッション、討議、グループワークを中心に進めていく。
発表と教材研究については、個別ワークとするが、個々の成果はゼミ内で共有していく。
実地研究（フィールドワーク）や外部機関と連携した課題解決型学習も予定している。

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

予習（各回の授業につき60分）においては、次回のテーマと課題を確認し、配布資料を講読しておくこと。また、教材研究等においては、事前準備と指導案作成等、日々の学びの中で各自準備しておくこと。（15時間）
復習（各回の授業につき60分）においては、毎回の課題をまとめ、レポートを作成すること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	60 %	**確認テスト:**	20 %	**レポート:**	20 %		
その他1:			%				
その他2:			%				

評価基準: ①事例検討会・ゲストスピーカーとの研修会等では、積極的に自分の意見や考えを述べることができる。（可）/ 熟考された意見や知識等を用いて自分の意見をまとめることができる（秀）
②実地研究の場では、自分の意見を相手に適格に伝えることができる。（可）/ 常に疑問や課題を持って参加することができる（可）/ 実地研

究を通しての課題や疑問を整理し、自己課題を明確にすることができる（秀）
③教材研究等では、積極的に取り組むことができる（可）/ 文献や保育現場で得た知識を用いながら、独自性のあるものを考案できる（秀）

課題へのフィードバック：

・課題レポート及び課題の教材については、講評を加えて各自に返却をする。
・発表については、授業内で講評する。

教科書： テキストは用いない、毎回の授業において資料等を配布する。

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：

・子どもに関わる報道や新聞記事について、検索して最新の情報を得ることが重要である。
・地域や他機関（他大学）との交流の場では、積極的に意見を述べられるように、事前準備が必要となる。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育学専門演習Ⅰ

クラス:

授業コード: DA05200010

担当者: 小川内 哲生 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 教育・保育現場には様々な問題を抱えている子どもたちがいる。そのような多様な子どもを理解するポイントや支援の在り方、保護者との関わり方等について教育心理学の立場から考えていく。また、子どもの問題を発見し解決していくための1つの方法として教師が使えるカウンセリングを取り上げ、保育・教育現場におけるカウンセリングの技法をロールプレイを通して学んでいく。このような学習を通して各自が研究テーマを設定し主体的に研究に取り組み、卒業研究へ繋げることが出来るように研究を深めていくことを目的とする。

到達目標:
1. 教育心理学の文献の読み方や書き方などの基本を身につける。
2. いじめ、不登校、発達障害など学校における子どもの問題に対して、教師の立場からの対応方法を考えることができる。
3. カウンセリングの技法をロールプレイを通して学ぶ。
4. 研究テーマを模索し問題意識を深める。
5. 論文作成に向けて基本的な研究方法や論文作成のスキルを身につける。
6. 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション、研究倫理について
2. 教師によるカウンセリングの理論と方法
3. 進路別ガイダンス
4. いじめへの対応
5. 不登校への対応
6. 発達障害児への対応
7. 学級集団の理解
8. 学級崩壊
9. 研究倫理教育
10. 研究テーマの設定
11. 研究テーマ別学習
12. 研究発表とディスカッション
13. 研究発表とディスカッション
14. 研究発表とディスカッション
15. まとめと評価

特記事項:

授業方法: 講義、ロールプレイ、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション
全ての授業を対面授業で行う。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 授業内容の復習(180分)
2. 授業内容の復習(180分)
3. 参考文献の読解(180分)
4. 参考文献の読解(180分)
5. 参考文献の読解(180分)
6. 参考文献の読解(180分)
7. 参考文献の読解(180分)
8. 学んだことのまとめ(180分)
9. 授業内容の復習(180分)
10. 資料作成(180分)
11. 資料作成(180分)

12. 課題のまとめ（180分）
13. 課題のまとめ（180分）
14. 課題のまとめ（180分）
15. まとめと評価（180分）

評価方法：	**授業へのとりくみ：**	50	**%**	**確認テスト：**	－	**%**	**レポート：**	50 **%**
	その他1：					**%**		
	その他2：					**%**		

評価基準： 最低限度の到達度（60～69点）
・子どもの問題について知識を修得することができる。
・ゼミメンバーと意見交換ができる。
・発表資料を作成し、プレゼンテーションができる。
望ましい到達度（80～100点）
・子どもの問題について主体的に調べ分析し考察することができる。
・ゼミメンバーと協力的に意見交換ができ、質疑応答ができる。
・主体的に発表資料を作成し、分かりやすくプレゼンテーションができる。

課題へのフィードバック：
課題・レポート等については授業内でその都度、講評を行う。それ以外にもオフィスアワーなどを活用してフィードバックを行う。

教科書： 教科書は使用しないが、随時、参考文献を紹介する。

参考書： 必要に応じて紹介する。

授業・準備学習のアドバイス：
研究テーマの設定に当たっては、日頃から子どもや学校の問題について主体的に情報収集し論文や文献検索を行う等、積極的に取り組んでほしい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育学専門演習Ⅰ

クラス:

授業コード: DA05200011

担当者: 有道 俊雄 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 教育と人間発達の課題(主に自然体験や理科教育、防災・減災教育、SDGs等)について知るとともに、それに応える授業や実践のあり方の追求を通じて、報告や討議を行ないながら、各自の問題意識を鮮明にする。

到達目標:
1. 教育と人間発達の課題、自然体験や理科学習、防災・減災学習、SDGs等の課題を知る。
2. 文献や論文・新聞を読み、その内容を仲間にわかりやすく報告するスキルを養う。
3. 報告・討議を通じて、実践課題や研究課題を明確にする協同的研究に取り組む。
4. 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション、自己紹介、理科室・研究室の使い方、年間計画、学習の進め方、研究倫理について、卒業研究について
2. 研究テーマの発表会内容を紹介し、質疑・討論をする
観察・実験①
3. 進路別ガイダンス
4. 研究テーマの発表会内容を紹介し、質疑・討論をする
観察・実験②
5. 新聞記事や雑誌記事を読み、内容を紹介し、質疑・討論をする観察・実験③
6. 実践記録を読み、授業を分析する観察・実験④
7. 理科の模擬授業を実施する。終了後に授業研究会を行う。模擬授業①②
8. 理科の模擬授業を実施する。終了後に授業研究会を行う。模擬授業③④
9. 論文を読み、内容を紹介し、討論をする観察・実験⑤
10. 論文を読み、内容を紹介し、討論をする観察・実験⑥
11. 各自のテーマに沿って、研究論文を書き始めるテーマの確認、もくじ、章立て、はじめに
個別面談①
12. 研究テーマの実施計画・レポートのアウトライン
テーマの確認、もくじ、章立て、はじめに
個別面談②
13. 各自のレポートを発表し、推敲・校正をしあう(1)プレゼンテーション
14. 各自のレポートを発表し、推敲・校正をしあう(2)
プレゼンテーション
15. 全体のまとめを行ない、次への課題を確認する夏休み中の課題の確認
フィールドワークの相談
秋学期の予定

特記事項: 履修者の人数の関係で、授業内容が変更になる場合があります。

授業方法: 各回で次の方法を適宜行う。
・演習
・討論、討議
・発表(プレゼンテーション)
・観察、実験、実習
原則として、全ての授業を対面で行います。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 研究計画書のまとめと発表(180分)
2. 研究計画書のまとめと発表(180分)
3. 新聞・雑誌の講読とまとめ(180分)

4. 新聞・雑誌の講読とまとめ（180分）
5. 実践記録の講読とまとめ（180分）
6. 実践記録の講読とまとめ（180分）
7. 実践記録の講読とまとめ（180分）
8. 論文講読とまとめ・（180分）
9. 論文講読とまとめ（180分）
10. 模擬授業の準備と実施、指導案の検討（180分）
11. 模擬授業の準備と実施、指導案の検討（180分）
12. 模擬授業の準備と実施、指導案の検討（180分）
13. 模擬授業の準備と実施、指導案の検討（180分）
14. 模擬授業の準備と実施、指導案の検討（180分）
15. 研究計画の見直し（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	50 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	50 **%**
その他1：			**%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

【最低限の到達度（60～69点）】
・授業へのとりくみ～ディスカッションに参加して、自分の考えや意見を述べることができている。
・レポート～ゼミで取り組む人間発達の課題に関する内容を概ね理解し、テーマに沿ったレポートを書くことができる。
【望ましい到達度（80～100点）】
・授業へのとりくみ～ディスカッションに積極的に参加し、自分の考えを発表するとともに、他の意見に対してもしっかりと意見を述べることができる。
・レポート～ゼミで取り組む人間発達の課題に関する内容を十分理解し、テーマに沿って、自分の考えを含めたレポートを書くことができる。

課題へのフィードバック：

Teamsでのフィードバックを行う。

教科書： なし

参考書： 雑誌「理科教室」、小学校理科教科書、学習指導要領等

授業・準備学習のアドバイス：

一人ひとりが自らの課題をもって、ゼミの全員が協力をして研究や実践活動に取り組むとともに、互いに報告・討論をしながら進めていく。
・主体的、積極的、協力的な態度で授業、調査研究、レポート作成に取り組んでもらいたい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育学専門演習Ⅰ

クラス:

授業コード: DA05200012

担当者: 高橋 一夫 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: ・保育や教育における現代的な課題に目を向け、解決に向けて取り組める力を身に付ける。
・保育・教育現場における言語表現活動(絵本・紙芝居・素話)に注目し、子どもの成長にとってどのような意味合いを持つのかについて考察する。
・正課での学びを活かし、準正課における子どもとの関りを実践し、さらに学びを深化させる。

到達目標: 1. 研究論文や文献の検索方法や読み方を身につける。
2. 研究に関わる議論の方法を身につける。
3. 保育・教育における現代的な課題や、言語表現活動に関わる知識を身につける。
4. 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション、研究倫理についての説明
2. ゼミの活動についての確認／研究論文や文献の検索方法と読み方の確認
3. 進路別ガイダンス
4. 保育・教育における現代的な課題(保育・幼児教育)
5. 議論とまとめ①
6. 保育・教育における現代的な課題(初等教育)
7. 議論とまとめ②
8. キッズOCおよび大学祭で行う活動についての議論
9. 保育・教育における言語表現活動の確認Ⅰ／キッズOCおよび大学祭で行う活動についての議論および準備
10. 議論とまとめ③／キッズOCおよび大学祭で行う活動についての議論および準備
11. 保育・教育における言語表現活動の確認Ⅱ／キッズOCおよび大学祭で行う活動についての議論および準備
12. 議論とまとめ④／キッズOCおよび大学祭で行う活動についての議論および準備
13. 保育・教育における言語表現活動の確認Ⅲ／キッズOCおよび大学祭で行う活動についての議論および準備
14. 議論とまとめ⑤／キッズOCおよび大学祭で行う活動についての議論および準備
15. 保育・教育における現代的な課題、および言語表現活動についての総括／キッズOCおよび大学祭で行う活動についての再確認

特記事項: ※キャリアセンターのキャリアガイダンスが行われる回がある。

授業方法: 1. 講義(対面)
2. 講義(対面)
3. 講義(対面)
4. 演習(対面)
5. 討議、発表(対面)
6. 演習(対面)
7. 討議、発表(対面)
8. 演習(対面)
9. 演習(対面)
10. 討議、発表(対面)
11. 演習(対面)
12. 討議、発表(対面)
13. 演習(対面)
14. 討議、発表(対面)
15. 演習(対面)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 授業内容の復習（180分）
2. 興味のある論文を読む（180分）
3. 先行研究をまとめる（180分）
4. 議論のレジュメ作成（180分）
5. 議論内容を整理する（180分）
6. 議論のレジュメ作成（180分）
7. 議論内容を整理する（180分）
8. 議論のレジュメ作成（180分）
9. 議論内容を整理する（180分）
10. 議論のレジュメ作成（180分）
11. 議論内容を整理する（180分）
12. 議論のレジュメ作成（180分）
13. 議論内容を整理する（180分）
14. 議論のレジュメ作成（180分）
15. 議論内容を整理する（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	50	**%**	**確認テスト：**	－	**%**	**レポート：**	50 **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準：

・最低限の到達度（60～69点）：授業に参加し、自分の意見を伝えることができる。レジュメを作成できる。
・望ましい到達度（80～100点）：各回の授業に積極的に参加し、議論では他者の意見を傾聴し、自身の意見も詳細に伝えることができる。要点を押さえたレジュメを作成できる。

課題へのフィードバック：

発表については授業で講評する。提出されたレジュメは評価し返却する。

教科書： なし（授業に必要な資料等は配布します。）

参考書： なし（授業内で紹介します。）

授業・準備学習のアドバイス：

・必ずノートPCを持参してください。スマホだけで学習に取り組むことはできません。
・授業内容と無関係なブラウザ閲覧やスマホアプリの使用は認めません。
・積極的に参加することが求められます。授業に出席し、議論などに前向きに参加することが重要です。
・準備学習や評価方法の詳細については、オリエンテーションで丁寧に説明します。
・ゼミ選択の際にも説明しましたが、キッズOCと大学祭に参加します。その取り組み過程も評価の対象となります。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育学専門演習Ⅰ

クラス:

授業コード: DA05200013

担当者: 金山 健一 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 学校の抱える諸問題は，いじめ・非行・不登校・学級崩壊・学力低下など多様である。これらの諸問題に対して理論と実践を習得し，即戦力となる教師を育成することを目指していく。
対処療法の対応ではなく、予防的対応（例 ピアサポート）のスキルを学び，教師としての力量の育成をはかる。これらの学びから、テーマを設定し研究を深めていくことを目的とする。

到達目標: 1. ピアサポートの理論を習得し，問題・課題に対して予防的な対応ができる。
2. 教員として必要な学級経営・生徒指導・授業方法・特別支援教育の具体的な対応方法を習得できる。
3. 教師として必要な課題解決力・発表力・表現力・コミュニケーション力などを習得できる。
4. 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション、研究倫理について
2. ピアサポート概論
3. 進路別ガイダンス
4. ピアサポートプログラム
5. いじめ対応とピアサポート
6. ネット問題とピアサポート
7. 学校心理学概論
8. 包括的支援モデルと学校心理学
9. 発達障害とピアサポート
10. 不登校への対応
11. 研究テーマ設定
12. 研究テーマ別学習
13. 研究発表
14. 研究発表
15. まとめと評価

特記事項:

授業方法: 授業は対面とする。教師としての実践力向上のため、演習・グループワーク・共同学習を用いたアクティブ・ラーニングで実施する。

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 復習（180分）
2. 復習（180分）
3. ピアサポート習得（180分）
4. ピアサポート習得（180分）
5. ピアサポート習得（180分）
6. パワポ作成（180分）
7. パワポ作成（180分）
8. パワポ作成（180分）
9. パワポ作成（180分）
10. プレゼン準備（180分）
11. プレゼン準備（180分）
12. 課題まとめ（180分）
13. 課題まとめ（180分）
14. 課題まとめ（180分）

15. まとめと評価（180分）

評価方法：	**授業へのとりくみ：**	50	**%**	**確認テスト：**	－	**%**	**レポート：**	50 **%**
	その他1：					**%**		
	その他2：					**%**		

評価基準： 「最低限の到達」（60～69点）
・授業への取り組み：学校教育について、知識を習得することができる。
・レポート：学校教育について、まとめることができる。
「望ましい到達度」（80～100点）
・授業への取り組み：学校教育について、分析・討論することができる。
・レポート：学校教育について、研究することができる。

課題へのフィードバック：

課題・レポートの疑問点などは、授業ばかりでなくオフィスアワーなどを活用して、フィードバックしていく。

教科書： 教科書は使用しないが、必要に応じて毎時間，資料を配布する。

参考書： 菱田 準子 （著），　森川 澄男（監修）『すぐ始められるピア・サポート指導案&シート集』 ほんの森出版

授業・準備学習のアドバイス：

理論ばかりでなく，実践場面を意識した授業である。授業では、学校現場のフィールドを紹介し，必要に応じて学校教師の協力も仰げる体制を提供するので、積極的に参加してほしい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育学専門演習Ⅰ

クラス:

授業コード: DA05200014

担当者: 新藤 照夫 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 本演習では、異文化コミュニケーションをテーマとし、基礎理論や専門用語の理解を中心としながら、日常的な場面のケース・スタディや初歩的な異文化トレーニングを通じて、教育分野でも求められる文化背景の異なる人々との円滑なコミュニケーションに必要な知識やスキルの習得を目指す。また、ペアワーク、ディスカッション、プレゼンテーションによって、スタディスキルやコミュニケーションスキルの向上も目指す。

到達目標:
・異文化コミュニケーションについての基礎理論や専門用語を理解し、具体例を挙げて簡潔に説明できる。
・異文化コミュニケーションの事例を収集、分類し、調査した内容をレポートにまとめることができる。
・テーマに対しアサーティブなディスカッションを実践できる。
・与えられたテーマに関して、独自性のあるプレゼンテーションができる。
・本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション:前学期の省察、本学期の目標設定、授業の展開方法の説明
2. 異文化コミュニケーションとは①:新しい常識の発見およびステレオタイプ
3. 進路別ガイダンス
4. 異文化コミュニケーションとは②:異文化理解に必要な態度
5. 異文化コミュニケーションとは③:文化とコミュニケーションの関係
6. 異文化への適応:カルチャーショックおよび異文化適応モデル
7. コミュニケーション・スタイル①:コンテキストおよびターンテーキング
8. コミュニケーション・スタイル②:自己開示
9. コミュニケーション・スタイル③:パラ言語
10. 言語コミュニケーション①:ほめ方および叱り方に関する文化的差異
11. 言語コミュニケーション②:謝り方に関する文化的差異
12. 言語コミュニケーション③:誘い方・断り方に関する文化的差異
13. コミュニケーションにおける文化的差異
14. レポート作成
15. プレゼンテーション:各自が設定したテーマに応じた発表会

特記事項: 第3回目はキャリアガイダンスが実施されます。

授業方法: 15回すべての授業を対面で実施

1. 演習、ペアワーク、ディスカッション
2. 演習、ペアワーク、ディスカッション
3. 進路別ガイダンス
4. 演習、ペアワーク、ディスカッション
5. 演習、ペアワーク、ディスカッション
6. 演習、ペアワーク、ディスカッション
7. 演習、ペアワーク、ディスカッション
8. 演習、ペアワーク、ディスカッション
9. 演習、ペアワーク、ディスカッション
10. 演習、ペアワーク、ディスカッション
11. 演習、ペアワーク、ディスカッション
12. 演習、ペアワーク、ディスカッション
13. 演習、ペアワーク、ディスカッション
14. 演習
15. プレゼンテーション、ディスカッション

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

予習（合計1500分）／ 復習（合計1200分）
1. シラバスの確認・教科書の内容の確認（100分）／ リフレクション提出（80分）
2. 第1章、1-2節の読解とセルフチェック回答（100分）／ リフレクション提出（80分）
3. 第1章、3節の読解とセルフチェック回答（100分）／ リフレクション提出（80分）
4. 第1章、4節の読解とセルフチェック回答（100分）／ リフレクション提出（80分）
5. カルチャーショックに関する配付資料の読解とセルフチェック回答（100分）／ リフレクション提出（80分）
6. 第2章、1-2節の読解とセルフチェック回答（100分）／ リフレクション提出（80分）
7. 第2章、3節の読解とセルフチェック回答（100分）／ リフレクション提出（80分）
8. 第2章、4節の読解とセルフチェック回答（100分）／ リフレクション提出（80分）
9. 第1章、第2章の振り返り（100分）／ リフレクション提出（80分）
10. 第3章、1-2節の読解とセルフチェック回答（100分）／ リフレクション提出（80分）
11. 第3章、3節の読解とセルフチェック回答（100分）／ リフレクション提出（80分）
12. 第3章、4-5節の読解とセルフチェック回答（100分）／ リフレクション提出（80分）
13. 第3章の振り返り（100分）／ リフレクション提出（80分）（80分）
14. レポートの構想案作成（100分）／ レポートの仕上げ、プレゼンテーション資料の作成（80分）
15. プレゼンテーションのスライド作成・リハーサル（100分）／ 総復習、レポート提出（80分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	60 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	20 **%**
その他1：	プレゼンテーション		20 **%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

①望ましい到達度（80～100点）
【授業へのとりくみ】
予習・復習を毎回欠かさず行い、リフレクションに理解した内容をまとめることができる。
ディスカッションにて協働的かつ積極的に貢献できる。
【レポート】
ルーブリックにおいて80%以上の成績を収める。
【プレゼンテーション】
スライドに必要な要素が全て網羅され、構成も論理的かつ明確である。
非言語コミュニケーションを駆使し、高いレベルのプレゼンテーションができる。

②最低限の到達度（60～69点）
【授業へのとりくみ】
指示された内容はシラバスの計画通りに進めることができる。
ディスカッションにて、他者への質問や意見を発表できる。
【レポート】
ルーブリックにおいて60～69%の範囲となる。
【プレゼンテーション】
スライドに指示された必要最小限の要素を配置することができる。
指示された要件を満たすプレゼンテーションを行うことができる。

課題へのフィードバック：

・グループディスカッション、プレゼンテーションに対して、授業時にフィードバックを行う。
・レポートについては、Teamsでフィードバックを行う。

教科書： 『異文化コミュニケーション・ワークブック』八代京子 他著（三修社）

参考書： 『異文化トレーニング：ボーダーレス社会を生きる』八代京子 他著（三修社）

授業・準備学習のアドバイス：

毎回の授業では予習を前提として授業を展開しますので、必ず予習をして学修する内容の準備をして臨んでください。授業の準備としては、教科書の各章の問題に解答するとともに、要点や疑問点をまとめておくようにして下さい。授業後は学修した内容をノートにまとめ直し、理解の再構築を行うようにしてください。

他文化に関心を持つとともに自文化に対しても客観的な視点を持てるよう、文化の違いや多様な考えに対して寛容で、その違いを楽しむ気持ちを持って臨んでください。また、日常生活の中で、文化背景の異なる他者との異文化コミュニケーションを意識して行動するようにして下さい。

ディスカッションでは安心・安全の場が提供され、正解が設定されていませんので、積極的に討論に参加してください。
異文化コミュニケーションに必要なスキルについて授業でディスカッションを行いますので、「異文化コミュニケーション論」の同時履修をお勧めします。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育学専門演習Ⅰ

クラス:

授業コード: DA05200015

担当者: 山口 香織 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 乳幼児の発達と保育、子育て支援に関する内容に関する文献を読み、子どもや保育者、保護者が直面している課題を社会的・文化的・教育的視点から多面的に考察していく。

到達目標:
1. 乳幼児の発達や保育、子育て支援の問題点について知る。
2. 文献の検索方法を理解する。
3. 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 子どもに関する諸問題
3. 進路別ガイダンス
4. 子どもの発達(1)
5. 子どもの発達(2)
6. 保育教材の作成(1)
7. 保育教材の作成(2)
8. 保育計画の立案
9. 保育計画の立案と実践
10. 振り返り及び論文とは何か
11. 文献検索方法
12. 学術論文の購読
13. レビュー作成
14. 発表と討議
15. 発表と討議

特記事項: ※全15回の授業のうちキャリアセンターからのキャリアガイダンスが1回入るため、授業内容が変更になる場合があります。

授業方法:
・現在の子どもを取り巻く課題について、用意した資料を基にその背景と原因について探る。
・保育教材の作成を通して、子どもの発達や保育、指導法について学ぶ。
・CiNiiから文献を探し、学術論文をまとめて発表・討議する。
1. 講義(対面)
2. 演習(対面)
3. 講義(対面)
4. 演習(対面)
5. 演習(対面)
6. グループワーク(対面)
7. グループワーク(対面)
8. プレゼンテーション(対面)
9. ディスカッション(対面)
10. 講義(対面)
11. 講義と演習(対面)
12. 演習(対面)
13. 演習(対面)
14. 発表と討議(対面)
15. 発表と討議(対面)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

レポート課題①「現在の子どもを取り巻く諸事象について、その背景と原因、対応策を考察する」(540分)
レポート課題②「テーマに関する学術論文を探し、レジュメにまとめる」(540分)
作品課題①「保育教材の作成」(1080分)
実践課題①「指導案作成とその実践」(540分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	50	**%**	**確認テスト:**	–	**%**	**レポート:**	50 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準:

授業への取り組み
①毎回のテーマについて積極的に自分の意見を述べたり、話し合いをまとめて発表することができる。グループ活動では、率先して課題解決しようとする姿勢がある。(80～100)
②毎回のテーマについて仲間の意見を聞いて自分なりに考えることができる。グループ活動では、目標にそった活動を行うことができる。(70～79)
③毎回のテーマについて教師からの質問に対して答えることができる。グループ活動では、休まず参加することができる(60～69)

課題レポート
①自分の考えを論理的に述べることができる(80～100)
②自分の意見を述べることができる。(70～79)
③誤字脱字があり、指定文字数が不足している(60～69)

課題へのフィードバック:

数回の授業ごとにまとめを行い、その際に説明・評価、あるいは、採点・評価して返却する。

教科書:

特定の教科書は使用しない。
授業の中で適宜紹介する。

参考書:

なし

授業・準備学習のアドバイス:

毎回の出席を必須とします。
学生の主体的な学びに期待しています。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育学専門演習Ⅰ

クラス:

授業コード: DA05200016

担当者: 齋藤 隆彦 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本ゼミでは、思考の基盤となるであろう国語科の授業について、文献や学校現場の実践から学び、探究していく。また、それらの学びをきっかけとして、安心して学べる共同体なども考察していく。
「教師を目指す者」として値切らず学び、探究し、それらをお互い分かち合う力と姿勢を本ゼミで育てたい。

到達目標: 学術論文や著作を通して、「子どもに言葉を育む」教育活動について探求していく。
1. 国語科教育に関する文献の読み方や論文の書き方を身に付ける。
2. 「国語科授業」を中心に探究し、今後の研究課題を明確にする。
3. 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

1. 専門演習概略（研究倫理含む）と各自の目標の共有、研究倫理について
2. ゼミの研究分野についての概略と文献紹介①
3. キャリアガイダンス（予定）
4. ゼミの研究分野についての概略と文献紹介②
5. 文献の講読とレポート報告①
6. 文献の講読とレポート報告②
7. 文献の講読とレポート報告③
8. 文献の講読とレポート報告④
9. 文献の講読とレポート報告⑤
10. 文献の講読とレポート報告⑥
11. 文献の講読とレポート報告⑦
12. 文献の講読とレポート報告⑧
13. 夏季課題設定と参考文献リサーチ
14. 夏季課題設定
15. 演習の振り返りと児童教育学専門演習Ⅱへのつなぎ

特記事項: ＊各自の探究の状況などを踏まえ、授業内容は前後、あるいは変更する場合があります。授業やTeamsでの指示を確認して下さい。
※全15回の授業のうちキャリアセンターからのキャリアガイダンスが1回入るため、授業内容が変更になる場合があります。

授業方法: すべての授業を対面授業で行う。
ただし、対面が難しい場合（大学から対面を避ける指示があった場合など）は「オンライン」または「同時配信」で行う可能性がある。その際にはチームズで連絡する。
1. 講義とペアワーク（ミニプレゼン）
2. 講義とペアワーク（ミニプレゼン）
3. キャリアガイダンス（予定）
4. 講義とペアワーク（ミニプレゼン）
5. ミニ講義とプレゼン共有
6. ミニ講義とプレゼン共有
7. ミニ講義とプレゼン共有
8. ミニ講義とプレゼン共有
9. ミニ講義とプレゼン共有
10. ミニ講義とプレゼン共有
11. ミニ講義とプレゼン共有
12. ミニ講義とプレゼン共有
13. 立案とプレゼン共有
14. 課題設定のプレゼン共有

15. ミニ講義とペアワーク

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. 研究倫理の復習（180分）
2. 研究分野の書物を読む①（180分）
3. キャリアガイダンスの準備・振り返り（180分）
4.研究分野の書物を読む②（180分）
5. 文献を読みレポート（プレゼン資料）作成①(180 分）
6. 文献を読みレポート（プレゼン資料）推敲①(180 分）
7. 文献を読みレ.ポート（プレゼン資料）作成②(180 分）
8. 文献を読みレポート（プレゼン資料）推敲②(180 分）
9. 文献を読みレポート（プレゼン資料）作成③(180 分）
10. 文献を読みレポート（プレゼン資料）推敲③(180 分）
11. 文献を読みレポート（プレゼン資料）作成④(180 分）
12. 文献を読みレポート（プレゼン資料）推敲④(180分）
13. 夏季課題の提案（180分）
14. 講読資料のめやすなど作成（270分）
15. 児童教育学専門演習Ⅱへの課題作成（270分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	60 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	40 **%**
その他1：			**%**		
その他2：			**%**		

評価基準： 60～69点
・研究倫理基準を理解することができる。
・国語科教育や学級経営にに関する文献や論文を読み、理解する。
・ゼミ生や指導教官と学びあいができる。
70～79点
・研究倫理基準を理解し論文の書き方を身に付ける。
・国語科教育や学級経営にに関する文献や論文を読み、正しく理解する。
・協働的な学び合い、信頼関係を築く。
80～100点
・研究倫理基準を理解し論文につながる準備をレポート・プレゼンなどを通して進める。
・国語科教育や学級経営にに関する文献や論文を理解し、教師力について考える。
・協働的な学び合い、信頼関係を築き、学びの雰囲気を共同体に作り出す。

課題へのフィードバック：

レポートのプレゼン共有の際にそれらの状況に応じて文献の読み方や課題設定等を助言する。

教科書： 授業の中で適宜紹介する。

参考書： 授業の中で適宜紹介する。

授業・準備学習のアドバイス：

・まずは「学び」の姿勢を意識すること。値切らないことが肝要です。
・仲間と共に学んでいく場に安心感を構築し、さまざまなアイデアを出し合えるゼミをつくりましょう。

授業の内容は、みなさんの状況を見ながら随時つくっていきますので、変更することがあります。ゼミやTeamsでお伝えします。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育学専門演習Ⅰ

クラス:

授業コード: DA05200017

担当者: 間渕 泰尚 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本演習では、教育社会学の基本的な考え方を身に付けるとともに、教育社会学が扱う広範なテーマを知ることを課題とする。その結果、各自の問題関心に応じた卒論テーマの発掘の基礎となることが目的である。

到達目標:
1. 教育社会学の基本的な考え方と方法を理解する。
2. 文献に対して適切なレジュメを作成し発表が出来るようになる。
3. 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション、研究倫理について
2. 「学校に行かない子ども」とは誰か
3. 進路別ガイダンス（キャリアセンター）
4. 長期欠席・不登校問題の変容
5. 教育支援の社会学
6. 社会学における「家族」の扱い
7. 家族の変化
8. 新しい能力観の中での幼児教育の今
9. 「女性」になる／「男性」になる
10. 「男らしい身体」と「女らしい身体」はつくられる
11. ジェンダーとセクシュアリティの秩序
12. 完璧な能力主義社会は可能か？
13. 大衆教育社会・メリトクラシー・日本の教育
14. 大衆教育社会から教育社会へ
15. 大学でどう学ぶかを「教育の社会学」から考える（まとめと振り返り）

特記事項:

授業方法: （授業方法）演習形式であり、指定された文献に関して分担者が発表し、討論を行う。

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

各回、予習として授業内容に該当する部分の資料収集に75分、復習として授業内容ふりかえりに75分の学修を行うことが望ましい。
輪読のレジュメおよび最終レポートの作成には資料収集の時間も含めて合計450分程度の学修時間を想定している。

評価方法:

授業へのとりくみ:	60 %	**確認テスト:**	%	**レポート:**	40 %
その他1:			%		
その他2:			%		

評価基準: 優（80～100点）＝文献の内容をよく理解し、適切なレジュメを作成し、質疑応答にも的確に対応できる。また内容を理解するだけでなく批判的に検討することができる。
良（70～79点）＝文献の内容を理解し、適切なレジュメを作成し、質疑応答にも的確に対応できる。
可（60～69点）＝文献の内容を理解し、レジュメを作成できる。

課題へのフィードバック:

個別に面談を通じてフィードバックする。

教科書: 苅谷他著 2023『新・教育の社会学〈常識〉の問い方、見直し方』有斐閣アルマ

参考書: 授業中に指示する

授業・準備学習のアドバイス:

「授業への取り組み」とは分担部分における発表と，ディスカッションへの参加をさします。|該当する章を必ず事前に読み、疑問点等を考えておくこと。|受講者の積極的な参加を期待します。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育学専門演習Ⅰ

クラス:

授業コード: DA05200018

担当者: 堤 康嘉 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 数学を通して様々な事象を考察する。また、読んだものについて意見を述べたりディスカッションを行うことで、数学的の知見を高めると同時に、実践的な数学能力を高めます。

到達目標: 折り紙などの具体的な教材を使って算数・数学的活動をする。

各回の授業計画:

1. 折り紙を折る
2. 正方形から正三角形を折る
3. 進路別ガイダンス
4. 長さの正確な3等分
5. 螺旋を折る
6. 放物線を折る
7. 折り紙で角の3等分
8. 折り紙で制作
9. 折り紙を使って方程式を解く
10. 紙テープを結ぶ
11. 平面折り紙の作成
12. 立体折り紙の基礎的な考え
13. 立体折り紙の応用的な考え
14. 立体折り紙の作成
15. 総合演習

特記事項:

授業方法: 講義と演習を，受講者が主体性を発揮できるように，グループワークやグループディスカッション等を交えて行う。また，各授業の資料はTeams にアップロードしておくので授業の復習にも役立ててもらいたい。全て対面で行う。
第1～7回 講義、演習
第8回 演習
第9～15回 講義、演習

予習・復習・宿題など(内容・時間):

予習(各回60分)
各回の講義に沿った予習内容を指示する。
復習(各回120分)
講義後に各回の学習内容，重要事項をまとめ，補充の演習問題を解くことにより，知識の定着を図る

評価方法:

授業へのとりくみ:	40 %	**確認テスト:**	－ %	**レポート:**	60 %
その他1:			%		
その他2:			%		

評価基準: 1. 授業へのとりくみ(関心，意欲，態度)
2. 小テストによる基礎的な事項の理解と記述による表現力
3. レポートによる表現力
上記の1，2，3の内容を総合的に判断し，得点化する。

・最低限の到達度（60～69点）
授業について概ね理解し、授業の取り組みや授業での課題レポートを解決することができる。
・標準的な到達度（70～79点）
授業について理解し、授業の取り組みや授業での課題レポートを解決することができる。
・望ましい到達度（80～100点）
授業について十分理解し、授業の取り組みや授業での課題レポートを解決することができる。

課題へのフィードバック：

1. 授業へのとりくみは、授業態度と参加意欲、発表の内容により判断する。
2. 小試験およびレポートについては，採点後に返却し，学習状況,到達状況等を確認する。

教科書： 授業配布プリントによる。

参考書： ドクター・ハルの折り紙数学教室 トーマス・ハル（日本評論社 2015年）

授業・準備学習のアドバイス：

簡単な算数・数学が復習できるように，基礎的なことから授業を行うので，しっかり復習して基礎的な学力が身につくようにすること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育学専門演習Ⅰ

クラス:

授業コード: DA05200019

担当者: 岩濵 里江子 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 乳幼児教育における文献やトピックスから、乳幼児教育の意義や目的について考えるとともに、乳幼児に関わる保育者としての自己の関心、将来像を明らかにする。教材作成、演習等を通し、乳幼児に関わるための基礎的な知識やスキルを身に付ける、また、フィールドワークを通して、自身の関心あるテーマ等の視点から読み取った幼児の実態、幼児理解、保育者の指導法等についてまとめ、発表することを通して、保育の営みや保育観についての考えを深める。これらの体験、他者との対話の中で、自身の問題・関心に応じた卒業研究テーマを見いだす。

到達目標: 1. 子どもの思いや願い、乳幼児教育の在り方について考え、他者と語り合い、自身の考えを高める。
2. フィールドワークを通して、幼児理解や保育者のかかわりの在り方についてまとめ、他者と語り合うことにより、自己の目指す保育観を作り出す。
3. 教材作成、教材研究、模擬保育を通して、保育者になるための基礎的な知識やスキルを身に付ける。
4. ともに学ぶ楽しさや高め合う喜びを感じ、ゼミ仲間や指導教官と信頼・協働性のある学びを創る主体となる。
5. 卒論テーマとその目的について明確にする。
6. 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション、ゼミ授業計画、研究倫理について
2. 個々の課題意識、関心について発表と質疑応答
3. 進路別ガイダンス
4. 子ども理解のための観察について（保育のねらいと記録の方法等を含む）
5. 保育観察
6. 保育観察のフィードバック（テーマごとのまとめ・報告）（グループワーク）
7. 自身の関心があるテーマに関する文献についてのレポートをゼミで報告・討議①（グループワーク）
8. 自身の関心があるテーマに関する文献についてのレポートをゼミで報告・討議②（グループワーク）
9. 保育教材作成（スケッチブックシアター）①
子供の発達の即した保育内容と保育のねらい
10. 保育教材作成（スケッチブックシアター）②
子供の発達の即した保育内容と保育のねらい
11. 保育指導案作成とスケッチブックシアター実践（グループワーク）
12. 保育指導案作成と模擬保育（グループワーク）①
13. 保育指導案作成と模擬保育（グループワーク）②
14. 卒業論文に作成に向けて関心のあるテーマ、自身の考えについての発表
15. まとめ 春学期の演習を振り返り、秋学期に向けた課題・計画

特記事項:

授業方法: ・講義
・保育観察
・保育観察における記録のまとめ・分析・発表（視点・テーマ）
・グループワーク
・文献講読の分担発表に基づくディスカッション
・プレゼンテーション
・教材作成
・模擬保育
以上 全て対面

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 予:春学期の計画書を作成(120分) 復:ゼミ内容の省察(60分)
2. 予:保育観察におけるテーマに基づく計画書作成(120分) 復:ゼミ内容の省察(60分)
3. 予:進路を見据えながら、自身の保育観察におけるテーマに関する文献検索(120分) 復:ゼミ内容の省察(60分)
4. 予:保育記録・ビデオ等の準備、保育観察の心構えについて(90分) 保育観察を終えての感想(90分)
5. 予:保育記録のまとめ:発表に向けての準備(120分) 復:ゼミ内容の省察(60分)
6. 予:保育記録のまとめ:発表に向けての準備(120分) 復:テーマに関する文献検索・まとめ(60分)
7～8. 予:テーマに関する文献検索・まとめ(120分) 復:保育教材作成の準備(60分)
9～11. 予:保育教材作成と保育指導案作成、および実践の準備(120分)復:ゼミ内容の省察(60分)
12～13. 予:保育指導案の作成と模擬保育の準備(120分) 復:ゼミ内容の省察(60分)
14. 予:指定論文・文献のまとめ・発表の準備(90分) 復:卒業論文に向けて文献、参考書を理解し、考察(120分)
15. 予:春学期の振り返りと次の課題に向けての考察(120分)復:秋学期に向けてのテーマや課題の考察(120分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	60 **%**	**確認テスト:**	**%**	**レポート:**	20 **%**
その他1:	他者との協働		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準:

◯授業態度・討議

80～100点

・意欲的に自分の意見や考えを述べることができる。その際、他者の考えや文献等から得られた知識等を用いながら深く考え述べることができる。

・文献の内容を理解し、適切なレポートを作成し、わかりやすくまとめて報告することができる。

・自身の課題やテーマを持って実地研究に臨み、自己の課題を明確にし、自己の考えや保育の営みについて伝えることができる。

・他者と協働し、自身の役割を果たしたり、他者の考えから自身の考えや良さを見出すことができる。

70～79点

・意欲的に自分の意見や考えを述べることができる。その際、他者の考えや文献等から得られた知識にも関心を持ちながら述べることができる。

・文献の内容を理解し、適切なレポートを作成し、報告することができる。

・自身の課題やテーマを持って実地研究に臨み、自己の考えや保育の営みに考えを巡らし、伝えることができる。

・他者と協働し、自身の役割を果たすことができる。

60～69点

・意欲的に自分の意見や考えを述べることができる。

・文献の内容を理解し、レポートを作成し、報告することができる。

・実地研究に関心をもって臨み、自己課題について考えることができる。

・他者と協働することができる。

課題へのフィードバック:

・発表については授業で講評する。

・提出したレポートについては講評を加えて返却する。

・課題意識については、個別に指導し、改善を図る。

教科書: ・授業内で紹介する。

・適宜、資料を配布する。

参考書: ・授業内で紹介する。

授業・準備学習のアドバイス:

・教育・保育に関わる課題等について関心を持ち、文献、報道、新聞記事等を検索したり、意欲的に実地研究に参加したりしながら、自分なりに子どもとの関わりや保育の意義について考えてみましょう。

・学びたいこと、経験したいことなど、保育者やそれに関わる仕事に就くための要望について積極的に考えてみましょう。

・積極的に自らの考えを問い、自己の意見を述べ、他のゼミ生と学び合うゼミになるように心がけましょう。

・卒業論文のテーマについては、保育観察やボランティア等での実地体験やゼミでの討議等を通して、自分で関心のある内容や自らの考えについて気づきを得るようにし、春学期終了時にまでに見つけるようにしましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育学専門演習Ⅰ

クラス:

授業コード: DA05200020

担当者: 瀬戸山 悠 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 自身の関心のある分野の研究課題に関連する文献を調査し、その理解を深める中でディスカッション、プレゼンテーション等を通して探究的な課題を設定し、研究活動を進める基礎的な力を身につける。
卒業論文の作成に向けて、文献や資料の収集等の準備を行う。
研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

到達目標:
1. 自身の関心のある分野について理解を深める。
2. 研究課題に向けて、研究活動の具体的な計画をたて、実践できる。
3. 研究論文作成に向けて、基本的な研究方法や論文の書き方、文章構成を理解できる。
4. 積極的な議論を通して、コミュニケーション能力を高める。
5. 研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション、研究倫理について
2. 研究分野についての概要
3. 進路別ガイダンス
4. 研究チームによる研究課題の設定
5. 研究チームによる研究課題の設定と文献講読①
6. 研究チームによる研究課題の設定と文献講読②
7. 研究課題発表とグループディスカッション①
8. 研究計画にもとづく研究活動（資料・文献の収集、調査など）①
9. 研究計画にもとづく研究活動（資料・文献の収集、調査など）②
10. 研究計画にもとづく研究活動（資料・文献の収集、調査など）③
11. 研究課題発表とグループディスカッション②
12. 研究チームによる研究課題の設定と文献購読
13. 研究計画にもとづく研究活動（資料・文献の収集、調査など）
14. 課題意識の整理とレポート作成
15. まとめと実践研究の課題確認

特記事項: ※全15回の授業のうちキャリアセンターからのキャリアガイダンスが1回入るため、授業内容が変更になる場合があります。

授業方法: ※すべての授業を対面授業で行う
1. 講義
2. 講義、演習
3. 演習、ディスカッション
4. グループワーク
5. グループワーク
6. グループワーク
7. プレゼンテーション、ディスカッション
8. 演習
9. 演習、ディスカッション
10. 演習、ディスカッション
11. プレゼンテーション、ディスカッション
12. 演習、ディスカッション
13. 演習、ディスカッション
14. 演習
15. プレゼンテーション、ディスカッション、講義

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

《課題1》
1. 提示課題について予習（100分）
2. 復習、ノート整理（100分）
3. 次時の課題作成（100分）
4. 発表方法を決定後、資料作成（200分）
《自己課題》
5. 提示課題について予習（100分）
6. 復習、ノート整理（100分）
7. 次時の課題作成（100分）
8. 発表方法を決定後、資料作成（200分）
《課題2》
9. 提示課題について予習（100分）
10. 復習、ノート整理（100分）
11. 次時の課題作成（200分）
12. 発表方法を決定後、資料作成（300分）
《総括》
13. 全体発表の課題づくり（300分）
14. 発表に向けての資料づくり（400分）
15. まとめのレポート作成（400分）

評価方法：	**授業へのとりくみ：**	50 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	50 **%**
	その他1：			**%**		
	その他2：			**%**		

評価基準： 文献等の内容の要旨が把握できている（60～69）
文献等の内容を踏まえ、自己の考察が出来ている（70～79）
文献等の内容を踏まえ、自己の考察を論理的に行うことができている（80～89）
文献等の内容を踏まえ、新たな客観的データを提示するとともに論理的な考察や提言を行うことができる（90～100）

課題へのフィードバック：

授業において内容の確認、解説、考察のポイント等について講評する。

教科書： 必要に応じて指示する。

参考書： 必要に応じて指示する。

授業・準備学習のアドバイス：

教職に就くためのキャリア形成であり大切な演習である。各自の主体的な文献検索、情報収集、整理等の事前準備と積極的な発表への取り組みが望まれる。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育学専門演習Ⅰ

クラス:

授業コード: DA05200021

担当者: 塚本 久義 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 特別支援教育について、関係する文献を購読して発表することにより理解を深める。また、卒業論文の作成に向けて、研究課題について考え、必要な準備を行う。

到達目標: 特別支援教育に関する基礎的・基本的事項について、実践的に理解する。文献を読み、要約して発表する力を身につける。卒業論文作成のため、文献の読み方や論文の書き方について身につける。
本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための方策について理解し、研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション、研究倫理について
2. 特別支援教育について
3. 進路別ガイダンス
4. 指定文献を読み、要約して発表し、討議する①
5. 指定文献を読み、要約して発表し、討議する②
6. 指定文献を読み、要約して発表し、討議する③
7. 指定文献を読み、要約して発表し、討議する④
8. 指定文献を読み、要約して発表し、討議する⑤
9. 自分で選んだ文献を読み、要約して発表し、討議する①
10. 自分で選んだ文献を読み、要約して発表し、討議す②
11. 自分で選んだ文献を読み、要約して発表し、討議する③
12. 自分で選んだ文献を読み、要約して発表し、討議する④
13. 自分で選んだ文献を読み、要約して発表し、討議する⑤
14. 自分で選んだ文献を読み、要約して発表し、討議する⑥
15. まとめ（これまで取組んだことをレポートにまとめて発表する）

特記事項:

授業方法:
第1回 演習（対面）
第2回 演習（対面）
第3回 演習（対面）
第4回 演習（対面）
第5回 演習（対面）
第6回 演習（対面）
第7回 演習（対面）
第8回 演習（対面）
第9回 演習（対面）
第10回 演習（対面）
第11回 演習（対面）
第12回 演習（対面）
第13回 演習（対面）
第14回 演習（対面）
第15回 演習（対面）

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

第1回（復習） 特別支援教育について知っている事柄をレポートにまとめる。（180分）
第2回（復習） 特別支援教育についてまとめる。（180分）
第3回～第7回（予習） 指定文献について、要約を作成する。（各回 180分）
第8回（復習） 感想をまとめる。（180分）

第9回～第14回（予習） 文献を選び要約してレポートにまとめる。（各回 180分）
第15回（予習） これまでの取り組みをレポートにまとめる。（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	50	**%**	**確認テスト：**	－	**%**	**レポート：**	50 **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準： 発表：読んだ本の内容がまとめられている（60～69点）／読んだ本の内容がまとめられ考察が加えられている（80～100点）。

課題へのフィードバック：

発表については授業で講評する。

教科書： なし

参考書： 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所『特別支援教育の基礎・基本 第4版』ジアース教育新社
その他、必要に応じて適時紹介する。

授業・準備学習のアドバイス：

特別支援教育に携わる教職員として、目の前で起こっている日々の教育課題について、ゼミの仲間と積極的に議論を重ね、必要な資質・能力の向上に努めてほしい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育学専門演習Ⅰ

クラス:

授業コード: DA05200022

担当者: 廣岡 義之 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: (道徳教育を含む)学校教育、乳幼児教育、家庭教育、特別支援教育、福祉教育など極めて幅の広い教育実践領域において、「ケアリング」の学問理論と教育実践を深めることが現代の教育界で緊急に求められている。そこでこうした問題意識を軸として、幅広い教育的関心領域を「ケアリング」というキーワードで学んでいく。

到達目標:
1. 児童教育に関する自分の問題意識を明確に表現できるようになる。
2. 課題探求力を培う。
3. 文献の読み方・レジュメのまとめ方・発表の仕方等研究の基本を身につける。
4. 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 各々の問題意識について発表し、質疑応答を行う
3. 進路別ガイダンス
4. 資料・文献の輪読・講読①
5. 資料・文献の輪読・講読②
6. 資料・文献の輪読・講読③
7. 資料・文献の輪読・講読④
8. 資料・文献の輪読・講読⑤
9. 各自のテーマについての個別発表・質疑応答①
10. 各自のテーマについての個別発表・質疑応答②
11. 各自のテーマについての個別発表・質疑応答③
12. 各自のテーマについての個別発表・質疑応答④
13. 各自のテーマについての個別発表・質疑応答⑤
14. 各自のテーマについての個別発表・質疑応答⑥
15. 総括

特記事項: なし

授業方法: すべての授業を対面授業で行う
1. 演習
2. 演習
3. 演習
4. 演習
5. 演習
6. 演習
7. 演習
8. 演習
9. 演習
10. 演習
11. 演習
12. 演習
13. 演習
14. 演習
15. 演習

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 教育学的課題について自分の意見をレポートにまとめる(180分)
2. 教育学的課題について自分の意見をレポートにまとめる(180分)
3. 教育学的課題について自分の意見をレポートにまとめる(180分)
4. 教育学的課題について自分の意見をレポートにまとめる(180分)
5. 教育学的課題について自分の意見をレポートにまとめる(180分)
6. 教育学的課題について自分の意見をレポートにまとめる(180分)
7. 教育学的課題について自分の意見をレポートにまとめる(180分)
8. 教育学的課題について自分の意見をレポートにまとめる(180分)
9. 教育学的課題について自分の意見をレポートにまとめる(180分)
10. 教育学的課題について自分の意見をレポートにまとめる(180分)
11. 教育学的課題について自分の意見をまとめる(180分)
12. 教育学的課題について自分の意見をレポートにまとめる(180分)
13. 教育学的課題について自分の意見をまとめる。(180分)
14. 教育学的課題について自分の意見をレポートにまとめる(180分)
15. 教育学的課題について自分の意見をレポートにまとめる(180分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	50 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	50 **%**
その他1:			**%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 課題レポート:自分の意見が述べられている(60-69) / 熟慮された意見が述べられている(90-100)

課題へのフィードバック:

課題レポートについては講評を加えて返却する。

教科書: 必要に応じて指示する。

参考書: 必要に応じて指示する。

授業・準備学習のアドバイス:

毎回、予習、復習を習慣づけること。

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育学専門演習Ⅰ

クラス:

授業コード: DA05200023

担当者: 芝田 悦司 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本演習では、教職を目指す受講生が将来教壇に立つ上で必要な資質を身につけるため、現在の自分にはどのような課題があるのかを自覚し、小中学校教員として求められる実践的な思考や能力を身につけることを目的とする。可能な限り、具体的な事例を取り上げながら実践力向上を目指す。

到達目標: ①教育者としての責任感や教育的思考に基づき、自身の職責を果たすべく他者への献身的な姿勢を身につける
②社会人・教育者として児童生徒や保護者・同僚と良好な人間関係を構築する能力を養う
③個々の児童生徒と向き合い、様々な課題を受け止め、適切な指導を行う力を身につける
④集団指導と個別指導の違いを理解し、状況に応じた使い分けや指導方法を身につける

各回の授業計画:

1. オリエンテーション（自己紹介等）・研究理念について
2. 望まれる教師像、学校像、教育観
3. 進路別ガイダンス
4. ディスカッション①（教育課題）
5. ディスカッション②（教育課題）
6. ディスカッション③（教育課題）
7. ディスカッション④（教育課題）
8. ディスカッション⑤（教育課題）
9. ディスカッション⑥（教育課題）
10. ディスカッション⑦（教育課題）
11. ディスカッション⑧（教育課題）
12. ディスカッション⑨（教育課題）
13. ディスカッション⑩（教育課題）
14. 集団討議
15. まとめ

特記事項: なし

授業方法: ・講義形式
・事例研究
・場面指導（ロールプレイ）
・グループディスカッション
・プレゼンテーション

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 提示課題についての予習、授業の振り返り作成（180分）
2. 提示課題についての予習、授業の振り返り作成（180分）
3. 進路別ガイダンスの振り返り作成（180分）
4. 提示課題についての予習、授業の振り返り作成（180分）
5. 提示課題についての予習、授業の振り返り作成（180分）
6. 提示課題についての予習、授業の振り返り作成（180分）
7. 提示課題についての予習、授業の振り返り作成（180分）
8. 提示課題についての予習、授業の振り返り作成（180分）
9. 提示課題についての予習、授業の振り返り作成（180分）
10. 提示課題についての予習、授業の振り返り作成（180分）
11. 提示課題についての予習、授業の振り返り作成（180分）
12. 提示課題についての予習、視察の振り返り作成（180分）

13. 提示課題についての予習、授業の振り返り作成(180分)
14. 提示課題についての予習、授業の振り返り作成(180分)
15. まとめのレポート作成(180分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	70 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	30 **%**
その他1:			**%**		
その他2:			**%**		

評価基準:

1. 授業に取り組む姿勢
(優80～100)仲間の考えを尊重しつつも自分の意見を適切に伝え、チームになって課題に対して主体的に学ぶことができる。
(良70～79)自分の意見を適切に伝え、チームになって課題解決に向かい学ぶことができる
(可60～69)自分の意見を交えながら、チームになって学ぶことができる

2. 授業における気づきや対応能力
(優:80～100)提示された課題の核心を的確に捉え、他者の意見を柔軟に取り入れながら解決に向かう道筋を明確に示すことができる
(良:70～79)提示された課題を理解し、他者の意見を聞くことで解決に向かう道筋を示すことができる
(可:60～69)提示された課題を理解し、ディスカッションの中から解決策を想像することができる

3. 提出レポート
(優:80～100)授業内容を十分に理解し、独自の考えを盛り込みながら、将来の自分を重ね合わせた内容になっている
(良:70～79)授業内容を正確に理解し、自分の意見を交えながら将来の自分を意識した内容になっている
(可:60～69)授業内容を理解し、自分の課題を意識しながらこれから取り組みたい内容をまとめている

課題へのフィードバック:

・課題解決やディスカッション、場面指導については、その場で口頭による指導や講評を行う
・振り返りレポート等提出物については、個別に指導助言を行うとともに、優秀なものについては全員に共有して学びの一助とする(個人情報には十分に配慮する)

教科書: 必要に応じて指示する

参考書: 必要に応じて指示する

授業・準備学習のアドバイス:

小学校・中学校教員を志望する受講生にとって、教壇へ立つ際に必要な心構えや教育者として最低限身につけておいてほしい内容について演習を行う。
教員は遣り甲斐のある職であると同時に、高い専門的能力が求められる。演習内容を点でとらえるのではなく、面でとらえて汎用できる能力を養ってもらいたい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育学専門演習Ⅰ

クラス:

授業コード: DA05200025

担当者: 高畑 英樹 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本演習では、子どもの発達特性を理解し、その子の強みを活かした支援のあり方を学ぶことを目的とする。発達障害のある子どもへのアセスメント(観察・記録・分析)や、個別の指導計画の立案といった実践的な内容を中心に、教育・福祉・地域支援・社会的養護など、子どもを取り巻く多様な支援領域について多角的に理解を深める。また、ケース検討やグループワークを通して、他者と協働しながら学びを深める姿勢を育成し、将来の教育・福祉・地域支援などの現場で活用できる基礎的な知識と技能を身につけることを目指す。

到達目標: 子どもの発達特性を多面的に理解できる。
アセスメントの基礎的技能を身につける。
教育・福祉・地域支援・社会的養護の多領域を理解する。
協働的学習を通して学びを深める姿勢を身につける。
研究について理解し、論文についての基本的知識・スキルを把握する。
本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、それをふまえた研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション:ゼミの目的と学びのスタイル、研究倫理
ゼミの理念共有、自己紹介と学びの目標設定、研究倫理

2. 子どもの発達特性の基礎理解①:認知・言語・社会性
発達の多様性、発達段階と個人差の捉え方、ケースを用いた発達理解

3. 進路別ガイダンス(キャリアーセンター主催)

4. 子どもの発達特性の基礎理解②:行動・情緒・感覚特性
行動の背景要因を読み解く視点、感覚過敏・鈍麻の理解、支援における「強み」の見つけ方

5. 発達障害の基礎知識(ASD・ADHD・LD)
特性の整理、支援の基本原則

6. アセスメントの基礎:観察・記録・分析
アセスメントの目的、観察記録の取り方、分析の基本手法

7. アセスメント演習①:動画・ケースを用いた分析
実際のケース(教材)を用いた観察、行動の背景要因を推測する練習

8.アセスメント演習②:支援ニーズの整理
強み・困り感の整理、支援目標の設定方法

9. 個別の指導計画(IEP)作成の基礎
目標設定と評価方法、教育現場での活用例

10. 指導プログラムの立案①:学習支援
読み書き・数概念の支援、認知特性に合わせた教材

11.指導プログラムの立案②:行動・社会性の支援
行動支援の基本(環境調整・強化・視覚支援)、ソーシャルスキルトレーニング(SST)

12. 福祉施設・地域支援・社会的養護の理解:子どもを取り巻く環境を多面的に捉える
放課後等デイサービス、児童発達支援、地域での支援資源、教育との連携のあり方、児童養護施設・里親制度、多職種連携の視点

13. ケーススタディ総合演習①:アセスメントから計画立案まで
グループでケースを分析、支援計画の作成

14. ケーススタディ総合演習②:支援プログラムの発表と相互フィードバック・グループ発表
グループ発表、他者の視点から学ぶフィードバック

15. まとめ:学びの振り返りと後期への展望
個人レポート(学びの整理)、ゼミ全体での振り返り

特記事項:

授業方法: すべて対面で行う。
・ディスカッション

・講義
・演習
・グループワーク
・発表

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. 予習：ゼミでの自己紹介と自分が目指す学びをまとめる（120分）
2. 予習：子どもの認知・言語・社会性の発達をまとめる（150分）復習：理解した内容のまとめ（120分）
3. 予習：自己理解（興味・関心、自分の強みと弱み、大学での学びの振り返り）のまとめ（120分）復習：ガイダンス内容のまとめ（120分）
4. 予習：子どもの行動・情緒・感覚の発達をまとめる（150分）復習：理解した内容のまとめ（120分）
5. 予習：発達障害（ASD・ADHD・LD）をまとめる（150分）復習：理解した内容のまとめ（120分）
6. 予習：観察記録の取り方をまとめる（150分）復習：理解した内容のまとめ（120分）
7. 予習：行動分析をまとめる（150分）復習：理解した内容のまとめ（120分）
8. 予習：支援目標設定方法をまとめる（150分）復習：理解した内容のまとめ（120分）
9. 予習：個別の指導計画（IEP）をまとめる（150分）復習：理解した内容のまとめ（120分）
10. 予習：読み書きや数概念の発達をまとめる（150分）復習：理解した内容のまとめ（120分）
11. 予習：視覚支援やSSTをまとめる（150分）復習：理解した内容のまとめ（120分）
12. 予習：放課後等デイサービス、児童発達支援、児童養護施設・里親制度をまとめる（150分）復習：理解した内容のまとめ（120分）
13. 復習：作成した支援計画の見直し（180分）
14. 復習：作成した支援計画の改善（180分）
15. 課題：レポート作成「学びの整理と後期に向けて」（240分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	60 **%**	**確認テスト：**	**%**	**レポート：**	40 **%**
その他1：			**%**		
その他2：			**%**		

評価基準：
・事前に調べたことから問題意識をもち、意見を述べることができている（80－100）
・他者の意見を尊重し、協働的に学ぶことができている（80－100）
・課題の倫理を守り、レポート等を提出する（70－79）

課題へのフィードバック：

演習時間内、または個別面談等で助言する。

教科書： 演習授業内で紹介する。

参考書： 適宜、ゼミにて紹介する。

授業・準備学習のアドバイス：

・一人ひとりの学びが、互いの学びになる機会にし、学びを豊かにしましょう。
・学ぶことの楽しさを、みんなで共有しましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育学専門演習 I

クラス:

授業コード: DA05200026

担当者: 樋口 拓 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:国立青少年教育振興機構(青少年教育研究センター)において、体験活動(ESD)プログラムの企画・運営・評価、安全管理、関係機関連携を推進。副センター長・企画室長として全国の拠点・地域との協働実践を牽引。
地域資源・伝統工芸を題材にした体験型ワークショップの研究実践(例:櫨の和蝋燭づくり/大洲和紙のワークショップ構成と効果検討、ESDプログラムの事業仮説モデル検討 ほか)。
本演習では、これらの実務知(安全管理・評価設計・多機関連携)と研究成果(地域資源の言語化・ストーリーテリング・伝統文化体験の教育効果)をゼミ内容設計に反映します。

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: - **一般的包括的科目:** -

授業の目的: 地域の自然・文化・産業等の地域資源と、日本の暦である二十四節気の視点を取り入れ、体験活動を基盤に「総合的な学習の時間」や「探究」をデザインする力を養います。学生自身が企画者・運営者となり、学内外の関係者と連携して、小規模でも教育的効果のある季節型ミニ・プログラムを立案・試行し、評価・改善まで行うことを目的とします。(評価設計・安全管理・ロジックモデルの活用、地域資源の言語化→物語化→プログラム化のプロセスを横断的に扱います。)

到達目標:
LO1:ESDおよび体験学習の基本原理を説明できる。
LO2:児童・保護者・地域等、対象に応じた学習目標と評価指標(ルーブリック/パフォーマンス課題)を設計できる。
LO3:事前・当日・事後まで見通した運営計画(安全管理・コンプライアンスを含む)を立案できる。
LO4:二十四節気や地域資源を教材化し、ファシリテーション計画(台本・素材)を作成できる。
LO5:学内外の関係者と連携し、試行→振り返り→改善案を提示できる。
LO6:本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、それをふまえた研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
目的・評価・安全/ESD×体験学習の全体像/二十四節気の捉え方

2. 地域資源の読み解き:自然・文化・産業のマッピングと価値化
自分の暮らしと結びつける資源リストアップ法

・観察と記録の技法
五感観察/フィールドノート/肖像権・個人情報・リサーチ倫理

3. 進路別ガイダンス(キャリアセンター主催)

4. 行事体験の設計①
春の候(清明～立夏)の現地下見・連携先確認・安全計画づくり

5. 行事体験①:春の行事
例:花見・野点/地域の桜文化の読み解き(場の安全・群集動線)
※体験後ミニ・リフレクション

6. 教材化ワーク①
春の体験を活動カードと導入トークに落とす(年齢別に調整)

7. 講義:伝統文化×ESDの効果
大洲和紙/櫨の和蝋事例、事業仮説構造モデルの読み方と応用

8. 行事体験②:端午・菖蒲・薬草文化
生活文化と安全(アレルギー・取り扱い)を学ぶ。※ミニ・リフレクション

9. 評価設計ワーク
ルーブリック/パフォーマンス課題/ふりかえり様式の試作

10. 行事体験③:梅仕事 等
自然と生業の接点/作業安全・衛生・装備。※ミニ・リフレクション

11. ファシリテーション入門
台本(導入・展開・ふりかえり)と問いのデザイン

12. 連携設計
学校・家庭・地域・施設のコーディネーション(合意形成・役割分担)

13. 春夏の小企画スタジオ①
プロジェクト進行体験/素材・役割・タイムライン設定

14. 小企画の模擬実施&ピアレビュー
安全・時間配分・資材動線の検証/改善点抽出

15. 前期成果共有・改善計画
小企画成果物＋改善計画提出／後期テーマの素案づくり

特記事項: ※講義＋行事体験＋春夏の小企画（15回）で構成するゼミを予定しています。
※学期カレンダーに沿って、節気（例）を示しています。実施日は年度暦に合わせて微調整します。

・学外フィールドを伴う場合あり（任意参加含む）。服装・履物・熱中症・天候判断・保険等に留意。
・記録（写真・音声・動画）は倫理・個人情報・撮影可否に配慮し運用。
・生成AIの利用は大学方針に従い、出力の丸写し禁止・出典明示を必須とする。

授業方法: 対面で行います
※講義＋行事体験＋春夏の小企画（15回）

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

指定図書・資料の通読・要約（合計）…14時間（読書ノート提出）
地域資源リスト作成（自分史×地域史の接点を作成）…6時間
春夏の小企画一式（ロジックモデル／運営計画／安全計画）…6時間
振り返りレポート（1,200～1,600字）…4時間

評価方法:

授業へのとりくみ:	40	**%**	**確認テスト:**	30	**%**	**レポート:**	30 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: LO（1-5）への達成度で総合評価します。
提出物（確認課題）：ロジックモデル／企画書／安全計画／評価ツール 30% 目的―成果―指標の接続が明確。根拠資料・引用適切。
授業へのとりくみ：準備・貢献・安全配慮・協働 40% 主体的参画、建設的提案、安衛配慮が一貫。
発表・実施：プレゼン／台本／成果共有（春夏小企画・最終企画） 30% 目的・評価・安全が一貫し説得力が高い。

課題へのフィードバック:

達成度等についてコメントを付した内容について学内システム等を介して返却します。

教科書: 特になし
ゼミの中で適宜参考書籍等を共有します。

参考書: 井上美智子『むすんでみよう 子どもと自然』新曜社（指定図書）。
樋口 拓・朝廣 和夫（2024）「伝統的工芸品を活用した体験活動プログラム開発による地域の持続可能な発展にむけた予備的研究―大洲和紙―」青森大学付属総合研究所紀要（J-STAGE PDF）。
樋口 拓（2025）『青少年教育施設における伝統文化実践研究事業（報告書）～地域の伝統文化を活かした体験活動プログラムの導入にむけて～』（全文公開PDF）。
そのほか、授業内で担当教員が最新研究業績／MISCからも適宜指定します。

授業・準備学習のアドバイス:

当ゼミでは次の点を大切に活動を行いますので受講生も各自の準備をお願いします。
・季節の手がかり（光・風・音・匂い・旬・行事・生業）を観察→言語化→物語化→教材化へ。
・小さく試す（pilot）→振り返る→改善を繰り返し、**別季節・別学年に転用できる「型」**を蓄積。
・安全最優先（装備・体調・天候判断・代替計画）と記録・倫理（撮影可否・データ保全・個人情報）の徹底。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育学専門演習Ⅱ

クラス:

授業コード: DA05300001

担当者: 猪田 裕子 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 教育学専門演習Ⅰで深めた子どもの姿を捉える視点を、さらに実践の場においても応用できるよう探究を続ける。その中で、各自卒業論文のテーマとなる課題を見出すことを本演習の目的とする。
文献や具体的な事例を用い、子どもの成長や興味の背景を考察することで、子どもに寄り添う姿勢を養う。この学びを通じて子ども理解を深めるだけでなく、教育や人間関係において必要な視野の拡大と応用力の向上を目指す。

到達目標: 常に意識を持って子どもの姿を捉えることができるようになる。
卒業論文の課題を見出す。
卒業論文の計画及びレポートを作成する。

各回の授業計画:

1. これまでの振返りとオリエンテーション
2. ラーニングストーリーの基礎子どもの成長記録としてのラーニングストーリー
3. 子どもを捉える5つの視点多角的な視点で子どもを観察する方法
4. 文献研究Ⅰ:子どもの遊びと学びの関係子どもの遊びに潜む学び
5. 文献研究Ⅱ:子どもの行動の背景を探る行動に隠された子どもの意図や感情
6. 文献研究Ⅲ:環境が子どもに与える影響環境の違いが子どもの成長に与える影響
7. 文献研究Ⅳ:文化的背景と子どもの価値観文化が形成する子どもの価値観と行動
8. キャリアガイダンスへ参加
9. 文献研究Ⅴ:保育の質と子どもの学び高品質な保育が子どもに与える影響
10. 卒業論文の基本的な構成の仕方文献検索等の進め方
11. 卒業論文の章立て卒業論文の基本的な構成の仕方
12. 卒業論文の計画と概要の発表Ⅰ
13. 卒業論文の計画と概要の発表Ⅱ
14. 卒業論文の計画と概要の発表Ⅲ
15. 振り返りとまとめ:卒論に向けたレポート作成

特記事項: ※全15回の授業のうちキャリアセンターからのキャリアガイダンスが1回入るため、授業内容が変更になる場合があります。

授業方法: 【対面】
演習
講義
討論
グループワーク

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 課題:レポート作成「目指す保育者像につて」(240分)
2. 本日の復習及び指定されたテキスト箇所をまとめる(150分)
3. 本日の復習及び指定されたテキスト箇所を熟読する(150分)
4. 本日の復習及び担当箇所を熟読し、意見をまとめる(180分)
5. 本日の復習及びプレゼンテーションの準備(180分)
6. 本日の復習及び担当箇所を熟読し、意見をまとめる(150分)
7. 本日の復習及びプレゼンテーションの準備(180分)
8. 本日の復習及び担当箇所を熟読し、意見をまとめる(150分)
9. 本日の復習及びプレゼンテーションの準備(180分)
10. 本日の復習及び担当箇所を熟読し、意見をまとめる(150分)
11. 本日の復習及びプレゼンテーションの準備(180分)
12. 本日の復習及び担当箇所を熟読し、意見をまとめる(150分)

13. 本日の復習及びプレゼンテーションの準備（180分）
14. 本日の復習及び保育の質に関する資料を読み、自分の考えをまとめる（240分）
15. 課題：レポート作成「子どもの遊びと学びについて」（240分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	80 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	－ **%**		
その他1：	積極的な教材研究の姿勢	10 **%**					
その他2：	プレゼンテーションへの取り組み	10 **%**					

評価基準：
・課題のレポートで自分の意見を述べることができている（80-100）
・プレゼンテーションを通して探究の姿勢を学ぶことができている（80-100）
・テキストの内容がまとめられている（70-79）

課題へのフィードバック：
各自の課題発表時、討論の中で助言する。

教科書： 大宮勇雄著『学びの物語』ひとなる書房 2011年

参考書： 令和5年度最新版 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞ ISBN 978-4-8054-0330-3 チャイルド社

授業・準備学習のアドバイス：
全員での対話（話し合い）が演習の基本となるので、積極的な参加を望む。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育学専門演習Ⅱ

クラス:

授業コード: DA05300003

担当者: 森 眞理 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 演習Iで学んだ、"Think Globally, Act Locally(地球規模で考え、足元から行動)"の概念を、足元からと、行動に移すために探究する。学内外での学びの機会から、演習生一人ひとりが、問題意識を培い、卒論の調査・研究へと繋げる。

到達目標:
1. 子どもを取り巻く世界の動き・課題についての理解しつつ、日本の現状・課題への理解を深める
2. ゼミを活性化、深化する貢献者として出席・参加する。
3. 卒論に向けて、自己の課題・、研究方法を見出す。
4. 本学の研究倫理基準、及び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策の理解を深めて、研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 研究・卒論に向けて:① 日本の現状理解
3. 研究・卒論に向けて:② 子どもを取り巻く日本の課題
4. フィールドワーク ①
5. フィールドワーク ①の振り返りと研究・卒論に向けて:③ 研究手法の理解
6. 研究・卒論に向けて:④ 文献検索の理解
7. 研究・卒論に向けて:⑤ 先行研究との対話
8. 進路ガイダンス(キャリアセンター主催)
9. 研究・卒論に向けて:⑥ 先行研究との対話
10. フィールドワーク ②
11. フィールドワーク ②の振り返り
12. ゲストスピーカーとの学び合い
13. 卒論に向けての計画書作成とディスカッション
14. 卒論に向けての計画発表とディスカッション
15. まとめ:振り返りと今後の展望

特記事項: ＊全15回の授業のうちキャリアセンターからのキャリアガイダンスが1回入るため、授業内容が変更になる場合があります。
＊フィールドワークについては、訪問先の状況により変更になる場合があります。

授業方法:
1. 演習(対面)
2. 講義・ディスカッション(対面)
3. 講義・ディスカッション(対面)
4. グループワーク(対面)
5. 演習(対面)
6. 講義・ディスカッション(対面)
7. 講義・ディスカッション(対面)
8. 演習(対面)
9. 演習(対面)
10. グループワーク(対面)
11. 演習(対面)
12. 講義・ディスカッション(対面)
13. 演習(対面)
14. 演習(対面)
15. 発表・ディスカッション(対面)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 予:個人の問題意識・課題をまとめる120分)、復:ゼミ内容の省察(90分)

2. 予:文献を読みまとめる(120分)、復:ゼミ内容の省察(120分)
3. 予:文献を読みまとめる(180分)、復:ゼミ内容の省察(120分)
4. 予:資料を読み、討議内容をまとめる(120分)、復:ゼミ内容の省察(120分)
5. 予:資料を読み、討議内容をまとめる(120分)、復:ゼミ内容の省察(120分)
6. 予:資料を読み、討議内容をまとめる(120分)、復:ゼミ内容の省察(120分)
7. 予:資料を読み、討議内容をまとめる(120分)、復:ゼミ内容の省察(120分)
8. 予:資料を読み、発表内容をまとめる(120分)、復:ゼミ内容の省察(120分)
9. 予:資料を読み、発表内容をまとめる(120分)、復:ゼミ内容の省察(120分)
10. 予:資料を読み、討議内容をまとめる(120分)、復:ゼミ内容の省察(120分)
11. 予:資料を読み、討議内容をまとめる(120分)、復:ゼミ内容の省察(120分)
12. 予:資料を読み、討議内容をまとめる(120分)、復:ゼミ内容の省察(120分)
13. 予:発表に向けた準備を行う(180分)、復:論文に向けて考察する(120分)
14. 予:発表に向けた準備を行う(180分)、復:論文に向けて考察する(120分)
15. 予:レポート作成(180分)、復:今後の課題と展望を考察する(120分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	60	**%**	**確認テスト:**	−	**%**	**レポート:**	40 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準:
・当事者意識を持ってゼミに出席・参加・発表する。(60―69)
・演習生と協調的に意見を交わし、仲間の学びに貢献する。(80―100)
・課題の倫理を守り、レポート等を提出する。(70―79)
・自らの課題に問題意識を持ち、探究する。(80―100)

課題へのフィードバック:
演習授業内、また個別面談等にて、口頭および文書にて助言等を行う。

教科書: ・白井利明・高橋一郎(著)『よくわかる卒論の書き方[第2版]』ミネルヴァ書房、2013年. ISBN 978-4-62306-57-21

参考書: 適宜、ゼミにて紹介する。

授業・準備学習のアドバイス:
・学べる喜びと楽しさと幸せを味わい、毎回のゼミに出席・参加しましょう。
・一人ひとりがゼミを構成する参加者・貢献者としての心持ちで互いに研鑽しましょう。
・公正を心がけて課題に取り組みましょう。

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育学専門演習Ⅱ

クラス:

授業コード: DA05300004

担当者: 須増 啓之 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 美術教育（保育における領域「表現」や小学校図画工作科）の内容や課題、アートについて、造形ワークショップやテキストの講読などを通して自分なりの興味や問題意識と関連付け、それらを視覚や言葉を使って他者に伝えることのできる力を養います。具体的には美術作品（神戸親和大学に保管されている福来指導の粘土造形作品）に出合うこと、アートを楽しむいろいろな造形ワークショップ（教員及び学生考案）を行い、日常での面白いことや美しいことなどを五感や体全体を使って感じ取ったり、再発見したりすることで創造性や感性を培います。また企画力やコミュニケーション力を育てるため、地域のイベントなどに参加します。その他、ポートフォリオの作成などを通して、学んだことを他者に伝えることのできる力を養います。

到達目標:
1. 美術作品との出合いや地域のイベント参加、テキストの講読などを通して、造形ワークショップや美術教育の内容や課題、アート（美術作品など）について関心を持ち、自らの興味や問題意識と関連付けることができる。
2. 造形表現の視点から子供の興味や関心、発達、子供の造形について理解することができる。
3. 表現活動において失敗を恐れず、楽しんでチャレンジすることができる。
4. 授業での学びや活動についてポートフォリオなどに視覚的にまとめ、自らの言葉を用いて他者に伝えることができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション（演習Ⅱの目標・内容・評価方法・進め方・準備の確認など）
福来指導の粘土造形作品について知る
2. 福来四郎指導の粘土造形作品に出合う・触れる（1）
3. 福来四郎指導の粘土造形作品に出合う・触れる（2）
4.福来四郎指導の粘土造形作品に出合う・分類する（1）
5. 福来四郎指導の粘土造形作品に出合う・分類する（2）
6. テキストの講読及びプレゼン③
7. テキストの講読及びプレゼン④
8. 福来四郎指導の粘土造形作品を使った授業を考える（1）
9. 福来四郎指導の粘土造形作品を使った授業を考える（2）
10.福来四郎指導の粘土造形作品を使った授業を実践する
11. 地域でのワークショップへの参加「ゼミ生で造形ワークショップの企画を考える（1）」
12. 地域でのワークショップへの参加「ゼミ生で造形ワークショップの企画を考える（2）」
13. 地域でのワークショップへの参加「ゼミ生で造形ワークショップの企画を考える（3）」
14. 地域でのワークショップへの参加「ゼミ生で造形ワークショップの企画を考える（4）」
15. 地域でのワークショップへの参加について振り返る
演習Ⅱにおけるまとめと卒業研究へのつながり

特記事項: ※全15回の授業のうちキャリアセンターからのキャリアガイダンスなどの学科行事が入るため、授業内容が変更になる場合があります。
※授業時間外に地域イベントの準備や参加があります。必ず参加してください。

授業方法: 【すべての授業を対面で行う】
1. 演習
2. 鑑賞
3. 鑑賞
4. 鑑賞
5. 鑑賞
6. プレゼンテーション、討議
7. プレゼンテーション、討議
8. 制作
9. 制作
10. 模擬授業実践
11. 制作、パソコンを使用した演習

12. 制作、パソコンを使用した演習
13. 制作
14. 制作
15. 鑑賞活動、演習

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. ポートフォリオの作成（150分）
2. ポートフォリオの作成（150分）
3. ポートフォリオの作成（150分）
4. ポートフォリオの作成（150分）
5. ポートフォリオの作成（150分）
6. 発表資料の作成、ポートフォリオの作成（150分）
7. 発表資料の作成、ポートフォリオの作成（150分）
8. 題材研究及びポートフォリオの作成（150分）
9. 題材研究及びポートフォリオの作成（150分）
10. 題材研究及びポートフォリオの作成（150分）
11. 企画の準備、ポートフォリオの作成（150分）
12. 企画の準備、ポートフォリオの作成（150分）
13. 企画の準備、ポートフォリオの作成（150分）
14. 企画の準備、ポートフォリオの作成（150分）
15. ポートフォリオのまとめ（150分）

※授業内に完成していない課題制作、地域のイベントの準備等（450分）

評価方法:

授業へのとりくみ:	－	**%**	**確認テスト:**	－	**%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:	活動へのとりくみ（制作、鑑賞、発表などを含む）	70	**%**				
その他2:	ポートフォリオ、資料の作成など	30	**%**				

評価基準: 【活動へのとりくみ（制作・鑑賞・発表など含む）】について
・美術作品の鑑賞や地域へのイベント参加、講読などを通して、造形ワークショップの意義や内容、子供の造形表現について理解し、自分なりの興味や課題意識を持つことができる。また学びや活動について自分の言葉で話すことができる。（60～69）
・造美術作品の鑑賞や地域へのイベント参加、講読などを通して、造形ワークショップの意義や内容、子供の造形表現について説明することができ、自分なりの興味や課題意識を明確にし、表現することができる。また学びや活動について自分の言葉でわかりやすく説明し、伝えることができる。（80～100）
※活動については、失敗を恐れず、新しく表現することや地域のイベントにチャレンジすること、子供の表現を受容することなどが評価規準となる。
【ポートフォリオ、資料の作成など】について
・写真やイラストなどを使用して、活動の記録や資料を視覚的にまとめている。（60～69）
・写真やイラストなどを使用した活動の記録や資料を、自分なりの工夫を加えて視覚的にわかりやすくまとめている。（80～100）

課題へのフィードバック:

・活動や発表については、作品の鑑賞会やプレゼン発表において、まとめて講評する。
・提出されたポートフォリオは、ルーブリックにコメントを記入して返却する。

教科書: 授業中に、適宜、指示または資料を配布する。

参考書: 【ワークショップ関係】
・山内祐平・森玲奈・安斎勇樹『ワークショップデザイン論［第2版］』慶応義塾大学出版会
・高橋陽一編『造形ワークショップの広がり』武蔵野美術大学出版局
・今井良朗『ワークショップのはなしをしよう 芸術文化がつくる地域社会』武蔵野美術大学出版局
・美馬ゆかり・山内祐平『「未来の学び」をデザインする（新版） 空間・活動・共同体』東京大学出版会
【美術教育関係】
・松岡宏明『子供に子供の美術を』三元社
・松岡宏明『子供の世界 子供の造形』三元社
・大橋功他編著『美術教育概論（新訂版）』日本文教出版
その他、授業中に指示する。

授業・準備学習のアドバイス:

・「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」では、ホームページやプレゼンテーション資料の作成の際、パソコンを授業中に使用しますので、各自必ず準備すること。
・「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」「演習Ⅲ」「演習Ⅳ」ではポートフォリオを作成します。ファイルなどは共通のものを配布します。毎回持参し、予習や復習として配布資料や活動ごとの記録（イラストや写真）、調べたことなどをまとめてください。なお、ポートフォリオは第15回終了時に提出。
・興味・関心を持つ分野の研究や授業研究・教材開発、作品制作に自らの視点で取り組み、着実な歩みを示しましょう。保育園・幼稚園・小学校などのボランティアに積極的に関わったり、美術関係のイベントや美術教育の研究会、美術館での鑑賞、ゼミ合宿などへの参加を通し

て、自分なりの興味や課題を探してください。
・授業は制作活動と進展状況や制作などの発表・検討が中心となるので、時間をかけて準備学習に取り組んでおくこと。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育学専門演習Ⅱ

クラス:

授業コード: DA05300005

担当者: 松本 宗久 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 春学期に構築した理論的基盤を基に、次年度の実践研究(調査、授業実践、教材開発等)に向けた具体的な計画を策定することを目的とする。
質的・量的調査の具体的な手法や、ICTを活用した教材開発・授業デザインの技法を演習形式で学び、実現可能性の高い「研究実施計画」を完成させる。

到達目標: 1. 自身の研究テーマに適した調査手法(インタビュー、アンケート、観察等)を選択し、調査票や手順書を設計できる。
2. ICTツールやプログラミング等を用いた教材のプロトタイプ、または具体的な学習指導案(授業案)を作成できる。
3. AIを活用してデータの整理や文章の推敲を行い、論理的な学術的文章を作成できる。
4. 1年間の成果として、次年度の研究の土台となる「研究年報(序論・方法)」を完成させる。

各回の授業計画:

1. 夏季休暇中の調査報告と研究の再調整
夏の間に行ったボランティア活動や資料収集の成果を共有し、研究計画の軌道修正を行う。

2. 生成AIの教育・研究活用(2):データ整理と要約
インタビュー記録や大量の文献から、共通するキーワードや課題を抽出するためにAIを効率的に使う手法を演習する。

3. 数学教育における「問い」のデザイン
生徒の思考を揺さぶる「見通しをもたせる発問」や「比較活動」を、具体的にどのように設計するかを検討する。

4. ICT教材開発演習(1):操作性と数学的意図
プログラミングや動的幾何ソフトを用い、生徒の視覚的理解を助ける教材の試作を行う。

5. ICT教材開発演習(2):UI/UXと授業への組み込み
単に教材を作るだけでなく、授業のどのタイミングで、どの程度の時間提示するのが最も効果的かをシミュレーションする。

6. 学級運営と身体活動のプログラム設計
関係構築に効果的なレクリエーションや身体活動を「教育的意図」を持ったプログラムとして定式化する。

7. 実証のための文章題・教材の検証
教科書の文章題が「実際に日常生活でどう役立つか」を具体的に実証し、その証拠(写真、数値、計算)を整理する。

8. 進路別ガイダンス

数学教育における評価指標の作成
「学習意欲」や「論理的思考力」が向上したことを、どのようなテストやアンケート、ノート記述から判断するかを決定する。

9. 模擬授業の設計(1):数学教育の各単元
図形や関数など、各自が焦点を当てる単元における授業案(学習指導案)の初稿を執筆する。

10. 模擬授業の設計(2):ICT・AIの統合
作成した指導案に、ICTツールやAIによる個別最適化された支援をどのように組み込むかを検討する。

11. 第1次研究計画発表会(相互評価1)
4年生で実施する予定の実践(模擬授業、ヒアリング、調査)の詳細をプレゼンし、仲間から「実現可能性」の観点で助言を受ける。

12. 第1次研究計画発表会(相互評価2)
残りのメンバーが発表を行い、全員で「現場で本当に役立つ内容か」という教師の視点から議論を深める。

13. 論文の骨子(アウトライン)作成演習
卒業論文の目次を作成する。AIを「ロジカル・チェック」の相手として使い、章立てに矛盾がないかを確認する。

14. 学術的日本語の表現トレーニング
「〜と思う」ではなく「〜と考えられる」など、論文として適切な、論理的で分かりやすい日本語表現の書き換え演習を行う。

15. 1年目成果報告会:研究年報の提出
1年目の成果をまとめた「研究報告書」を提出します。これは卒業論文の「序論」と「方法」のベースとなるものである。

特記事項: 全15回の授業のうちキャリアセンターからのキャリアガイダンスが1回入るため、授業内容が変更になる場合があります。
(今年度は、第8回目の予定)

授業方法: 実践的な演習と相互評価(ピア・レビュー)を中心に行う。作成した教材や指導案をゼミ生同士で模擬的に試し、改善点を議論するワークショップ形式を多用する。

第1回～第2回：報告、演習（夏期活動報告、AIデータ整理）
第3回～第8回：演習（発問検討、教材開発、評価指標作成）
第9回～第10回：演習（模擬授業設計）
第11回～第15回：発表、演習（相互評価、論文執筆指導）
（原則として全て対面で行う）

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

・予習（各回60分）：授業内で扱う教材のプロトタイプ作成や、指導案の構成検討を行う。インタビュー調査を行う学生は質問項目の作成など、具体的な準備を行う。
・復習（各回120分）：ゼミ内でのフィードバックを反映させ、教材や計画書を修正・改善する。また、卒業論文の「序論」にあたる部分の執筆を少しずつ進める。

評価方法：	**授業へのとりくみ：**	30 **%**	**確認テスト：**	40 **%**	**レポート：**	30 **%**
	その他1：			**%**		
	その他2：			**%**		

評価基準： 下記の1, 2, 3の内容を総合的に判断し、得点化する。
1. 授業への取り組み（30点）：相互評価における建設的な意見出し、教材開発や演習への参加態度。
2. 成果物の質（40点）：作成した教材プロトタイプ、指導案、調査票の具体性と質。
3. 研究年報（30点）：提出された年報（論文の一部）の論理性、形式の正確さ、研究計画の完成度。
【到達度】
・最低限の到達度（60～69点）：次年度に向けた具体的な活動計画が立てられており、形式の整った報告書を提出できる。
・標準的な到達度（70～79点）：調査手法や教材の設計が具体的であり、その意図を理論に基づいて説明できる。
・望ましい到達度（80～100点）：独創的な視点や工夫が含まれた計画であり、既に予備調査や試作による検証が一部行われているなど、次年度の実践に向けた準備が万全である。

課題へのフィードバック：

1. 授業への取り組みについては、他者の発表に対するコメントの質（批判的かつ建設的か）を重視し、適宜個別のアドバイスを行う。
2. 作成された教材プロトタイプや指導案については、ゼミ内での模擬実施を通して、その場で「生徒の反応」を想定した改善点をフィードバックし、ブラッシュアップを支援する。
3. 期末に提出する研究年報については、論理構成や表現についてAIを活用した校正と教員による添削を行い、次年度の卒論執筆に直結する形での詳細なコメントをつけて返却する。

教科書： 授業時にプリントを配布、または配信する。

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：

秋学期は「手を動かす」ことが重要になります。
頭の中で考えるだけでなく、実際に教材を作ってみたり、現場の先生に話を聞いてみたりすることで、計画のリアリティが高まります。
1年目の成果（研究年報）は、そのまま卒業論文の第1章・第2章になりますので、完成度を高めることが4年次の余裕に繋がります

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育学専門演習Ⅱ

クラス:

授業コード: DA05300007

担当者: 田中 聡 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: この演習Ⅱでは、今日の子どもが抱える身体的問題を明らかにするとともに学校体育で運動の楽しさを味わせることと技能を習得させることの、教育的意義ならびに留意点を関連文献をもとに演習形式で授業を進めていく。さらに、本演習が卒業研究への窓口となるようにする。

到達目標: 小学校体育、スポーツに関する文献を読むことで問題意識を持つとともに、自らの卒業論文のテーマについて、方向性を決定する。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション−今後のゼミ活動について−
2. 体育・スポーツに関する問題意識の持ち方－体育・スポーツの定義をめぐって－
3. 体育・スポーツと「遊び」
4. 運動指導に関する問題意識について
5. 小学校体育に関する文献を読む①目標について
6. 小学校体育に関する文献を読む②内容について
7. スポーツに関する文献を読む－スポーツ関連法案について－
8. 進路別ガイダンス
9. 研究論文の作成に向けて①－研究論文とは－
10. 研究論文の作成に向けて②－研究論文の章立て－
11. 研究論文の作成に向けて③ －先行研究の調査－
12. 先行研究の紹介（発表）と自らの研究テーマ①
13. 先行研究の紹介（発表）と自らの研究テーマ②
14. 先行研究の紹介（発表）と自らの研究テーマ③
15. ゼミ内卒論計画発表会

特記事項: ※全15回の授業のうちキャリアセンターからのキャリアガイダンスが1回入るため、授業内容が変更になる場合があります。

授業方法: グループディスカッションを中心に、課題発表等多様な学習方法を用いる。各授業回の内容に相当する学校園現場への研修参加も行いたい。
授業は全て対面にて行う。

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

各回の授業への出席とともに、授業の前後に①授業内容に該当する文献の精読 ②授業内容ふりかえり ③時事問題討議のための資料収集 ④「卒論計画発表会」に向けてた資料収集と発表抄録づくり 等々の自己学習を求める（合計60時間程度）。

評価方法:

授業へのとりくみ:	60	**%**	**確認テスト:**	－	**%**	**レポート:**	40 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: 80点以上
・小学校体育、スポーツに関して問題意識を十分に持っている。
・自らの卒業論文のテーマについて方向性がはっきりと決まっている。

70～79点
・小学校体育、スポーツに関して問題意識を持っている。
・自らの卒業論文のテーマについて方向性が決まっている。

60～69点

・小学校体育、スポーツに関して最低限の問題意識を持っている。
・自らの卒業論文のテーマについて方向性がほぼ決まっている。

課題へのフィードバック:

授業の中で、課題発表等について適宜フィードバックを行う。

教科書: 文部科学省『小学校学指導要領解説 体育編』東洋館出版社（平成30年2月）

参考書: ・スポーツ文化と教育「学術図書出版社」
・子どもが喜ぶ!体育授業レシピ: 運動の面白さにドキドキ・ワクワクする授業づくり「教育出版」

授業・準備学習のアドバイス:

小学校体育、スポーツに関するテーマで文献をできるだけ多く読みレポートとしてまとめ発表できるようにする。ゼミの最終には卒論計画発表会を行うので3年次に卒論のテーマを決めること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育学専門演習Ⅱ

クラス:

授業コード: DA05300008

担当者: 佐藤 智恵 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 1. 様々な活動を通して自己の将来像を明確にする。
2.. 論文講読等を通して、卒論の目的や方法を決める。
3.保育者として必要ないろいろな技術や姿勢を身につける

到達目標: 1. 自己の将来について明確な意思をもつ。
2. 卒論のテーマを決定し、研究目的や方法についても検討する。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション/キッズオープンキャンパスの準備①
2. キッズオープンキャンパスの準備②
3. 保育園を訪問し、子どもたちと大学祭模擬店の準備を行う。
4. 大学祭の最終的な準備
5. 卒業論文について①(論文検索の方法)
6. 卒業論文について②(先行研究検討について)
7. 卒業論文について③(「問題と目的」の書き方)
8. 進路別ガイダンス
9. 卒業論文について④(「問題と目的」を作成する)
10. 卒業論文について⑤(テーマについて検討する)
11. 卒業論文について⑥(テーマについて決定する)
12. 卒業論文について⑦(構想発表会について知る)
13. 卒業論文について⑧(構想発表会のレジュメ作成の仕方を知る)
14. 卒業論文について⑨(構想発表会)
15. 1年間のまとめと次年度に向けての計画

特記事項:

授業方法: すべての授業を対面で行う
1. 講義・グループワーク
2. グループワーク
3. グループワーク
4. グループワーク
5. 講義・演習
6. 講義・演習
7. 講義・演習
8. ガイダンス
9. 講義・演習
10. 講義・演習
11.演習
12. 演習
13. 演習
14. 発表
15. 講義・演習

予習・復習・宿題など(内容・時間):

(宿題)1. キッズオープンキャンパスの準備をする(180分)
(宿題)2.子どもたちの意見をまとめる(180分)
(宿題)3. 大学祭の準備を確認する(180分)

(宿題)4.大学祭の振り返りを行う(180分)
(宿題)5. 自分の関心のあるテーマて論文検索する(180分)
(宿題)6. 先行研究のまとめ方について復習しておく180分)
(予習)7.「 問題と目的」執筆に必要な自分の関心のある論文を検索する(180分)
(宿題)8. 就職活動について確認する(180分)
(宿題)9.関心のあるテーマに関する論文を読む(180分)
(宿題)10. 関心のあるテーマに関する論文を読む(180分)
(宿題)11. 関心のあるテーマに関する論文を読む(180分)
(宿題)12. 構想発表会のレジュメを作成する(180分)
(予習)13. 構想発表会のレジュメ作成(180分)
(宿題)14. 卒業論文のテーマについて再考する(180分)
(宿題)15. 卒業論文のテーマを考える(180分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	50 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	構想発表会の内容	30 **%**			
その他2:	構想発表会のプレゼンテーション	20 **%**			

評価基準:

1. 授業への取り組み
・ゼミ活動に参加し、協調的に活動できる(60～69点)
・ゼミ活動に積極的に参加し、自分の意見を言ったり、協調的に活動できる(70～79点)
・ゼミ活動に積極的に参加し、他者の意見を受け入れながら、解決方法や対応を自分なりに考えることができる(80～100点)

2. 卒業論文(構想発表会を含む)について
・論文の基本的な構造や研究倫理などを正しく理解する(60～69点)
・論文の基本的な構造や研究倫理などを正しく理解し、自分の卒業論文のテーマを模索する(70～79点)
・論文の基本的な構造や研究倫理などを正しく理解し、自らの卒業論文のテーマを明確にする(80～100点)

課題へのフィードバック:

課題については必要に応じて添削、評価を行い返却する。

教科書: なし

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

卒業論文のテーマについては、演習Ⅱの時間だけでなく、空き時間などにも教員に相談するなど積極的に取り組み、自らの関心への気付きを得られるようにしましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育学専門演習Ⅱ

クラス:

授業コード: DA05300009

担当者: 福井 逸子 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本演習では、一人ひとりの将来像を明確にすることを前期の目的としたが、後期は、次年度の卒業研究（卒業論文）へと繋げるために、各自が卒業研究に関わる自己課題を持ち取り組んでいく姿勢を身につけたい。また、事例検討会や実地研究の実践を基に、ゼミ仲間や関係者との討議を重ねながら、個々の学びを深めると共に、社会に適応できる実践力や応用力を身につけていきたい。

到達目標: 本演習は、個々の将来像を明確にしていく為に、以下の到達目標とする。
・多様な教育現場や社会の在り方を理解できる。
・教育（保育）の実践を読み取る力を持ち、それを描くことができる。
・本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、それを遂行することができる。

各回の授業計画:

1. グループ討議（実習を終えての学び）
2. グループ討議（学びの継続と今後の課題）
3. 後期のグループ活動①
4. 後期のグループ活動②
5. 後期のグループ活動③
6. 実地研究①
7. 実地研究②
8. 卒業研究に向けて①
9. 卒業研究計画書の作成①
10. 卒業研究計画書の作成②
11. 卒業研究計画書の作成③
12. 卒業研究に向けての文献収集①
13. 卒業研究に向けての文献収集②
14. 4年次に向けての準備①
15. 4年次生に向けての準備②

特記事項: ※全15回の授業のうちキャリアセンターからのキャリアガイダンスが1回入るため、授業内容が変更になる場合があります。

授業方法: 授業は、すべて対面で行う。
毎回の授業は、ゼミ内でのディスカッション、討議、グループワークを中心に進めていく。
卒業研究（卒業論文）計画書の作成については、個別ワークとするが、個々の成果はゼミ内で共有していく。
実地研究（フィールドワーク）、外部機関と連携した課題解決型学習も予定している。

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

予習（各回の授業につき60分）においては、次回のテーマと課題を確認し、配布資料を講読しておくこと。また、卒業研究計画書の作成においては、各自準備しておくこと（15時間）。
復習（各回の授業につき60分）においては、毎回の課題をまとめ、レポートを作成すること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	60 %	**確認テスト:**	20 %	**レポート:**	20 %		
その他1:			%				
その他2:			%				

評価基準: ①事例検討会では、積極的に自分の意見や考えを述べることができる（可）/ 熟考された意見や知識等を用いて自分の意見をまとめることができる（優）
②実地研究の場では、自分の意見を相手に適格に伝えることができる（可）/ 常に疑問や課題を持って参加することができる（可）/ 実地研究

を通しての課題や疑問を整理し、自己課題を明確にすることができる（優）
③卒業研究計画書の作成においては、積極的に取り組み、正しい書式で記載できる（可）/ 文献や保育現場で得た知識を活用しながら、正しい書式で記載できる（優）

課題へのフィードバック:

・課題レポート及び課題の教材については、講評を加えて各自に返却をする。
・個別の発表については、授業内で講評する。

教科書: テキストは用いない、毎回の授業において資料等を配布する。

参考書: 『エピソードから始まる保育の描き方・学び方』福井逸子・山森泉 晃洋書房 2018年

授業・準備学習のアドバイス:

・授業内等で紹介された文献については、各自がネットや図書館で入手して、目を通しておくことが必要である。
・地域や他機関（他大学）との交流の場では、積極的に自己の意見を述べられるように、日頃から、様々な情報を入手しておく姿勢が重要である。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育学専門演習Ⅱ

クラス:

授業コード: DA05300010

担当者: 小川内 哲生 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 児童教育学専門演習Ⅰをふまえ、各自研究テーマを設定し、主体的に情報収集を行う。テーマに関連した文献等を紹介し合いながら、基本的な研究方法や論文作成のスキルを身につけていく。卒業論文作成に向けて準備を進め、研究の中間発表を行うことにより論文作成に向けての動機づけを高めることを目的とする。

到達目標:
1. 研究テーマを設定できる。
2. 論文作成に向けて研究方法や分析の仕方、論文作成のスキルを身につける。
3. 学校における子どもの問題について議論を深めることができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 児童教育学専門演習Ⅰの理解確認
3. 研究発表と討議
4. 研究発表と討議
5. 研究発表と討議
6. 研究テーマについての文献収集
7. 研究テーマについての文献収集
8. 進路別ガイダンス
9. 研究テーマ発表と討議
10. 研究計画作成
11. 研究計画に基づく研究活動
12. 研究計画に基づく研究活動
13. 研究計画中間発表と討議
14. 研究計画中間発表と討議
15. 評価とまとめ

特記事項:

授業方法: ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション
全ての授業を対面で行う。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 授業内容の復習(180分)
2. 授業内容の復習(180分)
3. 課題のまとめ(180分)
4. 課題のまとめ(180分)
5. 課題のまとめ(180分)
6. 参考文献の読解(180分)
7. 参考文献の読解(180分)
8. 課題のまとめ(180分)
9. 課題のまとめ(180分)
10. 資料作成(180分)
11. 資料作成(180分)
12. 資料作成(180分)
13. 課題のまとめ(180分)
14. 課題のまとめ(180分)
15. まとめと評価(180分)

評価方法：	授業へのとりくみ：	50 %	確認テスト：	－ %	レポート：	50 %
	その他1：			%		
	その他2：			%		

評価基準： 最低限度の到達度（60～69点）
・研究テーマについて情報収集することができる。
・ゼミメンバーと意見交換ができる。
・発表資料を作成し、プレゼンテーションができる。
望ましい到達度（80～100点）
・研究テーマについて主体的に調べ分析し考察することができる。
・ゼミメンバーと協力的に意見交換ができ、質疑応答ができる。
・主体的に発表資料を作成し、分かりやすくプレゼンテーションができる。

課題へのフィードバック：
課題・レポート等については授業時にその都度、講評を行う。それ以外にもオフィスアワーなどを活用してフィードバックを行う。

教科書： 教科書は使用しないが、随時、参考文献を紹介する。

参考書： 必要に応じて紹介する。

授業・準備学習のアドバイス：
日頃から子どもや学校の問題について情報収集し、文献検索を行う等、積極的に研究テーマに関連した研究を進めてほしい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育学専門演習Ⅱ

クラス:

授業コード: DA05300011

担当者: 有道 俊雄 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 専門演習Ⅰをふまえて、教育現場での課題や人間発達の課題を知り、それに応える素養を身につけ、能力を高める。自然体験活動・理科教育や防災減災教育の課題について考察し、自分の問題意識と研究課題に見通しを持てるようにする。

到達目標:
1. 教育と人間発達の課題、自然体験活動、理科教育、防災教育の課題を知る
2. 専門的論文や授業実践報告を読み、分析して紹介するスキルを養う。
3. お互いの研究課題、実践課題を理解しあって、意見交換ができる力をつける。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 研究テーマ・課題意識、目標や計画を確認する(1)
3. 研究テーマ・課題意識、目標や計画を確認する(2)
4. 研究テーマ・課題意識、目標や計画を確認する(3)
5. 共通課題を決定し、研究分野を分担する
6. 論文・文献紹介と実践課題の提案、討議(1)
7. 論文・文献紹介と実践課題の提案、討議(2)
8. 進路別ガイダンス
9. 実践報告と討議、研究課題の報告と討議(1)
教育実習の報告
10. 実践報告と討議、研究課題の報告と討議(2)
教員採用試験について①
11. 実践報告と討議、研究課題の報告と討議(3)
教員採用試験について②
12. レポートの推敲・校正を相互に行う(1)
卒業研究のための資料収集
13. レポートの推敲・校正を相互に行う(2)
卒業研究のための資料収集
14. 4年生の卒業研究発表会
・この時間に4年生に参加をしてもらい、4年生全員の卒業研究の発表を聞く。
・卒業研究の進め方、教員採用試験に向けての苦労話、工夫などを知る貴重な機会とする。
15. 全体のまとめを行ない、次への課題を確認する
卒業研究の進捗状況発表会

特記事項: 研究テーマの設定に必要な資料収集のため、授業内容が変更になる場合があります。

授業方法: 各回で次の方法を適宜行う。
演習
討論・討議
プレゼンテーション
実験・観察・実習
原則として、全ての授業を対面で行います。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 雑誌・論文講読とまとめ(180分)
2. 雑誌・論文講読とまとめ(180分)
3. 雑誌・論文講読とまとめ(180分)
4. 実践記録の講読とまとめ(180分)
5. 実践記録の講読とまとめ(180分)

6. 実践記録の講読とまとめ（180分）
7. 実践記録の講読とまとめ（180分）
8. 論文講読とまとめ（180分）
9. 論文講読とまとめ（180分）
10. 研究テーマの検討（180分）
11. 研究テーマの検討（180分）
12. 研究レポートの執筆（180分）
13. 研究レポートの執筆（180分）
14. 研究レポートの推敲（180分）
15. 研究レポートの推敲（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	70 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	30 **%**
その他1：			**%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

【最低限の到達度（60～69点）】
・授業へのとりくみ～ディスカッションに参加して、自分の考えや意見を述べることができている。
・レポート～ゼミで取り組む人間発達の課題に関する内容を概ね理解し、テーマに沿ったレポートを書くことができる。
【望ましい到達度（80～100点）】
・授業へのとりくみ～ディスカッションに積極的に参加し、自分の考えを発表するとともに、他の意見に対してもしっかりと意見を述べることができる。
・レポート～ゼミで取り組む人間発達の課題に関する内容を十分理解し、テーマに沿って、自分の考えを含めたレポートを書くことができる。

課題へのフィードバック：

提出された各講義での実験・観察レポートを次回の講義において、コメント・評価を付して返却する。Teamsによる提出、フィードバック機能を活用する。

教科書： なし

参考書： 雑誌「理科教室」など

授業・準備学習のアドバイス：

一人ひとりが自らの課題をもって、ゼミの全員が協力をして研究や実践活動に取り組むとともに、互いに報告・討論をしながら進めていく。
主体的、積極的、協力的な態度で授業、調査研究、レポート作成に取り組んでもらいたい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育学専門演習Ⅱ

クラス:

授業コード: DA05300012

担当者: 高橋 一夫 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: ・児童教育学専門演習Ⅰの内容を踏まえ、保育・教育に関わる現代的な課題や言語表現活動についての理解を深める。
・正課での学びを活かし、準正課における子どもとの関りを実践し、さらに学びを深化させる。
・先行研究論文・文献の検索と概要のまとめを通して、卒業論文の内容を構想する。

到達目標:
1. 児童教育学専門演習Ⅰでの学びを活かし、実際に子どもとの関りについて考えることができる。
2. 子どもとの関りを通して、学びを深めることができる。
3. 研究論文・文献を丁寧に読み込むことができる。
4. 研究方法の基本を理解することができる。
5. 研究テーマについての議論を通じて、熟考することができる。

各回の授業計画:

1. 具体的な言語表現活動の実践についての検討と準備①
2. 具体的な言語表現活動の実践についての検討と準備②
3. 具体的な言語表現活動の実践についての検討と準備③
4. 言語表現活動の実践についての振り返りと得られた知見の検討
5. 研究目的の設定、研究方法の種類について
6. 研究における質問紙調査について
7. 研究におけるインタビュー調査について
8. 進路別ガイダンス
9. 先行研究論文・文献の検索と概要のまとめ①
10. 先行研究論文・文献の検索と概要のまとめ②
11. 先行研究論文・文献の検索と概要のまとめ③
12. 卒業論文の構成検討①
13. 卒業論文の構成検討②
14. 卒業論文の構成発表と議論①
15. 卒業論文の構成発表と議論②

特記事項: ※キャリアセンターのキャリアガイダンスが行われる回がある。

授業方法:
1. 演習（対面）
2. 演習（対面）
3. 演習（対面）
4. 演習（対面）
5. 講義（対面）
6. 講義（対面）
7. 講義（対面）
8. 講義（対面）
9. 演習（対面）
10. 演習（対面）
11. 演習（オンライン＜オンデマンド＞）
12. 演習（対面）
13. 演習（オンライン＜オンデマンド＞）
14. 討議、発表（対面）
15. 討議、発表（対面）

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 実践内容の検討（180分）

2. 実践内容の検討(180分)
3. 実践内容の検討(180分)
4. 実践内容の反省と得られた知見の考察(180分)
5. 研究テーマの設定(180分)
6. 研究目的の検討(180分)
7. 研究方法の検討(180分)
8. 輪読のレジュメ作成(180分)
9. 卒業論文の構成検討(180分)
10. 輪読のレジュメ作成(180分)
11. 卒業論文の構成検討(180分)
12. 輪読のレジュメ作成(180分)
13. 卒業論文の構成検討(180分)
14. 卒業論文の構成についての再検討(180分)
15. 卒業論文の構成についての再検討(180分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	50 **%**	**確認テスト:**	− **%**	**レポート:**	50 **%**
その他1:			**%**		
その他2:			**%**		

評価基準: ・最低限の到達度(60～69点):授業に参加し、自分の意見を伝えることができる。レジュメや研究計画書を作成できる。
・望ましい到達度(80～100点):各回の授業に積極的に参加し、議論では他者の意見を傾聴し、自身の意見も詳細に伝えることができる。要点を押さえたレジュメと研究計画書を作成できる。

課題へのフィードバック:

発表については授業で講評する。提出されたレジュメは評価し返却する。

教科書: なし(授業に必要な資料等は配布します。)

参考書: なし(授業内で紹介します。)

授業・準備学習のアドバイス:

・必ずノートPCを持参してください。スマホだけで学習に取り組むことはできません。
・授業内容と無関係なブラウザ閲覧やスマホアプリの使用は認めません。
・ゼミ選択の際にも説明しましたが、キッズOCと大学祭に参加します。その取り組み過程も評価の対象となります。
・積極的に参加することが求められます。授業に出席し、議論などに前向きに参加することが重要です。特に、卒業論文の内容を検討するにあたっては、その完成度を高めるために議論を重ねることが大切です。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育学専門演習Ⅱ

クラス:

授業コード: DA05300013

担当者: 金山 健一 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 学校の抱える諸問題を、研究の視点から分析し、教師としての実践的な力量を育成する。そのために、研究法を学び、専門的なスキルの習得を目指す。また、学級経営・生徒指導・授業方法・特別支援教育で活用できるピアサポートプログラムを習得する。

到達目標: 1. 学校の抱える様々な問題・課題を研究の視点を持ち、分析することができる。
2. ピアサポートプログラムを習得し、教師として実践的な力量を習得する。
3. テーマを持ち研究に向かう基礎的な資質を育成する。

各回の授業計画:

1. オリエンテーションと研究倫理
2. ピアサポート概論
3. テーマ探求
4. テーマ探求
5. 研究とは
6. 研究法
7. 先行研究
8. 進路別ガイダンス
9. アンケート作成
10. 統計的研究法
11. 質的研究法
12. プレゼンとは
13. プレゼン方法
14. ゼミ内研究発表会
15. 評価とまとめ

特記事項:

授業方法: 授業は対面とする。教師としての実践力向上のため、演習・グループワーク・共同学習を用いたアクティブ・ラーニングで実施する。
記載した授業計画と同時に、ピアサポートプログラムを学び実践していく。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 復習(180分)
2. 復習(180分)
3. ピアサポート習得(180分)
4. ピアサポート習得(180分)
5. ピアサポート習得(180分)
6. パワポ作成(180分)
7. パワポ作成(180分)
8. パワポ作成(180分)
9. パワポ作成(180分)
10. プレゼン準備(180分)
11. プレゼン準備(180分)
12. 課題まとめ(180分)
13. 課題まとめ(180分)
14. 課題まとめ(180分)
15. まとめと評価(180分)

評価方法：	授業へのとりくみ：	50 %	確認テスト：	－ %	レポート：	50 %
	その他1：			%		
	その他2：			%		

評価基準： 「最低限の到達」（60～69点）
・授業への取り組み：学校教育について、知識を習得することができる。
・レポート：学校教育について、まとめることができる。
「望ましい到達度」（80～100点）
・授業への取り組み：学校教育について、分析・討論することができる。
・レポート：学校教育について、研究することができる。

課題へのフィードバック：

課題・レポートの疑問点などは、授業ばかりでなくオフィスアワーなどを活用して、フィードバックしていく。

教科書： 教科書は使用しないが、必要に応じて毎時間，資料を配布する。

参考書： 菱田 準子 （著），　森川 澄男（監修）『すぐ始められるピア・サポート指導案&シート集』 ほんの森出版

授業・準備学習のアドバイス：

理論ばかりでなく，実践場面を意識した授業である。授業では、学校現場のフィールドを紹介し，必要に応じて学校教師の協力も仰げる体制を提供するので、積極的に参加してほしい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育学専門演習Ⅱ

クラス:

授業コード: DA05300014

担当者: 新藤 照夫 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本演習では、異文化コミュニケーションをテーマとし、基礎理論や専門用語の理解を中心としながら、日常的な場面のケース・スタディや初歩的な異文化トレーニングを通じて、教育分野でも求められる文化背景の異なる人々との円滑なコミュニケーションに必要な知識やスキルの習得を目指す。また、ペアワーク、ディスカッション、プレゼンテーションによって、スタディスキルやコミュニケーションスキルの向上も目指す。

到達目標: ・異文化コミュニケーションについての基礎理論や専門用語を理解し、具体例を挙げて簡潔に説明できる。
・異文化コミュニケーションの事例を収集、分類し、調査した内容をレポートにまとめることができる。
・テーマに対しアサーティブなディスカッションを実践できる。
・与えられたテーマに関して、独自性のあるプレゼンテーションができる。
・本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション:前学期の省察、本学期の目標設定、授業の展開方法の説明
2. 非言語コミュニケーション①:表情、アイコンタクト
3. 非言語コミュニケーション②:ジェスチャー、タッチング
4. 非言語コミュニケーション③:空間・時間の感覚
5. 価値観①:ことわざ、絵本に見られる価値観
6. 価値観②:基本価値志向
7. 自己を知る①:対立管理スタイル、異文化適応力
8. 進路別ガイダンス
9. 自己を知る②:エンパシー
10. 異文化コミュニケーションスキル①:DIEメソッド、アサーティブコミュニケーション
11. 異文化コミュニケーションスキル②:エポケー、アイステートメント
12. フィールドワーク:テーマに関するフィールドワーク
13. レポート作成:フィールドワークに基づくレポート作成
14. レポート作成・プレゼンテーション資料作成
15. プレゼンテーション:各自が設定したテーマに応じた発表会

特記事項: 第8回目はキャリアガイダンスが実施されます。

授業方法: 15回すべての授業を対面で実施

1. 演習、ペアワーク、ディスカッション
2. 演習、ペアワーク、ディスカッション
3. 演習、ペアワーク、ディスカッション
4. 演習、ペアワーク、ディスカッション
5. 演習、ペアワーク、ディスカッション
6. 演習、ペアワーク、ディスカッション
7. 演習、ペアワーク、ディスカッション
8. 進路別ガイダンス
9. 演習、ペアワーク、ディスカッション
10. 演習、ペアワーク、ディスカッション
11. 演習、ペアワーク、ディスカッション
12. 演習、ペアワーク、ディスカッション
13. 演習
14. 演習
15. プレゼンテーション、ディスカッション

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

予習（合計1500分）／ 復習（合計1200分）
1. シラバスの確認・教科書の内容の確認（100分）／ リフレクション提出（80分）
2. 第4章、1-2節の読解とセルフチェック回答（100分）／ リフレクション提出（80分）
3. 第4章、3-4節の読解とセルフチェック回答（100分）／ リフレクション提出（80分）
4. 第4章、5-6節の読解とセルフチェック回答（100分）／ リフレクション提出（80分）
5. 第5章、1の読解とセルフチェック回答（100分）／ リフレクション提出（80分）
6. 第5章、2-3節の読解とセルフチェック回答（100分）／ リフレクション提出（80分）
7. 第4章、第5章の振り返り（100分）／ リフレクション提出（80分）
8. 第6章、1-2節の読解とセルフチェック回答（100分）／ リフレクション提出（80分）
9. 第6章、3節の読解とセルフチェック回答（100分）／ リフレクション提出（80分）
10. 第7章、1-2節の読解とセルフチェック回答（100分）／ リフレクション提出（80分）
11. 第7章、3-5節の読解とセルフチェック回答（100分）／ リフレクション提出（80分）
12. フィールドワークの準備（100分）／ 調査資料のまとめ（80分）
13. レポートの構想案作成（100分）／ レポートの見直し（80分）
14. プレゼンテーション資料準備（100分）／ レポートの仕上げ、プレゼンテーション資料の推敲（80分）
15. プレゼンテーションのリハーサル（100分）／ 総復習、レポート提出（80分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	60 **%**	**確認テスト：**	- **%**	**レポート：**	20 **%**
その他1：	プレゼンテーション		20 **%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

①望ましい到達度（80～100点）
【授業へのとりくみ】
予習・復習を毎回欠かさず行い、リフレクションに理解した内容をまとめることができる。
ディスカッションにて協働的かつ積極的に貢献できる。
【レポート】
ルーブリックにおいて80%以上の成績を収める。
【プレゼンテーション】
スライドに必要な要素が全て網羅され、構成も論理的かつ明確である。
非言語コミュニケーションを駆使し、高いレベルのプレゼンテーションができる。

②最低限の到達度（60～69点）
【授業へのとりくみ】
指示された内容はシラバスの計画通りに進めることができる。
ディスカッションにて、他者への質問や意見を発表できる。
【レポート】
ルーブリックにおいて60～69%の範囲となる。
【プレゼンテーション】
スライドに指示された必要最小限の要素を配置することができる。
指示された要件を満たすプレゼンテーションを行うことができる。

課題へのフィードバック：

・グループディスカッション、プレゼンテーションに対して、授業時にフィードバックを行う。
・レポートについては、Teamsでフィードバックを行う。

教科書： 『異文化コミュニケーション・ワークブック』八代京子 他著（三修社）

参考書： 『異文化トレーニング：ボーダーレス社会を生きる』八代京子 他著（三修社）

授業・準備学習のアドバイス：

毎回の授業では予習を前提として授業を展開しますので、必ず予習をして学修する内容の準備をして臨んでください。授業の準備としては、教科書の各章の問題に解答するとともに、要点や疑問点をまとめておくようにして下さい。授業後は学修した内容をノートにまとめ直し、理解の再構築を行うようにしてください。

他文化に関心を持つとともに自文化に対しても客観的な視点を持てるよう、文化の違いや多様な考えに対して寛容で、その違いを楽しむ気持ちを持って臨んでください。また、日常生活の中で、文化背景の異なる他者との異文化コミュニケーションを意識して行動するようにして下さい。

ディスカッションでは安心・安全の場が提供され、正解が設定されていませんので、積極的に討論に参加してください。
異文化コミュニケーションに必要なスキルについて授業でディスカッションを行いますので、「異文化コミュニケーション論」の同時履修をお勧めします。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育学専門演習Ⅱ

クラス:

授業コード: DA05300015

担当者: 山口 香織 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 児童教育学専門演習Ⅰを踏まえて，現代社会の要請に応えることのできる保育の在り方について考究する。また、研究課題を設定し、関連論文から近年の研究動向を探り、研究手法についての理解を深める。

到達目標:
1. 研究課題に関連する論文を読み，研究デザインを考える。
2. 卒業論文の作成手順について把握する。

各回の授業計画:

1. 研究とは何か
2. 論文作成の手順(1)
3. 論文作成の手順(2)
4. 研究テーマの決定とグループ編成
5. 文献検索
6. 資料・文献収集
7. グループワーク
8. 進路別ガイダンス
9. 資料整理・発表準備
10. 成果発表と討議(1)
11. 成果発表と討議(2)
12. 成果発表と討議(3)
13. 成果発表と討議(4)
14. 卒業研究にむけて(研究課題の選定)
15. 卒業発表会への参加

特記事項: ※全15回の授業のうちキャリアセンターからのキャリアガイダンスが1回入るため、授業内容が変更になる場合があります。

授業方法: ・演習形式でテーマ別にグループを編成し、課題研究を行う。
・1月後半に4年生の卒論発表会に参加し、発表内容について質疑を行う
1. 講義(対面)
2. 講義と演習(対面)
3. 講義と演習(対面)
4. 演習(対面)
5. 演習(対面)
6. 演習(対面)
7. グループワーク(対面)
8. 講義(対面)
9. グループワーク(対面)
10. 発表と討議(対面)
11. 発表と討議(対面)
12. 発表と討議(対面)
13. 発表と討議(対面)
14. ディスカッション(対面)
15. ディスカッション(対面)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

参考書: 小笠原喜康「新版 大学生のためのレポート・論文術」講談社新書
1章の講読(180分)
2章の講読(180分)

3章の講読（180分）
4章の講読（180分）
5章の講読（180分）
6章の講読（180分）
課題研究の文献収集（540分）
課題研究の発表資料作成（540分）
課題研究の発表準備（360分）
次年度への課題の明確化（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	50 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	50 **%**
その他1：			**%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

1.授業へのとりくみ
①「メモをとる」「発言や質問をする」（60～69）
②「積極的に発言する」「問題意識をもって取り組む」（80～100）

2.レポート
①講義・演習で学んだことをもとに、指定文字数で自分の考えをまとめることができる（60～69）
②講義・演習で学んだことをもとに、論理的な思考で自分の考えをまとめることができる（80～100）

課題へのフィードバック：

数回の授業ごとにまとめを行い、その際に説明・評価、あるいは、採点・評価をして返却する。

教科書： 必要に応じ紹介します

参考書： 小笠原喜康「新版 大学生のためのレポート・論文術」講談社新書。その他、必要に応じ紹介します

授業・準備学習のアドバイス：

研究を楽しむには「なぜ？どうして？」の好奇心が大切です。
実証的なデータから自分なりの結論を導き出してください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育学専門演習Ⅱ

クラス:

授業コード: DA05300016

担当者: 齋藤 隆彦 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 児童教育学専門演習Ⅰにひきつづき、本ゼミでは、思考の基盤となるであろう国語科の授業について、文献や学校現場の実践から学び、探究していく。また、それらの学びをきっかけとして、安心して学べる共同体なども考察していく。
「教師を目指す者」として値切らず学び、探究し、それらをお互い分かち合う力と姿勢を本ゼミで育てたい。

到達目標: 学術論文や著作を通して、「子どもに言葉を育む」教育活動について探求していく。
1. 国語科教育に関する文献の読み方や論文の書き方を身に付ける。
2. 「国語科授業」を中心に探究し、今後の研究課題を明確にする。
3. 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

1. 秋学期のスタート。各自の抱負と課題の共有
2. 文献の講読とレポート報告①
3. 文献の講読とレポート報告②
4. 文献の講読とレポート報告③
5. 文献の講読とレポート報告④
6. 文献の講読とレポート報告⑤
7. 卒業論文に向けて(レポートと論文の違い)
8. キャリアガイダンス(予定)
9. 卒業論文テーマを念頭においた文献講読と共有
10. 卒業論文テーマを念頭においた文献講読と共有
11. 卒業論文テーマを念頭においた文献講読と共有
12. 卒業論文テーマを念頭においた文献講読と共有
13. 卒業論文テーマの軌道修正と主な構造の共有
14. 卒業論文テーマの軌道修正と主な構造の共有
15. 振り返りと児童教育学専門演習Ⅲへ向けて
＊各自の探究の状況などを踏まえ、授業内容は前後、あるいは変更する場合があります。授業やTeamsでの指示を確認して下さい。

特記事項: ※全15回の授業のうちキャリアセンターからのキャリアガイダンスが1回入るため、授業内容が変更になる場合があります。

授業方法: すべての授業を対面授業で行う。ただし、対面が難しい場合(大学から対面を避ける指示があった場合など)は「オンライン」または「同時配信」で行う可能性がある。その際にはチームズで連絡する。
1. 講義とペアワーク
2. ミニ講義とプレゼン共有
3. ミニ講義とプレゼン共有
4. ミニ講義とプレゼン共有
5. ミニ講義とプレゼン共有
6. ミニ講義とプレゼン共有
7. 講義とペアワーク
8.キャリアガイダンス(予定)
9. ミニ講義とプレゼン共有
10. ミニ講義とプレゼン共有
11. ミニ講義とプレゼン共有
12. ミニ講義とプレゼン共有
13. 立案とプレゼン共有
14. 立案とプレゼン共有
15. ミニ講義とペアワーク

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. 研究倫理の復習（180分）
2. 文献を読みレポート（プレゼン資料）作成①(180 分）
3. 文献を読みレポート（プレゼン資料）推敲①(180 分）
4. 文献を読みレポート（プレゼン資料）作成②(180 分）
5. 文献を読みレポート（プレゼン資料）推敲②(180 分）
6. 文献を読みレポート（プレゼン資料）作成③(180 分）
7. 共有したものをまとめる(180分）
8. キャリアガイダンスへの準備と振り返り、情報整理（180分）
9. 文献を読みレポート（プレゼン資料）作成③(180 分）
10. 文献を読みレポート（プレゼン資料）推敲③(180 分）
11. 文献を読みレポート（プレゼン資料）作成④(180 分）
12. 文献を読みレポート（プレゼン資料）推敲④(180 分）
13. 共有したものをまとめる(180分）
14.共有したものをまとめる(180分）
15. 児童教育学専門演習Ⅱへの課題作成（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	60 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	40 **%**
その他1：			**%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

60～69点
・研究倫理基準を理解することができる。
・国語科教育や学級経営にに関する文献や論文を読み、理解する。
・ゼミ生や指導教官と学びあいができる。
70～79点
・研究倫理基準を理解し論文の書き方を身に付ける。
・国語科教育や学級経営にに関する文献や論文を読み、正しく理解する。
・協働的な学び合い、信頼関係を築く。
80～100点
・研究倫理基準を理解し論文の準備を進める。
・国語科教育や学級経営にに関する文献や論文を理解し、教師力について考える。
・協働的な学び合い、信頼関係を築き、学びの雰囲気を共同体に作り出す。

課題へのフィードバック：

レポートのプレゼン共有の際にそれらの状況に応じて文献の読み方や課題設定等を助言する。

教科書： 授業の中で適宜紹介する。

参考書： 授業の中で適宜紹介する。

授業・準備学習のアドバイス：

・まずは「学び」の姿勢を意識すること。値切らないことが肝要です。
・仲間と共に学んでいく場に安心感を構築し、さまざまなアイデアを出し合えるゼミをつくりましょう。

授業の内容は、みなさんの状況を見ながら随時つくっていきますので、変更することがあります。ゼミやTeamsでお伝えします。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育学専門演習Ⅱ

クラス:

授業コード: DA05300017

担当者: 間渕 泰尚 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 演習Ⅰに引き続き、教育社会学的な考え方を身に付けることを課題とするが、各自の関心に応じたテーマの発掘により重点を置く。

到達目標:
1. 発表と討論を通じて考える力を身につける。
2. 卒業論文執筆に向けてテーマ設定を行う。

各回の授業計画:

1. イントロダクション
2.「逸脱」の社会学(1)
3.「逸脱」の社会学(2)
4. 幼児教育の社会学(1)
5. 幼児教育の社会学(2)
6. ジェンダーと教育の社会学(1)
7. ジェンダーと教育の社会学(2)
8. 進路別ガイダンス（キャリアセンター）
9.「教育と社会階層」の社会学(1)
10.「教育と社会階層」の社会学(2)
11. 文献輪読(1)
12. 文献輪読(2)
13. 卒業論文に向けての研究計画・構想発表(1)
14. 卒業論文に向けての研究計画・構想発表(2)
15. まとめと振り返り

特記事項:

授業方法: （授業方法）文献の輪読・発表・討論を基本とする

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

各回、予習として授業内容に該当する教科書または文献の精読に75分、復習として授業内容ふりかえりに75分の学修を行うことが望ましい。|輪読のレジュメおよび最終レポートの作成には資料収集の時間も含めて合計450分程度の学修時間を想定している。

評価方法:

授業へのとりくみ:	60 %	**確認テスト:**	%	**レポート:**	40 %
その他1:			%		
その他2:			%		

評価基準: 優（80～100点）＝資料の内容をよく理解し、適切なレジュメを作成し、質疑応答にも的確に対応できる。また内容を理解するだけでなく批判的に検討することができる。
良（70～79点）＝資料の内容を理解し、適切なレジュメを作成し、質疑応答にも的確に対応できる。
可（60～69点）＝資料の内容を理解し、レジュメを作成できる。

課題へのフィードバック:

面談を通じて個別にフィードバックを行う。

教科書: 苅谷他 2023『新・教育の社会学』有斐閣アルマ

参考書：　なし

授業・準備学習のアドバイス：

該当する章を事前に読み、疑問点等を考えておくこと。考え方を応用できるようになりましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育学専門演習Ⅱ

クラス:

授業コード: DA05300018

担当者: 堤 康嘉 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 数学を通して様々な事象を考察する。また、読んだものについて意見を述べたりディスカッションを行うことで、数学的の知見を高めると同時に、実践的な数学能力を高めます。

到達目標: 折り紙などの具体的な教材を使って算数・数学的活動をする。

各回の授業計画:

1. 研究計画を考える
2. 教材研究（小学校 導入における教材）
3. 教材研究（小学校 展開における教材）
4. 教材研究（小学校 興味関心を持たせる教材）
5. 実践報告（小学校 実習において発表）
6. 実践報告（小学校 実習での工夫点）
7. 教材研究（中学校 導入教材）
8. 進路別ガイダンス
9. 教材研究（中学校 興味関心を持たせる教材）
10. 教材研究のしかた
11. 教材研究まとめ
12. 発表原稿まとめ
13. 発表（教材研究）
14. 発表
15. 総合演習

特記事項:

授業方法: 講義と演習を，受講者が主体性を発揮できるように，グループワークやグループディスカッション等を交えて行う。また，各授業の資料はTeams にアップロードしておくので授業の復習にも役立ててもらいたい。全て対面で行う。
第1～7回 講義、演習
第8回 演習
第9～15回 講義、演習

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

予習（各回60分）
各回の講義に沿った予習内容を指示する。
復習（各回120分）
講義後に各回の学習内容，重要事項をまとめ，補充の演習問題を解くことにより，知識の定着を図る

評価方法:

授業へのとりくみ:	40 %	**確認テスト:**	－ %	**レポート:**	60 %
その他1:			%		
その他2:			%		

評価基準: 1. 授業へのとりくみ（関心，意欲，態度）
2. 小テストによる基礎的な事項の理解と記述による表現力
3. レポートによる表現力
上記の1，2，3の内容を総合的に判断し，得点化する。

・最低限の到達度（60～69点）
授業について概ね理解し、授業の取り組みや授業での課題レポートを解決することができる。
・標準的な到達度（70～79点）
授業について理解し、授業の取り組みや授業での課題レポートを解決することができる。
・望ましい到達度（80～100点）
授業について十分理解し、授業の取り組みや授業での課題レポートを解決することができる。

課題へのフィードバック：

1. 授業へのとりくみは、授業態度と参加意欲、発表の内容により判断する。
2. 小試験およびレポートについては，採点後に返却し，学習状況,到達状況等を確認する。

教科書： 授業配布プリントによる。

参考書： ドクター・ハルの折り紙数学教室 トーマス・ハル（日本評論社 2015年）

授業・準備学習のアドバイス：

簡単な算数・数学が復習できるように，基礎的なことから授業を行うので，しっかり復習して基礎的な学力が身につくようにすること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育学専門演習Ⅱ

クラス:

授業コード: DA05300019

担当者: 岩濵 里江子 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 演習Ⅰで深めた探求したいテーマに基づいて、学外のフィールドでも学び、問題意識を高め、卒業論文における課題の明確化、および、調査・研究へとつなげる。同時に、幼児理解、幼児への願い、保育者としての自身のイメージを豊かにし、教材研究、実践、他者との学び合いを通して、実践の場でも活用できる力を身につ付ける。

到達目標:
1. 各自の問題・関心をもとに、自分で関連文献や論文を探し、適切なレポートを作成して報告することができる。
2. 卒業論文の基本的な方向を明確にして研究計画（課題、研究方法を含む）を立て、発表することができる。
3. 保育現場や研究会等での取組や授業に参加し、自己の課題を持って積極的に学ぶ。
4. 教材研究や指導案作成、実践等を通して、幼児理解に基づく保育者の援助のあり方についての知識、技能を身に付ける。
5. ともに学ぶ楽しさ、心強さを互いに感じながら、他者と意欲的に学び合う仲間になろうとする。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション（研究倫理）・ゼミ授業計画
2. 課題意識の確認と共有　文献研究について
3. 自分の課題に合う論文を選び、レポートにして報告し、討論する①
4. 自分の課題に合う論文を選び、レポートにして報告し、討論する②
5. 保育教材作成と保育指導案作成 ①（グループワーク）
6. 保育教材研究と保育指導案作成 ②（グループワーク）
7. 模擬保育①
8. 進路別ガイダンス
9. フィールドワーク、または、ゲスト講師講話①
10. 模擬保育②
11. フィールドワーク、または、ゲスト講師講話①
12. フィールドワーク、または、ゲスト講師講話を通した学びのまとめ・発表②
 自身のテーマを明確にする
13. 卒業論文テーマの例示と研究計画を発表する①
14. 卒業論文テーマの例示と研究計画を発表する②
15. 振り返りと今後の展望

特記事項:

授業方法: 講義
講話
グループワーク
文献講読の分担発表内容等に基づくディスカッション
プレゼンテーション
以上全て対面

フィールドワーク

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 秋学期の計画書・レポート作成「関心のあるテーマ、自己の課題について」 予：演習Ⅰで配布した研究倫理の確認をする（60分） 復：ゼミ内容の省察(60分)
2. 予：自分の課題について発表準備をする（120分） 復：ゼミ内容の省察（60分）
3～4. 予：自分の課題に合う論文、先行文献を選び、集め、レポートを作成する（420分） 復：ゼミ内容の省察（60分×４）
5～6. 予：教材作成の題材の収集・制作物の準備をする（120分） 復：ゼミ内容の省察
7～９. 予：模擬保育の準備・保育指導案の作成（150分） 復：模擬内容の省察と保育指導案の再構成（60分×２）
10～12. 予：フィールドワークの計画作成・学びの発表と自分の課題の修正やテーマを明確にしてくる（１５０分） 復：ゼミ内容の省察（60分）

13. 予:卒業論文のテーマ・研究計画作成(330分) 復:ゼミ内容の省察(60分×4)
14. 論文に関わる情報収集・調査をする(120分) 復:ゼミ内容の省察(60分)
15. 予:レポート作成(120分) 復:今後の課題と展望を考察する(60分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	50	**%**	**確認テスト:**	−	**%**	**レポート:**	50 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準:

(80～100点)
・様々な活動に積極的に参加し、他者の意見を受け入れながら、自己の課題や考えを明確にすることができる。
・自分の課題に合う資料や文献を探し、そこに書かれていることをよく理解し、適切なレポートや研究計画を作成し、発表できる。
・卒業論文の基本的な構造や研究倫理などを正しく理解し、自らの卒業論文テーマを明らかにする。
(70～79点)
・様々な活動に積極的に参加し、他者の意見に耳を傾けながら、自己の考えを伝えることができる。
・自分の課題に合う資料や文献を探し、そこに書かれていることを理解し、適切にレポートや研究計画を作成・発表することができる。
・卒業論文の基本的な構造や研究倫理などを理解し、自らの卒業論文テーマを明らかにする。
(60～69点)
・様々な活動に参加し、自己の考えを伝えることができる。
・資料や文献に書かれていることを理解し、レポートや研究計画を作成することができる。
・卒業論文の基本的な構造や研究倫理などを理解し、自らの卒業論文のテーマを明らかにする。

課題へのフィードバック:

発表・討論については授業で講評する。提出したレポートや研究計画については講評し返却する。課題意識については個別に指導する。

教科書: 授業で必要に応じて紹介

参考書: 授業で必要に応じて紹介

授業・準備学習のアドバイス:

・一緒に学ぶ楽しさ、心強さを互いに感じながら、ゼミ生や指導教官と意欲的に学び合う協力的・協働的な関係を築き、活動しましょう。
・社会の動き・変化に関心をもち、未来を生きる子どもたちにはどのような資質・能力や人間関係力を育んでいくことが必要なのか、また、自分にできることは何かという問題意識をもち問い続けながら、自己の課題や強みを明確にしていきましょう。
・日頃から自分の課題意識に関係がある書物や論文を調べたり、定期的に読んだりしましょう。
・将来、教育に携わる仕事につく、教員になるという意識をもって、先輩の先生や教育現場等に接し、自ら学ぶ姿勢を保ち続けましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育学専門演習Ⅱ

クラス:

授業コード: DA05300020

担当者: 瀬戸山 悠 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 児童教育学専門演習Ⅰやこれまでの学修をふまえ、卒業論文の方向性も見据えながら、文献研究やレポート発表、グループワークなどを通して、自身の関心分野についての理解を深める。
卒業論文のテーマに関する文献調査を行い、先行研究の要旨をまとめるとともに考察内容の発表・討議を通して研究意識を深める。

到達目標:
1. 研究課題に向けて、研究活動の具体的な計画をたて、実践できる。
2. 卒業論文作成に向けて、基本的な研究方法や論文の書き方、文章構成を理解できる。
3. 意見を相互に出し合い、議論を深めることができる。
4. 自らの進路を意識し、実践的な態度を身につけるために、あらゆる機会を捉えて学ぶことができる。
5. 研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 研究テーマに関する文献等の要旨の発表と討議①
3. 研究テーマに関する文献等の要旨の発表と討議②
4. 研究テーマに関する文献等の要旨の発表と討議③
5. 研究テーマに関する文献等の要旨の発表と討議④
6. 研究テーマに関する文献等の要旨の発表と討議⑤
7. 研究テーマに関する文献等の要旨の発表と討議⑥
8. 進路別ガイダンス
9. 各自の研究テーマについてのプレゼンテーションと討議①
10. 各自の研究テーマについてのプレゼンテーションと討議②
11. 各自の研究テーマについてのプレゼンテーションと討議③
12. 各自の研究テーマについてのプレゼンテーションと討議④
13. 各自の研究テーマについてのプレゼンテーションと討議⑤
14. 各自の研究テーマについてのプレゼンテーションと討議⑥
15. フィードバックとまとめ

特記事項: ※全15回の授業のうちキャリアセンターからのキャリアガイダンスが1回入るため、授業内容が変更になる場合があります。

授業方法: すべて対面で行う。
1. 講義
2. プレゼンテーション、ディスカッション
3. プレゼンテーション、ディスカッション
4. プレゼンテーション、ディスカッション
5. プレゼンテーション、ディスカッション
6. プレゼンテーション、ディスカッション
7. プレゼンテーション、ディスカッション
8. プレゼンテーション、ディスカッション
9. プレゼンテーション、ディスカッション
10. プレゼンテーション、ディスカッション
11. プレゼンテーション、ディスカッション
12. プレゼンテーション、ディスカッション
13. プレゼンテーション、ディスカッション
14. 演習
15. プレゼンテーション、ディスカッション、講義

予習・復習・宿題など(内容・時間):

第1回（復習）研究テーマ（研究動機）についてまとめる（180分）
第2回～第8回（予習）研究テーマに関する文献を検索し、その要旨をまとめる（各180分）
第9回～第13回（予習）自己の研究テーマについての要約を行う（各180分）
第14回（復習）感想をまとめる（180分）
第15回（予習）具体的な目的・方法を含めてレポートをまとめる（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	50	**%**	**確認テスト：**	－	**%**	**レポート：**	50 **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準：
文献等の内容の要旨が把握できている（60～69）
文献等の内容を踏まえ、自己の考察が出来ている（70～79）
文献等の内容を踏まえ、自己の考察を論理的に行うことができている（80～89）
文献等の内容を踏まえ、新たな客観的データを提示するとともに論理的な考察や提言を行うことができる（90～100）

課題へのフィードバック：
発表やプレゼンテーションについて授業で講評する。グループディスカッションやグループワーク等については適時指導する。

教科書： 必要に応じて指示する。

参考書： 必要に応じて指示する。

授業・準備学習のアドバイス：
各自の主体的な文献検索、情報収集、整理等の事前準備と積極的な発表への取り組みが望まれる。
全体課題・自己課題を追求することで教育への理解を広げるとともに、卒論として結実させる。
主体的に取り組み、積極的にコミュニケーションを図りながら研究活動を進める姿勢が望まれる。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育学専門演習Ⅱ

クラス:

授業コード: DA05300021

担当者: 塚本 久義 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 児童教育学専門演習Ⅰの学習を踏まえて、各自の卒業論文の研究テーマに関係する文献を購読して発表し、それをもとに討議を行い、理解を深める。

到達目標: 自己の研究テーマを明確にする。研究テーマに関係する文献を購読しそれをまとめて発表する。卒業論文に向けて基本的な方向性を明確にする。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 研究テーマに関係した文献を読み、レポートにまとめて発表し、討議する①
3. 研究テーマに関係した文献を読み、レポートにまとめて発表し、討議する②
4. 研究テーマに関係した文献を読み、レポートにまとめて発表し、討議する③
5. 研究テーマに関係した文献を読み、レポートにまとめて発表し、討議する④
6. 研究テーマに関係した文献を読み、レポートにまとめて発表し、討議する⑤
7. 研究テーマに関係した文献を読み、レポートにまとめて発表し、討議する⑥
8. 進路別ガイダンス
9. 卒業論文のテーマについて①
10. 卒業論文のテーマについて②
11. 卒業論文のテーマについて③
12. 卒業論文のテーマについて④
13. 卒業論文のテーマについて⑤
14. 学科行事
15. まとめ(卒業論文のテーマを発表する)

特記事項:

授業方法:
第1回 演習(対面)
第2回 演習(対面)
第3回 演習(対面)
第4回 演習(対面)
第5回 演習(対面)
第6回 演習(対面)
第7回 演習(対面)
第8回 演習(対面)
第9回 演習(対面)
第10回 演習(対面)
第11回 演習(対面)
第12回 演習(対面)
第13回 演習(対面)
第14回 演習(対面)
第15回 演習(対面)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

第1回(復習) 研究テーマについてまとめる。(180分)
第2回～第8回(予習) 研究テーマに関連した文献を要約してレポートにまとめる。(各180分)
第9回～第13回(予習) 研究テーマについて発表できるようにまとめる。(各180分)
第14回(復習) 感想をまとめる。(180分)
第15回(予習) これまでのレポートをまとめる。(180分)

評価方法：	授業へのとりくみ：	50 %	確認テスト：	－ %	レポート：	50 %
	その他1：			%		
	その他2：			%		

評価基準： 発表：読んだ本の内容がまとめられている（60～69点）／読んだ本の内容がまとめられ考察が加えられている（80～100点）。

課題へのフィードバック：

発表については授業で講評する。

教科書： なし

参考書： 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所『特別支援教育の基礎・基本 第4版』ジアース教育新社
その他、必要に応じて適時紹介する。

授業・準備学習のアドバイス：

・特別支援教育に関するテーマで文献をできるだけ多く読みレポートとしてまとめ発表できるようにする。
・ゼミの最終には卒論計画を立て、3年次に卒論のテーマを決めて取り掛かる。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育学専門演習Ⅱ

クラス:

授業コード: DA05300022

担当者: 廣岡 義之 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 学校教育、乳幼児教育、家庭教育、特別支援教育、福祉教育などの極めて幅の広い教育実践領域において、「ケアリング」の学問理論と教育実践を深めることが現代の教育界で緊急に求められている。そこでこうした問題意識を軸として、幅広い教育的関心領域を「ケアリング」というキーワードで学んでいく。

到達目標:
1. 児童教育に関する自分の問題意識を分析して、その解明に必要な文献を探索できるようになる
2. 文献を読み、論文の書き方の基礎を修得し、引用や参考文献などに配慮して学術的な小論文が書けるようになる
3. 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 研究課題の絞り込み
3. 関連する資料・文献の調査状況についての報告①
4. 関連する資料・文献の調査状況についての報告②
5. 資料・文献の研究経過報告、質疑応答①
6. 資料・文献の研究経過報告、質疑応答②
7. 各自の研究課題の決定と発表、質疑応答①
8. 進路別ガイダンス
9. 研究経過報告、相互的サゼッション①
10. 研究経過報告、相互的サゼッション②
11. 研究経過報告、相互的サゼッション③
12. 研究成果発表・討議①
13. 研究成果発表・討議②
14. 研究成果発表・討議③
15. 総括

特記事項: なし

授業方法: すべての授業を対面授業で行う
1. 演習
2. 演習
3. 演習
4. 演習
5. 演習
6. 演習
7. 演習
8. 演習
9. 演習
10. 演習
11. 演習
12. 演習
13. 演習
14. 演習
15. 演習

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 教育学的課題について自分の意見をレポートにまとめる(180分)

2. 教育学的課題について自分の意見をレポートにまとめる(180分)
3. 教育学的課題について自分の意見をレポートにまとめる(180分)
4. 教育学的課題について自分の意見をレポートにまとめる(180分)
5. 教育学的課題について自分の意見をレポートにまとめる(180分)
6. 教育学的課題について自分の意見をレポートにまとめる(180分)
7. 教育学的課題について自分の意見をレポートにまとめる(180分)
8. 教育学的課題について自分の意見をレポートにまとめる(180分)
9. 教育学的課題について自分の意見をレポートにまとめる(180分)
10. 教育学的課題について自分の意見をレポートにまとめる(180分)
11. 教育学的課題について自分の意見をまとめる
12. 教育学的課題について自分の意見をレポートにまとめる(180分)
13. 教育学的課題について自分の意見をまとめる。(180分)
14. 教育学的課題について自分の意見をレポートにまとめる(180分)
15. 教育学的課題について自分の意見をレポートにまとめる(180分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	50	**%**	**確認テスト:**	-	**%**	**レポート:**	50 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: 課題レポート:自分の意見が述べられている(60-69) / 熟慮された意見が述べられている(90-100)

課題へのフィードバック:

課題レポートについては講評を加えて返却する。

教科書: 必要に応じて指示する

参考書: 必要に応じて指示する

授業・準備学習のアドバイス:

ゼミでの研究・討議に積極的に参加すること。

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育学専門演習Ⅱ

クラス:

授業コード: DA05300023

担当者: 芝田 悦司 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本演習では、小学校教員を目指す受講生が実際に授業を展開するために必要な能力を身につけることを目的とし、全員が自らの力で課題解決研究を行う。互いに指摘しあう中で、自分の長所や短所を明確にすることから能力向上につなげる。

到達目標: ①教育者としての責任感や教育的思考に基づき、自身の職責を果たすべく他者への献身的な姿勢を身につける
②社会人・教育者として児童生徒や保護者・同僚と良好な人間関係を構築する能力を養う
③個々の児童生徒と向き合い、様々な課題を受け止め、適切な指導を行う力を身につける
④集団指導と個別指導の違いを理解し、状況に応じた使い分けや指導方法を身につける
⑤教育指導の基本的なノウハウを身につけ、教育指導を展開する能力を身につける

各回の授業計画:

1. オリエンテーション・研究課題の設定
2. 教育現場での研究活動①
3. 教育現場での研究活動②
4. 教育現場での研究活動③
5. 研究活動報告とディスカッション
6. 教育現場での研究活動④
7. 教育現場での研究活動⑤
8. 進路別ガイダンス
9. 研究活動報告とディスカッション
10. 教育現場での研究活動⑥
11. 教育現場での研究活動⑦
12. 教育現場での研究活動⑧
13. 研究活動報告とディスカッション
14. 教育現場での研究活動⑨
15. まとめ（振り返りとウィークポイント克服に向けた自己研鑽計画）

特記事項: なし

授業方法: ・実践
・グループディスカッション
・プレゼンテーション

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 提示課題についての予習、授業の振り返り作成（180分）
2. 課題解決研究の振り返り（150分）
3. 課題解決研究の振り返り（150分）
4. 課題解決研究の振り返り（150分）
5. プレゼンテーション準備、授業の振り返り作成（180分）
6.課題解決研究の振り返り（150分）
7. 課題解決研究の振り返り（150分）
8. 進路別ガイダンスの振り返り（150分）
9. プレゼンテーション準備、授業の振り返り作成（180分）
10. 課題解決研究の振り返り（150分）
11. 課題解決研究の振り返り（150分）
12. 課題解決研究の振り返り（150分）
13. プレゼンテーション準備、授業の振り返り作成（180分）
14. プレゼンテーション準備、授業の振り返り作成（180分）

15. まとめのレポート作成（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	70 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	30 **%**
その他1：			**%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

1. 授業に取り組む姿勢
（優：80～100）仲間の考えを尊重しつつも自分の意見を適切に伝え、チームになって課題に対して主体的に学ぶことができる。
（良：70～79）自分の意見を適切に伝え、チームになって課題解決に向かい学ぶことができる
（可：60～69）自分の意見を交えながら、チームになって学ぶことができる

2. 授業における気づきや対応能力
（優：80～100）提示された課題の核心を的確に捉え、他者の意見を柔軟に取り入れながら解決に向かう道筋を明確に示すことができる
（良：70～79）提示された課題を理解し、他者の意見を聞くことで解決に向かう道筋を示すことができる
（可：60～69）提示された課題を理解し、ディスカッションの中から解決策を想像することができる

3. 提出レポート
（優：80～100）授業内容を十分に理解し、独自の考えを盛り込みながら、将来の自分を重ね合わせた内容になっている
（良：70～79）授業内容を正確に理解し、自分の意見を交えながら将来の自分の意識した内容になっている
（可：60～69）授業内容を理解し、自分の課題を意識しながらこれから取り組みたい内容をまとめている

課題へのフィードバック：

・課題解決やディスカッション、改題解決研究については、個人ゼミで口頭による指導や講評を行う
・振り返りレポート等提出物については、個別に指導助言を行うとともに、優秀なものについては全員に共有して学びの一助とする（個人情報には十分に配慮する）

教科書： 必要に応じて指示する

参考書： 必要に応じて指示する

授業・準備学習のアドバイス：

教員の最大の責務は分かりやすい授業を行うことである。そこを避けて通ることはできない。常に子供目線での教育活動を展開することを目指し、より良い指導者となる礎とする学びを行う

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育学専門演習Ⅱ

クラス:

授業コード: DA05300025

担当者: 高畑 英樹 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 教育学専門演習Ⅰで学んだ子どもの発達を捉える視点を、実践の場において活用できるように探求を続ける。次年度の卒業論文へと繋げるために、各自卒業論文のテーマとなる課題と研究方法を見出す。

到達目標: 自身の関心領域(発達特性、支援、教育・福祉・地域支援など)から、研究可能で意義のあるテーマを設定できる。
卒業論文の計画及びレポートを作成する。
本学の研究倫理基準をふまえた研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
卒論の構造、後期の進行スケジュール、テーマ探索の方向性確認
2. テーマ設定ワーク①:関心領域の棚卸し
自己の関心・経験の整理、研究領域マップ作成
3. テーマ設定ワーク②:研究可能性の検討
研究の意義・実現可能性、研究対象・方法の候補出し
4. 先行研究の探し方・読み方
文献検索、先行研究レビューの書き方
5. 研究テーマの確定と背景整理
テーマの最終決定、研究背景・問題意識の言語化
6. 研究方法の基礎理解①:質的研究(事例研究・観察・インタビュー)
特徴・メリット・注意点、倫理的配慮
7. 研究方法の基礎理解②:量的研究(質問紙・簡易統計)
調査設計、データの扱い方
8. 進路別ガイダンス(キャリアーセンター主催)
9. 研究計画書の作成:目的・背景・先行研究整理・方法・手続き・倫理
研究計画書の構造、先行研究レビューのまとめ方、調査・観察・インタビューの手順、倫理的配慮の明記
10. 研究計画発表会
研究計画の口頭発表、フィードバック
11. データ収集・分析の進め方
観察記録の整理、インタビュー逐語録の作成、質的・量的分析の基礎
12. 論文執筆方法①:序論・方法の書き方
研究目的の明確化、方法の記述のポイント
13. 論文執筆方法②:結果・考察の書き方
データの提示方法、考察の構成と注意点
14. 論文執筆方法③:全体構成の調整と推敲
論理の一貫性、表現の整え方
15. まとめ:研究の進捗報告と後期の振り返り

特記事項:

授業方法: すべて対面で行う。
・ディスカッション
・講義
・演習
・グループワーク
・発表

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 予習:前期の気づきから問題意識・課題をまとめる(120分)

2. 予習：自己の関心・経験をまとめる（150分）復習：理解した内容のまとめ（120分）
3. 予習：研究の意義、方法をまとめる（150分）復習：理解した内容のまとめ（120分）
4. 予習：研究に関連するキーワードをまとめる（150分）復習：理解した内容のまとめ（120分）
5. 予習：研究テーマをまとめる（150分）復習：理解した内容のまとめ（120分）
6. 予習：研究方法質的研究をまとめる（150分）復習：理解した内容のまとめ（120分）
7. 予習：研究方法量的研究をまとめる（150分）復習：理解した内容のまとめ（120分）
8. 予習：自己PRの素案作成（120分）復習：ガイダンス内容のまとめ（120分）
9. 予習：研究の目的と手続きをまとめる（150分）復習：理解した内容のまとめ（120分）
10. 予習：これまでの研究をまとめ、発表できるようにする（150分）復習：フィードバックのまとめ（120分）
11. 予習：分析の進め方をまとめる（150分）復習：分析の進め方の修正（120分）
12. 予習：研究目的を明確にまとめる（150分）復習：研究目的の修正（120分）
13. 復習：データ収集のまとめ（180分）
14. 復習：論理の見直し（180分）
15. 課題：レポート作成「研究の進捗報告」（240分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	60 **%**	**確認テスト：**	**%**	**レポート：**	40 **%**
その他1：			**%**		
その他2：			**%**		

評価基準：
・各課題に興味をもってゼミに出席・参加・発表している（60－69）
・協働的に意見を交わし、共有された学びになっている（80－100）
・卒業論文のテーマが明確になっている（70－79）
・子どもの発達を捉え、課題と研究方法を見出している（80－100）

課題へのフィードバック：
演習時間内、または個別面談等で助言する。

教科書： 演習授業内で紹介する

参考書： 適宜、ゼミにて紹介する。

授業・準備学習のアドバイス：
・一人ひとりの学びが、互いの学びになる機会にし、学びを豊かにしましょう。
・学ぶことの楽しさを、みんなで共有しましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育学専門演習Ⅱ

クラス:

授業コード: DA05300026

担当者: 樋口 拓 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:国立青少年教育振興機構(青少年教育研究センター)において、体験活動(ESD)プログラムの企画・運営・評価、安全管理、関係機関連携を推進。副センター長・企画室長として全国の拠点・地域との協働実践を牽引。
地域資源・伝統工芸を題材にした体験型ワークショップの研究実践(例:櫨の和蝋燭づくり/大洲和紙のワークショップ構成と効果検討、ESDプログラムの事業仮説モデル検討 ほか)。
本演習では、これらの実務知(安全管理・評価設計・多機関連携)と研究成果(地域資源の言語化・ストーリーテリング・伝統文化体験の教育効果)をゼミ内容設計に反映します。

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 地域の自然・文化・産業等の地域資源と、日本の暦である二十四節気の視点を取り入れ、体験活動を基盤に「総合的な学習の時間」や「探究」をデザインする力を養います。
学生自身が企画者・運営者となり、学内外の関係者と連携して、小規模でも教育的効果のある季節型ミニ・プログラムを立案・試行し、評価・改善まで行うことを目的とします。
(評価設計・安全管理・ロジックモデルの活用、地域資源の言語化→物語化→プログラム化のプロセスを横断的に扱います。)

到達目標:
LO1:ESDおよび体験学習の基本原理を説明できる。
LO2:児童・保護者・地域等、対象に応じた学習目標と評価指標(ルーブリック/パフォーマンス課題)を設計できる。
LO3:事前・当日・事後まで見通した運営計画(安全管理・コンプライアンスを含む)を立案できる。
LO4:二十四節気や地域資源を教材化し、ファシリテーション計画(台本・素材)を作成できる。
LO5:学内外の関係者と連携し、試行→振り返り→改善案を提示できる。

各回の授業計画:

1. 再始動:夏の観察共有・目標再設定
LOと評価指標の整合を確認、後期の企画テーマ確定

2. 評価設計の高度化
ロジックモデルの因果接続/測定可能な指標の定義

3. 行事体験④:中秋～ 観月行事など
天候代替計画/光・音・安全管理。※ミニ・リフレクション

4. 教材化ワーク②
観月など体験を探究プロンプトと活動カードに編集

5. 行事体験⑤:収穫祭(季節の食材体験 等)
日常生活の中での季節と食育など。※ミニ・リフレクション

6. 季節とリスク
低温・火気・暗所・降雪の季節特有リスク対策

7. 行事体験⑥:学園祭/地域の市など
来場者対応・大がかりな物販・金銭授受を伴わない教育活動に留意して実践

・評価ツール確定
チェックリスト/ルーブリックの最終化と配布物整備

8. 進路別ガイダンス(キャリアセンター主催)

9. 行事体験⑦:しめ縄・歳時記づくり
伝統素材の意味・倫理的配慮。※ミニ・リフレクション

10. 最終企画スタジオ①
冬の試行企画(学内完結可)−目的・活動・安全・評価の一体化

11. 模擬実施＆ピアレビュー
参加者(想定児童/保護者/地域)役を演じながら、相互評価

12. 行事体験⑧:正月の食文化や遊び
食品衛生・アレルギー・窒息リスクの教育的扱いに留意

13. 最終実施(学内/公開可)
各チームの最終企画を実施(小規模でも可)、運営・記録の徹底

14. 成果評価・ポートフォリオ提出
学習成果・証拠(エビデンス)を整理、改善提案の抽出

15. 総括・個別面談
LO到達自己評価/教育実習・卒研への接続を助言

特記事項: ※講義＋行事体験＋春夏の小企画(15回)で構成するゼミを予定しています。
※学期カレンダーに沿って、節気(例)を示しています。実施日は年度暦に合わせて微調整します。

・学外フィールドを伴う場合あり(任意参加含む)。服装・履物・熱中症・天候判断・保険等に留意。
・記録(写真・音声・動画)は倫理・個人情報・撮影可否に配慮し運用。
・生成AIの利用は大学方針に従い、出力の丸写し禁止・出典明示を必須とする。

授業方法: 対面で行います
※講義＋行事体験＋春夏の小企画(15回)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

指定図書・資料の通読・要約(合計)…14時間(読書ノート提出)
地域資源リスト作成(自分史×地域史の接点を作成)…6時間
春夏の小企画一式(ロジックモデル／運営計画／安全計画)…6時間
振り返りレポート(1,200～1,600字)…4時間

評価方法:

授業へのとりくみ:	40 **%**	**確認テスト:**	30 **%**	**レポート:**	30 **%**
その他1:			**%**		
その他2:			**%**		

評価基準: LO(1-5)への達成度で総合評価します。
提出物(確認課題):ロジックモデル／企画書／安全計画／評価ツール 30% 目的—成果—指標の接続が明確。根拠資料・引用適切。
授業へのとりくみ:準備・貢献・安全配慮・協働 40% 主体的参画、建設的提案、安衛配慮が一貫。
発表・実施:プレゼン／台本／成果共有(春夏小企画・最終企画) 30% 目的・評価・安全が一貫し説得力が高い。

課題へのフィードバック:

達成度等についてコメントを付した内容について学内システム等を介して返却します。

教科書: 特になし
ゼミの中で適宜参考書籍等を共有します。

参考書: 井上美智子『むすんでみよう 子どもと自然』新曜社(指定図書)。
樋口 拓・朝廣 和夫(2024)「伝統的工芸品を活用した体験活動プログラム開発による地域の持続可能な発展にむけた予備的研究—大洲和紙—」青森大学付属総合研究所紀要(J-STAGE PDF)。
樋口 拓(2025)『青少年教育施設における伝統文化実践研究事業(報告書)～地域の伝統文化を活かした体験活動プログラムの導入にむけて～』(全文公開PDF)。
そのほか、授業内で担当教員が最新研究業績／MISCからも適宜指定します。

授業・準備学習のアドバイス:

当ゼミでは次の点を大切に活動を行いますので受講生も各自の準備をお願いします。
・季節の手がかり(光・風・音・匂い・旬・行事・生業)を観察→言語化→物語化→教材化へ。
・小さく試す(pilot)→振り返る→改善を繰り返し、**別季節・別学年に転用できる「型」**を蓄積。
・安全最優先(装備・体調・天候判断・代替計画)と記録・倫理(撮影可否・データ保全・個人情報)の徹底。
・論文執筆指導については、適宜合同ゼミ、個人ゼミにて行います。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 児童教育学専門演習Ⅲ

クラス:

授業コード: DA05400001

担当者: 猪田 裕子 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 専門演習Ⅱでの学びを基に、文献研究を通じて自らの研究課題を深めることを目指す。
特に、理論的な背景を強化し、文献から得られる知見を活用して、課題の探究を豊かに展開する。
ゼミ内での討議を通じて多様な視点を取り入れ、論述力と批判的思考を磨く。

到達目標: 文献研究を通じて研究課題を論理的に展開できる。
他者と意見を交わしながら課題を多角的に探究できる。
理論的根拠を基に、自らの課題を深めた論述ができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーションと研究課題の確認ゼミの目的と文献研究の進め方
2. 文献研究の基礎文献収集と読み解き方の基本
3. 文献レビューⅠ:基礎文献の読み込み研究課題に関連する主要な文献の考察
4. 文献レビューⅡ:関連文献の掘り下げ基礎文献から派生する関連文献の探索
5. 討議Ⅰ:研究課題における理論的背景の整理文献を活用した課題の理論的背景の深め方
6. 文献レビューⅢ:先行研究の活用先行研究の内容と研究課題への応用
7. 中間発表Ⅰ:文献研究の進捗状況文献研究を基にした課題の現状報告
8. 文献レビューⅣ:批判的視点の養成文献に対する批判的な考察
9. 討議Ⅱ:理論と実践の橋渡し文献研究から得た知見を教育実践に応用する方法
10. 中間発表Ⅱ:理論的考察の深化文献研究から得た理論的知見の発表
11. 文献レビューⅤ:補完的な視点の探求新たな文献から課題の不足部分を補う
12. 討議Ⅲ:研究成果のまとめ方文献研究を基にした成果の論述方法
13. 最終発表準備最終発表の資料作成と構成確認
14. 最終発表文献研究を基にした研究成果の発表
15. 振り返りと次への展望ゼミの総括と次のステップ

特記事項: なし

授業方法: 【対面】
パソコンを及び情報機器を使用した演習
発表と討論
講義
グループワーク
プレゼンテーション

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 各自で論文の構造を確認する(180分)
2. 各自で論文の構造を確認する(180分)
3. 各自で論文の構成を考える(180分)
4. 各自で論文の構成を考える(180分)
5. 各自で論文の構成を考える(180分)
6. 各自で論文の内容を深める(180分)
7. 各自で論文の内容を深める(180分)
8. 各自で論文の内容を深める(180分)
9. 各自で論文の内容を深める(180分)
10. 各自で論文の内容を深める(180分)
11. 各自で論文の内容を深める(180分)
12. 各自で参考文献の整理をする(180分)

13. 各自で参考文献の整理をする(180分)
14. 各自で参考文献の整理をする(180分)
15. 各自で参考文献の整理をする(180分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	70	**%**	**確認テスト:**	-	**%**	**レポート:**	30 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準:
・積極的に発表や討論に参加している(70-79)
・論文執筆に取り組む姿勢(70-79)
・理論的に論文を構成し述べることが出来ている(80-100)
・自らの課題を明確にし、今後の展望との整合性が取れている(80-100)

課題へのフィードバック:
適宜、助言を行い執筆への道筋を示していく

教科書: なし

参考書: 令和5年度最新版 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞ ISBN 978-4-8054-0330-3 チャイルド社

適宜、資料を配布する

授業・準備学習のアドバイス:
ゼミでの発表や議論を通し、自らの考えを客観的に捉え、より発展させることができるよう、日々の積み重ねを大切にしてほしい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 児童教育学専門演習Ⅲ

クラス:

授業コード: DA05400002

担当者: 中尾 尊洋 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 児童教育学専門演習Ⅰ・Ⅱを踏まえ，教育方法や教育とメディアに関するテーマについて，自ら設定した研究テーマを中心に探究し，その内容を表現する力を養う。

到達目標: 卒業論文作成に必要なスキルを身につける。
1. 必要な文献や資料を探し出すスキル
2. 文献や資料を理解するスキル
3. 論文をまとめるスキル

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 論文の書き方・テーマの確認
3. 文献・資料等の収集，分析①
4. 文献・資料等の収集，分析②
5. 文献・資料等の収集，分析③
6. 課題の探究（文献・資料の検討と整理①）
7. 課題の探究（文献・資料の検討と整理②）
8. 課題の探究（文献・資料の検討と整理③）
9. 中間報告と検討・質疑応答①
10. 中間報告と検討・質疑応答②
11. 中間報告と検討・質疑応答③
12. 発表資料の作成①
13. 発表資料の作成②
14. 発表，討議①
15. 発表，討議②

特記事項: なし

授業方法: 発表とディスカッションを中心に，適宜講義を行う。
①～⑮ 講義（対面）

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 論文の書き方について予習する（180分）
2. 研究計画を確認・修正する等の復習をする（180分）
3. 研究計画の遂行に関して予習する（180分）
4. 研究計画の遂行に関して予習する（180分）
5. 研究計画の遂行に関して予習する（180分）
6. 文献・資料の内容について復習する（180分）
7. 文献・資料の内容について復習する（180分）
8. 中間報告の準備と内容に関して予習する（180分）
9. 中間報告の準備と内容に関して予習し，行われた議論について復習する（180分）
10. 中間報告の準備と内容に関して予習し，行われた議論について復習する（180分）
11. 中間報告で行われた議論について復習し，レポートにまとめる（180分）
12. 発表資料の作成に関して予習する（180分）
13. 発表資料の作成および発表原稿の作成に関して予習する（180分）
14. 発表の予習として練習をする（180分）
15. 発表のまとめをする（180分）

評価方法：	授業へのとりくみ：	50 %	確認テスト：	－ %	レポート：	50 %
	その他1：			%		
	その他2：			%		

評価基準：

優（80～100）
・自らの研究テーマに沿って，十分な文献を収集して読解・要約し，多様な文献を論理的に関連づけながら批判的な分析を加えて論理的に意見を構築することができる。
・指定されたフォーマットを守って資料や論文を作成することができる。
・論理的に構成され，明確な文章を用いてレポート，論文を書くことができる。
・要点が簡潔かつ明瞭に伝わるプレゼンテーションをすることができる。
・他者の研究内容を批判的に検討して適切なフィードバックを返すことができる。
・ディスカッションやゼミの行事でリーダーシップを発揮して，積極的に参加して貢献できる。

良（70～79）
・自らの研究テーマに沿って，十分な文献を収集して読解・要約し，多様な文献を論理的に関連づけて論理的に意見を構築することができる。
・指定されたフォーマットを概ね守って資料や論文を作成することができる。
・論理的に構成されたレポート，論文を書くことができる。
・要点が伝わるプレゼンテーションをすることができる。
・他者の研究内容に対して適切なフィードバックを返すことができる。
・ディスカッションやゼミの行事に，積極的に参加して貢献できる。

可（60～69）
・自らの研究テーマに沿って，文献を収集して読解し，意見を構築することができる。
・指定されたフォーマットを意識して資料や論文を作成することができる。
・研究内容をプレゼンテーションをすることができる。
・他者の研究内容に対してフィードバックを返すことができる。
・ディスカッションやゼミの行事に，積極的に参加して貢献できる。

課題へのフィードバック：

授業内において，個別にフィードバックをする。

教科書： 授業内に適宜資料を配布する。

参考書： 授業内に適宜資料を配布する。

授業・準備学習のアドバイス：

自分が研究している専門用語については事前に意味等を把握しておく。
発表に関しては研究内容が適切に伝わるように，説明内容を検討する。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 児童教育学専門演習Ⅲ

クラス:

授業コード: DA05400003

担当者: 森 眞理 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 専門演習Ⅰ,Ⅱで学んだことを土台として、演習生一人ひとりの問題意識を高め、卒業論文の主題・研究方法を明らかにする。また、文献輪読等を通して読み解く力を養い、演習生間の学びを深め合い、実践現場に欠かせない聴き合える関係性を育む。

到達目標:
1. 論文に向けて主題・問題提起を明らかにして、研究手法を身につける。
2. 子どもの最善の利益の保障の幼児教育・保育実践について文献を始め、世界の動向と対話し、自らの理解を深める。
3. 一人ひとりの論文内容の深化に向けて、演習生間のディスカッションが活性化するように一人ひとりが貢献する。
4. 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題生とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション:演習展開に向けての分かち合い
2. 卒論についての確認・計画・取り組み
3. 卒論計画・経過発表① / 文献輪読
4. 卒論計画・経過発表② / 文献輪読
5. 卒論に向けて:研究倫理基準についての学び
6. 卒業論文の構成の学び合い/ 文献輪読
7. ゲストスピーカーとの学び合い
8. 卒業論文の中間報告とフィードバック・ディスカッション①
9. 卒業論文の中間報告とフィードバック・ディスカッション②
10. フィールドワーク
11. フィールドワークの振り返り
12. 卒業論文の中間発表(第2回)とフィードバック・ディスカッション①
13. 卒業論文の中間発表(第2回)とフィードバック・ディスカッション②
14. 卒業論文の中間発表(第2回)とフィードバック・ディスカッション③
15. まとめと専門演習Ⅳへの課題・展望

特記事項: なし

授業方法: 毎回の演習は、以下の方法を総合的に展開する
・講義
・文献輪読とディスカッション
・演習
・プレゼンテーション
①～⑮ 講義・演習(対面)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 演習Ⅲへの思いをまとめる(90分)、指定文献を読み、問題提起を考える(90分)
2. 演習Ⅰ.Ⅱのまとめを行いまとめる(90分)、指定文献を読み、問題提起を考える(90分)
3. 演習Ⅰ.Ⅱのまとめを行いまとめる(90分)、指定文献を読み、問題提起を考える(90分)
4. 演習Ⅰ.Ⅱのまとめを行いまとめる(90分)、指定文献を読み、問題提起を考える(90分)
5. 指定文献を読み、問題提起を考える(180分)
6. 論文の構成についてまとめる(120分)、指定文献を読み、問題提起を考える(90分)
7. ゲストスピーカーの文献を読み、問いをまとめる(180分)、
8. 論文の内容を整理し、中間報告に備える(180分)
9. 論文の内容を整理し、中間報告に備える(180分)
10. フィールドワークにおける観察・問いを立てる(180分)
11. フィールドワークを振り返りまとめる(120分)、指定文献を読み、問題提起を考える(90分)

12. 卒業論文の中間発表に備える（180分）
13. 卒業論文の中間発表に備える（180分）
14. 卒業論文の中間発表に備える（180分）
15. 演習Ⅲのまとめと Ⅳに向けて課題と展望をまとめる（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	60	**%**	**確認テスト：**	－	**%**	**レポート：**	40 **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準：
・演習に出席・参加して、自分の学びを語れる（60-69）
・問題意識、当事者意識を持ち、演習に出席・参加している（70～79）
・プレゼンテーションにおける構成、マナー、スキルを身につけている（70～79）
・論文構成について、日々更新し発展へと探究する（80～100）
・演習生と協調性とクリティカルな姿勢を持ち、仲間の論文作成の向上に貢献する（80～100）

課題へのフィードバック：
・適宜、助言・フィードバックを行い、論文構成へと支援する。
・一人ひとりの研究主題に即した文献、フィールドの紹介及び助言を行う。

教科書： ・白井利明・高橋一郎（著）『よくわかる卒論の書き方［第2版］』ミネルヴァ書房、2013年. ISBN 978-4-62306-57-21

参考書： 随時、紹介する。

授業・準備学習のアドバイス：
・演習Ⅱを構成する当事者として、参加していただきたい。
・子どもと共に生活することの尊さを思い、論文に向かっていかれるように。
・聴き合う、分かち合う喜びを演習を通して体験し、これからの歩みに活かしていただきたい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 児童教育学専門演習Ⅲ

クラス:

授業コード: DA05400004

担当者: 須増 啓之 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 「児童教育学専門演習Ⅰ・Ⅱ」など学んできたことを用いながら自らの視点や課題意識をもって、アートを通した教育の可能性について研究します。具体的には感性や創造力を働かせて学ぶ子供たちへの教育や社会に生かすことができるように理論（先行研究や文献・資料の収集、整理などを行う）と実践（ワークショップ開発など）を行き来しながら、グループや個人でテーマを考え、アートワークショップを企画・実践し、省察したことなどを卒業研究（研究ノートもしくは論文）としてまとめます。その他、ホームページやSNS、ポートフォリオの作成などを通して、学んだことを他者に伝えることのできる力を養います。

到達目標: 1. 各自が興味関心をもった美術教育の内容や課題、興味のあるアートなどについて、先行研究や資料・データの収集、整理、レジュメの作成、討論等に取り組むとともにワークショップ題材開発、制作などを通して、これまで学んできたことを用いながら、自らの視点でワークショップを企画・実践・省察したことを研究成果としてまとめている。
2. 美術教育実践への関わりや美術に関わるイベントや研究会への参加を通して、美術教育や美術教育研究に関する現状や事象について、自らの課題や問題意識と関連づけることができる。
3. 授業での学びや活動についてホームページやSNS、ポートフォリオなどに視覚的にまとめ、自らの言葉を用いて他者に伝えることができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション、及び春休み中の課題（文献講読したものをPowerPointまとめたもの）発表
2. 造形ワークショップ実践②「ゼミ生で造形ワークショップの企画を考える（1）～テーマや対象決め、及び情報収集～」
3. 造形ワークショップ実践②「ゼミ生で造形ワークショップの企画を考える（2）～テーマや対象決め、素材決め、及び情報収集～」
4. 造形ワークショップ実践②「ゼミ生で造形ワークショップの企画を考える（3）～素材決め、試してみる、及び情報収集～」
5. 造形ワークショップ実践②「ゼミ生で造形ワークショップの企画を考える（4）～試してみる、及び情報収集～」
6. 造形ワークショップ実践②「ゼミ生で造形ワークショップの企画を考える（5）～試してみる、及び情報収集～」
7. 造形ワークショップ実践②「ゼミ生で造形ワークショップの企画を考える（6）～試してみる、及びプレゼンデータの作成～」
8. 造形ワークショップ実践②「ゼミ生で造形ワークショップの企画を考える（7）～試してみる、進行シナリオの作成や確認、及びプレゼンデータの作成～」
9. 造形ワークショップ実践②「ゼミ生で造形ワークショップの企画を考える（8）～ワークショップの最終確認、及びプレゼンデータの作成～」
10. 造形ワークショップ実践②「ゼミ生で造形ワークショップの企画を考える（9）～ワークショップの実践～」
11. 造形ワークショップ実践②「ゼミ生で造形ワークショップの企画を考える（10）～ワークショップの省察～」
12. 卒業研究に関する留意点について、及び卒業研究（ワークショップ・卒業論文作成）の構想のためのワーク①
13. 卒業研究（ワークショップ・卒業論文作成）の構想のためのワーク②
14. 卒業研究（ワークショップ・卒業論文作成）の構想のためのワーク③
15. 卒業研究（ワークショップ・卒業論文作成）のテーマや内容についての発表、及び演習Ⅲにおけるまとめと演習Ⅳの課題の確認

特記事項: ※全15回の授業のうちキャリアセンターからのキャリアガイダンスなどの学科行事が入るため、授業内容が変更になる場合があります。
※授業時間外に地域イベントの準備や参加があります。必ず参加してください。

授業方法: 【すべての授業を対面で行う】
第1回：演習、発表
第2回：演習
第3回：演習
第4回：演習
第5回：演習
第6回：演習
第7回：演習
第8回：演習
第9回：演習
第10回：ワークショップ実践（発表）
第11回：演習

第12回：演習
第13回：演習
第14回：演習
第15回：プレゼンテーション発表、演習

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

第1回：春休みの課題をまとめる及びワークショップの構想を練る（180分）
第2回：ワークショップの構想を練る、情報収集（180分）
第3回：ワークショップの構想を練る、情報収集（180分）
第4回：ワークショップの構想を練る、準備、情報収集（180分）
第5回：ワークショップの準備、情報収集（180分）
第6回：ワークショップの準備、情報収集（180分）
第7回：ワークショップの準備、資料作成（180分）
第8回：ワークショップの準備、資料作成（180分）
第9回：ワークショップの準備、資料作成（180分）
第10回：ワークショップの準備、まとめ（180分）
第11回：ワークショップについてまとめる（180分）
第12回：卒業研究の構想を練る（180分）
第13回：卒業研究の構想を練る（180分）
第14回：中間発表準備とまとめ（180分）
第15回：中間発表準備とまとめ（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	60	**%**	**確認テスト：**	－	**%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	ホームページやポートフォリオ、資料等の作成など	40	**%**				
その他2：			**%**				

評価基準：

【卒業研究へのとりくみ（制作・発表など含む）】について
・興味をもったテーマについて、自らの視点や課題意識を持ちながら、ワークショップの企画・実施に取り組んでいる。（60～69）
・興味をもったテーマについて、先行研究や文献などを十分に調べ、自らの視点や課題意識を明確にし、計画的にワークショップの企画・実施に取り組んでいる。（80～100）
※活動については、失敗を恐れず、自分なりの課題意識を持って研究やワークショップにチャレンジすること、美術教育関係のイベントなどの取り組みに参加することなどが評価規準となる。
【ホームページやポートフォリオ、資料の作成など】について
・写真やイラストなどを使用して活動の記録や資料を視覚的にまとめている。（60～69）
・写真やイラストなどを使用した活動の記録や資料を自分なりの工夫を加え、伝えることを意識して視覚的にわかりやすくまとめている。（80～100）

課題へのフィードバック：

・ワークショップや卒業研究への取り組みについては、授業中でのフィードバックやプレゼン発表において、まとめて講評する。
・提出されたポートフォリオや発表資料については、ルーブリックにコメントを記入するなどしてフィードバックを行う。

教科書： なし。授業中に、適宜、指示または資料を配布する。

参考書：

【ワークショップ関係】
・山内祐平・森玲奈・安斎勇樹『ワークショップデザイン論［第2版］』慶応義塾大学出版会
・高橋陽一編『造形ワークショップの広がり』武蔵野美術大学出版局
・今井良朗『ワークショップのはなしをしよう 芸術文化がつくる地域社会』武蔵野美術大学出版局
・美馬ゆかり・山内祐平『「未来の学び」をデザインする（新版） 空間・活動・共同体』東京大学出版会
【美術教育関係】
・松岡宏明『子供に子供の美術を』三元社
・松岡宏明『子供の世界 子供の造形』三元社
・大橋功他編著『美術教育概論（新訂版）』日本文教出版
その他、授業中に指示する。

授業・準備学習のアドバイス：

【履修上の留意点】について
・4年間の総まとめです。自分の興味のあるテーマに基づいた卒業研究（ワークショップ）を遂行しましょう。
・興味、関心をもつ分野のワークショップ題材研究と研究ノート、もしくは論文に自らの視点をもって取り組み、着実な歩みを示しましょう。保育所、幼稚園、小学校などのボランティアに積極的に関わったり、美術関係のイベントや・美術教育の研究会への参加、美術館での美術作品鑑賞などを通して自分なりのテーマや課題を探してください。
・授業はワークショップ準備と進展状況やワークショップの企画、実施、検討が中心となるので、時間をかけて準備活動に取り組むこと。
【ポートフォリオ】について
・「演習Ⅲ」「演習Ⅳ」においてもポートフォリオを作成します。ファイルなどは「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」と共通のものを配布します。毎回持参し、卒業研究の資料や活動、学びについてまとめていくようにしてください。なお、ポートフォリオは第15回終了時に提出すること。

【パソコンの使用】について
・「演習Ⅲ」「演習Ⅳ」では、ホームページやプレゼンテーション資料、研究ノートなどの作成のため、パソコンを授業中に使用しますので、各自必ず準備すること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 児童教育学専門演習Ⅲ

クラス:

授業コード: DA05400005

担当者: 臼井 真　　**単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 保育園・幼稚園・認定こども園の保育や小学校の音楽教育において、実践力のある優れた教員を養成するとともに、豊かな表現力を養うための基礎的なスキルの修得を目標としています。各自が専攻する実技（声楽・ピアノ・電子オルガン・管弦楽器・マリンバ等）を選択し、卒業研究の発表を目指します。

到達目標:
1. 演習Ⅰ・Ⅱの研究発表を踏まえ、卒業研究発表の題目を決定する。
2. 保育指導案や音楽科指導案を作成し、模擬保育・模擬授業に取り組み実践力を身に付ける。
3. 保育園や幼稚園、小学校における音楽表現活動を通して、子どもとのコミュニケーションスキルを身に付ける。
4. 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

1. 卒業研究発表（演奏・論文）について
・演奏発表（専攻種別、選曲等）
・ソルフェージュ①

2. 卒業研究発表（演奏・論文）について
・論文発表（先行研究、楽曲研究、演奏研究の取り組み等）
・ソルフェージュ②

3. ゼミ生による模擬保育・模擬授業①の実施、および講評
・事前に設定保育指導案、または音楽科学習指導案を作成し、提出すること。
・授業の前に、模擬保育・模擬授業のリハーサルを行う。
・ゼミ生が幼児や児童役となり、模擬保育・模擬授業を実施する。
・保育者、授業者の振り返り（評価シート提出）
・模擬保育、模擬授業について、ゼミ生によるディスカッションを行う。
・ゼミ指導教員による講評。

4. ゼミ生による模擬保育・模擬授業②の実施、および講評
・事前に設定保育指導案、または音楽科学習指導案を作成し、提出すること。
・授業の前に、模擬保育・模擬授業のリハーサルを行う。
・ゼミ生が幼児や児童役となり、模擬保育・模擬授業を実施する。
・保育者、授業者の振り返り（評価シート提出）
・模擬保育、模擬授業について、ゼミ生によるディスカッションを行う。
・ゼミ指導教員による講評。

5. ゼミ生による模擬保育・模擬授業③の実施、および講評
・事前に設定保育指導案、または音楽科学習指導案を作成し、提出すること。
・授業の前に、模擬保育・模擬授業のリハーサルを行う。
・ゼミ生が幼児や児童役となり、模擬保育・模擬授業を実施する。
・保育者、授業者の振り返り（評価シート提出）
・模擬保育、模擬授業について、ゼミ生によるディスカッションを行う。
・ゼミ指導教員による講評。

6. ゼミ生による模擬保育・模擬授業④の実施、および講評
・事前に設定保育指導案、または音楽科学習指導案を作成し、提出すること。
・授業の前に、模擬保育・模擬授業のリハーサルを行う。
・ゼミ生が幼児や児童役となり、模擬保育・模擬授業を実施する。
・保育者、授業者の振り返り（評価シート提出）
・模擬保育、模擬授業について、ゼミ生によるディスカッションを行う。
・ゼミ指導教員による講評。

7. ゼミ生による模擬保育・模擬授業⑤の実施、および講評
・事前に設定保育指導案、または音楽科学習指導案を作成し、提出すること。
・授業の前に、模擬保育・模擬授業のリハーサルを行う。
・ゼミ生が幼児や児童役となり、模擬保育・模擬授業を実施する。
・保育者、授業者の振り返り（評価シート提出）
・模擬保育、模擬授業について、ゼミ生によるディスカッションを行う。

・ゼミ指導教員による講評。

8. ゼミ生による模擬保育・模擬授業⑥の実施、および講評
・事前に設定保育指導案、または音楽科学習指導案を作成し、提出すること。
・授業の前に、模擬保育・模擬授業のリハーサルを行う。
・ゼミ生が幼児や児童役となり、模擬保育・模擬授業を実施する。
・保育者、授業者の振り返り(評価シート提出)
・模擬保育、模擬授業について、ゼミ生によるディスカッションを行う。
・ゼミ指導教員による講評。

9. 現職、または退職保育士(ゲスト講師)による講義「実践報告、及び保育現場の課題について」
・質疑応答(保育園における音楽表現活動について)
・ゼミ生による音楽表現発表(合唱、ブラス・アンサンブルなど)

10. 進路指導(保育所・幼稚園・認定こども園。小学校)について1
・エントリーシート作成指導
・集団面接、個人面接、グループ討議、場面指導
・小論文指導

11. 進路指導(保育所・幼稚園・認定こども園。小学校)について2
・エントリーシート作成指導
・集団面接、個人面接、グループ討議、場面指導
・小論文指導

12. 進路指導(保育所・幼稚園・認定こども園。小学校)について3
・エントリーシート作成指導
・集団面接、個人面接、グループ討議、場面指導
・小論文指導

13. 卒業研究発表について
・ソルフェージュ③
・研究演奏指導

14. 卒業研究発表について
・ソルフェージュ④
・論文指導

15. 第51回音楽ゼミ定期演奏会(卒業研究発表会)について
・ソルフェージュ⑤
・運営業務確認

特記事項: なし

授業方法: 3年次で終えた保育実習・教育実習を踏まえ、保育指導案や音楽科指導案について考察し、模擬保育・模擬授業を行います。
また、現職の保育士や幼稚園教諭、小学校の音楽専科教諭をゲスト講師として迎え、模擬保育・模擬授業の講評や教育現場の現状や課題について講義して頂きます。

①～⑮講義 (対面)
1. 講義
2. 講義
3. 講義、実技
4. 講義、実技
5. 講義、実技
6. 講義、実技
7. 講義、実技
8. 講義、実技
9. 講義、実技
10. 講義、実技
11. 講義、実技
12. 講義、実技
13. 講義、実技
14. 講義、実技
15. まとめと確認テスト

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 課題:卒業研究題目設定(120分)
2. 課題:卒業研究発表曲選曲、及び卒業論文要旨について(120分)
3. 課題:指導案作成(300分)
4. 課題:指導案作成(300分)
5. 課題:指導案作成(300分)
6. 課題:指導案作成(300分)
7. 課題:指導案作成(300分)
8. 課題:指導案作成(120分)
9. レポート:保育現場の現状と課題(120分)
10. レポート:幼稚園教育現場の現状と課題(120分)

11. レポート：小学校音楽教育における現状と課題（120分）
12. 予習：エントリーシート作成（120分）
13. 予習：卒業論文要旨（120分）
14. 予習：卒業発表曲研究（120分）
15. 課題：卒業研究発表会役割分担（120分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	45	**%**	**確認テスト：**	40	**%**	**レポート：**	15 **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準：
最低限の到達度（60点～69点）
・保育所保育指針、幼稚園教育要領、学習指導要領を理解し、保育指導案・学習指導案を作成することができる。
・指導案に沿った指導ができる。
望ましい到達度（80点～100点）
・保育所保育指針、幼稚園教育要領、学習指導要領を理解し、効果的な指導を行えるよう工夫した指導案を作成することができる。
・指導計画に基づいた評価シートが作成できる。
・指導案に沿った効果的な指導ができる。評価方法も理解している。

課題へのフィードバック：
・模擬授業、模擬講義保育の評価を伝え、今後の克服すべき課題も指摘する。
・質問に対してはその都度回答・説明する。内容によっては全体で共有する。

教科書： 適宜指示する。

参考書： 音楽教育、幼児音楽リズムに関する著書、および論文の先行研究を参考とする。

授業・準備学習のアドバイス：
「授業への取り組み」
音楽実技による自己表現力を磨くために、欠席することなく積極的に授業に取り組むこと。

※卒業研究の発表（演奏）だけでなく、卒業論文にも取り組みます。事前に計画を立てて、しっかりと準備をしてください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 児童教育学専門演習Ⅲ

クラス:

授業コード: DA05400006

担当者: 田中 聡 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 保育園・幼稚園・認定こども園の保育や小学校の音楽教育において、実践力のある優れた教員を養成するとともに、豊かな表現力を養うための基礎的なスキルの修得を目標としています。各自が専攻する実技(声楽・ピアノ・電子オルガン・管弦楽器・マリンバ等)を選択し、卒業研究の発表を目指します。

到達目標:
1. 演習Ⅰ・Ⅱの研究発表を踏まえ、卒業研究発表の題目を決定する。
2. 保育指導案や音楽科指導案を作成し、模擬保育・模擬授業に取り組み実践力を身に付ける。
3. 保育園や幼稚園、小学校における音楽表現活動を通して、子どもとのコミュニケーションスキルを身に付ける。
4. 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

1. 卒業研究発表(演奏・論文)について
・演奏発表(専攻種別、選曲等)

2. 卒業研究発表(演奏・論文)について
・論文発表(先行研究、楽曲研究、演奏研究の取り組み等)

3. ゼミ生による模擬保育・模擬授業①の実施、および講評
・事前に設定保育指導案、または音楽科学習指導案を作成し、提出すること。
・授業の前に、模擬保育・模擬授業のリハーサルを行う。
・ゼミ生が幼児や児童役となり、模擬保育・模擬授業を実施する。
・保育者、授業者の振り返り(評価シート提出)
・模擬保育、模擬授業について、ゼミ生によるディスカッションを行う。
・ゼミ指導教員による講評。

4. ゼミ生による模擬保育・模擬授業②の実施、および講評
・事前に設定保育指導案、または音楽科学習指導案を作成し、提出すること。
・授業の前に、模擬保育・模擬授業のリハーサルを行う。
・ゼミ生が幼児や児童役となり、模擬保育・模擬授業を実施する。
・保育者、授業者の振り返り(評価シート提出)
・模擬保育、模擬授業について、ゼミ生によるディスカッションを行う。
・ゼミ指導教員による講評。

5. ゼミ生による模擬保育・模擬授業③の実施、および講評
・事前に設定保育指導案、または音楽科学習指導案を作成し、提出すること。
・授業の前に、模擬保育・模擬授業のリハーサルを行う。
・ゼミ生が幼児や児童役となり、模擬保育・模擬授業を実施する。
・保育者、授業者の振り返り(評価シート提出)
・模擬保育、模擬授業について、ゼミ生によるディスカッションを行う。
・ゼミ指導教員による講評。

6. ゼミ生による模擬保育・模擬授業④の実施、および講評
・事前に設定保育指導案、または音楽科学習指導案を作成し、提出すること。
・授業の前に、模擬保育・模擬授業のリハーサルを行う。
・ゼミ生が幼児や児童役となり、模擬保育・模擬授業を実施する。
・保育者、授業者の振り返り(評価シート提出)
・模擬保育、模擬授業について、ゼミ生によるディスカッションを行う。
・ゼミ指導教員による講評。

7. ゼミ生による模擬保育・模擬授業⑤の実施、および講評
・事前に設定保育指導案、または音楽科学習指導案を作成し、提出すること。
・授業の前に、模擬保育・模擬授業のリハーサルを行う。
・ゼミ生が幼児や児童役となり、模擬保育・模擬授業を実施する。
・保育者、授業者の振り返り(評価シート提出)
・模擬保育、模擬授業について、ゼミ生によるディスカッションを行う。
・ゼミ指導教員による講評。

8. ゼミ生による模擬保育・模擬授業⑥の実施、および講評
・事前に設定保育指導案、または音楽科学習指導案を作成し、提出すること。
・授業の前に、模擬保育・模擬授業のリハーサルを行う。
・ゼミ生が幼児や児童役となり、模擬保育・模擬授業を実施する。
・保育者、授業者の振り返り(評価シート提出)
・模擬保育、模擬授業について、ゼミ生によるディスカッションを行う。
・ゼミ指導教員による講評。

9. 現職、または退職保育士(ゲスト講師)による講義「実践報告、及び保育現場の課題について」
・質疑応答(保育園における音楽表現活動について)
・ゼミ生による音楽表現発表(合唱、ブラス・アンサンブルなど)

10. 進路指導(保育所・幼稚園・認定こども園。小学校)について1
・エントリーシート作成指導
・集団面接、個人面接、グループ討議、場面指導
・小論文指導

11. 進路指導(保育所・幼稚園・認定こども園。小学校)について2
・エントリーシート作成指導
・集団面接、個人面接、グループ討議、場面指導
・小論文指導

12. 進路指導(保育所・幼稚園・認定こども園。小学校)について3
・エントリーシート作成指導
・集団面接、個人面接、グループ討議、場面指導
・小論文指導

13. 卒業研究発表について
・研究演奏指導

14. 卒業研究発表について
・論文指導

15. 第50回音楽ゼミ定期演奏会(卒業研究発表会)について
・運営業務確認

特記事項: なし

授業方法: 3年次で終えた保育実習・教育実習を踏まえ、保育指導案や音楽科指導案について考察し、模擬保育・模擬授業を行います。
また、現職の保育士や幼稚園教諭、小学校の音楽専科教諭をゲスト講師として迎え、模擬保育・模擬授業の講評や教育現場の現状や課題について講義して頂きます。

①～⑮講義 (対面)
1. 講義
2. 講義
3. 講義、実技
4. 講義、実技
5. 講義、実技
6. 講義、実技
7. 講義、実技
8. 講義、実技
9. 講義、実技
10. 講義、実技
11. 講義、実技
12. 講義、実技
13. 講義、実技
14. 講義、実技
15. まとめと確認テスト

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 課題:卒業研究題目設定(120分)
2. 課題:卒業研究発表曲選曲、及び卒業論文要旨について(120分)
3. 課題:指導案作成(300分)
4. 課題:指導案作成(300分)
5. 課題:指導案作成(300分)
6. 課題:指導案作成(300分)
7. 課題:指導案作成(300分)
8. 課題:指導案作成(120分)
9. レポート:保育現場の現状と課題(120分)
10. レポート:幼稚園教育現場の現状と課題(120分)
11. レポート:小学校音楽教育における現状と課題(120分)
12. 予習:エントリーシート作成(120分)
13. 予習:卒業論文要旨(120分)
14. 予習:卒業発表曲研究(120分)
15. 課題:卒業研究発表会役割分担(120分)

評価方法：	授業へのとりくみ：	45 %	確認テスト：	40 %	レポート：	15 %
	その他1：			%		
	その他2：			%		

評価基準： 最低限の到達度（60点～69点）
・保育所保育指針、幼稚園教育要領、学習指導要領を理解し、保育指導案・学習指導案を作成することができる。
・指導案に沿った指導ができる。
望ましい到達度（80点～100点）
・保育所保育指針、幼稚園教育要領、学習指導要領を理解し、効果的な指導を行えるよう工夫した指導案を作成することができる。
・指導計画に基づいた評価シートが作成できる。
・指導案に沿った効果的な指導ができる。評価方法も理解している。

課題へのフィードバック：
・模擬授業、模擬講義保育の評価を伝え、今後の克服すべき課題も指摘する。
・質問に対してはその都度回答・説明する。内容によっては全体で共有する。

教科書： 適宜指示する。

参考書： 音楽教育、幼児音楽リズムに関する著書、および論文の先行研究を参考とする。

授業・準備学習のアドバイス：
「授業への取り組み」
音楽実技による自己表現力を磨くために、欠席することなく積極的に授業に取り組むこと。

※卒業研究の発表（演奏）だけでなく、卒業論文にも取り組みます。事前に計画を立てて、しっかりと準備をしてください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 児童教育学専門演習Ⅲ

クラス:

授業コード: DA05400007

担当者: 佐藤 智恵 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 研究論文や文献の講読を通して、自己の卒業研究の関心事項を探究し、研究の目的や方法を明確にする。保育者として必要な知識や技術の習得を目指す中で、自己への気付きを得る。

到達目標: 1. 卒業研究活動を進め、卒論の執筆を行う。
2. 保育実践に関する理解を深める。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 卒業論文 先行研究の検討を行う①
3. 卒業論文 先行研究の検討を行う②
4. 卒業論文「問題と目的」発表①
5. 卒業論文「問題と目的」発表②
6. 保育エピソードを語ろう①
7. 保育エピソードを語ろう②
8. 保育エピソードを語ろう③
9. 卒論中間発表のレジュメ作成①
10. 卒論中間発表のレジュメ作成②
11. 卒論中間発表のレジュメ作成③
12. 卒論中間発表のレジュメ作成④
13. 卒論中間発表①
14. 卒論中間発表②
15. 卒論中間発表③

特記事項: なし

授業方法: すべての授業を対面で行う

1. 演習
2. 演習
3. 演習
4. グループワーク
5. グループワーク
6. 演習
7. 演習
8. 演習
9. 演習
10. 演習
11. 演習
12. 演習
13. 発表と討議
14. 発表と討議
15. 発表と討議

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1.(宿題)春学期の計画をまとめる(180分)
2.(宿題)先行研究を調べる(180分)
3.(宿題)先行研究をまとめる(180分)

4.(予習)先行研究をまとめる(180分)
5.(予習)発表レジュメを作成する(180分)
6.(予習)幼児に関するエピソードを記述する(180分)
7.(復習)他の人のエピソードから理解したことをまとめる(180分)
8.(復習)他の人のエピソードから理解したことをまとめる(180分)
9.(予習)中間発表レジュメ作成で使用する資料を集める(180分)
10.(予習)レジュメを作成する(180分)
11.(予習)レジュメを作成する(180分)
12.(予習)レジュメを作成する(180分)
13.(予習)中間発表のレジュメ作成(180分)
14.(予習)中間発表のレジュメ作成(180分)
15(予習)中間発表のレジュメ作成(180分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	30	**%**	**確認テスト:**	−	**%**	**レポート:**	− **%**
その他1:	①先行研究のまとめ ¥n②中間発表			50	**%**		
その他2:	プレゼンテーション			20	**%**		

評価基準:

1. 授業への取り組み
・色々なゼミ活動に参加し、協調的に活動できる(60～69点)
・色々なゼミ活動に積極的に参加し、自分の意見を言ったり、協調的に活動できる(70～79点)
・色々な活動に積極的に参加し、他者の意見を受け入れながら、解決方法や対応を自分なりに考えることができる(80～100点)

2. 卒業論文への取り組み
・問題と目的を書き上げる(60～69点)
・研究データを取るなど卒業論文を進める(70～79点)
・データをもとに卒業論文を書き進めていく(80～100点)

課題へのフィードバック:

課題については必要に応じて添削、評価を行い返却する。

教科書: なし

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

卒業論文については、演習Ⅲの時間だけでなく、空き時間にも教員の指導を受けるなど積極的に取り組み、論文執筆の視点への気付きを得られるようにしましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 児童教育学専門演習Ⅲ

クラス:

授業コード: DA05400008

担当者: 福井 逸子 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 研究論文や文献の講読を通して、自己の卒業研究の関心事項を探究し、研究の目的や方法を明確にする。保育者として必要な知識や技術の習得を目指す中で、自己への気付きを得る。

到達目標:
1. 卒業研究活動を進め、卒論の執筆を行う。
2. 教育・保育実践に関する理解を深める。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 卒業論文 先行研究の検討を行う①
3. 卒業論文 先行研究の検討を行う②
4. 卒業論文「問題と目的」発表①
5. 卒業論文「問題と目的」発表②
6. エピソードを語ろう①
7. エピソードを語ろう②
8. エピソードを語ろう③
9. 卒論中間発表のレジュメ作成①
10. 卒論中間発表のレジュメ作成②
11. 卒論中間発表のレジュメ作成③
12. 卒論中間発表のレジュメ作成④
13. 卒論中間発表①
14. 卒論中間発表②
15. 卒論中間発表③

特記事項: なし

授業方法: すべての授業を対面で行う

1. 演習
2. 演習
3. 演習
4. グループワーク
5. グループワーク
6. 演習
7. 演習
8. 演習
9. 演習
10. 演習
11. 演習
12. 演習
13. 発表と討議
14. 発表と討議
15. 発表と討議

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1.(宿題)春学期の計画をまとめる(180分)
2.(宿題)先行研究を調べる(180分)
3.(宿題)先行研究をまとめる(180分)

4.(予習)先行研究をまとめる(180分)
5.(宿題)教材を完成させる(180分)
6.(予習)幼児に関するエピソードを記述する(180分)
7.(復習)他の人のエピソードから理解したことをまとめる(180分)
8.(復習)他の人のエピソードから理解したことをまとめる(180分)
9.(予習)中間発表レジュメ作成で使用する資料を集める(180分)
10.(予習)レジュメを作成する(180分)
11.(予習)レジュメを作成する(180分)
12.(予習)レジュメを作成する(180分)
13.(予習)中間発表のレジュメ作成(180分)
14.(予習)中間発表のレジュメ作成(180分)
15(予習)中間発表のレジュメ作成(180分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	30	**%**	**確認テスト:**	-	**%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	①先行研究のまとめ ¥n②中間発表			40	**%**		
その他2:	プレゼンテーション			30	**%**		

評価基準:

1. 授業への取り組み
色々なゼミでの活動に参加し、自分の意見を言ったり、協調的に活動できる(60～69点)、色々な活動に積極的に参加し、他者の意見を受け入れながら、解決方法や対応を自分なりに考えることができる(80～100点)

2. 宿題等の取り組み
研究データを取るなど卒業論文を進める(60～69点)、データをもとに卒業論文を書き進めていく(80～100点)

課題へのフィードバック:

課題については必要に応じて添削、評価を行い返却する。

教科書: なし

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

卒業論文については、演習Ⅲの時間だけでなく、空き時間にも教員の指導を受けるなど積極的に取り組み、論文執筆の視点への気付きを得られるようにしましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 児童教育学専門演習Ⅲ

クラス:

授業コード: DA05400009

担当者: 小川内 哲生 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 大学における学びや実習等の集大成として、卒業研究論文の作成に着手する。各自が計画的に論文を書き進めるためには、前半は、より良い研究データの集積を行うことが必要である。また、昨年度の専門演習Ⅰ、Ⅱを踏まえ、自らの「保育観」を確立することを目指す。

到達目標:
1. 各自が研究テーマを見出し、それに沿った問題点を明らかにする。
2 .卒業研究論文作成のための、研究方法について知る。
3. 保育実践に関わる知識や技術を深化させる。

各回の授業計画:

1. 各自研究テーマにおける再考
2. テーマに沿った文献の収集と発表
3. 収集した文献の要約とまとめ
4. 収集した文献の要約とまとめ
5. 論文作成と個別指導
6. 論文作成と個別指導
7. テーマにおいてのゼミ内討議
8. テーマにおいてのゼミ内討議
9. データの収集とまとめ、調査の遂行
10. データの収集とまとめ、調査の遂行
11. 中間発表会の実施
12. 中間発表会の実施
13. 中間発表会の実施
14. 実施研修会への参加
15. 前期のまとめ

特記事項: 1か月の幼稚園実習期間は、実習に専念する。

授業方法: 授業は、すべて対面で行う。
講義と演習を中心に、各自の発表、プレゼンテーション等も随時行う。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 学習した内容の復習(180分)
2. 学習した内容の復習・学習するべき内容の予習(180分)
3. 学習した内容の復習・学習するべき内容の予習(180分)
4. 学習し大変た内容の復習(180分)
5. 資料の準備(180分)
6. 資料の収集(180分)
7. 資料の収集・整理(180分)
8. 資料の収集・整理(180分)
9. プレゼンテーションの準備 (180分)
10. プレゼンテーションの準備(180分)
11. 論文案の再構成(180分)
12. 論文案の再構成(180分)
13. 論文の作成(180分)
14. 論文の作成(180分)
15. 今期の振り返りシート作成(180分)

評価方法：	授業へのとりくみ：	60 %	確認テスト：	－ %	レポート：	40 %
	その他1：			%		
	その他2：			%		

評価基準：

1. 授業への取り組み姿勢
ゼミ内で、自分の意見を述べたり、他者と協調して活動できる（60~79点）
他者の意見を受け入れながら、解決方法や対応策を自分なりに考えることができる（80点～100点）

2. 卒業研究への取り組み姿勢
研究データを収集しながら、論文を書き進めることができる（60～79点）
研究データーを収集し、先行研究との比較を行いながら、研究論文を書き進めることができる（80点～100点）

課題へのフィードバック：

個々の卒業研究の取り組みに対しては、添削、評価を行い、これを繰り返していく。

教科書： 毎回の授業で資料を配布する。

参考書：
白井利明、高橋一郎
「よくわかる卒論の書き方 第2版」
ミネルヴァ書房 2013年02月10日

授業・準備学習のアドバイス：

毎回の授業内での討論や講義を通して、自らの研究テーマを深め、推敲を重ねていきましょう。
研究論文の作成過程では、積極的に教員にアドバイスを求め、真摯な姿勢で取り組んでいきましょう。日々の積み重ねが、より良い研究の成果に繋がっていきます。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 児童教育学専門演習Ⅲ

クラス:

授業コード: DA05400011

担当者: 高橋 一夫 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 児童教育学専門演習Ⅰ及びⅡの成果と課題を踏まえ、卒業論文作成へ向けて研究テーマの文献調査を行うとともに、実験やアンケート調査等を実施しデータの分析を行う。得られたデータの分析結果をまとめ考察した内容を発表し、グループディスカッションを行うことにより研究を深化・発展させていく。

到達目標:
1. 研究テーマに関連する文献・学術論文を精読し、統計分析の手法を取得する。
2. 論文作成に関する基本的技能を修得し、卒業論文の骨格を整理する。
3. 研究倫理基準について理解したうえで研究を遂行する。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション（研究倫理、調査手続きの確認）
2. 各自の研究課題についての発表と討議
3. 各自の研究課題についての発表と討議
4. 文献研究・データ収集とその報告
5. 文献研究・データ収集とその報告
6. 文献研究・データ収集とその報告
7. 文献研究・データ収集とその報告
8. 卒論作成中間発表と討議
9. 卒論作成中間発表と討議
10. 研究の途中経過報告と討議
11. 研究の途中経過報告と討議
12. 研究の途中経過報告と討議
13. 研究の途中経過報告と討議
14. 卒論作成についての最終中間報告
15. 評価とまとめ

特記事項: なし

授業方法: 講義、ディスカッション、プレゼンテーション
全ての授業を対面授業で行う。

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 授業内容の復習 (180分)
2. 授業内容の復習(180分)
3. 授業内容の復習(180分)
4. 参考文献の読解、ノート整理(180分)
5. 参考文献の読解、ノート整理(180分)
6. 参考文献の読解、ノート整理(180分)
7. 参考文献の読解、ノート整理(180分)
8. 資料作成、ノート整理(180分)
9. 資料作成、ノート整理(180分)
10. 資料作成、ノート整理(180分)
11. 資料作成、ノート整理(180分)
12. 資料作成、ノート整理(180分)
13. 資料作成、ノート整理(180分)
14. 資料作成。まとめ(180分)
15. まとめ(180分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	50 **%**	**確認テスト:**	− **%**	**レポート:**	50 **%**
その他1:			**%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 最低限度の到達度(60～69点)
・研究テーマについて情報収集することができる。
・ゼミメンバーと意見交換ができる。
・発表資料を作成し、プレゼンテーションができる。
望ましい到達度(80~100点)
・研究テーマについて主体的に調べ分析し考察することができる。
・ゼミメンバーと協力的に意見交換ができ、質疑応答ができる。
・主体的に発表資料を作成し、分かりやすくプレゼンテーションができる。

課題へのフィードバック:
課題・レポート等については授業時にその都度、講評を行う。それ以外にもオフィスアワーなどを活用してフィードバックを行う。

教科書: 教科書は使用しないが、随時、参考文献を紹介する。

参考書: 必要に応じて紹介する。

授業・準備学習のアドバイス:
日頃から子どもや学校の問題について情報収集し、文献検索を行う等、積極的に研究テーマに関連した研究を進めてほしい。
ノートPCを必携すること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 児童教育学専門演習Ⅲ

クラス:

授業コード: DA05400012

担当者: 金山 健一 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 学校の抱える諸問題を、研究の視点から分析し、教師としての実践的な力量を育成する。そのために、研究法を学び、専門的なスキルの習得を目指す。また、学級経営・生徒指導・授業方法・特別支援教育で活用できるピアサポートプログラムを習得する。
MLA（マルチレベルアプローチ）のSEL、PBIS、ピアサポート、協同学習、アセスを習得する。

到達目標:
1. 学校の抱える様々な問題・課題を研究の視点を持ち、分析することができる。
2. ピアサポートプログラムを習得し、教師として実践的な力量を習得する。
3. テーマを持ち研究に向かう基礎的な資質を育成する。
4. MLA（マルチレベルアプローチ）を習得し、最先端の教育スキルを活用することができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーションと研究倫理
MLA概論（1）
2. ピアサポート概論
MLA概論（2）
3. テーマ探求
アセス（1）
4. テーマ探求
アセス（2）
5. 研究とは
SEL（1）
6. 研究法
SEL（2）
7. 先行研究
PBIS（1）
8. アンケート作成
PBIS（2）
9. 統計的研究法
協同学習（1）
10. 質的研究法
協同学習（2）
11. プレゼンとは
12. プレゼン方法
13. ゼミ内研究発表会
13. ゼミ内研究発表会
15. 評価とまとめ

特記事項: なし

授業方法: 授業は対面とする。教師としての実践力向上のため、演習・グループワーク・協同学習を用いたアクティブ・ラーニングで実施する。
記載した授業計画と同時に、ピアサポートプログラムを学び実践していく。

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 復習（180分）
2. 復習（180分）
3. 論文テーマ作成（180分）
4. 論文テーマ作成（180分）
5. 統計復習（180分）
6. 統計復習（180分）

7. 統計復習（180分）
8. 統計復習（180分）
9. 統計復習（180分）
10. 統計復習（180分）
11. プレゼン準備（180分）
12. 論文まとめ（180分）
13. 論文まとめ（180分）
14. 論文まとめ（180分）
15. まとめと評価（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	50	**%**	**確認テスト：**	－	**%**	**レポート：**	50 **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準：

「最低限の到達」（60～69点）
・授業への取り組み：学校教育について、知識を習得することができる。
・レポート：学校教育について、まとめることができる。
「望ましい到達度」（80～100点）
・授業への取り組み：学校教育について、分析・討論することができる。
・レポート：学校教育について、研究することができる。

課題へのフィードバック：

Teamsでのフィードバックを行う。

教科書： なし

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：

一人ひとりが自らの課題をもって、ゼミの全員が協力をして研究や実践活動に取り組むとともに、互いに報告・討論をしながら進めていく。
主体的、積極的、協力的な態度で授業、調査研究、レポート作成に取り組んでもらいたい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 児童教育学専門演習Ⅲ

クラス:

授業コード: DA05400013

担当者: 新藤 照夫 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 本演習では、専門演習 Ⅰ と専門演習 Ⅱ で学修した異文化コミュニケーションや比較文化の知識をもとに、論文執筆に必要なアカデミックスキルを活用し、設定したテーマに関して、研究の集大成としての卒業論文の作成を目的とする。また、卒業論文の作成過程において各自がプレゼンテーションを行い、ゼミ内で互いにアイデアを共有することで、各自の論文の質的向上も目指す。具体的には、研究テーマの検討、執筆スケージュールの設定、予備調査としての資料読解、テーマの選定、テーマに対する問いおよび研究方法の設定、関連する先行研究や資料・データの収集、資料の整理・分析、分析結果の考察、アウトラインの作成、中間発表を実施する。

到達目標: ・テーマに対して専門的な知識や技法を使用し、客観的で論理的な文章を構成できる。
・テーマに関連する文献や事例等を収集し、分析できる。
・現地調査やアンケートを実施し、独自の調査資料を作成できる。
・テーマに対し、客観的な根拠を踏まえ、考察を述べることができる。
・与えられたテーマに対して協働的に解決法を導き出すことができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション:前学期の省察、本学期の目標設定、卒業論文執筆スケジュール
2. 研究テーマの検討執筆スケジュールの設定
3. 予備調査:テーマに関連する社会背景の調査、文献やデータ資料のキーワード検索
4. 研究テーマの選定:予備調査に基づき決定したテーマの発表
5. テーマに対する問いの設定:テーマに対する問いや仮説の設定、問いに対して必要となる資料の検討
6. 研究方法の検討:問いや仮説を明らかにするための研究対象や方法の検討
7. 先行研究や資料の収集①:資料の収集計画を設定、テーマに関する研究の動向を調査
8. 先行研究や資料の収集②:収集対象の選定、各種データベースを活用した収集
9. 先行研究や資料の収集③:資料収集の継続(アンケートやフィールドワークによるデータ収集含む)
10. 資料の整理・分類:収集した資料をトピックごとに整理、分類資料リストの作成
11. 資料の分析:分類した根拠資料を分析
12. 分析結果の考察:分析結果をもとに問いへの回答を考察
13. アウトラインの作成:キーワードを用いて章立てを行い、暫定的なアウトラインを作成
14. アウトラインの改訂・執筆計画:アウトラインの改訂、執筆スケジュールの設定
15. プレゼンテーション:卒業論文の中間発表(テーマ・研究方法・アウトライン・執筆スケジュール)

特記事項: なし

授業方法: 15回すべての授業を対面で実施

1. 演習、ペアワーク、ディスカッション
2. 演習、ディスカッション
3. 演習、ディスカッション
4. プレゼンテーション、ディスカッション
5. 演習、ディスカッション
6. 演習、ディスカッション
7. 演習、ディスカッション
8. 演習、ディスカッション
9. 演習、ディスカッション
10. 演習、ディスカッション
11. 演習、ディスカッション
12. 演習、ディスカッション
13. 演習、ディスカッション
14. 演習、ディスカッション

15. プレゼンテーション、ディスカッション

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

・執筆スケージュールの設定（120分）
・予備調査としての資料読解（600分）
・研究テーマの検討（300分）
・テーマに対する問いおよび研究方法の検討（120分）
・関連する先行研究や資料・データの収集（360分）
・資料の整理・分析（300分）
・分析結果の考察（300分）
・アウトラインの作成（300分）
・中間発表の準備（300分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	60 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	プレゼンテーション		40 **%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

①望ましい到達度（80～100点）
【授業へのとりくみ】
シラバスの計画通りに卒業研究を進め、主体的に取り組むことができる。
ディスカッションにて協働的かつ積極的に貢献できる。
【プレゼンテーション】
卒業論文の中間発表として、テーマ・研究方法・アウトライン・執筆スケジュールを明確に提示できる。
明確で質の高いスライドを作成し、高いレベルのプレゼンテーションができる。

②最低限の到達度（60～69点）
【授業へのとりくみ】
指示された最低限の内容はシラバスの計画通りに進めることができる。
ディスカッションにて、他者への質問や意見を発表できる。
【プレゼンテーション】
卒業論文の中間発表として、テーマ・研究方法・アウトライン・執筆スケジュールを提示できる。
指示された要件を満たすプレゼンテーションを行うことができる。

課題へのフィードバック：

・提出課題、グループディスカッション、プレゼンテーションに対して、授業時にフィードバックを行う。
・授業外の研究の進捗状況に関しては、Teamsで文書を共有してフィードバックを行う。

教科書： なし

参考書：

『思考の整理学』外山滋比古 著（ちくま文庫）
『日本語の作文技術』本多勝一 著（朝日文庫）
『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』戸田山和久 著 （NHKブックス）

授業・準備学習のアドバイス：

卒業論文の執筆は容易なことではありませんが、４年間の学びの集大成として、過去に学修し、習得してきた知識やスキルを活かしながら、納得のいく論文の完成を目指してもらいたいと思っています。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 児童教育学専門演習Ⅲ

クラス:

授業コード: DA05400014

担当者: 山口 香織 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 卒業論文作成に向けて研究課題の関連資料や文献を精読し、基礎となる理論について学ぶ。また、研究課題に応じて実験や調査を実施し、データを分析する。

到達目標: 1. 研究テーマの関連資料や文献、学術論文を精読し、その基礎理論と先行研究について整理する。
2. 卒業論文の骨子を作成する。

各回の授業計画:

1. 卒業論文作成の手順確認
2. 研究テーマの決定・確認
3. 研究目的の設定
4. 卒業論文の骨子作成
5. 先行研究の検討
6. 文献・資料の収集
7. 文献・資料の講読
8. 課題の整理
9. 中間発表・質疑応答①
10. 中間発表・質疑応答②
11. 中間発表・質疑応答③
12. 研究方法の確定
13. 調査手続きの確認
14. 調査(実験)の実施
15. データ分析

特記事項: なし

授業方法: 1. 講義(対面)
2. 講義(対面)
3. 講義(対面)
4. 講義と演習(対面)
5. 講義と演習(対面)
6. 演習(対面)
7. 演習(対面)
8. 演習(対面)
9. 発表と討議(対面)
10. 発表と討議(対面)
11. 発表と討議(対面)
12. 演習(対面)
13. 演習(対面)
14. 演習(対面)
15. 演習(対面)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

テキスト:白井利明・高橋一郎著「よくわかる卒論の書き方」ミネルヴァ書房(2013)
1章の講読(180分)
2章の講読(180分)
3章の講読(180分)
4章の講読(180分)

5章の講読（180分）
6章の講読（180分）
7章の講読（180分）
8章の講読（180分）
9章の講読（180分）

先行研究の検討（7200分）
発表資料の作成（360分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	50	**%**	**確認テスト：**	－	**%**	**レポート：**	50 **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準：

1. 授業へのとりくみ
①「メモをとる」「発言や質問をする」（60～69）
②「積極的に発言する」「問題意識をもって取り組む」（80～100）

2. レポート
①講義・演習で学んだことをもとに、指定文字数で自分の考えをまとめることができる（60～69）
②講義・演習で学んだことをもとに、論理的な思考で自分の考えをまとめることができる（80～100）

課題へのフィードバック：

発表については、授業時にコメントする。
課題レポートは講評を加えて返却する。

教科書： なし

参考書： 白井利明・高橋一郎著「よくわかる卒論の書き方」ミネルヴァ書房（2013）

授業・準備学習のアドバイス：

発表については、授業時にコメントする。
課題レポートは講評を加えて返却する

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 児童教育学専門演習Ⅲ

クラス:

授業コード: DA05400015

担当者: 齋藤 隆彦 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 本演習では、専門演習 Ⅰ と専門演習 Ⅱ で学修した異文化コミュニケーションや比較文化の知識をもとに、論文執筆に必要なアカデミックスキルを活用し、設定したテーマに関して、研究の集大成としての卒業論文の作成を目的とする。また、卒業論文の作成過程において各自がプレゼンテーションを行い、ゼミ内で互いにアイデアを共有することで、各自の論文の質的向上も目指す。具体的には、研究テーマの検討、執筆スケージュールの設定、予備調査としての資料読解、テーマの選定、テーマに対する問いおよび研究方法の設定、関連する先行研究や資料・データの収集、資料の整理・分析、分析結果の考察、アウトラインの作成、中間発表を実施する。

到達目標: ・テーマに対して専門的な知識や技法を使用し、客観的で論理的な文章を構成できる。
・テーマに関連する文献や事例等を収集し、分析できる。
・現地調査やアンケートを実施し、独自の調査資料を作成できる。
・テーマに対し、客観的な根拠を踏まえ、考察を述べることができる。
・与えられたテーマに対して協働的に解決法を導き出すことができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション:前学期の省察、本学期の目標設定、卒業論文執筆スケジュール
2. 研究テーマの検討執筆スケジュールの設定
3. 予備調査:テーマに関連する社会背景の調査、文献やデータ資料のキーワード検索
4. 研究テーマの選定:予備調査に基づき決定したテーマの発表
5. テーマに対する問いの設定:テーマに対する問いや仮説の設定、問いに対して必要となる資料の検討
6. 研究方法の検討:問いや仮説を明らかにするための研究対象や方法の検討
7. 先行研究や資料の収集①:資料の収集計画を設定、テーマに関する研究の動向を調査
8. 先行研究や資料の収集②:収集対象の選定、各種データベースを活用した収集
9. 先行研究や資料の収集③:資料収集の継続(アンケートやフィールドワークによるデータ収集含む)
10. 資料の整理・分類:収集した資料をトピックごとに整理、分類資料リストの作成
11. 資料の分析:分類した根拠資料を分析
12. 分析結果の考察:分析結果をもとに問いへの回答を考察
13. アウトラインの作成:キーワードを用いて章立てを行い、暫定的なアウトラインを作成
14. アウトラインの改訂・執筆計画:アウトラインの改訂、執筆スケジュールの設定
15. プレゼンテーション:卒業論文の中間発表(テーマ・研究方法・アウトライン・執筆スケジュール)

特記事項: なし

授業方法: 15回すべての授業を対面で実施

1. 演習、ペアワーク、ディスカッション
2. 演習、ディスカッション
3. 演習、ディスカッション
4. プレゼンテーション、ディスカッション
5. 演習、ディスカッション
6. 演習、ディスカッション
7. 演習、ディスカッション
8. 演習、ディスカッション
9. 演習、ディスカッション
10. 演習、ディスカッション
11. 演習、ディスカッション
12. 演習、ディスカッション
13. 演習、ディスカッション
14. 演習、ディスカッション

15. プレゼンテーション、ディスカッション

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

・執筆スケージュールの設定（120分）
・予備調査としての資料読解（600分）
・研究テーマの検討（300分）
・テーマに対する問いおよび研究方法の検討（120分）
・関連する先行研究や資料・データの収集（360分）
・資料の整理・分析（300分）
・分析結果の考察（300分）
・アウトラインの作成（300分）
・中間発表の準備（300分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	60 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	プレゼンテーション		40 **%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

①望ましい到達度（80～100点）
【授業へのとりくみ】
シラバスの計画通りに卒業研究を進め、主体的に取り組むことができる。
ディスカッションにて協働的かつ積極的に貢献できる。
【プレゼンテーション】
卒業論文の中間発表として、テーマ・研究方法・アウトライン・執筆スケジュールを明確に提示できる。
明確で質の高いスライドを作成し、高いレベルのプレゼンテーションができる。

②最低限の到達度（60～69点）
【授業へのとりくみ】
指示された最低限の内容はシラバスの計画通りに進めることができる。
ディスカッションにて、他者への質問や意見を発表できる。
【プレゼンテーション】
卒業論文の中間発表として、テーマ・研究方法・アウトライン・執筆スケジュールを提示できる。
指示された要件を満たすプレゼンテーションを行うことができる。

課題へのフィードバック：

・提出課題、グループディスカッション、プレゼンテーションに対して、授業時にフィードバックを行う。
・授業外の研究の進捗状況に関しては、Teamsで文書を共有してフィードバックを行う。

教科書： なし

参考書：

『思考の整理学』外山滋比古 著（ちくま文庫）
『日本語の作文技術』本多勝一 著（朝日文庫）
『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』戸田山和久 著 （NHKブックス）

授業・準備学習のアドバイス：

卒業論文の執筆は容易なことではありませんが、４年間の学びの集大成として、過去に学修し、習得してきた知識やスキルを活かしながら、納得のいく論文の完成を目指してもらいたいと思っています。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 児童教育学専門演習Ⅲ

クラス:

授業コード: DA05400016

担当者: 堤 康嘉 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 卒業論文作成に向けて研究課題の関連資料や文献を精読し、基礎となる理論について学ぶ。また、研究課題に応じて実験や調査を実施し、データを分析する。

到達目標:
1. 研究テーマの関連資料や文献、学術論文を精読し、その基礎理論と先行研究について整理する。
2. 卒業論文の骨子を作成する。

各回の授業計画:

1. 卒業論文作成の手順確認
2. 研究テーマの決定・確認
3. 研究目的の設定
4. 卒業論文の骨子作成
5. 先行研究の検討
6. 文献・資料の収集
7. 文献・資料の講読
8. 課題の整理
9. 中間発表・質疑応答①
10. 中間発表・質疑応答②
11. 中間発表・質疑応答③
12. 研究方法の確定
13. 調査手続きの確認
14. 調査(実験)の実施
15. データ分析

特記事項: なし

授業方法:
1. 講義(対面)
2. 講義(対面)
3. 講義(対面)
4. 講義と演習(対面)
5. 講義と演習(対面)
6. 演習(対面)
7. 演習(対面)
8. 演習(対面)
9. 発表と討議(対面)
10. 発表と討議(対面)
11. 発表と討議(対面)
12. 演習(対面)
13. 演習(対面)
14. 演習(対面)
15. 演習(対面)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

テキスト:白井利明・高橋一郎著「よくわかる卒論の書き方」ミネルヴァ書房(2013)
1章の講読(180分)
2章の講読(180分)
3章の講読(180分)
4章の講読(180分)

5章の講読（180分）
6章の講読（180分）
7章の講読（180分）
8章の講読（180分）
9章の講読（180分）

先行研究の検討（7200分）
発表資料の作成（360分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	50	**%**	**確認テスト：**	－	**%**	**レポート：**	50 **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準：

1. 授業へのとりくみ
①「メモをとる」「発言や質問をする」（60～69）
②「積極的に発言する」「問題意識をもって取り組む」（80～100）

2. レポート
①講義・演習で学んだことをもとに、指定文字数で自分の考えをまとめることができる（60～69）
②講義・演習で学んだことをもとに、論理的な思考で自分の考えをまとめることができる（80～100）

課題へのフィードバック：

発表については、授業時にコメントする。
課題レポートは講評を加えて返却する。

教科書： なし

参考書： 白井利明・高橋一郎著「よくわかる卒論の書き方」ミネルヴァ書房（2013）

授業・準備学習のアドバイス：

発表については、授業時にコメントする。
課題レポートは講評を加えて返却する

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 児童教育学専門演習Ⅲ

クラス:

授業コード: DA05400017

担当者: 岩濵 里江子 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 幼稚園教育実習に積極的に取り組み、今後の自身の保育感や社会人としての方向性について明確にしていくとともに、卒業論文に取り組む中で、自身の探究したいことに向けて調べたり、考えを巡らしたり、ゼミ仲間と積極的に意見を交わしたりして、考えや学びを深める。

到達目標: 1. 教育実習での経験や最終学年での授業における学びを通し、自身の保育感や社会人となるための方向性や目標等を明確にしていく。
2. 文献の読み方や論文の書き方などのスキルを実践的に身につけるとともに、卒業論文の構想を確定し、完成に向けた準備を進める。
3.ゼミ仲間など他者と積極的に意見を交わしたり、協働したりすることを通して、自身の考えや学びを深めていく。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション−ゼミ活動について−
2. 各自の卒業論文テーマ紹介とその構想の発表・討論① および、幼稚園教育実習の目的①
3. 各自の卒業論文テーマ紹介とその構想の発表・討論② および 幼稚園教育実習の目的②
4. 自分の研究に密接につながる研究論文の内容報告① および 幼稚園教育実習の目的 ③
5. 自分の研究に密接につながる研究論文の内容報②
6. 自分の研究に密接につながる研究論文の内容報告③
7. 自分の研究に密接につながる研究論文の内容報告④
8. 自分の研究に密接につながる研究論文の内容報告⑤
9. 自分の研究に密接につながる研究論文の内容報告⑥
10. 自分の研究に密接につながる研究論文の内容報告⑦
11. 自分の研究に密接につながる研究論文の内容報告⑧
12. 卒業論文構想 仮目次と概要アイデア作成と共有①
13. 卒業論文構想 仮目次と概要アイデア作成と共有②
14. 卒業論文構想 仮目次と概要アイデア作成と共有③
15. まとめ 研究内容のまとめと、今後の展望

特記事項: なし

授業方法: 学生の発表と討論を中心とした演習方式
すべての授業を対面授業で行う。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

各回授業レポート作成と授業後の修正・補足 180分×15
1. 児童教育学専門演習Ⅰ−Ⅱの資料整理
2. 卒業論文のテーマ・方向性(資料や内容など)についてまとめる 幼稚園教育実習の目的等や実習内容の構想等について資料を作成する
3. 卒業論文のテーマ・方向性(資料や内容など)についてまとめる 幼稚園教育実習の目的等や実習内容の構想等について資料を作成する
4. 卒業論文に密接に関係する文献・資料の内容を章ごと等でまとめ、発表資料を作成する 幼稚園教育実習の目的等や実習内容の構想等について資料を作成する
5. 卒業論文に密接に関係する文献・資料の内容を章ごと等でまとめ、発表資料を作成する
6. 卒業論文に密接に関係する文献・資料の内容を章ごと等でまとめ、発表資料を作成する
7. 卒業論文に密接に関係する文献・資料の内容を章ごと等でまとめ、発表資料を作成する
8. 卒業論文に密接に関係する文献・資料の内容を章ごと等でまとめ、発表資料を作成する
9. 卒業論文に密接に関係する文献・資料の内容を章ごと等でまとめ、発表資料を作成する
10. 卒業論文に密接に関係する文献・資料の内容を章ごと等でまとめ、発表資料を作成する
11. 卒業論文に密接に関係する文献・資料の内容を章ごと等でまとめ、発表資料を作成する
12. 卒業論文の内容と構成を考え、仮目次・仮概要を作成する
13. 卒業論文の内容と構成を考え、仮目次・仮概要を作成する
14. 卒業論文の内容と構成を考え、仮目次・仮概要を作成する
15. 春学期の内容の整理と夏休み・秋学期の取り組みの展望を考える。

評価方法：	授業へのとりくみ：	60 %	確認テスト：	－ %	レポート：	40 %
	その他1：			%		
	その他2：			%		

評価基準： 授業への取り組み（60%）
（望ましい到達度：80～100点）論旨の通った発表を行い、他からの質問に的確に答えることができる。そして、他の学生の発表の内容を理解し、建設的な質問・提案ができる。
（最低限の到達度：60～69点）論旨の通った発表を行い、他からの質問に的確に答えることができる。他の学生の発表を理解し、必要な質問ができる。

レポート（40%）
（望ましい到達度：80～100点）自分の選んだ課題に基づいて、複数の参考文献を読んだ上で、それらの論点を整理し、その上で新たな課題について提示できる。
（最低限の到達度：60～69点）自分の選んだ課題に基づいて、複数の参考文献を読み内容を要約すること。

課題へのフィードバック：
前時のレポートについて、ゼミで共有しコメントをする。
また、Teamsフィードバック欄も使用する。

教科書： 特定の教科書は使用しない。適宜、資料を紹介する。

参考書： 戸田山 和久2022『最新版 論文の教室-レポートから卒論まで』NHK出版
小熊 英二2022『基礎からわかる論文の書き方』講談社現代新書

授業・準備学習のアドバイス：
幼稚園教育実習が卒業後の社会人としての意思決定や生き方につながるように、この最終実習の臨み方についてゼミ生同士で話し合っていきます。
また、自身が探求したいことをしっかり調べ探求する卒業論文を作成できるように、自分でテーマを探す、
テーマに沿った資料・文献を探す、それらの資料・文献によってテーマを変更したりより深く考えたり、、。
そういう繰り返しで思考を深めていきます。ゼミ生同士で互いに影響を受け合い、自身の成長につなげましょう。

授業の内容は、状況を見ながら随時つくっていきますので、変更することがあります。ゼミやTeamsでお伝えします。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 児童教育学専門演習Ⅲ

クラス:

授業コード: DA05400019

担当者: 瀬戸山 悠 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 児童教育学専門演習Ⅰ・Ⅱを踏まえて、卒業論文のテーマに関連する先行研究（文献）の講読、整理に取り組み、レポートや小論文の作成を通して卒業論文の作成に向けて研究計画を設定し研究を進める。

到達目標:
1. 卒業論文のテーマと研究の方法を具体化し、課題を明確にすることができる。
2. 設定したテーマで研究を進めることの意義を説明することができる。
3. 卒業論文の作成に向けて、研究計画を具体的に設定することができる。
4. 設定した研究テーマについて、先行研究の概観や研究計画をまとめ、発表することができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 研究テーマの設定と研究構想の発表、討議①
3. 研究テーマの設定と研究構想の発表、討議②
4. 中間報告に向けた討議①
5. 中間報告に向けた討議②
6. 中間報告に向けた討議③
7. 中間報告に向けた討議④
8. 中間報告に向けた討議⑤
9. 中間報告に向けた討議⑥
10. 中間発表（中間まとめ）（研究テーマと研究計画、進捗状況を発表する）
11. 教育・保育に関する課題についての文献講読・討議①
12. 教育・保育に関する課題についての文献講読・討議②
13. 教育・保育に関する課題についての文献講読・討議③
14. 教育・保育に関する課題についての文献講読・討議④
15. まとめ（これまでの取り組みを整理し、レポートにまとめ発表）

特記事項: なし

授業方法: すべての授業を対面授業で行う。
第1回～第15回 演習

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

第1回（復習） 卒業論文作成のスケジュールをまとめる（180分）
第2回～第3回（予習） 研究テーマと研究構想をレポートにまとめる（各回180分）
第4回～第9回（予習） 中間発表に向けて研究構想をまとめる（各回180分）
第10回（予習） 中間発表レポートを作成する（180分）
第11回～第14回（予習） 教育・保育に関する課題について文献を購読し、レポートにまとめる（各回180分）
第15回（予習）これまでの取り組みを整理し、レポートにまとめる（180分）

評価方法:

授業へのとりくみ:	50 %	**確認テスト:**	－ %	**レポート:**	50 %
その他1:			%		
その他2:			%		

評価基準: 【最低限の到達度（60～69点）】
・発表 講読した文献の内容がまとめられている
【望ましい到達度（80～100点）】
・発表 講読した文献の内容がまとめられており、課題が整理され考察が加えられている。

課題へのフィードバック:

授業で講評する。

教科書: 随時、文献を紹介する

参考書: 適宜授業内で紹介する。

授業・準備学習のアドバイス:

各自の主体的な文献検索、情報収集、整理等の事前準備と積極的な発表、卒業論文作成に向けた取り組みが望まれる。
主体的に取り組み、積極的にコミュニケーションを図りながら研究活動を進める姿勢が望まれる。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 児童教育学専門演習Ⅲ

クラス:

授業コード: DA05400020

担当者: 塚本 久義 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 専門演習Ⅱを踏まえて、自らの課題を明確にし、関心事項を探求し、卒業論文を計画的に書き進める。そのために研究データの集積と分析を行い、先行研究、参考文献を読み進めるとともに、ゼミ内での討議を通して、自己の探究したいテーマについて深めていく。また、保育者としての知識や技能の習得、目指す保育像と自己への気付きを得る。

到達目標:
1. 自らの研究課題について、自身で考えを深め、まとめて発表したり、他者と討議をしたりすることができる。
2. 研究計画、研究方法、先行研究、参考文献について調べ、まとめて、卒業論文の作成を進める。
3. 保育・幼児教育の意義や幼児理解に基づく保育者の指導のあり方、自身が探究しているテーマについて、自らの考えを明確し、発表することができる。
4. 他者と共に学び合い、自身の考えを述べたり、他者の意見から自身の考えを新たにしたり、深めたりしながら、社会人になるための自身の気付きを深めていく。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
研究計画の作成 と 研究方法（アンケート内容）
2. 卒業論文 研究計画と研究方法 アンケートの実施に向けて および 先行研究の検討①
3. 卒業論文 研究計画と研究方法 アンケートの実施に向けて および 先行研究の検討②
4. 保育指導案作成と模擬保育① 幼児理解に基づく保育者の手立ての創出について
5. 保育指導案作成と模擬保育② 幼児理解に基づく保育者の手立て創出について
6. 保育実践、エピソードについて語り合う①
7. 保育実践、エピソードについて語り合う②
8. 保育実践、エピソードについて語り合う③
9. 卒業論文中間発表に向けてのプレゼンテーション作成
10. 卒業論文 中間発表と討論①
11. 卒業論文 中間発表と討論②
12. 卒業論文 中間発表と討論③
13. 卒業論文 テーマ・課題に即して引用文献、先行研究を整理する①
14. 卒業論文 テーマ・課題に即して引用文献、先行研究を整理する②
15. まとめ

特記事項: なし

授業方法: 講義
グループワーク
プレゼンテーション
発表
討議
保育見学
演習
以上 全て対面

予習・復習・宿題など（内容・時間）:
1.（宿題）春学期の計画書の作成 卒業論文作成に向けての計画の作成 研究方法の具体的な内容の作成（180分）
2.（予習）卒業論文作成に向けての先行研究、参考文献を調べる（180分）
3.（予習） 先行研究をまとめる保育指導案の作成と模擬保育の準備（180分）
4.（予習） 保育指導案の修正と模擬保育の準備（180分）
5.（復習） 保育指導案を修正する（180分）
6.（予習） 保育実践におけるエピソードを記述する（180分）

7.（復習）他者の発表と討議から学んだこと、気づいたこと、指導の修正案等を記述する（180分）
8.（予習）中間発表の流れ、プレゼンテーションの準備をする（180分）
9.（予習）中間発表に向けてのプレゼンテーションの準備をする（180分）
10.（予習）他者の発表をもとに自身の卒業論文の中間発表をブラッシュアップする（180分）
11.（予習）中間発表に向けてのプレゼンテーションを準備する（180分）
12.（復習）中間発表における他者の意見を受けて自身の卒業論文を修正、書き進める（180分）
13.（予習）まとめに向けての先行研究、参考文献を整理する（180分）
14.（復習）卒業論文作成の進捗状況の把握と今後に向けての課題、計画についてまとめる（180分）
15.（予習）秋学期に向けての課題、計画を作成する（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	50	**%**	**確認テスト：**	－	**%**	**レポート：**	50 **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準：

1. 授業への取り組み
ゼミの様々な活動に参加し、自分の意見を言ったり、他者の発表に対して意見を言えたり、他者と協調して活動できる（60～79点）
他者の意見を受け入れながら、自身の考えを深めたり、新たな考えを生み出したり、より良い解決方法をを試したり、自身で積極的に行動したりすることができる（80～100点）

2. 卒業研究への取り組み
研究データを収集、分析しながら、自身の考えをまとめ、論文を書き進めることができる（60～79点）
研究データと先行研究を比較したり、わかりやすく自身の考えをまとめてプレゼンテーションをして発表したりすることができる。他者の研究内容についても課題を的確に整理し、積極的に意見を言うことができる。自身の論文をより良いものにしようと書き進めることができる（80～100点）

課題へのフィードバック：

個々の卒業研究の取り組みについて、その都度、具体的にポイントを示してアドバイスを行う。提出物や発表については、その都度、ポイントや評価の観点について説明する。

教科書： 適宜指示する。

参考書： 適宜指示する。

授業・準備学習のアドバイス：

・卒業研究に向けて、具体的に研究を進めていきましょう。ゼミで学んだこと、他者から意見をもらったことをもとに自身の考えを深め、こまめに記述していきましょう。研究計画を立て、見通しを持って進めましょう。幼稚園教員や保育士、また、自身の夢の実現に向けて、最大限の努力を行いましょう。フィールドワークやボランティア活動、研修会の参加など、積極的に学びの機会を活用しましょう。それにより自身の考えを深めたり、幅を広げたりしましょう。
・新聞や文献の購読、プレゼンテーションの作成、発表に向けての準備については自信の持てる力を発揮して行いましょう。
・幼稚園教育実習における経験が、自身の課題や学びに結びつくよう、幼児理解や保育者像など、他者とどんどん討議していきましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 児童教育学専門演習Ⅲ

クラス:

授業コード: DA05400021

担当者: 廣岡 義之 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 児童教育学専門演習Ⅰ・Ⅱを踏まえて、卒業論文のテーマに関連する先行研究（文献）の講読、整理に取り組み、レポートや小論文の作成を通して卒業論文の作成に向けて研究計画を設定し研究を進める。

到達目標:
1. 卒業論文のテーマと研究の方法を具体化し、課題を明確にすることができる。
2. 設定したテーマで研究を進めることの意義を説明することができる。
3. 卒業論文の作成に向けて、研究計画を具体的に設定することができる。
4. 設定した研究テーマについて、先行研究の概観や研究計画をまとめ、発表することができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 研究テーマの設定と研究構想の発表、討議①
3. 研究テーマの設定と研究構想の発表、討議②
4. 中間報告に向けた討議①
5. 中間報告に向けた討議②
6. 中間報告に向けた討議③
7. 中間報告に向けた討議④
8. 中間報告に向けた討議⑤
9. 中間報告に向けた討議⑥
10. 中間発表（中間まとめ）（研究テーマと研究計画、進捗状況を発表する）
11. 教育・保育に関する課題についての文献講読・討議①
12. 教育・保育に関する課題についての文献講読・討議②
13. 教育・保育に関する課題についての文献講読・討議③
14. 教育・保育に関する課題についての文献講読・討議④
15. まとめ（これまでの取り組みを整理し、レポートにまとめ発表）

特記事項: なし

授業方法: すべての授業を対面授業で行う。
第1回～第15回 演習

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

第1回（復習） 卒業論文作成のスケジュールをまとめる（180分）
第2回～第3回（予習） 研究テーマと研究構想をレポートにまとめる（各回180分）
第4回～第9回（予習） 中間発表に向けて研究構想をまとめる（各回180分）
第10回（予習） 中間発表レポートを作成する（180分）
第11回～第14回（予習） 教育・保育に関する課題について文献を購読し、レポートにまとめる（各回180分）
第15回（予習）これまでの取り組みを整理し、レポートにまとめる（180分）

評価方法:

授業へのとりくみ:	50	**%**	**確認テスト:**	－	**%**	**レポート:**	50 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: 【最低限の到達度（60～69点）】
・発表 講読した文献の内容がまとめられている
【望ましい到達度（80～100点）】
・発表 講読した文献の内容がまとめられており、課題が整理され考察が加えられている。

課題へのフィードバック:

授業で講評する。

教科書: なし

参考書: 適宜授業内で紹介する。

授業・準備学習のアドバイス:

各自の主体的な文献検索、情報収集、整理等の事前準備と積極的な発表、卒業論文作成に向けた取り組みが望まれる。
主体的に取り組み、積極的にコミュニケーションを図りながら研究活動を進める姿勢が望まれる。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 児童教育学専門演習Ⅲ

クラス:

授業コード: DA05400022

担当者: 芝田 悦司 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 児童教育学専門演習Ⅰ・Ⅱをふまえ、各自の卒業論文テーマに関連したレポートや小論文を通して、卒業論文に向けた研究を深める。

到達目標:
1. 卒業論文のテーマと研究方法を具体化し、課題を明確にすることができる。
2. 卒業論文の作成に向けて、研究計画を具体的に設定することができる。
3. 各自の研究テーマについて、小論文をまとめ、中間発表することができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 各自の卒業論文の確定と論文構想の発表・討議①
3. 研究活動①
4. 研究活動②
5. 研究活動③
6. 卒業論文の中間報告に向けて討議をする①
7. 研究活動④
8. 研究活動⑤
9. 研究活動⑥
10. 卒業論文の中間報告に向けて討議をする②
11. 中間発表に向けた論文作成③
12. 中間発表に向けた論文作成④
13. 研究活動⑦
14. 中間発表①
15. 中間発表②

特記事項: なし

授業方法:
1. 演習（対面）
2. 演習（対面）
3. 活動
4. 活動
5. 活動
6. 演習（対面）
7. 活動
8. 活動
9. 活動
10. 演習（対面）
11. 活動
12. 活動
13. 活動
14. 演習（対面）
15. 演習（対面）

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

第1回～第2回（復習） 卒業論文作成のスケジュールをまとめる（180分）
第3回～第5回（活動） 研究活動のまとめ（各回 180分）
第6回（予習） 中間報告レポートを作成する。（180分）
第7回～第9回（活動） 研究活動のまとめ（各回 180分）

第10回（予習） 中間報告レポートを作成する。（180分）
第11～13回（活動） 研究活動のまとめ（各回 180分）
第14回～第15回（発表） これまでのレポートをまとめる。（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	50	**%**	**確認テスト：**	－	**%**	**レポート：**	50 **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準： 発表：活動してきたことを論文のテーマに沿ってまとめられている（80～100点）

課題へのフィードバック：

発表については、授業で講評する。

教科書： なし

参考書： 適宜必要に応じて紹介する。

授業・準備学習のアドバイス：

・卒業論文作成に向けて、自分のテーマに関連する先行研究・文献を読み込み、必要なデータを収集する。
・卒業論文の進捗状況について、毎回、各自報告を行い、主体的に卒業論文作成に取り組んでほしい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 児童教育学専門演習Ⅲ

クラス:

授業コード: DA05400023

担当者: 有道 俊雄 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 児童教育学専門演習Ⅰ，Ⅱにおける学びをさらに発展させ、教育と人間発達の課題（主に自然体験や理科教育、防災・減災教育、SDGs等）について深く学ぶ。
卒業研究を進め、必要に応じてフィールワーク等の調査を進める。

到達目標:
1. 教育と人間発達の課題、自然体験や理科学習、防災・減災学習、SDGs等の課題を知る。
2. 文献や論文・新聞を読み、その内容を仲間にわかりやすく報告するスキルを養う。
3. 報告・討議を通じて、実践課題や研究課題を明確にする協同的研究に取り組む。
4. 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。
5. 卒業研究の工程表を策定し、研究を本格的に行い、論文執筆を進める。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション①
前年度までの研究成果の報告、4年生の抱負の発表
卒業研究について（テーマ提示）

2. オリエンテーション②
卒業研究について（論文作成のための時間的流れの発表）

3. 卒業研究の準備①
先輩の卒業研究から学ぶ

4. 卒業研究の準備②
「はじめに」

5. 卒業研究の準備③
「研究の背景」

6. 卒業研究の準備④
「研究の目的」

7. 卒業研究の準備⑤
「研究方法」

8. 卒業研究・フィールドワーク準備①

9. 卒業研究・フィールドワーク準備②

10. 卒業研究・フィールドワーク準備③

11. 卒業論文中間発表会①

12. 卒業研究の進捗状況及び課題の整理①

13. 卒業研究の進捗状況及び課題の整理②

14. 卒業論文作成に向けての課題の整理

15. 春学期のまとめ
卒業論文中間発表会②の告知

特記事項: なし

授業方法: 原則として、全ての授業を対面で行います。
各回で次の方法を適宜行う。
・演習
・討論、討議
・発表（プレゼンテーション）

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 卒業研究・研究計画書の再考（180分）

2. 卒業研究・研究計画書の再考（180分）
3. 卒業研究・研究計画書のまとめ（180分）
4. 卒業研究準備（180分）
5. 卒業研究準備（180分）
6. 卒業研究準備（180分）
7. 卒業研究準備（180分）
8. 卒業研究資料収集・フィールドワーク準備（180分）
9. 卒業研究資料収集・フィールドワーク準備（180分）
10. 卒業研究資料収集・フィールドワーク準備（180分）
11. 卒業論文中間発表会・発表準備（180分）
12. 卒業研究の課題の整理（180分）
13. 卒業研究の課題の整理（180分）
14. 卒業研究の執筆（180分）
15. 卒業研究の執筆（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	50 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	50 **%**
その他1：			**%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

【最低限の到達度（60～69点）】
・授業へのとりくみ～ディスカッションに参加して、自分の考えや意見を述べることができている。
・レポート～ゼミで取り組む人間発達の課題に関する内容を概ね理解し、テーマに沿ったレポートを書くことができる。
【望ましい到達度（80～100点）】
・授業へのとりくみ～ディスカッションに積極的に参加し、自分の考えを発表するとともに、他の意見に対してもしっかりと意見を述べることができる。
・レポート～ゼミで取り組む人間発達の課題に関する内容を十分理解し、テーマに沿って、自分の考えを含めたレポートを書くことができる。

課題へのフィードバック：

Teamsでのフィードバックを行う。

教科書： なし

参考書： 雑誌「理科教室」、小学校理科教科書、学習指導要領等

授業・準備学習のアドバイス：

一人ひとりが自らの課題をもって、ゼミの全員が協力をして研究や実践活動に取り組むとともに、互いに報告・討論をしながら進めていく。
主体的、積極的、協力的な態度で授業、調査研究、レポート作成に取り組んでもらいたい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 児童教育学専門演習Ⅳ

クラス:

授業コード: DA05500001

担当者: 猪田 裕子 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 児童教育学専門演習Ⅲで培った研究基礎を基に、自らの課題を論述し、卒業論文として形にすることを目的とする。ゼミ内での討議を通じて、互いに研究を深め合い、課題や内容をさらに探究する姿勢を養う。卒業論文執筆の過程で、学術的な視点や論理的思考力を一層発展させることを目指す。

到達目標: 自ら設定した研究課題について、先行研究を踏まえた論述を展開できる。
ゼミ内での討議を通じて、他者の研究内容を理解し、自分の研究を客観的に見直す力を身につける。
論文執筆に必要な文献整理やデータ分析、構成技術を習得し、卒業論文を完成させる。
学術的な視点や論理的思考力を用いて、研究内容を他者にわかりやすく発表・説明できる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーションと卒業論文執筆計画の確認
卒業論文の執筆に向けたスケジュールと目標を確認する。
個々の研究課題の進捗状況を共有し、後期の進め方を明確化する。

2. 研究課題の再構築
自分の研究課題を再確認し、先行研究との関係性や独自性を整理する。
ゼミ内で課題について共有し、意見交換を行う。

3. 先行研究レビューの整理
先行研究の整理状況を共有し、論文執筆に必要な知識や視点を再確認する。
文献整理の方法や引用のルールについて再確認する。

4. 研究内容の見直しと具体化
自分の研究内容をゼミ内で共有し、改善点や課題を議論する。

5. 中間発表①(研究の現状と課題の共有)
各自の研究進捗状況を発表し、ゼミ生からのフィードバックを受ける。
課題解決に向けた方向性を具体的にする。

6. 論文構成の検討
論文の章立てや構成のあり方をゼミ内で共有する。
論理的な文章展開のポイントを学ぶ。

7. 論文執筆進捗の確認と課題共有
論文執筆の進捗状況を確認し、直面している課題をゼミ内で共有する。

8. 中間発表②(研究内容と議論の深化)
研究内容の進捗状況を発表し、議論を深める。

9. 論述の技術と推敲のポイント
学術論文の論述技術を学び、論理的な文章作成や推敲のポイントを確認する。
各自の執筆状況を共有し、課題を整理する。

10. 仮完成稿の共有と討議
仮完成稿をゼミ内で共有し、全体の構成や内容に関するフィードバックを受ける。
他者の意見を参考にして、最終的な修正点を明確にする。

11. 最終発表準備
卒業論文の要旨や結論をゼミ内で確認し、発表内容を準備する。
プレゼンテーションスキルや要点の伝え方について学ぶ。

12. 最終発表(論文の要旨と結論)
各自の論文の要旨と結論を発表し、フィードバックを受ける。
完成に向けた最終修正点を明確にする。

13. 卒業論文の発表準備
完成した卒業論文をもとに、発表用資料やプレゼンテーション内容を準備する。
発表の流れや要点を整理し、論文の核心を効果的に伝える方法を検討する。

14. ゼミ内卒業論文発表
完成した卒業論文を基に、論理的かつ説得力のある発表を行う。
質疑応答を通じて、自分の研究を多角的に捉え、他者の意見を学びに活かす。

発表会を振り返り、自分の研究の成果や課題を整理する。

15. まとめと振り返り
卒業論文執筆を通じた学びを振り返り、成果と課題を共有する。

特記事項: なし

授業方法: 【対面】
パソコンを及び情報機器を使用した演習
発表と討論
講義
グループワーク
プレゼンテーション

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 各自で論文の構造を確認する(180分)
2. 各自で論文の構造を確認する(180分)
3. 各自で論文の構成を考える(180分)
4. 各自で論文の構成を考える(180分)
5. 各自で論文の構成を考える(180分)
6. 各自で論文の内容を深める(180分)
7. 各自で論文の内容を深める(180分)
8. 各自で論文の内容を深める(180分)
9. 各自で論文の内容を深める(180分)
10. 各自で論文の内容を深める(180分)
11. 各自で論文の内容を深める(180分)
12. 各自で参考文献の整理をする(180分)
13. 各自で参考文献の整理をする(180分)
14. 各自で論文の全体像の確認を行う(180分)
15. 各自で論文の全体像の確認を行う(180分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	70	**%**	**確認テスト:**	−	**%**	**レポート:**	30 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: ・積極的に発表や討論に参加している(70-79)
・論文執筆に取り組む姿勢(70-79)
・理論的に論文を構成し述べることが出来ている(80-100)
・自らの課題を明確にし、今後の展望との整合性が取れている(80-100)

課題へのフィードバック:

適宜、助言を行い執筆への道筋を示していく

教科書: なし

参考書: 令和5年度最新版 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞ ISBN 978-4-8054-0330-3 チャイルド社

適宜、資料を配布する

授業・準備学習のアドバイス:

ゼミでの発表や議論を通し、自らの考えを客観的に捉え、より発展させることができるよう、日々の積み重ねを大切にしてほしい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 児童教育学専門演習Ⅳ

クラス:

授業コード: DA05500002

担当者: 中尾 尊洋 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 児童教育学専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを踏まえて卒業論文を完成させ，理論と実践の往還に対する理解を図る。

到達目標:
1. 研究計画に基づいて，卒業研究の活動を進めることができる。
2. 卒業研究を論文にまとめ，発表することができる。

各回の授業計画:

1. 研究過程の発表①
2. 研究過程の発表②
3. 研究活動についての個別指導・ディスカッション①
4. 研究活動についての個別指導・ディスカッション②
5. 研究活動についての個別指導・ディスカッション③
6. 中間発表会
7. 論文完成に向けての個別指導・ディスカッション①
8. 論文完成に向けての個別指導・ディスカッション②
9. 論文完成に向けての個別指導・ディスカッション③
10. 論文完成に向けての個別指導・ディスカッション④
11. 論文完成に向けての個別指導・ディスカッション⑤
12. 研究発表会へ向けての合同討議および個別指導①
13. 研究発表会へ向けての合同討議および個別指導②
14. 研究発表会①
15. 研究発表会②

特記事項: なし

授業方法: 発表・ディスカッションおよび個別指導
①～⑮ 講義（対面）

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 発表の内容について準備する（180分）
2. 発表の内容について準備する（180分）
3. 個別指導で指摘された内容について検討し，研究を遂行する（180分）
4. 個別指導で指摘された内容について検討し，研究を遂行する（180分）
5. 中間発表の内容について準備する（180分）
6. 中間発表で指摘された内容について検討し，研究を遂行する（180分）
7. 個別指導で指摘された内容について検討し，研究を遂行する（180分）
8. 個別指導で指摘された内容について検討し，研究を遂行する（180分）
9. 個別指導で指摘された内容について検討し，研究を遂行する（180分）
10. 個別指導で指摘された内容について検討し，研究を遂行する（180分）
11. 個別指導で指摘された内容について検討し，研究を遂行する（180分）
12. 合同討議の準備をする（180分）
13. 合同討議の内容を復習し，発表会に向けてまとめる（180分）
14. 研究発表会の準備をする（180分）
15. 研究発表会の内容についてまとめ，これまでの研究成果についてまとめる（180分）

評価方法: **授業へのとりくみ:** 50 **%** **確認テスト:** － **%** **レポート:** 50 **%**

その他1： **%**

その他2： **%**

評価基準： 優（80～100）

・自らの研究テーマに沿って，十分な文献を収集して読解・要約し，多様な文献を論理的に関連づけながら批判的な分析を加えて論理的に意見を構築することができる。
・指定されたフォーマットを守って資料や論文を作成することができる。
・論理的に構成され，明確な文章を用いてレポート，論文を書くことができる。
・要点が簡潔かつ明瞭に伝わるプレゼンテーションをすることができる。
・他者の研究内容を批判的に検討して適切なフィードバックを返すことができる。
・ディスカッションやゼミの行事でリーダーシップを発揮して，積極的に参加して貢献できる。

良（70～79）

・自らの研究テーマに沿って，十分な文献を収集して読解・要約し，多様な文献を論理的に関連づけて論理的に意見を構築することができる。
・指定されたフォーマットを概ね守って資料や論文を作成することができる。
・論理的に構成されたレポート，論文を書くことができる。
・要点が伝わるプレゼンテーションをすることができる。
・他者の研究内容に対して適切なフィードバックを返すことができる。
・ディスカッションやゼミの行事に，積極的に参加して貢献できる。

可（60～69）

・自らの研究テーマに沿って，文献を収集して読解し，意見を構築することができる。
・指定されたフォーマットを意識して資料や論文を作成することができる。
・研究内容をプレゼンテーションをすることができる。
・他者の研究内容に対してフィードバックを返すことができる。
・ディスカッションやゼミの行事に，積極的に参加して貢献できる。

課題へのフィードバック：

授業内で個別にフィードバックする。

教科書： 授業内に適宜資料を配布する。

参考書： 授業内に適宜資料を配布する。

授業・準備学習のアドバイス：

自分が研究している専門用語については事前に意味等を把握しておく。
論文作成に関しては，関連する先行研究の論文に目を通す。
研究内容が適切に伝わるように，文章を検討する。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 児童教育学専門演習Ⅳ

クラス:

授業コード: DA05500003

担当者: 森 眞理 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: これまでの専門演習Ⅰ〜Ⅲで学んだことを土台に、演習生一人ひとりの研究を深め、卒業論文を完成する。加えて、卒業後における進路に向けた明確な意識と準備を養う。

到達目標:
1. 調査・研究成果を論文に反映し、卒業論文を完成する。
2. 演習生間の相互理解・互恵関係を深める。
3. 卒業後の進路に向けた知識・スキル・姿勢について明確な意識を持ち、心身整える。
4. 本学の研究倫理基準を確認し、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解を深め、研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション:振り返りと展望
2. 卒業論文に向けた研究報告と討議 ①
3. 卒業論文に向けた研究報告と討議 ②
4. 卒業論文に向けた研究報告と討議 ③
5. 卒業論文に向けた研究報告と討議 ④
6. ゲストスピーカーとの学び合い
7. 卒業論文の意味と意義の話し合い ①
8. 卒業論文の意味と意義の話し合い ②
9. 論文構成の確認と調整:文献を中心に
10. 論文構成の確認と調整:要旨を中心に
11. ゼミ内研究成果発表とフィードバック ①
12. ゼミ内研究成果発表とフィードバック ②
13. ゼミ内研究成果発表とフィードバック ③
14. 卒業論文発表会への準備と心構え
15. 振り返りと展望

特記事項: なし

授業方法:
1. 講義・ディスカッション(対面)
2. 発表・ディスカッション(対面)
3. 発表・ディスカッション(対面)
4. 発表・ディスカッション(対面)
5. 発表・ディスカッション(対面)
6. 講義・ディスカッション(対面)
7. グループワーク(対面)
8. グループワーク(対面)
9. 講義・ディスカッション(対面)
10. 講義・ディスカッション(対面)
11. 発表・ディスカッション(対面)
12. 発表・ディスカッション(対面)
13. 発表・ディスカッション(対面)
14. 講義・ディスカッション(対面)
15. 講義・ディスカッション(対面)

上記に加え、個別指導有

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 予:ディスカッション資料のまとめ(90分)、復:ゼミ内容のまとめ(90分)

2. 予：論文内容を整理し報告に備える（180分）、復：論文内容を深める（120分）
3. 予：論文内容を整理し報告に備える（180分）、復：論文内容を深める（120分）
4. 予：論文内容を整理し報告に備える（180分）、復：論文内容を深める（120分）
5. 予：論文内容を整理し報告に備える（180分）、復：論文内容を深める（120分）
6. 予：資料を読む（120分）、復：自己の研究との関係性を考察する（120分）
7. 予：問題提起を考える（120分）、復：論文内容を深める（180分）
8. 予：問題提起を考える（120分）、復：論文内容を深める（180分）
9. 予：問題提起を考える（120分）、復：論文内容を深める（180分
10. 予：問題提起を考える（120分）、復：論文内容を深める（180分
11. 予：発表に向けた準備を行う（180分）、復：論文内容を深める（120分）
12. 予：発表に向けた準備を行う（180分）、復：論文内容を深める（120分）
13. 予：発表に向けた準備を行う（180分）、復：論文内容を深める（120分）
14. 予：発表への準備（180分）、復：省察する（120分）
15. 予：ディスカッション内容を深める（120分）、復：今後の課題と展望を考察する（120分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	60	**%**	**確認テスト：**	－	**%**	**レポート：**	40 **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準：
・当事者意識を持ってゼミに出席・参加・発表する（60～69）
・演習生と協調的に意見を交わし、仲間の論文に貢献する（80～100）
・論文作成の倫理を守り、執筆する（70～79）
・自らの課題に問題意識を持ち、さらなる発展を見据える（80～100）

課題へのフィードバック：
・適宜、助言・フィードバックを行い、論文構成へと支援する。
・一人ひとりの研究主題に即した文献、フィールドの紹介及び助言を行う。

教科書： ゼミのなかで話し合い決定する。

参考書： 随時、紹介する。

授業・準備学習のアドバイス：
・学べる喜びと幸せをかみしめて、毎回のゼミに出席・参加しましょう。
・論文作成が人生における研究の最終到着点ではなく、歩み続けられるように・好奇心・探究心を抱き続けましょう。
・一人ひとりがゼミを構成する参加者・貢献者としての心持ちで互いに研鑽しましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 児童教育学専門演習Ⅳ

クラス:

授業コード: DA05500004

担当者: 須増 啓之 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 「児童教育学専門演習Ⅰ・Ⅱ」など学んできたことを用いながら自らの視点や課題意識をもって、アートを通した教育の可能性について研究します。具体的には感性や創造力を働かせて学ぶ子供たちへの教育や社会に生かすことができるように理論(先行研究や文献・資料の収集、整理などを行う)と実践(ワークショップ開発など)を行き来しながら、グループや個人でテーマを考え、アートワークショップを企画・実践し、省察したことなどを卒業研究(研究ノートもしくは論文)としてまとめます。その他、ホームページやSNS、ポートフォリオの作成などを通して、学んだことを他者に伝えることのできる力を養います。

到達目標:
1. 各自が興味関心をもった美術教育の内容や課題、興味のあるアートなどについて、先行研究や資料・データの収集、整理、レジュメの作成、討論等に取り組むとともにワークショップ題材開発、制作などを通して、これまで学んできたことを用いながら、自らの視点でワークショップを企画・実践・省察したことを研究成果としてまとめている。
2. 美術教育実践への関わりや美術に関わるイベントや研究会への参加を通して、美術教育や美術教育研究に関する現状や事象について、自らの課題や問題意識と関連づけることができる。
3. 授業での学びや活動についてホームページやSNS、ポートフォリオなどに視覚的にまとめ、自らの言葉を用いて他者に伝えることができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション、及び卒業研究(ワークショップの企画・実施と研究ノート、もしくは論文)の検討会
2. 卒業研究(ワークショップの企画・実施と研究ノート、もしくは論文)に取り組む①
3. 卒業研究(ワークショップの企画・実施と研究ノート、もしくは論文)に取り組む②
4. 卒業研究(ワークショップの企画・実施と研究ノート、もしくは論文)に取り組む③
5. 卒業研究(ワークショップの企画・実施と研究ノート、もしくは論文)に取り組む④
6. 卒業研究(ワークショップの企画・実施と研究ノート、もしくは論文)に取り組む⑤
7. 卒業研究(ワークショップ)に向けての計画と準備
※卒業研究(ワークショップ)の時期は学生の進捗状況によって変更する場合もある。
8. 業研究(ワークショップ)の実施①
※卒業研究(ワークショップ)の時期は学生の進捗状況によって変更する場合もある。
9. 卒業研究(ワークショップ)の実施②
※卒業研究(ワークショップ)の時期は学生の進捗状況によって変更する場合もある。
10. 卒業研究(研究ノート、もしくは論文)に取り組む⑥
11. 卒業研究(研究ノート、もしくは論文)に取り組む⑦
12. 卒業研究最終発表会①～プレゼンデータや資料の作成などの準備～
13. 卒業研究最終発表会②～プレゼンデータや資料の作成などの準備～
14. 卒業研究最終発表会③～発表と講評～
15. 卒業研究最終発表会④～発表と講評、まとめ～

特記事項: ※授業時間外に地域イベントの準備や参加があります。できるだけ参加するようにしてください。

授業方法: 【すべての授業を対面で行う】
第1回:演習、発表
第2回:演習
第3回:演習
第4回:演習
第5回:演習
第6回:演習
第7回:演習
第8回:ワークショップの実施
第9回:ワークショップの実施
第10回:演習

第11回：演習
第12回：パソコンを使用した演習
第13回：パソコンを使用した演習
第14回：プレゼンテーション発表
第15回：プレゼンテーション発表

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

第1回：卒業研究の構想、資料の準備（180分）
第2回：ワークショップの準備と研究ノートもしくは論文執筆（180分）
第3回：ワークショップの準備と研究ノートもしくは論文執筆（180分）
第4回：ワークショップの準備と研究ノートもしくは論文執筆（180分）
第5回：ワークショップの準備と研究ノートもしくは論文執筆（180分）
第6回：ワークショップの準備と研究ノートもしくは論文執筆（180分）
第7回：ワークショップの準備、ポスター・資料作成など（180分）
第8回：ワークショップの準備、ポスター・資料作成など（180分）
第9回：ワークショップの準備、ポスター・資料作成など（180分）
第10回：研究ノートもしくは論文執筆（180分）
第11回：研究ノートもしくは論文執筆（180分）
第12回：発表資料などの準備（180分）
第13回：発表資料などの準備（180分）
第14回：発表準備とまとめ（180分）
第15回：発表準備とまとめ（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	60	**%**	**確認テスト：**	－	**%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	ホームページやポートフォリオ、資料等の作成など	40	**%**				
その他2：			**%**				

評価基準：

【卒業研究へのとりくみ（制作・発表など含む）】について
・興味をもったテーマについて、自らの視点や課題意識をもちながら、卒業研究（ワークショップの企画・実施、研究ノートや卒業論文）に取り組んでいる。（60～69）
・興味をもったテーマについて、先行研究や文献などを十分に調べ、自らの視点や課題意識を明確にし、計画的に卒業研究（ワークショップの企画・実施、研究ノートや卒業論文）に取り組んでいる。（80～100）
※活動については、失敗を恐れず、自分なりの課題意識を持って研究や卒業研究（ワークショップの企画・実施、研究ノートや卒業論文）にチャレンジすること、美術教育関係のイベントなどの取り組みに参加することなどが評価規準となる。
【ホームページやポートフォリオ、資料の作成など】について
・写真やイラストなどを使用して活動の記録や資料を視覚的にまとめている。（60～69）
・写真やイラストなどを使用した活動の記録や資料を自分なりの工夫を加え、伝えることを意識して視覚的にわかりやすくまとめている。（80～100）

課題へのフィードバック：

・卒業研究（ワークショップ、研究ノート及び卒業論文）への取り組みについては、授業中でのフィードバックやプレゼン発表において、まとめて講評する。
・提出されたポートフォリオや発表資料については、ルーブリックにコメントを記入するなどしてフィードバックを行う。

教科書： なし。授業中に、適宜、指示または資料を配布する。

参考書：

【ワークショップ関係】
・山内祐平・森玲奈・安斎勇樹『ワークショップデザイン論［第2版］』慶応義塾大学出版会
・高橋陽一編『造形ワークショップの広がり』武蔵野美術大学出版局
・今井良朗『ワークショップのはなしをしよう 芸術文化がつくる地域社会』武蔵野美術大学出版局
・美馬ゆかり・山内祐平『「未来の学び」をデザインする（新版） 空間・活動・共同体』東京大学出版会
【美術教育関係】
・松岡宏明『子供に子供の美術を』三元社
・松岡宏明『子供の世界 子供の造形』三元社
・大橋功他編著『美術教育概論（新訂版）』日本文教出版
その他、授業中に指示する。

授業・準備学習のアドバイス：

【履修上の留意点】について
・4年間の総まとめです。自分の興味のあるテーマに基づいた卒業研究（ワークショップ）を遂行しましょう。
・興味、関心をもつ分野のワークショップ題材研究と研究ノート、もしくは論文に自らの視点をもって取り組み、着実な歩みを示しましょう。保育所、幼稚　園、小学校などのボランティアに積極的に関わったり、美術関係のイベントや・美術教育の研究会への参加、美術館での美術作品鑑賞などを通して自分なりのテーマや課題を探してください。
・授業はワークショップ準備と進展状況やワークショップの企画、実施、検討が中心となるので、時間をかけて準備活動に取り組むこと。

【ポートフォリオ】について
・「演習Ⅲ」「演習Ⅳ」においてもポートフォリオを作成します。ファイルなどは「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」と共通のものを配布します。毎回持参し、卒業研究の資料や活動、学びについてまとめていくようにしてください。なお、ポートフォリオは第15回終了時に提出すること。
【パソコンの使用】について
・「演習Ⅲ」「演習Ⅳ」では、ホームページやプレゼンテーション資料、研究ノートなどの作成のため、パソコンを授業中に使用しますので、各自必ず準備すること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 児童教育学専門演習Ⅳ

クラス:

授業コード: DA05500005

担当者: 臼井 真　　**単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 保育園・幼稚園・認定こども園の保育や小学校の音楽教育において、実践力のある優れた教員を養成するとともに、豊かな表現力を養うための基礎的なスキルの修得を目標としています。各自が専攻する実技(声楽・ピアノ・電子オルガン・管弦楽器・マリンバ等)を選択し、卒業研究の発表を目指します。

到達目標: 1. 11月末に行われる音楽ゼミ定期演奏会において、卒業研究(演奏)を発表する。
2. 卒業研究(論文)を作成する。
3. 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

1. 卒業研究(演奏)・卒業研究(論文)のための個人指導①
2. 卒業研究(演奏)・卒業研究(論文)のための個人指導②
3. 卒業研究(演奏)・卒業研究(論文)のための個人指導③
4. 卒業研究(演奏)・卒業研究(論文)のための個人指導④
5. 卒業研究(演奏)・卒業研究(論文)のための個人指導⑤
6. 卒業研究(演奏)・卒業研究(論文)のための個人指導⑥
7. 卒業研究(演奏)・卒業研究(論文)のための個人指導⑦
8. 卒業研究(演奏)・卒業研究(論文)のための個人指導⑧
9. 卒業研究(演奏)・卒業研究(論文)のための個人指導⑨
10. 卒業研究(演奏)
・音楽室リハーサル
11. 卒業研究(演奏)
・学生会館記念講堂リハーサル
12. 第50回音楽ゼミ定期演奏会について
・アナウンス原稿・進行表作成
・プログラム・プログラム解説作成
13. 卒業論文について
・卒業論文作成、提出
14. 卒業研究(演奏・論文)
・振り返り
15. 児童教育学専門演習Ⅲ・Ⅳまとめ
・ゼミにおける2年間の振り返り
・卒業後の抱負

特記事項: なし

授業方法: 実技個人レッスン、及び卒業研究論文個人指導
①～⑮講義 (対面)
1. 講義、実技
2. 講義、実技
3. 講義、実技
4. 講義、実技
5. 講義、実技
6. 講義、実技
7. 講義、実技
8. 講義、実技
9. 講義、実技

10. 講義、実技
11. 講義、実技
12. 講義、実技
13. 講義、 実技
14. 講義、実技
15. まとめ

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. 予習：卒業発表曲研究（120分）
2. 予習：卒業発表曲研究（120分）
3. 予習：卒業発表曲研究（120分）
4. 予習：卒業発表曲研究（120分）
5. 予習：卒業発表曲研究（120分）
6. 予習：卒業発表曲研究（120分）
7. 予習：卒業発表曲研究（120分）
8. 予習：卒業発表曲研究（120分）
9. 予習：卒業発表曲研究（120分）
10. 課題：アナウンス原稿・進行表（120分）
11. 課題：プログラム・プログラム解説作成（300分）
12. 予習：卒業研究演奏発表（300分）
13. 予習：卒業研究演奏発表（300分）
14. 予習：卒業研究演奏発表（300分）
15. レポート：卒業研究発表を終えて（300分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	45	**%**	**確認テスト：**	40	**%**	**レポート：**	15 **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準： 最低限の到達度：60~69点
・卒業研究発表曲の楽曲を理解し、演奏表現できる。
望ましい到達度：80点以上
・卒業研究発表曲の楽曲を分析し理解する。音楽性豊かに演奏表現できる。

課題へのフィードバック：

・個人レッスンにより課題の解決に向けて個人指導する。
・質問に対してはその都度回答・説明する。内容によっては全体で共有する。
・個人面談により、音楽発表の評価を伝え、今後の課題について指導する。

教科書： 卒業論文については、音楽教育、幼児音楽リズムに関する著書、および論文の先行研究を参考とする。また、卒業演奏については、プロの演奏家による演奏を参考とする。

参考書： 適宜指示する。

授業・準備学習のアドバイス：

「授業への取り組み」
音楽実技による自己表現力を磨くために、欠席することなく積極的に授業に取り組むこと。

卒業研究（演奏）は選曲が大事です。日頃より様々なジャンルの曲を数多く鑑賞し、選曲するセンスを磨いて下さい。
また、卒業研究（演奏）だけでなく、卒業研究（論文）にも取り組みます。事前に計画を立ててしっかり準備をして下さい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 児童教育学専門演習Ⅳ

クラス:

授業コード: DA05500006

担当者: 田中 聡 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 保育園・幼稚園・認定こども園の保育や小学校の音楽教育において、実践力のある優れた教員を養成するとともに、豊かな表現力を養うための基礎的なスキルの修得を目標としています。各自が専攻する実技(声楽・ピアノ・電子オルガン・管弦楽器・マリンバ等)を選択し、卒業研究の発表を目指します。

到達目標: 1. 11月末に行われる音楽ゼミ定期演奏会において、卒業研究(演奏)を発表する。
2. 卒業研究(論文)を作成する。
3. 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

1. 卒業研究(演奏)・卒業研究(論文)のための個人指導①
2. 卒業研究(演奏)・卒業研究(論文)のための個人指導②
3. 卒業研究(演奏)・卒業研究(論文)のための個人指導③
4. 卒業研究(演奏)・卒業研究(論文)のための個人指導④
5. 卒業研究(演奏)・卒業研究(論文)のための個人指導⑤
6. 卒業研究(演奏)・卒業研究(論文)のための個人指導⑥
7. 卒業研究(演奏)・卒業研究(論文)のための個人指導⑦
8. 卒業研究(演奏)・卒業研究(論文)のための個人指導⑧
9. 卒業研究(演奏)・卒業研究(論文)のための個人指導⑨
10. 卒業研究(演奏)
・音楽室リハーサル
11. 卒業研究(演奏)
・学生会館記念講堂リハーサル
12. 第50回音楽ゼミ定期演奏会について
・アナウンス原稿・進行表作成
・プログラム・プログラム解説作成
13. 卒業論文について
・卒業論文作成、提出
14. 卒業研究(演奏・論文)
・振り返り
15. 児童教育学専門演習Ⅲ・Ⅳまとめ
・ゼミにおける2年間の振り返り
・卒業後の抱負

特記事項: なし

授業方法: 実技個人レッスン、及び卒業研究論文個人指導
①～⑮講義 (対面)
1. 講義、実技
2. 講義、実技
3. 講義、実技
4. 講義、実技
5. 講義、実技
6. 講義、実技
7. 講義、実技
8. 講義、実技
9. 講義、実技

10. 講義、実技
11. 講義、実技
12. 講義、実技
13. 講義、 実技
14. 講義、実技
15. まとめ

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 予習:卒業発表曲研究（120分）
2. 予習:卒業発表曲研究（120分）
3. 予習:卒業発表曲研究（120分）
4. 予習:卒業発表曲研究（120分）
5. 予習:卒業発表曲研究（120分）
6. 予習:卒業発表曲研究（120分）
7. 予習:卒業発表曲研究（120分）
8. 予習:卒業発表曲研究（120分）
9. 予習:卒業発表曲研究（120分）
10. 課題:アナウンス原稿・進行表（120分）
11. 課題:プログラム・プログラム解説作成（300分）
12. 予習:卒業研究演奏発表（300分）
13. 予習:卒業研究演奏発表（300分）
14. 予習:卒業研究演奏発表（300分）
15. レポート:卒業研究発表を終えて（300分）

評価方法:

授業へのとりくみ:	45 **%**	**確認テスト:**	40 **%**	**レポート:**	15 **%**
その他1:			**%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 最低限の到達度:60~69点
・卒業研究発表曲の楽曲を理解し、演奏表現できる。
望ましい到達度:80点以上
・卒業研究発表曲の楽曲を分析し理解する。音楽性豊かに演奏表現できる。

課題へのフィードバック:

・個人レッスンにより課題の解決に向けて個人指導する。
・質問に対してはその都度回答・説明する。内容によっては全体で共有する。
・個人面談により、音楽発表の評価を伝え、今後の課題について指導する。

教科書: 卒業論文については、音楽教育、幼児音楽リズムに関する著書、および論文の先行研究を参考とする。また、卒業演奏については、プロの演奏家による演奏を参考とする。

参考書: 適宜指示する。

授業・準備学習のアドバイス:

「授業への取り組み」
音楽実技による自己表現力を磨くために、欠席することなく積極的に授業に取り組むこと。

卒業研究（演奏）は選曲が大事です。日頃より様々なジャンルの曲を数多く鑑賞し、選曲するセンスを磨いて下さい。
また、卒業研究（演奏）だけでなく、卒業研究（論文）にも取り組みます。事前に計画を立ててしっかり準備をして下さい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 児童教育学専門演習Ⅳ

クラス:

授業コード: DA05500007

担当者: 佐藤 智恵 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲをふまえ、卒業論文を作成、完成し発表する。また卒論作成を通して、社会に出る上で必要な知識や常識などを身につける。

到達目標:
1. 卒業研究を完成する
2. 社会人となる準備を行う

各回の授業計画:

1. 卒論(夏休みの取り組み)の成果発表会①
2. 卒論(夏休みの取り組み)の成果発表会②
3. 卒論成果発表会の発表を基に討議を行い、本論を修正する①
4. 卒論成果発表会の発表を基に討議を行い、本論を修正する②
5. 卒論データ分析①
6. 卒論データ分析②
7. 卒論データ分析③
8. 卒論データ分析④
9. 卒論データ分析④
10. 考察を深める①
11. 考察を深める②
12. 考察を深める③
13. 卒論発表会に向けて
14. 卒業論文発表会①
15. 卒業論文発表会②

特記事項: なし

授業方法: すべての授業を対面で行う

1. 発表と討議
2. 発表と討議
3. 発表と討議
4. 発表と討議
5. 演習
6. 演習
7. 演習
8. 演習
9. 演習
10. 演習
11. 演習
12. 演習
13. 講義
14. 発表
15. 発表

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1.(予習)成果発表のレジュメ作成(180分)
2.(予習)成果発表のレジュメ作成(180分)
3.(復習)発表よりレジュメを再考する(180分)

4.(予習)発表よりレジュメを再考する(180分)
5.(復習)データの分析を行う(180分)
6.(復習)データの分析を行う(180分)
7.(復習)データの分析を行う(180分)
8.(復習)データの分析を行う(180分)
9.(復習)データの分析を行う(180分)
10.(復習)考察を深める(180分)
11.(復習)考察を深める(180分)
12.(復習)考察を深める(180分)
13(復習)発表資料を作成する(180分)
14.(予習)発表資料を作成する(180分)
15.(予習)発表資料を作成する(180分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	50 **%**	**確認テスト:**	− **%**	**レポート:**	− **%**		
その他1:	卒論発表会(作成資料)	25 **%**					
その他2:	卒論発表会(プレゼンテーション)	25 **%**					

評価基準:

1. 授業への取り組み
・色々なゼミ活動に参加し、協調的に活動できる(60～69点)
・色々なゼミ活動に積極的に参加し、自分の意見を言ったり、協調的に活動できる(70～79点)
・色々な活動に積極的に参加し、他者の意見を受け入れながら、解決方法や対応を自分なりに考えることができる(80～100点)

2. 卒業論文の取り組み
・データを基に考察を行い、卒業論文を完成させる(60～69点)
・校正作業を行い、根拠に基づいた考察を行い卒業論文を完成させる(70～79点)
・複数回の校正作業を繰り返す中で、深い考察を行い卒業論文を完成させる(80～100点)

課題へのフィードバック:

課題については必要に応じて添削・評価し、返却を行う。

教科書: なし

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

卒業論文については、演習Ⅳの時間だけでなく、空き時間にも教員の指導を受けるなど積極的に取り組み、深く考察が行えるような気付きを得られるようにしましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 児童教育学専門演習Ⅳ

クラス:

授業コード: DA05500008

担当者: 福井 逸子 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲをふまえ、卒業論文を作成、完成し発表する。また卒論作成を通して、社会に出る上で必要な知識や常識などを身につける。

到達目標:
1. 卒業研究を完成する
2. 社会人となる準備を行う

各回の授業計画:

1. 卒論中間発表①
2. 卒論中間発表②
3. 卒論中間発表③
4. 卒論中間発表④
5. 卒論データ分析①
6. 卒論データ分析②
7. 卒論データ分析③
8. 卒論データ分析④
9. 卒論データ分析④
10. 考察を深める①
11. 考察を深める②
12. 考察を深める③
13. 卒論口頭試問に向けて
14. 卒業論文発表会①
15. 卒業論文発表会②

特記事項: なし

授業方法: すべての授業を対面で行う

1. 発表と討議
2. 発表と討議
3. 発表と討議
4. 発表と討議
5. 演習
6. 演習
7. 演習
8. 演習
9. 演習
10. 演習
11. 演習
12. 演習
13. 講義
14. 発表
15. 発表

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1.(予習)中間発表レジュメ作成(180分)
2.(予習)中間発表レジュメ作成(180分)
3.(予習)中間発表レジュメ作成(180分)

4.(予習)中間発表レジュメ作成(180分)
5.(復習)データの分析を行う(180分)
6.(復習)データの分析を行う(180分)
7.(復習)データの分析を行う(180分)
8.(復習)データの分析を行う(180分)
9.(復習)データの分析を行う(180分)
10.(復習)考察を深める(180分)
11.(復習)考察を深める(180分)
12.(復習)考察を深める(180分)
13(復習)発表資料を作成する(180分)
14.(予習)発表資料を作成する(180分)
15.(予習)発表資料を作成する(180分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	− **%**	**レポート:**	− **%**
その他1:	①卒業論文 口頭試問の資料作成	40 **%**			
その他2:	プレゼンテーション	30 **%**			

評価基準:

1. 授業への取り組み
色々なゼミでの活動に参加し、自分の意見を言ったり、協調的に活動できる(60～69点)、色々な活動に積極的に参加し、他者の意見を受け入れながら、解決方法や対応を自分なりに考えることができる(80～100点)

2. 宿題等の取り組み
データをもとに卒業論文を書き進め考察を行う(60～69点)、卒業論文を書き進め、データに対する深い考察を行う。(80～100点)

課題へのフィードバック:

課題については必要に応じて添削・評価し、返却を行う。

教科書: なし

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

卒業論文については、演習Ⅳの時間だけでなく、空き時間にも教員の指導を受けるなど積極的に取り組み、深く考察が行えるような気付きを得られるようにしましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 児童教育学専門演習Ⅳ

クラス:

授業コード: DA05500009

担当者: 小川内 哲生 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 児童教育学専門演習Ⅲを踏まえ、自らの研究課題を深めながら、論文の完成を目指す。
また、卒業研究の作成を通して、社会人としての知識や常識等を身につけていく。

到達目標: 自らの研究テーマに対して考察を深め結論へと結びつけ、論文を完成させる。
自らの保育観について明確に述べることができる。
理論と実践の融合的視点に立って、その意義を語ることができる。

各回の授業計画:

1. 論文作成と個別指導
2. 論文作成と個別指導
3. 論文作成と個別指導
4. 論文作成と個別指導
5. 論文の推敲
6. 論文の推敲
7. 論文の推敲
8. ゼミ内での討議(論文の進捗状況)
9. ゼミ内での討議(論文の進捗状況)
10. ゼミ内での討議(論文の進捗状況)
11. 論文提出に向けての準備
12. 論文提出に向けての確認等
13. 論文提出後の報告会に向けての準備
14. 論文提出後の報告会に向けての準備
15. 卒業論文報告会の実施

特記事項: なし

授業方法: 授業は、すべて対面で行う。
講義、個別指導、プレゼンテーションを取り入れる。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 研究経過報告書のレジュメ作成(180分)
2. レジュメの修正(180分)
3. レジュメの修正(180分)
4. 学習した内容の復習(180分)
5. 学習した内容の復習(180分)
6. 資料の整理(180分)
7. 資料の整理(180分)
8. 資料の整理(180分)
9. 資料の整理(180分)
10. 学習した内容の復習・整理(180分)
11. 学習した内容の復習・整理(180分)
12. レジュメの作成(180分)
13. レジュメの作成(180分)
14. 振り返り(180分)
15. 振り返り(180分)

評価方法：	授業へのとりくみ：	50 %	確認テスト：	－ %	レポート：	50 %
	その他1：			%		
	その他2：			%		

評価基準： 1. 授業への取り組み姿勢
ゼミ内で、自分の意見を述べたり、他者と協調して活動できる（60~79点）
他者の意見を受け入れながら、解決方法や対応策を自分なりに考えることができる（80点～100点）

2. 卒業研究への取り組み姿勢
研究データを収集しながら、論文を書き進めることができる（60～79点）
研究データーを収集し、先行研究との比較を行いながら、研究論文を書き進めることができる（80点～100点）

課題へのフィードバック：
個々の卒業研究の取り組みに対しては、適宜、個別指導を行っていく。

教科書： 毎回の授業で資料を配布する。

参考書： 白井利明、高橋一郎「よくわかる卒論の書き方 第2版」ミネルヴァ書房 2013年02月10日

授業・準備学習のアドバイス：
提出間際になって、余裕のない状態では、良い研究論文を作成できないので、計画的に早め早めに取りかかることが重要です。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 児童教育学専門演習Ⅳ

クラス:

授業コード: DA05500011

担当者: 高橋 一夫 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 児童教育学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを踏まえ、最終的な研究成果及び課題をまとめ卒業論文を完成させる。

到達目標:
1. 研究テーマに関連する文献・学術論文を精読し、統計分析の手法を取得する。
2. 論文作成に関する基本的技能を修得し、卒業論文を完成させる。
3. 研究倫理基準に基づいて研究を遂行できる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 各自の課題についてについての発表と討議
3. 各自の研究課題についての発表と討議
4. 文献研究・データ分析とその報告
5. 文献研究・データ分析とその報告
6. 文献研究・データ分析とその報告
7. 文献研究・データ分析とその報告
8. 卒論途中経過報告と討議
9. 卒論途中経過報告と討議
10. 卒論途中経過報告と討議
11. 卒論途中経過報告と討議
12. 卒論提出直前チェック
13. 研究成果発表
14. 研究成果発表
15. 評価とまとめ（最終的な研究の成果と課題の整理）

特記事項: なし

授業方法: 講義、ディスカッション、プレゼンテーション
全ての授業を対面で行う。

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 授業内容の復習（180分）
2. 授業内容の復習（180分）
3. 授業内容の復習（180分）
4. 参考文献の読解、ノート整理（180分）
5. 参考文献の読解、ノート整理（180分）
6. 参考文献の読解、ノート整理（180分）
7. 参考文献の読解、ノート整理（180分）
8. 資料作成、ノート整理（180分）
9. 資料作成、ノート整理（180分）
10. 資料作成、ノート整理（180分）
11. 資料作成、ノート整理（180分）
12. 資料作成、ノート整理（180分）
13. 資料作成、まとめ（180分）
14. 資料作成、まとめ（180分）
15. まとめ（180分）

評価方法：	授業へのとりくみ：	50 %	確認テスト：	－ %	レポート：	50 %
	その他1：			%		
	その他2：			%		

評価基準： 最低限度の到達度（60～69点）
・研究テーマについて情報収集することができる。
・ゼミメンバーと意見交換ができる。
・発表資料を作成し、プレゼンテーションができる。
望ましい到達度(80~100点）
・研究テーマについて主体的に調べ分析し考察することができる。
・ゼミメンバーと協力的に意見交換ができ、質疑応答ができる。
・主体的に発表資料を作成し、分かりやすくプレゼンテーションができる。

課題へのフィードバック：
課題・レポート等については授業時にその都度、講評を行う。それ以外にもオフィスアワーなどを活用してフィードバックを行う。

教科書： 教科書は使用しないが随時、参考文献を紹介する。

参考書： 必要に応じて紹介する。

授業・準備学習のアドバイス：
日頃から卒論の研究テーマについて情報収集し、文献検索を行ったりデータ分析を行う等、積極的に研究を進めてほしい。
ノートPCを必携すること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 児童教育学専門演習Ⅳ

クラス:

授業コード: DA05500012

担当者: 金山 健一 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 児童教育学専門演習Ⅰ～Ⅲにおける学びをさらに発展させ、MLAについて深く学ぶ。
卒業研究を進め、必要に応じてフィールワーク等の調査を進める。早期の卒業研究論文作成をめざす

到達目標:
1. 学校の抱える様々な問題・課題を研究の視点を持ち、分析することができる。
2. テーマを持ち研究に向かう基礎的な資質を育成する。
3. MLA（マルチレベルアプローチ）を習得し、最先端の教育スキルを活用することができる。
4. 卒業論文を完成させる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
卒業研究、および論文の執筆に向けた計画の確認
2. 卒業論文作成のためのディスカッション
3. 卒業論文作成のためのディスカッション
4. 卒業論文作成のためのディスカッション
5. 卒業論文作成のためのディスカッション
6. 卒業論文作成のためのディスカッション
7. 卒業論文作成のためのディスカッション
8. 卒業論文作成のためのディスカッション
9. 卒業論文作成のためのディスカッション
10. 卒業論文作成のためのディスカッション
11. 卒業論文作成のためのディスカッション
12. 卒業論文作成のためのディスカッション
13. 卒業論文作成のためのディスカッション
14. 卒業論文作成のためのディスカッション
15. 卒業論文作成のためのディスカッション

特記事項: なし

授業方法: 各回で次の方法を適宜行う。
・演習
・討論、討議
・発表（プレゼンテーション）
原則として、全ての授業を対面で行います。

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 調査研究・研究レポートの執筆（180分）
2. 調査研究・研究レポートの執筆（180分）
3. 調査研究・研究レポートの執筆（180分）
4. 調査研究・研究レポートの執筆（180分）
5. 調査研究・研究レポートの執筆（180分）
6. 調査研究・研究レポートの執筆（180分）
7. 調査研究・研究レポートの執筆（180分）
8. 調査研究・研究レポートの執筆（180分）
9. 調査研究・研究レポートの執筆（180分）
10. 調査研究・研究レポートの執筆（180分）
11. 調査研究・研究レポートの執筆（180分）
12. 調査研究・研究レポートの執筆（180分）

13. 調査研究発表会準備（180分）
14. 調査研究発表会準備（180分）
15. 4年間の振り返り（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	70	**%**	**確認テスト：**	－	**%**	**レポート：**	30 **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準：

【最低限の到達度（60～69点）】
・授業へのとりくみ～ディスカッションに参加して、自分の考えや意見を述べることができている。
・卒業研究～自らの策定したテーマにしたがって、関連する論文等の文献を参考に、研究論文を書くことができる。
【望ましい到達度（80～100点）】
・授業へのとりくみ～ディスカッションに積極的に参加し、自分の考えを発表するとともに、他の意見に対してもしっかりと意見を述べることができる。
・卒業研究～自らの策定したテーマにしたがって、関連する論文等の文献を参考に、自分の考えを含めた独創性に富んだ研究論文を完成させる。

課題へのフィードバック：

Teamsでのフィードバックを行う。

教科書： なし

参考書： 雑誌「理科教室」等

授業・準備学習のアドバイス：

一人ひとりが自らの課題をもって、ゼミの全員が協力をして研究や実践活動に取り組むとともに、互いに報告・討論をしながら進めていく。
主体的、積極的、協力的な態度で授業、調査研究、レポート作成に取り組んでもらいたい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 児童教育学専門演習Ⅳ

クラス:

授業コード: DA05500013

担当者: 新藤 照夫 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本演習では、専門演習Ⅲまでの卒業論文の作成手順を継続しながら、研究の集大成としての卒業論文の完成とその成果の発表を目的とする。また、作成過程において各自がプレゼンテーションを行い、ゼミ内で互いにアイデアを共有することで、各自の論文の質的向上も目指す。具体的には、専門演習Ⅲで設定した研究テーマに関する論文の完成に向けて執筆を継続する。完成した論文をもとに、卒業研究発表会にてその成果を発表する。

到達目標:
・テーマに対して専門的な知識や技法を使用し、客観的で論理的な文章を構成できる。
・テーマに関連する文献や事例等を収集し、分析できる。
・現地調査やアンケートを用いて、独自の調査資料を作成できる。
・テーマに対し、客観的な根拠を踏まえ、考察を述べることができる。
・与えられたテーマに対する協働的に解決法を導き出すことができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション:前学期の省察と、本学期の目標設定、卒業論文の進捗状況の発表
2. 卒業論文の執筆・指導①:アウトラインの再確認
3. 卒業論文の執筆・指導②:序論の執筆
4. 卒業論文の執筆・指導③:本論の執筆
5. 卒業論文の執筆・指導④:本論の執筆
6. 卒業論文の執筆・指導⑤:本論の執筆
7. 卒業論文の執筆・指導⑥:本論の執筆
8. 卒業論文の執筆・指導⑦:本論の執筆
9. 卒業論文の執筆・指導⑧:本論の執筆
10. 卒業論文の執筆・指導⑨:結論の執筆
11. 卒業論文の体裁整備
12. 卒業論文の最終確認
13. 卒業研究発表会の準備
14. 卒業研究発表会①
15. 卒業研究発表会②および総評

特記事項: なし

授業方法: 15回すべての授業を対面で実施

1. 演習、ペアワーク、ディスカッション
2. 演習、ディスカッション
3. 演習、ディスカッション
4. 演習、ディスカッション
5. 演習、ディスカッション
6. 演習、ディスカッション
7. 演習、ディスカッション
8. 演習、ディスカッション
9. 演習、ディスカッション
10. 演習、ディスカッション
11. 演習、ディスカッション
12. 演習、ディスカッション
13. 演習、ディスカッション
14. プレゼンテーション、ディスカッション
15. プレゼンテーション、ディスカッション

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

・アウトラインの再検討（180分）
・序論作成（300分）
・本論作成（1200分）
・結論作成（300分）
・推敲（300分）
・発表会の準備（240分）
・発表後のリフレクション（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	50 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	プレゼンテーション		50 **%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

①望ましい到達度（80～100点）
【授業へのとりくみ】
シラバスの計画通りに卒業研究を進め、主体的に取り組むことができる。
ディスカッションにて協働的かつ積極的に貢献できる。
【プレゼンテーション】
スライドに必要な要素が全て網羅され、構成も論理的かつ明確である。
非言語コミュニケーションを駆使し、高いレベルのプレゼンテーションができる。

②最低限の到達度（60～69点）
【授業へのとりくみ】
指示された最低限の内容はシラバスの計画通りに進めることができる。
ディスカッションにて、他者への質問や意見を発表できる。
【プレゼンテーション】
スライドに指示された必要最小限の要素を配置することができる。
指示された要件を満たすプレゼンテーションを行うことができる。

課題へのフィードバック：

・提出課題、グループディスカッション、プレゼンテーションに対して、授業時にフィードバックを行う。
・授業外の研究の進捗状況に関しては、Teamsで文書を共有してフィードバックを行う。

教科書： なし

参考書：

『思考の整理学』外山滋比古 著（ちくま文庫）
『日本語の作文技術』本多勝一 著（朝日文庫）
『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』戸田山和久 著 （NHKブックス）

授業・準備学習のアドバイス：

卒業論文の執筆は容易なことではありませんが、4年間の学びの集大成として、過去に学修し、習得してきた知識やスキルを活かしながら、納得のいく論文の完成を目指してもらいたいと思っています。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 児童教育学専門演習Ⅳ

クラス:

授業コード: DA05500014

担当者: 山口 香織 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 児童教育学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲをふまえ、各自の研究テーマを論文にまとめる。

到達目標: 卒業論文を論文にまとめる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 論文の書き方
3. 調査(実験)結果の分析(1)
4. 調査(実験)結果の分析(2)
5. 調査(実験)結果の分析(3)
6. 卒業論文の作成(1)
7. 卒業論文の作成(2)
8. 卒業論文の個別指導(1)
9. 卒業論文の個別指導(2)
10. 卒業論文の個別指導(3)
11. 卒業論文の修正・印刷
12. 卒業論文の提出
13. 卒論発表会の準備
14. 卒論発表会
15. 卒論発表会

特記事項: なし

授業方法:

1. 講義(対面)
2. 講義(対面)
3. 演習(対面)
4. 演習(対面)
5. 演習(対面)
6. 演習(対面)
7. 演習(対面)
8. 演習(対面)
9. 演習(対面)
10. 演習(対面)
11. 演習(対面)
12. 演習(対面)
13. グループワーク(対面)
14. 発表と討議(対面)
15. 発表と討議(対面)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

卒論執筆(1980分)
卒論提出作業(180分)
卒論発表資料作成(540分)

評価方法: **授業へのとりくみ:** 30 **%** **確認テスト:** － **%** **レポート:** 40 **%**

その他1： 卒論発表会 30 **%**

その他2： **%**

評価基準： 1.授業のとりくみ
①課題提出期限を守り、必要な資料を準備して説明できる。(80～100)
②授業に出席し、話し合いで発言することができる。(60～69)

2.課題レポート
①発表会資料を端的に分かりやすく作成し、適切な分量で発表原稿をまとめることができる。また、効果的なプレゼンを意識したものになっている。(80～100)
②発表会資料を必要枚数作成し、資料にそった発表原稿を作成することができる。(60～69)

3.卒論発表会
①卒業研究について制限時間内に要点を押さえてまとめることができる。また、質問に対して適切かつ明確に答えることができる。(80～100)
②卒業研究の概要を説明することができる。また、質問の意図を理解し、自分なりに答えることができる。(60～69)

課題へのフィードバック：

質問に対しては、授業時に全体に向けて回答・説明し、必要に応じて質問者に個別に回答・説明する。
課題レポートは、授業で全体に対して講評する。
卒論発表会は、閉会の言葉で講評をする。

教科書： 必要に応じて文献・資料を配布する。

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：

オンリーワンの卒業論文を書こう！

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 児童教育学専門演習Ⅳ

クラス:

授業コード: DA05500015

担当者: 齋藤 隆彦 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本演習では、専門演習Ⅲまでの卒業論文の作成手順を継続しながら、研究の集大成としての卒業論文の完成とその成果の発表を目的とする。また、作成過程において各自がプレゼンテーションを行い、ゼミ内で互いにアイデアを共有することで、各自の論文の質的向上も目指す。具体的には、専門演習Ⅲで設定した研究テーマに関する論文の完成に向けて執筆を継続する。完成した論文をもとに、卒業研究発表会にてその成果を発表する。

到達目標:
・テーマに対して専門的な知識や技法を使用し、客観的で論理的な文章を構成できる。
・テーマに関連する文献や事例等を収集し、分析できる。
・現地調査やアンケートを用いて、独自の調査資料を作成できる。
・テーマに対し、客観的な根拠を踏まえ、考察を述べることができる。
・与えられたテーマに対する協働的に解決法を導き出すことができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション:前学期の省察と、本学期の目標設定、卒業論文の進捗状況の発表
2. 卒業論文の執筆・指導①:アウトラインの再確認
3. 卒業論文の執筆・指導②:序論の執筆
4. 卒業論文の執筆・指導③:本論の執筆
5. 卒業論文の執筆・指導④:本論の執筆
6. 卒業論文の執筆・指導⑤:本論の執筆
7. 卒業論文の執筆・指導⑥:本論の執筆
8. 卒業論文の執筆・指導⑦:本論の執筆
9. 卒業論文の執筆・指導⑧:本論の執筆
10. 卒業論文の執筆・指導⑨:結論の執筆
11. 卒業論文の体裁整備
12. 卒業論文の最終確認
13. 卒業研究発表会の準備
14. 卒業研究発表会①
15. 卒業研究発表会②および総評

特記事項: なし

授業方法: 15回すべての授業を対面で実施

1. 演習、ペアワーク、ディスカッション
2. 演習、ディスカッション
3. 演習、ディスカッション
4. 演習、ディスカッション
5. 演習、ディスカッション
6. 演習、ディスカッション
7. 演習、ディスカッション
8. 演習、ディスカッション
9. 演習、ディスカッション
10. 演習、ディスカッション
11. 演習、ディスカッション
12. 演習、ディスカッション
13. 演習、ディスカッション
14. プレゼンテーション、ディスカッション
15. プレゼンテーション、ディスカッション

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

・アウトラインの再検討（180分）
・序論作成（300分）
・本論作成（1200分）
・結論作成（300分）
・推敲（300分）
・発表会の準備（240分）
・発表後のリフレクション（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	50 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	プレゼンテーション		50 **%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

①望ましい到達度（80～100点）
【授業へのとりくみ】
シラバスの計画通りに卒業研究を進め、主体的に取り組むことができる。
ディスカッションにて協働的かつ積極的に貢献できる。
【プレゼンテーション】
スライドに必要な要素が全て網羅され、構成も論理的かつ明確である。
非言語コミュニケーションを駆使し、高いレベルのプレゼンテーションができる。

②最低限の到達度（60～69点）
【授業へのとりくみ】
指示された最低限の内容はシラバスの計画通りに進めることができる。
ディスカッションにて、他者への質問や意見を発表できる。
【プレゼンテーション】
スライドに指示された必要最小限の要素を配置することができる。
指示された要件を満たすプレゼンテーションを行うことができる。

課題へのフィードバック：

・提出課題、グループディスカッション、プレゼンテーションに対して、授業時にフィードバックを行う。
・授業外の研究の進捗状況に関しては、Teamsで文書を共有してフィードバックを行う。

教科書： なし

参考書：

『思考の整理学』外山滋比古 著（ちくま文庫）
『日本語の作文技術』本多勝一 著（朝日文庫）
『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』戸田山和久 著 （NHKブックス）

授業・準備学習のアドバイス：

卒業論文の執筆は容易なことではありませんが、4年間の学びの集大成として、過去に学修し、習得してきた知識やスキルを活かしながら、納得のいく論文の完成を目指してもらいたいと思っています。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 児童教育学専門演習Ⅳ

クラス:

授業コード: DA05500016

担当者: 堤 康嘉 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 児童教育学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲをふまえ、各自の研究テーマを論文にまとめる。

到達目標: 卒業論文を論文にまとめる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 論文の書き方
3. 調査(実験)結果の分析(1)
4. 調査(実験)結果の分析(2)
5. 調査(実験)結果の分析(3)
6. 卒業論文の作成(1)
7. 卒業論文の作成(2)
8. 卒業論文の個別指導(1)
9. 卒業論文の個別指導(2)
10. 卒業論文の個別指導(3)
11. 卒業論文の修正・印刷
12. 卒業論文の提出
13. 卒論発表会の準備
14. 卒論発表会
15. 卒論発表会

特記事項: なし

授業方法:

1. 講義(対面)
2. 講義(対面)
3. 演習(対面)
4. 演習(対面)
5. 演習(対面)
6. 演習(対面)
7. 演習(対面)
8. 演習(対面)
9. 演習(対面)
10. 演習(対面)
11. 演習(対面)
12. 演習(対面)
13. グループワーク(対面)
14. 発表と討議(対面)
15. 発表と討議(対面)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

卒論執筆(1980分)
卒論提出作業(180分)
卒論発表資料作成(540分)

評価方法: **授業へのとりくみ:** 30 **%** **確認テスト:** － **%** **レポート:** 40 **%**

その他1： 卒論発表会 30 **%**

その他2： **%**

評価基準： 1.授業のとりくみ
①課題提出期限を守り、必要な資料を準備して説明できる。(80～100)
②授業に出席し、話し合いで発言することができる。(60～69)

2.課題レポート
①発表会資料を端的に分かりやすく作成し、適切な分量で発表原稿をまとめることができる。また、効果的なプレゼンを意識したものになっている。(80～100)
②発表会資料を必要枚数作成し、資料にそった発表原稿を作成することができる。(60～69)

3.卒論発表会
①卒業研究について制限時間内に要点を押さえてまとめることができる。また、質問に対して適切かつ明確に答えることができる。(80～100)
②卒業研究の概要を説明することができる。また、質問の意図を理解し、自分なりに答えることができる。(60～69)

課題へのフィードバック：

質問に対しては、授業時に全体に向けて回答・説明し、必要に応じて質問者に個別に回答・説明する。
課題レポートは、授業で全体に対して講評する。
卒論発表会は、閉会の言葉で講評をする。

教科書： 必要に応じて文献・資料を配布する。

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：

オンリーワンの卒業論文を書こう！

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 児童教育学専門演習Ⅳ

クラス:

授業コード: DA05500017

担当者: 岩濵 里江子 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: この講義は、児童教育学専門演習Ⅲをふまえ、充実した卒業論文の完成を目的とする。また卒業後の進路に向けて、最終準備を行う。

到達目標:
1. これまでに集めた資料を整理し、根拠をもった主張による卒業論文を完成させる。
2. ゼミ生相互に、協力的・協同的な信頼関係を築く。
3. 卒業後の進路に向けて、その最終準備を進める。

各回の授業計画:

1. オリエンテーションーゼミ活動の計画についてー
2. 卒業論文作成に向けて、中間報告を段階的におこなう①
3. 卒業論文作成に向けて、中間報告を段階的におこなう②
4. 卒業論文作成に向けて、中間報告を段階的におこなう③
5. 卒業論文作成に向けて、中間報告を段階的におこなう④
6. 卒業論文作成に向けて、中間報告を段階的におこなう⑤
7. 卒業論文作成に向けて、最終報告を段階的におこなう①
8. 卒業論文作成に向けて、最終報告を段階的におこなう②
9. 卒業論文作成に向けて、最終報告を段階的におこなう③
10. 卒業論文作成に向けて、最終報告を段階的におこなう④
11. 卒業論文作成に向けて、最終報告を段階的におこなう⑤
12. ゼミ内卒業論文発表会に向けての卒論抄録作成と相互評価①
13. ゼミ内卒業論文発表会に向けての卒論抄録作成と相互評価②
14. ゼミ内卒業論文発表会に向けての卒論抄録作成と相互評価③
15. ゼミ内卒業論文発表会

特記事項: なし

授業方法: グループディスカッションを中心に、課題発表等多様な学習方法を用いる。
すべての授業を対面授業で行う。ただし、対面が難しい場合（大学から対面を避ける指示があった場合など）は「オンライン」または「同時配信」で行う可能性がある。その際にはチームズで連絡する。

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

各回授業レポート作成と授業後の修正・補足 180分×15
1. 児童教育学専門演習Ⅰ－Ⅲの資料整理
2. 卒業論文の各章作成し、中間報告資料を作成する。
3. 卒業論文の各章作成し、中間報告資料を作成する。
4. 卒業論文の各章作成し、中間報告資料を作成する。
5. 卒業論文の各章作成し、中間報告資料を作成する。
6. 卒業論文の各章作成し、中間報告資料を作成する。
7. 卒業論文の各章を仕上げ、最終報告資料を作成する。
8. 卒業論文の各章を仕上げ、最終報告資料を作成する。
9. 卒業論文の各章を仕上げ、最終報告資料を作成する。
10. 卒業論文の各章を仕上げ、最終報告資料を作成する。
11. 卒業論文を仕上げ、抄録を作成する。
12. 卒業論文を仕上げ、抄録を作成する。
13. 卒業論文を仕上げ、抄録を作成する。
14. 卒業論文発表会資料を作成する。

評価方法：	授業へのとりくみ：	60 %	確認テスト：	－ %	レポート：	40 %
	その他1：			%		
	その他2：			%		

評価基準： 授業への取り組み（60%）
（望ましい到達度：80～100点）春学期に自ら設定した課題について、文献・資料を集め、必要に応じ調査を行い、論旨の通った発表を行うことができる。他からの質問に答え、必要があれば、他からの提案などを生かして、自分の研究を伸ばすことができる。
（最低限の到達度：60～69点）春学期に自ら設定した課題について、文献・資料を集め、必要に応じ調査を行い、論旨の通った発表を行うことができる。

レポート（40%）
（望ましい到達度：80～100点）文献・資料を集め、必要に応じ調査を行い、それらの結果を論旨の通った形にまとめ、先行研究に対し独創的で説得力のある結論を提示できる。
（最低限の到達度：60～69点）文献・資料を集め、必要に応じ調査を行い、それらの結果を論旨の通った形にまとめ、結論を提示できる。

課題へのフィードバック：
・授業の中で適宜個人及び全体に対してフィードバックを行う

教科書： 特定の教科書は使用しない。適宜、資料を紹介する。

参考書： 戸田山 和久2022『最新版 論文の教室-レポートから卒論まで』NHK出版
小熊 英二2022『基礎からわかる論文の書き方」講談社現代新書

授業・準備学習のアドバイス：
・大学4年間の総まとめとして、研究した成果を卒業論文にまとめること。「根拠に基づく主張」が論文の本質的内容であることに留意すること。
・卒論作成以外にも、積極的にスクールサポーターや子どもにかかわるボランティア、授業研究会等に参加し、国語教育・ことばの教育の視点を含めた学校や子どもをめぐる課題について学ぶことが望ましい。
・状況に応じ内容は変更します。ゼミやTeamsでお知らせします。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 児童教育学専門演習Ⅳ

クラス:

授業コード: DA05500019

担当者: 瀬戸山 悠 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 児童教育学専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを踏まえて、研究テーマを卒業論文としてまとめる。

到達目標:
1. テーマに基づいて研究をすすめ、卒業論文として完成させる。
2. 教育・保育職を目指すものとして、課題を整理したうえで自身の考えを明確化し、専門性を身につけることができる。
3. 教育・保育職を目指すものとしての資質・実践力を身につけることができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 卒業論文の作成に向けた中間発表①
3. 卒業論文の作成に向けた中間発表②
4. 卒業論文の作成に向けた中間発表③
5. 卒業論文の作成に向けた中間発表④
6.卒業論文の作成に向けた中間発表⑤
7. 卒業論文の作成に向けた中間発表⑥
8. 卒業論文の完成、最終発表に向けた準備・討議①
9. 卒業論文の完成、最終発表に向けた準備・討議②
10. 卒業論文の完成、最終発表に向けた準備・討議③
11. 卒業論文の完成、最終発表に向けた準備・討議④
12. 卒業論文の確認、修正①
13. 卒業論文の確認、修正②
14. 卒業論文発表会の準備
15. 卒業論文発表会

特記事項: なし

授業方法: すべての授業を対面授業で行う。
第1回～第15回 演習

予習・復習・宿題など(内容・時間):

第1回(復習) 卒業論文作成のスケジュールを確認する(180分)
第2回～第7回(予習) 卒業論文の作成、中間発表に向けた準備をする(各回180分)
第8回～第11回(予習) 卒業論文を作成し、論文の形式、内容を確認する。(各回180分)
第12回～第14回(予習) 卒業論文の内容を確認し、修正したうえでポイントを整理し、レポートにまとめる(各回180分)
第15回(予習)卒業論文発表会に向けてレポート、プレゼンテーション資料を作成する(180分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	50 %	**確認テスト:**	－ %	**レポート:**	50 %
その他1:			%		
その他2:			%		

評価基準:
【最低限の到達度(60～69点)】
・発表 講読した文献の内容を踏まえて研究内容が整理されている

【望ましい到達度(80～100点)】
・発表 講読した文献の内容を踏まえて研究内容が整理され、考察が加えられている。

課題へのフィードバック：

授業で講評する。

教科書： 随時、文献を紹介する

参考書： 適宜授業内で紹介する。

授業・準備学習のアドバイス：

各自の主体的な事前準備と積極的な発表、卒業論文作成に向けた取り組みが望まれる。
主体的に取り組み、積極的にコミュニケーションを図りながら研究活動を進める姿勢が望まれる。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 児童教育学専門演習Ⅳ

クラス:

授業コード: DA05500020

担当者: 塚本 久義 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 専門演習Ⅲを踏まえて、自身の知りたいテーマをもとにしたより良い卒業論文の完成を目指す。また、卒業後の進路に向けての準備を行う。

到達目標:
1. これまで進めてきた研究の成果を整理してまとめ、卒業論文を完成させる。
2. ゼミ生で協力的協働的に学び合い、信頼関係を築く。
3. 卒業論文について、自身の取り組みの成果を他者に伝えるためにわかりやすく発表する。
4. 卒業後の進路に向けて希望を持ち、しっかりと準備を進める。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション 計画の作成
2. 卒業論文作成に向けて、中間報告を行う①
3. 卒業論文作成に向けて、中間報告を行う②
4. 卒業論文作成に向けて、中間報告を行う③
5. 卒業論文作成に向けて、中間報告を行う④
6. 卒業論文作成に向けて、保育実践、エピソードについて語り合う①
7. 卒業論文作成に向けて、最終報告を段階的に行う①
8. 卒業論文作成に向けて、最終報告を段階的に行う②
9. 卒業論文作成に向けて、最終報告を段階的に行う③
10. 卒業論文作成に向けて、最終報告を段階的に行う④
11. 卒業論文作成に向けて、最終報告を段階的に行う⑤
12. ゼミ内卒業論文発表と相互評価①
13. ゼミ内卒業論文発表と相互評価②
14. ゼミ内卒業論文発表と相互評価③
15. まとめ

特記事項: なし

授業方法: 全て対面で行う。

グループワーク
プレゼンテーション
討議
フィールドワーク

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 卒業論文研究計画の再作成 卒論 中間発表準備(180分)
2. 卒業論文の構造を確認する(180分)
3. 卒業論文の構造を確認する(180分)
4. 卒業論文の構造を確認する(180分)
5. 卒業論文の内容を深め、まとめる(180分)
6. 卒業論文の内容を深め、まとめる(180分)
7. 卒業論文の内容を深め、まとめる(180分)
8. 卒業論文の内容を深め、まとめる(180分)
9. 卒業論文の内容を深め、考察をまとめる(180分)
10. 卒業論文の内容を深め、考察をまとめる(180分)
11. 卒業論文の内容を深め、考察をまとめる(180分)
12. 参考文献、引用文献と内容の照合、整理(180分)

13. 卒業論文の全体像の把握と整理、まとめる（180分）
14. 卒業論文の全体像の把握と整理、まとめる（180分）
15. 卒業後の進路に向けての心構えと具体的な準備についてまとめる（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	①卒業論文の内容　取組	40 **%**			
その他2：	プレゼンテーション	30 **%**			

評価基準：

1. 授業への取り組み
ゼミの様々な活動に参加し、自分の意見を言ったり、他者の発表に対して意見を言えたり、他者と協調して活動できる（60～79点）
他者の意見を受け入れながら、自身の考えを深めたり、新たな考えを生み出したり、より良い解決方法を試したり、自身で積極的に行動したりすることができる（80～100点）

2. 卒業研究への取り組み
研究データを収集、分析しながら、自身の考えをまとめ、論文にまとめることができる（60～79点）
研究分野について、レポートにポイントを示してまとめ、わかりやすくプレゼンテーションできる。他者の研究内容についても課題を的確に整理し、積極的に意見を言うことができる。自身の論文をより良いものにしようと最後まで書き進めマオtめることができる（80～100点）

課題へのフィードバック：

個々の卒業研究の取り組みについて、その都度、具体的にポイントを示してアドバイスを行う。提出物や発表については、その都度、ポイントや評価の観点について説明する。

教科書： 適宜指示する。

参考書： 適宜指示する。

授業・準備学習のアドバイス：

大学生活最後の総まとめです。存分に悔いのないように最後まで諦めずに、考え、学び、その成果を卒業論文としてまとめること。特にアンケートに協力してくれた方や先行文献等を書いた人の考えや協力に感謝をしながら、その内容や思いをよく理解し、卒業論文に活かしてまとめましょう。
教職につく人は4年間の間に様々に学んだ実践的知識や理論について振り返って、自身の目標や考え、強みについての思いをブラッシュアップし、保育者になる自身のイメージを描いて安心して進むことができるよう、ゼミ仲間と共に一緒に最後まで頑張りましょう。
可能な限り、子供に関わるボランティアや研修会などに参加し、子どもにや保育に関わる課題について考え、学びを得ましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 児童教育学専門演習Ⅳ

クラス:

授業コード: DA05500021

担当者: 廣岡 義之 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 児童教育学専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを踏まえて、研究テーマを卒業論文としてまとめる。

到達目標:
1. テーマに基づいて研究をすすめ、卒業論文として完成させる。
2. 教育・保育職を目指すものとして、課題を整理したうえで自身の考えを明確化し、専門性を身につけることができる。
3. 教育・保育職を目指すものとしての資質・実践力を身につけることができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 卒業論文の作成に向けた中間発表①
3. 卒業論文の作成に向けた中間発表②
4. 卒業論文の作成に向けた中間発表③
5. 卒業論文の作成に向けた中間発表④
6. 卒業論文の作成に向けた中間発表⑤
7. 卒業論文の作成に向けた中間発表⑥
8. 卒業論文の完成、最終発表に向けた準備・討議①
9. 卒業論文の完成、最終発表に向けた準備・討議②
10. 卒業論文の完成、最終発表に向けた準備・討議③
11. 卒業論文の完成、最終発表に向けた準備・討議④
12. 卒業論文の確認、修正①
13. 卒業論文の確認、修正②
14. 卒業論文発表会の準備
15. 卒業論文発表会

特記事項: なし

授業方法: すべての授業を対面授業で行う。
第1回～第15回 演習

予習・復習・宿題など(内容・時間):

第1回(復習) 卒業論文作成のスケジュールを確認する(180分)
第2回～第7回(予習) 卒業論文の作成、中間発表に向けた準備をする(各回180分)
第8回～第11回(予習) 卒業論文を作成し、論文の形式、内容を確認する。(各回180分)
第12回～第14回(予習) 卒業論文の内容を確認し、修正したうえでポイントを整理し、レポートにまとめる(各回180分)
第15回(予習)卒業論文発表会に向けてレポート、プレゼンテーション資料を作成する(180分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	50	**%**	**確認テスト:**	－	**%**	**レポート:**	50 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準:
【最低限の到達度(60～69点)】
・発表 講読した文献の内容を踏まえて研究内容が整理されている
【望ましい到達度(80～100点)】
・発表 講読した文献の内容を踏まえて研究内容が整理され、考察が加えられている。

課題へのフィードバック:

授業で講評する。

教科書: なし

参考書: 適宜授業内で紹介する。

授業・準備学習のアドバイス:

各自の主体的な事前準備と積極的な発表、卒業論文作成に向けた取り組みが望まれる。
主体的に取り組み、積極的にコミュニケーションを図りながら研究活動を進める姿勢が望まれる。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 児童教育学専門演習Ⅳ

クラス:

授業コード: DA05500022

担当者: 芝田 悦司 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: これまでの児童教育学専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲをふまえ、各自の研究テーマを卒業論文として書きまとめる。

到達目標:
1. これまでの研究成果を卒業論文として完成させる。
2. 教員としての考えを確かにし、さらに専門性を身につけることができる。
3. 教員としての意識を高め、さらに資質・実践力を磨くことができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 卒業論文の作成に向けて、中間発表①
3. 卒業論文の作成に向けて、中間発表②
4. 卒業論文の作成に向けて、中間発表③
5. 卒業論文の作成に向けて、中間発表④
6. 卒業論文の作成に向けて、中間発表⑤
7. 卒業論文の作成に向けて、中間発表⑥
8. 卒業論文の完成に向けて、最終確認①
9. 卒業論文の完成に向けて、最終確認②
10. 卒業論文の完成に向けて、最終確認③
11. 卒業論文の完成に向けて、最終確認④
12. 卒業論文の発表会に向けて①
13. 卒業論文の発表会に向けて②
14. 卒業論文の発表会に向けて③
15. 卒業論文発表会

特記事項: なし

授業方法:
1. 演習（対面）
2. 演習（対面）
3. 演習（対面）
4. 演習（対面）
5. 演習（対面）
6. 演習（対面）
7. 演習（対面）
8. 演習（対面）
9. 演習（対面）
10. 演習（対面）
11. 演習（対面）
12. 演習（対面）
13. 演習（対面）
14. 演習（対面）
15. 演習（対面）

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

第1回（復習） 卒業論文作成のスケジュールを確認する。（180分）
第2回～第7回（予習） 卒業論文を作成し、中間発表に向けて準備をする。（各回 180分）
第8回～第11回（予習） 卒業論文完成に向けて論文を確認する。（各回 180分）
第12回～第14回（予習） 卒業論文発表会に向けてレポートを作成する。（180分）

第15回（予習） 卒業論文発表会に向けてレポート、プレゼンを作成する。（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	50	**%**	**確認テスト：**	－	**%**	**レポート：**	50 **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準： 発表：読んだ本の内容がまとめられている（60～69点）／読んだ本の内容がまとめられ考察が加えられている（80～100点）。

課題へのフィードバック：

発表については授業で講評する。

教科書： なし

参考書： 適宜必要に応じて紹介する。

授業・準備学習のアドバイス：

・根拠に基づき、４年間、研究した成果を卒業論文にまとめること。
・卒論作成以外にも、積極的にボランティアや研究会等に参加し、特別支援教育の視点を含めた学校や子どもをめぐる課題について学んでほしい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 児童教育学専門演習Ⅳ

クラス:

授業コード: DA05500023

担当者: 有道 俊雄 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 児童教育学専門演習Ⅰ～Ⅲにおける学びをさらに発展させ、教育と人間発達の課題(主に自然体験や理科教育、防災・減災教育、SDGs等)について深く学ぶ。
卒業研究を進め、必要に応じてフィールワーク等の調査を進める。早期の卒業研究論文作成をめざす

到達目標: 1. 教育と人間発達の課題、自然体験や理科学習、防災・減災学習、SDGs等の課題を深く理解する。
2. 文献や論文・新聞を読み、その内容を仲間にわかりやすく報告するスキルを養う。
3. 報告・討議を通じて、実践課題や研究課題を明確にする協同的研究に取り組む。
4. 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。
5. 卒業研究を本格的に進め、早期の論文執筆をめざす。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
卒業研究、および論文の執筆に向けた計画の確認
2. 観察実験①
卒業研究の進捗状況確認①
3. 観察実験②
卒業研究の進捗状況確認②
4. 観察実験③
卒業研究の進捗状況確認③
5. 観察実験④
卒業研究の進捗状況確認④
6. 観察実験⑤
卒業研究の進捗状況確認⑤
卒業研究・論文執筆①
7. 観察実験⑥
卒業研究の進捗状況確認⑥
卒業研究・論文執筆②
8. 観察実験⑦
卒業研究の進捗状況確認⑦
卒業研究・論文執筆③
9. 卒業研究・フィールドワーク
10. 観察実験⑧
卒業研究の進捗状況確認⑧
卒業研究・論文執筆④
11. 観察実験⑨
卒業研究の進捗状況確認⑨
卒業研究・論文執筆⑤
12. 論文提出準備 観察実験⑩
13. 観察実験⑪
14. 卒業研究・論文発表会
15. 最後のまとめ

特記事項: なし

授業方法: 原則として、全ての授業を対面で行います。
各回で次の方法を適宜行う。
・演習

・討論、討議
・発表（プレゼンテーション）
・観察、実験、実習

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. 調査研究・研究レポートの執筆（180分）
2. 調査研究・研究レポートの執筆（180分）
3. 調査研究・研究レポートの執筆（180分）
4. 調査研究・研究レポートの執筆（180分）
5. 調査研究・研究レポートの執筆（180分）
6. 調査研究・研究レポートの執筆（180分）
7. 調査研究・研究レポートの執筆（180分）
8. 調査研究・研究レポートの執筆（180分）
9. 調査研究・研究レポートの執筆（180分）
10. 調査研究・研究レポートの執筆（180分）
11. 調査研究・研究レポートの執筆（180分）
12. 調査研究・研究レポートの執筆（180分）
13. 調査研究発表会準備（180分）
14. 調査研究発表会準備（180分）
15. 4年間の振り返り（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	70 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	30 **%**
その他1：			**%**		
その他2：			**%**		

評価基準： 【最低限の到達度（60～69点）】
・授業へのとりくみ～ディスカッションに参加して、自分の考えや意見を述べることができている。
・卒業研究～自らの策定したテーマにしたがって、関連する論文等の文献を参考に、研究論文を書くことができる。
【望ましい到達度（80～100点）】
・授業へのとりくみ～ディスカッションに積極的に参加し、自分の考えを発表するとともに、他の意見に対してもしっかりと意見を述べることができる。
・卒業研究～自らの策定したテーマにしたがって、関連する論文等の文献を参考に、自分の考えを含めた独創性に富んだ研究論文を完成させる。

課題へのフィードバック：

Teamsでのフィードバックを行う。

教科書： なし

参考書： 雑誌「理科教室」等

授業・準備学習のアドバイス：

一人ひとりが自らの課題をもって、ゼミの全員が協力をして研究や実践活動に取り組むとともに、互いに報告・討論をしながら進めていく。
主体的、積極的、協力的な態度で授業、調査研究、レポート作成に取り組んでもらいたい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 卒業研究

クラス: 児

授業コード: DA05600001

担当者: 猪田 裕子　　**単位数:** 6

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 卒業研究又は卒業論文は、4年間の学びの集大成である。これまで培ってきた知識や技能を総動員し、自らテーマを掲げ、そのテーマに沿った研究計画を作成して研究を推進し、考察を深めていき、一つの論文等にまとめ上げることが卒業研究の目的である。(なお論文作成を主としない卒業研究についても、これに準じるものとする。)

到達目標:
1. 問題意識を深め、卒業論文のテーマを決定する。
2. 参考文献や先行研究を精読する。
3. 研究計画を立てる。
4. 序論、本論、結論など論文等の道筋と構成を作成する。
5. 卒業研究として、論文等を作成する。

各回の授業計画:

1. 問題意識を膨らませる
2. 問題意識を深める
3. 研究のテーマを決定する
4. 先行研究を精読する
5. 先行研究を精読する
6. 参考文献を渉猟する
7. 参考文献を渉猟する
8. 研究の倫理について学ぶ
9. 執筆を行う
10. 執筆を行う
11. 執筆を行う
12. 執筆を行う
13. 執筆を行う
14. 執筆を行う
15. 論文の要約を発表する

特記事項: なし

授業方法: 第1～15回 講義、演習、グループワーク
(ゼミ毎に教員の指導の下で、先行研究・参考文献の調査、論文執筆などと、それに伴うディスカッションなどを行う)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

全体として予習・復習に90時間（単位認定に当たっては、45分を1時間とする。）を充てること。

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	卒業論文等の作成		50 **%**		
その他2：	口頭試問		20 **%**		

評価基準： 自身の問題意識に沿って、テーマを考え、参考文献や先行研究にあたっている。研究計画を立て、全体の構成を考え、自身の考えをまとめている。(60～69)
4年間の学びの集大成として、問題意識を深め、参考文献や先行研究を精読している。適切に研究計画を立て、テーマに沿って論文等の道筋と構成を作成し、自身の考えを的確に論述している。(80～100)

課題へのフィードバック：

進捗状況に応じて、適宜評価を個別または全体に説明する。

教科書： なし

参考書： 適宜、授業中に示す。

授業・準備学習のアドバイス：

卒業研究は4年間の学びの総決算である。これまでの知識や技能を総動員して、能動的、主体的に取り組むこと。論文を完成させたとき、あなた自身が（ものの見方・考え方が）変わったと感じるほどの出来栄えとなることを期待する。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 卒業研究

クラス: 児

授業コード: DA05600002

担当者: 中尾 尊洋 **単位数:** 6

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 卒業研究又は卒業論文は、4年間の学びの集大成である。これまで培ってきた知識や技能を総動員し、自らテーマを掲げ、そのテーマに沿った研究計画を作成して研究を推進し、考察を深めていき、一つの論文等にまとめ上げることが卒業研究の目的である。(なお論文作成を主としない卒業研究についても、これに準じるものとする。)

到達目標:
1. 問題意識を深め、卒業論文のテーマを決定する。
2. 参考文献や先行研究を精読する。
3. 研究計画を立てる。
4. 序論、本論、結論など論文等の道筋と構成を作成する。
5. 卒業研究として、論文等を作成する。

各回の授業計画:

1. 問題意識を膨らませる
2. 問題意識を深める
3. 研究のテーマを決定する
4. 先行研究を精読する
5. 先行研究を精読する
6. 参考文献を渉猟する
7. 参考文献を渉猟する
8. 研究の倫理について学ぶ
9. 執筆を行う
10. 執筆を行う
11. 執筆を行う
12. 執筆を行う
13. 執筆を行う
14. 執筆を行う
15. 論文の要約を発表する

特記事項: なし

授業方法: 第1～15回 講義、演習、グループワーク
(ゼミ毎に教員の指導の下で、先行研究・参考文献の調査、論文執筆などと、それに伴うディスカッションなどを行う)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

全体として予習・復習に90時間（単位認定に当たっては、45分を1時間とする。）を充てること。

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	卒業論文等の作成		50 **%**		
その他2：	口頭試問		20 **%**		

評価基準： 自身の問題意識に沿って、テーマを考え、参考文献や先行研究にあたっている。研究計画を立て、全体の構成を考え、自身の考えをまとめている。(60～69)
4年間の学びの集大成として、問題意識を深め、参考文献や先行研究を精読している。適切に研究計画を立て、テーマに沿って論文等の道筋と構成を作成し、自身の考えを的確に論述している。(80～100)

課題へのフィードバック：

進捗状況に応じて、適宜評価を個別または全体に説明する。

教科書： なし

参考書： 適宜、授業中に示す。

授業・準備学習のアドバイス：

卒業研究は4年間の学びの総決算である。これまでの知識や技能を総動員して、能動的、主体的に取り組むこと。論文を完成させたとき、あなた自身が（ものの見方・考え方が）変わったと感じるほどの出来栄えとなることを期待する。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 卒業研究

クラス: 児

授業コード: DA05600003

担当者: 森 眞理 **単位数:** 6

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 卒業研究又は卒業論文は、4年間の学びの集大成である。これまで培ってきた知識や技能を総動員し、自らテーマを掲げ、そのテーマに沿った研究計画を作成して研究を推進し、考察を深めていき、一つの論文等にまとめ上げることが卒業研究の目的である。(なお論文作成を主としない卒業研究についても、これに準じるものとする。)

到達目標:
1. 問題意識を深め、卒業論文のテーマを決定する。
2. 参考文献や先行研究を精読する。
3. 研究計画を立てる。
4. 序論、本論、結論など論文等の道筋と構成を作成する。
5. 卒業研究として、論文等を作成する。

各回の授業計画:

1. 問題意識を膨らませる
2. 問題意識を深める
3. 研究のテーマを決定する
4. 先行研究を精読する
5. 先行研究を精読する
6. 参考文献を渉猟する
7. 参考文献を渉猟する
8. 研究の倫理について学ぶ
9. 執筆を行う
10. 執筆を行う
11. 執筆を行う
12. 執筆を行う
13. 執筆を行う
14. 執筆を行う
15. 論文の要約を発表する

特記事項: なし

授業方法: 第1～15回 講義、演習、グループワーク
(ゼミ毎に教員の指導の下で、先行研究・参考文献の調査、論文執筆などと、それに伴うディスカッションなどを行う)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

全体として予習・復習に90時間（単位認定に当たっては、45分を1時間とする。）を充てること。

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	卒業論文等の作成		50 **%**		
その他2：	口頭試問		20 **%**		

評価基準： 自身の問題意識に沿って、テーマを考え、参考文献や先行研究にあたっている。研究計画を立て、全体の構成を考え、自身の考えをまとめている。(60～69)
4年間の学びの集大成として、問題意識を深め、参考文献や先行研究を精読している。適切に研究計画を立て、テーマに沿って論文等の道筋と構成を作成し、自身の考えを的確に論述している。(80～100)

課題へのフィードバック：

進捗状況に応じて、適宜評価を個別または全体に説明する。

教科書： なし

参考書： 適宜、授業中に示す。

授業・準備学習のアドバイス：

卒業研究は4年間の学びの総決算である。これまでの知識や技能を総動員して、能動的、主体的に取り組むこと。論文を完成させたとき、あなた自身が（ものの見方・考え方が）変わったと感じるほどの出来栄えとなることを期待する。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 卒業研究

クラス: 児

授業コード: DA05600004

担当者: 須増 啓之 **単位数:** 6

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 卒業研究又は卒業論文は、4年間の学びの集大成である。これまで培ってきた知識や技能を総動員し、自らテーマを掲げ、そのテーマに沿った研究計画を作成して研究を推進し、考察を深めていき、一つの論文等にまとめ上げることが卒業研究の目的である。(なお論文作成を主としない卒業研究についても、これに準じるものとする。)

到達目標:
1. 問題意識を深め、卒業論文のテーマを決定する。
2. 参考文献や先行研究を精読する。
3. 研究計画を立てる。
4. 序論、本論、結論など論文等の道筋と構成を作成する。
5. 卒業研究として、論文等を作成する。

各回の授業計画:

1. 問題意識を膨らませる
2. 問題意識を深める
3. 研究のテーマを決定する
4. 先行研究を精読する
5. 先行研究を精読する
6. 参考文献を渉猟する
7. 参考文献を渉猟する
8. 研究の倫理について学ぶ
9. 執筆を行う
10. 執筆を行う
11. 執筆を行う
12. 執筆を行う
13. 執筆を行う
14. 執筆を行う
15. 論文の要約を発表する

特記事項: なし

授業方法: 第1～15回 講義、演習、グループワーク
(ゼミ毎に教員の指導の下で、先行研究・参考文献の調査、論文執筆などと、それに伴うディスカッションなどを行う)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

全体として予習・復習に90時間（単位認定に当たっては、45分を1時間とする。）を充てること。

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	卒業論文等の作成		50 **%**		
その他2：	口頭試問		20 **%**		

評価基準： 自身の問題意識に沿って、テーマを考え、参考文献や先行研究にあたっている。研究計画を立て、全体の構成を考え、自身の考えをまとめている。(60～69)
4年間の学びの集大成として、問題意識を深め、参考文献や先行研究を精読している。適切に研究計画を立て、テーマに沿って論文等の道筋と構成を作成し、自身の考えを的確に論述している。(80～100)

課題へのフィードバック：

進捗状況に応じて、適宜評価を個別または全体に説明する。

教科書： なし

参考書： 適宜、授業中に示す。

授業・準備学習のアドバイス：

卒業研究は4年間の学びの総決算である。これまでの知識や技能を総動員して、能動的、主体的に取り組むこと。論文を完成させたとき、あなた自身が（ものの見方・考え方が）変わったと感じるほどの出来栄えとなることを期待する。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 卒業研究

クラス: 児

授業コード: DA05600005

担当者: 臼井 真 **単位数:** 6

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 卒業研究又は卒業論文は、4年間の学びの集大成である。これまで培ってきた知識や技能を総動員し、自らテーマを掲げ、そのテーマに沿った研究計画を作成して研究を推進し、考察を深めていき、一つの論文等にまとめ上げることが卒業研究の目的である。(なお論文作成を主としない卒業研究についても、これに準じるものとする。)

到達目標:
1. 問題意識を深め、卒業論文のテーマを決定する。
2. 参考文献や先行研究を精読する。
3. 研究計画を立てる。
4. 序論、本論、結論など論文等の道筋と構成を作成する。
5. 卒業研究として、論文等を作成する。

各回の授業計画:

1. 問題意識を膨らませる
2. 問題意識を深める
3. 研究のテーマを決定する
4. 先行研究を精読する
5. 先行研究を精読する
6. 参考文献を渉猟する
7. 参考文献を渉猟する
8. 研究の倫理について学ぶ
9. 執筆を行う
10. 執筆を行う
11. 執筆を行う
12. 執筆を行う
13. 執筆を行う
14. 執筆を行う
15. 論文の要約を発表する

特記事項: なし

授業方法: 第1～15回 講義、演習、グループワーク
(ゼミ毎に教員の指導の下で、先行研究・参考文献の調査、論文執筆などと、それに伴うディスカッションなどを行う)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

全体として予習・復習に90時間（単位認定に当たっては、45分を1時間とする。）を充てること。

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	卒業論文等の作成		50 **%**		
その他2：	口頭試問		20 **%**		

評価基準： 自身の問題意識に沿って、テーマを考え、参考文献や先行研究にあたっている。研究計画を立て、全体の構成を考え、自身の考えをまとめている。(60～69)
4年間の学びの集大成として、問題意識を深め、参考文献や先行研究を精読している。適切に研究計画を立て、テーマに沿って論文等の道筋と構成を作成し、自身の考えを的確に論述している。(80～100)

課題へのフィードバック：

進捗状況に応じて、適宜評価を個別または全体に説明する。

教科書： なし

参考書： 適宜、授業中に示す。

授業・準備学習のアドバイス：

卒業研究は4年間の学びの総決算である。これまでの知識や技能を総動員して、能動的、主体的に取り組むこと。論文を完成させたとき、あなた自身が（ものの見方・考え方が）変わったと感じるほどの出来栄えとなることを期待する。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 卒業研究

クラス: 児

授業コード: DA05600006

担当者: 田中 聡 **単位数:** 6

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 卒業研究又は卒業論文は、4年間の学びの集大成である。これまで培ってきた知識や技能を総動員し、自らテーマを掲げ、そのテーマに沿った研究計画を作成して研究を推進し、考察を深めていき、一つの論文等にまとめ上げることが卒業研究の目的である。(なお論文作成を主としない卒業研究についても、これに準じるものとする。)

到達目標:
1. 問題意識を深め、卒業論文のテーマを決定する。
2. 参考文献や先行研究を精読する。
3. 研究計画を立てる。
4. 序論、本論、結論など論文等の道筋と構成を作成する。
5. 卒業研究として、論文等を作成する。

各回の授業計画:

1. 問題意識を膨らませる
2. 問題意識を深める
3. 研究のテーマを決定する
4. 先行研究を精読する
5. 先行研究を精読する
6. 参考文献を渉猟する
7. 参考文献を渉猟する
8. 研究の倫理について学ぶ
9. 執筆を行う
10. 執筆を行う
11. 執筆を行う
12. 執筆を行う
13. 執筆を行う
14. 執筆を行う
15. 論文の要約を発表する

特記事項: なし

授業方法: 第1～15回 講義、演習、グループワーク
(ゼミ毎に教員の指導の下で、先行研究・参考文献の調査、論文執筆などと、それに伴うディスカッションなどを行う)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

全体として予習・復習に90時間（単位認定に当たっては、45分を1時間とする。）を充てること。

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	卒業論文等の作成		50 **%**		
その他2：	口頭試問		20 **%**		

評価基準： 自身の問題意識に沿って、テーマを考え、参考文献や先行研究にあたっている。研究計画を立て、全体の構成を考え、自身の考えをまとめている。(60～69)
4年間の学びの集大成として、問題意識を深め、参考文献や先行研究を精読している。適切に研究計画を立て、テーマに沿って論文等の道筋と構成を作成し、自身の考えを的確に論述している。(80～100)

課題へのフィードバック：

進捗状況に応じて、適宜評価を個別または全体に説明する。

教科書： なし

参考書： 適宜、授業中に示す。

授業・準備学習のアドバイス：

卒業研究は4年間の学びの総決算である。これまでの知識や技能を総動員して、能動的、主体的に取り組むこと。論文を完成させたとき、あなた自身が（ものの見方・考え方が）変わったと感じるほどの出来栄えとなることを期待する。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 卒業研究

クラス: 児

授業コード: DA05600007

担当者: 佐藤 智恵　　**単位数:** 6

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 卒業研究又は卒業論文は、4年間の学びの集大成である。これまで培ってきた知識や技能を総動員し、自らテーマを掲げ、そのテーマに沿った研究計画を作成して研究を推進し、考察を深めていき、一つの論文等にまとめ上げることが卒業研究の目的である。(なお論文作成を主としない卒業研究についても、これに準じるものとする。)

到達目標:
1. 問題意識を深め、卒業論文のテーマを決定する。
2. 参考文献や先行研究を精読する。
3. 研究計画を立てる。
4. 序論、本論、結論など論文等の道筋と構成を作成する。
5. 卒業研究として、論文等を作成する。

各回の授業計画:

1. 問題意識を膨らませる
2. 問題意識を深める
3. 研究のテーマを決定する
4. 先行研究を精読する
5. 先行研究を精読する
6. 参考文献を渉猟する
7. 参考文献を渉猟する
8. 研究の倫理について学ぶ
9. 執筆を行う
10. 執筆を行う
11. 執筆を行う
12. 執筆を行う
13. 執筆を行う
14. 執筆を行う
15. 論文の要約を発表する

特記事項: なし

授業方法: 第1～15回 講義、演習、グループワーク
(ゼミ毎に教員の指導の下で、先行研究・参考文献の調査、論文執筆などと、それに伴うディスカッションなどを行う)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

全体として予習・復習に90時間（単位認定に当たっては、45分を1時間とする。）を充てること。

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	卒業論文等の作成		50 **%**		
その他2：	口頭試問		20 **%**		

評価基準： 自身の問題意識に沿って、テーマを考え、参考文献や先行研究にあたっている。研究計画を立て、全体の構成を考え、自身の考えをまとめている。(60～69)
4年間の学びの集大成として、問題意識を深め、参考文献や先行研究を精読している。適切に研究計画を立て、テーマに沿って論文等の道筋と構成を作成し、自身の考えを的確に論述している。(80～100)

課題へのフィードバック：

進捗状況に応じて、適宜評価を個別または全体に説明する。

教科書： なし

参考書： 適宜、授業中に示す。

授業・準備学習のアドバイス：

卒業研究は4年間の学びの総決算である。これまでの知識や技能を総動員して、能動的、主体的に取り組むこと。論文を完成させたとき、あなた自身が（ものの見方・考え方が）変わったと感じるほどの出来栄えとなることを期待する。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 卒業研究

クラス: 児

授業コード: DA05600008

担当者: 福井 逸子 **単位数:** 6

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 卒業研究又は卒業論文は、4年間の学びの集大成である。これまで培ってきた知識や技能を総動員し、自らテーマを掲げ、そのテーマに沿った研究計画を作成して研究を推進し、考察を深めていき、一つの論文等にまとめ上げることが卒業研究の目的である。(なお論文作成を主としない卒業研究についても、これに準じるものとする。)

到達目標:
1. 問題意識を深め、卒業論文のテーマを決定する。
2. 参考文献や先行研究を精読する。
3. 研究計画を立てる。
4. 序論、本論、結論など論文等の道筋と構成を作成する。
5. 卒業研究として、論文等を作成する。

各回の授業計画:

1. 問題意識を膨らませる
2. 問題意識を深める
3. 研究のテーマを決定する
4. 先行研究を精読する
5. 先行研究を精読する
6. 参考文献を渉猟する
7. 参考文献を渉猟する
8. 研究の倫理について学ぶ
9. 執筆を行う
10. 執筆を行う
11. 執筆を行う
12. 執筆を行う
13. 執筆を行う
14. 執筆を行う
15. 論文の要約を発表する

特記事項: なし

授業方法: 第1～15回 講義、演習、グループワーク
(ゼミ毎に教員の指導の下で、先行研究・参考文献の調査、論文執筆などと、それに伴うディスカッションなどを行う)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

全体として予習・復習に90時間（単位認定に当たっては、45分を1時間とする。）を充てること。

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	卒業論文等の作成		50 **%**		
その他2：	口頭試問		20 **%**		

評価基準： 自身の問題意識に沿って、テーマを考え、参考文献や先行研究にあたっている。研究計画を立て、全体の構成を考え、自身の考えをまとめている。(60～69)
4年間の学びの集大成として、問題意識を深め、参考文献や先行研究を精読している。適切に研究計画を立て、テーマに沿って論文等の道筋と構成を作成し、自身の考えを的確に論述している。(80～100)

課題へのフィードバック：

進捗状況に応じて、適宜評価を個別または全体に説明する。

教科書： なし

参考書： 適宜、授業中に示す。

授業・準備学習のアドバイス：

卒業研究は4年間の学びの総決算である。これまでの知識や技能を総動員して、能動的、主体的に取り組むこと。論文を完成させたとき、あなた自身が（ものの見方・考え方が）変わったと感じるほどの出来栄えとなることを期待する。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 卒業研究

クラス: 児

授業コード: DA05600009

担当者: 小川内 哲生 **単位数:** 6

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 卒業研究又は卒業論文は、4年間の学びの集大成である。これまで培ってきた知識や技能を総動員し、自らテーマを掲げ、そのテーマに沿った研究計画を作成して研究を推進し、考察を深めていき、一つの論文等にまとめ上げることが卒業研究の目的である。(なお論文作成を主としない卒業研究についても、これに準じるものとする。)

到達目標:
1. 問題意識を深め、卒業論文のテーマを決定する。
2. 参考文献や先行研究を精読する。
3. 研究計画を立てる。
4. 序論、本論、結論など論文等の道筋と構成を作成する。
5. 卒業研究として、論文等を作成する。

各回の授業計画:

1. 問題意識を膨らませる
2. 問題意識を深める
3. 研究のテーマを決定する
4. 先行研究を精読する
5. 先行研究を精読する
6. 参考文献を渉猟する
7. 参考文献を渉猟する
8. 研究の倫理について学ぶ
9. 執筆を行う
10. 執筆を行う
11. 執筆を行う
12. 執筆を行う
13. 執筆を行う
14. 執筆を行う
15. 論文の要約を発表する

特記事項: なし

授業方法: 第1～15回 講義、演習、グループワーク
(ゼミ毎に教員の指導の下で、先行研究・参考文献の調査、論文執筆などと、それに伴うディスカッションなどを行う)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

全体として予習・復習に90時間（単位認定に当たっては、45分を1時間とする。）を充てること。

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	卒業論文等の作成		50 **%**		
その他2：	口頭試問		20 **%**		

評価基準： 自身の問題意識に沿って、テーマを考え、参考文献や先行研究にあたっている。研究計画を立て、全体の構成を考え、自身の考えをまとめている。(60～69)
4年間の学びの集大成として、問題意識を深め、参考文献や先行研究を精読している。適切に研究計画を立て、テーマに沿って論文等の道筋と構成を作成し、自身の考えを的確に論述している。(80～100)

課題へのフィードバック：

進捗状況に応じて、適宜評価を個別または全体に説明する。

教科書： なし

参考書： 適宜、授業中に示す。

授業・準備学習のアドバイス：

卒業研究は4年間の学びの総決算である。これまでの知識や技能を総動員して、能動的、主体的に取り組むこと。論文を完成させたとき、あなた自身が（ものの見方・考え方が）変わったと感じるほどの出来栄えとなることを期待する。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 卒業研究

クラス: 児

授業コード: DA05600010

担当者: 有道 俊雄 **単位数:** 6

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 卒業研究又は卒業論文は、4年間の学びの集大成である。これまで培ってきた知識や技能を総動員し、自らテーマを掲げ、そのテーマに沿った研究計画を作成して研究を推進し、考察を深めていき、一つの論文等にまとめ上げることが卒業研究の目的である。(なお論文作成を主としない卒業研究についても、これに準じるものとする。)

到達目標:
1. 問題意識を深め、卒業論文のテーマを決定する。
2. 参考文献や先行研究を精読する。
3. 研究計画を立てる。
4. 序論、本論、結論など論文等の道筋と構成を作成する。
5. 卒業研究として、論文等を作成する。

各回の授業計画:

1. 問題意識を膨らませる
2. 問題意識を深める
3. 研究のテーマを決定する
4. 先行研究を精読する
5. 先行研究を精読する
6. 参考文献を渉猟する
7. 参考文献を渉猟する
8. 研究の倫理について学ぶ
9. 執筆を行う
10. 執筆を行う
11. 執筆を行う
12. 執筆を行う
13. 執筆を行う
14. 執筆を行う
15. 論文の要約を発表する

特記事項: なし

授業方法: 第1～15回 講義、演習、グループワーク
(ゼミ毎に教員の指導の下で、先行研究・参考文献の調査、論文執筆などと、それに伴うディスカッションなどを行う)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

全体として予習・復習に90時間（単位認定に当たっては、45分を1時間とする。）を充てること。

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	卒業論文等の作成		50 **%**		
その他2：	口頭試問		20 **%**		

評価基準： 自身の問題意識に沿って、テーマを考え、参考文献や先行研究にあたっている。研究計画を立て、全体の構成を考え、自身の考えをまとめている。(60～69)
4年間の学びの集大成として、問題意識を深め、参考文献や先行研究を精読している。適切に研究計画を立て、テーマに沿って論文等の道筋と構成を作成し、自身の考えを的確に論述している。(80～100)

課題へのフィードバック：

進捗状況に応じて、適宜評価を個別または全体に説明する。

教科書： なし

参考書： 適宜、授業中に示す。

授業・準備学習のアドバイス：

卒業研究は4年間の学びの総決算である。これまでの知識や技能を総動員して、能動的、主体的に取り組むこと。論文を完成させたとき、あなた自身が（ものの見方・考え方が）変わったと感じるほどの出来栄えとなることを期待する。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 卒業研究

クラス: 児

授業コード: DA05600011

担当者: 高橋 一夫 **単位数:** 6

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 卒業研究又は卒業論文は、4年間の学びの集大成である。これまで培ってきた知識や技能を総動員し、自らテーマを掲げ、そのテーマに沿った研究計画を作成して研究を推進し、考察を深めていき、一つの論文等にまとめ上げることが卒業研究の目的である。(なお論文作成を主としない卒業研究についても、これに準じるものとする。)

到達目標:
1. 問題意識を深め、卒業論文のテーマを決定する。
2. 参考文献や先行研究を精読する。
3. 研究計画を立てる。
4. 序論、本論、結論など論文等の道筋と構成を作成する。
5. 卒業研究として、論文等を作成する。

各回の授業計画:

1. 問題意識を膨らませる
2. 問題意識を深める
3. 研究のテーマを決定する
4. 先行研究を精読する
5. 先行研究を精読する
6. 参考文献を渉猟する
7. 参考文献を渉猟する
8. 研究の倫理について学ぶ
9. 執筆を行う
10. 執筆を行う
11. 執筆を行う
12. 執筆を行う
13. 執筆を行う
14. 執筆を行う
15. 論文の要約を発表する

特記事項: なし

授業方法: 第1～15回 講義、演習、グループワーク
(ゼミ毎に教員の指導の下で、先行研究・参考文献の調査、論文執筆などと、それに伴うディスカッションなどを行う)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

全体として予習・復習に90時間（単位認定に当たっては、45分を1時間とする。）を充てること。

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	卒業論文等の作成		50 **%**		
その他2：	口頭試問		20 **%**		

評価基準： 自身の問題意識に沿って、テーマを考え、参考文献や先行研究にあたっている。研究計画を立て、全体の構成を考え、自身の考えをまとめている。(60～69)
4年間の学びの集大成として、問題意識を深め、参考文献や先行研究を精読している。適切に研究計画を立て、テーマに沿って論文等の道筋と構成を作成し、自身の考えを的確に論述している。(80～100)

課題へのフィードバック：

進捗状況に応じて、適宜評価を個別または全体に説明する。

教科書： なし

参考書： 適宜、授業中に示す。

授業・準備学習のアドバイス：

卒業研究は4年間の学びの総決算である。これまでの知識や技能を総動員して、能動的、主体的に取り組むこと。論文を完成させたとき、あなた自身が（ものの見方・考え方が）変わったと感じるほどの出来栄えとなることを期待する。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 卒業研究

クラス: 児

授業コード: DA05600012

担当者: 金山 健一　　**単位数:** 6

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 卒業研究又は卒業論文は、4年間の学びの集大成である。これまで培ってきた知識や技能を総動員し、自らテーマを掲げ、そのテーマに沿った研究計画を作成して研究を推進し、考察を深めていき、一つの論文等にまとめ上げることが卒業研究の目的である。(なお論文作成を主としない卒業研究についても、これに準じるものとする。)

到達目標:
1. 問題意識を深め、卒業論文のテーマを決定する。
2. 参考文献や先行研究を精読する。
3. 研究計画を立てる。
4. 序論、本論、結論など論文等の道筋と構成を作成する。
5. 卒業研究として、論文等を作成する。

各回の授業計画:

1. 問題意識を膨らませる
2. 問題意識を深める
3. 研究のテーマを決定する
4. 先行研究を精読する
5. 先行研究を精読する
6. 参考文献を渉猟する
7. 参考文献を渉猟する
8. 研究の倫理について学ぶ
9. 執筆を行う
10. 執筆を行う
11. 執筆を行う
12. 執筆を行う
13. 執筆を行う
14. 執筆を行う
15. 論文の要約を発表する

特記事項: なし

授業方法: 第1～15回 講義、演習、グループワーク
(ゼミ毎に教員の指導の下で、先行研究・参考文献の調査、論文執筆などと、それに伴うディスカッションなどを行う)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

全体として予習・復習に90時間（単位認定に当たっては、45分を1時間とする。）を充てること。

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	卒業論文等の作成		50 **%**		
その他2：	口頭試問		20 **%**		

評価基準： 自身の問題意識に沿って、テーマを考え、参考文献や先行研究にあたっている。研究計画を立て、全体の構成を考え、自身の考えをまとめている。(60～69)
4年間の学びの集大成として、問題意識を深め、参考文献や先行研究を精読している。適切に研究計画を立て、テーマに沿って論文等の道筋と構成を作成し、自身の考えを的確に論述している。(80～100)

課題へのフィードバック：

進捗状況に応じて、適宜評価を個別または全体に説明する。

教科書： なし

参考書： 適宜、授業中に示す。

授業・準備学習のアドバイス：

卒業研究は4年間の学びの総決算である。これまでの知識や技能を総動員して、能動的、主体的に取り組むこと。論文を完成させたとき、あなた自身が（ものの見方・考え方が）変わったと感じるほどの出来栄えとなることを期待する。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 卒業研究

クラス: 児

授業コード: DA05600013

担当者: 新藤 照夫 **単位数:** 6

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 卒業研究又は卒業論文は、4年間の学びの集大成である。これまで培ってきた知識や技能を総動員し、自らテーマを掲げ、そのテーマに沿った研究計画を作成して研究を推進し、考察を深めていき、一つの論文等にまとめ上げることが卒業研究の目的である。(なお論文作成を主としない卒業研究についても、これに準じるものとする。)

到達目標:
1. 問題意識を深め、卒業論文のテーマを決定する。
2. 参考文献や先行研究を精読する。
3. 研究計画を立てる。
4. 序論、本論、結論など論文等の道筋と構成を作成する。
5. 卒業研究として、論文等を作成する。

各回の授業計画:

1. 問題意識を膨らませる
2. 問題意識を深める
3. 研究のテーマを決定する
4. 先行研究を精読する
5. 先行研究を精読する
6. 参考文献を渉猟する
7. 参考文献を渉猟する
8. 研究の倫理について学ぶ
9. 執筆を行う
10. 執筆を行う
11. 執筆を行う
12. 執筆を行う
13. 執筆を行う
14. 執筆を行う
15. 論文の要約を発表する

特記事項: なし

授業方法: 第1～15回 講義、演習、グループワーク
(ゼミ毎に教員の指導の下で、先行研究・参考文献の調査、論文執筆などと、それに伴うディスカッションなどを行う)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

全体として予習・復習に90時間（単位認定に当たっては、45分を1時間とする。）を充てること。

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	卒業論文等の作成		50 **%**		
その他2：	口頭試問		20 **%**		

評価基準： 自身の問題意識に沿って、テーマを考え、参考文献や先行研究にあたっている。研究計画を立て、全体の構成を考え、自身の考えをまとめている。(60～69)
4年間の学びの集大成として、問題意識を深め、参考文献や先行研究を精読している。適切に研究計画を立て、テーマに沿って論文等の道筋と構成を作成し、自身の考えを的確に論述している。(80～100)

課題へのフィードバック：

進捗状況に応じて、適宜評価を個別または全体に説明する。

教科書： なし

参考書： 適宜、授業中に示す。

授業・準備学習のアドバイス：

卒業研究は4年間の学びの総決算である。これまでの知識や技能を総動員して、能動的、主体的に取り組むこと。論文を完成させたとき、あなた自身が（ものの見方・考え方が）変わったと感じるほどの出来栄えとなることを期待する。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 卒業研究

クラス: 児

授業コード: DA05600014

担当者: 山口　香織　　**単位数:** 6

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 卒業研究又は卒業論文は、4年間の学びの集大成である。これまで培ってきた知識や技能を総動員し、自らテーマを掲げ、そのテーマに沿った研究計画を作成して研究を推進し、考察を深めていき、一つの論文等にまとめ上げることが卒業研究の目的である。(なお論文作成を主としない卒業研究についても、これに準じるものとする。)

到達目標:
1. 問題意識を深め、卒業論文のテーマを決定する。
2. 参考文献や先行研究を精読する。
3. 研究計画を立てる。
4. 序論、本論、結論など論文等の道筋と構成を作成する。
5. 卒業研究として、論文等を作成する。

各回の授業計画:

1. 問題意識を膨らませる
2. 問題意識を深める
3. 研究のテーマを決定する
4. 先行研究を精読する
5. 先行研究を精読する
6. 参考文献を渉猟する
7. 参考文献を渉猟する
8. 研究の倫理について学ぶ
9. 執筆を行う
10. 執筆を行う
11. 執筆を行う
12. 執筆を行う
13. 執筆を行う
14. 執筆を行う
15. 論文の要約を発表する

特記事項: なし

授業方法: 第1～15回 講義、演習、グループワーク
(ゼミ毎に教員の指導の下で、先行研究・参考文献の調査、論文執筆などと、それに伴うディスカッションなどを行う)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

全体として予習・復習に90時間（単位認定に当たっては、45分を1時間とする。）を充てること。

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	卒業論文等の作成		50 **%**		
その他2：	口頭試問		20 **%**		

評価基準： 自身の問題意識に沿って、テーマを考え、参考文献や先行研究にあたっている。研究計画を立て、全体の構成を考え、自身の考えをまとめている。(60～69)
4年間の学びの集大成として、問題意識を深め、参考文献や先行研究を精読している。適切に研究計画を立て、テーマに沿って論文等の道筋と構成を作成し、自身の考えを的確に論述している。(80～100)

課題へのフィードバック：

進捗状況に応じて、適宜評価を個別または全体に説明する。

教科書： なし

参考書： 適宜、授業中に示す。

授業・準備学習のアドバイス：

卒業研究は4年間の学びの総決算である。これまでの知識や技能を総動員して、能動的、主体的に取り組むこと。論文を完成させたとき、あなた自身が（ものの見方・考え方が）変わったと感じるほどの出来栄えとなることを期待する。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 卒業研究

クラス: 児

授業コード: DA05600015

担当者: 齋藤 隆彦 **単位数:** 6

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 卒業研究又は卒業論文は、4年間の学びの集大成である。これまで培ってきた知識や技能を総動員し、自らテーマを掲げ、そのテーマに沿った研究計画を作成して研究を推進し、考察を深めていき、一つの論文等にまとめ上げることが卒業研究の目的である。(なお論文作成を主としない卒業研究についても、これに準じるものとする。)

到達目標:
1. 問題意識を深め、卒業論文のテーマを決定する。
2. 参考文献や先行研究を精読する。
3. 研究計画を立てる。
4. 序論、本論、結論など論文等の道筋と構成を作成する。
5. 卒業研究として、論文等を作成する。

各回の授業計画:

1. 問題意識を膨らませる
2. 問題意識を深める
3. 研究のテーマを決定する
4. 先行研究を精読する
5. 先行研究を精読する
6. 参考文献を渉猟する
7. 参考文献を渉猟する
8. 研究の倫理について学ぶ
9. 執筆を行う
10. 執筆を行う
11. 執筆を行う
12. 執筆を行う
13. 執筆を行う
14. 執筆を行う
15. 論文の要約を発表する

特記事項: なし

授業方法: 第1～15回 講義、演習、グループワーク
(ゼミ毎に教員の指導の下で、先行研究・参考文献の調査、論文執筆などと、それに伴うディスカッションなどを行う)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

全体として予習・復習に90時間（単位認定に当たっては、45分を1時間とする。）を充てること。

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	卒業論文等の作成		50 **%**		
その他2：	口頭試問		20 **%**		

評価基準： 自身の問題意識に沿って、テーマを考え、参考文献や先行研究にあたっている。研究計画を立て、全体の構成を考え、自身の考えをまとめている。(60～69)
4年間の学びの集大成として、問題意識を深め、参考文献や先行研究を精読している。適切に研究計画を立て、テーマに沿って論文等の道筋と構成を作成し、自身の考えを的確に論述している。(80～100)

課題へのフィードバック：

進捗状況に応じて、適宜評価を個別または全体に説明する。

教科書： なし

参考書： 適宜、授業中に示す。

授業・準備学習のアドバイス：

卒業研究は4年間の学びの総決算である。これまでの知識や技能を総動員して、能動的、主体的に取り組むこと。論文を完成させたとき、あなた自身が（ものの見方・考え方が）変わったと感じるほどの出来栄えとなることを期待する。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 卒業研究

クラス: 児

授業コード: DA05600016

担当者: 堤 康嘉 **単位数:** 6

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 卒業研究又は卒業論文は、4年間の学びの集大成である。これまで培ってきた知識や技能を総動員し、自らテーマを掲げ、そのテーマに沿った研究計画を作成して研究を推進し、考察を深めていき、一つの論文等にまとめ上げることが卒業研究の目的である。(なお論文作成を主としない卒業研究についても、これに準じるものとする。)

到達目標:
1. 問題意識を深め、卒業論文のテーマを決定する。
2. 参考文献や先行研究を精読する。
3. 研究計画を立てる。
4. 序論、本論、結論など論文等の道筋と構成を作成する。
5. 卒業研究として、論文等を作成する。

各回の授業計画:

1. 問題意識を膨らませる
2. 問題意識を深める
3. 研究のテーマを決定する
4. 先行研究を精読する
5. 先行研究を精読する
6. 参考文献を渉猟する
7. 参考文献を渉猟する
8. 研究の倫理について学ぶ
9. 執筆を行う
10. 執筆を行う
11. 執筆を行う
12. 執筆を行う
13. 執筆を行う
14. 執筆を行う
15. 論文の要約を発表する

特記事項: なし

授業方法: 第1～15回 講義、演習、グループワーク
(ゼミ毎に教員の指導の下で、先行研究・参考文献の調査、論文執筆などと、それに伴うディスカッションなどを行う)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

全体として予習・復習に90時間（単位認定に当たっては、45分を1時間とする。）を充てること。

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	卒業論文等の作成		50 **%**		
その他2：	口頭試問		20 **%**		

評価基準： 自身の問題意識に沿って、テーマを考え、参考文献や先行研究にあたっている。研究計画を立て、全体の構成を考え、自身の考えをまとめている。(60～69)
4年間の学びの集大成として、問題意識を深め、参考文献や先行研究を精読している。適切に研究計画を立て、テーマに沿って論文等の道筋と構成を作成し、自身の考えを的確に論述している。(80～100)

課題へのフィードバック：

進捗状況に応じて、適宜評価を個別または全体に説明する。

教科書： なし

参考書： 適宜、授業中に示す。

授業・準備学習のアドバイス：

卒業研究は4年間の学びの総決算である。これまでの知識や技能を総動員して、能動的、主体的に取り組むこと。論文を完成させたとき、あなた自身が（ものの見方・考え方が）変わったと感じるほどの出来栄えとなることを期待する。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 卒業研究

クラス: 児

授業コード: DA05600017

担当者: 岩濵 里江子 **単位数:** 6

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 卒業研究又は卒業論文は、4年間の学びの集大成である。これまで培ってきた知識や技能を総動員し、自らテーマを掲げ、そのテーマに沿った研究計画を作成して研究を推進し、考察を深めていき、一つの論文等にまとめ上げることが卒業研究の目的である。(なお論文作成を主としない卒業研究についても、これに準じるものとする。)

到達目標:
1. 問題意識を深め、卒業論文のテーマを決定する。
2. 参考文献や先行研究を精読する。
3. 研究計画を立てる。
4. 序論、本論、結論など論文等の道筋と構成を作成する。
5. 卒業研究として、論文等を作成する。

各回の授業計画:

1. 問題意識を膨らませる
2. 問題意識を深める
3. 研究のテーマを決定する
4. 先行研究を精読する
5. 先行研究を精読する
6. 参考文献を渉猟する
7. 参考文献を渉猟する
8. 研究の倫理について学ぶ
9. 執筆を行う
10. 執筆を行う
11. 執筆を行う
12. 執筆を行う
13. 執筆を行う
14. 執筆を行う
15. 論文の要約を発表する

特記事項: なし

授業方法: 第1～15回 講義、演習、グループワーク
(ゼミ毎に教員の指導の下で、先行研究・参考文献の調査、論文執筆などと、それに伴うディスカッションなどを行う)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

全体として予習・復習に90時間（単位認定に当たっては、45分を1時間とする。）を充てること。

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	卒業論文等の作成		50 **%**		
その他2：	口頭試問		20 **%**		

評価基準： 自身の問題意識に沿って、テーマを考え、参考文献や先行研究にあたっている。研究計画を立て、全体の構成を考え、自身の考えをまとめている。(60～69)
4年間の学びの集大成として、問題意識を深め、参考文献や先行研究を精読している。適切に研究計画を立て、テーマに沿って論文等の道筋と構成を作成し、自身の考えを的確に論述している。(80～100)

課題へのフィードバック：

進捗状況に応じて、適宜評価を個別または全体に説明する。

教科書： なし

参考書： 適宜、授業中に示す。

授業・準備学習のアドバイス：

卒業研究は4年間の学びの総決算である。これまでの知識や技能を総動員して、能動的、主体的に取り組むこと。論文を完成させたとき、あなた自身が（ものの見方・考え方が）変わったと感じるほどの出来栄えとなることを期待する。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 卒業研究

クラス: 児

授業コード: DA05600018

担当者: 瀬戸山 悠　　**単位数:** 6

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 卒業研究又は卒業論文は、4年間の学びの集大成である。これまで培ってきた知識や技能を総動員し、自らテーマを掲げ、そのテーマに沿った研究計画を作成して研究を推進し、考察を深めていき、一つの論文等にまとめ上げることが卒業研究の目的である。(なお論文作成を主としない卒業研究についても、これに準じるものとする。)

到達目標:
1. 問題意識を深め、卒業論文のテーマを決定する。
2. 参考文献や先行研究を精読する。
3. 研究計画を立てる。
4. 序論、本論、結論など論文等の道筋と構成を作成する。
5. 卒業研究として、論文等を作成する。

各回の授業計画:

1. 問題意識を膨らませる
2. 問題意識を深める
3. 研究のテーマを決定する
4. 先行研究を精読する
5. 先行研究を精読する
6. 参考文献を渉猟する
7. 参考文献を渉猟する
8. 研究の倫理について学ぶ
9. 執筆を行う
10. 執筆を行う
11. 執筆を行う
12. 執筆を行う
13. 執筆を行う
14. 執筆を行う
15. 論文の要約を発表する

特記事項: なし

授業方法: 第1～15回 講義、演習、グループワーク
(ゼミ毎に教員の指導の下で、先行研究・参考文献の調査、論文執筆などと、それに伴うディスカッションなどを行う)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

全体として予習・復習に90時間（単位認定に当たっては、45分を1時間とする。）を充てること。

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	卒業論文等の作成		50 **%**		
その他2：	口頭試問		20 **%**		

評価基準： 自身の問題意識に沿って、テーマを考え、参考文献や先行研究にあたっている。研究計画を立て、全体の構成を考え、自身の考えをまとめている。(60～69)
4年間の学びの集大成として、問題意識を深め、参考文献や先行研究を精読している。適切に研究計画を立て、テーマに沿って論文等の道筋と構成を作成し、自身の考えを的確に論述している。(80～100)

課題へのフィードバック：

進捗状況に応じて、適宜評価を個別または全体に説明する。

教科書： なし

参考書： 適宜、授業中に示す。

授業・準備学習のアドバイス：

卒業研究は4年間の学びの総決算である。これまでの知識や技能を総動員して、能動的、主体的に取り組むこと。論文を完成させたとき、あなた自身が（ものの見方・考え方が）変わったと感じるほどの出来栄えとなることを期待する。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 卒業研究

クラス: 児

授業コード: DA05600019

担当者: 塚本 久義　　**単位数:** 6

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 卒業研究又は卒業論文は、4年間の学びの集大成である。これまで培ってきた知識や技能を総動員し、自らテーマを掲げ、そのテーマに沿った研究計画を作成して研究を推進し、考察を深めていき、一つの論文等にまとめ上げることが卒業研究の目的である。(なお論文作成を主としない卒業研究についても、これに準じるものとする。)

到達目標:
1. 問題意識を深め、卒業論文のテーマを決定する。
2. 参考文献や先行研究を精読する。
3. 研究計画を立てる。
4. 序論、本論、結論など論文等の道筋と構成を作成する。
5. 卒業研究として、論文等を作成する。

各回の授業計画:

1. 問題意識を膨らませる
2. 問題意識を深める
3. 研究のテーマを決定する
4. 先行研究を精読する
5. 先行研究を精読する
6. 参考文献を渉猟する
7. 参考文献を渉猟する
8. 研究の倫理について学ぶ
9. 執筆を行う
10. 執筆を行う
11. 執筆を行う
12. 執筆を行う
13. 執筆を行う
14. 執筆を行う
15. 論文の要約を発表する

特記事項: なし

授業方法: 第1～15回 講義、演習、グループワーク
(ゼミ毎に教員の指導の下で、先行研究・参考文献の調査、論文執筆などと、それに伴うディスカッションなどを行う)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

全体として予習・復習に90時間（単位認定に当たっては、45分を1時間とする。）を充てること。

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	卒業論文等の作成		50 **%**		
その他2：	口頭試問		20 **%**		

評価基準： 自身の問題意識に沿って、テーマを考え、参考文献や先行研究にあたっている。研究計画を立て、全体の構成を考え、自身の考えをまとめている。(60～69)
4年間の学びの集大成として、問題意識を深め、参考文献や先行研究を精読している。適切に研究計画を立て、テーマに沿って論文等の道筋と構成を作成し、自身の考えを的確に論述している。(80～100)

課題へのフィードバック：

進捗状況に応じて、適宜評価を個別または全体に説明する。

教科書： なし

参考書： 適宜、授業中に示す。

授業・準備学習のアドバイス：

卒業研究は4年間の学びの総決算である。これまでの知識や技能を総動員して、能動的、主体的に取り組むこと。論文を完成させたとき、あなた自身が（ものの見方・考え方が）変わったと感じるほどの出来栄えとなることを期待する。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 卒業研究

クラス: 児

授業コード: DA05600020

担当者: 廣岡 義之 **単位数:** 6

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 卒業研究又は卒業論文は、4年間の学びの集大成である。これまで培ってきた知識や技能を総動員し、自らテーマを掲げ、そのテーマに沿った研究計画を作成して研究を推進し、考察を深めていき、一つの論文等にまとめ上げることが卒業研究の目的である。(なお論文作成を主としない卒業研究についても、これに準じるものとする。)

到達目標:
1. 問題意識を深め、卒業論文のテーマを決定する。
2. 参考文献や先行研究を精読する。
3. 研究計画を立てる。
4. 序論、本論、結論など論文等の道筋と構成を作成する。
5. 卒業研究として、論文等を作成する。

各回の授業計画:

1. 問題意識を膨らませる
2. 問題意識を深める
3. 研究のテーマを決定する
4. 先行研究を精読する
5. 先行研究を精読する
6. 参考文献を渉猟する
7. 参考文献を渉猟する
8. 研究の倫理について学ぶ
9. 執筆を行う
10. 執筆を行う
11. 執筆を行う
12. 執筆を行う
13. 執筆を行う
14. 執筆を行う
15. 論文の要約を発表する

特記事項: なし

授業方法: 第1～15回 講義、演習、グループワーク
(ゼミ毎に教員の指導の下で、先行研究・参考文献の調査、論文執筆などと、それに伴うディスカッションなどを行う)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

全体として予習・復習に90時間（単位認定に当たっては、45分を1時間とする。）を充てること。

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	卒業論文等の作成		50 **%**		
その他2：	口頭試問		20 **%**		

評価基準： 自身の問題意識に沿って、テーマを考え、参考文献や先行研究にあたっている。研究計画を立て、全体の構成を考え、自身の考えをまとめている。(60～69)
4年間の学びの集大成として、問題意識を深め、参考文献や先行研究を精読している。適切に研究計画を立て、テーマに沿って論文等の道筋と構成を作成し、自身の考えを的確に論述している。(80～100)

課題へのフィードバック：

進捗状況に応じて、適宜評価を個別または全体に説明する。

教科書： なし

参考書： 適宜、授業中に示す。

授業・準備学習のアドバイス：

卒業研究は4年間の学びの総決算である。これまでの知識や技能を総動員して、能動的、主体的に取り組むこと。論文を完成させたとき、あなた自身が（ものの見方・考え方が）変わったと感じるほどの出来栄えとなることを期待する。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 卒業研究

クラス: 児

授業コード: DA05600021

担当者: 芝田 悦司 **単位数:** 6

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 卒業研究又は卒業論文は、4年間の学びの集大成である。これまで培ってきた知識や技能を総動員し、自らテーマを掲げ、そのテーマに沿った研究計画を作成して研究を推進し、考察を深めていき、一つの論文等にまとめ上げることが卒業研究の目的である。(なお論文作成を主としない卒業研究についても、これに準じるものとする。)

到達目標:
1. 問題意識を深め、卒業論文のテーマを決定する。
2. 参考文献や先行研究を精読する。
3. 研究計画を立てる。
4. 序論、本論、結論など論文等の道筋と構成を作成する。
5. 卒業研究として、論文等を作成する。

各回の授業計画:

1. 問題意識を膨らませる
2. 問題意識を深める
3. 研究のテーマを決定する
4. 先行研究を精読する
5. 先行研究を精読する
6. 参考文献を渉猟する
7. 参考文献を渉猟する
8. 研究の倫理について学ぶ
9. 執筆を行う
10. 執筆を行う
11. 執筆を行う
12. 執筆を行う
13. 執筆を行う
14. 執筆を行う
15. 論文の要約を発表する

特記事項: なし

授業方法: 第1～15回 講義、演習、グループワーク
(ゼミ毎に教員の指導の下で、先行研究・参考文献の調査、論文執筆などと、それに伴うディスカッションなどを行う)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

全体として予習・復習に90時間（単位認定に当たっては、45分を1時間とする。）を充てること。

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	卒業論文等の作成		50 **%**		
その他2：	口頭試問		20 **%**		

評価基準： 自身の問題意識に沿って、テーマを考え、参考文献や先行研究にあたっている。研究計画を立て、全体の構成を考え、自身の考えをまとめている。(60～69)
4年間の学びの集大成として、問題意識を深め、参考文献や先行研究を精読している。適切に研究計画を立て、テーマに沿って論文等の道筋と構成を作成し、自身の考えを的確に論述している。(80～100)

課題へのフィードバック：

進捗状況に応じて、適宜評価を個別または全体に説明する。

教科書： なし

参考書： 適宜、授業中に示す。

授業・準備学習のアドバイス：

卒業研究は4年間の学びの総決算である。これまでの知識や技能を総動員して、能動的、主体的に取り組むこと。論文を完成させたとき、あなた自身が（ものの見方・考え方が）変わったと感じるほどの出来栄えとなることを期待する。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 卒業研究

クラス: 児 春末卒業用

授業コード: DA05600031

担当者: 佐藤 智恵 **単位数:** 6

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 卒業研究又は卒業論文は、4年間の学びの集大成である。これまで培ってきた知識や技能を総動員し、自らテーマを掲げ、そのテーマに沿った研究計画を作成して研究を推進し、考察を深めていき、一つの論文等にまとめ上げることが卒業研究の目的である。(なお論文作成を主としない卒業研究についても、これに準じるものとする。)

到達目標:
1. 問題意識を深め、卒業論文のテーマを決定する。
2. 参考文献や先行研究を精読する。
3. 研究計画を立てる。
4. 序論、本論、結論など論文等の道筋と構成を作成する。
5. 卒業研究として、論文等を作成する。

各回の授業計画:

1. 問題意識を膨らませる
2. 問題意識を深める
3. 研究のテーマを決定する
4. 先行研究を精読する
5. 先行研究を精読する
6. 参考文献を渉猟する
7. 参考文献を渉猟する
8. 研究の倫理について学ぶ
9. 執筆を行う
10. 執筆を行う
11. 執筆を行う
12. 執筆を行う
13. 執筆を行う
14. 執筆を行う
15. 論文の要約を発表する

特記事項: なし

授業方法: 第1～15回 講義、演習、グループワーク
(ゼミ毎に教員の指導の下で、先行研究・参考文献の調査、論文執筆などと、それに伴うディスカッションなどを行う)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

全体として予習・復習に90時間（単位認定に当たっては、45分を1時間とする。）を充てること。

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	卒業論文等の作成		50 **%**		
その他2：	口頭試問		20 **%**		

評価基準： 自身の問題意識に沿って、テーマを考え、参考文献や先行研究にあたっている。研究計画を立て、全体の構成を考え、自身の考えをまとめている。(60～69)
4年間の学びの集大成として、問題意識を深め、参考文献や先行研究を精読している。適切に研究計画を立て、テーマに沿って論文等の道筋と構成を作成し、自身の考えを的確に論述している。(80～100)

課題へのフィードバック：

進捗状況に応じて、適宜評価を個別または全体に説明する。

教科書： なし

参考書： 適宜、授業中に示す。

授業・準備学習のアドバイス：

卒業研究は4年間の学びの総決算である。これまでの知識や技能を総動員して、能動的、主体的に取り組むこと。論文を完成させたとき、あなた自身が（ものの見方・考え方が）変わったと感じるほどの出来栄えとなることを期待する。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育課程論

クラス: 小中高/小+(内規科目)

授業コード: DA10100001

担当者: 廣岡 義之 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教育の基礎的理解に関する科目(小学校)(中学校)(高等学校)【必修】

含めることが必要な事項: 教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 元来、「教育課程」とはカリキュラムすなわち、学校の教育内容の組織を指し示す。それは望ましい学習が展開されるように配慮して作成される学校の教育内容の組織のことである。そこで本科目では、教育課程とは何か、教育課程はどのように編成されるか、編成された教育課程はどのような形態を持つか、わが国の教育課程は歴史的にどのように変遷してきたか、現在の小・中・高校の教育課程はどのような特徴をもつか等について概説する。受講生はテキストにしたがって発表および討論が求められる。

到達目標: (授業のテーマ)教育課程とは何か、教育課程はどのように編成されるか、編成された教育課程はどのような形態を持つか、について、基本的な理解ができるようになることをめざす。
(到達目標)
・わが国の教育改革の歴史と教育課程の変遷について把握する。
・教育課程の意義と目的について理解する。
・教育課程及び学習指導要領編成の内容について理解を深める。
・現在の小学校・中学校・高等学校における教育課程の枠組みと内容を把握する。

各回の授業計画:

1. 本講義のオリエンテーション
2. 教育課程の意義(カリキュラム・マネジメントの意義の理解を含む)
3. 学習指導要領の意義と内容の歴史的変遷(1):戦後からゆとり教育まで
4. 学習指導要領の意義と内容の歴史的変遷(2):ゆとり教育から新学習指導要領まで
5. 教育課程編成の教育目的・目標(カリキュラム・マネジメントの意義の理解を含む)
6. 教育課程の諸類型について(カリキュラム・マネジメントの意義の理解を含む)
7. 教育課程の編成の方法 (幼稚園)(カリキュラム・マネジメント、カリキュラム評価の理解を含む)
8. 教育課程の編成の方法 (小学校)(1):学習指導要領の特徴(カリキュラム・マネジメント、カリキュラム評価の理解を含む)
9. 教育課程の編成の方法 (小学校)(2):現代的意義(カリキュラム・マネジメントの意義の理解を含む)
10. 教育課程の編成の方法 (中学校・高等学校)(カリキュラム・マネジメント、カリキュラム評価の理解を含む)
11. 世界各国の教育課程
12. 最新学習指導要領総則の解説(1):改訂の経緯および基本方針
13. 最新学習指導要領総則の解説(2):改訂の要点
14. 最新学習指導要領総則の解説(3):教育課程の実施と学習評価
15. 確認テストとまとめ(教育課程の今後の課題と展望について)

特記事項: なし

授業方法: すべての授業を対面授業で行う
1. 講義
2. 講義
3. 講義
4. 講義
5. 講義
6. 講義
7. 講義
8. 講義
9. 講義
10. 講義
11. 講義
12. 講義
13. 講義
14. 講義

15. 講義

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1.（予習）教科書1章を通読する。（180分）
2.（予習）教科書2章を通読する。（180分）
3.（予習）教科書3章1-3節を通読する。（180分）
4.（予習）教科書3章4-5節を通読する。（180分）
5.（予習）教科書4章を通読する。（180分）
6.（予習）教科書4章を通読する。（180分）
7.（予習）教科書5章を通読する。（180分）
8.（予習）教科書6章を通読する。（180分）
9.（予習）教科書7章を通読する。（180分）
10.（予習）教科書8章を通読する。（180分）
11.（予習）教科書9章を通読する。（180分）
12.（予習）教科書10章を通読する。（180分）
13.（予習）教科書11章を通読する。（180分）
14.（予習）教科書12・13章を通読する。（180分）
15.（復習）これまで学んできたことのまとめ。（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	50	**%**	**確認テスト：**	50	**%**	**レポート：**	- **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準： . 授業参加態度
①授業内容の「メモをとる」等ができる（60-69）。これらに加えて（90-100）は受講態度がきわめて積極的なことが条件。
2. 復習テスト
①初等教育の基礎的な概念を説明できる。（60-69） これらに加えて初等教育の専門的な概念を説明できる。（90-100）
・上記項目を総合的に評価する。

課題へのフィードバック：

試験については、その課題のポイントと評価の観点を全体に向けて説明する。

教科書： 広岡義之著、『新しい教育課程論概説』 あいり出版

参考書： 文部科学省『小学校学習指導要領』東洋館出版社（平成30年2月）
文部科学省『中学校学習指導要領』東山書房（平成30年3月）
文部科学省『高等学校学習指導要領』東山書房（最新版）
文部科学省『中学校学習指導要領解説 総則編』東山書房（平成30年3月）

授業・準備学習のアドバイス：

毎回予習復習を習慣化すること。
レポート課題はTeamsにて提示する。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 道徳教育の指導法

クラス: 小中高/小+(内規科目)

授業コード: DA10200001

担当者: 廣岡 義之 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目(小学校)(中学校)【必修】

含めることが必要な事項: 道徳の理論及び指導法

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 具体的には、道徳教育にかかわる基本概念を学び、今日の道徳教育の課題や問題について考えることによって、道徳性をどのようにして育むのかという問いにたいして自らの答えを持てるようになることである。 受講生はテキストにしたがって発表および討論が求められる。

到達目標: 授業のテーマ:「道徳科」という科目のねらいとこの科目が設置されたことの意義について自ら考えることができるようになる。道徳を教えるためのさまざまな指導法を学び、それらの長所と短所を理解できるようになる。道徳の授業のための授業案を作成でき、教育実習においても十分対応できるようになる。
目標:教育の基礎である道徳の内容を理解し、道徳の授業の展開方法と指導法を身につけることがこの授業の目標である。

各回の授業計画:

1. 本講義のオリエンテーション
2. 学習指導要領「道徳」の改訂重要事項について
3. 道徳教育の目標と内容について
4. 道徳性発達理論について
5. 道徳教育の指導案の書き方について
6. 小学校の教材を使用した模擬授業(1)「手品師」
7.「道徳科」設置の目的(1):これまでの道徳授業が設置された経緯
8.「道徳科」設置の目的(2):「道徳の時間」から「道徳科」へ
9. 児童生徒をどのように評価するのか
10. 道徳教育の方法論(1):価値明確化の方法について
11. 道徳教育の方法論(2):ジレンマ授業の方法およびエンカウンターの方法
12. 小学校の教材を使用した模擬授業(2)「はしのうえのおおかみ」
13. 中学校の教材を使用した模擬授業(3)「一冊のノート」
14. 中学校の教材を使用した模擬授業(4)「銀色のシャープペンシル」
15. まとめと確認テスト(道徳教育の今後の課題と展望について)

特記事項: なし

授業方法: すべての授業を対面授業で行う
1. 講義
2. 講義
3. 講義
4. 講義
5. 講義
6. 講義
7. 講義
8. 講義
9. 講義
10. 講義
11. 講義
12. 講義
13. 講義
14. 講義
15. 講義

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1.(復習)講義で学んできたことのまとめ 。(180分)

2.(予習)教科書1章1節を通読する。(180分)
3.(予習)教科書1章2節を通読する。(180分)
4.(予習)教科書1章3.4節を通読する。(180分)
5.(予習)教科書2章1節を通読する。(180分)
6.(予習)教科書4章1節を通読する。(180分)
7.(予習)教科書2章2節を通読する。(180分)
8.(予習)教科書2章3節を通読する。(180分)
9.(予習)教科書2章4節を通読する。(180分)
10.(予習)教科書3章を通読する。(180分)
11.(予習)教科書3章を通読する。(180分)
12.(予習)教科書4章2節を通読する。(180分)
13.(予習)教科書4章3節を通読する。(180分)
14.(予習)教科書4章4節を通読する。(180分)
15.(復習)これまで学んできたことのまとめ。(180分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	50	**%**	**確認テスト:**	50	**%**	**レポート:**	- **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準:
1. 授業参加態度
①授業内容の「メモをとる」等ができる(60-69)。これらに加えて(90-100)は受講態度がきわめて積極的なことが条件。
2. 復習テスト
①道徳教育の基礎的な概念を説明できる。(60-69) これらに加えて道徳教育の専門的な概念を説明できる。(90-100)
・上記項目を総合的に評価する。

課題へのフィードバック:
・試験については、その課題のポイントと評価の観点を全体に向けて説明する。

教科書: 広岡義之他著、『対話的で深い学びのある道徳の授業をつくる』2023年 ミネルヴァ書房

参考書:
文部科学省『小学校学習指導要領』東洋館出版社(平成30年2月)
文部科学省『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』廣済堂あかつき(平成30年2月)
文部科学省『中学校学習指導要領』東山書房(平成30年3月)

授業・準備学習のアドバイス:
予習復習を習慣づけること。
レポート課題はTeamsにて提示する。

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 総合的な学習の時間の指導法

クラス: 小中/小+前

授業コード: DA10300001

担当者: 山田 希代子 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立小学校校長、教諭、公立小学校教育研究会 生活・総合的な学習部 部長

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目(小学校)(中学校)【必修】

含めることが必要な事項: 総合的な学習の時間の指導法

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指す。各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するために、指導計画の作成及び具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付ける。資料や情報通信技術等を活用して、総合的な学習の授業設計のポイントを学び、アクティブラーニングや模擬授業等を取り入れて授業を進める。

到達目標: (1)総合的な学習の時間の意義や各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解する。
(2)総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方を理解し、その実現のために基礎的な能力を身に付ける。
(3)総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解する。

各回の授業計画:

1. 総合的な学習の時間の意義と現状と課題
2. 目標と内容、指導計画作成上の留意点
3. 各学校が定める目標及び内容
4. 探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力について
5. 年間指導計画及び単元計画の作成
6. 探究的な学習の指導のポイント及び学年に応じた実践事例の作成・学習指導案作成
7. 学習評価の充実と模擬授業(情報通信技術の活用を含む)
8. 総合的な学習を充実させる体制づくり・環境整備のあり方及びプレゼンテーションによる学習のまとめと確認

特記事項: なし

授業方法: 講義(対面)
資料や教材活用
授業動画等視聴
ディスカッション
グループワーク
プレゼンテーション

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 予習 総合的な学習について書かれている著書を読んだり、実社会・実生活の現代的な課題に関わる出来事や問題点等について情報を集めたりする。(450分)
2. 各講義の復習・ノート整理(450分)
3. 課題・レポート作成(240分)
4. 模擬授業準備(120分)
5. 学習発表準備(90分)

評価方法: **授業へのとりくみ:** − **%** **確認テスト:** − **%** **レポート:** 60 **%**

その他1： 製作物・学習指導案等 40 **%**

その他2： **%**

評価基準： ・総合的な学習の時間の基本的な知識・技能を身に付け、探究的な学びの過程に重きをおいた単元づくりや学習活動指導案づくりを行い、模擬授業をする。総合的な学習について、自分なりに考察をすることができる。（60～69点）
・総合的な学習の時間の基本的な知識・技能を両者とも十分に身に付け、探究的な学びの過程に重きをおいた単元づくりや学習活動指導案づくりを主体的・意欲的に作成し、自信をもって模擬授業をする。総合的な学習の時間について、自分なりに考察を加え、他者の考えを取り入れ論理的に表すことができる。（80～100点）

課題へのフィードバック：

レポートについては、ポイントと評価の観点を全体に向けて説明する。

教科書： 文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編』東京書籍（令和6年9月）

参考書： 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編』東山書房（平成29年7月）
参考資料については、必要に応じて配布する。

授業・準備学習のアドバイス：

・総合的な学習の時間が実施されるようになった背景や総合的な学習の時間の学びの意義を理解することから始めるとよい。
・総合的な学習の時間の学びと学習指導要領改訂が意図する育成を目指す資質・能力や「主体的・対話的で深い学び」との関連について考察をすることは重要である。
・現代的な諸課題（国際理解・情報・環境・福祉・健康等）についての世の中の動きや問題点について関心をもってニュースや新聞・文献等を見ると理解が深まる。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 総合的な学習の時間の指導法

クラス: 小中小+後

授業コード: DA10300002

担当者: 山田 希代子 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立小学校校長、教諭、公立小学校教育研究会 生活・総合的な学習部 部長

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目(小学校)(中学校)【必修】

含めることが必要な事項: 総合的な学習の時間の指導法

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指す。各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するために、指導計画の作成及び具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付ける。資料や情報通信技術等を活用して、総合的な学習の授業設計のポイントを学び、アクティブラーニングや模擬授業等を取り入れて授業を進める。

到達目標: (1)総合的な学習の時間の意義や各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解する。
(2)総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方を理解し、その実現のために基礎的な能力を身に付ける。
(3)総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解する。

各回の授業計画:

1. 総合的な学習の時間の意義と現状と課題
2. 目標と内容、指導計画作成上の留意点
3. 各学校が定める目標及び内容
4. 探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力について
5. 年間指導計画及び単元計画の作成
6. 探究的な学習の指導のポイント及び学年に応じた実践事例の作成・学習指導案作成
7. 学習評価の充実と模擬授業(情報通信技術の活用を含む)
8. 総合的な学習を充実させる体制づくり・環境整備のあり方及びプレゼンテーションによる学習のまとめと確認

特記事項: なし

授業方法: 講義(対面)
資料や教材活用
授業動画等視聴
ディスカッション
グループワーク
プレゼンテーション

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 予習 総合的な学習について書かれている著書を読んだり、実社会・実生活の現代的な課題に関わる出来事や問題点等について情報を集めたりする。(450分)
2. 各講義の復習・ノート整理(450分)
3. 課題・レポート作成(240分)
4. 模擬授業準備(120分)
5. 学習発表準備(90分)

評価方法: **授業へのとりくみ:** − **%** **確認テスト:** − **%** **レポート:** 60 **%**

その他1： 製作物・学習指導案等 40 **%**

その他2： **%**

評価基準： ・総合的な学習の時間の基本的な知識・技能を身に付け、探究的な学びの過程に重きをおいた単元づくりや学習活動指導案づくりを行い、模擬授業をする。総合的な学習について、自分なりに考察をすることができる。（60～69点）
・総合的な学習の時間の基本的な知識・技能を両者とも十分に身に付け、探究的な学びの過程に重きをおいた単元づくりや学習活動指導案づくりを主体的・意欲的に作成し、自信をもって模擬授業をする。総合的な学習の時間について、自分なりに考察を加え、他者の考えを取り入れ論理的に表すことができる。（80～100点）

課題へのフィードバック：

レポートについては、ポイントと評価の観点を全体に向けて説明する。

教科書： 文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編』東京書籍（令和6年9月）

参考書： 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編』東山書房（平成29年7月）
参考資料については、必要に応じて配布する。

授業・準備学習のアドバイス：

・総合的な学習の時間が実施されるようになった背景や総合的な学習の時間の学びの意義を理解することから始めるとよい。
・総合的な学習の時間の学びと学習指導要領改訂が意図する育成を目指す資質・能力や「主体的・対話的で深い学び」との関連について考察をすることは重要である。
・現代的な諸課題（国際理解・情報・環境・福祉・健康等）についての世の中の動きや問題点について関心をもってニュースや新聞・文献等を見ると理解が深まる。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 特別活動の指導法

クラス: 小中小+前(内規科目)

授業コード: DA10400001

担当者: 濱口 常雄 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:神戸市立中学校教諭、神戸市教育委員会同和教育室指導主事、神戸市同和教育研究協議会事務局長、神戸市立中学校教頭、神戸市総合教育センター研修室指導主事、同研修室長、神戸市立中学校校長、神戸市教育委員会人権教育課首席指導主事、神戸市総合教育センター研修育成課研修育成係担当係長(指導主事)、法務省神戸地方法務局人権擁護課人権擁護委員、保護司

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目(小学校)(中学校)(高等学校)【必修】

含めることが必要な事項: 特別活動の指導法

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 教材を活用して具体的な活動を体験するアクティブラーニング(ワークショップ・ロールプレイ・グループワーク等の参加体験型学習)を通して、特別活動についての指導・実践力を高める。

到達目標: テーマ:「特別活動の指導法」について、その歴史・目的・意義・内容について、理論的及び実践的に学ぶ。
到達目標:
1. 特別活動の内容と指導法について理解する。
2. 特別活動が教育課程において果たす役割及び集団という生活の場での自主的・主体的活動等について学ぶ。
3. 望ましい人間関係を築く様々な活動を通して、特別活動の果たす役割を学ぶ。
4. 社会に参画する力を育てる特別活動の意義や指導法を学ぶ。

各回の授業計画:

1. 特別活動の理論と概要(自己紹介プログラム)
2. 教育課程と特別活動(特別活動が学校を元気にする)
3. 学級活動の目標と内容(担任第一声、学級経営方針、学級目標トーナメント)
4. 児童会・生徒会活動の目標と内容(主体的に活動する、地域と連携する)
5. クラブ活動・部活動の目標と内容(異年齢集団をつなぎ、関わりを深め、よりよい人間関係を形成する)
6. 学校行事の目標と内容(儀式的行事・文化的行事・健康安全体育的行事・遠足旅行集団宿泊的行事・勤労生産奉仕的行事)
7. 特別活動の指導法(構成的グループエンカウンター・ロールプレイ)『グループワーク』
8. 特別活動の全体計画と指導計画(年間指導計画の作成)
9. 学級活動の実践(ワークショップ「自分さがしの旅」、学級通信、進路指導)『グループワーク』
10. 児童会・生徒会活動の実践(組織づくり・計画・運営・リーダー養成)『グループワーク』
11. クラブ活動・部活動の実践(組織づくり・計画・運営・部活動顧問としての役割と指導の効果)
12. 学校行事の実践(学校を活性化させる学校行事の計画・立案)『プレゼンテーション』
13. 特別活動における安全教育と危機管理(特別活動と児童生徒理解・生徒指導・人権教育)
14. 特別活動の評価方法(評価のねらい・視点・工夫・指導改善)
15. 振り返りとまとめ(特別活動の意義・内容・役割・指導法・指導効果・生きる力)及び確認テスト

特記事項: なし

授業方法: 全ての授業を対面で行う
1. 講義、ワークショップ
2. 講義、ワークショップ
3. 講義・演習、グループワーク
4. 講義・演習、グループワーク
5. 講義・演習、グループワーク
6. 講義・演習、グループワーク
7. 講義、ワークショップ、ロールプレイ
8. 講義・演習、グループワーク
9. ワークショップ、グループワーク
10. 演習、グループワーク
11. 講義・演習
12. パワーポイントを使用したプレゼンテーション
13. 講義・演習、ワークショップ
14. 講義・演習

15. 振り返り、確認テスト

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 復習:特別活動の理論(120分)
予習:教育課程(120分)
2. 宿題:学級経営方針(120分)
3. 宿題:学級目標・担任第一声(120分)
復習:学級活動(120分)
4. 予習:児童会・生徒会活動(120分)
5. 予習:クラブ活動・部活動(120分)
6. 予習:学校行事(180分)
7. 復習:特別活動の指導法(180分)
8. 宿題:特別活動の全体計画と指導計画(180分)
9. 予習:学級活動(180分)
10. 予習:児童会・生徒会活動(120分)
11. 予習:クラブ活動・部活動(120分)
12. 宿題:遠足旅行集団宿泊的行事の計画・立案(240分)
13. 宿題:いじめをさせない学級づくり(180分)
14. 予習:特別活動の評価方法(120分)
15. 宿題:振り返り・確認テスト勉強(360分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	15 **%**	**確認テスト:**	55 **%**	**レポート:**	30 **%**
その他1:			**%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【望ましい到達度(80～100点)】特別活動について十分理解し、積極的に課題に取り組み、グループワークやプレゼンテーションなど意欲的に授業に参加することができた。
【最低限の到達度(60～69点)】特別活動についておおむね理解し、課題を提出し、授業に取り組めた。

各回の授業の評価ポイントは以下の通りです。

1. 特別活動の理論と概要
① 特別活動の理論と概要を理解することができたか
② 自己紹介プログラムに積極的に取り組んだか
③ 特別活動の目標と内容・意義を理解することができたか

2. 教育課程と特別活動
① 教育課程における特別活動の位置付けを理解することができたか
② 特別活動モデル(クロスカリキュラム)を理解することができたか
③ 教育活動における特別活動の役割や教育効果を理解することができたか

3. 学級活動の目標と内容
① 学級活動の目標と内容を理解することができたか
② 特別活動が学級経営に果たす役割が大きいことを理解することができたか

4. 児童会・生徒会活動の目標と内容
① 児童会・生徒会活動の目標と内容を理解することができたか
② 児童会・生徒会活動が学校の活性化につながることを理解することができたか

5. クラブ活動・部活動の目標と内容
① クラブ活動・部活動の目標と内容を理解することができたか
② クラブ活動・部活動が、異年齢集団をつなぎ、関わりを深め、よりよい人間関係を形成する役割を果たしていることを認識することができたか

6. 学校行事の目標と内容
① 学校行事の目標と内容を理解することができたか
② 学校行事が生徒の意欲を高めることにつながることを理解することができたか
③ 遠足旅行集団宿泊的行事の計画・立案に積極的に取り組んだか

7. 特別活動の指導法
① 特別活動が教科横断的に全教育活動に関わることを理解することができたか
② 参加体験型学習(構成的エンカウンター・ワークショップ・ロールプレイ等)に積極的に取り組んだか
③ 会議・話し合いの手法を学び、グループワークに積極的に参加し、生かすことができたか

8. 特別活動の全体計画と指導計画
① 特別活動の全体計画と指導計画の重要性を理解することができたか
② 年間行事予定から学級の時間(HR年35時間)の計画・立案に積極的に取り組んだか

9. 学級活動の意義と実践

① 学級活動に関わる実践力を高めることができたか
② 集団づくりの大切さを理解することができたか
③ 人間形成・進路指導の大切さを理解することができたか
④ 学級通信等、情報発信の大切さを理解することができたか

10. 児童会・生徒会活動の意義と実践
① 児童会・生徒会活動に関わる実践力を高めることができたか
② 組織づくり・計画・運営・リーダー養成の大切さを理解することができたか
③ 地域連携の重要性を理解することができたか

11. クラブ活動・部活動の意義と実践
① クラブ活動・部活動に関わる実践力を高めることができたか
② クラブ活動・中学校の部活動を理解することができたか
③ 組織づくり・計画・運営・部活動顧問としての役割と指導の効果・要配慮事項を理解することができたか

12. 学校行事の意義と実践
① 学校行事に関わる実践力を高めることができたか
② 学校行事の意義・要配慮事項を理解することができたか
③ 計画・立案した遠足旅行集団宿泊的行事をグループで協力して発表する（パワーポイントを使用したプレゼンテーション）ことができたか

13.特別活動における安全教育と危機管理
① 児童生徒理解の大切さを理解することができたか
② 子ども・保護者の思いを受けとめることの大切さを理解することができたか
③ 発達障害の特性を理解することができたか

14. 特別活動の評価方法
① 特別活動の評価方法を理解することができたか
② 特別活動の各活動の評価規準・観点を理解することができたか
③ 特別活動の指導と評価に関する事例から、実践力を高めることができたか

15. 確認テスト及び振り返りとまとめ
① 確認テスト（55点満点）実施（50分）

課題へのフィードバック:

① 毎時、自己振り返りアンケートを実施、評価集計、コメント返却（Teams活用）
② 課題・演習のワークシート・レポート提出、点検・返却（Teams活用）
③ 課題・演習の発表（パワーポイントを使用したプレゼンテーション）及び相互評価
④ ロールプレイの発表（グループ役割演劇）及び相互評価

教科書: 文部科学省『小学校学習指導要領解説 特別活動編』東山書房（平成30年2月）
文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別活動編』東山書房（平成30年3月）
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 特別活動編』東京書籍（平成31年3月）

参考書: ・オリジナルテキスト冊子（Teams内資料に保存）
・オリジナル資料編：上・下の冊子（Teams内資料に保存）
・オリジナル演習・ワークシートの冊子（Teams内資料に保存）
・必要に応じて教材・ワークシートを配布（Teams内資料に保存）
・毎時、特別活動通信「人間夢だより」を配布（Teams内資料に保存）
・毎時、自己振り返りアンケートを実施・提出（オンラインではTeams活用）
・毎時、前時の自己振り返りアンケートにコメントを添えて返却

授業・準備学習のアドバイス:

① 毎時、自己振り返りアンケートを実施、評価集計、コメント返却（オンラインではTeams活用）
② 課題・演習のワークシート・レポート提出、点検・返却（オンラインではTeams活用）
③ 課題・演習の発表（パワーポイントを使用したプレゼンテーション）及び相互評価
④ ロールプレイの発表（グループ役割演劇）及び相互評価

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 特別活動の指導法

クラス: 小中小+後(内規科目)

授業コード: DA10400002

担当者: 濱口 常雄 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:神戸市立中学校教諭、神戸市教育委員会同和教育室指導主事、神戸市同和教育研究協議会事務局長、神戸市立中学校教頭、神戸市総合教育センター研修室指導主事、同研修室長、神戸市立中学校校長、神戸市教育委員会人権教育課首席指導主事、神戸市総合教育センター研修育成課研修育成係担当係長(指導主事)、法務省神戸地方法務局人権擁護課人権擁護委員、保護司

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目(小学校)(中学校)(高等学校)【必修】

含めることが必要な事項: 特別活動の指導法

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 教材を活用して具体的な活動を体験するアクティブラーニング(ワークショップ・ロールプレイ・グループワーク等の参加体験型学習)を通して、特別活動についての指導・実践力を高める。

到達目標: テーマ:「特別活動の指導法」について、その歴史・目的・意義・内容について、理論的及び実践的に学ぶ。
到達目標:
1. 特別活動の内容と指導法について理解する。
2. 特別活動が教育課程において果たす役割及び集団という生活の場での自主的・主体的活動等について学ぶ。
3. 望ましい人間関係を築く様々な活動を通して、特別活動の果たす役割を学ぶ。
4. 社会に参画する力を育てる特別活動の意義や指導法を学ぶ。

各回の授業計画:

1. 特別活動の理論と概要(自己紹介プログラム)
2. 教育課程と特別活動(特別活動が学校を元気にする)
3. 学級活動の目標と内容(担任第一声、学級経営方針、学級目標トーナメント)
4. 児童会・生徒会活動の目標と内容(主体的に活動する、地域と連携する)
5. クラブ活動・部活動の目標と内容(異年齢集団をつなぎ、関わりを深め、よりよい人間関係を形成する)
6. 学校行事の目標と内容(儀式的行事・文化的行事・健康安全体育的行事・遠足旅行集団宿泊的行事・勤労生産奉仕的行事)
7. 特別活動の指導法(構成的グループエンカウンター・ロールプレイ)『グループワーク』
8. 特別活動の全体計画と指導計画(年間指導計画の作成)
9. 学級活動の実践(ワークショップ「自分さがしの旅」、学級通信、進路指導)『グループワーク』
10. 児童会・生徒会活動の実践(組織づくり・計画・運営・リーダー養成)『グループワーク』
11. クラブ活動・部活動の実践(組織づくり・計画・運営・部活動顧問としての役割と指導の効果)
12. 学校行事の実践(学校を活性化させる学校行事の計画・立案)『プレゼンテーション』
13. 特別活動における安全教育と危機管理(特別活動と児童生徒理解・生徒指導・人権教育)
14. 特別活動の評価方法(評価のねらい・視点・工夫・指導改善)
15. 振り返りとまとめ(特別活動の意義・内容・役割・指導法・指導効果・生きる力)及び確認テスト

特記事項: なし

授業方法: 全ての授業を対面で行う
1. 講義、ワークショップ
2. 講義、ワークショップ
3. 講義・演習、グループワーク
4. 講義・演習、グループワーク
5. 講義・演習、グループワーク
6. 講義・演習、グループワーク
7. 講義、ワークショップ、ロールプレイ
8. 講義・演習、グループワーク
9. ワークショップ、グループワーク
10. 演習、グループワーク
11. 講義・演習
12. パワーポイントを使用したプレゼンテーション
13. 講義・演習、ワークショップ
14. 講義・演習

15. 振り返り、確認テスト

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 復習:特別活動の理論(120分)
予習:教育課程(120分)
2. 宿題:学級経営方針(120分)
3. 宿題:学級目標・担任第一声(120分)
復習:学級活動(120分)
4. 予習:児童会・生徒会活動(120分)
5. 予習:クラブ活動・部活動(120分)
6. 予習:学校行事(180分)
7. 復習:特別活動の指導法(180分)
8. 宿題:特別活動の全体計画と指導計画(180分)
9. 予習:学級活動(180分)
10. 予習:児童会・生徒会活動(120分)
11. 予習:クラブ活動・部活動(120分)
12. 宿題:遠足旅行集団宿泊的行事の計画・立案(240分)
13. 宿題:いじめをさせない学級づくり(180分)
14. 予習:特別活動の評価方法(120分)
15. 宿題:振り返り・確認テスト勉強(360分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	15 **%**	**確認テスト:**	55 **%**	**レポート:**	30 **%**
その他1:			**%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【望ましい到達度(80～100点)】特別活動について十分理解し、積極的に課題に取り組み、グループワークやプレゼンテーションなど意欲的に授業に参加することができた。
【最低限の到達度(60～69点)】特別活動についておおむね理解し、課題を提出し、授業に取り組めた。

各回の授業の評価ポイントは以下の通りです。

1. 特別活動の理論と概要
① 特別活動の理論と概要を理解することができたか
② 自己紹介プログラムに積極的に取り組んだか
③ 特別活動の目標と内容・意義を理解することができたか

2. 教育課程と特別活動
① 教育課程における特別活動の位置付けを理解することができたか
② 特別活動モデル(クロスカリキュラム)を理解することができたか
③ 教育活動における特別活動の役割や教育効果を理解することができたか

3. 学級活動の目標と内容
① 学級活動の目標と内容を理解することができたか
② 特別活動が学級経営に果たす役割が大きいことを理解することができたか

4. 児童会・生徒会活動の目標と内容
① 児童会・生徒会活動の目標と内容を理解することができたか
② 児童会・生徒会活動が学校の活性化につながることを理解することができたか

5. クラブ活動・部活動の目標と内容
① クラブ活動・部活動の目標と内容を理解することができたか
② クラブ活動・部活動が、異年齢集団をつなぎ、関わりを深め、よりよい人間関係を形成する役割を果たしていることを認識することができたか

6. 学校行事の目標と内容
① 学校行事の目標と内容を理解することができたか
② 学校行事が生徒の意欲を高めることにつながることを理解することができたか
③ 遠足旅行集団宿泊的行事の計画・立案に積極的に取り組んだか

7. 特別活動の指導法
① 特別活動が教科横断的に全教育活動に関わることを理解することができたか
② 参加体験型学習(構成的エンカウンター・ワークショップ・ロールプレイ等)に積極的に取り組んだか
③ 会議・話し合いの手法を学び、グループワークに積極的に参加し、生かすことができたか

8. 特別活動の全体計画と指導計画
① 特別活動の全体計画と指導計画の重要性を理解することができたか
② 年間行事予定から学級の時間(HR年35時間)の計画・立案に積極的に取り組んだか

9. 学級活動の意義と実践

① 学級活動に関わる実践力を高めることができたか
② 集団づくりの大切さを理解することができたか
③ 人間形成・進路指導の大切さを理解することができたか
④ 学級通信等、情報発信の大切さを理解することができたか

10. 児童会・生徒会活動の意義と実践
① 児童会・生徒会活動に関わる実践力を高めることができたか
② 組織づくり・計画・運営・リーダー養成の大切さを理解することができたか
③ 地域連携の重要性を理解することができたか

11. クラブ活動・部活動の意義と実践
① クラブ活動・部活動に関わる実践力を高めることができたか
② クラブ活動・中学校の部活動を理解することができたか
③ 組織づくり・計画・運営・部活動顧問としての役割と指導の効果・要配慮事項を理解することができたか

12. 学校行事の意義と実践
① 学校行事に関わる実践力を高めることができたか
② 学校行事の意義・要配慮事項を理解することができたか
③ 計画・立案した遠足旅行集団宿泊的行事をグループで協力して発表する（パワーポイントを使用したプレゼンテーション）ことができたか

13.特別活動における安全教育と危機管理
① 児童生徒理解の大切さを理解することができたか
② 子ども・保護者の思いを受けとめることの大切さを理解することができたか
③ 発達障害の特性を理解することができたか

14. 特別活動の評価方法
① 特別活動の評価方法を理解することができたか
② 特別活動の各活動の評価規準・観点を理解することができたか
③ 特別活動の指導と評価に関する事例から、実践力を高めることができたか

15. 確認テスト及び振り返りとまとめ
① 確認テスト（55点満点）実施（50分）

課題へのフィードバック:

① 毎時、自己振り返りアンケートを実施、評価集計、コメント返却（Teams活用）
② 課題・演習のワークシート・レポート提出、点検・返却（Teams活用）
③ 課題・演習の発表（パワーポイントを使用したプレゼンテーション）及び相互評価
④ ロールプレイの発表（グループ役割演劇）及び相互評価

教科書: 文部科学省『小学校学習指導要領解説 特別活動編』東山書房（平成30年2月）
文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別活動編』東山書房（平成30年3月）
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 特別活動編』東京書籍（平成31年3月）

参考書: ・オリジナルテキスト冊子（Teams内資料に保存）
・オリジナル資料編：上・下の冊子（Teams内資料に保存）
・オリジナル演習・ワークシートの冊子（Teams内資料に保存）
・必要に応じて教材・ワークシートを配布（Teams内資料に保存）
・毎時、特別活動通信「人間夢だより」を配布（Teams内資料に保存）
・毎時、自己振り返りアンケートを実施・提出（オンラインではTeams活用）
・毎時、前時の自己振り返りアンケートにコメントを添えて返却

授業・準備学習のアドバイス:

① 毎時、自己振り返りアンケートを実施、評価集計、コメント返却（オンラインではTeams活用）
② 課題・演習のワークシート・レポート提出、点検・返却（オンラインではTeams活用）
③ 課題・演習の発表（パワーポイントを使用したプレゼンテーション）及び相互評価
④ ロールプレイの発表（グループ役割演劇）及び相互評価

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 生徒・進路指導論

クラス: 小中小+前(内規科目)

授業コード: DA10500001

担当者: 芝田 悦司 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立小学校校長、市教育次長、市教育委員会地区統括官・市教育委員会首席人事主事

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教育課程に位置づけられる生徒指導、教育相談等に関する科目(小学校)(中学校)【必修】

含めることが必要な事項: 生徒指導の理論及び方法、進路指導及びキャリア教育の理論及び方法

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 本授業は、生徒指導提要(改訂版)を基盤として、生徒指導および進路指導の理念・制度・実践を体系的に理解することを目的とする。授業では、グループワークやロールプレイングの手法を取り入れるなど、課題解決に向けて主体的・対話的な学びを展開する。また、進路指導として児童生徒一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を培うことを目指す。

到達目標:
1 生徒指導提要(改訂版)の理念・構造・基本的考え方を説明できる。
2 生徒理解の基礎(発達理解、個別理解、観察・記録、アセスメント)を理解し、適切に活用できる。
3 生徒指導の三機能(予防的・開発的・危機対応的指導)を具体例とともに説明できる。
4 いじめ、不登校、問題行動、SNSトラブルなどの現代的課題に対し、学校としての組織的対応を構想できる。
5 キャリア発達の視点を踏まえ、進路指導・キャリア教育の基本的理念と実践方法を説明できる。
6 進路相談の基礎的技能(傾聴、情報提供、意思決定支援など)を理解し、簡単なロールプレイを通して活用できる。
7 チーム学校の理念を理解し、関係機関(SC、SSW、医療・福祉機関等)との連携の重要性を説明できる。
8 事例をもとに、生徒指導・進路指導・キャリア教育を統合した課題解決プロセスを検討できる。

各回の授業計画:

1. ガイダンス(生徒指導・キャリア教育の基礎基本 生徒指導提要の2軸3類4層)
2. 教師の姿(手本・ジョハリの窓)、児童生徒理解・叱るということ、懲戒と体罰
3. 教育相談・カウンセリング、基本的な態度と手法
4. 教育課程における生徒指導、学級経営の具体、児童生徒の心理と発達
5. 全ての児童生徒を対象としたキャリア教育・進路指導の考え方と指導
6. チーム学校による生徒指導体制、スクールロイヤーの意義
7. 個別の課題に対する生徒指導①(いじめ)
8. 個別の課題に対する生徒指導②(暴力行為・少年非行)
9. 個別の課題に対する生徒指導③(不登校)
10. 個別の課題に対する生徒指導④(児童虐待・自殺)
11. 個別の課題に対する生徒指導⑤(インターネット問題・性に関する問題・関係機関との連携)
12. 家庭・地域・関係機関との連携(外部講師:神戸市教育委員会指導主事)
13. 個別の課題に対する生徒指導⑥(多様な背景をもつ児童生徒への指導)
14. 学級崩壊・学校のルール(権利条約)
15. まとめ(生徒指導・進路指導を進めるための振り返り)と確認テスト

特記事項: なし

授業方法:
・①~⑮ 講義【対面】「すべての授業を対面授業で行う」
・グループワーク
・グループディスカッション
・討論
・ロールプレイ
・プレゼンテーション
・データや情報の検索(パソコン等を使用することがある)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

《生徒指導提要》
1. 提示課題について予習(100分)
2. 復習、ノート整理(100分)
3. 次時の課題作成(100分)
4. 発表方法を決定後、資料作成(200分)

《不登校》
5. 提示課題について予習（100分）
6. 復習、ノート整理（100分）
7. 次時の課題作成（100分）
8. 発表方法を決定後、資料作成（200分）

《いじめ》
9. 提示課題について予習（100分）
10. 復習、ノート整理（100分）
11. 次時の課題作成（100分）
12. 発表方法を決定後、資料作成（200分）

《生徒指導方法》
13. 提示課題について予習（100分）
14. 復習、ノート整理（100分）
15. 次時の課題作成（100分）
16. 発表方法を決定後、資料作成（200分）

《総括》
17. 全体発表の課題づくり（200分）
18. 発表に向けての資料づくり（200分）
19. まとめのレポート作成（300分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	40 **%**	**確認テスト：**	30 **%**	**レポート：**	－ **%**
その他1： レポート作成			30 **%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

1. 授業への参加態度
・与えられた課題に対して適切に対応できる。（可）・コミュニケーション能力を発揮して、仲間と協働しながら課題解決できる。（優）
2. 確認テスト
・授業で学んだことを適切に説明することができる。（可）・設問の要求に的確に応えて、自分の意見を述べることが出来る。（優）
3. 提出レポート
・授業内容をふまえて意見が述べられている。（可）・授業内容を要約し、熟慮された独創的な意見が述べられている。（優）

課題へのフィードバック：

授業への参加態度40%
確認テスト30%
提出レポートの評価30%

〈フィードバックの方法〉
・発表やプレゼンテーションについては授業で講評する。
・確認テストについては、採点後授業で講評する。
・課題レポートについては内容（意見・質問）に関して応答する。

教科書： 文部科学省『生徒指導提要』（令和4年12月）

参考書： 文部科学省『小学校学習指導要領』東洋館出版社（平成30年2月）
文部科学省『中学校学習指導要領』東山書房（平成30年3月）
授業中に適宜資料を配付

授業・準備学習のアドバイス：

①まとめと確認テストは学期の終盤に実施する。（記述形式）
②レポートについては、授業内で指示する。
③教育や社会に関心を持ち、新聞記事を読んだり、切り抜きを奨める。
④参考資料や課題については、オンライン（ティームズなど）で提示することがある。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 生徒・進路指導論

クラス: 小中小+後(内規科目)

授業コード: DA10500002

担当者: 芝田 悦司 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立小学校校長、市教育次長、市教育委員会地区統括官、市教育委員会首席人事主事

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教育課程に位置づけられる生徒指導、教育相談等に関する科目(小学校)(中学校)【必修】

含めることが必要な事項: 生徒指導の理論及び方法、進路指導及びキャリア教育の理論及び方法

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 本授業は、生徒指導提要(改訂版)を基盤として、生徒指導および進路指導の理念・制度・実践を体系的に理解することを目的とする。授業では、グループワークやロールプレイングの手法を取り入れるなど、課題解決に向けて主体的・対話的な学びを展開する。また、進路指導として児童生徒一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を培うことを目指す。

到達目標:
1 生徒指導提要(改訂版)の理念・構造・基本的考え方を説明できる。
2 生徒理解の基礎(発達理解、個別理解、観察・記録、アセスメント)を理解し、適切に活用できる。
3 生徒指導の三機能(予防的・開発的・危機対応的指導)を具体例とともに説明できる。
4 いじめ、不登校、問題行動、SNSトラブルなどの現代的課題に対し、学校としての組織的対応を構想できる。
5 キャリア発達の視点を踏まえ、進路指導・キャリア教育の基本的理念と実践方法を説明できる。
6 進路相談の基礎的技能(傾聴、情報提供、意思決定支援など)を理解し、簡単なロールプレイを通して活用できる。
7 チーム学校の理念を理解し、関係機関(SC、SSW、医療・福祉機関等)との連携の重要性を説明できる。
8 事例をもとに、生徒指導・進路指導・キャリア教育を統合した課題解決プロセスを検討できる。

各回の授業計画:

1. ガイダンス(生徒指導・キャリア教育の基礎基本 生徒指導提要の2軸3類4層)
2. 教師の姿(手本・ジョハリの窓)、児童生徒理解・叱るということ、懲戒と体罰
3. 教育相談・カウンセリング、基本的な態度と手法
4. 教育課程における生徒指導、学級経営の具体、児童生徒の心理と発達
5. 全ての児童生徒を対象としたキャリア教育・進路指導の考え方と指導
6. チーム学校による生徒指導体制、スクールロイヤーの意義
7. 個別の課題に対する生徒指導①(いじめ)
8. 個別の課題に対する生徒指導②(暴力行為・少年非行)
9. 個別の課題に対する生徒指導③(不登校)
10. 個別の課題に対する生徒指導④(児童虐待・自殺)
11. 個別の課題に対する生徒指導⑤(インターネット問題・性に関する問題・関係機関との連携)
12. 家庭・地域・関係機関との連携(外部講師:神戸市教育委員会指導主事)
13. 個別の課題に対する生徒指導⑥(多様な背景をもつ児童生徒への指導)
14. 学級崩壊・学校のルール(権利条約)
15. まとめ(生徒指導・進路指導を進めるための振り返り)と確認テスト

特記事項: なし

授業方法:
・①~⑮ 講義【対面】「すべての授業を対面授業で行う」
・グループワーク
・グループディスカッション
・討論
・ロールプレイ
・プレゼンテーション
・データや情報の検索(パソコン等を使用することがある)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

《生徒指導提要》
1. 提示課題について予習(100分)
2. 復習、ノート整理(100分)
3. 次時の課題作成(100分)
4. 発表方法を決定後、資料作成(200分)

《不登校》
5. 提示課題について予習（100分）
6. 復習、ノート整理（100分）
7. 次時の課題作成（100分）
8. 発表方法を決定後、資料作成（200分）

《いじめ》
9. 提示課題について予習（100分）
10. 復習、ノート整理（100分）
11. 次時の課題作成（100分）
12. 発表方法を決定後、資料作成（200分）

《生徒指導方法》
13. 提示課題について予習（100分）
14. 復習、ノート整理（100分）
15. 次時の課題作成（100分）
16. 発表方法を決定後、資料作成（200分）

《総括》
17. 全体発表の課題づくり（200分）
18. 発表に向けての資料づくり（200分）
19. まとめのレポート作成（300分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	40	**%**	**確認テスト：**	30	**%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	レポート作成			30	**%**		
その他2：					**%**		

評価基準：

1. 授業への参加態度
・与えられた課題に対して適切に対応できる。（可）・コミュニケーション能力を発揮して、仲間と協働しながら課題解決できる。（優）
2. 確認テスト
・授業で学んだことを適切に説明することができる。（可）・設問の要求に的確に応えて、自分の意見を述べることが出来る。（優）
3. 提出レポート
・授業内容をふまえて意見が述べられている。（可）・授業内容を要約し、熟慮された独創的な意見が述べられている。（優）

課題へのフィードバック：

授業への参加態度40%
確認テスト30%
提出レポートの評価30%

〈フィードバックの方法〉
・発表やプレゼンテーションについては授業で講評する。
・確認テストについては、採点後授業で講評する。
・課題レポートについては内容（意見・質問）に関して応答する。

教科書： 文部科学省『生徒指導提要』（令和4年12月）

参考書： 文部科学省『小学校学習指導要領』東洋館出版社（平成30年2月）
文部科学省『中学校学習指導要領』東山書房（平成30年3月）
授業中に適宜資料を配付

授業・準備学習のアドバイス：

①まとめと確認テストは学期の終盤に実施する。（記述形式）
②レポートについては、授業内で指示する。
③教育や社会に関心を持ち、新聞記事を読んだり、切り抜きを奨める。
④参考資料や課題については、オンライン（ティームズなど）で提示することがある。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 国語

クラス: 小中高/小+前

授業コード: DA10600001

担当者: 齋藤 隆彦 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立・国立大学附属中学校教諭(教育実習生の学級・教科担当者)

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)【選択】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 国語(書写を含む。) **一般的包括的科目:** -

授業の目的: 「小学校学習指導要領」に基づく国語科の指導内容の理解を深めることができるようにし、「教科教育法 国語」の授業へのベースを作ることを目的とする。

到達目標: 国語科の指導内容を示す学習指導要領について全体を理解することができ、各領域の指導内容の理解を深めることができようにする。

各回の授業計画:

1. 授業の全体計画の確認と学習指導要領の目標及び内容等、全体の構成について理解する
2. 国語科における「主体的・対話的で深い学び」を考える 1「話すこと・聞くこと」を中心に。(取材・編集)
3. 国語科における「主体的・対話的で深い学び」を考える 2「話すこと・聞くこと」を中心に。(立案・共有)
4. 国語科における「主体的・対話的で深い学び」を考える 3「話すこと・聞くこと」を中心に。(アイデアを引き出すテーマ設定)
5. 国語科における「主体的・対話的で深い学び」を考える 4「書くこと」を中心に。(詳しく書き込む・要点をまとめる)
6. 国語科における「主体的・対話的で深い学び」を考える 5「書くこと」を中心に。(構造を意識する)
7. 国語科における「主体的・対話的で深い学び」を考える 6「書くこと」を中心に。(書き換える ゴールを先延ばしにする)
8. 国語科における「主体的・対話的で深い学び」を考える 7「読むこと」を中心に。(構造を意識する)
9. 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」をつなぐ 言語活動の意義と実践
10. 国語科教育のポテンシャル 先達の実践に触れる① 創造力を育成する実践例
11. 国語科教育のポテンシャル 先達の実践に触れる② 先達の探究 取材・編集
12. 国語科教育のポテンシャル 先達の実践に触れる③ 先達の探究 作成・共有
13. 「知識・技能」「書写」の規範と可能性
14. 本授業での学びを今後にどのように生かすかプレゼンテーションする 「私のやってみたい国語の活動」発表
15. 本授業での学びを今後にどのように生かすかプレゼンテーションする 「私のやってみたい国語の活動」発表 講座全体のまとめをする

特記事項: (授業方法)演習方式も用い、言語の教育としての国語科の在り方を具体的に学べるようにする。

授業方法: すべての授業を対面授業で行う。ただし、対面が難しい場合(大学から対面を避ける指示があった場合など)は「オンライン」または「同時配信」で行う可能性がある。その際にはチームズで連絡する。

1. 講義
2. 講義・演習
3. 講義・演習
4. 講義・演習
5. 講義・演習
6. 講義・演習
7. 講義・演習
8. 講義・演習
9. 講義・演習
10. 講義・演習
11. 講義・演習
12. 講義・演習
13. 講義・演習
14. プレゼンテーション(ICT活用)
15. プレゼンテーション(ICT活用)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

授業時間外の学習
課題提示については、口頭やTeamsで行う。
毎回の授業振り返りと課題レポート。各回120分

「話す／聞く」「書く」「読む」「ICT活用」を意識したプレゼン（「おすすめ〇〇」「おすすめ教材」「おすすめ先達」）作成（400分）
これまでの授業を受けて、国語科の在り方を考え、プレゼンテーションの準備をする（「やってみたい国語科の活動」。（500分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	60 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	レポート・プレゼンテーション		40 **%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

60～69点
・「小学校学習指導要領」に基づく国語科の指導内容の概ね理解し、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」などの指導内容を意識したプレゼンやミニレポートを書くことができる。
・「国語」の内容についてプレゼンテーションすることができる。

70～79点
・「小学校学習指導要領」に基づく国語科の指導内容の理解し、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」などの指導内容を意識したプレゼンやミニレポートを書くことができる。
・「国語」の内容について領域を意識してプレゼンテーションすることができる。

80～100点
・「小学校学習指導要領」に基づく国語科の指導内容の十分理解し、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」などの指導内容を意識したプレゼンやミニレポートをそれぞれの指導事項を使って書くことができる。
・「国語」の内容について領域ごとの指導事項を意識してプレゼンテーションすることができる。

課題へのフィードバック：

配布した資料は、レポートにまとめる際には参考にしてほしい。
常に、文部科学省『小学校学習指導要領解説 国語編（平成29年告示）』 東京書籍 を読み、授業を受け、復習していくと理解が深まる。

教科書： 文部科学省『小学校学習指導要領解説 国語編（平成29年告示）』 東京書籍

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：

課題に対するレポート提出を求めることがある。文部科学省『小学校学習指導要領解説　国語編』に目をとおしておくこと。
受講者同士の学びも大切にします。国語教師としてのスキルアップのためにも表現活動をおこないますが、積極的に準備や発表をすることで、力をつけてください。
上記の15回の内容は、みなさんの理解や発表の状況を見ながら細部を組み立てていきますので、変更することがあります。ご了承ください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 国語

クラス: 小中高/小+後

授業コード: DA10600002

担当者: 齋藤 隆彦 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:
〔齋藤〕公立・国立大学附属中学校教諭(教育実習生の学級・教科担当者)

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)【選択】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 国語(書写を含む。) **一般的包括的科目:** -

授業の目的: 「小学校学習指導要領」に基づく国語科の指導内容の理解を深めることができるようにし、「教科教育法 国語」の授業へのベースを作ることを目的とする。

到達目標: 国語科の指導内容を示す学習指導要領について全体を理解することができ、各領域の指導内容の理解を深めることができようにする。

各回の授業計画:

1. 授業の全体計画の確認と学習指導要領の目標及び内容等、全体の構成について理解する。
2. 国語科における「主体的・対話的で深い学び」を考える。1「話すこと・聞くこと」を中心に。(取材・編集)
3. 国語科における「主体的・対話的で深い学び」を考える。2「話すこと・聞くこと」を中心に。(立案・共有)
4. 国語科における「主体的・対話的で深い学び」を考える。3「話すこと・聞くこと」を中心に。(アイデアを引き出すテーマ設定)
5. 国語科における「主体的・対話的で深い学び」を考える。4「書くこと」を中心に。(詳しく書き込む・要点をまとめる)
6. 国語科における「主体的・対話的で深い学び」を考える。5「書くこと」を中心に。(構造を意識する)
7. 国語科における「主体的・対話的で深い学び」を考える。6「書くこと」を中心に。(書き換える ゴールを先延ばしにする)
8. 国語科における「主体的・対話的で深い学び」を考える。7「読むこと」を中心に。(構造を意識する)
9. 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」をつなぐ 言語活動の意義と実践
10. 国語科教育のポテンシャル 先達の実践に触れる①(創造力を育成する実践例)
11. 国語科教育のポテンシャル 先達の実践に触れる②(先達の探究 取材・編集)
12. 国語科教育のポテンシャル 先達の実践に触れる③(先達の探究 作成・共有)
13.「知識・技能」「書写」の規範と可能性
14. 本授業での学びを今後にどのように生かすかプレゼンテーションする 「私のやってみたい国語の活動」発表
15. 本授業での学びを今後にどのように生かすかプレゼンテーションする「私のやってみたい国語の活動」発表 講座全体のまとめをする

特記事項: (授業方法)演習方式も用い、言語の教育としての国語科の在り方を具体的に学べるようにする。

授業方法: すべての授業を対面授業で行う。ただし、対面が難しい場合(大学から対面を避ける指示があった場合など)は「オンライン」または「同時配信」で行う可能性がある。その際にはチームズで連絡する。

1. 講義
2. 講義・演習
3. 講義・演習
4. 講義・演習
5. 講義・演習
6. 講義・演習
7. 講義・演習
8. 講義・演習
9. 講義・演習
10. 講義・演習
11. 講義・演習
12. 講義・演習
13. 講義・演習
14. プレゼンテーション(ICT活用)
15. プレゼンテーション(ICT活用)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

授業時間外の学習
課題提示については、口頭やTeamsで行う。
毎回の授業振り返りと課題レポート。各回120分

「話す／聞く」「書く」「読む」「ICT活用」を意識したプレゼン（「おすすめ〇〇」「おすすめ教材」「おすすめ先達」）作成（400分）
これまでの授業を受けて、国語科の在り方を考え、プレゼンテーションの準備をする（「やってみたい国語科の活動」。（500分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	60 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	レポート・プレゼンテーション		40 **%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

60～69点
・「小学校学習指導要領」に基づく国語科の指導内容の概ね理解し、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」などの指導内容を意識したプレゼンやミニレポートを書くことができる。
・「国語」の内容についてプレゼンテーションすることができる。

70～79点
・「小学校学習指導要領」に基づく国語科の指導内容の理解し、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」などの指導内容を意識したプレゼンやミニレポートを書くことができる。
・「国語」の内容について領域を意識してプレゼンテーションすることができる。

80～100点
・「小学校学習指導要領」に基づく国語科の指導内容の十分理解し、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」などの指導内容を意識したプレゼンやミニレポートをそれぞれの指導事項を使って書くことができる。
・「国語」の内容について領域ごとの指導事項を意識してプレゼンテーションすることができる。

課題へのフィードバック：

配布した資料は、レポートにまとめる際には参考にしてほしい。
常に、文部科学省『小学校学習指導要領解説 国語編（平成29年告示）』 東京書籍 を読み、授業を受け、復習していくと理解が深まる。

教科書： 文部科学省『小学校学習指導要領解説 国語編（平成29年告示）』 東京書籍

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：

課題に対するレポート提出を求めることがある。文部科学省『小学校学習指導要領解説　国語編』に目をとおしておくこと。
受講者同士の学びも大切にします。国語教師としてのスキルアップのためにも表現活動をおこないますが、積極的に準備や発表をすることで、力をつけてください。
上記の15回の内容は、みなさんの理解や発表の状況を見ながら細部を組み立てていきますので、変更することがあります。ご了承ください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 社会

クラス: 小中高/小+前

授業コード: DA10700001

担当者: 三善 公文 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:神戸市立小学校教員、神戸市教育委員会総合教育センター指導主事

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)【選択】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 社会 **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 1. 小学校社会科の誕生から現在に至るまでの流れを学習指導要領の変遷と改訂の趣旨をもとに講義し、小学校社会科教育への理解を深める。
2. 子どもが興味を持ち確かな学力を育てる社会科の授業はどうあるべきか、指導内容と学び方の面から教材研究を通して考える。

到達目標: 1. 社会科がめざす理念、育成する資質能力について理解できる。
2. 学習指導要領に記されている小学校社会科の教科・学年の目標や内容について理解できる。
3. 子どもが興味を持って取組むことのできる教材開発や授業づくりについて考えることができる。
4. 授業内容についての疑問をさらに調べたり、事例で取り上げた内容を自分の学習経験や赴任先の学校での指導と関連付けて考えたりできる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 社会科教育の出発
3. 社会科教育の変遷(学習指導要領の変遷)
4. 学習指導要領を読み解く(めざす資質・能力、社会的なものの見方・考え方、教科の目標と内容)
5. 第3学年の目標と内容
6. 第4学年の目標と内容
7. 第5学年の目標と内容
8. 第6学年の目標と内容
9. 社会科の授業づくり(問題解決的な学習)
10. 社会科の教材研究(資料を読み解く力)
11. 社会科の教材研究(地域教材の開発)
12. 社会科と防災教育(阪神・淡路大震災・東日本大震災)
13. 社会科の教材研究(政治教材の開発)
14. 社会科の教材研究(映像資料の活用)、確認テスト
15. 授業づくりの課題、レポート課題の交流

特記事項: なし

授業方法: すべての授業を対面授業で行う
1. 講義、演習、発表
2. 講義、演習
3. 講義、演習
4. 講義、演習、ICTの活用
5. 講義、演習、ICTの活用
6. 講義、演習、ICTの活用
7. 講義、演習、ICTの活用
8. 講義、演習、ICTの活用
9. 講義、演習
10. 講義・演習・発表、ICTの活用
11. 講義・演習・発表、ICTの活用
12. ビデオ視聴・発表・講義、ICTの活用
13. 講義・ 演習・発表、ICTの活用
14. 講義・ビデオ視聴、確認テスト
15. 講義・発表

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. ノート整理や復習（180分）
2. ノート整理や復習（180分）
3. ノート整理や復習（180分）
4. ノート等に教科の目標や内容についてまとめる（180分）
5. ノート等に第3学年の目標や内容についてまとめる（180分）
6. ノート等に第4学年の目標や内容についてまとめる（180分）
7. ノート等に第5学年の目標や内容についてまとめる（180分）
8. ノート等に第6学年の目標や内容についてまとめる（180分）
9. ノート整理や復習（180分）
10. 授業で取り上げた教材について、さらに教材研究を進める(180分)
11. 授業で取り上げた教材について、さらに教材研究を進める(180分)
12. 学習を踏まえ、聞き取りや資料収集をする(180分)
13. 授業で取り上げた教材について、さらに教材研究を進める(180分)
14. 確認テスト対策（180分）
15. 授業で取り上げた教材について、さらに教材研究を進める（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	60	**%**	**確認テスト：**	20	**%**	**レポート：**	20 **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準：

1. 授業へのとりくみ
・授業での講義や演習に対してある程度前向きな姿勢で取り組み、内容を理解している。(60～79点）
・授業での講義や演習に対して前向きな姿勢で取り組み、内容を理解し、説明することができる。(80~100点）
2. 確認テスト
・学習指導要領の目標や内容、社会科の授業づくりで大切なことをある程度理解している。（60～79点）
・学習指導要領の目標や内容、社会科の授業づくりで大切なことを理解し、説明することができる。（80～100点）
3. レポート
・課題に対して取材に基づいて大切なポイントをある程度おさえ、自分の考えを表現できている。（60～79点）
・課題に対して取材に基づいて大切なポイントをおさえ、自分の考えを相手に分かりやすく表現できている。（80～100点）

課題へのフィードバック：

出した課題については、授業時に補足解説しフィードバックする。

教科書： 文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会編』日本文教出版（平成30年2月）

参考書： 「主体的・対話的で深い学びを実現する社会科授業づくり」北俊夫著、明治図書

授業・準備学習のアドバイス：

・授業では主体的に学ぶ姿勢が大切である。授業への積極的な取り組みに期待する。
授業回数の3分の2以上、出席すること。
・欠席した場合は、teamsにアップした授業資料を見て課題を提出する。
・評価の内容は、授業への取組（授業態度、積極的発言、発表、演習、課題提出）。確認テスト。レポート 。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 社会

クラス: 小中高/小+後

授業コード: DA10700002

担当者: 三善 公文 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:神戸市立小学校教員、神戸市教育委員会総合教育センター指導主事

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)【選択】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 社会 **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 1. 小学校社会科の誕生から現在に至るまでの流れを学習指導要領の変遷と改訂の趣旨をもとに講義し、小学校社会科教育への理解を深める。
2. 子どもが興味を持ち確かな学力を育てる社会科の授業はどうあるべきか、指導内容と学び方の面から教材研究を通して考える。

到達目標: 1. 社会科がめざす理念、育成する資質能力について理解できる。
2. 学習指導要領に記されている小学校社会科の教科・学年の目標や内容について理解できる。
3. 子どもが興味を持って取組むことのできる教材開発や授業づくりについて考えることができる。
4. 授業内容についての疑問をさらに調べたり、事例で取り上げた内容を自分の学習経験や赴任先の学校での指導と関連付けて考えたりできる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 社会科教育の出発
3. 社会科教育の変遷(学習指導要領の変遷)
4. 学習指導要領を読み解く(めざす資質・能力、社会的なものの見方・考え方、教科の目標と内容)
5. 第3学年の目標と内容
6. 第4学年の目標と内容
7. 第5学年の目標と内容
8. 第6学年の目標と内容
9. 社会科の授業づくり(問題解決的な学習)
10. 社会科の教材研究(資料を読み解く力)
11. 社会科の教材研究(地域教材の開発)
12. 社会科と防災教育(阪神・淡路大震災・東日本大震災)
13. 社会科の教材研究(政治教材の開発)
14. 社会科の教材研究(映像資料の活用)、確認テスト
15. 授業づくりの課題、レポート課題の交流

特記事項: なし

授業方法: すべての授業を対面授業で行う
1. 講義、演習、発表
2. 講義、演習
3. 講義、演習
4. 講義、演習、ICTの活用
5. 講義、演習、ICTの活用
6. 講義、演習、ICTの活用
7. 講義、演習、ICTの活用
8. 講義、演習、ICTの活用
9. 講義、演習
10. 講義・演習・発表、ICTの活用
11. 講義・演習・発表、ICTの活用
12. ビデオ視聴・発表・講義、ICTの活用
13. 講義・ 演習・発表、ICTの活用
14. 講義・ビデオ視聴、確認テスト
15. 講義・発表

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. ノート整理や復習（180分）
2. ノート整理や復習（180分）
3. ノート整理や復習（180分）
4. ノート等に教科の目標や内容についてまとめる（180分）
5. ノート等に第3学年の目標や内容についてまとめる（180分）
6. ノート等に第4学年の目標や内容についてまとめる（180分）
7. ノート等に第5学年の目標や内容についてまとめる（180分）
8. ノート等に第6学年の目標や内容についてまとめる（180分）
9. ノート整理や復習（180分）
10. 授業で取り上げた教材について、さらに教材研究を進める(180分)
11. 授業で取り上げた教材について、さらに教材研究を進める(180分)
12. 学習を踏まえ、聞き取りや資料収集をする(180分)
13. 授業で取り上げた教材について、さらに教材研究を進める(180分)
14. 確認テスト対策（180分）
15. 授業で取り上げた教材について、さらに教材研究を進める（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	60	**%**	**確認テスト：**	20	**%**	**レポート：**	20 **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準：

1. 授業へのとりくみ
・授業での講義や演習に対してある程度前向きな姿勢で取り組み、内容を理解している。(60～79点）
・授業での講義や演習に対して前向きな姿勢で取り組み、内容を理解し、説明することができる。(80~100点）
2. 確認テスト
・学習指導要領の目標や内容、社会科の授業づくりで大切なことをある程度理解している。（60～79点）
・学習指導要領の目標や内容、社会科の授業づくりで大切なことを理解し、説明することができる。（80～100点）
3. レポート
・課題に対して取材に基づいて大切なポイントをある程度おさえ、自分の考えを表現できている。（60～79点）
・課題に対して取材に基づいて大切なポイントをおさえ、自分の考えを相手に分かりやすく表現できている。（80～100点）

課題へのフィードバック：

出した課題については、授業時に補足解説しフィードバックする。

教科書： 文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会編』日本文教出版（平成30年2月）

参考書： 「主体的・対話的で深い学びを実現する社会科授業づくり」北俊夫著、明治図書

授業・準備学習のアドバイス：

・授業では主体的に学ぶ姿勢が大切である。授業への積極的な取り組みに期待する。
授業回数の3分の2以上、出席すること。
・欠席した場合は、teamsにアップした授業資料を見て課題を提出する。
・評価の内容は、授業への取組（授業態度、積極的発言、発表、演習、課題提出）。確認テスト。レポート 。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 算数

クラス: 小中高/小+前

授業コード: DA10800001

担当者: 神月 紀輔 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立中学校・特別支援学校教諭

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)【選択】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 算数 **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 高等学校までに学習してきた算数・数学の内容を，関連性と発展性の立場から改めて見直し，小学校で学習する算数の各領域の内容がどのように関連しているか，また，中学校・高等学校の数学にどのように発展していくのかという道筋を理解する。

到達目標: テキストに沿って，学び方を習得したのち，「数・代数」，「立体・空間・変換」，「量・関数・解析」，「確率・統計」，「集合・論理」の各分野について，関連性と発展性を理解できるようオンライン学習を取り入れながら進め，教科教育法算数につなげる。

各回の授業計画:

1. 算数教育の意義と算数科の目標
2. 算数科における評価
3. 算数教育の研究動向と学力調査(全国学力・学習状況調査、PISA、TIMSS)
4. 算数科におけるプログラミング教育 ※学内Wifiに接続できるPC持参のこと
5. 小学校算数科の教育内容の系統性1(数と計算、図形)
6. 小学校算数科の教育内容の系統性2(測定、変化と関係、データの活用)
7. 「数と計算」の内容と方法論(各種の数の特徴、加減乗除の計算)
8. 「図形」の内容と方法論(立方体の描画特性と空間認識)
9. 「測定」の内容と方法論(長さ、かさ、時刻と時間、重さ、量感)
10. 「変化と関係」の内容と方法論(折れ線グラフ、割合、比例、比、速さ)
11. 「データの活用」の内容と方法論(表やグラフ、棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、帯グラフ、代表値)
12. 算数教育の歴史(オンデマンド教材での学修)
13. 算数科における授業形態、授業設計
14. 算数科学習指導案の作成
15. 算数科授業の構築とその振り返り

特記事項: ・授業時にテキストは必携である
・この授業は，対面授業とオンライン学習を組み合わせたブレンド型で行います。
・オンライン学習では，動画によるTeams配信とformsによるコメント収集を中心としたオンデマンド型の授業を行います。
・教員・他の学習者を含め，他者からの学びを重視し，様々な角度から算数について考える姿勢で臨むこと。
・常に自分の学習の進捗を意識し，足りないところは友達との意見交換や，講師への質問を行うなど，自ら解決しようとすること。

授業方法: テキストを用い，小学校算数科について概要を解説するとともに，指導者として算数数学の基本を学んでいく。
毎回，授業終了後にFormsでコメントを収集し，その場で授業内容の振り返りを行う。
授業では，スライドをもとに進めていく。資料はTeamsで提供するので，ノートPCを持参すること。
授業に関しては，ルーブリックを提示するので，自分の学習の進捗状況を自分で毎回とらえ，自分の学修状況を自己評価できるようにしておく。
そのため，毎回提出する授業コメントは授業内にて紹介し，他の学習者がどの程度の学習を行っているかを常に把握しておく必要がある。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

復習は必ず行い，前の回の内容は把握して次の回に臨むこと
予習はテキストの該当ページを毎回提示するので読んでおくこと。
教育制度は改革期を向かえ，テキストの内容だけを学習していては追いつかなくなっている。
自ら，新聞・テレビ・インターネットなどの情報源を駆使して，教育改革についての情報を集めておく姿勢が必要である。
授業外に必要な学習時間 1回あたり180分
授業内で数回レポートを課し，最後に算数科学習指導案を作成しそれを最終レポートとする。

評価方法: **授業へのとりくみ:** 50 % **確認テスト:** − % **レポート:** 50 %
その他1: %

その他2： **%**

評価基準： この授業は，算数・数学を関連性・発展性から理解し，授業内で得た知識や自分での学習を総合して，自ら下記項目によって評価を行う。
なお課題提出の際には，自己評価の基準となるルーブリックを提示し，自らの目標を立てて課題等の提出ができるようにする。

・授業における態度（50%） 単に出席したかどうかでなく，授業に主体的に取り組んだか，参加意欲はどうか，算数への理解を自ら行おうとしたか，などを毎回行う授業の振り返りと最終授業において教員の提示する項目に数値による自己評価によって評価する。
【望ましい到達度（80～100点）】小学校で教える算数の内容を授業において完全に理解し，積極的に理解しようと授業を通して主体的に学習している
【最低限の到達度（60～69点）】今後学習を進めることで算数の内容を完全に理解することが期待でき，そのために授業を通して積極的な理解をしようと努める

・レポート（50%） 期間中数回提示されるレポート課題について，自己評価を行いながら提出を求める。
【望ましい到達度（80～100点）】子どもの発達段階も踏まえ，学習指導要領を理解したうえで，形式にのっとった学習指導案が完成されている
【最低限の到達度（60～69点）】学習指導要領に従い，ある程度実践的な学習指導案が形式にのっとって作成できている

課題へのフィードバック：

毎回提出のコメントに対しては次の回の冒頭にフィードバンクを行う
提出されたレポート等に関しては，提出締め切り後に授業内またはTeamsでフィードバックを行う

教科書： 黒田泰史『初等算数科教育法序論』共立出版
文部科学省『小学校学習指導要領解説 算数編』日本文教出版

参考書： 文部科学省『学習指導要領』
文部科学省検定 小学校教科書

授業・準備学習のアドバイス：

子どものつまずきを背景に，各領域の指導内容を見ていく。テストで点を取らせることやすぐに理解することではなく，算数数学教育の本質を理解する。そのために積極的な意見や考えをもち、学生自身が主体的に学修に取り組むことを望む。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 算数

クラス: 小中高/小+後

授業コード: DA10800002

担当者: 神月 紀輔 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立中学校・特別支援学校教諭

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)【選択】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 算数 **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 高等学校までに学習してきた算数・数学の内容を，関連性と発展性の立場から改めて見直し，小学校で学習する算数の各領域の内容がどのように関連しているか，また，中学校・高等学校の数学にどのように発展していくのかという道筋を理解する。

到達目標: テキストに沿って，学び方を習得したのち，「数・代数」，「立体・空間・変換」，「量・関数・解析」，「確率・統計」，「集合・論理」の各分野について，関連性と発展性を理解できるようオンライン学習を取り入れながら進め，教科教育法算数につなげる。

各回の授業計画:

1. 算数教育の意義と算数科の目標
2. 算数科における評価
3. 算数教育の研究動向と学力調査(全国学力・学習状況調査、PISA、TIMSS)
4. 算数科におけるプログラミング教育 ※学内Wifiに接続できるPC持参のこと
5. 小学校算数科の教育内容の系統性1(数と計算、図形)
6. 小学校算数科の教育内容の系統性2(測定、変化と関係、データの活用)
7. 「数と計算」の内容と方法論(各種の数の特徴、加減乗除の計算)
8. 「図形」の内容と方法論(立方体の描画特性と空間認識)
9. 「測定」の内容と方法論(長さ、かさ、時刻と時間、重さ、量感)
10. 「変化と関係」の内容と方法論(折れ線グラフ、割合、比例、比、速さ)
11. 「データの活用」の内容と方法論(表やグラフ、棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、帯グラフ、代表値)
12. 算数教育の歴史(オンデマンド教材での学修)
13. 算数科における授業形態、授業設計
14. 算数科学習指導案の作成
15. 算数科授業の構築とその振り返り

特記事項: ・授業時にテキストは必携である
・この授業は，対面授業とオンライン学習を組み合わせたブレンド型で行います。
・オンライン学習では，動画によるTeams配信とformsによるコメント収集を中心としたオンデマンド型の授業を行います。
・教員・他の学習者を含め，他者からの学びを重視し，様々な角度から算数について考える姿勢で臨むこと。
・常に自分の学習の進捗を意識し，足りないところは友達との意見交換や，講師への質問を行うなど，自ら解決しようとすること。

授業方法: テキストを用い，小学校算数科について概要を解説するとともに，指導者として算数数学の基本を学んでいく。
毎回，授業終了後にFormsでコメントを収集し，その場で授業内容の振り返りを行う。
授業では，スライドをもとに進めていく。資料はTeamsで提供するので，ノートPCを持参すること。
授業に関しては，ルーブリックを提示するので，自分の学習の進捗状況を自分で毎回とらえ，自分の学修状況を自己評価できるようにしておく。
そのため，毎回提出する授業コメントは授業内にて紹介し，他の学習者がどの程度の学習を行っているかを常に把握しておく必要がある。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

復習は必ず行い，前の回の内容は把握して次の回に臨むこと
予習はテキストの該当ページを毎回提示するので読んでおくこと。
教育制度は改革期を向かえ，テキストの内容だけを学習していては追いつかなくなっている。
自ら，新聞・テレビ・インターネットなどの情報源を駆使して，教育改革についての情報を集めておく姿勢が必要である。
授業外に必要な学習時間 1回あたり180分
授業内で数回レポートを課し，最後に算数科学習指導案を作成しそれを最終レポートとする。

評価方法: **授業へのとりくみ:** 50 % **確認テスト:** − % **レポート:** 50 %
その他1: %

その他2： **%**

評価基準： この授業は，算数・数学を関連性・発展性から理解し，授業内で得た知識や自分での学習を総合して，自ら下記項目によって評価を行う。
なお課題提出の際には，自己評価の基準となるルーブリックを提示し，自らの目標を立てて課題等の提出ができるようにする。

・授業における態度（50%） 単に出席したかどうかでなく，授業に主体的に取り組んだか，参加意欲はどうか，算数への理解を自ら行おうとしたか，などを毎回行う授業の振り返りと最終授業において教員の提示する項目に数値による自己評価によって評価する。
【望ましい到達度（80～100点）】小学校で教える算数の内容を授業において完全に理解し，積極的に理解しようと授業を通して主体的に学習している
【最低限の到達度（60～69点）】今後学習を進めることで算数の内容を完全に理解することが期待でき，そのために授業を通して積極的な理解をしようと努める

・レポート（50%） 期間中数回提示されるレポート課題について，自己評価を行いながら提出を求める。
【望ましい到達度（80～100点）】子どもの発達段階も踏まえ，学習指導要領を理解したうえで，形式にのっとった学習指導案が完成されている
【最低限の到達度（60～69点）】学習指導要領に従い，ある程度実践的な学習指導案が形式にのっとって作成できている

課題へのフィードバック：

毎回提出のコメントに対しては次の回の冒頭にフィードバンクを行う
提出されたレポート等に関しては，提出締め切り後に授業内またはTeamsでフィードバックを行う

教科書： 黒田泰史『初等算数科教育法序論』共立出版
文部科学省『小学校学習指導要領解説 算数編』日本文教出版

参考書： 文部科学省『学習指導要領』
文部科学省検定 小学校教科書

授業・準備学習のアドバイス：

子どものつまずきを背景に，各領域の指導内容を見ていく。テストで点を取らせることやすぐに理解することではなく，算数数学教育の本質を理解する。そのために積極的な意見や考えをもち、学生自身が主体的に学修に取り組むことを望む。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 理科

クラス: 小中高/小+前

授業コード: DA10900001

担当者: 有道 俊雄 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立中学校主幹教諭・教諭、公立高等学校非常勤講師

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)【選択】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 理科 **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 地球環境問題や自然災害の被害を軽減することは人類が直面する現代的課題である。その理解のためには、地球がどのように誕生し、生物がどのように環境とかかわってきたのかを理解する必要がある。宇宙観、地球史と人類史、防災・減災、身近な環境問題等について、SDGs・ESDの観点から科学的で主体的な判断ができることをめざす。
小学校教員として、自然科学の成果を正しく理解するとともに、地球環境と自然災害について地球史・人類史の視点からアプローチするための基礎を養う。

到達目標:
1. 地球史、人類史の基礎知識と科学的な考え方を身につける
2. 自然を科学的に認識する化学・物理学の概念・基本法則を理解する
3. 基本的な実験と観察を通して、自然を理解する技術を身につける

各回の授業計画:

1. オリエンテーション人類の誕生・ヒトの起源
2. 人類の進化〜猿人からホモ・サピエンスへ【実験1】人類と火〜火おこしの技術
3. ホモサピエンスの世界拡散・文明の誕生・日本人のルーツ【実験2】栽培した穀物を食べる〜お米を炊く
4. 地球と月・太陽【実験3】月・地球の岩石の観察(双眼実体顕微鏡)
5. 宇宙への旅、宇宙のひろがり【実験4】宇宙で一番多い元素である水素の発生と性質
6. 宇宙の誕生と進化、太陽系の誕生【実験5】酸素と二酸化炭素の発生と性質
7. 地球の誕生と生命の誕生【実験6】細胞の科学、人工細胞を創る
8. 地球と生物の共進化①(先カンブリア代・古生代)【実験7】海藻、苔、シダの観察【実験8】プランクトンの観察
9. 地球と生物の共進化②(中生代・新生代)【実験9】化石の観察 【実験10】ちりめんモンスターの観察
10. 日本はなぜ災害が多いのか〜災害のメカニズムと防災教育【実験10】地震波の観察、【実験11】災害時の非常食
11. 日本列島の誕生とその成り立ち【実験12】地質図の作成
12. 理科のカリキュラム、単元構成と教科書【実験13】課題実験の準備〜グループワーク
13. 持続可能な社会の実現に向けて〜SDGsと理科教育〜【実験14】コイルモーターを作ろう
14. 電気教材とミクロの科学 【実験15】3〜6年生の電気教材 【課題実験の準備】
15. 地球と人類の未来を考える〜総括レポート〜【課題実験】2〜3人のグループで自分たちが選んだ実験を行う。

特記事項: なし

授業方法: 各回で次の方法を組み合わせて行います。
・講義(ワークシート、パワーポイント、動画、演示実験)
・グループ討議、グループワーク(観察、実験、実習)
原則として、全ての授業を対面で行います。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 人類の誕生〜レポート作成と予習(180分)
2. 人類の進化〜レポート作成と予習(180分)
3. ホモサピエンスの世界拡散・日本人のルーツ〜レポート作成と予習(180分)
4. 地球・月・太陽〜レポート作成と予習(180分)
5. 宇宙の広がり〜レポート作成と予習(180分)
6. 宇宙の誕生と進化〜レポート作成と予習(180分)
7. 地球の誕生と生命の誕生〜レポート作成と予習(180分)
8. 地球と生物の共進化①〜レポート作成と予習(180分)
9. 地球と生物の共進化②〜レポート作成と予習(180分)
10. 日本はなぜ災害が多いのか・防災教育〜レポート作成と予習(180分)
11. 日本列島の誕生と歴史〜レポートの作成と予習(180分)
12. 理科の単元構成と教科書〜レポート作成と予習(180分)

13. 持続可能な社会の実現、SDGsと理科教育～レポート作成と予習（180分）
14. ミクロの世界を探検しよう～レポートと予習（180分）
15. 総括レポートに向けたワークシートの整理・課題実験の準備（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	40 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	40 **%**
その他1：	総括レポートの作成		10 **%**		
その他2：	課題実験の内容とレポート		10 **%**		

評価基準：

（最低限の到達度 60点～69点）
科学の概念・法則の基礎を理解し、地球史の基礎知識を身につけている。
（標準的な到達度 70点～79点）
科学の概念・法則の基礎を深く理解し、地球史の基礎知識を身につけ、観察・実験を行うことで考察をすることができる。
（望ましい到達度 80点～100点）
科学の概念・法則を高いレベルで理解し、地球史の基礎知識を身につけ、観察・実験を行うことでその結果を深く考察をすることができる。

課題へのフィードバック：

Teamsにアップロードしているワークシートに必要事項を書き込んでまとめる。
毎時間の提出課題は、Formsへの回答とする。欠席、提出遅延の場合も同じ。
評価結果はTeamsの「課題」にフィードバックを行う。
課題実験のレポートはTeamsの「課題」へ提出する。

教科書： なし

参考書： 文部科学省『小学校学習指導要領解説 理科編』東洋館出版社（平成30年2月）

授業・準備学習のアドバイス：

Teamsにアップロードしているワークシートを事前にパソコンにダウンロードして授業に臨む。必要に応じて印刷して配布する。
授業中は、ワークシートに必要事項を書き込むことで、授業内容の理解、定着を図る。
毎時間の課題提出はFormsへの回答とする。Teamsのアナウンスに Formsへのリンク先を掲載している。
欠席、提出遅延の場合もFormsへの回答を行うことで提出とする。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 理科

クラス: 小中高/小+後

授業コード: DA10900002

担当者: 有道 俊雄 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立中学校主幹教諭・教諭、公立高等学校非常勤講師

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)【選択】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 理科 **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 地球環境問題や自然災害の被害を軽減することは人類が直面する現代的課題である。その理解のためには、地球がどのように誕生し、生物がどのように環境とかかわってきたのかを理解する必要がある。宇宙観、地球史と人類史、防災・減災、身近な環境問題等について、SDGs・ESDの観点から科学的で主体的な判断ができることをめざす。
小学校教員として、自然科学の成果を正しく理解するとともに、地球環境と自然災害について地球史・人類史の視点からアプローチするための基礎を養う。

到達目標:
1. 地球史、人類史の基礎知識と科学的な考え方を身につける
2. 自然を科学的に認識する化学・物理学の概念・基本法則を理解する
3. 基本的な実験と観察を通して、自然を理解する技術を身につける

各回の授業計画:

1. オリエンテーション人類の誕生・ヒトの起源
2. 人類の進化～猿人からホモ・サピエンスへ【実験1】人類と火～火おこしの技術
3. ホモサピエンスの世界拡散・文明の誕生・日本人のルーツ【実験2】栽培した穀物を食べる～お米を炊く
4. 地球と月・太陽【実験3】月・地球の岩石の観察(双眼実体顕微鏡)
5. 宇宙への旅、宇宙のひろがり【実験4】宇宙で一番多い元素である水素の発生と性質
6. 宇宙の誕生と進化、太陽系の誕生【実験5】酸素と二酸化炭素の発生と性質
7. 地球の誕生と生命の誕生【実験6】細胞の科学、人工細胞を創る
8. 地球と生物の共進化①(先カンブリア代・古生代)【実験7】海藻、苔、シダの観察【実験8】プランクトンの観察
9. 地球と生物の共進化②(中生代・新生代)【実験9】化石の観察 【実験10】ちりめんモンスターの観察
10. 日本はなぜ災害が多いのか～災害のメカニズムと防災教育【実験10】地震波の観察、【実験11】災害時の非常食
11. 日本列島の誕生とその成り立ち【実験12】地質図の作成
12. 理科のカリキュラム、単元構成と教科書【実験13】課題実験の準備～グループワーク
13. 持続可能な社会の実現に向けて～SDGsと理科教育～【実験14】コイルモーターを作ろう
14. 電気教材とミクロの科学 【実験15】3～6年生の電気教材 【課題実験の準備】
15. 地球と人類の未来を考える～総括レポート～【課題実験】2～3人のグループで自分たちが選んだ実験を行う。

特記事項: なし

授業方法: 各回で次の方法を組み合わせて行います。
・講義(ワークシート、パワーポイント、動画、演示実験)
・グループ討議、グループワーク(観察、実験、実習)
原則として、全ての授業を対面で行います。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 人類の誕生～レポート作成と予習(180分)
2. 人類の進化～レポート作成と予習(180分)
3. ホモサピエンスの世界拡散・日本人のルーツ～レポート作成と予習(180分)
4. 地球・月・太陽～レポート作成と予習(180分)
5. 宇宙の広がり～レポート作成と予習(180分)
6. 宇宙の誕生と進化～レポート作成と予習(180分)
7. 地球の誕生と生命の誕生～レポート作成と予習(180分)
8. 地球と生物の共進化①～レポート作成と予習(180分)
9. 地球と生物の共進化②～レポート作成と予習(180分)
10. 日本はなぜ災害が多いのか・防災教育～レポート作成と予習(180分)
11. 日本列島の誕生と歴史～レポートの作成と予習(180分)
12. 理科の単元構成と教科書～レポート作成と予習(180分)

13. 持続可能な社会の実現、SDGsと理科教育～レポート作成と予習（180分）
14. ミクロの世界を探検しよう～レポートと予習（180分）
15. 総括レポートに向けたワークシートの整理・課題実験の準備（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	40 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	40 **%**
その他1：	総括レポートの作成		10 **%**		
その他2：	課題実験の内容とレポート		10 **%**		

評価基準：

（最低限の到達度 60点～69点）
科学の概念・法則の基礎を理解し、地球史の基礎知識を身につけている。
（標準的な到達度 70点～79点）
科学の概念・法則の基礎を深く理解し、地球史の基礎知識を身につけ、観察・実験を行うことで考察をすることができる。
（望ましい到達度 80点～100点）
科学の概念・法則を高いレベルで理解し、地球史の基礎知識を身につけ、観察・実験を行うことでその結果を深く考察をすることができる。

課題へのフィードバック：

Teamsにアップロードしているワークシートに必要事項を書き込んでまとめる。
毎時間の提出課題は、Formsへの回答とする。欠席、提出遅延の場合も同じ。
評価結果はTeamsの「課題」にフィードバックを行う。
課題実験のレポートはTeamsの「課題」へ提出する。

教科書： なし

参考書： 文部科学省『小学校学習指導要領解説 理科編』東洋館出版社（平成30年2月）

授業・準備学習のアドバイス：

Teamsにアップロードしているワークシートを事前にパソコンにダウンロードして授業に臨む。必要に応じて印刷して配布する。
授業中は、ワークシートに必要事項を書き込むことで、授業内容の理解、定着を図る。
毎時間の課題提出はFormsへの回答とする。Teamsのアナウンスに Formsへのリンク先を掲載している。
欠席、提出遅延の場合もFormsへの回答を行うことで提出とする。
全て、対面での授業になります。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 生活

クラス: 小中高/小+前

授業コード: DA11000001

担当者: 山田 希代子 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立小学校校長、教諭

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)【選択】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 生活 **一般的包括的科目:** -

授業の目的: 国民生活基礎調査、資料等を活用し、グループ討議、課題発表を通して、子ども理解と「生活」を理解していく。
1. 豊かな内容と意義をもつ「生活」という概念全体について理解する。
2. その上で、子どもたちの生活環境の課題等について把握しその改善策を考察する。
3. 子どもの成長や生活の充実をもたらす「遊び」の意義等について理解し、幼児期・児童期にふさわしい保育環境・教育環境の在り方を実践的に深める。小学校「生活科」の基本的理解を深め、幼小連携を探る。

到達目標: 「生活」は、多様な意味を含む概念である。人間の日常的な活動や営みの具体的な姿から生命・生存といった生物としての人間の状態や活動に至るまで、広範な意味をもっている。授業は、現代の子どもの実態を把握しながら、幼児期・児童期にふさわしい生活を様々な視点から探究し、子どもの豊かな生活をいかに実現していくかについて考え、幼児教育・小学校教育のあり方を理解する。

各回の授業計画:

1. 授業オリエンテーション(授業に取り組む姿勢と授業科目の理解)
2. 生活の基本的な概念と生活文化
3. 生きる力の育成と子どもの生活(保育・教育における生活の意義)
4. 生活習慣と子ども力の育成
5. 現代の子どもの生活環境Ⅰ・家族、自然
6. 現代の子どもの生活環境Ⅱ・情報化社会、消費社会の中の子ども
7. 現代の子どもの生活時間
8. 子どもと遊び
9. 遊びと学習の「環境づくり」
10. 保育・幼稚園教育と生活科との関連
11. 生活科の果たす役割と育てたい学力
12. 生活科の自然環境・社会環境とのかかわりとその環境づくり
13. 生活科と幼児教育、幼小連携のカリキュラムづくり
14. 生活科と幼児教育、幼小連携の授業設計のあり方(情報通信技術の活用を含む)
15. 幼児教育と小学校教育の連携のあり方のまとめと確認テスト

特記事項: なし

授業方法: 講義(対面授業)
資料・教材活用
ビデオ等視聴
グループワーク
ディスカッション
プレゼンテーション
発表

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 予習 子どもの生活に関わる現代的な諸問題についての新聞記事記事を読んだり、ニュースに目を通したり、これらに関わる内容の著書を読んだりして自分なりの考えをもつようにする。(900分)
2. 各講義の復習・ノート整理(1170分)
3. 課題・課題レポート作成(630分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	- %	**確認テスト:**	50 %	**レポート:**	- %
その他1:	授業時の課題レポート		50 %		
その他2:			%		

評価基準: ・子どもの生活について基本的な知識をもち、遊びの果たす役割を理解する。子どもの生活改善や幼小連携の活動を自分なりに考えることができる。(60～69点)
・子どもの生活について豊かな知識と情報をもち、諸問題について意欲的に考えようとする。遊びの果たす役割について深く学び、幼児期・児童期の子どもにふさわしい豊かな生活の実現について考察し、幼小連携の活動について具体的に提案することができる。(80～100点)

課題へのフィードバック:

課題については、授業で全体に講評をしたり、個別に講評をしたりする。

教科書: 文部科学省『小学校学習指導要領解説 生活編』東京書籍(令和6年9月)
内閣府 文部科学省 厚生労働省『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社(2017年6月)

参考書: 授業中に適宜指示する。

授業・準備学習のアドバイス:

多角的に現代の子どもの生活を取り巻く諸環境についての情報や問題点を把握し、子どもの生活の改善について何が必要か、また、自分は何ができるのかについて考えるようにしておくとよい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 生活

クラス: 小中高/小+後

授業コード: DA11000002

担当者: 山田 希代子 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立小学校校長、教諭

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)【選択】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 生活 **一般的包括的科目:** -

授業の目的: 国民生活基礎調査、資料等を活用し、グループ討議、課題発表を通して、子ども理解と「生活」を理解していく。
1. 豊かな内容と意義をもつ「生活」という概念全体について理解する。
2. その上で、子どもたちの生活環境の課題等について把握しその改善策を考察する。
3. 子どもの成長や生活の充実をもたらす「遊び」の意義等について理解し、幼児期・児童期にふさわしい保育環境・教育環境の在り方を実践的に深める。小学校「生活科」の基本的理解を深め、幼小連携を探る。

到達目標: 「生活」は、多様な意味を含む概念である。人間の日常的な活動や営みの具体的な姿から生命・生存といった生物としての人間の状態や活動に至るまで、広範な意味をもっている。授業は、現代の子どもの実態を把握しながら、幼児期・児童期にふさわしい生活を様々な視点から探究し、子どもの豊かな生活をいかに実現していくかについて考え、幼児教育・小学校教育のあり方を理解する。

各回の授業計画:

1. 授業オリエンテーション(授業に取り組む姿勢と授業科目の理解)
2. 生活の基本的な概念と生活文化
3. 生きる力の育成と子どもの生活(保育・教育における生活の意義)
4. 生活習慣と子ども力の育成
5. 現代の子どもの生活環境Ⅰ・家族、自然
6. 現代の子どもの生活環境Ⅱ・情報化社会、消費社会の中の子ども
7. 現代の子どもの生活時間
8. 子どもと遊び
9. 遊びと学習の「環境づくり」
10. 保育・幼稚園教育と生活科との関連
11. 生活科の果たす役割と育てたい学力
12. 生活科の自然環境・社会環境とのかかわりとその環境づくり
13. 生活科と幼児教育、幼小連携のカリキュラムづくり
14. 生活科と幼児教育、幼小連携の授業設計のあり方(情報通信技術の活用を含む)
15. 幼児教育と小学校教育の連携のあり方のまとめと確認テスト

特記事項: なし

授業方法: 講義(対面授業)
資料・教材活用
ビデオ等視聴
グループワーク
ディスカッション
プレゼンテーション
発表

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 予習 子どもの生活に関わる現代的な諸問題についての新聞記事記事を読んだり、ニュースに目を通したり、これらに関わる内容の著書を読んだりして自分なりの考えをもつようにする。(900分)
2. 各講義の復習・ノート整理(1170分)
3. 課題・課題レポート作成(630分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	- %	**確認テスト:**	50 %	**レポート:**	- %
その他1:	授業時の課題レポート		50 %		
その他2:			%		

評価基準: ・子どもの生活について基本的な知識をもち、遊びの果たす役割を理解する。子どもの生活改善や幼小連携の活動を自分なりに考えることができる。(60～69点)
・子どもの生活について豊かな知識と情報をもち、諸問題について意欲的に考えようとする。遊びの果たす役割について深く学び、幼児期・児童期の子どもにふさわしい豊かな生活の実現について考察し、幼小連携の活動について具体的に提案することができる。(80～100点)

課題へのフィードバック:

課題については、授業で全体に講評をしたり、個別に講評をしたりする。

教科書: 文部科学省『小学校学習指導要領解説 生活編』東京書籍(令和6年9月)
内閣府 文部科学省 厚生労働省『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社(2017年6月)

参考書: 授業中に適宜指示する。

授業・準備学習のアドバイス:

多角的に現代の子どもの生活を取り巻く諸環境についての情報や問題点を把握し、子どもの生活の改善について何が必要か、また、自分は何ができるのかについて考えるようにしておくとよい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 音楽

クラス: 小中高/小+

授業コード: DA11110001

担当者: 臼井 真 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立小学校音楽科主幹教諭

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)【選択】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 音楽 **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 小学校における音楽教育に必要な歌唱や合唱、音楽理論、器楽合奏、音楽づくりに関する知識や技術を習得する。また、混声3部合唱にも取り組む。

到達目標:
1. ソルフェージュや音楽理論の基礎を学ぶことにより、読譜力を身に付ける。
2. 歌唱では、自然で無理のない響きのある発声法で表情豊かに歌う歌唱法を習得する。
3. 合唱では、他のパートと声を合わせることによりハーモニー感覚を習得する。
4. リズム楽器の基礎的な奏法を学ぶ。
5. 様々な「音楽づくり」に関するスキルを学ぶ。
6. 児童に対する歌唱指導法を身に付ける。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
・授業の目的、内容、進め方について
・音楽理論(譜表、音名、変化記号、異名同音)
・コールユーブンゲン①
・発声法(響く声)、リズム打ち(1)
・小学校音楽科教材曲 「あたらしい笑顔」「朝のつどいの歌」

2. 音楽理論(譜表、音名、変化記号、異名同音)
・コールユーブンゲン②
・発声法、リズム打ち(2)
・小学校音楽科教材曲 「あたらしい笑顔」「朝のつどいの歌」「運動会の歌」

3. 音楽理論(音符と休符)
・コールユーブンゲン③
・発声法、リズム打ち(3)
・小学校音楽科教材曲 「あたらしい笑顔」「朝のつどいの歌」「運動会の歌」

4. 音楽理論(音符と休符)
・コールユーブンゲン④
・発声法、リズム打ち(4)
・小学校音楽科教材曲「運動会の歌」「歌は音楽の天使」
・鍵盤ハーモニカ、キーボード指導法

5. 音楽理論(音符と休符)(リズムと拍子)
・コールユーブンゲン⑤
・発声法、リズム打ち(5)
・小学校音楽科教材曲「歌は音楽の天使」②「夢〜未来への約束」
・小学校音楽科教材曲「アイアイ」振付つき

6. 音楽理論(リズムと拍子)
・コールユーブンゲン⑥
・発声法、リズム打ち(6)
・鑑賞指導について エステン作曲「人形の夢と目覚め」その他
・「歌は音楽の天使」③「夢〜未来への約束」②

7. 音楽理論(記号と音楽用語)
・コールユーブンゲン⑦
・小学校音楽科教材曲「歌は音楽の天使」④ 二部合唱 「夢〜未来への約束」③ 二部合唱

8. 音楽理論(記号と音楽用語)
・リズムダンス(1)
・小学校音楽科教材曲「歌は音楽の天使」⑤ 二部合唱 「夢〜未来への約束」④ 二部合唱

9. 音楽理論(記号と音楽用語)
・リズムダンス(2)
・小学校音楽科教材曲(低学年)「きょうりゅうとチャチャチャ」
・音楽づくりについて①

・混声3部合唱を通して和声感を身につける①「しあわせ運べるように」「群青」

10. 様々な楽器の種類と分類、演奏方法について学ぶ
・リズムダンス（3）
・リズム楽器の演奏法を身につける（1）
・小学校音楽科教材曲 「きょうりゅうとチャチャチャ」②
・音楽づくりについて②
・混声3部合唱を通して和声感を身につける②「しあわせ運べるように」「群青」

11. 様々な楽器の種類と分類、演奏方法について学ぶ
・リズムダンス（4）
・リズム楽器の演奏法を身につける（2）
・小学校音楽科教材曲 「きょうりゅうとチャチャチャ」③
・混声3部合唱を通して和声感を身につける③「しあわせ運べるように」「群青」

12. 合唱を通して和声感を身につける
・リズムダンス（5）
・混声3部合唱を通して和声感を身につける④「しあわせ運べるように」「群青」

13. 合唱を通して和声感を身につける
・リズムダンス（6）
・混声3部合唱を通して和声感を身につける⑤「しあわせ運べるように」「群青」
・音楽理論小テスト

14. まとめ
・音楽理論小テストの答え合わせ、実技テスト練習
・実技テスト（歌唱）

15. まとめ
・身体表現について リズムダンス（7）

・混声3部合唱を通して和声感を身につける⑥「しあわせ運べるように」「群青」

特記事項： 「小・中コース」、「小プラスコース」対象のクラス授業で行う。
自然で無理のない響きのある発声法を習得し、コールユーブンゲン・小学校歌唱共通教材（中学年・高学年）・合唱曲（低学年）等の教材を通して、読譜力を高め、表情豊かな歌唱表現力を習得する。また、小学校における音楽教育に必要な音楽理論、リズム楽器演奏法、混声3部合唱、情報機器を活用した「音楽づくり」も学ぶ。

授業方法： ①～⑮講義 （対面）
1. 講義、実技
2. 講義、実技
3. 講義、実技
4. 講義、実技
5. 講義、実技
6. 講義、 実技
7. 講義、実技
8. 講義、実技
9. 講義、 実技
10. 講義、実技
11. 講義、実技
12. 講義、実技
13. まとめと確認小テスト 講義、実技
14. まとめと実技テスト 講義、実技
15. まとめ 身体表現について リズムダンス 混声3部合唱「しあわせ運べるように」「群青」

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

各回、以下の予習・復習を行うこと。
①音楽理論の予習・復習（20分×15週）
②コールユーブンゲンの予習・復習（20分×10週）
③小学校音楽科教材曲の予習・復習（20分×15週）
④小学校歌唱共通教材曲の予習・復習（20分×15週）
⑤混声3部合唱曲パート練習の予習・復習（30分×6週）
⑥「音楽づくり」、リズム楽器の演奏法の復習（30分×2週）

評価方法：

授業へのとりくみ：	45	**%**	**確認テスト：**	55	**%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準： 最低限の到達度：60～69点
・音楽理論の基礎的な知識を身につけている
・読譜力を身につけている
・自然で無理のない発声法で歌うことができる。
・歌唱指導法を身につけている。

望ましい到達度：80点以上
・音楽理論の総合的な知識を身につけている
・読譜力があり、音楽性豊かな表現力も身につけている。
・自然で無理のない響きのある発声法で表情豊かに歌うことができる。
・歌唱や合唱の指導法を身につけている。

課題へのフィードバック：

・確認テストについては、採点後、講評し、次の学びへとつなげる。
・質問に対してはその都度回答・説明する。内容によっては全体で共有する。

教科書： なし

参考書： 「初等科教育法音楽改訂新版」音楽之友社

授業・準備学習のアドバイス：

・確認テストについては、採点後、講評し、次の学びへとつなげる。
・質問に対してはその都度回答・説明する。内容によっては全体で共有する。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 図画工作

クラス: 小中高/小＋前

授業コード: DA11450001

担当者: 須増 啓之 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)【選択】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 図画工作 **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 個人や共同での制作活動を通して、様々な材料や用具、表現方法に触れ、指導実践に生かすことのできる基礎的な知識や技術を習得し、図画工作の内容について体験的に理解する。また、活動を通して描いたり、つくったり、みたりすることの楽しさを味わい、造形を愛好する心情や感性を養う。そして、授業での活動をポートフォリオ(Microsoft Teamsの機能やプレゼンアプリなどで作成)として記録していくことで、まとめたり、伝えたりする力も養う。

到達目標:
1. 様々な素材や材料、用具に触れ、その特性を理解し、造形指導の基礎的な知識や技術、発想や構想の能力を身につける。
2. 制作活動や鑑賞活動を通して、他者の考え方や造形に触れながら、自分とは異なる表現を認め、楽しむことができるようになる。
3. 図画工作科の内容や児童の造形の発達について、活動を通して理解する。
4. 造形活動に関心を持ち、造形指導への意欲を培う。
5. 授業で行った活動について、自分なりに記録としてまとめることができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション～本授業の目標・内容・評価方法・進め方・準備物の確認など～
自分の造形体験を振り返ることから造形表現について考える
2. 描いてみよう～いろいろな形から発想して～
3. パスで色をぬろう①～いろいろなパスの表現を探そう！～
4. パスで色をぬろう②～型紙を使って、パスをのばそう！～
描画材(パスなど)についての基礎・基本
5. 紙でつくろう～紙を折ったり、切ったりして、いろいろな形を発見～
6. 絵具で色をぬろう①～絵具との関わり方を探そう！～
7. 絵具で色をぬろう②～つくった色の紙を使ってつくろう！～
8. 見てみよう～つくった作品を鑑賞しよう！～
9. 仕組みを使ってつくろう～動く仕組みを工夫して工作しよう～
10. 感触を楽しもう～粘土で遊ぼう～
粘土についての基礎・基本
11. うつしてみよう①～彫刻刀を使ってみよう～
版画についての基礎・基本
12. うつしてみよう②～彫刻刀を使って、回転木版画に挑戦～
13. うつしてみよう③～つくった版にインクをつけてうつそう～
14. 形や絵を動かしてみよう～コマ撮りアニメーションを体験～
15. コマ撮りアニメーションの鑑賞
まとめ「図画工作科の内容と児童の造形表現の特徴について」

特記事項: 各回の授業のはじめに「子供の絵の発達や特徴」をテーマとした講義を行う。

授業方法: 【すべての授業を対面授業で行う】
第1回:講義
第2回:制作(グループワーク)
第3回:制作
第4回:制作(グループワーク)
第5回:制作
第6回:制作
第7回:制作(グループワーク)
第8回:鑑賞活動、講義
第9回:制作
第10回:制作(グループワーク)
第11回:制作

第12回：制作
第13回：制作（グループワーク）
第14回：制作（グループワーク）
第15回：鑑賞活動、講義、ポートフォリオのまとめ

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

第1回：ポートフォリオの整理（120分）
第2回：活動の記録とポートフォリオの整理（120分）
第3回：活動の記録とポートフォリオの整理（120分）
第4回：活動の記録とポートフォリオの整理（120分）
第5回：活動の記録とポートフォリオの整理（120分）
第6回：活動の記録とポートフォリオの整理（120分）
第7回：活動の記録とポートフォリオの整理（120分）
第8回：活動の記録とポートフォリオの整理（120分）
第9回：活動の記録とポートフォリオの整理（120分）
第10回：活動の記録とポートフォリオの整理（120分）
第11回：活動の記録とポートフォリオの整理（120分）
第12回：活動の記録とポートフォリオの整理（120分）
第13回：活動の記録とポートフォリオの整理（120分）
第14回：活動の記録とポートフォリオの整理（120分）
第15回：ポートフォリオのまとめ（120分）

※その他、授業内に完成していない課題の制作や自主制作（900分）
※ポートフォリオはMicrosoft Teamsの機能を使用して作成すること。

評価方法：

授業へのとりくみ：	60	**%**	**確認テスト：**	－	**%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	ポートフォリオの作成及び内容（小レポートを含む）	40	**%**				
その他2：			**%**				

評価基準：

【授業へのとりくみ】について
・材料や用具の特性、図画工作科の内容などについて理解し、表現活動に取り組んでいる。また、他者の考え方や造形について受容することができる。（60～69）
・材料や用具の特性、図画工作科の内容などについて理解し、自分なりに工夫して楽しんで表現活動に取り組んでいる。また他者の考え方や造形について受容、賞賛することができる。（80～100）
【ポートフォリオの作成及び内容】について
・写真などを使用した活動の記録を視覚的にまとめている。（60～69）
・写真などを使用した活動の記録を、自分なりの工夫を加えて視覚的にわかりやすくまとめることができる。（80～100）
※活動については、作品の完成度で評価をすることはない。失敗を恐れず、表現することにチャレンジすること、仲間と協働して取り組むことなどが評価規準となる。

課題へのフィードバック：

提出されたポートフォリオ（Microsoft Teamsなどで作成）にコメントを記入して返却する。
提出された作品課題などについては、次回以降の授業で返却する。

教科書： なし。授業中に適宜、資料を配布する。

参考書：

・文部科学省『小学校学習指導要領』東洋館出版社（2018年2月）
・大橋功他編著『美術教育概論（新訂版）』日本文教出版（2018年10月）
・松岡宏明『子供の世界 子供の造形』三元社（2017年2月）
・松岡宏明『子供に子供の美術を』三元社（2024年7月）
・小学校図画工作科の教科書（開隆堂出版、日本文教出版）
その他、授業中に適宜指示する。

授業・準備学習のアドバイス：

【ポートフォリオ】について
・本授業では予習及び復習、活動の記録としてポートフォリオにまとめる。ポートフォリオは配布資料や活動の記録（写真）、感想などを用いてMicrosoft Teamsで作成し、提出する。
【履修上の留意点】について
・実技が中心となるため、汚れを気にしない服装で受講すること。また、制作活動に関して、授業内に作品が仕上がらなかった場合は、次の授業までに仕上げておくこと。絵を描いたり、つくったりすることが苦手でも構わないので、失敗を恐れずチャレンジしてください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 図画工作

クラス: 小中高/小＋後

授業コード: DA11450002

担当者: 須増 啓之 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)【選択】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 図画工作 **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 個人や共同での制作活動を通して、様々な材料や用具、表現方法に触れ、指導実践に生かすことのできる基礎的な知識や技術を習得し、図画工作の内容について体験的に理解する。また、活動を通して描いたり、つくったり、みたりすることの楽しさを味わい、造形を愛好する心情や感性を養う。そして、授業での活動をポートフォリオ(Microsoft Teamsの機能やプレゼンアプリなどで作成)として記録していくことで、まとめたり、伝えたりする力も養う。

到達目標:
1. 様々な素材や材料、用具に触れ、その特性を理解し、造形指導の基礎的な知識や技術、発想や構想の能力を身につける。
2. 制作活動や鑑賞活動を通して、他者の考え方や造形に触れながら、自分とは異なる表現を認め、楽しむことができるようになる。
3. 図画工作科の内容や児童の造形の発達について、活動を通して理解する。
4. 造形活動に関心を持ち、造形指導への意欲を培う。
5. 授業で行った活動について、自分なりに記録としてまとめることができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション～本授業の目標・内容・評価方法・進め方・準備物の確認など～
自分の造形体験を振り返ることから造形表現について考える
2. 描いてみよう～いろいろな形から発想して～
3. パスで色をぬろう①～いろいろなパスの表現を探そう！～
4. パスで色をぬろう②～型紙を使って、パスをのばそう！～
描画材(パスなど)についての基礎・基本
5. 紙でつくろう～紙を折ったり、切ったりして、いろいろな形を発見～
6. 絵具で色をぬろう①～絵具との関わり方を探そう！～
7. 絵具で色をぬろう②～つくった色の紙を使ってつくろう！～
8. 見てみよう～つくった作品を鑑賞しよう！～
9. 仕組みを使ってつくろう～動く仕組みを工夫して工作しよう～
10. 感触を楽しもう～粘土で遊ぼう～
粘土についての基礎・基本
11. うつしてみよう①～彫刻刀を使ってみよう～
版画についての基礎・基本
12. うつしてみよう②～彫刻刀を使って、回転木版画に挑戦～
13. うつしてみよう③～つくった版にインクをつけてうつそう～
14. 形や絵を動かしてみよう～コマ撮りアニメーションを体験～
15. コマ撮りアニメーションの鑑賞
まとめ「図画工作科の内容と児童の造形表現の特徴について」

特記事項: 各回の授業のはじめに「子供の絵の発達や特徴」をテーマとした講義を行う。

授業方法: 【すべての授業を対面授業で行う】
第1回:講義
第2回:制作(グループワーク)
第3回:制作
第4回:制作(グループワーク)
第5回:制作
第6回:制作
第7回:制作(グループワーク)
第8回:鑑賞活動、講義
第9回:制作
第10回:制作(グループワーク)
第11回:制作

第12回：制作
第13回：制作（グループワーク）
第14回：制作（グループワーク）
第15回：鑑賞活動、講義、ポートフォリオのまとめ

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

第1回：ポートフォリオの整理（120分）
第2回：活動の記録とポートフォリオの整理（120分）
第3回：活動の記録とポートフォリオの整理（120分）
第4回：活動の記録とポートフォリオの整理（120分）
第5回：活動の記録とポートフォリオの整理（120分）
第6回：活動の記録とポートフォリオの整理（120分）
第7回：活動の記録とポートフォリオの整理（120分）
第8回：活動の記録とポートフォリオの整理（120分）
第9回：活動の記録とポートフォリオの整理（120分）
第10回：活動の記録とポートフォリオの整理（120分）
第11回：活動の記録とポートフォリオの整理（120分）
第12回：活動の記録とポートフォリオの整理（120分）
第13回：活動の記録とポートフォリオの整理（120分）
第14回：活動の記録とポートフォリオの整理（120分）
第15回：ポートフォリオのまとめ（120分）

※その他、授業内に完成していない課題の制作や自主制作（900分）
※ポートフォリオはMicrosoft Teamsの機能を使用して作成すること。

評価方法：

授業へのとりくみ：	60	**%**	**確認テスト：**	－	**%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	ポートフォリオの作成及び内容(小レポートを含む)	40	**%**				
その他2：			**%**				

評価基準：

【授業へのとりくみ】について
・材料や用具の特性、図画工作科の内容などについて理解し、表現活動に取り組んでいる。また、他者の考え方や造形について受容することができる。（60～69）
・材料や用具の特性、図画工作科の内容などについて理解し、自分なりに工夫して楽しんで表現活動に取り組んでいる。また他者の考え方や造形について受容、賞賛することができる。（80～100）
【ポートフォリオの作成及び内容】について
・写真などを使用した活動の記録を視覚的にまとめている。（60～69）
・写真などを使用した活動の記録を、自分なりの工夫を加えて視覚的にわかりやすくまとめることができる。（80～100）
※活動については、作品の完成度で評価をすることはない。失敗を恐れず、表現することにチャレンジすること、仲間と協働して取り組むことなどが評価規準となる。

課題へのフィードバック：

提出されたポートフォリオ（Microsoft Teamsなどで作成）にコメントを記入して返却する。
提出された作品課題などについては、次回以降の授業で返却する。

教科書： なし。授業中に適宜、資料を配布する。

参考書：

・文部科学省『小学校学習指導要領』東洋館出版社（2018年2月）
・大橋功他編著『美術教育概論（新訂版）』日本文教出版（2018年10月）
・松岡宏明『子供の世界 子供の造形』三元社（2017年2月）
・松岡宏明『子供に子供の美術を』三元社（2024年7月）
・小学校図画工作科の教科書（開隆堂出版、日本文教出版）
その他、授業中に適宜指示する。

授業・準備学習のアドバイス：

【ポートフォリオ】について
・本授業では予習及び復習、活動の記録としてポートフォリオにまとめる。ポートフォリオは配布資料や活動の記録（写真）、感想などを用いてMicrosoft Teamsで作成し、提出する。
【履修上の留意点】について
・実技が中心となるため、汚れを気にしない服装で受講すること。また、制作活動に関して、授業内に作品が仕上がらなかった場合は、次の授業までに仕上げておくこと。絵を描いたり、つくったりすることが苦手でも構わないので、失敗を恐れずチャレンジしてください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 家庭

クラス: 小中高/小+前

授業コード: DA11500001

担当者: 山口 香織 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:高等学校教諭(家庭科)

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)【選択】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 家庭 **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 実習や演習を通して、小学校家庭科の意義と指導内容について理解を深め、家庭科の指導者として必要な基礎的・基本的な知識と技能の習得を目指す。また、自分の生活を見直すことによって、豊かな家庭生活を創造し実践しようとする力を養う。

到達目標:
1. 小学校家庭科の意義を理解することができる。
2. 実習指導に必要な知識と技能を身に付けることができる。
3. 豊かな家庭生活を創造し実践しようとすることができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション、家庭科とは
2. 小学校家庭科の目標と内容、実習指導について
3. 家庭生活の社会的変化と家庭科教育の歴史
4. 家庭生活と家族:児童の生活実態と発達課題
5. 食生活(1)食事の役割・栄養
6. 食生活(2)簡単な調理① 米飯とみそ汁
7. 食生活(3)実習の事後指導と家庭科における食育
8. 食生活(4)簡単な調理② 一食分の献立 ※自宅での調理実習(オンライン)
9. 住生活(1)住生活の現状と課題
10. 衣生活(2)生活に役立つ物の製作① 手縫い
11. 衣生活(3)生活に役立つ物の製作② 手縫い・ミシン(採寸と裁断)
12. 衣生活(4)生活に役立つ物の製作③ 手縫い・ミシン(縫製と仕上げ)
13. 消費生活と環境(1)ものや金銭の使い方と買い物
14. 消費生活と環境(2)環境に配慮した生活、近隣の人々とのかかわり
15. 確認テストと総括「家庭科の授業づくりに向けて」

特記事項: 本授業では、調理実習およびミシンを使用した製作実習を行うため、教場および備品の都合上、履修者数は30名を上限とする。履修希望者が規定人数(30名)を超えた場合は、第1回目の授業時に抽選を行う。なお、第1回目の授業に出席しなかった者は、抽選・選考の対象外とする。
また、本授業では課題として、自宅での調理実習およびその内容に関するレポート作成を課す。課題の詳細についてはオリエンテーション時に説明するため、第1回目の授業には必ず出席すること。
実習に必要な教材費の一部は、各自の自己負担とする。
実習・実験を欠席した場合、別課題の提示や補講は行わない。
授業のルールおよび実習・実験で使用する用具・材料等については、第1回目の授業で説明する。

授業方法:
1. 講義(対面)
2. 講義と演習(対面)
3. 講義(対面)
4. 講義(対面)
5. 講義と実習(対面)
6. 実習(対面)
7. 講義(対面)
8. 実習(オンライン授業:教材研究)
9. 講義(オンライン(オンデマンド))
10. 実習(対面)
11. 実習(対面)
12. 実習(対面)
13. 講義と演習(対面)
14. 講義と演習(対面)

15. テストと振り返り（対面）

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

テキストの必要箇所を講読する
①家庭科教育の意義 180分
②家庭科教育の歴史的変遷 180分
③小学校家庭科の目標と内容 180分
④家族・家庭生活 180分
⑤食生活 180分
⑥衣生活 180分
⑦住生活 180分
⑧消費生活 180分
⑨環境 180分

課題レポートを作成する 900分
家庭科の教材研究をする 180分

評価方法：

授業へのとりくみ：	20 **%**	**確認テスト：**	40 **%**	**レポート：**	20 **%**
その他1：	実習作品、授業内レポート		20 **%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

確認テスト
・小学校家庭科の指導に必要な基礎的な知識について理解している。（60～69）
・小学校家庭科の指導に求められる発展・応用的な知識について理解している。（80～100）

課題レポート
・設問に対する自分なりの回答があり、レポートの体裁が整っている。（60～69）
・課題に対して、参考文献などにあたり、熟慮された意見が述べられている。（80～100）

授業のとりくみ
・授業中にメモを取り、課題提出が2/3以上 （60～69）
・忘れ物がなく、課題意識を持って授業参加している（70～79）
・率先して意見を述べるなど積極的に授業参加し、全ての課題に遅れなく提出している （80～100）

以上の内容を総合的に評価する

課題へのフィードバック：

提出物やレポート、試験については、その課題のポイントと評価の観点を全体に向けて説明する。

教科書：

『わたしたちの家庭科5・6』 開隆堂出版株式会社
文部科学省『小学校学習指導要領解説 家庭編 平成29年告示』東京書籍
大竹美登利・鈴木真由子・綿引伴子編著『小学校家庭科教育法』 建帛社

参考書：

授業中に適宜、紹介する

授業・準備学習のアドバイス：

調理実習ではエプロン、三角巾、手拭きを準備し、衛生面に留意すること。
教育者を志す者としてふさわしい心構えで授業参加すること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 家庭

クラス: 小中高/小+後

授業コード: DA11500002

担当者: 山口 香織 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:高等学校教諭(家庭科)

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)【選択】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 家庭 **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 実習や演習を通して、小学校家庭科の意義と指導内容について理解を深め、家庭科の指導者として必要な基礎的・基本的な知識と技能の習得を目指す。また、自分の生活を見直すことによって、豊かな家庭生活を創造し実践しようとする力を養う。

到達目標:
1. 小学校家庭科の意義を理解することができる。
2. 実習指導に必要な知識と技能を身に付けることができる。
3. 豊かな家庭生活を創造し実践しようとすることができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション、家庭科とは
2. 小学校家庭科の目標と内容、実習指導について
3. 家庭生活の社会的変化と家庭科教育の歴史
4. 家庭生活と家族:児童の生活実態と発達課題
5. 食生活(1)食事の役割・栄養
6. 食生活(2)簡単な調理① 米飯とみそ汁
7. 食生活(3)実習の事後指導と家庭科における食育
8. 食生活(4)簡単な調理② 一食分の献立 ※自宅での調理実習(オンライン)
9. 住生活(1)住生活の現状と課題
10. 衣生活(2)生活に役立つ物の製作① 手縫い
11. 衣生活(3)生活に役立つ物の製作② 手縫い・ミシン(採寸と裁断)
12. 衣生活(4)生活に役立つ物の製作③ 手縫い・ミシン(縫製と仕上げ)
13. 消費生活と環境(1)ものや金銭の使い方と買い物
14. 消費生活と環境(2)環境に配慮した生活、近隣の人々とのかかわり
15. 確認テストと総括「家庭科の授業づくりに向けて」

特記事項: 本授業では、調理実習およびミシンを使用した製作実習を行うため、教場および備品の都合上、履修者数は30名を上限とする。履修希望者が規定人数(30名)を超えた場合は、第1回目の授業時に抽選を行う。なお、第1回目の授業に出席しなかった者は、抽選・選考の対象外とする。
また、本授業では課題として、自宅での調理実習およびその内容に関するレポート作成を課す。課題の詳細についてはオリエンテーション時に説明するため、第1回目の授業には必ず出席すること。
実習に必要な教材費の一部は、各自の自己負担とする。
実習・実験を欠席した場合、別課題の提示や補講は行わない。
授業のルールおよび実習・実験で使用する用具・材料等については、第1回目の授業で説明する。

授業方法:
1. 講義(対面)
2. 講義と演習(対面)
3. 講義(対面)
4. 講義(対面)
5. 講義と実習(対面)
6. 実習(対面)
7. 講義(対面)
8. 実習(オンライン授業:教材研究)
9. 講義(オンライン(オンデマンド))
10. 実習(対面)
11. 実習(対面)
12. 実習(対面)
13. 講義と演習(対面)
14. 講義と演習(対面)

15. テストと振り返り（対面）

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

テキストの必要箇所を講読する
①家庭科教育の意義 180分
②家庭科教育の歴史的変遷 180分
③小学校家庭科の目標と内容 180分
④家族・家庭生活 180分
⑤食生活 180分
⑥衣生活 180分
⑦住生活 180分
⑧消費生活 180分
⑨環境 180分

課題レポートを作成する 900分
家庭科の教材研究をする 180分

評価方法：

授業へのとりくみ：	20 **%**	**確認テスト：**	40 **%**	**レポート：**	20 **%**
その他1：	実習作品、授業内レポート		20 **%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

確認テスト
・小学校家庭科の指導に必要な基礎的な知識について理解している。（60～69）
・小学校家庭科の指導に求められる発展・応用的な知識について理解している。（80～100）

課題レポート
・設問に対する自分なりの回答があり、レポートの体裁が整っている。（60～69）
・課題に対して、参考文献などにあたり、熟慮された意見が述べられている。（80～100）

授業のとりくみ
・授業中にメモを取り、課題提出が2/3以上 （60～69）
・忘れ物がなく、課題意識を持って授業参加している（70～79）
・率先して意見を述べるなど積極的に授業参加し、全ての課題に遅れなく提出している （80～100）

以上の内容を総合的に評価する

課題へのフィードバック：

提出物やレポート、試験については、その課題のポイントと評価の観点を全体に向けて説明する。

教科書：

『わたしたちの家庭科5・6』 開隆堂出版株式会社
文部科学省『小学校学習指導要領解説 家庭編 平成29年告示』東京書籍
大竹美登利・鈴木真由子・綿引伴子編著『小学校家庭科教育法』 建帛社

参考書：

授業中に適宜、紹介する

授業・準備学習のアドバイス：

調理実習ではエプロン、三角巾、手拭きを準備し、衛生面に留意すること。
教育者を志す者としてふさわしい心構えで授業参加すること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 体育

クラス: 教

授業コード: DA11750001

担当者: 田中 聡、久山 素子、中瀬古 哲、柳本 太三 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:
〔田中聡〕公立小学校教諭、教育委員会指導主事(学校体育係)
〔柳本太三〕公立小学校教諭、公立小学校教頭、公立小学校校長
〔久山〕公立小学校教諭、文部科学省体育指導伝達講習会派遣

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)【選択】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 体育 **一般的包括的科目:** -

授業の目的: 小学校体育での運動遊び並びに運動教材について、小学校体育科の体つくり運動領域と陸上運動領域、ゲーム・ボール運動領域を取り上げ、その基礎的技能を身につけるとともに、子どもの運動(遊び)学習にかかる子どもとの関わり方や指導法を学ぶ。

到達目標: 1. 体つくり運動と陸上運動、ゲーム・ボール運動、表現運動の実践を通して、その基礎技能を身につける。
2. 取り上げる運動領域の指導法が分かり、指導できる力を身に付ける。
3. 子どもの実態に応じて、運動教材づくりを工夫することができる。

各回の授業計画:

第1回
「体育」授業オリエンテーション(田中聡、柳本、中瀬古、久山)
第2回
体ほぐしの運動 一仲間との交流をねらいにアイスブレイクー(田中聡、柳本、中瀬古、久山)
【3回目～14回目まで3グループに別れ、4回ずつでローテーションする】
第3回
Aグループ:走跳の運動(柳本)
Bグループ:ボール運動(ゴール型バスケット)(中瀬古)
Cグループ:表現リズム遊びの指導と実践(久山)
第4回
Aグループ:短距離走の指導と実際(柳本)
Bグループ:ボール運動(ゴール型サッカー)(中瀬古)
Cグループ:リズムダンスの指導と実践(久山)
第5回
Aグループ:ハードル走の指導と実際(柳本)
Bグループ:ボール運動(ベースボール型)(中瀬古)
Cグループ:表現の指導と実践1＜中学年＞(久山)
第6回
Aグループ:走り幅跳び・走り高跳び指導と実際(柳本)
Bグループ:ボール運動(ネット型)(中瀬古)
Cグループ:表現の指導と実践2＜高学年＞(久山)
第7回
Cグループ:走跳の運動(柳本)
Aグループ:ボール運動(ゴール型バスケット)(中瀬古)
Bグループ:表現リズム遊びの指導と実践(久山)
第8回
Cグループ:短距離走の指導と実際(柳本)
Aグループ:ボール運動(ゴール型サッカー)(中瀬古)
Bグループ:リズムダンスの指導と実践(久山)
第9回
Cグループ:ハードル走の指導と実際(柳本)
Aグループ:ボール運動(ベースボール型)(中瀬古)
Bグループ:表現の指導と実践1＜中学年＞(久山)
第10回
Cグループ:走り幅跳び・走り高跳び指導と実際(柳本)
Aグループ:ボール運動(ネット型)(中瀬古)
Bグループ:表現の指導と実践2＜高学年＞(久山)
第11回
Bグループ:走跳の運動(柳本)
Cグループ:ボール運動(ゴール型バスケット)(中瀬古)

Aグループ：表現リズム遊びの指導と実践（久山）

第12回
Bグループ：短距離走の指導と実際（柳本）
Cグループ：ボール運動（ゴール型サッカー）（中瀬古）
Aグループ：リズムダンスの指導と実践（久山）

第13回
Bグループ：ハードル走の指導と実際（柳本）
Cグループ：ボール運動（ベースボール型）（中瀬古）
Aグループ：表現の指導と実践1＜中学年＞（久山）

第14回
Bグループ：走り幅跳び・走り高跳び指導と実際（柳本）
Cグループ：ボール運動（ネット型）（中瀬古）
Aグループ：表現の指導と実践2＜高学年＞（久山）

第15回
・体ほぐしの運動としての「フォークダンス」とまとめのゲーム
・「体育」の授業を終えるにあたってのまとめ(柳本・中瀬古・久山・田中)

特記事項： なし

授業方法： ・1回目はオリエンテーションとして座学
・2回目はアイスブレイクとしての体ほぐしの運動を行う
・3回目～14回目までは履修者全体をABCの3つのグループに分け、陸上運動領域、ボール運動領域、表現運動領域の3領域について、それぞれ4回ずつ受講し、ローテーションする。各運動領域の実技学習では、一斉指導及び小集団によるグループ学習を行う。
・15回目はフォークダンス(体ほぐしの運動として)とまとめの運動遊び、各担当教員よりまとめの話を行う
授業は全て対面にて行う。

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

各回、基本的に授業に臨むに当たって、実技体験する運動教材の予習・振り返り指導計画の準備に、下記参考資料を中心に十分な予習・復習を、15回の授業で90時間程度行うこと。

評価方法：

授業へのとりくみ：	60	**%**	**確認テスト：**	30	**%**	**レポート：**	10 **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準： ・各授業回の運動領域の実践を十分に行うことを通して、その実技能力、指導法や指導力を十分に身につけている。（80～100）
・各授業回の運動領域の実践を行うことを通して、その実技能力、指導法や指導力をおよそ身につけている。（70～79）
・運動領域の実践を行うことを通して、その実技能力、指導法や指導力を最低限度身につけている。（60～69）

課題へのフィードバック：

・授業の中で適宜全体に対してフィードバックを行う。

教科書： 文部科学省『小学校学指導要領解説 体育編』東洋館出版社（平成30年2月）

参考書： 文部科学省『学校体育実技指導資料集第7集 体つくり運動』東洋館出版

授業・準備学習のアドバイス：

・事前に小学校学習指導要領解説体育編に記載されている体つくり運動領域、陸上運動領域、ボール運動領域、表現運動領域の例示を確認しておくことが望ましい。
・実技において技能的な難しさはないが、教材を考えたり、指導方法を学ぶことを中心に進める。授業で学習する運動がどのような運動特性を持っているのかについて、小学校学習指導要領解説を調べておくことが大切になる。
・なお、この科目は、第3回～第14回までに、3人の担当教員が各運動領域を4回ずつ担当する。単位認定条件として、各ローテーション3回以上、全体で2/3以上の出席が必要である（各5回の授業のうち3回以上の欠席をした者、あるいは15回全体で6回以上欠席した者は単位を認めない）。注意すること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 外国語(英語)

クラス: 小中高/小+前

授業コード: DA11800001

担当者: 眞﨑 克彦 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立小学校教諭

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)【選択】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 外国語 **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 1. 小学校における授業実践に必要な英語力:① 聞くこと、② 話すこと、③ 読むこと、④ 書くこと
2. 小学校英語に関する背景的な知識: ① 英語に関する基本的な知識、② 第二言語習得に関する基本的な知識、③ 児童文学(絵本、歌)、④ 異文化理解

到達目標: 小学校における外国語活動・外国語の授業を行う上で必要な英語運用能力向上のため、フォニックス(ABCチャンツ)の知識、教室英語、基礎的な文法力、英語発音、絵本、歌等の活用方法を身に付ける。「聞く」「話す(発表・やり取り)」「読む」「書く」の4技能(5領域)を総合的に活用し、第二言語習得論の知識を通じて、実践力を高める。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション、自分の英語力を知る(聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと)
2. 発音と綴りに関する基本的な知識
3. 文構造・文法に関する基本的な知識
4. 教室英語を含む語彙に関する基本的な知識
5. 第二言語習得に関する基本的な知識
6. 歌の指導(1)(聞くこと・話すこと)(中学年)
7. 歌の指導(2)(聞くこと・話すこと)(高学年)
8. 活動を体験しながらの英語のやり取り・発表(1)(聞くこと・話すこと)(中学年)
9. 活動を体験しながらの英語のやり取り・発表(2)(聞くこと・話すこと)(高学年)
10. 児童文学(絵本、子ども向けの歌や詩(読むこと)
11. 活動を体験しながらの英語のやり取り・発表(3)(読むこと)(中・高学年)
12. 正書法・板書や掲示物における英語の正しい表記(書くこと)
13. 活動を体験しながらの英語のやり取り・発表(4)(書くこと)(高学年)
14. ALTとの効果的なティームティーチング、異文化理解に必要な知識
15. 聞くこと・話すこと・読むこと・書くことの総合的なつながり

特記事項: ・教科書の中の内容について講義、討論、グループワーク(GW)、実習を中心にすすめる。
・教科書の内容についてレポートを作成する。

授業方法: 注 GW = グループワーク
1. ①自分の英語力を知り大学での英語学習の見通しを持つ、②左記の内容に関する演習(討論、GW)(対面)
2. ①発音と綴りに関する基本的な知識(講義)、②左記の分野に関する演習(討論、GW、実習)(対面)
3. ①文構造・文法に関する基本的な知識(講義)、②左記の分野に関する演習(討論、GW、実習)(対面)
4. ①教室英語を含む語彙に関する基本的な知識(講義)、②左記の分野に関する演習(討論、GW、実習)(対面)
5. ①第二言語習得に関する基本的な知識(講義)、②左記の分野に関する演習(討論、GW、実習)(対面)
6. ①歌の指導(1)(講義)、②左記の分野に関する演習(討論、GW、実習)(対面)
7. ①歌の指導(2)(講義)、②左記の分野に関する演習(討論、GW、実習)(対面)
8. ①活動を体験しながらの英語のやり取り・発表(1)(講義)、②左記の分野に関する演習(討論、GW、実習)(対面)
9. ①活動を体験しながらの英語のやり取り・発表(2)(講義)、②左記の分野に関する演習(討論、GW、実習)(対面)
10. ①児童文学(絵本、子ども向けの歌や詩)(講義)、②左記の分野に関する演習(討論、GW、実習)(対面)
11. ①活動を体験しながらの英語のやり取り・発表(3)(講義)、②左記の分野に関する演習(討論、GW、実習)(対面)
12. ①正書法・板書や掲示物における英語の正しい表記(講義)、②左記の分野に関する演習(討論、GW、実習)(対面)
13. ①活動を体験しながらの英語のやり取り・発表(4)(講義)、②左記の分野に関する演習(討論、GW、実習)(対面)
14. ① ALTとの効果的なティームティーチング、異文化理解に必要な知識(講義)、②左記の分野に関する演習(討論、GW、実習)(対面)
15. ①聞くこと・話すこと・読むこと・書くことの総合的なつながり(講義)、②左記の分野に関する発表会(プレゼンテーション、発表)(対面)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

予習、復習について

予習：毎回シラバスに提示されたテキスト・関連資料、事前に提示されるハンドアウトを読み内容を理解しておく。
小学校の英語で使用する教室英語や語彙を計画的に学習・暗記し小学校の授業で使えるように身に付ける。
（60分×15= 900分）
復習：授業中に提示する課題について考えをまとめる。
（60分×15＝900分）
発表準備：グループワーク発表準備（600分）
グループワーク発表教材作成準備（300分）
1. テキスト「序章」を読み、p. 11～p. 12の学習課題の2番の問題について作文を作る。（120分）
問題：China, Indonesia, the USAの3か国と日本は、どんなものを売り買いしているか。We buy (sell) ○○ from △△.
2.「発音と綴り」 2章3、5、6節 （予習60分、復習60分）
3.「文構造・文法」 2章 7節 （予習60分、復習60分）
4.「教室英語を含む語彙」 2章4節 （予習60分、復習60分）
5.「第二言語習得に関する基本的な知識」2章1節 （予習60分、復習60分）
6.「歌の指導（1）(聞くこと・話すこと)(中学年)」1章1節、2章8節 （予習60分、復習60分）
7.「歌の指導（2）(聞くこと・話すこと)(高学年)」1章1節、2章8節と関連資料 （予習60分、復習60分）
8.「活動を体験しながらの英語のやり取り・発表（1）（聞くこと・話すこと）(中学年)」1章1節、3節、2章8節 （予習60分、復習60分）
9.「活動を体験しながらの英語のやり取り・発表（2）（聞くこと・話すこと）(高学年)」1章1節、3節、2章8節と関連資料 （予習60分、復習60分）
10.「児童文学(絵本、子ども向けの歌や詩)（読むこと）」1章2節、2章8節と関連資料 （予習60分、復習60分）
11.「活動を体験しながらの英語のやり取り・発表（3）（読むこと）(中・高学年)」1章2節、2章8節と関連資料 （予習60分、復習60分）
12.「正書法・板書や掲示物における英語の正しい表記（書くこと）」2章6節 （予習60分、復習60分）
13.「活動を体験しながらの英語のやり取り・発表（4）（書くこと）(高学年)」2章6節と関連資料 （予習60分、復習60分）
14.「ALTとの効果的なティームティーチング、異文化理解」2章2節、2章9節 （予習60分、復習60分）
15.「聞くこと・話すこと・読むこと・書くことの総合的なつながり」(発表)（予習60分、復習60分）
（発表の合計15時間(900分)については、適宜各自で時間を調整して行うこと）

評価方法：

授業へのとりくみ：	40	**%**	**確認テスト：**		**%**	**レポート：**	40 **%**
その他1：	毎回実施する小テスト(語彙テスト、理論の確認テスト)	20	**%**				
その他2：			**%**				

評価基準：
1.「最低限の到達度(60～69点)」：毎時間の授業ふりかえりが期限内に提出できたか。授業内のグループワークに参加できたか。授業するのに必要な小学校英語の語彙や表現、知識を身に付けたか。
2.「望ましい到達度(80～100点)」：毎時間の授業ふりかえりが授業の理解や気づきを踏まえて、期限内に提出できたか。授業内の討論やグループワークに積極的に参加したか。発表に中心的に参加できたか。

課題へのフィードバック：
・フィードバックは、授業中と授業ふりかえりのコメントで適宜行う。

教科書：
樋口忠彦・泉恵美子・加賀田哲也・衣笠知子 編著『最新 小学校英語内容論入門』研究社 2023年 ISBN 978-4-327-41109-1
※ テキストは毎回使用するので、必ず持参すること。
※ 本テキストは、2023年に改訂して発行されている。旧版『小学校英語内容論入門』2019年を間違って購入しないこと。

参考書：
文部科学省『小学校学習指導要領解説 外国語活動編・外国語編』開隆堂出版（平成30年2月）

授業・準備学習のアドバイス：
指定された箇所の予習及び課題を準備して授業に臨むこと。
教科書は、毎回持参すること。PCは必携すること、PCの使用目的は、web上で配布されるハンドアウトの学習と学内web上にあるデジタル教材を学生が個々に使用するためである。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 外国語(英語)

クラス: 小中高/小+後

授業コード: DA11800002

担当者: 眞﨑 克彦 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立小学校教諭

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)【選択】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 外国語 **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 1. 小学校における授業実践に必要な英語力:① 聞くこと、② 話すこと、③ 読むこと、④ 書くこと
2. 小学校英語に関する背景的な知識: ① 英語に関する基本的な知識、② 第二言語習得に関する基本的な知識、③ 児童文学(絵本、歌)、④ 異文化理解

到達目標: 小学校における外国語活動・外国語の授業を行う上で必要な英語運用能力向上のため、フォニックス(ABCチャンツ)の知識、教室英語、基礎的な文法力、英語発音、絵本、歌等の活用方法を身に付ける。「聞く」「話す(発表・やり取り)」「読む」「書く」の4技能(5領域)を総合的に活用し、第二言語習得論の知識を通じて、実践力を高める。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション、自分の英語力を知る(聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと)
2. 発音と綴りに関する基本的な知識
3. 文構造・文法に関する基本的な知識
4. 教室英語を含む語彙に関する基本的な知識
5. 第二言語習得に関する基本的な知識
6. 歌の指導(1)(聞くこと・話すこと)(中学年)
7. 歌の指導(2)(聞くこと・話すこと)(高学年)
8. 活動を体験しながらの英語のやり取り・発表(1)(聞くこと・話すこと)(中学年)
9. 活動を体験しながらの英語のやり取り・発表(2)(聞くこと・話すこと)(高学年)
10. 児童文学(絵本、子ども向けの歌や詩(読むこと)
11. 活動を体験しながらの英語のやり取り・発表(3)(読むこと)(中・高学年)
12. 正書法・板書や掲示物における英語の正しい表記(書くこと)
13. 活動を体験しながらの英語のやり取り・発表(4)(書くこと)(高学年)
14. ALTとの効果的なティームティーチング、異文化理解に必要な知識
15. 聞くこと・話すこと・読むこと・書くことの総合的なつながり

特記事項: ・教科書の中の内容について講義、討論、グループワーク(GW)、実習を中心にすすめる。
・教科書の内容についてレポートを作成する。

授業方法: 注 GW = グループワーク
1. ①自分の英語力を知り大学での英語学習の見通しを持つ、②左記の内容に関する演習(討論、GW)(対面)
2. ①発音と綴りに関する基本的な知識(講義)、②左記の分野に関する演習(討論、GW、実習)(対面)
3. ①文構造・文法に関する基本的な知識(講義)、②左記の分野に関する演習(討論、GW、実習)(対面)
4. ①教室英語を含む語彙に関する基本的な知識(講義)、②左記の分野に関する演習(討論、GW、実習)(対面)
5. ①第二言語習得に関する基本的な知識(講義)、②左記の分野に関する演習(討論、GW、実習)(対面)
6. ①歌の指導(1)(講義)、②左記の分野に関する演習(討論、GW、実習)(対面)
7. ①歌の指導(2)(講義)、②左記の分野に関する演習(討論、GW、実習)(対面)
8. ①活動を体験しながらの英語のやり取り・発表(1)(講義)、②左記の分野に関する演習(討論、GW、実習)(対面)
9. ①活動を体験しながらの英語のやり取り・発表(2)(講義)、②左記の分野に関する演習(討論、GW、実習)(対面)
10. ①児童文学(絵本、子ども向けの歌や詩)(講義)、②左記の分野に関する演習(討論、GW、実習)(対面)
11. ①活動を体験しながらの英語のやり取り・発表(3)(講義)、②左記の分野に関する演習(討論、GW、実習)(対面)
12. ①正書法・板書や掲示物における英語の正しい表記(講義)、②左記の分野に関する演習(討論、GW、実習)(対面)
13. ①活動を体験しながらの英語のやり取り・発表(4)(講義)、②左記の分野に関する演習(討論、GW、実習)(対面)
14. ① ALTとの効果的なティームティーチング、異文化理解に必要な知識(講義)、②左記の分野に関する演習(討論、GW、実習)(対面)
15. ①聞くこと・話すこと・読むこと・書くことの総合的なつながり(講義)、②左記の分野に関する発表会(プレゼンテーション、発表)(対面)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

予習、復習について

予習：毎回シラバスに提示されたテキスト・関連資料、事前に提示されるハンドアウトを読み内容を理解しておく。
小学校の英語で使用する教室英語や語彙を計画的に学習・暗記し小学校の授業で使えるように身に付ける。
（60分×15= 900分）
復習：授業中に提示する課題について考えをまとめる。
（60分×15＝900分）
発表準備：グループワーク発表準備（600分）
グループワーク発表教材作成準備（300分）
1. テキスト「序章」を読み、p. 11～p. 12の学習課題の2番の問題について作文を作る。（120分）
問題：China, Indonesia, the USAの3か国と日本は、どんなものを売り買いしているか。We buy (sell) ○○ from △△.
2.「発音と綴り」 2章3、5、6節 （予習60分、復習60分）
3.「文構造・文法」 2章 7節 （予習60分、復習60分）
4.「教室英語を含む語彙」 2章4節 （予習60分、復習60分）
5.「第二言語習得に関する基本的な知識」2章1節 （予習60分、復習60分）
6.「歌の指導（1）(聞くこと・話すこと)(中学年)」1章1節、2章8節 （予習60分、復習60分）
7.「歌の指導（2）(聞くこと・話すこと)(高学年)」1章1節、2章8節と関連資料 （予習60分、復習60分）
8.「活動を体験しながらの英語のやり取り・発表（1）（聞くこと・話すこと）(中学年)」1章1節、3節、2章8節 （予習60分、復習60分）
9.「活動を体験しながらの英語のやり取り・発表（2）（聞くこと・話すこと）(高学年)」1章1節、3節、2章8節と関連資料 （予習60分、復習60分）
10.「児童文学(絵本、子ども向けの歌や詩)（読むこと）」1章2節、2章8節と関連資料 （予習60分、復習60分）
11.「活動を体験しながらの英語のやり取り・発表（3）（読むこと）(中・高学年)」1章2節、2章8節と関連資料 （予習60分、復習60分）
12.「正書法・板書や掲示物における英語の正しい表記（書くこと）」2章6節 （予習60分、復習60分）
13.「活動を体験しながらの英語のやり取り・発表（4）（書くこと）(高学年)」2章6節と関連資料 （予習60分、復習60分）
14.「ALTとの効果的なティームティーチング、異文化理解」2章2節、2章9節 （予習60分、復習60分）
15.「聞くこと・話すこと・読むこと・書くことの総合的なつながり」(発表)（予習60分、復習60分）
（発表の合計15時間(900分)については、適宜各自で時間を調整して行うこと）

評価方法：

授業へのとりくみ：	40	**%**	**確認テスト：**		**%**	**レポート：**	40 **%**
その他1：	毎回実施する小テスト(語彙テスト、理論の確認テスト)	20	**%**				
その他2：			**%**				

評価基準：
1.「最低限の到達度(60～69点)」：毎時間の授業ふりかえりが期限内に提出できたか。授業内のグループワークに参加できたか。授業するのに必要な小学校英語の語彙や表現、知識を身に付けたか。
2.「望ましい到達度(80～100点)」：毎時間の授業ふりかえりが授業の理解や気づきを踏まえて、期限内に提出できたか。授業内の討論やグループワークに積極的に参加したか。発表に中心的に参加できたか。

課題へのフィードバック：
・フィードバックは、授業中と授業ふりかえりのコメントで適宜行う。

教科書：
樋口忠彦・泉恵美子・加賀田哲也・衣笠知子 編著『最新 小学校英語内容論入門』研究社 2023年 ISBN 978-4-327-41109-1
※ テキストは毎回使用するので、必ず持参すること。
※ 本テキストは、2023年に改訂して発行されている。旧版『小学校英語内容論入門』2019年を間違って購入しないこと。

参考書：
文部科学省『小学校学習指導要領解説 外国語活動編・外国語編』開隆堂出版（平成30年2月）

授業・準備学習のアドバイス：
指定された箇所の予習及び課題を準備して授業に臨むこと。
教科書は、毎回持参すること。PCは必携すること、PCの使用目的は、web上で配布されるハンドアウトの学習と学内web上にあるデジタル教材を学生が個々に使用するためである。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教科教育法・国語

クラス: 小中/小+前1(内規科目)

授業コード: DA11900001

担当者: 齋藤 隆彦 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立・国立大学附属中学校教諭(教育実習生の学級・教科担当者)

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)【必修】

含めることが必要な事項: 各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)

教科に関する専門的事項: 国語(書写を含む。) **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 本授業では、国語科指導の在り方、授業づくりや学習指導案の作成、模擬授業等、新学習指導要領に則った指導力を身に付けていくことをねらいとする。そのために、当該単元でどのような国語の能力を付けるかを構想する力、単元で指導する指導事項を基にねらいを把握する力、ねらいを実現するのに適した言語活動を選定し、指導計画を構想する力や授業技能等の基本を身につけるようにする。

到達目標: 「小学校学習指導要領 国語」に基づいた目標や内容を踏まえ、言語活動を通して指導事項を指導する授業構想の基本的枠組みを理解し、学習指導案を作成し、国語科の授業力の基礎・基本を養う。
1. 小学校国語科の目標や内容を理解する。
2. 国語科の内容の構成、[知識及び技能]、[思考力, 判断力, 表現力]について理解する。
3. 教材を通して、単元、指導計画、指導事項、言語活動等について理解し、指導過程として構築する実践的知識を身につける。

各回の授業計画:

1. 国語科の指導 どんな力をつけたいか 学習指導要領等
2. 指導要領「三つの柱」、国語科でつけたい力とその育成方法 表現と共有の基礎1
3. 思考力・判断力・表現力と言語活動 表現と共有の基礎2
4. 国語科の授業デザイン「読むこと」(文学)と表現と共有の基礎3
5. 国語科の授業デザイン「知識・技能(漢字)」の授業の実際(ミニ指導案の検討)と先行実践のミニ探究(課題設定)
6. 国語科の授業デザイン「話すこと・聞くこと」の授業の実際(ミニ指導案の検討)と先行実践のミニ探究(共有)
7. 国語科の授業デザイン「読むこと」(説明的文章)の授業の実際(ミニ指導案の検討)と先行実践のミニ探究(共有)
8. 国語科の授業づくり 指導案づくりと授業の実際(先行実践等の知見から授業をデザインする)
9. 国語科の授業づくり 指導案づくりと授業の実際(「話すこと・聞くこと」の模擬授業)
10. 国語科の授業づくり 指導案づくりと授業の実際(「書くこと」の模擬授業)
11. 国語科の授業づくり 指導案づくりと授業の実際(「読むこと 文学教材」の模擬授業)
12. 国語科の授業づくり 指導案づくりと授業の実際(「読むこと 説明的な文章教材」の模擬授業)
13. 国語科の授業づくり 指導案づくりと授業の実際(「知識・技能」の模擬授業)
14. 国語科の授業づくり 指導案づくりと授業の実際(「書写」の模擬授業)
15. 国語科の授業づくり 「私の国語科授業」提案

特記事項: 受講者の理解やスキルの状況によって、内容の変更を行うことが考えられます。授業やTeamsでお知らせします。

授業方法: 1～15回とも、講義とともに受講者同士による演習を行い「主体的・対話的で深い学び」の経験となるようアクティブ・ラーニングを行う。
すべての授業を対面授業で行う。
ただし、対面が難しい場合(大学から対面を避ける指示があった場合など)は「オンライン」または「同時配信」で行う可能性がある。その際にはTeamsで連絡する。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 指導要領を中心に「国語科でつける力」について考察し、記録する(180分)
2. 指導要領にある「三つの柱」提案の背景や、そこでつけるべき力、育成法について考察し、記録する(180分)
3. 「言語活動」の意義とその内容について考察し、記録する(180分)
4. 「読むこと」(文学)の教材の読解と先行実践の調査(180分)
5. 「知識・技能(漢字)」における先行実践の調査とミニ指導案づくり(180分)
6. 「話すこと・聞くこと」における教材分析とミニ指導案づくり(180分)
7. 「読むこと」(説明的文章)における教材分析とミニ指導案づくり(180分)
8. 「国語科の授業づくり」について先行研究・先行実践を調べる(180分)
9. 「話すこと・聞くこと」の指導案づくりと模擬授業参加の記録(180分)
10. 「書くこと」の指導案づくりと模擬授業参加の記録(180分)
11. 「読むこと 文学教材」の指導案づくりと模擬授業参加の記録(180分)
12. 「読むこと 説明的な文章教材」の指導案づくりと模擬授業参加の記録(180分)

13.「知識・技能」の指導案づくりと模擬授業参加の記録（180分）
14.「書写」の指導案づくりと模擬授業参加の記録（180分）
15.「私の国語科授業提案」を通して自分の学びをまとめる（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	40 **%**	**確認テスト：**	− **%**	**レポート：**	20 **%**
その他1：	学習指導案・模擬授業・最終レポート	40 **%**			
その他2：		**%**			

評価基準：

望ましい到達度 80～100点
・工夫された学習指導案を作成し、学年に合った模擬授業ができること
・「小学校学習指導要領 国語」を理解し、豊かな指導法を身に付けること
・言語能力向上に向けた授業構成を意識し、模擬授業後の自己評価と考察ができること

最低限の到達度 60～69点
・学習指導案を作成し、模擬授業ができること
・「小学校学習指導要領 国語」を理解し、指導法の基礎を身に付けること
・模擬授業後の自己評価と考察ができること

課題へのフィードバック：

授業の方法は見たり聞いたりしているだけでは身に付きにくい。ミニ指導案や模擬授業の相互評価を大事にしてフィードバックしていく。

教科書： 文部科学省『小学校学指導要領解説 国語編』東京書籍（平成30年2月）

参考書： 授業中に適宜資料を配布する。

授業・準備学習のアドバイス：

自分で課題意識を持ち、授業づくりに臨むこと。
一緒に学ぶ人の授業づくりからたくさん吸収すること。
すでに知っていることやできることを大事にし、それらを組立て新しいものを作ること。
そういう姿勢で、力もつき、自信につながります。
なお、授業内容は状況により変更します。必要に応じて授業内やTeamsでお知らせします。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教科教育法・国語

クラス: 小中/小+前2(内規科目)

授業コード: DA11900002

担当者: 齋藤 隆彦 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立・国立大学附属中学校教諭(教育実習生の学級・教科担当者)

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)【必修】

含めることが必要な事項: 各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)

教科に関する専門的事項: 国語(書写を含む。) **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 本授業では、国語科指導の在り方、授業づくりや学習指導案の作成、模擬授業等、新学習指導要領に則った指導力を身に付けていくことをねらいとする。そのために、当該単元でどのような国語の能力を付けるかを構想する力、単元で指導する指導事項を基にねらいを把握する力、ねらいを実現するのに適した言語活動を選定し、指導計画を構想する力や授業技能等の基本を身につけるようにする。

到達目標: 「小学校学習指導要領 国語」に基づいた目標や内容を踏まえ、言語活動を通して指導事項を指導する授業構想の基本的枠組みを理解し、学習指導案を作成し、国語科の授業力の基礎・基本を養う。
1. 小学校国語科の目標や内容を理解する。
2. 国語科の内容の構成、[知識及び技能]、[思考力, 判断力, 表現力]について理解する。
3. 教材を通して、単元、指導計画、指導事項、言語活動等について理解し、指導過程として構築する実践的知識を身につける。

各回の授業計画:

1. 国語科の指導 どんな力をつけたいか 学習指導要領等
2. 指導要領「三つの柱」、国語科でつけたい力とその育成方法 表現と共有の基礎1
3. 思考力・判断力・表現力と言語活動 表現と共有の基礎2
4. 国語科の授業デザイン「読むこと」(文学)と表現と共有の基礎3
5. 国語科の授業デザイン「知識・技能(漢字)」の授業の実際(ミニ指導案の検討)と先行実践のミニ探究(課題設定)
6. 国語科の授業デザイン「話すこと・聞くこと」の授業の実際(ミニ指導案の検討)と先行実践のミニ探究(共有)
7. 国語科の授業デザイン「読むこと」(説明的文章)の授業の実際(ミニ指導案の検討)と先行実践のミニ探究(共有)
8. 国語科の授業づくり 指導案づくりと授業の実際(先行実践等の知見から授業をデザインする)
9. 国語科の授業づくり 指導案づくりと授業の実際(「話すこと・聞くこと」の模擬授業)
10. 国語科の授業づくり 指導案づくりと授業の実際(「書くこと」の模擬授業)
11. 国語科の授業づくり 指導案づくりと授業の実際(「読むこと 文学教材」の模擬授業)
12. 国語科の授業づくり 指導案づくりと授業の実際(「読むこと 説明的な文章教材」の模擬授業)
13. 国語科の授業づくり 指導案づくりと授業の実際(「知識・技能」の模擬授業)
14. 国語科の授業づくり 指導案づくりと授業の実際(「書写」の模擬授業)
15. 国語科の授業づくり 「私の国語科授業」提案

特記事項: 受講者の理解やスキルの状況によって、内容の変更を行うことが考えられます。授業やTeamsでお知らせします。

授業方法: 1～15回とも、講義とともに受講者同士による演習を行い「主体的・対話的で深い学び」の経験となるようアクティブ・ラーニングを行う。
すべての授業を対面授業で行う。
ただし、対面が難しい場合(大学から対面を避ける指示があった場合など)は「オンライン」または「同時配信」で行う可能性がある。その際にはTeamsで連絡する。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 指導要領を中心に「国語科でつける力」について考察し、記録する(180分)
2. 指導要領にある「三つの柱」提案の背景や、そこでつけるべき力、育成法について考察し、記録する(180分)
3. 「言語活動」の意義とその内容について考察し、記録する(180分)
4. 「読むこと」(文学)の教材の読解と先行実践の調査(180分)
5. 「知識・技能(漢字)」における先行実践の調査とミニ指導案づくり(180分)
6. 「話すこと・聞くこと」における教材分析とミニ指導案づくり(180分)
7. 「読むこと」(説明的文章)における教材分析とミニ指導案づくり(180分)
8. 「国語科の授業づくり」について先行研究・先行実践を調べる(180分)
9. 「話すこと・聞くこと」の指導案づくりと模擬授業参加の記録(180分)
10. 「書くこと」の指導案づくりと模擬授業参加の記録(180分)
11. 「読むこと 文学教材」の指導案づくりと模擬授業参加の記録(180分)
12. 「読むこと 説明的な文章教材」の指導案づくりと模擬授業参加の記録(180分)

13.「知識・技能」の指導案づくりと模擬授業参加の記録（180分）
14.「書写」の指導案づくりと模擬授業参加の記録（180分）
15.「私の国語科授業提案」を通して自分の学びをまとめる（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	40 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	20 **%**
その他1：	学習指導案・模擬授業・最終レポート	40 **%**			
その他2：		**%**			

評価基準：

望ましい到達度 80～100点
・工夫された学習指導案を作成し、学年に合った模擬授業ができること
・「小学校学習指導要領 国語」を理解し、豊かな指導法を身に付けること
・言語能力向上に向けた授業構成を意識し、模擬授業後の自己評価と考察ができること

最低限の到達度 60～69点
・学習指導案を作成し、模擬授業ができること
・「小学校学習指導要領 国語」を理解し、指導法の基礎を身に付けること
・模擬授業後の自己評価と考察ができること

課題へのフィードバック：

授業の方法は見たり聞いたりしているだけでは身に付きにくい。ミニ指導案や模擬授業の相互評価を大事にしてフィードバックしていく。

教科書： 文部科学省『小学校学指導要領解説 国語編』東京書籍（平成30年2月）

参考書： 授業中に適宜資料を配布する。

授業・準備学習のアドバイス：

自分で課題意識を持ち、授業づくりに臨むこと。
一緒に学ぶ人の授業づくりからたくさん吸収すること。
すでに知っていることやできることを大事にし、それらを組立て新しいものを作ること。
そういう姿勢で、力もつき、自信につながります。
なお、授業内容は状況により変更します。必要に応じて授業内やTeamsでお知らせします。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教科教育法・国語

クラス: 小中/小+後1(内規科目)

授業コード: DA11900003

担当者: 齋藤 隆彦 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立・国立大学附属中学校教諭(教育実習生の学級・教科担当者)

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)【必修】

含めることが必要な事項: 各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)

教科に関する専門的事項: 国語(書写を含む。) **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 本授業では、国語科指導の在り方、授業づくりや学習指導案の作成、模擬授業等、新学習指導要領に則った指導力を身に付けていくことをねらいとする。そのために、当該単元でどのような国語の能力を付けるかを構想する力、単元で指導する指導事項を基にねらいを把握する力、ねらいを実現するのに適した言語活動を選定し、指導計画を構想する力や授業技能等の基本を身につけるようにする。

到達目標: 「小学校学習指導要領 国語」に基づいた目標や内容を踏まえ、言語活動を通して指導事項を指導する授業構想の基本的枠組みを理解し、学習指導案を作成し、国語科の授業力の基礎・基本を養う。
1. 小学校国語科の目標や内容を理解する。
2. 国語科の内容の構成、[知識及び技能]、[思考力, 判断力, 表現力]について理解する。
3. 教材を通して、単元、指導計画、指導事項、言語活動等について理解し、指導過程として構築する実践的知識を身につける。

各回の授業計画:

1. 国語科の指導 どんな力をつけたいか 学習指導要領等
2. 指導要領「三つの柱」、国語科でつけたい力とその育成方法 表現と共有の基礎1
3. 思考力・判断力・表現力と言語活動 表現と共有の基礎2
4. 国語科の授業デザイン「読むこと」(文学)と表現と共有の基礎3
5. 国語科の授業デザイン「知識・技能(漢字)」の授業の実際(ミニ指導案の検討)と先行実践のミニ探究(課題設定)
6. 国語科の授業デザイン「話すこと・聞くこと」の授業の実際(ミニ指導案の検討)と先行実践のミニ探究(共有)
7. 国語科の授業デザイン「読むこと」(説明的文章)の授業の実際(ミニ指導案の検討)と先行実践のミニ探究(共有)
8. 国語科の授業づくり 指導案づくりと授業の実際(先行実践等の知見から授業をデザインする)
9. 国語科の授業づくり 指導案づくりと授業の実際(「話すこと・聞くこと」の模擬授業)
10. 国語科の授業づくり 指導案づくりと授業の実際(「書くこと」の模擬授業)
11. 国語科の授業づくり 指導案づくりと授業の実際(「読むこと 文学教材」の模擬授業)
12. 国語科の授業づくり 指導案づくりと授業の実際(「読むこと 説明的な文章教材」の模擬授業)
13. 国語科の授業づくり 指導案づくりと授業の実際(「知識・技能」の模擬授業)
14. 国語科の授業づくり 指導案づくりと授業の実際(「書写」の模擬授業)
15. 国語科の授業づくり 「私の国語科授業」提案

特記事項: 受講者の理解やスキルの状況によって、内容の変更を行うことが考えられます。授業やTeamsでお知らせします。

授業方法: 1～15回とも、講義とともに受講者同士による演習を行い「主体的・対話的で深い学び」の経験となるようアクティブ・ラーニングを行う。
すべての授業を対面授業で行う。
ただし、対面が難しい場合(大学から対面を避ける指示があった場合など)は「オンライン」または「同時配信」で行う可能性がある。その際にはTeamsで連絡する。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 指導要領を中心に「国語科でつける力」について考察し、記録する(180分)
2. 指導要領にある「三つの柱」提案の背景や、そこでつけるべき力、育成法について考察し、記録する(180分)
3. 「言語活動」の意義とその内容について考察し、記録する(180分)
4. 「読むこと」(文学)の教材の読解と先行実践の調査(180分)
5. 「知識・技能(漢字)」における先行実践の調査とミニ指導案づくり(180分)
6. 「話すこと・聞くこと」における教材分析とミニ指導案づくり(180分)
7. 「読むこと」(説明的文章)における教材分析とミニ指導案づくり(180分)
8. 「国語科の授業づくり」について先行研究・先行実践を調べる(180分)
9. 「話すこと・聞くこと」の指導案づくりと模擬授業参加の記録(180分)
10. 「書くこと」の指導案づくりと模擬授業参加の記録(180分)
11. 「読むこと 文学教材」の指導案づくりと模擬授業参加の記録(180分)
12. 「読むこと 説明的な文章教材」の指導案づくりと模擬授業参加の記録(180分)

13.「知識・技能」の指導案づくりと模擬授業参加の記録（180分）
14.「書写」の指導案づくりと模擬授業参加の記録（180分）
15.「私の国語科授業提案」を通して自分の学びをまとめる（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	40 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	20 **%**
その他1：	学習指導案・模擬授業・最終レポート	40 **%**			
その他2：		**%**			

評価基準：

望ましい到達度 80～100点
・工夫された学習指導案を作成し、学年に合った模擬授業ができること
・「小学校学習指導要領 国語」を理解し、豊かな指導法を身に付けること
・言語能力向上に向けた授業構成を意識し、模擬授業後の自己評価と考察ができること

最低限の到達度 60～69点
・学習指導案を作成し、模擬授業ができること
・「小学校学習指導要領 国語」を理解し、指導法の基礎を身に付けること
・模擬授業後の自己評価と考察ができること

課題へのフィードバック：

授業の方法は見たり聞いたりしているだけでは身に付きにくい。ミニ指導案や模擬授業の相互評価を大事にしてフィードバックしていく。

教科書： 文部科学省『小学校学指導要領解説 国語編』東京書籍（平成30年2月）

参考書： 授業中に適宜資料を配布する。

授業・準備学習のアドバイス：

自分で課題意識を持ち、授業づくりに臨むこと。
一緒に学ぶ人の授業づくりからたくさん吸収すること。
すでに知っていることやできることを大事にし、それらを組立て新しいものを作ること。
そういう姿勢で、力もつき、自信につながります。
なお、授業内容は状況により変更します。必要に応じて授業内やTeamsでお知らせします。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教科教育法・国語

クラス: 小中/小+後2(内規科目)

授業コード: DA11900004

担当者: 齋藤 隆彦 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立・国立大学附属中学校教諭(教育実習生の学級・教科担当者)

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)【必修】

含めることが必要な事項: 各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)

教科に関する専門的事項: 国語(書写を含む。) **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 本授業では、国語科指導の在り方、授業づくりや学習指導案の作成、模擬授業等、新学習指導要領に則った指導力を身に付けていくことをねらいとする。そのために、当該単元でどのような国語の能力を付けるかを構想する力、単元で指導する指導事項を基にねらいを把握する力、ねらいを実現するのに適した言語活動を選定し、指導計画を構想する力や授業技能等の基本を身につけるようにする。

到達目標: 「小学校学習指導要領 国語」に基づいた目標や内容を踏まえ、言語活動を通して指導事項を指導する授業構想の基本的枠組みを理解し、学習指導案を作成し、国語科の授業力の基礎・基本を養う。
1. 小学校国語科の目標や内容を理解する。
2. 国語科の内容の構成、[知識及び技能]、[思考力, 判断力, 表現力]について理解する。
3. 教材を通して、単元、指導計画、指導事項、言語活動等について理解し、指導過程として構築する実践的知識を身につける。

各回の授業計画:

1. 国語科の指導 どんな力をつけたいか 学習指導要領等
2. 指導要領「三つの柱」、国語科でつけたい力とその育成方法 表現と共有の基礎1
3. 思考力・判断力・表現力と言語活動 表現と共有の基礎2
4. 国語科の授業デザイン「読むこと」(文学)と表現と共有の基礎3
5. 国語科の授業デザイン「知識・技能(漢字)」の授業の実際(ミニ指導案の検討)と先行実践のミニ探究(課題設定)
6. 国語科の授業デザイン「話すこと・聞くこと」の授業の実際(ミニ指導案の検討)と先行実践のミニ探究(共有)
7. 国語科の授業デザイン「読むこと」(説明的文章)の授業の実際(ミニ指導案の検討)と先行実践のミニ探究(共有)
8. 国語科の授業づくり 指導案づくりと授業の実際(先行実践等の知見から授業をデザインする)
9. 国語科の授業づくり 指導案づくりと授業の実際(「話すこと・聞くこと」の模擬授業)
10. 国語科の授業づくり 指導案づくりと授業の実際(「書くこと」の模擬授業)
11. 国語科の授業づくり 指導案づくりと授業の実際(「読むこと 文学教材」の模擬授業)
12. 国語科の授業づくり 指導案づくりと授業の実際(「読むこと 説明的な文章教材」の模擬授業)
13. 国語科の授業づくり 指導案づくりと授業の実際(「知識・技能」の模擬授業)
14. 国語科の授業づくり 指導案づくりと授業の実際(「書写」の模擬授業)
15. 国語科の授業づくり 「私の国語科授業」提案

特記事項: 受講者の理解やスキルの状況によって、内容の変更を行うことが考えられます。授業やTeamsでお知らせします。

授業方法: 1～15回とも、講義とともに受講者同士による演習を行い「主体的・対話的で深い学び」の経験となるようアクティブ・ラーニングを行う。
すべての授業を対面授業で行う。
ただし、対面が難しい場合(大学から対面を避ける指示があった場合など)は「オンライン」または「同時配信」で行う可能性がある。その際にはTeamsで連絡する。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 指導要領を中心に「国語科でつける力」について考察し、記録する(180分)
2. 指導要領にある「三つの柱」提案の背景や、そこでつけるべき力、育成法について考察し、記録する(180分)
3. 「言語活動」の意義とその内容について考察し、記録する(180分)
4. 「読むこと」(文学)の教材の読解と先行実践の調査(180分)
5. 「知識・技能(漢字)」における先行実践の調査とミニ指導案づくり(180分)
6. 「話すこと・聞くこと」における教材分析とミニ指導案づくり(180分)
7. 「読むこと」(説明的文章)における教材分析とミニ指導案づくり(180分)
8. 「国語科の授業づくり」について先行研究・先行実践を調べる(180分)
9. 「話すこと・聞くこと」の指導案づくりと模擬授業参加の記録(180分)
10. 「書くこと」の指導案づくりと模擬授業参加の記録(180分)
11. 「読むこと 文学教材」の指導案づくりと模擬授業参加の記録(180分)
12. 「読むこと 説明的な文章教材」の指導案づくりと模擬授業参加の記録(180分)

13.「知識・技能」の指導案づくりと模擬授業参加の記録（180分）
14.「書写」の指導案づくりと模擬授業参加の記録（180分）
15.「私の国語科授業提案」を通して自分の学びをまとめる（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	40 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	20 **%**
その他1：	学習指導案・模擬授業・最終レポート		40 **%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

望ましい到達度 80～100点
・工夫された学習指導案を作成し、学年に合った模擬授業ができること
・「小学校学習指導要領 国語」を理解し、豊かな指導法を身に付けること
・言語能力向上に向けた授業構成を意識し、模擬授業後の自己評価と考察ができること

最低限の到達度 60～69点
・学習指導案を作成し、模擬授業ができること
・「小学校学習指導要領 国語」を理解し、指導法の基礎を身に付けること
・模擬授業後の自己評価と考察ができること

課題へのフィードバック：

授業の方法は見たり聞いたりしているだけでは身に付きにくい。ミニ指導案や模擬授業の相互評価を大事にしてフィードバックしていく。

教科書： 文部科学省『小学校学指導要領解説 国語編』東京書籍（平成30年2月）

参考書： 授業中に適宜資料を配布する。

授業・準備学習のアドバイス：

自分で課題意識を持ち、授業づくりに臨むこと。
一緒に学ぶ人の授業づくりからたくさん吸収すること。
すでに知っていることやできることを大事にし、それらを組立て新しいものを作ること。
そういう姿勢で、力もつき、自信につながります。
なお、授業内容は状況により変更します。必要に応じて授業内やTeamsでお知らせします。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教科教育法・社会

クラス: 小中/小+前(内規科目)

授業コード: DA12000001

担当者: 長川 智彦 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:小学校教諭

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)【必修】

含めることが必要な事項: 各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)

教科に関する専門的事項: 社会 **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 小学校社会科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、基礎的な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。

到達目標:
(1)学習指導要領における小学校社会科の目標・内容および教育方法と評価について理解している。
(2)背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用できる。
(3)児童の認識や思考、学力などの実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。
(4)小学校社会科の特性に応じた情報機器および教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用できる。
(5)学習指導案の構成を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計と学習指導案を作成できる。
(6)模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身につけている。

各回の授業計画:

1. ガイダンス、小学校社会科の目標と内容
2. 社会科授業の方法①(問題解決的な学習の展開)
3. 社会科授業の方法②(資料の読み取りと解釈)
4. 社会科授業の方法③(ICTの活用)
5. 社会科授業の評価
6. 社会科の教材研究
7. 学習指導案の作成方法
8. 模擬授業検討①(実施学年、単元の決定)
9. 模擬授業検討②(教材研究と学習指導案の作成)
10. 模擬授業と相互評価①(グループごとの発表)
11. 模擬授業と相互評価②
12. 模擬授業と相互評価③
13. 模擬授業と相互評価④
14. 模擬授業と相互評価⑤
15. 授業のふりかえりとまとめ

特記事項: なし

授業方法: すべての授業を対面で行う。
1. 講義、演習
2. 講義、演習
3. 講義、演習
4. 講義、演習、ICTの活用
5. 講義、演習、DVD視聴
6. 講義、演習
7. 講義、演習
8. グループワーク
9. グループワーク
10. 模擬授業、検討会、講評
11. 模擬授業、検討会、講評
12. 模擬授業、検討会、講評
13. 模擬授業、検討会、講評
14. 模擬授業、検討会、講評
15. 講義

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 本時の復習(180分)
2. 本時の復習(180分)
3. 本時の復習(180分)
4. 本時の復習(180分)
5. 本時の復習(180分)
6. 本時の復習(180分)
7. 本時の復習 (180分)
8. 本時の復習(180分) 学習指導案の作成(120分)
9. 本時の復習 (60分) 学習指導案の作成(120分)
10. 本時の復習(60分) 模擬授業をふりかえり学習指導案を見直す(120分)
11. 本時の復習(60分) 模擬授業をふりかえり学習指導案を見直す(120分)
12. 本時の復習(60分) 模擬授業をふりかえり学習指導案を見直す(120分)
13. 本時の復習(60分) 模擬授業をふりかえり学習指導案を見直す(120分)
14. 本時の復習(60分) 模擬授業をふりかえり学習指導案を見直す(120分)
15. 本時の復習(180分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	60 **%**	**確認テスト:**	**%**	**レポート:**	40 **%**
その他1:			**%**		
その他2:			**%**		

評価基準:

1. 授業へのとりくみ
(1)授業後のふりかえり
・授業の内容について要点をおさえた考察が書ける。(60～79点)
・授業の内容ついて要点を的確におさえ、発展的な考察が書ける。(80～100点)
(2)授業への積極的参加度
・ディスカッションに参加し、自分の考えをまとめることができる。(60～79点)
・ディスカッションに参加し、自分の考えをまとめ、発表することができる。(80～100点)
2. レポート課題
(1)授業の内容の理解
・社会科の目標や内容、学習指導案の構成に関して必要なことを理解している。(60～79点)
・社会科の目標や内容、学習指導案の構成に関して必要なことをよく理解し、説明することができる。(80～100点)
(2)授業の学びの活用
・授業で学んだことをもとに、具体的な場面を想定した社会科授業を計画できる。(60～79点)
・授業で学んだことをもとに、具体的な場面を想定し、子どもが興味をもてる、分かりやすい社会科授業を計画できる。(80～100点)

課題へのフィードバック:

授業の中で講評する。
毎時間に提出した課題の一部をフィードバックし内容を深める。

教科書: 文部科学省(2018)『小学校学習指導要領解説 社会編』日本文教出版

参考書: 米田豊、植田真夕子(2024)『学習指導案の理論と方法』明治図書

授業・準備学習のアドバイス:

・授業では主体的に学ぶ姿勢が大切である。自分が教壇に立った時のことをイメージしながら、授業に臨むことを期待する。授業内容を理解するだけでなく、それに対する自分の意見や疑問をもち、それを発信してほしい。模擬授業については積極的に取り組んでほしい。指導案の作成や授業展開に関して、授業時間外でもグループでのディスカッションを行うことが必要である。
・授業に15回のうち3分の2以上出席すること。
・欠席した場合は、teamsにアップした資料を見て、課題を提出すること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教科教育法・社会

クラス: 小中/小+後(内規科目)

授業コード: DA12000002

担当者: 長川 智彦 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:小学校教諭

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)【必修】

含めることが必要な事項: 各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)

教科に関する専門的事項: 社会 **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 小学校社会科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、基礎的な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。

到達目標:
(1)学習指導要領における小学校社会科の目標・内容および教育方法と評価について理解している。
(2)背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用できる。
(3)児童の認識や思考、学力などの実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。
(4)小学校社会科の特性に応じた情報機器および教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用できる。
(5)学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成できる。
(6)模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身につけている。

各回の授業計画:

1. ガイダンス、小学校社会科の目標と内容
2. 社会科授業の方法①(問題解決的な学習の展開)
3. 社会科授業の方法②(資料の読み取りと解釈)
4. 社会科授業の方法③(ICTの活用)
5. 社会科授業の評価
6. 社会科の教材研究
7. 学習指導案の作成方法
8. 模擬授業検討①(実施学年、単元の決定)
9. 模擬授業検討②(教材研究と学習指導案の作成)
10. 模擬授業と相互評価①(グループごとの発表)
11. 模擬授業と相互評価②
12. 模擬授業と相互評価③
13. 模擬授業と相互評価④
14. 模擬授業と相互評価⑤
15. 授業のふりかえりとまとめ

特記事項: なし

授業方法: すべての授業を対面で行う。
1. 講義、演習
2. 講義、演習
3. 講義、演習
4. 講義、演習、ICTの活用
5. 講義、演習、DVD視聴
6. 講義、演習
7. 講義、演習
8. グループワーク
9. グループワーク
10. 模擬授業、検討会、講評
11. 模擬授業、検討会、講評
12. 模擬授業、検討会、講評
13. 模擬授業、検討会、講評
14. 模擬授業、検討会、講評
15. 講義

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 本時の復習(180分)
2. 本時の復習(180分)
3. 本時の復習(180分)
4. 本時の復習(180分)
5. 本時の復習(180分)
6. 本時の復習(180分)
7. 本時の復習 (180分)
8. 本時の復習(180分) 学習指導案の作成(120分)
9. 本時の復習 (60分) 学習指導案の作成(120分)
10. 本時の復習(60分) 模擬授業をふりかえり学習指導案を見直す(120分)
11. 本時の復習(60分) 模擬授業をふりかえり学習指導案を見直す(120分)
12. 本時の復習(60分) 模擬授業をふりかえり学習指導案を見直す(120分)
13. 本時の復習(60分) 模擬授業をふりかえり学習指導案を見直す(120分)
14. 本時の復習(60分) 模擬授業をふりかえり学習指導案を見直す(120分)
15. 本時の復習(180分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	60 **%**	**確認テスト:**	**%**	**レポート:**	40 **%**
その他1:			**%**		
その他2:			**%**		

評価基準:

1. 授業へのとりくみ
(1)授業後のふりかえり
・授業の内容について要点をおさえた考察が書ける。(60～79点)
・授業の内容ついて要点を的確におさえ、発展的な考察が書ける。(80～100点)
(2)授業への積極的参加度
・ディスカッションに参加し、自分の考えをまとめることができる。(60～79点)
・ディスカッションに参加し、自分の考えをまとめ、発表することができる。(80～100点)
2. レポート課題
(1)授業の内容の理解
・社会科の目標や内容、学習指導案の構成に関して必要なことを理解している。(60～79点)
・社会科の目標や内容、学習指導案の構成に関して必要なことをよく理解し、説明することができる。(80～100点)
(2)授業の学びの活用
・授業で学んだことをもとに、具体的な場面を想定した社会科授業を計画できる。(60～79点)
・授業で学んだことをもとに、具体的な場面を想定し、子どもが興味をもてる、分かりやすい社会科授業を計画できる。(80～100点)

課題へのフィードバック:

授業の中で講評する。
毎時間に提出した課題の一部をフィードバックし内容を深める。

教科書: 文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会編』日本文教出版(平成30年2月)

参考書: 米田豊、植田真夕子(2024)『学習指導案の理論と方法』明治図書

授業・準備学習のアドバイス:

・授業では主体的に学ぶ姿勢が大切である。自分が教壇に立った時のことをイメージしながら、授業に臨むことを期待する。授業内容を理解するだけでなく、それに対する自分の意見や疑問をもち、それを発信してほしい。模擬授業については積極的に取り組んでほしい。指導案の作成や授業展開に関して、授業時間外でもグループでのディスカッションを行うことが必要である。
・授業に15回のうち3分の2以上出席すること。
・欠席した場合は、teamsにアップした資料を見て、課題を提出すること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教科教育法・算数

クラス: 小中/小+前1(内規科目)

授業コード: DA12100001

担当者: 神月 紀輔 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立中学校・特別支援学校教諭

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)【必修】

含めることが必要な事項: 各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)

教科に関する専門的事項: 算数 **一般的包括的科目:** -

授業の目的: 算数で学んだ算数科の基礎をもとに, 実践的指導力をつける。

到達目標: 2～3回のマイクロティーチングにより, 自らの指導力の向上を目指すとともに, 子どもの立場から算数科指導のあり方を見直し, 相互評価できるようにする。

各回の授業計画:

1. イントロダクション 授業方法の説明, 算数で学んだことの復習
2. 黒板を活用した指導による学習指導略案の作成
3. 作成した黒板を活用した指導案のグループでの検討
4. 作成した指導案でのグループ内でのプレ・マイクロティーチング
5. 黒板を使ったマイクロティーチング
6. 黒板を使った指導の指導法向上のためのリフレクションとグループディスカッション
7. 発問を活かした指導による学習指導略案の作成
8. 作成した発問を生かした指導案のグループでの検討
9. 作成した発問を生かした指導案でのグループ内でのプレ・マイクロティーチング
10. 発問を生かしたマイクロティーチング
11. 発問を活かした指導法向上のためのリフレクションとグループディスカッション
12. ICT機器を活用した学習指導略案の作成(オンラインの予定)
13. 作成したICT機器を活用した指導案のグループでの検討およびプレ・マイクロティーチング
14. ICT機器を活用したマイクロティーチング
15. ICT機器の活用の指導法向上のためのリフレクションとグループディスカッション

特記事項: マイクロティーチングだけが重要なのではなく, 総合的に実践力を上げ, 受講生全員の力をあげることが目的です。
そのために他の受講生の授業から学び, 相互評価できるようにしましょう。
受講人数によって指導計画は変更になることがあります。
状況に応じてマイクロティーチングの実施形態を変更せざるを得ない場合があります。
また, オンラインによる指導が行われることもあります。

授業方法: 2～3回, 定められたテーマについて1時間(45分)分の指導計画を考え, そのうちの5～10分間をマイクロティーチングとして行う。
そのうち1回はICT(情報通信技術)の活用を取り入れた授業設計をロイロノートを使って行う。
単に授業演習をするだけでなく, 他の学習者の授業に参加し, 相互評価する中で, 仲間としてともに成長するようにディスカッションも取り入れる。
マイクロティーチングは, ビデオ撮影し, 自分の反省の材料とする。また, 事後にはグループによる反省会を設ける。
それぞれのテーマについてのポイント学習はオンデマンドによるオンライン学習で行い, 必要なところは自分で見返しておく。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

授業方法にあるように3回程度学習指導案のうち本時の学習の部分(略案)を作成する
またマイクロティーチング後は相互評価・自己評価を行い, 実践力の向上を自ら測る
毎回の授業外学修の時間は, マイクロティーチングの準備, 相互評価, 自己評価を含めて180分を想定している

評価方法:

授業へのとりくみ:	40	**%**	**確認テスト:**	-	**%**	**レポート:**	60 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: 2～3回のマイクロティーチングについての自己評価(40%) 他の学習者からの指導法についての相互評価(30%) グループ学習への参加態

度（30%） 以上を総合的に判断し評価を行う。定期テストは行わない。
評価の観点については各観点ごとに授業内で示すルーブリックを参照のこと。

課題へのフィードバック：

2～3回，定められたテーマについて1時間（45分）分の指導計画を考え，そのうちの数分間をマイクロティーチングとして行う。3回目はICT（情報通信技術）の活用を取り入れた授業設計をする。
単に授業演習をするだけでなく，他の学習者の授業に参加し，相互評価する中で，仲間としてともに成長するようにディスカッションを取り入れる。
マイクロティーチングは，ビデオ撮影し，自分の反省の材料とする。また，事後にはグループによる反省会を設ける。
それぞれのテーマについてのポイント学習はオンデマンドによるオンライン学習で行い，自分で必要なところを見返せるようにしておく。

教科書： 文部科学省『小学校学習指導要領解説 算数編』日本文教出版（平成30年2月）
文部科学省『小学校学習指導要領』東洋館出版社（平成30年2月）

参考書： 黒田恭史『初等算数科教育法序論』共立出版
和田誠『ロイロノートのICT”超かんたんスキル”』時事通信社

授業・準備学習のアドバイス：

授業期間中に新しい学習指導要領が発表される可能性もあるので，その際は授業内容を柔軟に変更することもある。
できるだけたくさんの資料を図書館やインターネットを用いて閲覧し，算数科の教材だけにこだわらず広い視野から指導法を考えるようにしておきたい。
またその指導により児童が何ができるようになるのかを考え，どのように評価すべきかをこれまでの様々な授業を通して考えておきたい。
授業内では，他の受講生と多くディスカッションを行い，指導法についてさまざまな方法を模索するので，事前に自分の考え方を整理し，他の受講生や教員の意見を柔軟に取り入れる準備をしておきたい。
常に児童の前に立って指導する自分の姿をイメージし，今何をすべきか考え，この授業だけでなく，教育者としての自分にとっての課題もつかんでほしい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教科教育法・算数

クラス: 小中/小+前2(内規科目)

授業コード: DA12100002

担当者: 神月 紀輔 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立中学校・特別支援学校教諭

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)【必修】

含めることが必要な事項: 各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)

教科に関する専門的事項: 算数 **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 算数で学んだ算数科の基礎をもとに, 実践的指導力をつける。

到達目標: 2〜3回のマイクロティーチングにより, 自らの指導力の向上を目指すとともに, 子どもの立場から算数科指導のあり方を見直し, 相互評価できるようにする。

各回の授業計画:

1. イントロダクション 授業方法の説明, 算数で学んだことの復習
2. 黒板を活用した指導による学習指導略案の作成
3. 作成した黒板を活用した指導案のグループでの検討
4. 作成した指導案でのグループ内でのプレ・マイクロティーチング
5. 黒板を使ったマイクロティーチング
6. 黒板を使った指導の指導法向上のためのリフレクションとグループディスカッション
7. 発問を活かした指導による学習指導略案の作成
8. 作成した発問を生かした指導案のグループでの検討
9. 作成した発問を生かした指導案でのグループ内でのプレ・マイクロティーチング
10. 発問を生かしたマイクロティーチング
11. 発問を活かした指導法向上のためのリフレクションとグループディスカッション
12. ICT機器を活用した学習指導略案の作成(オンラインの予定)
13. 作成したICT機器を活用した指導案のグループでの検討およびプレ・マイクロティーチング
14. ICT機器を活用したマイクロティーチング
15. ICT機器の活用の指導法向上のためのリフレクションとグループディスカッション

特記事項: マイクロティーチングだけが重要なのではなく, 総合的に実践力を上げ, 受講生全員の力をあげることが目的です。
そのために他の受講生の授業から学び, 相互評価できるようにしましょう。
受講人数によって指導計画は変更になることがあります。
状況に応じてマイクロティーチングの実施形態を変更せざるを得ない場合があります。
また, オンラインによる指導が行われることもあります。

授業方法: 2〜3回, 定められたテーマについて1時間(45分)分の指導計画を考え, そのうちの5〜10分間をマイクロティーチングとして行う。
そのうち1回はICT(情報通信技術)の活用を取り入れた授業設計をロイロノートを使って行う。
単に授業演習をするだけでなく, 他の学習者の授業に参加し, 相互評価する中で, 仲間としてともに成長するようにディスカッションも取り入れる。
マイクロティーチングは, ビデオ撮影し, 自分の反省の材料とする。また, 事後にはグループによる反省会を設ける。
それぞれのテーマについてのポイント学習はオンデマンドによるオンライン学習で行い, 必要なところは自分で見返しておく。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

授業方法にあるように3回程度学習指導案のうち本時の学習の部分(略案)を作成する
またマイクロティーチング後は相互評価・自己評価を行い, 実践力の向上を自ら測る
毎回の授業外学修の時間は, マイクロティーチングの準備, 相互評価, 自己評価を含めて180分を想定している

評価方法:

授業へのとりくみ:	40 %	**確認テスト:**	− %	**レポート:**	60 %
その他1:			%		
その他2:			%		

評価基準: 2〜3回のマイクロティーチングについての自己評価(40%) 他の学習者からの指導法についての相互評価(30%) グループ学習への参加態

度（30%） 以上を総合的に判断し評価を行う。定期テストは行わない。
評価の観点については各観点ごとに授業内で示すルーブリックを参照のこと。

課題へのフィードバック：

2～3回，定められたテーマについて1時間（45分）分の指導計画を考え，そのうちの数分間をマイクロティーチングとして行う。3回目はICT（情報通信技術）の活用を取り入れた授業設計をする。
単に授業演習をするだけでなく，他の学習者の授業に参加し，相互評価する中で，仲間としてともに成長するようにディスカッションを取り入れる。
マイクロティーチングは，ビデオ撮影し，自分の反省の材料とする。また，事後にはグループによる反省会を設ける。
それぞれのテーマについてのポイント学習はオンデマンドによるオンライン学習で行い，自分で必要なところを見返せるようにしておく。

教科書： 文部科学省『小学校学習指導要領解説 算数編』日本文教出版（平成30年2月）
文部科学省『小学校学習指導要領』東洋館出版社（平成30年2月）

参考書： 黒田恭史『初等算数科教育法序論』共立出版
和田誠『ロイロノートのICT”超かんたんスキル”』時事通信社

授業・準備学習のアドバイス：

授業期間中に新しい学習指導要領が発表される可能性もあるので，その際は授業内容を柔軟に変更することもある。
できるだけたくさんの資料を図書館やインターネットを用いて閲覧し，算数科の教材だけにこだわらず広い視野から指導法を考えるようにしておきたい。
またその指導により児童が何ができるようになるのかを考え，どのように評価すべきかをこれまでの様々な授業を通して考えておきたい。
授業内では，他の受講生と多くディスカッションを行い，指導法についてさまざまな方法を模索するので，事前に自分の考え方を整理し，他の受講生や教員の意見を柔軟に取り入れる準備をしておきたい。
常に児童の前に立って指導する自分の姿をイメージし，今何をすべきか考え，この授業だけでなく，教育者としての自分にとっての課題もつかんでほしい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教科教育法・算数

クラス: 小中/小+後1(内規科目)

授業コード: DA12100003

担当者: 神月 紀輔 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立中学校・特別支援学校教諭

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)【必修】

含めることが必要な事項: 各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)

教科に関する専門的事項: 算数 **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 算数で学んだ算数科の基礎をもとに, 実践的指導力をつける。

到達目標: 2〜3回のマイクロティーチングにより, 自らの指導力の向上を目指すとともに, 子どもの立場から算数科指導のあり方を見直し, 相互評価できるようにする。

各回の授業計画:

1. イントロダクション 授業方法の説明, 算数で学んだことの復習
2. 黒板を活用した指導による学習指導略案の作成
3. 作成した黒板を活用した指導案のグループでの検討
4. 作成した指導案でのグループ内でのプレ・マイクロティーチング
5. 黒板を使ったマイクロティーチング
6. 黒板を使った指導の指導法向上のためのリフレクションとグループディスカッション
7. 発問を活かした指導による学習指導略案の作成
8. 作成した発問を生かした指導案のグループでの検討
9. 作成した発問を生かした指導案でのグループ内でのプレ・マイクロティーチング
10. 発問を生かしたマイクロティーチング
11. 発問を活かした指導法向上のためのリフレクションとグループディスカッション
12. ICT機器を活用した学習指導略案の作成(オンラインの予定)
13. 作成したICT機器を活用した指導案のグループでの検討およびプレ・マイクロティーチング
14. ICT機器を活用したマイクロティーチング
15. ICT機器の活用の指導法向上のためのリフレクションとグループディスカッション

特記事項: マイクロティーチングだけが重要なのではなく, 総合的に実践力を上げ, 受講生全員の力をあげることが目的です。
そのために他の受講生の授業から学び, 相互評価できるようにしましょう。
受講人数によって指導計画は変更になることがあります。
状況に応じてマイクロティーチングの実施形態を変更せざるを得ない場合があります。
また, オンラインによる指導が行われることもあります。

授業方法: 2〜3回, 定められたテーマについて1時間(45分)分の指導計画を考え, そのうちの5〜10分間をマイクロティーチングとして行う。
そのうち1回はICT(情報通信技術)の活用を取り入れた授業設計をロイロノートを使って行う。
単に授業演習をするだけでなく, 他の学習者の授業に参加し, 相互評価する中で, 仲間としてともに成長するようにディスカッションも取り入れる。
マイクロティーチングは, ビデオ撮影し, 自分の反省の材料とする。また, 事後にはグループによる反省会を設ける。
それぞれのテーマについてのポイント学習はオンデマンドによるオンライン学習で行い, 必要なところは自分で見返しておく。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

授業方法にあるように3回程度学習指導案のうち本時の学習の部分(略案)を作成する
またマイクロティーチング後は相互評価・自己評価を行い, 実践力の向上を自ら測る
毎回の授業外学修の時間は, マイクロティーチングの準備, 相互評価, 自己評価を含めて180分を想定している

評価方法:

授業へのとりくみ:	40 %	**確認テスト:**	− %	**レポート:**	60 %
その他1:			%		
その他2:			%		

評価基準: 2〜3回のマイクロティーチングについての自己評価(40%) 他の学習者からの指導法についての相互評価(30%) グループ学習への参加態

度（30%） 以上を総合的に判断し評価を行う。定期テストは行わない。
評価の観点については各観点ごとに授業内で示すルーブリックを参照のこと。

課題へのフィードバック：

2～3回，定められたテーマについて1時間（45分）分の指導計画を考え，そのうちの数分間をマイクロティーチングとして行う。3回目はICT（情報通信技術）の活用を取り入れた授業設計をする。
単に授業演習をするだけでなく，他の学習者の授業に参加し，相互評価する中で，仲間としてともに成長するようにディスカッションを取り入れる。
マイクロティーチングは，ビデオ撮影し，自分の反省の材料とする。また，事後にはグループによる反省会を設ける。
それぞれのテーマについてのポイント学習はオンデマンドによるオンライン学習で行い，自分で必要なところを見返せるようにしておく。

教科書： 文部科学省『小学校学習指導要領解説 算数編』日本文教出版（平成30年2月）
文部科学省『小学校学習指導要領』東洋館出版社（平成30年2月）

参考書： 黒田恭史『初等算数科教育法序論』共立出版
和田誠『ロイロノートのICT”超かんたんスキル”』時事通信社

授業・準備学習のアドバイス：

授業期間中に新しい学習指導要領が発表される可能性もあるので，その際は授業内容を柔軟に変更することもある。
できるだけたくさんの資料を図書館やインターネットを用いて閲覧し，算数科の教材だけにこだわらず広い視野から指導法を考えるようにしておきたい。
またその指導により児童が何ができるようになるのかを考え，どのように評価すべきかをこれまでの様々な授業を通して考えておきたい。
授業内では，他の受講生と多くディスカッションを行い，指導法についてさまざまな方法を模索するので，事前に自分の考え方を整理し，他の受講生や教員の意見を柔軟に取り入れる準備をしておきたい。
常に児童の前に立って指導する自分の姿をイメージし，今何をすべきか考え，この授業だけでなく，教育者としての自分にとっての課題もつかんでほしい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教科教育法・算数

クラス: 小中/小+後2(内規科目)

授業コード: DA12100004

担当者: 神月 紀輔 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立中学校・特別支援学校教諭

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)【必修】

含めることが必要な事項: 各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)

教科に関する専門的事項: 算数 **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 算数で学んだ算数科の基礎をもとに, 実践的指導力をつける。

到達目標: 2〜3回のマイクロティーチングにより, 自らの指導力の向上を目指すとともに, 子どもの立場から算数科指導のあり方を見直し, 相互評価できるようにする。

各回の授業計画:

1. イントロダクション 授業方法の説明, 算数で学んだことの復習
2. 黒板を活用した指導による学習指導略案の作成
3. 作成した黒板を活用した指導案のグループでの検討
4. 作成した指導案でのグループ内でのプレ・マイクロティーチング
5. 黒板を使ったマイクロティーチング
6. 黒板を使った指導の指導法向上のためのリフレクションとグループディスカッション
7. 発問を活かした指導による学習指導略案の作成
8. 作成した発問を生かした指導案のグループでの検討
9. 作成した発問を生かした指導案でのグループ内でのプレ・マイクロティーチング
10. 発問を生かしたマイクロティーチング
11. 発問を活かした指導法向上のためのリフレクションとグループディスカッション
12. ICT機器を活用した学習指導略案の作成(オンラインの予定)
13. 作成したICT機器を活用した指導案のグループでの検討およびプレ・マイクロティーチング
14. ICT機器を活用したマイクロティーチング
15. ICT機器の活用の指導法向上のためのリフレクションとグループディスカッション

特記事項: マイクロティーチングだけが重要なのではなく, 総合的に実践力を上げ, 受講生全員の力をあげることが目的です。
そのために他の受講生の授業から学び, 相互評価できるようにしましょう。
受講人数によって指導計画は変更になることがあります。
状況に応じてマイクロティーチングの実施形態を変更せざるを得ない場合があります。
また, オンラインによる指導が行われることもあります。

授業方法: 2〜3回, 定められたテーマについて1時間(45分)分の指導計画を考え, そのうちの5〜10分間をマイクロティーチングとして行う。
そのうち1回はICT(情報通信技術)の活用を取り入れた授業設計をロイロノートを使って行う。
単に授業演習をするだけでなく, 他の学習者の授業に参加し, 相互評価する中で, 仲間としてともに成長するようにディスカッションも取り入れる。
マイクロティーチングは, ビデオ撮影し, 自分の反省の材料とする。また, 事後にはグループによる反省会を設ける。
それぞれのテーマについてのポイント学習はオンデマンドによるオンライン学習で行い, 必要なところは自分で見返しておく。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

授業方法にあるように3回程度学習指導案のうち本時の学習の部分(略案)を作成する
またマイクロティーチング後は相互評価・自己評価を行い, 実践力の向上を自ら測る
毎回の授業外学修の時間は, マイクロティーチングの準備, 相互評価, 自己評価を含めて180分を想定している

評価方法:

授業へのとりくみ:	40	**%**	**確認テスト:**	−	**%**	**レポート:**	60 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: 2〜3回のマイクロティーチングについての自己評価(40%) 他の学習者からの指導法についての相互評価(30%) グループ学習への参加態

度（30%） 以上を総合的に判断し評価を行う。定期テストは行わない。
評価の観点については各観点ごとに授業内で示すルーブリックを参照のこと。

課題へのフィードバック：

2～3回，定められたテーマについて1時間（45分）分の指導計画を考え，そのうちの数分間をマイクロティーチングとして行う。3回目はICT（情報通信技術）の活用を取り入れた授業設計をする。
単に授業演習をするだけでなく，他の学習者の授業に参加し，相互評価する中で，仲間としてともに成長するようにディスカッションを取り入れる。
マイクロティーチングは，ビデオ撮影し，自分の反省の材料とする。また，事後にはグループによる反省会を設ける。
それぞれのテーマについてのポイント学習はオンデマンドによるオンライン学習で行い，自分で必要なところを見返せるようにしておく。

教科書： 文部科学省『小学校学習指導要領解説 算数編』日本文教出版（平成30年2月）
文部科学省『小学校学習指導要領』東洋館出版社（平成30年2月）

参考書： 黒田恭史『初等算数科教育法序論』共立出版
和田誠『ロイロノートのICT”超かんたんスキル”』時事通信社

授業・準備学習のアドバイス：

授業期間中に新しい学習指導要領が発表される可能性もあるので，その際は授業内容を柔軟に変更することもある。
できるだけたくさんの資料を図書館やインターネットを用いて閲覧し，算数科の教材だけにこだわらず広い視野から指導法を考えるようにしておきたい。
またその指導により児童が何ができるようになるのかを考え，どのように評価すべきかをこれまでの様々な授業を通して考えておきたい。
授業内では，他の受講生と多くディスカッションを行い，指導法についてさまざまな方法を模索するので，事前に自分の考え方を整理し，他の受講生や教員の意見を柔軟に取り入れる準備をしておきたい。
常に児童の前に立って指導する自分の姿をイメージし，今何をすべきか考え，この授業だけでなく，教育者としての自分にとっての課題もつかんでほしい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教科教育法・理科

クラス: 小中/小+前1(内規科目)

授業コード: DA12200001

担当者: 有道 俊雄 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立中学校主幹教諭・教諭、公立高等学校非常勤講師

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)【必修】

含めることが必要な事項: 各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)

教科に関する専門的事項: 理科 **一般的包括的科目:** −

授業の目的:
・小学校学習指導要領に示されている理科の目標とカリキュラムに基づいて、何をどのように学ばせるのかを理解する。
・指導案や指導計画の作成、教材研究、観察実験の準備、実施などを実践を通して学ぶ。
・小学校理科で取り扱う観察・実験を数多く経験することで、実践的授業力を身につける。
・模擬授業における教師役を経験することで、実践的授業力、指導力の向上を図る。
・模擬授業を通して、効果的にデジタル教科書やデジタルコンテンツを活用する技術を身につける。
・自信をもって、教育実習に臨むことができる実践的授業力を身につける。

到達目標:
1. 小学校理科の目標、学習内容について理解を深める。
2. 理科教育における学習指導法、評価法などについて理解する。
3. 理科の学習指導案を作成し、それに基づいて授業を展開する実践的授業力を身につける。
4. 観察・実験の基本となる指導技術、情報機器の活用に関する知識と技術を身につける。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション、理科学習では何を学ぶか(対象と目的)、理科教育の現状と課題
アクティブラーニングとは?

2. 学習指導要領を読む
年間指導計画の作成

3. 生物教材の準備・栽培と飼育、教材植物を育てる
グループワーク:模擬授業の準備①

4. 学習指導案の作成、学習評価について
グループワーク:模擬授業の準備②

5. 情報機器・デジタル教科書・デジタルコンテンツの活用
グループワーク:模擬授業の準備③学習指導案の作成

6. グループワーク:模擬授業の準備④予備実験、プレ授業の実施

7. 模擬授業の実施①②
教師役グループ:反省会の実施
授業評価アンケートの実施

8. 模擬授業の実施③④
教師役グループ:反省会の実施
授業評価アンケートの実施

9. 模擬授業の実施⑤⑥
教師役グループ:反省会の実施
授業評価アンケートの実施

10. 模擬授業の実施⑦⑧
教師役グループ:反省会の実施
授業評価アンケートの実施

11. 模擬授業の総括
<準備した学習指導案の修正>

12. ミニ実験シリーズ①「物質」領域の学習内容と観察・実験のポイント模擬授業の総括ミニ実験シリーズ②「地球」領域の学習内容と観察・実験のポイント

13. ミニ実験シリーズ③「エネルギー」領域の学習内容と観察・実験のポイント課題実験の準備

14. ミニ実験シリーズ④「生命」領域の学習内容と観察・実験のポイント課題実験の準備②

15. 総括レポートの作成課題実験の実施とレポートの作成

特記事項: なし

授業方法:
1〜6回 講義、討論、実験・観察、グループワーク
7〜10回 グループワーク、模擬授業(実験・観察)

11～14回 観察・実験、グループワーク、学習指導案の修正
15回 総括レポートの作成・課題実験とレポート作成
原則として、全ての授業を対面で行います。

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

①理科学習の目標と内容を理解する（180分）
②指導要領の内容、カリキュラムの全体像（180分）
③生物教材の準備・栽培と飼育、教材植物の栽培実習について理解する（180分）
④指導案の書き方、学習評価の目的と方法について理解する。模擬授業の構想を練る（180分）
⑤情報機器、デジタル教科書・デジタルコンテンツの活用について理解する（180分）
⑥模擬授業の準備～学習指導案を作成する（180分）
⑦模擬授業の実施と授業評価(1)（180分）
⑧模擬授業の実施と授業評価(2)（180分）
⑨模擬授業の実施と授業評価(3)（180分）
⑩模擬授業の実施と授業評価(4)（180分）
⑪「地球」領域の学習内容と観察・実験のポイントについて理解する（180分）
⑫「物質」領域の学習内容と観察・実験のポイントについて理解する（180分）
⑬「エネルギー」領域の学習内容と観察・実験のポイントについて理解する（180分）
⑭「生命」領域の学習内容と観察・実験のポイントについて理解する（180分）
⑮ワークシートを整理しこれまでの学習の総括を行う。授業で実施する課題実験のテーマ・内容等について準備、レポートを作成する。（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	－	**%**	**確認テスト：**	－	**%**	**レポート：**	40 **%**
その他1：	模擬授業の学習指導案、授業内容			20	**%**		
その他2：	総括レポート、課題実験レポート、植物栽培レポート			40	**%**		

評価基準：

（最低限の到達度 60点～69点）小学校理科の目標と内容を理解し、指導案を作成することができる。指導案に基づいた授業を行うことができる。
（標準的な到達度 70点～79点）小学校理科の目標と内容を深く理解し、単元学習計画と工夫のある指導案を作成することができる。指導案に基づいた授業を行うことができる。
（望ましい到達度 80点～100点）小学校理科の目標と内容を深く理解し、単元学習計画と効果的な指導につながる創意的な指導案を作成することができる。指導案に基づいた授業を行い、相互評価に従って授業改善につなげることができる。

課題へのフィードバック：

・毎回の課題レポート、模擬授業の授業評価レポートはFormsで提出する。評価結果のフィードバックはTeamsで行う。
・模擬授業の指導案、課題実験レポート、植物栽培レポートは、Teamsへ提出する。評価結果のフィードバックはTeamsで行う。
・授業を欠席した場合、何らかの理由で課題提出が遅延する場合もFormsで提出する。

教科書： 文部科学省『小学校学習指導要領解説 理科編』東洋館出版社（平成30年2月）

参考書： 小学校理科教科書（東京書籍、啓林館、学校図書、教育出版、大日本図書、信州教育出版）～理科室で閲覧が可能、デジタル教科書も活用する
平成29年版「新学習指導要領の展開 理科編」明治図書（1800円+税）

授業・準備学習のアドバイス：

小学校理科の各学年・各分野の学習内容や教材について理解を深め、理科の授業づくり、観察・実験の指導技術などを実践的に学びます。主体的・積極的な態度での受講を望みます。Teamsにワークシート、パワポ、参考資料等を公開するので、予習・復習、課題の提出の際に活用してください。
課題の提出は遅延のないように心がけてください。実験の準備、グループワーク等に支障があるので、欠席する場合は事前に連絡してください。
全て、対面授業で行います。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教科教育法・理科

クラス: 小中/小+前2(内規科目)

授業コード: DA12200002

担当者: 有道 俊雄 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立中学校主幹教諭・教諭、公立高等学校非常勤講師

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)【必修】

含めることが必要な事項: 各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)

教科に関する専門的事項: 理科 **一般的包括的科目:** −

授業の目的:
・小学校学習指導要領に示されている理科の目標とカリキュラムに基づいて、何をどのように学ばせるのかを理解する。
・指導案や指導計画の作成、教材研究、観察実験の準備、実施などを実践を通して学ぶ。
・小学校理科で取り扱う観察・実験を数多く経験することで、実践的授業力を身につける。
・模擬授業における教師役を経験することで、実践的授業力、指導力の向上を図る。
・模擬授業を通して、効果的にデジタル教科書やデジタルコンテンツを活用する技術を身につける。
・自信をもって、教育実習に臨むことができる実践的授業力を身につける。

到達目標:
1. 小学校理科の目標、学習内容について理解を深める。
2. 理科教育における学習指導法、評価法などについて理解する。
3. 理科の学習指導案を作成し、それに基づいて授業を展開する実践的授業力を身につける。
4. 観察・実験の基本となる指導技術、情報機器の活用に関する知識と技術を身につける。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション、理科学習では何を学ぶか(対象と目的)、理科教育の現状と課題
アクティブラーニングとは?

2. 学習指導要領を読む
年間指導計画の作成

3. 生物教材の準備・栽培と飼育、教材植物を育てる
グループワーク:模擬授業の準備①

4. 学習指導案の作成、学習評価について
グループワーク:模擬授業の準備②

5. 情報機器・デジタル教科書・デジタルコンテンツの活用
グループワーク:模擬授業の準備③学習指導案の作成

6. グループワーク:模擬授業の準備④予備実験、プレ授業の実施

7. 模擬授業の実施①②
教師役グループ:反省会の実施
授業評価アンケートの実施

8. 模擬授業の実施③④
教師役グループ:反省会の実施
授業評価アンケートの実施

9. 模擬授業の実施⑤⑥
教師役グループ:反省会の実施
授業評価アンケートの実施

10. 模擬授業の実施⑦⑧
教師役グループ:反省会の実施
授業評価アンケートの実施

11. 模擬授業の総括
<準備した学習指導案の修正>

12. ミニ実験シリーズ①「物質」領域の学習内容と観察・実験のポイント模擬授業の総括ミニ実験シリーズ②「地球」領域の学習内容と観察・実験のポイント

13. ミニ実験シリーズ③「エネルギー」領域の学習内容と観察・実験のポイント課題実験の準備

14. ミニ実験シリーズ④「生命」領域の学習内容と観察・実験のポイント課題実験の準備②

15. 総括レポートの作成課題実験の実施とレポートの作成

特記事項: なし

授業方法:
1〜6回 講義、討論、実験・観察、グループワーク
7〜10回 グループワーク、模擬授業(実験・観察)

11～14回 観察・実験、グループワーク、学習指導案の修正
15回 総括レポートの作成・課題実験とレポート作成
原則として、全ての授業を対面で行います。

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

①理科学習の目標と内容を理解する（180分）
②指導要領の内容、カリキュラムの全体像（180分）
③生物教材の準備・栽培と飼育、教材植物の栽培実習について理解する（180分）
④指導案の書き方、学習評価の目的と方法について理解する。模擬授業の構想を練る（180分）
⑤情報機器、デジタル教科書・デジタルコンテンツの活用について理解する（180分）
⑥模擬授業の準備～学習指導案を作成する（180分）
⑦模擬授業の実施と授業評価(1)（180分）
⑧模擬授業の実施と授業評価(2)（180分）
⑨模擬授業の実施と授業評価(3)（180分）
⑩模擬授業の実施と授業評価(4)（180分）
⑪「地球」領域の学習内容と観察・実験のポイントについて理解する（180分）
⑫「物質」領域の学習内容と観察・実験のポイントについて理解する（180分）
⑬「エネルギー」領域の学習内容と観察・実験のポイントについて理解する（180分）
⑭「生命」領域の学習内容と観察・実験のポイントについて理解する（180分）
⑮ワークシートを整理しこれまでの学習の総括を行う。授業で実施する課題実験のテーマ・内容等について準備、レポートを作成する。（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	－	**%**	**確認テスト：**	－	**%**	**レポート：**	40 **%**
その他1：	模擬授業の学習指導案、授業内容			20	**%**		
その他2：	総括レポート、課題実験レポート、植物栽培レポート			40	**%**		

評価基準：

（最低限の到達度 60点～69点）小学校理科の目標と内容を理解し、指導案を作成することができる。指導案に基づいた授業を行うことができる。
（標準的な到達度 70点～79点）小学校理科の目標と内容を深く理解し、単元学習計画と工夫のある指導案を作成することができる。指導案に基づいた授業を行うことができる。
（望ましい到達度 80点～100点）小学校理科の目標と内容を深く理解し、単元学習計画と効果的な指導につながる創意的な指導案を作成することができる。指導案に基づいた授業を行い、相互評価に従って授業改善につなげることができる。

課題へのフィードバック：

・毎回の課題レポート、模擬授業の授業評価レポートはFormsで提出する。評価結果のフィードバックはTeamsで行う。
・模擬授業の指導案、課題実験レポート、植物栽培レポートは、Teamsへ提出する。評価結果のフィードバックはTeamsで行う。
・授業を欠席した場合、何らかの理由で課題提出が遅延する場合もFormsで提出する。

教科書： 文部科学省『小学校学習指導要領解説 理科編』東洋館出版社（平成30年2月）

参考書： 小学校理科教科書（東京書籍、啓林館、学校図書、教育出版、大日本図書、信州教育出版）～理科室で閲覧が可能、デジタル教科書も活用する
平成29年版「新学習指導要領の展開 理科編」明治図書（1800円+税）

授業・準備学習のアドバイス：

小学校理科の各学年・各分野の学習内容や教材について理解を深め、理科の授業づくり、観察・実験の指導技術などを実践的に学びます。主体的・積極的な態度での受講を望みます。Teamsにワークシート、パワポ、参考資料等を公開するので、予習・復習、課題の提出の際に活用してください。
課題の提出は遅延のないように心がけてください。実験の準備、グループワーク等に支障があるので、欠席する場合は事前に連絡してください。
全て、対面授業で行います。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教科教育法・理科

クラス: 小中/小+後1(内規科目)

授業コード: DA12200003

担当者: 有道 俊雄 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立中学校主幹教諭・教諭、公立高等学校非常勤講師

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)【必修】

含めることが必要な事項: 各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)

教科に関する専門的事項: 理科 **一般的包括的科目:** −

授業の目的:
・小学校学習指導要領に示されている理科の目標とカリキュラムに基づいて、何をどのように学ばせるのかを理解する。
・指導案や指導計画の作成、教材研究、観察実験の準備、実施などを実践を通して学ぶ。
・小学校理科で取り扱う観察・実験を数多く経験することで、実践的授業力を身につける。
・模擬授業における教師役を経験することで、実践的授業力、指導力の向上を図る。
・模擬授業を通して、効果的にデジタル教科書やデジタルコンテンツを活用する技術を身につける。
・自信をもって、教育実習に臨むことができる実践的授業力を身につける。

到達目標:
1. 小学校理科の目標、学習内容について理解を深める。
2. 理科教育における学習指導法、評価法などについて理解する。
3. 理科の学習指導案を作成し、それに基づいて授業を展開する実践的授業力を身につける。
4. 観察・実験の基本となる指導技術、情報機器の活用に関する知識と技術を身につける。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション、理科学習では何を学ぶか(対象と目的)、理科教育の現状と課題
アクティブラーニングとは?

2. 学習指導要領を読む
年間指導計画の作成

3. 生物教材の準備・栽培と飼育、教材植物を育てる
グループワーク:模擬授業の準備①

4. 学習指導案の作成、学習評価について
グループワーク:模擬授業の準備②

5. 情報機器・デジタル教科書・デジタルコンテンツの活用
グループワーク:模擬授業の準備③学習指導案の作成

6. グループワーク:模擬授業の準備④予備実験、プレ授業の実施

7. 模擬授業の実施①②
教師役グループ:反省会の実施
授業評価アンケートの実施

8. 模擬授業の実施③④
教師役グループ:反省会の実施
授業評価アンケートの実施

9. 模擬授業の実施⑤⑥
教師役グループ:反省会の実施
授業評価アンケートの実施

10. 模擬授業の実施⑦⑧
教師役グループ:反省会の実施
授業評価アンケートの実施

11. 模擬授業の総括
<準備した学習指導案の修正>

12. ミニ実験シリーズ①「物質」領域の学習内容と観察・実験のポイント模擬授業の総括ミニ実験シリーズ②「地球」領域の学習内容と観察・実験のポイント

13. ミニ実験シリーズ③「エネルギー」領域の学習内容と観察・実験のポイント課題実験の準備

14. ミニ実験シリーズ④「生命」領域の学習内容と観察・実験のポイント課題実験の準備②

15. 総括レポートの作成課題実験の実施とレポートの作成

特記事項: なし

授業方法:
1〜6回 講義、討論、実験・観察、グループワーク
7〜10回 グループワーク、模擬授業(実験・観察)

11～14回 観察・実験、グループワーク、学習指導案の修正
15回 総括レポートの作成・課題実験とレポート作成
原則として、全ての授業を対面で行います。

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

①理科学習の目標と内容を理解する（180分）
②指導要領の内容、カリキュラムの全体像（180分）
③生物教材の準備・栽培と飼育、教材植物の栽培実習について理解する（180分）
④指導案の書き方、学習評価の目的と方法について理解する。模擬授業の構想を練る（180分）
⑤情報機器、デジタル教科書・デジタルコンテンツの活用について理解する（180分）
⑥模擬授業の準備～学習指導案を作成する（180分）
⑦模擬授業の実施と授業評価(1)（180分）
⑧模擬授業の実施と授業評価(2)（180分）
⑨模擬授業の実施と授業評価(3)（180分）
⑩模擬授業の実施と授業評価(4)（180分）
⑪「地球」領域の学習内容と観察・実験のポイントについて理解する（180分）
⑫「物質」領域の学習内容と観察・実験のポイントについて理解する（180分）
⑬「エネルギー」領域の学習内容と観察・実験のポイントについて理解する（180分）
⑭「生命」領域の学習内容と観察・実験のポイントについて理解する（180分）
⑮ワークシートを整理しこれまでの学習の総括を行う。授業で実施する課題実験のテーマ・内容等について準備、レポートを作成する。（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	－	**%**	**確認テスト：**	－	**%**	**レポート：**	40 **%**
その他1：	模擬授業の学習指導案、授業内容			20	**%**		
その他2：	総括レポート、課題実験レポート、植物栽培レポート			40	**%**		

評価基準：

（最低限の到達度 60点～69点）小学校理科の目標と内容を理解し、指導案を作成することができる。指導案に基づいた授業を行うことができる。
（標準的な到達度 70点～79点）小学校理科の目標と内容を深く理解し、単元学習計画と工夫のある指導案を作成することができる。指導案に基づいた授業を行うことができる。
（望ましい到達度 80点～100点）小学校理科の目標と内容を深く理解し、単元学習計画と効果的な指導につながる創意的な指導案を作成することができる。指導案に基づいた授業を行い、相互評価に従って授業改善につなげることができる。

課題へのフィードバック：

・毎回の課題レポート、模擬授業の授業評価レポートはFormsで提出する。評価結果のフィードバックはTeamsで行う。
・模擬授業の指導案、課題実験レポート、植物栽培レポートは、Teamsへ提出する。評価結果のフィードバックはTeamsで行う。
・授業を欠席した場合、何らかの理由で課題提出が遅延する場合もFormsで提出する。

教科書： 文部科学省『小学校学習指導要領解説 理科編』東洋館出版社（平成30年2月）

参考書： 小学校理科教科書（東京書籍、啓林館、学校図書、教育出版、大日本図書、信州教育出版）～理科室で閲覧が可能、デジタル教科書も活用する
平成29年版「新学習指導要領の展開 理科編」明治図書（1800円+税）

授業・準備学習のアドバイス：

小学校理科の各学年・各分野の学習内容や教材について理解を深め、理科の授業づくり、観察・実験の指導技術などを実践的に学びます。主体的・積極的な態度での受講を望みます。Teamsにワークシート、パワポ、参考資料等を公開するので、予習・復習、課題の提出の際に活用してください。
課題の提出は遅延のないように心がけてください。実験の準備、グループワーク等に支障があるので、欠席する場合は事前に連絡してください。
全て、対面授業で行います。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教科教育法・理科

クラス: 小中/小+後2(内規科目)

授業コード: DA12200004

担当者: 有道 俊雄 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立中学校主幹教諭・教諭、公立高等学校非常勤講師

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)【必修】

含めることが必要な事項: 各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)

教科に関する専門的事項: 理科 **一般的包括的科目:** −

授業の目的:
・小学校学習指導要領に示されている理科の目標とカリキュラムに基づいて、何をどのように学ばせるのかを理解する。
・指導案や指導計画の作成、教材研究、観察実験の準備、実施などを実践を通して学ぶ。
・小学校理科で取り扱う観察・実験を数多く経験することで、実践的授業力を身につける。
・模擬授業における教師役を経験することで、実践的授業力、指導力の向上を図る。
・模擬授業を通して、効果的にデジタル教科書やデジタルコンテンツを活用する技術を身につける。
・自信をもって、教育実習に臨むことができる実践的授業力を身につける。

到達目標:
1. 小学校理科の目標、学習内容について理解を深める。
2. 理科教育における学習指導法、評価法などについて理解する。
3. 理科の学習指導案を作成し、それに基づいて授業を展開する実践的授業力を身につける。
4. 観察・実験の基本となる指導技術、情報機器の活用に関する知識と技術を身につける。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション、理科学習では何を学ぶか(対象と目的)、理科教育の現状と課題
アクティブラーニングとは?

2. 学習指導要領を読む
年間指導計画の作成

3. 生物教材の準備・栽培と飼育、教材植物を育てる
グループワーク:模擬授業の準備①

4. 学習指導案の作成、学習評価について
グループワーク:模擬授業の準備②

5. 情報機器・デジタル教科書・デジタルコンテンツの活用
グループワーク:模擬授業の準備③学習指導案の作成

6. グループワーク:模擬授業の準備④予備実験、プレ授業の実施

7. 模擬授業の実施①②
教師役グループ:反省会の実施
授業評価アンケートの実施

8. 模擬授業の実施③④
教師役グループ:反省会の実施
授業評価アンケートの実施

9. 模擬授業の実施⑤⑥
教師役グループ:反省会の実施
授業評価アンケートの実施

10. 模擬授業の実施⑦⑧
教師役グループ:反省会の実施
授業評価アンケートの実施

11. 模擬授業の総括
<準備した学習指導案の修正>

12. ミニ実験シリーズ①「物質」領域の学習内容と観察・実験のポイント模擬授業の総括ミニ実験シリーズ②「地球」領域の学習内容と観察・実験のポイント

13. ミニ実験シリーズ③「エネルギー」領域の学習内容と観察・実験のポイント課題実験の準備

14. ミニ実験シリーズ④「生命」領域の学習内容と観察・実験のポイント課題実験の準備②

15. 総括レポートの作成課題実験の実施とレポートの作成

特記事項: なし

授業方法:
1〜6回 講義、討論、実験・観察、グループワーク
7〜10回 グループワーク、模擬授業(実験・観察)

11～14回 観察・実験、グループワーク、学習指導案の修正
15回 総括レポートの作成・課題実験とレポート作成
原則として、全ての授業を対面で行います。

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

①理科学習の目標と内容を理解する（180分）
②指導要領の内容、カリキュラムの全体像（180分）
③生物教材の準備・栽培と飼育、教材植物の栽培実習について理解する（180分）
④指導案の書き方、学習評価の目的と方法について理解する。模擬授業の構想を練る（180分）
⑤情報機器、デジタル教科書・デジタルコンテンツの活用について理解する（180分）
⑥模擬授業の準備～学習指導案を作成する（180分）
⑦模擬授業の実施と授業評価(1)（180分）
⑧模擬授業の実施と授業評価(2)（180分）
⑨模擬授業の実施と授業評価(3)（180分）
⑩模擬授業の実施と授業評価(4)（180分）
⑪「地球」領域の学習内容と観察・実験のポイントについて理解する（180分）
⑫「物質」領域の学習内容と観察・実験のポイントについて理解する（180分）
⑬「エネルギー」領域の学習内容と観察・実験のポイントについて理解する（180分）
⑭「生命」領域の学習内容と観察・実験のポイントについて理解する（180分）
⑮ワークシートを整理しこれまでの学習の総括を行う。授業で実施する課題実験のテーマ・内容等について準備、レポートを作成する。（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	－	**%**	**確認テスト：**	－	**%**	**レポート：**	40 **%**
その他1：	模擬授業の学習指導案、授業内容			20	**%**		
その他2：	総括レポート、課題実験レポート、植物栽培レポート			40	**%**		

評価基準：

（最低限の到達度 60点～69点）小学校理科の目標と内容を理解し、指導案を作成することができる。指導案に基づいた授業を行うことができる。
（標準的な到達度 70点～79点）小学校理科の目標と内容を深く理解し、単元学習計画と工夫のある指導案を作成することができる。指導案に基づいた授業を行うことができる。
（望ましい到達度 80点～100点）小学校理科の目標と内容を深く理解し、単元学習計画と効果的な指導につながる創意的な指導案を作成することができる。指導案に基づいた授業を行い、相互評価に従って授業改善につなげることができる。

課題へのフィードバック：

・毎回の課題レポート、模擬授業の授業評価レポートはFormsで提出する。評価結果のフィードバックはTeamsで行う。
・模擬授業の指導案、課題実験レポート、植物栽培レポートは、Teamsへ提出する。評価結果のフィードバックはTeamsで行う。
・授業を欠席した場合、何らかの理由で課題提出が遅延する場合もFormsで提出する。

教科書： 文部科学省『小学校学習指導要領解説 理科編』東洋館出版社（平成30年2月）

参考書： 小学校理科教科書（東京書籍、啓林館、学校図書、教育出版、大日本図書、信州教育出版）～理科室で閲覧が可能、デジタル教科書も活用する
平成29年版「新学習指導要領の展開 理科編」明治図書（1800円+税）

授業・準備学習のアドバイス：

小学校理科の各学年・各分野の学習内容や教材について理解を深め、理科の授業づくり、観察・実験の指導技術などを実践的に学びます。主体的・積極的な態度での受講を望みます。Teamsにワークシート、パワポ、参考資料等を公開するので、予習・復習、課題の提出の際に活用してください。
課題の提出は遅延のないように心がけてください。実験の準備、グループワーク等に支障があるので、欠席する場合は事前に連絡してください。
全て、対面授業で行います。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教科教育法・生活

クラス: 小中高/小+前(内規科目)

授業コード: DA12300001

担当者: 山田 希代子 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立小学校校長、教諭、公立小学校教育研究会 生活・総合的な学習部部長

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)【必修】

含めることが必要な事項: 各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)

教科に関する専門的事項: 生活 **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 生活科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された生活科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。学校現場での生活科学習活動に即した活動や体験を取り入れて授業を進める。情報通信機技術を効果的に活用し、授業を設計し、教材づくりや模擬授業を通して、生活科指導の具体的な手立てを体得していく。

到達目標:
1. 学習指導要領に示された生活科の目標や内容を理解する。
2. 基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。
3. 生活科の特性に応じた教材や情報通信技術の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。

各回の授業計画:

1. 生活科の設立の趣旨と経緯
2. 生活科の目標と生活科の特質
3. 生活科の内容構成と授業展開(情報通信技術の活用を含む)
4. 自然素材の教材化体験
5. 指導計画作成上の留意点と評価の在り方
6. 年間指導計画作成の留意点及び単元計画作成の配慮事項
7. 生活科教科書で年間指導計画作成
8. 「秋」・「生き物」の単元計画案づくりと発表⇒相互評価
9. 「町探検」の単元計画案づくりと発表⇒相互評価
10. 学習活動(指導)案づくり「町探検」と発表準備
11. 「町探検」模擬授業⇒相互評価・自己評価(情報通信技術の活用)
12. 「おもちゃづくり」・「家族」の教材づくり
13. 「おもちゃづくり」・「家族」の模擬授業計画
14. 2つの単元の模擬授業⇒相互評価・自己評価(情報通信技術の活用)
15. 生活科の目標や内容・基礎的な学習指導理論のまとめと各自の到達度の確認テスト

特記事項: なし

授業方法:
講義(対面)
資料・教材活用
授業動画等視聴
グループワーク
プレゼンテーション
発表

予習・復習・宿題など(内容・時間):
1. 予習 生活科の授業に関わる著書を読んでおく。シラバスを見て、テキストを事前に予習しておく。(900分)
2. 各講義の復習・ノート整理をする。(1170分)
3. 課題・課題レポート作成をする。(630分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	−	**%**	**確認テスト:**	40	**%**	**レポート:**	− **%**
その他1:	模擬授業等の指導案作成・発表内容・課題レポート			60	**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: ・学習指導要領に示された基本的な生活科の目標や内容及び基礎的な学習理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行うこ

とができる。(60～69点)
・学習指導要領に示された基本的な生活科の目標や内容及び基礎的な学習指導理論を深く理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行い、子どもの思いや願い・疑問を生かした授業展開をすることができる。(80～100点)

課題へのフィードバック:

・指導案については、添削後返却する。
・授業のレポートは、次回の授業時に記載内容に関して応答する。

教科書: 文部科学省『小学校学習指導要領解説 生活編』東京書籍(令和6年9月)

参考書: 文部科学省『小学校学習指導要領 総則編』東京書籍(令和9年6月)
授業中に適宜事例等資料配布

授業・準備学習のアドバイス:

小学校教育で重要と位置付けられている学習指導要領及び本授業のテキストに書かれていることを十分把握しておく。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教科教育法・生活

クラス: 小中高/小+後(内規科目)

授業コード: DA12300002

担当者: 山田 希代子 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立小学校校長、教諭、公立小学校教育研究会 生活・総合的な学習部部長

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)【必修】

含めることが必要な事項: 各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)

教科に関する専門的事項: 生活 **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 生活科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された生活科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。学校現場での生活科学習活動に即した活動や体験を取り入れて授業を進める。情報通信機技術を効果的に活用し、授業を設計し、教材づくりや模擬授業を通して、生活科指導の具体的な手立てを体得していく。

到達目標:
1. 学習指導要領に示された生活科の目標や内容を理解する。
2. 基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。
3. 生活科の特性に応じた教材や情報通信技術の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。

各回の授業計画:

1. 生活科の設立の趣旨と経緯
2. 生活科の目標と生活科の特質
3. 生活科の内容構成と授業展開(情報通信技術の活用を含む)
4. 自然素材の教材化体験
5. 指導計画作成上の留意点と評価の在り方
6. 年間指導計画作成の留意点及び単元計画作成の配慮事項
7. 生活科教科書で年間指導計画作成
8. 「秋」・「生き物」の単元計画案づくりと発表⇒相互評価
9. 「町探検」の単元計画案づくりと発表⇒相互評価
10. 学習活動(指導)案づくり「町探検」と発表準備
11. 「町探検」模擬授業⇒相互評価・自己評価(情報通信技術の活用)
12.「おもちゃづくり」・「家族」の教材づくり
13.「おもちゃづくり」・「家族」の模擬授業計画
14. 2つの単元の模擬授業⇒相互評価・自己評価(情報通信技術の活用)
15. 生活科の目標や内容・基礎的な学習指導理論のまとめと各自の到達度の確認テスト

特記事項: なし

授業方法:
講義(対面)
資料・教材活用
授業動画等視聴
グループワーク
プレゼンテーション
発表

予習・復習・宿題など(内容・時間):
1. 予習 生活科の授業に関わる著書を読んでおく。シラバスを見て、テキストを事前に予習しておく。(900分)
2. 各講義の復習・ノート整理をする。(1170分)
3. 課題・課題レポート作成をする。(630分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	−	**%**	**確認テスト:**	40	**%**	**レポート:**	− **%**
その他1:	模擬授業等の指導案作成・発表内容・課題レポート			60	**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: ・学習指導要領に示された基本的な生活科の目標や内容及び基礎的な学習理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行うこ

とができる。（60～69点）
・学習指導要領に示された基本的な生活科の目標や内容及び基礎的な学習指導理論を深く理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行い、子どもの思いや願い・疑問を生かした授業展開をすることができる。（80～100点）

課題へのフィードバック：

・指導案については、添削後返却する。
・授業のレポートは、次回の授業時に記載内容に関して応答する。

教科書： 文部科学省『小学校学習指導要領解説 生活編』東京書籍（令和6年9月）

参考書： 文部科学省『小学校学習指導要領解説 総則編』東京書籍（令和6年9月）
授業中に適宜事例等資料配布

授業・準備学習のアドバイス：

小学校教育で重要と位置付けられている学習指導要領及び本授業のテキストに書かれていることを十分把握しておく。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教科教育法・音楽

クラス: 小中/小+前1(内規科目)

授業コード: DA12400001

担当者: 臼井 真 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立小学校音楽科主幹教諭

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)【必修】

含めることが必要な事項: 各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)

教科に関する専門的事項: 音楽 **一般的包括的科目:** −

授業の目的:
1. 小学校音楽科学習指導要領における目標と内容について、「表現」と「鑑賞」の観点から理解を深め、理論と実践から指導法を学ぶ。
2. 歌唱共通教材では楽曲の特性を理解し、音楽性豊かに表現することができるようにする。
3. ソプラノリコーダーや器楽合奏においては、各楽器の基礎的な演奏法を身につけられるようにする。
4. 鑑賞では、個々の感じ方だけではなく、音楽の見方・考え方を踏まえ理論的に楽曲を理解できるようにする。
5. 模擬授業では、グループディスカッションやグループワークを通して他者と協働しながら学ぶ。
6. 講義では模範演奏に加えて、より具体的に表現のイメージが膨らむよう、音声資料や映像資料を用いて学ぶ。

到達目標:
1. 小学校音楽科の目標、指導内容について理解する。
2. 音楽科における「歌唱」、「器楽」、「音楽づくり」、「鑑賞」の活動について理解し、各分野の基礎的な技能と指導法を身につける。
3. 小学校音楽科の評価について「表現」と「鑑賞」の観点から捉え、全体目標・学年目標と関連付けて理解する。
4. 想像力と創造力を働かせ、豊かな表現ができるとともに、子供の情操教育につながる小学校音楽科学習指導案を作成することができるようになる。

各回の授業計画:

1. 小学校学習指導要領音楽科の目標を理解するとともに、音楽教育の意義について考える。
※PCを持参すること。

2. 歌唱共通教材の指導法(第1学年)、及び児童の発声法について。
※PCを持参すること。

3. 歌唱共通教材の指導法(第2学年)、鍵盤ハーモニカの奏法について。
※PCを持参すること。

4. 歌唱共通教材の指導法(第3学年)、ソプラノリコーダーの奏法①(導入編)について。
※PCを持参すること。

5. 歌唱共通教材の指導法(第4学年)、ソプラノリコーダーの奏法②(二重奏)について。
※PCを持参すること。

6. 歌唱共通教材の指導法(第5学年)について、及び鑑賞教材の見方と考え方について。
※PCを持参すること。

7. 歌唱共通教材の指導法(第6学年)
※PCを持参すること。

8. 音楽科学習指導案の作成方法と評価規準について①、及び器楽合奏の指導法①について(情報通信技術の活用)
※PCを持参すること。

9. 音楽科学習指導案の作成方法と評価規準について②、及び器楽合奏の指導法②について(情報通信技術の活用)
※PCを持参すること。

10. 楽曲名を題材名に設定した学習指導案と横断的な学習テーマを題材名にした学習指導案について(情報通信技術の活用)
※PCを持参すること。

11. 児童が主体的に取り組む音楽科授業について考察を深める。(情報通信技術の活用) 歌唱共通教材に関する小テスト実施
※PCを持参すること。

12. グループ別による模擬授業(2グループ:①②)を実施し、模擬授業後に全員で評価し合いながら振り返る。(情報通信技術の活用)
※PCを持参すること。

13. グループ別による模擬授業(2グループ③④)を実施し、模擬授業後に全員で評価し合いながら振り返る。(情報通信技術の活用)
※PCを持参すること。

14. グループ別による模擬授業(2グループ⑤⑥)を実施し、模擬授業後に全員で評価し合いながら振り返る。(情報通信技術の活用)
※PCを持参すること。

15. まとめ「生活と心を豊かにし、学びに向かう音楽教育を目指して」(情報通信技術の活用)
※PCを持参すること。

特記事項: なし

授業方法: ①～⑮講義 (対面)

1. 講義
2. 講義・実技実習
3. 講義・実技実習
4. 講義・実技実習
5. 講義・実技実習
6. 講義・実技実習
7. 講義・実技実習
8. 講義・実技実習
9. 講義・実技実習
10. 講義・実技実習
11. グループワーク・講義・実技実習 小テスト
12. グループワーク・実技実習
13. グループワーク・実技実習
14. グループワーク・実技実習
15. 講義・実技実習

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. 復習：音楽教育の意義（120分）
2. 予習・復習：歌唱共通教材（120分）
3. 予習・復習：歌唱共通教材（120分）
4. 予習・復習：歌唱共通教材（120分）
5. 予習・復習：歌唱共通教材（120分）
6. 予習・復習：歌唱共通教材（120分）
7. 予習・復習：歌唱共通教材（120分）
8. 予習・復習：歌唱共通教材（120分）
9. 復習：学習指導案・評価基準（120分）
10. 復習：学習指導案・評価基準（120分）
11. 宿題：学習指導案作成（300分）
12. 宿題：学習指導案作成（300分）
13. 宿題：学習指導案作成（300分）
14. 宿題：学習指導案作成（300分）
15. 復習：生活と心を豊かにする音楽教育とは（300分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	30 **%**	**レポート：**	20 **%**
その他1：	音楽科学習指導案と模擬授業の内容	20 **%**			
その他2：		**%**			

評価基準： 最低限の到達度（60点～69点）
・学習指導要領を理解し、学習指導案と評価シートを作成することができる。
望ましい到達度（80点～100点）
・学習指導要領を理解し、効果的な指導を行えるよう工夫した指導案を作成することができる。
・指導計画に基づいた評価シートが作成できる。
・指導案に沿った効果的な指導実践と評価方法を理解している。
※レポートは、授業後に提出するレポートを含む。

課題へのフィードバック：

・小テストについては採点後講評し、次の学びへとつなげる。
・質問に対してはその都度回答・説明する。内容によっては全体で共有する。

教科書： 「初等科教育法音楽改訂新版」音楽之友社 別冊：2017年3月告示「小学校学習指導要領（前文／第1章 総則／第2章 第6節〈音楽〉）」

参考書： その他、授業中に適宜資料を配布する。

授業・準備学習のアドバイス：

「授業への取り組み」
音楽実技による自己表現力を磨くために、欠席することなく積極的に授業に取り組むこと。

24曲の小学校音楽科歌唱共通教材曲の指導法を中心に学びます。歌唱共通教材曲の教材研究や歌唱はもちろんのこと、ピアノ演奏のスキルのある人はピアノの弾き歌いに取り組んで下さい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教科教育法・音楽

クラス: 小中/小+前2(内規科目)

授業コード: DA12400002

担当者: 臼井 真 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立小学校音楽科主幹教諭

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)【必修】

含めることが必要な事項: 各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)

教科に関する専門的事項: 音楽 **一般的包括的科目:** −

授業の目的:
1. 小学校音楽科学習指導要領における目標と内容について、「表現」と「鑑賞」の観点から理解を深め、理論と実践から指導法を学ぶ。
2. 歌唱共通教材では楽曲の特性を理解し、音楽性豊かに表現することができるようにする。
3. ソプラノリコーダーや器楽合奏においては、各楽器の基礎的な演奏法を身につけられるようにする。
4. 鑑賞では、個々の感じ方だけではなく、音楽の見方・考え方を踏まえ理論的に楽曲を理解できるようにする。
5. 模擬授業では、グループディスカッションやグループワークを通して他者と協働しながら学ぶ。
6. 講義では模範演奏に加えて、より具体的に表現のイメージが膨らむよう、音声資料や映像資料を用いて学ぶ。

到達目標:
1. 小学校音楽科の目標、指導内容について理解する。
2. 音楽科における「歌唱」、「器楽」、「音楽づくり」、「鑑賞」の活動について理解し、各分野の基礎的な技能と指導法を身につける。
3. 小学校音楽科の評価について「表現」と「鑑賞」の観点から捉え、全体目標・学年目標と関連付けて理解する。
4. 想像力と創造力を働かせ、豊かな表現ができるとともに、子供の情操教育につながる小学校音楽科学習指導案を作成することができるようになる。

各回の授業計画:

1. 小学校学習指導要領音楽科の目標を理解するとともに、音楽教育の意義について考える。
※PCを持参すること。

2. 歌唱共通教材の指導法(第1学年)、及び児童の発声法について。
※PCを持参すること。

3. 歌唱共通教材の指導法(第2学年)、鍵盤ハーモニカの奏法について。
※PCを持参すること。

4. 歌唱共通教材の指導法(第3学年)、ソプラノリコーダーの奏法①(導入編)について。
※PCを持参すること。

5. 歌唱共通教材の指導法(第4学年)、ソプラノリコーダーの奏法②(二重奏)について。
※PCを持参すること。

6. 歌唱共通教材の指導法(第5学年)について、及び鑑賞教材の見方と考え方について。
※PCを持参すること。

7. 歌唱共通教材の指導法(第6学年)
※PCを持参すること。

8. 音楽科学習指導案の作成方法と評価規準について①、及び器楽合奏の指導法①について(情報通信技術の活用)
※PCを持参すること。

9. 音楽科学習指導案の作成方法と評価規準について②、及び器楽合奏の指導法②について(情報通信技術の活用)
※PCを持参すること。

10. 楽曲名を題材名に設定した学習指導案と横断的な学習テーマを題材名にした学習指導案について(情報通信技術の活用)
※PCを持参すること。

11. 児童が主体的に取り組む音楽科授業について考察を深める。(情報通信技術の活用) 歌唱共通教材に関する小テスト実施
※PCを持参すること。

12. グループ別による模擬授業(2グループ:①②)を実施し、模擬授業後に全員で評価し合いながら振り返る。(情報通信技術の活用)
※PCを持参すること。

13. グループ別による模擬授業(2グループ③④)を実施し、模擬授業後に全員で評価し合いながら振り返る。(情報通信技術の活用)
※PCを持参すること。

14. グループ別による模擬授業(2グループ⑤⑥)を実施し、模擬授業後に全員で評価し合いながら振り返る。(情報通信技術の活用)
※PCを持参すること。

15. まとめ「生活と心を豊かにし、学びに向かう音楽教育を目指して」(情報通信技術の活用)
※PCを持参すること。

特記事項: なし

授業方法: ①～⑮講義 (対面)

1. 講義
2. 講義・実技実習
3. 講義・実技実習
4. 講義・実技実習
5. 講義・実技実習
6. 講義・実技実習
7. 講義・実技実習
8. 講義・実技実習
9. 講義・実技実習
10. 講義・実技実習
11. グループワーク・講義・実技実習 小テスト
12. グループワーク・実技実習
13. グループワーク・実技実習
14. グループワーク・実技実習
15. 講義・実技実習

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. 復習：音楽教育の意義（120分）
2. 予習・復習：歌唱共通教材（120分）
3. 予習・復習：歌唱共通教材（120分）
4. 予習・復習：歌唱共通教材（120分）
5. 予習・復習：歌唱共通教材（120分）
6. 予習・復習：歌唱共通教材（120分）
7. 予習・復習：歌唱共通教材（120分）
8. 予習・復習：歌唱共通教材（120分）
9. 復習：学習指導案・評価基準（120分）
10. 復習：学習指導案・評価基準（120分）
11. 宿題：学習指導案作成（300分）
12. 宿題：学習指導案作成（300分）
13. 宿題：学習指導案作成（300分）
14. 宿題：学習指導案作成（300分）
15. 復習：生活と心を豊かにする音楽教育とは（300分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	30 **%**	**レポート：**	20 **%**		
その他1：	音楽科学習指導案と模擬授業の内容	20 **%**					
その他2：		**%**					

評価基準：

最低限の到達度（60点～69点）
・学習指導要領を理解し、学習指導案と評価シートを作成することができる。
望ましい到達度（80点～100点）
・学習指導要領を理解し、効果的な指導を行えるよう工夫した指導案を作成することができる。
・指導計画に基づいた評価シートが作成できる。
・指導案に沿った効果的な指導実践と評価方法を理解している。
※レポートは、授業後に提出するレポートを含む。

課題へのフィードバック：

・小テストについては採点後講評し、次の学びへとつなげる。
・質問に対してはその都度回答・説明する。内容によっては全体で共有する。

教科書： 「初等科教育法音楽改訂新版」音楽之友社 別冊：2017年3月告示「小学校学習指導要領（前文／第1章 総則／第2章 第6節〈音楽〉）」

参考書： その他、授業中に適宜資料を配布する。

授業・準備学習のアドバイス：

「授業への取り組み」
音楽実技による自己表現力を磨くために、欠席することなく積極的に授業に取り組むこと。

24曲の小学校音楽科歌唱共通教材曲の指導法を中心に学びます。歌唱共通教材曲の教材研究や歌唱はもちろんのこと、ピアノ演奏のスキルのある人はピアノの弾き歌いに取り組んで下さい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教科教育法・音楽

クラス: 小中/小+後1(内規科目)

授業コード: DA12400003

担当者: 臼井 真 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立小学校音楽科主幹教諭

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)【必修】

含めることが必要な事項: 各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)

教科に関する専門的事項: 音楽 **一般的包括的科目:** −

授業の目的:
1. 小学校音楽科学習指導要領における目標と内容について、「表現」と「鑑賞」の観点から理解を深め、理論と実践から指導法を学ぶ。
2. 歌唱共通教材では楽曲の特性を理解し、音楽性豊かに表現することができるようにする。
3. ソプラノリコーダーや器楽合奏においては、各楽器の基礎的な演奏法を身につけられるようにする。
4. 鑑賞では、個々の感じ方だけではなく、音楽の見方・考え方を踏まえ理論的に楽曲を理解できるようにする。
5. 模擬授業では、グループディスカッションやグループワークを通して他者と協働しながら学ぶ。
6. 講義では模範演奏に加えて、より具体的に表現のイメージが膨らむよう、音声資料や映像資料を用いて学ぶ。

到達目標:
1. 小学校音楽科の目標、指導内容について理解する。
2. 音楽科における「歌唱」、「器楽」、「音楽づくり」、「鑑賞」の活動について理解し、各分野の基礎的な技能と指導法を身につける。
3. 小学校音楽科の評価について「表現」と「鑑賞」の観点から捉え、全体目標・学年目標と関連付けて理解する。
4. 想像力と創造力を働かせ、豊かな表現ができるとともに、子供の情操教育につながる小学校音楽科学習指導案を作成することができるようになる。

各回の授業計画:

1. 小学校学習指導要領音楽科の目標を理解するとともに、音楽教育の意義について考える。
※PCを持参すること。

2. 歌唱共通教材の指導法(第1学年)、及び児童の発声法について。
※PCを持参すること。

3. 歌唱共通教材の指導法(第2学年)、鍵盤ハーモニカの奏法について。
※PCを持参すること。

4. 歌唱共通教材の指導法(第3学年)、ソプラノリコーダーの奏法①(導入編)について。
※PCを持参すること。

5. 歌唱共通教材の指導法(第4学年)、ソプラノリコーダーの奏法②(二重奏)について。
※PCを持参すること。

6. 歌唱共通教材の指導法(第5学年)について、及び鑑賞教材の見方と考え方について。
※PCを持参すること。

7. 歌唱共通教材の指導法(第6学年)
※PCを持参すること。

8. 音楽科学習指導案の作成方法と評価規準について①、及び器楽合奏の指導法①について(情報通信技術の活用)
※PCを持参すること。

9. 音楽科学習指導案の作成方法と評価規準について②、及び器楽合奏の指導法②について(情報通信技術の活用)
※PCを持参すること。

10. 楽曲名を題材名に設定した学習指導案と横断的な学習テーマを題材名にした学習指導案について(情報通信技術の活用)
※PCを持参すること。

11. 児童が主体的に取り組む音楽科授業について考察を深める。(情報通信技術の活用) 歌唱共通教材に関する小テスト実施
※PCを持参すること。

12. グループ別による模擬授業(2グループ:①②)を実施し、模擬授業後に全員で評価し合いながら振り返る。(情報通信技術の活用)
※PCを持参すること。

13. グループ別による模擬授業(2グループ③④)を実施し、模擬授業後に全員で評価し合いながら振り返る。(情報通信技術の活用)
※PCを持参すること。

14. グループ別による模擬授業(2グループ⑤⑥)を実施し、模擬授業後に全員で評価し合いながら振り返る。(情報通信技術の活用)
※PCを持参すること。

15. まとめ「生活と心を豊かにし、学びに向かう音楽教育を目指して」(情報通信技術の活用)
※PCを持参すること。

特記事項: なし

授業方法: ①～⑮講義 (対面)

1. 講義
2. 講義・実技実習
3. 講義・実技実習
4. 講義・実技実習
5. 講義・実技実習
6. 講義・実技実習
7. 講義・実技実習
8. 講義・実技実習
9. 講義・実技実習
10. 講義・実技実習
11. グループワーク・講義・実技実習 小テスト
12. グループワーク・実技実習
13. グループワーク・実技実習
14. グループワーク・実技実習
15. 講義・実技実習

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. 復習：音楽教育の意義（120分）
2. 予習・復習：歌唱共通教材（120分）
3. 予習・復習：歌唱共通教材（120分）
4. 予習・復習：歌唱共通教材（120分）
5. 予習・復習：歌唱共通教材（120分）
6. 予習・復習：歌唱共通教材（120分）
7. 予習・復習：歌唱共通教材（120分）
8. 予習・復習：歌唱共通教材（120分）
9. 復習：学習指導案・評価基準（120分）
10. 復習：学習指導案・評価基準（120分）
11. 宿題：学習指導案作成（300分）
12. 宿題：学習指導案作成（300分）
13. 宿題：学習指導案作成（300分）
14. 宿題：学習指導案作成（300分）
15. 復習：生活と心を豊かにする音楽教育とは（300分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	30 **%**	**レポート：**	20 **%**
その他1：	音楽科学習指導案と模擬授業の内容		20 **%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

最低限の到達度（60点～69点）
・学習指導要領を理解し、学習指導案と評価シートを作成することができる。
望ましい到達度（80点～100点）
・学習指導要領を理解し、効果的な指導を行えるよう工夫した指導案を作成することができる。
・指導計画に基づいた評価シートが作成できる。
・指導案に沿った効果的な指導実践と評価方法を理解している。
※レポートは、授業後に提出するレポートを含む。

課題へのフィードバック：

・小テストについては採点後講評し、次の学びへとつなげる。
・質問に対してはその都度回答・説明する。内容によっては全体で共有する。

教科書： 「初等科教育法音楽改訂新版」音楽之友社 別冊：2017年3月告示「小学校学習指導要領（前文／第1章 総則／第2章 第6節〈音楽〉）」

参考書： その他、授業中に適宜資料を配布する。

授業・準備学習のアドバイス：

「授業への取り組み」
音楽実技による自己表現力を磨くために、欠席することなく積極的に授業に取り組むこと。

24曲の小学校音楽科歌唱共通教材曲の指導法を中心に学びます。歌唱共通教材曲の教材研究や歌唱はもちろんのこと、ピアノ演奏のスキルのある人はピアノの弾き歌いに取り組んで下さい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教科教育法・音楽

クラス: 小中/小+後2(内規科目)

授業コード: DA12400004

担当者: 臼井 真 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立小学校音楽科主幹教諭

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)【必修】

含めることが必要な事項: 各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)

教科に関する専門的事項: 音楽 **一般的包括的科目:** −

授業の目的:
1. 小学校音楽科学習指導要領における目標と内容について、「表現」と「鑑賞」の観点から理解を深め、理論と実践から指導法を学ぶ。
2. 歌唱共通教材では楽曲の特性を理解し、音楽性豊かに表現することができるようにする。
3. ソプラノリコーダーや器楽合奏においては、各楽器の基礎的な演奏法を身につけられるようにする。
4. 鑑賞では、個々の感じ方だけではなく、音楽の見方・考え方を踏まえ理論的に楽曲を理解できるようにする。
5. 模擬授業では、グループディスカッションやグループワークを通して他者と協働しながら学ぶ。
6. 講義では模範演奏に加えて、より具体的に表現のイメージが膨らむよう、音声資料や映像資料を用いて学ぶ。

到達目標:
1. 小学校音楽科の目標、指導内容について理解する。
2. 音楽科における「歌唱」、「器楽」、「音楽づくり」、「鑑賞」の活動について理解し、各分野の基礎的な技能と指導法を身につける。
3. 小学校音楽科の評価について「表現」と「鑑賞」の観点から捉え、全体目標・学年目標と関連付けて理解する。
4. 想像力と創造力を働かせ、豊かな表現ができるとともに、子供の情操教育につながる小学校音楽科学習指導案を作成することができるようになる。

各回の授業計画:

1. 小学校学習指導要領音楽科の目標を理解するとともに、音楽教育の意義について考える。
※PCを持参すること。

2. 歌唱共通教材の指導法(第1学年)、及び児童の発声法について。
※PCを持参すること。

3. 歌唱共通教材の指導法(第2学年)、鍵盤ハーモニカの奏法について。
※PCを持参すること。

4. 歌唱共通教材の指導法(第3学年)、ソプラノリコーダーの奏法①(導入編)について。
※PCを持参すること。

5. 歌唱共通教材の指導法(第4学年)、ソプラノリコーダーの奏法②(二重奏)について。
※PCを持参すること。

6. 歌唱共通教材の指導法(第5学年)について、及び鑑賞教材の見方と考え方について。
※PCを持参すること。

7. 歌唱共通教材の指導法(第6学年)
※PCを持参すること。

8. 音楽科学習指導案の作成方法と評価規準について①、及び器楽合奏の指導法①について(情報通信技術の活用)
※PCを持参すること。

9. 音楽科学習指導案の作成方法と評価規準について②、及び器楽合奏の指導法②について(情報通信技術の活用)
※PCを持参すること。

10. 楽曲名を題材名に設定した学習指導案と横断的な学習テーマを題材名にした学習指導案について(情報通信技術の活用)
※PCを持参すること。

11. 児童が主体的に取り組む音楽科授業について考察を深める。(情報通信技術の活用) 歌唱共通教材に関する小テスト実施
※PCを持参すること。

12. グループ別による模擬授業(2グループ:①②)を実施し、模擬授業後に全員で評価し合いながら振り返る。(情報通信技術の活用)
※PCを持参すること。

13. グループ別による模擬授業(2グループ③④)を実施し、模擬授業後に全員で評価し合いながら振り返る。(情報通信技術の活用)
※PCを持参すること。

14. グループ別による模擬授業(2グループ⑤⑥)を実施し、模擬授業後に全員で評価し合いながら振り返る。(情報通信技術の活用)
※PCを持参すること。

15. まとめ「生活と心を豊かにし、学びに向かう音楽教育を目指して」(情報通信技術の活用)
※PCを持参すること。

特記事項: なし

授業方法: ①～⑮講義 (対面)

1. 講義
2. 講義・実技実習
3. 講義・実技実習
4. 講義・実技実習
5. 講義・実技実習
6. 講義・実技実習
7. 講義・実技実習
8. 講義・実技実習
9. 講義・実技実習
10. 講義・実技実習
11. グループワーク・講義・実技実習 小テスト
12. グループワーク・実技実習
13. グループワーク・実技実習
14. グループワーク・実技実習
15. 講義・実技実習

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. 復習：音楽教育の意義（120分）
2. 予習・復習：歌唱共通教材（120分）
3. 予習・復習：歌唱共通教材（120分）
4. 予習・復習：歌唱共通教材（120分）
5. 予習・復習：歌唱共通教材（120分）
6. 予習・復習：歌唱共通教材（120分）
7. 予習・復習：歌唱共通教材（120分）
8. 予習・復習：歌唱共通教材（120分）
9. 復習：学習指導案・評価基準（120分）
10. 復習：学習指導案・評価基準（120分）
11. 宿題：学習指導案作成（300分）
12. 宿題：学習指導案作成（300分）
13. 宿題：学習指導案作成（300分）
14. 宿題：学習指導案作成（300分）
15. 復習：生活と心を豊かにする音楽教育とは（300分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	30 **%**	**レポート：**	20 **%**		
その他1：	音楽科学習指導案と模擬授業の内容	20 **%**					
その他2：		**%**					

評価基準：

最低限の到達度（60点～69点）
・学習指導要領を理解し、学習指導案と評価シートを作成することができる。
望ましい到達度（80点～100点）
・学習指導要領を理解し、効果的な指導を行えるよう工夫した指導案を作成することができる。
・指導計画に基づいた評価シートが作成できる。
・指導案に沿った効果的な指導実践と評価方法を理解している。
※レポートは、授業後に提出するレポートを含む。

課題へのフィードバック：

・小テストについては採点後講評し、次の学びへとつなげる。
・質問に対してはその都度回答・説明する。内容によっては全体で共有する。

教科書： 「初等科教育法音楽改訂新版」音楽之友社 別冊：2017年3月告示「小学校学習指導要領（前文／第1章 総則／第2章 第6節〈音楽〉）」

参考書： その他、授業中に適宜資料を配布する。

授業・準備学習のアドバイス：

「授業への取り組み」
音楽実技による自己表現力を磨くために、欠席することなく積極的に授業に取り組むこと。

24曲の小学校音楽科歌唱共通教材曲の指導法を中心に学びます。歌唱共通教材曲の教材研究や歌唱はもちろんのこと、ピアノ演奏のスキルのある人はピアノの弾き歌いに取り組んで下さい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教科教育法・図画工作

クラス: 小中高/小+前1(内規科目)

授業コード: DA12500001

担当者: 須増 啓之 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)【必修】

含めることが必要な事項: 各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)

教科に関する専門的事項: 図画工作 **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 学習指導要領及び解説から図画工作科の意義や目標、育成を目指す資質・能力、内容、指導方法や評価のあり方に関する知識や技術を理論と活動を通して学ぶ。また、デジタル教科書や映像教材などを使った授業展開について学び、図画工作科における情報通信技術の活用法を修得する。さらに、資料や映像教材を通して児童の造形表現について理解を深め、グループ活動での題材研究や学習指導案作成、模擬授業を通して実践力や実践を省察する力を養う。

到達目標:
・児童の造形表現の発達や特徴、図画工作科の意義や目標、育成を目指す資質・能力、内容、指導方法や評価の観点について理論と活動を通して理解する。
・表現活動及び鑑賞活動における題材制作と展開方法(情報通信技術の活用を含む)についての理解をもとに、指導者としての視点や授業実践に対する発想や構想の能力を身につける。
・以上の点を踏まえ、図画工作科学習指導案を作成し、模擬授業や検討会を行うことで図画工作科における指導力及び実践を省察する力を養う。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション(本授業の目標・内容・評価方法・進め方・準備物の確認)、「図画工作での児童の活動、教師の役割」(映像教材)について考える
2. 図画工作科の目標、育成を目指す資質・能力について活動体験を通して考える
3. 図画工作科の学年目標と内容構成について教科書を参考に考える
4. 児童の作品からみる造形表現の発達と特徴
5. 図画工作科学習指導案の作成における留意点について
6. 図画工作科における評価規準の作成と評価方法について
7. A表現「造形遊びをする活動」についての学習指導案の作成
8. A表現「造形遊びをする活動」についての模擬授業と振り返り
9. A表現「絵・立体・工作に表す活動」についての題材研究
10. A表現「絵・立体・工作に表す活動」についての学習指導案(情報通信技術の活用を含む)の作成
11. A表現「絵・立体・工作に表す活動」についての模擬授業(情報通信技術の活用を含む)
12. A表現「絵・立体・工作に表す活動」についての模擬授業(情報通信技術の活用を含む)と振り返り
13. B鑑賞「鑑賞する活動」についての題材研究と学習指導案の作成
14. B鑑賞「鑑賞する活動」についての模擬授業(情報通信技術の活用を含む)と振り返り
15. まとめ「図画工作科指導の実際と課題、教師の役割について」、及び確認テスト

特記事項: なし

授業方法: 【すべての授業を対面授業で行う】
第1回:講義、映像視聴
第2回:制作、グループ討議
第3回:調べ学習(グループ)、講義
第4回:講義
第5回:講義
第6回:講義
第7回:題材研究、指導案作成(グループ)、パソコンを使用した授業
第8回:模擬授業(グループ)、討議(グループ)
第9回:題材研究(グループ)
第10回:指導案作成(グループ)、パソコンを使用した授業
第11回:模擬授業(グループ)
第12回:模擬授業(グループ)、討議(グループ)
第13回:講義、指導案作成(グループ)、パソコンを使用した授業
第14回:模擬授業(グループ)、討議(グループ)

第15回：映像視聴、講義、確認テスト

※指導案の作成では必ずパソコンを使用するため、それぞれ準備すること。

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

第1回：ポートフォリオ（もしくはノート）の作成・整理、学習指導要領解説を読む（150分）
第2回：ポートフォリオ（もしくはノート）の作成・整理、学習指導要領解説を読む（150分）
第3回：ポートフォリオ（もしくはノート）の作成・整理、学習指導要領解説を読む（150分）
第4回：ポートフォリオ（もしくはノート）の作成・整理（150分）
第5回：ポートフォリオ（もしくはノート）の作成・整理（150分）
第6回：ポートフォリオ（もしくはノート）の作成・整理（150分）
第7回：指導案の作成とポートフォリオ（もしくはノート）の作成・整理、学習指導要領解説を読む（150分）
第8回：ポートフォリオ（もしくはノート）の作成・整理（150分）
第9回：題材研究とポートフォリオ（もしくはノート）の作成・整理、学習指導要領解説を読む（150分）
第10回：指導案の作成とポートフォリオ（もしくはノート）の作成・整理、学習指導要領解説を読む（150分）
第11回：ポートフォリオ（もしくはノート）の作成・整理（150分）
第12回：ポートフォリオ（もしくはノート）の作成・整理（150分）
第13回：指導案の作成とポートフォリオ（もしくはノート）の作成・整理、学習指導要領解説を読む（150分）
第14回：ポートフォリオ（もしくはノート）の作成・整理、及び確認テスト勉強（150分）
第15回：ポートフォリオ（もしくはノート）をまとめる（150分）

※その他、授業内に完成していない課題の制作や指導案の作成、確認テストの学習など（450分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	35 **%**	**確認テスト：**	20 **%**	**レポート：**	20 **%**
その他1：	指導案の作成		15 **%**		
その他2：	ポートフォリオ(もしくはノート)の作成及び内容		10 **%**		

評価基準：

【授業へのとりくみ】について
※「授業へのとりくみ 35%」は「活動〈制作・鑑賞〉への取り組み 10%」と「模擬授業（題材研究を含む）の発表内容 25%」を含んだパーセンテージである。
・図画工作科の目標や内容、児童の発達などについて理解することができ、表現活動や題材研究（情報通信技術の活用を含む）に取り組んでいる。また、それらを踏まえ、指導案に沿って模擬授業を実践している。（60～69）
・図画工作科の目標や内容、児童の発達などについて説明することができ、自分なりに工夫して表現活動や題材研究（情報通信技術の活用を含む）に取り組んでいる。また、それらを踏まえ、指導の展開や評価方法を十分に考えて工夫された模擬授業を実践している。（80～100）

【指導案の作成】について
・図画工作科における目標や内容について理解し、授業で学んだことを踏まえて、グループで協働しながら学習指導案を作成している。（60～69）
・〈上記〉にプラスして、効果的に指導を行えるように工夫されたり、指導方法や評価について考えられている。（80～100）

【小レポート】について
※毎回、授業の終わりに観点に基づいて小レポートを作成する。
・授業で学んだことについて、授業を振り返ることができている。（60～69）
・〈上記〉にプラスして、授業を客観的に見つめ、課題などについても自分なりにまとめることができている。（80～100）

【その他】
・活動や題材研究については、失敗を恐れず、表現することにチャレンジすること、仲間の表現を受容すること、協働して取り組むことなどが評価規準となる。またポートフォリオ（もしくはノート）については、毎回の授業での板書や気づき、作品などを自分なりの工夫を加えて視覚的にわかりやすくまとめているなどで評価を行う。

課題へのフィードバック：

・指導案や模擬授業については、振り返りの検討会で課題や気づきについて、まとめて講評する。
・毎回授業後に記入するレポートでの感想や質問については、次回の授業時に全体に向けて解説する。必要に応じて質問者に個別に応答する。
・ポートフォリオ（もしくはノート）については、第15回に提出されたものをルーブリックをもとに評価し、返却する。

教科書：

・文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』日本文教出版（平成30年2月）
その他、授業中に適宜、指示または資料を配布する。

参考書：

・文部科学省 国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【小学校 図画工作】』東洋館出版…※国立教育政策研究所のホームページからもダウンロードできる。
・松岡宏明『子供に子供の美術を』三元社
・新野貴則・福岡知子編著『子どもの資質・能力を育む 図画工作科教育法』萌文書林
・佐藤洋照・藤江充編著『図画工作科指導法研究』日本文教出版
・大橋功他編著『美術教育概論（新訂版）』日本文教出
・文部科学省『小学校学習指導要領』東洋館出版社（平成30年2月）

その他、授業中に適宜指示する。

授業・準備学習のアドバイス：

【授業】について
・本科目は題材研究と指導案の作成、模擬授業を中心に行うため、しっかり授業準備をすることが重要になってくる。また、指導案の作成のためにパソコンを使用するため、毎回持ってくること。小レポートは、毎回、授業の終わりに学びや質問などを記入したものをMicrosoft Teamsでパソコンやスマートフォンから提出する。

【ポートフォリオ（もしくはノート）】について
・本授業では予習及び復習、活動の記録としてポートフォリオ（もしくはノート）にまとめる。ポートフォリオは配布資料や活動の記録（写真）、感想などPowerPointで作成しMicrosoft Teamsで提出する。手書きの場合はノートを提出すること。なお、ポートフォリオ（もしくはノート）は授業の最終日に提出したものを評価する。

【履修上の留意点】について
・実技も行うため、汚れを気にしない服装で受講すること。また、制作活動や指導案の作成などに関して、授業内に作品が仕上がらなかった場合は、次の授業回までに仕上げておくこと。

※本科目と1年開講科目「図画工作」を合わせて受講することで、制作体験を通して児童の造形への理解や材料・用具についての理解や題材における指導についての理解がより深まります。絵を描いたり、つくったりすることが苦手でも構わないので、失敗を恐れずチャレンジしてください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教科教育法・図画工作

クラス: 小中高/小+前2(内規科目)

授業コード: DA12500002

担当者: 須増 啓之 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)【必修】

含めることが必要な事項: 各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)

教科に関する専門的事項: 図画工作 **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 学習指導要領及び解説から図画工作科の意義や目標、育成を目指す資質・能力、内容、指導方法や評価のあり方に関する知識や技術を理論と活動を通して学ぶ。また、デジタル教科書や映像教材などを使った授業展開について学び、図画工作科における情報通信技術の活用法を修得する。さらに、資料や映像教材を通して児童の造形表現について理解を深め、グループ活動での題材研究や学習指導案作成、模擬授業を通して実践力や実践を省察する力を養う。

到達目標:
・児童の造形表現の発達や特徴、図画工作科の意義や目標、育成を目指す資質・能力、内容、指導方法や評価の観点について理論と活動を通して理解する。
・表現活動及び鑑賞活動における題材制作と展開方法(情報通信技術の活用を含む)についての理解をもとに、指導者としての視点や授業実践に対する発想や構想の能力を身につける。
・以上の点を踏まえ、図画工作科学習指導案を作成し、模擬授業や検討会を行うことで図画工作科における指導力及び実践を省察する力を養う。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション(本授業の目標・内容・評価方法・進め方・準備物の確認)、「図画工作での児童の活動、教師の役割」(映像教材)について考える
2. 図画工作科の目標、育成を目指す資質・能力について活動体験を通して考える
3. 図画工作科の学年目標と内容構成について教科書を参考に考える
4. 児童の作品からみる造形表現の発達と特徴
5. 図画工作科学習指導案の作成における留意点について
6. 図画工作科における評価規準の作成と評価方法について
7. A表現「造形遊びをする活動」についての学習指導案の作成
8. A表現「造形遊びをする活動」についての模擬授業と振り返り
9. A表現「絵・立体・工作に表す活動」についての題材研究
10. A表現「絵・立体・工作に表す活動」についての学習指導案(情報通信技術の活用を含む)の作成
11. A表現「絵・立体・工作に表す活動」についての模擬授業(情報通信技術の活用を含む)
12. A表現「絵・立体・工作に表す活動」についての模擬授業(情報通信技術の活用を含む)と振り返り
13. B鑑賞「鑑賞する活動」についての題材研究と学習指導案の作成
14. B鑑賞「鑑賞する活動」についての模擬授業(情報通信技術の活用を含む)と振り返り
15. まとめ「図画工作科指導の実際と課題、教師の役割について」、及び確認テスト

特記事項: なし

授業方法: 【すべての授業を対面授業で行う】
第1回:講義、映像視聴
第2回:制作、グループ討議
第3回:調べ学習(グループ)、講義
第4回:講義
第5回:講義
第6回:講義
第7回:題材研究、指導案作成(グループ)、パソコンを使用した授業
第8回:模擬授業(グループ)、討議(グループ)
第9回:題材研究(グループ)
第10回:指導案作成(グループ)、パソコンを使用した授業
第11回:模擬授業(グループ)
第12回:模擬授業(グループ)、討議(グループ)
第13回:講義、指導案作成(グループ)、パソコンを使用した授業
第14回:模擬授業(グループ)、討議(グループ)

第15回：映像視聴、講義、確認テスト

※指導案の作成では必ずパソコンを使用するため、それぞれ準備すること。

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

第1回：ポートフォリオ（もしくはノート）の作成・整理、学習指導要領解説を読む（150分）
第2回：ポートフォリオ（もしくはノート）の作成・整理、学習指導要領解説を読む（150分）
第3回：ポートフォリオ（もしくはノート）の作成・整理、学習指導要領解説を読む（150分）
第4回：ポートフォリオ（もしくはノート）の作成・整理（150分）
第5回：ポートフォリオ（もしくはノート）の作成・整理（150分）
第6回：ポートフォリオ（もしくはノート）の作成・整理（150分）
第7回：指導案の作成とポートフォリオ（もしくはノート）の作成・整理、学習指導要領解説を読む（150分）
第8回：ポートフォリオ（もしくはノート）の作成・整理（150分）
第9回：題材研究とポートフォリオ（もしくはノート）の作成・整理、学習指導要領解説を読む（150分）
第10回：指導案の作成とポートフォリオ（もしくはノート）の作成・整理、学習指導要領解説を読む（150分）
第11回：ポートフォリオ（もしくはノート）の作成・整理（150分）
第12回：ポートフォリオ（もしくはノート）の作成・整理（150分）
第13回：指導案の作成とポートフォリオ（もしくはノート）の作成・整理、学習指導要領解説を読む（150分）
第14回：ポートフォリオ（もしくはノート）の作成・整理、及び確認テスト勉強（150分）
第15回：ポートフォリオ（もしくはノート）をまとめる（150分）

※その他、授業内に完成していない課題の制作や指導案の作成、確認テストの学習など（450分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	35 **%**	**確認テスト：**	20 **%**	**レポート：**	20 **%**
その他1：	指導案の作成		15 **%**		
その他2：	ポートフォリオ(もしくはノート)の作成及び内容		10 **%**		

評価基準：

【授業へのとりくみ】について
※「授業へのとりくみ 35%」は「活動〈制作・鑑賞〉への取り組み 10%」と「模擬授業（題材研究を含む）の発表内容 25%」を含んだパーセンテージである。
・図画工作科の目標や内容、児童の発達などについて理解することができ、表現活動や題材研究（情報通信技術の活用を含む）に取り組んでいる。また、それらを踏まえ、指導案に沿って模擬授業を実践している。（60～69）
・図画工作科の目標や内容、児童の発達などについて説明することができ、自分なりに工夫して表現活動や題材研究（情報通信技術の活用を含む）に取り組んでいる。また、それらを踏まえ、指導の展開や評価方法を十分に考えて工夫された模擬授業を実践している。（80～100）

【指導案の作成】について
・図画工作科における目標や内容について理解し、授業で学んだことを踏まえて、グループで協働しながら学習指導案を作成している。（60～69）
・〈上記〉にプラスして、効果的に指導を行えるように工夫されたり、指導方法や評価について考えられている。（80～100）

【小レポート】について
※毎回、授業の終わりに観点に基づいて小レポートを作成する。
・授業で学んだことについて、授業を振り返ることができている。（60～69）
・〈上記〉にプラスして、授業を客観的に見つめ、課題などについても自分なりにまとめることができている。（80～100）

【その他】
・活動や題材研究については、失敗を恐れず、表現することにチャレンジすること、仲間の表現を受容すること、協働して取り組むことなどが評価規準となる。またポートフォリオ（もしくはノート）については、毎回の授業での板書や気づき、作品などを自分なりの工夫を加えて視覚的にわかりやすくまとめているなどで評価を行う。

課題へのフィードバック：

・指導案や模擬授業については、振り返りの検討会で課題や気づきについて、まとめて講評する。
・毎回授業後に記入するレポートでの感想や質問については、次回の授業時に全体に向けて解説する。必要に応じて質問者に個別に応答する。
・ポートフォリオ（もしくはノート）については、第15回に提出されたものをルーブリックをもとに評価し、返却する。

教科書：

・文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』日本文教出版（平成30年2月）
その他、授業中に適宜、指示または資料を配布する。

参考書：

・文部科学省 国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【小学校 図画工作】』東洋館出版…※国立教育政策研究所のホームページからもダウンロードできる。
・松岡宏明『子供に子供の美術を』三元社
・新野貴則・福岡知子編著『子どもの資質・能力を育む 図画工作科教育法』萌文書林
・佐藤洋照・藤江充編著『図画工作科指導法研究』日本文教出版
・大橋功他編著『美術教育概論（新訂版）』日本文教出
・文部科学省『小学校学習指導要領』東洋館出版社（平成30年2月）

その他、授業中に適宜指示する。

授業・準備学習のアドバイス：

【授業】について
・本科目は題材研究と指導案の作成、模擬授業を中心に行うため、しっかり授業準備をすることが重要になってくる。また、指導案の作成のためにパソコンを使用するため、毎回持ってくること。小レポートは、毎回、授業の終わりに学びや質問などを記入したものをMicrosoft Teamsでパソコンやスマートフォンから提出する。

【ポートフォリオ（もしくはノート）】について
・本授業では予習及び復習、活動の記録としてポートフォリオ（もしくはノート）にまとめる。ポートフォリオは配布資料や活動の記録（写真）、感想などPowerPointで作成しMicrosoft Teamsで提出する。手書きの場合はノートを提出すること。なお、ポートフォリオ（もしくはノート）は授業の最終日に提出したものを評価する。

【履修上の留意点】について
・実技も行うため、汚れを気にしない服装で受講すること。また、制作活動や指導案の作成などに関して、授業内に作品が仕上がらなかった場合は、次の授業回までに仕上げておくこと。

※本科目と1年開講科目「図画工作」を合わせて受講することで、制作体験を通して児童の造形への理解や材料・用具についての理解や題材における指導についての理解がより深まります。絵を描いたり、つくったりすることが苦手でも構わないので、失敗を恐れずチャレンジしてください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教科教育法・図画工作

クラス: 小中高/小+後1(内規科目)

授業コード: DA12500003

担当者: 須増 啓之 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)【必修】

含めることが必要な事項: 各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)

教科に関する専門的事項: 図画工作 **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 学習指導要領及び解説から図画工作科の意義や目標、育成を目指す資質・能力、内容、指導方法や評価のあり方に関する知識や技術を理論と活動を通して学ぶ。また、デジタル教科書や映像教材などを使った授業展開について学び、図画工作科における情報通信技術の活用法を修得する。さらに、資料や映像教材を通して児童の造形表現について理解を深め、グループ活動での題材研究や学習指導案作成、模擬授業を通して実践力や実践を省察する力を養う。

到達目標:
・児童の造形表現の発達や特徴、図画工作科の意義や目標、育成を目指す資質・能力、内容、指導方法や評価の観点について理論と活動を通して理解する。
・表現活動及び鑑賞活動における題材制作と展開方法(情報通信技術の活用を含む)についての理解をもとに、指導者としての視点や授業実践に対する発想や構想の能力を身につける。
・以上の点を踏まえ、図画工作科学習指導案を作成し、模擬授業や検討会を行うことで図画工作科における指導力及び実践を省察する力を養う。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション(本授業の目標・内容・評価方法・進め方・準備物の確認)、「図画工作での児童の活動、教師の役割」(映像教材)について考える
2. 図画工作科の目標、育成を目指す資質・能力について活動体験を通して考える
3. 図画工作科の学年目標と内容構成について教科書を参考に考える
4. 児童の作品からみる造形表現の発達と特徴
5. 図画工作科学習指導案の作成における留意点について
6. 図画工作科における評価規準の作成と評価方法について
7. A表現「造形遊びをする活動」についての学習指導案の作成
8. A表現「造形遊びをする活動」についての模擬授業と振り返り
9. A表現「絵・立体・工作に表す活動」についての題材研究
10. A表現「絵・立体・工作に表す活動」についての学習指導案(情報通信技術の活用を含む)の作成
11. A表現「絵・立体・工作に表す活動」についての模擬授業(情報通信技術の活用を含む)
12. A表現「絵・立体・工作に表す活動」についての模擬授業(情報通信技術の活用を含む)と振り返り
13. B鑑賞「鑑賞する活動」についての題材研究と学習指導案の作成
14. B鑑賞「鑑賞する活動」についての模擬授業(情報通信技術の活用を含む)と振り返り
15. まとめ「図画工作科指導の実際と課題、教師の役割について」、及び確認テスト

特記事項: なし

授業方法: 【すべての授業を対面授業で行う】
第1回:講義、映像視聴
第2回:制作、グループ討議
第3回:調べ学習(グループ)、講義
第4回:講義
第5回:講義
第6回:講義
第7回:題材研究、指導案作成(グループ)、パソコンを使用した授業
第8回:模擬授業(グループ)、討議(グループ)
第9回:題材研究(グループ)
第10回:指導案作成(グループ)、パソコンを使用した授業
第11回:模擬授業(グループ)
第12回:模擬授業(グループ)、討議(グループ)
第13回:講義、指導案作成(グループ)、パソコンを使用した授業
第14回:模擬授業(グループ)、討議(グループ)

第15回：映像視聴、講義、確認テスト

※指導案の作成では必ずパソコンを使用するため、それぞれ準備すること。

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

第1回：ポートフォリオ（もしくはノート）の作成・整理、学習指導要領解説を読む（150分）
第2回：ポートフォリオ（もしくはノート）の作成・整理、学習指導要領解説を読む（150分）
第3回：ポートフォリオ（もしくはノート）の作成・整理、学習指導要領解説を読む（150分）
第4回：ポートフォリオ（もしくはノート）の作成・整理（150分）
第5回：ポートフォリオ（もしくはノート）の作成・整理（150分）
第6回：ポートフォリオ（もしくはノート）の作成・整理（150分）
第7回：指導案の作成とポートフォリオ（もしくはノート）の作成・整理、学習指導要領解説を読む（150分）
第8回：ポートフォリオ（もしくはノート）の作成・整理（150分）
第9回：題材研究とポートフォリオ（もしくはノート）の作成・整理、学習指導要領解説を読む（150分）
第10回：指導案の作成とポートフォリオ（もしくはノート）の作成・整理、学習指導要領解説を読む（150分）
第11回：ポートフォリオ（もしくはノート）の作成・整理（150分）
第12回：ポートフォリオ（もしくはノート）の作成・整理（150分）
第13回：指導案の作成とポートフォリオ（もしくはノート）の作成・整理、学習指導要領解説を読む（150分）
第14回：ポートフォリオ（もしくはノート）の作成・整理、及び確認テスト勉強（150分）
第15回：ポートフォリオ（もしくはノート）をまとめる（150分）

※その他、授業内に完成していない課題の制作や指導案の作成、確認テストの学習など（450分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	35 **%**	**確認テスト：**	20 **%**	**レポート：**	20 **%**
その他1：	指導案の作成		15 **%**		
その他2：	ポートフォリオ(もしくはノート)の作成及び内容		10 **%**		

評価基準：

【授業へのとりくみ】について
※「授業へのとりくみ 35%」は「活動〈制作・鑑賞〉への取り組み 10%」と「模擬授業（題材研究を含む）の発表内容 25%」を含んだパーセンテージである。
・図画工作科の目標や内容、児童の発達などについて理解することができ、表現活動や題材研究（情報通信技術の活用を含む）に取り組んでいる。また、それらを踏まえ、指導案に沿って模擬授業を実践している。（60～69）
・図画工作科の目標や内容、児童の発達などについて説明することができ、自分なりに工夫して表現活動や題材研究（情報通信技術の活用を含む）に取り組んでいる。また、それらを踏まえ、指導の展開や評価方法を十分に考えて工夫された模擬授業を実践している。（80～100）

【指導案の作成】について
・図画工作科における目標や内容について理解し、授業で学んだことを踏まえて、グループで協働しながら学習指導案を作成している。（60～69）
・〈上記〉にプラスして、効果的に指導を行えるように工夫されたり、指導方法や評価について考えられている。（80～100）

【小レポート】について
※毎回、授業の終わりに観点に基づいて小レポートを作成する。
・授業で学んだことについて、授業を振り返ることができている。（60～69）
・〈上記〉にプラスして、授業を客観的に見つめ、課題などについても自分なりにまとめることができている。（80～100）

【その他】
・活動や題材研究については、失敗を恐れず、表現することにチャレンジすること、仲間の表現を受容すること、協働して取り組むことなどが評価規準となる。またポートフォリオ（もしくはノート）については、毎回の授業での板書や気づき、作品などを自分なりの工夫を加えて視覚的にわかりやすくまとめているなどで評価を行う。

課題へのフィードバック：

・指導案や模擬授業については、振り返りの検討会で課題や気づきについて、まとめて講評する。
・毎回授業後に記入するレポートでの感想や質問については、次回の授業時に全体に向けて解説する。必要に応じて質問者に個別に応答する。
・ポートフォリオ（もしくはノート）については、第15回に提出されたものをルーブリックをもとに評価し、返却する。

教科書：

・文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』日本文教出版（平成30年2月）
その他、授業中に適宜、指示または資料を配布する。

参考書：

・文部科学省 国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【小学校 図画工作】』東洋館出版…※国立教育政策研究所のホームページからもダウンロードできる。
・松岡宏明『子供に子供の美術を』三元社
・新野貴則・福岡知子編著『子どもの資質・能力を育む 図画工作科教育法』萌文書林
・佐藤洋照・藤江充編著『図画工作科指導法研究』日本文教出版
・大橋功他編著『美術教育概論（新訂版）』日本文教出
・文部科学省『小学校学習指導要領』東洋館出版社（平成30年2月）

その他、授業中に適宜指示する。

授業・準備学習のアドバイス：

【授業】について
・本科目は題材研究と指導案の作成、模擬授業を中心に行うため、しっかり授業準備をすることが重要になってくる。また、指導案の作成のためにパソコンを使用するため、毎回持ってくること。小レポートは、毎回、授業の終わりに学びや質問などを記入したものをMicrosoft Teamsでパソコンやスマートフォンから提出する。

【ポートフォリオ（もしくはノート）】について
・本授業では予習及び復習、活動の記録としてポートフォリオ（もしくはノート）にまとめる。ポートフォリオは配布資料や活動の記録（写真）、感想などPowerPointで作成しMicrosoft Teamsで提出する。手書きの場合はノートを提出すること。なお、ポートフォリオ（もしくはノート）は授業の最終日に提出したものを評価する。

【履修上の留意点】について
・実技も行うため、汚れを気にしない服装で受講すること。また、制作活動や指導案の作成などに関して、授業内に作品が仕上がらなかった場合は、次の授業回までに仕上げておくこと。

※本科目と1年開講科目「図画工作」を合わせて受講することで、制作体験を通して児童の造形への理解や材料・用具についての理解や題材における指導についての理解がより深まります。絵を描いたり、つくったりすることが苦手でも構わないので、失敗を恐れずチャレンジしてください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教科教育法・図画工作

クラス: 小中高/小+後2(内規科目)

授業コード: DA12500004

担当者: 須増 啓之 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)【必修】

含めることが必要な事項: 各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)

教科に関する専門的事項: 図画工作 **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 学習指導要領及び解説から図画工作科の意義や目標、育成を目指す資質・能力、内容、指導方法や評価のあり方に関する知識や技術を理論と活動を通して学ぶ。また、デジタル教科書や映像教材などを使った授業展開について学び、図画工作科における情報通信技術の活用法を修得する。さらに、資料や映像教材を通して児童の造形表現について理解を深め、グループ活動での題材研究や学習指導案作成、模擬授業を通して実践力や実践を省察する力を養う。

到達目標:
・児童の造形表現の発達や特徴、図画工作科の意義や目標、育成を目指す資質・能力、内容、指導方法や評価の観点について理論と活動を通して理解する。
・表現活動及び鑑賞活動における題材制作と展開方法(情報通信技術の活用を含む)についての理解をもとに、指導者としての視点や授業実践に対する発想や構想の能力を身につける。
・以上の点を踏まえ、図画工作科学習指導案を作成し、模擬授業や検討会を行うことで図画工作科における指導力及び実践を省察する力を養う。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション(本授業の目標・内容・評価方法・進め方・準備物の確認)、「図画工作での児童の活動、教師の役割」(映像教材)について考える
2. 図画工作科の目標、育成を目指す資質・能力について活動体験を通して考える
3. 図画工作科の学年目標と内容構成について教科書を参考に考える
4. 児童の作品からみる造形表現の発達と特徴
5. 図画工作科学習指導案の作成における留意点について
6. 図画工作科における評価規準の作成と評価方法について
7. A表現「造形遊びをする活動」についての学習指導案の作成
8. A表現「造形遊びをする活動」についての模擬授業と振り返り
9. A表現「絵・立体・工作に表す活動」についての題材研究
10. A表現「絵・立体・工作に表す活動」についての学習指導案(情報通信技術の活用を含む)の作成
11. A表現「絵・立体・工作に表す活動」についての模擬授業(情報通信技術の活用を含む)
12. A表現「絵・立体・工作に表す活動」についての模擬授業(情報通信技術の活用を含む)と振り返り
13. B鑑賞「鑑賞する活動」についての題材研究と学習指導案の作成
14. B鑑賞「鑑賞する活動」についての模擬授業(情報通信技術の活用を含む)と振り返り
15. まとめ「図画工作科指導の実際と課題、教師の役割について」、及び確認テスト

特記事項: なし

授業方法: 【すべての授業を対面授業で行う】
第1回:講義、映像視聴
第2回:制作、グループ討議
第3回:調べ学習(グループ)、講義
第4回:講義
第5回:講義
第6回:講義
第7回:題材研究、指導案作成(グループ)、パソコンを使用した授業
第8回:模擬授業(グループ)、討議(グループ)
第9回:題材研究(グループ)
第10回:指導案作成(グループ)、パソコンを使用した授業
第11回:模擬授業(グループ)
第12回:模擬授業(グループ)、討議(グループ)
第13回:講義、指導案作成(グループ)、パソコンを使用した授業
第14回:模擬授業(グループ)、討議(グループ)

第15回：映像視聴、講義、確認テスト

※指導案の作成では必ずパソコンを使用するため、それぞれ準備すること。

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

第1回：ポートフォリオ（もしくはノート）の作成・整理、学習指導要領解説を読む（150分）
第2回：ポートフォリオ（もしくはノート）の作成・整理、学習指導要領解説を読む（150分）
第3回：ポートフォリオ（もしくはノート）の作成・整理、学習指導要領解説を読む（150分）
第4回：ポートフォリオ（もしくはノート）の作成・整理（150分）
第5回：ポートフォリオ（もしくはノート）の作成・整理（150分）
第6回：ポートフォリオ（もしくはノート）の作成・整理（150分）
第7回：指導案の作成とポートフォリオ（もしくはノート）の作成・整理、学習指導要領解説を読む（150分）
第8回：ポートフォリオ（もしくはノート）の作成・整理（150分）
第9回：題材研究とポートフォリオ（もしくはノート）の作成・整理、学習指導要領解説を読む（150分）
第10回：指導案の作成とポートフォリオ（もしくはノート）の作成・整理、学習指導要領解説を読む（150分）
第11回：ポートフォリオ（もしくはノート）の作成・整理（150分）
第12回：ポートフォリオ（もしくはノート）の作成・整理（150分）
第13回：指導案の作成とポートフォリオ（もしくはノート）の作成・整理、学習指導要領解説を読む（150分）
第14回：ポートフォリオ（もしくはノート）の作成・整理、及び確認テスト勉強（150分）
第15回：ポートフォリオ（もしくはノート）をまとめる（150分）

※その他、授業内に完成していない課題の制作や指導案の作成、確認テストの学習など（450分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	35 **%**	**確認テスト：**	20 **%**	**レポート：**	20 **%**
その他1：	指導案の作成		15 **%**		
その他2：	ポートフォリオ(もしくはノート)の作成及び内容		10 **%**		

評価基準：

【授業へのとりくみ】について
※「授業へのとりくみ 35%」は「活動〈制作・鑑賞〉への取り組み 10%」と「模擬授業（題材研究を含む）の発表内容 25%」を含んだパーセンテージである。
・図画工作科の目標や内容、児童の発達などについて理解することができ、表現活動や題材研究（情報通信技術の活用を含む）に取り組んでいる。また、それらを踏まえ、指導案に沿って模擬授業を実践している。（60～69）
・図画工作科の目標や内容、児童の発達などについて説明することができ、自分なりに工夫して表現活動や題材研究（情報通信技術の活用を含む）に取り組んでいる。また、それらを踏まえ、指導の展開や評価方法を十分に考えて工夫された模擬授業を実践している。（80～100）

【指導案の作成】について
・図画工作科における目標や内容について理解し、授業で学んだことを踏まえて、グループで協働しながら学習指導案を作成している。（60～69）
・〈上記〉にプラスして、効果的に指導を行えるように工夫されたり、指導方法や評価について考えられている。（80～100）

【小レポート】について
※毎回、授業の終わりに観点に基づいて小レポートを作成する。
・授業で学んだことについて、授業を振り返ることができている。（60～69）
・〈上記〉にプラスして、授業を客観的に見つめ、課題などについても自分なりにまとめることができている。（80～100）

【その他】
・活動や題材研究については、失敗を恐れず、表現することにチャレンジすること、仲間の表現を受容すること、協働して取り組むことなどが評価規準となる。またポートフォリオ（もしくはノート）については、毎回の授業での板書や気づき、作品などを自分なりの工夫を加えて視覚的にわかりやすくまとめているなどで評価を行う。

課題へのフィードバック：

・指導案や模擬授業については、振り返りの検討会で課題や気づきについて、まとめて講評する。
・毎回授業後に記入するレポートでの感想や質問については、次回の授業時に全体に向けて解説する。必要に応じて質問者に個別に応答する。
・ポートフォリオ（もしくはノート）については、第15回に提出されたものをルーブリックをもとに評価し、返却する。

教科書：

・文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』日本文教出版（平成30年2月）
その他、授業中に適宜、指示または資料を配布する。

参考書：

・文部科学省 国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【小学校 図画工作】』東洋館出版…※国立教育政策研究所のホームページからもダウンロードできる。
・松岡宏明『子供に子供の美術を』三元社
・新野貴則・福岡知子編著『子どもの資質・能力を育む 図画工作科教育法』萌文書林
・佐藤洋照・藤江充編著『図画工作科指導法研究』日本文教出版
・大橋功他編著『美術教育概論（新訂版）』日本文教出
・文部科学省『小学校学習指導要領』東洋館出版社（平成30年2月）

その他、授業中に適宜指示する。

授業・準備学習のアドバイス：

【授業】について
・本科目は題材研究と指導案の作成、模擬授業を中心に行うため、しっかり授業準備をすることが重要になってくる。また、指導案の作成のためにパソコンを使用するため、毎回持ってくること。小レポートは、毎回、授業の終わりに学びや質問などを記入したものをMicrosoft Teamsでパソコンやスマートフォンから提出する。

【ポートフォリオ（もしくはノート）】について
・本授業では予習及び復習、活動の記録としてポートフォリオ（もしくはノート）にまとめる。ポートフォリオは配布資料や活動の記録（写真）、感想などPowerPointで作成しMicrosoft Teamsで提出する。手書きの場合はノートを提出すること。なお、ポートフォリオ（もしくはノート）は授業の最終日に提出したものを評価する。

【履修上の留意点】について
・実技も行うため、汚れを気にしない服装で受講すること。また、制作活動や指導案の作成などに関して、授業内に作品が仕上がらなかった場合は、次の授業回までに仕上げておくこと。

※本科目と1年開講科目「図画工作」を合わせて受講することで、制作体験を通して児童の造形への理解や材料・用具についての理解や題材における指導についての理解がより深まります。絵を描いたり、つくったりすることが苦手でも構わないので、失敗を恐れずチャレンジしてください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教科教育法・家庭

クラス: 小中高/小+前1(内規科目)

授業コード: DA12600001

担当者: 山口 香織 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:高等学校家庭科教諭

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)【必修】

含めることが必要な事項: 各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)

教科に関する専門的事項: 家庭 **一般的包括的科目:** -

授業の目的: 小学校家庭科の授業設計について理論と実践から学ぶ。具体的には、小学校学習指導要領に記載されている内容について理解を深めるとともに、家庭科の学習指導案を作成し、子どもの主体的な学びを促す授業展開を提案する。また、ICTの活用を意識した模擬授業を実施し、授業づくりを通して、その教材の意義や指導方法について探求する

到達目標:
1. 小学校家庭科の目標や内容、評価方法を理解する。
2. 小学校家庭科の指導計画(学習指導案)を作成し、具体的な授業展開を提案することができる。
3. 小学生の生活課題を含んだ教材設定やICTを活用した指導の工夫ができる。

各回の授業計画:

1. 家庭科教育の理念と意義
2. 小学校家庭科の学習内容と指導方法
3. 子どもの生活課題と家庭科の学び(グループワーク)
4. カリキュラムマネジメント(学習指導案と年間指導計画の作成)
5. 家庭科の授業評価
6. 小学校家庭科の実際の授業-ビデオ視聴から学びの特徴を捉える
7. 指導案作成について(様々な授業を知る)
8. 授業づくり(1)指導案作成①個人
9. 授業づくり(2)指導案作成②グループ
10. 授業づくり(3)情報通信技術を用いた教材作成
11. 模擬授業(1)家族・家庭生活(情報通信技術の活用)
12. 模擬授業(2)食生活(情報通信技術の活用)
13. 模擬授業(3)衣生活・住生活(情報通信技術の活用)
14. 模擬授業(4)消費生活・環境(情報通信技術の活用)
15. PDCAの視点から模擬授業を振り返る(情報通信技術の活用)

※第16回目に試験を行う

特記事項: なし

授業方法:
1. 講義(対面)
2. 講義と発表(対面)
3. 講義と発表(対面)
4. 講義(対面)
5. 講義(対面)
6. DVD視聴(対面)
7. 講義(対面)
8. 講義と発表(対面)
9. グループワーク(対面)
10. グループワーク(対面)
11. 模擬授業・演習(対面)
12. 模擬授業・演習(対面)
13. 模擬授業・演習(対面)
14. 模擬授業・演習(対面)
15. グループワーク・討議(対面)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

学習指導要領解説を読み理解する

1. 学習指導要領の改訂ポイント 180分
2. 目標と学習内容 180分
3. 指導計画と実習等の取扱い 180分

課題1:子どもの生活課題のレポート作成 180分
課題2:学習指導案の内容をまとめる 180分
課題3:指導案の転記 180分
課題4:本時案の作成 180分
課題5:学習指導案の作成 360分

授業づくりの教材について調べる 180分
模擬授業準備 360分
模擬授業のシミュレーション 180分
模擬授業後の課題をまとめる 180分

確認テストに向けた復習 180分

評価方法:

授業へのとりくみ:	10	**%**	**確認テスト:**	60	**%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:	指導案の作成及び課題レポート			20	**%**		
その他2:	模擬授業			10	**%**		

評価基準:

確認テスト
・小学校家庭科の学習指導案の作成ができる。(60～69)
・小学校家庭科の学びの特徴を踏まえた学習指導案の作成ができる。(80～100)

課題
到達目標について7割達成している。(60～69)
到達目標について9割達成している。(80～100)

以上の内容を総合的に評価する。

課題へのフィードバック:

確認テストは、その課題のポイントと評価の観点を全体に向けて説明する。
質問に対しては、授業時に全体に向けて回答・説明し、必要に応じて質問者に個別に回答・説明する。
課題提出は、次回授業時に講評し返却する。

教科書:

『わたしたちの家庭科5・6』 開隆堂出版株式会社
文部科学省『小学校学習指導要領解説 家庭編 平成29年告示』東京書籍
大竹美登利・鈴木真由子・綿引伴子編著『小学校家庭科教育法』 建帛社

参考書:

授業中に適宜、紹介する。

授業・準備学習のアドバイス:

後半には、グループで授業設計を考え模擬授業を行う。
模擬授業づくりは協同的な学びのため、グループでのチームワークや学びへの意欲が求められる。
グループワークを欠席する際は各自でグループメンバーに連絡し、良好な関係づくりを心掛けるように。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教科教育法・家庭

クラス: 小中高/小+前2(内規科目)

授業コード: DA12600002

担当者: 山口 香織 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:高等学校家庭科教諭

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)【必修】

含めることが必要な事項: 各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)

教科に関する専門的事項: 家庭 **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 小学校家庭科の授業設計について理論と実践から学ぶ。具体的には、小学校学習指導要領に記載されている内容について理解を深めるとともに、家庭科の学習指導案を作成し、子どもの主体的な学びを促す授業展開を提案する。また、ICTの活用を意識した模擬授業を実施し、授業づくりを通して、その教材の意義や指導方法について探求する

到達目標:
1. 小学校家庭科の目標や内容、評価方法を理解する。
2. 小学校家庭科の指導計画(学習指導案)を作成し、具体的な授業展開を提案することができる。
3. 小学生の生活課題を含んだ教材設定やICTを活用した指導の工夫ができる。

各回の授業計画:

1. 家庭科教育の理念と意義
2. 小学校家庭科の学習内容と指導方法
3. 子どもの生活課題と家庭科の学び(グループワーク)
4. カリキュラムマネジメント(学習指導案と年間指導計画の作成)
5. 家庭科の授業評価
6. 小学校家庭科の実際の授業-ビデオ視聴から学びの特徴を捉える
7. 指導案作成について(様々な授業を知る)
8. 授業づくり(1)指導案作成①個人
9. 授業づくり(2)指導案作成②グループ
10. 授業づくり(3)情報通信技術を用いた教材作成
11. 模擬授業(1)家族・家庭生活(情報通信技術の活用)
12. 模擬授業(2)食生活(情報通信技術の活用)
13. 模擬授業(3)衣生活・住生活(情報通信技術の活用)
14. 模擬授業(4)消費生活・環境(情報通信技術の活用)
15. PDCAの視点から模擬授業を振り返る(情報通信技術の活用)

※第16回目に試験を行う

特記事項: なし

授業方法:
1. 講義(対面)
2. 講義と発表(対面)
3. 講義と発表(対面)
4. 講義(対面)
5. 講義(対面)
6. DVD視聴(対面)
7. 講義(対面)
8. 講義と発表(対面)
9. グループワーク(対面)
10. グループワーク(対面)
11. 模擬授業・演習(対面)
12. 模擬授業・演習(対面)
13. 模擬授業・演習(対面)
14. 模擬授業・演習(対面)
15. グループワーク・討議(対面)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

学習指導要領解説を読み理解する

1. 学習指導要領の改訂ポイント 180分
2. 目標と学習内容 180分
3. 指導計画と実習等の取扱い 180分

課題1:子どもの生活課題のレポート作成 180分
課題2:学習指導案の内容をまとめる 180分
課題3:指導案の転記 180分
課題4:本時案の作成 180分
課題5:学習指導案の作成 360分

授業づくりの教材について調べる 180分
模擬授業準備 360分
模擬授業のシミュレーション 180分
模擬授業後の課題をまとめる 180分

確認テストに向けた復習 180分

評価方法:

授業へのとりくみ:	10	**%**	**確認テスト:**	60	**%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:	指導案の作成及び課題レポート			20	**%**		
その他2:	模擬授業			10	**%**		

評価基準:

確認テスト
・小学校家庭科の学習指導案の作成ができる。(60～69)
・小学校家庭科の学びの特徴を踏まえた学習指導案の作成ができる。(80～100)

課題
到達目標について7割達成している。(60～69)
到達目標について9割達成している。(80～100)

以上の内容を総合的に評価する。

課題へのフィードバック:

確認テストは、その課題のポイントと評価の観点を全体に向けて説明する。
質問に対しては、授業時に全体に向けて回答・説明し、必要に応じて質問者に個別に回答・説明する。
課題提出は、次回授業時に講評し返却する。

教科書:

『わたしたちの家庭科5・6』 開隆堂出版株式会社
文部科学省『小学校学習指導要領解説 家庭編 平成29年告示』東京書籍
大竹美登利・鈴木真由子・綿引伴子編著『小学校家庭科教育法』 建帛社

参考書:

授業中に適宜、紹介する。

授業・準備学習のアドバイス:

後半には、グループで授業設計を考え模擬授業を行う。
模擬授業づくりは協同的な学びのため、グループでのチームワークや学びへの意欲が求められる。
グループワークを欠席する際は各自でグループメンバーに連絡し、良好な関係づくりを心掛けるように。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教科教育法・家庭

クラス: 小中高/小+後1(内規科目)

授業コード: DA12600003

担当者: 山口 香織 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:高等学校家庭科教諭

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)【必修】

含めることが必要な事項: 各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)

教科に関する専門的事項: 家庭 **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 小学校家庭科の授業設計について理論と実践から学ぶ。具体的には、小学校学習指導要領に記載されている内容について理解を深めるとともに、家庭科の学習指導案を作成し、子どもの主体的な学びを促す授業展開を提案する。また、ICTの活用を意識した模擬授業を実施し、授業づくりを通して、その教材の意義や指導方法について探求する

到達目標:
1. 小学校家庭科の目標や内容、評価方法を理解する。
2. 小学校家庭科の指導計画(学習指導案)を作成し、具体的な授業展開を提案することができる。
3. 小学生の生活課題を含んだ教材設定やICTを活用した指導の工夫ができる。

各回の授業計画:

1. 家庭科教育の理念と意義
2. 小学校家庭科の学習内容と指導方法
3. 子どもの生活課題と家庭科の学び(グループワーク)
4. カリキュラムマネジメント(学習指導案と年間指導計画の作成)
5. 家庭科の授業評価
6. 小学校家庭科の実際の授業-ビデオ視聴から学びの特徴を捉える
7. 指導案作成について(様々な授業を知る)
8. 授業づくり(1)指導案作成①個人
9. 授業づくり(2)指導案作成②グループ
10. 授業づくり(3)情報通信技術を用いた教材作成
11. 模擬授業(1)家族・家庭生活(情報通信技術の活用)
12. 模擬授業(2)食生活(情報通信技術の活用)
13. 模擬授業(3)衣生活・住生活(情報通信技術の活用)
14. 模擬授業(4)消費生活・環境(情報通信技術の活用)
15. PDCAの視点から模擬授業を振り返る(情報通信技術の活用)

※第16回目に試験を行う

特記事項: なし

授業方法:
1. 講義(対面)
2. 講義と発表(対面)
3. 講義と発表(対面)
4. 講義(対面)
5. 講義(対面)
6. DVD視聴(対面)
7. 講義(対面)
8. 講義と発表(対面)
9. グループワーク(対面)
10. グループワーク(対面)
11. 模擬授業・演習(対面)
12. 模擬授業・演習(対面)
13. 模擬授業・演習(対面)
14. 模擬授業・演習(対面)
15. グループワーク・討議(対面)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

学習指導要領解説を読み理解する

1. 学習指導要領の改訂ポイント 180分
2. 目標と学習内容 180分
3. 指導計画と実習等の取扱い 180分

課題1:子どもの生活課題のレポート作成 180分
課題2:学習指導案の内容をまとめる 180分
課題3:指導案の転記 180分
課題4:本時案の作成 180分
課題5:学習指導案の作成 360分

授業づくりの教材について調べる 180分
模擬授業準備 360分
模擬授業のシミュレーション 180分
模擬授業後の課題をまとめる 180分

確認テストに向けた復習 180分

評価方法:

授業へのとりくみ:	10 **%**	**確認テスト:**	60 **%**	**レポート:**	- **%**		
その他1:	指導案の作成及び課題レポート		20 **%**				
その他2:	模擬授業		10 **%**				

評価基準:

確認テスト
・小学校家庭科の学習指導案の作成ができる。(60～69)
・小学校家庭科の学びの特徴を踏まえた学習指導案の作成ができる。(80～100)

課題
到達目標について7割達成している。(60～69)
到達目標について9割達成している。(80～100)

以上の内容を総合的に評価する。

課題へのフィードバック:

確認テストは、その課題のポイントと評価の観点を全体に向けて説明する。
質問に対しては、授業時に全体に向けて回答・説明し、必要に応じて質問者に個別に回答・説明する。
課題提出は、次回授業時に講評し返却する。

教科書:

『わたしたちの家庭科5・6』 開隆堂出版株式会社
文部科学省『小学校学習指導要領解説 家庭編 平成29年告示』東京書籍
大竹美登利・鈴木真由子・綿引伴子編著『小学校家庭科教育法』 建帛社

参考書:

授業中に適宜、紹介する。

授業・準備学習のアドバイス:

後半には、グループで授業設計を考え模擬授業を行う。
模擬授業づくりは協同的な学びのため、グループでのチームワークや学びへの意欲が求められる。
グループワークを欠席する際は各自でグループメンバーに連絡し、良好な関係づくりを心掛けるように。

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教科教育法・家庭

クラス: 小中高/小+後2(内規科目)

授業コード: DA12600004

担当者: 山口 香織 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:高等学校家庭科教諭

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)【必修】

含めることが必要な事項: 各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)

教科に関する専門的事項: 家庭 **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 小学校家庭科の授業設計について理論と実践から学ぶ。具体的には、小学校学習指導要領に記載されている内容について理解を深めるとともに、家庭科の学習指導案を作成し、子どもの主体的な学びを促す授業展開を提案する。また、ICTの活用を意識した模擬授業を実施し、授業づくりを通して、その教材の意義や指導方法について探求する

到達目標:
1. 小学校家庭科の目標や内容、評価方法を理解する。
2. 小学校家庭科の指導計画(学習指導案)を作成し、具体的な授業展開を提案することができる。
3. 小学生の生活課題を含んだ教材設定やICTを活用した指導の工夫ができる。

各回の授業計画:

1. 家庭科教育の理念と意義
2. 小学校家庭科の学習内容と指導方法
3. 子どもの生活課題と家庭科の学び(グループワーク)
4. カリキュラムマネジメント(学習指導案と年間指導計画の作成)
5. 家庭科の授業評価
6. 小学校家庭科の実際の授業-ビデオ視聴から学びの特徴を捉える
7. 指導案作成について(様々な授業を知る)
8. 授業づくり(1)指導案作成①個人
9. 授業づくり(2)指導案作成②グループ
10. 授業づくり(3)情報通信技術を用いた教材作成
11. 模擬授業(1)家族・家庭生活(情報通信技術の活用)
12. 模擬授業(2)食生活(情報通信技術の活用)
13. 模擬授業(3)衣生活・住生活(情報通信技術の活用)
14. 模擬授業(4)消費生活・環境(情報通信技術の活用)
15. PDCAの視点から模擬授業を振り返る(情報通信技術の活用)

※第16回目に試験を行う

特記事項: なし

授業方法:
1. 講義(対面)
2. 講義と発表(対面)
3. 講義と発表(対面)
4. 講義(対面)
5. 講義(対面)
6. DVD視聴(対面)
7. 講義(対面)
8. 講義と発表(対面)
9. グループワーク(対面)
10. グループワーク(対面)
11. 模擬授業・演習(対面)
12. 模擬授業・演習(対面)
13. 模擬授業・演習(対面)
14. 模擬授業・演習(対面)
15. グループワーク・討議(対面)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

学習指導要領解説を読み理解する

1. 学習指導要領の改訂ポイント 180分
2. 目標と学習内容 180分
3. 指導計画と実習等の取扱い 180分

課題1:子どもの生活課題のレポート作成 180分
課題2:学習指導案の内容をまとめる 180分
課題3:指導案の転記 180分
課題4:本時案の作成 180分
課題5:学習指導案の作成 360分

授業づくりの教材について調べる 180分
模擬授業準備 360分
模擬授業のシミュレーション 180分
模擬授業後の課題をまとめる 180分

確認テストに向けた復習 180分

評価方法:

授業へのとりくみ:	10	**%**	**確認テスト:**	60	**%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:	指導案の作成及び課題レポート			20	**%**		
その他2:	模擬授業			10	**%**		

評価基準:

確認テスト
・小学校家庭科の学習指導案の作成ができる。(60～69)
・小学校家庭科の学びの特徴を踏まえた学習指導案の作成ができる。(80～100)

課題
到達目標について7割達成している。(60～69)
到達目標について9割達成している。(80～100)

以上の内容を総合的に評価する。

課題へのフィードバック:

確認テストは、その課題のポイントと評価の観点を全体に向けて説明する。
質問に対しては、授業時に全体に向けて回答・説明し、必要に応じて質問者に個別に回答・説明する。
課題提出は、次回授業時に講評し返却する。

教科書:

『わたしたちの家庭科5・6』 開隆堂出版株式会社
文部科学省『小学校学習指導要領解説 家庭編 平成29年告示』東京書籍
大竹美登利・鈴木真由子・綿引伴子編著『小学校家庭科教育法』 建帛社

参考書:

授業中に適宜、紹介する。

授業・準備学習のアドバイス:

後半には、グループで授業設計を考え模擬授業を行う。
模擬授業づくりは協同的な学びのため、グループでのチームワークや学びへの意欲が求められる。
グループワークを欠席する際は各自でグループメンバーに連絡し、良好な関係づくりを心掛けるように。

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教科教育法・体育

クラス: 小中高/小+前(内規科目)

授業コード: DA12700001

担当者: 田中 聡 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立小学校教諭、文部科学省体育指導伝達講習会派遣、教育委員会指導主事(学校体育係)

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)【必修】

含めることが必要な事項: 各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)

教科に関する専門的事項: 体育 **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 小学校体育科学習指導要領における目標と内容について理解を深めるとともに、学習指導の方法等について理解できるようにする。特に、体育科の各運動領域の個別の運動の特性を踏まえた教材設定について、映像資料等を用いて学習を深め、実践的な指導力が身につけられるようにする。そのため、講義やディスカッション、グループワークなど多様な学習形態・方法を組み合わせて授業を進める。

到達目標:
1. 小学校体育科の目標、指導内容について理解する。
2. 体育科における各運動領域の特性と内容、保健領域の内容について理解する。
3. 小学校体育科の学習評価について、学習目標・内容と整合する考え方とその方法を理解する。
4. 文化的視点から身体運動を捉えることができるとともに、小学校体育科学習指導案を作成することができるようになる。

各回の授業計画:

1. 体育科は何を教える(何が学べる)教科なのか ー体育の教科内容ー
2. 器械運動系・陸上運動系における体育科学習指導要領の内容と授業の実際
3. 水泳運動系・ボール運動系における体育科学習指導要領の内容と授業の実際
4. 表現運動系・体つくり運動系における体育科学習指導要領の内容と授業の実際
5. 保健領域における体育科学習指導要領の内容と授業の実際
6. 体育科学習指導案の作成方法と学習過程の考え方 ーPDCAサイクルと指導案・授業実践ー
7. 体育科学習指導における学習評価の考え方
8. 跳び箱運動・鬼遊びを運動教材とした1回目の模擬授業(タブレット・PC等を活用し、動作比較動画による模擬授業を実施する)
9. なわ跳び・表現遊びを運動教材とした1回目の模擬授業(タブレット・PC等を活用し、動作比較動画による模擬授業を実施する)
10. ゴール型ゲーム・リズムダンスを運動教材とした1回目の模擬授業(タブレット・PC等を活用し、動作比較動画による模擬授業を実施する)
11. 1回目の模擬授業を振り返る ー教師行動と授業場面の構成を視点にー
12. 振り返りを生かした跳び箱運動・鬼遊びを運動教材とした2回目の模擬授業(タブレット・PC等を活用し、動作比較動画による模擬授業を実施する)
13. 振り返りを生かしたなわ跳び・表現遊びを運動教材とした2回目の模擬授業(タブレット・PC等を活用し、動作比較動画による模擬授業を実施する)
14. 振り返りを生かしたゴール型ゲーム・リズムダンスを運動教材とした2回目の模擬授業(タブレット・PC等を活用し、動作比較動画による模擬授業を実施する)
15. まとめ ー体育を「文化的営みとしての運動」を学ぶ教科としてとらえるー

特記事項: なし

授業方法: 講義やディスカッション、グループワークなど多様な学習形態・方法を組み合わせる
授業は全て対面にて行う。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①授業テーマに関する予習、復習 ②小テスト対策のためのキーワード確認作業 ③指導案作成・指導略案作成 ④模擬授業への振り返り、指導略案作成等 ⑤まとめのレポート作成 等々の学習(合計60時間程度)を行うこと。

評価方法:

授業へのとりくみ:	−	%	**確認テスト:**	−	%	**レポート:**	50 %
その他1:	授業後に提出するコメントカード及び小テストの内容			50	%		
その他2:					%		

評価基準: 1.
・下記①～③の各知識について、小テスト・レポート等から十分に身につけていることがわかる。(80～100)
・下記①～③の各知識について、小テスト・レポート等からおよそ身につけていることがわかる。(70～79)

・下記①～③の各知識について、小テスト・レポート等から最低限、身につけていることがわかる。(60～69)
①小学校体育科の目標、指導内容
②体育科における各運動領域の特性と内容、保健領域の内容
③学習目標・内容と整合する体育科の評価の考え方とその方法

2.
・教育実習でも十分活用できる小学校体育科学習指導案を作成することができる。(80～100)
・教育実習でも、まずまず活用できる小学校体育科学習指導案を作成することができる。(70～79)
・教育実習で、さらに改善が必要な程度の小学校体育科学習指導案を作成することができる。(60～69)

課題へのフィードバック:

・授業の中で適宜フィードバックを行う

教科書: 授業中に適宜資料を配付する。

参考書: 文部科学省『小学校学習指導要領』東洋館出版社(平成30年2月)
文部科学省『小学校学習指導要領解説 体育編』東洋館出版社(平成30年2月)

授業・準備学習のアドバイス:

・授業の中で適宜フィードバックを行う

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教科教育法・体育

クラス: 小中高/小+後(内規科目)

授業コード: DA12700002

担当者: 田中 聡 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立小学校教諭、文部科学省体育指導伝達講習会派遣、教育委員会指導主事(学校体育係)

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)【必修】

含めることが必要な事項: 各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)

教科に関する専門的事項: 体育 **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 小学校体育科学習指導要領における目標と内容について理解を深めるとともに、学習指導の方法等について理解できるようにする。特に、体育科の各運動領域の個別の運動の特性を踏まえた教材設定について、映像資料等を用いて学習を深め、実践的な指導力が身につけられるようにする。そのため、講義やディスカッション、グループワークなど多様な学習形態・方法を組み合わせて授業を進める。

到達目標:
1. 小学校体育科の目標、指導内容について理解する。
2. 体育科における各運動領域の特性と内容、保健領域の内容について理解する。
3. 小学校体育科の学習評価について、学習目標・内容と整合する考え方とその方法を理解する。
4. 文化的視点から身体運動を捉えることができるとともに、小学校体育科学習指導案を作成することができるようになる。

各回の授業計画:

1. 体育科は何を教える(何が学べる)教科なのか ー体育の教科内容ー
2. 器械運動系・陸上運動系における体育科学習指導要領の内容と授業の実際
3. 水泳運動系・ボール運動系における体育科学習指導要領の内容と授業の実際
4. 表現運動系・体つくり運動系における体育科学習指導要領の内容と授業の実際
5. 保健領域における体育科学習指導要領の内容と授業の実際
6. 体育科学習指導案の作成方法と学習過程の考え方 ーPDCAサイクルと指導案・授業実践ー
7. 体育科学習指導における学習評価の考え方
8. 跳び箱運動・鬼遊びを運動教材とした1回目の模擬授業(タブレット・PC等を活用し、動作比較動画による模擬授業を実施する)
9. なわ跳び・表現遊びを運動教材とした1回目の模擬授業(タブレット・PC等を活用し、動作比較動画による模擬授業を実施する)
10. ゴール型ゲーム・リズムダンスを運動教材とした1回目の模擬授業(タブレット・PC等を活用し、動作比較動画による模擬授業を実施する)
11. 1回目の模擬授業を振り返る ー教師行動と授業場面の構成を視点にー
12. 振り返りを生かした跳び箱運動・鬼遊びを運動教材とした2回目の模擬授業(タブレット・PC等を活用し、動作比較動画による模擬授業を実施する)
13. 振り返りを生かしたなわ跳び・表現遊びを運動教材とした2回目の模擬授業(タブレット・PC等を活用し、動作比較動画による模擬授業を実施する)
14. 振り返りを生かしたゴール型ゲーム・リズムダンスを運動教材とした2回目の模擬授業(タブレット・PC等を活用し、動作比較動画による模擬授業を実施する)
15. まとめ ー体育を「文化的営みとしての運動」を学ぶ教科としてとらえるー

特記事項: なし

授業方法: 講義やディスカッション、グループワークなど多様な学習形態・方法を組み合わせる
授業は全て対面にて行う。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業出席に加え、各回の授業前後に、①授業テーマに関する予習、復習 ②小テスト対策のためのキーワード確認作業 ③指導案作成・指導略案作成 ④模擬授業への振り返り、指導略案作成等 ⑤まとめのレポート作成 等々の学習(合計60時間程度)を行うこと。

評価方法:

授業へのとりくみ:	−	**%**	**確認テスト:**	−	**%**	**レポート:**	50 **%**
その他1:	授業後に提出するコメントカード及び小テストの内容		50	**%**			
その他2:				**%**			

評価基準: 1.
・下記①～③の各知識について、小テスト・レポート等から十分に身につけていることがわかる。(80～100)
・下記①～③の各知識について、小テスト・レポート等からおよそ身につけていることがわかる。(70～79)

・下記①～③の各知識について、小テスト・レポート等から最低限、身につけていることがわかる。(60～69)
①小学校体育科の目標、指導内容
②体育科における各運動領域の特性と内容、保健領域の内容
③学習目標・内容と整合する体育科の評価の考え方とその方法

2.
・教育実習でも十分活用できる小学校体育科学習指導案を作成することができる。(80～100)
・教育実習でも、まずまず活用できる小学校体育科学習指導案を作成することができる。(70～79)
・教育実習で、さらに改善が必要な程度の小学校体育科学習指導案を作成することができる。(60～69)

課題へのフィードバック:

・授業の中で適宜フィードバックを行う

教科書: 授業中に適宜資料を配付する。

参考書: 文部科学省『小学校学習指導要領』東洋館出版社(平成30年2月)
文部科学省『小学校学習指導要領解説 体育編』東洋館出版社(平成30年2月)

授業・準備学習のアドバイス:

・授業の中で適宜フィードバックを行う

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教科教育法・外国語(英語)

クラス: 小中高/小+前1(内規科目)

授業コード: DA12800001

担当者: 眞﨑 克彦 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立小学校教諭

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)【必修】

含めることが必要な事項: 各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)

教科に関する専門的事項: 外国語 **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 1. 授業実践に必要な知識・理解: ①小学校外国語教育についての基本的な知識・理解、②子どもの第二言語習得についての知識とその活用
2. 授業実践:①指導技術、②授業づくり
3. 学習形態:①授業観察、②授業体験、③模擬授業

到達目標: 小学校外国語教育の変遷及び今後の方向性に対する目標と内容について理解する。第二言語習得についての知識とその運用能力を身につける。実践で使える英語力育成のため、「聞く」「話す」の分野に加えて、「読む」「書く」の技能の向上を目差し、教材研究やALTとのティームティーチング等の研修を充実させる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション、外国語教育導入の経緯・現状と今後の方向性
2. 新学習指導要領(外国語活動と外国語、中学校外国語科の趣旨理解)、小・中・高等学校の連携と小学校の役割
3. 子どもの第二言語習得の特徴1(明示的・暗示的学習、音声・文法・語彙等の習得、言語使用、類推、音声、ことばの面白さ)
4. 子どもの第二言語習得の特徴2(受信から発信、音声から文字へと進むプロセス、コミュニケーションの目的や場面、状況)
5. 主教材(中学年用、高学年用)、デジタル教材の活用について
6. 小学校と中学校の教材比較(デジタル教材の活用を含む)
7. 題材選定、教材研究、ICT等の活用、指導計画(1時間の授業づくり、単元計画・学習指導案、ティームティーチング)
8. 映像視聴(中学年)、英語での語りかけから、発話の引き出し方、やり取りの進め方
9. 映像視聴(高学年)、文字言語の扱い、読む活動・書く活動
10. 小・中学校の連携に関わる様々な実践例検討
11. 学習状況の評価(小学校外国語活動・外国語)、児童や学校の多様性への対応
12. 模擬授業発表・振り返り(中学年に関する取組)
13. 模擬授業発表・振り返り(中学年・高学年に関する取組)
14. 模擬授業発表・振り返り(高学年に関する取組)
15. 小学校英語教育における役割と今後の展望

特記事項: なし

授業方法: ・教科書を使った演習及び実習 (対面)
・模擬授業による演習 (対面)
1. ①外国語教育導入の経緯・現状と今後の方向性(講義)、②左記のテーマの演習(討議・実習)(対面)
2. ①新学習指導要領(外国語活動と外国語、中学校外国語科の趣旨理解)、小・中・高等学校の連携と小学校の役割(講義)、②左記のテーマの演習(討議・実習)(対面)
3. ①子どもの第二言語習得の特徴1(講義)、②左記のテーマの演習(討議・実習)(対面)
4. ①子どもの第二言語習得の特徴2(講義)、②左記のテーマの演習(討議・実習)(対面)
5. ①主教材(中学年用、高学年用)、デジタル教材の活用(講義)②左記のテーマの演習(討議・実習)(対面)
6. ①小学校と中学校の教材比較(講義)、②左記のテーマの演習(討議・実習)(対面)
7. ①題材選定、教材研究、ICT等の活用、指導計画(講義)、②左記のテーマの演習(討議・実習)(対面)
8. ①映像視聴(中学年)、英語での語りかけから、発話の引き出し方、やり取りの進め方(講義)、②左記のテーマの演習(討議・実習)(対面)
9. ①映像視聴(高学年)、文字言語の扱い、読む活動・書く活動(講義)、②左記のテーマの演習(討議・実習)(対面)
10. ①小・中学校の連携に関わる様々な実践例検討(講義)、②左記のテーマの演習(討議・実習)(対面)
11. ①学習状況の評価(小学校外国語活動・外国語)、児童や学校の多様性への対応(講義)、②左記のテーマの演習(討議・実習)(対面)
12. ①模擬授業(発表)、②模擬授業(討議・実習)(対面)
13. ①模擬授業(発表)、②模擬授業(討議・実習)(対面)
14. ①模擬授業(発表)、②模擬授業(討議・実習)(対面)
15. ①小学校英語教育における役割と今後の展望(講義、討議)(対面)

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. ①第1回の予習(教科書1章を読む)・復習、章末「学習課題」②Activity, Classroom English, 模擬授業の準備 (180分)
2. ①各回の予習・復習、学習課題、②Activity, Classroom English, 擬授業の準備 (180分)
3. ①各回の予習・復習、学習課題、②Activity, Classroom English, 模擬授業の準備 (180分)
4. ①各回の予習・復習、学習課題、②Activity, Classroom English, 模擬授業の準備 (180分)
5. ①各回の予習・復習、学習課題、②Activity, Classroom English, 模擬授業の準備 (180分)
6. ①各回の予習・復習、学習課題、②Activity, Classroom English, 模擬授業の準備 (180分)
7. ①各回の予習・復習、学習課題、②Activity, Classroom English, 模擬授業の準備 (180分)
8. ①各回の予習・復習、学習課題、②Activity, Classroom English, 模擬授業の準備 (180分)
9. ①各回の予習・復習、学習課題、②Activity, Classroom English, 模擬授業の準備 (180分)
10. ①各回の予習・復習、学習課題、②Activity, Classroom English, 模擬授業の準備 (180分)
11. ①各回の予習・復習、学習課題、②Activity, Classroom English, 模擬授業の準備 (180分)
12. ①模擬授業の準備 (90分)、②模擬授業のリフレクション (90分)
13. ①模擬授業の準備 (90分)、②模擬授業のリフレクション (90分)
14. ①各回の予習・復習、学習課題、②Activity, Classroom English, 模擬授業の準備 (180分)
15. ①各回の復習(90分)、未提出課題の確認と作成 90分)

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	− **%**	**レポート：**	30 **%**		
その他1：	Activity, Teacher Talk, 小学校英語の語彙確認	20 **%**					
その他2：	模擬授業発表	20 **%**					

評価基準：

1.「最低限の到達度(60～69点)」:教科書と参考書等を使い、毎時間の課題を期限内に提出できたか。模擬授業に参加できたか。授業するのに必要な小学校英語の語彙や表現を身に付けたか。
2.「望ましい到達度(80～100点)」:教科書と参考書等を使い、毎時間の課題を授業での理解・気づきを踏まえ期限内に提出できたか。模擬授業に中心的に参加できたか。授業内の討論に積極的に参加できたか。

課題へのフィードバック：

・フィードバックは授業の中でその都度行う。
・課題についてのフィードバックは、提出された課題にコメントして行う。

教科書：

樋口忠彦・加賀田哲也・泉恵美子・衣笠知子『最新 小学校英語教育法入門』研究社 2023年 ISBN 978-4-327-41108-4
※ テキストは、2023年に改訂されているので、間違って旧版(2017年)『新編 小学校英語教育法入門』を準備しないように。
教材はその都度提示します。

参考書：

小学校外国語活動研修ガイドブック 文部科学省
文部科学省『小学校学習指導要領』東洋館出版社（平成30年2月）
文部科学省『小学校学習指導要領解説 外国語活動編・外国語編』開隆堂出版（平成30年2月）
（文科省HPから無料ダウンロードが可能）

授業・準備学習のアドバイス：

教科書は、毎回持参すること。
指定された箇所の予習及びハンドアウトの課題をきちんとして授業に臨むこと。
模擬授業に向けては、実際に児童に指導する状況を想定して臨むこと。
PCは必携すること。PCの使用目的は、web上で配布されるハンドアウトの学習と学内web上にあるデジタル教材を学生が個々に使用するためである。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教科教育法・外国語(英語)

クラス: 小中高/小+前2(内規科目)

授業コード: DA12800002

担当者: 眞﨑 克彦 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立小学校教諭

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)【必修】

含めることが必要な事項: 各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)

教科に関する専門的事項: 外国語 **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 1. 授業実践に必要な知識・理解: ①小学校外国語教育についての基本的な知識・理解、②子どもの第二言語習得についての知識とその活用
2. 授業実践:①指導技術、②授業づくり
3. 学習形態:①授業観察、②授業体験、③模擬授業

到達目標: 小学校外国語教育の変遷及び今後の方向性に対する目標と内容について理解する。第二言語習得についての知識とその運用能力を身につける。実践で使える英語力育成のため、「聞く」「話す」の分野に加えて、「読む」「書く」の技能の向上を目差し、教材研究やALTとのティームティーチング等の研修を充実させる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション、外国語教育導入の経緯・現状と今後の方向性
2. 新学習指導要領(外国語活動と外国語、中学校外国語科の趣旨理解)、小・中・高等学校の連携と小学校の役割
3. 子どもの第二言語習得の特徴1(明示的・暗示的学習、音声・文法・語彙等の習得、言語使用、類推、音声、ことばの面白さ)
4. 子どもの第二言語習得の特徴2(受信から発信、音声から文字へと進むプロセス、コミュニケーションの目的や場面、状況)
5. 主教材(中学年用、高学年用)、デジタル教材の活用について
6. 小学校と中学校の教材比較(デジタル教材の活用を含む)
7. 題材選定、教材研究、ICT等の活用、指導計画(1時間の授業づくり、単元計画・学習指導案、ティームティーチング)
8. 映像視聴(中学年)、英語での語りかけから、発話の引き出し方、やり取りの進め方
9. 映像視聴(高学年)、文字言語の扱い、読む活動・書く活動
10. 小・中学校の連携に関わる様々な実践例検討
11. 学習状況の評価(小学校外国語活動・外国語)、児童や学校の多様性への対応
12. 模擬授業発表・振り返り(中学年に関する取組)
13. 模擬授業発表・振り返り(中学年・高学年に関する取組)
14. 模擬授業発表・振り返り(高学年に関する取組)
15. 小学校英語教育における役割と今後の展望

特記事項: なし

授業方法: ・教科書を使った演習及び実習 (対面)
・模擬授業による演習 (対面)
1. ①外国語教育導入の経緯・現状と今後の方向性(講義)、②左記のテーマの演習(討議・実習)(対面)
2. ①新学習指導要領(外国語活動と外国語、中学校外国語科の趣旨理解)、小・中・高等学校の連携と小学校の役割(講義)、②左記のテーマの演習(討議・実習)(対面)
3. ①子どもの第二言語習得の特徴1(講義)、②左記のテーマの演習(討議・実習)(対面)
4. ①子どもの第二言語習得の特徴2(講義)、②左記のテーマの演習(討議・実習)(対面)
5. ①主教材(中学年用、高学年用)、デジタル教材の活用(講義)②左記のテーマの演習(討議・実習)(対面)
6. ①小学校と中学校の教材比較(講義)、②左記のテーマの演習(討議・実習)(対面)
7. ①題材選定、教材研究、ICT等の活用、指導計画(講義)、②左記のテーマの演習(討議・実習)(対面)
8. ①映像視聴(中学年)、英語での語りかけから、発話の引き出し方、やり取りの進め方(講義)、②左記のテーマの演習(討議・実習)(対面)
9. ①映像視聴(高学年)、文字言語の扱い、読む活動・書く活動(講義)、②左記のテーマの演習(討議・実習)(対面)
10. ①小・中学校の連携に関わる様々な実践例検討(講義)、②左記のテーマの演習(討議・実習)(対面)
11. ①学習状況の評価(小学校外国語活動・外国語)、児童や学校の多様性への対応(講義)、②左記のテーマの演習(討議・実習)(対面)
12. ①模擬授業(発表)、②模擬授業(討議・実習)(対面)
13. ①模擬授業(発表)、②模擬授業(討議・実習)(対面)
14. ①模擬授業(発表)、②模擬授業(討議・実習)(対面)
15. ①小学校英語教育における役割と今後の展望(講義、討議)(対面)

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. ①第1回の予習(教科書1章を読む)・復習、章末「学習課題」②Activity, Classroom English, 模擬授業の準備 (180分)
2. ①各回の予習・復習、学習課題、②Activity, Classroom English, 擬授業の準備 (180分)
3. ①各回の予習・復習、学習課題、②Activity, Classroom English, 模擬授業の準備 (180分)
4. ①各回の予習・復習、学習課題、②Activity, Classroom English, 模擬授業の準備 (180分)
5. ①各回の予習・復習、学習課題、②Activity, Classroom English, 模擬授業の準備 (180分)
6. ①各回の予習・復習、学習課題、②Activity, Classroom English, 模擬授業の準備 (180分)
7. ①各回の予習・復習、学習課題、②Activity, Classroom English, 模擬授業の準備 (180分)
8. ①各回の予習・復習、学習課題、②Activity, Classroom English, 模擬授業の準備 (180分)
9. ①各回の予習・復習、学習課題、②Activity, Classroom English, 模擬授業の準備 (180分)
10. ①各回の予習・復習、学習課題、②Activity, Classroom English, 模擬授業の準備 (180分)
11. ①各回の予習・復習、学習課題、②Activity, Classroom English, 模擬授業の準備 (180分)
12. ①模擬授業の準備 (90分)、②模擬授業のリフレクション (90分)
13. ①模擬授業の準備 (90分)、②模擬授業のリフレクション (90分)
14. ①各回の予習・復習、学習課題、②Activity, Classroom English, 模擬授業の準備 (180分)
15. ①各回の復習(90分)、未提出課題の確認と作成 90分)

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	− **%**	**レポート：**	30 **%**		
その他1：	Activity, Teacher Talk, 小学校英語の語彙確認	20 **%**					
その他2：	模擬授業発表	20 **%**					

評価基準：

1.「最低限の到達度(60～69点)」:教科書と参考書等を使い、毎時間の課題を期限内に提出できたか。模擬授業に参加できたか。授業するのに必要な小学校英語の語彙や表現を身に付けたか。
2.「望ましい到達度(80～100点)」:教科書と参考書等を使い、毎時間の課題を授業での理解・気づきを踏まえ期限内に提出できたか。模擬授業に中心的に参加できたか。授業内の討論に積極的に参加できたか。

課題へのフィードバック：

・フィードバックは授業の中でその都度行う。
・課題についてのフィードバックは、提出された課題にコメントして行う。

教科書：

樋口忠彦・加賀田哲也・泉恵美子・衣笠知子『最新 小学校英語教育法入門』研究社 2023年 ISBN 978-4-327-41108-4
※ テキストは、2023年に改訂されているので、間違って旧版(2017年)『新編 小学校英語教育法入門』を準備しないように。
教材はその都度提示します。

参考書：

小学校外国語活動研修ガイドブック 文部科学省
文部科学省『小学校学習指導要領』東洋館出版社（平成30年2月）
文部科学省『小学校学習指導要領解説 外国語活動編・外国語編』開隆堂出版（平成30年2月）
（文科省HPから無料ダウンロードが可能）

授業・準備学習のアドバイス：

教科書は、毎回持参すること。
指定された箇所の予習及びハンドアウトの課題をきちんとして授業に臨むこと。
模擬授業に向けては、実際に児童に指導する状況を想定して臨むこと。
PCは必携すること。PCの使用目的は、web上で配布されるハンドアウトの学習と学内web上にあるデジタル教材を学生が個々に使用するためである。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教科教育法・外国語（英語）

クラス: 小中高/小+後1（内規科目）

授業コード: DA12800003

担当者: 眞﨑 克彦 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有：公立小学校教諭

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目：教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）【必修】

含めることが必要な事項: 各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）

教科に関する専門的事項: 外国語 **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 1. 授業実践に必要な知識・理解： ①小学校外国語教育についての基本的な知識・理解、②子どもの第二言語習得についての知識とその活用
2. 授業実践：①指導技術、②授業づくり
3. 学習形態：①授業観察、②授業体験、③模擬授業

到達目標: 小学校外国語教育の変遷及び今後の方向性に対する目標と内容について理解する。第二言語習得についての知識とその運用能力を身につける。実践で使える英語力育成のため、「聞く」「話す」の分野に加えて、「読む」「書く」の技能の向上を目差し、教材研究やALTとのティームティーチング等の研修を充実させる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション、外国語教育導入の経緯・現状と今後の方向性
2. 新学習指導要領（外国語活動と外国語、中学校外国語科の趣旨理解）、小・中・高等学校の連携と小学校の役割
3. 子どもの第二言語習得の特徴1（明示的・暗示的学習、音声・文法・語彙等の習得、言語使用、類推、音声、ことばの面白さ）
4. 子どもの第二言語習得の特徴2（受信から発信、音声から文字へと進むプロセス、コミュニケーションの目的や場面、状況）
5. 主教材（中学年用、高学年用）、デジタル教材の活用について
6. 小学校と中学校の教材比較（デジタル教材の活用を含む）
7. 題材選定、教材研究、ICT等の活用、指導計画（1時間の授業づくり、単元計画・学習指導案、ティームティーチング）
8. 映像視聴(中学年)、英語での語りかけから、発話の引き出し方、やり取りの進め方
9. 映像視聴（高学年）、文字言語の扱い、読む活動・書く活動
10. 小・中学校の連携に関わる様々な実践例検討
11. 学習状況の評価(小学校外国語活動・外国語)、児童や学校の多様性への対応
12. 模擬授業発表・振り返り（中学年に関する取組）
13. 模擬授業発表・振り返り（中学年・高学年に関する取組）
14. 模擬授業発表・振り返り（高学年に関する取組）
15. 小学校英語教育における役割と今後の展望

特記事項: なし

授業方法: ・教科書を使った演習及び実習（対面）
・模擬授業による演習（対面）
1. ①外国語教育導入の経緯・現状と今後の方向性(講義)、②左記のテーマの演習（討議・実習）(対面)
2. ①新学習指導要領（外国語活動と外国語、中学校外国語科の趣旨理解）、小・中・高等学校の連携と小学校の役割(講義)、②左記のテーマの演習（討議・実習）(対面)
3. ①子どもの第二言語習得の特徴1(講義)、②左記のテーマの演習（討議・実習）(対面)
4. ①子どもの第二言語習得の特徴2(講義)、②左記のテーマの演習（討議・実習）(対面)
5. ①主教材（中学年用、高学年用）、デジタル教材の活用(講義)②左記のテーマの演習（討議・実習）(対面)
6. ①小学校と中学校の教材比較(講義)、②左記のテーマの演習（討議・実習）(対面)
7. ①題材選定、教材研究、ICT等の活用、指導計画(講義)、②左記のテーマの演習（討議・実習）(対面)
8. ①映像視聴(中学年)、英語での語りかけから、発話の引き出し方、やり取りの進め方(講義)、②左記のテーマの演習（討議・実習）(対面)
9. ①映像視聴（高学年）、文字言語の扱い、読む活動・書く活動(講義)、②左記のテーマの演習（討議・実習）(対面)
10. ①小・中学校の連携に関わる様々な実践例検討(講義)、②左記のテーマの演習（討議・実習）(対面)
11. ①学習状況の評価(小学校外国語活動・外国語)、児童や学校の多様性への対応(講義)、②左記のテーマの演習（討議・実習）(対面)
12. ①模擬授業(発表)、②模擬授業(討議・実習)（対面）
13. ①模擬授業(発表)、②模擬授業(討議・実習)（対面）
14. ①模擬授業(発表)、②模擬授業(討議・実習)（対面）
15. ①小学校英語教育における役割と今後の展望(講義、討議)（対面）

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. ①第1回の予習(教科書1章を読む)・復習、章末「学習課題」②Activity, Classroom English, 模擬授業の準備 (180分)
2. ①各回の予習・復習、学習課題、②Activity, Classroom English, 擬授業の準備 (180分)
3. ①各回の予習・復習、学習課題、②Activity, Classroom English, 模擬授業の準備 (180分)
4. ①各回の予習・復習、学習課題、②Activity, Classroom English, 模擬授業の準備 (180分)
5. ①各回の予習・復習、学習課題、②Activity, Classroom English, 模擬授業の準備 (180分)
6. ①各回の予習・復習、学習課題、②Activity, Classroom English, 模擬授業の準備 (180分)
7. ①各回の予習・復習、学習課題、②Activity, Classroom English, 模擬授業の準備 (180分)
8. ①各回の予習・復習、学習課題、②Activity, Classroom English, 模擬授業の準備 (180分)
9. ①各回の予習・復習、学習課題、②Activity, Classroom English, 模擬授業の準備 (180分)
10. ①各回の予習・復習、学習課題、②Activity, Classroom English, 模擬授業の準備 (180分)
11. ①各回の予習・復習、学習課題、②Activity, Classroom English, 模擬授業の準備 (180分)
12. ①模擬授業の準備 (90分)、②模擬授業のリフレクション (90分)
13. ①模擬授業の準備 (90分)、②模擬授業のリフレクション (90分)
14. ①各回の予習・復習、学習課題、②Activity, Classroom English, 模擬授業の準備 (180分)
15. ①各回の復習(90分)、未提出課題の確認と作成 90分)

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	− **%**	**レポート：**	30 **%**		
その他1：	Activity, Teacher Talk, 小学校英語の語彙確認	20 **%**					
その他2：	模擬授業発表	20 **%**					

評価基準：

1.「最低限の到達度(60～69点)」:教科書と参考書等を使い、毎時間の課題を期限内に提出できたか。模擬授業に参加できたか。授業するのに必要な小学校英語の語彙や表現を身に付けたか。
2.「望ましい到達度(80～100点)」:教科書と参考書等を使い、毎時間の課題を授業での理解・気づきを踏まえ期限内に提出できたか。模擬授業に中心的に参加できたか。授業内の討論に積極的に参加できたか。

課題へのフィードバック：

・フィードバックは授業の中でその都度行う。
・課題についてのフィードバックは、提出された課題にコメントして行う。

教科書：

樋口忠彦・加賀田哲也・泉恵美子・衣笠知子『最新 小学校英語教育法入門』研究社 2023年 ISBN 978-4-327-41108-4
※ テキストは、2023年に改訂されているので、間違って旧版(2017年)『新編 小学校英語教育法入門』を準備しないように。
教材はその都度提示します。

参考書：

小学校外国語活動研修ガイドブック 文部科学省
文部科学省『小学校学習指導要領』東洋館出版社（平成30年2月）
文部科学省『小学校学習指導要領解説 外国語活動編・外国語編』開隆堂出版（平成30年2月）
（文科省HPから無料ダウンロードが可能）

授業・準備学習のアドバイス：

教科書は、毎回持参すること。
指定された箇所の予習及びハンドアウトの課題をきちんとして授業に臨むこと。
模擬授業に向けては、実際に児童に指導する状況を想定して臨むこと。
PCは必携すること。PCの使用目的は、web上で配布されるハンドアウトの学習と学内web上にあるデジタル教材を学生が個々に使用するためである。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教科教育法・外国語(英語)

クラス: 小中高/小+後2(内規科目)

授業コード: DA12800004

担当者: 眞﨑 克彦 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立小学校教諭

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)【必修】

含めることが必要な事項: 各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)

教科に関する専門的事項: 外国語 **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 1. 授業実践に必要な知識・理解: ①小学校外国語教育についての基本的な知識・理解、②子どもの第二言語習得についての知識とその活用
2. 授業実践:①指導技術、②授業づくり
3. 学習形態:①授業観察、②授業体験、③模擬授業

到達目標: 小学校外国語教育の変遷及び今後の方向性に対する目標と内容について理解する。第二言語習得についての知識とその運用能力を身につける。実践で使える英語力育成のため、「聞く」「話す」の分野に加えて、「読む」「書く」の技能の向上を目差し、教材研究やALTとのティームティーチング等の研修を充実させる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション、外国語教育導入の経緯・現状と今後の方向性
2. 新学習指導要領(外国語活動と外国語、中学校外国語科の趣旨理解)、小・中・高等学校の連携と小学校の役割
3. 子どもの第二言語習得の特徴1(明示的・暗示的学習、音声・文法・語彙等の習得、言語使用、類推、音声、ことばの面白さ)
4. 子どもの第二言語習得の特徴2(受信から発信、音声から文字へと進むプロセス、コミュニケーションの目的や場面、状況)
5. 主教材(中学年用、高学年用)、デジタル教材の活用について
6. 小学校と中学校の教材比較(デジタル教材の活用を含む)
7. 題材選定、教材研究、ICT等の活用、指導計画(1時間の授業づくり、単元計画・学習指導案、ティームティーチング)
8. 映像視聴(中学年)、英語での語りかけから、発話の引き出し方、やり取りの進め方
9. 映像視聴(高学年)、文字言語の扱い、読む活動・書く活動
10. 小・中学校の連携に関わる様々な実践例検討
11. 学習状況の評価(小学校外国語活動・外国語)、児童や学校の多様性への対応
12. 模擬授業発表・振り返り(中学年に関する取組)
13. 模擬授業発表・振り返り(中学年・高学年に関する取組)
14. 模擬授業発表・振り返り(高学年に関する取組)
15. 小学校英語教育における役割と今後の展望

特記事項: なし

授業方法: ・教科書を使った演習及び実習 (対面)
・模擬授業による演習 (対面)
1. ①外国語教育導入の経緯・現状と今後の方向性(講義)、②左記のテーマの演習(討議・実習)(対面)
2. ①新学習指導要領(外国語活動と外国語、中学校外国語科の趣旨理解)、小・中・高等学校の連携と小学校の役割(講義)、②左記のテーマの演習(討議・実習)(対面)
3. ①子どもの第二言語習得の特徴1(講義)、②左記のテーマの演習(討議・実習)(対面)
4. ①子どもの第二言語習得の特徴2(講義)、②左記のテーマの演習(討議・実習)(対面)
5. ①主教材(中学年用、高学年用)、デジタル教材の活用(講義)②左記のテーマの演習(討議・実習)(対面)
6. ①小学校と中学校の教材比較(講義)、②左記のテーマの演習(討議・実習)(対面)
7. ①題材選定、教材研究、ICT等の活用、指導計画(講義)、②左記のテーマの演習(討議・実習)(対面)
8. ①映像視聴(中学年)、英語での語りかけから、発話の引き出し方、やり取りの進め方(講義)、②左記のテーマの演習(討議・実習)(対面)
9. ①映像視聴(高学年)、文字言語の扱い、読む活動・書く活動(講義)、②左記のテーマの演習(討議・実習)(対面)
10. ①小・中学校の連携に関わる様々な実践例検討(講義)、②左記のテーマの演習(討議・実習)(対面)
11. ①学習状況の評価(小学校外国語活動・外国語)、児童や学校の多様性への対応(講義)、②左記のテーマの演習(討議・実習)(対面)
12. ①模擬授業(発表)、②模擬授業(討議・実習)(対面)
13. ①模擬授業(発表)、②模擬授業(討議・実習)(対面)
14. ①模擬授業(発表)、②模擬授業(討議・実習)(対面)
15. ①小学校英語教育における役割と今後の展望(講義、討議)(対面)

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. ①第1回の予習(教科書1章を読む)・復習、章末「学習課題」②Activity, Classroom English, 模擬授業の準備 (180分)
2. ①各回の予習・復習、学習課題、②Activity, Classroom English, 擬授業の準備 (180分)
3. ①各回の予習・復習、学習課題、②Activity, Classroom English, 模擬授業の準備 (180分)
4. ①各回の予習・復習、学習課題、②Activity, Classroom English, 模擬授業の準備 (180分)
5. ①各回の予習・復習、学習課題、②Activity, Classroom English, 模擬授業の準備 (180分)
6. ①各回の予習・復習、学習課題、②Activity, Classroom English, 模擬授業の準備 (180分)
7. ①各回の予習・復習、学習課題、②Activity, Classroom English, 模擬授業の準備 (180分)
8. ①各回の予習・復習、学習課題、②Activity, Classroom English, 模擬授業の準備 (180分)
9. ①各回の予習・復習、学習課題、②Activity, Classroom English, 模擬授業の準備 (180分)
10. ①各回の予習・復習、学習課題、②Activity, Classroom English, 模擬授業の準備 (180分)
11. ①各回の予習・復習、学習課題、②Activity, Classroom English, 模擬授業の準備 (180分)
12. ①模擬授業の準備 (90分)、②模擬授業のリフレクション (90分)
13. ①模擬授業の準備 (90分)、②模擬授業のリフレクション (90分)
14. ①各回の予習・復習、学習課題、②Activity, Classroom English, 模擬授業の準備 (180分)
15. ①各回の復習(90分)、未提出課題の確認と作成 90分)

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	− **%**	**レポート：**	30 **%**		
その他1：	Activity, Teacher Talk, 小学校英語の語彙確認	20 **%**					
その他2：	模擬授業発表	20 **%**					

評価基準：

1.「最低限の到達度(60～69点)」:教科書と参考書等を使い、毎時間の課題を期限内に提出できたか。模擬授業に参加できたか。授業するのに必要な小学校英語の語彙や表現を身に付けたか。
2.「望ましい到達度(80～100点)」:教科書と参考書等を使い、毎時間の課題を授業での理解・気づきを踏まえ期限内に提出できたか。模擬授業に中心的に参加できたか。授業内の討論に積極的に参加できたか。

課題へのフィードバック：

・フィードバックは授業の中でその都度行う。
・課題についてのフィードバックは、提出された課題にコメントして行う。

教科書：

樋口忠彦・加賀田哲也・泉恵美子・衣笠知子『最新 小学校英語教育法入門』研究社 2023年 ISBN 978-4-327-41108-4
※ テキストは、2023年に改訂されているので、間違って旧版(2017年)『新編 小学校英語教育法入門』を準備しないように。
教材はその都度提示します。

参考書：

小学校外国語活動研修ガイドブック 文部科学省
文部科学省『小学校学習指導要領』東洋館出版社（平成30年2月）
文部科学省『小学校学習指導要領解説 外国語活動編・外国語編』開隆堂出版（平成30年2月）
（文科省HPから無料ダウンロードが可能）

授業・準備学習のアドバイス：

教科書は、毎回持参すること。
指定された箇所の予習及びハンドアウトの課題をきちんとして授業に臨むこと。
模擬授業に向けては、実際に児童に指導する状況を想定して臨むこと。
PCは必携すること。PCの使用目的は、web上で配布されるハンドアウトの学習と学内web上にあるデジタル教材を学生が個々に使用するためである。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 日本語学概論

クラス: 小中高/国

授業コード: DA20001001

担当者: 近藤 要司 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 国語)【必修】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む。) **一般的包括的科目:** ○

授業の目的: 日本語をさまざまな側面から観察することにより、言語の仕組みや働きを理解し、日本語の特徴を把握する。また、日本語を観察することで、日本文化についての理解を深める。

到達目標:
1. 世界の言語の中での日本語の位置付けを理解する。
2. 音声の基本的な記述方法を学び、日本語の音節やアクセントの特徴を理解する。
3. 全国の方言の概要を理解し、自分たちの方言の特徴を理解する。
4. 日本語の複雑な表記体系を理解し、そうなった事情を理解する。
5. 日本語の品詞の特徴を把握する。
6. 敬語の種類や敬語が用いられる場面の特徴について理解する。
7. 日本語の語彙体系を理解し、形態と語構成の関係を理解する。

各回の授業計画:

1. 導入「この授業の説明」「第1章 総論」
2.「第2章 音声・音韻 1 音声と音韻」
3.「第2章 2 音節と音節構造」
4.「第2章 3 アクセント、4 イントネーションとプロミネンス」:音声音韻

確認テスト1
確認テストの解説

5.「第3章 1 文字とは、2 漢字」
6.「第3章 3 仮名、4 ローマ字」
7.「第3章 5 表記法」
8.「第4章 1 単語と語構成、2 意味」
9.「第4章 3 語構成と造語法、4 語種、5 語彙量・辞書」:文字表記語彙

確認テスト2
確認テストの解説

10.「第5章 1 文のしくみ、2 品詞論」
11.「第5章 3 態、4 テンス・アスペクト・モダリティ」
12.「第3章 5 主題ととりたて、6 複文」
13.「第6章 1 待遇表現、2 位相語」
14.「第6章 3 文章・文体、5 日本語教育」
15.「第7章 日本語の研究、7.2 日本語研究の諸相」:今期を振り返って
確認テスト3
確認テストの解説

特記事項: なし

授業方法: 対面授業。
講義形式で行う。
テキストに従ってすすめるが、補足説明などはパワーポイントで表示する。
パワーポイントの内容をすべて筆記する必要はない。
筆記する必要のある場合にはそのように指示する。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

・講義の予習復習(1〜15回 合計 2250分)
(1)授業前に、テキストをよく読む。その中で「自分が知っていること」「自分が知らなかったこと」「テキストの説明だけでは理解できないこと」

をピックアップする。(30分程度)
(2)予習課題として、テキストの内容に関する簡単な課題を出題するので、授業までに答えてteamsで提出すること。
(3)授業の後は、「重要な項目はどれだったのか」「それについて、教員はどう説明したか」「既習項目とどう関連するのか」などを中心にノートをまとめること。(90分)
・確認テストの準備(3回 合計 450分)
(4)確認テストの前には(3)で作成したノートを中心に、充分復習すること。(120分)
(5)確認テスト後に、教員が解説するので、それを元に、自分の学習の足りなかった点や誤解していた部分を復習すること。(30分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	30	**%**	**確認テスト:**	70	**%**	**レポート:**	- **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準:
授業前の課題と出席で30点分の評価をする。
3回の確認テストについて、70点で採点する。
出席は授業の前提である。出席状況が悪いものには単位を与えない。

望ましい到達度(15～23点)
テキストでの記述や授業での説明について、内容を理解し的確に記述している。
最低限の到達度(10～15点)
テキストでの記述や授業での説明について、ある程度触れている。

課題へのフィードバック:
確認テストの次週に、内容について解説する。
欠席した人や、著しく点数の低かった人については、復習のレポートを提出してもらう。(相応の出席をしている人に限る)

教科書: 沖森卓也編『日本語概説[改訂版]』朝倉書店

参考書:
金田一春彦「日本語 上下」(岩波新書)
田中克彦「ことばと国家」(岩波新書)
井上史雄「日本語ウォッチング」(岩波新書)
鈴木孝夫「日本語と外国語」(岩波新書)

授業・準備学習のアドバイス:
①確認テストは対面の筆記試験です。
②参考文献にあげた「日本語ウォッチング」「日本語と外国語」は大変参考になります。今学期中に読むことをおすすめします。
③予習課題はテキストを読めば簡単に答えられる問題です。テキストを読んでから答えてください。テキストを読まずに、課題をそのまま生成AIにまるなげして解答を作成すると何も学んだことになりません。確認テストは筆記式なのでそのときに苦労しますよ。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 日本語表現法

クラス: 小中高/国

授業コード: DA20002001

担当者: 大村 誠一郎 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 国語)【必修】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む。) **一般的包括的科目:** ○

授業の目的: 言いたいことが人に伝わるわかりやすい文章を書く技術を学ぶ。
レポートや論文といった論理的な文章や、人に読んでもらうことになる意見文書くための文章技術を身につける。

到達目標: 論文やレポート、意見文や自己PR文、メールで、学んだことを活かしてわかりやすくよく伝わる文章が書けるようになること。

各回の授業計画:

1. 文章を書く構え
・わかりやすい文章とはどういうものかを講義。
・演習として、「私の生まれ育った街」について書く。

2. 読んだ人の印象に残るわかりやすい文章を書く
・前回提出された文章から添削例を示し、どういうところを直せば「わかりやすく」なるのかを具体的に考える。
・演習として、前回書いた「私の生まれ育った街」を添削例等を参考にしながら推敲。そして、推敲前と後でどう違うのか確認。

3. 事実と意見の区別1
・事実と意見を分けることの重要性。
・演習として、イラスト事例を見て文章を作成。
・事例のイラストに基づく文章を与えるので、問題点を考える。続いて、自分の作成した文章で事実と意見の識別を行い、問題点の確認を行う。

4. 事実と意見の区別2
・事実と意見を分けることの重要性。
・演習として、写真資料を見て事実と言えることと意見になることを識別する。そして、写真資料を説明する文章を作成する。
・今回は、引用と事実についても学ぶ。

5. 段落
・演習として、段落構成を意識して「じゃんけんの説明」を書く。

6. 構成を考えて書く1
・前回の課題作文を振り返る。
・トピックセンテンスについて学ぶ。
・演習として、構成を意識した課題作文に取り組む。課題は「ファストフード」。

7. 構成を考えて書く2。
・今回は引用についても学ぶ。
・引用の練習。内容を要約する引用の練習も行う。
・演習として、前回の課題作文「ファストフード」に文献からの引用を加える。

8. 構成を考えて書く3
・構成を意識して課題作文を行う。
・この課題作文では、文献引用も行う。
・演習課題は「血液型による性格判断について」。与えられた文献の引用を実際に行って文章を作成する。

9. 自分の考えや意見を述べる1
・自分の意見を述べるにあたっては、問題になっていることを正確に理解し、それについてのいろいろな意見について知っておく必要もある。
・今回の演習は、ある問題についての専門家の意見を読んで、その意見をまとめる。

10. 自分の考えや意見を述べる2
・資料の引用や対立する意見もふまえつつ、自分の意見や考えを述べる作文。
・演習課題は「電車の中のマナー」とする。

11. 自分の考えや意見を述べる3
・添削例を示す。添削例や個別に与えた指摘を参考に、前回の課題の文章を推敲して完成させる。

12. 調べて書く意見文(レポート)1
・文章の論理についての講義
・近時、社会問題に対し専門家が示すマスメディア上の意見とSNS上の意見が対立関係で言われることがあった。2024年の兵庫県知事選挙はその問題が先鋭化した場でも
あった。この問題に対し 意見文を書くことを今回の講義の最終レポート課題とする。
・今回は、作成する意見文(レポート)の構想や段落構成、参考資料、様々な意見に関する覚書きを作成。

13. 調べて書く意見文(レポート)2
・前回まとめた構想メモや覚書きに基づいて意見文を作成。
14. 調べて書く意見文(レポート)3
・作成した意見文(レポート)を、「わかりやすい文章表現」の観点から推敲する。

15. まとめ

特記事項: なし

授業方法: 対面による講義と演習
文章作成段階では、オンラインで行う場合がある。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

下記について予習復習を繰り返すこと。(1学期で2700分必要です)
・各回の課題は、次回授業前々日までに提出。
・最終レポート(2400字程度)の準備と作成。

評価方法:

授業へのとりくみ:	60	**%**	**確認テスト:**	−	**%**	**レポート:**	40 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: 授業で課した課題
最低限の到達度(60～69点)
破綻のない論理的な文章、わかりやすく人によく伝わる文章になっていること。
望ましい到達度(80～100点)
破綻のない論理的な文章、わかりやすく人によく伝わる文章になっていることに加えて、十分な内容、興味深い知見や考えが書かれていること。

レポート40点は、最終レポート(2400字程度)について採点する。
最低限の到達度(60～69点)
指定要求字数を満たしており、誤字・誤変換・脱字、引用の仕方などに問題のない文章が書ける。
望ましい到達度(80～100点)
表現だけでなく、内容も含めてわかりやすく説得力のある文章になっている。

課題へのフィードバック:

レポート等にはコメントして返却する。

教科書: なし

参考書: 作家や文筆家、研究者による「文章読本」「文章の書き方」「論文の書き方」といった本があります。近年は文章の書き方に関する実用書も増えました。探して読んでみるのも勉強になります。

授業・準備学習のアドバイス:

論理的な文章、わかりやすい文章、いい文章を書くことに自覚的になろう。

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 文章の技術

クラス: 小中高/国

授業コード: DA20003001

担当者: 大村 誠一郎 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 国語)【選択】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む。) **一般的包括的科目:** ×

授業の目的: 文章語が口頭語と大きく異なるのは言うまでもないが、若い人には苦手意識もあると思われる。文章を書く上で必要な能力には多くのものがあるが、比較的学習によって身につけやすく、簡潔で明瞭な文章を書く上で不可欠なものは漢字、漢語の知識であろう。日本語の文章中での漢字、漢語の運用力がどの程度身についているか、客観的に測れる物差しとして日本漢字能力検定協会の試験(漢検)があるので、その練習問題(2級)を用い、文章力の底上げをする。

到達目標: 漢字、漢語(熟語)、四字熟語(故事成語)等について、理解を確かなものとする。同音、同訓字の使い分けや、送り仮名の付け方等、実際に日本語の文章を書く時に迷う点について、正しい知識を持ち、正確な文章が書けるようになることを目指す。

各回の授業計画:

1. 漢字について(概説。常用漢字について)
2. 漢字の読み(音読み。中国での音、四声。日本の漢字音)
3. 漢字の読み(訓読み。日本語の文章中での漢字)
4. 漢字の読み(熟字訓等)
5. 漢字の部首1(漢字の成り立ちを知る)
6. 漢字の部首2(さまざまな部首)
7. 熟語の構成1(熟語の知識を確かなものに)
8. 熟語の構成2(字義を考える)
9. 対義語・類義語(豊かな表現のために)
10. 四字熟語1(四字熟語とは?)
11. 四字熟語2(含蓄のある文章を書く)
12. 送りがな(読み間違われない文章を書くために)
13. 書きとり1(同音・同訓字の書き分け)
14. 書きとり2(点・画に注意)
15. まとめと確認テスト(漢字学習全般についての注意点)

特記事項: なし

授業方法: 対面による講義とドリル学習

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 漢字の成り立ちについて、漢和辞典の付録や、概説書などで理解しておく(復習、120分)
各自の用いる漢和辞典の凡例を読み、漢和辞典の使い方に習熟しておく(予習、60分)
2. 呉音、漢音、唐音の違いについて確認する。「音読み」の箇所の残りの問題を解く(復習180分)
3. 日本での漢字の受容について確認する。「訓読み」の箇所の残りの問題を解く(復習180分)
4. 「熟字訓」の箇所の残りの問題を解く。巻末の付表を見て、読めるようにしておく(復習180分)
5. 部首についての理解を確かなものにする。部首一覧表を繰り返し見て、覚えられるようにする(復習180分)
6. 「部首」の箇所の残りの問題を解く(復習180分)
7. 熟語の構成について確認する。身の回りの文章中の熟語について、その構成を考えてみる(復習180分)
8. 「熟語の構成」の箇所の残りの問題を解く(復習180分)
9. 「対義語・類義語」の箇所の残りの問題を解く(復習180分)
10. イントロ部分を繰り返し読み、四字熟語についての理解を深める。そこに紹介されているものについては、成り立ちとともに覚える(復習180分)
11. 「四字熟語」の箇所の残りの問題を解く。故事成語は成り立ちも確認する(復習180分)
12. 「送り仮名」の箇所の残りの問題を解く(復習180分)
13. 「同音・同訓異字」の箇所の残りの問題を解く(復習180分)
14. 「書き取り」の箇所の残りの問題を解く(復習180分)
15. テキストの「実力完成問題」を解く(復習180分)

評価方法：	授業へのとりくみ：	20 %	確認テスト：	50 %	レポート：	－ %
	その他1：	授業中に実施する小テスト		30 %		
	その他2：			%		

評価基準： 【最低限の到達度（60～69点）】
・授業へのとりくみ 授業内での演習等に取り組む。
・確認テスト 6割以上の点数が取れている。
・授業中の小テスト（30点満点で3回実施）で6割以上の点数が取れている。

【望ましい到達度（80～100点）】
・授業へのとりくみ 授業内での演習等に、質疑も含めて積極的に参加している。
・確認テスト 8割以上の点数が取れている。
・授業中の小テスト（30点満点で3回実施） で8割以上の点数が取れている。

課題へのフィードバック：

授業中テストは採点して返却。

教科書： 漢検分野別問題集2級（日本漢字能力検定協会）。

参考書： 漢和辞典、国語辞典を参照すること。手持ちのもので良いが、漢和辞典は必携。毎時間必ず持参するように。

授業・準備学習のアドバイス：

ドリルを授業中にすべてこなすのは本来無理であり、また授業中に行うドリルは、答え合わせに加えて、受講者からの質問に答えることも重視する。授業中に取り上げられなかった問題は、各自自分で学習すること。その際漢和辞典や国語辞典を参照すること。テキストの既習部分を範囲として授業中小テストを3回実施する。確認テストは、テキスト全体を範囲として出題する。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 話し方の技術

クラス: 小中高/国

授業コード: DA20004001

担当者: 坪内 美樹 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:中小企業大学校「コミュニケーション講座」講師(商工会・商工会議所・商工会連合会の経営指導員対象)、兵庫県立教育研修所「言葉のトレーニング講座」講師(小・中・高等学校教師対象)、香川大学「eラーニングの講座に向けての話し方研修」講師(教授・准教授・講師対象)、小学校における「コミュニケーションについての特別授業・講座」講師(小学生・保護者対象)、商工会・商工会議所・官公庁・学校・保育園・幼稚園・郵便局・病院・介護施設・ホテル・一般企業における「コミュニケーション・話し方研修」講師

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 国語)【選択】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む。) **一般的包括的科目:** ×

授業の目的:
1. 自分の思いや考えをわかりやすく伝える話し方、相手の心をつかむ聴き方を身に付け、コミュニケーション力を磨く。
2. 自分の声を好きになり、話すことの楽しさを知る。話すことへの抵抗感をなくす。
3. 話すこと(会話・スピーチ)を通して、自己表現ができるようになる。

到達目標:
1. 相手にしっかり届く発声・発音の仕方、話し方の基本を学び、実践する。
2. スピーチやリポート実習を通して、情報を整理し、わかりやすく伝える。
3. 自分の意見をまとめ、楽しみながらスピーチする。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション(授業の進め方、課題の提出方法、評価の仕方について)
2. 話すための基礎づくり (呼吸法、発声・発音、表情トレーニング)
3. 聴きやすい話し方(声のトーン、大きさ、スピード、間の取り方)
4. 愛される話し方(コミュニケーションの意識を持って、話し方を考える)
5. 言葉の選び方(書き言葉と話し言葉、プラスの言葉とマイナスの言葉)
6. 言葉のストックの増やし方「読む」「聴く」「使う」
7. 話すための文章の作り方(1)印象に残る自己紹介を考えよう
 ＊自己紹介の文章を考える上での心得、文章の作り方、作った文章を覚えて話すための方法などについて講義
 ＊翌週のリポート実習に向けての準備
8. 話すための文章の作り方(2)対象を決めてリポートしよう
 ＊講義とグループワーク。リポート内容は事前に準備。
9. 自己PRスピーチ発表「魅力的な自己紹介をしよう!」
 ＊基本的に、全員行う。この回で発表できなかった場合は、次の授業の時に行う。
10. インタビューワーク(1)講義 相手の話を引き出す聴き方・話し方・質問力
11. インタビューワーク(2)ペアワーク 聴き出した情報をわかりやすく伝える(伝達力)
 ＊相手のいいところを見つけるためのインタビューであることを意識し、しっかり話を聴く。
 ＊見つけた良さを、相手にフィードバックする。
12. グループディスカッション 講義とワーク(他の人の言葉を聴いて考えを深め、自分の言葉で表現する)
 ＊グループで、二つのテーマからどちらか一つを選び、ディスカッションを行う。
 ＊話し合った内容を、グループごとに発表する。
13. スピーチ発表に向けて 講義と個別の質問タイム
14. スピーチ発表(「話し方の技術」の確認テストとして実施)と講義
 ＊学籍番号順に発表。今回発表できなかった場合は、次回の授業で行う。
15. スピーチ発表(「話し方の技術」の確認テスト、前回受けられなかった方が対象)と講義
 ＊敬語の基本と使い方
 ＊コミュニケーション力の磨き方
 ＊全体のまとめ

特記事項: なし

授業方法: 講義 テキストとパワーポイントの資料を用い、すべて対面で行う。
実習 状況判断をしつつ、感染症対策を行った上で、可能であればペアワーク、グループワークを行う。
発表 状況判断をしつつ、感染症対策を行った上で、スピーチテストを含め、授業内での発表を行う。受講生へのフィードバックのため、動画を撮る場合もある。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

・一学期間で2700分の授業時間外学習が必要であることをふまえての、課題への取り組みと授業への準備。
・発声・発音については、日常のミニレッスン（1分程度）をできれば継続。
・話し方の基本となる呼吸法「福式呼吸（腹式呼吸）」については、できれば毎日実践する。
・各回の課題を通して、内容を復習する。課題は期限内に提出するのが望ましいが、遅れてもいいので、できるだけ取り組み、提出する。

評価方法：

授業へのとりくみ：	50	**%**	**確認テスト：**	50	**%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準：

＜最低限の到達度（60～69点）＞
・授業を聴き、学んだことを実践する。
・教師からの質問、グループ内での発表に対して、笑顔で対応できる。
・予習復習をおこなっている。
・課題への取り組みができ、期限に遅れても提出している。

＜望ましい到達度（80～100点）＞
・意欲的に受講し、学んだことを継続して実践する。
・教師からの質問、グループ内での発表に対して、笑顔で、自分の言葉で意見を述べることができる。
・相手の言葉をしっかり聴き、自分の思い、考えを伝えることができる。
・情報をまとめ、わかりやすく伝えることができる。
・課題への十分な取り組みができ、期限内に提出している。
・授業で学んだ発声・発音を身につけ、話すときに使えている。

課題へのフィードバック：

一人一人に向けたアドバイスも含め、実習、発表に対し解説を加える。

教科書：

『ハッピーボイス健康法～声から広がるコミュニケーション』（あいり出版）
話し方の基本である呼吸法・発声・発音のテキストとして、授業で使用。
話し方のスキルアップにつながる音読用テキストとして、課題において使用。

その他、必要に応じてワークシートや資料を配布。

参考書：

なし

授業・準備学習のアドバイス：

「話し方の技術」は、話すことで、より自分を魅力的にすることを学び、実践していただく授業です。
講義も行いますが、実習・発表も取り入れた参加型です。楽しむ気持ちが、声や言葉の豊かさを育てます。
最初は話すことに自信がなくてもいいのです（私もそうでしたが、今は楽しんでいます）。
難しいことをする必要もありません。「上手に話そう」ではなく「伝えることを楽しもう！」と思って参加してください。
授業の中では「何か一言でも話そう」（返事でもいいのです）「意見を言ってみよう」と思い、動いてみてください。
学生時代においても社会人になっても、人とのコミュニケーションは大切です。そのためにも「あなただけの声」「思いを伝える言葉」を磨いてください。

＊実習が入りますので、毎回出席確認を行います。
＊講義中心の回でも、ワークが入る場合があります。
＊講義の中で「お役立ちミニ情報」を、適宜紹介いたします。
＊課題として、自己紹介などのショート動画（スマホの自撮りOK）の提出もあります。
＊疑問・質問は、授業中、終了後も随時受け付けいたします。チャットでの質問も受け付けいたします。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 日本語文法(古典)

クラス: 小中高/国

授業コード: DA20010001

担当者: 小山 智久 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立高等学校教諭

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 国語)【選択】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む。) **一般的包括的科目:** ×

授業の目的: 用言の活用で基本を学び、文語の助動詞で使い方が似ているものを取り上げ、その違いを論ずることにより、文語文法への理解を深め、より深い古文の解釈ができるようになる。
本講義では、古典文法にとどまらず、『源氏物語』の音読、重要古語の整理なども併せて行い、古典の読解力全般の向上を目指す。

到達目標:
1. 古代語の発音の変遷と歴史的仮名遣いの関連が理解できる。
2. 古代語の活用体系と現代語の活用体系の違いを体得する
3.「ツ・ヌ・タリ・リ・キ・ケリ」という古代語の過去完了の助動詞の体系と現代語の「テイル、タ」という体系の関連を理解する。
4. 古代語の推定推量表現と現代語の推定推量表現について、その体系を理解し、場面に応じた現代語訳ができるようになる。
5. 古代語の待遇表現の体系を理解し、場面の理解に役立てるようにする。

各回の授業計画:

1. 導入 歴史的仮名遣いの復習
2. 文語文法の概要1 動詞文・形容詞文・名詞文 否定文・過去文・推量文
3. 文語文法の概要2 動詞の活用の違い(二段活用)・文語の敬語
4. 形容詞・形容動詞の活用
5. 活用形の用法
6. 述語文節の品詞分解1
7. 述語文節の品詞分解2 レポート課題(1)主に「用言の活用」
8. 過去完了の助動詞1 現代語の時制と古代語の時制
9. 過去完了の助動詞2 リとタリ テイルの成立
10. 過去完了の助動詞3 ツとヌ
11. 過去完了の助動詞4 キとケリ レポート課題(2)「主に古代語のテンスを表す助動詞」
12. 推定推量の助動詞1 ムとラム・マシ
13. 推定推量の助動詞2 ベシとマジ
14. 推定推量の助動詞3 ナリとメリ レポート課題(3)「助動詞のまとめ」
15. 終助詞・副助詞 まとめ

特記事項: なし

授業方法: (授業方法)全て【対面】講義
授業の初めに古典文学の音読をする。Teamsに予習資料をuploadするので、授業の前にかならず声を出して音読すること。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

下記の指示にしたがって予習復習レポートの準備を行うこと。これらには1学期間で2700分必要である。
(1)教科書や授業スライドを見る。その中で「自分が知っていること」「自分が知らなかったこと」「資料の説明だけでは理解できないこと」をピックアップする。また、例文については音読をする。(30分程度)
(2)配布資料の中に練習問題がある場合、予習の段階でできる課題については解答する。(40分程度)
(3)復習:学習した助動詞について、教科書や授業で用いる資料を見て復習する。その際には
・何形につく助動詞か
・どんなタイプの活用をするのか
・現代語ではどのような訳し方をすればよいのか、を復習する。
・課題について解答を作成し提出する(90分)
(4)古典文学の音読資料については、Teamsの資料を参考にして音読する。その際には、口語訳等を調べておく。(20分程度)
(5)(レポート前のみ)授業内容の区切りごとに授業内に小テスト形式でレポートを課すので、レポート課題をまとめるために、事前に(3)で作成したまとめを中心に、充分復習する。(120分)
(6)(レポート後のみ)レポート提出後に解説するので、それを元に、自分の学習の足りなかった点や誤解していた部分を復習する。(60分)

評価方法：	授業へのとりくみ：	50 %	確認テスト：	－ %	レポート：	50 %
	その他1：			%		
	その他2：			%		

評価基準： 3つの課題レポートが50点分である。
(1)品詞分解 以下のような基準で採点する。
A 文語の品詞分解が十分にできる
B 文語の品詞分解について理解している
C 文語の品詞分解について最低限の知識がある
D 文語の品詞分解についての知識が不十分である。

課題へのフィードバック：
レポート提出後に内容の解説をする。

教科書： 数研出版編集部編「ミクサ古典文法」(数研出版)

参考書： 高等学校で使用した古典文法関連の副教材
小田勝「古代日本語文法」ちくま学芸文庫

授業・準備学習のアドバイス：
レポート提出後に内容の解説をする。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ)：
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 日本語音声学

クラス: 小中高/国

授業コード: DA20012001

担当者: 酒井 純 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 国語)【必修】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む。) **一般的包括的科目:** ○

授業の目的: 現代日本語の音声について基本的な知識を習得するとともに、音声学・音韻論の基礎について学ぶ。

到達目標:
1. 音声とは何かについて説明できる。
2. 現代日本語の音声の特徴について説明できる。
3. 基本的なIPA(音声記号)について説明できる。
4. 実際の音声を聞き取ってIPAで表記できる。

各回の授業計画:

1. イントロダクション:講義の概説、言語と音声
2. 言語学と音声学・音韻論:音声学の位置づけ、言語学の基礎知識
3. 音声のしくみ:音声の調音方法と種類
4. 音声記号:国際音声字母
5. 母音(1):母音の表記方法と種類
6. 母音(2):日本語で用いられる母音
7. 子音(1):子音の表記方法と種類
8. 子音(2):日本語で用いられる子音
9. パソコン、スマホ等を用いた、音声分析
10. 音節とモーラ:日本語の音節とモーラ
11. 音韻論:音素の同定、最小対、超分節要素、アクセントとイントネーション
12. アクセント:アクセントの種類、日本語のアクセントの4種類
13. イントネーション:イントネーション、リズム、速さ、ポーズ
14. 日本語の音韻変化:音位転換、同化、連濁、連声、音便
15. 日本語の音声についてのまとめと確認テスト

特記事項: なし

授業方法:
1. ガイダンス、講義【対面】
2.~14. 講義【対面】
15. 講義、発音テスト【対面】

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1 講義の復習(60分)
2 予習(60分)音声についての復習(120分)
3 予習(60分)復習(60分)調音方法の練習(120分)
4 予習(60分)IPAについての復習(120分)
5 予習(30分)母音の復習(60分)母音の発音練習(90分)
6 予習(10分)母音の復習(20分)母音の発音練習(120分)
7 予習(30分)子音の復習(60分)子音の発音練習(90分)
8 予習(10分)子音の復習(20分)子音の発音練習(120分)
9 コンピューターによる音声分析(180分)
10 予習(30分)音節とモーラについての復習(60分)発音練習(90分)
11 予習(30分)音素についての復習(60分)発音練習(90分)
12 予習(30分)アクセントについての復習(60分)発音練習(90分)
13 予習(30分)イントネーションについての復習(60分)発音練習(90分)
14 予習(30分)音韻変化についての復習(60分)発音練習(90分)
15 日本語の音声についての復習(150分)発音練習(150分)

評価方法：	授業へのとりくみ：	30 %	確認テスト：	－ %	レポート：	60 %
	その他1：	発音テスト		10 %		
	その他2：			%		

評価基準：

1. 授業への取り組み
ノートを取りながら講義を聴き、発音練習で声を出せる（60～69）
講義内容に関する質問ができ、また積極的に発音練習できる（70～79）
上記に加えて、自分なりの方法で発音について観察できる（80～100）

2. 発音テスト
IPAを見て、発音が出来る(60～69)
IPAを見て、通常よく用いられる発音をする事が出来る(70～79)
IPAを見て、難しい日本語の発音をすることが出来る(80～100)

3. レポート
日本語で用いられる音声・音韻現象について基本的な事項を説明できる(60～69)
日本語で用いられる音声・音韻現象について、自分なりにまとめて説明できる(70～79)
日本語で用いられる音声・音韻現象について、自分なりの考察を含めて説明できる(80～100)

課題へのフィードバック：

感想票カードを用いて授業内容についての質問を集め、これに答える形でフィードバックする。

教科書： なし

参考書： 斎藤純男『日本語音声学入門』三省堂、2006
柴谷方良、景山太郎、田守育啓『言語の構造 音声・音韻篇』くろしお出版、1981

授業・準備学習のアドバイス：

積極的に音声に出して発音練習をするようにしてください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 日本文学概論

クラス: 教/国

授業コード: DA20020001

担当者: 大村 誠一郎 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 国語)【必修】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 国文学(国文学史を含む。) **一般的包括的科目:** ○

授業の目的: 文学の概念は一般の人からすると自明の普遍的に存在するものにみえる。しかし、文学にあたるものは時代によって異なり、創作作品に限定しても作品が追求するものや作品の価値基準は時代によって変化する面がある。作品が新たに切り拓いたものと読者が求めるものとの関係を考察しながら、日本の各時代、各分野の古典文学について概観する。日本史上の各時代が、特に文化面でどのような時代であったかを先ず理解してもらう。その上で、その時代の特質がどのように文学作品に反映しているかの理解を目指す。それぞれの時代に人々が文学に対して求めるものがある。独創的な作家はある場合にはそれを先取りし、ある場合には深い探究と洞察で時代の表現を創造するのだ。また、古典文学の傑作が各時代の様々な言語文化が相互に関連するところで成立していく様相にも注目し、日本の古典文学独自の継承と発展を史的に把握することを目標とする。

到達目標: 日本史上の各時代においてどういうものが文学とされ、どういう考えや思想、思いが表現されようとしていたのかを先ず理解してもらう。その上で、時代の特質がどのように文学作品に反映しているかを探り、それぞれの文学作品が果たした役割と意義の理解を目指す。

各回の授業計画:

1. 文学とは何か、という問いかけを起点として、どういう書物、作品、ジャンルが文学なのか、文学の古典なのかを考える。
2. 日本文学の出発1 記紀神話、記紀歌謡、ならびに中国から伝来した文献の影響下に日本で作成された飛鳥時代の文章について
3. 日本文学の出発2 和歌と漢詩
4. 和歌文学1 万葉集と古今集
5. 和歌文学2 新古今和歌集
6. 自照の文学1 日記文学の始発と展開
7. 自照の文学2 日記文学と随筆
8. 創作の文学 平安時代の物語文学
9. 物語文学の達成『源氏物語』
10. 実録の文学 古代中世の漢詩文と説話
11. 実録の文学 古代、中世の説話1
12. 実録の文学 古代、中世の説話2
13. 物語文学と実録の文学の融合と発展――歴史物語、軍記物語、謡曲
14. 余説:日本の近代文学(明治～昭和世界大戦)が求めたもの
・西欧の影響を受けた近代国家における近代的個人、自我、自意識――近代の生きる人間とは
・意識される社会のあり方 文学による社社会批判と思想性
自然主義・マルクス主義・生命主義
・心理の探究
・真理の探求
・リアリズム
・文学におけるリアリズムを超える表現の可能性
・文学の芸術性
・日本的なものとは
・純文学の立場に対する大衆小説――物語としてのおもしろさ
15. まとめ(近世以前の文学と近代文学の違い) 確認テスト

特記事項: なし

授業方法: 対面による講義形式

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 授業内容についてまとめる。『古事記』の指定箇所をまとめる。(復習、180分)
2. 『古事記』『日本書紀』の指定箇所をまとめる。授業の振り返り。(予復習、180分)
3. 『万葉集』の指定した歌の解釈と解説を書く。授業の振り返り。(予復習、180分)
4. 『古今集』の指定した歌の解釈と解説を書く。授業の振り返り。(予復習、180分)

5.『新古今集』の指定した歌の解釈と解説を書く。鴨長明『無名抄』の指定箇所をまとめる。授業の振り返り。（予復習、180分）
6.『土佐日記』『蜻蛉日記』の指定箇所をまとめる。授業の振り返り。（予復習、180分）
7.『枕草子』の指定箇所をまとめる。授業の振り返り。（予復習、180分）
8.『伊勢物語』『竹取物語』の指定箇所をまとめる。授業の振り返り。（予復習、180分）
9.『源氏物語』の指定箇所をまとめる。授業の振り返り。（予復習、180分）
10.『今昔物語集』の指定説話をまとめる。授業の振り返り。（予復習、180分）
11.『今昔物語集』『宇治拾遺物語』の指定説話をまとめる。授業の振り返り。（予復習、180分）
12.『大鏡』『平家物語』の指定箇所をまとめる。授業の振り返り。（予復習、180分）
13.『平家物語』『愚管抄』の指定箇所をまとめる（予復習、180分）
14. 授業内容についてまとめる。現代の文学について自分の考えをまとめる。（予復習、180分）
15. 授業内容についてまとめ、感想を書く。（復習、180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	30	**%**	**確認テスト：**	40	**%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	授業内容を振り返る内容の文章（1200字）を3回作成			30	**%**		
その他2：					**%**		

評価基準： 最低限の到達度（60～69点）各時代の取り上げた分野やトピックスの重要事項について理解し、わかりやすく記述できる。
望ましい到達度（80～100点）上記に加え、具体的な作品を挙げ、本文の引用なども交えながら、詳しい記述ができる。

課題へのフィードバック：

提出された課題に対して解説を加える。

教科書： 使用しない。

参考書： 高校時代に各自が使用していた古典の教科書、国語副読本などがあれば良い。

授業・準備学習のアドバイス：

高校までの古典は文法や解釈など、作品内部の理解で手一杯だったかもしれません。この講義では各時代の文学について、作品の外側からも理解するという姿勢を身につけてほしい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 日本文学史

クラス: 小中高/国

授業コード: DA20021001

担当者: 大村 誠一郎 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 国語)【必修】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 国文学(国文学史を含む。) **一般的包括的科目:** ○

授業の目的: 『源氏物語』を頂点として多くの優れた作品を生み出した平安時代の散文作品の文学を文学史的な観点から考察し、それぞれの作品が切り拓いたものや達成について見ていく。授業では各作品からある程度まとまった部分をいくつか取り上げて、テキスト解釈に重ねながら作品の意味・意義や特色、新しい創造や達成を考える。平安時代は、散文作品では物語、歌物語、和歌、日記、随筆、説話、歴史物語、説話集、漢詩文と様々なジャンルが展開するが、それらが相互に影響し、補完しながらゆたかな言語文化を生み出していったところを実感してほしい。

到達目標: 平安時代の主要な文学作品についてのおおよその理解。作者・筆者は彼が生きた時代・社会環境の中で何を考えてどういう表現世界を拓いていったのか。その意義や達成を文学史からの観点も含めて、作品テキストに即して説明できること。

各回の授業計画:

1. 平安時代日記文学の達成について1――『蜻蛉日記』貴族社会女性の生きる環境
2. 平安時代日記文学の達成について2――宮廷女房日記文学の多様性と『枕草子』
3. 『枕草子』――宮廷貴族社会の美意識と自在、多様な表現対象
4. 『枕草子』――宮廷貴族社会の教養と筆者の人物交渉1
5. 『枕草子』――宮廷貴族社会の教養と筆者の人物交渉2
6. 『源氏物語』1――『源氏物語』が生まれた環境と、作品が描こうとした世界
7. 『源氏物語』2――光源氏と王権の物語について
8. 『源氏物語』3――女君の物語
9. 『源氏物語』4――明石一族の物語――貴族社会の照射
10. 『源氏物語』5――明石一族の物語――貴族社会の照射
11. 歴史物語1『栄花物語』――一般的な漢文の歴史書との対比
12. 歴史物語2『大鏡』――物語の方法で描く歴史
13. 説話集の役割――『今昔物語集』から
14. 中世に向かって――平安時代文学を基盤としつつ、大きな変革のあった激動の時代を正面からとらえ、新しい時代の価値観で描く叙事詩『平家物語』についての序説
15. 確認テストとまとめ

特記事項: なし

授業方法: 対面による講義形式。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

ノートの整理、配布した資料(古文テキスト)を事前に読み、授業で読めなかったものについて各自で読み進めるといった予復習をする。また、随時与える課題にも取り組むこと。平均毎時180分程度あてることになる。

評価方法:

授業へのとりくみ:	30	**%**	**確認テスト:**	40	**%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:	授業内容を振り返るミニレポートを3回作成。	30	**%**				
その他2:			**%**				

評価基準: 確認テスト
(望ましい到達度:80点～100点)出題した説話を解釈し、話が持つ意義について説明できること。
(最低限の到達度:60点～69点)出題した説話を解釈し、話の内容について説明できること。

ミニレポート
(望ましい到達度:80点～100点)取りあげた説話について内容を解説し、注釈書等の研究文献をふまえながら話の意義について説明でき、研究上問題となることについても言及していること。また、収録する説話集や同話・類話への言及があること。
(最低限の到達度:60点～69点)取りあげた説話について内容を解説し、注釈書等の研究文献をふまえながら話の意義について説明でき、収

録する説話集や同話・類話への言及があること。

課題へのフィードバック:

レポートや提出課題にコメントを付す。

教科書: 使用しない。授業中に読む作品はその都度配信する。

参考書: なし（図書館にある文学史の本などを適宜参照のこと）

授業・準備学習のアドバイス:

作品成立時にあった意味を理解するには話の背景にある情報が重要で、そこまで立ち入ってはじめて話を読んだことになる。予復習時においても、注釈をしっかり読みこまなくてはならない。当時の貴族社会の制度や習慣、文化や知識をふまえた作品理解を通じて平安時代文学の高度な達成やおもしろさを実感してほしい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 漢文学概論

クラス: 小中高/国

授業コード: DA20030001

担当者: 傍島 史奈 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 国語)【必修】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 漢文学 **一般的包括的科目:** ○

授業の目的: 中国古典詩の歴史を追いながら各時代の詩を読み(近体詩成立の唐代まで)、日本への影響も考える。
中国古典文学史において、詩という文学形式は常に重要な位置を占めており、古くから詩とは人の心情をそのまま言葉に表したものとして定義されていた。今期は漢詩の歴史やその種類と成立をたどりつつ、各時代の有名な詩人の詩を読み、その詩に込められた詩人の心を丁寧に読み取っていきたい。さらに漢詩は日本の平安貴族はもちろん明治の文人の教養として日本人も詠んでいる。日本人の詠んだ詩も扱うことで、日本文化への影響も考えたい。

到達目標:
1. 訓読文や白文を書き下す、白文に訓点を打つ、といった漢文読解の基礎を確認する。
2. 漢字を見てそこにどのような作者の気持ちが描かれているかを自分で解釈しようとする態度を身につける。
3. わからない語については各自が漢和辞典で調べ、あるいは想像・推測しながら意味をとらえる。
4. 句ごとの解釈にとどまらず、詩全体をとおして作者の言いたかったことをとらえる。
5. 押韻や平仄を通して韻文である漢詩のリズムを感じる。

各回の授業計画:

1. ガイダンス・漢文学とは・漢詩の韻
2. 漢詩の歴史・古詩と近体詩
3. 近体詩の平仄の法則について
4. 『詩経』と『楚辞』について
5. 漢代の詩
6. 漢代の五言詩
7. 魏の詩
8. 六朝詩(音韻学の発達)
9. 六朝詩(音韻学の発達による変化)
10. 初唐の詩
11. 盛唐の詩(近体詩の大成)
12. 盛唐の詩(古詩か近体詩か)
13. 中唐の詩(日本への影響)
14. 平安時代の詩
15. 明治時代の詩・漢詩についてまとめ

特記事項: ※日本の古語で読み進めるため、日本語を母国語としない学生については、講義で話される日本語がほとんど理解できる程度の日本語運用能力が必要である。
※対面授業への出席と授業内課題提出、この2つをもって出席とみなす。
※受講生の理解の度合いや詩の長さによっては2回分を1回で済ます場合あるいは1回分を2回に渡って解説する場合がある。また興味に応じてテーマの変更・入れ替えをする場合もある。
※教材・資料は前もってTeamsを通じて配布する。授業内で複数の資料を同時に見てもらうこともあるため、スマホではなくパソコン持参が望ましい。
※予習(詩を書き写す・詩型・押韻)はノートを作ってそこにやってくること。また、授業内容をきちんとそのノートにメモすること。
※学期末レポートはTeamsを通じて提示・提出を行う。

授業方法: 【対面】1～15回、すべて対面で行う。
皆で音読しながら授業を進めていく。
1. 講義
2. 講義
3. 講義
4. 講義
5. 講義
6. 講義

7. 講義
8. 講義
9. 講義
10. 講義
11. 講義
12. 講義
13. 講義
14. 講義
15. 講義

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

【予習】
前もってTeamsを通じて配られた白文を一句ごとに写しなおし、詩型と押韻を辞書を使って調べ、その詩の内容を推測し作者の心情を想像しておくこと。
具体的な方法は授業内で説明する。
詩を写す：10分以上
詩型・押韻：20分以上
内容推測：30分以上
心情想像：20分以上

【復習】
フィードバックに必要であるため、前回読んだ詩の訓読文を音読し、前回提出の授業内課題を読み直して内容を確認しておくこと。
訓読文訂正など：10分
音読：10分
内容確認：20分以上
情景あるいは心情に関する課題：30分以上

※1学期で2700分の授業時間外学習が必要である。

評価方法：

授業へのとりくみ：	－	**%**	**確認テスト：**	－	**%**	**レポート：**	50 **%**
その他1：	授業内課題			50	**%**		
その他2：					**%**		

評価基準： ①授業内課題（Teamsを通じて提出）：5点満点。白紙または授業に関係のない内容0点、授業内容は書いてあるが設問に答え切れていない1～2点、授業で聞いたことをそのまま繰り返している3点、授業を踏まえて自分の感想や意見がしっかり述べられている4～5点。平均×10で50点満点とする。

②レポート（Teamsを通じて提出）：50点満点。授業内容は書いてあるが設問・テーマからずれている10～24点、授業で聞いたことの繰り返しになっていて自分の意見がほとんどない25～34点、授業を踏まえて自分の感想や意見がしっかり述べられている35～50点。レポートのコピペ（ネット上の文章をそのまま貼り付けたもの）は厳禁。発覚した場合は0点とする。

最低到達点：①と②の合計60～69点
望ましい到達点：①と②の合計80～100点

課題へのフィードバック：

授業内課題については、その内容に応じて次の授業時に補足・解説などを加えてより理解を深めてもらう。
期末レポートは返却を希望するものにのみ返却する。

教科書： なし（プリントをTeamsを通じて配布、漢和辞典は各自持参のこと）。

参考書： 必要に応じて授業内で紹介する。

授業・準備学習のアドバイス：

詩とは心情を述べたものなので、その解釈には当然想像力が必要になる。やわらかい頭で各自が詩に描かれた情景や詩人の気持ちを想像しイメージを広げ、詩を自由に味わってもらいたい。
印象や感じ方は読む人それぞれに異なるはずなので、詩に込められた作者の気持ちを自由な発想で鑑賞してほしい。人との感じ方の違いを知ることもおもしろいので、感じたことや考えたことを積極的に発言してもらえるとより有意義なものとなるので期待している。また、一首読み終えるごとにその詩の感想を書いて提出してもらうので、自由な発想で感じたことを感じたままにぜひ聞かせてほしい。
私語厳禁、授業にかかわる積極的な発言（疑問・質問・意見などなんでも）は期待している。
対面授業への参加と授業内課題提出、この2つをもって出席とみなす。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 書道

クラス: 国

授業コード: DA20040001

担当者: 小出水 博 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:高等学校芸術科書道教諭、全日本高等学校書道教育研究会 事務局次長、
兵庫県高等学校教育研究会書道部会 理事長 顧問、書法研究社 嚶嚶 会員、
毎日書道会 会員、兵庫書写・書道教育協会 理事

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 国語)【必修】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 書道(書写を中心とする) **一般的包括的科目:** ○

授業の目的: 中学校の国語科書写に関して、学習指導要領に示されている指導内容について、理解するとともにその知識・技能の指導法を習得する。

到達目標: 硬筆・毛筆を使用し、適切な書写指導ができるように基本的な知識・技能を習得するとともに小学校や高等学校との連携した指導ができるようにその指導内容についても理解を深める。また、古典や古筆を利用し、多様な書体や書風の理解を深め、表現法を習得する。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション【 文房四宝(筆・墨・硯・紙)他についての理解。書写教育の役割(小学校書写から高等学校芸術科書道)】
2. 学習指導要領に示された国語科書写の指導内容についての理解。硬筆による「ひらがな」・「カタカナ」の指導法とその演習①
3. 硬筆による「ひらがな」・「カタカナ」の指導法とその演習②
4. 漢字(かな)文字の筆順と結構についての理解と演習①
5. 漢字(かな)文字の筆順と結構についての理解と演習②
6. 毛筆による執筆法と基本点画の演習【楷書・行書】
7. 小学校教材を使用し、その指導法と演習【楷書】
8. 中学校教材を使用し、その指導法と演習①【楷書】
9. 中学校教材を使用し、その指導法と演習②【楷書】
10. 中学校教材を使用し、その指導法と演習③【行書】
11. 中学校教材を使用し、その指導法と演習④【行書】
12. 中学校教材を使用し、その指導法と演習⑤【「ひらがな」「カタカナ」】
13. 仮名学習(単体の造形美)の理解と演習
14. 仮名学習(連綿の美)の理解と演習
15. 高等学校芸術科書道との関連について学習と演習【古典学習(唐時代の書・東晋時代の王羲之の書)】

特記事項: 基本的には、教科書を中心とした講義・演習形式の授業である。必要に応じてプリントを配布する。

授業方法: すべての授業を対面授業で行う。
1. 講義、演習
2. 講義、演習
3. 講義、演習
4. 講義、演習
5. 講義、演習
6. 講義、演習
7. 講義、演習
8. 講義、演習
9. 講義、演習
10. 講義、演習
11. 講義、演習
12. 講義、演習
13. 講義、演習
14. 講義、演習
15. 講義、演習

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 文房四宝(筆・墨・硯・紙)他についての復習。書写教育の役割(小学校書写から高等学校芸術科書道)についての復習。(90分)
2. 学習指導要領国語科書写についての復習。文部科学省のHP閲覧。硬筆による「ひらがな」・「カタカナ」①についての復習・演習。(90分)
3. 硬筆による「ひらがな」・「カタカナ」②についての復習・演習。(90分)

4. 漢字(かな)文字の筆順と結構①についての復習・演習。(90分)
5. 漢字(かな)文字の筆順と結構②についての復習・演習。(90分)
6. 毛筆による執筆法と基本点画【楷書・行書】についての復習・演習。(90分)
7. 小学校教材の指導法【楷書】についての復習・演習。(90分)
8. 中学校教材の指導法①【楷書】についての復習・演習。(90分)
9. 中学校教材の指導法②【楷書】についての復習・演習。(90分)
10. 中学校教材の指導法③【行書】についての復習・演習。(90分)
11. 中学校教材の指導法④【行書】についての復習・演習。(90分)
12. 中学校教材の指導法⑤【「ひらがな」「カタカナ」】についての復習・演習。(90分)
13. 仮名学習(単体の造形美)についての予習・演習。(90分)
14. 仮名学習(連綿の美)についての予習・演習。(90分)
15. 高等学校芸術科書道との関連についての復習と演習【古典学習(唐時代の書・東晋時代の王羲之の書)】(90分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	20 **%**	**確認テスト:**	20 **%**	**レポート:**	20 **%**
その他1:	演習作品		40 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準:

最低限の到達度(60～69点)
中学校国語科書写について理解し、指導できる。
その知識と技能についても習得する。

望ましい到達度(80～100点)
提出された演習作品およびレポートにおいて、指導に当たっての知識と技能について理解し、表現できる。

課題へのフィードバック:

提出した作品の添削指導と解説を加える。

教科書: 中学書写 一・二・三年 038-72 (平成7年度版)光村図書出版

参考書: 新版 応用ペン習字 川端比侶子 教育図書

授業・準備学習のアドバイス:

常に学習意欲を持ち取り組むこと。
中学校・高等学校で扱う内容についてテキストの予習、復習をすること。
特に、高等学校で書道Ⅰを選択していなかった方については十分予習、復習をすること。
演習については、初心者の方にも不利にならないよう十分配慮する。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 書道

クラス: 小中高

授業コード: DA20040002

担当者: 小出水 博 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:高等学校芸術科書道教諭、全日本高等学校書道教育研究会 事務局次長、
兵庫県高等学校教育研究会書道部会 理事長 顧問、書法研究社 嚶嚶 会員、
毎日書道会 会員、兵庫書写・書道教育協会 理事

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 国語)【必修】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 書道(書写を中心とする) **一般的包括的科目:** ○

授業の目的: 中学校の国語科書写に関して、学習指導要領に示されている指導内容について、理解するとともにその知識・技能の指導法を習得する。

到達目標: 硬筆・毛筆を使用し、適切な書写指導ができるように基本的な知識・技能を習得するとともに小学校や高等学校との連携した指導ができるようにその指導内容についても理解を深める。また、古典や古筆を利用し、多様な書体や書風の理解を深め、表現法を習得する。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション【 文房四宝(筆・墨・硯・紙)他についての理解。書写教育の役割(小学校書写から高等学校芸術科書道)】
2. 学習指導要領に示された国語科書写の指導内容についての理解。硬筆による「ひらがな」・「カタカナ」の指導法とその演習①
3. 硬筆による「ひらがな」・「カタカナ」の指導法とその演習②
4. 漢字(かな)文字の筆順と結構についての理解と演習①
5. 漢字(かな)文字の筆順と結構についての理解と演習②
6. 毛筆による執筆法と基本点画の演習【楷書・行書】
7. 小学校教材を使用し、その指導法と演習【楷書】
8. 中学校教材を使用し、その指導法と演習①【楷書】
9. 中学校教材を使用し、その指導法と演習②【楷書】
10. 中学校教材を使用し、その指導法と演習③【行書】
11. 中学校教材を使用し、その指導法と演習④【行書】
12. 中学校教材を使用し、その指導法と演習⑤【「ひらがな」「カタカナ」】
13. 仮名学習(単体の造形美)の理解と演習
14. 仮名学習(連綿の美)の理解と演習
15. 高等学校芸術科書道との関連について学習と演習【古典学習(唐時代の書・東晋時代の王羲之の書)】

特記事項: 基本的には、教科書を中心とした講義・演習形式の授業である。必要に応じてプリントを配布する。

授業方法: すべての授業を対面授業で行う。
1. 講義、演習
2. 講義、演習
3. 講義、演習
4. 講義、演習
5. 講義、演習
6. 講義、演習
7. 講義、演習
8. 講義、演習
9. 講義、演習
10. 講義、演習
11. 講義、演習
12. 講義、演習
13. 講義、演習
14. 講義、演習
15. 講義、演習

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 文房四宝(筆・墨・硯・紙)他についての復習。書写教育の役割(小学校書写から高等学校芸術科書道)についての復習。(90分)
2. 学習指導要領国語科書写についての復習。文部科学省のHP閲覧。硬筆による「ひらがな」・「カタカナ」①についての復習・演習。(90分)
3. 硬筆による「ひらがな」・「カタカナ」②についての復習・演習。(90分)

4. 漢字(かな)文字の筆順と結構①についての復習・演習。(90分)
5. 漢字(かな)文字の筆順と結構②についての復習・演習。(90分)
6. 毛筆による執筆法と基本点画【楷書・行書】についての復習・演習。(90分)
7. 小学校教材の指導法【楷書】についての復習・演習。(90分)
8. 中学校教材の指導法①【楷書】についての復習・演習。(90分)
9. 中学校教材の指導法②【楷書】についての復習・演習。(90分)
10. 中学校教材の指導法③【行書】についての復習・演習。(90分)
11. 中学校教材の指導法④【行書】についての復習・演習。(90分)
12. 中学校教材の指導法⑤【「ひらがな」「カタカナ」】についての復習・演習。(90分)
13. 仮名学習(単体の造形美)についての予習・演習。(90分)
14. 仮名学習(連綿の美)についての予習・演習。(90分)
15. 高等学校芸術科書道との関連についての復習と演習【古典学習(唐時代の書・東晋時代の王羲之の書)】(90分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	20 **%**	**確認テスト:**	20 **%**	**レポート:**	20 **%**
その他1:	演習作品		40 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準:

最低限の到達度(60～69点)
中学校国語科書写について理解し、指導できる。
その知識と技能についても習得する。

望ましい到達度(80～100点)
提出された演習作品およびレポートにおいて、指導に当たっての知識と技能について理解し、表現できる。

課題へのフィードバック:

提出した作品の添削指導と解説を加える。

教科書: 中学書写 一・二・三年 038-72 (平成7年度版)光村図書出版

参考書: 新版 応用ペン習字 川端比侶子 教育図書

授業・準備学習のアドバイス:

常に学習意欲を持ち取り組むこと。
中学校・高等学校で扱う内容についてテキストの予習、復習をすること。
特に、高等学校で書道Ⅰを選択していなかった方については十分予習、復習をすること。
演習については、初心者の方にも不利にならないよう十分配慮する。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 書道史

クラス: 小中高/国

授業コード: DA20041001

担当者: 小出水 博 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:高等学校芸術科書道教諭、全日本高等学校書道教育研究会 事務局次長、
兵庫県高等学校教育研究会書道部会 理事長 顧問、書法研究会 嚶嚶 会員、
毎日書道会 会員、兵庫書写・書道教育協会 理事

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 国語)【選択】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 書道(書写を中心とする) **一般的包括的科目:** ×

授業の目的: 漢字や仮名の成り立ちや書体の変遷、古典や古筆の鑑賞など書道史の講義と実用文字としてペン習字(硬筆、筆ペン)技能の習得をする。

到達目標: 中国書道史における漢字の起源から書体の変遷や書風の違いについての知識、日本書道史における漢字の伝来から仮名文字の完成までの経緯と現代の書表現についての知識を代表的な古典資料を基に理解を深める。
手書き文字の大切さを理解し、ペン習字(硬筆、筆ペン)技能の習得をする。

各回の授業計画:

1. 殷代甲骨文字を学ぶ一中国書道史最古の文字について一理解と演習
2. 周代金文を学ぶ一青銅器に鋳込まれた文字について一理解と演習
3. 篆書を学ぶ一中国最古の石鼓文と泰山刻石について一理解と演習
4. 隷書を学ぶ一漢代の正式書体隷書(乙瑛碑)(曹全碑)について一理解と演習
5. 木簡を学ぶ一木簡の書について一理解と演習
6. 草書を学ぶ一王羲之(十七帖)と孫過庭(書譜)について一理解と演習
7. 行書を学ぶ一王羲之(蘭亭序)と米芾(蜀素帖)について一理解と演習
8. 楷書を学ぶ一北魏の楷書について一理解と演習
9. 楷書を学ぶ一唐代の楷書について一理解と演習
10. 仮名を学ぶ一(蓬莱切)(高野切第一種・二種・三種)(関戸本古今和歌集)について一理解と演習
11. 仮名を学ぶ一(寸松庵色紙)(継色紙)(升色紙)について一理解と演習
12. 実用書を学ぶ①一名前・冠婚葬祭の表書き演習
13. 実用書を学ぶ②一封書・はがきなどの表書き演習
14. 漢字仮名交じりの書を学ぶ①一硬筆や筆ペンでの演習
15. 漢字仮名交じりの書を学ぶ②一硬筆や筆ペンでの演習

特記事項: 基本的には、教科書を中心とした講義・演習(硬筆、筆ペン)形式の授業である。必要に応じてプリントを配布する。

授業方法: すべての授業を対面授業で行う。
1. 講義、演習
2. 講義、演習
3. 講義、演習
4. 講義、演習
5. 講義、演習
6. 講義、演習
7. 講義、演習
8. 講義、演習
9. 講義、演習
10. 講義、演習
11. 講義、演習
12. 講義、演習
13. 講義、演習
14. 講義、演習
15. 講義、演習

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 殷代甲骨文字を学ぶ一中国書道史最古の文字について一復習と演習(180分)
2. 周代金文を学ぶ一青銅器に鋳込まれた文字について一復習と演習(180分)

3. 篆書を学ぶ一中国最古の石鼓文について一復習と演習(180分)
4. 隷書を学ぶ一漢代の正式書体隷書(乙瑛碑)(曹全碑)について一復習と演習(180分)
5. 木簡を学ぶ一木簡の書について一復習と演習(180分)
6. 草書を学ぶ一王羲之(十七帖)と孫過庭(書譜)について一復習と演習(180分)
7. 行書を学ぶ一王羲之(蘭亭序)と米芾(蜀素帖)について一復習と演習(180分)
8. 楷書を学ぶ一北魏の楷書について一復習と演習(180分)
9. 楷書を学ぶ一唐代の楷書について一復習と演習(180分)
10. 仮名を学ぶ一(蓬莱切)(高野切第一種・二種・三種)(関戸本古今和歌集)について一復習と演習(180分)
11. 仮名を学ぶ一(寸松庵色紙)(継色紙)(升色紙)について一復習と演習(180分)
12. 実用書を学ぶ①一名前・冠婚葬祭の表書きについて一復習と演習(180分)
13. 実用書を学ぶ②一封書・はがきなどの表書きについて一復習と演習(180分)
14. 漢字仮名交じりの書を学ぶ①一硬筆や筆ペン一復習と演習(180分)
15. 漢字仮名交じりの書を学ぶ②一硬筆や筆ペン一復習と演習(180分)
計2700分の予習・復習が必要である。

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	20 **%**	**レポート:**	30 **%**
その他1:	演習作品		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準:
最低限の到達度(60～69点)
書体の変遷過程を理解して各々の特徴を認識している。
古典・古筆の特徴を理解し、認識している。

望ましい到達度(80～100点)
各書体の特徴や古典・古筆の鑑賞により高い知識を身に付けている。
提出されたレポート・演習作品について、古典・古筆の特徴を十分理解し、美的感覚に優れた作品に仕上げている。

課題へのフィードバック:
提出した作品の添削指導と解説を加える。

教科書: 高等学校芸術科 書Ⅰ 038-901 光村図書出版

参考書: 中国書道史事典 比田井南谷著(普及版)天来書院

授業・準備学習のアドバイス:
講義中心の授業であるため、予習と復習を常に行い、学習意欲を持ち取り組むこと。
基本的には教科書を中心とした講義・演習形式の授業である。必要に応じてプリントを配布する。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 国語科教育法Ⅰ

クラス: 小中高(内規科目)

授業コード: DA20090001

担当者: 小山 智久 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立高等学校教諭 教育研修所指導主事

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 国語)【必修】

含めることが必要な事項: 各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 国語科教員として必要とされる基本的事項について、体験を通した理解を含めて確認するとともに、学習指導要領に基づく、教科の目標や評価の観点等を理解した授業設計及び指導の方法を身に付ける。なお、新学習指導要領改訂にむけての国の動向などにも注意する。
生徒のグループ活動など「主体的・対話的で深い学び」を実現する学習活動の重要性について学ぶ。

到達目標:
1. 教科書教材を取り上げ、教材ごとの教育目標・授業の展開など、必要な教材研究法を身に付ける。
2. 国語教材の幅広さを知るとともに、生徒の理解を深めるための多様な方法について理解する。
3. 教材の様々な活用法を考えた学習指導案を作成し、実際に授業を行うことができる。

各回の授業計画:

1. コースガイダンス及び中等教育における国語科教育の現状と課題(討議)
2. 国語科教員に求められるもの「①幅広い学問的知識ー指導法及び学習評価の方法」、「②学校の組織と教員」
3. 学習指導要領に基づく国語科教育の目標と内容ー全国学力・学習状況調査の結果等を踏まえてー
4. 「 話すこと・聞くこと」の学習指導(スピーチ:ビデオ・CD等の活用)
5. 「話すこと・聞くこと」の学習指導(ディスカッション:タブレット・ビデオ・CD等の活用)
6. 「書くこと」の学習指導(多様な実践方法の工夫:タブレット・電子黒板、グループウエア等の活用)
7. 「読むこと」の学習指導ー多様な実践方法(ノートパソコンの活用)
8. 読む力の養成①ー「クジラの飲み水」の読解①(タブレット・実物投影機等の利用等)
9. 読む力の養成②ー「クジラの飲み水」の読解②(「批判的読み」の理解)
10. 読む力の養成③ー「字のない葉書」の読解と教材観・学習指導目標の作成
11. 学習指導案作成の基礎(講義と演習ー「字のない葉書」(教材観・指導目標・指導計画・評価)
12. 学習指導案の作成ー「字のない葉書」ー教材の効果的活用法(補助教材、情報機器)
13. 学習指導案の改善(短時間模擬授業の実施と振り返等)
14. 相互批評による授業の改善
15. まとめ(年間の講義内容と各自の到達度の確認と国語科教育法Ⅱの予定)

特記事項: なし

授業方法:
1.【対面】講義、討議
2.【対面】講義、ディスカッション
3.【対面】講義、実習
4.【対面】講義、CD・DVD視聴
5.【対面】講義、DVD視聴、ディベート
6.【対面】講義、電子黒板の利用
7.【対面】講義、ICT全般の活用
8.【対面】講義、教科書、デジタル教科書の活用、プレゼンテーション
9.【対面】講義、読解
10.【対面】講義、読解、教材研究演習
11.【対面】学習指導案の作成
12.【対面】学習指導案の作成
13.【対面】短時間模擬授業実施、ディスカッション
14.【対面】短時間模擬授業実施、ディスカッション
15.【対面】 講義、チェックリスト

予習・復習・宿題など(内容・時間):
1. 自身の中・高等学校時代を顧みて、学習の中で国語科の果たす役割について考察する。(180分)
2. 一般の教員と国語科教員の違いについて、自ら考えるとともに関係図書を読み、整理する。(180分)
3. 学習指導要領及び解説の熟読。(180分)

4. 高等学校までに受けた授業を振り返るとともに、関係図書で最新の知見を得る。(180分)
5. 高等学校までに受けた授業を振り返るとともに、関係図書で最新の知見を得る。(180分)
6. 関係図書を読み、様々な指導方法を調べる。(180分)
7. 関係図書を読み、様々な指導方法を調べる。(180分)
8.「クジラの飲み水」を音読し、表現に注目する。教科書の活用法を理解する。(180分)
9.「クジラの飲み水」を熟読し、自分なりに内容の構造を理解する。(180分)
10.「字のない葉書」を熟読し、意味段落に分ける。(180分)
11. 太平洋戦争時の日本人の生活、特に学童疎開における子供の生活等を調べる。(180分)
12.「字のない葉書」を熟読し、自身がどこの部分を模擬授業とするか決定する。(180分)
13. 学習指導案を完成させ、自分なりにやってみる。(180分)
14. 工夫・改善した学習指導案を完成させ、自分なりに短時間模擬授業をやってみる。(180分)
15. 講義内容を振り返り、自身の到達点と不足している点を整理する。(180分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	50	**%**	**確認テスト:**	−	**%**	**レポート:**	50 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準:
様々な教育方法に対する積極的な興味関心と、授業内外でのディスカッションへの意欲的な取組(60～69点)
教科目標、教材選択、教育方法・評価等の背景にある「学習指導要領」「同解説 国語編」の理解(70～79点)
ディスカッションにおける論理的に整理された意見・主張とその説得力(80点～100点)
学習指導要領の適切な理解、的確な学習指導案の作成、及びその指導案に基づく模擬授業の実施(80～100点)

課題へのフィードバック:
レポートについては、授業中にコメントする。
模擬授業については、学生相互の批評を行うとともに、教員がコメントする。
実習場面では、適宜指導を行うとともに、相互批評や振り返りの時間を設ける。

教科書:
町田守弘編著『実践国語科教育法「楽しく、力のつく」授業の創造』学文社(2024年)

参考書:
文部科学省『中学校学習指導要領』東山書房(平成29年3月告示)
文部科学省『高等学校学習指導要領』東山書房(平成30年3月告示)
文部科学省『中学校学習指導要領解説 国語編 』東洋館出版社(平成29年7月)
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 国語編』 東洋館出版社(平成30年7月)
『現代の国語1～3』三省堂

授業・準備学習のアドバイス:
必ず出席し、積極的に教員となるための資質の向上に努めること。
自身が今まで受けて来た授業を振り返り、良かった点や改善すべき課題等を整理するとともに、最新の授業方法や評価等のニュースや情報に興味関心を持って接すること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 国語科教育法Ⅱ

クラス: 小中高(内規科目)

授業コード: DA20091001

担当者: 小山 智久、齋藤 隆彦 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:
〔小山〕県立高等学校教諭 教育研修所指導主事
〔齋藤〕公立・国立大学附属中学校教諭(教育実習生の学級・教科担当者)

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 国語)【必修】

含めることが必要な事項: 各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 国語科の授業における多様な学習形態、教材教具の工夫等の理解を深める。また、教員として必要とされる関連する教科等の基本的知識を身につけるとともに、入門期の古典学習に必要とされる音読・暗唱につながる多様な方法について実習を深める。

到達目標:
1. 教科書教材を取り上げ、教材ごとの関連作品、事項など、必要な教材研究法を身に付ける。
2. 生徒理解に基づく、適切な発問、多様な授業方法の工夫について理解する。
3. 教材の様々な活用法を考えた学習指導案を作成し、実際に授業を行うことができる。

各回の授業計画:

1. 小説の学習指導①
「トロッコ」①ー教材研究(様々な文学批評理論、情景描写)(小山)
2. 小説の学習指導②ー板書の工夫ー
「トロッコ」②ー学習指導案の作成と板書の工夫(タブレット・実物投影機等)(小山)
3. 小説の学習指導③
「トロッコ」③ー模擬授業実施、振り返りと学習指導案の改善(小山)
4. 小説の学習指導④
「少年の日の思い出」①ー教材研究(読解と問い)、外国文学の理解(小山)
5. 小説の学習指導⑤
「少年の日の思い出」②ー学習指導案の作成(話合い活動と発問の工夫)(小山)
6. 小説の学習指導⑥
「少年の日の思い出」③ー模擬授業、振り返りと学習指導案の改善(小山)
7. 説明文の学習指導①
「人間は他の星に住むことができるのか」①ーディスカッション指導(小山)
8. 説明文の学習指導②
「人間は他の星に住むことができるのか」②ー模擬授業、授業改善(小山)
9. 導入期の古文指導
「竹取物語」①ー解説、教材研究(副教材の活用、情報通信技術の活用)(小山)
10. 導入期の古文指導
「竹取物語」②ー学習指導案の作成と模擬授業、授業改善(小山)
11. 漢文の指導
「漢詩の世界」①ー音読、教材研究(漢詩の形式、押韻・対句等)(小山)
12. 漢文の指導
「漢詩の世界」②ー学習指導案の作成と模擬授業(小山)
13. 中学生の発達段階を考慮した授業の工夫と改善(齋藤)
14.「プレゼンテーション」で読書指導(齋藤)
15. まとめ「年間の講義内容と各自の到達度の確認」・国語科教育法Ⅲの予定(小山)

特記事項: なし

授業方法:
1.【対面】講義、実習
2.【対面】学習指導案の作成、模擬授業
3.【対面】講義、グループワーク、ディスカッション、実習
4.【対面】講義、実習
5.【対面】学習指導案の作成、模擬授業
6.【対面】講義、グループワーク、ディスカッション、実習
7.【対面】講義、実習、機器利用
8.【対面】学習指導案の作成、模擬授業、グループワーク
9.【対面】講義、実習、機器利用

10.【対面】学習指導案の作成、模擬授業
11.【対面】講義、読解
12.【対面】学習指導案の作成、模擬授業
13.【対面】講義、機器利用、グループワーク
14.【対面】講義、プレゼンテーション、グループワーク
15.【対面】講義、演習、グループワーク

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. 作家芥川龍之介、作品の舞台、当時の鉄道等について調べる。（180分）
2. 「トロッコ」を熟読し、自身がどこの部分を模擬授業とするか決定する。（180分）
3. 学習者の立場に立ち、学習指導案の改善点を工夫する。（180分）
4. 作者ヘルマン・ヘッセについて調べる。（180分）
5. 「少年の日の思い出」を熟読し、自身がどこの部分を模擬授業とするか決定する。（180分）
6. 学習者の立場に立ち、学習指導案の改善点を工夫する。（180分）
7. 地球外の星に人間が住む可能性について、資料等を収集し、発表準備を行う。（180分）
8. 「人間は他の星に住むことができるのか」を熟読し、自身がどこの部分を模擬授業とするか決定する。（180分）
9. 古典の「物語」の歴史とその成立経緯について調べる。（180分）
10. 「竹取物語」を熟読し、自身がどこの部分を模擬授業とするか決定する。（180分）
11. 漢詩の形式や押韻・対句等の基本について復習する。（180分）
12. 教科書以外の漢詩も読み、教科書中の漢詩のどれを模擬授業で扱うかを決める。（180分）
13. 小中高の生徒の発達段階について、心理学関連の書物を読んで調べ、自分なりにまとめ、共有する。（180分）
14. プレゼンテーションの準備、自分の選んだ作品について熟読し、朗読練習を行うなどの課題に取り組む。（180分）
15. 講義内容を振り返り、自身の到達点と不足している点を整理する。（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	50	**%**	**確認テスト：**	－	**%**	**レポート：**	50 **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準： 学習指導案作成時や模擬授業実施時における「学習指導要領」記載事項の的確な確認（60～69点）
様々な教育方法に対する積極的な興味関心と、実施場面における意欲的な取組（60～69点）
ディスカッションにおける整理された意見の積極的な主張と説得力（70～79点）
的確な学習指導案の作成としっかりした模擬授業の実施（80～100点）

課題へのフィードバック：

レポートについては、授業時にコメントする。
模擬授業については、学生相互の批評を行うとともに、教員がコメントする。
学習指導案に基づく実習場面では、適宜指導を行うとともに、相互批評や振り返りの時間を設ける。

教科書： 町田守弘編著『実践国語科教育法「楽しく、力のつく」授業の創造』学文社（2024年）（国語科教育法Ⅰと同じ）

参考書： 『現代の国語1～3』（三省堂）（国語科教育法Ⅰと同じ）
文部科学省『中学校学習指導要領』東山書房（平成29年3月告示）
文部科学省『高等学校学習指導要領』東山書房（平成30年3月告示）
文部科学省『中学校学習指導要領解説 国語編 』東洋館出版社（平成29年7月）
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 国語編』 東洋館出版社（平成30年7月）

授業・準備学習のアドバイス：

必ず出席し、積極的に教員となるための資質の向上に努めること。
教材のしっかりした読解と大学図書館等を利用した教材研究。
学生同士のフランクな議論の展開と様々なアイデアの共有。
講義の中で実施した授業方法を自分なりに再度実施したり、ポイントを整理したり確認したりすること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 代数学Ⅰ

クラス: 小中高

授業コード: DA20100001

担当者: 堤 康嘉 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:高等学校教諭

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 数学)【必修】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 代数学 **一般的包括的科目:** ○

授業の目的: 高校の数学Ⅱ, 数学Bの内容の中から, 図形と方程式(数学Ⅱ), 平面ベクトル(数学B), 空間ベクトル(数学B)の内容を学び, 基礎的学力の定着を図る。講義と問題演習を, 受講者が主体性を発揮できる学習活動も交えて行う。未修者でも十分理解できるようなわかりやすい授業を行う。また, 既修者にとっては高校時代に学んだ内容の学び直しとしてより深い理解が得られる。

到達目標: 図形と方程式, 平面ベクトル, 空間ベクトルについて中学数学からの発展内容として考えることができ, 基礎的な学力および応用例を修得できる。

各回の授業計画:

1. 図形と方程式
2. 直線の方程式
3. 円の方程式
4. 軌跡と方程式
5. 不等式と領域
6. 問題演習(1)(図形と方程式)
7. 第1回から第6回までのまとめと中間試験
8. ベクトルの演算
9. ベクトルの成分と内積
10. ベクトルと図形
11. ベクトル方程式
12. 空間のベクトルの成分と内積
13. 空間ベクトルと図形
14. 座標空間における球面, 直線, 平面
15. 問題演習(2)(ベクトル)

特記事項: 16回目に定期試験

授業方法: 各授業の資料はTeams にアップロードしておくので授業の復習にも役立ててもらいたい。全て対面で行う。
第1～7回 講義、演習
第8回 演習
第9回～15回 講義、演習
第16回 期末テスト

予習・復習・宿題など(内容・時間):

予習(各回60分)
各回の講義に沿った予習内容を指示する。
復習(各回120分)
講義後に各回の学習内容, 重要事項をまとめ, 補充の演習問題を解くことにより, 知識の定着を図る。

評価方法:

授業へのとりくみ:	20 %	**確認テスト:**	60 %	**レポート:**	20 %
その他1:			%		
その他2:			%		

評価基準: 1. 授業へのとりくみ(関心, 意欲, 態度)
2. 確認テストによる基礎的な事項の理解と記述による表現力
3. レポートによる表現力
上記の1, 2, 3の内容を総合的に判断し, 得点化する。

・最低限の到達度（60～69点）
図形やベクトルについて概ね理解し，授業の取り組みや授業での課題レポートを解決することができる。
・標準的な到達度（70～79点）
図形やベクトルについて理解し，授業の取り組みや授業での課題レポートを解決することができる。
・望ましい到達度（80～100点）
図形やベクトルについて十分理解し，授業の取り組みや授業での課題レポートを率先して解決することができる。

課題へのフィードバック：

1. 授業へのとりくみは、授業態度と参加意欲、発表の内容により判断する。
2. 確認試験およびレポートについては，採点後に返却し，学習状況,到達状況等を確認する。

教科書： 「体系数学3 数式・関数編」（数研出版）
「体系数学4」（数研出版）

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：

授業のはじめに前回授業の内容の復習の小テストを実施する。高校時代に数学が苦手だった人でも理解できるように，基礎的なことから授業を行うので，しっかり復習して基礎的な学力が身につくようにすること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 代数学Ⅱ

クラス: 小中高

授業コード: DA20200001

担当者: 堤 康嘉 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:高等学校教諭

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校および高等学校 数学)【必修】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 代数学 **一般的包括的科目:** ○

授業の目的: 座標幾何学の基本として、今までの直観的な幾何学的理解を、座標として数の世界に根拠付けることにより、数学的に厳密に基礎付けることを学ぶ。

到達目標: 座標幾何学の基礎をテーマとしている。座標の導入により、代数学と幾何学とが密接に結び付くことの重要さを理解する。ベクトルの理論を、高校数学とは別の形で理論展開できることを知る。

各回の授業計画:

1. 数ベクトル空間
2. 内積・垂直
3. 幾何ベクトルと位置ベクトル
4. 距離・内分・外分・重心
5. 平面直線の方程式表示とパラメータ表示
6. 点と直線の関係
7. 平面幾何学への応用
8. まとめと中間試験(第1回から第7回までの授業の復習と振り返り)
9. 回転
10. 反転
11. 平面内の直交変換
12. 平面内のユークリッド変換
13. 平面内のアフィン変換
14. 空間内の変換
15. まとめ(第9回から14回までの授業の復習と振り返り)

特記事項: 16回目に定期試験

授業方法: 講義と演習を, 受講者が主体性を発揮できるように, グループワークやグループディスカッション等を交えて行う。また, 各授業の資料はTeams にアップロードしておくので授業の復習にも役立ててもらいたい。全て対面で行う。
第1～7回 講義、演習
第8回 演習
第9～15回 講義、演習
第16回 期末テスト

予習・復習・宿題など(内容・時間):

予習(各回60分)
各回の講義に沿った予習内容を指示する。
復習(各回120分)
講義後に各回の学習内容, 重要事項をまとめ, 補充の演習問題を解くことにより, 知識の定着を図る

評価方法:

授業へのとりくみ:	20 %	**確認テスト:**	60 %	**レポート:**	20 %
その他1:			%		
その他2:			%		

評価基準:
1. 授業へのとりくみ(関心, 意欲, 態度)
2. 確認テストによる基礎的な事項の理解と記述による表現力
3. レポートによる表現力
上記の1, 2, 3の内容を総合的に判断し, 得点化する。

・最低限の到達度（60～69点）
ベクトル空間について概ね理解し、授業の取り組みや授業での課題レポートを解決することができる。
・標準的な到達度（70～79点）
ベクトル空間について理解し、授業の取り組みや授業での課題レポートを解決することができる。
・望ましい到達度（80～100点）
ベクトル空間について十分理解し、授業の取り組みや授業での課題レポートを率先して解決することができる。

課題へのフィードバック：

1. 授業へのとりくみは、授業態度と参加意欲、発表の内容により判断する。
2. 確認試験およびレポートについては，採点後に返却し，学習状況,到達状況等を確認する。

教科書： 「体系数学4」（数研出版）

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：

授業のはじめに前回授業の内容の復習の小テストを実施する。代数学IIが復習できるように，基礎的なことから授業を行うので，しっかり復習して基礎的な学力が身につくようにすること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 代数学Ⅲ

クラス: 小中

授業コード: DA20300001

担当者: 堤 康嘉 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:高等学校教諭

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 数学)【選択】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 代数学 **一般的包括的科目:** ×

授業の目的: 数学的な事象を論理的に考えるのがテーマである。自然数の持つ様々な性質を調べ、その成り立つ理由を考えることを通して整数論の基本知識を身に付け、論理的思考力を培う。

到達目標: 約数、倍数、素数など整数論の基本を体系的に学び、論理的思考力を培う。

各回の授業計画:

1. 自然数と整数
2. 約数・倍数
3. 素因数分解
4. 約数の和と完全数
5. 公約数・公倍数
6. ユークリッドの互除法
7. 一次不定方程式
8. 不定方程式のまとめ
9. 平方数・立方数
10. ピタゴラス数
11. 連分数(有理数)
12. 連分数(無理数)
13. ペル方程式
14. 複素数
15. まとめの演習

特記事項: 16回目テスト

授業方法: 講義と演習を, 受講者が主体性を発揮できるように, グループワークやグループディスカッション等を交えて行う。また, 各授業の資料はTeams にアップロードしておくので授業の復習にも役立ててもらいたい。全て対面で行う。
第1～7回 講義、演習
第8回 演習
第9～15回 講義、演習
第16回 期末テスト

予習・復習・宿題など(内容・時間):

予習(各回60分)
各回の講義に沿った予習内容を指示する。
復習(各回120分)
講義後に各回の学習内容, 重要事項をまとめ, 補充の演習問題を解くことにより, 知識の定着を図る

評価方法:

授業へのとりくみ:	20 %	**確認テスト:**	60 %	**レポート:**	20 %
その他1:			%		
その他2:			%		

評価基準:
1. 授業へのとりくみ(関心, 意欲, 態度)
2. 確認テストによる基礎的な事項の理解と記述による表現力
3. レポートによる表現力
上記の1, 2, 3の内容を総合的に判断し, 得点化する。

・最低限の到達度（60～69点）
初等整数論について概ね理解し、授業の取り組みや授業での課題レポートを解決することができる。
・標準的な到達度（70～79点）
初等整数論について理解し、授業の取り組みや授業での課題レポートを解決することができる。
・望ましい到達度（80～100点）
初等整数論について十分理解し、授業の取り組みや授業での課題レポートを率先して解決することができる。

課題へのフィードバック：

1. 授業へのとりくみは、授業態度と参加意欲、発表の内容により判断する。
2. 確認試験およびレポートについては，採点後に返却し，学習状況,到達状況等を確認する。

教科書： 授業配布プリントによる。

参考書： 高木貞治「初等整数論」（共立出版）

授業・準備学習のアドバイス：

授業のはじめに前回授業の内容の復習の小テストを実施する。学生達が理解できるように，基礎的なことから授業を行うので，しっかり復習して基礎的な学力が身につくようにすること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 幾何学Ⅰ

クラス: 小中高

授業コード: DA20400001

担当者: 松本 宗久 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:高等学校教諭

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校および高等学校 数学)【必修】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 幾何学 **一般的包括的科目:** ○

授業の目的: 教育の場面においては，教師自身が教える内容に対して何らかの魅力を感じていることが望ましい。本講義ではこの観点から興味を喚起する題材について学習し，それらの考察を通して，平面幾何学に必要となる基礎的な知見と素養を身につける。

到達目標: 中等教育においては平面図形が主な幾何学的考察の対象となる。本講義では平面幾何学の題材に興味を持つとともに，必要となる基礎的な知見と素養を身につけることで，基本的な定理の証明を記述できる事を目標とする。

各回の授業計画:

1. 幾何学の歴史
2. 平面幾何の基本定理
3. 平行線の性質
4. 平行移動と対称移動，回転移動
5. 三角形の合同，中点連結定理
6. 三角形の相似
7. 円に内接する三角形
8. 中間試験と、三角形の5心
9. 三角比と三角関数
10. 三角関数の加法定理
11. 正弦定理・余弦定理
12. タイリング(敷き詰め問題)
13. 黄金比と白銀比
14. 折り紙の幾何学
15. 図形とコンピュータ

特記事項: 第 16 回 授業にて試験を行う

授業方法: 第1～4・6・7・10・12・14・15回 講義、演習(対面 必要に応じてグループワークを取り入れる)
第8回 講義 中間試験(対面)
第5・9・13回 講義 (※オンライン オンデマンド)
第16回 定期試験
(ただし、年度ごとの授業設定日によっては、受講生と相談の上、オンラインでの講義日を変更する場合がある)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1～15. 予習45分×15回 = 675分
1～15. 授業内容の振り返り 30分×15回 = 450分
1～15. 授業で配布される課題の検討 30分×15回 = 450分
1～3. 高校時代の学習内容の復習 60分×3回 = 180分
4. 6. 8. 10. 12. 授業内で実施される確認テストの予習 30分×5回 = 150分
5. 7. 9. 11. 13. 確認テストの復習 30分×5回 = 150分
6. 9. 教員採用試験等に出題された類誌問題の考究 60分×2 =120分
7. 8. ICTを活用した授業に関する機器セットアップ等 60分×2 =120分
12～14. ICTを活用した授業内容の重点的振り返り 60分×3 =180分
15. 定期試験に向けての学習 240分

評価方法:

授業へのとりくみ:	20	**%**	**確認テスト:**	30	**%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:	定期試験(第16回 授業)にて実施			50	**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: 1. 確認テストを含めた授業内容
(60～69)分からない問題が多くても、自分で解決することができる。
(70～79)分からない問題は半分以下であり、自分で解決することが容易である。
(80～100)わからない問題は2割以下であり、他人に説明することができる。

2. 定期試験内容
(60～69)分からない問題が6割以下であり、自学自習により理解できる。
(70～79)分からない問題は4割以下であり、自学自習による理解に支障がない。
(80～100)分からない問題は2割以下であり、他人に説明できる能力がある。

課題へのフィードバック:

講義・及びその他の時間に、確認テスト等の評価・補助を行う。

教科書: 改訂版 体系数学 1幾何編 ISBNコード 978-4-410-20583-5
改訂版 体系数学 2幾何編 ISBNコード 978-4-410-20603-0
改訂版 体系数学 問題集2幾何編【基礎～発展】ISBNコード 978-4-410-21602-2

参考書: 適宜プリント等，教材を配布する。

授業・準備学習のアドバイス:

講義・及びその他の時間に、確認テスト等の評価・補助を行う。
高等学校の数学Aの教科書がある場合、そちらも参照できるようにしておくこと。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 幾何学Ⅱ

クラス: ★小中高

授業コード: DA20500001

担当者: 松本　宗久　　**単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:高等学校教諭

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校および高等学校　数学)【必修】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 幾何学　　**一般的包括的科目:** ○

授業の目的: 図形の問題を解く手法の一つとして複素数平面について学んでおくことは，幾何学的な観点からも重要である。本講義では高等学校で学習する複素数平面の概念を復習しながら，平面や立体の幾何的描画方法について，空間図形の平面への正射影なども考慮に入れながら学習する。

到達目標: 中等教育において学習する複素数および複素数平面の概念を幾何学の観点からより深く学習する。複素数平面等における幾何的描画について理解できることを目標とする。

各回の授業計画:

1. 複素数とその演算
2. 複素数と2次方程式の解
3. 複素数の図表示と極形式
4. ド・モアブルの定理
5. オイラーの等式
6. 複素数平面上の図形
7. 幾何への応用1(垂直条件・3点の共線条件など)
8. 幾何への応用2(シムソン，トレミー，パスカルの定理)
9. 幾何への応用3(正多角形の対角線の積に関する定理)
10. 直交系の正射影
11. ガウスの定理
12. 直交三脚の脚の長さ
13. 正四面体の正射影
14. 曲線の角関数
15. 閉曲線の巻き数の計算

特記事項: 定期試験を実施する

授業方法: 第1・2・6・12・14回 講義、演習(対面)
第9回 中間試験を含む(対面)
第3～5・7・8・10・11・13・15回 講義 ※オンライン(オンデマンド)
第16回 定期試験
(ただし、年度ごとの授業設定日によっては、受講生と相談の上、対面での講義日を変更する場合がある)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1～15. 予習45分×15回 = 675分
1～15. 授業内容の振り返り 30分×15回 = 450分
1～15. 授業で配布される課題の検討 30分×15回 = 450分
1～3. 高校・幾何学Iの学習内容の復習 60分×3回 = 180分
4. 6. 8. 10. 12. 授業内で実施される確認テストの予習 30分×5回 = 150分
5. 7. 9. 11. 13. 確認テストの復習 30分×5回 = 150分
6～9. 教員採用試験等に出題された類誌問題の考究 60分×4 =240分
12～14. ICTを活用した授業内容の重点的振り返り 60分×3 =180分
15. 定期試験に向けての学習 240分

評価方法:

授業へのとりくみ:	10 %	**確認テスト:**	20 %	**レポート:**	20 %
その他1:	定期試験(第16回 授業で実施)		50 %		
その他2:			%		

評価基準: 1. 確認テストを含めた授業内容
(60～69)分からない問題が多くても、自分で解決することができる。
(70～79)分からない問題は半分以下であり、自分で解決することが容易である。
(80～100)わからない問題は2割以下であり、他人に説明することができる。

2. 定期試験内容
(60～69)分からない問題が6割以下であり、自学自習により理解できる。
(70～79)分からない問題は4割以下であり、自学自習による理解に支障がない。
(80～100)分からない問題は2割以下であり、他人に説明できる能力がある。

課題へのフィードバック:

eラーニング上において、確認テスト・レポート等の評価・補助を行う。

教科書: 体系数学5(数研出版)ISBN-13 : 978-4410218163
新課程 体系問題集 数学5(数研出版)ISBN-13 : 978-4-410-21766-1
(他教科で利用している場合、重複購入しないよう注意すること)

参考書: 幾何学Iで使用したテキスト、及び、高校在籍時の数学科教科書を参考書として利用する。また適宜プリント等，教材を配布する。

授業・準備学習のアドバイス:

eラーニング上において、確認テスト等の評価・補助を行う。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 幾何学Ⅲ

クラス: 小中

授業コード: DA20600001

担当者: 松本 宗久 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:高等学校教諭

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 数学)【選択】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 幾何学 **一般的包括的科目:** ×

授業の目的: 幾何学は，数学のみならず様々な分野でその考えを基礎とし，利活用されている。本講義では幾何学の応用分野であり，情報科学の基礎となる離散数学とも関係の深いグラフ理論の基礎について理解することを目標とする。

到達目標: グラフ理論は点とそれらをつなぐ辺との関係を数学的に分析する。本講義では，幾何学や離散数学の基礎となる数学的素養について復習した上で，その応用としてグラフ理論やその周辺分野の概要について学ぶ。

各回の授業計画:

1. 論理・命題
2. 述語
3. 集合
4. 関数や写像(全射・単射・全単射など)
5. 順列・組合せ
6. 確率
7. 数学的帰納法と再帰的定義
8. 中間試験と、2項関係
9. 同値関係
10. 順序(数の大小関係の一般化)
11. グラフ(点と辺で関係を表す)
12. 色々なグラフ
13. 木構造
14. アルゴリズムの時間解析
15. 結び目理論の概要

特記事項: 定期試験を実施する

授業方法: 第1～4・6～8・10～12・14・15回 講義、演習 (必要に応じてグループワークを取り入れる)
第5・9・13回 講義 ※オンライン(オンデマンド)
第16回 期末テスト
(ただし、年度ごとの授業設定日によっては、受講生と相談の上、オンラインでの講義日を変更する場合がある)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1～15. 予習45分×15回 = 675分
1～15. 授業内容の振り返り 30分×15回 = 450分
1～15. 授業で配布される課題の検討 30分×15回 = 450分
1～3. 高校・幾何学Ⅰ・Ⅱの学習内容の復習 60分×3回 = 180分
4. 6. 8. 10. 12. 授業内で実施される確認テストの予習 30分×5回 = 150分
5. 7. 9. 11. 13. 確認テストの復習 30分×5回 = 150分
6～9. 教員採用試験等に出題された類誌問題の考究 60分×4 =240分
12～14. ICTを活用した授業内容の重点的振り返り 60分×3 =180分
15. 定期試験に向けての学習 240分

評価方法:

授業へのとりくみ:	20 **%**	**確認テスト:**	30 **%**	**レポート:**	－ **%**
その他1: 定期試験			50 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 1. 確認テストを含めた授業内容

(60～69)分からない問題が多くても、自分で解決することができる。
(70～79)分からない問題は半分以下であり、自分で解決することが容易である。
(80～100)わからない問題は2割以下であり、他人に説明することができる。

2. 定期試験内容
(60～69)分からない問題が6割以下であり、自学自習により理解できる。
(70～79)分からない問題は4割以下であり、自学自習による理解に支障がない。
(80～100)分からない問題は2割以下であり、他人に説明できる能力がある。

課題へのフィードバック:

講義・及びその他の時間に、確認テスト等の評価・補助を行う。

教科書: 体系数学3 論理・確率編(数研出版)ISBN-13 : 978-4-410-21805-7
(他教科で利用している場合、重複購入しないよう注意すること)
例題で学ぶグラフ理論(森北出版)ISBN-13:978-4-627-05281-9
この他 適宜プリントプリント等, 教材を配布する

参考書: 幾何学I・IIで使用したテキスト、及び、高校在籍時の数学科教科書を参考書として利用する場合がある。

授業・準備学習のアドバイス:

講義・及びその他の時間に、確認テスト等の評価・補助を行う。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 解析学Ⅰ

クラス: 小中高

授業コード: DA20700001

担当者: 岩瀬 謙一 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:私立高等学校教諭、公立高等学校教諭および国立中高等学校教諭

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 数学)【必修】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 解析学 **一般的包括的科目:** ○

授業の目的: 数列および初等関数の基本的な内容について確認し，高校の教育現場における学習の流れを理解する。

到達目標:
1. 解析学の理解に必要な数列および初等関数に関する基本的な知識について確認する。
2. 高校までに学習する内容を振り返り，それぞれに対する知識を整理する。
3. 数列や初等関数について理解を深め，不思議さや面白さを発見する。

各回の授業計画:

1. 数列(1)等差数列と等差数列の和
2. 数列(2)等比数列と等比数列の和
3. 数列(3)階差数列
4. 数列(4)漸化式
5. 数列(5)数学的帰納法
6. 数列(6)数列の振り返りと確認テスト
7. 関数(1)2次関数
8. 関数(2)三角比
9. 関数(3)三角関数
10. 関数(4)指数について
11. 関数(5)指数関数
12. 関数(6)対数について
13. 関数(7)対数関数
14. 関数(8)分数関数
15. 関数(9)無理関数

特記事項: 第16回授業で試験を行う

授業方法: 原則として対面授業であり、黒板による講義形式である。毎授業課題を課す。
一部オンライン授業を行う場合もありうる。また，授業でパソコンやモバイルフォンなどを利用する場合がある。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

予習(各回60分)
各回の講義内容についてテキストにより予習しておく。
復習(各回120分)
講義後に各回の学習内容や課題について理解が十分でなかった部分を中心にノートの整理をしておく。

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 %	**確認テスト:**	20 %	**レポート:**	- %
その他1: 第16回授業で試験を行う			50 %		
その他2:			%		

評価基準:
1. 授業課題
2. 確認テスト
3. 試験
4. レポート

上記の1,2,3,4の内容を総合的に判断し，得点化する。

【最低限の到達度(60～69点)】

・授業へのとりくみ
授業課題が、その時点では十分に理解できていなくても提出している。
・レポート
理解できていなくても時間をかけて取りくんでいることがわかる。
・確認テスト・試験
6割から7割の正答

【望ましい到達度（80～100点）】
・授業へのとりくみ
授業課題が8割以上正答である。
・レポート
時間をかけて正しく丁寧に書かれている。
・確認テスト・試験
8割以上の正答率

課題へのフィードバック：

1. 授業課題は、出来るだけ授業中に答え合わせをして、次の授業で返却する。
2. 確認テスト、レポートは採点して返却する。

教科書： 体系数学4（数研出版）

参考書： 『微分積分』河東泰之監修 佐々木良勝，鈴木香織，竹縄知之著（数理工学社）
体系数学3 数式・関数編

授業・準備学習のアドバイス：

1. 毎授業の課題提出および授業以外に予習復習の時間を確保する。
2. 知っていることでも知識や理解をもう一度整理しなおすことを意識する 。
3. できるだけの授業ノートを作る。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 解析学Ⅱ

クラス: 小中高

授業コード: DA20800001

担当者: 岩瀬 謙一 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:私立高等学校、公立高等学校および国立中高等学校教諭

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校および高等学校 数学)【必修】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 解析学 **一般的包括的科目:** ○

授業の目的: 初等関数の微分法，積分法や極限に関する基礎的な内容について振り返り，教育現場における学習の流れを理解する。講義と演習を通して未修者でも十分理解できるようなわかりやすい授業を目指す。

到達目標: 微分法，積分法，極限について基礎的な概念について理解を深める。
1. 2次関数、3次関数の微分・積分や極限に関する基本的な知識について確認する。
2. 微分法・積分法，極限に関する指導の流れを確認する。
3. 解析を教育で扱う意義について，議論などを通して理解を深める。
4. 微分法・積分法，極限について理解を深め，不思議さや面白さを発見する。

各回の授業計画:

1. 微分法(1) 微分係数と導関数
2. 微分法(2) 増減表とグラフ
3. 微分法(3) 変曲点と増減凹凸表
4. 積分法(1) 区分求積と積分の定義
5. 積分法(2) 微積分の基本定理
6. 積分法(3)不定積分
7. 積分法(4) 定積分
8. 積分法(5) 定積分と面積
9. 積分法(6) 定積分と体積
10. 微分法と積分法の振り返りと確認テスト
11. 極限(1)無限級数
12. 極限(2) 様々な数列の極限
13. 極限(3) 関数の極限
14. 極限(4) 三角関数と極限
15. 極限(5) 指数・対数関数と極限

特記事項: 第16回授業で試験を行う

授業方法: 原則として対面授業であり、黒板による講義形式である。毎授業課題を課す。
一部オンライン授業を行うこともありうる。また，授業でパソコンやモバイルフォンなどを利用する場合がある。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

予習(各回60分)
各回の講義に沿った予習内容を指示する。
復習(各回120分)
講義後に各回の学習内容，重要事項をまとめ，補充の演習問題を解くことにより，知識の定着を図る。

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 %	**確認テスト:**	20 %	**レポート:**	- %
その他1:	試験 第16回授業中に実施する		50 %		
その他2:			%		

評価基準:
1. 授業課題
2. 確認テスト
3. 試験
4. レポート
上記の1,2,3,4の内容を総合的に判断し，得点化する。

【最低限の到達度（60～69点）】
・授業へのとりくみ
授業課題が、その時点では十分に理解できていなくても提出している。
・レポート
理解できていなくても時間をかけて取りくんでいることがわかる。
・確認テスト・試験
6割から7割の正答

【望ましい到達度（80～100点）】
・授業へのとりくみ
授業課題が8割以上正答である。
・レポート
時間をかけて正しく丁寧に書かれている。
・確認テスト・試験
8割以上の正答率

課題へのフィードバック：

1. 授業課題は、出来るだけ授業中に答え合わせをして、次の授業で返却する。
2. 確認テスト、レポートは採点して返却する。

教科書： 体系数学4（数研出版）

参考書： 新編 基礎微分積分 中村拓司・松田真美・萬代武史・柳田達雄共著 学術図書出版
体系数学5

授業・準備学習のアドバイス：

1. 毎授業の課題提出および授業以外に予習復習の時間を確保する。
2. 知っていることでも知識や理解をもう一度整理しなおすことを意識する 。
3. できるだけの授業ノートを作る。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 解析学Ⅲ

クラス: 小中

授業コード: DA20900001

担当者: 岩瀬 謙一 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:私立高等学校、公立高等学校および国立中高等学校教諭

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 数学)【選択】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 解析学 **一般的包括的科目:** ×

授業の目的: 初等関数の微分・積分に関する基本的概念について振り返り，理解を深める。講義と演習を通して未修者でも十分理解できるようなわかりやすい授業を目指す。

到達目標: 微分法，積分法、極限について基礎的な概念について理解を深める。
1. 2次関数、3次関数の微分・積分等に関する基本的な知識について確認する。
2. 微分法・積分法に関する指導の流れを確認する。
3. 解析を教育で扱う意義について，議論などを通して理解を深める。
4. 微分法・積分法について理解を深め，不思議さや面白さを発見する。

各回の授業計画:

1. 微分法(1) 三角関数の微分
2. 微分法(2) 指数・対数関数の微分
3. 微分法(3) 関数の積・商の微分
4. 微分法(4)合成関数の微分
5. 微分法(5) 逆関数の微分
6. 微分法(6) 対数微分法
7. 微分法(7)平均値の定理とロピタルの定理
8. 微分法(8) テーラー展開
9. 微分法(9) 微分法の振り返りと確認テスト
10. 積分法(1)置換積分法(不定積分)
11. 積分法(2) 置換積分法(定積分)
12. 積分法(3) 部分積分法(不定積分)
13. 積分法(4) 部分積分法(定積分)
14. 積分法(5) 有理関数の不定積分
15. 積分法(6)有理関数の定積分

特記事項: 第16回授業で試験を行う

授業方法: 原則として対面授業であり、黒板による講義形式である。毎授業課題を課す。
一部オンライン授業を行うこともありうる。また，授業でパソコンやモバイルフォンなどを利用する場合がある。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

予習(各回60分)
各回の講義に沿った予習内容を指示する。
復習(各回120分)
講義後に各回の学習内容，重要事項をまとめ，補充の演習問題を解くことにより，知識の定着を図る。

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 %	**確認テスト:**	20 %	**レポート:**	- %
その他1:	第16回授業で試験を行う		50 %		
その他2:			%		

評価基準:
1. 授業課題
2. 確認テスト
3. 試験
4. レポート
上記の1,2,3,4の内容を総合的に判断し，得点化する。

【最低限の到達度（60～69点）】
・授業へのとりくみ
授業課題が、その時点では十分に理解できていなくても提出している。
・レポート
理解できていなくても時間をかけて取りくんでいることがわかる。
・確認テスト・試験
6割から7割の正答

【望ましい到達度（80～100点）】
・授業へのとりくみ
授業課題が8割以上正答である。
・レポート
時間をかけて正しく丁寧に書かれている。
・確認テスト・試験
8割以上の正答率

課題へのフィードバック：

1. 授業課題は、出来るだけ授業中に答え合わせをして、次の授業で返却する。
2. 確認テスト、レポートは採点して返却する。

教科書： 体系数学5（数研出版）

参考書： 新編 基礎微分積分 中村拓司・松田真美・萬代武史・柳田達雄共著 学術図書出版

授業・準備学習のアドバイス：

1. 毎授業の課題提出および授業以外に予習復習の時間を確保する。
2. 知っていることでも知識や理解をもう一度整理しなおすことを意識する 。
3. できるだけの授業ノートを作る。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 確率・統計論Ⅰ

クラス: 小中

授業コード: DA21000001

担当者: 岩瀬 謙一 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:私立高等学校，公立高等学校及び国立中高等学校教諭

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 数学)【必修】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 確率・統計 **一般的包括的科目:** ○

授業の目的: 場合の数、確率，および統計の基本的な知識について確認し，中学・高校の教育現場における学習の流れを理解する。

到達目標:
1. 確率および統計に関する基本的な知識について確認する。
2. 高校までに学習する内容を振り返り，それぞれに対する知識を整理する。
3. 確率および統計について理解を深め，不思議さや面白さを発見する。

各回の授業計画:

1. 確率(1) 場合の数
2. 確率(2) 順列・組合せ
3. 確率(3) 確率と同様な確からしさ
4. 確率(4) 条件付き確率と乗法定理
5. 確率(5) 事象の独立と反復試行
6. 確率(6)ベイズの定理
7. 確率(7) 期待値
8. 確率(8) 確率の振り返りと確認テスト
9. データの分析(1) データの整理
10. データの分析(2)データの代表値
11. データの分析(3) 四分位数，四分位範囲
12. データの分析(4)箱ひげ図と外れ値
13. データの分析(5)分散と標準偏差
14. データの分析(6)相関関係と最小二乗法
15. データ分析(7)仮説検定の考え方

特記事項: 第16回授業で試験を行う

授業方法: 原則として対面授業であり、黒板による講義形式である。毎授業課題を課す。
一部オンライン授業を行う場合もありうる。また，授業でパソコンやモバイルフォンなどを利用する場合がある。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

予習(各回60分)
各回の講義に沿った予習内容を指示する。
復習(各回120分)
講義後に各回の学習内容，重要事項をまとめ，補充の演習問題を解くことにより，知識の定着を図る。

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 %	**確認テスト:**	20 %	**レポート:**	- %
その他1:	第16回授業で試験を行う		50 %		
その他2:			%		

評価基準:
1. 授業課題
2. 確認テスト
3. 試験
4. レポート

上記の1,2,3,4の内容を総合的に判断し，得点化する。

【最低限の到達度(60～69点)】

・授業へのとりくみ
授業課題が、その時点では十分に理解できていなくても提出している。
・レポート
理解できていなくても時間をかけて取りくんでいることがわかる。
・確認テスト・試験
6割から7割の正答

【望ましい到達度（80～100点）】
・授業へのとりくみ
授業課題が8割以上正答である。
・レポート
時間をかけて正しく丁寧に書かれている。
・確認テスト・試験
8割以上の正答率

課題へのフィードバック：

1. 授業へのとりくみは、授業態度と参加意欲、発表の内容により判断する。
2. 確認試験およびレポートについては，採点後に返却し，学習状況，到達状況等を確認する。

教科書： 体系数学4（数研出版）

参考書： 「新基礎コース確率・統計」浅倉史興，竹居正登共著，学術図書出版
「高校数学からはじめる統計学」竹士伊知郎著，日科技連
「改訂版すぐわかる統計解析」石村貞夫，石村友二郎共著，東京図書

授業・準備学習のアドバイス：

1. 毎授業の課題提出および授業以外に予習復習の時間を確保する。
2. 知っていることでも知識や理解をもう一度整理しなおすことを意識する 。
3. できるだけの授業ノートを作る。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 確率・統計論Ⅱ

クラス: 小中

授業コード: DA21100001

担当者: 岩瀬 謙一 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:私立高等学校、公立高等学校および国立中高等学校教諭

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 数学)【選択】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 確率・統計 **一般的包括的科目:** ×

授業の目的: 確率・統計論Ⅰで扱った確率の知識を振り返り，離散的な確率分布から確率密度関数のグラフへと確率論への理解を深める。また、推定および検定という推測統計学の内容の基礎的な部分について確認し，高校の教育現場における学習の流れを理解する。

到達目標:
1. 確率分布および推測・検定に関する基本的な知識について確認する。
2. 高校までに学習する内容を振り返り，それぞれに対する知識を整理する。
3. 確率分布および推測・検定について理解を深め，不思議さや面白さを発見する。

各回の授業計画:

1. 確率分布(1)確率変数と確率分布
2. 確率分布(2)確率変数の期待値と分散
3. 確率分布(3)確率変数の変換
4. 確率分布(4)確率変数の和と期待値
5. 確率分布(5) 独立な確率変数と期待値・分散
6. 確率分布(6)二項分布
7. 確率分布(7) 正規分布
8. 確率分布(8) 確率分布の振り返りと確認テスト
9. 統計的な推測(1)母集団と標本
10. 統計的な推測(2) 標本平均とその分布
11. 統計的な推測(3) 母平均の推定
12. 統計的な推測(4) 母比率の推定
13. 統計的な推測(5) 仮説検定
14. 統計的な推測(6)カイ二乗検定
15. 統計的な推測(7)t検定

特記事項: 第16回授業で試験を行う

授業方法: 原則として対面授業であり、黒板による講義形式である。毎授業課題を課す。
一部オンライン授業を行う場合もありうる。また，授業でパソコンやモバイルフォンなどを利用する場合がある。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

予習(各回60分)
各回の講義に沿った予習内容を指示する。
復習(各回120分)
講義後に各回の学習内容，重要事項をまとめ，補充の演習問題を解くことにより，知識の定着を図る。

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 %	**確認テスト:**	20 %	**レポート:**	− %
その他1:	試験 第16回授業で行う		50 %		
その他2:			%		

評価基準:
1. 授業課題
2. 確認テスト
3. 試験
4. レポート

上記の1,2,3,4の内容を総合的に判断し，得点化する。

【最低限の到達度(60～69点)】

・授業へのとりくみ
授業課題が、その時点では十分に理解できていなくても提出している。
・レポート
理解できていなくても時間をかけて取りくんでいることがわかる。
・確認テスト・試験
6割から7割の正答

【望ましい到達度（80～100点）】
・授業へのとりくみ
授業課題が8割以上正答である。
・レポート
時間をかけて正しく丁寧に書かれている。
・確認テスト・試験
8割以上の正答率

課題へのフィードバック：

1. 授業へのとりくみは、授業態度と参加意欲、発表の内容により判断する。
2. 確認試験およびレポートについては，採点後に返却し，学習状況，到達状況等を確認する。

教科書： 体系数学4（数研出版）

参考書： 「新基礎コース確率・統計」浅倉史興，竹居正登共著，学術図書出版
「高校数学からはじめる統計学」竹士伊知郎著，日科技連
「改訂版すぐわかる統計解析」石村貞夫，石村友二郎共著，東京図書

授業・準備学習のアドバイス：

1. 毎授業の課題提出および授業以外に予習復習の時間を確保する。
2. 知っていることでも知識や理解をもう一度整理しなおすことを意識する 。
3. できるだけの授業ノートを作る。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: コンピュータ概論

クラス: ★小中高

授業コード: DA21200001

担当者: 松本　宗久　　**単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:高等学校教諭

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校および高等学校　数学)【必修】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: コンピュータ　　**一般的包括的科目:** ○

授業の目的: 数学的活動においてコンピュータを積極的に活用することがますます求められるようになっている。そこで本講義においては、基礎的なプログラミングおよび、アルゴリズムの基本を学習することで、またモデル化、基礎的な数値解析の方法などを学ぶ事で、数学的活動に必要なコンピュータの基礎知識を習得する。

到達目標: 数学的活動をより充実したものにするために必要なコンピュータの知識を習得するために, プログラミングおよび, それに必要なアルゴリズムについて学ぶ。修得した技術により中等教育の授業に使用できる簡単なプログラムを組むことができるようになる事を目標とする。

各回の授業計画:

1. 情報のディジタル化(アナログとディジタル, 情報量の定義)
2. 数値や文字のディジタル表現(n進法, 文字コードなど)
3. 論理回路(AND, OR, NOT回路など)
4. 社会や自然現象のモデル化とその表記方法
5. 処理手順の明確化(アルゴリズムとフローチャート)
6. 処理手順の自動化(プログラミング1 基本的な命令文)
7. 処理手順の自動化(プログラミング2 基本制御構造)
8. 配列と関数
9. 探索 1(線形探索)
10. 探索 2(二分探索)
11. 整列 1(交換法)
12. 整列 2(選択法)
13. 整列 3(挿入法)
14. 数値計算 1(二分法)
15. 数値計算 2(ニュートン法)

特記事項: なし

授業方法: 第1・2・6・11・14回 講義、演習
第3～5・7～10・12・13・15回 講義 ※オンライン(オンデマンド)
(ただし、年度ごとの授業設定日によっては、受講生と相談の上、対面での講義日を変更する場合がある)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1～15. 予習45分×15回 = 675分
1～15. 授業内容の振り返り 45分×15回 = 675分
1～15. 授業で配布される課題の検討 30分×15回 = 450分
1～3. 授業に必要なPCなど機器のセットアップ 60分×3 =180分
2～4. 高校での学習内容の復習 60分×3回 = 180分
5. 7. 9. 11. 13. 授業内で実施される確認テストの予習 30分×5回 = 150分
6. 8. 10. 12. 14. 確認テストの復習 30分×5回 = 150分
4. 6. 8. 10. 12. 14. 授業に必要なPCなど機器のメンテナンス 20分×6 =120分
15. 最終課題に関する学習 180分

評価方法:

授業へのとりくみ:	20	**%**	**確認テスト:**	40	**%**	**レポート:**	40 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: 1. 確認テストを含む授業内容

（60～69）分からない問題が多くても、自分で解決することができる。
（70～79）分からない問題は半分以下であり、自分で解決することが容易である。
（80～100）わからない問題は2割以下であり、他人に説明することができる。

2. 制作物（レポートに相当）
（60～69）できない課題が6割以下であり、自学自習や、教員・受講者の補助により納得できる。
（70～79）できない課題が4割以下であり、自学自習に支障がない。
（80～100）できない課題が2割以下であり、他人の補助を行える能力がある。

課題へのフィードバック：

eラーニング上において、小試験等の評価・補助を行う。

教科書： Paizaラーニングのコンテンツを活用して学習を行う。
（登録は授業時に行うが、予め学習したい者は、大学のメールアドレスを利用してアカウントを作成しておくこと）
https://paiza.jp/
この他 適宜プリント等，教材を配布する。

参考書： 高等学校の情報科の教科書を利用する場合があるので保管し用意しておくこと。

授業・準備学習のアドバイス：

eラーニング上において、小試験等の評価・補助を行う。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 数学科教育法Ⅰ

クラス: 小中高(内規科目)

授業コード: DA21300001

担当者: 堤 康嘉 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:高等学校教諭

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校および高等学校 数学)【必修】

含めることが必要な事項: 各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 学習指導要領における中学校数学について内容の理解を深め、教科内容の整理を行い、教える立場に立てる準備をする。

到達目標: 中学校や高等学校における数学教育カリキュラムの考え方と教材研究をテーマとする。数学教育の意義を理解し、基本的知識を身に付ける。数学教育カリキュラムにおける教育内容を理解する。

各回の授業計画:

1. 数学どのように学んできたか
2. 中等教育における数学の目的と内容
3. 授業案の作り方とパソコンなどのICT機器を活用した授業作り
4. 数の指導について(正・負の数)
5. 式の指導について(文字式)
6. 式の指導について(方程式)
7. 数の指導について(平方根)
8. 図形の指導について(軌跡)
9. 図形の指導について(図形の性質)
10. 図形の指導について(証明)
11. 図形の指導について(空間図形)
12. 関数の指導について(比例・反比例)
13. 関数の指導について(1次関数と2次関数)
14. 資料の活用の指導について(確率統計)
15. 課題学習と評価(今までの授業をとおして数学教育を振り返る)

特記事項: 16回目テスト

授業方法: 講義と演習を, 受講者が主体性を発揮できるように, グループワークやグループディスカッション等を交えて行う。また, 各授業の資料はTeams にアップロードしておくので授業の復習にも役立ててもらいたい。全て対面で行う。
第1～5回 講義、グループワーク
第6回・7回 演習
第8回・9回 講義、グループワーク
第10・11回 演習
第12回 講義、演習
第13回・14回 演習
ダ15回 講義、グループワーク
第16回 期末テスト

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1.「理想の数学教師像」のレポート作成(180分)
2. 中学数学の目的と内容の確認(180分)
3. 授業案の作り方の確認(180分)
4. 数の指導について(正・負の数)の課題(180分)
5. 式の指導について(文字式)の課題(180分)
6. 式の指導について(方程式)の課題(180分)
7. 数の指導について(平方根)の課題(180分)
8. 図形の指導について(軌跡)の課題(180分)
9. 図形の指導について(図形の性質)の課題(180分)
10. 図形の指導について(証明)の課題(180分)

11. 図形の指導について(空間図形)の課題(180分)
12. 関数の指導について(比例・反比例)の課題(180分)
13. 関数の指導について(1次関数と2次関数)の課題(180分)
14. 資料の活用の指導について(確率統計)の課題(180分)
15. 課題学習と評価(今までの授業をとおして数学教育を振り返る)の課題(180分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	20	**%**	**確認テスト:**	50	**%**	**レポート:**	30 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準:

1. 授業へのとりくみ(関心, 意欲, 態度)
2. 確認テストによる基礎的な事項の理解と記述による表現力
3. レポートによる表現力
上記の1, 2, 3の内容を総合的に判断し, 得点化する。

・最低限の到達度(60～69点)
数学科教育法について概ね理解し, 授業の取り組みや授業での課題レポートを解決することができる。
・標準的な到達度(70～79点)
数学科教育法について理解し, 授業の取り組みや授業での課題レポートを解決することができる。
・望ましい到達度(80～100点)
数学科教育法について十分理解し, 授業の取り組みや授業での課題レポートを率先して解決することができる。

課題へのフィードバック:

1. 授業へのとりくみは、授業態度と参加意欲、発表の内容により判断する。
2. 確認試験およびレポートについては, 採点後に返却し, 学習状況,到達状況等を確認する。

教科書:
中学校学習指導要領解説 数学編(日本文教出版)(2018年3月)
中学校教科書 数学 (中学1年、中学2年)(啓林館)

参考書:
高等学校学習指導要領解説 数学編 (学校図書)(2019年4月)
高等学校教科書 数学 (数学I(改訂版)、数学A(改訂版))(数研出版)

授業・準備学習のアドバイス:

授業のはじめに前回授業の内容の復習の小テストやレポート提出を実施する。代数、幾何、解析などの数学の授業も積極的に受講していくことを望む。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 数学科教育法Ⅱ

クラス: 小中高(内規科目)

授業コード: DA21400001

担当者: 松本 宗久 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:高等学校教諭(数学)

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校および高等学校 数学)【必修】

含めることが必要な事項: 各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 数学科教育法Ⅱに引き続き、中学校数学の教材研究と学習指導法を学んでゆき、各領域の重要なテーマを扱いながら実践的に進める。

到達目標: 中学校数学における教材研究と学習指導法研究をテーマとする。数学教育学の観点から中学校数学における実践的指導力を身に付けることである。

各回の授業計画:

1. 受講者の経験・教える立場での留意点・疑問点
2. 小学校、中学校、高等学校の数学の系統的理解
3. 授業法 教材研究 模擬授業の観点の理解とパソコンなどのICT機器を用いた授業作り
4. 数と式の指導 教材研究1(正・負の数、文字式)
5. 数と式の指導 教材研究2(文字式、平方根)
6. 数と式の指導 模擬授業1(正・負の数、文字式)
7. 数と式の指導 模擬授業2(文字式、平方根)
8. 図形の指導 教材研究1(軌跡)
9. 図形の指導 教材研究2(図形の性質)
10. 図形の指導 模擬授業1(軌跡)
11. 図形の指導 模擬授業2(図形)
12. 関数の指導 教材研究(比例・反比例、1次関数と2次関数)
13. 関数の指導 模擬授業(比例・反比例、1次関数と2次関数)
14. 資料の活用の指導 教材研究と模擬授業
15. まとめ(今までの授業をとおして数学教育を振り返る)

特記事項: 16回目に試験を実施

授業方法: 講義と演習を, 受講者が主体性を発揮できるように, グループワークやグループディスカッション等を交えて行う。また, 各授業の資料はTeams にアップロードしておくので授業の復習にも役立ててもらいたい。全て対面で行う。
第1～5回 講義、グループワーク
第6回・7回 演習
第8回 中間テスト、演習
第9回 講義、グループワーク
第10・11回 演習
第12回 講義、演習
第13回・14回 演習
第15回 講義、グループワーク
第16回 期末テスト

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. それぞれの立場での留意点・疑問点のまとめ(180分)
2. 小学校、中学校、高等学校の数学の系統的理解(180分)
3. 授業法 教材研究 模擬授業の観点の理解(180分)
4. 数と式の指導 教材研究1(正・負の数、文字式)の課題(180分)
5. 数と式の指導 教材研究2(文字式、平方根)の課題(180分)
6. 数と式の指導 模擬授業1(正・負の数、文字式)の予習と復習(180分)
7. 数と式の指導 模擬授業2(文字式、平方根)の予習と復習(180分)
8. 図形の指導 教材研究1(軌跡)の課題(180分)
9. 図形の指導 教材研究2(図形の性質)の課題(180分)

10. 図形の指導 模擬授業1（軌跡）の予習と復習（180分）
11. 図形の指導 模擬授業2（図形）の予習と復習（180分）
12. 関数の指導 教材研究（比例・反比例、1次関数と2次関数 ）の課題（180分）
13. 関数の指導 模擬授業（比例・反比例、1次関数と2次関数）の予習と復習（180分）
14. 資料の活用の指導 教材研究と模擬授業の予習と復習（180分）
15. 数学教育を振り返るための課題（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	20 **%**	**確認テスト：**	50 **%**	**レポート：**	30 **%**
その他1：			**%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

1. 授業へのとりくみ（関心，意欲，態度）
2. 確認テストによる基礎的な事項の理解と記述による表現力
3. レポートによる表現力

上記の1，2，3の内容を総合的に判断し，得点化する。

・最低限の到達度（60～69点）
数学科教育法について概ね理解し，授業の取り組みや授業での課題レポートを解決することができる。
・標準的な到達度（70～79点）
数学科教育法について理解し，授業の取り組みや授業での課題レポートを解決することができる。
・望ましい到達度（80～100点）
数学科教育法について十分理解し，授業の取り組みや授業での課題レポートを率先しで解決することができる。

課題へのフィードバック：

1. 授業へのとりくみは、授業態度と参加意欲、発表の内容により判断する。
2. 確認試験およびレポートについては，採点後に返却し，学習状況,到達状況等を確認する。

教科書：

高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 数学編 理数編 （学校図書） ISBN-13 ： 978-4762505355
（数学科教育法Iで購入している場合は、それを利用して良い）

未来へひろがる数学3 みんなで学ぼう編 （啓林館）
（未来へひろがる数学1と2、中学校学習指導要領解説 数学編 をまだ購入していない場合は購入すること）

参考書：

授業配布プリントによる

授業・準備学習のアドバイス：

授業のはじめに前回授業の内容の復習の小テストやレポート提出を実施する。代数、幾何、解析などの数学の授業も積極的に受講していくことを望む。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 数学科教育法Ⅲ

クラス: 小中(内規科目)

授業コード: DA21500001

担当者: 堤 康嘉、松本 宗久 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:
[堤]高等学校教諭
[松本]高等学校教諭

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 数学)【必修】

含めることが必要な事項: 各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 大学で学んだ数学や数学教育の観点から、中学校における教材研究の再検討をすることをテーマとする。数学教師として遭遇する様々な課題解決に直接役立つ知識、思考、などの諸能力を身に付けることである。

到達目標: これまでに学んだ数学・数学教育の知識を基に、中学校までに学んだ数学を再検討し、それを踏まえた授業構成と学習評価について様々な観点から再考することである。

各回の授業計画:

1. 大学数学の立場からの教育内容再検討の意義(堤)
2. 中学校数学科における数学的活動(堤)
3. 数学教育学における理論(数学的問題解決理論)(堤)
4. 数学教育学における理論(数学的問題解決理論からの派生的理論)(堤)
5. 中学校数学科授業の分析と検討(日本の授業の分析)(松本)
6. 中学校数学科授業の分析と検討(日本の授業の評価)(松本)
7. 中学校数学科授業の分析と検討(米国の授業との比較)(松本)
8. 中学校数学科授業の分析と検討(香港の授業との比較)(松本)
9. 学習指導案の作成と再検討(堤)
10. 学習指導案の作成と再検討を踏まえた修正(堤)
11. 模擬授業の実施(日常生活から生じる問題解決)(堤)
12. 模擬授業の実施(社会の事象から生じる問題解決)(堤)
13. 模擬授業の実施(数学の事象から生じる問題解決)(堤)
14. 模擬授業の実施(総合的な問題解決(情報通信技術の活用を含む。))(松本)
15. まとめ(模擬授業をとおして数学教育を振り返る)(堤)

特記事項: 第 16 回 授業にて試験を行う

授業方法: 全て対面にて実施する
第1～8回 講義、グループワーク
第9・10回 演習
第11～15回 講義、演習
第16回 期末テスト
(各授業の資料はTeams にアップロードしておくので授業の復習にも役立ててもらいたい)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

予習・復習を授業の前後に合わせて180分行うものとする
1. 大学数学の立場からの教育内容再検討の意義(180分)
2. 中学校数学科における数学的活動(180分)
3. 数学教育学における理論(数学的問題解決理論)(180分)
4. 数学教育学における理論(数学的問題解決理論からの派生的理論)(180分)
5. 中学校数学科授業の分析と検討(日本の授業の分析)(180分)
6. 中学校数学科授業の分析と検討(日本の授業の評価)(180分)
7. 中学校数学科授業の分析と検討(米国の授業との比較)(180分)
8. 中学校数学科授業の分析と検討(香港の授業との比較)(180分)
9. 学習指導案の作成と再検討(180分)
10. 学習指導案の作成と再検討を踏まえた修正(180分)
11. 模擬授業の実施(日常生活から生じる問題解決)(180分)
12. 模擬授業の実施(社会の事象から生じる問題解決)(180分)

13. 模擬授業の実施（数学の事象から生じる問題解決）（180分）
14. 模擬授業の実施（総合的な問題解決）（180分）
15. まとめ（模擬授業をとおして数学教育を振り返る）（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	20 **%**	**確認テスト：**	20 **%**	**レポート：**	30 **%**
その他1：	期末テスト（第16回実施）		30 **%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

1. 授業へのとりくみ（関心，意欲，態度）
2. 確認テストによる基礎的な事項の理解と記述による表現力
3. レポートによる表現力
上記の1，2，3の内容を総合的に判断し，得点化する。

・最低限の到達度（60～69点）
数学科教育法について概ね理解し，授業の取り組みや授業での課題レポートを解決することができる。
・標準的な到達度（70～79点）
数学科教育法について理解し，授業の取り組みや授業での課題レポートを解決することができる。
・望ましい到達度（80～100点）
数学科教育法について十分理解し，授業の取り組みや授業での課題レポートを率先して解決することができる。

課題へのフィードバック：

1. 授業へのとりくみは、授業態度と参加意欲、発表の内容により判断する。
2. 確認試験およびレポートについては，採点後に返却し，学習状況,到達状況等を確認する。

教科書： 中学校学習指導要領解説 数学編（日本文教出版）（2018年3月）
中学校 数学 教科書（啓林館 未来へひろがる数学1～3（1年 61啓林館 数学705，2年61啓林館 数学805，3年 61啓林館 数学905）
（いずれも数学科教育法IおよびIIで購入済）

参考書： 授業時、適宜プリントを配布する。

授業・準備学習のアドバイス：

授業のはじめに前回授業の内容の復習の小テストやレポート提出を実施する。
代数、幾何、解析、演習などの数学の授業も積極的に受講・学習していくことを望む。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 数学科教育法Ⅳ

クラス: 小中

授業コード: DA21600001

担当者: 堤 康嘉、松本 宗久 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:
[松本]高等学校教諭
[堤]高等学校教諭

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 数学)【必修】

含めることが必要な事項: 各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 数学ができるようになったことをいかに評価するかをテーマとする。数学教育の結果を個人および全体で評価することについて、その意義と重要性を理解し、その方法を身に付ける。

到達目標: 教科教育法において、評価についての学習が不足がちとなる状況に鑑み、より進んだ立場から評価方法を取り扱う。

各回の授業計画:

1. 評価方法について(堤)
2. 全国学力調査(問題を解く)(堤)
3. 全国学力調査(結果から考察する)(堤)
4. 数学の評価(基本)(堤)
5. 数学の評価(実例)(堤)
6. 学力調査の仕組み(基本)(松本)
7. 全国的な学力調査(国内調査)(松本)
8. 全国的な学力調査(国際調査)(松本)
9. 記述式問題評価の実際(実例)(堤)
10. 記述式問題評価の実際(評価基準)(堤)
11. 記述式問題評価の実際(まとめ・問題解決)(堤)
12. 授業内評価について(堤)
13. 模擬授業1(基本内容の確認(情報通信技術の活用を含む))(松本)
14. 模擬授業2(授業内評価を取り入れる)(松本)
15. 模擬授業3(授業内評価・模擬授業をとおして数学教育を振り返る)(堤)

特記事項: 第 16 回 授業にて試験を行う

授業方法: 全て対面にて実施する
第1・2・4～7・9～12回 講義、演習
第3・8・13～15回講義、グループワーク
第16回 期末テスト
(各授業の資料はTeams にアップロードしておくので授業の復習にも役立ててもらいたい)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

予習・復習を授業の前後に合わせて180分行うものとする
1. 評価方法について(180分)
2. 全国学力調査(問題を解く)(180分)
3. 全国学力調査(結果から考察する)(180分)
4. 数学の評価(基本)(180分)
5. 数学の評価(実例)(180分)
6. 学力調査の仕組み(基本)(180分)
7. 全国的な学力調査(国内調査)(180分)
8. 全国的な学力調査(国際調査)(180分)
9. 記述式問題評価の実際(実例)(180分)
10. 記述式問題評価の実際(評価基準)(180分)
11. 記述式問題評価の実際(まとめ・問題解決)(180分)
12. 授業内評価について(180分)
13. 模擬授業1(基本内容の確認)(180分)

14. 模擬授業2（授業内評価を取り入れる）（180分）
15. 模擬授業3（授業内評価・模擬授業をとおして数学教育を振り返る）（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	20 **%**	**確認テスト：**	20 **%**	**レポート：**	30 **%**
その他1：	期末テスト（第16回実施）		30 **%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

1. 授業へのとりくみ（関心，意欲，態度）
2. 確認テストによる基礎的な事項の理解と記述による表現力
3. レポートによる表現力
上記の1，2，3の内容を総合的に判断し，得点化する。

・最低限の到達度（60～69点）
数学科教育法について概ね理解し，授業の取り組みや授業での課題レポートを解決することができる。
・標準的な到達度（70～79点）
数学科教育法について理解し，授業の取り組みや授業での課題レポートを解決することができる。
・望ましい到達度（80～100点）
数学科教育法について十分理解し，授業の取り組みや授業での課題レポートを率先して解決することができる。

課題へのフィードバック：

1. 授業へのとりくみは、授業態度と参加意欲、発表の内容により判断する。
2. 確認試験およびレポートについては，採点後に返却し，学習状況,到達状況等を確認する。

教科書： 中学校学習指導要領解説 数学編（日本文教出版）（2018年3月）
中学校 数学 教科書（啓林館 未来へひろがる数学1～3（1年 61啓林館 数学705，2年61啓林館 数学805，3年 61啓林館 数学905）
（数学科教育法IおよびIIで購入済）

参考書： 授業時、適宜プリントを配布する。

授業・準備学習のアドバイス：

授業のはじめに前回授業の内容の復習の小テストやレポート提出を実施する。
代数、幾何、解析、演習などの数学の授業も積極的に受講・学習していくことを望む。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 英語学概論

クラス: 小中高/国

授業コード: DA25000001

担当者: 新藤 照夫 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校および高等学校 英語)【必修】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 英語学 **一般的包括的科目:** ○

授業の目的: 英語という個別言語を様々なレベルにおいて研究することで、表面的な英語に関する理解だけでなく、歴史や文化的背景も踏まえ、英語全般の特質を明らかにすることを目的とする。それらの知識を英語教育に活かし、中学校、高等学校の授業において英語の構造全般について分かりやすく説明できるようになることを目指す。

到達目標:
・英語学の各領域の基本的な理論や専門用語を理解し、キーワードや具体例を挙げて説明できる。
・英語の様々な実例に対し、英語学の観点から分析することができる。
・国際共通語としての英語の多様性の実態について具体例を挙げて説明できる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション:授業の展開方法の説明、国際共通語としての英語の概説
2. 英語の歴史①:英語の発音とスペリング、英語の語彙の多様性
3. 英語の歴史②:標準英語の成立、英語のバリエーション、ことばの変化
4. 音声学:ことばと音声、発声器官と言語音の分類
5. 音韻論:音素、音節、音変化、アクセント、リズム
6. 形態論:単語の恣意性、形態論と形態素、語形成
7. 統語論:統語構造、句構造、単文・補文の構造
8. 意味論①:言葉の意味、語の間の意味関係、意味の拡張
9. 意味論②:意味の主観性、意味とコンテクスト
10. 談話分析:結束性、新情報・旧情報
11. 語用論:協調の原理、会話の含意、発話行為
12. 言語と文化:英語と文化、サピア=ウォーフの仮説、対照修辞学
13. 社会言語学:ことばの変種、AAVE、ピジンとクリオール、PC
14. 日本の英語教育と教授法:英語教育の歩み、日本での教授法の種類、第二言語習得
15. まとめ(学修した各領域のレビュー)および確認テスト

特記事項: なし

授業方法: 15回すべての授業を対面で実施

1. 講義、演習、ペアワーク、グループワーク
2. 講義、演習、ペアワーク、グループワーク
3. 講義、演習、ペアワーク、グループワーク
4. 講義、演習、ペアワーク、グループワーク
5. 講義、演習、ペアワーク、グループワーク
6. 講義、演習、ペアワーク、グループワーク
7. 講義、演習、ペアワーク、グループワーク
8. 講義、演習、ペアワーク、グループワーク
9. 講義、演習、ペアワーク、グループワーク
10. 講義、演習、ペアワーク、グループワーク
11. 講義、演習、ペアワーク、グループワーク
12. 講義、演習、ペアワーク、グループワーク
13. 講義、演習、ペアワーク、グループワーク
14. 講義、演習、ペアワーク、グループワーク
15. 演習、確認テスト

予習・復習・宿題など(内容・時間):

予習(合計1500分)／ 復習(合計1200分)

1. シラバスの確認・教科書の内容の確認(100分)／ 課題提出(80分)
2. 英語の歴史①の読解による要点や疑問点の確認(100分)／ 課題提出(80分)
3. 英語の歴史②の読解による要点や疑問点の確認(100分)／ 課題提出(80分)
4. 音声学の読解による要点や疑問点の確認(100分)／ 課題提出(80分)
5. 音韻論の読解による要点や疑問点の確認(100分)／ 課題提出(80分)
6. 形態論の読解による要点や疑問点の確認(100分)／ 課題提出(80分)
7. 統語論の読解による要点や疑問点の確認(100分)／ 課題提出(80分)
8. 意味論①の読解による要点や疑問点の確認(100分)／ 課題提出(80分)
9. 意味論②の読解による要点や疑問点の確認(100分)／ 課題提出(80分)
10. 談話分析の読解による要点や疑問点の確認(100分)／ 課題提出(80分)
11. 語用論の読解による要点や疑問点の確認(100分)／ 課題提出(80分)
12. 言語と文化の読解による要点や疑問点の確認(100分)／ 課題提出(80分)
13. 社会言語学の読解による要点や疑問点の確認(100分)／ 課題提出(80分)
14. 日本の英語教育と教授法の読解による要点や疑問点の確認(100分)／ 課題提出(80分)
15. 確認テストの準備学修(100分)／ 課題提出(80分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	40 **%**	**レポート:**	－ **%**
その他1: 課題			30 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準:

①望ましい到達度(80～100点)
【授業へのとりくみ】
各領域の基本的な理論や専門用語を理解し、キーワードや具体例を挙げて説明できる。
英語の様々な実例に対し、英語学の観点から分析することができる。
ペアワーク、グループワークに協働的かつ積極的に貢献できる。
【課題】
課題にて、正解率80%以上を収めることができる。
【確認テスト】
確認テストにて、正解率80%以上を収めることができる。

②最低限の到達度(60～69点)
【授業へのとりくみ】
各領域の基本的な理論や専門用語を概ね理解し、説明できる。
英語の様々な実例に対し、英語学の観点から分析を試みることができる。
ペアワークやグループワークに参加し、アイデアや意見を共有できる。
【課題】
課題にて、正解率が60%～69%の範囲となる。
【確認テスト】
確認テストにて、正解率が60%～69%の範囲となる。

課題へのフィードバック:

・演習、ペアワーク、グループワーク、課題に対して、授業時にフィードバックを行う。
・課題と確認テストについては、Teamsでフィードバックを行う。

教科書: 『はじめての英語学〈改訂版〉』 長谷川瑞穂 編著(研究社)

参考書: 『英語学を学ぼう―英語学の知見を英語学習に活かす―』高橋勝忠 著(開拓社)
『映画で学ぶ英語学』 倉田誠 著(くろしお出版)

授業・準備学習のアドバイス:

毎回の授業では予習を前提として授業を展開しますので、必ず予習をして学修する内容の準備をして臨んでください。授業の準備としては、教科書の各章の内容を把握するとともに、要点や疑問点をまとめておくようにして下さい。授業後は学修した重要事項やキーワードをノートにまとめ直し、理解の再構築を行うようにしてください。
現代の英語の様々な事象を分析するにあたり、英語の歴史的変遷の知識が重要となりますので、英語の教員免許を希望する人には「英語の歴史」の同時履修をお勧めします。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 英語の歴史

クラス: 小中高

授業コード: DA25100001

担当者: 新藤 照夫 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校および高等学校 英語)【選択】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 英語学 **一般的包括的科目:** ×

授業の目的: 「World Englishes」と言われるようになり、グローバル化した現代英語の歴史的変遷を学修する。学修には、英語そのものの歴史(内面史)と英語を取りまく社会の変化(外面史)の両方を視野に入れ、英語の変遷過程に関する理解を深めることを目的とする。また、「過去志向」になる傾向にある英語史の学修に「現代志向」の視点を追加し、現代の英語史研究の知見を活かしながら、英語学の分野別に現代英語の疑問を解き明かす。将来的に中学校、高等学校の英語の指導に活用できる背景知識の習得を目指す。

到達目標: ・英語の歴史的変遷および国際共通語としての英語の実態について理解し、概要を説明できる。
・現代英語の様々な事象における疑問を歴史から解き明かす視点を持つことができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション:授業の展開方法の説明、現代英語の疑問の例示
2. いかにして英語は現在の姿になったのか①:英語史の時代区分、資料と媒体
3. いかにして英語は現在の姿になったのか②:音声・綴字・文法・語彙の変化、英語の多様性
4. 発音と綴字に関する疑問①:2種類の不定冠詞、「名前動後」の強勢パターン、発音と綴字の関係
5. 発音と綴字に関する疑問②:古英語の発音規則、音変化とマジックe、ルネサンス期の見栄
6. 語形に関する疑問①:屈折の歴史的性格、規則と不規則(1)
7. 語形に関する疑問②:古英語の格の痕跡、規則と不規則(2)、形容詞と副詞の関係
8. 統語に関する疑問①:未来時制の発達、仮定法の衰退と残存
9. 統語に関する疑問②:語順の固定化、祈願のmayの発達
10. 語彙と意味に関する疑問①:英語語彙の階層性、同音異義と多義
11. 語彙と意味に関する疑問②:単語の意味変化の日常性、混成語の流行
12. 方言と社会に関する疑問①:rの発音と移民史、colonial lagの虚実
13. 方言と社会に関する疑問②:英語変種と偏見、英語におけるジェンダー問題
14. 英語史を学ぶ意義
15. まとめ(英語史の概観と疑問の解決法のレビュー)および確認テスト

特記事項: なし

授業方法: 15回すべての授業を対面で実施

1. 講義、演習、ペアワーク、グループワーク
2. 講義、演習、ペアワーク、グループワーク
3. 講義、演習、ペアワーク、グループワーク
4. 講義、演習、ペアワーク、グループワーク
5. 講義、演習、ペアワーク、グループワーク
6. 講義、演習、ペアワーク、グループワーク
7. 講義、演習、ペアワーク、グループワーク
8. 講義、演習、ペアワーク、グループワーク
9. 講義、演習、ペアワーク、グループワーク
10. 講義、演習、ペアワーク、グループワーク
11. 講義、演習、ペアワーク、グループワーク
12. 講義、演習、ペアワーク、グループワーク
13. 講義、演習、ペアワーク、グループワーク
14. 講義、演習、ペアワーク、グループワーク
15. 演習、確認テスト

予習・復習・宿題など(内容・時間):

予習(合計1500分)／ 復習(合計1200分)

1. シラバスの確認・教科書の内容の確認(100分)／ 課題の解答(80分)
2. いかにして英語は現在の姿になったのか①の読解による要点や疑問点の確認(100分)／ 課題の解答(80分)
3. いかにして英語は現在の姿になったのか②の読解による要点や疑問点の確認(100分)／ 課題の解答(80分)
4. 発音と綴字に関する疑問①の読解による要点や疑問点の確認(100分)／ 課題の解答(80分)
5. 発音と綴字に関する疑問②の読解による要点や疑問点の確認(100分)／ 課題の解答(80分)
6. 語形に関する疑問①の読解による要点や疑問点の確認(100分)／ 課題の解答(80分)
7. 語形に関する疑問②の読解による要点や疑問点の確認(100分)／ 課題の解答(80分)
8. 統語に関する疑問①の読解による要点や疑問点の確認(100分)／ 課題の解答(80分)
9. 統語に関する疑問②の読解による要点や疑問点の確認(100分)／ 課題の解答(80分)
10. 語彙と意味に関する疑問①の読解による要点や疑問点の確認(100分)／ 課題の解答(80分)
11. 語彙と意味に関する疑問②の読解による要点や疑問点の確認(100分)／ 課題の解答(80分)
12. 方言と社会に関する疑問①の読解による要点や疑問点の確認(100分)／ 課題の解答(80分)
13. 方言と社会に関する疑問②の読解による要点や疑問点の確認(100分)／ 課題の解答(80分)
14. 英語史を学ぶ意義の読解による要点や疑問点の確認(100分)／ 課題の解答(80分)
15. 確認テストの準備学修(100分)／ 課題の解答(80分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	40 **%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:	課題		30 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準:

①望ましい到達度(80～100点)
【授業へのとりくみ】
英語史の歴史的変遷をよく理解し、キーワードや具体例を挙げて概略を説明できる。
英語の様々な疑問に対し、英語史の観点から分析することができる。
各回のリフレクションに、学修した内容を要領良くまとめることができる。
ペアワーク、グループワークに協働的かつ積極的に貢献できる。
【課題】
課題にて、正解率80%以上を収めることができる。
【確認テスト】
確認テストにて、正解率80%以上を収めることができる。

②最低限の到達度(60～69点)
【授業へのとりくみ】
英語史の歴史的変遷を概ね理解し、説明できる。
英語の様々な疑問に対し、英語史の観点から分析を試みることができる。
各回のリフレクションを提出することができる。
ペアワークやグループワークに参加し、アイデアや意見を共有できる。
【課題】
課題にて、正解率が60%～69%の範囲となる。
【確認テスト】
確認テストにて、正解率が60%～69%の範囲となる。

課題へのフィードバック:

・演習、ペアワーク、グループワークに対して、授業時にフィードバックを行う。
・課題と確認テストについては、Teamsでフィードバックを行う。

教科書: 『英語の「なぜ？」に答えるーはじめての英語史』堀田隆一 著(研究社)

参考書: 『英語教師のための英語史』片見彰夫 / 川端朋広 / 山本史歩子 編(開拓社)

授業・準備学習のアドバイス:

毎回の授業では予習を前提として授業を展開しますので、必ず予習をして学修する内容の準備をして臨んでください。授業の準備としては、教科書の各章の内容を把握するとともに、要点や疑問点をまとめておくようにして下さい。授業後は学修した重要事項やキーワードをノートにまとめ直し、理解の再構築を行うようにしてください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 英語の文法

クラス: 教

授業コード: DA25200001

担当者: 新藤 照夫 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 英語)【必修】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 英語学 **一般的包括的科目:** ○

授業の目的: 英文法の各項目の骨格を深く理解し、そこから生まれる英語事象を分析把握できる能力を習得するとともに、英語学研究の知見をもとに一歩進んだ英文法の知識を学修することで、中学生や高校生からの英文法に関する「なぜ」に答えられる授業力を習得することを目的とする。
また、授業で提示される英文法の規則性を自分のものとし、「読む、書く、聞く、伝える」場面で習得した知識を活用していく。

到達目標: ・英文法の中核を理解し、英語の基本用法、派生用法を解説できる。
・中学校および高等学校の授業に資する英文法の知見を習得する。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション:授業の展開方法の説明、国際共通語としての英語の概説
2. 英文法の基礎知識、be動詞(現在形)
3. 一般動詞(現在形)、be動詞(過去形)
4. 一般動詞(過去形、規則変化)、一般動詞(過去形, 不規則変化)
5. 命令文、There is [are] 〜、itの特別用法
6. 注意すべき疑問文、進行形
7. 未来形、助動詞(1)
8. 助動詞(2)、名詞・冠詞
9. 代名詞、前置詞
10. 形容詞、副詞
11. 比較(1)、比較(2)
12. 接続詞、受け身(受動態)
13. 不定詞、動名詞
14. 分詞、現在完了
15. まとめ(学修した各文法項目のレビュー)および確認テスト

特記事項: なし

授業方法: 15回すべての授業を対面で実施

1. 講義、演習、ペアワーク、グループワーク
2. 講義、演習、ペアワーク、グループワーク
3. 講義、演習、ペアワーク、グループワーク
4. 講義、演習、ペアワーク、グループワーク
5. 講義、演習、ペアワーク、グループワーク
6. 講義、演習、ペアワーク、グループワーク
7. 講義、演習、ペアワーク、グループワーク
8. 講義、演習、ペアワーク、グループワーク
9. 講義、演習、ペアワーク、グループワーク
10. 講義、演習、ペアワーク、グループワーク
11. 講義、演習、ペアワーク、グループワーク
12. 講義、演習、ペアワーク、グループワーク
13. 講義、演習、ペアワーク、グループワーク
14. 講義、演習、ペアワーク、グループワーク
15. 演習、確認テスト

予習・復習・宿題など(内容・時間):

予習(合計1500分)／ 復習(合計1200分)
1. シラバスの確認・教科書の内容の確認(100分)／ 復習および課題提出(80分)

2. 英文法の基礎知識、be動詞(現在形)の要点や疑問点の確認(100分)／ 復習および課題提出(80分)
3. 一般動詞(現在形)、be動詞(過去形)の要点や疑問点の確認(100分)／ 復習および課題提出(80分)
4. 一般動詞(過去形，規則変化)、一般動詞(過去形，不規則変化)の要点や疑問点の確認(100分)／ 復習および課題提出(80分)
5. 命令文、There is [are] ～、itの特別用法の要点や疑問点の確認(100分)／ 復習および課題提出(80分)
6. 注意すべき疑問文、進行形の要点や疑問点の確認(100分)／ 復習および課題提出(80分)
7. 未来形、助動詞(1)の要点や疑問点の確認(100分)／ 復習および課題提出(80分)
8. 助動詞(2)、名詞・冠詞の要点や疑問点の確認(100分)／ 復習および課題提出(80分)
9. 代名詞、前置詞の要点や疑問点の確認(100分)／ 復習および課題提出(80分)
10. 形容詞、副詞の要点や疑問点の確認(100分)／ 復習および課題提出(80分)
11. 比較(1)、比較(2)の要点や疑問点の確認(100分)／ 復習および課題提出(80分)
12. 接続詞、受け身(受動態)の要点や疑問点の確認(100分)／ 復習および課題提出(80分)
13. 不定詞、動名詞の要点や疑問点の確認(100分)／ 復習および課題提出(80分)
14. 分詞、現在完了の要点や疑問点の確認(100分)／ 復習および課題提出(80分)
15. 確認テストの準備学修(100分)／ 復習および課題提出(80分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	40 **%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:	課題		30 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準:

①望ましい到達度(80～100点)
【授業へのとりくみ】
学修した各文法事項の要点を例を挙げて他者に説明できる。
積極的にペアワークやグループワークに参加し、中心的な役割を果たすことができる。
【課題】
課題にて、正解率80%以上を収めることができる。
【確認テスト】
確認テストにて、正解率80%以上を収めることができる。

②最低限の到達度(60～69点)
【授業へのとりくみ】
学修した内容をノートにまとめる。
ペアワークやグループワークに参加できる。
【課題】
課題にて、正解率が60%～69%の範囲となる。
【確認テスト】
確認テストにて、正解率が60%～69%の範囲となる。

課題へのフィードバック:

・演習、ペアワーク、グループワーク、授業時にフィードバックを行う。
・課題、確認テストについては、Teamsでフィードバックを行う。

教科書: 『Everyday English Grammar <Fourth Edition> 大学生のためのコミュニケーション英文法【改訂4版】』
水島孝司、Duncan Butland、Roger Pattimore 著(南雲堂)

参考書: 『授業力アップのための一歩進んだ英文法』加賀信広 / 大橋一人編(開拓社)

授業・準備学習のアドバイス:

毎回の授業では予習を前提として授業を展開します。授業では、講義による説明を授業時間の1/3から半分程度に抑え、ペアワークとグループワークによって理解の定着を図るようにします。そのため、授業の準備として、教科書の各章について各回の授業までに内容を読み込み、要点や疑問点をノートにまとめておくようにして下さい。授業後は学修した文法事項をノートにまとめ直し、理解の再構築を行うようにしてください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 英語発音トレーニング

クラス: 教/国

授業コード: DA25300001

担当者: 眞﨑 克彦 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 英語)【選択】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 英語学 **一般的包括的科目:** ×

授業の目的: 発音を全体的なものとして捉え、個々の音素や語の発音練習に終始することなく、フレーズ、文、文章といった大きなまとまりの中で練習することを通して、英語の発音を練習する。理論的な理解に加え、トレーニングを通じた自然な発音の習得を目指すため、ニュース記事、絵本・物語、歌・チャンツ、映画・テレビドラマの会話なども教材として扱う。

到達目標: 日本語と英語の発音の違いを理解し、英語によるコミュニケーションを図るための明瞭性の高い発音力を身に付ける。

各回の授業計画:

1. イントロダクション:小・中学校の英語発音指導の要点、母音の概要(Jonesの基本母音図)、子音の概要(調音位置、方法)、プロソディとは。
2. A. 音素 (1) 前舌母音 B. プロソディ (1) Dialogue 1-1 (2) 音節と語強勢 C. 実践発音練習1. ニュース記事の朗読等 1
3. A. 音素 (1) 後舌母音 B. プロソディ (1) Dialogue 1-2 (2) 文強勢・ポーズ (3) 内容語と機能語 C. 実践発音練習1. ニュース記事の朗読等 2
4. A. 音素 (1) 中舌母音 B. プロソディ (1) Dialogue 1-3 (2) ピッチとイントネーション (3) 音のつながり(連結・脱落) C. 実践発音練習1. ニュース記事の朗読等 3
5. A. 音素 (1) 二重母音と長母音 B. プロソディ (1) Dialogue 2-1 (2) 音のつながり(脱落・同化) C. 実践発音練習2. 絵本・物語1
6. A. 音素 (1) /əː(r)/ girl, bird, third B. プロソディ (1) Dialogue 2-2 (2) イントネーション一列挙と選択疑問文 C. 実践発音練習2. 絵本・物語2
7. A. 音素 (1) 曖昧母音 B. プロソディ (1) Dialogue 2-3 (2) 機能語の弱形と強形 C. 実践発音練習2. 絵本・物語3
8. A. 音素 (1) 母音のまとめ B. プロソディ (1) Dialogue 3-1 (2) 音のつながり・同化 C. 実践発音練習3. 歌・チャンツ1
9. A. 音素 (1) 子音について・閉鎖音 B. プロソディ (1) Dialogue 3-2 (2) 句動詞・品詞の復習(文法) C. 実践発音練習3. 歌・チャンツ2
10. A. 音素 (1) 子音について・鼻音 B. プロソディ (1) Dialogue 3-3 (2) イントネーション一付加疑問文 C. 実践発音練習3. 歌・チャンツ3
11. A. 音素 (1) 子音について・摩擦音 B. プロソディ (1) Dialogue 3-4 (2) 話者の意図と強勢 C. 実践発音練習3. 歌・チャンツ4
12. A. 音素 (1) 子音について・破擦音、(2) 摩擦音と破擦音の区別 B. プロソディ (1) Dialogue 4-1 (2) 合成語 (3) 名詞連続 C. 実践発音練習4. 映画・テレビドラマ等1
13. A. 音素 (1) 子音について・側音と半母音、(2) 子音連続 B. プロソディ (1) Dialogue 4-2 (2) 感嘆文・最上級・強調語 (3) 強勢の移動・弱化・強化 C. 実践発音練習4. 映画・テレビドラマ等2
14. A. 音素 (1) 子音について・子音のまとめ、B. プロソディ (1) Dialogue 4-3(2) 話者の意図とイントネーション C. 実践発音練習4. 映画・テレビドラマ等3
15. A. 音素 (1) 音素のまとめ、B. プロソディ (1) プロソディのまとめ C. 実践発音発表会

特記事項: なし

授業方法:
1. 講義・練習・プレゼンテーション・学生の発音に関する考えの意見交流 (対面)
2. 講義・練習・プレゼンテーション・学生どうしの発音に関する考えの意見交流、発音練習成果の確認と評価 (対面)
3. 講義・練習・プレゼンテーション・学生どうしの発音に関する考えの意見交流、発音練習成果の確認と評価 (対面)
4. 講義・練習・プレゼンテーション・学生どうしの発音に関する考えの意見交流、発音練習成果の確認と評価 (対面)
5. 講義・練習・プレゼンテーション・学生どうしの発音に関する考えの意見交流、発音練習成果の確認と評価 (対面)
6. 講義・練習・プレゼンテーション・学生どうしの発音に関する考えの意見交流、発音練習成果の確認と評価 (対面)
7. 講義・練習・プレゼンテーション・学生どうしの発音に関する考えの意見交流、発音練習成果の確認と評価 (対面)
8. 講義・練習・プレゼンテーション・学生どうしの発音に関する考えの意見交流、発音練習成果の確認と評価 (対面)
9. 講義・練習・プレゼンテーション・学生どうしの発音に関する考えの意見交流、発音練習成果の確認と評価 (対面)
10. 講義・練習・プレゼンテーション・学生どうしの発音に関する考えの意見交流、発音練習成果の確認と評価 (対面)
11. 講義・練習・プレゼンテーション・学生どうしの発音に関する考えの意見交流、発音練習成果の確認と評価 (対面)
12. 講義・練習・プレゼンテーション・学生どうしの発音に関する考えの意見交流、発音練習成果の確認と評価 (対面)
13. 講義・練習・プレゼンテーション・学生どうしの発音に関する考えの意見交流、発音練習成果の確認と評価 (対面)
14. 講義・練習・プレゼンテーション・学生どうしの発音に関する考えの意見交流、発音練習成果の確認と評価 (対面)
15. A. 音素 (1) 音素のまとめ、B. プロソディ (1) プロソディのまとめ C. 実践発音発表会

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. イントロダクション：小・中学校の英語発音指導の要点、母音の概要(Jonesの基本母音図)、子音の概要(調音位置、方法)、プロソディとは。復習15分、発音練習30分
2. A. 音素 B. プロソディ C. 実践発音練習1. ニュース記事の朗読等 についての課題の音源を使った発音練習45分
3. A. 音素 B. プロソディ C. 実践発音練習1. ニュース記事の朗読等 についての課題の音源を使った発音練習45分
4. A. 音素 B. プロソディ C. 実践発音練習1. ニュース記事の朗読等 についての課題の音源を使った発音練習45分
5. A. 音素 B. プロソディ C. 実践発音練習1. 絵本・物語 についての課題の音源を使った発音練習45分
6. A. 音素 B. プロソディ C. 実践発音練習1. 絵本・物語 についての課題の音源を使った発音練習45分
7. A. 音素 B. プロソディ C. 実践発音練習1. 絵本・物語 についての課題の音源を使った発音練習45分
8. A. 音素 B. プロソディ C. 実践発音練習1. 歌・チャンツについての課題の音源を使った発音練習45分
9. A. 音素 B. プロソディ C. 実践発音練習1. 歌・チャンツについての課題の音源を使った発音練習45分
10. A. 音素 B. プロソディ C. 実践発音練習1. 歌・チャンツについての課題の音源を使った発音練習45分
11. A. 音素 B. プロソディ C. 実践発音練習1. 歌・チャンツについての課題の音源を使った発音練習45分
12. A. 音素 B. プロソディ C. 実践発音練習1. 映画・テレビドラマ等 についての課題の音源を使った発音練習45分
13. A. 音素 B. プロソディ C. 実践発音練習1. 映画・テレビドラマ等 についての課題の音源を使った発音練習45分
14. A. 音素 B. プロソディ C. 実践発音練習1. 映画・テレビドラマ等 についての課題の音源を使った発音練習45分
15. A. 音素 (1) 音素のまとめ、B. プロソディ (1) プロソディのまとめ C. 実践発音発表会の準備45分

評価方法：

授業へのとりくみ：	40 **%**	**確認テスト：**	− **%**	**レポート：**	30 **%**		
その他1：	プレゼンテーション(練習成果の発表)による評価	30 **%**					
その他2：		**%**					

評価基準：

A. プレゼンテーション
(1) 最低限の到達度(60−69%の評価)
・日本語との違いを区別して発音できている。
・基本的なアクセントやイントネーションを意識して発音できる。
(2) 望ましい到達度(80−100%の評価)
・音素同士の違いを意識して明瞭性のある発音ができる。
・プロソディを意識して英語らしいリズム、アクセント、イントネーションで発音できる。
B. レポート
(1) 最低限の到達度(60−69%の評価)
・毎回学習のふりかえりをして提出ができている。
・自分自身の成長の気付きを記述している。
(2) 望ましい到達度(80−100%の評価)
・毎時間の発音ポイントについての学びの記述ができている。
・発音面で改善できたところ、課題として残っているところについて、peer assessmentも踏まえて記述している。
C. 授業への取り組み
(1) 最低限の到達度(60−69%の評価)
・恥ずかしがらずに発音できている。
・他の学生に対して評価を伝えている。
(2) 望ましい到達度(80−100%の評価)
・発音の注意点を他の学生に伝えている。
・発音の改善点を建設的に他の学生に伝えている。

課題へのフィードバック：

発音の評価について観点別の評定のフィードバックを行い、各自の発音練習に生かせるようにする。

教科書：

Sounds Make Perfect 英語音声学への扉 ～発音とリスニングを中心に～
今井由美子・井上球美子・井上聖子・大塚朝美・高谷華・上田洋子・米田信子
英宝社

参考書：

適宜、参考資料等をTeamsで共有する。

授業・準備学習のアドバイス：

教科書は、必ず準備してください。
PCは、毎回使用するので必携してください。目的は、教科書の内容を理解するためのHO(ハンドアウト)（webベース）へ記入するため、あるいは、web上に提示する資料を活用して発音練習するためです。
教科書に付属しているCDを使って短時間でいいので毎日発音の練習をしましょう。
期末にまとめのレポートとして提出するのではなく、毎時間、授業ふりかえりをTeamsで提出しそれを総合的にレポートとして扱い評価します。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: English Vocabulary Building

クラス: 小中高/国

授業コード: DA25400001

担当者: 水田 時男 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 英語)【選択】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 英語学 **一般的包括的科目:** ×

授業の目的: 各回のテーマに応じた語彙の用法を文脈において確認し、実際のコミュニケーションの場面で利用できるように、トレーニングを通して習得する。定着をはかるため、定期的に小テストを行う。

到達目標: アカデミックな英語を使用する基礎となる基本的な語彙の中から5,000 語程度の意味と用法を習得することを目標とする。また、単語や熟語を覚えるプロセスにおいて、自分に適した方法を模索し、持続可能で合理的な語彙習得を行う基礎となる力を養成する。

各回の授業計画:

1. 導入 語彙を習得するということ
2. Level 1 天気、植物、地理、動物、集団・社会、気持ち、人、等を表す語
3. Level 1 他動詞・自動詞の区別と語彙習得
4. Level 2 会社・職業、性格・性質、形状・外観、交通機関、等を表す語
5. Level 2 他動詞から派生した形容詞
6. Level 3 科学・技術、自然・地質、人体・健康、政治・社会、犯罪・紛争、等を表す語
7. Level 3 不可算名詞の習得
8. 自分に合った語彙習得法を考える
9. Level 4 利益・富、政治・経済、接続・比較、輸送、会社・オフィス、等を表す語
10. Level 4 名詞の理解における、意味(meaning)と指示(reference)
11. Level 5 数・量、順応・変化、競争・勝負、等に関する語
12. Level 5 言語論と教育論に関する語彙
13. Level 6 短い時間、ある時点、基礎・起源、食べ物・食事、自然現象、豊かさ、等を表す語
14. Level 6 文学・出版、現実・明確さ、効率・正確さ、視点・視覚、IT等を表す語
15. 語彙習得法のふりかえり

特記事項: なし

授業方法: すべての授業を対面で行う。
テキストの Grammar Focus を中心に、要点の整理と知識の定着を図るため演習を中心とした活動を行う。
毎週の配信内容の確認および課題にとりくむ。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. テキスト全体を概観し、学習計画を立てる (60分)
2. Lev.1 単語の確認 (20分)
3. 単語テスト(Lev. 1)の準備 (60分)
4. 単語テストの復習とLev.2 単語の確認 (45分)
5. Lev. 2 単語の確認 (20分)
6. 単語テスト(Lev. 2)の準備 (60分)
7. Lev. 3 単語の確認 (20分)
8. 小テストの準備 (90分)
9. Lev. 4 単語の確認 (20分)
10. 単語テスト(Lev. 4)の準備 (60分)
11. Lev. 5 単語の確認 (20分)
12. 単語テスト(Lev. 5)の準備 (60分)
13. Lev. 6 単語の確認 (20分)
14. 小テストの準備 (90分)
15. テキスト全体の復習 (30分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	20	**%**	**確認テスト:**	20	**%**	**レポート:**	– **%**
その他1:	授業内アセスメント(小テストを含む)			60	**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: A. 確認テスト
(1) 最低限の到達度(60-69%の評価)
・Grammar Focus で学習したそれぞれの項目について、要点を理解している。
・型となる構文を基本として、語彙や表現を変更することにより、新しい文を作ることができる。
(2) 望ましい到達度(80-100%の評価)
・Grammar Focus で学習したそれぞれの項目について十分に理解している。
・学習したそれぞれの項目を連携させ、メッセージの内容に応じて、適切な語彙、構文を選択して表現することができる。
・学習した語彙を利用して、まとまりのあるパラグラフを書くことができる。

B. 授業内アセスメント(小テストを含む)
(1) 最低限の到達度(60-69%の評価)
・レベル毎の小テストで、平均60%以上の語彙を習得していることが表れている。
・学習範囲の語彙について、英語をみれば日本語の意味を対応させることができる。
・授業内での演習活動について、すべての課題に取り組むことができる。
(2) 望ましい到達度(80-100%の評価)
・レベル毎の小テストで、平均80%以上の語彙を習得したことが表れている。
・学習範囲の語彙について、日本語の意味に対応した英語を正しいつづりで書くことができる。
・演習課題について、別解や、表現によるニュアンスの違いを検討することができる。

課題へのフィードバック:
オンラインによる採点、コメント等によるフィードバックを行う。

教科書: 『データベース4800完成英単語・熟語』 望月正道 監修 (桐原書店)

参考書: 適宜、資料をTeamsで共有する。

授業・準備学習のアドバイス:
・小テスト(単語テスト等)や課題はスマホ等のデバイスではなくPCを利用して行うこと。

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 英語文学概論

クラス: 小中高/国

授業コード: DA25500001

担当者: 藤田 眞弓 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 英語)【必修】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 英語文学 **一般的包括的科目:** ○

授業の目的: 英語文学の基礎的な知識を紹介する。また、文学批評理論を用いることで、文学作品の解釈の可能性が大いに広がることを理解する。これにより、文学以外の文化や社会の現象に対して、客観的で理論的な思考が出来るようになるための素地を作る。

到達目標:
1. イギリスおよびアメリカをはじめとする英語文学の概要を知る。
2. 文学作品を、批評理論を用いて分析出来るようになる。
3.「英語文学作品研究A」や「イギリス・アメリカ文学史」や「英語の歴史」といった英語文学に関する科目にも目を配り英語文学の基礎知識をしっかりと把握すること。
4. 授業でとりあげた文学作品を授業時間外に読み、授業で紹介した読み方以外にいかなる読み方が可能であるかを考察する。

各回の授業計画:

1. コースガイダンス:文学批評理論用語の紹介
2. イギリス文学概要 (1) ルネサンス:演劇
3. イギリス文学概要 (2) ロマン主義:詩
4. イギリス文学概要 (3) ヴィクトリア朝:小説①
5. イギリス文学概要 (4) モダニズムとポストモダニズム:小説②
6. 文学理論で読む『フランケンシュタイン』①作品紹介と鑑賞
7. 文学理論で読む『フランケンシュタイン』②文学理論解説
8. 文学理論で読む『フランケンシュタイン』③実践
9. アメリカ文学概要 (1) アメリカ・ルネサンス
10. アメリカ文学概要 (2) リアリズムと自然主義
11. アメリカ文学概要 (3)「失われた世代」
12. 文学理論で読む『ジャズ時代の物語』①作品紹介と鑑賞
13. 文学理論で読む『ジャズ時代の物語』②文学理論解説
14. 文学理論で読む『ジャズ時代の物語』③実践
15. まとめ:ノーベル文学賞に見る「世界文学」への動き・確認テスト

特記事項: なし

授業方法:
1. コースガイダンス、講義、質疑応答
2. 講義、コメント提出
3. 講義、コメント提出
4. 講義、コメント提出
5. 講義、コメント提出
6. 講義、コメント提出
7. 講義、コメント提出
8. 講義、コメント提出
9. 講義、コメント提出
10. 講義、コメント提出
11. 講義、コメント提出
12. 講義、コメント提出
13. 講義、コメント提出
14. 講義、コメント提出
15. 講義、まとめと確認のテストとその解説

1〜15講義(対面授業)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. Shakespeare『オセロー』を読む (180分)

2. イギリスロマン主義について調べる。Wordsworthの詩を読む（180分）
3. イギリスヴィクトリア朝小説について調べる。Dickens『オリバー・ツイスト』のあらすじを読む（180分）
4. モダニズムとポストモダニズムについて調べる。Woolf『ダロウェイ夫人』を読む（180分）
5. Mary Shelly『フランケンシュタイン』を読む①（180分）
6. Mary Shelly『フランケンシュタイン』を読む②（180分）
7. Mary Shelly『フランケンシュタイン』を読む③（180分）
8. アメリカンルネサンスについて調べる。Melville『白鯨』のあらすじを読む（180分）
9. アメリカのリアリズムと自然主義について調べる。Jack London「火を熾す」を読む（180分）
10.「失われた世代」について調べる。『ジャズ時代の物語』を読む①（180分）
11.『ジャズ時代の物語』を読む②（180分）
12.『ジャズ時代の物語』を読む③（180分）
13. 講義にて指定された映画を鑑賞する（180分）
14.「まとめと確認」にむけての総復習（180分）
15.「まとめと確認」の復習（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	40	**%**	**確認テスト：**	60	**%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準：

1. 授業へのとりくみ
①毎時間講義内容に対するのコメントを提出している。（60～69）
②講義内容に対する質問や意見を積極的に発信している。または、講義内容と関連する自身の文学経験について述べることが出来ている。（80～100）
2. 確認テスト
①講義で学んだ内容をもとに、英語圏文学の基礎的な知識を習得していることが伺える記述をすることが出来る。（60～69）
②講義で学んだ内容をもとに、設問の要求に応えて英語圏文学に関する論理的な記述が出来る。（80～100）

課題へのフィードバック：

・前回の授業で提出を求めたコメント、質問に対する解説等を翌週の授業の冒頭で毎回行う。

教科書： なし

参考書：

川崎寿彦 著 A Brief History of British Literature『イギリス文学史』（成美堂、2005年）
井上謙治 著『アメリカ文学史入門』（創元社、1996年）
廣野由美子 著『批評理論入門：「フランケンシュタイン」解剖講義』（中公新書、2005年）
Lois Tyson 著 Critical Theory Today: A User-Friendly Guide (Routledge, 2006)

授業・準備学習のアドバイス：

毎時間、PCかタブレット端末を持参するのが望ましい（1～3年生は必携）。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: イギリス・アメリカ文学史

クラス: 小中高

授業コード: DA25600001

担当者: 藤田 眞弓 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 英語)【選択】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 英語文学 **一般的包括的科目:** ×

授業の目的: イギリスとアメリカの文学史を、時代順に、その社会的背景も併せて解説する。文学を含むいかなる芸術作品も、その作品が生み出された社会背景と切り離して考察することは出来ないという事を認識する。

到達目標:
1. 英米文学の特色をその歴史的、文化的背景を含め、理解する。
2. 各自で個々の作品を鑑賞し、授業で得た、歴史的、文化的背景とその作品との関わりについて論じられるようになる。
3. 長篇小説や演劇の抜粋や詩を、原文で味わうことが出来る。

各回の授業計画:

1. コースガイダンス:T.S.エリオット「伝統と個人の才能」の解説
2. 英文学のはじまり:古・中英語の文学600−1485
3. 英文学のルネサンス:1485−1649 (1) 時代背景とエリザベス朝演劇
4. 英文学のルネサンス:1485−1649 (2) シェイクスピア登場
5. オーガスタン時代からゴシックまで:1713−89
6. ロマン主義:1789−1832 (1) 時代背景
7. ロマン主義:1789−1832 (2) ロマン主義詩人
8. ヴィクトリア朝時代:1832−1900 (1) 時代背景
9. ヴィクトリア朝時代:1832−1900 (2) ヴィクトリア朝期小説
10. 20世紀の文学:1939まで
11. 20世紀の文学:1939から現在まで
12. アメリカ・ルネサンス文学
13. リアリズムと自然主義:南北戦争後から1910年代まで
14. 「失われた世代」の作家たち
15. まとめと確認テスト(14回目までの振り返り学習と、授業で紹介された作品から一作品を選択し、その作品について論述する。)

特記事項: なし

授業方法:
1. コースガイダンス
2. 講義(DVD等映像視聴)、質疑応答、クイズ(TeamsのチームよりForms機能を使って回答)
3. 講義(DVD等映像視聴)、質疑応答、クイズ(TeamsのチームよりForms機能を使って回答)
4. 講義(DVD等映像視聴)、質疑応答、クイズ(TeamsのチームよりForms機能を使って回答)
5. 講義(DVD等映像視聴)、質疑応答、クイズ(TeamsのチームよりForms機能を使って回答)
6. 講義(DVD等映像視聴)、質疑応答、クイズ(TeamsのチームよりForms機能を使って回答)
7. 講義(DVD等映像視聴)、質疑応答、クイズ(TeamsのチームよりForms機能を使って回答)
8. 講義(DVD等映像視聴)、質疑応答、クイズ(TeamsのチームよりForms機能を使って回答)
9. 講義(DVD等映像視聴)、質疑応答、クイズ(TeamsのチームよりForms機能を使って回答)
10. 講義(DVD等映像視聴)、質疑応答、クイズ(TeamsのチームよりForms機能を使って回答)
11. 講義(DVD等映像視聴)、質疑応答、クイズ(TeamsのチームよりForms機能を使って回答)
12. 講義(DVD等映像視聴)、質疑応答、クイズ(TeamsのチームよりForms機能を使って回答)
13. 講義(DVD等映像視聴)、質疑応答、クイズ(TeamsのチームよりForms機能を使って回答)
14. 講義(DVD等映像視聴)、質疑応答、クイズ(TeamsのチームよりForms機能を使って回答)
15. 講義の復習、テスト、質疑応答(TeamsのチームよりForms機能を使って回答)

1〜15講義(対面授業)

予習・復習・宿題など(内容・時間):
1. 参考書①の第1章を読む(予習)(180分)
2. 前回の復習、参考書①の第2,3章を読む(予習)(180分)
3. 前回の復習、参考書①の第4章を読む(予習)(180分)

4. 前回の復習、参考書①の第7,8章を読む（予習）(180分)
5. 前回の復習、参考書①の第9章を読む（予習）(180分)
6. 前回の復習、参考書①の第9章を読む（予習）(180分)
7. 前回の復習、参考書①の第10章を読む（予習）(180分)
8. 前回の復習、参考書①の第11章を読む（予習）(180分)
9. 前回の復習、参考書①の第12章を読む（予習）(180分)
10. 前回の復習、参考書①の第13,14章を読む（予習）(180分)
11. 前回の復習、参考書②の第3章を読む（予習）(180分)
12. 前回の復習、参考書②の第4章を読む（予習）(180分)
13. 前回の復習、参考書②の第5章を読む（予習）(180分)
14. 第1回目から第14回目までの復習 (180分)
15.「まとめと確認」の復習 (180分)

評価方法：

授業へのとりくみ：	30	**%**	**確認テスト：**	50	**%**	**レポート：**	20 **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準： 授業への取り組みは、毎回の授業の振り返り学習を兼ねて、コメントをTeamsの「課題」より提出する。
15回目にはTeamsの「課題」を使用した、確認のテストの実施と選択した作品（あるいは作家）についてのレポート提出を求める。

1. 授業への取組み、確認テスト他
①英米文学の特色をその歴史的、文化的背景を含め、理解している。(60～69)
②各自で個々の作品を鑑賞し、授業で得た、歴史的、文化的背景とその作品との関わりについて論じられるようになる。(80～100)

課題へのフィードバック：

・クイズ、質疑応答の解答解説を毎時間行う。

教科書： 相島 倫嘉 著
『An Outline of English Literature（イギリス文学概観）』（南雲堂、2004）
ISBN 9784523185048
井上 謙治 著
『An Outline of American Literature（アメリカ文学概観）』（南雲堂、2005）
ISBN 9784523185055

参考書： 川崎寿彦 著
A Brief History of British Literature『イギリス文学史』（成美堂、2005年）
井上謙治 著
『アメリカ文学史入門』（創元社、1996年）

授業・準備学習のアドバイス：

英語の文献を使用しますので、予め指示された文献、資料を精読した上で授業に臨むこと。毎回必ず英和辞書を持参すること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 英語文学作品研究A

クラス: 小中/国

授業コード: DA25700001

担当者: 藤田 眞弓 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 英語)【選択】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 英語文学 **一般的包括的科目:** ×

授業の目的: 20世紀以降に活躍したイギリス、アメリカ、カナダなどの英語圏作家による短編を精読する。担当者による発表形式で授業を進め、必要に応じて教員がコメントや解説を加える。

到達目標:
1. イギリス、アメリカ、カナダその他の国や地域の文学作品の特徴について理解を深める。
2. 英文を正確に読む能力を養う。
3. 英語の文法や構文の解説が出来るようになる。

各回の授業計画:

1. コースガイダンスと担当箇所の分担
2. 担当者による発表①イギリスの主要作家紹介
3. 担当者による発表②文学作品における語り手について(全知の語り手、一人称の語り手)
4. 担当者による発表③「環境文学」と「エコクリティシズム」について
5. 担当者による発表④①から③のまとめ
6. 担当者による発表⑤英語圏の主要作家紹介
7. 担当者による発表⑥英語圏文学の特徴(イギリス文学との比較など)
8. 担当者による発表⑦ノーベル文学賞について
9. 担当者による発表⑧⑤から⑦のまとめ
10. 担当者による発表⑨アメリカの主要作家紹介
11. 担当者による発表⑩アメリカの移民作家について
12. 担当者による発表⑪アメリカの文学賞(ピューリツァー賞ほか)について
13. 担当者による発表⑫⑨から⑪のまとめ
14. コメント発表会(3作品から1つを選択し、読書後のコメントを作成し、発表する)
15. まとめと確認(イギリス、アメリカ、カナダその他英語圏文学の特色の確認。コメント発表の内容をより充実させたものをレポートとして提出。)

特記事項: なし

授業方法:
1. コースガイダンス、講義(視聴覚資料やインターネットを用いた作家紹介)、質疑応答
2. 学生による発表、解説
3. 学生による発表、解説
4. 学生による発表、解説
5. 学生による発表、解説、Teamsの課題よりレポート課題提出(一作品目の感想、分析など)
6. 学生による発表、解説、PPなどを使用した学生による発表(二作品目の作家紹介など)
7. 学生による発表、解説
8. 学生による発表、解説
9. 学生による発表、解説、Teamsの課題よりレポート課題提出(二作品目の感想、分析など)
10. 学生による発表、解説、PPなどを使用した学生による発表(三作品目の作家紹介など)
11. 学生による発表、解説
12. 学生による発表、解説
13. 学生による発表、解説、Teamsの課題よりレポート課題提出(三作品目の感想、分析など)
14. PPなどを使用した学生によるプレゼンテーション
15. プレゼンテーションの講評と質疑応答

1〜15講義(対面授業)

予習・復習・宿題など(内容・時間):
1. 第2回の予習 (180分)
2. 前回の復習と第3回の予習 (180分)

3. 前回の復習と第4回の予習（180分）
4. 前回の復習と第5回の予習（180分）
5. 前回の復習と第6回の予習（180分）
6. 前回の復習と第7回の予習（180分）
7. 前回の復習と第8回の予習（180分）
8. 前回の復習と第9回の予習（180分）
9. 前回の復習と第10回の予習（180分）
10. 前回の復習と11回の予習（180分）
11. 前回の復習と第12回の予習（180分）
12. 前回の復習と第13回の予習（180分）
13. 前回の復習と第14回の予習（180分）
14.「まとめと確認」にむけて、第1回目から13回目までの総復習(180分)
15.「まとめと確認の」復習(180分)

評価方法：

授業へのとりくみ：	50 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	レポート課題		50 **%**		
その他2：			**%**		

評価基準：
授業へのとりくみには、担当箇所の和訳、文法解説、コメントを含む。
15回目の授業で、レポート提出を求める。
1. 授業への取組み
①.英文を正確に読むことが出来る。（60～69）
② 英語の文法や構文の解説が出来ている。（80～100）
2. レポート課題ほか
①イギリス、アメリカ、カナダそれぞれの文学作品の特徴について理解をしている。（60～69）
②鑑賞した作品の歴史的、社会的背景を理解し、作品に対して客観的な分析が出来る。（80～100）

課題へのフィードバック：
・毎時間、発表に対する、コメント、解説をする。

教科書： なし

参考書：
E.ショウォールター著（川本静子訳）『女性自身の文学―ブロンテからレッシングまで』（みすず書房、1993）
久守和子他 著『楽しく読める英米文学女性作家―作品ガイド120』（ミネルバ書房、1998）

授業・準備学習のアドバイス：
・英語の文献を使用しますので、予め指示された文献、資料を精読した上で授業に臨むこと。毎回必ず英和辞書を持参すること。
・「英語文学概論」、「イギリスアメリカ文学史」を履修済みであることが望ましい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 英語文学作品研究B

クラス: 小中/国

授業コード: DA25800001

担当者: 藤田 眞弓 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 英語)【選択】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 英語文学 **一般的包括的科目:** ×

授業の目的: 20世紀以降に活躍したイギリス、アメリカ、カナダなどの英語圏作家による短編を精読する。担当者による発表形式で授業を進め、必要に応じて教員がコメントや解説を加える。

到達目標:
1. イギリス、アメリカ、カナダその他の国や地域の文学作品の特徴について理解を深める。
2. 英文を正確に読む能力を養う。
3. 英語の文法や構文の解説が出来るようになる。

各回の授業計画:

1. コースガイダンスと担当箇所の分担
2. 担当者による発表①イギリスの主要作家紹介
3. 担当者による発表②文学作品における語り手について(全知の語り手、一人称の語り手)
4. 担当者による発表③「環境文学」と「エコクリティシズム」について
5. 担当者による発表④①から③のまとめ
6. 担当者による発表⑤英語圏の主要作家紹介
7. 担当者による発表⑥英語圏文学の特徴(イギリス文学との比較など)
8. 担当者による発表⑦ノーベル文学賞について
9. 担当者による発表⑧⑤から⑦のまとめ
10. 担当者による発表⑨アメリカの主要作家紹介
11. 担当者による発表⑩アメリカの移民作家について
12. 担当者による発表⑪アメリカの文学賞(ピューリツァー賞ほか)について
13. 担当者による発表⑫⑨から⑪のまとめ
14. コメント発表会(3作品から1つを選択し、読書後のコメントを作成し、発表する)
15. まとめと確認(イギリス、アメリカ、カナダその他英語圏文学の特色の確認。コメント発表の内容をより充実させたものをレポートとして提出。)

特記事項: なし

授業方法:
1. コースガイダンス、講義(視聴覚資料やインターネットを用いた作家紹介)、質疑応答
2. 学生による発表、解説
3. 学生による発表、解説
4. 学生による発表、解説
5. 学生による発表、解説、Teamsの課題よりレポート課題提出(一作品目の感想、分析など)
6. 学生による発表、解説、PPなどを使用した学生による発表(二作品目の作家紹介など)
7. 学生による発表、解説
8. 学生による発表、解説
9. 学生による発表、解説、Teamsの課題よりレポート課題提出(二作品目の感想、分析など)
10. 学生による発表、解説、PPなどを使用した学生による発表(三作品目の作家紹介など)
11. 学生による発表、解説
12. 学生による発表、解説
13. 学生による発表、解説、Teamsの課題よりレポート課題提出(三作品目の感想、分析など)
14. PPなどを使用した学生によるプレゼンテーション
15. プレゼンテーションの講評と質疑応答

1〜15講義(対面授業)

予習・復習・宿題など(内容・時間):
1. 第2回の予習 (180分)
2. 前回の復習と第3回の予習 (180分)

3. 前回の復習と第4回の予習（180分）
4. 前回の復習と第5回の予習（180分）
5. 前回の復習と第6回の予習（180分）
6. 前回の復習と第7回の予習（180分）
7. 前回の復習と第8回の予習（180分）
8. 前回の復習と第9回の予習（180分）
9. 前回の復習と第10回の予習（180分）
10. 前回の復習と11回の予習（180分）
11. 前回の復習と第12回の予習（180分）
12. 前回の復習と第13回の予習（180分）
13. 前回の復習と第14回の予習（180分）
14.「まとめと確認」にむけて、第1回目から13回目までの総復習(180分)
15.「まとめと確認の」復習(180分)

評価方法：

授業へのとりくみ：	50 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	レポート課題		50 **%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

授業へのとりくみには、担当箇所の和訳、文法解説、コメントを含む。
15回目の授業で、レポート提出を求める。
1. 授業への取組み
①.英文を正確に読むことが出来る。(60～69)
② 英語の文法や構文の解説が出来ている。(80～100)
2. レポート課題ほか
①イギリス、アメリカ、カナダそれぞれの文学作品の特徴について理解をしている。(60～69)
②鑑賞した作品の歴史的、社会的背景を理解し、作品に対して客観的な分析が出来る。(80～100)

課題へのフィードバック：

・毎時間、発表に対する、コメント、解説をする。

教科書： なし

参考書：

E.ショウォールター著（川本静子訳）『女性自身の文学―ブロンテからレッシングまで』（みすず書房、1993）
久守和子他 著『楽しく読める英米文学女性作家―作品ガイド120』（ミネルバ書房、1998）

授業・準備学習のアドバイス：

英語の文献を使用しますので、予め指示された文献、資料を精読した上で授業に臨むこと。毎回必ず英和辞書を持参すること。
「英語文学作品研究A」、「英語文学概論」、「イギリスアメリカ文学史」等英語文学関連の授業を受講済みであることが望ましい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 英語コミュニケーション Ⅰ

クラス: 教

授業コード: DA25900001

担当者: 新藤 照夫 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 英語)【必修】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 英語コミュニケーション **一般的包括的科目:** ○

授業の目的: 英語コミュニケーションに必要な4技能(5領域)である「話す(やり取り)」「話す(発表)」「聞く」「書く」「読む」を総合的に高めることを目的とする。
様々なジャンルやトピックの内容を受信し、自分の言葉で発信する(Listening/Reading→Speaking)、テキストの内容を短い言葉で要約する(Reading→Writing)、プレゼンテーションを準備し発表する(Writing→Speaking)など、統合的な学修活動を通して4技能(5領域)を有機的に伸ばしていく。
本授業の進行・解説は英語で行い、受講者は常時英語による参加が求められる。

到達目標: ・英語による「話す(やり取り)」「話す(発表)」「聞く」「書く」「読む」の4技能(5領域)を総合的に伸ばし、CEFR B2レベル以上の英語運用能力を身につけることを目標とする。
・中学校、高等学校における授業を英語で行う技能を養い、英語の発話活動を相手に促す技術を体得する。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション、Unit 1「College Life」の語彙演習、ロールプレイ、ライティング
2. Unit 1「College Life」のリスニング、リーディング、ディスカッション
3. Unit 2「Future Plans」の語彙演習、ロールプレイ、ライティング
4. Unit 2「Future Plans」のリスニング、リーディング、ディスカッション
5. Unit 3「Part-Time Jobs and Otakatsu」の語彙演習、ロールプレイ、ライティング
6. Unit 3「Part-Time Jobs and Otakatsu」のリスニング、リーディング、ディスカッション
7. Unit 4「Movies」の語彙演習、ロールプレイ、ライティング
8. Unit 4「Movies」のリスニング、リーディング、ディスカッション
9. Unit 5「Parties and Festivals」の語彙演習、ロールプレイ、ライティング
10. Unit 5「Parties and Festivals」のリスニング、リーディング、ディスカッション
11. Unit 6「Friends」の語彙演習、ロールプレイ、ライティング
12. Unit 6「Friends」のリスニング、リーディング、ディスカッション
13. Unit 7「Study Abroad / World Englishes」の語彙演習、ロールプレイ、ライティング
14. Unit 7「Study Abroad / World Englishes」のリスニング、リーディング、ディスカッション
15. まとめおよびスピーキングテストと確認テスト

特記事項: なし

授業方法: 15回すべての授業を対面で実施

1. 演習、ペアワーク、グループワーク
2. 演習、ペアワーク、グループワーク
3. 演習、ペアワーク、グループワーク
4. 演習、ペアワーク、グループワーク
5. 演習、ペアワーク、グループワーク
6. 演習、ペアワーク、グループワーク
7. 演習、ペアワーク、グループワーク
8. 演習、ペアワーク、グループワーク
9. 演習、ペアワーク、グループワーク
10. 演習、ペアワーク、グループワーク
11. 演習、ペアワーク、グループワーク
12. 演習、ペアワーク、グループワーク
13. 演習、ペアワーク、グループワーク
14. 演習、ペアワーク、グループワーク
15. 演習、スピーキングテスト、確認テスト

予習・復習・宿題など(内容・時間):

予習(合計465分)／ 復習(合計210分)
1. シラバスの確認(15分)・Unit 1: 前半の問題解答(30分)／ dialogueのシャドーウィング(15分)
2. Unit 1: 後半の問題解答(30分)／ 課題の解答(15分)
3. Unit 2: 前半の問題解答(30分)／ dialogueのシャドーウィング(15分)
4. Unit 2: 後半の問題解答(30分)／ 課題の解答(15分)
5. Unit 3: 前半の問題解答(30分)／ dialogueのシャドーウィング(15分)
6. Unit 3: 後半の問題解答(30分)／ 課題の解答(15分)
7. Unit 4: 前半の問題解答(30分)／ dialogueのシャドーウィング(15分)
8. Unit 4: 後半の問題解答(30分)／ 課題の解答(15分)
9. Unit 5: 前半の問題解答(30分)／ dialogueのシャドーウィング(15分)
10. Unit 5: 後半の問題解答(30分)／ 課題の解答(15分)
11. Unit 6: 前半の問題解答(30分)／ dialogueのシャドーウィング(15分)
12. Unit 6: 後半の問題解答(30分)／ 課題の解答(15分)
13. Unit 7: 前半の問題解答(30分)／ dialogueのシャドーウィング(15分)
14. Unit 7: 後半の問題解答(30分)／ 課題の解答(15分)
15. スピーキングテストおよび確認テストの準備学修(45分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	30 **%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:	課題		20 **%**		
その他2:	スピーキングテスト		20 **%**		

評価基準:

①望ましい到達度(80～100点)
【授業へのとりくみ】
4技能(5領域)を総合的に伸ばし、CEFR B2レベル以上の英語運用能力を習得する。
学修した重要表現を適切に使用し、積極的に会話ができる。
ペアワーク、グループワークに協働的かつ積極的に貢献できる。
【課題】
課題にて、正解率80%以上を収めることができる。
【スピーキングテスト】
ルーブリックにおいて80%以上を収めることができる。
【確認テスト】
確認テストにて、正解率80%以上を収めることができる。

②最低限の到達度(60～69点)
【授業へのとりくみ】
指示されたことに英語で対応できる。
ペアワークやグループワークに参加し、習得した表現を発話しようとする。
【課題】
課題にて、正解率が60%～69%の範囲となる。
【スピーキングテスト】
ルーブリックにおいて60%～69%の範囲となる。
【確認テスト】
確認テストにて、正解率が60%～69%の範囲となる。

課題へのフィードバック:

・ペアワーク、グループワークに対して、授業時にフィードバックを行う。
・スピーキングテストおよび確認テストについては、Teamsでフィードバックを行う。

教科書: 『Activator Next 大学生の自信を促す英語コミュニケーション』塩澤正／Adam Martinelli 著(金星堂)

参考書: 『最新日米口語辞典【決定版】』エドワード・G・サイデンステッカー / 松本道弘 編(朝日出版社)

授業・準備学習のアドバイス:

毎回の授業では予習を前提として授業を展開しますので、必ず予習をして学修する内容の準備をして臨んでください。授業では英語で発話することが重要であるため、言い間違いを恐れず、間違えながらでも発話する習慣を身につけるように努力してください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 英語コミュニケーションⅡ

クラス: 小中高

授業コード: DA26000001

担当者: 新藤 照夫 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 英語)【必修】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 英語コミュニケーション **一般的包括的科目:** ○

授業の目的: 英語コミュニケーションに必要な4技能(5領域)である「話す(やり取り)」「話す(発表)」「聞く」「書く」「読む」を総合的に高めることを目的とする。
様々なジャンルやトピックの内容を受信し、自分の言葉で発信する(Listening/Reading→Speaking)、テキストの内容を短い言葉で要約する(Reading→Writing)、プレゼンテーションを準備し発表する(Writing→Speaking)など、統合的な学修活動を通して4技能(5領域)を有機的に伸ばしていく。
本授業の進行・解説は英語で行い、受講者は常時英語による参加が求められる。

到達目標: ・英語による「話す(やり取り)」「話す(発表)」「聞く」「書く」「読む」の4技能(5領域)を総合的に伸ばし、CEFR B2レベル以上の英語運用能力を身につけることを目標とする。
・中学校、高等学校における授業を英語で行う技能を養い、英語の発話活動を相手に促す技術を体得する。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション、Unit 8「SNS / Fashion / Weather」の語彙演習、ロールプレイ、ライティング
2. Unit 8「SNS / Fashion / Weather」のリスニング、リーディング、ディスカッション
3. Unit 9「Cultures / Idols / Anime」の語彙演習、ロールプレイ、ライティング
4. Unit 9「Cultures / Idols / Anime」のリスニング、リーディング、ディスカッション
5. Unit 10「Music」の語彙演習、ロールプレイ、ライティング
6. Unit 10「Music」のリスニング、リーディング、ディスカッション
7. Unit 11「Relationships」の語彙演習、ロールプレイ、ライティング
8. Unit 11「Relationships」のリスニング、リーディング、ディスカッション
9. Unit 12「Traveling Overseas」の語彙演習、ロールプレイ、ライティング
10. Unit 12「Traveling Overseas」のリスニング、リーディング、ディスカッション
11. Unit 13「Shopping」の語彙演習、ロールプレイ、ライティング
12. Unit 13「Shopping」のリスニング、リーディング、ディスカッション
13. Unit 14「Social Media」の語彙演習、ロールプレイ、ライティング
14. Unit 14「Social Media」のリスニング、リーディング、ディスカッション
15. まとめおよびスピーキングテストと確認テスト

特記事項: なし

授業方法: 15回すべての授業を対面で実施

1. 演習、ペアワーク、グループワーク
2. 演習、ペアワーク、グループワーク
3. 演習、ペアワーク、グループワーク
4. 演習、ペアワーク、グループワーク
5. 演習、ペアワーク、グループワーク
6. 演習、ペアワーク、グループワーク
7. 演習、ペアワーク、グループワーク
8. 演習、ペアワーク、グループワーク
9. 演習、ペアワーク、グループワーク
10. 演習、ペアワーク、グループワーク
11. 演習、ペアワーク、グループワーク
12. 演習、ペアワーク、グループワーク
13. 演習、ペアワーク、グループワーク
14. 演習、ペアワーク、グループワーク
15. 演習、スピーキングテスト、確認テスト

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

予習（合計465分）／ 復習（合計210分）
1. シラバスの確認（15分）／ Unit 8: 前半の問題解答（30分）・dialogueのシャドーウィング（15分）
2. Unit 8: 後半の問題解答（30分）／ 課題の解答（15分）
3. Unit 9: 前半の問題解答（30分）／ dialogueのシャドーウィング（15分）
4. Unit 9: 後半の問題解答（30分）／ 課題の解答（15分）
5. Unit 10: 前半の問題解答（30分）／ dialogueのシャドーウィング（15分）
6. Unit 10: 後半の問題解答（30分）／ 課題の解答（15分）
7. Unit 11: 前半の問題解答（30分）／ dialogueのシャドーウィング（15分）
8. Unit 11: 後半の問題解答（30分）／ 課題の解答（15分）
9. Unit 12: 前半の問題解答（30分）／ dialogueのシャドーウィング（15分）
10. Unit 12: 後半の問題解答（30分）／ 課題の解答（15分）
11. Unit 13: 前半の問題解答（30分）／ dialogueのシャドーウィング（15分）
12. Unit 13: 後半の問題解答（30分）／ 課題の解答（15分）
13. Unit 14: 前半の問題解答（30分）／ dialogueのシャドーウィング（15分）
14. Unit 14: 後半の問題解答（30分）／ 課題の解答（15分）
15. スピーキングテストおよび確認テストの準備学修（45分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	30 **%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	課題		20 **%**		
その他2：	スピーキングテスト		20 **%**		

評価基準：

①望ましい到達度（80～100点）
【授業へのとりくみ】
4技能（5領域）を総合的に伸ばし、CEFR B2レベル以上の英語運用能力を習得する。
学修した重要表現を適切に使用し、積極的に会話ができる。
ペアワーク、グループワークに協働的かつ積極的に貢献できる。
【課題】
課題にて、正解率80%以上を収めることができる。
【スピーキングテスト】
ルーブリックにおいて80%以上を収めることができる。
【確認テスト】
確認テストにて、正解率80%以上を収めることができる。

②最低限の到達度（60～69点）
【授業へのとりくみ】
指示されたことに英語で対応できる。
ペアワークやグループワークに参加し、習得した表現を発話しようとする。
【課題】
課題にて、正解率が60%～69%の範囲となる。
【スピーキングテスト】
ルーブリックにおいて60%～69%の範囲となる。
【確認テスト】
確認テストにて、正解率が60%～69%の範囲となる。

課題へのフィードバック：

・ペアワーク、グループワークに対して、授業時にフィードバックを行う。
・スピーキングテストおよび確認テストについては、Teamsでフィードバックを行う。

教科書： 『Activator Next 大学生の自信を促す英語コミュニケーション』塩澤正／Adam Martinelli 著（金星堂）

参考書： 『最新日米口語辞典【決定版】』エドワード・G・サイデンステッカー / 松本道弘 編（朝日出版社）

授業・準備学習のアドバイス：

毎回の授業では予習を前提として授業を展開しますので、必ず予習をして学修する内容の準備をして臨んでください。授業では英語で発話することが重要であるため、言い間違いを恐れず、間違えながらでも発話する習慣を身につけるように努力してください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 英語コミュニケーションⅢ

クラス: 小中高

授業コード: DA26100001

担当者: 新藤 照夫 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 英語)【必修】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 英語コミュニケーション **一般的包括的科目:** ○

授業の目的: 英語コミュニケーションに必要な4技能(5領域)である「話す(やり取り)」「話す(発表)」「聞く」「書く」「読む」を総合的に高めることを目的とする。
様々なジャンルやトピックに関して学修した内容・表現・文法を受信し、自分の言葉で発信する(Listening/Reading→Speaking)、テキストのReading Passageの内容を短い言葉で要約する(Reading→Writing)、プレゼンテーションを準備し発表する(Writing→Speaking)など、統合的な学修活動を通して4技能(5領域)を強化していく。
本授業の進行・解説は英語で行い、受講者は常時英語による参加が求められる。

到達目標: ・英語による「話す(やり取り)」「話す(発表)」「聞く」「書く」「読む」の4技能(5領域)を総合的に伸ばし、それらを統合した言語活動を遂行できる。
・CEFR B2レベル以上の英語運用能力を身につけることを目標とする。
・中学校、高等学校における授業を英語で行う技能を養い、英語の発話活動を相手に促す技術を体得する。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション:授業の展開方法の説明
   Unit 0「Campus talk, language learning」のVocabulary, Listening, Dictation
2. Unit 0「Campus talk, language learning」のSpeaking, Discussion, Writing, Reading
3. Unit 1「Part-time Jobs」のVocabulary, Listening, Dictation, Speaking
4. Unit 1「Part-time Jobs」のDiscussion, Writing, Reading および Classroom English
5. Unit 2「Describing complex objects」のVocabulary, Listening, Dictation, Speaking
6. Unit 2「Describing complex objects」のDiscussion, Writing, Reading および Classroom English
7. Unit 3「Describing people」のVocabulary, Listening, Dictation, Speaking
8. Unit 3「Describing people」のDiscussion, Writing, Reading および Classroom English
9. Unit 4「Comparing past & current lifestyles」のVocabulary, Listening, Dictation, Speaking
10. Unit 4「Comparing past & current lifestyles」のDiscussion, Writing, Reading および Classroom English
11. Unit 5「Describing complex past events」のVocabulary, Listening, Dictation, Speaking
12. Unit 5「Describing complex past events」のDiscussion, Writing, Reading および Classroom English
13. Unit 6「Discussing trends, changes & large numbers」のVocabulary, Listening, Dictation, Speaking
14. Unit 6「Discussing trends, changes & large numbers」のDiscussion, Writing, Reading および Short presentation
15. まとめおよびスピーキングテストと確認テスト

特記事項: なし

授業方法: 15回すべての授業を対面で実施

1. 演習、ペアワーク、グループワーク
2. 演習、ペアワーク、グループワーク
3. 演習、ペアワーク、グループワーク
4. 演習、ペアワーク、グループワーク
5. 演習、ペアワーク、グループワーク
6. 演習、ペアワーク、グループワーク
7. 演習、ペアワーク、グループワーク
8. 演習、ペアワーク、グループワーク
9. 演習、ペアワーク、グループワーク
10. 演習、ペアワーク、グループワーク
11. 演習、ペアワーク、グループワーク
12. 演習、ペアワーク、グループワーク
13. 演習、ペアワーク、グループワーク
14. 演習、ペアワーク、グループワーク

15. 演習、スピーキングテスト、確認テスト

予習・復習・宿題など(内容・時間):

予習(合計465分)／ 復習(合計210分)
1. シラバスの確認(15分)・Unit 0: 前半の問題解答(30分)／ dialogueのシャドーウィング(15分)
2. Unit 0: 後半の問題解答(30分)／ 課題の解答(15分)
3. Unit 1: 前半の問題解答(30分)／ dialogueのシャドーウィング(15分)
4. Unit 1: 後半の問題解答(30分)／ 課題の解答(15分)
5. Unit 2: 前半の問題解答(30分)／ dialogueのシャドーウィング(15分)
6. Unit 2: 後半の問題解答(30分)／ 課題の解答(15分)
7. Unit 3: 前半の問題解答(30分)／ dialogueのシャドーウィング(15分)
8. Unit 3: 後半の問題解答(30分)／ 課題の解答(15分)
9. Unit 4: 前半の問題解答(30分)／ dialogueのシャドーウィング(15分)
10. Unit 4: 後半の問題解答(30分)／ 課題の解答(15分)
11. Unit 5: 前半の問題解答(30分)／ dialogueのシャドーウィング(15分)
12. Unit 5: 後半の問題解答(30分)／ 課題の解答(15分)
13. Unit 6: 前半の問題解答(30分)／ dialogueのシャドーウィング(15分)
14. Unit 6: 後半の問題解答(30分)／ 課題の解答(15分)
15. スピーキングテストおよび確認テストの準備学修(45分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	30 **%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:	課題		20 **%**		
その他2:	スピーキングテスト		20 **%**		

評価基準:

①望ましい到達度(80～100点)
【授業へのとりくみ】
4技能(5領域)を総合的に伸ばし、CEFR B2レベル以上の英語運用能力を習得する。
学修した重要表現を適切に使用し、積極的に会話ができる。
ペアワーク、グループワークに協働的かつ積極的に貢献できる。
【課題】
課題にて、正解率80%以上を収めることができる。
【スピーキングテスト】
ルーブリックにおいて80%以上を収めることができる。
【確認テスト】
確認テストにて、正解率80%以上を収めることができる。

②最低限の到達度(60～69点)
【授業へのとりくみ】
指示されたことに英語で対応できる。
ペアワークやグループワークに参加し、習得した表現を発話しようとする。
【課題】
課題にて、正解率が60%～69%の範囲となる。
【スピーキングテスト】
ルーブリックにおいて60%～69%の範囲となる。
【確認テスト】
確認テストにて、正解率が60%～69%の範囲となる。

課題へのフィードバック:

・ペアワーク、グループワークに対して、授業時にフィードバックを行う。
・スピーキングテストおよび確認テストについては、Teamsでフィードバックを行う。

教科書: 『Communication Spotlight 3rd Edition: Intermediate』(ABAX)

参考書: 『最新日米口語辞典【決定版】』エドワード・G・サイデンステッカー / 松本道弘 編(朝日出版社)

授業・準備学習のアドバイス:

毎回の授業では予習を前提として授業を展開しますので、必ず予習をして学修する内容の準備をして臨んでください。授業では英語で発話することが重要であるため、言い間違いを恐れず、間違えながらでも発話する習慣を身につけるように努力してください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 英語コミュニケーションⅣ

クラス: 小中高

授業コード: DA26200001

担当者: 新藤 照夫 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 英語)【必修】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 英語コミュニケーション **一般的包括的科目:** ○

授業の目的: 英語コミュニケーションに必要な4技能(5領域)である「話す(やり取り)」「話す(発表)」「聞く」「書く」「読む」を総合的に高めることを目的とする。
様々なジャンルやトピックに関して学修した内容・表現・文法を受信し、自分の言葉で発信する(Listening/Reading→Speaking)、テキストのReading Passageの内容を短い言葉で要約する(Reading→Writing)、プレゼンテーションを準備し発表する(Writing→Speaking)など、統合的な学修活動を通して4技能(5領域)を強化していく。
本授業の進行・解説は英語で行い、受講者は常時英語による参加が求められる。

到達目標: ・英語による「話す(やり取り)」「話す(発表)」「聞く」「書く」「読む」の4技能(5領域)を総合的に伸ばし、それらを統合した言語活動を遂行できる。
・CEFR B2レベル以上の英語運用能力を身につけることを目標とする。
・中学校、高等学校における授業を英語で行う技能を養い、英語の発話活動を相手に促す技術を体得する。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション:授業の展開方法の説明
   Unit 7「Comparing places from the past to the present」のVocabulary, Listening, Dictation
2. Unit 7「Comparing places from the past to the present」のSpeaking, Discussion, Writing, Reading
3. Unit 8「Describing technology in dally life」のVocabulary, Listening, Dictation, Speaking
4. Unit 8「Describing technology in dally life」のDiscussion, Writing, Reading および Classroom English
5. Unit 9「Describing academic courses of study」のVocabulary, Listening, Dictation, Speaking
6. Unit 9「Describing academic courses of study」のDiscussion, Writing, Reading および Classroom English
7. Unit 10「Describing the costs of education and giving opinions」のVocabulary, Listening, Dictation, Speaking
8. Unit 10「Describing the costs of education and giving opinions」のDiscussion, Writing, Reading および Classroom English
9. Unit 11「Describing detailed narratives」のVocabulary, Listening, Dictation, Speaking
10. Unit 11「Describing detailed narratives」のDiscussion, Writing, Reading および Classroom English
11. Unit 12「Describing a detailed process」のVocabulary, Listening, Dictation, Speaking
12. Unit 12「Describing a detailed process」のDiscussion, Writing, Reading および Classroom English
13. Unit 13「Explaining problems that have arisen」のVocabulary, Listening, Dictation, Speaking
14. Unit 13「Explaining problems that have arisen」のDiscussion, Writing, Reading および Short presentation
15. まとめおよびスピーキングテストと確認テスト

特記事項: なし

授業方法: 15回すべての授業を対面で実施

1. 演習、ペアワーク、グループワーク
2. 演習、ペアワーク、グループワーク
3. 演習、ペアワーク、グループワーク
4. 演習、ペアワーク、グループワーク
5. 演習、ペアワーク、グループワーク
6. 演習、ペアワーク、グループワーク
7. 演習、ペアワーク、グループワーク
8. 演習、ペアワーク、グループワーク
9. 演習、ペアワーク、グループワーク
10. 演習、ペアワーク、グループワーク
11. 演習、ペアワーク、グループワーク
12. 演習、ペアワーク、グループワーク
13. 演習、ペアワーク、グループワーク
14. 演習、ペアワーク、グループワーク

15. 演習、スピーキングテスト、確認テスト

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

予習（合計465分）／ 復習（合計210分）
1. シラバスの確認（15分）・Unit 7: 前半の問題解答（30分）／ dialogueのシャドーウィング（15分）
2. Unit 7: 後半の問題解答（30分）／ 課題の解答（15分）
3. Unit 8: 前半の問題解答（30分）／ dialogueのシャドーウィング（15分）
4. Unit 8: 後半の問題解答（30分）／ 課題の解答（15分）
5. Unit 9: 前半の問題解答（30分）／ dialogueのシャドーウィング（15分）
6. Unit 9: 後半の問題解答（30分）／ 課題の解答（15分）
7. Unit 10: 前半の問題解答（30分）／ dialogueのシャドーウィング（15分）
8. Unit 10: 後半の問題解答（30分）／ 課題の解答（15分）
9. Unit 11: 前半の問題解答（30分）／ dialogueのシャドーウィング（15分）
10. Unit 11: 後半の問題解答（30分）／ 課題の解答（15分）
11. Unit 12: 前半の問題解答（30分）／ dialogueのシャドーウィング（15分）
12. Unit 12: 後半の問題解答（30分）／ 課題の解答（15分）
13. Unit 13: 前半の問題解答（30分）／ dialogueのシャドーウィング（15分）
14. Unit 13: 後半の問題解答（30分）／ 課題の解答（15分）
15. スピーキングテストおよび確認テストの準備学修（45分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	30 **%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	課題		20 **%**		
その他2：	スピーキングテスト		20 **%**		

評価基準：

①望ましい到達度（80～100点）
【授業へのとりくみ】
4技能（5領域）を総合的に伸ばし、CEFR B2レベル以上の英語運用能力を習得する。
学修した重要表現を適切に使用し、積極的に会話ができる。
ペアワーク、グループワークに協働的かつ積極的に貢献できる。
【課題】
課題にて、正解率80%以上を収めることができる。
【スピーキングテスト】
ルーブリックにおいて80%以上を収めることができる。
【確認テスト】
確認テストにて、正解率80%以上を収めることができる。

②最低限の到達度（60～69点）
【授業へのとりくみ】
指示されたことに英語で対応できる。
ペアワークやグループワークに参加し、習得した表現を発話しようとする。
【課題】
課題にて、正解率が60%～69%の範囲となる。
【スピーキングテスト】
ルーブリックにおいて60%～69%の範囲となる。
【確認テスト】
確認テストにて、正解率が60%～69%の範囲となる。

課題へのフィードバック：

・ペアワーク、グループワークに対して、授業時にフィードバックを行う。
・スピーキングテストおよび確認テストについては、Teamsでフィードバックを行う。

教科書： 『Communication Spotlight 3rd Edition: Intermediate』（ABAX）

参考書： 『最新日米口語辞典【決定版】』エドワード・G・サイデンステッカー / 松本道弘 編（朝日出版社）

授業・準備学習のアドバイス：

毎回の授業では予習を前提として授業を展開しますので、必ず予習をして学修する内容の準備をして臨んでください。授業では英語で発話することが重要であるため、言い間違いを恐れず、間違えながらでも発話する習慣を身につけるように努力してください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 英米文化概論

クラス: 教

授業コード: DA26300001

担当者: 藤田 眞弓 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 英語)【選択】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 異文化理解 **一般的包括的科目:** ×

授業の目的: 「多文化社会・多文化共生」をキーワードに、アカデミー賞を受賞した映画を通して現代のアメリカ社会が抱える問題ついて学ぶ。またこれらの問題のイギリス社会における現状も併せて解説をする。授業は全て英語により行われるため、履修学生は、講義内容を英語で理解する能力が求められる。

到達目標:
1. 現代のイギリス、アメリカ事情についての知識を習得する。
2. 英語の文献を読み、英語による講義を受講することで総合的な英語力を養う。
3. 学習したイギリス、アメリカ事情と日本の事情を比較し、相違点と類似点を認識することが出来る。

各回の授業計画:

1. Introduction:コースガイダンス、半期の授業の進め方など
2. United by Desperation-White Trash: Three Billboards Outside Ebbing, Missouri:プア・ホワイトについて知る
3. Assigning a Label-LGBT: Moonlight:LGBTQと主人公が抱える3つの差別について理解する
4. Human vs. Property-Slavery System : 12 Years A Slave:アメリカの奴隷制度と歴史を学ぶ
5. Choosing a Home-Immigrants: Brooklyn:アイルランド移民の歴史と現在について学ぶ
6. Be an Intercultural Interpreter-Immigrants:Gran Torino:アメリカにおけるアジア系移民の問題について知る
7. Ann Illegal Life-Illegal Immigrants: The Visitor:9.11以降のアメリカ移民の問題について考える
8. Foreign Language and Self- Confidence-Foreign Language: English Vinglish:外国語教育の実態と意義について考える
9. Frame of Mind-Cross-Cultural Communication: Lost in Translation:異文化コミュニケーションについて考える
10. An Individual or A Number-State Welfare: I, Daniel Blake:イギリスの社会福祉について知り、日本の社会福祉制度との相違について知る
11. Pushing Past Boundaries: Physical Disability: The Theory of Everything:ALS(筋萎縮性側索硬化症)について理解する
12. Does It Divide or Unite?-Disease: Dallas Buyers Club:HIV/AIDSに対する偏見について考える
13. Finding a Cure- PTSD: American Sniper:戦争とPTSDについて学ぶ
14. Is Your World Peaceful?- Refugees: Hotel Rwanda:ルワンダの内戦について学び、その他の国や地域の内戦について知る
15. Sense of Reason- The Holocaust/ History: Schindler's List・General Review of this Course: The World of Today and Tomorrow:ナチスによるユダヤ人迫害と、シンドラー、及び「日本のシンドラー」について学ぶ

特記事項: なし

授業方法:
1. コースガイダンス(講義、質疑応答等)
2. 講義、英文精読、視聴覚資料
3. 講義、英文精読、視聴覚資料
4. 講義、英文精読、視聴覚資料
5. 講義、英文精読、視聴覚資料
6. 講義、英文精読、視聴覚資料
7. 講義、英文精読、視聴覚資料
8. 講義、英文精読、視聴覚資料
9. 講義、英文精読、視聴覚資料
10. 講義、英文精読、視聴覚資料
11. 講義、英文精読、視聴覚資料
12. 講義、英文精読、視聴覚資料
13. 講義、英文精読、視聴覚資料
14. 講義、英文精読、視聴覚資料
15. 講義、英文精読、視聴覚資料

1〜15 対面授業

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 指定された箇所の予習と復習(180分)

2. 指定された箇所の予習と復習（180分）
3. 指定された箇所の予習と復習（180分）
4. 指定された箇所の予習と復習（180分）
5. 指定された箇所の予習と復習（180分）
6. 指定された箇所の予習と復習（180分）
7. 指定された箇所の予習と復習（180分）
8. 指定された箇所の予習と復習（180分）
9. 指定された箇所の予習と復習（180分）
10. 指定された箇所の予習と復習（180分）
11. 指定された箇所の予習と復習（180分）
12. 指定された箇所の予習と復習（180分）
13. 指定された箇所の予習と復習（180分）
14. 指定された箇所の予習と復習（180分）
15.「まとめと確認」の復習（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	40	**%**	**確認テスト：**	60	**%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準： 授業へのとりくみとは、授業内容を理解するのに必要な語彙の小テストを毎回行うこと、毎時間の振り返り学習を兼ねた理解度の確認小テストを含む。
15回目に2回目から14回目の復習と質疑応答を行い、確認のテストを行う。

1. 授業への取組み
①現代のイギリス、アメリカ事情について理解している。（60～69）
②日々イギリス、アメリカ事情のニュースに関心を持ち、それに対して自分の意見を持つことが出来ている。（80～100）
2. 確認テストほか
① 英語の文献を読み、英語による講義を受講することが出来ている。（60～69）
②学習したイギリス、アメリカ事情と日本の事情を比較し、相違点と類似点を認識することが出来ている。（80～100）

課題へのフィードバック：

毎回、英文講読や内容に関する質問を受付、それに対してコメント、解説を行う。

教科書： Joseph Talbot 森永弘司『Our Society, Our Diversity, Our Movies（映画に観る多文化社会のかたち』（金星堂、2020）

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：

英語の文献を使用しますので、予め指示された文献、資料を精読した上で授業に臨むこと。毎回必ず英和辞書（またはそれに準ずるデバイス）を持参すること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 異文化コミュニケーション論

クラス: 小中/国

授業コード: DA26400001

担当者: 新藤 照夫 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 英語)【選択】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 異文化理解 **一般的包括的科目:** ×

授業の目的: グローバル社会においては、世界の文化の多様性に対する異文化理解力と異文化コミュニケーション力が必要とされる。英語で意思伝達ができる技能を身につけた人でも、文化背景の異なる人と円滑にコミュニケーションをすることは容易ではない。これは、コミュニケーションが言語という一つの手段だけでなく、他の様々な要素を含んでいるからである。そのようなコミュニケーションに付随する様々な要素や英語圏の文化的背景について、異文化コミュニケーションの基礎理論を踏まえながら知識を深めることを主眼とする。学修した知識を中学校や高等学校での外国語の授業や、日常生活の様々な場面で活用できるよう、文化の多様性の理解や他文化との共生へと向かう視点や態度の習得も目指す。

到達目標:
1. グローバル社会で求められている異文化コミュニケーション・スキルの礎を築くことができる。
2. 文化の多様性の理解や他文化との共生に対し、柔軟で共感的な姿勢で対応するように努めることができる。
3. 英語が使用されている国や地域の文化的背景を客観的に理解できる。
4. 異文化コミュニケーションの知識を英語の授業に取り入れるように努めることができる。

各回の授業計画:

1. 異文化コミュニケーションを学ぶということ
2. 異文化コミュニケーションの基礎概念
3. 自己とアイデンティティ
4. 異文化コミュニケーションの障壁
5. 深層文化の探究
6. 言語コミュニケーション①:言語の構造、言語メッセージの意味と用法
7. 言語コミュニケーション②:コミュニケーション・スタイル、文化差・個人差・コンテキストの諸要因
8. 非言語コミュニケーション①:非言語コミュニケーションの特徴と種類
9. 非言語コミュニケーション②:非言語メッセージとコミュニケーション・スタイル
10. カルチャーショックと適応のプロセス
11. 対人コミュニケーション
12. 異文化コミュニケーションの教育・訓練
13. 異文化コミュニケーションの研究
14. DIE メソッド
15. まとめ(学修した各領域のレビュー)および確認テスト

特記事項: なし

授業方法: 15回すべての授業を対面で実施

1. 講義、演習、ペアワーク、グループワーク
2. 講義、演習、ペアワーク、グループワーク
3. 講義、演習、ペアワーク、グループワーク
4. 講義、演習、ペアワーク、グループワーク
5. 講義、演習、ペアワーク、グループワーク
6. 講義、演習、ペアワーク、グループワーク
7. 講義、演習、ペアワーク、グループワーク
8. 講義、演習、ペアワーク、グループワーク
9. 講義、演習、ペアワーク、グループワーク
10. 講義、演習、ペアワーク、グループワーク
11. 講義、演習、ペアワーク、グループワーク
12. 講義、演習、ペアワーク、グループワーク
13. 講義、演習、ペアワーク、グループワーク
14. 講義、演習、ペアワーク、グループワーク

15. 演習、確認テスト

予習・復習・宿題など(内容・時間):

予習(合計1500分)／ 復習(合計1200分)
1. シラバスの確認・教科書の内容の確認(100分)／ リフレクション提出(80分)
2. 異文化コミュニケーションを学ぶの読解による要点や疑問点の確認(100分)／ リフレクション提出(80分)
3. 自己とアイデンティティの読解による要点や疑問点の確認(100分)／ リフレクション提出(80分)
4. 異文化コミュニケーションの障壁の読解による要点や疑問点の確認(100分)／ リフレクション提出(80分)
5. 深層文化の探究の読解による要点や疑問点の確認(100分)／ リフレクション提出(80分)
6. 言語コミュニケーション①の読解による要点や疑問点の確認(100分)／ リフレクション提出(80分)
7. 言語コミュニケーション②の読解による要点や疑問点の確認(100分)／ リフレクション提出(80分)
8. 非言語コミュニケーション①の読解による要点や疑問点の確認(100分)／ リフレクション提出(80分)
9. 非言語コミュニケーション②の読解による要点や疑問点の確認(100分)／ リフレクション提出(80分)
10. カルチャーショックと適応のプロセスの読解による要点や疑問点の確認(100分)／ リフレクション提出(80分)
11. 対人コミュニケーションの読解による要点や疑問点の確認(100分)／ リフレクション提出(80分)
12. 異文化コミュニケーションの教育・訓練の読解による要点や疑問点の確認(100分)／ リフレクション提出(80分)
13. 異文化コミュニケーションの研究の読解による要点や疑問点の確認(100分)／ リフレクション提出(80分)
14. DIE メソッドの読解による要点や疑問点の確認(100分)／ リフレクション提出(80分)
15. 確認テストの準備学修(100分)／ リフレクション提出(80分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	40 **%**	**レポート:**	– **%**
その他1:	課題(リフレクション提出)		30 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: ①望ましい到達度(80～100点)
【授業へのとりくみ】
異文化コミュニケーションの基本的な理論や専門用語を理解し、キーワードや具体例を挙げて説明できる。
各回のリフレクションに、学修した内容を踏まえ、考えを要領良くまとめることができる。
ペアワーク、グループワークに協働的かつ積極的に貢献できる。
【課題】
ルーブリックにおいて80%以上を収めることができる。
【確認テスト】
確認テストにて、正解率80%以上を収めることができる。

②最低限の到達度(60～69点)
【授業へのとりくみ】
異文化コミュニケーションの基本的な理論や専門用語を概ね理解し、説明できる。
各回のリフレクションを提出することができる。
ペアワークやグループワークに参加し、アイデアや意見を共有できる。
【課題】
ルーブリックにおいて60%～69%の範囲となる。
【確認テスト】
確認テストにて、正解率が60%～69%の範囲となる。

課題へのフィードバック:

・演習、ペアワーク、グループワーク、リフレクションに対して、授業時にフィードバックを行う。
・確認テストについては、Teamsでフィードバックを行う。

教科書: 『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション一多文化共生と平和構築に向けて』石井敏 他 著(有斐閣選書)

参考書: 『異文化コミュニケーション・ワークブック』八代京子 他 著(三修社)

授業・準備学習のアドバイス:

毎回の授業では予習を前提として授業を展開しますので、必ず予習をして学修する内容の準備をして臨んでください。授業の準備としては、教科書の各章の内容を把握するとともに、要点や疑問点をまとめておくようにして下さい。授業後は学修した重要事項やキーワードをノートにまとめ直し、理解の再構築を行うようにしてください。
日常生活の中でも、男女間や世代間など文化背景の異なる他者との異文化コミュニケーションを意識して行動してみましょう。
リフレクションにはテーマに関して気づきがあったことや、過去のコミュニケーション時の違和感などの例をもとに個人の見解を書いてもらい、次回の授業でクラス全体にフィードバックします。正解がありませんので、自由に様々な視点で記入して下さい。様々な考えが出ることで多様性に対する学びが深まります。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 英語科教育法Ⅰ

クラス: 小中高(内規科目)

授業コード: DA26500001

担当者: 桂 敦子 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校および高等学校 英語)【必修】

含めることが必要な事項: 各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 本授業では、小学校・中学校・高等学校の英語教育の連携をもとに、中学校・高等学校において英語を指導するために必要となる基本的な指導技術や第二言語習得の基礎理論の習得を目指す。
マイクロティーチングの手法を取り入れ、理論に基づく教授法とその実践、指導法や指導案作成を行う。
また、グループ討論やプロジェクト研究等を実施し、授業計画や教材研究、ICT機器の活用法、評価法などの演習を行うことで、実践的な指導力の育成を図る。

到達目標: 1. 英語教育の基礎理論を理解し、授業づくりに活かすことができる。
・小・中・高の英語教育の系統性、学習指導要領の目標、第二言語習得(SLA)の基本理論を理解し、指導の考え方を説明できる。
2. 基本的な指導技術と教授法を身につけ、短い活動を設計・実践できる。
・指示の出し方、フィードバック、音声・語彙・文法指導などの基礎技術を習得し、理論に基づく教授法を用いて簡易な指導案や活動を作成・実践できる。
3. マイクロティーチングや協働学習を通して、授業改善の視点と実践的指導力を育成する
・自分の授業を振り返り改善点を見つける力、他者の授業を観察して建設的にコメントする力、教材研究・ICT活用・評価の基礎を協働的に身につける。
4. 基本的なクラスルームイングリッシュを使うことができる。

各回の授業計画:

1. 外国語教育の目的と意義
・日本の外国語教育の方向性
・世界の中の英語

2. 教育課程と学修指導要領
・学習指導要領の位置づけ
・学習指導要領の変遷
・教科用図書の扱い

3. 教師論
・J-POSTLを活用した自己分析
・個人目標の設定

4. 学習者論
・学習ストテジー
・Can-Doリスト

5. 第二言語習得と教授法
・第二言語習得の理論
・様々な教授法の理論と背景

6. 教授法実践
・様々な教授法の実践 演習
・マイクロティーチング基礎

7. リスニング指導①
・基本理念
・リスニングストラテジー

8. リスニング指導②
・マイクロティーチング(実践・演習)

9. リーディング指導①
・基本理念
・リーディングストラテジー

10. リーディング指導②
・マイクロティーチング(実践・演習)

11. スピーキング指導①
・基本理念
・スピーキングストラテジー

12. スピーキング指導②

・マイクロティーチング（実践・演習）

13. ライティング指導①
・基本理念
・ライティングストラテジー

14. ライティング指導②
・マイクロティーチング（実践・演習）

15. 全体のまとめと確認
・J-POSTLによる自己分析

特記事項： なし

授業方法： 【対面14回 遠隔オンディマンド1回（第3回）】
アクティブラーニング及び協働学習の手法を取り入れ、グループ討論やプロジェクト研究、マイクロティーチングを中心とした演習形式で行う。
また、毎時間、基本的なクラスルームについて小テストを実施する。

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1.「外国語教育の目的と意義」に関するレポート作成（180分）
2. 学習指導要領を熟読する（180分）
3. J-POSTLの自己分析結果をまとめる（180分）
4. CAN-DOリストを作成する(180分)
5. 第二言語習得の理論についてまとめる（180分）
6. 様々な教授法の効果と課題をまとめる(180分)
7. リスニング指導の予習(180分)
8. リスニング指導の復習（180分）
9. リーディング指導の予習(180分)
10. リーディング指導の復習(180分)
11. スピーキング指導の復習（180分）
12. スピーキング指導の復習（180分）
13. ライディング指導の予習（180分）
14. ライディング指導の復習（180分）
15.（予習）確認テスト（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	60 **%**	**確認テスト：**	20 **%**	**レポート：**	20 **%**
その他1：			**%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

A. 授業への取り組み
(1) 最低限の到達度（60-69%の評価）
・受動的だが授業に参加し、演習・マイクロティーチング・課題に自分なりに取り組むことができる。
(2) 標準的な到達度（70-79%の評価）
・授業内容を概ね理解し、必要な場面で適切に参加・発言し、演習や課題にも一定の取り組みが見られる。
(3) 望ましい到達度（80-100%の評価）
・授業内容を深く理解し、演習・マイクロティーチング・オンライン活動に主体的かつ協働的に参加し、学びに明確な成長が見られる。

B. 確認テスト
(1)最低限の到達度（60-69%の評価）
・基本的なクラスルームイングリッシュを理解し、十分ではないが使用することができる。
(2) 標準的な到達度（70-79%の評価）
・主要なクラスルームイングリッシュの表現を概ね理解し、基本的な場面で適切に使用できる。
(3) 望ましい到達度（80-100%の評価）
・クラスルームイングリッシュの表現を正確に理解し、状況に応じた適切な使用ができる。

C. レポート
(1) 最低限の到達度（60-69%の評価）
・与えられた課題について、各テーマについてポイントを伝えることができる。
(2)標準的な到達度（70-79%の評価）
・与えられた課題について、各テーマについてポイントを明確に伝えることができる。
(2) 望ましい到達度（80-100%の評価）
・ミニレポートで与えられた課題について、各テーマについて知見をまとめたうえで、自分自身の意見や主張を説得力のある形で述べることができる。

課題へのフィードバック：

指導法についてはその都度フィードバックを行う。確認テストについては実施後フィードバックを行う。

教科書： 『基礎から学ぶ英語科教育法』岡田圭子、ブレンダン・ハヤシ、嶋林昭治、江原美明 松柏社（2500円+税）

文部科学省『中学校学習指導要領』東山書房（平成30年3月）
文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編』開隆堂出版（平成30年3月）
文部科学省『高等学校学習指導要領』東山書房（平成30年3月）
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 外国語編』開隆堂出版（平成30年3月）

参考書： New Crown English Series New Edition 2 （三省堂 文部科学省検定済み教科書）

授業・準備学習のアドバイス：

教育実習や将来、英語教員として指導を行うために役立つ知識やスキルを身につけるために、積極的に授業に取り組みましょう。授業以外でも英語力を高めるための取組は必要です。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 英語科教育法Ⅱ

クラス: 小中高(内規科目)

授業コード: DA26600001

担当者: 桂 敦子 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校および高等学校 英語)【必修】

含めることが必要な事項: 各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 本授業では、英語科教育法Ⅰで培った基礎的知識と技能をさらに発展させ、中学校・高等学校における英語教育をより専門的かつ実践的に探究する。小学校・中学校・高等学校の英語教育の体系的連携を踏まえ、第二言語習得理論や教授法に関する理解を深化させるとともに、学習者の多様性に応じた指導法の開発を目指す。高度なマイクロティーチングや模擬授業を通して授業運営力を強化し、指導案の精緻化、教材開発、ICT活用、評価方法の高度化など、より実践的で創造的な指導力の育成を図る。また、グループ討論やプロジェクト研究を通じて、課題発見・解決能力や協働的な授業デザイン力を養い、現場で求められる専門性の高い英語教員としての資質向上を目指す。

到達目標: 1. 英語教育の基礎理論を理解し、授業づくりに活かすことができる。
・小・中・高の英語教育の系統性、学習指導要領の目標、第二言語習得(SLA)の理論を理解し、指導の考え方を説明できる。
2. 基本的な指導技術と教授法を身につけ、短い活動を設計・実践できる。
・指示の出し方、フィードバック、音声・語彙・文法指導などの基礎技術を習得し、理論に基づく教授法を用いて簡易な指導案や活動を作成・実践できる。
3. マイクロティーチングや協働学習を通して、授業改善の視点と実践的指導力を育成する
・自分の授業を振り返り改善点を見つける力、他者の授業を観察して建設的にコメントする力、教材研究・ICT活用・評価の基礎を協働的に身につける。
4. 適切なクラスルームイングリッシュを使うことができる。

各回の授業計画:

1. 4技能と音声・語彙・文法指導①
・4技能の統合
・音声指導

2. 4技能と音声・語彙・文法指導②
・語彙指導
・文法指導

3. 異文化理解教育
・外国語学習における異文化理解教育

4. 協動学習の理論と実践①
・協働学習の効果
・協働学習の事例

5. 協動学習の理論と実践②
・協働学習を活用した授業展開

6. 評価
・観点別評価
・Can-Doリストの活用

7. 教材研究
・教材としての教科書
・言語材料と題材

8. 授業計画①
・基本的な知識と観点
・単元目標の設定

9. 授業計画②
・指導案(中学校)の作成(ペアワーク)

10. 授業実践①
・模擬授業(中学校)(ペアワーク)
・ピアレビュー

11. 授業実践②
・模擬授業(中学校)(ペアワーク)
・ピアレビュー

12. 授業実践③
・模擬授業(中学校)(ペアワーク)
・ピアレビュー

13. リデザイニング①
・作成した指導案の修正
14. リデザイニング②
・修正した指導案の発表
15. 全体のまとめと確認

特記事項: なし

授業方法: 【対面13回 遠隔オンディマンド2回（第9、13回）】
アクティブラーニング及び協働学習の手法を取り入れ、グループ討論やプロジェクト研究、マイクロティーチングを中心とした演習形式で行う。
また、毎時間、基本的なクラスルームについて小テストを実施する。

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 4技能を統合したマイクロティーチング作成（180分）
2. 音声・語彙・文法指導の予習・復習（180分）
3. 異文化理解教育の予習・復習(180分)
4. 協働学習の予習・復習（180分）
5. 協働学習の指導方法作成(180分)
6. 評価に関する予習・復習（180分）
7. 教材研究に関する予習・復習（180分）
8. 授業計画の基本について予習・復習(180分)
9. 授業指導案の作成(180分)
10. 模擬授業の準備と復習(180分)
11. 模擬授業の準備と復習（180分）
12. 模擬授業の準備と復習（180分）
13. 授業案の修正（180分）
14. 授業案の修正（180分）
15. （予習）確認テスト（180分）

評価方法:

授業へのとりくみ:	60 **%**	**確認テスト:**	20 **%**	**レポート:**	20 **%**
その他1:			**%**		
その他2:			**%**		

評価基準:

A. 授業への取り組み
(1) 最低限の到達度（60-69%の評価）
・受動的だが授業に参加し、演習・マイクロティーチング・課題に自分なりに取り組むことができる。
(2) 標準的な到達度（70-79%の評価）
・授業内容を概ね理解し、必要な場面で適切に参加・発言し、演習や課題にも一定の取り組みが見られる。
(3) 望ましい到達度（80-100%の評価）
・授業内容を深く理解し、演習・マイクロティーチング・オンライン活動に主体的かつ協働的に参加し、学びに明確な成長が見られる。

B. 確認テスト
(1)最低限の到達度（60-69%の評価）
・クラスルームイングリッシュを理解し、十分ではないが使用することができる。
(2) 標準的な到達度（70-79%の評価）
・適切なクラスルームイングリッシュの表現を概ね理解し、基本的な場面で適切に使用できる。
(3) 望ましい到達度（80-100%の評価）
・クラスルームイングリッシュの表現を正確に理解し、状況に応じた適切な使用ができる。

C. レポート
(1) 最低限の到達度（60-69%の評価）
・与えられた課題について、各テーマについてポイントを伝えることができる。
(2)標準的な到達度（70-79%の評価）
・与えられた課題について、各テーマについてポイントを明確に伝えることができる。
(2) 望ましい到達度（80-100%の評価）
・ミニレポートで与えられた課題について、各テーマについて知見をまとめたうえで、自分自身の意見や主張を説得力のある形で述べることができる。

課題へのフィードバック:

指導法についてはその都度フィードバックを行う。確認テストについては実施後フィードバックを行う。

教科書: 『基礎から学ぶ英語科教育法』岡田圭子、ブレンダ・ハヤシ、嶋林昭治、江原美明 松柏社 (2500円+税)
文部科学省『中学校学習指導要領』東山書房（平成30年3月）
文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編』開隆堂出版（平成30年3月）
文部科学省『高等学校学習指導要領』東山書房（平成30年3月）

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 外国語編』開隆堂出版（平成30年3月）

参考書： New Crown English Series New Edition 2 （三省堂 文部科学省検定済み教科書）

授業・準備学習のアドバイス：

教育実習や将来、英語教員として指導する際に役立つ知識やスキルを身につけるために、積極的に授業に取り組みましょう。また、授業以外でも自分の英語力を高める努力を怠らないことが大切です。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 英語科教育法Ⅲ

クラス: 小中(内規科目)

授業コード: DA26700001

担当者: 桂 敦子 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 英語)【必修】

含めることが必要な事項: 各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 本授業では、小学校および中学校における英語教育の理念と指導法を理解したうえで、次年度の教育実習に向けて、模擬授業(Microteaching)を中心とした実践的な学習を通して、学習者に必要な指導力・授業構成力・コミュニケーション力を育成することを目的とす

到達目標: ①授業設計・教材研究の能力
・学習指導要領(小・中)の理念と内容を理解し、それに基づいた単元構成・授業案を作成できる。
・児童生徒の発達段階に応じた活動(聞く・話す・読む・書く)を適切に組み合わせた授業デザインができる。
②模擬授業を通した実践的指導力の向上
・Classroom English を用いた指示・説明、導入〜展開〜まとめの流れ、活動のファシリテーションなど、英語授業の基本的な指導技術を模擬授業で実践し、身につけることができる。
③省察と協働による授業改善能力の育成
・模擬授業後の振り返りやピアフィードバックを通して、自らの授業を客観的に分析し改善できる。また、協働的に教材研究・授業づくりに取り組む力を養う。

各回の授業計画:

1. 英語教育の現状と課題
・ESLとEFL
・BICSとCALP

2. 教師論・学習者論とストラテジー
・J-POSTLによる自己分析
・動機付けと認知スタイル
・学習ストラテジー

3. 授業デザインの基礎と教材分析
・授業構成の基本モデル
・活動の流れと時間配分
・児童生徒の動きを想定した授業設計
・教材分析の基本

4. 音声指導(発音・リズム・イントネーション)
・音声指導の基本原理
・チャンツ・リピート練習の導入
・音声活動のミニ模擬授業

5. 活動デザイン①:ウォームアップ・導入技法
・ゲーム・クイズ
・ストーリーテリング等
・ ペアでミニ模擬授業

6. 活動デザイン②:ペアワーク・グループワーク
・小中での協働学習の工夫
・指示の出し方(Classroom English)
・ワーク:指示文の作成と実演

7. リスニング指導
・リスニングの段階(Pre / While / Post)
・音声素材
・ワーク:リスニングタスク作成
・ミニ模擬授業

8. リーディング指導
・Extensive vs Intensive
・スキャニング・スキミング
・ワーク:教科書本文を使ったタスク作成
・ミニ模擬授業(5分)

9. スピーキング指導
・発話を引き出す技法(情報ギャップ・ロールプレイ)

・小中のスピーキング活動
・ワーク:スピーキング活動デザイン
・ミニ模擬授業(5分)

10. ライティング指導
・文法指導との関係
・モデル文の提示方法
・ワーク:ライティング課題作成
・ミニ模擬授業(5分)

11. 4技能統合型指導
・CLIL的アプローチ
・小中での統合型活動例
・ワーク:4技能統合のミニレッスン作成

12. 教科書研究(小学校)
・ 教科書の構造
・年間指導計画の読み方
・ワーク:単元構成案作成

13. 教科書研究(中学校)
・文法項目の扱い方
・ 教科書本文の扱い方
・ワーク:本文の導入・展開案作成

14. 技能別ミニ模擬授業(総合演習)①
・7～11回で作った教材を使って10分模擬授業
・ピアレビュー

15. 技能別ミニ模擬授業(総合演習)②
・7～11回で作った教材を使って10分模擬授業
・ピアレビュー

特記事項: なし

授業方法: 【対面14回 遠隔オンデマンド1回(第3回)】

アクティブラーニング及び協働学習の手法を取り入れ、グループ討論やプロジェクト研究、マイクロティーチング(模擬授業)を中心とした演習形式で行う。
また、毎時間、基本的なクラスルームについて確認テストを実施する。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 英語教育の現状と課題の復習 (180分)
2. 教師論・学習者論、ストラテジーの予習・復習(180分)
3. 授業設計の作成 (180分)
4. 音声指導の予習・復習 (180分)
5. 帯活動の作成(180分)
6. ペアワーク・グループワーク活動作成 (180分)
7. リスニング指導の予習・復習 (180分)
8. リーディング指導の予習・復習 (180分)
9. スピーキング活動の予習・復習 (180分)
10. ライティング活動の予習・復習(180分)
11. 4技能統合型の活動作成(180分)
12. 小学校用単元指導案作成(180分)
13. 中学校用単元指導案作成(180分)
14. 模擬授業案作成(180分)
15. 模擬授業案作成 (180分)

評価方法:	**授業へのとりくみ:**	60 **%**	**確認テスト:**	20 **%**	**レポート:**	20 **%**
	その他1:			**%**		
	その他2:			**%**		

評価基準: A. 授業への取り組み
(1) 最低限の到達度(60-69%の評価)
・受動的だが授業に参加し、演習・マイクロティーチング・課題に自分なりに取り組むことができる。
(2) 標準的な到達度(70-79%の評価)
・授業内容を概ね理解し、必要な場面で適切に参加・発言し、演習や課題にも一定の取り組みが見られる。
(3) 望ましい到達度(80-100%の評価)
・授業内容を深く理解し、演習・マイクロティーチング・オンライン活動に主体的かつ協働的に参加し、学びに明確な成長が見られる。

B. 確認テスト
(1)最低限の到達度(60-69%の評価)

・基本的なクラスルームイングリッシュを理解し、十分ではないが使用することができる。
(2) 標準的な到達度(70-79%の評価)
・主要なクラスルームイングリッシュの表現を概ね理解し、基本的な場面で適切に使用できる。
(3) 望ましい到達度(80-100%の評価)
・クラスルームイングリッシュの表現を正確に理解し、状況に応じた適切な使用ができる。

C. レポート
(1) 最低限の到達度(60-69%の評価)
・与えられた課題について、各テーマについてポイントを伝えることができる。
(2)標準的な到達度(70-79%の評価)
・与えられた課題について、各テーマについてポイントを明確に伝えることができる。
(2) 望ましい到達度(80-100%の評価)
・ミニレポートで与えられた課題について、各テーマについて知見をまとめたうえで、自分自身の意見や主張を説得力のある形で述べることができる。

課題へのフィードバック:

確認テストについては、毎回フィードバックを行う。また、指導法については適宜フィードバックを行う。
マイクロティーチング(模擬授業)等については個別に講評や評価シートによるフィードバックを行う。

教科書: 文部科学省『中学校学習指導要領』東山書房(平成30年3月)
文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編』開隆堂出版(平成30年3月)

参考書: ・『基礎から学ぶ英語科教育法』松柏社 (税込2750円)
・New Crown English Series New Edition 2 (三省堂 文部科学省検定済み教科書)

授業・準備学習のアドバイス:

3・4年次での教育実習や教員として必要な実践的なスキルと資質を身につけて、「先生の授業が楽しい、よくわかる」「先生のおかげで英語が好きになった」と一人でも多くの児童生徒に思ってもらえる教員になるために積極的に授業に取り組みましょう。

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 英語科教育法Ⅳ

クラス: 小中

授業コード: DA26800001

担当者: 桂　敦子　　**単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校　英語)【必修】

含めることが必要な事項: 各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本授業では、小学校および中学校における英語教育の理念と指導法を理解したうえで、模擬授業(Microteaching)を中心とした実践的な学習を通して、教育実習はもちろんのこと、将来、英語教員として必要となる指導力・授業構成力・コミュニケーション力を育成することを目的とする。

到達目標: ①授業設計・教材研究の能力
・学習指導要領(小・中)の理念と内容を理解し、それに基づいた単元構成・授業案を作成できる。
・児童生徒の発達段階に応じた活動(聞く・話す・読む・書く)を適切に組み合わせた授業デザインができる。
②模擬授業を通した実践的指導力の向上
・Classroom English を用いた指示・説明、導入～展開～まとめの流れ、活動のファシリテーションなど、英語授業の基本的な指導技術を模擬授業で実践し、身につけることができる。
③省察と協働による授業改善能力の育成
・模擬授業後の振り返りやピアフィードバックを通して、自らの授業を客観的に分析し改善できる。また、協働的に教材研究・授業づくりに取り組む力を養う。

各回の授業計画:

1. ICT活用(小・中)
・デジタル教科書
・クイズアプリ
・動画活用
・ワーク:ICTを使った5分レッスン作成

2. TEAM TEACHINGによる指導
・ALTの役割
・TEAM TACHINGとSOLO TEACHING
・ワーク:TEAM TEACHINGによる5分レッスン作成

3. 評価(Assessment)
・形成的評価
・パフォーマンス評価
・CAN-DOリスト
・ワーク:評価基準の作成

4. 授業観察と分析
・授業動画の視聴
・良い点・改善点の分析
・ワーク:授業分析シート作成

5. 模擬授業準備①(小学校)
・小学校の単元から1時間を選び、授業案作成
・教材準備・指示文作成

6. 小学校模擬授業
・1人10分程度のマイクロティーチング
・ピアレビュー

7. 小学校模擬授業②
・1人10分程度のマイクロティーチング
・教員フィードバック

8. 中学校模擬授業準備①
・中学校の単元から1時間を選び、授業案作成
・教材準備・指示文作成

9. 中学校模擬授業①
・ 1人10分程度のマイクロティーチング
・相互フィードバック

10. 中学校模擬授業②
・1人10分程度のマイクロティーチング

・教員フィードバック

11. 課題別強化演習①:導入・指示の出し方
・ 導入の改善
・Classroom Englishの改善
・ペアで改善演習

12. 課題別強化演習②:活動デザイン・時間配分
・活動の難易度調整
・時間管理の練習
・ワーク:5分短縮版レッスン

13. 課題別強化演習③:板書・ICT・評価
・板書の型
・ ICTの入れ方
・形成的評価の入れ方

14. 最終模擬授業(総合)①
・1人15分のマイクロティーチング
・ルーブリック評価

15. 最終模擬授業(総合)②
・1人15分のマイクロティーチング
・ルーブリック評価

特記事項: 特になし

授業方法: 【対面15回】

アクティブラーニング及び協働学習の手法を取り入れ、グループ討論やプロジェクト研究、マイクロティーチング(模擬授業)を中心とした演習形式で行う。
また、毎時間、基本的なクラスルームについて確認テストを実施する。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. ICTを活用した授業に関する復習 (180分)
2. Team Teachingによる授業の予習・復習(180分)
3. 評価に関する予習・復習(180分)
4. 授業動画の分析とまとめ (180分)
5. 小学校模擬授業作成(180分)
6. 小学校模擬授業の予習・復習 (180分)
7. 小学校模擬授業の予習・復習 (180分)
8. 中学校模擬授業案作成 (180分)
9. 中学校模擬授業の予習・復習 (180分)
10. 中学校模擬授業の予習・復習(180分)
11. 模擬授業の改善案作成(180分)
12. 模擬授業の改善案作成(180分)
13. 模擬授業の改善案作成(180分)
14. 模擬授業案作成(180分)
15. 模擬授業案作成 (180分)

評価方法:	**授業へのとりくみ:**	60 **%**	**確認テスト:**	20 **%**	**レポート:**	20 **%**
	その他1:			**%**		
	その他2:			**%**		

評価基準: A. 授業への取り組み
(1) 最低限の到達度(60-69%の評価)
・受動的だが授業に参加し、演習・マイクロティーチング・課題に自分なりに取り組むことができる。
(2) 標準的な到達度(70-79%の評価)
・授業内容を概ね理解し、必要な場面で適切に参加・発言し、演習や課題にも一定の取り組みが見られる。
(3) 望ましい到達度(80-100%の評価)
・授業内容を深く理解し、演習・マイクロティーチング・オンライン活動に主体的かつ協働的に参加し、学びに明確な成長が見られる。

B. 確認テスト
(1)最低限の到達度(60-69%の評価)
・基本的なクラスルームイングリッシュを理解し、十分ではないが使用することができる。
(2) 標準的な到達度(70-79%の評価)
・主要なクラスルームイングリッシュの表現を概ね理解し、基本的な場面で適切に使用できる。
(3) 望ましい到達度(80-100%の評価)
・クラスルームイングリッシュの表現を正確に理解し、状況に応じた適切な使用ができる。

C. レポート
(1) 最低限の到達度(60-69%の評価)

・与えられた課題について、各テーマについてポイントを伝えることができる。
(2)標準的な到達度（70-79%の評価）
・与えられた課題について、各テーマについてポイントを明確に伝えることができる。
(2) 望ましい到達度(80-100%の評価)
・ミニレポートで与えられた課題について、各テーマについて知見をまとめたうえで、自分自身の意見や主張を説得力のある形で述べることができる。

課題へのフィードバック:

確認テストについては、毎回フィードバックを行う。また、指導法については適宜フィードバックを行う。
マイクロティーチング（模擬授業）等については個別に講評や評価シートによるフィードバックを行う。

教科書: 文部科学省『中学校学習指導要領』東山書房（平成30年3月）
文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編』開隆堂出版（平成30年3月）

参考書: ・『基礎から学ぶ英語科教育法』松柏社 （税込2750円）
・New Crown English Series New Edition 2 （三省堂 文部科学省検定済み教科書）

授業・準備学習のアドバイス:

3・4年次での教育実習や教員として必要な実践的なスキルと資質を身につけて、「先生の授業が楽しい、よくわかる」「先生のおかげで英語が好きになった」と一人でも多くの児童生徒に思ってもらえる教員になるために積極的に授業に取り組みましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 特別支援教育基礎理論

クラス: (特:内規科目)

授業コード: DA30100001

担当者: 高畑 英樹 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:
公立養護学校教諭、公立小学校通級指導教室教諭

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:特別支援教育に関する科目(特支)【必修】

含めることが必要な事項: 特別支援教育の基礎理論に関する科目

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 特別支援教育の理念や制度、歴史を概括的に学ぶとともに、特別な支援を必要とする子ども、特別支援教育を行う場、子どもを取り巻く関係機関の基礎的事項について学ぶ。

到達目標:
1. 特別支援教育の理念や意義について理解する。
2. 特別支援学校教育要領や学習指導要領に基づいて特別支援教育の基礎的な考え方や教育の実際を理解する。
3. 特別な支援を必要とする子どもを巡る社会の流れについて理解する。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション・特別支援教育とは
2. 特別支援教育の歴史・制度
3. インクルーシブ教育システムの構築と特別支援教育
4. 特別支援教育の教育課程
5. 自立活動の理念と指導
6. 特別支援学校の教育の現状と課題
7. 小・中学校等における特別支援教育の現状と課題
8. 視覚障害の理解と指導
9. 聴覚障害の理解と指導
10. 知的障害の理解と指導
11. 肢体不自由の理解と指導
12. 病弱・身体虚弱の理解と指導
13. 自閉スペクトラム症・情緒障害の理解と指導
14. 言語障害の理解と指導
15. 発達障害の理解と指導

特記事項: 授業の最後に、課題、小テスト、レポートがある回があります。
・課題…第3回、第7回　小テスト…第5回、第11回　レポート…第1回、第15回

授業方法: すべて対面で授業を行う。授業中に指名して意見を求めることがある。
・講義
・ディスカッション
・グループワーク

予習・復習・宿題など(内容・時間):

第1回(復習)特別支援教育や障害について知っていることを記述する。(180分)
第2回～第15回(予習) 各回で取り上げる教科書の各章を読み、分からない用語は調べてポイントをまとめる。(各回 180分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	40 **%**	**確認テスト:**	**%**	**レポート:**	20 **%**
その他1: 授業後課題	20 **%**				
その他2: 授業後小テスト	20 **%**				

評価基準:
・予習を行って、授業へ参加している。(60～69点)
・課題、小テスト、レポートは、各回の授業で学んだことに関するキーワードをある程度理解して、記述している。(60～69点)
・自分の考えや経験と関連付けて、積極的に授業へ参加している。(80～100点)
・課題、小テスト、レポートは、各回の授業で学んだことに関するキーワードを正しく理解し、自分の考えを述べている。(80～100点)

課題へのフィードバック:

課題等については、授業中にフィードバックを行う。

教科書: 安藤隆男著『特別支援教育基礎論』放送大学教育振興会（2020年3月）

参考書: 文部科学省『特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領（平成29年告示）』海文堂出版
文部科学省『障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～』ジアース教育新社

授業・準備学習のアドバイス:

・第1回、第3回、第5回、第7回、第11回、第15回の授業の最後に課題、小テスト、レポートのいずれかがあります。
課題…第3回、第7回　小テスト…第5回、第11回　レポート…第1回、第15回
・課題やレポートは誤字・脱字・指定字数に気をつけて回答しましょう。
・小テストは、授業で取り上げたキーワードについて問う形式で行います。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 知的障害児の心理

クラス: ★小+(特:内規科目)

授業コード: DA30200001

担当者: 瀬戸山 悠 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公認心理師、臨床心理士、スクールカウンセラー

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:特別支援教育に関する科目(特支)【必修】

含めることが必要な事項: 特別支援教育領域に関する科目
心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 1. 知的障害児の心理学的機能及び特性について基本的知識を幅広く習得する。
2. 実態把握の際に重要となる心理的アセスメントについて, ビデオ, 写真, テスト器具・用紙等を用いて, 概要について学ぶ。
3. 具体的な心理的支援・配慮についても解説する。

到達目標: 1. 知的障害に関する基本的知識の習得し、説明することができる。
2. 知的障害児の心理特性を理解し, その課題及び支援の在り方について説明することができる。
3. 知的障害児に用いる心理的アセスメントの概要を説明することができる。

各回の授業計画:

1. 知的障害の概念:定義、分類と心理特性
2. 知的障害児の心理的機能と発達(学習)
3. 知的障害児の心理的機能と発達(言語)
4. 知的障害児の心理的機能と発達(感覚運動機能)
5. 知的障害のアセスメント①:発達検査
6. 知的障害のアセスメント②:知能検査
7. 知的障害のアセスメント③:適応行動
8. 知的障害と発達障害
9. 知的障害を伴う自閉スペクトラム症児の基礎的理解
10. 知的障害を伴う自閉スペクトラム症児に対する支援の実際
11. 染色体異常の基礎的理解
12. ダウン症児の支援
13. 知的障害児の自立に向けた支援
14. 知的障害の支援に関する連携の実際
15. まとめ(知的障害児への教育・心理臨床の実際及び研究動向)

特記事項: なし

授業方法: 第1回:講義(対面)
第2回:講義(オンライン(オンデマンド))
第3回:講義(オンライン(オンデマンド))
第4回:講義(オンライン(オンデマンド))
第5回:講義(オンライン(オンデマンド))
第6回:講義(対面)
第7回:講義(対面)
第8回:講義(オンライン(オンデマンド))
第9回:講義(オンライン(オンデマンド))
第10回:講義(オンライン(オンデマンド))
第11回:講義(対面)
第12回:講義(オンライン(オンデマンド))
第13回:講義(オンライン(オンデマンド))
第14回:講義(オンライン(オンデマンド))
第15回:講義(対面)

※パソコンを用いて資料のやり取りや質疑応答, 小レポート課題の提出等を行うので対面授業の際は, 持参すること。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

第1回～第14回
（復習・予習）
授業のキーワードを復習するとともに，次回の講義資料を読み，キーワードに関して事前に調べるとともに関連文献を調査する（150分）

第15回
（復習）
これまでの学修について「知的障害児への教育・心理臨床の実際及び研究動向」の観点からまとめ，確認や質問を行う（150分）

※（宿題）
レポート課題（150分×1回 300分×1回）

評価方法：

授業へのとりくみ：	20 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	80 **%**
その他1：			**%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

以下の観点による総合評価とする。
【1.授業へのとりくみ】
①必要なメモを取り，発問（課題）への応答や関連する質問・意見を述べることができる（60～69）
②関連する文献・実践・経験等を基にテーマに関する補足や質問，意見を述べることができる（70～79）
③①，②に加え，小集団討議において適切なファシリテーションや追加の情報提供ができる（80～100）
【2.小レポート(1)】
①テーマやトピックスについて，自分なりの言葉で説明することがきる（60～69）
②テーマやトピックスについて，必要な専門用語を用いて説明することがきる（70～79）
③テーマやトピックスについて，必要な専門用語を用いるとともに具体的例等を交えて分かりやすく説明することがきる（80～100）

【2.小レポート(2)】
①知的障害児の心理的特性，アセスメントの概要，発達支援の在り方等について，自分なりの言葉で説明することがきる（60～69）
②知的障害児の心理的特性，アセスメントの概要，発達支援の在り方等について，必要な専門用語を用いて説明することがきる（70～79）
③知的障害児の心理的特性，アセスメントの概要，発達支援の在り方等について，必要な専門用語を用いるとともに具体的例等を交えて分かりやすく説明することがきる（80～100）

課題へのフィードバック：

以下の観点による総合評価とする。
【1.授業へのとりくみ（20%）】
【2.小レポート（20%）】
【3.学期末レポート（60%）】
・質問に対しては，次回の講義において全体に補足・説明し，必要に応じて個別に補足・説明を行う。
・予習や復習において調査した文献等について，有益かつ必要な情報については全体で情報を共有する。

教科書：

授業ごとに資料を配布する。

参考書：

・文部科学省『特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領＜平成29年4月告示＞』海文堂出版
・文部科学省『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）＜平成30年3月＞』開隆堂出版
・文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）＜平成30年3月＞』開隆堂出版
・文部科学省『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）＜平成30年3月＞』開隆堂出版
・文部科学省『障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～』ジアース教育新社

授業・準備学習のアドバイス：

知的障害児教育論を受講していることが望ましい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 知的障害児の生理・病理

クラス: ☆小+(特:内規科目)

授業コード: DA30300001

担当者: 丹羽 登 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:小学校勤務、特別支援学校勤務、大阪府教育委員会(指導主事)、文部科学省(調査官)

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:特別支援教育に関する科目(特支)【必修】

含めることが必要な事項: 特別支援教育領域に関する科目
心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 知的障害者について、発達や医学の側面から理解するとともに、知的障害者の心理的な特性等を理解し、必要な支援を理解できることを目指す。

到達目標: 知的障害のある子どもの知的障害の要因となる病理面や生理面について理解するとともに、それらに伴うことが多い併存症・合併症についても理解する。また、それらの子どもの心理面の特徴や併存症等との相互作用について理解し、個々の子どもの知的障害の状態や適応行動、認知の特性等を適切に把握した上で個々の子どもが必要とする支援を理解する。

各回の授業計画:

1. 知的障害者とは:医療分野と教育分野、福祉分野における違い
2. 知的障害者の特性:知的能力障害と適応機能障害の両面から理解
3. 知的障害者の心理:自己肯定感や自己有用感
4. 知的障害者の心理:認知の発達と発達の段階等に応じたルールの理解
5. 知的障害者の病理・生理1:知的障害になる原因(要因)
6. 知的障害者の病理・生理2:先天性代謝異常、ダウン症
7. 知的障害者の病理・生理3:てんかん、心疾患
8. 併せ有する疾患1:自閉スペクトラム症(ASD)
9. 併せ有する疾患2:注意欠如多動症(ADHD)
10. 併せ有する疾患3:不器用な子ども(発達性協調運動障害等)
11. 併せ有する疾患4:その他の発達障害(ICD-10のF80−89. F90−98)
12. 感覚過敏な子ども:ASDの感覚過敏・鈍麻とHSP(HSC)の感受性の高さ
13. 境界領域の子どもと虐待・いじめ:いじめの重大事態に至った事例と障害特性を踏まえた指導
14. 知的障害者のアセスメント:発達検査やS-M社会生活能力検査等の心理アセスメントや行動観察等による適応機能の把握
15. 知的障害者の理解と心理的な支援

特記事項: 試験は実施しない

授業方法: 講義(講義内容に応じて適宜グループディスカッションを行う)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

各回の授業に4時間程度の予習・復習を必要とする。

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 %	**確認テスト:**	− %	**レポート:**	40 %
その他1: 講義内レポート			30 %		
その他2:			%		

評価基準:

【最低限の到達点】
講義に出席し、ディスカッションや質問に回答している。
課題レポートは、必要な文字数に応じた回答を作成できている。
【望ましい到達点】
講義にほぼ出席し、ディスカッションや質問に対し根拠のある回答をしている。
課題レポートは、必要な文字数に応じて自分の考えを整理し回答を作成できている。

課題へのフィードバック:

評価時に伝える。

教科書: 文部科学省「障害のある子供の教育支援の手引き」(ジアース教育新社)
※文部科学省のWebサイトに全文掲載されているので、それを印刷して使用してもよい

参考書: 日本精神神経学会監修「DSM-5-TR 精神疾患の分類と診断の手引き」(医学書院)
その他適宜、プリントを配布

授業・準備学習のアドバイス:

障害の概念は、専門分野により捉え方が異なります。教育や医療、福祉における障害の捉え方と、その変化について理解しておく必要があります。特にDSM-5等による医療分野からでは、知的能力障害は神経発達障害(発達障害)の代表的なものですが、我が国の法制度では発達障害には知的障害は含まれていないなどの違いを理解しておく必要があります。
また、知的機能の障害が比較的軽い子どもの場合は、不登校、心身症、虐待などと関連することがあるので、それらとの関連についても理解する必要があります。

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 肢体不自由児の心理・生理・病理

クラス: 小+(特:内規科目)

授業コード: DA30400001

担当者: 松井 学洋、辻 雅弘 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:特別支援教育に関する科目(特支)【必修】

含めることが必要な事項: 特別支援教育領域に関する科目
心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 現在、障害を持つ多くの子ども達が地域生活を営み、学校に在籍している。障害特性に応じた教育的関わりは、その子どもと親の人生を左右するほど大きな影響力をもっている。本講義では、教員として障害を持つ子ども達に専門的な教育が実践できることを目標とし、①障害について基本的な心理・生理・病理の理解、②障害を持つ子ども達への援助方法を概説する。

到達目標: 肢体不自由児、肢体不自由者の心理・生理・病理を理解し、特別支援教育に必要な知識と技術を習得する。

各回の授業計画:

1. 起因疾患(神経性疾患・運動器疾患)の原因と病態の理解 (担当:辻)
2. てんかんの原因と病態の理解 (担当:辻)
3. 特別支援教育の対象となる障害の定義と理解 (担当:松井)
4. 肢体不自由の主な起因疾患の理解 (担当:松井)
5. 脳性麻痺の障害の特徴と随伴症状① 側彎と関節拘縮 (担当:松井)
6. 脳性麻痺の障害の特徴と随伴症状② 嚥下障害 (担当:松井)
7. 脳性麻痺の障害の特徴と随伴症状③ 呼吸障害 (担当:松井)
8. 脳性麻痺児の学校生活の特徴 (担当:松井)
9. 施設・病院で生活する児童生徒への教育 (松井)
10. 人工呼吸器を装着した児童生徒の学校生活 (担当:松井)
11. 障害をもつ当事者からみた肢体不自由児の心理・社会性の発達と教育 (担当:松井)
12. 特別支援学校における医療的ケアの現状と課題 (担当:松井)
13. 特別支援学校における医療的ケアの実際 吸引 (担当:松井)
14. 特別支援学校における医療的ケアの実際 注入 (担当:松井)
15. まとめ

特記事項: なし

授業方法: ①〜②講義 対面もしくはオンライン
③〜⑮講義 対面

予習・復習・宿題など(内容・時間):

講義は配付資料を基に行うが、受講までに参考書等で授業内容について調べておくこと。(予習時間90分) また、授業終了後は配布資料、参考書等で学習内容の復習に努め、理解を深めること。(復習時間90分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	40 %	**確認テスト:**	40 %	**レポート:**	20 %		
その他1:			%				
その他2:			%				

評価基準: 基礎的な専門用語を説明することができる。(60〜69点)
専門用語を説明でき、肢体不自由児を対象とした教育の現状と課題を考察できる。(80〜100点)

課題へのフィードバック:

授業時間内に課題の作成と提出を求めることがあるが、提出物については評価・補足説明を行う。

教科書: なし。毎回、資料を配布する。

参考書: 岡田喜篤他『重症心身障害療育マニュアル』医歯薬出版
白木和夫他『ナースとコメディカルのための小児科学』日本小児医事出版社

授業・準備学習のアドバイス:

受講する目的を明確にした上での、主体的な授業への参加を望みます。私語や居眠り等の迷惑行為は減点対象です。写真やイラストを用いて視覚的にわかりやすい講義に努めますが、専門用語が多くなります。わからない言葉や内容があれば積極的に質問してください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 病弱児の心理・生理・病理

クラス: ★小+(特:内規科目)

授業コード: DA30500001

担当者: 松井 学洋、辻 雅弘 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:特別支援教育に関する科目(特支)【必修】

含めることが必要な事項: 特別支援教育領域に関する科目
心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 健康の概念や病弱児の生理・病理の基礎知識ならびに心理面、社会面における影響を全人的に捉えて概説し、児童生徒・保護者への支援システムや社会的資源について学習する。

到達目標: 病気を持ちながら学校生活を送る子どもたちの生理的側面や心理的側面を学び、病弱児が健やかに学校生活を送るための支援について理解できる。

各回の授業計画:

1. 疾患の概要と生活の質(1)循環器系、呼吸器系、消化器系 (担当:辻)
2. 疾患の概要と生活の質(2)腎・泌尿器系、内分泌系、神経系、悪性新生物 (担当:辻)
3. Ⅰ型糖尿病の理解と学校での支援 (担当:松井)
4. 小児がんの理解と学校での支援 (担当:松井)
5. 染色体異常の理解と学校での支援 (担当:松井)
6. 喘息の理解と学校での支援 (担当:松井)
7. 食物アレルギーの理解と学校での支援 (担当:松井)
8. 子どもの心身症と支援の実際 (担当:松井)
9. HSCの理解と学校での支援 (担当:松井)
10. 児童虐待の現状と課題 (担当:松井)
11. 知的障害の理解と学校での支援 (担当:松井)
12. 発達障害の理解と学校での支援 (担当:松井)
13. 保護者からみた特別支援教育 (担当:松井)
14. 発達性協調運動障害の理解と学校での支援 (担当:松井)
15. まとめ

特記事項: なし

授業方法: ①講義 オンライン
②講義 対面
③～⑮講義 対面

予習・復習・宿題など(内容・時間):

講義は配付資料を基に行うが、受講までに参考書等で授業内容について調べておくこと。(予習時間90分) また、授業終了後は配布資料、参考書等で学習内容の復習に努め、理解を深めること。(復習時間90分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	40	**%**	**確認テスト:**	40	**%**	**レポート:**	20 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: 基礎的な専門用語を説明することができる。(60～69点)
専門用語を説明でき、病弱児を対象とした教育の現状と課題を考察できる。(80～100点)

課題へのフィードバック:

授業時間内に課題の作成と提出を求めることがあるが、提出物については評価・補足説明を行う。

教科書: なし。毎回、資料を配布する。

参考書: 宮本信也他『病弱・虚弱児の医療・療育・教育 改訂2版』金芳堂
白木和夫他『ナースとコメディカルのための小児科学』日本小児医事出版社

授業・準備学習のアドバイス:

受講する目的を明確にした上での、主体的な授業への参加を望みます。私語や居眠り等の迷惑行為は減点対象です。写真やイラストを用いて視覚的にわかりやすい講義に努めますが、専門用語が多くなります。わからない言葉や内容があれば積極的に質問してください。具体的な事例を提示しながら授業を進めますので、自分ならどうするか？を考えながら受講してください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 知的障害児教育論

クラス: （特:内規科目）

授業コード: DA30600001

担当者: 塚本 久義 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立養護学校教諭、県教委特別支援教育担当指導主事

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:特別支援教育に関する科目（特支）【必修】

含めることが必要な事項: 特別支援教育領域に関する科目
心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 知的障害特別支援学校（学級）での教育課程の特徴（教科別に指導を行う場合、道徳科、外国語活動、特別活動、自立活動の時間を設けて指導を行う場合、各教科等を合わせて指導を行う場合）や個別の教育支援計画、個別の指導計画等の作成及び活用について学修し、理解を深める。また、知的障害を伴う自閉症のある幼児児童生徒への教育的支援の概要を学び、理解を深める。

到達目標: 知的障害は、知的発達の遅れと適応行動の困難を中核とする障害であり、知的障害教育特有の教育課程上の特徴や多様な指導方法がみられる。そのため、知的障害のある幼児児童生徒の学習上の特性について理解するとともに、教育課程上の特徴や指導方法、個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成及び活用（カリキュラム・マネジメントを含む）等について、学校等の現場における実際の状況や工夫の在り方に関する理解を図る。また、本科目では、知的障害を伴う自閉症のある幼児児童生徒の教育実践を取り上げ、自閉症の定義や指導方法等について理解を深める。

各回の授業計画:

1. 知的障害教育について
2. 知的障害のある子ども理解と支援
3. 自閉症のある子ども理解と支援
4. 教育課程の特徴と指導法（カリキュラム・マネジメントを含む）
5. 生活単元学習について
6. 作業学習について
7. 日常生活の指導・遊びの指導
8. 教科別の指導について
9. 自立活動の指導について
10. 特別支援学級の学級経営と教育課程
11. 日本と海外の知的障害児教育
12. 個別の教育支援計画と個別の指導計画
13. キャリア教育について
14. 行動上の問題の理解と対応
15. まとめ（個のニーズに応じた授業づくりについて）と確認テスト

特記事項: なし

授業方法: 第1回～第15回
講義、小集団討議、対面
※パソコンを用いて資料のやり取りや質疑応答，小レポート課題の提出等を行うので持参すること。

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

第1回～第14回
（復習・予習）
授業のキーワードを復習するとともに、次回の講義資料を読み、キーワードに関して事前に調べるとともに関連文献を調査する（150分）

第15回
（復習）
これまでの学修について「個別の教育的ニーズに応じた授業づくり」の観点からまとめ、確認や質問を行う（150分）

※（宿題）
小レポート課題（150分×3回）

評価方法: **授業へのとりくみ:** 20 **%** **確認テスト:** 50 **%** **レポート:** 30 **%**

その他1： **%**

その他2： **%**

評価基準： 以下の観点による総合評価とする。

【1.授業へのとりくみ】

①メモを取り，発問への応答や関連する質問・意見を述べることができる（60～69）

②関連する文献・実践・経験等を基にテーマに関する補足や質問，意見を述べることができる（70～79）

③①，②に加え，小集団討議において適切なファシリテーションができる（80～100）

【2.確認テスト】

①知的障害の特徴，学習上の特性，教育課程上の特徴等について，自分なりの言葉で説明することがきる（60～69）

②知的障害の特徴，学習上の特性，教育課程上の特徴等について，必要な専門用語を用いて説明することがきる（70～79）

③知的障害の特徴，学習上の特性，教育課程上の特徴等について，必要な専門用語を用いるとともに具体的例等を交えて分かりやすく説明することがきる（80～100）

【3.小レポート】

①テーマやトピックスについて，自分なりの言葉で説明することがきる（60～69）

②テーマやトピックスについて，必要な専門用語を用いて説明することがきる（70～79）

③テーマやトピックスについて，必要な専門用語を用いるとともに具体的例等を交えて分かりやすく説明することがきる（80～100）

課題へのフィードバック：

以下の観点による総合評価とする。

【1.授業へのとりくみ（20%）】

【2.確認テスト（50%）】

【3.小レポート（30%）】

・小レポートは，前半及び後半のまとめを目的として合計2回実施し，採点の後に返却する。

・質問に対しては，次回の講義において全体に補足・説明し，必要に応じて個別のに補足・説明を行う。

・予習や復習において調査した文献等について，有益かつ必要な情報については全体で情報を共有する。

・確認テスト時には授業資料を持ち込まずに回答するものとする。

教科書： 杉野学・上田征三編著『はじめて学ぶ知的障害児の理解と指導』（大学図書出版）

参考書： 文部科学省『特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領』海文堂出版

文部科学省『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）』開隆堂出版

文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編(小学部・中学部)』開隆堂出版

文部科学省『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部)』開隆堂出版

文部科学省初等中等教育局特別支援教育課『障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実

授業・準備学習のアドバイス：

特別支援教育に関する知識や経験を補うため、特別支援学校（知的障害）や知的障害特別支援学級等の学校現場において特別支援教育ボランティア等を積極的に経験し、自ら探究したい課題を見出す中で講義内容との関連について深く学修することが望ましい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 知的障害児教育指導法

クラス: 小+(特:内規科目)

授業コード: DA30700001

担当者: 塚本 久義 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立養護学校教諭、県教委特別支援教育担当指導主事

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:特別支援教育に関する科目(特支)【必修】

含めることが必要な事項: 特別支援教育領域に関する科目
心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 特別支援学校(知的障害)や知的障害特別支援学級等で指導を行うために必要な教科別の指導, 各教科等を合わせた指導(遊びの指導, 生活単元学習, 日常生活の指導, 作業学習)等や教材研究, 指導案作成, 授業の進め方の要点について学ぶ。また, それらの指導と深い関連を持つ自立活動や合理的配慮の在り方等について理解する。

到達目標: 特別支援学校(知的障害)や知的障害特別支援学級の授業, 学級経営等において求められる指導方法について学び, 実践力を身に付けるとともに, それぞれの目的, 内容及び重要なポイントについて述べることができる。

各回の授業計画:

1. 教科別の指導の実際
2. 各教科等を合わせた指導(遊びの指導)の実際
3. 各教科等を合わせた指導(生活単元学習)の実際
4. 各教科等を合わせた指導(日常生活の指導)の実際
5. 各教科等を合わせた指導(作業学習)の実際
6. 自立活動の指導の実際〜コミュニケーションの指導〜
7. 知的障害教育における特別の教科道徳・総合的な学習の時間の指導の実際
8. 知的障害教育におけるキャリア教育の実際
9. 知的障害教育における交流及び共同学習の実際
10. 知的障害を併せ有する重複障害児への指導
11. 個別の教育支援計画と個別の指導計画の作成及び活用
12. 知的障害のある児童生徒への合理的配慮の実際
13. 教材・教具等の作成及び活用の実際
14. 指導案作成の要点と工夫の実際
15. まとめ(知的障害児への指導及び支援の工夫のポイント)と確認テスト

特記事項: なし

授業方法: 講義(対面)
小集団討議(対面)
演習(模擬授業)(対面)
※パソコンを用いて資料のやり取りや質疑応答, 小レポート課題の提出等を行うので持参すること。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

第1回〜第14回
(復習・予習)
授業のキーワードを復習するとともに, 次回の講義資料を読み, キーワードに関して事前に調べるとともに関連文献を調査する(150分)

第15回
(復習)
これまでの学修について「知的障害のある児童生徒への教育的対応」の観点からまとめ, 確認や質問を行う(150分)

※(宿題)
小レポート課題(150分×3回)

評価方法: **授業へのとりくみ:** 20 % **確認テスト:** 50 % **レポート:** 30 %
その他1: %

その他2： **%**

評価基準： 以下の観点による総合評価とする。
【1. 授業へのとりくみ】
①メモを取り，発問への応答や関連する質問・意見を述べることができる（60～69）
②関連する文献・実践・経験等を基にテーマに関する補足や質問，意見を述べることができる（70～79）
③①，②に加え，小集団討議において適切なファシリテーションができる（80～100）
【2. 確認テスト】
①知的障害児教育の指導の特徴，指導上の工夫，個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成及び活用の等について，自分なりの言葉で説明し，実践することがきる（60～69）
②知的障害児教育の指導の特徴，指導上の工夫，個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成及び活用の等について，必要な専門用語を用いて説明し，実践することがきる（70～79）
③知的障害児教育の指導の特徴，指導上の工夫，個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成及び活用の等について，必要な専門用語を用いるとともに具体的教材等を交えて分かりやすく説明し，実践することがきる（80～100）
【3. 小レポート】
①テーマやトピックスについて，自分なりの言葉で説明することがきる（60～69）
②テーマやトピックスについて，必要な専門用語を用いて説明することがきる（70～79）
③テーマやトピックスについて，必要な専門用語を用いるとともに具体的事例等を交えて分かりやすく説明することがきる（80～100）

課題へのフィードバック：

以下の観点による総合評価とする。
【1. 授業へのとりくみ（20%）】
【2. 確認テスト（50%）】
【3. 小レポート（30%）】
・小レポート（指導案作成）は，前半及び後半のまとめを目的として合計2回実施し，採点の後に返却する。
・質問に対しては，次回の講義において全体に補足・説明し，必要に応じて個別のに補足・説明を行う。
・予習や復習において調査した文献等について，有益かつ必要な情報については全体で情報を共有する。
・確認テストは，模擬授業を通して総合的な理解力及び実践力を確認することとす

教科書： 杉野学・上田征三『はじめて学ぶ知的障害児の理解と指導』大学図書出版
文部科学省『特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領』海文堂出版
文部科学省『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）』開隆堂出版
文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編(小学部・中学部)』開隆堂出版
文部科学省『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部)』開隆堂出版

参考書： 丹野 哲也（監修），全国特別支援学校知的障害教育校長会（著，編集），『「日常生活の指導」の実践』東洋館出版社

授業・準備学習のアドバイス：

知的障害児教育論を受講していることが望ましい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 肢体不自由児教育論

クラス: （特:内規科目）

授業コード: DA30800001

担当者: 塚本 久義 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立養護学校教諭、県教委特別支援教育担当指導主事

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:特別支援教育に関する科目(特支)【必修】

含めることが必要な事項: 特別支援教育領域に関する科目
心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 肢体不自由の障害の特性を理解し、それを踏まえた「一人一人のニーズ」に応じた教育の意義、支援のあり方、特別支援学校、特別支援学級などの教育の場における取組、関係機関との連携などについて学習する。

到達目標: 肢体不自由の障害特性を理解し、特別支援学校や特別支援学級などの教育の場における教育課程編成や指導・支援方法などを知り、実践的な指導力の基礎を身につける。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション 肢体不自由教育の実際(特別支援学校を中心に)
2. 肢体不自由児教育の歴史と現状
3. 肢体不自由児の生理・病理1－運動発達の仕組み－
4. 肢体不自由児の生理・病理2－肢体不自由をもたらす疾患－
5. 肢体不自由児の心理1－発達を中心に－
6. 肢体不自由児の心理2－障害特性を中心に－
7. 肢体不自由教育の教育課程
8. 自立活動の指導
9. 身体の動きの指導
10. コミュニケーションの指導
11. 各教科の指導
12. 重複障害児の理解
13. 重複障害児の指導
14. キャリア教育と進路指導
15. 新たな取り組みと今後の課題

特記事項: なし

授業方法: 第1回 講義(対面)
第2回 講義(対面)
第3回 講義(対面)
第4回 講義(対面)
第5回 講義(対面)
第6回 講義(対面)
第7回 講義(対面)
第8回 講義(対面)
第9回 講義(対面)
第10回 講義(対面)
第11回 講義(対面)
第12回 講義(対面)
第13回 講義(対面)
第14回 講義(対面)
第15回 講義(対面)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

第1回(復習) 教科書から、肢体不自由児教育の歴史と現状についてまとめる。(180分)
第2回～第15回(予習) 各回で取り上げる教科書の各章を読み、分からない用語は調べてポイントをまとめる。(各回 180分)

評価方法: **授業へのとりくみ:** 10 **%** **確認テスト:** － **%** **レポート:** － **%**

その他1： 各回の課題 90 **%**

その他2： **%**

評価基準： 【評価基準】

1．授業への取り組み（10%）

・授業内容を踏まえ、主体的に参加しているか

・他者の意見を尊重し、協働的に学ぼうとする姿勢が見られるか

・課題や討議に誠実に取り組んでいるか

2．各回の課題（90%）

【最低限の到達度（60～69点）】

・各回の授業で扱った基本的なキーワードや概念を概ね理解している。

【標準的な到達度（70～79点）】

・キーワードを理解したうえで、それらの関連性を説明できる。

・事例や具体的場面と結び付けて内容を記述できる。

【望ましい到達度（80～100点）】

・授業内容を実践的視点（教育現場・合理的配慮・支援方法等）と関連付けて考察できる。

課題へのフィードバック：

各回の課題については、その課題のポイントを各授業日の数日後にTeamsのアナウンスで説明する。

教科書： 川間健之介、長沼俊夫編著『肢体不自由児の教育』〔新訂〕放送大学教育振興会(2023年1月）

参考書： 筑波大学附属桐が丘特別支援学校編著『肢体不自由教育の理念と実践』ジアース教育新社

文部科学省『特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領』海文堂出版

文部科学省『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）』開隆堂出版

文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）』開隆堂出版

文部科学省『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）』開隆堂出版

授業・準備学習のアドバイス：

毎回の授業の最後（残り10分）に各回の課題（6問）を配付し、解答を求めます。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 病弱児教育論

クラス: 小+(特:内規科目)

授業コード: DA30900001

担当者: 塚本 久義 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立養護学校教諭、県教委特別支援教育担当指導主事

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:特別支援教育に関する科目(特支)【必修】

含めることが必要な事項: 特別支援教育領域に関する科目
心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 授業の概要
病弱教育の意義や特別支援学校や特別支援学級での取り組みについて学習する。
病弱教育における教育課程の編成と各教科等の指導について、どのように取り組むのか、学習する。

到達目標: 病弱教育について理解し、特別支援学校や特別支援学級における教育課程編成や指導・支援方法などを知り、実践的な指導力の基礎を身につける。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション 病弱・身体虚弱と学習上・生活上の困難 病弱教育の変遷
2. 病弱教育の制度 学びの場と教育形態
3. 病弱児の心理
4. 主な病気の概要と教育支援
5. 教育課程の編成
6. 各教科の指導 自立活動の指導
7. 病弱教育における情報化 キャリア教育
8. 病弱児と医療的ケア 教育と医療・福祉等との連携
9. 病弱児への復学支援の実際 通常の学級に在籍する病弱児への配慮
10. 特別支援学校における学習指導案について
11. 学習指導案の作成(1)指導案作成
12. 学習指導案の作成(2)模擬授業用指導案完成
13. 模擬授業練習
14. 模擬授業
15. まとめ(模擬授業の振り返り)

特記事項: なし

授業方法: 第1回 講義(対面)
第2回 講義(対面)
第3回 講義(対面)
第4回 講義(対面)
第5回 講義(対面)
第6回 講義(対面)
第7回 講義(対面)
第8回 講義(対面)
第9回 講義(対面)
第10回 講義(対面)
第11回 講義・グループワーク(対面)
第12回 講義・グループワーク(対面)
第13回 講義・グループワーク(対面)
第14回 講義・発表(対面)
第15回 講義(対面)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

第1回(復習) 病弱教育についてまとめる。(180分)
第2回～第9回(予習) 各回で取り上げる教科書の各章を読み、ポイントをまとめる。(各回 180分)
第10回～第11回(復習) 学習指導案を作成する。(各回 180分)

第12回(復習) 模擬授業準備(180分)
第13回(予習) 模擬授業準備(120分)(復習)振り返り(60分)
第14回(予習) 模擬授業準備(120分)(復習)振り返り(60分)
第15回(予習) これまでの取り組みをまとめる(180分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	45	**%**	**確認テスト:**	－	**%**	**レポート:**	55 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準:

1. 授業へのとりくみ : 授業で取り上げた教科書の内容をまとめ、感想を述べることができる(60～69点)／授業で取り上げた教科書の内容を的確にまとめ、感想を述べることができる(80～100点)。
2. レポート
・レポート:学習指導案について概ね理解し、学習指導案作成についてのレポートが作成できる(60～69点)／学習指導案について的確に理解し、学習指導案作成について自分の考えを含めたレポートが作成できる(80～100点)。
・学習指導案作成:学習指導要領を理解し、指導案のモデルを参考にグループで協力して指導案を作成することができる(60～69点)／学習指導要領を理解し、指導案のモデルを参考にグループで協力して適切な指導案を作成することができる。(80～100点)。
・模擬授業 : 学習指導要領を理解し、指導案にもとづきグループで協力して模擬授業ができる(60～69点)／学習指導要領を理解し、指導案にもとづきグループで協力して効果的な指導を行えるよう工夫した模擬授業ができる(80～100点)。

課題へのフィードバック:

模擬授業 : 模擬授業については授業で講評する。

教科書: 日本育療学会編著『標準「病弱児の教育」テキスト 改訂版』 ジアース教育新社

参考書:

文部科学省『特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領』海文堂出版
文部科学省『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編(幼稚部・小学部・中学部)』開隆堂出版
文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編(幼稚部・小学部・中学部)』開隆堂出版
文部科学省『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部)』開隆堂出版
文部科学省『障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～』ジアース教育新社

授業・準備学習のアドバイス:

授業の途中にレポート課題(1題)を課します。課題と提出期日は授業の中で示します。
学習指導案の作成と模擬授業は4年次生での特別支援学校教育実習に向けた準備とします。
レポート課題と学習指導案作成と模擬授業を合わせてレポートの評価とします。
教育実習で欠席した授業については、その授業で取り上げた教科書の内容をまとめたレポートの提出を求めます。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 視覚障害児の心理･生理･病理

クラス: 小+

授業コード: DA31000001

担当者: 辻岡 均　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:大阪市立小学校、知的支援学校、視覚支援学校、聴覚支援学校小学部勤務
視覚支援学校では、全盲児、弱視児、重複児を担当した。また、通級指導や巡回指導、教育相談、視覚障がい理解研修会等、外部支援も行った。

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:特別支援教育に関する科目(特支)【必修】

含めることが必要な事項: 免許状に定めされることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目
心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 視覚障害児の心理・生理・病理の基礎を学習する。
・てびきの仕方や点字、視覚障害者を取り巻く社会、制度の実態、支援の方法について学習する。
・本授業では、障害全般、条約や法律、合理的配慮、障害理解教育や社会啓発などについても理解する。

到達目標: 1. 視覚の生理・病理について、視覚器の構造、視覚検査、視機能異常、眼疾患に分けてその概要を理解する。
2. てびきの方法を知り、障害理解の一環である疑似障害体験の意義やあり方を理解し、適切な疑似障害体験が実施できる方法を身につける。
3. 障害特性や認知特性について理解し、障害告知・障害受容など視覚障害児・者の心理の概要を習得する。
4. 障害の基礎として、障害の意味とその理解、障害者権利条約、合理的配慮等の考え方について理解する。
5. 障害理解を進めるための背景となる社会の障害者観などを考察する。

各回の授業計画:

1. 視覚の生理・病理1:視覚器の構造と主な眼疾患
視覚器の構造と見る仕組みについて
眼疾と原因、見えにくさのいろいろ

2. 視覚の生理・病理2:見え方と視機能検査
見えにくさのシミュレーション体験
見る機能と視機能検査のいろいろ

3. 視覚の生理・病理3:視覚障害による制限
視覚障害者の様々な困難(移動、情報、コミュニケーション等)を知る
声かけの仕方とてびきの仕方について
小中学校での障害理解教育について

4. 視覚障害児・者の心理:心理とケア
視覚障害児の各発達段階の心理とケアについて
視覚障害児の親、兄弟の心理、中途障害者の心理とケアについて

5. 視覚障害者と社会:歴史と現状
視覚障害者の仕事や生活の歴史について
社会の中での視覚障害者の置かれた現状、困難について
障害児差別の事例…分析、手立てについて

6. 視覚障害児・者の支援と制度について:支援施設と制度、職業
障害者を守る制度、法律、合理的配慮について、作られた経緯や現状の理解
障害児・者の支援制度について

7. 視覚障害者の情報取得手段:情報機器と点字の仕組み
視覚障害者の情報入手手段について
点字の仕組みを知り、読み書きの体験
点字の初期指導の方法について

8. 視覚障害者と災害(0.5コマ)
神戸や東日本などの震災時の視覚障害者の様子
災害の種類、事前準備、実際の避難、災害後の対応などについて
避難所になった公立学校の様子、教職員の動き、支援のいろいろ
災害時の他、学校安全、危機管理について

特記事項: この講座では、先ず見えのシミュレーションや歩行などの体験を通して、「視覚障害」の障害特性を理解する。その上で、「視覚障害児・者」の障害による認知特性や発達特性、心理、困り感などの理解について解説する。
多岐にわたる講義内容のため、アクティブ・ラーニングに十分な時間を取ることは難しいが、次のようなグループワークの中でその要素を取り入れて実施する。例えば、「てびき中のアイマスクをしている人へのわかりやすい情報の伝え方を話し合う」「視覚障害者の立場で街を観察し、困難や危険度など感じたことを話し合う」「視覚障害以外の障害者の視点で街を観察する」等。

授業方法: ・すべての授業を対面授業で行う。
・TeamsにアップしたPDF資料に沿ってパワーポイントで講義する。資料は印刷または、タブレット等にダウンロードすること。
・オンライン授業になったときも資料は同じなので、時間をかけて資料を精読すること。また、合わせてTeamsに補足動画や関係機関のHP や関係する動画などのアドレスを提示するので視聴すること。
・その後各受業で課題(感想や考え、工夫等)についてレポートを投稿することで、出席の代わりとする。
・課題に対しては個々に対してコメントをする。その後、より深く理解できるように、課題についてフィードバックする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 受講までに『特別支援学校 幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領』＜平成29年 4月告示＞を読んで、予習しておくこと。(学習時間20時間)
2. 配付資料を精読すること。(学習時間10時間)
3. コマごとに「準備学習」を載せているので調べ考えること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	20 **%**	**確認テスト:**	− **%**	**レポート:**	80 **%**
その他1:			**%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 定期テストではなく、Teamsへの課題レポート2つと平常点で評価する。
1. 授業時の参加度を評価する(20点)
①メモを取る、積極的に発言、質問等をすることができる。
オンラインになったとき・・・出席の代わりに各受業で課題(100文字程度)を出す。その投稿レポート内容で授業の参加度を見る。
2. 課題レポート(40点×2)
①5, 7コマ目の授業時にTeamsに課題を載せるので、200文字程度で提出すること。
②全盲児、弱視児、重複児の教育について理解している。

課題へのフィードバック:

課題レポートについて、Teamsに個々にコメントする。また、課題について深く理解できるように、フィードバックをTeamsに載せる。
質問については、授業時または、Teamsで説明する。また、必要に応じて、個別に説明する。

教科書: 教科書はなし。Teamsに講義用資料(PDF)を載せるので、印刷または、タブレット等にダウンロードすること。

参考書: ・文部科学省編『特別支援学校 幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領』＜平成29年 4月告示＞
・青柳まゆみ・鳥山由子 編著『視覚障害教育入門』ジアース教育新社
・全国盲学校長会編『視覚障害教育入門Q&A』ジジアース教育新社
・香川邦生 編著『視覚障害教育にかかわる方のために』慶應義塾大学出版会
・五十嵐信敬 著『視覚障害幼児の発達と指導』コレール社
・芝田裕一 著『視覚障害児・者の理解と支援』北大路書房
・白石正久 著『発達の扉』(上下) かもがわ出版

授業・準備学習のアドバイス:

資料に準備学習等を載せているので、予習しておくこと。
質問については、授業時やTeamsにすること。授業時に全体に説明するか、または、必要に応じてTeamsで説明する。個人的など、内容によっては個別に説明する。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 聴覚障害児の心理・生理・病理

クラス: 小+

授業コード: DA31100001

担当者: 井坂 行男 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立聾学校(現公立聴覚特別支援学校)教員(幼稚部、小学部、中学部)、言語聴覚士、学校心理士SV

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:特別支援教育に関する科目(特支)【必修】

含めることが必要な事項: 免許状に定めされることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目
心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目

教科に関する専門的事項: - **一般的包括的科目:** -

授業の目的: 聴覚障害児における認知発達や言語発達、知的発達等の諸特性に関する基礎的な知識を理解すること、聴覚の構造や機能及び聴覚の疾患等の基礎的な知識を学び、これらの基礎的な知識や理解を聴覚障害児のアセスメントに関連づけた理解を得ることで教育実践に活用できるようになる。家庭や地域社会、保健・医療・福祉・労働機関との連携の必要性について理解する。

到達目標: 聴覚障害児における認知発達や言語発達、知的発達等の諸特性に関する基礎的な知識を理解すること、聴覚の構造や機能及び聴覚の疾患等に関する基礎的な知識を学び、これらの基礎的な知識や理解を聴覚障害児のアセスメントに関連づけた理解を得ることで教育実践に活用できるようになる。

各回の授業計画:

1. 聴覚の構造(耳の仕組みに関する理解)、聴覚の機能(耳の役割に関する理解)
2. 聴覚の疾患及び聴覚補償(耳に関する疾病や疾患に関する理解、聴覚補償に関する理解)
3. 聴覚障害児の認知発達(その1)(記憶、思考、学習、認知特性等に関する諸特性に関する理解)
4. 聴覚障害児の認知発達(その2)(記憶、思考、学習、認知特性等に関する諸特性に関する理解)
5. 聴覚障害児の言語発達(その1)(音声言語、書記言語、手話言語の発達に関する理解)
6. 聴覚障害児の言語発達(その2)(音声言語、書記言語、手話言語の発達に関する理解)
7. 聴覚障害児者の自己認識・理解(自己や障害に関する理解)
8. 聴覚障害児のアセスメント(聴力検査、知能検査、言語検査等に関する理解)

特記事項: なし

授業方法: 各回の授業は対面で実施する。
講義及びDVD視聴、ディスカッションやグループワークを取り入れ、受講生相互の学びの深まりにも配慮する。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 聴覚の構造(耳の仕組みに関する理解)、聴覚の機能(耳の役割に関する理解)(予習(90分):参考書やWeb等を参照して、聴覚の構造(解剖)について調べておくこと、聴覚の機能(生理及び役割)について調べておくこと、復習(90分):聴覚の構造や聴覚の伝導経路について、各部位の名称等をまとめておくこと)、聴覚の機能と人間の発達や生活との関係についてまとめること)
2. 聴覚の疾患及び聴覚補償(耳に関する疾病や疾患に関する理解、聴覚補償に関する理解)(予習(90分):参考書やWeb等を参照して、聴覚の疾患や聴覚補償機器(補聴器や人工内耳)について調べておくこと、復習(90分):聴覚の疾患と治療や聴覚補償機器に関する関連やその効果をまとめること)
3. 聴覚障害児の認知発達(その1)(記憶、思考、学習、認知特性等に関する諸特性に関する理解)(予習(90分):人間の認知発達(記憶、思考等)について調べておくこと、復習(90分):聴覚障害児の認知発達(認知、思考等)の特徴についてまとめること)
4. 聴覚障害児の認知発達(その2)(記憶、思考、学習、認知特性等に関する諸特性に関する理解)(予習(90分):人間の認知発達(学習、認知特性等)について調べておくこと、復習(90分):聴覚障害児の認知発達(学習、認知特性等)の特徴についてまとめること)
5. 聴覚障害児の言語発達(その1)(音声言語、書記言語、手話言語の発達に関する理解)(予習(90分):人間の言語発達(音声言語、書記言語)について調べておくこと、復習(90分):聴覚障害児の言語発達(音声言語、書記言語)の特徴についてまとめること)
6. 聴覚障害児の言語発達(その2)(音声言語、書記言語、手話言語の発達及びその特徴に関する理解)(予習(90分):人間の言語発達(手話言語)について調べておくこと、復習(90分):聴覚障害児の言語発達(手話言語)の特徴についてまとめること)
7. 聴覚障害児者の自己認識・理解(自己や障害に関する理解)(予習(90分):聴覚障害児者の自己理解や障害の認識について、手記等を参

照して、調べておくこと、復習(90分):聴覚障害児の自己理解の特徴と適切な指導や必要な支援についてまとめること)
8. 聴覚障害児のアセスメント(聴力検査、知能検査、言語検査等に関する理解)(予習(90分):障害や教育的ニーズのある子供のアセスメントについて調べておくこと、復習(90分):聴覚障害児のアセスメント方法とその活用方法についてまとめること)

評価方法:

授業へのとりくみ:	20 **%**	**確認テスト:**	30 **%**	**レポート:**	50 **%**
その他1:			**%**		
その他2:			**%**		

評価基準:

【最低限の到達度(60～69点)】
・授業へのとりくみ 教員の質問に回答する。グループディスカッションに参加している。
・確認テキスト 各回の授業で解説された聴覚障害心理・生理・病理について理解している。
・レポート 聴覚障害心理・生理・病理について概ね理解し、その要点をまとめることができる。
【望ましい到達度(80～100点)】
・授業へのとりくみ 教員の質問やグループディスカッションで、自らの考えも含めて発表することができる。
・確認テキスト 各回の授業で解説された聴覚障害生心理・生理・病理について理解し、解説することができる。
・レポート 聴覚障害児心理・生理・病理について十分に理解し、その要点及び自らの考えも含めてまとめることができる。

課題へのフィードバック:

確認テストはテスト実施後の授業で解説する。

教科書: 適宜、講義資料を配付する。

参考書: 日本聴覚医学会編「聴覚検査の実際」最新版(南山堂)、文部科学省特別支援教育HP「聴覚障害教育の手引」

授業・準備学習のアドバイス:

文部科学省特別支援教育HP「支援教育資料 第3編 障害の状態等に応じた教育的対応 聴覚障害」、「聴覚障害教育の手引」の聴覚の生理・病理、聴覚障害心理に関連する部分を読んでおくこと。また、Web上に公開されている大学医学部附属病院の耳鼻咽喉科HP等で、聴覚の解剖や疾患、聴覚障害についての理解を深めておくこと。

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 視覚障害児教育指導法

クラス: 小+

授業コード: DA31200001

担当者: 辻岡 均 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:大阪市立小学校、知的支援学校、視覚支援学校、聴覚支援学校小学部勤務。
視覚支援学校では、全盲児、弱視児、重複児を担当した。また、通級指導や巡回指導、教育相談、視覚障がい理解研修会等、外部支援も行った。

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:特別支援教育に関する科目(特支)【必修】

含めることが必要な事項: 免許状に定めされることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目
心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 視覚障害教育に関する基本的知識と視覚障害児の指導法に関する概要を学習する。
視覚障害教育と言っても、指先で文字を読み手で概念形成や観察をする全盲児教育、保有視力を最大限使う弱視教育、他の障害に配慮した重複児教育などがあり、それぞれ障害特性に合わせた指導法について学習する。

到達目標:
1. 視覚障害教育の概要を、乳幼児の相談、親子教室から幼小中高等部、職業科の教育まで幅広く理解する。
2. 障害特性、発達特性、認知特性と関連させて、全盲児、弱視児、重複障害児の特徴を理解し、適切な指導及び支援を行うための基礎的知識(教育課程及び指導法等)を学ぶ。
3. 視覚障害教育における自立活動、合理的配慮、キャリア教育、外部支援、障害理解教育について学ぶ。
4. 視覚障害児教育を特別支援教育の観点から考察し理解する。

各回の授業計画:

1. 視覚障害の教育の全体像:学部と選択肢
視覚特別支援学校の幼稚部から、小学部、中学部、高等部、職業科の教育内容(カリキュラムマネジメントを含む)
一般校在籍の視覚障害児の外部支援

2. 視覚障害乳幼児の発達と支援:五感を使って
幼児期の発達段階と、視覚障害による認知特性と発達特性について
実態把握と働きかけの方法について

3. 全盲児の教育:教科指導と教材
認知特性に合わせた触察(手で見る)による学習方法と教材教具
国語、算数の教科学習のレディネスと概要

4. 弱視児の教育:教科指導と教材
保有視力を最大限に使う弱視児教育の特徴と配慮、学習方法
教材教具のいろいろ

5. 弱視訓練、ビジョントレーニング
ルーペ、単眼鏡を使った技能の習熟
視覚認知、読み書き、観察・測定などの技能、訓練教材について

6. 重複障害児の教育1:日常生活動作、歩行
着替え、排尿、摂食などの考え方と方法
音源歩行と防御の姿勢、伝い歩きの方法、歩行地図

7. 重複障害児の教育2:手指、運動、感覚、教材
触察の基礎、運動の課題、感覚の統合について
心を育てる、将来を考える

8. 特別支援学校の教育:自立活動、合理的配慮、キャリア教育、外部支援、個人情報
個別の指導計画及び個別の教育支援計画
視覚支援学校の自立活動や外部支援(教育相談、通級・巡回指導、研修、理解教育)の内容
合理的配慮の考え方と実務、キャリア教育のステージ
保護者対応と情報の伝え方

特記事項: この講座では、教育課程の編成、実施、評価を進め、情報活用や、問題発見とその解決の能力を高めるなど、カリキュラム・マネジメントの確

立をめざす。合わせて、視覚障害教育の全体像を理解した上で、幼児教育、全盲児教育、弱視児教育、重複児教育について学ぶ。
また、視覚の障害特性と発達課題、認知特性に合わせた「手で学ぶ」「言語化する」「触れないものは、核になる体験から類推して概念形成する」など、視覚障害教育方法について理解する。特に晴眼児と違う教材教具についても、見て触って理解できるようにする。

授業方法: ・すべての授業を対面授業で行う。
・TeamsにアップしたPDF資料に沿ってパワーポイントで講義する。資料は印刷または、タブレット等にダウンロードすること。オンライン授業になったときも資料は同じ。
・オンライン授業になったときは、資料を精読すること。また、合わせてTeamsに補足動画や関係機関のHPや関係する動画 などのアドレスを提示するので視聴すること。その後各受業での課題(感想や考え、工夫等)についてレポートを投稿することで、出席の代わりとする。課題に対しては個々に対してコメントをする。その後、より深く理解できるように、課題についてフィードバックする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 受講までに『特別支援学校 幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領』<平成29年 4月告示>を読んで、予習しておくこと。(学習時間20時間)
2. 配付資料を精読すること。(学習時間10時間)
3. コマごとに「準備学習」を載せているので調べ考えること

評価方法:

授業へのとりくみ:	20 **%**	**確認テスト:**	− **%**	**レポート:**	80 **%**
その他1:			**%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 定期テストではなく、授業への取り組みとTeamsへの課題レポート2つで評価する。
1. 授業時の参加度を評価する(20点)
①メモを取る、積極的に発言、質問等をすることができる。
オンラインになったとき・・・出席の代わりに各受業で課題(100文字程度)を出す。その投稿レポート内容で授業の参加度を見る。
2. 課題レポート(40点×2)
①3, 6コマ目の授業時にTeamsに課題を載せるので、200文字程度で提出すること。
②幼児、全盲児、弱視児、重複児の教育について理解している。

課題へのフィードバック:

課題レポートについて、Teamsに個々にコメントする。また、課題について深く理解できるように、フィードバックをTeamsに載せる。
質問については、授業時または、Teamsで説明する。また、必要に応じて、個別に説明する。

教科書: 教科書はなし。Teamsに講義用資料(PDF)を載せるので、印刷または、タブレット等にダウンロードすること。

参考書:
・文部科学省編『特別支援学校 幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領』<平成29年 4月告示>
・青柳まゆみ・鳥山由子 編著『視覚障害教育入門』ジアース教育新社
・全国盲学校長会編『視覚障害教育入門Q&A』ジジアース教育新社
・香川邦生 編著『視覚障害教育にかかわる方のために』 慶應義塾大学出版会
・五十嵐信敬 著『視覚障害幼児の発達と指導』 コレール社
・芝田裕一 著『視覚障害児・者の理解と支援』 北大路書房
・白石正久 著『発達の扉』(上下) かもがわ出版

授業・準備学習のアドバイス:

資料に準備学習等を載せているので、予習しておくこと。
質問については、授業時やTeamsにすること。授業時に全体に説明するか、または、必要に応じてTeamsで説明する。個人的など内容によっては個別に説明する。

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 聴覚障害児教育指導法

クラス: 小+

授業コード: DA31300001

担当者: 井坂 行男 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立聾学校(現公立聴覚特別支援学校)教員(幼稚部、小学部、中学部)、言語聴覚士、学校心理士SV

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:特別支援教育に関する科目(特支)【必修】

含めることが必要な事項: 免許状に定めされることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目
心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目

教科に関する専門的事項: - **一般的包括的科目:** -

授業の目的: 聴覚に障害を有する乳幼児・児童生徒の教育支援に関する基礎的基本的な知識(教育課程及び指導方法等)を習得すると共に、聴覚障害児教育における適切な指導及び必要な支援についても理解を深め、教育実践にも活用できるようになる。

到達目標: 聴覚に障害を有する乳幼児・児童生徒の教育支援に関する基礎的基本的な知識を習得すると共に、聴覚障害児教育における適切な指導及び必要な支援についても理解を深め、教育実践にも活用できるようになる。

各回の授業計画:

1. 聴覚障害の定義及び理解と聴覚障害児教育の対象
2. 聴覚障害児の学びの場と教育課程(カリキュラムマネジメント)
3. 聴覚障害児教育におけるコミュニケーション方法と教育支援法
4. 早期教育と幼稚部教育の実際(個別の指導計画及び個別の教育支援計画を含む)
5. 聴覚障害児教育における小学部及び中学部の教育の実際(個別の指導計画及び個別の教育支援計画を含む)
6. 聴覚障害児教育における自立活動の実際(個別の指導計画を含む)
7. 聴覚障害児教育における現状と課題
8. 聴覚障害児教育における学習支援と基礎的環境整備及び合理的配慮(3観点11項目)

特記事項: なし

授業方法: 各回の授業は対面で実施する。
講義及びDVD視聴、ディスカッションやグループワークを取り入れ、受講生相互の学びの深まりにも配慮する。(指文字や手話についても取り扱う)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 聴覚障害の定義及び理解と聴覚障害児教育の対象
(予習(90分):文部科学省HP「支援教育資料」や参考書、Web等を参照して、聴覚の定義や教育の対象について調べておくこと、復習(90分):聴覚障害に関する医学的・教育的・福祉的な定義の違いや聴覚障害児教育の対象等についてまとめること)
2. 聴覚障害児の学びの場と教育課程
(予習(90分):文部科学省HP「支援教育資料」や参考書、Web等を参照して、聴覚障害児の学びの場について調べておくこと、復習(90分):聴覚障害児の学びの場とそれぞれの学びの場の特徴をまとめること)
3. 聴覚障害児教育におけるコミュニケーション方法と教育支援法
(予習(90分):文部科学省HP「支援教育資料」や参考書、Web等を参照して、聴覚障害児教育におけるコミュニケーション方法について調べておくこと、復習(90分):聴覚障害児教育におけるそれぞれのコミュニケーション。方法の特徴をまとめること)
4. 早期教育と幼稚部教育の実際
(予習(90分):早期教育に関する研究報告書や参考書、Web等を参照して、早期教育や幼稚部教育について調べておくこと、復習(90分):早期教育や幼稚部教育の現所と課題についてまとめること)
5. 聴覚障害児教育における小学部及び中学部の教育の実際
(予習(90分):文部科学省HP「聴覚障害教育の手引」や各聴覚支援学校のHP等を参照して、小学部及び中学部の教育について調べておくこと、復習(90分):小学部及び中学部の教育の現状と課題をまとめること)
6. 聴覚障害児教育における自立活動の実際

（予習(90分):文部科学省HP「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）を参照して、聴覚障害児の自立活動について調べておくこと、復習(90分):聴覚障害児の自立活動の実際についてまとめること）
7. 聴覚障害児教育における現状と課題
（予習(90分):これまでの学習を通して、聴覚障害児教育の現状と課題について調べておくこと、復習(90分):聴覚障害児教育において、大切にしなければならないことをまとめること）
8. 聴覚障害児教育における学習支援と合理的配慮
（予習（45分）:聴覚障害児教育における学習上の課題を踏まえ、必要な合理的配慮について調べておくこと、復習（45分）:聴覚障害児教育における合理的配慮の実際について、まとめること）

評価方法:

授業へのとりくみ:	20 **%**	**確認テスト:**	30 **%**	**レポート:**	50 **%**
その他1:			**%**		
その他2:			**%**		

評価基準:

【最低限の到達度（60～69点）】
・授業へのとりくみ
教員の質問に回答する。グループディスカッションに参加している。
・確認テキスト
各回の授業で解説された聴覚障害児教育について理解している。
・レポート
聴覚障害児教育について概ね理解し、その要点をまとめることができる。

【望ましい到達度（80～100点）】
・授業へのとりくみ
教員の質問やグループディスカッションで、自らの考えも含めて発表することができる。
・確認テキスト
各回の授業で解説された聴覚障害児教育について理解し、解説することができる。
・レポート
聴覚障害児教育について十分に理解し、その要点及び自らの考えも含めてまとめることができる。

課題へのフィードバック:

確認テストはテスト実施後の授業で解説する。

教科書: 適宜、講義資料を配付する。

参考書: 文部科学省特別支援教育HP「支援教育資料 第3編 障害の状態等に応じた教育的対応 聴覚障害」、「聴覚障害教育の手引」、特別支援学校幼稚部教育要領、同小学部・中学部学習指導要領、同高等部学習指導要領、特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編（幼稚部・小学部・中学部）、同自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）以上文部科学省

授業・準備学習のアドバイス:

文部科学省特別支援教育に関するHPや独立行政法人国立特別支援教育総合研究所のHPを参照して、「聴覚障害児教育」「特別支援教育」「インクルーシブ教育」についての基礎知識を習得すること。
また、全国の聴覚特別支援学校（聾学校）のHPを検索して、早期教育及び教育相談部・幼稚部・小学部・中学部・高等部・専攻科の教育について、各学校の教育目標や学校経営計画、教育課程、各学部の行事等に関する理解を深めること。聴覚障がい学生のための大学である筑波技術大学産業技術学部のHPなども参照しておくこと。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 発達障害児教育Ⅰ

クラス: 小+(特:内規科目)

授業コード: DA31400001

担当者: 瀬戸山 悠、高畑 英樹 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:
【高畑】公立学校教諭

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:特別支援教育に関する科目(特支)【必修】

含めることが必要な事項: 免許状に定めされることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目
・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目
・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: LD、ADHDをはじめとする発達障害児は、小学校・中学校等の通常の学級を中心に支援されることが多く、幼児児童生徒の学習上・生活上の困難や教育的ニーズに基づく適切な支援方法の理解が求められている。また、発達障害は、低学力、不登校、行動上の問題などと深い関連があるとされる。本科目では、LD、ADHD、自閉スペクトラム症についての定義、生理、病理、心理、認知・行動等の特徴、支援方法、学校・地域関連機関の連携システム等について、基本的知識を習得することを目的とする。さらに、重複障害、言語障害、情緒障害について、基本的知識を習得することを目的とする。

到達目標: 1. 発達障害の定義を理解し、その内容について正しく説明することができるとともに、具体的事例から障害に対する支援方法を検討できる。
2. 通常の学級における支援システムと方法等について、その概要を説明することができる。
3. 重複障害、言語障害、情緒障害について、その概要を説明することができる。

各回の授業計画:

1. 発達障害の生理と病理 (担当:瀬戸山)
2. LDの定義と特性 (担当:高畑)
3. ADHDの定義と特性 (担当:瀬戸山)
4. 自閉スペクトラム症の定義と特性 (担当:瀬戸山)
5. 個別の教育支援計画と個別の指導計画の概要と作成・活用上の留意点 (担当:高畑)
6. 発達障害の心理、アセスメントの実際①(ウェクスラー系検査)(担当:瀬戸山)
7. 発達障害の心理、アセスメントの実際②(その他の検査)(担当:瀬戸山)
8. 通常の学級におけるユニバーサルデザインの視点に基づく指導 (担当:高畑)
9. 重複障害、言語障害、情緒障害の概要 (担当:高畑)
10. 校内支援委員会及び特別支援教育コーディネーターの意義と役割及び市区町村における学校支援システムと関係機関との連携 (担当:高畑)
11. 発達障害のある児童生徒のための教材・教具について (担当:瀬戸山)
12. 発達障害のある児童生徒への合理的配慮及び保護者の心理的理解と支援 (担当:瀬戸山)
13. 事例検討①−LD− (担当:高畑)
14. 事例検討②−ADHD, 自閉スペクトラム症− (担当:瀬戸山)
15. まとめ(発達障害のある児童生徒に対する教育的対応)と確認テスト (担当:瀬戸山)

特記事項: なし

授業方法: ①～⑮ 講義(対面) 小集団討議や演習も適宜行う
※パソコンを用いて資料のやり取りや質疑応答、小レポート課題の提出等を行うので持参すること。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

第1回～第14回(復習・予習)|授業のキーワードを復習するとともに、次回の講義資料を読み、キーワードに関して事前に調べるとともに関連文献を調査する(150分)
第15回(復習)これまでの学修について「発達障害のある児童生徒への教育的対応」の観点からまとめ、確認や質問を行う(150分)
※(宿題)小レポート課題(150分×3回)

評価方法:

授業へのとりくみ:	20	**%**	**確認テスト:**	50	**%**	**レポート:**	30 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: 以下の観点による総合評価とする。

【1. 授業へのとりくみ】
①メモを取り、発問への応答や関連する質問・意見を述べることができる（60～69）
②関連する文献・実践・経験等を基にテーマに関する補足や質問、意見を述べることができる（70～79）
③①，②に加え、小集団討議において適切なファシリテーションができる（80～100）
【2. 確認テスト】
①発達障害の定義や特性、アセスメント、支援方法等について、自分なりの言葉で説明することがきる（60～69）
②発達障害の定義や特性、アセスメント、支援方法等について、必要な専門用語を用いて説明することがきる（70～79）
③発達障害の定義や特性、アセスメント、支援方法等について、必要な専門用語を用いるとともに具体的例等を交えて分かりやすく説明することがきる（80～100）
【3. 小レポート】
①テーマやトピックスについて、自分なりの言葉で説明することがきる（60～69）
②テーマやトピックスについて、必要な専門用語を用いて説明することがきる（70～79）
③テーマやトピックスについて、必要な専門用語を用いるとともに具体的例等を交えて分かりやすく説明することがきる（80～100）

課題へのフィードバック：

以下の観点による総合評価とする。
【1. 授業へのとりくみ（20%）】
【2. 確認テスト（50%）】
【3. 小レポート（30%）】
・小レポートは、前半及び後半の講義のまとめを目的として合計2回実施し、採点の後に返却する。
・質問に対しては、次回の講義において全体に補足・説明し、必要に応じて個別のに補足・説明を行う。
・予習や復習において調査した文献等について、有益かつ必要な情報については全体で情報を共有する。
・確認テスト時には授業資料を持ち込まずに回答するものとする。

教科書： 各回の授業計画に即した資料を配布する

参考書： 小野次朗・上野一彦・藤田継道編『よくわかる発達障害（第2版）』ミネルヴァ書房
文部科学省『特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領＜平成29年4月告示＞』海文堂出版
文部科学省『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）』開隆堂出版
文部科学省『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部)』開隆堂出版
文部科学省『障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～』ジアース教育新社
橋本正巳（2012）『気になる子どもの支援ハンドブック～マルチアレンジングサポートのすすめ～』全国心身障害児福祉財団
橋本正巳（2014）『気になる子どもの支援ハンドブックⅡ学習事例編マルチアレンジングサポートのすすめ～』全国心身障害児福祉財団

授業・準備学習のアドバイス：

特別支援教育に関する知識や経験を補うため、小学校・中学校等の学校現場において特別支援教育ボランティア等を積極的に経験し、自ら探究したい課題を見出す中で講義内容との関連について深く学修することが望ましい。また、授業内容が多岐にわたるため，十分な予習・復習が必要になる。授業中配付する資料に加え、関連する他の文献等を自ら調査して読み進め、一層の理解を深めることが必要である。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 発達障害児教育Ⅱ

クラス: ★小+

授業コード: DA31500001

担当者: 瀬戸山　悠、高畑　英樹　　**単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:
【高畑】公立学校教諭

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:特別支援教育に関する科目(特支)【選択】

含めることが必要な事項: 免許状に定めされることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目
・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目
・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 発達障害のある児童生徒が示す学習上・生活上の困難さや課題を具体的に取り上げ、その内容と支援方法について学ぶ。具体的課題等として、読み書き困難、算数困難、感覚・運動の困難、行動面の困難、情緒面の困難を取り上げ、それぞれの課題等の原因について述べることができ、適切な支援方法が考えられることを目的とする。また、作品、テスト、各種検査の結果を解釈し、児童生徒を多面的に理解できるようになるとともに、個別の指導計画の作成と活用につながる分析力と企画力を身に付ける。さらに、重複障害、言語障害、情緒障害について、基本的知識を習得することを目的とする。

到達目標:
1. 発達障害のある児童生徒が示す、読み書き困難、算数困難、感覚・運動の困難、行動面の困難、情緒面の困難の内容と原因を説明することができる。
2. 発達障害のある児童生徒が示す困難な内容に対して、適切な支援方法を検討し、具体的対応策を挙げることができる。
3. 個別のアセスメントの結果を読み取り、全体的な児童生徒像を理解することができる。
4. 重複障害、言語障害、情緒障害について、その概要を説明することができる。

各回の授業計画:

1. 読み書き困難① ー読み書き困難のメカニズムー(担当:瀬戸山)
2. 読み書き困難② ー読み書き困難へのアセスメントー(担当:瀬戸山)
3. 読み書き困難③ ー読み書き困難の支援(担当:高畑)
4. 算数困難 ー算数困難のアセスメントと支援ー(担当:高畑)
5. 感覚・運動における困難 ー感覚・運動のメカニズムと支援ー(担当:瀬戸山)
6. ADHDにおける支援(担当:瀬戸山)
7. ASDにおける視覚的支援(担当:瀬戸山)
8. ASDにおける言語・コミュニケーションの支援(担当:瀬戸山)
9. 行動面の支援① ー問題行動のアセスメントー(担当:瀬戸山)
10. 行動面の支援② ー問題行動への支援ー(担当:瀬戸山)
11. 二次障害の理解と支援(担当:瀬戸山)
12. 発達障害児の不登校に対する支援(担当:高畑)
13. 重複障害、言語障害、情緒障害の理解と支援(担当:高畑)
14. 事例検討の進め方(担当:高畑)
15. まとめ(発達障害のある児童生徒へのチームアプローチの在り方)(担当:高畑)

特記事項: なし

授業方法: ①～③ 講義(対面) 小集団討議や演習も適宜行う
※パソコンを用いて資料のやり取りや質疑応答、小レポート課題の提出等を行うので対面授業の際(第1回～第3回まで)は、持参すること。
④～⑮ 講義(オンライン(オンデマンド))

予習・復習・宿題など(内容・時間):

第1回～第14回
(復習・予習)
授業のキーワードを復習するとともに、次回の講義資料を読み、キーワードに関して事前に調べるとともに関連文献を調査する(150分)

第15回
(復習)
これまでの学修について「発達障害のある児童生徒へのチームアプローチ」の観点からまとめ、確認や質問を行う(150分)

※(宿題)小レポート課題(150分×3回)

評価方法：	授業へのとりくみ：	20 %	確認テスト：	－ %	レポート：	80 %
	その他1：			%		
	その他2：			%		

評価基準： 以下の観点による総合評価とする。

【1.授業へのとりくみ】

①必要なメモを取り，発問（課題）への応答や関連する質問・意見を述べることができる（60～69）

②関連する文献・実践・経験等を基にテーマに関する補足や質問，意見を述べることができる（70～79）

③①，②に加え，小集団討議において適切なファシリテーションや追加の情報提供ができる（80～100）

【2.小レポート(1)】

①テーマやトピックスについて，自分なりの言葉で説明することがきる（60～69）

②テーマやトピックスについて，必要な専門用語を用いて説明することがきる（70～79）

③テーマやトピックスについて，必要な専門用語を用いるとともに具体的事例等を交えて分かりやすく説明することがきる（80～100）

【2.小レポート(2)】

①発達障害のある児童生徒が示す学習上・生活上の困難（読み書き困難，算数困難，感覚・運動の困難，行動面の困難，情緒面の困難）の内容やその原因，支援方法等について，自分なりの言葉で説明することがきる（60～69）

②発達障害のある児童生徒が示す学習上・生活上の困難（読み書き困難，算数困難，感覚・運動の困難，行動面の困難，情緒面の困難）の内容やその原因，支援方法等について，必要な専門用語を用いて説明することがきる（70～79）

③発達障害のある児童生徒が示す学習上・生活上の困難（読み書き困難，算数困難，感覚・運動の困難，行動面の困難，情緒面の困難）の内容やその原因，支援方法等について，必要な専門用語を用いるとともに具体的例等を交えて分かりやすく説明することがきる（80～100）

課題へのフィードバック：

以下の観点による総合評価とする。

【1. 授業へのとりくみ（20%）】

【2. 小レポート（80%）】

・小レポートは，前半及び後半の講義のまとめを目的として合計2回実施し，採点の後に返却する。

・質問に対しては，次回の講義において全体に補足・説明し，必要に応じて個別のに補足・説明を行う。

・予習や復習において調査した文献等について，有益かつ必要な情報については全体で情報を共有する。

教科書： 毎時間、資料を配付する

参考書：

井上他（2008）『特別支援教育 はじめのいっぽ！』学研

吉田甫（2006）『子どもは数をどのように理解してるのか』新曜社

文部科学省『特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領＜平成29年4月告示＞』海文堂出版

文部科学省『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）』開隆堂出版

文部科学省『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部)』開隆堂出版

文部科学省『障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～』ジアース教育新社

橋本正巳（2012）『気になる子どもの支援ハンドブック～マルチアレンジングサポートのすすめ～』全国心身障害児福祉財団

橋本正巳（2014）『気になる子どもの支援ハンドブックⅡ学習事例編マルチアレンジングサポートのすすめ～』全国心身障害児福祉財団

授業・準備学習のアドバイス：

「発達障害児教育Ⅰ」を受講していること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 幼児教育課程論

クラス: 小+幼保前(内規科目)

授業コード: DA40100001

担当者: 森　眞理　　**単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:幼稚園教諭(日米・私立)、幼稚園園長(日・私立)、日本語補習校(米・幼児部・初等部)

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教育の基礎的理解に関する科目(幼稚園)【必修】

含めることが必要な事項: 教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 保育を展開する上で欠かせない教育課程(幼稚園)と全体的な計画(保育所・認定こども園)―なお、本授業では「保育カリキュラム」と称する―について学び、理解を深める。「保育カリキュラム」の意味・意義と役割、史的変遷や編成、計画とその問題・課題、具体的な指導計画の立案、さらに、カリキュラム・マネジメントについても学ぶ。

到達目標:
1. 教育課程(保育カリキュラム)の意味・意義を理解する。
2. 子ども理解に基づく、教育課程(保育カリキュラム)の編成のあり方について理解する。
3. 幼児教育課程、保育の全体的な計画に基づいた具体的な指導計画を立案し、保育に携わる当事者意識を高める。
4. カリキュラム・マネジメントの意義を理解する。

各回の授業計画:

1. 授業オリエンテーション:幼児教育課程論で学ぶことを理解する。
2. 幼児教育・保育の基本と保育カリキュラム(教育課程・全体的な計画)の基礎:①カリキュラムとは
3. 幼児教育・保育の基本と保育カリキュラム(教育課程・全体的な計画)の基礎:② 環境・遊びと教育・保育
4. 幼児教育・保育の基本と保育カリキュラム(教育課程・全体的な計画)の基礎:③カリキュラム・マネジメント
5. 保育カリキュラムの史的変遷
6. 幼稚園における教育課程編成
7. 保育所における全体的な計画の編成
8. 認定こども園における幼児教育・保育の課程の編成
9. さまざまな指導計画
10. 指導計画の作成と展開:①グループワーク:日案・週案・月案・年間案
11. 指導計画の作成と展開:②グループワークの分かち合い
12. 指導計画の作成と展開:③グループワークの分かち合い
13. 計画・実践・評価
14. 幼児教育課程の課題と展望:幼保こ小連携・諸外国の様相
15. まとめ:振り返りと確認テスト

特記事項: なし

授業方法: ・講義が主であるが、随時、テキスト・視聴覚教材等からのディスカッション、及びグループワークやワークショプ、プレゼンテーションを行う。
①～⑮ 講義(対面)
(なお、補講が生じた際は、オンライン:オンデマンドにより行う。)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 予:本授業への思いを述べられるように準備する(60分)、復:授業内容の振り返りをまとめる(90分)
2. 予:テキスト1章、2章を読み、授業に参加する(90分)、復:授業内容の振り返りをまとめる(90分)
3. 予:テキスト1章を読み、授業に参加する(90分)、復:授業内容の振り返りをまとめる(90分)
4. 予:テキスト2章を読み、授業に参加する(120分)、復:授業内容の振り返りをまとめる(90分)
5. 予:テキスト2章を読み、授業に参加する(90分)、復:授業内容の振り返りをまとめる(90分)
6. 予:テキスト3章を読み、授業に参加する(90分)、復:授業内容の振り返りをまとめる(90分)
7. 予:テキスト3章を読み、授業に参加する(90分)、復:授業内容の振り返りをまとめる(90分)
8. 予:テキスト3章を読み、授業に参加する(180分)、復:授業内容の振り返りをまとめる(60分)
9. 予:テキスト4章を読み、授業に参加する(90分)、復:授業内容の振り返りをまとめる(90分)
10. 予:テキスト4章を読み、授業に参加する(90分)、復:授業内容の振り返りをまとめる(90分)
11. 予:テキスト4章を読み、授業に参加する(90分)、復:授業内容の振り返りをまとめる(90分)
12. 予:テキスト4章を読み、授業に参加する(90分)、復:授業内容の振り返りをまとめる(90分)
13. 予:テキスト5章を読み、授業に参加する(90分)、復:授業内容の振り返りをまとめる(90分)
14. 予:テキスト2,3章を読み、授業に参加する(90分)、復:授業内容の振り返りをまとめる(90分)

15. 予:テキスト全章を読み、確認テストに備える(120分)、復:授業を総括する(60分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	60	**%**	**確認テスト:**	40	**%**	**レポート:**	- **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準:

(60－69)
・授業内容を理解している。
・テキストの内容を理解している。
(70－79)
・授業内容を理解し、自分の言葉で保育原理の内容について述べることができる。
・テキストをよく読み込み、参考文献も検索する。
(80－100)
・授業内容を理解し、自分の言葉で保育原理の内容について述べると同時に問題提起する。
・テキスト以外の文献にもあたり、多様な見方・捉え方ができる。

課題へのフィードバック:

・授業内、また個別面談等にて、口頭および文書にて助言等を行う。

教科書:

1. 戸江茂博編著『保育カリキュラムの基礎理論』(あいり出版、2021年第2刷)ISBN 978-4-86555-054-2
2. 令和5年度最新版 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞ ISBN 978-4-8054-0330-3 チャイルド社

参考書:

文部科学省『幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開』(チャイルド本社、令和3年)

授業・準備学習のアドバイス:

・幼児教育課程論を学ぶことは、子どもと共に保育をデザインする楽しみ、喜びを携えて授業に出席しましょう。
・幼稚園教諭免許状取得に繋がる意味のある科目であるとの意識をしっかり持ちましょう。
・授業を構成する参加者として授業に臨みましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 幼児教育課程論

クラス: 小+幼保後(内規科目)

授業コード: DA40100002

担当者: 森　眞理　　**単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:幼稚園教諭(日米・私立)、幼稚園園長(日・私立)、日本語補習校(米・幼児部・初等部)

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教育の基礎的理解に関する科目(幼稚園)【必修】

含めることが必要な事項: 教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 保育を展開する上で欠かせない教育課程(幼稚園)と全体的な計画(保育所・認定こども園)―なお、本授業では「保育カリキュラム」と称する―について学び、理解を深める。「保育カリキュラム」の意味・意義と役割、史的変遷や編成、計画とその問題・課題、具体的な指導計画の立案、さらに、カリキュラム・マネジメントについても学ぶ。

到達目標:
1. 教育課程(保育カリキュラム)の意味・意義を理解する。
2. 子ども理解に基づく、教育課程(保育カリキュラム)の編成のあり方について理解する。
3. 幼児教育課程、保育の全体的な計画に基づいた具体的な指導計画を立案し、保育に携わる当事者意識を高める。
4. カリキュラム・マネジメントの意義を理解する。

各回の授業計画:

1. 授業オリエンテーション:幼児教育課程論で学ぶことを理解する。
2. 幼児教育・保育の基本と保育カリキュラム(教育課程・全体的な計画)の基礎:①カリキュラムとは
3. 幼児教育・保育の基本と保育カリキュラム(教育課程・全体的な計画)の基礎:② 環境・遊びと教育・保育
4. 幼児教育・保育の基本と保育カリキュラム(教育課程・全体的な計画)の基礎:③カリキュラム・マネジメント
5. 保育カリキュラムの史的変遷
6. 幼稚園における教育課程編成
7. 保育所における全体的な計画の編成
8. 認定こども園における幼児教育・保育の課程の編成
9. さまざまな指導計画
10. 指導計画の作成と展開:①グループワーク:日案・週案・月案・年間案
11. 指導計画の作成と展開:②グループワークの分かち合い
12. 指導計画の作成と展開:③グループワークの分かち合い
13. 計画・実践・評価
14. 幼児教育課程の課題と展望:幼保こ小連携・諸外国の様相
15. まとめ:振り返りと確認テスト

特記事項: なし

授業方法: ・講義が主であるが、随時、テキスト・視聴覚教材等からのディスカッション、及びグループワークやワークショプ、プレゼンテーションを行う。
①～⑮ 講義(対面)
(なお、補講が生じた際は、オンライン:オンデマンドにより行う。)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 予:本授業への思いを述べられるように準備する(60分)、復:授業内容の振り返りをまとめる(90分)
2. 予:テキスト1章、2章を読み、授業に参加する(90分)、復:授業内容の振り返りをまとめる(90分)
3. 予:テキスト1章を読み、授業に参加する(90分)、復:授業内容の振り返りをまとめる(90分)
4. 予:テキスト2章を読み、授業に参加する(120分)、復:授業内容の振り返りをまとめる(90分)
5. 予:テキスト2章を読み、授業に参加する(90分)、復:授業内容の振り返りをまとめる(90分)
6. 予:テキスト3章を読み、授業に参加する(90分)、復:授業内容の振り返りをまとめる(90分)
7. 予:テキスト3章を読み、授業に参加する(90分)、復:授業内容の振り返りをまとめる(90分)
8. 予:テキスト3章を読み、授業に参加する180分)、復:授業内容の振り返りをまとめる(60分)
9. 予:テキスト4章を読み、授業に参加する(90分)、復:授業内容の振り返りをまとめる(90分)
10. 予:テキスト4章を読み、授業に参加する(90分)、復:授業内容の振り返りをまとめる(90分)
11. 予:テキスト4章を読み、授業に参加する(90分)、復:授業内容の振り返りをまとめる(90分)
12. 予:テキスト4章を読み、授業に参加する(90分)、復:授業内容の振り返りをまとめる(90分)
13. 予:テキスト5章を読み、授業に参加する(90分)、復:授業内容の振り返りをまとめる(90分)
14. 予:テキスト2,3章を読み、授業に参加する(90分)、復:授業内容の振り返りをまとめる(90分)

15. 予:テキスト全章を読み、確認テストに備える(120分)、復:授業を総括する(60分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	60	**%**	**確認テスト:**	40	**%**	**レポート:**	- **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準:

(60－69)
・授業内容を理解している。
・テキストの内容を理解している。
(70－79)
・授業内容を理解し、自分の言葉で保育原理の内容について述べることができる。
・テキストをよく読み込み、参考文献も検索する。
(80－100)
・授業内容を理解し、自分の言葉で保育原理の内容について述べると同時に問題提起する。
・テキスト以外の文献にもあたり、多様な見方・捉え方ができる。

課題へのフィードバック:

・授業内、また個別面談等にて、口頭および文書にて助言等を行う。

教科書:

1. 戸江茂博編著『保育カリキュラムの基礎理論』(あいり出版、2021年第2刷)ISBN 978-4-86555-054-2
2. 令和5年度最新版 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞ ISBN 978-4-8054-0330-3 チャイルド社

参考書:

文部科学省『幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開』(チャイルド本社、令和3年)

授業・準備学習のアドバイス:

・幼児教育課程論を学ぶことは、子どもと共に保育をデザインする楽しみ、喜びを携えて授業に出席しましょう。
・幼稚園教諭免許状取得に繋がる意味のある科目であるとの意識をしっかり持ちましょう。
・授業を構成する参加者として授業に臨みましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 子ども理解

クラス: 小+幼保前

授業コード: DA40200001

担当者: 権藤 眞織 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:保育所 私立園(兵庫県神戸市)、公立園(東京都港区)非常勤保育士

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目(幼稚園)【必修】

含めることが必要な事項: 幼児理解の理論及び方法

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 幼児理解および教育相談は、教師と子どもとの信頼関係づくりには必要不可欠である。子どもが経験する発達のつまずきや様々な問題・課題に対して、幼児理解の実際、教育相談での対応を学ぶ。事例、演習を通して、教師としての必要な実践力を習得する。

到達目標: (幼児理解)
(1)幼児理解についての知識を身に付け、考え方及び基礎的態度を理解する。
(2)幼児生活や遊びの中で、幼児の発達や学習の原理即した幼児の理解ができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション:幼児理解とは?
2. 幼児理解の視点と援助とは?
3. 幼児理解と保護者理解(保護者支援を含む)とは?
4. 乳児の発達と援助
5. 幼児の発達と援助
6. 障害のある子どもの発達と援助
7. 事例からみる幼児理解の在り方
8. 幼児理解:まとめの演習と確認テスト 事例に対して援助のプランを立てる

特記事項: なし

授業方法: 1～7.5 講義
原則的に対面授業にて行います。
ただし、期間中1～2回程度振り返り学習をオンライン授業(オンデマンド型)を行う場合があります。
(その他、調べ活動などはオンライン授業(オンデマンド型)で実施する場合もあります。また、特別ゲストの講義などで時間割を変更する場合もあります。)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 予習:シラバス確認/副読本・参考文献の読解・復習:授業の振り返り(180分)
2. 予習:副読本・参考文献の読解・復習:授業の振り返り(180分)
3. 予習:前回の授業で提示した課題・復習:授業の振り返り(180分)
4. 予習:前回の授業で提示した課題・復習:授業の振り返り(180分)
5. 予習:前回の授業で提示した課題・復習:授業の振り返り(180分)
6. 予習:前回の授業で提示した課題・復習:授業の振り返り(180分)
7. 予習:前回の授業で提示した課題・復習:授業の振り返り(180分)
8. 予習:前回の授業で提示した課題復習:授業と試験の振り返り(180分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	50 %	**確認テスト:**	50 %	**レポート:**	− %
その他1:			%		
その他2:			%		

評価基準: 最低限度の到達度(60-69点)
幼児理解および教育相談に関する基礎的な専門用語を答えることができる。
幼児の発達や学習の基本原理について答えることができる。
幼児が抱えている問題や課題を教育相談の観点から答えることができる。

望ましい到達度(80-100点)
幼児理解および教育相談に関する基礎的な専門用語や概念を把握し説明できる。
幼児の発達や学習の基本原理について理解し、幼児の生活や遊びに即して解説することができる。
幼児が抱えている問題や課題を教育相談の観点から捉え、具体的な対応方法を解説することができる。

課題へのフィードバック:

講義の中で取り上げ、講評をおこなう。
提出物は、内容確認ののち、授業内で返却する。
課題・レポートの疑問点などは、授業ばかりでなくオフィスアワーなどを活用して、フィードバックしていく。

教科書: 諸冨祥彦(編集代表), 金山健一, 黒沢幸子(編集)『チャートでわかる カウンセリングテクニックで高める教師力』ぎょうせい(平成23年11月)

参考書: 内閣府 文部科学省 厚生労働省『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社(2017年6月)
文部科学省『生徒指導提要』教育図書(平成23年1月)
文部科学省HP『生徒指導提要』(改訂版)(令和4年12月)
その他、必要に応じて毎時間, 資料を配布する。

授業・準備学習のアドバイス:

講義の中で取り上げ、講評をおこなう。
提出物は、内容確認ののち、授業内で返却する。
課題・レポートの疑問点などは、授業ばかりでなくオフィスアワーなどを活用して、フィードバックしていく。

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 子ども理解

クラス: 小+幼保後

授業コード: DA40200002

担当者: 権藤 眞織 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:保育所 私立園(兵庫県神戸市)、公立園(東京都港区)非常勤保育士

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目(幼稚園)【必修】

含めることが必要な事項: 幼児理解の理論及び方法

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 幼児理解および教育相談は、教師と子どもとの信頼関係づくりには必要不可欠である。子どもが経験する発達のつまずきや様々な問題・課題に対して、幼児理解の実際、教育相談での対応を学ぶ。事例、演習を通して、教師としての必要な実践力を習得する。

到達目標: (幼児理解)
(1)幼児理解についての知識を身に付け、考え方及び基礎的態度を理解する。
(2)幼児生活や遊びの中で、幼児の発達や学習の原理即した幼児の理解ができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション:幼児理解とは?
2. 幼児理解の視点と援助とは?
3. 幼児理解と保護者理解(保護者支援を含む)とは?
4. 乳児の発達と援助
5. 幼児の発達と援助
6. 障害のある子どもの発達と援助
7. 事例からみる幼児理解の在り方
8. 幼児理解:まとめの演習と確認テスト 事例に対して援助のプランを立てる

特記事項: なし

授業方法: 1～7.5 講義
原則的に対面授業にて行います。
ただし、期間中1～2回程度振り返り学習をオンライン授業(オンデマンド型)を行う場合があります。
(その他、調べ活動などはオンライン授業(オンデマンド型)で実施する場合もあります。また、特別ゲストの講義などで時間割を変更する場合もあります。)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 予習:シラバス確認／副読本・参考文献の読解・復習:授業の振り返り(180分)
2. 予習:副読本・参考文献の読解・復習:授業の振り返り(180分)
3. 予習:前回の授業で提示した課題・復習:授業の振り返り(180分)(対面またはオンライン)
4. 予習:前回の授業で提示した課題・復習:授業の振り返り(180分)
5. 予習:前回の授業で提示した課題・復習:授業の振り返り(180分)
6. 予習:前回の授業で提示した課題・復習:授業の振り返り(180分)(対面またはオンライン)
7. 予習:前回の授業で提示した課題・復習:授業の振り返り(180分)
8. 予習:前回の授業で提示した課題復習:授業と試験の振り返り(180分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	50	**%**	**確認テスト:**	50	**%**	**レポート:**	− **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: 最低限度の到達度(60-69点)
幼児理解および教育相談に関する基礎的な専門用語を答えることができる。
幼児の発達や学習の基本原理について答えることができる。
幼児が抱えている問題や課題を教育相談の観点から答えることができる。

望ましい到達度(80-100点)
幼児理解および教育相談に関する基礎的な専門用語や概念を把握し説明できる。
幼児の発達や学習の基本原理について理解し、幼児の生活や遊びに即して解説することができる。
幼児が抱えている問題や課題を教育相談の観点から捉え、具体的な対応方法を解説することができる。

課題へのフィードバック:

講義の中で取り上げ、講評をおこなう。
提出物は、内容確認ののち、授業内で返却する。
課題・レポートの疑問点などは、授業ばかりでなくオフィスアワーなどを活用して、フィードバックしていく。

教科書: 諸冨祥彦(編集代表), 金山健一, 黒沢幸子(編集)『チャートでわかる カウンセリングテクニックで高める教師力』ぎょうせい(平成23年11月)

参考書: 内閣府 文部科学省 厚生労働省『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社(2017年6月)
文部科学省『生徒指導提要』教育図書(平成23年1月)
文部科学省HP『生徒指導提要』(改訂版)(令和4年12月)
その他、必要に応じて毎時間, 資料を配布する。

授業・準備学習のアドバイス:

講義の中で取り上げ、講評をおこなう。
提出物は、内容確認ののち、授業内で返却する。
課題・レポートの疑問点などは、授業ばかりでなくオフィスアワーなどを活用して、フィードバックしていく。

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 子どもと健康

クラス: 小+幼保前

授業コード: DA40300001

担当者: 植山　佐智子　　**単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立幼稚園園長・教諭

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園)【必修】

含めることが必要な事項: 領域に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 健康　　**一般的包括的科目:** −

授業の目的: 導入として教育要領の目指すものを共通理解し「心身の発達、基本的生活習慣、安全生活、遊ぶ力」の4項目について基本の知識を理解し、幼児の健康課題を把握する。授業については、グループワークで学びを深め、視聴覚教材や体験学習、遊びの指導案等の作成、子どもの健康に関する新聞記事等に目を通したり、情報機器を使い、アクティブラーニングを通してグループワーク研究を発表する。

到達目標:
1. 乳幼児期の心と体の発達的特徴、基本的生活習慣の形成を理解する。
2. 安全な生活と、怪我や病気の予防を理解する。
3. 乳幼児期の運動発達の特徴が説明でき、日常生活における幼児の動きの経験やその配慮など、身体活動の在り方を説明できる。

各回の授業計画:

1. 講義、オリエンテーション【対面】
・今日の幼児を取り巻く状況、健康にまつわる歴史年表から領域「健康」を考える
・シラバスにそって学習の方法と内容を理解する
・グループ別プレゼンテーション打ち合わせ(グループ別課題表)

2. 各グループでプレゼン作成

3.「第1章 領域「健康」のとらえ方と目指すもの」
・グループ1プレゼン発表
・グループ2プレゼン発表

4. 保育3法について調べる
・パワポ「教育要領・育てたい資質能力」を学ぶ

5. 実技「園庭を描く」
・画材を使って画用紙に「理想の園庭」を描く

6.「育てたい資質・能力」を学ぶ
・自分の描いた園庭に学びを書き込んでいく
・遊びの中の学びを理解する

7.「第2章 幼児の発育・発達」
・グループ3プレゼン発表
・グループ4プレゼン発表

8.「第3章 幼児の生活習慣と健康」
・グループ3プレゼン発表
・グループ4プレゼン発表

9.「幼児の体の発達」
(DVD視聴を通して・・・神奈川県こども園)

10.「第4章 幼児の健康維持・増進のための身体活動」
・グループ7プレゼン発表
・グループ8プレゼン発表

11.「わらべうたって何?」
・グループ8プレゼン発表
・わらべうたを6曲決める

12.「わらべうたって何?」
・制作「わらべうたカード6枚

13.「わらべうたって何?」
・グループで発表し代表を決める
・クラスで発表をする

14.「子どもの怪我と病気」のミニ本作り

15. 振り返り・小テスト・まとめ

特記事項: なし

授業方法: すべての授業を対面で行う。

① 講義、オリエンテーション(グループで話し合う)
② グループで授業計画をしプレゼン制作について話し合う
③ 講義、2グループの発表を聞き、自分が学んだことをプリントに書く
④ 講義、「教育要領・育てたい資質能力」のパワポから学ぶ
⑤ 制作、「理想の園庭」を画用紙に描く
⑥ 講義、「仕上げた理想の園庭」に資質能力を分析し書き込んでいく
⑦ 講義、2グループの発表を聞き、自分が学んだことをプリントに書く
⑧ 講義、2グループの発表を聞き、自分が学んだことをプリントに書く
⑨ DVD視聴を通して保育現場を知り学ぶ」
⑩ 講義、2グループの発表を聞き、自分が学んだことをプリントに書く
⑪ 講義、「わらべうたって何?」の発表を聞き、自分が学んだことをプリントに書く
⑫ 制作、「わらべうたカード」を作る
⑬ 講義、グループで「わらべうたカード」を発表する。グループ代表をクラスで発表する
⑭ 講義、ミニ絵本作成「子どもの怪我と病気」
⑮ 振り返り、小テスト

予習・復習・宿題など(内容・時間):

第1回:第1章「領域健康の捉え方と目指すもの」を熟読する(240分)
第2回:プレゼン制作にあたり教科書を熟読しスライドを作り上げる(240分)
第3回:第1章「領域健康の捉え方と目指すもの」を熟読し内容をしっかりと理解し、2グループの発表についてまとめレポートを作成する(240分)
第4回:保育3法について教科書や資料を復習し、保育3法の共通点や違うところを理解する(240分)
第5回:制作「理想の園庭」を画材を使って仕上げる(240分)
第6回:「理想の園庭」に遊びの中の学びを分析し書き込んでいくことで幼児教育について理解を深める(240分)
第7回:第2章「幼児の発達・発育」を熟読し内容を理解することで2グループの発表についてまとめレポートを作成する(240分)
第8回:第3章「幼児の生活習慣と健康」を熟読し内容を理解することで2グループの発表についてまとめレポートを作成する(240分)
第9回:DVDを振り返り視聴し保育現場を見て学び角内容ごとに感想をまとめる(240分)
第10回:第4章「幼児の健康維持・増進のための身体活動」を熟読し内容を理解することで2グループの発表についてまとめレポートを作成する(240分)
第11回:プレゼン発表を見て「わらべうた6曲」を選ぶ(240分)
第12回:制作、「わらべうたカード6枚」を作る(240分)
第13回:「子どものけがと病気」について教科書や資料で調べまとめる(240分)
第14回: 小テストに向けての課題を予習する。(240分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	30 **%**	**レポート:**	40 **%**
その他1:			**%**		
その他2:			**%**		

評価基準:
1. 課題提出 3分の1(60～69点)、3分の2(70～79点)、全て(80～100点)
2. 課題内容も概説され(60～69)、応用(70～79)、発展(80～100)記述を含んでいる。

課題へのフィードバック:

・教科書を中心に学習し、レポート力を評価する(頑張っている課題をフィードバックする)
・小テストで学習の理解を確認する

教科書: ・新時代の保育双書「保育内容健康」[第2版]』みらい(2019年3月)

参考書: ・内閣府 文部科学省 厚生労働省『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社(2017年6月)

授業・準備学習のアドバイス:

心と体が健康に育つために、保育者が配慮すべきことや環境の構成など、広い範囲で領域「健康」を捉えること。体験学習を通して、幼児の遊びの楽しさや大切を学んでほしい。

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 子どもと健康

クラス: 小+幼保後

授業コード: DA40300002

担当者: 植山　佐智子　　**単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立幼稚園園長・教諭

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園)【必修】

含めることが必要な事項: 領域に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 健康　　**一般的包括的科目:** −

授業の目的: 導入として教育要領の目指すものを共通理解し「心身の発達、基本的生活習慣、安全生活、遊ぶ力」の4項目について基本の知識を理解し、幼児の健康課題を把握する。授業については、グループワークで学びを深め、視聴覚教材や体験学習、遊びの指導案等の作成、子どもの健康に関する新聞記事等に目を通したり、情報機器を使い、アクティブラーニングを通してグループワーク研究を発表する。

到達目標:
1. 乳幼児期の心と体の発達的特徴、基本的生活習慣の形成を理解する。
2. 安全な生活と、怪我や病気の予防を理解する。
3. 乳幼児期の運動発達の特徴が説明でき、日常生活における幼児の動きの経験やその配慮など、身体活動の在り方を説明できる。

各回の授業計画:

1. 講義、オリエンテーション【対面】
・今日の幼児を取り巻く状況、健康にまつわる歴史年表から領域「健康」を考える
・シラバスにそって学習の方法と内容を理解する
・グループ別プレゼンテーション打ち合わせ(グループ別課題表)

2. 各グループでプレゼン作成

3.「第1章 領域「健康」のとらえ方と目指すもの」
・グループ1プレゼン発表
・グループ2プレゼン発表

4. 保育3法について調べる
・パワポ「教育要領・育てたい資質能力」を学ぶ

5. 実技「園庭を描く」
・画材を使って画用紙に「理想の園庭」を描く

6.「育てたい資質・能力」を学ぶ
・自分の描いた園庭に学びを書き込んでいく
・遊びの中の学びを理解する

7.「第2章 幼児の発育・発達」
・グループ3プレゼン発表
・グループ4プレゼン発表

8.「第3章 幼児の生活習慣と健康」
・グループ3プレゼン発表
・グループ4プレゼン発表

9.「幼児の体の発達」
(DVD視聴を通して・・・神奈川県こども園)

10.「第4章 幼児の健康維持・増進のための身体活動」
・グループ7プレゼン発表
・グループ8プレゼン発表

11.「わらべうたって何?」
・グループ8プレゼン発表
・わらべうたを6曲決める

12.「わらべうたって何?」
・制作「わらべうたカード6枚

13.「わらべうたって何?」
・グループで発表し代表を決める
・クラスで発表をする

14.「子どもの怪我と病気」のミニ本作り

15. 振り返り・小テスト・まとめ

特記事項: なし

授業方法: すべての授業を対面で行う。

① 講義、オリエンテーション(グループで話し合う)
② グループで授業計画をしプレゼン制作について話し合う
③ 講義、2グループの発表を聞き、自分が学んだことをプリントに書く
④ 講義、「教育要領・育てたい資質能力」のパワポから学ぶ
⑤ 制作、「理想の園庭」を画用紙に描く
⑥ 講義、「仕上げた理想の園庭」に資質能力を分析し書き込んでいく
⑦ 講義、2グループの発表を聞き、自分が学んだことをプリントに書く
⑧ 講義、2グループの発表を聞き、自分が学んだことをプリントに書く
⑨ DVD視聴を通して保育現場を知り学ぶ」
⑩ 講義、2グループの発表を聞き、自分が学んだことをプリントに書く
⑪ 講義、「わらべうたって何？」の発表を聞き、自分が学んだことをプリントに書く
⑫ 制作、「わらべうたカード」を作る
⑬ 講義、グループで「わらべうたカード」を発表する。グループ代表をクラスで発表する
⑭ 講義、ミニ絵本作成「子どもの怪我と病気」
⑮ 振り返り、小テスト

予習・復習・宿題など(内容・時間):

第1回:第1章「領域健康の捉え方と目指すもの」を熟読する(240分)
第2回:プレゼン制作にあたり教科書を熟読しスライドを作り上げる(240分)
第3回:第1章「領域健康の捉え方と目指すもの」を熟読し内容をしっかりと理解し、2グループの発表についてまとめレポートを作成する(240分)
第4回:保育3法について教科書や資料を復習し、保育3法の共通点や違うところを理解する(240分)
第5回:制作「理想の園庭」を画材を使って仕上げる(240分)
第6回:「理想の園庭」に遊びの中の学びを分析し書き込んでいくことで幼児教育について理解を深める(240分)
第7回:第2章「幼児の発達・発育」を熟読し内容を理解することで2グループの発表についてまとめレポートを作成する(240分)
第8回:第3章「幼児の生活習慣と健康」を熟読し内容を理解することで2グループの発表についてまとめレポートを作成する(240分)
第9回:DVDを振り返り視聴し保育現場を見て学び角内容ごとに感想をまとめる(240分)
第10回:第4章「幼児の健康維持・増進のための身体活動」を熟読し内容を理解することで2グループの発表についてまとめレポートを作成する(240分)
第11回:プレゼン発表を見て「わらべうた6曲」を選ぶ(240分)
第12回:制作、「わらべうたカード6枚」を作る(240分)
第13回:「子どものけがと病気」について教科書や資料で調べまとめる(240分)
第14回: 小テストに向けての課題を予習する。(240分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	30 **%**	**レポート:**	40 **%**
その他1:			**%**		
その他2:			**%**		

評価基準:
1. 課題提出 3分の1(60～69点)、3分の2(70～79点)、全て(80～100点)
2. 課題内容も概説され(60～69)、応用(70～79)、発展(80～100)記述を含んでいる。

課題へのフィードバック:

・教科書を中心に学習し、レポート力を評価する(頑張っている課題をフィードバックする)
・小テストで学習の理解を確認する

教科書: ・新時代の保育双書「保育内容健康」[第2版]』みらい(2019年3月)

参考書: ・内閣府 文部科学省 厚生労働省『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社(2017年6月)

授業・準備学習のアドバイス:

心と体が健康に育つために、保育者が配慮すべきことや環境の構成など、広い範囲で領域「健康」を捉えること。体験学習を通して、幼児の遊びの楽しさや大切を学んでほしい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 子どもと人間関係

クラス: 小+幼保前

授業コード: DA40400001

担当者: 福井　逸子　　**単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公・私立幼稚園教諭(主任教諭)、保育士(非)

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園)【必修】

含めることが必要な事項: 領域に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 人間関係　　**一般的包括的科目:** −

授業の目的: 親子やきょうだい関係、地域における子ども同士の関わり等、幼児を取り巻く人間関係について、特徴的な事例を挙げながら、現代的特徴と課題を考える機会を設ける。
また、幼児期において育みたい資質・能力を領域「人間間係」の視点から考察し、乳幼児の様々な発達の諸側面が人との関わりの中で育つことについて、それぞれの発達の時期の特徴と関連付けて理解できるように、映像資料や具体的な事例を基に説明する。
最終的には、人間関係領域の専門性に関わる最新の知見に基づき、集団の中で見られる具体的な子どもの姿や子ども同士の関わりの中での発達の側面ついて理解できるようにする。

到達目標: 当該科目では、領域「人間関係」の指導の基盤となる、幼児の人と関わる力の育ちに関する専門的事項についての知識を身に付ける。具体的には、以下の2点を目標とする。
①乳幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解する。
②乳幼児期の人間関係の発達について、幼稚園(保育所)生活における関係発達論的視点から理解する。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション(授業の概要について、各ガイドラインの読み解き)【対面授業】
2. 人と関わる力の育ちがその後に続く一人一人の人生を支える力となることについて
3. 幼児を取り巻く人間関係の現代的特徴とその社会的背景について
4. 乳児期に育つ人と関わる力の発達と身近な大人との関係性-0歳児クラスへの視点-
5. 乳児期に育つ人と関わる力の発達と身近な大人との関係性-1歳児クラスへの視点-
6. 乳児期に育つ人と関わる力の発達と身近な大人との関係性-2歳児クラスへの視点-
7. 乳児期(0歳～2歳児)の人との関わりの視点についてのまとめ【対面授業】
8. 幼児期の遊びや生活の中で育つ人と関わる力の発達について-3歳児クラスへの視点-
9. 幼児期の遊びや生活の中で育つ人と関わる力の発達について-4歳児クラスへの視点-
10. 幼児期の遊びや生活の中で育つ人と関わる力の発達について-5歳児クラスへの視点-
11. 幼児期(3歳児～5歳児)の人との関わりの視点についてのまとめ【対面授業】
12. 協同性の育ちについて(幼児の発達の姿と合わせて)
13. 道徳性・規範意識の芽生えについて(幼児の発達の姿と合わせて)
14. 家族や地域との関わりと育ちについて(幼児の発達の姿と合わせて)
15.愛着から協同性までの人との関わりの視点について-まとめ-【対面授業】

特記事項: なし

授業方法: ★オンライン授業(内対面授業を4回予定)
1. 講義と演習(対面)
2. Teams 内でオンデマンド
3. Teams 内でオンデマンド
4. Teams 内でオンデマンド
5. Teams 内でオンデマンド
6. Teams 内でオンデマンド
7. 講義と演習(対面)
8. Teams 内でオンデマンド
9. Teams 内でオンデマンド
10. Teams 内でオンデマンド
11. Teams 内でオンデマンド
12. 講義と演習(対面)
13. Teams 内でオンデマンド
14. Teams 内でオンデマンド
15. 講義(授業のまとめ)と確認テスト(対面)

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. 予習：指針・要領 熟読（270分）
2. 復習：提示した資料を熟読（180分）
3. 復習：講義内容のまとめ（180分）
4. 予習：復習：0歳児の社会性の発達について（180分）
5. 予習：復習：1．2歳児の社会性の発達について（180分）
6. 予習：復習：3歳児の社会性の発達について（180分）
7. 予習：復習：4歳児の社会性の発達について（180分）
8. 予習：復習：5歳児の社会性の発達について（180分）
9. 予習：異年齢児保育の実際についてネット検索（180分）
10. 予習：インクルーシブ保育の実際についてネット検索（180分）
11. 復習：自立、自我の育ちについて、考えをまとめる(180分）
12. 復習：協同性について調べ、考えをまとめる（180分）
13. 復習：規範意識について調べ、考えをまとめる(180分）
14. 復習：授業内でのキーワードを整理し、まとめる（270分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	－	**%**	**確認テスト：**	50	**%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	小レポート			20	**%**		
その他2：	授業への参加姿勢（ディスカッション等）			30	**%**		

評価基準：

到達度(60-69点）
保育および発達に関する基礎的な専門用語を概ね理解している。
領域「人間関係」のキーワードと社会性の発達を中心に適切に答えることができる。
到達度(80-100点）
保育および発達に関する基礎的な専門用語や概念を把握し説明できる。
領域「人間関係」のキーワードと社会性の発達について、保育者の視点に立って詳細に理解し、説明することができる。

課題へのフィードバック：

毎時間ごとの質問事項については、Teamsによるチャットを用いたり、講義全体の中で返す。
小レポートについては、内容確認ののち、授業内で返却し、全体的な講評を行う。

教科書：

・内閣府 文部科学省 厚生労働省『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社（2017年6月）
・田村美由紀 室井佑美（著）『〈領域〉人間関係ワークブック』萌文書林（2017年）

参考書：

・子どもと保育総合研究所「子どもを『人間としてみる』ということ」ミネルヴァ書房（2013年12月）
・毎回のTeams内や授業時に紹介する

授業・準備学習のアドバイス：

Teamsに示した資料等については、ネット上で各自が入手し読み深めておくこと。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 子どもと人間関係

クラス: 小+幼保後

授業コード: DA40400002

担当者: 福井　逸子　　**単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公・私立幼稚園教諭(主任教諭)、保育士(非)

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園)【必修】

含めることが必要な事項: 領域に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 人間関係　　**一般的包括的科目:** −

授業の目的: 親子やきょうだい関係、地域における子ども同士の関わり等、幼児を取り巻く人間関係について、特徴的な事例を挙げながら、現代的特徴と課題を考える機会を設ける。
また、幼児期において育みたい資質・能力を領域「人間間係」の視点から考察し、乳幼児の様々な発達の諸側面が人との関わりの中で育つことについて、それぞれの発達の時期の特徴と関連付けて理解できるように、映像資料や具体的な事例を基に説明する。
最終的には、人間関係領域の専門性に関わる最新の知見に基づき、集団の中で見られる具体的な子どもの姿や子ども同士の関わりの中での発達の側面ついて理解できるようにする。

到達目標: 当該科目では、領域「人間関係」の指導の基盤となる、幼児の人と関わる力の育ちに関する専門的事項についての知識を身に付ける。具体的には、以下の2点を目標とする。
①乳幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解する。
②乳幼児期の人間関係の発達について、幼稚園(保育所)生活における関係発達論的視点から理解する。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション(授業の概要について、各ガイドラインの読み解き)【対面授業】
2. 人と関わる力の育ちがその後に続く一人一人の人生を支える力となることについて
3. 幼児を取り巻く人間関係の現代的特徴とその社会的背景について
4. 乳児期に育つ人と関わる力の発達と身近な大人との関係性-0歳児クラスへの視点-
5. 乳児期に育つ人と関わる力の発達と身近な大人との関係性-1歳児クラスへの視点-
6. 乳児期に育つ人と関わる力の発達と身近な大人との関係性-2歳児クラスへの視点-
7. 乳児期(0歳～2歳児)の人との関わりの視点についてのまとめ【対面授業】
8. 幼児期の遊びや生活の中で育つ人と関わる力の発達について-3歳児クラスへの視点-
9. 幼児期の遊びや生活の中で育つ人と関わる力の発達について-4歳児クラスへの視点-
10. 幼児期の遊びや生活の中で育つ人と関わる力の発達について-5歳児クラスへの視点-
11. 幼児期(3歳児～5歳児)の人との関わりの視点についてのまとめ【対面授業】
12. 協同性の育ちについて(幼児の発達の姿と合わせて)
13. 道徳性・規範意識の芽生えについて(幼児の発達の姿と合わせて)
14. 家族や地域との関わりと育ちについて(幼児の発達の姿と合わせて)
15.愛着から協同性までの人との関わりの視点について-まとめ-【対面授業】

特記事項: なし

授業方法: ★オンライン授業(内対面授業を4回予定)
1. 講義と演習(対面)
2. Teams 内でオンデマンド
3. Teams 内でオンデマンド
4. Teams 内でオンデマンド
5. Teams 内でオンデマンド
6. Teams 内でオンデマンド
7. 講義と演習(対面)
8. Teams 内でオンデマンド
9. Teams 内でオンデマンド
10. Teams 内でオンデマンド
11. Teams 内でオンデマンド
12. 講義と演習(対面)
13. Teams 内でオンデマンド
14. Teams 内でオンデマンド
15. 講義(授業のまとめ)と確認テスト(対面)

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. 予習：指針・要領 熟読（270分）
2. 復習：提示した資料を熟読（180分）
3. 復習：講義内容のまとめ（180分）
4. 予習：復習：0歳児の社会性の発達について（180分）
5. 予習：復習：1．2歳児の社会性の発達について（180分）
6. 予習：復習：3歳児の社会性の発達について（180分）
7. 予習：復習：4歳児の社会性の発達について（180分）
8. 予習：復習：5歳児の社会性の発達について（180分）
9. 予習：異年齢児保育の実際についてネット検索（180分）
10. 予習：インクルーシブ保育の実際についてネット検索（180分）
11. 復習：自立、自我の育ちについて、考えをまとめる(180分）
12. 復習：協同性について調べ、考えをまとめる（180分）
13. 復習：規範意識について調べ、考えをまとめる(180分）
14. 復習：授業内でのキーワードを整理し、まとめる（270分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	－	**%**	**確認テスト：**	50	**%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	小レポート			20	**%**		
その他2：	授業への参加姿勢（ディスカッション等）			30	**%**		

評価基準：

到達度(60-69点）
保育および発達に関する基礎的な専門用語を概ね理解している。
領域「人間関係」のキーワードと社会性の発達を中心に適切に答えることができる。
到達度(80-100点）
保育および発達に関する基礎的な専門用語や概念を把握し説明できる。
領域「人間関係」のキーワードと社会性の発達について、保育者の視点に立って詳細に理解し、説明することができる。

課題へのフィードバック：

毎時間ごとの質問事項については、Teamsによるチャットを用いたり、講義全体の中で返す。
小レポートについては、内容確認ののち、授業内で返却し、全体的な講評を行う。

教科書：

・内閣府 文部科学省 厚生労働省『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社（2017年6月）
・田村美由紀 室井佑美（著）『〈領域〉人間関係ワークブック』萌文書林（2017年）

参考書：

・子どもと保育総合研究所「子どもを『人間としてみる』ということ」ミネルヴァ書房（2013年12月）
・毎回のTeams内や授業時に紹介する

授業・準備学習のアドバイス：

Teamsに示した資料等については、ネット上で各自が入手し読み深めておくこと。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 子どもと環境

クラス: ★小+幼保前

授業コード: DA40500001

担当者: 佐藤　智恵　　**単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:保育士

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園)【必修】

含めることが必要な事項: 領域に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 環境　　**一般的包括的科目:** −

授業の目的: 領域「環境」の指導に関連する、幼児を取り巻く環境や、子どもと環境との関わりについての専門的知識や技能を身につけることをめざす。
領域「環境」の各項目に関する幼児の関わり、捉え方、理解の仕方について、講義形式で学びを深めるとともに、学生自身が乳幼児期に適した活動内容を自ら考え、試行錯誤する中で理解を深める。

到達目標: 領域「環境」の指導に関連する、幼児を取り巻く環境や、子どもと環境との関わりについての専門的
知識や技能を身につけ、感性を養う。
①幼児を取り巻く環境と、幼児の発達にとっての意義を理解する。
②幼児期の思考・科学的概念の発達を理解する。
③幼児期の標識・文字等、情報・施設との関わりの発達を理解する。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション・幼稚園教育要領や保育所保育指針における領域「環境」について・栽培活動についての説明
2. 幼児と自然との関わりについて(DVD視聴を通して考える)
3. 幼児と自然との関わりについて考えを深める。
4. 飼育活動・植物の栽培① 栽培する野菜や花を調べる
5. 植物の栽培② プランターに植物の苗や種を植える
6. 文字や数字を使った遊びにおける幼児の姿を知る
7. 文字や数字を使った遊びを考える
8. 文字や数字を使った幼児の活動について理解する(DVD視聴を通して考える)/幼児が物の性質やしくみに気付ける活動を考える
9. 幼児が物の性質やしくみに気付ける活動を実践する
10. 物の性質やしくみを理解する
11. 身近な素材を用いた製作を理解する
12. 身近な素材を用いて製作する
13. 幼児の情報との関わりについて
14. 幼児と地域社会との関わり
15. 園行事の扱いについて

特記事項: なし

授業方法: ★オンライン授業(ただし1～5回の対面授業を含む)

1. 講義(対面)
2. 講義(対面)
3. 講義(オンライン(オンデマンド))
4. 講義(オンライン(オンデマンド))
5. 講義(対面)
6. 講義(オンライン(オンデマンド))
7. 講義(オンライン(オンデマンド))
8. 講義(対面)
9. 講義(対面)
10. 講義(オンライン(オンデマンド))
11. 講義(オンライン(オンデマンド))
12. 講義(オンライン(オンデマンド))
13. 講義(オンライン(オンデマンド))
14. 講義(オンライン(オンデマンド))
15. 講義(オンライン(オンデマンド))

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1.（復習）講義内容をまとめる（180分）
2.（復習）DVDを視聴した内容をまとめる（180分）
3.（宿題）DVDを視聴し自然と幼児との関わりについて考えを深める（180分）
4.（宿題）栽培する野菜や花について調べる（180分）
5.（予習）栽培する野菜の植え方について調べ準備する（180分）
6.（宿題）文字や数字を使った遊びにおける幼児の姿についてまとめる（180分）
7.（宿題）文字や数字を使った遊びを考える（180分）
8.（予習）ものの性質や仕組みに気づける活動を準備する（180分）
9.（宿題）ものの性質や仕組みに気づける活動を考える（180分）
10.（宿題）幼児のものの仕組みや性質の理解の仕方についてまとめる（180分）
11.（宿題）身近な素材を用いた製作について考える（180分）
12.（宿題）身近な素材を用いて製作を行う（180分）
13.（宿題）幼児と情報の関わりについてまとめる（180分）
14.（宿題）幼児と地域社会との関わりについてまとめる（180分）
15.（宿題）園行事の進め方についてまとめる（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	− **%**	**レポート：**	20 **%**
その他1：	栽培ポートフォリオ		20 **%**		
その他2：	提出物		30 **%**		

評価基準： 下記、評価方法より、総合的に評価する。
（60～69点）
授業時に取り組んだ課題やレポートを全て提出している。
（70～79点）
保育内容領域「環境」に関する知識がある。
（80～100点）
・授業時に取り組んだ課題やレポートなどを全て遅れなく提出し、その記述より深い理解や知識を備えていることが分かる。
・領域「環境」の内容について十分理解し、保育実践を行うために適切な知識がある。

課題へのフィードバック：

評価後返却するもの：授業時間内に提出した課題、レポート

教科書： 内閣府 文部科学省 厚生労働省『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社（2017年6月）

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：

・普段の生活の中から、身の回りの自然物や植物、草花、動物などに関心を持つこと。
・この科目は毎回、PCを使用する。毎回持参すること。
・遅刻は30分までとし、それ以降は欠席として扱う。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 子どもと環境

クラス: ★小+幼保後

授業コード: DA40500002

担当者: 佐藤　智恵　　**単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:保育士

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園)【必修】

含めることが必要な事項: 領域に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 環境　　**一般的包括的科目:** −

授業の目的: 領域「環境」の指導に関連する、幼児を取り巻く環境や、子どもと環境との関わりについての専門的知識や技能を身につけることをめざす。
領域「環境」の各項目に関する幼児の関わり、捉え方、理解の仕方について、講義形式で学びを深めるとともに、学生自身が乳幼児期に適した活動内容を自ら考え、試行錯誤する中で理解を深める。

到達目標: 領域「環境」の指導に関連する、幼児を取り巻く環境や、子どもと環境との関わりについての専門的
知識や技能を身につけ、感性を養う。
①幼児を取り巻く環境と、幼児の発達にとっての意義を理解する。
②幼児期の思考・科学的概念の発達を理解する。
③幼児期の標識・文字等、情報・施設との関わりの発達を理解する。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション・幼稚園教育要領や保育所保育指針における領域「環境」について・栽培活動についての説明
2. 幼児と自然との関わりについて(DVD視聴を通して考える)
3. 幼児と自然との関わりについて考えを深める。
4. 飼育活動・植物の栽培① 栽培する野菜や花を調べる
5. 植物の栽培② プランターに植物の苗や種を植える
6. 文字や数字を使った遊びにおける幼児の姿を知る
7. 文字や数字を使った遊びを考える
8. 文字や数字を使った幼児の活動について理解する(DVD視聴を通して考える)/幼児が物の性質やしくみに気付ける活動を考える
9. 幼児が物の性質やしくみに気付ける活動を実践する
10. 物の性質やしくみを理解する
11. 身近な素材を用いた製作を理解する
12. 身近な素材を用いて製作する
13. 幼児の情報との関わりについて
14. 幼児と地域社会との関わり
15. 園行事の扱いについて

特記事項: なし

授業方法: ★オンライン授業(ただし1～5回の対面授業を含む)

1. 講義(対面)
2. 講義(対面)
3. 講義(オンライン(オンデマンド))
4. 講義(オンライン(オンデマンド))
5. 講義(対面)
6. 講義(オンライン(オンデマンド))
7. 講義(オンライン(オンデマンド))
8. 講義(対面)
9. 講義(対面)
10. 講義(オンライン(オンデマンド))
11. 講義(オンライン(オンデマンド))
12. 講義(オンライン(オンデマンド))
13. 講義(オンライン(オンデマンド))
14. 講義(オンライン(オンデマンド))
15. 講義(オンライン(オンデマンド))

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1.（復習）講義内容をまとめる（180分）
2.（復習）DVDを視聴した内容をまとめる（180分）
3.（宿題）DVDを視聴し自然と幼児との関わりについて考えを深める（180分）
4.（宿題）栽培する野菜や花について調べる（180分）
5.（予習）栽培する野菜の植え方について調べ準備する（180分）
6.（宿題）文字や数字を使った遊びにおける幼児の姿についてまとめる（180分）
7.（宿題）文字や数字を使った遊びを考える（180分）
8.（予習）ものの性質や仕組みに気づける活動を準備する（180分）
9.（宿題）ものの性質や仕組みに気づける活動を考える（180分）
10.（宿題）幼児のものの仕組みや性質の理解の仕方についてまとめる（180分）
11.（宿題）身近な素材を用いた製作について考える（180分）
12.（宿題）身近な素材を用いて製作を行う（180分）
13.（宿題）幼児と情報の関わりについてまとめる（180分）
14.（宿題）幼児と地域社会との関わりについてまとめる（180分）
15.（宿題）園行事の進め方についてまとめる（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	− **%**	**レポート：**	20 **%**
その他1：	栽培ポートフォリオ		20 **%**		
その他2：	提出物		30 **%**		

評価基準： 下記、評価方法より、総合的に評価する。
（60～69点）
授業時に取り組んだ課題やレポートを全て提出している。
（70～79点）
保育内容領域「環境」に関する知識がある。
（80～100点）
・授業時に取り組んだ課題やレポートなどを全て遅れなく提出し、その記述より深い理解や知識を備えていることが分かる。
・領域「環境」の内容について十分理解し、保育実践を行うために適切な知識がある。

課題へのフィードバック：

評価後返却するもの：授業時間内に提出した課題、レポート

教科書： 内閣府 文部科学省 厚生労働省『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社（2017年6月）

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：

・普段の生活の中から、身の回りの自然物や植物、草花、動物などに関心を持つこと。
・この科目は毎回、PCを使用する。毎回持参すること。
・遅刻は30分までとし、それ以降は欠席として扱う。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 子どもと言葉

クラス: 教前

授業コード: DA40600001

担当者: 高橋 一夫 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園)【必修】

含めることが必要な事項: 領域に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 言葉 **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本授業では、保育現場において子ども達の育ちを支えることができるように、「言葉」に関する専門的な知識や技術を習得します。保育者に求められる「言葉」に関わる資質について視聴覚教材などを用いながら整理した後、児童文化財などの専門的な知識や技術を習得するために能動的な学びを実践します。

到達目標: 「言葉」の側面から子ども達の育ちを支えることができる専門性を身に付ける。

1. 保育・幼児教育における「言葉」の重要性を理解することができる。
2. 児童文化財の意義を理解し、保育現場で活用できる知識と技能を獲得する。
3. 保育者として「言葉」の楽しさ・美しさに気付くことができる。

各回の授業計画:

1. 保育者に求められる「言葉」に関する資質
2. 保育現場における「言葉」の意義と機能
3. 絵本の意義
4. 絵本における「言葉」の表現
5. 絵本の挿絵から考える論理的思考
6. 絵本の文章から考える論理的思考
7. 絵本の挿絵と文章の関係から考える論理的思考①
8. 絵本の挿絵と文章の関係から考える論理的思考②
9. 紙芝居の意義と魅力
10. 素話の意義
11. 素話から考える昔話の魅力
12. 素話の語り方
13. 日本における児童文学Ⅰ
14. 日本における児童文学Ⅱ
15. 詩人の表現と子どもの詩

特記事項: ※教科書は必須です。第1回目の授業から持参してください。
※教科書の内容を中心に学びを進めます。教科書を用意しない場合は、単位修得が非常に難しくなります。

授業方法:
1. 講義(対面)
2. 講義・演習(対面)
3. 講義・演習(対面)
4. 講義・演習(対面)
5. 講義・演習(対面)
6. 講義・演習(対面)
7. 講義・演習(オンライン<オンデマンド>)
8. 講義・演習(オンライン<オンデマンド>)
9. 講義・演習(対面)
10. 講義・演習(対面)
11. 講義・演習(対面)
12. 講義・演習(対面)
13. 講義・演習(オンライン<オンデマンド>)
14. 講義・演習(対面)
15. 講義・演習(オンライン<オンデマンド>)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 保育者に求められる資質について考える（180分）
2. 保育・幼児教育における「言葉」について考察する（180分）
3. 絵本の意義について考察する（180分）
4. 絵本における「言葉」の表現について考察する（180分）
5. 絵本の挿絵を論理的に考察する（180分）
6. 絵本の文章を論理的に考察する（180分）
7. 絵本の挿絵と文章の関係を論理的に考察する（180分）
8. 絵本の挿絵と文章の関係を論理的に考察する（180分）
9. 紙芝居の魅力と意義について考察する（180分）
10. 素話の意義について考察する（180分）
11. 素話の意義について考察する（180分）
12. 素話の語り方について考察する（180分）
13. 日本の児童文学について考察する（180分）
14. 日本の児童文学における「言葉」の表現について考察する（180分）
15. 詩人の表現と子どもの詩について考察する（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	40 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	60 **%**
その他1：			**%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

日々の学習に参加し、乳幼児と言葉について児童文化財を通して考察することができる。（60-69）
日々の学習に積極的に参加し、乳幼児と言葉について児童文化財を通して深く考察することができる。（70-79）
日々の学習に積極的に参加し、乳幼児と言葉について児童文化財の適性を配慮したうえで、それぞれの効果が発揮できる保育実践について考察することができる。（80-100）

※教科書およびノートPCを持参し、学びができる準備をしていることが前提です。

課題へのフィードバック：

授業内容についての質問は、学習者全体に回答・説明し、学習者全体の利益となるようにフィードバックする。
求める提出物については、評価基準を示したうえで確認し、適宜返却する。

教科書：

高橋一夫『ことばを育む・保育に活かす言語表現（第2版）』みらい（2017年12月）

※教科書は授業で使用します。第1回目の授業から必ず持参してください。

参考書：

なし。適宜、資料を配布する。

備考：保育・幼児教育についての学びを深めるために、『幼稚園教育要領』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』、『保育所保育指針』のいずれも最新版をもとに授業を展開する。

授業・準備学習のアドバイス：

子どもと言葉に関わる知識や技術を習得するため、積極的な学びを期待する。
児童文化財に触れ、そのなかの言葉の表現について議論を通して深く考察する。そのため、授業担当者だけでなく学習者同士でのコミュニケーションが大切となる。

※教科書およびノートPCを持参し、学びができる準備をしていることが前提となります。スマホだけで学習することはできません。必ず教科書およびノートPCを持参しましょう。
※授業内容と無関係なブラウザ閲覧やスマホアプリの使用は認めません。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 子どもと言葉

クラス: 教後

授業コード: DA40600002

担当者: 高橋 一夫 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園)【必修】

含めることが必要な事項: 領域に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 言葉 **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本授業では、保育現場において子ども達の育ちを支えることができるように、「言葉」に関する専門的な知識や技術を習得します。保育者に求められる「言葉」に関わる資質について視聴覚教材などを用いながら整理した後、児童文化財などの専門的な知識や技術を習得するために能動的な学びを実践します。

到達目標: 「言葉」の側面から子ども達の育ちを支えることができる専門性を身に付ける。

1. 保育・幼児教育における「言葉」の重要性を理解することができる。
2. 児童文化財の意義を理解し、保育現場で活用できる知識と技能を獲得する。
3. 保育者として「言葉」の楽しさ・美しさに気付くことができる。

各回の授業計画:

1. 保育者に求められる「言葉」に関する資質
2. 保育現場における「言葉」の意義と機能
3. 絵本の意義
4. 絵本における「言葉」の表現
5. 絵本の挿絵から考える論理的思考
6. 絵本の文章から考える論理的思考
7. 絵本の挿絵と文章の関係から考える論理的思考①
8. 絵本の挿絵と文章の関係から考える論理的思考②
9. 紙芝居の意義と魅力
10. 素話の意義
11. 素話から考える昔話の魅力
12. 素話の語り方
13. 日本における児童文学Ⅰ
14. 日本における児童文学Ⅱ
15. 詩人の表現と子どもの詩

特記事項: ※教科書は必須です。第1回目の授業から持参してください。
※教科書の内容を中心に学びを進めます。教科書を用意しない場合は、単位修得が非常に難しくなります。

授業方法:
1. 講義(対面)
2. 講義・演習(対面)
3. 講義・演習(対面)
4. 講義・演習(対面)
5. 講義・演習(対面)
6. 講義・演習(対面)
7. 講義・演習(オンライン<オンデマンド>)
8. 講義・演習(オンライン<オンデマンド>)
9. 講義・演習(対面)
10. 講義・演習(対面)
11. 講義・演習(対面)
12. 講義・演習(対面)
13. 講義・演習(オンライン<オンデマンド>)
14. 講義・演習(対面)
15. 講義・演習(オンライン<オンデマンド>)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 保育者に求められる資質について考える（180分）
2. 保育・幼児教育における「言葉」について考察する（180分）
3. 絵本の意義について考察する（180分）
4. 絵本における「言葉」の表現について考察する（180分）
5. 絵本の挿絵を論理的に考察する（180分）
6. 絵本の文章を論理的に考察する（180分）
7. 絵本の挿絵と文章の関係を論理的に考察する（180分）
8. 絵本の挿絵と文章の関係を論理的に考察する（180分）
9. 紙芝居の魅力と意義について考察する（180分）
10. 素話の意義について考察する（180分）
11. 素話の意義について考察する（180分）
12. 素話の語り方について考察する（180分）
13. 日本の児童文学について考察する（180分）
14. 日本の児童文学における「言葉」の表現について考察する（180分）
15. 詩人の表現と子どもの詩について考察する（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	40 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	60 **%**
その他1：			**%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

日々の学習に参加し、乳幼児と言葉について児童文化財を通して考察することができる。（60-69）
日々の学習に積極的に参加し、乳幼児と言葉について児童文化財を通して深く考察することができる。（70-79）
日々の学習に積極的に参加し、乳幼児と言葉について児童文化財の適性を配慮したうえで、それぞれの効果が発揮できる保育実践について考察することができる。（80-100）

※教科書およびノートPCを持参し、学びができる準備をしていることが前提です。

課題へのフィードバック：

授業内容についての質問は、学習者全体に回答・説明し、学習者全体の利益となるようにフィードバックする。
求める提出物については、評価基準を示したうえで確認し、適宜返却する。

教科書：

高橋一夫『ことばを育む・保育に活かす言語表現（第2版）』みらい（2017年12月）

※教科書は授業で使用します。第1回目の授業から必ず持参してください。

参考書：

なし。適宜、資料を配布する。

備考：保育・幼児教育についての学びを深めるために、『幼稚園教育要領』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』、『保育所保育指針』のいずれも最新版をもとに授業を展開する。

授業・準備学習のアドバイス：

子どもと言葉に関わる知識や技術を習得するため、積極的な学びを期待する。
児童文化財に触れ、そのなかの言葉の表現について議論を通して深く考察する。そのため、授業担当者だけでなく学習者同士でのコミュニケーションが大切となる。

※教科書およびノートPCを持参し、学びができる準備をしていることが前提となります。スマホだけで学習することはできません。必ず教科書およびノートPCを持参しましょう。
※授業内容と無関係なブラウザ閲覧やスマホアプリの使用は認めません。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 子どもと音楽表現Ⅰ

クラス: 小+幼保前

授業コード: DA40700001

担当者: 高　奈奈　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:〔高〕私立幼稚園音楽指導担当

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園)【必修】

含めることが必要な事項: 領域に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 表現　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 発声練習やソルフェージュの学習や混声3部合唱への取り組みを通して、正確な音程とリズム、拍子の感覚、自然で無理のない発声法を身に付ける。
リズム楽器の基本的な演奏法を身につけ、幼児と器楽との関わりについて理解を深める。遊びや生活の中で子どもの豊かな表現が育まれることを念頭に置き、子どもの発達や季節に合った音楽表現活動を考える。また、ICTを活用して楽譜を編集する技術を習得する。

到達目標:
1. 幼稚園教育要領に示された領域「表現」のねらいおよび内容を他の領域を踏まえて理解し、幼児の生活や発達に即した保育を行うことができる表現技術を身につける。
2. 幼児の表現活動を受容することができる保育者の役割を踏まえ、幼稚園教育要領に示された領域「表現」のねらいおよび内容を理解する。
3. 音楽表現活動において必要となるソルフェージュや音楽理論を学ぶ。
4. リズム楽器の基礎的な演奏法を習得する。
5. 合唱や斉唱を通して自然で無理のない発声法を身につけ、子どもの歌を豊かな表現で歌えるようになる。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション(授業の目的、内容、進め方について、4年間の学習計画作成)
・幼稚園教育要領などにおける領域「表現」のねらいと内容について理解する
・あそび歌①「ころころたまご」、「とんとんとんとんひげじいさん」
・子どものうた①生活のうた「どこでしょう」

第2回
・乳幼児の音楽的な発達について〈聴覚の発達〉
・あそび歌②「はじまるよ」、「グーチョキパーでなにつくろう」
・子どものうた②春のうた「朝のうた」「おはようのうた」
・合唱曲への取り組み①パート決め

第3回
・乳幼児の音楽的な発達について〈声と歌唱〉
・あそび歌③「チョットグットパー」、「パンダうさぎコアラ」
・子どものうた③春のうた「だんごむしたいそう」「はるですね はるですよ」
・合唱曲への取り組み②パート練習

第4回
・あそび歌④「1本ゆびの拍手」、「1丁目のドラねこ」
・子どものうた④夏のうた「てのひらをたいように」
・合唱への取り組み③パート練習

第5回
・わらべうた、童謡、唱歌についての理解を深める
・あそび歌⑤「いわしのひらき」「おおきくなったらなんになる」
・子どものうた⑤夏のうた「キャンプだホイ」
・生活の歌「ともだちになるために」
・合唱への取り組み④パート練習

第6回
・楽典と音楽理論①<記譜法の基礎>
・あそび歌⑥「カレーライスのうた」
・子どものうた⑥秋のうた「きのこ」、「やきいもグーチーパー」
・合唱曲への取り組み⑤パート練習

第7回
・楽典と音楽理論②<音符の種類>
・あそび歌⑦「おべんとうばこのうた」
・合唱曲への取り組み⑥パート練習
・子どものうた⑦秋のうた「とんぼのめがね」、「バスごっこ」

第8回
・楽典と音楽理論③<音名>

・合唱曲への取り組み⑦全体練習
・子どものうた⑧冬のうた「赤鼻のトナカイ」、「きよしこの夜」、「ジングルベル」

第9回
・楽典と音楽理論④<音価>
・合唱曲への取り組み⑧全体練習
・子どものうた⑨生活のうた「世界中のこどもたちが」

第10回
・楽典と音楽理論⑤<拍子>
・合唱曲への取り組み⑨全体練習
・子どものうた⑩生活のうた「にじ」

第11回
・楽典と音楽理論⑥<強弱>
・合唱曲への取り組み⑩全体練習
・子どものうた⑪既習曲の復習

第12回
・合唱曲への取り組み⑧全体練習
・あそび歌⑧既習曲の復習

第13回
・合唱曲への取り組み⑨クリスマスコンサートの実施
・子どものうた

第14回
・レポートの作成
・実技試験

第15回 まとめと確認テストー乳幼児期の表現活動についてー

特記事項: なし

授業方法:
1. 講義、実技(対面)
2. 講義、実技(対面)
3. 講義、実技(対面)
4. 講義、実技(対面)
5. 講義、実技(対面)
6. 講義、実技(対面)
7. 講義、実技(対面)
8. 講義、実技(対面)
9. 講義、実技(対面)
10. 講義、実技(対面)
11. 講義、実技(対面)
12. 講義、 実技(対面)
13. 実技、確認テスト(対面)
14. 実技、確認テスト(対面)
15. まとめ(対面)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

各回、以下の予習・復習を行うこと。
①音楽理論の予習・復習(20分×15週)
②あそび歌と子どもの歌の予習・復習(20分×15週)
④音楽表現活動の予習・復習(20分×15週)
⑤合唱曲の予習・復習(30分×6週)
⑥情報機器を活用した「音楽づくり」、リズム楽器の演奏法の復習(35分×2週)

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	60 **%**	**レポート:**	10 **%**
その他1:			**%**		
その他2:			**%**		

評価基準:
最低限の到達度:60～69点
・音楽理論の基礎的な知識を身につけている
・読譜力を身につけている
・自然で無理のない発声法で歌うことができる。
・乳幼児の発達と音楽表現の関係性を理解している。
・音価について理解し、3種類以上の音符を組み合わせて様々なリズムの形を作ることができる。
望ましい到達度:80点以上
・音楽理論の総合的な知識を身につけている
・読譜力があり、音楽性豊かな表現力も身につけている。
・自然で無理のない響きのある発声法で表情豊かに歌うことができる。
・乳幼児の発達や季節に応じた音楽表現の工夫ができる。
・音価について理解し、5種類以上の音符を組み合わせて様々なリズムの形を作ることができる。

課題へのフィードバック:

・確認テストについては、採点後、講評し、次の学びへとつなげる。
・質問に対してはその都度回答・説明する。内容によっては全体で共有する。

教科書: ・内閣府 文部科学省 厚生労働省『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社(2017年6月)
・監修:寺田真由美、編集:寺田雅典『保育のうた155』 ひかりのくに株式会社(2014年3月)

参考書: ・なし

授業・準備学習のアドバイス:

①音楽理論の学習については事前にしっかりと予習をして、主体的に授業に取り組むこと。
②確認小テストの課題については事前に連絡する。
③実技科目であるため、授業への積極的な取り組みが重要である。
④混声3部合唱のパート練習に積極的に取り組むこと。

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 子どもと音楽表現Ⅰ

クラス: 小+幼保後

授業コード: DA40700002

担当者: 高　奈奈　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:〔高〕私立幼稚園音楽指導担当

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園)【必修】

含めることが必要な事項: 領域に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 表現　　**一般的包括的科目:** −

授業の目的: 発声練習やソルフェージュの学習や混声3部合唱への取り組みを通して、正確な音程とリズム、拍子の感覚、自然で無理のない発声法を身に付ける。
リズム楽器の基本的な演奏法を身につけ、幼児と器楽との関わりについて理解を深める。遊びや生活の中で子どもの豊かな表現が育まれることを念頭に置き、子どもの発達や季節に合った音楽表現活動を考える。また、ICTを活用して楽譜を編集する技術を習得する。

到達目標:
1. 幼稚園教育要領に示された領域「表現」のねらいおよび内容を他の領域を踏まえて理解し、幼児の生活や発達に即した保育を行うことができる表現技術を身につける。
2. 幼児の表現活動を受容することができる保育者の役割を踏まえ、幼稚園教育要領に示された領域「表現」のねらいおよび内容を理解する。
3. 音楽表現活動において必要となるソルフェージュや音楽理論を学ぶ。
4. リズム楽器の基礎的な演奏法を習得する。
5. 合唱や斉唱を通して自然で無理のない発声法を身につけ、子どもの歌を豊かな表現で歌えるようになる。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション(授業の目的、内容、進め方について、4年間の学習計画作成)
・幼稚園教育要領などにおける領域「表現」のねらいと内容について理解する
・あそび歌①「ころころたまご」、「とんとんとんとんひげじいさん」
・子どものうた①生活のうた「どこでしょう」

第2回
・乳幼児の音楽的な発達について〈聴覚の発達〉
・あそび歌②「はじまるよ」、「グーチョキパーでなにつくろう」
・子どものうた②春のうた「朝のうた」「おはようのうた」
・合唱曲への取り組み①パート決め

第3回
・乳幼児の音楽的な発達について〈声と歌唱〉
・あそび歌③「チョットグットパー」、「パンダうさぎコアラ」
・子どものうた③春のうた「だんごむしたいそう」「はるですね はるですよ」
・合唱曲への取り組み②パート練習

第4回
・あそび歌④「1本ゆびの拍手」、「1丁目のドラねこ」
・子どものうた④夏のうた「てのひらをたいように」
・合唱への取り組み③パート練習

第5回
・わらべうた、童謡、唱歌についての理解を深める
・あそび歌⑤「いわしのひらき」「おおきくなったらなんになる」
・子どものうた⑤夏のうた「キャンプだホイ」
・生活の歌「ともだちになるために」
・合唱への取り組み④パート練習

第6回
・楽典と音楽理論①<記譜法の基礎>
・あそび歌⑥「カレーライスのうた」
・子どものうた⑥秋のうた「きのこ」、「やきいもグーチーパー」
・合唱曲への取り組み⑤パート練習

第7回
・楽典と音楽理論②<音符の種類>
・あそび歌⑦「おべんとうばこのうた」
・合唱曲への取り組み⑥パート練習
・子どものうた⑦秋のうた「とんぼのめがね」、「バスごっこ」

第8回
・楽典と音楽理論③<音名>

・合唱曲への取り組み⑦全体練習
・子どものうた⑧冬のうた「赤鼻のトナカイ」、「きよしこの夜」、「ジングルベル」

第9回
・楽典と音楽理論④<音価>
・合唱曲への取り組み⑧全体練習
・子どものうた⑨生活のうた「世界中のこどもたちが」

第10回
・楽典と音楽理論⑤<拍子>
・合唱曲への取り組み⑨全体練習
・子どものうた⑩生活のうた「にじ」

第11回
・楽典と音楽理論⑥<強弱>
・合唱曲への取り組み⑩全体練習
・子どものうた⑪既習曲の復習

第12回
・合唱曲への取り組み⑧全体練習
・あそび歌⑧既習曲の復習

第13回
・合唱曲への取り組み⑨クリスマスコンサートの実施
・子どものうた

第14回
・レポートの作成
・実技試験

第15回 まとめと確認テストー乳幼児期の表現活動についてー

特記事項: なし

授業方法:
1. 講義、実技(対面)
2. 講義、実技(対面)
3. 講義、実技(対面)
4. 講義、実技(対面)
5. 講義、実技(対面)
6. 講義、実技(対面)
7. 講義、実技(対面)
8. 講義、実技(対面)
9. 講義、実技(対面)
10. 講義、実技(対面)
11. 講義、実技(対面)
12. 講義、 実技(対面)
13. 実技、確認テスト(対面)
14. 実技、確認テスト(対面)
15. まとめ(対面)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

各回、以下の予習・復習を行うこと。
①音楽理論の予習・復習(20分×15週)
②あそび歌と子どもの歌の予習・復習(20分×15週)
④音楽表現活動の予習・復習(20分×15週)
⑤合唱曲の予習・復習(30分×6週)
⑥情報機器を活用した「音楽づくり」、リズム楽器の演奏法の復習(35分×2週)

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	60 **%**	**レポート:**	10 **%**
その他1:			**%**		
その他2:			**%**		

評価基準:
最低限の到達度:60～69点
・音楽理論の基礎的な知識を身につけている
・読譜力を身につけている
・自然で無理のない発声法で歌うことができる。
・乳幼児の発達と音楽表現の関係性を理解している。
・音価について理解し、3種類以上の音符を組み合わせて様々なリズムの形を作ることができる。
望ましい到達度:80点以上
・音楽理論の総合的な知識を身につけている
・読譜力があり、音楽性豊かな表現力も身につけている。
・自然で無理のない響きのある発声法で表情豊かに歌うことができる。
・乳幼児の発達や季節に応じた音楽表現の工夫ができる。
・音価について理解し、5種類以上の音符を組み合わせて様々なリズムの形を作ることができる。

課題へのフィードバック:

・確認テストについては、採点後、講評し、次の学びへとつなげる。
・質問に対してはその都度回答・説明する。内容によっては全体で共有する。

教科書: ・内閣府 文部科学省 厚生労働省『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社(2017年6月)
・監修:寺田真由美、編集:寺田雅典『保育のうた155』 ひかりのくに株式会社(2014年3月)

参考書: ・なし

授業・準備学習のアドバイス:

①音楽理論の学習については事前にしっかりと予習をして、主体的に授業に取り組むこと。
②確認小テストの課題については事前に連絡する。
③実技科目であるため、授業への積極的な取り組みが重要である。
④混声3部合唱のパート練習に積極的に取り組むこと。

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 子どもと音楽表現Ⅱ

クラス: 小+幼保前

授業コード: DA40800001

担当者: 高　奈奈　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:〔高〕私立幼稚園音楽指導担当

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園)【必修】

含めることが必要な事項: 領域に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 表現　　**一般的包括的科目:** −

授業の目的: 発声練習やソルフェージュ、合唱の学習を通して、正確な音程とリズム・拍子の感覚を身に付ける。遊びや生活の中で子どもの豊かな表現が育まれることを念頭に置き、音楽的な発達に配慮しながら年齢に応じた保育の方法を考える。リズム楽器の演奏法を身につけ、音の重なりの楽しみ方や幼児と器楽との関わりについて理解を深める。また、ICTを活用して楽譜を編集する技術を習得する。

到達目標:
1. 幼稚園教育要領に示された領域「表現」のねらいおよび内容を他の領域を踏まえて理解し、幼児の生活や発達に即した保育を行うことができる表現技術を身につける。
2. 幼児の表現活動を受容することができる保育者の役割を踏まえ、幼稚園教育要領に示された領域「表現」のねらいおよび内容を理解する。
3. 音楽表現活動において必要となるソルフェージュや音楽理論を学ぶ。
4. リズム楽器の基礎的な演奏法を習得し、器楽合奏の指導法について考える。
5. 合唱や斉唱の活動を通して自然で無理のない発声法や正しい音程の感覚を身につけ、子どもの歌を豊かな表現で歌えるようになる。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション(授業の目的、内容、進め方について)
・合唱への取り組み①パート決め
・あそび歌①「いっぽんばし にほんばし」
・子どものうた①「たのしいね」

第2回
・楽典と音楽理論①音名
・合唱への取り組み②パート練習
・あそび歌②「つのつのつーの」
・子どものうた②「きみのこえ」

第3回
・楽典と音楽理論②音階
・合唱への取り組み③パート練習
・あそび歌③かなづちトントン
・子どものうた③「わらいごえっていいな」

第4回
・楽典と音楽理論③ハ長調の和音
・合唱への取り組み④パート練習
・あそび歌④「コロコロたこやき」
・子どものうた④「はじめの一歩」

第5回
・エミール・ジャック＝ダルクローズ、カール・オルフ、コダーイ・ゾルターンから音楽 教育のメソッドを学び、保育における多様な音楽表現について考える①
〈スカーフを使ったリトミック〉
・楽典と音楽理論④ト長調の和音
・合唱への取り組み⑤パート練習

第6回
・エミール・ジャック＝ダルクローズ、カール・オルフ、コダーイ・ゾルターンから音楽 教育のメソッドを学び、保育における多様な音楽表現について考える②
〈フープを使ったリトミック〉
・楽典と音楽理論⑤ヘ長調の和音
・合唱への取り組み⑥パート練習
・あそび歌⑤「くいしんぼうのゴリラ」
・子どものうた⑤「どんな色がすき」

第7回
・グループに分かれて模擬保育について考える①グループ分け、指導案の作成
・楽典と音楽理論⑥ニ長調の和音
・合唱への取り組み⑦パート練習

・あそび歌⑥「まあるいたまご」
・子どものうた⑥「こころのねっこ」

第8回
・グループに分かれて模擬保育について考える②指導案の作成、教材の作成（1）
・楽典と音楽理論⑦変ロ長調の和音
・合唱への取り組み⑧全体練習
・あそび歌⑦「ハンバーグ」
・楽器の奏法①リズム楽器の正しい奏法を身につける

第9回
・グループに分かれて模擬保育について考える③指導案の作成、教材の作成（2）
・合唱への取り組み⑨全体練習
・楽器の奏法②鍵盤打楽器の正しい奏法を身につける

第10回
・教材を用いた歌唱指導の模擬保育①
・合唱への取り組み⑩全体練習
・楽器の奏法③素材が異なる楽器の音の重なりを楽しむ

第11回
・教材を用いた歌唱指導の模擬保育②
・合唱への取り組み⑪全体練習

第12回
・教材を用いた歌唱指導の模擬保育③
・合唱への取り組み⑫全体練習

第13回
ランチタイムコンサートの実施
・混声3部合唱
・子どものうた

第14回
まとめと実技試験①

第15回
まとめと実技試験②

特記事項： なし

授業方法：
1. 講義、実技（対面）
2. 講義、実技（対面）
3. 講義、実技（対面）
4. 講義、実技（対面）
5. 講義、実技（対面）
6. 講義、実技（対面）
7. 講義、実技（対面）
8. 講義、実技（対面）
9. 実技、筆記試験（対面）
10. 講義、実技（対面）
11. 講義、実技（対面）
12. 講義、実技（対面）
13. 発表（対面）
14.まとめと実技試験（対面）
15. まとめと実技試験（対面）

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

各回、以下の予習・復習を行うこと。
①音楽理論の予習・復習（20分×15週）
②子どもの歌とあそび歌の予習・復習（20分×15週）
④混声3部合唱の予習・復習（20分×15週）
⑤教材の作成（60分×3週）
⑥情報機器を活用した「音楽づくり」、リズム楽器の演奏法の復習（35分×2週）

評価方法：

授業へのとりくみ：	40	**%**	**確認テスト：**	30	**%**	**レポート：**	30 **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準： 最低限の到達度：60～69点
・音楽理論の基礎的な知識を身につけている
・読譜力を身につけている
・自然で無理のない発声法で歌うことができる。
・乳幼児の発達と音楽表現の関係性を理解している。
・音価について理解し、3種類以上の音符を組み合わせて様々なリズムの形を作ることができる。

望ましい到達度：80点以上
・音楽理論の総合的な知識を身につけている
・読譜力があり、音楽性豊かな表現力も身につけている。
・自然で無理のない響きのある発声法で表情豊かに歌うことができる。
・乳幼児の発達や季節に応じた音楽表現の工夫ができる。
・音価について理解し、5種類以上の音符を組み合わせて様々なリズムの形を作ることができる。

課題へのフィードバック：

・筆記試験については、採点後、講評し、次の学びへとつなげる。
・質問に対してはその都度回答・説明する。内容によっては全体で共有する。
・グループでの模擬保育実施。
・14回目、15回目に実技試験を実施する。

教科書： ・内閣府 文部科学省 厚生労働省『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社（2017年6月）
・監修：寺田真由美、編集：寺田雅典『保育のうた155』 ひかりのくに株式会社（2014年3月）「子どもと音楽表現Ⅰ」と同じ

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：

①音楽理論の学習については事前にしっかりと予習をして、主体的に授業に取り組むこと。
②確認小テストの課題については事前に連絡する。
③グループでの発表や合唱曲への取り組みも評価に含む。
④混声3部合唱に積極的に取り組むこと。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 子どもと音楽表現Ⅱ

クラス: 小+幼保後

授業コード: DA40800002

担当者: 高　奈奈　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:〔高〕私立幼稚園音楽指導担当

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園)【必修】

含めることが必要な事項: 領域に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 表現　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 発声練習やソルフェージュ、合唱の学習を通して、正確な音程とリズム・拍子の感覚を身に付ける。遊びや生活の中で子どもの豊かな表現が育まれることを念頭に置き、音楽的な発達に配慮しながら年齢に応じた保育の方法を考える。リズム楽器の演奏法を身につけ、音の重なりの楽しみ方や幼児と器楽との関わりについて理解を深める。また、ICTを活用して楽譜を編集する技術を習得する。

到達目標:
1. 幼稚園教育要領に示された領域「表現」のねらいおよび内容を他の領域を踏まえて理解し、幼児の生活や発達に即した保育を行うことができる表現技術を身につける。
2. 幼児の表現活動を受容することができる保育者の役割を踏まえ、幼稚園教育要領に示された領域「表現」のねらいおよび内容を理解する。
3. 音楽表現活動において必要となるソルフェージュや音楽理論を学ぶ。
4. リズム楽器の基礎的な演奏法を習得し、器楽合奏の指導法について考える。
5. 合唱や斉唱の活動を通して自然で無理のない発声法や正しい音程の感覚を身につけ、子どもの歌を豊かな表現で歌えるようになる。

各回の授業計画:

第1回
・オリエンテーション(授業の目的、内容、進め方について)
・合唱への取り組み①パート決め
・あそび歌①「いっぽんばし にほんばし」
・子どものうた①「たのしいね」

第2回
・楽典と音楽理論①音名
・合唱への取り組み②パート練習
・あそび歌②「つのつのつーの」
・子どものうた②「きみのこえ」

第3回
・楽典と音楽理論②音階
・合唱への取り組み③パート練習
・あそび歌③かなづちトントン
・子どものうた③「わらいごえっていいな」

第4回
・楽典と音楽理論③ハ長調の和音
・合唱への取り組み④パート練習
・あそび歌④「コロコロたこやき」
・子どものうた④「はじめの一歩」

第5回
・エミール・ジャック＝ダルクローズ、カール・オルフ、コダーイ・ゾルターンから音楽 教育のメソッドを学び、保育における多様な音楽表現について考える①
〈スカーフを使ったリトミック〉
・楽典と音楽理論④ト長調の和音
・合唱への取り組み⑤パート練習

第6回
・エミール・ジャック＝ダルクローズ、カール・オルフ、コダーイ・ゾルターンから音楽 教育のメソッドを学び、保育における多様な音楽表現について考える②
〈フープを使ったリトミック〉
・楽典と音楽理論⑤ヘ長調の和音
・合唱への取り組み⑥パート練習
・あそび歌⑤「くいしんぼうのゴリラ」
・子どものうた⑤「どんな色がすき」

第7回
・グループに分かれて模擬保育について考える①グループ分け、指導案の作成
・楽典と音楽理論⑥ニ長調の和音
・合唱への取り組み⑦パート練習

・あそび歌⑥「まあるいたまご」
・子どものうた⑥「こころのねっこ」

第8回
・グループに分かれて模擬保育について考える②指導案の作成、教材の作成（1）
・楽典と音楽理論⑦変ロ長調の和音
・合唱への取り組み⑧全体練習
・あそび歌⑦「ハンバーグ」
・楽器の奏法①リズム楽器の正しい奏法を身につける

第9回
・グループに分かれて模擬保育について考える③指導案の作成、教材の作成（2）
・合唱への取り組み⑨全体練習
・楽器の奏法②鍵盤打楽器の正しい奏法を身につける

第10回
・教材を用いた歌唱指導の模擬保育①
・合唱への取り組み⑩全体練習
・楽器の奏法③素材が異なる楽器の音の重なりを楽しむ

第11回
・教材を用いた歌唱指導の模擬保育②
・合唱への取り組み⑪全体練習

第12回
・教材を用いた歌唱指導の模擬保育③
・合唱への取り組み⑫全体練習

第13回
ランチタイムコンサートの実施
・混声3部合唱
・子どものうた

第14回
まとめと実技試験①

第15回
まとめと実技試験②

特記事項： なし

授業方法：
1. 講義、実技（対面）
2. 講義、実技（対面）
3. 講義、実技（対面）
4. 講義、実技（対面）
5. 講義、実技（対面）
6. 講義、実技（対面）
7. 講義、実技（対面）
8. 講義、実技（対面）
9. 実技、筆記試験（対面）
10. 講義、実技（対面）
11. 講義、実技（対面）
12. 講義、 実技（対面）
13. 発表（対面）
14.まとめと実技試験（対面）
15. まとめと実技試験（対面）

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

各回、以下の予習・復習を行うこと。
①音楽理論の予習・復習（20分×15週）
②子どもの歌とあそび歌の予習・復習（20分×15週）
④混声3部合唱の予習・復習（20分×15週）
⑤教材の作成（60分×3週）
⑥情報機器を活用した「音楽づくり」、リズム楽器の演奏法の復習（35分×2週）

評価方法：

授業へのとりくみ：	40	**%**	**確認テスト：**	30	**%**	**レポート：**	30 **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準： 最低限の到達度：60～69点
・音楽理論の基礎的な知識を身につけている
・読譜力を身につけている
・自然で無理のない発声法で歌うことができる。
・乳幼児の発達と音楽表現の関係性を理解している。
・音価について理解し、3種類以上の音符を組み合わせて様々なリズムの形を作ることができる。

望ましい到達度：80点以上
・音楽理論の総合的な知識を身につけている
・読譜力があり、音楽性豊かな表現力も身につけている。
・自然で無理のない響きのある発声法で表情豊かに歌うことができる。
・乳幼児の発達や季節に応じた音楽表現の工夫ができる。
・音価について理解し、5種類以上の音符を組み合わせて様々なリズムの形を作ることができる。

課題へのフィードバック：

・筆記試験については、採点後、講評し、次の学びへとつなげる。
・質問に対してはその都度回答・説明する。内容によっては全体で共有する。
・グループでの模擬保育実施。
・14回目、15回目に実技試験を実施する。

教科書： ・内閣府 文部科学省 厚生労働省『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社（2017年6月）
・監修：寺田真由美、編集：寺田雅典『保育のうた155』 ひかりのくに株式会社（2014年3月）「子どもと音楽表現Ⅰ」と同じ

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：

①音楽理論の学習については事前にしっかりと予習をして、主体的に授業に取り組むこと。
②確認小テストの課題については事前に連絡する。
③グループでの発表や合唱曲への取り組みも評価に含む。
④混声3部合唱に積極的に取り組むこと。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 子どもと造形表現Ⅰ

クラス: 教前

授業コード: DA40900001

担当者: 須増 啓之、大坂 一成 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園)【必修】

含めることが必要な事項: 領域に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 表現 **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 個人や共同での制作活動を通して様々な材料や用具、表現方法に触れ、多様な表現活動に生かすことのできる基礎的な知識や技術を習得し、領域「表現」における子供の造形について理解する。また、活動を通して描いたり、つくったり、見たりすることの楽しさを味わい、造形を愛好する心情や感性を豊かにする。そして、授業での活動を写真などで記録していくことで、ポートフォリオ(Microsoft Teamsやプレゼンアプリなどで作成)にまとめたり、伝えたりする力も養う。

到達目標:
1. 様々な素材や材料、道具に触れ、その特性を生かし、乳・幼児期における多様な表現活動の基礎的な知識や技術、発想や構想の能力を身につける。
2. 制作活動や鑑賞活動を通して感性を豊かにしたり、他者の考え方や造形に触れながら、自分とは異なる表現を認め、楽しんだりすることができる。
3. 領域「表現」のねらいや内容について活動を通して理解する。
4. 造形活動に関心をもち、造形指導への意欲を培う。
5. 授業で行った活動について、自分なりに記録としてまとめることができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション(本授業の目標・内容・評価方法・進め方・準備物の確認など)
領域「表現」の意義や位置づけ、内容について考える(須増・大坂)
2.「描く」ということ① ～「見る」～(須増)
3.「描く」ということ② ～「見立てる」～(須増)
4.「写す」ということ① ～「見る」と「触る」～(須増)
5.「写す」ということ② ～「道具」を「使う」～(須増)
6.「遊ぶ」ということ① ～たくさんの「素材」～(須増)
7.「遊ぶ」ということ② ～「色」と「形」～(須増)
8. 子供の表現の未分化性について[映像資料の活用]、及びまとめ(須増)
9. 素材「紙」を楽しむ造形活動の体験① ～新聞紙との出会い～(大坂)
10. 素材「紙」を楽しむ造形活動の体験② ～紙コップ や折り紙を使ってつくろう～(大坂)
11. 素材「紙」を楽しむ造形活動の体験③ ～段ボールを使ってつくろう～ 、及び制作時に使用する用具の基礎・基本(大坂)
12. 感触を楽しむ造形活動の体験① ～土粘土との出会い・練る～(大坂)
13. 感触を楽しむ造形活動の体験② ～土粘土を使ってつくろう～(大坂)
14. 感触を楽しむ造形活動の体験③ ～材料を使って自作の粘土をつくろう～、及び粘土の基礎・基本(大坂)
15. 子供と素材との出会いをつくることについて考える[映像資料の活用]、及びまとめ(大坂)

特記事項: 須増担当の授業では、各回のはじめに「子供の絵の発達」をテーマに講義を行う。

授業方法: 【すべての授業を対面で行う】
1. 講義
2. 制作
3. 制作(グループワーク)
4. 制作
5. 制作(グループワーク)
6. 制作(グループワーク)
7. 制作
8. 鑑賞活動、映像視聴、講義
9. 制作(グループワーク)
10. 制作(グループワーク)
11. 制作
12. 制作
13. 制作

14. 制作
15. 鑑賞活動、映像視聴、講義

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. 活動の記録（気付いたことや考えたこと、作品や活動の写真など）の整理（45分）
2. 活動の記録（気付いたことや考えたこと、作品や活動の写真など）の整理（45分）
3. 活動の記録（気付いたことや考えたこと、作品や活動の写真など）の整理（45分）
4. 活動の記録（気付いたことや考えたこと、作品や活動の写真など）の整理（45分）
5. 活動の記録（気付いたことや考えたこと、作品や活動の写真など）の整理（45分）
6. 活動の記録（気付いたことや考えたこと、作品や活動の写真など）の整理（45分）
7. 活動の記録（気付いたことや考えたこと、作品や活動の写真など）の整理（45分）
8. 活動の記録（気付いたことや考えたこと、作品や活動の写真など）のまとめ（45分）
9. 活動の記録（気付いたことや考えたこと、作品や活動の写真など）の整理（45分）
10. 活動の記録（気付いたことや考えたこと、作品や活動の写真など）の整理（45分）
11. 活動の記録（気付いたことや考えたこと、作品や活動の写真など）の整理（45分）
12. 活動の記録（気付いたことや考えたこと、作品や活動の写真など）の整理（45分）
13. 活動の記録（気付いたことや考えたこと、作品や活動の写真など）の整理（45分）
14. 活動の記録（気付いたことや考えたこと、作品や活動の写真など）の整理（45分）
15. 活動の記録（気付いたことや考えたこと、作品や活動の写真など）のまとめ（45分）

※授業内に完成していない課題の制作も含める。

評価方法：

授業へのとりくみ：	－	**%**	**確認テスト：**	－	**%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	活動〈制作・発表・鑑賞〉への取り組み			60	**%**		
その他2：	ポートフォリオの作成及び内容〈小レポートを含む〉			40	**%**		

評価基準：

【授業へのとりくみ】について
・材料や道具の特性、乳・幼児期の造形表現などについて理解し、表現活動に取り組んでいる。また、他者の考え方や造形について楽しむことができる。（60～69）
・材料や道具の特性、・幼児期の造形表現などについて理解し、自分なりに工夫して楽しんで表現活動に取り組んでいる。また他者の考え方や造形について楽しんだり、受容したりすることができる。（80～100）
【ポートフォリオ】について
・写真などを使用した活動の記録を視覚的にまとめるとともに授業の感想を書くことができる。（60～69）
・写真などを使用した活動の記録を、自分なりの工夫を加えて視覚的にわかりやすくまとめるとともに、授業での気づきや考えたことを記述することができる。（80～100）
※活動については、作品の完成度で評価をすることはない。失敗を恐れず、表現することにチャレンジすること、仲間と協働して取り組むことなどが評価基準となる。

課題へのフィードバック：

・提出されたポートフォリオについて、Teams上でコメントを返却する。
・提出された作品課題などについては、次回以降の授業で返却する。

教科書： なし。授業中に適宜、資料を配布する。

参考書：

・内閣府 文部科学省 厚生労働省『令和5年度最新版 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』チャイルド本社（2024年5月）
・平田智久監修『〈感じること〉からはじまる子どもの造形表現』教育情報出版（2022年4月）
・松岡宏明『子供の世界 子供の造形』三元社（2017年2月）
・松岡宏明『子供に子供の美術を』三元社（2023年7月）
その他、授業中に適宜、指示または資料を配布する。

授業・準備学習のアドバイス：

【授業形態】について
・受講生が半分に分かれ、須増担当（第2回～第8回）と大坂先生担当（第9回～15回）の授業を交代で受講する。
【ポートフォリオ】について
・本授業では予習及び復習、活動の記録としてポートフォリオにまとめる。ポートフォリオは配布資料や活動の記録（写真）、感想など Microsoft Teamsの機能やプレゼンアプリなどで作成し、Microsoft Teamsで提出する（詳細は担当教員から説明する）。なお、ポートフォリオは、各担当授業の最終日に提出したものを評価する。
【履修上の留意点】について
・実技が中心となるため、汚れを気にしない服装で受講すること。また、制作活動に関して、授業内に作品が仕上がらなかった場合は、次の授業までに仕上げておくこと。
※本科目と「子どもと造形表現Ⅱ」を合わせて受講することで、制作体験を通して幼児の造形への理解や材料・用具についての理解がより深まります。絵を描いたり、つくったりすることが苦手でも構わないので、失敗を恐れずチャレンジしてください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 子どもと造形表現Ⅰ

クラス: 教後

授業コード: DA40900002

担当者: 須増 啓之、大坂 一成 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園)【必修】

含めることが必要な事項: 領域に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 表現 **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 個人や共同での制作活動を通して様々な材料や用具、表現方法に触れ、多様な表現活動に生かすことのできる基礎的な知識や技術を習得し、領域「表現」における子供の造形について理解する。また、活動を通して描いたり、つくったり、見たりすることの楽しさを味わい、造形を愛好する心情や感性を豊かにする。そして、授業での活動を写真などで記録していくことで、ポートフォリオ(Microsoft Teamsやプレゼンアプリなどで作成)にまとめたり、伝えたりする力も養う。

到達目標:
1. 様々な素材や材料、道具に触れ、その特性を生かし、乳・幼児期における多様な表現活動の基礎的な知識や技術、発想や構想の能力を身につける。
2. 制作活動や鑑賞活動を通して感性を豊かにしたり、他者の考え方や造形に触れながら、自分とは異なる表現を認め、楽しんだりすることができる。
3. 領域「表現」のねらいや内容について活動を通して理解する。
4. 造形活動に関心をもち、造形指導への意欲を培う。
5. 授業で行った活動について、自分なりに記録としてまとめることができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション(本授業の目標・内容・評価方法・進め方・準備物の確認など)
領域「表現」の意義や位置づけ、内容について考える(須増・大坂)
2. 「描く」ということ① ～「見る」～(須増)
3. 「描く」ということ② ～「見立てる」～(須増)
4. 「写す」ということ① ～「見る」と「触る」～(須増)
5. 「写す」ということ② ～「道具」を「使う」～(須増)
6. 「遊ぶ」ということ① ～たくさんの「素材」～(須増)
7. 「遊ぶ」ということ② ～「色」と「形」～(須増)
8. 子供の表現の未分化性について[映像資料の活用]、及びまとめ(須増)
9. 素材「紙」を楽しむ造形活動の体験① ～新聞紙との出会い～(大坂)
10. 素材「紙」を楽しむ造形活動の体験② ～紙コップ や折り紙を使ってつくろう～(大坂)
11. 素材「紙」を楽しむ造形活動の体験③ ～段ボールを使ってつくろう～ 、及び制作時に使用する用具の基礎・基本(大坂)
12. 感触を楽しむ造形活動の体験① ～土粘土との出会い・練る～(大坂)
13. 感触を楽しむ造形活動の体験② ～土粘土を使ってつくろう～(大坂)
14. 感触を楽しむ造形活動の体験③ ～材料を使って自作の粘土をつくろう～、及び粘土の基礎・基本(大坂)
15. 子供と素材との出会いをつくることについて考える[映像資料の活用]、及びまとめ(大坂)

特記事項: 須増担当の授業では、各回のはじめに「子供の絵の発達」をテーマに講義を行う。

授業方法: 【すべての授業を対面で行う】
1. 講義
2. 制作
3. 制作(グループワーク)
4. 制作
5. 制作(グループワーク)
6. 制作(グループワーク)
7. 制作
8. 鑑賞活動、映像視聴、講義
9. 制作(グループワーク)
10. 制作(グループワーク)
11. 制作
12. 制作
13. 制作

14. 制作
15. 鑑賞活動、映像視聴、講義

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. 活動の記録（気付いたことや考えたこと、作品や活動の写真など）の整理（45分）
2. 活動の記録（気付いたことや考えたこと、作品や活動の写真など）の整理（45分）
3. 活動の記録（気付いたことや考えたこと、作品や活動の写真など）の整理（45分）
4. 活動の記録（気付いたことや考えたこと、作品や活動の写真など）の整理（45分）
5. 活動の記録（気付いたことや考えたこと、作品や活動の写真など）の整理（45分）
6. 活動の記録（気付いたことや考えたこと、作品や活動の写真など）の整理（45分）
7. 活動の記録（気付いたことや考えたこと、作品や活動の写真など）の整理（45分）
8. 活動の記録（気付いたことや考えたこと、作品や活動の写真など）のまとめ（45分）
9. 活動の記録（気付いたことや考えたこと、作品や活動の写真など）の整理（45分）
10. 活動の記録（気付いたことや考えたこと、作品や活動の写真など）の整理（45分）
11. 活動の記録（気付いたことや考えたこと、作品や活動の写真など）の整理（45分）
12. 活動の記録（気付いたことや考えたこと、作品や活動の写真など）の整理（45分）
13. 活動の記録（気付いたことや考えたこと、作品や活動の写真など）の整理（45分）
14. 活動の記録（気付いたことや考えたこと、作品や活動の写真など）の整理（45分）
15. 活動の記録（気付いたことや考えたこと、作品や活動の写真など）のまとめ（45分）

※授業内に完成していない課題の制作も含める。

評価方法：

授業へのとりくみ：	－	**%**	**確認テスト：**	－	**%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	活動〈制作・発表・鑑賞〉への取り組み			60	**%**		
その他2：	ポートフォリオの作成及び内容〈小レポートを含む〉			40	**%**		

評価基準：

【授業へのとりくみ】について
・材料や道具の特性、乳・幼児期の造形表現などについて理解し、表現活動に取り組んでいる。また、他者の考え方や造形について楽しむことができる。（60～69）
・材料や道具の特性、・幼児期の造形表現などについて理解し、自分なりに工夫して楽しんで表現活動に取り組んでいる。また他者の考え方や造形について楽しんだり、受容したりすることができる。（80～100）
【ポートフォリオ】について
・写真などを使用した活動の記録を視覚的にまとめるとともに授業の感想を書くことができる。（60～69）
・写真などを使用した活動の記録を、自分なりの工夫を加えて視覚的にわかりやすくまとめるとともに、授業での気づきや考えたことを記述することができる。（80～100）
※活動については、作品の完成度で評価をすることはない。失敗を恐れず、表現することにチャレンジすること、仲間と協働して取り組むことなどが評価基準となる。

課題へのフィードバック：

・提出されたポートフォリオについて、Teams上でコメントを返却する。
・提出された作品課題などについては、次回以降の授業で返却する。

教科書： なし。授業中に適宜、資料を配布する。

参考書：

・内閣府 文部科学省 厚生労働省『令和5年度最新版 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』チャイルド本社（2024年5月）
・平田智久監修『〈感じること〉からはじまる子どもの造形表現』教育情報出版（2022年4月）
・松岡宏明『子供の世界 子供の造形』三元社（2017年2月）
・松岡宏明『子供に子供の美術を』三元社（2023年7月）
その他、授業中に適宜、指示または資料を配布する。

授業・準備学習のアドバイス：

【授業形態】について
・受講生が半分に分かれ、須増担当（第2回～第8回）と大坂先生担当（第9回～15回）の授業を交代で受講する。
【ポートフォリオ】について
・本授業では予習及び復習、活動の記録としてポートフォリオにまとめる。ポートフォリオは配布資料や活動の記録（写真）、感想など Microsoft Teamsの機能やプレゼンアプリなどで作成し、Microsoft Teamsで提出する（詳細は担当教員から説明する）。なお、ポートフォリオは、各担当授業の最終日に提出したものを評価する。
【履修上の留意点】について
・実技が中心となるため、汚れを気にしない服装で受講すること。また、制作活動に関して、授業内に作品が仕上がらなかった場合は、次の授業までに仕上げておくこと。
※本科目と「子どもと造形表現Ⅱ」を合わせて受講することで、制作体験を通して幼児の造形への理解や材料・用具についての理解がより深まります。絵を描いたり、つくったりすることが苦手でも構わないので、失敗を恐れずチャレンジしてください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 子どもと造形表現Ⅱ

クラス: 小+幼保前

授業コード: DA41000001

担当者: 須増 啓之、和泉 誠 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園)【必修】

含めることが必要な事項: 領域に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 表現 **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 個人や共同での制作活動を通して様々な材料や用具、表現方法、テーマに触れ、指導実践に生かすことのできる基礎的な知識や技術を習得し、実践において展開する力を身につける。また、活動を通して他者の考え方や造形表現を受容・共感することで感性を豊かにし、造形のイメージを広げることで造形指導への意欲も養う。そして、授業での活動を写真などで記録していくことでポートフォリオ(Microsoft Teamsの機能やプレゼンアプリなどで作成)にまとめたり、分析したり、伝えたりする力も養う。

到達目標:
1. 様々な素材や材料、用具、テーマに触れ、その特性を理解し、乳・幼児期における造形指導の展開についての知識や技術、発想や構想の能力を身につける。
2. 制作活動や鑑賞活動を通して感性を育み、他者の考え方や造形に触れながら、自分とは異なる表現について受容、共感、賞賛の姿勢をもつことができる。
3. 領域「表現」のねらいや内容、展開について活動を通して理解する。
4. 造形活動へのイメージを広げて、造形指導への意欲を培う。
5. 授業で行った活動について、自分なりに体験を分析し、記録としてまとめることができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション(本授業の目標・内容・評価方法・進め方・準備物の確認など)
造形表現における子どもの活動や保育者の役割について考える
2. 乳・幼児期の「表現」を生成する過程を知ろう(和泉)
3. 発達段階に即した造形表現指導と教材の活用 ～身体を使って描こう～(和泉)
4. 道具について学ぼう ～「表現」を支える基礎・基本～(和泉)
5. 素材遊びを体験しよう ～色と光を見つけよう～(和泉)
6. コミュニケーションとしての表現を体験しよう(和泉)
7. 身近な素材から創造性を豊かにする造形遊び ～「コラージュ」を体験しよう～(和泉)
8. 造形遊びにおける子供の姿や展開方法、環境構成について分析する[映像資料の活用]、及びまとめ(和泉)
9. 季節や行事をテーマにした造形活動の展開 ～季節の材料やテーマから表現を考えよう～(須増)
10. 目的から始まる造形活動の展開① ～飛び出す仕組みを使ったカードをつくろう～(須増)
11. 目的から始まる造形活動の展開② ～身の周りにあるものを使っておもちゃをつくろう～(須増)
12. 子供の表現の未分化性を体験しよう① ～色や形からの発想から「見立てる」～(須増)
13. 子供の表現の未分化性を体験しよう② ～色や形からの発想で「物語をつくる」～(須増)
14. 子供の表現の未分化性を体験しよう③～色や形からの発想から「演じる」～(須増)
15. 子供が始めて出会う芸術表現としての絵本 ～絵本の絵や構成を見てみよう～、及びまとめ(須増)

特記事項: 須増担当の授業では、各回のはじめに「子供の絵の特徴」をテーマに講義を行う。

授業方法: 【すべての授業を対面で行う】
1. 講義
2. 制作
3. 制作
4. 制作(グループワーク)
5. 制作(グループワーク)
6. 制作(グループワーク)
7. 制作
8. 映像視聴など、講義
9. 制作
10. 制作
11. 制作
12. 制作(グループワーク)
13. 制作(グループワーク)

14. 制作（グループワーク）、鑑賞活動
15. 講義、映像視聴など

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. ポートフォリオの整理（45分）
2. 活動の記録とポートフォリオの整理（45分）
3. 活動の記録とポートフォリオの整理（45分）
4. 活動の記録とポートフォリオの整理（45分）
5. 活動の記録とポートフォリオの整理（45分）
6. 活動の記録とポートフォリオの整理（45分）
7. 活動の記録とポートフォリオの整理（45分）
8. ポートフォリオのまとめ（45分）
9. 活動の記録とポートフォリオの整理（45分）
10. 活動の記録とポートフォリオの整理（45分）
11. 活動の記録とポートフォリオの整理（45分）
12. 活動の記録とポートフォリオの整理（45分）
13. 活動の記録とポートフォリオの整理（45分）
14. 活動の記録とポートフォリオの整理（45分）
15. ポートフォリオのまとめ（45分）

※授業内に完成していない課題の制作も含める。
※ポートフォリオはMicrosoft Teamsの機能やプレゼンアプリなどのデータで作成すること。

評価方法：

授業へのとりくみ：	－	**%**	**確認テスト：**	－	**%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	活動〈制作・発表・鑑賞〉への取り組み			60	**%**		
その他2：	ポートフォリオの作成及び内容〈小レポートを含む〉			40	**%**		

評価基準：

【授業への取り組み】について
・材料や用具の特性、乳・幼児期の造形表現や造形指導の展開などについて理解し、表現活動に取り組んでいる。また、他者の考え方や造形について受容ことができる。（60～69）
・材料や用具の特性、乳・幼児期の造形表現や造形指導の展開などについて理解を深め、自分なりに工夫して楽しんで表現活動に取り組んでいる。また他者の考え方や造形について受容、賞賛したりすることができる。（80～100）
【ポートフォリオの作成及び内容】について
・写真などを使用した活動の記録を視覚的にまとめている。（60～69）
・写真などを使用した活動の記録を、自分なりの分析を加え視覚的にわかりやすくまとめることができる。（80～100）
※活動については、作品の完成度で評価をすることはない。失敗を恐れず、表現することにチャレンジすること、仲間と協働して取り組むことなどが評価規準となる。

課題へのフィードバック：

・提出されたポートフォリオ（Microsoft Teamsの機能やプレゼンアプリなどで作成）にコメントを記入して返却する。
・提出された作品課題などについては、次回以降の授業で返却する。

教科書： なし。授業中に適宜、資料を配布する。

参考書：

・内閣府 文部科学省 厚生労働省『令和5年度最新版 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』チャイルド本社（2024年5月）
・平田智久監修『〈感じること〉からはじまる子どもの造形表現』教育情報出版（2022年4月）
・松岡宏明『子供の世界 子供の造形』三元社（2017年2月）
・松岡宏明『子供に子供の美術を』三元社（2023年7月）
その他、授業中に適宜、指示または資料を配布する。

授業・準備学習のアドバイス：

【授業形態】について
・受講生が半分に分かれ、和泉先生担当（第2回～第8回）と須増担当（第9回～15回）の授業を交代で受講する。
【ポートフォリオ】について
・本授業では予習及び復習、活動の記録としてポートフォリオにまとめる。ポートフォリオは配布資料や活動の記録（写真）、感想などをMicrosoft Teamsの機能やプレゼンアプリなどで作成し、Microsoft Teamsで提出する（詳細は担当教員から説明する）。なお、ポートフォリオは、各担当授業の最終日に提出したものを評価する。
【履修上の留意点】について
・実技が中心となるため、汚れを気にしない服装で受講すること。また、制作活動に関して、授業内に作品が仕上がらなかった場合は、次の授業までに仕上げておくこと。
※本科目と「子どもと造形表現Ⅰ」を合わせて受講することで、制作体験を通して幼児の造形への理解や材料・用具についての理解がより深まります。絵を描いたり、つくったりすることが苦手でも構わないので、失敗を恐れずチャレンジしてほしい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 子どもと造形表現Ⅱ

クラス: 小+幼保後

授業コード: DA41000002

担当者: 須増 啓之、和泉 誠 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園)【必修】

含めることが必要な事項: 領域に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 表現 **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 個人や共同での制作活動を通して様々な材料や用具、表現方法、テーマに触れ、指導実践に生かすことのできる基礎的な知識や技術を習得し、実践において展開する力を身につける。また、活動を通して他者の考え方や造形表現を受容・共感することで感性を豊かにし、造形のイメージを広げることで造形指導への意欲も養う。そして、授業での活動を写真などで記録していくことでポートフォリオ(Microsoft Teamsの機能やプレゼンアプリなどで作成)にまとめたり、分析したり、伝えたりする力も養う。

到達目標:
1. 様々な素材や材料、用具、テーマに触れ、その特性を理解し、乳・幼児期における造形指導の展開についての知識や技術、発想や構想の能力を身につける。
2. 制作活動や鑑賞活動を通して感性を育み、他者の考え方や造形に触れながら、自分とは異なる表現について受容、共感、賞賛の姿勢をもつことができる。
3. 領域「表現」のねらいや内容、展開について活動を通して理解する。
4. 造形活動へのイメージを広げて、造形指導への意欲を培う。
5. 授業で行った活動について、自分なりに体験を分析し、記録としてまとめることができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション(本授業の目標・内容・評価方法・進め方・準備物の確認など)
造形表現における子どもの活動や保育者の役割について考える
2. 乳・幼児期の「表現」を生成する過程を知ろう(和泉)
3. 発達段階に即した造形表現指導と教材の活用 ～身体を使って描こう～(和泉)
4. 道具について学ぼう ～「表現」を支える基礎・基本～(和泉)
5. 素材遊びを体験しよう ～色と光を見つけよう～(和泉)
6. コミュニケーションとしての表現を体験しよう(和泉)
7. 身近な素材から創造性を豊かにする造形遊び ～「コラージュ」を体験しよう～(和泉)
8. 造形遊びにおける子供の姿や展開方法、環境構成について分析する[映像資料の活用]、及びまとめ(和泉)
9. 季節や行事をテーマにした造形活動の展開 ～季節の材料やテーマから表現を考えよう～(須増)
10. 目的から始まる造形活動の展開① ～飛び出す仕組みを使ったカードをつくろう～(須増)
11. 目的から始まる造形活動の展開② ～身の周りにあるものを使っておもちゃをつくろう～(須増)
12. 子供の表現の未分化性を体験しよう① ～色や形からの発想から「見立てる」～(須増)
13. 子供の表現の未分化性を体験しよう② ～色や形からの発想で「物語をつくる」～(須増)
14. 子供の表現の未分化性を体験しよう③～色や形からの発想から「演じる」～(須増)
15. 子供が始めて出会う芸術表現としての絵本 ～絵本の絵や構成を見てみよう～、及びまとめ(須増)

特記事項: 須増担当の授業では、各回のはじめに「子供の絵の特徴」をテーマに講義を行う。

授業方法: 【すべての授業を対面で行う】
1. 講義
2. 制作
3. 制作
4. 制作(グループワーク)
5. 制作(グループワーク)
6. 制作(グループワーク)
7. 制作
8. 映像視聴など、講義
9. 制作
10. 制作
11. 制作
12. 制作(グループワーク)
13. 制作(グループワーク)

14. 制作（グループワーク）、鑑賞活動
15. 講義、映像視聴など

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. ポートフォリオの整理（45分）
2. 活動の記録とポートフォリオの整理（45分）
3. 活動の記録とポートフォリオの整理（45分）
4. 活動の記録とポートフォリオの整理（45分）
5. 活動の記録とポートフォリオの整理（45分）
6. 活動の記録とポートフォリオの整理（45分）
7. 活動の記録とポートフォリオの整理（45分）
8. ポートフォリオのまとめ（45分）
9. 活動の記録とポートフォリオの整理（45分）
10. 活動の記録とポートフォリオの整理（45分）
11. 活動の記録とポートフォリオの整理（45分）
12. 活動の記録とポートフォリオの整理（45分）
13. 活動の記録とポートフォリオの整理（45分）
14. 活動の記録とポートフォリオの整理（45分）
15. ポートフォリオのまとめ（45分）

※授業内に完成していない課題の制作も含める。
※ポートフォリオはMicrosoft Teamsの機能やプレゼンアプリなどのデータで作成すること。

評価方法：

授業へのとりくみ：	－	**%**	**確認テスト：**	－	**%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	活動〈制作・発表・鑑賞〉への取り組み			60	**%**		
その他2：	ポートフォリオの作成及び内容〈小レポートを含む〉			40	**%**		

評価基準：

【授業への取り組み】について
・材料や用具の特性、乳・幼児期の造形表現や造形指導の展開などについて理解し、表現活動に取り組んでいる。また、他者の考え方や造形について受容ことができる。（60～69）
・材料や用具の特性、乳・幼児期の造形表現や造形指導の展開などについて理解を深め、自分なりに工夫して楽しんで表現活動に取り組んでいる。また他者の考え方や造形について受容、賞賛したりすることができる。（80～100）
【ポートフォリオの作成及び内容】について
・写真などを使用した活動の記録を視覚的にまとめている。（60～69）
・写真などを使用した活動の記録を、自分なりの分析を加え視覚的にわかりやすくまとめることができる。（80～100）
※活動については、作品の完成度で評価をすることはない。失敗を恐れず、表現することにチャレンジすること、仲間と協働して取り組むことなどが評価規準となる。

課題へのフィードバック：

・提出されたポートフォリオ（Microsoft Teamsの機能やプレゼンアプリなどで作成）にコメントを記入して返却する。
・提出された作品課題などについては、次回以降の授業で返却する。

教科書： なし。授業中に適宜、資料を配布する。

参考書：

・内閣府 文部科学省 厚生労働省『令和5年度最新版 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』チャイルド本社（2024年5月）
・平田智久監修『〈感じること〉からはじまる子どもの造形表現』教育情報出版（2022年4月）
・松岡宏明『子供の世界 子供の造形』三元社（2017年2月）
・松岡宏明『子供に子供の美術を』三元社（2023年7月）
その他、授業中に適宜、指示または資料を配布する。

授業・準備学習のアドバイス：

【授業形態】について
・受講生が半分に分かれ、和泉先生担当（第2回～第8回）と須増担当（第9回～15回）の授業を交代で受講する。
【ポートフォリオ】について
・本授業では予習及び復習、活動の記録としてポートフォリオにまとめる。ポートフォリオは配布資料や活動の記録（写真）、感想などをMicrosoft Teamsの機能やプレゼンアプリなどで作成し、Microsoft Teamsで提出する（詳細は担当教員から説明する）。なお、ポートフォリオは、各担当授業の最終日に提出したものを評価する。
【履修上の留意点】について
・実技が中心となるため、汚れを気にしない服装で受講すること。また、制作活動に関して、授業内に作品が仕上がらなかった場合は、次の授業までに仕上げておくこと。
※本科目と「子どもと造形表現Ⅰ」を合わせて受講することで、制作体験を通して幼児の造形への理解や材料・用具についての理解がより深まります。絵を描いたり、つくったりすることが苦手でも構わないので、失敗を恐れずチャレンジしてほしい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 子どもと身体表現Ⅰ

クラス: 小+幼保前

授業コード: DA41100001

担当者: 岩濵 里江子、久山 素子 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:
〔岩濵〕公立幼稚園教諭・園長、市教育委員会指導主事
〔久山〕公立小学校教諭、文部省及び文部科学省体育指導伝達講習会派遣

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園)【必修】

含めることが必要な事項: 領域に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 表現 **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 身体表現の指導に関する、幼児の身体表現の姿やその発達及びそれを促す要因について学ぶ。身体表現や運動遊びの実技を通して、幼児の感性や創造性を豊かにするための専門的事項についての基礎的知識・技能、指導法について理解する。

到達目標: 1. 様々な身体表現活動に積極的に取り組み、身体を動かす楽しさを体験し、身体を動かして遊ぶこと、身体で表現することの意義やねらいについて考える。
2. 身近な用具や道具を使う活動、使わない活動等を通し、用具を使った遊びについての知識、技能、使わない遊びについての知識や意義等について考える。
3. 幼児の身体表現におけるねらい、および幼児の豊かな表現を促すための活動の工夫、指導法について知る。
4. 他者と協働し、より豊かな活動や表現を生み出す。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション 授業展開説明等(岩濵、久山)
2. 用具を使った運動遊びの展開Ⅰ ＜フープ＞(岩濵)
3. 用具を使った運動遊びの展開Ⅱ ＜縄＞＜ボール＞(岩濵)
4. 用具を使った運動遊びの展開Ⅲ ＜パラバルーン＞(岩濵)
5. サーキット遊びの展開(岩濵)
6. 多様な鬼遊びの展開(岩濵)
7. 伝承遊びの展開(岩濵)
8. まとめ 身体による表現遊びのねらいと指導方法(岩濵)
9.仲間作りにつながる身体表現の展開(久山)
10. 多様な動きの習得・展開(久山)
11. 身近な物を生かした身体表現の展開Ⅰ(久山)
12. 身近な物を生かした身体表現の展開 Ⅱ(久山)
13. リズムに乗った動きの習得・展開(久山)
14. 幼児のフォークダンス(久山)
15. まとめ 多様な動きを引き出す指導のポイントと身体表現の実践例(久山)

特記事項: なし

授業方法: 以下、すべて 対面で行う
1. 講義
2. 講義、実技、グループワーク
3. 講義、実技、グループワーク
4. 講義、実技、グループワーク
5. 講義、実技、グループワーク
6. 講義、実技、グループワーク
7. 講義、実技、グループワーク
8. 講義
9. 講義、実技、グループワーク
10. 講義、実技、グループワーク
11. 講義、実技、グループワーク
12. 講義、実技、グループワーク
13. 講義、実技、グループワーク
14. 講義、実技、グループワーク
15. 講義、DVD視聴

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. 復習：「子どもと身体表現Ⅰ」について、講義内容を復習し、まとめる。（45分）
2. 復習：「用具を使った運動遊び」＜フープ＞の講義と実技の内容を復習し、まとめる。（45分）
3. 予習：「用具を使った運動遊び」＜縄、ボール＞の例について調べ、まとめる。（45分）
4. 復習：「用具を使った運動遊び」＜バラバルーン＞の講義と実技の内容を復習し、まとめる。（45分）
5. 復習：「サーキット遊び」の講義と実技の内容を復習し、まとめる。（45分）
6. 予習：「鬼遊び」の例について調べ、まとめる。（45分）
7. 予習：「伝承遊び」の例について調べ、まとめる。（45分）
8. 復習：「身体による表現」について、講義内容を復習し、まとめる。（45分）
9. 復習：「仲間作りにつながる身体表現」の講義と実技の内容を復習し、まとめる。（45分）
10. 復習：「多様な動きの習得・展開」の講義と実技の内容を復習し、まとめる。（45分）
11. 予習：「身近な物を活かした身体表現」の例について調べ、まとめる。（45分）
12. 復習：「身近な物を活かした身体表現」の講義と実技の内容を復習し、まとめる。（45分）
13. 復習：「リズムに乗った動きの習得・展開」の講義と実技の内容を復習し、まとめる。（45分）
14. 予習：「幼児のフォークダンス」の例について調べ、まとめる。（45分）
15. 予習：幼稚園教育要領及び保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における「身体表現」について調べ、まとめる。（45分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	80 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	20 **%**
その他1：			**%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

60～69点：身体表現や運動遊びの実技を通して、幼児の感性や創造性を豊かにするための専門的事項についての基礎的知識・技能、指導法をおよそ理解している。
70～79点：身体表現や運動遊びの実技を通して、幼児の感性や創造性を豊かにするための専門的事項についての基礎的知識・技能、指導法を理解している。
80～100点：身体表現や運動遊びの実技を通して、幼児の感性や創造性を豊かにするための専門的事項についての基礎的知識・技能、指導法を十分に理解している。

課題へのフィードバック：

授業の中で、適宜全体に対してフィードバックを行う。

教科書： なし

参考書：

・文部科学省『幼児期運動指針ガイドブック』文部科学省幼児期運動指針策定委員会 ※ 文部科学省HPよりダウンロード可能（平成24年3月30日）
・文部科学省『幼稚園教育要領解説』（平成30年3月）フレーベル館 ※文部科学省HPよりダウンロード可能（平成30年２月）
・内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（平成30年３月）フレーベル館 ※こども家庭庁HPよりダウンロード可能（平成30年３月）
・厚生労働省『保育所保育指針解説』（平成30年３月）フレーベル館 ※厚生労働省HPよりダウンロード可能（平成30年２月）
・授業中に適宜資料を配布する。

授業・準備学習のアドバイス：

・実技・実践が主な授業内容となる。授業内容に応じた服装で、積極的に取り組むこと。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 子どもと身体表現Ⅰ

クラス: 小+幼保後

授業コード: DA41100002

担当者: 岩濵 里江子、久山 素子 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:
〔岩濵〕公立幼稚園教諭・園長、市教育委員会指導主事
〔久山〕公立小学校教諭、文部省及び文部科学省体育指導伝達講習会派遣

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園)【必修】

含めることが必要な事項: 領域に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 表現 **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 身体表現の指導に関する、幼児の身体表現の姿やその発達及びそれを促す要因について学ぶ。身体表現や運動遊びの実技を通して、幼児の感性や創造性を豊かにするための専門的事項についての基礎的知識・技能、指導法について理解する。

到達目標:
1. 様々な身体表現活動に積極的に取り組み、身体を動かす楽しさを体験し、身体を動かして遊ぶこと、身体で表現することの意義やねらいについて考える。
2. 身近な用具や道具を使う活動、使わない活動等を通し、用具を使った遊びについての知識、技能、使わない遊びについての知識や意義等について考える。
3. 幼児の身体表現におけるねらい、および幼児の豊かな表現を促すための活動の工夫、指導法について知る。
4. 他者と協働し、より豊かな活動や表現を生み出す。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション 授業展開説明等(岩濵、久山)
2. 用具を使った運動遊びの展開Ⅰ ＜フープ＞(岩濵)
3. 用具を使った運動遊びの展開Ⅱ ＜縄＞＜ボール＞(岩濵)
4. 用具を使った運動遊びの展開Ⅲ ＜パラバルーン＞(岩濵)
5. サーキット遊びの展開(岩濵)
6. 多様な鬼遊びの展開(岩濵)
7. 伝承遊びの展開(岩濵)
8. まとめ 身体による表現遊びのねらいと指導法(岩濵)
9.仲間作りにつながる身体表現の展開(久山)
10. 多様な動きの習得・展開(久山)
11. 身近な物を生かした身体表現の展開Ⅰ(久山)
12. 身近な物を生かした身体表現の展開 Ⅱ(久山)
13. リズムに乗った動きの習得・展開(久山)
14. 幼児のフォークダンス(久山)
15. まとめ 多様な動きを引き出す指導のポイントと身体表現の実践例(久山)

特記事項: なし

授業方法: 以下、すべて 対面で行う
1. 講義
2. 講義、実技、グループワーク
3. 講義、実技、グループワーク
4. 講義、実技、グループワーク
5. 講義、実技、グループワーク
6. 講義、実技、グループワーク
7. 講義、実技、グループワーク
8. 講義
9. 講義、実技、グループワーク
10. 講義、実技、グループワーク
11. 講義、実技、グループワーク
12. 講義、実技、グループワーク
13. 講義、実技、グループワーク
14. 講義、実技、グループワーク
15. 講義、DVD視聴

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. 復習：「子どもと身体表現Ⅰ」について、講義内容を復習し、まとめる。（45分）
2. 復習：「用具を使った運動遊び」＜フープ＞の講義と実技の内容を復習し、まとめる。（45分）
3. 予習：「用具を使った運動遊び」＜縄、ボール＞の例について調べ、まとめる。（45分）
4. 復習：「用具を使った運動遊び」＜バラバルーン＞の講義と実技の内容を復習し、まとめる。（45分）
5. 復習：「サーキット遊び」の講義と実技の内容を復習し、まとめる。（45分）
6. 予習：「鬼遊び」の例について調べ、まとめる。（45分）
7. 予習：「伝承遊び」の例について調べ、まとめる。（45分）
8. 復習：「身体による表現」について、講義内容を復習し、まとめる。（45分）
9. 復習：「仲間作りにつながる身体表現」の講義と実技の内容を復習し、まとめる。（45分）
10. 復習：「多様な動きの習得・展開」の講義と実技の内容を復習し、まとめる。（45分）
11. 予習：「身近な物を活かした身体表現Ⅰ」の例について調べ、まとめる。（45分）
12. 復習：「身近な物を活かした身体表現Ⅱ」の講義と実技の内容を復習し、まとめる。（45分）
13. 復習：「リズムに乗った動きの習得・展開」の講義と実技の内容を復習し、まとめる。（45分）
14. 予習：「幼児のフォークダンス」の例について調べ、まとめる。（45分）
15. 予習：幼稚園教育要領及び保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における「身体表現」について調べ、まとめる。（45分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	80 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	20 **%**
その他1：			**%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

60～69点：身体表現や運動遊びの実技を通して、幼児の感性や創造性を豊かにするための専門的事項についての基礎的知識・技能、指導法をおよそ理解している。
70～79点：身体表現や運動遊びの実技を通して、幼児の感性や創造性を豊かにするための専門的事項についての基礎的知識・技能、指導法を理解している。
80～100点：身体表現や運動遊びの実技を通して、幼児の感性や創造性を豊かにするための専門的事項についての基礎的知識・技能、指導法を十分に理解している。

課題へのフィードバック：

授業の中で、適宜全体に対してフィードバックを行う。

教科書： なし

参考書：

・文部科学省『幼児期運動指針ガイドブック』文部科学省幼児期運動指針策定委員会 ※ 文部科学省HPよりダウンロード可能（平成24年3月30日）
・文部科学省『幼稚園教育要領解説』（平成30年3月）フレーベル館　※文部科学省HPよりダウンロード可能（平成30年２月）
・内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（平成30年３月）フレーベル館 ※こども家庭庁HPよりダウンロード可能（平成30年３月）
・厚生労働省『保育所保育指針解説』（平成30年３月）フレーベル館 ※厚生労働省HPよりダウンロード可能（平成30年２月）
・授業中に適宜資料を配布する。

授業・準備学習のアドバイス：

・実技・実践が主な授業内容となる。授業内容に応じた服装で、積極的に取り組むこと。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 子どもと身体表現Ⅱ

クラス: 小+幼保前

授業コード: DA41200001

担当者: 岩濵 里江子、久山 素子 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:
〔岩濵〕公立幼稚園教諭・園長、市教育委員会指導主事
〔久山〕公立小学校教諭、文部省及び文部科学省体育指導伝達講習会派遣

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園)【必修】

含めることが必要な事項: 領域に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 表現 **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 身体表現の指導に関する、幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因について知り、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などの専門的事項についての知識・技能、指導法を理解する。
また、感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、自身の感性を豊かにし、表現する力を養う。

到達目標:
1. 幼児の身体表現の姿やその発達、およびそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びについての知識、技能について理解する。
2. 感じたことや考えたことを自分なりに身体で表現することを通し、自身の感性を豊かにし、表現力を身に付ける。
3. 身体表現を通し、その楽しさを感じ、楽しさを生み出す表現活動の工夫や指導法についての考えを深める。
4. 他者と協働し、互いの考えに共感し、より豊かな表現を生み出す。
5. 身体表現の基礎的な知識・技能を生かして、幼児の表現活動を展開することができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション 授業展開説明等(岩濵、久山)
2. 身体表現の基礎的な動き<律動等>(岩濵)
3. イメージを豊かにする身体表現Ⅰ 身近な生き物になって①<虫>(岩濵)
4. イメージを豊かにする身体表現Ⅱ 身近な生き物になって②<新聞紙を使って 動物>(岩濵)
5. イメージを豊かにする身体表現Ⅲ 見たことや経験したことを表現する①(岩濵)
6. イメージを豊かにする身体表現Ⅳ 見たことや経験したことを表現する②<発表>(岩濵)
7. イメージを豊かにする身体表現Ⅴ 自然現象の表現<群像表現・海・風>(岩濵)
8. まとめ「身体表現」のねらいと指導法(岩濵)
9. 素材の特性を生かした身体表現<新聞紙に変身>(久山)
10. 協働して行う身体表現Ⅰ<忍者カルタを使って>(久山)
11. 協働して行う身体表現Ⅱ<忍者のお話に沿って>(久山)
12. 協働して行う身体表現Ⅲ <「忍者に変身」発表>(久山)
13. 楽しさを生み出す身体表現Ⅰ <リズムダンス>(久山)
14. 楽しさを生み出す身体表現Ⅱ <リズムダンスの発表>(久山)
15. まとめ「身体表現」の実践例及び指導法 (久山)

特記事項: なし

授業方法: 以下、全て対面で行う。

1. 講義
2. 講義、実技、グループワーク
3. 講義、実技、グループワーク
4. 講義、実技、グループワーク
5. 講義、実技、グループワーク
6. 講義、実技、グループワーク
7. 講義、実技、グループワーク
8. 講義
9. 講義、実技、グループワーク
10. 講義、実技、グループワーク
11. 講義、実技、グループワーク
12. 講義、実技、グループワーク
13. 講義、実技、グループワーク

14. 講義、実技、グループワーク
15. 講義、DVD視聴

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. 復習：「子どもと身体表現Ⅱ」について、講義内容を復習し、まとめる。（45分）
2. 復習：「身体表現の基礎的な動き」の講義と実技の内容を復習し、まとめる。（45分）
3. 予習：「イメージを豊かにする身体表現Ⅰ 身近な生き物になって①虫」の例について調べ、まとめる。（45分）
4. 予習：「イメージを豊かにする身体表現Ⅱ 身近な生き物になって②動物」の例について調べ、まとめる。（45分）
5. 復習：「イメージを豊かにする身体表現Ⅲ 見たことや経験したことを表現する①」の講義と実技の内容を復習し、まとめる（45分） 予習：発表に向けて準備する。（45分）
6. 復習：「イメージを豊かにする身体表現Ⅳ 見たことや経験したことを表現する②発表」について振り返り、まとめる。（45分）
7. 予習：「イメージを豊かにする身体表現Ⅴ 自然現象＜群像・海・風＞」の例について調べ、まとめる。（45分）
8. 復習：「身体表現のねらい及び指導法」の講義内容を復習し、まとめる。（45分）
9. 復習：「素材の特性を生かした身体表現＜新聞紙に変身＞」の講義と実技の内容を復習し、まとめる。（45分）
10. 予習：「協働して行う身体表現Ⅰ」の忍者の術や戦い等の例について調べ、まとめる。（45分）
11. 予習：「協働して行う身体表現Ⅱ」の忍者のお話を考え、まとめる。（45分）
12. 復習：「協働して行う身体表現Ⅲ」の発表を振り返り、まとめる。（45分）
13. 予習：「楽しさを生み出す身体表現Ⅰ」のリズムダンスの動きを考える。（45分）
14. 復習：「楽しさを生み出す身体表現Ⅱ」の発表を振り返り、まとめる。（45分）
15. 復習：「身体表現」の実践例をもとに指導法の復習をし、まとめる。（45分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	80 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	20 **%**
その他1：			**%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

60～69点：身体表現の指導に関する、幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因について知り、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などの専門的事項についての知識・技能、指導法をおよそ理解している。
また、自身の感性を豊かにし、表現する力がおよそ身に付いている。
70～79点：身体表現の指導に関する、幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因について知り、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などの専門的事項についての知識・技能、指導法を理解している。
また、自身の感性を豊かにし、表現する力が身に付いている。
80～100点：身体表現の指導に関する、幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因について知り、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などの専門的事項についての知識・技能、指導法を十分に理解している。
また、自身の感性を豊かにし、表現する力が十分に身に付いている。

課題へのフィードバック：

授業の中で、適宜全体に対してフィードバックを行う。

教科書： なし

参考書：

・文部科学省『幼稚園教育要領解説』（平成30年3月）フレーベル館 ※文部科学省HPよりダウンロード可能（平成30年２月）
・内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（平成30年３月）フレーベル館 ※こども家庭庁HPよりダウンロード可能（平成30年３月）
・厚生労働省『保育所保育指針解説』（平成30年３月）フレーベル館 ※厚生労働省HPよりダウンロード可能（平成30年２月）
・授業中に適宜資料を配布する。

授業・準備学習のアドバイス：

・実技、実践を通して、学ぶことが主体の授業となる。また、他者とイメージを出し合い、表現を作り出すことも重要となる。授業内容に応じた服装で、積極的に取り組むこと。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 子どもと身体表現Ⅱ

クラス: 小+幼保後

授業コード: DA41200002

担当者: 岩濵 里江子、久山 素子 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:
〔岩濵〕公立幼稚園教諭・園長、市教育委員会指導主事
〔久山〕公立小学校教諭、文部省及び文部科学省体育指導伝達講習会派遣

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園)【必修】

含めることが必要な事項: 領域に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 表現 **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 身体表現の指導に関する、幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因について知り、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などの専門的事項についての知識・技能、指導法を理解する。
また、感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、自身の感性を豊かにし、表現する力を養う。

到達目標:
1. 幼児の身体表現の姿やその発達、およびそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びについての知識、技能について理解する。
2. 感じたことや考えたことを自分なりに身体で表現することを通し、自身の感性を豊かにし、表現力を身に付ける。
3. 身体表現を通し、その楽しさを感じ、楽しさを生み出す表現活動の工夫や指導法についての考えを深める。
4. 他者と協働し、互いの考えに共感し、より豊かな表現を生み出す。
5. 身体表現の基礎的な知識・技能を生かして、幼児の表現活動を展開することができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション 授業展開説明等(岩濵、久山)
2. 身体表現の基礎的な動き<律動等>(岩濵)
3. イメージを豊かにする身体表現Ⅰ 身近な生き物になって①<虫>(岩濵)
4. イメージを豊かにする身体表現Ⅱ 身近な生き物になって②<新聞紙を使って 動物>(岩濵)
5. イメージを豊かにする身体表現Ⅲ 見たことや経験したことを表現する①(岩濵)
6. イメージを豊かにする身体表現Ⅳ 見たことや経験したことを表現する②<発表>(岩濵)
7. イメージを豊かにする身体表現Ⅴ 自然現象の表現<群像表現・海・風>(岩濵)
8. まとめ「身体表現」のねらいと指導法(岩濵)
9. 素材の特性を生かした身体表現<新聞紙に変身>(久山)
10. 協働して行う身体表現Ⅰ<忍者カルタを使って>(久山)
11. 協働して行う身体表現Ⅱ<忍者のお話に沿って>(久山)
12. 協働して行う身体表現Ⅲ <「忍者に変身」発表>(久山)
13. 楽しさを生み出す身体表現Ⅰ <リズムダンス>(久山)
14. 楽しさを生み出す身体表現Ⅱ <リズムダンスの発表>(久山)
15. まとめ「身体表現」の実践例及び指導法 (久山)

特記事項: なし

授業方法: 以下、全て対面で行う。

1. 講義
2. 講義、実技、グループワーク
3. 講義、実技、グループワーク
4. 講義、実技、グループワーク
5. 講義、実技、グループワーク
6. 講義、実技、グループワーク
7. 講義、実技、グループワーク
8. 講義
9. 講義、実技、グループワーク
10. 講義、実技、グループワーク
11. 講義、実技、グループワーク
12. 講義、実技、グループワーク
13. 講義、実技、グループワーク

14. 講義、実技、グループワーク
15. 講義、DVD視聴

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. 復習：「子どもと身体表現Ⅱ」について、講義内容を復習し、まとめる。（45分）
2. 復習：「身体表現の基礎的な動き」の講義と実技の内容を復習し、まとめる。（45分）
3. 予習：「イメージを豊かにする身体表現Ⅰ 身近な生き物になって①虫」の例について調べ、まとめる。（45分）
4. 予習：「イメージを豊かにする身体表現Ⅱ 身近な生き物になって②動物」の例について調べ、まとめる。（45分）
5. 復習：「イメージを豊かにする身体表現Ⅲ 見たことや経験したことを表現する①」の講義と実技の内容を復習し、まとめる（45分） 予習：発表に向けて準備する。（45分）
6. 復習：「イメージを豊かにする身体表現Ⅳ 見たことや経験したことを表現する②発表」について振り返り、まとめる。（45分）
7. 予習：「イメージを豊かにする身体表現Ⅴ 自然現象＜群像・海・風＞」の例について調べ、まとめる。（45分）
8. 復習：「身体表現のねらい及び指導法」の講義内容を復習し、まとめる。（45分）
9. 復習：「素材の特性を生かした身体表現＜新聞紙に変身＞」の講義と実技の内容を復習し、まとめる。（45分）
10. 予習：「協働して行う身体表現Ⅰ」の忍者の術や戦い等の例について調べ、まとめる。（45分）
11. 予習：「協働して行う身体表現Ⅱ」の忍者のお話を考え、まとめる。（45分）
12. 復習：「協働して行う身体表現Ⅲ」の発表を振り返り、まとめる。（45分）
13. 予習：「楽しさを生み出す身体表現Ⅰ」のリズムダンスの動きを考える。（45分）
14. 復習：「楽しさを生み出す身体表現Ⅱ」の発表を振り返り、まとめる。（45分）
15. 復習：「身体表現」の実践例をもとに指導法の復習をし、まとめる。（45分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	80	**%**	**確認テスト：**	－	**%**	**レポート：**	20 **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準：

60～69点：身体表現の指導に関する、幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因について知り、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などの専門的事項についての知識・技能、指導法をおよそ理解している。
また、自身の感性を豊かにし、表現する力がおよそ身に付いている。
70～79点：身体表現の指導に関する、幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因について知り、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などの専門的事項についての知識・技能、指導法を理解している。
また、自身の感性を豊かにし、表現する力が身に付いている。
80～100点：身体表現の指導に関する、幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因について知り、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などの専門的事項についての知識・技能、指導法を十分に理解している。
また、自身の感性を豊かにし、表現する力が十分に身に付いている。

課題へのフィードバック：

授業の中で、適宜全体に対してフィードバックを行う。

教科書： なし

参考書：

・文部科学省『幼稚園教育要領解説』（平成30年3月）フレーベル館 ※文部科学省HPよりダウンロード可能（平成30年２月）
・内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（平成30年３月）フレーベル館 ※こども家庭庁HPよりダウンロード可能（平成30年３月）
・厚生労働省『保育所保育指針解説』（平成30年３月）フレーベル館 ※厚生労働省HPよりダウンロード可能（平成30年２月）
・授業中に適宜資料を配布する。

授業・準備学習のアドバイス：

・実技、実践を通して、学ぶことが主体の授業となる。また、他者とイメージを出し合い、表現を作り出すことも重要となる。授業内容に応じた服装で、積極的に取り組むこと。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 保育内容(総論)

クラス: 小+幼保前(内規科目)

授業コード: DA41300001

担当者: 猪田 裕子 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:幼稚園教諭(私立)

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園)【必修】

含めることが必要な事項: 保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 保育内容総論は、保育の理念や目標を理解し、子どもの発達特性や生活に基づいて構成された保育内容を体系的に学ぶことを目的とする。本科目では、保育所保育指針、幼稚園教育要領、認定こども園教育・保育要領に示された保育内容の各領域(健康、人間関係、環境、言葉、表現)についてその意義や実践方法を学び、子どもの発達を支える保育内容の構成や展開について基礎的な力を養う。また、子どもの権利条約が示す「子どもの最善の利益の保障」の視点を重視し、すべての子どもが安心して学び育つことができる保育内容を追求する姿勢を育むことを目指す。

到達目標:
1. 保育所保育指針、幼稚園教育要領、認定こども園教育・保育要領に基づく保育内容の理念や構造を理解すること。
2. 子どもの発達特性や生活に応じた保育内容の各領域(健康、人間関係、環境、言葉、表現)の意義と実践方法を説明できること。
3. 各領域の相互の関連性を理解し、一貫性のある保育内容の構成を考えられる力を身につけること。
4. 子どもの権利条約に基づき、すべての子どもの最善の利益を保障する視点から保育内容を検討できること。
5. 子どもが安心して育ち、主体的に活動できる保育内容を構築する姿勢を養うこと。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション(これまでの学びの振り返りと授業科目内容の理解)
これまで学んだ保育内容に関する基礎知識を振り返り、本授業の学びの目的や全体像を理解する。自身の学びの課題を明確にし、授業への主体的な取り組みを促す。

2. 乳幼児教育の本質と子どもの姿(乳幼児教育の本質を再考する)
乳幼児教育の意義や目的について、子どもの発達特性を踏まえて考える。子どもの姿を具体的に捉えながら、教育の本質とは何かを再考する。

3. 子ども理解について(保育に出発点は子ども理解からであるとの理解を深める)
子ども理解の重要性について学び、子ども一人ひとりの発達や個性を尊重した保育の出発点を考える。子どもをよく観察し、その背景やニーズを読み取る力を養う。

4. 子どもの権利を保障することと子どもの最善の利益の関係性について理解する
子どもの権利条約に基づき、子どもの最善の利益を保障する保育の在り方を学ぶ。具体的な事例を通じて、権利保障が子どもの育ちに与える影響を考察する。

5. 子どもの遊び(保育内容から具体的な子どもの遊びを再考する)
保育内容の視点から、子どもの遊びの意義や重要性を学ぶ。具体的な遊びの事例を通じて、遊びが子どもの発達にどのように寄与するかを理解する。

6. 子どもの遊びと学びに向かう力(具体的な子どもの姿から学びに向かう力を考察する)
子どもの遊びの中に潜む学びに向かう力を考察する。具体的な子どもの行動や遊びを観察し、その背景にある発達や学びへの意欲を理解する。

7.「教育とは何か」を考察する(教育とは人間形成であるとの視座のもと、乳幼児教育の重要性を考察する)
教育とは何かを人間形成という視座から捉え直し、乳幼児期における教育の意義を考察する。教育が子どもの成長や社会への適応に果たす役割を理解する。

8. 3つの柱と幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について、実践例を交えながら学びを深める
3つの柱と、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について学ぶ。実践例を通じて、それぞれの柱が子どもの発達に与える影響を具体的に理解する。

9. 愛着関係と子どもの育ちについての理解を深める
愛着関係が子どもの発達に与える重要性を学ぶ。保育者と子どもの関係性が安心感や自信の育成にどのように寄与するかを考察する。

10. 幼児教育思想の歴史と教育の変遷(教育の歴史を踏まえ現代幼児教育を概観する)
幼児教育思想の歴史を振り返り、現代の幼児教育に至るまでの変遷を学ぶ。歴史的背景から、現代の教育が目指す方向性を理解する。

11. 映像視聴① 保育者の支援や子どもの自立に向けた成長を考察する(情報機器の活用)
映像を通じて、保育者が子どもを支援しながら自立を促す実践例を学ぶ。子どもの成長を支える保育者の役割を具体的に考察する。

12. 映像視聴② 仲間と協力し合う過程で育まれる社会性について学び、保育者が果たすべき役割を考える(情報機器の活用)
映像を通じて、子どもたちが仲間と協力しながら社会性を育む姿を観察する。保育者が果たすべき役割を具体例から学び、保育実践に活かす視点を養う。

13. 教材研究①(具体的な教材を通し、子どもの姿と保育の在り方を考える)
具体的な教材を取り上げ、それを通じて見えてくる子どもの姿を考察する。教材が保育内容の中でどのように活用されるべきかを学ぶ。

14. 教材研究②(具体的な教材を通し、保育の環境を考える)

教材を保育環境の一部として捉え、その環境が子どもの発達や学びにどのように影響するかを考える。教材と環境の一体的な在り方を検討する。

15. まとめと確認（遊びの中の学びの視点とその指導方法の理解、今後の課題と展望について）
これまでの授業内容を振り返り、遊びを通じた学びの視点や具体的な指導方法について確認する。学びの成果を次のステップへつなげるため、今後の課題と展望を整理する。

特記事項： なし

授業方法： 【対面】
保育内容を総合的に捉えることを目的とするため、映像視聴や具体的な実践事例などを取り入れながら講義及び演習形式で進める。また、ディスカッションやディベートを行うことで各自の思考の深まりを図る。

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. 保育内容の研究（5領域）の学びを振返る（180分）
2. 教育の歴史的変遷を時系列を追ってまとめる（180分）
3. これまでの学びを振り返り、幼児教育の本質を各自で再考する（180分）
4. これまでの学びを振り返り、各自で子どもの遊びを具体的に再考する（180分）
5. これまでの学びを振り返り、子どもの遊びの中の学びを再考する（180分）
6. 当該箇所の内容をテキストを参考にまとめる（180分）
7. 当該箇所の内容をテキストを参考にまとめる（180分）
8. 当該箇所の内容をテキストを参考にまとめる（180分）
9. 当該箇所の内容をテキストを参考にまとめる（180分）
10. 当該箇所の内容をテキストを参考にまとめる（180分）
11. 当該箇所の内容をテキストを参考にまとめる（180分）
12. 世界の幼児教育に関する内容を資料を参考にまとめる（180分）
13. 保育に関する教材研究を行う（180分）
14. 子どもを捉える視点についてテキストを参考に考える（180分）
15. これまでの学びの全体を振返り、内容を各自でまとめる（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	15 **%**	**確認テスト：**	50 **%**	**レポート：**	35 **%**
その他1：			**%**		
その他2：			**%**		

評価基準：
・子どもを捉える視点について述べる事ができる(80-100)
・子どもの権利について説明することができる(70-79)
・自らの保育観及び子ども観について明確に述べることができる(80-100)
・確認テスト（各回で学んだことに関して、その内容をある程度理解している）(60-69)

課題へのフィードバック：
・適宜、授業の中で助言を行う
・授業の最初に、前回の復習を行う
・授業の最後に質問用紙を配布配収し、次の授業でそれに答える

教科書： 森眞理・猪田裕子編著『子どもの権利との対話から学ぶ 保育内容総論』（北大路書房）

参考書： 令和5年度最新版 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞ ISBN 978-4-8054-0330-3 チャイルド社

授業・準備学習のアドバイス：
授業では、理論と実践の両面から保育内容を学びます。事前に指定された文献や保育所保育指針・幼稚園教育要領などに目を通し、基本的な概念を理解しておきましょう。また、子どもの姿や遊びの様子を観察する機会を持つことで、より深い学びにつながります。授業後は、学んだ内容を振り返り、自身の考えをまとめることで理解を深めてください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 保育内容(総論)

クラス: 小+幼保後(内規科目)

授業コード: DA41300002

担当者: 猪田 裕子 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:幼稚園教諭(私立)

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園)【必修】

含めることが必要な事項: 保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 保育内容総論は、保育の理念や目標を理解し、子どもの発達特性や生活に基づいて構成された保育内容を体系的に学ぶことを目的とする。本科目では、保育所保育指針、幼稚園教育要領、認定こども園教育・保育要領に示された保育内容の各領域(健康、人間関係、環境、言葉、表現)についてその意義や実践方法を学び、子どもの発達を支える保育内容の構成や展開について基礎的な力を養う。また、子どもの権利条約が示す「子どもの最善の利益の保障」の視点を重視し、すべての子どもが安心して学び育つことができる保育内容を追求する姿勢を育むことを目指す。

到達目標:
1. 保育所保育指針、幼稚園教育要領、認定こども園教育・保育要領に基づく保育内容の理念や構造を理解すること。
2. 子どもの発達特性や生活に応じた保育内容の各領域(健康、人間関係、環境、言葉、表現)の意義と実践方法を説明できること。
3. 各領域の相互の関連性を理解し、一貫性のある保育内容の構成を考えられる力を身につけること。
4. 子どもの権利条約に基づき、すべての子どもの最善の利益を保障する視点から保育内容を検討できること。
5. 子どもが安心して育ち、主体的に活動できる保育内容を構築する姿勢を養うこと。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション(これまでの学びの振り返りと授業科目内容の理解)
これまで学んだ保育内容に関する基礎知識を振り返り、本授業の学びの目的や全体像を理解する。自身の学びの課題を明確にし、授業への主体的な取り組みを促す。

2. 乳幼児教育の本質と子どもの姿(乳幼児教育の本質を再考する)
乳幼児教育の意義や目的について、子どもの発達特性を踏まえて考える。子どもの姿を具体的に捉えながら、教育の本質とは何かを再考する。

3. 子ども理解について(保育に出発点は子ども理解からであるとの理解を深める)
子ども理解の重要性について学び、子ども一人ひとりの発達や個性を尊重した保育の出発点を考える。子どもをよく観察し、その背景やニーズを読み取る力を養う。

4. 子どもの権利を保障することと子どもの最善の利益の関係性について理解する
子どもの権利条約に基づき、子どもの最善の利益を保障する保育の在り方を学ぶ。具体的な事例を通じて、権利保障が子どもの育ちに与える影響を考察する。

5. 子どもの遊び(保育内容から具体的な子どもの遊びを再考する)
保育内容の視点から、子どもの遊びの意義や重要性を学ぶ。具体的な遊びの事例を通じて、遊びが子どもの発達にどのように寄与するかを理解する。

6. 子どもの遊びと学びに向かう力(具体的な子どもの姿から学びに向かう力を考察する)
子どもの遊びの中に潜む学びに向かう力を考察する。具体的な子どもの行動や遊びを観察し、その背景にある発達や学びへの意欲を理解する。

7.「教育とは何か」を考察する(教育とは人間形成であるとの視座のもと、乳幼児教育の重要性を考察する)
教育とは何かを人間形成という視座から捉え直し、乳幼児期における教育の意義を考察する。教育が子どもの成長や社会への適応に果たす役割を理解する。

8. 3つの柱と幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について、実践例を交えながら学びを深める
3つの柱と、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について学ぶ。実践例を通じて、それぞれの柱が子どもの発達に与える影響を具体的に理解する。

9. 愛着関係と子どもの育ちについての理解を深める
愛着関係が子どもの発達に与える重要性を学ぶ。保育者と子どもの関係性が安心感や自信の育成にどのように寄与するかを考察する。

10. 幼児教育思想の歴史と教育の変遷(教育の歴史を踏まえ現代幼児教育を概観する)
幼児教育思想の歴史を振り返り、現代の幼児教育に至るまでの変遷を学ぶ。歴史的背景から、現代の教育が目指す方向性を理解する。

11. 映像視聴① 保育者の支援や子どもの自立に向けた成長を考察する(情報機器の活用)
映像を通じて、保育者が子どもを支援しながら自立を促す実践例を学ぶ。子どもの成長を支える保育者の役割を具体的に考察する。

12. 映像視聴② 仲間と協力し合う過程で育まれる社会性について学び、保育者が果たすべき役割を考える(情報機器の活用)
映像を通じて、子どもたちが仲間と協力しながら社会性を育む姿を観察する。保育者が果たすべき役割を具体例から学び、保育実践に活かす視点を養う。

13. 教材研究①(具体的な教材を通し、子どもの姿と保育の在り方を考える)
具体的な教材を取り上げ、それを通じて見えてくる子どもの姿を考察する。教材が保育内容の中でどのように活用されるべきかを学ぶ。

14. 教材研究②(具体的な教材を通し、保育の環境を考える)

教材を保育環境の一部として捉え、その環境が子どもの発達や学びにどのように影響するかを考える。教材と環境の一体的な在り方を検討する。

15. まとめと確認（遊びの中の学びの視点とその指導方法の理解、今後の課題と展望について）
これまでの授業内容を振り返り、遊びを通じた学びの視点や具体的な指導方法について確認する。学びの成果を次のステップへつなげるため、今後の課題と展望を整理する。

特記事項： なし

授業方法： 【対面】
保育内容を総合的に捉えることを目的とするため、映像視聴や具体的な実践事例などを取り入れながら講義及び演習形式で進める。また、ディスカッションやディベートを行うことで各自の思考の深まりを図る。

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. 保育内容の研究（5領域）の学びを振返る（180分）
2. 教育の歴史的変遷を時系列を追ってまとめる（180分）
3. これまでの学びを振り返り、幼児教育の本質を各自で再考する（180分）
4. これまでの学びを振り返り、各自で子どもの遊びを具体的に再考する（180分）
5. これまでの学びを振り返り、子どもの遊びの中の学びを再考する（180分）
6. 当該箇所の内容をテキストを参考にまとめる（180分）
7. 当該箇所の内容をテキストを参考にまとめる（180分）
8. 当該箇所の内容をテキストを参考にまとめる（180分）
9. 当該箇所の内容をテキストを参考にまとめる（180分）
10. 当該箇所の内容をテキストを参考にまとめる（180分）
11. 当該箇所の内容をテキストを参考にまとめる（180分）
12. 世界の幼児教育に関する内容を資料を参考にまとめる（180分）
13. 保育に関する教材研究を行う（180分）
14. 子どもを捉える視点についてテキストを参考に考える（180分）
15. これまでの学びの全体を振返り、内容を各自でまとめる（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	15 **%**	**確認テスト：**	50 **%**	**レポート：**	35 **%**
その他1：			**%**		
その他2：			**%**		

評価基準：
・子どもを捉える視点について述べる事ができる(80-100)
・子どもの権利について説明することができる(70-79)
・自らの保育観及び子ども観について明確に述べることができる(80-100)
・確認テスト（各回で学んだことに関して、その内容をある程度理解している）(60-69)

課題へのフィードバック：
・適宜、授業の中で助言を行う
・授業の最初に、前回の復習を行う
・授業の最後に質問用紙を配布配収し、次の授業でそれに答える

教科書： 森眞理・猪田裕子編著『子どもの権利との対話から学ぶ 保育内容総論』（北大路書房）

参考書： 令和5年度最新版 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞ ISBN 978-4-8054-0330-3 チャイルド社

授業・準備学習のアドバイス：
授業では、理論と実践の両面から保育内容を学びます。事前に指定された文献や保育所保育指針・幼稚園教育要領などに目を通し、基本的な概念を理解しておきましょう。また、子どもの姿や遊びの様子を観察する機会を持つことで、より深い学びにつながります。授業後は、学んだ内容を振り返り、自身の考えをまとめることで理解を深めてください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 保育内容(健康)

クラス: 小+幼保前(内規科目)

授業コード: DA41400001

担当者: 植山 佐智子 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立幼稚園園長・教諭

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園)【必修】

含めることが必要な事項: 保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む)

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 導入として保育観の共通認識を行ったうえで「生活リズム、基本的生活習慣、安全生活、生きる力、遊ぶ力」の5項目について基本の知識を理解し、子どもの健康課題を把握する。授業については、グループワークで学びを深め、実技や体験学習、安全年間計画等の作成、子どもの健康に関する新聞記事等に目を通したり、情報機器を使いグループワーク研究を発表する。

到達目標:
1. 子どもたちの発育発達、基本的生活習慣の形成、安全管理等について理解を深める
2. 子どもの心身の育ちに着目し、どのような環境や援助・指導が適しているかを自ら進んで考える。
3. 乳幼児の体や子どもを取り巻く環境に関心を持ち、その問題点、改善の方策を自分なりに考える。

各回の授業計画:

1. 講義、オリエンテーション
・クループ学習に向けてのグループ編成と課題

2. 講義
・グループに分かれてプレゼンテーション作成
・集団遊びを決めて保育の導入や進行を話し合う

3. 講義、『食育と栄養』①
・パワーポイント発表
・食育カード作成と資料説明

4. 講義、『食育と栄養』②
・食育カード発表(グループワーク)

5. 講義、『食育と栄養』③
・食育カード発表(グループワーク)

6. 集団遊び(室内で体を使って遊ぶ)
・二つのグループが指導し模擬保育をする

7. 講義、『リズムジャンプ』①
・運動実技「リズムジャンプ」体験(講師 津田幸保先生)

8. 講義、『リズムジャンプ』②
・保育実践と子どもたちの成長を見る(プレゼンテーション)
・プレゼンを見た感想と体験をした感想を書く

9. 講義、『第7章 安全管理と安全教育』①
・2グループがプレゼンを発表する
・○×クイズ作成説明パワーポイントを見る

10. 講義、『第7章 安全管理と安全教育』②
・○×クイズ作成する

11. 講義、『第7章 安全管理と安全教育』③
・○×クイズ発表
・ほけんだより作成プレゼンテーション

12. 講義、『第7章 安全管理と安全教育』④
・ほけんだよりの課題発表
・ほけんだより作成する

13. 講義、『第7章 安全管理と安全教育』⑤
・ほけんだより発表
・学び発表(2グループ)

14. 講義 、『安全教育〜震災から学ぶ』

15.『安全教育〜震災から学ぶ』②
・「ひまわりのおか」の絵本を見る
・まとめ

特記事項: なし

授業方法: ①～⑮ 対面授業

① オリエンテーション、グループワーク（課題検討）
② 講義、グループワーク（パワーポイント作成）
③ 講義、パワーポイント発表
④ 講義、教材制作
⑤ 講義、教材発表（グループワーク）
⑥ 模擬保育（集団遊び、2グループ）
⑦ 運動実技「リズムジャンプ」講師 津田幸保客員教授
⑧ 講義、パワーポイントを見て学ぶ
⑨ 講義、安全教育プレゼン発表
⑩ 講義、安全教育教材作成（○×クイズ紙芝居）
⑪ 講義、安全教育教材作成（グループワーク）
⑫ パソコン（ほけんだより作成）
⑬ 講義、ほけんだより発表
⑭ 講義 、パワーポイントを見て学ぶ
⑮ 絵本を見る、まとめ

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. グループ学習の内容についてグループで検討する（240分）
2. グループでパワポ作成（240分）幼児向け安全教育の内容を考える
3. 発表を聞き教材を制作する（240分）
4. 教材を制作する（240分）保育教材を作成し保育指導案につなげる（240分）
5. グループで発表教材を選定する（240分）
6. 模擬保育（室内での集団遊び）の導入を展開を考える（240分）
7. 「リズムジャンプ」について調べ理解する（240分）
8. 「リズムジャンプ」の保育実践をプレゼンから学び体験と感想をまとめる（240分）
9. グループのパワポ発表について内容をまとめる（240分）
10. 教材（○×クイズ）を制作する（240分）
11. 教材（○×クイズ）をグループ発表を選定する（240分）
12. 「ほけんだより」作成する（240分）
13. グループで「ほけんだより」を検討し、「ほけんだより」の考察を深める（240分）
14. 災害、震災などから教育を考えまとめる（240分）

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	**%**	**レポート:**	70 **%**
その他1:			**%**		
その他2:			**%**		

評価基準: ○課題提出 3分の1（60～69点）、3分の2（70～79点）、全て（80～100点）

（80～100）
・課題内容も概説され、応用、発展記述を含んでいる。
・授業時に積極的な運動参加や製作参加が見られる
・グループでの話し合いで、話し合いの内容を求めて、発言することができる
（70～79）
・課題内容も概説され、応用できる。
・運動遊びの実践指導及び指導案作成ができる。
・グループでの話し合いで、話し合いの内容を求めて、発言することができる
（60～69）
・課題内容も概説できる。
・運動遊びの実践指導及び指導案作成ができる。
・グループでの話し合いで、発言することができる
※授業の参加態度は、積極的な実技やグループワークへの参加を含む。

課題へのフィードバック:

・指導案等（保育指導案・保護者向け保健だよりは,添削後授業で講評し、返却する。
・「ダンス」（創作）はグループ発表をし、授業の中で講評し、グループとしての評価とする。
・レポートについては、添削後授業で講評し返却する

教科書: ・新時代の保育双書「保育内容健康」[第2版]』みらい（2019年3月）

参考書: ・内閣府 文部科学省 厚生労働省『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社（2017年6月）

授業・準備学習のアドバイス:

心と体が健康に育つために、保育者が配慮すべきことや環境の構成など、広い範囲で領域「健康」を捉えること。体験学習を通して、幼児の遊びの楽しさや大切を学んでほしい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 保育内容(健康)

クラス: 小+幼保後(内規科目)

授業コード: DA41400002

担当者: 植山 佐智子 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立幼稚園園長・教諭

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園)【必修】

含めることが必要な事項: 保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む)

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 導入として保育観の共通認識を行ったうえで「生活リズム、基本的生活習慣、安全生活、生きる力、遊ぶ力」の5項目について基本の知識を理解し、子どもの健康課題を把握する。授業については、グループワークで学びを深め、実技や体験学習、安全年間計画等の作成、子どもの健康に関する新聞記事等に目を通したり、情報機器を使いグループワーク研究を発表する。

到達目標:
1. 子どもたちの発育発達、基本的生活習慣の形成、安全管理等について理解を深める
2. 子どもの心身の育ちに着目し、どのような環境や援助・指導が適しているかを自ら進んで考える。
3. 乳幼児の体や子どもを取り巻く環境に関心を持ち、その問題点、改善の方策を自分なりに考える。

各回の授業計画:

1. 講義、オリエンテーション
・クループ学習に向けてのグループ編成と課題

2. 講義
・グループに分かれてプレゼンテーション作成
・集団遊びを決めて保育の導入や進行を話し合う

3. 講義、『食育と栄養』①
・パワーポイント発表
・食育カード作成と資料説明

4. 講義、『食育と栄養』②
・食育カード発表(グループワーク)

5. 講義、『食育と栄養』③
・食育カード発表(グループワーク)

6. 集団遊び(室内で体を使って遊ぶ)
・二つのグループが指導し模擬保育をする

7. 講義、『リズムジャンプ』①
・運動実技「リズムジャンプ」体験(講師 津田幸保先生)

8. 講義、『リズムジャンプ』②
・保育実践と子どもたちの成長を見る(プレゼンテーション)
・プレゼンを見た感想と体験をした感想を書く

9. 講義、『第7章 安全管理と安全教育』①
・2グループがプレゼンを発表する
・○×クイズ作成説明パワーポイントを見る

10. 講義、『第7章 安全管理と安全教育』②
・○×クイズ作成する

11. 講義、『第7章 安全管理と安全教育』③
・○×クイズ発表
・ほけんだより作成プレゼンテーション

12. 講義、『第7章 安全管理と安全教育』④
・ほけんだよりの課題発表
・ほけんだより作成する

13. 講義、『第7章 安全管理と安全教育』⑤
・ほけんだより発表
・学び発表(2グループ)

14. 講義 、『安全教育〜震災から学ぶ』

15.『安全教育〜震災から学ぶ』②
・「ひまわりのおか」の絵本を見る
・まとめ

特記事項: なし

授業方法: ①～⑮ 対面授業

① オリエンテーション、グループワーク（課題検討）
② 講義、グループワーク（パワーポイント作成）
③ 講義、パワーポイント発表
④ 講義、教材制作
⑤ 講義、教材発表（グループワーク）
⑥ 模擬保育（集団遊び、2グループ）
⑦ 運動実技「リズムジャンプ」講師 津田幸保客員教授
⑧ 講義、パワーポイントを見て学ぶ
⑨ 講義、安全教育プレゼン発表
⑩ 講義、安全教育教材作成（○×クイズ紙芝居）
⑪ 講義、安全教育教材作成（グループワーク）
⑫ パソコン（ほけんだより作成）
⑬ 講義、ほけんだより発表
⑭ 講義 、パワーポイントを見て学ぶ
⑮ 絵本を見る、まとめ

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. グループ学習の内容についてグループで検討する（240分）
2. グループでパワポ作成（240分）幼児向け安全教育の内容を考える
3. 発表を聞き教材を制作する（240分）
4. 教材を制作する（240分）保育教材を作成し保育指導案につなげる（240分）
5. グループで発表教材を選定する（240分）
6. 模擬保育（室内での集団遊び）の導入を展開を考える（240分）
7. 「リズムジャンプ」について調べ理解する（240分）
8. 「リズムジャンプ」の保育実践をプレゼンから学び体験と感想をまとめる（240分）
9. グループのパワポ発表について内容をまとめる（240分）
10. 教材（○×クイズ）を制作する（240分）
11. 教材（○×クイズ）をグループ発表を選定する（240分）
12. 「ほけんだより」作成する（240分）
13. グループで「ほけんだより」を検討し、「ほけんだより」の考察を深める（240分）
14. 災害、震災などから教育を考えまとめる（240分）

評価方法:	**授業へのとりくみ:**	30 **%**	**確認テスト:**	**%**	**レポート:**	70 **%**
	その他1:			**%**		
	その他2:			**%**		

評価基準: ○課題提出 3分の1（60～69点）、3分の2（70～79点）、全て（80～100点）

（80～100）
・ 課題内容も概説され、応用、発展記述を含んでいる。
・授業時に積極的な運動参加や製作参加が見られる
・グループでの話し合いで、話し合いの内容を求めて、発言することができる。
（70～79）
・ 課題内容も概説され、応用できる。
・ 運動遊びの実践指導及び指導案作成ができる。
・グループでの話し合いで、話し合いの内容を求めて、発言することができる。
（60～69）
・ 課題内容も概説できる。
・ 運動遊びの実践指導及び指導案作成ができる。
・グループでの話し合いで、発言することができる
※授業の参加態度は、積極的な実技やグループワークへの参加を含む。

課題へのフィードバック:

・指導案等（保育指導案・保護者向け保健だよりは,添削後授業で講評し、返却する。
・「ダンス」（創作）はグループ発表をし、授業の中で講評し、グループとしての評価とする。
・レポートについては、添削後授業で講評し返却する

教科書: ・新時代の保育双書「保育内容健康」[第2版]』みらい（2019年3月）

参考書: ・内閣府 文部科学省 厚生労働省『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社（2017年6月）

授業・準備学習のアドバイス:

心と体が健康に育つために、保育者が配慮すべきことや環境の構成など、広い範囲で領域「健康」を捉えること。体験学習を通して、幼児の遊びの楽しさや大切を学んでほしい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 保育内容(人間関係)

クラス: 小+幼保前(内規科目)

授業コード: DA41500001

担当者: 福井 逸子 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公・私立幼稚園教諭(主任教諭)、保育士(非)

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園)【必修】

含めることが必要な事項: 保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 現代社会の多様な人間関係の中で育っていく子どもたちにとって、人間形成の土台を築く乳幼児期の関わりは重要である。保育者として、子どもの人間関係における発達過程と、子どもが園生活において主体的かつ意欲的に遊び、学ぶ過程を理解し、そのプロセスに即して、具体的な支援や指導を行える実践力を身につける。

到達目標:
・領域「人間関係」のねらいと内容について理解する。
・保育者の働きと役割について理解・考察を深める。
・子どもの社会性・人間関係の発達プロセスについて理解・考察を深める。
・領域「人間関係」を保育するにあたり、実践上の配慮について理解・考察を深める。
・豊かな人間関係を育む保育実践計画、指導案の作成について理解を深める。

各回の授業計画:

1. 授業についてのオリエンテーション～人間関係から学ぶこと～
2. 子どもたちの人間関係(フォトランゲージの作成)-PCから画像を入手して作成-
3. 人間関係とは何か～自分を中心とした人間関係を振り返る～
4. 保育領域としての人間関係について
5. 幼稚園教育要領から学ぶ①(情報機器及び教材の活用)
6. 保育所保育指針・認定こども園教育・保育要領から学ぶ②(情報機器及び教材の活用)
7. 幼稚園教育要領から学ぶ①「幼児編」～教材研究と指導計画の作成～(情報機器及び教材の活用)
8. 保育所保育指針から学ぶ②「乳児編」～教材研究と指導計画の作成～(情報機器及び教材の活用)
9. 模擬保育と振り返り①「幼児編」～実践と質疑応答～
10. 模擬保育と振り返り②「乳児編」～実践と質疑応答～
11. 模擬保育後の修正案の作成①「幼児編」
12. 模擬保育後の修正案の作成②「乳児編」
13. 豊かな人間関係を導く保育実践(実践事例の検索と発表)
14. 人間関係における保育者の影響力について
15. 授業全体の振り返りと確認テスト

特記事項: なし

授業方法: 授業は、すべて対面で行う。
講義と演習が基本となる。
指導計画の作成や修正については、各自パソコンでの作業となる。
模擬保育の実践や発表など、個別・またはグループごとに行う。
グループ内でのディスカッション、グループ発表等、協同的な取り組みがある。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 予習:指針・要領 熟読・復習:(180分)
2. 復習:ワークシート課題(180分)
3. 復習:ワークシート課題(180分)
4. 復習:ワークシート課題(180分)
5. 復習:ワークシート課題(180分)
6. 予習:指針と要領熟読・復習:「領域カード」の作成(180分)
7. 予習:指針および要領熟読・復習:ショートレポート(180分)
8. 予習:教材研究・復習:指導案作成①(180分)
9. 予習:指導案作成②・復習:指導案修正(180分)
10. 予習:模擬保育準備・復習:指導案振り返り(180分)
11. 予習:模擬保育準備・復習:指導案振り返り(180分)

12. 予習：模擬保育準備・復習：指導案振り返り（180分）
13. 予習：保育実践例調べ①・復習：実践例プレゼン準備①（180分）
14. 予習：保育実践例調べ②・復習：実践例プレゼン準備②（180分）
15. 予習：まとめのワーク・復習：キーワード・キー概念の整理（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	20 **%**	**確認テスト：**	30 **%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	授業で取り組んだ課題やワークなどの成果物	50 **%**			
その他2：		**%**			

評価基準：

到達度(60-69点)
保育および発達に関する基礎的な専門用語を答えることができる。
保育者の基本姿勢についてキーワードを答えることができる。
領域「人間関係」のキーワードと保育実践上の配慮について、答えることができる。
指導案を書式にそって作成できる。
到達度(80-100点)
保育および発達に関する基礎的な専門用語や概念を把握し説明できる。
保育者の基本姿勢についてキーワードを用いて、キー概念を説明できる。
領域「人間関係」のキーワードと保育実践上の配慮について、保育の観点から説明できる。指導案を書式に沿って作成でき、自分なりに解説および自己評価ができる。

課題へのフィードバック：

毎時間ごとの質問事項については、チャットを用いたり、講義全体の中で返す。
課題（指導計画等）については、内容確認の後、授業内で返却し、個別及び全体的な講評を行う。

教科書：

・田村美由紀 室井佑美（著）『〈領域〉人間関係ワークブック』萌文書林（2017年）
・内閣府 文部科学省 厚生労働省『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド社（2017年6月）

参考書：

・無藤隆、古賀松香 著『社会情動的スキルを育む「保育内容 人間関係」』北大路書房（2016年）
・永田豊志『すべての勉強は、「図」!でうまくいく: 今までの10倍「記憶力」「思考力」が強くなる』
三笠書房
・『月刊 保育とカリキュラム』ひかりのくに（保育雑誌）

授業・準備学習のアドバイス：

「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」が示す子どもに必要な体験を把握し、さまざまな遊びや活動、生活習慣をあなた自身もたくさん体験して実践力につなげてほしい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 保育内容(人間関係)

クラス: 小+幼保後(内規科目)

授業コード: DA41500002

担当者: 福井 逸子 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公・私立幼稚園教諭(主任教諭)、保育士(非)

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園)【必修】

含めることが必要な事項: 保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 現代社会の多様な人間関係の中で育っていく子どもたちにとって、人間形成の土台を築く乳幼児期の関わりは重要である。保育者として、子どもの人間関係における発達過程と、子どもが園生活において主体的かつ意欲的に遊び、学ぶ過程を理解し、そのプロセスに即して、具体的な支援や指導を行える実践力を身につける。

到達目標:
・領域「人間関係」のねらいと内容について理解する。
・保育者の働きと役割について理解・考察を深める。
・子どもの社会性・人間関係の発達プロセスについて理解・考察を深める。
・領域「人間関係」を保育するにあたり、実践上の配慮について理解・考察を深める。
・豊かな人間関係を育む保育実践計画、指導案の作成について理解を深める。

各回の授業計画:

1. 授業についてのオリエンテーション～人間関係から学ぶこと～
2. 子どもたちの人間関係(フォトランゲージの作成)-PCから画像を入手して作成-
3. 人間関係とは何か～自分を中心とした人間関係を振り返る～
4. 保育領域としての人間関係について
5. 幼稚園教育要領から学ぶ①(情報機器及び教材の活用)
6. 保育所保育指針・認定こども園教育・保育要領から学ぶ②(情報機器及び教材の活用)
7. 幼稚園教育要領から学ぶ①「幼児編」～教材研究と指導計画の作成～(情報機器及び教材の活用)
8. 保育所保育指針から学ぶ②「乳児編」～教材研究と指導計画の作成～(情報機器及び教材の活用)
9. 模擬保育と振り返り①「幼児編」～実践と質疑応答～
10. 模擬保育と振り返り②「乳児編」～実践と質疑応答～
11. 模擬保育後の修正案の作成①「幼児編」
12. 模擬保育後の修正案の作成②「乳児編」
13. 豊かな人間関係を導く保育実践(実践事例の検索と発表)
14. 人間関係における保育者の影響力について
15. 授業全体の振り返りと確認テスト

特記事項: なし

授業方法: 授業は、すべて対面で行う。
講義と演習が基本となる。
指導計画の作成や修正については、各自パソコンでの作業となる。
模擬保育の実践や発表など、個別・またはグループごとに行う。
グループ内でのディスカッション、グループ発表等、協同的な取り組みがある。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 予習:指針・要領 熟読・復習:(180分)
2. 復習:ワークシート課題(180分)
3. 復習:ワークシート課題(180分)
4. 復習:ワークシート課題(180分)
5. 復習:ワークシート課題(180分)
6. 予習:指針と要領熟読・復習:「領域カード」の作成(180分)
7. 予習:指針および要領熟読・復習:ショートレポート(180分)
8. 予習:教材研究・復習:指導案作成①(180分)
9. 予習:指導案作成②・復習:指導案修正(180分)
10. 予習:模擬保育準備・復習:指導案振り返り(180分)
11. 予習:模擬保育準備・復習:指導案振り返り(180分)

12. 予習：模擬保育準備・復習：指導案振り返り（180分）
13. 予習：保育実践例調べ①・復習：実践例プレゼン準備①（180分）
14. 予習：保育実践例調べ②・復習：実践例プレゼン準備②（180分）
15. 予習：まとめのワーク・復習：キーワード・キー概念の整理（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	20 **%**	**確認テスト：**	30 **%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	授業で取り組んだ課題やワークなどの成果物	50 **%**			
その他2：		**%**			

評価基準：

到達度(60-69点)
保育および発達に関する基礎的な専門用語を答えることができる。
保育者の基本姿勢についてキーワードを答えることができる。
領域「人間関係」のキーワードと保育実践上の配慮について、答えることができる。
指導案を書式にそって作成できる。
到達度(80-100点)
保育および発達に関する基礎的な専門用語や概念を把握し説明できる。
保育者の基本姿勢についてキーワードを用いて、キー概念を説明できる。
領域「人間関係」のキーワードと保育実践上の配慮について、保育の観点から説明できる。指導案を書式に沿って作成でき、自分なりに解説および自己評価ができる。

課題へのフィードバック：

毎時間ごとの質問事項については、チャットを用いたり、講義全体の中で返す。
課題（指導計画等）については、内容確認の後、授業内で返却し、個別及び全体的な講評を行う。

教科書：

・田村美由紀 室井佑美（著）『〈領域〉人間関係ワークブック』萌文書林（2017年）
・内閣府 文部科学省 厚生労働省『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド社（2017年6月）

参考書：

・無藤隆、古賀松香 著『社会情動的スキルを育む「保育内容 人間関係」』北大路書房（2016年）
・永田豊志『すべての勉強は、「図」!でうまくいく: 今までの10倍「記憶力」「思考力」が強くなる』
三笠書房
・『月刊 保育とカリキュラム』ひかりのくに（保育雑誌）

授業・準備学習のアドバイス：

「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」が示す子どもに必要な体験を把握し、さまざまな遊びや活動、生活習慣をあなた自身もたくさん体験して実践力につなげてほしい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 保育内容(環境)

クラス: 小+幼保前(内規科目)

授業コード: DA41600001

担当者: 佐藤　智恵　　**単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:保育士

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園)【必修】

含めることが必要な事項: 保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 学生が主体的で対話的な学びが得られるよう、グループワークや模擬保育の実践を取り入れ、保育方法や保育内容のあり方への理解を深める。指導計画の作成、実践、ふり返りという流れを体験的に理解させるとともに、情報機器を活用する方法についても学びを深める。

到達目標:
1. 幼稚園教育要領に示された領域「環境」のねらい及び内容について理解を深め、幼稚園教育において育みたい資質能力について理解する。
2. 領域「環境」について他の領域と関連させて理解を深める。
3. 主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえ、領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション 保育内容「環境」とは何か
2. 幼児教育で大切にされている事柄について
3. 子ども理解を深める視点(1)理論編
4. 子ども理解を深める視点(2)実践編
5. 風を感じる遊び①教材研究
6. 風を感じる遊び②指導案作成
7. 風を感じる遊び③模擬保育(情報機器の活用)
8. 文字を使った遊び①幼児に適した活動を考える
9. 文字や数・量を使った遊び②指導案作成
10. 文字や数・量を使った遊び③指導案作成(2)
11. 文字や数・量を使った遊び④模擬保育(グループ)(情報機器の活用)
12. 文字や数・量を使った遊び⑤模擬保育(全体)
13. 年間計画と指導計画について
14. 領域「環境」の指導案作成
15. 確認テストとまとめ(保育内容「環境」について)

特記事項: なし

授業方法:
1. 講義(対面)
2. 講義(対面)
3. 講義と演習(対面)
4. 講義と演習(対面)
5. 演習とグループワーク(対面)
6. 講義・演習(対面)
7. 演習とグループワーク(対面)
8. 講義と演習(対面)
9. 演習(対面)
10. 演習(対面)
11. 講義とグループワーク・演習(対面)
12. グループワーク・演習(対面)
13. 演習(対面)
14. 演習(対面)
15. 確認テストと講義(対面)

予習・復習・宿題など(内容・時間):
1. (復習)領域「環境」と他の領域の関係性について熟読する(180分)
2. (復習)幼児教育の中で大切にされていることをまとめる(180分)

3.（復習）子ども理解の方法への理解を深める（180分）
4.（復習）子ども理解の方法への理解を深める（180分）
5.（予習）教材研究の準備をする（180分）
6.（復習）指導案を作成する（180分）
7.（予習）模擬保育の準備をする（180分）
8.（復習）文字や数・量を使った遊びを考える（180分）
9.（復習）指導案を作成する（180分）
10.（復習）指導案を作成する（180分）
11.（復習）模擬保育のふり返りを行う（180分）
12.（復習）模擬保育の振り返りを行う（180分）
13.（予習）指導計画について理解する（180分）
14.（課題）確認テストの準備をする（180分）
15.（予習）確認テストのためこれまでの授業内容をまとめる（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	15 **%**	**確認テスト：**	25 **%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	提出物		40 **%**		
その他2：	確認テスト②（模擬保育　動画）		20 **%**		

評価基準：

1. 授業への取り組み
・自分なり課題について考え、取り組むことができる（60～69点）
・メモを取ったり、質問しながら課題に取り組むことができる（70～79点）
・授業で学習した内容や他者の意見を取り入れながら、積極的に課題に取り組むことができる（80～100点）
2. 提出物
・授業の内容を理解し、提出物を作成できる（60～69点）、
・授業内容を十分理解した上で、自分なりの視点を持って提出物を作成できる（70～79点）
・授業内容を十分理解した上で、保育実践で使用する文言なども使用し提出物を作成できる（80～100点）

3. 確認テスト
・保育内容について理解し、授業で学習した指導案の基本的な書き方を理解している（60～69点）
・保育内容のあり方について理解した上で、授業で学習した指導案の書き方を理解し、保育実践で大切にされている考え方を含めた記載がある（70～79点）
・保育内容のあり方について理解した上で、授業で学習した指導案の書き方を十分に理解し、保育実践に関する豊かで正しい記載がある。（80～100点）

課題へのフィードバック：

・提出物については、添削、評価をして返却する。試験については返却しない。

教科書： 無藤 隆（著）、福元 真由美（編集）『領域「環境」事例で学ぶ保育内容』 萌文書林

参考書： 内閣府 文部科学省 厚生労働省『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社（2017年6月）

授業・準備学習のアドバイス：

・この科目は毎回、PCを使用する。毎回持参すること。
・遅刻は30分までとし、それ以降は欠席として扱う。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 保育内容(環境)

クラス: 小+幼保後(内規科目)

授業コード: DA41600002

担当者: 佐藤　智恵　　**単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:保育士

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園)【必修】

含めることが必要な事項: 保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 学生が主体的で対話的な学びが得られるよう、グループワークや模擬保育の実践を取り入れ、保育方法や保育内容のあり方への理解を深める。指導計画の作成、実践、ふり返りという流れを体験的に理解させるとともに、情報機器を活用する方法についても学びを深める。

到達目標:
1. 幼稚園教育要領に示された領域「環境」のねらい及び内容について理解を深め、幼稚園教育において育みたい資質能力について理解する。
2. 領域「環境」について他の領域と関連させて理解を深める。
3. 主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえ、領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション 保育内容「環境」とは何か
2. 幼児教育で大切にされている事柄について
3. 子ども理解を深める視点(1)理論編
4. 子ども理解を深める視点(2)実践編
5. 風を感じる遊び①教材研究
6. 風を感じる遊び②指導案作成
7. 風を感じる遊び③模擬保育(情報機器の活用)
8. 文字を使った遊び①幼児に適した活動を考える
9. 文字や数・量を使った遊び②指導案作成
10. 文字や数・量を使った遊び③指導案作成(2)
11. 文字や数・量を使った遊び④模擬保育(グループ)(情報機器の活用)
12. 文字や数・量を使った遊び⑤模擬保育(全体)
13. 年間計画と指導計画について
14. 領域「環境」の指導案作成
15. 確認テストとまとめ(保育内容「環境」について)

特記事項: なし

授業方法:
1. 講義(対面)
2. 講義(対面)
3. 講義と演習(対面)
4. 講義と演習(対面)
5. 演習とグループワーク(対面)
6. 講義・演習(対面)
7. 演習とグループワーク(対面)
8. 講義と演習(対面)
9. 演習(対面)
10. 演習(対面)
11. 講義とグループワーク・演習(対面)
12. グループワーク・演習(対面)
13. 演習(対面)
14. 演習(対面)
15. 確認テストと講義(対面)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. (復習)領域「環境」と他の領域の関係性について熟読する(180分)
2. (復習)幼児教育の中で大切にされていることをまとめる(180分)

3.（復習）子ども理解の方法への理解を深める（180分）
4.（復習）子ども理解の方法への理解を深める（180分）
5.（予習）教材研究の準備をする（180分）
6.（復習）指導案を作成する（180分）
7.（予習）模擬保育の準備をする（180分）
8.（復習）文字や数・量を使った遊びを考える（180分）
9.（復習）指導案を作成する（180分）
10.（復習）指導案を作成する（180分）
11.（復習）模擬保育のふり返りを行う（180分）
12.（復習）模擬保育の振り返りを行う（180分）
13.（予習）指導計画について理解する（180分）
14.（課題）確認テストの準備をする（180分）
15.（予習）確認テストのためこれまでの授業内容をまとめる（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	15 **%**	**確認テスト：**	25 **%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	提出物		40 **%**		
その他2：	確認テスト②（模擬保育　動画）		20 **%**		

評価基準：

1. 授業への取り組み
・自分なり課題について考え、取り組むことができる（60～69点）
・メモを取ったり、質問しながら課題に取り組むことができる（70～79点）
・授業で学習した内容や他者の意見を取り入れながら、積極的に課題に取り組むことができる（80～100点）
2. 提出物
・授業の内容を理解し、提出物を作成できる（60～69点）、
・授業内容を十分理解した上で、自分なりの視点を持って提出物を作成できる（70～79点）
・授業内容を十分理解した上で、保育実践で使用する文言なども使用し提出物を作成できる（80～100点）

3. 確認テスト
・保育内容について理解し、授業で学習した指導案の基本的な書き方を理解している（60～69点）
・保育内容のあり方について理解した上で、授業で学習した指導案の書き方を理解し、保育実践で大切にされている考え方を含めた記載がある（70～79点）
・保育内容のあり方について理解した上で、授業で学習した指導案の書き方を十分に理解し、保育実践に関する豊かで正しい記載がある。（80～100点）

課題へのフィードバック：

・提出物については、添削、評価をして返却する。試験については返却しない。

教科書： 無藤 隆（著）、福元 真由美（編集）『領域「環境」事例で学ぶ保育内容』萌文書林

参考書： 内閣府 文部科学省 厚生労働省『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社（2017年6月）

授業・準備学習のアドバイス：

・この科目は毎回、PCを使用する。毎回持参すること。
・遅刻は30分までとし、それ以降は欠席として扱う。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 保育内容(言葉)

クラス: 小+幼保前(内規科目)

授業コード: DA41700001

担当者: 高橋　一夫　　**単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園)【必修】

含めることが必要な事項: 保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 乳幼児の言葉の獲得過程や、言葉と社会性の発達などとの関係について理解を深める。また、乳幼児の生活の中での言葉の大切さを理解しながら、言葉の獲得に関わる保育者の具体的な援助について学ぶ。

到達目標:
1. 領域「言葉」のねらい及び内容について、背景となる専門的領域との関連を理解し、乳幼児の発達に応じた保育・幼児教育を構想することができる。
2. 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園・保育要領」に示された幼児期の終わりまでに育ってほしい姿から、領域「言葉」のねらい及び内容について深く理解することができる。
3. 領域「言葉」に関わり、乳幼児の発達や学びの過程を理解し、その育ちを支えることができる保育・幼児教育の実践力を身に付けることができる。

各回の授業計画:

1. 「ことば」とは
2. 子どもと「ことば」の関係とは
3. 領域「言葉」とは
4. 胎児～0歳児の発達と，クラスにおける保育実践
5. 1～2歳児の発達と，クラスにおける保育実践
6. 3歳児の発達と，クラスにおける保育実践
7. 4歳児の発達と，クラスにおける保育実践
8. 5歳児の発達と，クラスにおける保育実践
9. 0・1・2歳児の指導案の作成
10. 3・4・5歳児の指導案の作成
11. 領域「言葉」と保育の環境構成とは
12. 保育におけるICTの利活用とは
13. ダイバーシティ・インクルージョン社会と保育とは
14. 「ことば」を育む児童文化財とは
15. 保育・幼児教育と小学校へのつながり

特記事項: ※教科書は必須です。第1回目の授業から持参してください。
※教科書の内容を中心に学びを進めます。教科書を用意しない場合は、単位修得が非常に難しくなります。

【注意】
2024年度まで使用していた教科書が絶版となったため、新しい教科書に変更しています。再履修者は注意してください。
昨年度から指定した教科書を用意してください。

授業方法:
1. 講義(対面)
2. 講義(対面)
3. 講義(対面)
4. 講義・演習(対面)
5. 講義・演習(対面)
6. 講義・演習(対面)
7. 講義・演習(対面)
8. 講義・演習(対面)
9. 演習(対面)
10. 演習(オンライン<オンデマンド>)
11. 講義・演習(対面)
12. 講義・演習(対面)
13. 講義・演習(対面)

14. 講義・演習（対面）
15. 講義・総括（対面）

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. 子どもと言葉について、発達の視点から考える（180分）
2. 子どもの豊かな言語表現について考察する（180分）
3. 乳児期の言葉の発達について考察する（180分）
4. 幼児期の言葉の発達について考察する（180分）
5. 児童文化財を活用した指導案（乳児）を考える（180分）
6. 児童文化財を活用した指導案（幼児）を考える（180分）
7. 幼児期から児童期の言葉の特徴について考察する（180分）
8. 保育者の専門性と言葉について考察する（180分）
9. 子ども達の言葉を支える情報機器の活用について考察する（180分）
10. 保育環境と言葉について考察する（180分）
11. 遊びと生活のなかの言葉について考察する（180分）
12. 子ども達の言葉を引き出す教材研究について考察する（180分）
13. 言葉の問題と援助について考察する（180分）
14. 保育計画と評価について考察する（180分）
15. 保育・幼児教育の現代的課題について考察する（180分）

評価方法：	**授業へのとりくみ：**	40 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	60 **%**
	その他1：			**%**		
	その他2：			**%**		

評価基準： 講義・演習に参加し、乳幼児の言葉の発達についての知識を得ることができている（60～69）
講義・演習に積極的に参加し、乳幼児の言葉の発達についての知識を得ることができ、乳幼児の言葉の発達を支えることができる保育者の活動を具体的に考えることができている（70～79）
講義・演習に積極的に参加し、乳幼児の言葉の発達についての深い知識を得ることができ、乳幼児の言葉の発達を十分に支えることができる保育者の活動を具体的に構築することができている（80～100）
※教科書およびノートPCを持参し、学びができる準備をしていることが前提となります。必ず教科書およびノートPCを持参しましょう。

課題へのフィードバック：

授業内容に関する質問に対しては全体に向けて回答・説明し、学習者全体の学びになるようにフィードバックする。
提出を求める課題については、評価基準を示したうえで確認し、適宜返却する。

教科書： 田中 謙 編著『デザインする保育内容指導法「言葉」』教育情報出版、2019

※教科書は授業で使用します。第1回目の授業から必ず持参してください。

【注意】
前年度まで使用していた教科書が絶版となったため、新しい教科書に変更しています。
今年度から指定した教科書を用意してください。

参考書： なし。適宜、資料を配布する。

備考：
保育・幼児教育についての学びを深めるために、『幼稚園教育要領』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』、『保育所保育指針』のいずれも最新版をもとに授業を展開する。

授業・準備学習のアドバイス：

教科書に基づきながら学習を進めるので、教科書は必携すること。
乳幼児の発達と言葉の獲得について、自らで考察を加えながら学びを進めること。
具体的な保育活動案なども作成するので、受動的ではなく積極的な学びを期待する。
なお、本授業はオンラインでの課題の提示・提出・フィードバックを行う。

※教科書およびノートPCを持参し、学びができる準備をしていることが前提となります。スマホだけで学習することはできません。必ず教科書およびノートPCを持参しましょう。

※授業内容と無関係なブラウザ閲覧やスマホアプリの使用は認めません。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 保育内容(言葉)

クラス: 小+幼保後(内規科目)

授業コード: DA41700002

担当者: 高橋　一夫　　**単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園)【必修】

含めることが必要な事項: 保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 乳幼児の言葉の獲得過程や、言葉と社会性の発達などとの関係について理解を深める。また、乳幼児の生活の中での言葉の大切さを理解しながら、言葉の獲得に関わる保育者の具体的な援助について学ぶ。

到達目標: 1. 領域「言葉」のねらい及び内容について、背景となる専門的領域との関連を理解し、乳幼児の発達に応じた保育・幼児教育を構想することができる。
2. 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園・保育要領」に示された幼児期の終わりまでに育ってほしい姿から、領域「言葉」のねらい及び内容について深く理解することができる。
3. 領域「言葉」に関わり、乳幼児の発達や学びの過程を理解し、その育ちを支えることができる保育・幼児教育の実践力を身に付けることができる。

各回の授業計画:

1. 「ことば」とは
2. 子どもと「ことば」の関係とは
3. 領域「言葉」とは
4. 胎児～0歳児の発達と，クラスにおける保育実践
5. 1～2歳児の発達と，クラスにおける保育実践
6. 3歳児の発達と，クラスにおける保育実践
7. 4歳児の発達と，クラスにおける保育実践
8. 5歳児の発達と，クラスにおける保育実践
9. 0・1・2歳児の指導案の作成
10. 3・4・5歳児の指導案の作成
11. 領域「言葉」と保育の環境構成とは
12. 保育におけるICTの利活用とは
13. ダイバーシティ・インクルージョン社会と保育とは
14. 「ことば」を育む児童文化財とは
15. 保育・幼児教育と小学校へのつながり

特記事項: ※教科書は必須です。第1回目の授業から持参してください。
※教科書の内容を中心に学びを進めます。教科書を用意しない場合は、単位修得が非常に難しくなります。

【注意】
前年度まで使用していた教科書が絶版となったため、新しい教科書に変更しています。
今年度から指定した教科書を用意してください。

授業方法:
1. 講義(対面)
2. 講義(対面)
3. 講義(対面)
4. 講義・演習(対面)
5. 講義・演習(対面)
6. 講義・演習(対面)
7. 講義・演習(対面)
8. 講義・演習(対面)
9. 演習(対面)
10. 演習(オンライン<オンデマンド>)
11. 講義・演習(対面)
12. 講義・演習(対面)
13. 講義・演習(対面)

14. 講義・演習（対面）
15. 講義・総括（対面）

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. 子どもと言葉について、発達の視点から考える（180分）
2. 子どもの豊かな言語表現について考察する（180分）
3. 乳児期の言葉の発達について考察する（180分）
4. 幼児期の言葉の発達について考察する（180分）
5. 児童文化財を活用した指導案（乳児）を考える（180分）
6. 児童文化財を活用した指導案（幼児）を考える（180分）
7. 幼児期から児童期の言葉の特徴について考察する（180分）
8. 保育者の専門性と言葉について考察する（180分）
9. 子ども達の言葉を支える情報機器の活用について考察する（180分）
10. 保育環境と言葉について考察する（180分）
11. 遊びと生活のなかの言葉について考察する（180分）
12. 子ども達の言葉を引き出す教材研究について考察する（180分）
13. 言葉の問題と援助について考察する（180分）
14. 保育計画と評価について考察する（180分）
15. 保育・幼児教育の現代的課題について考察する（180分）

評価方法：	**授業へのとりくみ：**	40 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	60 **%**
	その他1：			**%**		
	その他2：			**%**		

評価基準： 講義・演習に参加し、乳幼児の言葉の発達についての知識を得ることができている（60～69）
講義・演習に積極的に参加し、乳幼児の言葉の発達についての知識を得ることができ、乳幼児の言葉の発達を支えることができる保育者の活動を具体的に考えることができている（70～79）
講義・演習に積極的に参加し、乳幼児の言葉の発達についての深い知識を得ることができ、乳幼児の言葉の発達を十分に支えることができる保育者の活動を具体的に構築することができている（80～100）
※教科書およびノートPCを持参し、学びができる準備をしていることが前提となります。必ず教科書およびノートPCを持参しましょう。

課題へのフィードバック：

授業内容に関する質問に対しては全体に向けて回答・説明し、学習者全体の学びになるようにフィードバックする。
提出を求める課題については、評価基準を示したうえで確認し、適宜返却する。

教科書： 田中 謙 編著『デザインする保育内容指導法「言葉」』教育情報出版、2019

※教科書は授業で使用します。第1回目の授業から必ず持参してください。

【注意】
2024年度まで使用していた教科書が絶版となったため、新しい教科書に変更しています。再履修者は注意してください。
昨年度から指定した教科書を用意してください。

参考書： なし。適宜、資料を配布する。

備考：
保育・幼児教育についての学びを深めるために、『幼稚園教育要領』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』、『保育所保育指針』のいずれも最新版をもとに授業を展開する。

授業・準備学習のアドバイス：

教科書に基づきながら学習を進めるので、教科書は必携すること。
乳幼児の発達と言葉の獲得について、自らで考察を加えながら学びを進めること。
具体的な保育活動案なども作成するので、受動的ではなく積極的な学びを期待する。
なお、本授業はオンラインでの課題の提示・提出・フィードバックを行う。

※教科書およびノートPCを持参し、学びができる準備をしていることが前提となります。スマホだけで学習することはできません。必ず教科書およびノートPCを持参しましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 保育内容(表現)

クラス: 小+幼保前(内規科目)

授業コード: DA41800001

担当者: 横田 郁子 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立幼稚園園長・教諭

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園)【必修】

含めることが必要な事項: 保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 学生が主体的で対話的な学びを得られるよう、グループワークや表現遊び、模擬保育の実践を取り入れ、保育方法や保育内容のあり方への理解を深める。指導計画・指導案の作成、実践、振り返りという流れを体験的に理解させるとともに、指導上の留意点及び評価の考え方、情報機器を活用する指導法についても学びを深める。

到達目標: 1. 幼稚園教育及び幼保連携型認定こども園教育・保育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容について、背景となる専門領域と関連させて理解を深める。
2. 領域「表現」に関わる指導場面を想定し、その保育を構想する方法(評価を含む)を身に付ける。

各回の授業計画:

1. 保育内容「表現」とは何か。
2. 幼稚園教育要領及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領における「表現」
3. 保育内容「表現」の指導法及び指導例(情報機器及び教材の活用)
4. 絵本や物語を題材にした表現事例
5. 表現活動① 場面構成、言語表現を考える。
6. 表現活動② 音楽表現を考える。
7. 表現活動③ 造形表現を考える。
8. 表現活動④ 動きの構成、身体表現を考える。
9. 表現活動⑤ 総合表現を考える。
10. 表現活動⑥ 総合表現を発表する。
11. 表現活動を鑑賞するグループで振り返りをする。
12. 指導案の作成(情報機器及び教材の活用)
13. 指導計画の作成と模擬保育
14. 指導計画の作成と模擬保育の振り返り ー 領域「表現」の視点から保育内容を理解する。
15. まとめと確認 ー 領域「表現」の視点から今後の保育内容を考える。

特記事項: なし

授業方法: ①〜⑮講義(対面)
グループワーク
表現活動
表現活動の鑑賞
DVD視聴

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 復習:保育内容「表現」について、講義内容を復習し、まとめる。(180分)
2. 復習:幼稚園教育要領及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領における「表現」について、講義内容を復習しをてまとめる。(180分)
3. 復習:保育内容「表現」の指導法及び指導例(情報機器及び教材の活用)について、講義内容を復習してまとめる。(180分)
4. 予習:絵本や物語を題材にした表現事例について調べ、まとめる。(180分)
5. 予習:表現活動① 場面構成、言語表現について調べ、まとめる。(180分)
6. 予習:表現活動② 音楽表現について調べ、まとめる。(180分)
7. 予習:表現活動③ 造形表現について調べ、まとめる。(180分)
8. 予習:表現活動④ 動きの構成、身体表現について調べ、まとめる。(180分)
9. 予習:表現活動⑤ 総合表現について調べ、まとめる。(180分)
10. 予習:表現活動⑥ 総合表現について練習する。(180分)
11. 復習:表現活動の鑑賞から指導を考え、振り返りをまとめる。(180分)
12. 予習:指導案の書き方について調べ、まとめる。(180分)
13. 復習:情報機器を用いて指導案を作成する。(180分)

14. 復習：指導計画や模擬保育を振り返り、まとめる。（180分）
15. 予習：領域「表現」の視点から今後の保育内容を考え、まとめる。（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	30 **%**
その他1：	発表		40 **%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

60～69点：幼稚園教育要領などにおける保育内容「表現」を理解し、指導案などを作成することができる。
70～79点：幼稚園教育要領などにおける保育内容「表現」を理解し、効果的な指導を行えるように工夫した指導案などを作成することができる。
80～100点：幼稚園教育要領などにおける保育内容「表現」を理解し、効果的な指導を行えるように工夫した指導案などを作成することができる。そして、指導案に沿った効果的な保育実践の方法を理解している。

課題へのフィードバック：

課題についての講評は適宜行う。

教科書： なし

参考書：

新しい保育講座⑪保育内容「表現」小林紀子・砂上史子・刑部育子編著 ミネルヴァ書房
令和5年度最新版 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞ ISBN 978-4-8054-0330-3 チャイルド社

授業・準備学習のアドバイス：

・質問については、授業時に全体に向けて回答し説明する。必要に応じて、個別に説明する。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 保育内容(表現)

クラス: 小+幼保後(内規科目)

授業コード: DA41800002

担当者: 横田 郁子 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立幼稚園園長・教諭

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園)【必修】

含めることが必要な事項: 保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 学生が主体的で対話的な学びを得られるよう、グループワークや表現遊び、模擬保育の実践を取り入れ、保育方法や保育内容のあり方への理解を深める。指導計画・指導案の作成、実践、振り返りという流れを体験的に理解させるとともに、指導上の留意点及び評価の考え方、情報機器を活用する指導法についても学びを深める。

到達目標: 1. 幼稚園教育及び幼保連携型認定こども園教育・保育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容について、背景となる専門領域と関連させて理解を深める。
2. 領域「表現」に関わる指導場面を想定し、その保育を構想する方法(評価を含む)を身に付ける。

各回の授業計画:

1. 保育内容「表現」とは何か。
2. 幼稚園教育要領及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領における「表現」
3. 保育内容「表現」の指導法及び指導例(情報機器及び教材の活用)
4. 絵本や物語を題材にした表現事例
5. 表現活動① 場面構成、言語表現を考える。
6. 表現活動② 音楽表現を考える。
7. 表現活動③ 造形表現を考える。
8. 表現活動④ 動きの構成、身体表現を考える。
9. 表現活動⑤ 総合表現を考える。
10. 表現活動⑥ 総合表現を発表する。
11. 表現活動を鑑賞するグループで振り返りをする。
12. 指導案の作成(情報機器及び教材の活用)
13. 指導計画の作成と模擬保育
14. 指導計画の作成と模擬保育の振り返り ー 領域「表現」の視点から保育内容を理解する。
15. まとめと確認 ー 領域「表現」の視点から今後の保育内容を考える。

特記事項: なし

授業方法: ①〜⑮講義(対面)
グループワーク
表現活動
表現活動の鑑賞
DVD視聴

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 復習:保育内容「表現」について、講義内容を復習し、まとめる。(180分)
2. 復習:幼稚園教育要領及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領における「表現」について、講義内容を復習しをてまとめる。(180分)
3. 復習:保育内容「表現」の指導法及び指導例(情報機器及び教材の活用)について、講義内容を復習してまとめる。(180分)
4. 予習:絵本や物語を題材にした表現事例について調べ、まとめる。(180分)
5. 予習:表現活動① 場面構成、言語表現について調べ、まとめる。(180分)
6. 予習:表現活動② 音楽表現について調べ、まとめる。(180分)
7. 予習:表現活動③ 造形表現について調べ、まとめる。(180分)
8. 予習:表現活動④ 動きの構成、身体表現について調べ、まとめる。(180分)
9. 予習:表現活動⑤ 総合表現について調べ、まとめる。(180分)
10. 予習:表現活動⑥ 総合表現について練習する。(180分)
11. 復習:表現活動の鑑賞から指導を考え、振り返りをまとめる。(180分)
12. 予習:指導案の書き方について調べ、まとめる。(180分)
13. 復習:情報機器を用いて指導案を作成する。(180分)

14. 復習：指導計画や模擬保育を振り返り、まとめる。（180分）
15. 予習：領域「表現」の視点から今後の保育内容を考え、まとめる。（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	30 **%**
その他1：	発表		40 **%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

60～69点：幼稚園教育要領などにおける保育内容「表現」を理解し、指導案などを作成することができる。
70～79点：幼稚園教育要領などにおける保育内容「表現」を理解し、効果的な指導を行えるように工夫した指導案などを作成することができる。
80～100点：幼稚園教育要領などにおける保育内容「表現」を理解し、効果的な指導を行えるように工夫した指導案などを作成することができる。そして、指導案に沿った効果的な保育実践の方法を理解している。

課題へのフィードバック：

課題についての講評は適宜行う。

教科書： なし

参考書：

新しい保育講座⑪保育内容「表現」小林紀子・砂上史子・刑部育子編著 ミネルヴァ書房
令和5年度最新版 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞ ISBN 978-4-8054-0330-3 チャイルド社

授業・準備学習のアドバイス：

・質問については、授業時に全体に向けて回答し説明する。必要に応じて、個別に説明する。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 保育原理

クラス:

授業コード: DA50100001

担当者: 森 眞理 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:幼稚園教諭(日米・私立)、幼稚園園長(日・私立)、日本語補習校(米・幼児部・初等部)

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 日本では、養護と教育を一体化した営みを「保育」と捉えている。本授業では、子どもの最善の利益を保障する、すなわち子どもの権利を保障する保育について、子ども理解、保育の構造、保育者の役割、国内外の歴史と保育内容、今日の課題を含み、保育の原理について学ぶ。子どもに直接・間接関わる者としての知識・スキル・姿勢を養う。

到達目標:
1. 保育の意味・意義を理解する。
2. 子どもの権利と保育の関係性を理解し、保育者としての当事者意識を持つ。
3. 保育の法令・制度・内容について理解する。
4. 保育の思想・歴史を学び、将来を見据える。
5. 子ども・保育を取り巻く課題を認識し、これからの保育のあり方について考える。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション:保育原理で学ぶことを理解する(対面)
2. 保育の意味と意義:①子どもとの出会いと関わり・保育の意味と意義(対面)
3. 保育の意味と意義:②子どもの権利と保育(対面)
4. 保育の制度と施設:幼稚園・保育所・認定こども園(対面)
5. 子ども理解と保育:① 発達理論と保育(対面)
6. 子ども理解と保育:② 遊びを通して行う保育(対面)
7. 子ども理解と保育:③ 環境を通して行う保育(対面)
8. 保育者の役割
9. 保育の計画・内容と学びの可視化(対面)
10. 保育の思想と歴史:世界(対面)
11. 保育の思想と歴史:日本(対面)
12. 諸外国の保育(対面)
13. 保育の社会的意義と役割(対面)
14. 保育の現状と課題:国内外の動きとの対話から(対面)
15. まとめ:振り返りと確認テスト(対面)

特記事項: なし

授業方法: ・講義が主であるが、随時、テキスト・視聴覚教材等からのディスカッション、及びグループワークやワークショプ、プレゼンテーションを行う。
・第1回～第15回 講義(対面)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 予:本授業への思いを述べられるように準備する(60分)、復:授業内容の振り返りをまとめる(90分)
2. 予:テキスト序章・1章を読み、授業に参加する(90分)、復:授業内容の振り返りをまとめる(90分)
3. 予:テキスト序章・1章・11章を読み、授業に参加する(90分)、復:授業内容の振り返りをまとめる(90分)
4. 予:テキスト2章を読み、授業に参加する(120分)、復:授業内容の振り返りをまとめる(90分)
5. 予:テキスト5章を読み、授業に参加する(90分)、復:授業内容の振り返りをまとめる(90分)
6. 予:テキスト5章を読み、授業に参加する(90分)、復:授業内容の振り返りをまとめる(90分)
7. 予:テキスト4章を読み、授業に参加する(90分)、復:授業内容の振り返りをまとめる(90分)
8. 予:テキスト8章を読み、授業に参加する180分)、復:授業内容の振り返りをまとめる(60分)
9. 予:テキスト7章を読み、授業に参加する(90分)、復:授業内容の振り返りをまとめる(90分)
10. 予:テキスト9章を読み、授業に参加する(90分)、復:授業内容の振り返りをまとめる(90分)
11. 予:テキスト10章を読み、授業に参加する(90分)、復:授業内容の振り返りをまとめる(90分)
12. 予:テキスト11章を読み、授業に参加する(90分)、復:授業内容の振り返りをまとめる(90分)
13. 予:テキスト3章を読み、授業に参加する(90分)、復:授業内容の振り返りをまとめる(90分)
14. 予:テキスト12・終章を読み、授業に参加する(90分)、復:授業内容の振り返りをまとめる(90分)

15. 予:テキスト全章を読み、確認テストに備える(120分)、復:授業を総括する(60分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	60	**%**	**確認テスト:**	40	**%**	**レポート:**	- **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準:

(60－69)
・授業内容を理解している。
・テキストの内容を理解している。
(70－79)
・授業内容を理解し、自分の言葉で保育原理の内容について述べることができる。
・テキストをよく読み込み、参考文献も検索する。
(80－100)
・授業内容を理解し、自分の言葉で保育原理の内容について述べると同時に問題提起する。
・テキスト以外の文献にもあたり、多様な見方・捉え方ができる。

課題へのフィードバック:

・授業内、また個別面談等にて、口頭および文書にて助言等を行う。

教科書:

①森眞理・猪田裕子編著『子どもの権利との対話から学ぶ 保育原理』北大路書房 2026年。ISBN 978-4-7628-3313-7
②令和5年度最新版 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞ ISBN 978-4-8054-0330-3 チャイルド社

参考書:

適宜、授業にて紹介する。

授業・準備学習のアドバイス:

・保育原理を学ぶことは、人間理解・尊重に繋がる尊いこと、と自覚して授業に出席しましょう。
・子どもから発見・気づき・驚きを期待して、授業に出席しましょう。
・授業を構成する参加者として授業に臨みましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 子ども家庭福祉

クラス: 幼保

授業コード: DA50200001

担当者: 佐藤　智恵、合志　薫　　**単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有
（佐藤）:保育士
（合志）:保育士

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 現在、子どもは保護の対象としてだけでなく権利の主体として捉えられている。しかし、その権利が守られているとは言い難い状況も存在する。そのため、子どもとその家族だけでなくその環境もしっかりと捉えることが必要である。さらに、子どもやその家族に関わる諸問題は、様々な事象が絡みあって生じていることをこの学習を通して理解してほしい。
子どもを中心として家族・地域社会全体を見据えた支援の展開ができる視点や基礎的知識および援助方法を習得することが目的である。

到達目標:
・現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解する。
・子どもの人権擁護について理解する。
・子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。
・子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。
・子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション/子ども家庭福祉の理念
2. 子ども家庭福祉の歴史的変遷/子どもの人権擁護
3. 子ども家庭福祉の制度と法体系
4. 子ども家庭福祉の実施体系とそれに携わる専門職
5. 子ども・子育て支援制度と少子化対策
6. 児童の健全育成について
7. 母子保健と乳幼児期の地域支援
8. 社会的養護が必要な子どもへの支援
9. 児童虐待やそれが疑われる子どもへの支援
10. 障害のある子どもとその家庭への支援
11. ひとり親家庭や貧困家庭への支援
12. 外国籍の子どもたちとその家族への支援
13. 少年非行等への支援
14. さまざまな機関との連携
15. 確認テスト/次世代育成支援について

特記事項: なし

授業方法: すべての授業を対面授業で行う。適宜、グループワークによる事例検討、映像視聴を行う。

1. 講義、小テスト
2. 講義、復習内容確認、小テスト
3. 講義、復習内容確認、小テスト
4. 講義、復習内容確認、小テスト
5. 講義、復習内容確認、小テスト
6. 講義、復習内容確認、小テスト
7. 講義、復習内容確認、小テスト
8. 講義、復習内容確認、小テスト
9. 講義、復習内容確認、小テスト
10. 講義、復習内容確認、小テスト
11. 講義、復習内容確認、小テスト
12. 講義、復習内容確認、小テスト
13. 講義、復習内容確認、小テスト
14. 講義、復習内容確認、小テスト

15. 講義、確認テスト

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. 予習（子ども家庭福祉と基本的人権についてテキストを読む）90分
2. 復習（テキスト24pのワークシートに取り組む）180分
3. 復習（児童福祉六法についてテキストを読み復習する）180分
4. 復習（ 子どもの家庭福祉の主な実施機関を覚える）180分
5. 復習（子育て支援の流れについて知る）180分
6. 復習（テキスト96pの復習課題に取り組む）180分
7. 復習（テキスト85pの復習課題に取り組む）180分
8. 復習（テキスト152pの復習課題に取り組む。）180分
9. 復習（テキスト143pの予習課題に取り組む）180分
10. 復習（テキスト118pの福祉サービスについて理解する）180分
11. 復習（テキスト107pの復習課題について取り組む）180分
12. 復習（テキスト133pの予習課題に取り組む。）180分
13. 復習（テキスト130pの復習課題に取り組む）180分
14. 復習（ これまでの内容についてまとめ確認テストの準備を行う）270分
15. 予習（確認テストにむけて内容を整理する）180分

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	40 **%**	**レポート：**	20 **%**
その他1：	提出物		10 **%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

1. 授業への取り組み
・自分なりに課題について考え、取り組むことができる（60～69点）
・メモを取ったり、質問しながら課題に取り組むことができる（70～79点）
・授業で学習した内容や他者の意見を取り入れながら、積極的に課題に取り組むことができる（80～100点）

2. 提出物
・すべての小テストを指定用紙に貼付し、提出している（60～69点）
・すべての小テストを指定用紙に貼付し、授業後に書き込みなどをしたものを提出している（70～79点）
・すべての小テストを指定用紙に貼付し、授業後に学習した内容を多数書き込み、提出している（80～100点）

3. 確認テスト
・子ども家庭福祉について、理解している（60～69点）
・子ども家庭福祉について正しい知識を持ち、自分なりの支援方法を示すことができる。（70～79点）
・子ども家庭福祉について正しい知識を持ち、複数の支援方法を示すことができる。（80～100点）

課題へのフィードバック：

＊レポートの提出を課します。重要な視点などが記述できている箇所に、印を入れて返却します。
＊小テストは毎回行いますが、授業内容の確認のために実施するため、評価には含めません。毎回の小テストは、自身で指定用紙に貼付し、14回目の授業開始時に提出してもらいます（枚数が揃っているかの確認をし、その日中に返却します。）
＊最終日は、講義とともに確認テストも実施します。 確認テストは返却しません。

教科書： 立花直樹・丸目満弓・灰谷和代・松木宏史・葛谷潔昭・秦 佳江（編著）『子ども家庭福祉』ミネルヴァ書房

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：

・この科目は毎回PCを使用します。毎回持参してください。
・遅刻は授業開始から30分までとします。それ以降は出席しても欠席になります。
・日頃から新聞やテレビ等で、子どもの福祉に関心をもつように心がけて下さい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 社会福祉論

クラス: 幼保

授業コード: DA50300001

担当者: 杉山 宗尚 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 社会福祉に関する諸施策・制度について知ることにより、様々な家族に対する対応・支援ができる保育者を目指す。

到達目標:
1. 社会福祉全般の基礎的理解と現代社会が抱える福祉に関する問題と課題について理解し、説明することができる。
2. 社会福祉に関する諸施策・制度について、説明できる。
3. 保育者として必要な社会福祉に関する視点を身につけることができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション、社会福祉とは
2. 私たちが生きる社会、社会福祉のとらえ方
3. 子どもと家族の福祉① 妊娠・出産に関わる制度、社会福祉の関連法
4. 子どもと家族の福祉② 子どもの貧困、子ども家庭福祉にかかわる行政機関と施設(オンデマンド授業)
5. 子どもと家族の福祉③ 子どもの権利、社会福祉サービス利用の仕組み、社会的養護
6. 社会保障:社会保障の仕組み、年金制度の仕組み、医療保険の仕組み(オンデマンド授業)
7. 障害児・者福祉① 障害のとらえ方、障害児・者福祉の考え方
8. 障害児・者福祉② 障害の種類、障害児・者福祉の法律・制度
9. 地域福祉① 地域福祉について、地域福祉を支える機関・団体
10. 地域福祉② 地域福祉の実際
11. ソーシャルワーク:ソーシャルワークの種類、保護者支援・子育て支援 (オンデマンド授業)
12. 低所得者福祉① 生活保護の歴史と生活保護制度
13. 低所得者福祉② その他の低所得者福祉、生活保護制度の実際
14. 高齢者福祉:介護保険制度と介護サービス、利用者保護(オンデマンド授業)
15. 全体の振り返りと確認テスト

特記事項: なし

授業方法: 授業は、対面授業とオンデマンド授業を併用して行う。適宜、映像視聴等を行う。

1. 講義(対面)
2. 講義(対面)
3. 講義(対面)
4. 講義(オンデマンド授業)
5. 講義(対面)
6. 講義(オンデマンド授業)
7. 講義(対面)
8. 講義(対面)
9. 講義(対面)
10. 講義(対面)
11. 講義(オンデマンド授業)
12. 講義(対面)
13. 講義(対面)
14. 講義(オンデマンド授業)
15. 講義、確認テスト(対面)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. オリエンテーション、社会福祉とは
・予習:シラバスとテキストに目を通しておくこと(60分)

・復習:本日の授業内容を復習(120分)

2. 私たちが生きる社会、社会福祉のとらえ方
・予習:テキストpp.10～23を読むこと(60分)
・復習:本日の授業内容を復習(120分)

3. 子どもと家族の福祉① 妊娠・出産に関わる制度、社会福祉の関連法
・予習:テキストpp.26～48を読むこと(60分)
・復習:本日の授業内容を復習(120分)

4. 子どもと家族の福祉② 子どもの貧困、子ども家庭福祉にかかわる行政機関と施設(オンデマンド授業)
・予習:テキストpp.50～69を読むこと(60分)
・復習:本日の授業内容を復習(120分)

5. 子どもと家族の福祉③ 子どもの権利、社会福祉サービス利用の仕組み、社会的養護
・予習:テキストpp.70～88を読むこと(60分)
・復習:本日の授業内容を復習(120分)

6. 社会保障:社会保障の仕組み、年金制度の仕組み、医療保険の仕組み(オンデマンド授業)
・予習:テキストpp.90～102を読むこと(60分)
・復習:本日の授業内容を復習(120分)

7. 障害児・者福祉① 障害のとらえ方、障害児・者福祉の考え方
・予習:テキストpp.104～113を読むこと(60分)
・復習:本日の授業内容を復習(120分)

8. 障害児・者福祉② 障害の種類、障害児・者福祉の法律・制度
・予習:テキストpp.114～126を読むこと(60分)
・復習:本日の授業内容を復習(120分)

9. 地域福祉① 地域福祉について、地域福祉を支える機関・団体
・予習:テキストpp.134～151を読むこと(60分)
・復習:本日の授業内容を復習(120分)

10. 地域福祉② 地域福祉の実際
・予習:前回の授業を振り返ること(60分)
・復習:本日の授業内容を復習(120分)

11. ソーシャルワーク:ソーシャルワークの種類、保護者支援・子育て支援 (オンデマンド授業)
・予習:テキストpp.154～169を読むこと(60分)
・復習:本日の授業内容を復習(120分)

12. 低所得者福祉① 生活保護の歴史と生活保護制度
・予習:テキストpp.174～187を読むこと(60分)
・復習:本日の授業内容を復習(120分)

13. 低所得者福祉② その他の低所得者福祉、生活保護制度の実際
・予習:テキストpp.188～196を読むこと(60分)
・復習:本日の授業内容を復習(120分)

14. 高齢者福祉:介護保険制度と介護サービス、利用者保護(オンデマンド授業)
・予習:テキストpp.198～216を読むこと(60分)
・復習:本日の授業内容を復習(120分)

15. 振り返りと確認テスト
・予習:テキスト全体に目を通し、確認テストに向けて授業全体の理解を整理する。(180分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	－	**%**	**確認テスト:**	80	**%**	**レポート:**	20 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準:
到達目標について、ほぼ理解できている、よくできている 80～100点
到達目標について、概ね理解できている 70～79点
到達目標について、最低限の理解はできている 60～69点

確認テストは、各回の授業内容についての知識を問う問題で理解度を評価する。
レポートは、提出状況と課題テーマに対して的確に記述できているかを評価する。

課題へのフィードバック:

レポートに関するフィードバックは、授業内で全体に対して行う。

教科書: 直島正樹・原田旬哉「図解で学ぶ保育 社会福祉【第3版】」萌文書林

参考書: 適宜紹介する。

授業・準備学習のアドバイス:

この科目は、保育士資格を取得するための必須科目なので、2/3以上の出席が必ず必要です。
福祉系科目の基盤となる科目なので、しっかりと学んで福祉の心を養ってください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 子ども家庭支援論

クラス: ★幼保

授業コード: DA50400001

担当者: 北野　富美子　　**単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立保育所長・地域子育て支援センター所長・保育士

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 家庭の規模が縮小し、子どもとその家族を取り巻く環境は大きく変化している。地域で孤立する家庭、援助を必要とする家庭が増えている。本科目では、子育て支援の社会的役割を理解し、他の福祉専門職との協働の方法や、様々な課題を抱えた家庭に対する具体的な施策および援助の方法について学ぶことを目的とする。

到達目標:
1. 家庭の意義とその機能について理解する。
2. 子育て家庭を取り巻く社会的状況等について理解する。
3. 援助を必要とする家庭に対する施策・援助方法・関係機関との連携について理解する。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション・家族・家庭とは
2. 家族・家庭を取り巻く環境
3. 子ども家庭支援の基本的考え方
4. 子ども家庭支援が必要とされる背景
5. 保育者の専門性を生かした支援
6. 子育て家庭を支える法・制度
7. 子育て家庭を支える社会資源
8. 保育者の求められる基本的態度
9. 相談支援場面で必要な技術
10. 保育場面における具体的な支援の方法
11. 子育て支援と保護関係づくりへの支援
12. 地域の子育て家庭への支援
13 .不適切な養育環境の子どもやその家庭への支援
14. 発達障害児等・子どもの貧困の理解と家庭への支援
15. まとめ「保育と子ども家庭支援」と確認テスト

特記事項: なし

授業方法: ★オンライン授業（ただし1～5回の対面授業を含む）

1. オリエンテーション・講義（対面）
2. 講義（オンライン）
3. 講義（オンライン）
4. 講義（オンライン）
5. 講義（オンライン）
6. 講義（オンライン）
7. 講義（オンライン）
8. 講義（オンライン）
9. 講義・演習（対面）
10. 講義・グループワーク（対面）
11. 講義（オンライン）
12. 講義（オンライン）
13. 講義（オンライン）
14. 講義（オンライン）
15. 講義・確認テスト（対面）

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

教科書の該当ページに直接記入

1. 復習P12～21 の考察(200分)
2. P30～32 時代の変遷と社会・経済等の変化の考察(200分)
3. p.40まとめてみよう「子ども家庭支援の対象と目標について(200分)
4. 復習p.44～59の考察(200分)
5. P68 自分のジェノグラムやエコマップを作成(300分)
6. 事例検討P70「考えてみよう」(200分)
7. P91 まとめてみようの考察(200分)
8. 地域の子育て支援施策を調べる(300分)
9. 復習P126～136の考察(200分)
10. 復習p140～162の考察 (200分)
11～15. 確認テストに係る学習(500分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	20 **%**	**確認テスト:**	30 **%**	**レポート:**	50 **%**
その他1:			**%**		
その他2:			**%**		

評価基準:

授業への取り組み
・授業の目的を理解し、関心をももって授業に参加する(60～69)
・質問には授業の内容を十分理解した応答が出来、グループワークにも積極的に参加する(80～100)

確認テスト
・子どもを取り巻く環境の変化を理解し、家庭支援の必要性を説明できる(60～69)
・子育て家庭支援に関する社会的状況を理解し、子育て支援の意義、必要性、保育士の役割等を説明できる(80～100)

課題へのフィードバック:

事例検討など復讐課題に対しては、授業内で前授業内容を振り返りながら講評する。

教科書: 石動瑞代・中西遍彦・隣谷正範 編集『保育と子ども家庭支援論』みらい

参考書: 令和5年度最新版 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞ ISBN 978-4-8054-0330-3
吉田眞理『児童の福祉を支える 子ども家庭支援論』萌文書林

授業・準備学習のアドバイス:

日頃から新聞やニュース等で報道される家族問題に関心を持つようにすること。また、子どもにとって家族とはどのような意味を持つのか、そして時代とともに家族も変化していることを知っておくこと。授業中の質問ができない場合には、オフィスアワーなどを利用して、研究室を訪ねてもよい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 社会的養護Ⅰ

クラス: 幼保

授業コード: DA50500001

担当者: 高畑 英樹 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:社会福祉法人障害児入所施設心理相談員

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷、子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。また、現行の制度や実施体系を把握し、社会的養護の対象・形態・専門職等について理解するとともに、社会的養護の現状と課題について学習する。

到達目標:
1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。
2. 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。
3. 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。
4. 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。
5. 社会的養護の現状と課題について理解する。

各回の授業計画:

1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷
2. 子どもの人権擁護と社会的養護
3. 家庭の機能と社会的養護
4. 社会的養護の基本原則Ⅰ(養育−日常生活支援−)
5. 社会的養護の基本原則Ⅱ(保護−自己実現に向けた支援−)
6. 社会的養護の基本原則Ⅲ(子どもであることへの回復−治療的支援−)
7. 社会的養護の基本原則Ⅳ(生活文化と生活力の習得−自立支援−)
8. 社会的養護の基本原則Ⅴ(生命倫理観の醸成−生と性の倫理−)
9. 社会的養護の制度と実施体系
10. 施設養護の対象・形態・専門職Ⅰ(乳児院と児童養護施設)
11. 施設養護の対象・形態・専門職Ⅱ(障害児の入所施設)
12. 施設養護の対象・形態・専門職Ⅲ(児童自立支援施設と児童心理治療施設)
13. 家庭養護の特徴・対象・形態(里親とファミリーホーム)
14. 社会的養護の現状と課題
15. 社会的養護の将来像についてのまとめと到達度の確認テスト

特記事項: なし

授業方法: すべての授業を対面授業で行う
1. 講義(対面)
2. 講義(対面)
3. 講義(対面)
4. 講義(対面)
5. 講義(対面)
6. 講義(対面)
7. 講義(対面)
8. 講義(対面)
9. 講義(対面)
10. 講義と討議(対面)
11. 講義と討議(対面)
12. 講義と討議(対面)
13. 講義と討議(対面)
14. 講義(対面)
15. 講義と確認テスト(対面)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 復習(180分) 教科書第1講の事例から「養護の現場にいる若い保育者がもつ 疑問や悩みについて」考察する。

2. 復習とレポート作成（360分） レポート課題「『児童の権利に関する条約』『児童福祉法』に基づく『社会的養護の価値観』について説明し、考察しなさい」
提出締め切り日、提出方法等詳細は授業内で説明する。
3. 復習（180分）「施設養護」「家庭養護」について理解を深める。
4. 復習（180分） 子どもの人権擁護と発達保障について理解を深める。
5. 復習（180分） 社会的養護の基本原則：保護の8原則について理解を深める。
6. 復習（180分） 子どもの「レリジアンス」について考える。
7. 復習（180分） 自立支援とはなにかについて理解を深める。
8. 復習（180分） 児童養護の場面で出会う「いのち」の問題について、再度自らに問いかけてみる。
9. 復習（180分） 社会的養護における、児童相談所の機能と役割について理解する。
10. 復習（180分） 児童養護施設、乳児院における職員のソーシャルワークについて 理解を深める。
11. 復習（180分） 障害児についての理解を深める。
12. 復習（180分） 児童自立支援施設についての理解を深める。
13. 復習（180分） 里親制度への理解を深める。
14. 試験範囲の学習（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	45	**%**	**確認テスト：**	40	**%**	**レポート：**	15 **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準： 本科目への関心並びに授業への取り組みと、レポート課題の内容及び確認テストにより、総合的に評価する。
・必要最小限の授業への参加と、提出物の内容が必要程度の理解度である(60～69点)
・前向きな授業への参加と、提出物の内容が概ね理解できたものとなっている(70～79点)
・積極的な授業への取り組みと、提出物の内容が十分理解できたものとなっている(80点以上)

課題へのフィードバック：

・レポート課題についてはTeamsにて提示し、課題の提出とそのフィードバックもTeamsを通して行う。また、内容を確認後、全体に向けて講評を行う。
・確認テストについては、出題のポイントと評価の観点を全体に向けて説明する。
・質問には全体に向けて随時対応し、また必要に応じて個別にも対応する。

教科書： 吉田眞理（編著）『児童の福祉を支える 社会的養護Ⅰ 第2版』萌文書林 (ISBN 978-4-89347-419-3)

参考書： なし。

授業・準備学習のアドバイス：

『子どもの権利条約』の理念に基づいた社会的養護への理解と、それに対する自分なりの意見が持てるようにしましょう。また普段から、社会的養護に関する新聞やテレビ等の報道に注意するよう心がけてください。なおこの科目は、保育士資格取得のための必修科目なので、2/3以上の出席がないと単位認定できません。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 社会的養護Ⅱ

クラス: 幼保前

授業コード: DA50600001

担当者: 高畑 英樹 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:社会福祉法人障害児入所施設心理相談員

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 子どもの理解を踏まえた社会的養護の具体的内容と、施設養護及び家庭養護の実際について理解する。また、社会的養護における支援計画・記録・自己評価の実際や相談援助の方法・技術について理解するとともに、子ども虐待の防止と家庭支援等について学習する。

到達目標:
1. 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。
2. 施設養護及び家庭養護の実際について理解する。
3. 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。
4. 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。
5. 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。

各回の授業計画:

1. 社会的養護における子ども理解と支援の基本
(社会的養護における保育士等の専門性及び児童養護の体系と児童福祉施設の概要)
2. 社会的養護の実際①(養護系及び行動・適応障害系の施設養護の生活特性と支援の実際)
3. 社会的養護の実際②(心身障害系の施設養護の生活特性と支援の実際)
4. 社会的養護の実際③(家庭養護の生活特性と支援の実際)
5. 社会的養護における支援の計画と記録及び自己評価
(アセスメントと個別支援計画の作成及び記録・自己評価)
6. 社会的養護に関わる専門的技術
(保育の専門性に関わる知識・技術とその実践及び相談援助の知識・技術とその実践)
7. 社会的養護の課題と展望(地域連携と家庭支援及び地域住民と施設)
8. 社会的養護Ⅱのまとめ(子どもの権利擁護と施設保育士)と確認テスト

特記事項: なし

授業方法: すべての授業を対面授業で行う
演習形式の授業で、課題について講義と討議等を通して進めるが、併せてDVD等を活用することで一層の理解を図る。
1. 講義と討議(対面)
2. 講義と討議及びDVD視聴(対面)
3. 講義と討議及びDVD視聴(対面)
4. 講義と討議及びDVD視聴(対面)
5. 講義と討議及びDVD視聴(対面)
6. 講義と討議(対面)
7. 講義と討議(対面)
8. 講義と確認テスト(対面)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 保育士の専門性と児童養護の体系について整理する(180分)
2. 乳児院・児童養護施設・児童心理治療施設・児童自立支援施設について理解を深める(180分)
3. 福祉型障害児入所施設と医療型障害児入所施設について理解を深める(180分)
4. 里親制度とファミリーホームについて理解を深める(180分)

5. 実践的な個別支援計画立案と支援への活用について整理する(180分)
6. 子ども虐待の防止と家庭支援について理解を深める(180分)
7. 施設における地域連携について理解を深める(120分)及び確認テストの準備学習(150分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	50 **%**	**確認テスト:**	30 **%**	**レポート:**	20 **%**
その他1:			**%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 本科目への関心並びに授業への取り組みと提出物について
・必要最小限の授業への参加と、提出物の内容が必要程度の理解度である(60～69点)
・前向きな授業への参加と、提出物の内容が概ね理解できたものとなっている(70～79点)
・積極的な授業への取り組みと、提出物の内容が十分理解できたものとなっている(80点以上)

課題へのフィードバック:
・レポート課題は、その提出とフィードバックをTeamsを通して行う。
・質問には全体に向けて随時対応し、また必要に応じて個別にも対応する。
・確認テストについては、出題のポイントと評価の観点を全体に向けて説明する。

教科書: 吉田眞理 (編著)『児童の福祉を支える(演習)社会的養護Ⅱ 第2版』 萌文書林 (ISBN 978-4-89347-420-9)

参考書: 吉田眞理(編著)『児童の福祉を支える 社会的養護Ⅰ 第2版』萌文書林

授業・準備学習のアドバイス:
この科目は、保育実習(施設実習)と深く関連しています。児童福祉施設の種別の内容、そこで生活する子どもたちについて学習しましょう。ここでの学びを保育実習(施設実習)に活かしてください。なおこの科目は、保育士資格取得のための必修科目なので、2/3以上の出席がないと単位認定できません。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 社会的養護Ⅱ

クラス: 幼保後

授業コード: DA50600002

担当者: 高畑 英樹 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:社会福祉法人障害児入所施設心理相談員

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 子どもの理解を踏まえた社会的養護の具体的内容と、施設養護及び家庭養護の実際について理解する。また、社会的養護における支援計画・記録・自己評価の実際や相談援助の方法・技術について理解するとともに、子ども虐待の防止と家庭支援等について学習する。

到達目標:
1. 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。
2. 施設養護及び家庭養護の実際について理解する。
3. 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。
4. 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。
5. 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。

各回の授業計画:

1. 社会的養護における子ども理解と支援の基本
(社会的養護における保育士等の専門性及び児童養護の体系と児童福祉施設の概要)
2. 社会的養護の実際①(養護系及び行動・適応障害系の施設養護の生活特性と支援の実際)
3. 社会的養護の実際②(心身障害系の施設養護の生活特性と支援の実際)
4. 社会的養護の実際③(家庭養護の生活特性と支援の実際)
5. 社会的養護における支援の計画と記録及び自己評価
(アセスメントと個別支援計画の作成及び記録・自己評価)
6. 社会的養護に関わる専門的技術
(保育の専門性に関わる知識・技術とその実践及び相談援助の知識・技術とその実践)
7. 社会的養護の課題と展望(地域連携と家庭支援及び地域住民と施設)
8. 社会的養護Ⅱのまとめ(子どもの権利擁護と施設保育士)と確認テスト

特記事項: なし

授業方法: すべての授業を対面授業で行う
演習形式の授業で、課題について講義と討議等を通して進めるが、併せてDVD等を活用することで一層の理解を図る。
1. 講義と討議(対面)
2. 講義と討議及びDVD視聴(対面)
3. 講義と討議及びDVD視聴(対面)
4. 講義と討議及びDVD視聴(対面)
5. 講義と討議及びDVD視聴(対面)
6. 講義と討議(対面)
7. 講義と討議(対面)
8. 講義と確認テスト(対面)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 保育士の専門性と児童養護の体系について整理する(180分)
2. 乳児院・児童養護施設・児童心理治療施設・児童自立支援施設について理解を深める(180分)
3. 福祉型障害児入所施設と医療型障害児入所施設について理解を深める(180分)
4. 里親制度とファミリーホームについて理解を深める(180分)

5. 実践的な個別支援計画立案と支援への活用について整理する(180分)
6. 子ども虐待の防止と家庭支援について理解を深める(180分)
7. 施設における地域連携について理解を深める(120分)及び確認テストの準備学習(150分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	50 **%**	**確認テスト:**	30 **%**	**レポート:**	20 **%**
その他1:			**%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 本科目への関心並びに授業への取り組みと提出物について
・必要最小限の授業への参加と、提出物の内容が必要程度の理解度である(60～69点)
・前向きな授業への参加と、提出物の内容が概ね理解できたものとなっている(70～79点)
・積極的な授業への取り組みと、提出物の内容が十分理解できたものとなっている(80点以上)

課題へのフィードバック:
・レポート課題は、その提出とフィードバックをTeamsを通して行う。
・質問には全体に向けて随時対応し、また必要に応じて個別にも対応する。
・確認テストについては、出題のポイントと評価の観点を全体に向けて説明する。

教科書: 吉田眞理 (編著)『児童の福祉を支える(演習)社会的養護Ⅱ 第2版』 萌文書林 (ISBN 978-4-89347-420-9)

参考書: 吉田眞理(編著)『児童の福祉を支える 社会的養護Ⅰ 第2版』萌文書林

授業・準備学習のアドバイス:
この科目は、保育実習(施設実習)と深く関連しています。児童福祉施設の種別の内容、そこで生活する子どもたちについて学習しましょう。ここでの学びを保育実習(施設実習)に活かしてください。なおこの科目は、保育士資格取得のための必修科目なので、2/3以上の出席がないと単位認定できません。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 保育者論

クラス: 教前

授業コード: DA50700001

担当者: 猪田 裕子 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:私立幼稚園教諭

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 本授業は、保育者として子どもと向き合う際の視点や姿勢について、具体的な保育場面をもとに学ぶことを目的とする。子どもの表現や行動を丁寧に受け止め、援助や関わりの意味を考察することで、保育者としての判断力と省察力を養い、専門職としての保育観を形成する。

到達目標:
1. 子どもの行動や表情、沈黙から、その思いや背景を捉えようとする視点を身につける。
2. 自らの関わりや言葉かけを振り返り、保育者としての姿勢を考えることができる。
3. 援助・支援・見守りの違いを理解し、子どもの主体性を尊重した関わりを説明できる。
4. 保育の出来事を記録し、事実と解釈を整理して言葉で伝えることができる。
5. 自分なりの子ども観・保育観を言語化し、保育者の役割を理解する。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション/保育者として「子どもと向き合う」とはどういうことか（保育者の社会的役割の概観）
2. 子どもは日常の中で何を伝えようとしているのか（子どもの権利との接続）
3. 子どもを見る保育者のまなざしを考える（保育者倫理の基礎）
4. 言葉にされない子どもの気持ちに気づく（倫理的配慮と守秘義務）
5. やりとりの中で育つ子どもとの関係（保育士の責務と責任）
6. 遊びの中に表れる子どもの思いを読む（養護と教育の一体性）＊DVD視聴①
7. 子どもの姿を言葉で伝える保育者の役割（記録と専門職責任）＊DVD視聴②
8. 子どもの思いは大人にどう受け止められているか（保育士資格制度と法的基盤）
9. 保育における「援助」とは何かを考える（支援と保育の専門的判断）
10. 日常の何気ない関わりがもつ意味（知識・技術・判断の統合）
11. 声に出せない子どもにどう応答するか（多職種連携の基礎）
12. 迷いながら関わる保育者の現実を考える（保育の省察と自己評価）
13. ルールや環境の中で子どもをどう支えるか（保護者支援・地域との協働）
14. これまでの学びから保育者像を見直す（専門職的成長とキャリア形成）
15. 自分が目指す保育者像を言葉にする/まとめ（子どもの声を聴き続ける専門職として ）

特記事項: なし

授業方法: ①～⑮講義(対面)
レポート作成
グループ討議・発表
DVD・視聴覚教材を活用
保育の実践

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 子どもと向き合う保育者の姿勢や考え方について、テキストをもとに事前学習および授業内容の振り返りを行う（100分）
2 .子どもの日常の行動や様子の受け止め方について、テキストを読み、授業内容を踏まえて理解を深める（200分）
3. 子どもを見る保育者のまなざしや視点について、テキストをもとに整理し、授業での学びを振り返る（200分）
4. 言葉にならない子どもの表現（動き・沈黙・表情）について、テキストを読み、授業内容と照らして考える（200分）
5. 子どもとのやりとりや関係づくりの在り方について、テキストの事例をもとに学びを整理する（200分）
6. 遊びの中に表れる子どもの思いや表現について、テキストを読み、授業内容を踏まえて考察する（200分）
7. 子どもの姿や出来事を言葉で捉え、伝える保育者の役割について、テキストをもとに整理・振り返りを行う（200分）
8. 子どもの思いや表現が大人にどのように受け止められているかについて、テキストと授業内容を通して考える（200分）
9. 保育における援助や見守りの考え方について、テキストの記述と授業内容をもとに理解を深める（200分）
10. 日常の何気ない関わりにおける保育者の役割について、テキストを読み、授業内容を振り返る（200分）
11. 声に出せない子どもの思いや困り感への関わり方について、テキストと授業内容をもとに整理する（200分）
12. 保育者が迷いや葛藤を抱えながら関わる場面について、テキストを読み、授業での学びを振り返る（100分）

13. ルールや環境の中で子どもを支える保育者の在り方について、テキストと授業内容を踏まえて考える（200分）
14. これまでの学びを通して形成された子ども観・保育観について整理し、授業全体を振り返る（100分）
15. 自分が目指す保育者像と今後の課題について、テキストと授業内容をもとにまとめる（200分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	50 **%**	**レポート：**	20 **%**
その他1：			**%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

1. 保育者に求められる社会的な役割
・保育者に求められる社会的役割や施設保育士の役割について、基本的な内容を概ね理解できている。（60～69）
・生活に困難を抱える子どもや家庭の課題について具体的に理解し、事例をもとに支援のあり方を考え、実践につなげようとする力が身についてきている。（80～100）
・保護者支援および地域における子育て支援の必要性について概ね理解できている。（60～69）
・事例検討を通して、保育現場における多様で具体的な支援の方法を理解し、実践的に考察できる力が身についてきている。（80～100）
2. 専門機関との連携・協働
・専門機関の種類や役割、基本的な機能について概ね理解できている。（60～69）
・保育現場における専門機関との連携の重要性を理解し、障がいのある子どもやその保護者への支援について、具体的な関わり方を考え、実践につなげようとする力が身についてきている。（80～100）
3. 保育者の資質向上とキャリア形成
・保育者として身につけておくべき資質・能力について、基本的な内容を概ね理解できている。（60～69）
・保育者として学び続ける姿勢の重要性を理解し、自身の課題や将来像を踏まえながらキャリア形成について具体的に考え、実践につなげようとする力が身についてきている。（80～100）

課題へのフィードバック：

課題レポートの講評は適宜行う。

教科書：

加藤繁美『保育の中の子どもの声』ひとなる書房 2025年
ISBN 978-4-89464-300-0C3037

参考書：

令和5年度最新版 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞ ISBN 978-4-8054-0330-3 チャイルド社

授業・準備学習のアドバイス：

上記、参考書を必読すること。授業は、テキストをふまえ、保育現場での事例や視聴覚教材を用いてすすめていく。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 保育者論

クラス: 教後

授業コード: DA50700002

担当者: 猪田 裕子 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:私立幼稚園教諭

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 本授業は、保育者として子どもと向き合う際の視点や姿勢について、具体的な保育場面をもとに学ぶことを目的とする。子どもの表現や行動を丁寧に受け止め、援助や関わりの意味を考察することで、保育者としての判断力と省察力を養い、専門職としての保育観を形成する。

到達目標:
1. 子どもの行動や表情、沈黙から、その思いや背景を捉えようとする視点を身につける。
2. 自らの関わりや言葉かけを振り返り、保育者としての姿勢を考えることができる。
3. 援助・支援・見守りの違いを理解し、子どもの主体性を尊重した関わりを説明できる。
4. 保育の出来事を記録し、事実と解釈を整理して言葉で伝えることができる。
5. 自分なりの子ども観・保育観を言語化し、保育者の役割を理解する。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション/保育者として「子どもと向き合う」とはどういうことか（保育者の社会的役割の概観）
2. 子どもは日常の中で何を伝えようとしているのか（子どもの権利との接続）
3. 子どもを見る保育者のまなざしを考える（保育者倫理の基礎）
4. 言葉にされない子どもの気持ちに気づく（倫理的配慮と守秘義務）
5. やりとりの中で育つ子どもとの関係（保育士の責務と責任）
6. 遊びの中に表れる子どもの思いを読む（養護と教育の一体性）
7. 子どもの姿を言葉で伝える保育者の役割（記録と専門職責任）
8. 子どもの思いは大人にどう受け止められているか（保育士資格制度と法的基盤）
9. 保育における「援助」とは何かを考える（支援と保育の専門的判断）
10. 日常の何気ない関わりがもつ意味（知識・技術・判断の統合）
11. 声に出せない子どもにどう応答するか（多職種連携の基礎）
12. 迷いながら関わる保育者の現実を考える（保育の省察と自己評価）
13. ルールや環境の中で子どもをどう支えるか（保護者支援・地域との協働）
14. これまでの学びから保育者像を見直す（専門職的成長とキャリア形成）
15. 自分が目指す保育者像を言葉にする/まとめ（子どもの声を聴き続ける専門職として ）

特記事項: なし

授業方法: ①～⑮講義(対面)
レポート作成
グループ討議・発表
DVD・視聴覚教材を活用
保育の実践

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 子どもと向き合う保育者の姿勢や考え方について、テキストをもとに事前学習および授業内容の振り返りを行う（100分）
2 .子どもの日常の行動や様子の受け止め方について、テキストを読み、授業内容を踏まえて理解を深める（200分）
3. 子どもを見る保育者のまなざしや視点について、テキストをもとに整理し、授業での学びを振り返る（200分）
4. 言葉にならない子どもの表現（動き・沈黙・表情）について、テキストを読み、授業内容と照らして考える（200分）
5. 子どもとのやりとりや関係づくりの在り方について、テキストの事例をもとに学びを整理する（200分）
6. 遊びの中に表れる子どもの思いや表現について、テキストを読み、授業内容を踏まえて考察する（200分）
7. 子どもの姿や出来事を言葉で捉え、伝える保育者の役割について、テキストをもとに整理・振り返りを行う（200分）
8. 子どもの思いや表現が大人にどのように受け止められているかについて、テキストと授業内容を通して考える（200分）
9. 保育における援助や見守りの考え方について、テキストの記述と授業内容をもとに理解を深める（200分）
10. 日常の何気ない関わりにおける保育者の役割について、テキストを読み、授業内容を振り返る（200分）
11. 声に出せない子どもの思いや困り感への関わり方について、テキストと授業内容をもとに整理する（200分）
12. 保育者が迷いや葛藤を抱えながら関わる場面について、テキストを読み、授業での学びを振り返る（100分）

13. ルールや環境の中で子どもを支える保育者の在り方について、テキストと授業内容を踏まえて考える（200分）
14. これまでの学びを通して形成された子ども観・保育観について整理し、授業全体を振り返る（100分）
15. 自分が目指す保育者像と今後の課題について、テキストと授業内容をもとにまとめる（200分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	50 **%**	**レポート：**	20 **%**
その他1：			**%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

1. 保育者に求められる社会的な役割
・保育者に求められる社会的役割や施設保育士の役割について、基本的な内容を概ね理解できている。（60～69）
・生活に困難を抱える子どもや家庭の課題について具体的に理解し、事例をもとに支援のあり方を考え、実践につなげようとする力が身についてきている。（80～100）
・保護者支援および地域における子育て支援の必要性について概ね理解できている。（60～69）
・事例検討を通して、保育現場における多様で具体的な支援の方法を理解し、実践的に考察できる力が身についてきている。（80～100）
2. 専門機関との連携・協働
・専門機関の種類や役割、基本的な機能について概ね理解できている。（60～69）
・保育現場における専門機関との連携の重要性を理解し、障がいのある子どもやその保護者への支援について、具体的な関わり方を考え、実践につなげようとする力が身についてきている。（80～100）
3. 保育者の資質向上とキャリア形成
・保育者として身につけておくべき資質・能力について、基本的な内容を概ね理解できている。（60～69）
・保育者として学び続ける姿勢の重要性を理解し、自身の課題や将来像を踏まえながらキャリア形成について具体的に考え、実践につなげようとする力が身についてきている。（80～100）

課題へのフィードバック：

課題レポートの講評は適宜行う。

教科書：

加藤繁美『保育の中の子どもの声』ひとなる書房 2025年
ISBN 978-4-89464-300-0C3037

参考書：

令和5年度最新版 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞ ISBN 978-4-8054-0330-3 チャイルド社

授業・準備学習のアドバイス：

上記、参考書を必読すること。授業は、テキストをふまえ、保育現場での事例や視聴覚教材を用いてすすめていく。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 子ども家庭支援の心理学

クラス: 幼保

授業コード: DA50800001

担当者: 権藤 眞織 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:保育所 私立園(兵庫県神戸市)、公立園(東京都港区)非常勤保育士

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: - **一般的包括的科目:** -

授業の目的: 1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。
2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。
3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。
4. 子どもの精神保健とその課題について理解する。

到達目標: 1. 発達に関する心理学的知見を理解し、説明できる。
2. 家族や家庭の機能を理解し、説明できる。
3. 子育て家庭の特徴と社会との関連について説明できる。
4. 子どもの精神保健について説明できる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション:子どもと家庭の支援とは何か?
2. 乳幼児期から学童期にかけての発達の特徴
3. 思春期から青年期の発達の特徴
4. 成人期から高齢期の発達の特徴
5. 家族システムと家族発達
6. 親としての養育スタイルの形成過程と世代間伝達
7. 子育て環境の社会状況的変化
8. ライフコースとワーク・ライフ・バランス
9. 多様な子育て家庭への支援
10. 特別な配慮を必要とする家庭への支援
11. 子どもを取り巻く生活環境と心身の健康
12. 子どもの心と健康
13. 障害のある子どもの理解と対応
14. 災害と子ども
15. 子どもと家庭を支援するために:まとめと試験(オンライン授業)

特記事項: なし

授業方法: 原則的に対面授業を行います。
1. 講義とグループディスカッション(TeamsやFormsで意見をシェアする)
2. 講義とグループディスカッション(TeamsやFormsで意見をシェアする)
3. 講義とグループディスカッション(TeamsやFormsで意見をシェアする)
4. 講義とグループディスカッション(TeamsやFormsで意見をシェアする)
5. 講義と演習
6. 調べ学習(オンライン学習)
7. 発表
8. 演習と発表
9. 講義
10. 講義とディスカッション(TeamsやFormsで意見をシェアする)
11. 講義とディスカッション(TeamsやFormsで意見をシェアする)
12. 講義と演習
13. 講義(授業の進度によってオンライン学習になることもあることをご理解ください)
14. 調べ学習と発表
15. 講義と試験(オンライン学習)

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. 予習：テキストの内容確認 目次の理解/シラバス確認・復習：授業の振り返り（180分）
2. 予習：テキスト第１章の購読・復習：授業の振り返り（180分）
3. 予習：テキスト第２章の購読・復習：授業の振り返り（180分）
4. 予習：テキスト第３章の購読・復習：授業の振り返り（180分）
5. 予習：テキスト第４章の購読・復習：授業の振り返り（180分）
6. 予習：テキスト第５章の購読・復習：授業の振り返り（180分）
7. 予習：テキスト第６章の購読・復習：授業の振り返り（180分）
8. 予習：テキスト第７章の購読・復習：授業の振り返り（180分）
9. 予習：テキスト第８章の購読・復習：授業の振り返り（180分）
10. 予習：テキスト第９章の購読・復習：授業の振り返り（180分）
11. 予習：テキスト第10章の購読・復習：授業の振り返り（180分）
12. 予習：テキスト第11章の購読・復習：授業の振り返り（180分）
13. 予習：テキスト第12章の購読・復習：授業の振り返り（180分）
14. 予習：テキスト第13章の購読・復習：授業の振り返り（180分）
15. 予習：テキスト内容の再確認・復習：授業と試験の振り返り（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	30 **%**	**レポート：**	40 **%**
その他１：			**%**		
その他２：			**%**		

評価基準：

最低限度の到達度(60-69点)
保育および発達に関する基礎的な専門用語を答えることができる。
家庭・家族の基本的な役割・機能について答えることができる。
保育者の基本姿勢についてキーワードを答えることができる。
こどもの精神保健についての基礎的な専門用語を答えられる。

望ましい到達度(80-100点)
保育および発達に関する基礎的な専門用語や概念を把握し説明できる。
家庭・家族の基本的な役割・機能についてキーワードを用いて、キー概念を説明できる。
保育者の基本姿勢についてキーワードを用いて、キー概念を説明できる。
こどもの精神保健についての基礎的な専門用語キーワードを用いて、キー概念を説明できる。

課題へのフィードバック：

講義の中で取り上げ、講評をおこなう。
提出物は、内容確認ののち、授業内で返却する。

教科書： 青木紀久代（編著）『子ども家庭支援の心理学』みらい(2019年)
ISBN：9784860154820

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：

保育現場を意識して授業を行うので、具体的に子どもたちの姿をイメージしながら、積極的に授業へ参加すること。また、授業時の課題およびプレゼンテーションについては、クラスでシェアするので、そのつもりで作成すること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 子どもの理解と援助

クラス: 幼保前

授業コード: DA50900001

担当者: 権藤 眞織 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:保育所:私立園(兵庫県神戸市)、公立園(東京都港区)非常勤保育士

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 生活と遊びの中で、子どもが何を経験し、何を学んでいくのかについて理解し、あわせて子どもの心身の発達や保育実践について学ぶ。また、保育における発達援助についても学ぶ。

到達目標:
1. 子どもの発達を理解する。
2. 発達にあわせた保育者の関わりを理解する。
3. 子どもの発達と保育のねらい・内容との関連を理解する。
4. 子どもの生活への援助を理解する。
5. 子どものあそびへの援助を理解する。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 子ども発達と保育実践① 子ども理解における発達の把握
3. 子ども発達と保育実践② 保育者のかかわりと子どもとの発達
4. 生活や遊びを通した学びの過程① 子どもの生活と学び(対面またはオンライン)
5. 生活や遊びを通した学びの過程② 子どもの遊びと学び
6. 保育における発達援助① 基本的生活習慣の獲得と発達援助(対面またはオンライン)
7. 保育における発達援助② 発達のつまづきと援助
8. まとめと確認 現代社会における子どもの発達と保育の課題(対面またはオンライン)

特記事項: なし

授業方法: 1～7.5 講義
原則的に対面授業にて行います。
ただし、期間中1～2回程度振り返り学習をオンライン授業(オンデマンド型)を行う場合があります。
(その他、調べ活動などはオンライン授業(オンデマンド型)で実施する場合もあります。)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

副読本・参考文献の読解(100分)
参考VTRの視聴(50分)
授業の予習課題(150分)
授業の復習課題(200分)
聞き取り調査活動(100分)
グループワーク・ディスカッション(100分)
レポート課題 調べ活動(150分)
レポート作成(200分)
指導案作成(300分)

評価方法: **授業へのとりくみ:** 30 **%** **確認テスト:** 30 **%** **レポート:** − **%**
その他1: 授業で取り組んだ課題やワークなどの成果物 40 **%**

その他2： **%**

評価基準： 最低限度の到達度(60-69点)
保育および発達に関する基礎的な専門用語を答えることができる。
保育者の基本姿勢についてキーワードを答えることができる。
乳児保育・幼児保育のポイントについて、答えることができる。

望ましい到達度(80-100点)
保育および発達に関する基礎的な専門用語や概念を把握し説明できる。
保育者の基本姿勢についてキーワードを用いて、キー概念を説明できる。
乳児保育・幼児保育について、こどもの発達に関連してキー概念を説明できる。

課題へのフィードバック：

講義の中で取り上げ、講評をおこなう。
提出物は、内容確認ののち、授業内で返却する。
（ただし、学期末に提出したものは、休み明けに返却することになる。）

教科書： ・内閣府 文部科学省 厚生労働省『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定子ども園教育・保育要領』チャイルド本社（平成29年6月）
・『月刊 保育とカリキュラム 4月号』ひかりのくに（保育雑誌）

参考書： ・厚生労働省『保育所保育指針 平成20年告示』厚生労働省HP
・厚生労働省『保育所保育指針解説書』厚生労働省HP
・永田豊志『すべての勉強は、「図」!でうまくいく: 今までの10倍「記憶力」「思考力」が強くなる』三笠書房

授業・準備学習のアドバイス：

保育現場を意識して授業を行うので、具体的に子どもたちの姿をイメージしながら、積極的に授業へ参加すること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 子どもの理解と援助

クラス: 幼保後

授業コード: DA50900002

担当者: 権藤 眞織 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:保育所:私立園(兵庫県神戸市)、公立園(東京都港区)非常勤保育士

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 生活と遊びの中で、子どもが何を経験し、何を学んでいくのかについて理解し、あわせて子どもの心身の発達や保育実践について学ぶ。また、保育における発達援助についても学ぶ。

到達目標:
1. 子どもの発達を理解する。
2. 発達にあわせた保育者の関わりを理解する。
3. 子どもの発達と保育のねらい・内容との関連を理解する。
4. 子どもの生活への援助を理解する。
5. 子どものあそびへの援助を理解する。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 子ども発達と保育実践① 子ども理解における発達の把握
3. 子ども発達と保育実践② 保育者のかかわりと子どもとの発達
4. 生活や遊びを通した学びの過程① 子どもの生活と学び
5. 生活や遊びを通した学びの過程② 子どもの遊びと学び
6. 保育における発達援助① 基本的生活習慣の獲得と発達援助
7. 保育における発達援助② 発達のつまづきと援助
8. まとめと確認 現代社会における子どもの発達と保育の課題

特記事項: なし

授業方法: 1〜15. 講義
原則的に対面授業にて行います。
ただし、期間中1〜2回程度振り返り学習をオンライン授業(オンデマンド型)を行う場合があります。
(その他、調べ活動などはオンライン授業(オンデマンド型)で実施する場合もあります。)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

副読本・参考文献の読解(100分)
参考VTRの視聴(50分)
授業の予習課題(150分)
授業の復習課題(200分)
聞き取り調査活動(100分)
グループワーク・ディスカッション(100分)
レポート課題 調べ活動(150分)
レポート作成(200分)
指導案作成(300分)

評価方法: **授業へのとりくみ:** 30 **%** **確認テスト:** 30 **%** **レポート:** − **%**
その他1: 授業で取り組んだ課題やワークなどの成果物 40 **%**

その他2： **%**

評価基準： 最低限度の到達度(60-69点)
保育および発達に関する基礎的な専門用語を答えることができる。
保育者の基本姿勢についてキーワードを答えることができる。
乳児保育・幼児保育のポイントについて、答えることができる。

望ましい到達度(80-100点)
保育および発達に関する基礎的な専門用語や概念を把握し説明できる。
保育者の基本姿勢についてキーワードを用いて、キー概念を説明できる。
乳児保育・幼児保育について、こどもの発達に関連してキー概念を説明できる。

課題へのフィードバック：

講義の中で取り上げ、講評をおこなう。
提出物は、内容確認ののち、授業内で返却する。
（ただし、学期末に提出したものは、休み明けに返却することになる。）

教科書： ・内閣府 文部科学省 厚生労働省『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定子ども園教育・保育要領』チャイルド本社（平成29年6月）
・『月刊 保育とカリキュラム 4月号』ひかりのくに（保育雑誌）

参考書： ・厚生労働省『保育所保育指針 平成20年告示』厚生労働省HP
・厚生労働省『保育所保育指針解説書』厚生労働省HP
・永田豊志『すべての勉強は、「図」!でうまくいく: 今までの10倍「記憶力」「思考力」が強くなる』三笠書房

授業・準備学習のアドバイス：

保育現場を意識して授業を行うので、具体的に子どもたちの姿をイメージしながら、積極的に授業へ参加すること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 子どもの保健

クラス: ☆幼保

授業コード: DA51000001

担当者: 磯部 知愛 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:大学病院や地域医療における小児医療保健分野で看護師や保健師として実務経験あり

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 本授業は将来子どもの保育に携わる専門職として、超少子高齢化、核家族化、親の就労状況、働き方改革など、子どもを取り巻く様々な環境や、子育てをする側の環境も時代と共に大きな変革期を迎えている。その様な環境の変化が、子どもの心身の発育・発達に大きな影響を及ぼしていることを理解し、子どもとその周囲の理解に必要な保健知識を習得し、保育現場において、子どもの心身の健康保持・増進を図ることや、子どもの健康問題に早期に気づくことができるようになることを目指す。
子どもの健康を支え、安全を守るための適切な対応の方法を理解し、教育・保育現場での活用・応用を考えることができる。保育者としての役割を果たすための知識および技術について学ぶことをこの授業の目的とする。

到達目標:
1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義について、生命の保持と情緒の安定に係る保健活動を健康の概念と健康指標に基づき、地域における保健活動と子どもの虐待防止などの現代社会における子どもの健康に関する現状と課題を具体的に理解できる。
2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について、身体発育及び運動機能の発達、生理機能の発達の視点から具体的に理解できる。
3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について具体的に理解できる。
4. 子どもの疾病の特徴や、その予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について具体的に理解できる。
5. 子どもの「健康」を支えるための役割を理解するとともに、「健康」であることを維持するための手段・方法を説明・実践することができるようになる。

各回の授業計画:

1. ガイダンス/子どもの保健とは授業の進め方 自己紹介保健の定義・概念

2. 生命の保持と情緒の安定にかかる保健活動の意義と目的保健活動からみた生命の保持と情緒の安定養護と教育を一体的に行う保育におけるさまざまな活動の場

3. 健康の概念と健康指標
・健康の定義と概念
・ヘルスプロモーション
・こころの健康指標
・子どもの健康と貧困

4. 現代社会における子どもの健康に関する現状と母子保健施策現代社会と子どもの健康母子保健法母子保健対策と療養援護等

5. 地域における保健活動と子ども虐待防止
不適切保育とは保健行政施策の体系と地域保健児童虐待とは児童福祉法児童虐待防止法保育所における保健と嘱託医の役割

6. 子どもの発達・発育発育と発達の定義と概念発育の原則原始反射・姿勢の発達子どもの発育・発達と保育者の役割

7. 生理機能の発達と保健呼吸循環免疫消化・吸収排泄体温睡眠感覚器脳

8. 健康状態の把握と子どもによくある症状の特徴と対応健康状態の把握子どもによくある症状の特徴と対応発熱・熱性けいれん痛み消化器症状:嘔吐・下痢・脱水消化器症状:便秘(急性・慢性)呼吸器症状:鼻汁・咳・呼吸困難皮膚症状:発疹、かゆみ、アレルギー 等

9. 心身の不調等の早期発見・精神昨日の発達と保健心の不調と身体の不調言語・社会性、情緒の発達精神機能の発達発達と遊び

10. 発育・発達の把握・健康診断身体発育の評価発達評価の重要性健康診断とその対応乳幼児健診の変化と課題

11. 保護者との情報共有情報共有の目的保護者との連携

12. 主な疾病の特徴早期発見が必用な疾患重篤な疾患合併症・後遺症に注意が必用な疾患保育方法に留意したい疾患

13. 子どもの疾病の予防健康観察・定期健康診断感染症の予防予防できる疾患

14. 子どもの疾病の適切な対応学校保健安全法と感染症病児保育

15. 保育者と子どもの保健生活習慣情報社会政策・行政サービス保育者の健康

特記事項: なし

授業方法: オンライン授業

1. Web授業(オンデマンド型)
2. Web授業(オンデマンド型)
3. Web授業(オンデマンド型)
4. Web授業(オンデマンド型)

5. Web授業（オンデマンド型）
6. Web授業（オンデマンド型）
7. Web授業（オンデマンド型）
8. Web授業（オンデマンド型）
9. Web授業（オンデマンド型）
10. Web授業（オンデマンド型）
11. Web授業（オンデマンド型）
12. Web授業（オンデマンド型）
13. Web授業（オンデマンド型）
14. Web授業（オンデマンド型）
15. Web授業（オンデマンド型）

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

以下を授業外学習として毎回授業前後に実施すること

予習
〇教科書を読み、自己学習ノートを作成する（60分）
〇新聞、テレビ、インターネット等から、子どもを取り巻く社会状況や病気、事故のニュースに関心を持ち、授業内容と関連させて考え、自己の意見や思い表現できるように準備すること（30分以上）

復習
〇毎回の授業後に共有する資料で次週の復習テスト（課題）に向けた学習を行うこと（60分以上）
〇授業内で紹介した文献や記事、webサイトなどを確認し、自己の意見を考えること（30分以上）
※180分/回×15回＝2700分

評価方法：

授業へのとりくみ：	－	**%**	**確認テスト：**	50	**%**	**レポート：**	10 **%**
その他1：	毎回実施する課題（オンライン復習テスト）			40	**%**		
その他2：					**%**		

評価基準：

【最低限の到達度（60－69点）】
授業毎の課題：学習した内容を復習テスト（オンライン小テスト）で理解できていることを示すことができる(毎回6割以上の得点を取れる)
日頃から、子どもを取り巻く社会状況やの子どもに関連するニュースに関心を持ち、授業内容と関連させて考え、自己の意見や思いをレポートである程度表現し書くことができる
定期試験：まとめの筆記テストにおいて学習内容をある程度理解している（6割程度）

【標準的な到達度（70－79点）】
授業毎の課題：学習した内容を復習テスト（オンライン小テスト）で理解できていることを示すことができる(毎回7割以上の得点を取れる)
日頃から、子どもを取り巻く社会状況やの子どもに関連するニュースに関心を持ち、授業内容と関連させて考え、自己の意見や思いをレポートを書くことができる
定期試験：まとめの筆記テストにおいて学習内容の理解を示すことができる（7割程度）

【望ましい到達度（80－100点）】
授業毎の課題：学習した内容を復習テスト（オンライン小テスト）で理解できていることを示すことができる(毎回8割以上の得点を取れる)
日頃から、子どもを取り巻く社会状況やの子どもに関連するニュースに関心を持ち、授業内容と関連させて考え、自己の意見や思いをわかりやすく表現でき、読みやすいレポートを書くことができる
定期試験：まとめの筆記テストにおいて学習内容の理解を示すことができる（8割以上）

〇単に授業を聴講して吸収するだけではなく、予習復習といった授業への積極的な取り組みが期待される。

課題へのフィードバック：

・授業レポートは、コメントを記してTeamsで返却する。
・ワークや課題へのフィードバックは翌週以降Teamsで適宜行います。

教科書： 子どもの未来を拓く 子どもの保健 堀純子 編著 青鞜社 2025

参考書： 講義資料に参考資料を提示する。

授業・準備学習のアドバイス：

子どもの成長発達、健康状態の観察、主な疾患とその予防について解説します。
保育現場や生活の場での子どもの発達や健康、保健について考える学びの場にしていきたいと思います。
定期期末試験方法の詳細に関しては授業内で説明します。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 子どもの食と栄養

クラス: 幼保前

授業コード: DA51100001

担当者: 廣田 有加里 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:管理栄養士として企業、福祉、医療分野での健康管理業務に従事

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 乳幼児期の食と栄養は、豊かな人間性を育て、生きる力を育み、発達を支え、健康な身体をつくる基礎であることを理解する。栄養に関する基礎知識をもとに、乳児期、幼児期、学童期の各々の子どもの発育・発達、疾患等での対応食に関して理解し、健全な発育・発達を促すため必要な事柄を栄養・食生活面から学ぶ。また、食育の進め方や食育を推進するための取り組みについての知識を習得し、さらに家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題、特別な配慮を要する子どもの食生活全般への働きかけや栄養教育等を学ぶ。

到達目標:
1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基礎的知識を習得する。
2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解し、発育・発達段階に応じた適切な食生活を説明できる。
3. 養護および教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的な考え方、その内容等について理解する。
4. 家庭や児童福祉施設の食生活の現状と課題について理解する。
5.「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」、「保育所における食事の提供ガイドライン」等や近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解し実践できる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
子どもの健康と食生活の意義(指定テキストpp.10〜21)
・子どもの心身の健康と食生活
・子どもの食生活の現状と課題
確認テスト

2. 栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能(指定テキストpp.22〜28)
・炭水化物、脂質
確認テスト

3. 栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能(指定テキストpp.28〜35)
・たんぱく質、ビタミン、ミネラル
確認テスト

4. 日本人の食事摂取基準と献立作成(指定テキストpp.36〜42)
確認テスト

5. 食品表示の見方と食中毒予防(指定テキストpp.43〜47)
確認テスト

6. 妊娠期の食生活(指定テキストpp.48〜54)
確認テスト

7. 授乳期の食生活(指定テキストpp.54〜61)
【オンライン(オンデマンド)】

8. 乳児期の食生活(指定テキストpp.62〜68)
確認テスト

9. 離乳に関するリーフレット作成
離乳食の進め方(指定テキストpp.68〜75)
確認テスト

10. 幼児期の発育・発達(指定テキストpp.76〜82)
【オンライン(オンデマンド)】

11. 幼児期の栄養問題(指定テキストpp.82〜89)
確認テスト

12. 学童期・思春期の発育・発達と食生活 (指定テキストpp.90〜105)
生涯発達と食生活(指定テキストpp.106〜116)
確認テスト

13. 食育および給食だよりの作成
食育の基本と内容 (指定テキストpp.117〜131)
家庭や児童福祉施設における食事と栄養(指定テキストpp.132〜143)
【オンライン(オンデマンド)】

14. アレルギー疾患をもつ子どもへの対応(指定テキストpp.161〜170)

確認テスト

15. 特別な配慮を要する子どもへの対応、(指定テキストpp.144～160)
確認テスト

特記事項: なし

授業方法: 第1回 講義【対面】
第2回 講義【対面】
第3回 講義【対面】
第4回 講義【対面】
第5回 講義【対面】
第6回 講義【対面】
第7回 課題提出【オンライン(オンデマンド)】
第8回 講義【対面】
第9回 講義【対面】
第10回 課題提出【オンライン(オンデマンド)】
第11回 講義【対面】
第12回 講義【対面】
第13回 課題提出【オンライン(オンデマンド)】
第14回 講義【対面】
第15回 講義【対面】

予習・復習・宿題など(内容・時間):

第1回 子どもの健康と食生活の意義(指定テキストpp.10～21)
予習:子どもの心身の健康と食生活について情報を収集する。(90分)
復習:子どもの食生活の現状と課題について理解を深める。(90分)

第2回 栄養素の種類と機能(炭水化物、脂質)(指定テキストpp.22～28)
予習:炭水化物と脂質の機能について理解する。(90分)
復習:糖類と脂肪酸の種類と体内での機能について理解を深める。(90分)

第3回 栄養素の種類と機能(たんぱく質、ビタミン、ミネラル)(指定テキストpp.28～35)
予習:たんぱく質とビタミン・ミネラルの種類と機能について理解する。(90分)
復習:アミノ酸、ビタミンおよびミネラルの過不足による体内への影響について理解を深める。(90分)

第4回 日本人の食事摂取基準と献立作成(指定テキストpp.36～42)
予習:日本人の食事摂取基準(2025年版)について理解する。(90分)
復習: 食事バランスガイドから考える献立作成と調理の基本について理解を深める。(90分)

第5回 食品表示の見方と食中毒予防(指定テキストpp.43～47)
予習:栄養成分表示について理解する。(90分)
復習:施設での衛生管理と食中毒予防の3原則について理解を深める。(90分)

第6回 妊娠期の食生活(指定テキストpp.48～54)
予習:妊娠期の体重管理の重要性を理解する。(90分)
復習:胎児の発育・発達と栄養管理について理解を深める。(90分)

第7回 授乳期の食生活(指定テキストpp.54～61)
予習:授乳期の栄養素過不足の問題について理解する。(90分)
復習:授乳期の嗜好品の摂り方について理解を深める。(90分)

第8回 乳児期の食生活(指定テキストpp.62～68)
予習:母乳栄養の利点と留意点を理解する。(90分)
復習:育児用ミルクと哺乳瓶の扱い方について理解を深める。(90分)

第9回 離乳に関するリーフレット作成
離乳食の進め方(指定テキストpp.68～75)
課題:離乳の意義および離乳開始の発達の目安について理解し、リフレットを作成する。(120分)
復習:離乳食の調理のポイントについて理解を深め、説明ができるようにする。(60分)

第10回 幼児期の発育・発達(指定テキストpp.76～82)
予習:幼児期の身体発育の特徴について理解する。(90分)
復習:幼児期の栄養と食事について理解を深める。(90分)

第11回 幼児期の栄養問題(指定テキストpp.82～89)
予習:幼児期の栄養と間食の必要性について考える。(90分)
復習:幼児期の食行動、咀嚼力の発達について理解を深める。(90分)

第12回 学童期・思春期の発育・発達と食生活 (指定テキストpp.90～105)

生涯発達と食生活（指定テキストpp.106～116）
予習：学童期・思春期の栄養管理が、成人期以降の健康所帯に影響することを理解する。（90分）
復習：次世代へ命をつなぐ成人期における健康上の問題について理解を深める。（90分）

第13回 食育および給食だよりの作成
食育の基本と内容 （指定テキストpp.117～131）
家庭や児童福祉施設における食事と栄養（指定テキストpp.132～143）
課題：食育および行事食について理解し、食苦および給食だよりを作成する。（120分）
復習：家庭や児童福祉施設における食事提供について自分の意見をまとめる。（60分）

第14回 アレルギー疾患をもつ子どもへの対応（指定テキストpp.161～170）
予習：保育の現場で食物アレルギーの子どもに安全に給食や間食を提供する具体的な方法や考え方を理解する。（90分）
復習：食物アレルギーを持つ子どもが誤食した際の緊急時対応について理解を深める。（90分）

第15回 特別な配慮を要する子どもへの対応、（指定テキストpp.144～160）
予習：障害児のある子どもの特性と体調不良の子どもへの対応を理解する。（180分）

※予習と復習では教科書以外に参考文献も活用する。

評価方法：

授業へのとりくみ：	20 **%**	**確認テスト：**	60 **%**	**レポート：**	20 **%**
その他1：			**%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

1．授業参加態度
「教科書を熟読し、質疑応答に積極的に取り組み、自分の意見を述べることができる」(80～100点）
「発言や質問に対して対応することができる」（60～69点）
2．確認テスト
①子どもの食生活と栄養および健康について、十分な理解の習得が確認できる(80～100点）
②子どもの食生活と栄養および健康について、ある程度の理解が確認できる(70～79点）
③子どもの食生活と栄養および健康について、科目の目標の必要程度の理解が確認できる(60～69点）
3．レポート
課題の趣旨に沿って作成している。（60～69点）
課題の趣旨を深く理解し、応用・発展（80～100点）記述も含んでいる。
・上記項目を総合的に評価する。

課題へのフィードバック：

・提出物については、teamsを活用し、次回の授業時までに返却する。
・復習として、授業開始時に確認テストを実施する。
・質問については、授業時に全体に向けて回答し説明する。

教科書： 太田百合子，堤ちはる編著『子どもの食と栄養』羊土社

参考書：
・厚生労働省『日本人の食事摂取基準（2025年版）』https://www.mhlw.go.jp/content/10904750/001316585.pdf
・厚生労働省『妊娠前からはじめる妊産婦のための食生活指針』https://www.mhlw.go.jp/content/000788598.pdf
・厚生労働省『授乳・離乳の支援ガイド（2019年改定版）』https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_04250.html
・厚生労働省『平成27年度乳幼児栄養調査』https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000134208.html

---

授業・準備学習のアドバイス：

1．保育士を目指す学生の素養として、日頃から食に関する情報に興味や関心を持ち、新聞、書籍、雑誌、インターネット（官公庁のホームページ）などから取り入れる習慣を持つ。
2．子どもの望ましい発育のためには周りの大人の自覚ある生活が必要であるため、自分自身の食生活を振り返り、見直す姿勢を持ち、実践を心がける。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 子どもの食と栄養

クラス: 幼保後

授業コード: DA51100002

担当者: 廣田 有加里 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:管理栄養士として企業、福祉、医療分野での健康管理業務に従事

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 乳幼児期の食と栄養は、豊かな人間性を育て、生きる力を育み、発達を支え、健康な身体をつくる基礎であることを理解する。栄養に関する基礎知識をもとに、乳児期、幼児期、学童期の各々の子どもの発育・発達、疾患等での対応食に関して理解し、健全な発育・発達を促すため必要な事柄を栄養・食生活面から学ぶ。また、食育の進め方や食育を推進するための取り組みについての知識を習得し、さらに家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題、特別な配慮を要する子どもの食生活全般への働きかけや栄養教育等を学ぶ。

到達目標:
1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基礎的知識を習得する。
2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解し、発育・発達段階に応じた適切な食生活を説明できる。
3. 養護および教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的な考え方、その内容等について理解する。
4. 家庭や児童福祉施設の食生活の現状と課題について理解する。
5.「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」、「保育所における食事の提供ガイドライン」等や近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解し実践できる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
子どもの健康と食生活の意義(指定テキストpp.10〜21)
・子どもの心身の健康と食生活
・子どもの食生活の現状と課題
確認テスト

2. 栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能(指定テキストpp.22〜28)
・炭水化物、脂質
確認テスト

3. 栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能(指定テキストpp.28〜35)
・たんぱく質、ビタミン、ミネラル
確認テスト

4. 日本人の食事摂取基準と献立作成(指定テキストpp.36〜42)
確認テスト

5. 食品表示の見方と食中毒予防(指定テキストpp.43〜47)
確認テスト

6. 妊娠期の食生活(指定テキストpp.48〜54)
確認テスト

7. 授乳期の食生活(指定テキストpp.54〜61)
【オンライン(オンデマンド)】

8. 乳児期の食生活(指定テキストpp.62〜68)
確認テスト

9. 離乳に関するリーフレット作成
離乳食の進め方(指定テキストpp.68〜75)
確認テスト

10. 幼児期の発育・発達(指定テキストpp.76〜82)
【オンライン(オンデマンド)】

11. 幼児期の栄養問題(指定テキストpp.82〜89)
確認テスト

12. 学童期・思春期の発育・発達と食生活 (指定テキストpp.90〜105)
生涯発達と食生活(指定テキストpp.106〜116)
確認テスト

13. 食育および給食だよりの作成
食育の基本と内容 (指定テキストpp.117〜131)
家庭や児童福祉施設における食事と栄養(指定テキストpp.132〜143)
【オンライン(オンデマンド)】

14. アレルギー疾患をもつ子どもへの対応(指定テキストpp.161〜170)

確認テスト

15. 特別な配慮を要する子どもへの対応、(指定テキストpp.144～160)
確認テスト

特記事項: なし

授業方法: 第1回 講義【対面】
第2回 講義【対面】
第3回 講義【対面】
第4回 講義【対面】
第5回 講義【対面】
第6回 講義【対面】
第7回 課題提出【オンライン(オンデマンド)】
第8回 講義【対面】
第9回 講義【対面】
第10回 課題提出【オンライン(オンデマンド)】
第11回 講義【対面】
第12回 講義【対面】
第13回 課題提出【オンライン(オンデマンド)】
第14回 講義【対面】
第15回 講義【対面】

予習・復習・宿題など(内容・時間):

第1回 子どもの健康と食生活の意義(指定テキストpp.10～21)
予習:子どもの心身の健康と食生活について情報を収集する。(90分)
復習:子どもの食生活の現状と課題について理解を深める。(90分)

第2回 栄養素の種類と機能(炭水化物、脂質)(指定テキストpp.22～28)
予習:炭水化物と脂質の機能について理解する。(90分)
復習:糖類と脂肪酸の種類と体内での機能について理解を深める。(90分)

第3回 栄養素の種類と機能(たんぱく質、ビタミン、ミネラル)(指定テキストpp.28～35)
予習:たんぱく質とビタミン・ミネラルの種類と機能について理解する。(90分)
復習:アミノ酸、ビタミンおよびミネラルの過不足による体内への影響について理解を深める。(90分)

第4回 日本人の食事摂取基準と献立作成(指定テキストpp.36～42)
予習:日本人の食事摂取基準(2025年版)について理解する。(90分)
復習: 食事バランスガイドから考える献立作成と調理の基本について理解を深める。(90分)

第5回 食品表示の見方と食中毒予防(指定テキストpp.43～47)
予習:栄養成分表示について理解する。(90分)
復習:施設での衛生管理と食中毒予防の3原則について理解を深める。(90分)

第6回 妊娠期の食生活(指定テキストpp.48～54)
予習:妊娠期の体重管理の重要性を理解する。(90分)
復習:胎児の発育・発達と栄養管理について理解を深める。(90分)

第7回 授乳期の食生活(指定テキストpp.54～61)
予習:授乳期の栄養素過不足の問題について理解する。(90分)
復習:授乳期の嗜好品の摂り方について理解を深める。(90分)

第8回 乳児期の食生活(指定テキストpp.62～68)
予習:母乳栄養の利点と留意点を理解する。(90分)
復習:育児用ミルクと哺乳瓶の扱い方について理解を深める。(90分)

第9回 離乳に関するリーフレット作成
離乳食の進め方(指定テキストpp.68～75)
課題:離乳の意義および離乳開始の発達の目安について理解し、リフレットを作成する。(120分)
復習:離乳食の調理のポイントについて理解を深め、説明ができるようにする。(60分)

第10回 幼児期の発育・発達(指定テキストpp.76～82)
予習:幼児期の身体発育の特徴について理解する。(90分)
復習:幼児期の栄養と食事について理解を深める。(90分)

第11回 幼児期の栄養問題(指定テキストpp.82～89)
予習:幼児期の栄養と間食の必要性について考える。(90分)
復習:幼児期の食行動、咀嚼力の発達について理解を深める。(90分)

第12回 学童期・思春期の発育・発達と食生活 (指定テキストpp.90～105)

生涯発達と食生活（指定テキストpp.106～116）
予習：学童期・思春期の栄養管理が、成人期以降の健康所帯に影響することを理解する。（90分）
復習：次世代へ命をつなぐ成人期における健康上の問題について理解を深める。（90分）

第13回 食育および給食だよりの作成
食育の基本と内容 （指定テキストpp.117～131）
家庭や児童福祉施設における食事と栄養（指定テキストpp.132～143）
課題：食育および行事食について理解し、食苦および給食だよりを作成する。（120分）
復習：家庭や児童福祉施設における食事提供について自分の意見をまとめる。（60分）

第14回 アレルギー疾患をもつ子どもへの対応（指定テキストpp.161～170）
予習：保育の現場で食物アレルギーの子どもに安全に給食や間食を提供する具体的な方法や考え方を理解する。（90分）
復習：食物アレルギーを持つ子どもが誤食した際の緊急時対応について理解を深める。（90分）

第15回 特別な配慮を要する子どもへの対応、（指定テキストpp.144～160）
予習：障害児のある子どもの特性と体調不良の子どもへの対応を理解する。（180分）

※予習と復習では教科書以外に参考文献も活用する。

評価方法：

授業へのとりくみ：	20 **%**	**確認テスト：**	60 **%**	**レポート：**	20 **%**
その他1：			**%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

1．授業参加態度
「教科書を熟読し、質疑応答に積極的に取り組み、自分の意見を述べることができる」(80～100点）
「発言や質問に対して対応することができる」（60～69点）
2．確認テスト
①子どもの食生活と栄養および健康について、十分な理解の習得が確認できる(80～100点）
②子どもの食生活と栄養および健康について、ある程度の理解が確認できる(70～79点）
③子どもの食生活と栄養および健康について、科目の目標の必要程度の理解が確認できる(60～69点）
3．レポート
課題の趣旨に沿って作成している。（60～69点）
課題の趣旨を深く理解し、応用・発展（80～100点）記述も含んでいる。
・上記項目を総合的に評価する。

課題へのフィードバック：

・提出物については、teamsを活用し、次回の授業時までに返却する。
・復習として、授業開始時に確認テストを実施する。
・質問については、授業時に全体に向けて回答し説明する。

教科書： 太田百合子，堤ちはる編著『子どもの食と栄養』羊土社

参考書：
・厚生労働省『日本人の食事摂取基準（2025年版）』https://www.mhlw.go.jp/content/10904750/001316585.pdf
・厚生労働省『妊娠前からはじめる妊産婦のための食生活指針』https://www.mhlw.go.jp/content/000788598.pdf
・厚生労働省『授乳・離乳の支援ガイド（2019年改定版）』https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_04250.html
・厚生労働省『平成27年度乳幼児栄養調査』https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000134208.html

---

授業・準備学習のアドバイス：

1．保育士を目指す学生の素養として、日頃から食に関する情報に興味や関心を持ち、新聞、書籍、雑誌、インターネット（官公庁のホームページ）などから取り入れる習慣を持つ。
2．子どもの望ましい発育のためには周りの大人の自覚ある生活が必要であるため、自分自身の食生活を振り返り、見直す姿勢を持ち、実践を心がける。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 乳児保育論

クラス: ★幼保

授業コード: DA51200001

担当者: 山口 香織　　**単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 乳児保育の基本と3歳未満児の発達的特徴をふまえ、乳児を担当する保育者として必要な知識および技能について学ぶ。

到達目標:
1. 乳児保育の意義・理念と社会的な役割について説明できる。
2.保育所、乳児院など多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について述べることができる。
3.3歳未満児の発達特徴をふまえた生活や遊びについて理解し、具体的な保育実践と結びつけることができる。
4.乳児保育における職員間の連携や保護者との連携について説明できる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション、乳児保育とは ※対面予定
2. 乳児保育の理念と概念、乳児保育の歴史
3. 乳児保育の基礎知識
4. 6か月未満の子どもの育ちと保育内容
5. 6か月以上1歳未満の子どもの育ちと保育内容
6. 1歳以上2歳未満の子どもの育ちと保育内容
7. 2歳～3歳の子どもの育ちと保育内容
8. 保育所・認定こども園における乳児保育
9. 乳児院・家庭的保育等・その他における乳児保育
10. 保護者とのパートナーシップ
11. 乳児保育における子育て支援/連携
12. 中間のまとめと確認テスト ※対面予定
13. 乳児の遊び(教材研究)※対面予定
14. 乳児とのかかわり ※対面予定
15. 乳児保育における今日的課題、保育者の専門性

特記事項: なし

授業方法: ★オンライン授業(ただし1～5回の対面授業を含む)
1. 講義・演習(対面)
2. 講義(オンライン(オンデマンド))
3. 講義(オンライン(オンデマンド))
4. 講義(オンライン(オンデマンド))
5. 講義(オンライン(オンデマンド))
6. 講義(オンライン(オンデマンド))
7. 講義(オンライン(オンデマンド))
8. 講義(オンライン(オンデマンド))
9. 講義(オンライン(オンデマンド))
10. 講義(オンライン(オンデマンド))
11. 講義(オンライン(オンデマンド))
12. 講義(確認テスト)(対面)
13. 演習(対面)
14. 講義・演習(対面)
15. 講義(オンライン(オンデマンド))

予習・復習・宿題など(内容・時間):

以下の内容についてテキストを読む
1. 乳児保育とは p.8-15 180分

2. 乳児保育の理念と概念、乳児保育の歴史 p.16-31 180分
3. 乳児保育の基礎知識 p.32-57 180分
4. 6か月未満の子どもの育ちと保育内容 p.134-149 180分
5. 6か月以上1歳未満の子どもの育ちと保育内容 p.150-163 180分
6. 1歳以上2歳未満の子どもの育ちと保育内容 p.170-175 180分
7. 2歳～3歳の子どもの子どもの育ちと保育内容 p.176-187 180分
10. 保育所・認定こども園における乳児保育 p.66-173 180分
11. 乳児院における乳児保育 p.74-93 180分
12. 保育者とのパートナーシップ p.102-117 180分
13. 乳児保育における子育て支援 / 連携 p.94-101, 118-125 180分
15. 乳児保育の現状と課題 p.126-132 180分

以下の内容を考え、まとめる
8. 乳児の遊び 教材研究と教材作成 270分
9. 乳児とのかかわり 教材を用いた実践 180分
14. これまでの学びを振り返り、確認テストに備える 270分
15. 保育者の専門性についてまとめる ミニレポート作成 180分

評価方法:

授業へのとりくみ:	20 **%**	**確認テスト:**	60 **%**	**レポート:**	10 **%**
その他1:	教材研究(作品)		10 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準:

確認テストおよび振り返り課題
・学習のテーマに関して、基礎的な知識を内容を理解している。(60～69)
・学習のテーマに関して、的確に要点をおさえ、具体的な子どもの姿や遊び、保育とつなげて考えることができる。(80～100)

レポート
・課題について必要な文字数でまとめることができる。(60～69)
・課題について出題の意図を捉え、自身の経験や考えを踏まえて、論理的に述べることができる。(80～100)

作品
・子どもの年齢や発達を考えてた教材である。。(60～69)
・子どもの年齢や発達的特徴を踏まえ、工夫された作品であるとともに丁寧に作られている。(80～100)

発達カード
・乳幼児(3歳未満児)の基本的な発達特徴について、まとめることができる。(60～69)
・乳幼児(3歳未満児)の発達特徴について、工夫してまとめることができる。(80～100)

授業への取組み・提出物
・授業中はメモを取り、教師の質問に対して答えることができる。(60～69)
・授業への参加が積極的で、主体的・対話的に活動することができる。(80～100)
・提出物が概ね期限内に出せている。(60～69)
・全ての課題に対して、遅れることなく提出物が出せている。(80～100)

以上の内容を総合的に評価する。

課題へのフィードバック:

Teamsによる講義の確認テストは、採点し授業で全体に対して講評する。
提出物は、添削・コメントを加え返却する。
質問に対しては、全体に向けて回答・説明する。

教科書: 『よくわかる！保育士エクササイズ 乳児保育演習ブック[第2版]』 松本峰雄監修(2019)ミネルヴァ書房

参考書: 保育所保育指針(解説)

授業・準備学習のアドバイス:

オンライン授業と対面授業を併用して行う。
対面授業では、グループワークを行う。
提出期限を厳守すること。
なお、Teamsによる講義では、提出期限を設け、出席・遅刻・欠席を判断する。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 乳児保育演習

クラス: 幼保前

授業コード: DA51300001

担当者: 北野　富美子　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立保育所長・地域子育て支援センター所長・保育士

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 乳児保育論の内容を踏まえ、児童福祉施設における3歳児未満児(0・1・2歳児)の保育を担当する保育者に求められる知識や技術について、より深く専門的に学ぶ。乳児期の発達特徴を理解し、保育計画の立案等を通して乳児期の保育を構成する力を身につける。また、乳児保育をめぐる様々な今日的課題を討議しながら、現代に即した保育のありようを考究する。

到達目標:
1. 乳児期の発達を踏まえた保育計画を立案し、具体的な保育内容や援助の方法を身につける。
2. 乳児を取り巻く社会環境の変化や乳児保育の課題を理解し、問題解決の方法について学ぶ。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション、子どもに応じた援助や受容的、応答的な関わり
2. 乳児保育における生活と遊びの実際1(0・1歳児クラスの運営)
3. 乳児保育における生活と遊びの実際2(2歳児クラスの運営)
4. 乳児保育の実際(おむつ交換、衣服の着脱、調乳、抱き方等の実技)
5. 乳児保育における計画の実際(長期的な指導計画と短期的な指導計画)
6. 教材研究1(制作活動から保育を考える)
7. 教材研究2(発達にあった教材作成)
8. 統括(乳児担当保育士の使命感について)

特記事項: なし

授業方法:
1. 講義 (対面)
2. 講義と演習 (対面)
3. 講義と演習 (対面)
4. グループワーク・演習 (対面)
5. 講義と演習 (対面)
6. グループワーク・教材作成 (対面)
7. グループワーク・教材作成 (対面)
8. ディスカッション (対面)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

・子育て支援について、パソコン等を活用して社会資源や制度について調べる。
・地元の子育て支援について、パソコン等を活用してまとめる。
課題レポート(270分)
0歳児課題の制作(120分)
1歳児課題の制作(120分)
2歳児課題の制作(120分)
子育て支援(180分)
地元の子育て支援(180分)
保育指導案作成(360分)

評価方法：	授業へのとりくみ：	20 %	確認テスト：	－ %	レポート：	40 %
	その他1：	課題（レポート・教材研究作品を含む）	40 %			
	その他2：		%			

評価基準： レポート
・授業内での学びを総合的に捉えたうえで、テーマに対する問題の所在を明らかにし、自分の考えを論理的に述べている。引用文献を明記していること。（80～100）
・テーマに対して、自分なりの見解をもち、具体的に述べている。（60～69）

その他
・授業での話し合いや発表等に積極的に取り組み、新しい発想や視点で学ぶことができる（80～100）
・話し合いでは、メモをとって参加し、意見を求められると答えることができる。（60～69）

教材研究作品や提出物を含め、総合的に評価する。

課題へのフィードバック：
質問に対しては、授業時に全体に向けて回答・説明する。
レポートは、作成のポイントと評価の観点を全体に向けて説明する。

教科書： なし

参考書： 適宜事前に資料をTeamsにあげる。
または、資料を配布する。

授業・準備学習のアドバイス：
心身の成長が目覚ましい乳児期にかかわる保育の楽しさと共に、大切にしたい保育の心を授業を通して感じ取ってください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 乳児保育演習

クラス: 幼保後

授業コード: DA51300002

担当者: 北野　富美子　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立保育所長・地域子育て支援センター所長・保育士

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 乳児保育論の内容を踏まえ、児童福祉施設における3歳児未満児(0・1・2歳児)の保育を担当する保育者に求められる知識や技術について、より深く専門的に学ぶ。乳児期の発達特徴を理解し、保育計画の立案等を通して乳児期の保育を構成する力を身につける。また、乳児保育をめぐる様々な今日的課題を討議しながら、現代に即した保育のありようを考究する。

到達目標:
1. 乳児期の発達を踏まえた保育計画を立案し、具体的な保育内容や援助の方法を身につける。
2. 乳児を取り巻く社会環境の変化や乳児保育の課題を理解し、問題解決の方法について学ぶ。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション、子どもに応じた援助や受容的、応答的な関わり
2. 乳児保育における生活と遊びの実際1(0・1歳児クラスの運営)
3. 乳児保育における生活と遊びの実際2(2歳児クラスの運営)
4. 乳児保育の実際(おむつ交換、衣服の着脱、調乳、抱き方等の実技)
5. 乳児保育における計画の実際(長期的な指導計画と短期的な指導計画)
6. 教材研究1(制作活動から保育を考える)
7. 教材研究2(発達にあった教材作成)
8. 統括(乳児担当保育士の使命感について)

特記事項: なし

授業方法:
1. 講義 (対面)
2. 講義と演習 (対面)
3. 講義と演習 (対面)
4. グループワーク・演習 (対面)
5. 講義と演習 (対面)
6. グループワーク・教材作成 (対面)
7. グループワーク・教材作成 (対面)
8. ディスカッション (対面)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

・子育て支援について、パソコン等を活用して社会資源や制度について調べる。
・地元の子育て支援について、パソコン等を活用してまとめる。
課題レポート(270分)
0歳児課題の制作(120分)
1歳児課題の制作(120分)
2歳児課題の制作(120分)
子育て支援(180分)
地元の子育て支援(180分)
保育指導案作成(360分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	20	**%**	**確認テスト:**	−	**%**	**レポート:**	40 **%**
その他1:	課題(レポート・教材研究作品を含む)		40	**%**			
その他2:				**%**			

評価基準: レポート
・授業内での学びを総合的に捉えたうえで、テーマに対する問題の所在を明らかにし、自分の考えを論理的に述べている。引用文献を明記していること。(80～100)
・テーマに対して、自分なりの見解をもち、具体的に述べている。(60～69)

その他
・授業での話し合いや発表等に積極的に取り組み、新しい発想や視点で学ぶことができる(80～100)
・話し合いでは、メモをとって参加し、意見を求められると答えることができる。(60～69)

教材研究作品や提出物を含め、総合的に評価する。

課題へのフィードバック:
質問に対しては、授業時に全体に向けて回答・説明する。
レポートは、作成のポイントと評価の観点を全体に向けて説明する。

教科書: なし

参考書: 適宜事前に資料をTeamsにあげる。
または、資料を配布する。

授業・準備学習のアドバイス:
心身の成長が目覚ましい乳児期にかかわる保育の楽しさと共に、大切にしたい保育の心を授業を通して感じ取ってください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 子どもの健康と安全

クラス: 幼保前

授業コード: DA51400001

担当者: 今村 里香 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:保育士、主任保育士、保育園園長

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 子どものいのちを守り、健やかな育ちを支援する保育実践に必要な健康や安全に関する意識を持つことを目的として、乳幼児が心身共にのびのびと健康に発育・発達するための保育環境について、保健的視点から具体的に学習する。

到達目標:
1. 保健的観点を踏まえた保育環境や保育者の援助について理解する
2. 保育における衛生管理、事故防止、危機管理、災害対策について具体的に学ぶ
3. 子どもの体調不良等に対する適切な対応について具体的に学ぶ
4. 傷病発生時の援助、救急処置および救急蘇生法について学ぶ
5. 感染症予防と対応および対策について理解する
6. 保育における子どもの発達や状態に即した適切な対応について理解する
7. 子どもの健康や安全管理に関する実施体制と職員の連携・協働について学ぶ

各回の授業計画:

1. オリエンテーション / 保健的観点を踏まえた保育環境と保育者の援助
2. 保育における衛生管理、事故防止、危機管理、災害対策
3. 子どもの体調不良等に対する適切な対応
4. 傷病発生時の援助、救急処置および救急蘇生法
5. 感染症予防と対応および対策
6. 保育における子どもの発達や状態に即した適切な対応
7. 子どもの健康や安全管理に関する実施体制と職員の連携・協働
8. 確認テスト、授業のまとめ

特記事項: なし

授業方法:
1. 講義(対面)
2. 講義・演習(対面)
3. 講義・演習(対面)
4. 講義・演習(対面)
5. 講義・演習(対面)
6. 講義・演習(対面)
7. 講義・演習(対面)
8. 確認テスト・講義(対面)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 復習「子どもの健康観察、保育環境と保育者のまなざしについて復習しておく」(180分)
2. 復習「保育における衛生管理、安全管理について復習しておく」(180分)
3. 予習「傷病発生時の援助、応急処置について調べる」(180分)
4. 復習「救急処置および救急蘇生法について復習しておく」(180分)
5. 予習「予防接種について調べる」(150分)
6. 予習「食物アレルギーを持つ子どもへの配慮を考えてみる」(180分)
7. 復習「連携、協働、ネットワークについて復習しておく」(120分)

8. 1～7回の授業の復習及び課題レポートのための予習(180分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	30	**%**	**確認テスト:**	30	**%**	**レポート:**	40 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準:

1. 授業への取り組み
・教師からの問いに対して対応する(60～69点)
・教師からの問いに対して積極的に発言する(80～100点)
2. 確認試験
講義の中の保育者の支援と留意点、予習や復習で取り組んだ演習等の理解度を確認する。
3. レポート
(60～69) 課題を理解し感想や意見を述べている。
(80～100)課題を理解し健康や安全について保育者の視点から考察したことを述べている。

課題へのフィードバック:

授業のレポートや最終レポートの提出はTeamsにて行う。

教科書: なし

参考書: 子どもの健康と安全『最新 保育士養成講座』総括編纂委員会/編 全国社会福祉協議会

授業・準備学習のアドバイス:

・この授業では教科書を設定しないため必ずPCを毎回持参してください
・遅刻は30分までとし、それ以降は欠席として扱います
・予習や復習を行い、主体的に授業に参加してください
・日々、子どもに関するニュースなどに関心を持って過ごしてみてください

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 子どもの健康と安全

クラス: 幼保後

授業コード: DA51400002

担当者: 今村 里香 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:保育士、主任保育士、保育園園長

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 子どものいのちを守り、健やかな育ちを支援する保育実践に必要な健康や安全に関する意識を持つことを目的として、乳幼児が心身共にのびのびと健康に発育・発達するための保育環境について、保健的視点から具体的に学習する。

到達目標:
1. 保健的観点を踏まえた保育環境や保育者の援助について理解する
2. 保育における衛生管理、事故防止、危機管理、災害対策について具体的に学ぶ
3. 子どもの体調不良等に対する適切な対応について具体的に学ぶ
4. 傷病発生時の援助、救急処置および救急蘇生法について学ぶ
5. 感染症予防と対応および対策について理解する
6. 保育における子どもの発達や状態に即した適切な対応について理解する
7. 子どもの健康や安全管理に関する実施体制と職員の連携・協働について学ぶ

各回の授業計画:

1. オリエンテーション / 保健的観点を踏まえた保育環境と保育者の援助
2. 保育における衛生管理、事故防止、危機管理、災害対策
3. 子どもの体調不良等に対する適切な対応
4. 傷病発生時の援助、救急処置および救急蘇生法
5. 感染症予防と対応および対策
6. 保育における子どもの発達や状態に即した適切な対応
7. 子どもの健康や安全管理に関する実施体制と職員の連携・協働
8. 確認テスト、授業のまとめ

特記事項: なし

授業方法:
1. 講義(対面)
2. 講義・演習(対面)
3. 講義・演習(対面)
4. 講義・演習(対面)
5. 講義・演習(対面)
6. 講義・演習(対面)
7. 講義・演習(対面)
8. 確認テスト・講義(対面)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 復習「子どもの健康観察、保育環境と保育者のまなざしについて復習しておく」(180分)
2. 復習「保育における衛生管理、安全管理について復習しておく」(180分)
3. 予習「傷病発生時の援助、応急処置について調べる」(180分)
4. 復習「救急処置および救急蘇生法について復習しておく」(180分)
5. 予習「予防接種について調べる」(150分)
6. 予習「食物アレルギーを持つ子どもへの配慮を考えてみる」(180分)
7. 復習「連携、協働、ネットワークについて復習しておく」(120分)

8. 1～7回の授業の復習及び課題レポートのための予習(180分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	30	**%**	**確認テスト:**	30	**%**	**レポート:**	40 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準:

1. 授業への取り組み
・教師からの問いに対して対応する(60～69点)
・教師からの問いに対して積極的に発言する(80～100点)
2. 確認試験
講義の中の保育者の支援と留意点、予習や復習で取り組んだ演習等の理解度を確認する。
3. レポート
(60～69) 課題を理解し感想や意見を述べている。
(80～100)課題を理解し健康や安全について保育者の視点から考察したことを述べている。

課題へのフィードバック:

授業のレポートや最終レポートの提出はTeamsにて行う。

教科書: なし

参考書: 子どもの健康と安全『最新 保育士養成講座』総括編纂委員会/編 全国社会福祉協議会

授業・準備学習のアドバイス:

・この授業では教科書を設定しないため必ずPCを毎回持参してください
・遅刻は30分までとし、それ以降は欠席として扱います
・予習や復習を行い、主体的に授業に参加してください
・日々、子どもに関するニュースなどに関心を持って過ごしてみてください

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 障害児保育Ⅰ

クラス: 幼保前

授業コード: DA51500001

担当者: 佐藤 智恵 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:保育士

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 現在幼稚園や保育園には、特別な配慮を必要とする子どもが数多く在籍しており、そのニーズは多様化している。個々の特性に応じた保育を行うための知識や必要な援助などについて学ぶ。

到達目標:
1. 障害児保育を支える理念について理解する。
2. 障害の種類や特性を理解する。
3. 特別な配慮を必要とする子どもへの援助について理解する。
4. 特別な配慮を必要とする子どもの保育に必要な家庭や関係機関との連携や協働について理解する。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション・障害児保育の基本(障害の概念・障害児保育の理念)
2. 障害児保育の歴史と現状
3. 乳幼児期の発達の概要
4. 知的障害児の理解と援助
5. 肢体不自由児・重症心身障害児の理解と援助
6. 発達障害児の理解と援助①(自閉スペクトラム症1)
7. 発達障害児の理解と援助②(自閉スペクトラム症2)
8. 発達障害児の理解と援助③(ADHD・LD)
9. 視覚障害児・聴覚障害児の理解と援助
10. 全体的な計画に基づく指導計画の作成と記録及び評価
11. 遊びの援助と環境構成①適切な援助を知る
12. 遊びの援助と環境構成②実際の遊び場面
13. 生活の援助と環境構成
14. 家庭・関係機関との連携
15. 確認テストとまとめ(障害児保育の現状とこれからの課題)

特記事項: なし

授業方法:
1. 講義(対面)
2. 講義(対面)
3. 講義と演習・ディスカッション(対面)
4. 講義と演習・ディスカッション(対面)
5. 講義と演習・ディスカッション(対面)
6. 講義と演習・ディスカッション(対面)
7. 講義と演習・ディスカッション(対面)
8. 講義と演習・ディスカッション(対面)
9. 講義と演習・ディスカッション(対面)
10. 講義と演習・ディスカッション(対面)
11. 講義と演習・ディスカッション(対面)
12. 演習(対面)
13. 講義と演習(対面)
14. 講義と演習(対面)
15. 確認テストと講義(対面)

＊講義の中で、内容の理解が深まるように必要に応じてDVD視聴を行う。

予習・復習・宿題など(内容・時間):
1. (課題)障害児保育について知っていることをレポートする(180分)
2. (復習)障害児保育の歴史についてまとめる(180分)

3.（復習）乳幼児期の発達についてまとめる（180分）
4.（復習）知的障害児の理解と援助についてまとめる（180分）
5.（復習）肢体不自由児・重症心身障害児の理解と援助についてまとめる（180分）
6.（復習）発達障害児（自閉スペクトラム症）の理解と援助についてまとめる（180分）
7.（復習）事例について検討しまとめる（180分）
8.（復習）発達障害児（ADHD・LD）の理解と援助についてまとめる（180分）
9.（課題）視覚障害児・聴覚障害児の理解と援助についてまとめる（180分）
10.（復習）指導計画について復習する（180分）
11.（復習）遊びについてグループで考える（180分）
12.（予習）グループで遊びの計画と準備を行う（180分）
13.（復習）生活の援助についてまとめる（180分）
14.（課題）障害のある子どもを育てる保護者への支援についてレポートを書く
15.（予習）これまでの学習をまとめ整理する（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	15	**%**	**確認テスト：**	50	**%**	**レポート：**	35 **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準： 下記、評価方法より、総合的に評価する。
＊授業に参加し、提出物など全て提出している。特別な配慮が必要な子どもの特性や援助、家族支援に関する知識がある。【60～69点】
＊熱心に授業に取り組み、提出物などを全て期日までに提出しており、その記述から知識を備えていることが分かる。障害特性を十分理解し、子ども援助、保護者支援を行うために適切な知識がある。【70～79点】
＊積極的に授業に取り組み、提出物など全て期日までに提出しており、その記述より深い理解や知識を備えていることが分かる。障害特性を十分理解し、子ども援助、保護者支援を行うために適切な知識があり、自分の言葉で必要な支援について説明することができる。【80～100点】

課題へのフィードバック：
評価後返却するもの：レポート
評価後返却しないもの：確認テスト

教科書： 鶴宏史『障害児保育』晃洋書房

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：
・この科目は毎回、PCを使用する。毎回持参すること。
・遅刻は30分までとし、それ以降は欠席として扱う
・授業内容が多岐にわたるため予習復習を十分に行い、主体的に授業に参加すること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 障害児保育Ⅰ

クラス: 幼保後

授業コード: DA51500002

担当者: 佐藤　智恵　　**単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:保育士

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 現在幼稚園や保育園には、特別な配慮を必要とする子どもが数多く在籍しており、そのニーズは多様化している。個々の特性に応じた保育を行うための知識や必要な援助などについて学ぶ。

到達目標:
1. 障害児保育を支える理念について理解する。
2. 障害の種類や特性を理解する。
3. 特別な配慮を必要とする子どもへの援助について理解する。
4. 特別な配慮を必要とする子どもの保育に必要な家庭や関係機関との連携や協働について理解する。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション・障害児保育の基本(障害の概念・障害児保育の理念)
2. 障害児保育の歴史と現状
3. 乳幼児期の発達の概要
4. 知的障害児の理解と援助
5. 肢体不自由児・重症心身障害児の理解と援助
6. 発達障害児の理解と援助①(自閉スペクトラム症1)
7. 発達障害児の理解と援助②(自閉スペクトラム症2)
8. 発達障害児の理解と援助③(ADHD・LD)
9. 視覚障害児・聴覚障害児の理解と援助
10. 全体的な計画に基づく指導計画の作成と記録及び評価
11. 遊びの援助と環境構成①適切な援助を知る
12. 遊びの援助と環境構成②実際の遊び場面
13. 生活の援助と環境構成
14. 家庭・関係機関との連携
15. 確認テストとまとめ(障害児保育の現状とこれからの課題)

特記事項: なし

授業方法:
1. 講義(対面)
2. 講義(対面)
3. 講義と演習・ディスカッション(対面)
4. 講義と演習・ディスカッション(対面)
5. 講義と演習・ディスカッション(対面)
6. 講義と演習・ディスカッション(対面)
7. 講義と演習・ディスカッション(対面)
8. 講義と演習・ディスカッション(対面)
9. 講義と演習・ディスカッション(対面)
10. 講義と演習・ディスカッション(対面)
11. 講義と演習・ディスカッション(対面)
12. 演習(対面)
13. 講義と演習(対面)
14. 講義と演習(対面)
15. 確認テストと講義(対面)

＊講義の中で、内容の理解が深まるように必要に応じてDVD視聴を行う。

予習・復習・宿題など(内容・時間):
1. (課題)障害児保育について知っていることをレポートする(180分)
2. (復習)障害児保育の歴史についてまとめる(180分)

3.（復習）乳幼児期の発達についてまとめる（180分）
4.（復習）知的障害児の理解と援助についてまとめる（180分）
5.（復習）肢体不自由児・重症心身障害児の理解と援助についてまとめる（180分）
6.（復習）発達障害児（自閉スペクトラム症）の理解と援助についてまとめる（180分）
7.（復習）事例について検討しまとめる（180分）
8.（復習）発達障害児（ADHD・LD）の理解と援助についてまとめる（180分）
9.（課題）視覚障害児・聴覚障害児の理解と援助についてまとめる（180分）
10.（復習）指導計画について復習する（180分）
11.（復習）遊びについてグループで考える（180分）
12.（予習）グループで遊びの計画と準備を行う（180分）
13.（復習）生活の援助についてまとめる（180分）
14.（課題）障害のある子どもを育てる保護者への支援についてレポートを書く
15.（予習）これまでの学習をまとめ整理する（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	15	**%**	**確認テスト：**	50	**%**	**レポート：**	35 **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準： 下記、評価方法より、総合的に評価する。
＊授業に参加し、提出物など全て提出している。特別な配慮が必要な子どもの特性や援助、家族支援に関する知識がある。【60～69点】
＊熱心に授業に取り組み、提出物などを全て期日までに提出しており、その記述から知識を備えていることが分かる。障害特性を十分理解し、子ども援助、保護者支援を行うために適切な知識がある。【70～79点】
＊積極的に授業に取り組み、提出物など全て期日までに提出しており、その記述より深い理解や知識を備えていることが分かる。障害特性を十分理解し、子ども援助、保護者支援を行うために適切な知識があり、自分の言葉で必要な支援について説明することができる。【80～100点】

課題へのフィードバック：
評価後返却するもの：レポート
評価後返却しないもの：確認テスト

教科書： 鶴宏史『障害児保育』晃洋書房

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：
・この科目は毎回、PCを使用する。毎回持参すること。
・遅刻は30分までとし、それ以降は欠席として扱う
・授業内容が多岐にわたるため予習復習を十分に行い、主体的に授業に参加すること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 障害児保育Ⅱ

クラス: 幼保

授業コード: DA51600001

担当者: 細木 玉恵 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公的機関・研究機関での発達支援、相談援助

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 共生社会の実現に向け、保育の果たす役割は重要性を増している。本科目では、障害を含む多様な子どもの姿を理解し、子どもが互いの違いを認め、共に育ちあう保育を支えるために、保育者に求められる支援のあり方を学ぶ。そのために、子どもの困りごとを個人の特性だけではなく、環境や社会との相互作用の中で捉え、人的・物理的環境の工夫や援助技法を保育の中でどのように活かすかを具体的に学ぶ。そして、日々の保育に生かすことを意識した視点や工夫を通して、多様なニーズに応じる対応力と、保育者としての専門性を身につけることを目指す。

到達目標: ・子ども一人ひとりの困難を環境との関係から捉え、支援を具体的に考えることができる。
・代表的な援助技法について理解し、保育の中での活用を考えることができる。
・遊びや生活場面において子どもの特性を捉え、発達に応じた援助や合理的配慮について理解している。
・障害の有無に関わらず集団全体に目を向け、互いを認め共に育ちあう保育を担う視点を身につけている。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション、保育の場における多様なニーズと合理的配慮
2. 環境調整①(TEACCHプログラムの考え方と保育への応用)
3. 環境調整②(保育の場における構造化と人的・物理的環境調整)
4. 環境調整③(保育の場で行う視覚支援の実際)
5. ことばの発達援助①(インリアル・アプローチの考え方と保育への応用)
6. ことばの発達援助②(ことばを育てる遊びの展開)
7. 遊びの中での発達援助①(感覚統合理論の基礎)
8. 遊びの中での発達援助②(感覚統合理論に基づく遊びの展開)
9. 遊びの中での発達援助③(個々の発達を促す遊びの工夫)
10. 活動の援助①(応用行動分析に基づく子どもの行動理解と援助)
11. 活動の援助②(製作場面における援助)
12. 活動の援助③(発達支援につなげる教材・教具の工夫)
13. 事例検討①(多様なニーズの理解と支援の組み立て)
14. 事例検討②(援助技法を活かした支援の考え方と個別の支援計画の立て方)
15. 事例検討③(家庭や関係機関との連携/まとめ)

特記事項: なし

授業方法:
1. 講義
2. 講義
3. 講義と演習
4. 講義と演習
5. 講義
6. 講義と演習
7. 講義
8. 講義と演習
9. 講義とグループワーク
10. 講義と演習
11. 講義と演習
12. 講義と演習
13. 講義と演習
14. 講義とグループワーク
15. 講義と演習

※ 授業は、すべて対面で実施する。
※ 理解が深まるよう必要に応じてDVD視聴を行う。

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. 復習：障害児保育の現状や、今求められている保育のあり方について、全体像をつかむ。（150分）
2. 復習：特別な配慮を必要とする子どもが、安全に安心して過ごすための環境調整の視点を押さえる。（180分）
3. 復習：TEACCHプログラムの考え方や、保育の場における構造化のポイントを整理する。（180分）
4. 予習：保育の場で使用されている視覚支援を調べ、生活援助に活かす教材を考えてみる。（180分）
5. 復習：ことばの発達援助技法であるインリアル・アプローチの考え方を振り返る。（180分）
6. 復習：遊びの中でのことばの発達支援のポイントを確認する。（180分）
7. 復習：感覚情報処理の特性により、対人面・動作面・ことば等の発達に課題を抱える子どもへの支援を確認する。（180分）
8. 復習：感覚統合理論をもとに、遊びの中で行う発達支援の進め方について理解を深める。（180分）
9. 予習：子どもの特性や発達段階に応じた遊びの展開について、具体的に考えてみる。（180分）
10. 復習：応用行動分析の考え方にもとづき、子どもの行動の捉え方と支援を整理する。（180分）
11. 課題：生活動作や活動場面における援助の工夫について、自分なりの視点で整理する。（180分）
12. 復習：活動を楽しむための教材・教具の工夫や、支援のポイントを振り返る。（180分）
13. 予習：事例をもとに、子どもに必要な支援を複数の観点から考えてみる。（150分）
14. レポート：多様なニーズのある子どもへの援助について、授業内容を振り返りながら自分なりの考えを整理する。（270分）
15. 復習：事例を通して、家族支援や関係機関との連携について考えたことを振り返る。（150分）

※目安時間には、配布資料の確認やワークシートへの取り組みを含む。

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	40 **%**
その他1：	課題		30 **%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

【基礎的な理解の段階（60～69点）】

〈授業への取り組み〉

・障害特性や援助に関する基礎的な知識を理解し、授業内容に沿って学習に取り組んでいる。

〈課題・レポート〉

・レポートや課題を全て提出している。

・各回の授業で学んだ基礎的な内容を理解し、レポートや課題を通して整理できている。

【理解を深めている段階（80～100点）】

〈授業への取り組み〉

・障害特性や発達段階、環境、連携など複数の視点から子どもを捉え、共に育ちあう保育実践について主体的に考え、授業に参加している。

・他者の意見に耳を傾け、話し合いや意見共有を通して学びを深めている。

〈課題・レポート〉

・設問の意図を的確に捉え、期限内にすべての課題を提出している。

・学んだ内容を関連づけて理解し、適切な専門用語を用いて自分の考えを論理的に記述できている。

・子どもの抱える困難を多角的に捉え、合理的配慮の視点を踏まえて、代表的な援助技法を用いた支援の考え方を具体的に表現できている。

【評価の補足】

・70～79点は、基礎的な知識や考え方を土台に学びを深めつつある段階として、授業への参加状況や課題内容をもとに判断する。

・本科目では、授業への参加状況やレポート・課題への取り組みをもとに、学習の積み重ねや理解の深まりを大切にしながら、学びの到達状況を総合的に評価する。

課題へのフィードバック：

・提出物は、コメントや評価をつけて返却する。（15回目提出分は除く）

・課題やレポートの作成ポイントや評価の観点については、授業内で全体に向けて説明する。

・課題やレポート等の提示、回収、フィードバックにMicrosoft Teamsを利用する。

教科書： なし。授業内で使用する資料は、適宜Microsoft Teamsにて配布する。

参考書： 関係資料や参考文献等を必要に応じて紹介する。

授業・準備学習のアドバイス：

・子どもを取り巻く社会的状況にも目を向けながら、授業内容を理解ほしい。

・予習復習を十分に行い、自分なりの考えをまとめ授業に参加することが望ましい。

・期末レポートの設題と詳細については、秋2ターム第3回の授業で説明し、提出は最終授業日とする。

・単位認定には、2/3以上の出席が必要である。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 子育て支援

クラス: 幼保前

授業コード: DA51700001

担当者: 北野　富美子　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立保育所長・地域子育て支援センター所長・保育士

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: −　　**一般的包括的科目:** −

授業の目的: 保育者は「子どもにとって最善の利益」を保障する専門職である。この演習を通して、子育て家庭に対して保育者の行う相談等の支援の展開について具体的に理解する。子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容とその支援方法の実際を理解する。

到達目標:
1. 子育て支援の意義と役割について理解している。
2. 相談・助言の基本的態度及び技術を理解している
3. 子育て家庭における支援の実際について理解している。
4. 保育者が連携すべき地域資源を習得している。

各回の授業計画:

1.子育ての現状と子育て支援の必要性
2. 保育における支援とその実際
3. 0、1、2歳児の相談と支援の実際
4. 3、4、5歳児の相談と支援の実際
5. 特別な対応を必要とする子どもや家庭への相談と支援
6. 保育・教育相談支援の方法と技術(事例検討:保護者の立場からのロールプレイ)
7. 保育・教育相談支援の方法と技術(事例検討:育児不安)
8. 保育者に求められる子育て支援とは

特記事項: なし

授業方法: 演習形式の授業で、課題についてグループディスカッションを通して検討する。また、必要に応じて、講義形式の授業も行う。
(すべての授業を対面で実施)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

社会資源にはどのようなものがあるのか、またどのように活用されているのかパソコン等を利用して調べまとめる。
・『保育所保育指針』等に記載されている「子育て支援」についてまとめる(225分)
・社会資源の活用についてまとめる(450分)
・要保護児童の支援と他職種連携について調べる(225分)
・保育士の専門性についてまとめる(450分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 %	**確認テスト:**	− %	**レポート:**	70 %
その他1:			%		
その他2:			%		

評価基準:
1. 毎回の授業で行う振り返りシートについて
・授業で得た知識やパソコン等から得た情報を正しく理解している(60～69)
・授業で得た知識やパソコン等から得た情報を蓄積し、次回の授業に生かすことができる(80～100)
2. 授業時の発言等について
・グループ内の話し合いで発言することができる(60～69)

・グループ内の話し合いで話し合いの内容をまとめて、発言することができる（80～100）
3. 授業内レポートについて
・講義で学んだことをもとに設問の要求に応え、保育者に求められる保育相談支援について理解している（60～69）
・講義で学んだことをもとに設問の要求に答え、保育者に求められる保育相談支援について十分かつ正確に理解している（80～100）
4. まとめのレポートについて
・与えられたテーマに沿って、正しい書式を用い自分の意見が適切に述べられている（60～69）
・与えられたテーマに基き、正しい書式を用い自分の意見を深く掘り下げまとめている （80～100）

課題へのフィードバック：

・課題レポートについては、講評を加えて返却する
・発表については、授業内で講評する
・授業毎の振り返りシートについては、次回の授業時に質問等に関して応答する

教科書： 適宜プリントを配布する。

参考書： 「子育て支援と保育者の役割」柏女霊峰 フレーベル館
基本保育シリーズ「子育て支援」中央法規

授業・準備学習のアドバイス：

・子育て、児童虐待やいじめ、不登校等に関するニュースや報道に関心を持つ。
・毎時間、「振り返りシート」を記入してもらい、出席の確認とする。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 子育て支援

クラス: 幼保後

授業コード: DA51700002

担当者: 北野　富美子　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立保育所長・地域子育て支援センター所長・保育士

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: −　　**一般的包括的科目:** −

授業の目的: 保育者は「子どもにとって最善の利益」を保障する専門職である。この演習を通して、子育て家庭に対して保育者の行う相談等の支援の展開について具体的に理解する。子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容とその支援方法の実際を理解する。

到達目標:
1. 子育て支援の意義と役割について理解している。
2. 相談・助言の基本的態度及び技術を理解している
3. 子育て家庭における支援の実際について理解している。
4. 保育者が連携すべき地域資源を習得している。

各回の授業計画:

1. 子育ての現状と子育て支援の必要性
2. 保育における支援とその実際
3. 0、1、2歳児の相談と支援の実際
4. 3、4、5歳児の相談と支援の実際
5. 特別な対応を必要とする子どもや家庭への相談と支援
6. 保育・教育相談支援の方法と技術(事例検討:保護者の立場からのロールプレイ)
7. 保育・教育相談支援の方法と技術(事例検討:育児不安)
8. 保育者に求められる子育て支援とは

特記事項: なし

授業方法: 演習形式の授業で、課題についてグループディスカッションを通して検討する。また、必要に応じて、講義形式の授業も行う。
(すべての授業を対面で実施)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

社会資源にはどのようなものがあるのか、またどのように活用されているのかパソコン等を利用して調べまとめる。
・『保育所保育指針』等に記載されている「子育て支援」についてまとめる(225分)
・社会資源の活用についてまとめる(450分)
・要保護児童の支援と他職種連携について調べる(225分)
・保育士の専門性についてまとめる(450分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 %	**確認テスト:**	− %	**レポート:**	70 %
その他1:			%		
その他2:			%		

評価基準:
1. 毎回の授業で行う振り返りシートについて
・授業で得た知識やパソコン等から得た情報を正しく理解している(60～69)
・授業で得た知識やパソコン等から得た情報を蓄積し、次回の授業に生かすことができる(80～100)
2. 授業時の発言等について
・グループ内の話し合いで発言することができる(60～69)

・グループ内の話し合いで話し合いの内容をまとめて、発言することができる（80～100）
3. 授業内レポートについて
・講義で学んだことをもとに設問の要求に応え、保育者に求められる保育相談支援について理解している（60～69）
・講義で学んだことをもとに設問の要求に答え、保育者に求められる保育相談支援について十分かつ正確に理解している（80～100）
4. まとめのレポートについて
・与えられたテーマに沿って、正しい書式を用い自分の意見が適切に述べられている（60～69）
・与えられたテーマに基き、正しい書式を用い自分の意見を深く掘り下げまとめている （80～100）

課題へのフィードバック：

・課題レポートについては、講評を加えて返却する
・発表については、授業内で講評する
・授業毎の振り返りシートについては、次回の授業時に質問等に関して応答する

教科書： 適宜プリントを配布する。

参考書： 「子育て支援と保育者の役割」柏女霊峰 フレーベル館
基本保育シリーズ「子育て支援」中央法規

授業・準備学習のアドバイス：

・子育て、児童虐待やいじめ、不登校等に関するニュースや報道に関心を持つ。
・毎時間、「振り返りシート」を記入してもらい、出席の確認とする。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 保育学入門

クラス:

授業コード: DA51800001

担当者: 北野 富美子 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立保育所長・地域子育て支援センター所長・保育士

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 本授業では、保育者としての基本的な姿勢と役割を十分に理解し、実践することができるようになること、さらに、子どもの発達過程や保護者の願い、または幼稚園、保育園、子ども園での保育の在り方やそれぞれの保育特性について知ることを目的とする。

到達目標:
1. 乳幼児期における遊びの意義を学ぶ
2. 乳幼児の発達と保育・教育のあり方について学ぶ
3. 保育者としての役割について学ぶ
4. 保護者の思いを知る
5. パソコンを利用しながら保育について情報を収集する

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 保育とは何か
3. 保育園・幼稚園・子ども園の実際
4. 子育て支援における保育者の役割
5. 乳児期の子どもの発達と姿
6. 幼児期の子どもの発達と姿
7. 特別な支援を必要とする子どもの発達と姿
8. 保護者支援の実際
9. 海外の子育て事情
10. 子どもの生活と遊び
11. 子どもと絵本
12. 保育者の仕事と役割
13. 子どもの世界をどう見るか
14. 社会問題から見る保育の役割
15. まとめと確認テスト(保育を学ぶということ)

特記事項: なし

授業方法:
1. 講義、グループワーク (対面)
2. 講義、グループワーク (対面)
3. 講義、グループワーク (対面)
4. 講義、グループワーク (対面)
5. 講義、視聴覚教材視聴 (対面)
6. 講義、視聴覚教材視聴 (対面)
7. 講義、視聴覚教材視聴(対面)
8. 講義、グループワーク (対面)
9. 講義、視聴覚教材 (対面)
10. 講義、グループワーク (対面)
11. 講義、グループワーク (対面)
12. 講義、グループワーク (対面)
13. 講義、グループワーク (対面)
14. 講義、グループワーク (対面)
15. まとめと確認テスト (対面)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 自分の経験した保育環境を思い出し、記録しておく(140分)
2. 幼稚園や保育園でのエピソードを思い出し、記録しておく(140分)

3. 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領「総則」を通読しておく(140分)
4. 子育て支援に関する新聞記事に目を通しておく(140分)
5. 保育所保育指針を通読しておく(140分)
6. 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を通読しておく(140分)
7. 特別な支援を必要とする子どもとの生活経験を思い出し、記録しておく(140分)
8. 保護者対応をする場面を想定し、記録しておく(140分)
9. 海外での教育方法について、インターネットなどを使って情報を収集しておく(140分)
10. 自分が経験した遊びを思い出し、記録しておく(140分)
11. 自分が好きな絵本を思い出し、その内容等を記録しておく(140分)
12. 保育者の仕事にはどんなものがあるか想定し、記録しておく(140分)
13. 新聞記事に目を通し、気になった記事を記録しておく(140分)
14. 新聞記事に目を通し、気になった記事を記録しておく(140分)
15. これまでの学習内容をふりかえり、まとめておく(140分)
小レポート課題:150分×4回

評価方法:

授業へのとりくみ:	20 **%**	**確認テスト:**	30 **%**	**レポート:**	20 **%**
その他1:	提出課題		30 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準:

課題レポート:課題を正しく把握し、自分の意見が述べられている(60～69)。
課題レポート:課題を正しく把握し、他の考えなどを取り入れながら、自分の意見が述べらている(80～)。

グループワーク:話し合いに参加し、自分の意見を述べることができる(60～69)。
グループワーク:話し合いに積極的に参加し、人の意見を取り入れながら、自分の意見を述べることができる(80～)。

課題へのフィードバック:

課題のポイントと評価の観点を、その度説明する。

教科書: 令和5年度最新版 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈原本〉チャイルド本社【新刊/2024年6月発売】

参考書: 保育者養成校で学ぶ学生のための 保育入門 みらい社

授業・準備学習のアドバイス:

課題のポイントと評価の観点を、その度説明する。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育実習事前事後指導(小幼)

クラス: 小中小+

授業コード: DA60100001

担当者: 齋藤 隆彦、芝田 悦司 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:
〔齋藤〕公立・国立大学附属中学校教諭(教育実習生の学級・教科担当者)
〔芝田〕公立小学校教諭、教頭、校長、神戸市教育委員会事務局地区統括官、事務局教育次長

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教育実践に関する科目(小学校)(幼稚園)【必修】

含めることが必要な事項: 教育実習

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: これまでの大学での学びをもとにして、教育者としての基本的な姿勢と役割を再確認し、小学校での教育実習へ向かう心構えとスキルアップを目的とする。

到達目標:
1. 小学校教育実習の準備や心構えができる(事前指導)
2. 実習の反省をもとに、今後の課題を確認し、教職への意欲をいっそう高めることができる。

各回の授業計画:

1. 教育実習について(1)
①教育実習の意義 ②教育実習の目的 ③教育実習の運営
2. 教育実習について(2)
①教育実習の内容 ②教育実習の心得 ③教育日誌の書き方 ④事前オリエンテーション心得
3. 学校というところとは・学年ごとの子供たちの様子
4. 小学校における支援の必要な児童の理解と対応
5. 教育実習中の心構えとハラスメント防止について
6. 教育実習にあたって体験談・指導助言(先輩談)
7. 学習指導案の書き方、学習指導の技術 ICTを用いた学習指導
8. 学習指導案の検討
9. 授業技術と模擬授業(1)(授業の検討・準備)
10. 授業技術と模擬授業(2)(授業の実際)
11. 授業技術と模擬授業(3)(報告会) 事前オリエンテーション時の持ち物についての説明
12. 子どもの病気やけがの対応
13. 子どもと心を通い合わせるために
14. 直前指導(着任の挨拶と礼状の書き方・子ども・教職員への接し方)
15. 教育実習を振り返って(事後指導)
状況により、内容が前後することや変更される場合があります。授業やTeamsでの指示を確認してください。

特記事項: なし

授業方法: すべての授業を対面授業で行う。ただし、対面が難しい場合(大学から対面を避ける指示があった場合など)は「オンライン」または「同時配信」で行う可能性がある。その際にはTeamsで連絡する。
・講義
・模擬授業
・演習
・グループワーク
・ディスカッション
・プレゼンテーション

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1-15 :各時間の計画に沿って90分の予習と90分の復習が必要

評価方法:

授業へのとりくみ:	60 %	**確認テスト:**	− %	**レポート:**	20 %
その他1:	指導案づくり		20 %		
その他2:			%		

評価基準: (80〜100)教育実習で学ぶ目的を明確にし、授業内で行われる各種レポート・演習作品、模擬授業の学習指導案等課題を提出し、内容にも

創意工夫が見られる。
（60～79）授業内で行われる各種レポート・演習作品や模擬授業の学習指導案等課題を提出している。

課題へのフィードバック：

提出されたレポート等を評価する。

教科書： 『実習の手引き』（事前指導の際に配布する）

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：

無届けで遅刻・欠席の場合、実習が認められなくなることもある。
教科書は、必ず事前に目を通しておくこと。

自分で課題意識を持ち、実習の準備に臨むこと。
一緒に学ぶ人の準備からたくさん吸収すること。
すでに知っていることやできることを大事にし、それらを組立て新しいものを作ること。
そういう姿勢で、力もつき、自信につながります。
なお、授業内容は状況により変更します。必要に応じて授業内・Teamsでお知らせします。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育実習(小幼)

クラス: 小中小+

授業コード: DA60200001

担当者: 齋藤　隆彦、芝田　悦司　　**単位数:** 4

科目に関連した実務経験: 実務経験有:
〔芝田〕公立小学校教諭、教頭、校長、神戸市教育委員会事務局地区統括官、事務局教育次長
〔齋藤〕公立・国立大学附属中学校教諭(教育実習生の学級・教科担当者)

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教育実践に関する科目(小学校)(幼稚園)【必修】

含めることが必要な事項: 教育実習

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 実習生として、教育現場で現職の先生方や子どもたちから多くを学び、大学で履修した教職及び教科等に関する知識・理解を総合的に習得するとともに、教師としての成長に向けた新たな課題を見つける。

到達目標: 教職について、今までに学んできたことを教育現場での実践体験を通して総合的に習得するとともに、教師としての責任感や使命感を養う。さらに、各自がめざす教師像をより確かにする。

各回の授業計画:

1. 教師としての勤務の仕方や態度を理解して実践する。
2. 教科指導を通して、教材研究や教育方法の真義を体験的に理解する。
3. 道徳の時間の指導を通して、道徳と教科指導・特別活動との関係を理解する。
4. 特別活動の指導を通して、その実践力を体験的に修練する。
5. あらゆる教育活動の場で、人権教育について体験的に学ぶ。
6. 学級経営および生徒指導について理解し、実地に経験する。
7. 必要な校務運営上の研究や行事、並びに事務に参加し、理解を深める。
8. 授業実践および研究授業を実施する。
9. 実習の反省とまとめをする。

特記事項: なし

授業方法: 各学校で示していただいた内容

予習・復習・宿題など(内容・時間):
実習日誌記入、教材研究・ふりかえり等

評価方法:

授業へのとりくみ:	50 **%**	**確認テスト:**	－ **%**	**レポート:**	－ **%**		
その他1:	実習記録		30 **%**				
その他2:	実習評価		20 **%**				

評価基準: 実際の教育現場において、指導教官からの指導助言を受けながら教職に関して大学で学んできたことを実践できている。(60～69点)|目ざす教師像に近づけるために、教師としての責任感や使命感を実際の教育現場で発揮し、教職に関して大学で学んできたことを主体的に実践できている。(80～100点)

課題へのフィードバック:
提出された実習の記録を評価する。

教科書: 文部科学省『小学校学習指導要領』東洋館出版社(平成30年2月)

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：

無届けで遅刻・欠席の場合、実習が認められなくなることもある。
教科書は、必ず事前に目を通しておくこと。

準備してきた知識や技能を大事にする。
現場で出会った知識や技能を柔軟に吸収する。
そのふたつの方向を大事にして、実習に臨んでください。力がつきます。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育実習事前事後指導(幼小)

クラス: 小+幼保

授業コード: DA60300001

担当者: 猪田　裕子、横田　郁子、岩濵　里江子、植山　佐智子　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:
〔植山〕公立幼稚園園長・教諭
〔猪田〕私立幼稚園教諭
〔横田〕公立幼稚園園長・教諭、市教委指導主事・幼児教育専門員
〔岩濵〕公立幼稚園教諭・園長、市教育委員会指導主事

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教育実践に関する科目(幼稚園)(小学校)【必修】

含めることが必要な事項: 教育実習

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 幼稚園教育実習の事前・事後指導では、実習に向けた基礎的な準備を行い、実習現場で求められる専門的な知識や技能を身につけることを目的とする。また、実習後の振り返りを通じて、保育活動や子どもの姿から学びを深め、自らの課題を明確にすることで、次の学びにつなげる力を養う。さらに、子どもへの理解を深め、保育者としての専門性や責任感を高め、幼稚園教諭としての主体的な実践力を確立することを目指す。

到達目標:
1. 実習に必要な基礎的知識や技能を身につけ、現場で求められる役割や責任を理解すること。
2. 子どもの発達や個性を踏まえた保育活動を計画・実践できる力を養うこと。
3. 実習を通じて得た経験を振り返り、自らの課題を明確にして次の学びにつなげること。
4. 観察や記録を通じて、子どもの姿を深く理解し、その気づきを保育活動に活かす力を育むこと。
5. 保護者や他の教職員との連携の大切さを学び、コミュニケーション能力を向上させること。
6. 幼稚園教諭としての主体性と責任感を持ち、子どもの最善の利益を追求する姿勢を確立すること。

各回の授業計画:

1. 教育実習(幼稚園)実施要領、実習の心得、ソーシャルメディアガイドラインについて

2. 公立幼稚園の保育について(ゲスト講師)
私立幼稚園の保育について(ゲスト講師)

3. 保育記録の書き方1-1
指導案の書き方1-1
エピソード記録の書き方1-1
教材研究1-1

4. 保育記録の書き方・細案の書き方1-2
指導案の書き方1-2
エピソード記録の書き方1-2
教材研究1-2

5. 保育記録の書き方・細案の書き方2-1
指導案の書き方2-1
エピソード記録の書き方2-1
教材研究2-1

6. 保育記録の書き方・細案の書き方2-2
指導案の書き方2-2
エピソード記録の書き方2-2
教材研究2-2

7. 保育記録の書き方・細案の書き方3-1
指導案の書き方3-1
エピソード記録の書き方3-1
教材研究3-1

8. 保育記録の書き方・細案の書き方3-2
指導案の書き方3-2
エピソード記録の書き方3-2
教材研究3-2

9. 保育記録の書き方・細案の書き方4-1
指導案の書き方4-1
エピソード記録の書き方4-1
教材研究4-1

10. 保育記録の書き方・細案の書き方34-2
指導案の書き方4-2
エピソード記録の書き方4-2

教材研究4-2

11.これまでの学びを踏まえ個人で保育指導案を作成する
12.各グループで保育指導案について討議する
13. 各グループごとに保育指導案を発表する
14. 礼状の書き方とまとめ
15. 実習事後指導（振り返りとまとめ）

特記事項： なし

授業方法： 【対面】
講義
グループワーク
DVD視聴
模擬保育準備
保育観察研究
ワークショップ

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

幼稚園の生活について（公立・私立）の講義を聞いてまとめる（240分）
保育指導案、細案の書き方を学ぶ（240分）
動画を通して環境構成や援助を学ぶ（240分）
保育記録の書き方を学ぶ（240分）
エピソード記録の書き方を学ぶ（240分）
保育教材を作成し保育の導入につなげていく（240分）
保育指導案を作成する（240分）
持ち寄った保育指導案をグループで検討する（240分）
2～3例の保育指導を危機学ぶ（240分）
実習に向けての準備をし、実習目標をまとめる（240分）
実習のまとめを反省する（240分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	60 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	40 **%**
その他1：			**%**		
その他2：			**%**		

評価基準： ○授業態度・課題提出・レポート
（80～100点）
・授業態度は、「メモを取り、講義を聴くことができる」「ディスカッションを通して学び合うことができる」「幼児理解を深めることができる」「幼児の姿に沿った具体的なねらいや内容が立案できる」「積極的に模擬保育をしたり、参加したりすることができる」これらに加え無遅刻、無欠席である。
・保育指導案課題（2部）、詳しく記述でき、提出期限を厳守することができる。
・レポートは、実習中に5領域や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識するとともに、A4サイズ1枚に分かりやすくまとめることができる。これらに加えて提出期限を厳守することができる。
（60～69点）
・授業態度は、「講義を聴くことができる」「ディスカッションをすることができる」「幼児理解を深めようと努力することができる」「幼児の姿に沿ったねらいや内容を立案しようと努力することができる」「模擬保育をしたり、参加したりすることができる」
・保育指導案課題（2部）、提出期限を厳守することができる。
・レポートは、実習中に5領域や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識しようと努力することができる。A4サイズ1枚にまとめることができる。

課題へのフィードバック：

・提出課題保育指導案について、グループで検討し立てる。個人の保育指導案課題は評価し、返却する。
・レポートは、回収し、評価して後日返却する。

教科書： 適宜配布

参考書： 令和5年度最新版 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞ ISBN 978-4-8054-0330-3 チャイルド社

授業・準備学習のアドバイス：

事前事後指導には必ず出席すること。また、記録の提出日の厳守等、実際に幼稚園教諭としての資質を考える場になるよう真面目に取り組むこと。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育実習(幼小)

クラス: 小+幼保

授業コード: DA60400001

担当者: 猪田　裕子、植山　佐智子、横田　郁子、岩濵　里江子　　**単位数:** 4

科目に関連した実務経験: 実務経験有:
〔植山〕公立幼稚園園長・教諭
〔猪田〕私立幼稚園教諭
〔横田〕公立幼稚園園長・教諭、市教委指導主事・幼児教育専門員
〔岩濵〕公立幼稚園教諭・園長、市教育委員会指導主事

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教育実践に関する科目(幼稚園)(小学校)【必修】

含めることが必要な事項: 教育実習

教科に関する専門的事項: −　　**一般的包括的科目:** −

授業の目的: 幼稚園教育実習は、現場での実践を通じて、幼稚園教諭として必要な専門的知識や技能を体得し、保育・教育における実践力を養うことを目的とする。子ども一人ひとりの発達や個性を理解し、適切に関わる力を育むとともに、保育者としての責任感や主体性を培う。さらに、保育計画の作成、指導案の実践、クラス運営などを経験する中で、幼児教育の理念や目標を体現できる力を身につけることを目指す。

到達目標: 実習現場での体験を通じて、幼児教育の理念や目標を具体的に理解し、実践できるようになる。
子どもの発達や個性に応じた適切な関わり方を身につけ、保育者としての責任感を養う。
保育計画や指導案を作成し、実際の保育活動を展開する力を習得する。
クラス運営や保護者対応など、現場で必要とされる実務的なスキルを体験的に学ぶ。
実習を通じて、自らの保育観を深め、今後の課題を明確にして自己成長につなげる。

各回の授業計画:

1. 教師としての勤務の仕方や態度を理解して実践する。
2. 保育を通して、幼稚園教育の真義を体験的に理解する。
3. あそびを通して、子どもの発達を理解する。
4. あそびを通した保育の展開のあり方を体験的に修練する。
5. あらゆる教育活動の場で、人権教育について体験的に学ぶ。
6. クラス経営について理解し、実地に経験する。
7. 要な園運営上の研究や行事、並びに事務に参加し、理解を深める。
8. 保育実践および研究保育を実施する。
9. 実習の振り返りと課題の整理
10. 実習経験の総括と共有

特記事項: なし

授業方法: 学習を生かして実習を体験
保育実践
人権教育実践
実地保育
園経営について理解
研究保育指導を受ける
反省と課題のまとめ

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 保育記録と反省
2. 保育記録と反省
3. 保育指導案作成
4. 保育指導案作成
5. 人権教育から見た記録
6. 経営についてのまとめ

7. 経営についてのまとめ
8. 保育指導案と反省
9. 実習のまとめ

評価方法:

授業へのとりくみ:	25 **%**	**確認テスト:**	− **%**	**レポート:**	− **%**		
その他1:	実習評価		50 **%**				
その他2:	実習記録		25 **%**				

評価基準:

○実習への取組・実習記録・実習評価
(80～100点)
・実習への取組は、「自ら課題をもって、実習に取組、幼児理解を深めることができる」「目の前の幼児の姿から、具体的に教師の援助や環境の構成について学ぶことができる」「保育の流れに合わせて動くことができる」「幼児とのかかわり以外の仕事(清掃・飼育動物の世話等)も環境づくりとして積極的に取り組むことができる」これらに加え、無遅刻、無欠席である。
・実習記録は、「勤務状態」「実習態度」「研究態度」「環境への配慮」「計画性」「指導性」「所見」の評価が全体的に高い。
(60～69点)
・「課題をもって、実習に取組、幼児理解を深めようと努力することができる」「目の前の幼児の姿から、教師の援助や環境の構成について学ぼうと努力することができる」「保育の流れに合わせて動こうと努力することができる」「幼児とのかかわり以外の仕事(清掃・飼育動物の世話等)も環境づくりとして積極的に取り組むことができる」
・実習記録は、「担当保育者から指導していただいたことを聞き、記録を書こうと努力することができる」「保育指導案は考えて立案し、準備することができる」「子どもへの安全面への配慮に気付こうと努力することができる」
・実習記録は、「勤務状態」「実習態度」「研究態度」「環境への配慮」「計画性」「指導性」「所見」の評価が全体的にやや低い傾向にある。

課題へのフィードバック:

幼稚園から返却された実習記録に関しては、事後指導時に口頭でフィードバックを行う。

教科書: なし

参考書: 内閣府 文部科学省 厚生労働省『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社(平成29年告示)

授業・準備学習のアドバイス:

幼児を理解することが、すべての保育の出発点である。幼児理解を深めることで、幼児の姿を具体的にとらえることができる。一人ひとりの幼児が何に興味をもち、何を感じ、何を実現しようとしているのかを的確に把握することが大切である。
教材研究を積極的に行い、自信をもって部分保育等を実践できるよう心掛けることが求められる。
教師は幼児のモデルである。実習生の言動や表情は、幼児にとって大きな影響を与えるため、社会人としてのマナー(敬語の使い方を含む)を身につけるよう努めることが大事である。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育実習事前事後指導(中)

クラス: 小中

授業コード: DA60500001

担当者: 冨田 哲浩、桂 敦子、堤 康嘉 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:
〔冨田〕公立高等学校教諭・校長、県教育委員会指導主事
〔桂〕公立高等学校教諭・校長、県教育委員会指導主事
〔堤〕高等学校教諭

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教育実践に関する科目(中学校)【必修】

含めることが必要な事項: 教育実習

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 中学校の教育活動の場に実習生として臨むための基盤となる知識・技能・態度等を修得することをめざす。
特に、教科指導や生徒指導に関する学びを通して、生徒理解と人間尊重の精神および教育者としての使命感を養い、実践的な指導力を修練することに努める。

到達目標: 事前指導では、教職について今まで学んだことを整理し、教育実習の意義・目的・内容・心得等を再確認するとともに、教師としての使命感を養う。
事後指導では、教育実習における各自の成果と課題を確認し、教職についての理解を深める。

各回の授業計画:

1. 英語と数学合同での活動
教育実習に関する資料配付と「事務手続き」についての説明を行う。
中学校における「教育実習の心得・意義・目的・ 運営・内容」について理解を深める。

2. 英語と数学合同での活動
「中学校の教員に求められるもの」は何かを考える。
特に、中学生への対応の在り方、「生徒指導」において留意すべき事項の理解を深める。
また、養育現場におけるハラスメントの防止とその対応について考える。

3. 教科別の活動
英語と数学の教科に分かれ、教育実習における授業実施のために「学習指導案」の作成に係る基礎を確認する。

4. 英語と数学合同での活動
教育実習中、専門教科以外に実践させていただくことを希望している「特別の教科 道徳」の授業の進行方法等について学ぶ。
特に、50分の授業で道徳をどう展開し、生徒に何を考えさせるか、そのためにどのような事前準備が必要かについて具体的に体験する。

5. 教科別活動
英語と数学に分かれ、実習者が決定した分野における「学習指導案」を作成する。

6. 教科別活動
英語と数学に分かれ、作成した学習指導案に従って「模擬授業」を行う。
実習者は互いに模擬授業の評価をすることで、自身の授業力の向上につなげる。

7. 英語と数学合同での活動
「教育実習に臨むにあたって」の決意等を発表し、教育者としての覚悟をもつことにより、事前学習のまとめとする。

8. 英語と数学合同での活動
教育実習後に、実習に基づく各自の成果と課題を確認し、受講者同士で共有することで教員としての幅を広げ、教職についての理解を深める。

特記事項: 講義、学習指導案作成、模擬授業等により、教育実習を行うに当たっての心得や授業の仕方・生徒指導の在り方等について理解する。

授業方法: 【対面授業】授業はすべて対面で行います。
教育実習の心構え等に係る講義に加え、教育実習における授業実施が円滑に行えるよう、英語・数学ともに学習指導案の作成とその模擬授業を行う。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1-8:各時間の計画にしたがい、「教育実習のてびき」の90 分の予習と、講義後90 分の復習が必要

評価方法:

授業へのとりくみ:	70	**%**	**確認テスト:**	−	**%**	**レポート:**	30 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: 60-69:教育実習の意義・目的・内容・心得等を理解している。
80-100:①教員としての使命感を理解している。
②教育実習における各自の成果と課題を確認し、教職についての理解を深めることができる。

課題へのフィードバック:

授業時に質問の時間を確保し対応する

教科書: 教育実習(中高)の記録 ※初回授業で配布

参考書: 文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編』(平成29 年告示)
文部科学省『中学校学習指導要領解説 数学編』(平成29 年告示)

授業・準備学習のアドバイス:

3週間の実習とはいえ、教員の立場として現場にいくことになる。今までの授業の振り返りとして、現場の状況を想定した学習内容になるので真剣に取り組む必要がある。

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育実習(中)

クラス: 小中

授業コード: DA60600001

担当者: 冨田 哲浩、桂 敦子、堤 康嘉 **単位数:** 4

科目に関連した実務経験: 実務経験有:
〔冨田〕公立高等学校教諭・校長、県教育委員会指導主事
〔桂〕公立高等学校教諭・校長、県教育委員会指導主事
〔堤〕高等学校教諭

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教育実践に関する科目(中学校)【必修】

含めることが必要な事項: 教育実習

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 中学校の教育現場に教育実習生として臨み、生徒との具体的な接触を通じて、教員になるために必要な知識・技能・態度等の基礎を学ぶ。特に、教科指導や生徒指導の具体的な実践を通して、生徒理解と人間尊重の精神および教育者としての使命感を養い、専門的な指導力への発展につなぐ。

到達目標: 教職についてこれまでに学んだことを実地体験を通して確認・定着させ、発達段階に応じた様々な指導技術を習得すると同時に、教育者としての精神性を養う。

各回の授業計画:

1. 実習校の教育目標、学校・地域・生徒の実態および特色
2. 学校経営、学年経営、学級経営の実際
3. 実習校の教育課程と教科指導・教科外指導
4. 学校教育活動への参加と学習
5. 専門教科および専門外教科の授業参観
6. 専門教科等の授業実践および研究授業の実施(訪問指導あり)
7. 教育実習の反省とまとめ

特記事項: 教育実習を通して、生徒へのかかわりを実践しつつ、学習指導及び学級経営の在り方等について理解する。

授業方法: 各実習校で指示された内容

予習・復習・宿題など(内容・時間):

実習日誌記入、教材研究・ふりかえり等 各90 分

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 %	**確認テスト:**	%	**レポート:**	20 %
その他1:	実習校からの評価		50 %		
その他2:			%		

評価基準: 60−69:教員になるために必要な知識・技能・態度などを理解しており実践しようと努めている。
70−79:教員になるために必要な知識・技能・態度などを十分に理解しており、積極的に実践しようと努めている。
80−100:
①教員になるために必要な知識・技能・態度などを十分に身につけている。
②教科指導や生徒指導の具体的な実践を通して、生徒理解と人間尊重の精神および教育者としての使命感を理解している。
③専門的な指導力を身につけため、生徒との関りを大切にした実践に努めている。

課題へのフィードバック:

事後指導の授業時に対応する

教科書: 教育実習（中高）の記録
実習校が指定した教科書

参考書: 文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編』（平成29 年告示）
文部科学省『中学校学習指導要領解説 数学編』（平成29 年告示）

授業・準備学習のアドバイス:

実習生といえども、中学校生徒にとっては平常学習における自分たちの「先生」である。現場で直接指導に当たっていただく学級・教科の担当教員の指導のもと、「先生」という自覚をもち、真摯な態度で教育実習に臨まれることを期待する。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育実習事前事後指導(特)

クラス: 小+

授業コード: DA60700001

担当者: 塚本 久義 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:
〔塚本〕公立養護学校教諭、県教委特別支援教育担当指導主事

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:特別支援教育に関する科目(特支)【必修】

含めることが必要な事項: 心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 特別支援学校での教育実習を充実したものとするため、実習の目的や意義をはじめ、特別支援学校での諸活動に関する事前の心構え、実習記録の書き方、授業に関する計画・実施方法など、実習に必要な諸事項について学ぶ。

到達目標: 1. 事前指導では、実習の目的や意義、実習記録の書き方、指導案の書き方、模擬授業など、実習に必要な諸事項について再確認するとともに、特別支援学校での諸活動に関する心構えを養う。
2. 事後指導では、教育実習での成果と課題をふりかえり、教職への理解と意欲を深める。

各回の授業計画:

1. 教育実習の意義と目的、内容、ハラスメント防止、レポート課題、教育実習アンケート
2. 教育実習の心得、「教育実習の記録」・「児童生徒観察記録」の書き方
3. 特別支援学校の授業について、指導案の書き方
4. 特別支援学校の授業について、指導案の作成①(本時の目標～指導について)
5. 特別支援学校の授業について、指導案の作成②(指導案完成)
6. 特別支援学校の指導技術について、模擬授業①(第1グループ)
7. 特別支援学校の指導技術について、模擬授業②(第2グループ)
8. 特別支援学校の指導技術について、模擬授業③(第3グループ)
9. 特別支援学校の教育課程、学級経営、生徒指導について
10. 5月～6月末教育実習振り返り
11. 9月以降実習の事前指導
12. 教育実習後に各自の成果と課題の確認、発表

特記事項: なし

授業方法: ①～⑤講義(対面)
⑥～⑧演習(対面)(模擬授業)
⑨～⑫講義(対面)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

第1回～3回
教育実習の目的等の復習・確認、実習を行う特別支援学校について調べる(45分×4)
第4回～5回
指導案作成(45分×2)
第6回
教材作成等の模擬授業準備(45分)
第12 回
教育実習のまとめと資料の整理(45分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	70	**%**	**確認テスト:**	−	**%**	**レポート:**	30 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: 1. 授業への参加態度
講義内容の「メモをとる」などができる(60～69点)／自分なりの言葉で講義内容の「メモをとる、まとめる」ことができ意欲的に受講している(80

～100点）。
2. 模擬授業
学習指導要領を理解し、指導案を作成し模擬授業ができる（60～69点）／学習指導要領を理解し効果的な指導を行えるように工夫した指導案を作成し模擬授業ができる（80～100点）。

課題へのフィードバック：

模擬授業については授業で講評する。

教科書： 必要に応じて資料プリントを配布する。

参考書：
文部科学省『特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領』海文堂出版
文部科学省『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）』開隆堂出版
文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）』開隆堂出版
文部科学省『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）』開隆堂出版

授業・準備学習のアドバイス：

指導案の作成、模擬授業は、知的障害・肢体不自由のグループに分かれて実施します。各自の実習先の特別支援学校などへボランティアに行き、特別支援学校の雰囲気、児童・生徒たちの様子、教員の動き方などを経験、観察しておくことが望ましい。
第4回と第5回の授業で模擬授業の学習指導案を作成します。各自PCを持参してください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育実習(特)

クラス: 小+

授業コード: DA60800001

担当者: 塚本 久義 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:
〔塚本〕公立養護学校教諭、県教委特別支援教育担当指導主事

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:特別支援教育に関する科目(特支)【必修】

含めることが必要な事項: 心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 実習校において、大学で学んできた特別支援教育の知識・理論ないし技能を、実践的・総合的に修得する。また、障害のある児童・生徒に対する理解を深め、人権尊重の精神を養う。

到達目標:
1. 児童・生徒理解、障害の把握、指導技術について修得する。
2. 授業の研究、学級経営の方法、安全管理の仕方を理解する。
3. 特別支援学校の体制を知る。

各回の授業計画:

決められた特別支援学校において、大学の管理と実習校の教員の指導の下2週間の実習を行う。

特記事項: なし

授業方法: 実習

予習・復習・宿題など(内容・時間):

実習校の事前オリエンテーションに出席し、実習校の指示により実習の準備を行う。

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	− **%**	**レポート:**	− **%**		
その他1:	実習記録		20 **%**				
その他2:	実習の評価		50 **%**				

評価基準:
1. 実習の評価
実習校からの評価による。
2. 実習記録
記録として内容がまとめられている(60〜69点)／記録として内容がまとめられ考察が加えられている(80〜100点)。

課題へのフィードバック:

実習記録については、確認後返却する。

教科書: 必要に応じて資料プリントを配布する。

参考書: 文部科学省『特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領』海文堂出版
文部科学省『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編(幼稚部・小学部・中学部)』開隆堂出版
文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編(小学部・中学部)』開隆堂出版
文部科学省『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部)』開隆堂出版

授業・準備学習のアドバイス:

教育実習先の特別支援学校にボランティアに行くなどして、事前に学校の様子を知り、児童・生徒とふれ合うようにすることが望ましい。

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 保育実習指導ＩA(保育所・施設)

クラス:

授業コード: DA60900001

担当者: 北野　富美子、高橋　一夫、高　奈奈、佐藤　智恵　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:
〔佐藤〕保育士
〔北野〕公立保育所所長・地域子育て支援センター長・保育士

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 保育所・施設での実習を行うために，基礎的事項への理解、子ども(利用者)の理解、施設の機能および保育士の職務について学ぶ。また、保育実習に行くために必要な，姿勢や態度なども身につける。

到達目標: 実習の準備として①保育実習の意義・目的の理解、②子ども理解、③実習記録の書き方、④実習生としての求められる姿勢・守秘義務などへの理解を目指す。

各回の授業計画:

1. 保育士課程について
保育実習の目的/保育実習の概要(観察、参加実習、部分実習、全日実習)/実習先選定について/日程配布/保育実習指導Ｉのルール/実習依頼の誓約書
授業ルールについて
2. 文章表現・漢字の講座①
保育士課程について
3. 文章表現・漢字の講座②
保育の実際を知る(DVD保育場面の映像視聴)/名札作成について
4. 文章表現・漢字の講座③
施設実習について① 児童養護施設・乳児院について知る
5. 文章表現・漢字の講座④
施設実習について②障がい児(者)について知る
6. 文章表現・漢字の講座⑤
守秘義務・SNSの利用について
7. 子どもとのかかわりのポイント①(発達の理解とグループごとに遊びの内容を考える)
8. 子どもとのかかわりのポイント②(発達に応じた遊びを考え、実践する)
9. 子どもとのかかわりのポイント③(発達に応じた遊びを考え、実践する)
10. 実習記録について① 子どもの姿・保育者のかかわりの捉え
確認テスト
11. 実習記録について② 書き方の基本(環境構成・子どもも活動・保育者の配慮、援助):場面の記録
12. 実習記録について③ DVD視聴と記録:1日の流れを書く
漢字テスト
13. 実習記録について④ DVD視聴と記録:1日の流れを書く(最終確認)
14. 実習記録について⑤ 総まとめ
実習記録の確認テスト
15. 実習の目的とねらい
実習課題について(保育所)

特記事項: 実習に関する授業であるため、遅刻や無断欠席をせず、すべての授業回に出席することを求める。
この授業ではPC必携とする。
授業への取り組みをノート提出で評価するため、毎回の授業内容についてまとめておくこと。

授業方法:
1. 講義 (対面)
2. 講義とDVD視聴 (対面)
3. 講義とDVD視聴と演習 (対面)
4. 講義とDVD視聴と演習 (対面)
5. 講義とDVD視聴と演習 (対面)
6. 講義 (対面)
7. 講義と演習 (対面)
8. 講義と演習 (対面)

9. 講義と演習（対面）
10. 講義と演習、DVD視聴（対面）
11. 講義と演習、DVD視聴（対面）
12. 講義と演習、DVD視聴（対面）
13. 講義と演習、DVD視聴（対面）
14. 演習（対面）
15. 講義（対面）

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1.（復習）配布された資料を再読する（30分）
2.（復習）各授業内容や実習ハンドブックについて確認する（240分）
3.（予習）書籍やインターネットなどで実習園についての情報収集をする（30分）
4.（課題）授業内で取り組んだ課題を時間内に提出する（60分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	30	**%**	**確認テスト：**	30	**%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	課題(作品含む)			40	**%**		
その他2：					**%**		

評価基準：

1. 授業への取り組み
実習ハンドブックや配布プリントに下線を引き、熱心に授業に取り組めている（60～69点）
実習ハンドブックや配布プリントに下線を引き、教員の説明の要点をまとめている（70～79）
配布プリントに教師のコメントや自らの気付きをメモできている。事務手続きを全て正確に行える（80～100点）

2. 確認テスト
漢字テスト、実習記録のテストで6割の正答率がある（60～69点）
漢字テスト、実習記録のテストで7割の正答率がある（70～79点）
漢字テスト、実習記録のテストで8割の正答率がある（80～100点）

3. 提出物
課題等の内容を概ね理解して取り組んでいる（60～69点）
課題等の内容を理解して、適切な量や方法で取り組んでいる（70～79点）
課題等の内容を十分に理解し、期限を守って丁寧に取り組んでいる（80～100点）

課題へのフィードバック：

提出物については必要に応じて添削・評価し返却を行う。
授業内で全体に対して講評を行う。

教科書： 実習ハンドブック
授業中にプリントを配布する

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：

保育および福祉施設の現場を意識して授業を行う。
原則的に、授業での無断欠席・遅刻は認めない。
出席等に関しては，必ず保育実習に関する内規に目を通しておくこと。
15分以上の遅刻は欠席とみなす。
心身ともに体調管理を行い、すべての授業に出席できるよう努めること。
実習に関連する事項が多く挙がるので，掲示板を自分で確認する習慣をつけること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 保育実習指導ＩB(保育所・施設)

クラス:

授業コード: DA61000001

担当者: 佐藤　智恵、高　奈奈、高橋　一夫、北野　富美子　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:
〔佐藤〕保育士
〔北野〕保育士

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 保育実習指導ＩAでの学びを基に、子ども(利用者)について更なる理解を深め、施設の機能および保育士の職務について学ぶ。また，保育実習に行くために必要な姿勢や態度なども身につける。

到達目標: 実習の準備として①保育所・施設の役割の理解、②実習記録の書き方の理解、③子ども(利用者)の理解、④実習に関わる事務手続きの遂行を目指す。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション/実習課題(保育所)の説明
2. 実習記録を書く①考察/実習課題(保育所)
3. 施設実習について/実習課題(施設)の説明/実習記録を書く②考察
4. 先輩の話から学ぼう(保育所)
5. 確認テスト①(実習記録作成テスト)/実習記録を書く③
6. 実習先オリエンテーションについて(電話のかけ方・服装・態度など)
7. 保育所・施設実習事務手続き①
8. 保育所・施設事務手続き②
9. 確認テスト②(事務手続き関係)/実習記録を書く④
10. 実習記録を書く⑤(施設実習の記録について)
11. 実習記録を書く⑥
12. 実習記録を書く⑦
13. 保育所実習最終確認(個人情報保護、実習中の学び、実習態度など)
14. 先輩の話から学ぼう(施設)/施設実習最終確認(個人情報保護、実習中の学び、実習態度など)
15. 【事後指導】保育実習Ｉ振り返り・個別面談

特記事項: なし

授業方法:
1. 講義(対面)
2. 講義と演習(対面)
3. 講義と演習(対面)
4. 演習・ディスカッション(対面)
5. 確認テスト①と講義と演習(対面)
6. 講義(対面)
7. 講義(対面)
8. 講義(対面)
9. 確認テスト②と 講義と演習(対面)
10. 講義と演習(対面)
11. 講義と演習(対面)
12. 講義と演習(対面)
13. 講義(対面)
14. 講義と演習とディスカッション(対面)
15. 講義と演習とディスカッション(対面)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. (課題)実習課題(保育所)の作成/訪問指導票について回答する(180分)
2. (復習)実習課題(保育所)の書き直しをする(180分)
3. (課題)実習課題(施設)を作成する(180分)
4. (復習)返却された実習のねらいを修正し、再提出する(180分)

5.（予習）確認テスト①に向けた学習をする180分）
6.（復習）電話のかけ方などを確認しておく（180分）
7.（復習）事務手続きについて確認しておく（180分）
8.（復習）事務手続きについて確認する（180分）
9.（予習）確認テスト②に向けた学習をする（180分）
10.（復習）実習記録を完成させる（180分）
11.（復習）実習記録を完成させる（180分）
12.（復習）実習記録を完成させる（180分）
13.（復習）保育所実習の最終確認をする（180分）
14.（復習）施設実習への準備をする（180分）
15.（復習）これまでの学習をまとめ、振り返りを行う（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	15 **%**	**確認テスト：**	30 **%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	提出物(事務手続き関連を含む)		25 **%**		
その他2：	実習課題		30 **%**		

評価基準：

1. 授業への取り組み
＊きちんとした姿勢で話を聞き、授業に取り組めている（60～69点）
＊遅刻や欠席時に正しい対応が取れ、主体的に授業に取り組めている（70 ～79点）
＊教師のコメントや自らの気付きをメモできている。欠席時なども含め、事務手続きを全て正確に行える（80～100点）

2. 提出物
＊内容を理解して取り組んでいる（60～69点）
＊内容を十分に理解し、丁寧に取り組み、期限を守れる（70～79点）
＊内容を十分に理解し、自分なりに学習をし理解を深めている（80～100点）

3. 確認テスト
＊授業で伝えた内容を理解し、保育実習Ⅰに臨むことが可能である。（60～69点）
＊授業で学習した内容をよく理解し、保育実習Ⅰに臨む力を備えている。（70～79点）
＊授業で学習した内容を十分に理解し、保育実習Ⅰに臨む十分な力を備えている。（80～100点）

課題へのフィードバック：

提出物については必要に応じて添削・評価し返却を行う。

教科書： 授業中にプリントを配布する

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：

・この科目は毎回、PCを使用する。毎回持参すること。
・実習に関する授業であるため、遅刻や無断欠席をせず、すべての授業回に出席することを求める。
・遅刻は授業開始15分間までとし、それ以降は出席していても欠席扱いとなる。
・実習に必要な姿勢や態度、保育技術、知識をきちんと身につけていないと判断された場合、実習に参加できないことがある。
・提出物については必要に応じて添削・評価し返却を行う。
・15回目の事後指導は、個別面談実施のため時間を拡大して実施する（詳細は、初回の授業で伝達する）。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 保育実習Ⅰ(保育所・施設)

クラス:

授業コード: DA61100001

担当者: 佐藤　智恵、高　奈奈、高橋　一夫、北野　富美子　　**単位数:** 4

科目に関連した実務経験: 実務経験有:〔佐藤〕保育士
〔北野〕公立保育所所長

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: −　　**一般的包括的科目:** −

授業の目的: 児童福祉施設という実践現場での体験を通して、子ども(利用者)の理解、施設の機能および保育士の職務について学ぶ。

到達目標: ①子ども(利用者)理解と子ども(利用者)への援助の理解・習得、②保育士の職務の理解、③児童福祉施設の役割の理解を目指す。

各回の授業計画:

1. 保育所の生活と一日の流れ・保育所の役割を理解する(保育所実習)
2. 子どもの観察とその記録による理解を行う(保育所実習)
3. 子どもの発達過程を理解し、その援助やかかわりについて学ぶ(保育所実習)
4. 子どもの生活や遊びと保育環境について学ぶ(保育所実習)
5. 子どもの健康と安全への配慮について学ぶ(保育所実習)
6. 記録に基づく省察・自己評価を行う(保育所実習)
7. 指導計画に基づく実践について学ぶ(保育所実習)
8. 保育士の役割と職業倫理について理解する〈保育所実習〉(施設実習)
9. 支援計画に基づく活動や援助について学ぶ(施設実習)
10. 施設の役割と機能について理解し、一日の生活の流れを知る(施設実習)
11. 子どもの観察と記録による理解を行う(施設実習)
12. 個々の状態による援助や関わりを学ぶ(施設実習)
13. 記録に基づく省察、自己評価を行う(施設実習)
14. 子どもの心身の状況に応じた対応を学ぶ(施設実習)
15. 健康管理、安全対策について知る(施設実習)

特記事項: なし

授業方法: 実習

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1.(課題)実習記録を作成する(180分)
2.(課題)実習記録を作成する(180分)
3.(課題)実習記録を作成する(180分)
4.(課題)実習記録を作成する(180分)
5.(課題)実習記録を作成する(180分)
6.(課題)実習記録を作成する(180分)
7.(課題)実習記録を作成する(180分)
8.(課題)実習記録を作成する(180分)
9.(課題)実習記録を作成する(180分)
10.(課題)実習記録を作成する(180分)
11.(課題)実習記録を作成する(180分)
12.(課題)実習記録を作成する(180分)
13.(課題)実習記録を作成する(180分)
14.(課題)実習記録を作成する(180分)
15.(課題)実習記録を作成する(180分)

評価方法: **授業へのとりくみ:** − **%**　**確認テスト:** − **%**　**レポート:** 20 **%**
その他1: 実習の評価(実習先と大学の評価による総合的評価) 40 **%**

その他2： 実習先に提出した実習記録 40 **%**

評価基準： 1. 実習評価・レポート
＊保育所実習・施設実習を実際に経験する中で、保育士の役割を理解し、子ども（利用者）の理解、施設の機能を理解できた（60～69点）
＊保育所実習・施設実習に関することを理解した上で、保育実践のいろいろな側面を理解できた。（70～79点）
＊保育所実習・施設実習に関する基本的なことを十分理解した上で、実習中の自らの行動や考えを振り返り、保育実践を多面的に深く理解できた（80～100点）

課題へのフィードバック：

実習後提出した記録は、評価後に返却を行う。

教科書： 必要に応じてTeamsにより配布する

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：

・実習中、実習に臨む姿勢や態度が、実習生として十分でないと大学と実習先が判断をした場合は、本人の意思に関わらず、実習中断となることがある。
・保育実習Ⅰにおいて、保育所実習と施設実習は同一年度で実習を行わなければならない。どちらかの実習が年度内に終了しなければ、次年度再度、保育所と施設の両方で実習を実施することになる。
・保育所/施設それぞれの実習を終えた場合でも、事後指導を欠席したり、必要な手続きをしない場合には、単位修得ができないことがある。
・実習評価は、実習施設と大学の評価により総合的に評価を行う。大学側は、実習記録や実習振り返りなどから、「保育への気付きがあったか」「深い学びをしているかどうか」で評価を行う。
・実習終了後のレポートは「何を学んだか」という部分を重視し評価を行う。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 保育実習指導Ⅱ(保育所)

クラス:

授業コード: DA61200001

担当者: 福井　逸子、北野　富美子、山口　香織　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:
〔北野〕公立保育所所長・保育士
〔福井〕公・私立幼稚園教諭(主任教諭)、保育士(非)

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -　　**一般的包括的科目:** -

授業の目的: 保育実習Ⅱのための事前・事後指導を行う科目である。保育実習Ⅰでの保育所と施設の実習体験を踏まえ、二度目の保育所実習体験を行うために、実践的な学びをいっそう進めていく。より豊かな保育実践力を身につけることをめざして、よりよい保育の展開のための総合的な学びを進めていきたい。

到達目標:
1. 保育実習(保育所)の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。
2. 保育にかかわる様々な理論的な学びを基にして、保育実践力を身に付ける。
3. PDCAサイクルを活用し、保育の評価や改善について学ぶ。
4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。
5. 保育実践について問題意識や課題をもつ。

各回の授業計画:

1. 実習についてのオリエンテーション(授業の展開)
2. 実習記録についての確認
3. 新たな記録の導入-エピソード記録について-
4. 保育指導案について(部分実習・全日実習)
5. 保育実践力の育成:模擬保育に向けて
6. 保育実践力の育成:模擬保育① 0.1.2歳児の活動
7. 保育実践力の育成:模擬保育② 0.1.2歳児の活動
8. 保育実践力の育成:模擬保育③ 3.4.5歳児の活動
9. 保育実践力の育成:模擬保育④ 3.4.5歳児の活動
10. 模擬保育の評価(実践後の新たな記録の作成)
11. 教材研究・発表
12. 実習に向けての準備①(事務手続き)
13. 実習に向けての準備②(先輩保育者からの講話)
14. 実習に向けての準備③(直前指導・保育者の倫理等)
15. 事後指導における実習の総括と評価

特記事項: なし

授業方法: 授業は、すべて対面で行う。
1. 講義
2. 講義とグループワーク
3. 講義
4. 講義
5. 演習
6. グループワーク
7. 演習
8. 演習
9. 演習
10. 演習
11. 講義と演習
12. 講義
13. 講義
14. 講義
15. 講義

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1.（復習）配布された資料を再読する（30分）
2.（復習）各授業内容について確認する（240分）
3.（予習）書籍やインターネットなどで実習園についての情報収集をする（30分）
4.（課題）実習時に必要な教材研究をする（360分）
5.（課題）実習時に必要な指導計画を作成する（360分）
6.（復習）自分の教材を見直す（120分）
7.（復習）記録の書き方について見直す（120分）
8.（課題）実習に向っての準備をする（記録の確認、準備物の確認）（120分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	60 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	20 **%**
その他1：	課題／保育教材		20 **%**		
その他2：			**%**		

評価基準： レポート

・求められた課題に対して、十分な記述量をもって自らの学びや経験を踏まえ、筋道を立てて述べることができる。（80～100）
・求められた課題に対して、指定された記述量で自分の考えをまとめることができる。（60～69）

授業へのとりくみ

・無遅刻無欠席で授業への参加が積極的である。提出物に遅れがない。また、模擬保育では、創意工夫をもって課題に取り組み、主体的な学びが展開されているる。（80～100）
・遅刻早退欠席がある。やや提出物に遅れがある。授業業中にメモが取れている。模擬保育では、グループで協力して活動できている。（60～69）

演習課題・保育教材

・授業中に評価基準を知らせる。

以上の内容を総合的に評価する。

課題へのフィードバック：

課題（レポート）は、授業時に評価の観点について説明し、採点後に講評する。
提出物は、添削・採点して返却する。
質問に対しては、授業時に全体に向けて回答・説明する。

教科書： なし
授業中に適宜資料を配布する。

参考書： 保育所保育指針解説書
小林育子ほか『幼稚園・保育所・施設 実習ワーク』萌文書林
久富陽子『実習における遊びの援助と展開』萌文書林

授業・準備学習のアドバイス：

保育実習Ⅰの体験を振り返りながら、よりよい保育の実践には何が必要なのだろうかということを常に意識しながら授業に取り組むこと。授業に出席し、主体的に学ぶことを重視するので、毎授業、欠席をしないことが大切である。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 保育実習Ⅱ(保育所)

クラス:

授業コード: DA61300001

担当者: 福井 逸子、山口 香織、北野 富美子 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:
〔北野〕公立保育所所長・保育士
〔福井〕公・私立幼稚園教諭(主任教諭)、保育士(非)

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 保育実習Ⅰを踏まえ、保育所等の機能や役割、保育の内容や保育の進め方について理解を深め、豊かな保育実践力を培う。また、保育所等の役割や子育て支援についての理解を深める。

到達目標:
1. 保育士としての資質、能力、技術を習得し、豊かな保育実践力を身に付ける。
2. 保育士の専門性や職業倫理について学ぶ。
3. 保護者支援、地域の子育て家庭への支援について理解を深める。

各回の授業計画:

各保育所において2週間の実習を行う。

特記事項: なし

授業方法: 実習

予習・復習・宿題など(内容・時間):

(予習)
・保育所及び幼保連携型認定こども園の役割や保育士等の仕事内容、1日の保育の流れなどを事前に学ぶ。
・実習先の保育理念や保育方針、行事予定についてオリエンテーション時の資料を通して理解をしておく。
・保育に必要な基本的なマナーや言葉遣いについて自身で確認しておく。
(課題)
・実習目標を明確にし、どのような視点で子どもや保育者の様子を観察するかを整理しておく。
・実習で使用する記録様式の書き方を確認する。
・責任実習で用いる指導計画を作成する。
(復習)
・実習日誌を通して子どもの姿や保育者の関わりを振り返り、自身の理解や課題を明確にする。
・実習を通して得た気づきや反省点をもとに、今後の保育観や次年度の幼稚園実習に活かせるようにする。
・実習中に出会った課題について文献や資料を活用して学びを深める。

評価方法: **授業へのとりくみ:** 10 **%** **確認テスト:** − **%** **レポート:** − **%**
その他1: 実習評価(実習先と大学の評価を総合的に評価する) 50 **%**

その他2： 提出課題¥n実習日誌 40 **%**

評価基準： 提出課題について
決められた期日までに提出できている。
現場での指導を踏まえて、正しく修正の上、提出できている。

実習記録について
①子どもの活動：具体的な子どもの姿が記述できている。
②保育者の援助・配慮：保育者の援助・配慮の意図が記述できている。
③誤字脱字、禁止用語の表記がない。
④全体的に丁寧で、記述の量が適切である。

①～④の項目がクリアしている（80～100）
①、②が半分程度の修正が必要。あるいは、③、④について複数個所の修正が必要。（60～69）

また、実習先の評価を基に、出席状況や実習態度なども鑑み総合的に評価する。

課題へのフィードバック：
実習での取り組みや評価については、個別面談を実施しその中でコメントする。
実習日誌等の記録は評価規準に従って採点し、書き方や内容の理解が不十分だと判断された場合は、個別指導を行う。
日誌は採点後返却する。

教科書： なし

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：
学業での学びを生かし、かつ事前指導での学びを生かした実習体験となるように、主体的な実習体験となるように努めてること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 保育実習指導Ⅲ(施設)

クラス:

授業コード: DA61400001

担当者: 高畑 英樹 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:社会福祉法人障害児入所施設心理相談員

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 保育実習Ⅰでの施設実習を踏まえ、さらに保育実習Ⅲの施設実習に向けて、事前及び事後指導を行う。各実習施設の機能・目的をより深く理解し、施設で生活する子ども・利用者の特性を理解する。
そして、施設保育士として必要な人権擁護に基づいた施設観・児童観及び保育の実践力を習得する。

到達目標:
1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。
2. 実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。
3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。
4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。
5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション保育実習Ⅲの意義・目的・内容の理解
2. 保育実習Ⅰ(施設実習)の振り返り
3. 施設の機能・役割・対象児者の理解① (社会的養護の現状と課題)
4. 施設の機能・役割・対象児者の理解② (障害児・者福祉の現状と課題)
5. 児童養護施設等養護系施設の理解
6. 障害および疾病の理解と援助
7. 乳児院への理解と援助方法
8. 児童館についての理解
9. 事例検討① 児童養護施設、乳児院
10. 事例検討② 障害児入所施設(重症心身障害児施設、知的障害児施設等)、障害児通所支援(児童発達支援センター等)
11. 実習事前指導 (実習の心得、実習目標の明確化)
12. 保育実習日誌・部分実習指導案の書き方① (施設実習における記録について)
13. 保育実習日誌・部分実習指導案の書き方② (施設実習における指導案について)
14. 被虐待児への理解と援助方法
15. 実習前討議

特記事項: 16. 実習事後指導

授業方法: すべての授業を対面授業で行う
1. 講義と討議(対面)
2. 発表(対面)
3. 講義と討議(対面)
4. 講義と討議(対面)
5. 講義と討議(対面)
6. 講義と討議(対面)
7. 講義と演習(対面)
8. 講義とDVD視聴(対面)
9. 講義と討議(対面)
10. 講義と討議(対面)
11. 講義と発表(対面)
12. 講義と討議(対面)
13. 講義と討議(対面)
14. 講義と討議(対面)
15. 討議と発表(対面)
16. 討議と発表(対面)

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. 予習（300分） Teamsにアップされた各回のお知らせと配布予定の資料を確認する。（20分×15回）
2. 復習（900分） 各回に配布された資料を再読する。（60分×15回）
3. 課題（180分） 保育実習Ⅰの振り返りレポート作成する。

評価方法：	**授業へのとりくみ：**	60 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	40 **%**
	その他1：			**%**		
	その他2：			**%**		

評価基準： 施設養護の基本的理解ができており実習目標が明確である。（60～69点）そして、対象の子ども・障害児者への深い理解と支援への熱意がある（70～79点）。さらに、社会的養護における施設保育士の専門性と職業倫理について理解を深めている（80点以上）。

課題へのフィードバック：

授業内での課題やレポートに基づく発表を通して、コメント・アドバイスを行う。

教科書： なし。講義の中で適宜資料等を提示する。

参考書： 内閣府 文部科学省 厚生労働省『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞（平成29年告示）』チャイルド本社

授業・準備学習のアドバイス：

保育実習Ⅰの経験をふまえ各自今後の課題を明らかにして、さらに専門性を高めるため意欲的に取り組んでほしい。そのため事前・事後指導では無断欠席・遅刻のないようにすること。なおこの科目は、保育士資格取得のための必修科目なので4/5以上の出席がないと単位認定できません。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 保育実習Ⅲ(施設)

クラス:

授業コード: DA61500001

担当者: 高畑 英樹 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:社会福祉法人障害児入所施設心理相談員

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 保育実習Ⅰ(施設)をふまえ、更なる実習体験を積むことで、福祉施設における保育の実践力を習得する。また、子ども家庭福祉や社会的養護への理解を深め、実習における自己の課題を覚知する。

到達目標:
1. 既習の教科目や保育実習の経験を踏まえ、児童福祉施設等(保育所以外)の役割や機能について実践を通して、理解する。
2. 家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得する。
3. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。
4. 実習における自己の課題を理解する。

各回の授業計画:

実習を通して学ぶべき内容
1. 児童福祉施設等(保育所以外)役割と機能
2. 施設における支援の実際
(1)受容し、共感する態度
(2)個人差や生活環境に伴う子どものニーズの把握と子ども理解
(3)個別支援計画の作成と実践
(4)子どもの家族への支援と対応
(5)多様な専門職との連携
(6)地域社会との連携
3. 保育士の多様な業務と職業倫理
4. 保育士としての自己課題の明確化

特記事項: なし

授業方法: 実習10日(80時間)以上を通して、到達目標に取り組む。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 記録(1800分) 日々の実習記録を作成する。(180分×10日)
2. 復習(600分) 返却された記録のコメント等を見直す。(60分×10日)
3. 記録の整理(180分)と振り返りレポートの作成(180分)

評価方法: **授業へのとりくみ:** 10 **%** **確認テスト:** − **%** **レポート:** − **%**

その他1：	実習評価(実習先と大学の評価による総合的評価)	50	**%**
その他2：	実習記録	40	**%**

評価基準： 施設保育士の業務内容や職業倫理を、具体的に実践する中で修得できた（60～69点）。そして、実習を通して対象の子ども・障害児者への個別支援力を高めることができた（70～79点）。さらに、社会的養護の現状と課題、また保育士としての自己課題が明確化できた（80点以上）。

課題へのフィードバック：

レポート・実習記録による発表を基にコメント・アドバイスを行うとともに、必要に応じて個別面談・個別指導を行う。

教科書： なし

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：

実習生として守秘義務の遵守や権利擁護の視点を忘れず、謙虚な態度で実習に臨むなかで実践力を高めるよう努めること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教職実践演習(幼小中)

クラス: 小中/小+

授業コード: DA61600002

担当者: 小坂 明、冨田 哲浩、芝田 悦司 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:
〔小坂〕公立小学校校長・教諭
〔冨田〕公立高等学校校長・教諭、県教育委員会指導主事
〔芝田〕公立小学校校長・教諭、市教育委員会次長

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教育実践に関する科目(幼稚園)(小学校)(中学校)【必修】

含めることが必要な事項: 教職実践演習

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 教育課程や教育課程外での様々な活動を通して、大学生活4年間で身に付けた教員としての資質能力を確実なものとする。その上で、教員生活をより円滑にスタートできるように、教員として自分にとって何が課題かを自覚し、不足している知識や技能を補い定着を図る。

到達目標:
1. 教育に対する使命感や責任感、教育的愛情を培うとともに、児童や保護者と良好な人間関係を築ける社会性や対人関係構築能力を身につける。
2. 児童の内面的理解に基づく指導に努め、人間的なふれあいを通して心の通い合う学級経営ができる資質能力を培う。
3. 教育現場での実習も取り入れながら、学習指導、生徒指導など、教育におけるより実践的な指導力を培う。

各回の授業計画:

1. イントロダクション:教育実習等で見出された問題点と課題を振り返り、履修カルテをもとに各自の向上すべき課題の設定
2. 学校組織や教員の役割・職務内容等の理解
3. 学校が抱える諸課題、生徒指導上の課題への対応
4. 子どもや保護者などが見た魅力ある教員
5. 特別な支援を必要とする児童への支援の在り方
6. 教育委員会と学校現場
7. 教師力アップを目指すⅠ 〈道徳教育について〉
8. 教師力アップを目指すⅡ ＜令和の日本型教育とICT～デジタル教科書の活用～＞
フィールドワーク事前指導
9. フィールドワーク
10. フィールドワーク報告会
11. 教師力アップを目指すⅢ 〈学習指導案作成〉
12. 教師力アップを目指すⅣ ＜学級経営と学習評価＞
13. 教師力アップを目指すⅤ ＜場面指導＞
14. 教師力アップを目指すⅥ ＜子どもとの人間関係づくり＞
15. 学びの振り返りとプレゼンテーション

特記事項: なし

授業方法:
・すべての授業を対面で行う。
・教員に必要である基礎的な資質能力を身に付けていくために、指導案作成・学級経営案作成を行う。
・各個人の課題解決に繋がる具体的な項目を提示し、学校現場を熟知した外部講師の講話等から学びを深めていく。
・教育現場での実習を実施する。又は、教育現場とWeb授業を通して交流会を実施する。
・学習指導要領を目的や内容を理解し、道徳科を含む教科教育の指導法(デジタル教科書等のICTの活用も含む)を学ぶ。
・事例研究や演習を通して、将来の教職の基礎となるようディスカッションやグループ学習、プレゼン発表など多様な学習形態を組み合わせて学修する。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

《学校組織等》
1. 提示課題について予習(100分)
2. 復習、ノート整理(100分)
3. 次時の課題作成(100分)
4. 提示課題について予習(100分)
5. 復習、ノート整理(100分)
6. 発表方法を決定後、資料作成(200分)
《教科教育関係》

7. 提示課題について予習(100分)
8. 復習、ノート整理(100分)
9. 次時の課題作成(100分)
10. 提示課題について予習(100分)
11. 復習、ノート整理(100分)
12. 次時の課題作成(100分)
13. 発表方法を決定後、資料作成(200分)
《学級経営等》
14. 提示課題についての予習(100分)
15. 発表方法を決定後、資料作成(200分)
《フィールドワーク》
16. 発表方法を決定後、資料作成(200分)
《総括》
17. 全体発表の課題づくり(200分)
18. 発表に向けての資料づくり(300分)
19. まとめのレポート作成(300分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	50	**%**	**確認テスト:**	–	**%**	**レポート:**	50 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準:

1. 授業への取り組み
・整理してメモを取る。積極的に発言や質問をする。(望ましい到達度80～100)
・望ましい授業態度。(最低の到達度60～69)
2. レポート
・各課題に対して、的確に答え、自分の意見も論じることができ、誤字脱字もなく、文章が400字以上1000字以内で構成されている。また、提出期限を守る。(望ましい到達度80～100)
・各課題に対して、学んだ用語を活用し、レジメや資料に即した内容になっている。また、提出期限を守る。(最低の到達度60～69)

課題へのフィードバック:

提出された課題やレポートを評価する。

教科書: 適宜プリント等を配布する。

参考書:

・文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)』東洋館出版社
・文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年公示)』東山書房
・文部科学省『幼稚園教育要領解説＜平成30年3月＞』フレーベル館
・文部科学省『生徒指導提要改訂版(令和4年12月)』東洋館出版社
・文部科学省『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと，協働的な学びの実現～』令和3年1月26日 中央教育審議会答申
・文部科学省『「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～』令和4年12月19日 中央教育審議会答申
・文部科学省『「令和の日本型学校教育」を担う質の高い教師の確保のための環境整備に関する総合的な方策について～全ての子供たちへのよりよい教育の実現を目指した、学びの専門職としての「働きやすさ」と「働きがい」の両立に向けて～』令和6年8月27日 中央教育審議会答申
・文部科学省「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」令和6年12月25日 中央教育審議会 諮問

授業・準備学習のアドバイス:

・ 授業への取り組みは、グループ討議・発表(グループでの発表を含む)、レポート等は課題提出物 で 評価する。
・ 大学での学びを確認し、教員として着任したその日から活用できる知識や技能を身に付ける授業である。主体的・自主的な判断力を基盤とした実践的指導力を学ぶ。
・教育実習と同等に、教育職員免許法に定められた授業のため無断欠席すると、追加の課題又は、追加の授業を実施することがある。また、複数回の無断欠席は、単位認定ができなくなり、免許が取得できなくなることもある。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 保育・教職実践演習(幼)

クラス: 幼保

授業コード: DA61700001

担当者: 猪田　裕子、北野　富美子、岩濵　里江子、横田　郁子　　**単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:
〔猪田〕私立幼稚園教諭
〔北野〕公立保育所長・地域子育て支援センター所長・保育士
〔横田〕公立幼稚園教諭・園長、市教委指導主事・幼児教育専門員
〔岩濱〕公立幼稚園教諭・園長、市教育委員会指導主事

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教育実践に関する科目(幼稚園)【必修】

含めることが必要な事項: 教職実践演習

教科に関する専門的事項: −　　**一般的包括的科目:** −

授業の目的: 保育・教職実践演習は、現場で必要な知識や技能を実践的に習得し、幼稚園教諭や保育士としての基盤を築くことを目的としている。子ども一人ひとりの発達や個性を深く理解し、それに応じた柔軟な対応力を養うことが求められる。この授業では、理論と実践を結びつけ、保育の質を向上させるための実践力や、保護者や他の保育者との連携力を育むことを重視している。
また、履修カルテを活用して学びの過程を可視化し、自身の成長を振り返る仕組みを取り入れている。これにより、学びの足跡を整理し、実践で得た経験を次のステップへとつなげることができる。さらに、自己評価や記録を通じて子どもの発達を丁寧に把握し、子どもの最善の利益を実現するための感性や洞察力を磨くことを目指している。履修カルテを基にした自己分析は、保育者としての主体性と責任感を育む上でも重要な役割を果たしている。

到達目標:
・理論と実践を結びつけ、子ども一人ひとりに応じた保育や教育を柔軟に展開できる実践力を身につけること。
・子どもの発達や個性、行動の背景を観察し、適切に対応する洞察力や感性を育むこと。
・履修カルテを活用した学びの振り返りや自己評価を通じて、課題を明確化する力を養うこと。
・保護者や他の保育者と連携し、チームとして子どもの成長を支えるコミュニケーション能力を高めること。
・子どもの最善の利益を追求し、保育者としての主体性と責任感を確立すること。
・ICTを適切に活用し、子どもの発達や学びを支援する実践的なスキルを習得すること。

各回の授業計画:

1. イントロダクション:履修カルテをもとに各自の向上すべき課題の設定【ICTを活用】
2. 社会福祉施設における現状と課題について(後輩へ施設の実習体験伝える)
3. 教員に必要な資質やスキルⅠ:子どもを捉える視点と保育形態について①【ICTを活用】
〜遊びの中でどのようにICTを活用しているかを理解する〜
4. 教員に必要な資質やスキルⅡ:子どもを捉える視点と保育形態について②【ICTを活用】
〜遊びの中におけるICT活用の意義や影響を考察する〜
5. フィールドワーク事前指導
6. フィールドワーク (各幼稚園、認定こども園)
7. フィールドワーク事後指導
8. 教員に必要な資質やスキルⅢ:子どもの健康と安全について①【ICTを活用】
9. 教員に必要な資質やスキルⅣ:子どもの健康と安全について②【ICTを活用】
10. 講話:保育者の資質と探究する子どもの姿について
11. 教員に必要な資質やスキルⅤ:学級経営について①【ICTを活用】
12. 教員に必要な資質やスキルⅥ:学級経営について②【ICTを活用】
13. 教員に必要な資質やスキルⅦ:小学校への接続と連携①【ICTを活用】
14. 教員に必要な資質やスキルⅧ:小学校への接続と連携②【ICTを活用】
15. 講話:保育者としての働きと使命について

特記事項: なし

授業方法: 【対面】
保育・教職実践演習の課題提出及び授業資料の配布はTeamsを通して行う。
演習
講義
外部講師による講話

予習・復習・宿題など(内容・時間):
・3回の実習を振り返り日誌を読む(300分)

・振り返りからの課題を抽出しレポートを書く（300分）
・各テーマ終了後、内容全体を各自まとめる（300分）
・幼稚園教育要領・保育所保育指針解説書を読む（500分）
・幼保連携型認定こども園教育・保育要領を読む（300分）
・資質向上のため必要な知識、技術を身に付ける（500分）
・保育に関する課題等のプレゼンテーションの準備をする（500分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	20 **%**	**確認テスト：**	60 **%**	**レポート：**	10 **%**
その他1：	フィールドワーク		10 **%**		
その他2：			**%**		

評価基準：
・授業内容を適切に理解している（60～69）
・積極的な姿勢で授業に臨み、演習などグループ活動においても独創的な意見を述べ協力的で ある（80～100）
・これまでに学んだ保育に関する知識・技術を、今後に生かそうとする姿勢がある（60～69）
・子どもを取り巻く社会的状況を理解し、課題をふまえ身に付けた知識・技術をもって今後に活かそうとする意識がある（80～100）

課題へのフィードバック：
・小テスト等はTeamsを通して行い、講評は適宜授業内で行う
・毎回の授業で、前回の復習を行い、質問等に答える

教科書： なし

参考書： 令和5年度最新版 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞ ISBN 978-4-8054-0330-3 チャイルド社

適宜プリント等配布する。

授業・準備学習のアドバイス：
保育者を志す者としての自覚と責任をもって意欲的に授業に臨むこと。また実践力につながるグループ討議やロールプレイの場では自分の考えをしっかり発表できるよう、積極的に参加すること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 子どもと文学

クラス:

授業コード: DA70100001

担当者: 厚美 尚子 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 児童文学作品にふれ、そこに含まれる様々なテーマについて、一人で、また皆で深く考える時間をもつ。

到達目標: 自分の考え方を知り、それを人と分かち合うことで、多角的視点を身につける。

各回の授業計画:

1. 児童文学を学ぶことについて
2. 多角的な視点とは
3. 寺村輝夫「おしゃべりなたまごやき」を読む
4. ミニレポート執筆とシェアリング
5. 神沢利子「ウーフはおしっこでできているか？？」を読む
6. ミニレポート執筆とシェアリング
7. 杉みき子「わらぐつの中の神様」を読む
8. ミニレポート執筆とシェアリング
9. あまんきみこ「白いぼうし」を読む
10. ミニレポート執筆とシェアリング
11. ファンタジーの入口と出口について考える
12. 物語を書いてみよう
13. 安房直子「きつねの窓」を読む
14. ミニレポート執筆とシェアリング
15. 全体のまとめと振り返り

特記事項: 受講人数等の状況をみて進め方や内容を変更する場合がある。

授業方法: 作品を読み、レポートを執筆し、それをもとに他の受講生や教員と対話することで考えを深める。
すべての授業を対面授業で行う。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 講義内容をふまえ、児童文学を学ぶ意味について考える(180分)
2. 講義内容をふまえ、多角的な視点とはどういうものか考える(180分)
3. 講義内容をふまえ、寺村輝夫「おしゃべりなたまごやき」を再読する(180分)
4. 「おしゃべりなたまごやき」を読み直し、授業内でシェアされた意見について再考する(180分)
5. 講義内容をふまえ、神沢利子「ウーフはおしっこでできているか？？」を再読する(180分)
6. 「ウーフはおしっこでできているか？？」を読み直し、授業内でシェアされた意見について再考する(180分)
7. 講義内容をふまえ、杉みき子「わらぐつの中の神様」を再読する(180分)
8. 「わらぐつの中の神様」を読み直し、授業内でシェアされた意見について再考する(180分)
9. 講義内容をふまえ、あまんきみこ「白いぼうし」を再読する(180分)
10. 「白いぼうし」を読み直し、授業内でシェアされた意見について再考する(180分)
11. 日常に潜むファンタジーの入口について考えてみる(180分)
12. 物語を書いてみる(360分)
13. 講義内容をふまえ、安房直子「きつねの窓」を再読する(180分)
14. 「きつねの窓」を読み直し、授業内でシェアされた意見について再考する(180分)
15.すべての講義内容を振り返り、自分がこの講義で得たことを確認する(180分)

評価方法: **授業へのとりくみ:** 45 **%** **確認テスト:** － **%** **レポート:** 55 **%**

その他1： **%**

その他2： **%**

評価基準： [授業への取り組み]
それぞれの回で取り上げた作品について概ね理解し、感想を書くことができる。(60-69点)
それぞれの回で取り上げた作品について十分理解し、他者の意見をふまえた上で自分の考えを書くことができる。(80-100点)

[レポート]
多角的視点のあり方について概ね理解し、自らの学びを振り返るレポートを書くことができる(60-69点)
多角的視点のあり方について十分理解し、授業の内容をふまえて、自らの学びを振り返るレポートを書くことができる(80-100点)

課題へのフィードバック：

希望者には、ミニレポートにコメントを書いて返却する。

教科書： 必要に応じて資料を配布する。

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：

自分の感じたことや考えたことを大切にしながら、他者の声を聴くことで視点を増やし、様々な物事を豊かに捉えられるようになればと思っています。自分自身を知る時間も、人の声を聴く時間も、どちらも大切にしましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ)：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 子どもと絵本

クラス:

授業コード: DA70200001

担当者: 高橋 一夫 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 保育・幼児教育の現場において「絵本がどのように活用されているのか」について考える。
世界と日本における著名な絵本をもとに、乳幼児にとって絵本がどのような意味を持つのかについて検討する。
絵本の内容について吟味し、配布された用紙に文章としてまとめる。|また、実際に絵本を読み合うことを通して、最適な読み聞かせ方の技法を習得する。

到達目標: 1. 子どもの育ちに必要不可欠であり、ぜひとも経験させたい「保育課題」の視点から絵本を考える。
2. 将来の保育者として、また、子ども達の成長を支える大人として、子ども達と絵本を「読み合う」楽しさをイメージする。
3. 授業を通して国内外の様々な絵本を知る。

各回の授業計画:

1. 絵本とは何か／「はじめて出会った絵本」
2. 保育現場で活用される絵本
3. 絵本の読み聞かせについて（総論および技術論）
4. 保育課題絵本① 子どもがはじめて出会う絵本
5. 保育課題絵本② 一・二歳児の絵本
6. 保育課題絵本③ いのち・からだ・びょうき
7. 保育課題絵本④ おかあさん・おとうさん
8. 保育課題絵本⑤ きょうだい・ともだち
9. 保育課題絵本⑥ おじいさん・おばあさん
10. 保育課題絵本⑦ 障がいのある人
11. 保育課題絵本⑧ 世界の人々
12. 保育課題絵本⑨ ことば・もじ・かず
13. 保育課題絵本⑩ しぜん・かがく
14. 保育課題絵本⑪ 園行事
15. 保育の中の絵本について

特記事項: ※教科書は必須です。第1回目の授業から持参してください。
※教科書の内容を中心に学びを進めます。教科書を用意しない場合は、単位修得が非常に難しくなります。
※ノートPCを持参してください。スマホだけで学習することはできません。

授業方法:
1. 講義（対面）
2. 講義（対面）
3. 講義（対面）
4. 講義、演習（対面）
5. 講義、演習（オンライン＜オンデマンド＞）
6. 講義、演習（対面）
7. 講義、演習（オンライン＜オンデマンド＞）
8. 講義、演習（対面）
9. 講義、演習（オンライン＜オンデマンド＞）
10. 講義、演習（対面）
11. 講義、演習（オンライン＜オンデマンド＞）
12. 講義、演習（対面）
13. 講義、演習（オンライン＜オンデマンド＞）
14. 講義、演習（対面）
15. 講義、演習（対面）

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 絵本の意義を熟考（180分）
2. 絵本活用を考える（180分）
3. 絵本の読み方を検討（180分）
4. はじめて子どもが出会う絵本を調べる（180分）
5. 乳児の絵本を調べる（180分）
6. 命や体の絵本を調べる（180分）
7. 母や父の絵本を調べる（180分）
8. 兄弟友の絵本を調べる（180分）
9. 祖父母の絵本を調べる（180分）
10. 障碍者の絵本を調べる（180分）
11. 異文化の絵本を調べる（180分）
12. 言語の絵本を吟味する（180分）
13. 自然等の絵本を調べる（180分）
14. 園行事の絵本を調べる（180分）
15. 保育課題を整理する（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	20	**%**	**確認テスト：**	－	**%**	**レポート：**	80 **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準：

・最低限の到達度（60～69点）：授業に参加し、保育課題絵本についての課題および最終レポートを作成できる。
・望ましい到達度（80～100点）：各回の授業に積極的に参加し、可能な限り絵本の読み合いを実践する。また、絵本の内容について吟味し、要点を押さえた保育課題絵本についての課題および最終レポートを作成できる。

※授業資料および課題はTeamsで指示します。必ずノートPCを持参してください。
ノートPCの持参は、授業へのとりくみ姿勢に反映します。

課題へのフィードバック：

絵本の読み合いについては授業で講評する。（※ただし、新型コロナ感染症などの社会的な状況などを勘案し、割愛する場合もある。）
提出されたレポートはコメントを入れて返却する。

教科書：

福岡貞子・礒沢淳子編著『保育者と学生・親のための乳児の絵本・保育課題絵本ガイド』ミネルヴァ書房、2009
※教科書は授業で使用します。必ず持参してください。

参考書：

なし。適宜、資料を配布する。

授業・準備学習のアドバイス：

・絵本を知るために大学図書館や公共図書館の積極的な利用を望む。
・4回目の授業から教科書の内容に沿って、それぞれのテーマに沿った絵本を持参する必要がある。授業内の指示に注意すること。
・授業内で読み聞かせをおこなうため、練習をしておくこと。（※ただし、新型コロナ感染症などの社会的な状況などを勘案し、割愛する場合もある。）
・なお、本授業はオンラインでの課題の提示・提出・フィードバックを行う。

※授業資料および課題はTeamsで指示します。必ずノートPCを持参してください。
※教科書は必須です。第1回目の授業から持参してください。
※教科書の内容を中心に学びを進めます。教科書を用意しない場合は、単位修得が非常に難しくなります。
※ノートPCを持参してください。スマホだけで学習することはできません。
※授業内容と無関係なブラウザ閲覧やスマホアプリの使用は認めません。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 子育てと社会

クラス: ★

授業コード: DA70300001

担当者: 森 眞理 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:幼稚園教諭(日米・私立)、幼稚園園長(日・私立)、日本語補習校(米・幼小部)

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 多様化する現代社会において、子どもが育つ・育てる環境はより複雑化しており、様々な課題が横たわっている。本授業では、国内外の幼稚園教諭の実務経験を有する担当教員の経験を含み、子育てと社会との関係を、家庭という最小単位から地域、社会、世界に及んで考察することから、子どもの権利を保障する子育てのあり方について探究し、糸口を見出すことを目的とする。

到達目標: 子育てとその支援のあり方について、子ども・家庭・地域・社会・世界の歴史や施策について理解を深め、子どものウエルビーイングを保障する子育て・子育て支援について問題提起し、その解決策を導き出すことを目標とする。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション(イントロダクション):子育てと社会とは?(対面)
2. 家庭と家族:子育てをめぐる課題(オンライン)
3. 子育てと子ども理解(オンライン)
4. 子ども家庭支援と保育所 ①保育所保育指針、保育所と保育士の働きの理解(オンライン)
5. 子ども家庭支援と保育所 ②保護者理解と子育て支援(オンライン)
6. 子ども家庭支援と保育所 ③特別な支援を要する子ども理解と家庭支援(対面)
7. 子育て家庭に対する支援 ①国の政策・施策(オンライン)
8. 子育て家庭に対する支援 ②地域の子育て支援:(オンライン)
9. 子育て家庭に対する支援 ③子育て家庭に対する支援:環境を通した支援/期末プロジェクトに向けて(対面)
10. 多文化共生理解教育の視点から子育て支援を考える(オンライン)
11. 諸外国の子育て支援に学ぶ ①北欧(オンライン)
12. 諸外国の子育て支援に学ぶ ②ニュージーランド(受講生の期末プロジェクトに向けて)(対面)
13. 子育てと社会:地域の取り組みと私が考える子育て支援 ①分かち合い(対面)
14. 子育てと社会:地域の取り組みと私が考える子育て支援 ②考察(オンライン)
15. 今後の課題と展望(対面)

特記事項: なし

授業方法: ★オンライン授業(ただし1〜5、6回の対面授業を含む:授業開始後、対面授業日程について受講生と確認し決定する。)

1. 講義 (対面授業)
2. 講義、遠隔教材視聴 (オンライン)
3. 講義、遠隔教材視聴 (オンライン)
4. 講義、遠隔教材視聴 (オンライン)
5. 講義、遠隔教材視聴 (オンライン)
6. 講義、遠隔教材視聴(対面授業可能性有り)
7. 講義、遠隔教材視聴 (オンライン)
8. 講義、遠隔教材視聴 (オンライン)
9. 講義、遠隔教材視聴 (対面授業可能性有り)
10. 講義、遠隔教材視聴 (オンライン)
11. 講義、遠隔教材視聴 (オンライン)
12. 講義、遠隔教材視聴(対面授業可能性有り)
13. 講義、プレゼンテーション (対面授業可能性有り)
14. 講義、遠隔教材視聴 (オンライン)
15. 講義、グループディスカッション (対面授業可能性有り)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 予:当該箇所のテキストを読む(90分)、復:当該箇所のテキストを読みまとめる(90分)
2. 予:当該箇所のテキストを読み問いを立てる(90分)、復:子育ての意味・意義を再考する(90分)

3. 予：当該箇所のテキストを読み問いを立てる（90分）、復：授業内容をまとめる（90分）
4. 予：当該箇所のテキストを読む・保育者の姿を思い巡らす（90分）、復：授業内容をまとめる（90分）
5. 予：当該箇所のテキストを読む・保育者の姿を思い巡らす（90分）、復：授業内容をまとめる（120分）
6. 予：当該箇所のテキストを読み問いを立てる（90分）、復：授業内容をまとめる（120分）
7. 予：当該箇所のテキストを読み問いを立てる（90分）、復：授業内容をまとめる（90分）
8. 予：当該箇所のテキストを読み問いを立てる（90分）、復：授業内容をまとめる（90分）
9. 予：当該箇所のテキストを読み問いを立てる（90分）、復：授業内容をまとめる（90分）
10. 予：当該箇所のテキストを読み問いを立てる（90分）、復：授業内容をまとめる（90分）
11. 予：当該箇所のテキストを読む・課題に取り組む（90分）、復：授業内容をまとめる（90分）
12. 予：当該箇所のテキストを読む・課題に取り組む（90分）、復：授業内容をまとめる（90分）
13. 予：当該箇所のテキストを課題に備える（90分）、復：授業内容をまとめる（90分）
14. 予：当該箇所のテキストを課題に備える（90分）、復：課題を省察し今後の課題・展望を見据える(90分）
15. 予：授業で学んだことをまとめる（120分）、復：今後を展望する

評価方法：

授業へのとりくみ：	60 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	40 **%**
その他1：			**%**		
その他2：			**%**		

評価基準：
・当事者意識を持って、授業に積極的に参加し、自分の意見を表現する（60～69）
・自分の意見を表明すると同時に相手の意見を聴き受け入れ尊重する（70～79）
・子育てと社会のあり方についての地域、社会、世界と対話し、新たな見解を生み出す（80～100）
・子ども主体の子育てに向けて、問題意識を持ち、問題を提起する（80～100）

課題へのフィードバック：
・適宜、授業の中で指示・指導する。
・授業のはじめに前回の復習を行い、理解度を確かめる。

教科書： 厚生労働省『保育所保育指針』、内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』、文部科学省『幼稚園教育要領』

参考書： 石動瑞代・中西遍彦・隣谷正範編著『学ぶ・わかる・みえる シリーズ保育と現代社会 保育と子ども家庭支援論』（みらい）2024年、ISBN 978-4-86015-488-2
松村和子編著『シードブック 子ども家庭支援論』（建帛社）2019年、ISBN978-4-7679-5092-2

授業・準備学習のアドバイス：
・子育ての当事者意識を持ち、探究しようとの姿勢を心がけること。
・子どもと共に育ち合いたい、との心持ちで授業に臨むこと。
・対面授業日については、授業開始後に伝える。（要注意：授業の内容・進行状況により、対面とオンラインの授業日程変更可能性有）

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 子どもと人権

クラス:

授業コード: DA70400001

担当者: 八木 眞由美 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:兵庫県内公立小・中学校教員、兵庫教育大学附属小学校副校長、兵庫県内公立小学校校長、兵庫県教育委員会人権教育課指導主事、兵庫県立教育研修所企画調査課・義務教育研修課指導主事、財団法人兵庫県人権啓発協会研修部長。人権教育に係る行政・学校教員・管理職としての人権教育に係わる実務経験を生かして、学生が、教員として必要とされる鋭い人権感覚を身に付けることができる講義を目指します。

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: この講義は、同和問題をはじめとする子ども・女性・外国人等の個別の人権課題について学ぶことを通して、学校教育のなかで人権教育を進める際の基礎的な知識の獲得を目指す。
特に、いじめ、不登校、性暴力、虐待などについては、子どもに係わる重要な人権課題であることから、グループ討議(ディスカッション)を通して、様々な意見の交流によって、知識を深めるとともに、各自の人権感覚を磨く。
また、昨今、「子どもの貧困」「学力保障」等の課題がクローズアップされていることから、これらの課題もとりあげ、その取り組みの状況や課題克服について考える。

到達目標:
1. 様々な人権課題についての基礎的な知識を身に付け、その内容を説明することができる。
2. 子どもの人権に関する文献や資料を読み、どのような人権課題が提起されているのかを理解することができる。
3. 子どもの人権課題等を解決するための方法について、自分なりの方法を考えられる。
4. 子ども支援に必要な観点を理解し、行動できる。

各回の授業計画:

1. 私にとっての人権問題・人権教育ー小・中学校時代の各自の人権学習を振り返るー(ワークショップ)
2. 人権及び人権問題の基礎ーさまざまな人権課題ー(講義・ディスカッション)
3. 人権をめぐる国際的な動向ー人権の国際的な動向を探るー
4. 日本の人権に関する施策等最近の動向についてー人権施策の推移 同和問題を考える①ー
5. 日本の人権に関する施策等最近の動向についてー人権教育推進の基本的視点 同和問題を考える②ー
6. 同和教育から人権教育へー人権教育の中での同和教育を考えるー
7. 子どもの人権に係わる課題 ①外国人児童生徒の人権について考える
8. 子どもの人権に係わる課題 ②障害のある子どもの人権について考える
9. 子どもの人権に係わる課題 ③不登校問題について考える
10. 子どもの人権に係わる課題 ④いじめ問題について考える
11. 子どもの人権に係わる課題 ⑤性暴力・ハラスメントについて考える
12. 子どもの人権に係わる課題 ⑥児童虐待について考える
13. 子どもの人権に係わる課題 ⑦子どもの貧困について考える
14. 子どもの人権に係わる課題 ⑧子どもの学力保障について考える
15. まとめー全体を振り返り、各自が学び得たことをレポートにして、グループ内で発表する

特記事項: 講義・ワークショップを中心としたディスカッション(基本的には対面授業の予定)

授業方法: 基本的には対面授業実施を予定している。
講義・グループワーク・ディスカッションを中心とした講義を実施する。
第1回 講義、ワークショップ
第2回～第5回 講義
第13回～第14回 講義、DVD視聴、グループワーク(ディスカッション)
第10回、第11回
第15回 まとめの作成、グループディスカッション

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 第1回レポート提出の準備(180分)
2. 教科書と各自で準備した資料等を読みレポート作成(180分)
3. 授業のポートフォリオ作成(180分)
4. 第1回レポート・ポートフォリオ報告と振り返り(240分)
5. 第2回レポート提出の準備(180分)

6. 教科書と授業資料を読みレポート作成(180分)
7. 授業のポートフォリオ作成(180分)
8. 第2回レポート・ポートフォーリオ仕上げ(240分)
9. 第3回レポート提出の準備(180分)
10. 教科書と授業資料を読みレポート作成(180分)
11. 授業のポートフォーリオ作成(180分)
12. 第3回レポート・ポートフォリオ仕上げ(240分)
13. まとめのレポート(15回分の授業の中から最も興味を持った人権課題についてのレポート)作成の準備(180分)
14. まとめのレポート作成準備と15回の授業全体を通してのポートフォリオ作成(180分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	30	**%**	**確認テスト:**	60	**%**	**レポート:**	10 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準:

【最低限の到達度(60～69点)】
・授業ごとに提出物に取り組んでいる。
・ディスカッションに参加している。
・基礎的な専門用語を説明することができる。
・講義内容やテキストの趣旨に即して、レポートにまとめることができる。
【標準的な到達度(70～79点】
・授業毎に提出物に取り組んでいる。
・ディスカッションに積極的に参加している。
・一般的な専門用語を具体的に説明することができる。
・講義内容やテキストの趣旨に即して、レポートにまとめることができる。
【望ましい到達度(80～100点)】
・授業ごとに提出物に積極的に取り組んでいる。
・進行役を務めるなど、より積極的にディスカッションに参加し、自身の考えを発表するだけでなく、ことができる。
・一般的な専門用語を詳しく具体的に説明することができる。
・テキストや授業資料を読み、講義内容を踏まえて、レポートに自身の考えを的確にまとめることができる。

課題へのフィードバック:

提出物や発表については、その都度ポイントや評価の観点を全体に向けて説明する。

教科書: 兵庫県人権教育研究協議会『じんけん教育ってなあに？ 人権教育のいろは 1』兵庫県人権教育研究協議会(2026年2月28日)
他に、必要に応じて、授業中に授業資料のプリントを配布する。(PDFデータ等で事前・事後に配付する場合もある)

参考書: 必要に応じて、講義の中で紹介する。

授業・準備学習のアドバイス:

・子どもの現状について常に新しい情報やデータに触れられるように、日常的に新聞やTVニュースに関心を持ち、アンテナを張っておくこと。
・授業前と事後に必ず、テキストと授業資料を読み込むこと。
・講義で配布するプリントやワークシートはもちろんのこと、毎時間の学びや気づきをポートフォリオカード(授業の中で指示します)にまとめること。

・評価の内容は以下の通り。
①授業のとりくみ(授業態度、積極的発言や発表、ポートフォリオなど)
②ミニレポート(授業時間内に指示した課題に即して作成する)
③確認テスト(授業時間内に実施する)
以上

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 子どもと遊び

クラス:

授業コード: DA70500001

担当者: 越智 正篤 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:保育園・幼稚園の現場での経験(40年以上)、児童館、学童保育所の運営(20年)、現場の先生向けの研修会、親向けの講演会などを行う。現在も子どもたちと過ごしている。

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 子ども達が遊びを通して何をつかんでいるのか？を感じ、発見していきます。今、保育現場で言われている「非認知能力」を育てていく為の関わり方とは？
その関わり方が小学校では、「主体的、対話的、深い学び」、に繋がっていきます。
保育士、教師はどのように関わっていくのかをみんなで考えていき、そこから現場に立つ時に、自分が1つの遊びを、年齢や発達段階に応じた内容に変えて、対応が出来る様になる事を学んでいきます。

到達目標: 保育士、教師として現場に立つ時に、関わり方ひとつで育つものが変わります。自分たちが1つの遊びを、年齢や発達段階に応じた内容に変え、関わり方を考え、対応が出来る様になる事を目標としている。
1. 授業中は子どもたちが実際にやっている遊びを体験する(子どもの気持ちになる)
2. それを踏まえてのビデオをしっかりと見る。(体験、想像と実際の子どもとを見比べる)
3. そして、自分の言葉で毎回のレポートを書く。(忘れないようにまとめる)それが、現場に出た時の自分の大切な資料となります。その資料を作っていきます。

各回の授業計画:

1. 出会い、ふれあいを中心とした遊びの紹介
2. 季節感のある遊び1 春の季節・1学期中心にすると面白いあそび
3. 季節感のある遊び2 夏の季節・2学期中心にすると面白い遊び
4. 身近なものを使った遊び1 家にある身近な物を使います
5. しつけ・ルール 言葉の意味を考えていきます
6. 表現遊び、遊びの引き出しの増やし方
7. 手具を使った遊び 縄、紐など
8. 身近なものを使った遊び2 家にあるようなもの
9. 昔と今の遊び、そこの時代で育つものは
10. 公園にあるもの、自然と言われるところでの遊び
11. 子どもが公園、室内で遊んでいるビデオを通して、年齢差を感じ、関わり方を考えていきます
12. 何も使わないであそべる遊び
13. 季節感のある遊び3 秋から冬にかけての季節で面白い遊び
14. 季節感のある遊び4 正月から3学期の終わりにかけてすると面白い遊び
15. 各回のレポート持ち込み 今までのレポートを手元に復習していき、まとめと手元にあるレポートを持ち込んでの確認のテスト

特記事項: ※履修者が多い場合は、人数制限をする場合があります。

授業方法: 子どもたちが実際にやっている遊びの中から、講師が出した課題の遊びを自分たちで考え体験する。その後、子ども達が実際にしている内容を体験し、その後子どもたちが遊んでいる様子をビデオで見る。その後、それをレポートに書き提出する。天気、受講生人数、授業参加人数などのより、講義の順番が入れ替わる事があります。授業中に与えられた課題に関して、2人以上で意見交換などを通じて発表する事があります。
【すべて対面授業】
1. 実技と講義
2. 実技と講義
3. 実技と講義
4. 実技と講義
5. 講義、グループワーク
6. 実技と講義
7. 実技と講義
8. 実技と講義
9. 講義、グループワーク
10. 実技と講義

11. 実際の子どものビデオを見ての講義
12. 講義、グループワーク
13. 実技と講義
14. 実技と講義
15. 講義・持ち込み確認テスト

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

内容を次回までに、できれば身近にいる乳幼児・児童に指導をしてくる。
授業で体験したものを実際に身近なところでやってみる場所を考えておいてください、どこでもよいです。
例えば、ボランティアで子ども達がいる所に行く、親戚の子どもと遊ぶ、により関わり方などの体験をしてください。それを次回の内容につなげていきます。
難しい場合は相談してください。体験したそれの反省・感想をまとめて、次回の授業に提出する。

評価方法：

授業へのとりくみ：	50 **%**	**確認テスト：**	25 **%**	**レポート：**	25 **%**
その他1：			**%**		
その他2：			**%**		

評価基準： 実際に行う遊びに積極的に参加しているか、遊びの内容を考えているか、それをレポートにまとめられているか、を見ていきます。
1. 授業へのとりくみ（出席日数をベースに、参加する姿勢も考慮します。）
・各授業に対して、子どもの気持ちで関わり授業への参加がなされている。
・各授業に対して、自ら積極的に関わり、保育士の立場としての気持ちを意識して参加し、内容への発言や質問をする取り組みがなされている。

2. レポート
・各授業で学んだ内容についての導入からの流れなどが具体的にわかるように書かれている。
・各授業で学んだ内容について、留意点が読み手に伝わるように作成され、自らの感想が書かれている。

3. 確認テスト
・毎回提出したレポートをもとにした問いに関してある程度理解している。
・各授業で学んだことに関して、学習内容を理解し、説明することができる。

課題へのフィードバック：

課題を数名で考え、いろいろな考え方を伝えあい、それを知り自分の世界を広げていき、自分の考えを持てるようにしていく事を意識してください

教科書： 利用しない

参考書： 適宜紹介する

授業・準備学習のアドバイス：

授業への取り組みの中で、授業に取り組む態度を重要と考えています。よって、授業中は教えてもらうつもりではなく、自分の考えを発表出来る事、他の学生さんや先生から、何か一つでも多くを自分のものにしようと思う気持ちで受けてください。とにかく出席して、体験することが大切です。そこから、いろいろなものが見えてきます。
授業で体験したものを実際に身近なところでやってみる場所を考えておいてください、どこでもよいです。ボランティアで子ども達がいる所に行く、親戚の子どもと遊ぶ、により関わり方などの体験をしてください。
それを次回の内容につなげていきます。また、毎回のレポートが現場に出た時の資料になります。確認テストは資料持ち込みで、問われたことに自分の考えを述べてもらいます。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: おもちゃと社会

クラス:

授業コード: DA70550001

担当者: 樋口 拓 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 「おもちゃ」は、人間の社会や生活にとって重要な文化であり、教育、福祉、産業、芸術・スポーツ活動において、特徴的な役割を果たす社会資源でもある。ゲーム、キャラクター、アニメ、映画、SNS、舞台、イベントなど、その周辺には様々な社会的な営みが広がり、保育、幼児教育、子育て、小中高特支での教育活動、企業活動、地域やシニアの支援などまで広がるものでもある。このような「おもちゃ」とそれに関連する社会的な広がりを理解するとともに、これからの社会でそれらに関わる各分野での企画・運営のための基礎的な知識やノウハウを身につけることを目的とします。

到達目標: ・「おもちゃ」という言葉を、社会的な概念として新しい理解し、社会との繋がりの中で考えることができるようになる。
・「おもちゃ」をめぐって、人間関係や、教育的な関係、福祉的な関係などを構築できる知識や技能を身につける。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
授業のねらいや方法を理解し、講義全体の見通しをもつ。

2. おもちゃの世界を知る、遊ぶ、出会う①
様々な「おもちゃ」の実例や体験(ゲーム系)を通して、「おもちゃ」の世界の広がりを理解する。

3. おもちゃの世界を知る、遊ぶ、出会う②
様々な「おもちゃ」の実例や体験(キャラクター系)を通して、「おもちゃ」の世界の広がりを理解する。

4. おもちゃの世界を知る、遊ぶ、出会う③
様々な「おもちゃ」の実例や体験(教育系)を通して、「おもちゃ」の世界の広がりを理解する。

5. おもちゃの世界を知る、遊ぶ、出会う④
様々な「おもちゃ」の実例や体験(昭和系)を通して、「おもちゃ」の世界の広がりを理解する。

6. おもちゃの世界を知る、遊ぶ、出会う⑤
様々な「おもちゃ」の実例や体験(平成・令和系)を通して、「おもちゃ」の世界の広がりを理解する。

7. 遊びの理論を理解する①
遊びとおもちゃと社会の関係をめぐる理論・研究を知るー文化論を中心にー

8. 遊びの理論を理解する②
遊びとおもちゃと社会の関係をめぐる理論・研究を知るー教育・保育論を中心にー

9. 遊びの理論を理解する③
遊びとおもちゃと社会の関係をめぐる理論・研究を知るー産業論を中心にー

10. 遊びの理論を理解する④
遊びとおもちゃと社会の関係をめぐる理論・研究を知るーAI等高度情報社会の中での議論を中心にー

11.「おもちゃ」から社会を創る事例と方法①
ディズニー、バンダイとの共同研究「KIDEA」の開発過程を通して

12.「おもちゃ」から社会を創る事例と方法②
保育、子育て現場の実践を通して

13.「おもちゃ」から社会を創る事例と方法③
小学校・中学校の実践を通して

14.「おもちゃ」から社会を創る事例と方法④
スポーツ、レジャー、運動遊びの実践を通して

15. まとめと評価
ー学んだことの共有を目指してー

特記事項: この講義を受講する者は、必ず秋学期の集中講義「おもちゃ活用実習」の受講を履修しておくことが望ましい。集中講義の日程については、7月後半から8月中の3日間を予定。詳しくは、5月中に、Teamsにて登録者に連絡する。

授業方法: 本講義では、体験や具体的な体験を通して、考える、理解するという流れを前提としては大切に進めていきたい。個人やグループにおける活動を随時取り入れながら、主体的な学びを促していきたい。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回のテーマに合わせて予習を中心に資料を集めることが中心。内容については各回の講義中に指示する。合計2700分程度の予復習時間を必要とする。

評価方法:

授業へのとりくみ:	60 **%**	**確認テスト:**	20 **%**	**レポート:**	20 **%**
その他1:			**%**		
その他2:			**%**		

評価基準:

100～80点「おもちゃ」とそれに関連する社会的な広がりを深く理解するとともに、これからの社会でそれらに関わる各分野での企画・運営のための基礎的な知識やノウハウを十分に身につけている。
79～70点「おもちゃ」とそれに関連する社会的な広がりを理解するとともに、これからの社会でそれらに関わる各分野での企画・運営のための基礎的な知識やノウハウを身につけている。
69～60点「おもちゃ」とそれに関連する社会的な広がりを最低限理解するとともに、これからの社会でそれらに関わる各分野での企画・運営のための基礎的な知識やノウハウを最低限身につけている。

課題へのフィードバック:

授業の中で全体にフィードバックを行う。

教科書: なし

参考書: 講義中に指示する。

授業・準備学習のアドバイス:

いろんな興味・関心を自分自身でも育てて参加してください！

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: おもちゃ活用論

クラス:

授業コード: DA70560001

担当者: 樋口 拓 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 「おもちゃ」は、教育の素材として、あるいは保育の素材として、あるいは地域活動や企業の戦略として、また乳幼児からシニアに至るまでの全世代のものとして、多様な役割をもって存在している。
本講義では、「おもちゃ王国」と日本の玩具メーカーのご協力を得ながら、ゲストティーチャに日本のおもちゃ業界のトップ企業の社長、責任者、あるいはメディアや地域や教育現場での活動を全国的に先導されている方々をゲストティーチャーとして迎えて、「おもちゃとは何か」をめぐ、その活用における課題と可能性などまで、受講生と対話することを授業の内容としている。「おもちゃ」を理解し活用において実践できる力を得ることを目的とする。

到達目標: ・特に産業界を中心とした「おもちゃ」活用の具体的な内容や現場を知ること。
・「おもちゃ」の多方面での活用可能性について理解し実践できる力を基礎として身につけること。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
ー「おもちゃ」をどう活用するか、「おもちゃ」が持つ可能性についてー

2. 企業から見た「おもちゃ」の実際①
ー「おもちゃ業界最大の雑誌『トイ・ジャーナル』特別顧問を迎えて(予定)」ー
(以下①−⑥までの内容に関しては、昨年度をベースに紹介している。内容は変更される可能性あり。初回授業でその場合は詳しく提示する)
主なテーマ:玩具の歴史、玩具の流通、世界の玩具業界

3. 玩具の歴史、玩具の流通、世界の玩具業界についてのワークショップ(グループ学習)

4. 企業から見た「おもちゃ」の実際②
ータカラトミーを迎えて(予定)ー
主なテーマ:トミカ・プラレール・リカちゃん 100年の歴史 キダルトTOYなど

5. トミカ・プラレール・リカちゃん 100年の歴史 キダルトTOYなどについてのワークショップ(グループ学習)

6. 企業から見た「おもちゃ」の実際③
ーエポック社を迎えて(予定)ー
テーマ:シルバニアファミリー、ジグソーパズル、玩具の世界戦略など

7. シルバニアファミリー、ジグソーパズル、玩具の世界戦略などについてのワークショップ(グループ学習)

8. 企業から見た「おもちゃ」の実際④
ーバンダイを迎えて(予定)ー
テーマ:キャラクター玩具、たまごっち、ガンプラ、ガシャポンなど

9. キャラクター玩具、たまごっち、ガンプラ、ガシャポンなどについてのワークショップ

10. 企業から見た「おもちゃ」の実際⑤
ーパイロットコーポレーションを迎えて(予定)ー
テーマ:メルちゃん、すいすいおえかき、アヒル隊長など

11. メルちゃん、すいすいおえかき、アヒル隊長などについてのワークショップ(グループ学習)

12. 企業から見た「おもちゃ」の実際⑥
ーおもちゃ王国を迎えて(予定)ー
テーマ:テーマパーク、玩具と教育、人形など

13. テーマパーク、玩具と教育、人形などのついてのワークショップ(グループ学習)

14. 地域や教育・保育・福祉における「おもちゃ」の活用の実際
テーマ:企業、生活、価値の関係性についての理解と活用の観点のまとめを行う

15. まとめと評価
活用のための方法、思考ツール、企画・見通し、実践、振り返り・修正の3段階のプロセスについてのまとめを行うとともに理解を深める

特記事項: なし

授業方法: 普段は話すことの難しいゲストティーチャーとの直接的な対話を素材として、テーマに沿ってグループディスカッションと終了時のリアクションペーパーでのまとめを行う。また最後に、自分が創ってみたい「おもちゃ」を構想してみる。

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

各回の内容に関連する資料を、webサイト等から事前に集め読んでおくこと。講義中に詳しくは指示する。合計2700分程度の予復習時間を必要とする。

評価方法：

授業へのとりくみ：	50	**%**	**確認テスト：**	25	**%**	**レポート：**	25 **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準：

100～80点 おもちゃについて深く理解し、適切に実践的に活用し構想できる力を身につけている。
79～70点 おもちゃについておおよそ理解し、実践的に活用できる力を身につけている。
69～60点 おもちゃについて最低限理解し、実践的に活用しようとする力を身につけている。

課題へのフィードバック：

毎時間のリアクションペーパーなど、フィードバックは適時行う。

教科書： 特になし

参考書： 特になし

授業・準備学習のアドバイス：

ゲストティーチャーと積極的に対話し、多様な知識や考え方を身につけてほしい。また応用的に、ゲームなどのデジタルベースでの「おもちゃ」についても扱う予定。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: おもちゃ活用実習

クラス:

授業コード: DA70570001

担当者: 樋口 拓 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: テーマパーク「おもちゃ王国」での実習を通して、「おもちゃ」を通したコミュニケーションの取り方、おもちゃと社会の関係の構築、おもちゃを活用した生活の豊かさの実現や、教育・福祉分野への適応などに関する知識と技能を身につけることを目的とする。

到達目標: おもちゃ活用の知識と技能を、実際のテーマパークにおいて経験と簡単な行い方を知るとともに身につける。
実際の社会の中でのおもちゃ活用の課題と可能性について、実践の中で理解する。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
実習全体の流れと課題を理解する
2. 実習①
おもちゃ王国での活動 －企画・運営・現場でのインターン的実践－
3. 実習②
おもちゃ王国での活動 －企画・運営・現場でのインターン的実践－
4. 実習③
おもちゃ王国での活動 －企画・運営・現場でのインターン的実践－
5. 実習④
おもちゃ王国での活動 －企画・運営・現場でのインターン的実践－
6. 実習の振り返りと課題や取り組みの目標の確認と検討
実習前半を振り返り(省察)、目標の修正や後半の活動に向けての見通しをもつ
7. 実習⑤
おもちゃ王国での活動 －企画・運営・現場でのインターン的実践－
8. 実習⑥
おもちゃ王国での活動 －企画・運営・現場でのインターン的実践－
9. 実習⑦
おもちゃ王国での活動 －企画・運営・現場でのインターン的実践－
10. 実習⑧
おもちゃ王国での活動 －企画・運営・現場でのインターン的実践－
11. 実習⑨
おもちゃ王国での活動 －企画・運営・現場でのインターン的実践－
12. 実習⑩
おもちゃ王国での活動 －企画・運営・現場でのインターン的実践－
13. 実習⑪
おもちゃ王国での活動 －企画・運営・現場でのインターン的実践－
14. 実習を通した内容のまとめと報告 －対話・ワークショップを通した内容の共有と理解の深化－
15. まとめと評価
相互のプレゼンテーションによる成果の共有

特記事項: この講義を受講する者は、春学期に集中講義「おもちゃと社会」を受講することが望ましい。実習期間、日程、並びに具体的な実習のあり方については、春学期の集中講義「おもちゃと社会」にて事前のオリエンテーションを開催する。
実習は2月に3日間で、岡山にある「おもちゃ王国」にて実施予定。

授業方法: 現場を知り、企画を立て、実際にインターン的に現場を動かし、成果を確認したり課題や可能性を探るといった一連の活動に参加し、個人やチームに分かれながら、体験的に実習しおもちゃの活用方法として学ぶ

予習・復習・宿題など(内容・時間):

事前オリエンテーションの時に詳しく伝える予定。合計2700分程度の予復習時間を必要とする。

評価方法: **授業へのとりくみ:** 80 **%** **確認テスト:** 20 **%** **レポート:** － **%**

その他1： **%**

その他2： **%**

評価基準： 100～80点 実習に全期間参加し、おもちゃ活用の知識と技能を十分に身につける。
79～70点 実習に全期間参加し、おもちゃ活用の知識と技能を身につける。
69～60点 実習に全期間参加し、おもちゃ活用の知識と技能を最低限身につける。

課題へのフィードバック：

実習終了後にフィードバックする

教科書： 特になし

参考書： 特になし

授業・準備学習のアドバイス：

楽しく面白い体験の中で、「おもちゃ」について触れ合いテーマパークにおいて実際に役割を担う活動を通して、目標とする学修を進める実習です。実際に社会に飛び込んでいく態度を事前に整えておいてください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 英語教材研究Ⅰ

クラス:

授業コード: DA70600001

担当者: 水田 時男 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立高等学校教諭

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 現行指導要領では、3,4年生で「外国語活動」を、5, 6年生では、教科「外国語」を指導することなっている。指導者については、学級担任もしくは英語担当教員がその指導の中心となることが求められている。この授業では、児童に英語を教えるための基礎的知識や指導法について、理論と実践の両面から具体的にアプローチし、小学生に英語を教える上で適切な指導法を習得し、最終的にはそれを授業で実践できる指導力の向上を目指す。

到達目標:
1. 小学校外国語活動の理念の理解
2. 言語習得の基礎的理論の理解
3. 小学生に適した指導法の理解と実践
4. 教室英語の習得と学習指導案の作成
5. グループでの模擬授業(発表者が教師役となりその他の生徒は児童役になる)

各回の授業計画:

1. オリエンテーション、小学校外国語活動と外国語の役割と方向
2. 指導者の英語運用能力向上と小学生の運用能力育成(聞くこと、話すこと)
3. 指導者の英語運用能力向上と小学生の運用能力育成(読むこと、書くこと)
4. 指導者の英語運用能力向上と小学生の運用能力育成(技能統合的な活動)
5. 授業実践に必要な基礎知識と指導技術の習得(外国語学習と第二言語習得理論の基礎)
6. 授業実践に必要な基礎知識と指導技術の習得(コミュニケーション能力とその指導)
7. 授業実践に必要な基礎知識と指導技術の習得(音声の指導)
8. 授業実践に必要な基礎知識と指導技術の習得(語彙の指導)
9. 授業実践に必要な基礎知識と指導技術の習得(音声と文字の関係の指導)
10. 授業実践に必要な基礎知識と指導技術の習得(文字、単語、文の書き方の指導)
11. 授業実践に必要な基礎知識と指導技術の習得(文、文構造、文法の指導)
12. 授業実践に必要な基礎知識と指導技術の習得(ライム、うた、絵本、児童用物語)
13. 模擬授業発表①(音声、語彙、音声と文字の学習等の活動を取り入れた授業)
14. 模擬授業発表②(文字・文の書き方、文構造・文法の学習等の活動を取り入れた授業)
15. 模擬授業発表③(ライム、うた、絵本などを使った授業)、授業づくりのまとめ

特記事項: (授業方法)実践面の指導は、教科書の講読及び講義と、ワークショップ、プレゼンテーション、模擬授業発表などの参加型スタイルを併用して行う

授業方法:
・教科書を用いての対面による講義と演習、実習
・グループ別教材研究発表
・実践力向上のための実技練習(活動、教室英語、スモールトーク等)
・模擬授業発表による演習
1. 授業の進め方、小学校外国語活動と外国語の役割と方向の理解 (講義と演習、実習)(対面)
2. 指導者と児童の英語運用能力(聞くこと、話すこと) に関する (講義と演習、実習)(対面)
3. 指導者と児童の英語運用能力(読むこと、書くこと) に関する (講義と演習、実習)(対面)
4. 指導者と児童の英語運用能力(聞技能統合的な活動) に関する (講義と演習、実習)(対面)
5. 基礎知識と指導技術の習得 (外国語学習と第二言語習得理論) (講義と演習、実習)(対面)
6. 基礎知識と指導技術の習得(コミュニケーション能力とその指導) (講義と演習、実習)(対面)
7. 基礎知識と指導技術の習得(音声の指導) (講義と演習、実習)(対面)
8. 基礎知識と指導技術の習得(語彙の指導) (講義と演習、実習)(対面)
9. 基礎知識と指導技術の習得(音声と文字の関係の指導) (講義と演習、実習)(対面)
10. 基礎知識と指導技術の習得(文字、単語、文の書き方の指導) (講義と演習、実習)(対面)
11. 基礎知識と指導技術の習得(文、文構造、文法の指導) (講義と演習、実習)(対面)
12. 基礎知識と指導技術の習得(ライム、うた、絵本、児童用物語) (講義と演習、実習)(対面)

13. 模擬授業発表①(音声、語彙、音声と文字の学習等の活動を取り入れた授業)(発表と相互評価)(対面)
14. 模擬授業発表②(文字・文の書き方、文構造・文法の学習等の活動を取り入れた授業)(発表と相互評価)(対面)
15. 模擬授業発表③(ライム、うた、絵本などを使った授業)、授業づくりのまとめ (発表と相互評価、自己評価)(対面)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

予習:毎回シラバスに提示されたテキストを読み内容を理解しておく。
(40分x15=600分)(10時間)
復習:テキスト章末の課題について考えをまとめる。
(60分x15=900分)(15時間)
発表:教材研究発表準備(10時間)
模擬授業準備(5時間)
模擬授業教材作成準備(5時間)
1. 序章 (予習 40分、復習 60分)
2. 1章 1節 (聞くこと、話すこと)(予習 40分、復習 60分)
3. 1章 2節 (読むこと、書くこと)(予習 40分、復習 60分)
4. 1章 3節 (技能統合的な活動)(予習 40分、復習 60分)
5. 2章 1節 (外国語学習と第二言語習得理論の基礎)(予習 40分、復習 60分)
6. 2章 2節 (コミュニケーション能力とその指導)(予習 40分、復習 60分)
7. 2章 3節 (音声の指導)(予習 40分、復習 60分)
8. 2章 4節 (語彙の指導)(予習 40分、復習 60分)
9. 2章 5節 (音声と文字の関係の指導)(予習 40分、復習 60分)
10. 2章 6節 (文字、単語、文の書き方の指導)(予習 40分、復習 60分)
11. 2章 7節 (文、文構造、文法の指導)(予習 40分、復習 60分)
12. 2章 8節 (ライム、うた、絵本、児童用物語)(予習 40分、復習 60分)
13. 2章 9節 (国際理解と国際交流)(予習 40分、復習 60分)
14. 終章 (教材研究と教材開発の工夫)(予習 40分、復習 60分)
15. まとめ (復習 100分)
(発表の合計20時間(1200分)については、適宜各自で時間を調整して行うこと)

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	− **%**	**レポート:**	50 **%**
その他1:	毎回実施する理論確認テスト		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準:

1.「最低限の到達度(60～69点)」:毎回の課題を期限内に提出できたか。毎回の理論学習を理解した。模擬授業に参加できたか。
2.「望ましい到達度(80～100点)」:毎回の課題を期限内に授業の気付き発見を記述し提出できたか。毎回のテストで8割以上の成績を上げたか。模擬授業に中心的に参加できたか。授業内の討論に積極的に参加できたか。

課題へのフィードバック:

・授業の中でその都度フィードバックを行っていく。必要に応じて、課題の添削での指導も行う。

教科書:

樋口忠彦・泉恵美子・加賀田哲也 編著『最新 小学校英語内容論入門』研究社 2023年
※ 教科書は、毎回理論学習で使用するので、必ず準備すること。
※ 2019年版『小学校英語内容論入門』と間違えないこと。

参考書:

三省堂『Crown Jr. 5, 6』文科省教材『Let's Try!』
小学校外国語活動研修ガイドブック 文部科学省 (文科省HPから無料ダウンロードが可能)
参考書については、初回に説明するので、事前の購入は不要である。

授業・準備学習のアドバイス:

PCは、毎回使用するので必携してください。目的は、教科書の内容を理解するためのHO (webベース) への記入、学内web上のデジタル教材を使用するためです。教科書は毎回必ず持参してください。理論を理解しての実践力を身につけることを期待しています。活動の模擬授業の実習、演習は、恥ずかしがらず、表情豊かにできるようになりましょう。

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 英語教材研究Ⅱ

クラス:

授業コード: DA70700001

担当者: 水田 時男 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立高等学校教諭

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 小学校における、外国語科と外国語活動の授業力を身につけるために、実際の検定教科書や文科省の提示する教材を授業で扱いながら理解を深め、実践的な教材研究能力と指導案作成力を育成する。

到達目標: 1. 外国語については検定教科書、外国語活動については、文科省の提示する教材を研究することにより、児童の発達段階に応じた効果的な教材の活用方法と指導案の読み取り方について理解し実践力を育成する。
2. 教材開発のための基本理論を理解し、教材づくりや指導案づくりができるようにする。
3. 教材研究や、教材開発に取り組むことにより英語に関する知識理解を深め、英語運用能力の向上を目指す。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション 授業の進め方
2. 第3学年の外国語活動 Unit 1、2、3 とその指導に必要な英語運用力の育成
3. 第3学年の外国語活動 Unit 4、5、6 とその指導に必要な英語運用力の育成
4. 第3学年の外国語活動 Unit 7、8、9 とその指導に必要な英語運用力の育成
5. 第4学年の外国語活動 Unit 1、2、3 とその内容に必要な英語運用力の育成
6. 第4学年の外国語活動 Unit 4、5、6 とその内容に必要な英語運用力の育成
7. 第4学年の外国語活動 Unit 7、8、9 とその内容に必要な英語運用力の育成
8. 第5学年の外国語活動 Get Ready 1、Lesson 1、2、Presentation 1 とその内容に必要な英語運用力の育成
9. 第5学年の外国語活動 Get Ready 2、Lesson 3、4、Try、Lesson 5、Presentation 2 とその内容に必要な英語運用力の育成
10. 第5学年の外国語活動 Get Ready 3、Lesson 6、7、Presentation 3 とその内容に必要な英語運用力の育成
11. 第6学年の外国語活動 Get Ready 1、Lesson 1、2、Presentation 1 とその内容に必要な英語運用力の育成
12. 第6学年の外国語活動 Get Ready 2、Lesson 3、4、Try、Lesson 5、Presentation 2 とその内容に必要な英語運用力の育成
13. 第6学年の外国語活動 Get Ready 3、Lesson 6、7、Presentation 3 とその内容に必要な英語運用力の育成
14. 自作教材づくりと自作教材を使っての模擬授業(1)とその内容に必要な英語運用力の育成
15. 自作教材づくりと自作教材を使っての模擬授業(2)とその内容に必要な英語運用力の育成、英語学習まとめ

特記事項: なし

授業方法: 1. オリエンテーション 授業の進め方 (講義、演習、実習)(対面)
2. 第3学年の外国語活動 Unit 1、2、3 と英語運用力の育成 (講義、演習、実習)(対面)
3. 第3学年の外国語活動 Unit 4、5、6 と英語運用力の育成 (講義、演習、実習)(対面)
4. 第3学年の外国語活動 Unit 7、8、9 と英語運用力の育成 (講義、演習、実習)(対面)
5. 第4学年の外国語活動 Unit 1、2、3 と英語運用力の育成 (講義、演習、実習)(対面)
6. 第4学年の外国語活動 Unit 4、5、6 と英語運用力の育成 (講義、演習、実習)(対面)
7. 第4学年の外国語活動 Unit 7、8、9 と英語運用力の育成 (講義、演習、実習)(対面)
8. 第5学年の外国語活動 Get Ready 1、Lesson 1、2、Presentation 1 と英語運用力の育成 (講義、演習、実習)(対面)
9. 第5学年の外国語活動 Get Ready 2、Lesson 3、4、Try、Lesson 5、Presentation 2 と英語運用力の育成 (講義、演習、実習)(対面)
10. 第5学年の外国語活動 Get Ready 3、Lesson 6、7、Presentation 3 と英語運用力の育成 (講義、演習、実習)(対面)
11. 第6学年の外国語活動 Get Ready 1、Lesson 1、2、Presentation 1 と英語運用力の育成 (講義、演習、実習)(対面)
12. 第6学年の外国語活動 Get Ready 2、Lesson 3、4、Try、Lesson 5、Presentation 2 と英語運用力の育成 (講義、演習、実習)(対面)
13. 第6学年の外国語活動 Get Ready 3、Lesson 6、7、Presentation 3 とその内容に必要な英語運用力の育成 (対面)
14. 自作教材づくりと自作教材を使っての模擬授業(1)と英語運用力の育成 (演習、実習)(対面)
15. 自作教材づくりと自作教材を使っての模擬授業(2)と英語運用力の育成 (演習、実習、講義)、英語学習まとめ (対面)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 予習として文部科学省外国語活動教材「Let's Try! 1、2」についてあらかじめWebで調べておく。(90分) Let's Try! 1、2の主要表現や教室英語を復習する。(90分)
2. 教材Let's Try! 1、Unit 1、2、3を読み、選んだアクティビティで活動(模擬授業)がプレゼンテーションできるように準備する。(90分) 教材の

主要表現や教室英語を復習する。(90分)
3. 教材Let's Try! 1、Unit 4、5、6を読み、選んだアクティビティで活動(模擬授業)がプレゼンテーションできるように準備する。(90分) 教材の主要表現や教室英語を復習する。(90分)
4. 教材Let's Try! 1、Unit 7、8、9を読み、選んだアクティビティで活動(模擬授業)がプレゼンテーションできるように準備する。(90分) 教材の主要表現や教室英語を復習する。(90分)
5. 教材Let's Try! 2、Unit 1 、2、3を読み、選んだアクティビティで活動(模擬授業)がプレゼンテーションできるように準備する。(90分) 教材の主要表現や教室英語を復習する。(90分)
6. 教材Let's Try! 2、Unit 4 、5、6を読み、選んだアクティビティで活動(模擬授業)がプレゼンテーションできるように準備する。(90分) 教材の主要表現や教室英語を復習する。(90分)
7. 教材Let's Try! 2、Unit 7 、8、9を読み、選んだアクティビティで活動(模擬授業)がプレゼンテーションできるように準備する。(90分) 教材の主要表現や教室英語を復習する。(90分)
8. 教材Crown Jr. 5 Get Ready 1、Lesson 1、2、Presentation 1を読み、選んだアクティビティで模擬授業がプレゼンテーションできるように準備する。(90分) 教材の主要表現や教室英語を復習する。(90分)
9教材Crown Jr. 5 Get Ready 2、Lesson 3、4、Try、Lesson 5、Presentation 2を読み、選んだアクティビティで模擬授業がプレゼンテーションできるように準備する。(90分) 教材の主要表現や教室英語を復習する。(90分)
10. 教材Crown Jr. 5 Get Ready 3、Lesson 6、7、Presentation 3 を読み、選んだアクティビティで模擬授業がプレゼンテーションできるように準備する。(90分) 教材の主要表現や教室英語を復習する。(90分)
11. 教材Crown Jr. 6 Get Ready 1、Lesson 1、2、Presentation 1を読み、選んだアクティビティで模擬授業がプレゼンテーションできるように準備する。(90分) 教材の主要表現や教室英語を復習する。(90分)
12. 教材Crown Jr. 6 Get Ready 2、Lesson 3、4、Try、Lesson 5、Presentation 2を読み、選んだアクティビティで模擬授業がプレゼンテーションできるように準備する。(90分) 教材の主要表現や教室英語を復習する。(90分)
13. 教材Crown Jr. 6 Get Ready 3、Lesson 6、7、Presentation 3 を読み、選んだアクティビティで模擬授業がプレゼンテーションできるように準備する。(90分) 教材の主要表現や教室英語を復習する。(90分)
14. 自作教材づくりと自作教材を使っての模擬授業(1)の準備とリフレクション(180分)
15. 自作教材づくりと自作教材を使っての模擬授業(2)の準備と学期を通しての授業のリフレクション(180分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	50 **%**	**確認テスト:**	– **%**	**レポート:**	20 **%**
その他1:	教材づくりと英語力の養成		30 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準:
1.「最低限の到達度(60～69点)」:各単元の教材研究に取り組めたか。模擬授業に取り組めたか。
2.「望ましい到達度(80～100点)」:各単元の教材研究に積極的に取り組めたか。模擬授業に積極的に取り組めたか。

課題へのフィードバック:
・フィードバックは授業の中で適宜行う。

教科書: 教科書の購入についは、初回に指示します。

参考書: 文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 外国語活動・外国語編』開隆堂(平成30年2月)、文部科学省『小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック』旺文社(平成29年6月)

授業・準備学習のアドバイス:
教科書、参考書については、授業の初回に説明しますので、購入はしばらく待ってください。教材作成や児童への指導に当たっては、目標や内容、児童の発達段階に照らして行うことが大切です。教材に接した際には、児童が取り組む様子をイメージしたり、指導のポイントを考えたりする習慣を身につけましょう。PCは必携してください。使用目的は、web上で配布されるハンドアウトの学習と学内web上にあるデジタル教材を使用するためでです。

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 英語プレゼンテーション

クラス: 児/国

授業コード: DA70800001

担当者: 桂 敦子 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 本授業では、学生が英語による論理的で説得力のあるプレゼンテーションを作成し、適切な英語表現や非言語表現を用いて効果的に発信できる力を育成することを目的とする。さらに、パワーポイント等、視覚資料を活用した情報整理の方法を習得し、ピアレビュー(相互評価)を通じて自己調整の姿勢を身につける。これらを通して、自信をもって英語で発表できる実践的コミュニケーション能力を養い、就職先でも活用できる英語力を身につける。

到達目標: 1. 英語で論理的かつ説得力のあるプレゼンテーションを構成し、適切な語彙・表現を用いて明確に発信できる。具体的には3～5分程度でのプレゼンテーションから15分程度の英語によるプレゼンテーションができる。
2. 発音、イントネーション、視線、ジェスチャーなどの言語・非言語表現を効果的に組み合わせ、聞き手に伝わる発表ができる。
3. 視覚資料を目的に応じて作成・活用し、ピアレビューを通じて自己の発表を改善するための具体的な課題を特定できる。

各回の授業計画:

1.【対面】オリエンテーション
・授業概要、評価方法、到達目標の説明
・ 良いプレゼンの要素(目的・構成・聞き手分析)の理解

2.【対面】自己紹介プレゼンテーション(就職面接対応)①
・英語による自己紹介ビデオ等の視聴
・キーフレーズプラクティス
・英語自己分析シート作成 等

3.【遠隔】自己紹介プレゼンテーション(就職面接対応)②
・英語による自己紹介プレゼンテーション作成

4.【対面】自己紹介プレゼンテーション(就職面接対応)③
・英語による自己紹介プレゼンテーション実演
・ピアレビュー(英語による相互評価)
・フィードバック

5.【対面】口頭表現スキルと非言語コミュニケーション
・聞き手に伝わる発声・強弱・リズム
・シャドーイング練習
・アイコンタクト、姿勢、ジェスチャー、表情 等

6.【対面】FIVE LINE POEM (英語五行詩)プレゼンテーション①
・FIVE LINE POEM作成方法
・FIVE LINE POEM作成

7.【対面】FIVE LINE POEM(英語5行詩)プレゼンテーション②
・FIVE LINE POEM 実演
・ピアデビュー(相互評価)
・フィードバック

8.【対面】「私の推し」に関するプレゼンテーション①
・5～10分のプレゼンテーションの構成
・ペアプラクティス

9.【遠隔】「私の推し」に関するプレゼンテーション②
・5～10分の「私の推し」に関する英語プレゼンテーション作成

10.【対面】「私の推し」に関するプレゼンテーション③
・英語による「私の推し」プレゼンテーション実演
・ピアデビュー(相互評価)
・フィードバック

11.【対面】質疑応答(Q&A)対策
・よくある質問への対応方法
・想定問答の作成と練習

12.【対面】ファイナルプレゼンテーション①
・ファイナルプレゼンテーションテーマ決定
・ミニスピーチ作成

13.【遠隔】ファイナルプレゼンテーション②
・ファイナルプレゼンテーション作成
14.【対面】ファイナルプレゼンテーション③
・ファイナルプレゼンテーション実演
・ピアレビュー（相互評価）
・フィードバック
15.【対面】総括＆学習成果の振り返り
・成果の共有、自己評価、今後の学習への展望
・コース全体のまとめ

特記事項： なし

授業方法： 【授業は対面12回、遠隔（オンディマンド）3回で実施】
①自分自身に関すること、身近な事柄について1分間スピーチ、3分間プレゼンテーション。
②日本の文化や社会問題等に関する3分間スピーチ、5分間プレゼンテーション。
③自分で選んだテーマについて15分間プレゼンテーション（質疑応答含む）。
④最初は簡単な自己紹介から始まり、次には質問に応える形でのプレゼンテーション、次にはテーマ別、最後はファイナルプレゼンテーションと内容が徐々に高度になっていく。
スピーチやプレゼンテーションのテーマは事前に示されるので、授業ではそれを他の学生の前で発表する形式で進める。
⑤英語プレゼンテーションに必要なフレーズ等について、毎時間発音練習等を行う。

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

予習：毎回出される課題に取り組む。（90分）
復習：他の学生の発表内容を参考に当初の自分の原稿を修正。また、一人でプレゼンテーションの練習を行う。（90分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	60 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	プレゼンテーション		40 **%**		
その他2：			**%**		

評価基準： （60～69点）毎回の授業の準備を行った。
（70～79点）各授業で実施するプレゼンテーションに積極的に参加した。
（80～100点）各授業の予習、復習をきちんとこなし、説得力のある英語プレゼンテーションができるようになった。

課題へのフィードバック：

学生が準備するプレゼン原稿の事前チェックを実施する。また、プレゼン後には必ず講評を行う。

教科書： 授業において、適宜、プリントやワークシート等を配布

参考書： 「新定番 プレゼンの英語フレーズ1000」（ジャパンタイムズ出版）1,320円（税込）

授業・準備学習のアドバイス：

少人数でアットホームな雰囲気の中で授業を行うため、人前で英語を話すことに抵抗がある人も自信を持って授業に取り組むことができます。プレゼンテーションを通して、英語力だけでなく、社会人として必要な様々なスキルも磨くことができます。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 日英翻訳ワークショップ

クラス: 教/国

授業コード: DA70900001

担当者: 藤田 眞弓 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: この授業では、主に英語から日本語への翻訳について学ぶ。
英語テクストの翻訳実践を通して、英文読解力・日本語表現力・批判的思考力を総合的に高めることを目的とする。翻訳を「意味を読み取り、日本語で再構成するプロセス」と捉え、短く平易なテクストを用いて段階的に演習を行う。ワークショップ形式で相互に翻訳を読み合い、ことばの選択や表現の効果について考える。
具体的には前半は翻訳の基本(構文、辞書の引き方など)を学び、後半は実際の翻訳作業(英語文学作品を訳す)に取り組むことを目指す。

到達目標:
・辞書を活用しながら、短い英文を正確に読み取れる
・文構造を意識して日本語に訳すことができる
・複数の訳を比較し、違いを説明できる
・読み手を意識した自然な日本語表現を工夫できる
・翻訳の過程を簡単なコメントとして書ける

各回の授業計画:

第1回 ガイダンス:翻訳とは何か／良い翻訳とは何か
第2回 文体と声:語りの距離・リズム・沈黙
第3回 直訳と意訳を超える
第4回 短編小説の翻訳①(描写・比喩)
第5回 短編小説の翻訳②(視点・語り手)
第6回 エッセイ／ノンフィクション(語りの人格)
第7回 第1回目～6回目までの振り返り・ツールの使用方法確認
第8回 中間講評会:翻訳と自己の癖を可視化する
第9回 ジェンダーと翻訳
第10回 ポストコロニアルな翻訳(文化語・不可視性)
第11回 会話文・口語・方言の翻訳
第12回 翻訳と編集:推敲・比較・改稿
第13回 受講生プロジェクト草稿ワークショップ
第14回 最終発表会

第15回 まとめと確認・第8回目～12回目までの振り返り

特記事項: なし

授業方法: 15回すべての授業を対面で実施
演習とは以下の内容を含みます。
・短い英文を用いた段階的翻訳練習
・個人作業＋ペア／グループ活動
・教員によるミニレクチャー(文法・表現・翻訳の考え方)
・添削と講評を重視
1. 演習、ペアワーク、グループワーク
2. 演習、ペアワーク、グループワーク
3. 演習、ペアワーク、グループワーク
4. 演習、ペアワーク、グループワーク
5. 演習、ペアワーク、グループワーク
6. 演習、ペアワーク、グループワーク
7. 演習、ペアワーク、グループワーク
8. 演習、ペアワーク、グループワーク
9. 演習、ペアワーク、グループワーク

10. 演習、ペアワーク、グループワーク
11. 演習、ペアワーク、グループワーク
12. 演習、ペアワーク、グループワーク
13. 演習、ペアワーク、グループワーク
14. 演習、ペアワーク、グループワーク
15. 演習、ペアワーク、グループワーク、確認テスト

予習・復習・宿題など(内容・時間):

予習(合計510分)／ 復習(合計165分)
1. シラバスの確認(10分)／ Chapter 1: 問題解答(35分)
2. 問題解答および疑問点の確認(35分)／ 学修した内容を用いた翻訳(10分)
3. 問題解答および疑問点の確認(35分)／ 学修した内容を用いた翻訳(10分)
4. 問題解答および疑問点の確認(35分)／ 学修した内容を用いた翻訳(10分)
5. 問題解答および疑問点の確認(35分)／ 学修した内容を用いた翻訳(10分)
6. 問題解答および疑問点の確認(35分)／ 学修した内容を用いた翻訳(10分)
7. 問題解答および疑問点の確認(35分)／ 学修した内容を用いた翻訳(10分)
8. 問題解答および疑問点の確認(35分)／ 学修した内容を用いた翻訳(10分)
9. 問題解答および疑問点の確認(35分)／ 学修した内容を用いた翻訳(10分)
10. 問題解答および疑問点の確認(35分)／ 学修した内容を用いた翻訳(10分)
11. 問題解答および疑問点の確認(35分)／ 学修した内容を用いた翻訳(10分)
12. 問題解答および疑問点の確認(35分)／ 学修した内容を用いた翻訳(10分)
13. 問題解答および疑問点の確認(35分)／ 学修した内容を用いた翻訳(10分)
14. 問題解答および疑問点の確認(35分)／ 学修した内容を用いた翻訳(10分)
15. 確認テストの準備学修(45分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	70 **%**	**確認テスト:**	30 **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:			**%**		
その他2:			**%**		

評価基準:

①望ましい到達度(80～100点)
【授業へのとりくみ】
各回の翻訳のポイントを理解し、翻訳に応用できる。
各回のリフレクションに、学修した内容を要領良くまとめることができる。
ペアワーク、グループワークに協働的かつ積極的に貢献できる。
【確認テスト】
確認テストにおいて、80%以上を収めることができる。

②最低限の到達度(60～69点)
【授業へのとりくみ】
翻訳のポイントを概ね理解し、指示された翻訳ができる。
各回のリフレクションを提出することができる。
ペアワークやグループワークに参加し、アイデアや意見を共有できる。
【確認テスト】
確認テストにおいて、正解率が60%～69%の範囲となる。

課題へのフィードバック:

・ペアワーク、グループワークに対して、授業時にフィードバックを行う。
・確認テストについては、Teamsでフィードバックを行う。

教科書: 特に使用しない。
適宜資料をこちらから配布、または学生各自がダウンロードをする。

参考書:
金原瑞人 著
『翻訳エクササイズ』(研究社、2021)
『翻訳ワークショップ』(研究社、2025)
藤井光 編
『文芸翻訳入門』(フィルムアート,2017)

授業・準備学習のアドバイス:

毎回の授業では予習を前提として授業を展開しますので、必ず予習をして学修する内容の準備をして臨んでください。授業では辞書を使用しますので、必ず電子辞書または紙の辞書を持参してください。原則、インターネットでの単語検索等は認めない。(出版社等の有料サイト・アプリケーションは可)

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 日英通訳ワークショップ

クラス: 教/国

授業コード: DA71000001

担当者: 藤田 眞弓 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 本授業は、日本語—英語通訳の基礎的スキルを段階的に身につけることを目的とする。
「完璧な英語」よりも、「意味を正確につかみ、わかりやすく伝えること」を重視し、シャドーイング、要約、言い換え、メモ取りなどの訓練を通して、通訳の基礎となるリスニング力・理解力・表現力を養う。
ロールプレイやペアワークを中心としたワークショップ形式で進める。

到達目標:
・ゆっくりした英語・日本語の発話を聞き、要点を把握できる
・簡単な内容について、日⇄英の逐次通訳ができる
・通訳に必要なノートテイキングの基礎が身についている
・直訳に頼らず、「意味」を意識した言い換えができる
・自分の弱点（語彙・文法・聞き取りなど）を自覚し、改善しようとする姿勢を持つ

各回の授業計画:

第1回 ガイダンス／通訳とは何か（翻訳との違い・心構え）
第2回 聞く訓練①：シャドーイングとリスニング基礎
第3回 聞く訓練②：要点把握と要約（日本語・英語）
第4回 言い換え練習：やさしい日本語・やさしい英語
第5回 記憶力訓練：リテンションと短い逐次通訳
第6回 ノートテイキング基礎（記号・構造・数字）
第7回 日本語→英語の逐次通訳（身近な話題）
第8回 英語→日本語の逐次通訳（短いスピーチ）
第9回 サイトトランスレーション（見て即訳す）
第10回 場面別通訳①：観光・キャンパス案内
第11回 場面別通訳②：簡単なインタビュー・対話
第12回 ペア通訳実践＋相互フィードバック
第13回 少し長めの逐次通訳／総合練習
第14回 期末発表準備・リハーサル
第15回 期末ミニ通訳パフォーマンス・振り返り・まとめと確認

特記事項:

授業方法: この授業は全回対面授業を実施します。
演習には以下の内容を含みます。
・ワークショップ形式（ペア・グループ活動中心）
・シャドーイング、リテンション、要約、サイトトランスレーション
・ロールプレイ（観光案内、キャンパス案内、簡単なインタビュー等）
・毎回短い通訳実践＋フィードバック
第1回 講義、演習
第2回 演習
第3回 演習
第4回 演習
第5回 演習
第6回 演習
第7回 演習
第8回 演習
第9回 演習
第10回 演習
第11回 演習

第12回 演習
第13回 演習
第14回 演習
第15回 発表、まとめと確認

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

毎週60分の自主練習を課します。（合計900分）
その他各回の課題は以下の通りです。
第1回 ガイダンス／通訳とは何か（翻訳との違い・心構え）の復習（120分）
第2回 聞く訓練①：シャドーイングとリスニング基礎の予習と復習（120分）
第3回 聞く訓練②：要点把握と要約（日本語・英語）の予習と復習（120分）
第4回 言い換え練習：やさしい日本語・やさしい英語の予習と復習（120分）
第5回 記憶力訓練：リテンションと短い逐次通訳の予習と復習（120分）
第6回 ノートテイキング基礎（記号・構造・数字）の予習と復習（120分）
第7回 日本語→英語の逐次通訳（身近な話題）の予習と復習（120分）
第8回 英語→日本語の逐次通訳（短いスピーチ）の予習と復習（120分）
第9回 サイトトランスレーション（見て即訳す）の予習と復習（120分）
第10回 場面別通訳①：観光・キャンパス案内の予習と復習（120分）
第11回 場面別通訳②：簡単なインタビュー・対話の予習と復習（120分）
第12回 ペア通訳実践＋相互フィードバックの予習と復習（120分）
第13回 少し長めの逐次通訳／総合練習の予習と復習（120分）
第14回 期末発表準備・リハーサル
第15回 期末ミニ通訳パフォーマンス・振り返り・まとめと確認テスト準備（120分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	60 **%**	**確認テスト：**	20 **%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	プレゼンテーション		20 **%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

A. 授業への取りくみ
（1）最低限の到達度（60-69%の評価）
・授業内の実践練習に積極的に参加している。
・適切な語彙が思い浮かばなくても、情報を伝えるための努力をしている。
（2）望ましい到達度（80-100%の評価）
・発話内の適切なタイミングで通訳を行う努力をしている。
・場面に応じた基礎的な語彙を用いて、情報を伝えることができている。
B. 確認テスト
（1）最低限の到達度（60-69%の評価）
・通訳の代表的な手法について基礎的な知識を持っている。
・基礎的な語彙を用いて、メッセージの要点を伝達することができる。
（2）望ましい到達度（80-100%の評価）
・通訳の代表的な手法について、適切に説明することができる。
・基礎的な語彙を用いて、メッセージの送り手の意図を、なるべく正確に伝達することができる。

課題へのフィードバック：

通訳の実践についてその場でフィードバックを行う。

教科書： 水野真木子著『【通訳入門】Interpreting Skills for the World Beyond Borders 授業で学ぶ〈通訳〉入門－ボーダレスな世界を目指して』（松柏社、2022）
ISBN 978-4-88198-779-7

参考書： 授業時に適宜指示する。

授業・準備学習のアドバイス：

この授業は、英語・日本語間の通訳を対象とします。その他の言語については扱うことができませんので、理解の上で履修をして下さい。
授業には必ず指示された課題の予習と復習をした上、電子辞書等のデバイスを持参して臨んで下さい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 文学と文化

クラス:

授業コード: DA71060001

担当者: 大村 誠一郎 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 明治維新以来、西洋の文化や科学技術を採り入れた近代化や西欧諸国に比肩する産業社会化が著しく進展する中で、思想界や文学関係者の間で日本の精神文化や伝統文化を意識する動きも出てくる。この講義では、20世紀の前半においてそうした問題が意識する作品をいくつか取りあげ、日本の伝統文化の美や伝統文化の力が近代文学の中で息づき、印象深い作品世界を作り上げている様相を考察する。また彼らが取りあげた伝統文化とはどういうもので、それをどう評価しているのか、そうした問題についても考えてみたい。

到達目標: 対象とした時代の作家たちが作品の中でどういう伝統文化に対峙し、どのような意義を与えようとしているのかを理解する。また、作品に濃厚な色を与えている伝統文化について基本的な理解ができ、伝統文化の理解を通じて当該作品の読みが深まることを期待する。

各回の授業計画:

1. 序論 明治後半から昭和の太平洋戦争を挟む時期(1900年頃から1950年頃までのおよそ50年間)に日本近代文学が課題にしたことを概観しながら、日本文化に関する
問題意識の位置を確認する
2. 森鴎外『阿部一族』から――武士の精神
3. 夏目漱石『草枕』――文学・絵画における東西の対比
4. 夏目漱石『心』における明治の精神を窓として、『門』における東洋の知への接近の問題を考える
5. 禅への関心の時代――夏目漱石『門』における東洋の知への接近と挫折
6. 江戸の文化への注目 芥川龍之介·木下杢太郎・永井荷風
7. 志賀直哉『暗夜行路』 自我の危機と東洋的なものの力1
8. 志賀直哉『暗夜行路』 自我の危機と東洋的なものの力2
9. 日本近代の精神的危機と日本主義――横光利一と和辻哲郎
10. 古典文学世界への注目 堀辰雄・谷崎潤一郎
11. 川端康成『雪国』 現代に生きる伝統文化、伝統の美1
12. 川端康成『雪国』 現代に生きる伝統文化、伝統の美2
13. 川端康成『千羽鶴』 現代に生きる伝統文化・伝統の美3
14. 川端康成『千羽鶴』 現代に生きる伝統文化・伝統の美4
15. 確認テストとまとめ

特記事項: なし

授業方法: 対面による講義

予習・復習・宿題など(内容・時間):

ノートの整理、作品や配布した資料を事前に読み、授業で読めなかったものについて各自で読み進めるといった予復習をする。また、随時与える課題にも取り組むこと。作品を読むには相応の時間が必要で、平均毎時180分程度あてることになる。

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 %	**確認テスト:**	40 %	**レポート:**	− %
その他1:	ミニレポート(1200字)3回		30 %		
その他2:			%		

評価基準: 最低限の到達度(60～69点)
授業で取りあげた作家や作品で重要な要素となっている文化について基本的な理解ができていること。また、その理解に立ってそれが作品をどういうものにしているか説明できること。
望ましい到達度(80～100点)
作品の背景、あるいは作品を支えている文化の理解からより深い読みの視点が示されていること。

課題へのフィードバック:

レポート、提出課題にコメントを付す。

教科書: なし。作品は青空文庫で読める。一部は資料として配付。興味をもった作品は文庫本で入手するとよいと思います。

参考書: なし。

授業・準備学習のアドバイス:

背景となっている文化についていろいろ調べて深掘りすると、作品をより深いところで味読できるだろう。予復習で作品を読む時、それを意識してほしい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 児童心理学

クラス:

授業コード: DA71100001

担当者: 金山 健一 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:中学校教諭(生徒指導・教育相談担当)、臨床心理士・学校心理士・学生相談室長(カウンセリング・学生相談・教育相談担当)

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 本講義では、乳児期・幼児期・学童期における子どもの諸能力発達を追い、人の驚くべき成長とその仕組みを学ぶことを目的としている。同時に、今日の子どもたちが直面する様々な問題を児童心理学の視点で解明する。教員(小・中・特別支援)や幼稚園教員・保育士を目指す学生には、実践的・体験的な授業を通して教師として力量を育成する。

到達目標: 1. 児童心理学の理論と実践を体系的に学び、子どもの発達を理解し、子どもと関わる際に大切にすべきポイントを習得する。
2. 児童心理学の視点を持ち、教師として必要な実践的力量の習得を目指す。

各回の授業計画:

1. 心理学で子どもを幸せにする (なぜ、児童心理学は必要か)
2. 子どもの抱える問題(いじめ・不登校・自殺など)
3. 子どもの発達 (子どもの心、精神、脳はどのように成長するのか)
4. 幼稚園・保育園の教育 (なぜ、幼児教育は必要か)
5. 虐待 (虐待を受けた子どもは、どうなるのか)
6. ネット・ゲーム依存とその対応(なぜ、依存は起こるのか)
7. SEL・ピアサポート(人の気持ちが、わかる子どもを育てる方法)
8. 愛着理論(親からの愛情がないと、子どもはどうなるのか)
9. 児童の自己肯定感(なぜ、自信のない子どもが多いのか)
10. 心理テスト(心理検査で、自分自身を分析する)
11. 家庭環境と子ども(親ガチャ・離婚・貧困などの子どもへの影響)
12. 児童期に生じる心の問題と対応方法(心の傷・トラウマへの対応)
13. 発達障がいと学校教育(海外を含めた最先端の研究と対応方法)
14. 事例研究(家族の問題の解決方法)
15. 児童心理学の今後の課題と展望

特記事項: なし

授業方法: 授業は対面とする。教師としての実践力向上のため、演習・グループワーク・共同学習を用いたアクティブ・ラーニングで実施する。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 復習(180分)
2. 復習(180分)
3. 復習(180分)
4. 復習(180分)
5. 復習(180分)
6. パワーポイント作成(180分)
7. パワーポイント作成(180分)
8. パワーポイント作成(180分)
9. パワーポイント作成(180分)
10. プレゼンテーション準備(180分)
11. プレゼンテーション準備(180分)
12. 課題まとめ(180分)
13. 課題まとめ(180分)
14. 課題まとめ(180分)
15. まとめと評価(180分)

評価方法: **授業へのとりくみ:** 20 **%** **確認テスト:** 40 **%** **レポート:** 40 **%**

その他1： **%**

その他2： **%**

評価基準： 「最低限の到達」（60～69点）
・授業への取り組み：グループワークに参加できている。
・確認テスト 児童心理学の基礎的な知識を習得できている。
・レポート 課題を理解し、まとめることができる。
「望ましい到達度」（80～100点）
・授業への取り組み：ロールプレイ・グループワークに積極的に参加している。
・確認テスト 児童心理学の専門的な知識を習得し、事例を理解することができる。
・レポート 課題を理解し、発達段階に応じて適切にまとめることができる。

課題へのフィードバック：

課題・レポートの疑問点などは、授業ばかりでなくオフィスアワーなどを活用して、フィードバックしていく。

教科書： 教科書は使用しないが、必要に応じて資料を配布する。

参考書： 『エピソードでつかむ児童心理学』伊藤亜矢子（編）ミネルヴァ書房
『読んでわかる臨床心理学』伊東眞里 大島剛 金山健一 サイエンス社

授業・準備学習のアドバイス：

児童期の子どもに関する理論や事例を通して具体的な子どもの姿を理解していく。周囲にいる子ども達を観察したり児童に関わるニュース等にも注目しながら、教師としてどのように関われば良いかという視点を持って学んでほしい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 学習心理学

クラス:

授業コード: DA71200001

担当者: 権藤 眞織 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 授業の目的は、「学習」のプロセスを理解し、人の行動についての理解を深める。また、行動の変容を促すには、どのような援助を行えばよいのか、理解できるようになる。

到達目標: 到達目標は以下の4点である。
(1)学習の定義と概念を理解する
(2)学習の基礎理論を理解する
(3)学習のしくみを用いて、人の行動を理解する
(4)学習のしくみを用いて、人の行動変容を促す方法を理解する

各回の授業計画:

1. オリエンテーション:学習ってなぁに？
2. 日常生活の中の学習① 試行錯誤学習
3. 日常生活の中の学習② 観察学習・洞察学習
4. 学習の基礎理論①:行動とは何か？
5. 学習の基礎理論②:適応とは何か？
6. 学習の基礎理論③:条件づけとは何か？
7. 学習の実際:シェイピングゲーム
8. 学習の基礎理論と応用・中間のまとめ
9. 学習のメカニズムと行動支援①:乳幼児期の子ども
10. 学習のメカニズムと行動支援②:学童期の子ども
11. 学習のメカニズムと行動支援③:発達障害のあるの子ども
12. 学習のメカニズムと行動支援④:大学生の場合
13. 自分たちの行動上の課題とその解決①:事例検討
14. 自分たちの行動上の課題とその解決②:介入計画の発表
15. 期末のまとめ これまでの授業内容の復習

特記事項: なし

授業方法: 1～15. 講義
原則的に対面授業にて行います。
ただし、期間中1～2回程度振り返り学習をオンライン授業(オンデマンド型)を行う場合があります。
(その他、調べ活動などはオンライン授業(オンデマンド型)で実施する場合もあります。また、特別ゲストの講義などで時間割を変更する場合もあります。)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

授業のテキストは使用しないが、授業で用いるワークシートを配布する。
予習や復習に従事し、各自、資料を集めたり、事例を考えたりなど、自ら学んでほしい。毎週用いるワークシートの予習および復習、および、資料集めなど、講義1回あたり、150～180分の学習を行う。

評価方法:

授業へのとりくみ:	30	**%**	**確認テスト:**	30	**%**	**レポート:**	− **%**
その他1:	提出物			40	**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: 「最低限の到達」(60～69点)
・授業への取り組み:グループワークに参加できている。
・確認テスト:学習心理学の基礎的な知識を習得できている。

・レポート：課題を理解し、まとめることができる。
「望ましい到達度」（80～100点）
・授業への取り組み：ロールプレイ・グループワークに積極的に参加している。
・確認テスト：学習心理学の専門的な知識を習得し、事例を理解することができる。
・レポート：課題を理解し、学習心理学の研究成果を適切にまとめることができる

課題へのフィードバック：

課題やレポートの疑問点などは、授業ばかりでなくオフィスアワー等を利用してフィードバックしていく。
質問などがあれば、チャットやオフィスアワーを活用して随時アクセスしてほしい。

教科書： 教科書は使用しないが、必要に応じて資料を配布する。

参考書： 中條和光（編）『シリーズ心理学と仕事 学習心理学』北大路書房
島宗理（著）『パフォーマンス・マネジメント(第2版)―問題解決のための行動分析学―』米田出版

授業・準備学習のアドバイス：

確認テストや課題については事前にアナウンスするので、予習・復習を行い、理解を深めましょう

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育評価

クラス:

授業コード: DA71300001

担当者: 小川内 哲生 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:小学校教諭

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 授業の目的は、子ども理解としての教育評価のしくみと特徴について理解を深めることである。

到達目標: 授業目標は以下の2点にある。
(1)教育評価のしくみがわかること
(2)評価と結びつく測定が適切にできること

各回の授業計画:

1. 教育評価とは何か
2. 教育評価と学力テスト
3. 教育評価と教育目標
4. 教育評価と授業理論
5. 教育評価と学習指導
6. 教育測定とは何か
7. テストの標準化
8. テストの信頼性
9. テストの妥当性
10. 知能の測定
11. 知能テストの実際
12. 教育測定と教育評価
13. 絶対評価と相対評価
14. 形成的評価と総括的評価
15. 新しい教育評価の方法・教育評価のまとめ

特記事項: なし

授業方法: 講義による授業。
全ての授業を対面授業で行う。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

授業のテキストを使用しないため、予習よりも復習に時間をかけさせる。すなわち、2回の確認試験の実施のために、参考文献の復習に各週3時間30分、予習は次回の授業の資料等を配布して、30分程度の学習を実施させる。

評価方法:

授業へのとりくみ:	20	**%**	**確認テスト:**	80	**%**	**レポート:**	− **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: 100〜80点:教育評価で取り上げるテーマを理解し、日常生活に活かすことができる。
70〜79点:教育評価で取り上げるテーマを理解し、その一部を日常生活に活かすことができる。
60〜69点:教育評価で取り上げるテーマが理解できる。

課題へのフィードバック:

試験の範囲は試験前の週までにアナウンスするので、復習をしっかりとすること。

教科書: なし

参考書: ・西岡加名恵・石井英真・田中耕治（編）『新しい教育評価入門』有斐閣|・多鹿秀継（編）『教育心理学第2版－より充実した学びのために－』サイエンス社

授業・準備学習のアドバイス:

資料に沿って授業を展開するため、しっかりと予習・復習をしてほしい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育哲学

クラス:

授業コード: DA71400001

担当者: 廣岡 義之 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 現代日本の教育的課題を明確に意識し、その対処法を身につける基本的力量を養うことは喫緊の課題である。現代社会の激しい変化のなかで、子どもたちを理解して受け止めることはきわめて重要な教師の資質能力でもある。こうした社会の激変のなかで起きている教育の諸問題について教育哲学的、道徳教育的に根源的に問いながら、その本質を解明し、解決の糸口を見出すことをねらいとする。また教育哲学の実践編という意味で、道徳教育の模擬授業を講義の30%程度の時間を使用して実践する。

到達目標: 教育に関する専門的知識を身につけ、教育についての本質的な見方や考え方を深めるとともに、教育哲学的な認識をもとにして、自分で課題を発見し、解決することができるような能力を身につける。また具体的な視点として、教育哲学と道徳教育の関連性についても考察する。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. フランクルの強制収容所体験
3. フランクルの教育論
4. フランクルの哲学論
5. フランクルの人間学
6. フランクルの実存分析とロゴセラピー
7. フランクルの意味論
8. フランクルの良心論
9. フランクルの無意識論
10. フランクルの超越論
11. フランクルが理解する宗教
12. フランクルの苦悩理解
13. フランクルの戯曲について
14. フランクルの人間形成論
15. 未来に向かって生きることのできる人間

特記事項: なし

授業方法: すべての授業を対面授業で行う

1. 講義
2. 講義
3. 講義
4. 講義
5. 講義
6. 講義
7. 講義
8. 講義
9. 講義
10. 講義
11. 講義
12. 講義
13. 講義
14. 講義
15. 講義

予習・復習・宿題など(内容・時間):

予習 15回 90分
復習 15回 90分

合計2700分
1.（復習）講義をまとめる。(180分)
2.(予習)テキスト1章を通読する。(180分)
3.(予習)テキスト2章を通読する。(180分)
4.(予習)テキスト3章を通読する。(180分)
5.(予習)テキスト4章を通読する。(180分)
6.(予習)テキスト5章を通読する。(180分)
7.(予習)テキスト6章を通読する。(180分)
8.(予習)テキスト7章を通読する。(180分)
9.(予習)テキスト8章を通読する。(180分)
10.(予習)テキスト9章を通読する。(180分)
11.(予習)テキスト10章を通読する。(180分)
12.(予習)テキスト11章を通読する。(180分)
13.(予習)テキスト補論1章を通読する。(180分)
14.(予習)テキスト補論2章を通読する。(180分)
15.(予習)テキスト補論2章を通読する。(180分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	50	**%**	**確認テスト:**	－	**%**	**レポート:**	50 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準:
1. 授業参加態度
①授業内容の「メモをとる」等ができる(60-69)。これらに加えて(90-100)は受講態度がきわめて積極的なことが条件。
2. レポート
①教育哲学の基礎的な概念を説明できる。(60-69) これらに加えて教育哲学の専門的な概念を説明できる。(90-100)
・上記項目を総合的に評価する。

課題へのフィードバック:
レポートについては、その課題のポイントと評価の観点を全体に向けて説明する。

教科書: 広岡義之著、『フランクル教育哲学概説』、あいり出版、2022年。

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:
授業には積極的に参加してください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育制度

クラス:

授業コード: DA71500001

担当者: 洲脇 一郎 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:教育委員会事務局職員

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 学校現場や教員、児童生徒らが直面している諸課題を具体的に考察する中で、学校運営や教員の採用・研修・職務など全ての教育活動の基礎を形作っている日本の学校教育制度について、教育課程や人事制度などを含む幅広い観点から、その基本的な仕組みを理解していく。

到達目標:
1. 学校教育制度、学校運営、国と地方の教育行政、教職員の制度など教育制度の基本的なシステムを理解し、教育の機会均等と教育水準の維持向上を目指してきた日本の教育の特徴を把握する。
2. 最近の教育改革の動向とその背景を知ることによって、日本の教育が直面する課題について理解する。
3. 地方公共団体の特色ある取組を知るとともに、保護者・地域の学校運営への参加の仕組みを理解する。
4. 教育制度の課題について自分の考えをまとめ表現できる力を養う。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション～教育を取り巻く状況と教育の課題
2. 日本の教育の歴史
3. 教育に関する法規
4. 教育行政の仕組み～文部科学省と教育委員会制度
5. 学校教育Ⅰ～学校の制度と種類
6. 学校教育Ⅱ～教育課程・教科書・教材
7. 学校教育Ⅲ～児童生徒の指導
8. 教員の人事制度Ⅰ～教員の義務
9. 教員の人事制度Ⅱ～教育公務員
10. 教育財政と教育費
11. 特別支援教育の制度
12. 学校の保健・安全(防災を含む)
13. 人権教育の制度
14. 保護者・地域住民との協働、情報教育
15. まとめ(教育の機会均等と教育水準の向上)と確認テスト

特記事項: なし

授業方法: 【対面】
1～14回 講義及び質疑応答 課題発表
15回 講義及び確認テスト

予習・復習・宿題など(内容・時間):

各回とも復習と予習の課題を提示する。
1.「教育を取り巻く状況と教育の課題」の復習(90分)と「日本の教育の歴史」の予習(90分)
2.「日本の教育の歴史」の復習(90分)と「教育に関する法規」の予習(90分)
3.「教育に関する法規」の復習(90分)と「教育行政の仕組み」の予習(90分)
4.「教育行政の仕組み」の復習(90分)と「学校の制度と種類」の予習(90分)
5.「学校の制度と種類」の復習(90分)と「教育課程・教科書・教材」の予習(90分)
6.「教育課程・教科書・教材」の復習(90分)と「児童生徒の指導」の予習(90分)
7.「児童生徒の指導」の復習(90分)と「教員の職務」の予習(90分)
8.「教員の職務」の復習(90分)と「教育公務員」の予習(90分)
9.「教育公務員」の復習(90分)と「教育財政と教育費」の予習(90分)
10.「教育行政と教育費」の復習(90分)と「特別支援教育の制度」の予習(90分)
11.「特別支援教育の制度」の復習(90分)と「学校の保健・安全」の予習(90分)
12.「学校の保健・安全」の復習(90分)と「人権教育の制度」の予習(90分)

13.「人権教育の制度」の復習（90分）と「保護者・地域住民との協働、情報教育」の予習（90分）
14.「保護者・地域住民との協働、情報教育」の復習（90分）と「教育の機会均等と教育水準の向上」の予習（90分）
15. 総復習として教育の機会均等と教育水準の向上のための施策（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	25 **%**	**確認テスト：**	50 **%**	**レポート：**	25 **%**
その他1：			**%**		
その他2：			**%**		

評価基準： 教育制度に関する知識・技能を習得するとともに、これらを活用して思考力・判断力・表現力を身に付ける。また主体的に意欲を持って学習に取り組むこと。
・望ましい到達度（80～100点）
・標準的な到達度（70～79点）
・最低限の到達度（60～69点）

課題へのフィードバック：
予習課題については論点を提示し、教育制度の諸課題を考えるヒントとする。復習課題は授業で解説する。

教科書： なし

参考書： 佐藤晴雄著『現代教育概論』『文部科学白書』『教育小六法』『小学校学習指導要領』。なお文部科学省のホームページで課題について検索することができる。
法令については、「e-Gov.法令検索」で検索することができる。

授業・準備学習のアドバイス：
教員採用試験に役立つ内容を含んでいます。
教育制度に関することを単に抽象的に学習するのではなく、学校現場や教員が今どのような課題や困難に直面しているのか、そのことが現在の教育制度とどのように関係しているのか、どのような解決方法があるのか、などについて具体的に考察していきますので、自分自身が教壇に立っている姿を想像しながら、共に考えを巡らせていってみて下さい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育法規

クラス:

授業コード: DA71600001

担当者: 洲脇 一郎 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:教育委員会職員

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 教育法規の基本を体系的に理解することによって、教育が法によって規律されていることを知る。具体的な事例を通して教育法規の実際上の作用を理解する。

到達目標:
1. 教育に関する法規の基本が理解でき、教育制度は法規によって構築されていることを知る。
2. 具体的な事例の分析等によって、法学的な思考の基本を理解する。
3. 教育時事問題と教育法規との関連に関心を持つ。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション/日本国憲法と教育
2. 教育基本法
3. 学校教育法1～学校教育法総則・教育の目的と目標
4. 学校教育法2～教育課程と教科書
5. 学校教育法3～学校の組織・運営
6. 学校教育法4～児童生徒
7. 教員に関する法規1～地方公務員法
8. 教員に関する法規2～教育公務員特例法
9. 学校の保健と安全～学校保健安全法・学校給食法等
10. 特別支援教育に関する法規1(学校教育法等)
11. 教員に関する法規3・特別支援教育に関する法規2(教育職員免許法・障害者基本法など)
12. 福祉・こども法～こども基本法・児童虐待防止法等
13. 人権に関する法規～児童の権利条約・人権教育推進法など
14. 教育行政と現代の教育課題に関する法規～地方教育行政法・いじめ防止対策推進法等
15. 教育に関するその他の諸法 確認テスト

特記事項: (授業方法)講義と事例の演習(法律の条文を読むことを含む)

授業方法: すべて対面で授業を実施
第1回～第14回 講義及び質疑応答
第15回 講義及び確認テスト

予習・復習・宿題など(内容・時間):
各回とも次回のプリントで予習すること(各90分)
各回とも指示された課題を考えること(各90分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	25	**%**	**確認テスト:**	50	**%**	**レポート:**	25 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: 教育法規に関する知識・技能を習得するとともに、それらを活用して思考・判断・表現できること。また主体的に学習に取り組むこと。
・望ましい到達度(80～100点)・標準的な到達度(70～79点)・最低限の到達度(60～69点)

課題へのフィードバック:
復習課題は授業で解説する。予習課題は論点となる事項を提示する。

教科書: なし。毎回プリント(レジュメ・法規・練習問題)を配布する。

参考書: 学陽書房『教育小六法』(最新版)など教育法規の法令集や政府の法令サイト(E-Govhoureiで検索)で個別の法規を検索する。
文部科学省「文部科学白書」(文部科学省のホームページに掲載)。

授業・準備学習のアドバイス:

法律は決して難しくありません。教育法規の仕組みだけでなく法学的思考法も勉強しましょう。
法律の勉強は条文を読み考えることが基本になります。必ず法令に当たりましょう。
教員採用試験に役立ちます。
毎回、確認のために演習問題を出題します。

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 防災・安全教育

クラス:

授業コード: DA71700001

担当者: 有道 俊雄、臼井 真、岩濵 里江子、中溝 茂雄、椎野 智子 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:学内の防災教育関連の研究者、現場の担当者(ゲスト)による
(神戸市教育委員会 学校教育・防災教育担当／神戸市北消防署／国土交通省近畿整備局六甲砂防事務所／兵庫県警警部補・神戸市教育委員会児童生徒課青少年育成係長／神戸女子大学准教授／神戸市社協課長)

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 阪神・淡路大震災や東日本大震災の体験・教訓を継承し、教員・保育士を目指す学生が防災教育、避難訓練、安全教育等の基礎的な知識・技能を身に付けるとともに、子どもの安全を守るための行動の在り方を考える。

到達目標:
1. 自然災害の歴史と科学、心のケア、教育復興などの基本を知り、災害の教訓を継承する。
2. 学校防災についての理解を深め、教員・保育士の役割を学び、子どもの避難の基本的な指導ができるようにする。
3. 学校安全(交通安全・生活安全)について知り、子どもに対する安全指導の基本ができるようにする。

各回の授業計画:

1. (1) オリエンテーション(有道)
(2)阪神淡路大震災の経験と学校、災害の歴史とハザードマップ(臼井、岩濵、中溝)

2. 自然災害のメカニズム(有道)
～地震～

3. 自然災害のメカニズム(中溝)
～風水害～

4. 神戸市の防災教育(有道)
ゲスト講師:神戸市教委 防災教育担当～カリキュラム・防災マニュアル・避難訓練～

5. 幼児教育における防災教育(岩濵)

6. 学校保健と安全(中溝)
ゲスト講師:神戸女子大学准教授

7. 消防の役割(臼井)
ゲスト講師:神戸市北消防署～防火・救急～

8. 六甲山の砂防事業(臼井)
ゲスト講師:国土交通省近畿整備局六甲砂防事務所～阪神大水害の教訓～

9. 学校防犯の実際(有道)
ゲスト講師:兵庫県警警部補・神戸市教育委員会担当係長～児童被害、交通安全、見守り、ネット犯罪～

10. 子どもの心のケア(椎野)

11. 災害ボランティア(中溝)
ゲスト講師:神戸市社協課長

12. 阪神・淡路大震災の経験と教訓～避難所となった学校からの報告～(中溝)

13.「しあわせ運べるように」(臼井)

14. 人と防災未来センターの見学(有道・臼井・岩濵・中溝)
※土曜日にフィールドワークを実施する予定

15. 阪神淡路大震災からもうすぐ32年～防災教育の32年を振り返る～
フィールドワークのまとめと総括(有道・臼井・岩濵・中溝)

特記事項: なし

授業方法: 1～11、13～15回 講義・グループワーク
14回「人と防災未来センター」へのフィールドワークを行います。～12月の土曜日になる予定ですが、代替で休講日を設定します。
ゲスト講師の都合により、講義内容の順番が変わる可能性があります。
原則として、全ての授業を対面で行います。
教育実習のための欠席は特別に配慮をします。また、教育実習により複数回欠席する場合は、特別な課題を設定して負担軽減を図ります。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

次回の予習90分、復習90分(課題を指示する)

評価方法: **授業へのとりくみ:** 40 % **確認テスト:** − % **レポート:** 50 %

その他1： 人と防災未来センターフィールドワークの特別課題 10 **%**

その他2： **%**

評価基準： 防災・安全教育についての知識・技能を習得するとともに、これらを活用して思考力・判断力・表現力を身に付けているか。また主体的に学習に取り組んでいるか。
・望ましい到達度（80～100点） 防災・安全教育に関する基礎的な知識・技能を十分習得するとともに、それらを活用して教材作成や施設見学などに積極的に取り組める。
・標準的な到達度（70～79点） 防災・安全教育に関する基礎的な知識・技能を取得するとともに、それらを活用して教材作成や施設児見学などに取り組める。
・最低限の到達度（60～69点） 防災・安全教育に関する基礎的な知識・技能をおおむね習得するとともに、それらを教材作成や施設見学などに活かそうとしている。

課題へのフィードバック：

・課題については授業、Teamsで説明する。
・毎回、FormsやTeamsによるレポートを課す。
・Teamsによるフィードバックを行う。

教科書： テキストは神戸親和大学編『防災教育ハンドブック 大学生版 しあわせはこぼう』を用いる。Teamsで公開する。
毎回、講義資料・ワークシート等を事前にTeamsで公開する。パソコン必携での授業とする。
必要に応じて、資料等を印刷・配付する。
欠席者用に講義資料（パワーポイント、ワークシートなど）は、Teamsでも公開する。

参考書： 『文部科学白書』、「学校安全の推進に関する計画」など。適宜、文部科学省ホームページで防災や学校安全に関する次項を参照すること。また最近の災害については『防災白書』を参考にすること。

授業・準備学習のアドバイス：

1. 災害について広く学ぶとともに、防災教育や安全教育の実際を様々な角度から学びます。阪神淡路大震災の地元ならではの講義です。教員、保育者にとって必要な知識やノウハウを学びます。
2. 教育委員会や消防署・国土交通省六甲砂防事務所など防災教育や安全に携わっている専門家の話を聞きます。
3. 南海トラフ地震などの発生が高い確率で予測されるとともに、自然災害が多様化・巨大化しています。これからの教員や保育士は、子どもの安全をどう守るかが必須の知識・技能になります。
4. 第14回の「人と防災未来センター」の見学には入館料（団体割引）が必要です。必ず予定を調整して一緒に見学してください。
5. 全て、対面での授業となります。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 海外教育事情

クラス:

授業コード: DA71800001

担当者: 森 眞理 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:幼稚園教諭(日米・私立)、幼稚園園長(日・私立)、日本語補習校(米・幼児部・初等部)

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 日本の教育(幼児教育)は世界の動き、海外の教育事情との関係性にあることは自明である。本授業では、子どもを取り巻く世界の課題・動向、及び海外の教育(幼児教育)事情を知り理解を深め、多様化する教育現場において当事者としての知識・スキル・姿勢を身につける。

到達目標:
1. 子どもを取り巻く世界の課題・取り組みについて理解を深め、当事者としてのあり方を考える。
2. 海外の教育事情への理解を深めることから多角的な視点で考える学びの習慣を身につける。
3. 国際的な視座から日本の教育を理解し、実践する専門家意識を向上する。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション(授業への思いの分かち合い)
2. 子どもを取り巻く国際情勢 ①子どもの権利条約
3. 子どもを取り巻く国際情勢 ②ESDとSDGs
4. 海外教育事情と私・私たち:個人・グループプロジェクト(探究課題)の分かち合い
5. 日本と海外の教育事情に学ぶ:日本と世界の動向と教育モデルの関係性
6. 北米の教育事情に学ぶ:歴史・文化・教育実践
7. 北欧の教育事情に学ぶ:歴史・文化・教育実践
8. 文化と教育の関係性・個人・グループプロジェクトに向けての分かち合い
9. イタリアのレッジョ・エミリアの歴史・教育思想・文化に学ぶ
10. イタリアのレッジョ・エミリアの教育実践に学ぶ
11. ニュージーランドの乳幼児教育事情の歴史・文化・教育実践
12. アフリカ・アジアの乳幼児教育事情に学ぶ:歴史・文化・教育実践/個人・グループプロジェクトのプレゼンテーションとディスカッション
13. 英国の乳幼児教育事情に学ぶ:歴史・文化・教育実践/個人・グループプロジェクトのプレゼンテーションとディスカッション
14. 個人・グループ プロジェクトのプレゼンテーションとディスカッション
15. まとめと今後の課題・展望

特記事項: なし

授業方法:
1. 講義・ディスカッション
2. 講義・演習
3. 講義・ビデオ・DVD視聴・ディスカッション
4. 講義・演習
5. 講義・ディスカッション
6. 講義・ビデオ・DVD視聴・ディスカッション
7. 講義・ビデオ・DVD視聴・ディスカッション
8. グループワーク・演習
9. 講義・ビデオ・DVD視聴ディスカッション
10. 講義・ビデオ・DVD視聴・ディスカッション
11. 講義・ビデオ・DVD視聴・ディスカッション
12. 講義・ビデオ・DVD視聴・ディスカッション
13. 講義・ビデオ・DVD視聴・ディスカッション
14. プレゼンテーション・ディスカッション
15. 演習

＊ 原則、1〜15 講義(対面)であるが、補講が生じた際は、オンライン(オンデマンド)として授業を行う。

予習・復習・宿題など(内容・時間):
1. 予:本授業への思いを述べられるように準備する(60分)、復:授業内容の振り返りをまとめる(90分)
2. 予:子どもの権利について調べる(90分)、復:授業内容の振り返りをまとめる(90分)
3. 予:授業内容について問いを立て、授業に備える(90分)、復:授業内容の振り返りをまとめる(90分)

4. 予:個人プロジェクトについて考え、授業に備える(120分)、復:授業内容の振り返りをまとめる(90分)
5. 予:授業内容について問いを立て、授業に備える(90分)、復:授業内容の振り返りをまとめる(90分)
6. 予:授業内容について問いを立て、授業に備える(90分)、復:授業内容の振り返りをまとめる(90分)
7. 予:授業内容について問いを立て、授業に備える(90分)、復:授業内容の振り返りをまとめる(90分)
8. 予:個人プロジェクトの中間発表に備える、(180分)、復:授業内容の振り返りをまとめる(60分)
9. 予:授業内容について問いを立て、授業に備える(90分)、復:授業内容の振り返りをまとめる(90分)
10. 予:授業内容について問いを立て、授業に備える(90分)、復:授業内容の振り返りをまとめる(90分)
11. 予:授業内容について問いを立て、授業に備える(90分)、復:授業内容の振り返りをまとめる(90分)
12. 予:授業内容について問いを立て、授業に備える(60分)、復:授業内容の振り返りをまとめる(90分)
13. 予:授業内容について問いを立て、授業に備える(60分)、復:授業内容の振り返りをまとめる(90分)
14. 予:個人プロジェクトの発表に備える(180分)、復:授業内容の振り返りをまとめる(60分)
15. 予:個人プロジェクト提出に備える(120分)、復:授業を総括する(60分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	60	**%**	**確認テスト:**	−	**%**	**レポート:**	− **%**
その他1:	参加度、課題への取り組みとプレゼンテーション	40	**%**				
その他2:			**%**				

評価基準:

・自分の思いを表すと同時に受講者の話に聴き入り、尊重することができる(60－69)
・ディスカッションに参加し、多様な見方、捉え方ができる(80－100)
・独自性のある個人プロジェクトを作成する(80－100)

課題へのフィードバック:

・毎授業のリフレクション・シートにより、助言や対話を行う。
・毎授業開始時に、前回の振り返りを行う。

教科書: 随時、授業にて紹介する。

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

・海外教育事情を学ぶことは、視野を広げ面白いとの思いを抱いて授業に出席しましょう。
・授業を構成する参加者として授業に臨みましょう。
・英語等、日本語以外の言語にも興味を抱いて授業に参加しましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: ピアノ実技Ⅲ

クラス:

授業コード: DA72100001

担当者: 金澤 恵子 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 教育・保育現場での音楽表現活動において、指導者や保育者に求められる音楽的な技術は、曲の内容を十分に把握し、音楽性豊かに表現する力である。また、現場の状況に応じて柔軟な対応ができる演奏力も求められる。子どもたちの豊かな表現を引き出すために指導者や保育者として十分な音楽的技術を備えられるよう、音楽の基礎知識、読譜力、歌唱力やピアノ演奏力を一層身に付け、ピアノ実技Ⅰ、ピアノ実技Ⅱの学習を踏まえて、さらに現場で役立つピアノ演奏法及び弾き歌いの技法を習得することを目的とする。

到達目標: 【全コース共通】
1. ピアノ演奏においては、その演奏技術を一層高め、正しい奏法で表情豊かに演奏できる。
2. 小学校歌唱共通教材曲や、幼稚園・保育園で歌われるこどもの歌のピアノ伴奏及び弾き歌いのスキルを習得し、歌唱目的や現場に応じた音楽表現ができる。
3. 主要和音による簡易伴奏のピアノ演奏法を使用し、加えてコードネームを理解することで、より簡単、スピーディーに曲を演奏することができる。
4. 基本的な音楽理論と楽典を理解し、読譜力を向上させる。

【幼児教育・保育コース】
1. 身体表現のためのリズム曲のピアノ演奏法を習得し、マーチ、かけあし、スキップ、ギャロップ等の各ジャンルのリズムに適した演奏を行える。
2. 採用試験等の必要性に合わせたピアノ曲に積極的に取り組むことができる。

【小学校・特別支援コース】
1. 歌唱共通教材より、ピアノ伴奏による弾き歌いで表情豊かに演奏できる。
2. 採用試験等の必要性に合わせたピアノ曲に積極的に取り組むことができる。

各回の授業計画:

【幼児教育・保育コース】
1. 集団レッスン
・ガイダンス（授業の概要・課題の確認と履修の仕方）
・到達目標の一つである「主要三和音による簡易伴奏のピアノ演奏法」の復習
・コードネームの学習

【小学校・特別支援コース】
1. 集団レッスン
・ガイダンス（授業の概要・課題の確認と履修の仕方）
・到達目標の一つである「主要三和音による簡易伴奏のピアノ演奏法」の学習
・コードネームの学習

【幼児教育・保育コース】
2. 個人レッスン
リズム曲 ・弾き歌い（楽譜通りor主要三和音による簡易伴奏）

【小学校・特別支援コース】
2. 個人レッスン
ピアノ曲（採用試験で課題となるもの）・弾き歌い（歌唱共通教材の各学年より2 曲ずつ選択）

【幼児教育・保育コース】
3. 個人レッスン
リズム曲 ・弾き歌い（楽譜通りor主要三和音による簡易伴奏）

【小学校・特別支援コース】
3. 個人レッスン
ピアノ曲（採用試験で課題となるもの）・弾き歌い（歌唱共通教材の各学年より2曲ずつ選択）

【幼児教育・保育コース】
4. 個人レッスン
ピアノ曲（採用試験で課題となるもの）・弾き歌い（楽譜通りor主要三和音による簡易伴奏）

【小学校・特別支援コース】
4. 個人レッスン
ピアノ曲（採用試験で課題となるもの）・弾き歌い（歌唱共通教材の各学年より2曲ずつ選択）
【幼児教育・保育コース】
5. 個人レッスン
ピアノ曲（採用試験で課題となるもの）・弾き歌い（楽譜通りor主要三和音による簡易伴奏）

【小学校・特別支援コース】
5. 個人レッスン
ピアノ曲（採用試験で課題となるもの）・弾き歌い（歌唱共通教材の各学年より2曲ずつ選択）
【幼児教育・保育コース】
6. 個人レッスン
ピアノ曲（採用試験で課題となるもの）・弾き歌い（楽譜通りor主要三和音による簡易伴奏）

【小学校・特別支援コース】
6. 個人レッスン
ピアノ曲（採用試験で課題となるもの）・弾き歌い（歌唱共通教材の各学年より2曲ずつ選択）
【幼児教育・保育コース】
7. 個人レッスン
ピアノ曲（採用試験で課題となるもの）・弾き歌い（楽譜通りor主要三和音による簡易伴奏）

【小学校・特別支援コース】
7. 個人レッスン
ピアノ曲（採用試験で課題となるもの）・弾き歌い（歌唱共通教材の各学年より2曲ずつ選択）
【幼児教育・保育コース】
8. 個人レッスン
ピアノ曲（採用試験で課題となるもの）・弾き歌い（楽譜通りor主要三和音による簡易伴奏）

【小学校・特別支援コース】
8. 個人レッスン
ピアノ曲（採用試験で課題となるもの）・弾き歌い（歌唱共通教材の各学年より2曲ずつ選択）
【幼児教育・保育コース】
9. 個人レッスン
ピアノ曲（採用試験で課題となるもの）・弾き歌い（楽譜通りor主要三和音による簡易伴奏）

【小学校・特別支援コース】
9. 個人レッスン
ピアノ曲（採用試験で課題となるもの）・弾き歌い（歌唱共通教材の各学年より2曲ずつ選択）
【幼児教育・保育コース】
10. 個人レッスン
ピアノ曲（採用試験で課題となるもの）・弾き歌い（楽譜通りor主要三和音による簡易伴奏）

【小学校・特別支援コース】
10. 個人レッスン
ピアノ曲（採用試験で課題となるもの）・弾き歌い（歌唱共通教材の各学年より2曲ずつ選択）
【幼児教育・保育コース】
11. 個人レッスン
ピアノ曲（採用試験で課題となるもの）・弾き歌い（楽譜通りor主要三和音による簡易伴奏）

【小学校・特別支援コース】
11. 個人レッスン
ピアノ曲（採用試験で課題となるもの）・弾き歌い（歌唱共通教材の各学年より2曲ずつ選択）
【幼児教育・保育コース】
12. 個人レッスン
ピアノ曲（確認テストで演奏する曲）・弾き歌い（確認テストで演奏する曲を含む）

【小学校・特別支援コース】
12. 個人レッスン
ピアノ曲（確認テストで演奏する曲）・弾き歌い（確認テストで演奏する曲を含む）
【幼児教育・保育コース】
13. 個人レッスン
ピアノ曲（確認テストで演奏する曲）・弾き歌い（確認テストで演奏する曲を含む）

【小学校・特別支援コース】
13. 個人レッスン
ピアノ曲（確認テストで演奏する曲）・弾き歌い（確認テストで演奏する曲を含む）
【幼児教育・保育コース】

14. 個人レッスンと確認テスト
まとめと確認

【小学校・特別支援コース】
14. 個人レッスンと確認テスト
まとめと確認

【幼児教育・保育コース】
15. 個人レッスン
ピアノ曲 ・弾き歌い（楽譜通りor主要三和音による簡易伴奏）
授業のまとめ

【小学校・特別支援コース】
15. 個人レッスン
ピアノ曲 ・弾き歌い（歌唱共通教材の各学年より選択）
授業のまとめ

特記事項： ◎課題曲
【幼児教育・保育コース】
※ピアノ曲・・・採用試験で課題となるものを自選で2曲
※リズム曲・・・「グーチョキパーで なにつくろう」をマーチ・かけあし・
スキップ・ギャロップにリ ズム変奏する。
「続こどものうた200」より1曲自選して、マーチ・かけあし・
スキ ップ・ギャロップにリズム変奏する。
※弾き歌い・・・「続こどものうた200」で以下に示したものより、
楽譜通り2曲、コード付け8曲
「アブラハムの七人の子」、「キャンプだホイ」、「そうだったらいいのにな」、「バスごっこ」、「アイスクリームのうた」、「こぶたぬきつねこ」、「空にらくがきかきたいな」、「小さな世界」、「ぼくらはみらいのたんけんたい」、「はじめの一歩」、「うたえバンバン」、「たのしいね」、「雨降り」、「七つの子」、「夕やけこやけ」、「きみたち今日から友だちだ」、「春の小川」、「うみ」、「ヤッホッホ夏休み」、「赤とんぼ」、「ゆき」、「ドキドキドン！一年生」、「小さな庭」、「かなづちトントン」、「八百屋のお店」、「大きな歌」、「あの青い空のように」、「ひとりの手」、「ガンバリマンのうた」、「イルカはザンブラコ」

【小学校・特別支援コース】
※ピアノ曲・・・採用試験で課題となるものを自選で2曲
※弾き歌い・・・「初等科音楽教育法〔改訂版〕」歌唱共通教材の各学年より2曲ずつ選択
第1学年 「うみ」、「かたつむり」、「日のまる」、「ひらいた ひらいた」
第2学年 「かくれんぼ」、「春がきた」、「虫の声」、「夕やけこやけ」
第3学年 「うさぎ」、「茶つみ」、「春の小川」、「ふじ山」
第4学年 「さくら さくら」、「とんび」、「まきばの朝」、「もみじ」
第5学年 「こいのぼり」、「子もり歌」、「スキーの歌」、「冬げしき」
第6学年 「越天楽今様」、「おぼろ月夜」、「ふるさと」、「われは海の子」

◎授業方法
【幼児教育・保育コース】
採用試験で役立つピアノ曲を選択して取り組み、こどもの歌の弾き歌い（主要三和音による簡易伴奏を利用した弾き歌いを含む）とリズム曲（律動のための音楽）のピアノ演奏を中心に、各個人の進度に合わせて学習する。
15回連続のピアノ演奏・弾き歌い中心の授業で、14回目は確認テストを行う。

【小学校・特別支援コース】
採用試験で役立つピアノ曲を選択して取り組み、歌唱共通教材の弾き歌い（主要三和音による簡易伴奏を利用した弾き歌いを含む）を各個人の進度に合わせて学習する。」
15回連続のピアノ演奏・弾き歌い中心の授業で、14回目は確認テストを行う。

授業方法： すべての授業を対面授業で行う。
1. 講義、実技
2. 実技
3. 実技
4. 実技
5. 実技
6. 実技
7. 実技
8. 実技
9. 実技
10. 実技
11. 実技
12. 実技
13. 実技
14. 実技、確認テスト
15. 実技

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

各回、以下の予習・復習を行うこと（できれば毎日15分～20分練習することが望ましい）
1. 既習曲の復習（30分×15週）
2. 次回課題曲の予習（30分×15週）

評価方法：	**授業へのとりくみ：**	30	**%**	**確認テスト：**	60 **%**	**レポート：**	－ **%**
	その他1：	課題の到達度			10 **%**		
	その他2：				**%**		

評価基準： ・最低限の到達度：60点～69点・望ましい到達度：80点以上

1. 授業への取り組み
・課題曲の練習(予習・復習)を行って授業に臨むことができる。(60点～69点)
・課題曲の練習(予習・復習)を十分に行い、意欲的に授業に臨むことができる。(80点以上)

2. 確認テスト
・課題曲の練習をして臨むことができる。(60点～69点)
・課題曲の練習を十分に行い、音楽的にも表情豊かに演奏することができる。(80点以上)

3. 課題の到達度
・課題が6割終了している。(60点～69点)
・課題がすべて終了している。(80点以上)

課題へのフィードバック：

全ての学生が到達目標を達成できるよう課題の量や質、難易度等をチェックし、その上で各々の学生の能力に適した課題の進め方、練習法や指導法を考慮する。

教科書： 【幼児教育・保育コース】「続こどものうた200」
【小学校・特別支援コース】改訂版「初等科音楽教育法」

参考書： 【幼児教育・保育コース】「ブルグミュラー25の練習曲」「ソナチネアルバム1」
【小学校・特別支援コース】「バイエルピアノ教則本」「ブルグミュラー25の練習曲」「ソナチネアルバム1」

授業・準備学習のアドバイス：

1.「授業への取り組み」においては、毎回出席重視の評価を行う。また、実技中心の授業であるので、事前にしっかりと練習をして積極的に授業に取り組むこと。
2. 確認テストは14回目の授業で実施する。試験課題の曲目は事前に掲示する。実技配点60点。各課題の配点は試験実施前の授業時に伝える。
3.「課題の到達度」10点は、すべて課題が終了していればそのまま加算される。8割がた終了していれば8点、5割ならば5点のように評価する。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: ピアノ実技Ⅲ

クラス:

授業コード: DA72100002

担当者: 髙橋 智子 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 教育・保育現場での音楽表現活動において、指導者や保育者に求められる音楽的な技術は、曲の内容を十分に把握し、音楽性豊かに表現する力である。また、現場の状況に応じて柔軟な対応ができる演奏力も求められる。子どもたちの豊かな表現を引き出すために指導者や保育者として十分な音楽的技術を備えられるよう、音楽の基礎知識、読譜力、歌唱力やピアノ演奏力を一層身に付け、ピアノ実技Ⅰ、ピアノ実技Ⅱの学習を踏まえて、さらに現場で役立つピアノ演奏法及び弾き歌いの技法を習得することを目的とする。

到達目標: 【全コース共通】
1. ピアノ演奏においては、その演奏技術を一層高め、正しい奏法で表情豊かに演奏できる。
2. 小学校歌唱共通教材曲や、幼稚園・保育園で歌われるこどもの歌のピアノ伴奏及び弾き歌いのスキルを習得し、歌唱目的や現場に応じた音楽表現ができる。
3. 主要和音による簡易伴奏のピアノ演奏法を使用し、加えてコードネームを理解することで、より簡単、スピーディーに曲を演奏することができる。
4. 基本的な音楽理論と楽典を理解し、読譜力を向上させる。

【幼児教育・保育コース】
1. 身体表現のためのリズム曲のピアノ演奏法を習得し、マーチ、かけあし、スキップ、ギャロップ等の各ジャンルのリズムに適した演奏を行える。
2. 採用試験等の必要性に合わせたピアノ曲に積極的に取り組むことができる。

【小学校・特別支援コース】
1. 歌唱共通教材より、ピアノ伴奏による弾き歌いで表情豊かに演奏できる。
2. 採用試験等の必要性に合わせたピアノ曲に積極的に取り組むことができる。

各回の授業計画:

【幼児教育・保育コース】
1. 集団レッスン
・ガイダンス（授業の概要・課題の確認と履修の仕方）
・到達目標の一つである「主要三和音による簡易伴奏のピアノ演奏法」の復習
・コードネームの学習

【小学校・特別支援コース】
1. 集団レッスン
・ガイダンス（授業の概要・課題の確認と履修の仕方）
・到達目標の一つである「主要三和音による簡易伴奏のピアノ演奏法」の学習
・コードネームの学習

【幼児教育・保育コース】
2. 個人レッスン
リズム曲 ・弾き歌い（楽譜通りor主要三和音による簡易伴奏）

【小学校・特別支援コース】
2. 個人レッスン
ピアノ曲（採用試験で課題となるもの）・弾き歌い（歌唱共通教材の各学年より2 曲ずつ選択）

【幼児教育・保育コース】
3. 個人レッスン
リズム曲 ・弾き歌い（楽譜通りor主要三和音による簡易伴奏）

【小学校・特別支援コース】
3. 個人レッスン
ピアノ曲（採用試験で課題となるもの）・弾き歌い（歌唱共通教材の各学年より2曲ずつ選択）

【幼児教育・保育コース】
4. 個人レッスン
ピアノ曲（採用試験で課題となるもの） ・弾き歌い（楽譜通りor主要三和音による簡易伴奏）

【小学校・特別支援コース】
4. 個人レッスン
ピアノ曲（採用試験で課題となるもの）・弾き歌い（歌唱共通教材の各学年より2曲ずつ選択）
【幼児教育・保育コース】
5. 個人レッスン
ピアノ曲（採用試験で課題となるもの）・弾き歌い（楽譜通りor主要三和音による簡易伴奏）

【小学校・特別支援コース】
5. 個人レッスン
ピアノ曲（採用試験で課題となるもの）・弾き歌い（歌唱共通教材の各学年より2曲ずつ選択）
【幼児教育・保育コース】
6. 個人レッスン
ピアノ曲（採用試験で課題となるもの）・弾き歌い（楽譜通りor主要三和音による簡易伴奏）

【小学校・特別支援コース】
6. 個人レッスン
ピアノ曲（採用試験で課題となるもの）・弾き歌い（歌唱共通教材の各学年より2曲ずつ選択）
【幼児教育・保育コース】
7. 個人レッスン
ピアノ曲（採用試験で課題となるもの）・弾き歌い（楽譜通りor主要三和音による簡易伴奏）

【小学校・特別支援コース】
7. 個人レッスン
ピアノ曲（採用試験で課題となるもの）・弾き歌い（歌唱共通教材の各学年より2曲ずつ選択）
【幼児教育・保育コース】
8. 個人レッスン
ピアノ曲（採用試験で課題となるもの）・弾き歌い（楽譜通りor主要三和音による簡易伴奏）

【小学校・特別支援コース】
8. 個人レッスン
ピアノ曲（採用試験で課題となるもの）・弾き歌い（歌唱共通教材の各学年より2曲ずつ選択）
【幼児教育・保育コース】
9. 個人レッスン
ピアノ曲（採用試験で課題となるもの）・弾き歌い（楽譜通りor主要三和音による簡易伴奏）

【小学校・特別支援コース】
9. 個人レッスン
ピアノ曲（採用試験で課題となるもの）・弾き歌い（歌唱共通教材の各学年より2曲ずつ選択）
【幼児教育・保育コース】
10. 個人レッスン
ピアノ曲（採用試験で課題となるもの）・弾き歌い（楽譜通りor主要三和音による簡易伴奏）

【小学校・特別支援コース】
10. 個人レッスン
ピアノ曲（採用試験で課題となるもの）・弾き歌い（歌唱共通教材の各学年より2曲ずつ選択）
【幼児教育・保育コース】
11. 個人レッスン
ピアノ曲（採用試験で課題となるもの）・弾き歌い（楽譜通りor主要三和音による簡易伴奏）

【小学校・特別支援コース】
11. 個人レッスン
ピアノ曲（採用試験で課題となるもの）・弾き歌い（歌唱共通教材の各学年より2曲ずつ選択）
【幼児教育・保育コース】
12. 個人レッスン
ピアノ曲（確認テストで演奏する曲）・弾き歌い（確認テストで演奏する曲を含む）

【小学校・特別支援コース】
12. 個人レッスン
ピアノ曲（確認テストで演奏する曲）・弾き歌い（確認テストで演奏する曲を含む）
【幼児教育・保育コース】
13. 個人レッスン
ピアノ曲（確認テストで演奏する曲）・弾き歌い（確認テストで演奏する曲を含む）

【小学校・特別支援コース】
13. 個人レッスン
ピアノ曲（確認テストで演奏する曲）・弾き歌い（確認テストで演奏する曲を含む）
【幼児教育・保育コース】

14. 個人レッスンと確認テスト
まとめと確認

【小学校・特別支援コース】
14. 個人レッスンと確認テスト
まとめと確認

【幼児教育・保育コース】
15. 個人レッスン
ピアノ曲 ・弾き歌い（楽譜通りor主要三和音による簡易伴奏）
授業のまとめ

【小学校・特別支援コース】
15. 個人レッスン
ピアノ曲 ・弾き歌い（歌唱共通教材の各学年より選択）
授業のまとめ

特記事項： ◎課題曲
【幼児教育・保育コース】
※ピアノ曲・・・採用試験で課題となるものを自選で2曲
※リズム曲・・・「グーチョキパーで なにつくろう」をマーチ・かけあし・
スキップ・ギャロップにリ ズム変奏する。
「続こどものうた200」より1曲自選して、マーチ・かけあし・
スキ ップ・ギャロップにリズム変奏する。
※弾き歌い・・・「続こどものうた200」で以下に示したものより、
楽譜通り2曲、コード付け8曲
「アブラハムの七人の子」、「キャンプだホイ」、「そうだったらいいのにな」、「バスごっこ」、「アイスクリームのうた」、「こぶたぬきつねこ」、「空にらくがきかきたいな」、「小さな世界」、「ぼくらはみらいのたんけんたい」、「はじめの一歩」、「うたえバンバン」、「たのしいね」、「雨降り」、「七つの子」、「夕やけこやけ」、「きみたち今日から友だちだ」、「春の小川」、「うみ」、「ヤッホッホ夏休み」、「赤とんぼ」、「ゆき」、「ドキドキドン！一年生」、「小さな庭」、「かなづちトントン」、「八百屋のお店」、「大きな歌」、「あの青い空のように」、「ひとりの手」、「ガンバリマンのうた」、「イルカはザンブラコ」

【小学校・特別支援コース】
※ピアノ曲・・・採用試験で課題となるものを自選で2曲
※弾き歌い・・・「初等科音楽教育法〔改訂版〕」歌唱共通教材の各学年より2曲ずつ選択
第1学年 「うみ」、「かたつむり」、「日のまる」、「ひらいた ひらいた」
第2学年 「かくれんぼ」、「春がきた」、「虫の声」、「夕やけこやけ」
第3学年 「うさぎ」、「茶つみ」、「春の小川」、「ふじ山」
第4学年 「さくら さくら」、「とんび」、「まきばの朝」、「もみじ」
第5学年 「こいのぼり」、「子もり歌」、「スキーの歌」、「冬げしき」
第6学年 「越天楽今様」、「おぼろ月夜」、「ふるさと」、「われは海の子」

◎授業方法
【幼児教育・保育コース】
採用試験で役立つピアノ曲を選択して取り組み、こどもの歌の弾き歌い（主要三和音による簡易伴奏を利用した弾き歌いを含む）とリズム曲（律動のための音楽）のピアノ演奏を中心に、各個人の進度に合わせて学習する。
15回連続のピアノ演奏・弾き歌い中心の授業で、14回目は確認テストを行う。

【小学校・特別支援コース】
採用試験で役立つピアノ曲を選択して取り組み、歌唱共通教材の弾き歌い（主要三和音による簡易伴奏を利用した弾き歌いを含む）を各個人の進度に合わせて学習する。」
15回連続のピアノ演奏・弾き歌い中心の授業で、14回目は確認テストを行う。

授業方法： すべての授業を対面授業で行う。
1. 講義、実技
2. 実技
3. 実技
4. 実技
5. 実技
6. 実技
7. 実技
8. 実技
9. 実技
10. 実技
11. 実技
12. 実技
13. 実技
14. 実技、確認テスト
15. 実技

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

各回、以下の予習・復習を行うこと（できれば毎日15分～20分練習することが望ましい）
1. 既習曲の復習（30分×15週）
2. 次回課題曲の予習（30分×15週）

評価方法：

授業へのとりくみ：	30	**%**	**確認テスト：**	60	**%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	課題の到達度			10	**%**		
その他2：					**%**		

評価基準： ・最低限の到達度：60点～69点・望ましい到達度：80点以上

1. 授業への取り組み
・課題曲の練習(予習・復習)を行って授業に臨むことができる。(60点～69点)
・課題曲の練習(予習・復習)を十分に行い、意欲的に授業に臨むことができる。(80点以上)

2. 確認テスト
・課題曲の練習をして臨むことができる。(60点～69点)
・課題曲の練習を十分に行い、音楽的にも表情豊かに演奏することができる。(80点以上)

3. 課題の到達度
・課題が6割終了している。(60点～69点)
・課題がすべて終了している。(80点以上)

課題へのフィードバック：

全ての学生が到達目標を達成できるよう課題の量や質、難易度等をチェックし、その上で各々の学生の能力に適した課題の進め方、練習法や指導法を考慮する。

教科書： 【幼児教育・保育コース】「続こどものうた200」
【小学校・特別支援コース】改訂版「初等科音楽教育法」

参考書： 【幼児教育・保育コース】「ブルグミュラー25の練習曲」「ソナチネアルバム1」
【小学校・特別支援コース】「バイエルピアノ教則本」「ブルグミュラー25の練習曲」「ソナチネアルバム1」

授業・準備学習のアドバイス：

1.「授業への取り組み」においては、毎回出席重視の評価を行う。また、実技中心の授業であるので、事前にしっかりと練習をして積極的に授業に取り組むこと。
2. 確認テストは14回目の授業で実施する。試験課題の曲目は事前に掲示する。実技配点60点。各課題の配点は試験実施前の授業時に伝える。
3.「課題の到達度」10点は、すべて課題が終了していればそのまま加算される。8割がた終了していれば8点、5割ならば5点のように評価する。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 水泳実習

クラス:

授業コード: DA72300001

担当者: 田中 聡、但尾 哲哉、宮辻 和貴、杉山 真人、中瀬古 哲、生田 泰志 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:〔田中〕公立小学校教諭、文部科学省体育指導伝達講習会派遣、教育委員会指導主事(学校体育係)

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 本授業は集中授業として2026年8月25日、26日の2日間に加え、事前授業(90分×2)、Teamsオンデマンド課題4つの参加・提出により単位を構成する。
本授業では泳法の基礎技能を学ぶとともに、初心者水泳指導法、水辺におけるライフセービングの知識等を学んでいく。保育士、幼稚園、小学校教員志望の履修者は幼い命を守るためにも水泳の心得を身につけ、子どもたちを水の危険性から身を守れるように指導知識を得てほしい。本授業はエクステンション科目かつ集中授業であり、授業を通しての履修者の親睦や相互理解も目的とする。

到達目標: 1. クロール、平泳ぎを中心とした正しい泳法並びに練習法を知ると共に25m以上の泳力を身につける
2. 水泳の安全指導を理解する

各回の授業計画:

【事前説明・事前授業】 90分×2回 水泳関係調査、水泳と生理・初心者指導法、Teams課題①「救急蘇生法」、Teams課題②「水難事故防止」
※事前説明・事前授業の実施日については別途連絡します。
※※【Teams課題】については、オンデマンドでの水泳に関する課題を提出します。

【1日目】神戸市立中央小学校＜2026年8月25日(火)＞
午前 水慣れ、浮くこと・泳いで進むことの基本的身体操作の確かめ
午後 泳法練習1・平泳ぎ:全体指導
Teams課題③:初日学習の振り返りと課題確認(当日中提出)

【2日目】神戸市立中央小学校＜2026年8月26日(水)＞
午前 泳法練習2、水辺の安全指導、着衣水泳
午後 班別実習2、長距離泳(まとめ)
Teams課題④:【最終レポート】水泳実習の2日目を振り返って

(事前説明、事前授業、Teams課題①～④の指定日までに提出が単位の一部となります)

特記事項: ※水泳実習は集中授業として実施するが、前年度まで使用していた施設が突然閉館したため、別途実施方法を検討中である。神戸市内のプール施設に、3日間の通いでの集中授業に変更する可能性も高い。

授業方法: 一斉指導及び小集団による班別指導を行う

予習・復習・宿題など(内容・時間):

・本授業を受講する前に、実習冊子に目を通して予習するとともに、以下のことに合計30時間程度かけて予習・復習すること

・「小学校学習指導要領解説 体育編（平成29年7月 文部科学省）」における水泳運動領域の内容について把握しておくこと
・本授業の実施前に、動画サイト等を検索し、クロール、平泳ぎ、背泳ぎに関して、泳法のポイントや体の使い方のイメージを持っておくこと
・本授業実施前、実施後にに次の文部科学省提供の体育水泳領域の授業を視聴し、授業内容を把握しておく
＜低学年・水遊び＞https://youtu.be/I1ci363atpA?si=k61soAiDF7i8Xi_6
＜中学年・水泳運動：浮いて進む運動・もぐる浮く運動＞https://youtu.be/tDr2Uo-PLvI?si=9XhVzrnXLpmx-fwv
＜高学年・水泳運動＞https://youtu.be/S6kwnMYGGhI?si=yadK5-FViBSEJJzZ

評価方法：

授業へのとりくみ：	60	**%**	**確認テスト：**	10	**%**	**レポート：**	30 **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準：
1. 泳法
・クロール、平泳ぎを中心とした25m以上の泳力並びに指導法を十分に身につけている。（80～100）
・クロール、平泳ぎを中心とした25m程度の泳力並びに指導法をおよそ身につけている。（70～79）
・クロール、平泳ぎを中心とした泳法並びに指導法を最低限に身につけている。（60～69）
2. 安全指導
・水泳の安全指導の知識について十分に身につけている。（80～100）
・水泳の安全指導の知識についておよそ身につけている。（70～79）
・水泳の安全指導の知識について最低限身につけている。（60～69）

課題へのフィードバック：
・授業の中で適宜全体に対してフィードバックを行う
・最終レポートを課す（Teams課題）

教科書： 文部科学省『小学校学指導要領解説 体育編』東洋館出版社（平成30年2月）

参考書： 『水泳実習（冊子）』

授業・準備学習のアドバイス：
正しい泳法を学習し、泳力アップに生かすため、実習までに、クロール・平泳ぎをうまく泳ぐためのポイントについて、調べてもらいたい。
また、実習中にはレポート作成、加えて実習後に本授業における水泳体験について、Teams課題として提出すること
・当日までにガイダンス・事前授業を行いますので、必ず出席してください。
・なお、この実習には定員があります。定員を超えた場合は抽選とします。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 基礎数学Ⅰ

クラス:

授業コード: DA72600001

担当者: 冨田 哲浩 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 高校の数学Ⅱの内容の中から，複素数と方程式，三角関数の基礎的事項の定着を図り、取り扱う数学の世界拡げる。
講義に基づいた問題演習を，受講者が主体性をもって取り組むことで数学の奥深さを知るとともに、楽しさを感じる学習活動とする。
高校の教科書を使用することで、未修者も主体的な学習により十分理解できるものと考えられる。
また，高校での既修者にとっては、理解を確かなものとすることで、大学数学の学修への基盤とする。

到達目標: 複素数と方程式，三角関数について、高校1年生の数学の発展内容としてとらえ，思考力・応用力を修得する。

各回の授業計画:

1. 複素数と方程式1 複素数と2次方程式
2. 複素数と方程式2 2次方程式の解と判別式
3. 複素数と方程式3 解と係数の関係
4. 複素数と方程式4 因数定理
5. 複素数と方程式5 高次方程式
6. 複素数と方程式6 いろいろな方程式
7. 複素数と方程式のまとめと問題演習
8. 三角関数1 一般角と弧度法
9. 三角関数2 三角関数の性質
10. 三角関数3 三角関数のグラフ
11. 三角関数4 三角関数を含む方程式・不等式
12. 三角関数5 三角関数の加法定理
13. 三角関数6 三角関数のいろいろな公式
14. 三角関数7 三角関数の合成
15. 三角関数のまとめと問題演習

特記事項:

授業方法: ① ～⑮ 講義【対面授業】
授業はすべて対面で行います。
講義に基づき、問題演習において受講者が主体性を発揮できるように進める。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

予習(各回60分)・・・各回の講義に沿った予習内容を指示する。
復習(各回120分)・・・講義後に各回の学習内容，重要事項をまとめ，補充の演習問題を解くことにより，知識の確認と定着を図る。

評価方法:	**授業へのとりくみ:**	30 %	**確認テスト:**	60 %	**レポート:**	10 %
	その他1:			%		
	その他2:			%		

評価基準: 1. 授業へのとりくみ(関心，意欲，態度及び出席状況)
2. 確認テストによる基本的な事項の理解と記述による論理力
3. レポートによる総括的な学習事項の理解と整理
上記の1，2，3の内容を総合的に判断し，得点化する。
・最低限の到達度(60～69点)
・標準的な到達度(70～79点)
・望ましい到達度(80～100点)

課題へのフィードバック:

課題(確認テストやレポート)は採点後に返却し，学習状況，到達状況等の自己点検に活用する。
復習課題について、次の授業において必要な解説を加えることで、学習の深化を図る。

教科書: 「体系数学3 数式・関数編」(数研出版)

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

1. ひとつの単元が終われば、その単元内容の重要な内容による確認テストを実施する。テストの復習が理解を進めます。
2. 授業へのとりくみは、授業参加意欲、出席率により判断する。なにより積極的な参加が重要です。
3. 確認テスト及びレポートは，何度か振り返ることで学習内容が身に付きます。復習が成長の糧です。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 基礎数学Ⅱ

クラス:

授業コード: DA72700001

担当者: 冨田 哲浩 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 高校の学習内容において，指数関数と対数関数（数学Ⅱ）及び数列（数学B）の基礎事項の定着を図り、取り扱う数学の世界を拡げる。
講義に基づいた問題演習を，受講者が主体性ををもって取り組むことで数学の奥深さを知るとともに、楽しさを感じる学習活動とする。
高校の教科書を使用することで、未修者も主体的な学習により十分に理解できるものと考えられる。
また，高校での既修者にとっては、理解を確かなものとすることで大学数学の学修への基盤とする。

到達目標: 指数関数と対数関数及び数列について、高校1年の数学からの発展内容として，基礎的な学力および応用力を修得する。

各回の授業計画:

1. 指数関数と対数関数1 指数の拡張
2. 指数関数と対数関数2 指数関数
3. 指数関数と対数関数3 対数とその性質
4. 指数関数と対数関数4 対数関数
5. 指数関数と対数関数5 常用対数
6. 指数関数と対数関数のまとめと問題演習
7. 数列1 等差数列
8. 数列2 等比数列
9. 数列3 和の記号Σ
10. 数列4 階差数列
11. 数列5 いろいろな数列
12. 数列6 漸化式1
13. 数列7 漸化式2
14. 数列8 数学的帰納法
15. 数列のまとめと問題演習

特記事項:

授業方法: ① ～⑮ 講義【対面授業】
授業はすべて対面で行います。
講義と問題演習を，受講者が主体性を発揮できるように進める。

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

予習（各回60分）・・・各回の講義に沿った予習内容を指示する。
復習（各回120分）・・・講義後に各回の学習内容，重要事項をまとめ，補充の演習問題を解くことにより，知識の定着を図る。

評価方法:	**授業へのとりくみ:**	30 %	**確認テスト:**	60 %	**レポート:**	10 %
	その他1:			%		
	その他2:			%		

評価基準: 1. 授業へのとりくみ（関心，意欲，態度及び出席率）
2. 確認テストによる基本的な事項の理解と記述による表現力
3. レポートによる発展的事項の理解
上記の1，2，3の内容を総合的に判断し，得点化する。
・最低限の到達度（60～69点）
・標準的な到達度（70～79点）
・望ましい到達度（80～100点）

課題へのフィードバック:

課題(確認テストおよびレポート)については，採点後に返却し，学習状況，到達状況等を確認する。
指示した復習課題について、次回の授業において必要な内容を解説する。

教科書: 「体系数学4」(数研出版)

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

1. ひとつの単元が終われば、その単元の重要事項による確認テストを実施する。復習が大切です。
2. 授業へのとりくみは、参加意欲(出席率)、問題演習の積極さにより判断します。
3. 確認テスト及びレポートは，採点後に返却します。理解の程度等の自己点検が重要です。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 数学演習Ⅰ

クラス:

授業コード: DA72800001

担当者: 松本 宗久、堤 康嘉 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:
〔松本〕高等学校教諭
〔堤〕高等学校教諭

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 指数・対数関数による現象の把握、数列と漸化式による離散的な変化の記述、統計的な推測、およびベクトルの基礎を学習する。
論理的思考力と多角的なアプローチによって、事象を数理的に整理・分析する能力を養う。

到達目標: 対数を用いた計算や数列の一般項・和の導出を正確に行える。
統計的な手法を用いて母集団を推測する手順を理解する。
平面および空間におけるベクトルの演算と図形への応用を自在にこなせる知識と技能を習得する。

各回の授業計画:

1.指数関数と対数関数(1) 1. 指数の拡張、2. 指数関数(松本)

2. 指数関数と対数関数(2) 3. 対数とその性質、4. 対数関数、5. 常用対数(松本)

3. 微分法(1) 1. 微分係数、2. 関数の極限値、3. 導関数、4. 接線(松本)

4. 微分法(2) 5. 関数の値の変化、6. 最大値、最小値、7. 関数のグラフと方程式、不等式(松本)

5. 積分法(1) 1. 不定積分、2. 定積分(堤)

6. 積分法(2) 3. 面積、4. 体積(堤)

7. 数列(1) 1. 数列、2. 等差数列、3. 等比数列、4. 和の記号Σ(堤)

8. 数列(2) 5. いろいろな数列、6. 漸化式と数列、7. 数学的帰納法(堤)

9. 中間次確認テスト と 統計的な推測(1) 1. 確率変数と確率分布、2. 確率変数の期待値と分散、3. 確率変数の性質、4. 二項分布(松本)

10. 統計的な推測(2) 5. 正規分布、6. 母集団と標本、7. 推定、8. 仮説検定(松本)

11. 平面上のベクトル(1) 1. 平面上のベクトル、2. ベクトルの演算、3. ベクトルの成分、4. ベクトルの内積(松本)

12. 平面上のベクトル(2) 5. 位置ベクトル、6. ベクトルと図形、7. ベクトル方程式(松本)

13. 空間のベクトル(1) 1. 空間の座標、2. 空間のベクトル、3. 空間のベクトルの成分(松本)

14. 空間のベクトル(2) 4. 空間のベクトルの内積、5. 空間の位置ベクトル、6. 空間のベクトルの利用(堤)

15. まとめと最終確認テスト(松本)

特記事項: なし

授業方法: 第1・2・4・5・7・8・10・11・13・14回 講義、演習(対面)
第3・6・9・12・15回 講義、演習、確認テスト(対面)
第4・8・13回 講義 ※オンライン(オンデマンド)
(ただし、年度ごとの授業設定日によっては、受講生と相談の上、オンラインでの講義日を変更する場合がある)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

各回の授業において60分ずつの予習と復習を行う。
また確認テスト(2〜5回を予定)において45分ずつの予習と復習を行う。

評価方法:

授業へのとりくみ:	20 %	**確認テスト:**	40 %	**レポート:**	40 %		
その他1:			%				
その他2:			%				

評価基準: 1. 確認テストを含む授業へのとりくみ
(60〜69)分からない問題が多くても、自分で解決することができる。
(70〜79)分からない問題は半分以下であり、自分で解決することが容易である。
(80〜100)わからない問題は2割以下であり、他人に説明することができる。

2. レポート

(60～69)できない課題が6割以下であり、自学自習や、教員・受講者の補助により納得できる。
(70～79)できない課題が4割以下であり、自学自習に支障がない。
(80～100)できない課題が2割以下であり、他人の補助を行える能力がある。

課題へのフィードバック:

講義・及びその他の時間に、確認テスト等の評価・補助を行う。

教科書: 体系数学4(数研出版)ISBN-13:978-4-410-21809-5
(他教科で利用している場合、重複購入しないよう注意すること)
この他、適宜プリント等，教材を配布する。

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

数学科教育法・算数科教育法等の授業とあわせて、中学校・高等学校受験のための数学などを復習しておくとよい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 数学演習Ⅱ

クラス:

授業コード: DA72900001

担当者: 松本 宗久、堤 康嘉 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:
〔松本〕高等学校教諭
〔堤〕高等学校教諭

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 複素数平面、極限、微分積分の概念と技法を体系的に学習する。
多項式以外の多様な関数の性質を解析的に捉える視点を養い、物理現象や工学的な問題のモデル化に必要な高度な数学的基調を構築することを目的とする。

到達目標: 複素数平面での図形表現や各種関数の極限を正確に算出できる。
また、合成関数や媒介変数表示を含む微分積分計算を習熟し、面積・体積・曲線の長さなどの応用問題に対し、適切な数式を用いて解決できる力を身に付ける。

各回の授業計画:

1. 複素数平面（1） 1. 複素数平面、2. 複素数の極形式と乗法、除法（松本）
2. 複素数平面（2） 3. ド・モアブルの定理、4. 複素数と図形（松本）
3. 式と曲線（1） 1. 放物線、2. 楕円、3. 双曲線、4. 2次曲線の平行移動（松本）
4. 式と曲線（2） 5. 2次曲線と直線、6. 2次曲線の離心率と準線、7. 曲線の媒介変数表示、8. 極座標と極方程式（松本）
5. 関数（1） 1. 分数関数、2. 無理関数（松本）
6. 関数（2） 3. 逆関数と合成関数（堤）
7. 極限（1） 1. 数列の極限、2. 極限の性質、3. 無限等比数列、4. 無限級数、5. 無限等比級数（堤）
8. 極限（2） 6. 無限級数の性質、7. 関数の極限(1)、8. 関数の極限(2)、9. 三角関数と極限、10. 関数の連続性（堤）
9. 中間次確認テスト と 微分法（1） 1. 微分係数と導関数、2. 導関数の計算、3. 合成関数の導関数、4. 三角関数の導関数（松本）
10. 微分法（2） 5. 対数関数、指数関数の導関数、6. 高次導関数、7. 関数のいろいろな表し方と導関数（松本）
11. 微分法の応用（1） 1. 接線と法線、2. 平均値の定理、3. 関数の値の変化、4. 関数のグラフ（松本）
12. 微分法の応用（2） 5. 方程式、不等式への応用、6. 速度と加速度、7. 近似式（松本）
13. 積分法（1） 1. 不定積分とその基本性質、2. 置換積分法、3. 部分積分法、4. いろいろな関数の不定積分（堤）
14. 積分法（2） 5. 定積分とその基本性質、6. 定積分の置換積分法、7. 定積分の部分積分法、8. 定積分と関数、9. 定積分と和の極限、10. 定積分と不等式（堤）
15. 最終確認テストと積分法の応用 1. 面積、2. 体積、3. 曲線の長さ、4. 速度と道のり（松本）

特記事項: なし

授業方法: 第1・2・5・7・10・13・14回 講義、演習（対面）
第3・6・9・12・15回 講義、演習、確認テスト（対面）
第4・8・11回 講義 ※オンライン（オンデマンド）
（ただし、年度ごとの授業設定日によっては、受講生と相談の上、オンラインでの講義日を変更する場合がある）

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

各回の授業において60分ずつの予習と復習を行う。
また確認テスト（5回を予定）において45分ずつの予習と復習を行う。

評価方法:

授業へのとりくみ:	20 %	**確認テスト:**	40 %	**レポート:**	40 %		
その他1:			%				
その他2:			%				

評価基準: 1. 確認テストを含む授業へのとりくみ
（60～69）分からない問題が多くても、自分で解決することができる。
（70～79）分からない問題は半分以下であり、自分で解決することが容易である。
（80～100）わからない問題は2割以下であり、他人に説明することができる。

2. レポート
(60～69)できない課題が6割以下であり、自学自習や、教員・受講者の補助により納得できる。
(70～79)できない課題が4割以下であり、自学自習に支障がない。
(80～100)できない課題が2割以下であり、他人の補助を行える能力がある。

課題へのフィードバック:

講義・及びその他の時間に、確認テスト等の評価・補助を行う。

教科書: 体系数学5(数研出版)ISBN-13 : 978-4410218163
(他教科で利用している場合、重複購入しないよう注意すること)
この他、適宜プリントやPDF等，学習教材を配布する。

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

数学科教育法・算数科教育法等の授業とあわせて、中学校・高等学校受験のための数学などを復習しておくとよい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 数学演習Ⅲ

クラス:

授業コード: DA73000001

担当者: 松本 宗久、堤 康嘉 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:
〔松本〕高等学校教諭
〔堤〕高等学校教諭

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 公務員試験や教員採用試験に出題されている高等学校数学科の内容と、その傾向を分析することを通じて、教科内容を復習すると共に、社会に求められている数学的素養を探究する。

到達目標: 1. 各回の授業項目に挙げられている数学の単元について理解できる。
2. 理解した内容を、人に説明したり、簡単な板書事例を作成できる。

各回の授業計画:

1. 数と式(松本)
2. 方程式・不等式(松本)
3. 集合・論理(松本)
4. 場合の数・確率(松本)
5. 平面幾何(松本)
6. データの分析(堤)
7. 図形と計量(堤)
8. ベクトル(堤)
9. 三角関数・指数関数・対数関数(松本)
10. 数列(松本)
11. 複素数(松本)
12. 図形と方程式(松本)
13. 行列(堤)
14. 微分(堤)
15. 積分(松本)

特記事項: なし

授業方法: 第1・2・5・7・10・13・14回 講義、演習(対面)
第3・6・9・12・15回 講義、演習、確認テスト(対面)
第4・8・11回 講義 ※オンライン(オンデマンド)
(ただし、年度ごとの授業設定日によっては、受講生と相談の上、オンラインでの講義日を変更する場合がある)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

各回の授業において60分ずつの予習と復習を行う。
また確認テスト(5回を予定)において45分ずつの予習と復習を行う。

評価方法:

授業へのとりくみ:	20 %	**確認テスト:**	40 %	**レポート:**	40 %		
その他1:			%				
その他2:			%				

評価基準: 1. 確認テストを含む授業へのとりくみ
(60〜69)分からない問題が多くても、自分で解決することができる。
(70〜79)分からない問題は半分以下であり、自分で解決することが容易である。
(80〜100)わからない問題は2割以下であり、他人に説明することができる。

2. レポート
(60〜69)できない課題が6割以下であり、自学自習や、教員・受講者の補助により納得できる。

（70～79）できない課題が4割以下であり、自学自習に支障がない。
（80～100）できない課題が2割以下であり、他人の補助を行える能力がある。

課題へのフィードバック：

講義・及びその他の時間に、確認テスト等の評価・補助を行う。

教科書： 適宜プリントやPDF等，学習教材を配布する。

参考書： 教員採用試験対策 ステップアップ問題集 (4) 専門教科 中学・高校数学 (教員採用試験対策オープンセサミシリーズ)
東京アカデミー七賢出版 ISBN-13 : 978-4864556224
（他教科で利用している場合、重複購入しないよう注意すること）

授業・準備学習のアドバイス：

数学科教育法・算数科教育法等の授業とあわせて、中学校・高等学校受験のための数学などを復習しておくとよい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 数学演習Ⅳ

クラス:

授業コード: DA73100001

担当者: 松本 宗久、堤 康嘉 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:
〔松本〕高等学校教諭
〔堤〕高等学校教諭

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 3年生までにで学んだ数学の理解を深めていく。

到達目標: 様々な場面に数学が応用できることを知る。

各回の授業計画:

1. 数と式(松本)
2. 方程式と不等式(松本)
3. 集合・論理(松本)
4. 場合の数・確率(松本)
5. データの分析(松本)
6. 平面幾何(堤)
7. 図形と計量(堤)
8. 三角関数・指数関数・対数関数(堤)
9. ベクトル(松本)
10. 複素数(松本)
11. 図形と方程式(松本)
12. 行列(松本)
13. 微分(堤)
14. 積分(堤)
15. 総合演習(松本)

特記事項: なし

授業方法: 第1・2・4・5・7・8・10・11・13・14回 講義、演習(対面)
第3・6・9・12・15回 講義、演習、確認テスト(対面)
第4・8・13回 講義 ※オンライン(オンデマンド)
(ただし、年度ごとの授業設定日によっては、受講生と相談の上、オンラインでの講義日を変更する場合がある)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

各回の授業において60分ずつの予習と復習を行う。
また確認テスト(2〜5回を予定)において45分ずつの予習と復習を行う。

評価方法:

授業へのとりくみ:	20 %	**確認テスト:**	40 %	**レポート:**	40 %
その他1:			%		
その他2:			%		

評価基準: 1. 授業へのとりくみ(関心, 意欲, 態度)
2. 小テストによる基礎的な事項の理解と記述による表現力
3. レポートによる表現力
上記の1, 2, 3の内容を総合的に判断し, 得点化する。

・最低限の到達度(60〜69点)
演習問題について概ね理解し、授業の取り組みや授業での課題レポートを解決することができる。

・標準的な到達度（70～79点）
演習問題について理解し、授業の取り組みや授業での課題レポートを解決することができる。
・望ましい到達度（80～100点）
演習問題について十分理解し、授業の取り組みや授業での課題レポートを解決することができる。

課題へのフィードバック：

1. 授業へのとりくみは、授業態度と参加意欲、発表の内容により判断する。
2. 小試験およびレポートについては，採点後に返却し，学習状況,到達状況等を確認する。

教科書： 授業配布プリントによる。

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：

授業のはじめに前回授業の内容の復習の小テストを実施する。3年生までの数学が復習できるように，基礎的なことから授業を行うので，しっかり復習して基礎的な学力が身につくようにすること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 統計学入門

クラス:

授業コード: DA73200001

担当者: 岩瀬 謙一 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:私立高等学校、公立高等学校および国立中高等学校教諭

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 高校までに学習した基本的な統計に関する概念について振り返り、具体的な例を通して理解を深める。

到達目標:
1. 基本的な統計量などについて確認する
2. データの読み方について理解を深める
3. 推定・検定の考え方について確認する

各回の授業計画:

1. 1変量の記述統計(1) 度数の分布
2. 1変量の記述統計(2) 代表値
3. 1変量の記述統計(3) 四分位数と箱ひげ図
4. 1変量の記述統計(4) 分散と標準偏差
5. 1変量の記述統計(5) データの変換
6. Excelの統計関数の使い方(1)(1変量の記述統計に関する統計関数)
7. 問題演習(1)(1変量の記述統計)
8. 2変量の記述統計(1) 散布図と相関
9. 2変量の記述統計(2) 相関係数
10. 2変量の記述統計(3) 回帰直線
11. Excelの統計関数の使い方(2)(2変量の記述統計に関する統計関数)
12. 統計的推測の基礎(1) 母集団と標本
13. 統計的推測の基礎(2) 仮説検定の考え方
14. 問題演習(2)(2変量の記述統計, 統計的推測の基礎)
15. 全体のまとめ

特記事項: 第16回授業で試験を行う

授業方法: 原則として対面授業であり、黒板による講義形式である。毎授業課題を課す。
一部オンライン授業を行う場合もありうる。また, 授業でパソコンやモバイルフォンなどを利用する場合がある。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

予習(各回60分)
各回の講義に沿った予習内容を指示する。
復習(各回120分)
講義後に各回の学習内容, 重要事項をまとめ, 補充の演習問題を解くことにより, 知識の定着を図る。さらに, PCを用いてExcelの統計関数の簡単な使い方を修得する。

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 %	**確認テスト:**	20 %	**レポート:**	20 %
その他1: 第16回授業で試験を行う			30 %		
その他2:			%		

評価基準:
1. 授業課題
2. 確認テスト
3. 試験
4. レポート
上記の1,2,3,4の内容を総合的に判断し, 得点化する。

【最低限の到達度（60～69点）】
・授業へのとりくみ
授業課題が、その時点では十分に理解できていなくても提出している。
・レポート
理解できていなくても時間をかけて取りくんでいることがわかる。
・確認テスト・試験
6割から7割の正答

【望ましい到達度（80～100点）】
・授業へのとりくみ
授業課題が8割以上正答である。
・レポート
時間をかけて正しく丁寧に書かれている。
・確認テスト・試験
8割以上の正答率

課題へのフィードバック：

1. 授業へのとりくみは、授業態度と参加意欲、発表の内容により判断する。
2. 確認試験およびレポートについては，採点後に返却し，学習状況，到達状況等を確認する。

教科書： データを読み解く 学術図書出版社 中川重和・森裕一・黒田正博・柳貴久男・安田貴徳・大熊一正・小野舞子 共著

参考書： 高校数学からはじめる統計学 日科技連 竹士伊知郎 著
改訂版すぐわかる統計解析 東京図書 石村貞夫＋石村友二郎 共著
完全独習 統計学入門 ダイヤモンド社 小島寛之 著
Excelでできるらくらく統計解析 自由国民社 藤本壱 著
体系数学4 数研出版 岡部恒治 北島茂樹 編

授業・準備学習のアドバイス：

1. 毎授業の課題提出および授業以外に予習復習の時間を確保する。
2. 知っていることでも知識や理解をもう一度整理しなおすことを意識する 。
3. できるだけの授業ノートを作る。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 代数学応用

クラス:

授業コード: DA73300001

担当者: 堤 康嘉 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 代数Ⅱで学んだベクトルや行列の理解を深めていき、それらを応用していく。抽象化することにより、数学的に厳密に基礎付けることを学ぶ。

到達目標: ベクトル空間の導入により、高校数学とは別の形で理論展開できることを知る。

各回の授業計画:

1. 行列(行列の和・差, 実数倍)
2. 行列の積
3. 逆行列
4. 連立2元1次方程式
5. 3次正方行列の行列式
6. 行列式の性質
7. 行列の積の行列式
8. 行列式の展開
9. 行列式の応用
10. 基本変形による連立1次方程式の解法
11. 基本変形による逆行列の計算
12. 行列の階数
13. 行列の階数と連立1次方程式
14. ベクトルの線形独立と線形従属
15. 総合演習

特記事項: なし

授業方法: 講義と演習を, 受講者が主体性を発揮できるように, グループワークやグループディスカッション等を交えて行う。また, 各授業の資料は Teams にアップロードしておくので授業の復習にも役立ててもらいたい。全て対面で行う。
第1～7回 講義、演習
第8回 演習
第9～15回 講義、演習

予習・復習・宿題など(内容・時間):

予習(各回60分)
各回の講義に沿った予習内容を指示する。
復習(各回120分)
講義後に各回の学習内容, 重要事項をまとめ, 補充の演習問題を解くことにより, 知識の定着を図る

評価方法:

授業へのとりくみ:	40	**%**	**確認テスト:**	−	**%**	**レポート:**	60 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: 1. 授業へのとりくみ(関心, 意欲, 態度)
2. 小テストによる基礎的な事項の理解と記述による表現力
3. レポートによる表現力
上記の1, 2, 3の内容を総合的に判断し, 得点化する。

・最低限の到達度（60～69点）
ベクトル空間や行列について概ね理解し、授業の取り組みや授業での課題レポートを解決することができる。
・標準的な到達度（70～79点）
ベクトル空間や行列について理解し、授業の取り組みや授業での課題レポートを解決することができる。
・望ましい到達度（80～100点）
ベクトル空間や行列について十分理解し、授業の取り組みや授業での課題レポートを解決することができる。

課題へのフィードバック：

1. 授業へのとりくみは、授業態度と参加意欲、発表の内容により判断する。
2. 小試験およびレポートについては，採点後に返却し，学習状況,到達状況等を確認する。

教科書： 授業配布プリントによる。

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：

授業のはじめに前回授業の内容の復習の小テストを実施する。代数学IIが復習できるように，基礎的なことから授業を行うので，しっかり復習して基礎的な学力が身につくようにすること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 幾何学応用

クラス:

授業コード: DA73400001

担当者: 松本 宗久 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:高等学校教諭

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 幾何学は，数学のみならず様々な分野でその考えを基礎とし，利活用されている。本講義では幾何学の応用分野であり，他の理数系分野でもその応用が進んでいる結び目理論の基礎について理解することを目標とする。

到達目標: 結び目理論は，結び目というなじみのある題材を，見た目が違う結び目が果たして同じなのか，という問いを数学的な観点からとらえる。本講義では，幾何学の分野として脚光を浴びているこの題材を考察し，数式で表せるようになる。また，初等中等教育ではどのように援用できるのかについて合わせて学ぶ。

各回の授業計画:

1. 結び目理論の概要
2. 組みひもの構成要素・組みひも関係式
3. 組みひも群の積構造・組みひもとアミダくじ
4. 結び目とリンク・リンクダイアグラム
5. ライデマイスター移動・向きのついたリンク，絡み数
6. 組みひもからリンクを作る・結び目から組みひもへ
7. ザイフェルトサークル・マルコフの操作
8. ザイフェルトサークルの個数とブレイド指数
9. カウフマンのステート模型・統計和とライデマイスター移動
10. ステート模型からブラケット多項式へ
11. スケイン関係式によるジョーンズ多項式の計算
12. ジョーンズ多項式のいくつかの性質
13. 小・中学校における結び目理論を活用した授業事例
14. 高等学校における結び目理論を活用した授業事例
15. 結び目理論の他の学問への広がり

特記事項: なし

授業方法: 第1〜4・6〜8・10〜12・14・15回 講義、演習 （必要に応じてグループワークを取り入れる）
第5・9・13回 講義 ※オンライン（オンデマンド）
（ただし、年度ごとの授業設定日によっては、受講生と相談の上、オンラインでの講義日を変更する場合がある）

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1〜15. 予習45分×15回 = 675分
1〜15. 授業内容の振り返り 30分×15回 = 450分
1〜15. 授業で配布される課題の検討 30分×15回 = 450分
1〜3. 高校・幾何学Ⅰ・Ⅱの学習内容の復習 60分×3回 = 180分
4. 6. 8. 10. 12. 授業内で実施される確認テストの予習 30分×5回 = 150分
5. 7. 9. 11. 13. 確認テストの復習 30分×5回 = 150分
6〜9. 身近にそんざいする結び目理論の問題の考究 60分×4 =240分
12〜14. ICTを活用した授業内容の重点的振り返り 60分×3 =180分
15. レポート課題に向けての学習 240分

評価方法:

授業へのとりくみ:	20	**%**	**確認テスト:**	30	**%**	**レポート:**	50 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: 1. 確認テストを含めた授業内容

(60～69)分からない問題が多くても、自分で解決することができる。
(70～79)分からない問題は半分以下であり、自分で解決することが容易である。
(80～100)わからない問題は2割以下であり、他人に説明することができる。

2. レポート課題内容
(60～69)分からない問題が6割以下であり、自学自習により理解できる。
(70～79)分からない問題は4割以下であり、自学自習による理解に支障がない。
(80～100)分からない問題は2割以下であり、他人に説明できる能力がある。

課題へのフィードバック:

講義・及びその他の時間に、確認テスト等の評価・補助を行う。

教科書: 適宜プリント等，教材を配布する

参考書: 『組みひもの数理[新装版]』河野俊丈 著 日本評論社 ISBN-13: 978-4-535-78948-7
この他 幾何学I・II・IIIで使用したテキスト、及び、高校在籍時の数学科教科書を参考書として利用する場合がある。

授業・準備学習のアドバイス:

講義・及びその他の時間に、確認テスト等の評価・補助を行う。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 解析学応用

クラス:

授業コード: DA73500001

担当者: 岩瀬 謙一 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:私立高等学校、公立高等学校および国立中高等学校教諭

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 子供達は小学校から高校・大学へと算数，数学の勉強をしていく。特に、「数概念の拡大」や「極限」に対する理解を深めていくことは重要な教育的観点です。
小学校で行われる算数は，この数学教育の流れの出発点であり，指導者はこれから先に進んでいく流れをしっかりと理解した上での算数指導や数学指導を行うことができるようにしておく必要がある。
この授業においては，特に「極限」に着目して，小学校・中学校・高校・大学と進んでいく道筋を追いながらその意味を深めていくことを目指す。そして，「極限」についてのイメージを各自の中で再構築してほしいと考えている。
さらに，この極限のイメージ作りのためにgrapes，geogebraやdesmos などの数学ソフトも紹介する。

到達目標:
1.「瞬間」について数学的なとらえ方の理解を深める。
2.「面積」「体積」についての理解を深める。
3. 微分と積分の関係を理解する。
4. 小学校から高等学校までの数学学習の流れを振り返り，その上で再度算数に立ち返って教科内容を考察する。
5. 算数・数学の深さや面白さを再認識し，子どもたちにその面白さを伝えられるような視点を持つ。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション（本講義の流れや意義）
2. 速さとグラフ
3. 数の拡大について
4. 分数と小数について
5. 濃度について
6. 瞬間と微分について
7. 速度と進んだ道のり
8. 微分法のまとめと確認テスト
9. 円周率と円の面積
10. 区分求積について
11. 関数y=x2と直線で囲まれた図形の面積
12. 12+22+32+・・・+n2について
13. 定積分と面積
14. 微積分の基本定理
15. 定積分と体積

特記事項: 第16回授業で試験を行う

授業方法: 原則として対面授業であり、黒板による講義形式である。
一部オンライン授業を行う場合もありうる。
毎授業課題を課す。
毎授業レジュメおよび課題プリントを配る予定である。
授業でパソコンやモバイルフォンなどを利用する場合がある。

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

予習（各回60分）
各回の講義に沿った予習内容を指示する。
復習（各回120分）
講義後に各回の学習内容，重要事項をまとめ，補充の演習問題を解くことにより，知識の定着を図る。

評価方法: **授業へのとりくみ:** 30 **%** **確認テスト:** 20 **%** **レポート:** − **%**

その他1： 第16回授業で試験を行う 50 **%**

その他2： **%**

評価基準：

1. 授業課題
2. 確認テスト
3. 試験
4. レポート

上記の1,2,3,4の内容を総合的に判断し，得点化する。

【最低限の到達度（60～69点）】
・授業へのとりくみ
授業課題が、その時点では十分に理解できていなくても提出している。
・レポート
理解できていなくても時間をかけて取りくんでいることがわかる。
・確認テスト・試験
6割から7割の正答

【望ましい到達度（80～100点）】
・授業へのとりくみ
授業課題が8割以上正答である。
・レポート
時間をかけて正しく丁寧に書かれている。
・確認テスト・試験
8割以上の正答率

課題へのフィードバック：

1. 授業課題は、出来るだけ授業中に答え合わせをして、次の授業で返却する。
2. 確認テスト、レポートは採点して返却する。

教科書： 特に指定しない

参考書：

「微積分の意味」森毅著 日本評論社
「微積のきほん」（ニュートンムック）ムック
「すぐわかる微分積分」石村園子著 東京図書
「基礎解析」岡安隆照著 新曜社
「入門微分積分学」濱田英隆・首藤眞一他著 東京教学社
小学校5，6年生算数の教科書

授業・準備学習のアドバイス：

1. 毎授業の課題提出および授業以外に予習復習の時間を確保する。
2. 知っていることでも知識や理解をもう一度整理しなおすことを意識する 。
3. できるだけの授業ノートを作る。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 小学校観察実習

クラス:

授業コード: DA73600001

担当者: 齋藤　隆彦、小坂　明　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:
〔齋藤〕公立・国立大学附属中学校教諭(教育実習生の学級・教科担当者)
〔小坂〕公立小学校校長・教諭

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 今日的教育課題の山積している学校現場において、小学校教育の在り方が問われている。「子ども理解」「授業づくり」「学校経営」「保護者とのコミュニケーション」など、教師としての資質・能力のより一層の向上が求められている。ここでは、「子どもとは」「教師の働きかけとは」「学校経営とは」と、小学校での観察や実践体験を通して、児童に対する理解を深めるとともに、実習体験を積むことにより、教育実習(初等)に生かしていくことをめざす。さらに、自らの教職適性を絶えず確認しつつ、教職への意欲と使命感を高め、進路選択に資する各種の機会を提供する。

到達目標: 小学校での教育活動全体と、児童に対する理解を深める。
1. 子どもの見方、子ども理解の方法を身につける。
2. 教師の子どもへの働きかけ方を知る。
3. 学級経営・子ども教師の動きに関心を持つ。

各回の授業計画:

1. 実習の意義、目的
2. 実習の内容、子どもとのコミュニケーションのとり方
3. 実習の流れ、オリエンテーション
4. 日誌の書き方、目標設定
5. 実習心得確認
6. 実際に小学校において、授業の観察および参加(5日間)
7. 実習の振り返り

特記事項: なし

授業方法: すべての授業を対面授業で行う。
ただし、対面が難しい場合(大学から対面を避ける指示があった場合など)は「オンライン」または「同時配信」で行う可能性がある。その際にはチームズで連絡する。
1. 講義と学生による自己紹介の共有
2. 講義とペアワーク
3. 講義とペアワークとプレゼン
4. 講義とペアワークとプレゼン
5. 講義とペアワークとプレゼン
6. 小学校にて授業参観の観察および参加
7. 講義とペアワークとプレゼン

予習・復習・宿題など(内容・時間):

・実習日誌作成1日目(1.5時間)
・実習日誌作成2日目(1.5時間)
・実習日誌作成3日目(1.5時間)
・実習日誌作成4日目(1.5時間)

・実習日誌作成5日目(2時間)

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	− **%**	**レポート:**	20 **%**
その他1:	実習校からの評価		50 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準:

1. 実習校において
①指導内容を理解し記録が取れる。また、授業の参観しその記録が取れる(60～69)、指導内容を理解し記録を取るとともに自分の行動と指導とをつなぎ次に生かすことができる(70～79・80～100)。
②児童に対し、積極的に関わることができる(60～69)、児童に対し、積極的に関わり、それらで得た情報から児童を理解し、指導に活かすことができる(70～79・80～100)。
2. 事前・事後指導において
①講義内容を理解し記録が取れる。また、各活動(ペアワーク・プレゼン)に参加することができる(60～69)。講義内容を理解するとともに自らの経験や文献等で得た知見とつなぎ解釈し記録することができるとともに、各活動(ペアワーク・プレゼン)では工夫を凝らすことができる(70～79・80～100)。

課題へのフィードバック:

各課題は適宜共有の機会を設ける(学生によるプレゼン、スライドショーをつかった各自の文章の提示)。学生同士でコメントしあうとともに、教師も適宜フィードバックとなるコメントを伝える。

教科書: なし

参考書: なし。
必要に応じて資料プリントを配布する。また、参考図書は、授業の中でも適宜紹介する。

授業・準備学習のアドバイス:

各課題は適宜共有の機会を設ける(学生によるプレゼン、スライドショーをつかった各自の文章の提示)。学生同士でコメントしあうとともに、教師も適宜フィードバックとなるコメントを伝える。

授業の内容は、みなさんの状況を見ながら随時つくっていきますので、変更することがあります授業内やTeamsでお伝えします。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 幼稚園観察実習

クラス:

授業コード: DA73700001

担当者: 岩濵 里江子、横田 郁子 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:
〔岩濵〕公立幼稚園園長・教諭、市教委指導主事
〔横田〕公立幼稚園園長・教諭、市教委指導主事・幼児教育専門員

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 幼稚園・こども園における観察実習を通して、幼児教育施設における保育の営みを知り、幼児と直接触れることにより幼児理解を深め、保育者の役割を理解する。観察実習における学びを深めるために、事前の実技演習等により、観察実習に必要な知識、技能、心構えなどを習得し、積極的に実習に臨む。

到達目標:
1. 幼稚園教育実習の意義と目的を知る。
2. 教育実習の心構え、手遊び、絵本の読み聞かせ等の具体的な保育方法について学ぶ。
3. 観察実習を通して、幼児の実態を知り、幼児理解を深める。
4. 観察実習を通して、幼児教育における保育者のかかわりの姿とその役割について知る。
5.観察実習に目的意識をもって積極的に臨む。

各回の授業計画:

1. 幼稚園教育実習の意義と目的
・幼稚園教育の現状を知り、教育実習の意義と目的について学ぶ。
・幼稚園の役割と幼稚園教育要領について理解する。

2. 保育者に求められるもの 及び 実技演習①「絵本の読み聞かせ」
・幼児の事実から幼児理解と保育者の関わりについて考える。(写真等)
・オリエンテーションへの目的、臨み方について学ぶ。
・絵本選択の方法との読み聞かせに学ぶ。

3. 幼稚園の一日の生活と保育者の関わり および 実技演習②「手遊び・わらべうた遊び」
・幼稚園の一日と保育内容および保育者の関わりについて知る。
・手遊びの意義と方法について知る。
・わらべうた遊びの意義と方法について知る。

4. 幼児理解と保育者のかかわり および 実技演習③「ピアノ 弾き歌い」
・幼児の事実から幼児理解と保育者の関わりについて学ぶ。
・季節の歌、年齢に合った歌などについて知る。
・弾き歌いの方法や意義について知る。

5. 保育記録の書き方
・観察実習における保育記録の書き方について学ぶ。
・保育の流れと保育者の関わり、保育者の意図について考え、記述する。

6. 実習先への礼状の書き方、実習事前指導
・令状の書き方・出し方について学ぶ。
・実習に行くにあたっての心構えについて質疑応答する。
・セクシャル・ハラスメントについて知る。

7. 事後指導(勤務に関する事項の理解、実習の反省と評価)

特記事項: なし

授業方法: 以下、対面での講義とします。
講義

写真・DVD視聴
教材研究、グループワークによる発表、演習
礼状の書き方
観察実習
事後指導（グループワークを通して）

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

・「幼稚園教育実習の意義と目的」を復習する。
・「幼稚園の役割」と「幼稚園教育要領」について復習する。
・教材研究と保育実技（絵本、手遊び、わらべうた、ピアノ弾き歌い等）について案を作成したり、復習をしたりする。
・DVD視聴から保育記録を書く
・観察実習記録を作成し、提出するとともに、学んだこと、考えたことについての発表に向けての準備をする。

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	20 **%**
その他1：	実習の評価		20 **%**		
その他2：	実習記録		30 **%**		

評価基準：

○授業への取組
・授業を休まず出席し「メモを取る」など、授業内容を関心をもって聞いたり質問をしたりする（80～100）
・幼稚園に対する関心を持ち授業に臨むが、時々集中力が緩む（60～80）
○実習先の評価
・実習先の評価点が上位で、日誌の記入など要点をまとめて記入できる（80～100）
・実習に誠実な態度で参加するとともに、実習先の評価点を参考とする（60～80）

課題へのフィードバック：

・授業終了時に、課題レポートを回収し、理解度を確認し、公表する。
・子どもの姿や環境の構成、保育者の関わりなどについての保育記録について評価する。

教科書： なし

参考書：

・文部科学省『幼稚園教育要領解説』（平成30年3月）フレーベル館 ※文部科学省HPよりダウンロード可能（平成30年２月）
・内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（平成30年３月）フレーベル館※こども家庭庁HPよりダウンロード可能（平成30年３月）
・厚生労働省 保育所保育指針解説』（平成30年３月）フレーベル館※厚生労働省HPよりダウンロード可能（平成30年２月）

授業・準備学習のアドバイス：

・幼稚園教育の実態を知ることにより、幼児教育の内容、幼児理解と幼児の育ち、保育者の役割について考える機会とすること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 学級経営入門

クラス:

授業コード: DA74000001

担当者: 小坂　明、芝田　悦司、田中　聡、神月　紀輔　　**単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:〔小坂〕公立小学校校長・教諭
〔田中〕公立小学校教諭 市教育委員会指導主事
〔芝田〕公立小学校校長・教諭・市教育委員会次長
〔神月〕公立中学校教諭・公立高校講師

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 学級経営の今日的な課題をとらえ、教育目標の達成を目指す学級の在り方並びに学習集団としての学級の在り方について理解するとともに、その実現に向けての指導の具体について探究することを目的にする。

到達目標: ・学校における教育指導の基礎単位である「学級」の組織と運営について理解し、自立と成熟の基盤となる相互関係（集団）の形成を構想する。
・教員としての実践指導力を養成段階で学修することにより、教員に必要な資質能力の身に付ける。

各回の授業計画:

1.（オリエンテーション）学級経営の意義と課題（小坂）

2. 児童理解と生徒指導（芝田）

3. 授業と学級づくり（田中）

4. 配慮を要する児童と学級づくり（神月）

5. 学級経営の具体的な指導～教育の課題と現状を話し合う～（1）
（例）「これからの時代に求められる教員」など

6. 学級経営の具体的な指導～教育の課題と現状を話し合う～（2）
（例）「児童生徒の主体的な学びを促す授業づくり」など

7.学級経営の具体的な指導～教育の課題と現状を話し合う～（3）
（例）「児童・生徒の成長を促す生徒指導」など

8. 学級経営の具体的な指導～教育の課題と現状を話し合う～（4）
（例）「発達の遅れのある児童に対し、どのような支援や取り組みをするか」など

9. 学級経営の具体的な指導～教育の課題と現状を話し合う～（5）
（例）「児童生徒の成長を促す学習評価について」など

10. 個々の児童・生徒に対応した学級経営～ロールプレイを通して～
（1）配慮を要する児童への対応

11. 個々の児童・生徒に対応した学級経営～ロールプレイを通して～
（2）問題行動傾向の児童・生徒への指導

12. 学級経営の様々な手法を調べ、学級経営案を書こう（オンライン）
～教育実習で経験した学年やクラスを想定して～

13. 個々の児童・生徒に対応した学級経営～ロールプレイを通して～
（3）同僚や管理職との協働

14. 個々の児童・生徒に対応した学級経営～ロールプレイを通して～
（4）保護者との関係づくり

15. ＜まとめ＞教職の魅力とこれからの課題

特記事項: 本授業では、講義とともに実際の場面を想定し、模擬指導することで実践力を身につけることを目指す。本授業の履修により、教員採用試験における場面指導や集団討議等への対応力も高めていきたい。

授業方法: 一斉講義の他、集団討議や課題に対してのロールプレイを実施する。
（第1回～第13回、第15回は対面授業。第12回はオンライン授業。）

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

・講義の復習、並びに履修者各自が取り組んだ場面指導等について情報端末等を利用して映像として記録してその都度確認分析する。これら各授業回で180分の復習を行うこと。
・復習、分析した結果、自分の指導上の課題を明らかにした上で授業に臨むこと。

評価方法: **授業へのとりくみ:** 70 **%** **確認テスト:** **%** **レポート:** 30 **%**

その他1： **%**

その他2： **%**

評価基準： ・学級経営の視点から場面指導実践を通して、その指導法や指導力を十分に身につけている。(80～100)
・学級経営の視点から場面指導実践を通して、その指導法や指導力をおよそ身につけている。(70～79)
・学級経営の視点から場面指導実践を通して、その指導法や指導力を最低限度身につけている。(60～69)

課題へのフィードバック：

・授業の中で適宜全体に対してフィードバックを行う。
・レポートの提出による確認テストをする。

教科書： 特に教科書は指定しない(必要な資料は都度プリント配布する)

参考書： ・文科省『小学校学習指導要領(平成29年)』東洋館出版
・文科省『中学校学習指導要領(平成29年)』東山書房
・文科省『生徒指導提要(令和4年)』東洋館出版
・文部科学省『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと，協働的な学びの実現～』令和3年1月26日 中央教育審議会答申
・文部科学省『「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について』令和4年12月19日中央教育審議会答申
・文部科学省『「令和の日本型学校教育」を担う質の高い教師の確保のための環境整備に関する総合的な方策について』令和6年8月27日中央教育審議会答申
・文部科学省「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」令和6年12月25日 中央教育審議会 諮問
・今津孝次郎『教師が育つ条件』岩波新書

授業・準備学習のアドバイス：

・1回～4回は、講義形式。5回～11回と13回～14回は、グループワークで実践演習形式。なお、グループは、毎回メンバーも指導教員も変わる。
・12回はオンライン(オンデマンド)にて、学級経営案の作成をする。
・自身が教員を目指す思いをもって、授業に臨むことを期待する。このような心構えにより本授業の到達目標への達成度が高まると考えて欲しい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ)：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 模擬授業演習

クラス:

授業コード: DA74100001

担当者: 小坂　明、齋藤　隆彦、有道　俊雄、竹内　弘明　　**単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:
〔竹内〕公立高等学校校長・教諭、県教育委員会事務局職員
〔有道〕公立中学校主幹教諭
〔小坂〕公立小学校校長・教諭
〔齋藤〕公立中学校教諭

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: −　　**一般的包括的科目:** −

授業の目的: 本授業では、小学校教員採用試験に係る模擬授業の状況を踏まえ、指導案の作成、授業分析、模擬授業等を行いながら実践的な授業力を育成する。また場面指導についても具体的な事例に基づいた対応力を育成する。

到達目標: 小学校教員採用試験の模擬授業および場面指導に対する実践力を身につける。

各回の授業計画:

1. A班 模擬授業演習（国語①:齋藤）
B班 模擬授業演習（社会①:小坂）
C班 模擬授業演習（算数①:竹内）
D班 模擬授業演習（理科①:有道）
2. A班 模擬授業演習（国語②:齋藤）
B班 模擬授業演習（社会②:小坂）
C班 模擬授業演習（算数②:竹内）
D班 模擬授業演習（理科②:有道）
3. A班 模擬授業演習（国語③:齋藤）
B班 模擬授業演習（社会③:小坂）
C班 模擬授業演習（算数③:竹内）
D班 模擬授業演習（理科③:有道）
4. A班 模擬授業演習（社会①:小坂）
B班 模擬授業演習（算数①:竹内）
C班 模擬授業演習（理科①:有道）
D 班 模擬授業演習（国語①:齋藤）
5. A班 模擬授業演習（社会②:小坂）
B班 模擬授業演習（算数②:竹内）
C班 模擬授業演習（理科②:有道）
D 班 模擬授業演習（国語②:齋藤）
6. A 班 模擬授業演習（社会③:小坂）
B 班 模擬授業演習（算数③:竹内）
C 班 模擬授業演習（理科③:有道）
D 班 模擬授業演習（国語③:齋藤）
7. A班 模擬授業演習（算数①:竹内）
B班 模擬授業演習（理科①:有道）
C 班 模擬授業演習（国語①:齋藤）
D 班 模擬授業演習（社会①:小坂）
8. A班 模擬授業演習（算数②:竹内）
B班 模擬授業演習（理科②:有道）
C 班 模擬授業演習（国語②:齋藤）
D 班 模擬授業演習（社会②:小坂）
9. フィールドワーク（神戸市内小学校）
10. A 班 模擬授業演習（算数③:竹内）
B 班 模擬授業演習（理科③:有道）
C 班 模擬授業演習（国語③:齋藤）
D 班 模擬授業演習（社会③:小坂）
11. フィールドワーク（神戸市内小学校）
12. A班 模擬授業演習（理科①:有道）
B 班 模擬授業演習（国語①:齋藤）

C 班 模擬授業演習（社会①：小坂）
D 班 模擬授業演習（算数①：竹内）

13. A班 模擬授業演習（理科②：有道）
B 班 模擬授業演習（国語②：齋藤）
C 班 模擬授業演習（社会②：小坂）
D 班 模擬授業演習（算数②：竹内）

14. A 班 模擬授業演習（理科③：有道）
B 班 模擬授業演習（国語③：齋藤）
C 班 模擬授業演習（社会③：小坂）
D 班 模擬授業演習（算数③：竹内）

15. 学びの振返り（「主体的・対話的で深い学び」を取り入れた分かる授業の考察）

特記事項： 受講者を4班に分け、少人数での演習を行い、小学校教員採用試験の模擬授業対策としての実践力を培う。

授業方法： ① ～⑮ 講義 （対面）
模擬授業のポイント等を学んだ後、簡単な指導案を作成。指導案をもとに模擬授業を行った後、授業に対する質疑応答を行う。
国語、算数、理科、社会の4教科とデジタル教科書や電子黒板等を活用した模擬授業実践演習を行う。

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

予習各回90分（与えられた課題に対して指導案を作成）
復習各回90分（指示された課題を考える）

評価方法：

授業へのとりくみ：	50	**%**	**確認テスト：**	30	**%**	**レポート：**	20 **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準： 基礎的な知識・理解及び授業実践力がどの程度身に着いているか。また主体的に学習に取り組んでいるか。
・望ましい到達度（80～100点） 基本的な内容を十分理解できるとともに、高い実践力があり自ら意欲的に取り組むことができる。
・標準的な到達度（70～79点） 基本的な内容を理解でき、実践力があり意欲的に取り組むことができる。
・最低限の到達度（60～69点） 基本的な内容をおおむね理解することができ、意欲的に取り組むことができる。

課題へのフィードバック：

毎回の予習課題は重点的に考える事項を提示し、授業において解説する。

教科書： なし（プリントを配布する）

参考書： なし（適宜プリントを配布する）
兵庫県や神戸市で採用されている3年生～6年生の各教科書
小学校学習指導要領（平成29年告示）国語、社会、算数、理科編

授業・準備学習のアドバイス：

教員採用試験対策のため、緊張感を持って取り組むことで模擬授業の実践力が身につきます。意欲的に取り組むことが大切です。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: デジタルテック活用論

クラス:

授業コード: DA74150001

担当者: 神月 紀輔 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: デジタルのテクノロジーのうち，これからの生活で使いそうなものをピックアップしてその活用を考える。
教育の場面や普段の生活場面，趣味の世界など幅広くデジタルを活用する力を身につける

到達目標: ロイロノートを使って，学校教育の場面での教材の作成ができる
生成AIの限界を知り，社会での望ましい活用法を知る
生成AIを使って，動画・プレゼン・音楽などの作成を試み，人とデジタルテクノロジーの共存を考える

各回の授業計画:

1. イントロダクション，機器等の説明
2. 教育現場における機器活用のポイント
3. ICT（ロイロノート）を使った授業の設計
4. ICT（ロイロノート）を使った授業の検討
5. ICT（ロイロノート）を使った授業の相互評価・自己評価・振り返り
6. AIとデータサイエンス
7. AIにできることとできないこと
8. AIを利用するときに注意すべき倫理的配慮
9. 生成AIを用いたレポート作成
10. 生成AIを用いたプレゼン作成
11. レポート，プレゼンの相互評価
12. 生成AIをつかった動画，音楽作成
13. 生成AIを使った動画，音楽の相互評価
14. 社会の中でのボーカロイドや業務ロボットの果たす役割
15. 授業全体のまとめ

特記事項:

授業方法: Teamsに資料は毎回アップする
学生同士のディスカッションや学生から意見を求めることが多い
テクノロジーを学ぶだけではなく，倫理面にも配慮できるように考えたい
生成AIとしてはGoogle Notebook LMを使用する予定

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

復習が授業外学習として毎回180分必要となる

評価方法:

授業へのとりくみ:	60 **%**	**確認テスト:**	**%**	**レポート:**	30 **%**
その他1:	授業内の発言やディスカッションへの参加	10 **%**			
その他2:		**%**			

評価基準: 授業への取組：毎回自己評価を提出し，その内容から評価する
レポート：作品制作レポートを提出し，自己評価相互評価も含めて評価する
グループ活動：授業内の発言やグループでの他者の意見に耳を傾ける態度など

課題へのフィードバック:

毎回の自己評価は次の時間のはじめにフィードバックする
作品制作レポートは提出後の授業でフィードバックする

教科書: なし

参考書: 授業内で指示する

授業・準備学習のアドバイス:

内容は難しいですが，これからの社会で必要になるものだと思います。
まずは取り組むところから始めてみましょう。
できるだけ欠席のないように授業参加をお願いします。
テクノロジーの進化等によっては，授業内容を変更する可能性があります。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育とメディア

クラス:

授業コード: DA74200001

担当者: 中尾 尊洋 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 本講義では、主に初等教育における授業のICT活用やプログラミング教育をテーマとしてとりあげ、ICTを活用した授業やプログラミング教育の指導ができることを目指して、必要となる知識を身に着け、ICT活用、プログラミング教育についての理解を深めつつ、指導に必要なICT機器の活用、プログラミングのスキルと考え方、指導力を身につける。

到達目標:
1. コンピュータによる創造活動の楽しさを理解する。
2. コンピュータをデザインや自己表現のために活用できるものと捉える視点を身につける。
3. プログラミングを社会的実践であると捉える視点を身につける。
4. プログラミング教育の教育的効果や教育方法についての理解を深める。
5. 初等・中等教育におけるプログラミング教育の背景・目的・指導方法についての理解を深める。

各回の授業計画:

1. ガイダンス, ICT活用およびプログラミング教育の理解
2. ICT活用とは
3. 電子黒板の授業への効果と活用
4. タブレット端末を活用した授業
5. プログラミングとは
6. Viscuitを活用したプログラミング学習
7. Viscuitのプログラミング（応用）
8. Micro:bitを活用したプログラミング学習
9. Micro:bitの授業への導入
10. Scratchを探求しよう −教科における実践事例の探究①−
11. Scratchを探求しよう −教科における実践事例の探究②−
12. 動画編集と教材づくり①
13. 動画編集と教材づくり②
14. 自作動画教材を活用した授業づくりと評価
15. まとめ（総合演習）

特記事項: なし

授業方法: できるだけ多くのソフトやツールに実際に触れることで、創造の道具としてのICT機器のあり方について考察する。また、実際にプログラムを作成することを通じてプログラミングの楽しさを体験する。さらに、指導事例を各種サイトで探索しながら、カリキュラムや指導方法について理解を深めつつ、振り返りを適宜行う。
①～⑮ 講義（対面）

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

毎回次の予復習をする
予習（90分）
授業計画および授業方法に記載されているキーワードについて事前に調べる。
復習（90分）
授業で扱ったツールを活用してさらに自分なりに色々とプログラムを作成し、講義で紹介されたサイトなどで実践事例や指導方法を探究する。

評価方法:

授業へのとりくみ:	80	**%**	**確認テスト:**	−	**%**	**レポート:**	20 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: 優(80～100)
・多様なプログラミングツールの特徴や違いを理解しつつ、それらを活用した教育の方法について説明できる。それらの根拠を用いて自分なりの意見が述べられる。
・多様なプログラミングツールについて、資料を参照しながら簡単なプログラムが作成・改編できる。
・プログラミング教育の背景やコンピュテーショナルシンキングについて説明ができる。
・小学校教育におけるプログラミング教育導入の背景や育成すべき資質・能力があますところなく説明できる。
・授業内の演習に積極的かつ主体的に取り組み、上記と関連づけながら自分なりの意見や課題意識を述べることができる。

良(70～79)
・多様なプログラミングツールについてひとまず知っており、それらを活用した教育の方法について自分なりの意見が述べられる。
・多様なプログラミングツールについて、資料を参照しながら簡単なプログラムが作成できる。
・プログラミング教育の背景やコンピュテーショナルシンキングについて説明ができる。
・小学校教育におけるプログラミング教育について、ひとまず説明ができる。
・授業内の演習に積極的かつ主体的に取り組み、その経験から自分なりの意見を述べることができる。

可(60～69)
・多様なプログラミングツールについてひとまず知っている。
・プログラミング教育の意義やねらいについて、断片的にではあるが説明ができる。
・小学校教育におけるプログラミング教育について、断片的にではあるが、ひとまず説明ができる。
・授業内の演習に取り組み、その経験から自分なりの意見を述べることができる。

課題へのフィードバック:
適宜授業の中で実施します。

教科書: 適宜資料を配信・配布

参考書: 文部科学省「小学校プログラミング教育の手引」https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1403162.htm
文部科学省「小学校を中心としたプログラミング教育ポータル」https://miraino-manabi.mext.go.jp/

授業・準備学習のアドバイス:
授業へのとりくみ: 本講義は授業への取り組みを特に重視しています。体験操作に積極的に参加しているかどうかを評価します。
なお、電子黒板やマイコン教材を使用した演習の授業になるため、履修者が多数の場合は抽選により受講人数を調整します。
必ずPCを持参する。スマホ, ipad等のタブレット端末は不可。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: デジタルファブリケーション実習

クラス:

授業コード: DA74250001

担当者: 神月 紀輔 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: デジタルファブリケーションとは何かを知り，社会生活の中でどのように扱えばいいかを考える力をつける
ものができることだけでなく，それをどう活用できるかまで考えたい

到達目標: コンピュータのプログラムで簡単な機械制御ができる。
3Dプリンタの特徴を把握し，社会で活用できる制作を行う

各回の授業計画:

1. イントロダクション，本実習の到達目標の確認
2. デジタルファブリケーションとは何か（講義）
3. コンピュータの内部構造の理解と制御に関する知識理解（講義）
4. プログラミングとは，プログラミングと人の将来（講義）
5. プログラミングによる簡単な制御実習（実習）
6. プログラミングによるロボットの制御（実習）
7. 制御実習の振り返りと今後の課題設定（演習）
8. 3Dプリンタとは その精度と限界（講義）
9. デジタルファブリケーションにおける倫理（講義・演習・ディスカッション）
10. 3Dプリンタのできることと制作デザイン（実習）
11. 3Dプリンタによる制作のための設計（実習）
12. 3Dプリンタによる制作（実習）
13. 制作物の社会利用についてディスカッション（演習）
14. 社会利用についてのプレゼンテーション（演習）
15. 授業全体のまとめと自己評価

特記事項:

授業方法: 講義・演習・グループディスカッションディスカッション・実習を必要に応じて織り交ぜて行う
毎回，自身の学習についての自己評価を行う
制作はグループ単位で行う
成果物そのものより，なぜその学習を行ったか，どうしてその作品を作ろうとしたかを重視する

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

復習を毎回しておくこと 授業外学習として180分
状況によっては機器の操作方法を予習することもある

評価方法:

授業へのとりくみ:	60 **%**	**確認テスト:**	**%**	**レポート:**	30 **%**
その他1: グループ活動	10 **%**				
その他2:	**%**				

評価基準: 授業への取組：毎回の自己評価を評価の材料とする
レポート：制作レポートおよび倫理的配慮に関するレポート
グループ活動：グループへの参加態度や人の意見を聴こうとしているか

課題へのフィードバック:

毎回の自己評価に関しては次の授業の初めにフィードバックの時間を設ける
レポートに関しては，提出期限後に授業内で時間を取ってフィードバックする

教科書: なし

参考書: 授業内で指示する

授業・準備学習のアドバイス:

復習を中心に学修してほしい
難しいことも多いが，あきらめずに取り組んでほしい
周りの人からの意見を聴けるようになってほしい
この授業そのもので得るものは少ないが，この授業の中から得るものが多くなるよう努力してほしい

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 理科観察・実験

クラス:

授業コード: DA74300001

担当者: 有道 俊雄 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立中学校主幹教諭・教諭、公立高等学校非常勤講師

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: ・児童が分かりやすく楽しい自然観察や実験を行うために必要な指導技術や知識、理科室経営の方法等を学ぶ。
・1年後に教壇に立つことを想定し、教科教育法理科の学びを発展させ、より高度で実践的な観察実験や模擬授業を行う。
・理科クラブの活動等においても活用できる発展的な実験や観察、ものづくり等のノウハウを身につける。
・学習指導要領に基づいて、理科の目標や各学年の指導内容等の確認を行い、小学校教員に求められる実践的な知識、技術等を身につける。

到達目標: 1. 自然科学への興味関心を育てる理科実験・自然観察の技術を活用することができる
2. 児童にとって興味を持って取り組める楽しい教材・教具を工夫し、授業で活用することができる

各回の授業計画:

1. オリエンテーション・野外観察①
＜実習:野草の観察・植物標本づくり＞
2. 野外観察②(野草を中心に)＜実習:植物標本づくり、野草のてんぷら＞
3. 野外観察③(樹木を中心に)植物の栽培と観察、動物の飼育と観察＜実習:樹木の同定、ヨモギ餅＞
4. 有機化合物、砂糖の溶解と融解
教員採用試験と理科(一般教養対策)
＜実験:べっこう飴・カルメ焼き＞
5. 水溶液の性質(酸とアルカリ)＜実習:紫キャベツ指示薬・缶詰ミカンをつくる＞
教員採用試験と理科(小学校専門教科対策①)
6. 水溶液の性質(酸とアルカリ)＜実習:葉脈標本づくり・ラムネ菓子＞
教員採用試験と理科(小学校専門教科対策②)
7. 動物の分類・体のつくり＜実習:アジ・イワシの解剖～体のつくり・内臓の観察＞
教員採用試験と理科(小学校専門教科対策③)
8. 水溶液の性質(酸とアルカリ)③＜実習:梅干しづくり・紫蘇ジュース＞
教員採用試験と理科(小学校専門教科対策④)
9. 動物の分類・体のつくり②＜実習:イカの解剖～体のつくり・内臓の観察＞
教員採用試験と理科(小学校専門教科対策⑤)
10. 流水のはたらきと地層の堆積＜実習:流水のはたらき・地層堆積実験＞
教員採用試験と理科(小学校専門教科対策⑥)
11. 小学生向け「おもしろ理科実験」＜実習:スライム・スーパーボール・シャボン玉＞
教員採用試験と理科(理科の模擬授業対策①)
12. 水中の微生物の観察と飼育、細胞の観察＜実習:ミジンコ、ゾウリムシ、植物プランクトン＞
教員採用試験と理科(理科の模擬授業対策①)
13. 物質の状態変化＜実習:ガラス細工、アイスクリーム作り＞
教員採用試験と理科(理科の模擬授業対策③)
14. 動物の分類・体のつくり③＜実習:ニワトリの解剖～手羽先、心臓と肝臓＞
教員採用試験に向けて(直前対策)
15. 動物の分類・体のつくり④＜実習:タコの解剖＞
教員採用試験に向けて(直前対策)

特記事項: なし

授業方法: 以下の方法で授業を行う。
・観察、実験(2～5人のグループワークとして実施する)
教員採用試験に向けた復習
・2年理科、3年教科教育法理科の復習(小学校専門教科)
・教採対策問題演習(一般教養)
原則として、全ての授業を対面で行います。

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. オリエンテーション＋野外観察① 課題レポートの作成と予習（180分）
2. 野外観察②（野草を中心に）＋実習 課題レポートの作成と予習（180分）
3. 野外観察③（樹木を中心に）＋実習 課題レポートの作成と予習（180分）
4. 有機化合物、砂糖の溶解と融解＋実習 課題レポートの作成と予習（180分）
5. 水溶液の性質（酸とアルカリ）①＋実習 課題レポートの作成と予習（180分）
6. 水溶液の性質（酸とアルカリ）②＋実習 課題レポートの作成と予習（180分）
7. 動物の分類・体のつくり①＋実習 課題レポートの作成と予習（180分）
8. 水溶液の性質（酸とアルカリ）③＋実習 課題レポートの作成と予習（180分）
9. 動物の分類・体のつくり②＋実習 課題レポートの作成と予習（180分）
10. 流水のはたらきと地層の堆積＋実習 課題レポートの作成と予習（180分）
11. 小学生向け「おもしろ理科実験」＋実習 課題レポートの作成と予習（180分）
12. 水中の微生物の観察と飼育＋実習 課題レポートの作成と予習（180分）
13. 物質の状態変化＋実習 課題レポートの作成と予習（180分）
14. 動物の分類・体のつくり③＋実習 課題レポートの作成と予習（180分）
15. 動物の分類・体のつくり④＋実習 課題レポートの作成と予習（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	70 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	30 **%**
その他1：			**%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

（最低限の到達度 60点～69点）
科学の概念・法則の基礎を理解している。
（標準的な到達度 70点～79点）
科学の概念・法則の基礎を深く理解し、地球史の基礎知識の身につけ、観察・実験を行い、その結果の考察をすることができる。
（望ましい到達度 80点～100点）
科学の概念・法則を高いレベルで理解し、地球史の基礎知識の身につけ、観察・実験を行い、その結果の深く考察をすることができる。

課題へのフィードバック：

毎回の授業レポートは、Formsへの回答をもって提出とする。Teamsでフィードバックで行う。

教科書： 教科教育法理科で使用した「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 理科編」（平成29年7月）文部科学省（東洋館出版、111円＋税）

参考書： 平成29年版「新学習指導要領の展開 理科編」（明治図書、1800円+税）

授業・準備学習のアドバイス：

・小学校の教員が理科の面白さを理解し、理科に対する苦手意識を払拭することはとても重要です。
・楽しく、わかりやすい理科の授業を行うためには、実験や観察がとても重要です。その指導技術を身につけること、自作の教材・教具をもっていることは貴重な財産となります。
・この時期に理科の授業づくり、観察実験の手法を学習することは、採用試験に向けた良い振り返りになります。
・教員採用試験を目前に控えた時期でもあるので、毎回少しずつですが、一般教養対策（ローカル問題、科学ニュースなど）、小学校専門教科対策（問題演習）を行います。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 小中一貫教育(算数・数学)

クラス:

授業コード: DA74400001

担当者: 堤 康嘉 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:高等学校教諭(数学)

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 小学校の算数と中学校の数学の教材研究と学習指導法を学んでゆき、各領域の重要なテーマを扱いながら実践的に進める。

到達目標: 小学校の算数と中学校の数学における教材研究と学習指導法研究をテーマとし、実践的指導力を身に付けることである。

各回の授業計画:

1. 受講者の経験・教える立場での留意点・疑問点
2. 小学校、中学校数学の系統的理解
3. 授業法 教材研究 模擬授業の観点の理解と情報機器の活用
4. 数と計算の指導 (整数、小数、分数、正・負の数)
5. 数と計算の指導 (文字式)
6. 数と式計算の指導 (平方根)
7. 図形の指導 (平面図形 合同な関係)
8. 図形の指導(平面図形 相似な関係)
9. 図形の指導 (平面図形 四角形)
10. 図形の指導 (立体)
11. 測定の指導
12. 変化と関係の指導 (比例・反比例、速さ、割合)
13. 変化と関係の指導 (1次関数と2乗に比例する関数)
14. データの活用の指導 (グラフ、資料の整理)
15. まとめ(今までの授業をとおして算数・数学教育を振り返る)

特記事項: なし

授業方法: 講義と演習を, 受講者が主体性を発揮できるように, グループワークやグループディスカッション等を交えて行う。また, 各授業の資料は Teams にアップロードしておくので授業の復習にも役立ててもらいたい。全て対面で行う。
第1～5回 講義、グループワーク
第6回～15回 演習、グループワーク

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. それぞれの立場での留意点・疑問点のまとめ(180分)
2. 小学校、中学校の系統的理解(180分)
3. 授業法 教材研究 模擬授業の観点の理解(180分)
4. 数と計算の指導(整数、小数、分数、正・負の数)の課題(180分)
5. 数と計算の指導(文字式)の課題(180分)
6. 数と計算の指導(平方根)の予習と復習(180分)
7. 図形の指導(平面図形 合同)の予習と復習(180分)
8. 図形の指導(平面図形 相似)の予習と復習(180分)
9. 図形の指導(平面図形 四角形)の予習と復習(180分)
10. 図形の指導(立体図形)の予習と復習(180分)
11. 測定の指導(180分)の予習と復習
12. 変化と関係の指導(比例・反比例)の予習と復習(180分)
13. 変化と関係の指導(1次関数と2乗に比例する関数) の予習と復習(180分)
14. データの活用の指導(180分)の予習と復習
15. 算数・ 数学教育を振り返るための課題(180分)

評価方法：	授業へのとりくみ：	30 %	確認テスト：	50 %	レポート：	20 %
	その他1：			%		
	その他2：			%		

評価基準：
1. 授業へのとりくみ（関心，意欲，態度）
2. 確認テストによる基礎的な事項の理解と記述による表現力
3. レポートによる表現力
上記の1，2，3の内容を総合的に判断し，得点化する。

・最低限の到達度（60～69点）
授業について概ね理解し，授業の取り組みや授業での課題レポートを解決することができる。
・標準的な到達度（70～79点）
授業について理解し，授業の取り組みや授業での課題レポートを解決することができる。
・望ましい到達度（80～100点）
授業について十分理解し，授業の取り組みや授業での課題レポートを率先して解決することができる。

課題へのフィードバック：
1. 授業へのとりくみは、授業態度と参加意欲、発表の内容により判断する。
2. 確認試験およびレポートについては，採点後に返却し，学習状況,到達状況等を確認する。

教科書： 授業配布プリント

参考書： 小学校学習指導要領解説 算数 （日本文教出版）(2018年3月)
中学校学習指導要領解説 数学編（日本文教出版）（2018年3月）

授業・準備学習のアドバイス：
授業のはじめに前回授業の内容の復習の小テストやレポート提出を実施する。代数、幾何、解析などの数学の授業も積極的に受講していくことを望む。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 海外芸術・教育研修

クラス: 教

授業コード: DA74600001

担当者: 森 眞理 **単位数:** 3

科目に関連した実務経験: 実務経験有:幼稚園教諭(日米・私立)、幼稚園園長(日・私立)、日本語補習校(米・幼児部・初等部)

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: イタリアの歴史・文化・芸術・教育全般と乳幼児教育/保育・食育について学び、現地を訪れて研修を受けることや実習することにより、国際的な視野で生活や教育・保育を捉え、多様性を育み、豊かな感性を磨く。

到達目標:
1. イタリアの歴史と文化を知り、理解を深める。
2. イタリアの芸術(音楽・美術・食・児童文学)を味わい、生活との関係性を理解する。
3. イタリアの教育全般と乳幼児教育・保育について知り、理解を深める。
4. レッジョ・エミリアの乳幼児教育について学び、子どもの権利の保障について理解を深める
5. ミラノの幼小一貫教育校で日本文化・教育についてプレゼンテーションを行う。
6. パルマの幼小一貫教育校で日本文化・教育についてプレゼンテーションを行う。
7. 文化の多様性を理解し、豊かな感性を育む。

各回の授業計画:

1. イントロダクション:海外芸術・教育研修の意味と意義・履修生の分かち合い
2. イタリア語基礎会話:イタリアの子どもの歌(童謡から)や絵本から学ぶ
3. イタリアのアートの世界との出会いと対話する(その1)美術の世界(古代ローマ、ルネッサンス、現代アート)
4. イタリアのアートの世界との出会いと対話する(その2)食の世界
5. イタリアのアートの世界との出会いと対話する(その3)音楽の世界(クラシック・カンツォーネ、モダン)
6. イタリアの教育との対話(その1)教育概要:歴史・社会・制度、アガッツィ姉妹、モンテッソーリ
7. イタリアの教育との対話(その2)レッジョ・エミリアの乳幼児教育:歴史・文化・哲学・街
8. イタリアの教育との対話(その3)レッジョ・エミリアの乳幼児教育:子どもたちの100の言葉、幼児学校、乳児保育所
9. イタリアの教育との対話(その4)レッジョ・エミリアの乳幼児教育:アトリエ
10. イタリアの教育との対話(その5)幼小一貫教育:ミラノ・レジーナ・ムンディ幼小一貫教育校、(マリア・モンテッソーリ教育認可幼小一貫校)
11. イタリアの教育との対話(その6)幼小一貫教育:パルマ・ムナーリ幼小一貫校
12. 実地研修に向けて(その1)概要を理解する
13. 実地研修に向けて(その2)危機管理セミナー
14. 実地研修に向けて(その3)最終打ち合わせ
15. 振り返りと展望

特記事項: (授業方法)DVD、CD、ビデオ等を活用した鑑賞と講義、対話(イタリアとのオンラインを含む)による授業

授業方法:
1. 講義・ディスカッション
2. 講義・ディスカッション
3. 講義・ディスカッション
4. 講義・ディスカッション
5. 講義・ディスカッション
6. 講義・ディスカッション
7. 講義・ディスカッション
8. 講義・ディスカッション
9. 講義・ディスカッション
10. 講義。ディスカッション
11. 講義・ディスカッション
12. 講義・ディスカッション
13. 講義・ディスカッション
14. 講義・ディスカッション
15. まとめと振り返り

＊1.〜15.(対面)

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

科目担当教員との対話から、履修者が主体的に取り組むことが期待される。

評価方法：

授業へのとりくみ：	40	**%**	**確認テスト：**	－	**%**	**レポート：**	30 **%**
その他1：	現地における研修への取り組み			30	**%**		
その他2：					**%**		

評価基準： 最低限の到達度：(60~69)

・イタリアの歴史や文化、芸術を理解しようとしている。

・イタリアの教育や乳幼児教育・保育について理解しようしている。

望ましい到達度：(80以上)

・イタリアの歴史や文化、芸術を理解するとともに、日本の文化や芸術の良さも再認識して自分の言葉で表すことができる。

・イタリアの教育や乳幼児教育・保育について理解するとともに、日本の教育や乳幼児教育・保育に生かそうとする。

課題へのフィードバック：

・質問や疑問に対してはその都度対話する。内容によっては履修者全員で共有する。

・海外研修後のレポートの自己評価、並びに教員からの評価をもとに今後の課題について話し合う。

教科書： 適宜指示する。

参考書： イタリアに関する書物（塩野七生、須賀敦子、ヤマザキマリ等による書物）

イタリアに関する映画を観る

イタリアの児童文学・絵本に触れる（ブルーノ・ムナーリ、ジャンニ・ロダーリ等）

レッジョ・エミリアに関する書物・ビデオに触れる

授業・準備学習のアドバイス：

イタリアの芸術や教育・保育に出会い、理解を深めることから、一人ひとりの世界観・子ども観と対話し、生きることの美しさを味わい、日々の生活に活かしていきましょう。実地研修を予定していますが、コロナ禍により難しい場合もありましょう。その際は、オンラインや日本の中でのイタリアを探訪し、想像力を育みたいものです。履修者一人ひとりが本授業の構成者・当事者として参加しましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 海外教育実地研究

クラス: 教

授業コード: DA74700001

担当者: 猪田 裕子 **単位数:** 3

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: ・多文化国家であるカナダの教育の実際に触れる
・カナダでの生活や雄大な自然を体験する
・異文化交流及び多文化教育のあり方について考える

到達目標: ・外国の教員養成の授業参観から、大学で何を学ぶべきか見直す
・外国における多文化教育についての教育現場を見ることで、日本におけるあり方を考えることができる
・日本の教育の優れた点や、改善すべき点について考えることができる
・新しい視点での授業法や教材開発について考えることができる

各回の授業計画:

1. 多文化国家カナダについてのガイダンス①
2. 多文化国家カナダについてのガイダンス②
3. 多文化国家カナダの文化について①
4. 多文化国家カナダの文化について②
5. 多文化国家カナダの教育について①
6. 多文化国家カナダの教育について②
7. Wilkinson Junior Public Schoolについて
8. JICS (Dr. Eric Jackman Institute of Child Study)について
9. Bloorview School Authorityについて
10. Waldorf Academyについて
11. 渡航に関する準備について
12. 渡航に関する注意事項に関して
13. 渡航最終確認
14. 事後指導①
15. 事後指導②

特記事項:

授業方法: 机上での講義やワークショップ、グループディスカッションやゲスト講師による講演等を取り入れながら演習形式で行う。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. カナダに関する予習(100分×3)
(自然・文化・生活等)
・資料作成(100分×3)
・整理と復習(100分×3)

2. カナダの教育に関する予習(100分×2)
・資料作成(100分×2)
・整理と復習(100分×2)

《現地校実習に関して》
・パフォーマンスの構想(200分)
・パフォーマンスの準備(200分)
・パフォーマンスの練習(500分)

実地研究後のプレゼン準備(100分)

実地研究レポート作成(200分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	30	**%**	**確認テスト:**		**%**	**レポート:**	10 **%**
その他1:	実地研究			60	**%**		
その他2:					**%**		

評価基準:

概ねの到達度 (60～69):
現地の歴史、文化、芸術について基本的な理解がある。
現地の教育や乳幼児教育・保育について概要を理解している。

望ましい到達度 (80以上):
現地の歴史、文化、芸術を理解するとともに、自国の文化や芸術の良さも再認識し、自分の言葉で表現できる。
現地の教育や乳幼児教育・保育について理解するとともに、それを自国の教育や乳幼児教育・保育に活かそうとしている。

課題へのフィードバック:

提出されたレポートを評価する

教科書: 適宜資料を配布する

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

「カナダで教育実習できる」というユニークなプログラムは、トロント大学・小学校の先生方の協力とネットワークに支えられ、育まれてきました。
カナダの先進的な教育を学ぶとともに、積極的・意欲的に交流することにチャレンジして下さい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: アジア・パシフィック教育研修

クラス:

授業コード: DA74750001

担当者: 森 眞理 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本科目「アジア・パシフィック教育研修」は、歴史・文化・芸術および教育全般に関する理解を基盤とし、アジアおよびパシフィック地域における教育実践を実地に学ぶことを目的とする。近年、アジア、とりわけ韓国および中国においては、乳幼児教育から初等教育に至るまで多様で特色ある教育実践が展開されており、またパシフィック地域においても、文化や生活と深く結びついた教育の在り方が注目されている。

本研修では、同じ文化圏に位置づけられるアジアおよびパシフィック地域の教育を現地で直接体験し、幼稚園・小学校等の教育現場における研修や見学、現地教員との交流を通して、教育実践の特質や課題を具体的に理解することを目指す。あわせて、現地の文化や生活様式に触れることで、教育と生活の関係を国際的視野から捉える力を養い、異文化理解を深め、多様性を尊重する態度や豊かな感性を培う。

これらの学びを通して、学生が自らの教育観や子ども理解を問い直し、将来の教育実践に活かすことのできる基盤を形成することを、本科目の目的とする。

到達目標: ・アジアおよびパシフィック地域における歴史・文化・芸術と教育との関係について理解し、それらが教育実践に与える影響を具体的に説明できる。
・乳幼児教育および小学校教育の現場における多様な教育実践を把握し、その特徴や背景、共通点・相違点を踏まえて説明できる。
・現地研修や教員との交流を通して、教育と生活の結びつきを国際的視野から捉え、異文化理解および多様性を尊重する態度を身につける。
・研修での体験を省察的に振り返り、自らの教育観や子ども理解を問い直すことで、将来の教育実践に活かすための新たな視点を獲得できる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
科目の目的、到達目標、スケジュール、評価基準について
2. 渡航先（アジア・パシフィック）地域の文化について
3. 渡航先（アジア・パシフィック）地域の教育について
4. 渡航最終確認
5. 事後指導

特記事項: 渡航する地域に関しては、必ず開催年度の説明会に参加し確認すること。

授業方法: 【対面】
講義やワークショップ、グループディスカッションなどを取り入れ、演習形式で実施する。

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

【予習・復讐】
現地の自然・文化・生活に関する予習（100分×3）
現地の自然環境、文化、生活習慣について調査する。資料を作成し、重要なポイントをまとめる。
現地の教育に関する予習（100分×2）

幼児教育や初等教育を中心に、現地の教育制度や特色を調査する。資料を作成し、教育の理念や実践例を整理する。
整理と復習（100分×2）
調査内容を見直し、重要な点を整理して記録する。プレゼンやディスカッションで使用できる資料に仕上げる。

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	10 **%**
その他1：	実地研究		60 **%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

概ねの到達度（60～69）:
現地の歴史、文化、芸術について基本的な理解がある。
現地の教育や乳幼児教育・保育について概要を理解している。

望ましい到達度（80以上）:
現地の歴史、文化、芸術を理解するとともに、自国の文化や芸術の良さも再認識し、自分の言葉で表現できる。
現地の教育や乳幼児教育・保育について理解するとともに、それを自国の教育や乳幼児教育・保育に活かそうとしている。

課題へのフィードバック：

提出された課題には、個別にフィードバックを行う。内容の工夫された点やさらに発展が期待できる部分を共有し、学びを深める機会とする。

教科書： 適宜資料を配布する

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：

本科目は、現地研修を通してアジアおよびパシフィック地域の教育実践を学ぶ実地的な科目である。
研修に先立ち、訪問地域の自然環境、歴史・文化、生活習慣、教育制度や教育実践の特徴について事前に調査し、教育との関連を意識して整理しておくこと。
研修中は、幼稚園・小学校等の教育現場での見学や教員との交流を通して得た気づきや疑問を記録し、教育と生活の結びつきや文化的背景に目を向けて観察すること。
研修後は、体験を振り返り、プレゼンテーションやレポートとしてまとめることを通して、自らの教育観や子ども理解を問い直し、学びを深めることが求められる。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 国際文化概論

クラス: 再履

授業コード: DB00100001

担当者: 梶山 卓司 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:元神戸新聞記者、シンガポール駐在特派員、神戸新聞論説委員長(国際問題担当)

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 世界では昔から、ヒト、モノ、カネが国境を越えて行き交い、反発や融合を繰り返しながら新たな国際文化を育んできました。グローバル社会で活躍するためには何より多角的、多面的な視点を身に付けることが必要となります。本授業では世界各国、各民族固有の文化への理解を深め、多文化共生のあり方について探求します。

到達目標: わたしたちの周辺や世界各地でみられる国際文化の実例を通して、異文化社会の実情をみていきます。それぞれの文化の共通点と違いを理解したうえで、グローバルな視野を持った国際感覚を身につけることを目標とします。

各回の授業計画:

1. はじめに (授業の進め方、国際文化を学ぶ意義など)
2. アジア編① 中国、朝鮮半島(韓国・北朝鮮)
3. アジア編② 東南アジア(その1)シンガポール、マレーシア、タイ
4. アジア編② 東南アジア(その2)インドネシア、ベトナム、カンボジアなど
5. 北米編① アメリカ(その1)成り立ちと現在の姿
6. 北米編② アメリカ(その2)人種のるつぼから多文化共生社会へ
7. 北米編③ アメリカ(その3)日系アメリカ人の歴史文化 ＊1回目の小テスト
8. 南米編 ブラジル(日系ブラジル人の歴史文化を中心に)
9. ヨーロッパ編① 成り立ちと、現在の姿
10. ヨーロッパ編② イギリス、フランスの歴史文化と現在
11. ヨーロッパ編③ ドイツ、イタリアなどの歴史文化と現在
12. 異文化交流編① 世界の華僑・華人社会
13. 異文化交流編② インド系、イタリア系、ユダヤ系など ＊2回目の小テスト
14. 神戸と世界① 港都・神戸と外国社会との交わり(産業、商業活動を中心に)
15. 神戸と世界② 港都・神戸と外国社会との交わり(スポーツ、社会文化などを中心に)

特記事項: (注)授業内容を一部変更する場合があります。
履修留学生には、母国の状況を紹介してもらう機会を授業中に設ける予定です。

授業方法:
1. ガイダンス、講義、簡単な作文
2. 講義、グループ討議
3. 講義、グループ討議
4. 講義、グループ討議
5. 講義、グループ討議
6. 講義、グループ討議
7. 講義、小テスト①
8. テスト結果の確認、講義
9. 講義、グループ討議
10. 講義、グループ討議
11. 講義、グループ討議
12. 講義、グループ討議
13. 講義、小テスト②
14. テスト結果の確認、講義
15. 講義、まとめ

＊すべての授業を対面で行う。
＊最初の授業で全履修生に自らの異文化体験について作文を書いてもらう。次回以降の授業で適宜、異文化体験を発表してもらう。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 国際文化を学ぶ意義を復習(60分)日中韓文化の共通点と違いを調べる(60分)

2. 日中韓文化を復讐（60分）東南アジアの歴史文化を調べてくる（60分）
3. 東南アジア諸国文化を復習（60分）東南アジア各国の歴史文化を調べる（60分）
4. 東南アジア諸国文化を復習（60分）アメリカの成り立ちを調べる（60分）
5. アメリカの歴史文化を復習（60分）アメリカの移民の歴史を調べてくる（60分）
6. 次週のテストに向けた全復習（320分）
7. 小テストの復習（60分）ブラジルなど日系南米人の歴史を調べる（60分）
8. 日経ブラジル人の歴史文化を復習（60分）ヨーロッパ成立の経緯を調べる（60分）
9. ヨーロッパの成り立ちを復習（60分）イギリス、フランスの文化的特徴を調べる（60分）
10. 英仏両国の文化を復習（60分）ドイツ、イタリアなどの文化的特徴を調べる（60分）
11. ドイツ、イタリア文化を復習（60分）世界の華僑・華人社会などについて調べる（60分）
12. 次週のテストに向け、8回目以降の授業を復習（320分）
13. テスト結果の復習確認（60分）神戸と世界のつながりについて調べる（60分）
14. 神戸と世界を結んだ経済的な歴史を復習（60分）神戸と世界を結ぶ文化的なつながりを調べる（60分）
15. 世界の中に神戸の歴史と現在の立ち位置復習（120分）最終レポート作成（500分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	25	**%**	**確認テスト：**	25	**%**	**レポート：**	50 **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準：
「評価方法」の1～2について、以下の基準を満たすことが求められます。
1. 授業への取り組み（授業態度、関心・意欲、発表など）
・受講態度が良く、教師の質問にもしっかりと対応できる（60～79点）
・受講態度が良く、教師の質問にも明確に答え、自分の意見を述べることができる（80～100点）
2. 確認テスト
・各トピックスで学んだことに関して、内容をある程度理解している（60～79点）
・各トピックスで学んだことに関して、内容を十分に理解している（80～100点）

課題へのフィードバック：
・授業の復習を兼ねた小テスト（2回）は授業の中で実施。次の授業時に返却し、講評する。テスト結果は授業への取り組み評価と連動する。
・最終レポートは、提出日の約1か月前に課題を与え、要領を説明する。

教科書： なし。毎回、レジュメをTEAMSで事前送信します。

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：
・少なくとも最初の授業はノートパソコンを持参してください。
・必ず授業に出席し、授業で扱うテーマについて主体的に調べ、自分の意見を持つように心掛けてください。
・まずは、自分の身近な国際文化、異文化交流について見つめ直してください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 国際ボランティア論

クラス: 再履

授業コード: DB00300001

担当者: 坂西　卓郎、吉椿　雅道　　**単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:
〔坂西卓郎〕公益財団法人PHD協会事務局長（途上国の人材育成支援国際NGO）、参加型開発研究所（JICA本邦研修担当）、外務省NGO相談員、国際協力・交流シェハウスみんなのいえ設立者、法務省西日本入管視察員
〔吉椿雅道〕NPO法人CODE海外災害援助市民センター事務局長（阪神・淡路大震災を機に誕生したNPO）、国内の被災地・インドネシア・中国・フィリピン・ネパールなどの被災地で活動

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: ボランティアの歴史、目的、意義から始まって、難民問題や災害、ジェンダーなど幅広い角度から国際ボランティアについて学ぶ。
授業は 、神戸をベースに海外の被災地や途上国への支援を実践する現役の国際ボランティア実践者である2人がリレー方式で進める。現場からの視線に基づいた講義を通して、グローバル時代の国際ボランティアについての実践的理論と知識を修得する。
また初日と二日目は現場でのフィールドワークを行い、現場でのボランティア、実践を通じて深く学ぶ。

到達目標: 国際ボランティアの理論と実践の学習を通して、現代社会が直面する自然災害や南北格差、貧困問題などの事例と支援の在り方について学びます。国際社会で生きる上での共生力を身につけることを目指します。

各回の授業計画:

1. 国際協力概論（国際協力の分野、目的など）（坂西）
2. フィールドワーク演習 （フィールドワークの解説、役割の確認など）（坂西）
3. フィールドワーク（多文化共生のための国際理解・開発教育セミナー）（坂西）
4. フィールドワーク（多文化共生のための国際理解・開発教育セミナー）（坂西）
5. フィールドワーク（多文化共生のための国際理解・開発教育セミナー）（坂西）
6. 世界の難民問題 （坂西）
7. 日本の難民問題と在留資格 （坂西）
8. フィールドワーク（多文化共生のための国際理解・開発教育セミナー）（坂西）
9. フィールドワーク（多文化共生のための国際理解・開発教育セミナー）（坂西）
10. フィールドワーク（多文化共生のための国際理解・開発教育セミナー）（坂西）
11. ボランティアとNGO（起源、歴史、意義など）（吉椿）
12. 異文化と援助(異文化理解の本質と災害援助のつながり)（吉椿）
13. 災害フィールドワーク(写真で被災地フィールドワーク)（吉椿）
14. 災害とSDGs（持続可能な開発目標）（吉椿）
15. 国際協力と若者（災害現場での若者の存在意義など）（吉椿）

特記事項: （注）授業内容を一部変更する場合があります。

授業方法:
1.【対面】講義、ワークショップ
2.【対面】講義、ディスカッション
3.【対面】フィールドワーク、ディスカッション
4.【対面】フィールドワーク、ディスカッション
5.【対面】フィールドワーク、ディスカッション
6.【対面】講義、ディスカッション
7.【対面】講義、ディスカッション
8.【対面】フィールドワーク、ディスカッション
9.【対面】フィールドワーク、ディスカッション
10.【対面】フィールドワーク、ディスカッション
11.【対面】講義、ディスカッション
12.【対面】 講義、ディスカッション
13.【対面】講義、ディスカッション
14.【対面】 講義、ワークショップ
15.【対面】講義、ディスカッション

＊オンライン授業になった場合は、授業方法を一部変更する場合があります。

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. 国際ボランティア論を学ぶ意義を復習（100分）国際協力の事前調査（100分）
2. 国際協力の分野別目的を復習（100分）ボランティアについて事前調査（100分）
3. ボランティアの歴史と意義を復習（100分）世界の難民問題の事前調査（100分）
4. 世界の難民問題を復習（120分）日本の難民問題について事前調査（120分）
5. 日本の難民問題を復習（120分）国際協力、多文化共生について事前調査（120分）
6. 日本の入管について事前調査（120分）
7. 日本の入管収容について復習（120分）防災について事前調査（120分）
8. NGOの役割と存在意義を復習（120分）
9. 異文化理解と援助とのかかわりを復習（120分）
10. SDGsと災害を復習（120分）異文化理解の事前調査（120分）
11. 若者がかかわる国際協力の意義を復習（120分）SDGsの事前調査（120分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	50 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	講義ごとに感想レポートを提出	50 **%**			
その他2：		**%**			

評価基準：

<最低限の到達度（60～69点）>
・授業への取り組み　授業をよく聞き、ディスカッションに参加している。
・感想レポート　毎回、授業について概ね理解し、感想をかけている。

＜望ましい到達度（80～100点）＞
・授業への取り組み　授業をよく聞き、ディスカッションで自分の考えを発表している。
・感想レポート　授業の内容を十分に理解し、自分の考えを含めてレポートが書けている。

＊講師2人がそれぞれ評価し、最終的に坂西が各講師の評価を踏まえたうえで総合的に判断する。

課題へのフィードバック：

毎回、授業の最後に講義の感想レポートを書き、提出してもらう。

教科書： なし。必要に応じて資料配布。

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：

・日ごろから世界各地で発生している人道問題や自然災害などに関心を持ち、ボランティアとして 参加するにはどうすればよいか、について考えるようにする。
・社会で起きていることを、自分の問題に置きかえて考えること。
・テストはしない。何より授業に積極的に参加すること。
・集中講義という特性を生かし、現場でのフィールドワークを行う。フィールドでのボランティア、出会いを通じて学ぶので、積極的に参加すること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 情報とコミュニケーション

クラス: 国

授業コード: DB00400001

担当者: 河野 泉 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: コミュニケーションとは、送り手と、受け手の間で情報をやり取りすることである。人と人とのコミュニケーションは古来から行われているが、ICTの進展によりコミュニケーションの形態は大きく変わってきている。本授業では、コミュニケーション形態の変遷を調べメリット・デメリットを考えることでICTの進展とコミュニケーションの関係を理解する。また、ICTを活用したオンラインコミュニケーションを通して、グループのスケジュール調整、情報収集と整理、資料の共同作成を行って課題解決に取り組む。

到達目標: 1. ICTの進展に伴うコミュニケーションの変遷について理解する。
2. 他者とのコミュニケーションにICTを活用して、グループワークや課題解決に取り組むことができる。
3. スマホ、パソコン、各種アプリなどを、情報収集整理・問題設定・グループ発表など様々な場面に応じて使い分けながら、課題解決に取り組める。

各回の授業計画:

01. ガイダンス、チームビルディング
02. ピクトグラムについて（1）講義、グループワーク
03. ピクトグラムについて（2）講義、グループワーク
04. ICTの進展とコミュニケーション（1）講義
05. ICTの進展とコミュニケーション（2）グループワーク
06. ICTの進展とコミュニケーション（3）グループワーク
07. ICTの進展とコミュニケーション（4）ディスカッション
08. オンライン会議
09. ICTスキルの必要性(1):資料の共同編集
10. ICTスキルの必要性(2):発表、作業記録のつけ方、個人課題
11. ICTスキルの必要性(3):ディスカッション
12. ICTスキルの必要性(4):資料作成（個人）
13. ICTスキルの必要性(5):資料作成（グループ）
14. ICTスキルの必要性(6):発表
15. まとめ

特記事項: なし

授業方法: ＊授業は対面とオンラインで実施する
対面:第1～7、10、14、15回
オンライン（オンデマンド）:第8～9、11～13回

1. ガイダンス、講義
2. グループワーク
3. 講義、グループワーク
4. グループワーク
5. 講義、グループワーク
6. 発表
7. 講義、グループワーク
8. オンライングループワーク
9. オンライングループワーク
10. 演習（調査）
11. オンライングループワーク
12. 演習（資料作成）
13. オンライングループワーク
14. 発表

15. 発表

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. 課題 180分
2. 課題 180分
3. グループワーク続き 180分
4. グループワーク続き 180分
5. グループワーク続き 180分
6. グループワーク続き 180分
7. グループワーク続き 180分
8. グループワーク続き 180分
9. グループワーク続き 180分
10. 課題 180分
11. グループワーク続き 180分
12. 課題 180分
13. グループワーク続き 180分
14. 課題 180分
15. 全体を通して復習 180分

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	− **%**	**レポート：**	− **%**
その他1：	課題に対する発表・成果物		50 **%**		
その他2：	グループへの貢献度		20 **%**		

評価基準：

1. 授業への取り組み
授業の各トピックの内容について、基本的な関心があり理解しようとしている（60～69点）
授業内の各トピックの内容について積極的に理解しようとし、また個人・グループでの課題に対して能動的に取りむことができる（80～100点）
2. 課題に対する発表・成果物
与えられた課題の条件に即した発表、成果物を作成できている（60～69点）
与えられた課題の条件を自分またはグループで十分に検討理解し、学習した内容を複合的に用いた成果物を作成でき、また効果的な発表を行うことができる（80～100点）
3. グループへの貢献度
グループワークで与えられた役割を果たしている（60～69点）
グループワークにおいて役割を果たすだけでなく、他の学生と積極的に議論し、グループをまとめている （80～100点）

課題へのフィードバック：

授業内でのグループワーク中のアドバイスを含んだフィードバック
授業内での個人発表に対する講評によるフィードバック
授業内でのグループ発表に対する講評によるフィードバック

教科書： なし

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：

授業内でパソコンを使用

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 情報とコミュニケーション

クラス: 心

授業コード: DB00400002

担当者: 河野 泉 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: コミュニケーションとは、送り手と、受け手の間で情報をやり取りすることである。人と人とのコミュニケーションは古来から行われているが、ICTの進展によりコミュニケーションの形態は大きく変わってきている。本授業では、コミュニケーション形態の変遷を調べメリット・デメリットを考えることでICTの進展とコミュニケーションの関係を理解する。また、ICTを活用したオンラインコミュニケーションを通して、グループのスケジュール調整、情報収集と整理、資料の共同作成を行って課題解決に取り組む。

到達目標: 1. ICTの進展に伴うコミュニケーションの変遷について理解する。
2. 他者とのコミュニケーションにICTを活用して、グループワークや課題解決に取り組むことができる。
3. スマホ、パソコン、各種アプリなどを、情報収集整理・問題設定・グループ発表など様々な場面に応じて使い分けながら、課題解決に取り組める。

各回の授業計画:

01. ガイダンス、チームビルディング
02. ピクトグラムについて（1）講義、グループワーク
03. ピクトグラムについて（2）講義、グループワーク
04. ICTの進展とコミュニケーション（1）講義
05. ICTの進展とコミュニケーション（2）グループワーク
06. ICTの進展とコミュニケーション（3）グループワーク
07. ICTの進展とコミュニケーション（4）ディスカッション
08. オンライン会議
09. ICTスキルの必要性(1):資料の共同編集
10. ICTスキルの必要性(2):発表、作業記録のつけ方、個人課題
11. ICTスキルの必要性(3):ディスカッション
12. ICTスキルの必要性(4):資料作成（個人）
13. ICTスキルの必要性(5):資料作成（グループ）
14. ICTスキルの必要性(6):発表
15. まとめ

特記事項: なし

授業方法: ＊授業は対面とオンラインで実施する
対面:第1～7、10、14、15回
オンライン（オンデマンド）:第8～9、11～13回

1. ガイダンス、講義
2. グループワーク
3. 講義、グループワーク
4. グループワーク
5. 講義、グループワーク
6. 発表
7. 講義、グループワーク
8. オンライングループワーク
9. オンライングループワーク
10. 演習（調査）
11. オンライングループワーク
12. 演習（資料作成）
13. オンライングループワーク
14. 発表

15. 発表

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. 課題 180分
2. 課題 180分
3. グループワーク続き 180分
4. グループワーク続き 180分
5. グループワーク続き 180分
6. グループワーク続き 180分
7. グループワーク続き 180分
8. グループワーク続き 180分
9. グループワーク続き 180分
10. 課題 180分
11. グループワーク続き 180分
12. 課題 180分
13. グループワーク続き 180分
14. 課題 180分
15. 全体を通して復習 180分

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	− **%**	**レポート：**	− **%**
その他1：	課題に対する発表・成果物		50 **%**		
その他2：	グループへの貢献度		20 **%**		

評価基準：

1. 授業への取り組み
授業の各トピックの内容について、基本的な関心があり理解しようとしている（60～69点）
授業内の各トピックの内容について積極的に理解しようとし、また個人・グループでの課題に対して能動的に取りむことができる（80～100点）
2. 課題に対する発表・成果物
与えられた課題の条件に即した発表、成果物を作成できている（60～69点）
与えられた課題の条件を自分またはグループで十分に検討理解し、学習した内容を複合的に用いた成果物を作成でき、また効果的な発表を行うことができる（80～100点）
3. グループへの貢献度
グループワークで与えられた役割を果たしている（60～69点）
グループワークにおいて役割を果たすだけでなく、他の学生と積極的に議論し、グループをまとめている （80～100点）

課題へのフィードバック：

授業内でのグループワーク中のアドバイスを含んだフィードバック
授業内での個人発表に対する講評によるフィードバック
授業内でのグループ発表に対する講評によるフィードバック

教科書： なし

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：

授業内でパソコンを使用

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 日本文化史

クラス:

授業コード: DB00500001

担当者: 大村 誠一郎 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 有史以来外国の文物を受け入れ、多大な影響を受けつつ独自の発達を遂げてきた日本文化。その全体像を体系的に述べることは無理ですが、伝統的なものの根幹である近代以前を中心に、日本文化の理解に欠かせない神祇信仰と仏教について、当時の文献資料等を通じて見て行きます。前近代の時代にあっては宗教はすべての人々の世界観や生き方に大きな影響を与えていること、宗教が力を持つには寺院・神社が欠かせないこと、国家と宗教には大きなかかわりがあったことを実感してもらえれば、と思います。

到達目標: 日本の文化の基礎にあるものの考え方や、日本の文化の特徴(この授業では神祇信仰と仏教)について基礎的な知識を身につけてもらいたいと考えています。

各回の授業計画:

1. 導入 現代日本における宗教。仏教と神道について
・外国の人に「あなたの宗教は」と聞かれた時どう答えるのかを窓口に、個人のアイデンティティーと宗教について考える。
・日本における習慣の中の宗教について考える。
・日本における、仏教、神道に由来する文化遺産について。

2. 日本固有の宗教、神祇信仰について
・仏教渡来以前の神祇信仰
・記紀神話から神による国土創造と神々の系譜、天皇に至る神統について

3. 仏教伝来と神祇信仰、ならびに飛鳥時代の仏教
・仏教は外来のカミとして朝廷に受け入れられたこと
・仏教と神祇信仰との葛藤は政権における力争いに付随すること
・飛鳥時代の仏教の文化遺産について

4. 奈良時代の仏教1
・人々の信仰と世界観
・国家の仏教
・南都六宗と学問

5. 奈良時代の仏教2
・仏教の文化
・神社による国家祭祀体制の確立
・神仏習合1
・人々の信仰の姿――『日本霊異記』説話から

6. 平安時代の仏教1
・神仏習合2
・平安初期の国家による仏教政策
・空海と密教

7. 平安時代の仏教2
・古代、中世における密教の力
・浄土教信仰の展開

8. 平安時代の仏教3
・最澄と天台宗
・天台宗と浄土思想、ならびに悉皆成仏の思想
・八宗体制の確立

9. 平安時代の仏教4
・源信『往生要集』
・天台宗と極楽往生

10. 平安から鎌倉へ
・説話集の説話から見た庶民の信仰
・国家と仏教――八宗による顕密体制
・聖の活動と念仏結社

11. 平安から鎌倉へ2 法然と浄土宗
・法然の教え――易行、他力の仏教の革新的な意味
・顕密体制と新しい仏教との葛藤

12. 中世の仏教1
・社会の変革と無常観
・親鸞と浄土真宗
13. 中世の仏教2
・日蓮宗
・禅仏教
14. 中世の仏教3
・権門化した八宗――顕密体制の維持～織田信長による破壊
・浄土系新仏教と日蓮宗の団結の力
・その後の仏教（近世）：国家権力による統制と文化装置としての保護により寺院組織は旧仏教（八宗）も新仏教もともに安定的に維持されたこと。寺院と人々は国家権力によって統制される檀家組織によって結びつけられ、すべての人がその中に入ったこと。そして、世界観、他界観、心の平安の拠り所として人々の生活や習慣の中に定着されたこと。
15. まとめと確認テスト

特記事項： なし

授業方法： 対面での講義形式

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1.（復習180分）
2.『古事記』『日本書紀』提示資料の要約。講義内容の復習（予復習180分）
3.『日本書紀』提示資料の要約。講義内容の復習 （予復習180分）
4.『三宝絵』提示資料の要約。講義内容の復習（予復習180分）
5.『日本霊異記』提示資料の要約。講義内容の復習講義内容の復習（予復習180分）
6.『今昔物語集』提示資料の要約。講義内容の復習講義内容の復習（予復習180分）
7.『今昔物語集』提示資料の要約。講義内容の復習講義内容の復習（予復習180分）
8.『今昔物語集』提示資料の要約。講義内容の復習講義内容の復習（予復習180分）
9.『更級日記』『栄花物語』提示資料の要約。講義内容の復習講義内容の復習 （予復習180分）
10.『今昔物語集』『発心集』提示資料の要約。講義内容の復習。講義内容の復習（予復習180分）
11.『選択本願念仏集『法然上人行状絵』提示資料の要約。講義内容の復習』講義内容の復習（予復習180分）
12.『方丈記』『歎異抄』提示資料の要約。講義内容の復習講義内容の復習（予復習180分）
13. 提示資料の要約。講義内容の復習（予復習180分）
14. 提示資料の把握。講義内容の復習（予復習180分）
15. 確認テスト。まとめ（復習180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	30	**%**	**確認テスト：**	40	**%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	授業内容を振り返るミニレポートを3回作成。	30	**%**				
その他2：			**%**				

評価基準： 最低限の到達度（60～69点）
講義で取りあげた事項について、基本的な部分が理解できており、わかりやすく記述できる。
望ましい到達度（80～100点）
講義で取りあげた事項について、十分に理解し、具体例を示しながら詳細に記述できる。

課題へのフィードバック：
提出された課題に対して解説を加える。

教科書： なし

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：
宗教に関する知見を広くしていくという目的意識を持って予復習をしていってください。平安時代、鎌倉時代の文献を資料として使うので古文を読みます。古文を読む力を高める機会にもしてほしい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: TOEIC Ⅰ

クラス:

授業コード: DB00600001

担当者: Mark M.Stapp **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 英語力を重視する業種・企業での英語能力の重要な判断基準となっている、TOEIC対策のための授業です。高等学校までに学んだ英語力を、TOEIC対策を通じて実践的な英語力に高めることが、この授業の目的です。

到達目標: 1. TOEICテストの各Partの特徴を理解し、そこから導き出されるスキルを実際の公開テストやIPテストに応用することができる。
2. TOEICテストの各Partに出る語彙・表現を覚え、それを実際の文章による英語理解に応用することができる。

各回の授業計画:

1.
(1)オリエンテーション(授業の進め方、授業の準備、TOEICテスト概論[TOEICテストの特徴と解説])
(2) TOEIC Pre-Test Part 1~Part 7までの簡易テストを実施

2.
Unit 1 前半(Listening) テーマ:「TOEIC L&R テストの全体像を知る」
(1)Part 1～Part4 Listening解法の説明
(2)Part 1～Part 4 Listening 演習(1)

3.
Unit 1 後半(Reading) テーマ:「TOEIC L&R テストの全体像を知る Part 5, Paet 6は一問20秒のペース」
(1)Part5～Part 7 Reading 解法の説明
(2)Part 5～Part 7 Reading 演習(1)

4.
Unit 2 前半(Listening)テーマ:「人物の動作に注目」
(1)Part 1～Part4 Listening解法の説明
(2)Part 1～Part 4 Listening 演習(2)

5.
Unit 2 後半(Reading)テーマ:「Part 5,6 主語と動詞に着目 Part 7 広告文の構成」
(1)Part5～Part7 Reading 解法の説明
(2)Part 5～Part 7 Reading 演習(2)

6.
Unit 3 前半(Listening)テーマ:「疑問詞を聞き取る」
(1)Part 1～Part4 Listening解法の説明
(2)Part 1～Part 4 Listening 演習(3)

7.
Unit 3 後半(Reading)テーマ:「Part 5,6 目的語と補語に着目 Part 7 Eメールの構成に着目」
(1)Part5～Part7 Reading 解法の説明
(2)Part 5～Part 7 Reading 演習(3)

8.
模擬テスト1TOEIC BRIDGE(中間テストとして実施)
(1)TOEIC BRIDGEの模擬テストを実施
(2)TOEIC 英単語テスト 50題

9.
Unit 4 前半(Listening)テーマ:「物の位置・状態を表す表現を身に付ける」
(1)Part 1～Part4 Listening解法の説明
(2)Part 1～Part 4 Listening 演習(4)

10.
Unit 4 後半(Reading)テーマ:「Part 5,6 語、句、節の形式を知る、 Part 7 チャットの構成に着目」
(1)Part5～Part7 Reading 解法の説明
(2)Part 5～Part 7 Reading 演習(4) Listening Section

11.
Unit 4 前半(Listening)テーマ:「話がかみ合う応答を選ぶ」
(1)Part 1～Part4 Listening 解法の説明
(2)Part 1～Part 4 Listening 演習(5)

12.
Unit 5 後半(Reading)テーマ:「Part 5, 6 名詞の理解 Part 7 告知文を知る」
(1)Part 5～Part7 Reading 解法の説明
(2)Part 1～Part 4 Reading 演習(5)

13.
Unit 6 前半(Listening)テーマ:「設問を先読みする」
(1)Part 1～Part4 Listening 解法の説明
(2)Part 1～Part 4 Listening 演習(6)

14.
Unit 6 後半(Reading)テーマ:「Part 5,6 動詞の変化 Part 7 設問の種類を知る」
(1)Part 5～Part7 Reading 解法の説明
(2)Part 1～Part 4 Reading 演習(6)

15.
模擬テスト2 TOEIC BRIDGE(期末テストとして実施)
(1)TOEIC BRIDGEの模擬テストを実施
(2)TOEIC 英単語テスト 50題

特記事項: テキストは春学期と秋学期で同じものを使用します。(春学期はテキストのUnit 1からUnit 6, 秋学期はUnit 7からUnit 12までを行います。)

授業方法: すべての授業を対面で行います。
1. 単語テスト(毎回20語)テキストから出題(10分)
2. テーマに関するミニ講義(20分)
3. テキストを使った演習(60分)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. シラバスにそって、購入した教材に目を通しておく。(120分)
2. Unitのリスニングパート「解説」の予習と「語彙と表現」の予習(120分)
3. Unitのリーディングパート「解説」の予習と「語彙と表現」の復習(120分)
4. Unitのリスニングパート「解説」の予習と「語彙と表現」の予習(120分)
5. Unitのリーディングパート「解説」の予習と「語彙と表現」の復習(120分)
6. Unitのリスニングパート「解説」の予習と「語彙と表現」の予習(120分)
7. Unitのリーディングパート「解説」の予習と「語彙と表現」の復習(120分)
8. Unit1～Unit3の総復習(120分)
9. Unitのリスニングパート「解説」の予習と「語彙と表現」の予習(120分)
10. Unitのリーディングパート「解説」の予習と「語彙と表現」の復習(120分)
11.Unitのリスニングパート「解説」の予習と「語彙と表現」の予習(120分)
12. Unitのリーディングパート「解説」の予習と「語彙と表現」の復習(120分)
13. Unitのリスニングパート「解説」の予習と「語彙と表現」の予習(120分)
14. Unitのリーディングパート「解説」の予習と「語彙と表現」の復習(120分)
15. Unit4～Unit6の総復習(120分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	50 **%**	**確認テスト:**	30 **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	復習小テスト		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 1. 最低限の到達度(60-69点)
・テキストの各Unitの問題について、きちんと予習がなされている。
・授業で実施の小テストや確認テストで概ね6割～7割の正解ができている。

2. 望ましい到達度(80-100点)
・テキストの各Unitの問題について、予習・復習がしっかりとされており、積極的に問題演習に取り組んでいる。また、授業の進行に関する発言、発表等を意欲的に行っている。
・授業で実施の小テストや確認テストで概ね8割以上の正解ができている。

課題へのフィードバック:

実施した小テスト及び確認テストに「解答と解説」を加える。

教科書: PRIMARY TRAINER FOR THE TOEIC L&R TEST センゲージラーニング株式会社発行

参考書: 別途指示する。

授業・準備学習のアドバイス:

①第8回目と第15回目に確認テストを実施します。
②TOEICは形式と雰囲気に慣れることが何より大切です。

何度も実践的な練習を行い、慣れて下さい。「習うより慣れろ」が通用するのがTOEICテストです。逆に多少の英語力があっても、実践練習を行っていなければ高得点は取れません。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: TOEICⅡ

クラス:

授業コード: DB00700001

担当者: Mark M.Stapp **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 英語力を重視する業種・企業での英語能力の重要な判断基準となっている、TOEIC対策のための授業です。春学期に引き続き、高等学校までに学んだ英語力を、TOEIC対策を通じて実践的な英語力に高めることが、この授業の目的です。

到達目標: 1. TOEICテストの各Partの特徴を理解し、そこから導き出されるスキルを実際の公開テストやIPテストに応用することができる。
2. TOEICテストの各Partに出る語彙・表現を覚え、それを実際の文章による英語理解に応用することができる。

各回の授業計画:

1.
(1)オリエンテーション(授業の進め方、授業の準備、TOEICテスト概論[TOEICテストの特徴と解説])
(2) TOEIC Pre-Test　Part 1~Part 7までの簡易テストを実施

2.
Unit 7 前半(Listening) テーマ:「文脈を意識する」
(1)Part 1～Part4 Listening解法の説明
(2)Part 1～Part 4 Listening 演習(1)

3.
Unit 7 後半(Reading) テーマ:「動詞の変化形の出題パターンを知る」
(1)Part5～Part7 Reading 解法の説明
(2)Part 5～Part 7 Reading 演習(1)

4.
Unit 8 前半(Listening)テーマ:「動名詞とTo不定詞を理解する」
(1)Part 1～Part4 Listening解法の説明
(2)Part 1～Part 4 Listening 演習(2)

5.
Unit 8 後半(Reading)テーマ:「Part5, 6 形容詞と副詞の違い Part7 文脈から正解を導く」
(1)Part5～Part7 Reading 解法の説明
(2)Part 5～Part 7 Reading 演習(2) 5. Unit 10 Reading section

6.
Unit 9 前半(Listening)テーマ:「手紙の特徴を理解する」
(1)Part 1～Part4 Listening解法の説明
(2)Part 1～Part 4 Listening 演習(3)

7.
Unit 9 後半(Reading)テーマ:「Part 5,6 分詞を理解する Part 7 手紙の構成を理解する」
(1)Part5～Part7 Reading 解法の説明
(2)Part 5～Part 7 Reading 演習(3)

8.
模擬テスト1TOEIC BRIDGE(中間テストとして実施)
(1)TOEIC BRIDGEの模擬テストを実施
(2)TOEIC 英単語テスト 50題

9.
Unit 10 前半(Listening)テーマ:「選択疑問文の問題に慣れる」
(1)Part 1～Part4 Listening解法の説明
(2)Part 1～Part 4 Listening 演習(3)

10.
Unit 10 後半(Reading)テーマ:「Part 5,6 代名詞を理解する Part 7 記事の構成に着目」
(1)Part5～Part7 Reading 解法の説明
(2)Part 5～Part 7 Reading 演習(3)

11.
Unit 11 前半(Listening)テーマ:「意図問題を攻略」
(1)Part 1～Part4 Listening解法の説明
(2)Part 1～Part 4 Listening 演習(3)

12.
Unit 11 後半(Reading)テーマ:「Part 5,6 関係代名詞を理解 Part 7 ダブルパッセージの特徴を理解」
(1)Part5～Part7 Reading 解法の説明
(2)Part 5～Part 7 Reading 演習(3)

13.
Unit 12 前半(Listening)テーマ:「グラフィック問題に慣れる」
(1)Part 1～Part4 Listening解法の説明
(2)Part 1～Part 4 Listening 演習(3)

14.
Unit 12 後半(Reading)テーマ:「Part 5,6 関係代名詞の理解 Part 7 トリプルパッセージに挑戦」
(1)Part5～Part7 Reading 解法の説明
(2)Part 5～Part 7 Reading 演習(3)

15.
模擬テスト1 TOEIC BRIDGE(期末テストとして実施)
(1)TOEIC BRIDGEの模擬テストを実施
(2)TOEIC 英単語テスト 50題

特記事項: 上記の順序で進めますが、クラスのレベルおよび進度、担当者の判断によって異なる場合があるので、各授業担当者の指示に従うこと。
テキストは春学期と同じものを使用します。

授業方法: すべての授業を対面で行う。
TOEIC形式の問題演習を中心に、ディスカッションや発表を取り入れながら、能動的な授業活動を行います。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 次回の予習 (45分)
2. 今回の復習と次回の予習 (90分)
3. 今回の復習と次回の予習 (90分)
4. 今回の復習と次回の予習 (90分)
5. 今回の復習と次回の予習 (90分)
6. 今回の復習と次回の予習 (90分)
7. 今回の復習と次回の予習 (90分)
8. 今回の復習と次回の予習 (90分)
9. 今回の復習と次回の予習 (90分)
10. 今回の復習と次回の予習 (90分)
11. 今回の復習と次回の予習 (90分)
12. 今回の復習と次回の予習 (90分)
13. 今回の復習と次回の予習 (90分)
14. 今回の復習と次回の予習 (90分)
15. 今回の予習 (45分)

評価方法:	**授業へのとりくみ:**	50 **%**	**確認テスト:**	30 **%**	**レポート:**	- **%**
	その他1:	復習小テスト		20 **%**		
	その他2:			**%**		

評価基準: 1 最低限の到達度(60-69点)
・テキストの各Unitの問題について、きちんと予習がなされている。
・授業で実施の小テストや確認テストで概ね6割～7割の正解ができている。

2 望ましい到達度(80-100点)
・テキストの各Unitの問題について、予習・復習がしっかりとされており、積極的に問題演習に取り組んでいる。また、授業の進行に関する発言、発表等を意欲的に行っている。
・授業で実施の小テストや確認テストで概ね8割以上の正解ができている。

課題へのフィードバック:
実施した小テスト及び確認テストに「解答と解説」を加える。

教科書: PRIMARY TRAINER FOR THE TOEIC L&R TEST センゲージラーニング株式会社発行(春学期「TOEIC I」と同じ)

参考書: 別途指示する。

授業・準備学習のアドバイス:
①第8回目と第15回目に確認テストを実施します。
②TOEICは形式と雰囲気に慣れることが何より大切です。

何度も実践的な練習を行い、慣れて下さい。「習うより慣れろ」が通用するのがTOEICテストです。
逆に多少の英語力があっても、実践練習を行っていなければ高得点は取れません。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 東アジア文化論

クラス: 再履

授業コード: DB00900001

担当者: 森上 展宏 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 東アジア文化圏の中でも韓国および中国に焦点を当て、思想、言語、ポップカルチャー、国際関係などの観点から、それぞれの社会と文化の特徴を考察する。専門的理論に偏ることなく、具体的事例や現代的話題を通して理解を深める。

到達目標: 東アジア、とりわけ韓国および中国の社会や文化について基礎的な知識を身につけるとともに、
現代社会における文化的特徴や国際的な関係性を多角的に理解する力を養う。

各回の授業計画:

1. ガイダンス / 東アジア文化圏の外観
日本・韓国・中国の文化的共通性と差異

2. 儒教と韓国社会①:思想的背景
儒教の基本概念
韓国社会における儒教の受容
家族観・上下関係への影響

3. 儒教と韓国社会②:現代社会との関係
教育・職場・人間関係における儒教的価値
若者世代とのズレ
現代韓国社会の変化

4. 言語と社会:韓国語と社会構造
敬語体系と社会関係
言語が反映する価値観
日本語との比較

5. K-POPと映画:韓国大衆文化の展開
韓流ブームの背景
国家戦略としての文化政策
国際社会における影響力

6. 南北問題と韓国社会
分断の歴史的経緯
南北問題が社会意識に与える影響
現代韓国における認識

7. 日韓関係の歴史と現代的課題
歴史的背景の整理
相互認識の問題
メディアと世論

8. まとめ(韓国編)・理解度確認
韓国社会・文化の総括

9. 現代中国社会の基礎理解
中国社会の多様性
都市と地方の違い
現代中国を見るための視点

10. 中国の若者文化と価値観
若者世代のライフスタイル
進学・就職・将来感

11. 言語とコミュニケーション:中国語と社会
漢字と思考の関係
直接的・間接的表現
コミュニケーションスタイルの違い

12. メディア・SNSと現代中国
SNSの広がり
オンライン文化
若者の情報接触の特徴

13. 中国における教育と学校生活
学校文化
大学生活の実際
留学生交流の現場
14. 日中の文化的違いと相互理解
価値観・行動様式の違い
誤解が生まれる場面
交流を通した理解の可能性
15. 総まとめ（中国編）・理解度確認
中国文化の特徴整理
東アジア文化としての中国

（注）授業内容を一部変更する場合があります。

特記事項： 授業日程は、8月1日（土）1～5限、8月6日（木）1～5限、8月8日（土）1～5限になります。

授業方法： 【授業は1～5回目、11～15回目は対面で実施、6～10回目はオンライン（オンデマンド）授業を行う】
毎回の各テーマについて
①講義・資料理解
②グループ討議
③発表
④個人の意見をまとめる

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. 予習：日本・韓国・中国の文化的共通性と差異について基礎知識について調べる（120分）
復習：講義内容のまとめ（60分）
2. 予習：儒教と韓国社会：思想的背景ついて調べる（120分）
復習：講義内容のまとめ（60分）
3. 予習：儒教と韓国社会：現代社会との関係について調べる（120分）
復習：講義内容のまとめ（60分）
4. 予習：言語と社会：韓国語と社会構造について調べる（120分）
復習：講義内容のまとめ（60分）
5. 予習：韓国大衆文化の展開について調べる（120分）
復習：講義内容のまとめ（60分）
6. 予習：南北問題と韓国社会について調べる（120分）
復習：講義内容のまとめ（60分）
7. 予習：日韓関係の歴史と現代的課題について調べる（120分）
復習：講義内容のまとめと自分の意見を考察する（60分）
8. 予習：韓国社会・文化の総括をする（120分）
復習：講義内容のまとめ（60分）
9. 予習：現代中国社会について調べる（180分）
復習：講義内容のまとめ（60分）
10. 予習：中国の若者文化と価値観について調べる（120分）
復習：講義内容のまとめ（60分）
11. 予習：言語とコミュニケーション：中国語と社会について調べる（180分）
復習：講義内容のまとめ（60分）
12. 予習：メディア・SNSと現代中国ついて調べる（180分）
復習：講義内容のまとめ（60分）
13. 予習：中国における教育と学校生活について調べる（180分）
復習：講義内容のまとめ（60分）
14. 予習：日中の文化的違いと相互理解について調べる（180分）
復習：講義内容のまとめ（60分）
15. 予習：中国文化について学んだことをまとめる（180分）
復習：講義内容のまとめ（60分）

評価方法：	**授業へのとりくみ：**	60 **%**	**確認テスト：**	20 **%**	**レポート：**	20 **%**
	その他1：			**%**		
	その他2：			**%**		

評価基準： 1．授業内課題
・文化を捉える用語を正確に使い、説明することができる。（60～69）
・韓国・中国の社会・文化を自国のそれと比較しながら適切に説明することができる。（70～79）
・文化的事象を広い視点で捉え、自分の意見としてまとめて述べることができる。（80～100）

上記の項目を綜合的に評価する。

課題へのフィードバック：

・授業内でのグループ討議・発表に対してはフィードバックします。
・毎回の「自分の意見のまとめ」は、評価して返却します。

教科書: 授業内で資料を提示します。

参考書: 授業内で資料を提示します。

授業・準備学習のアドバイス:

韓国・中国の文化を取り上げますが、課題では自国の文化との比較が求められます。
自国の文化について関心を持って課題に取り組んでほしいです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 国際文化基礎演習Ⅰ

クラス: 再履

授業コード: DB05000001

担当者: 小山 智久 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 日本語を用いて「口語自由詩を作る」、「短歌・俳句を作る」、「キャッチコピーを作る」という表現体験を通して、自分の言葉で他人と分かち合えるように、言葉を磨き上げるセンスを学ぶ。

到達目標:
1. 口語自由詩・短歌・俳句の歴史や作法を理解し、自分でも作れるようになる。
2. アピールしたい内容を端的に的確なキャッチコピーにして表現できる。
3. 他人の創作を理解し、建設的な批評をすることができる。

各回の授業計画:

1. (短詩型文学1)本授業授業計画説明、口語自由詩、短歌、俳句の歴史と現況
2. (短詩型文学2)いくつかの口語自由詩の解説、鑑賞
3. (短詩型文学3)口語自由詩の創作
4. (短詩型文学4)口語自由詩の創作と合評
5. (短詩型文学5)近代以降の短歌の解説、鑑賞(小山)
6. (短詩型文学6)短歌の創作
7. (短詩型文学7)短歌の創作と合評
8. (短詩型文学8)現代俳句の解説、鑑賞
9. (短詩型文学9)俳句の創作
10. (短詩型文学10)俳句の創作と合評(小山)
11. (短詩型文学11)口語自由詩、短歌、俳句の発表と相互評価
12. (キャッチコピー1)キャッチコピーの形式と表現効果
13. (キャッチコピー2)メンバーが同じテーマでキャッチコピーを作り 互いの作品を評価しあう。
14. (キャッチコピー3)前時とは異なるテーマでキャッチコピーを作り 互いの作品を評価しあう。
15. (キャッチコピー4)創作したキャッチコピーの合評

特記事項: この授業ではA、Bの二クラスに分けて実施する。短歌・俳句に関する授業(7回小

授業方法:
1.【対面】講義・演習形式
2.【対面】演習形式
3.【対面】 演習形式
4.【対面】 演習形式
5.【対面】演習形式
6.【対面】演習形式
7.【対面】演習形式
8.【対面】講義・演習形式
9.【対面】演習形式
10.【対面】演習形式
11.【対面】演習形式
12.【対面】 演習形式
13.【対面】演習形式
14.【対面】演習形式
15.【対面】講義・演習形式(2クラス合同)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

各テーマについては以下のような時間数を目安に予習復習を行うこと。
・短歌・俳句1～7:古典作品の俳句・短歌、現代短歌・俳句を数多く読むこと。短歌・俳句を作ること。(各180分)
・ビブリオトーク1～7:ビブリオトークで取り上げる本を読み、その良さを読書感想カードにまとめること。(各180分)
・短歌・俳句合同:他の人の短歌・俳句(自作も含む)で良かったものをとりあげた振り返りレポートの作成(90分)

・ビブリオトーク合同：他の人のビブリオトークで印象に残ったものを取り上げた振り返りレポートの作成（90分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	10	**%**	**確認テスト：**	－	**%**	**レポート：**	30 **%**
その他1：	毎回の作品と振り返りレポート			60	**%**		
その他2：					**%**		

評価基準：

指定された課題を毎回提出しているか（各テーマごとに20点）
80%～100%：指定された課題を提出し、振り返りの内容も十分である。
60%～79%：指定された課題を提出しているが、振り返りの内容が不十分である。
0%～59%：指定された課題の提出が不十分である。

各テーマの振る返りレポート（各テーマごとに10点）
90%～100%：自分の作品への総括と、他の人の作品について評価が的確である。
80%～89%：自分の作品への総括のみならず他の人の作品について言及している。
60%～79%：自分の作品の総括は的確だが、他の人の作品への言及が不十分である。
0%～59%：自分の作品の総括が不十分である。

課題へのフィードバック：

振り返りレポートについてはコメントし返却します。

教科書： 使用しない

参考書： 授業内で紹介する

授業・準備学習のアドバイス：

自分の思いを言葉にして、それをさらに工夫して、相手の心に届くようにする、そのような体験ができる演習です。教員からの評価も重要ですが、それよりも、学生相互の評価をもとに言葉を磨き上げてください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 国際文化基礎演習Ⅱ

クラス: 再履

授業コード: DB05100001

担当者: 大村 誠一郎 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 多文化交流と多文化理解、及び協働学習での学びの体験を目的に、国際文化（総合文化学科）基礎演習Ⅱを開講する。演習では、次のようなグループ発表を課す。

【Ⅰ部】

グループに分かれて、日本、韓国、中国、ベトナム、ネーパルといった国・地域の文化・社会をさまざまな観点で取り上げて比較・分析し、発表のための準備を重ねる。最後に、映像や図、統計資料などを効果的に使ったパワーポイントのスライドを作成して、多文化比較研究の発表コンペティションを行う。

【Ⅱ部】

II部では、外国語としての日本語や若者言葉、方言を取り上げながら、文化、価値観、コミュニケーションをキーワードにして「言語」への理解を深める。最後に、グループ毎にテーマを設定し、それに関して調査し、資料を集めて分析する。そして、I部と同様に発表コンペティションを行う。

到達目標: 多文化体験に加え、多文化比較研究の方法を身につける。また、協働学習を通じて、協働する力を養う。
さらに、プレゼンテーションで映像を効果的に使う方法を学ぶことで、ICT能力を伸ばす。

各回の授業計画:

【Ⅰ部 多文化理解とプレゼンテーション】

1.「多文化理解とは」
・授業の進め方についてオリエンテーション
・異なる文化を理解することとは？
・グループに分かれて文化比較のためのテーマを話し合う。
・グループ作業のための連絡チャンネルを作る。

2.「わたしの国・文化では」
・グループでそれぞれの出身国の文化・社会について紹介する。
・グループで互いの文化・社会について話し合う。
・各グループで話し合ったことをまとめて発表する。

3.「年中行事のカレンダー」
・出身国の年中行事について話し合う。
・年中行事のカレンダーを作成する。
・グループで作った年中行事のカレンダーを発表する。

4. 職業講話

5.「わたしの国の教育・若者事情」
・自分の国の教育・若者事情についてグループ内で話し合う。
・話し合ったことをまとめる。
・PPtファイルを作ってプレゼンテーションする。

6.「グループ発表の準備」
・「グループ発表」のテーマについて話し合う。
・役割分担し、発表の準備を進める。
・テーマに沿って発表の準備を進める。
・プレゼンテーション用のPPt資料を作る。
・発表の詳細について話し合う。

7.「グループ発表」
・PPtでグループ・プレゼンテーションを実施する。
・（自己・他者）評価表を作成する。
・振り返りシートを記入する。
・発表後に全体で話し合う。

8. 3年ゼミ分けの説明

【Ⅱ部 】

9. イントロダクション

・オリエンテーション
・外国語としての日本語とは？
・グループに分かれてテーマについて話し合う。
・ミニ講義「若者言葉とら抜き言葉」

10.「文化と言語」
・自分の持つ文化を知る。
・グループで互いの持つ多文化について話し合う。
・各グループで話し合ったことをまとめて発表する。
・ミニ講義 多言語の国、多言語公用語の国について

11.「価値観と言語」
・自分の価値観を知る。
・グループで互いの価値観について話し合う。
・各グループで話し合ったことをまとめて発表する。
・ミニ講義「様々な価値観と言語」

12.「コミュニケーションと言語」
・自分のコミュケーションスタイルを知る。
・グループで互いのコミュケーションスタイルについて話し合う。
・各グループで話し合ったことをまとめて発表する。

13.「グループ発表の準備」
・「グループ発表」のテーマについて話し合う。
・役割分担し、発表の準備を進める。
・グループ別にテーマに沿って発表の準備を進める。
・プレゼンテーション用のPPt資料を作成する。
・発表の詳細について話し合う。

14.「グループ発表会」
・PPt資料を用いてグループ・プレゼンテーションを実施する。
・（自己・他者）評価表を作成する。
・振り返りシートを記入する。
・発表後に全体で話し合う。

15. 総括
・I部とII部のまとめ、発表の振り返り

特記事項： 全15回授業のうち、3・4年次の国際文化専門演習のガイダンスが1回入るため授業内容が変更になる可能性があります。

授業方法： 授業は講義、グループワークともに対面で行う。
1. オリエンテーション、班分け、講義
2. 講義、グループワーク（ディスカッション、PPt資料作成、発表）
3. 講義、グループワーク（ディスカッション、PPt資料作成、発表）
4. 講義、グループワーク（ディスカッション、PPt資料作成、発表）
5. グループワーク（ディスカッション、資料を調べる）
6. グループワーク（ディスカッション、資料を調べる、PPt資料作成）
7. プレゼンテーション、評価、全体での話し合い
8. 3年ゼミ分けの説明
9. コースガイダンス、イントロダクション、グループワーク
10. 講義、グループワーク（ディスカッション、PPt資料作成、発表）
11. 講義、グループワーク（ディスカッション、PPt資料作成、発表）
12. 講義、グループワーク（ディスカッション、PPt資料作成、発表）
13. 講義、グループワーク（ディスカッション、PPt資料作成、発表）
14. プレゼンテーション、評価、全体での話し合い
15. 総括（I部とII部のまとめ、発表の振り返り）

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

プレゼンテーション、展示の準備などで計2700分以上の予習・復習が必要である。
授業で扱う文献の講読、予習、発表準備などで計2700分以上の予習が必要である。
1. 授業で紹介した内容のまとめ。予習。発表準備（180分）
2. 授業で紹介した内容のまとめ。予習。発表準備（180分）
3. 授業で紹介した内容のまとめ。予習。発表準備（180分）
4. 授業で紹介した内容のまとめ。予習。発表準備（180分）
5. 授業で紹介した内容のまとめ。予習。発表準備（180分）
6.授業で紹介した内容のまとめ。予習。発表準備（180分）
7. 授業で紹介した内容のまとめ。予習。発表準備（180分）
8. 授業で紹介した内容のまとめ。予習。発表準備（180分）
9. 授業で紹介した内容のまとめ。予習。発表準備（180分）
10. 授業で紹介した内容のまとめ。予習。発表準備（180分）
11. 授業で紹介した内容のまとめ。予習。発表準備（180分）
12. 授業で紹介した内容のまとめ。予習。発表準備（180分）
13. 授業で紹介した内容のまとめ。予習。発表準備（180分）
14. 授業で紹介した内容のまとめ。予習。発表準備（180分）

15. 授業で紹介した内容のまとめ。発表の振り返り（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	60	**%**	**確認テスト：**	－	**%**	**レポート：**	40 **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準： 授業への取り組み、発表の成績などにより、統合的に評価する。
(80-100点)積極的に討議に参加し、協働学習を進めることができる。多文化やデザイン思考に関する豊かな知識を備え、体系的に、かつ優れた視点から世界と言語の関係をとらえることができる。効果的で優れたプレゼンテーションを行うことができる。
(70-79点)討議に参加し、協働学習を進めることができる。多文化やデザイン思考に関する知識を備え、適格な視点から世界や社会の関係をとらえることができる。効果的なプレゼンテーションを行うことができる。
(60-69点)協働学習に参加することができる。やや不十分さが残るが、世界と社会に関する知識を備え、社会と言語の関係を探ることができる。プレゼンテーションを行うことができる。

課題へのフィードバック：
班ごとのグループワークで、与えられたテーマ、トピックに関するリサーチ、プレゼンテーションを行う。
フィードバックは口頭での講評、Teamsの課題返却等で行う。

教科書： なし

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：
班ごとでプレゼンテーションや展示の企画、準備を行う作業が多くなります。できるだけ良い課題を完成しようという気持ちで、積極的に討議に参加しましょう。また、自分のアイデアや他の人のアイデアを活かすことも大切にしてください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 国際文化専門演習Ⅰ

クラス:

授業コード: DB05200001

担当者: 玉地 瑞穂 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 国内外の日本語教育の現状、コースデザイン、言語教育理論、外国語教授法、具体的な教室活動など、日本語教育に必要な知識を学ぶ。
また、教科書を参考に必要事項をまとめて発表したり、言語タスクを作成するなどの実践的な作業を通して知識の定着を図る。

到達目標: 日本語教師として必要な外国語教授法の基礎知識を身に付ける。日本語教師として授業を行うために必要な基礎的な知識と実践力を身に付ける。
本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション、研究倫理について、日本語教育事情
2. 日本語教師の仕事について
3. シラバス、コースデザイン
4. 第一言語習得と第二言語習得
5. 言語教育の基礎理論
6. 様々な言語教授法①
7. 様々な言語教授法②
8. 様々な言語教授法③
9. 日本語教育における効果的な教授法を考える
10. 言語タスクについて学ぶ
11. 教室活動について学ぶ
12. 教材分析(教科書)
13. 教材分析(副教材)
14. 授業案の作成
15. 日本語教授法の演習

特記事項: ※全15回の授業のうちキャリアセンターからのキャリアガイダンスが1回入るため、授業内容が変更になる場合があります。

授業方法: ①～⑮ 講義、演習 (対面)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 日本語教育事情について復習する(180分)
2. 日本語教師の仕事について復習する(180分)
3. シラバス、コースデザインについて復習する(180分)
4. 第一言語習得と第二言語習得について復習する(180分)
5. 言語教育の基礎理論について復習する(180分)
6. 様々な言語教授法について復習する(180分)
7. 様々な言語教授法について復習する(180分)
8. 様々な言語教授法について復習する(180分)
9. 日本語教育における教授法について復習する(180分)
10. 言語タスクについて復習する(180分)
11. 教室活動について復習する(180分)
12. 教材分析(教科書)について復習する(180分)
13. 教材分析(副教材)について復習する(180分)
14. 授業案の作成について復習する(180分)
15. 日本語教授法についての発表の準備をする(180分)

評価方法: **授業へのとりくみ:** 50 **%** **確認テスト:** － **%** **レポート:** 20 **%**

その他1： プレゼンテーション 30 **%**

その他2： **%**

評価基準： 「最低限の到達度（60～69点）」シラバス、コースデザイン、言語教授法などについて理解し、授業案を作成することができる。
「望ましい到達度（80～100点）」シラバス、コースデザイン、言語教授法などについて理解し、効果的な指導が行えるように工夫した授業案と言語タスクを作成することができる。

課題へのフィードバック：

教材分析などの課題については、授業中にフィードバックを行う。

教科書： 授業中にプリントを配布

参考書： 『日本語教育事典』

授業・準備学習のアドバイス：

日本語教育について具体的に学び、日本語教師としての能力を身に付けます。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 国際文化専門演習Ⅰ

クラス:

授業コード: DB05200002

担当者: 河野 泉 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 人の行動や体験を観察・分析し、人の本質的なニーズを捉えるHCD（Human Centered Design、人間中心設計）を学ぶ。HCDのプロセスや手法に従ってユーザーの分析を行い、新しいサービス（アプリケーション）やコミュニケーションの企画や提案を行う。

到達目標:
1. HCDを使ったサービス提案について説明できること
2. HCDのプロセスにあわせて手法の使い分けができること
3. ワークショップを通してユーザー分析、アイデア発想を行いサービスを提案できること
4. 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

1. キャリアセンター合同ガイド
2. イントロダクション：自己紹介、進め方、研究倫理について
3. HCDによるサービス提案
4. ユーザーの本質的欲求の把握（観察手法）
5. 観察ワークショップ
6. 価値マップの作成
7. ユーザー設定1：ペルソナ
8. ユーザー設定2：カスタマージャーニーマップ
9. サービス提案ワークショップ1：ビジネス目標の確認
10. サービス提案ワークショップ2：ターゲットユーザの設定
11. サービス提案ワークショップ3：ペルソナ
12. サービス提案ワークショップ4：カスタマージャーニーマップ
13. サービス提案ワークショップ5：ストーリーボード
14. サービス提案ワークショップ6：発表資料作成
15. まとめと振り返り

特記事項:

授業方法: 対面：第1～15回

1. ガイダンス
2. 講義
3. 講義
4. 講義
5. 講義
6. 講義
7. 講義、グループワーク
8. 講義、グループワーク
9. グループワーク、調査準備
10. グループワーク
11. グループワーク
12. グループワーク
13. グループワーク
14. グループワーク、発表
15. 講義

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

2. HCD復習 90分
3. 観察手法の復習 180分
4. 観察の分析レポート作成 180分
5. 価値マップの作成 180分
6. ペルソナ作成の続き 180分
7. マップ作成の続き 180分
8. 発想法の復習 180分
9. グループワークの続き（ユーザー設定） 270分
10. グループワークの続き（アイデアだし） 270分
11. サービスのブラッシュアップ 270分
12. エクスペリエンスマップの作成 180分
13. ストーリーボードの作成 180分
14. 発表資料の作成 180分
15. 全体を通して復習 180分

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	グループでの発表・成果物		50 **%**		
その他2：	グループへの貢献度		20 **%**		

評価基準：

1. 授業への取り組み
授業の各トピックの内容について、基本的な関心があり理解しようとしている（60～69点）
授業内の各トピックの内容について積極的に理解しようとし、また個人・グループでの課題に対して能動的に取りむことができる（80～100点）
2. グループでの発表・成果物
与えられた課題の条件に即した発表、成果物を作成できている（60～69点）
与えられた課題の条件を自分またはグループで十分に検討理解し、学習した内容を複合的に用いた成果物を作成でき、また効果的な発表を行うことができる（80～100点）
3. グループへの貢献度
グループワークで与えられた役割を果たしている（60～69点）
グループワークにおいて役割を果たすだけでなく、他の学生と積極的に議論し、グループをまとめている （80～100点）

課題へのフィードバック：

授業内でのグループワーク中のアドバイスを含んだフィードバック
授業内での個人発表に対する講評によるフィードバック
授業内でのグループ発表に対する講評によるフィードバック

教科書： なし

参考書：

情報デザインフォーラム編『情報デザインの教室』丸善
ビジョン提案型デザイン手法『エクスペリエンスビジョン』丸善
HCDライブラリー委員会『人間中心設計の国内事例』近代科学社
前野隆司『システム×デザイン思考で世界を変える』日経BP社
情報デザインフォーラム編『情報デザインのワークショップ』丸善

授業・準備学習のアドバイス：

授業内でパソコンを使用

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 国際文化専門演習Ⅰ

クラス:

授業コード: DB05200003

担当者: 大村 誠一郎 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 日本近代文学の探究－－谷崎潤一郎『細雪』
谷崎潤一郎『細雪』を研究テーマとし、作品の達成、文学史上の評価を考えていく。作品が構想され書かれたのは日中戦争前夜から戦時中、そして敗戦直後にわたり、描かれている時代もまた、日中の戦争が始まる前から日中戦争の戦時へと推移する。作品世界の時代環境との関わりからの考察を重視し、注釈的読みや作品の成立事情、同時代の評価から作品の意義を考え、作品論を目指したい。

到達目標:
1. 大正末から昭和戦前期、戦時下の文学史についての理解。
2. 大正末から昭和戦前期、戦時下の文学を研究する上での資料探索について学ぶ。
3. 注釈的読みを積み上げた上で、文学研究として、対象作品谷崎潤一郎『細雪』の作品理解。
4. 互いの知識や意見を他の出席者と共有し、対象作品についての新しい発見に結びつける。
5. 自分が調べて分かったこと、分からなかったことを手際よく文章にまとめられる。
6. 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

1. 導入・自己紹介・この演習での学び方
2. 昭和戦前期の文学と谷崎潤一郎についての概説
3. 引き続き昭和戦前期の文学についての概説。『細雪』の成立ならび、書誌の関する講義。『細雪』を読み始める。上巻1・2
4. 『細雪』を読む。上巻3～5
5. 『細雪』を読む。上巻6・7(学生発表)
6. 『細雪』を読む。上巻8・9(学生発表)
7. 『細雪』を読む。上巻10・11(学生発表)
8. 『細雪』を読む。上巻12・13(学生発表)
9. 『細雪』を読む。上巻14・15(学生発表)
10. 『細雪』を読む。上巻16・17(学生発表)
11. 『細雪』を読む。上巻18・19(学生発表)
12. 『細雪』を読む。上巻20・21・22(学生発表)
13. 『細雪』を読む。上巻23・24・25(学生発表)
14. 『細雪』を読む。上巻26・27・28・29(学生発表)
15. 振り返り
『細雪』の研究文献を参考に、上巻全体についての考察。
今期の授業を通じて興味を持ったことを二つ取り上げて議論、期末レポートのテーマを考える。

特記事項: なし

授業方法: 対面による演習。学生間の議論を重視する。同じ現象を扱っていても、人によって「疑問に思うこと、面白いとおもうこと」には違いがある。その違いを互いに認識することでさらに一歩高い観点から、その現象を把握することができる。
担当教員も、皆さんと一緒に議論することで新しい発見をすることもある。一方通行の知識の伝授ではなく、対話による新たな知識の構築が「演習」の醍醐味なのである。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

予習復習などには以下のような作業が必要で、春学期間で総計2700分が必要です。
特に、レポートの作成については、的確な表現力を身につけるように十分練り上げてください。
予習(各回90分)
(1)作品を通読し、作品内容を理解する。
(2)文学史や時代背景となる歴史について理解するために、各自で文献を読む。
(3)作品を注釈したり、評価するための問題点を意識する。
(4)以上の作業に基づく覚書きの作成。

復習（各回60分）
(4)授業内容を振り返りながら、さらに考究したいことを考える。
(5)教員が配布した関係資料について、よく読む。

評価方法：

授業へのとりくみ：	70	**%**	**確認テスト：**	－	**%**	**レポート：**	30 **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準：
【最低限の到達度（60～69点）】
（授業へのとりくみ）発表において、適切に注釈必要箇所を選び、必要なことを調べていること。作品理解のために注目すべき部分が指摘でき、自己の見解を示せること。
発表や教員が提示した課題について、質疑応答に積極的であってほしい。
（レポート）それぞれのテーマについて問題とすることが明確で、立てた問題に対し、考察が資料等もふまえながらわかりやすく述べられていること。
【望ましい到達度（80～100点）】
（授業へのとりくみ）最低限の到達度に加え、自分なりの課題発見がある。
（レポート）それぞれのテーマについて、最低限の到達度に加え、独自の考察や新たな問題の発見があること。

課題へのフィードバック：
受理したレポートについては、コメントをフィードバックで送信します。

教科書： 『細雪』のテキスト。青空文庫でも読めるが、新潮文庫版または中公文庫版を入手してほしい。

参考書： 図書館で近現代文学史や近代史の本を探し、作品『細雪』や谷崎潤一郎に関わる年代の部分を読んでほしい。また、谷崎純一郎の文学についての研究文献を探して読むことを勧める。

授業・準備学習のアドバイス：
文学作品は、おもしろいから読む、感動があるから読むという面と、何かを得たい、学びたいから読むという面の二つが原点にある。それは文学研究にもつながる。自分の興味関心を大切にし、広げ、深めるという意識をもって作品や資料を読んでいきましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 国際文化専門演習Ⅰ

クラス:

授業コード: DB05200004

担当者: 藤田 眞弓 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: このゼミでは英語圏文化を文学や映画などを通して研究します。作品をただ鑑賞するだけではなく、批評、分析することで様々な文化的、社会的現象に対して理論的考察が出来る力を身につけます。イギリス文化への理解を深めるのはもちろんの事、英語の文献や映像などを使用しますので、総合的な英語力の向上も目指します。

到達目標: 英語圏の文化について理解を深めること。
英語の文献を正確に読めるようになること。
本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

1. コースガイダンス
2. Colonialism
3. Postcolonialism
4. Neocolonialism
5. The UK
6. Ireland
7. Nigeria
8. South Africa
9. New Zealand
10. Australia
11. Singapore
12. India
13. The Philippines
14. Jamaica
15. The USA, Canada

特記事項: ※全15回の授業のうちキャリアセンターからのキャリアガイダンスが1回入るため、授業内容が変更になる場合があります。

授業方法: 1. コースガイダンス、自己紹介、質疑応答等
2. 英文講読、コメント発表
3. 英文講読、コメント発表
4. 英文講読、コメント発表
5. 英文講読、コメント発表
6. 英文講読、コメント発表
7. 英文講読、コメント発表
8. 英文講読、コメント発表
9. 英文講読、コメント発表
10. 英文講読、コメント発表
11. 英文講読、コメント発表
12. 英文講読、コメント発表
13. 英文講読、コメント発表
14. 英文講読、コメント発表
15. レポート発表
1～15 対面授業

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 第2回の為の文献精読 (180分)
2. 第3回の為の文献精読 (180分)

3. 第4回の為の文献精読（180分）
4. 第5回の為の文献精読（180分）
5. 第6回の為の文献精読（180分）
6. 第7回の為の文献精読（180分）
7. 第8回の為の文献精読（180分）
8. 第9回の為の文献精読（180分）
9. 第10回の為の文献精読（180分）
10. 第11回の為の文献精読（180分）
11. 第12回の為の文献精読（180分）
12. 第13回の為の文献精読（180分）
13. 第14回の為の文献精読（180分）
14. 第2回から14回までの総復習とレポート題目設定（180分）
15. レポート作成（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	60 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	40 **%**
その他1：			**%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

1. 授業への取組み
・予め指定された箇所の訳読をきちんと出来る。（60～69）
・予め指定された箇所の訳読をきちんと出来る上、それに対する意見や質問を準備している。（80～100）
2. レポート作成
・授業で学んだ知識を活かしながら、独自のテーマ設定が出来る。（60～69）
・授業で学んだ知識を活かしながら、独自のテーマ設定を行い、説得力のあるレポートが書ける。（80～100）

課題へのフィードバック：

毎時間、訳読や意見、質疑にコメント、回答をする。
レポート講評は次の学期の第一回目のゼミにて行う。

教科書： Global Perspectives in English-speaking World: Past and Present/グローバル・マインドへの道：英語圏の歴史と文化 （著者）JA Kusaka Jesse Elam Dax Thomas ISBN: 978-4-88198-776-6

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：

英語の文献を使用しますので、予め指示された文献、資料を精読した上で授業に臨むこと。
毎回必ず英和辞書を持参すること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 国際文化専門演習Ⅰ

クラス:

授業コード: DB05200005

担当者: 小山 智久 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 日本文学を研究するにあたっては、既存の注釈書を批判的に読み、複数を比較することによって問題点を見出だすことが出発点となる。ここでは『徒然草』などを素材に、校本や索引、古辞書を活用するとともに、注釈書を丁寧に読み比べて、古典作品の解釈の方法を学ぶ。

到達目標:
1.『徒然草』の代表的な注釈書を読み比べ、注釈の差異から、解釈上の課題を読み取る力を身に付ける。
2. 注釈書間の解釈上の差異を、辞書や文法を活用した解釈だけでなく、妥当な解釈を判断する方法を身に付ける。
3.『徒然草』をより深く読む能力と態度を身に付ける。
4. 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

1. コースガイダンス、研究倫理について
作品解説1『徒然草』について概説。成立、作者、伝本等
2. 作品解説2『徒然草』の注釈書について解説する。序段「つれづれなるままに」の講読
3. 作品講読1 序段「つれづれなるままに」の講読の続き・第1段「いでや、この世に生まれては」の一部の講読演習
4. 作品講読2 第11段「神無月のころ」の講読演習
5. 作品講読3 第31段「雪のおもしろう降りたりし朝」の講読
6. 作品講読4 第45段「公世の二位のせうとに」の講読
7. 作品講読5 第52段「仁和寺にある法師」、第53段「これも仁和寺の法師」の講読
8. 作品講読6 第86段「惟継中納言は」の講読
9. 作品講読7 第109段「高名の木登り」の講読
10. 作品講読8 第137段「花は盛りに」(1)P.231最初～P.233 L.6の講読
11. 作品講読9 第137段「花は盛りに」(2)P.233 L.7～P.235 L.2の講読
12. 作品講読10 第136段「医師篤成」、第150段「能をつかんとする人」の講読
13. 作品講読11 第236段「丹波に出雲といふ所あり」の講読
14. 作品講読12 第243段「八つになりし年」の講読
15. まとめ

特記事項: ※全15回の授業のうちキャリアセンターからのキャリアガイダンスが1回入るため、授業内容が変更になる場合があります。

授業方法: 全回【対面】で行う。別の方法で行う場合は、予告した上でTeamsで連絡する。
1. 講義
2. 講義、協議
3. 講義、講読演習グループワーク
4～14. 演習(正徹本徒然草翻刻、品詞分解、講読、鑑賞)、協議、講義
15. 協議、講義

予習・復習・宿題など(内容・時間):

授業時に質問の時間を確保し対応するが、以下を基本とする。
注釈書や解説書の調査(各回60分)
演習で取り上げる章段の表現の解析と読解の研究(各回60分)
発表資料作成(各回60分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	60 %	**確認テスト:**	－ %	**レポート:**	40 %
その他1:			%		
その他2:			%		

評価基準：　1．授業への取り組み
（望ましい到達度：80～100点）扱う章段について、注釈書をはじめ先行研究を生かして、読解が正確な発表資料を作成できる。
（最低限の到達度：60～69点）辞書や文法書を活用し、読解の発表資料を作成し、発表できる。

2．提出物・レポート
（望ましい到達度：80～100点）自分なりの意見を根拠を示して、レポートを作成している。
（最低限の到達度：60～69点）自分の文章で考えをまとめることができている。

課題へのフィードバック：

講読の発表については、相互批評の場を設ける。
レポートについては、添削を行う。

教科書：　日本人学生は、西尾実・安良岡康作校注『新訂徒然草』（岩波文庫）
留学生は、小川剛生訳注『新版徒然草』（角川ソフィア文庫）

参考書：　各自手持ちの古語辞典、古典文法の副教材

授業・準備学習のアドバイス：

注釈書や解説を読み、納得できる現代語訳や解釈を行うことで、読解力を身に付けることを目指します。有職故実などについては大学図書館やJapanKnowledge等の活用を進めます。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 国際文化専門演習Ⅰ

クラス:

授業コード: DB05200006

担当者: 桂 敦子 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本演習では、言語や文化的背景、価値観等が異なる人たちと、より良い対人関係を築くために必要な知識やスキルを体験的、実践的に学ぶことにより、グローバル社会で活躍できる資質・能力を身につける。語学力だけでなく、異文化間コミュニケーションについて学ぶ中で、「チームビルディング力」や「自分と相手を理解する力」等も培い、多様な社会の中で協働する力を育成する。

到達目標: ①「異文化理解」や「コミュニケーション」に関する基礎的な知識を身につけることができる。
②異文化間コミュニケーションスキルを体験的・実践的に習得することができる。
③多様なメンバーと協働し、課題解決型のコミュニケーションが実践できる
④本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

1. コースガイダンス＆チームビルディング演習
2. 映画の日英翻訳からみる異文化コミュニケーション
3. 「私の異文化体験・カルチャーショック」
・レポート作成
4. 異文化体験トレーニング①
ホームステイサバイバル
5. 文化の構造とステレオタイプ
6. 異文化体験トレーニング②
バーンガ演習
7. 「世界がもし100人の村だったら」(英語版)から考える世界の格差問題①
8. 「世界がもし100人の村だったら」(英語版)から考える世界の格差問題②
9. 中間まとめ(英語でレポート作成)
10. 異文化体験トレーニング③
・未知なる文化との遭遇
11. 異文化体験トレーニング④
・コンセンサスゲーム
12. 「マダム・イン・NY」から考えるジェンダー問題
13. 「マダム・イン・NY」から考える言語格差の問題
14. 文化交渉演習
・文化の見えない境界線を乗り越える
15. 異文化理解及び異文化間コミュニケーションに関する確認テスト(レポート型)
振り返りとまとめ

特記事項: なし

授業方法: 【授業は対面で実施】
1. コースガイダンス、自己紹介、質疑応答等
2. 講義とワークショップ
3. 講義とワークショップ
4. 講義とワークショップ
5. 講義とワークショップ
6. 講義とワークショップ
7. ワークショップ、解説
8. ワークショップ、解説
9. 確認テスト(レポート型)
10. 講義とワークショップ
11. 講義とワークショップ

12. 講義とワークショップ
13. 講義とワークショップ
14. 講義とワークショップ
15. 確認テスト（レポート型）

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. 第2回の予習（45分）
2. 第2回の復習と第3回の予習（90分）
3. 第3回の復習と第4回の予習（90分）
4. 第4回の復習と第5回の予習（90分）
5. 第5回の復習と第6回の予習（90分）
6. 第6回の復習と第7回の予習（90分）
7. 第7回の復習と第8回の予習（90分）
8. 第8回の復習と第9回の予習（90分）
9. 確認テストのための予習（90分）
10. 第10回の復習と第11回の予習（90分）
11. 第11回の復習と第12回の予習（90分）
12. 第12回の復習と第13回の予習（90分）
13. 第13回の復習と第14回の予習（90分）
14. 第14回の復習と第15回の準備（180分）
15. 確認テストとまとめ（45分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	60 **%**	**確認テスト：**	40 **%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：			**%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

1. 授業への取組
・課題にきちんと取り組むことができる（60～69点）
・課題にきちんと取り組んだ上で、それに対する意見を述べ、議論することができる（80～100点）
2. 確認テスト（レポート型）
・授業で学んだ知識を活かしながら、ある程度の内容のレポートが書ける。（60～69点）
・授業で学んだ知識を活かしながら、説得力のあるレポートが書ける。（80～100点）

課題へのフィードバック：

毎時間、意見や質問に回答し、フィードバックのための解説を行う。
確認テスト（レポート型）は、次の学期の第1回ゼミにて行う。

教科書： なし
授業においてプリントやワークシートを配布

参考書： なし
授業においてプリントやワークシートを配布

授業・準備学習のアドバイス：

講義や解説は、しっかりノートをとること。
ワークショップや体験型ゲームには積極的に取り組むこと。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 国際文化専門演習Ⅰ

クラス: 交換留学生

授業コード: DB05200007

担当者: 上原　翔子　　**単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 日本の年中行事や人生の行事などを中心に日本文化からテーマを取り上げ、情報をまとめ、自国の文化と比較し、分析する。
日本文化への理解を深め、日本語での文章力・表現力を養う。

到達目標: 日本文化を通して日本人の考え方を学び、自国の文化と比較しながら、適切に説明できるようになる。
日本語の文章を正確に理解し、必要な情報を集め、発表することで、日本語での文章力・表現力を身につける。
本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

1. ガイダンス（ゼミの進め方・自己紹介・大学案内など）
2. 「日本のしきたり（年中行事①）」に関する文章を読む／発表テーマの選択・発表準備
3. 発表1・議論・フィードバック
4. 「日本のしきたり（年中行事②）」に関する文章を読む／各自2つ発表テーマを選択・発表準備
5. 発表2・議論・フィードバック
6. 発表3・議論・フィードバック
7. 前半の振り返り／日本文化体験
8. 「日本のしきたり（人生の行事①）」に関する文章を読む／各自3つ発表テーマを選択・発表準備
9. 発表4・議論・フィードバック
10. 発表5・議論・フィードバック
11. 発表6・議論・フィードバック
12. 「日本のしきたり（衣食住）」に関する文章を読む／最終発表のテーマを選択
13. 最終発表のための情報収集・発表準備
14. 最終発表・議論・フィードバック
15. まとめとレポート作成

特記事項: ＊以上のように進めるが、ゼミの状況によって進度・内容が多少異なる場合がある。
＊全15回の授業のうちキャリアセンターからのキャリアガイダンスが1回入るため、授業内容が変更になる場合があります。

授業方法: 【対面】《演習》
与えられたテーマに関する文章を読み、内容を分かりやすくまとめ、必要な情報を追加し、自国と比較する。また、そこから考えたこと、自分の意見などを発表する。
他者の発表時には、積極的に質問するなど議論する。一方通行の講義ではなく、対話・議論を重視した演習を行う。
PCを使って発表準備（情報収集、PowerPointやWordを用いた発表資料作成など）を行う。

1．テーマ紹介・発表担当の割り当て
2．テーマに関する文章を読み、内容を確認、必要な情報を話し合う
3．発表のアウトラインを考え、必要な情報を集める
（授業外学習として発表準備を完成させる）
4．発表と議論
5．まとめとフィードバック

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

予習復習などには以下のような作業が必要で、1学期間で総計2700分が必要である。

＜予習＞
・テーマに関する文章をPPTに分かりやすくまとめ、発表の流れを確認する。
・発表内容に関する必要な情報を調べて、追加する。

・発表時の質問を想定しながら、発表練習を行う。
＜復習＞
・発表を自己評価し、発表資料を修正する。
・他者の発表から学んだ知識・技術や、フィードバックで得た反省点を整理する。
＜レポート作成＞
・選択したテーマを理解し、基本的な文献・情報をまとめ、自分自身の考えを報告する。

評価方法：

授業へのとりくみ：	40 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	20 **%**
その他1：	発表		40 **%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

最低限の到達度（60～69点）
与えられたテーマについて理解し、自分なりの意見を何とか述べることができる。
また、必要な情報を調べ、発表することができる。
他者の発表時には内容に関する質問・感想を述べることができる。

望ましい到達度（80～100点）
積極的に与えられたテーマについて深く考え、自分の意見を分かりやすく述べることができる。
また、自ら情報を収集し、発表資料を分かりやすく工夫し、新たな情報を与えられるような発表をすることができる。
他者の発表時には的確な議論をすることができる。

課題へのフィードバック：

発表に関するフィードバックは授業中に行う。発表資料やレポートなどのフィードバックはコメントを書いて返却する。

教科書： 授業中に資料を配布する。

参考書： 授業内で適宜紹介する。

授業・準備学習のアドバイス：

せっかく日本へ留学したのですから、失敗を恐れず、日本文化についてたくさん話し合いましょう。
また、自国の文化と比較することで、より日本文化を理解できるよう一緒に考えてみましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 国際文化専門演習Ⅰ

クラス: ★

授業コード: DB05200008

担当者: 山口 智治 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 人とAIが共生する将来へ向けて、現在のAIがどのような場面、用途に適用されて何ができているのかという最新状況を把握し、社会学的な観点や文化的な影響なども視野に、今後どうなるのか、どうあるべきか、新しいサービス・価値の創出を探求します。
演習Iでは、特に調査～課題抽出を実践し、解決に取り組むべき課題を特定するプロセスを会得します。

到達目標: ・社会課題解決型の新しいサービス・価値創出のプロセスとして、調査、分析、課題抽出、解決策の立案・実現、評価という一連の活動を実践的に体得する。
・新技術や市場動向の基本的な調査方法・手法を学び、実践する。
・収集した情報やデータを整理・分析し、知見や課題への気づきを得るための手法を学び、実践する。
・対象として現在のAI(人工知能)の能力、限界、社会での活用事例を理解し、説明できるようになる。
・本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための地策について理解し、研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

1. イントロダクション：自己紹介、本科目の進め方、研究倫理について
2. 調査報告①
3. 調査報告②
4. テーマ候補提案
5. 調査報告③
6. 調査報告④
7. テーマ提案
8. 調査・分析報告①
9. 調査・分析報告②
10. 調査・分析報告③
11. 分析結果発表
12. 課題仮説検討
13. 仮説検証設計
14. 仮説検証計画
15. 最終プレゼンテーション

特記事項: ・第1回に研究倫理教育を実施します。

授業方法: 対面6回、オンライン9回を予定
1. ガイダンス、講義
2. 講義、個人発表、ディスカッション
3. 講義、個人発表、ディスカッション ※オンライン（双方向ライブ）
4. 講義、個人発表、ディスカッション
5. 講義、グループ発表、ディスカッション ※オンライン（双方向ライブ）
6. 講義、グループ発表、ディスカッション ※オンライン（双方向ライブ）
7. 講義、グループ発表、ディスカッション
8. 講義、グループ発表、ディスカッション ※オンライン（双方向ライブ）
9. 講義、グループ発表、ディスカッション ※オンライン（双方向ライブ）
10. 講義、グループ発表、ディスカッション ※オンライン（双方向ライブ）
11. 講義、グループ発表、ディスカッション
12. 講義、グループ発表、ディスカッション ※オンライン（双方向ライブ）
13. 講義、グループ発表、ディスカッション ※オンライン（双方向ライブ）
14. 講義、グループ発表、ディスカッション ※オンライン（双方向ライブ）
15. 講義、プレゼンテーション発表

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. 進め方の復習、研究倫理の復習 180分
2. 事前調査・調査内容整理 180分
3. 事前調査・調査内容整理、提案発表準備 180分
4. 事前調査・調査内容整理 180分
5. 事前調査・調査内容整理 180分
6. 事前調査・調査内容整理、提案発表準備 180分
7. 事前調査・調査内容整理 180分
8. 事前調査・調査内容整理 180分
9. 事前調査・調査内容整理 180分
10. 事前調査・調査内容整理、提案発表準備 180分
11. 事前調査・調査内容整理 180分
12. 事前調査・調査内容整理 180分
13. 事前調査・調査内容整理 180分
14. 最終プレゼンテーション準備 180分
15. 全体復習 180分

評価方法：

授業へのとりくみ：	40 **%**	**確認テスト：**	**%**	**レポート：**	40 **%**		
その他1：	最終プレゼンテーション		20 **%**				
その他2：	－		**%**				

評価基準：

【望ましい到達度】
・授業への取り組み：独自の視点やアイディアを持って積極的に貢献しようとするとともに、他者の意見を引き出す働きかけができ、チーム全体を円滑に進めようとする。
・レポート：的確な情報収集・分析ができ、それらを論拠とした主張を論理的に組み立てられる
・プレゼンテーション：論点が明確で聴衆に届きやすい資料を作成し、魅力的に説明できる
【標準的な到達度】
・授業への取り組み：活動に積極的に関与し、自分の意見を適切に述べ、他者の意見も尊重する。
・レポート：一般的な情報収集と整理ができ、そこから導き出した論点をまとめることができる
・プレゼンテーション：必要十分な構成で資料作成でき、無駄のない説明ができる
【最低限の到達度】
・授業への取り組み：活動に毎回参加し、必要な報告をおこなう。議論では他者の意見をきちんと聞き、賛成/反対の意見を表明する。
・レポート：必要な情報を集約し、基本的な論点を示す。
・プレゼンテーション：不足のない構成で資料作成ができ、ひと通りの説明をおこなえる。

課題へのフィードバック：

授業内での個人発表に対する講評・アドバイス
授業内でのグループ発表に対する講評・アドバイス
授業内でのディスカッションを通じたフィードバック
資料・レポート内容に対するフィードバック

教科書： なし

参考書： 適宜紹介する

授業・準備学習のアドバイス：

・授業内でパソコンを使用します。
・技術・市場の最新動向や学習の進捗状況によって授業内容や授業方法(対面・オンライン)を変更する場合があります。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 国際文化専門演習Ⅱ

クラス:

授業コード: DB05300001

担当者: 玉地 瑞穂 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 授業案を考える、教材を作成する、授業を行う、授業評価を行うなどの活動を通して、日本語教育に必要な教育能力を身に付ける。

到達目標: 模擬授業を行う過程で、計画性、観察力、学習活動や学習効果を評価する力を身に付ける。実践を通して日本語教育に必要な総合的な力を身に付ける。

各回の授業計画:

1. 主教材、副教材の分析
2. 教材分析の発表
3. 日本語の授業の方法と授業評価の方法
4. 初級文型と教授法
5. 授業案の書き方
6. 初級日本語の模擬授業と授業評価①
7. 初級日本語の模擬授業と授業評価②
8. 授業の録画ビデオを見て評価、検討する
9. 初中級文型と教授法
10. 初中級日本語の模擬授業と授業評価①
11. 初中級日本語の模擬授業と授業評価②
12. 授業の録画ビデオを見て評価、検討する
13. コースデザインの方法を学ぶ
14. コースデザインを行う
15. コースデザインの発表、評価

特記事項: ※全15回の授業のうちキャリアセンターからのキャリアガイダンスが1回入るため、授業内容が変更になる場合があります。

授業方法: ①～⑮ 講義・演習（対面）

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 主教材、副教材の分析について復習する（180分）
2. 教材分析の発表の準備をする（180分）
3. 授業の方法と授業評価の方法について復習する（180分）
4. 初級文型と教授法について復習する（180分）
5. 授業案の書き方について復習する（180分）
6. 初級日本語の模擬授業の準備をする（180分）
7. 初級日本語の模擬授業の準備をする（180分）
8. 授業評価について復習する（180分）
9. 初中級文型と教授法について復習する（180分）
10. 初中級日本語の模擬授業の準備をする（180分）
11. 初中級日本語の模擬授業の準備をする（180分）
12. 授業評価について復習する（180分）
13. コースデザインの方法について復習する（180分）
14. コースデザインの発表の準備をする（180分）
15. コースデザインの発表の準備をする（180分）

評価方法: **授業へのとりくみ:** 50 **%** **確認テスト:** － **%** **レポート:** 30 **%**
その他1: 模擬授業 20 **%**

その他2： **%**

評価基準： 「最低限の到達度（60～69点）」初級及び初中級レベルの学習者に対する授業案と教材を作成し、授業を行うことができる。|「望ましい到達度（80～100点）」初級及び初中級レベルの学習者に対する授業案と教材を作成し、効果的な指導が行えるような授業を行うことができる。

課題へのフィードバック：

模擬授業や発表について、授業中にフィードバックを行う。

教科書： 授業中にプリントを配布

参考書： 『日本語教育事典』

授業・準備学習のアドバイス：

日本語教育の知識と技術を向上させましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 国際文化専門演習Ⅱ

クラス:

授業コード: DB05300002

担当者: 河野 泉 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 前期に引き続き、HCD（Human Centered Design、人間中心設計）によるサービスデザインを学ぶ。演習Ⅱではプロジェクト形式で、設定したテーマに対して、フィールド調査をもとに新しいユーザー体験を考え、サービスを企画し、プロトタイプの制作を行う。

到達目標:
1. 設定されたテーマに対してHCDのプロセスを実施して、サービス提案ができること
2. 観察やインタビューなどのフィールド調査を通してユーザーのモデル化ができること
3. アイデアに対するプロトタイプを作成できること
4. プロトタイプの評価を行い、サービスを改良できること

各回の授業計画:

1. キャリアセンター合同ガイド
2. .ガイダンス、卒論解説
3. ストーリーボード作成
4. ストーリーボード作成
5. ユーザー評価、アイデア修正
6. ペーパープロトタイプ作成
7. .画面デザイン（Figma）
8. .画面デザイン（Figma）
9. .画面デザイン（Figma）
10. 発表資料、発表シナリオの作成
11. 発表会
12. 論文を読む、卒論テーマ検討
13. 卒論テーマ検討
14. 4年生卒論解説
15. まとめ

特記事項: ※全15回の授業のうちキャリアセンターからのキャリアガイダンスが1回入るため、授業内容が変更になる場合があります。

授業方法: 対面：第1～15回

1. ガイダンス
2. 講義、グループワーク
3. 講義、グループワーク
4. 講義、グループワーク
5. 講義、グループワーク
6. 講義、グループワーク
7. 講義、グループワーク
8. 講義、グループワーク
9. 講義、グループワーク
10. 講義、グループワーク
11. 講義、グループワーク
12. 講義、グループワーク
13. 講義、グループワーク
14. 講義、グループワーク
15. 講評、グループワーク

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

2. 文献調査 180分

3. 文献調査 180分
4. グループワーク続き（調査まとめ） 180分
5. グループワーク続き（ユーザー設定）180分
6. グループワーク続き（コンセプト作成） 180分
7. グループワーク続き（アイデアだし） 180分
8. グループワーク続き（サービスシナリオ） 270分
9. グループワーク続き（プロトタイプ） 270分
10. グループワーク続き（アクティングアウト） 180分
11. グループワーク続き（評価まとめ） 180分
12. グループワーク続き（プロトタイプ修正）180分
13. グループワーク続き（発表準備） 180分
14. グループワーク続き（議論に基づく修正） 180分
15. グループワーク続き（まとめ） 180分

評価方法：

授業へのとりくみ：	－ **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	グループでの発表・成果物		70 **%**		
その他2：	グループへの貢献度		30 **%**		

評価基準：

1. グループでの発表・成果物
 HCDの考え方を理解して、プロセスを実践できる（60～69点）
 テーマに沿ったサービス提案ができ、効果的な発表を行える（80～100点）
2. グループへの貢献度
 グループワークで与えられた役割を果たしている（60～69点）
 グループワークにおいて役割を果たすだけでなく、他の学生と積極的に議論し、グループをまとめている（80～100点）

課題へのフィードバック：

授業内でのグループワーク中のアドバイスを含んだフィードバック
授業内での個人発表に対する講評によるフィードバック
授業内でのグループ発表に対する講評によるフィードバック

教科書： なし

参考書：

情報デザインフォーラム編『情報デザインの教室』丸善
ビジョン提案型デザイン手法『エクスペリエンスビジョン』丸善
HCDライブラリー委員会『人間中心設計の国内事例』近代科学社
前野隆司『システム×デザイン思考で世界を変える』日経BP社
情報デザインフォーラム編『情報デザインのワークショップ』丸善

授業・準備学習のアドバイス：

授業内でパソコンを使用

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 国際文化専門演習Ⅱ

クラス:

授業コード: DB05300003

担当者: 大村 誠一郎 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 専門演習Ⅱは1の継続。
日本近代文学の探究――谷崎潤一郎『細雪』
谷崎潤一郎『細雪』を研究テーマとし、作品の達成、文学史上の評価を考えていく。作品が構想され書かれたのは日中戦争前夜から戦時中、そして敗戦直後にわたり、描かれている時代もまた、日中の戦争が始まる前から日中戦争の戦時へと推移する。作品世界の時代環境との関わりからの考察を重視し、注釈的読みや作品の成立事情、同時代の評価から作品の意義を考え、作品論を目指したい。
また、国際文化専門演習Ⅱでは演習を通じて文学研究の方法を理解し、さらに各自が文学研究興味関心を広げる機会とする。卒論の研究テーマを定めていく過程として、各自の関心や問題意識を発表する場も適宜設定したい。

到達目標: 1. 大正末から昭和戦前期、戦時下の文学史についての理解。
2. 大正末から昭和戦前期、戦時下の文学を研究する上での資料探索について学ぶ。
3. 注釈的読みを積み上げた上で、文学研究として、対象作品谷崎潤一郎『細雪』の作品理解。
4. 互いの知識や意見を他の出席者と共有し、対象作品についての新しい発見に結びつける。
5. 自分が調べて分かったこと、分からなかったことを手際よく文章にまとめられる。
6. 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

1. 夏休みに課題としていた『細雪』関連の研究文献の報告。発表者の報告をふまえて議論し、後期に向けて作品を研究していく上での問題点を整理する。
2. 『細雪』を読む。中巻1～3(担当学生の発表)
3. 『細雪』を読む。中巻4～6(担当学生の発表)
4. 『細雪』を読む。中巻7～9(担当学生の発表)
5. 『細雪』を読む。中巻10～11(担当学生の発表)
6. 『細雪』を読む。中巻12～13(担当学生の発表)
7. 『細雪』を読む。中巻14～15(担当学生の発表)
8. 『細雪』を読む。中巻16～19(担当学生の発表)
9. 『細雪』を読む。中巻20～21(担当学生の発表)
10. 『細雪』を読む。中巻22～23(担当学生の発表)
11. 『細雪』を読む。中巻24～25(担当学生の発表)
12. 『細雪』を読む。中巻26～28(担当学生の発表)
13. 『細雪』を読む。中巻29～31(担当学生の発表)
14. 『細雪』を読む。中巻32～33(担当学生の発表)
15. 中巻34(中巻最終章)とまとめ:各自が学びの成果を述べ、作品の評価をめぐってディスカッション。また、各自が考える研究テーマについても話し合いを行う。

特記事項: ※全15回の授業のうちキャリアセンターからのキャリアガイダンスが1回入るため、授業内容が変更になる場合があります。

授業方法: (第1回～第15回)対面による演習。
対面による演習。学生の発表、学生間の議論を重視する。同じ現象を扱っていても、人によって「疑問に思うこと、面白いとおもうこと」には違いがある。その違いを互いに認識することでさらに一歩高い観点から、その現象を把握することができる。
担当教員も、皆さんと一緒に議論することで新しい発見をすることもある。
一方通行の知識の伝授ではなく、対話による新たな知識の構築が「演習」の醍醐味なのである。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

予習復習などには以下のような作業が必要で、春学期間で総計2700分が必要です。
特に、レポートの作成については、的確な表現力を身につけるように十分練り上げてください。
予習(各回90分)

(1)作品を通読し、作品内容を理解する。
(2)文学史や時代背景となる歴史について理解するために、各自で文献を読む。
(3)作品を注釈したり、評価するための問題点を意識する。
(4)以上の作業に基づく覚書きの作成。
復習(各回60分)
(4)授業内容を振り返りながら、さらに考究したいことを考える。
(5)教員が配布した関係資料について、よく読む。

評価方法:

授業へのとりくみ:	70 **%**	**確認テスト:**	− **%**	**レポート:**	30 **%**
その他1:			**%**		
その他2:			**%**		

評価基準: レポート
(評価の観点)3年生の演習なので、高いレベルの調査報告は求めません。
ただし、小規模であっても、作品本文の引用と考察、ならびに研究文献の引用は必ず実行してください。
発表
(評価の観点)分かりやすい発表で、担当箇所を解説して下さい。また資料を適切に提示して解釈の根拠を示すことも大切です。他人の質問については、分かること、分からないことを明確にして答えて下さい。

「最低限の到達度(60～69点)」
担当箇所について、資料や研究文献をふまえた解説ができること。
「望ましい到達度(80～100点)
資料や研究文献をふまえた解説に加え、より高い問題提起ができること。

課題へのフィードバック:
作成したレポートにコメント

教科書: 『細雪』のテキスト。青空文庫でも読めるが、新潮文庫版または中公文庫版を入手してほしい。

参考書: 図書館で文学史や、歴史の通史の本を探し、作品や谷崎潤一郎に関わる年代の部分を読んでほしい。また、谷崎純一郎の文学についての研究文献を探して読むことを勧める。

授業・準備学習のアドバイス:
文学作品は、おもしろいから読む、感動があるから読むという面と、何かを得たい、学びたいから読むという面の二つが原点にある。それは文学研究にもつながる。自分の興味関心を大切にし、広げ、深めるという意識をもって作品や資料を読んでいきましょう。
シラバスはあくまで予定です。皆さんの興味の発展深化に応じて、授業をすすめていきます。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 国際文化専門演習Ⅱ

クラス:

授業コード: DB05300004

担当者: 藤田 眞弓 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: このゼミでは英語圏文化を文学や映画などを通して研究します。専門演習Ⅰで得た英語圏文化に関する知識と英文読解力を活かしながら、各自で選んだテーマを研究し、発表してもらいます。研究にはかならず英語の文献や映像などを使用してもらいますので、引き続き総合的な英語力の向上も目指します。

到達目標: 英語圏文化について理解をより深めること。
英語の文献を正確に読み、その内容を自身の研究の為にまとめることができるようになること。

各回の授業計画:

1. コースガイダンス
2. 春学期レポートの講評
3. 秋学期研究テーマの設定
4. 秋学期研究テーマの発表
5. 英語圏文学資料研究①
6. 英語圏文学資料研究②
7. 英語圏文学資料研究③
8. 英語圏文化資料研究①
9. 英語圏文化資料研究②
10. 英語圏文化資料研究③
11. 秋学期研究中間発表
12. 秋学期研究中間発表講評
13. 秋学期研究発表
14. 秋学期研究発表講評
15. まとめと確認（秋学期の総復習、質疑応答）

特記事項: ※全15回の授業のうちキャリアセンターからのキャリアガイダンスが1回入るため、授業内容が変更になる場合があります。

授業方法:
1. コースガイダンス、講義、質疑応答
2. レポート講評、質疑応答
3. 講義、質疑応答
4. 講義、質疑応答
5. 発表（英文訳読）、解説
6. 発表（英文訳読）、解説
7. 発表（英文訳読）、解説
8. 発表（英文訳読）、解説
9. 発表（英文訳読）、解説
10. 発表（英文訳読）、解説
11. プレゼンテーション
12. プレゼンテーション
13. プレゼンテーション
14. 講評、質疑応答、次年度に向けての準備
1.～15. 対面授業

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 春学期の復習（180分）
2. 研究テーマ設定①（180分）
3. 研究テーマ設定②（180分）
4. 研究テーマのための文献探し（180分）

5. 研究テーマのための文献精読(180分)
6. 文献一覧表作成 (180分)
7. 研究中間発表作成① (180分)
8. 研究中間発表作成② (180分)
9. 質疑応答準備 (180分)
10. 研究発表作成③ (180分)
11. 研究発表作成④ (180分)
12. レポート作成① (180分)
13. レポート作成② (180分)
14. レポート作成③ (180分)
15. まとめと確認の復習 (180分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	60	**%**	**確認テスト:**	−	**%**	**レポート:**	40 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: ・自身の研究に必要な日本語、英語の文献を集め、正しく読むことが出来る。(60～69)
・自身の研究に必要で適切な日本語、英語の文献を集め、正しく読解し、内容をまとめたり、それに対する意見を述べることができる。(80～100)

課題へのフィードバック:

英語の訳読に対する解説を毎時間行う。
授業時に課した課題(提出物)は翌週の返却時に解説を行う。

教科書: 指定されたテクスト(洋書)を各自で購入。

参考書: 特に使用しない。

授業・準備学習のアドバイス:

英語の文献を使用しますので、予め指示された文献、資料を精読した上で授業に臨むこと。
毎回必ず英和辞書を持参すること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 国際文化専門演習Ⅱ

クラス:

授業コード: DB05300005

担当者: 小山 智久 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 日本文学を研究するにあたっては、既存の注釈書を批判的に読み、複数を比較することによって問題点を見出すことが出発点となる。ここでは、『徒然草』などを素材に、校本や索引、注釈書を丁寧に読み比べて、古典作品の解釈の方法を学ぶ。

到達目標: 1.『徒然草』の代表的な注釈書を読み比べ、注釈の差異から解釈上の課題を読み取る力を身に付ける。
2. 注釈書間の解釈上の差異を、辞書や文法を活用した解釈だけでなく、妥当な解釈を判断する力を身に付ける。
3.『徒然草』をより深く読む能力と態度を身に付ける。

各回の授業計画:

1. 作品講読1 第7段「あだし野の露きゆる時なく」の講読演習
2. 作品講読2 第10段「家居のつきづきしく」の講読演習
3. 作品講読3 第12段「同じ心ならん人と」の講読演習
4. 作品講読4 第14段「和歌こそ、なほをかしきものなれ」の講読演習
5. 作品講読5 第15段「いづくにもあれ」、第16段「神楽こそ」、第17段「山寺にかきこもりて」の講読演習
6. 作品講読6 第19段「折節のうつりかはるこそ」①PP.44最初～PP.45 L.8の講読演習
7. 作品講読7 第19段「折節のうつりかはるこそ」②PP.45 L.9～PP.46 L.8の講読演習
8. 作品講読8 第21段「万のことは、月見るにこそ」の講読演習
9. 作品講読9 第25段「飛鳥川の淵瀬」の講読演習
10. 作品講読10 第29段「しづかに思へば」、第30段「人のなきあとばかり」の講読演習
11. 作品講読11 第32段「九月廿日の比」の講読演習
12. 作品講読12 第38段「名利に使はれて」(1)PP.72 L.6~PP.73 L.4、(2)PP.73 L.5～PP.74 L,3の講読演習
13. 作品講読13 第41段「五月五日、賀茂の競馬を見侍りしに」の講読演習
14. 作品講読14 第53段「これも仁和寺の法師」の講読演習
15. 作品講読15 第59段「大事を思ひ立たん人は」の講読演習

特記事項: ※全15回の授業のうちキャリアセンターからのキャリアガイダンスが1回入るため、授業内容が変更になる場合があります。

授業方法: 全回【対面】で行う。別の方法で行う場合は、予告した上でTeamsで行う。
1.～14. 演習(正徹本徒然草翻字、文法理解、講読、鑑賞)、協議
15. 講義

予習・復習・宿題など(内容・時間):

注釈書や解説書の調査(各回60分)
講読演習で取り上げる章段の表現の解析と読解の研究(各回60分)
発表資料作成(各回60分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	60 %	**確認テスト:**	− %	**レポート:**	40 %
その他1:			%		
その他2:			%		

評価基準: 1. 授業への取り組み
(望ましい到達度:80～100点)自分の読みについて、説得力をもって説明できる
(最低限の到達度:60～69点)各作品を読み込み、授業に臨むことができる

2. 提出物・レポート
(望ましい到達度:80～100点)自分なりの読後感等をレポートにまとめ、発表できる
(最低限の到達度:60～69点)一つの作品世界に関しての調査をまとめることができる

課題へのフィードバック:

講読の発表については、相互批評の場を設ける。
レポートについては添削を行い、授業時に解説・講評を行う。

教科書: 日本人学生は、西尾実・安良岡康作校注『新訂徒然草』(岩波文庫)
留学生は、小川剛生訳注『新版徒然草』(角川ソフィア文庫)

参考書: 各自手持ちの古語辞典、古典文法の副教材

授業・準備学習のアドバイス:

注釈書や解説を読み、納得できる現代語訳や解釈を行うことで、読解力を身に付けることを目指します。有職故実などについては大学図書館やJapanKnowledge等の活用を進めます。

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 国際文化専門演習Ⅱ

クラス:

授業コード: DB05300006

担当者: 桂 敦子 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本演習では、国際文化専門演習Ⅰでの学びをさらに発展させ、言語や文化的背景、価値観等が異なる人たちと、より良い対人関係を築くために必要な知識やスキルを体験的、実践的に学ぶことに加え、「違い」をチャンスに変える考え方やスキルを身につける。語学力だけでなく、異文化間コミュニケーションについて学ぶ中で、「チームビルディング力」や「自分と相手を理解する力」等も培い、多様な社会の中で協働する力を育成する。

到達目標: ①「異文化理解」や「コミュニケーション」に関する基礎的な知識を身につけることができる。
② 異文化間コミュニケーションスキルを体験的・実践的に習得することができる。
③「ミニ模擬国連」を通して、世界の課題や平和について自分なりの意見を述べることができる。
④ 日本の文化や伝統を理解し、外国人が日本をより良く理解するための方策を提案することができる。

各回の授業計画:

1. コースガイダンス
春学期レポートの講評
2. 秋学期研究テーマ(プロジェクト)の設定・計画
・自分の国や文化の強みを知る
3. プロジェクト研究①
・自分の国や文化の強みを生かしたプロジェクト案作成
4. プロジェクト研究②
・自分の国や文化の強みを生かしたプロジェクト案発表
5. 日本の良さを世界に発信するための方策
・「違い」をチャンスに変える物の見方
6. プロジェクト研究③
・外国人向け2泊3日の日本旅行プラン作成
7. プロジェクト研究④
・外国人向け2泊3日の日本旅行プラン発表
8. ミニ模擬国連①
・国際連合に関する基礎知識
・国際連合の現状と課題
9. ミニ模擬国連②
・気候変動に関するミニ模擬国連(その1)
10. ミニ模擬国連③
・気候変動に関するミニ模擬国連(その2)
11. ミニ模擬国連④
・国連における会議の進め方
12. ミニ模擬国連⑤
・宇宙資源の利用ルールに関するミニ模擬国連(その1)
13. ミニ模擬国連⑥
・宇宙資源の利用ルールに関するミニ模擬国連(その2)
14. ミニ模擬国連⑥
・宇宙資源の利用ルールに関するミニ模擬国連(その3)
15. まとめと確認(秋学期の総復習、質疑応答)

特記事項: なし

授業方法: 【授業は対面で実施】
1. コースガイダンス、講評、質疑応答等
2. 講義とワークショップ
3. 班別協議(PBL)、質疑応答

4. 発表、質疑応答、講評
5. 講義とワークショップ
6. 班別協議(PBL)、質疑応答
7. 発表、質疑応答、講評
8. 講義とワークショップ
9. 講義とワークショップ
10. 班別協議(PBL)、質疑応答
11. 発表、質疑応答、講評
12. 講義とワークショップ
13. 班別協議(PBL)、質疑応答
14. 発表、質疑応答、講評
15. 講評、質疑応答、次年度に向けての準備

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 春学期復習(45分)
2. テーマ設定・計画(180分)
3. プロジェクト研究のためのリサーチ(180分)
4. プロジェクト研究のための発表作成(180分)
5. プロジェクト研究のためのリサーチ(180分)
6. プロジェクト研究のためのリサーチ(180分)
7. プロジェクト研究発表作成(180分)
8. ミニ模擬国連のための準備(180分)
9. ミニ模擬国連のための準備(180分)
10. ミニ模擬国連のための準備(180分)
11. ミニ模擬国連のための発表作成(180分)
12. ミニ模擬国連のための準備(180分)
13. ミニ模擬国連のための準備(180分)
14. ミニ模擬国連のための発表作成(180分)
15. まとめと確認の復習(45分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	50 **%**	**確認テスト:**	20 **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	プレゼンテーション		30 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準:

1. 授業への取組
・課題にきちんと取り組むことができる(60～69点)
・課題にきちんと取り組んだ上で、それに対する意見を述べ、議論することができる(80～100点)
2. 確認テスト(レポート型)
・授業で学んだ知識を活かしながら、ある程度の内容のレポートが書ける。(60～69点)
・授業で学んだ知識を活かしながら、説得力のあるレポートが書ける。(80～100点)
3. プロジェクト発表(プレゼン等)
・プロジェクトに取り組み、わかりやすく発表することができる(60～69点)
・プロジェクトに取り組み、データや根拠となる資料等を示し、説得力のある発表をすることができる(80～100点)

課題へのフィードバック:

毎時間、意見や質問に回答し、フィードバックのための解説を行う。
課題テストや発表等については、随時、講評や解説を行う。

教科書: 特に使用しない。適宜プリントやワークシート等を配布。

参考書: 特に使用しない。適宜プリントやワークシート等を配布。

授業・準備学習のアドバイス:

講義や解説は、しっかりノートをとること。
プロジェクトやミニ模擬国連には、しっかり事前の準備(リサーチ)等を行い、授業に臨みましょう。

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 国際文化専門演習Ⅱ

クラス: 交換留学生

授業コード: DB05300007

担当者: 上原　翔子　　**単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 専門演習Ⅱでは、日本社会や日本文化の「今」を学ぶ。現代日本の社会や文化をテーマに取り上げ、自ら情報をまとめ、考察し、自らの意見を発信する力を養う。

到達目標: 難易度の高い日本語の文章を正確に読み取れるようになる。
自ら関心のあるテーマを決定し、必要な情報を正確に収集できる。
テーマについて、基本的なアンケート、インタビュー、資料調査などができるようになる。
調査の結果を考察し、自らの意見を分かりやすく伝え、他者と議論することができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション／「日本人と日本語」に関する文章①を読む
2. 「日本人と日本語」に関する文章①の内容について議論する／「日本人と日本語」に関する文章②を読む
3. 「日本人と日本語」に関する文章②の内容について議論する／2つの文章を通して学んだ日本語の面白さを考える
4. 「日本人と文学」に関する文章①を読む
5. 「日本人と文学」に関する文章①の内容について議論する／「日本人と文学」に関する文章②を読む
6. 「日本人と文学」に関する文章②の内容について議論する／「日本人と文学」に関する文章③を読む
7. 「日本人と文学」に関する文章③の内容について議論する／3つの文章を通して学んだ日本の文学作品の面白さを考える
8. 「日本人と生活」に関する文章①を読む
9. 「日本人と生活」に関する文章①の内容について議論する／「日本人と生活」に関する文章②を読む
10. 「日本人と生活」に関する文章②の内容について議論する／2つの文章を通して学んだ現代日本の生活について考える
11. 関心のあるテーマを1つ選択・発表に向けた準備（テーマに関する課題やアウトラインの作成など）を行う
12. 発表テーマに関する先行研究を紹介し、調査方法を検討する
13. 発表テーマに関する調査の報告
14. 先行研究・調査の結果などをまとめて発表・議論・フィードバック
15. まとめ（1年間の振り返り）／レポート作成

特記事項: ＊以上のように進めるが、ゼミの状況によって進度・内容が多少異なる場合がある。
＊全15回の授業のうちキャリアセンターからのキャリアガイダンスが1回入るため、授業内容が変更になる場合があります。

授業方法: 【対面】《演習》
学生間の対話・議論を重視した演習を行う。資料・ワークシートなどを使って文章を読み進め、内容を理解する。
情報検索・課題・発表準備などには、PCを使用する。

［第1回～第10回］
1．テーマに関する意見交換
2．文章音読・言語知識の確認
3．内容理解
4．文章に関する課題の提示
（授業外活動として発展活動に取り組む）
5．発展活動の結果を共有し、内容について議論
6．まとめ

［第11回～第15回］
発表に向けた準備を行う。関心のある発表テーマを選び、目的と全体の流れを決める。
またテーマに関する先行研究を調べ、必要な情報を収集する。
発表に必要となる調査（アンケート・インタビュー・資料調査）を行う。
先行研究や調査の結果をまとめて発表し、議論する。
自身の発表また他者の発表を通して学んだこと・考えたことなどを整理してレポートを作成する。

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

予習・復習・宿題などには以下のような作業が必要で、1学期間で総計2700分が必要である。

〈予習・宿題〉（各回60分）
・あらかじめ与えられた文章を読み、新しい語句を確認するなどして、大まかな内容を理解する。
・文章に関する発展的な課題について、情報を調べたり、自分の意見をまとめる。
・情報検索や先行研究をまとめるときに参考文献のリストを作成する。
・アンケートやインタビューなど調査を行い、その結果をまとめる。
・発表のための分かりやすいパワーポイントや原稿を作成する。
＜復習＞（各回60分）
・授業で議論した際に、新しく学んだ知識・意見を整理する。
・自分の発表あるいは他者の発表を振り返り、アンケート・インタビュー・資料調査などの方法を見直す。
＜レポート作成＞（各回60分）
・発表テーマを選んだ理由・目的、先行研究を行い分かったこと、調査の目的・方法・結果などをふまえ、発表を通して考えたことや分かったこと、反省点などを報告する。

評価方法：

授業へのとりくみ：	40 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	20 **%**
その他1：	発表		40 **%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

最低限の到達度（60～69点）
文章を理解し、発展的な活動にも何とか取り組むことができる。授業内での基本的な意見交換や報告ができる。
発表のために最低限必要な先行研究や調査などを行うことができ、その結果をまとめて発表することができる。
他者の発表時や他者からの質問に対して、分かること、分からないことを明確にして答えられる。

望ましい到達度（80～100点）
文章の内容や筆者の意図を深く理解し、発展的な活動にも積極的に取り組むことができる。
より良い発表のために、先行研究や調査を自ら考え、工夫し、新たな発見を与えるような発表をすることができる。
他者の発表時や他者からの質問に対して、的確に応えられる。また、議論することができる。

課題へのフィードバック：

発表に関するフィードバックは授業中に行う。発表資料やレポートなどのフィードバックはコメントを書いて返却する。

教科書： 授業内に資料を配布する。

参考書： 授業内で適宜紹介する。

授業・準備学習のアドバイス：

予習復習が大切になります。さまざまな文章を読むことで現代の日本について考えてみましょう。
恥ずかしがらず積極的に発言してください。意欲的な姿勢を期待します。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 国際文化専門演習Ⅱ

クラス:

授業コード: DB05300008

担当者: 山口 智治 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 人とAIが共生する将来へ向けて、現在のAIがどのような場面、用途に適用されて何ができているのかという最新状況を把握し、社会学的な観点や文化的な影響なども視野に、今後どうなるのか、どうあるべきか、新しいサービス・価値の創出を探求します。
演習Ⅱでは、特に解決策の立案～実現、評価を実践し、アイディアの効果を確認します。

到達目標: ・社会課題とAIの進化の両方見据え、新しいサービス・価値創出へ向けた、調査、分析、課題抽出、解決策の立案・実現、評価という一連の活動を実践的に体得する。
・新しいサービス・価値創出を具体化するための解決策の設計に関する手法を学び、実践する。
・設計した解決策の具現化を通じ、システムやサービスの開発・評価・改善を繰り返すアジャイル開発プロセスを実践する。

各回の授業計画:

1. ガイダンス、国際文化専門演習Iの振り返り
2. 課題解決策の検討①
3. 課題解決策の検討②
4. 課題解決策案の発表
5. 解決策実現方法設計
6. 解決策実現方法設計レビュー
7. 解決策実装
8. 解決策実装レビュー
9. 解決策実践①
10. 解決策実践②
11. 解決策評価
12. 解決策改善
13. 改善策実践
14. 改善策評価
15. 最終プレゼンテーション

特記事項:

授業方法:
1. ガイダンス、ディスカッション
2. 講義、ディスカッション、グループワーク
3. 講義、ディスカッション、グループワーク
4. 講義、ディスカッション
5. 講義、ディスカッション、グループワーク
6. 講義、ディスカッション、グループワーク
7. 講義、ディスカッション、グループワーク
8. 講義、ディスカッション、グループワーク
9. 講義、ディスカッション、グループワーク
10. 講義、ディスカッション、グループワーク
11. 講義、ディスカッション
12. 講義、ディスカッション、グループワーク
13. 講義、ディスカッション、グループワーク
14. 講義、ディスカッション
15. 講義、プレゼンテーション発表

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 課題解決策検討 180分
2. 課題解決策検討 180分

3. 課題解決策検討、発表準備 180分
4. 実現方法設計 180分
5. 実現方法設計 180分
6. 実現方法設計 180分
7. 事前調査・調査内容整理 180分
8. 事前検討 180分
9. 事前調査・調査内容整理 180分
10. 事前調査・調査内容整理、発表準備 180分
11. 事前調査・調査内容整理 180分
12. 事前調査・調査内容整理 180分
13. 事前調査・調査内容整理 180分
14. 最終プレゼンテーション準備 180分
15. 全体復習 180分

評価方法:

授業へのとりくみ:	50 **%**	**確認テスト:**	**%**	**レポート:**	30 **%**
その他1:	最終プレゼンテーション	20 **%**			
その他2:	−	**%**			

評価基準:

【望ましい到達度】
・授業への取り組み:独自の視点やアイディアを持って積極的に貢献しようとするとともに、他者の意見を引き出す働きかけができ、チーム全体を円滑に進めようとする。
・レポート:的確な情報収集・分析ができ、それらを論拠とした主張を論理的に組み立てられる
・プレゼンテーション:論点が明確で聴衆に届きやすい資料を作成し、魅力的に説明できる
【標準的な到達度】
・授業への取り組み:活動に積極的に関与し、自分の意見を適切に述べ、他者の意見も尊重する。
・レポート:一般的な情報収集と整理ができ、そこから導き出した論点をまとめることができる
・プレゼンテーション:必要十分な構成で資料作成でき、無駄のない説明ができる
【最低限の到達度】
・授業への取り組み:活動に毎回参加し、必要な報告をおこなう。議論では他者の意見をきちんと聞き、賛成/反対の意見を表明する。
・レポート:必要な情報を集約し、基本的な論点を示す。
・プレゼンテーション:不足のない構成で資料作成ができ、ひと通りの説明をおこなえる。

課題へのフィードバック:

授業内でのグループワークに対するサポート・アドバイス
授業内でのグループ発表に対する講評・アドバイス
授業内でのディスカッションを通じたフィードバック
資料・レポート内容に対するフィードバック

教科書: なし

参考書: 適宜紹介する

授業・準備学習のアドバイス:

・授業内でパソコンを使用します。
・技術・市場の最新動向等の状況によって授業内容や授業方法(対面・オンライン・オンデマンド)を変更する場合があります。

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 国際文化専門演習Ⅲ

クラス:

授業コード: DB05400001

担当者: 玉地 瑞穂 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 日本事情紹介を通した中上級レベルの日本語の教え方と卒業論文の指導を中心とした演習を行います。日本事情には茶道などの伝統的な日本文化のほか、アニメやJ-Popなどのポピュラーカルチャー、日本語のコミュニケーションの特徴などが含まれます。3年生から関心を持っているテーマについて問題点を整理し、社会や文化との関係を考えていきます。

到達目標: 日本事情紹介を通した日本語授業の方法を理解し、実際に授業を行うことができる。
関心のある研究テーマに関する先行研究の文献を読み、問題提起、調査方法の設定など論文のアウトラインの作成を行う。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 日本事情教育とは
3. 日本事情紹介による中上級の日本語の授業について
4. 模擬授業と評価①
5. 模擬授業と評価②
6. 模擬授業と評価③
7. 模擬授業と評価④
8. 卒業論文テーマの発表
9. 論文目次の発表
10. 先行研究の文献調査の発表
11. 調査方法の発表
12. 論文アウトラインの発表①
13. 論文アウトラインの発表②
14. 論文アウトラインの発表③
15. 中間発表

特記事項: なし

授業方法: ①～⑮ 講義・演習（対面）

予習・復習・宿題など(内容・時間):

予習 900分
復習 900分
レポート作成、プレゼン準備 900分

評価方法:

授業へのとりくみ:	50 %	**確認テスト:**	－ %	**レポート:**	25 %		
その他1:	プレゼンテーション		25 %				
その他2:			%				

評価基準: (80－100) 積極的に討論に参加し、協働学習を進めることができる。意義のある研究テーマを設定し、研究テーマに沿った文献調査、先行研究のまとめ、調査を行うことができる。
(70－79) 討論に参加し、協働学習を進めることができる。調査可能な研究テーマを設定し、文献調査を行い、先行研究をまとめるなど、自分で研究を進めることができる。
(60－69) 協働学習に参加することができる。自分なりの研究テーマを設定し、文献調査を行い、先行研究をまとめることができる。助言を受けながら、研究を進めることができる。

課題へのフィードバック:

課題や発表などのフィードバックは授業中に行う

教科書: なし

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

卒業論文執筆の基礎を固めましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 国際文化専門演習Ⅲ

クラス:

授業コード: DB05400002

担当者: 河野 泉 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 人の本質的なニーズを捉えるHCDに関して、各自の興味や社会の課題を踏まえて、研究テーマを決定する。これまでの先行研究を調査し、どのような調査・手法などを用いて研究を進めるのか研究計画をたてる。

到達目標:
1. 各自どのような研究テーマにするかを決定する。
2. 先行研究を調べて研究手法を検討し、実験/調査/開発など提案内容を決める。
3. 研究計画をたてる

各回の授業計画:

1. ガイダンス
2. 各自が取り組みたいと考えている研究テーマについて発表し、ゼミメンバーでディスカッションする
3. 研究テーマに関する話題提供1
4. 論文や先行研究の調査方法について説明
5. 研究テーマに関する話題提供2
6. 各自が調査した先行研究について発表し、ゼミメンバーでディスカッションする
7. 各自が取り組みたいと考えている研究テーマについて発表し、ゼミメンバーでディスカッションする
8. 中間発表1（研究テーマ）
9. 研究手法に関する講義（アンケート、インタビュー）
10. 研究手法に関する講義（観察）
11. 研究手法に関する講義（ユーザー評価）
12. 研究手法に関する講義（プロトタイプ）
13. 各自で考える研究方法、提案内容について発表し、ゼミメンバーでディスカッションする
14. 各自の研究計画について発表し、ゼミメンバーでディスカッションする
15. 中間発表2（研究計画）

特記事項: なし

授業方法: 対面：第1～15回

1. ガイダンス
2. 発表、ディスカッション（仮テーマ）
3. 講義（話題提供1）
4. 講義（論文調査方法）
5. 講義（話題提供2）
6. 発表、ディスカッション（先行研究）
7. 発表、ディスカッション（研究テーマ）
8. 中間発表1（研究テーマ）
9. 講義（研究手法1）
10. 講義（研究手法2）
11. 講義（研究手法3）
12. 講義（研究手法4）
13. 発表、ディスカッション（研究方法）
14. 発表、ディスカッション（研究計画）
15. 中間発表2（研究計画）

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

研究テーマの構想発表準備 480分
先行研究のまとめの課題 600分

調査・手法の検討準備 480分
研究課題の発表準備 720分
研究計画発表準備 480分

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	− **%**	**レポート:**	− **%**
その他1:	発表		70 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準:

1. 授業への取り組み
他の担当者の発表時に、質問が出来る(60～69)
他の担当者の発表時に、自分の意見が述べられる(70～79)
他の担当者の発表時に、自分なりの考察が述べられる(80～100)

2. 発表
テキストの読んだ内容についてまとめられている(60～69)
テキストの内容に加えて、自分で調べた内容についてもまとめられている(70～79)
上記に加えて、自分なりの考察が述べられている(80～100)

課題へのフィードバック:

発表、課題について、授業内のディスカッションを通じてフィードバックする。

教科書: 佐渡島紗織・吉野亜矢子2008『これから研究を書くひとのためのガイドブック』ひつじ書房

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

授業内でパソコンを使用

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 国際文化専門演習Ⅲ

クラス:

授業コード: DB05400003

担当者: 藤田 眞弓 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: このゼミでは英語圏文化を文学や映画などを通して研究します。専門演習Ⅰ、Ⅱで得た英語圏文化に関する 知識と英文読解力を活かしながら、各自で選んだテーマを研究し、発表してもらいます。研究にはかならず英語の文献や映像などを使用してもらいますので、引き続き総合的な英語力の向上も目指します。

到達目標: 英語圏の文化について理解をより深めること。英語の文献を正確に読み、その内容を自身の研究の為にまとめることができるようになること。

各回の授業計画:

1. コースガイダンス
2. 前年度秋学期レポートの講評
3. 春学期研究テーマの設定
4. 春学期研究テーマの設定
5. 論文作成指導1 文献の探し方
6. 論文作成指導2 正しい引用の仕方
7. 論文作成指導3 先行研究の活用
8. 研究中間発表1
9. 研究中間発表2
10. 研究中間発表に対する質疑応答
11. 研究中間発表の講評
12. 研究発表1
13. 研究発表2
14. 研究発表の講評
15. まとめと確認
論文作成の振り返り、卒業研究テーマ決定

特記事項: なし

授業方法:
1. コースガイダンス
2. レポート講評
3. 講義、ディスカッション、質疑応答
4. プレゼンテーション
5. 講義、ディスカッション、質疑応答
6. 講義、ディスカッション、質疑応答
7. 講義、ディスカッション、質疑応答
8. プレゼンテーション
9. プレゼンテーション
10. 講義、ディスカッション、質疑応答
11. 講義、ディスカッション、質疑応答
12. プレゼンテーション
13. プレゼンテーション
14. 講評、質疑応答
15. 講評、質疑応答
1～15対面授業

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 昨年度の復習 (180分)
2. 研究テーマ設定1 (180分)

3. 研究テーマ設定2（180分）
4. 研究テーマのための文献探し（180分）
5. 研究テーマのための文献精読(180分）
6. 文献一覧表作成（180分）
7. 研究発表作成1（180分）
8. 研究発表作成2（180分）
9. 質疑応答準備（180分）
10. 研究発表作成3（180分）
11. 研究発表作成4（180分）
12. 論文作成1（180分）
13. 論文作成2（180分）
14. 論文作成3（180分）
15. まとめと確認の復習（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	60	**%**	**確認テスト：**	－	**%**	**レポート：**	40 **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準：
・自身の研究に必要な日本語、英語の文献を集め、正しく読むことが出来る。(60～69)
・自身の研究に必要で適切な日本語、英語の文献を集め、正しく読解し、内容をまとめたり、それに対す る意見を述べることができる。(80～100)

課題へのフィードバック：

毎時間、訳読やディスカッションの内容に対してコメントを与える。

教科書： 指定されたテクストを各自で購入。

参考書： 適宜プリント等を配布。

授業・準備学習のアドバイス：

英語の文献を使用しますので、予め指示された文献、資料を精読した上で授業に臨むこと。毎回必ず英和辞書を持参すること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 国際文化専門演習Ⅲ

クラス:

授業コード: DB05400004

担当者: 小山 智久 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: テクスト論、作品論、作家論等の文学の批評、研究の方法を学びながら、自身の研究の方向性を見定め、卒業論文のテーマを確定する。

到達目標: 自身の研究テーマに関連する論文や先行研究を調べ、自身が取り組むべき課題を明確にする。
見出した課題に関わる、作品の分析手法や卒業研究に反映すべき要素を確定する。

各回の授業計画:

1. 演習の目標、論文の書き方、研究倫理の講義、説明
2. 各自の研究課題の設定と参考文献のリスト作成
作品の分析1（太宰治「富嶽百景」①）
3. 各自の参考文献の内容報告1 文献検索
作品の分析1（太宰治「富嶽百景」②）
4. 各自の参考文献の内容報告2 引用の方法
作品の分析1（太宰治「富嶽百景」③）
5. 各自の参考文献の内容報告3 先行研究の活用と各自の研究計画の作成と発表
作品の分析2（太宰治「走れメロス」①）
6. 文献調査1 先行研究をまとめ、各自の研究課題・研究計画の説明
作品の分析2（太宰治「走れメロス」②）
7. 文献調査2 先行研究をまとめ、各自の研究課題を明確にする
作品の分析2（太宰治「走れメロス」③）
8. 文献調査3 先行研究をまとめ、各自の研究課題を明確にする
作品の分析3（太宰治「駆け込み訴え」①）
9. 卒業研究中間報告と質疑応答1
作品の分析3（太宰治「駆け込み訴え」②）
10.卒業研究中間報告と質疑応答2
作品の分析4（太宰治「桜桃」①）
11. 卒業研究中間報告と質疑応答3
作品の分析4（太宰治「桜桃」②）
12. 卒業研究個別指導 文献の収集と内容考察1
作品の分析5（太宰治「葉桜と魔笛」①）
13. 卒業研究個別指導 文献の収集と内容考察2
作品の分析5（太宰治「葉桜と魔笛」②）
14. 各自の卒業研究テーマの確定と概要発表1
15. 各自の卒業研究テーマの確定と概要発表2

特記事項: （授業方法）分析手法、作品論の書き方等を概説する。それに基づいて実際に作品分析を行い、作品論を試作する。それらの相互批評も行い、自身の新しい視点獲得にもつなげる。
一方で、各自の研究の進捗を支援するため、逐次報告を求める。

授業方法:
1.【対面】講義、コースガイダンス
2.【対面】講義、実習
3.【対面】講義、ディスカッション、文献購読
4.【対面】ディスカッション、実習
5.【対面】ディスカッション、実習
6.【対面】実習、演習
7.【対面】実習、演習
8.【対面】実習、演習
9.【対面】演習、プレゼンテーション、質疑応答

10.【対面】演習、プレゼンテーション、質疑応答
11.【対面】演習、プレゼンテーション、質疑応答
12.【対面】演習
13.【対面】 演習
14.【対面】実習、プレゼンテーション
15.【対面】実習、プレゼンテーション

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

文献講読、先行研究調査（900分）
レポート作成、プレゼンテーション準備（900分）
卒業論文に関わる資料検索、検討等（450分）
卒論概要に作成と研究計画の策定（450分）

評価方法：	**授業へのとりくみ：**	50 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	50 **%**
	その他1：			**%**		
	その他2：			**%**		

評価基準： 1．授業への取り組み
（望ましい到達度：80～100点）作品分析や作品論を的確にまとめ、自分なりの観点も含めて発表することができる。
（最低限の到達度：60～69点）作家や作品についての議論に積極的に参加し、自身の考えを述べることができる。

2．提出物・レポート
（望ましい到達度：80～100点）作品論、作家論について積極的に調査・研究を行い、自分なりの整理・まとめを行うことができる。
（最低限の到達度：60～69点）テーマに沿って自分の文章で考えをまとめることができている。

課題へのフィードバック：

レポート等については、個別にコメントを与えたり、助言・指導を行う。
研究発表等については、相互批評や討論の機会を設け、研究意義や課題について、自ら認識できるようにする。
卒業論文テーマや研究計画については、内容に応じて個別に指導する。

教科書： 太宰治『斜陽 人間失格 桜桃 走れメロス外七編』文春文庫

参考書： 小笠原喜康『新版大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書（2009年）
石原千秋『大学生の論文執筆法』ちくま新書（2006年）

授業・準備学習のアドバイス：

指示の無い限り授業時はノートパソコンまたはタブレット等を持参すること。
研究やレポート作成にあたっては大学図書館やJapanKnowledge等の活用を勧めます。
最終的には、原稿用紙40枚以上（16,000字以上・留学生は10,000字以上）程度の論文作成が必要になるので、そのつもりで取り組むこと。
学生同士の相互批評や課題交換等を積極的に行うことにより、自分らしさを追求し、個性的な論文作成に繋げて欲しい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 国際文化専門演習Ⅲ

クラス:

授業コード: DB05400005

担当者: 桂 敦子 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本演習では、これまで専門演習Ⅰ・Ⅱで培ってきた異文化コミュニケーションおよび文化的視点からの国際問題等に関する知識を基盤として、卒業論文の完成を目指す。
論文作成に必要なアカデミックライティングの技能を活用し、自ら設定したテーマについて体系的に研究を進める。
また、執筆の各段階でプレゼンテーションを行い、ゼミ内で意見交換を重ねることで、互いの視点を取り入れながら研究内容の深化と質的向上を図る。
具体的には、研究テーマの検討、執筆計画の立案、予備的な文献調査、研究課題と方法の明確化、先行研究や関連資料・データの収集、資料の整理・分析、分析結果の考察、論文構成の作成、中間発表などを段階的に行い、卒業論文としてまとめ上げるための基盤をつくることを目標とする。

到達目標: ① 異文化的視点を踏まえた研究テーマの設定と論理的構成力の習得
異文化コミュニケーションや国際問題に関する知識を活用し、自らの関心に基づいた研究テーマを適切に設定し、論理的で一貫性のある研究計画・構成を立案できる。
② 文献調査・資料分析に基づく学術的議論の展開力の向上
先行研究や関連資料を収集・整理し、適切な分析方法を用いてデータを解釈し、自らの主張を学術的根拠に基づいて展開できる力を身につけることができる。
③ プレゼンテーションと相互フィードバックを通じた表現力・批判的思考力の強化
研究過程を発表し、ゼミ内での議論やフィードバックを取り入れながら、自身の研究内容をより明確かつ説得力のある形に改善できる能力を養うことができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション:前学期の省察、本学期の目標設定、卒業論文執筆スケジュール
2. 研究テーマの検討及び執筆スケジュールの設定
3. 予備調査:テーマに関連する社会背景の調査、文献やデータ資料のキーワード検索
4. 研究テーマの選定:予備調査に基づき決定したテーマの発表
5. テーマに対する問いの設定:テーマに対する問いや仮説の設定、問いに対して必要となる資料の検討
6. 研究方法の検討:問いや仮説を明らかにするための研究対象や方法の検討
7. 先行研究や資料の収集①:資料の収集計画を設定、テーマに関する研究の動向を調査
8. 先行研究や資料の収集②:収集対象の選定、各種データベースを活用した収集
9. 先行研究や資料の収集③:資料収集の継続(アンケートやフィールドワークによるデータ収集含む)
10. 資料の整理・分類:収集した資料をトピックごとに整理、分類資料リストの作成
11. 資料の分析:分類した根拠資料を分析
12. 分析結果の考察:分析結果をもとに問いへの回答を考察
13. アウトラインの作成:キーワードを用いて章立てを行い、暫定的なアウトラインを作成
14. アウトラインの改訂・執筆計画:アウトラインの改訂、執筆スケジュールの設定
15. プレゼンテーション:卒業論文の中間発表(テーマ・研究方法・アウトライン・執筆スケジュール)

特記事項:

授業方法: 15回すべての授業を対面で実施

1. 演習、ペアワーク、ディスカッション
2. 演習、ディスカッション
3. 演習、ディスカッション
4. プレゼンテーション、ディスカッション
5. 演習、ディスカッション
6. 演習、ディスカッション
7. 演習、ディスカッション

8. 演習、ディスカッション
9. 演習、ディスカッション
10. 演習、ディスカッション
11. 演習、ディスカッション
12. 演習、ディスカッション
13. 演習、ディスカッション
14. 演習、ディスカッション
15. プレゼンテーション、ディスカッション

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

執筆スケージュールの設定（120分）
・予備調査としての資料読解（600分）
・研究テーマの検討（300分）
・テーマに対する問いおよび研究方法の検討（120分）
・関連する先行研究や資料・データの収集（360分）
・資料の整理・分析（300分）
・分析結果の考察（300分）
・アウトラインの作成（300分）
・中間発表の準備（300分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	70 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	プレゼンテーション		30 **%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

①望ましい到達度（80～100点）
【授業へのとりくみ】
シラバスの計画通りに卒業研究を進め、主体的に取り組むことができる。
ディスカッションにて協働的かつ積極的に貢献できる。
【プレゼンテーション】
卒業論文の中間発表として、テーマ・研究方法・アウトライン・執筆スケジュールを明確に提示できる。
明確で質の高いスライドを作成し、高いレベルのプレゼンテーションができる。
②最低限の到達度（60～69点）
【授業へのとりくみ】
指示された最低限の内容はシラバスの計画通りに進めることができる。
ディスカッションにて、他者への質問や意見を発表できる。
【プレゼンテーション】
卒業論文の中間発表として、テーマ・研究方法・アウトライン・執筆スケジュールを提示できる。
指示された要件を満たすプレゼンテーションを行うことができる。

課題へのフィードバック：

提出課題、グループディスカッション、プレゼンテーションに対して、授業時にフィードバックを行う。
授業外の研究の進捗状況に関しては、Teamsで文書を共有してフィードバックを行う。

教科書： なし

参考書： 『よくわかる卒論の書き方』山口 裕之（ミネルヴァ書房）
『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』戸田 山和久（NHKブックス）

授業・準備学習のアドバイス：

卒業論文は4年間の学びの集大成。大変な作業ですが、論理的に自分の主張を整理し、説得力のある文章を書く経験は貴重です。卒業論文のポイントの一つはテーマ設定です。自分がこれまで学んだ中で最も興味・関心をひかれたのはどのような内容だったのかしっかり振り返ってみましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 国際文化専門演習Ⅲ

クラス:

授業コード: DB05400006

担当者: 大村 誠一郎 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 各自が文学研究のテーマを決定し、これまでの先行研究をまとめる。
これに基づいて、どのような調査・手法などを用いて研究を進めるのかについて発表、討議する。

到達目標: 1. 各自どのような研究テーマにするかを決定する。
2. 自分の研究テーマの先行研究を調べてまとめる。
3. 研究方法の検討と、研究テーマを深めるために必要な資料の収集。

各回の授業計画:

1. 研究テーマの構想を各自が表明、研究課題や研究方法についてゼミメンバーで共有する。
2. 研究テーマの構想発表 担当者1～3
3. 研究テーマの構想発表 担当者4～6
4. 先行研究のまとめ 担当者1~3
5. 先行研究のまとめ 担当者4~6
6. 現在の進捗状況について報告 担当者1~3
7. 現在の進捗状況について報告 担当者4~6
8. 研究課題の整理 担当者1~3
9. 研究課題の整理 担当者4~6
10. 研究のために集めた文献資料や研究文献の確認
11. 現時点でまとまっていることと今後の見通しについて発表 担当者1~2
12. 現時点でまとまっていることと今後の見通しについて発表 担当者3~4
13. 現時点でまとまっていることと今後の見通しについて発表 担当者5~6
14. 予備日（キャリアガイダンスの日程による）
15. 総括

特記事項:

授業方法: 1. ガイダンス、発表
2. 発表
3. 発表、ディスカッション
4. 発表、ディスカッション
5. 発表、ディスカッション
6. 発表、ディスカッション
7. 発表、ディスカッション
8. 発表、ディスカッション
9. 発表、ディスカッション
10. 発表、ディスカッション
11. 発表、ディスカッション
12. 発表、ディスカッション
13. 発表、ディスカッション
14. 発表、ディスカッション
15. 演習、ディスカッション

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

研究テーマの構想発表準備 480分
先行研究のまとめの課題 600分
研究方法の検討や資料の収集 480分
研究課題の発表準備 720分

研究計画発表準備 480分

評価方法：	授業へのとりくみ：	50 %	確認テスト：	－ %	レポート：	－ %
	その他1： 発表			50 %		
	その他2：			%		

評価基準：

1. 授業への取り組み
他の担当者の発表時に、質問が出来る（60～69）
他の担当者の発表時に、自分の意見が述べられる（70～79）
他の担当者の発表時に、自分なりの考察が述べられる（80～100）

2. 発表
テキストの読んだ内容についてまとめられている（60～69）
テキストの内容に加えて、自分で調べた内容についてもまとめられている（70～79）
上記に加えて、自分なりの考察が述べられている（80～100）

課題へのフィードバック：

発表、課題について、授業内のディスカッションを通じてフィードバックする。

教科書： なし

参考書：

戸田山 和久2012『新版 論文の教室－レポートから卒論まで』NHK出版
齋藤孝・西岡達裕2006『学術論文の技法 新訂版』日本エディタースクール出版部

授業・準備学習のアドバイス：

授業外でも疑問に思ったことは積極的に自分で調べ、またゼミでもどんどん質問・発言して下さい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 国際文化専門演習Ⅳ

クラス:

授業コード: DB05500001

担当者: 玉地 瑞穂 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: このゼミでは日本語教育に関する研究を行い、その成果を論文としてまとめる。先行研究をまとめ、調査方法を考え、調査を行い、調査結果を考察し、論文としてまとめていく。その過程を通して、基本的な研究論文の書き方を身に付けることを目指す。

到達目標: アカデミックな研究論文の作成方法、調査の方法を身に付ける。

各回の授業計画:

1. 中間発表1と質疑応答
2. 中間発表2と質疑応答
3. 研究調査案1の発表と検討
4. 研究調査案2の発表と検討
5. 論文アウトラインの発表1
6. 論文アウトラインの発表2
7. アウトライン発表2
8. 卒業論文指導
9. 卒業論文指導
10. 卒業論文指導
11. 卒業論文発表
12. 卒業論文発表
13. 論文審査
14. 論文審査
15. 論文審査

特記事項: なし

授業方法: ①～⑮ 講義・演習（対面）

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 中間発表の準備をする（180分）
2. 中間発表の準備をする（180分）
3. 研究調査案の発表の準備をする（180分）
4. 研究調査案の発表の準備をする（180分）
5. 論文アウトラインの発表の準備をする（180分）
6. 論文アウトラインの発表の準備をする（180分）
7. 論文アウトラインの発表の準備をする（180分）
8. 論文指導のフィードバックを基に研究調査を行う（180分）
9. 論文指導のフィードバックを基に研究調査を行う（180分）
10. 論文指導のフィードバックを基に研究調査を行う（180分）
11. 論文発表の準備をする（180分）
12. 論文発表の準備をする（180分）
13. 論文を執筆する（180分）
14. 論文を執筆する（180分）
15. 論文を執筆する（180分）

評価方法: **授業へのとりくみ:** 30 **%** **確認テスト:** － **%** **レポート:** － **%**

その他1: 卒業論文の中間発表・調査案発表 40 **%**

その他2： 教員による論文指導 30 **%**

評価基準： 「最低限の到達度（60～69点）」先行研究をまとめ、調査を行い、調査結果を考察し、その成果を研究論文としてまとめることができる。
「望ましい到達度（80～100点）」先行研究をまとめ、調査を行い、調査結果を考察し、その成果を研究論文としてわかりやすくまとめ、アカデミックな文章で表現することができる。

課題へのフィードバック：

授業での発表、および面談時にフィードバックを行う。

教科書： なし

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：

先行研究の文献調査が研究の基本です。アカデミックな研究の基本を身に付けてください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 国際文化専門演習Ⅳ

クラス:

授業コード: DB05500002

担当者: 河野 泉 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 国際文化専門演習Ⅲでたてた研究計画に基づいて研究を進め、(1)課題の提起、(2)課題解決のための提案(実験・調査・開発など)、(3)結果の分析・評価、という一連の流れをまとめた学術論文を作成する。

到達目標:
1. 課題解決のための仮説を立証する実験／調査／開発などを行う
2. 提案した結果(サービスのプロトタイプなど)のユーザー評価を行う
3. 課題解決型の学術論文のアウトラインを作成できる

各回の授業計画:

1. ガイダンス
2. 研究経過発表、ディスカッション
3. 研究経過発表、ディスカッション
4. 講義(論文指導1)
5. 講義(論文指導2)
6. 研究経過発表、ディスカッション
7. 研究経過発表、ディスカッション
8. 研究経過発表、ディスカッション
9. 卒業論文作成指導1
10. 卒業論文作成指導2
11. 卒業論文作成指導3
12. 発表準備
13. 卒業研究のプレゼンテーション1
14. 卒業研究のプレゼンテーション2
15. 総括

特記事項: なし

授業方法: 対面:第1～15回

1. ガイダンス
2. 発表、ディスカッション
3. 発表、ディスカッション
4. 講義
5. 講義
6. 発表、ディスカッション
7. 発表、ディスカッション
8. 発表、ディスカッション
9. 講義、演習
10. 講義、演習
11. 講義、演習
12. 発表
13. 発表、ディスカッション
14. 発表、ディスカッション
15. 演習、ディスカッション

予習・復習・宿題など(内容・時間):

研究中間発表の準備 600分
研究中間発表結果への対応 120分

論文執筆技術の課題 120分
研究経過発表の準備 600分
個別指導への準備 480分
卒業研究のプレゼンテーション準備 800分

評価方法:

授業へのとりくみ:	30	**%**	**確認テスト:**	−	**%**	**レポート:**	− **%**
その他1: 発表				70	**%**		
その他2:					**%**		

評価基準:

1. 授業への取り組み
他の担当者の発表時に、質問が出来る(60～69)
他の担当者の発表時に、自分の意見が述べられる(70～79)
他の担当者の発表時に、自分なりの考察が述べられる(80～100)

2. 発表
テキストの読んだ内容についてまとめられている(60～69)
テキストの内容に加えて、自分で調べた内容についてもまとめられている(70～79)
上記に加えて、自分なりの考察が述べられている(80～100)

課題へのフィードバック:

発表、課題について、授業内のディスカッションを通じてフィードバックする。

教科書: なし

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

授業内でパソコンを使用

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 国際文化専門演習Ⅳ

クラス:

授業コード: DB05500003

担当者: 大村 誠一郎 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 国際文化専門演習Ⅲで発表した内容を元に、資料読解・分析検討を行った内容について考察を深める。また、自分なりの論を構築するだけでなく、わかりやすく論述・発表することについても学ぶ。

到達目標:
1. 中間発表で、自分の研究テーマについて分かりやすく説明できる。
2. 自分の論と先行研究との位置づけを明確に説明できる。
3. 研究の成果について論文として執筆できる。

各回の授業計画:

1. ガイダンス
2. 中間発表に向けた準備
3. 中間発表 担当者1～3
4. 中間発表 担当者4～6
5. 論文執筆技術1
6. 論文執筆技術2
7. 研究経過発表 担当者1～2
8. 研究経過発表 担当者3～4
9. 研究経過発表 担当者5～6
10. 論文執筆のための指導(1)
11. 論文執筆のための指導(2)
12. 論文執筆のための指導(3)
13. 論文執筆のための指導、または 口頭試問に向けてのプレゼンテーション資料作成
14. 口頭試問に向けてのプレゼンテーション(パワーポイント資料) 作成
15. 総括

特記事項:

授業方法:
1. ガイダンス
2. 演習、ディスカッション
3. 発表、ディスカッション
4. 発表、ディスカッション
5. 講義
6. 講義
7. 発表、ディスカッション
8. 発表、ディスカッション
9. 発表、ディスカッション
10. 講義と個別指導
11. 講義と個別指導
12. 講義と個別指導
13. 演習
14. 発表、ディスカッション
15. 演習、ディスカッション

予習・復習・宿題など(内容・時間):

研究中間発表の準備 600分
研究中間発表結果への対応 120分
研究経過発表の準備 600分
個別指導への準備 1100分

卒業研究のプレゼンテーション準備 300分

評価方法:

授業へのとりくみ:	50 **%**	**確認テスト:**	− **%**	**レポート:**	− **%**
その他1:	発表		50 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準:

1. 授業への取り組み
他の担当者の発表時に、質問が出来る(60～69)
他の担当者の発表時に、自分の意見が述べられる(70～79)
他の担当者の発表時に、自分なりの考察が述べられる(80～100)

2. 発表
テキストの読んだ内容についてまとめられている(60～69)
テキストの内容に加えて、自分で調べた内容についてもまとめられている(70～79)
上記に加えて、自分なりの考察が述べられている(80～100)

課題へのフィードバック:

発表、課題について、授業内のディスカッションを通じてフィードバックする。

教科書: なし

参考書:

戸田山 和久2012『新版 論文の教室－レポートから卒論まで』NHK出版
齋藤孝・西岡達裕2006『学術論文の技法 新訂版』日本エディタースクール出版部

授業・準備学習のアドバイス:

発表、課題について、授業内のディスカッションを通じてフィードバックする。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 国際文化専門演習Ⅳ

クラス:

授業コード: DB05500004

担当者: 藤田 眞弓 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: このゼミでは英語圏文化を文学や映画などを通して研究します。専門演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで得た英語圏に関する 知識と英文読解力を活かしながら、各自で選んだテーマを研究し、発表してもらいます。研究にはかならず英語の文献や映像などを使用してもらいますので、引き続き総合的な英語力の向上も目指します。

到達目標: 英語圏の文化について理解をより深めること。英語の文献を正確に読み、その内容を自身の研究の為にまとめることができるようになること。

各回の授業計画:

1. コースガイダンス
2. 春学期レポートの講評
3. 卒業研究テーマの設定
4. 卒業研究テーマの発表
5. 論文作成指導①文献の探し方の復習
6. 論文作成指導②正しい引用の仕方の復習
7. 論文作成指導③先行研究の活用の復習
8. 卒業論文作成指導①
9. 卒業論文作成指導②
10. 卒業研究中間発表
11. 卒業研究中間発表講評
12. 卒業論文作成指導③
13. 卒業論文作成指導④
14. 卒業研究発表
15. 卒業研究発表講評

特記事項: なし

授業方法: 1. コースガイダンス（講義、質疑応答等）
2. 卒業論文指導と英文精読
3. 卒業論文指導と英文精読
4. 卒業論文指導と英文精読
5. 卒業論文指導と英文精読
6. 卒業論文指導と英文精読
7. 卒業論文指導と英文精読
8. 卒業論文指導と英文精読
9. 卒業論文指導と英文精読
10. 卒業論文指導と英文精読
11. 卒業論文指導と英文精読
12. 卒業論文指導と英文精読
13. 卒業論文指導と英文精読
14. 卒業論文指導と英文精読
15. 講評と口頭試問指導
1～15対面授業

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 春学期の復習（180分）
2. 研究テーマ設定①（180分）
3. 研究テーマ設定②（180分）

4. 研究テーマのための文献探し（180分）
5. 研究テーマのための文献精読(180分)
6. 文献一覧表作成（180分）
7. 研究発表作成①（180分）
8. 研究発表作成②（180分）
9. 質疑応答準備（180分）
10. 研究発表作成③（180分）
11. 研究発表作成④（180分）
12. 論文作成①（180分）
13. 論文作成②（180分）
14. 論文作成③（180分）
15. 口頭試問準備（180分）

評価方法：	**授業へのとりくみ：**	60	**%**	**確認テスト：**	－	**%**	**レポート：**	40 **%**
	その他1：					**%**		
	その他2：					**%**		

評価基準： ・自身の研究に必要な日本語、英語の文献を集め、正しく読むことが出来る。（60～69）
・自身の研究に必要で適切な日本語、英語の文献を集め、正しく読解し、内容をまとめたり、それに対する意見を述べることができる。（80～100）

課題へのフィードバック：

資料の読解、訳読に対する解説、指導を毎時間行う。
授業時に提出物を回収した場合、翌週の返却時に解説、コメントをする。

教科書： 指定されたテクストを各自で購入。

参考書： 適宜プリント等を配布。

授業・準備学習のアドバイス：

英語の文献を使用しますので、予め指示された文献、資料を精読した上で授業に臨むこと。毎回必ず英和辞書を持参すること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 国際文化専門演習Ⅳ

クラス:

授業コード: DB05500005

担当者: 小山 智久 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 春学期、夏休みの研究を基に、自身の問題意識に沿った独自の視点を組み込んだ卒業論文を完成させる。

到達目標: 2度の中間発表で、研究成果を発表し、相互批評の中で研究の課題等を認識する。
出来るだけ多くの先行研究を調査し、論文に一つでも自分なりの、独自の視点を入れ込むようにする。

各回の授業計画:

1. 各自の卒業研究の進捗状況の発表と合評
2. 各自の卒業研究関連資料の合同検討1
3. 各自の卒業研究関連資料の合同検討2
4. 卒業研究の個別指導1
5. 卒業研究の個別指導2
6. 卒業研究の中間報告と合評①
7. 卒表研究の中間報告と合評②
8. 卒業研究の個別指導3
9. 卒業研究の個別指導4
10. 卒業研究の個別指導5
11. 卒業研究の個別指導6
12. 卒業論文アブストラクトを用いた研究報告、質疑応答①
13. 卒業論文アブストラクトを用いた研究報告、質疑応答②
14. 卒業論文アブストラクトを用いた研究報告、質疑応答③
15. 振り返り、まとめ

特記事項: (授業方法)論文に関わる先行研究や参考資料を講座のメンバー全体で共同して検討を行い、その課題を明らかにする。2度の中間発表を設定することで、論文作成の進捗状況を確認し、完成へと導く。

授業方法:
1.【対面】発表、討議
2.【対面】発表、討議
3.【対面】発表、討議
4.【対面】研究、指導
5.【対面】研究、指導
6.【対面】プレゼンテーション、討議
7.【対面】プレゼンテーション、討議
8.【対面】研究、指導
9.【対面】研究、指導
10.【対面】研究、指導
11.【対面】研究、指導
12.【対面】プレゼンテーション、討議
13.【対面】プレゼンテーション、討議
14.【対面】プレゼンテーション、討議
15.【対面】討議・協議

予習・復習・宿題など(内容・時間):

以下の回の事前に予習として準備をしておくこと。
論文テーマに関する資料収集及び検討(1～5, 8～11回 各180分)
プレゼンテーション等研究中間発表等の準備(6～7回 各180分)
論文発表と検討、質疑応答等準備(12～15回 各180分)

評価方法：	授業へのとりくみ：	50 %	確認テスト：	－ %	レポート：	50 %
	その他1：			%		
	その他2：			%		

評価基準：

1．授業への取り組み
（望ましい到達度：80～100点）明確な論文テーマを設定し、研究計画に従い、論理的な内容構成で説得力のある中間発表を行うことができる。
（最低限の到達度：60～69点）根拠となるデータや引用文献の正確性に留意し、中間発表では自身の考えを述べることができる。

2．提出物・レポート
（望ましい到達度：80～100点）論文テーマについて積極的に調査・研究を行い、中間発表での指摘事項を踏まえたまとめを行うことができる。
（最低限の到達度：60～69点）正しい語句の使い方や、適正な表現に配慮し、誤りない文章でまとめることができる。

課題へのフィードバック：

研究関連資料の合同検討や中間発表での合評により、課題を明らかにする。
中間発表や成果報告時に、各自の課題や問題点について学生間で質疑応答を行う。
研究の内容や方法については、個別指導の中で行う。

教科書： なし

参考書：

小笠原喜康『新版大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書（2009年）
石原千秋『大学生のい論文執筆法』ちくま新書（2006年）

授業・準備学習のアドバイス：

先行研究に学ぶことは重要だが、自身独自の観点や作品から受けた感動を大切に、論文作成を行う。
夏休み中にどれだけ研究が行えたかが鍵になるので、しっかり取り組むこと。
研究やレポート作成にあたっては、大学図書館やJapanKnowledge等の活用を勧めます。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 国際文化専門演習Ⅳ

クラス:

授業コード: DB05500006

担当者: 桂 敦子 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本演習では、専門演習Ⅲまでに取り組んできた卒業論文作成のプロセスをさらに発展させ、最終成果としての卒業論文を完成させることを目標とする。あわせて、研究の進捗や成果を発表する機会を設け、ゼミ内での議論や意見交換を通じて、各自の研究内容をより精緻なものへと高めていくことを重視する。具体的には、専門演習Ⅲで設定した研究テーマに基づき執筆を継続し、論文としての完成度を高めるとともに、完成した研究成果を発表する力を養う。

到達目標: ① 異文化的視点を踏まえた研究テーマの設定と論理的構成力の習得
異文化コミュニケーションや国際問題に関する知識を活用し、自らの関心に基づいた研究テーマを適切に設定し、論理的で一貫性のある研究計画・構成を立案できる。
② 文献調査・資料分析に基づく学術的議論の展開力の向上
先行研究や関連資料を収集・整理し、適切な分析方法を用いてデータを解釈し、自らの主張を学術的根拠に基づいて展開できる力を身につけることができる。
③ プレゼンテーションと相互フィードバックを通じた表現力・批判的思考力の強化
研究過程を発表し、ゼミ内での議論やフィードバックを取り入れながら、自身の研究内容をより明確かつ説得力のある形に改善できる能力を養うことができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション:前学期の省察と、本学期の目標設定、卒業論文の進捗状況の発表
2. 卒業論文の執筆・指導①:アウトラインの再確認
3. 卒業論文の執筆・指導②:序論の執筆
4. 卒業論文の執筆・指導③:本論の執筆
5. 卒業論文の執筆・指導④:本論の執筆
6. 卒業論文の執筆・指導⑤:本論の執筆
7. 卒業論文の執筆・指導⑥:本論の執筆
8. 卒業論文の執筆・指導⑦:本論の執筆
9. 卒業論文の執筆・指導⑧:本論の執筆
10. 卒業論文の執筆・指導⑨:結論の執筆
11. 卒業論文の様式整備
12. 卒業論文の最終確認
13. 卒業研究発表会の準備
14. 卒業研究発表会①
15. 卒業研究発表会②および総評

特記事項:

授業方法: 15回すべての授業を対面で実施

1. 演習、ペアワーク、ディスカッション
2. 演習、ディスカッション
3. 演習、ディスカッション
4. 演習、ディスカッション
5. 演習、ディスカッション
6. 演習、ディスカッション
7. 演習、ディスカッション
8. 演習、ディスカッション
9. 演習、ディスカッション
10. 演習、ディスカッション
11. 演習、ディスカッション

12. 演習、ディスカッション
13. 演習、ディスカッション
14. プレゼンテーション、ディスカッション
15. プレゼンテーション、ディスカッション

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

・アウトラインの再検討（180分）
・序論作成（300分）
・本論作成（1200分）
・結論作成（300分）
・推敲（300分）
・発表会の準備（240分）
・発表後のリフレクション（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	70 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	プレゼンテーション		30 **%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

①望ましい到達度（80～100点）
【授業へのとりくみ】
シラバスの計画通りに卒業研究を進め、主体的に取り組むことができる。
ディスカッションにて協働的かつ積極的に貢献できる。
【プレゼンテーション】
スライドに必要な要素が全て網羅され、構成も論理的かつ明確である。
非言語コミュニケーションを駆使し、高いレベルのプレゼンテーションができる。
②最低限の到達度（60～69点）
【授業へのとりくみ】
指示された最低限の内容はシラバスの計画通りに進めることができる。
ディスカッションにて、他者への質問や意見を発表できる。
【プレゼンテーション】
スライドに指示された必要最小限の要素を配置することができる。
指示された要件を満たすプレゼンテーションを行うことができる。

課題へのフィードバック：

提出課題、グループディスカッション、プレゼンテーションに対して、授業時にフィードバックを行う。
授業外の研究の進捗状況に関しては、Teamsで文書を共有してフィードバックを行う。

教科書： なし

参考書： 『よくわかる卒論の書き方』山口 裕之（ミネルヴァ書房）
『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』戸田 山和久（NHKブックス）

授業・準備学習のアドバイス：

卒業論文は4年間の学びの集大成。大変な作業ですが、論理的に自分の主張を整理し、説得力のある文章を書く経験は貴重です。自ら選んだテーマについて興味・関心を持って掘り下げ、独自の視点で展開してみましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 卒業研究

クラス: 国

授業コード: DB05600001

担当者: 玉地 瑞穂　　**単位数:** 6

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: ―　　**一般的包括的科目:** ―

授業の目的: 4年間にわたる大学での学習成果として、各自が関心のあるテーマで卒業論文を完成させる。論文作成の基礎となる資料収集と文献研究を通じて、テーマへの理解を深めるとともに、研究方法についても担当教員の指導のもと考察する。また、中間発表や討論を通じて他の学生のテーマについても理解する。
具体的には、学びの集大成として、①各自のテーマに関する文献・資料、データを収集し、②16,000字程度の卒業論文を作成する。なお、担当教員の指導のもと制作された卒業研究の成果としての「作品」「実技」に添付される論述文等は8,000字を標準とする。また、外国人留学生は10,000字程度とする。

到達目標:
1. 担当教員の指導のもと設定した目標の実現に向けて研究計画を立て、積極的に取り組み、やり遂げられるまで継続することができる。
2. 参考文献や先行研究を踏まえ、客観的な事実や論理的な見識に基づいて、状況を判断し、自分の主張や意見を組み立てることができる。
3. 自分の思いや考えを分かりやすく論理的かつ効果的に表現するために、状況に応じてさまざまは方法を使うことができる。
4. 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性と、それを防止するための対策について理解した上で、研究を遂行し、論文等を作成する。

各回の授業計画:

国際文化専門演習の担当教員の指導のもと、あらかじめ設定された様式で、期限内に卒業論文を作成し、提出する。
また、当初、担当教員から本学の研究倫理基準について説明を受け、その基準に則した研究を遂行すること。

特記事項:

授業方法: 発表、プレゼンテーション
ディスカッション
個別指導

予習・復習・宿題など(内容・時間):

各自の研究テーマに沿って、文献研究や調査等を行うこと。

評価方法:

授業へのとりくみ:	－ %	**確認テスト:**	－ %	**レポート:**	－ %
その他1:	卒業論文の内容		50 %		
その他2:	口頭試問		50 %		

評価基準: 60～69点:各自の問題意識に沿って、適切にテーマを設定し、参考文献や先行研究にあたっている。研究計画を立て、全体の構成を考え、自

分の考えをまとめている。
80～100点：4年間の学びの集大成として、問題意識を深め、参考文献や先行研究を精読している。適切に研究計画を立て、テーマに沿って論文等の道筋と構成を作成し、自分の考えを、論理的に論述している。
観点は概ね以下のとおり。テーマ設定：20%、論理的構成：40%、レファレンス資料：30%、文章スキル10%。詳細は学科で示すルーブリックを参照のこと。

課題へのフィードバック：

進捗状況に応じて、各担当教員の指示に従うこと。

教科書： なし

参考書： 必要に応じて各担当教員から示す。

授業・準備学習のアドバイス：

卒業研究は4年間の各自の学びの総決算です。これまで学んだ知識や技能を総動員して、主体的に取り組むこと。本学の研究倫理基準に基づき、図書館など学内のリソースの活用はもちろん、ネット上や学外の資料等にもあたり、活用すること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 卒業研究

クラス: 国

授業コード: DB05600002

担当者: 河野 泉　　**単位数:** 6

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: ―　　**一般的包括的科目:** ―

授業の目的: 4年間にわたる大学での学習成果として、各自が関心のあるテーマで卒業論文を完成させる。論文作成の基礎となる資料収集と文献研究を通じて、テーマへの理解を深めるとともに、研究方法についても担当教員の指導のもと考察する。また、中間発表や討論を通じて他の学生のテーマについても理解する。
具体的には、学びの集大成として、①各自のテーマに関する文献・資料、データを収集し、②16,000字程度の卒業論文を作成する。なお、担当教員の指導のもと制作された卒業研究の成果としての「作品」「実技」に添付される論述文等は8,000字を標準とする。また、外国人留学生は10,000字程度とする。

到達目標:
1. 担当教員の指導のもと設定した目標の実現に向けて研究計画を立て、積極的に取り組み、やり遂げられるまで継続することができる。
2. 参考文献や先行研究を踏まえ、客観的な事実や論理的な見識に基づいて、状況を判断し、自分の主張や意見を組み立てることができる。
3. 自分の思いや考えを分かりやすく論理的かつ効果的に表現するために、状況に応じてさまざまは方法を使うことができる。
4. 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性と、それを防止するための対策について理解した上で、研究を遂行し、論文等を作成する。

各回の授業計画:

国際文化専門演習の担当教員の指導のもと、あらかじめ設定された様式で、期限内に卒業論文を作成し、提出する。
また、当初、担当教員から本学の研究倫理基準について説明を受け、その基準に則した研究を遂行すること。

特記事項:

授業方法: 発表、プレゼンテーション
ディスカッション
個別指導

予習・復習・宿題など(内容・時間):

各自の研究テーマに沿って、文献研究や調査等を行うこと。

評価方法:

授業へのとりくみ:	－ %	**確認テスト:**	－ %	**レポート:**	－ %
その他1:	卒業論文の内容		50 %		
その他2:	口頭試問		50 %		

評価基準: 60～69点:各自の問題意識に沿って、適切にテーマを設定し、参考文献や先行研究にあたっている。研究計画を立て、全体の構成を考え、自

分の考えをまとめている。
80～100点：4年間の学びの集大成として、問題意識を深め、参考文献や先行研究を精読している。適切に研究計画を立て、テーマに沿って論文等の道筋と構成を作成し、自分の考えを、論理的に論述している。
観点は概ね以下のとおり。テーマ設定：20%、論理的構成：40%、レファレンス資料：30%、文章スキル10%。詳細は学科で示すルーブリックを参照のこと。

課題へのフィードバック：

進捗状況に応じて、各担当教員の指示に従うこと。

教科書： なし

参考書： 必要に応じて各担当教員から示す。

授業・準備学習のアドバイス：

卒業研究は4年間の各自の学びの総決算です。これまで学んだ知識や技能を総動員して、主体的に取り組むこと。本学の研究倫理基準に基づき、図書館など学内のリソースの活用はもちろん、ネット上や学外の資料等にもあたり、活用すること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 卒業研究

クラス: 国

授業コード: DB05600003

担当者: 大村 誠一郎 **単位数:** 6

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: ― **一般的包括的科目:** ―

授業の目的: 4年間にわたる大学での学習成果として、各自が関心のあるテーマで卒業論文を完成させる。論文作成の基礎となる資料収集と文献研究を通じて、テーマへの理解を深めるとともに、研究方法についても担当教員の指導のもと考察する。また、中間発表や討論を通じて他の学生のテーマについても理解する。
具体的には、学びの集大成として、①各自のテーマに関する文献・資料、データを収集し、②16,000字程度の卒業論文を作成する。なお、担当教員の指導のもと制作された卒業研究の成果としての「作品」「実技」に添付される論述文等は8,000字を標準とする。また、外国人留学生は10,000字程度とする。

到達目標:
1. 担当教員の指導のもと設定した目標の実現に向けて研究計画を立て、積極的に取り組み、やり遂げられるまで継続することができる。
2. 参考文献や先行研究を踏まえ、客観的な事実や論理的な見識に基づいて、状況を判断し、自分の主張や意見を組み立てることができる。
3. 自分の思いや考えを分かりやすく論理的かつ効果的に表現するために、状況に応じてさまざまは方法を使うことができる。
4. 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性と、それを防止するための対策について理解した上で、研究を遂行し、論文等を作成する。

各回の授業計画:

国際文化専門演習の担当教員の指導のもと、あらかじめ設定された様式で、期限内に卒業論文を作成し、提出する。
また、当初、担当教員から本学の研究倫理基準について説明を受け、その基準に則した研究を遂行すること。

特記事項:

授業方法: 発表、プレゼンテーション
ディスカッション
個別指導

予習・復習・宿題など(内容・時間):

各自の研究テーマに沿って、文献研究や調査等を行うこと。

評価方法:

授業へのとりくみ:	－ %	**確認テスト:**	－ %	**レポート:**	－ %
その他1:	卒業論文の内容		50 %		
その他2:	口頭試問		50 %		

評価基準: 60～69点:各自の問題意識に沿って、適切にテーマを設定し、参考文献や先行研究にあたっている。研究計画を立て、全体の構成を考え、自

分の考えをまとめている。
80～100点：4年間の学びの集大成として、問題意識を深め、参考文献や先行研究を精読している。適切に研究計画を立て、テーマに沿って論文等の道筋と構成を作成し、自分の考えを、論理的に論述している。
観点は概ね以下のとおり。テーマ設定：20%、論理的構成：40%、レファレンス資料：30%、文章スキル10%。詳細は学科で示すルーブリックを参照のこと。

課題へのフィードバック：

進捗状況に応じて、各担当教員の指示に従うこと。

教科書： なし

参考書： 必要に応じて各担当教員から示す。

授業・準備学習のアドバイス：

卒業研究は4年間の各自の学びの総決算です。これまで学んだ知識や技能を総動員して、主体的に取り組むこと。本学の研究倫理基準に基づき、図書館など学内のリソースの活用はもちろん、ネット上や学外の資料等にもあたり、活用すること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 卒業研究

クラス: 国

授業コード: DB05600004

担当者: 藤田 眞弓　　**単位数:** 6

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: ―　　**一般的包括的科目:** ―

授業の目的: 4年間にわたる大学での学習成果として、各自が関心のあるテーマで卒業論文を完成させる。論文作成の基礎となる資料収集と文献研究を通じて、テーマへの理解を深めるとともに、研究方法についても担当教員の指導のもと考察する。また、中間発表や討論を通じて他の学生のテーマについても理解する。
具体的には、学びの集大成として、①各自のテーマに関する文献・資料、データを収集し、②16,000字程度の卒業論文を作成する。なお、担当教員の指導のもと制作された卒業研究の成果としての「作品」「実技」に添付される論述文等は8,000字を標準とする。また、外国人留学生は10,000字程度とする。

到達目標: 1. 担当教員の指導のもと設定した目標の実現に向けて研究計画を立て、積極的に取り組み、やり遂げられるまで継続することができる。
2. 参考文献や先行研究を踏まえ、客観的な事実や論理的な見識に基づいて、状況を判断し、自分の主張や意見を組み立てることができる。
3. 自分の思いや考えを分かりやすく論理的かつ効果的に表現するために、状況に応じてさまざまは方法を使うことができる。
4. 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性と、それを防止するための対策について理解した上で、研究を遂行し、論文等を作成する。

各回の授業計画:

国際文化専門演習の担当教員の指導のもと、あらかじめ設定された様式で、期限内に卒業論文を作成し、提出する。
また、当初、担当教員から本学の研究倫理基準について説明を受け、その基準に則した研究を遂行すること。

特記事項:

授業方法: 発表、プレゼンテーション
ディスカッション
個別指導

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

各自の研究テーマに沿って、文献研究や調査等を行うこと。

評価方法:

授業へのとりくみ:	－ %	**確認テスト:**	－ %	**レポート:**	－ %
その他1:	卒業論文の内容		50 %		
その他2:	口頭試問		50 %		

評価基準: 60～69点：各自の問題意識に沿って、適切にテーマを設定し、参考文献や先行研究にあたっている。研究計画を立て、全体の構成を考え、自

分の考えをまとめている。
80～100点：4年間の学びの集大成として、問題意識を深め、参考文献や先行研究を精読している。適切に研究計画を立て、テーマに沿って論文等の道筋と構成を作成し、自分の考えを、論理的に論述している。
観点は概ね以下のとおり。テーマ設定：20%、論理的構成：40%、レファレンス資料：30%、文章スキル10%。詳細は学科で示すルーブリックを参照のこと。

課題へのフィードバック：

進捗状況に応じて、各担当教員の指示に従うこと。

教科書： なし

参考書： 必要に応じて各担当教員から示す。

授業・準備学習のアドバイス：

卒業研究は4年間の各自の学びの総決算です。これまで学んだ知識や技能を総動員して、主体的に取り組むこと。本学の研究倫理基準に基づき、図書館など学内のリソースの活用はもちろん、ネット上や学外の資料等にもあたり、活用すること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 卒業研究

クラス: 国

授業コード: DB05600005

担当者: 小山 智久　　**単位数:** 6

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: ―　　**一般的包括的科目:** ―

授業の目的: 4年間にわたる大学での学習成果として、各自が関心のあるテーマで卒業論文を完成させる。論文作成の基礎となる資料収集と文献研究を通じて、テーマへの理解を深めるとともに、研究方法についても担当教員の指導のもと考察する。また、中間発表や討論を通じて他の学生のテーマについても理解する。
具体的には、学びの集大成として、①各自のテーマに関する文献・資料、データを収集し、②16,000字程度の卒業論文を作成する。なお、担当教員の指導のもと制作された卒業研究の成果としての「作品」「実技」に添付される論述文等は8,000字を標準とする。また、外国人留学生は10,000字程度とする。

到達目標:
1. 担当教員の指導のもと設定した目標の実現に向けて研究計画を立て、積極的に取り組み、やり遂げられるまで継続することができる。
2. 参考文献や先行研究を踏まえ、客観的な事実や論理的な見識に基づいて、状況を判断し、自分の主張や意見を組み立てることができる。
3. 自分の思いや考えを分かりやすく論理的かつ効果的に表現するために、状況に応じてさまざまは方法を使うことができる。
4. 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性と、それを防止するための対策について理解した上で、研究を遂行し、論文等を作成する。

各回の授業計画:

国際文化専門演習の担当教員の指導のもと、あらかじめ設定された様式で、期限内に卒業論文を作成し、提出する。
また、当初、担当教員から本学の研究倫理基準について説明を受け、その基準に則した研究を遂行すること。

特記事項:

授業方法: 発表、プレゼンテーション
ディスカッション
個別指導

予習・復習・宿題など(内容・時間):

各自の研究テーマに沿って、文献研究や調査等を行うこと。

評価方法:

授業へのとりくみ:	－ %	**確認テスト:**	－ %	**レポート:**	－ %
その他1:	卒業論文の内容		50 %		
その他2:	口頭試問		50 %		

評価基準: 60～69点:各自の問題意識に沿って、適切にテーマを設定し、参考文献や先行研究にあたっている。研究計画を立て、全体の構成を考え、自

分の考えをまとめている。
80～100点：4年間の学びの集大成として、問題意識を深め、参考文献や先行研究を精読している。適切に研究計画を立て、テーマに沿って論文等の道筋と構成を作成し、自分の考えを、論理的に論述している。
観点は概ね以下のとおり。テーマ設定：20%、論理的構成：40%、レファレンス資料：30%、文章スキル10%。詳細は学科で示すルーブリックを参照のこと。

課題へのフィードバック：

進捗状況に応じて、各担当教員の指示に従うこと。

教科書： なし

参考書： 必要に応じて各担当教員から示す。

授業・準備学習のアドバイス：

卒業研究は4年間の各自の学びの総決算です。これまで学んだ知識や技能を総動員して、主体的に取り組むこと。本学の研究倫理基準に基づき、図書館など学内のリソースの活用はもちろん、ネット上や学外の資料等にもあたり、活用すること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 卒業研究

クラス: 国

授業コード: DB05600006

担当者: 桂 敦子　　**単位数:** 6

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: ―　　**一般的包括的科目:** ―

授業の目的: 4年間にわたる大学での学習成果として、各自が関心のあるテーマで卒業論文を完成させる。論文作成の基礎となる資料収集と文献研究を通じて、テーマへの理解を深めるとともに、研究方法についても担当教員の指導のもと考察する。また、中間発表や討論を通じて他の学生のテーマについても理解する。
具体的には、学びの集大成として、①各自のテーマに関する文献・資料、データを収集し、②16,000字程度の卒業論文を作成する。なお、担当教員の指導のもと制作された卒業研究の成果としての「作品」「実技」に添付される論述文等は8,000字を標準とする。また、外国人留学生は10,000字程度とする。

到達目標:
1. 担当教員の指導のもと設定した目標の実現に向けて研究計画を立て、積極的に取り組み、やり遂げられるまで継続することができる。
2. 参考文献や先行研究を踏まえ、客観的な事実や論理的な見識に基づいて、状況を判断し、自分の主張や意見を組み立てることができる。
3. 自分の思いや考えを分かりやすく論理的かつ効果的に表現するために、状況に応じてさまざまは方法を使うことができる。
4. 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性と、それを防止するための対策について理解した上で、研究を遂行し、論文等を作成する。

各回の授業計画:

国際文化専門演習の担当教員の指導のもと、あらかじめ設定された様式で、期限内に卒業論文を作成し、提出する。
また、当初、担当教員から本学の研究倫理基準について説明を受け、その基準に則した研究を遂行すること。

特記事項:

授業方法: 発表、プレゼンテーション
ディスカッション
個別指導

予習・復習・宿題など(内容・時間):

各自の研究テーマに沿って、文献研究や調査等を行うこと。

評価方法:

授業へのとりくみ:	－ %	**確認テスト:**	－ %	**レポート:**	－ %
その他1:	卒業論文の内容		50 %		
その他2:	口頭試問		50 %		

評価基準: 60～69点:各自の問題意識に沿って、適切にテーマを設定し、参考文献や先行研究にあたっている。研究計画を立て、全体の構成を考え、自

分の考えをまとめている。
80～100点：4年間の学びの集大成として、問題意識を深め、参考文献や先行研究を精読している。適切に研究計画を立て、テーマに沿って論文等の道筋と構成を作成し、自分の考えを、論理的に論述している。
観点は概ね以下のとおり。テーマ設定：20%、論理的構成：40%、レファレンス資料：30%、文章スキル10%。詳細は学科で示すルーブリックを参照のこと。

課題へのフィードバック：

進捗状況に応じて、各担当教員の指示に従うこと。

教科書： なし

参考書： 必要に応じて各担当教員から示す。

授業・準備学習のアドバイス：

卒業研究は4年間の各自の学びの総決算です。これまで学んだ知識や技能を総動員して、主体的に取り組むこと。本学の研究倫理基準に基づき、図書館など学内のリソースの活用はもちろん、ネット上や学外の資料等にもあたり、活用すること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 卒業研究

クラス: 国 春末卒業用

授業コード: DB05600011

担当者: 小山 智久 **単位数:** 6

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: ― **一般的包括的科目:** ―

授業の目的: 4年間にわたる大学での学習成果として、各自が関心のあるテーマで卒業論文を完成させる。論文作成の基礎となる資料収集と文献研究を通じて、テーマへの理解を深めるとともに、研究方法についても担当教員の指導のもと考察する。また、中間発表や討論を通じて他の学生のテーマについても理解する。
具体的には、学びの集大成として、①各自のテーマに関する文献・資料、データを収集し、②16,000字程度の卒業論文を作成する。なお、担当教員の指導のもと制作された卒業研究の成果としての「作品」「実技」に添付される論述文等は8,000字を標準とする。また、外国人留学生は10,000字程度とする。

到達目標:
1. 担当教員の指導のもと設定した目標の実現に向けて研究計画を立て、積極的に取り組み、やり遂げられるまで継続することができる。
2. 参考文献や先行研究を踏まえ、客観的な事実や論理的な見識に基づいて、状況を判断し、自分の主張や意見を組み立てることができる。
3. 自分の思いや考えを分かりやすく論理的かつ効果的に表現するために、状況に応じてさまざまは方法を使うことができる。
4. 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性と、それを防止するための対策について理解した上で、研究を遂行し、論文等を作成する。

各回の授業計画:

国際文化専門演習の担当教員の指導のもと、あらかじめ設定された様式で、期限内に卒業論文を作成し、提出する。
また、当初、担当教員から本学の研究倫理基準について説明を受け、その基準に則した研究を遂行すること。

特記事項:

授業方法: 発表、プレゼンテーション
ディスカッション
個別指導

予習・復習・宿題など(内容・時間):

各自の研究テーマに沿って、文献研究や調査等を行うこと。

評価方法:

授業へのとりくみ:	－ %	**確認テスト:**	－ %	**レポート:**	－ %
その他1:	卒業論文の内容		50 %		
その他2:	口頭試問		50 %		

評価基準: 60～69点:各自の問題意識に沿って、適切にテーマを設定し、参考文献や先行研究にあたっている。研究計画を立て、全体の構成を考え、自

分の考えをまとめている。
80～100点：4年間の学びの集大成として、問題意識を深め、参考文献や先行研究を精読している。適切に研究計画を立て、テーマに沿って論文等の道筋と構成を作成し、自分の考えを、論理的に論述している。
観点は概ね以下のとおり。テーマ設定：20%、論理的構成：40%、レファレンス資料：30%、文章スキル10%。詳細は学科で示すルーブリックを参照のこと。

課題へのフィードバック：

進捗状況に応じて、各担当教員の指示に従うこと。

教科書： なし

参考書： 必要に応じて各担当教員から示す。

授業・準備学習のアドバイス：

卒業研究は4年間の各自の学びの総決算です。これまで学んだ知識や技能を総動員して、主体的に取り組むこと。本学の研究倫理基準に基づき、図書館など学内のリソースの活用はもちろん、ネット上や学外の資料等にもあたり、活用すること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 日本語リーディング＆ライティングⅠ

クラス:

授業コード: DB10100001

担当者: 小山 智久 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 大学生にふさわしい読解力・表現力を身に付ける。レポートや論文作成に必要な論理的な思考に基づく文章表現力の向上を目指し、課題図書を読み、同じ領域の他の図書を読んだ人と意見交換し、読みを深めていく。各自が書き上げた感想文について相互評価を通して、創造的な意見交換を体験する。

到達目標:
1. さまざまな領域の教養書を読んで内容を理解する。
2. 読んだ書籍について、簡潔でまとまった感想文を書くことができる。
3. グループ内で自分の読んだ本の内容や感想を発表し、他人と意見交換できる。
4. 他の人の感想文を読み、感想文の内容がよりよくなるような意見を言うことができる。

各回の授業計画:

1.（導入）この授業の流れの説明。この授業での感想文の書き方の説明。グループごとに分かれて自己紹介や興味のあるテーマについて話し合う。

2.（1冊目1）グループのテーマに沿った自分の扱う書籍を選ぶ。

3.（1冊目2）本時までに半分程度まで読み、自分の読んでいる書籍の作者や書かれた時代、資料の背景など大体の内容を報告し合う。

4.（1冊目3）本時までに最後まで読んでおく。本時中に教室で600字以上の感想文を書く。(PC使用)

5.（1冊目4＋2冊目1）完成させた書籍の感想文を読み、批評し合う。自分の感想文を書き直して提出する。グループで次のテーマのどの書籍を読むかを話し合って決める。

6.（2冊目2）本時までに半分程度まで読み、自分の読んでいる本の作者や書かれた時代、資料の背景など大体の内容を報告し合う。

7.（2冊目3）本時までに最後まで読んでおく。本時中に教室で600字以上の感想文を書く。(PC使用)

8.（2冊目4＋3冊目1）完成させた書籍の感想文を読み、批評し合う。自分の感想文を書き直して提出する。グループで次のテーマのどの書籍を読むかを話し合って決める。

9.（3冊目2）本時までに半分程度まで読み、自分の読んでいる本の作者や書かれた時代、資料の背景など大体の内容を報告し合う。

10.（3冊目3）本時までに最後まで読んでおく。教室で600字以上の感想文を書く。(PC使用)

11.（3冊目4＋4冊目1）完成させた書籍の感想文を読み、批評し合う。自分の感想文を書き直して提出する。グループで次のテーマのどの書籍を読むかを話し合って決める。

12.（4冊目2）本時までに半分程度まで読み、自分の読んでいる本の作者や書かれた時代、資料の背景など大体の内容を報告し合う。

13.（4冊目3）本時までに最後まで読んでおく。教室で600字以上の感想文を書く。(PC資料)

14.（4冊目4）完成させた本の感想文を読み、批評し合う。自分の感想文を書き直して提出する。

15.（ 振り返り）全体で「面白かった本」「難しかった本」「おすすめ本」、「今後読んでみたいテーマ」などについて協議する。

特記事項: なし

授業方法: すべての授業を対面で行います。
1. 講義
2. グループディスカッション
3. グループディスカッション
4. 演習（感想文作成）
5. グループディスカッション
6. グループディスカッション
7. 演習（感想文作成）
8. グループディスカッション
9. グループディスカッション
10. 演習（感想文作成）
11. グループディスカッション
12. グループディスカッション
13. 演習（感想文作成）
14. グループディスカッション

15. 協議・講義

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

下記の時間は目安である。通学時間や授業の空き時間を利用して、課題図書の読書をすすめること。
1:この授業での感想文の書き方や提出方法を確認する。(60分)
2:著者について調べる。課題図書や資料の書かれた時代や背景について調べる。目次を見て課題図書や資料の構成を確認する。概ね半分まで読み、どのような内容なのか理解し、簡単な発表ができるように準備する(360分)
3:グループ内で意見交換し、自分が読んでいる本と他のメンバーが読んでいる本の内容の関係をつかんでおく。課題図書を最後まで読み進める。(360分)
4:グループ内の二人から受け取った感想文を読む。(60分)
5:グループから寄せられた意見をもとに感想文を書き直す。(60分)
6:著者について調べる。課題図書の書かれた時代について調べる。目次を見て課題図書の構成を確認する。概ね半分まで読み、どのような内容なのか理解し、簡単な発表ができるように準備する(360分)
7:グループ内で意見交換し、自分が読んでいる本と他のメンバーが読んでいる本の内容の関係をつかんでおく。課題図書や資料を最後まで読み進める。"(360分)
8:グループ内の二人から受け取った感想文を読む。(60分)
9:グループから寄せられた意見をもとに感想文を書き直す。(60分)
10:著者について調べる。課題図書の書かれた時代について調べる。目次を見て課題図書の構成を確認する。概ね半分まで読み、どのような内容なのか理解し、簡単な発表ができるように準備する(360分)
11:グループ内で意見交換し、自分が読んでいる本と他のメンバーが読んでいる本の内容の関係をつかんでおく。課題図書や資料を最後まで読み進める。(360分)
12:グループ内の二人から受け取った感想文を読む。(60分)
13:グループから寄せられた意見をもとに感想文を書き直す。(60分)
14:自分が読んだ4冊の本の感想文を読み直し、各テーマについて理解が進んだ点をまとめておく。(60分)
15:自分の感想文を整理して保管する。(60分)

評価方法：

授業へのとりくみ：	50	**%**	**確認テスト：**	－	**%**	**レポート：**	50 **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準： レポートはすべて提出された上で、4回合計50点を以下のような基準で評価する。
90%～100%:自分の課題図書のみならず、メンバーからの報告が反映された感想文になっている。
80%～90%:自分の課題図書の内容を理解し、的確に評価している。
70%～80%:自分の課題図書の内容を理解し、自分なりの感想が述べられている。
60%～70%:自分の課題図書の内容を理解している。
60%未満:自分の課題図書の内容の理解に不足がある。
なお、レポートの未提出のものがあった場合や、感想文にウェブの記事や他人のレポートの盗用が見つかった場合には、不合格となる。

課題へのフィードバック：

課題作文ならびにレポートにはコメントを付す。典型的な事例などは、全体に示してコメントする場合もある。

教科書： 4つのテーマについて、それぞれ5冊程度の課題図書を提示する。これについては図書館に用意するので購入する必要はない。

参考書： 授業の中で示す。

授業・準備学習のアドバイス：

4ヶ月で4冊の本を読むわけで、読書の習慣をつければけっして達成が難しいことはありません。
お互いの感想文を読み、建設的な意見交換をすることは、グループワークの楽しみの1つです。積極的に発言しましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 日本語リーディング＆ライティング Ⅰ

クラス: 秋入学編入

授業コード: DB10100002

担当者: 上原 翔子 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: **一般的包括的科目:**

授業の目的: アカデミックな文章を正しく読み取り、論文作成に必要な読解力・要約力・文章構成力を伸ばす。

到達目標: アカデミックな文章を読み、内容・構成・筆者の主張を理解できるようになる。
文章の要点を整理し、要約文を作成できるようになる。
読解・要約・意見文作成を通して、アカデミックな日本語表現を適切に使えるようになる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション／アカデミックな文章の読み方・書き方とは何か
2. 異文化への適応に関する文章を読む（内容理解、段落内の構造、要約）
3. 人間関係や社会的問題に関する文章を読む（内容理解、筆者の立場・論点の整理、要約、自身の意見をまとめる）
4. 消費行動や購買心理に関する文章を読む（内容理解、文章展開の把握、要約）
5. 食と感覚・食文化に関する文章を読む（内容理解、説明文の構造理解、要約、自身の意見をまとめる）
6. 日本社会における価値観や意識に関する文章を読む（図表の読み取り、事実と筆者の考察の整理、要約）
7. 働き方や若者の就労に関する文章を読む（問題提起・背景説明の把握、要約、自身の意見をまとめる）
8. 生活と環境・水の安全に関する文章を読む（内容理解、説明・比較の構造理解、要約）
9. 言葉の意味・価値観に関する文章を読む（内容理解、引用の確認、要約）
10. 医療と倫理に関する文章を読む（内容理解、筆者の立場・論点の整理、要約、自身の意見をまとめる）
11. 確認テスト／関心のあるテーマを1つ選択
12. テーマに関する先行研究を行う（資料検索、文献を読む、情報整理）
13. 先行研究の紹介（文献の要点整理、口頭発表、質疑応答）
14. 最終レポートの構成を考える
15. まとめと最終レポート作成

特記事項: ＊ 以上のように進めるが、クラスの状況によって内容が異なる場合がある。

授業方法: 【対面】《演習》
［第1回～第10回］
さまざまなテーマの文章を読み、内容理解・文章構成・要約・意見形成などの活動を行う。
文章の読み方を確認しながら、筆者の主張と根拠、説明や比較の方法などを分析する。
読解後は要点を整理し、短い要約文を作成する練習を行う。また、必要に応じて自分の意見をまとめる。
［第11回～第15回］
選んだテーマをもとに、先行研究の調査、文献の読み取り、情報整理を行う。
その後、先行研究の紹介やレポート構成の検討を行い、最終レポートを作成する。

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

［第1回～第10回］
復習：新たに学んだ知識や内容の整理・要点の確認など（100分）
課題（提出物）：要約・意見文作成など（300分）
［第11回～第15回］
最終レポート：資料検索・情報整理・構成づくりなど（400分）

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 %	**確認テスト:**	20 %	**レポート:**	30 %
その他1: 課題			20 %		
その他2:			%		

評価基準: 1.授業へのとりくみ30% 2.確認テスト20% 3.レポート30% 4.課題20%
（80～100点 優）
授業内容を十分に理解し、読解・要約・意見文作成等の学習活動において、内容を的確に整理し論理的にまとめることができる。構成や表現が明確で、完成度の高い文章を書くことができる。
（70～79点 良）
授業内容を概ね理解し、読解・要約・意見文作成等の学習活動において、基本的な要点を整理してまとめることができる。必要な構成を備えた文章を書くことができる。
（60～69点 可）
授業内容を基本的に理解し、読解・要約・意見文作成等の学習活動において、最低限必要な点を押さえてまとめることができる。多少の誤りがあっても、必要な要素を満たした文章を書くことができる。

上記の1.2.3.4から総合的に評価する。

課題へのフィードバック:

項目によって文章作成の課題を与え、添削して返却し、フィードバックを行う。

教科書: 授業中に資料を配布する。

参考書: 授業内で適宜紹介する。

授業・準備学習のアドバイス:

文章の構成に注目しながら、内容を正しく理解し、要点をまとめる力を身につけることは、論文を作成するためにも重要です。受け身な姿勢ではなく、積極的に取り組みましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 日本語リーディング＆ライティングⅡ

クラス:

授業コード: DB10200001

担当者: 小山 智久 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 1. 直面する国内外の動きに対して、内容と背景を正しくとらえ、理解を深める。そのうえで、さまざまな課題について自らの考え方や意見を構築し、論理的な文章を作成、発表する。
2. 文章を書くための基本的な知識と理解力、表現力を養成する。

到達目標: 1. 社会の動きに関心を持ち、直面する課題の問題点、背景などを学ぶ。
2. 課題への調査分析を通して知識力を高め、文章を作成するための整理能力を養う。
3. 文章を書く際のテーマ選びと論理的な展開方法を習得する。
4. わかりやすく、論理的な文章を書くための基本を身につける。
5. 原稿の発表と批評を通して「考え」「整理し」「書く」「発言・理解する」能力を身につける。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション（演習内容の説明、質疑応答）
2. 文章の基本的な書き方、最初のテーマ提示
（書籍、新聞等の記事などをもとに、何をテーマにどう書くかについて構想を練る）
3. 文章を書く①
（指示した形式で授業時間内に文章を書き上げ、提出する）
4. 添削指導（個別指導を行う）
5. 発表と感想・意見交換
6. 1回目の総括、講評、問題点整理、2回目のテーマ提示
7. 文章を書く（授業中に書き上げ、提出）
8. 添削指導（個別指導を行う）
9. 発表と感想・意見交換
10. 2回目の総括、講評、問題点整理、3回目のテーマ提示
11. 段落ごとの内容を考え、全体の構成を意識して文章を書く（授業中にできたものを提出）
12. 11.に続けて文章を書く。
13. 自己添削（より効果的な文章の構成を意識して修正する）
14. 3回目の発表、総括、講評、問題点整理
15. まとめ

特記事項: ＊授業の進め方は変更になる場合があります。

授業方法: 演習形式で行い、学生同士の意見交換を通して、成長することを目指します。すべての授業を対面で行います。
1. 講義
2. 講義、質疑応答
3. 原稿執筆（授業中に書き上げる）
4. 添削指導（個別）
5. 発表、意見交換
6. 講義、質疑応答、ディスカッション
7. 原稿執筆（授業中に書き上げる）
8. 添削指導（個別）
9. 発表、意見交換
10. 講義、質疑応答、ディスカッション
11. 原稿執筆
12. 原稿執筆
13. 自己添削
14. 発表、意見交換
15. 講義、ディスカッション

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

下記の時間は目安である。通学時間や授業の空き時間を利用して、課題図書の読書をすすめること。
1. 復習（60分）＋ニュース学習（120分）
2. 復習（120分）＋文章作成準備（210分）
3. 復習（60分）＋ニュース学習（60分）
4. 復習（60分）＋文章手直しと発表準備（120分）
5. 復習（120分）＋ニュース学習（60分）
6. 復習（120分）＋文章作成準備（210分）
7. 復習（120分）＋ニュース学習（60分）
8. 復習（120分）＋文章手直しと発表準備（120分）
9. 復習（60分）＋文章作成準備（210分）
10. 復習（60分）＋ニュース学習（60分）
11. 復習（120分）＋ニュース学習（60分）
12. 復習（120分）＋ニュース学習（60分）
13. 復習（120分）＋ニュース学習（60分）
14. 復習（120分）＋ニュース学習（60分）
15. これまでの学習の再復習（60分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	50 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	50 **%**
その他1：			**%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

以下の基準を満たすことが求められます。
1)授業への取り組み（授業態度、関心・意欲など）
・文章の基本的な書き方を理解し、自ら決めたテーマについて調査はするが、文章をどう書くか整理が十分でないところがみられる（60～69点）
・文章の基本的な書き方を理解し、自ら決めたテーマについて幅広い角度から調査・分析し、文章をどう書くか、整理して考えることができる（80~100点）

2)原稿作成と発表、意見交換など
・自ら決めたテーマについて、分かりやすい文章で書くことができる。また他学生の発表内容も理解でき、感想や意見を述べることができる（60～69点）
・自ら決めたテーマについて、分かりやすく、論理的に書くことができ、表現力や語彙力なども優れている。また他学生の発表内容も理解でき、感想や意見を述べることができる（80～100点）

＊上記2項目についての平均を取り、総合的に評価する。

課題へのフィードバック：

提出された原稿を授業内で個別指導する。

教科書： なし

参考書： テーマの必要性に応じて授業時に指示する

授業・準備学習のアドバイス：

・日々のニュースに関心を持ち、不明なところがあればすぐに調べて理解を深めましょう。
・関心のあるテーマについて文章にして人に読んでもらう楽しさを味わいましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 日本語リーディング＆ライティングⅡ

クラス: 秋入学編入

授業コード: DB10200002

担当者: 三井 絢子　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項:　　**一般的包括的科目:**

授業の目的: ・さまざまなテーマの文章を正しく理解し日本語で考える
・文章から問題点をみつけて、対応や改善策を考えて文章にする

到達目標: ・一字一句訳して理解して覚えるのではなく、自分の持っている知識や日本語力で文章を読み取り、意味を理解できるようになる
・日本語で考え、日本語で表現できるようになる

各回の授業計画:

1. 授業の説明 ／ 読解スキルの確認と方法の整理
2. 「世界の現状と課題」問題点・課題を読み取る、自分の体験と考えを書く
3. 「貧困の現状」原因や背景を読み取る、正しく伝える文章を書く
4. 「異なる環境に住む人々」状況把握としくみを読み取る、わかりやすい説明文を書く
5. 「国際協力①」活動内容を読み取る、要点をまとめた文章を書く
6. 「国際協力②」支援のあり方を読み取る、比較した文章を書く
7. 「社会起業家①」文章と資料から読み取る、ポイントを意識した文章を書く
8. 「社会起業家②」課題を読み取る、資料を作成する
9. 「貧困に対する支援」問題点・課題を読み取る、批評の文章を書く
10. 「私たちにできること」対応策を考えて読む、課題解決の文章を書く
11. 「私たちが学んだこと」比較内容を読み取る、意見文を書く
12. 「生の情報を得る」時系列に情報を読み取る、流れのある文章を書く
13. レポートのテーマ決定と資料収集、データの分析と考察
14. レポートの作成、読み手を意識した構成を考える
15. まとめと確認

特記事項: ＊以上のように進めるが、クラスの状況によって内容や進度が異なる場合がある。

授業方法: 【対面】【演習】
・各項目で資料を配布する
・テーマ理解のための話し合いをしてから、文章を読み、内容把握をする
・文章作成に必要な知識を確認して、実際に文章を作成する

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

・復習…既習事項の整理と確認、試験の準備（420分）
・課題…文章作成や資料作成等（420分）

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	20 **%**	**レポート:**	30 **%**
その他1: 課題			20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準:
＜60～69点＞
・文章・資料を正しく理解し、自分の意見・評価を文章にできる
・できるだけ正しい文法で文章を作成できる
＜70～79点＞
・文章・資料の正しい内容把握と、構成を理解し、自分の文章に反映できる
・できるだけ正しい文法で、わかりやすい構成で文章を作成できる
＜80～100点＞
・構成を理解したうえで、文章・資料の正しい内容把握ができる

・自分の知識が足りない部分も全文から類推して内容が理解できる
・正しい文法と読み手を意識した構成で、伝わる文章を作成できる

課題へのフィードバック:

・課題、提出物は添削して返却する
・質問やフィードバックは適宜授業内で行う

教科書: 授業の中で資料を配布する。

参考書: 必要な時に授業内で紹介する。

授業・準備学習のアドバイス:

・積極的に授業に参加すること
・語彙や文型の確認等、自分の必要な日本語力は自発的に解決すること
・日ごろから日本語で考え、日本語で表現することを実践する
・時事問題だけでなく、広い視野を持って、多角的に考える練習をすること

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 日本語教授法(初級)

クラス:

授業コード: DB11400001

担当者: 玉地 瑞穂 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 日本語教師の仕事を知り、初級レベルの日本語教育に必要な教育技術を身につける。

到達目標: 初級レベルの日本語教育に必要な知識を習得し、教育技術を身につける。初級レベルの日本語教育では、動詞のグループ、活用、基本的な語彙、基本文型の種類を知ることが重要である。さらに、効果的な言語学習のためには、言語タスクを用いた言語練習が有効だと言われる。この授業では、初級日本語教育の理論的背景を学び、さらに実際に模擬授業を行う実践を通して、初級日本語教育を行える教授項目と教授技能を育成したい。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション:日本語教師とは
2. 主な外国語教授法
3. コミュニカティブ・アプローチの授業を見る
4. 日本語教育文法
5. 初級文型
6. 教材・教具
7. 授業の導入と練習方法
8. 授業分析と授業評価の方法を学ぶ
9. 授業案の作成
10. 初級の日本語教材を使った模擬授業、授業評価(1)(て形、て形を使った文末表現)
11. 初級の日本語教材を使った模擬授業、授業評価(2)(経験、普通形、推量・意見)
12. 初級の日本語教材を使った模擬授業、授業評価(3)(名詞化、名詞修飾)
13. 初級の日本語教材を使った模擬授業、授業評価(4)(授受表現、条件節)
14. 初級の日本語教材を使った模擬授業、授業評価(5)(可能形、意向形)
15. 初級の日本語教材を使った模擬授業の総合評価(6)(受身形、使役形)

特記事項: なし

授業方法: ①〜⑮ 講義 (対面)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 日本語教師の仕事について復習する。(180分)
2. 外国語教授法について復習する。(180分)
3. コミュニカティブ・アプローチについて復習する。(180分)
4. 日本語教育文法について復習する。(180分)
5. 初級文型について復習する (180分)
6. 教材・教具について復習する。(180分)
7. 授業の導入と練習方法について復習する。(180分)
8. 授業分析と授業評価の方法について復習する。(180分)
9. 教案作成をする。(180分)
10. 教えたい文法表現についての教材作成、模擬授業の準備をする。(180分)
11. 教えたい文法表現についての教材作成、模擬授業の準備をする。(180分)
12. 教えたい文法表現についての教材作成、模擬授業の準備をする。(180分)
13. 教えたい文法表現についての教材作成、模擬授業の準備をする。(180分)
14. 教えたい文法表現についての教材作成、模擬授業の準備をする。(180分)
15. 教えたい文法表現についての教材作成、模擬授業の準備をする。(180分)

評価方法：	授業へのとりくみ：	50 %	確認テスト：	－ %	レポート：	30 %
	その他1：	模擬授業		20 %		
	その他2：			%		

評価基準： 「最低限の到達度（60～69点）」初級レベルの学習者に日本語を教えるための知識を身に付け、授業と授業評価を行うことができる。
「望ましい到達度（80～100点）」初級レベルの学習者に日本語を教えるための知識を身に付け、効果的な指導ができるように工夫した授業と授業評価を行うことができる。

課題へのフィードバック：

教材分析、模擬授業へのフィードバックを、授業内で行う。授業の最後には、教員のフィードバック、参加学生からの評価シートを参考に、学生は改善授業案を作成し、提出する。

教科書： 『みんなの日本語Ⅰ・Ⅱ』

参考書： 『日本語教育事典』言語タスク作成に必要な教材を随時紹介する。

授業・準備学習のアドバイス：

＜模擬授業の準備＞
授業者は初級文型を選び、その文型について調べ、教案を作成します。授業では、文型の説明をし、日本語の模擬授業に入ります。模擬授業をするので、実際に授業で使用する、教材の準備も必要です。授業者以外の学生は、その授業について、授業分析を行い、授業評価シートに授業者へのコメントや助言を記入します。
なお、仮に予定しているシラバスを示しましたが、授業能力の訓練のために、実際には授業参加者の希望、授業の状況を考えながら、シラバスを柔軟に変更していく後行シラバスの形式で授業を進めます。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 日本語教授法(中上級)

クラス:

授業コード: DB11500001

担当者: 玉地 瑞穂 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: - **一般的包括的科目:** -

授業の目的: 第二言語習得の理解を深め、中上級レベルの日本語教育に必要な教育技術と技能別の日本語の教え方を学ぶ。

到達目標: 中上級レベルの日本語教育に必要な知識を習得し、教育技術を身につける。初級レベルでは、文章を精読し、基本的な語彙や文型の正確な理解をめざす練習が多いが、中上級レベルの練習は長文を粗読し、概要をつかむような、流暢さを伸ばす練習が多くなる。この授業では、中上級レベルの日本語教育の様々な教材に触れ、実際に模擬授業を行うことで、中上級レベルの日本語教育を行う教授技能を育成したい。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション 中上級の日本語教育について
2. 外国語教授法の発展と言語習得理論
3. コミュニカティブ・アプローチを支える言語教育理論の発展
4. 学習者ストラテジーとトレーニング
5. 中上級の日本語教材の紹介と教材分析(総合教科書)
6. 中上級の日本語教材の紹介と教材分析(読解)、談話的文章の読み方について
7. 中上級の日本語教材の紹介と教材分析(聴解)、談話的文章の聴き方について
8. 中上級の日本語教材の紹介と教材分析(会話)
9. 中上級の日本語教材の紹介と教材分析(作文)
10. 中上級の日本語のタスク型教材の紹介と教材分析、著作権について
11. 中上級の日本語の自主教材の作成、ICT活用法
12. 授業案の作成
13. 総合教科書を使った模擬授業①
14. 総合教科書を使った模擬授業②
15. 総合教科書を使った模擬授業③

特記事項: なし

授業方法: すべて対面で行います。

講義
発表
模擬授業
DVD視聴
PCによる授業
討論

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 中上級の日本語教育について復習する (180分)
2. 外国語教授法の発展と言語習得理論について復習する (180分)
3. コミュニカティブ・アプローチを支える言語教育理論の発展について復習する (180分)
4. 学習者ストラテジーとトレーニングについて復習する (180分)
5. 中上級の日本語教材の紹介と教材分析(総合教科書)について復習する (180分)
6. 中上級の日本語教材の紹介と教材分析(読解)について復習する (180分)
7. 中上級の日本語教材の紹介と教材分析(聴解)について復習する (180分)
8. 中上級の日本語教材の紹介と教材分析(会話)について復習する (180分)
9. 中上級の日本語教材の紹介と教材分析(作文)について復習する (180分)
10. 中上級の日本語のタスク型教材の紹介と教材分析について復習する (180分)

11. 中上級の日本語の自主教材の作成について復習する（180分）
12. 授業案を作成する（180分）
13. 総合教科書を使った模擬授業の準備をする（180分）
14. 総合教科書を使った模擬授業の準備をする（180分）
15. 総合教科書を使った模擬授業の準備をする（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	授業案		30 **%**		
その他2：	課題		40 **%**		

評価基準： 授業への取り組み、発表、模擬授業や授業に対する評価などを、統合的に判断し、評価する。

（80-100）授業のアイデアが優れ、教材の準備も十分である。日本語の基礎的な知識を身に着け、教授技術を効果的に活かした、授業を行うことができる。また、他の学生の授業への適切な評価能力、協働力を備えている。
（70-79）授業のアイデア、教材の準備に努力が感じられる。日本語の基礎的な知識を身に着け、基礎的な教授技術を備え、授業を行うことができる。また、他の学生の授業への評価能力、協働力を備えている。
（60-69）授業のアイデア、教材の準備に課題がある。日本語の基礎的な知識を身に着け、基礎的な教授技術を備え、なんとか授業を行うことができる。また、他の学生の授業への評価能力、協働力を備えている。

課題へのフィードバック：

課題などのフィードバックはオンラインで行う。

教科書： 特になし

参考書： 『日本語教育事典』
その他の参考書は授業の折に説明する。

授業・準備学習のアドバイス：

中上級の学習者に対応した日本語の教え方を学ぼう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: コースデザインと多文化協働

クラス:

授業コード: DB11600001

担当者: 玉地 瑞穂 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: コースデザインの理論を学び、日本語教育プログラムを運営するために必要な知識と技能を身に付ける。

到達目標: 多様な学習者のニーズや社会的要請に応えるために、特定のコース（集団あるいは個人）に合わせた教育計画を設計・実践するコースデザインができるようになる。また、日本人学生と留学生が協働してコースの設計を行う「多文化協働作業」を通して、異文化理解能力やコミュニケーション能力の向上を図る。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 多文化協働とは
3. コースデザインとは
4. コースデザインの理論
5. ニーズ調査
6. レディネス調査
7. シラバスデザイン
8. カリキュラムデザイン
9. シラバスの種類
10. 教材教具
11. コースデザインの実践①
12. コースデザインの実践②
13. コースデザインの実践③
14. コースデザインの実践④
15. コースデザインの実践⑤

特記事項: なし

授業方法: ①～⑮ 講義（対面）

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. オリエンテーションの復習をする（180分）
2. 多文化協働の復習をする（180分）
3. コースデザインの復習をする（180分）
4. コースデザインの理論の復習をする（180分）
5. ニーズ調査の復習をする（180分）
6. レディネス調査の復習をする（180分）
7. シラバスデザインの復習をする（180分）
8. カリキュラムデザインの復習をする（180分）
9. シラバスの種類の復習をする（180分）
10. 教材教具の復習をする（180分）
11. コースデザイン①を行う（180分）
12. コースデザイン②を行う（180分）
13. コースデザイン③を行う（180分）
14. コースデザイン④を行う（180分）
15. コースデザイン⑤を行う（180分）

評価方法: **授業へのとりくみ:** 30 **%** **確認テスト:** － **%** **レポート:** － **%**

その他1：	コースデザイン	40 **%**
その他2：	発表	30 **%**

評価基準： （80-100点）アイデアや準備に優れ、日本語教育の基本的な知識を身に付け、教授技術を効果的に活かしたコース設計ができる。また、他の学生の授業への適切な評価能力、協働力を備えている。
（70-79点）アイデアや準備に努力が感じられ、日本語教育の基本的な知識を身に付け、教授技術を活かしたコース設計ができる。また、他の学生の授業への評価能力、協働力を備えている。
（60-69点）アイデアや準備に課題があり、日本語教育の基本的な知識を身に付け、教授技術を備え、なんとかコース設計を行うことができる。また、他の学生の授業への評価能力、協働力を備えている。

課題へのフィードバック：

コースデザインと発表のフィードバックを、授業内で行う。

教科書： なし

参考書： 田中望「日本語教育の方法：コースデザインの実際」大修館書店

授業・準備学習のアドバイス：

多様な学習者に対応できるような日本語教育を行いましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 日本文化体験

クラス:

授業コード: DB11700001

担当者: 大村 誠一郎、東野 眞紀、肥原 慶甫 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 将来、国内、海外で日本文化紹介イベントを企画することを視野に入れ、「茶道」「華道」「百人一首」について学び、また実際に体験することで、日本文化に関する素養を深める。併せて、学生の企画力、協働力を高め、実社会の場で日本文化体験イベントを運営する力を身につける。

到達目標: 「茶道」「華道」「百人一首」について学び、また実際に体験することで、日本文化に関する素養を深める。併せて、学生の企画力、協働力を高めることで、将来、国内、海外で日本文化紹介イベントを企画・運営するのに十分な能力を身につける。

各回の授業計画:

Ⅰ「茶道:お茶」(担当:東野真紀)
1. 茶道1「日本の文化と茶の湯 文化とは何だろう」
2. 茶道2「茶の歴史(1)」喫茶の始まり 様々な茶の飲み方・効用(東野)
3. 茶道3「茶の歴史(2)」わび茶の成立(東野)
4. 茶道4「茶会の構成」亭主と客(東野)
5. 茶道5「茶の湯の美術」茶室・茶道具(東野)
6. 茶道6「茶の湯実習」(東野)

「百人一首」(担当:大村誠一郎)
7. 百人一首1
「百人一首」について1:藤原定家の手になる小倉百人一首は800年にもわたって継承されてきたが、元は秀歌撰集として編集されたもの。平安中期以降秀歌撰集はたびたび編纂されたが、それは歌学(和歌に関する学問)の世界で作られた。藤原定家は当代きっての歌人であるとともに、歌の研究者としても第一人者であった。そうした小倉百人一首の成立について、概観する。
8. 百人一首(大村)2
「百人一首」について2:歌仙絵と百人一首。百人一首の読み札には歌人の絵が描かれている。後の時代、秀歌集に入る歌は歌人の絵とともに享受された。それを歌仙絵と言い、制作は江戸時代、さらには近代まで続いたが、百人一首の読み札の絵もその流れの中にある。この時間はさらに、百人一首が江戸時代にカードゲームにもなり、上流階級にも親しまれ、また庶民の世界にひろがった様相を見ていく。
9. 百人一首(大村)3
「百人一首」大会
・実際に札を取り合う百人一首をやります。楽しんでもらえたらと思います。
・ゲームの成績は点数には反映させない予定。初めての人も楽しんでください。

「華道:いけばな」(担当:肥原慶甫)
10. 華道1「いけばなの歴史」
11. 華道2「いけばなに関わる思想や習慣」陰陽、五行、節句など(肥原)
12. 華道3「いけばなの美」(肥原)
日本人の美意識といけばな/ 古典文学に見る花といけばな
13. 華道4「いけばなの様式」(肥原)
かたちのある古典いけばなと自由な現代いけばなの違いと共通点
14. 華道5「いけばな実習」(肥原)
自然手法(基本形)
自然の枝振りを生かし、決められた役枝の寸法や角度を守っていける。
花材の見立てやいけばなの基本的な技術を養う。
15. 華道6「いけばな実習」(肥原)
造形手法(自由形)
植物の特徴を生かし、自由な発想で造形的にいける。いけばなの基本的な技術とともに感性を養う。

特記事項: 花道と茶道の実習費として合計3500円が必要になります。

また、実習に用いる花器数の関係上、受講者数に上限を設ける(30名)。
これを上回る登録があった場合は、以下の順に受け付け、同じ優先順位内で上記定員に達した場合は抽選とする。
1:留学生

2:日本語教員希望者(主専攻)
3:日本語教員希望者(副専攻)
4:その他

授業方法: 「茶道」
1. 講義および動画視聴。感想を記述して提出。参考資料を配布します。
2. 同上
3. 同上
4. 同上
5. 同上
6. 茶室にて実習(略盆点前・武者小路千家流)

「百人一首」
7. 百人一首についての、和歌史の視点からの講義。
8. 百人一首のような秀歌撰集の享受と関連が深い歌仙絵についての講義。画像資料を用いる。
9.「カルタ取り大会」
実際に札を取り合うゲームとしての百人一首を行う(場所は移動する予定)。

「華道」
10. PPTや動画を用いた講義で可能であれば内容にあった作品を教師がいける。
11. 同上
12. 同上
13. 同上
「華道実習」
14. 手本を教師がいけて説明した後、それぞれ学生がいけ、最後に作品を教師が添削する。
15. 同上
「茶道」「百人一首」「華道」は、いずれも講義と実習からなる。すべて、対面で行う。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

プレゼンテーション、展示の準備などで計2700分以上の予習・復習が必要である。
授業で扱う文献の講読、予習、発表準備などで計2700分以上の予習が必要である。
1. 授業で紹介した内容のまとめ、予習(180分)
2. 授業で紹介した内容のまとめ、予習(180分)
3. 授業で紹介した内容のまとめ、予習(180分)
4. 授業で紹介した内容のまとめ、予習(180分)
5. 授業で紹介した内容のまとめ、予習(180分)
6. 授業で紹介した内容のまとめ、予習(180分)
7. 授業で紹介した内容のまとめ、予習(180分)
8. 授業で紹介した内容のまとめ、予習(180分)
9. 授業で紹介した内容のまとめ、予習(180分)
10. 授業で紹介した内容のまとめ、予習(180分)
11. 授業で紹介した内容のまとめ、予習(180分)
12. 授業で紹介した内容のまとめ、予習(180分)
13. 授業で紹介した内容のまとめ、予習(180分)
14. 授業で紹介した内容のまとめ、予習(180分)
15. 授業で紹介した内容のまとめ、振り返り(180分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	50 %	**確認テスト:**	- %	**レポート:**	- %
その他1:	作品制作・実習・小レポートなど。	50 %			
その他2:		%			

評価基準: 「茶道」「華道」「カルタとり」各分野での授業への取り組み、作品制作、小レポートの成績などにより、統合的に評価する。
(80-100)積極的に授業に参加し、協働学習を進めることができる。講義で得られた知識を活かし、優れた作品制作を行い、また実習にも積極的に参加することができる。
(70-79)授業に参加し、協働学習を進めることができる。講義で得られた知識を活かし、作品制作を行い、また実習にも参加することができる。
(60-69)協働学習に参加することができる。やや不十分さが残るが、講義で得られた知識を活かし、作品制作を行い、また実習にも参加することができる。

課題へのフィードバック:

講義では、学生からの質問に対し、適宜フィードバックを行う。実習では、学生の様子をみながら助言をする。作品制作では、助言、及び作品に対してる添削を行う。グループワークの発表では、発表に対する評価をフィードバックする。

教科書: 授業の際に講師が紹介する。

参考書: 授業の際に講師が紹介する。

授業・準備学習のアドバイス：

日本文化の知識を深め、実際に体験していただく科目です。また、みなさんが海外で日本文化体験ブースを企画、運営できることを目指します。自分が体験するだけではなく、日本文化を他の人に紹介するにはどうしたら良いかを、意識し、授業に参加してください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 社会言語学

クラス: ☆

授業コード: DB11800001

担当者: 酒井 純 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: まず社会言語学の基礎となる一般言語学について学び、言語との特徴と構造、またその研究分野と手法について理解を進める。そして、社会言語学の視点で言語データを理論的に分析、一般化する方法論について学ぶ。

到達目標:
1. 言語を研究するのに必要となる、言語学の基礎的な知識を習得し、言語の特徴や構造について説明ができる。
2. 言語はどのように社会の影響を受け、また言語は社会にどのような影響を及ぼしていくか考察し、説明ができる。
3. 日本語を中心に、方言や外来語、省略語などさまざまな言語現象について、言語学的な立場から基礎的な分析ができる。

各回の授業計画:

1. イントロダクション:授業のガイダンス、言語学の各分野、言語の特性、言語とは何か
2. 世界の言語、音韻論
3. 形態論:単語と形態素、活用と異形態、語形成、語の分類、品詞、文法カテゴリー
4. 統語論:句構造規則、変形文法、生成文法と普遍文法
5. 意味論:語の意味、成分分析、比喩、慣用句、文の意味
6. 語用論:発話、グライスの公理
7. 社会言語学とは、言語と属性①:社会階層とことば、アメリカ・イギリスでの言語の階級差
8. 言語と属性②:ことばと性差、男言葉、女言葉
9. 言語と属性③:ことばと年齢
10. 言語と民族:言語接触、リンガ・フランカ、ピジン、クレオール
11. 言語と地域①:学生の方言についての調査
12. 言語と地域③:日本の方言とその変化、方言の共通語化、ネオ・ダイアレクト、新方言、方言の未来
13. 二言語話者:バイリンガルとコードスイッチング、言語習得とバイリンガル
14. 言語の選択:スタイル、レジスター
15. まとめと確認

特記事項: なし

授業方法: ☆オンライン授業
1. ガイダンス、講義(オンライン)、小テスト
2-14. 講義(オンライン)、小テスト
15. 講義(オンライン)、レポート作成

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 授業で紹介した内容のまとめ。予習(180分)
2. 授業で紹介した内容のまとめ。予習(180分)
3. 授業で紹介した内容のまとめ。予習(180分)
4. 授業で紹介した内容のまとめ。予習(180分)
5. 授業で紹介した内容のまとめ。予習(180分)
6. 授業で紹介した内容のまとめ。予習(180分)
7. 授業で紹介した内容のまとめ。予習(180分)
8. 授業で紹介した内容のまとめ。予習(180分)
9. 授業で紹介した内容のまとめ。予習(180分)
10. 授業で紹介した内容のまとめ。予習(180分)
11. 授業で紹介した内容のまとめ。予習(180分)
12. 授業で紹介した内容のまとめ。予習(180分)
13. 授業で紹介した内容のまとめ。予習(180分)
14. 授業で紹介した内容のまとめ。予習(180分)
15. 授業全体のまとめ。レポートの作成(180分)

評価方法：	授業へのとりくみ：	30 %	確認テスト：	－ %	レポート：	40 %
	その他1：	小テスト		30 %		
	その他2：			%		

評価基準： 授業への取り組み、学期末レポートの成績、小レポートの成績により、統合的に評価する。

1. 授業への取り組み
ノートを取りながら講義を聴き、自分なりのキーワードを拾える（60～69）
疑問点をまとめ、講義内容に関する質問ができる（70～79）
上記に加えて、自分で言語現象について観察できる（80～100）

2. 小レポート・学期末レポート
言語学・社会言語学についての基本的な事項を説明できる(60～69)
言語学・社会言語学について、自分なりにまとめて説明できる(70～79)
言語学・社会言語学について、体系的に捉えて考察を含めて説明できる(80～100)

課題へのフィードバック：

授業内容への質問、レポートについてはTeams上でフィードバックを行う。

教科書： なし

参考書： 岩田 祐子 他『概説 社会言語学』ひつじ書房2013
佐久間 淳一 他『言語学入門―これから始める人のための入門書』研究社2004

その他、授業の際に随時紹介する。

授業・準備学習のアドバイス：

授業の進度、受講生の興味関心により、学習内容等変更する場合があります。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 長期留学事前指導

クラス:

授業コード: DB20100001

担当者: 桂 敦子 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本授業では、アイルランド・コーク大学での１年間の学修・生活を円滑かつ充実したものにするために、必要な学修準備・異文化理解・実践的スキル・安全管理能力を体系的に身につけることを目的とする。学生が異文化環境に主体的に適応し、学問的成果と個人的成長の双方を最大化できるよう、語学力、学習スキル、コミュニケーション能力、海外で安全安心に暮らすための生活設計力等を総合的に育成する。

到達目標: ①1年間の留学を実施する目的と期待する成果等について理解する。
②1年間の留学を通じて、国際社会に貢献できる資質・能力を身につける。
③1年間の留学を通じて、英語による実践的コミュニケーション能力を伸長させる。（帰国後、TOEICのスコアーを100ポイント以上伸ばす。）
④アイルランドやヨーロッパの歴史的背景・文化的特徴を体系的に理解する。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション及び「留学の目的と成果」

2.「世界の中のヨーロッパ、アイルランドの歴史」
テーマ:アイルランドについて
班別プレゼンテーション　地理・歴史・政治・経済・文化

3.「コーク大学について」
テーマ:コーク大学の歴史、学生生活、学習方法
内容:班別プレゼンテーション

4.「留学の年間スケジュール」「危機管理演習①」
テーマ:留学年間計画の概要作成
内容:個別プレゼンテーション1

5.「大学での学習・生活」「危機管理演習②」
テーマ:留学年間計画の概要作成
内容:個別プレゼンテーション2

6.「現地でのアルバイトと旅行」「危機管理演習③」
テーマ:留学年間計画の概要作成
内容:個別プレゼンテーション3

7.「出入国管理」「危機管理演習④」
テーマ:講義「出入国管理」
内容:出国から入国までの具体的手順を解説

8. 中間テスト「学校生活」「危機管理演習⑤」
テーマ:中間テスト・現地でのアルバイトと旅行
内容:班別プレゼンテーション

9.「日本文化」「危機管理演習⑥」
テーマ:「英語で紹介する日本文化」
内容:班別プレゼンテーション

10.「在留資格・入国許可証・パスポート・留学保険」「危機管理演習⑦」
テーマ:アイルランドの外国人政策
内容:班別プレゼンテーション

11.「アイルランド及びヨーロッパの法律」「危機管理演習⑧」
テーマ:EUとアイルランド
内容:班別プレゼンテーション

12.「入学手続き」「危機管理演習⑨」
テーマ:UCCオンライン申し込み、ホームステイ希望調査
内容:各自英語による書類作成

13.「旅行編 現地での旅行」「危機管理演習⑩」
テーマ:詳細な留学年間計画
内容:個別プレゼンテーション1

14. 期末テスト「渡航の準備1」
テーマ:期末テスト・詳細な留学年間計画

内容：個別プレゼンテーション2
15.「渡航の準備2」
テーマ：荷物等、準備の確認
内 容：準備状況の情報交換

特記事項： なし

授業方法： 【授業は対面で実施】
【授業の流れ】1～15. 講義と演習
①「留学英語」演習（30分）
②テーマに関する発表（40分）もしくは「講義」
③テーマに関する危機管理演習（10分）
⑤まとめの小テスト（10分）

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. アイルランドに関する予習（90分）
2. アイルランドの文化・歴史に関するプレゼン作成（180分）
3. コーク大学に関するリサーチ・プレゼン作成（180分）
4. 留学計画の作成（180分）
5. 留学計画の作成と危機管理対応の予習（180分）
6. 留学計画の作成と危機管理対応の予習（180分）
7. ヨーロッパの入国管理システムに関する予習・復習（180分）
8. 中間テストにむけたまとめ（180分）
9. 日本文化に関する英語プレゼン作成（180分）
10. アイルランドの外国人政策に関するプレゼン作成（180分）
11. アイルランド及び近隣諸国の法律について予習・復習（180分）
12. コーク大学入学願書、ホームステイ希望調査作成（180分）
13. ヨーロッパ諸国に関する予習・復習（180分）
14. 期末テストにむけたまとめ（180分）
15. 渡航準備及びまとめ（180分）

評価方法：	**授業へのとりくみ：**	50 **%**	**確認テスト：**	25 **%**	**レポート：**	25 **%**
	その他1：			**%**		
	その他2：			**%**		

評価基準： ①誰の助けも借りずに、一人で出入国手続きを済ませる能力を身につけたか。
（望ましい到達度：80～100点）ほぼ完ぺきに身につけることができた。
（最低限の到達度：60～69点）丸暗記状態だが、手順は理解できた。

②アイルランドで一人で暮らす知識等を身につけたか。
（望ましい到達度：80～100点）社会、経済、政治、歴史等幅広く知識を得た。
（最低限の到達度：60～69点）実用的な知識だけでなく、表面的な知識だが一応身につけた。

③ホストファミリーや寮で炊事洗濯等、一人で生活する能力を身につけたか。
（望ましい到達度：80～100点）習慣等の違いも理解し、基本的な力は身につけた。
（最低限の到達度：60～69点）実用的な知識というより、表面的な知識だが一応身につけた。

④留学中の年間計画の立案を完成させたか。
（望ましい到達度：80～100点）可能かどうかは別として、非常に具体的な計画を作成することができた。
（最低限の到達度：60～69点）一応は計画を作成したが、かなり具体性に欠ける内容となった。

⑤帰国時の英語力の目標を設定させたか。
（望ましい到達度：80～100点）TOEICの現地での実施時期、実施内容を調べ、回数とスコアの数値目標を設定できた。
（最低限の到達度：60～69点）TOEICの現地での実施時期や実施内容は調べたが、数値目標の設定が不十分だった。

⑥様々な危機管理の場面を想定したか。また、想定外の危機管理に対応する能力を身につけたか。
（望ましい到達度：80～100点）授業中にシュミレーションした場面設定と外務省発行のテキストについて、ほぼ熟読できた。
（最低限の到達度：60～69点）授業中のシュミレーションは理解したが、外務省発行のテキストには目を通せていない。

課題へのフィードバック：

実施する小テストや演習について、学修状況を把握し、適宜指導を入れる。

教科書： 授業において、適宜、プリントやワークシート等を配布

参考書： 「地球の歩き方 アイルランド 2025～2026」地球の歩き方編集室 Gakken 2310円（税込）

「ひとり歩きの会話集⑪ホームステイ・留学英語」（春学期「留学英語」でも使用）JTB　1067円（税込）

授業・準備学習のアドバイス：

アイルランド・コーク大学へ実際に１年間留学する国際文化学科・国際コミュニケーションコースの学生が対象。この授業を履修しなければ、留学不可。
また、他学科の学生で「休学留学」で参加する予定の者も原則として履修すること。（諸手続きを授業内で実施するため）

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 長期留学Ⅰ

クラス:

授業コード: DB20200001

担当者: 桂 敦子 **単位数:** 13

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本授業は、アイルランド・コーク大学での１年間の海外留学を通して、実践的な英語力を修得し、グローバル社会に必要な資質や能力を育成することを目的とする。また、自立した生活運営力や問題解決力を養い、将来のキャリア形成につながる国際的視野を確立することを重視する。さらに、長期の海外生活を経験することで、自立心やチャレンジ精神、レジリエンスなど、これからの社会で求められる力を身につけることを目指す。

到達目標: ①英語力の向上を図ることができる（TOEIC６４５点以上）。
②アイルランドの文化・歴史・価値観を理解し、文化的背景の異なる人々と協働できる。
③異文化ストレスや価値観の違いに対して、柔軟に適応する力を身につけることができる。
④多国籍の学生と交流し、国際的なネットワークを構築することができる。
⑤異文化環境での挑戦を通じて、主体性・協働性・レジリエンス（折れない力）を身につけることができる。

各回の授業計画:

本学との授業回数読み替え表
1. Week1～3
2. Week1～3
3. Week4～6
4. Week4～6
5. Week7～9
6. Week7～9 Placement Testの実施2
7. Week10～12
8. Week10～12
9. Week13～15
10. Week13～15 Placement Test
11. Week16～18
12. Week16～18
13. Week19～21
14. Week19～21
15. Week22 Placement Test

特記事項: なし

授業方法: 【現地での授業：対面】
UCCのカリキュラムに拠る。

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

UCCのカリキュラムに拠る。
宿題等は毎回出される。毎日、予習・復習に最低でも60分は必要。

評価方法：	**授業へのとりくみ：**	60	**%**	**確認テスト：**	－	**%**	**レポート：**	40 **%**
	その他1：					**%**		
	その他2：					**%**		

評価基準： 15週間の全ての授業に出席し、大学から評価を受け取る。（60～69点）
15週間の全ての授業に出席し、大学から高い評価を受け取る。（70～79点）
TOEICの試験を現地で受験し、645点以上のスコアを得る。（80～100点）

課題へのフィードバック：

UCCの教員が細かく指導・助言を行う。

教科書： UCC発行テキストを使用

参考書： UCCが指定した参考書を使用

授業・準備学習のアドバイス：

本学の学生や家族とのメール等のやり取りはできるだけ必要最小限にし、他国の留学生や大学のスタッフとの交流に時間を割くこと。生活関連情報等も現地の方に聞くようにする等、現地でしか経験できないことに積極的に取り組むこと。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 長期留学Ⅱ

クラス:

授業コード: DB20300001

担当者: 桂 敦子 **単位数:** 13

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本授業は、アイルランド・コーク大学での1年間の海外留学を通して、実践的な英語力を修得し、グローバル社会に必要な資質や能力を育成することを目的とする。また、自立した生活運営力や問題解決力を養い、将来のキャリア形成につながる国際的視野を確立することを重視する。さらに、長期の海外生活を経験することで、自立心やチャレンジ精神、レジリエンスなど、これからの社会で求められる力を身につけることを目指す。

到達目標: ①英語力の向上を図ることができる（TOEIC700点以上）。
②アイルランドの文化・歴史・価値観を理解し、文化的背景の異なる人々と協働できる。
③異文化ストレスや価値観の違いに対して、柔軟に適応する力を身につけることができる。
④多国籍の学生と交流し、国際的なネットワークを構築することができる。
⑤異文化環境での挑戦を通じて、主体性・協働性・レジリエンス（折れない力）を身につけることができる。

各回の授業計画:

本学との授業回数読み替え表
1. Week23～25
2. Week23～25
3. Week26～28
4. Week26～28
5. Week29～31
6. Week29～31 Placement Test
7. Week32～34
8. Week32～34
9. Week35～37
10. Week35～37 Placement Test
11. Week38～40
12. Week38～40
13. Week41～43
14. Week41～43
15. Week43～45

特記事項: なし

授業方法: 【現地の大学：対面】【神戸親和大学への報告・相談：オンライン（メール含む）】
UCCのカリキュラムに拠る。

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

UCCのカリキュラムに拠る。
宿題等は毎回出される。毎日、予習・復習に最低でも60分は必要。

評価方法：

授業へのとりくみ：	60	**%**	**確認テスト：**	－	**%**	**レポート：**	40 **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準： 15週間の全ての授業に出席し、大学から評価を受け取る。（60～69点）
15週間の全ての授業に出席し、大学から高い評価を受け取る。（70～79点）
TOEICの試験を現地で受験し、700点以上のスコアーを得る。（80～100点）

課題へのフィードバック：

UCCの教員が細かく指導・助言を行う。

教科書： UCCの発行テキストを使用

参考書： UCCの指定した参考書を使用

授業・準備学習のアドバイス：

本学の学生や家族とのメール等のやり取りはできるだけ必要最小限にし、他国の留学生や大学のスタッフとの交流に時間を割くこと。生活関連情報等も現地の方に聞くようにする等、現地でしか経験できないことに積極的に取り組むこと。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: TOEFL Ⅰ

クラス:

授業コード: DB20600001

担当者: 森上 展宏 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:県立高等学校教諭、私立高等学校中学校教諭

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: TOEFLテスト初心者を対象とし、アカデミックな内容を基礎から学び、「Reading」「Listening」「Speaking」「Writing」の英語4技能を総合的に学びながら、最終的に留学可能なTOEFLテストを受験できるレベルに英語力を向上させることを目的とします。

到達目標: 学術的な英語に触れ、語彙力を増やし、4技能を駆使してインプット、アウトプット能力を高め、情報を理解し、自分を表現できる基礎力を身につけることを目指します。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション(授業の進め方、授業の準備、テキストのPre-Unit)
2. Unit 1 Reading & Listening Section
3. Unit 1 Speaking Section
4. Unit 3 Reading & Listening Section
5. Unit 3 Speaking Section
6. Unit 5 Reading & Listening Section
7. Unit 5 Speaking Section
8. Unit 7 Reading & Listening Section
9. Unit 7 Speaking Section
10. Unit 9 Reading & Listening Section
11. Unit 9 Speaking Section
12. Unit 11 Reading & Listening Section
13. Unit 11 Speaking Section
14. Unit 13 Reading & Listening Section
15. Unit 13 Speaking Section及び確認テスト

特記事項: テキストは春学期と秋学期で同じものを使用します。 春学期はテキストの奇数Unitを、秋学期は偶数Unitを授業で行います。

授業方法: すべての授業を対面授業で行います。テキストのTOEFL 形式の問題演習を中心に、受講生の発表を多く取り入れながら授業を進めます。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

各回のUnitの既習内容について復習するとともに、次回授業のUnit内容について予習を行ってください。(復習90分x15回)(予習90分x15回)
また、必要に応じて課題を課します。

評価方法:

授業へのとりくみ:	50 %	**確認テスト:**	30 %	**レポート:**	− %
その他1:	復習小テスト		20 %		
その他2:			%		

評価基準:

1 最低限の到達度(60-69点)
・テキストの各Unitの問題について、きちんと予習がなされている。
・授業で実施の小テストや確認テストで概ね6割～7割の正解ができている。

2 望ましい到達度(80-100点)
・テキストの各Unitの問題について、予習・復習がしっかりとされており、積極的に問題演習に取り組んでいる。また、授業の進行に関する発言、発表等を意欲的に行っている。
・授業で実施の小テストや確認テストで概ね8割以上の正解ができている。

課題へのフィードバック:

・授業で実施の小テストの結果に応じて指導方法の改善を行うとともに助言をする。
・授業で行う小テストは、授業時間中に答え合わせをする。提出を求めた課題については、
コメントをつけて返却する。

教科書: GET READY FOR THE TOEFL TEST（成美堂）2020年

参考書: 授業時に適宜紹介する。

授業・準備学習のアドバイス:

TOEFLは、短期間で簡単に結果が出る試験ではありません。語彙・文法・読解・リスニングといった基礎の積み重ねが、最終的なスコアにつながります。この授業では、理由を理解しながら着実に力を伸ばすことを重視します。毎回の授業への集中と復習の継続が不可欠です。地道な努力は必ず結果に表れます。正しい方法で続ければ、英語力は確実に伸びます。一緒に最後までやり切りましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: TOEFLⅡ

クラス:

授業コード: DB20700001

担当者: 森上 展宏 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:県立高校教諭、私立中学校高等学校教諭

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: TOEFLテスト初心者を対象とし、TOEFLI科目で演習した基礎的な力をさらに伸ばし、「Reading」「Listening」「Speaking」「Writing」の英語4技能を総合的に学びながら、最終的に留学可能なTOEFLテストを受験できるレベルに英語力を向上させることを目的とします。

到達目標: 学術的な英語に触れ、語彙力を増やし、4技能を駆使してインプット、アウトプット能力を高め、情報を理解し、自分を表現できる基礎力を身につけることを目指します。

各回の授業計画:

1. TOEFL Iで既習した内容の確認と評価、授業の進め方
2. Unit 2 Reading & Listening Section
3. Unit 2 Speaking Section
4. Unit 4 Reading & Listening Section
5. Unit 4 Speaking Section
6. Unit 6 Reading & Listening Section
7. Unit 6 Speaking Section
8. Unit 8 Reading & Listening Section
9. Unit 8 Speaking Section
10. Unit 10 Reading & Listening Section
11. Unit 10 Speaking Section
12. Unit 12 Reading & Listening Section
13. Unit 12 Speaking Section
14. Unit 14 Reading & Listening Section
15. Unit 14 Speaking Section及び確認テスト

特記事項: テキストは春学期と同じものを使用します。春学期はテキストの奇数Unitを、秋学期は偶数Unitを授業で行います。

授業方法: すべての授業を対面授業で行います。テキストのTOEFL 形式の問題演習を中心に、受講生の発表も多く取り入れながら授業を進めます。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

各回のUnitの既習内容について復習するとともに、次回授業のUnit内容について予習を行ってください。(各回90分)また、必要に応じて課題を課します。

評価方法:

授業へのとりくみ:	50 %	**確認テスト:**	30 %	**レポート:**	− %
その他1:	復習小テスト		20 %		
その他2:			%		

評価基準:

1. 最低限の到達度(60−69点)
・テキストの各Unitの問題について、きちんと予習がなされている。
・授業で実施の小テストや確認テストで概ね6割～7割の正解ができている。

2. 望ましい到達度(80−100点)
・テキストの各Unitの問題について、予習・復習がしっかりとされており、積極的に問題演習に取り組んでいる。また、授業の進行に関する発言、発表等を意欲的に行っている。
・授業で実施の小テストや確認テストで概ね8割以上の正解ができている

課題へのフィードバック:

・授業の習熟度や小テストの結果などに応じて指導方法の改善を行うとともに助言をする。
・授業で行う小テストは、授業時間中に答え合わせをする。提出を求めた課題については、コメントをつけて返却する。

教科書: GET READY FOR THE TOEFL TEST（成美堂）2020年

参考書: 授業時に適宜紹介する。

授業・準備学習のアドバイス:

TOEFLは、短期間で簡単に結果が出る試験ではありません。語彙・文法・読解・リスニングといった基礎の積み重ねが、最終的なスコアにつながります。この授業では、理由を理解しながら着実に力を伸ばすことを重視します。毎回の授業への集中と復習の継続が不可欠です。地道な努力は必ず結果に表れます。正しい方法で続ければ、英語力は確実に伸びます。一緒に最後までやり切りましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 中国語コミュニケーションⅠ

クラス:

授業コード: DB20800001

担当者: 王 景穎 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: この授業は、正確な発音の習得と基本になる構文から簡単な会話や聞く力の養成を目指す。

到達目標: ピンインを見て、正しく発音ができ、簡単な挨拶や自己紹介ができることを目標とする。
テキストをもとに、「聞く、話す、読む、書く」の技能全般をバランスよく学習していく。CD、DVDなどを利用して、既習した内容の理解を深め、更に先生との口頭練習とグループの会話などによって、定着させる。
受講生の積極的参加を前提とする。

各回の授業計画:

1. (1)中国語のガイダンス (2)声調「四声」について
2. 母音、複合母音
3. 子音
4. 鼻母音
5. ピンインの決まりと発音のまとめ練習
6. 第1課 あいさつする
(1)人称代名詞 (2)「是」の文
7. 第1課 あいさつする
(1)「吗」の疑問文 (2)本文会話の音読 (3)練習A (4)練習B
8. 第2課 名前を尋ねる
(1)疑問詞「誰」「何」 (2)疑問詞疑問文 (3)小テスト1
9. 第2課 名前を尋ねる
(1)「的」の用法 (2)本文会話の音読 (3)練習A (4)練習B
10. 第3課 食べたいものを尋ねる
(1)動詞述語文 (2)副詞「～も」 (3)小テスト2
11. 第3課 食べたいものを尋ねる
(1)省略疑問文「呢」 (2)本文会話の音読 (3)練習A (4)練習B
12. 第4課 近況を尋ねる
(1)形容詞述語文 (2)曜日の言い方・尋ね方 (3)小テスト3
13. 第4課 近況を尋ねる
(1)本文会話の音読 (2)練習A (3)練習B
14. 第1課～第4課の復習
15. まとめと確認テスト

特記事項: なし

授業方法: すべての授業を対面授業で行うが、天候や交通の乱れによる登校不可能の場合はオンデマンド授業に切り替える。

授業の流れとしてはまずポイントをたくさんの例文で説明をし、その後ポイントを使ってペアで会話を作ってもらって発表させる。
更に練習問題によって文法事項を確認し、筆記練習をする。音読や本文の暗記を通して会話能力をアップしていく。
最後にミニテストをする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

単語を暗記したり、本文のCDを聴いて音読したりすること。
一課ごとに、練習問題のプリントを配布し、それを完成して持ってくること。
1学期間で計675分の時間外学習が必要である。

評価方法: **授業へのとりくみ:** 30 **%** **確認テスト:** 70 **%** **レポート:** － **%**

その他1： **%**

その他2： **%**

評価基準： （優）ピンインが読めて、正しく発音ができる
単語をよく知っていて、文法のポイントを使って、応用会話ができる

（良）ピンインが読める
単語の意味が分かる
文法のポイントを使って、会話ができる

（可）単語の意味が分かる
単語が読める 文法のポイントを理解している

課題へのフィードバック：

一課ごとに練習問題によって問題点をチェックする
小テスト毎回解説する

教科書： 「できる・つたわる コミュニケーション中国語」
白水社 岩井伸子 胡興智 著

参考書： 「中国語検定対策準4級」

授業・準備学習のアドバイス：

発音をうまくするには大きな声で繰返し練習するのがコツである。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 中国語コミュニケーションⅡ

クラス:

授業コード: DB20900001

担当者: 李 燦 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: この授業は、正確な発音の習得と基本になる構文から簡単な会話や聞く力の養成を目指す。初級レベルの聞く，会話と表現力の養成を目標にする。

到達目標: ピンインを見て、正しく発音ができ、簡単な挨拶や自己紹介ができることを目標とする。
テキストをもとに、「聞く、話す、読む、書く」の技能全般をバランスよく学習していく。CD、DVDなどを利用して、既習した内容の理解を深め、更に先生との口頭練習とグループの会話などによって、定着させる。

各回の授業計画:

1. 今までに学習した中国語の復習
2. 場所、時間の前置詞
3. 予定を尋ねる会話表現
4. 場所を尋ねる会話表現
5. 場所、時間の場面別会話の音読練習チェック
6. 注文する会話
7. 所有と存在を表す”有”の用法、数量の言い方
8. 第5課～第7課の復習 ビデオ 日本語の漢字と中国語の漢字
9. 色々な量詞、値段の言い方
10. 値段の交渉する会話
11. 動詞の過去文型
12. 様態補語
13. 出来ことを尋ねる会話
14. 第8課～第10課の復習 漢字クイズ
15. まとめと確認

特記事項: 受講生の積極的参加を前提とする。

授業方法: 説明
グループ練習
ペア練習
筆記練習
まとめチェック

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1学期間で計675分の時間外学習が必要である。
単語を暗記したり、本文のCDを聴いたりすること。
一課ごとに、練習問題のプリントを配布し、それを完成して持ってくること。

評価方法:

授業へのとりくみ:	30	**%**	**確認テスト:**	70	**%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: (優)ピンインがよめて、正しく発音ができる
文法のポイントを理解していて、応用ができる

(良)ピンインが読める
単語の意味が分かる

文法のポイントを理解している

（可）単語の意味が分かる
文法のポイントを理解している

課題へのフィードバック：

一課ごとにペアチェック、小テスト毎回解説

教科書： 「できる・つたわる コミュニケーション中国語」白水社 岩井伸子 胡興智 著

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：

発音をうまくするには大きな声で繰返し練習するのがコツである。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 日本文学講読(古典)

クラス:

授業コード: DB30100001

担当者: 大村 誠一郎 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 国語)【選択】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 国文学(国文学史を含む。) **一般的包括的科目:** ×

授業の目的: 源氏物語をテキストとし、注釈をふまえた本文理解を目指す。注釈は現代語訳のためだけでなく、現代語訳をみるだけでは十分にはわからない作品成立時の理解を目指すもので、文学研究の重要な部分である。注釈に用いられた資料やその扱い方を学び、自分で文献や資料を調べて注釈をする道筋としたい。

到達目標: 注釈に用いる資料ついての知識、ならびにその扱い方について学ぶ。
諸注を調べ、自分が得た見識に基づいて作品の解釈(口語訳)ができる。
注釈書や研究文献を読み、作品理解を深める。

各回の授業計画:

1. 源氏物語を読むにあたって。源氏物語研究の基礎となる本文研究と注釈について。
2. 桐壺巻を読む1
3. 桐壺巻を読む2
4. 桐壺巻を読む3
5. 桐壺巻を読む4
6. 桐壺巻を読む5
7. 桐壺巻を読む6
8. 桐壺巻を読む7
9. 桐壺巻を読む8
10. 桐壺巻を読む9
11. 桐壺巻を読む10
12. 桐壺巻を読む(この回で桐壺巻を最後まで読む)。桐壺巻のまとめと『源氏物語』についての講義。
13. 若紫巻から一部の節を取りあげて読む。ならびに『源氏物語』のその後の展開と作品が追求したものについての講義1
14. 若紫巻から一部の節を取りあげ読む。ならびに『源氏物語』のその後の展開と作品が追求したものについての講義2
15. 確認テストとまとめ。

特記事項: なし

授業方法: 対面による講義と、学生による注釈をふまえた訳文発表。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回、源氏物語の指定箇所の訳文作成を課す。また研究文献を指定してまとめることを課す場合もある。そうした予復習に毎回180分をあてる。また発表箇所については各自で時間をかけて準備を行う。

評価方法:

授業へのとりくみ:	60	**%**	**確認テスト:**	40	**%**	**レポート:**	− **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: 最低限の到達度(60〜69点)
注釈の知見をふまえて訳文の説明ができ、内容の説明もできること。
望ましい到達度(80〜100点)
注釈の知見をふまえて訳文の説明ができ、内容の説明もできること。さらに考究すべき問題が立てられること。

課題へのフィードバック:

発表について、討議を行う。
試験答案にコメントを付す。

教科書: 『源氏物語』1（岩波文庫）

参考書: なし。

授業・準備学習のアドバイス:

日本古典文学の傑作『源氏物語』は巨人だ。ストーリーはおもしろいし登場人物も魅力にあふれる作品だが、原文で読む場合、本文は難解な印象があり、その大きさ深さゆえに容易に近づけない作品でもある。その扉を開けて物語の世界に入るには、古文原文をとにかく読むこと。授業では54帖最初の巻「桐壺」、注釈をふまえながら原文で読む経験が『源氏物語』を身近なものにしてくれるのを実感できるだろう。そしてもう一つの鍵は、作品に関する基本情報にふれること。『源氏物語』本文を提供する書物の解説や新書・講座・研究ガイド・事典等の研究文献がよき手引きとなる。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 日本文学講読(現代)

クラス:

授業コード: DB30200001

担当者: 小山 智久 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 国語)【選択】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 国文学(国文学史を含む。) **一般的包括的科目:** ×

授業の目的: 村上春樹の代表作品を読み、その多彩な文学活動の一端に触れるとともに、小説読解の魅力に迫る。

到達目標: 現代文学を読むための理論を学ぶとともに、初期の村上春樹の文学の特質の理解

各回の授業計画:

1. 教科「国語」と文学 学習指導要領の改訂と文学教育
2. 読むための理論の紹介と村上春樹の創作活動
3. 「風の歌を聴け」(1〜10)
4. 「風の歌を聴け」(11〜18)
5. 「風の歌を聴け」(19〜27)
6. 「風の歌を聴け」(28〜40)
7. 「風の歌を聴け」 魅力の考察
8. 「1973年のピンボール」(1969―1973 1〜11)
9. 「1973年のピンボール」(12、13 14〜24のうち「僕」の章)
10. 「1973年のピンボール」(14〜24のうち「鼠」の章、25)
11. 「1973年のピンボール」魅力の考察
12. 映画「風の歌を聴け」鑑賞
13. 「海辺のカフカ」上・カラスと呼ばれる少年〜第12章
14. 「海辺のカフカ」上・第13章〜第23章
15. 「海辺のカフカ」下・第24章〜第49章

特記事項: 村上春樹の初期作品を読み進め、その独特の世界に触れることによって、村上文学の特質と人気の秘密を探る。

授業方法:

1. 【対面】講義
2. 【対面】講義、演習
3. 【対面】講読
4. 【対面】講読
5. 【対面】講読
6. 【対面】講読
7. 【対面】講義、グループワーク、ディスカッション
8. 【対面】講読
9. 【対面】講読
10. 【対面】講読
11. 【対面】講読
12. 【対面】DVD視聴、ディスカッション
13. 【対面】講読・演習
14. 【対面】講読・演習
15. 【対面】講読・演習

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 高等学校学習指導要領(国語)を読み、科目の構成を理解する。村上春樹の経歴、特に神戸との関連を調べる。(180分)
2. 「風の歌を聴け」を読む。(180分)
3. 「風の歌を聴け」を読む。(180分)
4. 「風の歌を聴け」を読むと同時に、章段を時間軸に沿って整理する。(180分)
5. 「風の歌を聴け」を読むと同時に、登場人物等について整理する。(180分)

6.「風の歌を聴け」の感想をまとめる。(180分)
7. レポート課題の作成(180分)
8.「1973年のピンボール」を読む。(180分)
9.「1973年のピンボール」を読む。(180分)
10.「1973年のピンボール」を読むと同時に、登場人物の関係について整理する。(180分)
11.「1973年のピンボール」」の感想をまとめる。(180分)
12. レポート課題作成(180分).
13.～15.「海辺のカフカ」を読む。(180分×3)

評価方法:

授業へのとりくみ:	50	**%**	**確認テスト:**	-	**%**	**レポート:**	50 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準:

1. 授業への取り組み
(望ましい到達度:80～100点)自分の読みについて、説得力をもって説明できる
(最低限の到達度:60～69点)各作品を読み込み、授業に臨むことができる

2. 提出物・レポート
(望ましい到達度:80～100点)自分なりの読後感等をレポートにまとめ、発表できる
(最低限の到達度:60～69点)一つの作品世界に関しての調査をまとめることができる

課題へのフィードバック:

適宜各自がまとめたレポートについて授業時にコメント

教科書: 村上春樹「風の歌を聴け」(講談社文庫)、「1973年のピンボール」(講談社文庫)、「海辺のカフカ」(新潮文庫)

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

文学の好きな人、小説の好きな人、それらに関心のある人を求める。3つの作品については、必ず通読した上で授業に臨むこと。京都で生まれ、神戸で育った世界的文学者村上春樹の世界を一緒に楽しみましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 日本文学講義

クラス:

授業コード: DB30300001

担当者: 大村 誠一郎 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 国語)【選択】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 国文学(国文学史を含む。) **一般的包括的科目:** ×

授業の目的: 横光利一の文学について考察する。
大正末に新感覚派の旗手として華々しく文壇に登場した横光利一は、他の文学流派と激しく戦い、時代の思潮にも向き合いつつ、文壇の中心に立って注目度の高い作品を書き、マスメディアからは「文学の神様」と言われるほどになった。彼の文業をたどることは、、昭和戦前・戦中期文学史の諸問題に深く関わることにもなる。この時代に文学が求めたもの、読者が期待したものは列挙すれば
・西欧の影響を受けた近代国家における近代的個人、自我、自意識の問題――近代の生きる人間とは
・意識される社会のあり方 文学による社社会批判と思想性
自然主義・マルクス主義・生命主義
・心理の探究 心理主義による人物造型や人間探究
・リアリズム
・文学におけるリアリズムを超える表現の可能性
・文学の芸術性
・日本的なものとは
・西洋社会の基盤としての合理主義や科学に対置される東洋の知
・純文学の立場に対する大衆小説――物語としてのおもしろさ etc.
と多岐にわたるが、横光はそのどれに対しても真剣に対峙し、自分自身の立場を示した。その達成と問題点を彼の文業を通じて考えてみたい。そこには作家が時代と格闘しながら織り出した壮大なドラマがあり、時代と文学について深い印象をもたらすだろう。

到達目標: 作品を成立当時の社会・文化を押さえながら理解し、作者自身の他の言説や同時代の様々な言説にも注視して、作品が果たした役割や文学史的な位置付けを考える学問的な読み方を身につける。

各回の授業計画:

1. 横光が創作活動をした時代と彼の文業の概観
2. 新感覚派時代の横光 彼が対抗したもの1
自然主義やリアリズム文学との対抗
3. 新感覚派時代の横光 彼が対抗したもの2
自然主義やリアリズム文学との対抗
4. 文学における思想の問題 マルクス主義文学と横光利一1
5. 文学における思想の問題 マルクス主義文学と横光利一2
6.『春は馬車に乗って』1
7.『春は馬車に乗って』2
8. 横光利一『機械』と心理主義、ならびに近代の人間の自意識構造1
9. 横光利一『機械』と心理主義、ならびに近代の人間の自意識構造2
10. 横光利一『寝園』と『上海』――マルクス主義文学と通俗小説を超える1
11. 横光利一『寝園』と『上海』――マルクス主義文学と通俗小説を超える2
12.『紋章』近代個人主義的自意識と日本精神1
13.『紋章』近代個人主義的自意識と日本精神2
14.『旅愁』へ ヨーロッパ・フランス・科学・合理主義・キリスト教との対決と日本、および日本人
15. 確認テストとまとめ

特記事項: なし

授業方法: 対面による講義形式。一部でディスカッションを行う。

予習・復習・宿題など(内容・時間):
取りあげる作品については各自で事前に読んで、何らかの覚書を作ること。作品を授業終了後にも再読し、授業や資料を参考にして、自分の観点で読みをまとめる。平均して毎時180分程度の予復習を要する。

評価方法:

授業へのとりくみ:	30	**%**	**確認テスト:**	40	**%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:	授業内容を振り返るミニレポートを3回作成。			30	**%**		
その他2:					**%**		

評価基準:

確認テスト
最低限の到達度(60～69点):横光の文学について、二つのトピックスで説明できる。
望ましい到達度(80～100点:横光の文学について、二つ以上のトピックスを文学史の文脈で説明できる。
ミニレポート
最低限の到達度(60～69点):作品本文の引用を行い、資料や授業内容を参考にして作品の説明ができること。
望ましい到達度(80～100点:作品本文を適宜引用し、資料や授業内容の見解もふまえつつ自分なりの味読ができていること。

課題へのフィードバック:

レポート、課題にコメントを付す。

教科書: 講義で取りあげる作品のうち、青空文庫で読めるものはそれで読んでもらってよい。

参考書: なし。

授業・準備学習のアドバイス:

文学史の本や作品の解説、あるいは雑誌の横光利一特集号を読んで、授業で扱う作品の文学史上の位置や作品評価について基礎的な理解を持ってほしい。文学史は、鈴木貞美『入門日本近現代文芸史』(平凡社新書)、中村光夫『日本の現代小説』(岩波新書)、加藤周一『日本文学史序説下』を推奨。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 日本語文法(現代)

クラス:

授業コード: DB30500001

担当者: 近藤 要司 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 国語)【選択】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む。) **一般的包括的科目:** ×

授業の目的: 日本語教育の立場から書かれた文法のテキストを用いて、現代日本語文法の全般についての知識を深める。

到達目標:
1. 日本語の文の大きな構造について理解し説明できる。
2. 日本語文法の大きな特徴の一つである「題目(主題)ー解説」の構造を「主語ー述語」構造と対照して説明できる。
3. 日本語のヴォイス・テンス・アスペクトについてその特徴を理解し説明できる。
4. 日本語文法に独特な用語である「モダリティ(ムード)」という概念の範囲について理解し説明できる。
5. 日本語の複文の構造について理解し説明できる。
6. 日本語教育の品詞分類と学校文法の品詞分類の違いを理解し、説明できる。
7. 文の意味について、成分の意味内容、文脈、話し手の意図など異なる側面を関連付けて理解し説明できる。

各回の授業計画:

1. 導入 この授業の進め方
補足 日本教育の文法の概要(全体像)

2. 第1章 日本語文の構造
その1 基本文型 1. 格関係 2. 述語と必須成分(文型)第1章 日本語文の構造
その2 格助詞 1. 格助詞の主な用法 2. 日本語教育の観点から まとめ

3. 第1章 日本語文の構造
その2 格助詞 1. 格助詞の主な用法 2. 日本語教育の観点から まとめ

4. 第2章 主題化
その1 格成分の主題化
1. コトとムード 2. コトを表す格助詞 3. ムードを表す「は」 4. 主題化による格助詞の変化
文法チェック① “主題化と格助詞”

5. 第2章 主題化
その2 格成分以外の主題化
1. 4つの主題化のパターン 文法チェック② “二重ガ格文”
2.「は」の影響力
3. 日本語教育の観点から

6. 第3章 自動詞と他動詞
その1 自他の区別
1. 自動詞と他動詞 2. 自他の区別 3. 自他の対応
その2 自他の対応による分類
1. 自他の対応の考え方 2. ペアがないときの代用 3. 日本語教育の観点から まとめ

7. 確認テスト1 (日本語の構造・主題化・自動詞他動詞)
確認テスト1の解説

8. 第4章 ヴォイス
その1 受身文
1. 受身の形式 2. 受身文の種類 3. 動作主のマーカー(動作主を示す助詞) 文法チェック③ 3項動詞の受身文7. 第4章 ヴォイス
その2 使役文とその他のヴォイス
1. 使役の形式 2. 使役文の特徴 3. 便役文の種類 4. その他のヴォイスの表現 5. 日本語教育の観点から まとめ

9. 第5章 テンス
その1 絶対テンスと相対テンス
1. ル形とタ形 2. 動き動詞と状態動詞 3. 恒常的表現 4. 絶対テンス 5. 相対テンス〔継起関係の従属節〕 6. 同時関係の従属節 7. 相対テンスのまとめ その2 テンス以外のタ形
1.「現在完了」のタ形 2. 特殊なタ形 文法チェック④完了と過去の見分け方 3. 日本語教育の観点から まとめ

10. 第6章 アスペクト
その1「〜ている」と「〜てある」
1.「〜ている」の用法 文法チェック⑤ 述語の分類 2.「〜てある」の用法 文法チェック⑥ “「〜てある」の用法” 3. アスペクトとは異なる表現
その2 金田一の動詞分類
1. 金田一の動詞分類 文法チェック⑦ 継続性と瞬間性 2. 日本語教育の観点から

11. 確認テスト2（ヴォイス・テンス・アスペクト）
確認テスト2の解説
12. 第7章 ムード
1. 対事的ムードと対人的ムード
2. 断定と意志のムード
3. 注意すべきムードの用法
3.1 推量のムード（らしい・ようだ・みたいだ・そうだ） 3.2 確信のムード（はずだ・にちがいない）
3.3 説明のムード（のだ・わけだ）
3.4 当然ー回想／勧め・詠嘆のムード（ものだ／ことだ）
3.5 義務・必要のムード（べきだ・なければならない・なければいけない）
4. その他のムードの表現 5. 日本語教育の観点から
13. 第8章 複文の構造 1
1. 名詞修飾節 1.1 内・外の関係 文法チェック⑧ “連体修飾と連用修飾” 1.2 限定用法（制限用法）と非限定用法（非制限用法） 1.3 名詞修飾節における「が」と「の」の交替…複文の構造
2. 補足節 2.1 名詞節 文法チェック⑨ “「の」と「こと」の使い分け” 2.2 引用節 2.3 疑問節
14. 第8章 複文の構造 2
3. 副詞節（連用修飾節）
3.1 条件節 3.2 原因ー理由節 3.3 時間節 3.4 日的節 3.5 様態節 3.6「と」「ば」「たら」「なら」の用法
4. 並列節 4.1 テ形
5. 従属節における主題の「は」
6. 日本語教育の観点から
15. 確認テスト4（ムード・複文）
確認テスト4の解説

特記事項： なし

授業方法： 対面で授業を行う。
授業は
(1)テキストの内容の解説
(2)テキストの練習問題の解答作成
(3)テキストの練習問題の解答の確認検討
(4)まとめ
という形で行います。

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

下記の指示にしたがって予習復習レポートの準備を行うこと。これらには1学期間で2700分必要である。
(1)授業前に、テキストをよく読む。その中で「自分が知っていること」「自分が知らなかったこと」「テキストの説明だけでは理解できないこと」をピックアップする。(30分程度)
(2)テキストの用語や項目で知らないことについては、辞典やネットなどで調べておく。また、挙がっている例文については、自分で別の例文を考えるようにする。(30分程度)
(3)授業の後は、「重要な項目はどれだったのか」「それについて、教員はどう説明したか」「既習項目とどう関連するのか」などを中心にノートをまとめる。また、復習の課題について、テキストを参考にして解答する。(90分程度)
(4)確認テストの前には、(3)で作成したノートや課題への担当教員のコメントなど中心に、充分復習する。(120分程度)
(5)確認テスト後に、教員が解説するので、それを元に、自分の学習の足りなかった点や誤解していた部分を復習する。(30分程度)

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	70 **%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：			**%**		
その他2：			**%**		

評価基準： 毎回の復習課題 授業で学んだことについて毎回復習の課題を出すのでこれに答えること。1課題は2点満点（30%）
確認テスト（70%）：授業の区切り区切りで、確認テストの時間を設ける。確認テストは3回を予定している。この確認テストは教科書や参考書ノートなどの持ち込みはできない。自分が学んだ成果を発揮できるように準備してほしい。。
レポートの問題提起に関して、自分でもさまざまな用例を見つけて、自分で結論を出すことができる。各回の確認テストの満点のうちの70～100%
レポートの問題提起に関して、テキストの記述を応用して答えられる。各回の確認テストの満点のうちの50～69%
レポートの問題提起に関して、基本的部分について答えられる。各回の確認テストの満点のうちの20～49%
毎回の復習課題と確認テストで成績評価を行う。もちろん、十分な出席が前提である。

課題へのフィードバック：

確認テストの解答については、確認テスト後、授業の中で解説する。

教科書： 原沢伊都夫著「考えて、解いて、学ぶ日本語教育の文法 」スリーエーネットワーク

参考書： 寺村秀夫『日本語のシンタクスと意味 1～3』くろしお出版
益岡隆志・田窪行則『基礎日本語文法（改定版）』くろしお出版

仁田義雄／益岡隆志「日本語の文法 1 文の骨格」岩波書店
野田尚史「はとが」くろしお出版
日本語記述文法研究会編『現代日本語文法1～7』くろしお出版

授業・準備学習のアドバイス：

外国語を身につけようとするとき、古典を読もうとするとき、外国語の文法、古典の文法を学ばなければならないが、その出発点となるのは、自分自身の母語である現代日本語の文法である。
しかしながら、母語の文法については、それがどういう特徴を持っているのかということは日常ほとんど気づかない。外国人の日本語学習者に質問されて、はじめて日本語の文法の「くせ」に気づくことになる。そのような日本語文法の「くせ」に気づいてもらえるように講義を進める。したがって、この講義では抽象的な理論を学ぶのではなく、身近な文例をいろいろ比較する中から、日本語の「くせ」を見抜くセンスを身につけることを目指す。
母語話者の学生にとって、各章の練習問題に答えることは容易だと思うが、単に答を出せるということだけでなく、なぜその答が正解で他が不正解になるかを十分考えること。そうしないと文法についてまったく理解しないままになってしまう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 日本語史

クラス:

授業コード: DB30700001

担当者: 近藤 要司 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 国語)【選択】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む。) **一般的包括的科目:** ×

授業の目的: 古代から現代まで、日本語はさまざまに変化してきた。この講義では、残された資料を元に再現された各時代の日本語の姿に触れて、現代の日本語がなぜこのような姿になったのかという事情を理解を目指す。

到達目標:
1. いろは歌と五十音図を手がかりに平安時代と現代の音韻の違いを考える。
2. 奈良時代の万葉仮名を手がかりに、当時の音韻の実態を推定する。
3. 平安時代の和文体が成立した事情を理解する。
4. 室町時代の外国人資料に触れ、古代語から近代語への変化を確認する。
5. 現代の京阪方言の元である江戸時代の上方語の特徴を理解する。
6. 現代の共通語を生み出した江戸の言葉の実態を理解する。

各回の授業計画:

1. 授業の説明と日本の歴史の復習
2. いろは歌五十音図 いろは歌や五十音図を観察し平安時代の音韻と現代との違いを考える|
3. 奈良時代の日本語1 万葉仮名と当時の音韻(万葉仮名の使い分け) ア行エとヤ行エの万葉仮名表記を観察する。
4. 奈良時代の日本語2 万葉仮名と当時の音韻2(音韻との対応) 文法と語彙|
5. 平安時代の日本語1 資料と表記文字 当時の音で読んだ『源氏物語』
6. 平安時代の日本語2 音韻文法語彙 古今和歌集を平安時代風に音読する。
7. 平安時代の日本語3 日本語の書き言葉の創成 漢文の日本語訳から「漢文訓読体」ができ、これと和歌などが下敷きとなって日本語の和文体ができたことを理解する。
8. 古代語の補足説明 確認テスト1 確認テストの解説
9. 鎌倉時代の日本語 言文二途の時代へ 武士や農民たちの日本語表記
10. 室町時代の日本語1 資料と文字 外国資料に見る音韻「エソポのハブラス」解読の準備。
11. 室町時代の日本語2「エソポのハブラス」解読と現代のローマ字表記との比較。
12. 室町時代の文法語彙「狂言 末広がり」を見る。室町時代の文法語彙 狂言の敬語と現代の敬語の違い 中世語の補足説明
13. 確認テスト2
確認テストの解説
14. 徳川時代の日本語1 中央語の交替 前期の上方語(浄瑠璃を見る) 後期の江戸の言葉 三種類の話し言葉
15.確認テスト3
確認テストの解説

特記事項: なし

授業方法: 対面授業。
日本語史の資料をいくつか、自分たちで整理分析することで、日本語の変化を実感することをめざす。
その後、それぞれの時代の日本語の特徴全般を解説する。
予習資料をteamsにUPLOADするので、授業を受ける前に一読し、予習課題に答えること
授業中に提示するスライドをUPLOADするので、授業中はそれに自分のメモなどを記入すること。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

下記のような予習復習確認テストの準備を行うこと。この授業の時間外学習には1学期間で2700分必要である。
(1)授業前に、予習資料をよく読む。その中で「自分が知らなかったこと」「予習資料の説明だけでは理解できないこと」をピックアップしておく。(30分程度)
(2)予習資料中の用語や項目で知らないことについては、インターネットなどで調べておく。予習課題の解答を提出する(30分程度)
(3)授業の後は、「重要な項目はどれだったのか」「それについて、教員はどう説明したか」「既習項目とどう関連するのか」などを中心にノートをまとめる。また、予習資料とスライドの説明の両方にもう一度目を通す。(90分)
(4)確認テストの前には、(3)で作成したノートや予習資料・課題の解答などを見て、充分復習する。(120分)
(5)確認テスト後に、教員が解説するので、それを元に、自分の学習の足りなかった点や誤解していた部分を復習する。(30分)

評価方法：	授業へのとりくみ：	45 %	確認テスト：	55 %	レポート：	－ %
	その他1：			%		
	その他2：			%		

評価基準： 予習資料を配付するので、目を通して、「予習課題」の解答を作成すること。3点満点で15回 予習資料を読んで理解していれば3点。理解の段階にしたがって減点する。
確認テスト 3回で55点。奈良時代平安時代、鎌倉時代室町時代、江戸時代の単元を終えた後で、最低限頭に入れておいてほしい点について確認テストを行う。

課題へのフィードバック：
確認テストの翌週に解説する。確認テストの時間に欠席した人や確認テストの結果が著しく不良である人には、追加のレポートを課す。

教科書： プリントをteamsにUPLOADする。プリントは「予習資料」と「スライド資料」の2種類である。必要に応じて補助資料もUPLOADする。

参考書：
沖森卓也『ちくま新書1249 日本語全史』
沖森卓也『日本語史』おうふう
野村剛史『話し言葉の日本史』吉川弘文館
木田章義編『国語史を学ぶ人のために』世界思想社
京都大学文学研究科編『日本語の起源と古代日本語』臨川書店

授業・準備学習のアドバイス：
日本の歴史に関する基本的な理解が前提です。上代～近世の時代区分や各時代の大きな出来事については、頭に入れておいてください。
この授業の確認テストは「ノート教科書持込不可」です。日本語の歴史について、最低限頭に入れておいてほしいことを出題します。
沖森卓也『ちくま新書1249 日本語全史』が分かりやすくて読みやすいので一読をおすすめします。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 漢文学講読

クラス:

授業コード: DB30800001

担当者: 傍島 史奈 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 国語)【選択】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 漢文学 **一般的包括的科目:** ×

授業の目的: 隠遁をテーマに『世説新語』を中心として竹林の七賢の逸話を読む。

隠遁とは、世俗(官僚社会)から隠れ遁(のが)れることである。官僚として皇帝に仕え立身出世をすることを第一とする世の中にあって、隠遁生活とはすなわち社会からの逃避であり、貧しくつらい生活を意味しており、もともとは決して望ましい姿ではなかった。しかし、時代が進むにつれ、隠遁が自由気ままなあこがれの生活へと変化していく。
『世説新語』は後漢末(2世紀)から東晋末(5世紀初め)までの名士の逸話集である。この時代、魏・呉・蜀が天下を三分し覇権争いを繰り広げ、その後晋が天下を統一するもまたすぐに今度は匈奴(異民族)によって滅ぼされ(西晋)、南(長江流域)に中心を移して晋を再興する(東晋)という、国に仕える文人にとっては過酷な時代であったため、世を憂えて自ら隠遁することを望む知識人も増えた。『世説新語』にはこのような隠遁した文人に関するエピソードも多く含まれる。また、この隠遁の仕方も人によりさまざまで、中でも隠遁を自由気ままなイメージへと変えた竹林の七賢は有名である。そこで、今期は『世説新語』の記述から竹林の七賢、特に有名な阮籍・嵇康・山濤の逸話を元に史書や『文選』などの詩文で補足しながら読み進め、古代中国の文人における隠遁思想の意識変化について理解を深めたいと考えている。

到達目標:
1. 訓読文や白文を書き下す、白文に訓点を打つ、といった漢文読解の基礎を確認する。
2. まず漢字を見てそこに何が書かれているかを自分で考えるという習慣をつける。
3. わからない語については各自が漢和辞典で調べ、あるいは想像・推測しながら意味をとる。
4. 文ごとの解釈にとどまらず、その文章全体における情景や登場人物の心情などを通して総合的に理解する。

各回の授業計画:

1. ガイダンス・漢文学について・力だめし
2. 老荘思想の影響と六朝期の隠遁ブーム
3.『世説新語』と竹林の七賢(力だめし答え合わせ)
4. 竹林の七賢にみる 俗人と隠者との大きな違い(『晋書』より)
5. 阮籍(礼への反発)
6. 阮籍(権力者との関係)
7. 阮籍の本音は?
8. 嵇康(任官拒否)
9. 嵇康(権力者との関係)
10. 嵇康(向秀の思い)
11. 山濤(嵇康への思い)
12. 山濤(阮籍・嵇康との関係)
13. 山濤(洞察力)
14. 酒飲みエピソード
15. 竹林の七賢まとめ(礼に反発する者、礼にとらわれない者)

特記事項: ※日本の古語で読み進めるため、日本語を母国語としない学生については、講義で話される日本語をほとんど聞き取ることのできる日本語運用能力が必要である。
※対面授業への参加と授業内課題提出、この2つをもって出席とみなす。
※受講生の興味・理解の度合いにより授業ペース・内容を変更する可能性がある。
※教材・参考資料は前もってTeamsを通じて配付する。
・教材に関しては授業当日にプリントしたものも配付、授業内容をきちんとメモすること。
・参考資料はプリント配付しない。授業内で複数の資料を同時に見てもらうこともあるため、スマホではなくパソコン持参が望ましい。
※学期末レポートはTeamsを通じて提示・提出を行う。

授業方法: 【対面】1～15回、すべて対面で行う。
基本はすべて対面での講義形式だが、教材を皆で音読しながら授業を進めていく。
1. 講義
2. 講義

3. 講義
4. 講義
5. 講義
6. 講義
7. 講義
8. 講義
9. 講義
10. 講義
11. 講義
12. 講義
13. 講義
14. 講義
15. 講義

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1学期間で計2700分の時間外学習が必要である。

【予習】
訓読文を音読の上、書き下し文に書き直し、内容を推測しておくこと。
音読:20分
書き下し文:20分（ノートに書くこと）
内容推測:60分

【復習】
前回の内容をひととおり音読し、訳・内容を確認しておくこと。
音読:20分
訳確認:30分
内容確認:20分

【課題】
学期末レポート:150分

評価方法:

授業へのとりくみ:	−	**%**	**確認テスト:**	−	**%**	**レポート:**	50 **%**
その他1:	授業内課題提出			50	**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: ①授業内課題:5点満点。白紙または授業に関係のない内容0点、授業内容は書いてあるが設問に答え切れていない1～2点、授業で聞いたことをそのまま繰り返している3点、授業を踏まえて自分の意見がしっかり述べられている4～5点。平均×10で50点満点とする。

②レポート（Teamsを通じて提出）:50点満点。テーマから外れた内容0～9点、授業内容は書いてあるがテーマから少し外れている10～29点、授業で聞いたことをそのまま繰り返している30～39点、授業を踏まえて自分の意見がしっかり述べられている40～50点。コピペ（ネット上の文章をそのまま貼り付けたもの）は厳禁。発覚した場合は0点とする。

最低到達点:①と②の合計60～69点
望ましい到達点:①と②の合計80～100点

課題へのフィードバック:

授業内課題については、提出されたものの内容について次の授業時に解説を加える。
期末レポートは返却を希望するものにのみ返却する。

教科書: なし。プリント配布。漢和辞典を各自持参のこと。

参考書: 参考図書はその都度紹介する。

授業・準備学習のアドバイス:

今期は少し長いものも読むので、集中力や読解力も必要になります。しかしながら、物語なのでイメージはしやすいはずです。授業で実際に読み進めていく際には、そこに描かれている情景を各自が想像しながら、ときにはおのおの脚色を交えながら読み進めてほしいと思っています。講読の際はやわらかい頭で自由な想像と発想を大事にし、積極的に授業に参加してください。また、毎時間授業後に感想を書いて提出してもらうので、考えたことや感じたことを自由に書いてほしいと思います。
私語厳禁、授業にかかわる積極的な発言（疑問・質問・意見などなんでも）は期待しています。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: マンガ・アニメと日本のポピュラーカルチャー

クラス:

授業コード: DB31100001

担当者: 須増 啓之 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 現在、視覚文化(テレビドラマ、映画、アニメーション、ゲーム、アート[絵画など]、絵本、マンガなど)の世界はデジタル技術や通信技術の発展により、誰しもが制作者となり発信し、選択し共有することができるようになっている。世界規模で発信されるそれらの情報を選択し、その魅力を個人的に受け取るだけでなく、それらの歴史背景や文化事情、作品論や作家論、作品間の関係性などを読み解くことで、さらに文化や作品の表現について深く理解することができると考える。
本授業では入門編として主に日本のマンガ、アニメーションとポピュラーカルチャーを採り上げ、それらを鑑賞することで日本の文化としての表現に出会う機会にしたい。また、マンガやアニメーションにおける歴史的経緯と現状、未来について考えていく。具体的には研究としての視点を踏まえ、マンガ、アニメーションの歴史的背景や文化との関わり、メッセージ性、作品論や作家論、表現論、キャラクター論などについて鑑賞及び作品分析などを通して理解を深めていく。
さらに、留学生も受講している科目のため、各国のマンガ、アニメーションとポピュラーカルチャーなどを紹介する機会を設け、交流できる授業にしたいと考える。

到達目標: ・日本の社会や文化との関わりを踏まえて、日本文化としてのマンガやアニメの作品を通して歴史的経緯と影響、作品やその特徴などについて理解できる。
・マンガやアニメを読み解く視点を理解し、作品を分析する力、「好き」を言語化する力を身につける。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション(本授業の目標・内容・評価方法・進め方・準備物の確認)
・オタクとは何か？ ～過去と現在のオタク文化について～
2. 自分のアニメ・マンガ体験を振り返る ～マンガ・アニメ自分史年表をつくろう！～
3. アニメの過去から現在 ①～歴史的背景と各年代の代表作を通して～
4. アニメの過去から現在 ②～歴史的背景と各年代の代表作を通して～
5. マンガの過去から現在 ～歴史的背景と各年代の代表作を通して～
6. マンガ、アニメを読み解くための理論入門 ～1980年代から2010年代の視点から～
7. マンガ、アニメを分析する視点① ～物語、キャラクター、関係性から作品を見る～
8. マンガ、アニメを分析する視点② ～作家比較から作品を見る～
9. マンガ、アニメを分析する視点③ ～社会との関わりから作品を見る～
10. マンガ、アニメを分析する視点④ ～芸術表現として作品を見る～
11. マンガ、アニメとその周辺[前編] ～アニメ主題歌、声優、2.5次元(実写)～
12. マンガ、アニメとその周辺[後編] ～ゲーム、YouTube、SNS～
13. 興味のある作品分析と発表と対話①
14. 興味のある作品分析と発表と対話②
15. 興味のある作品分析と発表と対話③、及び授業のまとめ「これからマンガやアニメなどと生きていくために」

特記事項: ・各回のすき間時間に「マンガ、アニメの表現入門 」として簡単なマンガやイラストレーションなどの制作を行う。
・各回の初めにテーマを決めてプレゼンを行う。

授業方法: 本授業では主に日本のマンガ・アニメについて講義、鑑賞、討論、作品分析及び発表をおこなう。
【すべての授業を対面授業で行う】
第1回:講義、映像視聴
第2回:講義、資料作成、発表
第3回:講義、調べ学習(グループ)
第4回:講義、調べ学習(グループ)
第5回:講義、調べ学習(グループ)
第6回:講義、鑑賞、討論
第7回:講義、鑑賞、討論
第8回:講義、鑑賞、討論
第9回:講義、鑑賞、討論

第10回：講義、鑑賞、討論
第11回：講義、鑑賞、討論
第12回：講義、鑑賞、討論
第13回：作品分析及び発表、討論
第14回：作品分析及び発表、討論
第15回：作品分析及び発表、討論、講義

※授業中の作品鑑賞や資料の作成ではパソコンを使用するため、各自準備すること。

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

第1回：課題の作成と振り返り（150分）
第2回：課題の作成と振り返り（150分）
第3回：予習、復習として授業で採り上げる作品を鑑賞したり調べたりする（150分）
第4回：予習、復習として授業で採り上げる作品を鑑賞したり調べたりする（150分）
第5回：予習、復習としてオタク文化やマンガ研究の書籍などを読む（150分）
第6回：予習、復習として授業で採り上げる作品を鑑賞したり調べたりする、及び作品分析の準備（150分）
第7回：予習、復習として授業で採り上げる作品を鑑賞したり調べたりする、及び作品分析の準備（150分）
第8回：予習、復習として授業で採り上げる作品を鑑賞したり調べたりする、及び作品分析の準備（150分）
第9回：予習、復習として授業で採り上げる作品を鑑賞したり調べたりする、及び作品分析の準備（150分）
第10回：予習、復習として授業で採り上げる作品を鑑賞したり調べたりする、及び作品分析の準備（150分）
第11回：予習、復習として授業で採り上げる作品を鑑賞したり調べたりする、及び作品分析の準備（150分）
第12回：予習、復習として授業で採り上げる作品を鑑賞したり調べたりする、及び作品分析の準備（150分）
第13回：作品分析の資料作成などの準備、及び振り返りレポートの作成（150分）
第14回：作品分析の資料作成などの準備、及び振り返りレポートの作成（150分）
第15回：作品分析の資料作成などの準備、及び振り返り、レポートの作成（150分）

※その他、授業で扱えず紹介したマンガやアニメ作品を鑑賞、完成していない作品の制作など（450分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	40 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	30 **%**		
その他1：	作品鑑賞や作品分析などのプレゼンテーション	30 **%**					
その他2：		**%**					

評価基準：

【授業へのとりくみ】について
※「授業へのとりくみ 40%」は「授業への取り組み 20%」と「討論内容 20%」を含んだパーセンテージである。
・授業や討論に参加している。（60～69）
・〈上記〉にプラスして、積極的に授業内容（歴史的背景や作品など）などについて調べたり鑑賞したりし、歴史的経緯や作品や作家についての理解を通して自分なりの意見で作品について討論している。（80～100）
【作品鑑賞や作品分析などのプレゼンテーション】について
・マンガやアニメを読み解くための視点、方法論を理解し、授業で学んだことを踏まえて、自身の興味のある作品についてまとめることができる。（60～69）
・マンガやアニメを読み解くための視点、方法論、授業で学んだことを的確に生かし、先行研究を踏まえて独自の視点で自身の興味のある作品について分析することができている。（80～100）
・プレゼンテーションについては「わかりやすくまとめる」、「魅力的な発表である」などで評価する。
【レポート】について
※その日の講義後に観点に基づいて作成する「小レポート」（不定期）と授業最終日に「まとめレポート」で評価する。
・授業で学んだことについて、授業内容を振り返ったり、まとめたりすることができている。（60～69）
・〈上記〉にプラスして、授業内容（歴史的背景や作品など）を客観的に見つめ、課題などについても自分なりにまとめることができている。（80～100）

課題へのフィードバック：

・作品分析の発表や対話での課題や気づきについてはまとめて講評する。
・授業後に記入する小レポートでの感想や質問については、次回の授業時に全体に向けて解説する。必要に応じて質問者に個別に応答する。
・まとめレポートについては、第15回に提出されたものをルーブリックをもとに評価し、返却する。

教科書：

・授業中に適宜、指示または資料を配布する。

参考書：

・津堅信之『日本アニメ史』中公新書 2022年4月
・澤村修治『日本マンガ全史』平凡社新書 2020年6月
・三宅香帆『「好き」を言語化する技術ー推しの素晴らしさを語りたいのに「やばい！」しかでてこないー』ディスカヴァー・トゥエンティワン 2024年7月
・内藤理恵子『新しい教養としてのポップカルチャー』日本実業出版社 2022年3月
・町口哲生『平成最後のアニメ論』ポプラ新書 2019年2月
・川又啓子、三浦俊彦、田嶋規雄編著『ジャパニーズ・ポップカルチャーのマーケティング戦略』千倉書房 2022年3月
・そのほか、授業中に適宜指示する。

授業・準備学習のアドバイス：

【授業】についてのメッセージ
・本科目はマンガ作品やアニメDVD、YouTubeなどの動画配信などを鑑賞をしたりして、日本文化としてのマンガやアニメ、その周辺について学んでいく入門編と捉えてください。作品は超個人的なものを選ぶこともありますが、受講生の興味などによって取り扱う作品を変更することもあります（ネタバレ等を含む）。授業の前半は社会背景をおさえながらマンガやアニメについて学んだり、その分析方法の視点について学んだりします。後半は単なる趣味としてのマンガやアニメではなく、自分の好きな作品を分析することで理解を深めます。担当者もまだまだ知らないことが多いので、受講生との対話を通して授業をつくっていきたいと思います。また、留学生も受講しているため、各国のマンガやアニメを通して、交流できる授業になればと思っています。
・授業外で「京都国際マンガミュージアム」（希望者のみ）など、マンガやアニメにゆかりのある場所に行くことも案として考えています。
【履修上の留意点】について
・できるだけ、授業で採り上げる作品は読んだり、見たりすること。とくに授業で扱う作品については随時、紹介しますので、鑑賞するようにしてください。また、作品分析を行いますので、授業時間外で鑑賞や資料の作成などの準備に取り組んでください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 日本語教育実習(国内)

クラス:

授業コード: DB31300001

担当者: 玉地 瑞穂 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 講義への参加は4年次生に限定する。
総合教科書を使用した日本語の教え方を学び、一人で授業を行えるようになる。

到達目標: 留学生に対する日本語の模擬授業を行うことで、教授能力や教材作成能力など、総合的な日本語教育能力の育成を図る。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 第二言語習得理論①
3. 第二言語習得理論②
4. 日本語教授法の復習
5. オンライン上の日本語授業の視聴①
6. オンライン上の日本語授業の視聴②
7. オンライン上の日本語授業の視聴③
8. オンライン上の日本語授業の視聴④
9. 総合日本語の教科書の分析
10. 模擬授業で使用する教科書を選定
11. 授業案の書き方
12. 模擬授業①
13.模擬授業②
14. 模擬授業③
15. 模擬授業④

特記事項: なし

授業方法: ①～⑮ 講義 (対面)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 授業内容の復習(180分)
2. 授業内容の復習(180分)
3. 授業内容の復習(180分)
4. 授業内容の復習(180分)
5. オンライン授業の感想・評価を書く(180分)
6. オンライン授業の感想・評価を書く(180分)
7. オンライン授業の感想・評価を書く(180分)
8. オンライン授業の感想・評価を書く(180分)
9. 授業内容の復習(180分)
10. 授業案を作成(180分)
11. 授業案を作成(180分)
12. 模擬授業の準備をする(180分)
13. 模擬授業の準備をする(180分)
14. 他の人の模擬授業を見学した感想・評価を書く(180分)
15. 他の人の模擬授業を見学した感想・評価を書く(180分)

評価方法: **授業へのとりくみ:** 20 **%** **確認テスト:** 30 **%** **レポート:** − **%**
その他1: 授業案 20 **%**

その他2： 模擬授業 30 **%**

評価基準： 授業への取り組み、発表、模擬授業や日本語授業の評価などを統合し、評価する。
(80-100)授業のアイデアが優れ、教材の準備も十分である。日本語の基礎的な知識を身に着け、教授技術を効果的に活かした、授業を行うことができる。また、他の学生の授業への適切な評価能力、協働力を備えている。
(70-79)授業のアイデア、教材の準備に努力が感じられる。日本語の基礎的な知識を身に着け、基礎的な教授技術を備え、授業を行うことができる。また、他の学生の授業への評価能力、協働力を備えている。
(60-69)授業のアイデア、教材の準備に課題がある。日本語の基礎的な知識を身に着け、基礎的な教授技術を備え、なんとか授業を行うことができる。また、他の学生の授業への評価能力、協働力を備えている。

課題へのフィードバック：
課題などのフィードバックはオンラインで行う。

教科書： なし

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：
自分一人で授業計画・実施ができるようになりましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: TOEIC Ⅲ

クラス:

授業コード: DB40100001

担当者: 森上 展宏 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:県立高等学校教諭、私立中学校高等学校教諭

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: TOEIC Listening & Reading Test で730点以上を目指します。
TOEICによく出る15のトピックについて、語彙・表現・背景知識を体系的に整理し、リスニングおよびリーディングの実践演習を通して、正確さと処理スピードの向上を図ります。あわせて、設問形式への理解を深め、限られた時間内で得点する力を養います。

到達目標: ・TOEIC Listening & Reading Test において、Part1～Part4(Listening)で正解率75%以上を目指す。
・Part5～Part7(Reading)で正解率75%以上を目指す。
・実務や就職活動で求められる英語運用力を意識しつつ、試験形式に即した演習を通して情報処理力と時間配分能力を高め、総合スコア730点以上の達成を目標とする。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション、演習
TOEIC試験の構成内容、求められる英語力、本授業の構成、演習内容、評価、授業計画等の紹介

第1回 演習:旅行・出張を題材とした問題
(1) リスニングパート演習
(2) リーディングパート演習

第2回 演習:顧客サービスを題材とした問題
(1) リスニングパート演習
(2) リーディングパート演習

第3回 演習:メディアや報道を題材とした問題
(1) リスニングパート演習
(2) リーディングパート演習

第4回 演習:エンターテインメントを題材とした問題
(1) リスニングパート演習
(2) リーディングパート演習

第5回 演習:製品や商品の購入を題材とした問題
(1) リスニングパート演習
(2) リーディングパート演習

第6回 演習:イベントを題材とした問題
(1) リスニングパート演習
(2) リーディングパート演習

第7回 演習:建設や工事を題材とした問題
(1) リスニングパート演習
(2) リーディングパート演習

第8回 演習:人事や採用を題材とした問題
(1) リスニングパート演習
(2) リーディングパート演習

第9回 演習:広告や宣伝を題材とした問題
(1) リスニングパート演習
(2) リーディングパート演習

第10回 演習:会議を題材とした問題
(1) リスニングパート演習
(2) リーディングパート演習

第11回 演習:顧客との取引や契約を題材とした問題
(1) リスニングパート演習
(2) リーディングパート演習

第12回 演習:仕事環境を題材とした問題
(1) リスニングパート演習
(2) リーディングパート演習

第13回 演習：金融・財務・経済を題材とした問題
(1) リスニングパート演習
(2) リーディングパート演習
第14回 演習：営業や販売促進を題材とした問題
(1) リスニングパート演習
(2) リーディングパート演習
15. まとめ、確認テスト、演習

第15回 演習：テクノロジーを題材とした問題
(1) リスニングパート演習
(2) リーディングパート演習

特記事項： なし

授業方法： すべての授業を対面で行います。
各回次のような基本的な流れで実施します。
テーマについての語彙の小テスト⇒実践演習⇒解説

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. 次回の予習（45分）
2. 今回の復習と次回の予習（90分）
3. 今回の復習と次回の予習（90分）
4. 今回の復習と次回の予習（90分）
5. 今回の復習と次回の予習（90分）
6. 今回の復習と次回の予習（90分）
7. 今回の復習と次回の予習（90分）
8. 今回の復習と次回の予習（90分）
9. 今回の復習と次回の予習（90分）
10. 今回の復習と次回の予習（90分）
11. 今回の復習と次回の予習（90分）
12. 今回の復習と次回の予習（90分）
13. 今回の復習と次回の予習（90分）
14. 今回の復習と次回の予習（90分）
15. 今回の予習（45分）

評価方法：	**授業へのとりくみ：**	50 **%**	**確認テスト：**	50 **%**	**レポート：**	－ **%**
	その他1：			**%**		
	その他2：			**%**		

評価基準： ・授業への取り組み
（最低限の到達度）演習後の解説について、ノートを取り、次回の演習に生かせる。
（望ましい到達度）授業で学んだ英語表現やTOEICの攻略法のほとんどを活用できる。

・確認テスト
（最低限の到達度）60%以上の得点を収める。
（望ましい到達度）80%以上の得点を収める。

課題へのフィードバック：
授業内で実施した問題演習やテストについては、随時フィードバックを行う。

教科書： 『SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST』金星堂

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：
3年次の秋学期期間中に3回のTOEIC受験の機会があります。自分の力の確認と就活のためのスコアー獲得のため、受験を推奨します。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: ビジネス英語

クラス:

授業コード: DB40600001

担当者: 森上 展宏 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: ビジネスの現場で必要とされる基本的な英語表現を、具体的な場面（あいさつ、電話、メール、会議、商談、人事、トラブル対応、雑談・接待など）を通して学ぶ。単なる表現暗記にとどまらず、実際の業務場面を想定したロールプレイや課題活動を中心に行い、英語で「やりとりする力」の育成を目指す。

到達目標: ・ビジネス場面に応じた基本的な英語表現を理解し、適切に使い分けることができる。
・電話・メール・会議・商談などの基本的な業務場面において、定型的なやりとりを英語で行うことができる。
・相手や状況を意識しながら、簡潔かつ適切な英語によるコミュニケーションを図ることができる。
・英語によるビジネスコミュニケーションに対して、主体的に取り組む姿勢を身につける。

各回の授業計画:

第1回 オリエンテーション／第1章「あいさつ」① 基本のあいさつ

第2回 第1章「あいさつ」②③ 自己紹介・他者紹介

第3回 第2章「電話」①② 電話をかける／電話を受ける

第4回 第2章「電話」③ 電話で確認・依頼をする

第5回 第3章「メール」①② メールの書き出し／結び

第6回 第3章「メール」③ メールで確認・依頼をする
第4章「アポイントメント」① アポイントメントを取る

第7回 第4章「アポイントメント」②③ 日時・場所の調整・変更

第8回 第5章「会議」①② 会議の準備／進行

第9回 第5章「会議」③ 会議で話し合う／中間振り返り

第10回 第6章「商談」①② 商品・サービスの説明／価格・納期の交渉

第11回 第6章「商談」③ 商談のまとめ
第7章「トラブル」① クレームを伝える

第12回 第7章「トラブル」②③ クレーム対応・トラブル処理

第13回 第8章「人事」①② 求人・面接での質疑応答

第14回 第9章「雑談」①②③ 雑談・接待における英語表現（総合演習）

第15回 期末テスト／振り返りとまとめ

特記事項: なし

授業方法: 【授業は対面で実施】
各回の授業では、語彙・表現の確認、モデル提示、演習活動を段階的に行い、ペアワークやロールプレイを通して実践的な英語運用力の定着を図る。
学生主体の活動を中心とし、生教材を適宜活用する。

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 次回の予習（45分）
2. 今回の復習と次回の予習（90分）
3. 今回の復習と次回の予習（90分）
4. 今回の復習と次回の予習（90分）
5. 今回の復習と次回の予習（90分）
6. 今回の復習と次回の予習（90分）
7. 今回の復習と次回の予習（90分）
8. 今回の復習と次回の予習（90分）
9. 今回の復習と次回の予習（90分）
10. 今回の復習と次回の予習（90分）
11. 今回の復習と次回の予習（90分）

12. 今回の復習と次回の予習（90分）
13. 今回の復習と次回の予習（90分）
14. 今回の復習と次回の予習（90分）
15. 今回の復習（45分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	50 **%**	**確認テスト：**	50 **%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：			**%**		
その他2：			**%**		

評価基準： 授業内活動への参加状況および小テストの結果をもとに、ビジネス場面における基本的な英語表現の理解度と運用力を総合的に評価する。

課題へのフィードバック：

ペア―プラクティスなどの演習に対して個別にコメントをします。

教科書： ビジネス英語 基本の『き』(南雲堂 175頁 980円＋税)

参考書： 授業内で適宜紹介します。

授業・準備学習のアドバイス：

授業ではロールプレイ等の活動を行うため、事前にテキストを確認し、基本表現の意味を理解しておくことが望ましい。間違いを恐れず、積極的に授業に参加してほしい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 観光英語

クラス:

授業コード: DB40700001

担当者: 水田 時男 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 国際コミュニケーションコースの学生の大半が将来航空業界や観光業界、ホテル業界、貿易関連事業所などへの就職を目指している。
そこで、この科目では就職後に想定される海外からの来客に国内の観光地や文化、生活などの説明ができる基礎を身につける。
また、海外からの留学生に対しても訪日外国人を念頭に、日本国内の各地観光地がガイドできるよう演習を実施する。

到達目標: 日本の公共交通の仕組み、貨幣、トイレ、公衆浴場、神社仏閣での作法、食事など様々な独特の文化について、メモなどを見ず、簡単な英語を用いて、説明できるようになる。また、日本の社会の仕組みを他の国々の人に紹介する作業を通じて、他の国の社会の仕組みについても学ぶ。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション及び第2回の授業のデモンストレーション
・テーマの設定
・パワーポイントの作成
・発表時の注意事項
・各発表に対する評価の観点
2. 成績について

2. テキスト第1章 テーマ「日本へようこそ」①
【班別活動】
班毎に、テーマから2つトピックを選び、パワーポイントを作成し、発表する。(発表時間は5分以内)
発表の言語は、英語(日本人学生、非英語圏留学生)と日本語(非英語圏留学生)とする。
各班は、以下の役割を事前に提出すること。
ア)パワーポイント等の制作者
イ)英語での発表者
ウ)日本語での発表者
エ)オペレーション担当
評価は、各班毎のパーファーマンスに対して行われる。

3. テキスト第1章 テーマ「日本へようこそ」②
【班別活動】
班毎に、テーマから2つトピックを選び、パワーポイントを作成し、発表する。(発表時間は5分以内)
発表の言語は、英語(日本人学生、非英語圏留学生)と日本語(非英語圏留学生)とする。
各班は、以下の役割を事前に提出すること。
ア) パワーポイント等の制作者
イ) 英語での発表者
ウ) 日本語での発表者
エ) オペレーション担当
評価は、各班毎のパーファーマンスに対して行われる。

4. テキスト第2章 テーマ「日本を観光する」①
【班別活動】
班毎に、テーマから2つトピックを選び、パワーポイントを作成し、発表する。(発表時間は5分以内)
発表の言語は、英語(日本人学生、非英語圏留学生)と日本語(非英語圏留学生)とする。
各班は、以下の役割を事前に提出すること。
ア)パワーポイント等の制作者
イ)英語での発表者
ウ)日本語での発表者
エ)オペレーション担当
評価は、各班毎のパーファーマンスに対して行われる。

5. テキスト第2章 テーマ「日本を観光する」②
【班別活動】
班毎に、テーマから2つトピックを選び、パワーポイントを作成し、発表する。(発表時間は5分以内)
発表の言語は、英語(日本人学生、非英語圏留学生)と日本語(非英語圏留学生)とする。
各班は、以下の役割を事前に提出すること。
ア)パワーポイント等の制作者

イ）英語での発表者
ウ）日本語での発表者
エ）オペレーション担当
評価は、各班毎のパーファーマンスに対して行われる。

6. テキスト第3章 テーマ「日本文化を体験する」①
【班別活動】
班毎に、テーマから2つトピックを選び、パワーポイントを作成し、発表する。（発表時間は5分以内）
発表の言語は、英語（日本人学生、非英語圏留学生）と日本語（非英語圏留学生）とする。
各班は、以下の役割を事前に提出すること。
ア）パワーポイント等の制作者
イ）英語での発表者
ウ）日本語での発表者
エ）オペレーション担当
評価は、各班毎のパーファーマンスに対して行われる。

7. テキスト第3章 テーマ「日本文化を体験する」②
【班別活動】
班毎に、テーマから2つトピックを選び、パワーポイントを作成し、発表する。（発表時間は5分以内）
発表の言語は、英語（日本人学生、非英語圏留学生）と日本語（非英語圏留学生）とする。
各班は、以下の役割を事前に提出すること。
ア）パワーポイント等の制作者
イ）英語での発表者
ウ）日本語での発表者
エ）オペレーション担当
評価は、各班毎のパーファーマンスに対して行われる。

8. テキスト第3章 テーマ「日本文化を体験する」③
【班別活動】
班毎に、テーマから2つトピックを選び、パワーポイントを作成し、発表する。（発表時間は5分以内）
発表の言語は、英語（日本人学生、非英語圏留学生）と日本語（非英語圏留学生）とする。
各班は、以下の役割を事前に提出すること。
ア）パワーポイント等の制作者
イ）英語での発表者
ウ）日本語での発表者
エ）オペレーション担当
評価は、各班毎のパーファーマンスに対して行われる。

9. テキスト第4章 テーマ「日本で食べる」①
【班別活動】
班毎に、テーマから2つトピックを選び、パワーポイントを作成し、発表する。（発表時間は5分以内）
発表の言語は、英語（日本人学生、非英語圏留学生）と日本語（非英語圏留学生）とする。
各班は、以下の役割を事前に提出すること。
ア）パワーポイント等の制作者
イ）英語での発表者
ウ）日本語での発表者
エ）オペレーション担当
評価は、各班毎のパーファーマンスに対して行われる。

10. テキスト第4章 テーマ「日本で食べる」②
【班別活動】
班毎に、テーマから2つトピックを選び、パワーポイントを作成し、発表する。（発表時間は5分以内）
発表の言語は、英語（日本人学生、非英語圏留学生）と日本語（非英語圏留学生）とする。
各班は、以下の役割を事前に提出すること。
ア）パワーポイント等の制作者
イ）英語での発表者
ウ）日本語での発表者
エ）オペレーション担当
評価は、各班毎のパーファーマンスに対して行われる。

11. テキスト第4章 テーマ「日本で食べる」③
【班別活動】
班毎に、テーマから2つトピックを選び、パワーポイントを作成し、発表する。（発表時間は5分以内）
発表の言語は、英語（日本人学生、非英語圏留学生）と日本語（非英語圏留学生）とする。
各班は、以下の役割を事前に提出すること。
ア）パワーポイント等の制作者
イ）英語での発表者
ウ）日本語での発表者
エ）オペレーション担当
評価は、各班毎のパーファーマンスに対して行われる。

12. テキスト第5章 テーマ「日本で買う」①
【班別活動】
班毎に、テーマから2つトピックを選び、パワーポイントを作成し、発表する。（発表時間は5分以内）
発表の言語は、英語（日本人学生、非英語圏留学生）と日本語（非英語圏留学生）とする。
各班は、以下の役割を事前に提出すること。

ア）パワーポイント等の制作者
イ）英語での発表者
ウ）日本語での発表者
エ）オペレーション担当
評価は、各班毎のパーファーマンスに対して行われる。

13. テキスト第5章 テーマ「日本で買う」②
【班別活動】
班毎に、テーマから2つトピックを選び、パワーポイントを作成し、発表する。（発表時間は5分以内）
発表の言語は、英語（日本人学生、非英語圏留学生）と日本語（非英語圏留学生）とする。
各班は、以下の役割を事前に提出すること。
ア）パワーポイント等の制作者
イ）英語での発表者
ウ）日本語での発表者
エ）オペレーション担当
評価は、各班毎のパーファーマンスに対して行われる。

14. テキスト第6章 テーマ「日本の暮らしを知る」①
【班別活動】
班毎に、テーマから2つトピックを選び、パワーポイントを作成し、発表する。（発表時間は5分以内）
発表の言語は、英語（日本人学生、非英語圏留学生）と日本語（非英語圏留学生）とする。
各班は、以下の役割を事前に提出すること。
ア）パワーポイント等の制作者
イ）英語での発表者
ウ）日本語での発表者
エ）オペレーション担当
評価は、各班毎のパーファーマンスに対して行われる。

15. テキスト第6章 テーマ「日本の暮らしを知る」②
【班別活動】
班毎に、テーマから2つトピックを選び、パワーポイントを作成し、発表する。（発表時間は5分以内）
発表の言語は、英語（日本人学生、非英語圏留学生）と日本語（非英語圏留学生）とする。
各班は、以下の役割を事前に提出すること。
ア）パワーポイント等の制作者
イ）英語での発表者
ウ）日本語での発表者
エ）オペレーション担当
評価は、各班毎のパーファーマンスに対して行われる。

特記事項： なし

授業方法： すべての授業を対面で行う。
班活動を基本とする。一班を基本4名とする。
構成メンバーは、可能な限り異なる文化を背景とした学生で編成する。

各班内で、各自が他の者に自身が作成したパワーポイントのプレゼンテーションを行う。
各班は、指定されたテーマについて、パワーポイント（写真のみ）と説明英文を作成する。
授業では、各班ごとにテーマについて、海外からの来客に説明するように説明する。
各班の説明時間は、5分程度。
第6週からは、各班の人数を3名に減らす。
第11週からは、各自一人ひとりの発表とする。

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. 予習 テキストの購入とシラバス内容の理解
2. 予習 テキストの指定範囲のパワーポイントの作成と英文原稿の作成と暗唱(180分)
3. 予習 テキストの指定範囲のパワーポイントの作成と英文原稿の作成と暗唱(180分)
4. 予習 テキストの指定範囲のパワーポイントの作成と英文原稿の作成と暗唱(180分)
5. 予習 テキストの指定範囲のパワーポイントの作成と英文原稿の作成と暗唱(180分)
6. 予習 テキストの指定範囲のパワーポイントの作成と英文原稿の作成と暗唱(180分)
7. 予習 テキストの指定範囲のパワーポイントの作成と英文原稿の作成と暗唱(180分)
8. 予習 テキストの指定範囲のパワーポイントの作成と英文原稿の作成と暗唱(180分)
9. 予習 テキストの指定範囲のパワーポイントの作成と英文原稿の作成と暗唱(180分)
10. 予習 テキストの指定範囲のパワーポイントの作成と英文原稿の作成と暗唱(180分)
11. 予習 テキストの指定範囲のパワーポイントの作成と英文原稿の作成と暗唱(180分)
12. 予習 テキストの指定範囲のパワーポイントの作成と英文原稿の作成と暗唱(180分)
13. 予習 テキストの指定範囲のパワーポイントの作成と英文原稿の作成と暗唱(180分)
14. 予習 テキストの指定範囲のパワーポイントの作成と英文原稿の作成と暗唱(180分)
15. 予習 テキストの指定範囲のパワーポイントの作成と英文原稿の作成と暗唱(180分)

評価方法：

授業へのとりくみ：	60 **%**	**確認テスト：**	20 **%**	**レポート：**	20 **%**
その他1：			**%**		

その他2： **%**

評価基準： 毎回の授業に参加し、出された課題をこなした。（60～69点）
毎回の授業に参加し、出された課題を積極的にこなした。（70～79点）
日本に関わる多くのテーマについて、英語（留学生は日本語も含む）で説明できるようになった。（80～100点）

課題へのフィードバック：

授業中の各自の発表内容について、その場で評価、コメントを行う。

教科書： 英語で紹介する日本 Experience Japan 松本美江 著 ナツメ社発行

参考書： YoutTubeなど、メディア媒体を活用し、発音等の練習も行う。
実際に流通している観光ガイドブック等を適宜活用する。

授業・準備学習のアドバイス：

当科目は、「英語プレゼンテーション」とも連携した科目である。英語プレゼンテーションで学んだ事柄を積極的に活用すること。
〇発表原稿のつくり方
ノンバーバルランゲージの活用
〇ファイシャルエクスプレッション
〇アイコンタクト
〇ポーズ
〇ムーブメント

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 比較文化論

クラス: ★小中/国

授業コード: DB41000001

担当者: 藤田 眞弓 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目:教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 英語)【必修】

含めることが必要な事項: 教科に関する専門的事項

教科に関する専門的事項: 異文化理解 **一般的包括的科目:** ○

授業の目的: 日本の文化や社会に精通している外国の人によるエッセイや、新聞・雑誌記事等を精読した上で、指定されたテーマに基づいてグループディスカッションを行い、その後、グループごとに発表を行う。必要に応じて教員から補足解説を行いながら、世界の文化の多様性や異文化コミュニケーションの現状と課題について学ぶ。また、本学留学生の出身国と日本との文化や社会の比較を行いながら、異文化交流を体験し、異文化コミュニケーションや異文化理解の重要性について理解を深める。

到達目標:
1. 多様な文化的背景を持った人々との交流を通して、文化の多様性及び異文化交流の意義、異文化コミュニケーションの現状と課題について理解する。
2. 英語が使われている国の思考や行動、文化について、日本と比較しながら理解する。
3. 外国の人と日本人の思考方法の相違を理解し、それを口頭発表、論述が出来る。
4. 英語の文献を正確に読めるようになる。

各回の授業計画:

1. コースガイダンス:留学生とのディスカッション(関心を寄せている世界の時事問題、留学生出身国と日本の文化との相違等)
2. 世界観の相違について考える(What in the World is Worldview?①テキスト精読とグループワーク)
3. 世界観の相違について考える(What in the World is Worldview?②発表)
4. マナーの相違について知る(Whatever You Do. Don't Be a Meiwaku!①テキスト精読とグループワーク)
5. マナーの相違について知る(Whatever You Do. Don't Be a Meiwaku!②発表)
6. 食文化について考える(The Food Crazy Japanese?!①テキスト精読とグループワーク)
7. 食文化について考える(The Food Crazy Japanese?!②発表)
8. 家族観の相違について考える(Who is the Center of the Family?①テキスト精読とグループワーク)
9. 家族観の相違について考える(Who is the Center of the Family?②発表)
10. SNSと世界観について考える(Social Media Usage and Worldview ①テキスト精読とグループワーク)
11. SNSと世界観について考える(Social Media Usage and Worldview②発表)
12. 教育制度の相違を知る(Schools- A Window to Worldview①テキスト精読とグループワーク)
13. 教育制度の相違を知る(Schools- A Window to Worldview②発表)
14. 留学生との意見交換会とプレゼンテーション(これまでの講義を通して学んだ文化の多様性や異文化コミュニケーションの現状と課題をもとに意見交換し、異文化交流の意義を体験的に学び、発表する。)
15. 留学生とのプレゼンテーションに関する意見交換とまとめと確認(異文化コミュニケーションの現状と課題、異文化理解の重要性について自分の意見を発表する・これまでの講義を通して学んだ文化の多様性や異文化コミュニケーションの現状と課題を理解できているか、英語の文献を正確に読めているかの確認)

特記事項: なし

授業方法:
1. コースガイダンス、講義、質疑応答、インタビュー(対面授業)
2. グループワーク(Teamsのチャット機能等を使用したオンライン授業[以下オンライン])
3. 発表(オンライン)
4. グループワーク(オンライン)
5. 発表(オンライン)
6. グループワーク(オンライン)
7. 発表(オンライン)
8. グループワーク(オンライン)
9. 発表(オンライン)
10. グループワーク(オンライン)
11. 発表(オンライン)
12. グループワーク(オンライン)
13. 発表(オンライン)
14. グループディスカッション(対面授業)

15. グループディスカッションとまとめと確認（復習、質疑応答）（対面授業）

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. 留学生とのディスカッションの準備と振り返り（180分）
2. Chapter1の予習（180分）
3. Chapter1の復習（180分）
4. Chapter2の予習（180分）
5. Chapter2の復習（180分）
6. Chapter3の予習（180分）
7. Chapter3の復習（180分）
8. Chapter4の予習（180分）
9. Chapter4の復習（180分）
10. Chapter7の予習（180分）
11. Chapter7の復習（180分）
12. Chapter10の予習（180分）
13. Chapter10の復習（180分）
14. 意見交換会とプレゼンテーションの準備（180分）
15. レポート作成とまとめと確認のための振り返り（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	50 **%**	**確認テスト：**	30 **%**	**レポート：**	20 **%**
その他1：			**%**		
その他2：			**%**		

評価基準： 授業へのとりくみは、予習の理解度、グループワークへの貢献度、発表内容を含む。13回目はグループに分かれて指定されたトピックに関して本学の留学生と意見交換を行う。14回目は13回目で話し合った内容を各グループで発表をする。

1. 授業への取組み

① 英語の文献を正確読み、英語が使われている国の思考や行動、文化について、日本と比較しながら理解する。（60～69）

②多様な文化的背景を持った人々との交流を通して、文化の多様性及び異文化交流の意義、異文化コミュニケーションの現状と課題について理解が出来ている。（80～100）

2. レポート課題

①外国の人と日本人の思考方法の相違を理解し、それを論述することが出来る。（60～69）

②文化の多様性及び異文化交流の意義、異文化コミュニケーションの現状と課題について論述することが出来る。（80～100）

課題へのフィードバック：

・Teamsのチャットやチーム内の「質疑応答チャネル」などで学生からの質問に対応する。必要に応じて、その内容をTeamsを利用してクラス全体でシェアをする。

・対面授業における発表内容に対する、コメント、解説を行う。

・オンラインでの提出物に対するコメントはTeamsを利用して行う。

教科書： Anne Crescini 著
阿部始子 編注
『Language, Culture, and Worldview Bridging Japan and America』
（『ことば、文化、世界観から紐解く日本とアメリカ』）（金星堂）
ISBN 978-4-7647-4228-4

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：

英語の文献を使用しますので、予め指示された文献、資料を精読した上で授業に臨むこと。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: デザイン思考論

クラス: 国/心

授業コード: DB50400001

担当者: 河野 泉 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 課題解決と創造的な提案の力を身に着けることを目的に、デザイン思考の問題発見、アイデア発想、プロトタイプ（試作）、改善のプロセスを学ぶ。人の心理やニーズを中心サービスを考える「人間中心設計」の考え方と手法を使うことで、演習課題に対して、人と社会に役立つ解決策を提案する。

到達目標: 1. 課題に対して、人のニーズを捉えて問題発見と提案を行う基礎的な手法を身に着ける。
2. 複数人でアイデアを話し合いながら考えをまとめるグループワークを通じて、メンバーと協力しながら問題を解決する力を身に着ける。

各回の授業計画:

1. ガイダンス
2. デザイン思考、人間中心設計とは
3. チームビルディング、観察演習
4. エクスペリエンスマップ演習
5. エクスペリエンスマップ演習
6. 【デザイン思考演習】観察、エクスペリエンスマップ
7. 【デザイン思考演習】アイデア発想
8. 【デザイン思考演習】アイデア発想
9. 【デザイン思考演習】アイデア収束
10. 【デザイン思考演習】発表
11. 【デザイン思考演習】プロトタイプ制作
12. 【デザイン思考演習】評価とフィードバック
13. 【デザイン思考演習】発表
14. ゲスト講師 による特別授業（予定）
15. まとめ

特記事項: なし

授業方法: 対面：第1～15回

1. ガイダンス、講義
2. 講義
3. 講義、グループワーク
4. 講義、グループワーク
5. 講義、グループワーク
6. 講義、グループワーク
7. 講義、グループワーク
8. 講義、グループワーク
9. 講義、グループワーク
10. 発表
11. 講義、グループワーク
12. 講義、グループワーク
13. 発表
14. 講義
15. 講評

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 課題 180分
2. 課題 180分

3. グループワーク続き 180分
4. グループワーク続き 180分
5. グループワーク続き 180分
6. 課題 180分
7. グループワーク続き 180分
8. グループワーク続き 180分
9. グループワーク続き 180分
10. グループワーク続き 180分
11. グループワーク続き 180分
12. グループワーク続き 180分
13. グループワーク続き 180分
14. グループワーク続き 180分
15. 全体を通して復習 180分

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	− **%**	**レポート:**	− **%**
その他1:	課題に対する発表・成果物		50 **%**		
その他2:	グループへの貢献度		20 **%**		

評価基準:

1. 授業への取り組み
授業の各トピックの内容について、基本的な関心があり理解しようとしている(60～69点)
授業内の各トピックの内容について積極的に理解しようとし、また個人・グループでの課題に対して能動的に取りむことができる(80～100点)
2. 課題に対する発表・成果物
与えられた課題の条件に即した発表、成果物を作成できている(60～69点)
与えられた課題の条件を自分またはグループで十分に検討理解し、学習した内容を複合的に用いた成果物を作成でき、また効果的な発表を行うことができる(80～100点)
3. グループへの貢献度
グループワークで与えられた役割を果たしている(60～69点)
グループワークにおいて役割を果たすだけでなく、他の学生と積極的に議論し、グループをまとめている (80～100点)

課題へのフィードバック:

授業内でのグループワーク中のアドバイスを含んだフィードバック
授業内での個人発表に対する講評によるフィードバック
授業内でのグループ発表に対する講評によるフィードバック

教科書: なし

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

授業内でパソコンを使用

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: プレゼンテーションの技法

クラス: 国/心

授業コード: DB51000001

担当者: 端　義幸　　**単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: プレゼンテーションとは、自分の考えや伝えたいことを、聴き手に理解・共感してもらうための表現をする事で、聴き手の態度変容を目的としています。学生生活の中で言えば、授業やゼミでの口頭発表や活動報告、就職活動での面接など、自分の意見をまとめて述べる場面は沢山あります。社会に出てからは多くの場面で日常的に求めれます。
　この授業ではプレゼンテーションとは何かを理解し、自分らしいプレゼンテーションを実施するために何が大切かを学び、プレゼンテーションの準備から実施にいたるまでの一連の活動について学びます。自分の意見を限られた時間の中でまとめて述べる能力を身につけることを目的とします。

到達目標: ① 聴き手が何を知りたいかを理解し、プレゼンテーション全体の内容を整理・構成することができるようになる。
② プレゼンテーションの目的に合わせたスライドを作成できるようになる。
③ 自分らしい適切な話し方で、聴き手に共感してもらえるプレゼンテーションができるようになる。

各回の授業計画:

1. ガイダンス
2. 自分のプレゼンテーション能力の現状把握
”自分の好きなこと”のプレゼンテーションの準備をする
3. プレゼンテーションの基本を学ぶ(1) 聴き手を知る①
聴き手を知ることの大切さと知る方法について考える
4. プレゼンテーションの基本を学ぶ(1):聴き手を知る②
就職活動での面接、論文審査を受ける際に、聴き手（面接者）はどういった視点かを考える
（キャリアセンター職員、卒業論文査定実施される先生にも参加していただき実施予定）
5. プレゼンテーションの基本を学ぶ(2):内容を考える①
パワーポイント作成の前に実施すること（すぐにパワーポイントの作成をしない）
6. プレゼンテーションの基本を学ぶ(2):内容を考える②
実際に内容を考える作業をする
7. プレゼンテーションの基本を学ぶ（3）:パワーポイントを作成する①
パワーポイントの作成するうえで気を付けることを学ぶ
8. プレゼンテーションの基本を学ぶ（3）:パワーポイントを作成する②
実際にパワーポイントを作成する
9. プレゼンテーションの基本を学ぶ（4）:発表準備をする
緊張とストレスの解消及び発表の前にしておくことについて考える
10. プレゼンテーションの準備①:指定テーマのプレゼンテーションの内容について考える
11. プレゼンテーションの準備②:指定テーマのパワーポイントを作成
12. プレゼンテーションの準備③:指定テーマの発表練習
13. 指定テーマのプレゼンテーション実施と相互評価
14. 指定テーマのプレゼンテーション実施と相互評価
15. 指定テーマのプレゼンテーション実施と相互評価

特記事項: なし

授業方法: （すべて対面授業で行う）
1. ガイダンス
2. 講義・発表
3. 講義
4. 講義
5. 講義
6. 講義
7. 講義
8. 講義

9. 講義
10. 実習
11. 実習
12. 実習
13. 発表
14. 発表
15. 発表

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. 復習 60分
2. 復習 90分
3. 復習 90分
4. 復習90分
5. 復習90分
6. 復習 90分
7. 復習 90分
8. 復習90分
9. 復習90分
10. 発表準備 240分
11. 発表準備 240分
12. 発表準備 240分
13. 復習180分
14. 復習 180分
15. 復習 180分

評価方法：

授業へのとりくみ：	－	**%**	**確認テスト：**	－	**%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	授業内課題			70	**%**		
その他2：	発表			30	**%**		

評価基準：

1. 授業内課題
与えられた課題の条件に即した課題資料を作成できている（60～69点）
与えられた課題の条件を十分に検討理解し、収集した情報とグループの意見、自分の意見を切り分けた上で客観的に作成できている（80～100点）

2. 発表
自分の意見をまとめた発表を行えている（60～69点）
様々な視点からの情報を踏まえた上で、自分の意見を説得力のある形で表現できている。（80～100点）

課題へのフィードバック：

課題及び発表のフィードバックは、その場での講評、およびTeams上にて行ないます。

教科書： 授業で使用するパワーポイント資料を共有します。

参考書：
・プレゼン大学 藤倉礼亜（株）クロスクロスメディア・パブリッシング
・秒で使えるパワポ術 豊間根青地（株）KADOKAWA
・秒で伝わるパワポ術 豊間根青地（株）KADOKAWA
・Power Point 最強資料のデザイン教科書 福元雅之（株）技術評論社
・パーフェクト・ストーリー（著）カレン・エバー（訳）大野晶子 日本能率協会マネジメントセンター
・Think Fast,Think Smart （著）マット・エイブラハム（訳）見方プララットかおり（株）翔泳社
・スティーブ・ジャブズ 驚異のプレゼン（著）カーマイン・ガロ（訳）井口耕二 日経BP社

授業・準備学習のアドバイス：

授業内での発表回数は、履修者の数により増減します。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 情報基礎論

クラス:

授業コード: DB60100001

担当者: 山口 智治 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 情報通信技術(ICT)（情報技術(IT)を含む）が社会の隅々まで深く浸透し、どのようなビジネス現場においてもICTが日常的に利用されるため、ICTに関する総合的な知識が不可欠となっている。これから社会人となる学生が備えておくべきICTに関する基礎知識、具体的には国家試験の「ITパスポート」のテクノロジ系に相当する知識を習得する。

到達目標:
1. コンピュータの基礎的な理論を理解する
2. コンピュータの基本的な構成と役割を理解する
3. ハードウェアの種類と特徴を理解する
4. ソフトウェアの機能と特徴を理解する
5. データベースの概要、データ操作を理解する
6. ネットワークの機器、プロトコルを理解する
7. 情報セキュリティや暗号化の概要を理解する
8. 生成AIなど新技術動向の概要を理解する

各回の授業計画:

1. ガイダンス
2. ハードウェア
3. コンピュータ構成要素
4. ソフトウェア
5. コンピュータ・システム(構成)
6. コンピュータ・システム(運用)
7. 情報基礎論
8. アルゴリズムとプログラミング
9. 中間確認
10. 情報デザイン
11. 情報メディア
12. データベース
13. ネットワーク
14. セキュリティ
15. まとめと最終確認

特記事項: なし

授業方法: 対面:第1～15回

1. ガイダンス、講義
2. 講義
3. 講義
4. 講義
5. 講義
6. 講義
7. 講義
8. 講義
9. 講義、確認テスト
10. 講義
11. 講義
12. 講義
13. 講義

14. 講義
15. 講義、確認テスト

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. 課題レポート、講義内容復習 180分
2. 講義内容(ハードウェア)・練習問題復習 180分
3. 講義内容(コンピュータ構成要素)・練習問題復習 180分
4. 講義内容(ソフトウェア)・練習問題復習 180分
5. 講義内容(コンピュータ・システム(構成))・練習問題復習 180分
6. 講義内容(コンピュータ・システム(運用))・練習問題復習 180分
7. 講義内容(情報基礎論)・練習問題復習 180分
8. 講義内容(アルゴリズムとプログラミング)復習、中間確認テスト予習 180分
9. 中間確認テスト復習 180分
10. 講義内容(情報デザイン)・練習問題復習 180分
11. 講義内容(情報メディア)・練習問題復習 180分
12. 講義内容(データベース)・練習問題復習 180分
13. 講義内容(ネットワーク)・練習問題復習 180分
14. 講義内容(セキュリティ)・最終確認テスト予習 180分
15. 全体復習 180分

評価方法：

授業へのとりくみ：	30	**%**	**確認テスト：**	70	**%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	－				**%**		
その他2：	－				**%**		

評価基準：

【望ましい到達度】
・授業への取り組み：要点や不明点を意識しつつ授業に取り組み、質問等を通じて理解を深めようとしている。
・確認テスト：学習内容を十分に理解し、応用的な設問にも正しく回答し、他者にも説明することができる。
【標準的な到達度】
・授業への取り組み：授業内容に積極的な関心を持ち、適切に理解している。
・確認テスト：学習内容をおおむね理解し、標準的な設問に正しく回答できる。
【最低限の到達度】
・授業への取り組み：授業内容に基本的な関心を持ち、理解しようとしている。
・確認テスト：基本な知識を習得し、基本的な設問に正解できる。

課題へのフィードバック：

練習問題、確認テストに対して適宜フィードバックする

教科書： なし

参考書： 高橋京介『いちばんやさしいITパスポート』SBクリエイティブ（令和8年度（2026年度）版）

授業・準備学習のアドバイス：

・授業内でパソコンを使用します。
・技術・市場の最新動向等の状況によって授業内容や授業方法(対面・オンライン・オンデマンド)を変更する場合があります。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 情報社会への参画と倫理

クラス:

授業コード: DB60200001

担当者: 藤本 光司 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:広告代理店勤務、公立中学校教諭(技術)、在外教育施設(ロンドン日本人学校教諭)、公立高等学校講師(普通科、工業科)、県立特別支援学校(任用教員)、市教育委員会事務局職員、日本教育情報学会(理事)、情報コミュニケーション学会(理事)

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: - **一般的包括的科目:** -

授業の目的: 情報通信技術の発達やモバイル機器の普及により、コミュニケーション手段が大きく変革し、様々なトラブルが発生しています。本講義では、ICTの利活用を前提に「テクノロジーの良き使い手」となることを目指し、従来の情報倫理教育に加えて、情報社会に関する法律やルール、デジタル・シティズンシップ、消費者金融教育、デジタルに関わるセキュリティー、情報コミュニケーションについて学びます。また、演習として生成系AIの進展に伴う著作権などの倫理面の課題にも触れるために、Chat GTP やCopilot なども活用します。高度な情報技術がもたらす社会問題を倫理学的観点から洞察し、それに対処する方法を学び自分の生活だけでなく、社会教育や生涯学習支援の場でも役立てることを目指します。各回、講義の他、演習を設定しているので、仲間と協働して主体的に取り組む態度の育成もねらいの一つである。

到達目標:
・デジタル・アイデンティティを理解し、自ら構築・管理できる。
・安全や合法、倫理に配慮したICT活用の情報コミュニケーションをとることができる。
・知的財産の権利と義務を理解し、ルールを尊重して利用できる。
・高度な情報技術がもたらす社会変容を理解し、諸問題について意見を組み立て他者と議論できる。
・生成系AIについては、未知数な部分が多い中、実際に活用して今後の利活用を考えることができる。
・共に学ぶ学習者とグループワークに参画して、協働することの意義を体験する。

各回の授業計画:

1. ガイダンス、情報倫理とは、【演習:全員インタビューによる情報発信と情報収集】
はじめに情報倫理について概観する。そして、その応用としての情報倫理についての重要性、範囲について学ぶ。また、共に学ぶ仲間らにインタビューを実施して情報収集の重要性を学ぶ。

2. 情報通信社会とその進化【演習:ビジュアルを伝える力】
人々は古来より、たとえば「狼煙(のろし)」などを活用して情報伝達をおこなってきた。近年では、科学技術の発展により人が扱う情報の量、質、手段が変化している。ここでは、科学技術の発展とともに、情報の伝達がどのように変化してきたかを学ぶ。また、それに伴う社会の変化と特性を確認する。

3. ネット時代のコミュニケーション【演習:フォトランゲージ】
インターネットは、私たちの社会に大きな影響を及ぼしている。ここでは、ネットワーク社会の変遷を確認する。また、演習を通じて情報発信の種類やコミュニケーションを行ううえでのマナーについても確認する。

4. メディアの変遷【演習:VTR:「Web3.0とは」を視聴して議論する】
メディアがどのように変遷してきたかについて学ぶ。ラジオなどの音声通信から、文字情報、画像、映像への進化を確認する。さらに、マスメディアによる一方向の伝達から、インターネットによる双方向の伝達への変遷と社会の変化を確認する。また、次世代のWeb社会に期待が寄せられている「Web3.0」について、ブロックチェン技術より派生する、仮想通貨、DAO、NFTなどのVTRを視聴して今後のネット社会を考える。

5. メディア・リテラシーと職業【演習:AIに左右されない職業とは(適職診断)】
現代に生活する私たちは、日々、多量の情報を受け取る。そのあふれる情報を全て把握することは困難である。私たちは、あふれる情報の中から、何を選択し、どのように利用すればいいのだろうか。ここでは、日々あふれる情報について、メディアごとの特徴と、受け取り手としての能力について検討する。また、TVや新聞報道などで生じている諸問題を概観する。演習として、適職診断を実施してAI技術が進展してもなくならない職種を考え、将来のキャリアに活かす。

6. デジタル・コミュニケーションと協働【演習:FFS理論による自己特性の分析と協働】
アナログ社会からデジタル社会へと進展しているが、過去と現在の情報社会におけるコミュニケーションを比較検討する。また、社会活動においては他者との協働作業が重視される。他者を理解するために、FFS理論を活用して、まずは自己理解を深める演習を実施する。

7. デジタル・アイデンティティの確立【演習:チームビルディング(紙の塔)】
アイデンティティ管理とは、個人や集団、機器やシステムが提供するサービスを識別し、付随する属性情報を電子的に記録・管理する仕組みである。各主体にIDが割り当てられ、ユーザーIDやメールアドレス、ドメイン名、URLなどが用いられる。個人のアイデンティティ管理では、利用者がシステム上のデジタルアイデンティティに対応するかを確認する認証が重要である。認証には、パスワード、ICカード、指紋認証などが使用されセキュリティが確保される。演習として、前回のFFS分析で得た情報を基に、最適なチームを作り、チームビルディングを実施する。

8. デジタルシティズンシップ(DC)と道徳的判断力【演習:道徳的に判断する力(コールバーグ)】
DCとは、インターネットやデジタル技術を利用する際に、責任を持ち倫理的に行動することを指す。これには、他者の権利を尊重し、適切な情報を共有し、オンライン上での安全を確保することが含まれる。一方、道徳的判断力とは、善悪を判断し、正しい行動を選択する能力である。DCと道徳的判断力を持つことで、健全なオンラインコミュニティの形成に寄与できることを学ぶ。演習では、身近な問題を取り上げて4段階の道徳的判断基準について学ぶ。

9. インターネットと犯罪（1）【演習：闇バイトの概要を調査して脚本・役割分担を考える（寸劇づくり）】
インターネットは非常に便利である反面、犯罪も存在する。ここでは、インターネットなどサイバー空間における代表的な犯罪について学修し、犯罪の手口を知ることにより、私達自身が犯罪にまきこまれないようにする。そのために、昨今話題となっている「闇バイト」を調査し、寸劇の脚本を作成し練習も行う。次の時間では、各グループで発表会を実施する。

10. インターネットと犯罪（2）【演習：「闇バイト」のドラマ化（グループで実演）】
前回から取り組んできた社会問題としての「闇バイト」について、各グループで準備した脚本を実際に演じながら、インターネットと犯罪について考える。また、各グループで相互評価を実施する。

11.「生成系AI」活用における課題と展望（1）【演習：ChatGTP活用でエントリーシートの作成やBBQパーティメニューを考える】
生成系AIの活用において、大学生が直面する課題は、情報の信頼性と倫理的な利用である。AIが生成する情報の正確性を評価し、誤情報を避ける能力が求められる。また、著作権やプライバシーの問題にも注意が必要である。一方、生成系AIは学習支援や研究の効率化に大きな可能性を秘めている。適切な利用方法を学ぶことで、学生はAIを活用し、創造的なプロジェクトや高度な研究を推進できるようになる。演習では、料理の献立を生成系AIで分析させて、最適なパティーメニュを作成する。

12.「生成系AI」活用における課題と展望（2）【演習：画像生成や音楽生成の実際】
生成系AIを用いた画像生成や音楽生成には、著作権の問題が重要である。AIが生成した作品の著作権が誰に帰属するか、既存の作品を模倣した場合の権利侵害などが課題である。また、AIの利用が創造性を奪うのではないかという懸念もある。しかし、AIは新たな創作の可能性を広げ、アーティストのインスピレーション源となる展望がある。適切なルールと倫理的な利用を確立することで、AIと人間の創造性が共存できる未来が期待される。

13. 科学技術と倫理（1）【演習：最新テクノロジーを探索してみよう】
科学技術と倫理をテーマに、最新テクノロジーの調査と発表を行う学習課題である。学生は、事例集を参考にして最新の技術を調査し、その技術がもたらす社会的影響や倫理的課題を分析する。次の授業では、調査結果を基にプレゼンテーションを作成し、クラスで発表することで、技術の利点とリスクを理解し、倫理的な視点から評価する能力を養うことを目指す。これにより、科学技術の進展とその社会的影響について深く考察する力を身につけることができる。

14. 科学技術と倫理（2）【演習：調査した最新テクノロジーを発表する（プレゼンテーション）】
前時の学習では、提示した事例集を参考にその他の最新技術を調査した。その技術がもたらす社会的な発展や影響について、簡単なプレゼンテーション資料に基づいてクラスで発表する。そこで考えた技術の利点とリスクを倫理的な視点から評価する能力を養う。

15. 情報通信社会と倫理、まとめと後期試験について
情報技術は日々進化をとげており、これからも当面、進展が続く。その一方で、人間身体の進化、社会の進化は緩やかである。ここでは、進化の方向性を確認するとともに、私たちは、どのような考えに基づいて、この変化の時代を活かしていくことが良いのかについて検討する。また、これまでの授業を振り返り、16回目の最終試験の内容を提示する。

特記事項： 16回目に試験を行う。

授業方法： すべて対面授業で行う。
講義およびビデオ視聴、グループワーク、グループによる課題発表を中心に進める。急な病欠や有事の際など授業ができない場合は、Teamsにより代替え授業を実施する場合もある。

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

毎回の授業での予習（90分）および復習（90分）を想定している。
予習としては学習内容について事前に調べること、グループ課題の準備を含む。
復習としては、講義内容のまとめ、グループ課題へのフィードバックの見直しを含む。

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	10 **%**	**レポート：**	30 **%**		
その他1：	発表資料の作成、最終課題（16回目）	30 **%**					
その他2：		**%**					

評価基準：

1. 授業への取り組み
授業の各トピックの内容について、基本的な関心があり理解しようとしている（60～69点）
授業内の各トピックの内容について積極的に理解しようとし、また個人・グループでの課題に対して能動的に取りむことができる（80～100点）
2. レポート
与えられた課題の条件に即したレポートを作成できている（60～69点）
与えられた課題の条件を十分に検討理解し、収集した情報とグループの意見、自分の意見を切り分けた上で客観的に記述できている（80～100点）
3. グループへの貢献・発表
グループワークで与えられた役割を果たしている。またグループで意見をまとめた発表を行えている（60～69点）
グループワークにおいて役割を果たすだけでなく、他の学生と積極的に議論し、グループへ貢献している。様々な視点からの情報を踏まえた上で、グループの意見を発表できている。（80～100点）
4. 最終課題への取組（16回目）
課題に対して、概ねの内容を記述している（60～69点）
課題に対して、内容を網羅し、自己の考えを的確に記述している（80～100点）

課題へのフィードバック：

・レポートについては、授業内やLMS（Teams）において全体の傾向や要点についてフィードバックする。
・グループ発表については、参加者による相互評価を実施し総合的な講評も行う。
・レポートは、配布プリント（手書き）、もしくは、LMS（MSN Teams）へのデジタル情報の提出を求める。

教科書: 随時、資料を配布する。

参考書: 授業中に適宜資料を配布する。
藤本光司、林徳治、若杉祥太 編著、『アクティブラーニングに導く 教学改善のすすめ』、ぎょうせい（2020）
沖祐貴、藤本光司、林徳治、他「相互理解を深める コミュニケーション実践学」、ぎょうせい（2011）
藤本光司、安東茂樹、他、『世の中の先端技術を見てみよう』、開隆堂（2024）
坂本旬、芳賀高洋、他、『デジタル・シティズンシップ:コンピュータ1人1台時代の善き使い手をめざす学び』、大月書店（2020）
鈴木秀美編、『よくわかるメディア法』、ミネルヴァ書房（2011）
G. W. オルポート、L.ポストマン、『デマの心理学』、岩波書店（1952/2008）
山本喜一監修、久保木孝明著、『情報社会と情報倫理』、近代科学社（2011）

授業・準備学習のアドバイス:

この授業では次の点を重視します。
①グループでのディスカッション、演習の積極的な取り組みの態度。
②パワーポイントなどで作成するデジタル課題の提出。
③ICT機器・アプリの活用を進めるため、授業中のパソコン・スマホ・タブレットの所持と活用。
④プレゼンテーション能力の育成のための発表。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 情報ビジネス論

クラス:

授業コード: DB60300001

担当者: 山口 智治 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: デジタルトランスフォーメーションなど、社会のデジタル化が進む時代において、ビジネスの世界はデジタル化の影響を特に受けた分野と言える。本講義では、企業の仕組みを知るとともに、その中でICTがどのように活用されるようになったのか、また、ICTによりどのような企業が生まれたのかについて学んでいく。
＊ITパスポート試験の「ストラテジー系」「マネジメント系」の内容を中心にする予定。

到達目標: ・企業の組織、財務、経営など、企業のDXの前提となる概念について簡単に説明できる。
・企業における情報システムについて説明できる。
・システム開発やプロジェクトマネジメントなど、開発のマネジメントについて説明できる。
・DXやIoT、5G、クラウドサービス、AIなど、デジタルに関わる新しい概念について説明できる。

各回の授業計画:

1. イントロダクション:授業についてのガイダンス
2. 情報とは:「情報」の定義と特徴
3. メディアとは:「メディア」の定義と特徴
4. コンピュータ:基礎
5. IoTとAI(1):基礎
6. IoTとAI(2):AI
7. ネットワーク:基礎
8. セキュリティ(1):基礎
9. セキュリティ(2):サイバーセキュリティ
10. ビジネス
11. 企業戦略
12. 企業経営
13. 法規や制度、標準化
14. システム開発と運用
15. まとめと確認

特記事項: 2～14回の授業で適宜小テストを行う予定

授業方法: 対面:第1～15回(ただし、映像教材が利用できる内容の回についてはオンライン(オンデマンド)で実施する場合があります。)
1. ガイダンス
2. 講義
3. 講義
4. 講義
5. 講義
6. 講義
7. 講義
8. 講義
9. 講義
10. 講義
11. 講義
12. 講義
13. 講義
14. 講義
15. 振り返り

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. イントロダクション：授業の進め方についての復習（60分）
2. 情報とは：「情報」の定義と特徴についての予習（60分）復習（120分）
3. メディアとは：「メディア」の定義と特徴についての予習（60分）復習（120分）
4. コンピュータ：基礎的な事項についての予習（60分）復習（120分）
5. IoTとAI（1）：基礎的な事項についての予習（60分）復習（120分）
6. IoTとAI（2）：AIに関する一般的な知識・事項についての予習（60分）復習（120分）
7. ネットワーク：基礎的な事項についての予習（60分）復習（120分）
8. セキュリティ（1）：基礎的な事項についての予習（60分）復習（120分）
9. セキュリティ（2）：サイバーセキュリティに関する一般的な知識・事項についての予習（60分）復習（120分）
10. ビジネス：企業活動についての一般的な事項についての予習（60分）復習（120分））
11. 企業戦略：企業戦略についての基礎的な事項についての予習（60分）復習（120分）
12. 企業経営：企業経営についての基礎的な事項についての予習（60分）復習（120分）
13. 法規や制度、標準化：企業活動に関連する法制度等についての予習（60分）復習（120分）
14. システム開発と運用：システム開発と運用についての予習（60分）復習（120分）
15. まとめと確認：授業全体についての振り返り・予習(180分)と復習（120分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	40 **%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	授業中の小テスト		30 **%**		
その他2：	－		**%**		

評価基準：

【望ましい到達度】
・授業への取り組み：要点や不明点を意識しつつ授業に取り組み、質問等を通じて理解を深めようとしており、理解した内容を小テストを通じて正しく説明できる。
・確認テスト：学習内容を十分に理解し、応用的な設問にも正しく回答し、他者にも説明することができる。
【標準的な到達度】
・授業への取り組み：授業内容に積極的な関心を持ち、適切に理解しており、理解した内容について小テストを通じて正しく回答できる。
・確認テスト：学習内容をおおむね理解し、標準的な設問に正しく回答できる。
【最低限の到達度】
・授業への取り組み：授業内容に基本的な関心を持ち、理解しようとしており、理解した内容について小テストを通じておおむね正しく回答できる。
・確認テスト：基本な知識を習得し、基本的な設問に正解できる。

課題へのフィードバック：

小テスト、確認テストに対して適宜フィードバックを行う

教科書： なし

参考書： 高橋京介『いちばんやさしいITパスポート』SBクリエイティブ（令和8年度（2026年度）版）ほか、適宜紹介

授業・準備学習のアドバイス：

・授業内でパソコンを使用します。
・技術・市場の最新動向等の状況によって授業内容や授業方法(対面・オンライン・オンデマンド)を変更する場合があります。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: プログラミング Ⅰ

クラス:

授業コード: DB60400001

担当者: 松本 宗久 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:高等学校教諭(情報科)

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: どのプログラミング言語にも共通する制御構造や型の概念について、近年利用が広がっているPythonというプログラミング言語を実際に体験することで学んでいく。
その際、Pythonのオンライン学習環境であるPaizaラーニングやGoogle Colaboratoryを用いて、いつでもどこでもプログラミングを行えるようにする。

到達目標: プログラミングの基礎的な内容について、プログラムの入力・実行、デバッグの方法、および、プログラムの改善方法などをプログラミングの体験を通して学ぶ。
与えられた課題に対して、プログラムを作成し、計算機上で動作させることができるようになる。
また課題を元に、自らプログラムを考案できるようになることが目標である。

各回の授業計画:

1. Pythonの概要とPCへの環境構築
2. 標準出力および、数値とその演算、変数
3. 文字列とその演算および、数値との相互変換
4. リストについて
5. タプルについて
6. 条件分岐とブール型
7. for文とwhile文
8. リスト内包標記と標準入力
9. 辞書(ディクショナリ)
10. 集合と関数
11. 変数のスコープ・関数の引数と再帰呼び出し
12. クラスとクラスの継承
13. モジュールと例外処理
14. イミュータブルとミュータブル
15. 全体のまとめと確認テスト

特記事項: なし

授業方法: 第1〜4・6・7・9・10・12・13・15回 講義、演習
第5・8・11・14回 講義 ※オンライン(オンデマンド)
(ただし、年度ごとの授業設定日によっては、受講生と相談の上、オンラインでの講義日を変更する場合がある)

インターネット上での教材配布等を行い、対面授業による講義と課題作成、および質疑応答を中心とする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1〜15. 予習45分×15回 = 675分
1〜15. 授業内容の振り返り 45分×15回 = 675分
1〜15. 授業で配布される課題の検討 30分×15回 = 450分
1〜3. 授業に必要なPCなど機器のセットアップ 60分×3 =180分
2〜4. 高校での学習内容の復習 60分×3回 = 180分
5. 7. 9. 11. 13. 授業内で実施される確認テストの予習 30分×5回 = 150分
6. 8. 10. 12. 14. 確認テストの復習 30分×5回 = 150分
4. 6. 8. 10. 12. 14. 授業に必要なPCなど機器のメンテナンス 20分×6 =120分
15. 最終課題に関する学習 180分

評価方法：	授業へのとりくみ：	20 %	確認テスト：	40 %	レポート：	40 %
	その他1：			%		
	その他2：			%		

評価基準：

1. 確認テストなどを含めた授業内容
（60～69）分からない問題が多くても、自分で解決することができる。
（70～79）分からない問題は半分以下であり、自分で解決することが容易である。
（80～100）わからない問題は2割以下であり、他人に説明することができる。

2. レポート（制作課題）
（60～69）できない課題が6割以下であり、自学自習や、教員・受講者の補助により納得できる。
（70～79）できない課題が4割以下であり、自学自習に支障がない。
（80～100）できない課題が2割以下であり、他人の補助を行える能力がある。

課題へのフィードバック：

講義内、および、授業管理システム（Microsoft Teams）によるチャット等で、確認テストや制作課題等の評価・補助を行う。

教科書：

Paizaラーニングのコンテンツを活用して学習を行う。
（登録は授業時に行うが、予め学習したい者は、大学のメールアドレスを利用してアカウントを作成しておくこと）
https://paiza.jp/
この他 適宜プリント等，教材を配布する。

参考書：

高等学校の情報科の教科書を利用することがあるので保管し用意しておくこと。

授業・準備学習のアドバイス：

高校の教科内容を復習しながら、また大学のおける講義と合わせて学習を進めることがある。
教科書・参考書があれば、手元に置いて予習・復習しておくこと。
PCの利用方法に関しては、早めにマスターしておくことが望ましい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: プログラミングⅡ

クラス:

授業コード: DB60500001

担当者: 松本 宗久 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:高等学校教諭(情報科)

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: プログラミングIに引き続き、Pythonというプログラミング言語をデータ分析・機械学習など、応用を含めて実際に体験することで学んでいく。
その際、Pythonのオンライン学習環境であるPaizaラーニングやGoogle Colaboratoryを用いて、いつでもどこでもプログラミングができるスキルを身につける。

到達目標: プログラミングIの内容をふまえて、関数を使いこなしたり、データ分析・機械学習を学ぶなど、実践的な内容をプログラミングの体験を通して学ぶ。
与えられた課題を元に、自らプログラムやアプリケーションを作成できるようになることが目標である。

各回の授業計画:

1. アルゴリズムとデータ構造入門(1) アルゴリズムとデータ構造 / 線形探索
2. アルゴリズムとデータ構造入門(2) 計算量の見積もりとO記法 / 素朴なソートアルゴリズム
3. アルゴリズムとデータ構造入門(3) 効率的なソートアルゴリズム / 素数
4. アルゴリズムとデータ構造入門(4) 最大公約数・最小公倍数 / 累積和
5. アルゴリズムとデータ構造入門(5) 二分探索 / スタック・キュー
6. データ分析入門(1) データ分析を始めよう
7. データ分析入門(2) Seriesの基本
8. データ分析入門(3) DataFrameの基本
9. データ分析入門(4) データの可視化
10. データ分析入門(5) 記述統計量
11. データ分析入門(6) データフレームのマージと連結
12. データ分析入門(7) 階層型インデックス(MultiIndex)とピボット操作
13. データ分析入門(8) データの集約
14. データ分析入門(9) クリーニング
15. データ分析入門(10) データ分析の実践

特記事項: なし

授業方法: 第1〜4・6・7・9・10・12・13・15回 講義、演習
第5・8・11・14回 講義 ※オンライン(オンデマンド)
(ただし、年度ごとの授業設定日によっては、受講生と相談の上、オンラインでの講義日を変更する場合がある)

インターネット上での教材配布等を行い、対面授業による講義と課題作成、および質疑応答を中心とする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1〜15. 予習45分×15回 = 675分
1〜15. 授業内容の振り返り 45分×15回 = 675分
1〜15. 授業で配布される課題の検討 30分×15回 = 450分
1〜3. 授業に必要なPCなど機器のセットアップ 60分×3 =180分
2〜4. プログラミングIでの学習内容の復習 60分×3回 = 180分
5. 7. 9. 11. 13. 授業内で実施される確認テストの予習 30分×5回 = 150分
6. 8. 10. 12. 14. 確認テストの復習 30分×5回 = 150分
4. 6. 8. 10. 12. 14. 授業に必要なPCなど機器のメンテナンス 20分×6 =120分
15. 最終課題に関する学習 180分

評価方法: **授業へのとりくみ:** 10 % **確認テスト:** 50 % **レポート:** 40 %
その他1: %

その他2： **%**

評価基準： 1. 確認テストなどを含めた授業内容
（60～69）分からない問題が多くても、自分で解決することができる。
（70～79）分からない問題は半分以下であり、自分で解決することが容易である。
（80～100）わからない問題は2割以下であり、他人に説明することができる。

2. レポート（制作課題）
（60～69）できない課題が6割以下であり、自学自習や、教員・受講者の補助により納得できる。
（70～79）できない課題が4割以下であり、自学自習に支障がない。
（80～100）できない課題が2割以下であり、他人の補助を行える能力がある。

課題へのフィードバック：

講義内、および、授業管理システム（Microsoft Teams）によるチャット等で、確認テストや制作課題等の評価・補助を行う。

教科書： Paizaラーニングのコンテンツを活用して学習を行う。
（登録は授業時に行うが、予め学習したい者は、大学のメールアドレスを利用してアカウントを作成しておくこと）
https://paiza.jp/
この他 適宜プリント等，教材を配布する。

参考書： 高等学校の情報科の教科書を利用することがあるので保管し用意しておくこと。

授業・準備学習のアドバイス：

授業開始前にプログラミングIの内容や課題を復習しておくとよい。
高校の教科内容を復習しながら、また大学における他の講義内容と合わせて学習を進めることがある。
これまでの教科書・参考書も手元に置いて、予習・復習しておくこと。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: ウェブデザイン

クラス:

授業コード: DB60600001

担当者: 鴨谷 真知子 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 最新のHTML5やCSS3を基本から身につけ、レイアウトや配色などの Web デザインに必須な基本知識を学び、企画書からコーディングまでのWebサイト作成のための流れを、多彩な技術を演習しながら修得する。

到達目標: Webサイトで使用する言語(HTML)、文字、画像などの情報の関連付けを図り、視覚化について学習することにより、Webを理解し簡単なホームページ作成を身につけることを目標とする。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション受講上の諸注意Webサイト制作のための基礎とWebデザインについて学ぶ使用するソフトの準備
2. HTMLの基本を学ぶ(1)
3. HTMLの基本を学ぶ(2)
4. 確認テスト(1)
前回までの内容の確認テスト
5. CSSの基本を学ぶ(1)
6. CSSの基本を学ぶ(2)
7. CSSの基本を学ぶ(3)
8. 確認テスト(2)
前回までの内容の確認テスト
9. 2カラムページの作成(1)
ブログサイトのHTML
10. 2カラムページの作成(2)
ブログサイトのHTML
11. 2カラムページの作成(3)
ブログサイトのCSS
12. 2カラムページの作成(4)
ブログサイトのCSS
13. 確認テスト(3)
前回までの内容の確認テスト
14. 総合演習(1)
これまでの学習を元に各自でWebページを企画・作成する
15. 総合演習(2)
これまでの学習を元に各自でWebページを企画・作成する

特記事項: なし

授業方法: 講義と演習で構成。各セクションの最後には確認テストを行う。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 復習(120分):オリエンテーションで説明があった内容について振り返り、今後の課題制作について考える
2. 復習(120分):授業で学習した内容について振り返り、再度確認をする
3. 確認テストに対する復習(270分):前回までの授業で学習した内容について振り返り、再度確認をする
4. 復習(120分):授業で学習した内容について振り返り、再度確認をする
5. 復習(120分):授業で学習した内容について振り返り、再度確認をする
6. 復習(120分):授業で学習した内容について振り返り、再度確認をする
7. 確認テストに対する復習(270分):前回までの授業で学習した内容について振り返り、再度確認をする
8. 復習(120分):授業で学習した内容について振り返り、再度確認をする
9. 復習(120分):授業で学習した内容について振り返り、再度確認をする
10. 復習(120分):授業で学習した内容について振り返り、再度確認をする
11. 復習(120分):授業で学習した内容について振り返り、再度確認をする

12. 確認テストに対する復習(270分):前回までの授業で学習した内容について振り返り、再度確認をする
13. 確認テストの復習(270分):前回までの授業で学習した内容について振り返り、再度確認をする
14. 総合演習課題に関する学習(270分):授業時に指示された課題を作成
15. 総合演習課題に関する学習(270分):授業時に指示された課題を作成

評価方法:

授業へのとりくみ:	40 **%**	**確認テスト:**	20 **%**	**レポート:**	− **%**
その他1:	制作物		40 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準:

1.「ウェブデザイン」に関する応用的形式に興味を持つことができる
2.「ウェブデザイン」に関する応用的課題に関して、一部を作成することができる
3.「ウェブデザイン」に関する応用的課題に関して、自ら作成することができる

1.ができる(60～79)
1.2.ができる(80～89)
1.2.3.ができる(90～100)

課題へのフィードバック:

1. 確認テストに対するフィードバック
2. ウェブデザイン制作物に対するフィードバック

教科書: なし

参考書: 「これだけで基本がしっかり身につくHTML/CSS&Webデザイン1冊目の本」翔泳社
「ほんの一手間で劇的に変わるHTML＆CSSとWebデザイン実践講座」SBクリエイティブ

授業・準備学習のアドバイス:

授業では各自のPCに必要ソフトをインストールして使用するため、毎回PCの持参が必要。タブレットやスマホでの演習はできません。
また、毎回ごとに完結する授業ではない(毎回の積み重ねが大切)ため、欠席はしないように。もし欠席した場合は、欠席時の授業内容を授業内で繰り返し行わないので各自で友達に聞いておくなど解決して、追いついておくこと。毎回、その時間の制作物を提出してもらいます。
普段から様々なWebサイトを見ておくように。

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: デジタル表現

クラス:

授業コード: DB60700001

担当者: 鴨谷 真知子 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 様々なデジタルを活用したコンテンツ作成に必要な画像編集などの基礎知識を学び身につけるとともに、デザイン表現に興味と理解を深める。

到達目標: 基礎技術と表現を習得するとともに演習課題を通し、デザイン表現に興味と理解を深めることを目標とする。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション受講上の諸注意使用するソフトの準備アナログとデジタルについて
2. 音のデジタル表現（1）
音のデジタル表現の基礎ソフトの基本操作
3. 音のデジタル表現（2）
音声編集演習
4. 動画のデジタル表現（1）
動画のデジタル表現の基礎ソフトの基本操作
5. 動画のデジタル表現（2）
動画編集演習
6. 動画のデジタル表現課題作成（1）
オリジナル作品の素材準備
7. 動画のデジタル表現課題作成（2）
オリジナル作品の作成、提出
8. 静止画のデジタル表現（1）
静止画のデジタル表現ソフトの基本操作
9. 静止画のデジタル表現（2）
写真編集（1）
10. 静止画のデジタル表現（3）
写真編集（2）
11. 静止画のデジタル表現（4）
ラベル作成（1）
12. 静止画のデジタル表現（5）
ラベル作成（2）
13. 静止画のデジタル表現（6）
写真の合成
14. オリジナル課題作成（1）
企画と素材準備
15. オリジナル課題作成（2）
作成、提出

特記事項: なし

授業方法: 講義と演習で構成。各セクションの最後にはオリジナル作品を作成する。

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 復習（120分）：オリエンテーションで説明があった内容について振り返り、今後の課題制作について考える
2. 復習（150分）：授業で学習した内容について振り返り、再度確認をする
3. 復習（150分）：授業で学習した内容について振り返り、再度確認をする
4. 復習（150分）：授業で学習した内容について振り返り、再度確認をする
5. 復習（150分）：授業で学習した内容について振り返り、再度確認をする
6. オリジナル課題作成に関する学習（270分）：授業時に指示された課題を作成

7. オリジナル課題作成に関する学習(270分):授業時に指示された課題を作成
8. 復習(150分):授業で学習した内容について振り返り、再度確認をする
9. 復習(150分):授業で学習した内容について振り返り、再度確認をする
10. 復習(150分):授業で学習した内容について振り返り、再度確認をする
11. 復習(150分):授業で学習した内容について振り返り、再度確認をする
12. 復習(150分):授業で学習した内容について振り返り、再度確認をする
13. 復習(150分):授業で学習した内容について振り返り、再度確認をする
14. オリジナル課題作成に関する学習(270分):授業時に指示された課題を作成
15. オリジナル課題作成に関する学習(270分):授業時に指示された課題を作成

評価方法:

授業へのとりくみ:	40	**%**	**確認テスト:**	−	**%**	**レポート:**	− **%**
その他1:	制作物			60	**%**		
その他2:					**%**		

評価基準:

1.「デジタル表現」に関する応用的形式に興味を持つことができる
2.「デジタル表現」に関する応用的課題に関して、一部を作成することができる
3.「デジタル表現」に関する応用的課題に関して、自ら作成することができる

1.ができる(60～79)
1.2.ができる(80～89)
1.2.3.ができる(90～100)

課題へのフィードバック:

1. 各回の質問に対するフィードバック
2. オリジナル制作物に対するフィードバック

教科書: なし

参考書: 「できるクリエイターGIMP2.10独習ナビ」インプレス

授業・準備学習のアドバイス:

授業では各自のPCに必要ソフトをインストールして使用するため、毎回PCの持参が必要。タブレットやスマホでの演習や課題作成はできません。
また、毎回ごとに完結する授業ではない(毎回の積み重ねが大切)ため、欠席はしないように。もし欠席した場合は、欠席時の授業内容を授業内で繰り返し行わないので各自で友達に聞いておくなど解決して、追いついておくこと。
毎回、その時間の制作物を提出してもらいます。
※使用ソフトは無料ソフトのaudacityとGimp、CapCutを予定しているが、環境により使用ソフトの変更があるかもわかりません。

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: プロジェクトベイストラーニング演習Ⅰ

クラス:

授業コード: DB60800001

担当者: 河野 泉 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: プロジェクトベイストラーニング演習Ⅰでは、Webやサービス開発におけるコンセプト・企画の立て方を学ぶ。顔認証などAIを代表とする最新技術を理解し、ユーザーのペルソナを設定し、利用シーンとシナリオを提案する。また、学外の部門(企業あるいは他大学)と連携して調査、提案、報告を行う。
次年度のプロジェクトベイストラーニング演習Ⅱでは、専門分野の異なる他者との協働を通して課題の解決に取り組む。具体的には、他大学の工学部生と連携して、自分達で"AIを使ったWebアプリ"を企画し実装まで行う予定で、プロジェクトベイストラーニング演習Ⅰとプロジェクトベイストラーニング演習Ⅱはセットで受講することが望ましい。

到達目標: 1. 人の本質的なニーズを捉えるHCD(Human Centered Design、人間中心設計)を理解して、サービス提案ができること
2. 最新技術の利用シーンを人視点で発想できること。
3. プロジェクト型の活動を通して、チームメンバーで協力して課題解決にあたる能力を身に着けること

各回の授業計画:

1. イントロダクション
2. チームビルディング
3. AI技術の理解(例:顔認証)
4. AI技術の理解
5. 人の行動を考える
6. 先進技術適用のアイデアを考える
7. ペルソナの作成
8. シナリオの作成1
9. シナリオの作成2
10. 発表、学んだことを話し合う
11. 外部連携1
12. 外部連携2
13. 外部連携3
14. AIの技術説明(例:画像認識、物体検出)
15. まとめ

特記事項: なし

授業方法: 対面:第1～15回

1. ガイダンス、講義
2. 講義
3. 演習、グループワーク
4. 演習、グループワーク
5. 演習、グループワーク
6. 演習、グループワーク
7. 演習、グループワーク
8. 演習、グループワーク
9. 演習、グループワーク
10. 演習、グループワーク
11. 発表
12. 演習、グループワーク
13. 演習、グループワーク
14. 演習、グループワーク
15. 講評

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. 課題 180分
2. グループワーク続き 180分
3. グループワーク続き 180分
4. グループワーク続き 180分
5. グループワーク続き 180分
6. グループワーク続き 180分
7. グループワーク続き 180分
8. グループワーク続き 180分
9. 発表資料作成 180分
10. 課題 180分
11. グループワーク続き 180分
12. グループワーク続き 180分
13. 課題 180分
14. 課題 180分
15. 全体復習 180分

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	グループでの発表・成果物		50 **%**		
その他2：	グループへの貢献度		20 **%**		

評価基準：

1. 授業への取り組み
授業の各トピックの内容について、基本的な関心があり理解しようとしている（60～69点）
授業内の各トピックの内容について積極的に理解しようとし、また個人・グループでの課題に対して能動的に取りむことができる（80～100点）
2. グループでの発表・成果物
与えられた課題の条件に即した発表、成果物を作成できている（60～69点）
与えられた課題の条件を自分またはグループで十分に検討理解し、学習した内容を複合的に用いた成果物を作成でき、また効果的な発表を行うことができる（80～100点）
3. グループへの貢献度
グループワークで与えられた役割を果たしている（60～69点）
グループワークにおいて役割を果たすだけでなく、他の学生と積極的に議論し、グループをまとめている （80～100点）

課題へのフィードバック：

授業内でのグループワーク中のアドバイスを含んだフィードバック
授業内での個人発表に対する講評によるフィードバック
授業内でのグループ発表に対する講評によるフィードバック

教科書： なし

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：

授業内でパソコンを使用

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: プロジェクトベイストラーニング演習Ⅱ

クラス:

授業コード: DB60900001

担当者: 河野 泉 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: プロジェクトベースドラーニング演習Ⅱでは、プロジェクトベースドラーニング演習Ⅰで学んだサービス開発の企画方法に続いて、“AIを使ったWebアプリ”を自ら企画し、他大学の工学部生と連携してサービスの実装までを行う。AIを代表とする最新技術を理解して、ユーザーの心理や行動を想定して利用シーンを提案し、サービスの画面機能をまとめる。その後コーディングを行うチームと、画面デザインを行うチームに分かれてサービスを完成させる。専門分野の異なる他者との協働を通して、課題の解決に取り組む。プロジェクトベイストラーニング演習Ⅰとプロジェクトベイストラーニング演習Ⅱはセットで受講することが望ましい。

到達目標:
1. サービスの企画から実装までの一連のプロセスを経験し、実施すべき項目を理解する。
2. 人の本質的なニーズを捉えるHCD(Human Centered Design、人間中心設計)を実施して、サービス提案ができる
3. プロジェクト型の活動を通して、テーマに対してチームメンバーで協力して課題解決にあたる能力を身に着ける

各回の授業計画:

01. オリエンテーション
02. AI、HCDの基礎知識、チームビルディング
03. 利用シーンをあげる
04. ユーザーニーズに変換する
05. ユーザーニーズをグルーピングする
06. 利用シーンを選ぶ
07. 実現方法を考える
08. ペルソナを作る
09. シナリオを作成する
10. シナリオを紹介する、機能を整理する
11. チーム1 画面デザイン、チーム2 設計⇒コーディング
12. チーム1 画面デザイン、チーム2 設計⇒コーディング
13. チーム1 画面デザイン、チーム2 設計⇒コーディング
14. 発表準備
15. 発表

特記事項: なし

授業方法: 対面:第1～15回

1. ガイダンス、講義
2. 演習、グループワーク
3. 演習、グループワーク
4. 演習、グループワーク
5. 演習、グループワーク
6. 演習、グループワーク
7. 演習、グループワーク
8. 演習、グループワーク
9. 演習、グループワーク
10. 演習、グループワーク
11. 演習、グループワーク
12. 演習、グループワーク
13. 演習、グループワーク
14. 演習、グループワーク
15. 発表、講評

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. 課題 180分
2. グループワーク続き 180分
3. グループワーク続き 180分
4. グループワーク続き 180分
5. グループワーク続き 180分
6. グループワーク続き 180分
7. グループワーク続き 180分
8. グループワーク続き 180分
9. グループワーク続き 180分
10. グループワーク続き 180分
11. グループワーク続き 180分
12. グループワーク続き 180分
13. グループワーク続き 180分
14. グループワーク続き 180分
15. 全体復習 180分

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	グループでの発表・成果物		50 **%**		
その他2：	グループへの貢献度		20 **%**		

評価基準：

1. 授業への取り組み
授業の各トピックの内容について、基本的な関心があり理解しようとしている（60～69点）
授業内の各トピックの内容について積極的に理解しようとし、また個人・グループでの課題に対して能動的に取りむことができる（80～100点）
2. グループでの発表・成果物
与えられた課題の条件に即した発表、成果物を作成できている（60～69点）
与えられた課題の条件を自分またはグループで十分に検討理解し、学習した内容を複合的に用いた成果物を作成でき、また効果的な発表を行うことができる（80～100点）
3. グループへの貢献度
グループワークで与えられた役割を果たしている（60～69点）
グループワークにおいて役割を果たすだけでなく、他の学生と積極的に議論し、グループをまとめている （80～100点）

課題へのフィードバック：

授業内でのグループワーク中のアドバイスを含んだフィードバック
授業内での個人発表に対する講評によるフィードバック
授業内でのグループ発表に対する講評によるフィードバック

教科書： なし

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：

授業内でパソコンを使用

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 情報とデザイン

クラス:

授業コード: DB61100001

担当者: 河野 泉 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 情報デザインとは、「複雑な情報をわかりやすく伝えるための技術」であり、ユーザーが情報を活用できるようにする「思いやり」である。この授業では、情報機器、サービス、Webや広告、プレゼンテーションなど様々な情報伝達の場面において、見やすく、わかりやすく、伝わりやすい情報デザインとは何かを学ぶ。演習として、花のショッピングサイトやお寿司の注文パネルをデザインする。

到達目標:
1. 情報を扱うユーザーの状況やニーズを分析できること
2. コンテンツである情報の特性を理解し、整理できること
3. ユーザーに合わせた情報案内を視覚的に表現できること

各回の授業計画:

1. イントロダクション:情報デザインとは？
2. 情報デザインの歴史と展開分野
3. ユーザー分析1:使いやすさ、ユーザー体験(UX)
4. ユーザー分析2:ユニバーサルデザイン
5. ユーザー分析3:事例収集と紹介
6. チームビルディング
7. コンテンツ分析1:情報の分類と探し方
8. コンテンツ分析2:デザインの原則
9. ターゲットユーザーを考えデザインする
10. 画面デザイン演習1:競合調査
11. 画面デザイン演習2:コンセプト設定
12. 画面デザイン演習3:情報分類
13. 画面デザイン演習4:画面設計
14. 画面デザイン演習5:発表資料作成
15. 発表、まとめと振り返り

特記事項: なし

授業方法: 対面:第1～15回

1. ガイダンス、講義
2. 講義
3. 講義
4. 講義
5. 講義、発表
6. グループワーク
7. 講義、グループワーク
8. 講義、グループワーク
9. 講義、グループワーク
10. 演習、グループワーク(調査)
11. 演習、グループワーク(企画)
12. 演習、グループワーク(設計)
13. 演習、グループワーク(画面デザイン)
14. 演習、グループワーク(発表準備)
15. 発表、講評

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. イントロダクション復習 90分

2. 情報デザインの歴史復習 90分
3. 事例収集 270分
4. 事例収集 270分
5. 事例収集の感想まとめ 90分
6. ユニバーサルデザインの復習 90分
7. 情報分類の復習 90分
8. デザインの原則の復習 90分
9. 課題の復習 90分
10. 情報案内システムの事例調査 270分
11. 企画ブラッシュアップ 270分
12. デザインブラッシュアップ 270分
13. 評価に基づく改良、発表準備 270分
14. 議論に基づいて修正 270分
15. 全体を通して復習 180分

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	− **%**	**レポート:**	− **%**
その他1:	グループでの発表・成果		50 **%**		
その他2:	グループへの貢献度		20 **%**		

評価基準:

1. 授業への取り組み
授業の各トピックの内容について、基本的な関心があり理解しようとしている(60～69点)
授業内の各トピックの内容について積極的に理解しようとし、また個人・グループでの課題に対して能動的に取りむことができる(80～100点)
2. グループでの発表・成果物
与えられた課題の条件に即した発表、成果物を作成できている(60～69点)
与えられた課題の条件を自分またはグループで十分に検討理解し、学習した内容を複合的に用いた成果物を作成でき、また効果的な発表を行うことができる(80～100点)
3. グループへの貢献度
グループワークで与えられた役割を果たしている(60～69点)
グループワークにおいて役割を果たすだけでなく、他の学生と積極的に議論し、グループをまとめている (80～100点)

課題へのフィードバック:

授業内でのグループワーク中のアドバイスを含んだフィードバック
授業内での個人発表に対する講評によるフィードバック
授業内でのグループ発表に対する講評によるフィードバック

教科書: なし

参考書:

情報デザインフォーラム編『情報デザインの教室』丸善
情報デザインフォーラム編『情報デザインのワークショップ』丸善
HCDライブラリー委員会『人間中心設計の国内事例』近代科学社
伏見清香、茂登山清文『情報デザイン』、放送大学教育振興会
長谷川敦士『IA100 ―ユーザーエクスペリエンスデザインのための情報アーキテクチャ設計』、BNN出版社

授業・準備学習のアドバイス:

授業内でパソコンを使用

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: WEBプログラミング入門

クラス:

授業コード: DB70100001

担当者: 松本 宗久 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:高等学校教諭(情報科)

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: Webページ やWebアプリを作成するのに必要な知識や技術を、実際に体験することで学んでいく。
その際、オンライン学習環境であるPaizaラーニングを用いて、Web上で開発が行える技術を学ぶ。

到達目標: これまでのプログラミングに関する授業の内容をふまえて、HTMLやCSSなどWebデザインに必要な言語や仕組みを学ぶ。
与えられた課題を元に、自らインタラクティブなWebページを作成できるようになることが目標である。

各回の授業計画:

1. HTML/CSS入門編1: HTML/CSSを理解しよう
2. HTML/CSS入門編2: CSSの基礎を学ぼう
3. HTML/CSS入門編3: HTML要素を学ぼう
4. Webデザイン入門編1: 基本的なデザインルールを知ろう
5. Webデザイン入門編2: レイアウトパターンとビジュアルデザイン
Webデザイン入門編3: UI/UXの基礎
6. シェルコマンド入門
7. Web技術入門編01 :URIとHTTPを知ろう
8. Web技術入門編02 : HTMLを理解しよう
9. Web技術入門編03 :WebAPIを使ってみよう
10. Flask入門編1:PythonでWebアプリケーションを作ろう
11. Flask入門編2:Pythonでフォーム処理の基本を身に付けよう
12. Flask入門編3:Pythonでデータベースの基本を理解しよう
13. Flask入門編4:SQLAlchemyでデータベースを操作しよう
14. Flask入門編5:SQLAlchemyでメモ帳アプリを作ろう
15. 全体のまとめと課題の制作

特記事項: なし

授業方法: 第1〜4・6・7・9・10・12・13・15回 講義、演習
第5・8・11・14回 講義 ※オンライン(オンデマンド)
(ただし、年度ごとの授業設定日によっては、受講生と相談の上、オンラインでの講義日を変更する場合がある)

インターネット上での教材配布等を行い、対面授業による講義と課題作成、および質疑応答を中心とする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1〜15. 予習45分×15回 = 675分
1〜15. 授業内容の振り返り 45分×15回 = 675分
1〜15. 授業で配布される課題の検討 30分×15回 = 450分
1〜3. 授業に必要なPCなど機器のセットアップ 60分×3 =180分
2〜4. 大学での学習内容の復習 60分×3回 = 180分
5. 7. 9. 11. 13. 授業内で実施される確認テストの予習 30分×5回 = 150分
6. 8. 10. 12. 14. 確認テストの復習 30分×5回 = 150分
4. 6. 8. 10. 12. 14. 授業に必要なPCなど機器のメンテナンス 20分×6 =120分
15. 最終課題に関する学習 180分

評価方法:

授業へのとりくみ:	20 %	**確認テスト:**	30 %	**レポート:**	50 %
その他1:			%		
その他2:			%		

評価基準： 1. 確認テストなどを含めた授業内容
（60～69）分からない問題が多くても、自分で解決することができる。
（70～79）分からない問題は半分以下であり、自分で解決することが容易である。
（80～100）わからない問題は2割以下であり、他人に説明することができる。

2. レポート（制作課題）
（60～69）できない課題が6割以下であり、自学自習や、教員・受講者の補助により納得できる。
（70～79）できない課題が4割以下であり、自学自習に支障がない。
（80～100）できない課題が2割以下であり、他人の補助を行える能力がある。

課題へのフィードバック：

講義内、および、授業管理システム（Microsoft Teams）によるチャット等で、確認テストや制作課題等の評価・補助を行う。

教科書： Paizaラーニングのコンテンツを活用して学習を行う。
（登録は授業時に行うが、予め学習したい者は、大学のメールアドレスを利用してアカウントを作成しておくこと）
https://paiza.jp/

参考書： 適宜プリント等，教材を配布する。

授業・準備学習のアドバイス：

プログラミングI及びIIの受講者は、Paizaラーニングを利用してPythonによるプログラミングについて復習しておくこと。
Paizaラーニングのコンテンツで、興味があるものがあれば、自学自習することを薦める。
これまでの教科書・参考書も手元に置いて、予習・復習しておくこと。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: ネットワークと情報セキュリティ

クラス:

授業コード: DB70200001

担当者: 中尾 尊洋 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公立中学校教諭(情報担当)

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 情報システムやネットワークシステムを通じて提供される様々なサービスに存在する脆弱性やリスク、およびそれらに対応するための情報セキュリティ対策について理解する。

到達目標: 情報化社会において, 安全で快適な生活を送るための情報システムやネットワークシステムを安全にかつ効果的に活用し, 活動するための基本的知識の習得と対策方法の理解する。
主要なセキュリティに関する特徴を説明でき、それらの被害にあわないための対策や留意点について説明できる。

各回の授業計画:

1. PCの情報処理とネットワーク
2. ネットワークの全体像
3. 身近なネットワークの仕組み
4. インターネットの技術
5. Webの仕組み
6. ネットワークの保守・運用
7. 無線LANの技術
8. ネットワークセキュリティの考え方
9. セキュリティホールとサイバー攻撃
10. 電子メールのセキュリティ
11. コンピュータウィルス
12. セキュリティ対策 ～サイバー攻撃と対策～
13. 情報セキュリティの最新動向
14. 情報セキュリティマネジメント
15. まとめと振り返り

特記事項: なし

授業方法: 講義を踏まえつつ, ディスカッションやワークを通して理解を深める。
①, ②, ④, ⑥, ⑧, ⑩, ⑫, ⑮ 講義・演習(対面)
③, ⑤, ⑦, ⑨, ⑪, ⑬, ⑭講義(オンライン(オンデマンド))

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. PCの情報処理のしくみについて予習する(180分)
2. 情報ネットワークに関連する専門用語について事前学習する(180分)
3. LANの仕組みや通信技術について事前学習する(180分)
4. ネットワークの安定化や負荷の分散に関して事前学習する(180分)
5. Webのしくみや規格について事前学習する(180分)
6. ネットワークを構成する機器やしくみについて事前学習する(180分)
7. 無線LANの仕組みや規格について事前学習する(180分)
8. ネットワークセキュリティ, 暗号認証と電子証明に関する専門用語について事前学習する(180分)
9. セキュリティホールとサイバー攻撃に関する専門用語について事前学習する(180分)
10. 電子メールを利用したセキュリティリスクに関する専門用語について事前学習する(180分)
11. コンピュータウィルスの種類や内容に関して事前学習する(180分)
12. サイバー攻撃の具体的な事例について事前学習する(180分)
13. 情報セキュリティに関するニュースについて情報収集し, インシデントの原因について考察しておく(180分)
14. 情報セキュリティマネジメントに関する専門用語について事前学習する(180分)
15. これまでに学習した内容について理解を深め, 振り返りのディスカッションが円滑に進められるよう予習する(180分)

評価方法：	授業へのとりくみ：	80 %	確認テスト：	－ %	レポート：	20 %
	その他1：			%		
	その他2：			%		

評価基準： 優（80～100）
・ネットワークや通信の仕組みについて概ね理解できている。
・情報システムやネットワークシステムを安全に，かつ効果的に活用する手段について概ね理解できている。
・情報に関するリスクを守るためのセキュリティの考え方を理解し，様々な対策方法を例示することができる。
・授業内の演習に積極的に取り組み、自分なりの意見や課題意識を述べることができる。

良（70～79）
・ネットワークや通信の仕組みについて概ね理解できている。
・情報システムやネットワークシステムを安全に，かつ効果的に活用する手段について概ね理解できている。
・情報に関するリスクを守るためのセキュリティの考え方を理解し，様々な対策方法を説明することができる。
・授業内の演習に積極的に取り組み、自分なりの意見や課題意識を述べることができる。

可（60～69）
・ネットワークや通信の仕組みについて知識が得られている。
・情報システムやネットワークシステムを安全に，かつ効果的に活用する手段についての知識が得られている。
・情報に関するリスクを守るためのセキュリティの考え方や対策を例示できる。
・授業内の演習に取り組み、意見や課題意識を述べることができる。

課題へのフィードバック：
レポートに対して授業内またはTeamsにて個別にフィードバックする。

教科書： なし

参考書： 授業中に適宜資料を配布する。

授業・準備学習のアドバイス：
授業では，講義に加えてディスカッションを通じて知識を深める。専門用語などの知識は事前に予習をしておくこと。
対面授業では必ずPCを持参する。スマホ，ipad等のタブレット端末は不可。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: コンピューターグラフィックス

クラス:

授業コード: DB70300001

担当者: 鴨谷 真知子 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 近年、様々なメディアでコンピュータ・グラフィクス技術が駆使されている。
その処理方法や表現の基礎技術を学ぶとともに興味と理解を深める。

到達目標: 基礎技術と表現を習得するとともに演習課題を通して実際にCGを生成し、興味と理解を深めることを目標とする。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション受講上の諸注意使用するソフトの準備コンピューターグラフィックスの基礎
2. 画像編集ソフトの基本操作（1）
基本操作を学ぶ
3. 画像編集ソフトの基本操作（2）
シンプルな図形の描画方法
4. 画像編集ソフトの基本操作（3）
シンプルな図形を使ったロゴ作成
5. 画像編集ソフトの基本操作（4）
テキストの編集
6. 画像編集ソフトの基本操作（5）
テキストの編集とオブジェクトの配置
7. 画像編集課題作成（1）
オリジナル作品の作成
8. 画像編集課題作成（2）
オリジナル作品の作成、提出
9. 写真編集ソフトの基本操作（1）
基本操作を学ぶ
10. 写真編集ソフトの基本操作（2）
写真編集
11. 写真編集ソフトの基本操作（3）
写真加工
12. 写真編集ソフトの基本操作（4）
写真の合成
13. 写真編集課題作成
コラージュ作品の作成、提出
14. 最終課題作成（1）
オリジナル作品の作成
15. 最終課題作成（2）
オリジナル作品の作成、提出

特記事項: なし

授業方法: 講義と演習で構成。各セクションの最後にはオリジナル作品を作成する。

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 復習（120分）：オリエンテーションで説明があった内容について振り返り、今後の課題制作について考える
2. 復習（150分）：授業で学習した内容について振り返り、再度確認をする
3. 復習（150分）：授業で学習した内容について振り返り、再度確認をする
4. 復習（150分）：授業で学習した内容について振り返り、再度確認をする
5. 復習（150分）：授業で学習した内容について振り返り、再度確認をする
6. 復習（150分）：授業で学習した内容について振り返り、再度確認をする

7. 画像編集課題に関する学習(270分):授業時に指示された課題を作成
8. 画像編集課題に関する学習(270分):授業時に指示された課題を作成
9. 復習(150分):授業で学習した内容について振り返り、再度確認をする
10. 復習(150分):授業で学習した内容について振り返り、再度確認をする
11. 復習(150分):授業で学習した内容について振り返り、再度確認をする
12. 復習(150分):授業で学習した内容について振り返り、再度確認をする
13. 写真編集課題に関する学習(150分):授業時に指示された課題を作成
14. 最終課題に関する学習(270分):授業時に指示された課題を作成
15. 最終課題に関する学習(270分):授業時に指示された課題を作成

評価方法:

授業へのとりくみ:	40	**%**	**確認テスト:**	-	**%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	制作物			60	**%**		
その他2:					**%**		

評価基準:

1.「コンピューターグラフィックス」に関する応用的形式に興味を持つことができる
2.「コンピューターグラフィックス」に関する応用的課題に関して、一部を作成することができる
3.「コンピューターグラフィックス」に関する応用的課題に関して、自ら作成することができる

1.ができる(60～79)
1.2.ができる(80～89)
1.2.3.ができる(90～100)

課題へのフィードバック:

1. 各回の質問に対するフィードバック
2. オリジナル制作物に対するフィードバック

教科書: なし

参考書: 「できるクリエイターInkscape独習ナビ」インプレス
「できるクリエイターGimp2.10独習ナビ」インプレス

授業・準備学習のアドバイス:

授業では各自のPCに必要ソフトをインストールして使用するため、毎回PCの持参が必要。タブレットやスマホでの演習や課題作成はできません。
また、毎回ごとに完結する授業ではない(毎回の積み重ねが大切)ため、欠席はしないように。もし欠席した場合は、欠席時の授業内容を授業内で繰り返し行わないので各自で友達に聞いておくなど解決して、追いついておくこと。
毎回、その時間の制作物を提出してもらいます。
※使用ソフトは無料ソフトのinkscapeとGimpを予定しているが、環境により使用ソフトの変更があるかもわかりません。

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: デジタルと文化

クラス:

授業コード: DB70500001

担当者: 山口 智治 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 本講義は、「人と AI が文化をつくる時代」をテーマとします 。
人工知能（AI）の基本的な概念から最新の動向までを、文系の学生にも理解しやすく解説します 。
教育、文学、メディア、国際社会といった多様な文化領域で AI がどのように活用され、人間の表現、学習、コミュニケーションにどのような影響を及ぼしているのかを考察します 。
特別なプログラミング知識を必要としないツールを用い、AI と人間が協働して未来を創造する可能性を、実践的な体験を通して探求することを目的とします 。

到達目標: 知識・説明力：ディープラーニングや生成 AI といった人工知能（AI）の基本的な用語と考え方を理解し、その特徴や可能性を自分の言葉で説明できる。
調査・考察力： 文学、芸術、教育などの文化領域における AI の具体的な活用事例を調査・分析し、それが人間社会に与える影響について、根拠を示しながら論理的に考察できる。
実践・応用力：プログラミング不要の AI ツールを実際に操作して、短い文章や画像などを創作できる。また、その制作意図とプロセス、成果について発表できる。
対話・表現力：本科目での学びに基づき、「人と AI の共生」というテーマについて、多様な価値観を持つ他者と建設的に議論し、自身の見解を口頭または文章で明確に表現できる。

各回の授業計画:

1. ガイダンス、講師の研究事例の紹介
2. 「デジタルと文化」：デジタルの文化、文化に入り込むデジタル
3. 究極のデジタル？ AIの「今」：AIとAIでないもの、AIはどこから来てどこへ行く？
4. AI の基本：なぜ「認識」できる？「理解」できる？「予測」できる？
5. AIツールを使ってみる：プロンプト・エンジニアリングを始めよう
6. AIツールを使ってみる 2：自身のエントリシートを作成してみる
・AI の活用方法と注意点を理解し、自分用のチェックポイントを用意して文書や資料を作成する
7. AI がもたらす文化の変容①： ユーザインタフェースの革命の観点から AI を学ぶ
8. AI がもたらす文化の変容②：賢さを増してきたAIの仕組みとそれによってできるようになったことの広がり
9. AI がもたらす文化の変容①：AIと「創造」の可能性
10. 自分の「欲しい」をAIでつくる①
・自分がつくりたいものを決める
・他社の意見を聞いてアイディアを磨く
11. 自分の「欲しい」をAIでつくる②
・AIツールを使って、自分がつくりたいものを制作してみる
・他の人に意見を聞いて改善点を見つける
12. 自分の「欲しい」をAIでつくる③
・AIツールを使って、自分がつくりたいものを制作してみる
・ここまでのまとめ
13. 全体まとめ①
「人と AI が文化を作る時代」のディスカッション・発表
14. 全体まとめ②
「人と AI が文化を作る時代」のディスカッション・発表
15. 全体まとめ③
「人と AI が文化を作る時代」のディスカッション・発表

特記事項: −

授業方法: 対面：第1～15回
1. 講義
2. 講義

3. 講義、演習
4. 講義
5. 講義、演習
6. 講義、演習
7. 講義
8. 講義
9. 講義
10. 講義、演習
11. 講義、演習
12. 講義、演習
13. 講義、ディスカッション、発表
14. 講義、ディスカッション、発表
15. 講義、ディスカッション、発表

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

皆さんの主体的な参加を重視します。毎回の予習・復習は、授業での議論や制作活動をより豊かにするために不可欠です。
各回の予習内容については、前の回の授業中に説明します。
以下に示す時間はあくまで目安ですので、自分の理解度に合わせて調整してください。不明な点は、遠慮なく質問してください。
1. 講義内容復習(本科目の進め方の理解) 90分
2. 講義内容予習(日常的に利用しているデジタル技術のリストアップ)・復習 180分
3. 講義内容予習(自分とAIとの関わり、AIにもつイメージの整理)・復習 180分
4. 講義内容予習(AIやデジタル技術について自分が持つ疑問点の整理)・復習 180分
5. 講義内容予習(無料AIツールにどんなものがあるか調べる、使ってみる)・復習 210分
6. 講義内容予習(自分でエントリーシートを書く際に考慮するポイントを洗い出す、エントリーシートを下書きする)・復習 210分
7. 講義内容予習(身の回りのデジタル製品やサービス、アプリ等で「使いにくい」と感じる場面をリストアップする)・復習 120分
8. 講義内容予習(身の回りでAIが使われている場面(製品、サービス、アプリ等)を見つける/調べる)・復習 120分
9. 講義内容予習(前回までの授業内容も踏まえて、AIが創造性を持つ可能性や限界について自分なりに考察する)・復習 120分
10. 制作内容予習(前回までの授業内容も踏まえて、現在のAIツールを使って自分が実現したい製品やサービス、アプリ等を考えて資料化する)・復習 240分
11. 制作内容予習(第10回で聞いた他者の意見も参考に、実現したい製品やサービス、アプリのアイディアを見直して試作する)・復習 240分
12. 制作内容予習(第11回でも見つかった改善点について、試作品を改良して完成する)・復習 240分
13. 発表準備(AIがもたらす文化への影響に関する自身の意見、ならびに制作物の制作意図や実現した機能・性能、さらに必要な改良点、将来展望等を発表資料としてまとめる) 240分
14. 発表準備(AIがもたらす文化への影響に関する自身の意見、ならびに制作物の制作意図や実現した機能・性能、さらに必要な改良点、将来展望等を発表資料としてまとめる) 240分
15. 全体復習 90分

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	− **%**	**レポート:**	− **%**
その他1:	制作物発表・資料		70 **%**		
その他2:	−		**%**		

評価基準:

【望ましい到達度】
・授業への取り組み：要点や不明点を意識しつつ授業に取り組み、質問等を通じて理解を深めようとしており、デジタル技術/AIと文化の関わりについて複数の文化領域における具体例を挙げて客観的な説明に加えて自分の価値観も説明できる。
・「人と AI が文化をつくる時代」における未来の可能性と課題について、具体的な根拠に基づいた独自の視点で提言できる 。
・AIツールを応用し、自身のアイデアに基づいた制作物を完成させ、その制作意図や工夫した点を他者に分かりやすく説明できる 。
【標準的な到達度】
・授業への取り組み：授業内容に積極的な関心を持ち、適切に理解しており、デジタル技術/AIと文化の関わりについて複数の具体例を挙げて説明ができる。
・「人と AI が文化をつくる時代」における未来の可能性と課題について、具体的な根拠に基づいた客観的な視点で提言できる 。
・AIツールを応用し、自身のアイデアに基づいた制作物を完成させ、その制作意図や工夫した点を自分の言葉で説明できる 。
【最低限の到達度】
・授業への取り組み：授業内容に基本的な関心を持ち、理解しようとしており、デジタル技術/AIと文化の関わりについて1つ以上の具体例を挙げて説明できる。
・「人と AI が文化をつくる時代」というテーマのディスカッションに参加し、自分の意見を述べることができる 。
・教員の指示に従い、AIツールを基本的なレベルで操作でき、 何らかの制作物を完成させることができる。

課題へのフィードバック:

本講義における課題へのフィードバックは、学生一人ひとりの「AI との協働による創造的な探求」を支援することを目的とします。単なる評価に留まらず、次の学びや制作への意欲に繋がるような建設的なコメントを心がけます。
・演習および制作課題について
演習時間中には、講師が巡回し、AIツールの操作やアイデアの具体化について、随時口頭でアドバイスやフィードバックを行います 。
最終的に制作された作品に対しては、「なぜそれを作ろうと思ったか」という着想のユニークさ、AI との協働における工夫、そして今後の発展の可能性という観点から、個別に口頭や文章でフィードバックします。
・ディスカッション・発表について
最終回に行われるディスカッションおよび発表（第 13 回～第 15 回）では、講師からのフィードバックに加えて、学生同士が互いの発表内容について質疑応答やコメント交換を行う「相互フィードバック」の時間を重視します 。
発表に対しては、テーマである「人と AI が文化をつくる時代」への理解度、論理的な構成力、そして独自の視点や考察が示されているかを

評価し、今後の探求に繋がるようなコメントをします 。

教科書: なし

参考書: 適宜紹介する

授業・準備学習のアドバイス:

・授業内でパソコンを使用します。
・技術・市場の最新動向等の状況によって授業内容や授業方法(対面・オンライン・オンデマンド)を変更する場合があります。
【履修上の配慮】
プログラミングの知識や理系の素養は一切必要ありません。文学や文化、新しい表現に関心のある全ての学生を歓迎します。
【心構え】
・ AI が活用されているニュースに関心を持ち、「なぜそれが話題になるのか」、「どうしてそのようなことが可能なのか」、「その背景にある技術はどのような新しい仕組みで動いているのだろうか」という視点を、日頃から少し意識してみてください。
・受講前や後にも、無料の対話 AI や画像生成 AI を試すことを推奨します。実際に AI と協働する面白さや難しさの体験を繰り返すことで、最新の研究や技術がご自身の具体的な感覚と結びついて、より主体的に理解・活用できるようになります。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 臨床心理学概論

クラス:

授業コード: DC00100001

担当者: 西　恭平　　**単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:臨床心理士、公認心理師(スクールカウンセラー、診療所での臨床心理活動、療育園での発達相談員)

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: −　　**一般的包括的科目:** −

授業の目的: 臨床心理学は、個人や家族、集団、コミュニティまでを対象とし、心だけでなく対人関係や身体も扱う学問である。本講義では、臨床心理学を概観し、この学問領域の全体像を把握しながら基礎的な知識を得ることをねらいとする。また、①臨床心理学の成り立ちや対象、②心理的アセスメント、③心理学的支援という主に3つの視点から行う。

到達目標:
・臨床心理学の基本概念と理論について説明できる。
・心理的アセスメントと支援の基本的な枠組みを理解している。
・臨床心理学の視点から，主な心の問題や精神疾患について理解している

各回の授業計画:

1. オリエンテーション:臨床心理学とは
2. 臨床心理学の成り立ち、心の仕組み
3. 心理的アセスメント(1):心理アセスメントとは
4. 心理的アセスメント(2):目的と方法
5. 精神疾患および障害について(1):診断分類(DSM-5)
6. 精神疾患および障害について(2):統合失調症や気分症群など
7. 精神疾患および障害について(3):摂食症やPTSDなど
8. 精神疾患および障害について(4):発達障害(神経発達症)
9. 心理学的支援の理論(1):力動論に基づく心理療法
10. 心理学的支援の理論(2):行動論・認知論に基づく心理療法
11. 心理学的支援の理論(3):来談者中心療法
12. 問題への介入(1):社会，集団，家族
13. 問題への介入(2):災害時の支援
14. 問題への介入(3):心理的問題の予防
15. 全体のまとめとレポートの作成
臨床心理学の理論、アセスメント、支援方法についてまとめ、最終レポートの作成を行う。

特記事項: なし

授業方法: 第1～15回 講義(対面)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 予習(80分)・復習(100分)(臨床心理学の役割について)
2. 予習(80分)・復習(100分)(臨床心理学の成り立ちについて)
3. 予習(80分)・復習(100分)(心理アセスメントについて)
4. 予習(80分)・復習(100分)(アセスメントの目的と方法について)
5. 予習(80分)・復習(100分)(診断分類について)
6. 予習(80分)・復習(100分)(統合失調症などについて)
7. 予習(80分)・復習(100分)(摂食症などについて)
8. 予習(80分)・復習(100分)(発達障害について)
9. 予習(80分)・復習(100分)(力動論に基づく心理療法について)
10. 予習(80分)・復習(100分)(行動論・認知論に基づく心理療法について)
11. 予習(80分)・復習(100分)(来談者中心療法について)
12. 予習(80分)・復習(100分)(社会、集団、家族について)
13. 予習(80分)・復習(100分)(災害時の支援について)
14. 予習(80分)・復習(100分)(心理的問題の予防について)
15. 予習(80分)・復習(100分)(授業全体のまとめについて)

評価方法:	**授業へのとりくみ:**	30 **%**	**確認テスト:**	**%**	**レポート:**	40 **%**
	その他1:	小テスト		30 **%**		
	その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度:60~69点】
・ディスカッションに参加している。
・臨床心理学の基本的な知識について説明し、自分の考えを含めたレポートを書くことができる。
・各回の授業で学んだことに関して、学習内容をある程度理解している。

【望ましい到達度:80~100点】
・ディスカッションに積極的に参加し、自分の考えを述べることができる。
・臨床心理学の応用的な知識について説明し、自分の考えを含めたレポートを書くことができる。
・各回の授業で学んだことに関して、学習内容を十分に理解している。

課題へのフィードバック:

授業内やTeams上にて適宜フィードバックを行う。

教科書: なし。授業中にプリントを配布する。

参考書: 『 読んでわかる臨床心理学 』 伊東眞里・大島剛・金山健一・渡邉由己 共著 サイエンス社
『心とかかわる臨床心理』 川瀬正裕・松本真理子・松本英夫 共著 ナカニシヤ出版
その他、授業内で適宜紹介する。

授業・準備学習のアドバイス:

臨床心理学は、人の心を理解し支援するための学問です。学んだことは対人援助だけでなく、日常生活にも役立ちます。ぜひ主体的に取り組み、実りのある学びにしてもらえたらと思います。理解の定着と確認のために、各回にて小テストを行います。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 発達心理学概論

クラス:

授業コード: DC00200001

担当者: 権藤 眞織 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 子どもの発達および発達過程についての基本的な知見や理論を紹介し、人間の発達について理解する。

到達目標: 子どもの発達および発達過程に関する基本的な知見や理論について理解できるようにする。まずは、子どもの発達について関心をもち、発達心理学の研究成果などに接することにより、発達心理学を学ぶ上の基礎固めをしていく。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション:心理学ってなぁに？
2. 発達とは？
3. ヒトの進化と発達の諸相
4. 生涯発達心理学と主な発達理論
5. 胎児の発達の発達的特徴
6. 新生児の発達の発達的特徴
7. 乳児の発達的特徴と発達の諸相
8. 前半のまとめと発表
9. 幼児の発達的特徴と発達の諸相
10. 児童の発達的特徴と発達の諸相
11. 発達障害のある児童の発達的特徴と発達の諸相
12. 青年の発達的特徴と発達の諸相
13. 成人および高齢期の発達的特徴と発達の諸相
14. 後半のまとめと発表
15. 総合考察と解説

特記事項: なし

授業方法: できるだけグループで学び合い、調べ活動をしたり、意見交換しながら授業を進め、子どもの発達について具体的に理解できるようにする。授業ではワークシートを活用して学ぶ。

1. 講義とグループワーク(対面)
2. 講義(対面)
3. 講義(対面)
4. 講義(対面)
5. 講義(対面)
6. 講義(オンライン)
7. 講義(対面)
8. 発表(対面)
9. 講義(対面)
10. 講義(対面)
11. 講義(対面)
12. 講義(対面)
13. 講義(対面)
14. 発表(オンライン)
15. テストと講義(対面)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 発達する子どもたちへの考え方について復習(90分)と次週の下調べ(90分)
2. ヒトの進化と発達の諸相1(二足直立歩行がもたらした もの)について復習(90分)と次週の下調べ(90分)

3. ヒトの進化と発達の諸相2（子育てという営み）について復習（90分）と次週の下調べ（90分）
4. 生涯発達心理学と主な発達理論について復習（90分）と次週の下調べ（90分）
5. 胎児の発達について復習（90分）と次週の下調べ（90分）
6. 新生児について復習（90分）と次週の下調べ（90分）
7. 乳児について復習（90分）と次週の下調べ（90分）
8. 前半のまとめ学習（90分）と次週の下調べ（90分）
9. 幼児の社会性の発達について復習（90分）と次週の下調べ（90分）
10. 児童の発達について復習（90分）と次週の下調べ（90分）
11. 発達障害のある児童について復習（90分）と次週の下調べ（90分）
12. 青年の発達について復習（90分）と次週の下調べ（90分）
13. 成人および高齢期の発達について復習（90分）と次週の下調べ（90分 ）
14. 後半のまとめ学習（90分）と次週の下調べ（90分）
15. 今までの授業内容について復習（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	45	**%**	**確認テスト：**	55	**%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準：
80～100点：発達の各段階の様相について、心理学的知見を理解し、専門用語を定義し解説できる。
60～69点：発達の各段階の様相について、心理学的知見を理解している。

課題へのフィードバック：
毎回の授業で使用するワークシートへの記載内容について、授業時に振り返りや解説を行う。
授業や課題で提出・回答したFormsのデータは、クラスにシェアファイルとして配信する。
最終時間に試験の解説をする。

教科書：
なし
資料は、適宜授業内で配布・紹介する

参考書：
なし

授業・準備学習のアドバイス：
心理学という学問の面白さ、発達心理学の面白さを一緒に味えたらいいですね♪
あなたが興味のあることについても是非、調べてみて、クラスでシェアしたいと思います。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 感情・人格心理学

クラス:

授業コード: DC00300001

担当者: 椎野 智子 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:臨床心理士・公認心理師として複数の大学病院精神科や児童精神科、精神科クリニックにて臨床心理査定及び臨床心理面接を行う。

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 日常生活で「性格」や「パーソナリティ(人格)」という言葉はよく使われるが、「性格や人格とは何か」と聞かれると答えるのは難しい。そこで、この授業では、性格や人格の理論的な背景、形成過程、測定方法、不適応との関連など人格心理学の基礎を学び、「性格や人格とは何か」について心理学的に考えることを目的とする。また、各種の人格検査を用いて自己分析をする課題も取り入れる。
さらに、「怒りっぽい人」や「落ち込みやすい人」など、人格と感情は密接に関連している。感情とは何か、どのように生じ、どのような影響を与えるのかについても理解し、身近な人間関係について感情心理学的な観点から捉えられるようになることを目指す。

到達目標:
①感情に関する理論及び感情喚起の機序について概説できる。
②感情が行動に及ぼす影響について説明できる。
③動機づけが行動に及ぼす影響について説明できる。
④パーソナリティの理論と測定について概説できる。
⑤パーソナリティの由来について説明できる。
⑥パーソナリティと適応について説明できる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション:感情・人格心理学とは
2. 感情の定義と理論
3. 感情の生起
4. 感情と行動
5. 感情の失調と制御
6. パーソナリティの定義
7. パーソナリティの測定
8. 代表的なパーソナリティ理論
9. パーソナリティの形成
10. パーソナリティの病理
11. 自己と感情
12. 自己と認知
13. 自己とパーソナリティ
14. 自分らしく生きるために
15. まとめ及び確認テスト:感情とパーソナリティについて

特記事項: なし

授業方法: 講義形式を中心に、感情・人格心理学についての理解を深める。

1. 講義(対面)
2. 講義(対面)
3. 講義(対面)
4. 講義(対面)
5. 講義(対面)
6. 講義(対面)
7. 講義(対面)
8. 講義(対面)
9. 講義(対面)
10. 講義(対面)
11. 講義(対面)
12. 講義(対面)
13. 講義(対面)

14. 講義（対面）
15. 講義（対面）

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

講義の際に配布するプリントをもとに疑問点を整理し理解を深める。
1. 感情・人格心理学について整理し、理解を深める（180分）
2. 感情の定義と理論について整理し、理解を深める（180分）
3. 感情の生起について整理し、理解を深める（180分）
4. 感情と行動について整理し、理解を深める（180分）
5. 感情の失調と制御について整理し、理解を深める（180分）
6. パーソナリティの定義について整理し、理解を深める（180分）
7. パーソナリティの測定について整理し、理解を深める（180分）
8. 代表的なパーソナリティ理論について整理し、理解を深める（180分）
9. パーソナリティの形成について整理し、理解を深める（180分）
10. パーソナリティの病理について整理し、理解を深める（180分）
11. 自己と感情について整理し、理解を深める （180分）
12. 自己と認知について整理し、理解を深める （180分）
13. 自己とパーソナリティについて整理し、理解を深める（180分）
14. 自分らしく生きることについて整理し、理解を深める（180分）
15. 感情とパーソナリティについて整理し、理解を深める（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	10 **%**	**確認テスト：**	40 **%**	**レポート：**	50 **%**
その他1：			**%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

（最低限の到達度）（60～69点）
・授業全15回のうち、2/3以上に出席している。
・授業後に到達課題を提出している。
・配布資料に載っている知識を扱った問題に解答できる。
・自分の意見を述べながらレポートを書くことができる。

（望ましい到達度）（80～100点）
・到達課題の記述が適切である。
・配布資料に載っている知識を応用した問題に解答できる。
・根拠を明確にして自説を述べながらレポートを書くことができる。

課題へのフィードバック：

授業の最後に復習として到達課題を実施する。課題は次週の授業の冒頭でフィードバックし、解説する。

教科書： 教科書は使用しない。

参考書： 川畑直人他(監修) 感情・人格心理学「その人らしさ」をかたちづくるもの (公認心理師の基本を学ぶテキスト9), ミネルヴァ書房, 2020
その他、講義内容に応じて講義中に紹介する。

授業・準備学習のアドバイス：

自身や他者を知り、日々の生活に活かして欲しいと思います。積極的な授業参加を望みます。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 心理学実験・実習A

クラス: 心前

授業コード: DC00400001

担当者: 犬飼 朋恵、権藤 眞織、濱本 有希 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 本実習では，実際に心理学で用いられた実験手法を体験するとともに，それらの基本的な考え方を学ぶことを目的とする。また，得られた結果を報告書やレポートにまとめることを通して，成果を公表するための手順と技術を学ぶことを目的とする。

到達目標: 心理学の実験方法の基本的な考え方を習得し，報告書の体裁と書き方を身につける。

各回の授業計画:

1. クラス1と2合同 オリエンテーション（犬飼、権藤、濱本）
2. 実験1−1
クラス1_SD法1（実験の説明と実施） 犬飼
クラス2_両側性転移1（実験の説明と実施）権藤
3. 実験1−2
クラス1_SD法2（解説と結果のまとめ） 犬飼
クラス2_両側性転移2（解説と結果のまとめ）権藤
4. クラス1と2合同 実験レポートの書き方 犬飼・権藤
5. 実験1−3
クラス1_SD法3（レポート内容の説明と執筆） 犬飼
クラス2_両側性転移3（レポート内容の説明と執筆）権藤
6. 実験1−4
クラス1_SD法4（レポート内容の説明と執筆） 犬飼
クラス2_両側性転移4（レポート内容の説明と執筆）権藤
7. 実験2−1
クラス1_ストループ効果1（実験の説明と実施）濱本
クラス2_SD法1（実験の説明と実施） 犬飼
8. 実験2−2
クラス1_ストループ効果2（解説と結果のまとめ）濱本
クラス2_SD法2（解説と結果のまとめ） 犬飼
9. 実験2−3
クラス1_ストループ効果3（レポートの執筆）濱本
クラス2_SD法3（レポートの執筆） 犬飼
10. 実験2−4
クラス1_ストループ効果4（レポートの執筆）濱本
クラス2_SD法4（レポートの執筆） 犬飼
11. 実験3−1
クラス1_両側性転移1（実験の説明と実施）権藤
クラス2_ストループ効果1（実験の説明と実施）濱本
12. 実験3−2
クラス1_両側性転移2（解説と結果のまとめ）権藤
クラス2_ストループ効果2（解説と結果のまとめ）濱本
13. 実験3−3
クラス1_両側性転移3（レポート内容の説明）権藤
クラス2_ストループ効果3（レポート内容の説明）濱本
14. 実験3−4
クラス1_両側性転移4（レポートの執筆）権藤
クラス2_ストループ効果4（レポートの執筆）濱本
15. 実験の在り方、レポートの書き方についての振り返り 犬飼・権藤・濱本

特記事項: 授業は2つのクラスに分かれて行う場合と合同で行う場合がある。なお，状況に応じて実験の順番または内容を変更する場合がある。

授業方法：
1. 講義と実験【対面】
2. 講義とグループワーク【対面】
3. 講義とグループワーク【対面】
4. 講義とグループワーク【対面】
5. 講義とグループワーク【対面】
6. 実験とグループワーク【対面】
7. 講義とグループワーク【対面】
8. 講義とグループワーク【対面】
9. 講義とグループワーク【対面】
10. 講義とグループワーク【対面】
11. 実験とグループワーク【対面】
12. 講義とグループワーク【対面】
13. 講義とグループワーク【対面】
14. 講義とグループワーク【対面】
15. 講義とグループワーク【オンライン】

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. 心理学における実験の重要性について理解する（180分）
2. SD法もしくは両側性転移について、実験方法や意味を理解する（180分）
3. SD法もしくは両側性転移について、実験結果を理解する（180分）
4. 心理学の実験レポートの書き方を調べる（180分）
5. SD法もしくは両側性転移について実験結果をレポートにまとめる（180分）
6. ストループ効果もしくはSD法について、実験方法や意味を理解する（180分）
7. ストループ効果もしくはSD法について、実験結果を理解する（180分）
8. ストループ効果もしくはSD法について、実験方法や意味を理解する（180分）
9. ストループ効果もしくはSD法について、実験結果をレポートにまとめる（180分）
10. レポートの書き方の確認（180分）
11. 両側性転移もしくはストループ効果について、実験方法や意味を理解する（180分）
12. 両側性転移もしくはストループ効果について、実験結果を理解する（180分）
13. 両側性転移もしくはストループ効果について、実験方法や意味を理解する（180分）
14. 両側性転移もしくはストループ効果について、実験結果をレポートにまとめる（180分）
15. 心理学実験実習の振り返り（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	40	**%**	**確認テスト：**	－	**%**	**レポート：**	60 **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準：
60～69点 問題、方法、結果、考察と心理学のレポートに必要な内容を適切にまとめられている
80～100点 心理学に必要な内容を適切にまとめらえたうえで、自分なりの考えを述べられている

課題へのフィードバック：

実験ごとにレポート課題を課すが、内容の可否について授業内でフィードバックを行います。

教科書： 適宜紹介する。

参考書： 適宜紹介する。

授業・準備学習のアドバイス：

この実習は卒業研究の基礎となる内容です。詳しい内容はオリエンテーションで紹介します。
また，レポートの提出は原則として関連する授業に全て出席した者に限ります。
パソコンを講義内で使用することがあります。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 心理学実験・実習A

クラス: 心後

授業コード: DC00400002

担当者: 犬飼 朋恵、権藤 眞織、濱本 有希 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 本実習では，実際に心理学で用いられた実験手法を体験するとともに，それらの基本的な考え方を学ぶことを目的とする。また，得られた結果を報告書やレポートにまとめることを通して，成果を公表するための手順と技術を学ぶことを目的とする。

到達目標: 心理学の実験方法の基本的な考え方を習得し，報告書の体裁と書き方を身につける。

各回の授業計画:

1. クラス1と2合同 オリエンテーション（犬飼、権藤、濱本）
2. 実験1−1
クラス1_SD法1（実験の説明と実施） 犬飼
クラス2_両側性転移1（実験の説明と実施）権藤
3. 実験1−2
クラス1_SD法2（解説と結果のまとめ） 犬飼
クラス2_両側性転移2（解説と結果のまとめ）権藤
4. クラス1と2合同 実験レポートの書き方 犬飼・権藤
5. 実験1−3
クラス1_SD法3（レポート内容の説明と執筆） 犬飼
クラス2_両側性転移3（レポート内容の説明と執筆）権藤
6. 実験1−4
クラス1_SD法4（レポート内容の説明と執筆） 犬飼
クラス2_両側性転移4（レポート内容の説明と執筆）権藤
7. 実験2−1
クラス1_ストループ効果1（実験の説明と実施）濱本
クラス2_SD法1（実験の説明と実施） 犬飼
8. 実験2−2
クラス1_ストループ効果2（解説と結果のまとめ）濱本
クラス2_SD法2（解説と結果のまとめ） 犬飼
9. 実験2−3
クラス1_ストループ効果3（レポートの執筆）濱本
クラス2_SD法3（レポートの執筆） 犬飼
10. 実験2−4
クラス1_ストループ効果4（レポートの執筆）濱本
クラス2_SD法4（レポートの執筆） 犬飼
11. 実験3−1
クラス1_両側性転移1（実験の説明と実施）権藤
クラス2_ストループ効果1（実験の説明と実施）濱本
12. 実験3−2
クラス1_両側性転移2（解説と結果のまとめ）権藤
クラス2_ストループ効果2（解説と結果のまとめ）濱本
13. 実験3−3
クラス1_両側性転移3（レポート内容の説明）権藤
クラス2_ストループ効果3（レポート内容の説明）濱本
14. 実験3−4
クラス1_両側性転移4（レポートの執筆）権藤
クラス2_ストループ効果4（レポートの執筆）濱本
15. 実験の在り方、レポートの書き方についての振り返り 犬飼・権藤・濱本

特記事項: 授業は2つのクラスに分かれて行う場合と合同で行う場合がある。なお，状況に応じて実験の順番または内容を変更する場合がある。

授業方法：
1. 講義と実験【対面】
2. 講義とグループワーク【対面】
3. 講義とグループワーク【対面】
4. 講義とグループワーク【対面】
5. 講義とグループワーク【対面】
6. 実験とグループワーク【対面】
7. 講義とグループワーク【対面】
8. 講義とグループワーク【対面】
9. 講義とグループワーク【対面】
10. 講義とグループワーク【対面】
11. 実験とグループワーク【対面】
12. 講義とグループワーク【対面】
13. 講義とグループワーク【対面】
14. 講義とグループワーク【対面】
15. 講義とグループワーク【オンライン】

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. 心理学における実験の重要性について理解する（180分）
2. SD法もしくは両側性転移について、実験方法や意味を理解する（180分）
3. SD法もしくは両側性転移について、実験結果を理解する（180分）
4. 心理学の実験レポートの書き方を調べる（180分）
5. SD法もしくは両側性転移について実験結果をレポートにまとめる（180分）
6. ストループ効果もしくはSD法について、実験方法や意味を理解する（180分）
7. ストループ効果もしくはSD法について、実験結果を理解する（180分）
8. ストループ効果もしくはSD法について、実験方法や意味を理解する（180分）
9. ストループ効果もしくはSD法について、実験結果をレポートにまとめる（180分）
10. レポートの書き方の確認（180分）
11. 両側性転移もしくはストループ効果について、実験方法や意味を理解する（180分）
12. 両側性転移もしくはストループ効果について、実験結果を理解する（180分）
13. 両側性転移もしくはストループ効果について、実験方法や意味を理解する（180分）
14. 両側性転移もしくはストループ効果について、実験結果をレポートにまとめる（180分）
15. 心理学実験実習の振り返り（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	40	**%**	**確認テスト：**	－	**%**	**レポート：**	60 **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準：
60～69点 問題、方法、結果、考察と心理学のレポートに必要な内容を適切にまとめられている
80～100点 心理学に必要な内容を適切にまとめらえたうえで、自分なりの考えを述べられている

課題へのフィードバック：

実験ごとにレポート課題を課すが、内容の可否について授業内でフィードバックを行います。

教科書： 適宜紹介する。

参考書： 適宜紹介する。

授業・準備学習のアドバイス：

この実習は卒業研究の基礎となる内容です。詳しい内容はオリエンテーションで紹介します。
また，レポートの提出は原則として関連する授業に全て出席した者に限ります。
パソコンを講義内で使用することがあります。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 心理学実験・実習B

クラス:

授業コード: DC00500001

担当者: 犬飼 朋恵、濱本 有希、木原 陽子 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 「心理学実験・実習A」で学んだことを踏まえて授業を行う。本実習では，実際に心理学で用いられた実験手法を体験するとともに，それらの基本的な考え方を学ぶことを目的とする。また，得られた結果を報告書やレポートにまとめることを通して，成果を公表するための手順と技術を学ぶことを目的とする。

到達目標: 心理学の実験方法の基本的な考え方を習得し，報告書の体裁と書き方を身につける。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション合同(担当:犬飼・木原・濱本)
2. 実験1-1
クラス1(担当:犬飼):一対比較法1(実験の説明と実施)
クラス2(担当:木原):パーソナルスペース1(実験の説明と実施)
3. 実験1-2
クラス1(担当:犬飼):一対比較法2 (解説と結果のまとめ)
クラス2(担当:木原):パーソナルスペース2(解説と結果のまとめ)
4. 実験1-3
クラス1(担当:犬飼):一対比較法3 (レポート内容の説明)
クラス2(担当:木原):パーソナルスペース3(レポート内容の説明)
5. 実験1-4
クラス1(担当:犬飼):一対比較法4 (レポート内容の説明)
クラス2(担当:木原):パーソナルスペース4(レポート内容の説明)
6. 実験2-1
クラス1(担当:木原):パーソナルスペース1 (実験の説明と実施)
クラス2(担当:濱本):ポリグラフ検査 (実験の説明と実施)
7. 実験2-2
クラス1(担当:木原):パーソナルスペース2 (実験の目的，背景の解説)
クラス2(担当:濱本):ポリグラフ検査 (実験の目的，背景の解説)
8. 実験2-3
クラス1(担当:木原):パーソナルスペース3 (実験の目的，背景の解説)
クラス2(担当:濱本):ポリグラフ検査 (実験の目的，背景の解説)
9. 実験2-4
クラス1(担当:木原):パーソナルスペース4 (実験の目的，背景の解説)
クラス2(担当:濱本):ポリグラフ検査 (実験の目的，背景の解説)
10. 実験3-1
クラス1(担当:濱本):ポリグラフ検査(実験の説明と実施)
クラス2(担当:犬飼):一対比較法1(実験の説明と実施)
11. 実験3-2
クラス1(担当:濱本):ポリグラフ検査 (実験の目的，背景の解説)
クラス2(担当:犬飼):一対比較法2(実験の目的，背景の解説)
12. 実験3-3
クラス1(担当:濱本):ポリグラフ検査(結果の分析，解釈)
クラス2(担当:犬飼):一対比較法3(結果の分析，解釈)
13. 実験3-4
クラス1(担当:濱本):ポリグラフ検査(レポート内容の説明)
クラス2(担当:犬飼):一対比較法4(レポート内容の説明)
14. 合同クラス(担当:犬飼):心理学における実験方法についての確認と復習
15. 合同クラス(担当・犬飼):これまでの実験のふりかえりと講評

特記事項: 授業は2つのクラスに分かれて行う場合と合同で行う場合がある。なお，状況に応じて実験の順番または内容を変更する場合がある

授業方法:
1. 講義【対面】
2. 実験とグループワーク【対面】
3. 講義とグループワーク【対面】
4. 実験とグループワーク【対面】
5. 実験とグループワーク【対面】
6. 実験とグループワーク【対面】
7. 実験とグループワーク【対面】
8. 実験とグループワーク【対面】
9. 実験とグループワーク【対面】
10. 実験とグループワーク【対面】
11. 実験とグループワーク【対面】
12. 実験とグループワーク【対面】
13. 実験とグループワーク【対面】
14. 講義【オンライン】
15. 講義【オンライン】

予習・復習・宿題など（内容・時間）:
1. 心理学実験・実習A（前期）の内容を振り返る（180分）
2. 一対比較法かパーソナルスペースについて、先行研究を調べ、理解する（180分）
3. 一対比較法かパーソナルスペースについて、実験の方法や結果をまとめて、理解する（180分）
4. 一対比較法かパーソナルスペースについて、実験結果を考察しレポートにまとめる（180分）
5. 一対比較法かパーソナルスペースについて、今回の実験の問題点や今後の課題を考える（180分）
6. パーソナルスペースかポリグラフ検査について、先行研究を調べ、理解する（180分）
7. パーソナルスペースかポリグラフ検査について、実験の方法や結果をまとめて、理解する（180分）
8. パーソナルスペースかポリグラフ検査について、実験結果を考察しレポートにまとめる（180分）
9. パーソナルスペースかポリグラフ検査について、今回の実験の問題点や今後の課題を考える（180分）
10. 一対比較法かポリグラフ検査について、先行研究を調べ、理解する（180分）
11. 一対比較法かポリグラフ検査について、実験の方法や結果をまとめて、理解する（180分）
12. 一対比較法かポリグラフ検査について、実験結果を考察しレポートにまとめる（180分）
13. 一対比較法かポリグラフ検査について、今回の実験の問題点や今後の課題を考える（180分）
14. 心理学における実験方法についての確認と復習
15. これまでの実験実習のふりかえりと講評

評価方法:

授業へのとりくみ:	40	**%**	**確認テスト:**	－	**%**	**レポート:**	60 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準:
60～69点 問題、方法、結果、考察と心理学のレポートに必要な内容を適切にまとめられている
80～100点 心理学に必要な内容を適切にまとめらえたうえで、自分なりの考えを述べられている

課題へのフィードバック:
実験ごとにレポート課題を課すが、内容の可否について授業内でフィードバックを行う。

教科書: 適宜紹介する。

参考書: 適宜紹介する。

授業・準備学習のアドバイス:
この実習は卒業研究の基礎となる内容です。詳しい内容はオリエンテーションで紹介します。
また，レポートの提出は原則として関連する講義に全て出席した者に限ります。
パソコンを講義内で使用することがあります。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 学習・言語心理学

クラス: ★

授業コード: DC00600001

担当者: 吉野 俊彦 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:精神科・心療内科クリニックでのカウンセラー、精神保健福祉センターのデイケアでのグループワーカー

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 人間の行動のルーツを考えたとき，その多くが学習過程に依存していることに気づく。人間が主体的に環境，とりわけ周囲の人間との関わりの中で様々な行動を獲得し，抑制している過程を説明するためには2つの条件づけを理解することが必須である。本講義では，そうした行動の変容過程と言語の獲得機序について論じる。

到達目標:
1. 人間の行動変容過程（学習）の基礎過程である2つの条件づけを理解する。
2. 言語の獲得過程の機序について理解する。
3. 一人ひとりの日常的な行動を行動分析学の視点から見つめられるようになる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション: 学習とは何か
2. 行動とは何か: 行動の4つのなぜ
3. パヴロフ型条件づけ1 興奮性条件づけ
4. パヴロフ型条件づけ2 抑制性条件づけ
5. 小テスト1，オペラント条件づけ1 随意的行動の生起頻度の変化
6. オペラント条件づけ2 強化
7. オペラント条件づけ3 行動随伴性と強化子
8. オペラント条件づけ4 消去
9. オペラント条件づけ5 刺激性制御
10. オペラント条件づけ6 阻止の随伴性・強化スケジュール
11. 小テスト2，言語行動1 言語行動の獲得と維持
12. 言語行動2 ルール・迷信・ルール支配行動
13. 応用行動分析1 行動形成
14. 応用行動分析2 困った行動を減らす・望ましい行動を増やす
15. 小テスト3 まとめ

特記事項: 小テストの実施については，対面で実施することがある。

授業方法: 講義とテキストを使用したワーク（プログラム学習）および学生同士のディスカッション。
初回オリエンテーション，最終回を除いて，原則としてオンデマンドで進める。

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 学習過程について学んだこと、共通教育で学んだ内容の確認（180分）
2. 宿題に関連する参考書での学習(90分）および行動についての復習（90分）
3. 計画に示された内容についての教科書を用いた予習（90分）および配付資料を用いた復習（90分）
4. 小テストの準備（90分）および配付資料を用いた復習（90分）
5. 宿題に関連する参考書での学習(90分）および配付資料を用いた復習（90分）
6. 宿題に関連する参考書での学習(90分）および小テストの準備(90分）
7. 宿題に関連する参考書での学習(90分）および配付資料を用いた復習（90分）
8. 小テストの準備(90分）および配付資料を用いた復習（90分）
9. 宿題に関連する参考書での学習(90分）および配付資料を用いた復習（90分）
10. 小テストの準備（90分）および配付資料を用いた復習（90分）
11. 宿題に関連する参考書での学習(90分）および配付資料を用いた復習（90分）
12. 宿題に関連する参考書での学習(90分）および配付資料を用いた復習（90分）
13. 宿題に関連する参考書での学習(90分）および配付資料を用いた復習（90分）
14. 小テストの準備(90分）および配付資料を用いた復習（90分）
15. 配付資料を用いた復習（180分）

評価方法：	授業へのとりくみ：	20 %	確認テスト：	80 %	レポート：	－ %
	その他1：			%		
	その他2：			%		

評価基準： 授業への取り組みについては、振り返りシートにその時間で扱われた重要事項が記述されている場合に1、記述がない場合は0、その中間を0.5として評価し、その合計点を25点に換算する。
小テストでは、専門用語の定義の理解と、用語や概念がどのような行動を指しているかについて日常例を挙げることを問う。
両者の合計を100点満点して評価点とする。

課題へのフィードバック：

毎回の授業での学習記録を必要に応じてコメントを添えて返却する。また、小テストは実施の翌週に返却し，各自の理解の程度を把握できるようにする。

教科書： 吉野智富美・吉野俊彦 (2016). 行動分析学ワークブック 学苑社

参考書： 伊藤正人 (2005). 行動と学習の心理学-日常生活を理解する 昭和堂
実森正子・中島定彦 (2000). 学習の心理-行動のメカニズムを探る サイエンス社
小野浩一 (2005). 行動の基礎-豊かな人間理解のために 培風館

授業・準備学習のアドバイス：

行動分析学は，一つ一つの内容を積み重ねて理解することが重要である。復習のポイントをまとめたプリントを参考にして，用語を意味的に理解するようにしてほしい。卒業論文や修士論文，また実験実習などのための実験や調査に協力することで，評価点を加点することがある。
また，行動分析学の知見を用いて実際に活動している臨床心理士を招いて講義を依頼する場合がある。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 社会・集団・家族心理学

クラス:

授業コード: DC00700001

担当者: 辻川 典文 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 人間は「社会的動物」であるといわれている。それは、人間が生きるためには社会や他者の存在が必要不可欠だからである。人間の行動や心の働きと、社会や他者とがどのように関連しているかについて理解を深めることを目的とする。①対人関係並びに集団における人の意識及び行動についての過程、②人の態度及び行動、③家族、集団及び文化が個人に及ぼす影響について理解することを目的とする。

到達目標: 私たちの行動が、他者や社会からどのような影響を受けているかを理解できるようになること。また、対人関係などの身近なテーマについて心理学的観点から考えられるようになること。

各回の授業計画:

1. イントロダクション
2. 印象形成のメカニズム
3. ステレオタイプと偏見(1)事例を用いた検討
4. ステレオタイプと偏見(2)メカニズムについて
5. 社会的推論
6. 自尊感情と動機づけ
7. 態度の形成と一貫性
8. 説得
9. 対人魅力
10. 対人関係の成立と発展・崩壊、非言語コミュニケーション
11. 援助と攻撃行動
12. 集団の中での人間関係
13. 家族からの影響
14. 文化からの影響
15. 社会からの影響のまとめと確認

特記事項: なし

授業方法: 授業は、対面で実施します

1. 講義
2. 講義とグループワーク
3. 講義
4. 講義とグループワーク
5. 講義とグループワーク
6. 講義
7. 講義とグループワーク
8. 講義とグループワーク
9. 講義
10. 講義とワーク
11. 講義とワーク
12. 講義とグループワーク
13. 講義とグループワーク
14. 講義とグループワーク
15. 講義とワーク

予習・復習・宿題など(内容・時間):

授業の資料をもとに以下の内容について学習してくる

1. 社会心理学のトピックを理解する(90分)
2. 印象形成の特徴(180分)

3. ステレオタイプと偏見(180分)
4. ステレオタイプの発生と解消(180分)
5. 推論と原因帰属(180分)
6. 自尊感情の役割(180分)
7. 認知的一貫性(180分)
8. 態度変化(180分)
9. 対人魅力(180分)
10. 対人関係の形成・維持・崩壊、非言語コミュニケーション(180分)
11. 攻撃行動と援助行動(180分)
12. 同調と服従(180分)
13. 家族の在り方が人の心理に及ぼす影響(180分)
14. 文化が行動に及ぼす影響(180分)
15. レポート課題(270分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	10	**%**	**確認テスト:**	70	**%**	**レポート:**	20 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準:
60～69点:人間関係における基礎的な心理を理解している
80～100点:上記の内容に加えて、授業内でのワークに積極的に取り組み、授業の内容と自身の体験を関連付けて理解できている

課題へのフィードバック:
授業期間内に複数回の小テストを実施し、どの程度理解できているかについて確認を行う。結果のフィードバックは翌週以降の授業で行う。

教科書: なし。適宜プリントの配布を行います。

参考書: 辻川・阿部・神原・田端(2020)読んでわかる社会心理学 サイエンス社

授業・準備学習のアドバイス:
日常生活を社会心理学の理論から考えると、さまざまな新しい発見があると思います。楽しんで受講してください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 心理学研究法Ⅰ

クラス:

授業コード: DC00800001

担当者: 水谷 聡秀 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 心理学の研究法を学ぶことによって、心や行動に関する現象を科学的視点から理解できるようになる。現代の心理学は科学的アプローチに基づいており、さまざまな研究法が存在する。そのため、この授業では研究の基本的な枠組みから実証的な研究手法に至るまで、心理学の研究法に関する幅広い知識と技術を習得することを目的とする。

到達目標:
1. 心理学の科学的な考え方を知る。
2. 心理学の様々な研究手法の基礎を把握する。
3. 心理学の実証研究に関わる書籍や論文を読める素養を身につける。

各回の授業計画:

1. 心理学研究とは
2. 質問紙法の基礎1(設計)
3. 質問紙法の基礎2(抽出と実施)
4. 質問紙法の実際
5. 実験法の基礎1(独立変数、従属変数)
6. 実験法の基礎2(剰余変数)
7. 実験法の基礎3(要因計画)と実際
8. 観察法
9. 面接法
10. 検査法
11. 社会測定法(ソシオメトリー)
12. 潜在連合テスト(IAT)
13. 研究の設計と管理
14. 論文・レポートの書き方と研究倫理
15. まとめと確認テスト

特記事項: 学生の理解度を踏まえて「質問紙法の実際」と「実験法の実際」に関しては基礎を解説する授業で含める場合がある。

授業方法: すべての授業を対面授業で行う。
原則的に講義形式で進める。調査、実験、あるいは検査等の体験をしてもらうことがある。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 予習:心理学の基礎的な知識を把握する(50分)、復習:配布資料を読み返し、授業ノートを整理する(130分)
2. 予習:質問紙法の基礎に関する配布資料や参考書を読む(50分)、復習:配布資料を読み返し、授業ノートを整理する(130分)
3. 予習:質問紙法の基礎に関する配布資料や参考書を読む(50分)、復習:配布資料を読み返し、授業ノートを整理する(130分)
4. 予習:質問紙法の基礎を理解する(50分)、復習:配布資料を読み返し、授業ノートを整理する(130分)
5. 予習:実験法の基礎に関する配布資料や参考書を読む(50分)、復習:配布資料を読み返し、授業ノートを整理する(130分)
6. 予習:実験法の基礎に関する配布資料や参考書を読む(50分)、復習:配布資料を読み返し、授業ノートを整理する(130分)
7. 予習:実験法の基礎を理解する(50分)、復習:配布資料を読み返し、授業ノートを整理する(130分)
8. 予習:観察法に関する配布資料や参考書を読む(50分)、復習:配布資料を読み返し、授業ノートを整理する(130分)
9. 予習:面接法に関する配布資料や参考書を読む(50分)、復習:配布資料を読み返し、授業ノートを整理する(130分)
10. 予習:検査法に関する配布資料や参考書を読む(50分)、復習:配布資料を読み返し、授業ノートを整理する(130分)
11. 予習:社会測定法に関する配布資料や参考書を読む(50分)、復習:配布資料を読み返し、授業ノートを整理する(130分)
12. 予習:潜在連合テストに関する配布資料や参考書を読む(50分)、復習:配布資料を読み返し、授業ノートを整理する(130分)
13. 予習:研究の設計と管理に関する配布資料や参考書を読む(50分)、復習:配布資料を読み返し、授業ノートを整理する(130分)
14. 予習:論文・レポートの書き方と研究倫理に関する配布資料や参考書を読む(50分)、復習:配布資料を読み返し、授業ノートを整理する(130分)
15. 予習:これまでの内容を復習して確認テストの準備をする(50分)、復習:全ての配布資料を読み返し、授業ノートを整理する(130分)

評価方法：	授業へのとりくみ：	50 %	確認テスト：	50 %	レポート：	－ %
	その他1：			%		
	その他2：			%		

評価基準： 80～100点 心理学の科学的な考え方、かつ研究手法を理解している。
60～69点 心理学の科学的な考え方、あるいは研究手法を一定水準理解している。

課題へのフィードバック：

授業内のミニッツペーパーについて、全体的にあるいは一部を取り上げて講評する。

教科書： 使用しない

参考書： 高野 陽太郎・岡 隆 (2017). 心理学研究法―心を見つめる科学のまなざし 補訂版 有斐閣
高橋 順一・渡辺 文夫・大渕 憲一 (2011). 人間科学研究法ハンドブック 第2版 ナカニシヤ出版

授業・準備学習のアドバイス：

心理学に関する書籍や論文を読むとき、研究法を理解していないと、どのような根拠により知見が見出されたか把握できないです。そのため、心理学を深く理解するためにも研究法を学ぶことが重要です。ただし、心理学研究法は日常の出来事とは距離があるため、心理学入門よりも難しい内容だと思われます。普段から心理学の書籍を読んで、どのように研究しているのか考えておくとよいでしょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 心理学的支援法

クラス:

授業コード: DC00900001

担当者: 古川 心 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公認心理師・臨床心理士(大学院附属相談室の心理士、スクールカウンセラー、発達相談員)

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 心理学的支援が求められる場面は、教育・医療・福祉、あるいは司法や産業など幅広く、多様である。各分野で必要とされる知識や技法等に違いはあるものの、心の専門家としての基本的な視点が存在し、それを身につけることは重要である。
本授業では、代表的な心理療法やカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界を学習する。あわせて、心理学的支援を行う上で大切となること(訪問による支援や地域支援の意義、良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法、プライバシーへの配慮、支援を要する者の関係者への支援、心の健康教育)について学ぶことを目的とする。

到達目標:
1. 心理学的支援の目的と基本的な考え方を理解し、説明できる。
2. 代表的な心理学的支援法の特徴を理解し、概要を説明できる。
3. 心理学的支援の多様な形態について理解し、説明できる。
4. 心理学的支援におけるコミュニケーションの重要性や、関係者への支援、倫理・プライバシーへの配慮の必要性を理解し、説明できる。
5. 心の健康教育や予防的支援の意義を理解し、心理職が社会や地域の中で果たす役割について考えることができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
心理学的支援とは何か本科目で学ぶ「支援の考え方」

2. 精神分析療法・力動的心理療法自由連想法 作業同盟の形成 直面化・明確化 抵抗や転移の解釈 徹底操作臨床事例を通した理解と支援方法

3. パーソンセンタード・アプローチ非指示的応答無条件の肯定的関心 共感的理解 純粋さ(自己一致) 臨床事例を通した理解と支援方法

4. カウンセリング成長・開発支援 生涯発達支援 キャリア発達支援 ウェルネス増進支援 エンカウンター・グループ臨床事例を通した理解と支援方法

5. 行動療法・認知療法・認知行動療法強化・消去 トークンシステム ペアレント・トレーニング認知の歪みの修正 自動思考・スキーマへの介入 認知の再体制化臨床事例を通した理解と支援方法

6. ストレスと心の健康への支援法予防教育 セルフモニタリング ポジティブ心理学的アプローチ臨床事例を通した理解と支援方法

7. コミュニケーション良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法臨床事例を通した理解と支援方法

8. 家族療法
二重拘束的コミュニケーション個人と家族の関係親子支援・システムの視点臨床事例を通した理解と支援方法

9. 集団療法・グループカウンセリング集団精神療法 アサーション・トレーニングソーシャルスキル・トレーニング臨床事例を通した理解と支援方法

10. 芸術療法絵画療法 プレイセラピー 箱庭療法 音楽療法臨床事例を通した理解と支援方法

11. 関係者への支援コンサルテーション チーム支援 心理教育臨床事例を通した理解と支援方法

12. プライバシーへの配慮個人情報・要配慮個人情報 個人情報保護 倫理的配慮守秘義務 情報開示

13. 訪問による支援・地域支援・コミュニティアプローチ
家庭・地域への支援環境と心理学的支援アウトリーチ多職種連携

14. 心の健康教育
予防的支援心理教育ストレスチェック ハラスメント対応 ストレス-コーピング

15. まとめと最終レポート
心理学的支援の全体像各理論・支援法の整理今後の学びへの接続

特記事項: 個人表現に関する記録法や利用法について実践的に学習するので、個人情報の取り扱いは倫理的配慮をもって行うこと。
なお、授業の内容は、受講者の理解や興味・関心に合わせて、変更することがある。

授業方法: 本授業は、講義を中心に、事例紹介やディスカッションを取り入れて進める。
対面授業では、心理学的支援の基本的な考え方や各支援法の特徴について解説するとともに、支援場面を想定した具体例を用いながら理解を深める。
オンライン(オンデマンド)授業では、心理学的支援法の理論的背景や概念、支援の意義や限界、地域・訪問による支援、心の健康教育など、整理的理解が求められる内容を扱う。動画教材や配布資料を用い、学生が自分のペースで学修できるようにする。
授業全体を通して、心理学的支援が個人だけでなく、家族、集団、地域社会との関係の中で行われることを意識し、心理職として求められる基本的視点や姿勢について理解を深める。

1. オンライン授業（オンデマンド）
2. 講義（対面）
3. 講義（対面）
4. 講義（対面）
5. 講義（対面）
6. オンライン授業（オンデマンド）
7. 講義（対面）
8. 講義（対面）
9. オンライン授業（オンデマンド）
10. 講義（対面）
11. 講義（対面）
12. 講義（対面）
13. オンライン授業（オンデマンド）
14. 講義（対面）
15. オンライン授業（オンデマンド）

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. 心理学的支援の役割と意義について整理し、理解を深める（180分）
2. 精神力動的心理療法について整理し、理解を深める（180分
3. パーソンセンタード・アプローチについて整理し、理解を深める（180分）
4. カウンセリングについて整理し、理解を深める（180分）
5. 行動療法・認知療法・認知行動療法について整理し、理解を深める（180分）
6. 日常生活におけるストレス要因やストレス反応について、自身の経験を振り返り、心の健康について理解を深める（180分）
7. 心理学的支援におけるコミュニケーションの重要性について整理し、理解を深める（180分）
8. 家族療法について整理し、理解を深める（180分）
9. 集団療法・グループカウンセリングについて整理し、理解を深める（180分）
10. 芸術療法について整理し、理解を深める（180分）
11. 関係者への支援の重要性について整理し、理解を深める（180分）
12. 心理学的支援における倫理的配慮の重要性について整理し、理解を深める（180分）
13. 環境を含めた支援の視点やコミュニティアプローチの意義について整理し、理解を深める（180分）
14. 心理教育が学校や地域で果たす役割について整理し、理解を深める（180分）
15. 心理学的支援の全体像を整理し、最終レポートに取り組む（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	50	**%**	**確認テスト：**	－	**%**	**レポート：**	50 **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準：

【最低限の到達度（60～69点）】
・授業のルールを守り、対面・オンライン授業に誠実に参加している。
・心理学的支援の目的や代表的な支援法について、基本的事項を理解している。
・課題やレポートにおいて、授業内容を簡潔にまとめることができる。
【標準的な到達度（70～79点）】
・授業に積極的に参加し、講義内容を踏まえて学修に取り組んでいる。
・代表的な心理学的支援法の特徴や多様な支援形態について理解し、説明することができる。
・課題やレポートにおいて、授業で学んだ内容を整理して記述できる。
【望ましい到達度（80～100点）】
・授業内容を十分に理解し、対面・オンライン授業の双方に主体的に取り組んでいる。
・心理学的支援の目的、各支援法の意義や限界、倫理やプライバシーへの配慮について、関連づけて説明できる。
・課題やレポートにおいて、心理職が社会や地域の中で果たす役割について、自身の考えを含めてまとめることができる。

課題へのフィードバック：

各講義への意見、質問をコミュニケーションペーパーに記入してもらう。次回講義の冒頭20分間で、それらの意見、質問についてコメントを行う。
課題やレポートのフィードバックは、授業内で適宜行う。

教科書： なし
関連書および資料については適宜紹介し、必要に応じて配布する

参考書： 適宜、紹介する

授業・準備学習のアドバイス：

本授業は、心理学的支援に関する基礎的な理解を深めることを目的としており、毎回の授業内容を積み重ねながら学修が進んでいく。授業に臨むにあたっては、事前に配布資料や指定された教材に目を通し、各回で扱う心理学的支援法や概念の概要を把握しておくことが望ましい。

対面授業では、講義内容を受け身で聴くだけでなく、具体例や説明を通して支援の考え方を理解しようとする姿勢が重要である。また、オンライン（オンデマンド）授業では、動画や資料を活用し、自分のペースで内容を確認しながら学修を進めてほしい。
授業内で取り上げた内容が、教育・医療・福祉・司法・産業の現場でどのように活用されているのかを意識して復習することが、心理職としての基礎的視点を養うことにつながる。
なお、心理学的支援は人の心や生活に関わる学問であるため、授業中の発言や課題においては、他者への配慮や倫理的な視点を意識して取り組むこと。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 心理学基礎演習Ⅰ

クラス: 再履

授業コード: DC10100001

担当者: 犬飼 朋恵 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本授業では、前半は自身のキャリアについて考え、今後の学習への取り組みを考えていく。後半は、現実の課題を題材にしながら、心理学の学びや関心を深めていく。

到達目標:
1. 自身の特徴を知りキャリアを明確にする
2. 論理的に自分の考えを話したり、書いたりする力を獲得する
3. 心理学的な視点から考える力を身につける

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. キャリア（1）過去、現在、将来を考える
3. キャリア（2）自己理解 性格と強みを考える
4. キャリア（3）職業興味と理解
5. キャリア（4）色々な仕事を調べる
6. キャリア（5）マッチングを考える
7. キャリア（6）これまでのまとめ1
8. キャリア（7）これまでのまとめ2
9. レポート作成（1）レポートの書き方の確認
10. レポート作成（2）テーマを探す1
11. レポート作成（3）テーマを探す2
12. レポート作成（4）レポートの構成を考える
13. レポート作成（5）レポート執筆1
14. レポート作成（6）レポート執筆2
15. 授業内容のふりかえりとまとめ

特記事項: 最後に授業の振り返りのレポート課題があります。

授業方法: 授業は、オンラインと対面で実施します
1. 対面授業
2. オンデマンドで個別課題
3. オンデマンドで個別課題
4. オンデマンドで個別課題
5. 対面授業
6. オンデマンドで個別課題
7. オンデマンドで個別課題
8. オンデマンドで個別課題
9. オンデマンドで個別課題
10. 対面授業
11. オンデマンドで個別課題
12. オンデマンドで個別課題
13. オンデマンドで個別課題
14. オンデマンドで個別課題
15. 対面授業

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

授業の資料をもとに以下の内容について学習してくる

1. 生き方、働き方を考える(90分)

2. 授業の内容を踏まえ自分のキャリアを考える(180分)
3. 授業の内容を踏まえ、自分の特性を理解する (180分)
4. 授業の資料をもとに職業を調べる(180分)
5. 授業の資料をもとに職業を調べる(180分)
6. 自分の適性を理解し、職業とのマッチングを考える (180分)
7. 集団活動についての基礎知識を理解する(90分)
8. 集団活動についての実践的知識を理解する(180分)
9. 自分の課題に取り組む (180分)
10. 自分の課題に取り組む (180分)
11. 自分の課題に取り組む (180分)
12. 自分の課題に取り組む(180分)
13. 自分の課題に取り組む(180分)
14. 自分の課題に取り組む(180分)
15. 授業を通して得たこと、足りなかったことを考える(360分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	70	**%**	**確認テスト:**	−	**%**	**レポート:**	30 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: 60～69点:各講義でおこなう課題を適切に提出している、自身のキャリアについて明確なイメージが持てている
80～100点:上記の内容に加えて，自らの研究課題に対して明確な視点を持ち，レポート作成に丁寧に反映している

課題へのフィードバック:

毎回の授業で、提出課題のフィードバックを行う

教科書: なし。適宜プリントなどの配布を行います。

参考書: 杉山崇・馬場原恵子・松本祥太郎(2018)キャリア心理学ライフデザイン・ワークブック ナカニシヤ出版

授業・準備学習のアドバイス:

大半がオンライン授業になるため，期限内での提出を重視します。また，提出課題，対面授業での取り組み姿勢，最終レポートの内容の3点で評価します。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 心理学基礎演習Ⅱ

クラス: 再履

授業コード: DC10200001

担当者: 犬飼 朋恵　　**単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 心理学を学ぶことは単に知識や技法を学ぶことだけではない。人間や人間をとりまく環境をどのように捉えるかという方法論を学び，それらに対する視点や哲学を模索することでもある。この授業では，読む（聞く・見る），考える，書く（話す）という，これまでに行ってきた活動を，3年次以降の専門的な学習に必要なレベルまで高めていくと共に，社会人基礎力を養うことを目的とする。

到達目標:
1. 他者の話を聴いたり、資料や情報をきちんと読む力を獲得する
2. 客観的・論理的に考える方法、拡散的な思考と収束的な思考を獲得する
3. 論理的に自分の考えを話したり、書いたりする力を獲得する
4. 心理学的な視点から考える力を身につける

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 心理学基礎演習1の振り返り（1）
3. 心理学基礎演習1の振り返り（2）
4. 日常の疑問から研究したい内容を考える
5. 他者の考えを聞く、意見をもらう
6. 研究テーマと心理学との関連を考える。キーワードを探す
7. レポートの書き方の確認
8. 研究テーマの文章にまとめる
9. 学科行事（1）
10. 学科行事（2）
11. 効果的なプレゼンテーションの方法
12. 発表準備 パワーポイント作成
13. 発表内容の確認とパワーポイントの修正
14. 発表とディスカッション
15. 授業内容のふりかえりとまとめ

特記事項: なし

授業方法: 授業は、適宜オンラインと対面で実施します
1. 対面授業
2. オンデマンドで個別課題
3. オンデマンドで個別課題
4. オンデマンドで個別課題
5. 講義とディスカッション
6. オンデマンドで個別課題
7. オンデマンドで個別課題
8. オンデマンドで個別課題
9. オンデマンドで個別課題
10. 対面授業
11. オンデマンドで個別課題
12. オンデマンドで個別課題
13. オンデマンドで個別課題
14. オンラインで発表
15. 対面授業

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 春学期を振り返る(180分)

2. 春学期を振り返る(180分)
3. 春学期を振り返る(180分)
4. 身近な疑問、授業で関心を持った内容をあげる。考えを文字にする(180分)
5. 他者のアイディアや意見を参考に、自分のテーマを練り上げる(180分)
6. キーワードに基づき文献を探す。文献を読む(180分)
7. レポートの書き方の確認、自分が作るレポートの構成を考える(180分)
8. レポート作成(180分)
9. 学科行事の振り返り(180分)
10. 学科行事の振り返り(180分)
11. プレゼンテーションの方法を考える(180分)
12. 発表の準備をする(180分)
13. 発表準備をする(180分)
14. 発表内容の振り返り(180分)
15. 学科行事の振り返り(180分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	70 **%**	**確認テスト:**	− **%**	**レポート:**	30 **%**
その他1:	プレゼンテーションの内容		25 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準:

望ましい到達度(80～100点)
最低限，中程度の到達度を満たしたうえで，聞き手に説得料のあるプレゼンができている，発表時のディスカッションが明確にできている。

中程度の到達度(70～79点)
最低限の到達度を満たしたうえで，研究テーマについて，妥当な論証が示されたうえで自分の意見が述べられている。

最低限の到達度(60～69点)
各回の課題を提出し，研究テーマが明確である。

課題へのフィードバック:

毎回の授業で課題のフィードバックを行う

教科書: 適宜、プリントなどを配布する

参考書: 白井利明・ 高橋一郎 (2013)よくわかる卒論の書き方[第2版](やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ) ミネルヴァ書房

授業・準備学習のアドバイス:

大半がオンライン授業になるため，期限内での提出を重視します。また，提出課題，対面授業での取り組み姿勢，最終レポートの内容の3点で評価します。オンライン授業なので，期限内での提出を重視します。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 心理学専門演習Ⅰ

クラス:

授業コード: DC10300001

担当者: 辻川 典文 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本授業の目的は次の2点である。1つ目は、現実の社会課題やビジネス課題を題材に、問題解決能力やチームでの協働スキルの養成をめざす。グループワークを中心に進め、課題発見から解決策の提案までを経験する。2つ目は、心理学の様々な知見と現実の課題解決とを結びつけながら考える姿勢を身に着けることである。

到達目標:
1. 他者と協働する力を伸ばす
2. 個々人が自分に合ったリーダーシップを発揮できるようになる
3. 課題解決に必要な情報を収集する力、まとめる力を伸ばす
4. 様々な問題に対し、心理学的な視点から取り組むことができるようになる
5. 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. グループワークの基礎知識と課題
3. チームビルディング
4. 課題1:説明と目標の設定
5. 課題1:情報収集と問題点の特定、仮説の設定
6. 課題1:意見の集約と発表準備
7. 課題1:発表
8. 課題の振り返りと今後の課題
9. 課題2:説明
10. 課題2:情報収集と問題点の特定
11. 課題2:仮説の設定
12. 課題2:意見の集約
13. 課題2:発表準備
14. 課題2:発表
15. 課題2の振り返りとレポート

特記事項: なし

授業方法: 授業は、すべて対面で実施します

1. 講義
2. 講義と演習
3. 講義と演習
4. 講義とグループワーク
5. 講義とグループワーク
6. 講義とグループワーク
7. 発表
8. 講義と演習
9. 講義とグループワーク
10. 講義とグループワーク
11. 講義とグループワーク
12. 講義とグループワーク
13. 講義とグループワーク
14. 発表
15. 講義と演習

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

発表課題に向けて、毎週グループで目標を立て、メンバーがやるべき課題を設定する。

1. 課題解決型学習について理解する、グループワークを通して伸ばしたい力を考える（60分）
2. 集団活動についての基礎知識を理解する（180分）
3. チームビルディングについて理解する（180分）
4. グループで決めた自分の課題に取り組む、打ち合わせする（180分）
5. グループで決めた自分の課題に取り組む、打ち合わせする（180分）
6. グループで決めた自分の課題に取り組む、打ち合わせする（180分）
7. グループで決めた自分の課題に取り組む、打ち合わせする（300分）
8. 発表を振り返る、活動の問題点を考える（180分）
9. グループで決めた自分の課題に取り組む、打ち合わせする（180分）
10. グループで決めた自分の課題に取り組む、打ち合わせする（180分）
11. グループで決めた自分の課題に取り組む、打ち合わせする（180分）
12. グループで決めた自分の課題に取り組む、打ち合わせする（180分）
13. グループで決めた自分の課題に取り組む、打ち合わせする（180分）
14. 発表を振り返る、活動の問題点を考える（180分）
15. 授業を通して得たこと、足りなかったことを考える（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	50 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	20 **%**
その他1：	発表、プレゼンテーション		30 **%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

60～69点：発表課題に向けた毎週の課題に取り組めている
80～100点：上記に加え、発表課題に対して適切な提案ができている

課題へのフィードバック：

フィードバックについては、授業内で、適宜行う

教科書： なし。適宜プリントなどの配布を行います

参考書： 小塩真司・宅香菜子（2015） 心理学の卒業研究ワークブック: 発想から論文完成までの 10 ステージ 金児書房

授業・準備学習のアドバイス：

グループワークを基本とするため、積極的に発言、活動すること。活動が消極的である場合は減点となる。
毎週、グループでその週に自分たちが行う課題を決めること。必要であれば授業外での打ち合わせも行うこと。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 心理学専門演習Ⅰ

クラス:

授業コード: DC10300002

担当者: 犬飼 朋恵 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 心理学に関連する研究の文献の検索や講読などを通じて、心理学の基礎知識や研究の方法論を学ぶ。個人あるいはグループで調べたことを発表し、ディスカッションする中で論理的な考え方を身につける。

到達目標: 必要に応じた情報を収集するための能力を身につけるとともに、得られた情報の信頼性を客観的に判断する力を養う。また、自分の考えをわかりやすく他人に伝える技術を身につける。
本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション1
2. オリエンテーション2
3. 研究発表の方法1
4. 研究発表の方法2
5. 研究発表の方法3
6. 研究発表のまとめ1
7. 研究発表のまとめ2
8. 研究発表のまとめ3
9. 研究発表のまとめ4
10. 研究発表1
11. 研究発表2
12. 研究発表3
13. 研究発表4
14. 研究発表5
15. まとめ

特記事項: 授業方法: 文献を検索し，その内容をまとめて発表する。その後，全員で発表内容についてディスカッションを行う。
※全15回の授業のうちキャリアセンターからのキャリアガイダンスが1回入るため、授業内容が変更になる場合があります。

授業方法:
1. 演習【対面】
2. 演習【対面】
3. 演習とグループワーク【対面】
4. 演習とグループワーク【対面】
5. 演習とグループワーク【対面】
6. 演習とグループワーク【対面】
7. 演習とグループワーク【対面】
8. 演習とグループワーク【対面】
9. プレゼンテーション【対面】
10. プレゼンテーション【対面】
11. プレゼンテーション【対面】
12. プレゼンテーション【対面】
13. プレゼンテーション【対面】
14. プレゼンテーション【対面】
15. 演習とグループワーク【対面】

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 予習(120分) 自分の興味に沿った本を各自読み進める。復習(60分) 講義内容を復習する。
2. 予習(120分) 自分の興味に沿った本を各自読み進める。復習(60分) 講義内容を復習する。
3. 予習(120分) 自分の興味に沿った本を各自読み進める。復習(60分) 講義内容を復習する。

4. 予習(120分) 自分の興味に沿った本を各自読み進める。復習(60分) 講義内容を復習する。
5. 予習(120分) 自分の興味に沿った本を各自読み進める。復習(60分) 講義内容を復習する。
6. 予習(120分) 自分の興味に沿った本を各自読み進める。復習(60分) 講義内容を復習する。
7. 予習(120分) 自分の興味に沿った本を各自読み進める。復習(60分) 講義内容を復習する。
8. 予習(120分) 自分の興味に沿った本を各自読み進める。復習(60分) 講義内容を復習する。
9. 予習(120分) 自分の興味に沿った本を各自読み進める。復習(60分) 講義内容を復習する。
10. 予習(120分) 自分の興味に沿った本を各自読み進める。復習(60分) 講義内容を復習する。
11. 予習(120分) 自分の興味に沿った本を各自読み進める。復習(60分) 講義内容を復習する。
12. 予習(120分) 自分の興味に沿った本を各自読み進める。復習(60分) 講義内容を復習する。
13. 予習(120分) 自分の興味に沿った本を各自読み進める。復習(60分) 講義内容を復習する。
14. 予習(120分) 自分の興味に沿った本を各自読み進める。復習(60分) 講義内容を復習する。
15. 予習(120分) 自分の興味に沿った本を各自読み進める。復習(60分) 講義内容を復習する。

評価方法:	**授業へのとりくみ:**	50 **%**	**確認テスト:**	−	**%**	**レポート:**	50 **%**	
	その他1:				**%**			
	その他2:				**%**			

評価基準: 望ましい到達度(80～100点)
・研究内容を理解し，他人に内容をわかりやすく伝えることができる
最低限の到達度(60～69点)
・研究のおおまかな内容を他人に伝えることができる

課題へのフィードバック:
講義内でプレゼンテーションを行い，質疑応答を通して学習の到達度を確認する。その後結果のフィードバックを行う。

教科書: なし

参考書: 適宜紹介する。

授業・準備学習のアドバイス:
ひとの行動のどのようなところに興味があるのかについて考えてください。
パソコンを講義内で使用することがあります。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 心理学専門演習Ⅰ

クラス:

授業コード: DC10300003

担当者: 古川 心 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: この授業では、臨床心理学的支援に関する基礎的理解を深めるとともに、心理療法の体験や事例検討を通して、自己理解と他者理解を往復しながら学ぶことを目的とする。
特に、子どもの心身の健康な成長と発達、ならびに養育者支援に焦点を当て、温かく安定した関係性の重要性や、親子の相互交流の理解、子どもの行動の意味を臨床心理学的視点から考える力を養う。
また、臨床心理学に基づく体験的学習を通して、人の心や関係性への理解を深め、言語的・非言語的な表現の意味や、支援関係における体験の重要性について理解を深める。
さらに、研究倫理について学ぶとともに、文献講読や研究テーマの検討、プレゼンテーションを通して、卒業研究に向けた問題意識の形成と基礎的な研究姿勢を身につけることを目指す。
発表やディスカッションを通して、日常的に抱いている自分の興味や問題意識を明確化することを目的とする。関心領域の関連文献や先行研究を読み、各自の研究テーマおよび研究デザインを構築していく。

到達目標: 1. 臨床心理学的支援における基本的な考え方や倫理について理解できる。
2. 臨床心理学に基づく体験的学習を通して、人の心や関係性への理解を深め、自己理解および他者理解を促進することができる
3. 子どもおよび養育者への心理学的支援の視点(関係性、相互交流、行動理解)を理解できる。
4. 自身の興味・関心を臨床心理学的視点から整理し、研究テーマとして言語化できる。
5. 文献検索や先行研究の整理を行い、簡潔なプレゼンテーションとしてまとめ、発表できる。
6. 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

※ この授業では、専門的な臨床技能の習得を直接の目的とするのではなく、臨床心理学的視点から人の心や関係性を捉え、体験や事例を通して自ら問いを立てる力を養うことを重視する。これらの学びを通して、4年次の卒業研究につながる問題意識を形成することを目指す。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション授業のテーマや到達目標及び授業の方法等について臨床心理学的支援・研究における倫理について
2. 心理療法の体験と自己理解(1)プレイセラピーの実際①:コミュニケーションワークの実際
3. 臨床心理学的支援の実際(1)子どもの心身の健康な成長と発達および養育者支援に資する支援法の実際①
4. 臨床心理学的支援の実際(2)子どもの心身の健康な成長と発達および養育者支援に資する支援法の実際②
5. 臨床心理学的支援の実際(3)子どもの心身の健康な成長と発達および養育者支援に資する支援法の実際③
6. 心理療法の体験と自己理解(2)箱庭療法の実際①
7. 臨床心理学的視点からの自己理解テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成
8. 臨床心理学と自己の問題意識作成したプレゼンテーションの発表
9. 心理専門職の役割とその専門性
10. 学科行事
11. 心理療法の体験と自己理解(3)箱庭療法の実際②
12. 心理療法の体験と自己理解(4)体験を言語化するペアおよびグループディスカッション
13. 研究テーマの検討、発表資料の作成
14. 心理学の研究法量的研究質的研究文献検索の方法、レジュメの作成について現時点での興味・関心のあるテーマについて、先行研究についてまとめ、プレゼンテーションを作成する
15. 研究テーマの発表作成したプレゼンテーションをもとに、自身の興味・関心のあるテーマについてプレゼンテーションを行う卒業研究を進めるための夏休みの過ごし方、課題について確認

特記事項: 実際に臨床心理学の現場で使われている心理療法や心理アセスメントに触れることを通して、自身の問題意識や興味・関心を探求し、臨床心理学的視点を身に着けます。個人表現に関する記録法や利用法について実践的に学修するので、個人情報の取り扱いには倫理的配慮をもって行うようにしてください。
※全15回の授業のうちキャリアセンターからのキャリアガイダンスが1回入るため、授業内容が変更になる場合があります。

授業方法: 本授業は、講義、体験的学習、ディスカッション、プレゼンテーションを組み合わせて進める。

一部の回はオンライン（オンデマンド）形式とし、資料作成や自己の問題意識の整理に取り組む時間を設ける。

1. 講義、演習（対面）
2. 講義、演習（対面）
3. 講義、演習（対面）
4. 講義、演習（対面）
5. オンライン授業（オンデマンド）
6. 講義、演習（対面）
7. オンライン授業（オンデマンド）
8. 講義、演習（対面）
9. 講義、演習（対面）
10. オンライン授業（オンデマンド）
11. 講義、演習（対面）
12. 講義、演習（対面）
13. オンライン授業（オンデマンド）
14. 講義、演習（対面）
15. 講義、演習（対面）

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. 自分が日頃どのようなことに興味関心・問題意識を抱いているか考える（180分）
2. 体験した心理療法についての復習、まとめ（180分）
3. 親子関係、アタッチメント形成、ペアレンティングスタイルについて理解する（180分）
4. 親子の関係性と心の発達について理解する（180分）
5. 子どもの問題行動の理解と親への支援について理解する（180分）
6. 体験した心理療法についての復習、まとめ（180分）
7. スクールカウンセリングとスクールカウンセラーの専門性について理解する（180分）
8. テーマの検討、発表準備（180分）
9. 発表・ディスカッションを通したテーマのブラッシュアップ（180分）
10. 講義内容に関する復習（180分）
11. 体験した心理療法についての復習、まとめ（180分）
12. 自己開示と自己成長について理解する（180分）
13. 心理学の研究法およびレジュメ作成について理解する（180分）
14. テーマの検討、発表準備（180分）
15. 発表・ディスカッションを通したテーマのブラッシュアップ（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	50	**%**	**確認テスト：**	－	**%**	**レポート：**	50 **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準：

【最低限の到達度（60～69点）】
授業への取り組み
・授業に継続して参加し、指示された学修活動に取り組んでいる。
・オンライン授業において、指定された視聴や課題に期限内に取り組んでいる。
レポート・課題
・課題の趣旨を概ね理解し、指定された形式・分量を満たしたレポートや課題を提出している。
・授業内容や文献の要点を整理し、基本的なまとめができている。

【標準的な到達度（70～79点）】
授業への取り組み
・対面授業およびオンライン（オンデマンド）授業の双方に主体的に参加している。
・オンライン授業において、内容を踏まえた課題提出やコメント等を通して、学修への関与がみられる。
・対面授業では、ディスカッションや発表において自分の考えを述べることができる。
レポート・課題
・授業内容や文献を理解したうえで、自身の考えを整理し、論理的に記述できている。
・オンライン授業での学修内容も適切に反映されている。

【望ましい到達度（80～100点）】
授業への取り組み
・対面授業およびオンライン（オンデマンド）授業の双方に積極的に取り組み、学修内容を深めている。
・オンライン授業で得た知見を対面授業の議論や発表に活かすなど、学修の統合がみられる。
・他者の意見を踏まえ、議論を発展させる姿勢がみられる。
レポート・課題
・授業内容や先行研究を踏まえ、独自の問題意識や視点をもって考察している。
・オンライン・対面双方での学びを統合し、今後の研究や卒業論文につながる内容としてまとめられている。

課題へのフィードバック：

課題についての発表を行い、適宜フィードバックを行う。

教科書: なし

参考書: 関連書および必要な文献について適宜紹介する

授業・準備学習のアドバイス:

授業に出席することはもちろんのことであるが、演習やディスカッションおよびプレゼンテーションを行うので積極的に参加すること。
なお、授業の内容は、受講者の理解や興味・関心に合わせて、変更することがあります。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 心理学専門演習Ⅰ

クラス:

授業コード: DC10300004

担当者: 椎野 智子 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: この授業は、臨床心理学の論文を読み、研究方法への理解を深めることを目的とする。そして日常生活での疑問や問題など興味・関心のあるテーマについて、先行研究を調べ、自らの疑問への「答え」を科学的に解明できるように取り組む。

到達目標: 1. 臨床心理学に関する基礎知識と基本的な文献読解能力の習得を目指す。さらに、学術論文を読み、興味・関心のあるテーマをみつけることを目標とする。
2. 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 発表:関心のあるテーマについて
3. 研究テーマの探索1
4. 研究テーマの探索2
5. 文献の検索方法1
6. 文献の検索方法2
7.研究テーマの探索3
8. 研究テーマの選択1
9. 研究テーマの選択2
10. 研究テーマの選択3
11. 先行研究の検討1
12. 先行研究の検討2
13.研究テーマの決定
14. 発表:研究テーマの発表
15. まとめと講評

特記事項: ※全15回の授業のうちキャリアセンターからのキャリアガイダンスが1回入るため、授業内容が変更になる場合があります。

授業方法: 基本的に演習形式で行うが、適宜研究方法などの講義を行う。卒業論文に向けてテーマを決定し、問題を検討する。
1. 演習(対面)
2. 発表(対面)
3. 演習(対面)
4. 演習(対面)
5. 演習(対面)
6. 演習(対面)
7. 演習(オンライン)
8. 演習(対面)
9. 演習(対面)
10. 演習(オンライン)
11. 演習(対面)
12. 演習(対面)
13. 演習(オンライン)
14. 発表(対面)
15. 演習(オンライン)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 心理学実験実習で学んだ知識やスキル、レポートの書き方の復習(300分)
2. 興味を持った心理学の専門書や論文の講読(300分)

3. 関心のあるテーマについて調べる(240分)
4. 関心のあるテーマについて調べる(240分)
5. 関心のあるテーマに関する文献の購読(90分)
6. 関心のあるテーマに関する文献の購読(90分)
7. 関心のあるテーマに関する文献の購読(90分)
8. 卒業研究に向けたテーマの選択(90分)
9. 卒業研究に向けたテーマの選択(90分)
10. 卒業研究に向けたテーマの選択(270分)
11. 関心のあるテーマに関する文献の購読(270分)
12. 関心のあるテーマに関する文献の購読(360分)
13. 卒業研究のテーマに関する文献の購読(90分)
14. 他のゼミ生の研究への検討(概要把握・意見のまとめ)(90分)
15. 卒業研究のテーマとこれまでの進捗をまとめる(90分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	40 **%**	**確認テスト:**	− **%**	**レポート:**	60 **%**
その他1:			**%**		
その他2:			**%**		

評価基準:

(最低限の到達度)(60～69点)
・授業全15回のうち、2/3以上を出席している。
・臨床心理学に関する文献を読むことができる。
・発表資料を全て提出している。
・ゼミ内でのディスカッションで発言することができる。
・自分の意見を述べながらレポートを書くことができる。

(望ましい到達度)(80～100点)
・臨床心理学に関する文献を読むことができ、分析に関する基礎知識を理解することができる。
・発表資料を全て提出し、その記述内容が適切である。
・ゼミ内でのディスカッションで自分の意見を発言し、積極的に話し合いに参加することができる。
・根拠を明確にして自説を述べながらレポートを書くことができる。

課題へのフィードバック:

文献発表やテーマ発表時に適宜フィードバックを行う。

教科書: 教科書は使用しない。

参考書: 小塩真司・宅香菜子(著) 心理学の卒業研究ワークブック, 金子書房, 2015

授業・準備学習のアドバイス:

この授業では、各自の関心領域の文献を読み、発表、討論する。授業態度は単に出席していればよいというものではない。積極的に授業に参加し、研究課題に取り組むことを評価する。特別な理由がない限り、全ての回に出席することが前提である。

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 心理学専門演習Ⅰ

クラス:

授業コード: DC10300005

担当者: 三井 知代 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 臨床心理学に関する様々な研究を概観し、さらにゼミにおける諸活動に積極的に参加することにより、臨床心理学分野における諸課題についての理解を深め、各々の関心により研究テーマを見つけることを目的とする。

到達目標: 心理学研究の概略を理解し、学術論文の講読、ゼミ活動などを通して、卒業論文のテーマを決定する。
本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 研究倫理について
3. 心理学論文の探し方
4. 心理学論文の読み方
5. 臨床心理学分野の課題の探究
6. 臨床心理学分野の課題へのアプローチ方法
7. 課題発表1
8. 課題発表2
9. 課題発表発表3
10. 学科行事
11. 研究テーマの検討と発表1
12. 研究テーマの検討と発表2
13. 研究テーマの検討と発表3
14. 研究テーマの検討と発表4
15. 研究テーマの検討と発表5

特記事項: ※全15回の授業のうちキャリアセンターからのキャリアガイダンスが1回入るため、授業内容が変更になる場合があります。

授業方法: 対面で行う。
発表以外の回は基本的に各回講義とグループディスカッションを中心に行う。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 2回目の研究倫理について予習する(120分)
2. 研究倫理についての復習する(120分)
3. 心理学論文の探し方について復習する(120分)
4. 心理学論文の読み方について復習する(120分)
5. 臨床心理学分野の課題の探究について、活動計画等の準備を行う(240分)
6. 臨床心理学分野の課題へのアプローチ方法について、具体的な実行計画を立てる(240分)
7. 課題発表の準備、自分の意見をまとめる(240分)
8. 課題発表の準備、自分の意見をまとめる(240分)
9. 課題発表の準備、自分の意見をまとめる(240分)
10. 研究テーマの検討と発表の準備(240分)
11. 研究テーマの検討と発表の準備(240分)
12. 研究テーマの検討と発表の準備(240分)
13. 研究テーマの検討と発表の準備(240分)
14. 研究テーマの検討と発表の準備(240分)
15. 研究テーマの検討と発表の準備(240分)

評価方法: **授業へのとりくみ:** 60 **%** **確認テスト:** － **%** **レポート:** 40 **%**

その他1： **%**

その他2： **%**

評価基準： 最低限の到達度（60～69点）
授業への取り組み：ディスカッションに参加し、自分の考えを述べることができる
レポート：研究テーマについて、資料を基に発表用にまとめることができる
望ましい到達度（80～100点）
授業への取り組み：ディスカッションに参加し、自分の考えを述べることができる。さらに他者の意見を参考に研究内容等の修正や充実に向けての改善ができる。
レポート：研究テーマについて、資料を基に発表用にまとめることができる。さらに課題を明確化し、今後の研究の進展の向けての計画を述べることができる。

課題へのフィードバック：

発表会等で適宜フィードバックを行う

教科書： なし。必要な文献は紹介する。

参考書： 講義の中で紹介する。

授業・準備学習のアドバイス：

「授業への取り組み」60%の内訳は、授業態度（積極的なディスカッションへの参加）20%、課題への意欲的な取り組み20%、発表20%とする。
すべての授業に積極的に参加すること。発表については、事前のしっかりとした準備が必要なので計画的に準備を進めること。遅刻は厳禁とする。
ゼミ活動には積極的に参加し、他のゼミ生と協力して学習を進めていく態度を身につけること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 心理学専門演習Ⅰ

クラス:

授業コード: DC10300006

担当者: 吉野 俊彦 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 心理学は科学的から文系まで様々なアプローチを許す学問である。この演習では，科学的なアプローチによる人間理解の学問としての心理学における研究を概観していく。平行して，論理的な考え方，わかりやすい論文の書き方，議論の仕方など，科学的なアプローチに必要なスキルの修得を目指す。さらに，各自の興味に従って，日常的なあるいは個人的な関心や疑問を，研究の俎上に乗せるためのリサーチクエスチョンの形に整えていくことを，年間を通じての目的とする。

到達目標: 1. 科学的な人間理解の方法としての心理学に必要なスキルを修得する。
2. 各自の興味に従って，リサーチクエスチョンにまとめていく。
3. 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 科学知とは何か，日常知とは何か
3. 論文検索の方法・文献検索の方法
4. 発表と議論1
5. 発表と議論2
6. 発表と議論3
7. 発表と議論4
8. 発表と議論5
9. 論文の構成方法・具体的な書き方
10. 学科行事
11. 発表と議論6
12. 発表と議論7
13. 発表と議論8
14. 発表と議論9
15. まとめ

特記事項: （授業方法）教員による概説を踏まえて，各自の関心に従った発表と議論によって進める。
対面での実施が原則であるが，事情によって遠隔での参加を許可することがある。
※全15回の授業のうちキャリアセンターからのキャリアガイダンスが1回入るため、授業内容が変更になる場合があります。

授業方法: 1. 発表とディスカッション。必要に応じて講義
2. 発表とディスカッション。必要に応じて講義
3. 発表とディスカッション。必要に応じて講義
4. 発表とディスカッション。必要に応じて講義
5. 発表とディスカッション。必要に応じて講義
6. 発表とディスカッション。必要に応じて講義
7. 発表とディスカッション。必要に応じて講義
8. 発表とディスカッション。必要に応じて講義
9. 発表とディスカッション。必要に応じて講義
10. 発表とディスカッション。必要に応じて講義
11. 発表とディスカッション。必要に応じて講義
12. 発表とディスカッション。必要に応じて講義
13. 発表とディスカッション。必要に応じて講義
14. 発表とディスカッション。必要に応じて講義
15. 発表とディスカッション。必要に応じて講義

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. 授業での発表に必要な準備を除いて、教科書を読み進めること（90分）授業内で指摘された事項や文献検索などについて復習・確認を行うこと（90分）
2. 授業での発表に必要な準備を除いて、教科書を読み進めること（90分）授業内で指摘された事項や文献検索などについて復習・確認を行うこと（90分）
3. 授業での発表に必要な準備を除いて、教科書を読み進めること（90分）授業内で指摘された事項や文献検索などについて復習・確認を行うこと（90分）
4. 授業での発表に必要な準備を除いて、教科書を読み進めること（90分）授業内で指摘された事項や文献検索などについて復習・確認を行うこと（90分）
5. 授業での発表に必要な準備を除いて、教科書を読み進めること（90分）授業内で指摘された事項や文献検索などについて復習・確認を行うこと（90分）
6. 授業での発表に必要な準備を除いて、教科書を読み進めること（90分）授業内で指摘された事項や文献検索などについて復習・確認を行うこと（90分）
7. 授業での発表に必要な準備を除いて、教科書を読み進めること（90分）授業内で指摘された事項や文献検索などについて復習・確認を行うこと（90分）
8. 授業での発表に必要な準備を除いて、教科書を読み進めること（90分）授業内で指摘された事項や文献検索などについて復習・確認を行うこと（90分）
9. 授業での発表に必要な準備を除いて、教科書を読み進めること（90分）授業内で指摘された事項や文献検索などについて復習・確認を行うこと（90分）
10. 授業での発表に必要な準備を除いて、教科書を読み進めること（90分）授業内で指摘された事項や文献検索などについて復習・確認を行うこと（90分）
11. 授業での発表に必要な準備を除いて、教科書を読み進めること（90分）授業内で指摘された事項や文献検索などについて復習・確認を行うこと（90分）
12. 授業での発表に必要な準備を除いて、教科書を読み進めること（90分）授業内で指摘された事項や文献検索などについて復習・確認を行うこと（90分）
13. 授業での発表に必要な準備を除いて、教科書を読み進めること（90分）授業内で指摘された事項や文献検索などについて復習・確認を行うこと（90分）
14. 授業での発表に必要な準備を除いて、教科書を読み進めること（90分）授業内で指摘された事項や文献検索などについて復習・確認を行うこと（90分）
15. 授業での発表に必要な準備を除いて、教科書を読み進めること（90分）授業内で指摘された事項や文献検索などについて復習・確認を行うこと（90分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	50	**%**	**確認テスト：**	－	**%**	**レポート：**	50 **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準：

授業への取り組みは、準備に基づいた発表の形式と内容、およびディスカッションへの参加頻度を総合的に評価する。
授業への取り組みは、小テストの合計得点を50点満点に換算する。
レポートについては、以下に従って評価を決定する。
30～34 課題のまとめがなされている。
35～39 過不足のないまとめとなっている。
40～44 まとめに従って、自分の意見が述べられている。
45～50 妥当な論証が示された上で自分の意見が述べられている。

課題へのフィードバック：

授業への取り組みについては適宜、レポートについては、添削した上で秋学期に返却する。

教科書： 福澤一吉（2010）. 議論のルール NHK出版新書

参考書：
戸田山 和久（2022）. 論文の教室：レポートから卒論まで』（最新版）NHKブックス
福澤一吉（2018）. 新版議論のレッスン NHK生活人新書
木下是雄（1981）. 理解系の作文技術 中公新書

授業・準備学習のアドバイス：

この授業は学生の発表がなければ前に進みません。100%能動的な取り組み，授業時間外での積極的な学びを期待します。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 心理学専門演習Ⅰ

クラス:

授業コード: DC10300007

担当者: 権藤 眞織 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本演習では、学習心理学や応用行動分析学について学び、各自の興味のある側面から研究論文や実践事例を検索し、卒業研究のテーマを模索・考察する。
あわせて、次年度の卒業論文作成に向けての準備学習を行う。

到達目標:
1. 心理学や応用行動分析学の基礎について、専門図書や文献を読解する。
2. その過程で、各自の研究テーマを模索し、発表する。
3. 論文作成に関連するスキルを磨き、プレゼンテーション技能を磨く。
4. 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 個人テーマのプレゼンテーションとシェアリング
3. 心理学と応用行動分析学に触れる
4. 心理学と応用行動分析学に関する資料検索
5. 専門図書から学ぶ1① ～テキスト読解・購読～
6. 専門図書から学ぶ② ～資料作成～
7. 専門図書から学ぶ③ ～発表～
8. 学科行事
9. 関連文献から学ぶ① ～関連文献の収集～
10. 関連文献から学ぶ② ～文献の読解と資料作成～
11. プレゼンテーション技法の探求
12. 発表(他ゼミとの交流など)
13. 個人テーマのプレゼンテーション その2
14. ディスカッション・意見交換
15. まとめ

特記事項: ゼミ活動では、他ゼミや異学年交流を実施する
学内外で実践活動なども試み、実社会での心理学の可能性を考察する。

授業方法: 授業は全て対面形式で実施する。
1. 講義と演習
2. 演習、プレゼンテーションとシェアリング
3. 講義と演習
4. 講義と演習
5. 講義と演習
6. PCを利用した調べ学習
7. 演習やプレゼンテーションとディスカッション
8. 学科行事 参加
9. PCを利用した調べ学習
10. 講義と演習
11. 演習とPCを利用した調べ学習
12. プレゼンテーションとディスカッション
13. プレゼンテーションとディスカッション
14. ディスカッション・意見交換
15. 演習

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1.「今年度の目標と計画」他スケジューリング（180分）
2. 資料作成とまとめ（180分）
3. 副読本・参考文献の読解（180分）
4. 調べ活動（180分）
5. 副読本・参考文献の読解（180分）
6. レジメ作成（180分）
7. 振り返りと今後の課題（180分）
8. 学んだことのまとめ（180分）
9. 文献検索と読解（180分）
10. 文献の読解とレジメ作成（180分）
11. プレゼンテーションソフトの練習（180分）
12. 発表のまとめと振り返り（180分）
13. 発表のまとめと振り返り（180分）
14. レジメ作成とまとめ（180分）
15. 夏休み課題の検討（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	50 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	ポートフォリオ作成		50 **%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

最低限度の到達度(60-69点)
ゼミメンバーと協力的に意見交換ができる。
自分の興味関心に基づき、調べ活動、まとめ活動に取り組める。
発表原稿を作成し、プレゼンテーションができる。

望ましい到達度(80-100点)
ゼミメンバーと協力的に意見交換ができ、質疑応答ができる。
自分の興味関心に基づき、調べ活動、まとめ活動に取り組み、自分の言葉で説明できる。
発表原稿を文章は図解を活用して作成し、プレゼンテーションができる。あわせて、質疑応答ができる。

課題へのフィードバック：

講義の中で取り上げ、講評をおこなう。
提出物は、内容確認ののち、授業内で返却する。

教科書： 随時 文献や図書を紹介する

参考書： 島宗理（著）『パフォーマンス・マネジメント(第2版)―問題解決のための行動分析学―』米田出版
永田 豊志 （著)すべての勉強は、「図」!でうまくいく: 今までの10倍「記憶力」「思考力」が強くなる

授業・準備学習のアドバイス：

社会に出て、自らの可能性を拓いていくには、さまざまな技能や柔軟な考え方の獲得が期待されます。本演習では、その中の技能の一つとして学習心理学的な考え方を獲得し、人の行動上の課題を改善・解決していけるような行動変容を促せる技能と知識の獲得を目指します。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 心理学専門演習Ⅰ

クラス:

授業コード: DC10300008

担当者: 西　恭平　　**単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 臨床心理学・学校心理学に関する様々な研究を概観することにより、卒業研究のテーマを見つける

到達目標: 心理学研究の方法について、その概略を理解する。また、学術論文の講読などを通して、卒業論文のテーマを決定する。
本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 研究倫理について1
3. 研究倫理について2
4. 研究倫理について3
5. 研究テーマの立て方
6. 心理学論文の探し方
7. 心理学論文の読み方
8. 学術論文講読と発表1
9. 学術論文講読と発表2
10. 学術論文講読と発表3
11. 研究テーマの検討と発表1
12. 研究テーマの検討と発表2
13. 研究テーマの検討と発表3
14. 研究テーマの検討と発表4
15. 研究テーマの検討と発表5

特記事項: 全15回の授業のうちキャリアセンターからのキャリアガイダンスが1回入るため、授業内容が変更になる場合があります。

授業方法: 基本的に対面で授業を行う。それぞれで調べた内容を発表する形式で進める。発表以外の回は基本的に各回講義とグループディスカッションを中心に行う。
第1～15回 演習（対面）

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

各回予習（100分）
講義内容に関連する書籍、文献を探し、読む
各回復習（80分）
講義内容に関連する論文を読む

評価方法:

授業へのとりくみ:	60	**%**	**確認テスト:**	－	**%**	**レポート:**	40 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: 最低限の到達度（60~69点）
・授業への取り組み：ディスカッションに参加し、自分の考えを述べることができる
・レポート：研究テーマについて、資料を基に発表用にまとめることができる
望ましい到達度（80~100点）
・授業への取り組み：ディスカッションに参加し、自分の考えを述べることができる。さらに他者の意見を参考に研究内容等の修正や充実に向けての改善ができる。
・レポート：研究テーマについて、資料を基に発表用にまとめることができる。さらに課題を明確化し、今後の研究の進展の向けての計画を述

べることができる。

課題へのフィードバック:

発表会等で適宜フィードバックを行う。

教科書: なし。必要な文献は適宜紹介する。

参考書: 講義の中で適宜紹介する。

授業・準備学習のアドバイス:

すべての授業に積極的に参加すること。発表については、事前にしっかりとした準備が必要なので計画的に準備を進めること。遅刻はしないこと。正しい知識と力を身につけて、研究を楽しみましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 心理学専門演習Ⅱ

クラス:

授業コード: DC10400001

担当者: 辻川 典文 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本演習では、心理学の文献を読むこと、実験や調査を実際に体験することを通して、心理学的観点から考えるためのスキルの基礎を獲得することを目的とする。この演習での活動を通して、さらに心理学に慣れ親しんでほしい。

到達目標:
1. 心理学について理解を深める
2. データから考える基礎を身につける
3. プレゼンテーション方法を身につける

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 心理学的実験の体験と考察
3. 心理学の文献を調べる（1）
4. 心理学の文献を調べる（2）
5. 調べた文献をもとにグループディスカッション
6. 心理学関連文献の発表（1）
7. 心理学関連文献の発表（2）
8. 事例研究(1)
9. 事例研究(2)
10. 研究における問題の立て方
11. 調査・実験方法について
12. 課題発表(1)
13. 課題発表(2)
14. 課題発表(3)
15. 全体講評

特記事項: ※全15回の授業のうちキャリアセンターからのキャリアガイダンスが1回入るため、授業内容が変更になる場合があります。

授業方法: 授業はすべて対面で行う
1. 講義
2. 講義とグループワーク
3. 発表とグループワーク
4. 発表とグループワーク
5. 発表とグループワーク
6. 発表とグループワーク
7. 発表とグループワーク
8. 講義とグループワーク
9. 講義とグループワーク
10. 講義
11. 講義
12. 発表
13. 発表
14. 発表
15. 講義とグループワーク

予習・復習・宿題など（内容・時間）:
1. 社会心理学的研究の講読(180分)
2. 社会心理学的研究の講読(180分)
3. 発表準備(180分)

4. 発表準備(180分)
5. 発表準備(180分)
6. 発表準備(180分)
7. 発表準備(180分)
8. 事例研究の復習(180分)
9. 事例研究の復習(180分)
10. 心理学的研究方法の確認と復習(180分)
11. 心理学的研究方法の確認と復習(180分)
12. 発表準備(180分)
13. 発表準備(180分)
14. 発表準備(180分)
15. レポート課題(180分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	50	**%**	**確認テスト:**	-	**%**	**レポート:**	50 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: 60～69点:適切な資料をもとに研究テーマをまとめることができている
80～100点:上記の内容に加え、根拠をもとに調査や実験の設計ができている

課題へのフィードバック:

課題についての発表を行い、適宜フィードバックを行う

教科書: なし。必要な文献などは授業中に紹介する。

参考書: 小塩真司・宅香菜子(2015) 心理学の卒業研究ワークブック: 発想から論文完成までの 10 ステージ 金児書房

授業・準備学習のアドバイス:

遅刻・欠席は厳禁。すべての授業に積極的に参加すること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 心理学専門演習Ⅱ

クラス:

授業コード: DC10400002

担当者: 犬飼 朋恵 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 実際の実験を通して，人の心を測る方法について理解する。得られた結果をわかりやすく人に伝える方法を学ぶ。

到達目標: 人の心を測る方法について理解する。また，得られた結果の解釈やひとにわかりやすく伝える方法を学ぶ。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション1
2. オリエンテーション2
3. 研究発表の方法1
4. 研究発表の方法2
5. 研究発表の方法3
6. 研究発表のまとめ1
7. 研究発表のまとめ2
8. 研究発表のまとめ3
9. 研究発表のまとめ4
10. 研究発表1
11. 研究発表2
12. 研究発表3
13. 研究発表4
14. 研究発表5
15. まとめ

特記事項: ※全15回の授業のうちキャリアセンターからのキャリアガイダンスが1回入るため、授業内容が変更になる場合があります。

授業方法:

1. 演習【対面】
2. 演習【対面】
3. 演習とグループワーク【対面】
4. 演習とグループワーク【対面】
5. 演習とグループワーク【対面】
6. 演習とグループワーク【対面】
7. 演習とグループワーク【対面】
8. 演習とグループワーク【対面】
9. 演習とグループワーク【対面】
10. プレゼンテーション【対面】
11. プレゼンテーション【対面】
12. プレゼンテーション【対面】
13. プレゼンテーション【対面】
14. プレゼンテーション【対面】
15. 演習とグループワーク【対面】

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 予習(120分) 自分の興味に沿った本を各自読み進める。復習(60分) 講義内容を復習する。
2. 予習(120分) 自分の興味に沿った本を各自読み進める。復習(60分) 講義内容を復習する。
3. 予習(120分) 自分の興味に沿った本を各自読み進める。復習(60分) 講義内容を復習する。
4. 予習(120分) 自分の興味に沿った本を各自読み進める。復習(60分) 講義内容を復習する。
5. 予習(120分) 自分の興味に沿った本を各自読み進める。復習(60分) 講義内容を復習する。

6. 予習(120分) 自分の興味に沿った本を各自読み進める。復習(60分) 講義内容を復習する。
7. 予習(120分) 自分の興味に沿った本を各自読み進める。復習(60分) 講義内容を復習する。
8. 予習(120分) 自分の興味に沿った本を各自読み進める。復習(60分) 講義内容を復習する。
9. 予習(120分) 自分の興味に沿った本を各自読み進める。復習(60分) 講義内容を復習する。
10. 予習(120分) 自分の興味に沿った本を各自読み進める。復習(60分) 講義内容を復習する。
11. 予習(120分) 自分の興味に沿った本を各自読み進める。復習(60分) 講義内容を復習する。
12. 予習(120分) 自分の興味に沿った本を各自読み進める。復習(60分) 講義内容を復習する。
13. 予習(120分) 自分の興味に沿った本を各自読み進める。復習(60分) 講義内容を復習する。
14. 予習(120分) 自分の興味に沿った本を各自読み進める。復習(60分) 講義内容を復習する。
15. 予習(120分) 自分の興味に沿った本を各自読み進める。復習(60分) 講義内容を復習する。

評価方法:

授業へのとりくみ:	50	**%**	**確認テスト:**	−	**%**	**レポート:**	50 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: 望ましい到達度(80～100点)
・研究内容を理解し，他人に内容をわかりやすく伝えることができる
最低限の到達度(60～69点)
・研究のおおまかな内容を他人に伝えることができる

課題へのフィードバック:

講義内でプレゼンテーションを行い，質疑応答を通して学習の到達度を確認する。その後結果のフィードバックを行う。

教科書: なし

参考書: 適宜紹介する。

授業・準備学習のアドバイス:

積極的に課題に取り組みましょう。
パソコンを講義内で使用することがあります。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 心理学専門演習Ⅱ

クラス:

授業コード: DC10400003

担当者: 古川 心 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 本授業は、臨床心理学的支援に関する体験的学習と心理学研究の理解を往復しながら、卒業研究に向けた問題意識と研究計画を具体化することを目的とする。
心理学専門演習Ⅰを通して得られた気づきや疑問を、学術論文の講読や発表によって理論的・研究的視点から捉え直し、臨床心理学における「問い」として整理する力を養う。
また、卒業研究で取り扱うテーマを明確化し、先行研究の検討を踏まえた研究計画の立案と発表を行うことで、4年次の卒業研究に円滑につなげることを目指す。

到達目標: 1. 臨床心理学的支援および研究における倫理的配慮の重要性を理解できる。
2. 臨床心理学に基づく体験的学習を通して得られた気づきを、心理学的視点から言語化できる。
3. 学術論文を講読し、研究の目的、方法、結果、意義を把握し、発表できる。
4. 臨床心理学的関心と先行研究を結びつけ、自身の問題意識を研究テーマとして整理できる。
5. 卒業研究に向けた研究計画を立案し、討議を通して内容をブラッシュアップできる。
6. 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

※ 本授業では、専門的な臨床技能の習得を目的とするのではなく、体験と研究を結びつけながら、卒業研究につながる問題意識と研究的思考を育成することを重視する。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション授業のテーマや到達目標及び授業の方法等について臨床心理学的支援・研究における倫理について
2. 心理療法の体験と自己理解(5)プレイセラピーの実際②:自己表現の実際
3. 心理学研究を学ぶ(1)学術論文の講読、発表①
4. 心理学研究を学ぶ(2)学術論文の講読、発表②
5. 心理学研究を学ぶ(3)学術論文の講読、発表③
6. 心理学研究を学ぶ(4)学術論文の講読、発表④
7. 心理療法の体験と自己理解(6)カウンセリングの実際①
8. 心理療法の体験と自己理解(7)カウンセリングの実際②
9. 心理専門職の役割とその専門性社会的養護の実際
10. 心理療法の体験と自己理解(8)体験を言語化するペアおよびグループディスカッション
11. 卒業論文の研究計画発表(1)卒業研究で取り扱うテーマを絞り込み、研究計画計画を立てる
12. 卒業論文の研究計画発表(2)卒業研究で取り扱うテーマを絞り込み、研究計画計画を立てる討議を通して、研究計画をブラッシュアップさせる
13. 卒業論文の研究計画発表(3)卒業研究で取り扱うテーマを絞り込み、研究計画計画を立てる討議を通して、研究計画をブラッシュアップさせる
14. 卒業論文の研究計画発表(4)卒業研究で取り扱うテーマを絞り込み、研究計画計画を立てる討議を通して、研究計画をブラッシュアップさせる
15. まとめ全体講評卒業研究を進めるための春休みの過ごし方、課題について確認

特記事項: 個人表現に関する記録法や利用法について実践的に学習するので、個人情報の取り扱いには倫理的配慮をもって行うこと。なお、授業の内容は、受講者の理解や興味・関心に合わせて、変更することがある。
※全15回の授業のうちキャリアセンターからのキャリアガイダンスが1回入るため、授業内容が変更になる場合があります。

授業方法: 体験的学習、文献講読、発表、ディスカッションを中心に進める。
臨床心理学に基づく体験的学習体験を通して得られた感覚や気づきを、ペアおよびグループディスカッションによって言語化し、他者の視点を取り入れながら理解を深める。
心理学研究を学ぶ回では、学術論文の講読と発表を行い、研究の構成や論理の展開、臨床心理学における研究の意義について検討する。
卒業研究に向けて各自が関心のあるテーマを設定し、先行研究の整理、研究計画の立案、発表を行う。討議を通して相互に意見交換を行

い、研究計画を段階的にブラッシュアップする。
一部の回はオンライン（オンデマンド）形式とし、資料作成や個別の検討に集中できる時間を確保する。

1. 講義、演習（対面）
2. 講義、演習（対面）
3.オンライン授業（オンデマンド）
4. 講義、演習（対面）
5. 講義、演習（対面）
6. 講義、演習（対面）
7. 講義、演習（対面）
8. オンライン授業（オンデマンド）
9. 講義、演習（対面）
10. 講義、演習（対面）
11. 講義、演習（対面）
12. オンライン授業（オンデマンド）
13. オンライン授業（オンデマンド）
14. 講義、演習（対面）
15. 講義、演習（対面）

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. 自分の興味関心・問題意識について考え、理解を深める（180分）
2. 体験した心理療法についての復習、まとめ（180分）
3. 論文の講読、発表準備（180分）
4. 論文の講読、発表準備（180分）
5. 論文の講読、発表準備（180分）
6. 論文の講読、発表準備（180分）
7. 体験した心理療法についての復習、まとめ（180分）
8. 体験した心理療法についての復習、まとめ（180分）
9. 社会的養護について、およびその分野での心理専門職の役割と専門性について理解する（180分）
10. 自己開示と自己成長について理解する（180分）
11. 研究計画の立案、発表準備（180分）
12. 研究計画の立案、発表準備（180分）
13. 研究計画の立案、発表準備（180分）
14. 研究計画の立案、発表準備（180分）
15. 復習と疑問点の明確化（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	50	**%**	**確認テスト：**	－	**%**	**レポート：**	50 **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準：

【最低限の到達度（60～69点）】
授業への取り組み
・授業に継続して参加し、指示された学修活動に取り組んでいる。
・オンライン授業において、指定された視聴や課題に期限内に取り組んでいる。
レポート・課題
・課題の趣旨を概ね理解し、指定された形式・分量を満たしたレポートや課題を提出している。
・授業内容や文献の要点を整理し、基本的なまとめができている。

【標準的な到達度（70～79点）】
授業への取り組み
・対面授業およびオンライン（オンデマンド）授業の双方に主体的に参加している。
・オンライン授業において、内容を踏まえた課題提出やコメント等を通して、学修への関与がみられる。
・対面授業では、ディスカッションや発表において自分の考えを述べることができる。
レポート・課題
・授業内容や文献を理解したうえで、自身の考えを整理し、論理的に記述できている。
・オンライン授業での学修内容も適切に反映されている。

【望ましい到達度（80～100点）】
授業への取り組み
・対面授業およびオンライン（オンデマンド）授業の双方に積極的に取り組み、学修内容を深めている。
・オンライン授業で得た知見を対面授業の議論や発表に活かすなど、学修の統合がみられる。
・他者の意見を踏まえ、議論を発展させる姿勢がみられる。
レポート・課題
・授業内容や先行研究を踏まえ、独自の問題意識や視点をもって考察している。
・オンライン・対面双方での学びを統合し、今後の研究や卒業論文につながる内容としてまとめられている。

課題へのフィードバック：

課題についての発表を行い、適宜フィードバックを行う。

教科書: なし
関連書および必要な文献について適宜紹介する

参考書: 適宜、授業内で紹介する

授業・準備学習のアドバイス:

授業に出席することはもちろんのことであるが、実習や演習とディスカッションおよびプレゼンテーションを行うので積極的に参加すること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 心理学専門演習Ⅱ

クラス:

授業コード: DC10400004

担当者: 椎野 智子 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: この授業は、臨床心理学の論文を読み、研究方法への理解を深めることを目的とする。そして日常生活での疑問や問題など興味・関心のあるテーマについて、先行研究を調べ、自らの疑問への「答え」を科学的に解明できるように取り組む。

到達目標:
1. 心理学研究法を理解すること
2. 学術論文を読み、自分なりの考察ができること
3. 卒業研究で取り組むテーマを絞り込み、先行研究の知見や問題点の整理をした上で、研究計画を立案すること

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 心理学の研究方法1
3. 心理学の研究方法2
4. 論文講読・発表1
5. 論文講読・発表2
6. 論文講読・発表3
7. 論文講読・発表4
8. 仮説の検討1
9. 仮説の検討2
10. 調査方法の検討
11. 研究計画発表1
12. 研究計画発表2
13. 研究計画発表3
14. 研究計画発表4
15. まとめと講評

特記事項: ※全15回の授業のうちキャリアセンターからのキャリアガイダンスが1回入るため、授業内容が変更になる場合があります。

授業方法: 基本的に演習形式で行うが、適宜研究方法などの講義を行う。また、授業の最後には、レポート課題として卒業論文に向けた研究計画書の提出を求める。
1. 演習（対面）
2. 演習（オンライン）
3. 演習（対面）
4. 演習（対面）
5. 演習（対面）
6. 演習（オンライン）
7. 発表（対面）
8. 演習（対面）
9. 演習（対面）
10. 演習（対面）
11. 演習（オンライン）
12. 演習（対面）
13. 発表（対面）
14. 演習（対面）
15. 演習（オンライン）

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. これまでの授業で学んだ研究手法について復習する（180分）
2. 研究手法の理解と興味を持った心理学の専門書や論文の講読（180分）

3. 研究方法について調べ、自身のテーマと合わせて検討する（180分）
4. 自身の研究テーマに関連する論文を講読する（180分）
5. 自身の研究テーマに関連する論文を講読する（180分）
6. 自身の研究テーマに関連する論文を講読する（180分）
7. 他のゼミ生のテーマについて検討する（180分）
8. 先行研究を講読し、仮説を検討する（180分）
9. 先行研究を講読し、仮説を検討する（180分）
10. 先行研究を講読し、研究方法を決定する（180分）
11. 自身の研究テーマに関連する論文を講読する（180分）
12. 自身の研究テーマに関連する論文を講読する（180分）
13. 自身の研究テーマに関連する論文を講読する（180分）
14. 他のゼミ生の研究テーマに関して検討する（180分）
15. これまでの進捗をまとめ、卒業論文の作成を進める（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	40	**%**	**確認テスト：**	－	**%**	**レポート：**	60 **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準：

（最低限の到達度）（60～69点）
・臨床心理学に関する文献を読み、考察することができる。
・発表資料を全て提出している。
・ゼミ内でのディスカッションで発言することができる。
・卒業研究で取り組むテーマを絞り込み、研究計画を立案することができる。

（望ましい到達度）（80～100点）
・臨床心理学に関する文献を読むことができ、問題点を指摘し、かつ考察することができる。
・発表資料を全て提出し、その記述内容が適切である。
・ゼミ内でのディスカッションで自分の意見を発言し、積極的に話し合いに参加することができる。
・卒業研究で取り組むテーマを絞り込み、先行研究の知見や問題点の整理をした上で、研究計画を立案することができる。

課題へのフィードバック：

文献発表や研究計画の発表時に適宜フィードバックを行う。

教科書： 教科書は使用しない。

参考書： 小塩真司・西口利文(編) 心理学基礎演習Vol.2質問紙調査の手順, ナカニシヤ出版, 2007
小塩真司・宅香菜子(著) 心理学の卒業研究ワークブック, 金子書房, 2015

授業・準備学習のアドバイス：

この授業では、各自の関心領域の文献を読み、レジュメを作成、発表、討論する。授業態度は単に出席していればよいというものではない。積極的に授業に参加し、研究課題に取り組むことを評価する。また、特別な理由がない限り、全ての回に出席することが前提である。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 心理学専門演習Ⅱ

クラス:

授業コード: DC10400005

担当者: 三井 知代 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 本演習では、自らの研究テーマを中心に心理学の文献を講読し、さらに学内外でのゼミ活動から研究テーマを探究することにより、研究計画を立案することを目的とする

到達目標:
1. 研究テーマに沿った心理学の文献を講読し、心理学研究法についての理解を深める
2. 学内外でのゼミ活動において協働して課題に取り組める
3. 自らのテーマにおける研究計画を立案できる

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 心理学文献講読、発表1
3. 心理学文献講読、発表2
4. 心理学文献講読、発表3
5. 心理学文献講読、発表4
6. 心理学文献講読、発表5
7. 心理学研究の多様性(学内外の活動の検討)
8. 心理学研究の多様性(学内外の活動の準備)
9. 心理学研究の多様性(学内外の活動の実施)
10. 心理学研究の多様性(学内外の活動の実施)
11. 心理学研究の多様性(学内外の活動の振り返り)
12. 課題発表会1
13. 課題発表会2
14. 課題発表会3
15. 課題発表会4

特記事項: ※全15回の授業のうちキャリアセンターからのキャリアガイダンスが1回入るため、授業内容が変更になる場合があります。

授業方法: 対面授業
各回、基本的にディスカッションを中心に行う。
2-6回、12-15回は発表とディスカッション、7-11回は講義とディスカッション、学内外での活動を含む。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 講義内容に関連する書籍、文献を探し、読む(100分)
2. 講義内容に関連する書籍、文献を探し、読む(100分)
3. 発表に関連する書籍、文献を探し、読む(200分)
4. 発表に関連する書籍、文献を探し、読む(200分)
5. 発表に関連する書籍、文献を探し、読む(200分)
6. 発表に関連する書籍、文献を探し、読む(200分)
7. 心理学研究の多様性(学内外の活動の検討準備)(200分)
8. 心理学研究の多様性(学内外の活動の計画準備)(200分)
9. 心理学研究の多様性(学内外の活動の実施準備)(200分)
10. 心理学研究の多様性(学内外の活動の実施準備)(200分)
11. 心理学研究の多様性(復習 学内外の振り返りとまとめ)(200分)
12. 発表資料作成及び振り返り(200分)
13. 発表資料作成及び振り返り(200分)
14. 発表資料作成及び振り返り(200分)
15. 発表資料作成及び振り返り(200分)

評価方法：	授業へのとりくみ：	60 %	確認テスト：	－ %	レポート：	40 %
	その他1：			%		
	その他2：			%		

評価基準： 最低限の到達度（60～69点）
授業への取り組み：ディスカッションに参加し、自分の考えを述べることができる。学内外活動では他のゼミ生と協働的活動を行うことができる。
レポート：研究テーマについて、資料を基に発表用にまとめることができる
望ましい到達度（80～100点）
授業への取り組み：ディスカッションに参加し、自分の考えを述べることができる。さらに他者の意見を参考に研究内容等の修正や充実に向けての改善ができる。学内外活動では、課題の探究及びその解決に向けての活動を自律的かつ協働的に行うことができる。
レポート：研究テーマについて、資料を基に発表用にまとめることができる。さらに課題を明確化し、今後の研究の進展の向けての計画を述べることができる。

課題へのフィードバック：
適宜フィードバックを行う。

教科書： 授業中に紹介する

参考書： 授業中に紹介する

授業・準備学習のアドバイス：
「授業への取り組み」60%の内訳は、授業態度（積極的なディスカッションおよび活動への参加）20%,
課題・活動への意欲的な取り組み20%、発表20%とする。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 心理学専門演習Ⅱ

クラス:

授業コード: DC10400006

担当者: 吉野 俊彦 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 論理的な考え方，わかりやすい論文の書き方，議論の仕方など，科学的なアプローチに必要なスキルのブラッシュアップをしながら，卒業研究の問題をより絞り込んでいく。具体的には，秋学期終了時に卒業論文のテーマと目的を明確にすることを目標とする。

到達目標: 1. 卒業論文のテーマ，目的を明確にする。
2. 科学的な人間理解の方法としての心理学に必要なスキルをブラッシュアップする。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. パラグラフライティングと論文の構成との関係
3. 論文の目的・リサーチクエスチョンとは
4. 発表と議論1
5. 発表と議論2
6. 発表と議論3
7. 発表と議論4
8. 発表と議論5
9. 論文作成のタイムスケジュールとその修正方法
10. 発表と議論6
11. 発表と議論7
12. 発表と議論8
13. 発表と議論9
14. 発表と議論10
15. まとめ

特記事項: (授業方法)教員による概説を踏まえて，各自の関心に従った発表と議論によって進める。
対面での実施が原則であるが，事情によって遠隔での参加を許可することがある。
※全15回の授業のうちキャリアセンターからのキャリアガイダンスが1回入るため、授業内容が変更になる場合があります。

授業方法: 1. 発表とディスカッション。必要に応じて講義。
2. 発表とディスカッション。必要に応じて講義。
3. 発表とディスカッション。必要に応じて講義。
4. 発表とディスカッション。必要に応じて講義。
5. 発表とディスカッション。必要に応じて講義。
6. 発表とディスカッション。必要に応じて講義。
7. 発表とディスカッション。必要に応じて講義。
8. 発表とディスカッション。必要に応じて講義。
9. 発表とディスカッション。必要に応じて講義。
10. 発表とディスカッション。必要に応じて講義。
11. 発表とディスカッション。必要に応じて講義。
12. 発表とディスカッション。必要に応じて講義。
13. 発表とディスカッション。必要に応じて講義。
14. 発表とディスカッション。必要に応じて講義。
15. 発表とディスカッション。必要に応じて講義。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 授業での発表に必要な準備を除いて、教科書を読み進めること(90分)。授業内で指摘された事項や文献検索などについて復習・確認を行うこと(90分)。
2. 授業での発表に必要な準備を除いて、教科書を読み進めること(90分)。授業内で指摘された事項や文献検索などについて復習・確認を

行うこと(90分)。
3. 授業での発表に必要な準備を除いて、教科書を読み進めること(90分)。授業内で指摘された事項や文献検索などについて復習・確認を行うこと(90分)。
4. 授業での発表に必要な準備を除いて、教科書を読み進めること(90分)。授業内で指摘された事項や文献検索などについて復習・確認を行うこと(90分)。
5. 授業での発表に必要な準備を除いて、教科書を読み進めること(90分)。授業内で指摘された事項や文献検索などについて復習・確認を行うこと(90分)。
6. 授業での発表に必要な準備を除いて、教科書を読み進めること(90分)。授業内で指摘された事項や文献検索などについて復習・確認を行うこと(90分)。
7. 授業での発表に必要な準備を除いて、教科書を読み進めること(90分)。授業内で指摘された事項や文献検索などについて復習・確認を行うこと(90分)。
8. 授業での発表に必要な準備を除いて、教科書を読み進めること(90分)。授業内で指摘された事項や文献検索などについて復習・確認を行うこと(90分)。
9. 授業での発表に必要な準備を除いて、教科書を読み進めること(90分)。授業内で指摘された事項や文献検索などについて復習・確認を行うこと(90分)。
10. 授業での発表に必要な準備を除いて、教科書を読み進めること(90分)。授業内で指摘された事項や文献検索などについて復習・確認を行うこと(90分)。
11. 授業での発表に必要な準備を除いて、教科書を読み進めること(90分)。授業内で指摘された事項や文献検索などについて復習・確認を行うこと(90分)。
12. 授業での発表に必要な準備を除いて、教科書を読み進めること(90分)。授業内で指摘された事項や文献検索などについて復習・確認を行うこと(90分)。
13. 授業での発表に必要な準備を除いて、教科書を読み進めること(90分)。授業内で指摘された事項や文献検索などについて復習・確認を行うこと(90分)。
14. 授業での発表に必要な準備を除いて、教科書を読み進めること(90分)。授業内で指摘された事項や文献検索などについて復習・確認を行うこと(90分)。
15. 授業での発表に必要な準備を除いて、教科書を読み進めること(90分)。授業内で指摘された事項や文献検索などについて復習・確認を行うこと(90分)。

評価方法:

授業へのとりくみ:	50	**%**	**確認テスト:**	-	**%**	**レポート:**	50 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準:
授業への取り組みは、準備に基づいた発表の形式と内容、およびディスカッションへの参加度を総合的に評価する。
レポートについては、以下の項目の満たされている項目数と内容に従って評価を決定する。
30～34 課題のまとめがなされている。
35～39 過不足のないまとめとなっている。
40～44 まとめに従って、自分の意見が述べられている。
45～50 妥当な論証が示された上で自分の意見が述べられている。

課題へのフィードバック:
授業への取り組みについては適宜、レポートについては、添削した上で次年度の春学期に返却する。

教科書:
戸田山 和久 (2012). 新版 論文の教室-レポートから卒論まで NHKブックス

参考書:
戸田山 和久 (2022). 論文の教室 : レポートから卒論まで』(最新版)NHKブックス
福澤一吉 (2018). 新版議論のレッスン NHK生活人新書
木下是雄 (1981). 理解系の作文技術 中公新書

授業・準備学習のアドバイス:
この授業は学生の発表がなければ前に進みません。100%能動的な取り組み，授業時間外での積極的な学びを期待します。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 心理学専門演習Ⅱ

クラス:

授業コード: DC10400007

担当者: 権藤 眞織 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 演習Ⅰで学んだことを土台として、保育・教育現場、あるいは、日常生活において、応用行動分析を活用できるテーマについて探求を深める。
各自のテーマと関連のある専門書や文献いくを収集し、卒行論文の作成にむけて準備し、中間発表を行う。

到達目標:
1.「行動変容」に関連する関心事項を、学習心理学的側面から分析・理解する。
2. 卒業論文のテーマを決め、小論文を作成する。
3. ゼミメンバーで、互いのテーマについて興味・関心を持ち、ディスカッションを行う。
4. 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション・スケジュール調整
2. 演習Ⅰの理解確認 ～春学期の振り返り～
3. ゼミメンバーの研究テーマについての発表とディスカッション①
4. ゼミメンバーの研究テーマについての発表とディスカッション②
5. ゼミメンバーの研究テーマについての発表とディスカッション③
6. 研究テーマについての資料・文献収集①
7. 研究テーマについての資料・文献収集②
8. 研究成果の発表とディスカッション①
9. 研究成果の発表とディスカッション②
10. 研究成果の発表とディスカッション③
11. 卒業論文にむけての準備① ～研究テーマについての個別面談～
12. 卒業論文にむけての準備② ～研究テーマについての個別面談～
13. 卒業論文にむけての準備③ ～研究計画についての発表と討議～
14. 学科行事
15. まとめ

特記事項: 異学年交流を行います

授業方法: 授業は全て対面形式で実施する。
1. 講義と話し合い
2. 演習
3.演習やプレゼンテーションとディスカッション
4. 演習やプレゼンテーションとディスカッション
5. 演習やプレゼンテーションとディスカッション
6. 調べ学習（PCや図書館）（オンラインの可能性あり）
7. 調べ学習（PCや図書館）（オンラインの可能性あり）
8. 演習やプレゼンテーションとディスカッション
9. 演習やプレゼンテーションとディスカッション
10.演習やプレゼンテーションとディスカッション
11.演習と話し合い
12. 演習と話し合い
13. 演習と話し合い
14. 講義
15. 演習やプレゼンテーションとディスカッション

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 春学期の成果と秋学期のスケジューリング（180分）
2. 春学期のまとめ（180分）
3. 発表のまとめと振り返り（180分）
4. 発表のまとめと振り返り（180分）
5. 発表のまとめと振り返り（180分）
6. 文献検索と読解（180分）
7. 文献検索と読解（180分）
8. レジメ作成・発表の振り返り（180分）
9. レジメ作成・発表の振り返り（180分）
10. レジメ作成・発表の振り返り（180分）
11. 研究テーマについての調べ活動（180分）
12. 研究テーマについての調べ活動（180分）
13. 研究テーマについての調べ活動（180分）
14. 学んだことのまとめ（180分）
15. 今年度のまとめと次年度への目標（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	50 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	ポートフォリオ作成		50 **%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

最低限度の到達度(60-69点)
ゼミメンバーと協力的に意見交換ができる。
自分の興味関心に基づき、調べ活動、まとめ活動に取り組める。
発表原稿を作成し、プレゼンテーションができる。

望ましい到達度(80-100点)
ゼミメンバーと協力的に意見交換ができ、質疑応答ができる。
自分の興味関心に基づき、調べ活動、まとめ活動に取り組み、自分の言葉で説明できる。
発表原稿を文章は図解を活用して作成し、プレゼンテーションができる。あわせて、質疑応答ができる。

課題へのフィードバック：

講義の中で取り上げ、講評をおこなう。
提出物は、内容確認ののち、授業内で返却する。

教科書： 随時 文献を紹介する

参考書： 永田 豊志 (著)すべての勉強は、「図」!でうまくいく: 今までの10倍「記憶力」「思考力」が強くなる

授業・準備学習のアドバイス：

日常の中のさまざまな学習の事例を見つけてください。日常のさまざまな行動を学習の基礎理論から捉えてみて下さい。学習の原理原則を応用して、自分や周りの人の行動を理解してみましょう。また、行動上の課題を支援するプランも考えてみてください。学習心理学や行動分析学を身近に感じてもらえるといいなと思います。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 心理学専門演習Ⅱ

クラス:

授業コード: DC10400008

担当者: 西　恭平　　**単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 自らの研究テーマを確定させるため、心理学の文献を講読し、研究計画を立案して、4年時の卒業研究につなぐ

到達目標:
1. 研究テーマを確定させるために心理学の文献を講読し、心理学研究法についての理解をより一層深めることができる
2. 自らのテーマを確定させ、テーマに沿った研究計画を立案できる

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 研究テーマを確定させるための心理学の文献講読、及び発表1
3. 研究テーマを確定させるための心理学の文献講読、及び発表2
4. 研究テーマを確定させるための心理学の文献講読、及び発表3
5. 研究テーマを確定させるための心理学の文献講読、及び発表4
6. 研究テーマを確定させるための心理学の文献講読、及び発表5
7. 心理学論文の構成についての整理1（論文の全体的な構成の理解）
8. 心理学論文の構成についての整理2（問題と目的の立て方と記載）
9. 心理学論文の構成についての整理3（統計検定と論文への記載・インタビューによる質的研究と論文への記載）
10. 心理学論文の構成についての整理4（考察の記載内容）
11. 課題発表会1
12. 課題発表会2
13. 課題発表会3
14. 課題発表会4
15. 課題発表会5

特記事項: 全15回の授業のうちキャリアセンターからのキャリアガイダンスが1回入るため、授業内容が変更になる場合があります。

授業方法: 基本的に対面で授業を行う。
第1～15回 演習（対面）

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

各回予習（100分）
授業内容に関連する書籍、文献を探し、読んで、考えをまとめる。
各回復習（80分）
授業内容を整理し、新たな課題に関連する論文を購読する。

評価方法:

授業へのとりくみ:	60	**%**	**確認テスト:**	－	**%**	**レポート:**	40 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: 最低限の到達度（60~69点）
・授業への取り組み：ディスカッションに参加し、自分の考えを述べることができる
・レポート：研究テーマについて、資料を基に発表用にまとめ、事後に整理しなおすことができる
望ましい到達度（80~100点）
・授業への取り組み：ディスカッションに参加し、自分の考えを述べることができる。さらに他者の意見を参考に自らの研究内容等の修正や充実に向けての改善ができる。
・レポート：研究テーマについて、資料を基に発表用にまとめて、わかりやすく発表することができる。さらに課題を明確化し、今後の研究の進展の向けての計画を立てることができる。

課題へのフィードバック:

口頭、文書、TEAMS上のやりとりにおいて適宜フィードバックを行う。

教科書: なし。授業中に適宜紹介する。

参考書: 授業中に適宜紹介する。

授業・準備学習のアドバイス:

心理学専門演習Ⅰに引き続き、自身の学びを深めていきましょう。
卒業研究に向けて、自分が興味をもって取り組める研究テーマを見つけましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 心理学専門演習Ⅲ

クラス:

授業コード: DC10500001

担当者: 三井 知代 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 卒業論文のテーマとなる研究テーマを定め、研究計画の策定、文献講読、データ収集の準備等を行う

到達目標: 論文作成のための方法を理解し、自分の研究テーマに沿ってデータの収集、分析、論文執筆を行う力をつけることを目標とする

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 研究テーマと研究法について、研究倫理について
3. 自らの研究テーマと研究方法（発表1）
4. 自らの研究テーマと研究方法（発表2）
5. 自らの研究テーマと研究方法（発表3）
6. 自らの研究テーマと研究方法（発表4）
7. 自らの研究テーマと研究方法（発表5）
8. 調査準備（1）
9. 調査準備（2）
10. 調査準備（3）
11. 分析方法の検討（1）
12. 分析方法の検討（2）
13. 分析方法の検討（3）
14. 分析方法の検討（4）
15. まとめと論文執筆計画

特記事項: なし

授業方法: すべて対面授業でおこなう。

1. 講義
2. 講義とワーク
3. 発表
4. 発表
5. 発表
6. 発表
7. 発表
8. 講義とワーク
9. 講義とワーク
10. 講義とワーク
11. 講義とワーク
12. 講義とワーク
13. 講義とワーク
14. 講義とワーク
15. 講義

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 研究方法の検討（180分）
2. 研究方法の検討（180分）
3. 研究方法の検討と発表準備（180分）
4. 研究方法の検討と発表準備（180分）

5. 研究方法の検討と発表準備（180分）
6. 研究方法の検討と発表準備（180分）
7. 研究方法の検討と発表準備（180分）
8. 調査準備（180分）
9. 調査準備（180分）
10. 調査準備（180分）
11. 調査及びデータ分析準備（180分）
12. 調査及びデータ分析準備（180分）
13. 調査及びデータ分析準備（180分）
14. 調査及びデータ分析準備（180分）
15. 調査及びデータ分析準備（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	60	**%**	**確認テスト：**	－	**%**	**レポート：**	40 **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準： 60～69点：研究テーマに沿って、調査研究等の計画と準備ができている
80～100点：上記の内容に加えて、調査の実施や分析まで取り組むことができている

課題へのフィードバック：

課題についての発表時やレポート等についてのフィードバックを行う

教科書： なし

参考書： 講義内で紹介する

授業・準備学習のアドバイス：

研究テーマについて好奇心と情熱を持って、積極的に取り組んでください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 心理学専門演習Ⅲ

クラス:

授業コード: DC10500002

担当者: 権藤 眞織 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 演習Ⅰで学んだことを土台として、様々な領域、あるいは、日常生活において、応用行動分析を活用できるテーマについて探求を深める。
各自のテーマと関連のある専門書や文献いくを収集し、卒業論文の作成にむけて準備し、中間発表を行う。

到達目標: 1. 各自のテーマや関心事項を、学習心理学的側面から分析・理解する。
2. 卒業論文のテーマを決め、小論文を作成する。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション・スケジュール調整・3・4年交流
2. 3年ゼミの理解確認 ～前学期の振り返り～
3. ゼミメンバーの研究テーマについての発表とディスカッション①
4. ゼミメンバーの研究テーマについての発表とディスカッション②
5. ゼミメンバーの研究テーマについての発表とディスカッション③
6. 研究テーマについての資料・文献収集①
7. 研究テーマについての資料・文献収集②
8. 研究成果の発表とディスカッション①
9. 研究成果の発表とディスカッション②
10. 研究成果の発表とディスカッション③
11. 卒業論文にむけての準備① ～研究テーマについての個別面談～
12. 卒業論文にむけての準備② ～研究テーマについての個別面談～
13. 卒業論文にむけての準備③ ～研究計画についての発表と討議～
14. 講演会
15. まとめ

特記事項: ゼミの学習の中で、異学年での交流を行う

授業方法: 1. 講義と演習
2. 演習、プレゼンテーションとシェアリング
3. 講義と演習
4. 講義と演習
5. 講義と演習
6. PCを利用した調べ学習
7. PCを利用した調べ学習
8. 発表とディスカッション
9. 発表とディスカッション
10.発表とディスカッション
11. 面談
12. 面談
13. 面談
14. 講義
15. 演習

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1.「今年度の目標と計画」他スケジューリング(180分)
2. 3年ゼミの振り返りとまとめ(180分)
3. 自分のテーマの調べ学習(180分)
4. 自分のテーマの調べ学習(180分)
5. 自分のテーマの調べ学習(180分)

6. 文献検索と読解（180分）
7. 文献検索と読解（180分）
8. レジメ作成（180分）
9. レジメ作成（180分）
10. レジメ作成（180分）
11. 面談準備（180分）
12. 面談準備（180分）
13. 面談準備（180分）
14. 講演会まとめ（180分）
15. 春学期のまとめと夏休み課題の検討（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	50	**%**	**確認テスト：**	**%**	**レポート：**	50	**%**
その他1：				**%**			
その他2：				**%**			

評価基準：

最低限度の到達度（60-69点）
ゼミメンバーと協力的に意見交換ができる。
自分の興味関心に基づき、調べ活動、まとめ活動に取り組める。
発表原稿を作成し、プレゼンテーションができる。

望ましい到達度（80-100点）
ゼミメンバーと協力的に意見交換ができ、質疑応答ができる。
自分の興味関心に基づき、調べ活動、まとめ活動に取り組み、自分の言葉で説明できる。
発表原稿を文章は図解を活用して作成し、プレゼンテーションができる。あわせて、質疑応答ができる。

課題へのフィードバック：

講義の中で取り上げ、講評をおこなう。
提出物は、内容確認ののち、授業内で返却する。

教科書： 随時 文献を紹介する

参考書： 永田 豊志 (著)すべての勉強は、「図」!でうまくいく: 今までの10倍「記憶力」「思考力」が強くなる

授業・準備学習のアドバイス：

卒業後、のびのびと社会で活躍するためには、さまざまな技能の獲得が期待されます。本演習では、その中の技能の一つとして学習心理学的な考え方を獲得し、
自分自身や周りの人の行動の理解と行動変容をサポートできる考え方や技能の獲得を目指します。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 心理学専門演習Ⅲ

クラス:

授業コード: DC10500003

担当者: 古川 心 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: これまでに培ってきた臨床心理学的視点および研究的問題意識を基盤として、卒業論文のテーマを確定し、研究計画を具体化・実行に移すことを目的とする。
先行研究の分析や討議を通して研究テーマを精緻化するとともに、研究仮説や方法論を明確にし、卒業研究として適切な研究デザインを構築する力を養う。
また、調査・実験の準備や実施、分析方法の検討を段階的に進めながら、研究を計画的に遂行する姿勢を身につける。あわせて、臨床心理学的支援・研究における倫理的配慮について再確認し、研究を行う上での責任ある態度を育成する。
春学期の最終段階では中間発表を行い、夏休み以降の研究活動に円滑につなげることを目指す。

到達目標:
1. 卒業論文の研究テーマを明確にし、その背景や意義を先行研究に基づいて説明できる。
2. 先行研究を批判的に検討し、自身の研究課題や仮説を設定できる。
3. 研究目的に即した方法論(調査・実験・分析方法)を検討し、研究デザインを構築できる。
4. 研究倫理を理解し、卒業研究において必要な倫理的配慮を実践できる。
5. 研究計画書およびタイムスケジュールを作成し、計画的に研究を進めることができる。
6. 中間発表を通して、研究内容や進捗を適切に説明し、指摘を踏まえて研究計画を修正できる。
7. 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション授業のテーマや到達目標及び授業の方法等について臨床心理学的支援・研究における倫理について
2. 卒業論文テーマの確定と先行研究の分析(1)興味・関心のあるテーマについて、先行研究をまとめ、プレゼンテーションを作成する
3. 卒業論文テーマの確定と先行研究の分析(2)作成したプレゼンテーションを発表する討議を通して、卒業論文テーマとその方法を絞り込む
4. 卒業論文テーマの確定と先行研究の分析(3)作成したプレゼンテーションを発表する討議を通して、卒業論文テーマとその方法を絞り込む
5. 卒業論文の研究デザインを考える(1)研究テーマと仮説および方法論の決定①
6. 卒業論文の研究デザインを考える(2)研究テーマと仮説および方法論の決定②
7. 研究計画書およびタイムスケジュールの作成と確認卒業論文を進めるための研究計画書を作成タイムスケジュールを立てる
8. 研究方法の実際(1)調査・実験項目の選定文献の選定
9. 研究倫理の確認と指導
10. 研究方法の実際(2)調査・実験項目の準備と実施①文献をまとめる①
11. 研究方法の実際(3)調査・実験項目の準備と実施②文献をまとめる②
12. 研究方法の実際(4)分析方法の検討①
13. 研究方法の実際(5)分析方法の検討②
14. 中間発表(1)春学期の総括として、中間発表を行う夏休みの過ごし方、課題について確認
15. 中間発表(2)春学期の総括として、中間発表を行う夏休みの過ごし方、課題について確認

特記事項: 研究の実施に際しては、研究倫理を十分に理解し、遵守して行うこと。

授業方法: 本授業は、発表、討議、個別指導を中心に進める。
各回において、学生は自身の研究テーマや進捗状況について資料を作成し、プレゼンテーションを行う。教員および他のゼミ生との討議を通して、研究テーマや方法論を精緻化していく。
先行研究の分析、研究デザインの検討、調査・実験準備、分析方法の検討など、卒業論文作成の各段階に応じた指導を行い、学生が主体的に研究を進められるよう支援する。
一部の回はオンライン(オンデマンド)形式とし、研究計画書や資料作成など、個別作業に集中する時間を確保する。
また、研究倫理に関する指導を適宜行い、臨床心理学的研究における倫理的配慮について確認しながら、卒業研究を進める。

1. 講義、演習(対面)

2. 講義、演習（対面）
3. 講義、演習（対面）
4. 講義、演習（対面）
5. オンライン授業（オンデマンド）
6. 講義、演習（対面）
7. オンライン授業（オンデマンド）
8. 講義、演習（対面）
9. 講義、演習（対面）
10. オンライン授業（オンデマンド）
11. 講義、演習（対面）
12. 講義、演習（対面）
13. オンライン授業（オンデマンド）
14. 講義、演習（対面）
15. 講義、演習（対面）

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. 研究方法、仮説の再検討（180分）
2. 発表準備（180分）
3. 研究方法、仮説の再検討（180分）
4. 研究方法、仮説の再検討（180分）
5. 研究方法、仮説の再検討（180分）
6. 研究方法、仮説の再検討（180分）
7. 無理のない研究計画になっているか確認し、必要であれば修正を行う（180分）
8. 調査票作成／実験準備、実施。文献選定（180分）
9. 研究倫理について整理し、理解を深める（180分）
10. 調査票作成／実験準備、実施。文献整理（180分）
11. 調査票作成／実験準備、実施。文献まとめ（180分）
12. データ入力と分析（180分）
13. データ入力と分析（180分）
14. 発表準備（180分）
15. 発表準備（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	50	**%**	**確認テスト：**	－	**%**	**レポート：**	50 **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準：

【最低限の到達度（60～69点）】
授業への取り組み
・対面授業およびオンライン（オンデマンド）授業に継続して参加し、各回で求められる報告や課題に取り組んでいる。
・経過報告において、自身の研究の進捗状況や課題を提示することができる。
・オンデマンド回においても、指定された資料の確認や課題提出を期限内に行っている。
レポート・課題
・先行研究の整理や研究計画に関する課題について、指示された内容を踏まえてまとめることができている。
・卒業論文に向けた準備として、必要最低限の内容を文章化できている。

【標準的な到達度（70～79点）】
授業への取り組み
・対面授業およびオンライン（オンデマンド）授業に主体的に参加し、経過報告や討論において自分の考えを述べることができる。
・教員や他のゼミ生からの指摘を踏まえ、研究内容の修正や精緻化に取り組んでいる。
・オンデマンド回での学修内容を、その後の対面授業での報告や討論に適切に反映している。
レポート・課題
・先行研究を踏まえて研究テーマや方法を整理し、論理的に説明できている。
・研究計画書や関連課題が、卒業論文につながる内容として適切にまとめられている。

【望ましい到達度（80～100点）】
授業への取り組み
・対面授業およびオンライン（オンデマンド）授業の双方に積極的に取り組み、討論を通して研究内容を主体的に発展させている。
・経過報告において、研究の進捗や課題を的確に整理し、他者の意見を踏まえて柔軟に検討を深めている。
・個別指導や討論で得た助言を、自身の研究に継続的に反映させている。
レポート・課題
・先行研究の位置づけや研究方法が明確で、卒業論文としての方向性が具体的に示されている。
・研究計画や分析計画が妥当で、次の段階（調査・分析）に円滑につながる内容としてまとめられている。

課題へのフィードバック：

課題についての発表を行い、適宜フィードバックを行う

教科書： なし

各自の関心・研究テーマに応じて適宜紹介する

参考書: 適宜、授業内で紹介する

授業・準備学習のアドバイス:

日常の出来事について、臨床心理学的視点から理解することを意識してください。
卒業研究を進めるための基本的なスキルを身に着けることはもちろん、主体的に研究を進める姿勢を求めます。連絡をしっかり取り、相談を密に行うようにしてください。
積極的にディスカッションに参加し、自身の興味・関心を探求してください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 心理学専門演習Ⅲ

クラス:

授業コード: DC10500004

担当者: 辻川 典文 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 卒業論文のテーマを絞り込み，データ収集の準備を行うことが目標となる。

到達目標: 自己の関心のあるテーマを論文という形にするプロセスを学習し，論文執筆の力をつけることが目標となる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 研究テーマと方法論の確認1
3. 研究テーマと方法論の確認2
4. 研究テーマと方法論の確認3
5. 調査項目の選定:先行研究
6. 調査項目の選定:レイアウト
7. 調査時の倫理規定など
8. 調査票の準備、発表1
9. 調査票の準備、発表2
10. 調査準備1
11. 調査準備2
12. 分析方法の検討1
13. 分析方法の検討2
14. 分析方法の検討3
15. まとめと今後の課題の検討

特記事項: なし

授業方法: 授業は、すべて対面で実施します

1. 講義とワーク
2. 講義とワーク
3. 講義とワーク
4. 講義とワーク
5. 発表
6. 発表
7. 講義
8. 講義とワーク
9. 講義とワーク
10. 講義とワーク
11. 講義とワーク
12. 講義とワーク
13. 講義と発表
14. 講義と発表
15. 発表とグループワーク

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 研究方法、仮説の再検討(180分)
2. 研究方法、仮説の再検討(180分)
3. 研究方法、仮説の再検討(180分)

4. 研究方法、仮説の再検討(180分)
5. 研究方法、仮説の再検討(180分)
6. 調査票作成(180分)
7. 調査票作成(180分)
8. 調査票作成(180分)
9. 調査票作成(180分)
10. 調査票作成(180分)
11. 調査実施とデータ入力(180分)
12. 調査実施とデータ入力(180分)
13. 調査実施とデータ入力(180分)
14. 調査実施とデータ入力(180分)
15. 調査実施とデータ入力(180分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	60	**%**	**確認テスト:**	−	**%**	**レポート:**	40 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準:
60～69点:先行研究をもとに実験や調査の設計、準備ができている
80～100点:上記の内容に加え、実験や調査を実施することができている

課題へのフィードバック:
課題についての発表を行い、適宜フィードバックを行う

教科書: 適宜、プリントなどを配布する

参考書: 小塩真司・宅香菜子(2015) 心理学の卒業研究ワークブック: 発想から論文完成までの 10 ステージ 金児書房

授業・準備学習のアドバイス:
遅刻・欠席は厳禁。すべての授業に積極的に参加すること。発表課題については先行研究や文献をしっかりと調べて準備すること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 心理学専門演習Ⅲ

クラス:

授業コード: DC10500005

担当者: 吉野 俊彦 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 論理的な考え方，わかりやすい論文の書き方，議論の仕方など，科学的なアプローチに必要なスキルのブラッシュアップをしながら，卒業研究の問題をより絞り込んでいく。具体的には，秋学期終了時に卒業論文のテーマと目的を明確にすることを目標とする。

到達目標:
1. 卒業論文のテーマ，目的を明確にする。
2. 科学的な人間理解の方法としての心理学に必要なスキルをブラッシュアップする。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. パラグラフライティングと論文の構成との関係
3. 論文の目的・リサーチクエスチョンとは
4. 発表と議論1
5. 発表と議論2
6. 発表と議論3
7. 発表と議論4
8. 発表と議論5
9. 論文作成のタイムスケジュールとその修正方法
10. 発表と議論6
11. 発表と議論7
12. 発表と議論8
13. 発表と議論9
14. 発表と議論10
15. まとめ

特記事項: 対面での実施が原則であるが，事情によって遠隔での参加を許可することがある。

授業方法:
1. 発表とディスカッション。必要に応じて講義。
2. 発表とディスカッション。必要に応じて講義。
3. 発表とディスカッション。必要に応じて講義。
4. 発表とディスカッション。必要に応じて講義。
5. 発表とディスカッション。必要に応じて講義。
6. 発表とディスカッション。必要に応じて講義。
7. 発表とディスカッション。必要に応じて講義。
8. 発表とディスカッション。必要に応じて講義。
9. 発表とディスカッション。必要に応じて講義。
10. 発表とディスカッション。必要に応じて講義。
11. 発表とディスカッション。必要に応じて講義。
12. 発表とディスカッション。必要に応じて講義。
13. 発表とディスカッション。必要に応じて講義。
14. 発表とディスカッション。必要に応じて講義。
15. 発表とディスカッション。必要に応じて講義。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 教科書第1予習復習（各90分）
2. 教科書第1章予習復習（各90分）
3. 発表の準備（180分）
4. 教科書第2章予習復習（各90分）
5. 教科書第2章予習復習（各90分）

6. 発表の準備（180分）
7. 発表の振り返り(180分)
8. 教科書第3章予習復習（各90分）
9. 教科書第3章予習復習（各90分）
10. 発表の準備(180分)
11. 発表の振り返り(180分)
12. 教科書第4章予習復習（各90分）
13. 教科書第4章予習復習（各90分）
14. 教科書第1～4章復習（180分）
15. 教科書第1～4章復習（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	50 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：	作成されたレジュメ		50 **%**		
その他2：			**%**		

評価基準： 授業への取り組みは、準備に基づいた発表の形式と内容、およびディスカッションへの参加頻度を総合的に評価する。
レジュメについては、以下に従って評価を決定する。
30～34 課題のまとめがなされている。
35～39 過不足のないまとめとなっている。
40～44 まとめに従って、自分の意見が述べられている。
45～50 妥当な論証が示された上で自分の意見が述べられている。

課題へのフィードバック：

授業への取り組みについては適宜、レポートについては、添削した上で秋学期に返却する。

教科書： 戸田山 和久 (2022). 論文の教室 : レポートから卒論まで』(最新版)NHKブックス

参考書： 福澤一吉 (2018). 新版議論のレッスン NHK生活人新書

授業・準備学習のアドバイス：

この授業は学生の発表がなければ前に進みません。100%能動的な取り組み，授業時間外での積極的な学びを期待します。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 心理学専門演習Ⅲ

クラス:

授業コード: DC10500006

担当者: 犬飼 朋恵 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 卒業研究の構想及び実施の計画を確認し実施する。

到達目標: 3年次の演習を踏まえ実際に実験や調査を行い、卒業研究に結びつけるとともに、データ分析や論理的思考など社会において必要となる能力を身につける。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 研究計画の立案1
3. 研究計画の立案2
4. 研究計画の立案3
5. 実験準備1
6. 実験準備2
7. 実験準備3
8. 実験準備4
9. 実験準備5
10. データ整理1
11. データ整理2
12. データ整理3
13. データ整理4
14. データ整理5
15. まとめ

特記事項: なし

授業方法:

1. 演習【対面】
2. 演習【対面】
3. 演習【対面】
4. 演習【対面】
5. 演習【対面】
6. 演習【対面】
7. 演習【対面】
8. 演習【対面】
9. 演習【対面】
10. 演習【対面】
11. 演習【対面】
12. 演習【対面】
13. 演習【対面】
14. 演習【対面】
15. 演習とグループワーク【対面】

予習・復習・宿題など(内容・時間):

実験の内容確認及びデータ分析を毎講義の課題とする(180分)。

評価方法: **授業へのとりくみ:** 50 **%** **確認テスト:** － **%** **レポート:** 50 **%**

その他1: **%**

その他2： **%**

評価基準： 望ましい到達度（80～100点）
・研究内容を理解し，他人に内容をわかりやすく伝えることができる
最低限の到達度（60～69点）
・研究の内容を正確に他人に伝えることができる

課題へのフィードバック：

講義内でプレゼンテーションを行い，質疑応答を通して学習の到達度を確認する。その後結果のフィードバックを行う。

教科書： なし

参考書： 適宜紹介する。

授業・準備学習のアドバイス：

パソコンを講義内で使用することがあります。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 心理学専門演習Ⅲ

クラス:

授業コード: DC10500007

担当者: 椎野 智子 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 卒業論文作成のため、各自の研究計画を明確にし、先行研究の文献講読や調査を実施する。

到達目標:
1. 心理学専門演習Ⅰ、Ⅱを通して培った卒業論文作成のための基礎知識を活用して、各自の研究計画をまとめること。
2. 調査法についての知識を習得し調査を実施できること。
3. ゼミ生との議論に必要な論理的思考力を身につけること。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 発表:研究テーマの確認
3. 題目の検討
4. 調査の準備1ー調査時の倫理規定ー
5. 調査の準備2
6. 調査の準備3
7. 調査の実施1
8. 調査の実施2
9. 調査の実施3
10. 結果の整理1
11. 結果の整理2
12. 結果の整理3
13. 分析方法の検討
14. 発表:調査方法と結果について
15. まとめと講評

特記事項: なし

授業方法: 各自の関心のあるテーマに基づき、卒業研究を進めていく。
1. 演習(対面)
2. 発表(対面)
3. 演習(対面)
4. 演習(対面)
5. 演習(対面)
6. 演習(対面)
7. 演習(オンライン)
8. 演習(対面)
9. 演習(対面)
10. 演習(オンライン)
11. 演習(対面)
12. 演習(対面)
13. 演習(オンライン)
14. 発表(対面)
15. 演習(オンライン)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 卒業論文に向けたテーマ設定(180分)
2. 卒業論文のテーマに関する心理学の専門書や論文の講読(180分)
3. 卒業論文のテーマに合わせて題目を決定する(180分)

4. 質問紙調査における倫理規定の確認(180分)
5. 質問紙の作成(180分)
6. 質問紙の最終確認・冊子の印刷(180分)
7. 質問紙の修正を行い、完成させる(180分)
8. 実施した調査のデータを整理する(180分)
9. 実施した調査のデータを整理する(180分)
10. 実施した調査のデータを整理する(180分)
11. データ入力(180分)
12. データ分析(180分)
13. データ分析(180分)
14. 他のゼミ生の研究テーマについて理解を深める(180分)
15. これまでの進捗をまとめ、卒業論文の形に沿って記述する(180分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	40 **%**	**確認テスト:**	− **%**	**レポート:**	60 **%**
その他1:			**%**		
その他2:			**%**		

評価基準:

(最低限の到達度)(60～69点)
・授業全15回のうち、2/3以上を出席している。
・臨床心理学に関する文献を読むことができ、分析に関する基礎知識を理解することができる。
・発表資料を全て提出している。
・ゼミ内でのディスカッションで自分の意見を発言し、積極的に話し合いに参加することができる。
・自分の意見を述べながらレポートを書くことができる。

(望ましい到達度)(80～100点)
・臨床心理学に関する文献を読むことができ、分析に関する知識を習得し調査を実施することができる。
・発表資料を全て提出し、その記述内容が適切である。
・ゼミ内でのディスカッションで積極的に話し合いに参加し、必要な論理的思考力を身につけることができる。
・心理学専門演習Ⅰ、Ⅱを通して培った卒業論文作成のための基礎知識を活用して、研究計画をまとめることができる。

課題へのフィードバック:

文献発表や研究計画発表時等に適宜フィードバックを行う。

教科書: 教科書は使用しない。

参考書: 小塩真司・西口利文(編) 心理学基礎演習Vol.2質問紙調査の手順, ナカニシヤ出版, 2007
小塩真司・宅香菜子(著) 心理学の卒業研究ワークブック, 金子書房, 2015

授業・準備学習のアドバイス:

この授業では、各自の関心領域の文献を読み、レジュメを作成、発表、討論する。授業態度は単に出席していればよいというものではない。
積極的に授業に参加し、研究課題に取り組むことを評価する。また、特別な理由がない限り、全ての回に出席することが前提である。

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 心理学専門演習Ⅲ

クラス:

授業コード: DC10500008

担当者: 松本 剛 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 卒業論文のテーマとなる研究テーマを定め、研究計画の策定、文献講読、データ収集の準備等を行う

到達目標: 論文作成のための方法を理解し、自分の研究テーマに沿ってデータの収集、分析、論文執筆を行う力をつけることを目標とする

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 研究テーマと研究法について、研究倫理についての理解と話し合い
3. 自らの研究テーマと研究方法（発表1） 個人発表とディスカッション
4. 自らの研究テーマと研究方法（発表2） 個人発表とディスカッション
5. 自らの研究テーマと研究方法（発表3） 個人発表とディスカッション
6. 自らの研究テーマと研究方法（発表4） 個人発表とディスカッション
7. 自らの研究テーマと研究方法（発表5） 個人発表とディスカッション
8. 調査準備（1） 調査の方法と各自のテーマからの方法決定
9. 調査準備（2）各自のテーマに沿った調査の実際
10. 調査準備（3）各自のテーマに沿った調査についての話し合い
11. 分析方法の検討（1）心理分析の理解
12. 分析方法の検討（2）かくじのテーマに沿った心理分析の決定
13. 分析方法の検討（3）各自のテーマに沿った心理分析の進め方についての話し合い
14. 分析方法の検討（4）各自の分析の具体化
15. まとめと論文執筆計画

特記事項: なし

授業方法: すべて対面授業でおこなう。

1. 講義
2. 講義とワーク
3. 発表
4. 発表
5. 発表
6. 発表
7. 発表
8. 講義とワーク
9. 講義とワーク
10. 講義とワーク
11. 講義とワーク
12. 講義とワーク
13. 講義とワーク
14. 講義とワーク
15. 講義

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 研究方法の検討（180分）
2. 研究方法の検討（180分）
3. 研究方法の検討と発表準備（180分）
4. 研究方法の検討と発表準備（180分）

5. 研究方法の検討と発表準備（180分）
6. 研究方法の検討と発表準備（180分）
7. 研究方法の検討と発表準備（180分）
8. 調査準備（180分）
9. 調査準備（180分）
10. 調査準備（180分）
11. 調査及びデータ分析準備（180分）
12. 調査及びデータ分析準備（180分）
13. 調査及びデータ分析準備（180分）
14. 調査及びデータ分析準備（180分）
15. 調査及びデータ分析準備（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	60	**%**	**確認テスト：**	－	**%**	**レポート：**	40 **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準： 60～69点：研究テーマに沿って、調査研究等の計画と準備ができている
80～100点：上記の内容に加えて、調査の実施や分析まで取り組むことができている

課題へのフィードバック：

課題についての発表時やレポート等についてのフィードバックを行う

教科書： なし

参考書： 講義内で紹介する

授業・準備学習のアドバイス：

研究テーマについて好奇心と情熱を持って、積極的に取り組んでください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 心理学専門演習Ⅲ

クラス:

授業コード: DC10500009

担当者: 吉田 圭吾 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: **一般的包括的科目:**

授業の目的: 臨床心理学・発達心理学・家族心理学に関する論文を講読し、心理学及び心理学研究法への理解を深めると共に、自分の関心のあるテーマを紐解き、明らかにし、自分の素直な疑問をリサーチクエスチョンへと推し進め、それを研究計画にまで持っていくことを目的とする。

到達目標: 1. 臨床心理学等に関する基礎知識と基本的な文献講読能力の習得を目指す。さらに、学術論文を読むことで、興味・関心のあるテーマを深め、卒業論文のテーマへと発展させることを目指す。
2. 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション（研究と研究倫理）
2. 文献の検索方法
3. 論文講読①
4. 論文講読②
5. 論文講読③
6. 論文講読④
7. 論文講読⑤
8. 論文講読⑥
9. 論文講読⑦
10. 研究テーマの検討①
11. 研究テーマの検討②
12. 研究テーマの検討③
13. 研究テーマの検討④
14. 研究テーマの検討⑤
15. 研究テーマの検討⑥

特記事項: なし

授業方法: 基本的に対面の演習形式で行う。
1. 講義
2. 講義
3. 演習
4. 演習
5. 演習
6. 演習
7. 演習
8. 演習
9. 演習
10. 演習
11. 演習
12. 演習
13. 演習
14. 演習
15. 演習

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 心理学関係の授業で学んだことの復習（300分）
2. 興味を持った心理学の専門書や論文の選考、講読（300分）

3. レジュメ作成（240分）
4. 発表準備（240分）
5. 興味を持った心理学の専門書や論文の選考、講読（300分）
6. レジュメ作成（240分）
7. 発表準備（240分）
8. 興味を持った心理学の専門書や論文の選考、講読（300分）
9. レジュメ作成（240分）
10. 発表準備（240分）
11. 興味を持った心理学の専門書や論文の選考、講読（300分）
12. レジュメ作成（240分）
13. 発表準備（240分）
14. レジュメ作成（240分）
15. 研究テーマの精錬（300分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	60 **%**	**確認テスト：**	**%**	**レポート：**	40 **%**
その他1：			**%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

（最低限の到達度）（60～69点）
・臨床心理学・発達心理学・家族心理学に関する文献を読むことができる。
・論文の中の方法の部分を理解し、研究計画を立てられる。
・発表資料を提出している。
ゼミ内でのディスカッションで発言することができる。

（望ましい到達度）（80～100点）
・自分の興味関心から、具体的な研究を抽出することができる。
・発表資料がわかりやすく、論理的で、先行研究を踏まえている。
・ゼミ内での発言で、全員の理解を進めることができる。
・論理的に考えて、自分の考えを構築することができる。

課題へのフィードバック：

文献発表時に適宜フィードバックを行う。

教科書： 教科書は使用しない。

参考書： 適宜指示する。

授業・準備学習のアドバイス：

この授業では、自分が何に興味を持ち、関心があるかを振り返り、内省することをしつつ、その疑問を、リサーチクエスチョンにまで高めて、卒業論文の作成へと向かうために、ゼミで議論し、出来るだけ自分の意見をみんなに公表し、みんなに理解してもらう経験を通して、自分の興味・関心を深めることを目指します。毎回出席し、積極的にディスカッションに参加してください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 心理学専門演習Ⅳ

クラス:

授業コード: DC10600001

担当者: 三井 知代 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 研究テーマに沿って、データ収集、分析、論文を執筆することを目的とする

到達目標: 研究に応じてデータを収集し、適切に分析し、論文としてまとめることができる

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. データ収集と入力の確認
3. データ分析の実践（1）
4. データ分析の実践（2）
5. データ分析の実践（3）
6. 中間発表（1）分析結果
7. 中間発表（2）分析結果
8. 研究発表（1）
9. 研究発表（2）
10. 研究発表（3）
11. 研究発表（4）
12. 研究発表（5）
13. 研究発表（6）
14. 要約の作成
15. まとめと講評

特記事項: なし

授業方法: 全て対面授業でおこなう

1. 講義とワーク
2. 講義とワーク
3. 講義とワーク
4. 講義とワーク
5. 講義とワーク
6. 発表とグループワーク
7. 発表とグループワーク
8. 発表とグループワーク
9. 発表とグループワーク
10. 発表とグループワーク
11. 発表とグループワーク
12. 発表とグループワーク
13. 発表とグループワーク
14. 講義とワーク
15. 講義とワーク

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. データ分析（180分）
2. データ分析（180分）
3. データ分析（180分）
4. データ分析（180分）

5. データ分析（180分）
6. 論文執筆（180分）
7. 論文執筆（180分）
8. 論文執筆（180分）
9. 論文執筆（180分）
10. 論文執筆（180分）
11. 論文執筆（180分）
12. 論文執筆（180分）
13. 論文執筆（180分）
14. 発表準備（180分）
15. 発表準備（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	60 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	40 **%**
その他1：			**%**		
その他2：			**%**		

評価基準： 60～69点：調査データを分析し、考察ができている
80～100点：先行研究を踏まえて自分の研究の位置づけを明確にし、研究の意義や今後の課題についても検討している

課題へのフィードバック：

発表時に適宜フィードバック

教科書： なし

参考書： 授業内で紹介します

授業・準備学習のアドバイス：

見通しを立てながら研究を各自進めていきましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 心理学専門演習Ⅳ

クラス:

授業コード: DC10600002

担当者: 権藤 眞織 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 卒業論文の作成

到達目標:
1. 卒業論文を完成させる
2. 卒業論文発表会を企画、準備し、プレゼンテーションを行う

各回の授業計画:

1. オリエンテーション・スケジュール調整
2. 論文作成過程の発表・ディスカッション①
3. 論文作成過程の発表・ディスカッション②
4. 論文作成過程の発表・ディスカッション③
5. 論文作成過程の発表・ディスカッション④ 3・4年交流
6. 論文作成・修正・個別面談①
7. 論文作成・修正・個別面談②
8. 論文作成・修正・個別面談③
9. 論文作成・修正・個別面談④
10. 論文作成・修正・個別面談⑤
11. まとめ
12. 卒業論文発表会の準備①
13. 卒業論文発表会の準備②
14. 卒業論文発表会 3・4年交流
15. 卒業論文発表会の振り返り

特記事項: ゼミの学習のプロセスで異学年交流を行う

授業方法:
1. 講義・話し合い
2. 発表準備①
3. 発表準備②
4. 発表準備③
5. 発表準備④
6. 面談・ディスカッション①
7. 面談・ディスカッション②
8. 面談・ディスカッション③
9. 面談・ディスカッション④
10. 面談・ディスカッション⑤
11. まとめ
12. プレゼンの準備①
13. プレゼンの準備②
14. プレゼンテーション
15. ディスカッション

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 振り返りまとめ(180分)
2. レジメ作成(180分)
3. レジメ作成(180分)
4. レジメ作成(180分)
5. レジメ作成(180分)

6. 個別面談準備（180分）
7. 個別面談準備（180分）
8. 個別面談準備（180分）
9. 個別面談準備（180分）
10. 個別面談準備（180分）
11. まとめ（180分）
12. 卒業論文発表会の準備（180分）
13. 卒業論文発表会の準備（180分）
14. 卒業論文発表原稿作成（180分）
15. 卒業論文発表会の振り返り（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	50 **%**	**確認テスト：**	**%**	**レポート：**	50 **%**
その他1：			**%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

最低限度の到達度(60-69点)
ゼミメンバーと協力的に意見交換ができる。
自分の興味関心に基づき、調べ活動、まとめ活動に取り組める。
発表原稿を作成し、プレゼンテーションができる。

望ましい到達度(80-100点)
ゼミメンバーと協力的に意見交換ができ、質疑応答ができる。
自分の興味関心に基づき、調べ活動、まとめ活動に取り組み、自分の言葉で説明できる。
発表原稿を文章は図解を活用して作成し、プレゼンテーションができる。あわせて、質疑応答ができる。

課題へのフィードバック：

講義の中で取り上げ、講評をおこなう。
提出物は、内容確認ののち、授業内で返却する。

教科書： 随時 文献を紹介する

参考書： 永田 豊志 (著)すべての勉強は、「図」!でうまくいく: 今までの10倍「記憶力」「思考力」が強くなる

授業・準備学習のアドバイス：

卒業後をイメージして、社会の中で自己を発揮し、周りの仲間に貢献していく人材となることを意識して、大学生活で出来る学びを深めてください。本演習では、それぞれの興味関心を発信し、周りと意見交換しながら、考えをまとめ、相手に伝えられるスキルとしても、自分の論文を作成し、プレゼンテーションするスキルを高めましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 心理学専門演習Ⅳ

クラス:

授業コード: DC10600003

担当者: 古川 心 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 本授業では、春学期に立案した研究計画に基づき、卒業論文の完成に向けて研究の分析、考察、執筆を進めることを目的とする。
統計分析ソフトを用いた分析の実施や結果の解釈を通して、心理学研究としての妥当性を確認しながら、研究内容を論文としてまとめる力を養う。
また、経過報告と討論を繰り返すことで、自身の研究を客観的に捉え直し、論理構成や表現の改善につなげる。あわせて、論文の形式や表記上のルール、研究倫理について最終確認を行い、学部卒業論文として求められる水準を満たした論文の完成を目指す。あわせて、卒業論文発表会に向けた準備と発表を通して、研究内容を他者に分かりやすく伝える力を身につける。

到達目標:
1. 卒業論文の進捗状況を適切に報告し、討論を通して研究内容を修正・発展させることができる。
2. 統計分析ソフトを用いてデータ分析を行い、その結果を研究目的に即して解釈できる。
3. 分析結果を踏まえ、考察を含めた卒業論文を完成させることができる。
4. 卒業論文の形式・表記・引用方法などのルールを理解し、適切に執筆できる。
5. 卒業論文発表会に向けて資料を作成し、研究内容を分かりやすく発表できる。
6. 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

1. 卒業論文の経過報告と討論(1)卒業論文の進捗状況の確認
2. 心理学研究とその分析方法(1)統計分析ソフトHADについて学ぶ
3. 心理学研究とその分析方法(2)分析の実施①
4. 心理学研究とその分析方法(3)分析の実施②
5. 卒業論文の形式や表記上のルールに関する指導
6. 卒業論文の経過報告と討論(2)
7. 卒業論文の経過報告と討論(3)
8. 卒業論文の経過報告と討論(4)
9. 卒業論文の経過報告と討論(5)
10. 卒業論文の経過報告と討論(6)
11. 卒業論文の完成と最終チェック
12. 卒業論文発表会に向けたパワーポイントの作成
13. 卒業論文発表会に向けたパワーポイントの発表
14. 卒業論文発表会
15. まとめ全体講評

特記事項: 研究の実施に際しては、研究倫理を十分に理解し、遵守して行うこと。

授業方法: 本授業は、卒業論文の進行状況に応じた報告、討論、個別指導を中心に進める。各回の経過報告では、学生が自身の研究の進捗や課題を提示し、教員および他のゼミ生との討論を通して、研究内容の精緻化や修正を行う。分析方法に関する回では、統計分析ソフトを用いた分析手順や結果の解釈について指導を行い、実際のデータ分析を進める。また、論文の形式や表記上のルールについて確認し、卒業論文として適切な体裁を整えるための指導を行う。後半では、論文全体の最終チェックを行うとともに、卒業論文発表会に向けた発表資料の作成および発表練習を行う。
必要に応じて個別指導を行い、学生が主体的に卒業論文を完成させられるよう支援する。

1. 講義、演習(対面)
2. 講義、演習(対面)
3. オンライン授業(オンデマンド)
4. 講義、演習(対面)
5. 講義、演習(対面)
6. 講義、演習(対面)

7. 講義、演習（対面）
8. オンライン授業（オンデマンド）
9. 講義、演習（対面）
10. 講義、演習（対面）
11. 講義、演習（対面）
12. オンライン授業（オンデマンド）
13. オンライン授業（オンデマンド）
14. 講義、演習（対面）
15. 講義、演習（対面）

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. 卒業論文の作成（180分）
2. 卒業論文の作成（180分）
3. 卒業論文の作成（180分）
4. 卒業論文の作成（180分）
5. 卒業論文の作成（180分）
6. 卒業論文の作成（180分）
7. 卒業論文の作成（180分）
8. 卒業論文の作成（180分）
9. 卒業論文の作成（180分）
10. 卒業論文の作成（180分）
11. 卒業論文の作成（180分）
12. 卒業論文の作成（180分）
13. 卒業論文の作成（180分）
14. 卒業論文の作成（180分）
15. 卒業論文のまとめ（180分）

評価方法：	**授業へのとりくみ：**	50 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	50 **%**
	その他1：			**%**		
	その他2：			**%**		

評価基準： 【最低限の到達度（60～69点）】
授業への取り組み
・対面授業およびオンライン（オンデマンド）授業に継続して参加し、求められる経過報告や課題に取り組んでいる。
・卒業研究の進捗状況について、教員の指示を受けながら報告を行っている。
レポート・課題
・指示された内容に基づき、進捗状況や課題について記述することができている。
・教員からの指導内容を踏まえ、必要最低限の修正や対応を行っている。

【標準的な到達度（70～79点）】
授業への取り組み
・卒業研究の進行状況を主体的に整理し、経過報告や討論において説明することができる。
・教員やゼミ生からの助言を踏まえ、研究の進め方について柔軟に検討し、修正を行っている。
・オンライン授業での学修内容を、対面授業での報告や相談に適切に反映している。
レポート・課題
・指導内容を踏まえ、自身の課題や今後の進め方について整理し、文章としてまとめることができている。
・卒業研究の進行に向けて、計画的に取り組もうとする姿勢が示されている。

【望ましい到達度（80～100点）】
授業への取り組み
・卒業研究の進捗や課題を自ら把握し、必要に応じて教員と積極的に相談・連携を行っている。
・指導に対して受け身ではなく、自身の考えや見通しを示しながら、研究の進め方を主体的に調整している。
・討論や個別指導の場において、助言を踏まえた検討や改善が継続的にみられる。
レポート・課題
・教員からの指導内容を理解した上で、それをどのように研究に反映させたかが明確に示されている。
・卒業研究の進行に向けて、自身で見通しを立て、状況に応じて計画を調整しながら主体的に取り組んでいることが示されている。

課題へのフィードバック：

発表時に適宜フィードバックを行う。

教科書： なし
論文のテーマに応じて適宜紹介する

参考書： 適宜、紹介する

授業・準備学習のアドバイス:

日常の出来事について、臨床心理学的視点から理解することを意識してください。
卒業研究を進めるための基本的なスキルを身に着けることはもちろん、主体的に研究を進める姿勢を求めます。連絡をしっかり取り、相談を密に行うようにしてください。
積極的にディスカッションに参加し、自身の興味・関心を探求してください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 心理学専門演習Ⅳ

クラス:

授業コード: DC10600004

担当者: 辻川 典文 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 卒業論文完成に向けて、的確にデータを収集し、分析し、執筆することを目的とする。

到達目標: 積極的に出席し、データ収集と分析の方法を身につけると共に、論文として表現できるようにすることを目指す

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. データ入力の方法と確認
3. 分析の実施1 記述統計量の確認
4. 分析の実施2 仮説の検証
5. 問題、目的で書くことについて発表
6. 方法、結果で書くことの発表
7. 分析結果、考察の発表1
8. 分析結果、考察の発表2
9. 分析結果、考察の発表3
10. 研究発表1
11. 研究発表2
12. 研究発表3
13. 研究発表4
14. 要約の作成
15. まとめと全体講評

特記事項: なし

授業方法: 各自の関心のあるテーマに基づき、卒業研究を進めていく。
授業はすべて対面で実施する。
1. 講義とワーク
2. 講義とワーク
3. 講義とワーク
4. 講義とワーク
5. 講義とワーク
6. 講義とワーク
7. 講義とワーク
8. 講義と発表
9. 講義と発表
10. 講義と発表
11. 講義と発表
12. 発表とグループワーク
13. 発表とグループワーク
14. 発表とグループワーク
15. 発表とグループワーク

予習・復習・宿題など(内容・時間):

(予習・復習内容)
1. データの収集と入力(180分)
2. データの収集と入力(180分)

3. データの分析(180分)
4. データの分析(180分)
5. データの分析(180分)
6. データの分析(180分)
7. 論文の執筆(180分)
8. 論文の執筆(180分)
9. 論文の執筆(180分)
10. 論文の執筆(180分)
11. 論文の執筆(180分)
12. 論文の執筆(180分)
13. 研究発表準備(180分)
14. 研究発表準備(180分)
15. 研究発表準備(180分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	60	**%**	**確認テスト:**	−	**%**	**レポート:**	40 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: 60～69点:実験や調査で得たデータを分析、考察できている
80～100点:先行研究を踏まえながら自身の実験や調査の結果を位置づけ、解釈することができている。

課題へのフィードバック:

課題についての発表を行い、適宜フィードバックを行う

教科書: 適宜、プリントなどを配布する

参考書: 小塩真司・宅香菜子(2015) 心理学の卒業研究ワークブック: 発想から論文完成までの 10 ステージ 金児書房

授業・準備学習のアドバイス:

卒業論文、進路選択とその実現と、とても大切な1年になります。
時間を大切にがんばってください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 心理学専門演習Ⅳ

クラス:

授業コード: DC10600005

担当者: 吉野 俊彦 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 心理学は科学的から文系まで様々なアプローチを許す学問である。この演習では，科学的なアプローチによる人間理解の学問としての心理学における研究を概観していく。平行して，論理的な考え方，わかりやすい論文の書き方，議論の仕方など，科学的なアプローチに必要なスキルの修得を目指す。さらに，各自の興味に従って，日常的なあるいは個人的な関心や疑問を，研究の俎上に乗せるためのリサーチクエスチョンの形に整えていくことを，年間を通じての目的とする。

到達目標: 1. 科学的な人間理解の方法としての心理学に必要なスキルを修得する。
2. 各自の興味に従って，リサーチクエスチョンにまとめていく。

各回の授業計画:

1. 講義
2. 発表とディスカッション
3. 発表とディスカッション
4. 発表とディスカッション
5. 発表とディスカッション
6. 発表とディスカッション
7. 発表とディスカッション
8. 発表とディスカッション
9. 発表とディスカッション
10. 発表とディスカッション
11. 発表とディスカッション
12. 発表とディスカッション
13. 発表とディスカッション
14. 発表とディスカッション
15. 講義

特記事項: 対面での実施が原則であるが，事情によって遠隔での参加を許可することがある。

授業方法: 1. 講義。
2. 発表とディスカッション。必要に応じて講義。
3. 発表とディスカッション。必要に応じて講義。
4. 発表とディスカッション。必要に応じて講義。
5. 発表とディスカッション。必要に応じて講義。
6. 発表とディスカッション。必要に応じて講義。
7. 発表とディスカッション。必要に応じて講義。
8. 発表とディスカッション。必要に応じて講義。
9. 発表とディスカッション。必要に応じて講義。
10. 発表とディスカッション。必要に応じて講義。
11. 発表とディスカッション。必要に応じて講義。
12. 発表とディスカッション。必要に応じて講義。
13. 発表とディスカッション。必要に応じて講義。
14. 発表とディスカッション。必要に応じて講義。
15. 講義。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 発表の準備 (180分)
2. 発表の準備 (60分)、論文執筆の準備と実施 (120分)
3. 発表の準備 (60分)、論文執筆の準備と実施 (120分)

4. 発表の準備 (60分)、論文執筆の準備と実施 (120分)
5. 発表の準備 (60分)、論文執筆の準備と実施 (120分)
6. 発表の準備 (60分)、論文執筆の準備と実施 (120分)
7. 発表の準備 (60分)、論文執筆の準備と実施 (120分)
8. 発表の準備 (60分)、論文執筆の準備と実施 (120分)
9. 発表の準備 (60分)、論文執筆の準備と実施 (120分)
10. 発表の準備 (60分)、論文執筆の準備と実施 (120分)
11. 発表の準備 (60分)、論文執筆の準備と実施 (120分)
12. 発表の準備 (60分)、論文執筆の準備と実施 (120分)
13. 発表の準備 (60分)、論文執筆の準備と実施 (120分)
14. 口頭試問の準備 (180分)
15. 口頭試問の準備 (180分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	50 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	作成されたレジュメ		50 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 授業への取り組みは、準備に基づいた発表の形式と内容、およびディスカッションへの参加度を総合的に評価する。
レジュメについては、については、以下に従って評価を決定する。
30～34 課題のまとめがなされている。
35～39 過不足のないまとめとなっている。
40～44 まとめに従って、自分の意見が述べられている。
45～50 妥当な論証が示された上で自分の意見が述べられている。

課題へのフィードバック:

授業への取り組みについては適宜、レポートについては、個人からの請求に基づいてフィードバックを行う。

教科書: 戸田山 和久 (2022). 論文の教室 : レポートから卒論まで』(最新版)NHKブックス

参考書: 福澤一吉 (2018). 新版議論のレッスン NHK生活人新書

授業・準備学習のアドバイス:

この授業は学生の発表がなければ前に進みません。100%能動的な取り組み，授業時間外での積極的な学びを期待します。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 心理学専門演習Ⅳ

クラス:

授業コード: DC10600006

担当者: 犬飼 朋恵 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 実験や調査で得られたデータもとに卒業論文をまとめる。

到達目標: 実験や調査の結果を論文としてまとめる能力や他人にわかりやすく伝えるためのプレゼン能力を身につける。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 実験結果の報告1
3. 実験結果の報告2
4. 実験結果の報告3
5. 論文作成のための資料収集1
6. 論文作成のための資料収集2
7. 論文の序文の作成1
8. 論文の序文の作成2
9. 論文の序文の作成3
10. 中間発表会1
11. 中間発表会2
12. 論文の結果・考察の作成1
13. 論文の結果・考察の作成2
14. 論文講評
15. 論文発表会

特記事項: なし

授業方法:
1. 演習【対面】
2. 演習【対面】
3. 演習【対面】
4. 演習【対面】
5. 演習【対面】
6. 演習【対面】
7. 演習【対面】
8. 演習【対面】
9. 演習【対面】
10. 発表準備【オンライン】
11. 発表準備【オンライン】
12. 演習【オンライン】
13. 演習【対面】
14. 発表準備
15. 発表【オンライン】

予習・復習・宿題など(内容・時間):

卒論の執筆を毎講義の課題とする(180分)。

評価方法:

授業へのとりくみ:	50 %	**確認テスト:**	－ %	**レポート:**	50 %
その他1:			%		

その他2： **%**

評価基準： 望ましい到達度（80～100点）
・研究内容を理解し，他人に内容をわかりやすく伝えることができる
最低限の到達度（60～69点）
・研究の内容を正確に他人に伝えることができる

課題へのフィードバック：

講義内でプレゼンテーションを行い，質疑応答を通して学習の到達度を確認する。その後結果のフィードバックを行う。

教科書： なし

参考書： 適宜紹介する。

授業・準備学習のアドバイス：

パソコンを講義内で使用することがあります。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 心理学専門演習Ⅳ

クラス:

授業コード: DC10600007

担当者: 椎野 智子 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 大学4年間での学習成果を踏まえて、各自のテーマをもとに卒業論文を完成させる。

到達目標: 実証的データから論理的かつ包括的に考察し、卒業論文をまとめること。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 結果の確認
3. 結果の分析1
4. 結果の分析2
5. 分析結果の検討1
6. 分析結果の検討2
7. 考察の検討1
8. 考察の検討2
9. 考察の検討3
10. 要約の作成
11. 研究発表準備
12. 発表:研究発表会準備1
13. 発表:研究発表会準備2
14. 発表:研究発表会
15. まとめと講評

特記事項: なし

授業方法: 各自の関心のあるテーマに基づいた調査研究を行い、卒業論文を書く。

1. 演習(対面)
2. 演習(オンライン)
3. 演習(対面)
4. 演習(オンライン)
5. 演習(対面)
6. 演習(オンライン)
7. 演習(対面)
8. 演習(オンライン)
9. 演習(対面)
10. 演習(対面)
11. 演習(対面)
12. 発表(対面)
13. 発表(対面)
14. 発表(対面)
15. 演習(対面)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 卒業論文のテーマに関する心理学の専門書や論文の講読(180分)
2. データの確認と分析(180分)
3. データの確認と分析(180分)
4. データ分析(180分)

5. 分析結果のまとめ(180分)
6. 分析結果のまとめと考察を行う(180分)
7. 分析結果のまとめと考察を行う(180分)
8. 授業内で指摘された事項の復習・確認(180分)
9. 授業内で指摘された事項の復習・確認(180分)
10. 本論の要約を作成し、完成させる(180分)
11. 発表準備(180分)
12. 発表準備(180分)
13. 発表準備(180分)
14. 発表準備(180分)
15. これまでの学習をまとめる(180分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	50	**%**	**確認テスト:**	−	**%**	**レポート:**	50 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準:

(最低限の到達度)(60～69点)
・授業全15回のうち、2/3以上を出席している。
・臨床心理学に関する文献を読むことができ、分析に関する基礎知識を理解することができる。
・ゼミ内でのディスカッションで自分の意見を発言し、積極的に話し合いに参加することができる。
・心理学専門演習Ⅰ～Ⅲを通して培った基礎知識を活用して、自分の意見を踏まえて卒業論文をまとめることができる。

(望ましい到達度)(80～100点)
・臨床心理学に関する文献を読むことができ、分析に関する知識を習得し調査を実施することができる。
・ゼミ内でのディスカッションで積極的に話し合いに参加し、必要な論理的思考力を身につけることができる。
・心理学専門演習Ⅰ～Ⅲを通して培った基礎知識を活用して、実証データから論理的かつ包括的に考察し、卒業論文をまとめることができる。

課題へのフィードバック:

論文発表時等に適宜フィードバックを行う。

教科書: 教科書は使用しない。

参考書:

日本心理学会機関誌等編集委員会, 執筆・投稿の手びき, 日本心理学会, 2022
小塩真司・宅香菜子, 心理学の卒業研究ワークブック, 金子書房, 2015
清水裕士, フリーの統計分析ソフトHAD-機能の紹介と統計学習・教育, 研究実践における利用方法の提案-, メディア・情報・コミュニケーション研究, 2016, 1, 59-73.

授業・準備学習のアドバイス:

この授業では、各自の関心領域の文献を読み、発表し、討論する。授業態度は単に出席していればよいというものではない。積極的に授業に参加し、研究課題に取り組むことを評価する。また、特別な理由がない限り、全ての回に出席することが前提である。

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 心理学専門演習Ⅳ

クラス:

授業コード: DC10600008

担当者: 松本 剛 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 研究テーマに沿って、データ収集、分析、論文を執筆することを目的とする

到達目標: 研究に応じてデータを収集し、適切に分析し、論文としてまとめることができる

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. データ収集と入力の確認 各自の卒論テーマに沿って
3. データ分析の実践（1） 各自のテーマに応じた内容の発表と話し合い
4. データ分析の実践（2） 各自のテーマに応じた内容の発表と話し合い
5. データ分析の実践（3） 各自のテーマに応じた内容の発表と話し合い
6. 中間発表（1）分析結果 各自のテーマに応じた内容の中間発表
7. 中間発表（2）分析結果 各自のテーマに応じた分析結果内容の発表と話し合い
8. 研究発表（1） 各自のテーマに応じた研究発表
9. 研究発表（2） 各自のテーマに応じた研究発表
10. 研究発表（3） 各自のテーマに応じた研究発表
11. 研究発表（4） 各自のテーマに応じた研究発表
12. 研究発表（5） 各自のテーマに応じた研究発表
13. 研究発表内容の修正
14. 要約の作成
15. まとめと講評

特記事項: なし

授業方法: 全て対面授業でおこなう

1. 講義とワーク
2. 講義とワーク
3. 講義とワーク
4. 講義とワーク
5. 講義とワーク
6. 発表とグループワーク
7. 発表とグループワーク
8. 発表とグループワーク
9. 発表とグループワーク
10. 発表とグループワーク
11. 発表とグループワーク
12. 発表とグループワーク
13. 発表とグループワーク
14. 講義とワーク
15. 講義とワーク

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. データ分析（180分）
2. データ分析（180分）
3. データ分析（180分）
4. データ分析（180分）

5. データ分析（180分）
6. 論文執筆（180分）
7. 論文執筆（180分）
8. 論文執筆（180分）
9. 論文執筆（180分）
10. 論文執筆（180分）
11. 論文執筆（180分）
12. 論文執筆（180分）
13. 論文執筆（180分）
14. 発表準備（180分）
15. 発表準備（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	60 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	40 **%**
その他1：			**%**		
その他2：			**%**		

評価基準： 60～69点：調査データを分析し、考察ができている
80～100点：先行研究を踏まえて自分の研究の位置づけを明確にし、研究の意義や今後の課題についても検討している

課題へのフィードバック：

発表時に適宜フィードバック

教科書： なし

参考書： 授業内で紹介します

授業・準備学習のアドバイス：

見通しを立てながら研究を各自進めていきましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 心理学専門演習Ⅳ

クラス:

授業コード: DC10600009

担当者: 吉田 圭吾 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 臨床心理学・発達心理学・家族心理学に関する論文を購読し、心理学及び心理学研究法への理解を深めると共に、自分の関心のあるテーマを紐解き、明らかにし、自分の素直な疑問をリサーチクエスチョンへと推し進め、それを研究計画にまで持っていくことを目的とする。

到達目標: 1. 臨床心理学等に関する基礎知識と基本的な文献購読能力の習得を目指す。さらに、学術論文を読むことで、興味・関心のあるテーマを深め、卒業論文のテーマへと発展させることを目指す。
2. 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション（研究と研究倫理）
2. 研究の進め方①
3. 研究の進め方②
4. データ収集方法
5. データ分析方法①
6. データ分析方法②
7. データ分析方法③
8. 結果の表記方法①
9. 結果の表記方法②
10. 考察方法①
11. 考察方法②
12. 問題と目的のまとめ方①
13. 問題と目的のまとめ方②
14. 研究展望の書き方
15. 研究に関するディスカッションとまとめ

特記事項: なし

授業方法: 基本的に対面の演習形式で行う。
1. 演習
2. 演習
3. 演習
4. 演習
5. 演習
6. 演習
7. 演習
8. 演習
9. 演習
10. 演習
11. 演習
12. 演習
13. 演習
14. 演習
15. 演習

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 研究テーマ・問題と目的の復習（300分）
2. 研究方法の策定と深化（300分）

3. 実際のデータの収集方法の復習（240分）
4. 実際のデータの収集方法の復習（240分）
5. データの結果のまとめ方（300分）
6. データの分析方法の復習（240分）
7. データの分析方法の復習（240分）
8. データの分析結果の考察の復習（300分）
9. データの分析結果の考察の復習（240分）
10. 問題と目的の論理性の復習（240分）
11. 問題と目的・方法・結果・考察の対応性の復習（300分）
12. 研究論文作成（240分）
13. 研究論文作成（240分）
14. 研究発表のためのパワーポイント作成と発表準備（240分）
15. 研究成果の発表と今後の展望、論文のまとめ（300分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	40 **%**	**確認テスト：**	**%**	**レポート：**	60 **%**
その他1：			**%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

（最低限の到達度）（60～69点）
・臨床心理学・発達心理学・家族心理学に関する文献を読むことができる。
・論文の中の方法の部分を理解し、研究計画を立てられる。
・発表資料を提出している。
ゼミ内でのディスカッションで発言することができる。

（望ましい到達度）（80～100点）
・自分の興味関心から、具体的な研究を抽出することができる。
・発表資料がわかりやすく、論理的で、先行研究を踏まえている。
・ゼミ内での発言で、全員の理解を進めることができる。
・論理的に考えて、自分の考えを構築することができる。

課題へのフィードバック：

文献発表時に適宜フィードバックを行う。

教科書： 教科書は使用しない。

参考書： 適宜指示する。

授業・準備学習のアドバイス：

この授業では、自分が何に興味を持ち、関心があるかを振り返り、内省することをしつつ、その疑問を、リサーチクエスチョンにまで高めて、卒業論文の作成へと向かうために、ゼミで議論し、出来るだけ自分の意見をみんなに公表し、みんなに理解してもらう経験を通して、自分の興味・関心を深めることを目指します。ぜひぜひ毎回出席し、積極的にディスカッションに参加してください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 卒業研究

クラス: 心

授業コード: DC10700001

担当者: 三井 知代　　**単位数:** 6

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 4年間の学修の総まとめとして「卒業研究」(6単位、必修)を行い、学修成果の総括的評価を行う。

到達目標: 学科で定めるディプロマポリシーの達成を目指し、以下の内容を行う。
1. 問題意識を深め、卒業論文のテーマを決定する。
2. 参考文献や先行研究を精読する。
3. 研究計画を立てる。
4. 序論、本論、結論など論文等の道筋と構成を作成する。
5. 卒業研究として、論文等を作成する。

各回の授業計画:

心理学専門演習の担当教員の指導の下、あらかじめ規定された様式で、期限までに卒業論文を作成し、提出する。また作成の当初に指導教員から本学の研究倫理基準について説明を受け、その基準に則した研究を遂行すること。

特記事項: －

授業方法: ディスカッション
発表

予習・復習・宿題など(内容・時間):

自身の研究テーマに沿って、文献研究や調査、実験の実施などを行うこと。

評価方法:

授業へのとりくみ:	－ **%**	**確認テスト:**	－ **%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:	卒業論文の内容		50 **%**		
その他2:	口頭試問		50 **%**		

評価基準: 60～69点:先行研究にもとづき論理的な説明ができている
80～100点:上記の内容に加えて、データに基づいた考察ができている

課題へのフィードバック:

進捗業況に応じて担当教員によるフィードバックを行う。

複数の教員による口頭試問を行いフィードバックを行う。

教科書: 卒業論文作成に関するものすべて

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

規程されている様式に則って、余裕をもって論文作成にかかってください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 卒業研究

クラス: 心

授業コード: DC10700002

担当者: 権藤 眞織　　**単位数:** 6

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 4年間の学修の総まとめとして「卒業研究」(6単位、必修)を行い、学修成果の総括的評価を行う。

到達目標: 学科で定めるディプロマポリシーの達成を目指し、以下の内容を行う。
1. 問題意識を深め、卒業論文のテーマを決定する。
2. 参考文献や先行研究を精読する。
3. 研究計画を立てる。
4. 序論、本論、結論など論文等の道筋と構成を作成する。
5. 卒業研究として、論文等を作成する。

各回の授業計画:

心理学専門演習の担当教員の指導の下、あらかじめ規定された様式で、期限までに卒業論文を作成し、提出する。また作成の当初に指導教員から本学の研究倫理基準について説明を受け、その基準に則した研究を遂行すること。

特記事項: －

授業方法: ディスカッション
発表

予習・復習・宿題など(内容・時間):

自身の研究テーマに沿って、文献研究や調査、実験の実施などを行うこと。

評価方法:

授業へのとりくみ:	－ **%**	**確認テスト:**	－ **%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:	卒業論文の内容		50 **%**		
その他2:	口頭試問		50 **%**		

評価基準: 60～69点:先行研究にもとづき論理的な説明ができている
80～100点:上記の内容に加えて、データに基づいた考察ができている

課題へのフィードバック:

進捗業況に応じて担当教員によるフィードバックを行う。

複数の教員による口頭試問を行いフィードバックを行う。

教科書: 卒業論文作成に関するものすべて

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

規程されている様式に則って、余裕をもって論文作成にかかってください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 卒業研究

クラス: 心

授業コード: DC10700003

担当者: 古川 心　　**単位数:** 6

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 4年間の学修の総まとめとして「卒業研究」(6単位、必修)を行い、学修成果の総括的評価を行う。

到達目標: 学科で定めるディプロマポリシーの達成を目指し、以下の内容を行う。
1. 問題意識を深め、卒業論文のテーマを決定する。
2. 参考文献や先行研究を精読する。
3. 研究計画を立てる。
4. 序論、本論、結論など論文等の道筋と構成を作成する。
5. 卒業研究として、論文等を作成する。

各回の授業計画:

心理学専門演習の担当教員の指導の下、あらかじめ規定された様式で、期限までに卒業論文を作成し、提出する。また作成の当初に指導教員から本学の研究倫理基準について説明を受け、その基準に則した研究を遂行すること。

特記事項: －

授業方法: ディスカッション
発表

予習・復習・宿題など(内容・時間):

自身の研究テーマに沿って、文献研究や調査、実験の実施などを行うこと。

評価方法:

授業へのとりくみ:	－ %	**確認テスト:**	－ %	**レポート:**	－ %
その他1:	卒業論文の内容		50 %		
その他2:	口頭試問		50 %		

評価基準: 60～69点:先行研究にもとづき論理的な説明ができている
80～100点:上記の内容に加えて、データに基づいた考察ができている

課題へのフィードバック:

進捗業況に応じて担当教員によるフィードバックを行う。

複数の教員による口頭試問を行いフィードバックを行う。

教科書: 卒業論文作成に関するものすべて

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

規程されている様式に則って、余裕をもって論文作成にかかってください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 卒業研究

クラス: 心

授業コード: DC10700004

担当者: 辻川 典文　　**単位数:** 6

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 4年間の学修の総まとめとして「卒業研究」(6単位、必修)を行い、学修成果の総括的評価を行う。

到達目標: 学科で定めるディプロマポリシーの達成を目指し、以下の内容を行う。
1. 問題意識を深め、卒業論文のテーマを決定する。
2. 参考文献や先行研究を精読する。
3. 研究計画を立てる。
4. 序論、本論、結論など論文等の道筋と構成を作成する。
5. 卒業研究として、論文等を作成する。

各回の授業計画:

心理学専門演習の担当教員の指導の下、あらかじめ規定された様式で、期限までに卒業論文を作成し、提出する。また作成の当初に指導教員から本学の研究倫理基準について説明を受け、その基準に則した研究を遂行すること。

特記事項: －

授業方法: ディスカッション
発表

予習・復習・宿題など(内容・時間):

自身の研究テーマに沿って、文献研究や調査、実験の実施などを行うこと。

評価方法:

授業へのとりくみ:	－ **%**	**確認テスト:**	－ **%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:	卒業論文の内容		50 **%**		
その他2:	口頭試問		50 **%**		

評価基準: 60～69点:先行研究にもとづき論理的な説明ができている
80～100点:上記の内容に加えて、データに基づいた考察ができている

課題へのフィードバック:

進捗業況に応じて担当教員によるフィードバックを行う。

複数の教員による口頭試問を行いフィードバックを行う。

教科書: 卒業論文作成に関するものすべて

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

規程されている様式に則って、余裕をもって論文作成にかかってください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 卒業研究

クラス: 心

授業コード: DC10700005

担当者: 吉野 俊彦　　**単位数:** 6

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 4年間の学修の総まとめとして「卒業研究」(6単位、必修)を行い、学修成果の総括的評価を行う。

到達目標: 学科で定めるディプロマポリシーの達成を目指し、以下の内容を行う。
1. 問題意識を深め、卒業論文のテーマを決定する。
2. 参考文献や先行研究を精読する。
3. 研究計画を立てる。
4. 序論、本論、結論など論文等の道筋と構成を作成する。
5. 卒業研究として、論文等を作成する。

各回の授業計画:

心理学専門演習の担当教員の指導の下、あらかじめ規定された様式で、期限までに卒業論文を作成し、提出する。また作成の当初に指導教員から本学の研究倫理基準について説明を受け、その基準に則した研究を遂行すること。

特記事項: －

授業方法: ディスカッション
発表

予習・復習・宿題など(内容・時間):

自身の研究テーマに沿って、文献研究や調査、実験の実施などを行うこと。

評価方法:

授業へのとりくみ:	－ %	**確認テスト:**	－ %	**レポート:**	－ %
その他1:	卒業論文の内容		50 %		
その他2:	口頭試問		50 %		

評価基準: 60～69点:先行研究にもとづき論理的な説明ができている
80～100点:上記の内容に加えて、データに基づいた考察ができている

課題へのフィードバック:

進捗業況に応じて担当教員によるフィードバックを行う。

複数の教員による口頭試問を行いフィードバックを行う。

教科書: 卒業論文作成に関するものすべて

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

規程されている様式に則って、余裕をもって論文作成にかかってください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 卒業研究

クラス: 心

授業コード: DC10700006

担当者: 犬飼 朋恵　　**単位数:** 6

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 4年間の学修の総まとめとして「卒業研究」(6単位、必修)を行い、学修成果の総括的評価を行う。

到達目標: 学科で定めるディプロマポリシーの達成を目指し、以下の内容を行う。
1. 問題意識を深め、卒業論文のテーマを決定する。
2. 参考文献や先行研究を精読する。
3. 研究計画を立てる。
4. 序論、本論、結論など論文等の道筋と構成を作成する。
5. 卒業研究として、論文等を作成する。

各回の授業計画:

心理学専門演習の担当教員の指導の下、あらかじめ規定された様式で、期限までに卒業論文を作成し、提出する。また作成の当初に指導教員から本学の研究倫理基準について説明を受け、その基準に則した研究を遂行すること。

特記事項: －

授業方法: ディスカッション
発表

予習・復習・宿題など(内容・時間):

自身の研究テーマに沿って、文献研究や調査、実験の実施などを行うこと。

評価方法:

授業へのとりくみ:	－ **%**	**確認テスト:**	－ **%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:	卒業論文の内容		50 **%**		
その他2:	口頭試問		50 **%**		

評価基準: 60～69点:先行研究にもとづき論理的な説明ができている
80～100点:上記の内容に加えて、データに基づいた考察ができている

課題へのフィードバック:

進捗業況に応じて担当教員によるフィードバックを行う。

複数の教員による口頭試問を行いフィードバックを行う。

教科書: 卒業論文作成に関するものすべて

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

規程されている様式に則って、余裕をもって論文作成にかかってください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 卒業研究

クラス: 心

授業コード: DC10700007

担当者: 椎野 智子　　**単位数:** 6

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 4年間の学修の総まとめとして「卒業研究」(6単位、必修)を行い、学修成果の総括的評価を行う。

到達目標: 学科で定めるディプロマポリシーの達成を目指し、以下の内容を行う。
1. 問題意識を深め、卒業論文のテーマを決定する。
2. 参考文献や先行研究を精読する。
3. 研究計画を立てる。
4. 序論、本論、結論など論文等の道筋と構成を作成する。
5. 卒業研究として、論文等を作成する。

各回の授業計画:

心理学専門演習の担当教員の指導の下、あらかじめ規定された様式で、期限までに卒業論文を作成し、提出する。また作成の当初に指導教員から本学の研究倫理基準について説明を受け、その基準に則した研究を遂行すること。

特記事項: －

授業方法: ディスカッション
発表

予習・復習・宿題など(内容・時間):

自身の研究テーマに沿って、文献研究や調査、実験の実施などを行うこと。

評価方法:

授業へのとりくみ:	－ **%**	**確認テスト:**	－ **%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:	卒業論文の内容		50 **%**		
その他2:	口頭試問		50 **%**		

評価基準: 60～69点:先行研究にもとづき論理的な説明ができている
80～100点:上記の内容に加えて、データに基づいた考察ができている

課題へのフィードバック:

進捗業況に応じて担当教員によるフィードバックを行う。

複数の教員による口頭試問を行いフィードバックを行う。

教科書: 卒業論文作成に関するものすべて

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

規程されている様式に則って、余裕をもって論文作成にかかってください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 卒業研究

クラス: 心

授業コード: DC10700008

担当者: 松本 剛　　**単位数:** 6

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 4年間の学修の総まとめとして「卒業研究」(6単位、必修)を行い、学修成果の総括的評価を行う。

到達目標: 学科で定めるディプロマポリシーの達成を目指し、以下の内容を行う。
1. 問題意識を深め、卒業論文のテーマを決定する。
2. 参考文献や先行研究を精読する。
3. 研究計画を立てる。
4. 序論、本論、結論など論文等の道筋と構成を作成する。
5. 卒業研究として、論文等を作成する。

各回の授業計画:

心理学専門演習の担当教員の指導の下、あらかじめ規定された様式で、期限までに卒業論文を作成し、提出する。また作成の当初に指導教員から本学の研究倫理基準について説明を受け、その基準に則した研究を遂行すること。

特記事項: －

授業方法: ディスカッション
発表

予習・復習・宿題など(内容・時間):

自身の研究テーマに沿って、文献研究や調査、実験の実施などを行うこと。

評価方法:

授業へのとりくみ:	－ **%**	**確認テスト:**	－ **%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:	卒業論文の内容		50 **%**		
その他2:	口頭試問		50 **%**		

評価基準: 60～69点:先行研究にもとづき論理的な説明ができている
80～100点:上記の内容に加えて、データに基づいた考察ができている

課題へのフィードバック:

進捗業況に応じて担当教員によるフィードバックを行う。

複数の教員による口頭試問を行いフィードバックを行う。

教科書: 卒業論文作成に関するものすべて

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

規程されている様式に則って、余裕をもって論文作成にかかってください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 卒業研究

クラス: 心

授業コード: DC10700009

担当者: 吉田 圭吾　　**単位数:** 6

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 4年間の学修の総まとめとして「卒業研究」(6単位、必修)を行い、学修成果の総括的評価を行う。

到達目標: 学科で定めるディプロマポリシーの達成を目指し、以下の内容を行う。
1. 問題意識を深め、卒業論文のテーマを決定する。
2. 参考文献や先行研究を精読する。
3. 研究計画を立てる。
4. 序論、本論、結論など論文等の道筋と構成を作成する。
5. 卒業研究として、論文等を作成する。

各回の授業計画:

心理学専門演習の担当教員の指導の下、あらかじめ規定された様式で、期限までに卒業論文を作成し、提出する。また作成の当初に指導教員から本学の研究倫理基準について説明を受け、その基準に則した研究を遂行すること。

特記事項: －

授業方法: ディスカッション
発表

予習・復習・宿題など(内容・時間):

自身の研究テーマに沿って、文献研究や調査、実験の実施などを行うこと。

評価方法:

授業へのとりくみ:	－ %	**確認テスト:**	－ %	**レポート:**	－ %
その他1:	卒業論文の内容		50 %		
その他2:	口頭試問		50 %		

評価基準: 60～69点:先行研究にもとづき論理的な説明ができている
80～100点:上記の内容に加えて、データに基づいた考察ができている

課題へのフィードバック:

進捗業況に応じて担当教員によるフィードバックを行う。

複数の教員による口頭試問を行いフィードバックを行う。

教科書: 卒業論文作成に関するものすべて

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

規程されている様式に則って、余裕をもって論文作成にかかってください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 卒業研究

クラス: 心 春末卒業用

授業コード: DC10700011

担当者: 辻川 典文　　**単位数:** 6

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 4年間の学修の総まとめとして「卒業研究」(6単位、必修)を行い、学修成果の総括的評価を行う。

到達目標: 学科で定めるディプロマポリシーの達成を目指し、以下の内容を行う。
1. 問題意識を深め、卒業論文のテーマを決定する。
2. 参考文献や先行研究を精読する。
3. 研究計画を立てる。
4. 序論、本論、結論など論文等の道筋と構成を作成する。
5. 卒業研究として、論文等を作成する。

各回の授業計画:

心理学専門演習の担当教員の指導の下、あらかじめ規定された様式で、期限までに卒業論文を作成し、提出する。また作成の当初に指導教員から本学の研究倫理基準について説明を受け、その基準に則した研究を遂行すること。

特記事項: －

授業方法: ディスカッション
発表

予習・復習・宿題など(内容・時間):

自身の研究テーマに沿って、文献研究や調査、実験の実施などを行うこと。

評価方法:

授業へのとりくみ:	－ %	**確認テスト:**	－ %	**レポート:**	－ %
その他1:	卒業論文の内容		50 %		
その他2:	口頭試問		50 %		

評価基準: 60～69点:先行研究にもとづき論理的な説明ができている
80～100点:上記の内容に加えて、データに基づいた考察ができている

課題へのフィードバック:

進捗業況に応じて担当教員によるフィードバックを行う。

複数の教員による口頭試問を行いフィードバックを行う。

教科書: 卒業論文作成に関するものすべて

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

規程されている様式に則って、余裕をもって論文作成にかかってください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 経営学

クラス:

授業コード: DC20100001

担当者: 辻川 尚起 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: - **一般的包括的科目:** -

授業の目的: この講義の目的は、いま人気のお店・グルメ・商品・製品・ドラマ・スポーツ・アニメそしてビジネスを事例として、「一人じゃないチームだから、考えておきたいこと」を経営学という学問に基づき学修することです。
やや大げさな表現を使うと、人のこころを思い人を動かすための手掛かりを経営学という先人の知恵に学びます。
友達・学校のクラス・クラブ活動・アルバイトなど、人と人とが関わりを持ったり集まったりすると、そこに集団つまりチーム（組織）がうまれ、チームならではの考慮すべき問題やより良い結果に至る方法・コツを考える必要が生じます。例えば、チームの目指すゴールとは？（経営戦略）、チームを束ねるには？（経営管理・組織）、お客さんに喜んでもらうには？（マーケティング）、チームの成績を正確に測るには？（会計・ファイナンス）といった事柄です。
経営学は経営者（になる・なりたい人）のための学問と思い込んでいる人がいます。そういった人だけではなく、広く人とかかわることや、人のこころや行動に関心ある人にも大変示唆に富む学問です。

到達目標: 本講義は講義の目的を念頭に、その入門・導入の講義として、はじめて学ぶ方を対象に経営学の基礎を学びます。その成果として、受講生の皆さんが企業や組織・マネジメント戦略・ビジネス・組織マネジメント・マーケティング・アカウンティングの基礎的な概念や知識を理解・習得し、現実の経営課題に自身の解決アイデアを作成・提案できるようになることが到達目標です。

各回の授業計画:

1. イントロダクション
経営学とは？
2. 経営戦略1
企業とマネジメント
3. 経営戦略2
環境分析
4. 経営戦略3
全社戦略，競争戦略
5. 経営戦略4
事業戦略
6. 経営管理・組織1
組織マネジメント
7. 経営管理・組織2
インセンティブ，モチベーション
8. 経営管理・組織3
組織構造
9. 経営管理・組織4
リーダーシップ
10. マーケティング1
マーケティング戦略
11. マーケティング2
消費者行動
12. マーケティング3
広告，製品開発
13. マーケティング4
ブランド
14. 会計・ファイナンス1
会計学
15. 会計・ファイナンス2
会計プロフェッション

特記事項: 第16回授業において試験を行います。

授業方法: 1. 講義形式

2. 講義形式
3. 講義形式とディスカッション
4. 講義形式
5. 講義形式
6. 講義形式とディスカッション
7. 講義形式
8. 講義形式
9. 講義形式とディスカッション
10. 講義形式
11. 講義形式
12. 講義形式とディスカッション
13. 講義形式
14. 講義形式
15. 講義形式とディスカッション
※基本的に対面方式で行います。

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. シラバスに示されている単語の予習180分（45分×4），その成果として講義内での教員からの質疑に応答できること
2. 前回の講義内容の復習180分，その成果として講義内での教員からの質疑に応答できること
3. 前回の講義内容の復習180分，その成果として講義内での教員からの質疑に応答できること
4. 前回の講義内容の復習180分，その成果として講義内での教員からの質疑に応答できること
5. 前回の講義内容の復習180分，その成果として講義内での教員からの質疑に応答できること
6. 前回の講義内容の復習180分，その成果として講義内での教員からの質疑に応答できること
7. 前回の講義内容の復習180分，その成果として講義内での教員からの質疑に応答できること
8. 前回の講義内容の復習180分，その成果として講義内での教員からの質疑に応答できること
9. 前回の講義内容の復習180分，その成果として講義内での教員からの質疑に応答できること
10. 前回の講義内容の復習180分，その成果として講義内での教員からの質疑に応答できること
11. 前回の講義内容の復習180分，その成果として講義内での教員からの質疑に応答できること
12. 前回の講義内容の復習180分，その成果として講義内での教員からの質疑に応答できること
13. 前回の講義内容の復習180分，その成果として講義内での教員からの質疑に応答できること
14. 前回の講義内容の復習180分，その成果として講義内での教員からの質疑に応答できること
15. 前回の講義内容の復習180分，その成果として講義内での教員からの質疑に応答できること

評価方法：

授業へのとりくみ：	20	**%**	**確認テスト：**	80	**%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準：

(S・秀)「秀でた到達度(90-100点)」講義内容を網羅的に適切に理解し，発展的・実践的に活用することができる。
(A・優)「望ましい到達度(80-89点)」講義内容のうち，基礎的・応用的な事項の理解ができており，活用することができる。
(B・良)「良好な到達度(70-79点)」講義内容のうち，基礎的・応用的な事項の理解がおおむねできている。
(C・可)「最低限の到達度(60-69点)」講義内容のうち，基礎的な事項の理解がおおむねできている。

課題へのフィードバック：

各課題ごとに模範解答と採点基準をお伝えします。

教科書： なし

参考書：

中川功一[2019]『ど素人でもわかる経営学の本』翔泳社
伊丹敬之・加護野忠男[2003]『ゼミナール経営学入門 第3版』日本経済新聞出版

授業・準備学習のアドバイス：

いままで、企業のビジネスや経営、働くということについてあまり考えたこともないという方にでもわかりやすくなるよう、多くの具体的な事例に触れながらお話ししたいと思います。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 企業分析論

クラス:

授業コード: DC20200001

担当者: 辻川 尚起 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: この講義は経済社会を支える重要な制度・技術の1つである会計について、その最も基本的な構成要素である財務諸表の概説を中心にしつつ、会計の役割や会計ブームそして会計数値の利用手段などに関して、会計をはじめて学ぶ人にわかりやすいように解説することを目的としています。
そもそも会計とは？ 例えばスポーツ競技や勉強など、その努力の積み重ねのプロセスや結果は「めっちゃ、ちょっと、全然」など人により捉え方の変わる主観的表現ではなく、スコアや偏差値などで数値化し測定することで客観的にわかりやすくなり、過去・現在・将来を評価・比較しやすくなります。
同様の目的で、会計はビジネスやマネジメントを「数字で見える化」する手段・行為です。

到達目標: 本講義は講義の目的を念頭に、その入門・導入の講義として、はじめて学ぶ方を対象に会計学の基礎を学びます。その成果として、例えば有名ハンバーガー・チェーンやカフェ・チェーンの経営手法比較、アパレル業や化粧品企業の特性、安心できる銀行の見つけ方、気になる会社の株価水準、就職したい会社のブランド価値などを会計データを用いて分析する手法を身につけることが到達目標です。

各回の授業計画:

第1回 イントロダクション 会計学とは何か
第2回 会計学の対象と範囲
第3回 貸借対照表(1) 意義
第4回 貸借対照表(2) 構造
第5回 損益計算書(1) 意義
第6回 損益計算書(2) 構造
第7回 キャッシュ・フロー計算書(1) 意義
第8回 キャッシュ・フロー計算書(2) 構造
第9回 財務諸表分析の基礎(1) 収益性
第10回 財務諸表分析の基礎(2) 効率性
第11回 財務諸表分析の基礎(3) 成長性
第12回 財務諸表分析の基礎(4) 安全性
第13回 会計の制度(1) 法定開示
第14回 会計の制度(2) 適時開示
第15回 会計の制度(3) 任意開示

特記事項: 第16回授業において，試験を行います。

授業方法:
1. 講義形式
2. 講義形式
3. 講義形式とディスカッション
4. 講義形式
5. 講義形式
6. 講義形式とディスカッション
7. 講義形式
8. 講義形式
9. 講義形式とディスカッション
10. 講義形式
11. 講義形式
12. 講義形式とディスカッション
13. 講義形式
14. 講義形式
15. 講義形式とディスカッション
※基本的に対面方式で行います。

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. シラバスに示されている単語の予習180分（45分×4），その成果として講義内での教員からの質疑に応答できること
2. 前回の講義内容の復習180分，その成果として講義内での教員からの質疑に応答できること
3. 前回の講義内容の復習180分，その成果として講義内での教員からの質疑に応答できること
4. 前回の講義内容の復習180分，その成果として講義内での教員からの質疑に応答できること
5. 前回の講義内容の復習180分，その成果として講義内での教員からの質疑に応答できること
6. 前回の講義内容の復習180分，その成果として講義内での教員からの質疑に応答できること
7. 前回の講義内容の復習180分，その成果として講義内での教員からの質疑に応答できること
8. 前回の講義内容の復習180分，その成果として講義内での教員からの質疑に応答できること
9. 前回の講義内容の復習180分，その成果として講義内での教員からの質疑に応答できること
10. 前回の講義内容の復習180分，その成果として講義内での教員からの質疑に応答できること
11. 前回の講義内容の復習180分，その成果として講義内での教員からの質疑に応答できること
12. 前回の講義内容の復習180分，その成果として講義内での教員からの質疑に応答できること
13. 前回の講義内容の復習180分，その成果として講義内での教員からの質疑に応答できること
14. 前回の講義内容の復習180分，その成果として講義内での教員からの質疑に応答できること
15. 前回の講義内容の復習180分，その成果として講義内での教員からの質疑に応答できること

評価方法：

授業へのとりくみ：	20	**%**	**確認テスト：**	80	**%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準：

（S・秀）「秀でた到達度（90-100点）」講義内容を網羅的に適切に理解し，発展的・実践的に活用することができる。
（A・優）「望ましい到達度（80-89点）」講義内容のうち，基礎的・応用的な事項の理解ができており，活用することができる。
（B・良）「良好な到達度（70-79点）」講義内容のうち，基礎的・応用的な事項の理解がおおむねできている。
（C・可）「最低限の到達度（60-69点）」講義内容のうち，基礎的な事項の理解がおおむねできている。

課題へのフィードバック：

各課題ごとに模範解答と採点基準をお伝えします。

教科書： なし

参考書： 必ず，第1回の講義までは購入せず，講義をきいてから，購入するかどうか判断してください。
内藤文雄『会計学エッセンス』中央経済社（講義開始時での最新版）。

授業・準備学習のアドバイス：

いままで，企業のビジネスや会計，簿記についてあまり考えたこともないという方にでもわかりやすくなるよう，多くの具体的な事例に触れながらお話ししたいと思います。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: アントレプレナーシップ論

クラス:

授業コード: DC20250001

担当者: 杉本 厚夫 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 本授業は、アントレプレナーシップを、単なる起業技術ではなく、これからのVUCA時代で必要とされる「新しい価値の創造」「緊張やジレンマの調整」「責任を持つ行動」(OECDラーニングコンパス2030)のコンピテンシーを育てることを目的とする。そのために、社会学、教育学、公共政策、文化研究の視点から、主として「公共」「公益」の必要性について理解する。

到達目標:
1. アントレナーシップの基本的な考え方を自分の言葉で説明できる
2. 身近な課題を「解決すべき問題」として整理・言語化できる
3. グループでの対話を通じて、価値提案のアイデアを構想できる
4. 試行錯誤や失敗を学習として振り返ることができる

各回の授業計画:

1. ガイダンス:こころ豊かな(Well-Being)社会のために
2. これからの社会の在り方:成長から成熟へ
3. 新しい価値の創造(OECD):挑戦するということ(できないことは・・・)
4. 緊張やジレンマの調整(OECD):多様性と公平性と包摂性(DEI)(違っているから・・・)
5. 責任を持つ行動(OECD):意思決定の在り方(自律とは・・・)
6. 働くということ:まかせる(自分のことは自分で・・・)
7. 組織の作り方:まとめない(ミッションとビジョン)
8. 計画すること:まつ(未来を切り開く)
9. コミュニケーションの取り方:聴くということ
10. 課題解決の仕方:対策(solution)から変革(innovation)へ
11. 公共とは:官・公・民を巡って
12. 事例研究(一般社団法人の場合):機会の発見
13. 事例研究(公益財団法人の場合):資源の動員
14. 事例研究(イベントの場合):不確実性、曖昧さ、リスクへの対処
15. まとめ:再び問う、アントレプレナーシップとは

特記事項:

授業方法: 本授業はPBL(Project Based Learning:課題解決型学習)を基本に進める。
受講生は少人数グループを形成し、毎回提案するアントレナーシップの理論についてディスカッションし、課題設定・価値提案・実践的構想等を行う。
知識の習得よりも、思考プロセス・仮説検証・学習の振り返りを重視する。
・ミニレクチャー(理論導入)
・グループワーク/ピアレビュー
・プロジェクト型学習(課題設定・検証・改善)
・中間・最終ピッチ

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 予習:アントレナーシップ論の概念について調べる(120分)
 復習:こころ豊かな(Well-Being)社会について、自分の意見をまとめる(60分)
2. 予習:これからの社会に関連する資料を収取する(120分)
 復習:成長から成熟への社会変容について自分の意見をまとめる(60分)
3. 予習:新しい価値の創造(OECD)について調べる(120分)
 復習:挑戦するということについて自分の意見をまとめる(60分)
4. 予習:緊張やジレンマの調整(OECD)について調べる(120分)
 復習:多様性と公平性と包摂性(DEI)について自分の意見をまとめる(60分)
5. 予習:責任を持つ行動(OECD)について調べる(120分)

復習：意思決定の在り方について自分の意見をまとめる（60分）
6. 予習：働くということについて調べる（120分）
復習：「まかせる」について自分の意見をまとめる（60分）
7. 予習：組織の作り方について調べる（120分）
復習：「まとめない」について自分の意見をまとめる（60分）
8. 予習：計画することについて調べる（120分）
復習：「まつ」について自分の意見をまとめる（60分）（未来を切り開く）
9. 予習：コミュニケーションの取り方について調べる（120分）
復習：「聴く」ということについて自分の意見をまとめる（60分）
10. 予習：課題解決の仕方について調べる（120分）
復習：対策（solution）から変革（innovation）へ移行することについて自分の意見をまとめる（60分）
11. 予習：公共について調べる（120分）
復習：官・公・民を巡って自分の意見をまとめる（60分）
12. 予習：事例研究（一般社団法人）について調べる（120分）
復習：機会の発見ついて自分の意見をまとめる（60分）
13. 予習：事例研究（公益財団法人）について調べる（120分）
復習：資源の動員について自分の意見をまとめる（60分）
14. 予習：事例研究（イベント）について調べる（120分）
復習：不確実性、曖昧さ、リスクへの対処について自分の意見をまとめる（60分）
15. 予習：これまでの講義の内容を振り返り、整理しておく（120分）
復習：アントレプレナーシップについて自分の意見をまとめる（60分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	30	**%**	**確認テスト：**	50	**%**	**レポート：**	20 **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準：

【最低限の到達度（60～69点）】
・授業への取り組み：ディスカッションに参加している。
・レポート：アントレナーシップについておおむね理解し、その理論についてレポートを書くことができる。
・確認テスト：各回の授業で学んだことに関して、それぞれのテーマについてある程度理解している。

【標準的な到達度（70～79点）】
・授業への取り組み：ディスカッションに参加し、自分の考えを発表することができる。
・レポート：アントレナーシップについて理解し、その理論についてレポートを論理的に書くことができる。
・確認テスト：各回の授業で学んだことに関して、それぞれのテーマについて理解し、論理的に説明することができる。

【最低限の到達度（80～100点）】
・授業への取り組み：ディスカッションに参加し、自分の考えを積極的に発言し、説得力ある発表になっている。
・レポート：アントレナーシップについて十分理解し、その理論について自分の考え方を含めて批判的にレポートを書くことができる。
・確認テスト：各回の授業で学んだことに関して、それぞれのテーマについて十分に理解し、自分の言葉で説明することができる。

課題へのフィードバック：

テーマごとに提出されたレポートの代表的なものに対して評論する。

教科書： 使用しない。

参考書： 適宜紹介する。

授業・準備学習のアドバイス：

普段から社会的な現象について情報収取に努め、疑問や課題を認識するようにしてください。そしてその疑問や課題について、生成AI等で調べ、評論できるようにしてください。
そのようにして得られた情報をグループワークで発表し、ディスカッションを楽しんでください。
各回の授業はパワーポイントでレクチャーしますので、確認テストのために、メモをとるようにしてください。そのメモを参照して、確認テスト（小レポート）を5回提出してもらい、10点満点で評価します。
また、最終回には総括レポートを提出してもらいます。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 広告心理学

クラス:

授業コード: DC20300001

担当者: 端 義幸 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:企業にて広告、ブランディング、マーケティングを担当

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 広告は企業が顧客に対して行う重要なコミュニケーション手段です。また、社会において、数多くの心理学が活用されています。本授業においては、広告で活用できる心理学を自ら探し、実証していけるようになることを目的にしています。
授業の特徴としては、課題解決型学習(PBL・グループ学習)を取入れ、社会の実態に触れる機会をつくり、将来皆さんが社会にでた時に、大学で学んだことを活かせる視座を持ってもらうことを目指します。

到達目標: 【知識・理解】
・広告とマーケティングコミュニケーションの基本を理解する。
・様々な広告に関する心理について理解する。
【思考・判断】
・答えのない課題に対して、情報を収集・取捨選択、現状分析をし、さまざまな視点で考え、課題解決をする能力を身につける。
・自分の考えや意見を相手に伝わることを意識して表現できるようになる。
・心理学について、常に企業活動と結びつけて考えれるようになる。
【関心・意欲】
・企業における心理学の活用の場である広告、マーケティングコミュニケーションへの関心を高める。
・心理学が企業の中で役に立っている実態を知り、心理学の活用について関心を持ち意欲的になる。

各回の授業計画:

1. ガイダンス
2. 広告の基本、マーケティングコミュニケーションの基本①(事例検討)
3. 広告の基本、マーケティングコミュニケーションの基本②(ターゲットを意識した広告)
4. 広告の基本、マーケティングコミュニケーションの基本③(企画案の検討)
5. 広告心理の基本①(広告の種類と機能)
6. 広告心理の基本②(広告表現の心理)
7. 広告心理の基本③(コーズリレーティッドマーケティングの心理、スポンサーシップの心理)
8. 課題解決型授業(PBL):課題取組企業の紹介とと取組み課題の発表・オリエンテーション
9. 課題解決型授業(PBL):企画書作成(グループ学習)
10. 課題解決型授業(PBL):企画書作成(グループ学習)
11. 課題解決型授業(PBL):企画書作成(グループ学習)、中間発表(大学内プレゼン)
12. 課題解決型授業(PBL):企画書作成(グループ学習)
13. 課題解決型授業(PBL):課題発表(実務家ゲストに対してプレゼンテーション)
14. 課題解決型授業(PBL):PBL振り返り、まとめ
15. 全体まとめ

特記事項: なし

授業方法: (すべて対面授業で行う)
1. 講義と演習
2. 講義と演習
3. 講義と演習
4. 講義と演習
5. 講義と演習
6. 講義と演習
7. 講義と演習
8. 講義とグループワーク
9. グループワーク
10. グループワーク
11. グループワーク

12. グループワーク
13. プレゼンテーション
14. 講義と演習
15. 講義と演習

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. ガイダンス【復習60分】
2. 基本知識習得【復習60分】
3. 基本知識習得【復習60分】
4. 基本知識習得【復習60分】
5. 基本知識習得【復習60分】
6. 基本知識習得【復習60分】
7. 基本知識習得【復習60分】
8. PBL課題問題オリエンテーション【復習120分】
9. PBL課題企画作成【復習・予習300分】
10. PBL課題企画作成【復習・予習300分】
11. PBL課題企画作成【復習・予習300分】
12. PBL課題企画作成【復習・予習300分】
13. PBL課題発表【復習60分】
14. PBL課題振返り【復習60分】
15. 全体まとめ【復習120分】

評価方法: **授業へのとりくみ:** 70 **%** **確認テスト:** − **%** **レポート:** 30 **%**
その他1: **%**
その他2: **%**

評価基準: ・60～69点：広告、マーケティングコミュニケーションの基本を理解し、心理学が広告、マーケティングコミュニケーションの分野で活かされていることを理解する。
・80点～100点：上記に加え、自らの意見を持ち、それを説明でき、社会にでて広告やマーケティングコミュニケーションに心理学をどう活かしていくかといった視座を常に持って意欲的に取り組めるようになる。

課題へのフィードバック:

提出課題に関しては、次週以降の授業内でフィードバックを行う
プレゼンテーション、発表に関してはその授業内でフィードバックを行う

教科書: なし

参考書: ・広告心理 仁科貞文 田中洋 丸岡吉人 株式会社電通
・「心」が分かるとものが売れる 鹿毛康司 日経BP
・ビジネス心理学 匠英一 経団連出版
・心理マーケティング100の法則 酒井とし夫 日本能率協会マネジメントセンター
・新・消費者理解のための心理学 杉本徹雄 福村出版

授業・準備学習のアドバイス:

日常接する広告は、企業が考えに考えたうえで発信されています。身の周りにあるさまざまなものに興味を持ち、発見を楽しんでください。こういった日々の活動が授業の内容と結びついてより理解を深めていきます。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 消費者心理学

クラス:

授業コード: DC20400001

担当者: 鈴木 隆 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:企業で起業やマーケティング全般に従事

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 日々商品を購買し消費するわたしたち消費者の心理と行動について学ぶ。心理学をはじめとした理論だけでなく、現場での実践についても学ぶ。

到達目標: 消費者の心理と行動の理論と実践がわかるようになる。
ビジネスの現場でも活用できるようになる。

各回の授業計画:

1. イントロダクション一消費者心理学(消費者行動論)でどんなことを学べるか
2. 消費者理解
3. 購買動機
4. 情報処理理論
5. 二重過程理論
6. 行動経済学(1) ヒューリスティクスとバイアス
7. 行動経済学(2) ナッジ
8. ショッピングの科学と脳神経科学
9. 無意識
10. 感覚
11. 感情
12. 状況
13. 間主観性
14. コミュニケーション
15. 振り返りとまとめ

特記事項: ビジネスを全体として理解するには、「消費者心理学」(消費者行動論)を踏まえて実践する「マーケティング論」も受講する(受講している)とよい。

授業方法: パワーポイントの資料を用いて、動画の視聴や簡単な実験なども交えながら講義を行い、演習で理解を深める。すべての授業を対面授業で行う。
1. 講義、動画視聴、演習
2. 講義、動画視聴、演習
3. 講義、動画視聴、演習
4. 講義、動画視聴、演習
5. 講義、動画視聴、演習
6. 講義、動画視聴、演習
7. 講義、動画視聴、演習
8. 講義、動画視聴、演習
9. 講義、動画視聴、演習
10. 講義、動画視聴、演習
11. 講義、動画視聴、演習
12. 講義、動画視聴、演習
13. 講義、動画視聴、演習
14. 講義、動画視聴、演習
15. 講義、動画視聴、演習

予習・復習・宿題など(内容・時間):

パワーポイントの資料をもとに、以下の内容を復習する。
1. 世の中の具体的な事例(180分)

2. 理論と具体的な事例(180分)
3. 理論と具体的な事例(180分)
4. 理論と具体的な事例(180分)
5. 理論と具体的な事例(180分)
6. 理論と具体的な事例(180分)
7. 理論と具体的な事例(180分)
8. 理論と具体的な事例(180分)
9. 理論と具体的な事例(180分)
10. 理論と具体的な事例(180分)
11. 理論と具体的な事例(180分)
12. 理論と具体的な事例(180分)
13. 理論と具体的な事例(180分)
14. 理論と具体的な事例(180分)
15. 期末レポート課題(180分～)

評価方法:

授業へのとりくみ:	30	**%**	**確認テスト:**	－	**%**	**レポート:**	40 **%**
その他1:	毎回授業中に記入し提出する小レポート		30	**%**			
その他2:				**%**			

評価基準:

60～69点…授業の内容を理解できている。
70～79点…授業の内容を理解し、かつ活用できている。
80～100点…授業の内容を理解、活用できている。かつ自分なりに考え表現できる。誤りや失敗からも学んでいる。

課題へのフィードバック:

授業内もしくはTeamsで行う。

教科書: 毎回、Teamsで資料を配布する。

参考書:

授業内容のベースにあるものとして、以下の3冊を紹介する。
(参考書1:一般書)鈴木隆『御社の商品が売れない本当の理由』2017年、光文社新書
(参考書2:一般書)鈴木隆『仕事に効くオープンダイアローグ』2019年、KADOKAWA
(参考書3:研究書)鈴木隆『マーケティング戦略は、なぜ実行でつまずくのか』2016年、碩学舎(発売:中央経済社)
なかでも、参考書1が授業全般をカバーしており、予習や復習に役立つであろう。いずれも図書館にあるので、一度は手に取ってみることをすすめる。

授業・準備学習のアドバイス:

・身近な広告や店舗を観察し、自身やアルバイト先などでの購買・消費についても意識しておくと、授業の内容の理解が進む。
・毎回、授業の最後に、小レポート(課題への回答、質問・感想・意見・希望など)を記入し提出してもらう。内容について評価するだけでなく、次回の授業の冒頭でフィードバックするとともに、授業の内容にも反映する。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 産業・組織心理学

クラス:

授業コード: DC20500001

担当者: 辻川 典文 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 組織の一員として働くときにどのような心理状態を経験し、いかなる行動をとるのかについて理解することが必要である。ここでは、集団内における人の心理をもとに産業活動や組織活動の在り方について理解を深めることを目的とする。また職場における問題に対して必要な心理に関する支援についても理解を深めることを目的とする。

到達目標: 組織や集団内での人の行動の特徴について理解できるようになること。また、産業活動について心理学的観点から考えられるようになること。

各回の授業計画:

1. イントロダクション
2. 組織内行動(1)個人と組織の関係
3. 組織内行動(2)組織活動の特徴、意思決定
4. 組織内行動(3)組織内コミュニケーション
5. リーダーシップ(1)交流型
6. リーダーシップ(2)変革型
7. 組織活動と安全(1)ヒューマンエラー
8. 組織活動と安全(2)安全文化
9. 事例研究
10. ワークモチベーション
11. キャリア形成
12. キャリア支援
13. 就労におけるストレス
14. 就労におけるサポート
15. 組織行動や職場における問題とこれまでの振り返り

特記事項: なし

授業方法: 授業は、すべて対面で実施します
1. 講義
2. 講義
3. 講義とグループワーク
4. 講義とグループワーク
5. 講義
6. 講義とグループワーク
7. 講義
8. 講義とグループワーク
9. 講義
10. 講義
11. 講義とグループワーク
12. 講義とグループワーク
13. 講義とワーク
14. 講義とワーク
15. 講義とワーク

予習・復習・宿題など(内容・時間):

授業の資料をもとに以下の内容について学習してくる

1. 集団行動での経験を考える(180分)

2. 他者からの影響(180分)
3. 集団活動の利点、問題点(180分)
4. 多人数での情報伝達の問題点、改善方法(180分)
5. リーダーシップの特徴(180分)
6. 今の時代に役立つリーダーシップ(180分)
7. 事故の背景を考える(180分)
8. 事故を防ぐ方法を考える(180分)
9. 企業の不祥事(180分)
10. 労働とやる気の関係(180分)
11. キャリアについて考える(180分)
12. キャリアについて考える(180分)
13. ストレスとサポートの関係(180分)
14. ソーシャルサポートの有効性と限界(180分)
15. レポート課題(180分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	10 **%**	**確認テスト:**	70 **%**	**レポート:**	20 **%**
その他1:			**%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 60～69点:集団や組織における人の心理を理解している
80～100点:上記の内容に加えて、授業内でのワークに積極的に取り組み、授業の内容と自身の体験を関連付けて理解できている

課題へのフィードバック:

授業期間内に複数回の小テストを実施し、どの程度理解できているかについて確認を行う。結果のフィードバックは翌週以降の授業で行う。

教科書: 以下のテキストは購入する必要はないが、授業内容の参考として紹介する。
山口裕幸・金井篤子(2007) よくわかる産業・組織心理学 ミネルヴァ書房
金井篤子 (2019) 産業・組織心理学を学ぶ: 心理職のためのエッセンシャルズ 北大路書房

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

熱心な受講を希望する。また、講義やグループワークへの積極的参加、講義内容の復習を行うこと。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: キャリア支援の心理学

クラス:

授業コード: DC20600001

担当者: 高橋 美智子 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公認心理師、臨床心理士、認定医療心理士として、教育・医療・福祉領域の職員に対する相談、カウンセリングおよび研修、自治体の市民対象「仕事と子育て両立支援カウンセリング」

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 生涯のうちにはさまざまな出来事が起こり、喜びや充実感に満たされる時もあれば、悲しみや苦しみに見舞われたり、色々な課題や選択肢を前にとまどいや不安を抱えることもあります。
そうした人生の山谷において、自分を見失わずに状況を客観的に見直し、自分の望む生き方に向けた決断や行動ができるように、手助けとなる心理学的理論や心理学的アプローチを学びます。

到達目標:
1. ライフサイクル、ライフイベント、ライフキャリアについて理解している
2. 日本の社会・労働環境や人々の生き方や働き方の現状や課題について理解している
3. キャリアに関する自分の価値観や希望を理解している
4. キャリア心理学の基礎的理論を理解している
5. ライフキャリアの過程で予想される課題について、心理学的分析や、解決に向けた心理学的アプローチを考えることができる

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. キャリア、ライフサイクル、ライフイベント
3. 自分自身のライフイベント
4. 身近な人のライフイベント
5. 人々のキャリアの現状(1)公的データをもとに
6. 人々のキャリアの現状(2)最近の出来事から
7. 人々のキャリアの現状(3)各自の発表
8. 人々のキャリアの現状(3)各自の発表 続き
9. 自己分析(1)価値観、パーソナリティ、性格
10. 自己分析(2)考え方、行動
11. 自己分析(3) 職業的興味、望む働き方、ビジョン
12. 人生上の課題とキャリア心理学の理論(1)特性因子論、個人特性理論
13. 人生上の課題とキャリア心理学の理論(2)キャリア発達理論
14. 人生上の課題とキャリア心理学の理論(3)組織内キャリア発達、社会学習理論、転機とその対処
15. メンタルヘルス、ストレス・マネージメント

特記事項: 受講者の興味や関心に応じたものになるように、講義内容や順序を適宜変更する場合があります。

授業方法: 【対面】(教員の病気など諸事情により対面で行えない場合は、オンライン非同期型になることもあります。)
1. 講義
2. 講義
3〜4. ワーク、グループディスカッション、発表
5〜6. 講義、ワーク、グループディスカッション、発表
7〜8. 発表
9〜14. 講義、ワーク、グループディスカッション、発表
15. 講義、グループディスカッション

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 心理学を自分のキャリアにどう活かせるか考え、学びたいことについてレポート作成(180分)
2. 自分のライフイベントについてまとめてレポート作成(180分)
3〜4. 身近な人へのインタビューを記録にまとめてレポート作成(180分)
5〜6. 人々のキャリアの現状について情報収集(180分)
7〜8. 人々のキャリアの現状についての発表スライド作成(180分)
9〜11. 自分についての分析とレポート作成(180分)
12〜14. キャリア心理学の各理論について復習(180分)

15. 授業を振り返ってのレポート作成（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	60 **%**
その他1：	発表		10 **%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

【最低限の到達度（60～69点）】
・教師からの質問に自分の意見を述べたり、グループディスカッションで発言したり、グループ発表に向けて共同の準備ができる。
・レポートはすべて提出し、授業で学んだことを基に課題について考えをまとめている。
【望ましい到達度（80～100点）】
・積極的に発言や質問ができる。
・グループのディスカッションや情報収集した内容をまとめて発表できる。
・レポートでは、課題についてさまざまな角度から深い分析を行い、自分の考えを述べている。
・キャリア上の課題に、心理学的理論やメンタルヘルスの知識をもとに解決に向けたアプローチを考えることができる。

課題へのフィードバック：

・レポートは採点・評価して返却します。全員に該当する講評やコメントはその都度授業内で紹介し、優秀なレポートの内容などについては抜粋を示すなどして、全員で共有できるようにします。
・発表については、その都度講評します。

教科書： なし

参考書： 適宜紹介します。

授業・準備学習のアドバイス：

この授業では、目の前の就職活動だけではなく、今後の長期にわたるキャリア（仕事やその他の役割を含めた生き方）について考えていきます。
講義を聴いて学ぶことに加えて、ワークに取り組み自分で考える、グループディスカッションで意見を交わし見方を広げる、「人々のキャリアの現状」に関して自分が知りたいと思ったテーマや問題について調べて発表する・・・などを通じて学びを深めていきます。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 社会心理学実験・実習

クラス:

授業コード: DC20700001

担当者: 辻川 典文 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 心理学実験・実習で学んだことをもとに、心理学の研究を行い論文を執筆するうえで必要な知識や技術を実践を通して身に着けることを目的とする。また、データをまとめるうえで必須となる基礎的な統計の知識も身に着ける

到達目標: 心理学における実験方法について理解を深めることを目標とする。また、データの特徴や目的に合わせて必要な分析方法を使い分ける力、得られた結果から適切に情報を読み取る力を身につけることを目標とする。

各回の授業計画:

1. 授業の概要 研究1 係留と調整の効果:実験の実施
2. 研究1 係留と調整の効果:テーマの解説と分析(記述統計と相関分析)
3. 研究1 係留と調整の効果:結果の考察
4. 研究2 リーダーシップ研究:調査とデータの集計
5. 研究2 リーダーシップ研究:テーマの解説と分析(2変数間の関係性の分析)
6. 研究2 リーダーシップ研究:結果の考察
7. 研究3 質問紙調査による態度測定と仮説の検証:テーマの検討
8. 研究3 質問紙調査による態度測定と仮説の検証:仮説の検討
9. 研究3 質問紙調査による態度測定と仮説の検証:質問内容の検討
10. 研究3 質問紙調査による態度測定と仮説の検証:データ収集
11. 研究3 質問紙調査による態度測定と仮説の検証:データの分析(2変数間の関係性の分析)
12. 研究3 質問紙調査による態度測定と仮説の検証:データの分析(仮説の検証)
13. 研究3 質問紙調査による態度測定と仮説の検証:考察
14. 研究3 質問紙調査による態度測定と仮説の検証:今後の課題
15. 3つの実験の振り返り

特記事項: 10回目と15回目はオンライン形式の授業になります。

授業方法:
1. 講義とワーク(対面)
2. 講義とワーク(対面)
3. 講義とワーク(対面)
4. 講義とワーク(対面)
5. 講義とワーク(対面)
6. 講義とワーク(対面)
7. 講義とワーク(対面)
8. 講義とワーク(対面)
9. 講義とワーク(対面)
10. 講義とワーク(オンライン)
11. 講義とワーク(対面)
12. 講義とワーク(対面)
13. 講義とワーク(対面)
14. 講義とワーク(対面)
15. 講義とワーク(オンライン)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 係留と調整の効果について復習する(180分)
2. 記述統計と相関について復習する(180分)
3. 係留と調整の実験結果についてレポートにする(180分)
4. リーダーシップについて復習する(180分)
5. t検定、χ 2検定について復習する(180分)

6. リーダーシップの調査結果についてレポートにまとめる（180分）
7. 調査のための研究テーマをまとめる（180分）
8. 研究テーマにおける仮説を考える（180分）
9. 研究テーマに基づき質問紙を作成する（180分）
10. データ収集と入力をする（180分）
11. 多変量解析について復習する（180分）
12. 仮説に基づき分析結果をまとめる（180分）
13. 得られた結果から考察する（180分）
14. 実験結果をレポートにまとめる（180分）
15. 実験結果をレポートにまとめる（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	40	**%**	**確認テスト：**	－	**%**	**レポート：**	60 **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準： 60～69点：心理学に必要な方法論の理解と基礎的な統計の知識を理解できている |80～100点：状況に応じて適切な実験方法や分析方法を利用することができる。また、データの理解も的確にできている。

課題へのフィードバック：

各回の講義で課題の成果のフィードバックを行います。

教科書： なし。適宜プリントの配布を行います。

参考書： 浦上昌則・脇田貴文 (2020) 心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方 改訂版 東京図書

授業・準備学習のアドバイス：

講義・実習の中で分からないことがあれば必ず質問して下さい。授業への積極的な取り組みを期待します。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 知覚・認知心理学

クラス:

授業コード: DC20800001

担当者: 犬飼 朋恵 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 知覚・認知心理学の代表的な研究を紹介することによって，知覚・認知心理学的な手法の基本的な考え方を身につける。これにより，ヒトの心に対する科学的な見方を養い，社会での応用・実践のための知覚・認知心理学的な測定方法の基礎を習得することを目指す。

到達目標: 私たちが普段何気なく行っている「見る」，「憶える」などの「認知」というこころの仕組みを明らかにしようとするのが知覚・認知心理学である。前半の講義では主に記憶や視覚といった基礎的な研究について，後半の講義では女性の認知の特性など，より応用的・実践的なテーマについて理解を深める。

各回の授業計画:

1. 認知心理学の成立の背景
2. 認知心理学とその考え方
3. 眼を通した矛盾のない世界の構築 眼の構造を中心に
4. 眼を通した矛盾のない世界の構築 現象を中心に
5. 記憶はひとつなのか
6. 行動をマネジメントする記憶
7. 記憶はどこまで正確なのか
8. 認知機能に性ホルモンが及ぼす影響
9. 男女差から見た認知機能
10. 認知機能の個人差
11. 視覚的注意とその制御1 注意を調べる方法について
12. 視覚的注意とその制御2 視覚探索課題を中心に
13. 視覚的注意とその制御3 さまざまな課題について
14. 消費者行動と意思決定
15. 試験とまとめ

特記事項: なし

授業方法: パワーポイントを用いて講義を行う。事前に資料を配布する。

1. 講義と演習【オンライン】
2. 講義と演習【対面】
3. 講義と演習【対面】
4. 講義と演習【対面】
5. 講義と演習【対面】
6. 講義と演習【対面】
7. 講義と演習【対面】
8. 講義と演習【対面】
9. 講義と演習【対面】
10. 講義と演習【対面】
11. 講義と演習【対面】
12. 講義と演習【対面】
13. 講義と演習【対面】
14. 講義と演習【対面】
15. まとめの確認と解説【対面】

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 予習(100分) 講義に関連する文献を探し、読む。復習(80分) 講義に関連する文献を探し、読む
2. 予習(100分) 講義に関連する文献を探し、読む。復習(80分) 講義に関連する文献を探し、読む
3. 予習(100分) 講義に関連する文献を探し、読む。復習(80分) 講義に関連する文献を探し、読む

4. 予習(100分) 講義に関連する文献を探し、読む。復習(80分) 講義に関連する文献を探し、読む
5. 予習(100分) 講義に関連する文献を探し、読む。復習(80分) 講義に関連する文献を探し、読む
6. 予習(100分) 講義に関連する文献を探し、読む。復習(80分) 講義に関連する文献を探し、読む
7. 予習(100分) 講義に関連する文献を探し、読む。復習(80分) 講義に関連する文献を探し、読む
8. 予習(100分) 講義に関連する文献を探し、読む。復習(80分) 講義に関連する文献を探し、読む
9. 予習(100分) 講義に関連する文献を探し、読む。復習(80分) 講義に関連する文献を探し、読む
10. 予習(100分) 講義に関連する文献を探し、読む。復習(80分) 講義に関連する文献を探し、読む
11. 予習(100分) 講義に関連する文献を探し、読む。復習(80分) 講義に関連する文献を探し、読む
12. 予習(100分) 講義に関連する文献を探し、読む。復習(80分) 講義に関連する文献を探し、読む
13. 予習(100分) 講義に関連する文献を探し、読む。復習(80分) 講義に関連する文献を探し、読む
14. 予習(100分) 講義に関連する文献を探し、読む。復習(80分) 講義に関連する文献を探し、読む
15. 復習(80分) 講義に関連する文献を探し、読む

評価方法:

授業へのとりくみ:	40	**%**	**確認テスト:**	60	**%**	**レポート:**	－ **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: テストと確認テストの合計点により評価を実施する。
100~80 点:知覚と認知心理学の基本的概念が理解でき、その成果を日常生活に適切に利用できる。
79~70 点:知覚と認知心理学の基本的概念が理解でき、その成果の一部を日常生活に利用できる。
69~60 点:知覚と認知心理学の基本的概念が理解できる。

課題へのフィードバック:

講義内で課題及びテストを実施する。結果のフィードバックは翌週以降に行う。

教科書: なし

参考書: 適宜紹介する。

授業・準備学習のアドバイス:

普段の生活の中で各テーマに関連することを探してください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 色彩心理学

クラス: ☆心/国

授業コード: DC20900001

担当者: 犬飼 朋恵 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 色が私たちの行動に及ぼす影響を理解するとともに，日常生活の中で色を効果的に利用する方法を学ぶ。

到達目標: 色が見える仕組みや行動に及ぼす影響を理解したうえで，実生活で色を効果的に利用できるようになることを目標とする。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 色彩心理学の成り立ち
3. 色が見える仕組み1 眼の構造について
4. 色が見える仕組み2 恒常性について
5. 色が見える仕組み3 理論について
6. 色彩とイメージ
7. 色彩を用いた心のケア
8. 色彩の心理的効果
9. 色彩が人に与える印象
10. 色彩とファッション
11. 色彩と流行
12. 色彩と調和
13. 色の組み合わせの効果
14. パーソナルカラー
15. まとめと確認

特記事項: 当該授業はオンライン授業である。Teamsによるオンデマンド教材と課題提示を実施する.

授業方法: 全講義Teamsを用いたオンライン講義形式で行う。事前に資料を配布する。

1. 講義と演習
2. 講義と演習
3. 講義と演習
4. 講義と演習
5. 講義と演習
6. 講義と演習
7. 講義と演習
8. 講義と演習
9. 講義と演習
10. 講義と演習
11. 講義と演習
12. 講義と演習
13. 講義と演習
14. 講義と演習
15. 講義

予習・復習・宿題など(内容・時間):

各回、予習・復習、関連文献を読むなど行ってください。(180分)
1. オリエンテーションで紹介した内容の復習と関連文献での学習(180分)
2. 色彩心理学の学問的特徴についての復習と関連文献での学習(180分)

3. 色彩心理学の学問的特徴についての復習と関連文献での学習(180分)
4. 色が見える仕組みについての復習と関連文献での学習(180分)
5. 色が見える仕組みについての復習と関連文献での学習(180分)
6. 色彩とイメージについての復習と関連文献での学習(180分)
7. 色彩の心理的効果についての復習と関連文献での学習(180分)
8. 色彩の心理的効果についての復習と関連文献での学習(180分)
9. 色彩とことばについての復習と関連文献での学習(180分)
10. 色彩とことばについての復習と関連文献での学習(180分)
11. 色彩と調和についての復習と関連文献での学習(180分)
12. 色彩と調和についての復習と関連文献での学習(180分)
13. 色の組み合わせの効果についての復習と関連文献での学習(180分)
14. 色の組み合わせの効果についての復習と関連文献での学習(180分)
15. まとめと確認(180分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	40	**%**	**確認テスト:**	60	**%**	**レポート:**	- **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準:

望ましい到達度(80～100点)
・色が人間の心理状態に与える影響や, 効果的な色の配色を理解することができる
最低限の到達度(60～69点)
・色を知覚する物理的な側面と生理学的な側面の仕組みを理解することができる

課題へのフィードバック:

講義内でレポート課題及びテストを実施する。結果のフィードバックは翌週以降に行う。

教科書: なし

参考書: 講義にて適宜紹介する。

授業・準備学習のアドバイス:

普段の身の回りの色があなたの気持ちにどのような影響を与えているかを考えてみてください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 色彩学

クラス: 心/国

授業コード: DC21000001

担当者: 尼川 ゆら　　**単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:色彩検定協会認定講師 芸術系大学特任講師 舞台美術デザイン

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: −　　**一般的包括的科目:** −

授業の目的: 色彩の基礎になる色彩検定3級レベルの知識をベースに、日常生活や仕事で活用できる色彩の知識を身につける。
普段何気なく見ている色彩に改めて目を向けて、色彩の影響や効果について理解を深め、自分の中の色彩世界を広げて社会に役立てる。

到達目標: 色彩への興味を持ち、理解を深め、生活や社会に活かす工夫を考えられるようになる。

各回の授業計画:

1. 暮らしを取り巻く色
2. 色はなぜ見えるのか
3. 色と光の関係
4. 色のつくり方
5. 色のバリエーションを知る
6. 色からの連想
7. 影響し合う色 ー色の視覚効果(対比)
8. 色彩調和1ー色と色を組み合わせ
9. 色彩調和2ー明るさ・鮮やかさの組み合わせ
10. 色でつくるイメージ1ー配色で表すイメージ
11. 色でつくるイメージ2ーファッションと色彩/色+形+素材で作るイメージ
12. 色でつくるイメージ3ー空間と色彩
13. 色のユニバーサルデザイン
14. 色彩と文化・芸術
15. 色彩についてのまとめ

特記事項: なし

授業方法: 【対面】
講義形式の授業を実施

配布資料データをTeamsを通じて配布します。
また授業内確認テストはTeamsを使用します。その為、授業にはパソコンを持ってきてください。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 生活の中の色彩に目を向け、理解を深める(180分)
2. 色が見える仕組みについて理解を深める(180分)
3. 色と光の関係について理解を深める(180分)
4. どのようにして多くの色が作られるのかについて理解を深める(180分)
5. 色の分類について理解を深める(180分)
6. 色から受ける印象について興味を広げる(180分)
7. 色がもたらす視覚効果について理解を深める(180分)
8. 配色について理解を深める(180分)
9. 配色について理解を深める(180分)
10. 色彩によるイメージづくりについて理解を深める(180分)
11. 素材や形の要素を加えたイメージづくりについて理解を深める(180分)
12. 空間における色彩について理解を深める(180分)
13. 色のユニバーサルデザインについて理解を深める(180分)
14. 色彩に見える芸術・文化について理解を深める(180分)
15. 自分らしさを伝える色について考える(180分)

評価方法：	授業へのとりくみ：	30 %	確認テスト：	25 %	レポート：	45 %
	その他1：			%		
	その他2：			%		

評価基準： 60～69点：授業で学んだ色彩についてある程度は理解できている
70～79点：授業で学んだ色彩について概ね理解できている
80～100点：色彩について積極的に理解を深め、且つ自分や他者のために活かせるようにする工夫がみられる

課題へのフィードバック：

課題の結果を授業に組み込む形で授業内でフィードバックを行います。

教科書： 教科書は設定せず、授業内容のポイントをまとめた資料を配布します。

参考書： 色彩検定3級公式テキスト・色彩検定UC級公式テキスト

授業・準備学習のアドバイス：

日常生活の中にある色彩を改めて見つめ直し、それがどのように自分に影響を与えているかを考えること。
例えば、自分が買ったり選んだりしたものは、なぜそれ選んだのか、その理由に色彩は関係しているかを考えてみること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 音楽心理学

クラス: ★

授業コード: DC21100001

担当者: 岡野 真裕 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 「音楽は芸術的感性のもとに成り立っているのでデータで語ることはできない」のように言われることがあります。しかし，私たちの音楽行動に関わる様々なデータの分析により，音楽から人間の本質にアプローチしようとする研究もみられるようになってきました。この授業では音楽心理学の基礎から応用までを網羅することで，曖昧模糊とした音楽の「芸術性」や「感性」を科学的・客観的に見つめる技能を養うことを目指します。心理学のみならず，音響学や生理学を含む行動諸科学から，人間の音楽行動の背景にある人の心理や法則性を読み解きます。

到達目標: この授業の終了時に，下記の3項目が達成できていることを目標とします。
1. 音楽心理学の基礎的知識を獲得する。
2. 音楽演奏・鑑賞にかかわる科学的研究の基礎的・応用的な知見（とりわけ心理・生理・行動反応）について述べることができる。
3. 音楽の科学が多彩な領域を含む学際的分野であることを理解し，それらの知見を自分の興味関心の中でどのように位置づけることができるかを論理的に述べることができる。

各回の授業計画:

1. ガイダンス／“音楽”とは何か？「ミュージッキング」の考え方
2. 音楽の文法（メロディと調性）
3. 音の知覚（音の物理的現実と心理的現実）
4. 聴覚系のしくみ（音の大きさと高さの知覚）・音楽と脳
5. 失音楽症
6. 音楽におけるコミュニケーション
7. 音楽と感情
8. 音楽と映像の相互作用
9. 音楽と健康・音楽療法
10. 音楽の進化的意義
11. 演奏の科学1：音楽家の心と身体
12. 演奏の科学2：身体運動の制御と学習
13. 音楽と認知機能
14. 音楽心理学の研究の概観と確認テスト（60分）
15. まとめ：音楽心理学の知見を活かすには？

特記事項: 内容や順序は進度・分量等により変更する場合があります。特に2026年度は、オンデマンド型に初めて切り替える年度のため、不確定要素が多いことをご理解ください。

授業方法: 毎回の授業は基本的に教員による講義・解説と前回課題へのフィードバックから構成します。テストの回だけは対面で実施するため、注意すること。
1. 講義、課題（オンデマンド）
2. 前回のフィードバック，講義（オンデマンド）
3. 前回のフィードバック，講義（オンデマンド）
4. 前回のフィードバック，講義（オンデマンド）
5. 前回のフィードバック，講義（オンデマンド）
6. 前回のフィードバック，講義（オンデマンド）
7. 前回のフィードバック，講義（オンデマンド）
8. 前回のフィードバック，講義（オンデマンド）
9. 前回のフィードバック，講義（オンデマンド）
10. 前回のフィードバック，講義（オンデマンド）
11. 前回のフィードバック，講義（オンデマンド）
12. 前回のフィードバック，講義（オンデマンド）
13. 前回のフィードバック，講義（オンデマンド）
14. 講義，確認テスト（＊＊＊注意！対面で実施＊＊＊）

15. 前々回のフィードバック，確認テストの解説とまとめ（オンデマンド）

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1.「音楽」と「音楽すること」の関係を考え，整理しておく（180分）
2. 授業資料の予習（60分），身の回りの音楽の文法の分析（120分）
3. 授業資料の予習（60分），音の構成要素をノートに整理する（120分）
4. 授業資料の予習（60分），聴覚系のしくみをノートに整理する（120分）
5. 授業資料の予習（60分），音楽が脳内でどのように処理されるかについてノートに整理する（120分）
6. 授業資料の予習（60分），音楽におけるコミュニケーションについてノートに整理する
7. 授業資料の予習（60分），複数の情動理論，音楽の情動知覚と情動体験に関してをノートに整理する（120分）
8. 授業資料の予習（60分），映像の中の音楽の役割について身の回りの映像を調べてノートに整理する（120分）
9. 授業資料の予習（60分），音楽が健康に及ぼす影響や音楽療法の概要についてノートに整理する（120分）
10. 授業資料の予習（60分），ヒトの進化における音楽の位置づけについてノートに整理する（120分）
11. 授業資料の予習（60分），演奏における演奏者の心理・行動・生理反応をノートに整理する（120分）
12. 授業資料の予習（60分），身体運動の制御と学習に関する理論や実験についてノートに整理する（120分）
13. 授業資料の予習（60分），音楽聴取による認知機能への影響をノートに整理する（120分）
14. これまでの内容の総復習を行う（180分）
15. 予習（音楽心理学の知見を生かした発展的課題について考えてくる，180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	20	**%**	**確認テスト：**	50	**%**	**レポート：**	30 **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準：

「授業の到達目標」に記された3項目がそれぞれどの程度達成できているかを評価基準とします。
・最低限の到達度（60～69点）
授業中に実施する課題において，「授業の到達目標」に記された3項目がある程度達成されている。
確認テストの絶対評価が60%以上である。
・望ましい到達度（80～100点）
授業中に実施する課題において，その内容の独創性および表現力が優れているとともに，「授業の到達目標」に記された3項目を高い基準で達成できている。
確認テストの絶対評価が80%以上である。

課題へのフィードバック：

授業中に行う課題および確認テストについては，その翌週の授業内でフィードバックを行います。

教科書：

授業資料はTeamsを通じて配布します。

参考書：

星野悦子（編）（2015）「音楽心理学入門」誠信書房
岩宮眞一郎（2020）「音と音楽の科学」技術評論社
大串健吾・桑野園子・難波精一郎（監修）小川容子・谷口高士・中島祥好・星野悦子・三浦雅展・山崎晃男（編集）（2020）「音楽知覚認知ハンドブック」北大路書房
エリザベス・ヘルムス・マーキュリス（著）二宮克美（訳）（2022）「音楽心理学ことはじめ 音楽とこころの科学」福村出版

授業・準備学習のアドバイス：

授業はオンデマンドで実施します。受講のタイミングは基本的に自由ですが、自分なりに時間を決めて定期的に受講するようにしてください。
回によっては心理学実験を模したデモンストレーションを含めることがあります。Teamsの課題機能などを使って実施するので、期日までに回答してください。
世間には「なんとなく」「経験で語られた」「怪しげな」音楽心理学の知識が出回っています。それらの記述が科学的に語られたものなのかどうかを見極める目を持ちましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 心理学プログラミング実習

クラス: ☆

授業コード: DC21200001

担当者: 下村 智斉 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:心理学を用いたマーケティングに従事，機械学習，プログラミング。

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 心理学の調査や実験において，IT技術を用いることでより効率的な実施が可能になる。アンケートの実施と結果の集計を自動化したり，実験の実施と分析を自動化したりといったことが可能である。
この講義では，コンピュータ上でのアンケート作成と心理学実験の作成を行う。コンピュータ言語の使い方についても最初から解説する。

到達目標: コンピュータ上でアンケートを作成することができる。コンピュータ上で心理学実験を作成することができる。これらに関わるコンピュータ言語を使用することができる。

各回の授業計画:

1. 開発環境の確認とインストール作業
2. アンケート作成のための準備
3. アンケート作成のためのプラットフォームの解説
4. アンケート作成（1）質問項目を作成する
5. アンケート作成（2）質問項目に対する反応を取得する
6. アンケート作成（3）データを出力する
7. アンケート作成（4）データの構造
8. Pythonの基本
9. Psychopyの解説
10. Psychopyによる実験課題の作成（1）Psychpyでの位置の表現（座標）を理解する
11. Psychopyによる実験課題の作成（2）刺激（文字や図形・動画）を提示する
14. Psychopyによる実験課題の作成（3）刺激に対するボタン押し反応を得る
13. Psychopyによる実験課題の作成（3）刺激に対するボタン押し反応を得る
14. Psychopyによる実験課題の作成（5）ひ実験課題を作成する
15. Psychopyによる実験課題の作成と確認テスト

特記事項: インターネット接続が必須です。また，内容についてはWindows環境を前提に実施します。

授業方法: この授業は15回ともオンライン（オンデマンド）にて実施する。

予習・復習・宿題など（内容・時間）:
解説した内容を理解して，PCを操作する，もしくはプログラムを書いて実行する。各回の授業の予復習で60分程度が必要。

評価方法:

授業へのとりくみ:	60 %	**確認テスト:**	10 %	**レポート:**	30 %		
その他1:			%				
その他2:			%				

評価基準: 60〜69点:コンピュータの使い方の基本を理解する。
70〜79点:コンピュータを用いて質問項目や刺激を提示することができる。
80〜100点:コンピュータを用いて一通りのアンケートや認知課題を実施できる。

課題へのフィードバック:
作成したプログラムを提出する。オンラインでチェックする。

教科書: なし

参考書: 授業内にて掲示することがある。

授業・準備学習のアドバイス:

プログラミングは非常に身近なツールで，コンピュータ言語の習得自体もそこまで難しくありません。
開発環境（パソコンのOSなど）としては，Windowsに準拠します。
復習したり自分でプログラムを書いてみたりすることが大事です。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 発達臨床心理学

クラス:

授業コード: DC30100001

担当者: 山本 千恵 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:臨床心理士、公認心理師(心療内科心理カウンセラー、兵庫県スクールカウンセラー)

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 本講義では、教科書「臨床心理学135 第23巻第3号」(金剛出版)のトピックを一つずつ取り上げながら、アイデンディティの揺らぎの中を生きる若者の心の理解と支援について共に考える講座です。

到達目標: ・青年期以降の発達臨床心理学に関する基本的な知識を習得すること。
・各発達段階の特徴および心理臨床的諸問題とその支援方法について理解すること。

各回の授業計画:

1. 教科書のトピック
・「高校生の現在地と展望」
2. 教科書のトピック
・「大学生の現在地と展望」
3. 教科書のトピック
・「不安定な社会で若者が生きていくために」
4. 教科書のトピック
・「あなた」と「わたし」の境界
恋愛とデートDV
5. 教科書のトピック
・「ちょうどいいキョリ感」を一緒に探る
自立という名の孤立、ストーキング、そしてパートナーシップ
6. 教科書のトピック
・「問題は“彼”ではない」
男性の性暴力被害とジェンダー規範
・「男子集団の社会病理を把握する」
暴力、失語、ホモソーシャル
7. 教科書のトピック
・「自分らしく生きていく」
LGBTQ大学生
8. 教科書のトピック
・「大切な仲間」と「あなたの居場所」
カモフラージュ
・「発達障害の大学生が教えてくれること」
9. 神経発達症の更なる理解と支援
・「感覚統合療法」
10. 教科書のトピック
・「とまらない気持ち」をみつめよう
インターネット・ゲーム依存
11. 教科書のトピック
・「あなたはひとりじゃない」から「あなたはひとりでいい」への転換
SNS・関係性依存
12. 物質依存
・お酒、たばこについて
13. 物質依存
・違法薬物(覚醒剤、大麻、シンナーなど)
14. 教科書のトピック
「楽になりたい、でも立ち止まりたい」
処方薬・市販薬依存
15. 教科書のトピック
・「心と体をいたわろう」
リストカット、オーバードーズ、セルフネグレクト

特記事項: 「教科書トピック」と書いてある講義回では、トピックとして挙げた教科書の内容を話し合いをします。
それぞれのトピックについての基礎知識を押さえ、自身の臨床経験を話す中で理解を深めて欲しいです。
第9回と第12回、13回の講義では、講義で取り上げたトピックの理解を深めるための講義を展開します。

授業方法: すべての授業を対面授業で行います
1. 講義およびディスカッション
2. 講義およびディスカッション
3. 講義およびディスカッション
4. 講義およびディスカッション
5. 講義およびディスカッション
6. 講義およびディスカッション
7. 講義およびディスカッション
8. 講義およびディスカッション
9. 講義およびディスカッション
10. 講義およびディスカッション
11. 講義およびディスカッション
12. 講義およびディスカッション
13. 講義およびディスカッション
14. 講義およびディスカッション
15. 講義およびディスカッション

予習・復習・宿題など(内容・時間):

各講義で取り上げるトピックを事前に読み、分からない用語は調べておく(各90分)
第9回、12回、13回に関しては、事前に配布する資料に目を通し、分からない用語は調べておく(各90分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	70	**%**	**確認テスト:**	–	**%**	**レポート:**	30 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: 【最低限の到達度(60～69点)】
・授業へのとりくみ
毎回のテーマに意欲的に取り組んでいる
・最終レポート
各回の授業で学んだことに対して、発達臨床心理学Ⅰについて学習内容をある程度理解している。

【望ましい到達度(80～100点)】
・授業へのとりくみ
上記に加え、毎回の授業の振り返りがしっかり出来ている
・授業に対する明確な目的や心構えができており、主体的に学ぼうとする姿勢がみられる。
・最終レポート
上記に加え、思春期の若者が抱える問題を理解し、その支援について自分なりの意見を述べることが出来る。

課題へのフィードバック:

各講義への意見、質問をコミュニケーションペーパーに記入してもらう。次回講義の冒頭20分間で、それらの意見、質問についてコメントを行う。

教科書: 臨床心理学 第23巻 第3号(通巻135号)
金剛出版

参考書: 適宜、授業内に紹介する

授業・準備学習のアドバイス:

講義の前に講義で取り上げる教科書のトピックスを熟読しておいて下さい。
その上で講義を聞き、理解を深めていって欲しいと思います。

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 臨床心理学実習

クラス:

授業コード: DC30300001

担当者: 西　恭平、森　歩夢　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有:
〔西〕:臨床心理士、公認心理師(スクールカウンセラー、診療所やクリニックでの臨床心理活動、療育園での発達相談員)

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: −　　**一般的包括的科目:** −

授業の目的: 臨床心理学への理解を深めるために、心理アセスメントや心理療法の基本的技法を中心に体験的に学習することを目的とする。

到達目標: 1. 心理アセスメント(投映法、質問紙法)、カウンセリングの基本技法、芸術療法や箱庭療法を体験的に学習し、理解を深める。
2. 実習を通して各自が得た気づきを小グループにおいて言語化する、あるいはレポートを作成することにより、自己理解を促進する。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション授業のテーマや到達目標及び授業の方法等についての説明を行う
2. 心理アセスメントの実際(1)NEO-FFIの実施と解釈法①
3. 心理アセスメントの実際(2)NEO-FFIの実施と解釈法②
4. 心理アセスメントの実際(3)POMSの実施と解釈法
5. 心理療法の実際(1)DAMの実施と解釈法心理療法の実際
6. 心理療法の実際(2)風景構成法の実施と解釈法①
7. 心理療法の実際(3)風景構成法の実施と解釈法②
8. 心理アセスメントの実際(4)風景構成法の実施と解釈法③
9. 心理療法の実際(4)描画法の体験と解釈
10. 心理アセスメントの実際(5)TK式診断的新親子関係検査の実施と解釈法
11. 心理アセスメントの実際(6)ウェクスラー式知能検査の体験①
12. 心理アセスメントの実際(7)ウェクスラー式知能検査の体験②
13. 心理アセスメントの実際(8)ウェクスラー式知能検査の解釈
14. 心理療法の実際(5)箱庭療法①
15. 心理療法の実際(6)箱庭療法②

特記事項: 個人表現に関する記録法や利用法について実践的に学習するので、個人情報の取り扱いには倫理的配慮をもって行うようにしてください。
毎回の授業で、課題やレポートが課されます。必ずとりくみ、提出が必要な物は、期限を守って提出するようにしてください。

授業方法: Aグループ、Bグループに分けて体験型授業を行う。

1. 講義形式(対面)
2. 体験学習(対面)
3. 体験学習(対面)
4. 体験学習(対面)
5. 体験学習(対面)
6. 体験学習(対面)
7. 体験学習(対面)
8. 体験学習(対面)
9. 体験学習(対面)
10. 体験学習(対面)
11. 体験学習(対面)
12. 体験学習(対面)
13. 体験学習(対面)
14. 体験学習(対面)
15. 体験学習(対面)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 配布プリントを見直し、自分の関心や疑問点について整理しておく(180分)
2. NEO-FFIの実施法や結果の利用法について整理し、理解する(180分)

3. NEO-FFIの実施法や結果の利用法について整理し、理解する(180分)
4. POMSの実施法や結果の利用法について整理し、理解する(180分)
5. DAMの実施法や結果の利用法について整理し、理解する(180分)
6. 風景構成法の実施法や結果の利用法について整理し、理解する(180分)
7. 風景構成法の実施法や結果の利用法について整理し、理解する(180分)
8. 風景構成法の実施法や結果の利用法について整理し、理解する(180分)
9. 描画法の実施法や結果の利用法について整理し、理解する(180分)
10. TK式診断的新親子関係検査の実施法や結果の利用法について整理し、理解する(180分)
11. ウエクスラー式知能検査の実施法や結果の利用法について整理し、理解する(180分)
12. ウエクスラー式知能検査の実施法や結果の利用法について整理し、理解する(180分)
13. ウエクスラー式知能検査の実施法や結果の利用法について整理し、理解する(180分)
14. 箱庭療法の実施法や結果の利用法について整理し、理解する(180分)
15. 箱庭療法の実施法や結果の利用法について整理し、理解する(180分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	40	**%**	**確認テスト:**	−	**%**	**レポート:**	60 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準:

【授業へのとりくみ】
説明をしっかり聞き、課題を遂行することができる・グループでの話し合いで、発言することができる(60～69)。
これに加えて、主体的に学ぼうとする姿勢がみられる・グループでの話し合いで、その内容をまとめて発言することができる(80～100)。
※「授業への取り組み」40%の内訳は、課題への積極的な取組み20%、発表20%とする。レポートは講義内レポートとする。

【レポート】|授業内容をふまえて解釈することができる(60～69)。これに加えて、熟慮された考察がなされ、自己理解の促進が得られている(80～100)。

課題へのフィードバック:

・レポートについては、講評を加えて返却する。
・質問については、授業時に全体に向けて回答し、説明する。必要に応じて個別に説明する。

教科書: なし

参考書: 関連書および資料については適宜紹介し、必要に応じて配布する。

授業・準備学習のアドバイス:

実習中心の授業であり、遅刻は厳禁です。心理アセスメントや心理療法を実際に体験しながら、実践的な学びを深めていきましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: カウンセリング

クラス:

授業コード: DC30400001

担当者: 古川 心 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:公認心理師・臨床心理士(大学院附属相談室の心理士、スクールカウンセラー、発達相談員)

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 本授業では、カウンセリングの基本構造やカウンセラーの態度を理解したうえで、実際のカウンセリング過程を想定しながら、主訴の把握、見立ての形成、支援方針の検討といった一連の流れを体験的に学ぶことを目的とする。
講義に加え、ロールプレイ、事例検討、逐語録の作成、グループディスカッションなどの演習を通して、人の話を「聴く」「理解する」「関わる」ことの意味を具体的に学ぶ。また、子どもや親子への心理療法として、プレイセラピーやPCIT(親子相互交流療法)を取り上げ、発達や親子関係の視点を含めたカウンセリングの実際について理解を深める。
これらを通して、対人援助や人間関係の理解、コミュニケーションの在り方を考えるための学びの場となることを目指す。

到達目標:
1. カウンセリングの基本構造や進行過程を理解し、説明できる。
2. カウンセラーに求められる基本的態度の重要性を理解し、説明できる。
3. カウンセリング場面において、主訴の把握や見立て、支援方針を検討する際の基本的な考え方を理解し、説明できる。
4. 子どもや親子への心理療の特徴と意義について理解し、説明できる。
5. 演習や振り返りを通して、対人関係やコミュニケーションにおける自身の関わり方について考察できる。

※本科目では、専門的な技法の習得や臨床的判断を求めるものではなく、カウンセリングを理解するための基礎的・体験的学習を重視する。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
本授業の目的と進め方カウンセリングとは何か専門職としての姿勢と守秘義務演習に臨む心構え

2. カウンセリングの基本構造
カウンセリングの枠組みインテーク〜終結までの流れ面接場面の構造理解

3. カウンセラーの基本的態度
受容(傾聴・共感)とは分析とはカウンセラーとクライエントの関係

4.カウンセリングの実際(1)(主訴をつかむ①)
主訴とはクライエントの言葉をどう聴くか

5. カウンセリングの実際(2)(主訴をつかむ②)
主訴の変化・隠れたニーズ

6. カウンセリングの実際(3)(見立てを立てる①)
見立てとは何か情報の整理と仮説発達・家族・関係性の視点

7. カウンセリングの実際(4)(見立てを立てる②)
見立ての具体例子ども・親子ケースを用いた解説

8. カウンセリングの実際(5)(方針を立てる・効果を検証する)
支援方針の考え方方針と関わりの整合性経過の見方・効果の捉え方

9. 子どもへの心理療法
子ども理解の視点プレイセラピーの基本子ども支援における関係性

10. 親子への心理療法
親子関係支援の考え方PCIT(親子相互交流療法)の基本構造親への支援と子どもへの支援の両立

11. カウンセリングの体験(1):イヌバラ法ロールプレイ①(傾聴と共感)
イヌバラ法の枠組み傾聴・共感の実践ロールプレイ演習

12. カウンセリングの体験(2):イヌバラ法ロールプレイ②(傾聴と共感)
前回の振り返り応答の質を高めるフィードバックを通した学び

13. ロールプレイング体験をまとめる 逐語録の作成および体験を通しての考察を加えたレポートの作成自己の関わりを振り返る

14. カウンセリングの理論と技法:体験を言語化するこれまでの講義および演習、ロールプレイングを通して、自身が理解したことについて、グループディスカッションを行う各グループでの体験を全体でシェアする(発表を行う)

15. まとめと最終レポートさまざまな臨床現場における事例を通して、カウンセリングの理論や技法について総括する最終レポートの提出を行う

特記事項: 個人表現に関する記録法や利用法について実践的に学習するので、個人情報の取り扱いは倫理的配慮をもって行うこと。なお、授業の内容は、受講者の理解や興味・関心に合わせて、変更することがある。

授業方法: 本授業は、講義と演習を組み合わせて進める。対面授業では、カウンセリングの基本構造や理論的背景について解説するとともに、ロールプレイ、事例検討、逐語録の作成、グループディスカッションなどの演習を通して、カウンセリングにおける関わり方や考え方を体験的に学ぶ。
ロールプレイでは、カウンセラー役・クライエント役の双方を経験し、傾聴や共感、応答の仕方について振り返る機会を設ける。また、逐語録の作成やディスカッションを通して、自身の関わりを言語化し、他者の視点を取り入れながら理解を深める。
オンライン(オンデマンド)授業では、カウンセリングの概念理解や理論的整理、事例の提示、振り返り課題などを中心に扱い、学生が自分のペースで学修できるようにする。対面授業とオンライン授業を組み合わせることで、理解と体験を往復しながら学修を進める。
なお、演習においては、相手を尊重し、安心して参加できる学修環境づくりを重視する。

1. 講義(対面)
2. 講義(対面)
3. 講義、演習(対面)
4. 講義、演習(対面)
5. オンライン授業(オンデマンド)
6. 講義(対面)
7. オンライン授業(オンデマンド)
8. 講義(対面)
9. オンライン授業(オンデマンド)
10. 講義、演習(対面)
11. 講義、演習(対面)
12. 講義、演習(対面)
13. オンライン授業(オンデマンド)
14. 講義、グループディスカッション(対面)
15. オンライン授業(オンデマンド)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. カウンセリングとは何かについて自分なりにまとめる(180分)
2. カウンセリングの構造や、カウンセラーに求められる役割について整理する(180分)
3. 受容的態度についてまとめ、演習やディスカッションを振り返って、相手の話を聴く際の自分の態度や気づきをまとめる(180分)
4.「主訴」とは何かについて整理し、演習を通して自分がどのように主訴を捉えたかを整理する(180分)
5. ワークを通して主訴の捉え方や難しさについて整理する(180分)
6.「見立て」とは何かについて整理し、得られた情報からどのように仮説を立てたかをまとめる(180分)
7. ワークを通して見立ての立て方や難しさについて整理する(180分)
8. 支援方針とは何かについて整理し、実際の関りとの整合性についてまとめる(180分)
9. プレイセラピーにおける子ども理解の視点や、言語以外の表現の意味について理解を深める(180分)
10. 臨床現場における親への支援と子どもへの支援の両立について理解を深める(180分)
11. ロールプレイを振り返り、傾聴や共感がどのように伝わったかを整理する(180分)
12. フィードバックを通して、自身の応答の変化や成長点をまとめる(180分)
13. ロールプレイングの逐語録の作成と、作成した逐語録をもとに、自身の関わり方や応答の特徴を振り返る(180分)
14. グループディスカッションに向けて準備をする(180分)
15. カウンセリングの学びを統合し、最終レポートに取り組む(180分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	40 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	30 **%**
その他1:	演習課題・小課題		30 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準:
【最低限の到達度(60～69点)】
・授業のルールを守り、対面・オンライン授業に誠実に参加している。
・演習や課題に取り組み、カウンセリングの基本構造や用語について概ね理解している。
・最終レポートにおいて、授業で扱った内容を簡潔にまとめることができる。

【標準的な到達度(70～79点)】
・授業や演習に主体的に参加し、ロールプレイやディスカッションに取り組んでいる。
・主訴の把握、見立て、支援方針といったカウンセリング過程の基本について理解し、課題に反映できている。
・最終レポートにおいて、授業内容を整理し、自身の学びや気づきを記述できている。

【望ましい到達度(80～100点)】
・授業や演習に積極的に参加し、ロールプレイやディスカッションを通して学びを深めている。
・演習課題や逐語録作成において、カウンセリング過程を踏まえた振り返りや考察ができている。
・最終レポートにおいて、授業内容を統合し、自身の関わり方や今後の課題について具体的に考察できている。

課題へのフィードバック:

授業内の発表については、授業で講評する。レポートについては、次回の授業時に記載内容(意見・質問)に関して回答する。
必要に応じて個別での対応も行う。

教科書: なし

関連書および資料については適宜紹介し、必要に応じて配布する

参考書: 適宜、授業内で紹介する

授業・準備学習のアドバイス:

本授業は、カウンセリングの基本構造や考え方を理解するとともに、演習やロールプレイを通して、実際のカウンセリング過程を体験的に学ぶことを目的としている。そのため、授業では受け身で聴講するだけでなく、自身の考えや感じたことを振り返りながら参加する姿勢が重要である。
授業に先立っては、配布資料や指定された教材に目を通し、各回で扱うテーマや概念の概要を把握しておくことが望ましい。特に、カウンセリングの流れや基本用語について事前に確認しておくことで、演習の理解が深まる。
対面授業では、ロールプレイやディスカッションに積極的に参加し、カウンセラー役・クライエント役の双方の立場を体験することが学びにつながる。オンライン（オンデマンド）授業では、動画や資料を活用し、自分のペースで内容を整理しながら学修を進めてほしい。
授業後は、演習や課題を通して得た気づきや疑問点を整理し、自身の関わり方や考え方を振り返ることが大切である。特に、逐語録の作成やグループディスカッションを通して、他者の視点を取り入れながら自己理解を深めることが、カウンセリングを学ぶ上での重要なプロセスとなる。
なお、演習においては、他者を尊重し、安心して学べる雰囲気を大切にしながら、誠実な態度で学習に取り組むこと。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 精神疾患とその治療

クラス:

授業コード: DC30500001

担当者: 椎野 智子 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:臨床心理士・公認心理師として複数の大学病院精神科や児童精神科、精神科クリニックにて臨床心理査定及び臨床心理面接を行う。

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 精神医学の歴史的・社会的背景、主要な疾患やその治療や援助についての基本知識を身につける。エビデンスベイストや生物・心理・社会モデルの考えを身につけることで、精神疾患・障害について、偏見のない視点を獲得する。また、公認心理師の資格取得を目指す学生は、医療領域における心理師の役割を理解する。

到達目標: ①代表的な精神疾患の成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援について説明できる。
②向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化について概説できる。
③医療機関への紹介や連携について説明できる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション:精神疾患とは
2. 脳及び神経の生理・解剖
3. 神経発達症
4. 統合失調症
5. 双極症・抑うつ症
6. 不安症・強迫症
7. 心的外傷及びストレス因関連症
8. 解離症・身体症状症
9. 食行動症及び摂食症
10. 睡眠・覚醒障害
11. 物質関連症及び嗜癖症
12. 認知症
13. パーソナリティ症
14. 薬物療法とその基礎
15. まとめ及び確認テスト:精神科領域における心理師の役割

特記事項: なし

授業方法: 講義形式を中心に、精神疾患とその治療についての理解を深める。

1. 講義(対面)
2. 講義(対面)
3. 講義(対面)
4. 講義(対面)
5. 講義(対面)
6. 講義(対面)
7. 講義(対面)
8. 講義(対面)
9. 講義(対面)
10. 講義(対面)
11. 講義(対面)
12. 講義(対面)
13. 講義(対面)
14. 講義(対面)
15. 講義(対面)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

講義の際に配布するプリントをもとに疑問点を整理し、理解を深める。

1. 精神疾患の定義について整理し、理解を深める(180分)
2. 脳及び神経の生理・解剖について整理し、理解を深める(180分)
3. 神経発達症について整理し、理解を深める(180分)
4. 統合失調症について整理し、理解を深める(180分)
5. 双極症・抑うつ症について整理し、理解を深める(180分)
6. 不安症・強迫症について整理し、理解を深める(180分)
7. 心的外傷及びストレス因関連症について整理し、理解を深める (180分)
8. 解離症・身体症状症について整理し、理解を深める(180分)
9. 食行動症及び摂食症について整理し、理解を深める(180分)
10. 睡眠・覚醒障害について整理し、理解を深める(180分)
11. 物質関連症及び嗜癖症について整理し、理解を深める(180分)
12. 認知症について整理し、理解を深める(180分)
13. パーソナリティ症について整理し、理解を深める(180分)
14. 薬物療法とその基礎について整理し、理解を深める(180分)
15. 精神科領域における心理師の役割について整理し、理解を深める(180分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	20 **%**	**確認テスト:**	60 **%**	**レポート:**	20 **%**
その他1:			**%**		
その他2:			**%**		

評価基準:

(最低限の到達度)(60～69点)
・授業全15回のうち、2/3以上を出席している。
・授業後に到達課題を提出している。
・配布資料に載っている知識を扱った問題に解答できる。
・自分の意見を述べながらレポートを書くことができる。

(望ましい到達度)(80～100点)
・到達課題の記述が適切である。
・配布資料に載っている知識を応用した問題に解答できる。
・根拠を明確にして自説を述べながらレポートを書くことができる。

課題へのフィードバック:

授業の最後に復習として到達課題を実施する。課題は次週の授業冒頭でフィードバックし、解説する。

教科書: 内山登紀夫, 公認心理師ベーシック講座 精神疾患とその治療, 講談社, 2022

参考書: American Psychiatric Association(原著) 日本精神神経学会(日本語版用語監修) DSM-5-TR 精神疾患の診断・統計マニュアル, 医学書院, 2023

その他、講義内容に応じて講義中に紹介する。

授業・準備学習のアドバイス:

具体的な事例を紹介しながら授業を進めていきます。積極的な授業参加を望みます。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 心理的アセスメント

クラス:

授業コード: DC30600001

担当者: 山本　千恵　　**単位数:** 1

科目に関連した実務経験: 実務経験有：心療内科クリニックの心理カウンセラー

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: 実際に心理検査を体験するだけでなく、心理検査を取り扱う際の注意点や基本的な心構えを習得する。更には目的、倫理をきちんと踏まえた上での心理アセスメントが行えるようになる。

到達目標: 心理検査を行う意義や主要な心理検査に関する知識を学ぶとともに、被験者（心理テストを受ける側）に対する誠実さを身につけること。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション＆心理アセスメントの方法（観察、面接及び心理検査）
2. 発達検査・知能検査の紹介（講義・目的や倫理など）
3. 性格検査・様々な病理の検査の紹介（講義・目的や倫理など）
4. 心理テストの体験（新版TEGⅡ）
5. 新版K式発達検査の体験1（「認知・適応」項目）
6. 新版K式発達検査の体験2（「認知・適応」と「言語・社会」項目）
7. 新版K式発達検査の体験3（「言語・社会」項目）
   新版K式発達検査の結果解釈1（プロフィールの書き方）
8. 新版K式発達検査の結果解釈2（発達年齢・発達指数の求め方）
9. 心理テストの体験（京大NX）
10. バウムテストの実施＆風景構成法の実施
11. バウムテストの解釈1（所見の書き方を講義）
12. バウムテストの解釈2（自分のバウムで所見書き）
13. 心理テストの体験と所見を書く体験（CMI健康調査票）
14. 心理テストの所見を書く体験（YG性格検査）
15. まとめ（心理アセスメントを行う目的、倫理の再確認）と確認テストの解説

特記事項: なし

授業方法: すべての授業を対面授業で行います
1～3. 講義
4～14. 実習と講義
15. 講義とテスト解説

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 教科書第1章・第2章を読んでおく（180分）
2. 教科書第4章・第5章を読んでおく（180分）
3. 教科書第第6章を読んでおく（180分）
4. 教科書第7章を読んでおく（180分）
5. 教科書第8章を読んでおく（180分）
6. 教科書第9章を読んでおく（180分）
7. 教科書第10章を読んでおく（180分）
8. レポート作成（K式発達検査にて、検査者・被験者体験より気付いたこと）（180分）
9. 授業内で配布する、K式発達検査と京大NXの資料プリントを読んでおく（180分）
10. 教科書第11章を読んでおく（180分）
11. 授業内で配布するバウムテストの解釈の資料プリントを読んでおく（180分）
12. レポート作成（バウムテストの所見書き（添削前））（180分）
13. レポート作成（バウムテストの所見書き（添削後））（180分）
14. レポート作成（バウムテストの所見書き（添削後））（180分）
15. 教科書第3章を読んでおく（180分）

評価方法：	授業へのとりくみ：	30 %	確認テスト：	50 %	レポート：	20 %
	その他1：			%		
	その他2：			%		

評価基準：
＜優：80～100点＞
心理テストの種類や特徴について、基本的な知識が習得出来ている。
かつ、講義の中で取り上げたテストの実施方法や結果のまとめ方についても、習得出来ている。
＜良：70～79点＞
心理テストの種類や特徴について、基本的な知識が習得出来ている。
また、講義の中で取り上げたテストの実施方法や結果のまとめ方について、おおむね習得出来ている。
＜可：60～69点＞
心理テストの種類や特徴について、基本的な知識がおおむね習得出来ている。
また、講義の中で取り上げたテストの実施方法や結果のまとめ方について、おおむね理解出来ている。

課題へのフィードバック：
提出して貰った、所見（心理テストの結果をまとめたもの）は、後日コメントを添えて個々に返却する。

教科書： 「臨床心理アセスメント新訂版」松原達哉 編 丸善出版

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：
提出して貰った、所見（心理テストの結果をまとめたもの）は、後日コメントを添えて個々に返却する。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 青年心理学

クラス:

授業コード: DC30700001

担当者: 山本 千恵 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:心療内科クリニックでの心理カウンセラー、兵庫県公立中学校スクールカウンセラー

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 青年期は子どもから大人へと成長する過程にあり、将来に向けて自らの生き方を模索する時期であると共に、心身共に不安定になりやすい時期でもある。この授業では、青年期の特徴や、心理的問題のメカニズムを検討し、理解を深めることを目的とする。

到達目標: 青年心理学の基本的な知識の習得と、青年期の心理的な問題に対する支援の方法を理解することを目標とする。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション 青年期の身体的発達
2. 青年期の認知的発達(エリクソンの漸成発達理論)
3. アイデンティティ・ステイタスとは
4. 青年期の認知的発達(ピアジェの理論)
5. 親子関係(自立の定義、新旧の比較)
6. 親子関係(自立を促す親子間コミュニケーションとは)
7. 友人関係(発達の観点から見た、友人関係の変遷)
8. 友人関係(友人関係の形成と孤独感の変化)
9. 恋愛(発達の観点から見た、恋愛の変遷)
10. 青年期の心理的問題(ストレス・心身症)
11. 青年期の心理的問題(摂食障害)
12. 青年期の心理的問題(ひきこもり)
13. アイデンティティの観点から読み解く、映画鑑賞
14. 続・アイデンティティの観点から読み解く、映画鑑賞
15. まとめと確認テストの解説

特記事項: なし

授業方法: すべての授業を対面授業で行います
1〜12 講義
13〜14 DVD視聴と講義
15 講義とテスト解説

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1〜2.「エピソードでつかむ青年心理学」序章(6時間)
3〜4.「エピソードでつかむ青年心理学」1章(6時間)
5〜6.「エピソードでつかむ青年心理学」3章(6時間)
7〜8.「エピソードでつかむ青年心理学」4章(6時間)
9.「エピソードでつかむ青年心理学」4章(3時間)
10〜11.「エピソードでつかむ青年心理学」5章(6時間)
12.「エピソードでつかむ青年心理学」6章(3時間)
13. なし
14. 主人公のアイデンティティステイタスを中心に、前半の内容をまとめておく(3時間)
15. これまでの講義内容を振り返る(6時間)

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 %	**確認テスト:**	70 %	**レポート:**	− %
その他1:			%		
その他2:			%		

評価基準: 〈80～100点〉
青年期の特徴や心理的危機について理解し、解決へ向けての対策を自発的に講じることが出来る。
〈70～79点〉
青年期の特徴や心理的危機について理解し、解決に向けての対策も理解している。
〈60～69点〉
青年期の特徴や心理的危機、更には解決に向けての対策について、おおむね理解している。

課題へのフィードバック:
授業内で行うワークに関しては、その授業内で解説し、結果を踏まえた振り返りの時間も設ける

教科書: 「エピソードでつかむ青年心理学」 大野久（編著） ミネルヴァ書房

参考書: 「さまよえる青年期の心」谷冬彦・宮下一博（編著） 北大路書房「子どもの心の病を知る」岡田尊司 PHP新書

授業・準備学習のアドバイス:
成績評価には、期末に実施するテストの他、出席状況や受講態度も重視する。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 福祉心理学

クラス:

授業コード: DC30800001

担当者: 藤田 裕一 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:障害者福祉施設(＝小規模作業所、現在の就労継続支援B型)の相談員や、公共職業安定所(＝ハローワーク)の精神障害者雇用トータルサポーターとして勤務し、専門職として障害者の就労、生活支援に携わる(資格:精神保健福祉士、臨床心理士、福祉住環境コーディネーター2級)。

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: - **一般的包括的科目:** -

授業の目的: 虐待、認知症、障害、ひきこもり、貧困など、福祉領域における心理社会的課題が深刻化している昨今、心理援助の専門職は、福祉領域における対人援助職と連携・協働して、これらの諸課題に介入していく必要がある。そのためには福祉分野の法制度や用語、福祉分野の心理支援のあり方を理解しておくことが必須である。そのため、本授業では、児童家庭福祉、高齢者福祉、障害者福祉などの社会福祉分野における諸問題に加え、各分野における法制度や支援施設とともに、福祉分野において必要な心理支援を学ぶ。

到達目標:
1. 福祉現場において生じる問題およびその背景について説明できる
2. 福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援方法を説明できる
3. 多職種連携による支援の重要性について説明できる

各回の授業計画:

第1回 テーマ「福祉心理学とは」
内容:オリエンテーションでは授業の全体的な内容と成績評価方法などについて説明、続く授業では、福祉心理学を学ぶ上で心掛けておくべきことについて説明

第2回 テーマ「現代社会における福祉をめぐる現状と課題」
内容:現代社会の現状と課題、共生社会の実現に向けて

第3回 テーマ「親子のアタッチメント(愛着)関係と支援」
内容:アタッチメントの形成、アタッチメントの障害、子育て支援の施策

第4回 テーマ「児童虐待の理解と支援」
内容:児童虐待の現状、発達上の影響、虐待防止対策と被虐待児への支援

第5回 テーマ「社会的養護の課題と支援」
内容:社会的養護の制度と実施体系、社会的養護の実際、社会的養護と心理職

第6回 テーマ「夫婦間・カップル間暴力への支援」
内容:ドメスティック・バイオレンス(DV)、夫婦再統合のための観点

第7回 テーマ「貧困家庭への支援」
内容:貧困の定義と現状、貧困家庭への具体的な支援策、支援の課題

第8回 テーマ「自殺の背景の理解と支援」
内容:自殺の実態と対策、自殺のメカニズムと心理学的理論、自殺対策における支援

第9回 テーマ「障害と疾病の理解と支援」
内容:ノーマライゼーション、共生社会の構築、障害の分類、障害者支援

第10回 テーマ「高齢者の心身機能の特徴」
内容:老年期の心理的適応、心理的特徴、心理的アプローチ、多職種連携

第11回 テーマ「認知症の理解と支援」
内容:認知症の定義と原因疾患、認知症の症状とアセスメント、認知症の人の理解と支援

第12回 テーマ「介護と高齢者虐待」
内容:介護する家族の心理と対応、介護保険制度と介護サービス、高齢者虐待の現状と対応

第13回 テーマ「災害と福祉」
内容:災害と福祉心理学、心のケアとウェルビーイング、災害における福祉心理学的援助

第14回 テーマ「多職種連携による支援」
内容:福祉心理相談・支援の連携による支援

第15回 テーマ「まとめ:福祉心理学の視点」
内容:心理学の視点と社会福祉の視点を活かした福祉心理学の視点

特記事項: 第16回授業で試験を行う。

授業方法: 【すべての授業を対面授業で行う。】
1. 講義
2. 講義
3. 講義

4. 講義
5. 講義
6. 講義
7. 講義
8. 講義
9. 講義
10. 講義
11. 講義
12. 講義
13. 講義
14. 講義
15. 講義

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. 福祉に関するニュースや情報に関心を持つ（予習）、授業後は配布資料等の内容を復習する（180分）
2. 現代社会における福祉をめぐる現状と課題について調べてみる（予習）、授業後は配布資料等の内容を復習する(180分)
3. 親子のアタッチメント（愛着）関係と支援について調べてみる（予習）、授業後は配布資料等の内容を復習する(180分)、
4. 児童虐待と支援について調べてみる（予習）、授業後は配布資料等の内容を復習する（180分）
5. 社会的養護の課題と支援について調べてみる（予習）、授業後は配布資料等の内容を復習する（180分）
6. 夫婦間・カップル間暴力への支援について調べてみる（予習）、授業後は配布資料等の内容を復習する（180分）
7. 貧困家庭への支援について調べてみる（予習）、授業後は配布資料等の内容を復習する（180分）
8. 自殺の背景と支援について調べてみる（予習）、授業後は配布資料等の内容を復習する（180分）
9. 障害、疾病と支援について調べてみる（予習）、授業後は配布資料等の内容を復習する（180分）
10. 高齢者の心身機能の特徴について調べてみる（予習）、授業後は配布資料等の内容を復習する（180分）
11. 認知症と支援について調べてみる（予習）、授業後は配布資料等の内容を復習する（180分）
12. 介護と高齢者虐待について調べてみる（予習）、授業後は配布資料等の内容を復習する（180分）
13. 災害と福祉について調べてみる（予習）、授業後は配布資料等の内容を復習する（180分）
14. 多職種連携による支援について調べてみる（予習）、授業後は配布資料等の内容を復習する（180分）
15. 福祉心理学で学んだことは何かについて総復習し、整理する(180分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	15	**%**	**確認テスト:**	70	**%**	**レポート:**	15 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: 【最低限度の到達度(60～69)】
レポートについては内容が、授業で説明した内容におおむね沿った知識や考え方に基づいてまとめられている。
試験については、授業で説明した内容がおおむね身についている。

【望ましい到達度(80～100)】
レポートについては、授業で説明した内容に沿った知識や考え方に基づいてまとめられ、さらに授業後の自学自習で学んだ内容や、それらに基づいた自分なりの考察が論理的に述べられている。
試験については、授業で説明した内容を深く理解し、説明することができるレベルに到達している。

課題へのフィードバック:

レポートはコメントをつけて返却する。

教科書: 下山晴彦・佐藤隆夫・本郷一夫（監修）、渡辺純夫・本郷一夫（編著）「公認心理師スタンダードテキストシリーズ17 福祉心理学」, ミネルヴァ書房, 2021年

参考書: 必要に応じて適宜紹介する。

授業・準備学習のアドバイス:

毎回、その日のテーマに関するレジュメを配布します。授業はレジュメと教科書を中心に用いて進めます。積極的にメモを取り、授業後に必ず復習、整理をしてください。また、毎回授業後に感想や質問を書いてもらうので積極的に書いて下さい。出た質問については次の回の授業内で回答します。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 障害者・障害児心理学

クラス: ★

授業コード: DC30900001

担当者: 山本 真也 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:兵庫県、奈良県や市町村の障害者支援の業務に従事

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 障害のある子どもや成人の抱える心理社会的課題及び必要となる支援について理解し、その理解の基本となる主要な障害の概要についても理解できるようになることを目的とします。さらにそこから、人間や社会についての理解が深まることを期待します。

到達目標:
1. 主要な障害の概要についての理解ができる。
2. 障害を抱える人や家族の心理社会的課題について理解する。
3. 障害を抱える人や家族への必要な支援について理解する。

各回の授業計画:

1. 授業オリエンテーション、障害者・障害児心理学とは何か (対面授業)
2. 知的障害の概要 (オンライン)
3. 知的障害者を取り巻く心理社会的問題 (オンライン)
4. 知的障害者への必要な支援 (オンライン)
5. 知的障害児・者の心理についての包括的理解 (対面授業)
6. 身体障害の概要 (オンライン)
7. 身体障害者を取り巻く心理社会的問題 (オンライン)
8. 身体障害者への必要な支援 (オンライン)
9. 身体障害児・者の心理についての包括的理解(対面授業)
10. 精神障害の概要と精神障害者を取り巻く心理社会的問題 (オンライン)
11. 精神障害者への必要な支援 (オンライン)
12. 発達障害の概要と発達障害者を取り巻く心理社会的問題 (オンライン)
13. 発達障害児・者への必要な支援(対面授業)
14. 障害と出生前検査・診断/生殖医療 (オンライン)
15. 障害児・者心理学の最新の知見 (対面授業)

特記事項: なし

授業方法: 講義形式とする。テキストに従って講義する。
また、本授業はオンライン (オンデマンド型) と対面型を併用して実施する。
第1回 対面授業
第2回～第4回 オンライン授業
第5回 対面授業
第6回～第8回 オンライン授業
第9回 対面授業
第10回～第12回 オンライン授業
第13回 対面授業
第14回 オンライン授業
第15回 対面授業
オンライン(Teams)が利用できる場合は、事前に資料をアップロードするので、ダウンロード等により資料を確認してください。

予習・復習・宿題など(内容・時間):
全ての回について、テキストの該当部分又は配布資料にあらかじめ目を通して、分かりにくい内容等を自分のノート等にまとめておく(90分)。授業終了後は、配布資料を読み返し、必要に応じて授業で示した参考資料や動画も見直すことで、理解を深める(90分)。

評価方法:

授業へのとりくみ:	45	**%**	**確認テスト:**	−	**%**	**レポート:**	55 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準： 1.授業へのとりくみ（45%）
最低限の到達度（60～69点）：コメントシートへの記入量が十分であること。
望ましい到達度（80～100点）：コメントシートへの記入内容が授業内容に応じており、具体的であること。
2.確認テスト（55%）
最低限の到達度（60～69点）：適切な根拠資料を複数使用して記述されていること。
望ましい到達度（80～100点）：課題について総合的、系統的に記述し、自らの意見を分かりやすく系統的に記述されていること。

課題へのフィードバック：

1.レポート
個別にコメントを付して返却する。
2.コメントシート
次回の授業冒頭に可能な限り回答する。

教科書： なし

参考書： 柘植雅義・野口和人・石倉健二・本田秀夫（編）：障害者・障害児心理学（公認心理師の基礎と実践 第13巻）.遠見書房（2019）

授業・準備学習のアドバイス：

①テキストや事前配布の資料をあらかじめ通読し、意味や読み方の分からない言葉について調べておくこと。内容的に分かりにくい箇所等について自分のノートにまとめておくこと。
②毎回の授業で、出席カードを兼ねたコメントシートを配布するので、質問したいことがあれば記入すること。書かれた質問等については、次の授業の冒頭で可能な範囲で回答する。このシートは「授業へのとりくみ」についての評価に利用する。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 司法・犯罪心理学

クラス:

授業コード: DC31000001

担当者: 濱本 有希 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:静岡県警察本部刑事部科学捜査研究所

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 本科目は、司法・犯罪領域の基本的な知識を理解することを目指し、関連する法律や制度、期間を学ぶとともに、犯罪の発生状況、犯罪原因論、加害者や被害者の心理、加害者の矯正や被害者の支援、犯罪捜査支援、犯罪予防等について、様々な在主や事例に触れながら学ぶことを目的とする。
調査データや実験、統計に基づいた実証的なフィールド研究を多く取り扱い、実践的で科学的な犯罪心理学の考え方を身に着ける。
授業担当者は、司法・犯罪等の研究所(科学捜査研究所)における心理鑑定の研究員としての実戦経験をふまえ、科学捜査研究所での実務経験と研究活動から得られた知見を常にフィードバックしながら講義をすすめる。

到達目標: 1. 司法・犯罪心理学の理論とそれに基づく犯罪抑止の方法等について理解し、心理学的アプローチがどのように犯罪に関して有効であるかを説明できる。
2. 日常生活の中で犯罪を身近な問題として捉え、主体的に考えながら、裁判員裁判や地域防犯等の身近な話題を意欲的に考察できる。
3. 関連する法律や関係機関等を理解し、現状の問題点を把握したうえで、広い視野を持って問題解決に臨む姿勢を身につける。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
なお、講義は、科学捜査研究所での実務経験から、社会問題解決の視点を常に織り込む。
2. 犯罪の定義と犯罪情勢の変遷
なお、講義は、科学捜査研究所での実務経験から、社会問題解決の視点を常に織り込む。
3. 犯罪原因論
なお、講義は、科学捜査研究所での実務経験から、社会問題解決の視点を常に織り込む。
4. 罪種別の犯罪者の心理(1):暴力犯罪・放火犯罪・窃盗犯罪等
なお、講義は、科学捜査研究所での実務経験から、社会問題解決の視点を常に織り込む
5. 罪種別の犯罪者の心理(2):性犯罪・児童虐待・DV・ストーカー等
なお、講義は、科学捜査研究所での実務経験から、社会問題解決の視点を常に織り込む。
6. 司法・犯罪心理学に関する法律と制度
なお、講義は、科学捜査研究所での実務経験から、社会問題解決の視点を常に織り込む。
7. 犯罪捜査のための心理学(1):ポリグラフ検査・プロファイリング
なお、講義は、科学捜査研究所での実務経験から、社会問題解決の視点を常に織り込む。
8. 犯罪捜査のための心理学(2):捜査面接・認知面接・司法面接
なお、講義は、科学捜査研究所での実務経験から、社会問題解決の視点を常に織り込む。
9. 犯罪被害者の心理と支援
なお、講義は、科学捜査研究所での実務経験から、社会問題解決の視点を常に織り込む。
10. 少年非行にかかる心理学
なお、講義は、科学捜査研究所での実務経験から、社会問題解決の視点を常に織り込む。
11. 矯正と更生のための心理学
なお、講義は、科学捜査研究所での実務経験から、社会問題解決の視点を常に織り込む。
12. 犯罪予防のための心理学
なお、講義は、科学捜査研究所での実務経験から、社会問題解決の視点を常に織り込む。
13. 裁判における心理学
なお、講義は、科学捜査研究所での実務経験から、社会問題解決の視点を常に織り込む。
14. 問題点の提起と対策の発案
なお、ワークのファシリテーションには、科学捜査研究所での実務経験から、社会問題解決の視点を常に織り込む。
15. プレゼンテーション
なお、ワークのファシリテーションには、科学捜査研究所での実務経験から、社会問題解決の視点を常に織り込む。

特記事項: なし

授業方法: 1. パワーポイントを使用した講義【対面】
2. パワーポイントを使用した講義【対面】

3. パワーポイントを使用した講義【対面】
4. パワーポイントを使用した講義【対面】
5. パワーポイントを使用した講義【対面】
6. パワーポイントを使用した講義【対面】
7. パワーポイントを使用した講義【対面】
8. パワーポイントを使用した講義【対面】
9. パワーポイントを使用した講義【対面】
10. パワーポイントを使用した講義【対面】
11. パワーポイントを使用した講義【対面】
12. パワーポイントを使用した講義【対面】
13. パワーポイントを使用した講義【対面】
14. パワーポイントを使用した講義・グループワーク【対面】
15. パワーポイントを使用した講義・グループワーク【対面】

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 予習:司法・犯罪心理学で何を学ぶことができるのか、シラバスをよく読んで理解する。(60分)
復習:犯罪・非行の基本的な用語を復習し、この領域の歴史的背景を理解しておく。(60分)
2.予習:最新の犯罪白書を法務省のホームページで閲覧する。(60分)
復習:近年の犯罪情勢の変遷を学び、感じたことをまとめる。(60分)
3. 予習:犯罪の原因についてどのように考えるか、自分の考えをまとめる。(60分)
復習:犯罪原因論を学び、考えたことや感じたことについてレポートを作成する。(60分)
4. 予習:殺人や放火、窃盗がなぜ起こるのか、どのような動機が多いのか考える。(60分)
復習:1週間のニュースの中で、授業で学んだ罪種の事件を見つけ、その事件に関する考察をする(60分)
5. 予習:性犯罪や児童虐待、DV、ストーカーがなぜ起こるのか、どのような動機が多いのか考える。(60分)
復習:1週間のニュースの中で、授業で学んだ罪種の事件を見つけ、その事件に関する考察をする。(60分)
6. 予習:「刑事事件」と「家事事件」の違いについて復習しておく。(60分)
復習:複雑な法律用語や機関の名称を自分なりにまとめ、復習しておく。(60分)
7. 予習:犯罪捜査に活かされる心理学的手法について、これまでに学んだことを復習しておく。(60分)
復習:授業内で提示される仮想事件に対し、心理学的にどのようにアプローチができるかを考える。(60分)
8. 予習:3つの面接がそれぞれどう違うのかを調べる。(60分)
復習:授業内で提示される仮想事件に対し、心理学的にどのようにアプローチができるかを考える。(60分)
9. 予習:「犯罪被害者等基本法」について調べる。(60分)
復習:友人や知人が犯罪被害に遭ってしまった場合、自分がどのようなことができるか、どのような点に気を付けるべきかについてレポートを作成する。(60分)
10. 予習:少年事件と成人事件の違いについて調べる。(60分)
復習:非行少年に対する矯正教育に関する自分なりの考えをまとめる。(60分)
11. 予習:「社会内処遇」とは何か調べる。(60分)
復習:成人受刑者の社会復帰に関する自分なりの考えをまとめる。(60分)
12. 予習:「CPTED」とは何か調べる。(60分)
復習:地域において実際に行われている犯罪予防対策を調べ、報告する。(60分)
13. 予習:「裁判員裁判」について調べる。(60分)
復習:自分が裁判員になったらどうするか、どのような点に気を付けるべきかについて、レポートを作成する。(60分)
14. 予習:これまでの授業を復習し、現状の司法制度にどのような問題点があるのかを考える。(60分)
復習:グループ別にワークの成果をまとめ、プレゼンテーション資料を作成する。(60分)
15. 予習:グループ別にプレゼンテーションの準備をする。(60分)
復習:各グループのプレゼンテーションを振り返り、これまで学んだ知識が日常生活にどう生かせるかを考える。(60分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	30 **%**	**確認テスト:**	50 **%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	グループワーク		20 **%**		
その他2:			**%**		

評価基準: 【最低限の到達度(60～69点)】
・授業へのとりくみ
大事な事項について適切にメモを取っている。
・グループワークへの参加
犯罪心理学の全体像を概ね理解し，犯罪現象の理解やその対応についての心理学的応用についてのプレゼンテーションをすることができる。

【標準的な到達度(70～79点)】
・授業へのとりくみ
大事な事項について適切にメモを取っている。授業中適宜質問をしてくる。
・グループワークへの参加
犯罪心理学の全体像を理解し，犯罪現象の理解やその対応についての心理学的応用についてのプレゼンテーションを十分することができる。

【望ましい到達度(80～100点)】
・授業へのとりくみ
大事な事項について適切にメモを取っている。授業中適宜質問をしてくるし，講師の質問にも的確に答えられる。

・グループワークへの参加
犯罪心理学の全体像を十分理解し，犯罪現象の理解やその対応についての心理学的応用についてグループでの考えを含めたプレゼンテーションを十分することができる。

課題へのフィードバック:

グループワークについては、総評を授業内でフィードバックする。

教科書: なし

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

授業についての疑問や要望等については，授業中口頭でもでも良いですし，適宜オンラインのプラットフォームを利用して意見を求めるようにしますので、主体的にコメントをしてください。
次回の授業中にお応えします。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 関係行政論

クラス:

授業コード: DC31100001

担当者: 西　恭平　　**単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:臨床心理士、公認心理師(スクールカウンセラー、診療所での臨床心理活動、療育園での発達相談員)

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: −　　**一般的包括的科目:** −

授業の目的: 公認心理師としての業務を行うに当たり、行政関連の適切な知識及び技能を身につけられるようにする。

到達目標: 公認心理師としての活動は、横断的に他の分野と連携する機会が含まれるため、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働等の5分野に係る関係法規や制度等について一定程度の知識が把握・理解される必要がある。5分野について、法制度や規定、社会の変化に対応した政策動向、行政機関の役割、支援を要する当事者の人権を尊重した心理専門職の関わりとその規定について、最新動向を踏まえ、正しく理解できるようにする。

各回の授業計画:

1. 法・制度の基本と公認心理師
2. 公認心理師の法的立場と多職種連携
3. 公認心理師の各分野への展開
4. 保健医療分野に関係する法律・制度(1)医療全般
5. 保健医療分野に関係する法律・制度(2)精神科医療
6. 保健医療分野に関係する法律・制度(3)地域保健・医療
7. 福祉分野に関係する法律・制度(1)児童福祉
8. 福祉分野に関係する法律・制度(2)障害者・障害児福祉
9. 福祉分野に関係する法律・制度(3)高齢者福祉
10. 教育分野に関係する法律・制度
11.司法・犯罪分野に関係する法律・制度(1)刑事
12. 司法・犯罪分野に関係する法律・制度(2)家事
13. 司法・犯罪分野に関係する法律・制度(3) 少年非行
14. 産業・労働分野に関係する法律・制度
15. 関係機関の連携、確認テスト

特記事項: なし

授業方法: 基本的に対面授業で行う。適宜グループ討議、映像視聴が入る。

1. 講義、課題シート作成ポイント整理
2. 講義、課題シート作成ポイント整理
3. 講義、課題シート作成ポイント整理
4. 講義、課題シート作成ポイント整理
5. 講義、課題シート作成ポイント整理
6. 講義、課題シート作成ポイント整理
7. 講義、課題シート作成ポイント整理
8. 講義、課題シート作成ポイント整理
9. 講義、課題シート作成ポイント整理
10. 講義、課題シート作成ポイント整理
11. 講義、課題シート作成ポイント整理
12. 講義、課題シート作成ポイント整理
13. 講義、課題シート作成ポイント整理
14. 講義、課題シート作成ポイント整理
15. 講義、確認テスト

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 法・制度の基本と公認心理師について 予習・復習180分

2. 公認心理師の法的立場と多職種連携について 予習・復習180分
3. 公認心理師の各分野への展開について 予習・復習180分
4. 保健医療分野に関係する法律・制度(1)医療全般について 予習・復習180分
5. 保健医療分野に関係する法律・制度(2)精神科医療について 予習・復習180分
6. 保健医療分野に関係する法律・制度(3)地域保健・医療について 予習・復習180分
7. 福祉分野に関係する法律・制度(1)児童福祉について 予習・復習180分
8. 福祉分野に関係する法律・制度(2)障害者・障害児福祉について 予習・復習180分
9. 福祉分野に関係する法律・制度(3)高齢者福祉について 予習・復習180分
10. 教育分野に関係する法律・制度について 予習・復習180分
11. 司法・犯罪分野に関係する法律・制度(1)刑事について 予習・復習180分
12. 司法・犯罪分野に関係する法律・制度(2)家事について 予習・復習180分
13. 司法・犯罪分野に関係する法律・制度(3)少年非行について 予習・復習180分
14. 産業・労働分野に関係する法律・制度について 予習・復習 180分
15. 関係機関の連携についての予習・復習、確認テストの準備 180分

評価方法:

授業へのとりくみ:	30	**%**	**確認テスト:**	40	**%**	**レポート:**	– **%**
その他1:	課題シート			30	**%**		
その他2:					**%**		

評価基準:
到達目標について、ある程度理解できている 60～69点
到達目標について、概ね理解できている 70～79点
到達目標について、十分に理解できている 80～100点

課題へのフィードバック:
毎回、授業内容についての課題提出シートを提出を求める。
授業内やTeamsにてフィードバックする。
最終日には、講義とともに確認テストを実施する。

教科書:
野島一彦・繁桝算男監修、元永拓郎編著、 公認心理師の基礎と実践 第23巻「関係行政論[第3版]」
遠見書房 2024年 ISBN:978-4-86616-185-3 本体価格2800円

参考書:
必要に応じ、適宜紹介する。

授業・準備学習のアドバイス:
イメージがしやすいよう、適宜事例を扱いながら丁寧に進めていきます。
また毎時間ごとに、授業内容を整理し、課題シートを提出していただきます。
自身の学びを振り返る機会を増やし、理解を深められるよう一緒に頑張りましょう。
最終日は、講義とともに確認テストをします。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 公認心理師の職責

クラス:

授業コード: DC31200001

担当者: 西　恭平　　**単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:臨床心理士、公認心理師(スクールカウンセラー、診療所やクリニックでの臨床心理活動、療育園での発達相談員)

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: −　　**一般的包括的科目:** −

授業の目的: 国家資格である公認心理師について、その担うべき職責について学び、必要となる基礎的な知識を習得する。

到達目標: 公認心理師の役割や法的義務、倫理について理解し、心理に関する支援を要する者の安全の確保、情報の適切な取扱い、保健医療・福祉・教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務、自己課題発見・解決能力、生涯学習への準備、多職種連携及び地域連携の知識を学ぶ。

各回の授業計画:

1.【ガイダンス等】
講義の全体的な概要や、公認心理師資格について解説する。
＜主なテーマ＞
・授業内容概説, 授業計画, 評価基準, 注意事項
・公認心理師の資格について

2.【公認心理師の役割】
法に基づいて仕事内容の大枠に関する内容を解説する。
＜主なテーマ＞
・公認心理師法について
・公認心理師の業務, 公認心理師の責任

3.【公認心理師の法的義務と倫理】
法に基づく義務と倫理に関する内容を解説する。
＜主なテーマ＞
・公認心理師の法的義務
・公認心理師の倫理

4.【クライエント・患者らの安全の確保のために】
心理支援において, 支援者, 要支援者お互いの安全に関する内容を解説する。
＜主なテーマ＞
・倫理的配慮
・リスクアセスメント
・安全を守る
・リファーする

5.【情報の適切な取り扱い】
心理支援の中で得る情報に関する内容を解説する。
＜主なテーマ＞
・用語の整理
・秘密保持義務との関連
・情報の管理

6.【保健医療分野における公認心理師の業務1】
公認心理師の職域の一つとして, 保健医療分野の解説を第6回, 第7回で解説する。
＜主なテーマ＞
・主な職場
・職名や職務内容
・主な役割

7.【保健医療分野における公認心理師の業務2】
公認心理師の職域の一つとして, 保健医療分野の解説を第6回, 第7回で解説する。
＜主なテーマ＞
・具体的な業務

8.【福祉分野における公認心理師の業務1】
公認心理師の職域の一つとして, 福祉分野の解説を第8回, 第9回で解説する。
＜主なテーマ＞
・主な職場
・職名や職務の特徴

9.【福祉分野における公認心理師の業務2】
公認心理師の職域の一つとして，福祉分野の解説を第8回，第9回で解説する。
＜主なテーマ＞
・具体的な業務

10.【教育分野における公認心理師の業務1】
公認心理師の職域の一つとして，教育分野の解説を第10回，第11回で解説する。
＜主なテーマ＞
・主な職場
・職名や職務の特徴

11.【教育分野における公認心理師の業務2】
公認心理師の職域の一つとして，教育分野の解説を第10回，第11回で解説する。
＜主なテーマ＞
・具体的な業務

12.【司法犯罪分野における公認心理師の業務】
公認心理師の職域の一つとして，司法犯罪分野を解説する。
＜主なテーマ＞
・主な職場とその役割
・主な心理教育的課題
・具体的な業務

13.【産業労働分野における公認心理師の業務】
公認心理師の職域の一つとして，産業労働分野を解説する。
＜主なテーマ＞
・主な職場とその役割
・主な現代的課題
・具体的な業務

14.【公認心理師に求められる自己研鑽】
公認心理師として，身に着けていくべき能力について解説する。
＜主なテーマ＞
・自己課題発見・解決能力
・生涯学習

15.【他職種連携および地域連携】
これまでの内容と重ねつつ，公認心理師において特に求められる連携について解説する。
＜主なテーマ＞
・他職種や地域との連携
・連携に大切なこと

特記事項： なし

授業方法：
1. 講義およびディスカッション【対面】
2. 講義およびディスカッション【対面】
3. 講義およびディスカッション【対面】
4. 講義およびディスカッション【対面】
5. 講義およびディスカッション【対面】
6. 講義およびディスカッション【対面】
7. 講義およびディスカッション【対面】
8. 講義およびディスカッション【対面】
9. 講義およびディスカッション【対面】
10. 講義およびディスカッション【対面】
11. 講義およびディスカッション【対面】
12. 講義およびディスカッション【対面】
13. 講義およびディスカッション【対面】
14. 講義およびディスカッション【対面】
15. 講義およびディスカッション【対面】

予習・復習・宿題など（内容・時間）：
1. 配布プリントを復習し、公認心理師について理解を深める（180分）
2. 公認心理師の役割について整理し、理解を深める（180分）
3. 公認心理師の法的義務および倫理について整理し、理解を深める（180分）
4. 心理に関する支援を要するもの等の安全の確保について整理し、理解を深める（180分）
5. 情報の適切な取り扱いについて整理し、理解を深める（180分）
6. 保健医療分野における公認心理師の業務の概観について整理し、理解を深める（180分）
7. 保健医療分野における公認心理師の業務の具体的な内容について整理し、理解を深める（180分）
8. 福祉分野における公認心理師の業務の概観について整理し、理解を深める（180分）
9. 福祉分野における公認心理師の業務の具体的な内容について整理し、理解を深める（180分）
10. 教育分野における公認心理師の業務の概観について整理し、理解を深める（180分）
11. 教育分野における公認心理師の業務の具体的な内容について整理し、理解を深める（180分）
12. 司法犯罪分野における公認心理師の業務の概観および具体的な内容について整理し、理解を深める（180分）
13. 産業労働分野における公認心理師の業務の概観および具体的な内容について整理し、理解を深める（180分）

14. 公認心理師として身に着けるべき自己課題発見・解決能力、生涯学習への準備について整理し、理解を深める（180分）
15. 多職種連携および地域連携について整理し、理解を深める（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	45	**%**	**確認テスト：**	－	**%**	**レポート：**	55 **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準：

【授業への取り組み】
ディスカッションに参加している（60~69点）
ディスカッションに参加し、自分の考えを発表することができる（70~79点）
ディスカッションに参加し、他者の意見も尊重しながら自分の考えを積極的・主体的に発表することができる（80~100点）
【レポート】
公認心理師の職責について概ね理解し、課されたレポートを作成できる（60~69点）
公認心理師の職責について理解し、適切なレポートを作成できる（70~79点）
公認心理師の職責について十分に理解し、自分の考えを交えたレポートを作成できる（80~100点）

課題へのフィードバック：

評価基準の一つであるディスカッションについては，授業時の質問に対して適宜フィードバックを行う。また，レポートについては，課題内容提示の際，丁寧に解説し，質問に対して適宜フィードバックを行う。

教科書：

授業中にプリントを配布する。

参考書：

授業中の配布プリントについては，下記の書籍を参考に作成している。
・下山 晴彦・佐藤 隆夫・本郷 一夫 (監修) (2020). 公認心理師スタンダードテキストシリーズ1 公認心理師の職責 ミネルヴァ書房
・野島 一彦・繁枡 算男 (監修) (2018). 公認心理師の基礎と実践1 公認心理師の職責 遠見書房
その他、授業内で適宜紹介する。

授業・準備学習のアドバイス：

将来、心理職として業務を行うことを意識し、主体的・積極的に取り組む姿勢を求めます。学習内容が職業倫理に直結するため、しっかりと理解を深められるよう一緒に頑張っていきましょう。授業への参加だけでなく、配布資料や関連図書、ディスカッションなどを通じて知識の習得と活用に努めてください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 心理演習

クラス:

授業コード: DC31300001

担当者: 吉田 圭吾 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:スクールカウンセラー、学生相談、心療内科カウンセラー、自死遺族相談

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 心理支援の様々な現場における諸問題に対して、その支援・介入のための基本的な知識及び技能を体験的に学習する。
そして、公認心理師として活躍するための知識及び技能について、基本的な水準の修得を目的とし、次に掲げる事項(ア～オ)を、ロールプレイングや事例検討などを通して取り上げる。
(ア)心理に関する支援を要する者等に関して次の知識及び技能を修得する(①コミュニケーション、②心理検査、③心理面接、④地域支援等)
(イ)心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成ができること
(ウ)心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチができること
(エ) 多職種連携及び地域連携ができること
(オ)公認心理師としての職業倫理及び法的義務が理解できること。

到達目標: 演習を通じて心理支援の実践に触れ、心理支援を要する者を理解し、ニーズを把握することにより、支援計画の作成ができるようになることを目標とする。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 心理支援におけるコミュニケーション①
3. 心理支援におけるコミュニケーション①
4. 心理検査:事例研究
5. 心理検査:ロールプレイ
6. 心理面接:事例研究
7. 心理面接:ロールプレイ①
8. 心理面接:ロールプレイ②
9. 地域支援
10. クライエントのニーズの把握と支援計画の作成①
11. クライエントのニーズの把握と支援計画の作成②
12. チームアプローチ
13. 多職種連携と地域連携
14. 公認心理師としての職業倫理と法的義務の理解
15. まとめ

特記事項: なし

授業方法: すべての授業を対面授業で行う。
1. 講義(授業内容について)
2. 演習(発表、ワーク、実践)
3. 演習(発表、ワーク、実践)
4. 演習(発表、ワーク、実践)
5. 演習(発表、ワーク、実践)
6. 演習(発表、ワーク、実践)
7. 演習(発表、ワーク、実践)
8. 演習(発表、ワーク、実践)
9. 演習(発表、ワーク、実践)
10. 演習(発表、ワーク、実践)
11. 演習(発表、ワーク、実践)
12. 演習(発表、ワーク、実践)
13. 演習(発表、ワーク、実践)
14. 演習(発表、ワーク、実践)

15. 演習（発表、ワーク、実践）

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. 心理支援に関するトピックで興味関心のあるテーマを明確にする（4時間）
2. ロールプレイの種々の技法についてまとめる（4時間）
3. カウンセリングの技法について復習する（4時間）
4. カウンセリングの技法について復習する（4時間）
5. 事例について復習する（4時間）
6. 事例について復習する（4時間）
7. 心理療法についてまとめる。（4時間）
8. 心理面接法についてまとめる（4時間）
9. 地域支援についてまとめる(4時間)
10. クライエントのニーズの把握について復習する（4時間）
11. ケースフォーミュレーションについて復習する（4時間）
12. チームアプロ—とについて復習する（4時間）
13. 多職種連携と地域連携について復習する（4時間）
14. 職業倫理、法的義務についてまとめる（4時間）
15. 公認心理師の目的と役割について理解し、これまでの復習をする（4時間）

評価方法：

授業へのとりくみ：	40 **%**	**確認テスト：**	− **%**	**レポート：**	60 **%**
その他1：			**%**		
その他2：			**%**		

評価基準： ロールプレイなどのワークに積極的に取り組み、ディスカッションに参加する（60～69点）
ロールプレイの意義を理解し、それと心理的支援との関係について論じることができる。（80~100点）

課題へのフィードバック：

課題についてレポートにコメントを付ける。

教科書： 日本公認心理師養成機関連盟編『心理演習』遠見書房

参考書： 随時、動画の提示、及び資料を配布する。

授業・準備学習のアドバイス：

ロールプレイに積極的に参加し、悩みを打ち明ける者、悩みの相談にのる者をリアルに演じれるようになる。そして、色々な悩みにどのように対処するのか、どのように悩みに耳を傾け、理解するか、助言が必要ならどのような助言をするか、リアルに考えられるようになってください。
この授業は心理実習を履修しており、公認心理師の資格取得を希望する者が対象です。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 心理実習

クラス:

授業コード: DC31400001

担当者: 辻川 典文、吉田 圭吾、松本 剛、椎野 智子、古川 心、三井 知代、吉野 俊彦 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 公認心理師として活躍するために必要となる知識及び技能を、実習（80時間以上）を通して修得する。実習場所としては、保健医療、福祉、教育、司法等の分野があげられる。
実習に行く前には事前学習として、各実習施設に関する調べ学習、プレゼンテーション、ディスカッションを行う。そして、実習先では、各施設において見学実習を行う。
実習後は、事後学習として実習日誌の作成、現場での気づきの発表などを行いう。現場におけるチーム支援や多職種との連携・協働について学ぶ。
なお、本科目は、公認心理師法施行規則に定める科目のうち、「25.心理実習」に該当する科目である。心理実習の受講には成績、面接などによる選抜を行う。

到達目標: 実習担当教員が実習生の実習状況について把握し、以下の事項についての習得を目指す。
（ア）心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ
（イ）多職種連携及び地域連携
（ウ）公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解

各回の授業計画:

1. オリエンテーション（辻川）
2. 実習の意義と取り組み方（辻川）
3. 保健・医療分野における心理支援、チームアプローチのあり方（椎野）
4. 保健・医療分野における多職種連携および地域連携、実習施設の解説（椎野）
5. 保健・医療分野での職責と法的義務の理解（椎野）
6. 福祉分野における心理支援、チームアプローチのあり方（古川）
7. 福祉分野における多職種連携および地域連携、実習施設の解説（古川）
8. 福祉分野での職責と法的義務の理解（古川）
9. 司法分野における心理支援、チームアプローチのあり方（吉野）
10. 司法分野における多職種連携および地域連携、実習施設の解説（吉野）
11. 司法分野での職責と法的義務の理解（吉野）
12. 教育分野における心理支援、チームアプローチのあり方（松本）
13. 教育分野における多職種連携および地域連携、実習施設の解説（松本）
14. 教育分野での職責と法的義務の理解（松本）
15. 実習における注意点（辻川）

特記事項: 1～15回：事前指導－職業倫理、法的義務の理解、各施設での心理支援の基礎的理解－
16～20回：実習－各施設での心理支援、チームアプローチ、多職種連携及び地域連携の理解－
16. 保健・医療施設／8時間（三井、椎野）
17. 福祉施設／16時間（吉田、古川）
18. 司法施設／8時間（吉野）
19. 教育施設／8時間（松本）
20. 心理相談室／4時間（椎野）
21～30回：事後指導－実習での学びを深める－

授業方法: 授業は対面で実施します
1. 講義
2. 講義
3～14. 各実習先についての講義とグループワーク
15. 講義
16. 保険医療機関での実習
17. 福祉機関での実習

18. 司法機関での実習
19. 教育機関での実習
20. 心理相談室での実習
21～28. 講義とグループワーク
29～30. 講義と発表

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

事前指導では、各施設の特徴や役割について予習、復習をすること。実習中は、実習日誌の作成、実習での気付きや疑問点について整理しておくこと。また実習後は実習先に対する感想レポートを課す。事後指導では、実習を振り返り、心理専門職としてどのような能力や知識が必要かについて学習すること。

評価方法:	**授業へのとりくみ:**	50 **%**	**確認テスト:**	－ **%**	**レポート:**	－ **%**
	その他1:	実習記録		30 **%**		
	その他2:	実習評価		20 **%**		

評価基準: 各施設の特徴や役割を理解したうえで、見学実習に参加している（60～69点）
上記の内容に加え、公認心理師としての責任感や使命感を養い果たすべき役割が理解できている（80～100点）

課題へのフィードバック:

実習担当教員が各講義や実習時に適宜指導を行う

教科書: 特になし

参考書: 必要な資料については授業ごとに提示する

授業・準備学習のアドバイス:

実習担当教員が各講義や実習時に適宜指導を行う

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 神経・生理心理学

クラス: ☆

授業コード: DC31600001

担当者: 岡 大樹 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:就労移行支援事業所支援員・公認心理師

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 神経心理学とは，本来は脳梗塞・脳出血・頭部外傷などにより脳の一部が損傷した人が示すさまざまな脳機能障害を手がかりとして，脳と心の関係を調べる学問です。
生理心理学とは，こころの生物学的基盤である脳活動に基づいて脳と心の関係を調べる学問です。
どちらも心理学だけでなく，脳神経科学に関する知識が必要となります。
本講義では，
・こころの生物学的基盤である脳に関する基礎的な知識（脳の構造，機能）
・ヒトの脳活動を計測する非侵襲脳活動計測法
・さまざまな障害（精神・高次脳機能障害など）と脳機能との関連
について，説明します。

到達目標: ・脳の構造と機能についてその概要を把握する。
・神経心理学と生理心理学の基本的な考え方を理解し，主要な概念を専門用語を用いて説明できるようになること。
・脳の局所の損傷によって生じる神経心理学的な障害について神経心理学及び脳神経科学の観点から説明ができるようになること。
・心理的支援について考えるときに，心理学的観点だけでなく，脳神経科学の観点からも考えられることができるようになること。

各回の授業計画:

第1回 オリエンテーション、脳神経系の構造と大まかな機能
本講義の目的と全体像を概説したうえで、脳神経系の基本的な構造と機能を俯瞰的に学ぶ。（教科書 第1章）

第2回 大脳皮質の機能局在
大脳皮質における機能局在の考え方を中心に、感覚・運動・高次認知機能の脳内分布を理解する。（教科書 第2章）

第3回 脳活動の生理学
神経細胞の電気的活動やシナプス伝達の仕組みを通して、脳活動の生理学的基盤を学ぶ。（教科書 第3章）

第4回 自律神経系とホメオスタシス
自律神経系指標を中心に、心拍、体温、発汗、瞳孔反応などの生理反応とホメオスタシス維持との関係を理解する。（教科書 第7章）

第5回 こころの計測1
脳波（EEG）や脳磁界（MEG）を用いた非侵襲的脳機能計測の原理と特徴について理解する。（教科書 第4章）

第6回 こころの計測2,3
PET、MRI、NIRSによる脳機能計測法と、眼球運動・視線計測を取り上げ、各手法の特性と適用範囲を学ぶ。（教科書 第5章・第6章）

第7回 感覚・知覚と脳神経系の関わり
感覚入力がどのように神経系で処理され、主観的な知覚として成立するかを学ぶ。（教科書 第8章）

第8回 学習と脳神経系の関わり
学習を支える神経メカニズムを理解する。（教科書 第9章）

第9回 記憶・言語と脳神経系の関わり
記憶および言語機能の神経基盤を取り上げ、正常機能と障害の両面から考察する。（教科書 第10章）

第10回 行動・注意と脳神経系の関わり
運動、行動制御および注意機構に関わる脳神経系の働きを学び、柔軟な行動の基盤を理解する。（教科書 第11章）

第11回 社会性と脳神経系の関わり
自己認知や他者理解、社会的相互作用を支える脳神経系の仕組みについて学ぶ。（教科書 第12章）

第12回 情動・ストレスと脳神経系の関わり
情動・ストレス反応の神経基盤を理解し、行動や認知との関係を考察する。（教科書 第13章）

第13回 動機づけ・摂食行動・性行動・睡眠と概日リズム
基本的動機づけ行動や摂食・性行動、睡眠と概日リズムを調節する脳神経系の仕組みを学ぶ。（教科書 第14章）

第14回 発達障害・精神疾患・神経疾患と脳神経系の関わり
発達障害、精神疾患、神経疾患を例に、脳神経系の機能異常と行動・認知との関係を総合的に理解する。（教科書 第15章）

第15回確認テストおよび講義内容の総括・演習
確認テストを実施後、フィードバックをしつつ、これまで学んだ脳神経系の構造・機能、計測手法、認知・行動・情動との関わり、ならびに障害例を総合的に振り返り、人間行動・心理の神経生理学的基盤を全体として理解する。（教科書 第1〜15章総括）

特記事項: なし

授業方法: 講義
※オンライン(オンデマンド)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1.「オリエンテーション、脳神経系の構造と大まかな機能」の予習・復習 120分
2.「大脳皮質の機能局在」の予習・復習 120分
3.「脳活動の生理学」の予習・復習 120分
4.「自律神経系とホメオスタシス」の予習・復習 120分
5.「こころの計測1」の予習・復習 120分
6.「こころの計測2,3」の予習・復習 240分
7.「感覚・知覚と脳神経系の関わり」の予習・復習 120分
8.「学習と脳神経系の関わり」の予習・復習 120分
9.「記憶・言語と脳神経系の関わり」の予習・復習 120分
10.「行動・注意と脳神経系の関わり」の予習・復習 120分
11.「社会性と脳神経系の関わり」の予習・復習 120分
12.「情動・ストレスと脳神経系の関わり」の予習・復習 120分
13.「動機づけ・摂食行動・性行動・睡眠と概日リズム」の予習・復習 120分
14.「発達障害・精神疾患・神経疾患と脳神経系の関わり」の予習・復習 120分
15. 確認テストのための講義全体の総復習および整理 600分

評価方法:

授業へのとりくみ:	-	**%**	**確認テスト:**	50	**%**	**レポート:**	- **%**
その他1:	授業内の演習			50	**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: 〔演習(50%)〕
・本講義は公認心理師を目指す学生を対象とした講義ですので授業内で演習を行います。
・演習の内容はただの知識問題だけではなく、項目内容に関連したケース問題を可能な限り含める予定です。

〔確認テスト(50%)〕
・講義内容全般に関して公認心理師試験を模した形式で確認テストを実施します。

【最低限の到達度(60～69 点)】
・演習 各講義回の内容について最低限理解している
・確認テスト 各回の授業で学んだことに関して、総合的な学習内容を最低限理解し、今後の継続的な学習のための知識の土台を構築できている。

【標準的な到達度(70～79 点)】
・演習 各講義回の内容についてある程度理解している。
・確認テスト 各回の授業で学んだことに関して、総合的な学習内容をある程度理解し、公認心理師としての把握しておくべき神経生理心理学の基本は押さえられている。

【望ましい到達度(80～100 点)】
・演習 各講義回の内容についておおむね理解している。
・確認テスト 各回の授業で学んだことに関して、総合的な学習内容をある程度理解し、関連する事例に対する適切な対応策も自分で考えることができる。

課題へのフィードバック:

授業内で実施した演習の解説はその次の授業の冒頭で行います。
確認テストの解説は実施後にまとめとともに授業内で行います。

教科書: 公認心理師ベーシック講座 神経・生理心理学／ 早川 友恵・田邊 宏樹／講談社

参考書: 必要に応じて, 講義中に参考となる本・資料を紹介します。

授業・準備学習のアドバイス:

本講義は、公認心理師試験のブループリントの内容を網羅するとともに、学生の皆様が将来実際の臨床に携わる際に役立つ知識を身につけられるような内容を含めて実施します。
神経生理・心理学の分野は、他の領域と比べて、実践の場でどのように役立つのかをイメージしにくい側面があると感じている方も多いかもしれません。
もちろん、内容を理解し、知識として身につけること自体も重要ですが、それにとどまらず、実際の臨床現場を想像しながら講義を受けることをぜひ意識してほしいと思います。

なお、演習および確認テストの実施にあたっては、生成AIや類似ツールの利用について特に制限は設けません。ただし、演習や試験では、AIによる判断だけでは解答が難しい課題を用意する予定です。

本講義は、公認心理師試験対策として知識を理解することを目的とするだけでなく、今後皆様が実際の臨床において重要となりうる知識を学び、それを実践につなげることを目指しています。
皆様一人ひとりの知識や実践が、誰か一人の人生を大きく左右しうるものであることを心に留めて、講義に臨んでもらえれば幸いです。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 健康・医療心理学

クラス: ★

授業コード: DC31700001

担当者: 島井 哲志 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 1)ウェルビーイングとは何かを知り、それを支える健康行動の心理学を理解する
2)健康リスクの現状を把握し、その支援方法を理解する
3)健康・医療心理学の課題を、医療や災害の場から理解する

到達目標: 1)自分自身の健康行動の意義を理解し実践できる(衛生安全、食、運動、睡眠など)
2)健康リスクを科学的に評価し、自分の行動を選択できる
3)自分自身の実践を踏まえて、周囲の健康増進に寄与することができる
4)医療や災害、産業場面での健康問題を心理学から理解し行動することができる

各回の授業計画:

1. 健康とウェルビーイング:生物心理社会モデル
2. 健康リスクへのアプローチ:発達段階と健康リスク
3. 健康心理学と臨床心理学:健康心理学の特徴と課題
4. ストレスとウェルビーイング:ストレスと対処
5. 食生活とウェルビーイング:食行動の発達、肥満、やせ
6. 身体活動・睡眠とウェルビーイング:身体活動、座位行動、睡眠とリズム
7. 感情と健康リスク:怒り・敵意、よくうつ、アレキシサイミア
8. 行動と健康リスク:喫煙、飲酒、ギャンブル、事故
9. 発達・加齢に伴う健康リスクと支援:ライフステージ、母子保健、地域保健
10. 働く人の健康リスクと支援:産業保健、職業性ストレス
11. 医療における行動と心理:痛み、病気行動、患者の心理
12. 健康・医療心理学の臨床的展開:生活習慣病、糖尿病、がん
13. 医療におけるコミュニケーションと課題:医療コミュニケーション、チーム医療
14. 医療制度と心理職の社会的役割:医療経済、法的義務、心理職の倫理
15.. 災害による健康リスクと支援:災害急性期、中長期、トラウマ後成長

特記事項: なし

授業方法: 1. 講義(対面)
2. 講義(対面)
3. 講義(オンライン・オンデマンド)
4. 講義(対面)
5. 講義(オンライン・オンデマンド)
6. 講義(対面)
7. 講義(オンライン・オンデマンド)
8. 講義(対面)
9. 講義(オンライン・オンデマンド)
10. 講義(対面)
11. 講義(オンライン・オンデマンド)
12. 講義(対面)
13. 講義(オンライン・オンデマンド)
14. 講義(対面)
15. 講義(オンライン・オンデマンド)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

授業の中で特別な指示があった場合を除き、原則は以下の通りとする
1) 講義に参加・動画を視聴する前に、教科書を予習し重要項目を自分でチェックしておく(各回45分)

2) 講義の後、教科書各章の最後にある「試してみよう・やってみよう」の中から一つを選んで実施する（各回45分）
3) 実施した内容を振り返りレポートとして提出する（各回90分）
4) 最終講義後に、学びのまとめとして、自分の選んだ健康のテーマについて総合レポートを提出する（5～6時間）

評価方法：

授業へのとりくみ：	50	**%**	**確認テスト：**	－	**%**	**レポート：**	50 **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準： 授業への取り組み：授業に積極的に参加・視聴し、質問や振り返りを積極的に行い、予習、復習および課題に積極的に取り組むこと。
レポート：専門用語を十分に理解し、また、現在の健康問題を理解して、その課題への健康心理学的アプローチを論理的に展開できること。

課題へのフィードバック：

授業のはじめに、振り返り・レポートなどへのフィードバックを行う。

教科書： 「健康・医療心理学・入門」島井哲志・長田久雄・小玉正博編、有斐閣、2020

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：

1）教科書は15章からなっており、毎回、1章ずつ進めていくので、事前に読んで、キーワードなどを理解しておく。
2）章末の「試してみよう・やってみよう」を実践することで理解を深める。
3）ふだんから健康に関連するニュースに日常的に関心をもち、心理学からどのようなアプローチが可能なのかを考える習慣をもつ。
（14回と15回のみ章の順番と授業回が入れ替わっています）

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 人体の構造と機能及び疾病

クラス:

授業コード: DC31800001

担当者: 小黒 厚 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:医師

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的:
1. 人体の構造と機能および心に作用する身体器官の仕組みについてご理解いただく。
2. 人の成長・発達と老化、関連疾患についてご理解いただく。
3. 様々な疾病や障害の概要についてご理解いただく。
4. 周産期医療、感染症対策についてご理解いただく。
5. 緩和ケア・終末期ケアについてご理解いただく。
6. 健康の概念、定義や健康増進の取り組みについてご理解いただく。

到達目標:
1. 人体の構造の基本と心身機能を臓器、器官の観点から説明できる。
2. 生老病死を科学的に見つめ、関連疾患について説明できる。
3. 主要な疾患、障害、病態について深めた理解を基に医学的な思考ができる。
4. 緩和ケアの概要について概説できる。
5. 健康の定義と概念を概説できる。

各回の授業計画:

1. 心理職に求められる人体の理解と医学知識 講義(対面)
2. 人体の構造と機能 講義(対面)
3. 心に関わる統合器官系 講義(対面)
4. 小児の成長発達と疾患 加齢と疾患 講義(対面)
5. 内科疾患 講義(対面)
6. がん 講義(対面)
7. 感染症 講義(対面)
8. 脳血管疾患 講義(対面)
9. 神経疾患(難病を中心に) 講義(対面)
10. 機能性疾患 講義(対面)
11. 整形外科疾患 講義(対面)
12. 周産期医療 講義(対面)
13. 緩和ケア・終末期ケア 講義(対面)
14. 健康と健康増進の理解 講義(対面)
15. 重要事項のまとめ 講義(対面)

特記事項: 社会状況に鑑み、対面授業が不適な場合は、オンライン講義に切り替える。
臨時の休講については、オンデマンド講義録画で充当する。

授業方法: 講義、教科書を基にパワーポイントで解説を行う。

予習・復習・宿題など(内容・時間):
1. 各回の授業計画(1〜14)について教科書に目を通しておいて下さい。60分×14=840分。
2. 授業があったその日の内に自分なりに復習をして下さい。60分×14=840分。
3. 各講義ごとに課題(確認テスト)を割り当てますので解答して下さい。20分×15=300分。
4. 講義期間中の行住坐臥において、なりたい自分(福祉職や公認心理師)が医療の現場なら患者さんと医療者の間で、また教育の現場なら教え子と教育者の間で、どのような働きをしたいか想像したり、妄想したり、憧れたりする時間を合計720分程度確保してください。

評価方法:

授業へのとりくみ:	5 %	**確認テスト:**	95 %	**レポート:**	− %		
その他1:			%				
その他2:			%				

評価基準: ・最低限の到達度(60～69点)
授業で学んだ人体の解剖・生理や疾病の臨床病理について、ある程度理解している
・望ましい到達度(80～100点)
授業で学んだことを理解し、科学的な思考に基づいて回答できる

課題へのフィードバック:

課題や質問については授業時などに適宜フィードバックする。

教科書: 武田克彦、岩田淳、小林靖:『人体の構造と機能及び疾病』第2版 医歯薬出版 2024

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

課題や質問については授業時などに適宜フィードバックする。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 心理専門職演習Ⅰ

クラス:

授業コード: DC31900001

担当者: 椎野 智子、古川 心、三井 知代、西 恭平、松本 剛、吉田 圭吾 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:
【椎野】大学病院精神科・児童精神科・精神科クリニックの公認心理師・臨床心理士、中学校・高校スクールカウンセラー
【古川】公認心理師・臨床心理士(大学院附属相談室の心理士、スクールカウンセラー、発達相談員)
【三井】公認心理師・臨床心理士(心療内科、精神科における病院臨床および大学院付属心理相談室)
【西】公認心理師・臨床心理士(スクールカウンセラー、診療所やクリニックでの臨床心理活動、療育園での発達相談員)
【松本】公認心理師・臨床心理士、スクールカウンセラー
【吉田】公認心理師・臨床心理士、スクールカウンセラー、学生相談、心療内科カウンセラー、自死遺族相談

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 心理専門職は医療、福祉、教育、産業、司法など様々な分野で活躍している。また多職種連携の必要性も求められている。そのため本授業では、心理専門職の多様な役割と業務内容を理解する。加えて、心理専門職として活動するうえで必要となる法律や倫理基準を学び、「カウンセラーに必要な資質」を学んでいく。

到達目標:
1. 公認心理師の役割と業務内容について、公認心理師法に基づいて説明できる。
2. 公認心理師となるための養成課程について、時系列で整理し説明できる。
3. 公認心理師の活動する5分野における業務および主要な心理支援の枠組みを、臨床実践モデルに基づいて説明できる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション:公認心理師とは(椎野)
2. 分野共通:公認心理師になるまで(椎野)
3. 分野共通:振り返り課題(椎野)
4. 福祉分野:就学前から思春期の子どもと養育者への支援、福祉分野における心理職の役割(古川)
5. 福祉分野:振り返り課題(古川)
6. 福祉分野:振り返り課題の解説と補足(古川)
7. 教育分野:スクールカウンセラーと教育現場の現状について(西)
8. 教育分野:振り返り課題(西)
9. 教育分野:振り返り課題の解説と補足(西)
10. 医療分野:医療現場における心理職の役割、多職種連携について(三井)
11. 医療分野:振り返り課題(三井)
12. 医療分野:振り返り課題の解説と補足(三井)
13. 司法分野:家庭裁判所、鑑別所、自立支援施設、警察、学校との連携について(吉田)
14. 産業分野:働く人たちののメンタルヘルス、ストレスチェック、キャリア支援など心の健康支援と組織の活性化への貢献(松本)
15. 確認テストとまとめ(椎野)

特記事項: なし

授業方法: 本授業はオムニバス形式で実施する。複数の教員がそれぞれの専門分野や臨床経験をふまえて指導を行う。
なお、進捗状況によって授業方法が変更されることがある。
1. 講義(対面)
2. 講義(対面)
3. 演習(オンライン)
4. 講義(対面)
5. 演習(オンライン)
6. 講義(対面)
7. 講義(対面)
8. 演習(オンライン)
9. 講義(対面)
10. 講義(対面)
11. 演習(オンライン)
12. 講義(対面)
13. 講義(対面)

14. 講義（対面）
15. 講義（対面）

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

講義の際に配布する資料をもとに疑問点を整理し、理解を深める。
1. 公認心理師という心理専門職について整理し、理解を深める(180分)
2. 公認心理師になるまでの過程について整理し、理解を深める(180分)
3. 公認心理師の主要5分野での臨床実践について整理し、理解を深める(180分)
4. 子どもと養育者、地域などをつなぐ支援について整理し、理解を深める(180分)
5. 福祉分野での支援活動について整理し、理解を深める(180分)
6. 福祉分野での臨床実践について整理し、理解を深める(180分)
7. スクールカウンセラーの役割について整理し、理解を深める（180分）
8. 教育分野での支援活動について整理し、理解を深める（180分）
9. 教育分野での臨床実践について整理し、理解を深める（180分）
10. 医療現場における心理職の役割について整理し、理解を深める（180分）
11. 医療分野での支援活動について整理し、理解を深める（180分）
12. 医療分野での臨床実践について整理し、理解を深める（180分）
13. 司法分野での臨床実践について整理し、理解を深める（180分）
14. 産業分野での臨床実践について整理し、理解を深める（180分）
15. 公認心理師の臨床実践について整理し、理解を深める（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	20 **%**	**確認テスト：**	40 **%**	**レポート：**	40 **%**
その他1：			**%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

【最低限の到達度（60～69点）】
・公認心理師の定義や制度の基本的事項を概ね理解している。
・資格取得までのステップを、大まかな流れとして説明できる。
・5分野の名称と、各分野で行われる代表的な業務について基本的な説明ができる。

【標準的な到達度（70～79点）】
・公認心理師法の基本的事項を正確に説明できる。
・養成課程の各ステップを理解し、順序立てて説明できる。
・5分野の実践内容を、実際の臨床実践と関連づけて説明できる。

【望ましい到達度（80～100点）】
・公認心理師の法的枠組みと実践的意義について深く論述できる。
・資格取得プロセスの詳細を構造的に説明できる。
・5分野の臨床実践モデルを比較し、分野間の共通点・相違点を整理できる。

課題へのフィードバック：

授業内で実施する

教科書： なし

参考書： 日本心理学会 監修, 公認心理師になる 学びのプロセスと仕事の実際がよくわかる本, 誠信書房, 2025年

その他、授業内容に応じて授業中に紹介する。

授業・準備学習のアドバイス：

公認心理師が行う心理支援は、人々の生活場面や日常的な経験と密接に関連している。本授業で扱う事例や概念については、自分自身の経験や周囲の人との関わりを振り返りながら学ぶことで、より深い理解につながる。
また、公認心理師の資格取得には、大学での科目履修、実習、大学院進学や実務経験、国家試験など、長期的な準備が求められる。本授業の受講を通して、「自らのキャリア像」「必要な科目や実習の見通し」「学部1年生から取り組める準備」を具体的にイメージしながら学修を進めることが望ましい。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: ビジネス心理学

クラス: 心/国前

授業コード: DC40400001

担当者: 端　義幸、河野　洋範　　**単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:企業にて広告、ブランディング、マーケテインングを担当

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: －　　**一般的包括的科目:** －

授業の目的: ビジネス心理は、人の能力と組織の活力を向上させるマネジメント課題、顧客の創造と満足度向上を目的とするマーケティング課題に応える総合的な“心の科学”です。
マーケティング分野とマネジメント分野の心理学について授業を行い、端義幸と河野洋範の2名の教員で担当します。具体的には、マーケティング分野に関しては、マーケティング、そしてその対象である消費者行動の基本について学んでもらい、心理学がいかに実践の場において必要とされ、役に立っているかを実感してもらいます。また、マネジメント分野に関しては、モ―ベーション、チームビルディングの基本について学んでもらい、この2つが社会においていかに大切かについて学んでもらいます。これらを学ぶことで、“心理学の活用”を常に意識し、今後心理学について学んでいくうえでより意欲的に学んでもらえるようになることを目的としています。
授業の特徴としては、皆さんが自ら課題を解決していく課題解決型学習（PBL・グループ学習）を取り入れ、実践の場で社会の実態に触れる機会をつくっていきます。課題解決型学習では教室を2つに分けて、きめ細やかな学生に寄り添った授業を行います。将来、皆さんが社会にでた時に、大学で学んだことを活かせる視座を持ってもらえることを目指します。

到達目標: 【知識・理解】
・企業のコミュニケーション活動、マーケティング、消費者心理、モチベーション、チームビルディングについて理解する。
・企業のマーケティング活動、マネジメント活動の中で、心理学がどのような役割を果たしているか理解する。
【思考・判断】
・答えのない課題に対して、情報を収集・取捨選択し現状分析をしさまざまな視点で考え課題解決する能力を身に付ける。
・自分の考えや意見を相手に伝わることを意識して表現できるようになる。
・心理学について、常に企業活動への活用に結びつけて考えられるようになる。
【関心・意欲】
・企業における心理学の活用の場であるマーケティング、消費者行動、マネジメントへの関心を高めてもらう。
・心理学が企業活動の中で役に立っている実態を知り、今後ますます重要になってきていることを実感することで、今後心理学を学ぶ意欲を向上してもらう。

各回の授業計画:

1. ガイダンス（授業から学んでほしいこと、取り巻く環境の変化、スケジュール等）
2. マーケティング心理学:マーケティングの基本（STP、顧客ニーズ、マーケティングミック等）
3. マーケティング心理学:消費者心理の実践①（消費者の「記憶」、「好感度」）
4. マーケティング心理:消費者心理の実践②（消費者の「意思決定」）
5. マネジメント心理学:モチベーション
6. マネジメント心理学:チームビルディング
7. マネジメント心理学:リーダーシップ
8. 課題解決型授業（PBL）①:実務家ゲスト講師より課題提示
9. 課題解決型授業（PBL）②:企画書作成（グループ学習）
10. 課題解決型授業（PBL）③:企画書作成（グループ学習）
11. 課題解決型授業（PBL）④:中間発表（授業内プレゼンテーション）
12. 課題解決型授業（PBL） ⑤: 企画書作成、プレゼン準備（グループ学習）
13. 課題解決型授業（PBL） ⑥: 最終発表（実務家ゲスト講師に対してプレゼンテーション）
14. 課題解決型授業のまとめ
15. 全体のまとめと「マーケティング、マネジメントにどう心理学を活かしていくか」について

特記事項: なし

授業方法: （すべて対面授業で行う）
1. 講義と演習
2. 講義と演習
3. 講義と演習
4. 講義と演習

5. 講義と演習
6. 講義と演習
7. 講義と演習
8. 講義とグループワーク
9. グループワーク
10. グループワーク
11. グループワークとプレゼンテーション
12. グループワーク
13. プレゼンテーション
14. 講義と演習
15. 講義と演習

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. ガイダンス【復習120分】
2. マーケティングの基本【復習120分】
3. マーケティング心理学「記憶」「好感度」【復習120分】
4. マーケティング心理学「意思決定」【復習120分】
5. マネジメント心理学「モチベーション」【復習120分】
6.マネジメント心理学「チームビルディング」【復習120分】
7.マネジメント心理学「リーダーシップ」【復習120分】
8. 課題に対しての情報収集、現場視察【復習300分】
9. 課題に関してのグループワーク、企画書作成【予習・復習300分】
10. プレゼン資料作成・グループワーク【予習・復習300分】
11. 中間発表・プレゼン資料修正【予習、復習300分】
12. プレゼンの発表準備【予習・復習300分】
13. 自チームのプレゼンの振り返り、他チームの良かった点のまとめ【復習120分】
14. PBLから学んだことの復習【復習120分】
15. 全体まとめ 課題レポート作成【復習120分】

評価方法:

授業へのとりくみ:	70 **%**	**確認テスト:**	− **%**	**レポート:**	30 **%**
その他1:			**%**		
その他2:			**%**		

評価基準: ・60～69点：マーケティング、消費者行動、マネジメントの基本を理解し、心理学がビジネス分野で活かされていることを理解する
・80～100点：上記に加え、自らの意見を持ち、それを説明でき、今後、心理学をはじめ大学で学ぶことを社会にでた時にどう活かしていくかといった視座を常にもって、意欲的に取り組めるようになる

課題へのフィードバック:

提出課題に関しては、次週以降の授業内でフィードバックを行う。
プレゼンテーション、発表に関してはその授業内でフィードバックを行う。

教科書: なし

参考書:
・1からのマーケティング 第4版 石井淳蔵 廣田章光 清水信年 碩学社・中央経済社
・1からの消費者行動 第2版 松井剛 西川英彦 碩学社・中央経済社
・消費者理解のための心理学 杉本徹雄編集　福村出版
・心理マーケティング100の法則　酒井とし夫 JMAM
・ビジネス心理学 榎本弘明 日本経済出版社
・行動経済学 阿部誠監修　新星出版社
・寄り添う力　石井淳蔵　碩学社・中央経済社
・これからのリーダーシップ 堀尾志保 館野泰一 日本能率協会マネジメントセンター

授業・準備学習のアドバイス:

日常接する広告、商品、展示、価格表示など全てのものが、企業が考えに考えたうえで発信されているものです。また、街で人を観察するとトレンドが見えてきます。身の周りにある様々なものに興味を持ち、発見を楽しんでください。こういった日々活動が授業の内容と結びついてより理解を深めていきます。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: ビジネス心理学

クラス: 心/国後

授業コード: DC40400002

担当者: 河野 洋範、端 義幸 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:企業にて広告、ブランディング、マーケテインングを担当

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: ビジネス心理は、人の能力と組織の活力を向上させるマネジメント課題、顧客の創造と満足度向上を目的とするマーケティング課題に応える総合的な“心の科学”です。
マーケティング分野とマネジメント分野の心理学について授業を行い、端義幸と河野洋範の2名の教員で担当します。具体的には、マーケティング分野に関しては、マーケティング、そしてその対象である消費者行動の基本について学んでもらい、心理学がいかに実践の場において必要とされ、役に立っているかを実感してもらいます。また、マネジメント分野に関しては、モ―ベーション、チームビルディングの基本について学んでもらい、この2つが社会においていかに大切かについて学んでもらいます。これらを学ぶことで、“心理学の活用”を常に意識し、今後心理学について学んでいくうえでより意欲的に学んでもらえるようになることを目的としています。
授業の特徴としては、皆さんが自ら課題を解決していく課題解決型学習(PBL・グループ学習)を取り入れ、実践の場で社会の実態に触れる機会をつくっていきます。課題解決型学習では教室を2つに分けて、きめ細やかな学生に寄り添った授業を行います。将来、皆さんが社会にでた時に、大学で学んだことを活かせる視座を持ってもらえることを目指します。

到達目標: 【知識・理解】
・企業のコミュニケーション活動、マーケティング、消費者心理、モチベーション、チームビルディングについて理解する。
・企業のマーケティング活動、マネジメント活動の中で、心理学がどのような役割を果たしているか理解する。
【思考・判断】
・答えのない課題に対して、情報を収集・取捨選択し現状分析をしさまざまな視点で考え課題解決する能力を身に付ける。
・自分の考えや意見を相手に伝わることを意識して表現できるようになる。
・心理学について、常に企業活動への活用に結びつけて考えられるようになる。
【関心・意欲】
・企業における心理学の活用の場であるマーケティング、消費者行動、マネジメントへの関心を高めてもらう。
・心理学が企業活動の中で役に立っている実態を知り、今後ますます重要になってきていることを実感することで、今後心理学を学ぶ意欲を向上してもらう。

各回の授業計画:

1. ガイダンス(授業から学んでほしいこと、取り巻く環境の変化、スケジュール等)
2. マーケティング心理学:マーケティングの基本(STP、顧客ニーズ、マーケティングミック等)
3. マーケティング心理学:消費者心理の実践①(消費者の「記憶」、「好感度」)
4. マーケティング心理:消費者心理の実践②(消費者の「意思決定」)
5. マネジメント心理学:モチベーション
6. マネジメント心理学:チームビルディング
7. マネジメント心理学:リーダーシップ
8. 課題解決型授業(PBL)①:実務家ゲスト講師より課題提示
9. 課題解決型授業(PBL)②:企画書作成(グループ学習)
10. 課題解決型授業(PBL)③:企画書作成(グループ学習)
11. 課題解決型授業(PBL)④:中間発表(授業内プレゼンテーション)
12. 課題解決型授業(PBL) ⑤: 企画書作成、プレゼン準備(グループ学習)
13. 課題解決型授業(PBL) ⑥: 最終発表(実務家ゲスト講師に対してプレゼンテーション)
14. 課題解決型授業のまとめ
15. 全体のまとめと「マーケティング、マネジメントにどう心理学を活かしていくか」について

特記事項: なし

授業方法: (すべて対面授業で行う)
1. 講義と演習
2. 講義と演習
3. 講義と演習
4. 講義と演習

5. 講義と演習
6. 講義と演習
7. 講義と演習
8. 講義とグループワーク
9. グループワーク
10. グループワーク
11. グループワークとプレゼンテーション
12. グループワーク
13. プレゼンテーション
14. 講義と演習
15. 講義と演習

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

1. ガイダンス【復習120分】
2. マーケティングの基本【復習120分】
3. マーケティング心理学「記憶」「好感度」【復習120分】
4. マーケティング心理学「意思決定」【復習120分】
5. マネジメント心理学「モチベーション」【復習120分】
6.マネジメント心理学「チームビルディング」【復習120分】
7.マネジメント心理学「リーダーシップ」【復習120分】
8. 課題に対しての情報収集、現場視察【復習300分】
9. 課題に関してのグループワーク、企画書作成【予習・復習300分】
10. プレゼン資料作成・グループワーク【予習・復習300分】
11. 中間発表・プレゼン資料修正【予習、復習300分】
12. プレゼンの発表準備【予習・復習300分】
13. 自チームのプレゼンの振り返り、他チームの良かった点のまとめ【復習120分】
14. PBLから学んだことの復習【復習120分】
15. 全体まとめ 課題レポート作成【復習120分】

評価方法:

授業へのとりくみ:	70 **%**	**確認テスト:**	－ **%**	**レポート:**	30 **%**
その他1:			**%**		
その他2:			**%**		

評価基準: ・60～69点：マーケティング、消費者行動、マネジメントの基本を理解し、心理学がビジネス分野で活かされていることを理解する
・80～100点：上記に加え、自らの意見を持ち、それを説明でき、今後、心理学をはじめ大学で学ぶことを社会にでた時にどう活かしていくかといった視座を常にもって、意欲的に取り組めるようになる

課題へのフィードバック:

提出課題に関しては、次週以降の授業内でフィードバックを行う。
プレゼンテーション、発表に関してはその授業内でフィードバックを行う。

教科書: なし

参考書:
・1からのマーケティング 第4版 石井淳蔵 廣田章光 清水信年 碩学社・中央経済社
・1からの消費者行動 第2版 松井剛 西川英彦 碩学社・中央経済社
・消費者理解のための心理学 杉本徹雄編集 福村出版
・心理マーケティング100の法則 酒井とし夫 JMAM
・ビジネス心理学 榎本弘明 日本経済出版社
・行動経済学 阿部誠監修 新星出版社
・寄り添う力 石井淳蔵 碩学社・中央経済社
・これからのリーダーシップ 堀尾志保 館野泰一 日本能率協会マネジメントセンター

授業・準備学習のアドバイス:

日常接する広告、商品、展示、価格表示など全てのものが、企業が考えに考えたうえで発信されているものです。また、街で人を観察するとトレンドが見えてきます。身の周りにある様々なものに興味を持ち、発見を楽しんでください。こういった日々活動が授業の内容と結びついてより理解を深めていきます。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 経済心理学

クラス: 心/国

授業コード: DC40500001

担当者: 辻川 典文 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: この授業では、行動経済学や消費者心理に関する内容を中心に人の経済活動を心理学の視点で考えていく。人は自分では合理的だと思ってお金を使っていますが、周りから見るとおかしいことがたくさんあります。お金を使うときの人の心理(クセ)を理解して、日々の生活や就職活動、将来の仕事に役立ててほしい。

到達目標: 人の経済活動と心理学の関係を説明することができるようになること。また、授業で得た知識をもとに心理学の視点から新しいサービスや商品などの企画を考えることができるようになること。

各回の授業計画:

1. 経済学と心理学の関係
2. ヒューリスティックと購買行動
3. 購買時の様々なバイアス
4. 価格と支払いの心理(プロスペクト理論)
5. お金の使い方はどう決まる?
6. 経済心理の活用事例
7. ナッジ(1)身近な事例編
8. ナッジ(2)行動につながるデザイン
9. ナッジ(3)理論的解説
10. 消費者の感覚と知覚
11. 衝動買いと買い物依存
12. 悪徳商法とクレーマー
13. 経済心理学の活用法を考える
14. 経済心理学の応用法の提案
15. 経済心理学のまとめとふりかえり

特記事項: なし

授業方法: 3回目と9回目はオンラインでの授業が入る

1. 講義 (対面)
2. 講義とワーク (対面)
3. 講義とワーク (オンライン)
4. 講義とワーク (対面)
5. 講義とワーク (対面)
6. 講義とワーク (対面)
7. 講義とワーク (対面)
8. 講義とワーク (対面)
9. 講義とワーク (オンライン)
10. 講義とワーク (対面)
11. 講義とワーク (対面)
12. 講義とワーク (対面)
13. 講義とワーク (対面)
14. 発表 (対面)
15. 講義とワーク (対面)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 経済学と心理学の関係について理解を深める(180分)
2. ヒューリスティックと購買行動について理解を深める(180分)
3. 購買時の意思決定の仕組みやプロスペクト理論について理解を深める(180分)

4. ナッジ理論の基礎理論について理解を深める（180分）
5. ナッジ理論をもとにしたユーザーの行動について理解を深める（180分）
6. ナッジ理論をもとにした商品やサービスについて理解を深める（180分）
7. 商品選択におけるブランドについて理解を深める（180分）
8. 商品選択における感情と購買行動 について理解を深める（180分）
9. 商品選択における衝動買いと買い物依存について理解を深める（180分）
10. リスク認知、賭け事について理解を深める（180分）
11. 説得と悪徳商法、クレームについて心理学的な観点からの理解を深める（180分）
12. 発表課題に向けて、経済心理学の活用事例について考える（180分）
13. 発表準備をする（180分）
14. 発表準備や発表の振り返りをする（180分）
15. これまでの資料をもとに経済心理学の内容を振り返る（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	10	**%**	**確認テスト：**	50	**%**	**レポート：**	20 **%**
その他1：	発表課題			20	**%**		
その他2：					**%**		

評価基準：
60～69点: 経済活動と心理学の関係性を理解している
80～100点: 上記の内容に加えて、授業内でのワークに積極的に取り組み、授業の内容と自身の体験を関連付けて理解できている

課題へのフィードバック：
授業期間内に複数回の小テストを実施し、どの程度理解できているかについて確認を行う。結果のフィードバックは翌週以降の授業で行う。

教科書： 特になし

参考書： 適宜紹介する

授業・準備学習のアドバイス：
商品を購入したり、サービスを利用したりする経済活動を心理学的な視点から考えていくと、様々な気付きがあります。日常生活と結びつけながら受講してください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: マーケティング論

クラス: 心/国

授業コード: DC40600001

担当者: 鈴木 隆 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:企業で起業やマーケティング全般に従事

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: - **一般的包括的科目:** -

授業の目的: わたしたちが日々行っている商品の購買・消費について、提供する側の取り組みであるマーケティングを学ぶ。理論だけでなく、現場での実践についても学ぶ。

到達目標: マーケティングの理論と実践がわかるようになる。
ビジネスの現場でも活用できるようになる。

各回の授業計画:

1. イントロダクションーネットビジネスの起業経験とマーケティングの全体像
2. 根本となる考え方
3. 「不」の発見
4. 計画と市場調査
5. 顧客
6. ポジショニング、USP
7. ブランド、商品
8. 価格
9. 流通
10. 販促
11. 総合演習(グループワーク)
12. データの活用
13. 現場の実行
14. 起業の論理
15. 振り返りとまとめ

特記事項: ビジネスを全体として理解するには、「マーケティング論」が対象とする顧客についての「消費者心理学」(消費者行動論)も受講するとよい。

授業方法: パワーポイントの資料を用いて、動画の視聴を交えながら講義を行い、個人とグループの演習で理解を深める。すべての授業を対面授業で行う。

1. 講義、動画視聴、演習
2. 講義、動画視聴、演習
3. 講義、動画視聴、演習
4. 講義、動画視聴、演習
5. 講義、動画視聴、演習
6. 講義、動画視聴、演習
7. 講義、動画視聴、演習
8. 講義、動画視聴、演習
9. 講義、動画視聴、演習
10. 講義、動画視聴、演習
11. 演習(グループワーク)
12. 講義、動画視聴、演習
13. 講義、動画視聴、演習
14. 講義、動画視聴、演習
15. 講義、動画視聴、演習

予習・復習・宿題など(内容・時間):

パワーポイントの資料をもとに、以下の内容を復習する。
1. 世の中での他社の事例(180分)
2. 考え方の具体的な事例(180分)

3.「不」の発見の具体的な事例（180分）
4. 調査分析の具体的な事例（180分）
5. 顧客の具体的な事例（180分）
6. ポジショニング、USPの具体的な事例（180分）
7. ブランド、商品の具体的な事例（180分）
8. 価格の具体的な事例（180分）
9. 流通の具体的な事例（180分）
10. 販促の具体的な事例（180分）
11. 出店の具体的な事例（180分）
12. データ活用の具体的な事例（180分）
13. 現場の実行の具体的な事例（180分）
14. 起業の具体的な事例（180分）
15. 期末レポート課題（180分～）

評価方法：

授業へのとりくみ：	30	**%**	**確認テスト：**	－	**%**	**レポート：**	40 **%**
その他1：	毎回授業中に記入し提出する小レポート	30	**%**				
その他2：			**%**				

評価基準：
60～69点…授業の内容を理解できている。
70～79点…授業の内容を理解し、かつ活用できている。
80～100点…授業の内容を理解、活用できている。かつ自分なりに考え表現できる。誤りや失敗からも学んでいる。

課題へのフィードバック：
授業内もしくはTeamsで行う。

教科書：
毎回、Teamsで資料を配布する。

参考書：
授業内容のベースにあるものとして、以下の3冊を紹介する。
（参考書1：一般書）鈴木隆『御社の商品が売れない本当の理由』2017年、光文社新書
（参考書2：一般書）鈴木隆『仕事に効くオープンダイアローグ』2019年、KADOKAWA
（参考書3：研究書）鈴木隆『マーケティング戦略は、なぜ実行でつまずくのか』2016年、碩学舎（発売：中央経済社）
なかでも、参考書1が授業全般をカバーしており、予習や復習に役立つであろう。いずれも図書館にあるので、一度は手に取ってみることをすすめる。

授業・準備学習のアドバイス：
・身近な広告や店舗を観察し、自身やアルバイト先などでの購買・消費についても意識しておくと、授業の内容の理解が進む。
・毎回、授業の最後に、小レポート（課題への回答、質問・感想・意見・希望など）を記入し提出してもらう。内容について評価するだけでなく、次回の授業の冒頭でフィードバックするとともに、授業の内容にも反映する。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 粧いの心理学

クラス: ☆

授業コード: DC50100001

担当者: 中川 由理 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 日常生活において欠かすことのできない「服を着る」という被服行動と、多くの女性が習慣的に行っている化粧行動について、心理学の視点から得られた知見を紹介する。具体的には、装いが自分自身に対してどのような効果を与えるのか、あるいは、他者に対していかなる影響を及ぼすのかについて論考する。次に、装いにまつわる購買行動や流行、集合・社会現象について解説をしていく。

到達目標: 化粧や被服といった装いの持つ心理的効果を理解する。
装いの対自的効果や対他的効果を理解し、対人関係において装いがどのような影響を与えるかについて理解する。
ジェンダーと装いの関わりについて理解する。
装いにまつわる消費行動を心理学視点から理解する。

各回の授業計画:

1. イントロダクション:粧いとは何か
2. 粧いの情報伝達機能
3. 粧いと対人認知
4. 粧いと知覚
5. 粧いがもたらす対人魅力
6. 魅力が社会的場面におよぼす影響
7. 粧いと自尊感情
8. 粧いと自己概念
9. 粧いとジェンダー
10. 粧いと援助行動
11. 粧いと服従行動
12. 粧いと対人関係
13. 制服の影響
14. 流行
15. まとめと確認

特記事項: 当該授業はオンライン授業である。Teamsによるオンデマンド教材と課題提示を実施する。

授業方法:
1. 講義(オンライン(オンデマンド))
2. 講義とワーク(オンライン(オンデマンド))
3. 講義とワーク(オンライン(オンデマンド))
4. 講義とワーク(オンライン(オンデマンド))
5. 講義とワーク(オンライン(オンデマンド))
6. 講義とワーク(オンライン(オンデマンド))
7. 講義とワーク(オンライン(オンデマンド))
8. 講義とワーク(オンライン(オンデマンド))
9. 講義とワーク(オンライン(オンデマンド))
10. 講義とワーク(オンライン(オンデマンド))
11. 講義とワーク(オンライン(オンデマンド))
12. 講義とワーク(オンライン(オンデマンド))
13. 講義とワーク(オンライン(オンデマンド))
14. 講義とワーク(オンライン(オンデマンド))
15. 講義(オンライン(オンデマンド))

予習・復習・宿題など(内容・時間):
1. 資料をもとに日常の自身の粧い行動について理解を深める(180分)
2. 資料をもとに粧いの情報伝達機能の関係について理解を深める(180分)

3. 資料をもとに粧いと対人認知の関係について理解を深める(180分)
4. 資料をもとに粧いと知覚の関係について理解を深める(180分)
5. 資料をもとに粧いがもたらす対人魅力ついて理解を深める(180分)
6. 資料をもとに魅力が社会的場面におよぼす影響について理解を深める(180分)
7. 資料をもとに粧いと自尊感情の関係について理解を深める(180分)
8. 資料をもとに粧いと自己概念の関係について理解を深める(180分)
9. 資料をもとに粧いとジェンダーの関係について理解を深める(180分)
10. 資料をもとに粧いと援助行動の関係について理解を深める(180分)
11. 資料をもとに粧いと服従行動の関係について理解を深める(180分)
12. 資料をもとに粧いと対人関係について理解を深める(180分)
13. 資料をもとに制服の影響について理解を深める(180分)
14. 資料をもとに粧いに関わる流行行動について理解を深める(180分)
15. これまでの資料を基に、粧いについて理解を深める(180分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	10	**%**	**確認テスト:**	50	**%**	**レポート:**	40 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準:
60～69点:粧いの心理的効果ついて理解ができている。粧いに関する研究するうえでの心理学的手法についての理解を深めることができる
80～100点:上記の内容に加えて、授業内でのワークに積極的に取り組めており、授業の内容と自身の体験を関連付けて理解できている

課題へのフィードバック:
課題に関するフィードバックは翌週以降に授業内にて行う

教科書: 教科書は使用せず、授業のテーマに応じて適宜資料の配布、参考図書の紹介を行う。

参考書: 特になし

授業・準備学習のアドバイス:
普段の何気ないところに様々な気付きがあります。日常生活にある「よそおい」について普段より注意を向けて考えてみましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 子どもから見た世界

クラス:

授業コード: DC50300001

担当者: 大島 剛 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:児童相談所心理判定員

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: それぞれの発達段階、障害や社会的境遇にある子どもが体験しているであろう世界を学習することにより、子どもに対して共感的な立場で接することができる視点を養う。

到達目標: あくまで子どもの側からみた世界を理解して、それぞれの発達段階にある子どもの世界の特徴を理解する。それぞれの発達段階や障害、社会的境遇の特徴からからその子どもが体験するであろうこと、考えるであろうことを推測したり、追体験できる資質を養成する。

各回の授業計画:

1. 子どもの発達に関する概説
2. チャイルドビジョンを体験する(製作・体験)
3. 赤ちゃんの不思議
4. 赤ちゃんの運動
5. 乳幼児健診について
6. 学童期の親子について
7. 発達障害体験ワーク(ゲスト講師)
8. 自閉スペクトラム症の子どもの特性
9. 様々な自閉スペクトラム症の子どもたち
10. あるダウン症の方の物語
11. 子ども虐待のある世界
12. 児童養護施設の実際
13. 貧困とネグレクトのある世界
14. 戦後の子どもたちの歴史
15. 振り返りとまとめ

特記事項: なし

授業方法: 対面 できるだけ配布資料やビデオ等の視聴覚教材を利用し、子どもの発達について具体的に理解できるようにしたい。適宜実習的な「子ども体験」を盛り込む。授業内容は次の通り。

1. 講義
2. グループワーク
3. DVD視聴・講義
4. DVD視聴・講義
5. グループワーク
6. DVD視聴・講義
7. ゲスト講師による演習
8. DVD視聴・講義
9. DVD視聴・講演
10. DVD視聴・講義
11. DVD視聴・講義
12. DVD視聴・講義
13. DVD視聴・講義
14. DVD視聴・講義
15. 講義

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 子ども観に関して復習(180分)
2. 宿題:実技実践に対する感想文(180分)

3. 赤ちゃんの発達について復習・下調べ（180分）
4. 赤ちゃんの運動について復習・下調べ（180分）
5. 乳幼児健診について復習・母子手帳調べ（180分）
6. 学童期の自分の振り返り（180分）
7. 発達障害の体験と理解について復習・下調べ（180分）
8. 自閉スペクトラム症の特性について復習・下調べ（180分）
9. 自閉スペクトラム症の個人差について復習・下調べ（180分）
10. ダウン症、里親について復習・下調べ（180分）
11. 虐待について新聞調査（180分）
12. DVDの感想文、新聞調査（180分）
13. 映画鑑賞についての感想のレポート作成（180分）
14. 戦後歴史のレポート作成（180分）
15. 子どもとはの振り返り(180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	50	**%**	**確認テスト：**	－	**%**	**レポート：**	50 **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準：
80～100点：さまざまな発達段階、境遇の子どもに対する適切な理解と対応ができる
60～69点：いろんな境遇の子どもがいることの知識を持つ

課題へのフィードバック：
各授業最後に書かせる振り返りシートにあった質問内容に次の授業の冒頭で解説
Teamsで各自にフィードバック

教科書： なし

参考書： なし

授業・準備学習のアドバイス：
適宜資料やプリントを渡します。レポートは授業の内容について課題を決定します。
大人とは違った子どもが体験する面白い世界を感じることで、子どもがわかる大人になりましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 発達心理学

クラス:

授業コード: DC50400001

担当者: 山本 千恵 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:心療内科クリニックでの心理カウンセラー、兵庫県公立中学校スクールカウンセラー

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 乳幼児期と学童期をメインに、老年期に至るまでの人の心身の発達について、対人関係をキーワードとし、共に考える授業を展開していきたい。
まず乳幼児期では母子関係を軸とし、対人関係の築き方について学びを深め、次に学童期では主に対人関係で困難を示しやすい、発達障害の児童への理解を深めていきたいと思う。
更に、高齢化により患者数が急増している認知症について、基礎的な知識と、必要とされる心理的ケアについて考えていきたい。

到達目標: 人の生涯にわたる成長を、対人関係の変化からも理解できるようになること。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
発達に関する考え方(フロイト、ピアジェ、エリクソン)
2.「新生児～乳児期」胎児の発達
発達に与える遺伝と環境要因
3.「新生児～乳児期」精神分析の観点より(アンナ・フロイト、クライン、ウイニコット、マーラー他)
4.「新生児～乳児期」愛着理論の観点より(ボウルビィ、エインスワース)
5.「新生児～乳児期」心理学の観点より(ピアジェ、ヴィゴッキー)
6.「新生児～乳児期」三歳児神話について考える
7.「幼児期～学童期」精神病理と心身症
8.「幼児期～学童期」いじめと不登校について
9.「幼児期～学童期」神経発達症(発達障害):ADHD
10.「幼児期～学童期」神経発達症(発達障害):SLD
11.「幼児期～学童期」神経発達症(発達障害):ASD
12.「幼児期～学童期」事例検討(SLDが疑われ、不登校になった男児の事例)
13.「青年期～成人期～老年期」成人期から成人期、老年期の発達(エリクソン、レヴィンソン、レイチャード)
14.「青年期～成人期～老年期」認知症(4大認知症)
15.「青年期～成人期～老年期」道徳性の発達(コールバーグ、ギリガン)
確認テスト

特記事項: (授業方法)講義形式。下記の講義内容や順序は、受講生の興味・関心に応じたものになるように、多少変更する場合があります。

授業方法: すべての授業を対面授業で行います
1～5 講義
6 講義＆ディスカッション
7～11 講義
12 講義＆ディスカッション
13～14 講義
15 講義＆テスト解説

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 教科書p34～35, p42～47、p106～107を読んでおく
フロイト、ピアジェ、エリクソンの考える、発達段階の下調べをする(180分)
2. 教科書p36～41, p60～73を読んでおく
胎児～乳幼児にかけての、心と体の発達について下調べをする(180分)
3. 教科書p50～53, p96～101を読んでおく
児童を対象とした、精神分析家達を下調べをする(180分)
4. 教科書p86～91を読んでおく

ボウルビィの愛着理論について下調べをする(180分)
5. 教科書p110～115を読んでおく
ピアジェとビィゴツキーの、発達理論について下調べをする(180分)
6. 1～5回の講義の復習(180分)
7. 教科書付録p13～26を読んでおく
幼児期・学童期における発達的危機に関する文献に触れておく
8. 教科書p156～161を読んでおく
不登校の定義や実態について調べておく(180分)
9. 教科書p150～155を読んでおく
ADHDとは何か、どの様な特徴があるのか、調べておく(180分)
10. 教科書p168～175を読んでおく
学習障害とは何か、どの様な特徴があるのか、調べておく(180分)
11. 教科書p176～183を読んでおく
自閉症スペクトラムとは何か、どの様な特徴があるのか、調べておく(180分)
12. 6～11回の講義の復習(180分)
13. 教科書p192～195、p206～209を読んでおく
中年期・老年期の危機について書かれた文献に触れておく(180分)
14. 教科書p216～225を読んでおく
4大認知症について、下調べをする(180分)
15. 教科書p136～141を読んでおく
これまでの講義の総復習をする(180分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	30	**%**	**確認テスト:**	50	**%**	**レポート:**	20 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準:

＜優:80～100点＞
講義の中で取り上げた人物の、発達に関する考え方を講じることが出来る。
発達障害のある子どもの、特徴と対応について、講じることが出来る。
認知症の特徴や求められる心理的アプローチについて、講じることが出来る。
＜良:70～79点＞
講義の中で取り上げた人物の、発達に関する考え方を理解している。
発達障害のある子どもの、特徴と対応について、理解している。
認知症の特徴や求められる心理的アプローチについて、理解している。
＜可:60～69点＞
講義の中で取り上げた人物の、発達に関する考え方をおおむね理解している。
発達障害のある子どもの、特徴と対応について、おおむね理解している。
認知症の特徴や求められる心理的アプローチについて、おおむね理解している。

課題へのフィードバック:

提出して貰ったレポートは、評価して後日返却する

教科書: 「手にとるように発達心理学がわかる本」小野寺敦子著 かんき出版

参考書: 必要に応じて、講義の中で紹介します。

授業・準備学習のアドバイス:

「予習・復習・宿題など」で示された教科書の該当部分は、授業までに目を通しておいてください。
更に、下調べしておいて欲しい内容についても書いています。これは可能な範囲で構いませんが、事前学習で、講義の内容がより深く理解できると思いますので、頑張ってください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 教育・学校心理学

クラス:

授業コード: DC50500001

担当者: 西　恭平　　**単位数:** 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:臨床心理士、公認心理師(スクールカウンセラー、診療所での臨床心理活動、療育園での発達相談員)

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: −　　**一般的包括的科目:** −

授業の目的: 学齢期の子どもの発達と教育に関する基礎理論、子どもの心理的問題について理解することに加えて、必要となるアセスメントの方法と心理的支援法を修得する。

到達目標:
①教育の現状と教育に関する制度について概説できる。
②教育分野における基本的理論について概説できる。
③教育現場において生じる問題及びその背景について概説できる。
④教育現場で必要なアセスメントについて概説できる。
⑤教育現場における心理社会的課題及び必要な支援について概説できる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 発達と教育
3. 動機づけと学習
4. 学習支援
5. 問題の理解とアセスメント
6. 不登校の理解と支援
7. いじめの理解と支援
8. 非行の理解と支援
9. スクールカウンセリング
10. 子どものメンタルヘルス
11. 発達障害の理解と援助1
12. 発達障害の理解と援助2
13. 学校における危機対応
14. 多様な職種によるチーム援助
15. まとめ及び確認テスト:教育・学校心理学と教育現場

特記事項: この授業は、公認心理師の資格取得に関連する科目です。教員を目指す学生ではなく、心理師を目指す学生向けです。他学科で受講を希望している学生は誤解のないようにしてください。

授業方法: 教育課題に基づくテーマを中心に、心理学の知見を教育現場にどのように活かすかを考える。

1. 講義(対面)
2. 講義(対面)
3. 講義(対面)
4. 講義(対面)
5. 講義(対面)
6. 講義(対面)
7. 講義(対面)
8. 講義(対面)
9. 講義(対面)
10. 講義(対面)
11. 講義(対面)
12. 講義(対面)
13. 講義(対面)
14. 講義(対面)
15. 講義(対面)

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. 教育現場における様々な問題に関する新聞やニュース、雑誌記事などを見て、現状を把握する（180分）
2回目以降は各講義の際に配布するプリントをもとに疑問点を整理し理解を深める
2. 発達と教育（180分）
3. 動機づけと学習（180分）
4. 学習支援（180分）
5. 問題の理解とアセスメント（180分）
6. 不登校の理解と支援（180分）
7. いじめの理解と支援（180分）
8. 非行の理解と支援（180分）
9. スクールカウンセリング（180分）
10. 子どものメンタルヘルス（180分）
11. 発達障害の理解と援助1（180分）
12. 発達障害の理解と援助2（180分）
13. 学校における危機対応（180分）
14. 多様な職種によるチーム援助（180分）
15. 教育・学校心理学と教育現場（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	60 **%**	**確認テスト：**	40 **%**	**レポート：**	**%**
その他1：			**%**		
その他2：			**%**		

評価基準： 理解の定着と確認のために、各回にて小テストを行います。

（最低限の到達度）（60～69点）
・授業に参加している。
・各回の知識を扱った小テストに解答できる。
・自分の意見を述べながら確認テストに答えることができる。

（望ましい到達度）（80～100点）
・授業に積極的に参加し、自分の考えを述べることができる。
・各回の知識を応用した小テストに解答できる。
・根拠を明確にして自説を述べながら確認テストに答えることができる。

課題へのフィードバック：

毎回、授業内容についての小テストの提出を求める。
授業内やTeamsにて全体へフィードバックする。必要に応じて質問者に個別に説明する。
最終日には、講義とともに確認テストを実施する。

教科書： 教科書は使用しない。

参考書： 石津憲一郎他, 教育・学校心理学(ライブラリ心理学の杜14), サイエンス社, 2022
その他、参考書は講義にて適宜紹介する。

授業・準備学習のアドバイス：

この授業は公認心理師の資格取得に関連する科目です。教職の立場からではなく、心理職の立場からの教育・学校心理学について解説します。受講を希望する学生は必ず初回の授業に出席してください。
また授業への出席だけでなく、積極的な参加や課題の取り組み、配布資料や関連図書などを通じて知識の習得と活用に努めてください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 自然環境と心理

クラス:

授業コード: DC50700001

担当者: 木下 藤寿 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 自然環境の心身への影響について、特に講義と実習を通して、基礎的な知識を習得する。さらに、地域の森林植物園などで健康増進のためのウォーキング・コースを作案し、そのリラクゼーション効果の検討を行う課題解決型の講義・実習とする。

到達目標:
1. 自然環境が心身へ及ぼす影響について理解し、その効果測定・検討ができる測定データを収集する。
2. 得られた測定データを加工・編集しプレゼンデータにまとめる。
3. 自然環境を活用する新たな健康プログラムを提案する。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
自然環境の心身への影響
（パソコン使用）
2. 自然環境を健康へ活用する国内外の施策・事例
（パソコン使用）
3. 自然療法・ 気候療法・脳科学について-概論-
（パソコン使用）
4. 運動と健康
（パソコン使用）
5. 健康増進プログラム
（パソコン使用）
6. 森林ウォーキング実習
森林ウォーキングの効果測定
7. 森林ウォーキング実習
森林ウォーキングの効果測定
8. 森林ウォーキング実習
森林ウォーキングの効果測定
9. 森林ウォーキング実習
森林ウォーキングの効果測定
10. 森林ウォーキング実習
森林ウォーキングの効果測定
11. 森林プログラムの効果検討－データ解析－
（パソコン使用）
12. 森林プログラムの効果検討－データ解析－
（パソコン使用）
13. 森林プログラムの効果検討－データまとめ－
（パソコン使用）
14. 森林プログラムの効果検討－データまとめ－
（パソコン使用）
15. 講義のまとめ
（パソコン使用）

特記事項: なし

授業方法: 講義（1・3日目）及び神戸市立森林植物園等（2日目）での実習。3日間の集中講義。授業はすべての回を対面で実施する。

1. 講義（学内）パソコン持参
2. 講義（学内）パソコン持参
3. 講義（学内）パソコン持参
4. 講義（学内）パソコン持参

5. 講義(学内)パソコン持参
6. 実習(森林公園)
7. 実習(森林公園)
8. 実習(森林公園)
9. 実習(森林公園)
10. 実習(森林公園)
11. 資料作成(学内)パソコン持参
12. 資料作成(学内)パソコン持参
13. 資料作成(学内)パソコン持参
14. 資料作成(学内)パソコン持参
15. まとめ(学内)パソコン持参

予習・復習・宿題など(内容・時間):

予習として関連文献を読む(事前にTeams に提示)。復習として、実習や講義で得られた知識について関連文献で検討すること。
実習の準備必要(服装、持ち物)を確認すること。

評価方法:	**授業へのとりくみ:**	50 **%**	**確認テスト:**	- **%**	**レポート:**	50 **%**
	その他1:			**%**		
	その他2:			**%**		

評価基準: 出席、実習態度、レポート作成の総合評価
80～100点:講義、実習、グループワークに積極的に参加
60～69点:講義、実習、グループワークに参加

課題へのフィードバック:

講義の時間の中で、レポート作成を行う。最終レポートは示された期限内に提出。

教科書: 参考資料をTeamsにて提示

参考書: 参考資料をTeamsにて提示

授業・準備学習のアドバイス:

実習準備(服装など)に関する説明は1日目の講義時に行う。

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 英書講読A

クラス:

授業コード: DC50900001

担当者: 犬飼 朋恵 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: ゼミ活動及び卒業研究を行う上で必要とされる文献読解力を身につける。

到達目標: 英語で長文を読む力を身につける。心理学の基礎知識を身につける。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 専門用語の確認
3. 要約を読む
4. 序論の位置付けを理解する
5. 序論の読み方について
6. 序論の全体像を理解する
7. 序論を読む
8. 方法の位置付けを理解する
9. 方法の読み方について
10. 方法を読む
11. 結果を読む
12. 考察の位置付けを理解する
13. 考察の読み方について
14. 考察を読む
15. 論文のまとめの確認

特記事項: 英語論文を読む(実験系)。論文については, 初回の講義で決める。
*なお、講読内容は、受講者の希望に応じて変更する可能性がある。

授業方法:
1. 講義の進め方の紹介【対面】
2. 学生の発表及び解説を行う【対面】
3. 学生の発表及び解説を行う【対面】
4. 学生の発表及び解説を行う【対面】
5. 学生の発表及び解説を行う【対面】
6. 学生の発表及び解説を行う【対面】
7. 学生の発表及び解説を行う【対面】
8. 学生の発表及び解説を行う【対面】
9. 学生の発表及び解説を行う【対面】
10. 学生の発表及び解説を行う【対面】
11. 学生の発表及び解説を行う【対面】
12. 学生の発表及び解説を行う【対面】
13. 学生の発表及び解説を行う【対面】
14. 学生の発表及び解説を行う【対面】
15. まとめの確認と解説【対面】

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 予習として講読する本の単語等を調べておき(120分), 復習として講義内で講読した内容を振り返る(60分)
2. 予習として講読する本の単語等を調べておき(120分), 復習として講義内で講読した内容を振り返る(60分)
3. 予習として講読する本の単語等を調べておき(120分), 復習として講義内で講読した内容を振り返る(60分)
4. 予習として講読する本の単語等を調べておき(120分), 復習として講義内で講読した内容を振り返る(60分)

5. 予習として講読する本の単語等を調べておき(120分), 復習として講義内で講読した内容を振り返る(60分)
6. 予習として講読する本の単語等を調べておき(120分), 復習として講義内で講読した内容を振り返る(60分)
7. 予習として講読する本の単語等を調べておき(120分), 復習として講義内で講読した内容を振り返る(60分)
8. 予習として講読する本の単語等を調べておき(120分), 復習として講義内で講読した内容を振り返る(60分)
9. 予習として講読する本の単語等を調べておき(120分), 復習として講義内で講読した内容を振り返る(60分)
10. 予習として講読する本の単語等を調べておき(120分), 復習として講義内で講読した内容を振り返る(60分)
11. 予習として講読する本の単語等を調べておき(120分), 復習として講義内で講読した内容を振り返る(60分)
12. 予習として講読する本の単語等を調べておき(120分), 復習として講義内で講読した内容を振り返る(60分)
13. 予習として講読する本の単語等を調べておき(120分), 復習として講義内で講読した内容を振り返る(60分)
14. 予習として講読する本の単語等を調べておき(120分), 復習として講義内で講読した内容を振り返る(60分)
15. 予習として講読する本の単語等を調べておき(120分), 復習として講義内で講読した内容を振り返る(60分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	50	**%**	**確認テスト:**	50	**%**	**レポート:**	– **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準:

望ましい到達度(80～100点)
・心理学の専門用語を含む文献の内容を正確に理解できている。
・内容を正しく要約することができる。

最低限の到達度(60～69点)
・文法を理解し, 大まかに内容を理解することができる。

課題へのフィードバック:

講義内でレポート課題及びテストを実施する。結果のフィードバックは翌週以降に行う。

教科書: 事前に文献を配布するので, その際に紹介する。

参考書: 事前に文献を配布するので, その際に紹介する。

授業・準備学習のアドバイス:

単語と文法の予習と復習をして, 講義で得た知識を確実に自分のものにしていきましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 英書講読B

クラス:

授業コード: DC51000001

担当者: 古川 心 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 本授業では、心理学分野の英語論文を題材として、英語で書かれた研究論文を読み解く力を身につけることを目的とする。心理学分野の英語論文を用いながら、アブストラクトや本文の読み方、重要な情報の把握、専門用語の理解を中心に学ぶ。逐語的な翻訳にとどまらず、「研究として何が述べられているのか」「どの点が重要なのか」を意識しながら読む姿勢を養う。
また、卒業研究や大学院進学を見据え、論文検索や英語論文の活用方法についても扱い、心理学を学ぶ上で英語文献を活用するための基礎力を身につけることを目指す。

到達目標: 1. 心理学分野の英語論文の構成(アブストラクト、導入、方法、結果、考察)を理解できる。
2. 英語論文から研究の目的や主要な内容を把握し、日本語で説明できる。
3. 心理学の専門用語を英語で理解し、文脈に即して解釈できる。
4. 卒業研究や今後の学習において、英語論文を活用するための基礎的な読解力を身につける。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション 授業の進め方、注意点などについて心理学英語論文の特徴
2. 英語論文の購読(アブストラクト・導入中心①)学生自身が英文を読み、内容を理解する教員による解説を行う
3. 英語論文の購読(アブストラクト・導入中心②)
学生自身が英文を読み、内容を理解する教員による解説を行う
4. 英語論文の購読(アブストラクト・導入中心③)
学生自身が英文を読み、内容を理解する教員による解説を行う
5. 英語論文の購読(アブストラクト・導入中心④)
学生自身が英文を読み、内容を理解する教員による解説を行う
6. 英語論文の購読(アブストラクト・導入中心⑤)
学生自身が英文を読み、内容を理解する教員による解説を行う
7. 英語論文の購読(アブストラクト・導入中心⑥)・小テスト
これまでの学習の振り返りとまとめ確認のための小テスト
8. 英語論文の購読(方法・結果の読み方①)
学生自身が英文を読み、内容を理解する教員による解説を行う
9. 英語論文の購読(方法・結果の読み方②)
学生自身が英文を読み、内容を理解する教員による解説を行う
10. 英語論文の購読(方法・結果の読み方③)
学生自身が英文を読み、内容を理解する教員による解説を行う
11. 英語論文の購読(方法・結果の読み方④)
学生自身が英文を読み、内容を理解する教員による解説を行う
12. 論文検索(テーマに沿った英語論文の探し方)各自の興味に沿って、論文の検索を行う
13. 論文タイトル・アブストラクトの読解
14. 英語論文を読む際の注意点・まとめ
15. 総括(英語論文の活用と今後の学習)

特記事項: 対面での実施が原則であるが、事情によって遠隔で実施することがある。
なお、受講者の興味・関心、学習の進捗によって、内容を変更することがある。

授業方法: 本授業では、心理学分野の英語論文を教材とし、学生自身が英文を読み、内容を理解することを中心に進める。各回、指定された英文について、学生が事前に読解・準備を行い、授業内では学生による講読(和訳・要約)を行う。
講読に際しては、文法や語彙の確認に加え、論文の構成や文脈、研究内容の理解に重点を置く。学生の読解をもとに、教員が適宜補足説明を行い、英文の意味だけでなく、「研究として何が述べられているのか」「どの情報が重要か」を確認しながら理解を深める。
逐語的な翻訳にとどまらず、英語論文を日本語論文と同様に読み取ることを目標とし、研究の目的、方法、結果、考察を意識した読み方を身につける。また、授業後半では、論文検索やアブストラクトの読解を通して、卒業研究や今後の学習に英語論文を活用するための基礎力を養う。

1. 講義
2～6. 学生による発表・演習、教員による解説
7. 講義、小テスト
8～11. 学生による発表・演習、教員による解説
12～13. 講義、演習、発表
14～15. 講義

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. 予習（90分）
・シラバスを読み、授業の目的・進め方・評価方法を確認する。
・心理学英語論文の基本構成（アブストラクト、導入、方法、結果、考察）について資料を読み、概要を把握する。
復習（90分）
・授業内容を振り返り、日本語論文と英語論文の共通点・相違点を整理する。
・英語論文を読むことに対する自身の課題や不安点を整理する。

2. 予習（90分）
・指定された英語論文の該当箇所（アブストラクト・導入）を読み、分からない語彙や表現を辞書等で確認する。
・研究の背景、目的、問題意識について簡単にメモを取る。
復習（90分）
・授業での講読・解説を踏まえ、アブストラクトや導入部分の要点を日本語で整理する。
・研究目的や仮説がどのように示されているかをまとめる。

3. 予習（90分）
・指定された英語論文の該当箇所（アブストラクト・導入）を読み、分からない語彙や表現を辞書等で確認する。
・研究の背景、目的、問題意識について簡単にメモを取る。
復習（90分）
・授業での講読・解説を踏まえ、アブストラクトや導入部分の要点を日本語で整理する。
・研究目的や仮説がどのように示されているかをまとめる。

4. 予習（90分）
・指定された英語論文の該当箇所（アブストラクト・導入）を読み、分からない語彙や表現を辞書等で確認する。
・研究の背景、目的、問題意識について簡単にメモを取る。
復習（90分）
・授業での講読・解説を踏まえ、アブストラクトや導入部分の要点を日本語で整理する。
・研究目的や仮説がどのように示されているかをまとめる。

5. 予習（90分）
・指定された英語論文の該当箇所（アブストラクト・導入）を読み、分からない語彙や表現を辞書等で確認する。
・研究の背景、目的、問題意識について簡単にメモを取る。
復習（90分）
・授業での講読・解説を踏まえ、アブストラクトや導入部分の要点を日本語で整理する。
・研究目的や仮説がどのように示されているかをまとめる。

6. 予習（90分）
・指定された英語論文の該当箇所（アブストラクト・導入）を読み、分からない語彙や表現を辞書等で確認する。
・研究の背景、目的、問題意識について簡単にメモを取る。
復習（90分）
・授業での講読・解説を踏まえ、アブストラクトや導入部分の要点を日本語で整理する。
・研究目的や仮説がどのように示されているかをまとめる。

7. 予習（90分）
・小テストの勉強
復習（90分）
・小テストの振り返りと今後の課題を明確にする

8. 予習（90分）
・方法・結果の該当箇所を読み、研究対象、手続き、測定方法、主要な結果を把握する。
・不明な統計用語や専門用語を調べておく。
復習（各回90分）
・方法・結果の概要を日本語で整理し、研究目的との対応関係を確認する。
・図表や数値が何を示しているかを簡潔にまとめる。

9. 予習（90分）
・方法・結果の該当箇所を読み、研究対象、手続き、測定方法、主要な結果を把握する。
・不明な統計用語や専門用語を調べておく。
復習（各回90分）
・方法・結果の概要を日本語で整理し、研究目的との対応関係を確認する。
・図表や数値が何を示しているかを簡潔にまとめる。

10. 予習（90分）

・方法・結果の該当箇所を読み、研究対象、手続き、測定方法、主要な結果を把握する。
・不明な統計用語や専門用語を調べておく。
復習（各回90分）
・方法・結果の概要を日本語で整理し、研究目的との対応関係を確認する。
・図表や数値が何を示しているかを簡潔にまとめる。

11. 予習（90分）
・方法・結果の該当箇所を読み、研究対象、手続き、測定方法、主要な結果を把握する。
・不明な統計用語や専門用語を調べておく。
復習（各回90分）
・方法・結果の概要を日本語で整理し、研究目的との対応関係を確認する。
・図表や数値が何を示しているかを簡潔にまとめる。

12. 予習（90分）
・自身の関心テーマを一つ決め、日本語文献やキーワードを整理しておく
復習（90分）
・授業で学んだ方法を用いて英語論文を検索し、候補となる論文を数本選定する。
・それぞれの論文のテーマや概要を簡単に整理する。

13. 予習（90分）
・選定した英語論文のタイトルおよびアブストラクトを読み、研究内容の概要を把握する。
復習（90分）
・タイトル・アブストラクトから読み取れる研究の目的や特徴を日本語でまとめる。

14. 予習（90分）
・これまでに講読した英語論文や配布資料を振り返る。
復習（90分）
・英語論文を読む際のポイントや注意点を整理し、自身の読解上の課題をまとめる。

15. 予習（90分）
・授業全体を振り返り、理解が不十分な点や重要だと感じた点を整理する。
復習（90分）
・英語論文を今後の学習や卒業研究でどのように活用したいかをまとめる。

評価方法：

授業へのとりくみ：	50 **%**	**確認テスト：**	20 **%**	**レポート：**	30 **%**
その他1：			**%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

【最低限の到達度（60～69点）】
・授業のルールを守り、講読・演習に継続して参加している。
・指定された英文を読み、論文の主題や概要を概ね把握している。
・小テストおよびレポートにおいて、英語論文の内容を簡潔にまとめることができる。

【標準的な到達度（70～79点）】
・授業に主体的に取り組み、内容理解を深めようとしている。
・英語論文の構成や主要な内容（背景・目的・方法・結果など）を理解し、日本語で説明できる。
・小テストおよびレポートにおいて、論文内容を整理して記述できている。

【望ましい到達度（80～100点）】
・英文講読・発表・ディスカッションに積極的に取り組み、理解を深めている。
・英語論文の論旨や研究の意義を把握し、内容を整理して説明できる。
・レポートにおいて、英語論文の内容を適切に要約し、自身の理解を踏まえてまとめることができる。

※ 英語の正確な翻訳力そのものよりも、英語論文を読み、内容を理解しようとする姿勢と理解度を重視する。

課題へのフィードバック：

個人からの請求に基づいてフィードバックを行う。
また、授業内で小テストに関する総評を行う。

教科書： なし

参考書： 適宜、紹介する

授業・準備学習のアドバイス：

本授業では、英語論文を「正確に訳すこと」よりも、「内容を理解すること」を重視します。事前に指定された英文を読み、分からない語句や構

文があっても、まずは論文全体の流れや要点をつかむことを意識してください。
発表や演習では、完璧な表現である必要はありません。「どこが分からなかったか」「どの部分が重要だと感じたか」を自分なりに整理して臨むことが、理解を深める助けになります。
また、英語論文は日本語論文と同様に、研究の背景・目的・方法・結果・考察という構造をもっています。その構造を意識しながら読むことで、英語に苦手意識がある場合でも内容理解が進みやすくなります。
授業中に生じた疑問点は、授業内外を問わず積極的に質問してください。継続的に英語論文に触れ、「読める」「分かる」という経験を積み重ねることを期待します。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 情報と統計

クラス: ☆心/国

授業コード: DC51100001

担当者: 浦山 郁 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 心理学に限らず、何かを主張したり、何かの主張を読んだりするときに、数値を使うことは客観的・論理的思考の大切なツールである。日常にある問題を解決したり読み取ったりするために、統計の基礎を正しく使えるようになる準備をする。

到達目標: 1. 事実・数値・データで、物事を記述することの有用性を理解する。
2. 2年次以降の心理統計学や心理学研究法で扱われる内容を理解するための基礎的な力を身につける。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション 授業の進め方、評価方法、次回以降のワークなどについて解説する。
2. Excelの基本操作(計算、グラフ作成)、統計学とは
3. 記述統計1 データと変数
4. 記述統計2 尺度水準
5. 記述統計3 度数分布表
6. 記述統計4 ヒストグラム
7. 記述統計5 代表値
8. 中間テスト及び第1回～7回までの復習
9. 記述統計6 データのばらつき(分散、標準偏差)
10. 記述統計7 標準化、偏差値
11. 記述統計8 散布図と相関
12. 記述統計9 回帰直線
13. 推測統計の基礎1 得られたデータの意味 母集団と標本
14. 推測統計の基礎2 得られたデータの意味 検定の意味
15. まとめテスト及び講義の総復習

特記事項: 統計の基礎に関する講義および、PCを使った統計処理について学ぶ。
※授業内および課題でPCを用いる。各自、ExcelとWordが使用できるPCを準備すること。

授業方法: ①～⑮:講義とワーク(オンライン(オンデマンド))
＊全ての講義をオンライン(オンデマンド)で実施します. 講義動画をYouTube等で配信しますので, 動画を見ながら各自課題に取り組んでもらう形式です.

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 統計学の重要性について理解する(180分)
2. Excelの基本操作(計算、グラフ作成)について理解する(180分)
3. データと変数について理解する(180分)
4. 尺度の特徴について理解する(180分)
5. 度数分布表について理解し、作成できるようにする(180分)
6. ヒストグラムについて理解し、作成できるようにする(180分)
7. 代表値について理解する(180分)
8. 変数の意味、尺度の特徴、度数分布、代表値などについて復習する(180分)
9. データの分布について理解する(180分)
10. 標準化、偏差値について理解する(180分)
11. 散布図の描き方、相関係数の求め方について理解する(180分)
12. 回帰直線の描き方、回帰係数の求め方について理解する(180分)
13. 母集団と標本について理解する(180分)
14. 推測統計における検定の意味を理解する(180分)
15. 記述統計、相関、回帰、推測統計について復習する(180分)

評価方法：

授業へのとりくみ：	40	**%**	**確認テスト：**	60	**%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準： 80～100点 記述統計と推測統計について理解している
60～69点 記述統計について理解している

課題へのフィードバック：

授業内課題を行なった翌週に随時フィードバックを行う。

教科書： なし

参考書： 山田剛史・村井潤一郎 (2004) よくわかる心理統計 (やわらかアカデミズム・わかるシリーズ) ミネルヴァ書房
山内光哉 (2009) 心理・教育のための統計法　サイエンス社
神永正裕 (2011) ウソを見破る統計学－退屈させない統計入門 講談社ブルーバックス

授業・準備学習のアドバイス：

数学や統計に苦手意識を持っている人は少なくありません。この授業では、むしろ苦手な学生をイメージして、統計の基礎を伝えていこうと思っています。2年次以降の専門的な学びをスムーズなものにするためにも、講義中の課題や予習・復習にきちんと取り組むことを期待しま

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 心理学統計法

クラス:

授業コード: DC51200001

担当者: 犬飼 朋恵 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 調査などで得られたデータを解釈するためには、主観を排除し、客観的な指標に基づいておこなわなければならない。その指標を用いるためには、得られたデータが持つ性質を理解し、また使用する指標の基本的な考え方を知る必要がある。この授業では、調査などで得られた情報を客観的に解釈するための手法である統計学の概念について学び、統計的データ解釈の基本的な考え方とその意義について理解を深める。

到達目標: 様々な情報を客観的に解釈するための統計学の意義とその基本的性質を理解し、統計的データ解釈に関する基本的な考え方とその分析手順を習得する。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 統計の考え方
3. 心理学統計の基礎:代表値と散布度
4. 心理学統計の基礎:尺度水準
5. 心理学統計の基礎:正規分布
6. 心理学統計の基礎:標準得点
7. 心理学統計の基礎:不偏性と標準誤差
8. 統計的仮説検定(1)
9. 統計的仮説検定 (2)
10. 統計的仮説検定 (3)
11. 2つの平均値の差の検定:標準正規分布を用いた推定
12. 2つの平均値の差の検定:t検定
13. 相関と無相関検定
14. これまでのまとめ
15. まとめの確認と解説

特記事項: なし

授業方法:
1. 講義【対面】
2. 講義・演習【対面】
3. 講義・演習【対面】
4. 講義・演習【対面】
5. 講義・演習【対面】
6. 講義・演習【対面】
7. 講義・演習【対面】
8. 講義・演習【対面】
9. 講義・演習【対面】
10. 講義・演習【対面】
11. 講義・演習【対面】
12. 講義・演習【対面】
13. 講義・演習【対面】
14. 講義・演習【対面】
15. 講義【対面】

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 予習:心理統計学について(180分)
2. 復習:統計の考え方(180分)
3. 復習:代表値と散布度(180分)

4. 復習：尺度水準(180分)
5. 復習：正規分布(180分)
6. 復習：標準得点(180分)
7. 復習：不偏性と標準誤差(180分)
8. 復習：統計的仮説検定(180分)
9. 復習：統計的仮説検定(180分)
10. 復習：標準正規分布を用いた推定(180分)
11. 復習：対応がないt検定(180分)
12. 復習：対応があるt検定(180分)
13. 復習：相関と無相関検定(180分)
14. 復習：心理統計学について(180分)
15. 復習：心理統計学について(180分)

評価方法：

授業へのとりくみ：	40	**%**	**確認テスト：**	60	**%**	**レポート：**	－ **%**
その他1：					**%**		
その他2：					**%**		

評価基準： 様々な情報を客観的に解釈するための統計学の意義とその基本的性質を説明することができる(60～69点)。
統計的データ解釈に関する基本的な考え方を理解した上で、適切な分析を行うことができる(80～100点)。

課題へのフィードバック：

講義内でレポート課題及びテストを実施する。結果のフィードバックは翌週以降に行う。

教科書： なし

参考書： 森敏明・吉田寿夫（1990）『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』北大路書房
山田 剛史・村井 潤一郎 よくわかる心理統計 ミネルヴァ書房

授業・準備学習のアドバイス：

3年次に「心理学実験」「心理学研究法Ⅱ」「多変量解析」を履修する者は、本講を履修してください。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 多変量解析

クラス:

授業コード: DC51300001

担当者: 辻川 典文 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: 卒論の執筆に向けて、相関係数や分散分析、因子分析などで心理学の研究において必要となる統計処理の方法を理解することを目的とする。

到達目標: データの特徴や目的に合わせて必要な分析方法を使い分ける力、得られた結果から適切に情報を読み取る力を身につけることを目標とする。

各回の授業計画:

1. はじめに 心理学における統計の重要性
2. 尺度水準
3. 記述統計 平均、標準偏差、分布の形
4. 区間推定と統計的仮説の検定
5. 相関係数
6. t検定
7. χ２検定
8. 一要因の分散分析
9. 二要因の分散分析（1）主効果と交互作用
10. 二要因の分散分析（2）単純主効果の検定
11. 重回帰分析
12. 因子分析（1）導入編
13. 因子分析（2）実践編
14. 総合演習（1）分析のプロセス
15. 総合演習（2）考察のプロセス

特記事項: なし

授業方法: 15回目はオンラインでの授業です
1. 講義と演習（対面）
2. 講義と演習（対面）
3. 講義と演習（対面）
4. 講義と演習（対面）
5. 講義と演習（対面）
6. 講義と演習（対面）
7. 講義と演習（対面）
8. 講義と演習（対面）
9. 講義と演習（対面）
10. 講義と演習（対面）
11. 講義と演習（対面）
12. 講義と演習（対面）
13. 講義と演習（対面）
14. 講義と演習（対面）
15. 講義と演習（オンライン）

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

授業の資料を参考に予習、復習を行う

1. 過去の統計授業復習（180分）
2. 尺度水準復習、課題（180分）

3. 記述統計復習、課題(180分)
4. 仮説検定復習、課題(180分)
5. 相関係数復習、課題(180分)
6. t検定復習、課題(180分)
7. 二変量検定復習、課題(180分)
8. 分散分析復習、課題(180分)
9. 2要因分散分析復習、課題(180分)
10. 下位検定復習、課題(180分)
11. 重回帰復習、課題(180分)
12. 因子分析復習、課題(180分)
13. 因子分析復習、課題(180分)
14. 多変量検定復習、課題(180分)
15. 最終課題のやり直し(180分)

評価方法:

授業へのとりくみ:	40	**%**	**確認テスト:**	−	**%**	**レポート:**	60 **%**
その他1:					**%**		
その他2:					**%**		

評価基準: 60～69点:記述統計や相関分析、t検定、χ 2分析について理解している
80～100点:多変量解析を理解し、仮説の証明に必要な分析ができる

課題へのフィードバック:

各回の講義で課題の成果のフィードバックを行います。

教科書: なし。適宜プリントの配布を行います。

参考書: 小宮あすか・布井雅人(2018)Excelで今すぐはじめる心理統計 簡単ツールHADで基本を身につける 講談社

授業・準備学習のアドバイス:

講義・実習の中で分からないことがあれば必ず質問して下さい。授業への積極的な取り組みを期待します。

科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 心理学研究法Ⅱ

クラス: ★

授業コード: DC51400001

担当者: 吉野 俊彦 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 心理学領域の論文を読みながら，そこで用いられている実証的な研究法(研究計画，尺度構成，統計学的・推計学的手法、倫理的配慮などを含む)を理解し，論文に書かれている内容をきちんと理解できるようになること。そうした理解を通じて心理学研究の全体像をつかむことを目的とする。

到達目標: 心理学研究の全体像を理解し，自ら追究していく力を身につける。より具体的には過去の論文を批判的に読んで，問題点を指摘したり，そこから考えられる研究計画を立案できるようになる。また、データに基づいた実証的・科学的な思考方法と研究倫理の具体的な方法を考えられるようになる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション: 学生の研究法についての理解度を確認しながら，授業の進め方について説明する。
2. 論文とは何か: 問題提起・研究・論文の関わりを概観した上で，論文の構成を確認する。
3. 論文の批判的読み方: 論文に書かれていることがすべて正しいわけではない。非難でなく，批判的に読むことの重要性とその方法について説明する。
4. 研究における測定: 心理学研究において最も問題となるのが，測定である。物理的に測定しにくいものを，どのように測定するのかを説明する。
5. 測定と統計1: 測定した結果の一般性を保証するためのひとつの方法が統計学・推計学である。ここでは統計学の基本事項について復習する。
6. 測定と統計2: 前回に続いて，母集団・標本の概念，推計学の概念について復習する。
7. サンプル論文Aを読む1: 実際の研究論文を読んで，そこで採用されている測定と，t検定について議論する。
8. サンプル論文Aを読む2: 前回と同じ論文を読んで，尺度作成と因子分析の方法と意味について理解する。
9. サンプル論文Bを読む1: 実際の研究論文を読んで，そこで採用されている測定と，一要因の分散分析について議論する。
10. サンプル論文Bを読む2: 前回と同じ論文を読んで，相関・偏相関の方法と意味について議論する。
11. サンプル論文Cを読む1: 実際の研究論文を読んで，そこで採用されている測定と，尺度の意味について議論する。
12. サンプル論文Cを読む2: 前回と同じ論文を読んで，二要因の分散分析の方法と意味について議論する。
13. サンプル論文Dを読む1: 実際の研究論文を読んで，そこで採用されている測定と，変数の意味，パス解析について議論する。
14. サンプル論文Dを読む2: 前回と同じ論文を読んで，重回帰分析の方法と意味について議論する。
15. まとめ

特記事項: 初回と最終回を除いて，ビデオ配信で実施する。小テストについては対面で行うことがある。

授業方法:
1. オリエンテーション: 学生の研究法についての理解度を確認しながら，授業の進め方について説明する(対面)
2. 論文とは何か: 問題提起・研究・論文の関わりを概観した上で，論文の構成を確認する(オンライン)
3. 論文の批判的読み方: 論文に書かれていることがすべて正しいわけではない。非難でなく，批判的に読むことの重要性とその方法について説明する(オンライン)
4. 研究における測定: 心理学研究において最も問題となるのが，測定である。物理的に測定しにくいものを，どのように測定するのかを説明する(オンライン)
5. 測定と統計1: 測定した結果の一般性を保証するためのひとつの方法が統計学・推計学である。ここでは統計学の基本事項について復習する(オンライン)
6. 測定と統計2: 前回に続いて，母集団・標本の概念，推計学の概念について復習する(オンライン)
7. サンプル論文Aを読む1: 実際の研究論文を読んで，そこで採用されている測定と，t検定について議論する(オンライン)
8. サンプル論文Aを読む2: 前回と同じ論文を読んで，尺度作成と因子分析の方法と意味について理解する (オンライン)
9. サンプル論文Bを読む1: 実際の研究論文を読んで，そこで採用されている測定と，一要因の分散分析について議論する(オンライン)
10. サンプル論文Bを読む2: 前回と同じ論文を読んで，相関・偏相関の方法と意味について議論する(オンライン)
11. サンプル論文Cを読む1: 実際の研究論文を読んで，そこで採用されている測定と，尺度の意味について議論する(オンライン)
12. サンプル論文Cを読む2: 前回と同じ論文を読んで，二要因の分散分析の方法と意味について議論する(オンライン)
13. サンプル論文Dを読む1: 実際の研究論文を読んで，そこで採用されている測定と，変数の意味，パス解析について議論する(オンライン)
14. サンプル論文Dを読む2: 前回と同じ論文を読んで，重回帰分析の方法と意味について議論する(オンライン)

15. まとめ（対面）

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. 履修内容の確認と教科書第0章を読む（180分）
2. 教科書第1章の予習（90分）と参考書に類する統計学を復習（90分）
3. 前回の内容についての復習（90分）と研究法の用語についての小テストの準備（90分）
4. 前回の内容についての復習（90分）と研究法の用語についての小テストの準備（90分）
5. 前回の内容についての復習（90分）と研究法の用語についての小テストの準備（90分）
6. 前回の内容についての復習（90分）と研究法の用語についての小テストの準備（90分）
7. 前回の内容についての復習（90分）と研究法の用語についての小テストの準備（90分）
8. 前回の内容についての復習（90分）と研究法の用語についての小テストの準備（90分）
9. 前回の内容についての復習（90分）と研究法の用語についての小テストの準備（90分）
10. 前回の内容についての復習（90分）と研究法の用語についての小テストの準備（90分）
11. 前回の内容についての復習（90分）と研究法の用語についての小テストの準備（90分）
12. 前回の内容についての復習（90分）と研究法の用語についての小テストの準備（90分）
13. 前回の内容についての復習（90分）と研究法の用語についての小テストの準備（90分）
14. 前回の内容についての復習（90分）と研究法の用語についての小テストの準備（90分）
15. 総合的な復習によってレポート作成の準備（180分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	50 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	50 **%**
その他1：			**%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

授業への取り組みは、小テストの合計得点を50点満点に換算する。
レポートについては、以下に従って評価を決定する。
30～34 課題のまとめがなされている。
35～39 過不足のないまとめとなっている。
40～44 まとめに従って、自分の意見が述べられている。
45～50 妥当な論証が示された上で自分の意見が述べられている。

課題へのフィードバック：

個人からの請求に基づいてフィードバックを行う。全体へのフィードバックは行わない。

教科書： 浦上昌則・脇田貴文（2020）. 心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方 改訂版 東京図書

参考書： 高野陽太郎・岡隆（2004）. 心理学研究法−心を見つめる科学のまなざし 有斐閣

授業・準備学習のアドバイス：

２年次で心理学研究法Ⅰと心理統計学を履修していることを必須とします。卒業論文において実証研究をしたい学生，大学院進学を考えてきちんとした研究計画書を書きたい学生を対象として授業を進めます。該当しなくても，何らかの理由で履修したい場合は，前もって相談してください。
ここで使われている用語は専門用語ばかりで最初は難しく感じられるかもしれません。けれども，その内容を理解すると，その印象は異なるものになると思います。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 心理学実験

クラス:

授業コード: DC51500001

担当者: 犬飼 朋恵 **単位数:** 1

科目に関連した実務経験: −

教職課程における位置づけ: −

含めることが必要な事項: −

教科に関する専門的事項: − **一般的包括的科目:** −

授業の目的: 心理学における主要な研究法である実験と調査の理論と技術を，実習を通じて身につけることが目的である。

到達目標:
1. 心理学が用いている研究方法を実際に体験して，理解する。
2. 自分で過不足の内実験計画を立てて計画に対応した統計的手法によって、目的に対応した結論を論理的に導くことができる。
3. 簡潔・明確な表現によって，心理学実験のレポートが作成できる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 論文の読み方・書き方1:形式的な書き方だけでなく，より明確な表現をするための方法についても説明する。
3. 調査1:社会的態度・感情評価などのテーマから基礎的な調査の実施準備をする(データは授業外で集めること)。
4. 調査1:得られたデータの分析とその結果について目的と対応させながら考察する。
5. 実験1:知覚・記憶・学習・社会などのテーマから基礎的な実験を実施する。
6. 論文の読み方・書き方2:調査1のレポートのフィードバックを行いながら，より明確な表現をするための工夫について考える。
7. 実験1:得られたデータの分析とその結果について目的と対応させながら考察する。
8. 調査2:調査1から派生する問題、をグループで議論して，そこから目的を考え出して，新たな研究計画を立てる。
9. 調査2:新たな研究計画に従って調査を実施する。
10. 調査2: 得られたデータの分析と，その結果についての議論をグループごとに行う。
11. 論文の読み方・書き方3:実験1のレポートのフィードバックを行いながら，より明確な表現をするための工夫について考える。
12. 実験2:実験1から派生する問題、をグループで議論して，そこから実験目的を考え出して，新たな研究計画を立てる。
13. 実験2:新たな研究計画に従って実験を実施する。
14. 実験2:得られたデータの分析と，その結果についての議論をグループごとに行う。
15. まとめ:ふりかえりとフィードバックを行う。

特記事項: 状況に応じて内容を変更する場合がある。

授業方法: すべての授業を対面で実施する。
1. 講義およびディスカッション
2. 講義およびディスカッション
3. 実験や調査の実施、統計的手法のパソコンによる適用、グループディスカッション
4. 実験や調査の実施、統計的手法のパソコンによる適用、グループディスカッション
5. 実験や調査の実施、統計的手法のパソコンによる適用、グループディスカッション
6. 講義およびディスカッション
7. 実験や調査の実施、統計的手法のパソコンによる適用、グループディスカッション
8. 実験や調査の実施、統計的手法のパソコンによる適用、グループディスカッション
9. 実験や調査の実施、統計的手法のパソコンによる適用、グループディスカッション
10. 実験や調査の実施、統計的手法のパソコンによる適用、グループディスカッション
11. 講義およびディスカッション
12. 実験や調査の実施、統計的手法のパソコンによる適用、グループディスカッション
13. 実験や調査の実施、統計的手法のパソコンによる適用、グループディスカッション
14. 実験や調査の実施、統計的手法のパソコンによる適用、グループディスカッション
15. 講義

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 研究法の復習 (180分)
2. 論文の書き方についての確認・復習 (180分)
3. 調査の準備 (60分)、データの収集 (120分)

4. レポート作成 (180分)
5. 実験の準備 (60分)、データの収集 (120分)
6. 分析結果の確認 (180分)
7. 分析結果の見直しと考察 (180分)
8. 調査計画の立案と準備 (180分)
9. 調査の準備 (60分)、データの収集 (120分)
10. レポート作成 (180分)
11. 返却レポートの見直しと修正 (180分)
12. 実験計画の立案と準備 (180分)
13. 実験の準備 (60分)、データの収集 (120分)
14. レポート作成 (180分)
15. レポート作成 (180分)

評価方法:	**授業へのとりくみ:**	20 **%**	**確認テスト:**	– **%**	**レポート:**	80 **%**
	その他1:			**%**		
	その他2:			**%**		

評価基準: 授業への取り組みについては、各課題への参加程度。グループ内での役割分担によって、出席しているだけから、主導的に課題に取り組んでいるまでの段階で評価する。
レポートについては、各20点満点で以下の基準によって評価する。
12～13 実証研究のレポートの形式を満たしている。
14～15 実証研究のレポートの形式とルールを満たしている。
16～17 目的と結論の対応が明確である。
18～20 データを踏まえて、妥当な論証によって結論が導かれている。

課題へのフィードバック:

課題の進捗状況に合わせて、適宜フィーバックを行う。

教科書: 杉本 敏夫 (2005). 心理学のためのレポート・卒業論文の書き方 サイエンス社

参考書: 参考書は随時紹介する

授業・準備学習のアドバイス:

心理学実験実習A・Bを履修して，さらに実験や調査の方法について学びたい学生，特に，大学院進学を考えている学生に，履修してほしい。但し，2年次の心理統計学，3年次春学期の心理学研究法Ⅱを履修した上で，履修すること。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

科目名: 海外心理学研修

クラス:

授業コード: DC51700001

担当者: 三井 知代 **単位数:** 2

科目に関連した実務経験: －

教職課程における位置づけ: －

含めることが必要な事項: －

教科に関する専門的事項: － **一般的包括的科目:** －

授業の目的: カナダ(トロント)において、教育現場や医療現場で特別に支援の必要な子ども達に対する心理的アプローチ(特別支援教育、心理アセスメント、カウンセリング等心理療法、教室における対応など)の実際を見聞することにより、教育・医療現場における心理学の役割について理解を深める。

到達目標:
1. 特別な支援が必要な子どもたちへの心理的支援について理解する
2. 発達障害について理解を深める
3. 多文化教育、インクルーシブ教育における心理的サポートについて学びを深める

各回の授業計画:

【事前指導】
1. 研修の趣旨、目的、期待される成果

【事前指導】
2. カナダの文化、風習についての学習

【事前指導】
3. カナダの特別支援教育、発達障害について:講義

【事前指導】
4. 研修先でのプレゼンテーションについて

5. 現地研修
トロントの文化、地理的理解

6. 現地研修1
JICS(トロント大学附属学校園)での特別支援教育(クラスでの見学と質疑応答)

7. 現地研修2
JICS(トロント大学附属学校園)での特別支援教育(クラス参加)と心理的支援(心理士の研修)

8. 現地研修3
JICS(トロント大学附属学校園)での特別支援教育(クラス参加)と探究を基盤とした教育の実際

9. 現地研修4
ビバリースクールにおける特別支援教育と発達障害について

10. 現地研修5
ブロアビュースクールにおける特別支援教育と心理的支援

11. 現地研修6
公立小学校における特別支援教育

12. 現地研修7
トロントの文化と生活①

13. 現地研修8
トロントの文化と生活②

14. 現地研修9
研修の振り返りとまとめ

15.【事後指導】
研修報告会

特記事項: なし

授業方法: 事前事後指導は基本的には対面で行うが、現地とのオンラインでのやりとりが必要な時はオンラインでの授業となる場合もある
1. 講義、ディスカッション
2. 講義、ディスカッション
3. 講義、ディスカッション
4. 講義、ディスカッション
5. 現地研修

6. 現地研修
7. 現地研修
8. 現地研修
9. 現地研修
10. 現地研修
11. 現地研修
12. 現地研修
13. 現地研修
14. 現地研修
15. 発表会

予習・復習・宿題など（内容・時間）：

1. カナダの文化、教育等について調べる（180分）
2. カナダの特別支援教育について調べる（180分）
3. トロントの訪問校の特別支援教育について調べる（180分）
4. 現地での計画に応じた事前準備を行う（540分）
5. 現地研修での訪問の振り返り（120分）
6. 現地研修での訪問の振り返り（120分）
7. 現地研修での訪問の振り返り（120分）
8. 現地研修での訪問の振り返り（120分）
9. 現地研修での訪問の振り返り（120分）
10. 現地研修での訪問の振り返り（120分）
11. 現地研修での訪問の振り返り（120分）
12. 現地研修での訪問の振り返り（120分）
13. 現地研修での訪問の振り返り（120分）
14. 現地研修での訪問の振り返り（120分）
15. 発表会での報告の準備（540分）

評価方法：

授業へのとりくみ：	30 **%**	**確認テスト：**	－ **%**	**レポート：**	10 **%**
その他1：	現地での研修への取組み		60 **%**		
その他2：			**%**		

評価基準：

60～69点 特別支援教育についてトロントでの訪問校での取り組みについて理解できている
80～100点 トロントでの訪問校における発達障害を抱える子どもに対する心理的アプローチについて理解できている

課題へのフィードバック：

授業や研修中に担当教員がフィードバックする。また事後指導に置いて、研修成果についてフィードバックを行う。

教科書： 適宜指示をする

参考書： 適宜指示をする

授業・準備学習のアドバイス：

トロントでの特別支援教育や心理的支援について学ぶことで、日本におけるそれらについてより深く理解できるようになるでしょう。
訪問校で生徒や教員と深く交流できる貴重な機会となります。
現地で積極的に質問したり、質問に答えたりするためには、研修内容に対する充分な準備が必要です。充実した研修が送れるかどうかは、皆さんの事前学習における準備次第です。頑張りましょう。

科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html